ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

6

シャフーセンソ



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

6

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表)　〒102

発行者　鈴　木　勤
編　集　株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印　刷　株式会社東京印書館
製　本　中央精版印刷株式会社
製　函　文京紙器株式会社
用　紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表　紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　8211

凡　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→**トウキヨ**
ヨーロッパ──→**ヨロツハ**

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　本見出し
げんじものがたり　【源氏物語】
エヌエイチケー　［NHK］
インキ　［ink］

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　【沼津】　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　【羅紗】
らっぱ　【喇叭】

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　【大阪(府)】
おおさか　【大阪(市)】
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　【河北省】　ホーペイ省
ふざん　【釜山】　プサン
もうたくとう　【毛沢東】　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　【上海】
ペキン　【北京】
メイランファン　【梅蘭芳】

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　【入れ墨】　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　［whisky］

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　［*Aloe*］

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

{ **しんくう**　【真空】
{ **しんぐう**　【新宮(市)】
{ **じんぐう**　【神宮】

{ **はい**　【肺】
{ **ばい**　【蛽】
{ **パイ**　［pie］

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

{ **じゅう**　【銃】
{ **じゆう**　【自由】

3　長音の〈－〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

{ **あへん**　【阿片】
  アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

{ **あか**　【赤】 ⇨色
  あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

{ **じゅんし**　【殉死】
  じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，（ ）の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1975年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名の表記は，本文の地名表記の基準に従っ

た。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　【関西弁】 ⇨方言
しょせき　【書籍】 ⇨図書
サイン　⇨正弦
ジンフイズ　⇨カクテル

⇀ ➔ 解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(⇀アブストラクト-アート)は，
従来の漢方(⇀東洋医学)を背景としたもの
あいいろ　【藍色】 ……(解説)……。➔色

* 解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　【安山岩】 中性の火山岩*。
いほうじん　【異邦人】 カミュ*の小説。

〔 〕〈 〉解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合
〔名称・歴史〕
〔生活〕
〔衣食〕
〔住居〕
〔風俗習慣〕
〔音楽〕
貨幣の場合
〔種類〕
〔制度〕
〔歴史〕〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉 引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第９条に〈日本国民は，正義と ……
戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり， ……

《 》 書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》
《カルメン》

( ) 語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)
燃料ガス(都市ガス)
慶長年間(1596～1614)
1872年(明治５)

( ) 読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)
伊豆(いず)半島
香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ′ ″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第6巻

しゃふ

シャープ ⇨嬰(えい)記号

しゃふつしょうどく【煮沸消毒】微生物が加熱に弱いことを利用して，沸騰している熱湯中で滅菌する方法。注射器・ピンセット・メスなど加熱に耐える器具の消毒に用い，10～15分以上煮沸する。一般の細菌は数分で死滅するが，芽胞は1～2時間，ある種の土壌(どじょう)菌の芽胞は16時間煮沸しても生き残っているものもある。炭酸ナトリウムを1％加えると芽胞の破壊を促し，滅菌器具のさびの発生を予防する。ふつうシンベルブッシュ消毒器が利用される。〔和気 朗〕

シャフツベリ［1st Earl of Shaftesbury］(1621～1683) イギリスの政治家。本名アンソニー-アシュレー-クーパー。ピューリタン革命で王党派に属し，のち議会派，また長老派と転々。クロムウェル派に反対してチャールズ2世の王政復古に奔走。ホイッグ党のリーダーとして反カトリックの立場をとり，王弟ヨーク公(のちジェームズ2世)の王位継承に反対してモンマス公の陰謀に荷担し，反逆者として逮捕された。1682年オランダに亡命，同地で没した。〔松下京子〕

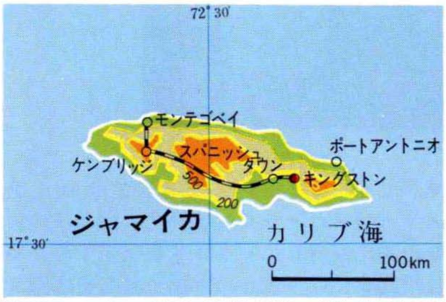
シャフツベリ［3rd Earl of Shaftesbury］(1671～1713) イギリスの道徳哲学者。本名アンソニー-アシュレー-クーパー。ロンドンの名門貴族の3代めとして生まれた。幼時より古典を学び，美学・倫理学・歴史などの面で業績を残す。精確な推論よりも優雅な文体を好み，18世紀の文人に大きな影響を与えた。きわめて寛容な宗教思想をもち，全体としての世界は神によって調和のとれた秩序を与えられており，美にして善かつ真なる世界であると説く。人間の認識は自己理解に基づき単に利己的なものではなく，社会意識をもつとしてホッブズを批判した。宗教と道徳の分離は可能だとし，社会的利益をめざす徳を決定する道徳感覚(モラル-センス)は生得であると説いた。主著《人間・習俗・世論・時代の諸特質》。〔玉井 治〕

ジャフナ［Jaffna］セイロン島の北端にある同島第2の都市。人口112,000(1975)。ジャフナ半島に位置する良港で，ポーク海峡を隔ててインド半島に近接している。この地方はセイロンでも雨が少ないが，地下水に恵まれて人口は密である。ココヤシの実やタバコの集散が盛んで，紡織も行なわれている。

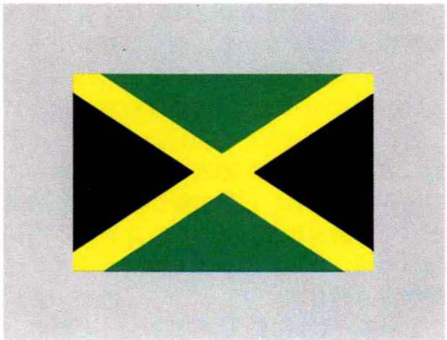
シャープペンシル［eversharp pencil］しんだけを繰り出して使用し，しんを補充できる機械鉛筆。1837年アメリカでエバーシャープという商標で発売されたのが最初。わが国では1904年(明治37)東京の向島に小規模の工場が設立されたのが最初で，1916～1917年(大正5～6)ごろから工業化され始めた。おもな種類としては，ノック式・回転繰り出し式のほか多色(3色または4色)のフリーオートマチック式がある。軸は金属・プラスチック製などが多くつくられている。〔三菱鉛筆(株)〕

シャプリー［Harlow Shapley］(1885～1972) アメリカの天文学者。ミズリーおよびプリンストン大学で学び，特に後者ではW.ラッセルの教えを受け，そこで学位を得た。1914年から1921年までウィルソン山天文台で星団，ことに球状星団の研究を行ない，銀河系の大きさ・形などを明らかにした。1921年ピッケリングのあとを受けてハーバード天文台長となり，1952年まで在職。銀河系外星雲についての研究も多く，天文学以外の学術体制の問題などについても尽力した。〔根本順吉〕

シャブリエ［Alexis Emmanuel Chabrier］(1841～1894) フランスの作曲家。幼時から音楽好きであったが，親の勧めに従って法律を学び，内務省の官吏となった。しかし，音楽への愛着を捨てきれず，法律の勉強をするかたわらピアノ・作曲を学び，創作を試みた。二つのオペレッタ《星》《教育不足》の成功に刺激されるとともに，ワーグナーの《トリスタンとイゾルデ》に衝撃を受け，1880年には職を辞して音楽活動に専心した。そして，スペイン旅行の直接の所産である狂詩曲《スペイン》で決定的成功をおさめ，作曲家としての確固たる地歩を築いた。19世紀後半の作曲家のひとりとしてワグネリアンとなったが，その本領はドラマチックなものよりも，むしろ自発性と機知に富んだ小曲にある。彼の音楽は，アマチュアとして出発したせいもあって，アカデミックな因襲にとらわれない生き生きとしたリズム，新鮮な和声，色彩的な管弦楽によって特徴づけられる。おもな作品には上記のほか，オペラ《グウェンドリーヌ》，ピアノ曲《10の絵画的小曲》，《ブーレ-ファンタスク》などがある。〔寺田兼文〕



300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　●首府　油田



ジャマイカの国旗 1962年制定。緑は国土と天然資源，黒は全人口の98％を占める黒人と混血人，黄色は太陽・国富・繁栄を表わすとされるが，黒は永年の圧制を表わすとも説明されている

シャープール［Shāpūr］イランの南西部，カゼルーンの近くにあるササン朝遺跡。現在ビーシャープールとよばれる。シャープール1世の建設した切り石積みのゾロアスター教寺院や宮殿跡があり，北方の峡谷にはササン磨崖(まがい)浮き彫りがある。

シャープール(1世)［Shāpūr］ササン朝ペルシア第2代の王。在位241～272年。父アルダシール1世を助けてササン朝興隆の基礎を築き，次いで即位してローマ帝国に戦勝し，また東のクシャン朝を征服して領土を拡大した。王朝最大の武将のひとりであり，また都市の建設者であった。ゾロアスター教を信ずるとともに，新興のマニ教に親しみ，そのため領内にマニ教勢力が一時栄えたが，のちにこれを禁圧して国外に追放した。〔小谷仲男〕

シャーベット［sherbet］アラビア語のシャルバトが語源といわれ，氷果汁(かじゅう)または凍果汁と訳される。果汁を主材料にしてシロップ・酒・白ぶどう酒などを調合しフリーザーにかけて固めたもので，糖分を少なくしたもの，果汁のみでつくったもの，主として酒でつくったもの，さらにクリームを合わせたもの，なおそれにあわ立てた卵白を加えて軽い味にしたものがある。

しゃほん【写本】⇨書写本

ジャマイカ［Jamaica］西インド諸島西部，カリブ海上の同名島を占めるイギリス連邦に属する共和国。面積10,962km²，人口219万(1978年推)，首都キングストン。

【自然・住民】北西から南東に走るアンチル系の褶曲(しゅうきょく)山地を骨格にその周囲に隆起サンゴ石灰岩が付着し，肥沃(ひよく)な盆地がある。東部の山地には，コーヒーの名で有名なブルー山(2,250m)がある。気候は熱帯にあるが貿易風帯にあって比較的健康な土地であり，キングストンの年平均気温は27.1℃で雨は夏に多い。住民の大部分はアフリカから労働者として移住した人々の子孫であるニグロと，ニグロとインディオの混血であるミュラートが大部分を占め，白人は人口の1％にすぎない。

【産業・経済】耕地は国土の約15％，牧地は21％にすぎず，主要農産物はサトウキビ・バナナ・コーヒーである。サトウキビは一

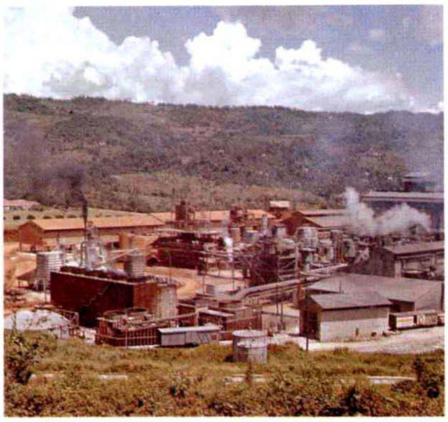
時不振であったが，近年再び重要作物となった。バナナはかつて世界一の輸出量を誇ったこともあったが病害のため衰退した。鉱産物ではボーキサイトの採掘が盛んで，1953年以来急速な発展を示し，1959年には輸出量520万7,000 t で世界一，アメリカ合衆国系２社とカナダ系１社の経営である。輸出額の35％は砂糖とバナナで，49％がボーキサイトである。また，1959年のキューバ革命以来，アメリカ人観光客がふえ，1960年には25万の観光客があり，観光業は農業・鉱業に次ぐ産業となった。ボーキサイトの輸出や観光客など，アメリカとの経済関係が密接である。首都キングストンは最大の貿易港で，港町のモンテゴベイと鉄道が通じている。

【歴史・政治】1494年コロンブスによって発見され，スペインの植民地となったが，17世紀から約３世紀間イギリスの支配ののち，1962年８月共和国として独立し，イギリス連邦に属した。〔小栗　宏〕

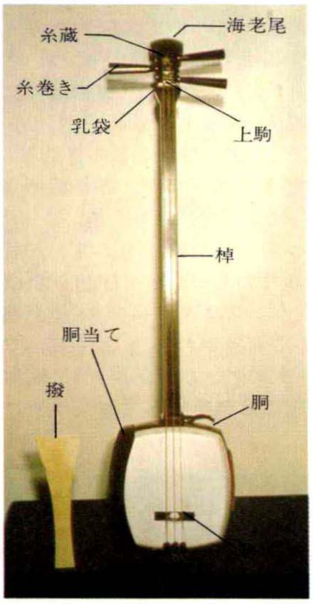
シャーマニズム　［shamanism］ シベリアおよび中央アジア北部の諸民族に典型的な形で存在する広義の宗教現象。宗教的忘我（エクスタシー）を恣意(しい)的に統御する能力をもつシャーマン（巫覡(ふげき)）が，神霊との仲介者として中心的役割を演ずる。シャーマンの最大の機能は巫医として病気を診断・治療する点にあるが，葬儀・供犠の司祭や占いなどにも関与することが多い。セアンス，つまりシャーマンの儀式は，通常太鼓を打って誘導される忘我，その際体験する守護霊の憑依(ひょうい)と他界遍歴，託宣などの要素を含む。シャーマン職への就任は世襲か自発的な精霊の召命によるが，いずれの場合も入巫前に精神分裂症緊張型に近似した症状（シャーマン病）を経過する。ことに，緊張病様の昏迷(こんめい)と回心後の急速な回復は，イニシエーションの死と再生という主題に密着するものと思われる。また，天界と地界に及ぶ樹木（世界木）を中心とする世界観，動物を支配する主の観念，魂の喪失による疾病観(しっぺいかん)などはシャーマニズムと不可分の関係にある。シャーマニズム的要素を含む現象は北アメリカ・インディアンをはじめ世界各地に存在し，わが国の東北地方の〈いたこ〉もその例。なお，シャーマンはツングース語samanに由来する。〔和田　完〕

シャーマンごうじけん　【シャーマン号事件】 朝鮮，李朝(りちょう)末のアメリカ船焼き打ち事件。1866年８月，シャーマン号は朝鮮開国の目的をもって平壌(へいじょう)へ進んだ。朝鮮側の退却命令に応ぜず，かえって発砲したため，憤激した朝鮮側に船を焼かれ，乗員は虐殺された。その後，1871年アメリカは再び侵略を図るに際して，この事件の終着をつけようとして江華島を占領したが，やはり撃退された。

シャーマンはんトラストほう　【シャーマン反トラスト法】 1890年制定されたアメリカ最初のトラスト規制法。1870年代以後急速に進展したトラストを禁止するため，各州間または外国との営業・通商を制限する企業合同・共同謀議，もしくは独占や独占の企図を禁止した。しかし，〈独占〉〈営業の制限〉などの用語の定義がなく違反事件の審議に時間がかかり，罰金が軽少であったため，同法の実効は上がらず，1898年から1902年にかけては独占の最盛期を迎えた。一方，1894年プルマン会社のストライキに対して輸送妨害と州際商業の制限を理由に同法が適用され，以後労働争議を共同謀議として労働運動を抑圧した。なお，本法補強のため，1914年クレイトン反トラスト法*が制定された。〔折井一彦〕



ジャマイカ　アルミナ精製工場（マンデビル附近）。ボーキサイト鉱山やアルミナ工場はほとんどアメリカ合衆国の大企業に支配されている



三味線
太棹の各部名称

しゃみ　【沙弥】 仏弟子(ぶつでし)七衆の一。梵語(ぼんご) śrāmaṇera（シラーマネーラ）の音写。具足戒*を受けるまでの，20歳未満の男子の出家者。サンガ（僧伽(そうぎゃ)）。宗教的生活共同体）の正規の成員でないため，比丘(びく)僧伽に所属する。また，20歳未満の女子の出家者はシラーマネーリカーといい，沙弥尼と音写され，比丘尼僧伽に所属する。

ジャーミストン　［Germiston］ 南アフリカ共和国のトランスバール州にある都市。人口21万（1970），ヨハネスバーグの東に位置し，ウイットウォーターズランド金鉱地帯の中心都市で，世界最大の金の精練所がある。鉄道交通の要地で，ナタール州・ケープ州の諸港と結ぶ鉄道が集まっている。

しゃみせん　【三味線】 日本の代表的な弦楽器。16世紀後半，おそらく琉球(りゅうきゅう)を経由して中国から伝えられた。17世紀以後は，芸術音楽や各地の民俗音楽で広く用いられている。構造は比較的簡単で，ネコあるいはイヌなどの皮を両面に張った胴と棹(さお)が組み合わされたもので，棹の上方に３本の糸巻きがあって，弦の張力を加減する。棹と糸巻きの間には上駒(かみこま)という金属片があるが，これに糸がのるのは，第２弦，第３弦（低いほうから数える）で，第１弦ははずれていて，音色の上で別の効果をもつ。胴皮の上にも駒があるが，駒の大きさや重さに種類があり，曲種と目的により選ばれ，これも音色に関係する。高音域で使用するためには枷(かせ)という木（骨）片を棹の途中に縛って弦を止める。なお，楽器の大きさを棹の太さによって，太棹（義太夫節*(ぎだゆうぶし)）・中棹（清元節*・宮薗節*(みやぞのぶし)など）・細棹（長唄*(ながうた)・小唄*など）とよんで区別し，各流派にかなったものが使用される。また，右手にもつ撥(ばち)にも大きさと形態にいくつかの種類がある。撥のおもな奏法は，上から下にあてる通常のひき方，弦を下から上へすくうスクイなどがあり，また左手のピチカートであるハジキ，左手の微妙なグリッサンドであるスリあるいはコキなどが重要である。

三味線音楽には多くの様式と流派があり，それぞれにパターンを形成する一方，それらを相互に交換している面もある。音色や音量変化が様式によって異なるだけでなく，音程の好みも，たとえば義太夫節と長唄の場合のように大きく違っていることもある。しかし，おもな調弦法（本調子・二上がり・三下がりなど）が共通であることからもわかるように，よく使われる音や重要な音は共通である。また，調弦を変えたり，ゆるみがちな弦を合わせるために開放弦の音を楽曲の中に組み込んでいる点は，三味線音楽の特徴であろう。なお，楽器の改良は第２次世界大戦前にかなり行なわれたが，今日では定着している。〔徳丸吉彦〕

しゃみせんがい　【三味線貝】 触手動物・腕足類・シャミセンガイ科・シャミセンガイ属の総称。動物体は２枚の殻(から)（リン酸石灰質）で包まれ，体後方から殻の外へ長い柄（肉茎）が突き出ている。どろの海底にもぐって生活する。日本では，殻長(かくちょう) 4 cm，殻幅 2 cmほどの緑かっ色の殻をもつミドリシャミセンガイ，殻長 6 cm，殻

幅3cmほどのかっ色の殻をもつオオシャミセンガイなどが発見されている。ミドリシャミセンガイは，中部日本以南，中国・マライ半島・フィリピン沿岸・インド洋水域に広く分布し，内湾の低潮線付近から深さ50mほどの泥底(でいてい)にすむ。かつては豊富にとられ，食用にもされていたが，内湾の環境汚染のため，わが国からはしだいに姿を消しつつある。オオシャミセンガイは，山東半島・有明海で発見されたが，有明海では近時は発見されておらず，絶滅を懸念されている。シャミセンガイの名は，四角い本体に長い柄がついているところからつけられた。この類は古生代オルドビス紀から現在までほとんど姿を変えておらず，〈生きている化石〉として知られる。〔菅野　徹〕

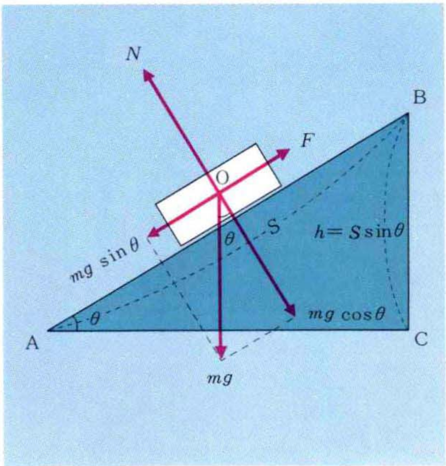
シャミッソー ［Adelbert von Chamisso］（1781～1838）ドイツの小説家・詩人・自然科学者。亡命フランス貴族の子。悪魔に影を売った男を主人公とした《ペーター・シュレミール》は有名で，ドイツ士官として生国フランスと戦わねばならなかった彼自身の苦悩を告白したものとみられる。ロマン主義的な作風の作家であり，詩では《女の愛と生涯(しょうがい)》などのほか，社会的・政治的な問題を取り上げた作品もある。

シャム ⇨タイ(国)

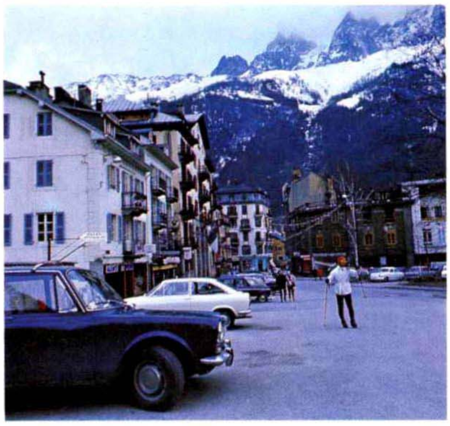
シャム(湾) ［Siam］インドシナ半島南部とマライ半島とに囲まれる湾で，南シナ海の西端をなす。東岸はカンボジア・ベトナム共和国南部，北と西岸はタイ国領である。北岸にメナム川が流入し，これをさかのぼるとタイ国の首都バンコク(クルンテプ)がある。湾内は浅海で，大部分が水深50m以下である。

ジャム ［jam］イチゴ・リンゴ・ブドウ・イチジク・アンズ・クワなどの果実の果肉に砂糖を加えて煮沸濃縮した食品。パンにつけて食し，また菓子の材料とする。原料を洗って皮をむくものはむき，核をとるものはとって，砂糖を加え，なるべく低温で煮詰めると，果肉の酸とペクチン，加えた糖が加熱されることによってゼリー化し凝固する。砂糖の分量は，材料の甘味や酸味によって異なるが，材料の5割ないし10割が普通である。なお，つぶした状態で製品化したものをジャムといい，果形を残したまま凝固させたものをプレザーブとよんでいる。〔佐藤友太郎〕

ジャム ［Francis Jammes］（1868～1938）フランスの詩人。生地ピレネーで生涯(しょうがい)の大半を過ごし，その田園的・牧歌的な風物を描き続けた。初期の詩集《朝の鐘から夕べの鐘へ》における叙情性は，19世紀末の象徴主義の風潮に清新な感動を与えた。晩年にはカトリックに帰依し，宗教性の濃い詩も書いた。《キリスト教徒の農牧詩》などの詩集のほか，小説・回想録がある。



斜　面



シャモニー　ホテルやレストランの立ち並ぶシャモニーの町かど。モンブランをはじめとするフランスアルプスの山々がまわりを取り囲む

ジャムシェドプール ［Jamshedpur］インド共和国東部，ビハール州にある都市。人口35万7,000(1971)。スバルナレカ・カルカイ両川の合流点にある。インド最大の鉄鋼業都市で，1907年にタタ財閥の経営する大製鉄所ができてから発展した。各種鉄鋼製品を産出し，国立冶金(やきん)研究所も置かれている。

シャムそうせいじ 【シャム双生児】主としてヒトにおいて，一卵性双生児の身体の一部が互いに癒着(ゆちゃく)し，連絡している二重体(重複奇形)の俗称。結合部位名に〈結合体〉の字を付して，その諸型を表わしている。この名は，1875年にペンコーストが報告したタイ(旧称シャム)のチャンとエン兄弟(1811～1874)(胸結合体の軽微な場合である剣状突起結合体)に由来し，この兄弟が長命を保ち，有名だったことから一般名となったわけである。彼らは32歳で結婚したが，別々の家に住み，一定期間ごとに両家で交替に生活した。ヨーロッパへ見せ物に出かけて金をもうけ，63歳で死亡した。片方が死亡した場合身体のどこかで連絡しあっているため，死毒がもう一方にはいり，必然的に死に至る。最近では，分離手術が発達し，それが成功した例も多くみられる。〔平野修助〕

しゃめん 【斜面】水平面に対し傾斜した面。水平面となす角を傾角という。物体を高い所に持ち上げる場合，傾角 θ のなめらかな斜面をつくり，その上に質量 m の物体を置けば，この物体に作用する重力の斜面方向の分力は $mg\sin\theta$ であるから，これよりわずかに大きい力を斜面に沿って上向きに加えれば，物体を斜面に沿って引き上げることができる。このため，斜面は古くから重い物体を高い所へ運び上げるのに利用された。なお，くさび*やねじ*も斜面の応用である。〔有山正孝〕

しゃも 【軍鶏】ニワトリの品種。タイ原産の肉用種で，日本には徳川時代の初期に輸入され，主として闘鶏用に改良されたが，肉質もきわめてよい。その羽色により，黒・白・猩々(しょうじょう)・赤笹(あかざさ)・金笹・銀笹などの内種に分けられる。体重は雄4.5kg，雌3.7kg，三枚冠で肉髯(にくぜん)は短く，体羽は少なくしまりもよい。

シャモア ［chamois］哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。雄は頭胴1.2m，尾13cm，肩高77cmほど，雌はこれよりやや小形。夏毛は短く橙(とう)かっ色，冬毛は長く黒かっ色。角は雌雄ともにあり，先は鉤(かぎ)状に曲がり，雄のものは長さ23cmに達する。眼下腺(がんかせん)はないが，雄には角の後ろに1対の独特の腺がある。ヨーロッパのピレネー・アルプス・カフカスなどの高山に群れですみ，森林を好む。アルプスカモシカともいう。

シャモットれんが 【シャモット煉瓦】⇨れんが

シャモニー ［Chamonix］フランス南東部，モンブラン山北麓(ほくろく)の標高約1,200mに位置する町。人口8,000(1962)。モンブラン登山の基地とウインタースポーツの中心で，夏冬を通じて年間15万人を越える観光・登山客が訪れる。国立スキー登山学校や陸軍高山学校などもある。1924年には冬季オリンピック大会が開催された。

しゃもん 【沙門】梵語(ぼんご) śramaṇa(シラマナ)に由来する西域地方語の音写と考えられている。髪をそり，あらゆる悪・不善を行なうことなく，心身を制御して善を修め，悟り*に達しようと努力する出家*をいう。特に，紀元前6世紀ごろガンジス川の中流地方でバラモンに対立して興った革新的思想家の総称。彼らは一所不住の遍歴をしながら森林で修行し，村や町に出て教えを説き，説法の報酬として布施(ふせ)される食物を生活のかてとした。その生活の外形から，遊行者(ゆぎょうしゃ)・遁世者(とんせいしゃ)・苦行者・行乞者(ぎょうこつしゃ)などとよばれた。彼らは多くの弟子(でし)を擁してサンガ(僧伽(そうぎゃ)。宗教的生活共同体)を形成した。仏教も沙門のサンガの一派であった。なお，

中国・日本では仏教の出家者をいう。
〔塚本啓祥〕

じゃもんがん 【蛇紋岩】 大部分がジャモン石で構成されている超塩基性岩。たいていはカンラン岩が500℃以下で水と反応して変質したものと考えられる。帯緑黒色で比重大きく，割れめの面は光沢の強い曲面になっていることが多い。造山帯の褶曲(しゅうきょく)構造に平行に，雁行(がんこう)状に配列したレンズまたは岩床として産出することが多い。ジャモン岩のうちには，炭酸塩鉱物の白い網状細脈が美しい模様をつくっているものがあり，みがいて装飾用の石材に用いられる。またリン鉱と混ぜて1,450℃に加熱すると溶融し，これを水中で急冷したものは溶成リン肥となる。溶成リン肥はクエン酸可溶性リン肥で，塩基性であるため，酸性火山灰系土壌(どじょう)に適している。ジャモン岩はまた，アスベスト・クロム鉱・ニッケル鉱などの鉱床を含むことがある。
〔片山信夫〕

じゃもんせき 【蛇紋石】 マグネシウムの層状含水ケイ酸塩鉱物のグループ名で造岩鉱物の一。カオリンに似た結晶構造をもち，アンチゴライト・リザダイト(板状)・クリソタイル(繊維状)などが属する。一般的な化学式は$Mg_6Si_4O_{10}(OH)_8$ 鉄・ニッケル・マンガンがときに含まれる。一般的には単斜晶系。比重2.5～3.0，硬度4～6，劈開(へきかい)はときに完全であるが，ふつうは認められない。屈折率1.53～1.57，ろうのような感じがある。ふつう暗緑色，鉄が少ないと黄・かっ色を経て灰色の塊状もしくは繊維状を呈する。塊状のものはしばしばヘビの皮のような模様を呈する。繊維状のものはクリソタイルからなり，アスベストとして工業用に用いられる。ジャモン石はカンラン石・キ石などマグネシウムケイ酸塩鉱物の低度～中度の変成作用による変質によって2次的にできる。ときにニューカレドニアやキューバのように数千平方キロメートルにわたって産することもある。装飾石材・耐熱材・リン酸肥料原料としても用いられる。〔加藤敏郎〕

しゃよう 【斜陽】 1947年(昭和22)発表の太宰(だざい)治の中編小説。母・姉かず子・弟直治・小説家上原が主要な登場人物で，姉の独白を通して，没落した貴族の運命と哀愁が描かれていく。4人はいずれも作者の分身とみなされ，特に弟直治は，貴族にも民衆にもなりきれずに自殺してしまう悲惨さを背負う。

じゃらい 【射礼】 平安時代以降宮廷で行なわれていた正月17日の射術の儀式。大射ともいう。正月15日に兵部省(ひょうぶしょう)では親王以下五位以上の官人および左・右近衛(このえ)，左・右兵衛，左・右衛門の射手を整えて順番を定め，17日に建礼門前で行なわれた。当日，天皇はまず豊楽院(ぶらくいん)に御幸があり，行事終了後に群臣に宴を賜い，能射者(射術の優秀者)に禄(ろく)というほうびを給することになっていた。



舎利塔 《金銅透彫舎利塔》 西大寺蔵

しゃらのき 【沙羅樹】 ⇨ナツツバキ

シャラーフ-アル-ディーン ［Sharaf al-Din Ali Yazdi］(?～1454) ペルシアの詩人・歴史家。エズドに生まれ，チムール朝のシャー-ルフおよびその子ミルザ-イブラヒーム-スルタンの寵臣(ちょうしん)であった。チムールの事跡を扱った《ザファルナーマ(戦勝の書)》の著者。

しゃり 【舎利】 梵語(ぼんご)śarīra(シャリーラ)の音写。元来は身体を意味する語であったが，ブッダの入滅以来，身骨をさすことばとして知られ，特にブッダの遺骨に限定して用いられるようになった。後世ブッダのつめ・髪や経巻までをいう場合がある。その形が米粒に似ているところから，米粒・米の飯をいうようになったと俗に伝えられているが，米の飯などを意味するśāli(シャーリ)も舎利と書くので，これの誤伝かもしれない。なお，アオサギの一種で，インド神話によく出る鳥も舎利というが，これは梵語śāri(シャーリ)，śārika(シャーリカ)の音写。〔石上善応〕

しゃり 【斜里(町)】 北海道，網走(あばしり)支庁の東部，斜里郡にあり，日本の北東端にあたる町。1939年(昭和14)町制施行，1943年南西隣の清里村(のち清里町)を分村した。人口16,000。町名はアイヌ語の〈シャル〉(アシの原)にちなむ。オホーツク海に面し，町域は知床(しれとこ)火山群の藻琴(もこと)山・斜里岳から発してそれぞれ北流する斜里川・猿間(さるま)川のつくる斜里平野と知床半島の西斜面を含み，面積742km²に達する。平野部では飼料用作物・テンサイ・ジャガイモなどの畑作が行なわれ，半島部の宇登呂(うとろ)を中心に漁業が盛んで，サケ・マス・イカなどの水揚げが多い。釧網(せんもう)本線・国道244号線(斜里国道)に沿い，知床国立公園の観光基地となり，知床五湖・斜里海岸草原集落(天然記念物)などの景勝地に富む。夏季には宇登呂から知床半島を1周して東岸の羅臼(らうす)に至る観光船が発着する。

ジャリ ［Alfred Jarry］(1873～1907) フランスの詩人・劇作家。さまざまな奇行と早熟な才能で20世紀フランス文学に予言的な新しき風刺を吹き込み，虚飾と偽善に満ちた現実をのろってこれに反抗した。詩集のほかに多くの戯曲があるが，特に《ユビュ王》は近代演劇の変革を迫るもので，ダダイスムやシュルレアリスムに大きな影響を与え，アンチ-テアトルの先駆的作品とされる。

シャリアピン ［Feodor Chaliapin］(1873～1938) ロシアのバス歌手。農民の出身で，正規の音楽教育を受けていないが，天性の美声によって徐々にその評価を高めていった。1896年マモントフ歌劇団の《ボリス-ゴドノフ》で大好評を収め，1901年にはスカラ座，1909年にはメトロポリタン歌劇場，1913年にはコベント-ガーデン座に出演，圧倒的な人気を集めた。1936年来日。

しゃりとう 【舎利塔】 舎利を奉納・安置する塔。その起源は，弟子(でし)によって荼毘(だび)に付されたブッダの舎利が，マガダ国のアジャセ王ほか8国の王によって造立された八塔に奉安されたことにあるという。アショカ王の時代，84,000の塔をつくってこの舎利を分納したが，この風潮が中国を経てわが国にも伝わり，仏に対する功徳の一つとして舎利納置の塔が盛んに造立された。わが国最初の舎利塔は《日本書紀》にしるす585年(敏達14)蘇我(そが)馬子によって大野丘につくられたものであるとされる。以後，法隆寺五重塔をはじめ，奈良時代初期までの寺院には舎利を奉安するのが通例であった。しかし，真正な仏舎利の分骨には限度があり，瑪瑙(めのう)・水晶などの宝玉類をこれに代えて納置するのが大部分である。一時衰微した舎利信仰が再び興隆をみせるのは，平安時代末から鎌倉時代初頭における奈良の戒律復興運動の時期である。浄土教の隆盛に刺激されて凋落(ちょうらく)した南都仏教を救うのは釈迦(しゃか)の教えにかえることであるとする釈尊信仰と結びついて，小塔形式の舎利塔が数多くつくられた。その中には工芸的にすぐれた遺品が多い。法隆寺献納宝物中の〈保延四年(1138)〉銘を有する宝塔形舎利塔は小塔形式最古の紀年銘優品であり，西大寺の金銅透彫舎利塔は金工技法の粋を尽くした代表作である。舎利塔はその形により宝塔形(多宝塔形)・宝珠形・五輪塔形に分類され，鎌倉時代末から室町時代にかけては，金胴板の透彫舎利塔形を中板に嵌装(かんそう)した舎利厨子(ずし)も多くつくられた。〔河田 貞〕

しゃりほつ 【舎利弗】 ⇨サーリプッタ

しゃりんばい 【車輪梅】 双子葉植物・バラ科。暖地の海岸の岩やがけの上に自生する常緑低木で，高さ1～2m。庭木としても用いられる。葉は互生し，倒卵形で低

い鋸歯(きょし)があり，長さ3～8cm，車輪状に枝先につく。4～5月，枝先に白色で直径1～1.5cmの五弁花を多数円錐(えんすい)状につける。果実は球形で黒熟する。樹皮・材・根に含まれるタンニンは，大島紬(おおしまつむぎ)などの染料に用いられる。

シャール ⇨アダム-シャール

シャール [René Char] (1907～) フランスの詩人。最初シュルレアリスム*の運動に参加，初期の詩集には自動記述法(オートマチスム)による奔放なイメージの詩編が多い。のち，スペイン内乱や第2次世界大戦で抵抗運動の指導者として活躍，その体験によって男性的詩人へと変貌(へんぼう)し，大胆なイメージと人生体験から直接的に噴出する言語とが融和したアフォリズムふうの簡潔な作品を書く。代表作《イプノスの手帳》《砕かれた詩》など。〔森　英樹〕

シャルコ [Jean Martin Charcot] (1825～1893) フランスの神経病学者。パリに生まれる。パリ大学で医学を学び，1853年に卒業。1856年パリ病院の医師となり，1862年サルペトリエル病院に転じ，慢性疾患・老人病，神経系統の疾患などについて診療・講義を行なう。1872年から10年間，パリ大学病理解剖学教授の職にあり，1882年サルペトリエル病院に新設された神経病科の教授に任ぜられた。多くの研究論文を発表したが，なかでも脊髄(せきずい)系統疾患に関するものは最も重要。〔大鳥蘭三郎〕

シャルダン [Jean Chardin] (1643～1712) フランスの旅行家。1665年ペルシアに旅行し，首都イスファハンの王宮で宝石鑑定家として仕えた。いったん帰国したが，翌年クリミア・カフカス地方を旅行し，1673～1677年には再びイスファハンに出かけた。のち，プロテスタントに対する迫害のためフランスからイギリスに移住し，宮廷出入りの宝石商となり，サーの称号を受けた。

シャルダン [Jean-Baptiste-Siméon Chardin] (1699～1779) フランスの静物画家・風俗画家。素朴(そぼく)な庶民の生活の中にテーマを求め，鋭くしかも表現に富む豊かな色彩と単なる事物の配列には終わらない緻密(ちみつ)な構成を用い，ブーシェ*に代表されるルイ16世時代のロココ趣味とは対立した。1728年に《あかえい》《食器だな》を発表してアカデミーの会員となる。晩年にはパステルで《自画像》《妻の肖像》などの肖像画を描いた。〔酒井忠康〕

シャルドンヌ [Jacques Chardonne] (1884～1968) フランスの小説家。本名ジャック-ブーテロー。処女作《祝婚歌》以来，一貫して夫婦間の微妙な愛情の揺れを主題とし，心理や感情の動きが分析される。《エバ》《クレール》《ロマネスク》などが代表作。

シャルドンネ [Comte Hilaire Bernigaud de Chardonnet] (1839～1924) フランスの化学者。パスツールの弟子(でし)。パスツールのもとでカイコの病気について研究したが，写真に興味をもち，写真材料としてコロジオンを使用する研究から，ニトロセルロース人絹の工業化に成功し，世界最初の人造繊維工場を設立した。



シャリンバイ



シャルダン　《働き者の母親》　ルーブル美術館蔵



シャルル7世
ルーブル美術館蔵

シャルパンチエ [Marc-Antoine Charpentier] (1634～1704) フランスの作曲家。年少のころイタリアのカリッシミのもとで音楽を学び，帰国後モリエールに誘われ，テアトル-フランセでコメディー-バレエを作曲。ジェスイット派学校の指揮者を経て，1698年パリのサント-シャペルの楽長になった。劇作品ではリュリ*に及ばないが，ミサ・詩編歌・モテットなどの宗教的作品は，ラランドと並んでこの時代を代表するものである。〔船山　隆〕

シャルマネセル [Šalmanesser] アッシリア*王の名。シャルマナサルともいう。

1 1世(?～BC1244ごろ)　アッシリア中王国の王。在位BC1273～BC1244年ごろ。シリアをめぐるエジプト・ヒッタイト両国の激突に乗じてミタンニ*地方に勢力を伸ばし，さらに西方へ進出する勢いをみせた。このため，エジプト王ラーメス2世*とヒッタイト王ハットゥシリシュとは一転して平和条約を結び，アッシリアの脅威に対抗することを余儀なくされた。

2 3世(?～BC824)　在位BC858～BC824年。アッシュール-ナシルパル2世の後継者。対外遠征によりアッシリア新王国の基礎を固めた。BC853年とBC845年のシリア遠征には失敗したが，この間バビロニアの属国化に成功して力をたくわえ，BC841年の第3回シリア遠征によってダマスカスを制し，パレスチナにまで侵入した。こうしてシリアにアッシリアの覇権(はけん)が確立した。北方のウラルトゥ*とも交戦した。〔屋形禎亮〕

シャルル [Charles] フランス国王。

1 4世(1294～1328)　在位1322～1328年。端麗王ともいう。フィリップ4世の子。兄ルイ10世およびフィリップ5世に次いで即位。国内の貴族をおさえ，フランス西南部のイギリス領ギュイエンヌに進出，王権強化に努めたが，男子後継者のないまま，カペー朝は断絶した。このため，従弟(いとこ)のフィリップ6世(バロア王朝)と甥(おい)にあたるイングランド王エドワード3世との間に王位継承の争いが起こり，百年戦争*となった。

2 5世(1337～1380)　在位1364～1380年。賢明王ともいう。ポアチエの戦い*でフランス軍は大敗し，父王ジャン2世は捕虜としてイギリスに連れ去られたため摂政となった。次いで王権の強化をはかってパリ市長エチエンヌ-マルセルの反乱を招き，また1358年には農民一揆(いっき)ジャックリーの乱が起こって国内は大混乱に陥った。1364年ジャン2世が没して即位，名将ベルトラン-デュ-ゲクランを重用して軍制改革に努め，中央権力を強化し，1370年失地回復をはかってイギリスと開戦，1375年までにほとんど全国土を回復した。バスチーユ*城塞(じょうさい)を建設し，また学問の保護に留意して国立図書館を創設した。

3 6世(1368～1422)　在位1380～1422年。親愛王ともいう。父シャルル5世の死後，12歳で即位，20歳までブルゴーニュ公らの後見を受ける。1388年から親政，諸侯を退けて父王の側近を重用し，パリの上層市民層と結んだ。しかし，逸楽にふける王妃イザボー-ド-バビエールに対する心痛もあって1398年ブルターニュ遠征の途中マンスの森で脳を病み，宮廷は混乱し，国内は分裂した。こうして内乱状態にあったフランスに，イングランド王ヘンリー5世*が侵入，

アジャンクールの戦い*に大敗したフランスは1420年屈辱的なトロア条約を結び，国土の大半を失った。王妃イザボーの要請で，狂王は娘カトリーヌとの結婚を条件にヘンリー5世に王位継承権を与えた。

④7世(1403〜1461)　在位1422〜1461年。勝利王ともいう。父王シャルル6世の死後百年戦争*終結時に即位。当時フランスの北半はイギリス軍およびそれと結ぶブルゴーニュ派の支配下にあり，1歳に満たぬヘンリー6世が英・仏両王を兼ね，シャルルはアルマニャック派の支持でロアール南部のブールジュに退いた(〈ブールジュの王〉とよばれる)。1429年オルレアン放棄の危機に際してジャンヌ-ダルク*が出現し，イギリス・ブルゴーニュ同盟軍を撃破し，王はランスでようやく戴冠(たいかん)式をあげた。1435年ブルゴーニュ派と和解し，1453年までにカレーを除く全土からイギリス軍を駆逐し，百年戦争を終結させた。財政強化，常備軍の創設などで王権の強化に努めたが，皇太子(ルイ11世)と対立，毒殺をおそれて餓死したともいわれる。➔前ページ(写真)

⑤8世(1470〜1498)　在位1483〜1498年。ルイ11世の子。はじめ姉のアンヌが摂政，1491年親政をとる。ブルターニュ公の長女アンヌと結婚して広大なブルターニュを王領とし，諸侯の反抗を鎮定してさらにイタリア遠征の端緒を切った。一時ナポリ王国を占領したが，ドイツ・スペインと結ぶイタリア諸都市の反撃で失敗した(➔イタリア戦争)。後嗣がなかったので直系バロア家はその死後断絶した。

⑥9世(1550〜1574)　在位1560〜1574年。アンリ2世の第2子。兄のフランソア2世に次いで即位。未成年の間は母カトリーヌ-ド-メディシス*が摂政となったが，その後も病弱のため実権は母が握った。1562年ユグノー戦争*が起こったが，彼は熱烈な新教徒の提督コリニーを信任し，スペインに対する戦いを企てた。カトリーヌはこれを喜ばず，聖バルテルミーの虐殺*を起こし，王は2年後病死した。

⑦10世(1757〜1836)　在位1824〜1830年。ルイ15世の孫，ルイ16世および18世の弟にあたる。ブルボン朝*最後の王。フランス革命勃発(ぼっぱつ)後ただちにドイツに亡命，エミグレ*の中心となって反革命運動に力を尽くした。王政復古後帰国し，ウルトラ王党派の中心人物となった。兄ルイ18世の死後即位し，首相ビレールを用いて瀆聖(とくせい)処罰法，亡命貴族の旧領地買戻(かいもどし)資金国庫負担法，長子相続法などの反動政策をとり，一時自由派のマルチニャックを用いたが1830年7月末召集の議会解散，出版の自由剝奪(はくだつ)，選挙法の改正を強行しようとして七月革命*を招いて退位し，スコットランドに亡命，北イタリアで没した。〔喜多迅鷹〕

シャルル［Jacques Alexandre César Charles］(1746〜1823)　フランスの物理学者。ソルボンヌ大学およびパリ工芸学校の教授。気体の物理的性質を研究し，1787年〈シャルルの法則(ゲイ-リュサックの法則*)〉を見いだした。この研究のきっかけは気球の飛揚に関係しており，1783年モンゴルフィエ*と同じ年に水素気球の実験を行なった。さらにいろいろな実験的な技術を開発し，同年末には人間が制御する気球飛行を実現した。科学アカデミー会員。〔藤村　淳〕

シャルル-ドルレアン［Charles d'Orléans］(1391?〜1465)　フランスの詩人。シャルル6世*の甥(おい)。若くして父をブルゴーニュ公ジャンに殺され，母および妻とも死別，父の復讐(ふくしゅう)を企ててアルマニャック派を率いてフランスを二分する内乱の口火を切ったが，アジャンクールの戦い*で捕えられ，イギリスで25年間の幽閉生活を送るなど不運な半生を送った。帰国後は政治を離れ，ブロワ城内で詩作に没頭した。《牢獄(ろうごく)の歌》など，繊細優雅な精神で愛と自然をうたった詩を多く残した。〔泉　邦寿〕

シャルルのほうそく［シャルルの法則］⇨ゲイ-リュサックの法則

シャルルマーニュ　⇨カール1世

シャルルロア［Charleroi］ベルギー南西部，サンブル川に沿う工業都市。人口25,000(1966)。石炭産業と鉄鋼業の中心地で，ガラス・電気器具の生産もある。北方約60kmにある首都ブリュッセルとは，運河で通じている。古くはシャルノワとよばれた要塞(ようさい)の町で，第1次世界大戦の激戦地である。

シャルンホルスト［David von Scharnhorst］(1755〜1813)　プロイセンの軍人。イエナの戦い*でナポレオンに敗れて捕虜となったが，のち敗戦の教訓からグナイゼナウ*とともに軍制改革に乗り出し，プロイセン軍の近代化をはかった。一時ナポレオンにきらわれて追放されたが，その後も改革の推進役となり，解放戦争ではブリュッヘル*のもとで参謀として活躍し，そのときの戦傷がもとで死んだ。

シャーレ［Schale］細菌学・医学・生物学などで用いられる容器。円形の底板の周囲を直角の浅い縁が囲んださら状の容器と，それと同形でその外部を囲む大形のふたからなる。ふつう中に固形培地を溶解して流し込み，固形化させて細菌の培養に用いる。しかし，液体培地を流し込んだり，滅菌したスライドグラスを入れたり，寒天ゲル内沈降反応に用いたりするなど種々の用途がある。ふつう乾熱滅菌に耐えるガラス製であるが，合成樹脂製でガス滅菌し，使用後捨てるものもある。大きさには種々のものがある。〔和気　朗〕

しゃれいうん【謝霊運】(385〜433)　中国，六朝(りくちょう)時代の宋(そう)の詩人。南斉(なんせい)の詩人謝朓*(しゃちょう)を小謝，謝霊運を大謝という。当時，権勢を誇った大貴族の家がらの出身で，豪奢(ごうしゃ)な生活を送り，博学多識，書画を愛し，仏教に帰依した。自然の風物を芸術的に洗練された手法で詩にうたい，山水を描写する詩風を開き，その意味で田園を詩に取り上げた陶淵明*(とうえんめい)と並び称せられる。詩作のほか，仏教経典の翻訳に貢献するところがあった。

しゃれぼん【洒落本】江戸中期小説類の一種。書形は半紙四つ折りで，〈小本〉ともよばれた。遊里の風俗や客と遊女の応対のようすなどを，また，通と穿(うが)ちの町人の通人ぶりをおもしろおかしく描く。1751年(宝暦1)ごろから，漢学の素養ある者が中国の艶史(えんし)(遊里小説)をまねて書いたのに始まる。次いで《異素六帖*(いそろくじょう)》で作者沢田東江が《唐詩選》と《百人一首》を巧みに結びつけて遊里の情景を滑稽(こっけい)に描いたのが評判になり，さらに《遊子方言*》が，会話を中心に遊客のようすを細かに表現して洒落本の形式を確立した。山東京伝*は《通言総籬(つうげんそうまがき)》《傾城買四十八手(けいせいかいしじゅうはって)》などで写実的な洒落本の手法を完成したが，寛政の改革で京伝が処罰されるとともに洒落本の発行も禁止され，その写実手法は滑稽本*に，またその恋愛情緒(じょうちょ)は人情本*にそれぞれあとを譲った。〔小池正胤〕

シャーロック-ホームズ　コナン-ドイル*の小説に出てくる私立探偵(たんてい)。冷静・的確で推理力にかけては天才であり，本職の警察があきらめて迷宮入りとなりかけた多くの事件を，物語の語り手でもある医者ワトソンを片腕に解決する。独特の個性をもち，天才的な推理力とともにユーモアと機知に富む。ドイルは，大学時代の恩師ベル博士をモデルにこの名探偵を創造したといわれる。ホームズの人気は大きく，欧米ではホームズ愛好会もできている。彼の活躍する作品に《緋色(ひいろ)の研究》《四つの署名》《恐怖の谷》などがある。〔橋本慎矩〕

シャーロット［Charlotte］アメリカ合衆国ノースカロライナ州南西部，ピーモント台地に発達した工業都市。人口28万5,000(1973)。綿花・自動車・機械工業が盛んな州第1の都市である。1867年創立の黒人大学がある。

ジャワ(島)［Java］マライ諸島の大スンダ列島の中で最も重要な島で，インドネシア共和国の中心となっている。首都ジャカルタはこの島の西部にある。面積12万6,012km^2。人口6,306万(1962)。東西に火山帯が走り，標高3,676mのスメル山をはじめ，2,000m以上の火山が約50あり，しばしば噴火によって多数の人命と施設に被害を与えた。北部の海岸には平野が開け，南部の海岸は山地が迫る。高温多雨で，年降水量は山地で3,000mm，平野で2,000mmに達しており，11〜3月に雨季がある。樹木がよく

茂り，古人はこの島を〈緑の幻想曲〉とよんだ。多数の火山からの噴出物は肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)に変わり，耕地面積は全島の70％に達し，土地利用はきわめて集約的である。農業が主産業で，この島を植民地としたオランダ人は，サトウキビの栽培を奨励し，1929年には砂糖の輸出は世界一になったが，インドネシア共和国の独立後は農園が国有化されたためふるわない。ほかに輸出用作物としては，タバコ・コーヒー・茶などがある。人口密度は1km²あたり450人と極度に高く，インドネシアの四つの大島中，最大の人口が集中し，爆発的な増加のため，住民の食料生活は不安である。住民の75％はジャワ人で，ほかに西部地方と高地にスンダ人，東部地方とマズラ島にマズラ人がいる。オランダの植民地時代に中国人の移民があり，現在約50万人の華僑(かきょう)がおもに都市に居住している。主要都市は首都ジャカルタのほかに，東部にスラバヤ，西部にはバンドンがある。

10世紀までインド帝国の支配下にあったため，ヒンズー教と仏教の影響を受けた遺跡や村落自治組織がみられる。15世紀のマラッカ王国の出現は，インド文明に代わってイスラム教の伝来に道を開いた。1606～1942年までオランダの植民地下にあり，第2次世界大戦中の1942～1945年(昭和17～20)は日本に占領された。1946年マライ諸島のほかの島々とともにインドネシア共和国として独立した。　〔大崎　晃〕

ジャワ(海)　［Java］　マライ諸島のうち，スマトラ・ジャワ・ボルネオ・セレベスの島々に囲まれた海域で，豪亜地中海の一部をなす。第2次世界大戦中の1942年(昭和17)日本軍がスラバヤに上陸した際にジャワ海海戦が行なわれた。

ジャワげんじん　【ジャワ原人】　ピテカントロプス-エレクツスともいう。ダーウィン*は《人類の由来》(1871)において類人猿*(るいじんえん)と人の間の〈欠けた輪〉に触れ，1868年E.H.ヘッケル*はことばをもたない猿人*の化石がマライ諸島に発見されるであろうと予言した。この予言を信じたオランダの人類学者デュボア(1858～1940)が，ジャワ島ソロ川流域のトリニルで発掘し，1891～1892年にかけて発見された，遊離した猿的な大臼歯頭蓋(だいきゅうしとうがい)破片と大腿骨(だいたいこつ)のこと。ほかに下顎(かがく)骨片と5本の大腿骨が発見され，1936年以後ケーニッヒスワルトによって発見された2個の頭蓋と下顎1個がある。いずれも洪積世(こうせきせい)中期の動物相を示すトリニル層から出土した。

形態学的特徴は，頭骨の幅130mm，長さ185mm，脳容量850～900cc，耳頂高94mm，長高指数51.4％で，長く狭く，ことに低い。後頭隆起は類人猿と同じく乳様上櫛(じょうしつ)と連続する。上顎歯弓には歯隙(しげき)がある。　〔鈴木　尚〕

シャン(地方)　［Shan］　ビルマの東部地方。中国・ラオス・タイと接する平均海抜1,000～1,300mの高原で，西端は大断層崖(だんそうがい)となりシッタン川のつくる中部ビルマ平原に臨む。シャン高原は起伏に富み，サルウィン川が南北に深い峡谷をつくって貫流している。おもな居住民族はシャン族*で，人口約130万といわれる。銀・鉛その他の鉱産資源が多い。おもな都市はラショー，タウンジー。

シャーン　［Ben Shahn］(1898～1969)　アメリカの画家・デザイナー。ロシアのリトアニアにユダヤ人を両親として生まれた。1906年家族とともにアメリカに渡り，石版工として苦学しながらニューヨーク大学などに学んだ。その後ヨーロッパ・北アフリカに旅行，帰国後サッコ-バンゼッティ事件*などの社会的主題による連作を発表してリベラ*に認められ，ロックフェラー-センターの壁画を合作するに至る。作品に漂う哀愁をおびた人間性の表白は，独自の表現をみせている。　〔酒井忠康〕

シャンカラ　［Śaṅkara］　(700～750)　インドの宗教家・哲学者。梵我(ぼんが)一如*の思想を哲学的に深めて不二一元論*を唱導し，ベーダーンタ派(→インド哲学)の中の主流を形成している不二一元論学派を創設した。主著に《ブラフマ-スートラ註解》がある。彼は四つの僧院を建てたといわれ，その中心的なものは南インドのシュリンゲリーにあり，これらの僧院の院長は代々シャンカラ-アーチャーリヤとよばれ，今日なお精神的指導者として尊崇を受けている。　〔前田専学〕



ジャワ島　中部ジャワにある仏教建築の遺跡ボロブドール。8～9世紀のものと推定され，すぐれた彫像が多く残されている

ジャン-クリストフ　ロラン*の長編小説(1904～1912)。ドイツの音楽家ジャン-クリストフの苦難と波瀾(はらん)に満ちた生涯(しょうがい)を描いた10巻の大作。主人公が芸術と人生の真実を求めて苦悩し，普遍的な人間像にまで自分を高めていく姿には，作者の真理と人間性への熱烈な信仰がみなぎっている。主人公にはベートーベンのおもかげを認められ，方法的にはドイツの教養小説*の作風が取り入れられている。

ジャングル　［jungle］　一般には熱帯の密林をいうが，インドでは荒れ地や耕作されていない土地，森林も意味する用語になっている。熱帯多雨気候帯の常緑広葉樹林では下ばえやつる植物などが厚く密生した熱帯雨林の典型的なものをいう。クワ科・マメ科・フタバガキ科に属する巨木が茂るが，シタン・コクタン・チークなどを除けば有用材が少ないので林業はあまりふるわない。南アメリカのアマゾン川流域，ニューギニア，東南アジア，インド，アフリカのコンゴ盆地などに分布する。〔大石堪山〕

ジャンスキー　［Karl Guthe Jansky］(1905～1950)　アメリカのベル電話会社の電信技師。1931年に波長14.6mの電波を用いて電波を観測中，1恒星日を周期とする電波を発見した。これは銀河が南中するときに極大を示すので，銀河からくるものと判断した。また，この電波の最強域が，銀河系の中心方向と一致することも明らかになり，ここに電波天文学という新しい天文学の分野が開けた。

ジャンセニスム　［jansénisme］　17世紀中ごろから18世紀初頭にかけてのカトリッ



シャーン　《ハンドボール》　1939　ニューヨーク近代美術館蔵

ク教会内の運動。オランダの神学者ヤンセン(1585〜1638)の名に由来する。彼はイエズス会の恩寵(おんちょう)論，妥協的道徳を非難し，神の恩寵*の絶対性を主張した。彼の神学は親友のサン-シラン修道院長デュバルジュの厳格主義的実践とあいまって，広くフランスで受け入れられ，特にパリ近郊のポール-ロワイヤル修道院を中心に熱烈に支持された。1640年ヤンセンの遺作《アウグスチヌス》が出版されるとイエズス会から攻撃を受け，ポール-ロワイヤル修道院のアルノーはヤンセン説弁護に奮闘したが，教皇インノケンチウス10世によって1653年，ジャンセニスムは異端の宣言を受けた。以後パスカルがジャンセニスムの立場から《田舎(いなか)人への手紙》で巧みにイエズス会に反撃したが，ついにポール-ロワイヤル修道院も閉鎖され，精神的には強い影響力を残しながら運動としては終息した。ヤンセンの恩寵論がカルビニズムに近いことが迫害の最大の理由だが，この派の支持者がフロンドの乱*に参加するなどフランス絶対王政への抵抗精神を有していた人々であることも迫害を招いた理由となっている。

〔石井忠厚〕

シャンゼリゼ ［Champs-Élysées］ フランスの首都パリにある美しい並木通り。コンコルド広場からエトアール広場の凱旋門(がいせんもん)まで，約2kmにわたって延び，高級服飾店と喫茶店と劇場で有名。1616年，マリ-ド-メディシス*によってつくられた。北西端にあるエリゼー宮は現在は大統領官邸となっているが，かつてナポレオンが住んだものである。

シャンぞく 【シャン族】 タイ諸族の一。ビルマのシャン州を中心にアッサム・タイ・ラオスなどにも居住する。言語は北方タイ語族に属するが，他のタイ語族とはかなり異なる。人口は約100万人強。敬虔(けいけん)な仏教徒で生業は農耕を主とする。ナンチャオ王朝などかつては強力な王朝をもち，16世紀にはアッサム・ビルマ・シャムなども統治していた。父系出自による氏族組織をもち，社会階層は世襲的に固定しているが，カースト内婚などは存在しない。

〔竹村卓二〕

シャンソン ［chanson］ フランス語で〈歌〉〈小唄(こうた)〉の意味。フランスの世俗的歌曲をさし，今日ではおもにパリの流行歌をいう。

【特徴】 J.J.ルソーの《音楽辞典》(1767)によれば，〈シャンソンとは，きわめて短い叙情詩の一種で，ふつう快い主題が扱われ，くつろいだときに歌われる〉，またラルースの《シャンソン辞典》(1968)によれば，〈シャンソンは，民衆の心を表わし，ことばと音楽の結合から生まれた独創的な芸術である〉としるされている。一般に歌詞が物語になっているものが多く，曲はクープレという物語部分と，ルフランというくり返し部分とからなりたつ。歌手は自分の個性でシャンソンを歌い演ずることによって，作者と共同してその歌に生命を与えるものとみなされる。あるシャンソンをはじめて歌って成功させるのをクレアシオン*(創唱)というが，シャンソンでは創唱が特に重んじられ，かつては創唱者以外の歌手が歌うことはほとんどなかった。しかし，第2次世界大戦後，シャンソンが国際化するとともに，このような特色はしだいに薄れている。

【歴史】 シャンソンのみなもとは，中世の吟遊詩人の歌にさかのぼることができる。11〜13世紀ごろ，南フランスにトルバドール*が現われて，多くの世俗歌曲を残した。北フランスのトルーベール*は，それをさらに発展させ，恋愛歌から踊りの歌までいろいろな形式ができあがった。14世紀のアルス-ノバ*の時代には，マショー*らの作曲家によって，多声部の歌曲が盛んにつくられた。17世紀にはいると，セーヌ川に掛けられたポン-ヌフ(新橋)がパリの盛り場となり，集まった人々を前にして大道歌手が歌った。特に特権階級や政府を風刺した歌が喜ばれたが，このような風刺歌の作者兼歌手をシャンソニエという。この時代から，シャンソンは名実ともに民衆のものになった。

歌い手たちに職場を提供し，近代シャンソンの温床としての役割を果たしたのはカフェ-コンセール(音楽を聞かせる喫茶店)である。最初のカフェ-コンセールは1770年に現われ，19世紀後半には最盛期に達して，数多くの人気歌手を世に送り出した。一方，1731年にはカボー(〈地下の穴倉〉の意)とよばれるものができた。これはシャンソンを愛する詩人たちのクラブで，彼らは日を決めて集まっては，自作の歌を披露(ひろう)し合った。1804年には，カボーに対抗してゴゲットというシャンソン-グループもつくられた。これはメンバーが労働者や職人よりなり，キャバレーに集まっては歌を楽しんだ。こうして，ベル-エポック(1900年前後から第1次世界大戦までの〈良き時代〉)のころ，シャンソンは多彩な発展を遂げて今日の形を整え，女性歌手イベット-ギルベール(1867〜1944)が現われて，語るように歌う，シャンソン独特の唱法を確立し，のちの歌い手に大きな影響を与えた。

20世紀にはいると，シャンソンの中心は，カフェ-コンセールからミュージック-ホールに移る。大きな劇場で大がかりなショーを提供するミュージック-ホールは，イギリスに範をとり，1868年にパリに出現した。第1次世界大戦後はミュージック-ホールのレビューが人気を集め，ミスタンゲットやシュバリエ*らのスターが活躍した。また，ダミア(1892〜1978)らは暗い現実的なシャンソン(シャンソン-レアリスト)を歌って成功した。このころからラジオが普及し，さらに1930年以降，レコードやトーキー映画が，シャンソンの有力な媒体となり，ジャズやラテン-リズムなど，外来音楽の影響もみられた。シャンソンにジャズの手法をとり入れて新分野を開拓したミレイユに続いて，トレネ*は自由奔放なシャンソン-ファンテジスト(幻想的シャンソン)をつくって，第2次世界大戦後のシャンソンへの橋渡しをした。1940年代には偉大な女性歌手ピアフ*が活躍し，1950年前後にはモンタン*・ジャクリーヌ-フランソア・ジュリエット-グレコらが人気を獲得した。カボー以来の伝統を継ぐシャンソン-リテレール(文学的シャンソン)も復活し，ジョルジュ-ブラッサンス・レオ-フェレらのシャンソニエがすぐれた作品を発表した。さらに，ジルベール-ベコー・シャルル-アズナブール*らはリズム感にあふれた歌い方で若い世代の人気を集め，その後のシャンソンの傾向を決定づけた。1961年にはロックやツイストがはいり，この形を使ったイエ-イエとよばれる歌が流行した。ジョニー-ハリデイやシルビー-バルタンはイエ-イエの人気スターである。1960年代の半ばごろから，フォークソングなどの影響を受けて，力強くしかも内容のあるシャンソンが好まれ，アダモ*・ミシェル-ポルナレフらの自作自演型の新人が台頭して今日に及んでいる。

〔永田文夫〕

シャンソン ［André Chamson］(1900〜) フランスの小説家。故郷南フランスのセベンヌ地方がその作品に深い影を落とし，はじめ地方の自然を描く作家として出発。1930年代には，特異な思想小説《懲役船》などを書き，いわゆる人民戦線派の代表的作家として活躍した。他に《雪と花》などがある。

シャンソン-ド-ジェスト フランス中世文学のジャンルの一。国王や封建諸侯の武勲を歌った長編叙事詩で，〈武勲詩〉ともよばれる。ほとんどの作品の作者は不詳で，11世紀末から12世紀初頭にかけて書かれ，以後衰退する。同じころに隆盛であったいわゆる聖者伝と異なり，周到な心理的配慮が織り込まれ，外的史実を空想的な自由な解釈で潤色しているのが特徴。《ローランの歌*》《ルノー-ド-モントーバン》《ギヨームの歌》や十字軍を題材とする一群のものなどがある。

〔池田公麿〕

シャンタン ［shantung］ もと中国の山東省で柞蚕糸(さくさんし)を手織りにしたもの。ふつうたて糸に生糸，よこ糸に玉糸・紬糸(つむぎいと)を用いた平織りの布地で，よこ方向にところどころ節が現われて，趣のある外観を示す。この外観に似せた織物が化学繊維でもつくられる。合服地・夏服地としてドレスに賞用される。無地染めが多い。

シャンツェ ［Schanze］ スキーのジャンプ台。飛躍台(ジャンピングヒル)ともいい，助走路(インラン，踏み切り地点を含む)・着陸斜面(ランディングスロープ)・圏

外(アウトラン)からなる。力学的な数値に基づいて設計されており，そのシャンツェにおける最長飛距離はおのずから決まっていて，オリンピック大会や世界選手権大会では70m級・90m級の二つのシャンツェが使われる。

シャンデルナゴル　[Chandernagor]　インド共和国東部，西ベンガル州にあったフランスの植民地。カルカッタの北約34km，フーグリ川に沿い，面積は約10km²にわたっていた。1688年フランスの商業基地として建設されたが，その後，勢力を増大したイギリスとの間で争奪がくり返された。第2次世界大戦後インドに返還された。

ジャンヌ-ダルク　[Jeanne d'Arc]　(1412～1431)　百年戦争*末期のフランスの愛国的少女。ロレーヌ州南部のドンレミーの富裕な農家の娘。この地域はアルマニャック派貴族の本拠となっていたが，周囲はブルゴーニュ派で，たえず惨禍にさらされていた。13歳のとき〈フランスを救え〉という神の声を聞き，1428年シノンの宮廷でシャルル7世*と会見，1429年〈主よきませ〉の賛歌を歌いつつ小部隊でイギリス・ブルゴーニュ同盟軍を破ってオルレアンの囲みを解き(オルレアンの戦い)，同年7月ランスでシャルル7世の戴冠式(たいかんしき)が挙行された。1430年コンピエーニュでブルゴーニュ派に捕えられてイギリス側に引き渡され，宗教裁判で異端の判決をうけ，1431年5月30日ルーアンの〈旧市場〉広場で火刑に処せられた。1456年名誉回復裁判が行なわれ，1920年に聖者の列に加えられた。　〔喜多迅鷹〕

ジャンパー　[jumper]　ゆったりとした活動的な上衣。たけはウエストたけまたはそれよりやや長めで，すそとそで口にベルト・カフスまたはゴムがついてしぼられる形のものが多い。作業着・遊び着・スポーツ着として男女ともに広く愛用されている。また，そでなしで深いえりぐりをもつ胴着をいい，これにスカートが続いているものをジャンパースカートまたはジャンパードレスという。

シャンハイ　【上海】　中国の東海岸，揚子江河口の三角州にあり，黄浦(こうほ)江西岸に位置し，呉淞(ウースン)江との合流点に発達した大港湾都市。商工業は中国で最も盛んであり，北京(ペキン)とともに中央政府直轄の特別市となっている。面積5,800km²。人口1,082万(1972)。別名を滬(こ)または申(しん)という。12市轄区と10市轄県に分かれている。

揚子江流域一帯を後背地とする大商港で，中国沿岸はもとより，世界各地と連絡し，港は30,000トン級の大型船が入港でき，黄浦江岸壁には100隻以上の外航船が停泊できる。鉄道は，滬寧(こねい)鉄道(上海～南京(ナンキン))によって南京に，また滬杭(ここう)鉄道(上海～広州)によって杭州に達し，市北部の停車場から北京・福州・広州・成都・蘭州などと結ぶ長距離直通列車が発着する。飛行場は龍華・虹橋と二つあり，虹橋空港は最近整備された中国最大の空港で，国内線・国際線の定期航空路に利用される。かつては商業のみの異常なまでの発展を特色としていたが，1860年に工業が始まり，第2次世界大戦前は軽工業，特に紡績工業の発達が著しく，重工業はわずかに修理・組み立てを主とするものにすぎなかった。1949年当時は，外国資本企業が1,200もあったが，以後これらを回収し，第1次5か年計画により上海郊外に多くの工業団地が次次と誕生し，現在は製鉄・機械・電機・化学・車両・造船のほか，繊維・カメラ・時計などの工業も盛んである。文化面では華東地方の中心で中国科学院華東分院，復旦・同済・華東師範大学など研究機関や大学，蔵書数500万冊をこえる図書館や美術館・博物館・商務印書館・中華書局上海編集所・上海人民出版社・古典文学出版社など出版活動も活発に行なわれている。娯楽施設では，戦前から有名な〈大世界〉をはじめ，労働者・青少年のための工人文化宮・少年文化宮などの諸施設がある。

12世紀に揚子江の沖積地(ちゅうせきち)に上海鎮として現われ，元代には県となり，明(みん)・清(しん)時代には松江府に属していた。



ジャンヌ-ダルク

しかし上海が脚光を浴びるようになったのは南京条約(1842)による開発以後で，1845年以降はイギリス・フランス・アメリカ合衆国が次々と租界を設け，企業を開き，国際都市としての様相を呈するようになった。しかし，列強に支配された一面とともに革命の伝統もあり，1921年，中国共産党はこの地で成立し，1925・1926・1927年の上海労働者の武装蜂起(ほうき)など中共政権誕生の重要事件の舞台でもあり，また1932年1月，日中両軍が衝突した〈上海事変*〉もここで起きている。　〔船越昭生〕

シャンハイクーデター　【上海クーデター】　中国，上海で，1927年4月12日に蔣介石*(しょうかいせき)が起こした反革命クーデター。四・一二クーデターともいう。当時，北伐*と国民革命が進展する中で，3月21日上海の労働者は武装蜂起(ほうき)し，臨時市政府を組織した。帝国主義と反動派はこの事態に恐怖し，南京(ナンキン)事件*を起こすとともに蔣に裏切りを働きかけた。労働者は陳独秀*の右翼路線のもとに，蔣の武装解除命令に応じ，その結果数百名が逮捕・虐殺されて市政府は崩壊した。この事件は国民革命挫折(ざせつ)の転機となり，その直後に国民政府が樹立した。　〔狭間直樹〕

シャンハイじへん　【上海事変】　【第1次上海事変】一・二八事変ともいう。満州事変以後，日本が華中へ侵略を拡大して起こした戦争。1932年(昭和7)1月上海で発生した日本人僧襲撃事件を口実に，日本は抗日運動抑圧を要求し，日本人保護の名のもとに日本海軍陸戦隊が上海を攻撃すると，抗日運動の高揚にささえられて十九路軍は市民とともに抗戦した。しかし，蔣介石(しょうかいせき)の裏切り，イギリスなどの策動によって5月5日停戦協定の成立をみた。【第2次上海事変】蘆溝橋(ろこうきょう)事件*によって全面的な中国侵略戦争を開始した日本が上海方面に設けた第2戦線。日本軍人射殺事件を口実に，1937年8月13日，日本は上海攻撃を開始して3個師団を投入し，11月11日上海を陥落させた。これを契機に南京(ナンキン)政府も抗日に追い込まれ，同年

上　海
黄浦江に沿う上海の港とその市街地。早くから中国最大の貿易港として発展し，現在もその機能はさらに増大している





ジャンボ-ジェット　ボーイング747

9月第2次国共合作*が成立したが，実質的には共産党の指導する民族革命戦争としての抗日戦争が展開されることになった。〔狭間直樹〕

ジャン-パウル　[Jean Paul]（1763～1825）　ドイツの小説家。本名はフリードリヒ-リヒター。ライプチッヒで神学を学び，貧しい生活を続けたが，のち官職について終身年金を受け，創作に没頭した。その作品には構成・文体・感情表現などに散漫な点もあるが，小市民の生活を多感で鋭敏な風刺力でとらえた処女作《ブーツの生涯(しょうがい)》や《フィクスラン》《ジーベンケース》，ゲーテの《ウィルヘルム-マイスター*》にならった教養小説*《巨人》などがある。当時の流行作家であり，ドイツ-ロマン主義*の先駆者として，ケラー*・ラーベ*らに大きな影響を及ぼした。また美学者としての著作《美学入門》もある。〔関　徹雄〕

シャンパーニュ　[Champagne]　フランス北東部，パリの東方にあたる地方名で，旧州名。ムーズ川・マルヌ川・セーヌ川の上流地方で，アルデンヌ・マルヌ・オートマルヌ・オーブなどの県を含む。有名なシャンパン酒は，この地方特産の良質白ぶどう酒である。中心都市のトロアは中世ヨーロッパの通商路の交点にあたり，定期市で知られた。第1次世界大戦では激戦の舞台になった。地名はラテン語で平原の意のカンパニアに由来する。〔野間三郎〕

ジャン-バルジャン　ユゴー*の長編小説《レ-ミゼラブル*》の主人公。一片のパンを盗んで投獄され，社会への憎悪をいだいて出獄するが，司教から人間の根源的善性と博愛の情を教えられ，以後社会の悪と戦い，不幸な人々を献身的に救おうとする感動的な人物。

シャンプー　[shampoo]　洗髪・洗髪剤のこと。洗髪剤にはせっけん性と非せっけん性の2種があり，外観上は粉状・液状・クリーム状がある。現在はラオリール・アルコール・せっけんなどを主体にした液状のものが多く使われる。クリームシャンプーはラノリンその他の油脂類を各種合成洗剤などの混合物で乳化し，クリーム状にしたもの。オイルシャンプーは起泡(きほう)性が少ないが，つやのない毛やふけ性に適する。〔メイ-ウシヤマ〕

シャンプラン　[Samuel de Champlain]（1567～1635）　フランスの探検家。1603～1607年，国命によってカナダ探検におもむき，セントローレンス川をさかのぼり，ケベックを建設した。1620年カナダの初代総督となり，1629年イギリス軍のケベック侵入に際しては捕虜になったこともある。アメリカ合衆国との国境にあるシャンプレーン湖は彼の発見にちなんで命名されたもの。

シャンペン　⇨ぶどう酒

ジャンボ-ジェット　[jumbo jet]　一時に大量の旅客や貨物を輸送するジェット輸送機。航空輸送の需要は旅客・貨物とも逐年増大する一方，大都市付近の飛行場は発着機数が飽和に近づき，新たに空港を建設したり既設の空港を拡張したりすることが困難な事情などが，いまや世界各国共通の問題になっている。既設空港付近の空のラッシュをこれ以上悪化させないで，輸送能力を高める方法の一つとして，輸送機1機あたりの積載量を増すことが考えられた。この方法は旅客1人1kmあたりの運搬費を引き下げうる利点もあって，ジャンボ-ジェットは生まれた。第1陣を承って1970年代の初頭から就航。ボーイング747は推力19.7tのターボファン-エンジン4発，全備重量約320t，主翼面積511m²と，現用のDC-8などに比べて2倍近い大きさで，最高490人の乗客を乗せ，巡航速度1,000km/時，航行距離7,400kmの性能をもつ。ロッキード社でも，軍用輸送機C-5Aを民間向け貨物輸送機に改造するL-500の計画を発表している。ジャンボ-ジェットの導入は，一時に従来の3倍以上の旅客や貨物が発着するという点で，空港施設やサービス，空港都心間の関連輸送機関にも変革を要求するので，各国の第1種国際空港ではその受け入れ態勢を整備している。〔中口　博〕

シャンポリオン　[Jean François Champollion]（1790～1832）　フランスのエジプト学者。少年時代からエジプトに関心をもち，パリ大学・グルノーブル大学で東洋語を学んだ。1822年コプト語の知識に基づいて，ロゼッタ-ストーン*のヒエログリフ（聖刻文字）の解読に画期的な成果をあげた。《古代エジプト人のヒエログリフ体系図要》(1824)はその成果をまとめたものである。のち，グルノーブル大学の教授を経て，ルーブルのエジプト博物館館長となった。1828年エジプトに旅行して健康を害し，翌年帰国して，彼のため創立されたパリ大学のエジプト考古学の教授の職についたが，就任講演をしただけで早逝(そうせい)した。死後《エジプトの記念物》《エジプト語文法》《ヒエログリフ辞典》などが出版された。なお，兄のフィージャクも考古学者として知られる。〔兼岩正夫〕

シャンボールじょう　【シャンボール城】　フランス中西部，ロアール川支流コソン河畔にあるフランス初期ルネサンス建築を代表する中世的な城。当初は，狩りの集会所として用いられた。正方形の敷地の四隅(しぐう)に塔が建ち，中央にパビヨン（あずまや）がある。1519年にフランソア1世が建造に着手，1936年ごろに完成した。

しゅ　【種】　生物分類の基本的単位。若干の個体があり，雌雄両性の差異は別として，個々の形質に至るまで同一の類型に属するならば，それらの個体は同種である。しかし，その基準だけで種を厳密に判定することはできない。それは，生物はすべてどの形質についても変異があり，どれだけの変異の幅をもって一つの種とするかは容易に決められないからである。ある個体群において，すべての正常な雌とすべての正常な雄とが相互に交配して生殖可能であるならば，その個体群は同種であり，また同種であれば，原則として，そのように生殖可能であることを種の基準とする場合が多い。しかし，種の判定のためにいちいち交配してみることは容易ではなく，古生物の場合にはまったく不可能である。したがって，どの程度の形態的類似であれば生殖可能であるかについて多くの例で経験的に指標を決め，それにしたがって形態的に種を判定していくことを原則とするほかない。実際に多くの場合，そのような方法で学者間でほぼ一致する種の判定がなされている。

多くの特徴を共通にもつ種の集合は属とよばれる。同属の諸種は，いくつかの形質において差異を示す。生物の分類系を全体としてみると，綱・目のように上位の分類階級では一定数の特徴を共通にもつことが基準とされ，属・種のように下位の分類階級になるほどある形質での差異が基準とされる傾向がある。

【命名】生物学の研究上，種に国際的に共通なよび名を与えることが必要となる。その呼称が国際命名規則によって決められた学名である。学名にはリンネ*によって確立された二名法が採用されている。二名法とは，属の名のあとに種を表わす名（種小名）を付したものであり，属名は大文字ではじめ，種小名の語尾はラテン語的にすることに定められている。マツ（属）は*Pinus*で，クロマツは*Pinus thunbergii*，アカマツ

はP. *densiflora*である。イヌは*Canis familiaris*，オオカミは*Canis lupus*であって，この二つの学名は両者が同属であることを表わす。ヒトは*Homo sapiens*であるが，ネアンデルタール人が現生人と同種であるとみる場合，それは定義の項で述べた判定の基準にしたがったものである。

〔亜種と変種〕 ある一つの種の中で，形質の差異によりさらに種類を分けるのが適当とみられる場合に，亜種という分類階級を設ける。亜種同士は地理的に隔てられ，あるいは出現・繁殖の時期をことにするなど，相互に交雑しがたいように隔離されているのが普通である。亜種は種の学名のあとに亜種名を付して表わす。オオカミの1亜種ホンドオオカミは*Canis lupus hodophilax*で表わされる。また，モリアオガエルとシュレーゲルアオガエルは同種の亜種で，前者は*Rhacophorus schlegelii arborea*，後者は*Rhacophorus schlegelii schlegelii*と書かれる。

ある種から少し隔たった形質をもつが異種とするほどの差異でない場合は，その種の変種とする。変種は種の学名のあとに変種の意味の語var.を冠した変種名を付して表わす。ヤマブキの学名は*Kerria japonica*であるが，ヤエヤマブキ・キクザキヤマブキはともにその変種で，前者は*K. japonica* var. *pheniflora*，後者は*K. japonica* var. *stella*と書かれる。

家畜や作物で人為的につくられたいろいろの種類は品種とよばれる。ブルドッグ・グレーハウンドなどはイヌの品種である。その多くは亜種あるいは変種ほどの差異をもたないが，自然界に野生で発見される変種などを育てて品種とすることもある。

〔種と進化〕 進化の基本になるのはある種から新しい種ができるということである。種より上級の分類群が新たにできる場合でも，それは同時に新種の形成である。進化論が樹立される以前には，種は天地創造の際に個々につくられ，以来変化しないで現在に至ったもの（特殊〔個別〕創造説）と考えられた。進化の観念が生じ進化の機構が問われたとき，まず問題になったのは新種の形成であり，ダーウィンの主著の題名が《種の起源》であるのはそれを示す。ダーウィンは自然選択説に基づいて変種を新種への移行過程と考え，これを〈発端の種〉とよんだ。

同属・同科のように同じ分類群に属する種は，共通の祖先に由来するものと考えられる。また各分類群は，同じ系統的由来をもつ種を含むことを目標として決められる。これは系統分類の原則である。

〔種形成〕 新種の形成過程は種形成または種化とよばれる。新種の起源に際しては，まずある個体群がもとの種の個体群と多少とも生殖的に隔離されることが必要である。そのようにもとの個体群と交配不能であるか，または交配しても正常の子が生まれない個体群が生じるのは，突然変異によるわけであるが，多くの場合最初に地理的隔離が起こり，新たな環境に適応しつつそのような個体群が選択されるものと考えられる。地理的隔離による，もしくはそれを伴う種形成を異所的，同一地域内での種形成を同所的という。後者は多くないが，繁殖期や食性をことにする個体群が同所的に生じ，種形成に進むことはありうる。

一つの種がしだいに生息範囲を広げ，その分布の周辺部で新種の形成が起こったと推定される場合がある。この場合，その種と元の種とは互いに姉妹種であるという。

突然変異が進化の素材であるとすれば，ごく近縁の種を区別する形質の差異がいずれかの種の突然変異として実証されることが期待される。実際にはどのくらいの数の突然変異で種が区別されるかなどの基準はなく，また種間の差異が突然変異的なものであるということに対して，少数ではあるが反対意見もある。しかし，ショウジョウバエの多数の種の中には，キイロショウジョウバエなどで知られる単一の突然変異に近い差異で，二つの種が区別される例も知られている。

〔生態と種〕 種は生物の生活における単位としても重要性をもつ。同種の個体は多数または少数の個体群を形成して生活しており，そのような個体群をつくることによって個体の生存および生殖が可能となる。今西錦司（きんじ）は，種を生物全体社会の中の部分社会とみて，〈種社会（specia）〉の概念を立てた。ただし，同種でも個体群が分散的に存在する場合も多くみられ，それは場合によっては亜種または変種になる。同種の諸個体群が異なる環境下に置かれて形質の差異を示すとき，個々の環境への適応型を生態型（平地型と高山型・乾生型・湿生型・水生型など）とよび，いくつかの生態型をあわせて生態種とすることも提唱されている。

〔種の数〕 一般に現生種は動物で100万以上，植物で30万以上と推定され，これよりかなり多く見積もる者もある。いろいろの門・綱・目・科・属により，種数はまちまちである。動物では，原生動物20,000，腔腸（こうちょう）動物9,000，節足動物80万以上（うちこん虫類75万），脊索（せきさく）動物60,000以上などという数字がある。属については，1属1種のものもあり，ショウジョウバエ属（700種以上）のように多数の種を含むものもある。植物でも，ケイ藻（そう）類5,000，真菌類37,000，シダ類9,300，裸子植物700，被子植物25万（うち双子葉類20万）のように不均等である。

絶滅種の数の推定ははなはだ困難である。化石として既知のものでも，種の判定の基準が現生種とは異なる場合があり，その困難を増大させている。　〔八杉龍一〕

シュアレス ［André Suarès］（1868～1948）　フランスの文芸批評家。〈批評は詩なり〉の信念に基づく独自の立場から，平板な叙述をきらってきわめて格調高い文章を書いた。古今の作家・偉人の人生批評的評論を多く書いているが，第1次世界大戦後の青年層に大きな影響を与えた。《エヌエルエフ》（新フランス評論）の創設者のひとりで，ヒトラー出現の当初からナチズムの脅威を説き，その撲滅を論じた。パスカル・イプセン・ドストエフスキーを論じた《三人》のほか，《大ヨーロッパ人ゲーテ》《傭兵（ようへい）隊長の旅》などがある。　〔飯田良明〕

しゅいしゅぎ　【主意主義】　哲学で理知よりも意志*を優位とする説で主知主義*に対立し，情熱・欲求などを重視する。人間の意志的行動は一定の目的をめざす努力であるとするホッブズ*，理性は意志を強める役にはたたないとするヒューム*，意志の根拠は意志すること以外にはないと説くフィヒテ*，中でもカントの物自体*と盲目意志とを同一視し，すべての現象を意志の表現とみたショーペンハウアー*が代表者とされる。倫理学では，万人に共通の善*は自己保存欲であるとするホッブズ，善とは人の欲求するものであり，その基準は最小限の不満によって最大限の充足を与えることだというプラグマチズムの代表者W. ジェームズ*らがあげられる。神学では，理性は無意味であるとするダミアン，神の本質は意志であるとするドン－スコトゥス*，神の意志こそ道徳の究極の基準とするオッカム*，理性による証明は宗教生活に無縁とするキルケゴール*などの説があげられよう。　〔玉井　治〕

しゅいろ　【朱色】　色名。朱*のような色。やや黄みをおびた，さえた赤色。顔料の朱には赤みがかった朱から黄みがかった朱まで種々あり，実際に朱色という場合にはそのすべてを含んだ広範な色相を意味している。日本工業規格（JIS）慣用色名〈朱色〉は，色相6.0R，明度5.5，彩度13.5の色と規定されている。➔色

しゅいんじょう　【朱印状】　朱印ともいう。朱印を押した公文書。戦国時代，武将が政務・法令・軍事などについて文書を発行する場合，花押*の代わりに朱色の印章を押すことが盛んとなり，これを朱印状といった。安土桃山時代を経て江戸時代に及び，歴代将軍が用いた。所領安堵（あんど）・所領給付などは朱印状によって行なわれ，また朱印状によって年貢（ねんぐ）・課役を保障された寺社領を朱印地，海外渡航を許可された貿易船を朱印船*と称した。　〔高崎徳次〕

しゅいんせん　【朱印船】　近世初期，海外貿易に従事した商船。豊臣秀吉（とよとみひでよし）や徳川幕府将軍の朱印を押した渡航免状（➔朱印状）を携帯したのでこの名がある。渡航先は南シナ海沿岸・インドシナ半島・南洋諸島の主要港である。多くは200～300トン程度の船で，1604～1635年（慶長9～寛永12）の派遣船数は355隻に上る。朱印船貿易家は島津・有馬・松浦・鍋島（なべしま）諸氏の

西国大名，また村山等安らの幕臣，末次平蔵・末吉孫左衛門(まござえもん)・角倉了以(すみのくらりょうい)・茶尾四郎次郎らの豪商，李旦(りたん)・アダムスらの外国人など100余名に及んでいる。貿易品は輸入が生糸・絹織物・綿織物・砂糖，輸出が銀・銅・鉄・イオウ・刀剣などである。貿易地には在留日本人によって南洋日本町*が形成されたが，キリシタン*禁圧とともに幕府は徐々に海外渡航を制限した。後年は，末吉・末次・茶尾・角倉ら幕府と特別の関係をもつ少数の者になった。1631年(寛永8)幕府は奉書船*制度を設け，海外渡航には朱印状のほかに老中の奉書を必要とし，1633年には奉書船以外の海外渡航を禁止した。さらに1635年の鎖国*令により日本船の海外渡航は全面的に禁止され，朱印船制度は消滅した。〔松尾　涼〕

しゅう【周】

1中国古代の王朝。周民族は，はじめ陝西(せんせい)省の渭水(いすい)流域で遊牧民と接触しつつ力をたくわえた。文王は有徳の君で西伯(西方の覇者(はしゃ))となり，その子の武王はついに殷(いん)の紂王(ちゅうおう)を破って西周王朝を開いた(紀元前11世紀)。都は鎬京(こうけい)(陝西省西安)。血縁者を各地に封じ，周室が本家として彼らを統合するという宗法制度・封建制度をその支配体制の基礎とした。昭王・穆王(ぼくおう)のころ国力は最も伸びたが，やがて異民族の侵入が激しくなり，BC771年，第12代の幽王が犬戎(けんじゅう)に殺されると，あとを継いだ平王は，周の故地を棄てて洛邑(らくゆう)(洛陽)に遷都した(BC770)。以後を東周とよぶ。東周は，その前半は春秋時代(BC770～BC403)に，後半は戦国時代(BC403～BC221)に含まれる。東周時代には周の勢力は微弱で洛水流域の小国にすぎなかったが，春秋時代はそれでもなお諸侯たちが周王を名目的な主君と認めていた時期，戦国時代はそれすら認められなくなった時期とされる。BC249年，西から勢力を伸ばしてきた秦(しん)に滅ぼされた。後世の儒家が，西周の文物制度を理想化して自分たちの思想のよりどころとしたため，中国文明全体に対する周文化の影響力は大きい。〔小南一郎〕

2(北朝) →北周

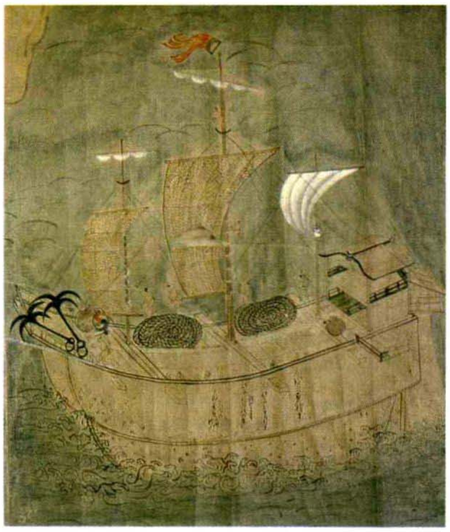
3(唐) →則天武后

4(五代十国) →後周

5(元末) →呉6

しゆう【子游】(BC506～？) 中国，古代の儒学者。姓は言，名は偃(えん)。子游は字(あざな)。孔門の十哲*のひとり。→子夏

じゆう【自由】 自由とはもともと奴隷や虜囚の状態の反対で，おのれの欲することを他人から強制されずに行なうことができる状態を意味した。これから転じてさまざまな意味に用いられるが，フランスの哲学者アンドレ-ラランド(1867～1963)に従い，大きく，①身体的・物理的意味の自由，②社会的・政治的意味の自由，③人間の内心の問題としての自由，の三つに分けて考えるのが適当であろう。



朱印船《茶屋船交趾渡航貿易絵巻》(部分) 名古屋情妙寺蔵

①は外的な力や強制を加えられていない状態，つまり身体的・物理的次元において，その本性に従い，欲するままに行動できる状態をいう。この意味の自由は人間のみならず生物一般，さらには物体についても適用される。②は法の許す範囲内でおのれの欲することをなんでも行なうことのできる状態をいう。この法のもとでの自由という観念が十分な意味をもつようになるのは近代社会においてであり，奴隷や農奴の労働にその経済的基盤を置く古代社会および中世封建社会にあっては，法の保護を受け，自由を享受できるのは一部の人々に限られていた。しかし，原理的にはすべての人々が法の制定に参加し，その保護を受けるはずの近代社会も，信教の自由や言論の自由，職業の選択および結社の自由などの成果を生み出しはしたが，私的所有の自由から起こる経済的不平等の問題を解決することができない。マルクス主義においては，私的所有の自由を排し，全体的観点から個人の自由を制限する。③は哲学的な意味の自由で，これにはさまざまな見解がある。

われわれの中にある情念や欲望に打ち勝って，真に理性的な行為を行なうことを自由とみたのはストア派*の哲学者やスピノザ*であった。デカルト*は人間の諸能力の中で意志の自由だけが限界をもたず，神の能力に最も近いと考えた。これは無意識的・衝動的行為の反対であり，反省熟慮を経て判断する能力である。カント*のいう自由は，道徳法則が成立するためにはどうしても要請される自由である。彼は，時間・空間の世界である現象界にあっては因果関係に基づく自然法則が唯一の法則だから自由は否定されるが，道徳的義務が問題となる可想界においては，これをささえる自由が考えられねばならないとした。したがって，カントのいう自由は二重性をもち，現象界において否定されながら，可想界において復活する。これを彼は先験的な意味の自由とよんでいる。シェリング*は自己の本性すなわち内的必然性に従って行為することを自由と名づける。この意味の自由は必然性と対立せず，むしろ必然性を自由意志によって肯定するところになりたつ。ベルグソン*は，人間の行為が自由であるかそれとも先だつ動機によって決定されているかという議論そのものがすでに自由を否定すると考えた。自由はそうした分析的知性によっては定義不可能なものであり，われわれが自分の果たす行為に対して直観的にとらえることしかできないものなのである。サルトル*は〈獲得の自由〉と〈選択の自由〉とを区別し，後者を本来の自由と考えた。だが選択の自由とは，単にわれわれの前にある物事を選び取ることをいうのではなく，なにかを選ぶ行為そのものがすでに自己を選ぶことになるような性質のものである。われわれはいかなるときにも自己を選んでおり，生きていること自体が一つの自己選択の結果である。人間は事物存在と異なって，そのあり方そのものがたえず自己選択を要求されているがゆえに，つねに自由なのである。彼は社会的・政治的な意味での自由の獲得を〈解放〉とよび，それを積極的に肯定すると同時に，これとは次元の異なる自由，すなわち人間存在のあり方そのものである自由を擁護する。〈人間は自由であるがゆえに解放を欲する〉という彼のことばは，そのかぎりにおいて矛盾ではないといえる。〔飯塚勝久〕

しゅうあん【輯安】 チーアン 中国東北部，吉林省輯安県の県政府所在地。通溝(つうこう)または洞溝(どうこう)ともよばれ，1965年集安と改名。鴨緑江(おうりょっこう)中流の北岸にあり，梅輯鉄道の終点。古くからの交通の要点で，高句麗(こうくり)の都であった。古墳をはじめとする遺跡が多いので有名。

じゅういがく【獣医学】 家畜・家禽(かきん)の生命現象を研究する自然科学の一分野。特に家畜に関する病気の治療および予防，繁殖・飼養・衛生・公衆衛生などを内容とし，基礎学として解剖学・生理学・薬理学・病理学・微生物学・内科学・外科学・畜産学などがある。経済動物を対象とするため，人体を対象とする医学と異なり，必ずしも治療を徹底するとはかぎらず，殺して肉としての利用を選ぶ場合もある。同様の見地から，伝染病・中毒・栄養障害など重視される。

じゅういし【獣医師】 家畜(ウシ・ウマ・メンヨウ・ブタ・イヌ・ネコ・ニワトリなど)の疾病(しっぺい)に関する診察および治療を業とする者。その資格は獣医師法に基づいて農林省に置かれる獣医師免許審議会が年1回行なう獣医師国家試験に合格し，免許を申請し，獣医師名簿に登録の上，免

許証の交付を受けた者に与えられる。国家試験受験資格者は①正規の大学において獣医学*の4年以上にわたる課程を修め，これを卒業した者。②外国の獣医学校を卒業し，または外国の獣医師の免許を得たもので，獣医師免許審議会が①と同等以上の学力および技能を有すると認定した者である。獣医師でなければ，家畜の診療を業務としてはならない。〔岡田十九郎〕

じゅういち【十一】鳥類・ホトトギス科。ジヒシンチョウともいう。鳴き声が〈十一〉あるいは〈慈悲心〉と聞こえるところからこれらの名がある。全長約32cm。東アジア・東南アジアに分布し，日本では夏鳥として，四国，本州中部から北海道の低山帯・亜高山帯の森林で繁殖する。上面およびくちばしの下は灰紫色，下面は淡赤かっ色で横斑(おうはん)のないことなどが，日本産の他のホトトギス類との相違点である。卵の地色は緑青色で，鈍端にかっ色斑がある。主としてコルリ・ルリビタキに托卵(たくらん)する。これら2種の卵はジュウイチのものと似ており，暗い森林の地上に営巣する種類である。〔安部直哉〕

じゅういちがつかくめい【十一月革命】⇨十月革命

じゅういちがつかくめい【十一月革命】⇨ドイツ革命

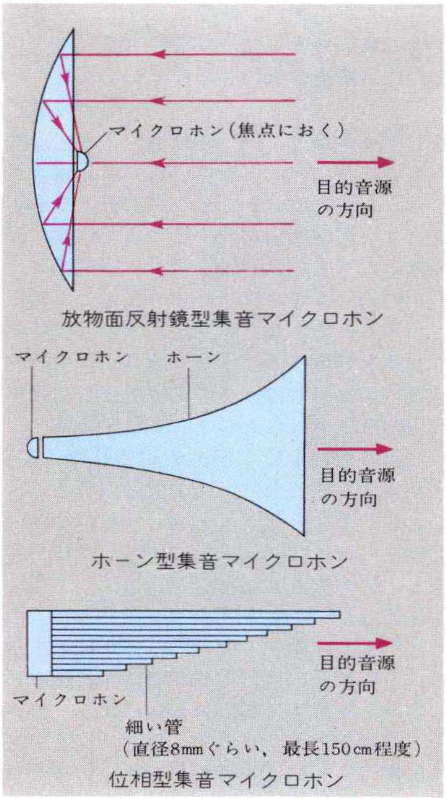
じゅういちめんかんのん【十一面観音】観音*の一。梵語(ぼんご)Ekadaśamukha(エーカダシャムッカ)の訳。この尊を供養・礼拝すれば物資に恵まれ，災害や迫害からのがれ，無病息災で極楽に往生できるとされる。十一面の由来はバラモン教の十一荒神に発し，これが6世紀ごろ仏教に混入したといわれる。形像には二臂(にひ)・四臂・八臂の別があり，十一面の配列も異なる。わが国では飛鳥(あすか)時代から造像され，現存の国宝も多い。〔北条賢三〕

じゅういちやぎさぶろう【十一谷義三郎】(1897〜1937) 小説家。神戸(こうべ)市の生まれ。東京大学英文科卒。《文芸時代*》の創刊に参加，新感覚派*の作家として《白樺(しらかば)になる男》など虚無的で特異なテーマの作品を発表。のちには，庶民の哀感を描くようになり，代表作《唐人お吉》を残した。

しゅういわかしゅう【拾遺和歌集】第3番めの勅撰(ちょくせん)和歌集。撰者は花山院・藤原公任*(きんとう)の両説があり，別に《拾遺抄》なる書もあって，両者の密接な関係から成立時・撰者については判然としない。その名称は《古今和歌集*》《後撰和歌集*》に次ぐその拾遺を意味し，この集の性格を表わしている。古今ふうの知的な構成が薄くなり，平明な表現に変わっていて，その点で公任の及ぼした影響を看過できない。



十一面観音《十一面観世音菩薩立像》渡岸寺蔵



集音マイクロホン 原理構造図

じゆうエネルギー【自由エネルギー】熱力学*的特性関数の一。物質の熱平衡状態を表わす温度・体積あるいは圧力などの関数として定まる量。2種類の自由エネルギーがある。一つは，ヘルムホルツの自由エネルギーといわれるもので，$U-ST$(Uは内部エネルギー*，Tは温度，Sはエントロピー*)と定義され，温度と体積との関数になっている。温度一定のもとで外界が物質になした仕事は，この自由エネルギーの増加に等しく，また，温度と体積とが一定のもとでは，この自由エネルギーが減少する方向に状態変化が起こる。もう一つは，ギブスの自由エネルギーあるいは熱力学的ポテンシャルといわれ，$U-TS+pV$(pは圧力，Vは体積)と定義されるもので，温度と圧力との関数になっている。温度と圧力とが一定のもとで状態変化が起こったときは，この自由エネルギーはつねに減少する。ある温度と圧力のもとで実現している相*は，気相・液相・固相の各相のうちでギブスの自由エネルギーを最小にするものである。2相が共存しているのは，両相の自由エネルギーが等しいからである。両相のギブスの自由エネルギーを等しいと置くことから，共存するときの温度と圧力との関係がまとまり，水と水蒸気との場合には，たとえば圧力1気圧のときに温度は100℃になる(→三重点)。また，ギブスの自由エネルギーを温度で微分した値は液相と気相とで異なっており，この差に温度をかけたものが気化熱*である。ギブスの自由エネルギーが温度と圧力との関数として与えられたならば，熱力学で求められた関係式より，エントロピー，その他の熱力学的諸量はすべて得られて，物質の熱的性質が明らかとなる。同様に，ヘルムホルツの自由エネルギーのときは，温度と体積との関数として与えられると，物質の熱的性質が明らかとなる。〔中野藤生〕

じゆうえん【自由円】外貨に自由に交換することが認められている円をいう。一般に為替管理が厳格に施行されているときには，1国通貨の外国通貨への転換は，その国の居住者に対してはもちろんのこと，非居住者に対しても自由に認められず，制限されるのが通常である。しかし，為替管理が徐々に緩和され1国通貨の対外的交換性が回復されると，非居住者が正常な取引の結果として取得したその国の通貨に対して，外貨との自由交換が認められるようになる。わが国は1960年(昭和35)7月1日，円の対外的交換性を回復し，対外取引の決済に円を使用することを認め(円為替の導入)，これに伴って非居住者の取得した円は自由円勘定に振り込まれ，非居住者の意向しだいでいかなる外貨にも自由に交換することが認められた。〔安井孝治〕

しゅうおんマイクロホン【集音マイクロホン】遠方で発せられる特定の音を効果的に集音する目的で，鋭い指向特性をもたせたマイクロホン。音響反射鏡を使用したり，多数のマイクロホンを適当に配列したりする方法が採用され，実況放送の集音用によく用いられる。

しゅうおんらい【周恩来】チョウエンライ(1896〜1976) 中国の政治家。江蘇(こうそ)省出身。早稲田(わせだ)大学・日本大学に学び，帰国後，天津(てんしん)の南開大学に在学中，五・四運動*で活動した。その直後フランスに留学，1921年社会主義青年団を結成，のち中国共産党フランス支部に改称した。1924年帰

国後，国共合作*のもとで活躍，その後，共産党が国民党と分裂・対立した時期にも，また日本との戦争中も，高度の政治性を発揮してきた。1946年，アメリカ特使マーシャル訪中の際，国民党代表を交えて3人委員会が組織されたとき，中国共産党を代表したのは彼であった。中華人民共和国成立以来，国務院総理(首相)をつとめ，中国共産党中央委員の地位を維持し，政府・党の両面にわたって毛沢東*を支持・援助していた。外交部長兼任当時，インドのネール首相とともに〈平和五原則〉を提唱(1954年6月)，1969年10月にはソ連のブレジネフ首相と北京(ペキン)空港で会見，危機に瀕(ひん)した中ソ関係緩和の衝にあたった。〔斎藤秋男〕



周恩来

じゆうか【自由化】⇨貿易自由化　⇨資本自由化

しゅうかい・けっしゃのじゆう【集会・結社の自由】 共同の目的をもって多数人が一定の場所で会合を行なう自由を集会の自由といい，多数人が継続的結合関係をもつ自由を結社の自由という。暴力による公共の秩序破壊や憲法の秩序原理の破壊を目的としないかぎり，広く容認されるべきであり，日本国憲法もこれを保障している(同法21条)。大日本帝国憲法では，集会・結社の自由を保障しながらも，治安維持法*によってこれを弾圧した。現在の破壊活動防止法*の機関誌紙の停刊，これに関与する役員の停職および暴力主義的破壊活動を行なう団体の解散などの条項は，憲法上疑問があるともいわれ，また，集会を許可制としたり，煩雑な細則による届け出を要求する法令は違憲であるともいわれる(1951年京都地方裁判所判決)。〔原田政洸〕

しゅうかいじょうれい【集会条例】 1880年(明治13)反政府的政治活動を抑圧するために公布された法令。愛国社*第4回大会において，国会開設を請願する10万人の署名を携えた全国各地の代表者によって国会期成同盟*が結成されると，この大規模な組織運動に驚いた政府は，民間の政治活動に強い制限を加えるため大会開催中，集会条例を布告して政治的な集会・結社は事前の届け出制とし，また集会・演説会には警察官の監視をつけることとした。さらに1882年には，学会を含めていっさいの集会を禁止した。しかし，この抑圧は長く政治活動の健全な発達を妨げる禍根となり，同時にまた藩閥政治*に対する国民の反発をかった。なお，これはのちの治安維持法*に発展した。〔高崎徳次〕



シュウカイドウ

しゅうかいどう【秋海棠】 双子葉植物・シュウカイドウ科。中国原産の多年草で，観賞用に庭などに植えられる。地下に球茎があり，子球と肉芽によってふえる。茎は直立して高さ60cmになる。葉は左右が不相称の心臓形で，鋸歯(きょし)があり，互生する。雌雄同株。8～9月，淡紅色の花をつける。雄花のほうが雌花より多い。雄花は4弁，うち2弁が小さい。雌花は5弁で，子房に3枚の翼がある。種々の園芸品種があり，白い花や葉裏の赤いものなどがある。〔加藤僖重〕

じゆうかかく【自由価格】 ある生産物の市場において，生産物の販売者も購入者も自由に取引ができ，その結果決まる価格をいう。自由価格が成立しうる条件は，需要量の大きさと供給量の大きさが市場でその相対的な大きさにしたがって正しく調整されることである。需要側あるいは供給側に競争を制限するようななんらかの人為的な制約が加われば，その結果成立した価格は自由価格ではなくなる。➔統制価格

じゅうかがくこうぎょう【重化学工業】 産業構造*を語る際に，軽工業*と対置するものとして用いられることば。一般に経済の発展とともに〈産業構造の高度化〉現象が発生し，第1次産業(農林水産)に比して第2次産業(鉱工業)の割合が高まる中で，この重化学工業に属する業種の伸長が顕著となる。この業種には，電機・運輸・精密などの各種機械類製造業のほかに，化学・金属などの製造業も含まれる。過去，日本経済は国際収支への貢献度が高いこと，生産性向上の可能性が大であること，需要の伸長が期待されうることなどの理由から軽工業から重化学工業への急速な産業構造の転換を政策的に図ってきたが，一国工業の発展の度合いを示す指標としての重化学工業化率はすでに60%を越え，先進国中トップの座に着くに至った。〔原　豊〕

しゅうかカリウム【臭化カリウム】 KBr ブロムカリ・臭剝(しゅうぼつ)ともいう。無色の結晶で，比重2.75，融点730℃，沸点1,380℃。常温では100gの水に約65gとける。臭素を鉄に作用させて臭化鉄をつくり，これと炭酸カリウムとの複分解によって得られる。鎮静薬として医薬に用いられ，また臭化銀*の製造に用いられる。

しゅうかぎん【臭化銀】 $AgBr$ 淡黄色の結晶で，比重6.473。銀塩の水溶液に臭化アルカリなどを加えて得られる。水には難溶で感光性がある。すなわち，光により漸次分解して銀を遊離し，暗色を呈する。チオ硫酸ナトリウム・シアン化アルカリ溶液には錯塩をつくってとける。写真感光乳剤の主要成分で，この方面で重要な役割を果たしている。➔写真

しゅうかく【臭覚】 嗅覚(きゅうかく)ともいい，臭神経が刺激されて起こる化学的感覚の一種。その受容器を臭覚器という。味覚とは異なって遠隔性である。食物・異性・外敵などの発見や認知に視覚よりも臭覚を働かせる動物を特に臭覚動物といい，哺乳(ほにゅう)類に多くみられ，イヌが代表的であり，ほかにカモ類とか，シギ類，ヘビなどがある。人間の臭覚器は鼻腔(びこう)上部の臭部とよばれる部分で，帯黄色の臭粘膜でおおわれており，呼吸部の帯赤色の粘膜とは肉眼でも区別できる。この粘膜は支柱細胞と細長い臭細胞の2種からなり，臭細胞は一種の神経細胞である。臭覚を起こす刺激はガス体または極小の拡散性の大きい微粒子で，これが吸気流とともに呼吸部にはいって拡散し，臭部に達するが，口腔および咽頭(いんとう)から後鼻孔を通じて後方から臭部に達することもある。この刺激で臭細胞が興奮すると，臭細胞を通じて大脳の臭中枢に伝達され，ここではじめてにおいが知覚される。臭覚は敏感であるがきわめて順応しやすく，室内にはいった当初は不快な臭気を感じても，しばらくすると感じなくなる。しかし，ある臭気に順応したときでも，他の臭気には敏感な場合もある。臭覚の性質はきわめて多いので分類は困難であり，快香と不快香とに大別されるが，辛香・花香・果香・樹脂香・焦香・腐臭などの区別ははなはだしく経験的であるといえる。臭覚の異常には，鈍麻する臭覚減退，消失してしまう臭覚脱失，異常に高進する臭覚の過敏，そして臭気がないのに知覚される臭覚錯誤(幻臭)などがあり，脳疾患によって臭神経が冒されたり，鼻疾患によって呼吸気が臭部に達しなかったりするほか，ヒステリー・神経衰弱・てんかん・月経・妊娠などのときにもみられることがある。〔平野修助〕

しゅうかくさい【収穫祭】 農作物の収穫を感謝し，翌年の豊作をも祈願する祭り。豊作を祝う儀礼は世界のほとんどの農耕民族にみられる。わが国ではイネの収穫に際して行なわれる儀礼が多く，穂掛(ほかけ)祭り・刈上(かりあげ)祭りの2段階に分ける。穂掛祭りは刈りはじめの儀礼で，刈り入れに先だってわずかの稲穂を抜き取ってきて神

前に掛け，新米の焼米を供えて祭るもので，旧暦8月1日に行なう土地が多い。刈上祭りは刈り納めの儀礼で，東北地方では9月中の9の日のいずれかをこれにあて，関東・中部地方では10月10日の〈十日夜(とおかんや)〉，近畿(きんき)・中国・四国地方の〈亥(い)の子*〉などと地方によって異称し，祭日もそれぞれ違っている。なお，北九州の〈おうしさま〉，石川県能登(のと)半島の〈あえこと〉などの霜月祭も収穫祭の性格をもっている。〔直江広治〕

しゅうかくていげんのほうそく【収穫逓減の法則】 土地の広さに制限があれば，農業上の知識や技術水準が変化しないかぎり，資本と労働の投入量がふえても，追加された投入量がもたらす収穫量は一定の水準以上では逓減的にしか増加しない。これを収穫逓減の法則という。この法則から差額地代*の発生を説いたのがリカード*である。その後，この法則は土地収穫の問題から適用範囲を広げて，生産物一般にまで拡大されるようになり，内容もよりいっそう厳密なものになってきている。すなわち，生産物と生産要素との間の関係として規定される技術的な生産関数において，他のすべての生産要素を一定量に固定したとき，ある生産要素のみを増加させると，その単位あたりの生産量はある水準以上では逓減していくことを，広く収穫逓減の法則とよぶ。この現象は生産要素の限界生産力逓減によってもたらされるから，限界生産力逓減の法則といいかえることができる。〔藤枝省人〕

しゅうがくりょこう【修学旅行】 学校行事の一。宿泊旅行であることと，おもに小・中・高等学校の最終学年で実施されることで遠足と区別される。わが国では明治中期から行なわれているが，必須(ひっす)の学校行事という規定はない。修学旅行の目標としては①自然・文化・経済・産業などの重要地を訪れ，広い知見と豊かな情操の育成を図ること，②校外における集団活動を通じて，健康・安全，集団生活のきまり，公衆道徳などについて望ましい体験を積むこと，③友情を深め，師弟の愛情をつちかい，学校生活の印象を豊かにすること，などがあげられる。

日数・費用については，各都道府県教育委員会が基準を示しているが，実際はそれが守られることは少ない。また，無理なスケジュールから生徒の過労が生じたり，旅館などの食事に伴う中毒事件，火災の心配や交通事故，学校間の生徒の争い，文化財や諸施設に対するいたずらと損耗などの制約も多い。なお，現今では，旅行が国民生活の中に一般化されてきたこととあいまって，修学旅行無用論もあり，学校によってはクラブの旅行に切り替えたり，研究・学習旅行的な意味合いをもたせて実施することも多い。〔福井幸雄〕



収穫祭 〈お山かけ〉とよばれ，旧暦の8月1日に岩木山神社に奉納する新米。青森県中津軽郡

じゅうかぜい【従価税】 税金を課する場合，課税標準をなにに求めるかによって，従価税と従量税との類別があり，従価税というのは課税標準を価格に求めるものをいう。また，従量税というのは課税標準を数量に求めるものをいう。従価税には，物品税・入場税・たばこ消費税・料理飲食などの消費税があり，また所得税・法人税・事業税・固定資産税なども，この従価税の一種と考えられる。従量税には，酒税・揮発油税・石油ガス税・砂糖消費税・入湯税などがある。関税は従価税と従量税とを併用している。〔西野義彦〕

じゅうかせき【重過石】 ⇨重過リン酸石灰

じゆうがた【自由形】 ⇨水泳

じゅうがつかくめい【十月革命】 1917年11月7日，(ロシア暦10月25日)史上はじめて実現したプロレタリアート*の社会主義政権が成立した革命。マルクス主義によって導かれ，その実践性を証明した。この革命によってロシアではブルジョアジー*が打倒され，国家的規模でプロレタリアートが権力をもったのであるが，これは人類史を区分する大きな意義をもつ。新しい権力形態としてのソビエトは資本主義の廃絶から社会主義・共産主義への移行をになうと同時に，おくれた農業国としてのロシア的な制約も存在した。➔ロシア革命〔山県弘志〕

じゅうがつじけん【十月事件】 1931年(昭和6)10月，未然に発覚した陸軍将校の企てたクーデター*。当事者は錦旗(きんき)革命とよんだ。三月事件*後，満州事変*勃発(ぼっぱつ)にあたって第2次若槻(わかつき)礼次郎*内閣は事変不拡大・局地解決の方針を決定，極力軍の独走を抑止しようとしたのに対し，橋本欣五郎*(きんごろう)や桜会の陸軍将校を中心に，大川周明*・西田税*(みつぐ)ら民間右翼も加わって，10月20日早暁，満州事変に呼応するクーデターを計画。同志の将校指揮のもとに兵を出動させ，首相官邸・警視庁・陸軍省・参謀本部などを襲撃して若槻首相・幣原(しではら)喜重郎*外相らを暗殺し，陸軍中将荒木貞夫*を首班とする軍部政権を樹立することを企てたが，計画は事前に発覚して失敗に終わった。軍首脳部の処罰は形式的に行なわれただけで，世間には秘密裡(り)に事件は葬り去られた。軍はこの事件を利用して政界・財界に圧力を加え，構想どおり満州事変を国策遂行の軌道に乗せることに成功した。〔高崎徳次〕

じゅうがつとう【十月党】 1905年11月ゼムストボ*右派によって結成された，大地主と大ブルジョアジーの立憲君主主義政党。オクチャブリストともいう。1906年基盤を同じくする政党・団体を糾合して政党の形をとり，十月宣言を支持して〈十月党〉と名のった。おもな目標は革命に敵対することで，強力な政府を要求し，財産資格による制限選挙，非スラブ民族への大国主義的政策，帝国主義的対外政策を主張，ストルイピン*の農業政策を全面的に支持した。1906年秋から与党として帝政を擁護，国会内では右翼ならびにカデットと連合。第1次世界大戦でツァーリ政府の無能が明らかになると，カデットとともに〈進歩ブロック〉を結成，二月革命*後指導者のひとりであるグチコフが臨時政府に入閣，十月革命*後国内反革命の積極的な組織者となった。〔山県弘志〕

しゅうかメチル【臭化メチル】 CH_3Br メタンの水素原子一つが臭素原子と置き換わったもの。メチルブロマイドともよばれ，欧米ではすでに1930年代から倉庫の薫蒸剤として用いられていた。わが国では第2次世界大戦後，貯穀害虫や果実・種子などの害虫の駆除に使用されるようになった。また土壌(どじょう)の薫蒸効果も高いことが知られ，その用途は広い。引火性はないが，ガスは有毒なため注意を要する。

しゅうかりんさんせっかい【重過燐酸石灰】 重過石と略称する。リン酸分(P_2O_5)を30～52%含み，通常の過リン酸石灰*の2～3倍にあたるためこの名称がある。リン鉱石を硫酸の代わりにリン酸で分解して製造するため，石膏(せっこう)を含まず，ほとんどリン酸と石灰からなる水溶性の高成分リン酸肥料*である。

しゅうかん【習慣】 後天的に形成された行動様式で，比較的固定的で自動的に遂行される行為を習慣という。心理学においては，広く，学習*されたこのような行動すべてをさすが，通常，筋運動反応に限って用いられる。習慣は，遂行時においては無

意識的に行なわれるが，習得時には，意図的である場合と，そうでない場合がある。いずれの場合も，習慣となるためには反復が必要である。なお，習慣は，必ずしも適応行為ばかりとは限らない。不適応的習慣を除去するためには，意図的にそれを幾度となくくり返す〈負の練習法〉が有効とされる。 〔佐藤方哉〕

しゅうかんし 【週刊誌】 毎週1回定期的に発行される雑誌。わが国の週刊誌は外国の新聞の日曜版などを参考として，1922年(大正11) 3月《週刊朝日》(朝日新聞社)，同年4月《サンデー毎日》(毎日新聞社)がそれぞれ創刊されたが，第2次世界大戦後は社会生活のテンポの迅速化と多様化を反映して，1952年(昭和27)《週刊サンケイ》(産経新聞社)，《週刊読売》(読売新聞社)などのほか，出版社系の週刊誌，1956年(昭和31)《週刊新潮》(新潮社)，1957年(昭和32)《週刊女性》(主婦と生活社)，1958年(昭和33)《女性自身》(光文社)，1959年(昭和34)《週刊文春》(文藝春秋)などがあいついで発行された。週刊誌はその性格により総合誌・中間誌・娯楽誌・スポーツ誌・時局誌・女性誌・児童誌・漫画，劇画誌などに分かれ，中間誌がその主流となっているが，さらに細分化する傾向がみられる。 〔北島武彦〕

しゅうかんせいりゅうそうざん 【習慣性流早産】 同一婦人が突発事故ではなく，同一原因で3回以上自然に妊娠中絶が反復する場合をいう。原因としては妊卵の異常，着床の異常，子宮奇形，子宮筋腫(きんしゅ)，黄体機能不全，母児血液型不適合，子宮頸管(けいかん)無力症，梅毒，精神身体医学的因子などがあげられている。予防・処置は，個々の症例に応じてその原因を探求し，それを除くことが必要である。精神的あるいは肉体的に安静を保たせ，ホルモン剤などの薬物療法を行なう。奇形・筋腫・頸管無力症などには手術療法が行なわれる。

〔木川源則〕

しゆうかんべつ 【雌雄鑑別】 家畜などの雌雄を識別すること。重要なのはニワトリである。この場合，孵化(ふか)後，直ちに雌雛(めすびな)だけを分離して飼育することは，特に採卵鶏にとって必要なことであり，次のような方法で雌雄鑑別が行なわれる。①指頭鑑別法：雛の総排出腔(はいしゅっこう)を指頭で開張し，生殖突起のある部位を完全に露出させて，雄だけにある生殖突起を肉眼で観察して鑑別する方法。1924年(大正13)増井清らによって開発された。鑑別速度は100羽，100%，4分前後であるが，習熟に時間を要する。②機械鑑別法：チックテスターとよぶ光学機械を使用して鑑別する方法。硬質ガラス製の曲管を雛の総排出腔に挿入(そうにゅう)すると，機械に内蔵された光源により曲管の先端に光が集中し，腹腔内にある精巣または卵巣が直腸壁を通して約3倍に拡大されて観察できる。1950年(昭和25)木沢武夫(たけお)の発明。七面鳥・アヒル用もある。鑑別速度は100羽，100%，5分前後だが，熟練に時間を要しない。③外観鑑別法：伴性遺伝を応用し，雛の表型が雌雄異なって現われるように両親の品種を組み合わせる方法であるが，その組み合わせが特殊なために一部を除いて実用化されていない。

〔大田正義〕

しゅうき 【周期】 ⇨振動 ⇨波動

しゅうぎいん 【集議院】 明治初年，太政官*(だじょうかん)に所属した政府諮問機関。1869年(明治2) 8月7日官制改革で公議所*を改称したもの。議員には各藩の重職1名ずつが任命された。公議所が議政官*下局として立法機関であったのに比べ，議員に提案権がなく，太政官から交付される諸案に対して答申する諮問機関となった。おもな審議事項は，当時割拠の状態にあった諸藩の藩政を統一するため，藩政改革*の細目を定めることであった。議員は，その政府決定に基づいて自藩の改革にあたった。廃藩置県後は実質的な機能を失い，1873年6月25日廃止。 〔高崎徳次〕

しゅうぎいん 【衆議院】

1 大日本帝国憲法のもとでは貴族院*とともに帝国議会を組織した一院で，直接国民によって選挙された代表者によって構成された(33・35条)。

2 現行憲法のもとでは参議院*とともに国会を構成する一院となった(日本国憲法42条)。議院の構成は全国民を代表する選挙された議員で組織され，その定数は486人，任期は4年で，解散が認められている。また，権能については参議院に対する優越性が保障されている。すなわち次の四つの場合である。

①法律案の議決：衆議院で可決し，参議院でこれと異なった議決をした法律案は，衆議院で出席議員の3分の2以上の多数で再び可決したときは法律となる。②予算の議決：参議院で衆議院と異なった議決をした場合に，両院協議会を開いても意見が一致しないとき，または参議院が衆議院の可決した予算案を受け取ったのち30日以内に議決しないときは，衆議院の議決が国会の議決となる。③条約の承認：②を準用。④内閣総理大臣の指名：②とだいたい同じであるが，ただ30日の期間が10日以内とされている。また，衆議院のみに与えられている独自の権能には，内閣に対する信任・不信任の決議権，予算先議権がある。そのほか，参議院の緊急措置に対する同意権がある。ただしこの場合，次の国会開会の後10日以内に，衆議院の同意がない場合には，その効力を失う。➔国会 〔吉田善明〕

しゅうきせいおうとしょう 【周期性嘔吐症】 ⇨自家中毒症

しゅうきゅう 【蹴球】 ⇨サッカー

しゅうきょう 【宗教】 宗教ということばは，われわれ日本人にとって新しいことばである。いまはつまびらかにいうことができないが，明治初期にヨーロッパ文化を受容するにあたり，英語のレリジョンにあてて，この翻訳語を造成したものと思われる。それによって，われわれは，もろもろの宗教，あるいは宗教一般をいうこととなった。それまでわれわれは，仏法もしくは仏道，あるいは神道などと，個々の宗教をさすことばは有していたが，宗教一般もしくはもろもろの宗教を総称することばは有していなかった。

〔宗教の定義〕 いったい，宗教とはなにか。その定義については，今日もなお決するところがない。いまから半世紀ほど前までは，宗教の研究者たちは，しきりと宗教の定義を確定しようとしたが，今日ではもはやそのような努力も放棄せられた形である。ただ，宗教について語るにあたっては，まず宗教とはなにかについて定めるところがなくてはならないから，いちおう作業仮説として自己の宗教の定義をうち出すというのが，今日の多くの宗教学者たちの行き方である。ではなぜ，宗教の定義が確定されないのかといえば，それは宗教が無限の可能性をもっているからというほかはない。ここでも作業仮説として宗教の定義を試みるならば，いちおう，宗教とは聖と俗との二つの世界にかかわるものであるということができるであろう。たとえば，イエス-キリストは〈この悪しき世〉に対して〈神の国〉を語り，その〈神の国〉がすでに近づいていることを説いて，それを迎える準備をなせと教えた。それがキリストの福音であった。またたとえば，ブッダは〈此岸(しがん)〉を語り，〈彼岸〉を語った。此岸の生活は苦であり，彼岸の生活は安穏である。この道を行き，早く彼岸に渡るがよいと説いたのが，彼の宗教の全構造である。たとえばまた，浄土門の仏教の説くところは，厭離穢土(えんりえど)であり，欣求浄土(ごんぐじょうど)である。この穢(けが)れたる土をいとい離れて，かの浄土を欣(ねが)い求めるというのである。〈この悪しき世〉といい，〈此岸〉といい，あるいは〈穢土〉というのは，人間が生を営むこの現実の世界である。宗教で俗なる世界とするのはこれである。それに対して，〈神の国〉といい，〈彼岸〉といい，あるいは〈浄土〉というのは，いまだこの世に実現されていないもの，あるいはいまだ人の至りえない非現実の世界である。それを宗教は聖なる世界とする。そして，俗なる現実の世界を否定して，聖なる非現実の世界に至るべきことを説く。なぜ宗教がそのように説くかといえば，それは人間の生の構造がそのようなものであるからである。人はパンなしには生きられない。この俗なる現実を離れて生きることはできない。それとともに，また〈人の生くるはパンのみによるにあらず〉である。夢・理想・願いのない人生はなんと空虚なものであるかを，われわれはよく知ってい

るはずである。そして宗教は，そのような人間の生の構造の反映にほかならない。しかし，人のこの世における生の営みは，ともすれば現実のそれに埋没しがちである。そのとき，人々に向かって彼岸を指さし，神の国を指さして，〈われに従い来たれ〉とさし招くのが宗教者たちの役割であった。

【宗教の分類】われわれ人間が，もろもろの宗教について語り，あるいは宗教一般について思考しはじめたのは，さして古いことではない。それは，おおよそ前世紀からのことであるといってよい。1860年代に今日いうところの宗教学がはじめて成立したのは，そのなによりの証拠である。そのような状況の変化は，主としてヨーロッパ諸国の植民地政策ならびにキリスト教の伝道者たちの活動によって，世界の各地の宗教に関する情報が集められたことによってもたらされた。それらの情報によって学者たちがまず始めた仕事の一つは，それによって知られたもろもろの宗教を分類するという仕事であった。あるものは，それぞれの宗教がもっている神の数によって分類を試みた。一神論（モノテイズム）・多神論（ポリテイズム）・汎神論(はんしんろん)（パンテイズム）などという用語は，そのような分類の作業にあたって生まれたものである。そのほか，文化的水準により，あるいは倫理的要素の存否により，あるいは神と人との関係によって分類を試みたものもあったが，それらの多くは今日顧みるほどの価値ある成果を生まなかった。ただ，その中で，今日もなお宗教を考えるうえにおいて無視することのできないものは，宗教を原始宗教・民族的宗教・普遍的宗教とする分類であろう。原始宗教とは，原始民族の生活の中に見いだされる宗教的要素とでもいうべきもので，そこでは宗教と生活とはまったく未分化の状態にある。それに対して民族的宗教とは，たとえばわが国の神道*(しんとう)，インドのヒンズー教*，ユダヤ人のユダヤ教*などのように，もともとは民族の生活慣習の中から生まれたものにはちがいないが，ともかくはっきりと宗教として存するものである。だがその反面，それらは仏教やキリスト教などの普遍的宗教にみられる教祖・教義・神学・伝道活動などを欠いている。普遍的宗教は，また創唱的宗教といってもよいであろう。それは教祖によってはじめて唱えられた宗教であり，そのことからさきの二つの種類の宗教とは顕著に異なる構造をもつものとなったのである。

【普遍的宗教】仏教・キリスト教・イスラム教は，今日も人類が有する三つの代表的な普遍的宗教である。それらはそれぞれ，ブッダ*・キリスト*・マホメット*という個人格をその教祖としてもつ。それらの教祖たちは，あるいは悟り*により，あるいは神の啓示*により，あるいは預言*によって，まったく新しい原理を獲得し，それを人々に向かって説いた。伝道という仕事がそこから生まれた。そして，伝道という仕事を果たすためには，教義・神学などの体系が必要であった。伝道によってその教えに帰したものは教団を組織した。それは民族の地縁・血縁によってなるものではなかったから，それを越えてほかの多くの国々にも広まることができた。それらの宗教が普遍的宗教とよばれるゆえんである。現に，これら三つの代表的な普遍的宗教は，この地球上のいたるところにその信者を有し，その数はいずれも数億をもつと算せられる。こうして今日，宗教といえば，われわれはまず，教祖があり，教義・神学をもち，伝道を営み，教団を組織するものを考えるのである。

〔増谷文雄〕

じゅうぎょういんもちかぶせい 【従業員持ち株制】 従業員にその勤務する企業の株式を所有させるための奨励制度で，一般に株式購入代金の一部会社負担，分割払い制，配当優先，議決権制限などが行なわれる。これは，外部の労働組合組織と運動とが，個別企業に忍び込むのを防ぐ手段を経営者に提供するものであり，労使の対立関係をできるだけおさえるとともに，個別企業内の労使協調関係の形成をめざしたものである。

〔清水　晶〕

しゅうきょうおんがく 【宗教音楽】 諸民族の間で芽ばえた，あるいは伝播(でんぱ)された宗教は，その力を人間に及ぼすときに経文朗唱あるいは儀礼音楽という組織化された音の形態を効果的な手段の一つとしてもっている。人間の側からすればそれは畏怖(いふ)の念，信仰心の吐露としての音楽行動であり，その行動自体および音のもたらす心理的効果によって忘我の境にさえ達する。もちろんその場合には，聴覚的な音楽だけではなく，儀礼用具・建造物・衣装・舞踊などの視覚的・触覚的な効果も加わっている。原始宗教と音楽の結びつきの中でも特に目だつものは，アニミズム*とシャーマニズム*である。アメリカ・アフリカ・オセアニアなどの自然民族では無生物・生物（とりわけ動物）に精霊を認め，楽器の形状，声・音の出し方，舞踊の配置・動作の中に動物の模倣が反映されている。ユーラシア大陸に広く散在するシャーマニズムは超自然的な存在と現世的人間との中間存在としてのシャーマンが伝達手段として音楽ないし朗唱をもっている。

東洋の高文化を支配する大きな宗教の中で，音楽の側面から重要なものは次のものである。儒教には礼楽として雅楽*を中心とする音楽があり，おもに孔子廟(こうしびょう)で奏される。声明*(しょうみょう)を代表とする仏教音楽は，伝播された国々で影響力が大きく，民俗音楽・芸術音楽の展開に寄与した。仏教以前のバラモン教の《サーマ-ベーダ（ベーダ賛歌）》と，仏教から派生したラマ教の長大な儀式音楽も貴重な音楽遺産である。ヒンズー教・イスラム教は宗教音楽を展開させるというよりはむしろ芸術音楽の発展のほうに努めた。イスラム教は文化としてはイスラム圏の音楽と関連をもつが，典礼の中では音楽を使用していない。一方，ユダヤ教とキリスト教でも，音楽が不可欠な要素となっている。アフリカの上エジプト，シリア，ビザンチン，ロシア，アルメニアの各地方は，それぞれのキリスト教音楽をつくりあげ，またカトリック教会は中世のグレゴリオ聖歌*に代表されるように，典礼の各部分と教会暦に音楽を結びつけた。今日のグレゴリオ聖歌は断絶した伝統を復元したものであるが，典礼上の機能はやはり重要である。また，多声音楽におけるさまざまな技法やオルガン音楽の様式が教会と結びついて発展してきたことも忘れられてはならない。これはドイツ-プロテスタント音楽の場合でも同じで，コラール*はそのままの形で機能を果たしただけでなく，オルガン曲・合奏曲・合唱曲の発展にも寄与している。西洋音楽では，世俗音楽と宗教音楽は最も重要な区分になるほどに意識されていた。しかし，宗教音楽が教会における典礼・祭式から離れて，より一般的な宗教的行事や宗教性をもつものとして，固定された機能をしだいに失って広く演奏され，聞かれるようになっている。モーツァルトやベートーベンのミサ曲が演奏会場やレコードで多様な聴衆に受け入れられているのがその一例である。また，逆にジャズやポピュラー音楽の様式が，宗教音楽の中にはいっていくのも最近の傾向として認められる。

➔仏教音楽　➔教会音楽

〔徳丸吉彦・山口修〕

しゅうきょうかいぎ 【宗教会議】 カトリック教会の聖職者の会議。最も重要なのは全キリスト教界の代表者が集まって議する公会議である。ローマ教会によれば，今日まで21回の公会議があったとされている。古代ではローマ皇帝の力が強く，第1回のニカイア公会議*はコンスタンチヌス大帝により召集され，アリウス派*を異端と決めた。エフェソス公会議*はネストリウスの説を異端とし，カルケドン公会議(451)はキリストにおける神人両性の一致を決めた。中世盛期には教皇権の誇示のため教皇によって召集され，その権威の場となった。インノケンチウス3世が召集した第4ラテラン公会議(1215)はその典型である。教皇権の衰退した中世末期には会議を教皇の権威より上におき，会議によって教会の改革を行なおうとする動きが起こった。いわゆる改革会議で，コンスタンツ公会議(1414～1418)，バーゼル公会議(1431～1437)などがある。近代では，宗教改革を否定してカトリック信仰を改めて確認したトリエント公会議(1545～1563)，教皇の不可謬(ふかびゅう)を決めたバチカン公会議(1869～1870)などが有名である。1962年に開かれた第2バチカン公会

➔24ページ

宗教改革

16世紀にヨーロッパで展開された，キリスト教内部の改革運動をいう。この結果として，普遍的統一体としてのローマ-カトリック教会の精神的権威はくずれ，いわゆるプロテスタンチズムが生まれるとともに，教義面でも教会組織面でも多様化が進行することになった。また，この運動は単に宗教界だけにとどまらず，政治・経済・文化・社会などのすべての分野にわたって，広範で多岐な影響を及ぼすことになったが，とりわけプロテスタンチズムは，近代資本主義の精神と密接な関連をもつといわれている。

【歴史的背景】中世封建社会の基盤の上に，ヨーロッパに精神的支配権をふるっていたローマ-カトリック教会は，封建制の弛緩(しかん)とともにその支配体制にも動揺をきたさざるをえなかった。とりわけ，ほぼ2世紀にわたる十字軍によってもたらされたヨーロッパ社会の流動化は，教会支配の実質的な基盤を弱体化させ，また教皇のアビニョン幽囚によって生じた教会の分裂は，その精神的基盤を弱体化させるものであった。さらに，ヨーロッパ各地，とりわけイギリスとフランスで始まった近代統一国家への歩みは，個別教会と個別的な政治権力との癒着(ゆちゃく)を推し進めるものであったし，また教会聖職者の腐敗・堕落は教会の権威を内部から崩壊させていくものであった。

このような危機に直面して，すでに14世紀から，教会の内外に改革の動きが起こってきた。その一つは，14世紀から15世紀にかけて，教会内部で展開された公会議運動であるが，公会議自体が分裂したことにも示されるように，それは問題を根本的に解決するものではなかった。また，宗教改革の先駆的な運動としては，民衆に聖書中心的な信仰を説いたフランスのワルドー，反カトリック教会的な教義を展開したイギリスのウィクリフ*，ウィクリフの思想を継承してカトリック教会からの独立を説き，コンスタンツ公会議で火刑に処せられたボヘミアのフス*などをあげることができるであろう。しかし，これらの運動は，いずれも地方的なものにとどまり，カトリック教会に決定的な打撃を与えることにはならなかった。このほか，ほぼ同じ時期に展開されたルネサンス的人文主義の運動も，思想・文化を中世的神学の束縛から解放する役割は果たしたが，民衆の心を改革へと動かしていくことはなかった。

【ルターの改革】宗教改革の最初ののろしがあげられたのは，国家統一がおくれることによって，カトリック教会からの経済的収奪を最も強く受けていたドイツの地においてであった。1517年10月31日，ウィッテンベルク大学の神学教授ルター*は，ウィッテンベルク城教会のとびらに，〈贖宥(しょくゆう)に関する95か条の提題〉を張り出すことによって，教会の財政的危機を打開するためにドイツ各地で販売されていた贖宥券(いわゆる免罪符)の効果を問題とし，ひいては，カトリック教会の救済論の基礎をなす秘跡*を真正面から神学的に問題とした。ルターは最初は教会と絶縁する意図はなかったといわれるが，1519年に行なわれたライプチヒ論争において，教皇と教会会議とが誤謬(ごびゅう)を犯しうることを主張したとき，カトリック教会との対立は決定的なものとなった。1520年には彼に対する破門の警告状が発せられ，さらに1521年にはルターはウォルムス国会*に召喚されて審問を受け，自説の撤回を迫られた。だが彼の改革者としての確信はますます固まるばかりであり，さらに次々と改革的な文書を発表して，宗教改革の指導者としての位置を確立していった。

カトリック神学との対比で考えれば，ルターの福音主義的信仰の中心は次の3点に要約できるであろう。第1には，〈信仰のみによる義認〉という救済論であり，第2には，このような救済論の当然の帰結としての神のことばである聖書への絶対帰依，すなわち聖書中心主義である。そして第3には，信仰者各人が神との関係を規律していくという，万人司祭主義である。これら3点は，さまざまな変化をみせながらも，その後のプロテスタンチズムの展開の中でつねに継承されていく要素であるが，これらが原理的主張として提出されたとき，秘跡による救済とその独占者としての教会というカトリック神学の基礎はまっこうから挑戦を受けることになったのである。

宗教改革略年表

1517	10月31日，ルター〈95か条の提題〉を出し，宗教改革運動始まる
1520	ルターの3大宗教改革論文出さる
1521	ルター正式に破門。ウォルムス国会に召喚さる
1522	ルターのドイツ語訳《新約聖書》刊行
1523	ツウィングリ，チューリヒで改革運動を開始
1524	ドイツ農民戦争(～1525)
1525	農民の〈12か条〉流布。ミュンツァー処刑され，ドイツ農民戦争終わる
1529	第2回シュパイエル国会。ルター派諸侯，皇帝に抗議。プロテスタントの名生まれる
1530	《アウグスブルク信仰告白》なる
1531	シュマルカルデン同盟結成。ツウィングリ戦死
1534	再洗礼派のミュンスター暴動(～1535)
1536	カルバン《キリスト教綱要》を出版，さらにジュネーブで宗教改革に従う
1538	カルバン，ジュネーブから追放さる
1540	イエズス会公認
1541	カルバン，再びジュネーブに招かれる
1545	第1回トリエント公会議(～1563)。対抗宗教改革活発化
1546	ルター没。シュマルカルデン戦争(～1547)
1549	ザビエル，日本で伝道を開始(～1552)
1553	ジュネーブでセルベトゥス火刑
1555	アウグスブルク宗教和議。ルター派公認さる
1556	このころフランスにユグノー派成立
1562	ユグノー戦争(～1598)
1564	カルバン没

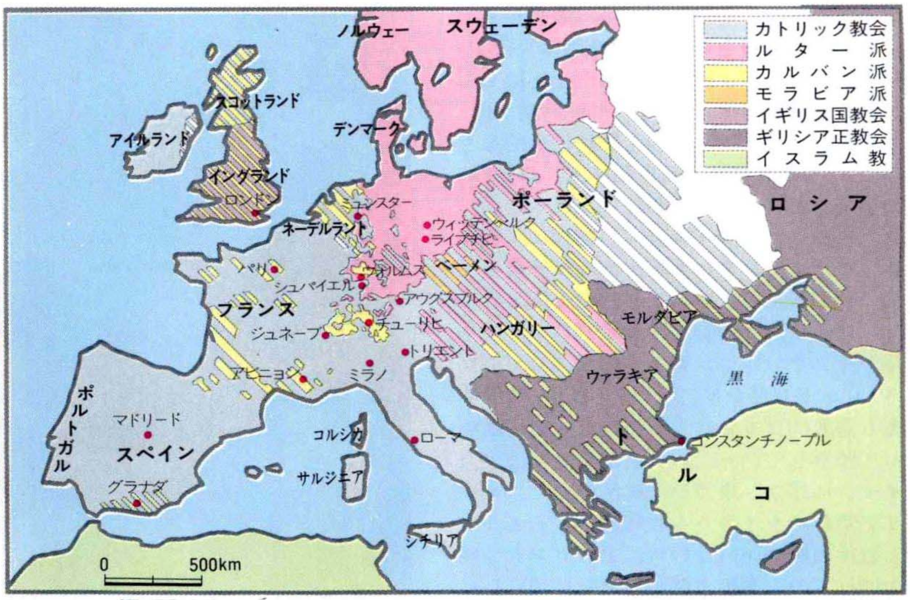
【宗教改革の波及】ルターの改革的な立場が明瞭(めいりょう)に提示されたとき，その引き起こした波紋は大きかった。〈贖宥に関する95か条の提題〉を提示したという事実は，数日を出ずして全ドイツに広まったとさえいわれているが，改革的な信仰に対しては，教会の権威と収奪とに反感をいだいていた都市市民や農民が，熱狂的な反応を示したばかりでなく，教皇権と皇帝権からの独立を強化する方向に向かいつつあった諸侯からも多くの支持が寄せられることになった。あらゆる現状不満の声は，改革的信仰を通して語られるという事態が出現したのである。その結果，改革運動は，しばしばルターの意図を越えて急進化することにもなった。1521年末のカールシュタットを中心としたウィッテンベルクにおける騒乱や，その後の心霊主義者たちの運動，さらにはドイツ農民戦争*におけるミュンツァーなどはその代表的な例ということができるであろう。

いずれにしろ，1524年に始まって翌年まで，全ドイツを争乱の中に巻き込むことになったドイツ農民戦争は，宗教改革にも一時期を画することになった。この争乱を通して，ルター派の改革者たちは心霊主義者および人文主義者たちとたもとを分かつとともに，諸侯・領主層との結び付きを強化していった。そして，改革運動は福音主義信仰を基礎とした教会整備の段階にはいり，そのリーダーシップも領主層の手に移っていった。

当時の神聖ローマ帝国皇帝であったカール5世は，みずからは敬虔(けいけん)なカトリックであったが，帝国内の統一性を保持するために，ルター派との妥協を図ろうとする。しかし，政治的な利害も深くかかわりあっているため，問題は容易に解決せず，1529年の第2回のシュパイエル国会*においては，ルター派の諸侯や都市が一致して皇帝に抗議する(ここからプロテスタントの呼称が生まれた)という事態も起こった。さらに，1530年には，カトリック教会との妥協は再度失敗に帰し，ルター派の基本信条である《アウグスブルク信仰告白》がつくられるとともに，1531年には諸侯と都市は



(上)1520年，ウィッテンベルク城外で教皇勅書を焼き捨てるルター　(下)1555年，アウグスブルク宗教和議によってルター派は公認された



ヨーロッパにおける宗教分布　1570

連合してシュマルカルデン同盟*を結成し，1555年のアウグスブルク宗教和議*に至るまで，皇帝・教皇側との間に，数次の内戦をくり返すことになった。

アウグスブルク宗教和議は，ルター派を公認し，各領邦および都市の宗教は，領邦君主と市参事会の決定に従うことを決めたものであったが，ここに至るまでの期間に，ルター派はドイツから北欧全体へと拡大し，教会制度の整備も進んで，北欧においては国教会，ドイツにおいては領邦教会の基礎が確立されていったのである。

〔カルビニズムの展開〕 ルターの改革運動が始まってまもない1523年，スイスのチューリヒにおいては，従軍牧師であったツウィングリ*によって，コンスタンツの司教区からの独立やカトリック的迷信からの解放を主張する改革運動が開始された。ツウィングリ派とルター派との間には，プロテスタンチズムの統一のために，何回かの妥協の試みがなされるが，ついに成功しないままに，1531年ツウィングリは従軍中に戦死する。しかし，これ以後のスイスはルター派よりも革新的な傾向をもつ改革運動の根拠地としての性格を強めていくことになり，そこに生まれた改革派は，ルター派とともに，プロテスタンチズムの二大潮流を形成することになった。

ツウィングリによって開始された改革運動を決定的に進展させたのは，人文主義者から福音主義的信仰へと回心したカルバン*であった。1536年に《キリスト教綱要*》を書いて，フランスにおける福音主義の理論的指導者と目されるようになった彼は，弾圧を避けてジュネーブに立ち寄ったところを，すでにこの地で改革運動に着手していたファレルに説得されて，その指導を引き受けることになった。カルバンは，誤解を受けていったんジュネーブを去らなければならなかったが，1541年には再びこの地にもどり，以後死に至るまでの20数年間，独裁的な指導者として活躍した。彼はジュネーブに厳格な規律を基礎とした神政政治的な共和政を打ち立て，そこを改革派の一大根拠地とするとともに，フランス・オランダ，さらにはスコットランドやイングランドの改革運動に対しても重大な影響を及ぼしていった。

カルバンの展開した教義は，基本的にはルターの考え方を受け継いだものであり，その点では彼は〈宗教改革の子〉ということができる。しかし，強烈な二重予定説を基礎とした，救われた者の共同体としての教会という考え方は，その後の社会倫理に大きな影響を及ぼすことになった。すなわち，救われた者という確信は，一方では神政政治的な発想を生みだすとともに，他方では各人が神の道具として，神の栄光を表わすために，現世において積極的に活動するという考え方に連なり，ひいては，近代資本主義の精神と密接な関連をもつといわれる世俗内的禁欲と天命としての職業という社会倫理を生みだした。また，教会観においても大きな転換が行なわれ，社会の全構成員を包含した〈教会〉の観念に代わって，信仰的確信の同一性にささえられたセクトの観念が登場することになった。

このような意味でのカルビニズムの展開が最も具体的な形で示されたのは，イギリスとオランダにおいてであった。イギリスでは，1534年の首長令*によって，カトリック教会からはっきりと分離したイギリス国教会制度がつくられたのではあるが，スコットランドを経由してはいってきたカルビニズムは，新興の中産階級に受け入れられて，急速にその勢力を拡大した。そして，ピューリタニズムとして一括される。ここに生まれた諸セクトは，近代社会の形成に重要な役割をになうことになった。イギリスにおけるピューリタン革命*，アメリカへのピルグリム-ファーザーズ*による移民などは，ピューリタニズムが近代史に残した重要な足跡である。

〔宗教改革の影響と意味〕 宗教改革の運動が全ヨーロッパ的な規模に拡大したとき，カトリックの側ではトリエント公会議*を開き，反宗教改革の運動を繰り広げることになった。しかし，普遍的統一体としての教会の崩壊と，地域的教会，ひいてはセクトの成立という歴史の趨勢(すうせい)をくつがえすことはできず，カトリック教会内部における改革運動は，イグナチウス-デ-ロヨラ*の創立したイエズス会*(ザビエル*も会士)の例にみられるように，全世界的な宣教活動にその重点を移していくことになり，キリスト教は急速に世界に拡大していく。また，宗教改革の結果としての地域的教会の形成は，封建社会の崩壊期と重なることによって，ヨーロッパの近代統一国家への再編成を促進する役割をになったといえよう。さらに，〈信仰のみによる義認〉という観点のもたらした個人の精神的自律化は，ピューリタニズム精神の展開とあいまって，近代個人主義の精神的基礎を提供するものであった。これらを抜きにして，近代合理主義や近代資本主義，さらには近代自然科学の生成と展開とについて語ることはできないであろう。　〔有賀　弘〕

議は史上最大の宗教会議といわれる。 〔兼岩正夫〕

しゅうきょうきしだん 【宗教騎士団】 中世ヨーロッパに成立した修道士と騎士の二者を兼ねた団体。テンプル(神殿)騎士団・ヨハネ騎士団・ドイツ騎士団が代表的なもので,十字軍に伴って12世紀に生まれ,聖地の警備や巡礼者の保護の任にあたった。テンプル騎士団はエルサレムの神殿に本部を置いた。また，ヨハネ騎士団は傷病者の治療に活動したのでホスピタル騎士団ともよばれた。その後テンプル騎士団はキプロス島からフランスへ，ヨハネ騎士団もキプロス・ロードス島からマルタ島へ移り，その活動も宗教的なものから経済的なものに変わって堕落していった。ドイツ騎士団はプロイセンに移り，東方植民に活動した。イベリア半島でもイスラム教徒に対するキリスト教徒の戦いが行なわれ，アルカンタラ騎士団などの宗教騎士団が12世紀に成立した。中世末期には王権が伸長して，宗教騎士団の財産は多くその手に没収された。 〔兼岩正夫〕

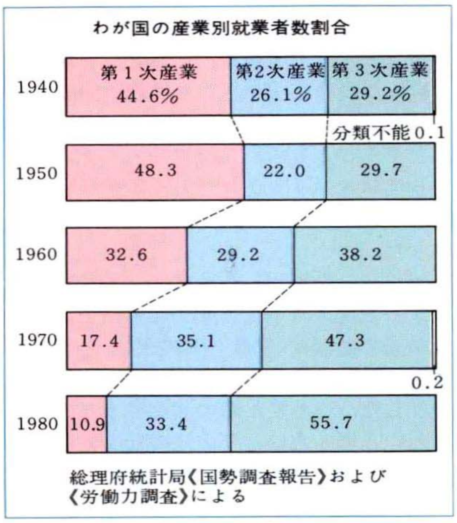
しゅうぎょうきそく 【就業規則】 使用者が労働者の労働条件や職場における規律・制裁などについて定めた規則。労働基準法*は，常時10人以上の労働者を使用する者に，就業規則の作成・届け出の義務を負わせている。その内容は，①必ず書かねばならない事項として，始業・終業の時刻や休憩時間・休日・休暇・賃金についての具体的記載，退職に関するもの，②ある制度を設ける場合には必ず書かねばならない事項として，退職手当などの諸手当，食費などの負担，安全衛生・災害補償・表彰・制裁，およびその他当該事業場の労働者のすべてに適用されることに関する事項である。使用者は，就業規則を作成・変更する場合，労働組合*ないし過半数の労働者の意見を聞き，その意見をしるした書面をつけて所轄庁に届け出なければならない。さらに，これを常時各作業場のみやすい場所に提示し，労働者に周知させなければならない。就業規則で定めた労働条件の基準を下回る労働契約の効力は認められず，また，法令や当該事業場によって適用される労働協約に反してはならないとしている。 〔木元錦哉〕

しゅうきょうきょういく 【宗教教育】 一般には宗教に関する教育をいうが，多義であるためか曖昧(あいまい)に用いられている。欧米では，かつて教会学校・宗派学校を中核としていた学校が，近代国家の学校として成立してきたとき，いかにして宗教を学校教育から切り離すかが課題とされた。わが国では，宗教の厳密性が薄く，古来神道と仏教が共存するような生活慣習がつづいており，学校教育との対立は諸外国ほどはなかったが，明治以後国家神道が宗教ならざる宗教として強制されることがあった。

第2次世界大戦後，信教の自由を確立す



宗教騎士団　オスマン-トルコ軍の攻城に対抗するロードス島のヨハネ騎士団



就業構造

るとともに，公立学校での一党一派による宗教教育を禁じたが，同時に道徳の根底や情操の陶冶(とうや)に宗教的ふんい気が重要であることも認めている。したがって今日，特定の私立学校以外では，①文化遺産としての宗教が果たしてきた役割についての正確な理解をさせ，②宗教的な情操，たとえば人力以上の偉大な力に思いを至らせるとか，恩讐(おんしゅう)をこえたかなたに人々を結びつける高い秩序を考えさせるとかの情操を育て，③個々人の要求にこたえる形でバイブル-クラスなどの組織を認めるとか，宗教教育にあたる活動が考えられている。 〔浜田陽太郎〕

しゅうきょうげき 【宗教劇】 広義には，宗教的儀礼と密接に結びついた原始芸能や古代劇から，近代における宗教的主題に基づいた戯曲まで含むと考えられ，また政治劇・社会劇に対立する演劇ジャンルの一つとされる場合もあるが，ヨーロッパ演劇史の概念からいえば，特に中世ヨーロッパ世界におけるキリスト教的演劇をさす場合が多く，ヨーロッパ中世劇・中世宗教劇とほぼ同義に用いられる。

ヨーロッパ中世劇は，キリスト教的演劇と世俗的演劇とに大別され，前者が後者に吸収されるかたちで進展した。キリスト教的典礼劇の成立にあたっては，特に東方のビザンチン世界におけるギリシア語宗教劇の影響が強く，5世紀ごろから10世紀ごろにかけて音楽・美術とともに徐々に西欧世界に浸透した。以後，16世紀にかけて宗教劇はヨーロッパ各地で流行し，上演場所も教会の内陣から町の広場に移行し，ことばもラテン語から地方的な俗語(ドイツ語・フランス語など)が用いられるようになり，さらにキリスト教以前の異教的行事と結びついてさまざまの展開を遂げた。題材は聖書の故事にとられ，降誕祭劇・復活祭劇・受難劇・預言者劇・奇蹟劇(きせきげき)・道徳劇などがあったが，特に中世後期にはキリストの受難を主題とした受難劇の大規模な上演が各地で行なわれた。なお，これらの総称として，聖史劇(神秘劇)の語が用いられることもある。中世世界の終焉(しゅうえん)とともに姿を消したが，近世演劇の原型となった。 〔大島　勉〕

しゅうぎょうこうぞう 【就業構造】 各産業分野ごとの就業者の数および性格などの実態をさしていう。就業構造は，就業者の男女別・年齢別構成や労働条件(賃金・労働時間)などについて業種別・経営規模別・経営組織別(民営・公営)・都道府県別に詳しく分析されたものであり，これによって就業の実態を把握(はあく)することができ，経済政策上の重要な資料となる。日本では1956年(昭和31)以来3年ごとに総理府統計局によって就業構造基本調査が行なわれている。なお，月々の変化をとらえるものとして労働力調査がある。 〔加藤　寛〕

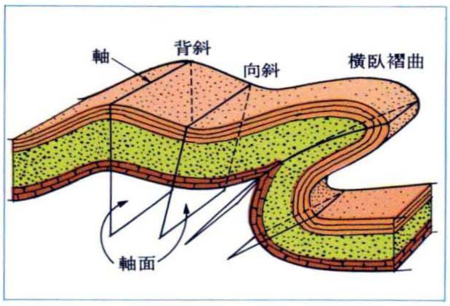
しゅうきょうさいばん 【宗教裁判】 カトリック教会が異端*を撲滅するために設けた裁判制度。異端の弾圧は古くからみられたが，法的に確立するのは13世紀である。教皇インノケンチウス3世*が第4ラテラン公会議(1215)で決め，ドイツ皇帝フリードリヒ2世が帝国法で世俗権力による処罰を決定し，1231年教皇グレゴリウス9世が教皇庁*の機関として設立した。その後，魔女狩りとともにヨーロッパ一帯に広まり，処罰として火刑が行なわれた。その中心として活動したのはドミニコ派の修道士で，特に中世末のスペインで激しかった。スペインでは15世紀末にローマ教皇から独立して国王による宗教裁判が設けられ，教会の制

度というよりは国家機関となり，裁判官も国王によって任命された。それはユダヤ人やムーア人の財産を没収し，キリスト教徒を国王に服従させることを仕事とした。〔兼岩正夫〕

しゅうきょうせんそう　【宗教戦争】　広義には宗教問題にかかわって起こったすべての戦乱をいうが，一般には近代初期に宗教改革による新旧両派の対立からヨーロッパ諸国で起こった戦争をさす。宗教的にはカトリックとプロテスタントとの争いであるが，政治的には絶対主義国家成立過程の一つであり，宗教と政治がからみあっている。おもなものとしてフランスのユグノー戦争，オランダ独立戦争，ドイツの三十年戦争などがある。〔兼岩正夫〕

じゆうきょうそう　【自由競争】　市場には完全な競争状態から完全な独占状態に至るまでいろいろな市場形態が存在する。そのうち独占・複占・双方独占などの市場を除外した市場形態を自由競争の状態ということができる。つまり，市場においてある生産物をめぐって売り手と買い手が多数存在し，競争しながら売り手も買い手もおのおの自分自身の利益にしたがって行動するものと考えることができる。自由競争においては価格が需要と供給の変化を正しく反映して動くことになる。資本主義経済社会の基本的原則は自由競争が維持できるように経済組織を改善し，十分機能させることであるが，資本主義経済の発展に伴い，独占が形成されるようになると，自由競争の原理はほとんど機能しなくなる。➔完全競争　➔自由価格〔藤枝省人〕

しゅうきょうてつがく　【宗教哲学】　宗教の本質・起源・内容・価値，哲学や心理学との関係，および宗教学の方法についての学をいう。宗教哲学は，哲学的なものをみずからの中に含んでいる宗教から成り立っている場合には，教義によって確立されている実定宗教(現実に行なわれている宗教)の豊かな信仰箇条を哲学的に基礎づけ，自己の中に閉じこもっている宗教的世界観の体系を拡大しなければならない(キリスト教・イスラム教・仏教などの宗教哲学)。また，宗教哲学が特定の宗教を顧慮せずにうちたてられた哲学の場合には，この宗教哲学はみずからの体系の中に宗教そのものの，あるいはなにか特定の宗教の根本問題を含んでおり，この根本問題を自己の哲学の立場から扱っている(合理的，理想主義的，新カント的-批判的，現象学的宗教哲学など)。宗教哲学史は広義には哲学史一般を含む。キリスト教宗教哲学を最初に体系化した人はオリゲネスといわれるが，狭義の宗教哲学はヘーゲルの《宗教哲学講義》(1821)から始まる。しかし，宗教哲学を神学から解放した点でカントの意義は大きい(《単なる理性の限界内での宗教》1793)。カントの宗教は道徳と連続している。宗教とは〈われわれの義務を神の命令として認識することである〉。シュライエルマッハーが宗教を〈絶対依存の感情〉で基礎づけたのは有名である。ヘーゲルによれば，宗教は神を神自体の姿でなく，神が人間精神の中にみずからを知らせる姿で観察する。宗教は〈神についての知〉，〈人間意識の最高領域〉であり，〈神の自己意識〉，〈神の精神が有限な精神を媒介としてみずから行なう知〉である。少壮ヘーゲル学派(D.シュトラウス・フォイエルバッハ)になると，宗教は思弁的要素をはがされ，心理学的に解釈されるようになる。〈神への無限の関係の中でのみ疑惑は静まる〉というキルケゴールの精神は，バルトらの弁証法神学に受け継がれている。わが国のすぐれた宗教哲学に西田幾多郎《場所的論理と宗教的世界観》(1946)，波多野精一《宗教哲学》(1935)，《宗教哲学序論》(1940)，《時と永遠》(1943)がある。〔中川　誠〕



褶　曲

しゅうきょうびじゅつ　【宗教美術】　宗教と関連して制作された美術。その制作品の種類は，超絶神像をはじめとして，教会・寺院そのものから，内部の装飾，儀式などの用具，布教や教化を目的とする図解類など各種にわたる。しかし，美術の概念としての区分は明瞭(めいりょう)ではなく，いわゆる原始時代から引き続いて制作され，使用されている実用美術と，近代以後における自由美術以外の美術は，なんらかの意味で宗教と関連をもっているといいうる。東洋においては，この制作活動は仏教美術として開花し，インドから中央アジアを経て東アジアにまで伝播(でんぱ)した。また，ヨーロッパでは14～15世紀にキリスト教美術が全盛期を出現させている。ただ，ユダヤ教とイスラム教においては偶像崇拝を禁じたので，建築を主としてのわずかの関連があったにすぎない。また，原始美術における岩壁画などは広い意味での宗教活動の所産ともいうべきであろう。

しゅうきょうぶんがく　【宗教文学】　広義には，キリスト教・仏教その他すべての宗教の聖典・経典，およびそれらを素材にした宗教色の濃い文学をいい，つまりキリスト教文学・仏教文学などすべてを包含する概念をさす。狭義には，主として《聖書》や使徒列伝から材をとり，特に中世において盛んだった文学をいい，その中からキリストの受難を主題とする奇蹟劇(きせきげき)である受難劇や讃美歌(さんびか)なども生まれた。キリスト教文学の伝統は古く，4世紀のアウグスチヌスの自伝《告白》はその最初の大作であり，その後もトマス-ア-ケンピスの《キリストに倣(なら)いて》やダンテの《神曲》など中世の重要な作品を経て，多くの傑作が書かれている。日本では，東西の宗教文化の影響のもとに，倉田百三(ひゃくぞう)や幸田露伴など仏教色の強い作家とともに，賀川豊彦(とよひこ)・有島武郎(たけお)らキリスト教色の強い作家を生んだ。〔日高八郎〕

しゅうきょうほうじん　【宗教法人】　宗教法人法(1951年(昭和26)4月公布,1961年改正)によって法人となった宗教団体。宗教団体とは宗教の教義を広め，儀式行事を行ない，信者を教化育成することを主たる目的とする団体をいう。そのうち，非包括法人は礼拝の施設を備える神社・寺院・教会・修道院そのほかこれに類する団体で，包括法人とはこれらの団体を包括する教派・教会・修道会・司教区，そのほかこれに類する団体をさす。所轄庁は主たる法人事務所の所在地を管轄する都道府県知事であるが，二つ以上の都道府県に所在する宗教法人を包括する包括宗教法人の場合には，文部大臣所轄となる。宗教法人の設立については宗教団体法(1939年4月公布)が認可制，宗教法人法(1945年)が届け出制をとったのに対して，現行の宗教法人法では認証制となった。〔藤井正雄〕

しゅうきょく　【褶曲】　地層が波のように曲がっている状態。波の山の部分を背斜，谷の部分を向斜といい，背斜や向斜の両側の部分を翼または脚という。また褶曲をできるだけ対称になるように分ける平面を軸面という。この軸面と褶曲を構成している地層の一つとの交線が褶曲軸で，褶曲の方向はこの軸の方向により表わす。軸面は垂直のことも傾いていることもある。褶曲が激しい場合には軸面は水平になり，その両側の二つの翼の地層も水平に近く横たわるようになる。このようなものを横臥(おうが)褶曲とよぶ。造山帯に特徴的に発達する構造である。大部分の地層は水中で堆積(たいせき)したもので，堆積した当時は堆積面はほぼ水平である。本来水平な地層が，地表に水平な方向に働く張力や圧縮力，または垂直方向の力を受けたり，重力の影響で堆積斜面をすべり落ちたりすると褶曲する。このような外力は，マントル内の対流やマグマの貫入などによることもあるが，外力を生ずる原因は十分にはわかっていない。〔堀福太郎〕

しゅうきょくさんみゃく　【褶曲山脈】　おもに褶曲作用を受けて地殻(ちかく)が変動する造山運動によってつくられた山脈。多くの場合造山帯の一部を形成している。アルプス・ヒマラヤなどの大山脈は典型的な褶曲

周期＼族	Ⅰa	Ⅱa	Ⅲa	Ⅳa	Ⅴa	Ⅵa	Ⅶa	Ⅷ			Ⅰb	Ⅱb	Ⅲb	Ⅳb	Ⅴb	Ⅵb	Ⅶb	0
1	1 H 1.0080																	2 He 4.003
2	3 Li 6.940	4 Be 9.013											5 B 10.82	6 C 12.011	7 N 14.008	8 O 16	9 F 19.00	10 Ne 20.183
3	11 Na 22.991	12 Mg 24.32											13 Al 26.98	14 Si 28.09	15 P 30.975	16 S 32.066	17 Cl 35.457	18 Ar 39.944
4	19 K 39.100	20 Ca 40.08	21 Sc 44.96	22 Ti 47.90	23 V 50.95	24 Cr 52.01	25 Mn 54.94	26 Fe 55.85	27 Co 58.94	28 Ni 58.71	29 Cu 63.54	30 Zn 65.38	31 Ga 69.72	32 Ge 72.60	33 As 74.91	34 Se 78.96	35 Br 79.916	36 Kr 83.80
5	37 Rb 85.48	38 Sr 87.63	39 Y 88.92	40 Zr 91.22	41 Nb 92.91	42 Mo 95.95	43 Tc 〔99〕	44 Ru 101.1	45 Rh 102.91	46 Pd 106.4	47 Ag 107.880	48 Cd 112.41	49 In 114.82	50 Sn 118.70	51 Sb 121.76	52 Te 127.61	53 I 126.91	54 Xe 131.30
6	55 Cs 132.91	56 Ba 137.36	57−71 ランタニド 元　素	72 Hf 178.50	73 Ta 180.95	74 W 183.86	75 Re 186.22	76 Os 190.2	77 Ir 199.2	78 Pt 195.09	79 Au 197.0	80 Hg 200.61	81 Tl 204.39	82 Pb 207.21	83 Bi 209.00	84 Po 〔210〕	85 At 〔210〕	86 Rn 〔222〕
7	87 Fr 〔223〕	88 Ra 〔226〕	89～ アクチニド 元　素															

57～71 ランタニド元素 (稀土類元素)	57 La 138.92	58 Ce 140.13	59 Pr 140.92	60 Nd 144.27	61 Pm 〔147〕	62 Sm 150.35	63 Eu 152.0	64 Gd 157.26
	65 Tb 158.93	66 Dy 162.51	67 Ho 164.94	68 Er 167.27	69 Tm 168.94	70 Yb 173.04	71 Lu 174.99	

89～(103) アクチニド元素	89 Ac 227	90 Th 232.05	91 Pa 231	92 U 238.07	93 Np 〔237〕	94 Pu 〔242〕	95 Am 〔243〕	96 Cm 〔247〕
	97 Bk 〔249〕	98 Cf 〔251〕	99 Es 〔254〕	100 Fm 〔253〕	101 Md 〔256〕	102 No		

周期律表 長周期型

山脈で，第三紀の造山運動でつくられたものである。褶曲山脈は地向斜*に生じた厚い海成の堆積(たいせき)岩で構成されることが多く，内部に変成岩を含み，横臥(おうが)褶曲・衝上断層・押しかぶせ構造・覆瓦状構造などが発達し，複雑な構造をもつのが普通である。〔平山　健〕

しゅうきょくせい　【周極星】　日周運動の間に地平線下に沈まない星。天体は地球の自転によって，天の北極(または南極)を中心に円運動をしているが，天体の赤緯を δ，観測地点の緯度を φ として $\delta>90^\circ-\varphi$ の場合には，その天体は地平線下に没しない。したがって，地球上の北極または南極ではすべての星は周極星であり，赤道上では周極星はない。

じゅうきょし　【住居址】　過去に人間が一定期間生活を営んだと考えられる場所。一般に，人間が狩猟生活を送っていた時代のものはあまりみられないが，日本では農耕文化の定着する以前の無土器時代(→無土器文化)からすでに竪穴(たてあな)住居*の跡が認められる。縄文(じょうもん)時代*には竪穴住居のほかに，平地住居や敷き石住居などが行なわれ，弥生(やよい)時代には高床式住居*，平安時代には床上式住居に発展していたことが，その住居址から推察できる。

じゅうきょしんにゅうざい　【住居侵入罪】　居住者またはるす番などの看守人の意思に反して他人の住居に立ち入ったり，また居住者などの許しを得て立ち入った者が，そのあと〈帰ってくれ〉と要求されてもなお居すわって立ち去らない場合に成立する犯罪(刑法130条)。この場合住居とは私生活の営まれる起臥(きが)寝食に使用される場所をさすが，ホテルや下宿の一室，また汽車・電車の車室，キャンプ内でもよく，かぎをかけていなくても不在中でもよい。また，他人の看守する邸宅，建造物・艦船の場合でも成立する。刑は3年以下の懲役または25,000円以下の罰金。未遂，たとえばへいにはしごをかけている状態でつかまったような場合も罰せられる(刑法132条)。〔野口恵三〕

しゅうぎょとう　【集魚燈】　走光性をもつ水産生物や餌料(じりょう)生物を集めて漁獲の能率を上げるために用いる燈火。集魚燈の起源は古く，当初はたいまつが用いられたが，明治になって石油ランプやアセチレンガス燈も導入された。現在では発電機による集魚燈が用いられ，サンマ棒受け網は集魚燈を利用して大発展を遂げた漁法の一つである。サンマの場合は水上燈が用いられるが，対象魚によっては水中燈も使用される。魚には好適な照度があると考えられ，明るければ明るいほどよいということでもなく，光の色による集魚効果も論じられている。〔石野　誠〕

しゅうきりつひょう　【周期律表】　元素をその原子量の順に並べると，元素の性質が順に変わり，しかもよく似た性質の元素がある周期でくり返し現われる。これを元素の周期律といい，この法則に基づいて，性質の似た元素が縦に並ぶように配列した表を元素の周期律表という。メンデレーエフ*は，よい資料をもとにして注意深く元素を並べ，未発見と思われる元素の欄は空欄にしておいて，今日のいわゆる周期律表をつくった。

表で，縦の配列を族といい，0族からⅧ族に，横の配列は周期といい，1から7まで分けられる。この分け方によれば，ランタニド元素とアクチニド元素を除けば，すべての元素が簡単に整理される。周期律表にはいろいろな形式があるが，短周期型と長周期型が代表的である。元素を原子量の順に並べると，8番めごと，18番めごと，32番めごとに性質のよく似た元素がくる。8番めごとの周期をもとにして作成したものが短周期型，18番めごとの周期が長周期型である。特に後者は原子の構造との関連がわかりやすい。

元素の周期律は原子内電子の配置から理解される(→原子)。第1周期は $1s$ の電子殻(かく)に二つだけ電子がはいりうることにより，第2周期は $2s$，$2p$ に八つ，第3周期は $3s$，$3p$ に八つの電子が順次詰められていくことによって生ずる。第4周期では，$4s$ 殻が $3d$ 殻よりエネルギーが低いので，$4s$ がまず満たされてから $3d$ が詰められていく。これが遷移元素で，スカンジウムからニッケルまでとなる。その後に $4p$ 殻が詰まっていき，銅からクリプトンまで八つの元素を生ずる。第5周期は，第4周期と同じように $5s$，$4d$，$5p$ の殻が電子により占められていくことで説明される。第6周期は，$6s$ 殻がまず詰まって $4f$，$5d$ 殻があとから電子に占められるためにランタニド元素が現われるので，これ以前の周期よりさらに複雑になるが，原理としては同じである。元素の化学的性質は最外部の殻にある電子によって決まるから，以上の原子の構造からその周期性の生ずることは容易に理解される。〔吉原邦夫〕

じゅうきんぞく　【重金属】　比重約5以上の金属の総称。イリジウム(比重22.4)，白金(21.4)，金(19.3)，水銀(13.6)，銀(10.5)，銅(8.96)，鉄(7.86)，亜鉛(7.14)などがこれに属する。軽金属*に比べてイオン化傾向が小さい。

しゅうぐせいじ　【衆愚政治】　ギリシア語のオクロス(大衆・群衆)とクラトス(力・支配)の2語から合成された政治学上の術語で，民主政治の堕落した政体を意味する。その典型的な例は紀元前5世紀末ごろのアテナイの場合である。偉大な〈民衆指導者(デマゴーゴス)〉とよばれたペリクレス*がBC429年に死んだのちは，皮なめし業者のクレオンをはじめランプ製造業者・竪琴(たてごと)製造業者などの工業家が民会で活躍した。彼らはペロポネソス戦争*における戦勝と領土拡大によって土地・奴隷その他の戦利品にあずかりたいと望む下層市民たちの夢を，はでな身ぶりや弁舌でかきたて民衆の目先の利益に迎合し，その支持を獲得した。しかし実際はそのためにスパルタ*との和平の機を過大な要求のためにのがし，結局敗戦を招いた。こうして民衆指導者を意味するデマゴーゴスは民衆扇動者の意に変

わった。敗戦直後のBC399年におけるソクラテス*の刑死も，衆愚政治になじんだ市民たちから選出された陪審官が行なった不当な有罪判決の結果であった。〔秀村欣二〕

じゅうクロムさんカリウム【重クロム酸カリウム】 $K_2Cr_2O_7$ クロム鉄鉱に炭酸ナトリウムと石灰粉とを混ぜ，反射炉で高熱融解し，生成物を水で抽出してクロム酸ナトリウム溶液を得，これを硫酸で酸性にし，カリウム塩を加えて結晶させる。橙赤(とうせき)色の板状の結晶で，苦味を有し，有毒である。融点は396℃で，500℃以上に熱すると分解する。100℃で100gの水に94.1gが溶解する。マッチ・爆発物の製造，分析試薬，染色剤など用途が多い。〔鈴木　篁〕

じゅうクロムさんでんち【重クロム酸電池】 陽極に炭素，陰極に亜鉛，減極剤および電解液に重クロム酸カリおよびその溶液を用いた一次電池の一。起電力は2V，内部抵抗はおよそ0.5Ωである。

じゅうぐんかんごふ【従軍看護婦】 戦地で傷病者の看護にあたる看護婦。日清(にっしん)・日露の戦争では博愛社*の少数の看護婦および民間の志願者が特別に派遣された。1915年(大正4)4月，日本赤十字社の看護婦に応召の義務規定が定められ，第1次・第2次世界大戦には軍属として従軍し，野戦病院で勤務した。このほか，一般からの志願によるものも多数あった。欧米諸国でも当初は自発的従軍であったのが，だいたい日本と同様の経過をたどって，第2次世界大戦末期には正規の婦人部隊として編成された。〔森田　哲〕

じゅうけい【重慶】 チョンチン　中国，四川(しせん)省の都市。人口200万(1972年推)。四川盆地の東南部，揚子江と嘉陵江(かりょうこう)の合流点に臨み，両河川の水運と川黔(せんけん)鉄道の連絡点にあたる物資集散の中心地。有毒金属工業以外の多種類の工業はほとんどすべてこの地で行なわれている。1891年に開かれた開港場で，雨季には3,000トンの汽船が下流から到達することができる。日中戦争から第2次世界大戦の期間にかけて，国民政府はここを拠点に抗日戦争を戦いぬいた。〔船越昭生〕

じゆうけい【自由刑】 人の自由の剝奪(はくだつ)を内容とする刑罰*。現行刑法では，懲役*・禁錮*(きんこ)・拘留*の3種の刑を自由刑といい，いずれも犯罪者を社会から隔離して社会を防衛するために，刑務所*または拘留場に拘禁する。自由刑に対し，死刑*を生命刑，罰金・科料を財産刑という。

じゆうけいざい【自由経済】 経済上の決定が個人の自由な活動によって取り決められ，国家などによって強制されない経済をいう。その基礎は私有財産制*と契約の自由で，自由市場機構に基づいて生産者が自由競争を行ない，中世からの制約を排していった古典的なイギリス資本主義はその代表的なものである。自由競争のもとでは見えざる手によって経済秩序が保たれていくとし，国家の保護政策を批判したA.スミスの経済思想によく表わされている。〔加藤　寛〕

じゆうげきじょう【自由劇場】

1フランスの演劇革新運動。テアトル-リーブルの訳名。1887年，パリのガス会社に勤務するかたわらアマチュア劇団を主宰していたアントワーヌ*は，末期ロマン主義演劇によって真実をゆがめられ，商業主義によって毒された当時の劇界に対して，人生の真実を標榜(ひょうぼう)した〈自由劇場〉を創立した。1880年ごろゾラ*が唱道した〈演劇における自然主義〉に強く影響された彼の演劇理念は，〈実人生の断片〉を舞台に映し出すことに目標が置かれ，アンリ-ベックやフランソワ-ド-キュレルなどのフランス作家とともに，イプセン*・ストリンドベルイ*・ハウプトマン*などの外国作家を紹介し，フランス近代劇誕生のための原動力となった。舞台創造では，旧来のスター-システムに対し，アンサンブルおよび役の心理的掘り下げが要求され，舞台装置にも真実らしさが強調された。1894年，経営難のため解散したが，運動の余波は全ヨーロッパからアメリカに及び，アイルランドにおけるグライン*の〈独立劇場〉，ドイツにおけるブラーム*の〈自由舞台〉など，全世界的な近代劇運動のさきがけとなった。

2明治末年，小山内薫*(おさないかおる)と2世市川左団次*によって始められた演劇運動。左団次はヨーロッパ旅行から帰国後，ロンドンの舞台協会(ステージ-ソサエティ)をモデルにして，新しい演劇運動を日本に起こそうと志し，1909年有楽座*において小山内薫演出によるイプセンの《ジョン-ガブリエル-ボルクマン》を試演，新劇運動の礎石を築いた。〔大島　勉〕

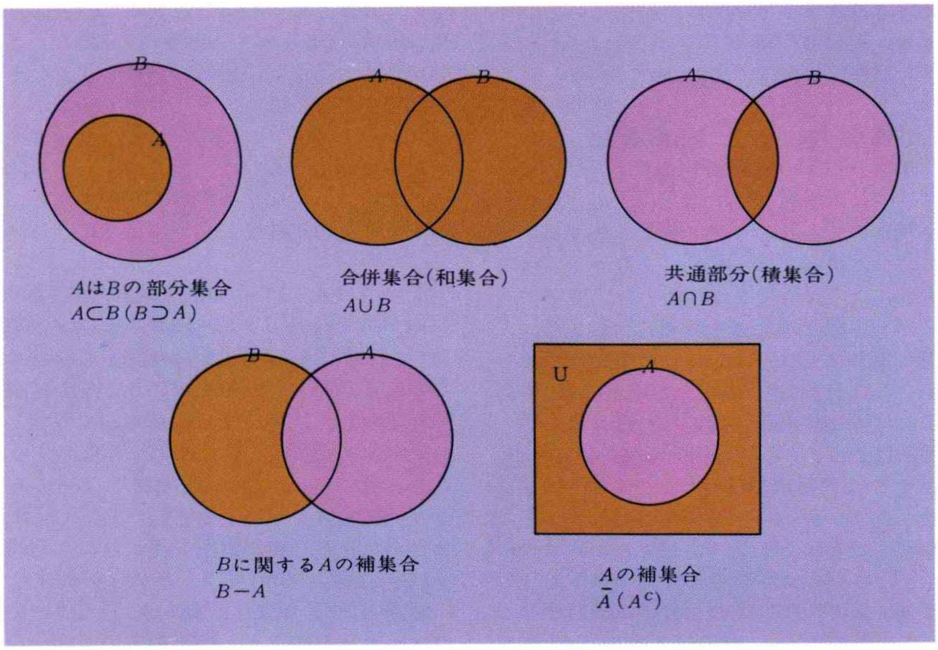
じゅうけつ【充血】 動脈血が局所に増加した状態。局所は鮮紅色を呈して温度が上がりはれる。原因は，血管運動神経作用(緊張性・麻痺(まひ)性)，物理的または化学的な刺激・炎症などで，筋麻痺性充血・神経麻痺性充血・炎症性充血・機能的充血・代償性充血などに分類される。なお，静脈血が局所に貯留した状態は〈鬱血*(うっけつ)〉という。

じゅうけつきゅうちゅう【住血吸虫】 扁形(へんけい)動物・吸虫綱・ジュウケツキュウチュウ科の体長10～20mm内外の寄生虫。雌雄異体。鳥類・哺乳(ほにゅう)類の血管内に寄生する。ヒトに寄生するものは日本住血吸虫*・マンソン住血吸虫・ビルハルツ住血吸虫などが知られている。このうち日本住血吸虫を除く2種はわが国にはない。マンソン住血吸虫はアフリカ・南アメリカに分布し，おもに大腸間膜静脈に寄生する。ビルハルツ住血吸虫はアフリカのほかアラビア半島からインド西海岸に分布し，骨盤部静脈に寄生する。鳥類の住血吸虫では，幼生のセルカリアがしばしばヒトに侵入し，強い皮膚炎(セルカリア皮膚炎)を起こすことがある。住血吸虫類は巻き貝のたぐいを中間宿主とし，卵→ミラシジウム→スポロシスト→セルカリアに変化する。セルカリアは感染幼虫ともいうべきもので，貝の体外に遊出し，終宿主の皮膚から侵入する。セルカリアの尾部は矢じりのように2分岐している。〔山本　久〕

じゆうけん【自由権】 国民の諸活動の自由が第1に保障される権利。近代民主革命は封建制・絶対君主制の支配から解放されることをめざしたものであり，その結果，発布された近代憲法では，基本的な権利として国民の諸活動の自由を第1に保障することとなった。すなわち，警察によってみだりに逮捕されないこと(人身の自由)，法の定めによらないで財産を奪われたり刑罰を科せられたりしないこと，居住・移転または営業の自由，思想・信仰・言論・出版・集会・結社の自由など，国家権力の干渉なしに国民が自由に活動し主張できることを保障したもので，学者の中には，これらの基本的権利を自由権という人がいる。英米では市民的権利とよぶのが普通である。近代社会の発展につれて資本主義経済の必然的結果として，富の不平等や働く国民大衆の生活苦などが深まり，第1次世界大戦後は，以上のような自由権の保障だけでは，国民の多くが人間らしい生活を送ることができなくなったので，人間らしい生活のできるように国家が施策を行なうこと，労働者に必ず職を与え，また社会保障*を与えること，労働者の団結権*を認めることなどを権利として認めることが要求されてきた。

今日，先進諸国の憲法では，いずれも自由権のほかに，これらの権利が保障されている。上述の自由権を自由権的基本権というのに対して，生存権的基本権といわれるものがこれである。自由権は，国家権力の干渉を排除するが，生存権は国家権力の積極的な活動を要求するところに特色がある。ただし，この二つの分類では，必ずしも十分ではない。たとえば選挙権・被選挙権や国家に賠償を要求する権利などは，自由権として説明したのでは不十分である。いずれにせよ，国民のすべてがこれら諸権利をみずからの人間的発展や，市民生活の基本条件として確立することがたいせつである。〔鈴木安蔵〕

じゅうけんじゅつ【銃剣術】 銃剣(小銃の先端に短剣をつけたもの)をもって相手を突き刺す術。白兵戦の一戦技であるが，木銃を用い防具をつけてスポーツとしても行なわれている。日本では1873年(明治6)陸軍戸山学校が設置されてから本格的な研究が始まり，独特の武術となった。戦前は軍隊以外では大日本武徳会が中心となって普及に努めたが，現在では全日本銃剣道連盟が組織されている。



集　合

しゅうこう【周公】生没年不詳。中国，周代の政治家。武王*の弟で，名は旦(たん)。武王が殷(いん)を滅ぼしてまもなく死ぬと，兄弟の召公とともに武王の子で幼少の成王を補佐して実際の政治にあたる。殷の監督をしていた管叔(かんしゅく)・蔡叔(さいしゅく)が殷の遺民や東方の異民族と結んで反乱を起こすと，東征してこれを平定し，また東方の洛邑(らくゆう)(洛陽)に新都(成周)を建設するなど，東方の経営に力を注ぎ，周王朝の基礎を築いた。さらに周の封建制を整え，殷の制度を取り入れて礼楽を制定したため，儒家は聖人のひとりに数える。その子伯禽(はくきん)は，父に代わって山東省曲阜(きょくふ)に行き，魯(ろ)の国をはじめた。〔小南一郎〕

しゅうごう【集合】物の集まりで範囲が明確なものを集合といい，その範囲内にある個々のものをその集合の元または要素という。集合Aの元がa，b，c，……であるとき，Aは元a，b，c，……からなるといい，$A=\{a, b, c, \ldots\}$と表わす。また，条件$P(x)$に適するxの全体からなる集合を$\{x|P(x)\}$あるいは$\{x: P(x)\}$と書く。たとえば，$\{10, 11, 12, \ldots, 99\}$は2けたの整数の全体の集合，$\{x|x \div 2$の余りが$1\}$は奇数全体の集合である。

元の個数が有限個の集合を有限集合といい，無限個の元を含むものを無限集合という。aが集合Aの元であることを，aがAに属するとかAがaを含むといい，$a \in A$または$A \ni a$で表わす。その否定は$a \notin A$などと表わす。どのaに対しても$a \notin A$となる集合A，すなわち元をまったく含まない集合Aを空集合といい，Aが空集合であることを$A=\phi$と表わす。集合Aの元がすべて集合Bに属するとき，AはBの部分集合であるといい，$A \subset B$あるいは$B \supset A$と表わす。特に$A \subset B$で$A \neq B$のとき，AはBの真部分集合であるといい，$A \subsetneq B$などと書く(真部分集合を$\subset$や$\supset$で，部分集合を$\supseteq$や$\subseteq$で表わすこともある)。

集合A，Bに対して，AまたはBの少なくとも一方に含まれる元の全体からなる集合を，A，Bの合併集合または和集合といい，$A \cup B$で表わす。また，AおよびBの両方に同時に属する元の全体からなる集合を，A，Bの共通部分または積集合といい，$A \cap B$で表わす。記号$\cup$を〈結び〉，$\cap$を〈交わり〉と読むことがある。また，説明のために付記したような図をベン図またはオイラー図という。

一連の考察において，一つの集合Uが定まっていて，その元や部分集合だけを取り扱うとき，この集合Uを全体集合あるいは普遍集合という。集合Bに属するが集合Aに属さない元の全体からなる集合を$B-A$で表わし，Bに関するAの補集合という。特に全体集合Uに対する集合Aの補集合$U-A$を単にAの補集合といい，記号$\bar{A}$またはA^cで表わす。合併集合・共通部分・補集合を求める演算を集合算という。結び・交わりについては数の計算と同様に結合法則・交換法則がなりたつ。また，数の計算とは異なり，2通りの分配法則$A \cup (B \cap C)=(A \cup B) \cap (A \cup C)$，$A \cap (B \cup C)=(A \cap B) \cup (A \cap C)$がなりたつ。補集合に関してはド-モルガンの法則*がなりたつ。

集合Aの元の間に次の三つの法則を満たすような関係$\leqq$が定義されているとき，これを順序集合または半順序集合という。①反射法則　$x \leqq x$，②反対称法則　$x \leqq y$かつ$y \leqq x$ならば$x=y$　③推移法則　$x \leqq y$かつ$y \leqq z$ならば$x \leqq z$。たとえば，ある集合の部分集合を元とする集合を考えるとき，包含関係$\subset$について順序集合である。また，順序集合Aにおいて，Aの任意の元x，yに対して必ず$x \leqq y$または$y \leqq x$がなりたつとき，Aは全順序集合または線形順序集合であるという。たとえば，整数の集合は大小関係について全順序集合である。順序集合において$\{x|a<x<b\}$や$\{x|a \leqq x \leqq b\}$の形の部分集合をそれぞれ(a, b)，$[a, b]$で表わし，前者を開区間，後者を閉区間とよぶ。〔小西勇雄〕

じゆうこう【自由港】全市域または一定地域を限って，そこを通る外国貨物に対し，自国の関税法を適用しないで自由に出はいりすることを認めている貿易港。もとは香港(ホンコン)のように全市を自由港にする自由港市を意味したが，その後ヨーロッパ諸国では，商港の一部にこの制度を敷いた自由港区が採用された。アメリカで採用されている外国貿易地帯もこれに属する。

じゅうごう【重合】ある化合物の分子が2個以上結合して，新たに分子量の大きい化合物を生成する反応。この場合，新しい結合をつくるに際して，簡単な分子の副次的な脱離を伴う反応を縮合といい，そのような脱離を伴わない重合と区別される。重合を行なう際の基本になる低分子化合物を単量体とよび，単量体2個が重合したものを二量体，3個が重合したものを三量体などとよぶ。これが数十個までの場合は一般にオリゴマー(寡量体・低重合体)，およそ100個以上の場合はポリマー(重合体・高分子化合物)という。最近著しく発展した高分子化学の分野では，上述の定義に厳密にあてはまらなくても，単量体から高分子化合物を生成する反応を重合と称し，その中で，本来の意味での重合を付加重合(高重合反応)，縮合反応のくり返しによる高分子生成反応を縮合重合などと分類している。また，単量体は必ずしも1種類に限定されることはなく，2種類以上の単量体が混合した形で重合を行なうこともある。前者を単独重合とよぶのに対し，後者を共重合*とよび，生成物を共重合体とよぶ。➔高分子　➔高分子化学　〔伊藤　卓〕

しゅうこうき【集光器】光学機械において，光を一定の位置とか大きさに集光する装置。レンズの屈折で集光させる集光レンズ*と凹面鏡(おうめんきょう)の反射で集光させる反射鏡とがあり，映写機や顕微鏡の照明装置として用いられる。映写機では集光レンズと反射鏡を組み合わせたものでフィルム面を照明するものが多く，顕微鏡では低倍率のものには反射鏡だけが，高倍率のものには反射鏡と集光レンズとが組み合わせて用いられ，特に限外顕微鏡には暗視野照明用として，特殊な反射鏡とレンズを組み合わせたものが用いられる。〔加藤定雄〕

じゅうこうぎょう【重工業】⇨重化学工業

しゅうごうご【集合語】言語の形態的

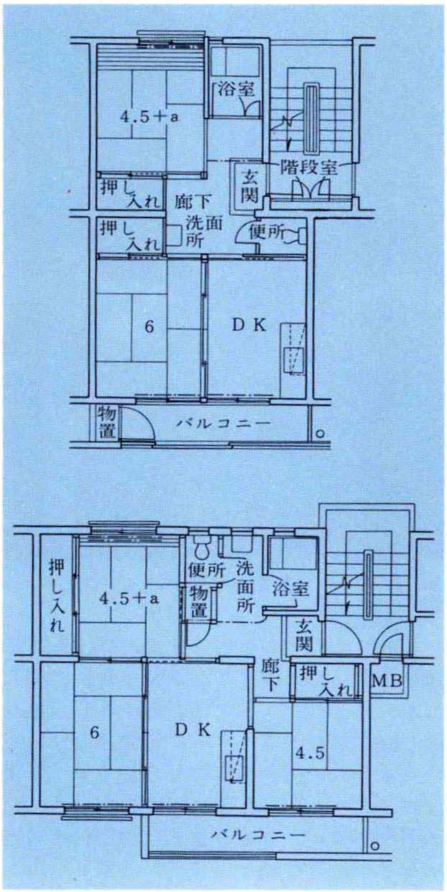
構造による古典的分類法の一。文を構成する要素の結合が緊密なため文を分析することができず，あたかも1個の語のようにみえる文と語との区別を明瞭(めいりょう)になしえない言語。エスキモー語*・アメリカ-インディアン諸語*などがその代表とされる。しかし，文において特殊な結合のしかたをする要素が，単独で現われる場合とは異なった形を取るためにそのように見えるにすぎず，分類上の根拠は薄い。なお，抱合語(ほうごうご)といわれることもあるが，抱合語は正しくは1個の語の中に他の要素を介在させて(抱き合わせて)文をつくるような言語をいい，アイヌ語*はその典型とされる。

〔崎山　理〕

しゅうごうじゅうたく　【集合住宅】　住居の形態の一。独立住宅との区別から，連続住宅・共同住宅・集団住宅などともいう。1むねの中に複数の住戸が存在するというだけではなく，そこに集合することによる利点をつくることによって，はじめて独立住宅と区別される。

【集合住宅の利点】個人によって比較的ゆっくりした敷地に建設されていた一般個人住宅も，1770～1830年にわたる産業革命により，イギリスなどに典型がみられるように，人口の増加と都市集中が激化してスラム化し，大きな社会問題となった。集合住宅は，この難問を解決するため，すなわち都市における限られた土地をより集約的に利用し，面積あたりの密度，さらには安全性・経済性を高めることによってよりよい住環境を保持することを目的として生まれた。最近では，都市計画的見地から団地計画・ニュータウン計画が大都市近郊に提案され，都市居住者が快適に生活できる場を提供した。近隣住区を計画することは，集団に対して効果的な共同施設・道路・公園・広場などの公共的空間を設けるなど，快適で便利で安全な環境を，その規模に応じて整備していくことにある。したがって，独立住宅に比べて，土地の高度利用が可能なこの種の集合住宅は，今後も増加の一途をたどるものと思われる。

【集合住宅の形式】形態上から次のように分類される。一般に，①連続住宅・テラスハウスとよばれるもの：各戸が庭や駐車場などをもち，これが横に連続した形態である。また，縦横にメゾネット形式(各住戸が，共同廊下への出入り口をもつ層と，共用部分に接しない層とよりなり，二つの層は各住戸内部の専用階段で結ばれる形式)をとり，全体で中庭を取り囲む形式もある。②一般に，多層式集合住宅・共同住宅などとよばれるもの：公営住宅・公団住宅に多くみられる。外国ではメゾネット形式もとられている。アメリカではウォークアップタイプ，イギリスではフラットとよばれている。これらは4～5階建ての，階段室・廊下などを共有したもの，さらにエレベーターを付して高層とし，質的水準の高いものは共同の利点を生かしたセントラル方式による完全空調システムのものもある。





集合住宅　公営住宅標準設計例(上)2DK。計画床面積45.70m²。DK：台所兼食事室　(中)3DK。54.97m²。MB：メーターボックス　(下)千里ニュータウン(大阪府)



周口店　中国河北省。北京原人の発見地

【集合住宅の歴史】古代ローマにおいて，すでにインスラとよばれる都市労働者のためのアパートメントハウスが建設されている。中世では積層形式の集合住宅が城壁都市などにみられるが，近代的な意味における集合住宅の建設の発端は，18世紀に始まる産業革命以後の都市集中にみられる都市労働者を対象としたものであった。イギリスのロンドンをはじめ，フランス・ドイツなどで産業革命による人口の急激な膨張によってアパートメントハウスが建設された。第2次世界大戦後は，世界各国は，戦災復興計画にアパートメントハウスの建設に大きな力を傾けた。イギリスでは，各国に先がけて，ローハンプトン団地・ハロー-ニュータウンなどを建設した。また，フランスでは〈マルセイユのコニテ〉を提案した。このアパートメントハウスは，ル-コルビュジエ*の理想都市の集合住宅で，この中に330戸，1,600人ほどの人々が生活している。これは一つのコミュニティと考えられ，その中にはさまざまなタイプの住居と公共施設(郵便局・日用品売店・宿泊所・カフェテリア・食堂，さらに屋上にはプール・日光浴室・母の家・保育所・幼稚園)が設けられ，一大コミュニティを形成している。スウェーデンをはじめとする北欧諸国では，社会民主主義がゆきわたり，国家による住宅政策が理想的な形で集合住宅の団地が都市近郊の美しい自然環境の中に建設されている。

日本においても，明治時代後半に始まった産業革命によって都市への人口集中がみられたが，近代的なコミュニティ構成の意識のもとに集合住宅が建設されたのは1923年の関東大震災以後である。それは，震災復興のため同潤会により1925～1927年にかけて，東京の渋谷(しぶや)・代官山・千駄ケ谷・新宿・江戸川などに，鉄筋コンクリートの3～4階建ての中階段室型が建設されたのが始まりである。第2次世界大戦後は，日本住宅公団の設立(1955)に伴って，大都市近郊に集団的に大規模に一連の公団住宅が建設された。現代的な居寝分離の住空間の新しいタイプ(2DK・3K・3DK)を作り出し，規模に応じた共同施設が設けられた。これらは，居住の最低条件(44.75～59.17m²)を満たすだけの面積と環境が保持され，耐震・耐火・耐久の諸条件と同時に，電気・ガス・給排水などの設備面でも共同化によってより高度化され，集合住宅による質を完全に確保している。〔内藤浩市〕

じゅうごうたい　【重合体】　⇨重合

しゅうこうてん　【周口店】　チョウコウテン　中国，北京(ペキン)の西南約50kmにある小都市。石灰岩洞穴(どうけつ)に旧石器時代の遺跡がある。1918年第1地点の猿人洞(えんじんどう)が発見されると，地質学者のアンダー

ソンはこの地域の重要性に気づき，1927～1937年の間綿密な調査を続けた結果，多量の化石に混じって洪積世(こうせきせい)中期(60万～50万年前)の人骨が見つかり，北京原人*と名づけられた。第2次世界大戦後も，中華人民共和国の手で発掘が続けられている。〔小谷仲男〕

しゅうこうレンズ　【集光レンズ】　光学機械で，光を集める目的に使用されるレンズ。望遠鏡などでは対物レンズの焦点距離に近い位置に置かれ，光の広がり角が大きくならぬような役目を果たす。映写機・投影機などでは，フィルムや物体を照明するために，定められた位置に一定の大きさに光を集めるような役目を果たす。この場合は単レンズは少なく複数個のレンズを組み合わせて用いる。コンデンサーレンズともいう。〔加藤定雄〕

じゅうごや　【十五夜】　⇨月見

しゅうこんごうじん　【執金剛神】　仏法を守護する天神。〈しつこんごうじん〉とも読む。梵語(ぼんご) Vajra-dhara(バジュラ-ダラ)の訳。持金剛ともいう。手に金剛杵*(こうごうしょ)を持つ善神。《増一阿含経(あごんぎょう)》第22をはじめ多くの経典に，つねにブッダのそばに従って非法の者を金剛杵で砕破し，仏法擁護に尽くしたと説かれる。また《大宝積経(だいほうしゃくぎょう)》に，ふたりの金剛力士(→仁王(におう))が理想的な帝王である転輪聖王(てんりんじょうおう)の子に生まれ，諸仏守護の誓願を果たしたと記されている。2力士が仏の左右に侍立する相はこの経に由来し，中国・日本で〈仁王〉ともいわれる。現存する執金剛神・仁王尊の逸品は多く，東大寺法華堂(ほっけどう)(三月堂)の塑像は著名である。〔北条賢三〕

じゅうこんざい　【重婚罪】　配偶者のある者が重ねて婚姻*をする罪(刑法184条)。第1の婚姻と第2の婚姻が，ともに法律上の婚姻であるときに成立する。第2の婚姻が事実上の婚姻(内縁)である場合には本罪は成立せず，離婚届を偽造して第2の婚姻届を提出するような場合などに成立するにすぎない。刑は2年以下の懲役で，婚姻の相手方も同様に処罰される。

しゅうさ　【収差】　⇨ザイデルの5収差

しゅうざい　【集材】　山で木を伐採し，その場所に散在している丸太または伐採したままのものを，1か所または数か所に集積する目的で行なう木材運搬作業。これによって木材消費地や鉄道貨物駅まで運ぶ運材*作業が能率的に行なわれ，木材の品等区分，数量の調査，必要によっては防腐・防虫などの処理をしやすくする。集材の方法としては，従来人畜力を利用して引き出したり，そりに木材を積んで引き出す方法，あるいは重力を利用して斜面を滑降さす方法などが行なわれた。近時は集材機というガソリンエンジン・ディーゼルエンジンなどの原動機と巻胴(ドラム)を組み合わせて



執金剛神《塑造執金剛神立像》(部分)　東大寺法華堂蔵

つくられた一種のウインチで，ワイヤロープを操作して集めたり，鉄製引き板に積んだ木材をトラクターで牽引(けんいん)し，または直接木材をトラクターの背後に取り付けたウインチで引き出したり，サルキーとよばれるアーチ形の台車に木材の端をウインチのワイヤロープでひき上げて集材する方法などが行なわれる。〔夏目　正〕

しゆうざいさんせいど　【私有財産制度】　法律によって財産の私有が認められている社会制度。資本主義社会はこの制度の上になりたっており，生産手段の私的所有は階級支配と搾取の根拠になっている。資本主義のもとではすべての財産を個人が自由に使用し，処分することができるこの制度が社会を進歩させ，人々の自由と平等を達成すると考えられていたが，資本主義の発展につれて生産手段を私有するものと私有しないものとの社会的・経済的不平等が拡大した。〔加藤　寛〕

じゆうさいりょう　【自由裁量】　法の認める範囲で，国家機関特に行政庁が法の規制から解放されて自由に判断し，行政行為(たとえば，租税の賦課，営業の免許)をなしうること。緊急の場合や，公益を害すると判断しうる場合などに認められる。なにが法であるかを解釈する法規裁量は裁判所の審査を必要とするが，主として利益処分に関する便宜裁量には，裁量の範囲を逸脱しないかぎり，仮に裁量を誤っても違法の問題を生じない。

しゅうさくじん　【周作人】　チョウツオレン(1885～1966)　中国現代の随筆家・翻訳家。魯迅*(ろじん)の弟で，兄と同じく日本留学生出身。文学革命*のときは，人道主義的文学理論を展開して，中国近代文学誕生の方向づけを行なった。個我が強く，内向的で，皮肉とユーモアとの融合したエッセーを書き，またギリシア文学・日本文学の作品を多く訳出した。日中戦争のときは北京(ペキン)にとどまって，日本軍の占領政策に協力した。戦後，戦犯に問われて下獄，のち釈放され，翻訳や亡兄魯迅の伝記資料を執筆した。随筆集《雨天の書》《自分の畑》など数多い。〔今村与志雄〕

しゅうさん　【蓚酸】　2個のカルボキシル基が結合したジカルボン酸の最も簡単なもの。$\begin{array}{c}\mathrm{COOH}\\|\\\mathrm{COOH}\end{array}$ 市販品は2分子の結晶水をもつ結晶で，水・アルコールにとけ，エーテルにはとけにくい。強熱すると二酸化炭素とギ酸に分解する。多くの植物に遊離のまま，あるいは塩として不溶性の形で見いだされる。ことに，カタバミやスカンポなどに多量に含まれる。工業的には，おがくずをアルカリ溶融したり，ショウ酸酸化して製造される。分析試薬・還元剤や皮革・麦わらなどの漂白剤，また染料製造原料あるいは染色補助剤など，用途は広い。〔石戸良治・荒木洋之助〕

しゅうざんぐんとう　【舟山群島】　チョウシャン群島　中国，浙江(せっこう)省北東沿岸の東シナ海にあり，約400の島よりなる。総面積1,554km²。約100kmにわたって北東～南西に走り，三つの列島を構成している。北部を嵊泗(じょうし)列島，中部を中街山列島(長塗山・岱山(たいざん)など)といい，南部には最大の舟山島(523km²)をはじめ金塘山(きんとうざん)・普陀山(ふださん)などの主要な島がある。東シナ海の水産業や航海上の重要な位置にあり，舟山島の沈家門などは，漁業基地や避難港になっている。舟山専区に属し，専署は舟山島の定海県にある。〔船越昭生〕

じゅうさんこ　【十三湖】　青森県津軽半島西部，日本海岸にある湖。十三潟(じゅうさんがた)ともいう。面積20.8km²，水深3m。岩木川をはじめ多数の河川が注ぎ，日本海に通ずる。以前は大きな入り江で水深もあり，湾口の十三湊(とさみなと)は室町時代には日本海往来の船の寄港地であった。現在は南北から延びる砂嘴*(さし)が潟湖(せきこ)を形成し，同時に河川の運搬堆積物(たいせきぶつ)によって湖の面積も縮小した。藩政時代から干拓工事が進められ，水田面積が増加しつつある。〔長津一郎〕

じゅうさんしゅう　【十三宗】　仏教における諸宗派の総称。中国では一般に凝念の《三国仏法伝通(でんづう)縁起》の分類によって，毘曇宗(びどんしゅう)・成実宗・律宗・三論宗・涅槃宗(ねはんしゅう)・地論宗・浄土宗・禅宗・摂論宗(しょうろんしゅう)・天台宗・華厳宗(けごんしゅう)・法相宗(ほっそうしゅう)・真言宗をさす。日本では，明治維新直後の廃仏毀釈(きしゃく)のあと公認された宗派で，南都6宗のうち当時残っていた華厳宗・律宗・法相宗，平安時代に開宗された天台宗・真言宗，鎌倉時代以後開宗されたものでは，浄土教系統の浄土宗・浄土真宗・融通念仏宗・時宗，禅宗系統の臨済宗・曹洞宗(そうとうしゅう)・黄檗宗(おうばくしゅう)および日蓮宗(にちれんしゅう)をさす。〔奈良博順〕

じゅうさんだいしゅう　**【十三代集】**　鎌倉時代から室町初期にかけて選ばれた13部の勅撰(ちょくせん)和歌集*の総称。二十一代集のうち八代集を除いたもの。《玉葉和歌集*》《風雅和歌集*》を除いては，時代が下るにつれて歌境が沈滞し，みるべき作品に乏しい。
➔二十一代集　➔八代集

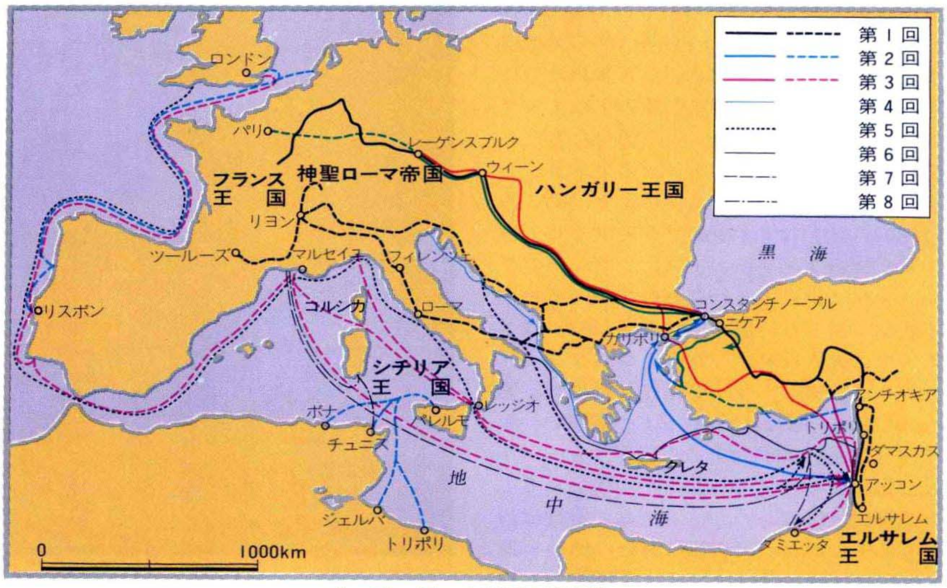
じゅうさんづか　**【十三塚】**　ほぼ全国に分布する村境や丘の上に築かれた13個の土壇。一つの中心塚が群を抜いて大きく，古墳である場合が多いが，塚中に遺物を蔵さないのが特色である。中心塚を大将塚・将軍塚などとよび，これら列塚は大将１人と従者12人，姫や后と侍女12人などの非業の死にまつわる伝説が多く，御霊信仰*と深い関係があり，御霊を祭る祭場・聖地と考えられている。

しゅうし　**【宗旨】**　⇨宗派

しゅうし　**【修士】**　学位*の名称。1953年(昭和28)文部省令の学位規則によれば，〈修士の学位は，広い視野にたって，専攻の学問分野について，精深な学識と精深な研究をする能力とを有する者に授与する〉とし，修士の学位授与の要件としては，修士課程の大学院に２年以上在学し，所定の単位(30単位以上)を修得し，その大学院が行なう修士論文の審査と試験に合格しなければならないとしている。現在，修士の学位は医学・歯学を除く22種で，学位の授与を受けた者がその名称を用いるときには，その学位を授与した大学名を付記することになっている。　〔赤司政雄〕

しゅうし　**【終止】**　音楽作品で全体や部分の終わりに現われる常套(じょうとう)的な方法。グレゴリオ聖歌*では旋法によって異なるが，２度の上行または下行によって構造的に重要な音に終止する。ルネサンスでも時代によりパターンがつくられたが，調性音楽では，Ｖ度—Ｉ度の和音による正格終止，Ⅳ度—Ｉ度による変格終止が規範として広く使われ，さまざまな変種をつくっている。邦楽では核音*が大きな役割を果たしているが，20世紀の音楽では，和声や旋律だけによらず，音量や音価も利用して，個々の楽曲に特有な方法がつくられる傾向にある。

しゅうじ　**【習字】**　文字の書き方を学習すること。手習いともいう。小・中学校では書写といい，国語科の１種目として学習させる。硬筆書写(鉛筆などを使用するもの)は小学校第１学年から学習させるが，毛筆書写は第３学年から学習させる。文字を書く目的と場合とに応じて適切な書き方ができるように，文字を正しく，美しく，速く書く技能を習得させるのが目的である。高等学校では，芸術科の１種目〈書道〉として，書写よりも高度の学習をさせる。現在毛筆の実用性は薄らいでいるが，趣味として習字を学ぶ者が多い。書家は塾(じゅく)を開いて書法を教授している。はじめは，書家の肉筆手本を習わせるが，かなり上達すると，古人の名筆を習わせている。〔春名好重〕



十　字　軍　十字軍の遠征路

じゅうじ　**【十地】**　菩薩*(ぼさつ)の修行する10の段階。《華厳経十地品(けごんぎょうじゅうじぼん)》などに説かれ，これに対してナーガールジュナ*(龍樹(りゅうじゅ))は《毘婆沙論(びばしゃろん)》で，バスバンドゥ*(世親)は《十地経論》で注釈を加えた。この十地説はのちにしだいに拡大され，《瓔珞経(ようらくぎょう)》では，十信・十住・十行・十回向・十地・等覚・妙覚の52の段階を説く。

じゅうじか　**【十字架】**　イエス-キリストが十字架上で刑死したことから，キリスト教の象徴とされる。すでに使徒パウロの書簡で特有の意味が与えられている。十字架刑は最も残酷な刑罰の一つとして，当時の世人には恐怖の対象であり，恥辱の象徴であった。だが，パウロはこのイエスの受難の頂点において，人類の罪の贖(あがな)いが成就されたのであり，したがって十字架は罪と死に対するキリストの勝利の象徴であると解したのである。ローマ時代，迫害下の信徒はカタコンベ*内の集会で，受難と勝利の二重の意味をになわせて十字架を使用した。その伝統を受けてカトリック教会は十字架を礼拝の対象としている。また，〈父と子と聖霊の御名(みな)によりて〉を唱えて指で十字を切る儀礼も行なわれ，受難日には十字架に接吻(せっぷん)する儀式も営まれる。プロテスタント教会では偶像崇拝否定の徹底から十字架を直接崇拝の対象とすることも十字を切る慣習も否定しているが，その象徴性は尊重している。なお，キリスト教以前にも古代エジプトで生命の象徴として十字架が用いられたのをはじめ，広く古代東方世界で十字架はさまざまな象徴として用いられた。十字架の形は①Ｘ型(アンデレ十字架)，②Ｔ型(アントニウス十字架)，③剣標型(いわゆる十字架でラテン十字架に代表される。縦横の等しいギリシア十字架など，変種が多い)の三つに大別される。なお，卍*(まんじ)も十字架の変種と考えられる。
〔石井忠厚〕

しゅうじがく　**【修辞学】**　レトリックの訳語であるが，この語そのものは《易経》に出典がある。美辞学ともいう。ことばを最も適切有効に用い，美しく表現するための方法を研究する学問をいい，はじめ西洋では雄弁術として発達した。《修辞学》３巻を著わしてギリシアの修辞学を大成させたアリストテレス*は〈説得の方法を研究する技術〉と考えている。中世では文法・論理と並び重んじられていたが，論者と聴者との伝達の問題から言語自体の研究となり，文学論・文体論，特に韻文を扱う詩学*に対して，散文の作法指針を与えるものとして発達した。ルネサンス期には文学の理論研究がすべて修辞学の名において統括されるほど栄えたが，以後しだいに衰え，文学研究の主流からはずれてゆく。18世紀以降，個人的独創の尊重の風が文章作法の固定をきらったこと，また印刷文化が発達して雄弁術を基礎とした修辞学と絶縁したことなどが原因といわれる。わが国では，明治の中ごろ，西洋の修辞学の紹介がなされたが，近代の文学に即応した日本の新修辞学の展開は，これからの問題であろう。　〔鈴木一雄〕

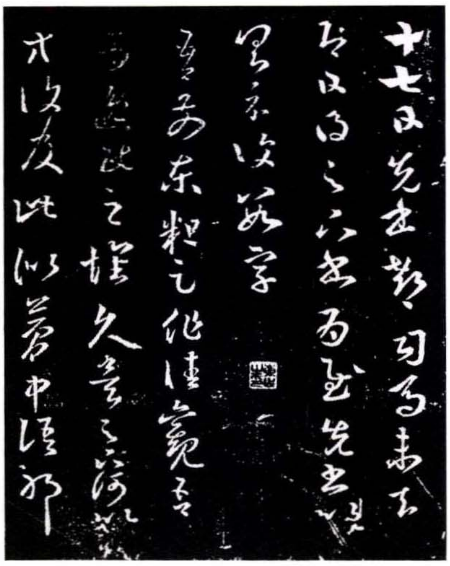
じゅうじぐん　**【十字軍】**　ヨーロッパのキリスト教徒が聖地エルサレム*をイスラム教徒の手から奪還するため，11世紀末～13世紀の間に８回にわたって行なった遠征。これに加わった騎士の胸や肩に十字架の印をつけていたところから，この名がある。本来は宗教運動であったが，封建領主，特に下級騎士の野心やイタリア都市の商業上の権益など世俗的動機も混じっていた。十字軍士の中心は騎士であったが，上は王侯から下はこじきや娼婦(しょうふ)まで種々雑多な階層が各国から参加しており，とりわけフ

ランスが主力であった。第1回十字軍(1096～1099)は，クレルモン公会議(1095)で教皇ウルバヌス2世が十字軍遠征をきめたのに呼応して，フランス諸侯指揮の下にエルサレムを占領し，エルサレム王国をたてた。第2回(1147～1149)はドイツのコンラート3世，フランスのルイ7世により，第3回(1189～1192)はドイツのフリードリヒ1世，イギリスのリチャード1世，フランスのフィリップ2世により行なわれたがいずれも不成功であった。第4回(1202～1204)はベネチアの商人に利用されてコンスタンチノープルを攻略し，ラテン帝国をたてた。第5回(1217～1221)はエジプトへ向かい，第6回(1228～1229)はドイツ皇帝フリードリヒ2世により企てられ，外交手段によって一時聖地を回復したが，まもなく聖地は最終的に失われた。第7回(1248～1254)・第8回(1270)はフランス王ルイ9世によりそれぞれエジプトとチュニスに向けて行なわれた。ほかに子ども十字軍のようなものもあり，またイベリア半島のイスラム教徒との戦いやヨーロッパ内部での異端撲滅も十字軍の名でよばれることがある。十字軍の影響として，教皇権の弱化，王権の強化，イタリア都市の繁栄，東方文物の流入などがあげられる。　〔兼岩正夫〕

じゅうしせい　【従士制】　古代ゲルマン社会における貴族とその従者との結合による制度。封建的家臣制の先駆と考えられる。その特色はタキトゥスの《ゲルマニア》によって知られる。従士は身分のよい家がらの子がなる名誉あるもので，主人に対して戦時にも平時にも忠実に仕え，ウマ・武器・衣食などの給付を受けた。家臣制とは異なり，主人の給付に土地が含まれていない。これに類するものはケルト人にも認められる。

じゅうじせき　【十字石】　鉄の含水アルミナケイ酸塩で造岩鉱物の一種。 $FeAl_4(SiO_4)_2(OH)_2$　単斜晶系。比重3.7～3.8，硬度7，劈開(へきかい)明らか。屈折率1.74～1.76，色は暗赤かっ色・黄かっ色・黒かっ色などでほとんど不透明。中変成度の広域変成作用により形成され，アルミニウムに富む片岩や片麻岩に六角柱状の結晶として産出する。ふつう，双晶をなし，十字形を呈するので幸運の護符として売られたりしていた。名称はその形に由来。〔加藤敏郎〕

じゆうしちか　【自由七科】　中世ヨーロッパにおいて一般的な教養の基礎とされた学問。文法・修辞・弁証(論理)・算術・幾何・音楽・天文の七つをさす。前の3者は人文系で3科(トリビウム)，あとの4者は自然科学系で4科(カドリビウム)とよばれた。これらは最高の学問である神学に仕える下女と考えられ，一般に3科のほうが4科よりも広く学ばれた。中でも文法が最も多く学ばれたが，それは単にラテン語の文法にとどまらず，古典作品の誦読も行なわれた。4科はきわめて簡単なもので，祝祭



十七帖　　王羲之筆　巻首の一部



ジュウシマツ

日の計算など教会に必要な知識にとどまった。自由科の考えはギリシアにはじまりローマに伝えられたもので，元来奴隷でなく自由人の学ぶべき科目という意味であった。これを中世に伝えたのは5世紀のマルチアヌス-カペッラ，6世紀のカッシオドルスらであった。自由七科は中世大学の教養学部の教科科目となり，やがて神学からはなれて独立し，近代の学問が展開することになった。　〔兼岩正夫〕

じゅうしちげん　【十七弦】　十七弦箏(そう)の通称。大正末期に宮城(みやぎ)道雄が製作させたもので，17本の弦をもつため通常の箏よりも幅は広く，長い。音高調節を容易にするため，弦を金属製のピンで止めている。調弦は，ピアノの中央のハの2オクターブ下から，全音階的に定めるのがふつう。したがって，箏・三味線(しゃみせん)などでは不可能な低音を出せる楽器として重宝がられ，独奏用・合奏用として広く使用されている。

じゅうしちじょう　【十七帖】　中国，唐の太宗が収集した王羲之(おうぎし)の書簡を集めた法帖。巻首に〈十七日……〉の語があるので，こう名づけられた。長さ1丈2尺(約4m)，107行，942字あったといい，23帖からなるが，今は模刻した墨帖によって伝わり，124行，29帖からなる。蜀(しょく)(四川省)にあった知人周撫(しゅうぶ)にあてた書簡を主とし，独草体で書かれ，王の草書の代表作とされる。巻末に唐の太宗の勅字のある弘文館(こうぶんかん)本が著名である。　〔中田勇次郎〕

じゅうしちじょうけんぽう　【十七条憲法】　604年(推古12)，聖徳(しょうとく)太子が制定した17条からなるわが国最古の成文法。儒教および仏教・法家(ほっけ)の思想によって貴族官吏の守るべき政治道徳を説いている。和をとうとぶべきこと，三宝すなわち仏教を敬うべきことなど，儒仏思想に基づく人倫を勧め，一方では君・臣・民の3者を分けて君臣の別を天地にたとえ，諸臣に超越する天皇の絶対的地位を強調，さらに国家および人民に対する諸臣の心構えを説いている。ここには中央集権的な官僚国家の理想像が明らかにされており，のちの大化改新における政治理念となった。改新後の述作であるという説もある。　〔柳雄太郎〕

じゅうしまつ　【十姉妹】　鳥類・キンパラ科の代表的な飼い鳥。中国南部・台湾・インドに分布するダンドク(コシジロキンパラ)から中国でつくりだされたものとされ，日本には徳川時代に渡来した。繁殖が容易なため，広く飼われていろいろな羽毛や羽色のものができている。最も普通なものは，白色の地にかっ色・黒色・茶色の3色がいろいろに組み合わされてぶちになったナミジュウシマツ，全身が白色の地で背部のところに茶かっ色のぶちのあるコブチジュウシマツ，全身白色のシロジュウシマツなどであるが，ショウジョウジュウシマツ・ミケジュウシマツなどの色変わりや，頭部の羽毛がさかだっているボンテンジュウシマツ，胸部から背部にかけて羽毛のさかだっているダイナゴンジュウシマツなど芸物とよばれるものがある。性質は温順で，一つの箱で何羽飼っても争うことはない。ジュウシマツの名はこの仲のよさに由来する。

じょうぶで飼いやすく，よく繁殖するので初心者に最適で，また高級フィンチの仮母としても欠かせない。はじめて飼うにはナミジュウシマツを選ぶのがよい。この鳥は，外形だけでは雌雄の区別がつかないが，1羽ずつ離してお互いに呼び合わせると，雄はピー・ピーと澄んだ声で力強く鳴くのに対し，雌はジュッ・ジュッと濁った声を出すのでわかる。金網籠(かなあみかご)・庭箱・禽舎(きんしゃ)のいずれで飼ってもよく，他鳥との同居もさしつかえない。巣引きを目的にする場合は，禽舎以外はひとつがいずつにする。飼育箱の中には市販のつぼ巣を用意する。これは夜間寝るのにも利用するので，繁殖が目的でなくても入れておく。巣引きをさせるには，健康な若鳥を入手する。ジュウシマツは1回の抱卵が5～6個で，孵化(ふか)日数は15～16日。孵化後1か月で巣だつ。えさはヒエ6・アワ3・キビ1の割合の市販のものを用いる。このエサのほかボレー粉・青菜・水を欠かさないようにする。水浴をたいへん好むので，瀬戸物の容器を入れておく。　〔石島芳郎〕

じゅうじゅうしんろん【十住心論】 空海の主著で，真言宗の立場を明らかにしたもの。くわしくは《秘密曼荼羅(まんだら)十住心論》という。10巻。830年(天長7)淳和(じゅんな)天皇の勅命により，各宗の教義を公式に撰述(せんじゅつ)した〈天長の六本宗書〉の一。十種の住心(心のあり方)を説き，心がしだいに高められていき，ついに真言の境地に至ることを示している。

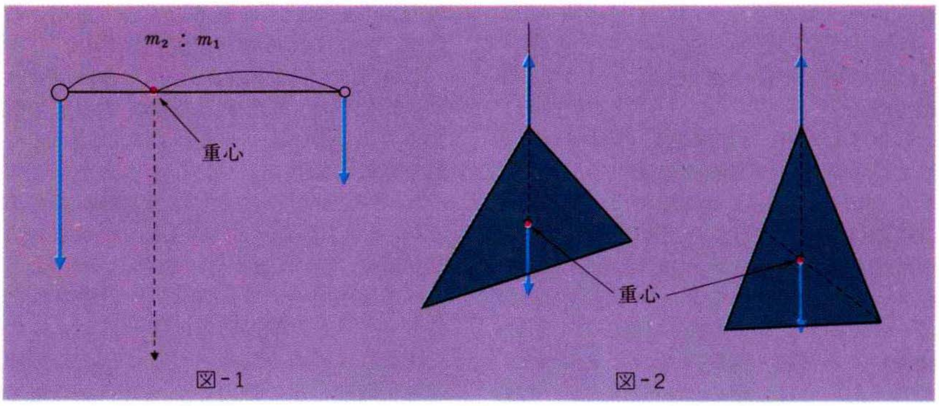
じゆうしゅぎ【自由主義】 個人の自由を最大限に認めることを主張する思想で，近代ヨーロッパにおいて形成された。個人主義と表裏一体をなす思想であるといえる。自由主義は，特に個人の自由な経済活動を最大限に認めるべきだとし，国家による干渉を最小限におさえることを主張する。これは自由放任主義(レッセフェール)の主張にほかならない。しかし，今日では自由主義は社会主義や全体主義に対立する語として用いられるのが普通であり，ときには資本主義の擁護を意味するものとしても用いられている。➔個人主義　〔西尾孝司〕

じゅうじゅつ【柔術】 ⇨柔道

じゅうしょ【住所】 各人の生活の本拠地をいう(民法21条)。本拠地とは，その人の生活の中心となる場所というほどの意味である。住所といいうるためには，定住の事実のほかに定住の意思が必要であるとする主観主義と，意思は要しないとする客観主義との両説があるが，後者が通説となっている。したがって，客観主義によると，活動範囲が広く数種の異なる生活の場をもつ人については，複数の住所が認められることになる。住所が判明しない者については，居所をもって住所とみなされる(民法22条)。住所のおもな法律効果は不在者および失踪(しっそう)の標準，債務の履行地，相続の開始地，裁判管轄の標準，国際私法上の準拠法決定の標準などになることである。
〔黒木三郎〕

じゅうしょう【重唱】 独唱・合唱・斉唱(せいしょう)と違って，各声部をひとりずつで歌うこと。器楽の重奏に相当する。オペラで登場人物が2人以上いっしょに歌う場合のほか，マドリガルのように，もっぱら四重唱や五重唱のために書かれたものもある。なお，アンサンブルともいう。

じゅうしょうしゅぎ【重商主義】 マーカンテリズムともいう。近世の絶対主義国家の成立期に始まり，産業革命の開始する18世紀後半まで続いた経済思想と政策。16世紀から17世紀にかけては，一国の富は地金銀の保有量で決まると考える重金主義として現われ，イギリスではすでに14世紀後半から貴金属の国内留保のためにぜいたく品の輸入や金銀の輸出を禁じ，金銀の開発のために植民地との貿易に努める政策がとられた。しかし，この結果は国内の物価騰貴を招き，国内産業の発達を妨げることになった。このため，一国の富をふやすには



重　心

輸出と輸入の貿易差額を大きくすることが重要であるとし，輸出超過を実現するために輸出商品を保護育成し，独占的な営業を許して外国や植民地での販売をふやそうとする保護政策がとられるようになった。しかしそれは，絶対王政下の一部の特権階級だけを富まし，農民や新興産業資本を抑圧したため，絶対王政をくつがえすもととなった。　〔加藤　寛〕

じゅうしょうしんしんしょうがいじ【重症心身障害児】 ⇨身体障害者福祉

じゅうじょうせいし【十條製紙(株)】 新聞・印刷用紙など洋紙類製造のトップメーカー。1949年(昭和24)に旧王子製紙が解体されたときに，十条工場をはじめ伏木・都島など七つの工場をもって設立した会社。1968年に東北パルプを合併したことから，売り上げは年間で900億円を突破，紙・パルプ業界のトップを占めるようになった。事業内容は新聞用紙34%，印刷用紙32%，木材14%，パルプ10%。1968年の王子製紙・本州製紙の旧王子3社の大合同は，公正取引委員会が難色を示したため実現しなかったが，3社の業務提携は強化の方向にある。勿来(なこそ)(福島県)にノーカーボン複写紙などの特殊紙工場を新設。また，カナダにパルプの合弁会社をつくる計画もある。本社東京。工場は十条(東京都)・伏木(富山県)・都島(大阪府)・八代(やつしろ)・釧路(くしろ)・石巻(いしのまき)・秋田。資本金120億1,200万円，年間売上高2,706億9,300万円，従業員数5,330(1980年9月)。

じゅうしょうせき【重晶石】 硫酸塩鉱物の一。$BaSO_4$　斜方晶系。硬度3，比重4.5。無色透明のものもあるが，一般に白色あるいは帯黄色の結晶で，多くは底面に板状の形態を示す。底面と柱面の3方向に完全な劈開(へきかい)がある。分布の広い鉱物であるが，特に黒鉱中には主成分鉱物として含まれている。バリウム資源として重要。

しゅうしょくご【修飾語】 文の成分の一種。ある文節の意味内容を他の文節が修飾する(限定を加える)とき，修飾する文節を修飾語，修飾される文節を被修飾語という。被修飾語の主体が体言である場合の修飾語を連体修飾語，そうでない(多くの場合用言を修飾する)場合の修飾語を連用修飾語という。

連体修飾語の例：〈大きな　月が　出た。〉(連体詞)　〈赤い　実が　なった。散る　花を　惜しむ。〉(用言の連体形)　〈机の　上に　置く。〉(体言＋の)　〈ずっと　右に　寄りなさい。〉(副詞)。

連用修飾語の例：〈小石が　ころころと　ころがる。たぶん　5時ごろでしょう。〉(副詞)〈星が　美しく　輝く。月が　ほのかに　見える。〉(用言の連用形)　〈庭で　遊ぶ。木から　落ちる。〉(体言＋助詞)　〈りんごが　五つ　ある。昔　あった　こと。〉(名詞)。

西欧語のいわゆる目的語や補語も，日本語では連用修飾語に含めるのが普通である。
〔市川　孝〕

しゅうじん【囚人】 ⇨刑務所

じゅうしん【重心】 物体に働く重力は特定の1点に作用するのではなく，物体を微少な部分に分割して考えると，その各部分に作用しているのであるが，便宜上これらを合成して1点に作用する一つの合力に置き換えることができる。この合力の作用点を重心という。また合力の大きさはその物体の重さに等しい。質量がそれぞれm_1，m_2の二つの質点の集まりの重心は，それらを結ぶ線分を$m_2 : m_1$に内分する点となる(図-1)。このことを利用して多くの質点の集まり(質点系)や任意の形の物体の重心を算出することができる。物体のある箇所を糸でつるして静止させたとき，重心は糸の延長線上にある。別な箇所をつるした場合も同様であるから，それぞれの場合の糸の延長線の交点がその物体の重心となる(図-2)。　〔有山正孝〕

じゅうしん【重臣】 明治中期の元老に代わる政治的待遇者。元老は政変ごとに天皇の御下問に応じて後継内閣首班を指名したが，1940年(昭和15)最後の元老西園寺公望(さいおんじきんもち)が死去したのちは，内大臣・枢密院議長・首相経歴者らによる重臣会議で後継内閣首班を定めることになった。太平洋戦争中は近衛文麿(このえふみまろ)・若槻(わかつ

き)礼次郎・岡田啓介(けいすけ)・平沼騏一郎(きいちろう)の4重臣が中心となって東条英機(ひでき)内閣の倒閣運動や終戦工作を進めた。終戦後廃止。〔高崎徳次〕

しゅうじんき【集塵機】 気体中に浮遊している個体または液体の微粒子を，気体から分離して除去する機械または装置。その目的は気体の浄化，各種装置の保護，有用粒体の捕集にあり，収塵・除塵・脱塵ともよばれ，公害防止の上からも重要な機械の一つである。重力・慣性・遠心力・洗浄・濾過(ろか)・音波・電気などの方式がある。火力発電所では効率のよい電気式が，家庭で用いられている掃除機(そうじき)には濾過式が用いられている。集塵機では送風機・管・取り入れ口(フード)が重要な役割をする。〔押田良輝〕

しゅうしんきょういく【修身教育】 1872年(明治5)の学制から，第2次世界大戦の終結まで，初等・中等の諸学校の修身科によって施された教育をいう。明治維新後しばらくは文明開化の風潮におされて修身教育はふるわなかったが，1880年を境にして，政府は国家主義政策の一環として修身教育の強化にのり出し，その中で仁義・忠孝の教えを強調し，愛国主義の教育が助長された。ことに，1890年の教育勅語の発布以降，修身教育は学校教育の中心的な地位を占め，勅語の示す徳目を中心に編纂(へんさん)された教科書を通じて，軍国主義的・超国家主義的精神の高揚に大きな役割を果たした。第2次世界大戦後，民主主義教育の精神に反するものとして，1945年(昭和20)12月31日，連合軍総司令部の命令により停止された。➔道徳教育〔佐藤英一郎〕

じゆうしんしょうしゅぎ【自由心証主義】 証拠の証明力の評価を裁判官の経験法則・論理法則に基づいた自由な判断に任せる主義。証拠の証明力を法規によって定める法定証拠主義に対する。わが国の裁判では，1876年(明治9)からこの主義が確立されている。民事訴訟法185条，刑事訴訟法318条に規定されているが，例外として，自白は他の補強証拠のないかぎり，有罪と認定することはできないとされている。

しゅうしんねんきん【終身年金】 年金支払いが，被保険者の終身にわたって行なわれる年金保険。年金支払い期間を一定とし，その期間内に被保険者が生存していることを条件に，年金支払いがなされる定期年金に対していう。

じゆうしんぶん【自由新聞】 1882年(明治15)6月25日創刊された自由党の日刊機関紙。板垣(いたがき)退助・馬場辰猪(たつい)・植木枝盛(えもり)・田口卯吉(うきち)・末広鉄腸・中江兆民(ちょうみん)らが健筆をふるったが，自由民権運動の衰退，新聞紙条例による弾圧などのため読者の拡大は困難であった。1884年の自由党解党により翌年廃刊。その後1890年第2次の《自由新聞》が，立憲自由党内の板垣ら愛国社系の機関紙として創刊されたが，内紛のため1896年廃刊された。

じゅうすい【重水】 天然に存在する水素の同位体は，質量数1のもの^1Hと質量数2のもの^2H(デューテリウムD)であり，一方酸素は質量数16，17，18のものが存在する。^1Hと^{16}Oからなる水は分子量は18であるが，それ以外のHとOからなる水はそれよりも重く，すべて重水といわれ，1932年アメリカの化学者ユーリーによって分離された。特に$D_2{}^{16}O$が比較的純粋に得られやすいので狭義にはこれを重水という。D_2Oは電解速度が普通の水の数分の1であるから電解残留物中に濃縮される。比重1.10714，最大密度の温度11.6℃，化学的性質は普通の水とほとんど同じであるが，化学反応速度は一般におそい。中性子を吸収することが少ないので，原子炉用材としてすぐれ，減速体または減速冷却体として用いられる。なお，普通の水は$H_2{}^{16}O$を99.74％含む重水との混合物であり，$H_2{}^{18}O$は0.17％と比較的多量に含まれるが，分離が困難なため純粋なものは得られていない。〔古屋　弘〕

じゅうすいそ【重水素】 水素には質量数1の普通の水素のほかに，質量数2のデューテリウムDと，質量数3のトリチウムTという同位体があり，このDとTとを重水素という。ジューテリウムは1932年にユーリーが重水を分離したときに発見された。重水を電気分解すれば重水素が得られる。天然には普通の水素Hの約5,000分の1を占める。トリチウムは原子核反応により人工的につくられ，β線を放射する放射性同位元素である。重水素の分子としてはD_2・HD・T_2などが存在する。化学的性質はH_2とほとんど同じ性質を示すが，その反応速度は質量の大きいものほどおそくなる傾向がある。比重などの物理的性質においては相当の差異が認められる。〔古屋　弘〕

じゅうせい【重星】 天球上で非常に接近した位置にある二つ以上の星。実際には離れているにもかかわらず偶然に視線上にある場合と，物理的に結びついている場合とがある。後者の場合を連星という。

じゅうせいいでん【従性遺伝】 常染色体上の遺伝子によって支配される形質で，ホルモンなどの関係によって一方の性にのみ現われたり，一方の性では優性，他方の性では劣性として働くなど，性によって発現の異なるもの。ヒツジの角の有無，カメムシの一種にみられる雄の腹部の斑点(はんてん)，チョウ類の翅(はね)の模様，マイマイガの雌の腹部綿毛の色の変異などがある。

しゅうせいかん【集成館】 島津藩が現在の鹿児島市に建設した工業諸施設の総称。28代藩主の島津斉彬(なりあきら)は，1852年(嘉永5)島津家の磯(いそ)別邸内に反射炉の築造を開始し，これを中心に溶鉱炉・ガラス窯などの藩営のマニュファクチュア施設を建設した。1857年(安政4)には工員1,200名の大施設となり，同年9月集成館と命名された。1863年(文久3)8月の薩英(さつえい)戦争によって破壊されたが，翌1864年再建された。その機械工場は現在では尚古(しょうこ)集成館(島津藩関係資料の展示館)として保存され，現存するわが国最古の工場建築として貴重な存在となっている。〔加藤邦興〕

しゅうせいしほんしゅぎ【修正資本主義】 現代の資本主義に部分的な修正を加えて資本主義の弊害を緩和し，その存続・維持を図ろうとする主張および政策。修正のおもな点としては，①資本主義は自由競争に基づく無計画的生産のため，いろいろな混乱が起こると考えられていたが，国家の介入や資本相互間の制約によってなんらかの計画のもとに運営されるようになったこと，②労働者の生活は窮乏化し，労使対立が激化すると考えられたが，労働組合の力で労働者の生活は向上するようになったこと，③経営と資本の分離が進行し，経営者は単に私的利潤を追求するだけでなく，社会的責任を自覚するようになったことなどがあげられている。〔加藤　寛〕

しゅうせいしゅぎ【修正主義】 マルクス主義を時代の変化に伴って修正しようとする考え方。19世紀末から現われたもので，ドイツのベルンシュタインに代表される。広義にはトロツキズムも含まれるが，一般にはマルクス主義の右よりの解釈に対して用いられる。修正主義の特徴は，議会による平和革命のみを主張し，部分的諸改良の積み重ねによって自動的に社会主義革命が可能となるとするところにある。また，プロレタリアート独裁を認めない点で，マルクス主義・レーニン主義とは決定的に異なる。〔西尾孝司〕

しゅうせいもくざい【集成木材】 複合材料の一。厚さ1.5～3cm程度の挽板(ひきいた)を，繊維を平行にして何枚か重ね，熱硬化性樹脂接着材で張り合わせた長方形状，またはI形状の断面をもつ長材。繊維方向に強く，柱・梁(はり)，あるいはアーチとして構造用に用いられる。集成木材は十分に乾燥させた挽板を用いるので，そり・割れ・狂いが少なく，節・腐れなども避けられ，材質のむらもなくなるので，許容応力度も素材より高い。

しゅうせきかいろ【集積回路】 抵抗器・コンデンサー・インダクタンスやダイオード・トランジスターのような受動ならびに能動の回路素子が，一つの基板上に分離不可能な状態に結合されている超小形構造の回路。IC(integrated circuitの略称)ともいう。装置のIC化の利点は小形化と信頼度の向上にある。後者はIC内部の接続の信頼度が高いうえに接続箇所数が少なくてすむこと，および製造工程が自動化され，一貫した品質管理ができるので製品の品質が一定になることなどによる。

基板上に構成された回路素子および相互

接続の全部が被着された薄膜からなる薄膜集積回路，一つまたはそれ以上の半導体*材料片中にすべての回路素子とその相互接続とを実現した半導体集積回路，および両者を併用した混成集積回路がある。

集積化の規模を拡大し，1枚の基板上により高度な機能をもった多数の回路を構成したものを高次集積回路（LSI）という。LSIはコンピューターの回路として最も有力なものと考えられている。〔小原啓義〕

じゅうぜん【柔然】〈蠕蠕(ぜんぜん)〉〈茹茹(じょじょ)〉などともいう。4世紀中ごろから6世紀中ごろまでモンゴルを支配したモンゴル系と考えられる遊牧民族。西方の記録にみえるアバール人*だとする説もある。始祖の木骨閭(もっこつりょ)から数代を経た社崙(しゃろん)に至って，モンゴルを統一し，可汗*と称した(402)。これが北アジア遊牧民間の可汗号の始まりといわれている。柔然は社崙以後15代(ないし16代)150余年続いたが，その間北魏(ほくぎ)の北辺にしばしば侵入してこれを苦しめた。しかし，6世紀中ごろ新興の突厥*(とっくつ)のために大打撃をこうむり，急に弱体化した。555年大多数は突厥の木杆(もっかん)可汗に併合され，他は西魏に下った。

しゆうせんたく【雌雄選択】 自然淘汰(とうた)の一つの要因で雌雄淘汰・性淘汰ともいい，1871年にダーウィンが提唱した。一般に弱い動物は敵動物の害を避けるため，保護色など顕著な適応現象がみられるが，逆によく目をひくはでな色をしていたり，高い声で鳴いたりするものがある。これらの二次性徴は，雌雄の間で互いに異性を獲得する競争の結果発達したものである。雌雄選択は一方の性で二次性徴が改良されると，他の性でも異性を選択する能力が改良され，両方の進歩が重なり合い，ここに相互淘汰としての作用が働くと考えられている。〔北川　修〕

しゅうそ【臭素】 周期律表第Ⅶ族ハロゲン族元素の一。原子番号35，記号Br，原子量79.904。1826年フランスの化学者バラールによって発見された。天然には，海水中および岩塩中に臭化物として存在している。ドイツのシュタスフルトの岩塩層，およびアメリカ合衆国オハイオ・ミシガン両州に多く産する。クラーク数6×10^{-4}(第46位)。臭化物の水溶液に塩素ガスを通ずると臭素を遊離する。市販の臭素には塩素・ヨウ素を含むこともある。赤かっ色，刺激臭の重い液体で，融点−7.3℃，沸点58.78℃，比重(20℃)3.12。水・エタノール・エーテル・クロロホルム・二硫化炭素に溶解。同位体として^{79}Br・^{81}Brが存在。化学的性質は塩素と似ているが，反応性は弱い。有機臭素化合物は塩素化合物より反応性に富む。合成材料，酸化剤として利用され，臭化銀は写真工業に，有機臭素化合物は医薬品に用いられる。〔古屋　弘〕

じゅうそう【銃創】 ⇨射創

じゅうそう【重曹】 $NaHCO_3$ 重炭酸ソーダの略で，正しくは炭酸水素ナトリウムといい，酸性炭酸ナトリウム・重炭酸ナトリウムともいう。炭酸ナトリウムの飽和溶液に二酸化炭素を通じると，白色の沈殿として得られる。工業的には，ソルベー法*によって得られた炭酸ナトリウムに二酸化炭素を反応させてつくる。15℃の水100gに8.8gがとけ，水溶液はかすかにアルカリ性を呈する。水溶液を長時間放置するか65℃以上に加熱すると，二酸化炭素を放出して炭酸ナトリウム溶液となる。また，硫酸・塩酸などを加えると，二酸化炭素を放出する。医薬品として制酸薬やサルファ剤使用の際の尿路結石防止薬などとして用いられる。また，羊毛などの洗浄剤，ベーキングパウダー，消火剤，ナトリウム塩の製造原料などに用いられ，一般家庭では煮豆やあく抜きに用いられる。

じゅうそう【重奏】 一つの声部(通奏低音*声部は別にして)を一つずつの楽器が受けもって行なう合奏形態。歌の重唱*に相当する。音色や和声的な安定感から組み合わされ，バイオリン二重奏・ピアノ三重奏・弦楽四重奏*・木管五重奏が代表的である。なお，アンサンブルともいう。

じゅうそうほへい【重装歩兵】 古代ギリシアの国防の主力。貴族支配時代の戦力は騎士であるが，紀元前7世紀ころからの商工業の発達に伴って中小土地所有農民の武装が可能となり，国防の主力となった。攻撃用として長槍(ながやり)，防御用として盾(たて)を持ち，密集隊形(ファランクス)で戦った。これが騎士階級の没落を早め，ポリス*は貴族政治から民主政治へと進んだ。マケドニアの軍隊もこの戦法で有名であった。

しゅうそく【収束】 変数xのとる値が，ある一定の値aに限りなく近づくこと。このとき，xはaに収束するまたは収斂(しゅうれん)するといい，$x\to a$と表わす。また，xが収束しないときは発散するといい，これは次の三つの場合に分けられる。①xの値が正で限りなく大きくなるときは，xは正の無限大に発散するといい，$x\to+\infty$と表わす。②xの値が負で絶対値が限りなく大きくなるときは，xは負の無限大に発散するといい，$x\to-\infty$と表わす。③xが収束もせず，①，②のいずれの場合でもないとき，xは振動するという。〔菊池兵一〕

しゅうぞく【習俗】 英語のフォークウェーズの訳語で，民族や種族など一つの集団全体に共通して見いだされる特定の行動様式をいう。W.G.サムナー*の造語。サムナーは《習俗論》で，社会的に承認された行動様式である慣習(カスタム)をフォークウェーズとモーレス(道徳的慣行)に分けて考察している。彼によれば，本能に発した個人的行動様式が無意識のうちに集団全員によって採用され，それに違反する成員に非公式な制裁が加えられるようなものを習俗とし，公式の強制と制裁を伴い，権威的拘束力をもつものをモーレスと規定している。〔牛島　巌〕

じゅうぞくえいよう【従属栄養】 動物，一部の細菌，光合成色素をもたない一部の高等植物など，独立栄養の生物がつくった有機物に炭素源を依存している生物の栄養形式。したがって，従属栄養の生物はつねに独立栄養の生物に依存していることになり，栄養段階*で第2次生産者(第1次消費者)以上のものである。

じゅうそくりゆうりつ【充足理由律】 充足理由の原理ともいう。すべての事実には，それが存在する十分な理由がなければならず，すべての真なる判断には，それを真とする十分な理由がなければならないということを要求する原理で，ライプニッツ*によって提唱された。これは存在の原因にかかわる因果律と，認識の論理的根拠にかかわる思考の法則を述べたものであるが，ショーペンハウアー*はこれをさらに，①自然界の生成変化にかかわるもの，②認識にかかわるもの，③数学的直観にかかわるもの，④道徳的行為にかかわるものに区別した。〔石倉恒之〕

じゅうそしき【柔組織】 柔細胞が集まってできている組織。植物の茎・根の髄・皮層や葉肉の同化組織，果肉などにみられる。柔細胞は球形かそれに近い多面体形で，細胞壁は薄くて柔らかく，原形質に富み，空胞や細胞間隙(かんげき)もみられる。葉などにみられるように葉緑体が多量に存在して同化作用を営み，根・地下茎ではデンプン粒などを含んで貯蔵組織として発達しているなど，生理的には重要な働きをする場である。維管束の中にも本部柔組織・篩部(しぶ)柔組織があり，細胞間隙が特に発達した柔組織は通気組織となっている。〔高島文三〕

しゅうそん【集村】 集落の平面形態の一つで，家屋が密集しているもの。散村*に対していわれ，自然発生的な塊村，東ヨーロッパに多い広場を囲んだ円村，道路に面して長く延びた街村などはこれに属する。日本の集落は集村形態が一般で，水田耕作での協働作業や防御のための共同組織にはこの形態が便利であったためといわれる。

じゅうたい【獣帯】 天球上で太陽・月・惑星の通り道にあたる黄道の両側約10°の幅をもった帯状の領域。この名は，この領域に横たわる12の星座(黄道十二宮*)に獣の名のついたものが多いことに由来している。

じゅうだいざいばつ【十大財閥】 第2次世界大戦前の日本経済を支配していた代表的な財閥*。明治時代からその支配力を増大してきた三井・三菱(みつびし)・住友・安田の四大財閥と，これより歴史も浅く規模も小さい日産(鮎川(あゆかわ))・浅野・古河(ふるかわ)・大倉・中島・野村の6財閥を合わせて十大財閥という。1945年(昭和20)の財閥解体直前における十大財閥の持ち株は，四大

財閥傘下会社払い込み資本金対全国比(1945)　(単位　千円)

業種別		全国合計	四大財閥	対全国比	十大財閥	対全国比
金融業	銀行業	1 006 831	482 836	48.0%	507 586	50.4%
	信託業	41 000	35 000	85.4	35 000	85.4
	保険業	168 312	86 250	51.2	101 600	60.3
	小計	1 216 143	604 086	49.7	644 186	53.0
重工業	鉱業	3 070 750	867 725	28.3	1 551 153	50.5
	金属工業	3 829 681	1 009 355	26.4	1 598 706	41.8
	機械器具工業	6 018 598	2 780 065	46.2	4 086 320	67.9
	造船業	1 613 811	81 372	5.0	203 122	12.5
	化学工業	2 968 529	930 554	31.4	1 142 232	38.5
	小計	17 501 369	5 669 071	32.4	8 581 533	49.0
軽工業		4 587 862	493 003	10.7	772 873	16.8
その他	電力・ガス業	3 825 574	20 000	0.5	21 252	0.5
	陸運業	933 090	45 611	4.9	52 286	5.6
	海運業	992 080	603 074	60.8	609 419	61.4
	土地建物・倉庫業	599 602	136 264	22.6	176 428	29.4
	商事貿易業	2 723 796	369 750	13.6	552 326	20.3
	小計	9 074 142	1 174 699	12.9	1 411 711	15.5
総計		32 379 516	7 940 859	24.5	11 410 303	32.2

財閥だけで日本の全払い込み資本金のうちの24.5%，これに6財閥を加えると，32.2%にも上った。〔原　豊〕

じゅうだいでし　【十大弟子】　ブッダ*の10人の直弟子。サーリプッタ*(舎利弗(しゃりほつ))は博学で智慧(ちえ)第一，マウドガルヤーヤナ(目犍連(もっけんれん))は神通力のゆえに神通第一，マハーカッサパ*(迦葉(かしょう))は欲を捨てて修練に努めたところから頭陀(ずだ)第一，アニルッダ(阿那律(あなりつ))はよく十方の世界を見るゆえに天眼第一，スブーティ(須菩提(しゅぼだい))は仏教の空*(くう)の教えをよく理解したことから解空第一，プールナマイトラーヤニープトラ(富楼那(ふるな))は人に法を説くのに巧みで説法第一，カーティヤーヤナ(迦旃延(かせんねん))は論議に長じて論議第一，ウパーリ(優波離(うばり))は戒律を守ること堅固で持戒第一，ラーフラ(羅睺羅(らごら))は戒を守り修行を怠らなかったので密行第一，アーナンダ*(阿難)はつねにブッダにしたがって最も多くの教えを聞いたので多聞第一とよばれた。〔佐藤良純〕

じゅうたく　【住宅】　人間が日常生活を営む上に必要な団欒(だんらん)・睡眠・食事・休息などの行為が十分に行なえる建物，またその施設。すまいとか住居ともいう。〈住む〉という語は，もともと濁った水が〈澄む〉ということに通ずるようである。水が澄むということは，またある場所に定着するということを意味する。したがって，住宅とは人間がある土地に定着して生活する場であり，施設であるといえよう。すまい・家庭を意味する英語の〈ホーム〉は，きびしい自然環境下にあるイギリス北部の農漁村集落からきているようである。この配置計画をみると，彼らの住居は海に背を向け，海とは反対側に住居で囲んだ暖かさをもつ閉じた空間が構成されており，この空間をホームとよんでいる。

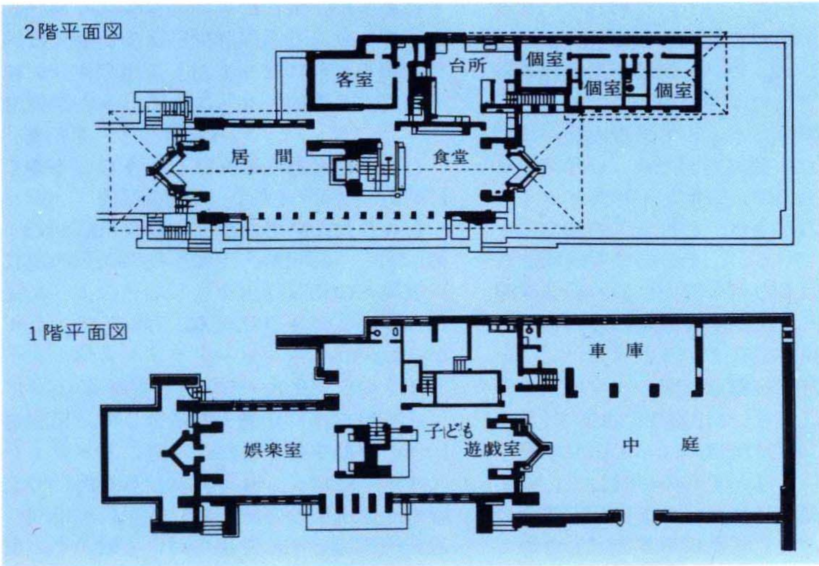
もともと住宅は，人間の歴史とともに存在していたわけで，特に自然環境のきびしさや野獣の脅威から身を守るためのものでもあった。しかし現在では，そのような外的条件に対する防御の意味は，人間生活の変化をも含めて徐々に変わってきた。また，国土条件とか経済上の問題，技術的条件・社会的要因・風俗・習慣などによっても多種多様になってきた。たとえば，農村住宅・都市住宅*・店舗併用住宅・集合住宅*・独立住宅などの別はその例である。また，観点を変えれば，コンクリート造・コンクリートブロック造・鉄骨造・木造，および以上の組み合わせによる構造などがある。しかし，ここでは住むことを主体とした独立住宅について述べることにしたい。

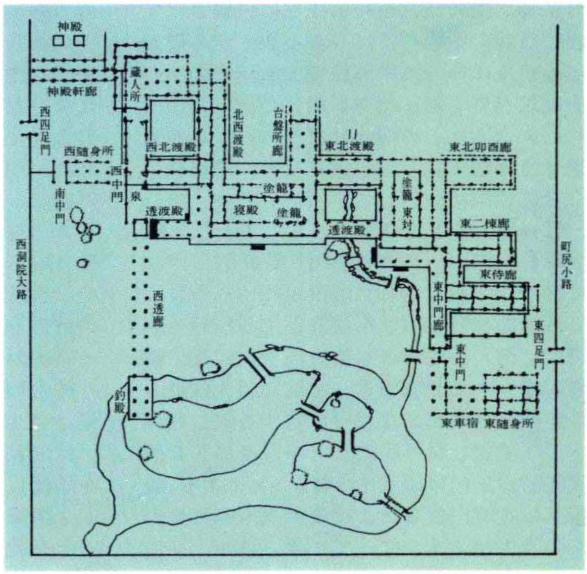
【住宅設計の手がかり】住宅を建てる場合，敷地のもつ特性を知る必要がある。まず，敷地環境における気温・湿度・方位・風向などの風土条件と，敷地周辺を取り巻く建物の種類・用途・大きさなどを検討しなければならない。さらに，敷地自体の問題として，法規的地域指定の種別，広さ，地形，植生，および取り付き道路との関係，電気・上下水道・ガスなどに関するデータも同様である。さらに，家族構成とその生活のあり方，趣味などを理解した上で工事予算を組み，設計を進めなければならない。

【住宅の設計について】住宅を設計するに先だって，まず建て主から建築家に条件が提示される。建築家は，建築家としての立場から敷地条件を観察して，それに最も適した形の住宅を探るわけである。ただし，この場合の形とは，単なる外見上の形ではなく，生活のあり方をも含めての広い意味をもつ。したがって，住宅の具体化にはきわめて広い意味の技術が必要となる。

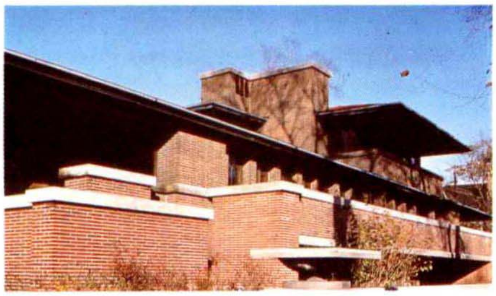
【住宅の性能】住宅が人間生活の本拠であるという観点に立てば，住宅自体が人間にとって健康的であり，快適であり，機能性が発揮されるものでなければならない。したがって，採光・通風・水・気候性とともに，生活に必要な空間の広さ，空間相互のつながり方に目を向けなければならない。また一方，火災・地震・台風などの災害を防ぐという安全性の問題も，性能の上から大きな要素となる。しかし，たとえば火災から守るという観点からは，すべてコンクリート造にすればよいわけであるが，このことはすぐに工費に大きく響くことでもあり，一観点からのみ方針を決定することは危険である。つねに総合的な判断の上に，住宅本来の目的にフィードバックしながら考えなければならない。〔波多江健郎〕

【歴史】①原始の住宅：旧石器時代においては，すまいは自然現象の脅威や外敵から身を守るため，洞窟(どうくつ)などの自然物を利用した避難所にすぎなかったが，新石器時代の縄文(じょうもん)期には人工的な竪穴(たてあな)住居の発生があった。竪穴住居跡は縄文・弥生(やよい)・古墳時代のものが多く，一部では中世紀ごろまで下るものが発掘され，長い間わが国に広く行なわれた住居形式であったことがうかがえる。洪積(こうせき)層の台地に集落をなして発見されたものが多く，平面も円形・隅丸(すみまる)方形の径5～6mのもので，床を地表から50～80cmぐらい掘り下げ，中央に炉を設け，その上に簡単な屋根を掛けた構造であった。床面には4～5本の柱穴を残すものが多い。弥生時代になると農耕が発達し，それに適した低湿地に集落が営まれ，周辺には土堤をめぐらし，土を盛った竪穴内部は土止めに羽目板を張ったりした。静岡市の登呂遺跡*の住居跡はその例であり，2世紀ごろのものである。また，長野県塩尻(しおじり)市平出住居跡からは，竪穴のまわりに垂直の小穴が発見されるなど，明らかに周囲に壁をもつものもあった。竪穴住居の内部は一室空間で，寝と食の分化は認められず，この状態は2世紀まで続いた。古墳時代中期以後になると，炉とは別にすみにかまどが設けられたり，寝と食の分化の動きがみられる。このころから高床式住居*が建てられたようで，奈良県唐古(からこ)遺跡*の弥生式土器(1～2世紀)，香川県出土の銅鐸*(どうたく)(1～2世紀)に施された絵によって知られる。これら高床式住居は南方系に通ずるものがあり，農耕文化の移入とともにはじめは穀倉として用いられ，のち住居として取り入れられたものと考えられる。また，奈良県佐味田宝塚(たからづか)古墳出土の家屋文鏡(3世紀ごろ)の模様，群馬県茶臼(ちゃうす)山古墳出土の家形埴輪(はにわ)(4～5世紀)などによっていろいろな住居形式が知られ，貴族の発生とともに住居もしだいに発展した。したがって，原始住居の形式は北方系の竪穴住居と南方系の高床式住居の2系統が存在したと考えられるが，この時代の生活の大部分は外で行



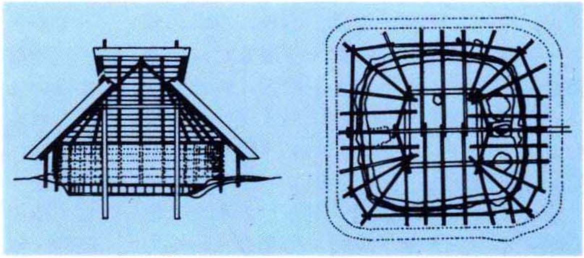


東三条殿平面図



ロビー邸とその設計図(アメリカ合衆国シカゴ)F.L.ライト設計

住　宅



竪穴住居(平出遺跡)復原図

なわれていた。

②貴族住宅：貴族の発生により，住宅における昼間の生活空間も考えられるようになり，寝室と居間の構成ができた。大嘗宮(だいじょうきゅう)(大嘗祭*を取り行なう仮設の建物)の正殿平面は室(閉鎖的空間)と堂(開放的空間)の2室構成を示唆するものである。奈良時代の法隆寺*伝法堂前身建物は桁行(けたゆき)5間，妻入り，切り妻造り，檜皮葺(ひわだぶき)の形式として復元されたが，移建以前は奥3間が室で2間が開放され，さらに前方に広い簀子板(すのこいた)があったらしい。しかし，この建物は当時の貴族住宅の性質のものではなく，仏寺建築様式を取り入れた宮殿の儀式的建物であろう。また，滋賀県紫香楽宮*(しがらきのみや)の地に営まれた藤原豊成(とよなり)板殿がある。復元によれば，母屋(もや)5間×3間，平入り，切り妻造り，板葺で，殿内は伝法堂前身建物と同様に板敷きであり，縁をめぐらし，さらに前後に開放的な廂(ひさし)をつけた建物で，きわめて簡素な構造である。その平面はのちの寝殿造り*への発展過程を示すものであろう。平安遷都後，平安京には多くの離宮・住宅が創設され，歴代藤原氏は争って数寄(すき)をこらした寝殿造りとよばれる邸宅を営んだが，平面規模が明らかな東三条殿によってのみ当時の住宅形式を知ることができる。

③武家住宅：藤原氏の没落によって寝殿造りの対称形がくずれ，機能分化が進み，間仕切りが多くなるなどの変化をみた。接客に重要性が増し，接客空間の独立がみられ，座敷飾りとしての床(とこ)・棚(たな)・付け書院が最高の座敷に集められ，上段がつけられて書院造り*が成立した。書院造りの平面は江戸幕府の大棟梁(とうりょう)平内家の伝書《匠明》によって知ることができる。構成は，東に正面入り口をとり，接客用と居住用の各部分を台所部分を中心としてつなぐもので，これは前代にみられない特色である。特に，接客用部分の御殿は，座敷飾りの床・棚・付け書院・帳台構えを備え，豪華な装飾を施すなど，近世初頭の武将の性格を反映したもので，二条城*二の丸殿舎になごりをとどめている。この様式は園城(おんじょう)寺の光浄院，西本願寺の書院などの客殿に影響を及ぼした。これは江戸時代にも引き継がれたが，1657年(明暦3)明暦の大火*(振袖(ふりそで)火事)を機会に，制令で家屋の形式は画一化の方向をたどり，茶室建築の影響もあって住宅は簡素な書院造りが一般化し，現在の和風住宅の基となった。

④民家：奈良時代の都では庶民に宅地が割り当てられ，板葺・草葺の粗末な家が建てられたが，地方の農民は依然として竪穴住居をつくり続けたと考えられる。平安京では宅地が細分化され間口が狭くなったので，おのずから道に面して家並みが連なるようになる。その形式は，間口3間，奥行き4間で，中2間の母屋に前後に廂のついた簡素な建物で，右側1間通りを土間とした。中世になっても古代の継承で住宅の進展はみられないが，末期の京都では間口2間，奥行き2間の町屋*が建てられ，1間を入り口にし，他を店や窓にした。近世になると町人の勢力が増大し，庶民住宅はめざましい発展が促された。2階屋も多くなり，屋根もかわら葺になったり，江戸では享保(きょうほう)年間以降，防火上土蔵造りとした2階屋の町屋が軒を並べ，近郊にも波及した。農家については資料も乏しく明らかでないが，1310年(延慶3)の伊勢(いせ)の例では，土間1室か土間に板間の2室で，一般に5坪程度の建坪と考えられる。近世にはいると，先進地帯では規模も大きくなり，平面も土間や広い板間と奥を二つに分けた広間型がみられるようになり，さらに広い板間を二つに分けて4間取りに変わっていった。4間取りは農家一般に用いられた平面形式である。一方名主・庄屋(しょうや)とよばれた階層にあっては，応接室としての座敷が武家住宅の書院造りの影響を受けて主屋(おもや)の棟続きに建てられたが，これは明治以後には一般農家にまで普及した。気候・風土による地方性の特色が平面・外観にみられ，民家の類型を生んだ。たとえば，曲がり屋*・中門造り・合掌造り*・くど造り*など。

⑤明治維新後の住宅：大きな変化は洋風住宅の輸入であった。幕末から外国と交渉をもった役人や豪商はいすの使用を余儀なくされ，西洋人の渡来，生活の洋式化によって開港場・外人ホテル・商館・住宅にいすが用いられた。住宅では，はじめ接客部

分に純洋風の建物を和風住宅に付属させて建てたが，中期ごろになると衣・食の洋風化の普及に伴って中流住宅でも洋風のへやの要求が高まり，和洋折衷式の住宅が生まれた。さらにこの傾向はプライバシーを尊重する中廊下式平面形式となり，その後は今日の住宅に移行していった。〔山崎　弘〕

じゅうたくきんゆうこうこ　【住宅金融公庫】　1950年(昭和25)の住宅金融公庫法に基づいて設立された国民の住宅建設資金の長期低利貸し付けを目的とする政府金融機関。個人住宅のほか賃貸住宅・産業労働者住宅・宅地造成事業・中高層耐火建築・災害関係住宅および施設に対する貸し付けと，住宅貸し付け保険などを取り扱う。個人住宅貸し付けの利率は年5.5％である。資金源は政府出資金および資金運用部資金からの借入金でまかなっている。〔速水　保〕

じゅうたくそうごうほけん　【住宅総合保険】　住宅およびその収容家財について，火災，落雷，破裂・爆発，盗難，車両の衝突・接触，航空機の墜落・接触または航空機からの物体の落下による損害，風水害などの各種の危険を総合的に引き受ける保険。わが国では1961年(昭和36)から始められた。対象は専用住宅・住宅専用アパートに限る。

じゅうたん　【絨毯】　主として床上に敷く繊維製の敷き物。防湿・防寒のため地上または床上に敷くものとして，紀元前5世紀ごろには織物が利用された。中世のころ，中近東地方で発達した緞通*(だんつう)がヨーロッパへ移入され，16世紀以後盛んにつくられ，18世紀にはパイル(添毛)織物が製出されて，カーペットが洋式の敷き物として普及するに至った。最近はパイル織物と類似の構造のタフテッドファブリックスが製造されてカーペットとして用いられつつある。日本では3世紀ごろ中国から毛氈(もうせん)が輸入された記録があり，足利(あしかが)時代には緞通が中国から渡来し，元禄(げんろく)のころには日本でも製造されるようになった。

普通に用いられているものは織物地にパイルを織り込んだ組織で，これには緞通・ウィルトン織り・アキスミンスター織りなどの種類がある。また，これらと同じ形のもので，基布にパイル状に短繊維を貼着(ちょうちゃく)したものもある。パイルのない厚地の織物でも，三笠織(みかさおり)・菊水織・綴織(つづれおり)などは絨毯用に供せられる。織物以外ではフェルト・メリヤス地などもある。

ふつう大形で室内に敷きつめる形のものをカーペットとよび，中形で敷き残す部分のあるような形のものをラッグ，小形で部分的に敷く形のものをマットという。一般には方形であるが，マットなどは楕円(だえん)形などのものもある。　〔小川安朗〕

じゅうだん　【銃弾】　⇨弾丸

しゅうだんあんぜんほしょう　【集団安全保障】　国家の安全を国際社会の協力と連帯によって集団的に保障すること。第1次世界大戦前のヨーロッパで行なわれていた勢力均衡方式が同盟*政策をとることによって矛盾を生ぜしめ，ついには第1次世界大戦に導いたことに対する反省から，これに代わる安全保障の方式として国際連盟*がはじめて採用した。国際連盟では，紛争の平和的解決，安全保障，軍縮が平和をささえる3本の柱とみなされ，これは国際連合*にも受け継がれているが，その中でも国際連合の創設者が最も力点を置いたのが安全保障の分野であり，集団安全保障の方式によって戦後の平和が確立できると考えた。

勢力均衡方式が個別国家の安全のみを優先させ，国家(あるいは国家群)対国家(あるいは国家群)の力の均衡によって国家の安全を維持していこうとするのに対して，集団安全保障は国際社会全体の中に個別国家の安全を置き，対立関係にある国家も含めて関係のあるすべての国家が参加して協力する点に特色がある。まず第1に，関係国すべてが条約*によって組織的に結合し，相互に不可侵を約束し，戦争その他の武力の行使はいっさい禁止し，紛争が生じた場合にはこれを平和的に処理することを約束する。第2に，約束に反して侵略*，あるいは武力を行使する国が出た場合には，違反国に対して他のすべての国が協力して組織的・経済的・軍事的な強制措置を加えて侵略行為の鎮圧・防止にあたり，諸国の結集した力によって戦争を防止する。このような集団安全保障は，安全保障の方法としてしばしば19世紀の同盟と対比される。これらの基本的な違いは，同盟が若干の国が団結して第3国を仮想敵国とし，対抗勢力をつくって安全を保とうとするのに対し，集団安全保障は集団内の諸国間の相互牽制(けんせい)によって平和を保障するもので，対抗勢力をつくろうとするものではない。したがって，集団安全保障の方式は，世界の全部の国，少なくとも大部分の国がこれに参加することが望ましい。

国際連合においては，国際連盟の経験を生かして，より組織的に集団安全保障を採用している。安全保障理事会*を中心に機能するが，最終的には，理事会は集団安全保障の中核である軍事的・非軍事的措置を決定し，加盟国にその履行を命ずることができる。総会も平和維持の一般的権限をもち，安全保障理事会に対して補充的責任を負っている。しかし，国際連盟においても国際連合においても，集団安全保障制度の実績はかんばしいものではなく，所期の期待を裏切るものとなっている。その最大の理由は，安全保障理事会における拒否権*の存在であるといわれているが，むしろ，現在の国際社会そのものの矛盾に問題があるといわねばならない。なお，国際連合の下では，地域的取り決めによる地域的な安全保障を認めている。これは本来，集団的安全保障の一環として認められたものでその制約の下にあるが，現在の集団的自衛権*を基礎として存在する安全保障体制は実質的には同盟と同じものになっており，国際連合の精神に反するものとなっている。➔安全保障
〔広部和也〕

しゅうだんあんぜんほしょうじょうやく　【集団安全保障条約】　⇨安全保障

しゅうだんいでんがく　【集団遺伝学】　遺伝学の一部門で，生物集団の遺伝的組成が環境との相互作用を通してどのように変化していくかを追究する。1930年代，ホルデーン・フイッシャー・ライトらは，ダーウィンの自然淘汰(とうた)説と実験遺伝学によって得られた知識とを総合して，集団遺伝学の理論を確立した。一方，ドブジャンスキー一派はショウジョウバエを用いて実験集団遺伝学の方法を確立し，自然集団の遺伝的構造とその変化について数多くの業績を残した。おもな研究内容は，生物集団の遺伝的構造とその変化の要因，有害突然変異遺伝子の保有機構，種分化のメカニズムなどに及び，実験と理論の両面からの研究によって生物進化の機構を解明する上で重要な役割を果たしている。〔北川　修〕

じゅうたんが　【絨毯蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目，ヒロズコガ科。モウセンガともいい，幼虫は毛皮や毛織物に糸を張って食害する害虫。翅(はね)を広げた長さ13～23mm。頭部に密生した白色の長毛塊がある。前翅は，基部約5分の2は紫色をおびた黒かっ色，翅頂部は暗かっ色，両者の中間部は白色で小黒色が散在する。後翅は灰色で，青銅色の光沢がある。ほとんど全世界に分布し，成虫は5月末から8月ごろにかけてみられることが多い。

しゅうだんかんせん　【集団感染】　学校や寄宿舎などの人間集団や，牧場などの動物集団に属する多くの個体が，共通の病原体の感染をうける現象。インフルエンザなどの呼吸器感染，サルモネラ菌・赤痢菌などに汚染された飲料水や食物を会食した場合の消化器感染などにおいてみられる。発症力の弱い病原体の場合は発症者は少ないのに不顕性感染して病原体を排出する個体が出ることがある。

しゅうだんけんしん　【集団検診】　職場や地域などの集団を対象として，疾病(しっぺい)のある者を発見するための健康診断。一般に健康に問題のある者は病院・診療所などを訪れて検診を受けるが，集団検診は疾病を自覚しないでいる者が対象となる。各疾病に特有な集団検診法があり，結核・癌(がん)(胃癌・子宮癌)・高血圧の集団検診は，学校・事業場のみでなく，地域住民集団に対しても活発に行なわれている。また，集団の必要性に応じては，各種血液・尿・糞便(ふんべん)(寄生虫卵・細菌)・呼吸機能・精神機能などの検査やX線検査などが行なわれる。
〔金子義徳〕

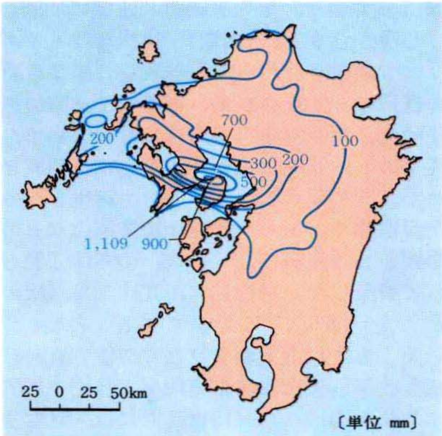
しゅうだんこん　【集団婚】　複数の男子

からなる1組みと複数の女子からなる1組みとが，同時に集団的に婚姻関係にある婚姻形態。群婚ともいう。L.H.モルガンらの学説では，乱婚時代に続く人類の支配的な婚姻形態であるとされた。しかし，民族学的な未開社会の実証的研究の結果，今日ではいわゆる集団婚は過去においても存在しなかったし，現在も存在しないというのが定説となっている。なお，ブラジルのカインガング族やチベットあるいはセイロン島の原住民などに集団婚が行なわれているという報告があるが，これらはさらに厳密に研究してみる必要がある。〔森部　一〕

じゅうたんさんソーダ【重炭酸ソーダ】⇒重曹(じゅうそう)

しゅうだんしどうせい【集団指導制】同程度の権力を有する諸首脳者が自主的に一体となって国政を行なう政治体制。特殊な指導的人物の死去によって，それに代わる強力な指導者のいない場合などにみられる。ソ連でスターリンの死後，それまでのスターリン崇拝と，その独裁的支配を排する意味で，集団指導制ということばが使われ，以後諸国でも用いられるようになった。

しゅうだんてきじえいけん【集団的自衛権】国際連合加盟国に対して武力攻撃があった場合，その国と密接な関係にある国が，その攻撃を自国の安全にとって重大なかかわりがあると認めて，共同して防衛することができるという権利。国際連合憲章51条によって認められた。従来自衛権といえば，攻撃を受けた国がみずから防衛する権利を意味したが，憲章51条ではこれを個別的自衛権とし，そのほかに集団的自衛権を認めたもので，従来の権利に比べて，密接な連帯関係にあれば直接攻撃を受けた国でなくとも防衛できる点に特色がある。憲章51条の規定はダンバートン-オークス会議における提案にはなく，サンフランシスコの憲章制定会議におけるラテンアメリカ諸国・アラブ連盟諸国の強い要求によってとりあげられ，地域的取り決めに基づく強制行動には安全保障理事会の許可を必要とする旨の憲章53条1項との関係で挿入(そうにゅう)された。すなわち，安全保障理事会の許可には五大国の拒否権の適用があるため，五大国のいずれか1国が反対すれば強制行動がとれないことになり，攻撃があっても対処できないことから，拒否権に妨げられずに地域的取り決めに基づく強制行動をとることができるようにする点に眼目があった。したがって集団的自衛権は，本来的には，地域機構の活動に道を開く意図で創設されたものであり，国連の集団安全保障体制の例外としてのみ認められたものであったが，同時にそれは，憲章53条1項の適用を免れて相互援助を行なうための法的根拠となり，第2次世界大戦後，全米相互援助条約(1947)・西ヨーロッパ5か国条約(1948)・北大西洋条約(1949)・ワルシャワ条約(1955)や，日米安全保障条約など多くの安全保障条約はこれに基づいてつくられた。この結果，世界各地に同盟が出現し，世界的安全保障体制を骨抜きにして分裂化を深めた。➔自衛権〔広部和也〕



集中豪雨　諫早の豪雨時の降水量分布図。1957年7月25日9時～26日9時

じゆうちかすい【自由地下水】⇒地下水

しゅうちゅうごうう【集中豪雨】比較的狭い区域に短時間に降る豪雨。雷雨・台風・梅雨前線などに伴って起こる場合が多い。集中豪雨は重大な災害をもたらす気象現象で，わが国では年々各地に頻発(ひんぱつ)し，多大の被害を与えている。図は1957年(昭和32)7月25日長崎県諫早(いさはや)市付近に発生した，わが国最大の集中豪雨の際の24時間の降水量分布を示したものである。ふつう，24時間雨量100mm以上を豪雨というが，諫早豪雨がいかに激しい降雨であるかが理解されよう。集中豪雨の機構はまだ十分には解明されておらず，そのためには多量の降雨をもたらす水蒸気補給の機構と，その水蒸気を次々に凝結させて雨雲を形成し，さらに集中的な降雨をもたらす対流の機構を解明しなければならない。水蒸気の補給状況を示す現象としては，水蒸気張力の分布が豪雨の区域に舌状に張り出す湿舌がある。対流は大気の不安定性に密接な関係のある積雲・積乱雲の形で現われるが，このような対流が群をなしてまた継続して生ずるために起こると考えられる集中豪雨は中規模気象現象であり，大規模気象現象として理解されている通常の高低気圧に比べて激しいが規模の小さい現象である。高層気象観測は，現在のところ通常の高低気圧(1,000km以上の大きさ)が把握(はあく)できる程度にしか整備されていないので，100km以下の規模の現象である集中豪雨は十分解明できない。〔曲田光夫〕

しゅうちゅうしきけんちく【集中式建築】有心建築・求心建築・中央会堂建築ともいう。中心に主空間を置き，そこから放射的に従空間を配置した形式。平面は円形または正方形・八角形などの正多角形が単一または合成された形式をとり，中心にはドームが載ることが多い。ローマでは円形神殿，キリスト教では聖堂・礼拝堂・洗礼堂・殉教者記念堂などに使われ，ビザンチンでは特にギリシア十字形会堂が発達した。集中式建築は空間的に安定して量感に富み，統一感を出しやすいので，調和や均衡を理想としたローマやルネサンスでは，ときに宗教的実用性を無視してまでも，美的要求を満足させるものとして好まれた。しかし，空間に中心が存在するということは，他方では一定の方向性というものをもたないことでもあり，信者の心を祭壇方向へ引き寄せたり，大人数を収容するという機能は果たしにくい。そのため，ルネサンスやバロックでは長形会堂と集中式との折衷として楕円(だえん)形やラテン十字形プランの聖堂が好まれた。〔渡辺保忠〕

しゅうちゅうはいじょほう【集中排除法】正式には過度経済力集中排除法という。財閥解体・独占禁止政策の遂行のために，第2次世界大戦を通じて極度に膨大化した企業を分割し，その経済力を分散させようとする意図のもとに，1947年(昭和22)にアメリカ占領軍によって制定されたもの。この法律に基づく措置は持ち株会社整理委員会によってなされ，当初326社が指定されたが，国内の抵抗や占領政策の転換でかなりゆるやかな措置がとられた。〔加藤　寛〕

しゅうちょう【酋長】未開人における首長をいい，ふつう一村，一郷または一部族の首長などをさす。未開社会は小規模であるため，個人の性格はよく知られており，社会秩序を維持するうえの指導者としてふさわしい，衆望ある人が会議などで選ばれる場合が多い。このような酋長は同輩中の筆頭の地位にある。一方，特定の家系または一族の中からだけ酋長を出す例もまれではない。しばしば宗教上の指導者でもある。

じゅうでん【充電】⇒蓄電池

じゆうでんし【自由電子】原子が多数集まって結晶をつくることにより，原子核の束縛をのがれて，結晶中を自由に動くことのできる電子。電流の多くは，自由電子の移動によって生ずる。自由電子の存在する結晶は導体，存在しない結晶は絶縁体である。半導体は，本来自由電子の存在しない結晶が，熱または光の作用によって自由電子をもったか，あるいは不純物の混入によって自由電子をもつようになったもの。

しゅうと【衆徒】

①〈しゅと〉とも読む。平安期以後，東大寺・興福寺・延暦(えんりゃく)寺などの諸大寺に住し，学問に専念した僧とは別に，武技や雑役に従っていた一種の僧。のちに僧兵がその主体となり，その属する所領で司法警察権を行使し，しだいに武士化をすすめて，南北朝時代には大名となる者も現われた。

②浄土宗・浄土真宗で住職の子弟またはそれに準ずる者で得度した者。

じゆうど 【自由度】

1質点系(質点の集まり)の運動のようすを座標を用いて表わすとき，独立に変化させられる座標の数をその系の自由度という。たとえば，空間を自由に運動する一つの質点の位置を直角座標x, y, zによって表わすとき，三つの座標はそれぞれ互いに関係なく任意の値をとることが可能であるから，この場合の自由度は3である。しかし，斜面をすべり落ちる物体のように，質点が一定の面に沿って運動する場合には，xとyとを決めれば面の方程式からzは決まってしまうので，自由度は2である。一定の曲線に沿って運動する質点の自由度は1，空間を自由に運動できるn個の質点からなる系の自由度は$3n$である。剛体は無数の質点から構成される系と考えられるが，変形しないから質点相互の間隔は一定不変で，各質点は自由に運動できないので自由度は制限され，空間を自由に運動できる場合は6，振り子のように固定軸のまわりの回転だけが許される場合には1である。

2二つ以上の相が平衡を保っている系において，各相の組成・温度・圧力などの状態変数のうち，相の数を変えることなく独立に変化させられるものの数を，その系の自由度という。たとえば，水と水蒸気が平衡を保っている場合，蒸気圧は温度によって決まるから，圧力と温度のうちどちらか一方だけが任意に値を選べる。したがって，この系の自由度は1である。〔有山正孝〕

じゆうドイツろうどうそうどうめい 【自由ドイツ労働総同盟】 Freier Deutscher Gewerkschaftsbund 略称FDGB ドイツ民主共和国の労働組合中央組織。1946年創立。15の単位産業別組合連合体で，国の生産，労働条件などについて強力な発言権をもっている。世界労働組合連盟に加盟。

じゆうとう 【自由党】 1830年ごろイギリスで結成された自由主義政党。産業革命の進行による社会変動，新興商工業階級の優勢化，自由主義思想の普及などの結果，従来のトーリー党・ホイッグ党が再編成された。ホイッグ党の後身として再生したのが自由党で，トーリー党は産業革命などの影響をうけ苦境にたったが，のち保守党として脱皮した。自由党は新興商工業階級の利害を代表し，グラッドストンのもとで名実ともに自由主義政党として確立され，議会改革，自由貿易の実現など自由主義的諸改革を遂行した。19世紀末には，社会主義運動の台頭によって自由主義をささえきれず，次々と社会政策を採用。第1次世界大戦後は労働党の進出により少数党に転落して今日に至った。〔松下京子〕

じゆうとう 【自由党】 ①自由民権運動高揚期の政党。1881年(明治14)国会開設の詔勅が出された直後，国会期成同盟の中から結成された。総理板垣(いたがき)退助，副総理中島信行(のぶゆき)，常議員後藤象二郎(ごとうしょうじろう)・馬場辰猪(たつい)らで，立憲改進党(➡改進党)とともに，自由民権運動の中心的存在であった。1882年機関紙《自由新聞》を発行，また政府批判・政治論などの遊説を行ない，活発な運動を展開して豪農層を中心に勢力を増大した。しかし政府の反撃が強く，1882年には集会条例で地方支部設置が禁止され，また1882年福島事件，1883年高田事件と弾圧が集中した。政府は板垣・後藤らを外遊させて党内の離間を図ったが馬場らはこの外遊に反対した。立憲改進党からその外遊費用が政府・三井財閥を通じて出ていると非難されると，逆に自由党も立憲改進党と三菱(みつびし)財閥との関係をあばいた。この間松方デフレ政策(➡松方正義)によって没落の危機に立った士族・小地主・農民の中から，武力による政府への抵抗を主張する者も現われ，1884年群馬事件・加波山事件が起こると，党員の統制ができず，同年10月突然解党した。

②初期議会の政党。国会開設が近づいた1888年旧自由党員は後藤象二郎の提唱する大同団結運動に再糾合されたが，翌1889年河野(こうの)広中らの大同倶楽部(クラブ)と大同協和会に分裂，板垣退助・片岡(かたおか)健吉・植木枝盛(えもり)らは参加せず，1890年5月愛国公党を結成，3派に分流した。同年の第1回総選挙後，鼎立(ていりつ)していたこれら3派は合同して，9月立憲自由党を結成。第1議会では第1党となったが，土佐派が政府に買収され，1891年2月植木枝盛・片岡健吉・林有造らは脱党し，板垣も離脱した。同年3月板垣を総理として自由党と改称して分裂を収拾した。初期議会では改進党と連携して，〈民力休養〉をスローガンに政府に対抗したが，第4議会以降政府と妥協的となり，日清(にっしん)戦争後，総理板垣は内相として伊藤博文(ひろぶみ)内閣に入閣。1898年6月進歩党(改進党の後身)と合同して憲政党を結成したが，まもなく分裂，旧自由党の主流は立憲政友会の結成に参加した。

③第2次世界大戦後の保守政党。➔日本自由党

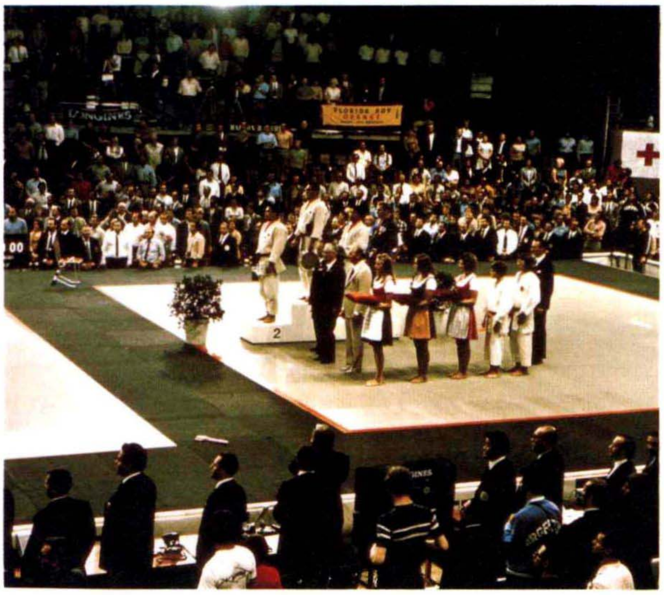
じゅうどう 【柔道】 1882年(明治15)，嘉納(かのう)治五郎が当時行なわれていた柔術の諸流派を基礎に，武術・体育・人間修養の道を兼ねる近代的教育法として新しく編成したもの。近年は近代スポーツとして国際的にも認められている。

【沿革】 わが国で古代から行なわれていた相撲(すもう)が鎌倉時代の武士の間で戦場組み打ちの技法として発展し，さらに戦国時代には武術として多様化・高度化して柔術が生まれ，その後無手で短い武器を持つ相手を制御する術としてさらに体系化されて幾多の達人が現われた。1532年(天文1)竹内(たけのうち)久盛が竹内流を編み出したが，その後実戦などで研究が積まれ，江戸末期までに堤宝山流・荒木流・関口新心流・渋川流・起倒流・楊心(ようしん)流・真神道(しんしんとう)流・扱心流・天神真楊流など数十にも及ぶ流派が生まれ，柔(やわら)とよばれた。明治になると武士階級の崩壊とともに急激な西洋文化の移入は武道の精神的支柱をくずし，しだいに柔術はすたれたが，1877年天神真楊流・起倒流を学んだ嘉納治五郎によって，柔術の長所をとり自分の創意くふうを加え武術としての柔術を集大成した柔道が生まれた。1882年東京下谷(したや)稲荷(いなり)町の永昌(えいしょう)寺に嘉納治五郎が開設した講道館柔道は，従前の柔術諸流を完全に圧倒してめざましい発展を遂げ，1930年(昭和5)ごろからは剣道とともに中等学校の正科にもとり入れられた。第2次世界

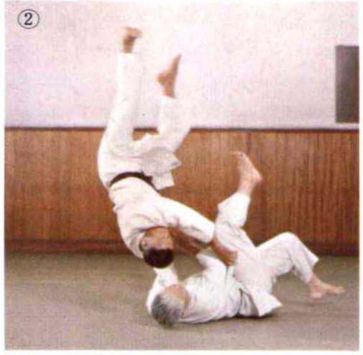
柔　道　　技の分類

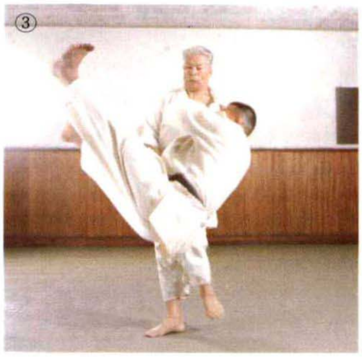
投げ技	立ち技	手技	浮き落とし・背負い投げ・肩車・体落とし・隅落とし・その他
		腰技	浮き腰・払い腰・つり込み腰・はね腰・移り腰・その他
		足技	送り足払い・ささえつり込み足・大内刈り・大外刈り・足車・内また・その他
	捨て身技	真捨て身技	巴投げ・裏投げ・隅返し・俵返し・その他
		横捨て身技	横車・浮き技・内巻き込み・横落とし・その他
固め技	押え技	袈裟固め・肩固め・横四方固め・上四方固め・くずれ上四方固め・その他	
	絞め技	並み十字絞め・逆十字絞め・片十字絞め・裸絞め・片羽絞め・三角絞め・その他	
	関節技	腕ひしぎ十字固め・腕ひしぎ腕固め・腕ひしぎわき固め・腕がらみ・その他	
当て身技	指当て・拳当て・手刀当て・ひじ当て・ひざ当て・蹠頭当て・かかと当て・その他		

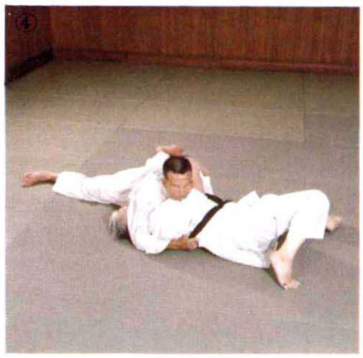
柔　道











(左)第7回世界柔道選手権大会の軽重量級表彰式。1位笠原　2位佐藤　3位シオキ(ブラジル)　1971　西ドイツ(ルートウィヒスハーフェン)　(右)投げ技と固め技　①一本背負い　②ともえ投げ　③送り足払い　④くずれ上四方固め

大戦後は一時衰退したが，近年再び隆盛に向かい，国際的にも普及するに至った。

【国際的発展】嘉納治五郎は，1889年の欧州教育視察をはじめとして10数回に及ぶ欧米訪問の際，柔道の普及と指導にあたり，また門弟の高段者にもその指導にあたる者が現われたので，欧米諸国に相当数の柔道愛好者が生まれた。1948年第14回オリンピック-ロンドン大会が催された際，ヨーロッパの柔道国が集まって欧州柔道連盟を結成し，主要行事の一つとして欧州柔道選手権大会を開催するに至った。その後，日本やアメリカ諸国もこれに参加して，1952年国際柔道連盟(IJF)が結成され，1956年東京で第1回世界柔道選手権大会が開かれるまでに成長し，以後2年ごとに開催することになった。また，1964年のオリンピック-東京大会にはオリンピックの正式種目として実施され，ここに柔道は日本の柔道から世界の柔道に発展した。

【柔道の本義】柔道は，心身の力を最も有効に使用する道であるとされ，柔道の修業は，攻撃・防御の練習によって，身体・精神を鍛練・修養し柔道の真髄を体得することである。従来，柔道の技術・行動の原理は，柔よく剛を制するにありとされていたが，道場において，攻撃・防御の方法を練習するだけではなく，同時に身体を鍛練し，精神修養を重ね，柔道の精神を体得し，これによって自己の形成と完成をはかり，人類・社会のために貢献するところに真の修業の目的があるとされる。

【技術】技を大別すると投げ技・固め技・当て身技の3種になる。投げ技は立ったまま相手を投げる〈立ち技〉，自分から体を倒しながら投げる〈捨て身技〉に分けることができる。相手の体の一部を固めて，その働きを制する固め技はあおむけに押え込む〈押え技〉，頸部(けいぶ)などに圧力を加える〈絞め技〉，ひじ関節などに圧力を加える〈関節技〉などに分ける。また，相手の急所を打ち・突き・けりなどで攻めるのが〈当て身技〉である。

【試合】国際的には国際柔道連盟試合規則，国内では講道館柔道試合審判規定にしたがって行なわれる。試合法には無差別・体重別・段級別・年齢別などがある。世界柔道選手権大会では，無差別と体重別の併用で行なわれ，体重別は軽量級(63kgまで)・軽中量級(63～70kg)・中量級(70～80kg)・軽重量級(80～93kg)・重量級(93kg以上)の5段階に分けられる。試合場は，14.4m四方を場内とし，その外側の幅各2.7mを場外とする。時間は，技術の程度や年齢に応じて3～20分の間であらかじめ定められ，延長を認める場合もある。

試合は，試合者のどちらかが一本を先取すれば，時間内であっても勝敗は決まる。もしどちらも一本を取ることができず時間切れになった場合は，両試合者の技の効果，反則，試合態度などを比較して優勢勝ちまたは引き分けが判定される。優勢勝ち判定の基準としては，①技ありをとるか，あるいは相手が反則を犯して警告を受けた場合とするもの，②技ありに近い技以上をとるか，あるいは相手が反則の注意以上を受けた場合とするもの，③試合態度，技の巧拙，反則の有無などを総合的に比較して，わずかでも差が認められる場合とするもの，の3種があり，そのいずれを採用するかは試合の前にあらかじめ定める。優勢勝ちの基準に照らして優劣の差がない場合は引き分けになる。

試合で用いられる技は，投げ技と固め技で，当て身技は許されていない。試合は，立ち姿勢で始められ，次の場合にだけ寝技に移ることができる。①投げ技が相手に効果があって，引き続き寝技に転じて攻める場合，②投げ技を施そうとして倒れるか，または倒れかかるのを利用して他方が攻める場合，③立ったまま施した絞め技または関節技に相当の効果があって，引き続き寝技に転じて攻める場合などがある。

審判は，主審1名，副審2名の3名制を本体としているが，2名ないし1名の場合もある。主審は試合の進行および勝負の判定をつかさどり，副審は試合場内の対角線上両すみ外側に座して，主審を補佐する。

一本は，投げ技では，①技をかけるか，または相手の技をはずしていること，②投げ方に，相手の勢いあるいははずみがあること，③倒された相手がだいたいあおむけになっていることの3条件をともに備えていることが必要とされる。固め技では，①自分から〈まいった〉と発声するか，または手か足で相手または自分の体あるいは畳を2度以上打って合い図したとき，②押え技で，〈押え込み〉の宣告があってから30秒間，押えられた者が逃げられなかったとき，③
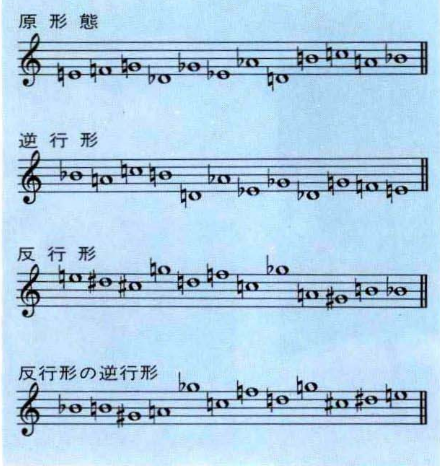
絞め技と関節技で，技の効果が十分に現われたときにそれぞれ判定される。また，一度の技で一本にならなくても，技ありという効果を2回あげると合わせて一本になる。技ありは，投げ技においては，完全に一本と認めがたいが，いま少しで一本となるような効果があった場合，押え技では，〈押え込み〉の宣告があってから25秒以上制していた場合で，絞め技と関節技には技ありがない。

試合を公正に，傷害をなくして進めるために，禁止事項を定め，これを犯したときは，その程度に応じて指導・注意・警告・反則負けの判定が下される。禁止事項は，①ひじ関節以外の関節をとること，②首の関節および脊椎(せきつい)に故障を及ぼすような動作をすること，③故意に取り組まず，勝負を決しようとしないこと，④審判員の制止に従わないこと，⑤試合中に無意味な発声や相手の人格を無視するような言動をすること，などである。注意は，相手に技ありに近い技を取られたのと同等に，警告は，相手に技ありを取られたのと同等にみなされる。〔老松信一〕

じゆうとういつとう 【自由統一党】 イギリスの政党。1886年に提出されたグラッドストンのアイルランド自治法案に対し，帝国の統一をおびやかすとして反対したジョゼフ-チェンバレンらが自由党を脱党して結成。しだいに保守党に接近し，1906年の総選挙では大敗した。チェンバレンが病に倒れてからは有名無実となった。

しゅうどういん 【修道院】 キリスト教の修道士または修道女が一定の規律のもとに共同生活を営みつつ修行する場所。3世紀末，東方で砂漠(さばく)の隠者たちがエジプト人アントニウスを慕って集まったのが修道院制の起源といわれる。340年アレキサンドリアのアタナシウスがこの制度を西方に伝え，以来各地に生まれた。6世紀に創設されたベネディクト会ははじめて完備した会則を有したことのゆえに，13世紀のフランシスコ会・ドミニコ会は修道院制を腐敗と堕落から救った歴史的役割のゆえに，また16世紀のイグナチウス-デ-ロヨラによるイエズス会はその近代的革新性のゆえに特に有名である。なお，プロテスタントは万人司祭という原則から，この制度を否定している。〔石井忠厚〕

しゆうどうたい 【雌雄同体】 一個体の中に雌雄の形質がともに発達する現象で，雄と雌がはっきり区別できる雌雄異体の対語。比較的下等な種類の動物に多く，ミミズ・カタツムリのように雌雄の性質や機能がほとんど同じ時期に出現するもの，クロダイ・カキのように時間的に離れて出現するものがある。また，正常な個体では雌雄異体であるが，例外的に同体となるものは擬雌雄同体とよばれ，間性や雌雄モザイク現象がこれである。なお，植物では雌花と雄花が同一の植物体にできるものを雌雄同株(カボチャ・アケビ・マツなど)，雌花と雄花をつける個体が異なるものを雌雄異株(イチョウ・アオキ・フキなど)という。〔蒲原春一〕



十二音音楽

しゅうとくぜい 【収得税】 消費税に対する語。人が一定の収入を得ているという事実に基づいて課税される税で，現行における所得税や法人税などは収得税の代表的なものである。所得税と収益税とに大別されるが，基本的には，前者は人を中心として課税されるいわゆる人税であり，後者は収益が生じているという事象に対して課税されるいわゆる物税である。所得税には，個人に対して課される個人所得税と法人に対して課される法人所得税とがあり，わが国では前者を所得税，後者を法人税と称している。道府県民税・市町村民税などもここでいう広義の所得税の一種である。収益税には事業税・営業税などがある。〔西野義彦〕

じゅうとっき 【柔突起】 ⇨絨毛(じゅうもう)

しゅうとんい 【周敦頤】 ⇨周濂溪(しゅうれんけい)

じゅうにえんぎ 【十二縁起】 仏教の最も基本的教義で，人間の存在は相依・相対の関係にあることを12に区分して説明したもの。縁起とは，〈もの〉は独立して存在せず，あらゆる条件(縁)が集まって成立している(起)という意味。無明(縁起の法則の無知)・行(善悪の意志作用)・識(精神活動)・名色(物的・心的なもの)・六処(眼・耳・鼻・舌・身・意の6種の感官)・触(対象への接触)・受(知覚)・愛(欲望)・取(執着)・有(生存という事実)・生(誕生)・老死(衰退と消滅)をいう。十二縁起の骨子は，無明・愛・老死の三つで，あとはこれらを結ぶ縁起過程の説明といえる。人間の生存における老死は愛に原因があり，愛は無明にその原因があるとする見方である。要するに，生存の苦しみの根源は無明にあるから，縁起を理解してそれを体得すれば愛はなくなり，したがって老死の苦からのがれ，心の平安を得るとする。十二縁起はこのように，人間の苦なる生存はいかにしてなりたつか，またいかにして苦をなくし，心の平和をうるかを教える，生存の価値と意義とを問題にしたものである。➔四諦八正道(したいはっしょうどう)〔田上太秀〕

じゅうにおんおんがく 【12音音楽】 オクターブの中に含まれる12の音の高さを，対位法や機能和声法によらずに，作曲家が個々の楽曲をつくる過程で設定した順序に基づいて動かすことによって構成された音楽。この方法は1912年にウィーンの作曲家ハウアーが考え，またシェーンベルクも独自に1921年までにこの考えを体系化し，今日の12音音楽の事実上の祖となった。シェーンベルクの方法は，それまでの無調音楽の当然の帰結の一つであり，響きとしては，12音音楽以前のものとも共通性をもっている。しかし，彼のことばによればこの〈相互の間でだけ関係をもつ12の音による作曲技法〉によって，楽曲の内部で音の高さについての統一がもたらされ，さらにこの方法が1940年代以降は音の長さや強さなどの様相にも適用されるようになるが，その重要な出発点となっている。構成の中心となるのは，オクターブ中の12の音を一定の順序に並べたもので，これが原形態とよばれる。譜例はこの方法によるシェーンベルクの最初の作品《ピアノ組曲》(作品25)のものである。この基本となる音列からは，反行形(進み方が反対)，逆行形(進む順序が逆)，反行形の逆行形がえられ，この4種を12通りの音高に移せるので，合計48種の音列が生まれる。作曲者はこの可能な組み合わせの中から必要なものだけを使って，垂直的にも水平的にも楽曲を構成するもので，第2次世界大戦後は広く一般化している。〔徳丸吉彦〕

じゅうにがつとうのらん 【十二月党の乱】 ⇨デカブリスト

じゅうにし 【十二支】 ⇨十干十二支

じゅうにしちょう 【十二指腸】 小腸の起始部。胃の幽門に続き，12本の指を横に並べた長さであるところからこの名がある。上部・下行部・水平部・上行部に区分され，十二指腸空腸曲で空腸に移行し，コの字形を呈している。粘膜に多数の輪状ひだのあるのが特徴で，また下行部の後内側壁には十二指腸縦ひだという一条のひだがある。その下端に大十二指腸乳頭という隆起があり，総胆管と膵管(すいかん)が合一し，別々に開口している。その上方約2～3cmのところには小十二指腸乳頭があり，副膵管が開口している。胃の内容が塩酸によって酸性に傾くのに反し，十二指腸ではアルカリ性である。総胆管と膵管を通じて胆汁(たんじゅう)と膵液がはいってくるが，十二指腸壁自体はブルンネル腺という粘液腺をもっている。➔小腸〔幡井勉・橋本長〕

じゅうにしちょうかいよう 【十二指腸潰瘍】 十二指腸*の粘膜に潰瘍*(かいよう)のできる疾患。発生原因はまだ不明の点が多いが，胃液中の塩酸やペプシン*の作用が基礎的原因として考えられている。十二指腸の球部(胃から続いて十二指腸となる部分)に発生することが圧倒的に多く，大部分は1個であるが時に2個あるいは数個発生することがある。好発年齢は20～40歳代で，胃潰瘍*に比べて若年者，特に男性に多い。無症状に経過するものもあるが，一般には胃潰瘍に比べてはっきりした症状を示す。疼痛(とうつう)の大部分は空腹時に心窩部(しんかぶ)(上腹部の中央)痛として発生し，この際少量の食物や液体を摂取すると軽減する。このように，疼痛と食事が一定の関係を有することが特徴である。その他，胸焼け・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)などの一般消化器症状を示すが，食欲はあまり侵されない。診断は上記の症状，特に過敏症状と胃レントゲン検査によるが，最近は十二指腸ファイバースコープにより直視下で潰瘍を診断できるようになった。治療は胃潰瘍と同様に1回の食事量を減じて食事回数をふやし，刺激物の摂取を制限し，また十二指腸粘膜保護剤・制酸剤・胃液分泌抑制剤・鎮痙(ちんけい)剤などの投与を行ない，規則正しい生活を必要とする。また疼痛・嘔吐の激しい例や瘢痕狭窄(はんこんきょうさく)・出血をきたすもの，あるいは再発をくり返す場合は外科的手術を行なう。〔佐野隆志〕

じゅうにしちょうちゅう 【十二指腸虫】 ⇨鉤虫(こうちゅう)

じゅうにしと 【十二使徒】 ⇨使徒

じゅうにじんしょう 【十二神将】 十二神明王・十二夜叉(やしゃ)大将ともいう。薬師如来*に属し，《薬師経》を信奉する者を守護する12の夜叉神王，すなわち宮毘羅(くびら)・伐折羅(ばざら)・迷企羅(めきら)・安底羅(あんてら)・頞儞羅(あんにら)・珊底羅(さんてら)・因達羅(いんだら)・波夷羅(はいら)・摩虎羅(まこら)・真達羅(しんだら)・招杜羅(しゃとら)・毘羯羅(びから)をさす。《覚禅鈔(かくぜんしょう)薬師法》などには十二支に配して獣頭人身の道士風で表わされるが，元来《薬師経》にはないので，中国で考えられたものであろう。わが国では薬師信仰が盛んに行なわれたので，薬師寺金堂の《綵色(さいしき)十二夜叉大将》(681年造)をはじめ，興福寺の板彫，広隆寺の木造，新薬師寺の塑像(宮毘羅大将像を除く)など盛んに造像された。〔北条賢三〕

じゅうにだんそうし 【十二段草子】 御伽草子*(おとぎぞうし)・浄瑠璃(じょうるり)の一。《浄瑠璃十二段草子》《浄瑠璃物語》《浄瑠璃姫物語》ともいう。義経(よしつね)伝説に取材して，奥州下向途中の牛若丸と，矢矧(やはぎ)の宿(愛知県岡崎市)の長者の娘浄瑠璃姫との恋物語を12段にしくんでいる。義経は笛の名手，歌道の達人として描かれている。これに節をつけて語ったところから，浄瑠璃の名が起こったとされている。



十 二 神 将　新薬師寺蔵《十二神将像》より〈迷企羅大将〉 天平時代　国宝

ジュウニヒトエ



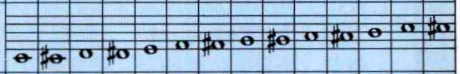


十 二 単　男子の束帯に該当する婦人の美しくはなやかな礼装 《春日権現験記》(部分)

じゅうにひとえ 【十二単】 双子葉植物・シソ科。本州や四国の丘陵地にはえる多年草。高さ10～20cmで，全体に白い縮毛があり，緑白色にみえる。葉は茎の上部に2～3対つき，長さ5～10cmの長いさじ形で，縁に鋸歯(きょし)がある。4～5月，茎の先に淡紫色の唇形(しんけい)の小花を，輪生状に数段つける。和名は，花が重なって咲くさまを，十二単に見立てたもの。

じゅうにひとえ 【十二単】 女房装束*の俗称。奈良朝の朝服が，寝殿造りの内裏や局*(つぼね)の生活に適するよう，平安時代に変化してできあがった晴れ装束。男の束帯*に該当するもので，重袿*(かさねうちき)の数によって近世につけた俗称。その構成は時代によって多少異なるが，上から，唐衣*(からぎぬ)・綾(あや)・羅(うすぎぬ)・紗(しゃ)などに金箔(きんぱく)やししゅうを施した裳(も)，さまざまな模様が織り出された表着(うわぎ)，砧(きぬた)でたたいてつやを出した打衣(うちぎぬ)，袿を5枚重ねた五衣(いつつぎぬ)，袖広(そでひろ)・裾長(すそなが)の単*(ひとえ)，白小袖，緋(ひ)の張袴(はりばかま)からなり，懐中には帖紙(たとうがみ)を入れ，襪(しとうず)をはき，衵扇(あこめおうぎ)を持つことで完全な女官装束となる。この十二単という名称は古くは単の上に袿を重ねて着た袿姿をいったが，近世に至って唐衣と裳をつけた正装を誤って称したもの。《源平盛衰記》に〈弥生(やよい)の末の事なれば，藤重(ふじがさね)の十二単の御衣(おんぞ)を召され〉とあり，また《増鏡》には〈宮は濃き紅梅の十二の御衣に，おなじ色の御ひとへ，紅のうちたる萌黄(もえぎ)の御上着，云々(うんぬん)〉と記され，皇族・貴族の女子の晴れの姿がうかがえる。

じゅうにひょうほう 【十二表法】 ローマ最古の成文法。BC451年に10表に記された法案が民会で可決され，翌年に2表を追加，合わせて12枚の板に記されてローマ市の広場(フォルム)に公示された。BC387年のガリア人侵寇(しんこう)によって焼失したため，現物の材質は推定できないが，内容については，16世紀のリウァイユ以来後代の古典期の法や学説に引用される断片をもとにして復元する研究がすすめられ，今日ではほぼその全容が知られている。基本的には慣習法を確立した上で若干の改革規定を加えたもので，性格的には当時のパトリキ(貴族)とプレブス(平民)の激しい社会的対立を反映する両者の妥協の産物としてとらえることができる。たとえば，土地を失った貧困市民やクリエンテス*(被護民)の権利が守られる一方，パトリキとプレブスの通婚を禁じ，身体抵当で差し押えられた者を〈ティベルの彼岸〉(すなわち国外)に売ることを命じている。刑法的な規定に関しては，他人の四肢(しし)侵害に対する同害報復の原則が残存し，賠償金額も確定されるなど注目すべき規定が多いが，刑罰は大部分死刑である。このほか，遺言の絶対的自由を認め，土地所有の現金売買の原則が固執され(土地に対する担保設定の禁止)，また細かな道路網と道路負担の規定をするなど，この段階のローマ市民共同体が明瞭(めいりょう)に確定された市民の私的土地所有を基礎とするものであったことを示すものとして注目される。〔弓削　達〕

中国名 朝鮮名	黄鐘	大呂	太簇	夾鐘	姑洗	仲呂	蕤賓	林鐘	夷則	南呂	無射	応鐘		
対応する音														
日本名			壱越	断金	平調	勝絶	下無	双調	鳧鐘	黄鐘	鸞鏡	盤渉	神仙	上無

十二律
対応する各音は高音部記号に基づく

しゅうにゅういんし　【収入印紙】　印紙*の一種で，国が発行する金銭上の価値を表わす証票。租税や手数料などの歳入金を，現金の代わりに印紙をはって納付させるために発行される。この収入印紙は，国に納付する手数料・罰金・科料・刑事追徴金・訴訟費用，および印紙税・登録税その他印紙で納付するよう法律に定められているものを納付する場合に使用される。たとえば，不動産などの所有権移転に関する証書，消費貸借・請負に関する証書，約束手形・為替(かわせ)手形，物品切手，委任状，預貯金の証書や通帳，株券，受け取り書，あるいは権利の創設・移転・変更などに関する登記，特定資格の登録に際しても，収入印紙が用いられる。　〔西野義彦〕

じゅうにりつ　【十二律】　中国・朝鮮・日本の音楽理論用語。三分損益法*によって得られる５度関係の音を１オクターブ内に音高順に並べた12音のことで，西洋の十二平均律と類似している。

しゅうねい　【集寧】　チーニン　中国，内モンゴル自治区南部の都市。人口約10万。北京(ペキン)の北西約300kmにあり，旧名は平地泉。古来，交通の要地で，京包鉄道(北京～包頭(パオトウ))に沿い，同鉄道中，最も標高の高い駅である。1955年ここからモンゴル人民共和国の首都ウランバートル経由でソ連領ウランウデに通ずる国際鉄道が完成し，北京から外モンゴル，ソ連へ向かう要衝となった。この国際線によって，それまでのシベリアから満州里(マンチョウリー)経由よりも北京～モスクワ間は約1,000km短縮された。農畜産物の集散と加工業が盛んである。　〔船越昭生〕

じゅうのうしゅぎ　【重農主義】　一国の富は農業生産過程だけから生じ，農業の剰余生産物が増大すれば商工業も栄えると考え，大農経営の有利性を主張した18世紀後半のフランスのケネー*を中心とする経済思想および経済政策。特権的な都市商工業者を保護・育成してきた重商主義*に対する批判として起こってきたもので，当時のフランス絶対王政の財政的危機を農業の再建を通じて救おうとしたものである。

しゅうは　【宗派】　仏教において厳密な意味での宗派が成立したのは，中国では隋(ずい)・唐時代以後，日本では平安・鎌倉時代以後である。それ以前のインドの仏教では部派(小乗二十部)や学派(中観派や瑜伽行(ゆがぎょう)派)はあっても宗派はなく，また中国や日本の初期仏教は，たとえば中国の南北朝時代の毘曇宗(びどんしゅう)・成実宗・三論宗・涅槃宗(ねはんしゅう)・地論宗・摂論宗とかそれを輸入した日本の南都六宗*のように宗の名でよばれていたが，実際は宗派ではなく学派であった。学派から宗派への発展を促すモメントは寺院の経済力が独立強化され，教義(宗旨)の体系化を伴った教判が確立されたことである。日本の平安・鎌倉以後の諸宗は江戸幕府の宗教政策によってさらに宗派として固定し，寺檀(じだん)制度のもとに発展した。　〔岡部和雄〕

じゅうばこ　【重箱】　食物を盛る箱形容器で，同形のものを組み重ねるためにこの名がある。陶器製・プラスチック製などもあるが本来は漆器で，二重～五重までのものが最も多い。内面が朱のものは吉事用，黒は凶事用とされた。

しゅうはすう　【周波数】　周期的な現象が単位時間にくり返される回数。振動数ともいう。単位時間を周期で割ったものに等しい。電波・音波などの波動では，周波数は１点を単位時間に通過する波の数に相当する。１秒に１回起こる場合を周波数の単位として１Hz(ヘルツ)とよぶ。以前は１サイクル毎秒とよんだ。10^3Hzを１kHz(キロヘルツ)，10^6Hzを１MHz(メガヘルツ)という。電燈線の支流は50Hz，または60Hzである。ラジオ放送に使われている電波は525～1,605kHz，FM放送*やテレビ放送に使われている電波は30～300MHz，耳に聞こえる音波の周波数は20Hz～20kHzである。　〔有山正孝〕

しゅうはすうたい　【周波数帯】　電磁波*の周波数スペクトル(個々の周波数の配列)のうちのある範囲を示す一般的な語であるが，特に電波(3,000GHz(ギガヘルツ)以下の電磁波)について使用される場合が多いので，以下の説明もこれについて行なう。
〈区分法〉　場合に応じて多くの区分法があるが，通例次のようなものがある。①周波数スペクトルを，表のように規則的に累進整数で表示し，９周波数帯に区分したもの。②周波数帯分配表に基づくもの。これは業務別にみた周波数帯の区分の方法で，たとえば535kHzから1,605kHzは放送(ラジオ)に分配された周波数帯であるという。
〈分配〉　電波は，使用周波数帯によって多少の相違はあるが，自由にかつ広範に空間を伝播(でんぱ)するという物理的特性のため，単に１国内でのみその使用を監理しうるものではない。効率的な使用を図るためには，高度の国際性に立脚して周波数帯の分配・使用が行なわれる必要がある。このため，国際電気通信条約およびこれに基づく付属無線通信規則が取り決められ，世界の電波秩序は維持されている。すなわち，各国が無秩序に周波数割り当てを行なうならば，たちまち国際間に混信や通信妨害の現象を生じ，電波本来の特質を生かすことができなくなる。そのため，同規則において周波数帯の使用を制限し，現在の技術で利用可能とされる10kHzから40GHzまでの周波数帯を，固定(たとえば，富士山頂気象レーダーと気象庁間の回線)・移動(たとえばタクシー無線)・放送・宇宙・アマチュアなどの業務別および地域別に分配している。世界は第１・第２および第３の三つの地域に分けられ，わが国はアジア・オセアニア諸国とともに第３地域に属している。　〔佐藤　進〕

周波数帯番号	周波数の範囲	略語
4	3kHzから　30kHzまで	VLF
5	30kHzから　300kHzまで	LF
6	300kHzから　3,000kHzまで	MF
7	3MHzから　30MHzまで	HF
8	30MHzから　300MHzまで	VHF
9	300MHzから　3,000MHzまで	UHF
10	3GHzから　30GHzまで	SHF
11	30GHzから　300GHzまで	EHF
12	300GHzから　3,000GHzまで	——

〔注〕　下限を含まず上限を含む

しゅうはすうひょうじゅん　【周波数標準】　周波数*を測定するための基準となるもの。周波数標準装置として実用されているものには大別して，他によることなくそれ自身で正確な標準周波数を発生することのできる１次標準器と，このような１次標準器によって適時校正して用いる２次標準器とがある。通常，１次標準は国家標準をさし，現在では原子に固有の遷移周波数が永久不変であることを利用した装置，すなわち原子周波数標準器(または原子時計)を用いている。その正確さは10^{-12}である。２次標準器は工場・研究所・通信所などに置かれ，機器の調整・測定・監視などの基準に用いられるもので，水晶発振器・音叉(おんさ)などが使われている。日本の１次標準器は郵政省電波研究所にあり，これをもとにした標準周波数および時間が標準電波JJY(2.5，5，10，15MHz(メガヘルツ))として放送され，校正に利用されている。　〔佐分利義和〕

しゅうはすうへんかんき　【周波数変換器】　スーパーヘテロダイン受信機*において入力信号の周波数f_sを別の周波数f_iの信号に変換する装置。図のように周波数f_lの局部発振信号とf_sとを同時に真空管・トランジスターまたはダイオード*のような非線形抵抗，あるいは可変容量ダイオードのような非線形リアクタンスに加印して両信

号の積に相当する信号をつくり，その側帯波の一つである$f_i=f_s+f_l$（アップコンバーターとよばれ，非線形リアクタンスを用いる），$f_i=f_s-f_l$（$f_s>f_l$のとき）または$f_i=f_l-f_s$（$f_l>f_s$のとき）をつくる。後2者は非線形リアクタンスを用いるときはダウンコンバーター，非線形抵抗を用いるものは周波数混合器ともよばれ，またこのときf_iを中間周波数という。〔小原啓義〕

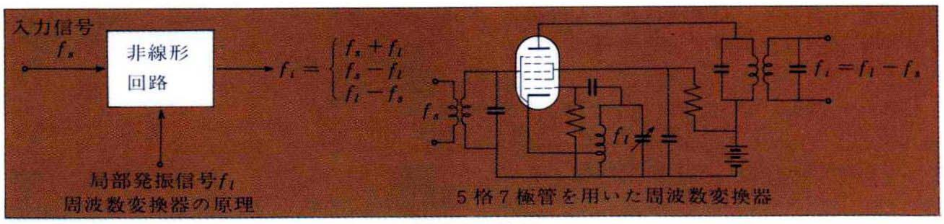
しゅうはすうへんちょう【周波数変調】⇨変調

じゅうはっしりゃく【十八史略】中国，元の曾先之（そうせんし）が編纂（へんさん）した中国史入門書で，《古今歴代十八史略》の略称。《史記》《漢書》に始まり《新五代史》に及ぶ16の歴史と，《続資治通鑑（つがん）》《続宋（そう）編年資治通鑑》など宋代の史料から史実をピックアップし，初心者向きに書き改めた。もと2巻であったが，現在の7巻本は明（みん）代に陳殷（ちんいん）が字音と字義の解釈をつけて改編したもの。誤りもあるが簡にして要を得ており，日本でも尊重されて多くの刊行・注釈が行なわれてきた。〔藤善真澄〕

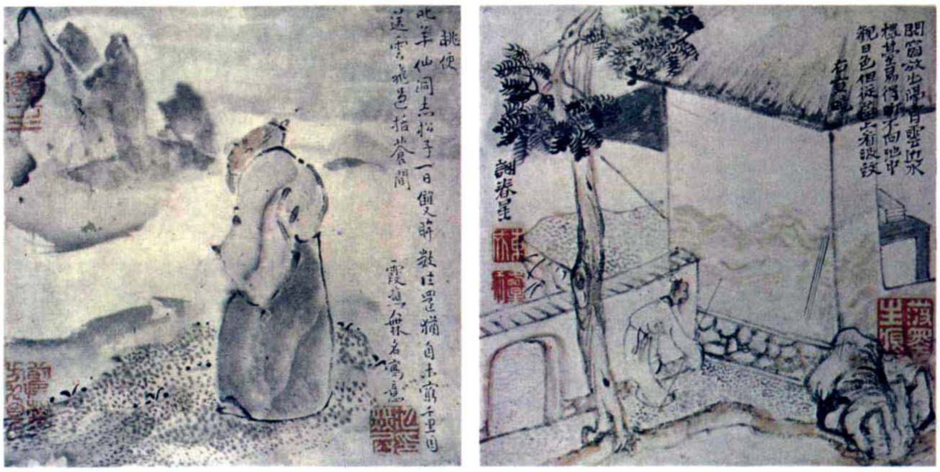
じゅうはん【従犯】正犯*を幇助（ほうじょ）した者のこと（刑法62条）で，幇助犯ともいわれる。従犯を幇助した者も従犯に準ずる。幇助とは，正犯者が犯罪行為を演ずる際，これに協力する意思をもって，具体的に，あるいは精神的に支持・援助行為をすることである。ただし，教唆行為については，別に教唆犯*（刑法61条）の成立を認めている。刑は，正犯の刑に照らして減軽される（同63条）。従犯の成立には，客観的に正犯の実行を支持し援助する行為のほか，正犯が有責的に犯罪の実行行為を演ずることが必要である。〔井上公耳〕

じゆうびじゅつきょうかい【自由美術協会】美術団体。1937年（昭和12）2月，自由美術家協会として結成。本格的な前衛美術の創造をめざして前衛的な小団体を結集し，新時代展の長谷川三郎*（はせがわさぶろう）・村井正誠（まさなり）・矢橋六郎・山口薫（かおる）・津田正豊（まさとよ）・津田正周・浜口陽三*（ようぞう）・荒井龍男（たつお）・瑛九*（えいきゅう）を創立会員とし，同年7月第1回展を開催。1941年美術創作家協会と改称，1946年旧称に復したが，1960年村井正誠・荒井龍男・山口薫・矢橋六郎・小松義雄（よしお）らが離脱してモダンアート協会を結成したのを機に現称に改めた。洋画・彫刻・版画の3部からなり，毎年秋に公募展を開く。〔匠　秀夫〕

しゅうびしょう【臭鼻症】鼻の粘膜・骨質に萎縮（いしゅく）を生じる慢性疾患の萎縮性鼻炎のうち，悪臭があるものをいう。鼻腔（びこう）にはかさぶたを生じる。原因は不明であるが，体質説・ホルモン説・自律神経失調説などがある。治療には，全身的に種々の薬剤を投与することと鼻腔内の洗浄があるが，手術的に鼻腔を狭くすると効果があるとも考えられている。



周波数変換器



十便十宜帖　〈十便図眺便〉池大雅（左），〈十宜図宜暁〉与謝蕪村

シュウービーヤうんどう【シュウービーヤ運動】イスラム世界におけるアラブ優先に反対し，全イスラム教徒の平等を主張する思想的・文化的運動。ウマイヤ朝では，高い文化をもつイラン人やシリア人がマワリー（被征服者）の立場に置かれたためアラブに反感を示し，アッバス朝では非アラブ人の文化的優位を主張するに至った。このような思想はイラン人の間に強い。

じゅうふくじゅせい【重複受精】⇨ちょうふくじゅせい

しゅうぶん【秋分】二十四気*の一。太陽が秋分点*に達する現象および時刻。太陽暦の9月23日ごろにあたる。この日，太陽は赤道上を直射し昼と夜の長さが等しい。この日を国民の祝日の一つ〈秋分の日〉と定め，祖先を敬い，なくなった人をしのぶ日とされている（旧制では秋季皇霊祭）。また，この日をまん中にした前後7日間を秋の彼岸といい，このころになると暑さが和らいでしのぎやすくなる。

しゅうぶん【周文】生没年不詳。室町初期，15世紀前半ごろの水墨画家。号は越渓，字（あざな）は天章。相国寺の禅僧。画は如拙*に習い，南宋（なんそう）院体の余白を尊ぶ山水画の画法をとり入れ，繊細で日本的な山水画の様式をつくった。1423年（応永30）朝鮮に渡ったときにはすでに画僧として著名で，以後室町幕府の御用画師として詩画軸・屏風（びょうぶ）・襖（ふすま）などを描き，1463年（寛正4）以前に没したと思われる。雪舟*の師として有名なわりには確実な遺作がなく，伝承作品に《竹斎読書図》《水色巒光（らんこう）図》などがある。〔中島純司〕

じゅうぶん【重文】文を構造上から分類した場合の一種。対立する節*でできている文，すなわち主語・述語の関係が，対等の関係で二つ以上含まれている文。単文では，主語・述語の関係が1回しか成立しないのに対して，重文（および複文）では2回以上成立する。例：〈花は咲き，鳥は歌う。〉〈風が吹き，雨が降る。〉〈兄は政治家になり，私は学者になり，弟は実業家になった。〉➔複文　➔単文

しゅうぶんてん【秋分点】黄道と天の赤道の交点のうち，太陽が赤道の北から南へ通過する点。春分点*とは赤道上で180°離れている。すなわち，黄経180°で現在はおとめ座にあるが，歳差*のため500年後にはしし座に移動する。

じゅうぶんのいちぜい【十分の一税】中世西ヨーロッパの教会が各教区の農民から取りたてた税金で，あらゆる農作物や家畜に対し，収穫の10分の1を納める貢租。本来は教会の維持・貧民救済などに使用するもので，自由意志による寄進の形をとった。10世紀ごろから世俗君主の貢納と同じように強制的課税となり，カトリック教会の重要財源となった。宗教改革以後はしだいに廃止の気運が起こり，19世紀には各国とも廃止した。〔高山高雄〕

しゅうぶんのひ【秋分の日】⇨秋分

じゆうへのみち【自由への道】サルトル*の長編小説（1945〜1949）。《分別ざかり》《猶予》《魂の中の死》の第3部までと，第4部の一部分《奇妙な友情》が発表されたが，第4部は未完。1938年から1940年に至るヨーロッパの激動期を背景に，哲学教師マチ

ウの行動を通して，歴史的状況と人間の自由とのかかわりを追究する。作者の実存主義思想の造形をめざした大作。

じゅうべんじゅうぎじょう【十便十宜帖】池大雅*と与謝蕪村*(よさぶそん)の競作になる2冊の画帖(国宝)。中国，清(しん)初の文人李笠翁(りりゅうおう)が，廬山(ろざん)のふもとの別荘伊園での生活の便宜をうたった〈十便十宜詩〉に基づき，十便を大雅が，十宜を蕪村が描いて，それぞれの画才を競った。1771年(明和8)の作で，両者の円熟した画技が各図に発揮されている。➔前ページ(写真)

しゅうぼう【周昉】中国，唐代の画家。字(あざな)は景元。長安の人で，官は宣州長史に至った。文芸・書画にひいでたが，特に士女など道釈人物を描いて呉道玄以後の唐朝絵画の新様式を代表している。はじめ玄宗帝ごろの画家である張萱(ちょうせん)に学び，彩色柔麗な宮廷・士女風俗を描いて神品と称せられた。のち唐時代の貴族趣味的好尚(こうしょう)に合わせて曲眉豊頬(きょくびほうきょう)の美人をつくりだした。長安の章敬寺に壁画を描き，当時第一と称されたと伝える。〔中島純司〕

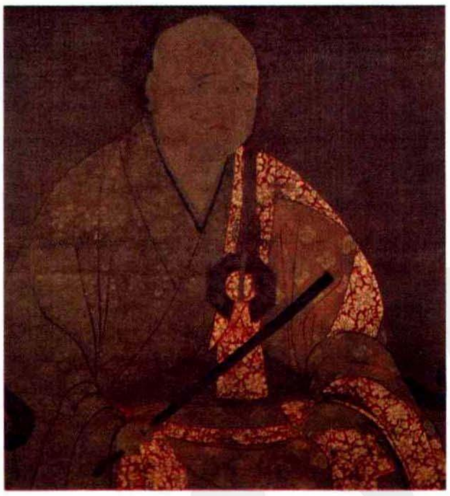
じゆうぼうえき【自由貿易】貿易に政府が干渉せず，輸出入業者の自由に任すこと。19世紀，A.スミス*・リカード*ら古典学派*の対重商主義批判から，その自由放任主義の思想に立脚して提唱され，各国は1860年代にほぼこれを実現する。この時代はイギリス産業資本の興隆期であり，自由貿易は，イギリスの海外進出の基盤となった。しかし，まもなく世界各国の工業化の進展に伴い，保護貿易*が台頭して自由貿易は一時その姿を消した。第2次世界大戦後，再び自由貿易が国際間で提唱され，戦後の保護貿易から自由化への道が進められるようになった。それは，第1次世界大戦後に各国が保護貿易をとった結果，世界貿易の発展が妨げられ，世界的な経済恐慌，さらに経済のブロック化という事態を生んだ歴史的教訓によるものであるが，今日の自由貿易への道は，国際経済機構の中で，政府間の合意で進められていることと，EEC*にみるように域内貿易の自由化という形をとっているところに特徴がある。〔白石　孝〕

しゅうほうげん【周邦彦】(1056～1121) 中国，北宋(ほくそう)の詩人。清真居士(こじ)と号した。音律に詳しく，徽宗(きそう)のとき古代音楽歌曲を整理する役所に勤めたが，博学多才，歌妓(かぎ)・舞女たちと交遊し，風流生活を送った。詞*にすぐれ，宋代の詞の作者として第一人者と推賞された。《清真詞》2巻，補遺1巻がある。

しゅうほうどう【秋芳洞】〈あきよしどう〉ともよばれる。山口県中西部，秋吉台(あきよしだい)の地下にあるわが国屈指の石灰洞(鍾乳洞(しょうにゅうどう))で秋吉台国定公園*に所属している。特別天然記念物の約2kmに及ぶ洞内には，鍾乳石・石筍(せきじゅん)・石灰華柱・石灰華段丘などが生成され，観光客が多く訪れる。



秋 芳 洞　洞窟内の奇観の一つ〈千枚ざら〉。さらの数は大小約1,000個を数え，上のさらから下のさらへ水があふれて流れる



宗 峰 妙 超　《大燈国師像》(部分)　大徳寺蔵

じゅうほうとうけんるいしょじとうとりしまりほう【銃砲刀剣類所持等取締法】銃砲・刀剣類などの所持に関する危害予防上必要な規制について定めた法律。1958年(昭和33)制定。この法律にいう銃砲とは拳銃(けんじゅう)・小銃・機関銃・砲・猟銃その他金属性弾丸を発射する機能を有する装薬銃砲および空気銃をいい，刀剣類とは刃渡り15cm以上の刀・剣・槍(やり)・薙刀(なぎなた)・匕首(あいくち)および刃渡り5.5cm以上の飛び出しナイフ類をいう。銃砲刀剣類は，法令に基づく職務上の所持を除き，一般に所持が禁止され(違反者には5年以下の懲役または20万円以下の罰金)，業務上その他特定の場合以外は刃渡り6cm以上の刃物の携帯は禁止されている(違反者には1年以下の懲役または30,000円以下の罰金)。ただし，狩猟・競技・有害鳥獣駆除などに必要な際は，都道府県公安委員会の許可を受けて所持することができ，美術・骨董品(こっとうひん)としての刀剣・火縄銃(ひなわじゅう)は，文化財保護委員会の登録を受けて所持することができる。この場合でも，正当な目的以外の携帯または運搬については禁止されている。なお，銃砲類の輸入は，国および地方公共団体が必要とする場合以外は禁止されている。〔井上公耳〕

じゆうほうにんしゅぎ【自由放任主義】フランス語レッセ-フェール(なすに任せよ)の訳語。18世紀後半以後の資本主義の発展を背景として展開された思想で，一般に国家の保護や干渉を排し，個々人の自由な創意と責任によって調和のとれた経済が実現できると考え，絶対王政のもとにとられた特権階級保護政策を批判した経済思想および政策をいう。A.スミスとその後のイギリス古典派経済学者によって学説として体系化されたが，資本主義の発展に伴って貧富の差が増大し，経済の寡占化や大恐慌が発生するようになったため，自由放任主義に対する批判が出されるようになった。〔加藤　寛〕

しゅうほうみょうちょう【宗峰妙超】(1282～1337) 南北朝時代の臨済宗の僧。播磨(はりま)(兵庫県)の人。はじめ戒信律師・高峰顕日に師事したが，1305年(嘉元3)南浦紹明*(なんぽしょうみょう)が上京したことを聞いて鎌倉から上京，1307年(徳治2)南浦紹明に従って建長寺に移り，のちに印可を得た。1309年(延慶2)南浦の示寂の翌年に上京して東山の雲居寺に住し，次いで紫野に小院を構え，大徳と号した。この間花園天皇の帰依をうけ，召されて宮中で法を説き，興禅大燈国師の勅号を得た。次いで後醍醐(ごだいご)天皇に召されて法要を説き，正燈高照国師の勅号を加賜された。1334年(建武1)彼の住する大徳寺は南禅寺と同格に列せられ，天下の名刹(めいさつ)となった。一時大友頼尚(よりひさ)の招きで太宰府の崇福(そうふく)寺に住したが，再び大徳寺に住し，孤高の禅風を一貫して保持した。《大燈国師語録》があり，大徳寺に頂相の名作が現存する。〔石井修道〕

しゅうまつかん【終末観】個人の生命ないしは世界・人類の終末についての理論で，人間の死後の運命や歴史の究極的な目的の達成を主題とする。《旧約聖書》では神が悪なる世界を滅ぼして正義と平和による永久の支配を確立するときがくると説かれ，《新約聖書》ではキリストの十字架上の死によって世界と人類の救いという究極的な目的はすでに達成されているとする。近代におけるマルクス主義の唯物史観はこれを世俗化したものといわれる。最近では《新約聖書》のキリストを切迫した世の終わりを説く者と解するシュバイツァーの説や，《新約聖書》の事柄の実存的意義を明らかにしてこれを非神話化しようとするブルトマンの試みなどが終末論の復活の例としてあげられる。

しゅうみつ【宗密】(780～841) 中国，唐代の僧。華厳宗第五祖。圭峰(けいほう)大師・定慧(じょうえ)禅師と号す。四川省の人。儒学にひいで，偶然の機会に得た《円覚経》に感

激してその注釈書を著わした。その後澄観に師事した。実際は浄衆寺神会の系統をうけたが，荷沢神会の法系をみずから主張し，華厳教学と荷沢禅を総合して《円覚経》による教禅一致思想を唱えた。初期の作《原人論》や後期の作《禅源諸詮集(せんしゅう)都序》は，宋(そう)代の禅宗のみならず思想界全体に大きな影響を与えた。〔石井修道〕

じゅうみんきほんだいちょう【住民基本台帳】住民基本台帳法(1967)の定めにより，市町村長が個人を単位として記載された住民票を世帯ごとに編成し，これをつづったものをいう(住民基本台帳法6条)。住民基本台帳制度の目的とするところは，市町村における住民の居住関係の公証，選挙人名簿の登録その他の住民に関する事務上の処理の基礎とするとともに，住民の住所に関する届け出などの簡素化を図って住民の利便を増進し，合わせて国および地方公共団体の行政の合理化に資することにある。住民としての地位が変更される転入・転出・転居，およびその属する世帯または世帯主の変更は，書面によって市町村長へ14日以内に届け出なければならない。住民基本台帳の閲覧および住民票の写しの交付は，だれでも市町村長に対して請求できる。〔黒木三郎〕

じゆうみんけんうんどう【自由民権運動】専制的な藩閥政治に反対した明治初期の民主主義的政治運動。自由民権思想はすでに幕末に紹介され，明治にはいって中村正直(まさなお)らの啓蒙(けいもう)思想家により唱えられたが，その思想が政治運動化したのは板垣(いたがき)退助・後藤象二郎らが，1874年(明治7)民選議院設立建白書を提出してからであった。建白書提出をめぐって世論が盛り上がり，士族出身者が指導的役割をになって政府の専制を攻撃，土佐の立志社をはじめ各地に政治思想団体が設立され，多くの政論新聞が発行された。それらに対し，政府は讒謗律(ざんぼうりつ)・新聞紙条例を公布して弾圧した。1877年西南戦争の結果武力抗争を断念した反政府勢力は，言論を武器とする抗争へ転換し，自由民権運動となって本格的な政治闘争を展開することとなった。そのころ地租改正事業が進行し，重税を課せられた農民の反抗が各地に続発したが，豪農・豪商層はこれら一般民衆にささえられて国会開設・地租軽減を要求した。1880年国会期成同盟が結成され，全国20万余の請願署名を集めて国会開設を政府に請願した。政府は集会条例などでこれを押えようとしたが，運動が国民的規模で発展したため，1881年には国会開設を10年後に約束する詔書が出されるに至った。これを機に，民権運動は政党の組織化へと前進し，自由党・立憲改進党があいついで結成された。政府は集会条例・新聞紙条例を改正して政党の取り締まりを強化したが，ことに農村をおもな地盤とする急進的な自由党に激しい弾圧を加えた。さらに1881年に始まる政府のデフレ財政は小農・一般産業に深刻な打撃を与えたため，自由党左派党員は小農民層と結んで福島事件・加波山事件など一連の地方暴動を起こした。これらの暴動を恐れた自由党首脳は，1884年みずから自由党を解散して政府と妥協し，また都市ブルジョアジーに支持された立憲改進党(→改進党)も党首大隈重信(おおくましげのぶ)の脱党で沈滞した。こうした停滞ののち，1887年屈辱的な政府の条約改正案を知った民権諸派は結集して，言論の自由，地租改正，条約改正を要求する三大事件建白運動を起こしたが，政府は保安条例を公布してこれを弾圧した。その後の大同団結運動も一時反政府統一戦線を形成してはなばなしく世論に迎えられたが，結局は上層民権派の示威運動にすぎず，1889年後藤象二郎の藩閥政府入閣で消滅した。こうした過程において，士族・豪農から農民へと運動を推進する階層が下降し，きびしい政府の弾圧のまえに組織の亀裂(きれつ)を露呈し，そのうえ寄生地主制の進行によって豪農と農民との同盟関係が解体して，国会開設の日を待たずして分裂・挫折(ざせつ)への道をたどった。〔高崎徳次〕

じゅうみんじち【住民自治】地方行政を中央政府の任命する官吏の手にゆだねず，地方公共団体の住民みずからの意思で行なうこと。地方自治の原理の不可欠の要素である。このため憲法および地方自治法は住民の直接あるいは間接の参政の方法を明確に規定している。権利としては，①地方公共団体の機関を住民の代表者により構成すること。知事・市町村長・地方議会議員の直接選挙，役職員任命についての議会の同意を必要とすることなど。②議会の権限を強化するとともに住民に条例の制定・改廃請求権を与え，その意思を地方行政に反映させること。③地方公共団体の行政について住民に監査請求権を与え，地方公共団体の自立性を強化すること。たとえば公金の違法・不当な消費について監査請求権を与え，裁判所への出訴を認めること，などである。このように住民のイニシアチブ(請求権・発議権)・レフェレンダム・リコールなど直接民主制的方途を講じて代表民主制の欠陥を補正し，地方自治の本旨を推進するよう配慮されている。➜地方自治〔寺尾方孝〕

じゆうみんしゅとう【自由民主党】1955年(昭和30)11月15日，自由党と日本民主党が合同して結成された保守単一政党。以後議会の絶対多数を獲得して，鳩山(はとやま)・石橋・岸・池田・佐藤の各内閣を維持し，その政策として，憲法の自主的改正・自衛軍備・集団安全保障などを掲げている。政権を長期間にわたって保持しているために，財界・大地主なども，これに巨額の政治献金をしており，官僚もまた，その統制下に置かれている。党内には主流派・反主流派などの派閥抗争が続いており，それぞれ自派の国会議員・地方議会議員を擁して，次の総裁を争い，また組閣にあたっても，自派の大臣を送り込む運動は盛んである。それにもかかわらず，全体としては巨大な政治勢力を有している。近代的な政党としての明確な規約や組織もほとんどないが，総選挙の際は，他党と比較にならぬ票数を集め，衆議院では圧倒的な議員数を確保してきたが，1975年(昭和50)以後金権問題が露呈，低迷をつづけている。〔鈴木安蔵〕

じゅうみんぜい【住民税】道府県民税・市町村民税の総称。住民税は，都道府県と市町村とにおいて，その地域に居を置く個人および法人に課され，個人については均等割と所得割，法人については均等割と法人税割が適用されている。

〈道府県民税〉個人均等割の標準税率は100円，所得割については前年の所得について計算した所得金額(原則として所得税の計算による)が課税標準となり，150万円以下の金額について2%，150万円を越える金額について4%という標準税率が適用されている。法人の場合，均等割の標準税率は，資本または出資金額1,000万円を越える法人で1,000円，その他の法人で600円，法人税割については，国の法人税額を課税標準として，標準税率5.6%，制限税率6.6%が適用されている。個人の場合の賦課徴収は，当該道府県の区域内の市町村が市町村民税の賦課徴収と合わせて行ない，市町村は徴収額のうち個人の道府県民税にかかわる部分を翌月10日までに道府県に払い込むものとしている。法人の場合の徴収手続きは，法人みずから計算して道府県に所定の申告書を提出し，同時に税金を納めるので，国税の法人税の場合と同じである。二つ以上の道府県または市町村に事務所などをもっている法人は，その法人税額をこれらの事務所などの従業員数に案分し，その案分された分割額を課税標準として法人税割を計算し，それぞれの道府県または市町村に申告納付することになっている。

〈市町村民税〉市町村民税の納税義務者は，同時に道府県民税の納税義務者でもある。個人の均等割の標準税率は，市町村の人口数によって異なっている。人口50万人以上の市は600円(制限税率800円)，人口50,000人以上50万人未満の市は400円(制限税率550円)，その他の市町村は200円(制限税率300円)。個人の所得割については，道府県民税の場合と同様に，前年の所得について計算した所得金額が課税標準となり，その課税所得金額は道府県民税の場合と同じである。市町村民税の標準税率は，15万円以下の金額に対する2%から，5,000万円を越える金額に対する14%まで，所得金額の区分に応じて13段階に定められているが，制限税率はこの標準税率の1.5倍となっている。

法人の均等割の標準税率は，資本または出資金額1,000万円を越える法人で4,000円(制限税率7,000円)，それ以外の法人で2,400円(制限税率4,000円)。法人税割の税率は，国税の法人税額を課税標準として，標準税率9.1%，制限税率10.7%となっている。市町村民税の賦課期日・納期・徴収方法は，道府県民税の場合とまったく同じである。〔西野義彦〕

じゅうみんとうひょう【住民投票】一定の事項について住民がその意思を表明するための投票。①特定の地方公共団体にのみ適用される特別法の制定に際しては，住民自治の原則に沿ってその住民の投票に付し，過半数を得ることが必要とされている。②ある地域が2国家の国境線にまたがり，国家間でその領有が争われた場合，その帰属を決めるため，歴史上たびたび行なわれた。

じゅうみんひょう【住民票】⇨住民基本台帳

しゅうめいぎく【秋明菊】双子葉植物・キンポウゲ科。キブネギクともいう。山野にはえる多年草で，観賞用として庭にも植えられる。高さ60～90cm。葉は3枚の小葉からなる複葉。秋，枝分かれした茎の上部に，径5cmほどの淡紅紫色のキクに似た花をつける。白色ときには淡紅色の花を開くボタンキブネギクも栽培される。



シュウメイギク

じゅうもう【絨毛】

①脊椎(せきつい)動物の小腸粘膜表面にある小突起で，柔突起ともいう。上皮と粘膜固有層からなり，高さ0.1～0.2mm。十二指腸で最も密生しており，回腸の末端に向かって密度が小さくなる。絨毛は小腸の吸収面積を広くし，その基部にある陰窩(いんか)(上皮細胞の陥入で，リーベルキューン腺(せん)という)から腸液を分泌する。電子顕微鏡で観察すると，絨毛細胞の表面には微絨毛(長さ1μ，太さ0.1μ)とよばれる微小突起が密にあり，さらに吸収面積を大きくしている。絨毛細胞はフォスファターゼやリパーゼを豊富に含み，消化吸収能をそなえている。

②哺乳(ほにゅう)類の胎盤と子宮壁の接触面に密生している小突起。毛細血管に富み，胎児と母体との間で物質代謝・ガス代謝の産物を交換する面積を大きくする役割をもっている。〔幡井勉・橋本長〕

じゅうもうじょうひしゅ【絨毛上皮腫】胎盤の絨毛上皮から発生する悪性腫瘍(しゅよう)。悪性絨毛上皮腫・絨毛膜癌(がん)ともいう。多くは胞状奇胎に続発するが(約40%)，流産や子宮外妊娠，さらに約15万回に1回の割で正常分娩(ぶんべん)後にも発生する。ほとんどの場合，妊娠終了後約1年以内に発生する。原発巣は子宮が最も多いが，まれには膣壁(ちつへき)・卵巣・肺・脳にも原発する。出血・壊死(えし)が強く，きわめて早期に血行性転移を起こし，肺・肝・脳などに広がる。予後はきわめて不良。生物学的妊娠反応が強陽性を示し，予後判定に重要な手がかりとなる。〔小坂井守〕

じゅうもうせいゴナドトロピン【絨毛性ゴナドトロピン】胎盤の絨毛で産生される生殖腺(せいしょくせん)刺激ホルモン。生物学的には黄体形成ホルモンと似た性質を示す。ヒトの胎盤から化学的に抽出され，治療用に用いられている。なお，妊婦の血中および尿中にも多量に存在するので，妊娠診断法(妊娠反応)の一つとされる。

しゅうもんあらため【宗門改】江戸時代，キリシタン信仰禁止のために設けられた制度。江戸幕府は1613年(慶長18)禁教方針を明らかにし，はじめは臨時に宗門改を行ない，個人ごとにその信ずる宗教を調べて寺院僧侶(そうりょ)の証文を出させたが，島原の乱後，1640年(寛永17)宗門改役を置き，1664年(寛文4)諸藩にも宗門改を実施させて五人組の手形をとらせた。また，1671年宗門人別帳がつくられて毎年行なわれ，特に九州地方は厳重で，長崎などでは踏絵も行なわれた。しかし，証明を僧侶にまかせたための弊害も多く，僧侶の堕落をも導いて形式化した。1869年(明治2)神社による氏子改に変えられたが，全国的に実施するに至らず，1873年キリシタン禁制の高札取り除きによってこの制は終わった。➔寺請制度〔岡山泰四〕

じゅうや【十夜】⇨お十夜

しゅうやくのうぎょう【集約農業】粗放農業に対して集約度の高い農業をいい，単位面積あたりの土地に投下される資本量や労働量の多いことを意味する。一般に交通便利な都市周辺では農耕地面積が少なく，地価も高い反面市場に近いため，花卉(かき)・野菜などの価格の高い農産物の栽培が可能で，集約的な農業が営まれている。

しゅうゆ【終油】カトリック教会の秘跡の一。病気などで死期の近い信者に施される。告解ののちに司祭により聖香油で身体に十字架をしるしながら授けられる。死の恐怖に打ち勝つ力を与えるためと同時に祝福の意味もある。

じゅうゆ【重油】原油中の最高沸点留分(約300℃以上)として得られる石油製品。わが国では用途によりA重油・B重油・C重油の3種に分けられ，この順に粘度・凝固点が高くなる。原油を常圧蒸留し，軽油までを留出させた残査油がだいたいC重油にあたり，A重油・B重油はC重油に軽油を適度に調合して製造される。主としてA重油・B重油は大形ディーゼル機関用燃料，C重油はボイラー用燃料として用いられる。このほか重油はクラッキング原料，水素の製造原料，印刷インキの製造原料などにも用いられる。

重油は石油製品中最もイオウ分が多く，特にわが国で多く輸入されている中東原油から得られる重油に多い。これが燃焼すると二酸化イオウとなり公害の原因となるため，近年重油の脱硫が問題になっている。軽油以下の留分では水素化精製により比較的簡単に脱硫できるが，重油の水素化精製はアスファルト分が触媒の活性を低下させるため，かなり困難である。現在ではイオウ分約4%以上の中東系重油は，直接的または間接的に水素化精製してイオウ分を1.7%程度まで低下させている。〔原　伸宜〕

しゅうよう【収用】公共の利益となるべき事業を行なう目的で国が公権力の行使により強制的に私人の財産権を取得すること。土地収用，農地の強制買収のほか，動産所有権も収用の対象となる。憲法は私有財産について正当な補償のもとにこれを公共のために用いることができる旨規定しており，収用によって生じた私人の損失を国は正当に補償しなければならない。➔国家補償

じゅうようし【重陽子】重水素の原子核で原子番号1，質量数2，陽子1個，中性子1個からなる安定なもの。陽子の同位体。デューテロンともいう。質量は2.0141質量単位，結合エネルギー2.224MeV，スピンは1，磁気モーメント0.857409，核磁子をもちボーズ統計に従う。1932年，ユーリーは重水を分離し，水素の同位元素である重水素を発見した。自然界での陽子との存在比は0.015%である。

重陽子は核子二つからなっているので，理論的には二体問題(ニュートンの万有引力の法則に従う2質点の運動を研究する学問)として比較的に正確に扱うことができるから，核力の問題を解く一つのかぎとなる。π中間子との反応のようすから，重陽子のよく知られている性質を使って，π中間子の特徴すなわちスピンは0，偶奇性(パリティ)は奇であることがわかった。さらに，素粒子の研究で中性子との反応を調べる際，中性子を単独で標的にできないので，重陽子(重水素標的)を用い陽子(水素標的)との反応の分を差し引いて中性子の反応とすることができる。また，サイクロトロンなどで加速して原子核にあて，その反応を調べるのにも用いられる。〔福井崇時〕

じゅうようぶんかざい【重要文化財】1950年(昭和25)施行された文化財保護法に

よって，それまでの有形文化財(建造物・絵画・彫刻・工芸品・古文書・書籍・典籍・民俗資料・考古学資料など)のうち，特に重要なものとして文化財保護委員会がその保護・管理のために指定したもの。従来の国宝はすべて重要文化財として指定されたが，現在は重要文化財のうちで，特に文化的価値の高いものは国宝に指定されている。➔国宝　〔高崎徳次〕

じゅうよんかじょうせんげん　**【十四か条宣言】**　1918年1月8日アメリカ大統領ウィルソンが議会で発表した第1次世界大戦の講和条件。すでに1917年1月22日ウィルソンは〈勝利なき平和〉演説で戦後世界の平和の基礎条件を明らかにしていたが，同年末ソ連革命政府がロシア・連合国間の秘密協定を公開したのに対して，合衆国はその戦争目的を明示し，ドイツの士気低下をねらったもの。内容は①秘密外交の廃止，②公海自由の原則，③通商障壁の撤廃，④軍備縮小，⑤植民地要求の調整，⑥ロシア領土の回復，⑦ベルギー領土の回復，⑧フランス領土の回復，⑨イタリア国境の調整，⑩オーストリア・ハンガリーの自治，⑪バルカン諸国の領土回復，⑫トルコ少数民族の保護，⑬ポーランドの独立，⑭国際連盟の結成。宣言は世界的に歓迎され，ドイツも1918年10月〈14か条〉による休戦を申し入れ，11月実現した。1919年パリ講和会議で対ドイツ和平草案となったが，その理想主義的・楽観主義的内容のため連合諸国の現実主義的政治利害との対立をきたし，多くの変更を余儀なくされた。➔ベルサイユ条約　〔折井一彦〕

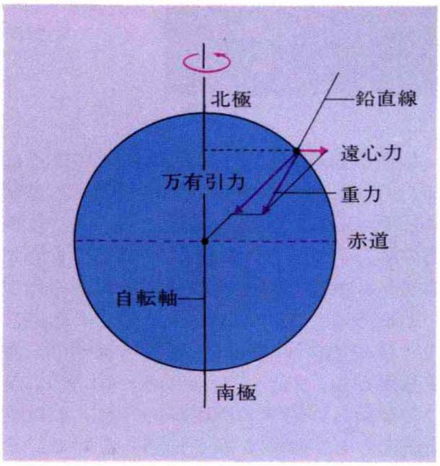
じゅうりょう　**【銃猟】**　銃器を用いて狩猟を行なうこと。法規上は乙種狩猟といい，これを行なうには乙種狩猟免許を受ける必要がある。文明国家における現代の狩猟は，大多数が銃猟である。銃猟に用いられる銃器は散弾銃が最も多く，次いでライフル銃で，このほか，空気銃・圧縮ガス銃・猟用ピストル・麻酔銃などの猟用銃器があるが，これらの銃器による狩猟は，通常銃猟とはいわれない。銃猟は，①見えている獲物に接近して狙撃(そげき)する方法，②獲物のやって来るところに待ち伏せしていて撃つ方法，③隠れ潜んでいる獲物を追い出して逃げ延びようとするところを撃つ方法，④獲物の潜んでいそうな場所を勢子(せこ)やイヌに捜索させ，追い出さして迎え撃つ方法に大別できるが，④では大仕掛けな共同狩猟の形態をとることになる。➔狩猟〔白井邦彦〕

じゅうりょうあげ　**【重量挙げ】**　⇨ウエート-リフティング

じゅうりょうコンクリート　**【重量コンクリート】**　見かけ比重が3.0〜4.8のコンクリート(普通コンクリートは2.2〜2.4)。主として原子炉の遮蔽(しゃへい)用コンクリートに用いられる。セメントは普通セメントであるが，骨材として鋼塊・各種鉄鉱石が用いられる。硬化時の収縮によるひびわれ防止や骨材の比重が大きいなどのため，注入工法によって施工する。なお，中性子の減速には比重が大きく，水を含むコンクリートがよい。　〔神山　一〕

じゅうりょうぜい　**【従量税】**　⇨従価税

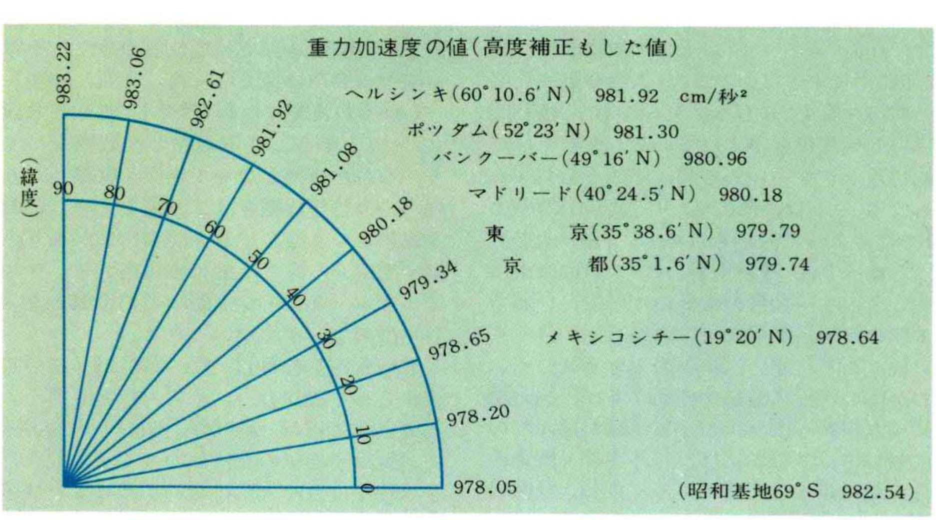
じゅうりょく　**【重力】**　地球上ではすべての物体に下向きに力が働いている。この力を重力，その大きさを物体の重さという。重力の生じるおもな原因は，地球が地表上の物体に及ぼす万有引力である。地球が完全な球で密度も一様ならば，理論上この力はつねに地球の中心に向かい，その大きさは物体の質量に比例し，場所によらず一定である。しかし，実際には地球が赤道の方がややふくらみをもった扁平(へんぺい)な回転楕円体(だえんたい)であるため，この力は赤道の付近では南北両極の付近に比べてやや小さい。また地表の地形，海面からの高さ，地中の岩石の成分などの影響によってもわずかな変化がある。重力のもう一つの要素は地球の自転による遠心力である。これは南北両極を結ぶ地球の自転軸と直角に外方に向かって作用し，その大きさは自転軸からの距離に比例するので，赤道上で最も大きく，両極では0となる。重力は万有引力と遠心力の合力として定まる。その大きさは上記のように場所によってわずかに異なるが，およその大きさは質量1kgの物体に対して9.8ニュートンである。またその方向は図に示すように地球の中心に対してやや傾いた方向である。糸でおもりをつるして静止させたとき糸の示す方向はこの方向で，これを鉛直方向という。質量1kgの物体に働く重力の大きさを1キログラム重，質量1gの物体に働く重力の大きさを1グラム重とよび，重さの単位とする。これは一般に力の単位として使われることもある。➔重力加速度　〔有山正孝〕



重　力

じゅうりょくかそくど　**【重力加速度】**　重力によって物体に生じる加速度。重力は物体の質量に比例するので，運動の法則によって重力加速度は物体の質量とは無関係に一定である。したがって，地球上で場所による重力の相違を比較するには重力加速度によるのが便利である。図は世界各地における重力加速度の測定値を示す。重力加速度を測定するには，直接に落体の加速度を測定する方法，振り子の周期を精密に測定して算出する方法，精密なばねばかりによって重力を測定し，それから決定する方法などがある。　〔有山正孝〕

じゅうりょくけい　**【重力計】**　重力の大きさを測定する装置。重力の絶対値を求める絶対測定はきわめてむずかしいので，ふつう重力の測定には絶対測定の行なわれた基準点(現在はポツダム)の重力との相対値を求める相対測定(比較測定)が行なわれる。測定は，①おもりをつるしたばねの伸び，②真空中での物体の自由落下，③振り子の振動周期，④ばねの振動周期，⑤毛細管での水面の上昇，⑥回転する容器内の水面変化などの観測に基づくが，重力計としては一般に①の現象を利用した装置が用いられる。この方式では，ある物体に働く重力と



重力加速度

ばねの弾性力とをつり合わせて，ばねの伸びから重力を求める。相対誤差10^{-9}～10^{-10}で測定できる小形の装置が開発されて，陸上でも海上でも測定ができる。〔堀福太郎〕

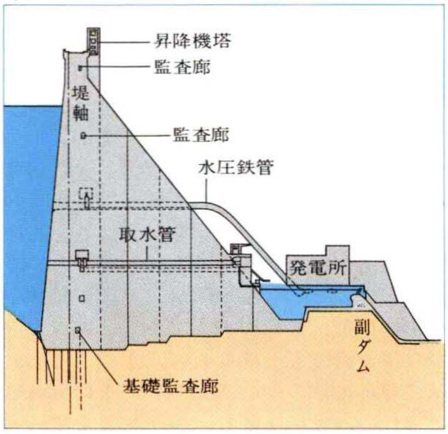
じゅうりょくダム　**【重力ダム】**　ダム自身の重さで外力をささえているコンクリートダム。外力としては，①池水の水圧，②堆積(たいせき)土砂の土圧，③堤底浸透水の浮力，④地震による慣性力などである。これらの外力に対してダムは，転倒しない，滑動しない，堤体コンクリートが破壊されないような大きさに設計される。その結果，横断面形は上流面がほぼ鉛直，下流面が0.7～0.8：1の傾斜の三角形となる。高いダムでは堤底の面積が大きくなるので20m×30mぐらいの広さに区画し，その区画ごとに交互にコンクリートを打って立ち上がる(柱状工法)。それでもコンクリートは硬化熱を自然に放散することが困難であるから人工冷却を行なう。わが国では，1955年(昭和30)ごろから天龍(てんりゅう)川の佐久間ダム*をはじめとして高ダムが続々誕生し，世界有数の重力ダム王国となった。その最高は只見(ただみ)川の奥只見ダム*(高さ157m)である。➔ダム　〔米屋秀三〕

じゅうりょくたんいけい　**【重力単位系】**　長さ・重さ・時間を基本単位*とし，これから誘導される力学的な量の単位を合わせた単位系。同一物体の重さは場所によって変わるので，この単位系は絶対単位系ではないが，一定の場所で考えるかぎりでは実用上かえって便利な場合もあるので，工学ではしばしば用いられる。長さの単位を1cm，重さの単位を1g重(質量1gの物体に働く重力の大きさ)，時間の単位を1秒とする単位系をcgs重力単位系という。〔有山正孝〕

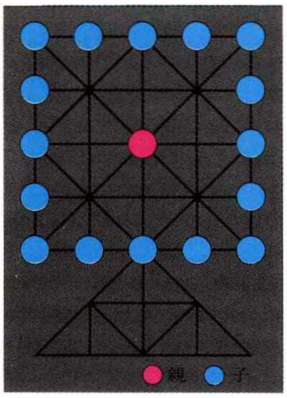
しゆうりん　**【私有林】**　国有林・公有林以外の森林。わが国の私有林は1,400万ヘクタールで，全森林面積の57%を占める。所有主体は林家・会社・団体・社寺・慣行共有などきわめて多様である。私有林の約半分は林家所有であるが，林家270万戸のうち8割までが3ヘクタール未満の零細所有で，100ヘクタール以上の大規模所有は約2,000戸にすぎない。また，入会林野的性格の慣行共有も160万ヘクタールあり，権利関係の近代化が要請されている。会社有林が約70万ヘクタールあるが，そのうち約60万ヘクタールは，500ヘクタール以上所有の130社によって占められる。〔野々村豊〕

しゅうりん　**【秋霖】**　6～7月の梅雨*に対して，9～10月の雨期のことで，いわゆる秋の長雨。9月10日ごろから1か月ぐらい続くことが多い。梅雨のときと同じく，わが国の南岸に前線が停滞するが，梅雨期には九州から関西にかけて活動が盛んなのに対して，秋霖期にはむしろ中部・関東から東北にかけて活発である。なお，秋霖のときの豪雨は台風によることが多い。

しゅうれん　**【収斂】**　⇨収束



重力ダム　標準横断面図(小河内ダム)



十六武蔵

しゅうれんけい　**【周濂渓】**　(1017～1073)　中国，北宋(ほくそう)の儒教哲学者。濂渓は号で，名は敦頤(とんい)。湖南省の人。江西省の地方官回りののち廬山(ろざん)のふもとに隠居し，慶暦年間の士風革新運動からは遠いところにいた。しかし，その悠々自適(ゆうゆうじてき)の生活の裏には，道教*と禅学の素養を基礎とし，主として《易経*》と《中庸*》に基づいた新しい儒学の構想があった。彼は実践道徳として無欲と静を強調している。その著作と伝えられる《通書*》《太極図説*》を朱子が高く評価し，孔子・孟子(もうし)以来絶えていた道統の心伝を継承した人と称し，道学*(新儒教)の祖として位置づけた。それ以来彼の名声は高くなった。〔西　順蔵〕

しゅうれんやく　**【収斂薬】**　細胞や漿液(しょうえき)と結合して不溶性の沈殿物をつくり，これが被膜となって局所を保護したり，局所の血管を収縮させて分泌を止め，組織を乾燥させる薬。止血・防腐作用があり，傷・潰瘍(かいよう)・下痢止めに用いる。アルミニウム・亜鉛・ソウ鉛などの金属とタンニン酸の塩が多く用いられる。

じゅうろくむさし　**【十六武蔵】**　江戸時代からある遊びの一。十六六指とも書く。図のように親が一駒(こま)，子が十六駒あって，親は子と子の間にはいって子を取り，子は親をはさんで動けないようにすれば子の勝ちとなる。図の下にある三角形は牛部屋とか雪隠(せっちん)といい，そこに親を追い込めば，〈雪隠詰め〉といってたいてい親の負けとなる。平安時代に中国から伝来した八道行成(やさすがり)を変形したものといわれる。〔渡辺欣雄〕

しゅうろん　**【宗論】**　狂言の曲名。大蔵流・和泉(いずみ)流にある出家狂言。身延山から帰京する法華宗(ほっけしゅう)の僧と善光寺から下向する浄土宗の僧(シテ)とが道連れになるが，宗旨は犬猿(けんえん)の仲であるので，論争が起こる。法華僧は別れようとするが浄土僧はどうしても離れず，しつこく宗旨を変えろと迫る。法華僧も応酬するものの形勢利あらず，路傍の宿屋にはいると浄土僧もついてきて同室し，宗論をいどむ。その中で，ともに〈随喜〉と〈芋茎(ずいき)〉とを取り違えたり，〈罪〉と〈菜〉の語呂(ごろ)合わせを述べたてるといった滑稽(こっけい)珍妙な説法をし，互いにあきれて寝てしまう。目ざめると今度は読経比べとなり，ついには両者ともに立ち上がり，踊り念仏で〈なもうだ〉〈れんげきょう〉とわめきたてるが，そのうちふと気がつくと浄土宗の名号と法華の題目を取り違えている。ふたりはそこで仏法に隔てのないことに気づく。中世仏教として対立していた浄土・日蓮(にちれん)両宗の争いを風刺したものであるが，演出・演技のすべてにわたって剛と柔を対照させている点が興味深い。〔片桐　登〕

しゅうわいざい　**【収賄罪】**　公務員または仲裁*人(仲裁契約に携わる私人)が，その職務に関して賄賂(わいろ)を収受・要求・約束することによって成立する罪。刑は3年以下の懲役(刑法197条1項)。この場合，職務に関する請託(依頼)を受けて収賄したときは刑が加重される(受託収賄罪，5年以下の懲役)。そのほか，就任前に請託を受けてあらかじめ賄賂を受け取ったうえ就任した場合は〈事前収賄罪〉，辞職後職務上の礼として賄賂を受け取った場合は〈事後収賄罪〉，直接賄賂を受け取らなくても，請託を受けて第三者に賄賂を供与などさせた場合は〈第三者供賄罪〉，公務員が請託を受け他の公務員をして職務上不正な行為をなさしめるよう斡旋(あっせん)し，また斡旋したことの報酬として賄賂を収受・要求・約束した場合は，〈斡旋収賄罪〉(1958年新設)が成立する(いずれも3年以下の懲役)。なお，公務員・仲裁人が賄賂を受けて不正行為をし，職務上不正行為をした礼として賄賂を受け取ったり要求したりした場合は，枉法(おうほう)収賄罪として刑が加重(1年以上の有期懲役)。賄賂とは，職務に関する行為の対価としての不法な利益のことで，金品に限らず広く人の需要・要求を満たすいっさいの利益をさす。賄賂は，判決によって没収され，もし賄賂が消費された場合は，それ相当な対価が追徴されることになる。➔贈賄罪

〔井上公耳〕

じゅえきしゃふたんのげんそく　**【受益者負担の原則】**　受益者負担とは，国や地方

公共団体などの行なう事業によって，特別の利益を受けるものが，その受益の程度に応じて負担する金銭納付義務をいう。したがって受益者負担の原則によって賦課される金銭納付義務は，その特定事業に要する経費の全部または一部を，その事業に特別の関係を有するものに，その受益の程度に応じて負担させるのであって，不特定の経費にあてることを目的とし，一般の人々に広く賦課する租税とは異なっている。しかし，この場合でも，限定された範囲であるとはいえ，強制的に賦課されるという点では，むしろ目的税に近いといえる。〔西野義彦〕

しゅおん　【主音】　音楽理論用語。トニック・トニカともいう。調(調性)を決定する音階音のうち最も重要な中心音をいう。実際の曲の中では，しばしば開始音・終止音として使われ，曲中に現われる回数も合計持続時間(音価)も大であるのが普通である。和声に基づく音楽の場合には主和音(ド-ミ-ソ)の根音としての機能をもつ。機能和声*法の概念から離れて音組織の中心音としてトーナル-センターという用語をあてはめることもある。〔山口　修〕

しゅが　【珠芽】　⇨むかご

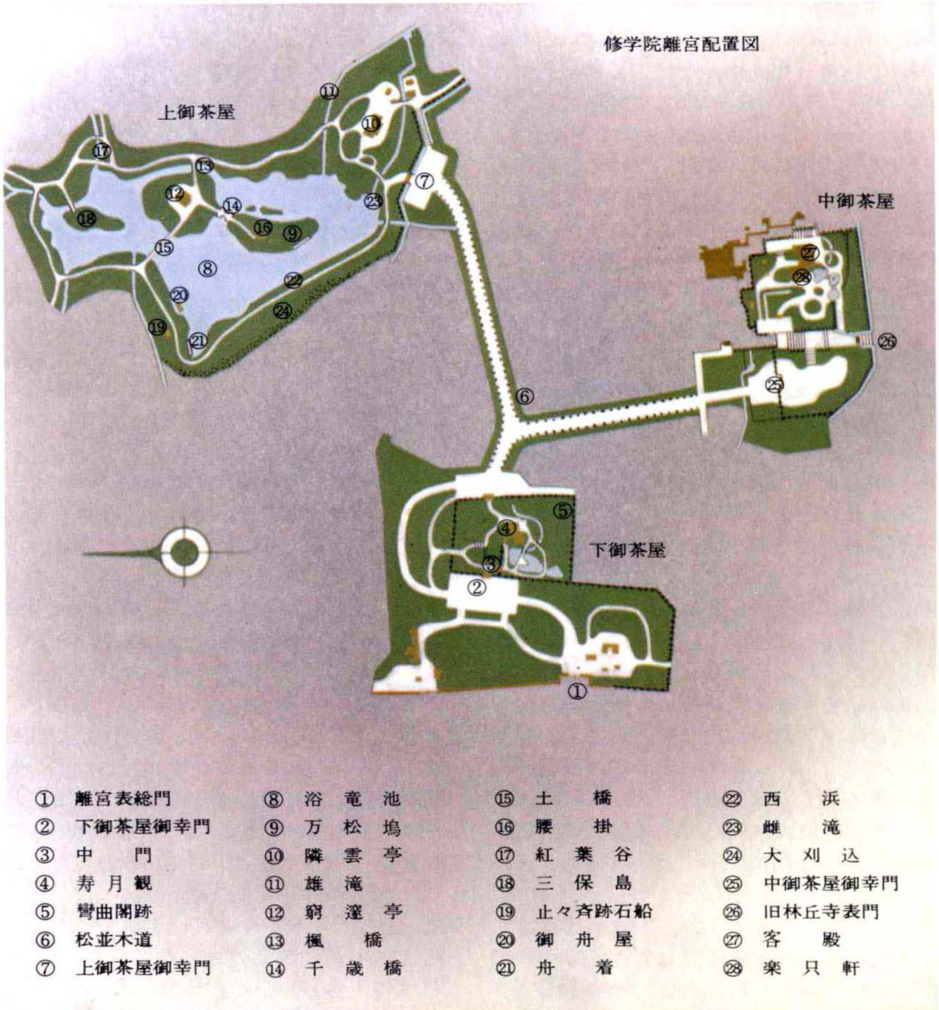
じゅか　【儒家】　⇨儒教

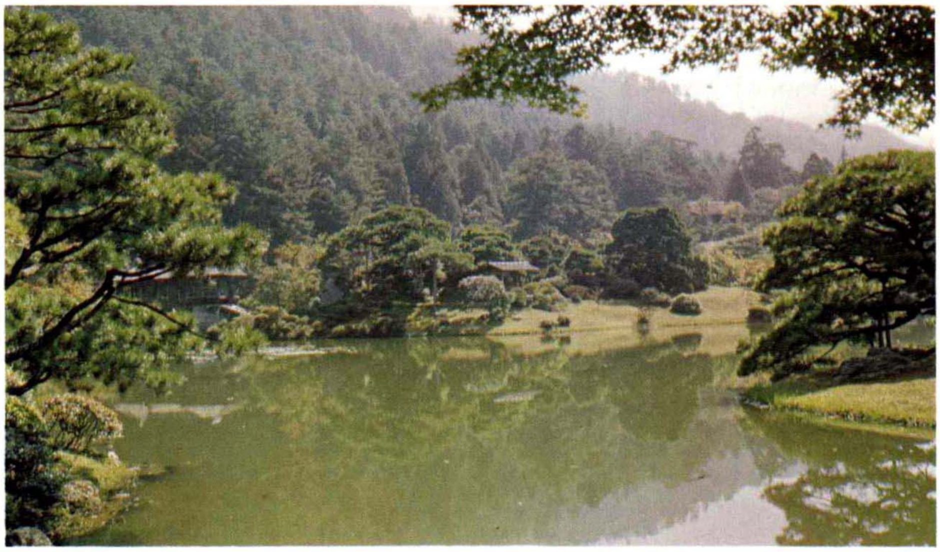
じゅかい　【受戒】　仏の戒*を受けること。本来は出家して比丘(びく)や比丘尼の教団にはいるときにその規定(→具足戒)を遵守するという誓いを立てることをいう。この受戒は出家の際の必須(ひっす)条件であるが，その作法(儀式)は大乗仏教と小乗仏教では異なる。受戒は授ける側からは〈授戒〉といわれる。また，出家しなくとも三宝*へ帰依し五戒*を守れば在家の信者となれる。現在，授戒会といえば在家者へ集団的に戒を授ける儀式をいう。〔岡部和雄〕

しゅがいねん　【種概念】　論理学の用語。ある概念がより普遍的な他の概念に包括されるとき，すなわち前者の外延全体が後者の外延にその部分として含まれるとき，前者を種概念，後者を類概念という。〈動物〉は〈生物〉の種概念であり，より普遍性の小さい下位概念〈脊椎(せきつい)動物〉に対しては類概念となる。類概念のすぐ下位の概念を最近種，もはや類概念となりえない最下位の概念を最下種(最低種)という。また，同一の類概念に属する諸々の種概念を同位概念という。〔石倉恒之〕

じゅがく　【儒学】　⇨儒教

しゅがくいんりきゅう　【修学院離宮】　徳川幕府が造営した後水尾上皇の別荘。修学院の地名は平安時代に佐伯(さいき)公行が比叡(ひえい)山の僧勝算に帰依して建立(こんりゅう)した寺の名を伝えるもの。京都の東北部，比叡山の西南麓(ろく)に接し，背後に御茶屋山を控えた景勝の地を占め，山腹から山すそにかけて上・中・下の独立した三つの御茶屋(おちゃや)を配する。1656年(明暦2)に造営に着手し，1659年(万治2)には上の御茶屋と下の御茶屋が完成した。のち一時荒廃して多くの建物が失われたが，1822～1824年(文政5～7)光格上皇のために幕府が復興し，庭園も改造された。1884年(明治17)宮内省(現在の宮内庁)に移管されて離宮となった。中の御茶屋は1668年(寛文8)第8皇女朱宮光子(あけのみやてるこ)内親王のためにつくられた朱宮御所が，のち林丘寺門跡となっていたのを，1885年境内のほぼ半分を離宮に編入したものである。上の御茶屋は，山腹に大規模な堰堤(えんてい)を築いて二，三の谷川をせき止め，近くの音羽川の水を引いて滝を落とし，水面に出た尾根を中島とした広大な浴龍池(よくりゅうち)を中心とする回遊式庭園である。池のまわりには東南の高




修学院離宮

所に隣雲亭(りんうんてい)，最大の中島の頂に窮邃亭(きゅうすいてい)があり，北西岸には止々斎(ししさい)があった。止々斎は上の御茶屋では最も大きい茶亭であったが，1709年(宝永6)に仙洞(せんとう)御所*に移され，1788年(天明8)の火災で焼失した。これら三つの庭園建築は桂離宮*(かつらりきゅう)の茶亭と同様，煎茶式(せんちゃしき)の三店様に利用され，止々斎へは南岸の舟着きから舟で渡るのが通例であった。各亭からの池の眺めがすぐれているが，特に隣雲亭からは北山・西山をはじめ京都盆地を広々と見晴らすことができる。また山腹と堰堤をおおう大刈込(おおかりこみ)のみごとさもほかに比類がない。下の御茶屋は上皇の御幸にあたって御座所にあてられた寿月観を中心とした遣水(やりみず)と小池の庭で，こぢんまりとまとめられている。中の御茶屋も庭園は遣水が一段低い小池にそそぐ同様のしつらえであるが，ここでは東福門院(後水尾上皇の皇后)の没後，女院御所の奥対面所を移建した客殿と，朱宮御所の最初の建物であった楽只軒(らくしけん)が残されて，室内には見るべき意匠が多い。ことに客殿一の間は東福門院の華麗な好みを伝え，霞棚(かすみだな)が名高い。離れた三つの御茶屋の間は水田で，もとはあぜ道づたいに行き来していたが，離宮になってから現在の松並み木道が設けられた。〔村岡 正〕

しゅかん【主観】 〈サブジェクト〉の訳語で，客観*と相関する語。主体*が行為の立場から考えられるのに対して，主観は知識の立場から考えられる。〈サブジェクト〉は下におかれたもの(基体)の意味をもち，性質・状態をになう客観的なものであったが，近代にはいって実体*が主体ととらえられるとともに意識作用を意味するに至った。個人の心理的・人格的主観は生理的・歴史的条件の影響を受けるので，〈客観性〉に対して〈主観性〉といわれる。カント的認識論では，主観は超個人的論理的意識となり，客観を認識の上で成立させる根拠となる。さらに超個人的主観は形而上学(けいじじょうがく)化されて客観を産み出すものとなった。このような超個人的主観は空虚であり，主体のもつ真実性からは遠い。〔中川 誠〕

じゅかん【樹冠】 樹木の枝葉の茂っている部分。原語のドイツ語のクローネが用いられることもある。その形は孤立木と林木で大いに違い，林木でもその林の密度によって違ってくる。また，樹種によっても異なる。林のように多数の樹冠が互いに相接している場合，その全体を林冠という。

しゅき【朱熹】 ⇨朱子

しゅぎょう【修行】 教えや目的の理解修得のための身体的・精神的実践行のこと。仏教では仏の悟り*の体験を実現していく過程の行為である。経典には仏の説いた真理とともに，それを修得する修行方法が説かれ，日常生活の規範や戒律，修行の段階が示されている。智慧(ちえ)の練磨・坐禅(ざぜん)・布施の行，念仏の行，経典の読誦などの修行がある。

じゅきょう【儒教】 孔子*に始まる中国の代表的思想。孔子は，人間としての生き方を，古代聖王の道に基づいて説いたが，孔子の教えを発展させたのが孟子*(もうし)・荀子*(じゅんし)に代表される儒家(諸子百家*の中の有力な一派)で，その説くところを原始儒教ともいう。この儒家思想を中核として，これに法家*や道家*などの説を取り入れた教説が，BC136年漢の武帝のとき(このころ，中国古代帝国の基調が定まった)に正統教学として指定された。そしてこの教説は，以後2,000年間，時代に適応して変容しつつも，各王朝の官吏に不可欠の教養とされ，また君主の指導精神，王朝体制のイデオロギーとして，思想だけでなく文化の全般に君臨した。この長期にわたる教説を総称して儒教という。儒教の内容は，聖王の教えやその教えを体得した聖人孔子の教えを学習することであるから，これを儒学といい，またこれらの教えは経書*に具体化されているから，儒学はすなわち経学*であるといいうる。原始儒教における思想的中心問題は，善とはなんであるかにあった。この問題の代表的解答者が孟子と荀子である。孟子は，①人間に天賦の〈性*〉が善である，②被治者(人民)の福祉が善であるとするもので，いわば〈下から〉の考えであった。荀子は，①〈性〉を規制する〈礼*〉が善である，②礼は聖人が作制するというもので，〈上から〉〈外から〉の考えである。しかし，これら両者に共通な点は，①人間における善は〈天*〉の道に合致するという〈天人一致〉の思想，②善の具体的規定が閉鎖社会である国家における君臣・父子・夫婦などの上下秩序であり，それがすなわち天の道であり，また人の道であるとすること，③この秩序は人間の内面と外部とを共通に支配すべき〈政教一致〉の教えであるとすることにあった。

王朝中国の支配的イデオロギーとしての儒教は当然のこととして荀子流の〈上から〉〈外から〉の権力主義の型に属したが，これに対抗しながら権力支配の過激化を防止・改良する役を果たしたのが，孟子型の〈下から〉〈内から〉の民本主義の流派であり，儒教史は両派の対抗・相補によって貫かれているが，それによって形成された世界は，〈天〉の下に従属し独自性を奪われた人間の世界であった。その世界に君臨してこれを支配するのは〈天命〉を受けた天子であり，天子に支配される世界は〈天下〉であり，天下の秩序は五倫*であり，そして個人は五倫の中の一構成分子としてのみ存在すると考えられたのである。儒教が2,000年間にわたって王朝体制の教学たりえたのは，儒教の聖人の権力と王朝国家の権力とが結合したためである。だから，国家権力の動揺または強化が儒教の思想活動の自由を左右し，また国家権力の歴史的性格が儒教思想の性格を規制した。

前漢・後漢を通して儒教は当時の家族的共同体秩序を模した国家体制のための思想であったが，国家権力の弱体化とともに体制秩序を積極的に展開するよりも，むしろ権力を神秘化・絶対化することに傾いた。その反面，専制権力に対する批判思想(→潜夫論，→王充)や，権力の外にあって経書を研究する民間の学(→鄭玄(じょうげん))が現われた。なお，前漢・後漢の中間にあって新の劉歆*(りゅうきん)が，従来の今文学に対する古文学を提起して整理した。三国・六朝(りくちょう)時代は国家権力の比較的弱体な時期である。儒教は，一方では老荘思想*を借りて天下秩序の抽象的な絶対化の理論をつくり，他方では経書の一義的で煩瑣(はんさ)な解釈の道をたどった。前者は玄学であり，後者は義疏(ぎそ)の学である。唐代の儒教は，この義疏の学を国が整理統一した《五経正義*》を標準にした科挙*のための学習にとどまり，思想的活動は仏教学や文学の面で行なわれた。そして，唐の中ごろようやく韓愈*(かんゆ)・柳宗元*が新しい文体をもって新しい儒教の方向を示す思想活動をなし，それが宋(そう)になってから宋学*・朱子学*に結実していく。

宋学・朱子学は，宋の中央集権的官僚政治体制に適応すべく，まず六朝・隋(ずい)・唐の思想界に大きく発展した仏教思想に対抗し，これを摂取しながら世俗的合理主義に基づく道徳的・政治的人間像を形成した。その基本はもちろん儒教の五倫・五常*であるが，これを個人の道徳意識論にまで深めつつ，その根源を〈天〉に置くところの新しい〈天人合一〉の哲学を展開した。同時に，その五倫道徳はきびしさと深みを加え，特に国家道徳を強調する〈大義名分〉論が唱えられた。宋学の道徳意識論・天人合一論は，心性理気の概念による哲学論にまで発展し，朱子学に対抗する陸象山*や王陽明*の哲学的道徳論をも生み出した。ここから理気心性の学とか宋明学という名称も生まれている。これらは儒教経学としては，道徳規範や政治術を常識的に説いた五経を中心としてそれを解釈する従来の経学に対し，むしろ道徳的心術や政治論をやや理論的・系統的に説いた《四書*》を中心とする経学である。また自然と人事を一つの宇宙論として論じている《易経*》も重要経典となっていた。

明末に陽明学の主観主義が極端になって，人間の自由と既成の道徳や秩序を無視する傾向が生まれ，李卓吾*(りたくご)らが現われた。他方，心術と論理の厳格さを誇った朱子学は末梢(まっしょう)的な反省や概念の穿鑿(せんさく)に陥った。それに対する反動が，腐敗した政治によって崩壊した明朝に代わって登場した満州族の清朝(しんちょう)の初期に，いわゆる明末清初の学として現われた。すなわち，王船山*・顧炎武*・黄宗羲*(こうそうぎ)らの学風がそれで，彼らは道義を確立するための

厳密な思索，経書・史書の正確な読解，これらに基づく政治道徳や文明一般に対するきびしい批判などを行なう学風を築きあげた。清朝の盛期になるとその初期の緊張が失われて，経史の正確な読解のみが追究されるに至った。閻若璩(えんじゃくきょ)の文献批判，戴震・段玉裁の文字・音韻の学(→小学)などがそれである。これらは宋学に対して漢学とよばれ，その主たる経書は五経であって，彼らはそれを正しく読むことによってそこにしるされている文物典章を知ろうと努めた。そして，これこそが聖王の道であると考えた。これは古文学であったといえる。

清朝末期，西洋文明の中国侵略に伴い，儒教にも再び政治道徳的緊張が要求され，春秋公羊学(くようがく)の復活の形で政治論議が起こった。清の王朝体制の腐敗と中華の伝統文明の対外的弱体が明らかになっていく中で，儒教は王朝的体制の維持のための思想となることに努力し，中体西用論(中華維持のために西洋技術を利用する)やさらに康有為らの変法論(皇帝と教主の指導のもとに，政治など文明の全部を〈近代化〉する)が案出されたが(→公羊学派)，これらの試みは失敗し，ついに辛亥(しんがい)革命によって満州族支配・王朝支配が転覆するとともに儒教もその2,000年間の正統的教学の地位を失った。しかし，辛亥革命が直ちに中国民族の回生でなかったように，儒教はなお中国社会に生き長らえていた。袁世凱(えんせいがい)は康有為らとともに孔子教(儒教)の正統的地位の復活を図ったりしている。これらの試みは，1919年の五・四運動に先だつ陳独秀や胡適(こてき)らの新文化運動によって，思想的にほとんど徹底的な打撃を受けた。しかし，国民党政府になってからもなお，蔣介石(しょうかいせき)治下の中国本位文化運動などの中に儒教は生きて，1949年の中国解放まで続いたといえる。

なお，儒教はかつて中国文化圏内にあった日本・朝鮮・安南などでも，そのいわゆる近世においては正統的教学の地位を有していた。→中国哲学　〔西　順蔵〕

しゅくいんめい　【祝允明】　(1460～1526)　中国，明(みん)代の書家。字(あざな)は希哲。江蘇長洲(こうそちょうしゅう)の人。右手の指が1本多かったので，枝指生・枝山と号した。1492年の進士。魏(ぎ)・晋(しん)の風をよくし，楷書(かいしょ)は岳父の李応禎(りおうてい)，草書は外祖父の徐省禎に学び，両者の長を兼ねて一家を成したといわれる。平生，酒を愛し，俗を憎み，晋の風度を慕って放縦な生活を送った。晩年，狂逸な草書を書き，世上にもてはやされた。　〔中田勇次郎〕

じゅくご　【熟語】　いくつかの単語(の成分)が合して一つになり，全体としてまとまった意味を表わすもの。①2字またはそれ以上の漢字で構成された漢語。〈平和〉〈新憲法〉〈東西南北〉など。②複合語のうち，同じ成分のくり返しによる畳語を除いて，異なった成分が複合してできた一般の複合語。〈血止め〉〈上り下り〉〈受け取る〉など。③慣用句，イディオム。〈はらがたつ〉〈火の車〉など。

しゅくごう　【宿業】　仏教で，宿世(過去世)においてつくった善悪の業のこと。現在の境涯(きょうがい)・果報のすべては過去の結果として決定されており，現実の結果を人為によって変更することはできないとする一種の宿命論の基礎概念である。→因果

しゅくごうアゾがんりょう　【縮合アゾ顔料】　⇨アゾ顔料

しゅくごうじゅうごう　【縮合重合】　高分子生成反応の一。重縮合または縮重合ともいう。2種以上(同一物であってもよい)の有機化合物が，簡単な化合物を放出しながら，互いに結合して新しい化合物となる反応を縮合という。酢酸とアルコールから酢酸エチルエステルを生成する反応はその典型的な例である。

$$CH_3COOH + C_2H_5OH \rightarrow CH_3COOC_2H_5 + H_2O$$

酢酸　エチルアルコール　酢酸エチル　水

縮合反応を行なうことのできるグループ(官能基)を二つもつ低分子化合物(二官能性化合物)は，他の二官能性化合物との間の反応で，縮合をくり返し，高分子化合物を生成する。同一の化合物がそれ自身で重縮合を行なう場合を特に自己重縮合とよぶことがある。縮合重合反応は段階的に進行し(逐次反応)，分子量も時間とともに徐々に増大し，しかも重合系内には大小さまざまな重合度のものが共存していることが特徴である。6.6-ナイロン・ポリエステル・アルキド樹脂・不飽和ポリエステルなどの製造にこの反応が利用されている。→高分子 →重合　〔伊藤　卓〕

しゅくこんしょくぶつ　【宿根植物】　園芸用語で，多年草のこと。冬寒くなるまえに地上部は枯れ，翌年に養分をたくわえた根や地下茎などから芽を出す。

しゅくさいじつ　【祝祭日】　広くは祝典・祭典の行なわれる日をいう。第2次世界大戦前は国家的慶祝・祭祀(さいし)を行なう日として公式に定められ，祝日と祭日とに区別されていた。祝日については，1873年(明治6)政府は旧来の五節句を廃止して，新たに四方拝(1月1日)・紀元節(2月11日)・天長節(11月3日)を国家の祝日に制定した。祝日と同時に定められた祭日は，宮中で天皇みずから祭典を行なった日で，次のとおりである。元始祭(1月3日)・先帝祭(前天皇の崩御日)(1月30日)・春季皇霊祭(春分の日)・神武天皇祭(4月3日)・秋季皇霊祭(秋分の日)・神嘗(かんなめ)祭(10月17日)・新嘗(にいなめ)祭(11月23日)。また靖国(やすくに)神社臨時大祭が行なわれるようになってからは，その日が祭日に加えられた。祝祭日には，国民は戸ごとに国旗を掲揚することになったので，一般に〈旗日〉と称した。のち1927年(昭和2)新たに明治節(明治時代の天長節，11月3日)が祝日に加えられた。戦後祝祭日は廃止され，代わって国民の祝日が制定された。　〔高崎徳次〕

しゅくしゃく　【縮尺】　ある図形に相似な図形をつくるとき，相似につくった図形ともとの図形とにおいて対応する線分の長さの比。たとえば，地図は実際の土地のようすを，相似に縮めた図形によって表わすものといえる。この場合，地図上で1cmの長さになっている部分が，実際の土地では2kmであるとすれば，このときの相似比1／200,000が縮尺である。縮尺が1より小さいとき，相似につくった図形を縮図といい，縮尺が1より大きいときには拡大図という。また，縮尺が1のときには実物大の図になる。縮尺を示すには，2：5などのように比の形を用いることもあり，2／5などのように比の値を用いることもある。また，対応する実際の数値を，縮図上に数直線を用いて示すこともある。〔菊池兵一〕

しゅくしょうさいせいさん　【縮小再生産】　⇨再生産表式

しゅくず　【縮図】　徳田秋声の最後の長編小説。1941年(昭和16)6～9月，《都新聞》に連載。下層社会に生まれて芸者になり，のちに芸者屋を営む女の半生を描いたもの。日中戦争下にあって情報局の弾圧がきびしく，妥協するのをきらって筆を折ったため，未完に終わった。自然主義文学の最高峰に位置する作品の一つである。

じゅくせい　【熟成】　食品中のタンパク質・炭水化物・脂肪などが，酵素・微生物などの作用によって適当に分解し，独特の香味をおびるようになることをいう。俗に〈なれる〉ともいう。清酒・しょうゆ・みそなどの発酵食品の製造には欠くことのできない工程である。このほか，塩辛類などで〈塩なれ〉といわれることがあるが，最初食塩が強く舌に感じて塩からいのが，酵素によっていろいろな分解物が生成して食塩と調和がとれて，食塩の塩からみが薄らぐようになることをいう。　〔佐藤友太郎〕

しゅくば　【宿場】　交通上の旅宿となった集落で，宿または宿駅ともいう。平安末期から東海道・熊野(くまの)街道(京都から紀伊(きい)半島南部の熊野に至る街道)に発生し，鎌倉幕府成立後は特に東海道に発達した。河港・峠などに発生するものが多く，市場・寺院も設けられて地方の経済的・文化的中心となった。戦国時代には，武田(たけだ)・今川・北条(ほうじょう)氏などの東国大名分国にことに著しく，江戸幕府では五街道をはじめ主要街道に宿場を置き，宿場ごとに人馬を常備させて，宿泊や荷物・書状の継送業務を本陣・問屋場などに扱わせた。江戸中期以降経済の発達に伴い，多くの宿場町が形成された。　〔高崎徳次〕

しゅくへいせん　【縮閉線】　⇨伸開線

しゅくぼう　【宿坊】　宿房とも書き，宿院ともいう。信徒が遠方から本山に参詣(さ

んけい)するとき，宿泊させたり，本山と信徒の間のいろいろな世話をする坊舎のこと。比叡(ひえい)山・高野山・信濃(しなの)善光寺などでは，いまでもこの呼称を用いている。また，僧侶(そうりょ)が自分の僧房をいう場合もあり，檀家が檀那(だんな)寺をよぶときも宿坊という。

ジュークボックス ［juke-box］ 自動レコード演奏装置。コインマシンともいう。多数(ふつう100枚)のレコードを内蔵し，任意のレコードを選んで自動的に演奏させることができる。通常硬貨またはそれに代わるものを投入し，曲名を記入したボタンを押せば演奏を開始する。はじめアメリカで普及し，わが国にも輸入されたが，現在は国産化され，喫茶店・レストラン・楽器店・ホテルなどに設置されている。

しゅくめいろん 【宿命論】 ⇒運命論

ジュグラー ［Joseph Clément Juglar］(1819～1905) フランスの経済学者。はじめ医学を学び，30歳のころから経済学の研究に向かい，景気循環において9～10年の周期的波動運動が存在することを発見して統計的にこれを実証した。これはジュグラーの波動とよばれ，50～60年を周期とするコンドラチェフの波動，3年ぐらいを周期とするキチン-サイクルとともに有名である。

シュークリーム 洋菓子の一種。フランス語では〈シュー-ア-ラ-クレーム〉という。シューはキャベツの意で，皮の形からこの名がある。水とバターをなべに入れて沸騰させ，小麦粉を入れて手早く混ぜ，よく熱が通ったらおろして卵を入れる(小麦粉によく熱が通らないとふくれ方が悪い)。これを200℃の天火で約17～18分で焼き上げる。これに切れ目を入れて，カスタード-クリームまたは桜桃酒・バニラなどで風味をつけた生菓子用クリームを詰める。なお，細長いシュークリームの上にチョコレートをかけたものをエクレアという。〔泉　敬子〕

しゅけい 【主計】 軍隊の経理業務すなわち金銭・被服・糧秣(りょうまつ)・備品・営繕(施設の保全修理)などのうち，おもに金銭経理(会計)を担当する係り，およびその軍人をいう。日本陸軍では経理部将校・同准士官・下士官のうち〈主計〉という特別の資格をもつ武官を呼称した。陸軍主計中将から陸軍主計伍長(ごちょう)までの階級がある。兵の主計はない。海軍では主計科があり，海軍主計中将から海軍二等主計兵までの階級に分かれていた。〔森田　哲〕

しゅげいしゅちいん 【綜芸種智院】 828年(天長5)空海が京都に創設した学校。身分上の制約で大学・国学にはいれない者を入学させ，かつ大学・国学が儒教教育に偏しているとして儒仏2教を合わせ教授した。835年(承和2)廃絶。

しゅけいれっせい 【主系列星】 太陽とほぼ同じ程度の半径をもつ恒星。星の半径がそれほど違わなければ，表面の温度が高



修験道　修験道の修行根本道場である高尾山薬王院の火渡り。信者は行者の先導に従って火道をはだしで歩き，けがれを清め，災いを除く

いものほど明るく輝くから，ヘルツシュプルング-ラッセル図上では，スペクトル形が早期になるにつれて絶対等級がふえる斜めの系列に連なって分布している。星はその一生の大部分を主系列星として過ごし，その後巨星へと進化していく。

じゅけしんとう 【儒家神道】 江戸時代に儒者の側から唱えられた神道説の総称。江戸幕府は儒学，ことに朱子学をもって教学の基本としたため，儒教は時代思潮として脚光を浴び，多くの儒者によって神道説が盛んに展開された。その説くところの大勢は神儒一致と仏教排斥であって，著名な学者として朱子学派に林羅山(らざん)・雨森芳洲(ほうしゅう)・貝原益軒，陽明学派に中江藤樹・熊沢蕃山(ばんざん)，古学派に山鹿(やまが)素行・伊藤(いとう)仁斎らがあげられる。なお特異な立場として，古文辞学派の荻生徂徠(おぎゅうそらい)・太宰春台らは神道を否定する立場をとり，独立学派の二宮尊徳・大原幽学らは神・儒・仏の三教協調を唱えている。これら儒家神道の影響は当時の神道家の間にもおよび，その相互関係もまた重視さるべきところである。〔土岐昌訓〕

しゅけん 【主権】 国家の最高権力を意味する法学上の用語。国際関係においては，なんらかの条約による以外には他国からの制約を受けることのない独立国家を意味し，一般に主権国家とよばれている。そのような主権国家は，16～17世紀のヨーロッパにおいて絶対主義国家が神聖ローマ帝国やローマ教会に対抗しつつ台頭してくる中で形成された。元来主権学説は絶対主義国家の理論的武器であり，フランスではボーダン，イギリスではホッブズにおいてその確立をみた。主権学説によれば，国内関係においても主権はいかなる制限からも免れる最高権力であり，あらゆる集団や個人に対して絶対的優越性をもっている。そこでは主権はすべてのことをなしうる全能性を具有しているのである。そのような主権の主体がだれであるかをめぐり，君主主権説・国民主権説・国家主権説が主張された。君主主権説は絶対王政における君主の大権を正当化するために主張された。国民主権説は主権は国民にありとするもので，特にイギリスとフランスの市民階級によって主張された。ルソーとベンサムはその代表者である。国家主権説は君主主権説と国民主権説の妥協の産物であり，封建勢力が強かったドイツで主張された。

日本国憲法前文では〈ここに主権が国民にあることを宣言し，この憲法を確定する〉と国民主権が明確に宣言されている。今日の民主主義国家はすべて国民主権国家である。しかし外国の従属下にある国々や植民地・半植民地国はなんらかの形で主権を奪われており，真の主権国家とはいえない。➔近代国家　➔三権分立　〔西尾孝司〕

じゅけんしほんせいど 【授権資本制度】 株式会社において，定款に決められた発行予定の株式総数のうち一部は会社設立に際して発行するが，残余は会社成立後資金調達などの必要に応じて，その必要限度内で取締役会の決議により，いつでも新株を発行することを認める制度のこと。資本調達の便宜化のために，1950年(昭和25)の商法改正によりはじめて認められた。それ以前は新株の発行は，株主総会の特別決議により定款に決められた資本総額の変更をしなければできないことになっていた。この制度の採用により，資本調達が著しく便宜化されたが，反面，会社設立にあたってその資本的基礎が薄弱となるおそれもあるため，商法は，会社の発行する株式の総数，つまり授権資本の4分の1をくだらない数を設立に際し発行する株式数にしなければならないこととした(商法166条)。授権資本のわくを増加するときにも(定款の変更となることはもちろんのこと)，その増加分は会社がすでに発行した株式総数の4倍を越えてはならないと規定されている(商法347条)。〔松本治雄〕

しゅげんしょう 【朱元璋】 ⇒洪武帝(こうぶてい)

しゅげんどう 【修験道】 わが国の山岳信仰の一種。修験の名は《役優婆塞伝(えんのうばそくでん)》に見える〈孔雀(くじゃく)ノ呪法(じゅほう)ヲ修行セバ奇異ノ験術ヲ証得セン〉によるといわれる。山中に起臥(きが)して修行を積むことにより，特殊な呪力を獲得しようとするものである。開祖は一般に，奈良時代の葛城(かつらぎ)山の呪術者役小角(えんのおづぬ)といわれ，さらに小角の秘法を受け継ぐ行者があいついで諸国の霊峰を開いたといわれる。しかし，白山を開いた泰澄，日光の男体山を開いた勝道などに関する伝承によっても，時代はともに奈良時代とされていることから，修験道はほぼ8世紀前後に，不特定の地に不特定の教義や行法をもつ信仰として発生したものと考えられる。古来，わが国には，アマテラスオオミカミを中心神とする日本神話が示すように，太陽を万

物化育の根源と考える太陽信仰が存在していた。同時にまた，国土の大半を山岳が占めるという地勢から，山を神格化して崇拝する山岳信仰も行なわれてきた。これらの信仰はやがて平安時代を迎えて，最澄・空海によって移入された山岳仏教である密教と習合して特異な山岳宗教を形成するに至った。護摩(ごま)を焚(た)き，呪文を誦(ず)し，祈禱(きとう)を行なうなどの密教的な行法のほかに，精進・潔斎・参籠(さんろう)・奉幣(ほうへい)などの神道的な儀礼が修験道にみられるのはこのためである。

修験道における修行者を山伏(山臥)・修験者・験者(けんざ)・山法師・客僧などという。山に伏して修験の行を行なうところから山伏・修験者などと称するのであるが，はじめは山伏と修験者の称は区別されており，諸山修行中の者を山伏(修覚)といい，修行みちた者を修験者(本覚)と称した。山伏の修行の地域としては東北の出羽三山，関東の日光・大山・三峰山，中部の富士山・御嶽(おんたけ)山・白山，近畿(きんき)の大峰山・熊野(くまの)・那智(なち)・立山，山陰の大山，山陽の児島(こじま)，四国の石槌(いしづち)，九州の英彦(ひこ)山・阿蘇(あそ)山・国東(くにさき)などがある。彼ら山伏は頭髪をたくわえて結袈裟(ゆいげさ)を着し，笈(おい)を背負って手には念珠と錫杖(しゃくじょう)または金剛杖(づえ)を持ち，太刀を腰に《阿弥陀経(あみだきょう)》や《観音経》を誦する。その異様な風体は，山伏のもつ呪力とともに民衆の畏敬(いけい)するところとなり，平安時代には信仰集団として注目されるに至った。

中世以降，修験道は3派に分かれた。承和年間(834～847)，天台宗寺門派の開祖円珍が大峰山に入山して役小角の法統をうけ，その弟子(でし)増命・余慶・明尊らも大峰道場に練行した。この血脈をうけるものを本山派という。1090年(寛治4)，白河(しらかわ)上皇の熊野詣(もうで)の先達をつとめた園城(おんじょう)寺の増誉が，その功によって熊野三山検校(けんぎょう)に補せられ，聖護院を開いた。いらい行尊・覚讃(かくさん)・良瑜(りょうゆ)らが三山検校として法統を継ぎ，17世紀以降は聖護院宮が検校職をつとめた。これが本山派修験，いわゆる天台山伏である。一方貞観(じょうがん)～延喜(859～922)のころ，理源大師聖宝が大峰道場に練行して開山し，この法統を観賢・貞崇らが継いだのが，醍醐(だいご)寺の三宝院を大本山とするいわゆる当山派修験，真言山伏である。さらに出羽三山を中心とする羽黒派修験は，役小角の十大弟子のひとり黒珍が延暦(えんりゃく)年中(782～805)に羽黒山を開いたのに始まるという。

本山派・当山派・羽黒派によって形成された全国各地の修験道は，江戸時代にはいって宗教統制の必要から本山派・当山派の2派に統括され，さらに1872年(明治5)には維新政府によって廃され，真言宗・天台宗に分属させられて寺院化した。しかしその信仰は民衆生活と結びついて存続し，第2次世界大戦後は新憲法によって信教の自由が保証され，多くの修験集団が復活した。修験道における中心的な行事は，春秋2回行なわれる峰入りである。これは天と地との接点である山にはいって，天地の合一，陰陽の和合をはかることによって，万物の生命再生を示す行事である。この行事をおえてはじめて成年男子として扱う地方もあり，一種の成年式的行事とされているのは峰入りの再生儀礼的要素を示すものである。
〔佐野文哉〕



珠　江　広東デルタを流れる珠江下流の風景　特有の帆を張ったジャンクは，いまもなお物資輸送に重要な役割を果たしている

しゅご【守護】鎌倉幕府・室町幕府が諸国に設置した治安維持・武士統制のための地方官の職名。1185年(文治1)源頼朝(よりとも)は大江広元の献策を用い，弟の義経(よしつね)の追捕(ついぶ)を名目に，国ごとに守護を，国衙(こくが)領・荘園(しょうえん)ごとに地頭を置く勅許を得，御家人(ごけにん)を守護・地頭に任命した。当初その職権は大番役勤仕の御家人召集，謀反人(むほんにん)・殺害人の検断に限定され，大犯(だいぼん)三箇条と称した。しかし，1232年(貞永1)の御成敗式目では，夜討ち・強盗・山賊・海賊の検断が加えられ，室町幕府ではさらに刈田狼藉(かりたろうぜき)・使節遵行に及んで強化された。また，幕府の命令・法規を国内の御家人に下達したり，大番役以外の諸勤務の指揮・監督をすることも守護の職務であった。鎌倉幕府の初期から2か国以上の守護を兼任する場合があったが，執権政治確立後，北条(ほうじょう)氏嫡流の得宗家が独裁的傾向をおびるに伴い，北条氏一門の守護職兼任が顕著となり，鎌倉末期には全国の半ばに達した。それに対抗して豪族的家人の間にも，一族の勢力を集中するため，嫡子が全所領を単独相続する風が行なわれ，有力守護が出現した。これらの守護は任国の在地武士を従えて，その地域的結合の中核となり，また国内の荘園を侵略して封建領主化への道をたどった。南北朝時代の内乱期を通じて，この傾向は著しく，ついには領国を形成するに至った(→守護大名)。室町幕府は戦功の恩賞として守護職を任命したが，その結果数か国を領国とする強力な守護大名が現われるようになった。将軍はつねに守護勢力の統制に苦しみ，一族間の抗争や国人層の反抗を利用して有力守護の粛清をはかったが，1441年(嘉吉1)の嘉吉(かきつ)の乱後はまったく守護大名を抑える力を失った。なお守護代は守護の代官。→守護請
〔高崎徳次〕

しゅご【主語】文の成分の一種。述語に対するもので，述語の表わす属性(動作・作用・性質・状態など)の主体を表わす文節をいう。〈なにが　どうする。〉〈なにが　どんなだ。〉〈なにが　ある(ない)。〉〈なにが　なんだ。〉という場合の〈なにが〉にあたるものが主語である。主語は，いつも〈が〉を伴うとは限らず，〈なには・なにも・なにさえ〉などの形をとることもあり，〈わたし知りません。〉のように，助詞のつかない場合もある。西欧語では，主語の人称などの違いによって特定の述語が用いられるが，日本語ではそうではない。日本語の主語は，連用修飾語と類似したものと考えることもできる。日本語の文では，主語の表現されないことが少なくない。たとえば，〈あずきは，水から煮ます。〉(真理・定石などの表現)，〈本学に文学部および理学部を置く。〉(規定などの表現)，〈警察で，事故の原因を調べている。〉(当事者の表示を伴う表現)，〈入場料大人100円と書いてある。〉(ある種の状態の表現)などでは，主語はもともと表現されない。
〔市川　孝〕

しゅこう【珠江】チュー川　中国南部を流れる大河で，本流は全長1,790 km，流域面積50万km^2。上流は南盤江といわれ，雲南省東部に発して東流し，広西チワン族自治区で北からの北盤江を合わせ，さらに南西から鬱江(うっこう)を合わせて東流，梧州(ごしゅう)付近では北から桂江(けいこう)を入れ，三水で北江を合わせる。ここで分かれて広東(カントン)デルタ西端を南流するのが西江である。三水から南東に向かう本流は広州市を流れて東からの東江も合わせて，広東湾に注ぐ。本支流ともに水量は多く，流れはおだやかで，沿岸には南寧・柳州・桂州・梧州など多くの河港交易都市を形成し，広州の後背地となり，広州へは流域の農産物などが集散される。また桂江流域は石灰岩地が多く，奇岩・怪石が現われて景観には恵まれるが，航行の難所とされる。なお鬱江上流はベトナム国境友誼関方面に通じ，湖南省衡陽から湘桂(しょうけい)鉄道が桂林・柳州・南寧を経由して友誼関へ達し，北ベトナムの首都ハノイと結んでいる。
〔船越昭生〕

しゅごうけ【守護請】室町時代，守護または守護代が国衙(こくが)領・荘園(しょうえん)の年貢(ねんぐ)について所定額を請け負う制度。

武士の荘園侵略に悩んだ荘園領主は，実力ある守護または守護代に荘園権益を保全するためその管理を一任し，豊凶にかかわらず所定の年貢を請け負わせる契約を結んで年貢の確保をはかった。しかし守護側はこの契約を実行せず，かえってこれを荘園侵略の手段として用い，以後国衙領・荘園の支配権を確立するようになった。➔請所
〔高崎徳次〕

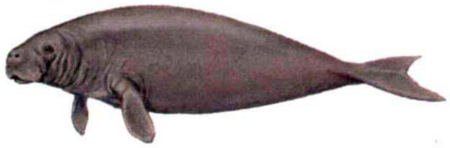
しゅごしん【守護神】人生・生活の危機に際して，個人・集団あるいは国家にまで加護を与える神。お守り*・念持仏・マスコットは個人の身を守り，氏神*は氏族，鎮守*は地域社会，国魂神*(くにたまのかみ)は国土の守護神である。王城鎮守神としては，山王二十一社(➔山王信仰)がある。仏教には《薬師経》を誦持(じゅじ)する者を守護する十二神将*や三十六部神などがある。中世以降神仏習合*が進むと，神は仏を守護する位置になり，日吉(ひえ)明神は延暦(えんりゃく)寺*，八幡(はちまん)大神は東大寺*，新羅(しんら)明神は園城(おんじょう)寺*の守護神となり，天地擁護三十番神・王城守護三十番神などが現われた。
〔藤井正雄〕

しゅごだい【守護代】⇨守護

しゅごだいみょう【守護大名】室町時代，任国を単位として領主化した守護*。守護は，設置当初から大犯(だいぼん)三箇条に限るとし，職権を限定されていたが，鎌倉末期から軍事指揮権を根拠として，任国内の武士を支配下に置く傾向を生じた。室町幕府においては鎌倉時代に比べてより広範な警察権と，守護請*や段銭*賦課を通じての経済的利得をも獲得し，任国を領国化した。しかし，本質的には荘園*(しょうえん)所職を経済的基礎としていたため，荘園制を破壊することができず，したがって，領国内の小領主支配も依然として軍事指揮権がおもな根拠であり，所領給与という封建制の本質的条件の一つを満たしえなかった。そのため，応仁(おうにん)の乱*を契機として，荘園制を否定して小領主からなり上がった戦国大名*により，その多くは没落させられた。
〔村尾元忠〕

ジュコーフスキー [Vasili Andreevich Zhukovski] (1783〜1852) ロシアの前期ロマン派の詩人。地方地主とトルコ人女性との間に生まれた。モスクワ大学を出て一時官庁に勤め，晩年皇太子(のちのアレクサンドル2世)の師傅(しふ)となった。その詩は，心理描写の微妙さ，憂愁をおびた夢想性，ロマン主義的幻想性などを特徴とする。悲歌《村の墓場》，バラード《リュドミーラ》《スベトラーナ》などの作がある。

ジュゴン [dugong] 儒艮とも書く。哺乳(ほにゅう)類・海牛目・ジュゴン科。マナティー*に似る海獣で，全長2.5〜3.2m，体重140〜170kg，雄は雌より大きい。体色は変化があるが，ふつうかっ色または灰色みをおびる。尾びれはマテナィーに似ず三日月状，前肢(ぜんし)はひれ状で幅よりも長さのほうが大，吻(ふん)の周囲には剛毛がはえる。1属1種で，紅海から東南アジア，オーストラリア北部，日本南部の暖海のみに分布し，沿岸にすむ。ふつう雄雌の2頭，あるいは3〜6頭で生活し，種々の海藻(かいそう)，浅瀬の海生の草をおもに食う。1〜10分ほど水中にもぐっていることができる。日本では沖縄・奄美大島(あまみおおしま)付近に生息し，天然記念物とされる。➔海牛
〔今泉吉典〕



ジュゴン

しゅさ【酒皶】俗に赤鼻とよばれるもの。中年以後の男子や更年期の婦人に多く，程度によって3度に区別される。鼻・ほお・前額などの毛細管が広がって皮膚がいちめんに赤くなり，紅潮の度が加わり，皮脂分泌亢進(こうしん)により油性光沢を帯びる(第1度)。毛孔に沿ってにきび様の丘疹(きゅうしん)・膿疱(のうほう)を生ずる(第2度)。さらに進むと鼻が紫紅色を呈し，腫瘤(しゅりゅう)状に肥大する(第3度)。酒・香辛料，外気の変動，精神的緊張などを避け，にきびに準ずる治療を行なう。第3度のものでは手術を要する。〔田嶋公子〕

しゅさ【種差】論理学で，ある種概念が同一の類概念に属する他のすべての種概念からみずからを区別する特徴である。〈人間〉も〈ウマ〉も〈クジラ〉も類概念〈哺乳(ほにゅう)動物〉に属する同位の種概念であり，すべて〈母乳で育つ動物〉という点で同じである。しかし，〈人間〉は〈ウマ〉や〈クジラ〉とは区別されるのであり，それは〈理性的〉とか〈直立歩行できる〉といった特有の内包，つまり種差をもつことによってである。種概念の内包は類概念の内包に種差を加えたものとされる。〔石倉恒之〕

ジューサー [juicer] 電動によって食品を摩砕・濾過(ろか)する器具。モーターを蔵した部分と，スクリュー(おろし金状の円盤刃)・遠心かごを内蔵した円筒ケースからなる。スクリューの回転数は毎分2,800〜3,500回で，材料投入口から入れた野菜やくだものはすりおろされ，遠心かごの内側に取り付けたフィルターによってかすが除かれ，しるだけが外に取り出される。

しゅざん【珠算】そろばん*を使って行なう計算。たまざんともいう。珠算という語は，漢の徐岳選の《数術記遺》に出てくるものが最も古く，6世紀ごろの甄鸞(けんらん)の注釈によれば，三つにくぎった板の上と下の部分に色を別にした玉をばらばらに入れておき，数を置くときには碁石を並べるようにしたらしい。このようなそろばんの前身ともいえるものが，いつごろから現在のそろばんのようなものになったのか明らかでないが，14世紀にはかなり用いられていた証拠がある。

中国で盛んになったそろばんとその計算法は，16世紀中ごろ以降に日本へ伝えられた。当時日本にいた宣教師ロドリゲス*は《日本大文典》(1604〜1608)の中で，日本人が行なう計算法は足し算・引き算・掛け算・割り算の4種だとしており，その割り算は八算・見一無頭算といっているから，中国で行なわれていた割り声(二一天作の五など)を使う帰除法もそろばんの伝来と前後して伝えられたとみることができよう*。

江戸時代の代表的な珠算書《塵劫記*(じんこうき)》では，割り算・掛け算が図解入りで詳しく述べられており，経済・交通の発達とともにそろばんは全国的に広まっていき，明治初年に西洋流の数学(洋算)が盛んになるまで，庶民にとって唯一の計算法であった。

1872年(明治5)の学制で珠算は小学校の教科からはずされたが，庶民の反対で翌年には洋算との併用が認められた。その後も幾多の変遷があったが，1938年(昭和13)から全国の小学校で，掛け算・割り算(九九でで行なう商除法)を含めて4年生から学ばせた。第2次世界大戦後は足し算と引き算だけが小学校で指導されたが，現在では3年生から始めて，高学年では掛け算・割り算を指導してもよいことになっている。

珠算技能の検定制度は，1928年東京市立実業学校珠算奨励会が加盟校の生徒を対象として実施したことに始まる。1931年東京商工会議所がこれを引き継ぎ，一般にも開放された。1944年からは全国いっせいに同一問題で実施され，今日に至っている。1950年には全国商業高等学校長協会，1954年には社団法人全国珠算教育連盟が前者は高校生を，後者は珠算学校・塾生(じゅくせい)を対象に実施している。1965年から世界ではじめての盲人珠算検定試験も施行されている。
〔鈴木久男〕

じゅさんじょ【授産所】正しくは〈授産施設〉という。生活保護法によると，身体上もしくは精神上の理由，または世帯の事情により就業能力の限られている要保護者に対して，就労または技能の修得のために必要な機会および便宜を与え，その自立を助長することを目的とする施設である。また社会福祉事業法によっても生活困窮者・低所得者に仕事を斡旋(あっせん)して，生活の安定を助ける事業を行なっている。

しゅし【種子】たね。子房の中の胚珠*(はいしゅ)が受精して発達したもの。普通は内部に胚*とそれを養う胚乳をもつ(有胚乳種子)が，胚乳の発達が悪くて子葉*に養分をたくわえた無胚乳種子もある。外側を種皮が包み，内部の胚を保護する。種皮は珠皮に由来し，被子植物ではふつう外種皮・内種皮の2枚からなる。デンプン・油脂を貯

蔵物質としてたくわえているものがあり，それぞれデンプン種子・脂肪種子とよばれ，発芽の際はこれら胚乳の栄養分を糖に変えてエネルギーを出し，生長する。発芽するには適度な休眠期を経過したのち，適当な水分・温度・光などがあると芽を出す。普通の草花では種子は1～2年たつと発芽率が低下する。しかし，ハスでは2,000年前と推定されるものが発芽した例がある。種子をできるだけ遠くに散布するため，風で飛ばされやすい形のもの(タンポポ・マツなど)，動物に付着して運ばれるもの(イノコズチ・オナモミなど)，果実が成熟して裂開するときの物理的なしかけで散布されるもの(カタバミ・ホウセンカなど)などがある。〔高島文三〕

しゅし【朱子】 (1130～1200) 中国，南宋(なんそう)の経学者・哲学者。名は熹(き)，字(あざな)は元晦(げんかい)，号は晦庵(かいあん)。朱子とは尊称であるが，これが通用されている。福建省に生まれ，70歳までほぼ50年間官吏の身分であったが，そのほとんどは名目上のものであり，実質上官事に携わったのは前後5回(計9年)の地方官，および65歳のとき宮中で侍講をつとめた45日間にすぎない。地方官としては，ききんを救済し，その経験によって地域的備荒施設を考案し，また地方の治安保持を図って豪家を中心として家族主義道徳に基づく〈郷約〉をつくり，また地方の学術・道徳の振興のため既存の〈書院〉を復興したりした。朱子は早く李侗(りとう)に師事し，さかのぼって程明道・程伊川(ていせん)ら北宋の道学者の学を尋ね，これらを集大成して系統ある経学・哲学を形成した。これを〈朱子学〉と称し，後世に大きな影響を及ぼした。しかし，その厳粛主義の道徳論に基づいた政治論説は権臣の韓侂冑(かんたくちゅう)に憎まれ，そのため侍講を45日でやめ，しかも以後朱子学そのものが〈偽学〉として禁圧されるに至った。数多い述作の中で主著というべきものは《四書集注(しゅっちゅう)》であり，ほかに《朱子文集》《朱子語類》がある。〔西　順蔵〕

じゅし【樹脂】 植物またはある種のこん虫が分泌する種々の成分からなる粘状物質が，その揮発成分を失って固化した固形物。合成樹脂に対し天然樹脂ともいわれる。水にとけず，アルコール・エーテルなどの有機溶剤にとけるものが多いが，コハク・コーパルなどの化石樹脂はアルコール・エーテルには不溶かまたは難溶である。一般に非晶性のもろい固体であるが，加熱すると軟化・溶融し，冷却すると固化するものが多く，耐菌性・耐薬品性がある。重要な樹脂に，前記のもののほかシェラック・ロジン・サンダラック・ダマール・安息香・麒麟血(きりんけつ)などがある。ワニスの製造・絶縁材料・塗料・薬剤・装飾品，製紙の際のサイズ剤，せっけん混合剤・香料・塗料着色剤などに使用される。〔高島藤順〕

しゅしがく【朱子学】 中国，南宋(なんそう)の朱子が大成した新しい儒教体系。朱子学は，その後の中国において王朝公認の正統教学に指定されて支配層のイデオロギーとなった。またこれは，日本の江戸幕藩体制，朝鮮の李(り)王朝体制の正統教学としても採用された。そして，これらの国の近代の到来とともにその公認正統性は消滅したが，その後もいろいろな程度で有効性と支配力をもち続けた。朱子学は中国における官僚制中央集権の形成に対応して，その支配体制の政治や道徳，およびそれの土台となるべき哲学として形成された思想体系である。これはもちろん儒教の範囲内にあるものであるが，同時に新しい時代の要求にこたえようとしたものであって，これに先行してすでに北宋時代の諸学者，特に周濂渓(しゅうれんけい)・程明道・程伊川(ていせん)・張横渠(ちょうおうきょ)の哲学があり，それらを朱子が集大成したものである。朱子学は儒教の君臣・父子の上下秩序体制の教説を，(支配層の)個人の意識にまで深化して根拠づける。この意識は天理と人欲との矛盾・緊張そのものであり，しかも天理のほうが絶対的・根源的であって，人欲は天理によって克服されるべきであるとする。この天理はすなわち上下秩序にほかならないが，それが意識の内部にまで深化されたことによって厳粛主義(リゴリズム)となった。朱子学における厳粛主義は，その哲学においては理気説または性理学として展開され，大義名分論として具体化された。朱子学で説く天理の人欲に対する優越性は宇宙論としての理気説に基づいており，理気説はこの現実世界の具体性である〈気〉の根拠としての〈理〉を説くものである。そして〈理〉が人間においては〈性〉であり，〈気〉が〈情〉であって，〈性〉は〈情〉を統制する権利がある，という。こうして，人間は宇宙(〈天〉という)に従って道義に従うべきであり，従うことによって〈天人合一〉して真の人間となる，と考えた。大義名分論は，この説に基づいて，人間に対し，君臣の分と中華夷狄(いてき)の別とを主体的に実行することを要求する教説である。

この新儒教は，その経典として，従来の《五経》はそれとして，特に政治・道徳の心術を教えたり，それをやや理論化したりしている《論語》《大学》《中庸》《孟子(もうし)》を改めて取り出して《四書》という新しい経典体系を形成した。また，儒教の宇宙論を展開した《易経》も新たに重視されるに至っている。→儒教　→中国哲学〔西　順蔵〕

じゅしかこう【樹脂加工】 繊維製品や紙の改質を目的として行なう合成樹脂による加工処理。たとえば，もめんなどセルロース系繊維織物に尿素樹脂やメラミン樹脂などの重合度のごく低いものの水溶液をしみこませ，加熱乾燥させると，樹脂と繊維との間に化学反応が起こって，織物の防しわ性が向上する。その他，水にぬれたときの防縮性や強度の向上，また，いわゆるウォッシュ-アンド-ウエアーの形状の保持性の改良など，利点がある反面，機械的な強度の低下をきたすのが欠点である。最近ではポリアクリル酸エステル・ポリエチレン・合成ゴムラテックスなどを混ぜて用い，これらの欠点の解消が図られている。一方，紙の樹脂加工については，方法・目的とも織物の場合より多彩である。水に対する性質を向上させるためには，抄紙前に尿素またはメラミン樹脂の低重合物を添加し，抄紙・加熱乾燥によって硬化させる。その他紙の表面にポリ塩化ビニリデン・ポリエチレン・ポリスチレンなどで被覆して，耐透湿性を向上させたり光沢を与えたりすることが実際になされている。〔伊藤　卓〕

しゅししょくぶつ【種子植物】 分類学上の一門。種子をつくる植物をいい，裸子植物と被子植物が含まれる。以前には顕花植物といわれた。維管束をもつので，シダ植物とともに維管束植物といわれることがある。

しゅじゅ【侏儒】 小人症ともいい，身体の成長が異常に小さい状態で止まってしまった人のこと。知能の発育や性の成熟，顔つきなどは正常人と変わらない人もいる。原因の多くは内分泌腺(ないぶんぴせん)の機能異常によるが，その他骨形成異常・栄養代謝疾患・慢性消化障害・腎性(じんせい)くる病・先天性心疾患によるものもある。思春期性の侏儒は，程度は軽く，数年後には普通の人と変わらなくなる。脳下垂体の機能低下によっておきる下垂体性侏儒は，顔つき・性器は未成熟だが，身体全体のつりあいはとれており知能は普通である。→クレチン病〔清水紀博〕

ジュシュー［Antoine Laurent de Jussieu］ (1748～1836) フランスの植物学者。自然分類の創始者のひとり。分類の規準として，植物のおもな機能である生殖と栄養に関係し，しかも普遍的な形質を採用すべきであると考え，子葉の数，おしべと子房との相対的位置，および花弁の融合分離の状態を規準とする分類を試みた。

しゅしゅう【株州】 チューチョウ　中国，湖南省東部の都市。湘江(しょうこう)東岸に位置し，京広鉄道に沿い，浙贛(せっかん)鉄道(杭州(こうしゅう)～株州)の終点，西へ向かう湘黔(しょうきん)鉄道(株州～貴陽，建設中)の起点をなす交通の要地である。東の萍郷(ひょうきょう)(江西省)で産する石炭の積み出し地として知られ，また大冶(だいや)・邵陽(しょうよう)の鉄鉱産地を控えて近年は新興工業都市として急速に発展しており，機械・化学・建築材料・紡織工業などが行なわれる。〔船越昭生〕

しゅじゅつ【手術】 疾病(しっぺい)を治療する目的で身体各部の組織をメスにより離断する医学操作。通常外科医によって行な

われる。外科医はBC4000〜BC3000年に，すでに古代エジプトやインドに存在していたという記録がある。ヒッポクラテスの時代には動物の腱(けん)を用いて創の縫合が行なわれた。しかし,手術創の化膿(かのう)する原因や止血法などもわかっていなかったので，化膿や出血による危険は大きく，手術の死亡率も高く，その目的を達し得ないことが多かった。その後，パレによって止血のための血管結紮(けっさつ)が考案され（1510〜1590)，ハーベーにより血液循環の理が明らかにされて(1628)，手術は著しく進歩した。しかし，実際に外科学が発展したのは19世紀になってからで，リスターが手術用器械の消毒や術者の手指創面の消毒に石炭酸を用いることを提唱したり，コッホが化膿の原因を明らかにして消毒の必要を説くようになって，手術の成績は著しく向上した。その後，フュールブリンゲルの手指消毒法(1889)やグロッシッヒの手術野消毒法が発表されて，手術成績は画期的に向上した。このほか19世紀後半には，シンプソンのクロロフォルム麻酔(1847)，モートンのエーテル麻酔(1848)，の発見があり，手術可能な範囲が著しく拡大した。わが国では華岡青洲(はなおかせいしゅう)が麻沸湯を創製し,内服によって全身麻酔を得て乳癌(にゅうがん)その他の大手術を行なった(1805)のは，エーテル麻酔などの成功に先だつこと40余年であり，特筆に値する。その後，局所麻酔・脊椎(せきつい)麻酔なども考案され，虫垂切除術（1885)，胃癌の胃切除術(1881)，胃腸吻合(ふんごう)術など現在盛んに行なわれている手術の初成功例は，いずれも19世紀に得られている。20世紀には胸郭成形術・肺切除術・脳手術その他のあらゆる内臓手術が行なわれるようになり，無菌法・無痛法(全身局所麻酔法)や止血法・輸血法などの大出血対策の進歩のほか，術前術後の管理の進歩，手術前後の病態生理の解明などによって，身体各部の大手術や乳幼児の手術が安全かつ確実となり，手術の死亡率は激減した。特に近代的麻酔学の進歩は著しく，昔時は夢想だにできなかった心臓の各種手術も専門家により行なわれている。〔若林　修〕

じゅじゅつ【呪術】 人間が非人格的な自然界の力に働きかけ，人間の意志に応じてそれを統御し，ある目的を達成しようとする技術およびその過程をいう。したがって，神仏などの超自然物や人格的存在物の力にたよって加護を求めようとする宗教的特性とは必ずしも一致しない。呪術の目的は個人的・具体的である場合が多く，またみずからの功徳をもって自然界を主体的に操作し，呪術者とその顧客というように半ば職業化され専門化された関係をもち，すこぶる個人的・応需的である。また，呪術は宗教に普遍的な参与者による一連の儀礼行為は伴わず，むしろ呪術者自身が呪文や呪具を用いて一連の目的を達成しようとする。これらの点から宗教とは相違する面が多いが，現実の社会においてそれは区別しにくいほど混交し併存している。こうした呪術は類感呪術・模倣呪術(似たものが似たものを生み出す，すなわち同様の動作や同型の模型をつくれば同じような効果が得られると観念されているもの)・感染呪術・接触呪術(全体を形成するその一部をもって全体と同様な効果を期待するもの)・意志呪術(以心伝心と同様に，呪術者の意志やことば・呪文に応じてそれと同様の状態をつくり出すことができると観念されているもの)がある。第1の例はわら人形にくぎ打ち，第2の例は毛髪のお守り，第3の例はのろい殺しを想定すればよいであろう。〔渡辺欣雄〕

しゅしゅんすい【朱舜水】（1600〜1682） 中国，明(みん)末の儒学者。名は之瑜(しゆ)。字(あざな)は魯璵(ろよ)。浙江(せっこう)省余姚(よちょう)の人。朱永裕(えいゆう)・張肯堂(ちょうこうどう)らに学び，秀才の誉れが高かったが，進士を受けず野にあり，清(しん)朝の台頭に対抗して明朝再興につくしたが失敗し，1659年(万治2)長崎に亡命，帰化した。1665年(寛文5)水戸光圀(みとみつくに)の厚遇を得て本郷駒込(こまごめ)の水戸藩邸に住み，実学主義的古学を唱えてわが国の儒学界に影響を与えた。著書に《舜水先生文集》《泊舟稿》などがある。〔小田　博〕

しゅじょう【衆生】 仏教用語で，梵語(ぼんご)jantu(ジャントゥ)・sattva(サットバ)などの漢訳。元来は〈生存するもの〉の意で，煩悩(ぼんのう)におおわれて迷いの生存をくり返すもの，すなわち物質・感覚・表象・意志・知識などの諸要素の集合によってかりに構成されているものをいう。広く仏・菩薩(ぼさつ)をも含めていうことがある。

しゅしょうえ【修正会】 正月の初めに3〜7日の間，国家の安泰とその年の吉祥を祈るために行なわれる法会。768年(神護景雲2)に聖武(しょうむ)天皇が諸国国分寺で吉祥悔過(けか)(罪を懺悔(さんげ)する儀式)を行なったこと，また，一説には827年(天長4)の薬師悔過に始まるとされる。平安中期以後は，奈良はいうまでもなく全国諸大寺で行なわれるようになった。九州の国東(くにさき)半島のように，追儺(ついな)式と合わせて修正鬼会が行なわれることもある。なお，インドの暦法によって陰暦2月に行なわれる修正会は，特に修二月会または修二会といわれる。〔藤井正雄〕

しゅじょうしゅぎ【主情主義】 精神生活における感情の役割の優位性を主張する立場。主知主義に対するもの。最高の善は，理性によるのではなく感情によってとらえられるとする。文学においては，ロマン主義がこの立場に立つ。どちらかといえば個人主義的であり，情熱の密度が作品評価の決定的要素とされる。

じゅじれき【授時暦】 中国，元代に定められた暦。中国における最もすぐれた天体表とされる。宋(そう)代にはかなりひんぱんに改暦が行なわれたが，元代になって詳しい天体観測に基づいて新たな天体表を製作したもので，元代では唯一の暦となった。宋平定のころから編纂(へんさん)に着手し，1276年に完成，翌年の暦からこの天体表に基づいて計算が行なわれた。編纂者は許衡・王恂(おうじゅん)・郭守敬らで，郭守敬が中心となって観測器械の製作や天体観測を行ない，王恂がその結果の整理と天体表の製作にあたったらしい。しかし，完成前に王恂が没したので，あとを郭守敬が引き継いで完成した。編纂にあたってまず多くの観測器械を製作整備し，これにより精密な観測を行ない，たとえば1年の長さについては，現在のグレゴリオ暦と同じ365.2425日を得るなど，観測上の成果に注目すべきものがある。また，計算法についても当時のすぐれた数学を活用して改良を加え，招差法(一種の補間法)や球面三角法に近い算法などを用いている。このようにして製作された授時暦は，それまでにない精密さを備えていたので後代まで高く評価され，日本の天文暦学にも大きな影響を与えた。江戸時代渋川春海によって編纂された貞享(じょうきょう)暦は，授時暦を基礎とし，日本の経度による修正を加えたものである。〔藤村　淳〕

じゅしんき【受信機】 一般的にいえば通信系で信号を受信する装置のことであるが，通常は無線通信系で信号を含む電波を受け，これより信号を取り出す装置をいう。受信機は微弱な信号を受け，これを人間または機械が認知できる大きさにまで増幅するので，必要な利点をもつこと，ひずみおよび雑音の発生が少ないこと，ならびに必要な信号だけを取り出す選択度が高いことなどがその性能を示すめやすになる。

受信機はアンテナ(無線受信機の場合)，高周波同調回路・検波器および増幅器などからできており，それらの組み合わせにより次のように分けることができる。①高周波同調回路と検波器だけのもの。②①の検波器のあとに低周波増幅器(または信号増幅器)をつけるもの。③②の検波器の前に高周波増幅器をつけるもの。④周波数変換回路をつけて中間周波信号をつくり，これを中間周波増幅器で増幅するもの。このうち④の方式のものはスーパーヘテロダイン受信機とよばれ，他の方式に比べて利点や選択度が高いので多く使用されている。〔小原啓義〕

しゅす【繻子】 繻子組織になる織物のこと。繻子組織の特徴は経糸(たていと)または緯糸(ぬきいと)が密着し，組織点が連続しないから，表面は経糸・緯糸のみのように見え，なめらかで光沢が強く，地質が柔軟な点である。しかし，その逆に糸の浮きが長いので，あまりじょうぶでなく，特に表面により多く現われているほうの糸に対して直角

方向からの摩擦に弱い欠点がある。

繻子組織にはいくつかの種類があるが，一般的には5枚繻子，8枚繻子の組織が最も多く用いられており，5枚繻子は緞子地(どんすじ)ともよばれている。通常は絹糸を精練し，必要に応じて染色した上で織り上げるので，これを本繻子と称する。生糸で繻子を織ったあと，精練・染色・仕上げをしたものは生繻子または後練(あとねり)繻子という。また，経緯とも綿糸で織った綿繻子，経に綿糸，緯に毛糸を用いた毛繻子，絹・綿の交織，化繊のものなどもある。

繻子組織は，平組織や斜文組織のあとに考え出されたとみられる。しかし，この組織が中国で始まったことはまちがいなく，スペイン・フランスへは14世紀以前にその技術が伝えられていたといわれ，14世紀にはイギリスで，15世紀にはヨーロッパで繻子織物は広く使用されていた。わが国にも，14世紀初頭に中国から繻子織物が舶載されていた。織り出されるようになったのは室町時代末と伝えられている。江戸時代には京都西陣を中心に製織されたが，天保(てんぽう)年間(1830〜1843)には，その技術は桐生(きりゅう)に伝えられた。明治までは本繻子がすべてであったが，1873年(明治6)中国から輸入されていた交織繻子をまねて，南京(ナンキン)繻子と称する絹綿交織の繻子が織り出されてから，毛繻子や綿繻子なども織り出されるようになった。　〔北村哲郎〕

ジュース ［juice］　果実をしぼった液汁(えきじゅう)の総称。わが国では天然果汁・果汁飲料(果汁分45％)・果汁入り清涼飲料(果汁分30，20，10％)，および果汁入り濃厚シロップ(果汁分35％)などのすべてを一般にジュースというが，本来は天然果汁だけをさすものである。

オレンジ類の大生産国であるアメリカでは，その利用をさらに簡便にするため，天然果汁をびんづめとして牛乳同様日配していた。しかしこのままの形では変敗が早く，広地域の日配は困難なところから，1938年フランク-バヤリーは瞬間殺菌法を施して保存性を与え，商品化することに成功した。そのまま飲用する直接飲用果汁はストレートジュースというが，これは薄めず天然のままという意味である。日本農林規格(JAS)では，果実の種類とその果汁の含有率を定め，アミノ態窒素や灰分の分析値で検査することが定められている。〔斎藤　進〕

ジュース ［Eduard Suess］（1831〜1914）　オーストリアの地質学者。ロンドンの生まれ。プラハ大学・ウィーン大学で古生物学を専攻。1857〜1901年，ウィーン大学地質学教授。《アルプスの起源》(1857)でアルプス山脈の成因を地球の収縮に伴って生じる横圧力であるとの説を立て，従来の隆起火口説などに代わって褶曲(しゅうきょく)山脈や造山運動に収縮説とよばれる解釈に一つの有力な考え方を導入した。《地球の相貌(そうぼう)》3巻(1885〜1907)では，地球収縮説をさらに展開して世界の地質構造を説明し，大陸は軽い物質(シアル)からなり，大洋底は重い物質(シマ)からなると考え，のちにウェゲナー*の大陸漂移説を生み出す糸口を開いた。またゴンドワナ大陸やカレドニア造山帯などについての提唱もあり，19世紀の構造地質学界に大きな影響を与えた。1869年以後オーストリア下院議員に選ばれ，ウィーン学士院長もつとめた。〔野間三郎〕



ジュズダマ

じゅず 【数珠】　小さな珠(たま)をひもでつないだ輪。珠の大きさ・材質・数などに多くの種類がある。世界各地に見られるが起源は東洋で，はじめは数を数え，記憶するための助けとして用いられ，のちに宗教的な意味をもって神・仏などの名を唱える回数を知るために用いられるようになった。バラモン教徒は古くから木の実・宝石などを材料とする108珠の数珠を用い，仏教はこれにならって，仏・菩薩(ぼさつ)の名や陀羅尼*(だらに)を唱えるときに用いるようになった。現在，チベット・中国・ビルマ・韓国(かんこく)・モンゴル・日本の仏教徒に広く用いられている。珠の数は108個が基本で，その半数や倍数のものもある。この数は人間のもつ108の煩悩(ぼんのう)とそれを消滅させる108の三昧(さんまい)を示す。数珠の材料はボダイジュの果実・水晶・真珠・サンゴなどで，密教の法具，浄土宗の二連数珠など数多くの種類がある。イスラム教徒の数珠は一般に99珠からなり，石・動物の角・ラクダの骨・ガラスなどが用いられ，特にメッカの土でつくられた珠は尊重される。数珠(ロザリオ)がイスラム教徒を媒介としてヨーロッパに伝えられ広く用いられるようになったのは十字軍の時代といわれるが，実際には初期キリスト教時代から用いられていたと思われる。ローマ-カトリックでは通常150珠，ギリシア正教では100珠のものを用いる。ユダヤ教徒も32または99珠の数珠を持つが，宗教的意味はほとんど失われている。

〔佐藤良純〕

じゅずかけばと 【数珠掛鳩】　鳥類・ハト科。インド・小アジア原産で，エジプトでは古く紀元前から家禽(かきん)として飼育されていた。全身薄い灰かっ色で頸部(けいぶ)には黒色の輪があり，くちばしは黒くあしは暗紅色である。性質はおとなしく，繁殖も容易である。この白変種はギンバトとよばれている。

じゅずだま 【数珠玉】　単子葉植物・イネ科。水辺に自生する多年草で，熱帯アジア原産といわれる。茎は円柱状で直立し，高さ1〜1.5m，密に分枝して大株となる。葉は濃緑色で，広線形，下部は鞘状(さやじょう)となり，長さ20〜60cm。初秋に葉腋(ようえき)から雌雄の花穂を出す。雌花穂は下部につき，かたい包に包まれ，内に3個の雌花がある。雄花穂は硬質の包を貫いて出た短柄の先に総状につく。熟すると包は骨質になり，しだいに黒色をおび，ついには光沢のある灰白色になる。

しゅすのくつ 【繻子の靴】　クローデル*の叙事詩劇(1919〜1924)。16世紀末のスペイン黄金時代を背景に，世界征服をめざす主人公ドン-ロドリグと人妻との結ばれぬ恋と，その救済への道を力動感に満ちた演劇世界に描く。作者の全作品の集大成的作品。

じゅずも 【数珠藻】　緑藻(りょくそう)類・シオグサ科・ジュズモ属の総称。球形状の細胞が枝分かれせずに連なり，じゅずを思わせる。4べん毛の遊走子を生ずる体と2べん毛の同形配偶子を生ずる体があるが，両者は外形的には同形である。海産のコトジュズモ・ホソジュズモなどは他の海藻にからみつき，淡水産のミゾジュズモ・キッコウジュズモなどは流水中の石やカメ類の甲などに着生する。

しゅせい 【酒精】　⇨エチルアルコール

しゅせい 【主星】　連星*を形成する2個の星の中で明るいほうの星で，伴星*に対していう。たとえば，ぎょしゃ座α星カペラは0.9等の主星と1.0等の伴星からなり，またおおいぬ座α星シリウスは−1.4等の主星と8.5等の伴星からなる。

しゅぜい 【酒税】　酒類に対して課される税。酒類とはアルコール分を1度以上含んでいる飲料で，清酒・合成清酒・しょうちゅう・みりん・ビール・果実酒類・ウイスキー類・スピリット類・リキュール類・雑酒の10種類に分類されている。税率は種類別・等級別，およびアルコール度数に応じて，1klあたりいくらというように定められている。酒税の納税義務者は原則として酒類の製造業者で，製造場から酒類を移出する段階で課税される。また，輸入酒類については，引き取り人が保税地域からそれを引き取る段階で課税される。

〔西野義彦〕

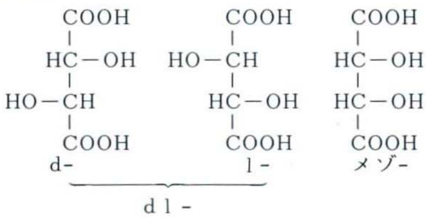
じゅせい 【受精】　広義には配偶子が合体すること。原生動物の場合は合体，ゾウリムシのように2個体が接着してのち再び分離するものは接合ともいう。一般には，卵と精子という区別のできる配偶子が合一して発生を開始することをいい，新しい個体は卵と精子(すなわち雌雄両個体)の遺伝的な影響を受けることになる。受精後の卵

を受精卵，受精以前の卵は未受精卵とよぶ。通常，受精には次のような一連の経過をみることができる。①精子が卵に向かって移動する。多くの精子は運動性があり，移動して卵に向かうので，卵から出る物質に対して走化性をもつと考えられる。たとえば，ウニなどで研究されたところでは，未受精卵から放出されて精子の運動を活発にするような物質(ギノガモンI)などがあることがわかったが，哺乳(ほにゅう)類などではこのような点はまだはっきりしていない。②卵と精子が接触する。このときから精子の運動は静止的となり，ヒトデでは精子の頭部にある先体が卵を包むゼリー膜中の物質と反応して先体糸という細い糸をつくる。この糸が卵の表面につきささると，卵の表面に受精突起ができ，やがて精子はこの中に取り入れられる。ウニでは精子が卵表に触れたとき，この突起ができる。③精子が卵にはいるが，この時点で卵表にある薄い膜が離れて，受精膜ができる。精子が卵の中にはいるときは，ウニ・カエル・哺乳類などのように，尾部も卵の中にはいる種類もあるが，尾だけを卵外に残しておくものもある。ウニでは受精膜が完成したころ，精子の尾は切り離され，頭部が180°方向を変えて中片を前にして運動し，卵中の核と合一する。この精子と卵の核の合一が第4段階で，これと同時に受精が完了する。このような現象から，受精の目的は第1に発生開始の刺激を与えることにあるようであるが，精子の代わりにガラスの細い針で卵を刺して発生する人為単為生殖のような現象もあるし，自然でもミツバチ・ミジンコ・アリマキなど単為生殖をするものがあることから，むしろ雌雄両核の合一によって両者の遺伝子を子孫に伝えることにさらに重要な意義があるといえる。〔蒲原春一〕

しゅせいいんりょう　【酒精飲料】　⇨酒

じゅせいらんいしょく　【受精卵移植】　受精卵を他の雌に移植する繁殖方法。家畜の改良・繁殖にあたってはできるだけ優秀な血統の子孫を数多くふやしたいため，雄については人工授精*によって精液を多数の雌に分注して，優秀な雄の遺伝形質を広範に子に伝えることができるが，雌はどんなに優秀な個体でも一生に産むことのできる子の数には限度がある。そこで，優秀な雌の遺伝因子をになっている卵をできるだけ数多く利用するには，その雌にくり返し数多くの受精卵をつくらせて，これを母体を傷つけずに取り出し，他の普通の雌の子宮内に移植すればすぐれた血統の両親をもつ子がたくさん得られるわけである。理屈としては簡単であるが，技術的にいろいろと問題点があり，ネズミ・ウサギ・ヤギでの実験成功例は多いが，ウシについては農林省畜産試験場で1964年(昭和39)の1例だけで実用の域には達していない。〔高嶺　浩〕

しゅせきさん　【酒石酸】　$C_4H_6O_6$　d-, l-, メゾ-の3種の異性体がある。単に酒石酸というと，一般にはd-酒石酸のことをいう。①d-酒石酸：柱状結晶で天然には遊離の状態，またはカルシウム塩・カリウム塩として果実などに広く存在する。ブドウ酒をつくるときに沈殿してくる酒石はほとんどがモノカリウム塩である。清涼飲料水・シロップなどに酸味剤として加えられる。融点170℃，右旋性を示す。②dl-酒石酸：ブドウ酸ともいわれる。融点206℃，d-酒石酸，l-酒石酸の等量混合物であるラセミ体*である。③l-酒石酸：d-酒石酸の光学異性体である。dl-酒石酸から光学分割を行なって得られる。左旋性を示す。融点168～170℃。④メゾ酒石酸：光学不活性な酒石酸。融点140℃。l-酒石酸やメゾ酒石酸も植物界に存在している。



〔石戸良治・荒木洋之助〕


修禅寺　本堂

しゅせん　【酒泉】　チウチュワン　中国，甘粛(かんしゅく)省西部の郡市。人口約30,000。敦煌(とんこう)の東270kmにあり，甘粛回廊のオアシス都市として，古くから東西交通の要地とされてきた。北西の嘉峪関(かよくかん)は万里の長城の西端にあたり，蘭新(らんしん)鉄道や新疆(しんきょう)ウイグル自治区へ向かう自動車道路の通る要衝になっている。

しゅぜんじ　【修禅寺】　静岡県田方郡修善寺町にある曹洞宗(そうとうしゅう)の寺。桂谷山(けいこくせん)寺ともいう。798年(延暦17)空海が弟子(でし)杲隣(こうりん)に命じ創建させたと伝えられる。1193年(建久4)源範頼(のりより)が兄頼朝(よりとも)に幽閉され，1204年(元久1)には源頼家が北条時政(ほうじょうときまさ)に幽殺された。13世紀半ばに真言宗から臨済宗に転じ，さらに15世紀末曹洞宗に改宗した。1863年(文久3)全焼したが，1897年(明治30)再建。寺宝に頼家の母政子が彼の冥福(めいふく)を祈るため寄進した宋版(そうはん)《一切経》があったが，徳川家康(いえやす)の命により増上寺*に移された。付近に頼家の墓が残されている。〔杉坂靖子〕

しゅぜんじおんせん　【修善寺温泉】　静岡県田方郡修善寺町にある温泉。泉温37～69℃。泉質は単純泉・芒硝(ぼうしょう)含有弱食塩泉で，神経痛・胃腸病・皮膚病などにきくといわれる。狩野(かの)川の支流桂(かつら)川の渓流(けいりゅう)に沿う静かな温泉で，伊豆(いず)地方では最も古くから知られた。旅館街の中ほどの川床に，807年(大同2)弘法(こうぼう)大師が独鈷(とっこ)で岩盤を掘って発見したと伝えられる〈独鈷の湯〉があり，現在も野天の共同湯として跡をとどめている。地名の由来になっている修禅寺*は岡本綺堂(きどう)の《修禅寺物語*》にも描かれている。付近は天然記念物の益山寺のオオカエデ，県立公園の達磨(だるま)山，源頼家(よりいえ)・源範頼(のりより)の墓，夏目漱石(そうせき)の碑など名所・旧跡に富む。伊豆箱根鉄道修善寺駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

しゅぜんじものがたり　【修禅寺物語】　岡本綺堂(きどう)作の戯曲。1幕3場。1911年(明治44)東京明治座で初演。面作り師の夜叉王(やしゃおう)は将軍源頼家(よりいえ)に頼まれ面をつくるが，何度つくっても表情に死相が現われて満足できない。頼家の厳命で，やむをえず面を渡すがはたしてその夜，頼家は北条(ほうじょう)に討たれるという話。名人かたぎの夜叉王を主人公に，娘桂(かつら)・楓(かえで)の性格的対立，頼家の末路の悲劇などが巧みに織り込まれ，新歌舞伎*(しんかぶき)の古典的名作。

しゅぜんちゅう　【朱全忠】　(852～912)　中国，五代後梁(こうりょう)の初代皇帝。在位907～912年。本名温。黄巣の乱*に加わり，のち唐朝に降って反乱軍鎮定に功があり，全忠の名を賜わった。累進して梁王となり，やがて唐の昭宗を殺して哀帝を立てたが，907年これに迫って譲位させ，みずから帝位につき，ここに唐は滅びた。国を大梁と号し，開封を都としたが，やがて養子のひとりに殺された。

しゅせんど　【守銭奴】　モリエール*の喜劇(1668)。5幕。金持ちで吝嗇(りんしょく)な商人アルパゴンは，むすこと娘をそれぞれ金持ちと結婚させようとし，自分はむすこの恋人との再婚をたくらむ。しかし，隠しておいた大金が盗まれる事件が起きると，恋と金との相克に苦しむが，たちまち本来の吝嗇ぶりを暴露，金を選ぶ。なお，アルパゴンの名はその後守銭奴の代名詞となった。

じゅそ　【呪詛】　呪咀とも書く。いわゆる〈のろい〉〈まじない〉に似ている。呪術には白呪術と黒呪術とがあり，前者はその目的を生命の救済に置くので医術に近いが，後者はむしろ生命を奪うことに目的が置かれている。したがって，後者を妖術(ようじゅつ)ともいい，呪詛はその妖術の手段である。すなわち，それは人を殺そうとして自然界

や呪詛神の力を統御して念誦することで，日本ではこの呪詛神として毘陀羅(びだら)を用いるところが多い。〔渡辺欣雄〕

じゅぞうかん【受像管】 ⇨ブラウン管

しゅたい【主体】〈サブジェクト〉の訳語。原語は主観*と同一のことばであるが，主観が主として認識論的な面からとらえた意識をいうのに対し，主体は行為や実践の原動力となる人間の全人格的存在を意味し，存在論的な概念である。したがって，主体は単に客体を認識し，それについて理論を組み立てるという働きを行なうだけでなく，社会変革に積極的に参加したり，自己の生き方について倫理的に決断し，たえず自己変革への情熱を保持しようとする。実存主義やマルクス主義がこのことばに高い価値をおくのは，人間のあらゆる営みはそこから出発してはじめてほんとうの意味をもつと考えるからである。〔飯塚勝久〕

じゅたいちょうせつ【受胎調節】 ⇨家族計画

シュタイン [Karl Stein]（1757～1831） プロイセンの政治家。ティルジット条約*後の難局にあたって国政を担当し，1807年以来農業改革をはじめとする諸種の改革を推進した。そのためナポレオン1世に追放されてロシアに亡命し，プロイセン・ロシアの同盟など解放戦争*の組織化に努めた。ウィーン会議*にはロシア政府顧問の資格で出席し，その後政界を引退した。1819年ドイツ中世資料学会を設立し，中世以来の史料の収集にあたった。この資料集は《モヌメンタ-ゲルマニアエ-ヒストリカ》として刊行された。なお彼の内政改革はハルデンベルク*に受け継がれた。➜プロイセン改革〔松　俊夫〕

シュタイン [Lorenz von Stein]（1815～1890） ドイツの法学者・社会学者。社会運動史・財政学・行政学の先駆者として著名。キール大学・ウィーン大学の教授を歴任。ヘーゲル哲学から出発して，国家と社会を原理的に区別した。国家を自由な人格と考え，社会を利益の原理による有産者と無産者から構成される階級*対立の場と定義し，この原理の相違から社会運動，革命が生ずると考えた。したがって彼は，階級対立を緩和し，社会運動および革命を避ける方法を，国家による行政(社会政策)に求め，プロイセン王政に期待をかけた。この理論は，伝統的な官房学の集大成であるとともに，保守的な社会改良主義であった。主著に，《現代フランスの社会主義と共産主義》，《1789年から現代に至るまでのフランス社会運動史》3巻，《行政学》8巻がある。〔原田政洸〕

シュタイン・ハルデンベルクのかいかく【シュタイン・ハルデンベルクの改革】 ⇨プロイセン改革

シュタウディンガー [Hermann Staudinger]（1881～1965） ドイツの高分子化学者。フライブルク大学高分子化学研究所長。ケテン($>C=C=O$をもつ化合物)を発見。さらに，ゴムの研究から高分子化合物の研究に進み，1924年には巨大分子という術語を用いた。400編に及ぶ論文において，これらの物質が長い鎖状分子からなることを明らかにし，その溶液の濃度・粘度・分子量の関係式を見いだし，高分子化学理論の発展の基礎を築いた。さらにその工業的応用面の促進にも貢献し，1953年ノーベル化学賞を受けている。〔山下愛子〕

シュタウフェンおうけ【シュタウフェン王家】 ドイツの王家(1138～1254)で，神聖ローマ皇帝の家系。居城にちなんでホーエンシュタウフェン家ともいう。ザリエル朝*の滅亡後，王位争いによってコンラート3世*(在位1138～1152年)が即位し，フリードリヒ1世*(バルバロッサ(赤ひげ)，在位1152～1190年)，ハインリッヒ6世(在位1190～1197年)のとき，全盛期を迎えた。しかし，皇帝のイタリア政策によってドイツの分裂的傾向が顕著となり，12世紀末以後は諸侯は2派に分かれ，二重選挙が行なわれたりして帝国を崩壊に導き，1254年以降大空位時代*にはいった。〔松　俊夫〕

シュタスフルト [Stassfurt] 東ドイツ中西部，ザクセン地方の鉱業都市。人口26,000(1967)。マグデブルクの南約30km，ハルツ山地の北東麓(ろく)にあり，岩塩の大産地として知られる。岩塩を原料とする化学肥料と機械工業がある。

シュターミッツ [Johann Wenzel Anton Stamitz]（1717～1757） チェコスロバキア(ボヘミア)出身の作曲家・バイオリン奏者・指揮者。1741年バイオリン奏者としてマンハイムの宮廷に迎えられ，深く芸術を愛好したカルル-テオドールが選帝侯になると宮廷管弦楽団の主席奏者に任命された。彼はこの管弦楽団をヨーロッパ随一の楽団に仕上げるとともに，演奏・創作活動を通じてマンハイム楽派*とよばれる新しい音楽様式の創立者となった。彼の作品には約70曲の交響曲，各種の楽器のための多数の協奏曲，室内楽曲，宗教曲などがある。彼の音楽の特徴としては，交響曲の新しい楽章としてメヌエットをとり入れた第3楽章をつくり，4楽章構成にしたこと，2主題の調和と対比によるソナタ形式を確立したこと，クレッシェンドやディミヌエンドなどを効果的に使用したことなどがあげられ，演奏様式の面でも音力性を重視したディナミークな効果や陰影に富む新しい演奏法を開拓した。このような新様式はハイドン・モーツァルトなどの古典派の作曲家たちに深く影響を与えている。なお，4人の子どものうち，カルル(1745～1801)とアントン(1754～？)もバイオリン奏者として活躍した。カルルには約80曲の交響曲をはじめとして多数の作品がある。〔寺田兼文〕

シュタムラー [Rudolf Stammler]（1856～1938） ドイツの法律家・法哲学者。マールブルク・ハレ・ベルリンの各大学教授。新カント派，特にマールブルク派*から影響を受けて純粋法学を唱え，実証的法学・歴史的法学の専制支配を破ろうとした。その意図は，新カント派的理念に沿って，すべての法的秩序に制約なく普遍妥当な思考方法を確立することにあった。19世紀末～20世紀初頭に大きな影響を与えた。主著《正法論》《法学の理論》。〔豊福英利〕

シュタール [Georg Ernst Stahl]（1660～1734） ドイツの医師・化学者。1694年新設のハレ大学教授。はじめ錬金術を信じていたが，師ベヒャーの考えを完成してフロギストン説*を提唱した。酸化・還元について実験した初期の人で，多数の著作を残した。1716年以後プロイセン王の侍医となる。

シュタルク [Johannes Starck]（1874～1957） ドイツの実験物理学者。ビルツブルク大学教授。のちドイツ国立理工学研究所長となり，実業界とも接触，ナチスの台頭後その協力者となったという点で不評を買った。分光学の分野での業績で知られ，カナル線のドップラー効果*を予想し，水素原子スペクトルでのドップラー効果を実証し，また電界内でのスペクトル線の分裂(シュタルク効果)を見いだした。1919年ノーベル物理学賞を受けている。〔藤村　淳〕

しゅたんけい【朱丹渓】（1281～1358） 中国の医家。名は震亨(しんきょう)，字(あざな)は彦修(げんしゅう)。浙江(せっこう)省の生まれ。はじめ文学を修め官吏を志したが，のち医学に転じ，羅知悌(らちだい)について，李東垣(りとうえん)・劉守真(りゅうしゅしん)・張子和らの医説を研究した。これらの3者を折衷して陰不足説を唱え，陰を潤し，陽火をおろすことを病気の治療方針とした。《格致余論》《局方発輝》《金匱鉤元(きんきこうげん)》の著がある。

ジュチ [Juchi]（1172～1224または1225） ジンギス汗の長子。キプチャク汗国の創始者バトゥ*の父。ジンギス汗に従って金を討ち，またその西方遠征に参加してホラズム王国を経略し，次いで南ロシアの討伐軍を指揮して，キプチャク草原を服属させたが，その地で病没した。

しゅちく【種畜】 子畜の生産を主目的に飼う繁殖用の家畜。これに対し，乳・肉・卵・毛など畜産物の生産または使役を主目的に飼う家畜を実用畜というが，実用畜の性能の向上には，優良な種畜の確保，ひいては品種改良が重要である。品種改良の基本は，種畜の血統の正確な記録と遺伝的にすぐれた種畜の選抜である。各家畜または各品種の登録団体は，個体ごとの血統と体型審査成績の登録を行なっている。家畜の体型と性能の間には一般にある程度の相関がある。しかし，いっそう正確な選抜の基礎をうるため，乳牛の泌乳能力検定，肉牛・豚の産肉能力検定などの能力検定事業が発

展するに伴い，検定結果をも登録に取り入れる場合がふえている。〔阿部猛夫〕

しゅちくぼくじょう【種畜牧場】 家畜の品種改良，種畜の供給を行なう牧場。現在，国有牧場として全国に14場と3支場がある。おもな業務は，家畜の選抜による品種改良，海外からの種畜の導入，新品種などの能力調査，優良種畜の増殖・配布であるが，大規模方式の子牛育成・飼養管理に関する調査・実験・展示，牧草の原種圃(げんしゅほ)業務なども行なっている。

しゅちしゅぎ【主知主義】 認識論・倫理学・神学などにおいて，意志よりも理知の優位を主張する説。主意主義に対立する。認識論としてはいっさいの知識が理知から導かれるとする合理論をさし，知識は感覚から得られるとする経験論と対立する。倫理学では行為を選択するには知識だけで十分だとする考え方で，ソクラテス・ストア派・S.クラークらにみられる。神学・宗教哲学では，聖書解釈において感情・意志・欲求を無視し，理知を中心におく傾向をいう。歴史的にみると，従来，自明のものとされていた諸原理が不安定なものとみなされ，それらの新しい基礎づけが要求される時代に現われる傾向で，理知だけでこの基礎づけをなしうると確信している。理知が絶対的な権力を与えられるのはヘーゲルにおいてである。〔玉井　治〕

しゅちょう【腫脹】 腫張とも書き，体の局所がはれあがること。炎症の四大徴候の一つで，ふつう腫瘍(しゅよう)や炎症の場合にみられる。主因はタンパク質に富んだ繊維素を有する液体の浸出である。

しゅちょうれい【首長令】 イギリス国王を〈イギリス国教会の地上における唯一最高の首長〉とする。ヘンリー8世は離婚問題を契機としてローマ教会から分離する決意をし，1529年聖職者の特権を制限，1532年はじめ収入税をローマ教皇に支払うことを禁止，1533年教皇に対するイギリスからの上告を禁止した。これに対し，教皇はヘンリーを破門したので，1534年イギリス議会は首長令を通過させた。これにより，イギリス国教会はローマ教会から分離した。

しゅちん【繻珍】 繻子の地組織に多数の絵緯(えぬき)を用いて文様を織り出した紋織物の一種。わが国では室町時代末に中国明(みん)の技法を学んで織りはじめられた。江戸時代初期には色美しく文様の織り出された，なめらかで柔かな品質が喜ばれ，珍重されたとみえ，盛んに上級社会の贈答品とされていた。元禄(げんろく)(1688〜1703)前後からは一般の小袖(こそで)・打掛(うちかけ)・帯などにも需要が多かったが，幕末から明治時代にはもっぱら帯・肩裏に用いられてきた。なお，江戸時代のモール織はこの繻珍の一種である。段あるいは縞(しま)の文様に金銀糸・絵緯を織り込んだものが多く，女帯地とされた。〔北村哲郎〕

しゅつエジプトき【出エジプト記】《旧約聖書》の第2書。紀元前13世紀ごろのイスラエルの状況を述べた重要な書。内容は19章3節までとそれ以後の2部に分かれる。前半は神に守られてモーゼがイスラエルの民とともにエジプトを脱出し，不平の多い群衆を神にとりなしつつシナイ山へ至るまでの記述。後半はシナイ山で神から与えられる律法・十誡(じっかい)が中心。これは民の祖先と神との契約の結実で，ここに救いの神ヤーウェの定めは守らねばならぬとするイスラエルの宗教の本質が決定される。モーゼが神のための幕屋を整えるところで記述は終わる。〔松田　治〕

しゅつが【出芽】 単細胞生物と下等な後生動物にみられる無性生殖の一方法。体の一部に芽体とよばれる小さな突起物ができ，これが成長して新個体となる現象である。酵母・有殻(ゆうかく)アメーバ類・海綿動物・腔腸(こうちょう)動物などでよくみられる。

しゅっけ【出家】 家を出て修道に専念すること，またはその人をさす。僧侶(そうりょ)の別称で，在家の対語。古代インド宗教の風習であるが，仏教ではブッダの出家学道がはじまり。〈律蔵〉には，出家の条件，年齢，生活規定などが細かくしるされている。仏典には出家と在家の得失が説かれているが，出家の優先が強調されている。大乗経典には〈さとりを求める心を起こせば，それが真実の出家である〉(《維摩経(ゆいまぎょう)》)などの説があり，形式化した小乗出家者への批判がなされている。〔大南龍昇〕

しゅっけつ【出血】 血管外に血液が出ること。体外に血液が失われる場合を外出血，体内に起こる場合を内出血という。外傷や手術によって血管が損傷される場合，出血しやすくなっている場合(→出血性素因)に起こる。急性出血と慢性出血とがあり，急性出血は外傷や手術，あるいは動脈瘤(りゅう)・静脈瘤破裂などでみられる一時的な出血で，大出血は血液の減量によって酸素減少・栄養分減少などをきたし，体内組織や臓器が正常の活動ができなくなるため，それのみで死の原因となる。しかし比較的少量でも，たとえば脳内出血などでは死の原因となる。慢性出血は，少量で長期にわたって持続的あるいは間欠的に出血するものであり，胃潰瘍(いかいよう)・痔(じ)・血液疾患などにみられ，このため貧血をきたすことが多い。なお急性・慢性を問わず一箇所に出血した血液がたまるとその場所で凝血して塊となる(→血腫(けっしゅ))。頭部外傷後の頭蓋(とうがい)内出血腫などが最近問題となっている。〔大橋辰哉〕

しゅっけつせいそいん【出血性素因】 出血性素質ともいう。血管外へ血液有形成分の漏出しやすくなっている状態および止血が正常に行なわれていない状態。毛細血管障害，血小板減少症，血液凝固障害，繊維素溶解酵素の活性化に分類される。毛細血管は内皮細胞が密に配列して内皮細胞膜を形成し，この内皮細胞は細胞間物質と連絡をとって分泌に携わり，血管の健康状態を保っている。細胞間物質は毛細血管機能の主役を演ずるもので，たとえば種々の物質の血管内外の移動はもっぱらこの物質を通して営まれている。これは，環境の理化学的変化，たとえば，血漿(けっしょう)の異常，血小板減少，カルシウム・ビタミンの欠乏などに影響を受けやすく，機能失調を起こす。ふつう血管壁が透過性に亢進(こうしん)して浮腫(ふしゅ)し，また血液有形成分が漏出して紫斑(しはん)ができるなどの変化がみられる。→出血〔竹内直子〕

しゅっけとそのでし【出家とその弟子】 大正期の宗教文学を代表する倉田百三(ひゃくぞう)の6幕の戯曲。1916年(大正5)12月《生命の川》に発表，1919年7月創作劇場によって有楽座で初演。浄土真宗の開祖親鸞(しんらん)を主人公に，その子善鸞の人妻への恋と遊女へのおぼれ，さらにその弟子(でし)唯円と遊女かえでとの恋愛を配したもので，自由な恋愛観と人道主義的思想に当時の思潮を反映させている。

じゅつご【述語】 文の成分の一種。主語に対するもので，主語について，その属性(動作・作用・性質・状態など)を説明する文節。〈なにが　どうする。〉〈なにがどんなだ。〉〈なにが　ある(ない)。〉〈なにが　なんだ。〉という場合の，〈どうする・どんなだ・ある(ない)・なんだ〉にあたるものが述語である。述語になるのは，用言だけの文節，用言に助動詞や助詞のついた文節，体言に指定の助動詞のついた文節(わたしは　学生です。)などである。日本語において，主語は表現されないことも少なくないが，述語は原則として必要であり，文の表現の中心となる。〔市川　孝〕

じゅつご【術語】 学問・技術などで，意味を厳密に規定して用いる語。術語が日常語の中に取り入れられることもあるが，その場合，意味の外延が広がってあいまいになることが多い(例：同類項・封建的など)。現代日本語では，日常語に特別な意味規定を与えてつくられた術語は少なく，漢字による新しい訳語や造語，外国語からの借用が多い。そして，難解な漢字・漢語や同音語の使用，訳語の不統一などによる不便や混乱があって，学問・技術を民衆から遠ざける一因となり，専門家相互の知的交流にも妨げになってきた。したがって，最近術語の整理・統一が各分野で進められつつある。〔西尾寅弥〕

しゅっこう【出向】 ある会社が，その社員を他会社へ派遣すること。出向制度は，法律によって規定されたものでなく，すべて労使双方の合意によって決まるから，その定義・目的・内容は，各企業によってそれぞれ異なる。出向の目的は，出向先会社の再建・繁栄を期待して出向させる場合と，

出向元の人事のつごうによる場合とに大別されるが，実際には，出向が合理化の目的と，組合活動や思想信条を理由とする差別待遇の目的でなされる場合が多い。その態様は，出向元会社の身分をそのままにして出向する場合，出向元会社を一時休職して出向する場合，出向元会社を一時あるいは一応退職して出向する場合などがある。
〔木元錦哉〕

しゅっこんそう【宿根草】⇨宿根植物

しゅっさん【出産】⇨分娩

しゅっさんがいしょう【出産外傷】フロイトの弟子(でし)O.ランクによって明らかにされた*精神分析のことば。人間の胎内回帰の願望を重要視し，出産は新生児の精神に深刻な苦しみ(外傷体験)を与え，成人してのちの神経症的不安の原因をなすとする説。フロイトは，この説が出産の意義を過大評価するものとして批判的であったが，現代の精神分析では，母と子の分離不安を論じたものとして対人関係論的に再評価しようとしている。
〔鈴木寿治〕

しゅっしょう【出生】近代法のもとでは，人はすべて出生によって権利能力を平等に取得することを原則としており，わが国民法も〈私権ノ享有ハ出生ニ始マル〉と規定している(民法1条)。ところで，出生の時期をいつにするかは刑事上・民事上重要な問題であり，刑法は母体からの胎児の一部露出をもって出生とするが，民法では母体からの胎児の全部露出をもって出生とするのが通説である。出生があれば戸籍法の定めるところにより，出生地の市町村役場へ一定の届け出義務者が14日以内に届け出なければならない(戸籍法49条)。しかし，出生の届け出は報告的意味をもっているだけであって，権利能力は届け出のあるなしにかかわらず出生という事実に基づいて取得される。母の胎内にあって出生していない子，すなわち胎児は原則として権利能力を有しないが，民法は例外的に不法行為による損害賠償請求権，*相続・*遺贈などについては胎児をもってすでに生じたものとみなすとしている(民法721・886・965条)。➔胎児
〔黒木三郎〕

しゅっしょうりつ【出生率】ある地域における1年間の出生数の，その年の人口(年央人口，7月1日現在)に対する割合。多くの場合人口1,000対の割合で表わす。わが国の出生率は明治・大正年代にはほぼ32～34で経過し，1920年(大正9)に36.2を示して以後漸減傾向にあった。その後，第2次世界大戦の時期に〈産めよふやせよ〉の政策により，さらに戦後のベビーブームによって一時的には34.3と上昇した。しかし昭和30年代には著しく減少し，1961年(昭和36)にはいままでの最低の16.7となったが，1967年には19.3といくらか上昇した。最近は各年により多少の増減はあるにしても，諸外国の中でも低率国群に属し，東ドイツ・ノルウェー・フランスの水準に並ぶ。後進国においてはまだ多産多死の傾向が大きく，出生率の低下は，生活水準の向上と，家族計画・受胎調節の普及などの〈少なく産んでよい子を育てる〉という意識向上に裏づけられたものとされている。〔金子義徳〕



ジュッセルドルフ　商工業の中心として知られるが，町の中心部には博物館もあって，歴史の古さを伝えている。写真はゲーテ記念館



シュツットガルト　写真はシラー広場。市の北郊マールバハはシラーの生誕地で，彼は若いころの何年かをシュツットガルトで過ごした

しゅっせかげきよ【出世景清】義太夫*節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物で近松*門左衛門(もんざえもん)作。1686年(貞享3)竹本*座初演。近松が初世竹本*義太夫にはじめて書きおろした*浄瑠璃(じょうるり)で，前途を祝し〈出世〉とつけられた。古浄瑠璃と新浄瑠璃との境をなす作で，この作品以後を新浄瑠璃とよぶ。構想・詞章ともに古浄瑠璃を一変させた意義は大きい。物語は平家滅亡後の悪七兵衛景清が源頼朝(よりとも)を討とうとする苦心談で，愛妾(しょう)の阿古屋(あこや)や妻の小野姫をめぐる義理と愛情のしがらみから，結局は頼朝討滅をあきらめ，みずから両眼をえぐって日向(ひゅうが)(宮崎県)に落ちていくというもの。
〔前田慎一〕

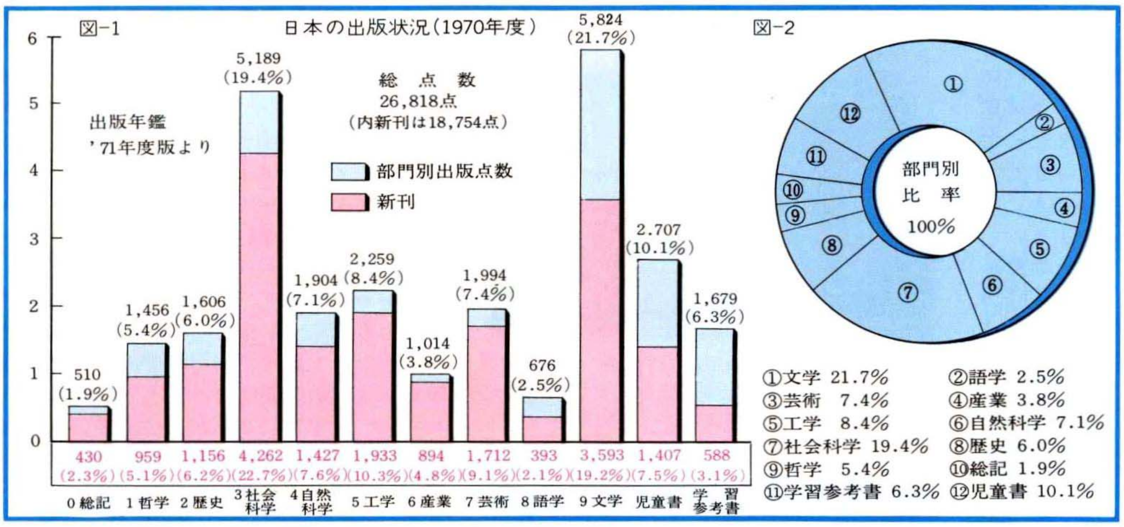
ジュッセルドルフ［Düsseldorf］西ドイツ西部，ライン川右岸の商工業都市。人口62万8,000(1974)。鉄鋼業の中心地で，化学・ガラス・繊維工業も盛ん。河港からはこれらの製品や，穀物・木材などを積み出す。〈西ドイツのショーウインドー〉とよばれ，ノルトライン-ウェストファーレン地方のビジネスセンターで，銀行・商社が集まる経済の一中心であり，市の北方には国際空港がある。医科大学や美術学校もあり，公園が多い。詩人ハイネの生地でもある。
〔野間三郎〕

シュッツ［Heinrich Schütz］(1585～1672) ドイツの作曲家。17世紀ドイツ-プロテスタント音楽の最大の巨匠で，バロック時代の最も重要な作曲家のひとり。中部ドイツのチューリンゲン地方の生まれ。カッセルのヘッセン領主モーリツ伯に美声を認められて少年聖歌隊に加わり，その後マールブルク大学で法律を学んだが，1609年モーリツ伯の援助でベネチアのジョバンニ-カブリエリに師事した。帰国後，カッセルの宮廷オルガン奏者，1617年以後はドレスデンのザクセン選帝侯の礼拝堂楽長をつとめた。三十年戦争(1618～1648)の混乱期には数年間コペンハーゲンの宮廷指揮者となったこともある。1628年再びベネチアへおもむいて*モンテベルディらの新しい劇音楽に接した。三十年戦争が終結すると，ドレスデンにもどり，宮廷楽団の再建に尽力し，80歳の高齢に至るまで創作活動を続けた。2度のイタリア旅行を通じてベネチア*楽派の色彩的な複合唱様式，コンチェルタート様式，劇的表現に富むモノディー様式などに精通した彼の音楽には，このようなイタリア音楽とドイツの伝統的なポリフォニー様式とのみごとな融合がみられる。主要作品に〈宗教的合唱曲集〉〈十字架上の七つのことば〉〈クリスマス-オラトリオ〉〈ルカ受難曲〉〈ヨハネ受難曲〉〈マタイ受難曲〉などがある。
〔寺田兼文〕

シュツットガルト［Stuttgart］西ドイツ南西部，バーデン-ウェルテンベルク州の州都。人口62万5,000(1974)。ネッカー川に沿い，ライン・ドナウ両河川の流域とドイツ北部を結ぶ交通上の要地であり，19世紀以後急速に発展した。出版業の中心地として名高く，製紙その他関連産業が多く，光学機械・自動車・化学工業なども知られ，しばしば産業見本市が開かれる。ここにある図書館は世界一の聖書の収集で知られる。

しゅつにゅうこくかんりれい【出入国管理令】日本に入国もしくは日本から出国する人の入国・出国・在留などを規定する法律。1951年(昭和26)ポツダム政令として制定され，講和条約の発効の日から法律の効力を与えられた。外国人の入国・上陸のための要件，上陸手続き，在留および出国手続き，強制退去，日本人の出国・帰国，運送業者の責任および違反したときの罰則について定めている。出入国の管理は法務省入国管理局が扱い，入国審査官・入国警備官がその業務にあたる。
〔寺尾方孝〕

しゅっぱん【出版】〔出版の概念〕出版ということばは，英語ではパブリッシュ，フランス語ではエディテ，ドイツ語ではヘラウスゲーベンというが，いずれもその原義は，自己の意志を公衆に伝えること



である。日本語の出版も，字義的には版にして世に出すことである（版とは印刷*することを意味する）。したがって厳密には，出版物とは印刷物のことであって，木版印刷*の技術が歴史に登場して以来の知的産物であるといわなければならない。もちろん印刷技術の出現する以前にも，書物が存在しなかったわけではない。たとえば西洋でも東洋でも宗教に携わる修道士・僧侶（そうりょ）たちは，原本の書写によって聖典・経典を複製していた。これが写本とよばれるもので，原始的な出版物ともいえよう。しかし写本製作の真の目的は，純粋な信仰心を表わす業として心をこめて一字一句書き写すことにあったので，布教活動が直接の目的ではなかったから写本の製作過程には，コミュニケーション*の手段としての積極的な意識は介在せず，そこにあるのは出版の本質的な機能とは別個な発想であった。

出版が，人間の共同生活の場において，個人あるいは集団が表現した感情・思考の内容を記録し，その複製を頒布することによってコミュニケーションを実現するという本質的機能を備え，政治的・経済*的にも重要な媒体となったのは，活版印刷*の技術が発明され，近代社会が形成されて教育が普及し，印刷された内容を読解しうる能力をもった人間が数多く存在するようになってからのことである。したがって出版によるコミュニケーションの形態は，その歴史的発達段階によって変わり，それに応じて出版という概念の意味内容もまた変遷してきている。今日では単に出版といえば，ある伝達内容の提供者（著作者・翻訳者・記録者・画家・写真撮影者など）の作成する原稿・原図が，出版業を営む出版社に渡されて編集され，さらに印刷・製本の工程を経て書籍・雑誌の形態に造本されてから取次店・小売書店などの販売機構を通じて読者の手に届くまでの一連の職能的な行為の総体をさすものと考えられている。なお新聞*の発行は，狭義の出版概念では書籍・雑誌の発行とはいちおう区別して考えられているが広義には〈言論・出版の自由〉というように，新聞・書籍・雑誌はもとよりパンフレット*の発行に至るまで，印刷・活字媒体によるコミュニケーション活動の全過程をさして出版というのである。このように広狭二様の解釈はあるが，いずれにしても出版は，近代から現代にかけてジャーナリズム*，マス-コミュニケーション*の一翼をになってきたものであり，自然科学・社会科学・人文科学などさまざまな知識の表現・蓄積・伝承・伝播（でんぱ）・交流のために大きな役割を果たしている。したがって一般民衆の日常生活における思考や行動にも大きな影響を与えている。

【出版の歴史】出版の歴史は，それぞれの地域の言語・習慣・文字・学芸の発達状況，製紙技術，読書人の発達度などの社会的・文化的諸条件を反映しているが，基本的には印刷技術の発達普及の過程と表裏一体である。活版印刷によって最初に本がつくられたのは，イギリスにおいてである（1475年ごろ）。それまで口承で伝えられていた知識が，大量印刷を可能とする活版術によって広く普及するようになり，その社会的影響は，《聖書*》の解釈という問題にも現われている。1520年ごろ《キリスト者の自由》その他新教の本を書いたマルチン-ルター*の宗教改革も，また1789年のフランス革命も，新聞を筆頭とする出版物がなければ起こらなかったであろうとまでいわれている。わが国にも1591年（天正19）イエズス会神父バリニャーニ*によって鋳造活字が伝えられたが，キリシタン*禁制とともに普及することなく，また当時の技術では日本文字の表現には木版のほうが適していたこともあって，明治時代の開国*まですべて木版印刷の時代が続いた。今日の活版印刷は，1870年（明治3）長崎の本木昌造*（しょうぞう）が洋式技術を改良して，楷書（かいしょ）・行書の日本活字を考案したのに始まり，以後社会の資本主義化とともに活字媒体による近代的出版が可能となった。

【出版の現状】コミュニケーション活動の一形態としての出版は，その発生のころからつねに政治的問題との関連を免れず，支配勢力に脅威をあたえる学説・思想を内容とするものや，風俗・モラルを乱すような

ユネスコの統計に基づく各国の総出版点数

国　名	1966	1967	1968
アルゼンチン	3 620	3 645	
オーストラリア	2 744	3 038	2 646
ベルギー	3 214	3 888	4 843
ビルマ	2 141	1 926	
ブルガリア	3 455	3 754	3 579
デンマーク	5 536	4 895	4 972
西ドイツ	22 720	29 524	30 223
東ドイツ	5 310	5 312	5 568
フィンランド	5 155	5 485	5 835
フランス	19 289	19 021	
イギリス	28 789	29 564	31 372
インド	12 123	10 617	11 413
イタリア	10 593	8 215	8 868
日本	30 451	30 027	31 086
ユーゴスラビア	7 768	9 226	9 586
カナダ	3 820	3 782	3 527
韓国	3 464		
メキシコ	4 558		
オランダ	10 582	11 262	11 174
ノルウェー	3 210	3 276	
オーストリア	4 471	4 987	5 164
パキスタン	3 056	3 312	
ポーランド	9 001	9 694	9 361
ポルトガル	5 397	5 522	5 760
ルーマニア	5 039	6 085	7 032
スウェーデン	6 748	7 218	7 482
スイス	6 232	6 041	6 228
スペイン	19 040	19 380	20 008
南アフリカ共和国	1 630	2 641	1 833
中華民国	2 199	2 252	3 858
チェコスロバキア	8 440	8 079	8 103
トルコ	6 060	5 688	5 492
ソ連	72 977	74 081	75 723
ハンガリー	5 259	5 301	5 030
アメリカ合衆国	58 517	58 877	59 247

注） 48ページ以上の出版物を2,000点以上出版している国のみ

娯楽・芸術を内容とするものは政治的圧力の対象となった。現在はそうした政治的圧力はいちおう排除されており，日本国憲法21条には，〈集会，結社及び言論，出版その他一切の表現の自由はこれを保障する〉（1項）〈検閲はこれをしてはならない。通信の秘密はこれを侵してはならない〉（2項）と明記されている。しかし，現行法でも名誉毀損(きそん)（刑法230条），侮辱（同231条），猥褻(わいせつ)文書頒布など（同175条）の三つが最低限の規制として設けられており，時おり表現の自由に関する微妙な問題を引き起こすこともある。言論・出版の自由あるいは表現の自由に象徴されるように，出版と政治との不可避な関連を第1の特徴とすれば，現代社会の出版の第2の特徴は，出版事業が資本主義的営利企業として経営されている点にある。出版を企業面から大別すると，〈出版物という商品を大量に生産し，大量に販売する企業性〉と〈創造的な出版物を少量生産し，少量販売する文化性〉とに分類される。企業利潤の追求を重視する前者と，出版文化の質的な維持・向上に貢献する後者との矛盾対立は，資本主義社会には避けられない出版界の体質であって，他の産業界にはみられない特殊性である。特徴の第3としては，19世紀後半の輪転機と写真製版技術の発明，今世紀におけるグラビア印刷・多色印刷技術の発達が，出版内容の大衆化と出版単位数の大量化をもたらし，本来知的な行為であるべき読書という経験が，視覚的な要素に支配される情緒的なものになってきたことがあげられる。すなわち第2次世界大戦後日本の出版界における〈見る雑誌〉の登場は，大衆娯楽雑誌の異常な発展となって，いわゆる大衆社会状況の促進に作用してきたということができる。1970年（昭和45）3月現在，日本の出版社数は2,605社を数え，そのうち2,219社が戦後の出版好況にささえられて誕生している。中でも講談社・岩波書店・平凡社・主婦の友社などは大正年間（1912～1926）の創業であり，この期に日本の出版ジャーナリズムの原型が整えられ，今日に至っている。
〔前納弘武〕

しゅっぱんけん　【出版権】　版権ともいい，ふつう次の二つの意味に用いられている。①著作権者がみずから出版，または他の者に出版させる権利，②著作権者との契約によって，出版業者が取得した著作物を複製・発売する権利（著作権法28条）。日本では1899年（明治32）著作権法が制定されて著作者のもつ出版権が明確化され，強く保護されるようになった。これに対して出版業者もその権益を守るために出版権の保護を求め，その結果，1934年（昭和9）の改正著作権法によって，詳細な規定が定められた。なお出版業者のもつ出版権は設定出版権あるいは発行権とよばれている。➔著作権　〔鈴木安蔵〕

しゅっぱんじょうれい　【出版条例】　明治政府による出版物の取り締まり法規。1868年（明治1），官許のない書籍の刊行・売買を禁じ，翌年この条例を制定。1872年改正して出版の検閲・内容制限・違反の罰則などを規定した。1875年許可制を届け出制に緩和したが，反面では治安・風俗に関する罰則規定をきびしくし，同年に制定された讒謗律(ざんぼうりつ)・新聞紙条例とあいまって反政府運動弾圧に用いられた。さらに1887年改正，著作権保護規定を分離し，別に版権条例・脚本楽譜条例などを制定した。1893年出版法公布により消滅。〔原田政洸〕

しゅっぱんほう　【出版法】　新聞紙法と並んで，すべての刊行物を規制した法律。明治政権が成立した直後は，御一新とか文明開化とかの風潮があり，また民間の刊行物がほとんどいうに足りない状態であったために，べつに統制もなかったが，政府がすべての刊行物について許可を与えることとなった。それは，著作権の保護をも定めると同時に反政府的言論を取り締まるための許可制であった。大日本帝国憲法が制定されて，一応言論・出版の自由が認められてからも，国家がこれについて統制を加え，たとえば，安寧秩序を乱すもの，皇室の尊厳を傷つけるもの，風俗を乱すものなど，行政当局が判断した著作物・刊行物は，発売を禁止された。また新聞社は高額の保証金を必要としたので，民間の批判的新聞は刊行が困難となった。第2次世界大戦後まで1893年（明治26）制定の出版法，1909年制定の新聞紙法が存続したが，それらは，いずれも明治初年の条例と本質的には違わない国家統制の法規であった。現在の日本国憲法のもとでは，この種の法規は存在しない。　〔鈴木安蔵〕

シュティフター　［Adalbert Stifter］（1805～1868）　オーストリアの小説家。ドイツのボヘミアに生まれ，のちオーストリアの市民となる。ウィーンで法律・哲学を学び，貴族の家庭教師を経て作家生活にはいり，一時は視学官にもなった。その作風は激情や過激を排し，心の平和，高貴な単純，偉大な静けさを理想とした。短編小説《男やもめ》，短編集《習作集》《石さまざま》などのほか，大散文叙事詩ともいうべき教養小説《晩夏》と，歴史小説《ウィティコー》がある。　〔中村浩三〕

シュティルナー　［Max Stirner］（1806～1856）　ドイツの哲学者。本名ヨハン-カスパール-シュミット。少壮ヘーゲル学派に属する。バイロイトの生まれ。ベルリン大学でヘーゲルやシュライエルマッハーの講義を受けた。1845年，主著《唯一者とその所有》を著わして有名となったが，その後は忘れさられて不遇のうちに死んだ。一般に徹底的な利己主義哲学者と目されているが，彼の説く〈唯一者〉は自己中心のいわゆる利己主義的自己ではなく，なにものにもとらわれず，また服従しない創造的自己である。この無制約的唯一者の立場から国家権力の否定へと至り，アナーキズムの先駆者となった。　〔豊福英利〕

シュテファン-ボルツマンのほうそく　【シュテファン-ボルツマンの法則】　黒体の総放射エネルギーは，絶対温度の4乗に比例するという法則。炭火を起こすと，はじめ赤い色をしていたものがしだいに明るく輝きだし，それにつれて熱くなってくる。これは，炭が光の形でエネルギーを放射しており，炭の温度が上がるにしたがって振動数の大きい光がより強く放射され，放射されるエネルギーが増すからである。オーストリアの物理学者シュテファンは，このような物体からのエネルギー放射の強度がその物体の絶対温度の4乗に比例するという法則を実験的に見いだしたが，その後ボルツマンはこの法則を理論的にも説明することができた。のちにプランクは，物体から放射される光にはいろいろな振動数のものが含まれているが，各振動数の光がどれだけのエネルギーをもっているかを考察して，光のエネルギーは連続的ではなく，振動数に比例したある量の整数倍の値しかとりえないと仮定し，古典論に代わる新しい理論への道を開いた。　〔中野藤生〕

シュテルン　［William Stern］（1871～1938）　ドイツの心理学者・哲学者。ベルリンの生まれ。ブレスラウ大学教授を経てハンブルク大学教授となったが，1933年ナチに追われてアメリカに渡った。差異心理学の確立に尽くすかたわら，児童心理学，ことに児童の言語発達の研究に業績を残した。また，人格主義的心理学の立場から，哲学との統一に努力を傾けたことはよく知られている。

シュテルン　［Otto Stern］（1888～1969）　アメリカの物理学者。ドイツの生まれ。チューリヒ・フランクフルト・ロストク・ハンブルクなど諸大学の教授を歴任して1933年渡米，カーネギー研究所の教授となった。原子物理学の基礎的な実験に携わり，特に原子の方向量子化を実証した〈シュテルン-ゲルラハの実験〉で知られている。陽子の磁気能率の測定に関する業績もあり，1943年ノーベル物理学賞を受けた。

しゅてんどうじ　【酒呑童子】　御伽草子(おとぎぞうし)の一。怪物退治の英雄伝説談。貴族の美しい娘をさらう鬼神を退治するため，源頼光(よりみつ)は藤原保昌(やすまさ)と渡辺(わたなべ)綱・坂田公時(きんとき)・碓井貞光(うすいさだみつ)・卜部季武(うらべすえたけ)ら四天王を引き連れ，丹波（京都府）の大江山に向かう。途中，神の化現した翁に会い〈神便鬼毒酒(しんぺんきどくしゅ)〉を与えられ，これを飲ませて鬼神の神通力を失わせ，無事娘たちを助け出す。古くは鎌倉末期の《大江山絵詞(えことば)》に見え，江戸時代の浄瑠璃(じょうるり)などにも発展した。現在では童話として知られる。〔信太　周〕

ジュート ⇨ツナソ

しゅとう【種痘】 天然痘の予防接種。E.ジェンナーが1796年に牛痘に感染した人の痘疱(とうほう)の内容を8歳の男児に接種し，天然痘の予防に成功した。このとき用いられた痘苗(種痘の材料)は牛痘ウイルスであるが，現在は主として人痘に由来するものが用いられている。もっともその性質は人痘ウイルスと牛痘ウイルスの中間の性質で，世界各国に数多くの痘苗株がある。いずれの国の痘苗用のウイルスも性質がよく似ているので，一括してワクチニアウイルスとよばれている。わが国では，定期種痘といって生後6か月から2歳までに第1期を，小学校入学前6か月以内に第2期を，小学卒業前6か月以内に第3期接種をすることに法律で決められている。接種方法は現在は乱刺針で出血しない程度に乱刺する乱刺法(多圧法)が行なわれる。初種痘では，接種後3日めごろから種痘部位が赤くなり，7日めごろから水疱をつくって周囲にはしこりができる。水疱内容は膿(のう)様となり，10日めごろから痂皮(かひ)を形成し，2～3週間前後で痂皮は落ちて瘢痕(はんこん)を残す。7～10日めごろに反応が最も強く，発熱・下痢や局所リンパ腺(せん)腫脹(しゅちょう)などが現われることがある。再種痘時の反応は，一般に初種痘時に比べ軽度である。種痘がついた場合は善感，まったく反応がなかった場合は不全感とし，も一度接種しなおす必要がある。種痘合併症として死亡の危険のある種痘後脳炎や進行性種痘疹(しゅとうしん)・種痘性湿疹・全身性痘疱などがある。〔高橋悦二郎〕

しゅとう【朱耷】（1624～1703） 中国，清(しん)初の画家。号は八大山人。明(みん)の宗室の出身といわれ，明滅亡後は僧となって書画に慷慨(こうがい)の気を託し，詩酒を友として佯狂(ようきょう)の生活を送った。石濤*(せきとう)とともに破格の文人画体で特に師をもたないが，北宋(ほくそう)山水画や元末の黄公望*に私淑したあとがみえる。また，晋(しん)・唐の風格があると評され，省略的で超俗的な画風であるが，同時に鋭い風刺があるともみられる。代表作に《山水花鳥画冊》などがある。〔中島純司〕

しゅとく【朱徳】 チュートー（1886～1976） 中国の軍人。四川省出身。雲南軍官学校を卒業して，革命運動にはいった。中華民国初期の軍閥抗争の中では乱れた生活を続け，1920年ころには一時アヘン吸飲者となったが意志の力でそれから脱却した。1922年，ドイツに渡りベルリンで周恩来に会い，中国共産党*入党の決意を固めた。1926年帰国，1927年には武漢政府*の南昌(なんしょう)軍官学校長となり，八・一南昌暴動に参加，1928年5月，湖南・江西省境の井岡山で毛沢東*と合流，紅軍*第四軍を編成してその総司令となった。それ以後，革命の軍事面を指導した。現在，中国共産党中央委員として活躍している。〔斎藤秋男〕


朱　徳

しゅとくじこう【取得時効】 ⇨時効

しゅとけん【首都圏】 東京を中心とした大都市圏。普通は，首都圏整備法に基づく区域をいう。東京に産業や人口が過度に集中する傾向は，第2次世界大戦前からあったが，戦後はそれがいっそうはなはだしくなり，土地利用の混乱や交通難，住宅の不足，水不足，公害などいろいろな障害が続出するようになった。これらの問題の解決には，東京ばかりでなくその周辺の地域をも合わせた総合的な地域計画が必要なために，1956年(昭和31)に首都圏整備法が法律83号として制定され，その計画の作成や調査のために，総理府の外局として建設大臣を委員長とする首都圏整備委員会が発足した。続いて1963年に近畿(きんき)圏，1966年に中部圏の整備法も制定されている。首都圏の区域は，はじめは東京駅を中心とした半径100～120kmの円内で，埼玉・千葉・神奈川3県の全域および茨城・栃木・群馬・山梨4県の一部を含み，その面積は26,073km²，人口2,257万(1960)であったが，1966年に区域を関東地方の1都6県と中部地方の山梨県の全域に拡大し，その面積は36,700km²，人口は4,383万(1970)となった。

首都圏内の地域指定は，既成市街地・近郊地帯予定地・市街地開発地域となっていたが，1966年の改正で既成市街地・近郊整備地帯・都市開発地域に再編成された。既成市街地は東京都の23区，武蔵野(むさしの)・三鷹(みたか)両市と，横浜・川崎・川口3市の一部で，工場の建設が制限され，道路・宅地・上下水道などの都市施設の整備促進がはかられる。近郊整備地帯は東京都心から約50kmの圏内で，16地区あり，市街地の整備と緑地の保全がはかられ，都市開発地域は埼玉・群馬・栃木・茨城・山梨の各県にわたって22地区が設定され，これは従来東京の衛星都市といわれていた地帯であって，住宅・道路・上下水道などの総合的な都市づくりが進められる。このほか，1966年には別に首都圏近郊緑地保全法が制定されて，東京都心から50km圏の樹林を宅地造成などから守る目的で，10地区が指定された。また1968年には，首都圏内における市街地化，産業構造の高度化，交通・通信施設の進展などが，予想をはるかにこえて，従来の計画が実情にそぐわなくなったために，〈新首都圏基本計画〉が発表された。これは1都7県を〈地域複合体〉としてそれぞれの地域に最も適した機能を分担して整備を進めることを目的としたもので，新宿・渋谷(しぶや)・池袋などの副都心や，横浜市などに都市業務を分担させるという多心的都心の形成や，近郊整備地帯における既定の多摩ニュータウンや港北ニュータウンなどのほかに，茨城県南部，埼玉県東部，千葉県東部などに大規模なニュータウンを建設すること，都市開発地域においては県庁所在地の都市を中心として，複合的な機能をもつ都市地域を整備し，それぞれの都市地域と首都とを高速鉄道や高速道路で短時間に直結するなどの構想が含まれている。〔浅井得一〕

シュトス［Veit Stoss］（1447？～1533） ドイツの後期ゴシックを代表する彫刻家。一時ポーランドに住み，カジミエシ4世の墓碑などをつくったが，のち帰国。ニュルンベルクの聖ロレンツォ寺の《受胎告知》などが代表作とされるが，作品には木彫が多く，絵画・版画も制作した。

シュトックハウゼン［Karlheinz Stockhausen］（1928～　） ドイツの戦後派の代表的作曲家。ケルン音楽院でマルタン*に作曲を学び，1951年ダルムシュタット国際現代音楽祭に参加して《クロイツシュピール》を発表した。1951～1953年パリに留学してメシアン*やミヨー*に作曲を学んだ。パリでは，フランス国立放送局のスタジオで行なわれていた〈ミュージック-コンクレート*〉の実験を知った。帰国後は，ボン大学で音響学や情報理論や通信工学を学び，作曲家としての修業時代を終えた。初期の作品には《クロイツシュピール》(1951)，《シュピール》(1952)などがあるが，一躍その名を世界に広めたのは，電子音楽《習作Ⅰ・Ⅱ》(1953)と《少年の歌》(1955)である。特に後者は，電子音と《旧約聖書》を朗読する少年の声を素材としたもので，電子音楽という新しい領域の可能性を示した作品として高く評価されている。以後この分野では《コンタクテ》(1960)，《テレムジーク》(1966)などが発表された。1956年以後は，ケージ*の偶然性の思想に示唆され，《ツァイトマーセ》(1956)，《ピアノ曲第11番》などの偶然性を含む作品を書いた。彼の作風は，ドイツの伝統的な音楽思惟(しい)を現代において理論化し体系づけたものということができよう。〔船山　隆〕

シュトラウス［Johann Strauss］ 同名の親子はともにワルツ作曲家として知られ，父を1世または〈ワルツの父〉，子を2世または〈ワルツ王〉とよぶ。

1 1世（1804～1849） ウィーンの生まれ。幼時からバイオリンを手にし，1819年ヨーゼフ-ランナーとともにワルツを演奏する団体をつくったが，6年後ランナーと衝

突して二つの団体に別れた。その人気はウィーンばかりではなく，しばしば国外へも演奏旅行を行ない，《ラデツキー行進曲》をはじめとしてワルツ・ガロップ・ポルカなど約250曲ほどを書いて，この娯楽音楽の下地をつくった。

②2世 (1825～1899) ウィーンの生まれ。父の反対で工業学校に進んだが，やがて楽団を結成し，父と対立関係になる。父の死後は文字どおりの〈ワルツ王〉として君臨し，《美しき青きドナウ》(彼の最初の声楽曲)など約450曲を書いた。またオペレッタでも《こうもり》などの傑作を残している。なお，弟ヨーゼフ(1827～1870)もワルツ作曲者としての才能を示したように，シュトラウス一家は，それぞれウィンナ-ワルツの発展に寄与した。〔向坂正久〕

シュトラウス [David Friedrich Strauss] (1808～1874) ドイツの神学者。少壮ヘーゲル学派*のひとり。ルドウィヒスブルクの生まれ。チュービンゲン大学・ベルリン大学で学び，のちチュービンゲン大学教授。1835年《イエスの生涯(しょうがい)》を著わし，聖書およびキリスト教教義についての歴史的・文献学的研究に基づいて福音書を信仰による宗教的想像の凝縮した神話とし，福音書のイエスは歴史的実在ではなく，〈信仰上のキリスト〉であるという革新的な聖書批判を行なった。《イエスの生涯》の出版はヘーゲル学派分裂の機縁となり，またB.バウアーやフォイエルバッハ*らの宗教批判を生んだ。晩年には自然的汎神論(はんしんろん)を唱えた。ほかに《信仰論》などの著作がある。〔豊福英利〕

シュトラウス [Richard Georg Strauss] (1864～1949) ドイツの後期ロマン派の作曲家・指揮者。ミュンヘンで音楽家の家庭に生まれた。幼いときからピアノ・バイオリン・音楽理論を学び，6歳のときすでに作曲をはじめている。《交響曲第1番》(1881)以後，しだいに作曲家として認められ，ハンス-フォン-ビューローの勧めでマイニンゲン宮廷管弦楽団の指揮者となり，指揮活動への第一歩を歩みはじめる。その後，ミュンヘン・ワイマール・ベルリンなどの宮廷歌劇場，ウィーン歌劇場の指揮者を歴任。さらにヨーロッパ各地やアメリカに演奏旅行を企て，自作をはじめとしてモーツァルトやワーグナーらのオペラを上演するなど，意欲的に活躍した。また，ナチス政権下では音楽局総裁をもつとめた。作曲家としては，保守的な父親の影響の下に，バッハからブラームスに至る古典派の伝統の延長線上で創作活動を開始したが，しだいにワーグナー・ベルリオーズ・リストらの音楽に目を開かれ，交響詩・オペラ・歌曲の領域で独自の世界を切り開いた。代表作として，交響詩《ドン-ファン》《ティル-オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》《英雄の生涯(しょうがい)》，標題交響曲《家庭》《アルプス》，オペラ《サロメ》《ばらの騎士》などがある。シュトラウスはこれらの作品によって，リストの標題音楽，ワーグナーの楽劇*をさらに推し進め，爛熟(らんじゅく)期にあったドイツ-ロマン派の最後のピークを形成した。〔寺田兼文〕

シュトラスブルガー [Eduard Strasburger] (1844～1912) ドイツの植物学者・細胞学者。ボン・イエナ両大学で学び，両大学の教授を歴任。1870年代に，染色体*の減数分裂*，受精*の過程などを明らかにした。また，遺伝質が染色体に存在することを示唆(しさ)し，細胞遺伝学の創始者として大きな役割を果たした。

シュトルム [Theodor Storm] (1817～1888) ドイツの詩人・小説家。北ドイツの小さな港町フーズムに生まれ，キール・ベルリン両大学で法律や文学を学んだのち，主として郷土に住み，弁護士・州知事・判事などを勤めるかたわら，郷土の人間と自然を詩と小説に描いた。400に余る叙事詩，出世作《みずうみ》(1849)のほか，《三色すみれ》《人形つかいポーレ》《溺死(できし)》《白馬の騎士*》など50余の短・中編小説がある。作風は初期の叙情的・回想的なものから，しだいに写実的な重厚なものへと発展していった。〔中村浩三〕

シュトルム-ウント-ドランク [Sturm und Drang] 1770年ごろから10数年にわたるドイツの文芸思潮。この名はクリンガー*の戯曲に由来し，《疾風怒濤(どとう)》《嵐(あらし)と迫り》などと訳されている。その基調は，フランス宮廷ふうロココ文化に反抗して，個性の自由な全面的発展をめざすところにあり，自然と内面感情の尊重，人工と形式論理の排斥を特色とする。ヘルダー*の文芸論，ゲーテの《若きウェルテルの悩み》，シラーの《群盗*》がこの思潮を最もよく代表している。〔市村 仁〕

シュトレーゼマン [Gustav Stresemann] (1878～1929) ドイツの政治家。第1次世界大戦前から，ブルジョアジーを背景とする国民自由党の国会議員として活躍，大戦後は同党の流れをくむドイツ人民党の党首となり，1923年には首相兼外相として同党から社会民主党に至るワイマール大連合の内閣を組織し，ルール占領に対するドイツの消極的抵抗を停止してもっぱらベルサイユ条約*を忠実に履行する政策をとった。同年末，首相を辞したが，この間国立銀行総裁シャハトの協力を得て天文学的インフレの収拾に成功し，その後も外相としてとどまり，1924年ドーズ案*を承認してドイツの資本主義的再建を軌道に乗せた。ロカルノ条約*の締結，ドイツの国際連盟加入など協調外交に努め，1926年フランスのブリアンとともにノーベル平和賞を受けた。〔松 俊夫〕

シュトロハイム [Erich von Stroheim] (1895～1957) アメリカの映画監督・俳優。ウィーンに生まれ，1909年アメリカに移住。はじめグリフィス*の映画製作に協力したり，俳優として活躍。のち脚本家・俳優・監督を兼ねて映画製作を行なったが，商業的な配慮を無視した製作態度のため監督としての道を断たれ，俳優にもどった。監督作品に《愚かなる妻》《ダリード》などがあり，リアリズムの手法により，人間の内奥に潜む矛盾を摘発するところに作風の特徴がある。〔大谷裕子〕

シュナイダー [Hannes Schneider] (1890～1955) オーストリアの著名なスキーヤー。同国の西部，アールベルク峠に近い世界的に有名なスキー場ザンクト-アントンに生まれ，オーストリアスキー術を近代的テクニックにまとめあげて，アールベルク-スキー術を創出した。左右のスキーの先端をつけたままV字形に開いてスピードを自由に調節することにより，転倒を避けて安全性を高めるとともに，この技術を基礎にしてパラレル-クリスチャニアに導く技術体系を組み上げ，みずからその高等技術を世界に披露(ひろう)した。1930年(昭和5)来日し，各地で実演・講演を行なっている。1938年，ドイツのオーストリア合併後追放され，アメリカに亡命して多くのスキーヤーを指導した。〔堀 浩〕

シュナイダー [Erich Schneider] (1900～1970) 現代ドイツにおける経済理論の代表的な指導者。デンマークのオーフ大学を経て，キール大学で教鞭(きょうべん)をとり，同大学の学長もつとめた。主著《経済理論入門》(全3巻)は卓越した価値をもつものとして高く評価され，経済理論の入門書として広く利用されている。ほかに生産の理論，独占の理論に関する研究がある。

シュナイダー [Reinhold Schneider] (1903～1958) ドイツのカトリック系小説家。第2次世界大戦中，反ナチズム著作家として大逆予備罪に問われた。主要作品は歴史物で，代表作《ラス-カサスとカール5世》は新大陸でのスペインの植民地政策を背景に，ファシズムの暴政に関連づけながら，政治権力とキリスト教ヒューマニズムとの衝突を中心テーマとしたものである。評論にも力作を残した。

シュナイデル [Gérard Schneider] (1896～) スイス出身のフランス画家。1916年パリに出て装飾美術学校に学ぶ。はじめフォービスム・キュービスム・シュルレアリスムの影響を受けたが，第2次世界大戦後は抽象絵画に転じ，サロン-ド-メなどに出品。具象的な描写を排した純粋に内面的な画面は，色彩表現とあいまって独自な詩情を宿している。

じゅなん【受難】 キリスト教でイエス-キリストがその一生で受けたさまざまな苦難，特に十字架上での刑死をいう。教会では復活祭前の2週間を受難節とよんでこれを記念する。中世にはキリストの生誕・受



ジュネーブ
市街とレマン湖の眺望。湖水は左手の湖じりからローヌ川となって市中を流れ，フランス領にはいる

難・死・復活・昇天の一代記を劇化した受難劇とよばれるものが行なわれ，またバッハらにより受難曲という音楽形式に継承された。美術でも受難を題材とする多くの作品がつくられた。

じゅなんきょく　【受難曲】　広義には，キリストの受難(捕縛・裁判から十字架上の死)を扱った作品をさす。これは中世から特に教会音楽の中にみられる。グレゴリオ聖歌では，キリスト・ユダヤ人・語り手の三者の対話形式で物語が進められ，それぞれが独特の音程・リズムなどを保持していた。ルネサンス期には，聖歌による部分の断片的あるいは全体の多声化が試みられ，語りの部分と合唱の部分の結合によるのちの受難曲の原型ができあがった。狭義の受難曲は，バロック初期のドイツの作曲家シュッツの作品に始まるといってよい。彼の作品では，ルネサンス的な多声楽と，バロックの特徴ともいうべきレシタチーボとがその基礎をなしている。物語は主として福音書記者によって語られ，キリストそのほか若干の人物がこれに加わる。福音書記者やキリストのレシタチーボに対して，その他多勢の人々は合唱という形でこれに参加する。シュッツ以後，受難曲はオペラを中心とする世俗作品の様式の影響を強く受け，アリアの形式やオーケストラ伴奏が常識となった。音楽の面からみると，自由な歌詞によるオラトリオと大差ない作品が多くつくられた。シュッツに次ぐ受難曲の大家はJ. S. バッハであるが，彼は世俗化を極力排して，シュッツの理想としたスタイルへの復帰を試みた。バッハの《マタイ受難曲》《ヨハネ受難曲》は，このジャンルを代表する傑作である。バッハ以降，受難曲は急速につくられなくなり，わずかに20世紀にはいって，一連の復古主義との関係において作曲が試みられた程度である。　〔吉田泰輔〕

じゅなんげき　【受難劇】　⇨宗教劇

ジュニア-カレッジ　⇨大学

ジュニアス-レターズ　[Junius Letters]　1769年1月21日から1772年1月21日までの間，ジュニアスという匿名でロンドンの新聞《パブリック-アドバタイザー》に掲載された一連の投書。合計63通にのぼる。グラフトン内閣(トーリー党)の政策をはじめ，重臣・軍部や国王ジョージ3世に至る支配層の専制的傾向と腐敗堕落を批判して攻撃した。国王を誹謗(ひぼう)した罪で〈ジュニアス裁判〉が行なわれて発行者はきびしく追及されたが，ジュニアスの正体はついに明らかにされなかった。　〔松下京子〕

しゅにえ　【修二会】　旧暦2月に天下泰平などを祈って修せられる法会。正しくは修二月会という。修正会に次ぐ重要な年中行事として薬師寺・興福寺・延暦(えんりゃく)寺などの諸大寺で行なわれたが，今日では東大寺二月堂にのみのこる。➔お水取り

じゅにく　【受肉】　キリスト教で三位一体の第2位格である子キリストが，人類の贖罪(しょくざい)のために歴史的にナザレのイエスという人間となって，この地上に生まれたことをさす。インカーネーションともいう。仏教の化身・権化にほぼ相当する。《新約聖書 ヨハネの福音書》1章14に記されている〈ことばは人となって，私たちの間に宿った〉が根拠とされる。教理史的にはアタナシウスの《神のことばの受肉》ではじめて整合化され，アンセルムスの《なぜ神は人となり給うたか》でさらに発展させられた。現代ではバルトが受肉を神の恩恵の核心として把握(はあく)し，自己の神学の主要な柱の一としていることは有名である。〔石井忠厚〕

シュニツラー　[Arthur Schnitzler]　(1862〜1931)　オーストリアの劇作家・小説家。19世紀末の退廃的・享楽的なウィーン情緒を背景に，人間の生死や愛欲の問題を，繊細な感覚で描き出した。はじめ医師を業としたが，心理的な一幕劇集《アナトール》によって認められ，戯曲《恋愛三昧(れんあいざんまい)》や小説《みれん》によって作家活動にはいった。心理分析にさえをみせる短編小説にも佳品が多いが，実在と仮象，夢と現実，性と愛などをテーマにした戯曲がその本領で，代表作にグロテスク劇《緑のオウム》《輪舞》《ベアトリーチェのベール》《広い国》，ユダヤ人問題を扱った《ベルンハルディ教授》などがある。　〔岩淵達治〕

ジュネ　[Jean Genet]　(1910〜　)　フランスの小説家・詩人・劇作家。娼婦(しょうふ)の子として生まれ，10歳のときの盗みをはじめとし，こじき・どろぼう・男娼などの生活を転々とした。獄中で詩集《死刑囚》などを書き始め，悪の世界を逆手にとって自己存在の確認を行ない，盗み・同性愛などの醜悪な現実をあばきながら，その裏側に聖性への希求を見いだそうとした。代表作に，小説《花のノートルダム》《薔薇(ばら)の奇蹟(きせき)》，戯曲《女中たち》《黒んぼたち》，自伝的小説《泥棒(どろぼう)日記》などがあり，その多くは獄中で執筆，秘密出版された。　〔池田公麿〕

ジュネーブ　[Genève]　スイス南西端，レマン湖に発するローヌ川の流出口に位置する都市。人口15万9,000(1975)。英語ではジェネバ，ドイツ語ではゲンフとよばれる。16世紀末に始まる時計工業やダイヤモンド加工で名高い。市街はローヌ川によって二分され，左岸は旧市街で行政・商業地区，右岸の新市街は住宅地区である。旧市街には12世紀建造のサンピエール大寺院や16世紀建造の市庁舎などをはじめ古い建造物が多く残っている。16世紀の宗教改革の中心地で，その記念碑をはじめ，1559年にカルバンが創設したアカデミーにはじまるジュネーブ大学がある。平和と自由の精神があふれる都市で，1864年には国際赤十字本部が置かれ，次いで国際連盟本部も置かれた。国際労働機関(ILO)本部など国際団体本部が多く，国際会議がしばしば開かれる。J. J. ルソーの生地でもある。　〔野間三郎〕

ジュネーブかいぎ　【ジュネーブ会議】　1954年4月26日から7月21日まで，朝鮮統一とインドシナ3国の休戦に関して，ジュネーブのパレ-デ-ナシオンで開かれた26の関係諸国外相による会議。冷戦の激化以来，最大の国際会議といわれ，また中華人民共和国が正式に参加した最初の国際会議で，アメリカ・中国が同じ舞台であいまみえ，しかも中国代表の活躍が国際的に強く印象づけられた。会議は，朝鮮統一では失敗したが，インドシナ戦争を休戦させることに成功した。5月18日からインドシナ問題が討議され，当初，歩み寄りが非常に困難な状況であったが，フランス内閣が辞職し，代わったマンデス-フランス新首相は，休戦を要望する国内外の世論を背景に，イギリス・ソ連・中国の3代表と直接話し合いをもち，7月21日，インドシナ休戦協定が調印された。➔ジュネーブ協定　〔広部和也〕

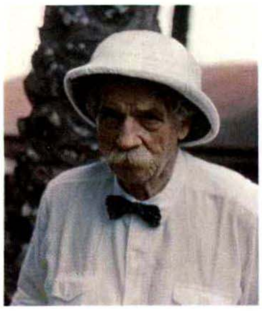
ジュネーブぎていしょ　【ジュネーブ議定書】　1924年国際連盟総会(第5回)で採択された〈国際紛争平和的処理議定書〉。フランスのエリオ，イギリスのマクドナルド両首相の提唱に基づいて作成され，19か国が署名したが，イギリスが反対態度をとったため不成立に終わった。国際紛争の平和的処理，安全保障および軍備縮小に関して詳細な規定を設け，特に前二者については

両者の有機的関連づけをするなど，国際平和保障体制の構想としては非常に進んだものといわれ，注目すべきものであった。なお，1926年の〈窒息性・毒性またはその他のガスおよび細菌学的戦争方法を戦争に使用することを禁止する議定書〉と1928年の〈国際紛争平和的処理に関する一般議定書〉もこの名でよばれる。　〔広部和也〕

ジュネーブきょうてい　【ジュネーブ協定】　1954年7月21日，ジュネーブ会議*で調印されたインドシナ3国（ベトナム・ラオス・カンボジア）の休戦に関する協定。ベトナム休戦協定・ラオス休戦協定・カンボジア休戦協定の3協定からなっている。ベトナム協定では，北緯17度線の南北各5km以内に設けられた非武装地帯を境に，南ベトナムとフランス，ホー政権とそれぞれ撤退集結し，事実上南北ベトナムに分割，新たな軍隊の強化，武器軍需品などの援助の禁止，捕虜・民間人抑留者の交換，国際休戦監視委員会の設置などについて定めている。また，会議の宣言として，インドシナ3国の独立，主権，領土保全を尊重すること，インドシナ3国の軍事同盟不参加，中立化，ベトナム統一のための選挙を1956年7月までに国際委員会の管理の下に行なうことなどを採択した。しかし，統一選挙も中立化も実現しなかった。なお会議には，北ベトナム・南ベトナム・ラオス・カンボジア・アメリカ・イギリス・ソ連・フランス・中国の9か国が出席したが，南ベトナムとアメリカは最終宣言に署名しなかった。ただし，アメリカは，協定を尊重する旨の独立の宣言をしている。　〔広部和也〕

ジュネーブきょとうかいだん　【ジュネーブ巨頭会談】　1955年7月18～23日，ジュネーブのパレ-デ-ナシオンで開かれたアメリカ（アイゼンハワー大統領）・イギリス（イーデン首相）・フランス（フォール首相）・ソ連（ブルガーニン首相）4国の首脳会談。頂上会談ともいう。現代において，大国の首脳が直接に会談する巨頭会談は，平和の確保に不可欠の会談であり，歴史的にも重要な役割を果たしてきた。第2次世界大戦中から行なわれた会談としては，テヘラン会談*・ヤルタ会談*・ポツダム会談（1945年7月，アメリカ・イギリス・ソ連・フランス）などがあるが，現在，巨頭会談といった場合には，このジュネーブ巨頭会談をさすのが普通である。この会談では，具体的な結果が得られたわけではないが，冷戦による国際緊張の緩和の点で大きな成果をあげることができ，将来に大きな希望をいだかせた。議題は，ドイツ問題，ヨーロッパ安全保障，軍縮，東西交流の四つであった。なお，この会談における和合協力の姿勢を〈ジュネーブ精神〉という。　〔広部和也〕

ジュネーブぐんしゅくかいぎ　【ジュネーブ軍縮会議】　1927年6月20日から8月4日までジュネーブにおいて，アメリカ・イギリス・日本の3国の間で開かれた海軍軍縮会議。ワシントン会議*で制限されなかった艦種（巡洋艦・駆逐艦・潜水艦）について討議しようとしたもので，アメリカ大統領のクーリッジ*がワシントン海軍条約の調印国（イギリス・フランス・イタリア・日本）を招請したが，そのうちフランス・イタリアは当時国際連盟で行なわれていた軍縮委員会の活動を妨げること，小国が招請されていないことを理由に出席を拒否した。しかし，ワシントン会議の比率を単純に拡張することを提案するアメリカと，小型巡洋艦などの制限を拒否するイギリスとでは，制限の対象に基本的な相違があり，結局失敗に終わった。　〔広部和也〕



シュバイツァー



シュバシコウ

ジュネーブじょうやく　【ジュネーブ条約】　1949年8月12日，戦争犠牲者保護のために作成され，1950年10月21日に発効したもので，〈戦地にある軍隊の傷者及び病者の状態の改善に関する条約〉〈海上にある軍隊の傷者，病者及び難船者の状態の改善に関する条約〉〈捕虜の待遇に関する条約〉〈戦時における文民の保護に関する条約〉の4条約をさす。1864年の赤十字条約以後，いくつかの新たな条約または改正を受けるなど，戦争犠牲者の保護を拡大強化する努力はたえず続けられてきたが，特に第2次世界大戦の切実な経験からそれまでの条約に代わりまたは補完するものとして作成されたものである。　〔広部和也〕

ジュノー　⇨ユノ

ジュノー　［Juneau］　アメリカ合衆国，アラスカ州の州都。人口7,000（1965）。州南東岸にある港湾都市で，サケを中心とした漁業の基地となっている。かんづめなどの食品工業や製材業が盛んで，付近にはアラスカ-ジュノー産金会社の金山がある。

しゅのいのり　【主の祈り】　《新約聖書》でイエス-キリストが弟子（でし）たちに直接に教えた祈り。主禱文（しゅとうぶん）ともいう。《新約聖書 マタイの福音書》（6章9～13），《新約聖書 ルカの福音書》（11章2～4）に記されているが，両者の間に用語について若干の相違がある。六つの願いが骨子となっており，神への深い信頼に根ざす祈りをきわめて簡潔な形式のうちに示している。なお，〈マタイの福音書〉の結句の〈国と力と栄えとは，とこしえにあなたのものだけです〉は後代の付加とされている。

シュパイエルこっかい　【シュパイエル国会】　ドイツの宗教改革*と関連して西南ドイツの都市シュパイエルで2回にわたって開かれた国会。第1回は1526年，オスマン-トルコの軍がウィーンに迫ったとき，皇帝カール5世*がルター派諸侯の協力を得るために開いたもので，諸侯および帝国都市の宗教の自由選択権を承認した。しかし1529年，いちおう帝国の危機が去ると，皇帝は再び第2回の国会を召集し，さきの決定を取り消すとともにウォルムスの勅令を再確認した。これに憤ったルター派諸侯および帝国都市は皇帝に抗議（プロテスト）し，これがプロテスタントの名の起こりとなった。　〔松　俊夫〕

シュバイツァー　［Albert Schweizer］　（1875～1965）　ドイツの神学者・哲学者・音楽家・医師。アルザスのカイゼルスベルクの生まれ。シュトラスブルク大学で神学・哲学を学び，卒業後，牧師・大学講師・オルガン奏者をつとめた。30歳のときアフリカ伝道を決意し，母校で医学を修めて1913年フランス領コンゴ（現在のガボン共和国）のランバレネにおもむき，病院を開設してアフリカ人の医療と伝道に従う。第1次世界大戦中，本国へ送還されたが，《水と原生林のはざまで》（1921）を著わしてのち，再び渡航し，同地で没。1953年ノーベル平和賞を受賞。《イエス伝研究史》でイエスの教説における終末論的要素を強調，《文化哲学》では〈生命への畏敬（いけい）〉を説いた。ほかに《バッハ》《わが思想と生活》など。　〔石井忠厚〕

しゅばしこう　【朱嘴鸛】　鳥類・コウノトリ科。ヨーロッパ産で，日本のコウノトリ*と同種の一亜種。日本のものよりやや小さく，くちばしは美しい赤色。アフリカに渡り，越冬する。ゲルマン民族の間ではこの鳥が生息することを吉兆とする伝説があり，自然の巣に似せて古い車輪を屋根に載せたりやぐらを組んだりしてたいせつにしているので，現在も多数が屋根の上で営巣・繁殖しているが，近年減少の傾向がある。

シュバリエ　［Maurice Chevalier］　（1888～1972）　フランスのシャンソン歌手・







じゅばん ①緋縮緬の長じゅばん(江戸後期) 鳥居清長画による ②胴抜き仕立ての長じゅばん(江戸後期) 五渡亭国貞画による ③中形染めの半じゅばん 歌川豊国画による

映画俳優。トーキー初期に，フランスとハリウッドの音楽映画で活躍。《ラブ-パレード》などが有名。第２次世界大戦後はクレールの《沈黙は金》で俳優としての風格を示した。その後舞台やスクリーンからは引退。

じゅばん 【襦袢】 ポルトガル語のジバオの転。和服下着の一種。本来はひとえの上半身のはだ着。汗取り・はだ着・はだつけ・ててらなどともよぶ。16世紀の中ごろ取り入れられた南蛮ふう被服文化の中で，当時はだ着専用に分化した衣服をもたなかった武家・庶民の間に広く普及した。はじめの形はそでなしで，おくみ・えりのついたひとえ仕立ての上半身衣であり，大名は紅染めの無地の紋羽二重などの絹織物でつくったものを着ていた。その後，別布の広そでがつき，おくみが取れて身ごろのすそまでえりがつく現今の半じゅばんの形になった。江戸時代には民衆の日常着となり，女子はすそよけと組んで用いた。はじめは麻布が多かったが，もめんが生産されるようになると綿布が用いられるようになり，そでに縮緬(ちりめん)・太織紬(ふとおりつむぎ)をつけることも行なわれた。

この上に着るものとして元禄(げんろく)時代(1688～1703)につくられた対丈(ついたけ)の間着(あいぎ)は長じゅばんとよばれ，着流しや礼装用に用いられた。羽二重・綸子(りんず)などを用いたはなやかなものや，防寒用を兼ねたあわせ仕立てのものもあり，日常用としては胴抜き仕立て・額ぶち仕立てのものが多かった。第２次世界大戦後はあわせの長じゅばんはすたれ，冬でもひとえ仕立てのものを着るようになり，振りそでのときだけそでをあわせ仕立てにする。また，働き着としてもめんのしまやかすりなどで筒そで半じゅばん(つつっぽ・むきみやそで・もじりそで)がつくられた。 〔堀越すみ〕

ジュパンチッチ ［Oton Župančič］ (1878～1949) ユーゴスラビアのスロベニアの詩人・劇作家。のちにスロベニアの主都リューブリアナの国民劇場の支配人となった。近代スロベニアの詩の言語の創始者で，詩集《陶酔の一椀(いちわん)》《平原をよぎりて》《モノローグ》，韻文の悲劇《デセニスのベロニカ》などで範を示した。作品には，民族とその運命との深い結びつきがみられる。またシェークスピアをはじめとする世界の古典文学の翻訳者としても知られる。



樹　氷 山形県蔵王の樹氷

シュピーゲル ［Der Spiegel］ 西ドイツの代表的でかつ高級な週刊のニュース・評論雑誌。1946年イギリス軍占領下で創刊された《ディーゼ-ボッヘ》の後身で，1949年１月に現誌名に改題した。権力批判をその編集方針としているが，1962年10月10日号に掲載したNATO軍図上作戦〈ファレックス62〉が国家機密をあばいたかどで反逆罪に問われたため，言論の自由と国家機密の関連性を中心として反論し世界的にシュピーゲル事件として注目された。発行部数は約87万部。 〔飯田良明〕

ジュピター ［Jupiter］ ローマ神話の主神。ラテン名ユピテル。本来，光・雷・雨などの気象現象や農事に関係した天空神である。誓約の神として道徳・正義をつかさどる一方，戦時に敵軍をはばみ，戦利品を受納した。ローマ国家の守護神としてユノ・ミネルバとともにカピトリウムの神殿に祭られた。神格を雷(いかずち)・ワシ・カシなどで象徴する。早くからローマの主神であったが，やがてゼウスと同一視され，神話伝説も多くはゼウスと重複している。神話系譜ではサトゥルヌスの子である。➔ゼウス 〔松田　治〕

ジュピターこうきょうきょく 【ジュピター交響曲】 モーツァルトの交響曲。旧全集番号で第41番にあたり，その番号でよばれることが多いが，ケッヘル番号では551。４楽章からなるハ長調の交響曲である。《ジュピター》の名は19世紀にはいって楽譜出版社がつけたものだが，曲の堂々とした内容にふさわしい。終曲にフーガがあるので《終わりにフーガをもつ交響曲》という呼び方もある。1788年夏に第39番変ホ長調，第40番ト短調とともに書かれた。〔向坂正久〕

シュピッテラー ［Carl Spitteler］ (1845～1924) スイスの詩人。法学・神学を学び，教師・新聞編集者などを勤めながら詩作を続けた。フィンランドとロシアでの家庭教師時代，詩人の使命に目ざめ，12年の苦闘ののち，人間の尊厳をうたった独創的な叙事詩《プロメートイスとエピメートイス》を1881年に完成。1919年にノーベル文学賞を受けた。

じゅひょう 【樹氷】 過冷却した霧粒が樹木やそのほかの地物に吹きつけられてできた白色不透明のもろい氷。羽毛状・尾びれ状に氷が重なってできている。これに対して水蒸気の昇華によってできた針状・板状・コップ状の結晶形のものを樹霜という。

シュピーリ ［Johanna Spyri］ (1829～1901) スイスの女流作家。素朴(そぼく)な子どもたちを主人公に，山や村を舞台にしてキリスト教の精神に貫かれた多くの作品を書いた。《子どもたちと子どもを愛するおとなたちのための物語》全16巻の中には，日本でも《アルプスの山の少女》として広く親しまれている作品《ハイジ》が含まれている。

ジューブ ［Pierre-Jean Jouve］ (1887～) フランスの詩人。性をめぐる苦悩と認識が人間を崇高な存在へ高めるという主題を，異様な美しさの文体でうたった。代表作に精神分析学の影響の濃厚な《血の汗》や《パリの処女》などがある。

じゅぶつすうはい 【呪物崇拝】 ⇨フェチシズム

シュプランガー ［Eduard Spranger］ (1882～1963) ドイツの哲学者・教育学者。ベルリンの生まれ。ライプチヒ・ベルリン・チュービンゲン各大学の教授を歴任。ディルタイの影響を受け，精神科学的心理学(形而上学(けいじじょうがく)的了解の上に立つ心理学)の方法によって生の諸形式としての〈類型〉の思想を展開し，生命・文化の諸現象の理解を試みた。彼の教育学もその心理学の方法に立つ。ヨーロッパの伝統的ヒューマニズムの継承者として高い評価を受けた。主著《生の諸形式》《文化病理学》《たましいの魔術》など。 〔豊福英利〕

シュプリンガー ［Anton Springer］ (1825～1891) ドイツの美術史家。1860年ボン大学教授に就任。資料の文献学的批判を基礎にして様式分析を行なう実証主義的美術史を確立した。また，図像学の研究においても大きな業績を残している。主著に《美術史全書》《19世紀美術史》《中世美術資

料》などがある。

シュプレマティスム [suprématisme] 絶対主義ともいう。マーレビッチ*によって推進された純粋に幾何学的な抽象絵画運動。マーレビッチはキュービスム*を徹底的に推し進め，いっさいの自然的対象の表現・描写を排し，最も単純な幾何学的形象による純粋に知的な画面の構成をめざした。彼の，1913年に発表されたこの主義の最初の作品がそうであったように，その画面の構成は白地に黒の正方形・円・三角形・十字形を組み合わせた簡潔なものである。1915年詩人マヤコフスキー*の協力を得て〈シュプレマティスム宣言〉が公刊された。それによれば，こうした画面は，自然を越えた純粋な感覚そのものを表現し，このような純粋な感覚のみが本質的であるという。1918年マーレビッチは《白の上の白》を発表，この主張を極限まで推し進めたが，1920年ごろから当局の批判を受け，ついには運動の消滅をみた。しかし，この運動はやがて構成主義*の運動を導き出し，さらにドイツのバウハウス*，オランダの新造形主義に大きな影響を及ぼした。➔アブストラクト-アート 〔松久勝利〕

しゅふれんごうかい【主婦連合会】 1948年(昭和23)物資統制の配給時代に東京を中心として結成された家庭主婦の消費者団体の連合体。主唱者奥むめお。1971年現在東京203，地方253の団体が加盟，ほかに個人会員をもつ。消費者米価値上げ反対，牛乳集団購入運動，消費物資の不良品テストなど，消費者の苦情をまとめた団体運動で著名である。全国各地に日用品試験室などをもっている。

じゅふん【受粉】 花粉がおしべの柱頭につくこと。同一個体の花粉がつく場合を自家受粉，他の個体の場合を他花受粉という。柱頭についた花粉は花粉管を伸ばして受精へと移行する。花粉の運ばれ方によって風媒・虫媒・水媒などといわれるが，これは植物の種類によって決まっている。特定の個体間で受粉をさせるときなどでは人工受粉(人為受粉)を行なう。

ジュベ [Louis Jouvet] (1887〜1951) フランスの俳優・演出家。ブルターニュ地方に生まれ，高校卒業後パリで薬学をおさめたが，演劇に魅せられて旅回りの劇団に参加。1913年コポー*のビュー-コロンビエ座の創立に加わったが1923年コメディー-デ-シャンゼリゼー劇場に演出者として迎えられ，翌年座長となる。1934年アテネ座に移り，これをルイ-ジュベの劇場と名づけパリ劇壇の中心的存在として活躍，かたわらパリ音楽院の教授，コメディー-フランセーズ*の演出者を兼ねた。アシャールの《お月さまのジャン》，J・ロマンの《クノック》など多くの名舞台を残したが，特に難解なジロドゥー*の諸作品を世に紹介した功績は大きい。1935年来映画にもたびたび出演，《女だけの都》《北ホテル》《舞踏会の手帖(てちょう)》《旅路の果て》などに名演技を残している。〔白川宣力〕


シューベルト

シュペーマン [Hans Spemann] (1869〜1941) ドイツの発生学者。ハイデルベルクとミュンヘンで学び，ロストック大学・カイザー-ウィルヘルム研究所・フライブルク大学で実験発生学を研究，20世紀前半におけるこの分野での世界的指導者であった。業績としては両生類の胚(はい)の結紮(けっさつ)による分化の決定(1901〜1903)，眼杯によるレンズ誘導(1901)などの実験のほか，1924年の形成体*の発見は特に重要で，これによって発生学の発展に大きな影響を与えた。この研究の中で，両生類の後期嚢胚(のうはい)から切り取った原口背唇部(はいしんぶ)を他の胚に移植すると，宿主胚に神経管などの中軸器官が誘導形成されることを明らかにした。1935年ノーベル医学生理学賞を受賞。〔中村禎里〕

シューベルト [Franz Peter Schubert] (1797〜1828) オーストリアの作曲家。小学校教員のむすことしてウィーンに生まれる。12歳で宮廷礼拝堂の少年合唱隊員として神学校に入学，サリエリ・ルツィッカの教えを受けるとともに，豊かな音楽体験を重ねる。変声期に学校を去り，父のもとで代用教員をつとめる。その後，音楽家として定職につこうと努めたが，短期間エステルハージー伯爵家で令嬢のピアノ教師をつとめた以外は，多くの友人に助けられながら自由でボヘミアン的な生活を送った。

彼の作品は劇音楽・宗教音楽・交響曲・室内楽・歌曲などあらゆる分野にわたっているが，その本領は600曲以上に及ぶ歌曲(リート)にある。これらは，すでに14〜15歳ごろから書きはじめられたが，代表作としては《美しき水車小屋の娘*》《冬の旅*》《白鳥の歌*》の三大歌曲集をはじめとして，《鱒(ます)》《水の上で歌う》《死と乙女》《楽に寄す》《アベ-マリア》などがある。これらの歌曲によって，ドイツ-リートは真の芸術的価値を獲得し，その後シューマン・ブラームス・ウォルフ・R.シュトラウスに受け継がれて19世紀ドイツ音楽の重要なジャンルの一つとなった。リート以外の作品には，《未完成交響曲*》を含む7曲の交響曲，ピアノ五重奏曲《鱒》，弦楽四重奏曲《死と乙女》，10数曲のピアノ-ソナタなど，古典的な形式に基づく器楽曲が知られている。またピアノのための小品を集めた〈モーメント-ミュージカル〉，〈アンプロンプチュ*〉は，彼に続く初期ロマン派ピアノ音楽の先駆的作品となっている。ほかに数曲のオペラが残されているが，彼の音楽がドラマチックな表現に適さず，さらによい台本に恵まれなかったこともあって，いずれも不成功に終わっている。彼の音楽は叙情的でロマン的な〈うた〉であり，このような特質は彼の器楽曲にもみられ，ソナタ形式のような古典的形式を用いた作品でさえも，同時代のベートーベンのような構築的な音楽ではなく，彼の内から自然にあふれ出た叙情的なうたの精神に貫かれている。〔寺田兼文〕

シュペルビエル [Jules Supervielle] (1884〜1960) フランスの詩人。ウルグアイの生まれ。一時シュルレアリスム*に近づいたが，のち独自な詩的世界を展開，生と死，自己の内面と宇宙などの微妙な交流を素朴(そぼく)・新鮮な感受性でうたった。知性に制御された夢想による表現世界は広く，詩集《引力》《無罪の囚人》《不幸なフランスの詩》などのほか，《宇宙の第一歩》などの小説や，《森の美女》《ロバンソン》などの戯曲がある。

シュペングラー [Oswald Spengler] (1880〜1936) ドイツの文化哲学者。生の哲学*の傾向に属する。ハレ・ミュンヘン・ベルリン各大学で数学・哲学・歴史学を学んだ。その主著《西欧の没落》(1918〜1922)では世界史の形態学という方法論によって個々の文化を有機体としてとらえ，それぞれの文化は有機体に似て，誕生・成熟・老衰の過程を経て死滅すると考え，この見地からヨーロッパ文化の没落を予言した。第1次世界大戦後の社会情勢，危機意識とあいまってヨーロッパ世界に大きな影響を与えた。ほかに《人間と技術》などがある。〔豊福英利〕

シューマイ【焼売】 中国語ではシャオマイという。点心(テンシン)の一種。肉・魚貝類などのあんを小麦粉でつくった皮で包んで蒸したもの。中国では昔，宵(シャオ)(夜の意)に売りに来たところから〈宵〉と〈焼〉の音通によってできたことばといわれる。皮は，小麦粉に卵と水を加えてよくこね，めん棒で薄く伸ばし，6〜7㎝角に切る。これにブタのひき肉，みじん切りのネギ・シイタケなどにしょうゆ・塩・ごま油で調味したあんを載せ，ざくろの花形のようにつくって口もとを締め，グリンピースかエビを載せる。油を塗ったせいろに並べて強火で14〜15分蒸し，からしじょうゆで食する。餃子*(ギョーザ)とともにわが国の家庭で親しまれている。〔曾根喜和子〕

シューマッハー [Fritz Schumacher] (1869〜1947) ドイツの建築家。1899年ド

レスデンの高等工業学校教授に招かれ，1907年にはムテジウス*・フィッシャー*・バンデ-ベルデ*らとともに〈ドイツ工作連盟〉の設立に参画した。1909～1919年の間ハンブルク市建築課長として執務して公共建築ジードルンクを手がけ，1920～1923年の4年間はケルン市副市長として同市都市計画の進展に寄与し，1924年再びハンブルク市の土木課長となった。作品としては，ドレスデン火葬場，ハンブルク工芸学校などがあるが，れんが造りの建物が多く，表現主義に根ざした作風は第1次世界大戦直後のドイツの建築家たちの作品に受け継がれている。〔川田伸紘〕

シューマッハー ［Kurt Schumacher］（1895～1952） ドイツ社会民主党*の指導者。第1次世界大戦で右腕を失った。ドイツ革命*ののち，ドイツ社会民主党にはいり，のち国会議員になったが，ナチスを誹謗(ひぼう)したことからナチス政権成立後強制収容所に拘禁された。第2次世界大戦後社会民主党を再建して党主となり，イギリス・アメリカ占領地を中心に反共の立場から民主主義の実現に努力した。

シュマルカルデンどうめい 【シュマルカルデン同盟】 1531年，ドイツのルター派諸侯と都市の大部分が皇帝カール5世*のルター派抑圧策に対抗して，中部ドイツのシュマルカルデンで結んだ同盟。第2回シュパイエル国会*のあと，1530年に召集されたアウグスブルクの帝国議会で，ルター派の信仰箇条が認められなかったため，ルター派はこの同盟によって皇帝の武力に対抗した。その結果，シュマルカルデン戦争(1546～1547)が起こった。〔松　俊夫〕

シュマーレンバッハ ［Eugen Schmalenbach］（1873～1955） ドイツの会計学者。近代会計学の始祖。1903年以来ケルン商科大学で経営経済学の教鞭(きょうべん)をとる。彼の業績は経営学全般にわたる広大なものであるが，特に会計学の分野にすぐれた研究を残している。その著作《動的貸借対照表論》(1919)，《原価計算と価格政策》(1919)，《コンテンラーメン》(1927)の3書は会計学における古典的名著といわれるものである。

シューマン ［Robert Alexander Schumann］（1810～1856） ドイツの作曲家。文学的教養の深い書籍商のむすことしてザクセンのツビッカウで生まれる。7歳ごろからピアノを習い，11歳から作曲をはじめると同時に文学に対する才能も示した。18歳のとき，母の希望にしたがって法律家になるためにライプチヒ大学へ入学したが，ジャン-パウルなどロマン派の文学者たちの作品を読みふけり，他方フリードリヒ-ビークの下でピアノのレッスンを受けた。その後ハイデルベルク大学に転校して法律の勉強を続けたが，音楽への情熱を捨て切れず，1830年母を説得してピアニストになるため



シューマン

にビーク家に寄宿した。しかし，無理な練習がたたって指を痛め，ピアニストになることを断念，作曲に専念すると同時に批評活動をはじめ，1834年友人たちと《音楽新報》を創刊して新しい音楽を支持し，メンデルスゾーン・ショパン・ベルリオーズ・ブラームスらを世に紹介した。1840年，師ビークの反対を押し切って彼の娘クララと結婚。この年までの彼の作品(作品1～23)は《アベック変奏曲》《ちょうちょう》《謝肉祭》《交響的練習曲》《子供の情景》《クライスレリアーナ》など，すべてピアノ曲であったが，結婚を機に歌曲の作曲をはじめ，《リーダークライス》《女の愛と生涯(しょうがい)》《詩人の恋》などの作品が生まれた。1841年には《第1交響曲》，翌年には《ピアノ五重奏曲》や《ピアノ四重奏曲》などが作曲された。1850年，ジュッセルドルフで指揮活動を行なったが，精神病が悪化し，1853年この地位を辞した。1854年2月，精神病の発作に襲われてライン川に投身自殺を図ったが助けられ，ボン近郊の精神病院に入院し，同病院で46歳の生涯を閉じた。

シューマンは，多くの魅力的なピアノ曲を残したが，ほとんどが標題をもち，音楽外的なものとの結びつきを示すと同時に自伝的性格を呈している。個々のメロディーや主題は古典派の音楽にみられるように〈展開〉されることはほとんどなく，たえず形を変えて現われる。したがって，その作品はいくつかの自由に作曲された小曲を集めた組曲形式をとっており，ここに彼のピアノ曲の新しさと魅力があるといえる。一方，ピアノ作品と並んで重要なのは歌曲である。彼の歌曲では，シューベルトにおける以上にピアノの伴奏が重視され，メロディーがいわば声とピアノに共有されており，歌曲の新しい可能性が開かれたといえる。また，彼は作曲家であったと同時に批評家でもあったという点で，まったく新しいタイプの音楽家であった。〔寺田兼文〕

シューマン-プラン ［Schuman plan］ 1950年5月9日，フランスの外相シューマン(1886～1963)が提唱した計画で，ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(略称ECSC)の創設へと結実した。はじめフランス・ドイツ両国の石炭・鉄鋼をプールしようという構想であったが，ベルギー・オランダ・ルクセンブルク・イタリアが加わって交渉・調整が行なわれ，1952年8月にECSCは発足した。6か国間の関税などを撤廃して単一市場をつくり出すとともに，最低価格の維持，規則的供給などを協定して生産向上を図っている。〔桜木　庚〕

シュミーズ ［chemise］ 婦人用の下着の一種。フランス語では女子のはだ着，男子のワイシャツをいう。肩から腹部全体を包むゆるやかな下着。直接はだに着用し，吸湿・保温などの実用的な目的をもつ。そでつきのものもあるが，ほとんどがそでなしか肩ひもつきの形である。しかしぴったりしたはだシャツとスリップが婦人用の下着としてこれに代わり，現在ではあまり使用されていない。

しゅみせん 【須弥山】 古代インドの世界形態論で，一世界の中心とされる高山。梵語(ぼんご)sumeru(スメール)の音写で，妙高・妙光と訳される。この山頂に帝釈天*(たいしゃくてん)，中腹に四天王*が住し，太陽・月は中腹を巡る。ふもとには七つの海と七つの山が交互に取り巻き，その外側に塩分を含む海がある。四大州はここにあり，われわれはその南の島である南閻浮提(なんえんぶだい)に住むとされる。これらを囲んで鉄囲山(てっちせん)があり，これが須弥世界の外郭をなす。なお，須弥壇*はこれらをかたどった壇である。〔平井宥慶〕

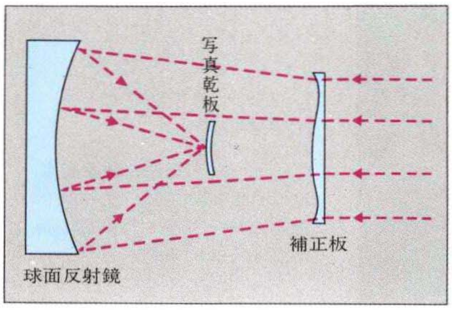
しゅみだん 【須弥壇】 仏殿内陣の中央または奥に一段高く設けて本尊を安置する壇。仏教の想像上の霊山である須弥山*を形取ったもの。須弥山にならって中腹部を狭くつくり，上下各16段にするのが本来の形であるといわれる。わが国の仏殿は中国の影響を受けて，奈良朝までは石や土による壇が多かったが，平安時代以降は木製の壇が主流となり，浄土教建築の平等院鳳凰堂(ほうおうどう)や中尊寺金色堂における須弥壇のように，螺鈿(らでん)や玉で飾る豪華なものとなった。〔河田　貞〕

シュミット ［Wilhelm Schmidt］（1868～1954） ドイツ生まれのオーストリアの民族学者・言語学者。文化圏説の大成者で，民族誌的資料をもとにして壮大な人類文化史の体系を樹立した。1906年に国際民族学・言語学雑誌《アントロポス》を創刊し，ウィーン大学，スイスのフライブルク大学で教え，いわゆるウィーン学派の総帥として大きな影響を与えた。主著《神観念の起源》全12巻。

シュミット ［Bernhard Schmidt］（1879～1935） ドイツの天文光学家。1930年に集光力と分解能*の大きい反射望遠鏡*を発明した。これはシュミットカメラ*とよばれ，以後大形の反射鏡にはこの方式が取り入れられている。

シュミットカメラ ［Schmidt camera］ 球面鏡を対物鏡に用い，口径比が小さく視野の広い望遠鏡。1930年ころドイツのB.シュミット*によって発明された。普通の反

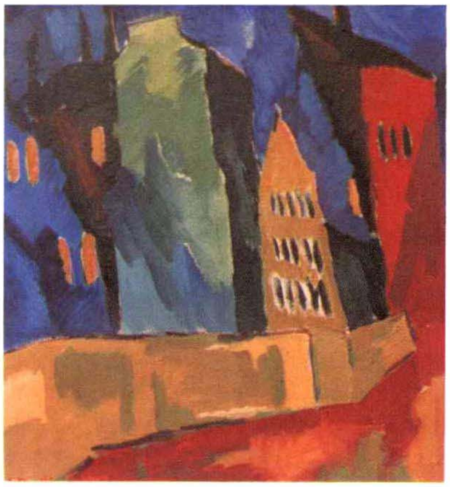
射望遠鏡は対物鏡に回転放物面鏡を使い，光軸上では鮮鋭な像を得るが光軸からはずれた方向の像は悪く，視野は1°以下である。この欠点を修正するため考案されたのがシュミットカメラで，球面鏡に複雑な曲面をもった特殊レンズ(補正板という)を組み合わせ，直径5°～10°の広い視野の写真をとることを可能にした。ミュミットカメラの焦点は平面でなく球面であるから，写真のフィルムも球面のものを使う必要がある。現在活躍している大口径のシュミットカメラとしては，東ドイツのカール-シュバルツシルド天文台の口径134cm，口径比3.1，アメリカのパロマー山天文台*の口径122cm，口径比2.5などがあげられる。シュミットカメラは，流星の観測や人工衛星の追跡，星雲の研究には欠かせない重要な天体観測装置である。〔守山史生〕



シュミットカメラ

シュミットボン ［Wilhelm Schmidt-bonn］(1876～1952) ドイツの劇作家。処女作《母なるいなか道》は，ドイツ文学が自然主義から新ロマン主義へ移る契機となった作品とされる。また童話・伝説の物語作家としてもすぐれ，自然と密着した素朴(そぼく)な人間への愛をうたう作品が多い。自伝《川のほとりに生まれて》がある。

シュミット-ロットルフ ［Karl Schmidt-Rottluff］(1884～　) デル-ブリュッケ*の結成に参加したドイツ表現主義の画家・版画家。フォービスムに近い描き方から出発したが，のちにより強い精神的表現を求め，個性的な表現主義に達した。初期の法悦的なダイナミズムと刺激的で不協和音的な色彩は，1925年以後はしだいに浄化されて落ち着いた表現に到達した。


シュミット-ロットルフ《夜の家》1912 ニューヨーク近代美術館蔵

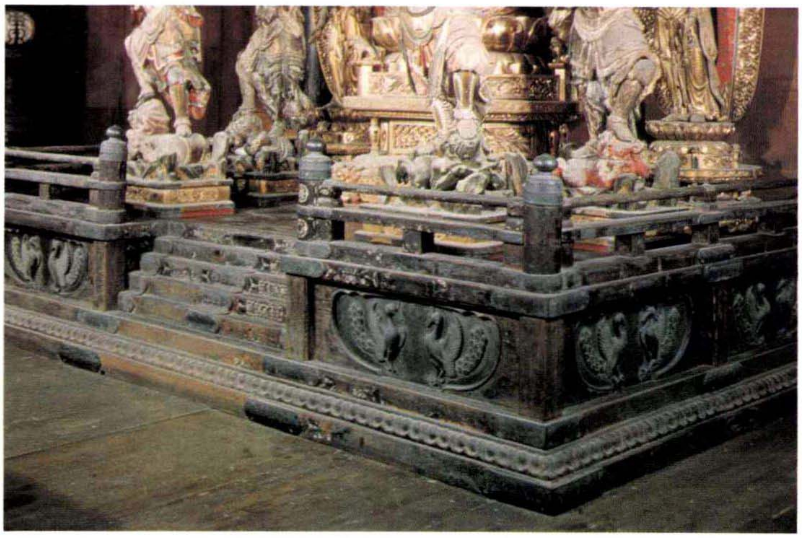
じゅみょう 【寿命】 0歳時の平均余命*。寿命の年次推移をみると，日本では1946年(昭和21)より急速な伸びを示し，翌年にはじめて男女とも50年の大台を突破した。これは第2次世界大戦の終局，薬品の開発，公衆衛生の発展などが要因といわれていたが，最近数年間はその伸び率は鈍っている。世界的に女の寿命が男の寿命を上まわっており，1980年現在，わが国の平均寿命は，男73.32年，女78.83年である。

しゅむしゅとう 【占守島】 千島列島最北にある島。クリス海峡を隔ててカムチャツカ半島と対している。小丘陵・原野・湖沼の多い平坦(へいたん)な島で，最高点も200mに満たない。先住民はクリル族とアレウト族*。日本人は明治時代からアザラシ・ラッコ猟のため移住し，小部落を営んでいたが，1945年第2次世界大戦後はソ連が領有している。

シュメール ［Sumer］ メソポタミア南部の古代の地名。またここを基盤として興った世界最古の文明の一つ，およびそのにないてである民族。語源は明確ではないが，一説には〈葦(あし)の国〉を意味するキ-エン-ギ-ラのなまりであるという。チグリス川の支流ディヤラ川の下流域以南の南部メソポタミアをバビロニア*といい，そのうちキシュ以北をアッカド*と称し，厳密な意味でのシュメールはこの南のチグリス・ユーフラテス両川河口付近の沖積地(ちゅうせきち)をさす。しかし両者はつねにシュメール・アッカドと並称され，地理的歴史的に区別できない。

【歴史】人類の定住は，この地が沼沢地であったためおそかったが，紀元前5000年紀のエリドゥ期より定住が始まり，ウバイド期に続くウルク期にシュメール人が到来したらしい(BC3000年ごろ)。この民族の起源についてはまだ定説はなく，言語的にはカフカズ語と，人種的にはインダス文明人との類似が指摘されている。ウルク期からジェムデト-ナスル期(BC3000～BC2700年ごろ)にかけて，各地に守護神の神殿を中心とする都市が成立し，BC2600年ごろからエンシあるいはルガル(王)の称号をもつ都市国家の支配者が出現し，初期王朝時代が始まる(BC2600～BC2350年ごろ)。シュメール王名表の王朝は一時的な覇者(はしゃ)を記すにすぎず，実際には都市国家の並立抗争が続く。史料に現われる最古の王はキシュ第2王朝のメシリムであるが，この時代の豊富な史料を伝えるのは，王墓で名高いウル*第1王朝と並存したラガシュ*古王国(BC2500～BC2360年ごろ)である。第3代エアンナトゥムのとき最盛期でウル・ウルク・キシュ・エラム*を征服している。のち神官階級が政治の実権を握り横暴をきわめたため，ウルカギナがクーデターによってエンシとなり，数々の社会改革を行なった。しかし国内の動揺から隣国ウンマに征服され，BC2350年には全シュメールはセム系アッカド人サルゴン*の帝国の支配下にはいった。BC2150年ごろ蛮族グティ人がアッカド帝国を滅ぼすと，シュメール諸都市はグティ人の宗主権下に再び独立した。BC2060年ごろウルク王がグティ人を駆逐してシュメールの完全独立を達成するが，ウルの総督ウルナンムに代わられた(ウル第3王朝，BC2055～BC1955年ごろ)。シュメール人最後の王朝であるこの王朝は，シュメール・アッカドを統一し，土木事業を興して法典を編纂(へんさん)するなど大いに栄えたが，エラムに滅ぼされ，シュメール人は歴史の舞台から姿を消した。

【政治・経済】都市成立時代の政治形態は，都市の指導者が戦争などの重要な国事について長老や市民代表の会議にはかって決定するいわゆる〈原始民主政〉であったらしい。初期王朝時代には直属の軍隊をもつエンシ


須弥壇
浄妙寺



シュメール

シュメール文明の特徴を最もよく示す神殿建築　ウル第3王朝のジッグラト北東方正面　BC2037～BC2027

またはルガルが都市国家を支配した。神殿は早くから経済活動の中心で，その倉庫は国庫として租税・寄進物・戦利品をたくわえ，エンシは神殿の長として広大な神殿領を支配した。〈ウルカギナの改革〉は共同体の土地所有を復活しようとしたものである。ウル第3王朝には王を頂点とする官僚制中央集権国家が完成した。

【文化】楔形(くさびがた)文字*・円筒印章，ジッグラトとよばれる聖塔，60進法などはシュメール文明を特徴づけるものである。特にウルク期末の文字の発明は人類文化最大の遺産で，当初はもっぱら神殿財産の管理・計算に使用された。ウル第3王朝には，宗教・学術に関するテキストが集大成され，シュメール語は宗教学術用語としてバビロニア文明に受け継がれた。　〔屋形禎亮〕

しゅもくがい　【撞木貝】　軟体動物・二枚貝類・アオリガイ科。殻体(かくたい)は腹方に細長く延び，後方に湾曲する。背縁は前後にまっすぐ長く延びる。このため全体として，撞木かつるはしのような形を呈する。殻(から)は汚白色。殻長・殻高とも20cmほどになる。房総半島以南のインド洋・太平洋水域に広く分布し，潮間帯下の岩に足糸で付着する。近似種に殻が黒色のクロシュミセンがあり，紀伊(きい)半島以南に分布する。

しゅもくざめ　【撞木鮫】　軟骨魚類・シュモクザメ科。頭の前部が扁平(へんぺい)で左右にはり出し，その先端に目がつく。目には瞬膜がある。噴水孔はなく，外鰓孔(がいさいこう)は5対。全世界の温・熱帯部に分布し，外洋性で表層にすみ，性質は荒い。全長約3mで肉・体色ともに白っぽいシロシュモクザメと，約2mで赤っぽいアカシュモクザメがあり，練製品の原料になる。卵胎生。



シュモクザメ　シロシュモクザメ

シュモラー　[Gustav von Schmoller]（1838～1917）　ドイツの経済学者。ハレ・ストラスブルク・ベルリンの諸大学で教壇に立ち，ドイツ経済学における〈新歴史学派〉に指導的位置を占める。彼は経済学における抽象的なものの一般化という意義について批判的であり，詳細・具体的叙述によるきわめて多様な歴史的研究を推し進めた。彼のこのような立場は精密科学としての経済理論を主張するC.メンガー*に代表されるオーストリア学派*と激しく対立し，両者の間で激烈をきわめる方法論争が数十年にわたって展開された。彼は，また経済に関する政府の役割を積極的に支持し，講壇社会主義*者たちの組織した社会政策学会の創始者のひとりとなった。著書には《国民経済学原論》があり，また重商主義*についてのすぐれた論評もある。　〔松浦　保〕

じゅもん　【呪文】　呪術*の手段の一。呪術には，類感呪術・感染呪術・意志呪術などがあるが，ことに意志呪術は，前二者の手段としての模倣行動や，物的手段にたよるのに対し，もっぱらことばを主体としており，呪文は意志呪術における一定の文律に応じて目的を果たそうとする手段である。

しゅよう　【腫瘍】　生体の組織細胞がなんらかの原因によってその生物学的な性格を変え，非可逆的・自律的に異常な増殖を示すようになった状態。個体の生理学的な調和を無視した点で，肥大や再生と本質的に異なる。良性腫瘍・悪性腫瘍に大別される。良性腫瘍は発育が緩徐で，被膜をもち，膨張性で，ほとんど再発や転移をみない。悪性腫瘍は発育が早く，浸潤性で，細胞は低分化のものが多く，しばしば再発や転移がみられ，放置すると生体を死に至らしめる。また組織発生学的に分類すると，上皮性腫瘍・非上皮性腫瘍・混合腫瘍に分けられる。それぞれの代表的なものは次のとおり。①上皮性腫瘍：良性のものには腺腫(せんしゅ)・嚢腫(のうしゅ)・乳頭腫など，悪性のものは癌腫(がんしゅ)である。②非上皮性腫瘍：良性のものには繊維腫・脂肪腫・血管腫・筋腫・骨腫など，悪性のものは肉腫である。③混合腫瘍：良性のものには繊維脂肪腫・繊維腺腫など，悪性のものに癌肉腫がある。良性のものの多くは手術による摘出で全治するが，悪性のものの治療法には手術・化学療法・放射線療法があり，最近では免疫療法への関心が強い。➔癌　〔小坂井守〕

じゅよう　【需要】　一定の価格のもとで購入しようと欲する財貨の数量をいう。ある特定の財貨に対する需要量とその価格の間には，一般に価格が騰貴または下落すれば，それに応じて需要量は減少または増加する，一定の相反関係がある。この関係を表わしたものを財貨の需要関数という。ただしこの関係は財貨の種類によっても異なる。財貨に対する欲求は一般に効用として表わされ，需要とは密接な関係がある。すなわち財貨に対する具体的な需要は効用概念を基礎として生まれてくるということができる。➔効用　〔藤枝省人〕

じゅようインフレーション　【需要インフレーション】　現行の価格のもとにおける国民の生産物に対する総需要がその潜在的供給能力を超過し，この超過需要の継続的圧力によって物価水準が上昇していく状態をいう。この需要インフレーションが物価水準の上昇を顕在化する場合を開放的インフレーションといい，価格統制などによって物価騰貴が人為的・強制的におさえられた形をとるとき，抑圧的インフレーションという。また，企業が超過需要に対して現行価格を上げることなく引き渡し期間を延ばす傾向が強いときには，潜在的インフレーションの形をとる。　〔富田重夫〕

しゅようウイルス　【腫瘍ウイルス】　腫瘍の原因となるウイルス。最近腫瘍とウイルスの関係が注目されており，すでに何種類かのものはウイルスが原因となっていることが示され，ヒトの腫瘍でもウイルス性のものがあると考えられている。ウイルス性の腫瘍として最初に報告されたものは，1908年のエラーマンとバングによるニワトリの白血病である。次いで，ラウスによりニワトリの肉腫(ラウス肉腫)(1911)，ショープによるウサギの乳頭腫(1932)，ビットナーによりマウス乳癌(にゅうがん)(1936)が報告された。さらに1950年代にはマウスのリンパ性白血病その他の白血病がウイルス性であることが判明した。これらの腫瘍ウイルスは腫瘍から得られたものであるが，最近ではある宿主では通常のウイルスのように細胞を殺しながら増殖するが，他の宿主では実験的にはきわめて容易に腫瘍をつくりうるウイルス(ポリオーマウイルス，SV40，数種のアデノウイルスなど)が発見され，現在では腫瘍から得られたウイルスだけでなく，これらを含めて腫瘍ウイルスという。ヒトの腫瘍では，いぼ(ヒト乳頭腫)がウイルス性と決定された唯一のものであり，そのウイルスはウサギの乳頭腫ウイルスと同じグループに属している。しかし，他の哺乳(ほにゅう)類や鳥類にいろいろなウイルス性腫瘍があることから，ヒトの場合にもいくつかのウイルス性腫瘍のあるのが考えられる。ヒトの腫瘍ウイルスの発見が困難な理由は，腫瘍からウイルスが発見されても，種々のウイルスが偶然に混在しているため，これが腫瘍ウイルスだと断定できない。また，ウイルスを分離して腫瘍をつくるかどうかを確かめねばならぬが，培養細

胞やヒト以外の動物を使用した実験結果から，ヒトへの造腫瘍性を結論することが困難である。それは，SV40は培養したサルの腎臓(じんぞう)細胞を腫瘍化し，ハムスターに腫瘍をつくるが，個体のサルには腫瘍をつくらぬという例などがあるためである。さらに，腫瘍ウイルスの発見を困難としている原因に次のようなことがある。既知の腫瘍ウイルスの実験から判明したことであるが，ウイルスによっては細胞を腫瘍化すると，細胞内にウイルスが存在するにもかかわらず，ウイルスの放出が見られなくなるという傾向があることである。これはファージによる細菌の溶原化と類似の現象であるが，ファージの場合のように紫外線を照射するというような簡単な手段ではウイルス誘発ができない。ラウス肉腫ウイルスに至っては，他のウイルスの助けを借りなければ増殖できぬ欠陥ウイルスである。また，ポリオーマウイルス・SV40・アデノウイルス・ラウス肉腫ウイルスによる腫瘍化細胞では，特殊な方法によって隠れたウイルスを引き出したり，ウイルス特有の活性の発見に成功しているが，これらの方法をヒト腫瘍に応用しても，現在のところこれらのウイルスによってひき起こされたと思われる腫瘍は見いだされていない。最近，主として熱帯地方に見られるヒト腫瘍のバーキットリンパ腫が，ヘルペスウイルス群に属するウイルスと密接な関係にあることが示され，注目されている。〔石川　彬〕

じゅよう・きょうきゅうきょくせん【需要・供給曲線】⇨次項

じゅよう・きょうきゅうのほうそく【需要・供給の法則】諸財貨の需要・供給の量とその価格の関係に関する法則をいう。諸財貨が生産され販売されるのは，それに対する需要があり，供給者が生産し利益を獲得するという手段を通じて需要者に提供されることを意味している。この場合，需要者側のある財貨に対する選好の度合いは需要関数として表わされる。一方，生産者側のその財貨の供給意志を表わすものは供給関数として示される。需要関数には主要な要素として財貨の購入価格があげられる。そのほか，需要者の財産状態や所得状態が財貨の需要意志を表わす要素として考えられる。また，ある特定の財貨に対する需要は，それと代替関係にある財貨の価格なども重要な要素である。需要者は購入価格が低いほど，また所得が高いほど，さらに代替関係にある財貨の価格が高いほど，当該財貨の需要を増加させる。これらの諸要素によって決められる当該財貨の需要に対して，供給者の当該財貨の供給に及ぼす主要な要素は主として生産構造によって決められる。その中でも原材料・労務費などの直接費と工場や機械などの固定費，さらに経営管理などの一般的管理と販売費などの経費が供給価格に反映されることになる。そして，生産者はその財貨の供給を通じて利益をできるだけ多く獲得しようとして生産活動を行なうのであるから，供給価格には当然利益部分も含まれていなければならない。生産者は供給価格が高ければ高いほど供給量を増加しようと考える。需要と供給の法則とは，これら需要者側の意志と供給者側の意志とが調整され，ある数量で供給量と需要量が均衡を維持するようになり，ここに均衡価格が成立することをさしている。それによって需要者も自己の購入欲求が満たされ，また生産者も利益を最大にすることが可能になり，これら別々の利害を有する経済主体が双方に満足のいくように，当該財貨の市場を通じて調整されることを意味している。〔藤枝省人〕

じゅようたい【受容体】受容器・摂受体ともいう。生物が外界からの刺激を感受するための器官・構造をいう。刺激は，温度・光や機械的なものなどの物理的刺激と味・においなどの化学的刺激に分けられる。ヒトの場合，目・耳・皮膚などが物理的刺激の受容体であり，舌・鼻などが化学的刺激の受容体である。これらのほか，頭痛・尿意など体内からの刺激を感じる器官を内受容器(自己受容器)という。なお刺激を感受する作用は，オジギソウのような高等植物やミドリムシのような単細胞生物にも見られる(→眼点)。〔蒲原春一〕

しゅようどう【主要動】地震動のうちで，人体に最も激しく感じられる振動。近距離地震ではS波による振動が，遠距離地震ではS波に続いて到達する表面波による振動が主要動となる。

しゅら【修羅】⇨阿修羅(あしゅら)

しゅら【修羅】山地の傾斜地に設けた木材搬出用の滑走路。最も一般的なものは木修羅で，6～10本の丸太を円弧状に並べた床をつくり，これを連続させてその中を木材を滑走搬出する。滑走路は搬出材でつくるから作業が終われば順次解体して下方へ搬送する。山腹の凹部(おうぶ)を利用して両側に防材を配したものを土修羅といい，滑走路の底を平坦(へいたん)にして板または小丸太を並べ，両側に防材を置いたものを桟手(さで)という。〔夏目　正〕

ジュラ(山脈)［Jura］ヨーロッパ中南部，フランスとスイスの国境をなす山脈。アルプス山脈の支脈で，南西から北東に並行して走る多くの長い山脈や谷からなる。最長の山脈は長さ約260kmあり，フランスのベレーからスイスのバーゼルに達する。高度は平均600～800m。主要な地層は化石に富む石灰岩で，中生代ジュラ紀*に属し，ジュラ紀の名の起源をなす。最高峰はクレ-ド-ラ-ネージュ(1,723m)，モン-ルキューレ(1,719m)で，いずれもフランス国内にある。高度も低いので，山地内はよく開けており，牧畜・林業が盛んである。〔大石堪山〕

しゅらい【周礼】儒教の経典の一。6編。周代の官制についてしるしたもので，古くは《周官》とよんだ。《儀礼》《礼記*》と合わせて〈三礼〉という。《周礼》では，官制として大きく天・地・春・夏・秋・冬の6官を立て，さらに天子のもとにおける天下統一・民生維持に関する諸官制およびその職務内容を述べていて，文明の全般にわたっている。その体制的性格は諸侯封建制であって郡県制中央集権ではない。そのため，この書は時代や人によってあるいは尊重され，または退けられた。製作年代には諸説あるが，漢代の劉歆(りゅうきん)が尊重してから世に現われた。〔西　順蔵〕

シュライエルマッハー［Friedrich Schleiermacher］(1768～1834) ドイツの神学者・哲学者。19世紀プロテスタンチズムに最も影響を与えた思想家で，幼時から敬虔(けいけん)な宗教教育をうけ，生涯(しょうがい)のほとんどを牧師および神学教授として過ごし，近代神学の父とよばれる。啓蒙(けいもう)思想の影響によって宗教を形而上学(けいじじょうがく)や道徳に解消しようとする当時の傾向に反対し，宗教独自の領域を主張，その根源を人間の無限者に対する〈絶対依存の感情〉においた。またプラトンの著作をドイツ語に訳した点でも有名である。主著《宗教論》《独白録》《キリスト教信仰論》など。〔豊福英利〕

シュライデン［Matthias Jacob Schleiden］(1804～1881) ドイツの植物学者。ハンブルクに生まれ，ゲッチンゲン大学・ベルリン大学で医学・植物学を学び，イエナ大学で教鞭(きょうべん)をとる。彼の最も著名な業績は，細胞説の主唱(1838)である。しかし，実際にはそのころはすでに植物が細胞から構成されている事実が，かなり広く認められていた。シュライデンの細胞説の要点は，植物の細胞が個体性を示し，それらの細胞が核の成長により形成されるとすることにあった。〔中村禎里〕

ジュラき【ジュラ紀】地質時代のうちの中生代を3分したまん中の時代。三畳紀のあと，白亜紀のまえ。ジュラ紀の名称はフランスとスイスの国境のジュラ山脈に由来し，1829年，フランスのブロニャールによって提唱された。約1億9,000万年前から約1億3,500万年前までの約5,500万年の期間を代表する。ジュラ紀の地層の標準地域はドイツ・フランス・イギリスである。ドイツ南西部のジュラ系は下位から黒ジュラ・褐(かつ)ジュラ・白ジュラに三大別され，この3統をヨーロッパ北西部ではそれぞれライアス・ドッガー・マルムとよんだ。

この紀には，アンモナイト*が著しく発展し，同じく頭足類のヤイシ*類も栄えた。二枚貝の三角貝類やカキ類も優勢であった。魚類では軟骨魚類・光鱗(こうりん)魚類が勢力を得，硬骨魚類も知られ，鳥類では最古の鳥，始祖鳥*が出現した。爬虫(はちゅう)類では陸上に恐竜(きょうりゅう)類*，海中に魚竜類*など，



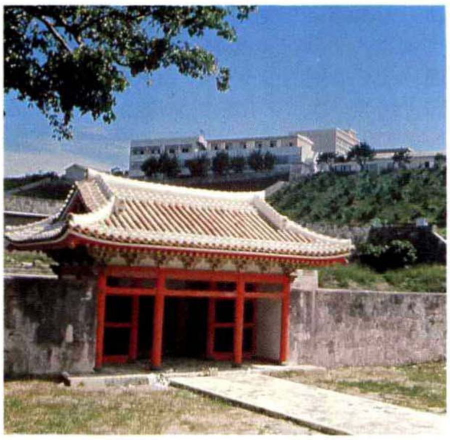
聚楽第
《聚楽第図屏風》
三井高遂蔵

空中に翼龍などが跋扈(ばっこ)し，しばしば巨大化した。哺乳(ほにゅう)類では小形で祖先型のものが出現した。陸上植物では三畳紀に引き続きソテツ類・イチョウ類・ショウハク類などの裸子植物やシダ類が繁茂し，被子植物の先駆もみられる。気候は全般的に温暖であった。ヨーロッパ北西部では比較的安定した基盤上に浅海成の細粒砕屑(さいせつ)岩や石灰質岩が堆積(たいせき)し，テチス海や環太平洋地域はおもに地向斜状態にあった。ジュラ紀には一般に顕著な造山運動がなかったが，環太平洋地域では激しい地殻(ちかく)変動が起こり，北アメリカ太平洋側のネバダの造山運動はこの時代後期に始まっている。火山活動は全般的に弱かったが，南北両アメリカの西側で深成活動とともに激烈であった。〔田中啓策〕

じゅらくだい　**【聚楽第】**　〈じゅらくのてい〉とも読み，聚楽城ともいう。1587年(天正15)豊臣秀吉(とよとみひでよし)が京都に造営した城郭ふうの邸宅。城郭と宮殿を折衷し，邸内に林泉を配して桃山芸術(→安土桃山時代)の豪壮な趣を発揮した壮大なものであった。1588年には後陽成天皇の行幸を仰ぎ，天下にその勢威を誇示した。1591年関白秀次に譲ったが，1595年(文禄4)秀次が廃されたとき秀吉によって破壊された。その遺構として，西本願寺の飛雲閣・大徳寺唐門(からもん)が現存する。〔高崎徳次〕

シュラム　［Stuart Schram］(1924～　) アメリカの中国研究家。1954年，コロンビア大学で政治学博士の学位をとり，パリの国立政治科学研究所国際関係研究センターに所属，《毛沢東の政治思想》(1963)，《毛沢東》(1966)などの著作がある。

しゅらもの　**【修羅物】**　修羅道に落ちて苦しむ源平の武将の霊をシテとする能。二番目物ともいう。《田村》《八島》《箙(えびら)》は勝利者の霊をシテとするが，他は敗戦の苦に人間的情感を加えた作品である。《清経(きよつね)》《忠度(ただのり)》《敦盛(あつもり)》《朝長(ともなが)》《頼政(よりまさ)》《実盛(さねもり)》《巴(ともえ)》など。多く《平家物語》による。



首　里　旧首里城址は現在琉球大学となっており，昔のおもかげはほとんどない。復元された門や石がきの一部が残されている

ジュラルミン　［duralumin］加工用高力アルミニウム合金。1911年ドイツ人A.ウィルムの発明したもので，およそ銅4％，マグネシウム0.5％，マンガン0.5％および不純物としてのケイ素・鉄を含む。この合金は，高温500℃で水焼き入れした直後は柔らかいが室温に放置しておくとしだいにかたくなり，1週間以上経過すると軟鋼に匹敵する強さ40kg/cm² に達する。いわゆる自然時効型の合金である。この合金の発明は，のちの時効型高力合金の発明の端緒となった歴史的なものである。板・管・棒・線材の形状で供給される。腐食しやすいので，この合金を芯材(しんざい)として表面を耐食性のよい純アルミニウムで被覆して合わせ板にする場合がある。用途は一般用強力材・光学機器など。〔岡村志郎〕

しゅらん　**【酒乱】**　⇨アルコール中毒

しゅり　**【首里】**　沖縄の首都那覇(なは)市の東部地区。首里市として独立していたが1954年(昭和29)に那覇市と合併した。新期石灰岩丘上にあって，南は安里(あさと)川峡谷によってくぎられる。旧琉球(りゅうきゅう)王朝時代の古都で，最高所に首里城があり，それを囲んで寺院，士族屋敷の城下町が発達し，坂のある石畳の街路に面した住宅街は高い石がきで囲まれていた。明治以後も昔のおもかげを残していたが，第2次世界大戦中軍司令部が置かれて沖縄攻防戦の決戦場となり，大半が廃墟(はいきょ)と化し，戦後は城址(じょうし)南側斜面の金城(かなぐすく)町にわずかに古都のなごりをとどめる。城址には琉球大学が設立され，付近に国宝の守礼之門(しゅれいのもん)が復元された。〔浅井得一〕

シュリー　［Maximilien de Béthune, Duc de Sully］(1560～1641) フランスの政治家・財政家。アンリ-ド-ナバール(のちのアンリ4世)に引き立てられ，その即位とともに財政顧問官・会計監督官として施政を助け，財政改革・農業保護・商工業奨励・交通整備・植民地開拓・軍隊改革などを行ない，国土の復興に尽くした。王の死後，マリー-ド-メディシスと対立，引退した。

ジュリアス-シーザー　シェークスピア中期の悲劇。1599年の作と推定される。プルタークの《英雄伝》を種本に，シーザー暗殺事件の前後を扱う。有名な〈ブルータス，おまえもか！〉のせりふを残して倒れたのち，シーザーは亡霊として登場し，理想主義者ブルータスがキャシアスとともにアントニーと戦って敗死するまでの悲劇的生涯(しょうがい)が描かれる。

ジュリアン-ソレル　スタンダールの小説《赤と黒》の主人公。貧しい木挽(こびき)の家の生まれという自己の階級をつねに意識し，強い意志と生命力とで身分社会の中をより高い階級へと登りながら，社会への反抗心を捨てない情熱家。野心に燃える青年の代名詞ともなっている。

しゅりけん　**【手裏剣】**　刀剣の類を敵に投げつける武芸十八番のうちの一術。投矢に始まるといわれ，戦国時代から江戸初期にかけては短刀・くぎ・針などを投げ，一定の武芸の形はなかった。明和・安永(1764～1780)のころ，仙台(せんだい)藩士上遠野(かどおの)広秀が3～4匁(11.25～15g)の太針を投げて敵の目を射たと古書に見える。その後北辰(ほくしん)一刀流の海保帆平がこれを伝え，上州(群馬県)安中藩の剣術師範根岸宣教が新くふうを加えて関根流の手裏剣術を生み出した。これに前後して，柳生(やぎゅう)新影流・白井流・津川流などの手裏剣が競い起こった。津川流は両端をとがらせた扁平(へんぺい)な手裏剣，柳生新影流は針2本を十字形にした手裏剣を回転させて投げた。いずれも1本めが敵に達しないうち次を投げ，敵に防御の余裕を与えさせなかった。なお，脇差(わきざし)付属の小柄(こづか)は必要に応じて紙の裁断などに用い，武芸の対象として付置されたのではない。〔稲垣史生〕

シュリック　［Moritz Schlick］(1882～1936) オーストリアの哲学者。ウィーン大学教授。ウィーン学団の創立者で，論理実証主義の指導者。はじめ物理学を学んだ

が，*マッハの思想を受け継いで認識論の研究に向かい，従来の実証主義とは異なって，検証によって確かめられうる経験的認識のほかに，数学や論理学を先天的・分析的な学として認める論理実証主義の基礎となる考えを打ち立てた。なお，倫理学上の業績もある。《一般認識論》《倫理学の諸問題》。

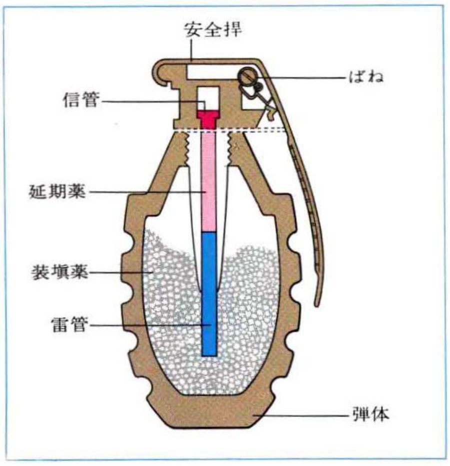
シュリーフェンさくせん 【シュリーフェン作戦】 ロシア-フランス*同盟の成立後，1902年ドイツの参謀総長シュリーフェン(1833〜1913)が二正面作戦を想定して立案した計画。まず西部戦線に兵力を集中してフランス軍を破り，その後動員力のおそいロシア軍に東部戦線であたろうとするもので，短期決戦を目標とした。第1次世界大戦で実施されたがロシア軍の迅速な動員と連合軍の抵抗にあって挫折(ざせつ)した。

シュリーブポート [Shreveport] アメリカ合衆国，ルイジアナ州北西部の工業都市。人口18万4,000(1973)。レッド川に沿い，付近は石油・天然ガスの埋蔵地域で，精油業・綿花工業が盛ん。近くに大空軍基地がある。

シュリ-プリュドム [Armand Sully-Prudhomme] (1839〜1907) フランスの詩人。技術分野から文学に移り，詩と科学の統一をめざして哲学的色彩の濃厚な詩集《孤独》《正義》などを発表。高踏*派の詩人とされるが，ロマン主義的な情緒の重視もうかがえる。1901年ノーベル文学賞を受賞。

シュリーマン [Heinrich Schliemann] (1822〜1890) ドイツの考古学者。エーゲ*文明の発見者。北ドイツのメクレンブルクの牧師の子として生まれた。子どものころ*ホメロスのトロヤ物語を史実と信じてその発見を志した。しかし家が貧しかったため商人になり，巨万の富を得た。商売の関係でアメリカの市民権も得ている。41歳で財界から退いたのち，1870年ごろからホメロスの世界の再発見に従事，ヒッサーリクの丘を発掘して7層の都市(実際は9層の城砦(じょうさい))の城壁や財宝を発見，トロヤの伝説をあとづけた。しかしトルコ政府によりトロヤの発掘を妨げられたことから，ミケーネ・オルコメノス・ティリンスを発掘し，ミケーネ文明の存在を明らかにした。その数奇な生涯(しょうがい)とともに，語学の天才としても著名である。著書に《トロヤの遺物》《ミケーネ》《オルコメノス》などがある。〔兼岩正夫〕

しゅりゅうだん 【手榴弾】 近接戦闘で，手力で投げる爆弾。信管・火薬・弾体よりなり，重量400〜900g。目的によって破片手榴弾・ガス手榴弾・焼夷(しょうい)手榴弾・発煙手榴弾・攻撃手榴弾などの種類がある。投擲(とうてき)距離をのばすために小銃で発射する方法，擲弾筒によって発射する方法がとられることもある。構造および取り扱いの簡単なわりには破壊力が大きく，今日でも重用されている。



手 榴 弾

しゅりょう 【狩猟】 一般に野生の鳥獣を捕獲する行為をいうが，法律的には，農林大臣の指定した猟具(法定猟具)である網・罠(わな)(甲種猟具)，空気銃以外の銃器(乙種猟具)，空気銃(丙種猟具)を用いて，狩猟鳥獣を捕獲する行為。

【狩猟の沿革】狩猟は農業の普及する以前に，衣食住のかてを得るために行なわれていた原始産業で，人類の文化史の源泉であった。人類が集団的・組織的に狩猟を開始したのは20,000〜30,000年前と推定されるが，このころの人類は穴居生活をしており，弓・手やり・罠・落とし穴などで狩猟を行なって衣食の用に供していたのであって，まだ農耕も牧畜も漁労も行なわれていなかったと考証される。沖積世(ちゅうせきせい)(中石器時代)にはいると狩猟のほか魚介類も捕食するようになり，一方，イヌ・ウマなどの飼育も開始され，多くの民族は農耕生活に移行するようになった。しかし狩猟はなお人類の生活にかなりの比重を占めていた。狩猟は肉や皮や薬の供給源であったばかりでなく，耕地や畜養動物に加害する鳥獣を退治するためにも，未開地へ進出するためにも必要な手段であった。一方狩猟の技術は，猟具の開発に伴って漁具や武器を発達させ，獲物の処理加工の技術は，石器や金属の利用法を生じて文明の礎を築いた。このほか絵画・彫刻・舞踊・文学・宗教といった精神文化にも関与し，これを推進したのである。産業の興隆に反比例して，狩猟は生産手段の面から後退していったが，自然物を採取・捕獲したり，闘争や征服を求めたりする人類の本能はなお存続し，生活が家族生活から社会生活へ拡大するにつれてスポーツの道を歩むことになった。今日では，ごく一部の未開民族を除き，すべて体育・社交・遊戯などの目的で行なわれている。

【スポーツやレクリエーションとしての狩猟の変遷】狩猟のレクリエーション化は太古からのことであって，すでに古代の文明諸国にその現象がみられる。すなわち，BC2000年ごろ中国やメソポタミアで行なわれた鷹(たか)狩りなどがそれである。BC500年ごろのペルシア帝国における，サイラス王の猛獣狩りは，巨額の租税をあてて行なった国家行事としてのスポーツだったし，BC400年ごろのギリシアの貴族たちの間に行なわれた狩猟や，古代ローマの貴顕紳士たちの行なった盛大な狩猟も，目的は娯楽であった。当時の狩猟は，飼い慣らした多数のタカや猟犬をはじめ，ときにはネコ・ライオン・チーターなども訓練して勢子(せこ)とし，これらに獲物を追わせたり取らせたりしたのであって，狩猟者たちはやり・こん棒・弓矢などをかかえて待ち構えたり，あるいは騎馬で追撃したりするのであった。もとよりこうした狩猟の主催者は王侯貴顕たちで，一般民衆は猟士としてこれに奉仕したのである。もっとも，これらレクリエーションとしての狩猟の裏側では，副次的生産のために，個人や家族の狩猟が広く行なわれていたことはいうまでもなく，むしろそれらを背景として，貴顕たちの壮大な社交狩猟が成立したのである。中世にはいると，ヨーロッパ諸国の王侯貴顕の間に，社交や練武のための狩猟が定着した。その結果彼らは，おのおのが狩猟場や獲物を確保する必要に迫られ，一般民衆の狩猟を制限するようになっていった。その代表的なものは，イギリスのノルマンディー王朝に創始された制度で，法律で広大な狩猟場を確保し，王の認可を得た者以外の狩猟は禁止されたのである。これにならって貴族たちも，争って狩猟場を確保したから，狩猟は王侯の独占物になる傾向が強まった。彼らは，狩猟を民衆の手から奪取したのである。このように，狩猟が娯楽として行なわれるようになると，老人や婦人や少年なども参加できる狩猟形態が必要になり，そしてそれは，観戦狩猟という形となった。みずから行なうというより，猟犬や猟士たちの活躍を見て楽しむのであって，フォックス-ハンティング(キツネ狩り)，ビーグリング(野兎(やと)猟)，オッター-ハンティング(カワウソ猟)，ダックス-ハンティング(アナグマ猟)など，多数の猟犬をけしかけてこれら中形野獣を狩る集団猟の体系が，18世紀から19世紀にかけて完成していったが，中でも18世紀後半に体系立てられたフォックス-ハンティングは，のちにイギリスの国技にもなった。

【狩猟の大衆化】このころヨーロッパ大陸諸国では，フランス革命によって積年の封建主義が瓦解(がかい)したので，狩猟も民衆の手にもどりはじめた。そして，これに拍車をかけたのが，1556年に発明された散弾*銃の普及であった。散弾銃は弓矢に比較すべくもない威力を秘めていたから，これを手にすれば，別に多数の猟犬群や勢子を使わなくとも，簡単に猟果をあげることができるのであって，ここに，狩猟は猟法の上で革命的な変転をし，それに伴って狩猟の

大衆化が促進されるに至った。散弾銃の普及により，猟犬の改良が銃猟に向くようにされた。獲物の潜伏場所を主人に指示する犬種や，撃ち落とされた獲物を回収して，確実に主人の手もとへ持ち来る犬種などがつくりだされ，これらを盟友として散弾銃はさらにその価値を増大した。はじめはすこぶる高価だったこの猟具も，購入者の漸増によって大量生産されるに至り，廉価になった。一方，多数の人々が狩猟を行なうと，たちまち獲物が払底する。したがって，これをカバーするために文明国家においては約100年前から，獲物の養殖放翔(ほうしょう)が手がけられている。多種多様の獲物のうち，概して養殖の容易なキジ類・ウズラ類・パートリッジ類・カモ類などを，盛んに養殖して放翔し，大衆化された狩猟の維持発展に努めている。

〔わが国の狩猟の変遷〕 縄文(じょうもん)時代，日本人は，多くの遺跡が示すように，生活を狩猟と漁労によっていた。わが国は温帯に位置し雨量が多い関係で，森林や湖沼や湿地帯や河川の発達が著しく，鳥獣魚介が豊富だったためである。弥生(やよい)時代にはいると農耕が普及するが，狩猟はなお食用肉の獲得，毛皮・薬の獲得，農耕地の保護などのため，生活面で重要な地位にあった。国家形成後は狩猟の獲物が租税の一つに数えられ，崇神(すじん)天皇12年の弓筈(ゆはず)の調(みつぎ)や701年(大宝1)の大宝律令(りつりょう)には，猪油(いのししゆ)や雑腊(ざつせき)(鳥獣の干肉)などの上納の規定がある。一方では，このころすでに権力者たちは狩猟をレクリエーションにしており，垂仁(すいにん)天皇代には朝廷に鳥取部(とっとりべ)・鳥養部(とりかいべ)などが置かれ，414年には鷹甘部(たかかいべ)・鵜(う)甘部などが置かれていた。すなわち，一般民衆の生活のための狩猟と，上流階級の遊戯・社交のための狩猟とが行なわれていた。538年の仏教経論の伝来は，肉食忌避の観念などを植えつけたが，それによって狩猟が消滅することはなかった。一方，支配者は，自分の狩猟の場を確保するために，一般民衆の狩猟を制限するという，ヨーロッパ諸国と同様の政策がとられたのは興味深い。庶民の狩猟は江戸幕府の終焉(しゅうえん)に至るまで，あるときは宗教上から，あるときは朝廷や領主の占有のために，制限を受けてきたのである。この間，鎌倉幕府の巻狩りや，江戸幕府の鷹狩りなど狩猟が演武のために行なわれた。これらは軍事演習・民情視察・国境警備などの目的も兼ねて行なわれたのである。その間にあってわずかながら職業狩猟者も育っていった。巻狩りや鷹狩りには，多勢の協力者が必要である。巻狩りの勢子，鷹狩りの道案内，鷹の餌(え)をとる鳥刺し，お鷹犬の訓育などをする者は，主君から鑑札を授けられたり，世襲職に指定された。好猟場に居住する者は，数々の猟法を編み出した。それらは，クマ・シカ・イノシシなどの多い山村や，カモ・ガンなどの群がる湖沼地帯に発達した。前者の代表例は，秋田県を中心に東北地方から北陸にかけて勢力をふるったまたぎ*であり，後者の代表例は，千葉県の手賀沼を中心に発達したカモ・ガンの共同狩猟で，つい近年まで伝承されてきた。明治時代には専政者たちが退いた結果，庶民の手に返り，スポーツやレクリエーションの方向に向かって進むことになった。

〔わが国の現代狩猟〕 狩猟が大衆化した結果，明治政府は新たな立場からこれの規制を図ることになった。それは危険予防，農林水産物の害獣駆除，天然生産物としての獲物の利用を3本の柱とする狩猟法の制定で，これによって狩猟の安全と発達を図ろうとするものであった。これはひとりわが国のみならず，すべての文明国が等しく採用している方法で，狩猟は今日遊戯として法律の規制を受けている。わが国での狩猟法制の体系は，1873年(明治6)の〈鳥獣猟規則〉で，次いで1892年に〈狩猟規則〉と改正され，1895年の〈狩猟法〉の制定を経て1918年(大正7)の大改正により現行法の母型がつくられた。

その後も数次にわたって改正があり，1963年(昭和38)に，法律の名称を〈鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律〉と変え，保護増殖面にいっそうの充実が図られることになった。すなわち狩猟法規は，制定当初重点を危険予防に置いていたが，今日では，狩猟鳥の維持のため強度の捕獲制限をすると同時に，人工的な増殖に重点を移している。一般に狩猟の目的物である野生鳥獣は，後進国と先進国とに多く，その中間の国家には少ない傾向がある。後進国に獲物が豊富なのは，国土に未開発部分が多いからであり，先進国は獲物の人為的保護増殖が進んでいるためである。探検開発時代を終了した現代の狩猟は，獲物を人為的に増殖して行なうという方法に転換する必要があり，狩猟は捕獲制限と人工増殖とによって，存続が約束されるのである。

〔狩猟の制限〕 狩猟に対する制限の内容はすこぶる多岐にわたり，はなはだ複雑である。たとえば狩猟者の制限，狩猟鳥獣*の限定，猟期*の制限，猟具*の制限，1日の捕獲数の制限，狩猟場所の制限，狩猟方法の制限，銃猟に関する特別な制限などが細かく規定されている。次にそれらの制限の主要なものを述べよう。

〈狩猟者の制限〉 年齢は満20歳以上で，狩猟者講習会の考査に合格し，狩猟者税・入猟税を納付した者でなければ，狩猟を行なうことはできない。

〈捕獲数の制限〉 狩猟鳥類のうち，1日の捕獲数を制限し，たとえばキジ類・ガン類など特に影響の大きいものは1日2羽以内，カモ類・キジバト・ウズラなど，ある程度大猟してもさしつかえないものは，1日10羽以内としている。

〈猟場の制限〉 場所には次の3通りがある。①乱場：狩猟免許者が猟期中自由に猟のできる場所。②承諾を要する場所：さくなどで囲ってある場所や農林作物のある場所，取り入れ前の田畑や，植え付け後まのない造林地などで，土地所有者の承諾が必要である。もっともこれは告訴がなければ事件にされない。③承諾を要する場所：法律で指定された区域。都道府県がそれぞれの面積のほぼ⅓を確保する方針で整備されつつある。すなわち，都道府県下の⅔にあたる面積は，逆に保護増殖の目的と危険予防のため狩猟禁止区域になっている。

〈狩猟禁止区域〉 野生鳥獣の増殖を図るためや危険予防上，狩猟を禁止している区域は少なくない。増殖のため禁止している区域には，①鳥獣保護区*，②休猟区(3年間狩猟を休止して，猟鳥の増殖を図ろうとする区域で，全国におよそ2,300か所ある)，③捕獲禁止区域(特定の種類の狩猟鳥獣に限り，その増殖のため捕獲を禁止している区域)である。危険予防上禁止している区域は，公道(一般公衆が普通に通行する道路のすべてであるが，田畑のあぜ道や山林の径路は含まれない)，公園(自然公園法で定められた特別保護区域と，都市計画法で認可された公園や緑地などで，国立公園・国定公園・県立自然公園などは含まれない)，社寺境内(社寺付属地も含む)，墓地などである。

〈銃猟に対する制限〉 上記に加えて，次のような制限がある。①場所：㋑銃猟禁止区域(全国に約300か所ある)，㋺市街地・人家稠密(ちゅうみつ)の場所，㋩邸宅地域，②方向：人畜・建物・汽車・電車(ガソリンカーなども含む)・艦船(小舟も含む)に向かっての発砲，③時間：日の出前日没後(その時間は暦象年表による)，④禁止の猟法：㋑据銃，㋺行動中の飛行機・自動車・5ノット以上の速度のモーターボート(エンジン付和船も含む)上からの狩猟，㋩ライフル銃による鳥猟，㋥口径10番以上の散弾銃の使用。

〈増殖対策〉 法律は，都道府県知事に鳥獣の増殖に関する立案と事業とを義務づけていて，知事はこれに従い，都道府県の実状に応じて保護区域の設定管理や，人工養殖と野外放翔を行なっている。その経費は主として入猟税(目的税)によって充当されている(狩猟者税や諸手数料は主として事務費にあてられる)。

〈狩猟者数〉 現在のわが国の狩猟者数は，甲種約8,000名，乙種42万名，丙種26,000名，計45万名で，国民222人に1人の割合である。狩猟者の職業は農林業に従事する者が16万名で⅓以上を占め，次いで事務従事者50,000名，技能工生産工程作業者50,000名，販売従事者40,000名，専門的技術的職業従事者38,000名，管理的職業従事者38,000名，運輸通信従事者25,000名，サービス職務従

事者17,000名，以下その他となっている。狩猟者の年齢は，20～29歳が17％，30～39歳が34％，40～49歳が25％，50～69歳が13％，60歳以上が11％である。なお，女性の狩猟者はほぼ1,000人にすぎない(昭和43狩猟年度)。このように日本の狩猟は，広く多種多様な職業の人によって行なわれているが，中では30～40歳代の農林業者が多いという。〔白井邦彦〕

しゅりょうちょうじゅう　【狩猟鳥獣】　狩猟の対象にされている野生鳥獣・人工繁殖鳥をいう。わが国は亜寒帯から亜熱帯にわたって，長い列島状を呈し広い気候区を包蔵しているため，生息する野生鳥獣の種類が豊富で，鳥類はほぼ420種，獣類はほぼ130種，合計550種に上るが，これらのうち狩猟鳥獣に指定されているものはごく一部であり，鳥類25種(カモ類を1種類に数えて)獣類17種にすぎない。狩猟鳥はゴイサギ・キジ・コウライキジ・ヤマドリ・ウズラ・エゾライチョウ・コジュケイ・カモ類(オシドリを除く)・ウミアイサ・カワアイサ・ミコアイサ・ヒシクイ・マガン・バン・オオバン・タシギ・ジシギ・ヤマシギ・キジバト・ワタリガラス・ハシブトガラス・ハシボソガラス・ミヤマガラス・スズメ・ニュウナイスズメ。狩猟獣は，クマ・ヒグマ・イノシシ・牡(お)ジカ・キツネ・タヌキ・アナグマ・テン・ムササビ・リス・シマリス・タイワンリス・牡イタチ・ノウサギ・野ネコ・野イヌ・ヌートリアである。これら狩猟鳥獣は，生息密度，農林水産業に対する益害関係，利用価値などを勘案して決定する必要があるため，農林大臣が中央鳥獣審議会に諮問して決定する。したがって，狩猟鳥獣の種類は施行規則でしばしば改変が行なわれる。上記の狩猟鳥獣のうち，わが国として代表的なものはキジ・ヤマドリ・カモ・キジバト・コジュケイ・イノシシ・ノウサギなどである。一般的に，山林の伐採と単純林の造成，林野の開墾，湖沼・湿地帯・海浜の埋め立て，水田の耕地整理，農薬の使用などのため，減少の一途をたどっている。〔白井邦彦〕

しゅりょうめんきょ　【狩猟免許】　都道府県知事の交付する狩猟免状のこと。これを受けるには，狩猟者講習会を受講することと，狩猟免許税と入猟税(いずれも地方税)とを，入猟しようとする県ごとに納付する必要がある。狩猟者講習会は，知事の権限によって毎年7～10月ごろ，各県の主要な市町で数回にわたって開催されている。講習会の終了考査に合格すると狩猟者講習会終了証明書が交付され，これは5か年間全国の都道府県に通用する。免許申請は，上の終了証明書(写しでもよい)と免許申請書に税金を添えて県または出先機関の林務課を窓口にし，知事に対して行ない(猟友会で代行する)，狩猟免状と狩猟者記章(バッジ)の交付を受ける。狩猟免状には甲・乙・丙の3種があり，それぞれ独立しているので，たとえば網猟と銃猟と両方行なうためには，講習会も甲(網猟)・乙(銃猟)両種を受講し，免許申請も両種について行ない，税金も別個に支払う必要がある。〔白井邦彦〕

しゅりょうもん　【狩猟文】　狩猟のようすを文様化したもの。古くは古墳時代の銅鐸(どうたく)に扱われ，奈良時代には銀壺(ぎんっぽ)などに線刻したものがある。しかし，主としては染織品に主題とされている。この文様はペルシアに源を発し，文化の東漸により中国に伝わり，その後に日本に渡来したものと考えられている。法隆寺に伝わる国宝の《四騎獅子狩文錦(しきししかりもんにしき)》は中国唐代の作品である。

じゅりんがいし　【儒林外史】　中国，清(しん)代の長編小説。56回。呉敬梓(ごけいし)(1701～1754)の作。しかし，第56回は原作でないとする説が有力。文人の作者は詩文の才はあっても，官界に出て活躍する野心はなく，八股文(はっこぶん)をつくっては，〈官吏登用試験及第に血眼になっていた当時の士人(すなわち儒林)の生態を平淡な文章で描き，その愚劣さ，こっけいさを風刺した。全編に筋がなく，各種の人物の去来とともに話も終始する形式をとる。このくしの歯式の手法は，清末の風刺小説に盛んに取り入れられた。この作品は五・四運動以後の新文学運動で高い評価を得，一躍，古典文学中の傑作とみられるに至った。〔今村与志雄〕

ジュール　⇨仕事

ジュール　［James Prescott Joule］(1818～1889)　イギリスの物理学者。エネルギー保存の法則の発見者のひとり。マンチェスター郊外の醸造業の家に生まれ，ほとんど独学で勉強し，自宅で物理学の実験研究に従事。電磁機関の製作をねらって手がけた実験から電流の発生する熱(ジュール熱)を見いだし(1840)，さらに電流をつくり出すに必要な力学的仕事と比較して，仕事と熱の当量関係に到達した(1840)。以後熱と仕事の関係を深く調べて(1842～1849)熱の仕事当量の精密な測定を進め，エネルギー保存の法則の確立に貢献した。W.トムソンの協力を得，熱力学にも業績を残したが，ジュール-トムソン効果はその一つである。〔藤村　淳〕

ジュルチン　⇨女真

ジュール-トムソンのじっけん　【ジュール-トムソンの実験】　外界と熱的に絶縁した気体を細孔を通してゆるやかに膨張させ温度変化を調べる実験。1861年ジュールとトムソンが行なった。この際，気体分子のもつエネルギー(内部エネルギー)を減少させる原因はなにもなく，そして，気体分子のもつエネルギーは温度だけの関数であるから，気体の温度は変化しないはずであるが，わずかではあるが，圧力差Δpに比例する温度変化が起こる。これをジュール-トムソン効果という。熱力学によれば，この温度変化ΔTは，気体の体積をV，定圧比熱をC_pとすれば，$\Delta T=\Delta p\{T(\partial V/\partial T)_p-V\}/C_p$で与えられる。一般にある温度以下では冷却が起こり，それ以上の温度では温度上昇が起こる。常温・常圧では水素を除くすべての気体は温度降下を示し，水素は温度上昇するが，－80℃以下では水素も冷却する。この効果は液化しにくい気体を液化する最後の段階に用いられる。〔中野藤生〕

ジュールねつ　【ジュール熱】　電気抵抗をもつ物体に電流を通じたときに発生する熱。電気抵抗体の中を電流として運動する電子が，結晶をつくる原子と衝突することによって生ずる。

ジュールのほうそく　【ジュールの法則】　ジュール熱を定量的に定める法則。電気抵抗$R(\Omega)$の物質に，電流I(A)を通じたとき毎秒発生する熱エネルギーの量は，$P=RI^2$(W)の公式で得られる。

シュルレアリスム　［surréalisme］　シュルレアリスム(超現実主義と訳される)は，理性の支配を排し，非合理的なもの，あるいは意識下の世界を表現する芸術革新運動で，その影響は文学・美術・演劇・映画・商業美術など広範囲に及んだ。直接にはダダの継続と反動から生まれたシュルレアリスムは，機械工業時代の合理主義的な美学を主張した抽象主義(→アブストラクト-アート)と並んで20世紀における最も主要な芸術思潮の一つである。

【概観――歴史と手法】　主義としてこれが確立したのは，ブルトンが1924年に発表した《シュルレアリスム宣言》においてであるが，これより以前にアポリネールは，同様の意味のシュルナチュラリスムという名称をシャガールの絵に用いた。また，1916年にはアポリネールの劇《ティレジアの乳房(ちぶさ)》は〈シュルレアリスムの〉という形容のもとに上演された。

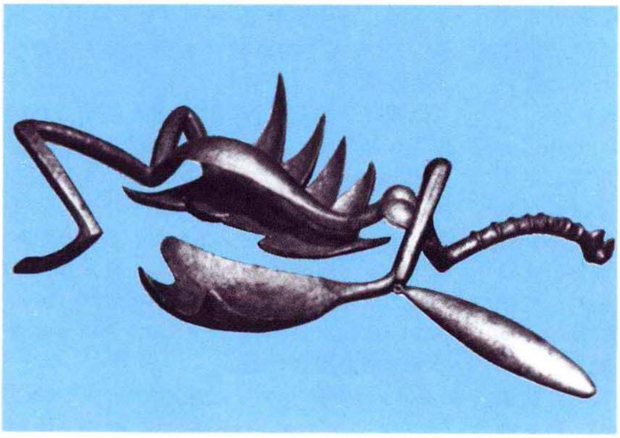
《シュルレアリスム宣言》でブルトンは，〈シュルレアリスムは純粋な心理的・精神的オートマチスム，人は口頭により，記述により，その他あらゆる手段により，思想の真実な働きを表現しようとする。理性によるいっさいの統制なしに，すべての美的・道徳的な先入主なしに行なわれる思想の書き取りである〉と述べ，〈シュルレアリスムは，それまで閑却されてきたある種の連想形式のすぐれた現実性に対する依頼と，夢の全能への信頼，および思想の打算なき活動への信頼に根拠を置く。それ以外のあらゆる心のメカニズムを決定的に打破し，それらにとって代わり，生に関する重要な問題の解決に努める〉とも書いている。その目的は，合理的な視覚の世界をまったく清算し，芸術家を絵画的観念の通俗的連想やすべて既成の表現手段から解放し，事物の非合理的な，そしていわば初発の認識や潜在的な精神によって創造活動ができるようにすることであった。

シュルレアリスム

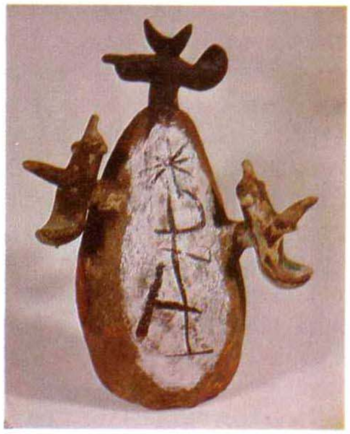
(右)1942年3月，ニューヨーク，ピエール－マチス画廊のシュルレアリスト　前列左からマッタ・ザッキン・タンギー・エルンスト・シャガール・レジェ・後列左からブルトン・モンドリアン・マッソン・オザンファン・リプシッツ，1人おいてセリグマン・ベルマン

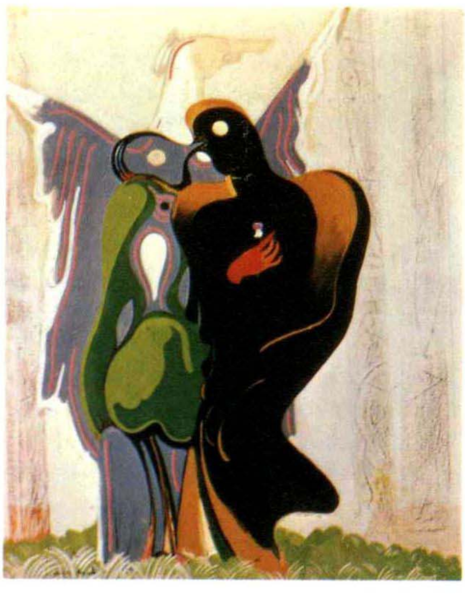


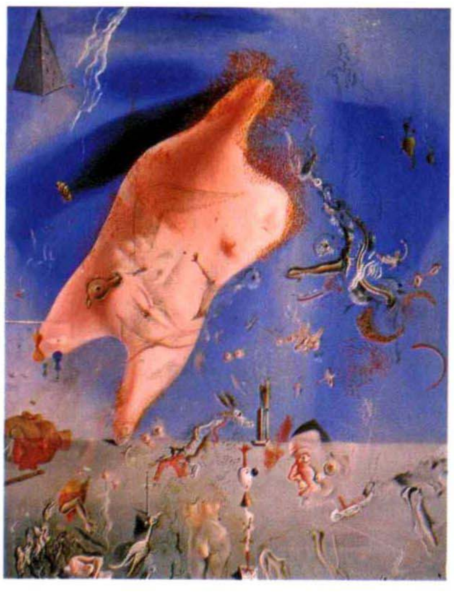
中段　(左)ジャコメッティ《ノー－モア－プレー》1932　(中)セリグマン《バルコニーI》1949～1950　ホイットニー美術館蔵　(右)ミロ《カボチャと鳥》1950　下段　(左)エルンスト《貞淑なヨセフ》1928　(中)ダリ《セニシタス》1928　(右)タンギー《風景》1927

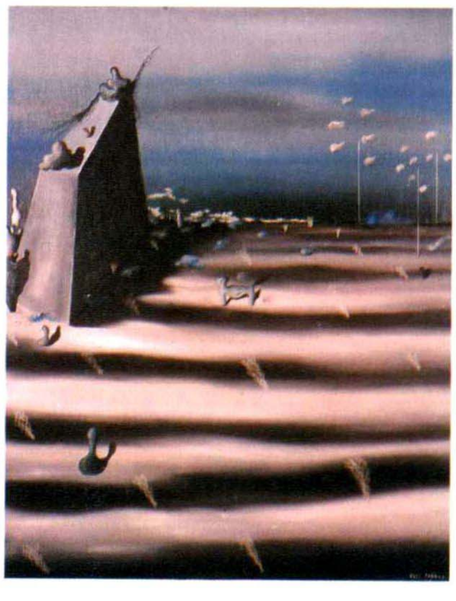












この運動の前提として，ボッシュ*・ルドン*・アンソール*ら超自然的で幻想的な絵画，ランボー*・ボードレール*・ロートレアモン*らの詩，フロイト*の潜在意識とリビドー*の理論，原始人・未開人の心性や精神病者の知覚像への関心，さらにキュービスム*のパピエ-コレ，ダダのニヒリズムなどがあげられる。

1920年，エルンスト*によるコラージュの展覧会が開かれた。1925年には，パリのピエール画廊で，最初のシュルレアリスム-グループ展が開かれ，アルプ*・キリコ*・エルンスト・クレー*・マッソン・ミロ*・ピカソ*・マン-レイ*・タンギー*らが出品した。ブルトンは，アラゴンやエリュアールらと《シュルレアリスム革命》誌を1924年に刊行した。これは1929年まで続いたが，このころになると，社会的関心を強めてコミュニズムに接近する派(アラゴンら)と，純粋な芸術運動として推進しようとする派(ブルトンら)に分裂した。1930年，ブルトンは《シュルレアリスム第2宣言》を発表して自己の政治的立場を明確に示し，数名のシュルレアリストの資格を奪い，〈シュルレアリスムはすべての矛盾の解決である。過去と未来，合理と非合理，現実と空想，上部と下部など，矛盾を解決するためその間の一点を選択することである。オートマティスム・夢・夢想・偶然のみにこだわらず，社会現実の諸相が等量に考えられるとき，シュルレアリスムはさらに飛躍する〉と述べている。ブルトンは1930年から1933年まで機関誌《革命に奉仕するシュルレアリスム》を刊行，コミュニズムとの関係を清算して，社会に対する芸術家の独立を強調している。

1929年，ブニュエル*とともに映画《アンダルシアの犬》を発表したダリは，彼の〈偏執狂的――批判的〉方法をもって，シュルレアリスムの運動に接近した。前述のほか，マグリット*・メザンス・ジャコメッティ*・オッペンハイム・ブローネル・エルツェ・ベルメール*・セリグマン*・マッタ*・デルボーらがシュルレアリスム運動に参加し，ある者は離反したが，1938年パリのギャルリー-デ-ボザールで開催された〈シュルレアリスム国際展〉がこの運動の頂点をきわめた。

シュルレアリスムは，種々の技法を開発しながら新しい芸術概念を創造した。その主要なものとしては以下がある。①オブジェ：ダダから引き継いだ概念であるが，芸術とは無関係の物体を集めたり，その断片を独立した非実用的なものとして提示し，普通の意味や慣習的用途を除去し，既成の概念を離れて深層心理に働きかけようとする。象徴機能のオブジェ，レディーメイドのオブジェなど8種類に分類されている。②コラージュ：キュービスムのパピエ-コレを発展させたもので，さまざまな異質なものをはりあわせる手法。写真や印刷物も多用され，意外性の発見が衝撃を与える。③フロッタージュ：紙などを物体にあててこすってつくる影像，一種の拓本である。エルンストが物体をみつめながら幻覚症状をきたした際に発見したといわれ，異様さと複雑さの混然とした効果を得る。④デカルコマニー：転写術などといわれ，ガラス板や水分を吸収しない紙に塗った絵具を紙などに転写した場合に得られる影像を利用する。最近ではロールシャッハ-テスト*にも使われる。⑤デペイズマン：転置法ともいわれ，物があるべき場所になく，あるべからざるところにあるといった物の位置の転換を利用する。ロートレアモンの有名な〈ミシンと蝙蝠傘(こうもりがさ)が解剖台の上で偶然出会ったように美しい〉というフレーズは，デペイズマンの美学をよく示している。⑥トロンプルイユ：だまし絵。細密精巧な描写で現実のものと同一に見まちがえるような錯覚を起こさせる。シュルレアリスムでは他の手法と併用して見る者の意識を混乱させる。キリコをはじめ，ダリ・マグリット・デルボーらがよく用いる。

シュルレアリスムは，夢・狂気・錯覚・矛盾・唐突というような，現実には無意識のすきまからしか現われないような，精神の内微な現象をあらわにしようとするものである。ただ，その場合，それらを意識の世界に翻訳して〈明白な内容〉を表現することを好まない。たとえば，特定の現実批判の解釈が加われば，それは風刺芸術として区別する。そのためにオートマティスムを応用する。

第2次世界大戦によって，ブルトン・マッソン・エルンストはアメリカに亡命し，シュルレアリスム国際展はメキシコなどで開かれ，占領下のパリでもエリュアールらによってシュルレアリストの地下運動が行なわれた。また，1942年ニューヨークでシュルレアリスムの機関誌《W》が創刊され，ブルトン・デュシャン・エルンストが編集委員となったが，戦争の激化とともに運動は衰退を余儀なくされた。

大戦後，ブルトンはさっそくパリに帰り，1947年デュシャンとともにパリでシュルレアリスム国際展を開催したが，抽象主義が台頭し隆盛になる状勢の中で，シュルレアリスムはそれ自体独立した運動としてほとんど成立しにくくなった。むしろ1950年代後半は盛んになった抽象表現主義において重視されたアクションは，シュルレアリスムのうちのオートマティスムのイメージ主義を排して，オートマティスムの力学のみを純粋に抽出したといえる。現在，具象・非具象を問わず，広くシュルレアリスムの影響が現代美術に深く浸透している。また戦後になって，シュルレアリスムを研究の対象とする者も多い。

【日本への紹介】日本におけるシュルレアリスム運動は，大正(1912～1926)末から西脇(にしわき)順三郎*・春山行夫(ゆきお)・北園克衛(かつえ)・北川冬彦(ふゆひこ)・滝口修造・上田敏雄(としお)らの詩人によって推進され，西脇の《超現実主義詩論》をはじめ，雑誌《詩と詩論》《衣裳(いしょう)の太陽》などが刊行された。美術の面では1931年(昭和6)二科会の東郷青児らの九室会にシュルレアリスムの影響がみられたが，同年独立美術協会展に福沢一郎*がエルンストの影響濃い滞欧作を特別陳列したのが，シュルレアリスムの本格的導入として美術界に大きな衝撃を与えた。翌1932年に開かれた〈パリ-東京新興美術展〉はキュービスム・フォービスムとともにエルンスト・タンギー・ミロ・マン-レイらシュルレアリスムの作品をはじめて日本に紹介し，1937年の《みづゑ》主催〈海外超現実主義作品展〉は，エルンスト・タンギー・ミロ・ベルメール・ブローネルらを紹介した本格的なシュルレアリスム展で，その際滝口修造・山中散生により《アルバム-シュルレアリスト》が刊行されたことは有名である。福沢一郎はまもなく独立美術協会を去って美術文化協会を創立し，これがシュルレアリスム運動の拠点となった。飯田操朗(そうろう)・北脇昇・靉光*(あいみつ)・古賀春江*・阿部展也(あべのぶや)・瑛九(えいきゅう)・大塚(おおつか)耕二・矢崎博信(ひろのぶ)らが第2次世界大戦前から戦中にかけて活躍した人々である。　〔三木多聞〕

【文学作品】シュルレアリスムの最初の文学作品というべきものは，1919年のブルトン・スーポー合作による詩集《磁場》であり，ここではじめてオートマティスム(自動記述法)が作品とし試みられ，この手法を核として1924年の《シュルレアリスム宣言》が生まれた。以後，数多くの作品が書かれるが，いずれも実験性の濃厚なもので，小説・詩・評論などの既成の区分を逸脱あるいは拒否する作品である。ブルトンの《ナジャ》は，現実とも幻想ともつかぬ女との出会いを，書き手の意識の混沌(こんとん)状態のうちに描いた物語で，虚構と記録的要素とが混淆(こんこう)している。《ナジャ》とともにシュルレアリスムの代表的作品であるアラゴンの《パリの田舎者(いなかもの)》も，パリの日常生活の記録でありつつ，そこに幻想性を見いだしていく現代の神話ともいうべき小説である。おもな詩集としては，エリュアールの《死なぬために死ぬ》，ブルトンの《白髪の拳銃(けんじゅう)》があるが，この両人合作の《処女懐胎》は，ダリの〈偏執狂的――批判的〉方法による散文詩集である。1924年ブルトン・エリュアール・スーポー・アラゴンらは，アナトール-フランスの死に際して小冊子《死骸(しがい)》を発表，フランスをはじめとする既成の文学者に対して葬送の宣告を行なったが，この同時代文学者たちへの痛烈な批判と攻撃は，アラゴンの《文体論》に引き継がれた。評論的作品としては，ほかにブルトンの原理論模索の書《通底器》がある。また，ブルトン編の《黒いユーモア選集》

がアンソロジーとして著名である。これらシュルレアリスムの中心にあった文学者のほか，その周辺にあった作家・詩人として，アルトー*・シュペルビエル*・シャール*・クノー*・レリス・グラック*・マンディアルグ*らがいる。また日本では，1927年(昭和２)西脇順三郎らのアンソロジー《馥郁(ふくいく)タル火夫ヨ》が記念碑的作品である。

じゅれい　**【樹齢】**　樹木の年齢。夏緑樹林や雨緑樹林など，生育に周期のある所では，材に年輪ができるためそれによって知ることができる。また，マツ・モミなどでは，１年に１段ずつ枝が出るため，枝やその痕跡(こんせき)によって知ることもできる。北アメリカのセコイアの一種や，屋久島のスギなどでは，樹齢1,000～3,000年に達するものが知られる。なお，林の成立後の年数は林齢といわれる。

シュレーゲル　[August Wilhelm Schlegel]　(1767～1845) ドイツ-ロマン派文学運動の指導者。ゲッチンゲン大学で言語学を学び，イエナ大学教授。弟フリードリヒ(→次項)とともに《アテネウム》を創刊。彼のシェークスピアの翻訳は有名。

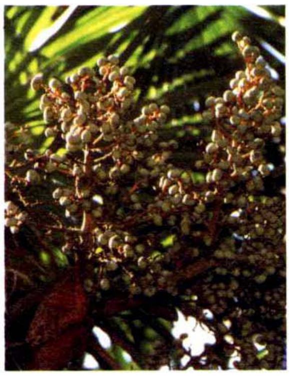
シュレーゲル　[Friedrich von Schlegel]　(1772～1829)　ドイツ-ロマン派文学運動の指導者。はじめ法律を学んだが，のち文筆活動にはいる。スピノザ・ライプニッツ・フィヒテ・シュライエルマッハー，特にJ.C.F.シラーの影響を受け，人間の自由が最大限に発揮されるものとしてのアイロニー，自己の内部に神的な要素を自覚する天才，世界と人間生活とを統一する想像力などを説いた。詩・批評・言語学・哲学・神学と広範に活動した。雑誌《アテネウム》《コンコルディア》の刊行者としても知られ，外交官として活躍したこともある。なお，兄アウグスト(1767～1845)も評論家として弟とともに活躍した。　〔玉井　治〕

シュレーゲルあおがえる　**【シュレーゲル青蛙】**　両生類・アオガエル科。本州・四国・九州に分布し，一見アマガエルに似るが，鼻孔の間隔が広いことなどで区別できる。体長は雄４cm，雌６cm。体は黄緑色で平地の草の上などに多い。水辺の土中の穴にあわ状の卵塊を産む。

シュレジエン　[Schlesien]　ヨーロッパ中東部，オーデル川の上・中流域を占める地方。1919年までは大部分がドイツ領であったが，ベルサイユ条約によってポーランドとチェコスロバキアに分けられ，第２次世界大戦後は全域がポーランド領となった。ドイツではシュレジエン，イギリスではシレジア，ポーランドではシュロンスクとよぶ。土壌(どじょう)が肥沃(ひよく)で，ライ麦・ジャガイモ・小麦・テンサイなどの農産と酪農が盛ん。また，石炭・鉄鉱その他の鉱産も多く，東部の上シュレジエンは重工業の中心で，ザブジェ・カトーウィツェなど多くの工業都市がある。〔野間三郎〕



シュレーゲルアオガエル



シュロ
果実

シュレジエンせんそう　**【シュレジエン戦争】**　⇨オーストリア継承戦争

シュレージンガー　[Arthur Meier Schlesinger Jr.]　(1917～　)　アメリカの歴史学者。A.M.シュレージンガーの子。ハーバード大学を卒業，第２次世界大戦中は戦時情報局・戦略事務局に勤務。1945年《ジャクソンの時代》を発表，歴史学界から高い評価を受け，1946年ピュリッツァー賞を受賞。1946年以来母校の教授となり，《中心》《希望の政治》などを発表したが，ことに《ルーズベルトの時代》(1957～1960) ３巻はニューディール*の総合的研究として有名。1948年ニーバーらとともに自由主義的政治団体〈民主的行動のためのアメリカ人〉を創設，1952年・1956年の大統領選挙にスチーブンソンを支持，1960年の選挙にJ.ケネディ*の選挙参謀をつとめ，1961年そのラテンアメリカ担当特別補佐官に任命された。ケネディの死後1964年辞任し，その記録《一千日》(1966)によって再度ピュリッツァー賞を授与された。現在ニューヨーク大学大学院教授として多方面にわたる活躍をしている。〔折井一彦〕

シュレスウィヒ-ホルシュタイン　[Schleswig-Holstein]　西ドイツ北端の州で，ユトランド半島の基部にあたり，デンマークと接する。面積15,658km²。人口247万3,000(1966)。州都はキール。キール運河が東西に走り，バルト海と北海をつなぐ。氷堆石丘がちらばり，大麦・ライ麦・ジャガイモを産する農業と牧畜を行ない，工業は東岸のキール・リューベックや内陸のノイミュンスターなど少数の都市に集中し，造船・機械・皮革・繊維などが盛んである。〔野間三郎〕

シュレスウィヒ-ホルシュタインもんだい　**【シュレスウィヒ-ホルシュタイン問題】**　デンマークとドイツの境にあった両公国は，中世末以来デンマークと同君連合を形成しながら，南のホルシュタインは神聖ローマ帝国に属し，ウィーン会議以後もドイツ連邦に編入されていた。しかし，住民は長らく両公国の統合と独立を望んでいたので，1848年デンマークがシュレスウィヒの併合を宣言すると，直ちに反乱を起こしてドイツ連邦に援助を求めた。プロイセンが連邦の委任を受けて出兵したが，列国の干渉で成功せず，両公国はデンマーク支配下の自治領とされた。1863年デンマークはシュレスウィヒに自国憲法を適用しようとして再び反抗を招いたので，ビスマルクはこの機をとらえオーストリアを誘ってデンマークと戦い，両公国をプロイセン・オーストリアの共同管理下においた。次いで消極策をとるオーストリアを圧迫してプロイセン・オーストリア戦争を起こし，1867年両公国を併合してしまった。なお，北部シュレスウィヒは第１次世界大戦後デンマーク領となり，現在に至っている。〔大野真一郎〕

シュレーディンガー　[Erwin Schrödinger]　(1887～1961)　オーストリアの理論物理学者。ウィーンに生まれ，各地の大学教授を歴任してウィーン大学教授となった。物質波を提唱したド-ブロイ*の考えを受け継ぎ，力学*と光学*の類似点に注意して波動力学を提唱，波動方程式を提出した(1926)。またハイゼンベルグによって建設された行列力学との関連に注意し，その同等性を証明するなど，量子力学*の形成期に重要な役割を果たした。1933年ノーベル物理学賞を受けた。　〔藤村　淳〕

シュレンマー　[Oskar Schlemmer]　(1888～1943)　ドイツの画家。後期印象派(→印象派)から出発し，キュビスムを経て抽象的作風に至る。厳格な幾何学的形態に還元した単純な姿勢の人物の構成のうちに，一種不思議なロマンティシズムを漂わせている。1920～1929年バウハウス*に参加して教授をつとめ，バレエや演劇の舞台装置なども制作。

しゅろ　**【棕櫚】**　単子葉植物・ヤシ科。南九州原産の常緑高木であるが，いまでは野生のものはなく，東北地方にまで広く栽培されている。幹は単一で直立し，高さ３～７ｍ，ときに10ｍにも達し，直径20cmほどで，黒かっ色の古い葉鞘(ようしょう)でおおわれる。葉は大形の円形で直径50～80cm，掌状に深裂し，幹頂に数十枚が群生する。裂片は先がとがり，浅く二裂して中肋(ちゅうろく)で二つに折れたたまっている。葉柄は硬質で長さ１ｍほど，断面は半円形で，基部は急に三角形に広がって扁平(へんぺい)になり，茎を抱いている。その端から繊維状組織の葉鞘が発達して茎をかたく包み，落葉後も

残存する。これを〈しゅろ毛〉という。雌雄異株。初夏に葉間から花枝を出し，さや状の黄色の仏炎包に包まれた大形の肉穂花序が側出して下垂する。小花は黄色粒状。果実は1cmほどの腎臓(じんぞう)形球形の液果で，熟して黄色から黒藍(こくらん)色になる。シュロ毛の粗繊維は強靭(きょうじん)ではないが，腐朽に強くて伸縮性に富み，しゅろなわ・敷き物・はけ・しゅろぼうきなどに用いる。材は水湿に強く保存がきくので，床柱・欄干・鐘つき棒に用いる。葉ははえたたき，げたの鼻緒，帽子，敷き物，ぞうり，ほうきなどにする。園芸品として矮生(わいせい)型のヒメシュロがある。〔横井朝子〕

じゅろうじん【寿老人】七福神のうち長命の神。福禄寿(ふくろくじゅ)とは同神異体となっていることが多い。古来中国では南極老人星という福をもたらす星であったが，宋(そう)・元代から人格化した。形姿は老人の姿で，人間の寿命を記した巻物を結びつけたつえをもち，長命の象徴で2,000年を経たとされる玄鹿(げんろく)(男鹿)を伴っている。日本では室町時代に人格化されて偶像となり，画像・彫像となって普及し，江戸時代には漫画的に誇張された長頭のものも生まれた。〔渡辺欣雄〕

しゅろそう【棕櫚草】単子葉植物・ユリ科。本州中部以北の山中の林下などにはえる多年草。根茎は短く，外側を葉鞘(ようしょう)が腐ってできたしゅろ毛を思わせる繊維が包む。茎は直立して高さ60cmほどで，下部に数枚の細い披針(ひしん)形の葉をつける。夏から秋にかけて円錐(えんすい)状の花序をつけ，径1cmほどのかっ紫色の花をつける。根茎を乾燥したものを黒藜蘆根(こくりろこん)といい，園芸用殺虫剤とされる。

しゅろちく【棕櫚竹】単子葉植物・ヤシ科。中国南部原産の常緑低木で，日本には沖縄諸島を経て渡来した。地下茎は短く，幹は単一直立で4～5m，径2cmほど，節が多く，かっ色の葉鞘(ようしょう)の繊維でおおわれる。葉は茎頂に6～9枚が群生し，シュロに似るが小形で中肋(ちゅうろく)はなく質は薄い。葉身は半円形で20～30の裂片からなり，濃緑色でかたく，縁に細歯がある。葉柄は長さ25cmくらいで，断面は半円形。雌雄異株。夏に葉液(ようえき)に穂状花序をつける。基部にかっ色のかたいさや状の包がある。小花は淡黄色。園芸品種には細葉や斑(ふ)入りのものがある。冬は温室に入れる必要があるが，暖地では戸外で越冬できる。夏には強光を避け，十分な水と肥料を与える。繁殖は株分けによる。〔横井朝子〕

ジュワイニー［'Alā al-Dīn 'Atā Malik Juwaynī］(1225～1283) イル汗国の政治家・歴史家。正しくはアラー-ウッディーン。ジュワイニー家の出であるため，この名でよばれる。ジュワイニー家はホラサーン地方の名家で，代々セルジュク朝・フワーリズム朝に仕えた。ジュワイニーは



シュロソウ

モンゴル侵入後もフラグのイル汗朝に仕え，文化・学術の奨励にあたった。ジンギス汗の偉業について書いた《世界征服者の歴史》3巻は，ペルシア語で書かれた最も信頼すべきモンゴル史料で，ラシード-ウッディーンの《総合史》とともに貴重。〔小谷仲男〕

じゅわき【受話器】音声周波数帯の電気信号を音響信号に変換する装置のうちで，聴者の耳に装着して使用するものの総称。**電話用受話器・ヘッドホン(載頭受話器)・イヤホン(挿入形(そうにゅうがた)受話器)・イヤスピーカー(耳おおい形受話器)などがある。**電話用受話器は電磁形(可動鉄片形)電気音響変換機構によるものが大部分であって，もっぱら電話器に使用されている。一般の無線通信器や放送機などに使用されるヘッドホンには，電磁形のほかに動電形(可動線輪形)電気音響変換機構を採用したものもあり，2個の受話器を頭掛けバンドで結合して両耳で受聴できるようになっているものが多い。最近音響機器が一般家庭に普及するようになり，これらの機器に付属してイヤホンがひろく使用されるようになった。イヤホンは小形軽量で，耳の穴に挿入して使用することができるので，補聴器やトランジスターラジオのように歩行しながら聞く場合や，テレビ・ラジオ・ステレオなどを他人に迷惑をかけずに聞く場合などに盛んに用いられるようになった。さらに，このような目的で音質のよい音を聞くことのできるスピーカーホンが出現した。これは耳おおいの中に小形ダイナミックスピーカーを装着したものであって，しだいに普及しつつある。〔伊藤　毅〕

シュワーベ［Heinrich Samuel Schwabe］(1789～1875) ドイツの天文学者。アマチュア出身。1826年，37歳になったときから余暇を天文学につぎこんだ。この年以後小望遠鏡によって太陽の黒点を観測，43年間この観測を続けた。17年後，日々の黒点数に周期的変化のあることに気づいたが，1851年には約10年の周期で黒点が増減していることを確かめた。このように忍耐強い観測から太陽物理学の基礎を築いた。1857年には王立天文学会から金牌(きんぱい)を授与されている。〔根本順吉〕

シュワルツコップ［Elisabeth Schwarzkopf］(1915～　) ドイツのソプラノ歌手。ベルリン高等音楽学校を卒業後，1938年ベルリンでデビュー，1942年ベームに認められてウィーン歌劇場と契約した。1947年ザルツブルク音楽祭で圧倒的な評価を受け，以後世界的な歌手として活躍。モーツァルトとR.シュトラウスを得意とし，歌曲の面にも卓越している。

シュワルツワルト［Schwarzwald］ドイツ南西部，ライン川右岸に沿って南北に走りスイス国境に至る高原状の山地。長さ約170km，幅30～50km，面積約7,900km²。ケスタの地形をなし，南部へいくほど高く，最高峰フェルトベルク(1,493m)は，氷河期には氷食作用を受けた。地名は〈黒い森〉の意で，ほとんどが針葉樹林におおわれている。17世紀ごろから，各地で家内工業による木彫・楽器・オルゴールなどの民芸品の生産が行なわれ，製材・織物などの工業もある。西縁のバーデン-バーデンをはじめ温泉や鉱泉が各地にみられ，療養所などがある。〔大石堪山〕

シュワン［Theodor Schwann］(1810～1882) ドイツ生まれの生物学者。ジュッセルドルフ付近のノイスに生まれる。ドイツで精力的な研究生活を送ったのち，ベルギーに移り，リエージュ大学で教鞭(きょうべん)をとった。彼の業績の第一は消化酵素ペプシンの発見(1836)，第二は発酵の微生物原因説の主張(1837)，第三は細胞説の提唱(1839)である。第一の業績の生理学上の意義はいうまでもない。第二の研究は，パスツールの活躍のさきがけであったが，当時はあまり認められなかった。第三の業績においては，動物・植物ともに細胞という共通の構成要素からなり，それらの細胞はいずれも同じ方法で形成されると主張した。細胞説を動物に拡張し，動物学と植物学を単一の基盤にすえた功績は大きい。ただし細胞の形成についてはシュライデンの影響を受けたもので，誤認であることが判明している。〔中村禎里〕

しゅん【舜】中国の神話上の聖天子。有虞(ゆうぐ)氏。呼び名は重華。微賤(びせん)な身分の出身であったが孝行によって名があり，堯帝(ぎょうてい)の禅譲を受けて帝位につく。禹(う)などの賢臣を得て治水に成功し，国家の統治機構を整えた。のち帝位を禹に譲った。

しゅんおくみょうは【春屋妙葩】(1311～1388) 室町初期の臨済宗の僧。相国寺(しょうこくじ)2世。号を不経子，おくり名を智覚(ちかく)普明国師という。甲斐(かい)(山梨県)に生まれ，35歳のとき叔父の夢窓疎石から法を授けられた。のち等持寺・天龍(てんりゅう)寺・南禅寺に住し，禅寺の僧録司となった。1384年(元中1・至徳1)相国寺建立(こんりゅう)に尽力し，夢窓を開山に請じてみずから第2世となった。著作に《語録》7巻があり，五山文学の発展に貢献した。〔田中良昭〕

じゅんか　【馴化・順化】 生物をそれまでのものとは異なった生育環境下に移した場合，その個体が新しい環境に適した形や生活をもつようになる現象。遺伝的変化を伴わない場合を馴化とよび，遺伝的変化を伴う適応とは区別する。気候馴化が最も問題となり，開花期の変化などがある。

じゅんかかくじょう　【淳化閣帖】 中国，宋(そう)の淳化3年(992)，翰林(かんりん)侍書王著が太宗の勅命を受けて模勒(もろく)上石(模刻して石刷りにすること)した法帖。全10巻。内府収蔵の古今の名跡を基に，歴代の帝王・名臣・諸家の古法帖および王羲之(おうぎし)・王献之の書を収めている。特に第5巻以下を二王にあてて全巻の半ばを占めているのが注目される。編集上のずさんさや偽帖や模本の混入している点では鑑賞に欠けるところがあるが，歴代の名跡を網羅(もうら)して，書の歴史を体系づけた功績は大きい。刊行ののちもしばしば翻刻や増補が行なわれて，広く流布した。明(みん)代の粛府本，清(しん)代の乾隆(けんりゅう)模刻本が有名。　〔中田勇次郎〕

しゅんかしゅうとう　【春夏秋冬】 句選集。1901年(明治34)から1903年にかけて刊行された。《新俳句》(1898)に次ぐ子規派の俳句の第2選集。四季4冊のうち，春の部は正岡子規の編，夏の部以降は病の重い子規に代わって，河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)・高浜虚子の共編。1897年以後の句を収めているが，蕪村(ぶそん)の影響を受けた客観的な句が多い。子規没後《続春夏秋冬》(碧梧桐)《新春夏秋冬》(松根東洋城)などがある。

しゅんかしょり　【春化処理】 バーナリゼーション・ヤロビザァーチヤともいう。植物の発育初期に温度処理を行なって正常な発育をさせ，花芽形成に導くこと。植物の発育過程に認められる最初の発育段階は，特に温度条件を必要とするが，人工的温度処理によって次の発育段階に進ませることができる。たとえば秋まきコムギの種子は，吸水後ある期間人工的に低温にさらす(ふつう0～5℃に10数日間)ことによって，春まきコムギと同様に春にまいても正常に生育し，開花結実するようになる。この温度処理がないと，秋まきコムギは生長はするが，花芽形成は起こらない。　〔吉田精一〕

じゅんかつ　【潤滑】 機械の互いにすべりあう面の摩擦を少なくし，摩耗や発熱を防ぐために，面の間に油などを入れること。このために面どうしは油膜に隔てられて直接に接触しない。たとえば，すべり軸受けにおいて，軸が静止しているときは軸の下面は軸受けに接触しているが，軸が回転を始めると油は粘性のために軸の下方にはいりこみ，圧力を発生して軸を持ち上げ，軸と軸受けが直接に接触しなくなる。この状態を流体潤滑という。しかし，軸にかかる荷重が大きく油の粘性が小さい場合は油膜が十分厚くならず，油の分子がすべり面に吸着しただけの状態になることがある。この状態を境界潤滑といい，流体潤滑より摩擦がずっと大きくなる。完全な潤滑は流体潤滑であるべきである。

潤滑に用いる材料を潤滑剤といい，液体・半固体・固体の3種類がある。液体のものはおもに潤滑油といい鉱物性のものが多いが，植物性・動物性あるいはこれらを合成したものも用いられる。液体のものは他の潤滑剤に比べて冷却効果が大きい。半固体のものにはグリースがある。固体では黒鉛・二硫化モリブデンなどが用いられる。

潤滑法としては，適時油差しで給油する手差し給油，油の容器から穴・針・弁などを経てほぼ一定量の給油を自動的に行なう滴下潤滑，軸受け部分を油中に浸す浸し潤滑，パッドの毛管作用を利用して油だめの油を軸受面に塗布するパッド潤滑，油だめを回転体がたたいたりかき混ぜたりするときの油のはね返りを利用するはねかけ潤滑，ポンプで圧力をかけて油を強制的に供給する強制潤滑などがある。　〔森田　鈞〕

じゅんかつゆ　【潤滑油】 ⇨前項

ジュンガリア　［Jungaria］ 中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区北東部の地方で，別称ジュンガル盆地ともいう。北から東にかけてアルタイ山脈，南は天山山脈，西は天山山脈の小支脈によって囲まれる。平均標高500m。周囲の山地から注ぐ河川は盆地内で消えているが，一部はテリ湖やエビ湖に注いでいる。盆地南縁は，かつてシルクロードの一つ天山北路のコースにあたり，歴史上重要な役割を果たした。大部分は遊牧地であるが，中華人民共和国成立後の1950年からテリ湖にはいるマナス川流域の開発が進められ，ワタや穀物を中心とする農業地に変わった。さらに最近では石油の開発も進められている。　〔大石堪山〕

ジュンガル　［Jungar］ 17世紀初頭から1世紀半にわたって天山・アルタイ両山脈間に建てられた西モンゴル族オイラートによる遊牧騎馬民族国家。1635年バートル-ホンタイジが出てジュンガル汗国の基礎を固め，その子ガルダンはチベットのダライラマと結び，東トルキスタンをも征服して版図を拡大したが清(しん)の康熙帝(こうきてい)に敗れた。次いでツェワン-アラブタン，ガルダン-ツェレンの時代が最盛期であったが，1757年清朝(しんちょう)に併合された。〔若松　寛〕

しゅんかん　【俊寛】 ⇨平家女護島(へいけにょごがしま)

しゅんかん　【俊寛】 能の曲名。作者不明。《鬼界島(きかいがしま)》ともいう。四番目物。《平家物語》による。平家に対する反逆の陰謀が現われて鬼界島(→喜界島)に流された3人の罪人のうち，中宮の御安産を祈るための大赦によって2人は許されるが，俊寛はひとり鬼界島に残される。前半は丹波少将成経(たんばのしょうしょうなりつね)と平判官康頼(やすより)が鬼界島に三熊野(みくまの)の神を迎えた神域からもどるのを俊寛が出迎えて，手おけの中の水を酒になぞらえた酒宴の場があり，赦免使が来て赦面状を見せるのを俊寛が読むと自分の名がないので驚き悲しむ。この部分から，成経・康頼を乗せた舟が沖へこぎ出すまでがこの曲の見せ場で，写実的な要素のきわめて濃い演出法がとられる。舟の去ったあとひとり俊寛が舞台に残って悲嘆のうちに曲を終わる。シテは俊寛，成経・康頼2人がシテツレ，赦免使がワキ，ほかに狂言方として赦面使の舟に乗る船頭が出る。　〔長尾一雄〕

しゅんかん　【俊寛】 (？～1179)　平安末期の真言宗の僧。法勝寺の執行(しゅぎょう)となり，後白河(ごしらかわ)法皇の近臣として活躍し，僧都(そうず)に任ぜられた。1177年(治承1)5月，藤原成親(なりちか)・藤原師光(もろみつ)・藤原成経(なりつね)らが京都東山鹿ケ谷(ししがたに)の俊寛の山荘において，平家討伐を謀議したが，多田行綱の密告によって発覚し，成親・師光は死罪，俊寛は成経らと鬼界島(きかいがしま)に配流された。翌年，中宮の出産祈願の大赦にも彼は許されず，3年後に死んだ。その悲劇的な配流生活は，能や歌舞伎(かぶき)に取り上げられた。　〔玉山成元〕

じゅんかんきけい　【循環器系】 体内の各部分に物質を補給するための体液を運搬する器官系。原生動物では体内での物質運搬のための特別な器官がなく，おもに原形質流動によって行なわれる。後生動物(多細胞動物)では体内での物質運搬に循環器系が分化している。脊椎(せきつい)動物ではリンパの循環に関係するリンパ系と血液循環に関係する血液系に分けられるが，リンパ系は無脊椎動物にはない。血管系は開放血管系と閉鎖血管系に区別される。〔幡井　勉〕

じゅんかんきしつ　【循環気質】 ⇨気質

じゅんかんしょうすう　【循環小数】 ⇨小数

じゅんかんろんぽう　【循環論法】 論証の必要な命題を論拠とするという〈論点窃取の誤り〉を侵した論証のうちで，論証すべき命題を論拠にしなければ論証できないような命題を論拠として用いるものをいう。つまり，多くの推理が組み合わさった複雑な論証において，結論が循環的に前提とされている場合である。ただし，この誤りはあくまで論証の資料となる命題そのものにかかわるのであり，前提から結論を導く推理形式にかかわるのではないから，純粋に論理的な誤りではない。　〔石倉恒之〕

じゅんぎ　【遵義】 ツンイー　中国，貴州省北部の都市。省都貴陽の北130km，烏江(うこう)支流要江の両岸にある省北部の中心で，四川省に向かう要路にあたる。付近は農業・養蚕が盛んで，林産物・柞蚕(さくさん)糸などの交易が盛んである。市街は新旧両域に分かれ，旧域は市庁・学校・住宅，新域は商店街となっており，醸造・製紙・マッチ・搾油などの工業を行なっている。19

35年１月，長征の途上ここで開かれた中国共産党中央政治局拡大会議(遵義会議)は，以後党内で毛沢東の主導権が確立した会議として有名である。　〔船越昭生〕

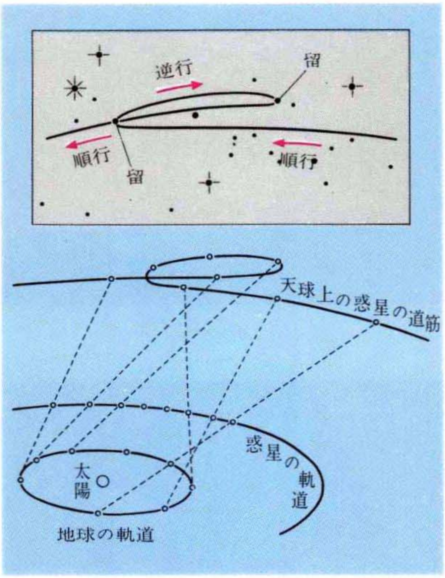
しゅんぎく　【春菊】　双子葉植物・キク科の一年草。全体無毛で高さ30～60cm。葉は柔らかく，羽状に深裂する。夏，黄色または淡黄色の頭状花をつける。ヨーロッパでは食用にせず，鑑賞用にするが，わが国や中国では古くから野菜として利用している。暑さにも寒さにもわりあいに強く，つくりやすい野菜。葉茎には独特のかおりがあり，なべ料理などに用いることが多い。

じゅんきそてつづき　【準起訴手続き】　公務員の職権濫用罪について告訴・告発があったにもかかわらず，検察官がこれを不起訴処分にしたとき，管轄裁判所が，告訴人または告発人の請求によって，当該事件を裁判所の審判に服するよう決定する手続き。起訴があったと同じ効果を生じ，起訴手続きに準ずる扱いをする。検察官の起訴独占主義(起訴権は検察官のみにある)の唯一の例外である。公務員の職権濫用罪については，必ずしも公正な起訴が保障されるとはかぎらないため，この制度を採用して国民の人権確保を図るとともに，公正な審判を保障したものである。準起訴手続きで審判に付された事件では，検事の職務は裁判所の指定する弁護士によって行なわれる。　〔井上公耳〕

じゅんきょう　【荀況】　⇨荀子

じゅんきょう　【殉教】　一般にはいかなる迫害や弾圧にも屈せず宗教的信念あるいは思想的原理を守って自己の身命を犠牲にすること。特にキリスト教で重視される。初期キリスト教史は，その成立以来コンスタンチヌス１世による公認までの300年余りの間，はじめはユダヤ人，のちにはローマ人によって激しい圧迫が続いたので，殉教の歴史といった様相を呈した。キリスト教は殉教を通して世界的宗教となったといっても過言ではなく，中世以後も，たとえば十字軍の背景には殉教への熱情があったし，フスなどに代表されるように，宗教改革の背後には殉教への覚悟があった。また，反宗教改革期以後の異教の地への伝道熱は，多くの宣教師に殉教をもたらし，日本でも多くのキリシタンが殉教者となった。　〔石井忠厚〕

じゅんきょかいてんだえんたい　【準拠回転楕円体】　地図をつくるときに必要な基準となる地球楕円体のこと。略して準拠楕円体ともいう。日本の地図はベッセル楕円体を採用している。すなわち，①東京都港区麻布(あざぶ)の旧東京天文台にある日本の経度および緯度の原点に立てた鉛直線が，ベッセル楕円体と交わる点の東経を139° 44′ 40.″5020とし，北緯を35° 37′ 17.″5148とする。②上記の地点からみて，千葉県鹿野山にある一等三角点の方向を，真北からはかって156° 25′ 28.″442の方向とする。③ベッセル楕円体の表面は東京都千代田区永田(ながた)町の旧陸地測量部にある水準原点の直下24.414mを通るものとする。〔木下　宙〕



順　行　惑星の天球上における見かけの運動

じゅんきょほう　【準拠法】　⇨国際私法

じゅんきんちさんしゃ　【準禁治産者】　心神耗弱者(こうじゃくしゃ)・おし・つんぼ・めくらまたは浪費者のうち，本人・配偶者，４親等内の親族，後見人・保佐人および検察官のいずれかの者の請求によって家庭裁判所より準禁治産の宣告を受けた者をいう(民法11・13条)。準禁治産者の財産上の法律行為を保護するためにこの制度があり，準禁治産の宣告があれば必ず保佐人を付すことになっている。準禁治産者は法定された財産上の重要な行為をなすについてのみ保佐人の同意を必要とし，同意なき行為は取り消すことができる(民法12条)。ただし，保佐人自身は親権者や後見人と異なり，法定代理人ではないので取り消し権を有していない。準禁治産の原因が消滅すれば，請求によって，家庭裁判所は宣告を取り消すことができる(民法10条)。　〔黒木三郎〕

じゅんけい　【純系】　遺伝的に純粋な系統。厳密な意味では，その系統に属するすべての個体が個々の遺伝子座についてホモであるような同じ遺伝子型をもっていること。

じゅんけいせつ　【純系説】　W.L.ヨハンゼンの唱えた説。市販のインゲンマメの重さを一つ一つ精密に測ってからまき，生産された次代のマメの重さを別々に測って平均値を比べてみると，重いマメからは平均して重いマメが，軽いマメからは平均して軽いマメが得られる傾向が示された。すなわち，ここまでの実験ではまえの代のマメの重さは遺伝的であった。彼はさらにこれらのマメの子孫を数代にわたってくり返し自家受精していった結果，最も重いマメからも，最も軽いマメからも，平均して同じ重さのマメを収穫するようになり，マメの重さの変異は遺伝性とは無関係になった。このようになった系統では，マメの重さに関する遺伝子はまったく同じになったと考えて純系と名づけた。ヨハンゼンはこの実験によって，個体間の変異には遺伝的変異と非遺伝的変異の２種類があること，非遺伝的変異は育種に役だたないものであること，２種の変異が混在している場合の分離法など，変異と選抜の基礎理論を明らかにした。　〔北川　修〕

しゅんけいぬり　【春慶塗】　漆工芸の手法の一。一般には，素地を砥粒(とのこ)などで目留めしたのち，黄色(黄春慶)あるいは紅・赤色(赤春慶)に色着けし，柿渋(かきしぶ)で下地づくりをした上に，素地の木目を透視できるように透漆(すきうるし)を塗布したもの。応安年間(1368～1374)堺(さかい)の漆工家春慶の創案にかかるといわれる。しかし，素地をスオウで染めて透漆を施した，いわゆる赤春慶塗の手法は，すでに正倉院宝物中の《赤漆文欟木厨子(せきしつぶんかんぼくずし)》に認められ，基本技法は奈良時代に完成していたとみてよい。塗法に多少の差異があるが，春慶塗と称するものは各地にみられ，とりわけ能代(のしろ)・飛騨(ひだ)・吉野(よしの)は著名で，現在も生産されている。〔河田　貞〕

じゅんげつ　【閏月】　⇨うるうづき

じゅんけつきょういく　【純潔教育】　⇨性教育

じゅんこう　【順行】　惑星が天球上を西から東の方向へ運動すること。逆に，天球上を東から西へ運動するのを逆行という。地球を含めて，すべての惑星は太陽のまわりを同方向に公転しているので，内合や衝のあたりで短期間逆行するだけで，大部分は順行である。また，太陽から見て，彗星(すいせい)が地球の公転と同方向に運動すること。

じゅんさ　【巡査】　警察官の一階級。明治初期には邏卒(らそつ)とよばれ，1874年(明治７)巡邏査察することから巡査となった。国民の生命・身体・財産を保護するため，犯罪の防止・取り締まり・捜査・逮捕などの公安の維持にあたる。一般から公募され，応募資格は新制高等学校卒業またはこれと同等以上の学力ある者，採用後は各都道府県の警察学校で１年教育訓練を受けて警察署に配置される。➔司法警察

じゅんさい　【蓴菜】　双子葉植物・スイレン科。池やみぞにはえる多年生の水草。根茎は水底の泥中(でいちゅう)にあり，そこから伸びた茎に長い柄のある葉が互生につく。葉は水面に浮かび，長さ10cmほどの楕円(だえん)形で，上面は緑色で光沢があり，裏面は紫色で粘質物におおわれる。夏，葉のつけ根から長い柄を出し，水面上に暗紅紫色の花を１個つける。葉がまだ巻いているときには粘質物に富み，三杯酢やしるの実などにして，賞味する。➔次ページ(写真)

じゅんし　【殉死】　主君や尊族が死んだ

あとを追って，臣下・卑族などが自発的または強制的に死ぬこと。人間の魂は死後も長く生存するから，従者や家畜・調度なども必要であるというように信ぜられたためで，この風習は古代から世界各地で行なわれた。わが国でも古代から行なわれ，この風習をやめさせようとする野見宿禰(のみのすくね)の進言により埴輪(はにわ)をつくってこれに代えたという有名な伝説がある。大化改新のとき禁止されたが，平安末期以後，新興の武士の間で，死生をともにするという忠誠心の表われとして，主君の戦死・自害に先だって死ぬ〈先腹〉が行なわれ，ことに戦国時代では戦場での追腹が多かった。江戸時代の初め，老中堀田正盛(ほったまさもり)が3代将軍家光(いえみつ)の死に際して切腹したのは最高の例ともいうべきであったが，慣例となると，義理のための〈義腹〉とか，同僚との対抗意識に基づく〈論腹〉とか，遺族が厚遇されることを見越した打算的な〈商腹〉とかの弊害が多くなったので，1663年(寛文3)幕府はこれを禁止したが，禁止を破って殉死者を出した奥平家では減転封の厳罰を受けたので，その後はこの風習はなくなった。1682年(天和2)の武家諸法度*(はっと)にも，特に明文で禁止の規定が加えられた。しかし，明治天皇の死にあたって切腹した乃木希典(のぎまれすけ)とそれに殉じた静子夫人の死は，この思想の消滅していないことを物語っているといえよう。〔岡山泰四〕

じゅんし【荀子】(BC298？～BC235？) 中国，戦国時代末期の儒教思想家。名は況。荀卿(じゅんけい)という尊称もある。彼の思想を伝える論説集もまた《荀子》とよぶ。現本は20巻，32編。荀子は趙(ちょう)の人。50歳で斉(せい)に行き，老師として尊重された。のち楚(そ)に行き，春申君に用いられて蘭陵(らんりょう)の首長として世を終えた。荀子は，儒教の祖の孔子が教えた仁と礼のうち，礼を強調した子游(しゆう)・子夏(→孔門の十哲)の学説を継いで，人間生活を客観的他律的規範によって秩序づけるべきだと考えた。したがって，この〈礼〉はむしろ人間の本性を規制する〈礼法〉というべきものである。そして荀子は，この礼法は聖人がその聖知によって〈制作〉するものであるとする。この意味で，彼は性悪説*・善偽説(善は人間の作為である)をとったが，人は，自然(天)から独立し，自然を対象化してこれに制作を加えるところに成立する，という立場に立っている。この立場は，同じ孔子の教えのうちの仁を発展させて，人間の内的自然(天)の中に人間生活の規範の根拠を認めた性善説の孟子*(もうし)と対立し，後世〈孟荀〉と対称されて，儒教思想の一源泉となった。

荀子はこのように人の知と外的な礼法とを重視したが，その人とは聖人をさした。そして，聖人の知と礼法とは天との合致が予定されていた。この点で彼はやはり儒教の徒であるが，しかも他律的な〈礼法〉による人間社会の統制・統一を意図した点では，当時すでに近づいていた郡県制中央集権帝国の体制を思想的に予測していたのであり，その弟子(でし)に法家の韓非子*(かんぴし)が出たのも当然といえよう。➔儒教〔西　順蔵〕



ジュンサイ



巡視船〈いずゞ〉PL31，排水トン数2,274トン

じゅんしせん【巡視船】海上保安庁の船舶のうち，①海上における法令の励行，②海難の救助，③海上における犯罪の予防および鎮圧，④海上における犯人の捜査および逮捕などの業務を行なう船。大別して大型(700トン型以上，記号PL)，中型(450トン型，PM)，小型(350ないし270トン型，PS)に分かれ，ほかに巡視艇(25，23，21，18m型，PC)，港内船の大型(16，15m型，CL)小型(12，10m型，CS)などがある。いずれも安定性・耐波性・凌波(りょうは)性にすぐれ，船型は軍艦に似ている。その目的から砲や機銃を装備しているものもある。なお水上警察にも同目的の船があるが，これは警備船とよぶ。〔飯島幸人〕

じゅんジャンプ【純ジャンプ】ノルディック競技*種目の一。純飛躍競技ともいう。一定の条件に基づいてつくられたジャンプ台を使い，助走の加速を利用して踏み切り，空中をグライダーのように飛んで着地する。飛距離と空中および着地の各フォームについて採点し，その合計得点で順位を決める。世界選手権・オリンピックでは70m級・90m級の2種目が行なわれている。

しゅんじゅうさしでん【春秋左氏伝】《春秋》の解釈書。孔子*の弟子(でし)左丘明の作という。《春秋》は儒教の五経*の一つで，春秋時代の魯(ろ)国12公の年代記を孔子が編集したものと伝えられる。この書の経典としての特徴は，史家の叙述の中に，〈礼〉秩序特に天下統一者としての天子の絶対性と君臣の道義を強調し，これを基準として史実を褒貶(ほうへん)する，つまり道徳的に評価する点にあり，その意味で〈大義名分〉の経典である。そしてこの(孔子の)叙述のしかたを〈筆法〉という。《春秋》の解釈には古くから三つあり，これを〈三伝〉という。〈公羊伝(くようでん)〉〈穀梁伝(こくりょうでん)〉は前漢にすでに成立した。これらはもっぱら孔子の〈筆法〉を課題としてこれを敷衍(ふえん)した道義論の書であるが，前漢末の劉歆(りゅうきん)が整理した〈左氏伝〉は，むしろ《春秋》の簡単な記述を裏づける史実を述べることによって大義名分を明らかにするものであった。以後清(しん)末に至るまで，主としてこの〈左氏伝〉が学ばれた。古代史料としても重視されている。〔西　順蔵〕

しゅんじゅうせんごくじだい【春秋戦国時代】中国古代の時代区分。BC770年周*が異民族に圧迫されて洛邑(らくゆう)(河南省洛陽)に東遷してから，BC221年秦*(しん)の始皇帝が中国を統一するまでをいい，東周時代とほぼ重複する。その前半，晋(しん)を分割して独立した韓(かん)・魏(ぎ)・趙(ちょう)が諸侯として認められるBC403年までを一般に春秋時代とし，以後を戦国時代とする。周の王室の支配力が失われるとともに氏族的な封建制がくずれ，新しい郡県制による支配体制が確立していく変革の時代である。

春秋時代は，十二列国(魯(ろ)・衛・晋・鄭(てい)・曹(そう)・蔡(さい)・燕(えん)・斉(せい)・陳・宋(そう)・秦・楚(そ))が，周囲の都市国家と連合しつつ，尊王攘夷(じょうい)を旗じるしに周の王室を宗主として諸侯たちを糾合し，天下に号令しようとした時代である。戦国時代にはいると，周王室の権威はまったく失墜し，実力抗争の時代となる。中でも，戦国七雄(韓・魏・趙・斉・燕・楚・秦)とよばれる強国は周囲の小国を併呑(へいどん)して領土国家的な色彩を強め，そのうち富国強兵に成功した秦が他の6国を合わせて中国を統一した。この間，戦国時代には商工業の発達が著しく，中原に大都市が出現した。そうした都市の自由の気風を背景にして諸子百家*の思想が生まれ，下克上・実力主義を基盤に出現した新しい官僚層は中央集権的な政治体制を育て，秦・漢の統一帝国を生み出すこととなる。〔小南一郎〕

しゅんじょう【俊芿】(1166～1227) 平安末期から鎌倉初期の八宗兼学の僧。字は我禅，号は不可棄。勅号は大興正法国師。勅諡(ちょくし)は月輪大師。肥後(熊本県)の人。南都(奈良)・京都で顕密と戒律を学び，郷里の正法寺で戒律を広めた。1199年(正治1)入宋(にっそう)して戒律を学び，1211年(建暦1)帰朝して，栄西*に迎えられ，建仁*(けんにん)寺にはいる。1218年(建保6)京都仙遊(せんゆう)寺に住して，泉涌(せんにゅう)寺と改め，天台宗・真言宗・禅宗・律宗の4宗兼学の道場とした。名筆家としても名高い。〔玉山成元〕

じゅんじょうしょうきょくしゅう【純情小曲集】 萩原朔太郎（はぎわらさくたろう）の第３詩集。1925年（大正14）８月刊。第１詩集《月に吠（ほ）える》以前の初期作品を集めた〈愛憐詩篇（あいれんしへん）〉と，第２詩集《青猫（あおねこ）》以後の作品を集めた〈郷土望景詩〉との２部からなる。前者では青春の感傷が叙情的に，後者では郷里に反逆した詩人の孤独な憤怒が激しい文語調で吐露されている。

しゅんしょくうめごよみ【春色梅児誉美】 江戸後期の人情本。為永（ためなが）春水作の４編12冊。1832～1833年（天保３～４）の刊。唐琴屋（からことや）丹次郎を主人公に，いいなずけのお長，深川の芸者米八（よねはち）と仇吉（あだきち）との四角関係の恋愛を描いたもの。ひとりが正妻に，芸者ふたりは妾（めかけ）として納まる筋はやや不自然ながら，会話中心の情景描写・場面構成・展開には独特の技巧がこらされ，人情本の典型とされる。

じゅんじょすう【順序数】 物事の順序を表わすのに用いられる数。計量数に対するもので，有限集合では，順序数と計量数はどちらも自然数で表わされる。

じゅんすいえいが【純粋映画】 1920年代の半ばにフランスに起こった前衛映画運動の一潮流。映画から記録性や劇的なものを排して，光とフォルムとリズムの追求を中心に純粋な視覚的世界を表現しようとした。ショメット・レジエ・マン-レイらの作品があり，その映像至上主義的な傾向は，その後のフランス映画に強い影響を及ぼした。

じゅんすいばいよう【純粋培養】 同一種に属する微生物や同一種類の動植物細胞を容器内で栄養・温度・水素イオン濃度などの生活条件を好適にして，他の微生物や細胞を混入することなく分裂増殖させていくこと。顕微鏡下で単一細胞を取り出したり，培地上に孤立化した集落を発育させ，それから植え継ぐことを数回くり返したり，また他の混入生物の発育を阻止する薬剤を混入したりして，目的細胞を純粋にする。細菌感染症の病原を確定する条件の一つとされる。〔和気　朗〕

じゅんすいほうがく【純粋法学】 法実証主義に基づき，法を実定法（人間によって定立された法）に関する規範的意味において，純粋に解釈しようとする法学説。法を政治的・倫理的価値判断から厳密に切り離し，また法現象を社会学的・心理学的側面から説明しようとする方法をとらない。国際法学・法哲学・公法学の分野に大きな影響を与えた。新カント派の方法論により，ケルゼンを中心とするいわゆるウィーン学派（→論理実証主義）によって唱道された。

じゅんすいりせいひはん【純粋理性批判】 カントの主著である批判哲学３書のうち，〈第一批判〉といわれ，批判哲学の成立を告げる画期的大著。第１版1781年，第２版1787年。《感性界と英知界の形式と原理》（1770）で自然必然性と自由の矛盾を解く



浚渫船（上）バケット式（下）ポンプ式

方法を着想したが，以後約10年の苦心に満ちた考察のすえ，〈いばらに富んだ批判の小径（こみち）〉が克服され，本書が誕生した。第１部〈先験的感性論〉は時間・空間論であり，代数学・幾何学を基礎づける。第２部〈先験的分析論〉は自然科学の基礎理論で，〈演繹論（えんえきろん）〉はカントの認識論の中心部分をなす。また〈先験的弁証論〉は形而上学（けいじじょうがく）の中心問題を論ずる。本書成立の動機となった二律背反論は第２章に述べられている。〈先験的方法論〉はカント哲学の精神と輪郭を示しており，《実践理性批判》《判断力批判》の基本着想がすでに現われている。〔中川　誠〕

じゅんせい【準星】 非常に強力な電波を放つ恒星状の見かけをもった天体。恒星状電波源・クエーサーともいう。現在までに約100個発見されている。その光を分析すると，スペクトル線がいずれも大きく長波長側にずれているのが著しい特徴である。これを宇宙の膨張によるドップラー効果と解釈すると，光の速度の15～80％の速さで遠ざかりつつある15～100億光年遠方の天体ということになる。この仮説が正しければ，現在知られている最も遠距離の天体で，宇宙論的に重要な意味をもつ。〔守山史生〕

じゅんせい【準正】 嫡出でない子に嫡出子たる身分を取得させること。これには２種ある。①父が認知し，その後に父母が婚姻する場合（婚姻準正），②父母が婚姻し，その後父が認知する場合（認知準正）である（民法789条）。婚姻準正の場合は婚姻のときから，認知準正の場合は認知のときから嫡出子の身分を取得し，出生のときにはさかのぼらない（民法789条）。また，準正はすでに死亡した嫡出でない子に対しても行なうことができる。その実益は，その子に直系卑属がある場合には代襲相続できる点にある（民法783条）。〔黒木三郎〕

じゅんせいちょう【純正調】 音律の一。特に和声的音楽のために考えられた。オクターブだけでなく，５度や３度をそれぞれ協和度の高い簡単な整数比（たとえば５度は２：３）に調律することをいう。現実には，特定の音程だけでなく，すべての音でこれを行なうことは不可能なため，田中正平（1862～1945）の純正調オルガンのように複雑な装置がつくられる程度で実用化されていない。

しゅんせつ【浚渫】 主として水深を増すために浚渫船などを用いて水底を掘ること。たとえば，港内の泊地や港外の航路筋を掘ったり，川底のどろをさらえたりするのがこれにあたる。橋脚の基礎工事のため水底の一局部を掘るような工事は水中掘削といい，浚渫とはいわない。浚渫して得た土砂などはふつう埋め立てに利用する。

浚渫方式として，①一般浚渫：砕岩などを伴わず一般浚渫船を用いるもので，最も安あがりなので浚渫工事の大部分を占める。②砕岩浚渫：砕岩船のおもりの先で岩盤を何回も突いてこれを砕いたのちに浚渫する。③発破浚渫：暗礁などの岩を火薬で砕いてから浚渫する。→港〔佐島秀夫〕

しゅんせつせん【浚渫船】 浚渫を行なう船。ドレッジャーともいう。その採取方式により次のような種類がある。①グラブ式：台船上の起重機でグラブを水底に沈めて，土砂をつかみ上げる方式。②バケット式：船体から水底へ桁材（けたざい）をおろし，その先と船上の台との間に無限ベルトを配し，そのベルトにバケットを多数装着して巻き上げる方式。③ジッパー式：長いハンドルの先につけたバケットで水底の土砂をすくい上げる方式。④ポンプ式：ポンプの吸水管を水底に導き，水とともに土砂を吸い上げる方式で，中でもドラッグサクションあるいはトレイリングサクションとよばれるものは船を進行しながら土砂を吸い込む装置を有するものである。〔飯島幸人〕

しゅんせん【春川】 チュンチョン 朝鮮江原道の38°線以南の地域の主都。人口85,000（1962年推）。昭陽江と北漢江の合流する山間の盆地に位置するが，京春線のほか自動車道路・舟運の便もあって米・ダイズ・麻布などの集散地で牛市も立つ。この名称は李朝（りちょう）から使われているが，新羅（しらぎ）・高麗（こうらい）時代からの古都で，史跡や鳳儀山（ほうぎさん）・照陽帝（しょうようてい）などの名勝が多い。農科大学と師範大学がある。

じゅんちてい【順治帝】（1638～1661）中国，清朝（しんちょう）第３代皇帝。名は福臨，廟号（びょうごう）は世祖，年号をとって順治帝という。５歳で即位し，叔父（おじ）ドルゴンと父のいとこジルガランが輔政した。特にドルゴンは，明朝（みんちょう）討伐を進めて，北京

(ペキン)をおとしいれ，順治帝を紫禁城に迎えて清の中国支配を基礎づけた。順治帝が親政してからは儒教を国政の基本とし，漢人を登用するなど中国的色彩の濃厚な帝王となり，一方で中国支配を拡大して，鄭成功一派を残すだけにまで統一事業を推進した。
〔衣川　強〕

じゅんちょうせき【準長石】 ナトリウムとカリウムのアルミナケイ酸塩のグループ名。アルカリに富むマグマがケイ酸に欠乏しているとき，チョウ石の代わりに晶出する。カスミ石・ハクリュウ石・カンクリン石($Na_8(AlSiO_4)_6(HCO_3)_2$)およびホウソーダ石($Na_8(AlSiO_4)_6Cl_2$)などがこのグループに属する。等軸または六方晶系のものが多い。チョウ石に似るがアルカリに対するケイ酸の比が低いので余分のケイ酸があると反応してチョウ石をつくるため一次セキエイとは共生しない。酸によって簡単に分解してゲル状ケイ酸を形成するのでチョウ石と区別できる。〔加藤敏郎〕

じゅんていかんのん【准胝観音】 観音の一。梵語(ぼんご)Cundi(チュンディー)の訳で，その働きの広大無辺さにより，求める法にしたがって2臂(ひ)ないし84臂に化現すると説かれる。わが国には1面8臂または18臂の像が残り，広隆寺の絹本着色の画像，新薬師寺の木像などが著名である。息災延命・福慧(ふくえ)増進および小児の夜泣き止みなどの功徳をうるといわれる。

じゅんてつ【純鉄】 理論的には鉄そのものをさすが，実験材料以外には高純度のものは得がたい。工業材料としては，炭素その他の不純物元素が非常に少ない鉄であり，炭素含有量が，0.035％程度までを純鉄と称している。工業用純鉄としては，電解鉄・スウェーデン鉄・アームコ鉄・その他があり，電気用鉄板・変圧器鉄心として利用される。なお，純度の高いカーボニル鉄・還元鉄なども含まれる。

じゅんとくてんのう【順徳天皇】（1197～1242） 在位1210～1221年。名は守成(もりひら)。後鳥羽(ごとば)天皇の第3皇子。母は修明門院藤原重子。兄土御門(つちみかど)のあとを受けて即位したが，在位中は父上皇の院政が行なわれた。父とともに鎌倉幕府打倒計画を進め，1221年(承久3)位を皇子(懐成親王)仲恭天皇に譲って挙兵したが敗れ(→承久の乱)，佐渡に配流され，20余年後同地に没した。和歌にすぐれ，また有職書《禁秘抄》の著がある。陵墓は京都市の大原陵と新潟県佐渡郡の真野陵。

じゅんなてんのう【淳和天皇】（786～840） 在位823～833。名は大伴(おおとも)。桓武(かんむ)天皇の第3皇子。母は藤原百川(ももかわ)の娘旅子。810年(弘仁1)薬子(くすこ)の乱の直後に兄の嵯峨(さが)天皇の皇太弟となり，823年即位。漢学に長じ，宮廷社会には前代につづいて漢詩・漢文学を興隆し，《経国集》《新撰(しんせん)格式》《秘府略》《令義解》などを撰上させた。陵墓は京都府乙訓(おとくに)郡大野原の西嶺(みね)上陵。

じゅんにんてんのう【淳仁天皇】（733～765） 在位758～764。舎人(とねり)親王の第7皇子。母は当麻山背(たいまのやませ)。757年(天平宝字1)皇嗣のない孝謙天皇と藤原仲麻呂(なかまろ)によって諸王中から推されて皇太子となり，758年即位。在位中は仲麻呂が孝謙上皇の寵(ちょう)を受けて政界を押え，律令(りつりょう)制のもとに儒教主義の政治を進めた。やがて上皇の寵愛が道鏡に移ると，これをいさめて上皇の不興を招き，764年仲麻呂の反乱後は廃されて淡路(兵庫県)に流され，世に淡路の廃帝と称された。陵墓は兵庫県三原郡淡路陵。〔高崎徳次〕

じゅんねん【閏年】 ⇨うるうどし

じゅんのう【順応】 個体が自己の諸性質を環境条件に合致・適合するように調整すること。広義には適応と同義に解され，狭義には個体の感覚器官が環境になれることをいう。そのおもなものは次のとおり。①光覚における順応：明所より暗所に，あるいは暗所より明所に移った場合に起こる暗順応および明順応。②視覚以外の感受器官にみられる順応：同じ刺激が持続して受容器に与えられると，感覚が薄れていく現象。嗅覚(きゅうかく)・味覚・皮膚感覚において顕著に認められる。なお，順応の起こる速さは，感覚器の種類によって異なり，嗅覚・味覚は速く，圧覚はおそい。〔原野彰子〕

じゅんびつうか【準備通貨】 各国が対外決済準備として保有する特定国の通貨をいう。かつて19世紀の金本位制度下では，各国が対外決済準備として特定国の通貨を保有することはほとんどなかったが，1920年代になって，金為替(かわせ)本位制度の普及とともに，各国は，価値が安定しており国際取引に広く使用されている特定国の通貨を，対外決済準備の一部として保有するようになった。第2次世界大戦終了後の世界では，もっぱら，アメリカ-ドルとスターリング-ポンドが準備通貨として広く各国において保有された。しかし，ポンドはきわめて不安定な状態に低迷していたため徐々に準備通貨としての地位から脱落し，現在ではポンドを保有しているのはイギリス連邦諸国にすぎず，大多数の諸国はアメリカ-ドルを準備通貨として保有している。
〔安井孝治〕

じゅんびよきんせいど【準備預金制度】 支払い準備制度ともいう。銀行などの金融機関の預金の一定割合を法定準備金として強制的に中央銀行に預け入れさせ，その準備率を上下させることによって中央銀行が通貨量を調整し，金融を統制する制度。公開市場操作，公定歩合操作を中心とする金利政策と並ぶ代表的な金融政策の一つである。1930年代にアメリカで過剰資金を統制するために採用されてから世界各国に広まり，わが国では1957年(昭和32)に〈準備預金制度に関する法律〉が施行されて以来実施されている。しかし，アメリカ・イギリスなどに比べてその法定準備率はきわめて低い。
〔速水　保〕

じゅんぶ【巡撫】 明(みん)・清(しん)の地方長官。民政と軍隊の統率を任務とする。総督と並称して督撫という。明初，1391年の皇太子の陝西(せんせい)巡行撫民に起源するといわれる。1430年に税糧徴収の監督を総督に行なわせたため，その地方常駐が一般化し，正統・景泰年間(1436～1456)に定制となり，清代に1省1巡撫，全国16巡撫の制が定められた。総督とともに地方官の最高位にあり，皇帝より文官が任命された。

しゅんぷうていりゅうきょう【春風亭柳橋】 落語家。初世から5世までは麗々亭柳橋といい，6世に至って亭号を改めて初世春風亭柳橋となった。麗々亭初世(？～1841)は初世船遊亭船橋門下で，人情咄(にんじょうばなし)の祖と称した。6世柳橋(1899～1979)は4世春風亭柳枝門下。着実な芸風で古典および新作に活躍。寄席芸人の会である日本芸術協会の会長をつとめた。

しゅんぷうていりゅうし【春風亭柳枝】 落語家。江戸落語末期からの名。8世まであり，現在中絶。なお5世はゆえあって6世を称した。

1初世(？～1868) 初世麗々亭柳橋(→春風亭柳橋)門下。柳橋・柳枝の一派を柳派という。幕末第一の名人といわれ，人情咄(にんじょうばなし)を得意とした。明治の名人談洲楼燕枝(だんしゅうろうえんし)はその門下。

2 3世(1852～1900) 談洲楼燕枝門下。〈蔵前の大師匠〉の別名あり，燕枝から門弟多数を譲られ，柳派の頭取として勢力があった。

3 7世(1893～1941) 実は6世。5世柳亭左楽門下。昭和初期の人気者。口癖から〈えっへっへの柳枝〉といわれた。
〔長尾一雄〕

しゅんぷうばていきょく【春風馬堤曲】 蕪村(ぶそん)の詩文。1777年(安永6)の作で，俳句・漢詩・漢文直訳体からなる。帰郷する娘に仮託して，郷愁を卓抜な構成力と叙情のうちにうたったもの。

しゅんぶん【春分】 二十四気の一。太陽が春分点に達する現象および時刻。太陽暦の3月21日ごろにあたる。この日，太陽は赤道上を直射し，昼と夜の長さが等しい。この日を国民の祝日の一つ〈春分の日〉と定め，自然をたたえ，生物をいつくしむ日とされている(旧制では春季皇霊祭)。また，この日をまん中にした前後7日間を彼岸(春の彼岸)といい，このころになると寒気がゆるみ，行楽地は人でにぎわうようになる。

しゅんぶんてん【春分点】 黄道と天の赤道の交点のうち，太陽が赤道の南から北へ通過する点。春分点は黄道座標系・赤道座標系の基準方向に選ばれていて黄経0°。春分点は空間に固定されたものでなく，歳

差*により1年に約50″西へ移動する。現在春分点はうお座にあるが約800年後にはみずがめ座に移動する。

しゅんぶんのひ　【春分の日】⇨春分

じゅんへいげん　【準平原】 平坦(へいたん)でやや波状の小起伏のある平原状の地形。地形の侵食の輪廻(りんね)で最終地形として形成される。河川の侵食基準面は海面であるから，準平原は海面に近い高度にあるが，ここでは河川の侵食，運搬作用は衰えて相対的に風化作用が活発となり，表面は一般に厚い土壌(どじょう)によっておおわれている。しかし，準平原は侵食面であるから，その上では砂レキ層はまれで，局部的に存在するにすぎない。準平原が形成されるには長い間にわたって地殻(ちかく)が安定していることが必要で，準平原の形成後に地殻が隆起したものを隆起準平原という。わが国のように地殻の不安定なところでは広い準平原の発達はみられず，阿武隈(あぶくま)高原・北上高原・吉備(きび)高原に小規模なものがみられるにすぎないが，地殻の安定している北アメリカ・中国・シベリアなどには広大な準平原が存在している。〔桑原正見〕

シュンペーター　［Joseph Alois Schumpeter］（1883～1950） オーストリアに生まれ，アメリカに移った経済学者。純粋経済学の立場に立ちつつ，広い学説史の知識と社会学的思考とによって現代経済学の指導的役割を果たした。ウィーン大学でボエーム-バベルク*・フリードリッヒ-フォン-ウィーザーについて経済学を学び，オーストリア蔵相・銀行総裁・ボン大学教授などを歴任したが，ナチスに追われてアメリカに移住した。1932年から没年までハーバード大学で教鞭(きょうべん)を取り，1948年にはアメリカ経済学会会長をつとめた。代表的著作に《経済発展の歴史》《景気循環論》《資本主義・社会主義・民主主義》《経済分析の歴史》などがある。彼は資本主義体制の動的過程に関心をもち，革新によって経済的発展を推し進める企業者の戦略的役割を強調した。また革新は経済変動の均衡をとりもどす一面をもつものとして，彼の景気循環理論展開の中軸になっている。〔松浦　保〕

しゅんぽう　【皴法】 山水画*の描写技法の一。岩石や山はだ・土坡(どは)などのひだをつける筆法で，原則的には立体表現の技法であり，陰影法とは一致しないことがある。題材の形状と性質によるし，画家のそれに対する解釈にもよるので，実作の上では明瞭(めいりょう)にどの皴法と弁別することはできないが，種類は多種多様である。皴法の概念は唐代ごろに成立し，宋(そう)・元以降には，各作家が得意とする皴法がそれぞれの様式の一部としてつくられ，清(しん)代には《芥子園(かいしえん)画伝*》のような皴法を集大成した画譜も現われた。おもな皴法に斧劈皴(ふへきしゅん)（斧(おの)で切り破いたような皴）・披麻皴(ひましゅん)（麻皮のように墨線の多い皴）・解策皴・雨点皴などがある。〔中島純司〕



巡洋艦
ミサイル巡洋艦〈オクラホマシティ〉(アメリカ)　基準排水量10,670トン，速力31.6ノット



シュンラン

じゅんぽうとうそう　【遵法闘争】 労働者が諸要求を貫徹するため，その手段として労働基準法や安全規則などの諸規則を遵守することによって，慣行として行なわれている労働を拒否し業務能率を低下させ，怠業やストライキ*と同じ効果をあげること。わが国では，遵法闘争とよばれるものに安全保安闘争・定時出退勤闘争・残業拒否闘争・有給休暇闘争などがある。主として，ストライキを制限・禁止されている官公庁の労働者が，ストライキに代わる実力行使として採用している。遵法闘争が社会的事実として，要求貫徹の手段として利用されていることは一般に認められているが，公務員法や公共企業体等労働関係法で禁止されている争議行為に該当するかどうかについては説が分かれる。〔木元錦哉〕

しゅんまく　【瞬膜】 第三眼瞼(がんけん)ともいう。目の内角から出て角膜の前を通って眼球の上を横に広がっている薄い膜で，結膜のひだである。脊椎(せきつい)動物の目では眼瞼が上下に発達して目を保護しているが，横口魚類のあるもの，無尾両生類・爬虫(はちゅう)類の多くや鳥類では眼瞼のほかに瞬膜をもつ。哺乳(ほにゅう)類ではほとんど退化して内角に少しだけ残っており，痕跡(こんせき)器官の一種である。

しゅんようかい　【春陽会】 美術団体。1922年(大正11)1月結成。1920年に日本美術院洋画部を脱退した小杉放庵*(こすぎほうあん)・足立(あだち)源一郎・長谷川昇(はせがわのぼる)・倉田白羊・森田恒友*(つねとも)・山本鼎*(かなえ)は梅原龍三郎*(りゅうざぶろう)を会員に加え，また草土社*の岸田劉生*(りゅうせい)・木村荘八(しょうはち)・中川一政*(かずまさ)・椿貞雄*(つばきさだお)と今関啓司・石井鶴三(つるぞう)・山崎省三・万(よろず)鉄五郎*を客員に迎えて創立し，1923年5月に第1回展を上野公園竹之台陳列館に開き，毎年春に公募展を開いて現在に至る。洋画・版画の2部からなる。〔匠　秀夫〕

じゅんようかん　【巡洋艦】 長い航続力と適度の武装，高速をもち，主力艦の護衛や戦闘，偵察(ていさつ)を行なう軍艦。帆船時代のフリゲートまたは哨艦(しょうかん)の流れをくむ歴史の古い艦種で，19世紀の半ばから大形重武装の装甲巡洋艦，比較的小形で軽快な防護巡洋艦に分かれた。これらは特にイギリスで発達した。また，20世紀にはいると駆逐艦を撃退したり偵察などの任務にあたる，さらに軽武装で高速の軽巡洋艦が生まれた。1922年のワシントン条約によって，巡洋艦は基準排水量10,000t以下,主砲口径20.3cm以下に制限され，また主砲15.5cm以上は重巡洋艦，以下は軽巡洋艦に類別された。日本においては海軍の戦略方針が艦隊決戦至上主義であったところから，重巡は戦艦の不足を補うものとされ，特に兵装の充実に力が傾けられた。また，軽巡洋艦も量的に制限された重巡を補うために，主砲口径以外は重巡と同様の強力なものが建造された。

ワシントン条約は1932年には効力を失ったが，第2次世界大戦中も排水量は別として，主砲の口径はこの条約に基づいた巡洋艦が建造された。また大戦中期には高角砲のみを搭載(とうさい)した防空巡洋艦も現われた。この大戦中においても，大きさや武装の適当なことから巡洋艦の利用価値は非常に高く，偵察・警備や機動部隊の直衛などに活躍した。これらのうち戦後ミサイル巡洋艦に改装されて現役にあるものも多く，アメリカでは原子力ミサイル巡洋艦ロングビーチが建造された。

現在では以前のような巡洋艦の定義を用兵上から求めるのは困難で，ワシントン条約をある程度の基準として重巡洋艦または軽巡洋艦として建造されたものや，船型・排水量がこれに類似している艦船を巡洋艦とよんでいるにすぎない。〔藤井冬木〕

しゅんらん　【春蘭】 単子葉植物・ラン科。ホクロともいう。本州・四国・九州や中国・朝鮮に分布する多年草。日あたりのよい林の下に群生し，株をつくる。根茎は短く，太い白色肉質の根を多数出す。葉は革質で濃緑色，線形で先がとがり，長さ20～50cm。3～4月ごろ，長さ10～25cmの花茎を伸ばし，径5cmほどで黄緑色の花をつ

ける。唇弁(しんべん)には濃紅紫色の斑点(はんてん)がある。

じゅんれい 【巡礼】 宗教的目的から所定の聖地・霊場を礼拝して巡ること，およびその人。キリスト教では，キリスト・聖母マリア・使徒・殉教者・聖者と密接な関係にある土地が聖地として巡礼の対象となってきた。2世紀ごろからイエス-キリストの生涯(しょうがい)の各事跡にゆかりの地，特に受難の地エルサレムへの巡礼がしだいに行なわれるようになり，3世紀以後盛んになった。7世紀アラビア人によってパレスチナが占拠されたため，聖地巡礼は衰えるが，カール1世(大帝)とハルン-アル-ラシードの契約によって巡礼者の安全は保障され，また教会が贖罪(しょくざい)行為として巡礼を奨励したために再び盛んになった。しかし11世紀末セルジュクトルコによって巡礼者が迫害されたため，十字軍*が起こされ，同時に巡礼者保護のため宗教騎士団*が設立された。巡礼地はエルサレムに次いで，ペテロ・パウロの殉教の地であり教皇庁*の所在地であるローマが重要。ほかにイギリスのカンタベリー，フランスのルルド・ツール，イタリアのロレットなどが著名。なお，巡礼はしばしばいわば単なる観光旅行に化することが多かったため，教父時代以来批判が絶えなかった。特にルター*は巡礼の背景による功績主義を徹底的に批判した。プロテスタントでは巡礼の慣習を容認していない。〔石井忠厚〕

イスラム教では，メッカ巡礼は礼拝などとともに〈五柱〉に数えあげられる重要な〈つとめ〉であり，一生に一度はこれを果たすことが信徒の聖なる義務である。巡礼者は白衣をつけ，イスラム法で定められた清浄な状態でカーバ*の周囲を7回回り，付近のサファーとマルワの丘の間を7回往復し，マルワの丘で髪をそってもらう。その間に行なわれる供犠祭や石柱への投石などの種種の儀礼を含めて，この巡礼の方法は，イスラム以前の多神教の風習をほぼそのまま踏襲したものである。これは宗教史に普遍的な現象である〈民衆の要求〉への妥協であるが，それが可能であったのは，こうした風習の多神教的意味がすでに忘れ去られ，希薄であったためである。〔牧野信也〕

仏教における巡礼は，インドにおいて，ブッダの四大仏跡を巡ることからおきている。それはブッダ生誕の地ルムビニ，成道の地ブダガヤ，初転法輪(最初の説法)の地鹿野苑(ろくやおん)，入滅の地クシナガラの四つをいい，これらの土地とブッダの分骨を祭ったインドの各地は，ブッダの入滅直後から巡礼が行なわれたらしく，アショカ王のころには，全インドにわたって仏教徒の聖地巡礼がみられた。チベットや中国では，巡礼はインドの仏跡やインドの各地巡礼もみられたが，一般には国内の聖地巡礼がこれに替った。チベットおよびモンゴルの仏教徒にとっては，宗教上最高の君主であるダライ-ラマ*の居都ラサのポタラ宮殿*の参拝が第1の巡礼とされ，はるばる青海やモンゴルからここを尋ねるものがあとを絶たなかった。これに次ぐものは，パンチェン-ラマ*その他の活仏の住寺巡礼である。中国では，五台山*・天台山*などの聖山が文殊信仰や阿弥陀(あみだ)信仰と結びついて多くの巡礼を得た。日本では，インドや中国の聖地に巡礼することは事実上不可能であったため，空海に対する大師信仰に発する四国霊場八十八ケ所*の巡礼，熊野(くまの)信仰に伴う西国三十三観音霊場の巡礼が中世以来広く行なわれた。〔金岡秀友〕

じゅんれつ 【順列】 異なったいくつかのものから二つ以上のものを取り出して1列に並べる配列のしかた。たとえば，A・B・Cの3人の中から，ふたりを1列に並べるしかたは，AB・AC・BA・BC・CA・CBの6通りである。n個のものからr個($r \leqq n$)をとる順列の数を${}_nP_r$で表わす。一般に，${}_nP_r = n(n-1)(n-2)\cdots\cdots(n-r+1) = n!/(n-r)!$ となり，上例の場合は${}_3P_2 = 3\times2=6$と計算することができる。定義から${}_nP_r$は${}_nC_r\times{}_rP_r$に等しいから${}_nP_r = {}_nC_r\times r!$という関係がなりたつ。➔組み合わせ ➔階乗

【円順列】 異なったn個のものからr個とって環状に並べるときには，相互の位置関係の同じものは同一の配列とみられる。これを，n個のものからr個とる円順列といい，その数は${}_nP_r/r$となる。特に，$r=n$のときはこの円順列の数は$(n-1)!$となる。また，異なったn個の球からr個とって数珠(じゅず)をつくるときには，円順列であるばかりでなく表裏の区別もしない。これをn個のものからr個とる数珠順列といい，その数は${}_nP_r/2r$となる。特に，$r=n$のときはこの数珠順列の数は$(n-1)!/2$となる。

【重複順列】 ふたりの候補者X，Yの中からひとりを選ぶために，A・B・C・D・E・Fの6人が選挙する場合，投票者各人の選び方は2通りであるから，投票のしかたの総数は2^6となる。このように，異なったn個のものから同じものをくり返してとることを許して，r個を1列に並べるしかたをn個のものからr個とる重複順列といい，その数を${}_n\Pi_r$で表わす。上の例からもわかるように，${}_n\Pi_r = n^r$がなりたつ。また，n個のものの中に，aがp個，bがq個，cがr個，……($p+q+r+\cdots\cdots=n$)あるとき，このn個のものからn個とる順列の数をxとすれば，$x\times p!\times q!\times r!\times\cdots\cdots$は異なった$n$個のものから$n$個とる順列の数$n!$に等しいから，$x = n!/p!q!r!\cdots\cdots$となる。〔菊池兵一〕

しょ 【書】 ⇨92ページ

ショー ［George Bernard Shaw］ (1856～1950) イギリスの劇作家・批評家。アイルランドに生まれ，貧困のため小学校卒業後実社会に出て働きつつ独学。のちロンドンに出て，フェビアン協会*に参加，社会改良家として活動する一方，新聞雑誌に美術・音楽・演劇などの批評の筆をとった。イプセン劇の支持者からさらに転じてみずから戯曲を書き始め，近代演劇の代表的作家として活躍。その代表作に，《武器と人》《キャンディダ》《人と超人*》《悪魔の弟子(でし)》《ピグマリオン》《聖ジョーン》などがある。約50編の戯曲には，因襲的な社会への風刺が満ち，独特の警句・逆説・機知による偶像破壊精神に貫かれている。また，政治・経済・教育・宗教・哲学など広範囲な分野での評論活動も盛んで，《戦争についての分別》《女性のための社会主義入門》などの評論を執筆。1925年ノーベル文学賞を受賞。〔奥山康治〕

じょあん 【如庵】 名席の一。織田有楽斎*好みの代表的な茶室。現在神奈川県大磯(おおいそ)の三井家別邸にあり，国宝建造物に指定されている。有楽斎*は晩年，京都建仁(けんにん)寺の正伝院を再興，そこに隠居所を営み，この茶室如庵をつくった。二畳半台目板入りの席で，袖壁(そでかべ)をつけて入り口を囲い，点前畳に炉を向切(むこうぎり)に切り，中柱を立て，風炉先の袖板に花頭型をくり抜き，床脇(とこわき)に三角形の地板を入れて，席中に斜めの壁面をつくり出している。竹を詰め打ちにした櫺子窓(れんじまど)の手法も，有楽窓と称して名高い。〔桑田忠親〕

ジョアン ［João］ ポルトガル王。

1 1世(1357～1433) 在位1385～1433年。ブルゴーニュ朝末期におけるカスチリア王国*の王位介入を排して即位し，アビシュ朝*を創始。海港都市や新貴族(フィダルゴ)と結んで大貴族をおさえ，イギリスと提携してカスチリアの干渉を避けつつ中央集権の確立を図った。エンリケ*航海王は彼の子。

2 6世(1769～1826) 在位1816～1826年。1792年母のマリア1世の摂政となり，フランス革命に際してはイギリスと結んでピレネーに出兵したが大敗した(1794)。次いでナポレオンに反抗して，1807年リスボンを奪われ，イギリス軍艦でブラジルに亡命。やがて本国は解放されたが，そのためイギリスの支配が強化された。1820年スペインの革命運動に刺激されてポルトガルでも全国コルテス(僧・貴族・都市代表による身分制議会)が招集され，改革とともに国王の帰還が要請されて1821年帰国。1822年コルテスは憲法を制定して立憲君主制を樹立したが，王子ドン-ミゲルは翌年クーデターをもってコルテスを押えた。ジョアン6世はまたミゲルを退け，ブラジルの独立を認めて政局の安定をはかった。〔大野慎一郎〕

じょい 【叙位】 官人の位階*を進めること。大宝令(たいほうりょう)制定当初は，年初の叙位が原則であったが，しだいにこの原則はくずれていった。しかし平安時代にはむしろ年中行事と化し，五位以上の叙位は毎年正月7日(のちには5日または6日)と一定

するようになった。令制では五位以上を勅授，六位以下を奏授，外八位および初位を判授としている。女官については平安時代に隔年正月8日，女叙位という行事があった。

じょい【徐渭】(1521～1593) 中国，明(みん)代の文人。字(あざな)は文清，のち文長と改めた。浙江(せっこう)省紹興出身。詩文・戯曲・書画に造詣(ぞうけい)が深い。若いときは王陽明*派の学問を研究し，仏教の学問も修めて，儒教道徳の拘束をきらい，奇行が多かった。徐文長故事という民話が残っているくらいである。40歳を過ぎてから不遇で発狂して自殺を企てたり，嫉妬(しっと)のあげく妻を殺して下獄したりしたことがあった。戯曲に《四声猿*(しせいえん)》，詩文書に《青籐書屋(せいとうしょおく)文集》30巻，補遺1巻がある。〔今村与志雄〕

ジョイス［James Joyce］(1882～1941) イギリスの小説家。ダブリンの生まれ。カトリック信者の母をもち，イエズス会系の学校で古典文学とヨーロッパの各国語を修め，美神と精神的自由を求めてパリに遊学。母の死に際し一時帰国したが，再び大陸に渡り，その後生涯(しょうがい)を通じて英語教師などをしながらトリエステ・ローマ・チューリッヒ・パリその他を転々とし，貧困と眼疾にたえず悩まされつつ文学に献身した。象徴主義的手法による短編集《ダブリンの人びと》，イェイツ*の紹介でパウンド*を知ったのをきっかけに書き始めた精神的自叙伝ともいうべき長編《若き日の芸術家の肖像》が，そのデビュー作といえよう。《オデュッセイア*》の構成にならって，中年の好色な広告業の男の1日の意識の流れを描いた《ユリシーズ*》によって文名を確立，19世紀リアリズム文学に対する不信をもつ新しい芸術家たちの中心的存在となった。1939年には，さまざまな国の言語による造語・複合語をちりばめ，文学の音楽化を図ったともいわれる難解な大作《フィネガンズ-ウェイク》を完成した。ほかに，詩集《室内楽》，戯曲《追われし人々》などがある。ジョイスの文学は，直接の弟子(でし)であったベケット*・ズベーボ*らはもとより，20世紀の作家のほとんどに深い影響を及ぼしている。特に《ユリシーズ》における〈意識の流れの文学*〉と称される手法は，プルースト*の小説とともに，20世紀文学の大きな潮流を決定したものといえる。〔奥山康治〕

しょいん【書院】座敷飾りの一要素。窓と書見のための文机(ふづくえ)とが組み合わされ，建物につくりつけになっている部分。書院造り*では床の間のわきに直角に配置するのが原則。正式のものは机の奥行だけ縁側のほうへ出るので出書院というが，机を省略した窓だけの簡略形式を平書院という。中世の釈家(しゃっけ)(僧侶(そうりょ))の住宅から発生したといわれ，元来は学問に縁の深い人の私室的なへやの実用的な設備であったが，高貴で文化的なふんい気を漂わすところから，座敷飾りの一要素となった。なお，書院のある座敷または建物自身を書院という場合もある。〔渡辺保忠〕



書院造り
西本願寺白書院一之間

しょいん【書院】中国の宋(そう)代以後，盛んになった私立教育機関。各地の官立学校が科挙*受験の予備校的なものとなって，人格形成がおろそかになったこと，また宋代には仏教思想を消化した，すぐれた哲学者がその学問を慕う青年たちの教育にあたったことが，書院という形態を多く成立させた原因である。朱熹*(しゅき)の指導した白鹿洞(びゃくろくどう)書院(江西省)が代表的で，これと石鼓(湖南省)，応天府(河南省)，嶽麓(がくろく)(湖南省)を宋代四大書院という。清(しん)代になると，満州族の漢族統治策の一環として，書院は官営学校体系に編入されて特色を失い，20世紀初めの学制改革で全国の書院は学堂*に改組された。〔斎藤秋男〕

しょいんづくり【書院造り】近世上流住宅の典型様式。桃山時代に成立。床*(とこ)・棚*(たな)・書院*・帳台構え*などの座敷飾りによって，一の間または上段の間などの最も格式の高いへやを象徴し，二の間，三の間などの控えの間をもち，へやの格式に応じて，壁やふすまなどの障壁画，引き手やくぎ隠しなどの飾り金具，欄間(らんま)の彫刻など，各種の装飾に格差をつけ，さらに床(ゆか)の段差や，折り上げ天井・格(ごう)天井・棹縁(さおぶち)天井など天井の仕様の格差によって，厳格な封建的序列を空間的に表現する。床・棚・書院などの座敷飾りは，中世にも存在したが，中世住宅では私室性の濃い居間や書斎などの実用的な設備であったものが，近世住宅では公的な接見の間などに，もっぱら権威の象徴として一定の様式的組み合わせで用いられ，その性格がまったく変化しており，この変化のときをもって，書院造りの成立とされている。園城寺(おんじょうじ)の光浄院客殿・勧学院客殿などは初期書院造りの代表的遺構で，西本願寺の書院や二条城殿舎は発達した典型的書院造りとして有名である。

古代の典型的な上流住宅である寝殿造り*と比べ，屋内の間仕切りの発達が著しく，建具は，舞良戸(まいらど)(細かく横桟(さん)を打った板戸)・板戸・明り障子・ふすまなどの引き違い戸となり，柱は角柱を原則とし，ゆかに畳を敷き詰め，また主要な建物と建物との接続が緊密となり，雁行(がんこう)形に連なったり，複雑に組み合わされるため，間取りや屋根の構成が変化に富むものとなる。江戸時代の武家住宅では，大名・旗本(はたもと)・家臣など，その身分・禄高(ろくだか)に応じた格式表現が重んじられ，門構えや屋敷の規模，座敷飾りの組み合わせと使用範囲などが規制され，各種の簡略化された書院造りが行なわれた。その最も簡素なものにも共通する特色は，座敷飾りをもつことと，柱に長押(なげし)を打つことで，こうした様式を一般庶民住宅に用いることは原則として禁じられていたが，富裕な町人がひそかに営んだり，名主・庄屋(しょうや)などの村役人層が代官・手代などを迎えて接待するための座敷として，簡素な書院造りふうのへやを設けたりしたところから，書院造りの影響は庶民住宅にも浸透し，和風住宅の形成に深い影響を与えた。〔渡辺保忠〕

ジョイント-ベンチャー ⇨合弁会社

しょう【升】尺貫法*における体積，または升目(ますめ)の単位。立方メートルの2401/1331000(およそ1.80391 l)と規定されている。升の量器には古来，4寸9分四角で深さ2寸7分の京升，5寸四角で深さ2寸5分の古升など地域によって異なる升が使われていたが，1893年(明治26)にこれを京升に統一するとともに，その大きさをメートル原器に基づいて厳密に規定した。なお，升を基本として，次のように単位系が組み立てられている。合＝$\frac{1}{10}$升，勺＝$\frac{1}{10}$合，斗＝10升，石＝10斗〔富田芳秀〕

しょう【笙】東アジア一帯と東南アジアの一部に分布する気鳴楽器。日本の笙は別名鳳笙(ほうしょう)，古くは含笙ともいった。直径約1cmの17本の竹管を1本の帯で円形に束ね，これを木製の匏(かしら)にはめ込む。吹口(嘴(くちばし))は匏から短く突起する。管の根本には蠟(ろう)で固着した金属のリードと指孔がある。主として雅楽の管弦合奏の中で和音を担当する楽器として用いられる。現在は17管中15管を用い，2管は装飾用。

→94ページ

書

書は文字*を素材とする造形美術で，中国および日本で発達した。その起源は漢字*の発生とともに生じたと考えられる。中国には漢字の書があるだけであるが，日本には漢字の書のほかにかな*の書もある。古来の書法によって書く伝統的な書のほかに，最近は新しい書法による前衛書道がある。また，文字を書かないで，任意に形象を書く墨象*があり，それも書の一種といわれている。

〔中国の書〕現存する中国最古の文字は殷(いん)代の甲骨文字*である。これは亀甲(きっこう)獣骨に占いの文章を簡素な線で構成された文字で刻んだものである。殷の後半期273年間にわたってつくられたもので，その間，かなりの進歩を遂げていたことが考えられる。したがって，現存する甲骨文字以前にもなお未開の原始文字がありうることが想定される。別にまた，殷代の遺物として，墨書・朱書した文字があり，筆を用いて書写する習慣があったことが確認されている。殷代には古銅器に鋳彫された款識(かんしき)があり，周代になり多数の例が続出した。これを金石文*とよぶ。西周後期につくられた毛公鼎(もうこうてい)・散氏盤・虢季子白盤(かくきしはくばん)などがその代表的なもので，このころから書の美しさを意識して書く習慣が起こってきた。しかし，漢字の書体はまだ安定せず，時と所により雑多な形式のものが散在する状態であった。その中で，戦国時代の秦(しん)地方に行なわれた籀文(ちゅうぶん)すなわち大篆(だいてん)が一種の書体として認められて，ここに漢字の書体が成立した。そして，古い字典では，これ以外のものを古文とよんでいる。

秦の始皇帝が天下を一統するとともに，文字の体を制定してその統一を図った。宰相の李斯*(りし)がこれにあたり，大篆を改正して小篆とした。始皇帝が秦の徳をたたえるために建てた刻石の泰山刻石・瑯琊台(ろうやだい)刻石などに小篆が伝えられている。この時代には，文字をさらに簡略化し，書きやすくした書体が現われた。程邈(ていばく)が監獄の事務の煩雑さを避けるために考案したもので，徒隷(事務員)に施すので隷書とよばれた。

漢代になると，小篆が衰退して隷書が通行の正体となった。隷書も初期のものはまだ素朴(そぼく)で，篆書が簡略化された程度のものであった(古隷)。前漢の刻石にその例が見られる。前漢末から後漢にかけて，隷書の体が美化されて波磔(はたく)(→永字八法)に特色を示す威儀のある書体が形成されて，後漢の桓帝(かんてい)・霊帝の2世紀後半のころになると立碑の風習が流行し，碑文には当時の儒教文化を反映するかのような技巧の完成された隷書が多く使用された。これを八分とよぶ。しかし，この八分も，次の魏(ぎ)・晋(しん)に及ぶころにはしだいに波磔を失って，今日のいわゆる楷書(かいしょ)となる。これを八分の隷体から区分するために今隷とよんでいる。楷書は後世の称で，正書または真書とよぶのが正しい。一方，漢代の初期から篆書や隷書を簡略に書くために草書が起こった。当初は字体も安定せず，簡単な記録の草稿や書簡などに用いられた(古草)。やがてこれも隷書における八分と同様に波磔を加えるようになり，一種の字体を形成した(章草)。これは正式の文書にも使用されて，一つの書体として成立した。後漢末のころになると，章草の波磔がしだいに減退してまた新しい字体の草書が発生した(今草)。このころ張芝*(ちょうし)という草書の名手があり，専門の書家として知られた。草書は比較的自由な創作的な性質をもっているので，その発達に伴って書の芸術作品をつくるに適し，楷書からさらに砕けた行書とともに，日常の尺牘(せきとく)(手紙)に多く使用され，鑑賞されるようになった。今草もはじめは独草体(一字ずつ切り離して書く草書体)であったが，のちにはしだいに連綿体を加えるようになり，ますます書の美しさを増すようになった。

三国西晋は漢の余風を承け継ぐだけで著しい変化は見られず，八分はなお碑銘に使用されたが，一般にはもっと平易な楷書化した隷書が行なわれ，行草体もようやく芸術性を加えた。鍾繇*(しょうよう)は当時この各体をよくした名家として知られている。

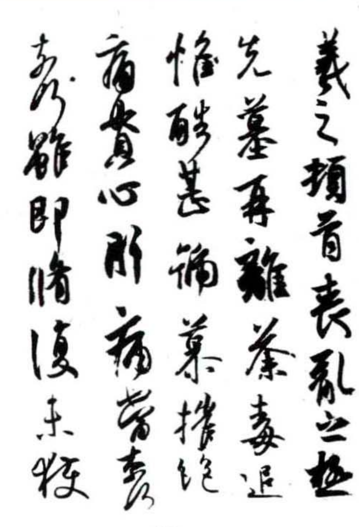
東晋を迎えて都は南渡し，江南の佳麗な風土を背景として，書の文化はにわかに向上し，ここに王羲之*(おうぎし)・王献之*父子が現われ，楷・行・草の新しい書体に完成された芸術美を誇るようになった。その洗練された技巧と瀟洒(しょうしゃ)逸脱した天質自然の風韻は，当時の貴族の好みに迎合し，世上に珍重された。その書を鑑賞・閲玩(えつがん)・収蔵する風習は，そののち六朝(りくちょう)各代の帝王の王書収集と貴族たちの学習によってますます助長され，2王を祖とする伝統派の書風が形成されて，長く中国書道の主流をなすようになった。

南朝においては2王の伝統が重んぜられていたのに対し，北朝は異民族の文化の低い国家であり，北魏の前半期のころはまだ未熟で素朴な書が行なわれたが，孝文帝の洛陽(らくよう)遷都(494)以後，漢化政策をとるようになり，ようやく南朝の書風が摂取されて，本来の素朴勁健(けいけん)な素質のうえに南朝の技巧にすぐれた書の洗礼を受けて，北朝独特の書風を形成した。6世紀前半の碑・墓誌にはきわめて精妙なものが見られるとともに，鄭道昭(ていどうしょう)の摩崖(まがい)，龍門(りゅうもん)造像銘など石の素材を生かした雄渾(ゆうこん)で純朴な作品があいついで生まれ，いわゆる北碑の名で後世碑学派の書人の尊ぶところとなった。

隋(ずい)代は南北朝統一により，書のうえにも両朝の長所がよく発揮された。唐代になると，まず太宗が王羲之を崇拝してその遺帖(いじょう)の収集をなし，臣下にも虞世南*(ぐせいなん)・欧陽詢*(おうようじゅん)という書の名家がそろい，国家政策における書の奨励とあいまって，貞観(じょうがん)には未曾有(みぞう)の発達を遂げた。虞と欧陽の碑に見られる楷書の美しさは精巧の極致ともいうべきもので，中国の歴史のうえに燦然(さんぜん)と光輝を放っている。褚遂良*(ちょすいりょう)またこれに次ぐ。概して唐の前半期は，六朝以来の2王の典型を受けて，そのうえにこの時代の書道文化を反映したもので，伝統派の書道の開花期とみられるが，一面また伝統を重んずる結果，伝授秘訣(ひけつ)によって古法を伝えるという因襲的な方法も行なわれて，それがやがてこの派の破綻(はたん)をきたすこととなった。安史の乱の前後のころから，政治・社会の変動に伴い，一般文化の現象がしだいに新しい方向へ移行しつつあったように，書においてもこのころからその基本的な考え方が少しずつ変化していった。貴族的から庶民的へ，理想主義から自由主義へと，典型的から個性的なものへと移行していった。このような傾向の中から，張旭(ちょうきょく)・懐素・顔真卿(がんしんけい)らが現われて，伝統的な技法を捨てて，新しい発想のもとに人間性のあふれ出た書を書くようになった。中でも張旭・懐素は酒を飲んで陶酔した恍惚(こうこつ)の心理状態の中から狂草を書き，書のうえに逸脱した新境地を開拓し，これが後世文人の率意の書の目標となった。この流れは五代の楊凝式(ようぎょうしき)に引き継がれた。

宋(そう)は五代乱離のあとを受け，国初においては南唐や蜀(しょく)の遺風を留める程度で，特に見るべき書も現われなかった。太宗が992年(淳化9)，古人の名跡を集めて**《淳化閣帖》を刻し，歴代帝王・名臣および2**王の書を模勒(もろく)上石したことは，書の視野を広め，そののちにおけるその翻刻・増刻本によって書が広く世上に普及するに役だった。仁宗・英宗朝になると，天下は太平に，学問・芸術ははなやかに栄えてきた。文学においては唐の韓愈*(かんゆ)・柳宗元*を祖とする古文が鼓吹され，哲学には性理学(→宋学)が興ったように，書においても唐の革新派の顔真卿・張旭・懐素を受けて，人間性を尊ぶ独創的な天真の書が現出した。蘇軾*(そしょく)は豊かな人間性を尊び，黄庭堅*は晋人の逸気をとって脱俗の境を開き，米芾*(べいふつ)は晋・唐の名跡の臨摸*を基礎として，晩年に平淡自然の妙境に至った。蘇・黄・

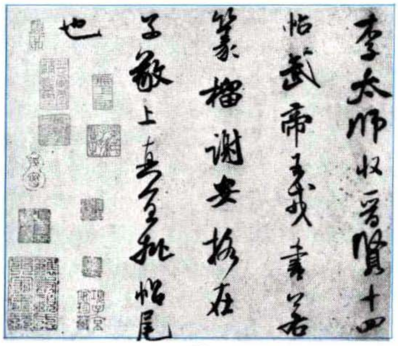
中国



①



②



③



④

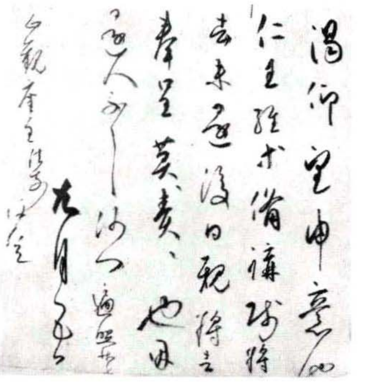
⑤



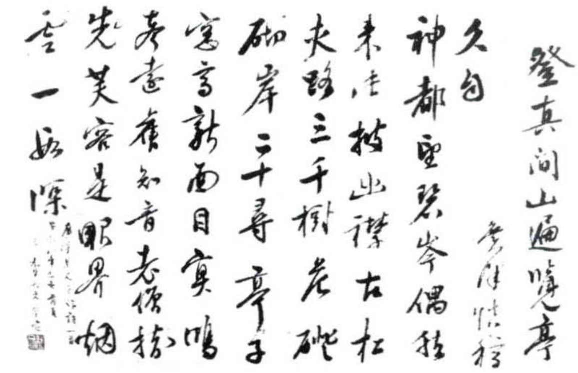
①王羲之 《喪乱帖》 東晋
②顔真卿 《争坐位帖》 唐
③米芾 《李太師帖》 北宋
④董其昌 詩巻 明
⑤鄧完白 《三体帖》 清

日本

(下左)空海 《風信帖》の消息3通中の第1通。あて名の〈止観座主〉は一乗止観院の最澄をさしている。教王護国寺蔵 (下中)本阿弥光悦 《金銀泥四季花木下絵歌絵》縦33.7cmの巻き物に金泥・銀泥で四季の花や木の下絵を描いた上に,《千載集》の春の歌を散らし書きにしている。〈やまざくら惜(しむ)心のいくたびかちるこの本にゆき帰(る)らむ〉 (下右)細井広沢 自作の七言律詩を書いたもの。この書風は唐様といわれ,江戸時代の中国風の主流になっていた







米3家の風は次いで南宋にも及び,明(みん)・清(しん)以後の近代書道の新しい理論と方向づけの源流となった。

宋代は,革新的な傾向の進展した一方において金石碑版法帖の学問が勃興(ぼっこう)し,その成果があいついで著述に表わされた。南宋に及んで国威は衰微したが,学問はいよいよ精密をきわめ,書の古典研究が盛大となり,宋末には再び復古的な書風を好む傾向を生じた。宋末から元初にかけて趙孟頫*(ちょうもうふ)(趙子昂(ちょうすごう))が出て,篆・隷・楷・行・草の各体をよくし,その晋・唐の書法に熟達した書風は当時の士大夫の間に大流行をきたし,元一代はまったく趙風をもっておおわれた。

明初においてもなお趙風を受ける者が多かったが,弘治・正徳・嘉靖(1488～1566)のころになると,文化の発展・向上とともに文人学者の間に書に対する閲玩・鑑識・収蔵の風習が盛行し,その間にも多くの書人が現われた。なかでも文徴明*・祝允明*(しゅくいんめい)の2家が特にひいでた。万暦(1573～1619)以後になると,鑑賞も深くなり,技法もようやく洗練されて,とかく趣味的な翰墨(かんぼく)遊戯に陥りがちな文人の書にも真率さを求める風が起こった。その第一人者が董其昌(とうきしょう)である。彼は晋・唐・宋の書を尊び,特に米芾の逸気を愛し,趙孟頫の典型主義を排して妙悟によるところの平淡自然の妙境に至った。明末の動乱期になると政治上の不安の中から連綿草に意を託した芸術性の豊かな書人が多く出た。張瑞図(ちょうずいと)・黄道周・倪元璐(げいげんろ)・傅山(ふざん)らがそれで,王鐸*(おうたく)も晩年しばらく清に仕えたが,実質的にはこの類にはいる書家である。

清代は考証を主とする学問の栄えたときで,その前半期は伝統派の法帖を鑑賞・研究する帖学*が広く行なわれて,晋・唐の法帖碑版を鑑識し,宋・元の個性的なものを学ぶ者もあったが,多くは董其昌をならうのが常であった。帖学派の中では劉墉*(りゅうよう)・張照がすぐれている。後半期にはいるころから,金石学の勃興に伴い,金石資料の新発見とあいまって,石碑の文字を取り入れて新書風を形成する者が続出した。おりから阮元(げんげん)の北碑を南帖に比較して,北碑をもって書の正統とする議論が端緒となり,そののち書の趨勢(すうせい)はもっぱら北碑におもむいた。これら碑学派または北碑派の書人には,鄧石如(とうせきじょ)・伊秉綬(いへいじゅ)・陳鴻寿(ちんこうじゅ)・何紹基*・呉熙載*(ごきさい)・趙之謙*(ちょうしけん)ら多くの作家が現われて,篆隷の碑刻の体を主として斬新(ざんしん)

な書風に妍(けん)を競った。それに次いで清末には甲骨文字，西域出土の敦煌(とんこう)文書，漢晋木簡の珍奇な資料など相継ぐ金石考古の資料によってさらに新書風を追う者が現われて，その新鮮さを競いながら今日に至っている。〔中田勇次郎〕

〔日本の書〕日本の書の起源は漢字が伝えられたときにあると考えられるが，漢字が伝えられたのはいつのことかわからない。飛鳥時代以前の書は，金石文が少し残っているのみで詳しいことはわからない。当時は，漢字の読み書きはおもに帰化人がしていた。

現在残っている最古の書は，聖徳(しょうとく)太子*の自筆本といわれている《法華義疏(ほっけぎしょ)》である。その書風は六朝風で，当時書はかなり盛んであったことがわかる。その後，唐代になると，唐の書風が伝えられ，文化の発達とともに書が盛んになったが，日本人が漢詩*をつくるようになると，いっそう盛んになった。奈良時代には中国で尊重されていた王羲之の書風が愛好され，流行した。そして，聖武天皇・光明皇后をはじめ，書のじょうずな人が少なくなかった。

平安時代の初め，嵯峨(さが)天皇*は詩人で，書もじょうずであったから，漢詩の盛行とともに書はますます盛んになった。空海*・嵯峨天皇・橘逸勢*(たちばなのはやなり)をはじめ，書のじょうずな人がたくさん出た。当時の書風は中国の晋・唐の書風を基にしていた。

中国では唐が衰え，日本では漢詩が衰えて和歌が盛んになると，中国風の書より日本独特の和様*の書が愛好され，流行した。和様は小野道風*(おののみちかぜ)によって創始され，字形は端正で，点画は温雅である。道風に続いて，藤原佐理*(ふじわらのすけまさ)・藤原行成*(ゆきなり)をはじめ，書のじょうずな人が輩出した。そして，和様が盛んになり，流行した。同時にかなの書も盛んになり，十分洗練されて，技巧は非常に巧妙になった。

鎌倉時代には，漢詩・和歌が衰えるとともに書もまた衰えたが，線に筆力が充実している。室町時代には，書はいっそう衰えた。そして，筆力が弱くなった。室町時代の初めの尊円法親王*はおだやかであるが筆力のある書を書き，青蓮院(しょうれんいん)流*といわれ，その後の和様の書の主流になった。鎌倉・室町時代には禅宗が盛んであり，また禅院において漢文学が盛んであったから，禅僧の中には中国風の書のじょうずな者が少なくなかった。

近世の初め，近衛信尹(このえのぶただ)・本阿弥(ほんあみ)光悦*・松花堂昭乗らによって上代様の書が復興されて，書は再び盛んになった。しかし，江戸時代には，和様は各階級・各地方に普及したが，形にはまり，筆力がない。当時盛んであったのは儒者・文人・書家の間に盛んであった唐様*(からよう)である。それは明の文徴明*の書風を主とし，さらに中国古代の書を学んだ。

明治の初め，清人楊守敬が来朝して六朝風を伝え，中国古代の碑の拓本*によって書を学ぶことを教えられて，書の研究は広く，深くなり，年とともに盛んになって，書の展覧会は最も盛況を呈している。➔書体 ➔前衛書道 〔春名好重〕

奏法は両手で直立にささえ，左手の4本の指と右手の2本の指を用いる。雅楽には5～6本を同時に鳴らす合竹(あいたけ)が，催馬楽*(さいばら)や朗詠*には1本ずつ吹く一本吹きが用いられる。なお，中国の排簫(はいしょう)(一簫)，正倉院の竽(う)，ラオスのケーン*も同系の楽器である。〔山口 修〕



笙

しょう【鉦】 ゴング*類のさまざまな一種。下座音楽*で〈摺(す)り鉦(がね)〉〈チャンギリ〉とよばれるものは，浅い皿型の真鍮(しんちゅう)製のもので，陽気な音色のために，祭り囃子(ばやし)や市井の風景描写などに用いられる。似たものに大型の〈こんちき〉，陰惨な場面で使われる〈一つ鉦〉，小型のものを二つ組みにして交互に打つ〈松虫〉などがある。

しょう【簫】 中国の気鳴楽器。排簫と洞簫(どうしょう)とに二大別できる。排簫はパンパイプ系であり，雅楽に用いられた古楽器。十数本の竹管を長さの順に縛りつけてまとめるか，横に並べるかして上から吹く。隋(ずい)・唐代には21管と18管があり，7音音階に調律した。洞簫は尺八系の縦笛で，表5孔，裏1孔。歌口の切り口斜面は尺八とは逆に内側を向く。主として俗楽に用いられた。

しょう【衝】 外惑星が，太陽・地球・惑星の順に一直線上に並ぶ現象。このとき惑星と地球の距離は最も小さくなり，地球に面した惑星の全面が太陽の光を受けて輝き，太陽と反対方向にあるので1晩じゅう観測できる。したがって，衝の前後は外惑星の観測に最も適した時期である。➔合

しょう【礁】 航海に危険を生ずる程度に浅い岩石またはサンゴ礁からなる海底の隆起部。航海上の見地から，底質・水深・形態などによって州・礁・堆(たい)などに分けられる。平面形は細長いものや円形に近いものまでいろいろある。サンゴ礁が生長したり，海底火山の項部が海面付近まで達したり，島が海食によって破壊されたりして形成される。

しよう【止揚】 ⇨アウフヘーベン

しよう【子葉】 種子*にあり，芽が出たとき最初の葉となるべきもの。普通の葉と違った特別な形をもち，大きさ・数も種によって決まっている。単子葉植物では1枚，双子葉植物では2枚であるが，裸子植物では2枚以上。胚乳(はいにゅう)のある種子では子葉が小さいが，クリやマメ科などの無胚乳種子では大きくて養分をたくわえている。発芽したとき子葉が地上に現われるものと，クリ・ベニバナインゲンなど出ないで地中にとどまっているものとがある。

じょう【判官】 令(りょう)制官司の上級事務官は4等級からなるが，その第3位の官職をいう。官司内の糺判(きゅうはん)・文案の審査署名，官人の失錯・宿直などをつかさどるもので，表記法は官司の格により異なる。神祇官(じんぎかん)は祐，八省は丞，職(しき)は進，寮は允，司(し)は佑，衛府(えふ)は尉，大宰府(だざいふ)は監，国は掾などの字をあてた。

じょう【錠】 建物のとびらや器物の締まり金物。錠を操作する道具を鍵(かぎ)という。

〔歴史〕現在，最も古い錠は古代エジプト錠とよばれる約4,000年前の木製錠とされているが，真偽のほどはわからない。ギリシア時代には，結び目で錠の役割をさせたことがあった。解くのがむずかしく，解いたら元どおりに結ぶことのできない結び目をくふうして盗みなどを防いだらしい。また，ギリシア時代の神殿に神殿鍵が使われたことはかなり確からしい。これは，かま状の鍵で閂(かんぬき)をずらしてあけるもので，閉めるときは外から皮ひもを引っ張る。同じようなアイディアは伊勢(いせ)神宮の内宮(ないくう)にもみられる。

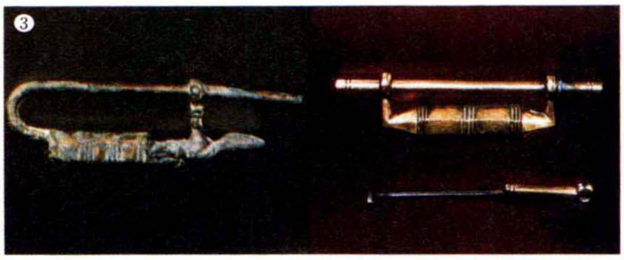
ギリシア時代の末期からローマ時代にかけては，パラノス錠(ラコニア鍵)という木製錠が使われた。古代エジプト錠から発展したものといわれているが，構造から考えるとその逆ではないかと思われる。ローマ時代の指輪鍵は今日まで残っているが，相手の錠は残っておらず，おそらく鍵は封印などの役目のもので，錠は初めからなかったものではないかと思われる。この時代にはアジアでは文字合わせや，動物の形をした南京(ナンキン)錠が使われていたらしい。中国から日本に伝わってきた虎符(こふ)の原形らしい南京錠が，中近東で現在でも製造されている。この種の南京錠は，鍵で板ばね

をすぼめて解錠するものである。このしくみは日本にも伝わってきて，正倉院にもたくさん収納されており，それらの形がエビに似ていることから海老(えび)錠といわれる。その後，形は直線的でシンプルなものになり，現在でも神社仏閣にそれらを見ることができる。

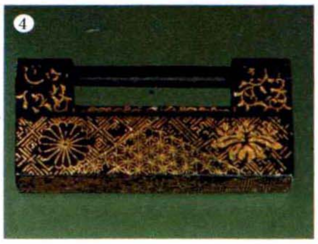
中世紀のヨーロッパは争乱の明け暮れであったから，錠は頑丈(がんじょう)・安全なことが絶対要件となり，大型になるとともに鍵穴の形や障害物が複雑になり，いくつもの錠が取りつけられたりしたが，鎖錠機構はウォードとよばれる鍵の回転に対する固定障害物を設けるしくみから1歩も前進していない。この状態は18世紀まで続いた。

ウォードに代わったレバー-タンブラー錠のはじまりははっきりしないが，1778年にイギリスのバロンが特許をとったものは原理的には今日のものとほとんど変わらない。明治以降，レバー-タンブラー錠は洋風建築とともに日本へも移入され，今日でも多く用いられている。レバー-タンブラー錠から少し遅れて，アメリカではエール親子がピン-タンブラー錠を完成している。エール2世が1865年に特許をとったものは，ほとんど今日のピン-タンブラー錠のシリンダーと変わらない。ピン-タンブラー錠は広範な利用価値があり，今日の錠の花形である。金庫用の錠は1784年に特許をとったイギリスのブラマの錠などが有名であるが，鍵穴があると爆薬をつめて爆破されるため，いまではほとんどダイヤル錠に代わった。しかし，これでも不安があるため，銀行などの金庫錠は最近ではタイムロック(時計錠)に代わっている。〔堀英夫・内山鉄男〕



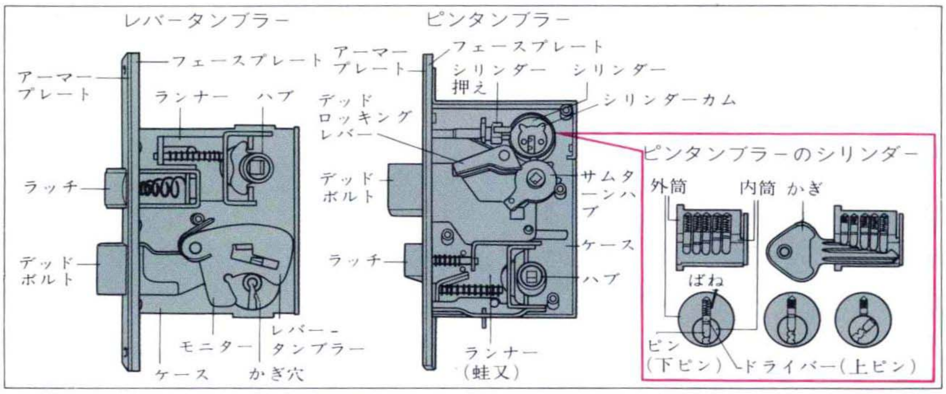






錠

①バンバラの木製錠
②指輪鍵
③えび錠。1,200年前の錠(左)と正倉院の錠と同型のもの
④桃山時代の錠。金の象眼が施されている



レバータンブラー(左)とピンタンブラー(右)の構造

しょうアジア【小アジア】 別名アナトリアはギリシア語の〈東方の土地〉の意。アジアの西端に突出する大半島で，北は黒海，北西はボスポラス海峡・マルマラ海・ダーダネルス海峡を隔ててバルカン半島，西はエーゲ海，南は地中海に面し，現在のトルコ共和国の大部分がこれにあたる。古代からアジアとヨーロッパの接触地であった。

しょうあん【硝安】⇨硝酸アンモニウム

しょうアンチル(諸島)【小アンチル】 西インド諸島のプエルトリコから南アメリカ大陸のベネズエラまで，南北に弓状に連なる火山列島。北部のリーワード諸島と南部のウィンドワード諸島に分かれ，イギリス・フランス・オランダ・アメリカ合衆国の領土がそれぞれにある。17〜18世紀にサトウキビのプランテーション*の労働力としてアフリカ大陸から黒人を移入し，現在も住民は黒人が多い。近年石油が発見された。

しょうあんばくやく【硝安爆薬】 硝酸アンモニウム(硝安)を主成分とする爆薬*の総称で，次のようなものがある。①狭義の硝安爆薬：硝酸アンモニウムの爆発温度の低い点を利用したもので，メタンガスや炭塵(たんじん)のある炭鉱でも使用できる。安全爆薬の一。②アンモン爆薬：ニトロ化合物やケイ素鉄などを加えて威力を大きくしたもの。③硝安油剤爆薬*(ANFO爆薬)。

しょうあんゆざいばくやく【硝安油剤爆薬】 ANFO爆薬(ammonium nitrate fuel oil blastingの略)ともいう。第2次世界大戦後発明された硝安爆薬*の一。硝酸アンモニウムに約15分の1量の燃料油を加えた爆薬で，粒状のものでも流動性がある。安定性が高いので通常の爆薬より取り扱い制限がゆるく，製造容易で安価な点が特徴で，近年広く使われるようになった。

しょうイギリスしゅぎ【小イギリス主義】 イギリスの帝国主義的領土拡張に対する反対論，または植民地支配の負担軽減を説く主張。ウガンダの放棄を説くグラッドストン*首相とその追随者に対して，外相ローズベリーが矮小(わいしょう)なイングランドを説く党派として非難したのに由来する。しかし小イギリス主義は広義に解され，19世紀中葉のイギリスによる世界市場と植民地の独占が安定していたころ，その負担を軽減せよという主張にも適用される。

じょういたいばんそうきはくり【常位胎盤早期剝離】 妊娠中または分娩(ぶんべん)開始後，正常の位置にある胎盤と子宮壁の間に出血が起こり，胎児が生まれるまえに胎盤が子宮から剝離すること。妊娠の0.6〜0.7％に発生し，妊娠中毒症の妊婦に多い。腹部の打撲・圧迫や転倒なども原因となる。母体の死亡率は10〜20％，胎児死亡率は60〜70％の高率である。突然起こる痛みと出血(内出血が多い)が主症状で，輸血・輸液・酸素吸入などの救急処置が必要。すみやかに帝王切開手術を行なう。〔木川源則〕

しょういだん【焼夷弾】 テルミット(鉄の酸化物とアルミニウム粉との等量混合物)・黄リン・油脂などの焼夷剤を詰めた爆弾または砲弾のこと。投下・爆発により3,000℃の高熱を発し，敵施設・建築物などを焼き尽くす。航空機による都市攻撃の場合，50kg以下の小形弾を多数用いて焼夷効果をあげるのが普通で，1945年(昭和20)3月10日アメリカ軍による東京空襲の際は48,194個の焼夷弾が投下され，被害家屋26万8,358戸，罹災者100万8,005人に及んだ。ナパーム弾は油脂焼夷弾の一種で，一発で広範囲を焼き尽くす目的に使用される。〔藤井冬木〕

しょういちこくし【聖一国師】⇨円爾(えんに)弁円

じょういろん【攘夷論】 江戸末期の排外思想に基づく夷狄(いてき)排撃論。開国論*に対する。儒教の華夷思想から生まれた本朝独善思想で，国学の神国思想にあたる。藤田東湖*・会沢安らの後期水戸(みと)学が攘夷論の典型的なもので，幕末の外圧による民族意識を反映して高揚した。また水戸学の国粋思想の影響を受け，他方幕府の開国政

策への反発もあって尊王論と結合，尊王攘夷運動となってのちに討幕運動に発展した。

しょううちゅう【小宇宙】銀河系および銀河系外星雲のこと。広い宇宙の空間内には銀河系と同じような無数の恒星と星間物質よりなる銀河系外星雲が散在しているので，全宇宙に対してその階級的体系をつくっている一部であるという意味で小宇宙とよぶ。➔宇宙

じょうえいしきもく【貞永式目】⇨御成敗式目

しょうえきち【承役地】⇨要役地・承役地

じょうえつ【上越(市)】新潟県の高田市と，その北隣の直江津市とが合併して，1971年(昭和46) 4月に発足した新市。面積251.5km²，人口12万6,000。人口では新潟・長岡両市に次ぐ県下第3の都市で，文字どおり県域の広い新潟県上越地方の中心地の形成をめざしている。産業三大別人口比は16：29：55。➔高田　➔直江津

じょうえつせん【上越線】高崎線高崎と信越本線宮内(長岡市郊外)間の国鉄路線。営業キロ数162.6。1920年(大正9)に宮内～小千谷(おじや)間が開通し，1931年(昭和6)に全区間が開通した。本州中央部を横断して関東地方と北陸地方を直結する幹線鉄道で，三国山脈を越える所にある清水(しみず)トンネル(9,702m)と新清水トンネル(13,490m)はそれぞれわが国の長大鉄道トンネルの一つである。全線が直流で電化されている。

しょうえん【荘園】

【日本】奈良・平安時代から鎌倉・室町時代を通じてみられる私的土地所有の形態。743年(天平15)墾田永代私有法が実施され，班田制が8世紀末にはほとんど有名無実化するにつれて，貴族・寺社や地方の豪族たちは広大な山野を占有し，大規模な開墾を営む者が多くなった。彼らはその経営のために荘家(荘所)とよばれる倉庫や家屋を設置したが，やがて未墾地の開発が進むと荘家と開発田地を統一して荘園とよぶようになった。9世紀には皇室も勅旨田や親王賜田という名目で各地に広大な荘園を設置するようになった(➝自墾地系荘園)。これら初期荘園は，神田・寺田のような不輸租田の荘園化したもののほかは，原則的には輸租田であったが，9世紀中ごろから貴族・寺社は種々の口実を設けて政府に不輸租を申請し，太政官符(だじょうかんぷ)や民部省符によって不輸租の特権を認められるようになった(➝官省符荘)。のちには国司の免判によって不輸租の権を認められた国免荘も現われた。さらに課税や検田のために国司が荘園に立ち入るのを拒否しうる権利，すなわち不入権をも獲得するようになり，荘園は国家の徴税や警察権から独立したものとなった。10世紀ごろから荘園の内部には名主とよばれる小土地所有者が成長し，荘田は名田に分かれ，年貢(ねんぐ)以下の諸役の賦課単位をなしていた。一方地方の豪族や有力名主たちは国司のきびしい徴税をのがれるため，中央の権門に保護を求めて名目上その土地を寄進して不輸・不入を確立してもらう者が多くなった(➝寄進地系荘園)。領家は寄進者である地方豪族や有力名主を荘官に任じて荘園の経営と年貢の徴収にあたらせ，また領家だけで荘園の保全が不十分な場合は，さらに有力なものを本家として，年貢の一部をさいて再寄進するのが例であった。荘園の規模や内部構造などは荘園によって一様ではないが，一般に荘園領主(本家・領家)・荘官・名主・作人の各階層に分かれ，名主・作人は荘民とよばれて領主に対して年貢・公事・夫役を負担した。

12世紀末，鎌倉幕府が成立すると，諸国の荘園・公領に地頭が設置され，さらに承久の乱後，新補地頭が補任されると，荘園は大きく変質していった。地頭は，武力をたのんでその権限をこえて荘園の下地(田畑・山林・塩浜など，収益の対象となる土地)や農民に対する直接的支配を強め，独自の在地領主になり上がろうとして荘園領主と対立抗争をくり返した。荘園領主と地頭の争いは幕府の法廷にもちこまれたが，多くは和与という形式をとり，荘園領主はある場合には下地中分を行なって荘園の下地・荘民の一部を地頭に引き渡したり，あるいは荘務を地頭にゆだねて，契約年貢を受けとるだけとなった。その結果，荘園支配の方式は大きな変化を遂げた。一方鎌倉末期になると，各地の荘園では農民の自立性が高まり，それらが村落的結合を基盤として自主的行動をとりはじめ，領主年貢の減免や夫役の軽減を要求する動きが活発となった。南北朝時代にはいると，これらの動きはいっそう激しくなり，また地頭・荘官などは独自の地域的在地領主化への動きを促進した。そのため，荘園領主は本所一円地などでその支配力を維持しえたが，年貢の収納は円滑にいかず，その収取率は一般に低下し，守護請や在地領主の対立を利用して，わずかの年貢を取得するという状態に甘んじなければならなかった。さらに半済法の実施によって荘園制の解体は著しくなった。15世紀後半の応仁(おうにん)の乱から戦国時代を通じて，荘園制は最終的に解体した。〔鈴木英雄〕

【西洋】中世の支配的な土地所有形態で，封建社会の経済的基礎となった。その起源は中世以前のゲルマン・ローマ双方の社会にさかのぼるが，荘園の成立は中世初期のフランク王国時代である。はじめ聖俗の領主の所有地として，1人の領主の荘園は1か所にまとまらずに各地に散在し，1村落に多くの領主の荘園が入り混じっているのが普通であった。荘園の中心には荘園庁があり，領主自身またはその代理人である荘司によって管理された。荘園の耕地は直営地と託営地とに分かれ，そのほかに牧場や森林などの共同地があって農民の共同使用に供された。直営地は農民の賦役によって経営される土地であり，託営地は農民の保有地で，農民はこれによって自分と家族の生活を維持し，賦役と貢納によって領主の生活をささえた。賦役は農耕を主とするが，その他の雑役も課せられた。貢納には物納と金納とがあり，物納は農産物を中心とするがその他いろいろの品物を含んだ。さらに農民は人頭税・結婚税・相続税を課せられ，領主の水車場などの使用を強制され，その土地を離れる自由をもたなかった。こうした農民を農奴という。中世末になると直営地がなくなって荘園は分解し，賦役は物納に変わったが，やがて金納が一般化し，農奴は自由農民となった。これが農奴解放である。〔兼岩正夫〕

しょうえんせいりれい【荘園整理令】平安時代，不輸・不入の特権をもつ荘園の増大を防ぎ，国家財政の危機を打開するため出された法令。荘園の最大所有者であった藤原氏が政治権力を掌握していたため効果は少なかったが，902年(延喜2)，984年(永観2)，1045年(寛徳2)，1055年(天喜3)とあいついで出された。➔記録荘園券契所

しょうえんやく【消炎薬】局所的に用いて炎症を押える薬。サリチル酸メチル・イヒチオールなどを除いて大部分は収斂薬(しゅうれんやく)と同じ。局所の分泌液を減じ，小血管に貧血を起こして症状を除く。なお，最近では経口的または注射によって炎症を抑制する薬が多くなったが，これは抗炎症薬とよばれ，酵素(ブロメライン・パパイン・リゾザイムなど)・ステロイド・非ステロイドの3系統がある。

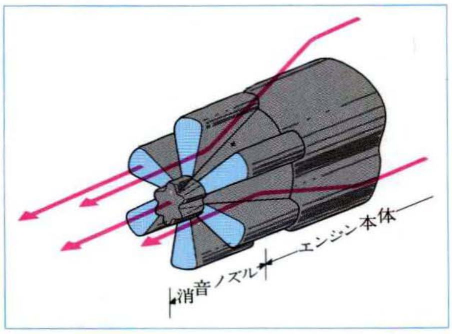
しょうおう【商鞅】(？～BC338) 中国，戦国時代の秦(しん)の政治家。姓は衛，または公孫衛。法家の代表的人物で，秦の孝公に仕えて2回の改革を行なった。第1回改革の内容は，①民を10家5家に組織し，連座制をしいて罪人を隠匿すれば斬罪(ざんざい)にする，②次男以下で分家しない者は賦を倍にする，③軍功に準じて爵位を与える，④農に努めず貧乏な者は奴隷にする，⑤宗族でも軍功のない者は宗族と認めないなど。第2回改革の内容は，①父子兄弟の同居の禁止，②郡県制の強化と土地区画の整理，③度量衡の統一などである。その目標は軍事組織をそのまま村落組織・土地配分にも及ぼそうとするところにあった。改革によって秦は強大となったが，孝公の死後，反対者のために車裂きの刑に処せられた。〔米田賢次郎〕

じょうおん【上音】⇨音色

しょうおんき【消音器】内燃機関の排気出口に取り付け，排気音を減少させる装置。サイレンサー・マフラーともいう。原理的には次のようなものがある。①干渉を利用するもの，すなわち音波に位相の差を

与え，疎部と密部を打ち消し合わせることによってエネルギーを吸収するもの。②音波と同じ自己振動数をもつ共鳴空洞(くうどう)を用いてエネルギーの吸収をはかるもの。③吸音材を用いて吸収させるもの。④以上を組み合わせたもの。吸音材は高い周波数の騒音成分に対して効果的であり，これには多孔質吸音材(岩綿・ガラス綿など)・穿孔板(せんこうばん)(合板・鉄板などに多数の円孔をあけたもの)などが用いられる。なお，直流的な空気流をできるだけ減衰させないで通過させる必要のある自動車などでは，低域フィルターを用いるのが普通であり，低周波数成分に有効な干渉・共鳴などの方式がとられる。

しょうおんノズル【消音ノズル】 ジェットエンジンの排気から発生する騒音を低減する仕掛けをもつノズル。騒音は高速で噴出する排気と周囲の空気との間のこすれ合いによるものなので，騒音の低減には，排気の周囲に早くから外気を混合して，半径方向の速度変化率を緩和するのが有効である。この目的を達するために，ノズルの後端を菊花形とし多量の外気を誘いこむ方式などが実用化されている。



消音ノズル

しょうか【硝化】 ①ニトロ化またはニトロ置換といわれるもので，ニトロ基$-NO_2$を水素の代わりに導入する反応。ふつう，硝酸と硫酸の混酸を作用させる。反応例としては，硝酸エステル反応($-C-OH \rightarrow -C-ONO_2$)，ニトロ化反応($-C-N-H \rightarrow -C-N-NO_2$)，ニトロリシス($>N-CH_2- \rightarrow >N-NO_2 + -CH_2ONO_2$)などがある。②アンモニアまたはアンモニア塩が酸化されて，硝酸・亜硝酸またはこれらの塩になる現象をいい，1890年フランスの微生物学者ウィノグラドスキーによりニトロソモナス・ニトロバクターの２種の硝化菌が発見され，以後研究が盛んになった。ニトロソモナスはアンモニアを亜硝酸に酸化し，ニトロバクターは亜硝酸を硝酸に酸化する。いずれも作用中心はモリブデンイオンといわれる。〔三輪誠・加藤康〕

しょうか【消化】 他の生物のエネルギーを個体の中へ取り込む際の生理作用。生命は太陽エネルギーを有機物の形で外界から生体内へ取り込み，また放出する作業をつねにくり返すことによって維持されている。独立栄養の生物は，炭酸同化作用などによって他の生物に依存することなく太陽エネルギーを取り込むことができるが，従属栄養の生物はこの能力がないので，他の生物のもつエネルギーに依存する。したがって消化は従属栄養の生物が自己のエネルギーを得る手段であるといえる。地球全体では従属栄養の生物は独立栄養の生物がもつエネルギーの１％に満たない量で維持されているといわれる。

食物を分解して比較的低分子量の物質として吸収するまでの基本的な過程は，単細胞生物でも多細胞の生物でも変わらない。単細胞生物は食物を細胞内に取り込み，食胞を形成してその中で消化を行なう(細胞内消化)。多細胞生物は個々の細胞よりも大きな食物を消化器内に取り込み，細胞外で消化を行なう(細胞外消化)。しかし，細胞内消化といえども食物を直接細胞質内へ入れるわけではなく，細胞内で原形質膜で食物を囲み，消化液を分泌して分解するのである。したがって，いずれの場合も細胞質内へ取り込むまえに，消化酵素による分解が行なわれる。この過程を化学的消化という。多細胞生物は，多量の食物を能率よく消化できるように消化器官が発達し，胃ではペプシンと塩酸が分泌され，十二指腸へ分泌される胆液(たんえき)は脂肪を乳化するなど，食物の化学的性質に応じた消化器官の分化と化学的環境の構成によって消化を助けている。多細胞生物ではさらに，多量の食物を取り込むために歯顎(しがく)などの咀嚼(そしゃく)器官が発達し，消化液と食物を混ぜ合わせて化学的消化を助け，また，蠕動(ぜんどう)や分節運動などの消化運動が行なわれる。これらを機械的消化とよんで，化学的消化と区別している。

消化を通じて食物は低分子にまで分解されるが，一般に炭水化物ではその構成単糖類，タンパク質ではアミノ酸，脂質では脂肪酸とグリセリンが最終産物となって吸収される。〔原野友之〕

しょうか【昇華】 固体が液体の段階を経ずに直接気体になること，または逆に気体が直接固体になること。気体の圧力および温度が，その物質に特有な条件のときに起こる現象で，樟脳(しょうのう)・ヨウ素などで容易に観察できる。この性質は昇華性物質の精製に用いられる。気体が昇華して固体になるとき，美しい花模様に結晶するのでこの名がある。自然界でみられる雪や霜は，大気中の水蒸気が冷却されて直接結晶化したものである。

しょうか【昇華】 精神分析*の用語。無意識的な性的エネルギーを，芸術的行為や宗教的行為など社会的に価値ある形に置き換えて表出すること。防衛機制の中では，病的性格をおびることのない唯一の適応的防衛である。➔防衛機制

しょうか【唱歌】 1872年(明治５)以来1941年(昭和16)まで学校教育における音楽の授業をさした。唱歌としてはいくつかの試みがあるが，最も強い影響力をもったのは，音楽取調掛(とりしらべがかり)による明治10年代の《小学唱歌集》(全３巻)で，この中に含まれている《ちょうちょう》《螢(ほたる)の光》《庭の千草》などは現在でも歌われている。これに対する反対運動もすでに大正時代に起こっているが，唱歌が一つの折衷様式として定着したため，歌謡曲の音感の基礎を提供した面もある。〔徳丸吉彦〕

しょうか【頌歌】 オード・賦(ふ)ともいう。叙情詩の一種で，気高く誠実な主題を洗練された文体と熱情的な調子で歌ったもの。呼びかけの形をとることが多い。もとは，古代ギリシアの合唱隊が，音楽・舞踊とともに歌った詩であった。その後19世紀に至り，ユゴー*・ワーズワース*らが新しい生命をもつ頌歌をつくり，盛んとなった。

しょうか【彰化】 チャンホワ 台湾中部西岸にある古い都市。人口約15万。縦貫鉄道と台中支線との連絡地にあたり，八卦(はっか)丘陵の北端，大肚溪(たいとけい)左岸に位置する。台湾中部の米・砂糖の集散地。西方３kmにある鹿港(かこう)は中国大陸の泉州に近く，台湾開発の初期にはその門戸として栄えた。

しょうか【蕭何】 (？～BC193) 中国，漢の高祖時代の功臣。沛(はい)(江蘇(こうそ)省)の人。沛県の下級官吏であったが，高祖の挙兵に参謀として活躍。秦都(しんと)の咸陽(かんよう)を占領したとき，諸将が金帛(きんぱく)・財宝を争う中でひとり秦の律令図書を入手したため，高祖は天下の形勢を知ることができたといわれる。BC206年，丞相(じょうしょう)となり，楚(そ)・漢の戦いのときにはよく関中を守って軍需物資の輸送に専念したため，漢を勝利に導いた。天下統一後は列侯に封ぜられ，相国に進み，また秦法をもとにして新しい法律をつくるなど，漢の基礎を定めた。〔永田英正〕

しょうが【生姜・薑】 単子葉植物・ショウガ科。インド・マライ半島原産といわれる多年草で，熱帯地方に広く分布する。地下茎は多肉質の不規則な屈指状の塊茎で，灰白色ないし黄色。多く分岐して，その端から高さ30～50cmの茎を直立させる。葉は長い葉鞘(ようしょう)をもち，葉身は披針(ひしん)形。夏から初秋にかけて花穂を出し，卵状形の包の間に黄緑色の小花をつけるが，日本では寒いためごくまれであり，もっぱら塊茎によって繁殖させる。塊茎は，辛味成分としてジンゲロン・ショウガオール，芳香成分としてジンゲベルン・カンフェンなどを含み，香辛料として用いられる。塊茎を乾燥させたものを日本薬局方では生薑(しょうきょう)(漢方では乾薑)といい，芳香性健胃薬・矯味薬(きょうみやく)とされ，漢方では新陳代謝などを高めるために用いられる。ショ

ウガのわが国への渡来は古く，おもにつけ物として利用されていたようである。なお，若芽が紅色の濃い変種はベニショウガ，塊茎の大きなものはオオショウガといわれる。〔横井朝子〕

しょうかいき 【哨戒機】 固有の作戦のためでなく，常時上空にあって警戒に任ずる航空機。敵機の来襲を探知するため，大形レーダーをもつ早期警戒機，艦隊の周囲や近海，航路上の対潜警備のために，各種の装備や武装をもった対潜哨戒機などで，いずれも滞空時間の長いことが要求される。

しょうがいきょうぎ 【障害競技】 陸上競技の一部門。ハードルレースとスティープルチェースの2種類がある。ハードルレースは，セパレートコースの走路上に置かれたハードル(男子は10台，女子は8台)を飛び越して走る速さを競う。オリンピックの正式種目では，男子は110m(ハードルの標準の高さ106.7cm)・200m(76.2cm)・400m(91.4cm)の3種目で，女子は1969年から100m(84.0cm)・200m(76.2cm)の2種目である。スピード・持久力・ハードリング技術を必要とするスティープルチェースは，標準距離3,000mのレースで，1周500mのトラックに設けられた28個の障害物(高さ91.1～91.7cm，重さ80～100kg)と7個の水濠(すいごう)(最も深い所で76cm)とを飛び越して走る速さを競うもの。障害物は，足を掛けて飛び越えてもよく，水濠は飛び込んでもよい。〔伊東春雄〕

しょうがいざい 【傷害罪】 人の身体を傷害する罪。刑は10年以下の懲役または25,000円以下の罰金もしくは科料(刑法204条)。傷害とは，暴力を加えて傷害する場合はもちろん，生理的機能の障害(下痢を起こさせるなど)，身体の完全性の侵害(頭髪をそり落とすなど)なども含まれるが，日常生活において看過される程度のきわめて軽微なものは含まれない。傷害罪の成立には，必ずしも傷害の故意は必要でなく，暴行の故意で足りる。またその手段が，暴行によろうとそれ以外の方法によろうと区別はなく，たとえば，毒物の使用，身体の接触による病気の感染などの場合にも成立する。傷害の結果人を死に至らしめた場合は，傷害致死罪(2年以上の懲役)(刑法205条)，傷害の現場でそれを援助した者は，傷害を加えなくとも罰せられる(1年以下の懲役または2,500円以下の罰金または科料。傷害助勢罪)(刑法206条)。➔過失致死傷罪〔井上公耳〕

しょうかいしょうせつ 【章回小説】 ⇨小説〔中国〕

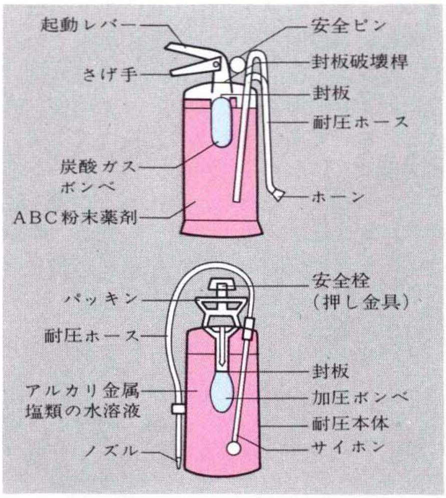
しょうかいせき 【蔣介石】 チャンチエシー(1887～1975) 中国の政治家。浙江(せっこう)省出身。東京の陸軍士官学校予備校にはいり，卒業後，士官候補生として新潟県高田の野砲連隊にはいったことがある。辛亥(しんがい)革命(1911)に参加後，しばらく革命運



障害競技 1969年度全日本陸上選手権大会の3,000m障害決勝　国立競技場



蔣介石



消火器

動から離れて上海(シャンハイ)で生活，1922年から孫文を助けて活躍，1924年には黄埔(こうほ)軍官学校初代校長に就任した。孫文の死後，国民党内での地位確立を図り，孫文の遺志を継いで北伐を継続した。1927年4月には上海でクーデターを敢行して左派を弾圧・排除(四・一二クーデター)，同年末には宋美齢(そうびれい)と結婚して〈浙江財閥〉との結びつきを強め，1928年南京(ナンキン)に国民政府を樹立した。以後，中国共産党の軍事制圧を強めたが，1936年12月，西安事件を契機に抗日民族統一戦線結成に同意した。日中戦争中は，国民政府主席・国民党総裁として〈抗戦〉の象徴となった。終始〈反共〉に徹した独裁者であって，戦後，中国共産党・人民解放軍が大陸を制圧するに及んで台湾にのがれ，そこで〈中華民国〉を呼称した。日本政府はこれと〈日華条約〉を締結している。中華人民共和国政府は蔣介石に本土帰還を呼びかけているが応じようとはしない。〔斎藤秋男〕

しょうがいちしざい 【傷害致死罪】 ⇨傷害罪

しょうがいねんきん 【障害年金】 業務上あるいは，その他の原因で傷病にかかった者がその治療後もなお心身に障害が残り，廃疾の状態にある場合に給付される年金。労働者をはじめ一般国民の生活の安定と福祉の向上を目的とする。これには被用者を対象とした厚生年金制度，労働者災害補償法による障害補償年金，それ以外の一般国民を対象とした拠出制の国民年金制度とがあるが，障害補償年金のほかは被保険者期間が6か月以上1年以内とされているほか，廃疾の認定日やその程度についても細かい規定がある。➔年金制度〔松島　浄〕

しょうがいほけん 【傷害保険】 保険の対象となる者が，偶然の事故によって身体に傷害をこうむった場合に保険金を支払う保険。その傷害が原因で後日死亡したり，不具・廃疾となったり，あるいは多額の治療費を要し，かつ業務能力に障害をきたしたりしたときに，その程度に応じて，あらかじめ規定された割合で保険金が支払われる。これには普通傷害保険・団体傷害保険・旅行傷害保険・交通傷害保険などがある。

じょうかいぼん 【浄海坊】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ジョウカイ科の一種またはジョウカイ科の甲虫の総称。ジョウカイボンは体長15mmほどで，体は黒色，頭部前方の両側部，前胸背板の周縁部，鞘翅および脚の大部分は黄かっ色。鞘翅の会合線はふつう暗色をおびる。全体に灰黄色の軟毛が密生している。前胸背板はほぼ四角形。雄は後脚の脛節(けいせつ)が湾曲している。日本全土のほか，朝鮮に分布し，春から夏にかけて普通に見られる。地方による変異が多く，特に山地に産するものは全体が黒化したものも見られる。

ジョウカイ科は比較的大きい科で，全世界から約1,500種が知られ，日本からは約40種が発見されている。甲虫ではあるが，全体軟弱で，体長は3～25mm。幼虫・成虫ともに肉食性で，他のこん虫類を捕食する。幼虫は地上や樹皮下に生活する。成虫は，多くの種では活発な飛翔(ひしょう)性をもつが，湿地帯に生活する少数の種は行動が不活発。ホタル科・ベニボタル科などに近縁で，ともにホタル上科を形成している。日本に産するものは，ジョウカイボンのほか，アオジョウカイ・キンイロジョウカイ・ウスチャジョウカイ・セボシジョウカイ・クビアカジョウカイなどがある。〔鈴木邦雄〕

しょうかき 【消火器】 消火剤を充塡(じゅうてん)し，火災の初期消火に用いる可搬式の

器具。種類には水消火器・酸アルカリ消火器・強化消火器・泡(あわ)消火器・粉末消火器・一塩化一臭化メタン消火器・二臭化四フッ化エタン消火器・炭酸ガス消火器などがある。消火器の性能は，一定規模の模型火災で実験的に確かめられ，能力単位(1～20)で表わされ，能力単位と，適合する火災の種類(A火災：紙・木材などの一般火災，B火災：油類の火災)を組み合わせてA10，B8のように明示してあり，国の検定合格のマークもついている。

消火器の中には，0℃以下の低温で凍結したり，長い間には変質分解を起こしたり，充塡圧力が低下したりするものもあるので，専門家による定期的な整備点検を行なう必要がある。〔矢筈野義郎〕

しょうかきけい【消化器系】口から肛門(こうもん)までの内胚葉(ないはいよう)性の器官系。管状の口腔(こうこう)・食道・胃・小腸・大腸と，内壁の陥入によって独立器官として発達した唾液腺(だえきせん)・肝臓・膵臓(すいぞう)のような*腺からなる。消化管の一般構造は粘膜・筋層・漿膜(しょうまく)または外膜からなり，消化・吸収・排泄(はいせつ)機能を営む。

しょうがく【小学】もと，中国古代に士人は8歳で入学し，士としての初等教育(礼・楽・射・御・書・数)を受けた所をいう。この意味が転じて，のちには経*書を読解するための文字・音韻・訓詁(くんこ)の学を〈小学〉とよぶに至った。また，宋(そう)の朱*子がこの初等教育の意味をとって児童のための儒教的道徳教科書をつくらせた。これが《小学》で，全6編。日本でも江戸時代に藩校や私塾(しじゅく)で広く用いられた。

じょうかく【城郭】⇨城

じょうがくじ【定額寺】古代，一定の数を限り官*寺に準じて定められた寺格の一種。起源は7世紀末，私寺乱立の弊を止めるため，朝廷が従来の造寺奨励から寺院整理の方針に転換し，諸寺の名を定めたことによる。奈良時代諸国の私寺は寺格の維持向上を目的に競って定額寺となることを請い，10世紀末までには50を数えた。しかし13世紀末には有名無実となり，ついに廃絶した。➔寺院

しょうがくしょうか【小学唱歌】⇨唱歌

しょうがくせいど【奨学制度】⇨育英制度

しょうがくぼう【正覚坊】⇨アオウミガメ

しょうかこう【松花江】スンホワ川 中国，東北地方を流れる川。全長1,900km。満州語名はスンガリ川。長白山脈に発して北西に流れ，嫩江(のんこう)を合わせて東流し，呼蘭河(こらんが)・牡丹江(ぼたんこう)などを入れてソ連国境に近い同江付近でアムール川(黒龍江(こくりゅうこう))に合流する。東北地方北部を貫流する大動脈で，沿岸には吉林・扶余・ハルビン・チャムスなどの地方中心都市が分布している。年間約200日の可航期間には小汽船が往来する。吉林上流24kmには豊満ダムが建設され，豊満発電所の出力は63万kWで，人造湖松花湖がある。〔船越昭生〕

しょうかこうそ【消化酵素】食物を消化する酵素の総称。食物は主としてタンパク質・脂肪・炭水化物からなるが，それらを構成成分にまで分解する反応を触媒している。この反応は一般に加水分解である。細胞外消化を行なう多細胞生物では，消化器が発達し，消化酵素は消化*腺(しょうかせん)から分泌される。分化の進んだ消化器では，それぞれに特有な消化酵素が分泌され，したがってそこで分解される食物の種類も定まっている。消化酵素の中には，トリプシノゲン・キモトリプシノゲン・ペプシノゲンなどのように不活性な酵素原としてたくわえられ，分泌されてから活性をもつようになるものもある。

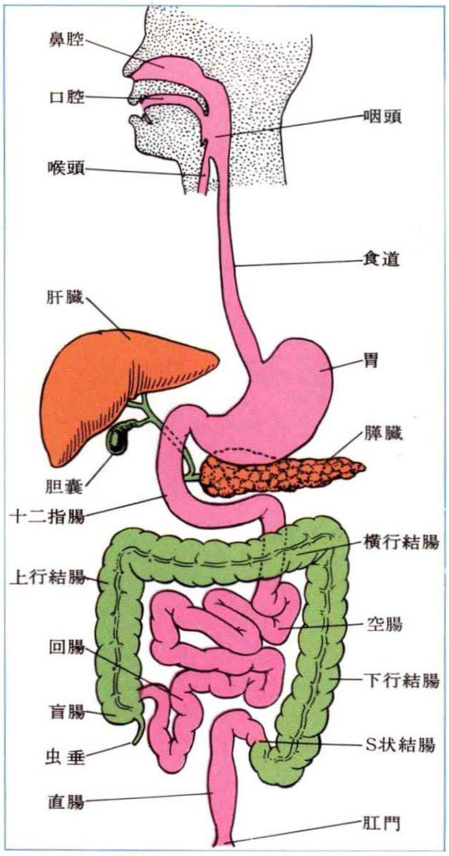
①タンパク質分解酵素：ペプシンは胃腺から分泌され，タンパク質をペプトンにまで分解する。トリプシン・キモトリプシンは膵臓(すいぞう)から十二指腸へ分泌され，タンパク質・ペプトンをポリペプチドにまで分解する。アミノペプチダーゼ・ジペプチダーゼは小腸に分泌されて，ポリペプチドをアミノ酸にまで分解する。こうしてタンパク質はアミノ酸にまで分解されてから吸収される。

②炭水化物分解酵素：唾液腺(だえきせん)から分泌されたアミラーゼはデンプンをマルトースにまで分解する。この酵素作用は胃液の塩酸で止められる。膵液中のアミロプシンもアミラーゼと同じ作用をもつ。腸液中のスクラーゼはショ糖を果糖とブドウ糖に，マルターゼはマルトースをブドウ糖に，ラクターゼは乳糖をガラクトースとブドウ糖にそれぞれ分解する。炭水化物は構成単糖類に分解されてから吸収される。シロアリやフナクイムシは消化管の寄生生物によって分解されたセルロースを利用している。

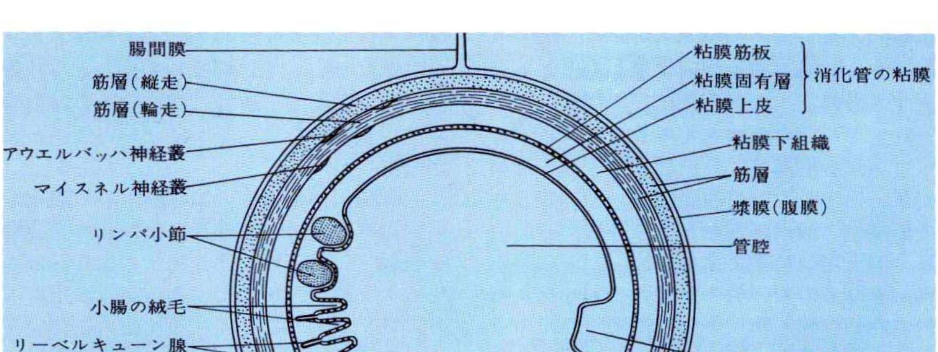
③脂肪分解酵素：膵液中のリパーゼは胆汁酸(たんじゅうさん)によって活性化され，脂肪を脂肪酸とグリセリンに分解する。レシチンはレシチナーゼによって，脂肪酸・グリセリン・リン酸・コリンの構成成分に分解される。

核酸も膵液中の酵素によってそれぞれのヌクレオチドにまで分解される。こうして構成成分にまで分解された食物は，小腸で吸収される。➔消化〔原野友之〕

しょうかさいきん【硝化細菌】土壌(どじょう)中で有機物の分解によって生じたアン



消化器系



消化器系 消化管の一般構造



城ヶ島
城ヶ島大橋を渡った対岸は三崎港。島にも対岸の半島部にも細かい入り江が刻まれ，背後に平坦な海岸段丘が発達している

モニアを好気的に酸化して亜硝酸にする亜硝酸菌(ニトロソモナスなど)と，亜硝酸をさらに酸化して硝酸にする硝酸菌(ニトロバクターなど)の２群を合わせて硝化細菌という。これらの細菌は土壌中の表面近くに生存しており，この両者の作用が重なって硝化*が行なわれる。硝化細菌は硝化作用によって生成するエネルギーを用いて炭酸同化*を行なう。

じょうがしま　【城ケ島】　神奈川県，三浦半島の南西端，三浦市三崎港の前面にある東西1.8km，南北200～300mの小島。第三紀凝灰岩を基盤とする高さ30m内外の台地状の地形で，南岸は絶壁をなし，ウミウの生息地として知られ，海食洞(かいしょくどう)も多い。1808年(文化５)には浦賀奉行(ぶぎょう)によって東端に砲台が築かれ，1870年(明治３)には西端に燈台が設けられた。観光地として行楽客が多く，1960年(昭和35)の城ケ島大橋の完成，1966年の京浜急行電鉄の三浦海岸駅までの延長後は特に便利になった。１月には自生の八重咲スイセンが開花して美しい。北原白秋*の《城ヶ島の雨》の詩で有名になり，城ヶ島大橋のたもとにその詩碑がある。〔浅井得一〕

しょうかせつび　【消火設備】　火災時に自動的に水・あわ・粉末・蒸発性液体・不燃性ガスの消火剤を放射することにより消火する設備。水の場合には，スプリンクラーヘッドから自動放水するものと，水噴霧ヘッドから噴霧状に自動放水するものとがある。いずれも火災感知部分・起動部分・放射部分と消火剤容器とからなりたっている。消火剤の特徴によって消火できる対象物が異なるので，消火設備の有効性を，建物の内装材料・防火区画に関連づけてある。

しょうかせん　【消化腺】　消化酵素*を含む消化液を分泌する腺組織。消化管に付属し，脊椎(せきつい)動物では肝臓や膵臓(すいぞう)のような大きな臓器が腸に開口している。これらの臓器をはじめ，一般に消化腺は発生上は腸などの消化管に由来する。

①唾液腺(だえきせん)：口腔腺(こうこうせん)のうち，唾液を分泌するもの。爬虫(はちゅう)類以上の高等動物で発達するが，一部の無脊椎動物にも存在する。哺乳(ほにゅう)類では耳下腺・顎下腺(がくかせん)・舌下腺がある。アミラーゼ・マルターゼを分泌するが，排出管の途中で塩化ナトリウムを分泌してこれらの酵素を活性化する。耳下腺内に分泌された唾液は血液中に移行し，ホルモン作用を現わすといわれる。



松下村塾

②胃腺：哺乳類では噴門腺・幽門腺・胃底腺の区別があるが，いずれも胃液を分泌する。胃中の食物の消化産物による刺激で，幽門部にガストリンができる。ガストリンは血中にはいって胃腺を刺激し，さらに胃液の分泌を促す。胃腺の壁細胞からは塩酸が，主細胞からはペプシノゲンとリパーゼが分泌される。

③肝臓：脊椎動物の消化腺として最大の器官。発生上は十二指腸に由来する。胆液を合成し，輸胆管を通じて十二指腸へ分泌する。肝臓は腺組織ではあるが，消化によって取り込まれたアミノ酸・糖・脂肪の多くがここを通るなど，栄養に関係の深い代謝の中枢であり，その他解毒作用など多くの仕事をもっている。

④膵臓：膵液を分泌する外分泌部とインシュリンを分泌する内分泌部とに分かれ，エネルギー代謝の調節を行なっている。膵液は膵管を経て十二指腸へ分泌される。膵液は多種類の消化酵素を含み，多くの物質を分解するが，その分泌は迷走神経の支配を受け，またセクレチンによっても促進される。セクレチンは胃液の塩酸によってプロセクレチンが活性化されたもので，血液にはいって膵臓を刺激する。

⑤腸腺：小腸の腸壁に含まれ腸液を分泌する。十二指腸の腸壁には，ほかにブルンネル腺もあるが，この分泌物中にはあまり酵素が含まれていない。➔消化〔原野友之〕

しょうかせんしゅ　【松果腺腫】　脳の松果体*に発生する腫瘍(しゅよう)。10歳代の男児に多くみられ，脳腫瘍としての一般的な症状が現われるのはもちろんであるが，身体および性器が年齢不相応に早熟となり，第２次性徴*が発現して成人のような子どもができるのが特徴的である。異常な肥満を呈することもあり，正常な子どもより精神的にも早熟となる傾向がある。原因は種々の説があり確定していない。治療法としては，放射線療法も行なわれ，ときに効力をもつこともあるが，腫瘍を摘出する外科手術による療法が最も効果的である。〔安沢龍徳〕

しょうかそんじゅく　【松下村塾】　幕末，吉田松陰*が教育にあたった私塾。長門(ながと)(山口県)萩(はぎ)城下の東郊松本村に所在し，はじめは松陰の叔父(おじ)玉木文之進が開いた私塾であったが，1855年(安政２)アメリカ密航の罪で萩に謹慎中の松陰によって《孟子*(もうし)》が開講され，以来有名となった。その教育法は，日常座臥(ざが)のうちに修業を通じて憂国経世の精神を養うにあったので，松陰の教育的情熱は若い門人に強烈な感化を及ぼした。1859年安政の大獄*で松陰が入獄してその教育は終わったが，門人からは高杉晋作*(たかすぎしんさく)・久坂玄瑞*(くさかげんずい)・伊藤博文*(いとうひろぶみ)・前原一誠*・品川弥二郎*(やじろう)ら幕末・明治に活躍した多くの人材を輩出した。遺宅は萩市の松陰神社に保存されている。〔高崎徳次〕

しょうかたい　【松果体】　間脳(➔脳)の後上方に突出した長さ５～８mm，幅３～５mmの無対の小体で，松果腺(せん)または上生体ともいう。松果体細胞(主細胞)と間質細胞(神経膠(こう)細胞に相当)のほかに無髄神経繊維(➔神経繊維)が豊富にあり，炭酸・リン酸カルシウムからなるクワの実状の凝固物(脳砂)がみられる。松果体のホルモンはまだ不明の点が多いが，①卵巣に対して抑制的に働き，初潮をおくらせ早熟を防ぐ，②成長の抑制，③ACTH*に対する作用などが認められている。〔幡井勉・橋本長〕

しようかち　【使用価値】　人間のなんらかの種類の欲望を満たすのに役だつ財貨の有用性または効用をいう。たとえば米は人間の食欲を満たすのに役だち，ストーブは暖まりたいという欲望を満たすのに役だつ。このように，その財貨の自然的性質からくる物の有用性が使用価値である。したがって，それは人間の技術・科学の発達によって開発されるが，物そのものを離れてはあ

りえないものであるから，使用価値は有用性をもった物そのものを意味する。なお，商品の使用価値は，単なる個人的主観にとっての有用性・有用物ではなく，客観的に社会的な存在であるところに特徴があるとされている。〔常盤政治〕

しょうがつ【正月】暦その他でいわれる年月の初めであり，季節の循環するごとに播種(はしゅ)から収穫をくり返す年穀の稔(とし)の初め。農耕民族では，種をまく(特に米)直前や，穀物霊を迎えるとき(2～4月)が正月であったといわれている。暦の普及した民族，および太陽や月の位置，欠満に時節の折りめの基準を設けている民族では，正月をそれぞれの基準で定めている。

日本では，正月はさまざまな年初行事が行なわれるが，元日を中心とする大正月と，15日を中心とする小正月の二つの部分に分けられる。古くは月日の変わりめを月の満ち欠けにたよっていたので，太陰暦の1月15日が1年のはじまりであった。この15日の満月祭が最も中心的な年初行事の行なわれる日であったのが，元日にそれが移行したあと，元日と15日の行事が併存することになった。したがって元来年初行事は15日を中心としており，15日を中心に一括総合して考察されねばならない。

現在，大正月に結びついているおもな行事は，若水迎え*・雑煮*・門松*・注連縄(しめなわ)・年神*・年玉*・仕事始め・七日正月などがあげられる。一方小正月に結びついているおもな行事は，①成木責め*・庭田植など，作物の豊稔をあらかじめ祝う行事，②粥占(かゆうら)・鳥占などさまざまな年占*による年穀の豊凶の占い，③鳥小屋焼き・左義長*・かまくら*など火を燃して病気・災厄を払う行事，④なまはげ*・あまめはぎのように，扮装(ふんそう)した青年が各家を訪れる訪問者型の行事などが含まれ，1月20日に行なわれる二十日正月の行事をもって正月の行事は終了する。〔直江広治〕

しょうがっこう【小学校】初等普通教育を施す基礎学校。わが国の小学校は，1872年(明治5)の〈学制*〉によって下等小学4年，上等小学4年の4・4制の小学校として発足した。1886年の〈小学校令〉によって尋常小学4年，高等小学4年の4・4制となり，1907年の改正によって尋常小学校の修業年限が6年に延長，高等小学校は2年(但シ延長シテ三ケ年ト為(な)スコトヲ得)となった。1941年(昭和16)〈国民学校令〉によって国民学校となり，初等科6年，高等科2年とよばれるようになった。第2次世界大戦後，いわゆる六三制*が学校教育法により施行され，はじめの6年を小学校とよぶことになり，現在に至っている。

学校教育法によれば，小学校教育の目標は以下の8項目に分けられている。①学校内外の社会生活の経験に基づき，人間相互の関係について正しい理解と協同，自主および自立の精神を養うこと。②郷土および国家の現状と伝統について，正しい理解に導き，進んで国際協調の精神を養うこと。③日常生活に必要な衣食住，産業などについて基礎的な理解と技能を養うこと。④日常生活に必要な国語を正しく理解し，使用する能力を養うこと。⑤日常生活に必要な数量的な関係を正しく理解し，処理する能力を養うこと。⑥日常生活における自然現象を科学的に観察し，処理する能力を養うこと。⑦健康・安全で幸福な生活のために必要な習慣を養い，心身の調和的発達を図ること。⑧生活を明るく豊かにする音楽・美術・文芸などについて，基礎的な理解と技能を養うこと。このことからもわかるように，小学校は日常生活に必要な各種の能力を養うことが本義とされ，それに達するために，現状においては国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・家庭および体育の各教科と，道徳・特別教育活動・学校行事から教育課程を編成することになっている。このような教育課程のあり方は，時代によって異なり，明治初期には10教科以上のものが課せられたり，また戦前の修身という教科の存在からも類推しうるように，その時代の要請するあり方によって教育課程が揺れ動いた。



正　月（上)田植えを模擬的に行ない，豊作を祈願する庭田植え　秋田県仙北郡　(中)子どもたちが〈ホトホト〉と唱えて戸ごとを訪れ，祝儀をもらうホトホト　岡山県新見市　(下左)年男によってくまれる若水　秋田県横手市　(下右)農作物の豊凶を占う粥占　埼玉県大宮市

小学校は，満6歳(学齢)に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから，満12歳に達した日の属する学年の終わりまで就学させることになっている。つまり，6か年間は小学校に在校する義務があるので，必ずしも6学年を終えることを義務づけているわけではない。

以上のような義務としての小学校の存在は近代以降のことであり，世界の先進国においても，ほぼ19世紀において実現したもので，それまでは小学校教育も階級的な，私的な存在として両親あるいは父兄の任意にゆだねられていた。このことから近代国家の一つの指標として，義務就学制度が存在するか否かを論ずることができる。〔浜田陽太郎〕

しょうかふりょう【消化不良】食物の機械的な刺激や，その食物の腐敗・発酵という化学的な刺激，あるいは腸管壁の炎症などによって起こる状態。腸の働きが異常に高まり，腸液の分泌が促進し，腸の粘膜が過敏になるため，腹痛・下痢・吐き気・嘔吐(おうと)などを起こし，また熱を出す。下痢がひどい場合には脱水状態となって体液のバランスが乱れ，不安・興奮・けいれん・虚脱状態などの重い症状が現われる。消化の悪いものを食べると消化不良性の下痢を起こし，冷たい飲みものを多量に飲んだとき，また膵臓(すいぞう)・胆嚢(たんのう)の病気などによって消化酵素の分泌障害が起きるとやはり消化不良性の下痢を起こす。食中毒*を起こす細菌や菌から出る毒素，赤痢菌，チフス菌，コレラ菌などによるものでは激しい症状が現われる。その他，精神的ストレスによっても精神性下痢が起きることがある。〔清水紀博〕

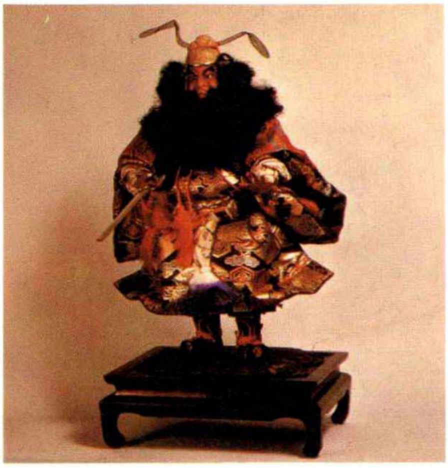
じょうかまち【城下町】城郭を中心としてその周囲に発達した町。中世には堀ノ内(ほりのうち)・根小屋・山下などとよばれていたが，近世にはいり城下町と一般に称されるようになった。中世末期，領主が大領土をもつようになると，大内氏の山口，北条(ほうじょう)氏の小田原，武田(たけだ)氏の甲府，今川氏の府中，上杉(うえすぎ)氏の春日(かすが)山など領国の中心地としての城下町が出現した。のち戦術の変化や領国支配の便宜などから城郭は山地から平地に移り，兵農分離・商農分離により領主の直属家臣団が城下に集中され，さらに商工業者が集まって形成した。領主は城下町の発展を促進するため，人口の増加，農村部での商業禁止，地子銭免除などの助成策をとった。多くの城下町に

おいては同身分・同職業の者が集団的に居住し，城の周辺には武士階級の居住する広大な侍町，その外辺に商工業者の居住する密集した町屋(町人町)がある。城下町は堀や土塁で囲まれ，主要道路は屈折し，また寺院は城下町防衛の軍事的見地から配置されるなど軍事的・防備的施設としての機能をもっていた。また城下町は領国支配，領国内での物資の流通・交易など政治・経済・交通の中心となり，消費都市・商業都市・工業生産都市の性格をもつようになった。17世紀前半に幕藩体制が成立するとともに城下町も急速に整備され，江戸・金沢・名古屋・広島・鹿児島・岡山・仙台(せんだい)などは，近世以後もそれぞれの地方の代表的都市となっている。➔城　〔松尾　涼〕

しょうかやく【消化薬】食物の消化を助けるために用いる薬。消化液の分泌や胃腸の運動亢進(こうしん)を促進させたり，少量のアルカリのように反射的に酸を分泌させたりして間接的に消化を助けるものと，消化酵素や酸のように消化液の不足を直接に補うものとがある。消化酵素は動物体内に存在するトリプシン・パンクレアチンのほか，かび・細菌から発見されたジアスターゼのように，胃腸内の酸度・異物・粘液などの種々の条件の広い変化の中で糖・タンパク・脂肪などを分解できるものを用いる。〔伊藤隆太〕

しょうかわ【庄川】岐阜県北部，飛騨(ひだ)山地の鷲ケ岳(わしがたけ)を水源とする白川が両白山地の間を峡谷をなして北流し，富山県にはいって庄川と名を変え，山間部を出ると礪波(となみ)平野を通って富山湾に注ぐ。もと河口近くで小矢部(おやべ)川が合流していたが，いまは分離している。流程133km。河口から上流までの流域一帯は，近年飛越総合開発特定地域に指定され，農・林・発電・工業の開発を目的とした動きが，従来山奥の隔絶村として知られた地域の姿を一変させた。北陸地方における電力の宝庫といわれ，下流から上流へ向かって小牧・祖山・小原(以上富山県)，成出・椿原(つばきはら)・鳩ケ谷(はとがや)・御母衣(みほろ)(以上岐阜県)などのダムが続き，中でも御母衣発電所(最大出力21.5万kW)はこの水系最大の規模である。また，これらのダムによる人造湖の風景が観光客を集めるようになり，小牧ダムによる大牧湖は庄川峡ともよばれ，大牧温泉とともに著名である。中流の五箇山(ごかやま)と上流の白川郷はかつて隔絶村として知られ，大家族制と合掌造りの民家で有名だったが，いまは昔のおもかげを残すのみになった。〔長津一郎〕

しょうかん【小寒】二十四気の一。陽暦の1月5日ごろにあたる。太陽黄経は285°。いわゆる寒の入りで，この日から節分までを寒の内という。北海道のオホーツク海沿岸では結氷が始まり，流氷がやってくる。一方，太平洋側の地方では空気の乾燥が著しい。また〈小寒の氷大寒に解ける〉のことばどおり，このころもっとも寒気のきびしい年もある。



鍾　馗

しょうかん【召喚】刑事裁判の手続きを進める場合，裁判所(急を要するときは裁判長・裁判官)が，出頭に応じない被告人または証人に対して，裁判所またはその他の場所に呼び出す強制処分のこと。召喚状を発し，これを送達するのが原則である。召喚に応じない被告人は，実力で勾引(こういん)される。また証人の場合は，過料などの制裁が加えられる。

じょうがんきゃくしき【貞観格式】三代格式の一。格は869年(貞観11)藤原氏宗(うじむね)らが撰進。全12巻。弘仁(こうにん)格のあとを受けて819年(弘仁10)以降，868年に至る49年間の詔勅・官符類を編集したもの。式は格と同じく藤原氏宗らが主となり871年に撰修。全20巻。弘仁式(➝弘仁格式)の成立以後，改変した部分について編集したもので，弘仁式と並び行なわれた。

じょうがんじがわ【常願寺川】富山県東部，飛騨山脈中の立山連峰西斜面の水を集めて西流し，富山平野を北上して富山市東部を流れ，富山湾に注ぐ。流程56km。平野部に大きな扇状地を形成し，かつては荒れ川であったがいまは富山平野東部の灌漑用(かんがいよう)水源になっている。上流の急流部では電源開発が行なわれて，和田川第2発電所(最大出力12.2万kW)などがあり，水源の近くには有峰ダムがある。立山信仰の登山路は雄山神社のある岩峅寺(いわくらじ)からこの川に沿い，御師(おし)部落の芦峅寺(あしくらじ)を通って雄山(立山の一峰)に通じている。現在このルートには富山市から電車・ケーブルカーや立山登山道路(有料道路)を通るバスが通じており，無雪期には容易に室堂に達しうるので，登山者のみならず一般観光客でにぎわっている。〔長津一郎〕

じょうがんじだい【貞観時代】⇨弘仁(こうにん)・貞観時代

じょうがんのち【貞観の治】中国，唐の太宗の貞観時代の治世。理想的な政治が行なわれ，後世の模範とされた。太宗は隋(ずい)末，唐初の混乱を収拾し，均田制・府兵制を骨子とするいわゆる律令(りつりょう)体制の確立に努力した。また，政治感覚，才能に恵まれ，包容力をもち，多くの名臣・名将を輩出した。周辺民族の征服にも成功し，唐300年の基礎を固めた。

しょうかんのん【聖観音】観音の一。梵語(ぼんご)Ārya-avalokiteśvara(アールヤ-アバローキテーシュバラ)の訳。正観音とも書く。はやくから阿弥陀(あみだ)如来の補処(ふしょ)(候補)の菩薩(ぼさつ)として現われ，浄土経典では阿弥陀如来の脇侍(きょうじ)として勢至菩薩と並び，極楽浄土で師仏を補佐すると説かれる。密教に至って千手(せんじゅ)観音・十一面観音など多くの観音が出現するに及び，〈聖〉をつけて観音の正体本身を意味するようになった。形相は白肉色で，無量寿仏を頭にいただき，瓔珞(ようらく)をたらす。右手は手のひらを外に向け，ひざまでたらした施願印(➝印契)か肩の高さにあげた施無畏印(せむいいん)をつくり，左手に蓮華(れんげ)をもつ。現存する逸品はきわめて多い。〔北条賢三〕

しょうかんろん【傷寒論】中国最古の薬物療法の処方解説書で，後漢末の張仲景の作とされている。傷寒とは急性の熱病(感染症)である。約90種の薬剤を組み合わせた120の処方が紹介されており，この処方を運用するに必要な傷寒の病態生理を展開し，各処方が適応する病人の体質や病気の時間的変化などの条件を細かく規定している。現在でも漢方の世界では特別に尊ばれ，学習されている。

しょうき【沼気】⇨メタン

しょうき【鍾馗】中国の疫病除け・避邪の神。さまざまな伝説があるが，一説では，唐の玄宗が病臥(びょうが)しているとき，夢まくらに多髯(たぜん)で黒冠をかむり，軍靴(ぐんか)をはき，右手に剣を持った鍾馗と名のる者が現われ，悪鬼を退治した。皇帝が夢からさめると病気はなおっていたので，画家に命じて夢に見た姿を描かせた。これが，年の暮れに魔除けとして鍾馗像を門戸にはる風俗の起こりであるという。のち，年の暮れではなく，端午に避邪符としてはるように変化した。日本にもこの風俗は伝わって，現在でも端午の節供には，鍾馗像ののぼりを立てたり，五月人形につくって病除けの守り神としている。〔渡辺欣雄〕

しょうき【笑気】亜酸化窒素N_2Oのこと。麻酔剤として用いられ，麻酔時に精神高揚感と笑いが起こることがあるため，この名がある。➔麻酔　➔酸化窒素

しょうぎ【床几】移動用の腰掛け。古くは地下(じげ)の用いた具であったが，のち武家の間で軍陣に際しての主将の腰掛けとして用いられた。上位の宮人が用いた方形の板の床に四つ足をつけた〈床子〉に対して長さ1尺5寸(45.45cm)，横を8寸とした

木のわくを2個交互に組み合わせて，中央の合わせ目を金具で留め，上部に腰当たりの布をつけ，折りたたみできるしくみになっていた。

しょうぎ【将棋】 古くは象棋とも書いた。将棋盤と駒(こま)を用いて，2人がルールに従って交互に駒を動かし，先に相手の玉を詰めた者を勝ちとする遊戯。

【起源・歴史】日本将棋のみならず，中国将棋やチェス*など同種のゲームの母体は，数千年前にインダス川流域に生まれた，チャトランギを祖形としたと伝えられる。チャトランギとは古代インド語で全軍，すなわち歩兵軍・騎馬軍・戦車軍・ゾウ軍を意味する。したがって，今日世界各国で行なわれている将棋は，これにそれぞれの国の歴史的・民族的特色を加えた構成になっている。わが国には奈良時代に遣唐使吉備真備(きびのまきび)によって伝えられたといわれる。当時の将棋がどのようなものであったかは明らかでないが，小象棋(縦横各9目，駒46枚)・中象棋(縦横各12目，駒92枚)・大象棋(縦横各15目，駒130枚)のほか，大々象棋(縦横各17目，駒192枚)・摩訶(まか)大々象棋(縦横各19目，駒192枚)・泰象棋(縦横各25目，駒354枚)などが平安時代に貴族の間に盛んに行なわれた。このうちの小象棋が，室町時代に現行の将棋の原型となったといわれる。戦国時代を経て江戸時代にはいると，将棋はにわかに盛んとなった。江戸幕府は寺社奉行(ぶぎょう)の統括のもとに，織田信長(おだのぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川家康(いえやす)らに将棋をもって仕え，信長から桂(けい)の字を名に賜わった大橋宗桂を将棋所の司に任じた。宗桂は1世名人に就位し，将棋家元制が起こった。1636年(寛永13)宗桂の子宗古により，今日行なわれるルールや禁じ手が成文化され，将棋の型は完成したといってよい。明治期になると，幕府の崩壊とともに，家元制も消滅し，1935年(昭和10)第13世名人関根金次郎によって一代名人制が廃止され，画期的な実力名人戦が行なわれることとなった。現在，専門棋士は，A・B・Cの各級にランキングされ，A級第1位を名人への挑戦(ちょうせん)者とする〈順位戦〉が行なわれている。名人戦は1年を1期とし，5期連続名人位保持者を永世名人とする。第14世木村義雄(よしお)名人に次いで，大山康晴*(やすはる)が第15世名人の称号を得ている。

【競技法】2人が盤をはさんで向かい合い，駒を図-2のように並べる。駒は玉将(玉)または王将(王)・飛車(飛)・角行(角)・金将(金)・銀将(銀)・桂馬(けいま)(桂)・香車(きょうしゃ)(香)・歩兵(歩(ふ))の8種，2組みで40個があり，それぞれ独自の動き方がある(図-3，図-4)。駒はきき筋(動ける位置)にある相手の駒を取ることができる。取った駒は持駒といい，自駒として，再び盤上に打ち込んで使うことができる。これを〈駒をはる〉といい，日本将棋の特徴である。これは，同民族どうしのわが国の戦いを反映したルールとして，日本将棋を変化に富むゲームにしている。また，玉・金を除く駒は，相手の陣地内に進むと，裏返して，きき筋を変えることができる。これを〈成る〉といい，成銀(なりぎん)・成桂・成香・成歩(〈と金〉または〈と〉)は金と同じ動きに，飛と角はそれぞれ玉の動きを加えて，飛は龍王(りゅうおう)(龍)，角は龍馬(馬)と名を変える。成る，成らぬは任意であるが，おおよそは成ったほうがよい。なお，成った駒が相手方に取られた場合は，その駒はもとの動きに帰る。駒のおもな性能を述べると，銀・桂などの場合，成らずに使うことも利点が多い。金銀3枚は玉の守りに，銀は進退自在な攻め駒として，飛は敵陣に，角は自軍に，それぞれの駒の特質を生かし，遊び駒をつくらず，すみやかに詰めるよう心がける。

【規則】①禁じ手(図-5)：㋑味方の歩のある縦筋に，さらに歩をはること。二歩という。㋺行き場のない駒をはること。死に駒という。㋩打ち歩詰め。歩をはって玉を詰めること。ただし，盤上の歩を突いて詰めるのはよい。②千日手：双方がその一手以外の手をさすと，不利になるので，同一の手順をくり返すこと。3度くり返した場合，千日手さし直し。ただし連続王手の場合，王手をかけているほうが手を変えなくてはならない。③持将棋：双方の玉が共に相手陣地内にはいり(入王)双方とも相手を詰ませることができなくなる場合。勝負は駒数による判定となる。

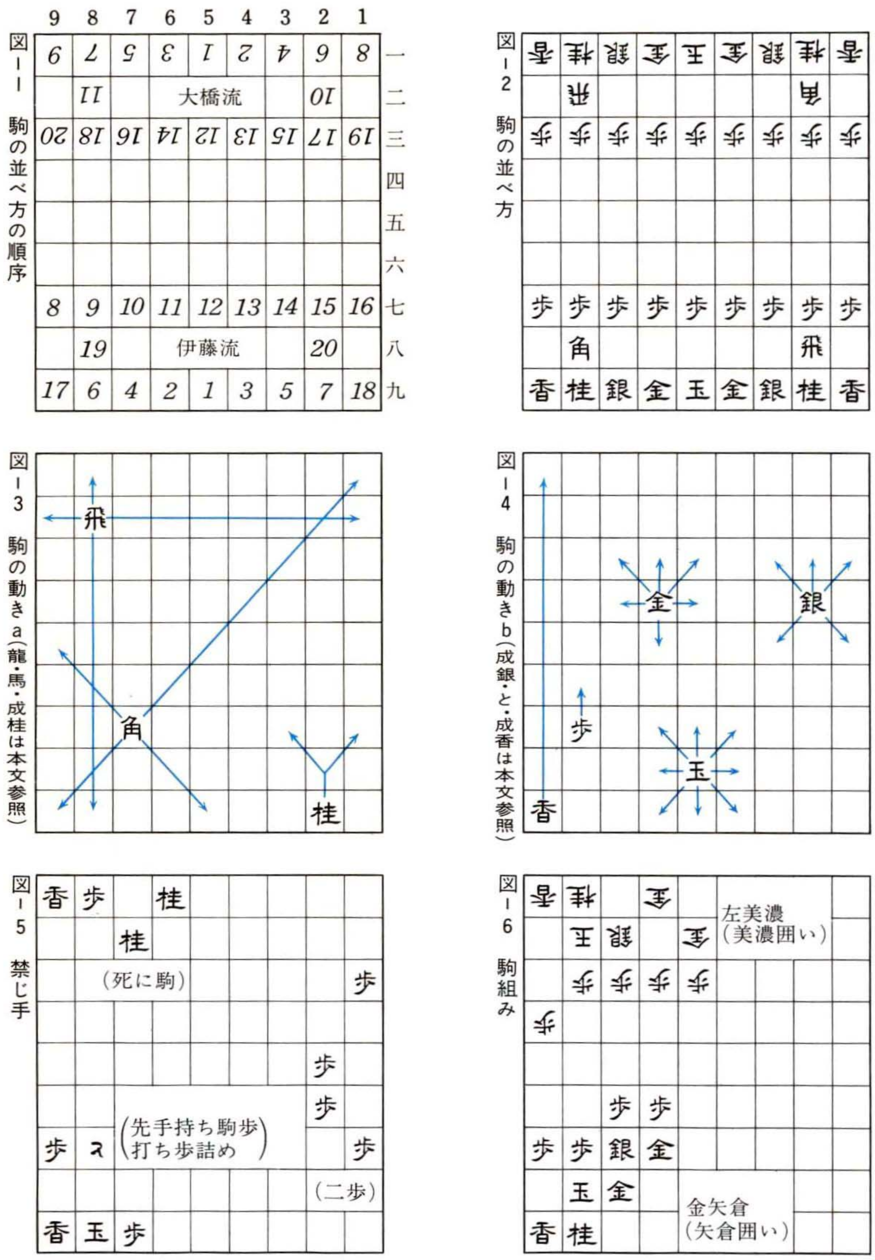


図-1 駒の並べ方の順序
図-2 駒の並べ方
図-3 駒の動きa(龍・馬・成桂は本文参照)
図-4 駒の動きb(成銀・と・成香は本文参照)
図-5 禁じ手
図-6 駒組み

将　棋

将棋の用語

間駒・合駒　敵の駒のききをさえぎるために置く駒。おもに王手を防ぐ場合に使われる。間(あい)をするなどという。

位取り　歩を進めて自軍の勢力を拡張し，駒さばきの自由な攻撃態勢をつくること。天王山の位取りなどがある。

腰掛け銀　5筋の歩の頭に銀が出た形。角交換後の持久戦に，角の打ち込みを防ぐ味がある。

駒落ち　相互の実力に差がある場合，一方が駒を少なくしてハンディキャップをつけること。駒を落としたほうが先手。

駒組み　駒を攻め・受けにつごうのよいよう組み上げた形(図-6)。

さし掛け　勝負を一時中止すること。このとき，次の手を紙に書き，封じて立会人に預けるのを封じ手という。

さし切り　攻めすぎの結果，または，作戦負け・落手によって有効な攻撃手段がなくなること。

さばき　膠着(こうちゃく)状態にある局面の駒を動かし，交換・衝突させて局面を打開すること。

質駒　必要に応じて取りうる敵の駒。その駒を使って決定的に有利になる場合にのみ取るので，質駒になっているほうが不利。

定跡　駒組みに至る一定の駒の動かし方。よいとみなされている手順。

筋違い角　角交換後，角本来のきき筋でない筋に角を打つこと。序盤で四5または六5に角を打つ戦法がある。

素抜き　敵駒のきき筋にある自駒が動いたため，たいせつな駒が取られること。

垂れ歩　敵陣第4線に，次に第3線に進んでなれるように歩を打つこと。歩を垂らすともいう。

継ぎ歩　同一筋の敵歩の頭に連続して歩を打ち込む筋。飛車または桂を次に使う攻撃手段。

手順　前の手の意味を継いだ当然の手。ある目的のためにさす一連の手。

手将棋　序盤から定跡を踏まずに戦いにはいる将棋。

とん死　単純な手を見落として，自玉があっけなく詰んでしまうこと。

はめて　相手の虚に乗じて，術中におとしいれる手。相手に悟られると逆に不利になる場合が多い。

必至・必死　次に詰む状態で，防ぐ手段のないこと。〈詰めより必至〉ともいう。

落手　気づかずに悪い手をさすこと。

両取り　一つの駒で二つの敵駒に同時にとりをかけること。王手飛車などがある。

寄せ　相手の玉を直接追いつめること。寄せの目的は，必至をかけることと詰ますことである。

〔棋士〕専門棋士になるためには，まず日本将棋連盟*の所属棋士に弟子(でし)入りすることが必要となる。棋力(20歳前にアマチュア4段程度の棋力が必要)，年齢，健康，性格，両親あるいは親権者の承諾などの条件が整うと，1年に2回行なわれる日本将棋連盟の棋士養成機関〈奨励会〉への入会試験を受けることができる。ここで4段になると，はじめて一人まえの棋士として認められ，各棋戦へ出場，月給と対局料が支払われる。しかし，将棋のアマとプロの差は厳然たるものがあり，アマで3段・4段といわれても，奨励会では〈級〉と評価されることが多い。また，30歳までに4段に上れない者は昇段試験の権利を失う。現在，約80人の奨励会員がしのぎを削っているが，専門棋士への道はきびしいといわねばなるまい。　〔坂口允彦〕

じょうき　【蒸気】　普通の条件のもとでは液体や固体である物質が，蒸発または昇華*して気体となったもの。水の蒸気を水蒸気というが，水蒸気を単に蒸気という場合が多い。蒸気の示す圧力を蒸気圧*という。液体が蒸気に変わると，その体積は著しく増し，またその蒸気圧は温度を高めるほど増大する。この性質を利用して，熱エネルギーを動力に変えるのに蒸気が使われる。その代表的なものが蒸気機関や蒸気タービンである。液体は無制限には蒸発しないが，温度が高いほど，また蒸気に加えられる圧力が強いほど高い限度まで蒸発して蒸気に変わる。与えられた条件のもとで最大限度まで蒸発した蒸気を飽和蒸気*といい，このときの蒸気圧を飽和蒸気圧という。液体が自分自身の蒸気と共存して平衡を保っている場合，その蒸気は飽和蒸気となっている。蒸気に加えられる外部からの圧力と蒸気圧とが等しくなる温度が，その液体の沸騰点*である。単一組成液体に不揮発性物質をとかすと，蒸気圧はもとの液体のそれより低くなり，その結果溶液の沸点は液体のそれより高くなり，凝固点は降下する。この沸点上昇・凝固点降下の程度はとかした不揮発性物質の量と関係があり，分子量などを決めるのに利用される。　〔中野藤生〕

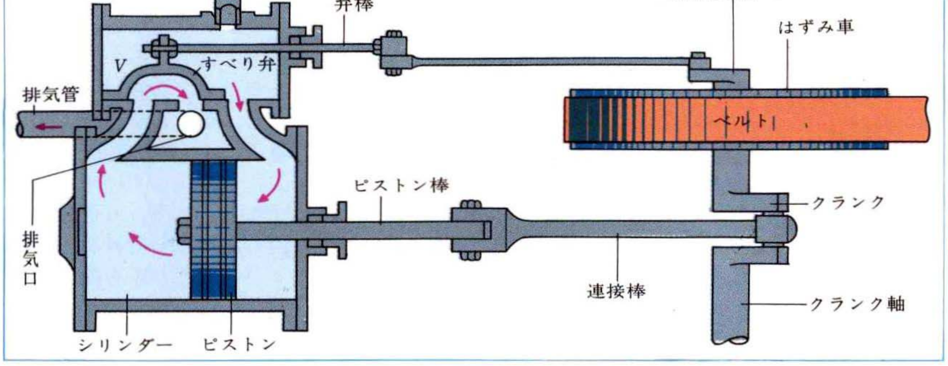
しょうぎかいほうれい　【娼妓解放令】　1872年(明治5)10月2日，太政官(だじょうかん)布告で発布された娼妓・芸妓・奉公人の人身解放令。この年7月横浜に来港したペルー船マリア-ルイズ号の中国人苦力*(クーリー)の訴えを受けた日本政府が，その解放を主張したところ，逆にペルー側から日本にも娼妓という一種の奴隷がいると反撃されたため，あわててその解放を布告した。しかし，営業場所を貸し座敷として提供しているだけで，娼妓・芸妓は独立営業を行なっているという雇主側の脱法口実を官憲も許容したので，実質的には解放令施行後も人身売買は行なわれ，娼妓公認の状態は続いた。この法令を契機として廃娼運動*が勃興(ぼっこう)した。　〔高崎徳次〕

じょうききかん　【蒸気機関】　ボイラーで発生した高圧・高温の蒸気をシリンダーに導いてピストンに作動させ，その膨張によって仕事をする熱機関。ピストンはシリンダー内を往復し，その運動はピストン棒・連接棒を介してクランク軸に伝えられ，回転運動に変えられる。シリンダーへの蒸気の供給，膨張した蒸気の排出はすべり弁がシリンダー側面のポートを開閉することによって行なわれる。

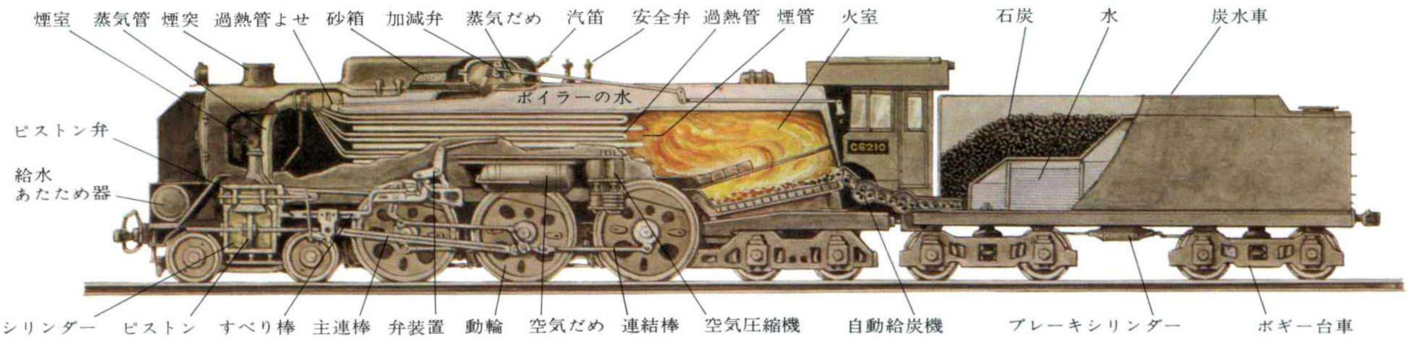
蒸気機関は始動直後の低速のときにも大きなトルクを発生し，静かで振動もなく，速度調節や逆転なども容易に行なえるので，機関車や船の主機関として適し，また工業用にも広く用いられていたが，熱効率が悪く，出力のわりに大きな設備を必要とするなどの欠点から他の熱機関にとって換わられ，その数は減ってきている。〔斎藤　孟〕

じょうききかんしゃ　【蒸気機関車】　往復蒸気機関を原動機とする機関車の一種。

〔歴史〕機関車の起源は，1769年フランスのクノーが普通の荷車に蒸気機関を取り付けて道路上を運転したのがはじまりである。機関車の製造は，1804年トレビシックによってはじめて成功し，1825年にG.スチーブンソンにより世界最初の営業用の機関車がつくられた。このときのロコモーション号は，イギリスのストックトンとダーリントン間61kmに登場したが，この機関車は16〜20km/時の速度で走った。1829年リバプールとマンチェスター間の鉄道が開業されたと



蒸気機関　すべり弁式蒸気機関構造図



蒸気機関車の構造　C-62


D 51


C 55


C 58


C 62


X 4019(ビッグボーイ)アメリカ

蒸気機関車

き，500ポンドの懸賞で機関車の募集が行なわれた。このとき，５両の機関車が応募したが，スチーブンソンの運転するロケット号が優勝した。当時この機関車は毎時46kmで走った。このように，機関車の起源はイギリスにあったが，その後の発達はアメリカの機関車工業によるところが大きかった。一方，日本においては，1854年(安政１)にペリー*によって機関車の模型がもたらされたが,運転が行なわれたのは1872年(明治５)に新橋～横浜間に鉄道が開通したときが最初で，ヨーロッパ・アメリカ諸国に遅れること40年であった。当時の機関車はイギリスからの輸入であったが，1887年にはアメリカからも輸入され，しだいにアメリカ製が多くなった。1893年，はじめて国産機関車が製造され，第１次世界大戦の突発により急激に発達した。しかし，近年に至り外国でもわが国でも電気機関車あるいは内燃機関の発達によってかつての王座をこれらに譲り，1974年(昭和49)ごろには全面的に姿を消す予定である。

【構造と種類】構造は次の各部分からなる。①ボイラー：燃料を焼やして蒸気を発生する装置。②機関部分：発生した蒸気のエネルギーを機械的運動に変える部分。③走行部分：車体を載せてレール上を走る部分で，動輪と台車とからなる。④台枠(だいわく)および構造部分：各部分をまとめて機関車を構成する骨格となる部分で，運転室も含む。⑤ばね装置：走行部分と台枠との間にあって重量伝達の仲介をなし，レールからの衝撃を緩和する装置。⑥ブレーキ装置。⑦引っ張り装置：車両を相互に連結するための装置。⑧補助装置：機関車の機能を有効にするために補助として設けられた装置。⑨炭水車：補給用の石炭および水を運搬するために設けられた車両。炭水車のないものはタンク機関車とよばれ，機関車の一部に石炭と水をたくわえている。

燃料の燃焼によってつくられた過熱蒸気は加・減弁ハンドルの調整でシリンダーにはいり，ピストン弁を前後運動させ，この往復運動は主連棒によって動輪に伝えられ，主動輪のクランクピンで回転運動に変換される。蒸気機関車の性能はボイラーの大きさと圧力，シリンダーの大きさ，動輪上重量および動輪径によって決まる。旅客用の機関車は一般的には力よりも速度が要求されるため動輪数は少なく動輪径が大きくなっている。逆に貨物用は動輪径が小さく動輪数が多くなっている。国鉄の蒸気機関車の記号表示は，動輪数に応じてアルファベットを当て，Aは１軸，Bは２軸……Dは



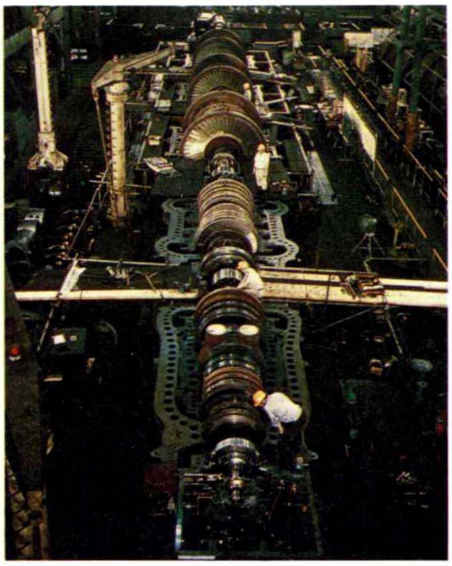
彰義隊
《彰義隊奮戦之図》
東京円通寺蔵

4軸となっており，また，型式によりタンク機関車には10～49を，テンダー機関車は50～99の数字をあてはめている。そして，そのあとの数字は製造番号を示す。たとえば，C6211機関車は動輪数が3軸で，62型式テンダー機関車の11号機関車であることを表わしている。

【蒸気機関車の効率】蒸気機関車の効率は動力発生の過程で損失があり，ボイラー効率(燃料を燃焼して蒸気を発生する場合の損失)・蒸気効率(蒸気がシリンダーで仕事する場合の損失)・機械効率(シリンダー内の仕事が動輪に伝わるときの損失)の積でふつう数パーセントになり，効率が悪い。〔三宅　良〕

しょうぎたい【彰義隊】 戊申(ぼしん)戦争中，江戸で官軍に抗戦した旧幕臣の一隊。1868年(慶応4)2月12日結成。鳥羽(とば)・伏見の戦いに敗れた徳川慶喜(よしのぶ)は江戸に帰り，上野の寛永寺に引きこもって恭順の意を表した。渋沢成一郎ら旧幕臣有志は，謹慎中の慶喜護衛，江戸市中の巡回警固を名目に寛永寺によってこれを彰義隊と称した。彼らは輪王寺宮(りんのうじのみや)(のちの北白川宮能久(よしひさ)親王)を擁して結束し，これに諸藩の脱走兵も加わってその数3,000余となった。官軍は慶喜に彰義隊解散を命じたが応ずるようすがないため，5月15日，大村益次郎(ますじろう)指揮のもとに総攻撃を行ない，これを数時間で壊滅させた。隊の生き残りは奥州に逃げ，あるいは品川沖に停泊中の榎本武揚(えのもとたけあき)の率いる軍艦に投じ，輪王寺宮は会津に脱走した。〔高崎徳次〕

じょうきタービン【蒸気タービン】 ボイラーで発生した高圧・高温の蒸気をノズルを通して噴出し，これをタービン翼にあてて翼車を回転する形式の熱機関。普通タービン翼は回転円板の円周上に多数植え込まれてリング状をなし，またノズルも複数個が1列に並べられている。タービン翼を2列にし，その間に固定翼を置いて，翼車の回転をおさえ，効率の向上を図ったのがカーチスタービンである。このように，蒸気の噴出による速度エネルギーを利用したタービンを衝動タービンという。これに対し，ガスが回転翼の間を流れるときに膨張するようにし，その羽根に対する反動力を利用したものを反動タービンという。これは比較的低圧の蒸気をも効率よく使用しうるので，大形のタービンでは高圧タービンの第1段にカーチスタービンを置き，低圧タービンに反動タービンを用いた形式がとられる。



蒸気タービン　タンデムコンパウンド型タービン。写真は，関西電力海南火力発電所60万kW発電機に連結されているもので，この型では日本最大

単純な形式のタービンはあまり熱効率がよくないが，タービン内で膨張途上の蒸気を取り出して再びボイラーへ送り，適当の温度まで再熱し，これをタービンにもどして再び膨張させるようにした再熱サイクル，タービン内で膨張の途中の蒸気の一部を抽出して，この蒸気によって復水器から出てくる低温の給水を加熱するようにした再生サイクルなどを用いるとその効率を高めることができる。

蒸気タービンは回転速度が高く，大量の蒸気を消化できるので，大きな出力を出すことができる。したがって火力発電所や船の主機関など大きな出力を要する機関の原動機として用いられる。またボイラーを併用するので比較的低質低廉の燃料が使用できる利点もある。〔斎藤　孟〕

しょうきゃく【償却】 会計手続き上，資産についてその取得原価の期間配分をなすことをいう。代表的なものは有形固定資産中の設備資産に関する減価償却であるが，そのほかに，無形固定資産の償却や，繰り延べ資産の償却がある。➔減価償却

じょうきゅうのらん【承久の乱】 1221年(承久3)後鳥羽(ごとば)上皇(➔後鳥羽天皇)らの討幕勢力が北条(ほうじょう)政子・北条義時(よしとき)を中心とする幕府軍に鎮圧された事件。1219年源実朝(さねとも)の暗殺で源氏の将軍の血統は絶え，鎌倉幕府は摂家将軍を迎えて幕府を存続させた。この情勢を幕府の危機と判断した後鳥羽上皇は一挙に討幕を決行し，朝廷を中心とする勢力回復を図った。その軍事行動は上皇軍の京都守護攻撃で開始されたが，急報に接した幕府側は政子・義時のもとに結束をかため，19万の西上軍が動員されて，東海・東山・北陸の3道から進軍した。それに対して上皇軍は西面武士を主とした雑軍60,000で，戦況は2か月の短期のうちに幕府軍の完勝に終わった。幕府は断乎(だんこ)たる戦後処置をとり，後鳥羽・土御門(つちみかど)・順徳の3上皇を配流し，仲恭天皇を廃したほか，討幕にくみした公卿(くぎょう)・武士の所領の没収と新補地頭(➔地頭)の配置，また朝廷の監視を重要任務とする六波羅(ろくはら)探題を新設した。この事件を機に，公家政権は急速に衰え，幕府の体制が確立した。〔高崎徳次〕

しょうきょ【消去】 いくつかの方程式から，ある文字を含まない方程式をつくること。たとえば，x，yに関する2個の方程式

$x+2y=5$……①　$3x-y=1$……②

で，②をyについて解いて得られる$y=3x-1$を，①のyに代入すれば，$x+2(3x-1)=5$となり，yを含まない方程式が得られる。この消去のしかたは，消去しようとする文字について一つの方程式を解いて，これを他の方程式に代入するもので，代入法という。これに対し上の例で，②の両辺を2倍しておいて①に加えてもyが消去されるが，これは消去しようとする文字の係数の絶対値をそろえてから，両式を加えたり減じたりするもので，加減法という。このほか，消去しようとする文字について2個の方程式を解いて，$y=(5-x)/2$，$y=3x-1$をつくり，これらの右辺を等しいと置いてもyを消去することができる。これを等置法という。

ある文字の消去は，上例のように連立方程式を解く場合や，媒介変数tを用いて表わされている曲線の方程式$x=f(t)$，$y=g(t)$から，流通座標の直接的な関係を示す方程式$F(x, y)=0$を求める場合などに用いる。〔菊池兵一〕

しょうぎょう【商業】 農業あるいは工

業などにおいて生産・製造された財貨・サービスを売り手から購入し(仕入れ)，買い手に販売する経済活動をいう。その際，購入した物品に対して，包装・荷分け・混合など，ごくわずかの加工を行なうこともある。商業は，商品の仕入れ・販売を通じて行なわれる流通活動の一つであるところから流通業ともいわれ，また仕入れた商品を再販売するので再販売業ともいわれる。商業は，農業や工業などのように直接には価値を生産しないが，売り手から買い手に財貨やサービスを流通させるうえで，重要な経済活動を営む。商業の機能には，いわゆる流通機能としてあげられている仕入れ・販売・輸送・保管・金融・危険負担・情報提供などがあるが，社会的分業の発達した今日，輸送は輸送業が，保管は倉庫業が，危険負担は保険業がというぐあいに，それぞれ専門の業者が出現しており，商業のになう最も中心的な機能は仕入れ・販売という商取引機能になっている。

〔商業の発達〕商業の歴史は古く，古代にまでさかのぼることができる。すなわち，自給自足経済から交換経済への移行過程において発生したとみることができる。しかし，今日のような商業が成立するには，売り手と買い手が存在し，それが貨幣を媒介とした市場価格による交換経済あるいは市場経済が発達することに加えて，資本主義的生産活動が成立していることが必要である。商業が商業部門という一個の産業部門を形成するようになったのは，近代資本主義を先導する産業資本が確立してからのことであり，今日のような商業の発達は資本主義社会が成立してからのことである。

〔商業経営〕上記のような商業活動は，私的にせよ公的にせよ，なんらかの個々の経営主体によって行なわれる。このような経済活動を行なう経営を商業経営という。つまり商業経営とは，単一の経営主体の意思によって秩序づけられた商業活動であり，商品の流通という事業を遂行することである。

〔商業機関〕流通活動に携わる諸機関を商業機関あるいは流通機関という。これには多くのものがあるが，直系機関と傍系機関に分けることができる。直系機関は本源的流通機能のにない手で，卸売機関・小売機関があり，傍系機関は派生的流通機能のにない手で，これはさらに問屋・代理商・仲立ち人などの代理機関と運送業・倉庫業・金融業・広告業などの機能機関に分けられる。➔卸売業　➔小売商

〔わが国商業の問題点〕わが国には，現在140万の小売業と，約30万の卸売業が存在する。わが国の商業の特徴としては，①個個の商店の小規模・零細性，②過剰性，③生産性の低さ，④流通機構の複雑さ，⑤古い商慣習の残存などがあげられる。しかし，最近の流通近代化とともに，そのような商業において構造的な変化が起こっている。その内容は商店の大形化，生産性の上昇，流通機構の単純化・短縮化であり，とりわけ大形化は近代化の中心であり，その傾向はスーパーマーケットの進出，総合問屋の発展などにみられる。さらに，単に店舗規模の拡大というだけではなく，ボランタリー-チェーン・共同仕入れ機構・ショッピングー-センターなどの協業化・共同化・集団化もみられ，大量流通・取引が実現されるようになってきている。わが国の商業は今後も国民経済の成長のもとで発展していくであろう。しかし現在，流通近代化に伴い，商業の近代化が問題となっており，今日の労働力不足，消費生活の変革，地域構造の変化，資本の自由化による経済の国際化など，環境条件の変化も激しい状況にあって，商業はみずから変革せざるをえなくなっている。さらに，今後の商業の方向を左右するものとして，メーカー，とりわけ大規模メーカーの流通政策があげられる。昭和30年代ごろから開始せられた系列化政策，ディーラー-ヘルプスを中心とする，流通経路戦略という形でのメーカーの流通過程への進出は，今後もますます盛んになるものと思われる。さらに，商業の大形化を中心に，商店街の再開発・再整備，ショッピングー-センター・商業団地・流通センターなどの設立による商店の集団化・集中化・協業化・共同化が進むであろう。しかし，商業における技術進歩・機械化・集団化・集中化などの革新には限界があり，それほどの生産性向上を期待することはできない。したがって今後商業の維持・発展していく方向は，商業がどのような社会的役割を果たすか，たとえば情報提供・新製品企画・消費者教育など，改良されたあるいは新しい流通上の機能をもって社会に貢献していくかによっているといえよう。〔清水　晶〕

しょうぎょうかくめい【商業革命】 コロンブスのアメリカ発見とガマのインド航路発見の結果，西ヨーロッパ商業資本活動は世界的規模に拡大され，資本主義形成の歴史的変革を起こした。ヨーロッパの毛織物とアメリカ大陸の銀を交換する新大陸貿易と，アメリカ銀を送って香料その他の物資と交換する東洋貿易が盛んになり，そのため地中海貿易は衰えて北イタリア・南ドイツの商業資本は後退し，代わって新大陸貿易ではスペイン，東洋貿易ではポルトガルが活躍した。新大陸から大量の銀がヨーロッパに流入したことは〈価格革命〉をひき起こした。この世界市場で重要な物資は銀であり，銀を入手するためには毛織物が必要であった。毛織物を十分に供給できなかったスペイン・ポルトガルはやがて地位をオランダ・イギリスに奪われるに至り，その意味で商業革命は資本主義を形成する条件を生み出したといえる。〔大野慎一郎〕

しょうぎょうしほん【商業資本】 商品の生産のために投下される資本ではなく，生産された商品を売るために機能する資本。商業資本の成立は，もっぱら商品を生産する資本と，生産された商品をもっぱら売る過程に携わる資本とに専業化するほうが分業の原理から能率的であることに基づいている。商品を売る過程(流通過程)ではなんらの価値も生みだされず，したがってなんらの剰余価値*も生みだされないが，商品が販売されてはじめて商品の生産された意味があり，全生産過程が完了するのだから，この過程の一部をになう商業資本には，産業資本*によってつくりだされた剰余価値の一部が商業利潤として帰属する。〔常盤政治〕

しょうきょうしょう【小協商】 1920年代に結ばれたチェコスロバキア・ユーゴスラビア・ルーマニアの同盟。第1次世界大戦後独立または領土を得た3国はベルサイユ体制*維持の共通の利益にたって同盟関係を結んだ。1920年8月チェコとユーゴとの間に対ハンガリー相互援助条約が結ばれ，1921年4月チェコとルーマニア，6月にユーゴとルーマニアに同様の同盟条約が結ばれた。ポーランドも1921年3月ソ連と対抗する同盟をルーマニアと締結して小協商に接近，1921年12月チェコはオーストリアと不戦協定を結び，1922年8月チェコとルーマニア・オーストリア・ポーランドの条約をユーゴが承認し，ユーゴとルーマニア・イタリア間の条約をチェコが承認して協商は拡大した。小協商はフランスに依存しながら結束を強めたが，ナチス-ドイツの出現によりミュンヘン会談*でフランスとチェコとの相互援助体制が破れ，小協商は解体した。〔山県弘志〕

しょうぎょうしんようじょう【商業信用状】 ⇨荷為替(にがわせ)信用状

しょうぎょうちょうぼ【商業帳簿】 商人が営業上の財産状態を明らかにするために，商法上の義務として作成する帳簿(商法32条以下)。次の三つの総称。①日記帳：商人が日々の取引その他営業上の財産状態の日々の変動を記載するもの。一般には，元帳・仕訳帳・大幅帳などとよばれる。②財産目録*。③貸借対照表*。

しょうぎょうてがた【商業手形】 現実の商取引に基づいて振り出された手形*。商品代金決済のために振り出されるものであるからまったく取引がないのに振り出される融通手形*に比べて支払いの確実性が大きい。なお，これは経済上の用語であり，法律上は商業手形という特別の手形があるわけではない。

しょうぎょうとうき【商業登記】 商法の規定に基づいて商業登記簿に記載する登記*。商業登記簿には商号・未成年者・後見人・支配人・合名会社・合資会社・株式会社・有限会社・外国会社の9種がある。商人の営業上の事項を公示して，営業活動の円滑・安全を図ることを目的とする。この登記は，

法律に定められた者の申請に基づいて登記官吏が行なうのを原則とし，登記事項の登記を怠ると一定の不利益をこうむることがある(商法12・14条など)。　〔松本治雄〕

しょうぎょうほうそう【商業放送】 放送時間を広告主と契約して，その広告収入をもって民間企業が経営する放送事業をいい，商業ラジオと商業テレビを総称する。放送事業を大別すると，直接に国家あるいは公共団体が運営する場合と民間企業が経営する場合の二つの業態があるが，いずれも国際会議によって割り当てられた波長のうちから国民の福祉のために使用することを条件として，一定期間電波の使用を許可されているにすぎない。日本の商業放送事業が3年ごとに免許を受けねばならない根拠もここにある。商業放送は，1912年ごろアメリカのウェスティングハウス電気会社の技師がラジオの実験放送で，ファンの希望に応じたレコード音楽の放送をしている際，そのレコードの無料貸与をうけた蓄音器商の名をアナウンスし，その後本放送にはいっても，その形式の延長として広告主つきの番組を放送したことにはじまる。この実験放送における商業広告の効果がきわめて高かったため，アメリカでは1920年以来一貫して商業放送を採用している。

日本の商業放送は，ラジオの場合は1951年(昭和26) 9月1日，名古屋の中部日本放送(CBC)，大阪の新日本放送(NBC)が第一声を放送し，テレビの場合は1953年日本テレビ放送網(NTV)が最初に放映している。日本の商業放送の歴史は浅いが，広告収入を基盤として十分企業経営が成立するため，NHKによる公共放送を別として，ラジオ46社(153局)，テレビ63社(717局)が商業放送を行なっている(1969)。

イギリスでは1920年以来，公営放送であるBBCによってのみ放送されていたが，テレビに関するかぎり1955年独立テレビジョン協会(ITA)を設立し，商業放送を許可した。西ドイツ・フランス・イタリアにおいては，公営放送の中に広告放送の時間を置いているが，商業放送とはいえない。カナダでは商業放送と公共放送とを併用している。

このように国情に合わせて採用している各国の商業放送の財源は，一様に広告主による番組提供にあるため，勢い放送局自身の制作による自主番組は少なくなる傾向にある。広告主が自分の事業・製品を宣伝するコマーシャルが番組全体に対して占める時間の比率は，ふつう制限されている。そのほか，番組とは無関係に独立して番組と番組との中間に放送される〈スポンサーからのお知らせ〉はステーション-ブレークあるいはスポット-アナウンスとよばれているが，本来は全国的中継番組から各商業放送独自の番組に切り換える操作に余裕をもたせるために設けてあった時間を利用したものである。これらのことから，商業放送はつねに広告主からの圧力が番組制作にあたって存在するため，〈公共の福祉〉という理念を実現するためにはかなりの困難があり，必ずしも〈公共の福祉〉のために放送していると断言できない場合もある。〔飯田良明〕



ショウキラン
花時には葉がみられない

じょうぎょうぼさつ【上行菩薩】 末法の世に現われて《法華経(ほけきょう)》を広める菩薩の中で首位の菩薩。《法華経》の〈涌出品(ゆしゅつほん)〉によれば，大地から現出した上行菩薩・無辺行菩薩・浄行菩薩・安立行菩薩を上首とする菩薩らは，娑婆(しゃば)世界において《法華経》伝道の使命をゆだねられたものであるという。鎌倉時代にたび重なる法難を体験した日蓮(にちれん)は，これを末法の世に《法華経》を広める者に危難が加えられるという《法華経》の予言が的中したものとし，みずから上行菩薩の再誕であるとの自覚に立って，《法華経》の伝道に励んだ。日蓮の曼荼羅(まんだら)には，この四大菩薩の名が記されている。　〔塚本啓祥〕

じょうきょうれき【貞享暦】 1684年(貞享1)10月から1754年(宝暦4)10月まで用いられた太陰暦。暦の制定権を握る朝廷は，862年(貞観4)唐の宣明暦を採用していたが，2日の遅れを生ずるようになったため，1684年3月には，明(みん)の大統暦を採用した。しかし，幕府の碁師渋川春海(安井算哲)は誤差の多いのを発見し，元の授時暦をもとに，京都に子午線を移して新しい暦を作成，これを幕府に上表した。実験の結果，その優秀さが認められ，同年10月貞享暦が採用された。この採用によって，暦の制定権は朝廷より幕府に移り，幕府はこの年天文方を創設し，春海をその初代天文方に任じた。　〔松尾　涼〕

しょうきらん【鍾馗蘭】

1単子葉植物・ラン科。深山の林下にはえる腐生植物。茎は太く淡紅色をおび，高さ15〜30cm。葉は鱗片(りんぺん)状半円形で6〜8mm。7〜8月ごろ，茎頂に7〜10cmの長柄がある径3cmほどで淡紅色の花を数個つける。花被は多肉質で平開し，唇弁(しんべん)は袋状で開口部に黄色の長毛がある。関東以南の山地には黄色の花を多数つけるキバナノショウキランがみられる。

2単子葉植物・ヒガンバナ科。ショウキズイセンともいう。日本の暖地および台湾・中国に分布し，山野に自生する多年草。ラッキョウ型の鱗茎があり，径6cmほどで，外皮は黒かっ色。葉は，黄緑色の光沢のある革質で，広線形で30〜60cm，春に出て夏に枯れる。花茎は葉が枯れたあとに夏から秋にかけて出，30〜60cmとなり，5〜10花を散形花序につける。花序の下には披針(ひしん)形の包葉がある。花は黄色で横向きに咲き，花被は6枚で縁は波状。〔横井朝子〕

しょうきんるい【渉禽類】 水辺にすむ脚・頸部(けいぶ)の長い鳥類の総称。現在は学術用語ではなく，おおよそシギ・チドリ・サギ・コウノトリ・ツルの各類が含まれる。

しょうくう【証空】 (1177〜1247) 平安末期から鎌倉初期にかけて活躍した僧。浄土宗西山派の開祖。源親季(ちかすえ)の長男として生まれ，内大臣久我通親(みちちか)の養子となる。曹洞宗(そうとうしゅう)の開祖道元とは兄弟の関係。14歳のとき出家し，浄土宗開祖法然の弟子(でし)となり，善慧房(ぜんえぼう)と号す。1198年(建久9)，法然が《選択集》を選述する際，勘文(引用経論資料の検出)の役をつとめた。1212年(建暦2)に法然が没するまでの23年間つねに師に従いながら，日野の願蓮(がんれん)に天台を，政春・慈円に密教を学ぶ。法然の死後は西山善峯(よしみね)寺の往生院に移り，1215年(建保3)から1226年(嘉禄2)までの12年間，善導の全著述について講述した。これは《観門要義鈔(かんもんようぎしょう)》41巻として現存する。1227年には旧仏教徒側からの念仏弾圧運動，いわゆる〈嘉禄(かろく)の法難〉にあい，門弟とともに流罪となったが，のち，放免された。1229年(寛喜1)当麻(たいま)寺に参詣(さんけい)して〈観経曼荼羅(かんぎょうまんだら)〉を拝見し，その流布に努めた。門弟では浄音・円空・証入・道観らが有名で，それぞれ流派を開いている。著書には上記のほかに《他筆鈔》10巻，《観経疏大意(かんぎょうしょたいい)》1巻があり，法語に《五段鈔》《安心鈔付略安心鈔》《白木念仏法語》《述誠》などがある。なお，《観経秘決集》20巻をはじめとする《事相鈔》38巻の著述については真偽未詳である。　〔広川堯敏〕

じょうぐうしょうとくほうおうていせつ【上宮聖徳法王帝説】 聖徳太子の伝記や関係史料などを集成した書。編者不詳。一貫した内容をもたず，部分ごとに成立を異にするが，現存の形になったのは平安期以後といわれる。太子身辺の系譜，法隆寺仏像の光背銘や天寿国繡帳(しゅうちょう)の銘文，巨勢三杖(こせのさんじょう)の歌，仏教伝来年時など，《古事記》《日本書紀》以前の記事を含む。

しょうぐん【蕭軍】 シャオチュン (1907〜) 中国現代の作家。田軍ともいう。東北(満州)の出身で，1930年代前半，東北を舞台にした短編小説や，満州事変後の東北農民パルチザンの活動を語る長編《八月の村》(1934)や，圧政のもとで土匪(どひ)になっていく農民の姿を描いた《第三代》(1937)などで文壇に知られた。魯迅(ろじん)の門下で

ある。新しい中国になってからも執筆を続け,長編《五月の鉱山》(1954)があるが,思想傾向がしばしば批判の対象とされて,1930年代ほどの活動はみられない。妻(のち離婚)の蕭紅(しょうこう)(1911〜1941)も東北作家として有名。〔今村与志雄〕

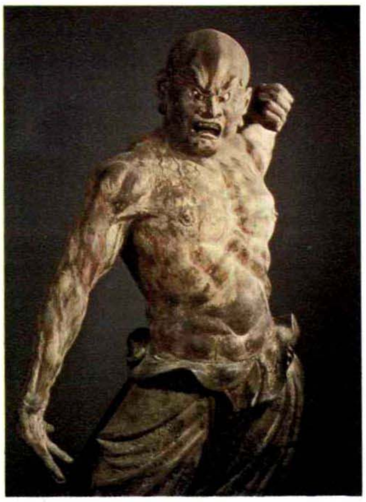
しょうぐんけいしもんだい【将軍継嗣問題】幕末の政治問題の一。病弱で世子のない13代将軍徳川家定の跡継ぎをめぐる政争。松平慶永(よしなが)・島津斉彬(なりあきら)など親藩・外様(とざま)雄藩主らの改革派(一橋派)は,英明の聞こえ高かった一橋家の徳川*慶喜(よしのぶ)を将軍継嗣に推した。これに対して井伊直弼(いいなおすけ)ら譜代大名の保守派(南紀派)は,家定に最も血縁の近い紀州藩主徳川慶福(よしとみ)(14代将軍家茂(いえもち))を推したが,両派は当時の重要問題であった*条約勅許問題をめぐっても対立していた。1858年(安政5)井伊直弼が大老に就任するに及んで,慶福を継嗣に迎えることになった。さらに直弼は,反対派を弾圧したため反幕運動が激化し,*安政の大獄をひき起こした。〔松尾 涼〕

しょうけい【晶系】⇨結晶

じょうけい【定慶】鎌倉時代の仏師。作品から推して同名の仏師が2名いたと考えられる。第1の定慶は*康慶の弟子(でし)で,興福寺《木造維摩居士(ゆいまこじ)坐像》(国宝,1196),同梵天(ぼんてん)像(1202)の作者として知られ,慶派の流れをくみ,しかも宋(そう)風をとりいれた作風で知られる。第2の定慶は,第1の定慶より少し遅れて活躍し,東京芸術大学蔵の毘沙門天(びしゃもんてん)像(1224)・鞍馬(くらま)寺聖観音像(1226)などでは第1の定慶より技巧がまさっている。〔永井信一〕

しょうけいこく【蔣経国】チャンチンクオ(1910〜)中国の政治家。浙江(せっこう)省出身。*蔣介石(しょうかいせき)の最初の夫人の子。14歳でソ連に留学,軍事学を学び21歳で帰国。1949年,国民党台湾党部主任委員として台北に渡り,蔣介石らの台湾移動準備にあたった。以後,大陸を追われた蔣介石政権の国防相として,また特務機関の首長として活動,1969年6月には行政院副院長に就任して,蔣介石の後継者の地位を固めている。

しょうけいしゅとく【承継取得】他人の権利を引き継いで取得すること。前主がその物について権利を有していなければ,承継者は権利を取得することはできない。また前主が占有につき瑕疵(かし)を負っているときは,その瑕疵は承継人に引き継がれる。相続・売買などの移転的承継と地上権・抵当権などの創設的承継とがある。➔原始取得



定　慶　伝定慶の《金剛力士立像》2軀のうち阿形像　興福寺蔵

しょうけいもじ【象形文字】事物の形を模してつくられた文字。人間が何事かを書き止めることを考えたとき,最初は全体を絵に書いた。絵はトータルな場面を総合して表わすが,ことば(文)はいちいちの項(単語)を分け,それをつないで表現される。その個々の項を別々に表わそうとしたとき,絵の中に含まれる物や事態を簡素な個別画で書き表わす象形文字が現われた。エジプト・バビロニア・中国などの古代文字はすべて象形文字であり,中国西南境のモソ族のように,近世まで象形文字を用いていた例もある。象形文字はどこの文字もよく似ているが,それは偶然の結果であって,相互の交流・影響によるのではない(下右図)。

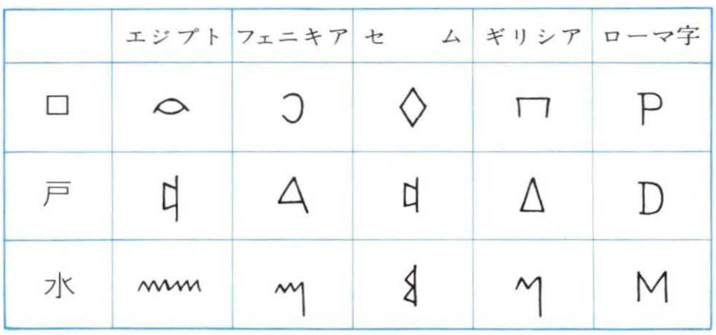
文化の進んだ民族がまず象形文字をつくりだすと,周辺の民族はそれを借用して自国語を表記しようとする。エジプトの象形文字は,フェニキア→セム→ギリシアなどに次々と借用され,今日のローマ字の起源となった。その際,エジプトでは(口(くち))はroであったが,フェニキアではpeといったため,この字はローマ字pの原形となった(下左図)。日本では,漢字(真字)を字音ごと借用して,〈安→あ〉〈以→い〉〈宇→う〉,〈阿→ア〉〈伊→イ〉〈宇→ウ〉などの音節文字(仮名)をつくったが,他方では漢字の意味を日本語に訳して,〈江→エ(かわぐち)〉〈女→め(おんな)〉のような訓に基づく仮名もつくった。漢字自体のうちでも,基本となったのは象形文字であるが,それをもとにし,その字音を利用しつつ,〈口→后・釦・扣・句〉など多数の形声文字がつくられた。また,〈口〉を〈くち〉に関係あることを表わす意味記号として利用し,〈只・名・合・告〉などの会意文字(組み合わせ文字)もつくられた。➔漢字　➔文字〔藤堂明保〕

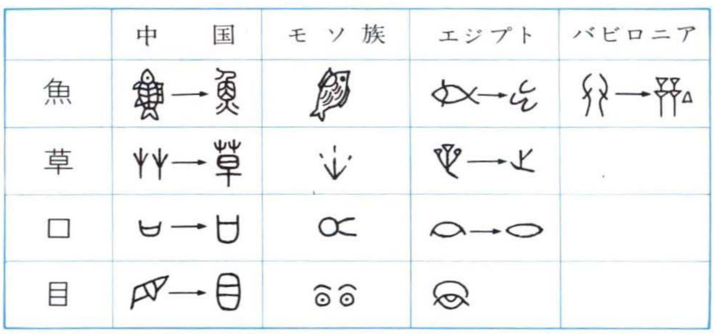
しょうげきしけん【衝撃試験】⇨材料試験

しょうげきじょううんどう【小劇場運動】小劇場を用いて,大劇場を中心とする商業的演劇に対抗し,実験的な新しい演劇を創造しようとする演劇改革運動。1887年フランスの*アントワーヌが創設した自由劇場に始まり,19世紀末からヨーロッパ諸国で,小劇場を拠点とした演劇における自然主義の推進と近代化が行なわれ,日本でも,1909年(明治42)の*小山内薫(おさないかおる)らによる自由劇場創立やその後の築地(つきじ)小劇場運動など,小劇場による演劇の近代化が推し進められ,*新劇へと展開された。現在でも,アメリカや日本において,反商業主義的な小劇場運動が前衛的・実験的な演劇を生み出しつつある。〔五十嵐敏夫〕

しょうげきは【衝撃波】圧縮性流体の中を音速以上の速さで伝播(でんぱ)する圧力変化の波のこと。超音速の気流中に物体を置くとき,物体の先端などから下流に向かって斜めに円錐(えんすい)状に広がる波面で,この面の下流では気体の圧力・密度,および温度が増し,流れは機械的エネルギーの一部を失って減速する。衝撃波面に垂直な速度成分は,上流で超音速,下流で亜音速になっており,上流の速度成分のマッハ数が高いほど流れのエネルギー損失が大きい。超音速で飛ぶロケットや飛行機の胴体および翼が,その先端を鋭くとがらし,太さあ

象形文字





るいは厚さを長さに比べて小さくするのは，それらの先端から出る衝撃波面と流れとのなす角を小さくして波面に垂直な速度成分のマッハ数を減らし，流れのエネルギー損失，したがって機体に働く抵抗を減らすためである。

飛行機が高空を超音速で飛ぶとき，地上で聞こえる爆発音ないし遠雷のような音は，機体から出る衝撃波が地面を通過するとき耳に達する圧力変動であって，これを超音速爆発音という。超音速の飛行機が近くを通過するとその衝撃波によって窓ガラスや簡単な建物などは破壊されるおそれがあるから，超音速飛行は高高度で行なわなくてはならない。〔中口　博〕

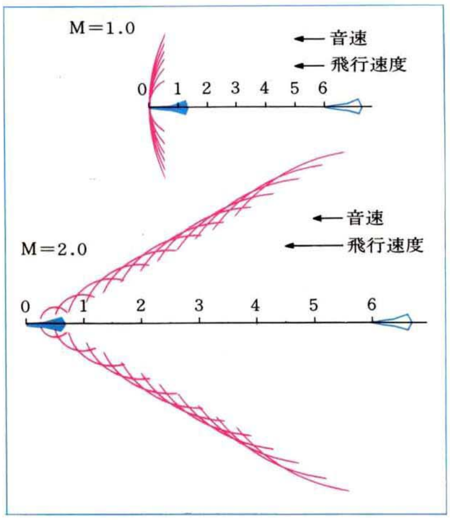
しょうけつ【焼結】最も広く採用されている粉鉱の塊状化法。粉鉱石・砂鉄・硫酸滓(さい)などの粉状原料に燃料(主として粉コークス)を適量配合し，溶融点に近い温度で焼き固める。超硬合金工具などの製造にも応用される。

しょうげん【証言】証人が裁判所または裁判官に対して，過去において見聞した事実を供述すること。証人が裁判所に召喚された場合は，真実を証言することを宣誓しなければならず，これに違反すると過料・罰金，また拘留に処せられる。しかし，次の場合には証言を拒否することができる。①自己または法定の近親者(配偶者，3親等内の血族)・後見人などが刑事訴追を受け，または有罪判決を受けるおそれがあるとき(憲法38条1，刑事訴訟法146・147条)。②医師・弁護士・宗教者などが業務上知り得た秘密事項にわたるとき(刑事訴訟法147条)。なお，新聞記事の取材源については，証言拒否権がないとした最高裁判所の判決(1952年8月5日)がある。〔井上公耳〕

じょうげん【上弦】月が太陽から東に90°離れた方向に見えるときをいう。月と太陽の黄経の差が90°になったときといってもよい。上弦の月は日没のころ南中*し，右側が半円状に輝いているが，その明るさは満月の約1/9にすぎない。月が西に沈む時弦を上に向けているところからこの名がついた。

じょうげん【鄭玄】(127～200) 中国，後漢の代表的経学者。字(あざな)は康成。山東省高密の人。前漢の経学*は国定の五経博士官の権威のもとにあり，各人一経専門で解釈の自由もなかった。また，当時の経文は今文であったが，前漢の末ごろ古文(古い字体)の経書が現われ，同時に博士官の権威も落ちてきた。そして，数種の経書を自由に比較研究し，特に文字の訓詁(くんこ)を考究して古典を理解しようとする学風が起こった。鄭玄は民間学者で，この学風の代表者である。多くの経書に注を加え，批判的な経学論も書いている。しかし，讖緯説*(しんいせつ)の影響を免れてはいない。➔考証学〔西　順蔵〕

しょうけんがいしゃ【証券会社】⇨証券市場



衝 撃 波　マッハ1(上)とマッハ2(下)で飛ぶ飛行体によって生じた衝撃波。6秒前に生じた圧力波から記してある。マッハ1の場合衝撃波は進行方向に垂直(垂直衝撃波)で圧力波の重なり合いは最も著しい。マッハ2の場合進行方向に対して傾き(斜め衝撃波)，マッハ数が大きいほど斜めの角度が大きくなる

しょうけんきんゆうがいしゃ【証券金融会社】証券取引所法に基づき，証券取引所の会員に対して信用取引*に必要な資金または証券を貸し付ける機関。1950年(昭和25)に設立。現在，日本証券金融会社(東京)，大阪証券金融会社(大阪)，中部証券金融会社(名古屋)の3社がある。

しょうけんこうたいごう【昭憲皇太后】(1850～1914) 明治天皇*の皇后。父は左大臣一条忠香(ただよし)。1867年(慶応3)女御，翌1868年(明治1)12月皇后となった。はじめ勝子(まさこ)，入内してからは美子(はるこ)と称した。才徳兼備で学芸にすぐれ，東京女子師範学校(現お茶の水女子大学)・華族女学校(現学習院女子高等学校)の開設など，女子教育の振興に努め，また博愛社(現日本赤十字社)を通じて社会事業に力を注いだ。陵墓は京都市伏見区の伏見桃山東陵。なお，明治神宮*には天皇とともに合祀(ごうし)されている。〔高崎徳次〕

しょうけんしじょう【証券市場】⇨次ページ

じょうけんづけ【条件づけ】条件反応(➔条件反射)を起こさせる手続きをいう。心理学では，生体が環境に適応するための行動変容過程の基本型として，〈レスポンデント条件づけ〉と〈オペラント条件づけ〉の二つを区別している。

レスポンデント条件づけとは，それまである反応を解発しない(解発とは意志に関係なく反応をひき起こすこと)刺激が，その反応をすでに解発する刺激と対呈示されることにより，その反応を解発するようになる過程，すなわち条件反射形成の過程である。オペラント条件づけとは，ある反応を自発して(自発とは意志的に反応をすること)，ある欲望が充足されると，その欲望のもとでその反応を自発する傾向が強まる過程である。〔佐藤方哉〕

しょうけんとりひきじょ【証券取引所】⇨証券市場

じょうけんはんしゃ【条件反射】ロシアの生理学者パブロフ*が19世紀末に発見した，後天的に形成された反射をいう。〈反射〉とは，一定の刺激により意志に関係なく一定の反応が生ずることをいう。生体はこのような反射を生まれながらにいくつももっている。この先天的な反射を〈無条件反射〉とよぶ。口に食物を入れると唾液の出る唾液分泌反射や，目に光をあてるとひとみが小さくなる瞳孔(どうこう)反射などは無条件反射の例である。無条件反射における刺激(食物・光)は無条件刺激，反応(唾液分泌・瞳孔縮小)は無条件反応という。

パブロフは，先天的には唾液分泌反射に関連のない刺激(中性刺激)によっても反応が起こることを発見し，これを〈条件反射〉とよんだ。たとえばベルの音をイヌに聞かせて，そのたびごとにイヌの口に肉を入れてやるという行為をくり返すと，やがて，ベルの音だけでイヌが唾液を分泌するようになるのはその例である。すなわち，条件反射は中性刺激と無条件刺激を対呈示することにより形成される(この手続きを強化という)。条件反射における刺激(ベルの音)を条件刺激といい，反応(唾液分泌)を条件反応という。

条件反射形成後，無条件刺激(肉)を呈示しないで，条件刺激(ベルの音)のみの呈示をくり返すと，もはや条件反応(唾液分泌)は生じなくなる。これを消去という。

条件反射形成後，条件反応は，条件刺激(ベルの音)のみでなく，それに似た刺激(鈴の音などベルに似たすべての音)によっても生じる。これを〈汎化〉という。また，ある刺激(ベルの音)には強化し(ベルの音と肉の対呈示)，他の刺激(鈴の音)には強化しない(鈴の音のみ呈示)ということをくり返すと，強化した刺激(ベルの音)によってのみ条件反応(唾液分泌)が生じるようになる。これを〈分化〉という。

パブロフが，大脳の生理的機制を解明しようと研究した条件反射は，脳生理学を誕生させ，また，今日の行動心理学の礎ともなった。〔佐藤方哉〕

しょうこ【証拠】裁判上で争われている事実を認定するための資料をいう。刑事・民事の裁判に適用するが，別に捜査機関の犯罪捜査および犯人認定のためにも用いられる。証拠は，有形たると無形たるとを問わず，五感の作用で認識される訴訟法上，また捜査上の手段である。現行の刑事訴訟法は〈事実の認定は証拠による〉と規定し(刑事訴訟法317条)，証拠裁判主義を明らかにし

➔114ページ

証券市場

〔発行市場と流通市場〕証券市場は通例，発行市場と流通市場の二つに分けて説明されている。

発行市場とは，新たに発行される証券*，または新たに売り出される証券が，投資家の手に渡るまでの過程をいう。発行市場は発行者（事業会社などの有価証券*を発行する者），引き受け機関（証券会社），販売機関（証券会社），投資家からなっている。アメリカでは引き受け機関と販売機関が分かれているが，わが国ではどちらも証券会社が受け持っている。第2次世界大戦前の発行市場は，有価証券引受業法の免許を受けた銀行・信託会社，および少数の証券会社の独占であった。ところが，1948年（昭和23）アメリカの証券法に範をとった証券取引法が施行され，同法65条の規定により，有価証券の売買・引き受け・売り出しなどを営む者は証券会社に限られることになった。また，戦前には公開されなかった財閥関係の株式が一括して市場に売却され，産業資金を直接大衆投資家に依存することになったため，証券市場は資本調達機関として急速に発達するようになった。現在ではわが国の高い経済成長をささえる長期産業資金の調達市場として，その役割はきわめて重大となっている。

証券の流通市場は，いわゆる売買市場であって証券の種類にしたがって株式市場・債券市場に分かれる。株式の流通市場は募集・売り出しなどによって，投資家の手に渡った株式が，AからBへ，BからCへと転々と流通する市場をいう。流通市場を構成しているものは，証券取引所・証券会社・投資家・証券金融会社*である。取引所の開設する有価証券市場は，流通市場の中心をなし，日々大量の需給が集中して円滑な取引が行なわれ，公正な価格が決定される。取引所における売買は一定の資格を備えた会員である証券会社に限られ，その取引は公正かつ迅速に行なわれている。ここで成立した価格は一般に公表され，いわゆる公定相場とよばれる。したがって，取引所の相場形成については，買い占め・売りくずしなど故意の株価操作によって投資家に不測の損害を与えないように，証券取引法に基づいて，大蔵省・取引所当局がきびしく監督している。証券金融会社は，取引所の会員である証券会社，および会員の紹介する顧客に対して融資，および貸し株を行なうことを業務とする，証券取引法に規定された会社である。特に，信用取引*については，買い付け代金を融資し，または売り付け株式の貸し付けを行なうことによって，株式の仮需給の売買を活発化し，流通を円滑ならしめている。

〔証券取引所〕1873年（明治6）以降，政府が各種公債を発行し，また，株式会社組織の銀行が設立されて有価証券がしだいに増加したため，政府は1878年5月株式取引条例を制定し，それに基づいて東京・大阪に株式会社組織の株式取引所が設立され，有価証券の売買が開始された。その取引方法は，米の先物取引をまねた清算取引（定期取引）であったため，明治・大正・昭和にかけて長い間，株式取引所は株式投機の場とみなされていた。1943年戦時経済統制により，日本証券取引所法に基づく半官半民の全国一本の日本証券取引所に改組され，戦時経済に協力を要請された。1945年太平洋戦争の終結とともに，GHQから解散の命令を受け，わずか2年で日本証券取引所は閉鎖されたが，1949年2月になってマッカーサー司令部は証券取引法に基づいて，東京・大阪・名古屋に，会員組織の証券取引所の設立を許可し，続いて5月14日から取引所における売買が再開されて今日に至っている。

東京証券取引所における売買高をみると，1949年1日平均133万株であったものが，その後20年間の盛衰を経て1970年には1日平均1億3,819万株と増加している。上場銘柄数は，1971年10月現在，第一部（資本金10億円以上）803銘柄，第二部は538銘柄であり，上場会社資本金の合計は第一部6兆6,341億円，第二部3,269億円，時価総額第一部18兆4,701億円，第二部1兆614億円となっている。取引所の規模からみると，ニューヨーク取引所に次いで世界第2位とみられている。

〔証券会社〕証券業という名称が一般に使われはじめたのは1947年以後であり，以前は有価証券業者・株式取引員業・株式現物問屋など種々の名まえが使われ，俗に株屋という呼称で代表されていた。一般業者は主として株式の委託売買を営み，取引所取引員以外の業者は自由営業であり，かつ，大部分が個人経営であった。1943年戦時経済統制によって，証券業者は全国的に会社組織に整備統合を命じられ，証券会社の数は約4分の1と，大幅に減少した。しかし，1948年証券取引法施行によって，証券会社は登録制度となり，一定の資格を備えて，大蔵省に登録すればだれでも証券業を営むことができるようになった。その結果，証券会社は一時的に急増し，1949年全国で1,152社に達したが，その後の景気変動とともに減少の傾向をたどっていった。一方，支店・営業所は，1947年12月から始まった証券民主化運動や，神武景気・岩戸景気などを反映した株式ブームを背景に，全国に新増設され，1962年には全国の店舗数は2,928となった。その後，1964年以降の証券大不況を迎え，支店・営業所の大幅な縮小がみられた。このような変遷を経たのち，証券取引法の改正が行なわれ，証券会社は登録制から，大蔵大臣の免許制へ移行することとなり，1968年4月全国で277社が新しい姿で発足した。証券会社はその営業目的の面から，①顧客から委託を受けた有価証券の売買を行なう委託業務，②有価証券の引き受けをする引き受け業務，③有価証券を証券会社が自己の勘定で売買する自己売買業務，④有価証券の募集および売り出しの取り次ぎをする販売業務，の四つの業務について個別の免許を受けることになっている。これらすべての免許を受け，かつ，引き受け業務について元引き受けのできるもの（資本金30億円以上）を総合証券会社という。免許制の施行に伴って，免許を受けた証券会社の地位と信用度は著しく高められた。1971年8月現在，取引所会員会社145社，非会員会社100社，才取り会員など顧客を相手としない会社22社，合計267社，支店・営業所数を含め1,849店舗である。また，資本金の合計は1,026億円，役員および従業員数は69,873名となっている。

〔投資家〕証券市場における投資家は大きく分けて，個人と法人とに分けられる。個人株主は，戦後の株式民主化運動によって大幅に比率を高め，さらにその後の経済成長に伴う個人所得の上昇，個人金融資産残高の増加によって，個人投資家の株式投資は一段と盛んになっている。法人株主には銀行・生命保険会社・損害保険会社などの金融機関と投資信託委託会社および一般の事業会社がある。

1947年以降の証券民主化運動の効果によって，一般大衆の株主は急増したが，その推移をみると，昭和20年代はインフレーションの換物的人気による投資傾向が強く，昭和30年代前半は経済の成長と増資人気を買って，投機色が強かった。株価は1961年天井をつけて下降に転じたため，30年代後半は株式投資人気は離散し，個人株主も減少をみた。1966年景気回復とともに徐々に人気を回復し，1968年3月ヨーロッパの通貨不安をきっかけとして株価が急上昇に転じたため，株式市場は再び個人投資家の増加をみている。1968年以降は，利回りによる投資採算買いから，株価収益率をねらった値上がり期待買いとなり，収益力の高い，新時代に適応した成長業種（住宅関連・薬品・医療機器・電気機器・コンピューター・省力機械・公害防止関連産業）が人気を集めて高騰した。また，海外の投資信託を中心とした外人の日本株式買いが急増し，1969年度には7億1,900万ドルの外貨が流入した。外人投資家の株式取得額は東京証券取引所売買高の4.1％を占め，わが国の株価形成に大きな影響を与えるようになった。

〔日東証券調査部〕

株式取引の用語

味付け買い 相場に活気が乏しいとき，市場人気を引き立てるために買い注文を入れること。

アナリスト analyst 経済問題についての分析，産業界・企業についての調査を行ない，証券投資に役だつような意見を発表する専門家。アメリカでは公認アナリスト制度があって，アナリストの権威は高い。

安定株 会社の発行する株式のうち，長期にわたって保有されている株式。おもに法人株主によって保有される株式をさす場合が多い。これに対し，常に市場で売買されている株式のことを浮動株という。

委託売買 証券会社が顧客から委託を受け，取引所の株式市場で売買を執行すること。委託売買を行なうとき顧客は証券会社に対して委託売買手数料を支払う。➔自己売買

売り出し 不特定かつ多数の者を対象とし，均一の条件ですでに発行された有価証券の売り付けの申し込み，または買い付けの申し込みを勧誘すること。未上場株式を新規に上場する場合などに売り出しが行なわれる。➔募集

大台 株価が変動して100円台から200円台，900円台から1,000円台などへ変わることを大台乗せ，大台替わりという。反対に値が下がり大台を替えることを大台割りという。

大手筋 株式市場で大量に売買するものの称で，おもに証券会社・機関投資家・有力仕手などをさす。まばら筋の反対語。

大引け 1日の立ち合い時間のうちで最終の商い，または最終商いの株価のこと。

押し目 株価が上昇を続けたあと，特別な材料がなく一時的に下がること。この下がったときに買うことを押し目買いという。

貸し株 信用取引を利用してカラ売りをする顧客に対して貸す株式のこと。カラ売りしたあと買いもどし，または株渡しによって貸し株を返済する。

カラ売り 信用取引および発行日取引を利用して，株券を実際にもっていない銘柄を売ることができる。この売りのことをカラ売りという。カラ売りのあと買いもどしをして，売買金額の差額だけを決済する。

幹事証券会社 発行会社と契約して，発行された有価証券を引き受け，これを売りさばくとき斡旋(あっせん)役を行なう証券会社。特に引き受けについての基本的事項を取り決める。

期日 信用取引の決済期日のこと。現在は売買約定日から6か月めの同日(ただし当日が休日の場合は繰り上げる)が決済期日とされ，決済期日までに反対売買を行なわなければならない。

逆日歩 信用取引で，ある銘柄についてカラ売りがふえて貸し株の申し込みが多い場合，貸し株残が融資残株を上回ることがある。このとき売り方が支払う品借り料のこと。買い方がこの逆日歩を受けとる。逆日歩は普通の日歩のように100円につき何銭という表示をとらず，1株につき何銭と表示する。

業績相場 企業の業績向上を理由にして動く株式相場のこと。企業業績が向上すると，増配や増資を行なう企業がふえて株式市場は活況を呈する。

金融相場 市中金融の緩和を理由にして動く株式相場のこと。金融の緩和により，相対的に株式利回りが高まり，投資資金が株式市場に集まって活況を呈する。

クロス cross 同一証券会社が同一銘柄について，売り買いの商いを成立させる方法。1967年10月から従来行なわれていた〈バイカイ〉が廃止され，アメリカ方式が導入された。

ケイ線 相場の動きをいろいろの手法によってグラフにしたもの。グラフの動きをみて，今後の相場観測の手がかりとする。足どり表ともいい，日足・週間足・月足などいろいろの種類が作成される。

気配 ①市場の人気度合いのこと。②市場で実際にできた値段でなく，売り方・買い方のだす希望値段のこと。売り気配・買い気配などともいわれる。

権利落ち 上場銘柄が増資するとき，増資新株の割り当て権利確定日が過ぎたこと。理論的には増資プレミアム分だけ株価が下がる。これに対し，割り当て権利確定日までを権利付きという。

公募 公社債・株式などを新たに発行するとき，その引き受け権を，株主や特定の第三者に与えないで，一般の人から募ること。株式の公募は通常時価に近い価格で決められるので，一種の時価発行でもある。

才取り会員 証券取引所の立会場内で，正会員の間の売買を仲介する証券会社。東京に12社，大阪に5社，名古屋に3社ある。

指し値 おもに，株式の売買注文の際に値段を指定すること。買いの場合は買い指し値，売りの場合は売り指し値という。

ざらば 1日の立会時間中，寄り付きと大引けの間で売買される商いのこと。ざらば中はいつでも相手方をみつけて売買が行なわれ，売り手の呼び値の最低値と買い手の呼び値の最高値が出会って株価が次々と形成される。➔寄り付き ➔大引け

自己株式 会社からみて，自分の会社の発行した株式のことをさす。わが国では商法第210条において自己株式の取得を原則として禁止しているが，今後は資本の自由化が促進されることもあって，持ち株会社の設立など実質的な自己株式保有を認めてほしいとの要望が強い。

自己売買 証券会社が自己の計算によって有価証券を売買することで，委託売買に対するもの。証券会社は委託売買によって委託手数料収入を得るのに対し，自己売買によって売買益を期待する。➔委託売買

自己融資 信用取引では証券会社が顧客に株式の買い付け代金や株券を貸すことになっているが，通常は証券会社が証券金融会社から代金や株券を借りて客にまた貸しすることが多い。これに対し証券会社が顧客に対し，自己の資金を融資することを自己融資という。

資産株 株価の短期的値動きが少ないため投機の妙味は少ないが，配当金収入によって長期の資金運用に適した株式。

失権株 株主が増資の際に新株引き受けの権利を放棄して，増資分の払い込みに応じなかった場合に生じた新株。

仕手株 おもに，投機的なくろうとや相場師を仕手といい，仕手が投機の対象として手がける株を仕手株という。したがって時代によって仕手株は変わる。第2次世界大戦後の代表的な仕手株は平和不動産。

品薄株 市場に流通している株式数の少ない銘柄。おもに資本金の小さい会社の株式が品薄株となるが，比較的大きな資本金の会社でも安定株の多い場合は品薄株となることもある。品薄株は需給が少ないため株価は大きく動きやすく，市場での投機対象となることが多い。➔安定株

地場 取引所を中心に，証券業者や，その業者に常に出はいりして投機的売買をするくろうとのこと。

新株落ち ➔権利落ち

成長株 会社の業績が年々成長を続け，その株価も平均以上の値上がりをする株式のこと。

貸借取引 信用取引が顧客と証券会社との取引であるのに対し，証券会社と証券金融会社との取引のこと。

立会外分売 証券会社が株式の大量売買を執行するとき，取引所の立会場で行なう

ことが困難と認められたときに，取引所の承認のもとに立会場外で行なわれる大量取引制度。

大納会　年の最終の立会日のこと。通常は12月28日だが，当日が日曜日のときはその前日。

大発会　年の最初の立ち日のこと。通常は1月4日だが，当日が日曜日のときはその翌日。

立会　取引所の開設する有価証券市場で売買取引をすること。平日の立会は午前と午後に行なわれ，これを前場・後場という。前場の立会時間は午前9時から11時まで，後場の立会時間は午後1時から3時までとなっている。

出来高　株式市場で売買された株数のことで売買高ともいう。1日の出来高，1週間の出来高，1か月の出来高など期間別・銘柄別に集計される。

手口　取引所内で売買された，銘柄別・会員別の売買内容をいう。

手仕舞い　信用取引を利用して買い，または売っている銘柄を反対売買して決済すること。

店頭株　証券取引所に上場されていない会社で，証券業協会の実施している店頭売買登録制度に登録されている銘柄のこと。売買仕法は取引所のように競争売買でなく相対売買を原則としている。

解合　相場の激変などで受け渡し決済が不可能となった場合に，売買の当事者が協議して，一定の値段を定めて売買契約の決済を行なうこと。解合は，売買契約の全部について行なう総解合，一部にとどめる一部解合，および強制解合・任意解合などの種類がある。

投げ　買った銘柄の株価が買い値より下がり，当分回復の見込みのないときなど損を承知で売ること。

成り行き　指し値に対することばで，売買注文の際値段を指定せず，市場の出来値にまかせること。なりゆき買い・なりゆき売りという。

難平(なんぴん)　株式投資の際に評価損を平均する意味。たとえば，買った株が値下がりした場合に買い増し，買い値の平均を低くして値上がりを待つ投資方法を難平買い下がりという。難平売り上がりもある。

値がさ株　株価の高い株式のこと。相対的に株価の高い株式をいうので，相場の位置によって，何円以上を値がさ株というかはっきりした決まりはない。品薄株が値がさ株となることが多い。

値幅制限　株価の大幅な変動を防ぐために定められている1日の値動きの最高幅。値幅制限額は，前日の終わり値または最終気配を基準に株価200円未満は50円，500円未満は80円，1,000円未満は100円，1,500円未満は200円，1,500円以上は300円とされている。ただし特定銘柄については値幅制限は適用されない。

呑(のみ)**行為**　顧客から株式売買の委託を受けた証券会社が，市場で売買を執行せず，顧客に対してはあたかも委託どおりに取引したとみせかけて，自己が相手方となって市場外で売買を成立させること。証券取引法ではきびしく禁じている。

ばいかい　取引所取引の売買形態であって，同一会員が同一銘柄について，同一数量・同一価格の売りと買いを同時に行なうこと。ばいかいは大量の売り買いを手早く執行できる利点はあるが，需給の市場集中原則，公正な価格形成機能を阻害するおそれがあるので，1967年10月以後禁止された。➔クロス

媒介　顧客の売りと買いを，証券会社が仲介して市場外で取引を成立させること。この場合証券会社は売り手と買い手の注文を突き合わせるだけで，名義上まったくその取引に関係しない。

端株　取引所取引の売買単位に満たない株式をいう。なお，売買単位は東京証券取引所で，市場第1部は1,000株，第2部は500株となっている。

配当落ち　配当を受ける権利の基準日が過ぎたこと。基準日はふつう，決算期日と同じ。理論的には予想配当分だけ株価は下がるわけだが，市況によっては配当分を埋めて上がる場合もある。

跛行(はこう)**相場**　相場全般が上昇または下降過程にあるとき，銘柄・業種によっては全般に逆行する場合があるが，その動きが顕著な相場のこと。

発行価格　増資の際に新たに発行される株式の価格。発行価額ともいう。わが国では従来は額面金額で発行されるものが多かったが，最近は公募増資・時価発行増資*など時価を基準とした額面以上の価格で発行される例がふえてきた。➔増資

発行日取引　発行日決済取引という。近く発行予定の新株式が，発行前に発行日新株式として上場された場合に，その売買を行なうこと。

パフォーマンス投資　利益成長が高く，資本金が小さい会社の株式に集中投資して，値上がり益をねらうこと。アメリカの投資信託において1960年ごろから始まった。運用実績の非常によいものをパフォーマンスファンドとよび，その運用者はパフォーマーとよばれる。その投資方法は，利益成長の高い，小資本の，値動きのあらい銘柄を集中的に売買する。この投資成果が非常に高いため，日本でも1968年ごろから注目されている。

物色買い　市場人気にとらわれず，特に値上がりの期待できる銘柄や出遅れ株をさがして買うこと。

浮動株　株式市場に常に出まわり，流通している株式のことで，安定株・固定株の反対。浮動株の多い銘柄は，通例，株価が上がりにくい。

踏み上げ　カラ売りをしたのちに，株価の値上がりをみて，損を承知で買いもどすこと。この買いもどしが作用して相場が上がることを踏み上げ相場という。

プレミアム　premium　割り増し超過額のこと。おもに，株価がその額面金額を上回っている場合その超過額をいうが，事業会社が額面金額を越えた発行価格で増資を行なうときに生ずる資本準備金も，プレミアムという。

ブローカー　broker　顧客の委託による証券の売買を行なう証券会社。また，委託売買の業務をブローカー業務といい，顧客の支払う委託売買手数料収入を得る。➔委託売買

募集　不特定多数の者に対して，新たに発行される株式を均一の条件で，取得の申し込みを勧誘すること。公募増資などの際に行なわれる。➔売り出し

無記名株　株券に株主名が記載されず，株主名簿にも株主名が記入されない株式。株主はいつでも記名株券への転換を請求でき，株式事務は容易であるが，株式の買い占めに対処できないなどの欠点をもつ。わが国では定款に定めのある場合に限って無記名株を発行することができるが，ほとんど発行例がない。海外では西ドイツ・フランスなどで無記名株が多く発行されている

無償交付　増資の一形態で，払い込み金を徴収せずに資本を増加し，新株を交付すること。無償交付には，①再評価積立金を資本に組み入れる場合，②資本準備金または利益準備金を資本に組み入れる場合，③株式配当を行なう場合，などがある。➔増資

名義書き換え　株式を新たに取得した場合，株主の権利を得るために，発行会社に申し出て株券と株主名簿に名まえを記入してもらうこと。

名義貸し　主として税金対策の目的で，株式の保有者の依頼によって非保有者がその株式について名義を貸すこと。以前は証券会社が大口顧客に対して名義貸しを行なっていたこともあるが，現在ではほとんどみられない。

た。証拠方法は，人的証拠(証人・鑑定人)・物的証拠(証拠物・証拠書類)に分けられ，また，証明の対象となる事実(主要事実)を直接的に証明できる証拠を直接証拠，間接的に証明できる証拠(たとえばアリバイ*)を間接証拠または情況証拠という。〔井上公耳〕

しょうこ 【鉦鼓】 雅楽の打楽器。〈しょうご〉とも読む。大鉦鼓・釣鉦鼓(つりしょうこ)・荷鉦鼓(にないしょうこ)の3種があり，最も一般的なのは釣鉦鼓である。大鉦鼓は舞楽，釣鉦鼓は室内での奏楽と小舞楽に用いられ，荷鉦鼓は行進の際に用いられたらしい。釣鉦鼓は小さな深いさら形の金属楽器を，雅楽の太鼓と同じようにわくの中につるして，1本あるいは2本の木の桴(ばち)で打つ。合奏に際しては，小節のように，比較的小さな拍子の単位を明確にする機能をもっている。〔徳丸吉彦〕

じょうご 【畳語】 複合語*のうち，同じ成分のくり返しによってできているもの。くり返される成分の種類によって例をあげると，①語根など〈よわよわしい，ひろびろ〉〈軽々，常々〉，②語〈人々，山々，毒々しい〉〈泣き泣き，泣く泣く，みるみる〉〈まだまだ〉〈おやおや〉，③連語〈知らず知らず〉などがある。畳語は一般に数量・集合の大きいこと，動作・状態の継続または反復，状態の強調などを表わす。

しょうごいん 【聖護院】 京都市左京区聖護院中町にあるもと天台宗寺門派の大本山。現在は修験宗(しゅげんしゅう)の本山。もと愛宕(おたぎ)郡長谷(はせ)にあって円珍(智証(ちしょう)大師)の開基と伝えられ，常光院と称した。12世紀初め園城(おんじょう)寺*(三井寺)の増誉が再興して，聖護院と改め，のち後白河(ごしらかわ)法皇の10子静恵(じょうえ)法親王が10世として入寺して以来，三門跡の一つとなる。1613年(慶長18)江戸修験道本山を主管するものと定められ，山伏*の本山となった。数度火災にあい，1676年(延宝4)現在地に移り，1788年(天明8)・1854年(安政1)の皇居火災の際には，光格・孝明両天皇の仮御所にあてられた。旧寺領千四百三十石。現在境内には大宸殿(だいしんでん)(本堂)・書院・小書院などが残り，寺宝に木造不動明王像・木造智証大師像(ともに重文)などがある。〔杉坂靖子〕

しょうこいんめつざい 【証拠湮滅罪】 他人の刑事被告事件に関する証拠を湮滅・偽造・変造し，または偽造・変造の証拠を使用する罪。刑は2年以下の懲役または10,000円以下の罰金(刑法104条)。湮滅とは，証拠となるものを消滅させたり，証拠としての価値を少なくしたりすることである。証拠とは，物的証拠・人的証拠(証人・参考人など)をいう。したがって証人を隠すことも本罪となる。なお，親族間で本罪を犯したときは，刑を軽減されることもある(刑法105条)。〔井上公耳〕

しょうこう 【昇汞】 $HgCl_2$ 塩化第二水銀の別名。比重5.44の無色の結晶。100gの水に，0℃で3.6g，100℃で61.3gとける。元素から直接合成しても得られるが，硫酸第二水銀と食塩との混合物を加熱し，昇華させてつくる。アルコールやエーテルにもとけ，塩化ナトリウムなどの化合物と錯塩をつくる。猛毒で，経口致死量はおとなで1～2g。0.1～0.02%の水溶液を消毒薬として用い，ふつう中毒防止のため赤色などに着色する。そのほか，写真薬，有機合成の触媒，分析試薬などに用いられる。〔鈴木 篁〕

しょうこう 【将校】 日本陸軍の幹部の地位にあった武官。武官とは将校・准士官・下士官をいう。将校は指揮官その他重要な軍務につくので，その精否が軍の戦力発揮に大きな影響を与える。将校は兵科将校と各部将校(技術・経理・衛生・軍医・獣医・軍楽)からなり，将官・佐官・尉官(おのおの大・中・少の3階級に分かれる)の階級がある。兵科将校での最上級は陸軍大将，各部将校では中将(軍楽部は大尉まで)である。呼称には各兵種区分を表わす名称を用いる。たとえば陸軍軍医中将・陸軍憲兵大佐・陸軍歩兵少尉など。ただし，兵科将校の将官には兵種別の名称を用いない。ただし，1940年(昭和15)に兵科区分が廃止されたのちは，兵種区分名称を削除した(ただし憲兵はもとのまま)。➔兵科 ➔士官〔森田 哲〕

しょうこう 【紹興】 シャオシン 中国，浙江(せっこう)省北部，杭州(こうしゅう)湾南岸の都市。紹興県の県政府所在地で，杭寧(こうねい)鉄道(杭州～寧波(ニンポー))に沿い，道路・運河も発達した交通の要衝である。商業も盛んで，ここで生産される老酒(ラオチウ)は紹興酒として知られる。魯迅*(ろじん)の出生地で記念館が建てられており，南郊の蘭亭(らんてい)は王羲之*(おうぎし)の修行した場所として有名である。また，会稽(かいけい)山・越王台などの名勝も多い。〔船越昭生〕

しょうごう 【商号】 商人の営業活動上の名称。名称であるから個人の氏名と同様に文字で表示できるものでなければならず，図形・記号だけでは商号とはならない。商号は，原則として自由に選択することができるが，会社にあっては会社の種類を必ず挿入(そうにゅう)しなければならないことになっている(商法17条)。商号の数は1営業につき1個を原則とするので，同一営業に異なった商号数個を使用することは許されない。商号専用権をもつ者は，類似商号を使用する者に対してその使用の差し止めを請求することができる(商法20条)。〔松本治雄〕

じょうこう 【上皇】 譲位した天皇の尊号。正しくは太上(だじょう)天皇。出家すれば太上法皇，略して法皇といった。天皇の実父で即位しない皇族を太上天皇としたこともある。別名は院・仙洞(せんとう)・姑射山(こやさん)など。譲位のことは皇極天皇が初例であるが，まだ太上天皇の号はなく，持統天皇を太上天皇といったのが用例の最初である。のちには同時に数人の上皇が存在することもあった。➔院政

じょうごう 【成功】 平安中期以降盛行した売官のこと。朝廷で造営・造寺その他支出の必要のあるとき，ある個人が私財を納め，その代償として官を申請すること。すなわち官職を金銭・財物であがなうことである。朝廷で成功を募ることも多く，また寺院などに造営料として特定の官を給付し，寺院に成功を募らせることもあった。院政時代にはいるとますます流行し，成功の官のうちでも国司は収入も多く競望する者も多かった。そのため国司の官職は国務を軽んじて徴税にのみ力を入れ，地方政治の私権化が著しかった。〔黛 弘道〕

しょうこうい 【商行為】 実質的には，営利活動に関する財産上の行為のこと。商法は，どのような行為が商行為となるかを限定的に列挙している。商行為には，①だれがやっても商行為とされるもの(絶対的商行為)，②営業としてなされたとき商行為となるもの(営業的商行為)，③商人がその営業のためにすることにより商行為とされるもの(付属的商行為)の三つがある。これらの商行為は，民法と異なった特別の取り扱いを受ける(商法504～522条)。〔松本治雄〕

しょうこうかいぎしょ 【商工会議所】 ⇨日本商工会議所

しょうこうくみあいちゅうおうきんこ 【商工組合中央金庫】 中小企業の協同組合およびその構成員の金融を円滑化する目的で，1936年(昭和11)に設定された金融機関。資本金は政府および中小企業の協同組合(事業協同組合・企業組合・信用協同組合)の出資からなる。与信面では所属団体またはその構成員に対して中期および長期の貸し付け，手形割引，当座貸し越し，債務の保証などを行ない，受信面は協同組合からの預金，債券(利付き商工債券・割引商工債券)の発行からなっている。なお，債券の発行は払い込み資本金および出資者勘定に属する準備金の合計額の20倍までに制限されている。〔速水 保〕

しょうこうし 【小公子】 イギリス生まれのアメリカの女流作家バーネット夫人(1849～1924)の小説(1886)。少年少女文学の名作として世界的に知られる読み物で，イギリス貴族の後継者となったアメリカ少年セドリックの明朗で愛に満ちた姿と行動を，キリスト教の博愛思想のもとに描く。

しょうこうしょう 【商工省】 商工行政を専管する中央官庁。1925年(大正14)わが国の商工行政の膨張に対応するため，農商務省*を商工・農林の2省に分離して新設。1943年(昭和18)軍需生産増強のため，軍需省・農商省に解体吸収された。第2次世界大戦後，軍需省・農商省廃止に伴って復活，1949年，通商産業省*に改組された。

しょうこうてん【昇交点】⇨交点

しょうこうてんのう【称光天皇】(1401～1428) 在位1412～1428。名は実仁(みひと)。法名は大宝寿。後小松天皇の第1皇子で，母は日野資国の娘資子。1412年(応永19)後小松天皇のあとをうけて即位。深く仏教に帰依して戒を守ったので皇嗣がなく，皇弟後花園天皇が皇位を継いだ。陵墓は京都市伏見区の深草北陵。

しょうこうねつ【猩紅熱】 A群溶連菌によって起こる急性発疹(はっしん)性熱性伝染病で，法定伝染病の一。4～9歳の子どもに多く，秋から冬にかけて多くみられる。一度かかれば，ほぼ一生免疫ができる。病原体が侵入するのは主として咽頭(いんとう)からで，おもに飛沫(ひまつ)感染による。潜伏期はふつう2～4日。突然に38～43℃の発熱で発病し，頭痛・咽頭痛を訴えることが多い。発熱後12～72時間で特有の微細で鮮紅色の発疹が密に現われ，皮膚は一面に赤くみえ，瘙痒感(そうようかん)を伴うことが多い。顔面はほおの部分の発赤が著明で，口の周囲は発疹がなく蒼白(そうはく)であり，この口囲蒼白は本病の特徴である。そのほか咽頭発赤が著しく，扁桃(へんとう)が腫脹(しゅちょう)する。顎下(がくか)リンパ腺(せん)もはれ，痛みを伴うことが多い。舌乳頭が発赤腫大して舌表面がイチゴ状となるいちご舌が，半数以上の症例にみられる。発熱・発疹は，合併症がなければ4～7日ほどでみられなくなり，一般状態も改善される。第2～3病週から皮膚の落屑(らくせつ)が現われ，腋窩(えきか)・手指の先端・鼠径(そけい)部に著明で，手掌・足蹠(そくせき)では膜様に大きくはげることがある。合併症として問題になるのは腎炎(じんえん)で，第2～4病週に起こることがある。治療としては，安静を守らせ，抗生物質療法(主としてペニシリン系)が行なわれる。〔高橋悦二郎〕

しょうこく【小国】 ニワトリの品種。わが国で改良された愛玩(あいがん)用のニワトリで，長尾鶏と同様，謡羽は1mくらいまで伸びる。しかしながら毎年換羽する点が長尾鶏と異なる。白藤・五色の内種があり，長鳴性で強健，年間150～200個を産卵し，体重は雄2.0kg，雌1.5kg。

じょうこく【上告】 第二審(→三審制度)判決の確定前にする不服申し立て。上告審は控訴*裁判(第二審)における事実認定への不服を理由にするのではなく，法令の遵守，法令の適用，憲法違反の疑いなどの観点からなされるので，法律審ともいわれている。①刑事訴訟法では，裁判が言い渡された日から14日以内にする必要があり，上告できる者は，不利益な控訴判決を受けた被告人または検察官である。つまり被告人は判決理由に不満があっても，結果的に無罪の判決を受けた場合は上告できない。なお，上記のように事実誤認が当然の上告理由にならない規定に関し，刑事事件では



ショウコク

免罪もありうることから事実誤認に基づく判決は重大であり，上告理由として認めるべきであるとの弁護士側からの批判もある。②民事訴訟法では，判決の送達があった日から2週間以内に上告する必要があり，上告権をもつ者は控訴判決を破棄することによって利益を受ける者とされているが，仮差し押え・仮処分に関する判決に対しては上告できない。控訴審が抜きになって，直接第一審判決に対し上告を認める場合もある。〔内田剛弘〕

しょうこくじ【相国寺】 京都市上京区今出川通り烏丸(からすま)東入ルにある臨済宗相国寺派の寺。1382年(弘和2，永徳2)足利義満(あしかがよしみつ)が後小松天皇の勅命を奉じて創建，京都五山第2の名刹(めいさつ)であった。1329年(明徳3，元中9)落慶したが，応永・応仁(おうにん)の大火により焼失，そのたびに再建された。1551年(天文20)兵火により炎上，室町末期には衰微した。現在は普光院・慈照院などの塔頭(たっちゅう)を残すにすぎない。法堂は1605年(慶長10)豊臣秀頼(とよとみひでより)の建立(こんりゅう)寄進にかかる法堂中で最古の遺構である。寺宝に国宝の《無学祖元墨蹟(ぼくせき)》四幅〈与長楽寺一翁偈語 弘安(こうあん)二年十一月一日〉，長谷川(はせがわ)等伯，《猿猴竹林図屛風(えんこうちくりんずびょうぶ)》，絶海中津《十牛頌(じゅうぎゅうしょう)》などがある。〔永井信一〕

じょうこん【条痕】 条痕板とよばれる素焼きの板に鉱物をこすりつけたときに，鉱物の微粉末によってできる筋。その微粉末の色を条痕色という。条痕色は鉱物の種類ごとに一定であり，また，外観色とは異なることが多い。したがって金属鉱物の場合，条痕色はその鑑定に役だつ。たとえば，シゼンキン・オウドウ鉱・オウテッ鉱の外観色は似ているが，条痕色はそれぞれ，黄色・黒色・緑黒色なので識別できる。簡単で有力な鑑定法ではあるが，ケイ酸塩鉱物の多くは条痕色が白色を示すので，すべての鉱物に利用できるわけではない。〔加藤敏郎〕

しょうこんしゃ【招魂社】⇨護国神社

しょうこんゆ【松根油】 マツの根を乾留して得られる松根原油・松根タールの総称。松根は樹脂分の多くなった心材部すなわち肥松(ひで)が最もよい。主成分はα－ピネン・β－ピネン・フェランドレン・樹脂酸。第2次世界大戦中は精製してガソリン代用とされたが，分留するとテレビン油・パインオイル・ロジン油・ピッチに分けられる。

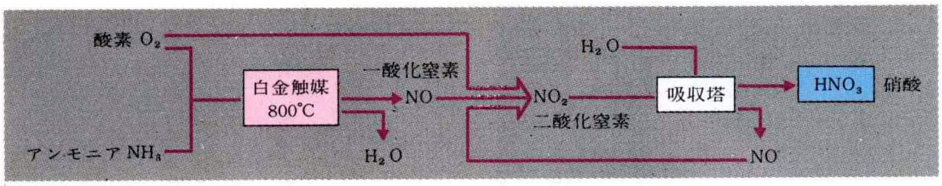
じょうざい【錠剤】 医薬品を機械を用いて圧縮し，一定の形状とした製剤。形状はレンズ形・円板形・楕円(だえん)形・多角形など多様である。ふつう医薬品を粉末状とし，賦形剤・結合剤・崩壊剤などを加え，よく混和し圧縮する。あるいは，さらに湿潤剤を加えて顆粒(かりゅう)状としたのち圧縮して成形する場合もある。多くの錠剤は，この成形したものの外側に，さらに保護剤・滑沢剤(つやだし)・着色剤・甘味剤などの剤皮を施してある。錠剤は内服しやすく，取り扱いが便利なために発達した製剤で，薬効時間および作用部位の調節もでき，保存も容易で，大量生産に適し，さらに薬用量の正確を期することができるなど多くの利点がある。〔江本龍雄〕

しょうさいふぐ【潮際河豚】 硬骨魚類・マフグ科。体は長楕円(ちょうだえん)形で，全長35cmほどになる。体はなめらかで肉眼で見えるとげはない。背面はかっ色と白色の網目状のまだらで，腹面は白い。近縁の他種と異なり，尾びれの下縁が白く，胸びれの近くに黒斑(こくはん)がない。東北地方から九州にかけて分布し，沿岸で最も普通にみられるフグ。干物などにして食用にするが，卵巣・肝臓に猛毒があり，皮膚や腸にも毒がある。肉にもわずかに毒性があるが，多量に食べなければ危険はない。〔菅野 徹〕

しょうさつ【省察】 フランスの哲学者デカルト*の著書。1640年刊行。原題は《神の存在，および人間の精神と身体(物体)との区別を証明するところの第一哲学の省察》。《方法叙説*(じょせつ)》の形而上学(けいじじょうがく)に関するさらに詳細な説明を要求する多くの学者にこたえて書かれた。あらかじめ当時の代表的学者たちに意見を求め，その批評と自分の答弁を本文に付してのち出版したことは，彼一流の用心深さを示す話として有名。彼の思惟(しい)の頂点を示し，その軌跡は的確にして高貴な文体に結晶している。〔石井忠厚〕

しょうさん【硝酸】 HNO_3 通常水溶液の状態で扱われるが，無水の物は無色透明の発煙性の液体で，比重1.53，融点－42℃，沸点86℃。光があたると一部分解する。水・アルコールにとけ，水と69.8%，123℃の共沸混合物*をつくる。市販の濃硝酸は70%，無色・発煙性の溶液である。

強酸で，0.1規定のものは室温で約90%電離している。強い酸化力があるので，金・白金以外のほとんどの金属をとかす。その際，金属が水素よりイオン化傾向*の小さいときは酸化窒素や二酸化窒素を発生し，大きいときはアンモニア・窒素・亜酸化窒素・



硝　酸　オストワルド法による硝酸の製造

ヒドロキシルアミンなどを発生する。アルミニウム・クロム・鉄などは濃硝酸で表面に不動態の被膜をつくりとけない。塩基とは中和して硝酸塩となる。*酸としての性質のほか，酸化力により，イオウ・リンをおのおの硫酸・リン酸にする。また有機化学ではニトロ化剤としても用いられ，タンパク質を黄変させる。皮膚・粘膜を侵すので危険である。なお，硝酸に二酸化窒素をとかした液を発煙硝酸，塩酸と混合した液を王水という。古くはチリ硝石 $NaNO_3$ に硫酸を加え加熱・蒸留してつくったが，現在工業的にはハーバー*法で得られたアンモニアの接触酸化法が行なわれている(オストワルド*法)。

わが国では1967年(昭和42)に34万8,000t生産され，化学繊維・肥料(硝安)に25%，酸洗・めっき用に20%，ポリウレタン原料に13%，火薬に7%，硝化綿に6%，染料関係に14%使用され，残りはアゾ色素顔料・アジピン酸製造・試薬・輸出などであった。➔硝酸塩　〔三輪誠・玉野秀樹〕

じょうさん　【蒸散】　高等植物の体内から，水分が水蒸気となって空中に排出される現象で，おもに葉で行なわれる。表皮細胞系で行なわれるクチクラ蒸散(表皮蒸散)と，気孔を通じて行なわれる気孔蒸散とがある。蒸散は発汗と同様，植物体の体温を調節するばかりでなく，根での吸水や茎での水分上昇の原動力の一つでもあり，この水の移動に伴う養分の吸収とその必要部分への供給という役割をも間接的に果たしている。

しょうさんアンモニウム　【硝酸アンモニウム】　NH_4NO_3　硝安ともいう。硝酸にアンモニアを加え中和してつくる。純粋なものは無色の結晶で，吸湿性が強い。比重1.73，融点169.5℃。固体は125℃，84.2℃，32.5℃，−18℃を転移点とする5変態がある。熱すると亜酸化窒素と水に分解するが，急熱すると爆発する。化学肥料・爆薬・寒剤などに用いられる。

〈肥料としての硝安〉通常白色の粉末または粒状で，窒素含量33〜35%であり，そのうち半量がアンモニア態，残りの半量が硝酸態である。全量が作物に吸収利用されるため生理的中性肥料であり，したがって連用しても土壌(どじょう)を悪化する程度が少ない。畑では他の速効性窒素肥料と同様に使用できるが，降雨の多い地域では追肥回数を多くする必要がある。水田の基肥(もとごえ)では効果が少なく，穂肥施用時期以後に施用すれば効果があがる。有機物と混合して爆発した事例があり，また強アルカリ性物質・酸性物質との混合は窒素の損失が起こるので他の肥料との配合は注意を要する。　〔早瀬達郎〕

しょうさんカリウム　【硝酸カリウム】　硝酸のカリウム塩。KNO_3　無色の結晶で，比重2.109，融点339℃。融点以上に熱すると酸素を放って分解する。100gの水に，0℃で13.3g，100℃で246gがとける。天然には硝石として産出する。硝酸ナトリウムと塩化カリウムの複分解によって得られる。黒色火薬・マッチなどの原料，肥料・医薬品などに用いられる。

じょうざんきだん　【常山紀談】　湯浅常*山の著わした随筆集。25巻。他に拾遺4巻，付録雨夜灯1巻を添える。1739年(元文4)の自序をもち，このころ一応成立したが，のち増補を重ねて明和年間(1764〜1771)に松崎観海の序文と赤松蘭堂(らんどう)の跋文(ばつぶん)とをつけて，常山の没後に刊行された。戦国時代から江戸時代初期にわたる50〜60年間の名将・傑士の言行・逸話を集大成したもので，その平明で虚飾のない仮名混じり文体は，類書中の白眉(はくび)とされる。　〔小田　博〕

しょうさんぎん　【硝酸銀】　$AgNO_3$　無色の結晶で，比重4.35。100gの水に，0℃で122g，100℃で952gがとける。エチルアルコールにもとける。最も重要な銀塩で，銀を硝酸にとかすと得られる。硝酸銀溶液を塩素イオンを有する液に混ぜると，塩化銀の白色沈殿を生ずる。また，タンパク質を凝固させるので，皮膚に触れると腐食を起こす。過剰のアンモニア水にとかしたものは，アルデヒドの検出反応である銀鏡反応に用いられる。他の銀塩の製造原料，銀めっき，写真の感光材原料などとされる。また，医薬品としては収斂薬(しゅうれんやく)・消毒薬などに用いられる。劇薬。貯蔵の際は，暗所に置いて密栓(みっせん)を施す。　〔鈴木　篁〕

じょうざんけいおんせん　【定山渓温泉】　北海道札幌(さっぽろ)市豊平(とよひら)町にある温泉。泉温31〜94℃。泉質は含ホウ酸食塩泉・硫化水素泉・アルカリ性イオウ泉で，胃腸病・神経病にきくといわれる。豊平川上流の渓谷に位置し，明治初期に僧定山の願い出により開湯した。北海道の代表的行楽温泉で川床から高温の湯が湧出(ゆうしゅつ)し，冬でも水泳を楽しむことができる。札幌から定山渓鉄道とバスが通じている。

じょうさんさよう　【蒸散作用】　⇨蒸散

しょうさんしょくぶつ　【硝酸植物】　硝石植物ともいう。土壌(どじょう)中の硝酸塩は植物によって根から吸収され，植物体内で還元されて有機窒素化合物に同化されるが，植物の種類によっては硝酸還元の速度が根の硝酸吸収速度よりおそいために組織内に硝酸塩を多量に蓄積するものがある。このような植物を硝酸植物という。タバコ・サトウダイコン・ヒマワリなどがその例で，生体の抽出液を濃縮すると硝石(硝酸カリウム)が得られる。

しょうさんせんいそ　【硝酸繊維素】　⇨ニトロセルロース

しょうさんナトリウム　【硝酸ナトリウム】　$NaNO_3$　無色の結晶。比重2.26，融点308℃。380℃に熱すると酸素を放って亜硝酸塩となる。水100gに，0℃で73g，100℃で180gがとける。チリ硝石を水にとかし，再結晶して精製するが，チリ硝石の産額は減少している。また，アンモニアの酸化によって硝酸を製造する際に，炭酸ソーダ溶液に二酸化窒素を吸収させて得られる。肥料，硝酸カリウムの製造原料などに用いられる。➔チリ硝石　〔鈴木　篁〕

しょうし　【尚氏】　琉球(りゅうきゅう)国王の王家名。14・15世紀のころ琉球は北山・中山・南山の三国が相対立していた。1416年(応永23)佐敷按司(あんじ)(領主)尚巴志(はし)は最強の中山*王武寧を滅ぼし，父の思紹を中山王の位につけた。翌年思紹は武寧の世子と称して明(みん)に遣使し，王爵を得た。王位を継いだ尚巴志は1429年(永享1)三山をあわせて琉球を統一した。のち1609年(慶長14)島津氏に攻略され，国王尚寧は捕虜となり，以後琉球は島津氏を通じて日本に服属して日中両国に朝貢，明治維新に至った。明治政府は廃藩置県後琉球藩を設定，尚泰を藩王にして華族に列した。*清(しん)はこれに抗議し，日清間に紛争が起こったが，1879年(明治12)日本に帰属。尚泰は東京に移住させられ，のち侯爵。　〔高崎徳次〕

しょうじ　【障子】　和風建具の一。障子はもとついたて・襖(ふすま)などの総称であったが，現在ではもっぱら和紙を張ったあかり障子をさす。室内の境，窓・縁の内側などに用いられ，柔らかい光線を導き入れ，さらに換気・調湿などにもすぐれている。框(かまち)・桟(さん)によってわくをつくり，中に縦横に細い組み子を設け，これに和紙を張る。種類は多く，紙張り障子(腰付き障子・横繁(よこしげ)障子・額入り障子・大間障子・水腰障子)・あずま障子・ガラス窓障子などがある。わく材にはひのき柾(まさ)・すぎ柾・もみなどが用いられる。〔神山幸弘〕

しょうしかい　【尚歯会】　江戸後期，渡辺*崋山(わたなべかざん)・高野*長英，岸和田藩藩医小関三英らの洋学者が，切迫する内外情勢を研究するために結成した会。〈蛮社(ばんしゃ)〉〈山の手派〉ともいう。1832年(天保3)ころ

から華山を中心に集まり，洋学に関心をもった者が多かったので，時事と政治の新知識を交換し研究した。➔蛮社の獄

しょうじがいしゃ【商事会社】 商行為*をすることを目的として設定した社団法人*(商法52条)をいう。営利を目的としているが，商行為を業としない鉱物の採掘などの社団法人の民事会社*に対応することばであるが，商事・民事会社ともに商法を適用される。なお一般に商事会社とよばれるものより法律上の意味は広く，電器メーカーも商事会社に含まれる。

じょうしかん【娘子関】 ニャンツーコワン 中国東部，太行(たいこう)山脈中の一関門。太原東方120kmにあり，華北平原から山西山地にはいる要地で，河北・山西両省の境界をなす。古来軍事上の要地とされ，また東に井陘(せいけい)炭田，西に陽泉の鉄山があり，石太鉄道(石家荘～太原)が通過する産業・交通の要衝である。

しょうしき【抄紙機】 ⇨製紙

じょうしき【常識】 消極的には，ある特定の時代・社会に流通している知的・倫理的通念。この定義にしたがえば，常識の中には相当の偏見，謬見の含まれていることが予想される。概して，ドイツの思想では，この性格から，常識は学的なものより一段低く評価される。またイタリアのルネサンス人，19世紀のロマン主義者は，その天才信仰のゆえに常識を無視する傾向がある。ところで常識には，微妙な平衡感覚としての性格を与えることもできる。たとえば，一見論理的に整合していても，そのどこかがおかしいと感ずるような力である。いわば，人間精神のある傾向が極端に走りすぎるようなとき，それを抑制して，再び調和を回復させる力として理解されることがある。これが常識の積極的な定義であり，〈理性〉〈良識〉と同一視されるものである。イギリス・フランスの哲学にはこの傾向が強い。プラトンがロゴス*に対してミュトスを尊び，アリストテレスが〈中庸〉を重んじたのも，常識のこの理解につながる面がある。〔石井忠厚〕

じょうしきてつがく【常識哲学】 おもに18世紀のイギリス・フランスにみられる考えで，逆説や懐疑を説く思想に対立し，万人が共有する常識的な感覚や判断を重視するもの。T.リード*は常識のもつ真理は証明できず，直覚されるしかないものだとしたが，彼の説をうけてJ.オスワルド・D.スチュアート・W.ハミルトンらがスコットランド学派を形成した。広義には19世紀に自然のもつ秩序を前提として，つねに，だれにとっても不変であるような常識の信念を明白なものにしようとしたパース*の試み，さらには，H.シジウィックの倫理学説，ラッセル*やC.D.ブロードの認識論，またムーア*・ウィトゲンシュタイン*の思想などがあげられよう。〔玉井　治〕

じょうしきまく【定式幕】 ⇨幕

しょうじこ【精進湖】 山梨県富士山麓(さんろく)にある富士五湖の一。面積0.9km²，水面高度902m，水深16m。もと富士山麓と御坂山地の間にあった東西に狭長な湖が富士火山活動のときの青木ヶ原溶岩流によって分断されてできたもので，南岸から湖中へ溶岩流の露出がみられる。流出口はないが，水位の昇降が激しく，東隣の西湖や南西の本栖湖(もとすこ)の水位変化と似ているところから，水は溶岩を通じて連絡があり，伏流して桂(かつら)川や芝川にはいっているものと思われる。冬は湖面が結氷するのでスケート，ワカサギつりも人気がある。富士箱根伊豆(いず)国立公園に所属する。〔長津一郎〕

じょうじせい【常磁性】 物質が磁場*の方向に磁化*される性質。すべての物質は磁場の中に置かれると磁化するが，このうち磁場の中に置かれている間だけ，しかも磁場の方向に磁化するとき，常磁性を示すといい，その物質を常磁性体という。常磁性の原因は物質粒子のスピン*，あるいは軌道角運動量による磁気モーメント*が，かけられた磁場によってそれらの方向をそろえるために起きると考えられている。すなわち外部磁界がないときは，磁気モーメント間に相互に働く力が熱運動と比較して小さいために，各磁気モーメントはかってな方向をとり，物質全体では磁化されていない。外部磁界が加わると，その方向に磁気モーメントが向き，物質は全体として磁化される。常磁性体の磁化率*は一般に絶対温度に反比例する。これは磁気モーメントの配列が温度を高くすると熱運動によって妨げられるからである。これをキュリーの法則といい，$x=C/T$(xは磁化率，Tは絶対温度，Cは物質による定数)の公式によって与えられる。強磁性*を示す物質もキュリー温度(θ)以上では常磁性を示し，その磁化率はキュリー-ワイスの法則$x=C/(T-\theta)$に従う。常磁性体にはアルミニウム・白金・マンガン・クロム・セリウム・酸素・空気などがある。常磁性を示す常磁性塩は極低温をうるために使われる。➔断熱消磁法〔中野藤生〕

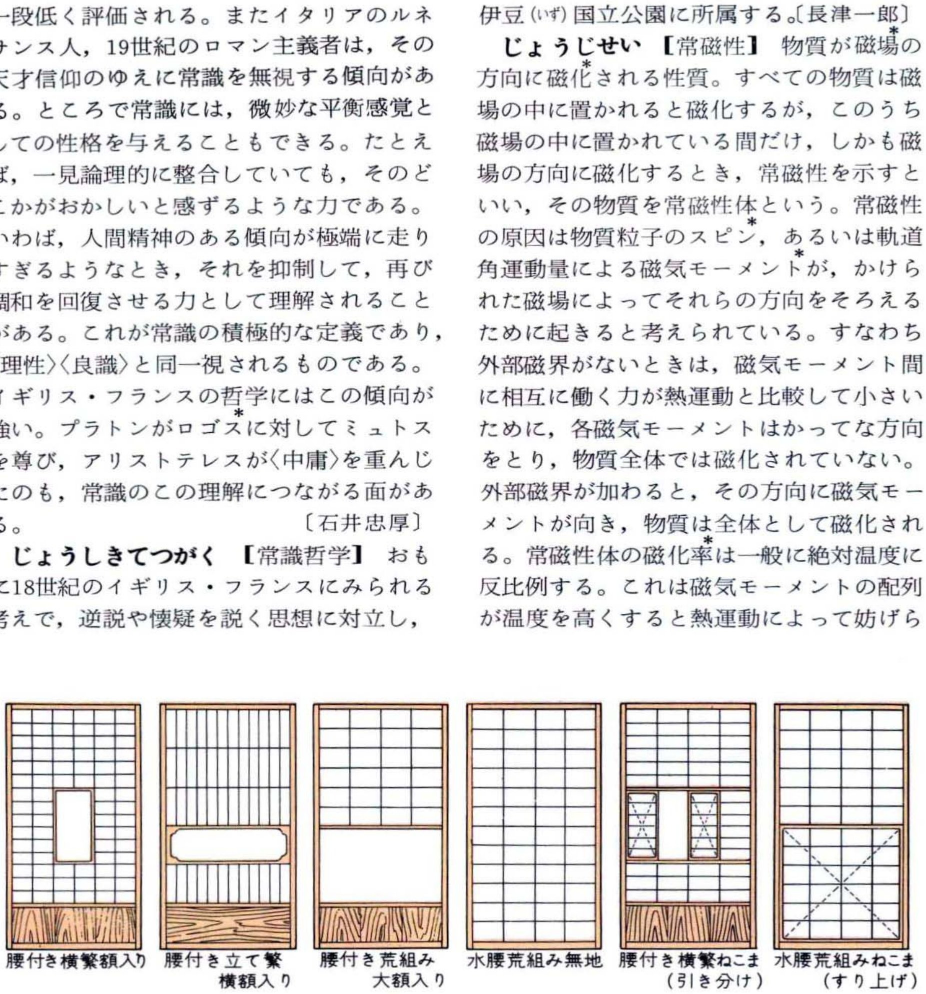
しょうしたい【硝子体】 眼球の水晶体と網膜との間に充満する無色透明，ガラス様の膠質塊(こうしつかい)。ガラス体とも読む。硝子体膜に包まれ，内容物の98%までは水分であるが，ヒアルロン酸という酸性多糖類を含む。屈折率は1.336。わずかながら繊維芽細胞・白血球と微細な膠原繊維があり，繊維は年齢とともに太くなって視力を障害することがある。➔目

じょうじつしゅう【成実宗】《成実論》を研究する中国仏教の一学派。4世紀ごろ，訶梨跋摩(かりばつま)の著わした《成実論》を鳩摩羅什*(くまらじゅう)が中国語に翻訳して以来，南北朝時代を通じてこの論の研究がしだいに盛んになった。南朝では南斉(せい)の僧柔(そうにゅう)・恵次，梁(りょう)の開善寺智蔵(ちぞう)・荘厳寺僧旻*(そうびん)・光宅寺法雲など，北朝では北魏(ぎ)の曇度(どんたく)をはじめ多くの《成実論》の研究家が輩出した。しかし，隋(ずい)代になって三論宗の吉蔵*が，この論に説く空の思想は小乗仏教の系統であると断定し批判して以来，《成実論》の研究は衰えた。日本では奈良時代に東大寺・元興寺・西大寺・法隆寺などで三論宗に付随して研究されたが，それ以後衰えた。〔佐藤成順〕

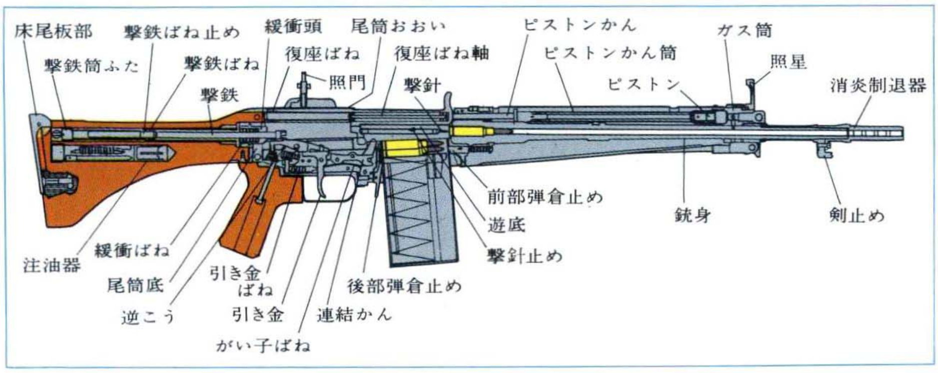
しょうしもく【鞘翅目】 ⇨甲虫

しょうしゅう【漳州】 チャンチョウ 中国，福建省南部の都市。厦門(アモイ)の西方，九龍江(きゅうりゅうこう)北岸に位置し，鷹厦鉄道(鷹潭(ようたん)～厦門)に沿う。九龍江下流のデルタ上にある省南部の中心都市で，付近ではパイナップル・バナナなどを産し，伝統工業の製紙業も知られている。宋(そう)代以後，対外貿易港として栄えて活況を呈していたが，厦門の発展に伴って重要性は往時ほどではない。なお，古くから華僑(かきょう)を多く出すことで知られる。〔船越昭生〕

しょうじゅう【小銃】 兵の使用する基本的な兵器で，兵の携帯に適する寸法と重量をもつ。用途と性能に応じ，歩兵銃と騎兵銃，また単発銃と連発銃に分けられ，連発銃にはさらに半自動銃(発射ごとに引き金を引く)と自動銃(引き金を引いている間は発射が続けられる)の区別がある。各国で現用中の小銃は，おおむね口径6.5～7.7mm，弾丸重量約15g，有効射程1,000～1,200m前後である。白兵戦もしくは肉薄戦にも使用できるように，銃剣の装着を可能にしているものが多い。



障　子



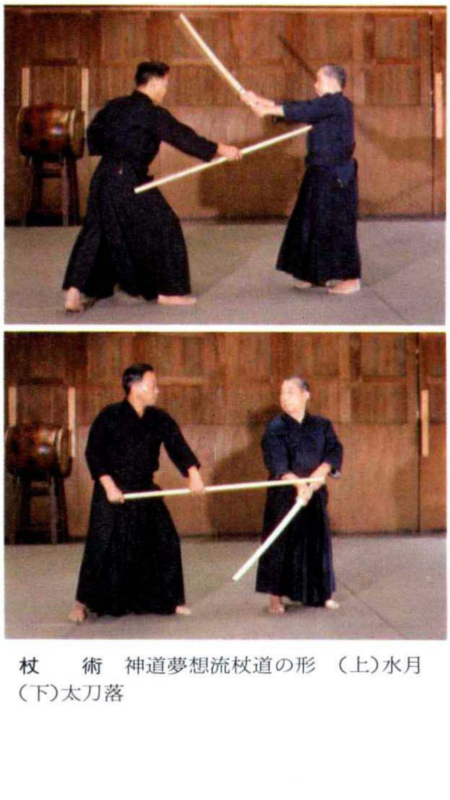
引き金を引くと，撃鉄が撃針を打ち弾丸が発射されるが，この際に生じたガスの一部がガス筒内のピストンに作動すると，これに押されてスライド・遊底・撃鉄が後退し空薬莢が排出される。同時に弾倉ばねによって押し上げられた次弾が遊底に押されて薬室に送り込まれる



①種子島初来のものに似た薩摩筒　②堺の細筒　③ウェストリーリチャーズ銃(1865)　イギリス　雷管式先込銃　④レミントン銃(1867)　アメリカ　元込め銃　⑤火薬スプーン　⑥青銅製手銃(1377)　中国

小　　銃

【歴史】13世紀にヨーロッパに遠征した蒙古(もうこ)軍は黒色火薬と小銃様の火器を使用したと伝えられる。14世紀末には大砲を小形化したハンドキャノンが現われたが，15世紀末にはこれをさらに小形にし改良したハンドガンが全ヨーロッパに普及した。ハンドガンは銃手と運搬手の2名により操作され，球形鉛弾を先込めしたうえで火なわで点火し発射させるものであった。撃発装置が発明されたのは16世紀初めで，このころは銃手1名による操作が可能となった。17世紀初めになると，火なわに代わり火打ち石式撃発装置が発明され，射撃速度を火なわ式の3～4倍に早めた。遊底による後装装塡(そうてん)，撃発式発火装置・腔線(こうせん)(ライフル)・雷管などの発明による近代的小銃の誕生は19世紀にはいってからである。特に1830年代に実現したアメリカ人コルトらによる雷管・発射薬・弾丸を一体にした金属製薬莢(やっきょう)の発明は，連発銃の誕生を促進し，小銃の威力を飛躍的に増大させることになった。同時に小銃生産方式の近代化・量産化も進められ，南北戦争における多大な小銃要求量に応じられるようになった。また，19世紀後半における精密工作機械の発達は後装銃銃身の腔線を小銃にとって不可欠のものとし，1880～1890年代には，今日の小銃の原型が完成した。各国で現用の小銃には，アメリカのM1(口径7.62mm，半自動式)・BAR(自動銃)，ソ連の自動短銃各型，日本の六四式小銃(口径7.62mm，自動・半自動両用)などがある。
〔藤井冬木〕



杖　術　神道夢想流杖道の形　(上)水月　(下)太刀落

じょうしゅうはん　【常習犯】　反復習慣性をもつ特定の犯罪の態様。現行刑法では常習犯について一般的な規定はないが，特定の犯罪，たとえば，常習賭博(とばく)罪(刑法186条1項)，常習的傷害・暴行・脅迫の罪(暴力行為等処罰ニ関スル法律1条の3)，および常習特種強窃盗・常習累犯強窃盗・常習強盗傷人・常習強盗強姦(ごうかん)の罪(盗犯第1防止及処分ニ関スル法律1～4条)が代表的であり，これらについては刑罰が重くなることが決められている。常習犯とは別に常習犯人ということばがあるが，これは刑罰法令で常習犯人と定めた者，または一定の犯罪を反復する習性をもつ犯罪者を意味し，常習犯と概念的に異なる。
〔井上公耳〕

しょうしゅうれいじょう　【召集令状】　民間にある者を召集する旨を伝える命令書。召集とは，戦時または事変その他必要に際し，兵役にある在郷者(帰休兵・予備兵・後備兵・補充兵・国民兵)を軍隊に召致することをいう。召集令状は，警察署長または市長がつねに整備・保管し，師団長が動員令を下したとき，これを召集しようとする者に交付した。俗に〈赤紙〉とよばれた。

じょうじゅつ　【杖術】　杖を武器とする武術。古くから狩猟や戦闘に用いられた棒術が江戸時代に精練されて杖術が生まれた。代表的な流派に神道(しんどう)夢想流・今枝新流・一心流などがある。神道夢想流は慶長(1596～1614)のころ香取(かとり)神道流・鹿島(かしま)神流の奥義をきわめた夢想権之助勝吉(ごんのすけかつよし)が流祖である。権之助は宮本武蔵(みやもとむさし)と試合して敗れたあと，槍(やり)・薙刀(なぎなた)・太刀(たち)の3種の武術を総合した杖術を編み出し，ついに武蔵を破ったと伝えられる。杖は，夢想流では長さ4尺2寸(約1.27m)，直径8分(約2.4cm)のカシの丸木と定められている。形は，表業・中段・乱合・影・五月雨(さみだれ)・奥伝・秘伝と64本ある。最近では杖道と呼称され，東京・名古屋・大阪・福岡などを含めた主要都市に普及し，欧米諸国にも広く紹介されている。なお，現在警察で行なわれている警杖術は神道夢想流である。
〔清水隆次〕

しょうしょ　【詔書】　⇨詔勅

しょうしょ　【尚書】　⇨書経

しょうしょ　【小暑】　二十四気*の一。陽暦の7月7日ごろにあたる。太陽黄経は105°。

このころ，梅雨があけて本格的な夏になる。

じょうしょ【情緒】⇨感情

しょうじょう【猩々】 中国の想像上の動物。頭髪が長く赤かっ色で，鳴き声は小児に以ているが，きわめて酒を好むという。身長は1mほどで，口が丸くて突き出ているとか，海中に住むとかいわれるが，絵に画かれた姿は人面獣身でサルに似ている。なお，動物学上はオランウータン*を猩々と称している。

しょうじょう【猩々】 能の曲名。作者不明。五番目物。中国の〈かね金山〉のふもとに住む高風という孝行者が，潯陽江(じんようこう)のほとりで酒を売っていると，海中に住む猩々(人語を解し，酒好きといわれるサルに似た想像上の動物)が現われて酒をたたえる舞を舞い，くめども尽きぬ酒つぼを与えて祝福する。シテは猩々，ワキは高風。シテは面・装束とも赤みがかった色合いで，中之舞(ちゅうのまい)を舞うが，猩々が水の戯れるようすを模したといわれる乱(みだれ)という特殊な舞を舞うこともあり，このときは曲名も《乱》となる。2人あるいは数人で舞うこともある。〔長尾一雄〕

しょうじょうえび【猩々蝦】 甲殻(こうかく)類・オキエビ科。体長20cmに達するエビ。甲は薄く光沢があり，頭胸部が大きく，全身緋紅(ひこう)色で美しい。深海にすんでいるらしく，まれにしか採集されない世界的珍種である。1918年(大正7)の春，今上天皇(当時摂政宮)が暴風雨の翌朝に，沼津御用邸付近の海岸に打ち上げられていた1尾を採集したのが最初の標本である。その後も，沼津・伊豆(いず)内浦などから，2～3尾採集されたにすぎない。〔菅野　徹〕

じょうじょうがいしゃ【上場会社】 発行株式が証券取引所*で売買される会社をいう。また，その株式を上場株式という。上場会社は証券市場を利用して新株式の発行が容易にでき，株式の流通も円滑に行なえる。ただし，投資家保護のたてまえから，上場会社は収益力があり経営基盤が安定しているものに限る。そのため，上場会社となるには取引所の定める資格審査を経なければならない。東京証券取引所の場合，第二部上場審査基準は①資本額は，営業の主体が東京周辺にある会社は3億円以上，営業の主体が東京にない会社は6億円以上，②株主総数が株式公開後400人以上になる見込みのもの，③持ち株数5,000株未満の株主により所有される株式数が一定数以上であること，④会社設立後3年以上経過していること，⑤最近2年間配当があり，かつ最近期の配当が1割以上であること，などである。その後，第一部上場の資格を得れば，指定替えされる。なお，株式上場審査基準のうち，資本額については各地証券取引所によって違いがある。上場会社の利点としては，①株主層が拡大するので増資による資本調達が容易になる，②対外信用が向上し金融機関からの借り入れ能力が増大する，③企業の知名度が高まり，社名・製品のPRができる，など。一方，買い占めや第三者による経営権の侵害などの懸念のあることが，マイナス面とみられている。

〔日東証券調査部〕

じょうしょうきりゅう【上昇気流】 鉛直方向の空気の流れ。水平方向の空気の流れが，いわゆる風*であるが，天気現象に直接結びつくのはむしろ上昇気流である。風はふつうm/秒の単位ではかるが，上昇気流はそれに比べて1けた小さくcm/秒の単位ではかるのが便利である。大気中では，上昇気流は上空へいくにつれて，気温が下がり，そこに含まれている水蒸気が凝結して雲をつくる。強い雨を降らすところには強い上昇気流があるものと考えられ，層状雲をつくるところでは毎秒数センチメートルの上昇気流があるのに対して，雷雲や豪雨をもたらす積乱雲のある区域では1m/秒以上の上昇気流がある。一般に，上昇気流のあるところでは風は収束し，下降気流のあるところでは風は発散しているので，風の収束・発散を調べて上昇気流の分布を推測することができる。〔曲田光夫〕

しょうしょうきん【葉紹鈞】 ショーシャオチュン（1894～　）中国現代の小説家・編集者。長らく小・中学校の教員生活をつとめ，その体験に基づいて，教育界内部の問題を取り上げ写実的な手法で多くの短編や長編を書いた。中でも1928年に発表した《倪煥之(げいかんし)》が代表作である。五・四運動*から五・三〇事件*に至る間の中国の社会相を，倪煥之という小学教師の人生遍歴を通じて浮かび上がらせている。1930年代以降，作家生活から編集者の生活にはいり，教育関係のジャーナリズムで活躍，新しい中国が成立してからも出版界の要職にある。作品では童話《かかし》《古代英雄の石像》などが知られている。〔今村与志雄〕

じょうしょうぐん【常勝軍】 中国，清(しん)末に太平天国軍を鎮圧した外国人指揮下の洋式中国軍隊。1860年，太平天国軍のため上海(シャンハイ)が危機に瀕(ひん)した際，上海の商人の要請でアメリカ人ウォードが部隊を組織し，1862年には上海防衛戦で太平天国軍を撃退するなど活躍したのでこの名がついた。同年政府から清朝軍として公認された。のちイギリス人ゴードン*が指揮した。

しょうじょうこうじ【清浄光寺】⇨遊行(ゆぎょう)寺

しょうじょうじ【勝常寺】 福島県河沼郡湯川村勝常にある新義真言宗豊山(ぶざん)派の寺。会津の中央薬師堂として知られている。平安初期に，法相宗(ほっそうしゅう)の僧徳一によって開創されたといわれ，本堂は室町初期の寄せ棟(むね)造り。本尊薬師如来坐像はハルニレ材の一木造り，重厚森厳な像で，平安初期彫刻の優作である。

しょうじょうじ【証誠寺】

①福井県鯖江(さばえ)市横越にある浄土真宗山元派の本山。もと山元荘にあり，親鸞*(しんらん)巡錫(じゅんしゃく)の地と伝えられる。1475年(文明7)8世道性のとき現在地に移転。明治維新後山元派を称して真宗10派の一つとなる。

②千葉県木更津市にある浄土真宗の寺。野口雨情*の童謡《証城寺の狸囃子(たぬきばやし)》で知られる。

じょうしょうじ【誠照寺】 福井県鯖江(さばえ)市下深江町にある浄土真宗誠照寺派の本山。越前(えちぜん)三門徒の一つで，如覚(にょかく)の創建。はじめ真照寺と称したが，永享年間(1429～1440)のころ誠照寺と改称。戦国時代には勢威をふるった。1583年(天正11)豊臣秀吉(とよとみひでよし)と柴田(しばた)勝家の合戦の兵火にかかったが，秀吉に安堵(あんど)され復活。1693年(元禄6)日光輪王(りんのう)寺に属したが，1878年(明治11)独立して誠照寺派を唱え，現在末寺50余寺を従える。俗に鯖江門徒という。〔杉坂靖子〕

しょうじょうそう【猩々草】 双子葉植物・トウダイグサ科。北アメリカ原産の一年草で，わが国へは明治時代にはいり，観賞用として栽培される。高さ70cmほど。葉は線形から円形までいろいろで，縁にあらい鋸歯(きょし)がある。上方の葉は赤色を呈し，花のようにみえる。7～8月，茎端に黄緑色の小花を群生する。

しょうじょうとんぼ【猩々蜻蛉】 こん虫類・トンボ目・トンボ科。中形の美しいトンボで，腹長28～30mm，後翅(こうし)長33～35mm。雌と未成熟の雄は黄かっ色であるが，成熟した雄は全体にあざやかな赤色を呈し，各翅(はね)の基部が幅広く橙黄(とうおう)色。暖地性の種で，アジアの熱帯・亜熱帯の各地に広く分布し，日本では北海道を除く全土にみられ，6～9月に平地の池沼に多い。色彩はアカネトンボ*類に似ているが，系統的にはまったく異なり，習性も異なる。特に，成虫はアカネトンボ類と異なり，きわめて敏速に飛翔(ひしょう)し，捕えにくい。

〔鈴木邦雄〕

しょうじょうばえ【猩々蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・ショウジョウバエ科の総称。体長2～5mmの種が大半であるが，5mm以上の大形種も少数ある。体は黄色系のものと黒色系のものとがあり，種々の斑紋(はんもん)をもつ種も少なくない。複眼は一般に赤色のものが多い。幼虫は種類によって食物は異なるが，腐った果実類・酒粕(さけかす)・ぬかみそ・樹液・キノコ類などを食べるものが多い。また，生果や腐肉につく種類や，生きた植物の葉や茎に潜入してその組織を食べる種類も少数ある。成虫も幼虫の生活場所に応じて，種によって異なるが，家屋内・ごみため・草原・森林・高山などいたるところに見いだされる。また，マダラショウジョウバエのように人畜の目の周

囲に飛来する習性をもち，イヌの眼の寄生線虫の中間寄主となるような種類も知られる。ショウジョウバエ科は全世界に約1,500種が知られ，日本からも約150種が発見されている。そのうち，キイロショウジョウバエ・クロショウジョウバエ・フタスジショウジョウバエなどショウジョウバエ属の多くの種類は，いずれも小形で，1世代に要する期間が短く(2週間～1か月)，繁殖力も大きく，ガラスびんの中などの狭い場所で多数を簡単に飼育でき，唾腺(だせん)染色体*が普通の染色体の100倍以上の大きさをもち，細胞学的研究に好都合であることなどの諸理由から，古くから種々の実験に用いられる。特に遺伝学の研究において最も重要な材料となっており，遺伝学の進展はショウジョウバエによってもたらされたといっても過言ではない。〔鈴木邦雄〕

しょうじょうばかま【猩々袴】 単子葉植物・ユリ科。山野の湿地に自生する多年草。地下茎は短く，多数の葉が車輪状に根出する。葉身は倒披針(とうひしん)形で6～20cm，ときに老葉の先に新しい芽をつけて繁殖する。早春，10～15cmの花茎を伸ばし，茎頂に淡紅色ないし紫色の3～15個の花が総状花序につき，横向きに咲く。おしべは花被片よりも長いので花外に出る。花後，花茎は30～50cmに伸び，花柄も1～3cmに伸びる。朔果(さくか)には花被が残存し，種子は5mmぐらいの線形。花被の白いシロバナショウジョウバカマは房総半島から四国に分布する。〔横井朝子〕

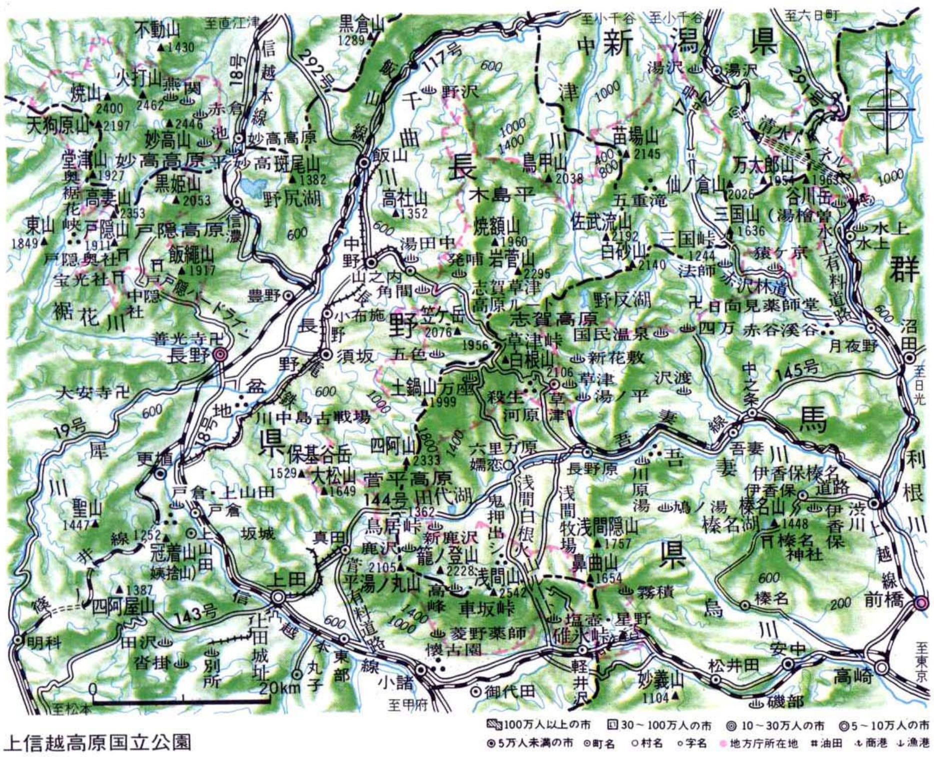


ショウジョウバカマ

しょうしょうはっけい【瀟湘八景】 中国湖南省の瀟水と湘水の二水が会して洞庭湖(どうていこ)に注ぐあたりの景勝の8種を選んだもの。詩や山水画の画題として中国・日本を通じて有名である。山市晴嵐・瀟湘夜雨・漁村夕照・遠浦帰帆・洞庭秋月・平沙落雁(へいしゃらくがん)・烟寺(えんじ)晩鐘・江天暮雪の八景をいう。中国では宋(そう)代ごろから画題として扱われ，日本では鎌倉末期から室町時代にかけて，周文*・雪舟*ら漢画系の作家がこれを多く描いた。わが国の近江(おうみ)八景・金沢八景はこれにならったもの。〔中島純司〕

しょうじょうぶっきょう【小乗仏教】 仏教の2大流派の一。大乗仏教*に対する。ブッダ*の入滅後，100年ごろに仏教教団が上座部・大衆部の2派に分裂して以来，およそ2～3世紀の間に20の部派に分裂した。この部派仏教は僧院化の傾向をたどり，学派的傾向が強かったため，あらゆる人々の救済を理想として興った菩薩(ぼさつ)の教団はみずからを大乗とよび，従来の長老教団を小乗(小さな乗物)とけなした。現在の南方仏教*は上座部系の一支派である。〔塚本啓祥〕

しょうじょうぼく【猩々木】 ⇨ポインセチア



上信越高原国立公園

しょうじょかげき【少女歌劇】 女性だけで演じるレビュー的要素の強いショー。1914年(大正3)に始まる宝塚歌劇団，1922年に始まる松竹歌劇団に代表される。西洋音楽がオペラを通じて普及しはじめたころに成立し，男装の麗人という特異なスターやはなやかな舞台を形成した。1940年代まではその歌と演技力で他の芸能界への進出者も多かった。今日なお一部に熱狂的なファンをもつ。

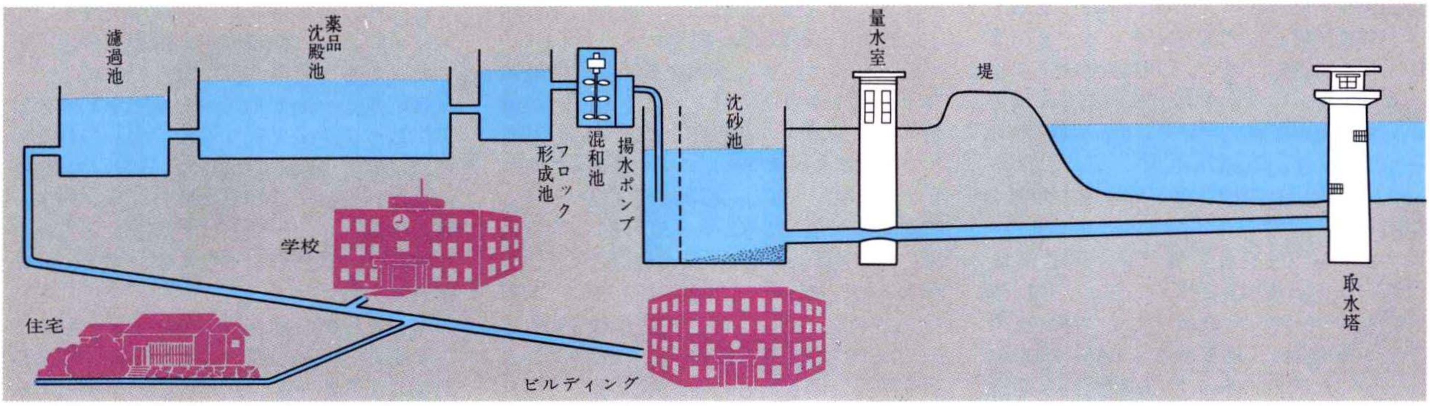
しょうしょしょう【尚書省】 中国の官庁名。秦(しん)代に殿中で文書を扱わせたのが起源。漢の成帝は5尚書の分担を定め，後漢では尚書台という独立官庁に成長，皇帝の秘書官として権力をもった。魏(ぎ)・晋(しん)以後尚書省となり，5～6部，15～36曹に分かれて行政官庁として発展し，唐代に最も整備され，都省の下に吏・戸・礼・兵・刑・工の6部24司があった。宋(そう)以後も形を変えて継承され，元では中書省となった。〔大庭　脩〕

しょうじん【精進】 仏教で煩悩(ぼんのう)を断ち，悟り*へ向かうための修行に励むこと。梵語(ぼんご)vīrya(ビーリヤ)の訳。原始仏教以来の代表的な修行法である八正道(→四諦八正道(したいはっしょうどう))に数えられ，大乗仏教の実践徳目である六波羅蜜*(ろくはらみつ)の一つである。のちに宗教的意味から酒肉を断ち，菜食することをもいうようになった。なお，祭前の物忌みと同義に用い，物忌みの期間を終えて祭日を迎え，ないしは俗生活にもどるときを〈精進落ち〉という。〔小沢憲珠〕

じょうじん【成尋】 (1011～1081) 平安時代の天台宗の僧。藤原佐理*の子。7歳のとき京都の大雲寺に入り，兄の文慶に師事して顕教・密教を学んだ。1072年(延久4)62歳で宋(そう)に渡り，天台山*・五台山*を歴遊した。1073年宋の神宗の勅を奉じて祈雨の修法を行ない，霊験を示して善慧(ぜんえ)大師の号を受けた。しかし，訳経場の監事となって帰朝を許されず，経典527巻を日本に送って，みずからは明州開宝寺で入寂。著書《参天台五台山記》《観心論註》ほか。〔京戸慈光〕

じょうじんあじゃりははのしゅう【成尋阿闍梨母集】 平安期の私家集。作者は成尋阿闍梨母。長歌1首を交えた175首の歌で構成され，歌と歌との間の文章が月日を追って挿入(そうにゅう)されて，〈日記〉に近い形態をもっている。80歳近い高齢の母親が，愛児成尋*の入宋(にっそう)にあたって別離の悲しさをつづり，子を思う母の真情があふれている。また，当時の女性の阿弥陀(あみだ)信仰のようすがうかがわれ，その資料的価値は大きい。

じょうしんえつこうげんこくりつこうえん【上信越高原国立公園】 群馬・新潟・長野の3県にまたがる三国山脈の一部と，白根山と浅間山の一部を含み，面積1,889.15



浄水場の模式図



朝霞浄水場(東京都水道局，埼玉県朝霞市)全景





金町浄水場(東京都水道局，東京都)の取水塔(左)と高速沈殿池(右)

浄　水　場

km²で，1949年(昭和24)に指定された。北端に登山者の多い谷川岳(1,963m)の高峻(こうしゅん)な連峰をもち，白根山(2,162m)・浅間山(2,542m)の活火山は，いまも噴煙をなびかせる。浅間山北斜面の鬼押出し(おにおしだし)は名勝地で知られる。志賀・菅平(すがだいら)・浅間など広大な高原も展開し，中でも軽井沢高原は国際的避暑地で知られ，清津川上流の清津峡は名勝地に指定されている。志賀高原のふもとにある地獄谷の大噴湯は天然記念物に指定され，草津・万座・山田・湯田中をはじめ温泉の多いのも特色である。〔木村東一郎〕

しょうしんか　【小進化】　大進化・中進化に対して使われる語で，生物集団において小規模に起こっている進化をいう。染色体逆位の頻度(ひんど)，ある遺伝子の頻度の数量的変化，性的隔離の研究などは小進化の機構を遺伝学的に解明するために行なわれている。小進化の研究から大進化の機構を類推することも可能である。➔進化

しょうじんがに　甲殻(こうかく)類・イワガニ科。甲長4cm，甲幅4.5cmほどになる暗赤色のカニで，甲は丸みをおびた四角形で，短毛におおわれる。はさみは左右が同型・同大で比較的小さいが，雄では雌よりもやや大きい。歩脚は細く長い。岩手県以南台湾にまで分布し，各地の岩礁にごく普通にみられ，敏捷(びんしょう)な動作と派手な色彩でよく目だつ。まれに食用にされる。

しょうしんげ　【正信偈】　浄土真宗の根本聖典の一。正しくは〈正信念仏偈〉といい，七言120句の偈頌(げじゅ)。親鸞*(しんらん)の著作《教行信証*》第2巻(行巻)の末尾にある詩句を，本願寺第8代蓮如*(れんにょ)の時代に，仏前での供養の際に詠唱するために別に1巻としてまとめたもの。以後一般の真宗寺院および門信徒の家では，親鸞作の和讃*(わさん)とともに，これを日常の勤行(ごんぎょう)に用いるようになった。内容は浄土真宗の正信と念仏の本義を示すもので，前段44句は《無量寿経*》の大意を叙述し，後段76句はインド・中国・日本の7高僧の高徳とその教旨を叙述している。〔山折哲雄〕

しょうじんりょうり　【精進料理】　動物性食品を用いず，野菜・豆類・海草・植物油を使った料理。この名は，仏教の修行僧が殺生禁断の戒律を守って動物性食品を食べずに，精進*したことに由来し，元来は寺の料理であるが，のちには一般にも普及した。調理技術は宋(そう)から伝えられたが，日本的な精進料理は道元*によって興され，現在でも永平流として残っているが，彼の行なった食礼作法はあらゆる日本料理の典型となった。

動物性食品を用いないので，タンパク源としては，ダイズおよびその製品(豆腐・高野豆腐・湯葉・納豆・みそ)，麩(ふ)などが多く使われる。脂肪源と味の上からは，材料を種油・大豆油・ごま油・つばき油・かや油などの植物油で揚げることが多く，ごま豆腐・ごまみそあえなどのごまを使った料理も数多くある。本来の寺料理では，砂糖をほとんど使わないが，一般向きには多少使う。また，だしは，こんぶ・しいたけ・かんぴょうなどの精進だしを用いる。➔普茶料理〔塩川ふみ〕

じょうすいじょう　【浄水場】　原水を飲用に適するように処理する施設・場所。処理する方法は，大別して緩速濾過(ろか)方式と急速濾過方式とに分けられる。一般的な処理順序は図示したとおりである。取水された原水は，沈砂池で比重の大きい砂などを沈降させて除去したのち着水井に導き，そこでは受水量を測定する。

【緩速濾過方式】原水の濁りが少ないときには，計画浄水量(浄水施設の規模決定に用いる水量で，1日の最大給水量にあたる)の8時間分もある大容量の普通沈殿池に原水を導き，ゆるやかな流れで水中の沈殿性物質を自然沈降によって沈殿させ，その上澄み水を緩速濾過池に導く。降雨などで原水が濁ったときは，凝集剤(硫酸アルミニウムなど)や必要によっては凝集補助剤(アルギン酸ナトリウムなど)やアルカリ剤(消石灰・ソーダ灰など)を併用し，水中に生成した水酸化アルミニウムに水中の微細な濁

質を吸着させ，フロック(凝集体)を形成させて沈殿効果をあげる方法をとり，その上澄み水を濾過池に導く。湖沼水や伏流水など高濁度を生じるおそれのない原水の場合は，沈殿設備を省いている。緩速濾過池の一つの面積は，計画浄水量によって100〜5,000m²で，その構造は下部に集水装置を置き,その上に濾砂を支持するためじゃり・小じゃりを，大形を下層に，小形を上層に厚さ30〜40cm程度に敷き，その上部に濾砂を厚さ70〜90cmに敷きならす。濾砂は有効径(10%通過し,90%残るふるいの網目の径をいう)0.3〜0.45mm,均等係数(60%通過し,40%残る網目の径を有効径で除した値)2.0以下のものが用いられる。一日4〜5mの速度で濾過すると，砂層の表面に形成される濾過膜(濾層上部に水中の浮遊物質・有機物質・細菌・藻類(そうるい)・コロイド状物質・フロックなどが集まって形成するにかわ状の物質)の生物化学的な作用によって清浄な濾水が得られる。濾過を継続していくと濾砂の上層が詰まって濾過が困難になるので，池を干して濾砂表層を1〜1.5cm削り取り，次に濾水を濾砂面上5〜10cmに達するまで逆送し，次いで原水を流入し濾過を開始する。このように濾過し，削り取りによって濾層厚が約40cmになると，浄砂を補足して計画濾層厚とする。なお，寒冷地では濾過池をおおって凍結するのを防止している。

【急速濾過方式】濾過速度が1日120〜150mの早い速度であるため，自然の濾過膜が形成されないので，必ず凝集沈殿処理を濾過前に行ない，原水中の微細な濁質をできるだけ沈殿・除去することが必須(ひっす)条件である。着水井を経た原水に，前記のように凝集剤(必要により凝集補助剤やアルカリ剤を併用)を加えてフロック形成池で完全なフロックを形成させ，これを横流式沈殿池に導きフロックを沈殿させる。横流式沈殿池の滞留時間は，計画浄水量の4時間程度が標準である。近年は横流式のほかに，用地上の制約などから，混和・凝集および沈殿を一つにまとめた高速凝集沈殿池が使用されてきている。急速濾過池は，水道用には重力式濾過池が使用されている。一つの池の面積は，計画浄水量によって異なるが，均等な濾過および洗浄を行なうため150m²以下とされている。濾過池の構造は，下部集水装置の形式によって，上部の支持層のじゃりの径や層の厚さが異なるが，厚さは20〜50cmである。濾砂は堅硬なものがよく，有効径は0.45〜0.7mm,均等係数は1に近いものが望ましいが，最近は1.3程度のものが使用されている。濾層の厚さは60〜70cmである。濾材は通常砂が使われているが，砂より比重の軽い濾材(アンスラサイトなど)をも併用して，2種以上の濾材を用いて多層とした濾過池も使用されてきている。濾砂面上40〜70cmの位置に沈殿処理水を引き入れ，濾過池洗浄のときの洗浄汚水の排水のため1.5m以内の間隔にトラフ(とい)が設けられている。濾過を始めると沈殿処理水の中に多少含まれているフロックが濾層上部に抑留され，清浄な濾水が得られる。この方式は濾過速度が早いため濾層の詰まりも早い。損失水頭(一定の濾過速度における濾過池の水位と濾水の水位差)が2m程度に達したときは，濾過池の集水装置の下部から浄水を毎分60〜80cmの速度で逆送して濾層を洗浄する。近年，この逆流洗浄に合わせて圧力水で濾層表層を攪拌(かくはん)洗浄する表面洗浄が使用されている。数分間の洗浄で濾層中の汚濁物は排除されて洗浄が終わる。次いで沈殿処理水を引き入れて濾過を開始する。最初は清浄な濾水が得られるまで30分間前後の濾過排水を行なう。洗浄には，高架タンクに貯留した水またはポンプで直接送水した水を用いる。

以上は通常の浄水場の処理方法であるが，原水の水質によっては，さらに特殊な施設や薬品処理が行なわれる。このようにして得た濾水は，適量の塩素剤(液化塩素・次亜塩素酸ナトリウム溶液など)を加えて消毒する。塩素剤は水と反応して，次亜塩素酸または次亜塩素酸イオンを生じる。これらを遊離型塩素という。また水中に存在するアンモニアや，またはアンモニア・アンモニウム塩などを加えて塩素と反応させると，クロラミンを生じる。これを結合型塩素という。遊離型塩素・結合型塩素はともに消毒効果があるが，遊離型塩素のほうが消毒効果が強く，次亜塩素酸が最も強い。塩素消毒した浄水は浄水池あるいは配水池に送水する。➔水道　〔武田登作〕

じょうすいどう【上水道】⇨水道

しょうすう【小数】実数*を十進位取り記数法で表わしたもの。ふつう，小数といえば整数を省くが，たとえば，5＝4.999……のように書けるので，整数も小数の特別な場合と考えることができる。小数を，今日に近い形で表わしたのは，ステビン*である。

小数には，有限小数と無限小数とがある。有限小数とは，0.2や2.05のように，けた数が有限の小数のことで，最下位の単位の大きさを改めて1とすれば整数になおすことができる。これに対して，無限小数とは，0.33……($\frac{1}{3}$)や3.1415926……(π)のように，けた数が無限の小数である。無限小数は，さらに循環小数と非循環無限小数とに分けられる。循環小数は，0.33……や0.1234234……のように，ある位以下で同じ数字の組みが無限にくり返される小数のことである。循環小数で，循環する数字の組みを循環節という。循環小数は，次のように循環節を・で示して表現する。たとえば，

$0.333\cdots\cdots=0.\dot{3}$　　$0.1234234234\cdots\cdots=0.1\dot{2}\dot{3}\dot{4}$

循環小数で，$0.\dot{3}$のように，小数第1位から循環節の始まるものを純循環小数といい，$0.1\dot{2}\dot{3}\dot{4}$のように循環節が小数第2位以下から始まるものを混循環小数という。

有理数n/mを小数で表わすとき，nをmで小数点以下まで割り進んで割り切れる場合には有限小数(または整数)になり，割り切れない場合には循環小数となる。逆に，有限小数と循環小数とは有理数である。したがって，無理数を小数で表わすと，非循環無限小数になる。

なお，小数を純小数と帯小数とに分けることもある。純小数は0.25などのように整数部分が0の小数，帯小数は2.3などのように整数部分が0でない小数のことである。

小数の読み方は，今日では棒読みをするが，昔は小数第1位から順に，分・厘・毛・糸・忽(こつ)・微・繊・沙(しゃ)・……とよんだ。　〔杉岡司馬〕

しょうすうかぶぬしけん【少数株主権】株式会社において，一定割合の株式を有する株主*に限り認められる権利をいう。株式数のいかんを問わず各株主が単独に行使することのできる単独株主権に対する語。少数株主権は，多数決の乱用など大株主の横暴に対して会社の利益を守るために認められるものであって，一定割合の株式は，必ずしも1人の所有に限ることなく，数人の株主の所有する株式数を合算したものが法定の割合に達した場合にも，その数人の株主が共同してこの権利を行使することができる。その権利としては，総会招集権(商法237条)，整理申立権(同381条)，取締役・監査役の解任請求権(同257条)，会社帳簿の閲覧請求権(同293条)などがある。　〔松本治雄〕

しょうすうみんぞく【少数民族】一つの国民の中に複数の民族が存在し，支配的な力をもつ民族に対して，主として社会的・経済的・政治的に勢力の弱い民族がある場合，後者をいう。日本における朝鮮人・アイヌ・華僑(かきょう)がその一例である。しかし，アメリカ合衆国における黒人は本来は人種であるが，民族に準じる役割をもつので，これも少数民族とよばれる。他方，上記の少数民族はいずれも当該国家の中で少数を占めているにすぎないが，人口の少ないことが必ずしも少数民族の必須(ひっす)条件ではない。たとえば旧満州国における漢族・満族などや，南アフリカ共和国における土着の黒人原住民などは，人口数では支配的な民族よりも圧倒的に多数であるが少数民族である。現在，一国内に少数民族をたくさんかかえる典型的な国はソ連と中華人民共和国で，前者には数えようによっては200に近い少数民族，後者には53の少数民族がおり，前者ではユダヤ人，後者ではチベット族とウイグル族がしばしば問題を起こしている。両国とも社会主義体制下で，各少数民族の固有な言語・習俗の保持はもちろん，政治・経済的な後進性の解消を促進する

ために多くの措置を講じ，かなりの程度まで自治を許し，自治共和国・自治区・自治州・民族管区などを設けている。両国に次いで少数民族の多いのはアメリカ合衆国で，ここではアメリカふうの文化に同化させることを最大の目標としているが，黒人のこれに対する不満が多くの社会問題をひき起こしている。ヨーロッパ東部に入り乱れている多くの少数民族は第1次世界大戦前から国際問題をひき起こしてきたが，現在でも複雑な国際・国内問題をはらんでいる。第1次世界大戦後の民族自決という原理も直接的にはヨーロッパ東部の少数民族問題から出発している。一般に少数民族が劣勢をとりもどし，多くの場合に支配的な民族から受けている差別・偏見・搾取・圧政や権利の制限ないし禁止を撤廃させる意欲が強く具体的な行動に移る場合，妥協・弾圧・宥和(ゆうわ)などのさまざまな方法がとられるが，ときには激しい民族解放運動となって爆発する。〔鈴木二郎〕

じょうすうりろん【乗数理論】 投資の増加があった場合，その結果としてどれだけ所得が増大するかを示す理論。この理論はケインズ*によって体系化され，国民所得の決定，その循環的変動，さらに経済成長の理論的分析にあたって，一つの基礎的原理となるもので，政策的意義も大きい。投資の増加は，その乗数倍，すなわち，1から限界消費性向(→消費性向)を引いた数(限界貯蓄性向)の逆数倍だけ所得を増加させるというものである。これは，投資の増加は，まずそれだけの所得の増加となり，さらに増加した所得の一部が消費の増加となるから，それだけまた所得の増加が生じ，これがくり返されて，最終的に当初の投資増加の何倍かの所得増加を得る。これを乗数効果といい，次のように表わすことができる。

$$\text{所得増加分} = \frac{1}{1-\text{限界消費性向}} \times \text{投資増加分}$$

$$\text{ここで} \frac{1}{1-\text{限界消費性向}} = \frac{1}{\text{限界貯蓄性向}} = \text{投資乗数}$$

となる。たとえば限界消費性向が0.8とすれば，乗数は5となるから，1億円の投資増加があるときは，5億円の所得増加となるわけである。〔富田重夫〕

しょうぜい【正税】 律令(りつりょう)制において諸国の官倉(正倉)に貯蔵された租稲をいう。また人民に強制的に貸し付けて利息をとる，いわゆる出挙*(すいこ)にあてる稲に限って正税とよぶ場合もある。正税は大税ともいい，ともに〈おおちから〉と読んだ。地方の正倉に納められた正税は，主として地方政治の財源に充当され，ごく一部は中央に進上する雑物の交易料にあてられたり，搗(つ)いて京進されたりした。745年(天平17)以後官稲は正税・公廨(くがい)・雑稲に分け，正税はさらに動用・不動・雑米と使途により三つに分けられた。なお，諸国が正税の収支決算報告のため，毎年税帳使に授けて中央政府に提出した帳簿を正税帳という。〔黛 弘道〕

しょうせいもっしょくしさん【焦性没食子酸】 ⇨ピロガロール

しょうせいりんぴ【焼成燐肥】 焼リンと略称される。リン鉱石にアルカリとケイ酸塩を加えて加熱焼成したもの。リン鉱石からフッ素を除きリン酸を有効化するため，脱フツリン酸三石灰ともいう。わが国のものは枸溶(くよう)性リン酸34%，石灰約40%，ケイ酸10%を含む中性の肥料である。なお，枸溶性とは2%クエン酸溶液で抽出される成分である。やや製法・成分の異なる同様な肥料がアメリカ・ドイツに以前からあるが，その量は少ない。わが国では1967年(昭和42)約80,000tの生産があり，その半量は家畜飼料のリン酸源として使用され，他の半量はリン酸液で処理して，水溶液リン酸を増加し，重焼リンと称する高成分リン酸肥料として用いられている。➔リン酸肥料〔早瀬達郎〕

しょうせき【硝石】 KNO_3 斜方晶系，無色ないし白色の鉱物。密度2.11，硬度2。水にとけやすい。普通は，乾燥地帯の地表に，皮殻(ひかく)状・羽毛状・針状などの結晶として産出する。

しょうせつ【小説】 ⇨次ページ

しょうせつ【小節】 西洋音楽で，楽譜を垂直に切る小節線によって囲まれた音符のグループ。多くの場合，その最初の音はアクセントをもつものとされている。小節線そのものがあらゆるジャンルで一般化したのは17世紀にはいってからで，最初は見やすくするために使われたので便宜的なものであった。しかし，拍子のある音楽が多くなるにつれ，しだいに小節にくぎることが一般化したが，現代音楽はいうまでもなく，リズムや旋律を小節だけから決定することはできない。〔徳丸吉彦〕

しょうせつ【小雪】 二十四気*の一。陽暦の11月22日ごろにあたる。太陽黄経は240°。北日本や山沿い地方にはすでに雪が降っている。

しょうせっかい【消石灰】 $Ca(OH)_2$ 水酸化カルシウムの俗称。無色の結晶であるが，通常白色粉末状を呈する。比重2.24。580℃に熱するとH_2Oを失って生石灰(酸化カルシウム)CaOとなる。100gの水に，0℃で0.185g，100℃で0.077gがとける。生石灰に水を加えると得られ，これを消化という。この際多量の熱が発生して可燃物を燃焼させ，また膨張して容器を破損することがあるから注意を要する。消石灰を水に懸濁させた状態のものを石灰乳といい，各種化学工業に用いられる。また，溶液を石灰水といい，二酸化炭素と反応して炭酸カルシウムの白色沈殿を生じる。安価なアルカリ剤として酸性土壌(どじょう)の中和剤としたり，さらし粉の製造原料，しっくいなどの建築材料など多くの用途がある。〔鈴木 篁〕

しょうせつしんずい【小説神髄】 坪内逍遙*(しょうよう)著の文学論。1885年(明治18)9月より翌年4月にかけて9分冊で刊行，5月上・下2巻にまとめられた。上巻は原理編で，小説総論や小説の変遷・種類・裨益(ひえき)などの章からなり，下巻はいわば応用編で，文体論・脚色法などを説く。西洋の文学論に学んで近代小説の理念を説き，勧善懲悪の封建道徳から文学を解放し，文学独自の価値を明らかにして，小説の主眼を人情，すなわち人間の内面を描くことにおき，写実主義を提唱したことが注目される。近代リアリズム小説の提唱として画期的な意義がある。〔木村幸雄〕

じょうせつちゅうさいさいばんしょ【常設仲裁裁判所】 ⇨仲裁裁判

しょうせん【商船】 商行為を目的とする船舶。積載物の種類によって分類すると，次の4種となる。①客船*：法規上では旅客定員12名を越える船舶を旅客船といい，それ以下のものを非旅客船と定めている。旅客船は船舶安全上特別な安全設備を要求されている。第2次世界大戦以前においては，クイーンメリー号*とかノルマンジー号とかの大形豪華客船が30ノット以上の高速を誇ってはなばなしく大西洋を走っていたが，戦後はその地位を航空機に奪われた。しかし，最近に至って観光を目的とした急がぬ旅の旅客がふえ，再び豪華な客船が増加する傾向を示しはじめた。日本においては外航船としての客船は移民船などを除いてはみるべきものがないが，内航船としての客船は非常に増加し，また設備もよくなり，5,000トン以上の大形長距離フェリーなどの形において，その伸びを示してきた。またその船形も在来船に加えて，カタマラン船*(双胴船)・ホバークラフト*・水中翼船*などの新形のものがふえ，速力も35ノット以上のものが現われてきた。②貨物船*：商船の大部分を占め，貨物輸送を目的とする。一般貨物船の場合は，居住設備の容積に対して，貨物を積載するための船倉の容積がはるかに大きく，倉口・荷役設備などを備えている。最近は20ノットを越える高速貨物船がふえてきたが，船体の大きさについては，タンカーなどと比較して，普通貨物船では，特に大形化などの傾向はない。その半面，合理化の現われとして，貨物の種類ごとに専用船がつくられて特殊船化し，普通貨物船自体もコンテナー輸送の形に変化しつつあり，輸送の形態を大きく変えつつある。③貨客船*：これは上記の①と②との混用されたものといえる。実際には純客船は少なく，客船といわれるものでも貨客船のものが多い。④特殊船：㋑油を輸送する船としてのタンカーは，非常に大形化し，

➔125ページ

小　　説

小説についていちおうの定義を行なえば，散文で書かれた人間性にかかわりのある文学芸術で，多くの場合，物語の骨格をもつものをいう。しかしこれは，近代（日本では明治以後，西欧では18世紀以後）の小説と，近代以前の物語類とを総括した上での定義である。そして，近代小説を定義すれば，市民社会の形成期に従来の物語と区別される特色をそなえて興隆した散文形式の文学芸術で，人間の個性表現と人間性の真実の把握(はあく)とを意識的な目的とし，多くの場合，人間的な脈絡からなりたつ物語的な構成をもつが，ときにはこの脈絡が乏しい随筆ふうの作品をも含み，様式はきわめて自由で，構成・容量にも基準・制限がないものをいう。

このように，小説を定義することの困難は，小説の自由な様式と，唯美的な純粋芸術になりきれない内容上の人間的・社会的な雑駁(ざっぱく)性に原因する。ヨーロッパ文学史の常識では，広義の小説は叙事詩の発展した様式とみられているが，日本の場合，必ずしもそのように断定することはできない。たとえば《古事記》は，古代日本語で伝承された歴史的な説話集成であり，多くの英雄事績を内容とする点で，叙事詩的性格をもつことは明らかであるが，その表現形式が吟誦に適したものであるかどうかについては，ヨーロッパの叙事詩と一律にみることはできない。また，日本最古の物語である《竹取物語》（9～10世紀）および11世紀の《堤中納言物語》は，持続的・一貫的な叙事詩様式に基づくものではない。前者は挿話(そうわ)的構成をもち，後者は各編独立の短編集で，作風は叙事詩的というより，民話的というべきものである。内容も〈小説〉という漢字の源初的な語義〈世間路上の噂(うわさ)ばなし〉に相当するといえる。

またヨーロッパ文学の常識では，近代以前の散文体の物語を〈ロマンス〉と名づけて，その特色を非日常的な空想性とし，近代以後の狭義の小説を〈ノベル〉とよぶ。小説の広義的な総称を，英語で〈フィクション〉，フランス語・ドイツ語では近代の前後を区別せずに〈ロマン〉という。〈ロマンス〉の空想性と〈ノベル〉の写実性とは，いちおうの判別に役だつとしても，ヨーロッパ・日本ともに，それぞれ別格の作品がある。14世紀イタリアの《デカメロン》は写実性と人間性を豊かに含む散文の短編小説集であり，14世紀イギリスの《カンタベリー物語》は韻文体ではあるが，写実的な人間描写をそなえている。《堤中納言物語》も写実性と人間描写をそなえ，〈蟲(むし)めづる姫君〉のような個性さえも登場する。したがって写実性の有無濃淡だけでは，ヨーロッパ・日本ともに，小説の近代性を区分する指標として不十分である。通説にしたがって，近代的な意味の狭義の小説が，18世紀イギリスに発生し，日本では19世紀の坪内逍遙(しょうよう)の《当世書生気質(かたぎ)》，二葉亭(ふたばてい)四迷の《浮雲》に発端をもつとみれば，そこに存在する小説の写実性と人間描写はそれ以前のものと異なって，作者たちの意識的な所産であった。特に人間描写では，それ以前の類型描写ではなく，個性の創造・描写をめざす意識的な努力が払われた（→近代文学）。たとえば，フィールディングは作中人物に名まえをつける場合，〈ロマンス〉の類型的な名まえを避けて，当時の人名録を探索したという。小説世界の日常的な現実性と，作中人物の個性が，18世紀イギリスのリアリズム（写実主義）作家に重視されたのは，偶然の傾向ではなく，歴史的な必然である。すなわち，封建制の衰退・消滅に伴う近代市民の個性尊重・自我意識の反映である。

近代小説（以下，小説という）は多くの場合，人生の写実にとどまらず，人生批評の性格をそなえている。これはヨーロッパ文学の場合，人間性の本質や時代に関する省察を主体とする批評的な随筆文学（エッセー）の古い伝統と小説様式との融合である。この意味の随筆文学（モンテーニュ・ラ-ロシュフコー・ラ-ブリュイエール・ベーコンらの著作）は，人間心理と倫理の様態を主題とする。小説もまた心理の把握と倫理的考察とを重要な特徴とするが，ありのままの人生を提示する任務が通常第1義とされるので，心理表現の適否が，作家の倫理的主張や読者の倫理的評価よりも，優先的に問題となる。小説は，その時代の時代精神・風俗を鋭敏に反映する。人間性の描写と政治・社会観の提示・主張との比重関係についても，前者が優先する。作家は，現在時点の意識に基づいて創作するのが常態である。したがって，いわゆる〈歴史小説〉の場合にも，過去の忠実な再現ではなくて，現代人としての作家の解釈・感情移入が当然のこととみなされる。また，流動的な心理と一貫した性格との描写は，小説成立の必要条件である。性格が行動を生み，心理は行動の動機と経過を修飾する。そして，行動から生ずる諸事件の因果的な配列を〈プロット〉（物語の筋）という。19世紀ヨーロッパにおいて，こうした意味での小説の傑作が多く書かれ，19世紀を〈小説の世紀〉たらしめた。バルザック・フローベール・L.トルストイといった作家がその代表的存在である。

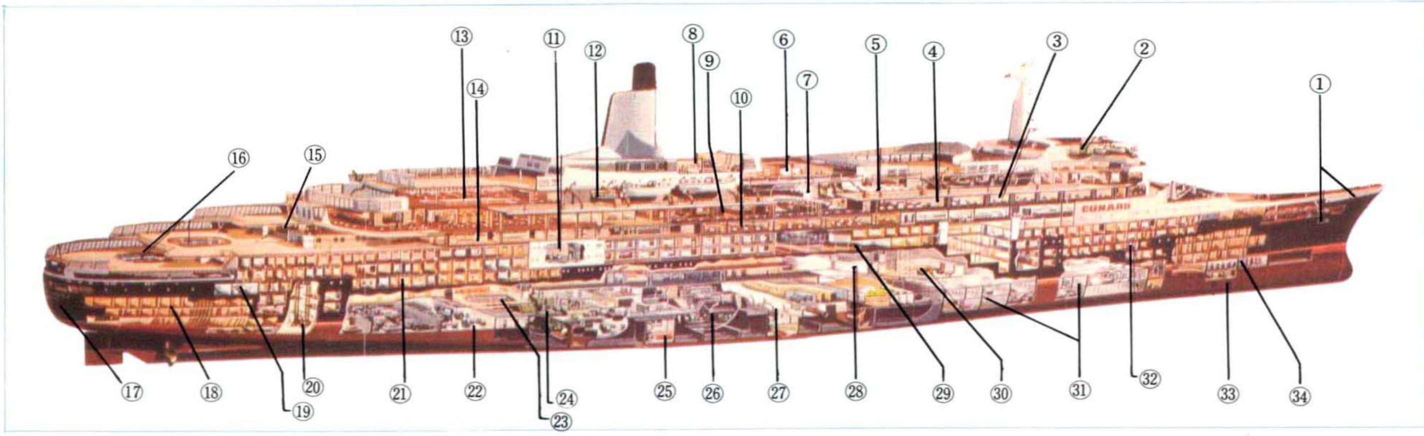
しかし，19世紀において完成されたといえる近代小説は，20世紀にはいるや，新しい展開をみせるに至った。すなわち，性格の定着に依存せず，心理の流動面を重視する技法が，1910年代以降に発展した。ドストエフスキー・ジョイス・プルースト・カフカらの小説がそれである（→心理小説 →意識の流れの文学）。さらには，人間の行動を脈絡のない現象とみたり，あるいはそこに潜む人間精神の不条理性を描き出すことを主眼として，19世紀的小説の根幹をなしていたプロットそのものを否定する一群の作家が，1950年代のフランスに現われ，現代人を描くそれらの作品はいまや大きな存在にまでなっている（→実存主義文学 →アンチ-ロマン）。わが国においても，第2次世界大戦後の小説は，いわば19世紀的小説から20世紀的小説への展開を，内容的にも方法的にも多様にわたって示している。こうした小説の変貌(へんぼう)ともいえるものは，世界的な潮流であって，これは近代社会の成熟とその後の展開に見合うべき小説の模索の結果であろう。また一方，映画やテレビなど他の表現媒体の隆盛が，小説というジャンルにも影響を及ぼし，小説の楽しみを減少させ，小説を衰退に向かわしめるのではないかという観測も，一部でなされている。しかし，小説はその自由で柔軟な形式にささえられて，容易には亡びないであろう。ただ，その形式・内容の変貌は確かに進行しつつあり，それに伴って，小説という概念そのものもまた変質しつつあると考えられるのである。

〔長崎勇一〕

中国で古代，小説というと，政教の大きな道理に関係ない，民衆の生活に身近な道理を説く短い編幅の作品をさす。のち魏(ぎ)・晋(しん)から唐・宋(そう)にかけて文語文で書かれたいわゆる筆記小説が発展した。神仙(しんせん)・鬼怪・異聞・風俗・逸話・詩話など多方面の雑事にわたるが，特に唐代の伝奇小説は，編幅も長く，芸術的にすぐれた作品が多かった。これに対し，宋・元代から白話（口語）で書かれた小説が出てきた。説話人（講釈師）が底本として使用するものを〈話本〉といい，のち印刷されて民衆の愛する読物となった。前代の歴史や興廃・戦争を語るものを〈講史(こうし)〉といい，その話本を〈平話〉あるいは〈演義〉といった。また，男女の愛情や怪異・伝奇・裁判事件などを語るものを小説または詞話といった。はじめは短編が多かったが，16～17世紀に至り，明(みん)・清(しん)代に中編や長編が出てきた。それらは章に分け，回目をたてているから章回小説という。《水滸伝(すいこでん)》《三国志》《西遊記》《紅楼夢》などは代表的な作品である。19世紀末，清代末期に至り，ヨーロッパの文学が紹介されて，小説の概念も，ヨーロッパ近代文学でいう概念に変わって現在に至っている。→中国文学

〔今村与志雄〕

商　船

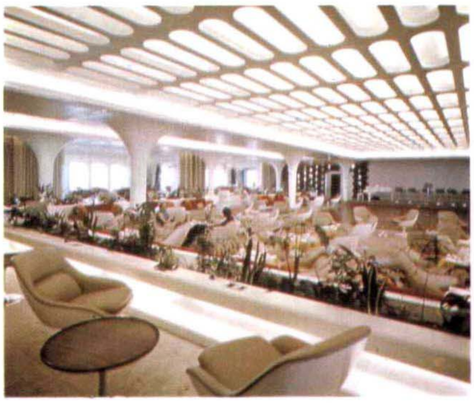


クィーン-エリザベス2　構造図

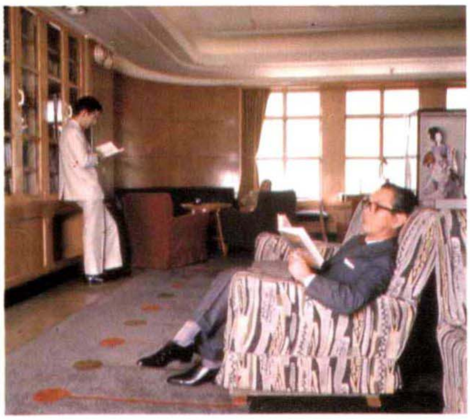
①主錨　②ブリッジと海図室　③調理区画　④食堂〈ブリタニア〉　⑤コーヒーショップ　⑥子供遊戯場　⑦劇場兼会議室　⑧犬小屋　⑨シアターバー　⑩食堂〈コロンビア〉　⑪安全管制室　⑫売店　⑬ダブルルーム　⑭クィーンルーム　⑮ラウンジ　⑯リドデッキ　⑰尾錨　⑱科員居住区　⑲簡易洗たく室　⑳回転カーリフト　㉑船室　㉒クリーニング室　㉓屋内プール　㉔エンジンルーム　㉕フィン-スタビライザー　㉖ボイラールーム　㉗タービンルーム　㉘病院　㉙エントランス-ホール　㉚印刷室　㉛冷凍庫　㉜船室　㉝バウ-スラスター　㉞ビール貯蔵庫



オルソバ(イギリス)一等船室



クィーン-エリザベス2(イギリス)クィーンルーム



キャンベラ(イギリス)図書室



貨客船〈あるぜんちな丸〉10,970総トン



定期貨物船〈山昭丸〉9,194総トン

30万トンを越えるものが現われつつある。㋺鉱石船は，鉱石特に鉄鉱石を専門に輸送する船で，構造も強く，鉱石運搬に適した設備をもっている。㋩その他の特殊船として，石炭船・LPGタンカー・冷蔵船・冷凍船・セメント船など数多くのものがある。

商船を就航態勢によって分類すれば，定期船と不定期船とに分けられ，さらに推進方法によって分ければ，帆船・機帆船*・汽船*・ジーゼル船・原子力船*・エアクッション-ボート・水中翼船などに分けられる。〔茂在寅男〕

しょうせんきょう【昇仙峡】御岳(みたけ)昇仙峡ともいう。山梨県北部の国師ケ岳・金峰(きんぷ)山に発する富士川支流の荒川が，甲府盆地北西のカコウ岩地帯を刻んでつくった峡谷。甲府駅の北約10kmの天神森から上流の仙娥滝(せんがのたき)まで約4kmにわたり，その間覚円峰・人面石・天狗(てんぐ)岩などさまざまな形の巨岩・奇岩が多く，その景観は新緑や紅葉のころが特に美しい。峡谷の中心仙娥滝からはパノラマ台へロープウェーもつくられ，多くの観光客でにぎわう。滝の上は平坦面(へいたんめん)をなし，その上流には板敷渓谷(けいこく)が続く。一帯は秩父多摩(ちちぶたま)国立公園の一部をなしている。

➜次ページ(写真)　〔味沢成吉〕

しょうせんきょくせい【小選挙区制】⇨選挙

じょうせんしょくたい【常染色体】性に関係なく共通にもっている染色体*。ヒトでは22対の常染色体と，1対の性染色体*からなる。キイロショウジョウバエでは4対の常染色体がある。常染色体にある遺伝子に支配される遺伝形質は，正逆交雑を行なっても差がみられない。

じょうそ【上訴】未確定の裁判に対し上級裁判所にその取り消し・変更を求める不服申し立て手段。現行法では，判決に対

しては控訴*と上告*，決定・命令に対しては抗告*の３種が認められている。この制度は，不利益を受けそうな当事者の救済や最終的には最高裁判所の審判を受けられる機会を残すことによって，裁判の適正，法律解釈の統一を期することなどを目的としている。上訴権をもつ者は，民事訴訟法では，不当な裁判を受けている当事者，刑事訴訟法では，検察官・被告人などである。➔三審制度　〔内田剛弘〕

しょうそう　【章草】　⇨書体

じょうそう　【情操】　一般に，学問・道徳・芸術・宗教など，一定の文化的・社会的価値をもつものに対して起こる高尚(こうしょう)で複雑な感情の総体。なお，ある特定の対象または事態に対する持続的な感情傾向を情操とみる立場もある。➔感情

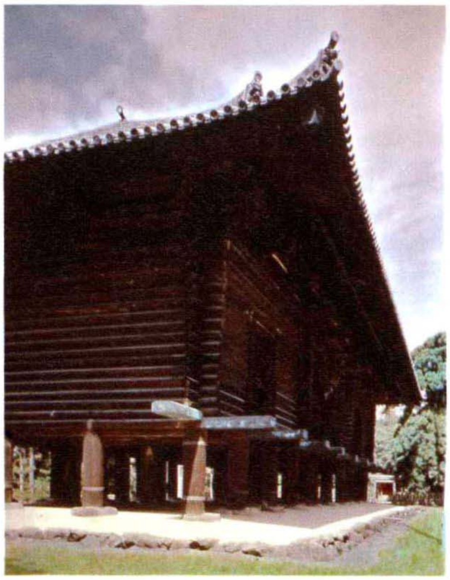
じょうそう　【丈草】　(1662～1704)　江戸前期の俳人。本名内藤本常(もとつね)。別号に仏幻庵(ぶつげんあん)・懶窩(らんか)など。尾張(おわり)(愛知県)犬山藩士。1688年(元禄１)出家して上京，翌年芭蕉*(ばしょう)に入門して頭角を現わし，1693年以後近江(おうみ)(滋賀県)に隠棲(いんせい)した。身辺雑詠に真情を流露，その閑寂の句境は最もよく芭蕉の〈さび〉を体得したものといわれる。俳諧(はいかい)随筆《寝ころび草》などがある。

じょうぞう　【醸造】　酒・しょうゆ・みそ・食酢などを発酵によってつくること。醸造はその生産物によって，原料の糖化方法や微生物が違う。醸造においては天然に存在する最も適した微生物が使用され，香気・味などの嗜好(しこう)性や消化率を高める効果がある。醸造は開放式の自然発酵形式から発達してきたが，近来無菌操作によ る純粋培養方式が取り入れられており，たとえばビール醸造は高度の機械化により連続発酵などの新方式の実用化が実現している。　〔伊藤力雄〕

しょうそういん　【正倉院】　奈良市東大寺*にある勅封の宝庫。奈良時代には官庁にある主要な倉庫を正倉といいその一画を正倉院とよんだ。古くは他の寺院や国衙(こくが)にもあったが，東大寺正倉院だけが残ってこれが固有名詞化した。東大寺大仏殿の西北に位置し，高床で南・中・北の３室に分かれている。建物の規模は南北33m，東西９m。南倉・北倉は校倉(あぜくら)造り*で，中倉だけが板倉造りの双倉(ならびくら)である。756年(天平勝宝８)光明皇后*が寄進した聖武天皇*の遺愛品を北倉に収蔵，その後大仏開眼(かいげん)の調度・仏具を中倉に収めたのをはじめ，多くの収蔵品を加え，正倉院御物として棚別(たなべつ)目録に794件しるされている。内容も書画・調度・仏具・伎楽面(ぎがくめん)・楽器・武器武具・薬品・文書など多種にわたっており，その多くが遠くサラセン・東ローマ・インドなどの文化を吸収した唐文化，およびその影響を受けた天平(てんぴょう)文化(➔天平時代)の粋を示し，工芸品



昇仙峡　昇仙峡観光の中心となっている仙娥滝。自動車道路はここから約５km上流の黒平まで通じている



正倉院　東南より望んだ宝庫　校倉造りが独特の様式美を織りなしている

としてもすぐれている。また一万数千点にのぼる古文書の中には，戸籍・計帳*・正税*帳など古代史の重要史料となるものが含まれている。正倉院は奈良時代以来勅封で，管理・保存が完備され，再度の東大寺炎上にも類火を免れている。明治以後東大寺から皇室に移管され，現在は宮内庁の管轄下にある。勅使を迎え曝涼(ばくりょう)(虫干し)が行なわれる。　〔高崎徳次〕

じょうそううん　【上層雲】　大気の上層部５～13km付近にできる雲。絹雲・絹積雲・絹層雲がこれにあたる。上層では気温が０℃以下なので，上層雲の雲粒は氷晶*でできている。➔十種雲形

じょうそうきょういく　【情操教育】　真・善・美など，いわゆる精神的価値または客観的価値について体験される感情の教育であり，怒りや喜びなどの本能的欲求や情緒よりは高次に昇華された，高尚(こうしょう)な価値感情の教育である。ふつう，音楽・美術などの芸術教育を意味することが多いが，真理を愛する知的情操，善の理念にふれて起こる道徳的情操，神や仏に対する畏敬(いけい)と帰依の宗教的情操などとともに，日常経験のうちに美や認識や愛を見いだし，自己の上にそれを実現し創造していく態度を重視する。　〔藤沢典明〕

じょうぞうしゅ　【醸造酒】　⇨酒

じょうそうだいち　【常総台地】　関東平野の東部を占め，茨城県南半と千葉県北半にわたる洪積(こうせき)台地で，利根(とね)川を境に北部の常陸(ひたち)台地と南部の下総(しもうさ)台地に分かれる。鬼怒(きぬ)川と江戸川とがほぼ西縁となる。表面は関東ローム層におおわれ，畑地が広い面積を占める。

しょうそうヘーゲルがくは　【少壮ヘーゲル学派】　ヘーゲル左派ともいう。ヘーゲル哲学を完成された体系としてではなく，方法として批判的に継承したヘーゲル学派の一派。D.シュトラウス*・B.バウアー・ルーゲ・フォイエルバッハ*・シュティルナー・ラッサール*らを含む。ヘーゲルの死後，ヘーゲル学派はシュトラウスの《イエス伝》に端を発して神の人格性・霊魂の不滅性などの問題に関して，哲学とキリスト教との一致の立場をとるヘーゲル右派(老ヘーゲル派)と永遠なるものは思惟自体・精神自体であり，神の人格性や霊魂の不滅性などは表象や意見にすぎないとするヘーゲル中間派，さらに個人の魂の不滅性を唯我論的としてキリスト教の内容も形式も否定した少壮ヘーゲル学派とに分裂した。ヘーゲルに忠実であったのはヘーゲル右派であるが，歴史的に意義をもっているのは少壮ヘーゲル学派で，マルクス*・エンゲルス*は彼らを批判することから弁証法的唯物論*を形成した。　〔豊福英利〕

しょうぞく　【装束】　〈そうぞく〉とも読む。もと，宮中の儀式に際して天皇・諸臣の座席を設けたり，御殿を装飾したりする意であったが，しだいに衣冠*・束帯*・直衣*(のうし)・裳*(も)・唐衣*(からぎぬ)など，一定の形式の完備した公服をつけることをさすようになった。なお広義の場合には，公家(くげ)装束・武家装束・女房装束*・火事装束*などの種別にいう。

しょうソクラテスは　【小ソクラテス派】　ソクラテス*の思想を総合的・全面的に発展させたプラトン*に対し，ソクラテス思想の一面をそれぞれ強調・発展させた他の弟子(でし)たちの開いた哲学学派に対する総称。キュニコス派*・キュレネ派*のほか，メガラ派・エリス派がある。メガラ派はエウクレイデス(ユークリッド*)によってその故郷メガラに開かれ，師の対話法を発展させたが，のちに争論派・弁証家とよばれた。エリス派

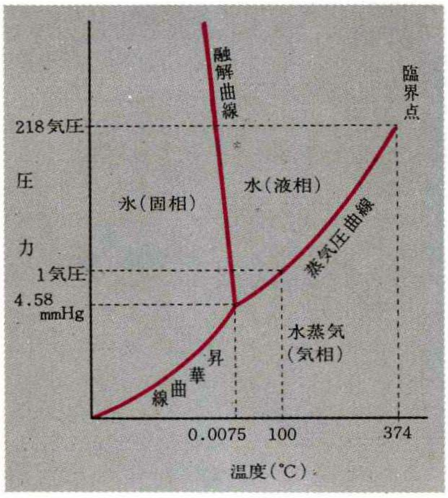
はパイドンによってその故郷エリスに開かれ，メガラ派と同様の思想を発展させた。のちにエレトリア出身の弟子によってエリスから移ったので，エリス-エレトリア派ともよばれる。〔本橋正義〕

じょうだい　【城代】　城主の代理として城の管理をする者。城主の一門あるいは重臣が任ぜられた。江戸時代では職制化して，幕府の支配する城を将軍に代わって管理した職で，伏見城代・大阪城代・駿府(すんぷ)城代・二条城代がある。なお，諸藩では城主の留守(るす)中(大名の参勤中など)その居城をあずかる家老を城代家老(略して城代)とよんだ。

しようたいしゃく　【使用貸借】　当事者の一方(借り主)が無償で使用および収益をなしたのちに返還することを約して，相手方(貸し主)からある物を受け取ることによって成立する契約*をいう(民法593条)。たとえば，友人にただで本を貸す場合などである。物の授受を要するから要物契約であり，賃借料を支払わないから無償契約であり，貸し主はなんの義務も負わないから片務契約である。また，使用貸借は目的物その物を返還しなければならない点で消費貸借*と異なり，無償である点で賃貸借*と異なる。借り主は契約どおりに，または物の性質上決まっている用法に従ってその物を使用・収益しなければならないし，借用物を転貸するには貸し主の同意を得なければならない。借り主がこれらの義務に反したときは貸し主は契約を解除できる(民法594条)。借用物の返還時期について契約に定めがあればそれに従い，返還時期や使用・収益の目的を定めてない場合はいつでも貸し主は返還を請求できる(民法597条)。なお，土地および家屋の使用貸借には借地法*・借家法*の適用がない。〔黒木三郎〕

しょうだいじょうろん　【摂大乗論】　4世紀ころのインドの仏教思想家アサンガ*(無着)の著書。漢訳とチベット語訳がある。《阿毘達磨(あびだつま)大乗経》(現存せず)中の一章である〈摂大乗品〉の解釈書といわれる。10章からなり，あらゆる存在や現象は自己の心の現われであり，実体性はないという〈唯識(ゆいしき)思想〉に基づいて大乗仏教を組織している。6世紀，中国の真諦*(しんだい)が訳したものは摂論宗(しょうろんしゅう)の根本聖典となった。著者の弟バスバンドゥ*(世親)や無性(むしょう)の解釈書などがある。〔小沢憲珠〕

じょうたいず　【状態図】　数種の相*の間の平衡関係を表わす図表。一般に変数として温度と圧力を選ぶ。一例として図のように水蒸気・水・氷の成分系の状態図を示す。蒸気圧曲線はそれぞれ液相と気相，融解曲線は固相と液相，昇華曲線は固相と気相の平衡関係を示している。曲線で囲まれた平面は，液相・気相・固相を示す。3本の曲線が交わる点は三重点とよばれ，温度・圧力ともに確定値(水・氷・水蒸気の場合，T＝0.0075℃，P＝4.58mmHg)をもち，それから変化すると，水・氷・水蒸気のどれかが消滅する。蒸気圧曲線は上限値をもっており，これを臨界点という。曲線上では，二相系で自由度1(温度を与えれば圧力が決まる)，平面では一相系で自由度2(温度・圧力とも任意に変化できる)である。三重点をもたぬ物質もある。〔三輪誠・海津洋行〕



状態図　水の状態図

じょうたいほうていしき　【状態方程式】　物質の熱平衡状態を表わす状態量，圧力p，体積V，温度Tの間になりたつ関係式。理想気体*に対しては，

$PV=RT$(ボイル-シャルルの法則)

ここで，Rは気体定数で$R=8.31434$エルグ/度・モルである。また，実在の気体に対しては，ファン-デル-ワールスの状態式があり，実験とよく一致する。

$$\left(P+\frac{a}{V^2}\right)(V-b)=RT$$

ここで，aは分子間に働く引力による補正項であり，bは分子に大きさがあることによる補正項である。〔中野藤生〕

しょうたん　【湘潭】　シャンタン　中国，湖南省中東部の都市。省都長沙(ちょうさ)の南西約30kmの湘江(しょうこう)と漣江(れんこう)の合流点，湘江の左岸に位置する。株州から分かれる湘黔(しょうきん)鉄道に沿い，この鉄道が全通すると貴州省の州都，貴陽にも通ずる湘江流域一帯の交通・経済の要衝である。米・茶・桐油(とうゆ)・薬材・紙などを集散し，また機械製造・紡織・精米・ブラシなどの工業も行なわれる。なお，市の南方30kmには毛沢東*の生地，韶山冲(しょうざんちゅう)がある。〔船越昭生〕

しょうちく　【松竹】　映画・演劇の製作・興行会社。1902年(明治35)白井松次郎*・大谷竹次郎の兄弟が創立した松竹合名会社に始まり，歌舞伎界(かぶきかい)・興行界で近代商法による成功を収め，1919年(大正8)映画製作を開始。翌年の《島の女》が第1回作品。一方関東・関西の大劇場を手中に収めるなど興行面でも最大資本となり，1936年(昭和11)松竹株式会社となる。その映画は撮影所の所在地名をとって〈蒲田(かまた)調〉〈大船調〉とよばれる穏健な大衆映画で，小津安二郎*・大庭秀雄(ひでお)・木下恵介*(きのしたけいすけ)らの監督を輩出。映画製作本数は1970年度16本，直営館30本。〔波多野哲朗〕

しょうちくしんきげき　【松竹新喜劇】　⇨曾我廼家(そがのや)劇

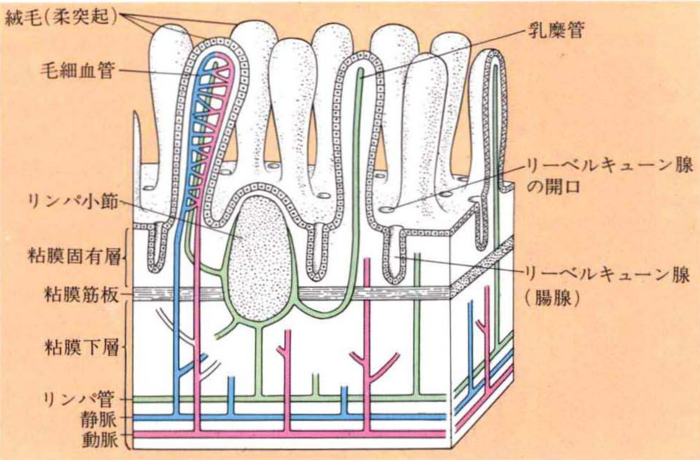
じょうちだいがく　【上智大学】　私立大学。1911年(明治44)に設立された上智学院が，1913年(大正2)専門学校令により上智大学，次いで1928年(昭和3)大学令による私立大学となり，1948年文・経済学部の2学部からなる新制大学として発足した。以後，法・神・外国語・文・経済・理工の6学部による総合大学となった。イエズス会によって創設され，日本最初のカトリック系大学として，多くの外国人教師を擁している。〈上智〉の名はギリシア語のソフィアに由来する。本部は東京都千代田区紀尾井町。

しょうちゅう　【焼酎】　わが国古来の蒸留酒。無色透明で普通はアルコール度が20度・25度・30度の3種であるが，最近は35度以上のものもある。旧式(乙類)と新式(甲類)とがあり，前者は主として旧来の中小醸造家の製品，後者は大規模な工場で製造される。

旧式しょうちゅう：アルコールを含んだ材料を蒸留してつくるもので，醸造装置も蒸留機も簡単である。原料による特有の風味をもっているので，人により好悪がある。材料により次の種類がある。㋑粕(かす)取りしょうちゅう：酒の粕を蒸留してつくり，酒粕のかおりがよい。㋺いもしょうちゅう：甘藷(かんしょ)を原料としたもので，甘藷臭と甘味がある。九州南部・小笠原(おがさわら)諸島などに産する。㋩米しょうちゅう：米を原料にして酒のもろみをつくり蒸留したもので，味がよく高級品である。その他トウモロコシ・麦・デンプン粕・白ぬかなどを原料とするものもある。

新式しょうちゅう：酒精工場で新式の発酵設備，連続蒸留機で大規模にアルコールを製し，これを適宜の水で薄めてしょうちゅうとするもの。成分は純エチルアルコールに近く，異臭はないが風味に乏しい。原料としては各種穀類・いも類・糖蜜(とうみつ)・デンプン粕などを使用する。現在ではわが国の消費量の大部を占めている。〔住江金之〕

じょうちゅう　【条虫】　扁形(へんけい)動物・条虫綱に属する寄生虫。全世代を通じて寄生生活を営む。ヒトに寄生するものは多節亜綱のもので，一般にはサナダムシとよばれる。体は通常多数の体節からなるひも状で，消化管を欠く。頭部は頭節といわれ，吸盤や吸溝(きゅうこう)などのほか，額嘴(がくし)(頭節前端にあり，出し入れできる構造)に鉤(かぎ)を有するものもある。人体寄生の条虫



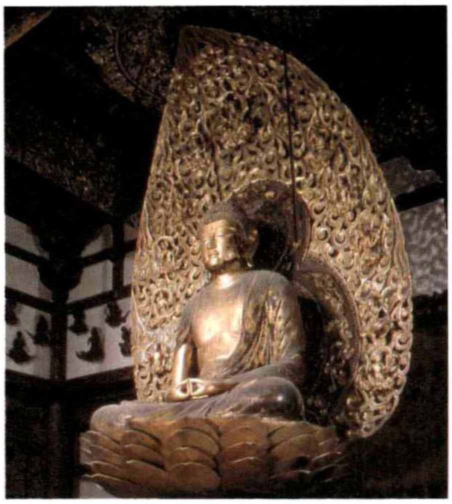
小　腸
小腸壁の絨毛

の成虫は，通常消化管に寄生するが，ヒトが中間宿主となる場合は，脳・肝臓・筋肉・目・皮下組織・骨など身体各所に幼虫が寄生し，しばしば重大な病害を与える。条虫類の幼虫は中間宿主内で種々の形態をとり，嚢尾虫(のうびちゅう)・共尾虫・擬嚢尾虫・エキノコックス・擬充尾虫(プレロセルコイド)などとよばれる。人体寄生のおもなものは，無鉤(むこう)条虫・有鉤条虫・広節裂頭条虫・マンソン裂頭条虫・矮小(わいしょう)条虫・エキノコックス・縮小条虫などで，いずれもわが国でみられる。〔山本　久〕

しょうちゅうのへん【正中の変】 1324年(正中1)後醍醐(ごだいご)天皇が鎌倉幕府の討伐を計画した政変。そのころ幕府は内管領(ないかんれい)長崎高資(たかすけ)の専権で人心が離反していたため，朝廷政治の刷新を期して親政を開始した天皇は，日野資朝(すけとも)・同俊基(としもと)・土岐頼兼(よりかね)らと図り，社寺勢力・地方武士を糾合して討幕を企てた。しかし計画は未然に発覚して頼兼らは処刑され，資朝・俊基らは鎌倉に送られ，資朝は佐渡に配流された。天皇は万里小路宣房(までのこうじのぶふさ)を東下させて，事件に無関係であることを幕府に弁明したために事なきを得たが，なお討幕の志を捨てず，1331年(元弘1)元弘(げんこう)の乱を起こした。〔高崎徳次〕

しょうちょう【象徴】 シンボルの訳。記号とほとんど同じ意味で使われるが，特に，具体的なものによって精神的・抽象的なものが示されるとき，前者は後者の象徴であるという。たとえば〈十字架〉はキリスト教の象徴であり，〈青い鳥〉は〈幸福〉の象徴，〈ハト〉は〈平和〉の象徴であるというように表わされる。そして象徴しているものと，象徴されているものとは，必然的な関係というより，感覚的・情緒的なものによって結びついていることが多い。この象徴作用は，芸術・宗教，その他あらゆる人間の文化の中にみられ，人間の認識作用の大きな要因となっている。➔象徴主義〔寺中平治〕

しょうちょう【小腸】 胃に続く長さ6m余の管状の消化管。始部の約25cmを十二指腸，次の2.5mを空腸，終わりの3.5mを回腸という。十二指腸は腸間膜をもたず，後腹壁に固着しているが，空腸と回腸は幅広い腸間膜に包まれているので自由に動く。空腸・回腸の境界は明瞭(めいりょう)ではないが，腹腔(ふくこう)の左上部を空腸，右下部を回腸が占め，空腸は血管が豊富に分布しているためやや赤みをおび，回腸はこれに反し白っぽい。また壁の厚さは空腸のほうが厚い。十二指腸を含め，小腸粘膜には輪状の多数のひだがあり，さらに無数の指状の突起がある。この指状突起を絨毛(じゅうもう)(腸絨毛)とよんでいる。またこの絨毛をおおう単層円柱上皮細胞の自由端(内面)には細胞質の微突起である微絨毛(小皮縁)があり，粘膜全体としては輪状ひだ・絨毛・微絨毛という突起で表面積は著しく大きくなっている(吸収総面積は十二指腸では1.34m²，空腸では3.7m²，回腸では5.3m²)。各絨毛の根もとには嚢状(のうじょう)の陥凹(かんおう)，すなわち腸陰窩(か)があり，その底部にはパネート細胞という腸液を分泌する細胞があるほか，粘液を分泌する杯細胞がある。消化されてかゆ状になった食物の分解物は腸壁から吸収されるが，アミノ酸とブドウ糖は粘膜下の毛細血管に，脂肪要素は絨毛の中心にある乳糜腔(にゅうびこう)というリンパ管にはいる。食物が小腸を通過するに要する時間は3～6時間であるが，小腸壁を構成する筋の働きである振子運動(内容物を混ぜる)と蠕動(ぜんどう)運動(くびれができたほうへ押しやる)によって内容物が消化とともに大腸のほうへ送られる。筋層は食道と同様に内輪層と外縦層からなるが，ともに平滑筋で両層の間には自律性の神経細胞の集団がある。これらの運動は腸壁に分布する交感神経・副交感神経によって支配され，両筋層間でアウエルバッハ神経叢(しんけいそう)，粘膜下組織内でマイスネル神経叢をつくる。腸管の運動と腺(せん)の分泌は交感神経刺激によって抑制され，副交感神経刺激によって促進される。〔幡井勉・橋本長〕



定　朝《阿弥陀如来坐像》 平等院鳳凰堂蔵

じょうちょう【定朝】（？～1057）平安時代中期に活躍した仏師。康尚(こうしょう)の子で，1020年(寛仁4)に無量寿院の丈六9体の阿弥陀(あみだ)像を父とともにつくったのをはじめ，多くの造仏に従事し，1022年(治安2)法成寺の仏像をつくった功により木仏師としてはじめて法橋の位を授けられ，1048年(永承3)には興福寺の造仏の功により法眼(ほうげん)の位に進んだ。現存する唯一の作品は平等院鳳凰堂(ほうおうどう)の本尊《木造阿弥陀如来坐像(ざぞう)》(国宝)である。定朝は日本人の感覚にあった，いわゆる和様の仏像の典型をつくり上げ，その作風は長く日本彫刻の規範として生かされた。また，寄せ木造りの造像法を完成し，仏師の分業化による制作過程や，仏所の機構・組織を整備・確立し，造仏の気運を盛り上げる基礎をきずいた功績は大きい。〔永井信一〕

しょうちょうしゅぎ【象徴主義】 19世紀後半フランスで始まった詩を中心とする芸術思潮。サンボリスムの訳。ボードレールの詩集《悪の華(はな)》にその萌芽(ほうが)がみられ，ランボー・ベルレーヌ・マラルメの3詩人によって提唱・発展させられた。文学のみにとどまらず，演劇・絵画・音楽にも影響を及ぼし，また西欧各国でそれぞれ独自の象徴主義を生み，20世紀にはいって一時衰退したが，第1次世界大戦後にはバレリー・クローデルらがその最後の輝きともいえるものを示した。その主張は，ロマン主義の無意識的な感情の流露や高踏派の客観主義を拒み，知性化された感受性を通して，近代人の微妙な意識の陰影を表現しようとするところにある。ボードレールの言った魂と自然との〈照応(コレスポンダンス)〉を，ベルレーヌはことばの微妙な音楽性によって，マラルメはイメージが喚起する類推によって，ランボーは即物的にことばと世界を見ることによって，それぞれとらえようとした。〈音楽からその富を奪還しよう〉というバレリーの言のごとく，この派の精神は，なによりも詩のことばを新しい表現価値の中へ解放しようとしたといえる。

なお，象徴主義の先駆をなし，その精神に深い影響を与えた詩人・小説家として，リラダン・ポーらをあげることができる。また，象徴主義はプルーストを通じて小説に，ジイドを通じて批評へと，20世紀文学の中に広範な展開をみせた。ほかに，レニエ・ラフォルグ・シモンズ・ゲオルゲ・リルケ・ブローク・イェイツ・メーテルランクら各国の文学者が，象徴主義的作品を書き，日本でも上田敏の《海潮音》による紹介以降，岩野泡鳴(ほうめい)・蒲原(かんばら)有明らに象徴派の作品があるほか，多くの文学者にその影響がみられる。〔森　英樹〕

また，一般に表現方法として〈象徴〉を重んじる芸術上の立場のほかに，象徴ないし象徴作用の役割が人間の文化全体に広くみられるところから，とくに学問・思想の分野でも，これを強調する立場を象徴主義とよぶことができる。たとえば，ドイツの哲学者カッシーラーは人間の文化の基本的なあり方を示すものを象徴あるいは象徴形式としてとらえ，言語・神話・宗教・科学などはすべてこの象徴形式において与えられるとする〈象徴形式の哲学〉を大規模に展開している。また，ホワイトヘッドも人間の認識作用における象徴作用の重要性と役割を主張しているが，アメリカの言語学者オグデンとリチャーズは，言語が思想に及ぼす影響という点から記号や言語を含めた広い領域の象徴学(シンボリズムの科学)を展開し，今日の言語理論や意味論(→記号論)の基礎を築いた。〔寺中平治〕

しょうちょく【詔勅】 天皇の命令を伝達する文書の形式。養老令(ようろうりょう)(→養老律令)の公式令(くしきりょう)にその書式が規定されている。詔も勅も〈みことのり〉と読むが，内容が大事のときは詔，小事の場合は勅とするのが原則。これは唐制を模したものである。令によれば，詔にも事の軽重，発布の対象によって5種があり，いずれも大臣・大納言・中務卿(なかつかさきょう)の署名と天皇御璽を必要とする。勅は1種類で，中務卿と弁官などの署名だけで発効した。詔書は天皇が日付を入れたものを原本として写しを太政官(だじょうかん)に送り，官また天皇に奏して可の字をいただき，これを写して諸司に頒下したが，勅はこれより簡便に施行された。〔黛　弘道〕

じょうちょろん【情緒論】 ヨーロッパ音楽の美論の一つ。ドイツ語の〈アフェクテン-レーレ〉ともいう。情緒と音楽との間の関連を述べた古代からの説の流れをくむもので，狭義には，18世紀の後期バロック時代に，ウェルクマイスター・ハイニッヒェン・クバンツ・マッテゾンらの作曲家や理論家の述べたものをさす。そこでは，旋律・和声・リズム・テンポ・音量などが，喜びとか悲しみなどの情緒の表現手段として使われるとされている。〔徳丸吉彦〕

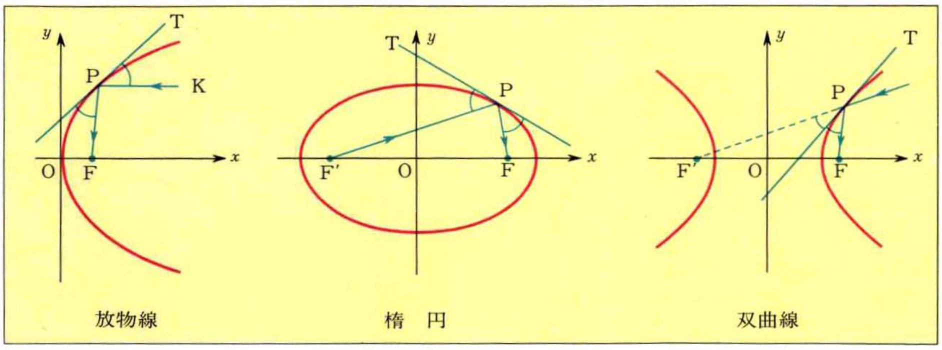
じょうちれい【上知令】〈あげちれい〉ともいい，上地令とも書く。1843年(天保14)江戸幕府が江戸10里四方，大阪5里四方を幕府直轄地にするため，この地域内の大名・旗本(はたもと)の知行地上納を定めた政令。天保(てんぽう)の改革の主要政策の一。趣意は，①各地に散在している幕府領を重要地の江戸・大阪周辺に集中して支配・統制を強めようとしたこと，②阿片(あへん)戦争直後の対外的危機意識から，江戸・大阪の一貫した海防体制を樹立しようとしたこと，③比較的租率の低い地方の幕府領を替地にし，生産力・収納額の高い江戸・大阪周辺を幕府領化して幕府財政の増収を見込んだことなどがあげられている。しかし紀伊(きい)藩をはじめ大名・旗本は，こぞって反対し，同年閏(うるう)9月に廃止された。〔高崎徳次〕

しょうてつ【正徹】(1381～1459) 室町前期の歌人。紀氏。招月・松月・清巌和尚(せいがんおしょう)などと称した。1394年(応永1)から冷泉為尹(れいぜいためまさ)に師事し，今川了俊の知遇を得た。東福寺の書記をつとめながら，和歌会などを通じて公武の貴族との交際を重ね，二条派の東常縁(とうのつねより)や足利義政(あしかがよしまさ)・細川勝元らにも教えるところがあった。また，門弟に宗砌(そうぜい)・心敬らを生んだこともみのがせない。二条派の歌風に反対し，藤原定家を尊崇し，余情妖艶(ようえん)のふうへの復帰を志した。歌集に《草根集》，歌論に《正徹物語》がある。〔奥野純一〕

しょうてん【昇天】 キリスト教で，霊魂が肉体を離れて天にのぼること。広義には信者の場合にもいうが，狭義にはイエス-キリストにのみ限定される。《新約聖書 使徒行伝》1章によると，キリストは復活後40日めに，弟子(でし)たちの眼前で〈天に上げられ，雲に迎えられて見えなくなった〉とある。

しょうてん【焦点】

1　→レンズ



焦　点

2円錐曲線は定点Fと定直線 l からの距離の比が一定値 e (>0) に等しい点Pの軌跡として，統一的に定義することができる。この e が離心率である。このときの定点Fをこの円錐曲線の焦点という。焦点の個数は放物線では1個，楕円(だえん)・双曲線ではいずれも2個である。

放物線の場合には，曲線上の任意の点をPとするとき，直線PFとPを通り軸に平行な直線PKとは，Pにおける接線PTと同じ角をつくる。したがって，光が軸に平行に放射されて，放物線によって反射されたとき，光線がつねにFに集まることになる。また，楕円と双曲線の場合は，曲線上の任意の点Pと二つの焦点F，F′とを結ぶ直線はPにおける接線と等しい角をつくる。したがって，楕円の場合には，一方の焦点から出た光は他方の焦点に集まり，双曲線の場合には，一方の焦点に向かって進んできた光が曲線で反射されて他方の焦点に集まるといえる。〔菊池兵一〕

しょうでんき【焦電気】 ⇨ピロ電気

しょうてんしんど【焦点深度】 ⇨写真レンズ

しょうと【昌都】 チャムド 中国，チベット(西蔵)自治区東部の都市。人口約50,000。瀾滄江(らんそうこう)上流に臨み，四川省雅安(があん)とチベットの主都ラサを連絡する自動車道路に沿う。薬材の移出で知られる物資集散地で，もと西康省に属し，1955年に金沙江(きんさこう)以西の西康省西半が昌都地区として独立してからその中心となったが，1965年からチベット自治区に編入された。

しょうど【照度】 光に照らされているところの明るさの度量。単位面積あたりに入射する光束で表わす。単位はルクス(lx)。$1\,\mathrm{m}^2$あたり1ルーメンの光束が入射しているとき1ルクスというが，面積に平方センチメートルをとって，その単位をホト(ph)とよぶこともある。なお，照度は，光を受ける面の性質には関係しない。

じょうど【壌土】 ⇨土性

じょうど【浄土】 一般に仏が住む清浄な世界をいい，仏国・仏土ともいう。煩悩(ぼんのう)でけがれている現実世界を穢土(えど)というのに対する。阿弥陀仏(あみだぶつ)の極楽世界，大日如来の密厳世界，薬師如来の浄瑠璃(じょうるり)世界，釈迦(しゃか)如来の無勝荘厳国(しょうごんこく)などの諸仏の国土の通称が浄土である。小乗仏教では，身心ともにまったく無となるとする灰身滅智(けしんめっち)を説くため浄土の存在を説かないが，大乗仏

教では，人間は成仏して未来永劫(えいごう)に存在すると説くので，仏の数に応じた浄土が考えられている。

しかし，浄土を教義上特に問題とするのは浄土系であり，特に阿弥陀仏の極楽世界をいう。この極楽浄土は四十八願などの清浄な誓願(救済の願)に基づいて建立(こんりゅう)された国土で，そこには清浄無垢(むく)の阿弥陀が住み，ここで成仏する者はすべて至純清浄となるといわれ，あらゆる諸仏の浄土に卓越しているとされる。のち西方十万億土にあるとされるようになった。なお，浄土宗，浄土門の略として転用され，自力によって仏道を修行し現在の娑婆(しゃば)世界で開悟するという聖道門(しょうどうもん)に対し，浄土門は阿弥陀仏の力に救われて極楽浄土に往生*して開悟することを説く。➜極楽

〔山折哲雄〕

しょうドイツしゅぎ【小ドイツ主義】大ドイツ主義*に対抗して，プロイセンを中心とし，オーストリアを除外してドイツの統一を行なおうとする運動。三月革命*後のフランクフルト国民議会*では，両者の激しい論争の末，小ドイツ主義が勝利を占めたが，ウィルヘルム4世が帝冠を拒絶したため失敗し，結局ビスマルク*は小ドイツ主義の力を借りてオーストリアを打倒，ドイツ帝国の統一を達成した。

しょうとう【鐘塔】キリスト教で礼拝召集用の鐘をつるす塔。初期キリスト教時代からヨーロッパ各地に存在するが，特にロマネスク以降に大規模なものが建てられた。フランス-ゴシックの聖堂では，正面入り口両側の上部に2基，ドイツ-ゴシックでは入り口上部に1基，イギリスでは十字形平面の交差部上部に置かれる。イタリアでは聖堂から分離独立して建てられた。また，鐘塔と考えられるものにイギリスのサクソン塔(7～11世紀)，アイルランドの円塔(6～13世紀)などがあるが，古いものほど望楼や防御施設としての性格が強い。聖堂以外では，11世紀以降の自治都市が，その権力と繁栄の象徴として，また緊急事態や時刻を知らせるために，市庁舎の一部に付属させたり広場に独立させて建造したものがある。〔渡辺保忠〕

しょうどう【晶洞】鉱床または岩石中の空隙(くうげき)に沿って鉱物の結晶が晶出したもの。俗に〈がま〉ともいう。鉱脈中の晶洞，ペグマタイト*中の晶洞など，周囲の地質と同一原因で生じたものである。鉱物の美晶を見つけやすい。

しょうどう【衝動】生活体の内部にあって，外部への解放を求める力。心理学では，行動を起こす動因の性質，動因の発動形式という二つの意味に用いられる。行動を起こす動因には，食欲・性欲などの先天的動因と，意図に基づく後天的動因とがある。本能活動は前者に，習慣的動作は後者に基づく衝動動作である。動因の発動形式



晶　洞　水晶　アメリカ合衆国イリノイ州産



ショウドウツバメ

としては，一つの動因が圧倒的に優勢で，他の動因の制約を受けずに反応を起こすような場合をいい，これを衝動行為という。空腹にかられて食物を盗んだり，怒りや恐れのあまり爆発的反応を起こすなどはその例。欲望の高揚によって行動が衝動化することを心理学では行動の原始化という。人格の発達に伴って動因の構造も複雑化し，有意的行動が現われ，さらに選択行動が発展し，衝動行為の出現は減少する。

〔原野彰子〕

しょうどう【章動】太陽と月の引力が地球の赤道部のふくらみに作用して，地球の自転軸は首振り運動を起こすが，この首振り運動のうち一様な部分を日月歳差とよび，周期的な部分を章動とよぶ。もし月と太陽が黄道面内にあり，かつ円運動しているならば章動はなくなる。章動はいろいろな周期項の和として表現される。この中でいちばん大きい振幅をもつ項は18.6年の周期をもち，振幅は17.″2である。18.6年という周期は月の軌道と黄道と交わる点が天球上を1周する周期である。〔木下　宙〕

じょうどう【情動】⇨感情

じょうどう【成道】仏道を完成するの意。成仏・得仏・得道・成正覚ともいう。菩薩(ぼさつ)すなわち悟り*の志願者が修行して，仏の悟りを完成すること。釈迦(しゃか)八相(ブッダ*の生涯(しょうがい)で八つのおもな経歴)の第6。ブッダはガヤーの近くのウルベーラー村の森林で，苦行者とともに6年間修行したが，身体が衰弱するだけで得るところはなかった。彼は苦行を捨て，村の一少女のささげた乳糜(にゅうび)(乳がゆ)をとって，川で沐浴(もくよく)して気力を回復し，アシバッタ樹の下で十二縁起*を順逆に観じ，四禅の精神的段階を経て，ついに悟りを得てブッダ(覚者)となったという。それは彼の35歳(または30歳)のときで，北伝は12月8日，南伝はウェーサカ*(4～5月)の満月の日であったとする。彼が成道に至るまでの内観的超克の過程を降魔*(ごうま)の伝説として描写する。彼の成道にちなんで，この地をブダガヤといい，悟りを開いたアシバッタ樹を菩提樹(ぼだいじゅ)(悟りの樹)と名づけた。

〔塚本啓祥〕

じょうどうえ【成道会】ブッダが菩提樹(ぼだいじゅ)下で悟りを開いた日を記念して，12月8日に催される仏教行事。中国や日本の寺院では古くから成道会法要が営まれた。禅宗の僧堂では12月1日から8日の朝まで坐禅に専念する。これはブッダの菩提樹下での結跏趺坐(けっかふざ)を追体験しようとするもので，臘八接心会(ろうはちせっしんえ)とよばれる(臘八とは臘月8日の意)。成道会は灌仏会*(かんぶつえ)(4月8日)・涅槃会*(ねはんえ)(2月15日)とともに現在でも重要な仏教の年中行事である。〔岡部和雄〕

じょうとうしき【上棟式】建物を新築する際，棟木(むなぎ)を取り付けた骨組みの完成時に，施主・工事関係者が家屋の守護神などを祭って新居の安全を祈る儀式。上棟祭・棟(むね)上げ式・建て前ともいう。古くは神饌(しんせん)を献じ，祝詞(のりと)を奉上し，御幣・散米(さんまい)を棟木に飾り，棟梁(とうりょう)が槌で棟木を打ち固め，もち・銭をまくのがしきたりであった。地鎮祭*とともに重要な建築儀式の一つである。

しょうとうしょう【小頭症】頭囲が小さく，10歳以下で標準値より5cm以上小さいもの。脳の発育不全が一次的の場合と，頭蓋(とうがい)骨の発育が悪いため脳の発育が障害される場合とが考えられる。症状には知能発達の遅れがあり，ときにけいれん・白内障・聴力障害や，耳・心・骨の奇形などを伴う。治療は頭蓋骨の縫合早期閉鎖に対しては手術も行なわれるが，脳発育が一次的なものに対しては精薄の治療に準ずる。

しょうどうつばめ【小洞燕】鳥類・ツバメ科。全長12～13cm。尾はいわゆる燕尾(えんび)型ではなく，日本に分布するツバメ類中いちばん小さい。上面は灰かっ色，下面は白色で，胸に灰かっ色横帯がある。本州北部と主として北海道に夏鳥として渡来し，砂分の多い低いがけの壁面に穴をあけて集団営巣する。秋の渡り期には各地の海岸でもよく見かける。

じょうとうもんいん【上東門院】⇨藤原彰子

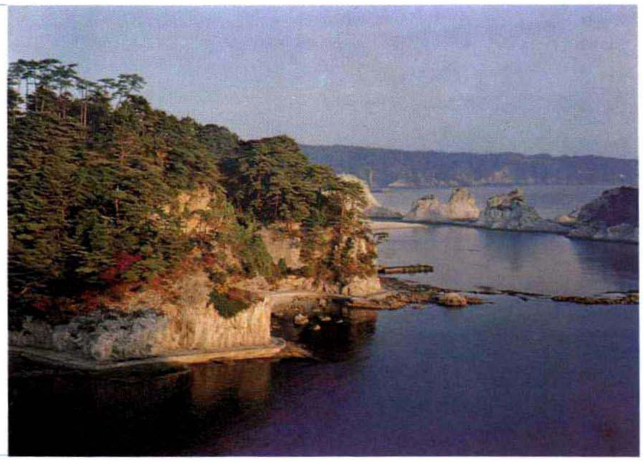
じょうどがはま【浄土ケ浜】岩手県東部，臼木(うすき)半島の東端にあり，宮古市に属する。海食による石英粗面岩の奇岩怪石が立ち並び，背後の半島から続くアカマツ

林と波に洗われる白色の岩石とがすぐれた自然美を形成し，17世紀に宮古の霊鏡和尚(おしょう)が，〈浄土もかくや〉と賛嘆したことから名づけられ，陸中海岸国立公園の一部をなしている。入り江には砂浜が発達し，夏は海水浴客でにぎわい，観光施設も整っている。〔味沢成吉〕

じょうどきょう【浄土教】 阿弥陀仏(あみだぶつ)を信仰することによって浄土に往生することを願う仏教の一派。阿弥陀仏をたたえる経典のうち，浄土三部経とよばれる《無量寿経》《観無量寿経》《阿弥陀経》が根本経典とされ，これらによりインドでナーガールジュナ(龍樹(りゅうじゅ))やバスバンドゥ(世親)らが浄土教を体系化した。中国では5世紀はじめに東晋(とうしん)の慧遠(えおん)が白蓮社(びゃくれんじゃ)という念仏結社をつくったが，思想的には曇鸞(どんらん)・道綽(どうしゃく)らを経て善導によって大成され，その教理は中国浄土教の主流となった。日本の浄土思想は，聖徳太子にすでにみられるが，広く流布するのは円仁以後で，10世紀から11世紀にかけては空也・源信が現われ，前者は浄土教を民衆の間に広め，後者は《往生要集》を著わして日本浄土教の思想的展開に大きな影響を与えた。その後永観(ようかん)や良忍などによって思想的に整えられるが，これを一つの宗派として独立させたのは鎌倉時代の法然で，その主著《選択集(せんちゃくしゅう)》は，当時の思想界に大きな反響をよんだ。彼の思想は浄土真宗の開祖とされる親鸞(しんらん)や，時宗の開祖一遍らにより日本思想史上，最も大きな潮流を形成し，その後の思想・文化にも大きな影響を与えた。〔奈良博順〕

しょうとく【承徳】 チョントー 中国，河北省北部の都市。人口約10万。旧名は熱河。北京(ペキン)の北東175km，灤河(らんが)支流の熱河に沿い，北京とは京承鉄道の古比口経由で連絡し，東北地方とは錦承(きんしょう)鉄道で結ばれている。周辺一帯で産する毛皮・穀物・フェルトなどの交易が盛ん。市の北西には1703年造営の壮麗な清朝(しんちょう)の避暑山荘がある。また，ラマ教の大寺院珠光寺(ホグラ寺)など，寺院や古跡も多く残っている。〔船越昭生〕

しょうどく【消毒】 感染症や腐敗・変性の原因となる微生物やその胞子を死滅させる方法。物理的方法と化学的方法とがある。前者には，日光・乾燥・紫外線・放射線・加熱・高圧を単独もしくは併合して用いる方法があり，後者には，アルコール・石炭酸・昇汞(しょうこう)・クレゾール・逆性せっけんなどの薬剤を液状にして用いる方法，ホルマリン・酸化エチレンなどの気体を用いる方法がある。消毒する対象物によって方法を使い分ける。たとえば，傷口の消毒や手指の消毒には，アルコールや逆性せっけんなどの，主体に対して害の少ない薬剤による化学的消毒法を用いる。不溶解性で



浄土ケ浜
海岸の美しさは，遊覧船からや岬からの展望で探ることができる。ここ浄土ケ浜は陸中海岸国立公園では女性的な美しさをもつ



聖徳太子
法隆寺蔵

耐熱性の器具の消毒には煮沸法，使用上水分を含んではならない耐熱性の器具の消毒には乾熱滅菌法，液体培地を含んだ容器ごとの滅菌には高圧滅菌法，室内や熱に弱い器具の滅菌にはガス滅菌や紫外線による滅菌が好適である。また熱や乾燥に強い胞子を殺したり，熱に弱い物質を消毒するために，適当な間隔をおいて比較的低温でくり返し滅菌する間欠滅菌法がある。以上のほかに，毎秒10キロヘルツ以上の超音波を用いたり細菌の通過できない濾過(ろか)装置を通過させて液体内の細菌を除去する濾過滅菌法もある。なお，滅菌とはすべての微生物を完全に殺滅することを意味するが，消毒という場合は病原微生物の殺滅を目的として，必ずしもすべての微生物が殺滅されることを目標とはしていない。〔和気　朗〕

じょうとく【常徳】 チャントー 中国，湖南省北部の都市。洞庭(どうてい)湖の西，沅江(げんこう)下流の北岸に位置する。人口約10万。古来流域の物産の集散地として発展し，ことに桐油(とうゆ)と木材の取引が盛んである。長沙(ちょうさ)と武漢の間に汽船の定期便が通じ，また自動車道路が四方に延びて隣接の各省とを結ぶ交通の要地でもある。開発は古く，漢代には臨沅県，隋(ずい)代には武陵県が置かれた歴史をもつ。

しょうとくたいし【聖徳太子】(574～622) 飛鳥(あすか)時代の皇族政治家。名は上宮(かみつみや)厩戸(うまやど)豊聡耳(とよとみみ)太子。用明天皇の第2皇子で，聖徳太子は諡(おくりな)。593年(推古1)，叔母(おば)にあたる推古天皇の摂政として内政・外交・仏教興隆に画期的な業績をあげた。当時隋(ずい)・新羅(しらぎ)の強盛でわが国の海外情勢は緊張し，国内では蘇我(そが)氏の専権で氏姓制度の弊害が露呈していた。このような時局下にあって太子は皇室を中心とする中央集権国家体制を確立し，国際的地位を高めることをその政治目標とした。

任那(みまな)再興のための新羅征討は成功しなかったが，600年以降遣隋使を派遣，隋との対等国交を進めた。603年冠位十二階の制，翌年十七条憲法を制定。大臣(おおおみ)蘇我馬子は終始太子の新政に協力したが，このことは一面太子の政治的限界を示した。暦日の採用，国史の編集も新政の一環として行なわれ，特に仏教興隆に尽力し，《三経義疏(さんぎょうぎしょ)》を著わし，また法隆寺・四天王寺を建立(こんりゅう)するなどわが国文化の向上，思想の統一に業績を残した。陵墓は大阪府南河内(みなみかわち)郡太子町の磯長(しなが)陵。〔高崎徳次〕

しょうとくたいしえでん【聖徳太子絵伝】 聖徳太子の伝記を絵画化したもの。誕生から薨去(こうきょ)に至るまでの事績を描き，色紙形や詞書(ことばがき)などによって説明を加えたものが多い。最古の遺品は法隆寺絵殿に伝わった障子絵(現在屏風(びょうぶ)に改装)で，1069年(延久1)秦致貞(しんちてい)の描いたもの。後世の補筆が著しいが，数少ない平安時代障屏画の遺品として貴重である。ほかに四天王寺・橘(たちばな)寺などの掛幅，上宮寺などの絵巻がある。〔村重　寧〕

しょうとくてんのう【称徳天皇】 ⇨孝謙天皇

しょうとくのち【正徳の治】 新井白石を中心に行なわれた文治主義政治。この期間の主要年号が正徳(1711～1715)なのでこの称がある。儒学的理念によって政治が行なわれた。正徳金銀の発行，海舶互市新例

の発布などみるべきものがある。

しょうどくやく　【消毒薬】⇨殺菌薬

しょうどけい　【照度計】　照度*を直接測定する測定器。視感によるものと物理受光器によるものとがある。前者にはマクベス照度計，後者には光電照度計があげられる。マクベス照度計は，付属の白色試験板を測定位置に置き，測定面の輝度*を拡散透過して比較面にとり入れ，一方内蔵する一定電流のランプを移動してその輝度を調整して，視感により平衡をとるようにしたもの。光電照度計は，受光器に入射した光束，すなわち受光面の照度を光電池または光電管などによって直接光電的に計測するもので，セレン光電池を使用した照度計は簡単な携帯用照度計から精密形に至るまであり，真空光電管を使用した光電管照度計や，光電子増倍管を使用した光電子増倍管照度計など，高感度のものや全自動記録照度計などがある。〔中山忠巳〕

じょうどじ　【浄土寺】　兵庫県小野市にある古義真言宗の寺。東大寺大勧進職重源によって建てられ，播磨(はりま)別所とよばれた。国宝の《木造阿弥陀(あみだ)如来および両脇侍(きょうじ)立像》(本尊)は快慶の作といわれ，1197年(建久８)に浄土堂(阿弥陀堂)(国宝)とともに落慶供養されたといわれる。浄土堂は天竺様(てんじくよう)の建築として鎌倉期の遺構。

じょうどじ　【浄土寺】　広島県尾道(おのみち)市にある真言宗泉涌寺(せんにゅうじ)派の寺。聖徳太子の創建と伝えられ，1298年(永仁６)定証が再興したが，1325年(正中２)に焼失。現在の本堂(当時は観音堂と称した)(国宝)は1327年(嘉暦２)に，多宝塔(国宝)は1329年(元徳１)に，阿弥陀堂(あみだどう)は1345年(興国６・貞和１)に完成。庫裡(くり)の北側の茶堂は伏見城内から移建したという。本堂の十一面観音立像，阿弥陀堂の阿弥陀如来坐像は藤原初期の作。ほかに聖徳太子像３体，中国の元から舶載された孔雀(くじゃく)沈金経箱が２合あり，境内の納経塔１基・宝篋印塔(ほうきょういんとう)２塔は鎌倉後期の作で当地方石造美術の代表作である。〔永井信一〕

じょうどしきていえん　【浄土式庭園】　超自然主義を主張する庭園。理想世界である浄土を具体的に表現しようとするもので，平等院*・鹿苑寺*(ろくおんじ)・慈照寺*・西芳寺*・毛越(もうつ)寺*などは，この様式に含まれる。必ず池泉庭園で，庭中に仏像を安置すべき堂または楼閣がある。蓬萊(ほうらい)様式をも兼ねていることが多いので，表現的には蓬萊庭園*と変わるところがない。

しょうどしま　【小豆島】　瀬戸内海東部にあり，香川県に属し，西方の豊(て)島・小豊島とともに小豆(しょうず)郡を形成する。古くは〈あずきじま〉といい，《古事記》にその名があり，また〈しょうずしま〉ともいった。面積152km²で，瀬戸内海では淡路島に次ぐ第２の大島で，豊島・小豊島と小豆島の北



照　度　計



小 豆 島　まぶしい日ざしの中を行くお遍路さん。小豆島では〈島遍路〉といって，島内に88か所の霊場を設けてこれを巡拝して回る

岸一帯を含む土庄(とのしょう)，南東岸の内海(うちのみ)，南西岸の池田の３町に分かれる。人口45,000。カコウ岩を基盤とし，安山岩・玄武岩・集塊岩などがその上をおおう山地がほとんどで，平地は少なく，最高所星ケ城(817 m)の西に続く山地の南斜面には，岩石の節理と侵食によってつくられた寒霞渓*(かんかけい)の奇勝がある。川は短く荒れ川となっている。海岸線は北は単調であるが，南は複雑で，土庄の陸繋(りくけい)島と二つの半島が，池田湾・内海湾をいだいている。気候は温暖で，降水量の比較的少ない瀬戸内式気候である。水田は少なく，麦・サツマイモ・タバコなどの畑作が主で，ミカンや青リンゴもつくられ，また日本では珍しいオリーブ園がある。タイ・サワラ・ハマチ・エビなどの沿岸漁業，ノリの養殖が行なわれ，また大阪城の石がきに使われたので名高いカコウ岩をいまも採掘している。工業にはしょうゆ醸造業があり，内海町の丸金醬油(しょうゆ)の工場が中心である。このほか特産品にそうめんがある。

四国霊場八十八か所を模した１週間でまわれる小豆島八十八か所があり，春には巡礼者が多い。島出身の壺井(つぼい)栄*の小説《二十四の瞳(ひとみ)》とその映画化以来，観光客が増加している。土庄・内海町坂手港と神戸(こうべ)・大阪・高松の間に定期航路が開かれている。〔浅井得一〕

じょうどしゅう　【浄土宗】　鎌倉時代に法然*の開いた仏教宗派の一。詳しくは往生浄土宗といい，阿弥陀仏*(あみだぶつ)の浄土への往生を目的とする。浄土宗という名称を使用した先例は中国などにもあるが，これを一つの宗派としたのは法然で，1175年(安元１)法然43歳のときの開宗とされている。彼の主著《選択(せんちゃく)本願念仏集》(→選択集)は，この宗派の基調を述べたもので，これに基づいて〈浄土三部経〉(《無量寿経》《観無量寿経》《阿弥陀経》)を根本経典とするが，法然が中国唐代の浄土教を代表する善導*の教えに強く影響されているため，〈偏依善導(ひとえに善導による)〉を標榜(ひょうぼう)している。

法然の在世は平安末期から鎌倉初期にかけて，社会的混乱から末法到来が如実に体験された時代であった。その中にあって彼は迷いやすい無力な自己に対する内省から出発して，そのような自己に相応した教えを求め，いかなる人間といえども，阿弥陀仏のすべてのものを救い取らなければやまないという本願を信じ，一心に阿弥陀仏を称する(称名念仏)ならば，他(阿弥陀仏)力によって必ず救われるという確信を得た。この立場を〈専修念仏(せんじゅねんぶつ)〉という。すなわち，もし浄土への往生に造像・起塔あるいは戒律の厳守などが必要であるならば，貧しいもの，愚かなもの，総じて一般民衆は往生できないことになってしまう。しかし阿弥陀仏はこれらのものを含めてすべてのものを平等に往生させるために，称名という実行しやすい行を与えた，というのが法然の主張であった。この教えは，社会の混乱におびえた当時の人々に仏教の門戸を開放することになったが，その隆盛に恐れをいだいた旧教団はこれを圧迫，法然以下おもな弟子(でし)たちは流罪になった。

法然の門下に輩出した俊才は，彼の死後数派に分かれたが，その系統が現在に及ぶのは弁長の鎮西派，証空*の西山派および親鸞*(しんらん)の浄土真宗*のみである。このうち現在浄土宗と称しているのは鎮西派で，弁長は筑後(ちくご)(福岡県)の善導寺を中心に九州一円を教化し，その弟子良忠は教学の確立と宗勢の拡大に努めたが，その門弟が６派に分かれ，中でも寂恵の白旗流が最も栄えた。室町時代にはこの系統から聖冏(しょうげい)が出て，儒教や神道をも研究し，教学と制度の両面から浄土宗の確立に力を注ぎ，江戸時代には徳川家の保護を受け，京都の知恩院*と江戸の増上寺*を中心に勢力を増した。現在約6,500の寺院教会を有し，知恩院を総本山とし，増上寺，京都の百万遍知恩寺・清浄華院(しょうじょうけいん)，久留米(くるめ)の善導寺，鎌倉の光明寺，長野の善光寺(大本願)を大本山としている。西山派は証空が自由なふんい気をもっていたため，彼以後数派に分裂し，京都粟生(あおう)の光明寺を中心

とする西谷派が最も大きく，西山浄土宗と称している。〔奈良博順〕

じょうどしんしゅう【浄土真宗】単に真宗とも，門徒宗ともいい，古くは一向宗ともよばれた。親鸞*(しんらん)を開祖とする宗派であるが，親鸞自身は師の法然*を開祖とし，みずから一宗を立てようとは意図せず，もっぱら法然から継承した念仏往生の教えをいっそう明らかにすることに終生努めた。浄土真宗の〈浄土*〉は，自力の難行によって聖者となることをめざす聖道門(しょうどうもん)と区別して，念仏*を唱えることにより，凡夫のままで浄土に往生して救済にあずかる法門であることを意味しており，〈真宗〉は法然門下のさまざまな教えの解釈の中にあって，最も純粋・真実な教えの眼目を明らかにした宗義の意味で，基本的には真の宗教性を表わす。ふつう法然の教えの特色は念仏為本(念仏を本となす)といわれるが，親鸞のそれは信心為本*といわれ，自力の信に基づく念仏によって救われる(往生する)のではなく，阿弥陀仏(あみだぶつ)によってさし向けられた他力回向の信を本質とする念仏によって救われると説く。法然門下には，一度の念仏で救われると説く一念義の立場や，数多くの念仏を唱えなければ救われないと説く多念義の立場があったが，親鸞の立場は一念義に近く，しかも自力のはからいの混らぬ信心の純粋性を特に強調した。親鸞は，念仏の功徳は唱える人にあるのではなく，唱えしめる仏の側にあるゆえ，念仏を他力回向の念仏とし，信を得たのちに唱える念仏は仏恩報謝の念仏であるとする。そして唱えてからいつか救われるのでなく，唱えしめられているままが救われている姿で，それがそのまま，仏の本願(本来の願い)が人の上に表われつつある姿にほかならないと説く。また信心を得た人は，成仏の確定した人たちの仲間(正定聚)に住し，如来と等しく，また悪人こそ往生のまさしき対象であると説いた(→悪人正機)。親鸞の非僧非俗の生き方や，肉食妻帯の宗風は，在家生活のままで仏の教えに生きる道として，後世，他のすべての宗派のならうところとなった。《教行信証*》には，浄土真宗のありかたが詳しく述べられている。本願寺と称するようになったのは，親鸞の曽孫(そうそん)，第3世覚如のときからで，第8世の蓮如*(れんにょ)のときに急激に教線が拡大された。徳川家康(いえやす)の宗教政策により1602年(慶長7)東本願寺・西本願寺に分けられて今日に至っている。上記2派のほかに，高田派・仏光寺派・木辺(きべ)派・興正派・出雲路派・山元派・誠照(じょうしょう)寺派・三門徒派があり，信徒数は約1394万(1969)。〔坂東性純〕

じょうとたんぽ【譲渡担保】担保*を目的とする物または権利*それ自体を債権*者に移転し，一定期間内に弁済すればこれを再び返還させるという担保制度をいう。広い意味での譲渡担保には次の2類型がある。①売買の形式を借りるもので，資金の融通を受ける者が担保物を貸し主に売り渡しておいてこれを賃借し，一定期間内に買いもどす特約をする場合である。②資金を借りるには通常の消費貸借*契約を結んでおいてその債務の担保のために物または権利それ自体を貸し主に移転してそれを無償で借用し，一定期間内に弁済すれば担保物を返還してもらえる特約をする場合である。前者を売渡担保*(売渡抵当)，後者を狭義の譲渡担保(譲渡抵当)という。狭義の譲渡担保の第三者に関する関係では権利は債権者に移転するため，債権者がこれを第三者に譲渡すれば，第三者は完全にその権利を取得することになる。ただし，債権者は債権の担保のためにのみ利用すべき責任を負っているから義務違反となる。当事者間においては，債権者が担保のために必要で十分なる権利を有する譲渡担保と，それ以上の権利を有する譲渡担保があり，その差異は債務者が期日に弁済しないときに債権者が担保物をどのような方法で弁済に充当できるかという点である。前者は担保物を売却または評価して清算し，残金があれば債務者に返さなければならないのに対し，後者は担保物を清算することなく，そのまま確定的に債権者のものとすることができる。なお，譲渡担保については民法上の規定はないが，実際取引の必要から従来利用されてきた慣習であるから，判例もこれを認めてその法律関係を明らかにするように努めているが，債権者の不誠実によっては債務者は予期せぬ損害をこうむる危険性を伴っているため立法化が望まれている。〔黒木三郎〕

しょうないがわ【庄内川】岐阜県東南部，木曽(きそ)山脈西南部の山地を水源とし，西流して愛知県にはいり，名古屋市の北から西部を南に流れて伊勢(いせ)湾に注ぐ。流程82km。上流を土岐(とき)川といい，支流に矢田川がある。美濃三河(みのみかわ)高原を土岐川・矢田川が通過する沿岸一帯には良質の粘土が広く分布し，これを原料とする陶磁器の製造が古くから盛んである。瀬戸(愛知県)と多治見・土岐・瑞浪(みずなみ)(以上岐阜県)の各市がその中心である。〔長津一郎〕



庄内平野
庄内平野と鳥海山。左遠景の日本海沿いに黒く林地(砂丘)が続き，その切れるところが酒田市で最上川の河口が見える。右手前の川は京田川

しょうないはん【庄内藩】江戸時代に出羽(山形県)庄内地方を領有した藩。鶴岡(つるおか)藩ともいう。戦国時代には越後(えちご)(新潟県)の上杉(うえすぎ)氏の属領として大宝寺(鶴岡)の武藤氏が支配していたが，のち上杉氏の衰亡に乗じて独立。1587年(天正15)山形の最上義光(もがみよしあき)が武藤氏を滅ぼしたが，まもなく武藤氏の一族本庄氏らに追われた。1589年豊臣秀吉(とよとみひでよし)はこの地を上杉景勝(かげかつ)に与えたが，関ケ原の役後，再び最上氏の領となり，大宝寺城を鶴岡城と改称。1622年(元和8)内紛により最上氏は改易，酒井忠勝(ただかつ)が入封して十四万石を領し，以後継承して廃藩まで及んだ。外様(とざま)大名の多い奥羽地方で，強大な譜代大名*として奥羽のしずめといわれ，戊辰(ぼしん)戦争*では東北諸藩と同盟して薩長軍(さっちょうぐん)に対抗したが，会津・米沢(よねざわ)の敗北で孤立し降伏した。1869年(明治2)大泉藩と改称し，廃藩置県により大泉県に，次いで酒田県・鶴岡県となり，1872年山形県に編入された。〔岡山泰四〕

しょうないへいや【庄内平野】山形県北西部，日本海に面した南北約50km，東西約16kmの三角形をなす県下最大の平野。北は鳥海山(2,230m)に，南東は月山(1,980m)に続く山々に囲まれ，東側は南北に走る断層によって山地とかぎられる。中央部を流れる最上(もがみ)川をはじめ，北部では月光川・日向川が，南部では赤川が周囲の山地から流入して，山麓(さんろく)には扇状地を，これに続いて三角州を形成し，川は蛇行(だこう)している。かつては砂州によって日本海と分けられた潟湖(せきこ)であったが，周囲の山地から流入する諸河川により埋められたもので，基盤の第三紀層からは石油や天然ガスを産出する。海岸線に沿って数列の砂丘が発達し，中央では高さ約65m，南部では丘陵をおおって100数mにも達している。平野では古くからせきがつくられ，明治中期から耕地は水田化され，耕地整理も行なわれ，

機械化が進んで30,000ヘクタールにも及ぶ東北地方第1の米の単作地帯をなし，その米は庄内米として有名で，海岸の砂丘のみが野菜の栽培を行なっている。かつては，酒田から江戸や大阪へ米が積み出され，米商人を兼ねた大地主が多く，中でも本間家は有名。平野の中心は，南部の鶴岡(つるおか)市と最上川河口の酒田市。〔味沢成吉〕

しょうなごん　【少納言】　令制(りょうせい)官司の一。小事の奏上・宣下・駅鈴*・伝符，内印(天皇御璽)・外印(太政官印(だじょうかんいん))などの請求・返進にあたり，しかも必ず侍従を兼ねるという重職であったが，平安初期，蔵人所*(くろうどどころ)が設置されると，おもな仕事をこれに奪われ，駅鈴印を管理するだけの閑職と化した。その役所を少納言局といい，下に大少の外記*(げき)がいて詔書の作成などにあたった。

しょうなん　【湘南】　神奈川県相模(さがみ)湾岸の地方。本来は相南(相模の南)とすべきところを，中国の湘南(揚子江(ようすこう)の支流湘江の南の地方)にならってこのように書く。普通は三浦半島の西岸から伊豆(いず)半島の基部まで，約80kmの沿岸をさす。東の三浦半島の海岸は丘陵性で，西には20mほどの海岸段丘で相模湾に面する淘綾(ゆるぎ)丘陵や箱根火山の溶岩流によってできた真鶴岬(まなづるみさき)があるが，この間にはさまれた相模湾の北岸一帯は，弓形の単調な砂浜海岸で，数列の砂丘が連なり，ほぼ中央を流れる相模川によって東西に2分されている。気候がよく，特に冬は温暖で1月の平均気温は6～7℃と東京より3℃暖かく，夏は涼しい。景色もすぐれているので，明治以後京浜地方の保養地・観光地・海水浴場として注目されるようになり，葉山・逗子(ずし)・鎌倉・大磯(おおいそ)などには多くの別荘ができた。近年は東京・横浜の巨大都市化の影響を受け，東海道本線・横須賀(よこすか)線などの鉄道の電化によって交通が便利になったこととあいまって，京浜地方の住宅地さらに工業地としての発展が著しく，人口も急増しているが，一方では近郊農業や酪農も行なわれている。〔浅井得一〕

しょうにか　【小児科】　新生児から思春期ごろまでの小児を対象として診療を行ない，主として小児の内科的疾患治療を専門とする臨床医学の一分科。小児の成長・生育・栄養の問題，新生児および未熟児の感染症，アレルギー性疾患，膠原病(こうげんびょう)，悪性腫瘍(しゅよう)，呼吸器・循環器・消化器・泌尿生殖器・神経系・運動器・血液・内分泌・代謝性などの疾患を扱うが，最近はそれぞれ分科しつつある。

しょうにげか　【小児外科】　小児，特に乳幼児に特有な先天性奇形や悪性腫瘍(しゅよう)などを扱う外科の一分野。小児では術前・術後の管理が成人と異なり，特に術後の水分代謝などの管理には細心の注意が必要で疾病(しっぺい)そのものの病態も成人にはない特殊なものが少なくない。このような背景から，小児外科は必然的に一般外科から独立し，わが国でも小児病院の設立など，積極的に小児科と連絡しながら小児疾患を治療する方向に進んでいる。〔三島好雄〕

しょうにけっかく　【小児結核】　小児の結核をいい，成人の結核とやや趣を異にする。小児結核の約70%は初感染結核症であり，家族内感染が多い。また，乳幼児期は主として免疫体生成が不十分なことから，わりあいに急性経過をとり，血行性播種(はしゅ)性結核(粟粒(ぞくりゅう)結核・髄膜炎など)または乾酪性肺炎などの重篤な病型になりやすい。診断にはまずツベルクリン反応を行なって結核感染の有無を調べ，陽性者はX線撮影を行ない，さらに赤血球沈降速度*検査や，場合によっては胃洗浄液で結核菌検索を行なう。予後は予防接種や治療法の進歩などによって，最近は不良ではなくなった。生命を脅かす危険な病型は，乳幼児期では髄膜炎・粟粒結核・乾酪性肺炎であるが，これらも早期に適切な治療が行なわれるならば，その多くは治療可能である。治療として昔から行なわれている大気・安静・栄養の一般療法は，現在でも依然としてたいせつである。化学療法としてストレプトマイシン・イソニアジドをはじめ，パラアミノサリチル酸(パス)・カナマイシンなど，種々の抗結核薬が用いられている。予防にはBCG接種が広く行なわれている。〔高橋悦二郎〕

しょうにし　【少弐氏】　中世，北九州の豪族。藤原秀郷(ひでさと)の子孫と称し，はじめ武藤氏という。資頼(すけより)が源平の争乱に源頼朝(よりとも)に従い，その功により大宰(だざい)少弐・鎮西奉行(ぶぎょう)に任ぜられて以後，代々この職を世襲して少弐氏を称するようになった。北九州に勢いをもち，南北朝時代には北朝*に属して南朝*方の菊池氏と対立。室町時代には大内氏におされ肥前(佐賀県)にのがれたが，龍造寺(りゅうぞうじ)氏にも追われ，1559年(永禄2)冬尚(ふゆひさ)が筑後(ちくご)(福岡県)で自害して滅亡した。〔鹿野賀代子〕

しょうにしっしん　【小児湿疹】　特に小児に現われる湿疹*。湿疹は5歳までの小児に多く，特有の病像を呈するため，小児の湿疹は特に小児湿疹とよばれている。その症状からいくつかの種類に分けられ，治療のしかたも多少異なる。

①乳幼児顔面頭部急性湿疹：ほおや額に最初赤い丘疹ができる。この程度のものはホウ酸亜鉛華軟膏(なんこう)を1日数回軽くすりこむだけでよいが，なおりにくい場合や湿潤して痂皮(かひ)ができる場合は，皮膚科医の診療を受けたほうがよい。アトピー性皮膚炎*の初期像である場合も少なくない。このほか，頭部の黄白色の鱗屑様(りんせつよう)痂皮(乳痂)からはじまるものもある。軽いものはオリーブ油の塗布だけでなおるが，地はだが赤くなり，湿潤して厚い痂皮ができる場合は，皮膚科専門医の診療が必要。

②小児乾燥性湿疹：軀幹(くかん)に多くできる。皮膚が乾燥して白い粉をふいたように見え，ざらざらしてかゆくなる。アトピー性皮膚炎の場合が多く，秋から冬の皮膚の乾燥する時期に悪化する。秋ごろからオリーブ油・ワセリン・ホウ酸軟膏などを使用して冬季の悪化を予防する。軽快しない場合は皮膚科医の診療を受ける。③幼小児屈側性苔癬(たいせん)化湿疹・肘窩(ちゅうか)やひざの裏側に慢性湿疹の病変が続いてかゆみの強いもので，アトピー性皮膚炎の幼児型と考えられ，皮膚科医の指示に従い，気長に治療する。おとなになるにつれ，しだいにできなくなる場合が多いが，緩快と悪化をくり返し，成人期アトピー性皮膚炎となる場合もある。〔田嶋公子〕

しょうにストロフルス　【小児ストロフルス】　小児蕁麻疹様苔癬(じんましんようたいせん)ともいう。乳幼児に特有の蕁麻疹様の紅斑(こうはん)または丘疹(きゅうしん)。丘疹は周辺に紅暈(こううん)をもつ帽針頭大からアワ粒大の小水疱で，かゆみが強い。四肢(しし)伸側・手・足に好発する。発疹は数時間～数日後にはまったく消腿(しょうたい)し，わずかに色素沈着をみるだけとなり，慢性的に経過する。春夏に多くみられ，原因にはアレルギー*・栄養障害・素因*などがある。アレルゲン(→アレルギー)のある食品を除く食事，抗ヒスタミン剤の内服，止痒(しよう)性軟膏(なんこう)の塗布で治療する。〔辻本恵子〕

しょうにせいしんしんたいしょうじょう　【小児精神身体症状】　子どもの病気を精神身体医学的立場からみる場合，精神的な原因によっていろいろな身体症状が現われるというもの。特に問題となるのは自律神経系の機能と直接関係の深い症状で，呼吸器系では喘息(ぜんそく)・過換気症候群・呼吸困難発作・吃逆(きつぎゃく)，循環器系では起立調節障害・発作性頻脈(ひんみゃく)・不整脈・失神発作など，胃腸系では神経性食欲不振・過食症・異食症・牛乳ぎらい・空気嚥下症(えんげしょう)・反芻(はんすう)神経性嘔吐(おうと)・周期性嘔吐症・反復性臍疝痛症(さいせんつうしょう)・遺糞症(いふんしょう)など，泌尿器系では遺尿症・頻尿症・夜尿症など，皮膚系では神経皮膚炎・掻痒症(そうようしょう)・蕁麻疹(じんましん)・多汗症・血管神経性浮腫(ふしゅ)など，その他神経系で頭痛・憤怒けいれん・眩暈(げんうん)・乗り物酔いなどの症状が多くみられる。またこのような精神身体症状を年齢別に分けてみると，かなり特徴がみられ，子どもの発達段階に応じて障害の種類が変わってくる。0～2歳では牛乳ぎらい・食欲不振・憤怒けいれん，3～5歳では頻尿症・遺尿症・反復性臍疝痛症・遺糞症・神経性嘔吐・週期性嘔吐症・乗り物酔い，6～11歳では頭痛・起立性調節障害・気管支喘息・神経性食欲不振などがよくみられる。診断には

いうまでもなく十分な身体的検査が必要であるが，その他生育歴調査や心理的検査も必要となる。治療は必要があればそれぞれ適当な身体的療法を行ない，しばしば精神安定剤が与えられる。また，子どもだけでなく母親をも含めて，なんらかの精神療法が必要な事が多い。〔高橋悦二郎〕

しょうにぜんそく【小児喘息】小児にみられる喘鳴・咳嗽(がいそう)を伴う症状を総称する俗称。俗称であるので，気管支喘息を含む場合もあれば，ただ喘鳴を主徴とする体質的表徴であることもあり，鼻炎・気管支炎などが含まれる場合もある。0～6歳ごろまでに多くみられ，いわゆる滲出(しんしゅつ)性体質の子に多い。皮膚粘膜が過敏で，寒冷の刺激に会うとすぐに喘鳴や鼻じる分泌・咳嗽発作などを伴う。寒い間じゅう喘鳴や咳嗽の続く場合もみられる。呼吸困難を伴う気管支喘息に対しては，それに応じた薬剤が使用されるが，体質的表徴として喘鳴・鼻じる・咳嗽の続くものに対しては，薬剤よりもむしろ過保護を避け，日光浴・外気浴をさせたり，乾布摩擦を行なったりして，徐々に皮膚粘膜を鍛練することが望まれる。いわゆる小児喘息といわれるものは予後良好で，学童期ごろまでには治癒(ちゆ)するものが多い。〔高橋悦二郎〕

しょうにまひ【小児麻痺】小児にみられる麻痺性疾患で，脊髄(せきずい)性小児麻痺と脳性小児麻痺とがある。単に小児麻痺といった場合は，普通は脊髄性小児麻痺をさすことが多いが，非常に紛らわしいので，最近では脊髄性小児麻痺をポリオ，脳性小児麻痺は脳性麻痺とよぶようになった。したがって単に小児麻痺とよぶこともだんだん少なくなってきている。➜ポリオ ➜脳性麻痺

しょうにゅうどう【鍾乳洞】石灰岩が広く分布する地域の地中の割れ目や層理*・節理*などに沿って，地下水の溶解作用を受けて生じた洞穴。ホウカイ石($CaCO_3$)のような炭酸塩鉱物を主成分とする石灰岩は，二酸化炭素(CO_2)を含んだ水にはとけやすい。そこで，地表付近のCO_2に富んだ空気に触れた水が，そのような石灰岩の層理や節理に沿ってしみこむと，その部分がとけ，地下水の自由水路ができる。こうしてますます溶食が進み，長い期間に地下に縦横に長く続く洞穴ができる。また，石灰岩に接触している炭酸水の圧力が低下したり，温度が上昇したり，水分が蒸発したりすると，溶解度が低下し，炭酸カルシウムが析出する。そのため鍾乳洞の中には，天井からさがった鍾乳石，床から上に伸びた石筍(せきじゅん)，両者がくっついた石柱などができ，洞内に奇観を添える。洞内には流水が流れ，また特異な(たとえば視神経が退化した盲目の)生物がいることも多い。アルプス・ユーゴスラビア・アメリカ合衆国などのものは有名で，観光地になっている。日



鍾乳洞　蝦夷蟠龍洞(北海道上川郡当麻町)

本には山口県の秋芳洞*，大分県の風連洞*などが有名である。〔堀福太郎〕

しょうにん【証人】裁判所・衆議院および参議院・地方議会などにおいて，自己が経験し，知っている事実について，尋問に応じて供述するように命ぜられた者をいう。日本の裁判権に服するすべての者は，命ぜられれば出頭に応じ供述する義務をもつ。ただし証人は，自己および自己の近親者が刑事訴追や有罪判決を受けるおそれのある場合や，医師・弁護士・公証人*などの職を通じて知りえた他人の秘密については，証言*を拒否することが認められている。証人は宣誓のうえ証言をなすが，虚偽の供述をすると，偽証罪*で処罰される。〔内田剛弘〕

しょうにん【商人】流通過程における売買活動を通じて利潤を得ることを意図し，商業を営む主体をさす。商人は，一般に狭義の商人と補助商人に分けられる。両者の差異は，流通段階において扱う商品に関し所有権を有するか否かによる。狭義の商人は所有権の獲得・移転に関係し，購入と販売の差益を獲得することを目的とし，差益商人とよばれる。補助商人は売買仲介の手数料を受けることを目的とし，手数料商人とよばれる。前者は，卸商(➜卸売り業者)・小売り商*に，後者は，仲立ち人・代理商・問屋*に分けられる。卸商は，生産者と小売り商との間に位置し，小売り商は商品を最終消費者に販売する機能を果たす。補助商人は，売買活動における代理の範囲に応じて分類される。仲立ち人は，売り手または買い手に代わって，買い手か売り手を見いだし，売買契約を行なうことをその機能としている。代理人は仲立ち人と比べ，売買活動における権限が大であるが，売買活動の範囲は問屋より狭い。問屋は，他人の商品を自己の名で販売し，その代金の中から手数料などを受け取る。〔清水　晶〕

商法上の商人とは，自己の名をもって商行為を営業として行なっている者のことをいう。自己の名をもってというのは，法律上の権利・義務の主体となることをいうので，他人のために商行為をする支配人や取締役は商人ではないことになる。営業として行なうということは，利益を得る目的である種の行為をくり返し，継続して行なうことをいうので，1回だけ利益を得ることを目的とする行為，たとえば知人に自分のものを売って利益を得たなどをしても営業にはならない。しかし前述のような者のみを商人とすると，原始産業に従事する者は商人にならないことになるので，店舗その他，これに類似する設備によって物品の販売をする者，鉱業を営む者も商人とみなされる。これを擬制的商人という。商人には，主として商法の規定が適用される。〔松本治雄〕

しょうにん【上人】もと下人に対する語で，徳のすぐれた聖者・高僧を意味する。中世以後は特に徳の高い僧に対して朝廷から賜わる称号となり，さらに僧階*の中で法橋の位をさすこともある。しかし，一般には官僧に対して隠遁(いんとん)している高僧を意味し，平安時代においては〈聖(ひじり)〉とよばれる一群の民間仏教の布教者・実践者をさす称号でもあった。上人の呼称は空也*(くうや)にはじまり，時宗・浄土宗・浄土真宗などの浄土系諸宗および日蓮宗(にちれんしゅう)でもっぱら用いられる。〔広川堯敏〕

しょうにん【承認】一定事実の認識を表示すること。承認の法律上の性質は観念通知だとされる。観念通知とはある一定事実を通知することによって生ずる法律効果*が通知者の意思とは無関係に法律によって与えられることをいう。債務の承認や夫の嫡出子たることの承認などがその例であり，この場合，その者の意思とは無関係にそれぞれの規定によって時効の中断事由，否認権の消滅などの法律効果が与えられる。また口述した遺言の正確なことの承認は遺言の効力発生の要件となるが相続の承認は単なる意思表示である。〔黒木三郎〕

じょうにんいいんかい【常任委員会】
⇒議会委員会

しょうねんいん【少年院】家庭裁判所*から保護処分として送られた少年を収容し，これに矯正(きょうせい)教育を授ける国立の施設。男女の施設の区別がなされ，次の四つに分けられる。①初等少年院(おおむね14歳以上16歳未満の者)，②中等少年院(おおむね16歳以上20歳未満の者)，③特別少年院(犯罪傾向の進んだ，おおむね16歳以上23歳未満の者)，④医療少年院(心身に著しい故障のある14歳以上26歳未満の者)。

少年院では在院者を社会生活に適応させるため，その自覚に訴え，規律ある生活のもとに教科・職業教育と適当な訓練・医療を行なうことになっており，在院者に段階を設けて処遇し，改善・進歩の程度に応じて順次に向上した取り扱いをしなければならない。在院者が20歳に達すると原則として退院させなければならないが，①送致してから1年を経過しない場合は送致してから

1年間，②事情のあるときは裁判所の決定を得て23歳まで，③事情があって裁判所の決定があるときは，医療少年院に26歳に達するまでの間，それぞれ収容しておくことができる(少年院法11条)。在院者が逃走・暴行・自殺のおそれがある場合には手錠を使用することができる。在院者が逃亡したときは少年院の職員が連れもどすことができるが，逃亡してから24時間を経たときは，裁判官の発する連戻状(れんれいじょう)が必要である。〔内田剛弘〕

しょうねんかんべつしょ【少年鑑別所】家庭裁判所の審判前に少年の資質を医学・心理学・教育学・社会学，その他専門知識に基づいて鑑別する国立の施設。家庭裁判所は，少年事件の審判をするにつれて，必要があれば観護措置の一つとして決定をもって，少年を少年鑑別所に送致することになっている。本来の収容期間は2週間であるが，特に継続の必要のあるときは，1回にかぎり更新されるので，4週間が最大限である。収容期間の全国平均はいままでのところ20日間くらいである。日本全国には，本所50，支所1がある。〔内田剛弘〕

しょうねんけいむしょ【少年刑務所】有罪の確定判決を受けて服役する者のうち，18歳未満の者を収容する刑務所。満20歳に至るまで収容する。しかし，満20歳に達しても3か月以内に刑期を終了する者は，残存期間を少年刑務所にて過ごすことができる。さらにその少年の心身状況によってそこでの処遇を適当とみれば，最高26歳に達するまで収容することができる。日本全国で9か所あるが，これらはすべて男子少年のためのもので，女子に対しては，女子刑務所内の少年区に収容して，少年としての処遇が行なわれる。しかし最近では少年受刑者の減少に伴い，一部の少年刑務所では，少年に準じた処遇の望ましいとされる若年成人受刑者も合わせて収容されている。少年受刑者のために，少年刑務所内では少年の更生のための教科教育・職業教育・生活指導が行なわれている。〔内田剛弘〕

しょうねんさいばんしょ【少年裁判所】少年に対する刑事裁判だけを取り扱う特別の審判機関。1899年アメリカのシカゴに少年の更生の処遇を目的とする少年裁判所の誕生したのがはじまりといわれる。日本では1923年(大正12)少年審判所が設けられ，18歳未満の犯罪少年に対し，矯正(きょうせい)教育のための保護処分が行なわれるようになった。さらに1949年(昭和24)家庭裁判所が設けられ，20歳未満の少年の犯罪はすべて取り扱うことになった。〔内田剛弘〕

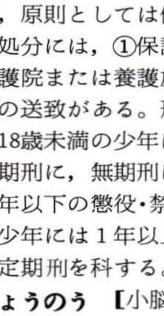
じょうねんだけ【常念岳】北アルプス，飛騨(ひだ)山脈の東側にあって，その前山をなす常念山地の主峰。標高2,857m。古生層からなる三角錐(さんかくすい)状の峰で，東側の松本盆地から望まれるピラミッド状の山体は印象的である。西側は梓川(あずさがわ)の支谷に刻まれ，谷をはさんで槍ケ岳(やりがだけ)・穂高岳が望まれる。中部山岳国立公園にぞくする。

しょうねんだん【少年団】主として社会教育的な立場から，少年(少女)を構成員として，心身の形成を目的に組織される団体。少年団の名称は大正初期に現われたが，1922年(大正11)全国の少年団をはじめ少年義勇団・ボーイスカウトなどの少年団体を統合した中央機関として少年団日本聯盟(れんめい)が結成，総称されるようになった。のちに改組して大日本少年団連盟となったが，国粋主義的な立場から岳陽少年団・海洋少年団が脱退独立した。一方，少年赤十字団やピオニールも生まれたが，後者は弾圧された。また，その後の戦時体制下の少年団は大日本青少年団のもとに統轄された。第2次世界大戦後は，子ども会などの地域少年団体とその他の少年団体があるが，全国組織として連盟を結成しているのは，ボーイスカウトとガールスカウトのみである。

しょうねんほう【少年法】少年(20歳未満の者)の犯罪を対象とする法律。現行の少年法は，1949年(昭和24)1月1日から施行されており，少年の健全な育成を期するというたてまえから，非行少年に対して成人の犯罪者に対するのとは異なった立場をとっている。少年犯罪者は，家庭裁判所で刑事事件として処理するのが適当か否かを判断され，必要があれば，検察官に送致されるが，原則としては保護処分に付される。保護処分には，①保護観察所の保護観察，②教護院または養護施設への送致，③少年院への送致がある。刑事裁判に付す場合でも，18歳未満の少年は，死刑に相当する罪は無期刑に，無期刑に相当する罪は10年以上15年以下の懲役・禁錮(きんこ)に処する。また，少年には1年以上3年以下というような不定期刑を科する。〔内田剛弘〕

しょうのう【小脳】⇨脳

しょうのう【樟脳】テルペンケトンの一つで，医薬関係ではカンフルの名でよばれる。天然にはD-型・L-型・およびDL-型が知られる。最も重要なものはD-型であり，クスノキの精油・ハクズク油などの中に見いだされる。L-型はヨモギギク・タカサゴギクなどの精油中に見いだされる。合成品はおおむねDL-型である。無色または白色半透明の結晶性粉末または塊で，特有の芳香を有し，苦みのある清涼味を呈する。室温でも徐々に揮散する。工業的にはセルロイド製造原料として最も多く使われている。また，衣類の虫よけや防臭剤などに使われる。医薬としても重要な化合物で，中枢神経系，特に呼吸中枢・血管神経中枢などの刺激に用いられる。心臓機能の刺激には，相当する酸化物(ビタカンファーあるいはカンフェノール)が使われる。そのほか，ラスト法による化合物の分子量測定に際して，しばしば使用されている。〔石戸良治・荒木洋之助〕



しょうのじゅんぞう【庄野潤三】(1921～　) 小説家。大阪市の生まれ。九州大学東洋史科卒。《愛撫(あいぶ)》《舞踏》で注目され，《プールサイド小景》で1954年(昭和29)下期の芥川(あくたがわ)賞を受賞。日常描写の中に現代人の不安定な心理を深く描き出す作風で，《静物》《夕べの雲》などがある。

じょうは【紹巴】(1524～1602) 安土桃山期の連歌師。里村氏。本姓松村。別号臨江斎・半醒子(はんせいし)。奈良興福寺一乗院の小者松井昌祐(しょうゆう)の子。興福寺に仕え19歳で剃髪(ていはつ)，紹巴と号し周桂(しゅうけい)に伴われて上京，周桂没後は里村昌休に師事したが，昌休没後に独力で修業を積み，1563年(永禄6)宗養の死のあとを受けて連歌界の第一人者となる。生来の豪胆と政治性をもって明智光秀(あけちみつひで)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)らと交渉をもちながら乱世を生き抜き，平易な作風と式目の整備により連歌の固定化への道を進め，江戸幕府御用連歌師里村北家の祖となった。《連歌至宝抄》《連歌教訓》《匠材集》などがある。

しょうばいおうらい【商売往来】往来物の一種。諸商売に必要な事項を収載した実用書。江戸時代，ことに17世紀後半から刊行された。内容は商売の種類，商用に必要な文字・証文の書き方，商品名，売買についての心得，商業道徳など多方面にわたる。初期の最も有名なものは堀(ほり)流水軒の1693年(元禄6)刊の《商売往来》で，そのほか〈女〉〈日用〉などの語を冠したもの，多少専門化したものも出た。

しょうはく【肖柏】(1443～1527) 室町中期の連歌作者。公家(くげ)の中院通淳の子。別号に夢庵(むあん)・牡丹花(ぼたんげ)など。はじめ宮中に仕えたが，応仁(おうにん)の乱に前後して池田・堺(さかい)に隠棲(いんせい)して風流の生活を送った。宗祇(そうぎ)から連歌および古今伝授を受け，《新撰菟玖波集(しんせんつくばしゅう)》の編纂(へんさん)，《連歌新式》の完成に尽力。古典注釈書に《源氏物語》の《弄花抄(ろうかしょう)》，《伊勢(いせ)物語》の《肖聞抄》などがあり，歌集・句集に《春夢草》がある。

しょうはくさんみゃく【小白山脈】ソベク山脈　朝鮮南部を北東から南西に走る山脈。太白山付近で太白山脈から分岐し，順天付近で日本海峡にいったん落ち，済州島の漢拏(ハンナ)山(1,950m)として隆起する。俗離山(1,057m)・伽耶(かや)山(1,430m)・秋風嶺(しゅうふうれい)(548m)・智異(ちい)山(1,915m)などの名山が連なり，それぞれの山中には名高い寺がある。

しょうはくるい【松柏類】裸子植物のマツ・スギ・モミなどの総称。一般には常緑高木であるが，カラマツ属のように落葉するものもある。雌雄同株で，雄花は穂状

で多数のおしべからなり，雌花には多数の鱗片(りんぺん)があり，各鱗片に2個ずつ胚珠(はいしゅ)がつく。

じょうはつ　【蒸発】　液体が蒸気になること。液体は一般にすべての温度で多少ともその蒸気を出している。閉容器ではその液体の蒸気が飽和に達したとき蒸発は止まる。このときの蒸気の圧力を(飽和)蒸気圧という。蒸気圧は一般に温度が高いほど大きい。したがって開放された状態では，高温ほど蒸発はすみやかになる。一般に蒸発は吸熱現象であり，外部から熱を吸収する。たとえば水1gの蒸発には540calの熱が必要である。蒸発の逆，すなわち蒸気が液体になるのは凝縮であり，このときは蒸発のときと同量の熱を外部に放出する。室温で蒸発しやすい，換言すれば蒸気圧の高い液体(エーテル・ベンジン・アルコールなど)を揮発性，蒸発しにくい液体(食用油・機械油など)を不揮発性という。溶液(あるいは母液)から溶媒を蒸発させて濃縮し，あるいは溶質を析出させる場合，実験室では口の広い浅い蒸発ざらで加熱するが，工業的には真空蒸発がまを使用することも多い。〔志田正二〕

じょうはつがん　【蒸発岩】　⇒堆積岩

じょうはな　【城端(町)】　富山県東礪波(ひがしとなみ)郡の町。礪波平野の南端に位置し，人口12,000。蓮如上人(れんにょしょうにん)の開基になる善徳寺の門前町として興り，現在は城端線の終点，五箇山・白川郷など山岳地方へのバスの起点となっている。繊維や弱電機・スキーの工場も見られる。付近は日本でも数少ない散村の分布する地域で，その成立の原因については学者の間でしばしば論争が行なわれてきたが，地下水が豊富でどこにでも屋敷がつくれる扇状地の地形に関係があることは確かであろう。

しょうばら　【庄原(市)】　広島県北東部の市。1954年(昭和29)市制施行。人口23,000。中国山地南麓(なんろく)の高さ200m内外の山間盆地の大半を占め，中心市街地は西城川の河岸段丘上に位置する。産業三大別人口比は31：30：39。良質の米をはじめ，木材や茶などの農林産物を集散する。付近一帯は比婆(ひば)ウシの放牧が行なわれ，家畜市場がある。北部の勝光山(947m)はロウ石の産地で，県内の重要な鉱業資源である。芸備線・国道183号線が市域のほぼ中央部を貫通し，多くの県道も集まる。北東部にサクラの名所上野公園や瓢山(ひさごやま)古墳がある。

じょうばんせん　【常磐線】　東北本線日暮里(にっぽり)(東京都内)から水戸(みと)を経由して岩沼(仙台(せんだい)南方)に至る国鉄路線。営業キロ数は343.1で，ほかに貨物支線10.2kmがある。1889年(明治22)に最初の部分が開通し，1897年全区間が開業した。東北地方を縦貫する幹線鉄道の一つで，内陸部を走る東北本線に対して，土浦・水戸・日立・平・原町など海岸部の都市を連ねる。取手～藤代(ふじしろ)間を境として，日暮里側が直流，岩沼側が交流で電化されている。

じょうばんたんでん　【常磐炭田】　福島県南東部から茨城県北東部にかけて南北80km，東西5～20kmに広がる旧炭田。埋蔵量11億t，最盛期は出炭量380万tでわが国第3位の時期もある。1855年(安政2)白水で石炭の露頭が発見されてからたぬき掘りが行なわれ，ペリー来航時には石炭の納入を命じられている。1881年(明治14)以来本格的に開発され，当初は小名浜港から積み出されたが，常磐線の開通後は鉄道で京浜地方に送られるようになった。イオウ分と水分が多くて発熱量は低いが，京浜地方に近いため需要が多かった。出炭の約40％は常磐炭田の内郷・岩城(いわき)などの鉱区で生産されたが，1976年(昭和51)10月赤字累積(るいせき)のため全面的に閉山，90年をこえる歴史を閉じた。

しょうひかくめい　【消費革命】　衣食住などの基礎的消費支出の割合が低下し，電気製品・自動車などの耐久消費財やレジャー費用などの購入量が増加するなどにみられるような消費構造の変化をいう。経済社会が進歩発展するにしたがって，一方において工業化が進み，同時に消費者の生活水準が向上し，ある段階から大衆消費時代が到来するようになる。日本においてこの大衆消費時代が到来したのは，1955年(昭和30)から1960年にかけてである。この時期における消費生活の変化を，1959年度の経済白書では〈消費革命〉の名でよんでいる。わが国は1960年代にはいっていわゆる高度成長時代を出現させたが，この時期の大衆消費財の中心は電化ブームに代表されるように，家庭電気製品などの耐久消費財の急激な普及であった。大衆消費時代を出現させた基本的条件は，第1に個人消費の増大をもたらす個人所得の急速な増大および新耐久消費財の開発と有効なマーケティングの展開，第2にそれらを可能にしたテレビその他のマスコミの普及である。これらの諸要素は一方で消費のデモンストレーション効果となり，他方では供給者による依存効果として，大衆の消費習慣は短時日のうちに急変し，高度大衆消費時代が出現しつつある。これらを総称して消費革命とよぶ。〔藤枝省人〕

しょうひざい　【消費財】　人間が経済生活の維持・向上のために購入し，それによって欲望を充足する消費の対象物を消費財という。消費財は元来は食料品のような消耗財を意味していたが，工業化社会の進展に伴って，耐久性のある消費財が現われるようになった。食糧のような非耐久財に対して，電気製品・自動車などの耐久消費財も人間の経済生活の向上にとって必要不可欠のものになってきたのである。消費財の中にはパンとバターのような関係にある補完財と，テレビと電気冷蔵庫のような関係にある代替財とがある。また耐久財は，その用途の種類によって消費財になったり，生産財になったりする。たとえば，電気製品をとっても，家庭で使用するのは消費財になり，企業や工場で使用する場合には生産財になる。したがって，消費者が最終的に消費する場合に，その財貨を消費財といい，また最終生産物ともよぶ。〔藤枝省人〕

しょうひざいさんぎょう　【消費財産業】　直接に人間の消費の対象となる消費財を生産する産業部門。農業・水産業のほか，食品工業・織物工業・製紙業・印刷製本業などの消費財加工産業が含まれる。ホフマンの法則によれば，各国の工業化は消費財産業，特に繊維工業と食品工業を中心として開始され，しだいに生産財産業の比重が増大するとされる。景気変動の際に，食料・燃料など単用消費財の需要はあまり変化しないが，耐久消費財の需要はかなり変動する。➔生産財産業　〔加藤　寛〕

しょうひしゃうんどう　【消費者運動】　消費者の利益を保護・促進することを目的とする活動をいう。消費者が商品またはサービスを選択・使用するのに必要な知識や情報を与え，身につけさせることによって生活水準の向上を図ろうとするものである。この運動は資本主義経済の発展に伴う高度大衆消費時代の産物ともいえるもので，アメリカにおいて1920年代に始まった。消費者利益の保護の重要性を人々に自覚させた最初の著書は，当時ベストセラーになったスチュアート-チェスとF.J.シュリンク共著の《あなたのお金のねうち》(1927)である。そして1928年にはシュリンクを中心として消費者研究所(CR)が設立され，1936年にこれから分離して消費者同盟(CU)が誕生した。その月刊機関誌《コンシューマー-レポート》は各種商品の比較テスト結果を記載している。イギリスでは，アメリカよりずっと遅れて1950年代になり消費者運動が盛んになった。代表的機関は1957年に設立されたイギリス消費者協会であり，機関誌《ホイッチ》に商品の比較テストの結果を発表している。

わが国における消費者運動は，昭和30年代の消費革命の到来とともに起こった。運動主体は次の3者に分かれる。①行政機関：1961年(昭和36)に経済企画庁に設置された国民生活向上対策審議会がその出発点で，1963年に消費者行政協議会が設けられ，さらに1965年には経済企画庁に国民生活局が発足している。②民間団体：日本消費者協会・主婦連合会・消費科学連合会・新生活運動協会・全国消費者団体連絡会などがある。③企業：代表的なものは広告代理店が中心になり，いくつかのスポンサーと有力な新聞の結合によるベター-リビング-サークル(BLC)である。〔清水　晶〕

しょうひしゃきんゆう　【消費者金融】　銀行などの金融機関による一般大衆(消費

者)への貸し付け。これは，通常，消費者による耐久消費財(乗用車・家庭用電気機械器具・楽器など)の購入資金や，住宅の購入または建築のための資金をまかなうもので，その返済は賦払いを原則としている。

消費者金融は世界の主要国，ことにイギリスをはじめとしたヨーロッパ諸国でも盛んであるが，最も発達しているのはアメリカ合衆国である。アメリカにおける消費者金融が一大発展を遂げたのは，銀行が1930年代の後半からかかる分野に進出してからであった。この時代に銀行がなぜ消費者金融に力を注ぐようになったかというと，①ニューディール*によって，1929年の恐慌に端を発した激しい不況はようやく回復してきたが，銀行に過剰準備が生じ，企業への貸し出しだけでは資金が多量に余ってきた，②激しい不況期(1929～1932)に銀行のうち3分の1近くが破産し，預金者に迷惑をかけたので，人気を回復するためにも消費者へ接近することが必要であった，③ニューディールの一環として，住宅の改善や近代化のための資金を銀行が貸し出す場合に，その10%は連邦住宅局が支払い保証をしたことなどがあげられる。しかも，銀行はこのような消費者への貸し付けのみならず，当時，販売金融会社と同様に，耐久消費財の割賦販売*ディーラーから割賦債権(買い手が振り出した支払い手形や買い手が署名した契約書)を買い取り，これを媒介にして買い手から集金するという業務も始めた。現在では，連邦準備制度加盟の銀行全体を取り上げてみると，消費者金融(ただし割賦債権の買い取り額を含めて)は，貸出総額のうちの約20%を占めている。しかも銀行は消費者金融会社や販売金融会社などの運転資金の多くをまかなっているので，消費者信用全体の約2分の1をまかなっているともいえる。

わが国で銀行が消費者金融を始めたのは1960～1961年(昭和35～36)であった。当時，投資信託や株式への投資ブームが起こり，銀行の貯蓄性預金の伸びが思わしくなくなり，一般大衆への接近が必要であると感じられたためであった。しかし，当時，銀行(特に都市銀行*)は資金的にみて企業への融資で手いっぱいで，消費者金融にはあまり大きな期待はできなかった。結果的には，銀行が預金を集めるための手段として使った観があり，その貸し付け条件も，担保として有価証券が要求されたり，融資に先だって相当の預金積み立てが要求されたりして，消費者金融といっても，必ずしも一般大衆向けのものではなかった。そしてわが国の消費者金融が，ほぼ今日みられるように提携金融方式(銀行の提携先のディーラーや住宅建築業者が借り手の支払い保証をする)を中心にして，貸し付け条件が比較的緩和され，広く普及しはじめたのは，1961年の夏以降の金融引き締め基調が逆転した1962年の秋からであった。

その後，わが国の消費者金融はしだいに発達し，銀行以外に相互銀行や信用金庫もこの方面に進出しているが，現在(1971年6月末)，その絶対額はまだわずかで，全国銀行勘定をとってみると，総貸出額のうちの2.5%を占めるにすぎない。しかし，近年，国民所得の急激な増加につれて，耐久消費財や住宅に対する需要はますます大きくなりつつあり，他方，外国におけるように，将来，企業資金の銀行依存度が減退してくることも考えられ，わが国でも，銀行などにとって，消費者金融にいっそう積極的に取り組まなければならない段階にきている。今後最も問題になる点は，わが国の消費者金融の多くが，既述のように提携金融であることであり，銀行はアメリカにおけるように，しだいに非提携の消費者金融に重点を置くようになると思われる。

なお，消費者金融があまり急激に増加することが，消費の面より経済を刺激しすぎて，インフレーションの一要因になることも考えられ，このようなときには規制が行なわれることになる。〔矢島保男〕

しょうひしゃしんよう 【消費者信用】 消費者が信用を元手に，代金あと払いで物を買うこと。割賦販売や掛け売りは広義の商人によって供与される消費者信用であるのに対し，消費者金融は金融機関によって供与される信用である。➔割賦販売

しょうひしゃぶっかしすう 【消費者物価指数】 略称CPI(Consumer's Price Index)。一般消費者の購入する商品・サービスの価格の変動を示す指数で，実質賃金の算定など，生活水準の分析に使用される。総理府統計局の消費者物価指数は当初，全国(人口50,000以上の28都市)・東京・大阪を対象に，1946年(昭和21)8月～1947年3月を基準時として，195品目，フィッシャーの算式による指数がつくられた。1948年になって家計の構造変動も短期的にはそれほどひどくなくなり，商品銘柄の固定もある程度まで可能になったので品目数もふやし，1948年基準のラスパイレス式*となり，大阪の指数は廃止された。その後，1951年，1955年，1960年，1965年，1970年，1975年と基準時が変更され，現行指数は1980年基準である。この指数では，全国3,400市町村を母集団とする170市町村を標本として抽出し，全国の非農漁家世帯を対象とするように改められた。価格調査の対象となる品目数は512，調査価格は11万3,000，店舗数は約20,000に及ぶ。ウエイトはサンプルとなった8,000世帯の家計調査による。そして，①全国，②全都市，③人口50,000以上の都市，④七大都市，⑤人口15万以上の都市，⑥人口50,000～15万の都市，⑦人口50,000未満の都市，⑧町村，⑨地域別，⑩東京の指数が毎月発表されている。

〔鈴木諒一〕

消費者物価指数 昭和50年基準

	総合	食料	(主食)	住居	光熱	被服	雑費
ウエイト	10 000	4 082	486	1 075	435	1 257	3 151
1975	100	100	100	100	100	100	100
1976	109	109	112	106	107	108	112
1977	118	116	122	112	117	114	124
1978	123	121	128	117	116	118	130
1979	127	123	130	122	120	124	136
1980	137	131	137	130	166	133	146

(総理府統計局)

じょうひしょうたい 【上皮小体】 副甲状腺(ふくこうじょうせん)ともいい，内分泌腺*の一種。哺乳(ほにゅう)動物では，甲状腺*に接近し，ときにはその中に埋ずまっている。他の脊椎(せきつい)動物では，必ずしも甲状腺と接していない。鳥類では甲状腺のすぐ後ろで気管の両側について2対ある。カエルでは外頸(がいけい)動脈の近くに2対。硬骨魚にはないが，軟骨魚では甲状腺中に埋ずもれている。

ヒトの上皮小体は，甲状腺の左右両葉の後面に，甲状腺と同じ被膜に包まれて，普通は左右2個ずつ上下2対ある(3個の場合もある)。1個の大きさは長さ3～8mm，幅2～5mm，厚さ0.5～2mm。胎生第4週の終わりごろ，第3・第4鰓嚢(さいのう)の上外側壁の陥入によって発生する。主細胞(色素嫌性(けんせい)細胞)と酸好性細胞(色素好性細胞)の2種類の細胞からなり，主細胞にはまた暗調と明調の二つの細胞を区別することができる。酸好性細胞は他の細胞より大きいが，少数で散在性である。

上皮小体から産出するホルモンは，パラトルモンとよばれ，①骨に作用し，膠原(こうげん)・カルシウム・リン酸複合体(アパタイト)を分解し，血中カルシウムとリン酸値を上昇させる，②腎(じん)に対しても働き，カルシウムの再吸収を促進させるが，リン酸の再吸収を妨げる，③腸のカルシウム吸収を助けるなどの作用がある。したがってこのホルモンの働きによって血中カルシウムは上昇するがリン酸は減少する。なお血中カルシウム値を低下させるホルモン(カルシトニン)が甲状腺から分泌されるか，上皮小体自身から分泌されるかは未決定である。

上皮小体の除去，あるいは機能低下はテタニー*や意識喪失を起こし死に至らしめる。〔幡井勉・橋本長〕

しょうひぜい【消費税】人が消費を行なっているという事実に着目して課される税をいう。現行税体系では，酒税・砂糖消費税・揮発油税・石油ガス税・物品税・入場税・トランプ類税・関税などである。間接税に含まれる税の大部分は，この消費税に属する。消費税は，最終の税負担者が消費者であることを予定して課税され，消費者にしてみると，購入する価格の中に消費税が含まれているので，直接の税負担感は必ずしも強くない。〔西野義彦〕

しょうひせいかつきょうどうくみあい【消費生活協同組合】消費組合・生活協同組合(生協)ともよばれる。共同仕入れにより，組合員に低価格で商品およびサービスを提供することを目的としている。地域的なものと職域的なものとに分かれ，1948年(昭和23)に制定された消費生活協同組合法に基づき，その運営が行なわれている。

しょうひせいこう【消費性向】各個人の所得は消費と貯蓄からなるが，その場合所得のうちどれだけを消費に向けるかという心理的傾向を一般に消費性向という。所得Yのうち消費Cに向けられる割合C/Yのことを平均消費性向(または単に消費性向)といい，所得の増加ΔYに対する消費の増加の割合$\Delta C/\Delta Y$のことを限界消費性向という。平均消費性向および限界消費性向は所得水準に応じて可変的であり，所得の増大につれて逓減するのが普通である。〔富田重夫〕

じょうひそしき【上皮組織】身体の外表面，体腔(たいこう)および器官の内面をおおう組織。一定の配列をなし，表面は体表または体腔に面し，下面は基底膜で結合組織*層に接する。上皮組織は内胚葉(ないはいよう)・外胚葉・中胚葉(→胚葉)のいずれからもできるが，内胚葉性のものは体腔内面や脈管の内面をおおう内皮として区別する。

形態的に扁平(へんぺい)上皮・立方上皮・円柱上皮・移行上皮に分類され，並び方によって単層上皮・多列上皮・重層上皮に，機能的には被蓋(ひがい)上皮(皮膚など)・吸収上皮(腸など)・腺上皮(内外分泌)・感覚上皮(目・耳など)・胚芽上皮(卵巣・精巣)に分類される。このうち，腺上皮は種々な形態と並び方を示し，外分泌腺では管状腺・胞状腺・複合腺など，内分泌腺では索状・網状あるいは小胞を形成する。腺上皮細胞は分泌顆粒(かりゅう)を形成し，それは細胞自体の崩壊によって分泌を行なう。上皮細胞の表面には細胞質の突起である小皮縁(腸上皮)・不動毛(精巣上体)・繊毛(呼吸上皮)・鞭毛(べんもう)(精巣)などがあって，それぞれ特有の機能を果たしている。また，隣接細胞との間には接合質・細胞間橋・閉鎖堤などの接着装置がある。皮膚や消化管の始部・終部の上皮は角化する。また，皮膚の深層，毛，眼球の色素上皮層などでは色素(通常はメラニン)の沈着が起こることもある。〔幡井勉・橋本長〕



ジョウビタキ　雄

しょうひたいしゃく【消費貸借】当事者の一方が同種類・同品等および同数量の同じ物をもって返還することを約して，相手方より金銭その他の物を受け取ることによって成立する契約をいう(民法587条)。借金などがその典型である。借り主が受け取った物の所有権*を取得する点において賃貸借*や使用貸借*と異なる。消費貸借は貸し主がなんの義務も負わない点で片務契約*であり，当事者が合意のほかに金銭その他の物の授受を要する点で要物契約である。しかし，要物性を厳格に取り扱うことは実際上の取引活動に即応しないため，判例・学説ともこの解釈の緩和に努め，目的物の移転があったと同視できる経済的価値の移転が認められるときは，目的物の引き渡しがあったものとしている。したがって，現金の引き渡しの代わりに銀行預金通帳と印鑑を引き渡したときなどは，消費貸借は有効に成立したものと考えられる。判例は，また，目的物の引き渡し前になした抵当権*の設定についても，消費貸借による債権が客観的に成立する可能性がある場合これを有効としている。消費貸借は，当事者が返還時期を定めなかった場合には貸し主は相当の期間を定めて催告*をなすことができ，借り主はいつでも返還することができる(民法591条)。借り主が同種・同品等の物を返還することが不能となった場合には，そのときにおける物の価額を償還することを要する(民法592条)。なお，消費貸借によらずして成立した債務を消費貸借になおすことを準備費貸借という(民法588条)。〔黒木三郎〕

じょうびたき【尉鶲・常鶲】鳥類・ツグミ科。スズメよりやや小さいが，尾がやや長いので同大に見える。冬鳥として各地の低山帯から都会の庭先まで普通に渡来し，越冬する。翼に白斑(はくはん)があり，俗にモンツキ(紋付き)とよばれる。雄は頸(けい)胸部が黒色，頭上と上背は灰色，腹と尾は赤かっ色，翼は黒っぽく白斑があり，じみな美しさがある。雌は上面・下面ともに灰黄かっ色で，尾の赤かっ色が目だつ。〈ヒッ，ヒッ〉と鳴き，またくちばしで〈カッカ〉という音を出す。〔安部直哉〕

しょうひょう【商標】売り手または売り手集団の商品・サービスを識別させ，競争業者のそれらと区別させる名称・用語・記号・象徴・図形もしくはそれらを組み合わせたもの。トレードマークともいう。本来，当該商品の出所を表示するもので，したがってその商標を付した商品はどれをとってみても品質や性能を同じにし，消費者に一定の満足の供与を保証し，これによって多彩な同種商品が豊富に導入される市場にあって，消費者の購入選定が容易になる役割をもつ。他方，商標のもつ，競合品との間に一線を画す製品差別化機能によって，企業は非価格競争の展開が可能となり，販売促進の結果，消費者がその商標を認識し，企業と商品に対する信用力をもつに至った場合，製造業者は販売業者を越えて市場をコントロールすることができるようになる。なお近年，製造業者の支配下からのがれ，みずから価格やマージンの統制を図ろうとする意思から，大規模流通業者の中にみずから商業者商標を設定する企業が多く，製造業者商標と顧客争奪の競争を展開している。〔清水　晶〕

しょうひょうほう【商標法】商標*を保護することにより，商標権者の業務上の信用の維持を図り，あわせて欺瞞(ぎまん)的商標を排除して需要者の利益を保護することを目的とする法律。1959年(昭和34)公布，翌年施行。三たび改正されて現行法に及んでいる。商標が商標法3条に定められた不登録事由に該当しないものであるときは，特許庁*に出頭することによって登録され，商標権が発生する。商標権は，登録された商標を独占的に使用できることを内容とする。したがって他人が登録商標と同一もしくは類似の商標を使用したときは，その使用の差し止めを請求することができる。商標権は工業所有権の一つであるが，特許権・実用新案権などと異なり，登録の更新が認められており，商標権者は10年ごとに更新登録の出願をしさえすれば，永続的に同一商標を使用することができる。〔松本治雄〕

しょうひんさくもつ【商品作物】生産物を販売して現金収入を得るための作物。社会が高度に発達すれば，生産物は全部販売されるようになろうが，現状はまだ自給部分が残っているので，リンゴ・ミカン・トマトなど商品比率の高い作物をいっている。

しょうひんせいさく【商品政策】マーチャンダイジングともいう。潜在的な需要をもつ商品の性格を明確にし，その販売を実現させる機能をもつ，マーケティング*活動の一。企業のマーケティング目標を最もよく実現するのに役だつことを目的として，取り扱うべき商品，その商品を取り扱うべき場所・時期・価格・数量などに関してなされる計画と管理を含む。

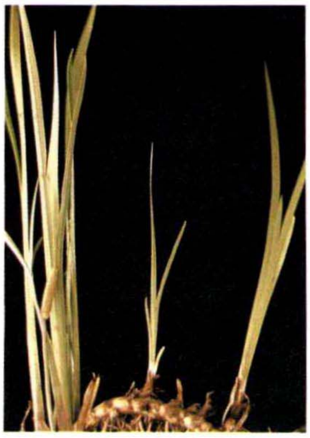
しょうひんとりひきじょ　【商品取引所】　1950年(昭和25)の商品取引法の規定において，限定された資格を有するものが会員となり，一定の設備をもって，特定の商品を大量に先物取引により売買する特定の組織的市場である。取引される商品は，繊維・食品・ゴムに大別される。取引値段の決定は，各取引所で制定している一定の標準品に基づき行なわれる。先物取引を行ない，一定期日に売買の差額を決済することが許されている。商品取引所の機能は，需給の投合・調節，公正価格の形成，価格の調節，価格変動による危険に対する保険などである。取引所は，おもに商品の集荷分散する地域の中心地に設置され，現在次の20か所である。①繊維取引所：大阪三品・大阪化学繊維・横浜繊維商品・福井人絹・名古屋繊維・横浜生糸・神戸(こうべ)生糸・豊橋(とよはし)乾繭・前橋乾繭。②食品取引所：東京穀物商品・大阪穀物商品・名古屋穀物食品・神戸穀物食品・関東食品・東京砂糖・大阪砂糖・函館(はこだて)海産物・北海道穀物商品。③ゴム取引所：神戸ゴム・東京ゴム。　〔清水　晶〕

しょうひんぶん　【小品文】　日常のちょっとした事柄を写生ふうに描いた文章で，小さくまとまったもの。豊かな知性や感性がうかがわれ，散文詩的な味わいをもつものが多い。随筆の一種であるが，明治40年代に流行し，真山青果・水野葉舟・田山花袋らが盛んに筆をとっている。大正末期に急激に台頭した〈随筆〉ということばに溶解して，以後この名はすたれた。

しょうふ　【正麩】　小麦粉から生麩(なまふ)をつくるときに篩(ふるい)の下に集まるデンプンをよく水洗いし，水切りして乾燥したもの。食料にもするが，おもに糊料(こりょう)として使用される。

しょうぶ　【菖蒲】　単子葉植物・サトイモ科・ショウブ属。池や流れのふちに群生する多年草。この属にはショウブとセキショウの2種が含まれる。

ショウブは菖蒲の字があてられるが，これはセキショウの漢名である。北部アジアに広く分布し，湿地に自生するが，広く栽培もされている。根茎は節部からひげ根を出して横走し，太さ3cmくらいあり，多肉で白色または紅色をおびる。葉は根茎の先端に直立して多数出る。長い剣形で先端はとがり，中肋(ちゅうろく)ははっきりと目だつ。葉色は深緑色で光沢がある。花茎は葉間から出るが，葉に似ている。初夏のころ，淡黄緑色の小花を密につけた肉穂花序を横向きに生ずる。花は両性花で花被片は6枚，おしべは6本，めしべは1本。果実は長楕円(ちょうだえん)形多肉で紅熟する。葉には香気があって，端午の節供には魔よけの草であり，特にヘビを寄せつけぬといわれて古くから厄除けや物忌みのために〈菖蒲湯(あやめのゆ)〉と称して浴場に入れる習慣がある。昔は5月5



ショウブ

日の節供に宮中に参内する人は，髪や冠にショウブをさして行ったという。

セキショウは中央および東部アジア，日本に産する。日本では本州の中南部，四国・九州の渓流(けいりゅう)のほとりに自生する。多年草で多くは群生する。根茎は横に伸び，比較的細い。香気に富む。葉は根茎の先端から多数出る。狭い線形で先端はとがる。全縁で暗緑色を呈し，中肋を欠く。長さ20〜50cm，幅1cm以下。4〜5月に淡黄色の小花をつけた肉穂花序を生ずる。果実は蒴果(さくか)で緑色。根茎を乾燥したものを，漢方では石菖と称し，鎮痛・鎮静・健胃薬などとし，あるいは全体を浴湯料ともする。また，観賞用として盆栽・水盤物・下草などに用いられ，園芸品種も20種あまりがある。繁殖には，春の彼岸ごろ株分けする。灌水(かんすい)に注意する。　〔小杉　清〕

しょうふうはいかい　【蕉風俳諧】　芭蕉(ばしょう)流の俳諧。貞門俳諧・談林俳諧などに対していう。蕉風俳諧の性質は，一言でいえば〈寂(さび)〉の俳諧であり，中世以来の幽玄美に，さらに閑寂枯淡な色調が加わったものである。延宝(1673〜1680)以前の芭蕉の俳風は，貞門風・談林風の追随であったが，天和(てんな)期の《虚栗(みなしぐり)》に至り，漢詩文調や禅的観照の摂取によって，談林風の野放図な滑稽(こっけい)性を乗り越え，滑稽戯笑の俳諧から脱皮して，厳粛な人生詩・自然詩としての芭蕉を確立した。そして元禄(げんろく)期の《猿蓑(さるみの)》において，その最も円熟した作風を示し，晩年の《炭俵》(→俳諧七部集)では，さらに新しい〈軽み〉の境地に到達した。それらはすべて，自然と人生の真実に徹しようとした芭蕉のきびしい実践によってもたらされたものであり，自然の深奥，人生の寂寥所(せきりょうしょ)に潜む閑寂美をとらえたその俳風は，〈寂・しほり・細み〉などの語でよばれ，晩年の〈軽み〉の諸作においては，平淡な表現のうちによく対象の実相をとらえ，しかもほのぼのとしたユーモアを漂わせている。また連句の付合では，貞門の物付け，談林の心付けより飛躍的に深化発展し，〈匂(にお)ひ・響き・移り〉という微妙な気分・風韻を重んずる付け方となった。〔丸山一彦〕

じょうふく　【条幅】　⇨掛け物

じょうぶこうぞう　【上部構造】　マルクスが史的唯物論で社会の成立構造を説明するのに用いた概念。人間社会の機構と発展の一般法則に関する学説である史的唯物論は，社会構成体のしくみを建築物になぞらえ，一定の生産諸力に照応した生産諸関係の総体である下部構造が社会の土台となり，その上に政治的・社会的な組織や制度・法律あるいは政治的・社会的な意識形態である思想・哲学・芸術・道徳などの上部構造が構築されているとする。上部構造は社会の物質的生産諸力の発達水準に照応するもので，下部構造の変化とともに徐々にあるいは急速に変革されるとした。〔常盤政治〕

じょうぶつ　【成仏】　仏教で，最高の悟りを完成すること。作仏・成正覚・証菩提(しょうぼだい)ともいう。悟りをめざすもの(菩薩(ぼさつ))は，長い歳月を修行に費やして，完全なる自己の確立と他者への利益を完成した結果，仏となる。三乗の教えは，菩薩のみが成仏し，声聞・縁覚には成仏の可能性はないと説くが，《法華経(ほけきょう)》や《涅槃経(ねはんぎょう)》などの一乗の教えは，声聞・縁覚の二乗も成仏すると説き，さらに成仏の可能性のない人々(→一闡提(いっせんだい))や仏法を非難する人々に至るまで，すべての生きとし生けるものが成仏できると説いている。小乗仏教では，女性は成仏できないとされていたが，大乗仏教では女人成仏も許されるようになった。　〔佐藤成順〕

しょうへいが　【障屛画】　⇨障壁画

しょうへいこう　【昌平黌】　江戸幕府の学問所。江戸学問所・昌平坂学問所ともいう。はじめは幕府の文教をつかさどる林家の私塾(しじゅく)であったが，1630年(寛永7)林羅山(らざん)が幕府から江戸上野忍岡(しのぶがおか)に土地を与えられて書院と文庫を設立し，1632年尾張藩主徳川義直(よしなお)の助成によって孔子を祭る先聖殿を創建し，1663年(寛文3)林家2代鵞峰(がほう)のとき学寮ができて弘文館(こうぶんかん)と称した。1690年(元禄3)3代鳳岡(ほうこう)のとき，5代将軍綱吉(つなよし)から神田湯島の地を賜わり，孔子廟(こうしびょう)を建てて大成殿(聖堂)と称し，これに移った(現在の文京区湯島1丁目)。1790年(寛政2)寛政異学の禁により官立の昌平坂学問所となり，教官に柴野栗山(しばのりつざん)・岡田寒泉・尾藤二洲(じしゅう)・古賀精里を任用し，林述斎を大学頭として，学舎・学制・施設をととのえた。旗本(はたもと)の子弟を教育するとともに，広く陪臣・浪人などの入学も許した。明治維新のとき，新政府の手に渡って昌平学校，次いで大学校と改称，1871年(明治4)廃止された。〔岡山泰四〕

じょうへいそう　【常平倉】　759年(天平宝字3)，律令(りつりょう)政府(藤原仲麻呂(なかまろ))が米価調節のために設置した施設。諸国より公廨稲(くがいとう)(→公廨田)を供出させ

てこれを貯蔵し，米価の高低に従って売買し，差額利潤をとった。これを諸国より上京した調物運送人夫の帰郷の費用にあて，京中の米価の安定を図った。このため左右の平準署が置かれ，769年(神護景雲3)まではその存在が知られるが，その後は不明である。

じょうへい・てんぎょうのらん　【承平・天慶の乱】　10世紀前半，平将門*(まさかど)と藤原純友*(すみとも)が東国および西国であいついで起こした反乱の併称。両乱はまったく別の事情・原因から起こったが，京都の貴族は両者に連絡があると誤解した。935年(承平5)将門は伯父(おじ)国香(くにか)と争ってこれを殺した。一族間の争闘が発展し，将門は勢いのおもむくところ常陸(ひたち)(茨城県)国府を焼き払い，国家権力に公然と立ち向かうことになった。939年(天慶2)いとこの貞盛(さだもり)や藤原秀郷(ひでさと)によって討ち取られるまでの間に関東の過半をおさえ，みずから平新皇と名のり，王城を下総(しもうさ)(千葉県)の猿島(さしま)郡に設けるなど，京都からの分離独立を図っているが，いまだ独自の政権を考えるまでには至らなかった。藤原純友は伊予掾(いよのじょう)の任満ちても帰京せず，海賊を率いて瀬戸内海を荒し回ったので朝廷の追討を受けることとなったが，939年から941年まで各地に出没し，大宰府*(だざいふ)を焼き払うなどの暴行を重ねた。しかし，941年博多(はかた)に戦って敗れ，伊予(愛媛県)に逃げ帰ったところを伊予警固使橘(たちばな)遠保に捕えられ，まもなく獄死した。朝廷はこの二つの乱に狼狽(ろうばい)して迅速・適切なる措置がとれず，大いに威信を失った。これは武士勃興(ぼっこう)史上注目すべき戦乱であった。　〔黛　弘道〕



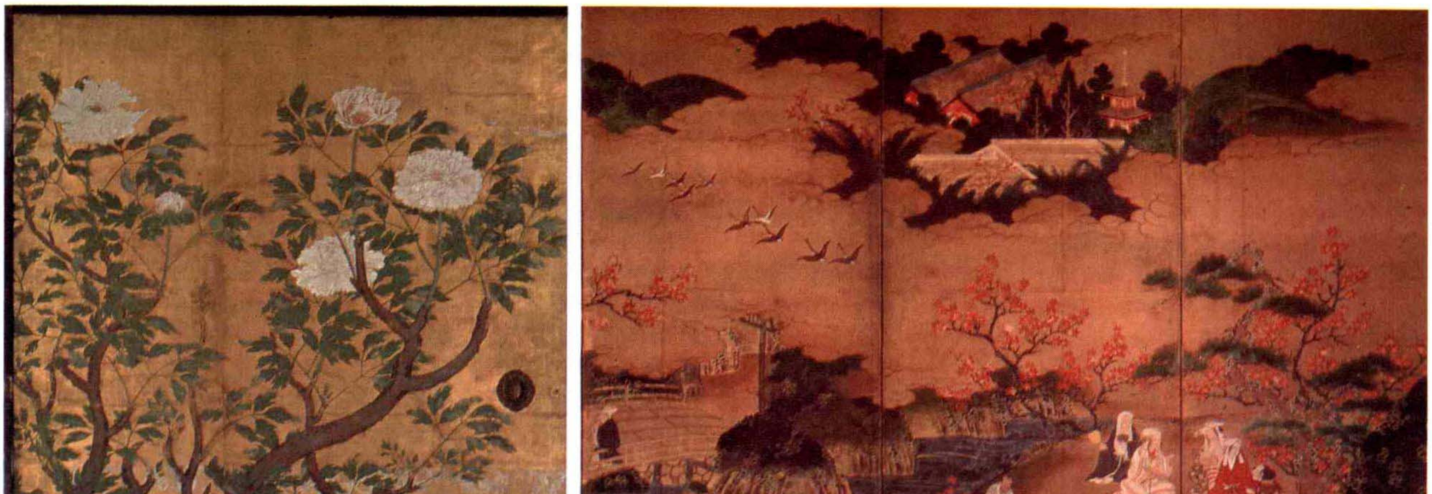
晶　癖　オウドウ鉱(秋田県荒川鉱山産)が，面の発達のしかたにより，結晶の形をいろいろに変えていくのがよくわかる

しょうへいりん　【章炳麟】　チャンピンリン　(1867～1936)　中国，清(しん)末民国初めの革命思想家・学者。浙江(せっこう)省の人。字(あざな)は枚叔。太炎という号で知られている。兪樾(ゆえつ)のもとで経学・史学を学んだが，日清戦争の敗戦を機に康有為*らの強学会に加盟，やがて康らの改良主義に反対し排満革命に志す。1900年に弁髪を切り，その思想は1901年の《訄書(きゅうしょ)》で表明された。排満革命思想の激化から《蘇報(そほう)》事件という筆禍を起こし，3年間入獄ののち，1906年東京で孫文*らの中国革命同盟会*の機関紙《民報》の主筆となり，多くの革命的論説を書いた。清朝打倒の気運を鼓吹した功績は大である。その革命思想は政治・社会の体制変革よりも民族主体性の回復，圧迫民族への〈復仇(ふっきゅう)〉に重点があり，それは仏教的空無に向かっての実践であった。彼は辛亥(しんがい)革命*後しばらくしてから国学に専念し，機関紙《制言》を発行して国学大師とよばれたが，それは儒教教学のわくを越えるものであった。なお，中華民国の名は彼の案出したものである。　〔西　順蔵〕

しょうへき　【晶癖】　鉱物または化合物の結晶生成時の条件の違いによって生ずる，著しい外形の差異。生成時の条件には，圧力・温度，母液の化学成分などがあり，結晶面の発達に大きく影響を与える。たとえば，ミョウバンは純粋の溶液からは正八面体が，アルカリ性では正六面体が，また酸性では正六面体と五角十二面体の集形ができる。

しょうへきが　【障壁画】　障子絵・壁貼付絵(かべはりつけえ)などの総称。襖(ふすま)・衝立(ついたて)・腰障子・床(とこ)・壁などの貼付絵に，杉戸絵(すぎどえ)・天井絵を包括している。また，これに，屏風絵を含めて障屏画という場合もある。

障壁画の歴史は，中国，唐代の宮殿壁画の影響を受けて，平安前期に始まり，唐の山水や風俗を画題とし，手法も唐代絵画にならった唐絵(からえ)壁画が清涼殿などの宮廷建築に描かれたことが，当時の文献から知られる。平安後期になると，唐絵に代わる大和絵(やまとえ)障壁画がめざましい発展を遂げた。宮殿や貴族住宅の典型である寝殿造り*の建物には，襖絵が新たな画面形式として登場し，四季絵・月次絵(つきなみえ)・名所絵など，日本の四季の風光とその中で営まれる行事・行楽，その他さまざまな生活風俗のありさまとを細緻(さいち)な手法で描いた障壁画や屏風絵が流行した。その実態を伝える当時の遺品は乏しく，わずかに平等院鳳凰堂(ほうおうどう)の壁画の一部や，教王護



障　壁　画　(左)大覚寺宸殿牡丹の間，狩野山楽《牡丹図》，襖貼付西側4面のうち　(右)狩野秀頼《高雄観楓図屏風》六曲一隻部分　東京国立博物館蔵









消　防　①町火消の出ぞめ　②防火の立て札。1711年(正徳1)に立てられたもので，当時の放火や野次馬を取り締まったようすがうかがわれる　③手とび　破壊消防の道具で，町火消の役付が持った　④駆付人足の手形　町火消の中の駆付人足が所持した，非常駆けつけ時の身分証明書

国寺に伝わった《山水(せんずい)屛風》などにその片鱗(へんりん)がうかがわれ，ほかに《源氏物語絵巻》や《伴大納言絵詞(ばんだいなごんえことば)》など，当時の絵巻中に描かれている室内の障壁画や屛風のありさまが参考資料を提供する。鎌倉時代から室町時代にかけては，前時代の伝統を受けて大和絵障壁画が宮廷や貴族の邸宅などに依然として描かれたことが《春日権現験記(かすがごんげんげんき)》その他の絵巻の画中の室内の情景などからうかがわれるが，この時期の障壁画の新しい傾向としてあげられるのは，第1に宋(そう)・元から禅文化とともに移入された水墨画を主とする漢画の障壁画が，禅宗寺院の僧房から武家の住宅にまで普及した結果，水墨障壁画が主流となったことであり，第2に床・棚(たな)・付書院(つけしょいん)などを座敷飾りとして固定させた書院造りの様式が武家住宅の典型となり，それに伴って〈座敷絵〉としての新しい障壁画の形式が整備されるようになったことである。前時代にあまりみられなかった花鳥図障壁画が好んで描かれるようになったことも新しい動向であり，特に狩野元信(かのうもとのぶ)が，元・明(みん)の花鳥画の手法に基づいてつくり出した新しい山水花鳥図襖絵の様式は，次の桃山時代に受け継がれて展開する。従来の襖絵にあった一面ずつの縁取りが省かれ，襖8面あるいは12面といった，横に連続して展開する構図が考案されるようになったのもこの時期である。室町末期の漢画系障壁画としては，小栗(おぐり)派による旧養徳院襖絵，曾我蛇足(そがじゃそく)筆と伝えられる大徳寺真珠庵襖絵，相阿弥(そうあみ)と元信一派による大徳寺大仙院客殿襖絵，元信一派による妙心寺霊雲院方丈襖絵などがある。

桃山時代になると，織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)らの武将が，城郭内に設けた豪壮な書院造り殿舎や，彼らが建立(こんりゅう)する派手な寺院建築の内部装飾として，障壁画は飛躍的な発展を遂げる。画題では現世肯定の時代精神を反映して花鳥画・風俗画が特にもてはやされ，手法では，漢画・大和絵の両要素を統合した力強い筆法と，金銀の箔(はく)・泥(でい)に岩絵具の厚塗(あつぬり)をあわせて施した華麗な彩色とをもつ金碧(きんぺき)障壁画が流行した。この時代の障壁画のめざましい展開の推進力となったのは，狩野永徳で，彼は祖父の画風を大胆に発展させてダイナミックな巨樹表現の手法をつくり出した。1576年(天正4)の織田信長による安土城建設に際して，天守や御殿に描いた金碧障壁画は画期的な意義をもつもので，彼の圧倒的な影響のもとに永徳の子狩野光信(みつのぶ)，弟子(でし)の狩野山楽や長谷川(はせがわ)等伯・海北(かいほう)友松らが障壁画の黄金時代をつくった。代表的な遺品としては，永徳の大徳寺聚光院客殿襖絵，狩野派の南禅寺本坊大方丈襖絵，等伯の智積院(ちじゃくいん)襖絵，友松の建仁(けんにん)寺本坊方丈襖絵，光信の園城寺勧学院襖絵，山楽の大覚寺襖絵，狩野派の名古屋城対面所襖絵などがある。江戸初期になると豪壮な桃山様式による障壁画は，狩野探幽・尚信(なおのぶ)兄弟らによる二条城二の丸御殿襖絵(1626)，狩野山楽・山雪父子による妙心寺天球院襖絵などに力作がみられるが，全体として形式的整備を加える反面，桃山絵画特有のおおらかな表現力は減退し，探幽の名古屋城上洛(じょうらく)殿襖絵のような，力感の強調を避けた，淡泊瀟洒(しょうしゃ)な表現へと移っていく。江戸中期以後においては，障壁画は広く一般に普及し，さまざまな流派がこれを手がけたが，その多くは伝統を形式的に踏襲した小味なものにとどまった。ただその中にあって，円山(まるやま)応挙は障壁画の伝統にヨーロッパ絵画の写生的手法を加味して，金刀比羅(ことひら)宮や大乗寺などの襖絵に新しい境地をひらき，伊藤若冲(いとうじゃくちゅう)は西福寺に特異な美しさをもつ鶏図襖絵を残し，文人画家池大雅は，遍照光院襖絵や大福寺襖絵に闊達(かったつ)な明るさに満ちた作品を残している。

〔辻　惟雄〕

しょうほう【商法】企業関係(商取引など)を規律するための法律。普通には1899年(明治32)制定の商法典をさす。企業取引は一般個人間の取引に比べ，高利性・集団性・反復性・定型性などが強いため，一般個人間の取引関係を処理する民法では，とてもこれを処理することができない。この民法を補充・変更するものとして商法が制定された。つまり企業関係については，民法の規定に優先して商法の規定が適用されることになる。この商法典は，総則・会社・商行為・海商の4編からなり，このほか商事特別法として手形法・小切手法・有限会社法などがある。〔松本治雄〕

しょうぼう【消防】消防機関によって，火災から国民の生命・身体および財産を保護するとともに，水や地震などの災害を防除し，さらにこれらの災害による被害を軽減する活動と，その活動を行なうために必要ないっさいの施設や設備を総称して〈消防〉という。このように消防は火災ばかりを対象としているわけではなく，水害や震災，風水害とあらゆる災害をその対象としており，今日では，そのほか救急業務も任務の一つとしている。

【消防の沿革】わが国の消防の歴史は古く，平安朝時代に，宮殿を防火する役目の〈禁裡(きんり)火消〉というものがあったというが，内容は明らかでない。

《江戸時代》消防の公的な制度ができたのは，1658年(万治1)，江戸幕府が旗本(はたもと)に火消役を命じて〈定火消〉という消防隊

を設置したのがはじまりであるといわれる。もっとも，これほど専門的ではないが，定火消のほか，大名火消(江戸城の火消役を大名に命じたもの)，方角火消(大名火消のうち，定められた方面の火災にだけ出動するもの)などを設けて江戸城やその周囲・要所を警備させた。こうした火消は，すべて江戸城や大名の邸を守ることが主であったため，一般町家にその恩恵の及ぶことはほとんどなかった。そこで幕府は，一般市民に自治組織として火消の組織をもつことを許した。これを店火消(たなびけし)といった。これとても満足な消火活動はできなかった。このため，8代将軍吉宗(よしむね)のとき，時の南町奉行(ぶぎょう)大岡越前守(えちぜんのかみ)は，防火対策を強化するため，これを改組して町火消を創設した。この町火消の組織は，いろは47組をつくり，これに特別の一隊の本組を加えて48組とした。これとは別に，本所・深川に16組が組織された。

町火消は，町奉行の監督下にあったが，自治組織で経費はいっさい町の負担とし，組員は無報酬であった。町火消の義侠(ぎきょう)的な活躍は江戸の華(はな)とたたえられた。定火消は官設消防，町火消は義勇消防(消防団)の元祖として，治安の維持に貢献し，明治維新に及んだ。

〈明治時代〉 明治維新とともに江戸は東京となり，町火消は東京府に移管された。1870年(明治3)，東京府は消防局を置き，町火消を改組して，消防組とした。1873年，消防事務は内務省に移され，東京府下の消防は，翌1874年新設された東京警視庁に移された。東京警視庁では，消防組に関する〈消防章程〉を制定した。これが，明治の消防制度の組織活動の基礎となったものである。その後，消防の組織や階級がしだいに整備されてきた。一方，1870年にはイギリスから蒸気ポンプが輸入されたが，国産の腕用ポンプがつくられた。1894年，〈消防組規則〉が制定された。これにより，従来の消防組は府県知事の管掌とされ，全国的な統一がはかられるに至った。

〈大正時代〉 1913年(大正2)，警視庁ではその機構を改め，従前の消防本部を消防部に改め，はじめて専任の消防部長を置くとともに，消防手を判任官待遇の官吏とした。これが通常，官設消防といわれるようになった。1919年，勅令〈特設消防署規程〉が公布され，これにより，大阪・京都・神戸(こうべ)・名古屋・横浜に特別消防署が設置され，府県警察部の指揮監督の下に服し，判任官以上の人件費は国費支弁，ほかは府県費とした。

〈昭和前期〉 各地の官設消防・消防組ともに人員・機械の増強をみたが，日支事変の勃発(ぼっぱつ)とともに，国防体制の整備が急がれ，政府は当時つくられていた民間防空団体たる防護団と消防組とを合体して新たに強力な警防組織を設けるため，1939年(昭和14)，勅令〈警防団令〉を制定した。これにより同年4月に警防団が全国いっせいに発足した。

表-1　消防本部・消防署・消防団数および消防職団員数　(1969年4月現在)

消防本部数	734
消防署数	892
消防職員数	60 486
消防団数	3743
消防団員数	1 234 696
常備消防部数	89

表-2　消防施設の現有　(1969年4月現在)

種類	数
消防ポンプ自動車	17 816
化学消防ポンプ自動車	318
はしご付き消防ポンプ自動車	269
その他の消防ポンプ自動車	980
消防艇	36
小形動力ポンプ	57 816
手引き動力ポンプ	5 602
腕用ポンプ	1 422
救急自動車	1 015
無線車	389
火災報知機	17 773
消火栓	526 842
防火槽(20～40m³)	92 069

警防団は，その数1,100余り，団員約300万といわれた。この警防団は，戦後消防団が新たにできるまで続いた。官設消防は戦時体制の必要から，軍事・経済および政治上の重要都市を指定して，逐次消防署が設置され，その結果，官設消防署の設置都市は13都道府県36都市に及び，全国の総人員も30,000人を越えるに至った。第2次世界大戦後，行政整理のため，総定員は20,000人余りに縮減されたが，非戦災都市警備のため官設消防署設置都市は，57都市に増大された。

終戦とともに，消防制度は，地方制度および警察制度の改革と関連してその改正が検討された。すなわち，消防制度改革の眼目は，第1に従来警察の一部門でしかなかった消防を警察から分離・独立させること，第2は，地方制度の民主化の一環として従来国の事務とされていた消防を市町村に移すことであった。こうして，消防組織法(1947年法律第220号)が1947年12月に制定され，翌1948年3月7日から施行された。ここに，消防は警察から分離され，徹底した地方分権主義の原則に立って，消防の責任はすべて市町村とするという新しい今日の自治体消防制度が発足したのである。次いで，1949年には，消防活動を中心とした消防作用について規定した消防法(1948年法律第186号)が制定公布された。同法においては，従前警察にはなかったような新しい予防行政上の権限が広く与えられ，たとえば，火災予防に必要な措置権，火災予防に関する立ち入り検査権などが認められ，また，建築物に対して許可または認可権のある行政庁は消防機関の同意を必要とすることなどとされ，このほか，危険物の規制や消防の設備などについても規定され，火災予防に関する制度は，体系的なものとして確立されたのである。

〔消防の組織〕 わが国の制度では，市町村の自治体消防である。すなわち，市町村がその区域内の消防の任務を十分に果たすべき責任と経費を負担し，管理責任者には市町村長がなり，消防事務を処理するため，常設の消防本部および消防署と非常備(常備のものも若干あるが)の消防団*の両方の機関，またはいずれか一方の機関が置かれている。しかし，政令で指定された市町村では，必ず消防本部および消防署を設置しなければならないとされる。東京都においては，その特殊事情から特別区の存する区域を一つの市とみなし，特別区が連合してその区域内の消防責任を果たす組織となっており，都知事が管掌している。

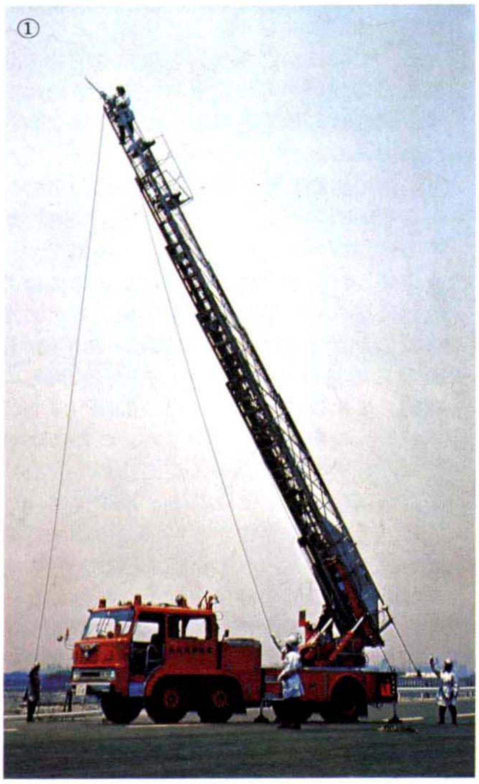
国の機関には自治省の外局として消防庁があり，消防庁にはその付属機関として消防研究所・消防大学校および消防審議会が置かれている。消防庁では，消防制度に関する企画・立案，消防職員・団員の教養・訓練，消防統計，消防思想の普及・宣伝，消防施設の強化・拡充の指導・助成，消防科学技術の研究，その他消防・防災に関する指導・助言を行なっており，直接の消防活動は行なっていない。

都道府県の消防事務も，市町村相互間の連絡協調を図るほか，消防職員・団員の教養・訓練，消防施設の強化・拡充の指導・助成，救急業務の指導など消防に関する助言・指導を行ない，直接の消防活動は行なっていない。ただし，1967年の消防法の改正により，補完的立場から，特定の区間の救急業務を行なうこととされた。

〔消防力の現況と課題〕 消防力とは，消防本部・消防署・消防団などの消防機関とその人員・および消防自動車などの消防施設などを総称していう。1968年4月現在で，消防本部数・消防署数・消防団員数などの概況は表-1に示したとおりである。1946年，消防本部および消防署を設置しなければならない市町村を政令で指定して以来，消防本部および消防署の数がふえ，消防の常備化が推進されてきた。最近では，さらに，一部事務組合などの共同処理方式の活用により広域的な常備体制が促進され，1969年4月現在で設置されている消防組合数は31組合に及んでいる。これに対し，非常勤の消防団員数は減少傾向にあり，1968年4月現在で123万人余りとなり，ここ10年間に約50万人が減少している。このため，消防団員の確保対策が今後の課題とされている。

次に，消防施設には，消防ポンプ自動車・

消防自動車









①はしご車　②標準ポンプ車　③化学車(空泡消火剤を放射)　④救援車

化学消防車・はしご車・排煙車・救急自動車・消防艇*などのほか，防火水槽(すいそう)・消防用無線電話装置・火災報知機などがあり，その整備状況は表-2に示したとおりである。しかし，消防ポンプの整備は，まだ十分とはいえず，消防庁の示している消防力の基準の約62％程度にすぎない。また，防火水槽も，消防水利の基準の約60％程度で，今後，これらの施設の増強が望まれる。また，最近の産業経済の発展に伴い，高層建築物や地下街および石油コンビナートなどの危険物施設が増加したため，科学消防力を早急に増強する必要がある。

交通事故の激増に伴って，市町村の救急業務が増加し，救急件数は火災件数の9倍になっており，救急業務が消防業務の大きなウエートを占めるに至っている。現在，救急業務の実施義務市町村は人口30,000人以上の市で，1971年4月現在，救急業務を実施している市町村数は1,125である。主要国道や高速道路などで救急需要の高い地域については，1967年消防法の一部改正により，都道府県知事による関係市町村への要請あるいは都道府県による補完的な救急業務の実施ができるよう措置された。　〔清水　功〕

じょうほう　**【乗法】**　演算*の一。かけ算ともいう。記号×を用いる。2×3＝6のとき，2を被乗数，3を乗数，6すなわち乗法の結果を積という。整数の集合｛……，－2，－1，0，1，2，……｝においては，2整数の積は必ず整数であるが，このことを整数の集合は乗法について閉じているという。整数の集合においては，乗法について，次の二つの法則がなりたつ(→計算法則)。

〈乗法の交換法則〉　$a\times b=b\times a$

すなわち，被乗数と乗数を交換しても積は変わらない。

〈乗法の結合法則〉　$(a\times b)\times c=a\times(b\times c)$

すなわち，いくつかの数をかけるとき，その組み合わせをどんなに変えても積は変わらない。また，加法と関連して，

〈分配法則〉　$a\times(b+c)=a\times b+a\times c$

もなりたつ。すなわち，2整数の和に第3の数をかけた積は，2整数のそれぞれに第3の数をかけた積の和に等しい。

どんな整数に1をかけても，積はその整数であるが，この性質から，1を整数の集合における乗法についての単位元という。0でないある整数aについて，方程式$a\times x=1$の解を，aの乗法についての逆元という(→群)。整数の集合では1と－1だけが乗法についての逆元をもつ。正の有理数の集合や，有理数全体の集合などは，0を除くどの元も乗法についての逆元$\frac{1}{a}$をもつ。このとき，除法は乗法を用いて定義できる。$b\div a=b\times\frac{1}{a}$すなわち，除法は乗法の逆演算である。　〔青柳雅計〕

じょうほう　**【情報】**　インフォーメーション。事情を告げ，知らせること。言語的情報と非言語的情報に大別され，前者はさらに口述情報と記述情報に分かれる。中でも記述情報は正確度と利用の面から最も重要である。

しょうぼうげんぞう　**【正法眼蔵】**　曹洞宗*(そうとうしゅう)の開祖道元*の代表的著作。正しくは《永平正法眼蔵》という。著作期間は1231年(寛喜3)8月から1253年(建長5)正月の23年間にわたる。内容は，坐禅の本義，宗門の規矩(きく)，修行の用心などをはじめ，広範囲の問題に及び，深い体験に基づく思索の書として，曹洞宗の根本聖典というにとどまらず，広く日本の思想界の代表的名著とされている。道元は100巻を意図していたが，病を得て完結できず，現行の永平寺本では95巻。文章は和文。〔田中良昭〕

しょうぼうげんぞうずいもんき　**【正法眼蔵随聞記】**　道元*が門人たちに教訓的に示した教えを，弟子(でし)の孤雲懐奘*(えじょう)が記録したもの。6巻。文体は比較的平易で，内容も求道者の心構え，学道の用心など具体的実践的問題が主で，思索的・哲学的な《正法眼蔵*》とは対照的である。江戸時代に曹洞宗(そうとうしゅう)の学僧面山瑞方(めんざんずいほう)が，加賀(石川県)大乗寺に伝わる写本を発見し，校訂出版して以来，流布本として広く知られるようになった。近年，愛知県の長円寺から，より古形を伝える写本が発見された。　〔田中良昭〕

じょうほうさんぎょう　**【情報産業】**　⇨ 146ページ

しょうぼうじ　**【正法寺】**　別称岩間寺。大津市石山内畑町にある真言宗醍醐(だいご)派の寺。西国33所第12番札所。養老年間(717～723)泰澄(たいちょう)が創建し，往時は堂宇僧坊10数棟(とう)を教えたといわれる。泰澄自作の本尊千手(せんじゅ)観音は，世に〈汗かき観音〉〈雷除(よ)け観音〉とよばれている。

しょうぼうじどうしゃ　**【消防自動車】**　火災に際し，消火や人命救助活動を行なう自動車。消防ポンプのほか，ホース・破壊器具・サイレン・警鐘，その他消火活動に必要な器材を装備し，朱色に塗装され，消防吏員または消防団員が搭乗(とうじょう)して現場へ出動する。わが国では1914年(大正3)横浜・名古屋の両市が外国から購入したのが，消防自動車のはじめである。その後，しだいに台数も増加し，1970年(昭和45)4月1日現在全国で16,274台となったが，同時に消防自動車の性能も著しく向上した。また，最近における高度の経済成長，技術の進歩などを反映して消防対象物の様相も多様化しているため，これに対処する消防自動車もその対象に応じて活動目的が専門化しつつあり，種類も多い。

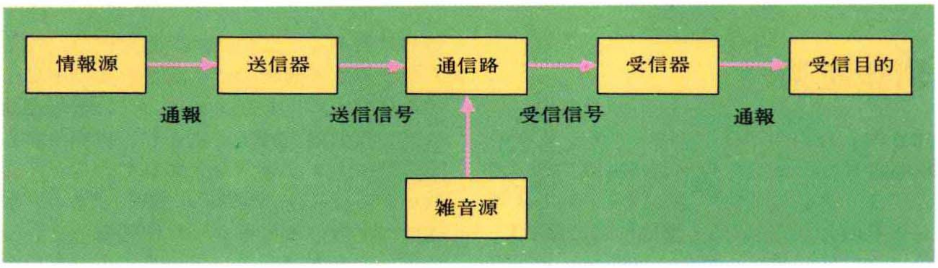
普通ポンプ車が最も一般的で，その他，高圧ポンプ車・化学車・排煙車・照明車・水槽(すいそう)つき消火ポンプ車・救助車・はしご車・救援車・破壊車・高発泡車(こうはつぽうしゃ)・無線車・空中作業車などがある。〔清水　功〕

しょうほうたい　【小胞体】　エンドプラスミック-レティキュラム・内部原形質網状体ともいう。細胞質小器官の一つ。小泡(しょうほう)状・管状または扁平(へんぺい)な袋状の構造で，互いにつながって網目状となり，細胞内に広がっている。形は不安定で，生理的条件の変化とともにつねに変動していると思われる。電子顕微鏡による細胞の微細構造の研究から，ポーターらによって発見された。単位膜からなり，表面にタンパク質合成に関与するリボゾームが無数に付着した粗面小胞体と，それを欠く滑面小胞体がある。小胞体は核膜や細胞膜とも連絡していることが知られ，細胞内の物質交流に役だっていると考えられる。〔高島文三〕

しょうぼうだん　【消防団】　火災・地震・風水害その他の災害に際して，住民の生命・身体・財産を守るため，人命の救助と災害の防除を行なう市町村の公的機関。消防団の構成員は消防団員といわれる。消防団員は，おのおのみずからの生業に従事しながら，必要のつど招集されて消防活動する非常勤の者が大部分である。消防団には常備部を設置しているものがあり，これは火災の警戒および鎮圧のため，常時消防署*に準ずる態勢をとっている。常備部の消防団員は常勤である。消防団は，沿革的には，その源を江戸時代の町火消しに発する長い歴史と伝統を有する団体である。本来，地域社会において，その共同防衛のため自発的に組織されたものから出発したものである。明治時代には，勅令〈消防組規則〉により，消防組として府県知事の管掌とされたが，1939年(昭和14)には〈警防団令〉により警防団となったが，1957年〈消防団令〉に基づいて消防団となり今日に至っている。消防団の設置，名称および区域は市町村条例で定められる。消防団の長は，消防団長とよばれ，消防団を統括し，消防団員は，消防団長が市町村長の承認を得て任命する。〔清水　功〕

しょうぼうちょう　【消防庁】　自治省の外局に設けられた国の行政機関。市町村が責任をもって消防活動を行なう自治体消防の原則によりつつ，地方公共団体の消防活動を総合的に調整・推進してゆくために設置された。おもな業務は消防，防火査察，出火の原因調査をはじめ，消防職員・消防団員の訓練に関する基礎研究および企画，消防施設の強化などで，市町村が管轄する自治体消防の指導助言にもあたる。付属機関として消防研究所・消防大学校・消防審議会がある。➔消防　〔寺尾方孝〕

じょうほうりろん　【情報理論】　通信系における情報との関連を，近代数理統計学を使って研究する科学。アメリカのベル電話研究所のC. E. シャノンによってまとめられた。情報理論で考える通信系のモデルは，図に示すようになるが，電報*を例にとって説明すると，電報を打つ人の頭脳という情報源から，頼信紙の上に文字という通報が出てくる。この通報は，オペレーターが電信機を使って，マークとスペースの組み合わせからできている電信符号に変換して，電信線路に送り出される。このように通報を伝送に適当な符号に変換する装置を送信器または変換器といい，オペレーターもこれに含まれる。通信路は信号を送信器から受信器まで伝送するのに使用される媒体であるが，信号が通信路上を伝送されるとき雑音の妨害を受け，必ずしも正確な信号が届くとはかぎらない。受信器は通信路から信号と雑音とが混じったものを受け取り，もとの通報を復元する装置である。最後に，受信目的は通報を受け取るべき人または物である。このモデルは電気通信だけに適用されるばかりでなく，あらゆる情報の交換や伝達に用いられる。



情報理論

情報理論では情報の内容について量的に把握(はあく)する必要があり，そのため情報量なる概念を導入する。すなわち，情報源からn個の情報が発生し，おのおのの発生確率をp_1, p_2, ……, p_nとするとき，その情報量$H(p_1,\ p_2,\ \cdots\cdots,\ p_n)$は

$$H(p_1,\ p_2,\ \cdots\cdots,\ p_n) = -K\sum_{i=1}^{n} pi \log pi$$

で示され，統計力学*で使うエントロピー*と同じ性質を有する。通常は$K=1$とし，対数の底を2として情報量の単位をビットとよぶ。したがって，Hはエントロピーであるから情報源の不確実さを表現していると考えてよい。たとえば，アルファベット26文字が全部同じ確率で出てくるならば，その情報量$H_0=\log_2 26=4.70$(ビット)である。しかし，実用の言語では各文字の出現頻度(ひんど)は異なるし，またある文字の次に続く文字の出現確率は単独の場合と異なっている。したがって，実用言語のエントロピーはH_0より小さくなり，英語の場合は$H_w=1.65$ビットである。そこで$1-(H/H_w)$をこの情報源の冗長度とよび，英語の場合は65％になる。言語の場合，その言語構造から定まる文字が冗長度分だけあり，われわれが自由に選べる分はその残りになる。

雑音のない通信路に毎秒H'ビットの情報源を接続したとき，情報はそのまま受信器で受け取ることができ，この通信路の伝送速度はH'であるという。そして，伝送速度の最大値Cをこの通信路の通信容量とよぶ。通信路に雑音が加わるときは受信側における受信信号の送信信号からの遷移確率のエントロピーを$H_y(x)$，送信側の情報量を$H(x)$とするとき，この通信路の伝送速度は$R=H(x)-H_y(x)$で示され，Rの最大値が雑音のある通信路の通信容量になる。〔小原啓義〕

しょうほん　【抄本】　原本(作成者が一定内容を表示するために作成した最初の文書)の一部を請求者の指定によって謄写したものをいう。戸籍抄本などがその例である。

しょうまく　【漿膜】

1 脊椎(せきつい)動物・羊膜類(爬虫(はちゅう)類・鳥類・哺乳(ほにゅう)類の総称)の胚(はい)を包む薄い膜である胚膜の一種。陸上生活をする動物の胚を環境条件の変化から守るのに役だつ。羊膜ができるとき，これに連続した外層となるが，その後羊膜とは独立して胚の最外層膜となる。内面は中胚葉性の細胞層で，外面は外胚葉からなる。爬虫類・鳥類と単孔類に属する哺乳類では，この状態で胚の時期を終わるが，他の哺乳類では絨毛膜(じゅうもうまく)とよばれる柔らかい突起をたくさんもった膜に置き換わる。〔蒲原春一〕

2 脊椎動物において，腹膜・胸膜・心膜などのように体腔(たいこう)面をおおっている薄い膜。これはまたひだをなして腸間膜*などとなり，さらに消化管その他の内臓の外面をおおっている。〔橋本　長〕

しょうまるとうげ　【正丸峠】　秩父(ちちぶ)盆地と埼玉県南部・東京都西郊とを結ぶ峠(615 m)。秩父市から東京への近道で，1936年(昭和11)に自動車道路が通じた。旧正丸峠(766 m)はその北側にある。眺望(ちょうぼう)がすぐれ，ハイキングコースとしてにぎわう。1969年には西武鉄道がトンネルでここを抜け，秩父市まで開通した。

しょうまん　【小満】　二十四気*の一。陽暦の5月21日ごろにあたる。太陽黄経は60°。小満とは，陽気盛んで，万物の成長が一応満足する大きさに達することからの名という。

情報産業

【情報とはなにか】サイバネチックス*の創始者N.ウィーナー*のように定義すれば，人間をも含めた全自然は，物質・エネルギーとそのあり方(配列・関係・構造など)との二大項目に分けられる。物質・エネルギーは，なんらかの時間空間的，定性定量的なパターンとなって存在している。ウィーナーの系統では，このパターンをひっくるめて〈情報〉と称している。つまり〈エネルギー〉と〈情報〉の組み合わせで，全宇宙を説明するのである。タンパク質はアミノ酸とその配列のパターンで説明され，話しことばは音響エネルギーとその特有の配列パターンで説明される。これがおそらく最も広い〈情報〉の定義・観念であろう。この視点からとらえれば，人間的自然を含めたもの，人間諸活動のいっさいは，すべて〈情報〉としての半側面をもっている。だから，もしこの意味での〈情報〉についての普遍性をもった理論，科学が樹立できるとすれば，それはすべてを包み込む大総合科学になると想定される。

しかし，ふつうに使われている〈情報〉〈情報化社会〉といったことばが，こうしたウィーナー的な，少し広げればすぐ全宇宙的規模にまで拡張してしまうような意味で使われているわけではない。最初に極大化した意味をあげたので，次には極小とまではいかなくとも，ごく特殊に専門的に限定された操作規定をあげてみよう。いわゆる数学的・自然科学的な情報理論の定義がそれである。アメリカのベル電話研究所にいたシャノンが1948年に発表した論文〈通信の数学的理論〉で，そうした規定がはじめて体系的に展開されるのだが，その骨子はコミュニケーション過程はある種の統計的過程としてみることができること，確率論の用語で数量化できるということにある。特定の情報源(発信地)からいくとおりかのメッセージが送られる場合，受け手(受信地)がどのメッセージを送られてくるか完全に予測できるとき，そのときの情報量をゼロと規定する。そして，どのメッセージも同じ確率で送られてくる可能性のあるとき，その情報量は最大とされる。つまり，受け手の不確定性の減少，選択可能性の減少と情報量の減少とを対応させるのである。もっと俗にいえば，コミュニケーションの受け手が，なにが送られてくるかわからない混沌(こんとん)たるアナーキーな無秩序現象に直面しているとき，彼の情報量は最大であり，生活の中での日常行動がほとんどそうであるように，なにが送られてくるかほとんどわかりきっている事象に向き合っている場合に，受け手の情報量はごく少なくなるわけである。この過程が対数や〈ビット*〉という単位で数学的に表現されることは，知られているとおりである。この情報理論は第2次世界大戦後，主として自然科学の諸分野で大きな威力を発揮しているが，これがいちばん狭い意味の〈情報〉であり，操作的に定義のはっきりした情報概念といってよい。さきのウィーナーもこの専門分野で仕事をしていたわけで，情報の数学的理論は，ときおり〈シャノン-ウィーナー理論〉などとよばれるように，もともと根は一つといってもよいのだが，ウィーナーあるいはその系列は，これをいい意味でも悪い意味でも，ある種の哲学・形而上学(けいじじょうがく)に拡大してしまうわけである。

われわれが近年使っている〈情報〉ということばは，それもないわけではないが，シャノン的な専門概念がそのまま日用語に転化したものでもない。以上みてきたように，〈情報〉の意味内容は，上は大哲学から下は専門の数学理論に至るまでの多様な中間帯域を茫漠(ぼうばく)とおおっている。わが国で1960年代末ごろから流行語となった〈情報〉は，この重層化したあいまいな中間地帯を浮遊しているといってよい。本来，社会的な流行語はあいまいであり，場合によっては無数の個的意味に分解するほど多義的なところにその基本特徴があるのであって，無理に一義的に定義しようとすれば，そのわくからこぼれ落ちるものがあまりに大きい。元来，インフォメーションの翻訳として生まれ，戦前は〈陸軍情報部〉〈情報局〉といったように，もっぱら国家情報機関の名称で使われ，そのためもあってなんらかの権力による情報政策(スパイに象徴されるような諜報(ちょうほう)活動，マス-メディアのコントロール，政治宣伝など)とつながって連想され，社会的にはむしろ暗い響きをおびていたこのことばが，近年になって明るい，少なくとも〈中性的〉な日用語として大規模に復活する過程には，その間の日本社会およびそこでの流動する社会的ふんい気が凝集されている。このことばが流行語として拡散してゆく際には，ほとんど〈情報社会〉〈情報化社会〉といった現代社会規定と結びついてであったことに留意しておこう。

したがって，このことばの規定も当面帯域を確定するだけで，そのわく内でかなりあいまいに使われていることを確認するだけにとどめておこう。そのことは〈情報産業〉の定義にも影を落としているし，いろいろな問題をひき起こしている。たとえば，よくいわれる現代は〈ものの生産(あるいは価値)よりも情報の生産(価値)のほうが意味が大きくなってきた〉といったふうのテーゼにしても，ここでいわれる〈情報〉をウィーナー的な意味でとるならばそれはほとんど意味をなさないし，技術的な〈秘密〉とか商品の中身よりもデザイン・パッケージ・テレビ-コマーシャルのほうが，購買行動の主要因になってきたといった意味ならば，近年に量的比重を増大させたとはいえ，ある意味では大量生産・大量販売以来の連続した問題で，取りたてていうほどのことはないということになってしまう。奇妙な情況ではあるが，〈情報〉ということば自体が，一つの操作対象，イデオロギー性を負わされて，われわれの前に立ち現われているのである。

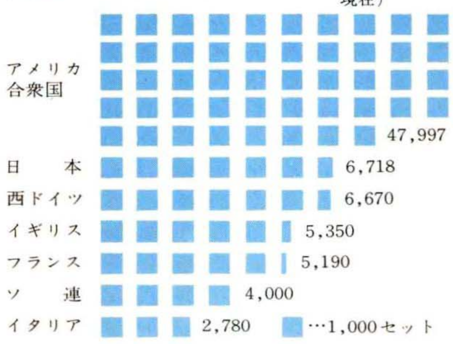
【情報処理の企業化】したがって，〈情報産業〉なることばもまだ統一した定義はない。狭義には，コンピューターを使い，コンピューティング-パワーによって情報を処理・加工・提供する産業とされる。たとえば，産業構造審議会情報産業部会の〈情報処理，情報産業施策に関する答申〉(1969年5月提出)がとっていた立場がそうである。コンピューティング-パワーの使用の有無を基準にしなければ，もっと広い定義となる。典例として経済審議会の情報産業研究委員会の報告書《日本の情報化社会》(1969年10月)をあげてもよいだろう。きわめて抽象的になってしまうが，〈業として，情報の収集・加工または提供，もしくはそのためのシステム開発を行なう産業〉というのがそれである。この報告書は，〈広義の情報産業・知識産業〉といった表現をしているが，わが国にも大きな影響を与えたアメリカの経済学者マッハルプのように知識産業という言い方をすれば，その幅は飛躍的に増大する。彼の著書《アメリカ合衆国における知識の生産と配給》は，放送・新聞などのマス-メディア，広告・PR・電信電話・郵便といった各種のコミュニケーション手段，いわゆる情報サービスの分野，それに教育を全部ひっくるめて〈知識産業〉とよんでいる。彼の場合には，〈合成製品として情報を生産〉するという理由で，情報サービスの中に金融・保険・不動産業まではいっており，いろいろと批判もあるが，これがいちばん広義の定義であり，この観点から国民経済全般をとらえなおそうとする，かなり野心的な試みといってもよいだろう。〈教育投資〉といった言い方も，このあたりを一つの源にしている。こうした観点で，いわゆる情報産業が国民総生産(GNP)の何パーセントを占めるかといった試算もいろいろに行なわれているが，どう規定するにせよこの産業を産業連関表の中にきっちり組み込めない以上，まだその点であまり意味のある議論はできない。

割合狭い意味でのわが国の〈情報産業〉の状況をみてみよう。政府は全体としてかなり精力的にその保護育成政策をとってきている。コンピューター-メーカーの保護助

成はいうまでもなく，各方面にわたって大きな網を広げている。いくつかの指標をあげれば，1970年(昭和45)には〈情報処理振興事業協会等に関する法律〉をつくって，同年10月にそれに基づく情報処理振興事業協会が発足しているし，通商産業省は1969年9月に〈情報処理技術者認定規則〉を制定(1969年11月から認定試験)，1970年には情報処理研修センターを設立，または文部省の理科教育および産業教育審議会が建議した〈高等学校における情報処理教育の推進について〉(1969年12月)の線に沿って，学校教育の中でも各種の情報・技術者教育が進められていることは知られているとおりである。もう一つ大きな意味をもつものは1971年5月に行なわれた〈電気通信法〉の一部改正である。回線解放は1972年からの予定であるが，これによって民間の複数企業が回線を共同専用してデータ通信を行なうこと，また専用線を加入電話・電信などの公衆通信と結合してデーター-バンクなどから一般利用者に情報サービスを行なうことも可能になった。データ-バンクなどの情報提供サービス業，ビデオ-パッケージに象徴されるような知識のパッケージ化が今後急激に発展・定着してゆくことはいうまでもない。そうした発展の上に描かれる未来構想はどういったものであろうか。技術的にいえばすべての情報は加工され，同一のエネルギー単位に代えられて，どこにでも(通信衛星を使えば地球的規模にも)送信できる。受信するほうはこの記号をブラウン管上で変形してテレビの映像で受け取ることもできるし，活字の印刷物として受け取る(新聞のファクシミリ)こともできるし，好みによっては録音した音声として再生することも可能になる，というわけである。情報のネットワークは生活をすっぽりとおおう。SFで見慣れた風景がフィクションのわくを取り除いてある程度実現する，といってもよいだろう。人々の情報産業へのばくぜんとした期待は，確かにそうした便利で，快適な生活へのあこがれにささえられている。

しかし，これからの問題は，こうした技術体系の発展の結果形成されてくる巨大な情報の生産・発信源，それを加工・処理してすみずみまで流してゆく流通ルートの網の目が，だれの手に握られていくか，ということであろう。それが特定の政治権力の手中に一元・集中化されるならば，それは生活の末端，個人の内面的思考に至るまで徹底的に触手を広げて統制操作することを可能にする，最も恐るべき装置と化するであろう。〈情報ファシズム〉の到来である。いまでも，情報の洪水(こうずい)，あるいは現代の仕事・生活は極度に複雑になり，〈処理しきれないほどの情報が流れ込んで人間を混乱させる〉，といった言い方が行なわれている。情報処理技術の修得が叫ばれ，〈整理学〉の必要が説かれる。確かにそれは一面の真実である。いまのマス-メディアの送り出す雑多な情報群に多少忠実につき合うだけでも，人はそうした感じに襲われるだろう。しかし，その中にわれわれのひとりひとりにとって，ほんとうに必要不可欠な情報は，いったいどれだけあるのか。知らなければならない情報はどのくらいはいっているのか。それは人間と情報，あるいは生活とコミュニケーションの関係といった基本的な問題へわれわれを下降させていく。

主要国のコンピューター実働状況(1970年3月末現在)



情報産業それ自体の展開と並んでもう一つ現在進行形なのは，いわゆる〈シンク-タンク*〉の設立に体現されているような，広い意味での情報-システム化理論，あるいはそうした計画思考様式の普及・拡大であろう。物を生産するよりも情報の生産のほうが優位にたつ〈情報化社会〉にわれわれははいりつつある，などともいわれている。それは全体の文脈の中でみるときに，どんな意味をもっているか。

【情報化社会と人間】〈情報社会〉，あるいはそこへ至る移行期としての〈情報化社会〉といった名称はわが国の造語である。それが普及してゆく背景には前記情報産業の急速な展開が一つの条件としてあったわけだが，同時に1960年代後半期のイデオロギー的〈社会〉規定としてジャーナリズムにのって拡散されていったことも否めない事実である。それは〈大衆社会*〉論に代わるものとして現われてきた。図式的にいえば，戦後1940年代の，かなり一般的なモデル社会のビジョンが〈民主化された社会〉，民主的な〈新しい市民社会〉であったとすれば，大衆社会論は，そのモデルとした民主的〈市民〉像，近代的人間類型というフィクション・前提が音をたててくずれていく，少なくともその理念のようにうまくいかないことがあらわになる1950年代後半に姿を現わしてくる。甲らのないカニ，バラバラな砂のごとき大衆，といった描写に当時ある程度の現実感があったことは確かである。そうした系譜の中に情報化社会をおいてみるとどうなるのか。それまでは規定の基軸は，社会の平均的人間像，普遍性をもつと思われる人間類型に焦点をあてて構成されていた。情報化社会は，基軸が人間の外側に，広い意味での技術体系にとられている点で，質的に異なっている。その意味ではそれはどこへいきつくかはわからぬが，新しい段階の始まりである。いま行なわれている情報理論のあるものは，コミュニケーションの効果を検討する際にも，なんらかのコミュニケーションを受ける個体の内面は問わない。それは一種の〈暗箱〉であって，そこへ投入されたもの(インプット)と，言語であれ行動であれそこから出てゆくもの(アウトプット)を量化して関連させ，なんらかの関数関係に置換していく，といった前提をとる。それは操作・機能主義の一つの極にまでのぼりつめている，といってもよいが，いわゆるこれまでの意味での〈人間〉はこうしたわく組みの中にははいってこない，視野の外に置かれていることに注目すべきであろう。

さきのシャノンの理論が，電気通信の，一般に機械コミュニケーションの理論として構想され発展してきたことを思い返すとよい。それは本来，メッセージの内容・意味を捨象することで，数量化を可能にしたのである。それは単純に人間コミュニケーション——送り手が受け手になり，受け手が送り手になる日常的な会話などを含む——の理論に転用はできない。一つの情報が個別・具体的な人間に対してもつ意味は，無限に多様でありうる。しかも，最もありふれた会話のようなコミュニケーションを考えてみると，そこで相互に表現・伝達される意味をになっているものは，単にことば(言語)だけではない。それぞれのニュアンスに富んだ顔の表情・身ぶり，要するにさまざまな肉体の動き，それに対話者相互の置かれている具体的な状況がことばと複雑にからみ合って，相互に〈意味〉が表現・伝達されてゆく。しかも，厳密にいえば送り手の〈意味〉が受け手にそのまま100％伝わることはまず不可能に近い。われわれは，まだ人間とそうした〈意味〉を含んだ情報との関係を，十分解きあかすことはできない。戦後一時期支配的だったコミュニケーション信仰は，当然のことながら現実の壁の前ですっかりくずれ去ってしまったが，裏返しのディスコミュニケーション信仰からも，格別なにものも出てこない。現実の各個人がそれぞれに新しいコミュニケーションの論理を模索していく中で，おそらく〈情報〉と人間の新しい関係もしだいにその全容を現わしてくるにちがいない。

〔香内三郎〕

しょうまんぎょう 【勝鬘経】 インド大乗仏教の代表的な経典。1巻。436年求那跋陀羅(ぐなばっだら)によって漢訳された。阿踰闍(あゆだ)国王友称の仏教篤信の妃である勝鬘夫人によって説かれ，在家の女性が仏法についてブッダと対話するところに特色がある。主題は如来蔵の思想で，衆生(生あるもの)の現実性はけがれたものであるが，本来的には清浄であり，如来という理想の性質(仏性，如来蔵)を有するものであると説く。なお，聖徳太子の作といわれる《勝鬘経義疏(ぎしょ)》はこの注釈書である。〔大南龍昇〕

じょうみゃく 【静脈】 全身の毛細血管から心臓に向かう血管。動脈より直径は大きく，容量も大きい。しかし壁は薄く，組織学的には筋繊維・弾性繊維が少なく主として膠原(こうげん)繊維からなり，中膜と外膜との区別が動脈ほど明瞭(めいりょう)でない。硬膜静脈洞(じょうみゃくどう)，脾柱(ひちゅう)静脈，脳の静脈は筋層をまったく欠くが，子宮静脈では反対に筋層が発達する。静脈血(組織から受けとった炭酸ガスを含み，暗示色を呈する血液)を入れ，静脈性毛細血管に続いて細静脈・小静脈となり，中等大静脈，上・下大静脈となって心臓にもどる。上・下大静脈の圧はほとんど0である。中等大静脈，特に四肢(しし)の静脈の内腔(ないこう)には血液の逆流を防ぐ静脈弁がある。静脈弁は通常2枚の弁で，ポケット状を呈している。

〔幡井勉・橋本長〕

じょうみゃくちゅうしゃ 【静脈注射】 液状とした薬剤を治療や検査の目的で注射針やチューブを通して直接からだの静脈内へ注入する方法。通常は四肢(しし)の皮下静脈に注入する。注入量が大量となる場合は緩徐な速度で滴下する(点滴静注)。静脈注射は薬剤を直接血流中へ入れるため消毒不完全の場合感染の危険が大きく，また薬剤の種類により注入できないもの，あるいは注入に際し慎重な注意を要するもの，静脈炎を起こしやすいものなどがある。しかし反面，薬剤が分解されることなく直接作用するため速効性があり，強力な効果を期待できる。主として鎮痛薬，抗生物質やショックの際などに用いられる。〔佐野隆志〕

じょうみゃくりゅう 【静脈瘤】 静脈が部分的に不規則に拡張し，蛇行(だこう)している状態。主として下肢(かし)の皮静脈に起こり，中年以後の女子に好発する。原因は不明であるが，静脈の拡張・伸展，静脈弁の機能不全など，先天性ないし体質的な因子または静脈血栓症(けっせんしょう)・血栓性静脈炎・妊娠などの後天的な因子が考えられる。症状は，静脈の怒張・迂曲(うきょく)，下肢の疲労感，患部の重圧感・灼熱(しゃくねつ)感などで，進行すれば溢血(いっけつ)・色素沈着・皮膚毛細血管拡張などが起こり，静脈炎・静脈血栓・静脈結石を伴う。治療法は，患肢を弾力性のある幅広い帯で圧迫包帯し，皮静脈の怒張の増悪を防止したり，長くつした・ゲートルなどを使用し，さらに長期間の起立を避ける。その他，注射療法・手術療法などがある。なお，下肢以外では，痔核(じかく)や肝硬変患者の胃・食道壁・腹壁にみられる静脈瘤などがある。〔玉城　巌〕

しょうみょう 【称名】 口に仏や菩薩(ぼさつ)などの名を唱えること。浄土教では，極楽往生のために，口に阿弥陀仏(あみだぶつ)の名号を〈南無阿弥陀仏〉と唱えることを称名という。念仏には，諸仏などを観察して心にこれを思い続けるという観念の意味があるが，これに対して口にその名号を唱えることを称名念仏といっている。特に浄土宗ではこの称名を称名正因といって，阿弥陀仏の本願に誓われた実践行として最も重視する。〔大谷旭雄〕

しょうみょう 【声明】 梵語(ぼんご) śabda-vidyā(シャブダ-ビドヤー)の訳で，音声・言語に関する学の意。古代インドにおける五つの学問(五明)の一つで，語法・訓詁(くんこ)の学をいったが，中国で隋(ずい)から唐にかけ，インド文字の一つである悉曇(しったん)がはいるに及んで，この悉曇の学を声明とよぶようになった。しかし，現在一般には，仏前に唱える讃頌(さんじゅ)・歌詠を声明といい，天台・真言の諸流によって，顕教・密教の声明が伝えられる。〔金岡秀友〕

しょうみょうじ 【称名寺】 横浜市金沢区金沢町にある真言律宗の寺。北条義時(ほうじょうよしとき)の孫金沢実時(さねとき)が亡母の菩提(ぼだい)を弔うために建立(こんりゅう)した念仏寺であったが，1267年(文永4)妙性房審海を開山として真言律宗に改めた。1323年(元亨3)の絵図によれば当時の伽藍(がらん)の規模の大きさが知られるが，現在の建物は後世のもの。寺内に金沢文庫がある。

しょうみょうだき 【称名滝】 富山県南東部，常願寺川の支流称名川の渓谷(けいこく)にかかる滝で，中新川郡立山町に属する。水量も豊かで，350mという日本一の落差を誇り，滝壺(たきつぼ)の直径は約60mに及ぶ。普通は4段に分かれているが，雨天のときは一大水柱となって落下し，その景観は壮大である。中部山岳国立公園の一部をなす。

じょうみん 【常民】 民間伝承を保持している階層。英語のフォークに該当する。ふつう，平民・庶民・人民・民衆というと政治的語感が伴いがちなので，柳田国男が民俗学用語として用いた。

しょうむいんしょかん 【商務印書館】 中国の上海(シャンハイ)に1897年，はじめ印刷所として創業，のち最大の出版会社となった。1903年，日本の出版社金港堂と提携して事業を拡張，日本人顧問を迎え，印刷・出版技術を改良した。教科書をはじめ，各専門領域にわたって，内容・体裁ともに近代出版を代表する会社となった。書館35周年記念にあたってまとめた歴史では，1903〜1913年(明治36〜大正2)を〈中日合資時期〉といっている。1932年(昭和7)の上海事変で，日本軍の爆撃のため社屋は破壊された。中華人民共和国の新しい出版界で事業を続けている。近代出版事業の面における日中文化交流上，重要な存在である。〔斎藤秋男〕

じょうむかい 【常務会】 株式会社の企業運営において，社長を補佐して全般的管理機能を営むために設置された協議機関。通常は，社長・副社長・専務取締役および常務取締役などから構成される。取締役会のような法定機関ではないが，最高管理職能(トップ-マネジメント)の重要な機関として，わが国における大企業の間でしだいに普及しつつある。

しょうむてんのう 【聖武天皇】 (701〜756) 在位724〜749。文武天皇の第1皇子。母は藤原宮子。皇族皇后の慣習を破って藤原不比等(ふひと)の娘光明子(→光明皇后)を皇后とした。740年(天平12)の藤原広嗣(ひろつぐ)の乱後恭仁(くに)京・紫香楽(しがらき)京・難波(なにわ)京に遷都し，745年平城京に復都したが，その間墾田永代私有法を発布，国分寺・東大寺を創建，また大仏鋳造を発願して天平文化(→天平時代)の最盛時を現出させた。749年(天平感宝1，天平勝宝1)皇女孝謙天皇に譲位し，出家。法名は勝満。陵墓は奈良市法華にある佐保山南陵。

〔高崎徳次〕

しょうめい 【証明】 公理・定理のような真と認められた命題をもとにして，三段論法などのような有効な推論により，ある命題が真であることを導き出すこと。ここで公理とは，数学で理論を組み立てるときの前提とする命題であり，定理とはその真なることがすでに保証された命題である。このほか，証明には用語の意味を規定した定義も用いてよい。

証明された命題は，その前提を認める限りは例外なく真である。このように，証明はある命題が例外なく成立することを保証する方法である。さらに，証明は数学を体系化する役割も果たす。すなわち，数学ははじめにいくつかの公理(公理系)を設定し，用語を定義し，それらをもとにして定理を次々と証明することにより，体系化される。

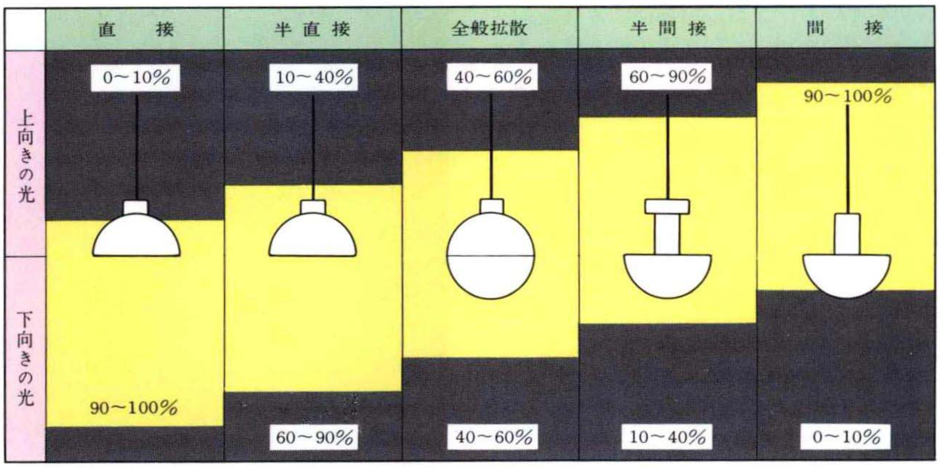
証明法は，直接証明法と間接証明法の二つに大別される。一般に，数学の命題は〈PならばQである〉という形をとる。このとき，Pを仮説，Qを結論という。①直接証明法：〈PならばQである〉が真であること(このとき〈P⇒Q〉と書く)を証明するのに，仮定Pから出発して直接に結論Qを導く証明法であって，間接証明法と対比して用いられる。②間接証明法：仮定Pから直接に結論Qを導くのでなく，間接的に証明する方法である。間接証明法には背理法・転換法・同一法などがある。㋑背理法：〈P⇒Q〉を証明するのに，〈Pであって，Qでない(すなわち，「P⇒Q」が成立しない)〉と仮定して推論を進め，矛盾を導き出し，これによって〈P⇒Q〉のなりたつことを推論する

方法。帰謬(きびゅう)法ともいう。㋺転換法：いくつかの真なる命題があって，それらの命題の仮定が起こりうるすべての場合を尽くしており，それらの結論はどの二つも両立しないときには，はじめのいくつかの命題の逆はすべて真である。これを用いた証明法を転換法という。㋩同一法：真なる命題〈P⇒Q〉があり，しかもQであるものがただ一つしか存在しないならば，Qであるものは P であるといえる。これを用いて，〈P⇒Q〉から逆の命題〈Q⇒P〉を証明する方法を同一法という。　〔杉岡司馬〕

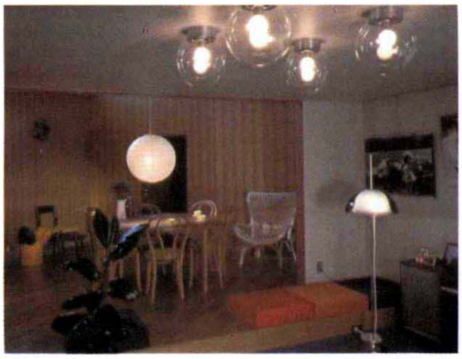
しょうめい　【照明】　種々の光源を使って人間の生活に役だてること。人類の歴史の中で最も画期的なことは，火を使うことを覚えたことである。火は人類に寒さをしのぐことを教え，夜からやみを追放した。照明の歴史は，この原始時代のたき火からスタートする。BC3000年にはすでに油燈が使われていたが，その後ろうそくからアーク燈へと移り，1880年前後の白熱電球の発明が近代的照明の幕あけとなり，螢光燈*(けいこうとう)の出現以来の種々の放電燈の開発は，人類に第2の太陽をもたらした。

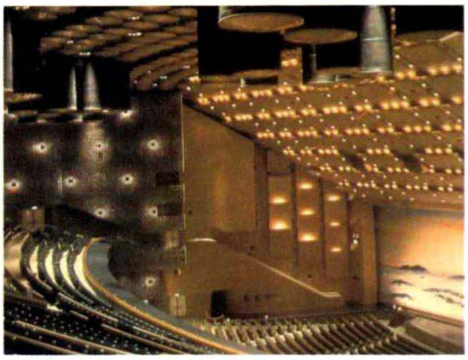
〔光源の特徴〕①白熱電球：効率は悪いが，その赤みを帯びた光は人間の目に暖かみのある落ち着いたムードを与えるため，ムード照明用として好んで使われる。②螢光燈：白熱電燈に比べて効率が約3倍ほどよく，その青みをおびたクールな光は活動的な場所に好んで使われる。世界で日本が最も普及している光源である。③水銀燈：螢光燈に比べて，さらに青みの強い光を出し，効率は非常によい。もっぱら外燈用または工場・運動場用として使われる。ただし，点燈してから正常な明るさになるまでに約5分，また一度消すと再点燈後正常な明るさになるまでに約7～10分もかかるのが難点である。④キセノンランプ：螢光燈・水銀燈の水銀の代わりにキセノンガスの放電を利用したランプで，自然光に近い光を出す。長アーク形と短アーク形とがあり，前者は外燈・探照燈に，後者は劇場用のスポットライト，映写機の光源として使われる。⑤ナトリウムランプ：ナトリウムの放電を利用した電燈で，特有の黄色の光を出す。この光は霧のかかった晩でも遠くから見えるので，高速道路やトンネル内部の照明用として使われる。

〔照明器具〕裸の光源だけでは，実際の照明とはならない。その用途・目的によって，まぶしさを防いだり，光の方向を制御したり，インテリアにふさわしい装飾をつける必要がある。また，螢光燈のように，起動スイッチ(またはグローランプ)とか安定器がないと点燈しない電燈もある。このように，光学的・電気的または意匠的な機能を備えた光源を取り付けるものを照明器具という。図は一般的な器具型式を示したものである。



照明方式の種類





照　明
照明器具は，明るさと陰影および装飾などの効果を考えてきめられる　(左上)一般住宅　(右上)劇場(立正佼成会普門館)　(下)クラブ



〔照明の方式〕今まで述べた光源・照明器具を利用し，その室・場所の用途・目的に応じての照明のしかたにもいろいろな方式が考えられる。ある場所では目的物だけを明るく浮き上がらせ，ある場所では室全体を柔らかな光で均一に照明し，またある場所では天井・床または壁のみを明るくする必要がある。現在一般に行なわれている照明の方式を図に示す。

〔未来の照明〕①光源：光源の開発は近年急速な進歩を遂げている。自然電球の場合，赤みの強い光を白くすること，また寿命をより長くすることが年来の課題であったが，ハロゲンランプの出現がややその夢を実現したといえよう。これは，タングステンのフィラメントの蒸発を防ぐため，電球にハロゲン(塩素・ヨウ素・臭素など)を封入したものである。一方，螢光燈に代表される放電燈の発展はいよいよ効率よく，いよいよ自然光に近い光源の出現が期待され，後述の調光装置の進歩と相まって人間はやがて昼から夜の照明を自由に演出できる時代が来るであろう。②照明手法：超高層ビルの出現は，従来の照明手法を一変させた。同形・等面積で，窓の大きさ・方向がまったく同じ室を考えたとき，窓からの相対位置における明るさは階が増すごとに明るくなる。特に超高層ビルでは1階と最上階とでは格段の差異がある。そのため，高層階での同一視界内の窓の輝度*と，室内特に床・机上などとの輝度との不均衡が激しくなる。そこで，昼間でも窓・光源を含む室内すべての明るさの差を少なくするために，室内照度を上げる必要がある。それに伴って，同じ室面積でもより多くの照明器具を設備するため，これらの発熱による温度上昇と光源自体の輝度の上昇が大きな問題となる。温度上昇を防止するために，空調器具(照明器具に換気孔をつけ，器具とランプのまわりを冷却できる構造のもの)を

採用している。また，室内の明るさの差を少なくするために，昼と夜の明るさを変えるとか，窓の近くから離れるにしたがって徐々に明るさを落とすような調光手法を取り入れることが必要になったり，照明設計上大きな変革をもたらしている。③調光装置：ランプの明るさを調節したり，点滅したりする装置である。最近の繁華街のネオンサイン・広告塔のランプの点滅調光は，ほとんど半導体*による調光装置を利用している。宇宙時代とともに，半導体の進歩は驚異的で，調光装置にも感度の早い大容量のものが自由に使えるようになった。現在，バー・クラブ・喫茶店などで，音楽の周波数に合わせて赤・青・緑のランプを自由に調光させ，場内のムード盛り上げ用としておおいに使われている。将来は一般の家庭においても，室ごとに各種の光源と調光装置を自由に組み合わせて，そのときどきの光の色と明るさを調節してムードを楽しむことができる時代がかならずやってくると思われる。〔秋山　隆〕

しょうめいじけん　【鐘銘事件】　1614年(慶長19)徳川家康(いえやす)が大阪の陣*(冬の陣)を起こし，豊臣秀頼*(ひでより)を滅ぼそうとしてしくんだ事件。家康はその晩年，秀頼が堅城大阪城に拠ること，豊富な金銀を有すること，大名の中になお豊臣氏に恩顧を感じている者が少なくないことを不安とし，秀頼に金銀を散じさせるため近畿(きんき)社寺の営繕を命じた。大地震で倒壊した京都の方広寺*も再建されたが，その寺鐘の銘文中にある〈国家安康〉の語句は，家康の〈家〉と〈康〉とを切り離して呪詛(じゅそ)するものであるといわれのない抗議をして，同年10月諸大名に大阪城の攻撃を命じた。〔高崎徳次〕

しょうめいだん　【照明弾】　夜間戦闘の際の射爆撃用・索敵用，あるいは航空機の偵察(ていさつ)写真撮影用・救難捜索用などの目的のために，地上・海上に数秒～数分間の照明を与える砲弾もしくは投下弾。構造は，延期信管による空中破裂により弾体に収められた光剤筒が飛び出し，強い光を放ちながら落下傘(らっかさん)によってゆっくり降下する式のものが多い。光剤にはマグネシウム・硝酸バリウム・アルミニウムなどが多く用いられ，落下速度は毎秒4～30m，大形のものは100万～500万燭光(しょっこう)の明るさを発する。〔藤井冬木〕

しょうめつじこう　【消滅時効】　⇨時効

じょうめんほう　【定免法】　江戸時代の税法。江戸初期には検見(けみ)法*が一般に行なわれていたが，その弊害や不備を正すため，1721年(享保6)以後広く採用されるようになったもので，過去数年ないし十数年の収穫高を平均して租率を定め，3か年・5か年・10か年などの一定期間中，原則として豊凶にかかわりなく定率の租税を納めさせた方法である。期間の延長継続を継年



縄文式土器　(上)火炎形の土器　長岡市立科学博物館蔵　(中)台付の浅鉢　宮城県沼津貝塚出土　東北大学蔵　(下)急須形の土器(晩期)　青森県亀ヶ岡遺跡出土　東北大学蔵

季(つぎねんき)といい，ひどい不作の年は願いによって破免が許された。〔岡山泰四〕

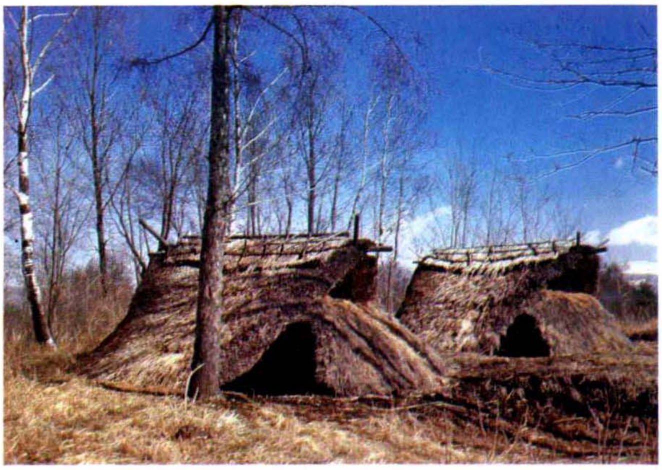
しょうもん　【声聞】　梵語(ぼんご)śrāvaka(シュラーバカ)の訳で，声を聞く者の意味。はじめはブッダ*の説法を直接に聞いた仏弟子(ぶってし)を意味したが，大乗仏教では縁覚*・菩薩*(ぼさつ)に対して二乗・三乗の一つに数えられ，みずから阿羅漢*(あらかん)となる自利行のみを行なう低い段階の仏道修行者，いわゆる長老教団をさす。

しょうもんき　【将門記】　平安中期の軍記物語*。1巻。〈まさかどき〉とも読む。作者は東国関係の僧徒かといわれるが，確証はない。10世紀中ごろに東国で起こった平将門(たいらのまさかど)の反乱を描く実録的な作品。成立は，乱鎮圧後(940)まもないころとされる。和文調の強い変格漢文の文体は，合戦記というべき作品の性格とともに，軍記物語の先駆をなす。内容については反乱内部からの視点が特色といえる。

じょうもんしきどき　【縄文式土器】　日本の石器時代*に製作・使用された土器*。土器の表面の一部に縄目文様が施されているので，縄文土器・蓆紋(せきもん)土器などともよばれた。わが国で最も古い土器であるが，世界の原始土器中，類のない精巧な工芸美で知られている。数千年間自然採集を主とした社会の中で，生活用具として製作・使用され，その間まったく外国の影響を受けず，沖積世(ちゅうせきせい)初期から弥生(やよい)式土器*が現われるまで独自の発達をみせた。この時代を縄文時代*という。素焼きで燃成度が低く黒かっ色，手づくりで，たき火の自然火力で焼成された。縄目文様は，土器をつくる際に粘土のかわききらないうちに，その表面になわまたはよりひもなどをあて，手のひらでこれを回転するようにしてつけた圧痕(あっこん)である。文様は一般に縄文を地文として，その上に施された幾何学文・渦巻文(うずまきもん)などで構成され，沈文と浮文とがある。日本列島の南北にわたって広く分布し，いずれも沖積世の地層から発掘・出土されている。時期・地域の差で器形・文様・意匠は複雑多様の変化を示し，縄文式の中でさらにその形式が細別化される。各標式的名称はふつう最初に発見された遺跡名により名づけられ，考古学上は，早・前・中・後・晩期に大別される。〔高崎徳次〕

じょうもんじだい　【縄文時代】　日本考古学上の時代区分。縄文式時代ともいうように縄文式土器*を製作・使用していた時代で，新・旧両大陸の新石器時代*と比定される。約BC6000～200年の数千年間，日本各地で時期的・地域的に多様の変化を示しつつ発達した。その間狩猟と漁労を中心にする自然採集で生活し，水辺では貝類を多量に採食したため，貝塚(かいづか)が日本列島の南北にわたり広く分布し，その中に包含するさまざまの遺物を資料として，明治以後縄文研究が進められた。個別差の著しい土器*の形式を手がかりに編年が行なわれ，早・前・中・後・晩の5期に区分されている。石器*は前期ごろから磨製石器が現われ，土器・骨角器とともに時代が下るにつれて，工芸的に精巧の度を加えている。住居は竪穴(たてあな)住居*が主で，食料源の制約から共住人口が限定されたが，中期以後沿海の資源に恵まれた地域などでは相当規模の集落遺跡を現在に残している。死者は住居近くに直葬されたが，その縄文人骨の測定から，縄文時代人はすでに日本人の根幹を形成しているとする学説が有力となった。歯形加工の風習から成年式*儀礼が，また後期装身具から一種の身分が存在していたことが知られる。西暦紀元前後を境にして，大陸から渡来したまったく異質な金属文化・水稲栽培を主軸とする弥生(やよい)文化(➡弥生時代)に接するに及び，縄文時代は終末する。〔高崎徳次〕

しょうもんじってつ【蕉門十哲】 俳諧(はいかい)用語。芭蕉*(ばしょう)の門人中10人の高弟をあげるもので，釈迦(しゃか)の十大弟子(でし)や孔(孔子)門十哲などの先例から考えられた。芭蕉在世中にはこの名はなく，許六・支考らのあげるところも一定していない。普通には《続俳諧奇人談》所収の蕪村(ぶそん)の画讃(がさん)にあげる〈其角(きかく)・嵐雪(らんせつ)・去来・丈草・支考・許六・杉風(さんぷう)・野坡(やば)・越人・北枝〉の10人をいう。江戸時代の諸書にあげるもののうち，共通するのは其角・嵐雪・去来・丈草の４人で，ほかに曾良(そら)・惟然(いぜん)・凡兆・千那(せんな)・桃隣・曲翠(きょくすい)・正秀(まさひで)・尚白(しょうはく)・洒堂(しゃどう)らをあげるものもある。〔奥野純一・尾形仂〕



縄文時代
復元された縄文時代中期の集落　長野県与助尾根遺跡

しょうや【庄屋】 ⇨名主

しょうやく【生薬】 主として医療用植物の特定部分を有効成分が多いと思われる時期に採集し，それに簡単な操作を加えて，医療に供しうる状態に仕上げた医する材料のことである。簡単な操作とは，水洗後直射日光にさらす，一度蒸してから乾燥する，火であぶるなどの程度の物理的操作を加えることで，漢方ではこれを修治という。西欧では，もう少し手を加えて，チンキ・エキス・流動エキス化して用いる傾向があり，これをガレヌス製剤という。生薬中では，細胞膜に保護されて有効成分はほぼそのままであるが，粉末・エキス・チンキ剤化したものの中では，大部分が酸化されるので，成分および薬効上にかなりの差異が生ずる。たとえば正倉院に保管されている生薬の調査では，1,200年余も経過していながら成分はほとんど変化していないが，ロート根中のヒオシアミンは，ロートエキス中ではほとんどアトロピンに変化し，また，大黄は弛緩(しかん)性下剤であるのに，粉末化した大黄はむしろ刺激性下剤に変化する。生薬とエキス化したものとの間には，加工上のちがいはわずかでも，空中酸化の問題を一つの境として，このような差が生ずることは，特に生薬治療に際して注意を要する点である。なお，生薬の大部分は植物性であるが，動物や鉱物からも採取され，現在でも使われている。

①鉱物性：芒硝(ぼうしょう)(硫酸ナトリウム〔古典では硫苦〕)・石膏(せっこう)(含水硫酸石灰)・滑石(含水ケイ酸アルミニウム)・代赭石(たいしゃせき)(赤鉄鉱)・礬石(ばんせき)(ミョウバン)・鹹砂(しんしゃ)(還元鉄)・伏龍肝(ぶくりゅうかん)(かまどの焼土，素焼きの土器)など。②動物性：龍骨(マンモスの骨の化石)・牡蠣(ぼれい)(カキの貝がら)・阿膠(あきょう)(にかわ・粗製ゼラチン)・胆嚢(たんのう)乾燥物(熊胆(ゆうたん・くまのい)など)・反鼻(マムシの皮を除いた乾燥物)・鹿茸(ろくじょう)(シフゾウの幼若な角)・海狗腎(かいくじん)(オットセイの睾丸(こうがん)と精管と陰茎全体)・豚脂(とんし)・麝香(じゃこう)・牛黄(ごおう)(ウシの胆石)・馬糞石(ばふんせき)(ウマの腸結石)・蟾酥(せんそ)(俗にいうガマの油)・露蜂房(ろほうぼう)(スズメバチの巣)・白殭蚕(びゃくきょうさん)(かびの一種におかされたカイコの死体)・犀角(サイの角)・鶏子黄(卵の油)など。

生薬には西欧産・中国産・日本産の３系統のものがあり，それぞれ独自の発想法に従って応用されてきた。

①西欧産：ジキタリス葉・同チンキ，ウワウルシ葉・同流エキス，大黄末・同チンキ，センナ葉末・同舐剤(しざい)，麦角・同流エキス，コンズランゴ皮・同流エキス，ホミカ(ストリキニーネノキの種子)エキス・同チンキ，ストロファンツス子・同チンキ，ベラドンナ(葉)エキス，あへん末・同チンキ，吐根(トコンの根)・同チンキ，コロンボ根末，ゲンチアナ根末，カスカラ皮(カスカラサグラダの樹皮)・同流エキス・同糖衣錠，吉草(カノコソウの根)チンキ，杏仁(きょうにん)(アンズの種子)水，天然カルルス泉塩，エプソム塩など。この発想に準拠して，明治以来開発された和産生薬は，苦味・健胃薬として用いられるゲンチアナ根末の代わりとして当薬(センブリの草部)末・竜胆(リンドウの根)末など，強心薬のジギタリス葉に代わりうるものとしてフクジュソウ・スズラン・蟾酥(せんそ)(いわゆるガマの油)など，去痰(きょたん)薬のセネガ根の代わりに桔梗根(ききょうこん)・ヤツデ葉・皀莢(そうきょう)(サイカチの果実)・遠志(おんじ)(イトヒメハギの根)・エゴノキ果皮などが，鎮咳(ちんがい)・去痰(きょたん)薬の杏仁水の代わりに桃仁水・枇杷(びわ)仁水など，苦味・健胃薬のコロンボ根末に代えて黄柏(キハダの樹皮)末・黄蓮(オウレンの根)末など，*催吐・去痰薬の吐根(主有効成分エメチン*)に代えてヒガンバナ-アルカロイドなどが開発された。この方向は，主有効成分中心主義を一つの軸にして，その抽出と臨床的応用の道を歩み今日に及んだ。しかし，西欧に芽ばえたこの発想は，一つの大きい壁に突き当たりつつある。たとえば，あへんからはモルヒネを，ジキタリス葉からはジギトキシンを，麻黄からはエフェドリンを，各種臓器からはホルモンを分離抽出し臨床的に応用したが，それらは痛みを止める，苦しい発作を止めるという意味では，それ相応の役割を果たしたが，あくまでも，一過性的に病状を消すにとどまり，言い換えれば見せかけの治癒(ちゆ)像(虚像)をいやすにとどまって，病態を改善し病人を治癒に導く道筋とは結びつかないことが明らかとなり，連用により多くの医原病の誘因をなすことも判然した。新薬に比し，生薬は，とかく原始的な薬物ででもあるかのように思われがちであり，西欧でも粗薬などとよばれるが，中身がおそまつでないことはいうまでもなく，むしろ臨床的立場からみれば新薬よりもすぐれた面がある。

②中国産：甘草(カンゾウの根)，烏頭(うず)(附子)(トリカブトの根)・大黄(ダイオウ属の根茎)・麻黄(シナマオウの草部)・杏仁・薏苡仁(よくいにん)(ハトムギの果実)・柴胡(ミシマサイコの根)・桂枝(けいし)(ニッケイの木部)・大棗(たいそう)(ナツメの果実)・半夏(カラスビシャクの根茎)・人参(オタネニンジンの根)・黄連・黄柏・辛夷(しんい)(コブシのつぼみ)など。西欧系とはまったく異なる発想のもとに，一定の〈証〉に照応した処方が臨床的立場から案考されている。つまり，西欧系におけるような病原や症状の抑制はその主目標でなく，病原と生体との反応(からみあい)の結果生じた特有の証を改善することを指向している。したがって，汗・吐・下という生体が具有する生来の治癒機転を基礎に置き，病原や症状のセーブはその次に置くのである。つまりかならずしも主有効成分に重きを置く必要はない。そのような多味薬剤療法が，いわゆる漢方であり，その作用は全体的かつ間接的である。この目的に添い，漢方で使われる生薬(漢薬)に代えうる和産生薬の開発は，とくに，徳川時代において隆盛をきわめ(本草学)，現在からみてもすこぶる適切な類似生薬(和産漢方薬)多数を開発した。

③日本産：ゲンノショウコ(急性腸炎)，茶澁・南天葉(湿疹(しっしん)・口内炎)，モモの葉(汗疹)，クリ澁(熱傷)，附子(筋肉痛

に外用)，梅肉エキス(腸炎・膣炎)，ニンニク(腸炎・咽頭(いんとう)・扁桃炎(へんとうえん)・腸寄生虫病など)，ドクダミ(汗疹・白癬(はくせん)症)，忍冬(スイカズラ)(口内炎・舌炎・咽頭・扁桃炎・湿疹など)など。これら，和産生薬を有効成分の面からみると，澁(タンニン質)を中心としたものが多いのが特徴的であり，しかも，その作用は直接局所に働くものばかりで，その発想は西洋医学における新薬療法と一致する。従来，この種の和法(民間療法)は，煎(せん)じて服用するという形式上の相似から，漢方に同じかまたは近いものとみなされてきたが，用薬の基本から類別すると，むしろ西欧系の発想と軌を一にしており，漢方のみが独特(間接的で全体的)であることは注目に値する。なおインドにはアユールベーダ医方があり，多くの生薬が用いられるが，特に独自の発想による用い方であるとは思えない。

同じ生薬が和・漢・洋において独自の発想に基づき用いられていることはすでに述べた。このような生薬を研究する科学の一分科を生薬学という。ところがこれは，真偽鑑別術として西欧で芽ばえ，明治期にわが国にも導入された。しかし，その後研究の中心は化学的観点から有効成分の抽出におかれ今日に及んだが，生薬もまた薬物である以上，その中心主体は作用性でなければならないであろう。そこで，これを現状にあてはめてみると，わが国の生薬学が真に生薬学として，科学の一分科を正当に主張しうるためには，かなり大胆な改革(再編成)を要する。〔伊沢凡人〕

じょうやく 【条約】 書面の形式によって締結された国家間の合意。条約・協定・協約・規約・憲章・規程・取極(とりきめ)・議定書・覚書・宣言・交換公文・暫定協定など種々の名称が付せられるが，いずれも広義の条約である。条約の当事者は原則として国家であるが，最近では国際組織が当事者になることも少なくない。当事国を代表して交渉や署名(→調印)にあたる者は，全権委任状*を携行しなければならないが，国家の元首・首相・外相はこれを必要としない。交渉の結果，条約の内容がまとまると署名が行なわれ，条約はこれによって確定する。条約の中には署名のみで効力を有するものもあるが，たいていの場合その成立にはさらに批准の手続きを要する。批准は，国家が特定の条約に拘束される意思を最終的に決定する行為である。批准されると，批准書が交換または寄託され，条約は発効する。さらに，国際連合加盟国については，これを国際連合事務局に登録する義務がある。なお，条約の締結手続きやその効力・改正・終了などについて，このほか種々の国際法規が存在するが，国際連合国際法委員会の努力によって，これらの法規が条約化されている(条約法に関するウィーン条約，1969年)。条約は，その内容にしたがって政治的条約・非政治的条約・同盟条約・安全保障条約・通商航海条約・犯罪人引渡条約などに分類され，当事国の数によって二国間条約と多数国間条約，その性質によって契約的条約と立法条約，開放条約と閉鎖条約などに分類される。〔広部和也〕

じょうやくかいせい 【条約改正】 欧米諸国と結んだ不平等条約について，その改正につとめた明治時代の外交問題。幕末に締結した安政の五か国条約*や改税約書*は，関税自主権・治外法権・最恵国約款などにおいて不平等で，日本の自主性は無視され，経済上もはなはだ不利であった。1871年(明治4)明治政府は岩倉遣外使節*を派遣したが，交渉はアメリカで拒否され，中止となった。次いで1878年外務卿(がいむきょう)寺島宗則*はアメリカと税権回復について新条約を調印したが，他の諸国の反対に会い不成功となった。跡を継いだ外務卿井上馨*(いのうえかおる)は，1886〜1887年に治外法権の撤廃と関税自主権の一部回復とを目的とし，各国代表者を東京に集めて条約改正予備交渉を進めた。しかしその改正案には，外人判事を日本の裁判所に任用する条件が含まれていたため，激しい世論の反対を受け，交渉は失敗した。次いで外相大隈重信*(おおくましげのぶ)は，井上案を継承しながらも，判事の任用を大審院のみに限るなどの改善を加え，各国別に調印を得ようとしたが，外人判事任用の基本条件は変わらなかったため，井上案と同様の非難を浴び，このため暴漢に投弾されて重傷を負い，内閣は条約改正の中止を決して総辞職した。のち外相陸奥宗光*(むつむねみつ)は従来最も難関であったイギリスとの交渉につとめ，1894年，日清戦争*を直前にして，治外法権の撤廃，内地開放，税権の一部回復を内容とする日英通商航海条約の調印に成功した。他の諸国もあいついで調印し，新条約は1899年発効した。さらに関税自主権も，新条約の有効期限の切れた1911年，外相小村寿太郎*により完全に回復され，半世紀にわたる日本国民の宿願であった条約改正はついに達成された。〔高崎徳次〕

じょうやくちょっきょもんだい 【条約勅許問題】 江戸幕府の締結した安政の五か国条約*に対する朝廷の承認をめぐる政治問題。アメリカ総領事ハリス*の通商条約締結の要求に対し，幕府は，条約調印には朝廷の勅許を要するとの口実を設けて，調印を引き延ばしつつ世論の緩和を図った。1858年(安政5)1月，幕府は老中堀田正睦(ほったまさよし)を京都に派遣し条約調印の勅許を奏請したが，朝廷の対外情勢への無理解と，強硬外交を主張する一橋派の策動により勅許は拒否された。同年4月幕府独裁・和親外交を主張する南紀派(譜代大名の保守独裁派)の井伊直弼(いいなおすけ)が大老に就任し，直弼は勅許を得ずに6月に日米修好通商条約*に調印，次いでオランダ・イギリス・フランス・ロシアとも調印した。一橋派ら反対派は将軍継嗣問題*での抗争も関連して直弼の独裁を強く批判したが，直弼はこれを弾圧し，安政の大獄*がひき起こされた。〔松尾　涼〕

しょうゆ 【醤油】 調味料の一種。わが国で古くから用いられているが，その起源はつまびらかでない。大和(やまと)朝時代に中国から朝鮮を経て渡来したものともいわれている。大宝令に醤院の制があることから，当時すでにしょうゆの原型であるひしお*の製造が行なわれていたことがうかがえる。はじめは固形物の混在しているままのもろみ*をひしおとよんで使用していたが，のちに自然にたまってくる液を利用するようになった。これがいわゆるたまりである。はじめて搾(しぼ)ったしょうゆができたのは15世紀(室町時代)とされている。一説には1234年(文暦1)，紀州(和歌山県)由良(ゆら)の興国寺で，禅僧心地覚心*によってはじめて醸造されたと伝えられ，のち由良近辺の湯浅でしょうゆ製造を開始したという。その後しょうゆは海路で紀州から江戸へもたらされ，輸送に便利な利根(とね)川流域にその製造業が発達するようになった。現在の主要産地は，関東では千葉県の野田・銚子(ちょうし)，関西では香川県小豆(しょうど)島・兵庫県龍野(たつの)などである。

【種類と製法】 濃口しょうゆ(普通しょうゆ)・淡口(うすくち)しょうゆ・溜(たまり)しょうゆのほか，特殊なものに白しょうゆ・再生しょうゆ・甘露しょうゆがある。また醸造によらず原料タンパク質を塩酸で分解する化学的方法を利用するものがあり，これを合成しょうゆといい，醸造法と化学的方法を折衷したものを半合成しょうゆという。

①濃口しょうゆ：最も代表的なしょうゆ。ダイズまたは脱脂ダイズを吸水させたのち蒸煮し，放冷したものに，炒(い)って割り砕いた小麦と空蒸(からむし)したふすまを混合する。これに種麹(たねこうじ)を加えて混ぜ，麹室に入れてしょうゆ麹をつくり，食塩水と混和してもろみをつくり，これを8〜12か月間熟成させる。これを圧搾してしると粕(かす)に分ける。このしるを生じょうゆといい，表面に浮いたしょうゆ油を分離したのち，65〜80℃に加熱殺菌しておりを除き，清澄させて製品とする。

②淡口しょうゆ：龍野を中心として発達した色の薄いしょうゆで，京阪神(けいはんしん)地方で好んで使用される。製造方法は濃口しょうゆとほぼ同じであるが，色を薄く仕上げるためにすべての工程において色の濃くなるのを防ぐ手段を講じ，また最後に甘酒を加えて味の調和を図る。濃口しょうゆに比べて色は薄いが，食塩濃度がやや高く，甘味が強い。

③溜しょうゆ：ダイズまたは脱脂ダイズを蒸煮したのちすりつぶして，みそ玉をつくり，種麹をまぶして麹をつくる。この麹に食塩水を加えて熟成させるのは前2者と

同様であるが，仕込み桶の下部にのみ口があり，熟成後徐々に液を抜いて火入れせずに製品とするところが異なる。原料として小麦を用いず，特有なかおりと濃厚な旨味(うまみ)を特徴とする。特に濃厚なもの(底引・生引溜)は京都料理や脂(あぶら)の多い魚のさしみ用下地，かば焼きのたれなどに賞用される。愛知・三重・岐阜県地方では欠くことのできない調味料となっている。

④白しょうゆ：名古屋市を中心に発達し，小麦を主体とした糖分含量の多いしょうゆ。色が非常に薄いのでこの名があり，甘く，麴臭がある。おもな用途はめん類用または雑炊用であるが，最近ではせんべい・あられにも用いられるようになった。

⑤再生しょうゆ(甘露しょうゆ)：中国・山陰地方を主産地とし，食塩水の代わりに生じょうゆを使って仕込む。味は濃厚甘味だが香気はやや乏しい。関西方面で白身の魚のさしみやすしに用いられ，またかば焼きのたれに賞用される。

このほか，調味しょうゆとして土佐じょうゆがある。みりんに鰹節(かつおぶし)を加えて煮たてたのち，しょうゆを合わせて再び加熱し，毛篩(けふるい)でこして冷却させる。鰹節の縁から土佐(高知県，鰹節の産地)と名づけたもの。高級品として，さしみ・すしなどに用いられる。〔佐藤友太郎〕

じょうゆいしきろん【成唯識論】インド大乗仏教の代表的な論書。バスバンドゥ*(世親)の著《唯識三十頌*(じゅ)》に護法*(ダルマパーラ)が独特の解釈を施したもの。玄奘*(げんじょう)の漢訳がある。中国で成立し，法相宗(ほっそうしゅう)に大きな影響を及ぼした。すべての存在は阿頼耶識*(あらやしき)の現われであるとする唯識説を完成させる論で，阿頼耶識の実在を主張する有相(うそう)唯識学派の文献とされる。

しょうゆうき【小右記】〈おうき〉とも読む。小野宮右大臣藤原実資(さねすけ)の日記。《続水心記》《野府記》《小記》《小右相記》ともいう。巻数不詳。982年(天元5)から1032年(長元5)まで50年間の日記。今日その多くを失ったが，なお，摂関時代の研究には不可欠の史料である。時の実力者藤原道長に対する批判も所々にみられる。

しょうよ【賞与】⇨ボーナス

しょうよう【鍾繇】(150～231) 中国，三国時代，魏(ぎ)の政治家・書家。字(あざな)は元常。潁川(えいせん)長社(河南省)の人。漢末に孝廉にあげられ，侍中・尚書僕射(しょうしょぼくしゃ)に進んで東武亭侯(とうぶていこう)に封ぜられた。魏に仕えて明帝(みんてい)のとき，定陵侯に封ぜられ，太傅(たいふ)となったので，鍾太傅とよばれる。書は銘石書・章程書・行押書の3体をよくした。漢の張芝(ちょうし)，晋(しん)の王羲之(おうぎし)とともに書品の最高位に置かれている。今，信頼すべき真跡は伝わらず，八分(→書体)では《公卿上尊号奏》《受禅表》がその作と伝えられ，《宣示表》《還示帖(じょう)》などの法帖が多く，一種の書風を形成しているが，それらの中には伝摸(でんも)や偽作もある。〔中田勇次郎〕

しょうようがくは【逍遙学派】⇨ペリパトス派

しょうようじゅりん【照葉樹林】カシ・シイ・タブ・クス・ツバキ・サザンカ・モチノキなどの南方系樹種を構成種とする森林。これらの樹種は中ないし小形で，硬質・無毛・つやつやかで光沢のある厚い葉をもつため照葉樹とよばれる。照葉樹林は日本の中部以西，中国中南部，台湾山岳部にのみ分布する。この地帯は夏に多量の降雨があり，亜熱帯に比べ比較的寒い冬季を有している。前述のような葉の特性は，鱗片葉(りんぺんよう)で保護された芽をもつこととともに，冬の寒さに対する抵抗性を強めるものと思われる。林床は暗い。同じ暖帯(暖温帯)に位置する地中海付近には，小形で，かたく，細毛のある葉をもつオリーブやコルクガシなど，耐乾性の強い硬葉樹林が分布していることに対比される。地中海付近は，降雨が冬に集中し，夏には著しく乾燥する。気候帯としては同一とされるが，主として夏期の乾燥によって照葉樹林の発達が妨げられていると考えられる。照葉樹林・硬葉樹林ともに暖帯の常緑広葉樹林である。〔船越真樹〕

じょうようたいすう【常用対数】⇨対数

じょうよかち【剰余価値】資本の自己増殖によって増加した価値部分をいう。現象的にはある貨幣資本GがG＋ΔGとなって還流してきた場合，このΔGが剰余価値ということになる。社会的総資本の観点からみると剰余価値は商品の直接的生産過程において生産される。すなわち，可変資本*である賃金で雇われた労働者が，彼の受けとる賃金以上の価値をその労働によってつくりだすからにほかならない。したがってその実体は労働者のつくりだした商品の価値と賃金との差額，すなわち不払い労働部分である。資本主義存立の基盤は労働力の商品化に伴う剰余価値の生産にある。商品の直接的生産過程でつくりだされたこの剰余価値が利潤・利子・地代などの不当所得の源泉をなし，産業利潤・商業利潤・利子・地代などのより具体的な分配所得として社会的に配分されてゆく。このため，資本家はたえず剰余価値生産の増大を図るが，その方法として①絶対的剰余価値の生産と，②相対的剰余価値の生産という二つの方法が指摘される。①絶対的剰余価値の生産とは，労働時間の延長すなわち賃金部分に相当する必要労働時間を越える剰余労働時間の絶対的延長によって剰余価値の増大を図る方法であり，②相対的剰余価値の生産とは，必要労働時間に対する剰余労働時間の比率を相対的にふやすことによって労働力の価値水準の低下を図る，労働時間の延長なしに行なわれる剰余価値増大の方法である。〔常盤政治〕

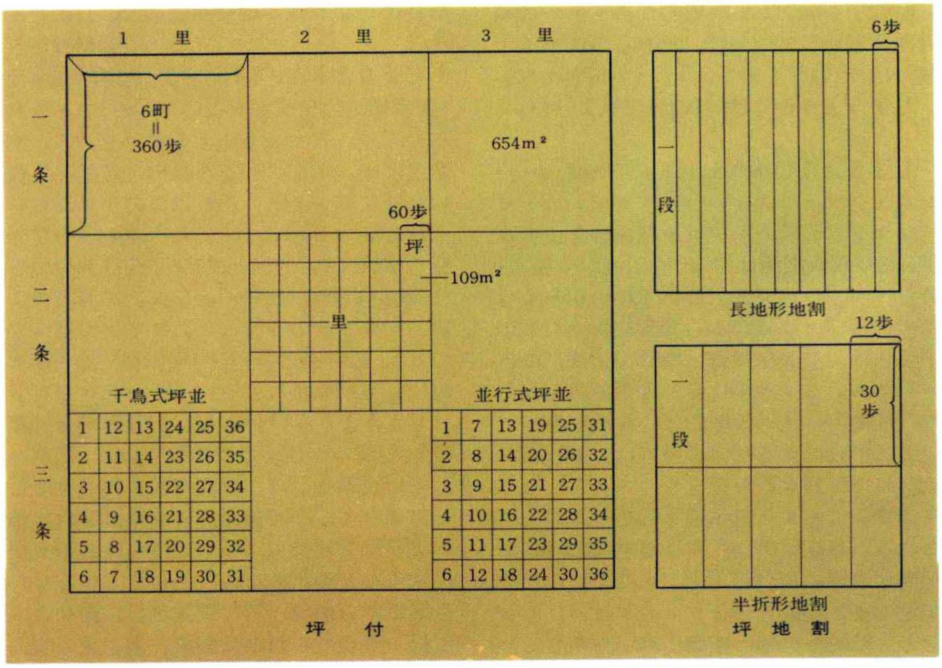
じょうよきん【剰余金】企業の純財産(資産額から負債額を引いたもの)である資本のうち，資本金を越える部分をいう。剰余金には，毎期の利益を社内に留保・集積した利益剰余金と，それ以外の源泉から得られた資本剰余金(株式発行差金・合併差益・減資差益など)とがある。利益剰余金とは，利益準備金(毎期の金銭配当の10分の1以上を資本金の4分の1になるまで積み立てる)・減債積立金・配当平均積立金・繰り越し利益剰余金などをいう。〔山桝忠恕〕

じょうよきんけいさんしょ【剰余金計算書】企業が作成する財務諸表*の一。制度としての企業会計は，財務諸表を作成することによって，利害関係者に企業の財政状態および経営成績についての正しい情報を提供することを大きなねらいとしているが，企業資本の構成内容が複雑化し，剰余金*の変動が重要性をおびた結果，剰余金の変動に関する計算書が，貸借対照表*や損益計算書*と並ぶ財務諸表の一つと考えられるようになった。剰余金が利益剰余金と資本剰余金とからなるように，剰余金計算書も利益剰余金計算書と資本剰余金計算書とからなる。しかし，わが国では，現実に資本剰余金が発生する場合は少なく，したがって，それについての変動を記載した資本剰余金計算書を独立につくったり，あるいは総括的な剰余金計算書の中に資本剰余金に関する区分を設けるという実際的理由はほとんどない。そこでわが国の企業会計原則*や財務諸表規則では，利益剰余金計算書だけを財務諸表に加え，資本剰余金に関するものは付属明細表としている。利益剰余金計算書は，株主総会*の決議を経て今期に繰り越された利益剰余金に関し，経常的ではない，いわゆる期間外損益項目によって，それがどのような変化を受け，期末になおいかほどの残余が残っているかを確定することを中心課題としている。〔山桝忠恕〕

じょうよのていり【剰余の定理】⇨余りの定理

じょうよるい【剰余類】1より大きい整数mを定めて，いろいろな整数をmで割ると余りは0，1，……，$m-1$のどれかである。mで割ると余りがrとなる整数の集合をM_rと書くと，整数の全体はM_0，M_1，……，M_{m-1}に分類される。このM_0，M_1，……，M_{m-1}のおのおのをmを法とする整数の剰余類という。たとえば，偶数と奇数は2を法とする剰余類である。また，3を法とする剰余類は0を含むものM_0，1を含むものM_1，2を含むものM_2の三つである。

mを法とする二つの剰余類M_rとM_sに対し，M_rに属する整数aとM_sに属する整数bとの和$a+b$はつねに一定の剰余類M_tに属する。それで$M_r+M_s=M_t$ときめて，剰余類の間に加法を定めることができる。



条里制

同じように剰余類の間に乗法も定めることができる。次に示したのは3を法とする剰余類の加法と乗法の表である。剰余類の加法についても，整数の加法と同じように，その逆算である減法が可能であり，M_0は零の役割をする。剰余類の乗法では，逆算である除法もできるのは素数を法とする剰余類の場合である。たとえば，6を法とする剰余類では，$M_2 \times M_x = M_5$となるM_x，すなわち，$M_5 \div M_2$の答えとなる剰余類M_xはない。〔小西勇雄〕

+	M_0	M_1	M_2
M_0	M_1	M_1	M_2
M_1	M_1	M_2	M_0
M_2	M_2	M_0	M_1

×	M_0	M_1	M_2
M_0	M_0	M_0	M_0
M_1	M_0	M_1	M_2
M_2	M_0	M_2	M_1

しょうりきまつたろう　【正力松太郎】(1885～1969)　新聞・放送事業の経営者。富山県出身。東京大学独法科卒業後，警視庁にはいったが1924年(大正13)1月虎ノ門(とらのもん)事件の責任を負って辞職。翌2月関東大震災の痛手で崩壊寸前の読売新聞社を買収して社長に就任。娯楽記事に新企画を盛り込むなど紙面の大刷新を行ない，またアメリカから職業野球団を招いたりしたため発行部数も急激に伸び，《朝日新聞》《毎日新聞》と並ぶ日本三大紙に発展した。第2次世界大戦後は戦犯容疑に問われ公職追放を受けたが，解除後は読売新聞社社主となり，さらに1952年(昭和27)，日本テレビ放送網*(株)を設立して，社長となった。一方，戦前からプロ野球巨人軍のオーナーとして活躍，余暇産業の波に乗じて私鉄沿線に読売ランドを創設するなど，多角的な企業経営を行なった。また，1930年からは衆議院議員として代議士をつとめ，鳩山(はとやま)内閣・岸内閣時代にはそれぞれ国務大臣となった。〔林　茂樹〕



ショウリョウバッタ　雌

じょうりしゅうらく　【条里集落】　条里制*のもとで成立したと推定される集落。大化改新後班田収授法*を円滑に実施するため，条理制に基づいて地割*が施行され，班田農民の集落もこの条里地割に即応するように，50～30戸を一群にまとめて人為的に形成された。奈良盆地をはじめ畿内(きない)大和(やまと)(奈良県)・山城(京都府)・河内(かわち)(大阪府)・摂津(大阪府・兵庫県)の集落の中には，現在でも地割・地名・集落形態などから条里制の遺構とみられるものが少なくない。

じょうりせい　【条里制】　日本古代の土地区画制。土地を東西・南北それぞれ6町(1町は60歩，1歩は6尺)間隔に区画し，南北方向に1条・2条・……，東西方向に1里・2里・……と数えた。6町四方の区画を里とよび，1里の地を1辺1町の方形に36等分したものを1坪(1町歩)とする。さらに，これを30歩×12歩または60歩×6歩に10等分して，その一つを1段とした。こうして，土地の所在を何条何里何坪の畷(なわて)から何段目というぐあいに明示した。条里制の起源は屯倉*(みやけ)にあるらしいが，設定の理由については土地の定期割替の慣行に由来するという説と，大和(やまと)朝廷*が農民の負担を均等にするためとする説とが対立している。条里制は大化改新以後各地に行なわれたが，特に畿内(きない)とその周辺および瀬戸内海沿岸・北九州・越前(福井県)等に発達した。〔黛　弘道〕

じょうりゅう　【蒸留】　不純物を含んだ液体や2種以上の液体の混合物を加熱して蒸気とし，これを連続的に他に導いて，冷却して凝縮液化させることにより，液体の精製分離を行なう操作。混合物の成分の沸点の差を利用したものである。最も簡単な蒸留は，枝つき丸底フラスコ，外管に冷水を通した二重管の冷却器，および受け器を用いて行なう。沸点の高い液体や高温で分解しやすい液体に対しては，水蒸気蒸留・減圧蒸留・真空蒸留を行なう。また，沸点の接近した液体混合物の分離には，分留*を行なう。石油精製工業は最も大規模な蒸留の応用である。〔志田正二〕

じょうりゅうしゅ　【蒸留酒】　⇨酒

じょうりゅうすい　【蒸留水】　蒸留によって精製した水。水を熱して発生した水蒸気を冷却して得られる。水は多くのものをとかしやすく，井戸水・水道水にも無機物・有機物が含まれている。このため，化学操作や医薬に用いる水として蒸留水が用いられる。無色透明・無味・無臭。最近はイオン交換樹脂*などにより精製された水も蒸留水と同様に用いられ，薬局方*では両者をまとめて精製水としている。

しょうりょう　【精霊】　死者の霊魂。古くから死霊は肉体から遊離しても個性を有し，生家の近くを浮遊するが，しだいに清められ，個性を失って祖霊になると考えられた。この精霊を7月15日を中心に迎え慰める盂蘭盆会*(うらぼんえ)の行事を精霊会(しょうりょうえ)あるいは魂祭りという。盆行事は仏教とわが国の民間信仰とが習合してできた。7月1日は地獄の口明けといって，精霊が出てくる日で，墓地から家までの道の草を刈って盆路つくりをし，7日には山から摘んだ花で盆花迎えをするところもある。家では特別に精霊だなをつくり，精霊迎え，精霊送りといって，初日の13日と末日の15日ないし16日に墓や門口で迎え火，送り火を焚(た)く。川原では，わら舟や燈籠(とうろう)に載せて精霊を送る精霊流しが各地で行なわれている。〔藤井正雄〕

しょうりょうばった　【精霊蝗虫】　こん虫類・直翅(ちょくし)目・バッタ科。翅端までの体長は，雄は55mm内外であるが，雌では82～90mmもある。全体緑色または灰かっ色で，個体によって白線や白点を装う。頭部は長く前方に突出し，背面に1本の縦隆起線と3本の暗色縦線をもつ。触角は扁平(へんぺい)な剣状で，頭部と前胸背を合わせた長さにほぼ等しい。前胸背は頭部よりも短い。雌の産卵管は著しく短い。翅(はね)はよく発達して腹部末端を越え，前翅の先端はとがる。後脚の腿節(たいせつ)・脛節(けいせつ)は著しく細

長い。日本全土のほか，台湾・中国に分布する普通種で，成虫は8～9月に草原に多い。雄は活発に飛翔(ひしょう)し，飛翔中に翅と後脚の腿節とを摩擦して〈キチキチキチキチ〉と発音するが，雌は動作も鈍く，あまり飛ばず発音もしない。雄の発音から，本種をキチキチバッタと俗称する地方もあるが，真のキチキチバッタ*は発音しない。〔鈴木邦雄〕

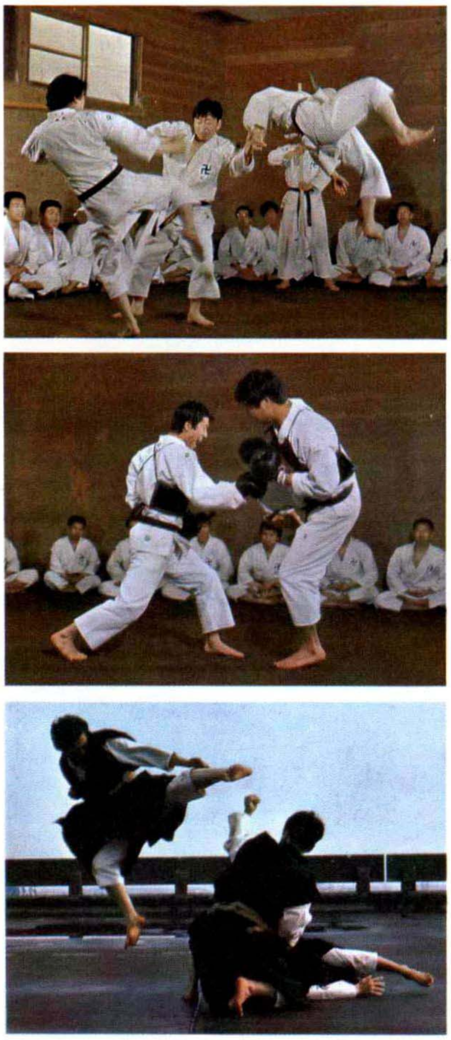
じょうりょくじゅ【常緑樹】 落葉樹の対語で，1年以上枯れ落ちない葉をもつ樹木で，つねに緑葉をつけている。次々と葉をつけるため落葉現象は目だたないが，葉はふつう2～3年で新しい葉と交替する。ツバキ・シイなどの常緑広葉樹は熱帯・亜熱帯に，マツ，モミなどの常緑針葉樹は亜寒帯に多くみられる。

しょうりん【松林】 ソンリム 朝鮮，黄海北道，大同江下流の左岸にある工業都市。人口70,000(1960年推)。日露戦争以前は一漁村であったが，戦争中工兵中佐渡辺兼二の意見によりこの地が軍需資材の荷揚げ場となったことから，かつて兼二浦とよばれていた。1914年三菱(みつびし)系の製鉄所がつくられて発展したが，1945年日本人が引き揚げ，次いで朝鮮戦争で破壊された。製鉄所は戦後4年余で現在の黄海製鉄所として復興し，南陽・下聖・載寧などから原鉱を運び，また副産物を利用して硫酸などの化学工業も盛んである。〔矢守一彦〕

しょうりんじ【聖林寺】 奈良県桜井市下にある古義真言宗の寺。奈良時代に定慧(じょうえ)が父藤原鎌足(かまたり)の菩提(ぼだい)を弔うために建てたのが始まりである。本尊の子安延命地蔵尊(丈六石仏)は，江戸時代に文春阿闍梨(あじゃり)が女人安産・子孫繁栄を祈願し，全国を行脚し募った浄財によってつくったという。《木心乾漆十一面観音立像》(国宝)は天平彫刻の傑作で，もと大神(おおみわ)神社の神宮寺の本尊であったのを，1868(慶応4)年に当寺に移安した。〔永井信一〕

しょうりんじ【少林寺】 中国河南省の嵩(すう)山*の一峰少室山北麓(ほくろく)にある寺。496年北魏(ほくぎ)の孝文帝が，インド僧跋陀(バッダ)禅師(または仏陀三蔵)のために造営，達磨*(だるま)が9年間壁に向かって坐禅したと伝わる。また慧可*(えか)が40歳のとき，この寺で達磨の悟りを相承し，入門のとき左腕を切って求道(ぐどう)の誠を認められたという。508年ごろ北インドから菩提流支*(ぼだいるし)が来てここに住し，経典を訳した。のち禅の中心地となり，現在は曹洞宗(そうとうしゅう)に属している。〔京戸慈光〕

しょうりんじけんぽう【少林寺拳法】 香川県仲多度郡多度津町にある金剛禅総本山少林寺に伝わる健康増進・精進修養・護身練胆の三徳を特色とする修行法。古代インドですでに相当発達していたと思われ，仏教発祥時代にはその布教に重要な役割を



少林寺拳法 (上)基本の応用技〈五花拳〉 (中)防具をつけた攻防 (下)ふたりを相手にたたかう〈金剛拳〉 明治大学少林寺拳法部

果たしていたことが，仏教の守護神である仁王(におう)の姿によっても明らかである。インドの医聖耆婆(ぎば)の経脈医術の原理をもとに発生し，達磨*(だるま)によって少林寺*に伝えられ，座禅とともに修行された。北周の武帝の廃仏政策によって一時少林寺が廃されたために山門外に流出し，民衆の護身術となったが，義和団の乱*において拳匪(けんぴ)の汚名を着せられ，指導者多数が弾圧処刑を受けて壊滅状態となった。昭和初期，中国に渡った宗道臣が中国・モンゴルの各所を巡歴中，各地に潜在していた各派拳士に師事して秘技を修得，1936年(昭和11)少林寺初祖殿において法脈継承の印可を受けて，21代師家となり，1946年帰国し，ここに少林寺拳法が日本に移植された。現在，海外を含めて支部道院数千余がある。座禅行と並行して反復履修され，守主攻従・不殺活人を特色として，整法4系・剛法11系・柔法10系の技をもち，これが連係を保ちながら構成されている。〔内山滋・初野好〕

しょうりんはくえん【松林伯円】 講談師。
[1]初世(1812～1855) 江戸南伝馬(みなみでんま)町の講談席堀川嘉兵衛(ほりかわかへえ)の子源次郎。初世神田伯龍(かんだはくりゅう)門。安政大地震で圧死した。
[2]2世(1832～1905) 武家の出。本名若林義行(よしゆき)。幕末，《鼠小僧(ねずみこぞう)》などを得意として〈泥棒(どろぼう)伯円〉の異名をとった。明治以後は時勢にかんがみ，時事物・歴史物を読んで〈演史家伯円〉とよばれ，講談師の社会的地位向上に寄与した。
[3]3世(？～1918) 本名大宮庄次郎(しょうじろう)。2世門下。〔興津　要〕

しょうるいあわれみのれい【生類憐みの令】 江戸時代，将軍徳川綱吉*(つなよし)が発令した殺生(せっしょう)禁止令。1685年(貞享2)綱吉は将軍出行に際してイヌ・ネコをつながせることを禁じたのを最初とし，引き続き鳥獣を愛護し，その捕獲・殺生を禁ずる法令をたびたび発令した。生類奉行(ぶぎょう)を置き，ことに綱吉が戌年(いぬどし)であることからイヌの愛護は特に厳重に命じ，江戸近郊の各所に野犬を養う広大なイヌ小屋を設置して，その費用を江戸市民に課した。人々はイヌを御犬様とよび綱吉を犬公方(くぼう)と称した。禁令違反者は処罰され，中には死罪・遠島の極刑に処せられる者もあった。世界に類を見ないこの暴令は，将軍の専権と重臣の迎合主義を反映して綱吉の死去するまで続けられたが，1709年(宝永6)家宣(いえのぶ)の就任によりただちに廃止された。〔高崎徳次〕

じょうるり【浄瑠璃】 三味線(しゃみせん)による語り物音楽。発生は江戸以前にさかのぼることができるが，今日伝承されているのは，江戸時代に成立した三味線音楽である。江戸浄瑠璃としては，河東節*・大薩摩節*(おおざつまぶし)，上方に発生したものとしては，義太夫節*(ぎだゆうぶし)・一中節*，そして，江戸・上方に影響を与えた豊後節*(ぶんごぶし)があり，豊後からは，常磐津節*(ときわずぶし)・富本節*・清元節*・新内節*・宮薗節*(みやぞのぶし)・繁太夫節*などの諸派が生まれている。なお，狭義の浄瑠璃は義太夫節をさし，また，その声楽を語る人だけをさす。〔徳丸吉彦〕

じょうるりじ【浄瑠璃寺】 京都府相楽郡加茂町にある真言律宗の寺。九体寺と通称される。1047年(永承2)当麻(たいま)寺の義明上人(しょうにん)によって開創され，古くは西小田原寺とも称した。はじめは薬師如来を祭る堂が建てられたが，1107年(嘉承2)現在の本堂が建てられ，定朝様の9体の木造阿弥陀(あみだ)如来坐像(国宝)もこの時代の作と思われる。木造四天王立像(国宝)は藤原期の作。1150年(久安6)につくられた池の東側にある三重塔は平安末期に京都一条大宮から移され，塔内の薬師坐像は毎月8日に開扉(かいひ)される。建築・庭園・仏像ともに藤原期のおもかげをとどめる貴重な古寺として名高い。〔永井信一〕

じょうれい【条例】 地方公共団体がその自治権に基づき議会の議決を経て制定す

る法規。地方公共団体の条例制定権の範囲は法律(国の法令)に違反しないかぎりにおいて，その地方公共団体の固有事務・委任事務・行政事務のいずれにも及ぶ。とりわけ，住民の自由に直接かかわりをもつ行政事務については必ず条例で定めなければならない。条例制定の主体には都道府県と市町村とがあるが，行政事務に関する条例については，後者の制定する条例が前者のものに違反することはできない。制定・改廃の手続きには地方議会の議決と監督官庁への報告とを要する。また住民に条例制定・改廃の請求権が認められ，有権者の10分の１以上の署名をもって地方公共団体の長に対して請求することができる。〔寺尾方孝〕

しょうれんいん【青蓮院】 京都市東山区粟田口(あわたぐち)にある天台宗の寺。延暦(えんりゃく)寺三門跡の一つで，別称東山御所・粟田口御所ともいう。1144年(天養１)天台座主(ざす)行玄が比叡(ひえい)山で青蓮院を開創したのに始まるが，行玄は最澄を始祖と仰いだ。２世に鳥羽(とば)天皇の皇子を迎えて以来，皇族・摂関家・足利(あしかが)将軍の子弟が門主となった。鎌倉初期比叡山から移転。他宗寺院も含め約300の寺院を支配下に置き，江戸時代は寺領千三百三十余石を領した。17世尊円親王*は書道にすぐれ，青蓮院流*を開いた(御家流はこの末流)。寺法の絹本着色不動明王二童子像(国宝)は俗に青不動といわれ，庭園は相阿弥(そうあみ)の意匠，小堀(こぼり)遠州の補修と伝わる。〔杉坂靖子〕

しょうれんいんりゅう【青蓮院流】 尊円親王*を始祖とする書道の一流派。尊円親王は京都粟田口(あわたぐち)の青蓮院門跡であったから青蓮院流といい，また，粟田流・尊円流・御家流(おいえりゅう)ともいう。字形は端正にして点画は温雅であり，読みやすくて習いやすいので，広く長く流行した。江戸時代には幕府および諸藩の公文書に用いられ，寺子屋でも教えられた。

しょうろ【松露】 担子菌類・ショウロ科。春や秋に，海岸のマツ林内の砂中に発生するきのこ。長球形ないし不整球形で，直径１～３cmぐらいである。表面はほぼなめらか。根もとには根状に枝分かれした白色の菌糸束が着生する。表面の色は地下にあるときには白色であるが，地上にとり出すと淡黄かっ色ないしかっ色となる。内部は肉眼的には充実していて，はじめ白色，のち黄色から暗かっ色に変色する。日本料理に利用され，さわやかな味は珍重される。〔曾根田正己〕

しょうろう【鐘楼】 〈しゅろう〉ともいう。寺院で梵鐘(ぼんしょう)をつるす堂。俗に鐘撞堂(かねつきどう)・釣鐘堂(つりがねどう)ともいう。一般には鼓楼と対になって伽藍*(がらん)の両側にあるが，古くは経楼に対していた。一般寺院では土台を高く築いた上に置くが，腰に組勾欄(くみこうらん)を巡らした楼建築が古く，鎌倉時代にはいると，袴腰(はかまごし)造りや



青　蓮　院



鐘　　楼　鑁阿寺



昭 和 基 地

吹放(ふきはなし)の形式ができた。

じょうろく【丈六】 ⇨大仏

しょうわいしんうんどう【昭和維新運動】 昭和初期，国家改造をめざして進められたおもに軍部革新派のファシズム*運動。経済恐慌下の社会不安，満蒙(まんもう)問題の緊迫，政党の腐敗，社会主義運動の台頭など，当時の内外情勢は軍人・右翼思想家の間に危機感をもたらし，国家改造への運動を起こさせた。1930年(昭和５)締結されたロンドン海軍軍縮条約*に国防の危機を痛感した彼らは，一挙に現体制を打破し，軍事政権のもとに国家改造を断行しようとして五・一五事件*など一連のクーデター*が続出した。これらファシズム運動のうち，北一輝*などの思想の影響を受けた皇道派青年将校や右翼運動家は，天皇を中心とする一君万民の政治体制がわが国体の本来の姿であると考え，内憂外患の時弊をクーデターによって一掃し，天皇絶対の高度国防国家を実現しようとし，そのための行動を明治維新に擬して昭和維新運動と称した。昭和維新運動は二・二六事件*で極点に達し，事件後統制派軍人らによる合法的政治革新は〈庶政一新〉の表現を用いた。〔高崎徳次〕

しょうわきち【昭和基地】 南極大陸プリンスオラフ海岸沖のオングル島上(69°00′S，39°35′E)にある日本の南極観測基地。1957年１月29日に開設され，1957～1958年の国際地球観測年*で未知の南極大陸に科学的調査の目が向けられ，アメリカ合衆国・ソ連などと並んで日本もその一環をになうことになった。国際地球観測年以後の科学的研究活動については，南極観測に参加した各国間で南極大陸の科学的研究と平和利用を目的とする条約が結ばれ，日本も加盟国の一つである。条約は1961年６月に発効し，これまでに1957～1962年の６回の観測が行なわれた。観測船〈宗谷(そうや)〉の老朽退役と新観測船〈ふじ〉の就航までの期間，一時閉鎖されたが，1966年２月から第７回観測が行なわれ，〈ふじ〉による輸送能力の増加によって昭和基地の機能も拡充された。現在，約20の建物，20台の乗り物が備えられ，研究分野も宇宙線・オーロラ・電離層などの高層大気の研究のほかに，気象・地磁気・重力・地震・海洋学・地質学・地理学・氷河学・生物学，医学の研究など，地球物理学を中心に多くの分野にわたっている。また，南極大陸の調査も行なわれ，第９回観測では昭和基地と南極点との往復に成功し，南極氷平原における気象・氷河・地磁気などの探査も行なわれた。昭和基地の気候は，他の南極基地に比べて穏やかであり，これまでの記録によれば，最低気温は約－40℃，最大風速約40ｍ/秒，夏の平均気温は0℃，最高は5℃ぐらいである。これは，基地が南極大陸を離れた島の上にあることによるらしい。昭和基地は，南のオーロラ帯内にあるので，夜にはいろいろのオーロラを見ることができる。５月末から約１か月半は極夜となり，太陽が見られない。〔相原正彦〕

しょうわくせい【小惑星】 だいたい火星と木星の軌道の間に分布している微小惑星。1801年１月１日にイタリアのピアッチ*が最初に発見し，ケレスと名づけた。これ以後1969年６月までに1,748個が確認され，確認順に番号と名まえがつけられている。小惑星の数は未発見も含めて，統計的研究から総数約40,000個と推定されている。いちばん明るくなるのはベスタ(４)(かっこの中の数字は４番めに発見されたことを示す)で，やっと６等になるくらいである。他の小惑星は望遠鏡を使わないと見えない。い

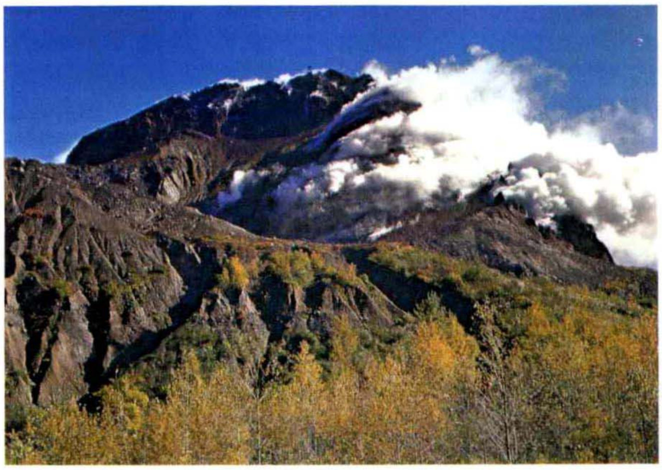
ちばん大きい小惑星は最初に発見されたケレスであって，直径約780km。大部分の小惑星の直径は数十キロメートル程度である。したがって，小惑星の全部の体積を合わせても月の10分の1にもならないと推定されている。小惑星の公転周期は1～14年，軌道傾斜角は0°～45°，離心率は0～0.8の範囲に分布している。黄道付近を周期約5.6年で円運動している小惑星がいちばん多い。1920年に発見されたヒダルゴ(944)は周期14年でいちばん長く，軌道傾斜角も43°でいちばん大きく，離心率は0.65，半径は約21kmである。1949年に発見されたイカルス(1,566)の周期は409日でいちばん短く，離心率は0.83で最も大きい。地球には約600万kmまで近づく。1898年に発見されたエロス(433)は周期1.4年，離心率0.22で，地球には約0.15天文単位まで近づく。エロスでは地球にいちばん近づいたときの運動を調べて，力学的に太陽と地球間の距離を決定するのに用いられている。

周期11.9年，8.9年，7.9年すなわち木星の周期の1/1，3/4，2/3の周期をもつ小惑星の群があり，それぞれトロヤ群・チューレ群・ヒルダ群とよばれている。しかし木星の周期の1/2，2/5，1/3などの周期をもつ小惑星は存在せず，間隙(かんげき)となっている。また平均運動・固有離心率・固有傾斜角が類似した値をもつグループがあり，テミス族・エオス族・コロニス族・マリア族・フローラ族などとよばれている。これらの族は日本の天文学者平山清次が発見した。

小惑星の群・間隙・族は小惑星の生成，太陽系の起源と深く関連があると思われているが，まだ十分納得いくまでの説明はなされていない。〔木下　宙〕

しょうわしんざん　【昭和新山】　北海道半島部，洞爺湖(とうやこ)南岸の有珠(うす)山の東のふもとにある寄生火山。1943年(昭和18)末から1945年9月にかけて噴出した新しい火山で，周囲の土地からの比高約160m，標高は407mある。地下でほとんど固まった溶岩が下から押し上げられて生成したもので，山体はピラミッド形の溶岩円頂丘を形成する。現在もガスや水蒸気を噴出しており，支笏(しこつ)洞爺国立公園に含まれ，観光地として名高い。〔高野　繁〕

しょうわでんこう　【昭和電工(株)】　わが国最大の電気化学会社。1939年(昭和14)に日本電気工業と昭和肥料の合併により設立。近年，アルミニウム・石油化学部門の拡大をはかり，この部門で急速に発展している。事業内容はアルミなど軽金属30%，肥料・薬品24%，石油化学品23%がおもな内訳である。石油化学部門では1969年大分市鶴崎(つるさき)に年産15万tのエチレン生産設備を完成，川崎(神奈川県)・徳山(山口県)と並んで同社石油化学部門の主力工場となった。軽金属部門では千葉(千葉県)・喜多方(福島県)・大町(長野県)に工場をもつ。工場排水による水質汚濁問題(水俣(みなまた)・阿賀野川(あがのがわ))で話題をよんだ。子会社に昭和ネオプレン・日本オレフィン化学・昭和アルミニウムなどがある。資本金437億3,000万円，年間売上高3,739億4,100万円，従業員数5,473(1980年6月)。



昭和新山
山頂部の溶岩塔付近から一面に蒸気や硫気を噴出している。若い火山体の表面はもろく，侵食の進行は速い

じょうわのへん　【承和の変】　842年(承和9)の伴健岑(とものこわみね)・橘逸勢(たちばなのはやなり)らの謀叛(むほん)事件。このため皇太子恒貞(つねさだ)親王は廃され，藤原順子所生の道康(みちやす)親王(文徳天皇)が立太子したが，恒貞は藤原氏と血縁がないこと，健岑らが事を起こすにはあまりに卑官であることから考えて，実は藤原良房(よしふさ)らの陰謀による捏造(ねつぞう)事件であった。これより藤原氏の勢力は一段と伸長した。

じょうわんこつ　【上腕骨】　上腕の支柱をなす長骨。上端の上腕骨頭には肩甲骨，下端の橈骨窩(とうこつか)には橈骨頭，鉤状窩(こうじょうか)には尺骨の鉤状突起，肘頭窩(ちゅうとうか)には尺骨の肘頭がはいり，橈骨および尺骨と関節(肘関節)をつくる。骨体の上半は円柱状，下半は三角柱状である。骨体と骨頭との間にやや狭い頸(けい)があり，これを解剖頸という。骨折の好発部はその下の部分，すなわち大結節稜(りょう)および小結節稜(大結節・小結節に引き続く稜線)の細くなった部分で，これを外科頸という。骨体外側縁には三角筋の付く三角筋粗面，後面には上内側から下外側に向かうらせん状の橈骨神経溝(しんけいこう)(橈骨神経が通るところ)がある。圧迫や筋肉注射によってしばしば起こる橈骨神経麻痺(まひ)はこの部分に多い。上腕骨には肩甲骨その他から多くの筋肉が集中している。これらの筋によって肩関節を基点とする上肢(じょうし)の全方向の運動が営まれる。上腕骨から起始する筋(上腕三頭筋の内側頭・外側頭，上腕筋，腕橈骨筋，前腕屈筋および伸筋[浅層のもの]，円回内筋，回外筋など)の起こるところは上腕骨体および下端のふくらみである内側上顆(じょうか)・外側上顆である。➔骨格
〔幡井勉・橋本長〕

じょがくざっし　【女学雑誌】　明治中期に女性を対象として発行された啓蒙(けいもう)・文芸雑誌。1885年(明治18)7月～1904年2月。石橋忍月・内田魯庵(ろあん)・山路愛山・星野天知・北村透谷・島崎藤村らが執筆し，明治20年代の文芸評論に清新の気を吹き込んだ。若松賤子(しずこ)・三宅花圃(みやけかほ)らの女流文学者も出ている。透谷の《厭世(えんせい)詩家と女性》，賤子の翻訳《小公子》などが掲載され，キリスト教に基づく女性崇拝・理想主義は，やがて《文学界》で開花するロマン主義の萌芽(ほうが)として多いに注目される。

しょかつこうめい　【諸葛孔明】　(181～234)　中国，三国時代，蜀漢(しょくかん)の宰相。名は亮(りょう)。山東省沂水(きすい)県の豪族出身。207年，劉備(りゅうび)が80kmの道を3度たずねて臣となることを願った，いわゆる〈三顧の礼〉に感激して，彼に〈天下三分の計〉を説き，以後〈君臣水魚の交わり〉を結んだ。翌年，呉の孫権と同盟して，曹操(そうそう)を赤壁に破り，揚子江の中・上流域を支配下に置いて，三国鼎立(ていりつ)時代の基礎をつくった。劉備の死後は，子の劉禅に《出師表(すいしのひょう)》を奉じて，魏(ぎ)の攻略を策したが，五丈原で司馬懿(しばい)と対陣中に病死した。法家思想を重視しながらも，彼の暖かい人間性は《三国志演義》のよき題材となっている。〔勝村哲也〕

しょかん　【書簡】　⇨手紙

じょかん　【女官】　令制(りょうせい)で，後宮十二司に仕える女性の総称。内侍司(ないしのつかさ)以下の諸司には尚(かみ)・典(すけ)・掌(じょう)および采女(うねめ)・女孺(にょじゅ)などがあった。後世は内侍司以外は絶えたが，別に命婦(みょうぶ)・女蔵人(にょくろうど)・刀自(とじ)・御櫛笥殿別当(みくしげどののべっとう)など，新たなものが多く設けられ，令制は一変した。女房というのは禁中・院などに仕え，曹司(ぞうし)(局(つぼね))を与えられた女性の称で，女官と区別するときは女房は身分が高く，女官は低いとされた。〔黛　弘道〕

じょき　【徐熙】　生没年不詳。五代南唐の花鳥画家。代々南唐に仕えた名族の出身

で，志節高邁(こうまい)といわれ，題材の珍奇さや感覚的な美しさにとらわれず，自然景物の神をとらえる方向を好み，淡彩の没骨(もっこつ)に近い描法を用い，画風は軽淡野逸と評された。没骨画の大成者*徐崇嗣(じょすうし)はその孫。彼らの画風は*徐氏体とよばれ，*黄氏体とともに中国花鳥画の二大画体である。

しょきびどう【初期微動】 一般に，地震動初期の小振幅の振動。初期微動はP波によるもので，その後の大きい振動はS波および表面波による。近距離地震では，はじめに周期の短いがたがたという感じの振動を感じる。これが初期微動である。それに続いて，周期のやや長いゆさゆさという感じの振動を感じるが，これがS波によるものである。したがって，初期微動継続時間(P-S時間)tは，観測点におけるP波とS波の到達時刻の差を表わすものであり，震源からの距離に関係がある。震源から観測点までの距離lが十分短く，地震波の経路をほぼ直線と考えてもよい場合には，P波とS波の平均速度をそれぞれV_p, V_sとすると，

$$t=\left(\frac{l}{V_s}-\frac{l}{V_p}\right)=l\times\frac{V_p-V_s}{V_p V_s}$$

の関係がある。したがって$V_p V_s/(V_p-V_s)=k$(cm/秒)とすると，$l=kt$になる。一般にkの値は，地質構造や震源の深さなどによって変わるが，少なくとも4地点でP-S時間を観測すると，上の式から震央距離や震源の深さを知ることができる。➔地震 〔堀福太郎〕

しょきょう【書経】 儒教の*五経の一。戦国時代《書》といい，のち《尚書(しょうしょ)》とよび，宋(そう)以後《書経》という。現本58編が経典として尊ばれたが，そのうち33編は漢初に当時の文字で伝えられ，《今文尚書》とよぶ。他の25編は孔子の家の壁中にあった古体文字のテキストだといって世に出たので《古文尚書》とよぶが，これは清(しん)の*閻若璩(えんじゃくきょ)によって魏(ぎ)・晋(しん)のころの偽作と論断された。《書経》は経典の中では，《*春秋》が〈事〉をしるした書であるのに対し，〈言〉すなわちことばをしるした書である。その言は主として聖王・賢臣の言で，まさに儒教の理想世界を表わしているとされる。この書には各種の文体が備わっていて，後世文章の規範ともなった。なお，儒教経典の中では早く孔子の当時から経典視された《*詩経》と並んで〈詩書〉の名がある。 〔西 順蔵〕

しょぎょうむじょう【諸行無常】 ⇨三法印

じょきょく【序曲】 17世紀以降の西洋音楽の器楽のジャンルの一。〈開く〉という動詞に基づくフランス語ウーベルチュールの訳で，オペラの開幕を告げるのが最も大きな役割であったが，17〜18世紀には，序曲のことばの代わりに，トッカータ・ソナタ・シンフォニアなどの名も使われている。バロック序曲の典型の一つは，*リュリによって始められたフランス風序曲である。これは，ゆっくりしたテンポで付点の音形をもつ荘重な部分に，速いテンポでフーガ風の性格を含む軽快な部分が続くものである。拍子も前者の2拍子系に対し，後者では3拍子・6拍子が用いられる傾向があった。また，終わりに第1部がもどってくることもある。この序曲はドイツやイタリアにも影響し，*組曲の序曲としても使われた。もう一つの典型はA.スカルラッティによる急〜緩〜急のイタリア風序曲で，これは次の時代で*交響曲の一つの母胎となる。19世紀にはいると，劇の付随音楽から序曲だけが独立して使われたり(ベートーベンの《エグモント》，メンデルスゾーンの《真夏の夜の夢》など)，演奏会用序曲として，劇と関係がなく，ただし性格が通常の序曲に似たものが生まれている(メンデルスゾーンの《フィンガルの洞窟(どうくつ)》)。また，オペラの場合は，劇中の主要な旋律を接続したため，〈ごった煮(ポ-プーリ)〉とよばれる形が多くなっている。 〔徳丸吉彦〕

しょく【燭】 *カンデラ採用前の日本における*光度の単位。俗に燭光という。1燭＝1.0067カンデラ。計量法に基づいて1958年(昭33)1月以降は用いられていない。

しょく【食】 狭義には*日食と*月食の総称。広義にはある天体が他の天体の前面にきて，その天体を隠す現象。月が惑星か恒星を隠す星食(*掩蔽(えんぺい))，惑星の太陽面通過，惑星が恒星を隠すのも食の一種。

しょく【蜀】

[1]中国の王朝名(211〜263)。創建者は*劉備(りゅうび)。漢の帝室劉氏の後裔(こうえい)と称する。漢末の混乱期に蜀(四川省)では長官の劉焉(りゅうえん)・劉璋(りゅうしょう)父子がすでに自立的傾向を強めていたが，劉備は中原を転戦しながら荊州(けいしゅう)に入り，そこで*諸葛孔明(しょかつこうめい)の協力を得ることができた。やがて彼らは蜀に進んで劉璋を倒し，220年末に*曹丕(そうひ)が漢を滅ぼして魏(ぎ)を建てると，劉備は漢を継ぐと称して帝位につき，国を漢と号した。しかし，混同を避けるために，これを蜀漢または略して蜀とよぶ。劉備の死後(224)，子の劉禅が位を継いだが，暗愚であったため，諸葛孔明らの中原回復の努力も実らず，かえって国力を消耗して衰え，263年魏に滅ぼされた。

[2](五代十国) ➔前蜀 ➔後蜀

[3]元末の群雄のひとり明玉珍が重慶および四川の諸郡に建てた国。彼は元末紅巾軍(こうきんぐん)(➔紅巾の乱)に投じて元と戦い，1356年重慶を，次いで成都など四川諸郡を平定，1362年重慶で自立して大夏と号した。

しょくあん【職安】 ⇨公共職業安定所

しょくえん【食塩】 塩化ナトリウムの慣用名。塩ともいう。無色の結晶で，比重2.164，融点800.4℃，沸点1413℃。100gの水に0°Cで35.7g，100℃で39.8gとけ，温度による溶解度の変化は小さい。化学的に純粋なものは潮解しないが，マグネシウムやカルシウムの塩類を含むものは潮解性を示し，苦味を伴う。天然には岩塩として多量に産出し，海水中に2.8%含まれるほか，天然鹹水(かんすい)としても産する。わが国は天然資源に乏しく，古くから海水を原料として得てきた。人体の生理上不可欠で，調味料としても重要であり，工業上の用途も広い。

【用途】大きく分類すると食料用と工業用に分けられる。食料用としては，直接調味料のほか，つけ物，みそ・しょうゆの醸造，塩蔵・水産加工などに広く用いられる。工業用としてはソーダ工業・合成染料・せっけん・火薬・合成ゴムなどの化学工業用として，また窯業・皮革工業・石灰焼成・製鋼などに広く用いられる。特にソーダは化学工業の重要な原材料であり，塩の需要のうちソーダ工業で占める割合はきわめて大きい。一方同時に得られる塩素も，近来有機合成化学工業の原料として重視され，ますます需要を伸ばしつつある。食塩のわが国における年間需要量は，食料用として約100万t，工業用として約500万tである。食料用塩は大部分は国内生産品(国内塩)でまかなっているが，工業用塩は全部海外からの輸入品(輸入塩)にたよっている。輸入塩はほとんどが天日塩であり，供給地によって近海塩(韓国(かんこく)・中国・台湾)，準近海塩(ベトナム・タイ・インドネシア)，遠海塩(インド洋・紅海・地中海沿岸，アメリカ・オーストラリア)などに区分される。

ュ 〔大野友近〕

【生理作用】食塩は体内で血液の*浸透圧を一定に保つ役割をつかさどり，細胞の活動に必要なナトリウム，胃酸の分泌に必要な塩素を供給する。食塩は尿や汗の成分として毎日失われており，日本人の場合，成人で1日平均13gの補給を必要とし，外国人よりも多い。これは，日本人が食生活上で植物性食品が多いためにカリウムの摂取量が多く，これが体外に排泄(はいせつ)されるときにナトリウムを伴って出るためである。食塩が欠乏すると倦怠(けんたい)・疲労・嘔吐(おうと)・けいれん・めまい・食欲不振などの症状を起こすが，過剰になると高血圧を起こしやすいといわれる。

【調理】食塩はその機能を有効に利用して，調理において広範囲に使われる。長い食生活における塩の用い方には科学的な裏づけがあることが多い。また，食塩には味を十分に生かす働き(対比効果)があり，食酢・砂糖・パンも食塩で味を引き立てる。つけ物は食塩を基調としているが，これは味ばかりでなく食塩の強い浸透圧を利用して微生物の繁殖を防ぐもので，塩蔵はこの原理を応用している。魚介類の調理で，洗ったり煮たりするのに少量の食塩を用いるのは，

タンパク質を凝固させて，うま味のある水溶性タンパク質が失われるのを防ぐとともに，煮姿のくずれを避けるためである。また，野菜類やエビ・カニ類をゆでるときに食塩を加えるといっそうあざやかな色になる。これはそれぞれの色素と食塩の化学反応を利用したものである。このほか，リンゴなどの褐変(かっぺん)を防止したり，サトイモ・タコなどのぬめりをとるなど，いろいろ調理面の効果がある。〔佐藤友太郎〕

【塩の民俗学】日本人と塩との関係は古く，海・海水を含めて深いかかわりがあった。海から遠い山国に塩を運ぶ塩道が発達し，塩商人は特別な力のある者とされて塩親(しおとと)という病弱な子の仮親になることや，塩と交換にわが子を他人にやる形式をとる塩替息子(しおかえむすこ)の習俗などもあった。葬送からの帰りに塩で死の汚れを払い，相撲場(すもうば)の土俵上に塩をまくなどの塩清めは，競馬や闘牛でも行なわれ，また神祭や炉・かまど・井戸などの清めにも広く使われている。祭の神輿(みこし)を海中に入れる浜降り，海水に身をひたす潮垢離(しおごり)，土用の丑(うし)の日の潮浴びなどの民間信仰でも，海に近い村では海水をくんで，またそれと代わる簡便な代用として塩が使われた。料理飲食店ことに水商売などではいまでも開店前の店頭に盛り塩をするふうがある。〔今野圓助〕

しょくがばえ　【食蚜蠅】　こん虫類・双翅(そうし)目・ショクガバエ科の総称。ハナアブ科またはヒラタアブ科とも称される。20数亜科に分類され，全世界に約4,000種，日本からは約200種が知られるが，まだ十分に研究されておらず，将来多くの種が追加されよう。体長は4～25mm。体色は変化に富み，種々の斑紋(はんもん)をもつもの，金属光沢をもつものなどいろいろなものがあるが，翅(はね)に種々の形状の斑紋をもつ種類も多い。成虫は昼間活動性で，各種の花上に集まって蜜(みつ)を食するものが多いが，種類によっては樹液や腐敗有機物の汁液(じゅうえき)を食する。幼虫は種によって種々の食性をもつが，アブラムシ類を食する種類が多い。幼虫は一般にうじ型で，腹部末端に突起状の呼吸器官をもち，その形状によって無尾型・短尾型・長尾型・ヨメガカサ型の4型に分ける。無尾型の幼虫は，アブラムシ類やカイガラムシ類を捕食するため，農林業上の害虫の天敵で，マダラコシボソアブ・ケヒラタアブ・ヘリヒラタアブ・シマママメヒラタアブなどが含まれる。短尾型の幼虫は呼吸器は突出し，多くは汚物中にみられる。長尾型の幼虫の呼吸器は著しく長く体長の1～3倍以上に達し，俗にオナガウジといい，液体汚物中に生活する。ハナアブ・オオハナアブ・アシブトハナアブ・シマハナアブ・ルリハナアブなどが含まれる。ヨメガカサ型の幼虫は楕円(だえん)形で背面が隆起し，アリ類やシロアリ類の巣中に生活して，アリスアブが含まれる。これらのほか，樹木中に穴をあけるナガハナアブ・ヤマクロヒラタアブ，樹木の傷部内に生活するアシブトハナアブ・ルリイロナガハナアブ・ヒゲナガハナアブ，球根につくスイセンハナアブ・マドヒラタアブ，ハチの巣中に生活するベッコウハナアブなどがある。〔鈴木邦雄〕

しょくかん　【蜀漢】　⇨蜀①

しょくぎょうあんていほう　【職業安定法】　1947年(昭和22)公共職業安定所やその他の職業安定機関の運用を規定するために制定された法律。各人にその有する能力に適当な職業につく機会を与えることによって，工業その他の産業に必要な労働力を充足し，職業の安定を図るとともに，経済の興隆に寄与することを目的としたもの。職業選択の自由(2条)，均等待遇(3条)，労働条件の明示(18条)，労働争議に対する職業紹介の停止による中立的態度(20条)などの原則に立脚し，次の二つの政策を掲げている。①職業紹介と指導は，原則として国家機関が責任をもつこと。したがって，第三者がそれを行なう場合は，労働大臣の許可を必要とする(33条)。②中間搾取に対する監視。労働基準法6条の中間搾取の排除と並んで，なんぴとに対しても，労働者供給事業ならびにその事業から供給される労働者の使用を禁止した(44条)。また，労働組合法による労働組合が，労働大臣の許可を受けた場合に，無料の労働者供給事業を行なうことができるとしている(45条)。〔木元錦哉〕

しょくぎょうきょういく　【職業教育】　生徒などに，将来従事する職業についての必要な知識・技能・態度を習得させるための計画的な教育。職業準備教育・職業再教育・現職教育などがある。産業教育と一致する内容が多いが，産業教育よりも個人の適性が生かされ，経済的に独立しうるための特定の職業についての教育という点に比重がかかっている。義務教育段階での教育，特に中学校の〈技術・家庭科〉は普通教育の一環として位置づけられるべきであり，また大学など高等教育機関での専門教育は職業教育の範囲外であるから，職業再教育などの成人教育を除けば後期中等教育の段階の生徒が主要な教育対象である。〔福井幸雄〕

しょくぎょうご　【職業語】　ある職業に属している人々の用いることばの中で，その職業に特有のもの。広い意味では術語・専門用語を含むが，それらは厳密な概念規定が要請されるのに対して，職業語はその必要がない。なお，主として隠語のような性質をもったものをさす場合もある。

しょくぎょうしどう　【職業指導】　⇨進路指導

しょくぎょうしょうかい　【職業紹介】　求人および求職の申し込みを受け，求人者と求職者との間における雇用関係の成立を斡旋(あっせん)すること。職業安定法にいう職業紹介には，有料の職業紹介と無料の職業紹介とがある。職業紹介は，政府が無料で行なうことを原則としているが，特別の技術を必要とする職業に従事する者の斡旋については，労働大臣の許可を得て有料で行なうことができる。有料職業紹介には，実費職業紹介と営利職業紹介とがあり，前者は，営利を目的としない職業紹介で，実質として入会金・定期的掛金・手数料その他の料金を徴収するものをいい，後者は，営利を目的として行なうものをいう。無料職業紹介を行なう者には労働大臣の許可を必要とするが，学校教育法1条に規定する，中学・高校・大学の長がする場合は労働大臣に届け出ればよい。営利を目的としない実費職業紹介所と無料職業紹介所とを，公益職業紹介事業という。〔木元錦哉〕

しょくぎょうびょう　【職業病】　特定の職業の業務や作業状態の条件が原因となって起こる疾病(しっぺい)の労働衛生学的総称。不良な作業環境あるいは不適当な労働条件の積み重ねによって罹病(りびょう)する。労働基準法は災害性疾病と職業性疾病を含めた業務上疾病(書痙(しょけい)・ケーソン病・塵肺(じんぱい)・工業中毒など)38種を定め(同法施行規則35条)，国家がその補償の義務を負うとし，これに該当しない新しい職業病については労働大臣がこれを指定するとしている。上記のものに該当しない軽症の業務上疾病や，業務との関係が十分明らかでない疾病も含めて，一般に職業病といっている。〔木元錦哉〕

しょくぎょうべつくみあい　【職業別組合】　同一職業または技能をもつ労働者で組織する組合。生産が労働者の熟練度や技術に大きく左右されていたため熟練労働者の高賃金獲得，また労働市場を排他的に独占するため組織された。このような組合は，各国で労働組合運動の初期にみられる。今日のイギリスの労働組合の多くは，この伝統を受け継いでいるが，日本ではほとんどみられない。

しょくぎょうやきゅう　【職業野球】　⇨プロ野球

しょくこきんわかしゅう　【続古今和歌集】　第11番めの勅撰(ちょくせん)和歌集。1259年(正元1)3月後嵯峨院(ごさがいん)は藤原為家(ためいえ)ひとりに撰進を命じたが，1262年(弘長2)9月為家とは対立的な立場にある藤原光俊(みつとし)(真観)・藤原基家・藤原家良(いえよし)・藤原行家ら4人が選者に加えられた。1265年(文永2)12月奏覧，翌年3月《新古今和歌集》にならって竟宴(きょうえん)が行なわれた。この集はあらゆる面で新古今を規範にして選ばれており，歌風も《新勅撰和歌集》《続後撰和歌集》に比べ，いくらか新鮮味がある。〔佐藤恒雄〕

しょくごせんわかしゅう　【続後撰和歌

集】 第10番めの勅撰和歌集*。選者は藤原為家*(ためいえ)。1248年(宝治2)7月後嵯峨院(ごさがいん)の院宣を奉じ,1251年(建長3)10月または12月に奏覧した。集名には父定家*の《新勅撰和歌集*》を古今集に見たて,それに続く集の意をこめた。歌風はなだらかでめだつところ少なく,現在ではほとんど意義を認められない。

しょくざい 【贖罪】 ⇨和解

しょくさよう 【食作用】 動物体内の広い範囲に存在するアメーバ状の食細胞によって,固形の粒子を取り入れること。アメーバなどが食物を取り込むのがこの作用の基本となっていて,後生動物にもこのような細胞の活動が広く分布している。白血球の中でも好中性多核白血球・単核白血球などが細網内皮系に属する組織球(大食細胞ともいう)などは著しい食作用がみられ,白血球が生菌を摂取してタンパク質分解酵素によって細胞内消化をすることが知られ,細菌感染を防ぐために役だっている。また,これらの食細胞は寄生する原生動物や色素顆粒(かりゅう)・組織・細胞の破片なども摂食し,哺乳(ほにゅう)類の小腸内では上皮細胞や白血球の食作用によってグリコゲンや脂肪の吸収に働いている。1884年ソ連のメチニコフはヒトデの間充織細胞に食細胞の名を与え,さらに高等動物の白血球による食作用が生体を防御し清掃する重要な働きをすることを強調した(食作用説)。 〔蒲原春一〕

しょくさんこうぎょう 【殖産興業】 明治初年,政府が近代産業育成のため掲げた経済政策。維新政府は開港以来の輸入大幅超過による経済危機打開のため,西洋の進んだ生産方法を導入して鉱山・造船をはじめ,各産業を政府の直営または指導・保護によって近代産業へ一新させようとした。所轄官庁として1870年(明治3)工部省*を設け,さらに1873年内務省*を新設,内務卿(ないむきょう)大久保利通*(としみち)施策のもとに製糸・紡績・農業・牧畜などの殖産興業が進められた。特に輸出の中心となっていた生糸の生産を近代化するため,富岡製糸場・堺(さかい)紡績場・工部省製糸所などの官営模範工場を設けた。これら産業の近代化と,それに伴う軍事力の増強によって,わが国はアジアの強国へと躍進する国力を養ったが,殖産興業に要したばくだいな政府支出は地租として農民の重い負担となった。➔官営工業 ➔官業 〔高崎徳次〕

しょくさんじん 【蜀山人】 (1749~1823) 江戸後期の狂歌師・戯作者。本名大田覃(ふかし),通称直次郎。別号に南畝(なんぽ)・四方赤良(よものあから)・杏花園(きょうかえん)・寝惚(ねぼけ)先生など。幕府の御徒士(おかち)の正智(まさとも)の子で,彼も17歳からの50余年間幕臣として勤務した。幼少から漢詩文を好み,平秩(へずつ)東作・平賀源内*・唐衣橘洲*(からころもきっしゅう)と交わるに至って狂詩・狂歌を制作,濶達(かったつ)奇警な作風で人気を集め,天明狂歌壇の棟梁(とうりょう)と仰がれた。撰集(せんしゅう)に《万載狂歌集》,随筆に《一話一言》,そのほかに滑稽本*(こっけいぼん)・黄表紙・噺本(はなしぼん)などの作もある。 〔植田啓子〕

しょくじ 【植字】 ⇨活版印刷

ジョグジャカルタ [Joggjakarta] インドネシア共和国のジャワ島中部にある都市。人口34万2,000(1971)。メラピ火山の東南麓(ろく)にあるジョグジャカルタ特別区の主都で,付近はジャワの伝統文化の中心地域である。1775年以来同名の土侯国の首都となり,王城(クラトン)などの史跡に富み,王城は高さ4mの城壁に囲まれ,東西1,100m,南北750mの長方形をなし,内部にスルタンの居館,侍者たちの住宅がある。その一郭にはジャワさらさ・金銀細工・人形づくり・刀剣づくりなど伝統的な工芸製作者が居住している。また,ノノブドヨ博物館・ジャマダ大学(第2次世界大戦後設立)などの文化施設も整っている。名高いボロブドールやプランバナンの遺跡もこの都市の近くにある。第2次世界大戦後の1946~1949年には独立運動の中心地となった。 〔別技篤彦〕

しょくしゅ 【触手】 自由に伸び縮みしたり曲げたりすることのできる細長い突起物で,下等動物のからだの前端や口の回りなどに存在する。えさを捕えたり,他の動物を攻撃したり自分を守るために用いられるもので,この上に触覚・化学感覚などの受容器をもつもの,刺細胞を有するものがあり,擬軟体動物・内肛(ないこう)動物では呼吸器としても役だつ。なお,腔腸動物・有刺胞類の触手は捕腕または捕系ともよばれる。

しょくじゅぞうりん 【植樹造林】 林地に苗木を植えて林を造林することで,人工造林の普通の形である。苗畑で大きくした苗木を植えつけるので,直接に播種(はしゅ)やさし木をするのと違い,安全・確実・迅速に林になる。苗木は,気候・土壌(どじょう)など環境に適した樹種・品種で,病虫害がなく,栄養のよい,根系の発達したものを選ぶ。この苗木は苗畑で実生あるいはさし木で仕立てられる。実生苗は苗畑に播種して,1~2回床替えや根切りなどを行なって,移植に適した根系をつくる。苗畑では施肥・除草・日覆・消毒など保護育成の作業をする。植え付けは山出しといい,春・秋に行なう。積雪地では秋植えでも冬の間苗木が保護されるが,表日本のように冬期乾燥するところでは秋植えはむずかしい。苗木は梱包(こんぽう)・運搬に気をつけ,必要があれば山もとで仮植して元気を回復させる。スギなどでは流水中に仮植ができる。植え付けは植え穴付近のゴミを取り除き,十分大きく穴を掘り,中へ根を広げて入れ,土をかけてから揺すりながら引き上げ,根を下へ広げ,よく土に接触させてから踏み固める。乾燥を防ぐため,植えた苗木の根もとにごみを寄せる。植え付けの密度は生産の目標や樹種によって異なるが,スギ・ヒノキでは1ヘクタールあたり3,000~4,000本程度である。植列をつくり,あとで下刈り・枝打ち・つる切りなどの手入れをしやすくする。植え付けはスギ・ヒノキで1日1人あたり200~300本である。近年労力の関係で機械を用いる方法や通年植え付けなどが開発されつつある。 〔川名 明〕

しょくしゅどうぶつ 【触手動物】 動物分類学上の一門で,ホウキムシ綱・コケムシ綱・腕足綱が含まれる。口を囲む台盤のまわりに,繊毛のある触手が排列した触手冠・総担(ふさかつぎ)という構造をもつ。体は,前体・中体・後体の3部に分かれ,各部に前腔(ぜんこう)・中腔・後腔があって,消化管はU字形に曲がり,肛門(こうもん)は触手冠の外側に開く。幼生はトロコフォア型。以上の特徴は共通するが,互いに差異も多くみられるので,それらを重視して,上記の3綱をそれぞれ独立の門として扱うことも少なくない。主として海産で,約5,000種が知られる。 〔菅野 徹〕

しょくじょせい 【織女星】 ⇨ベガ

しょくじりょうほう 【食餌療法】 疾病(しっぺい)により特に必要な栄養源を与えたり,与えてはいけない食物を決め,一定の食餌を与えることによって疾病治癒(ちゆ)を図る治療法。特別の食餌によって直接に治療効果を得る場合と,体力の増強を図って間接的に治療効果を上げる消化器病などの場合とがある。前者の代表的なものは,糖尿病・腎炎(じんえん)・高血圧・浮腫(ふしゅ)・肥満症がある。糖尿病では,血糖値を上げないことが重要なため,必要カロリーのうちで脂肪・タンパク質を優先させ,糖質をおさえる。腎炎,特に急性腎炎では,腎臓の負担を避ける意味で水・食塩の減量が必要で,高タンパクの食事を与える。高血圧ではコレステロールの沈着を防ぐために動物性脂肪を制限し,腎臓の負担を除くための減塩が行なわれるほか,浮腫に対しては水分・食塩の制限をした食事を与えるなど,疾病の機序に直結した場合が多い。特に家庭で食餌療法を行なう場合には医師の指示に従い,理解したうえで徹底する必要がある。

〔金子義徳〕

しょくじん 【食人】 カニバリズムともいい,人食いの習俗のこと。西インド諸島の〈カニバル(食人種)〉に由来する。この習俗の分布は広い。メラネシアでは戦いで殺した敵の肉を食うことによって相手の呪術*(じゅじゅつ)的な力を自分の中に取り入れることが目的とされているが,このような風習は,ニューギニア・オーストラリア・ポリネシア・西部アフリカ・中央アフリカ・西インド諸島・南アメリカなどでも最近まで行なわれていた。古くは,ヘロドトスがスキタイのマガテー族において食人の風習を指摘した。また,旧石器時代の北京(ペキン)原人*にも,頭骨底が破壊されていることから,食

人の習俗があったと説く人もいる。その動機には呪術的・宗教的原因があげられ，人肉を食することでその人間の力や霊魂をわがものにすることができるという信仰に基づくと考えられている。憎悪(ぞうお)や復讐(ふくしゅう)が動機で食人の習俗が行なわれることもあるが，それが退化したものが首狩り*の習俗であると主張する学者もいる。また，秘密結社への加入などにも人食いの風習がみられるが，純粋に食用の目的で行なうのはまずない。〔山路勝彦〕

しょくせい【食性】動物の摂食上の習性をいい，動物がどのような種類の食物をどんな行動で摂食するかを意味する。単に食物の種類をいう場合もある。食物の種類で分類すれば，植食性・肉食性・腐食性・雑食性などとなり，摂食する食物の範囲では多食性・広食性・単食性・狭食性などと分類できる。同一動物でも食性は必ずしも決まっておらず，特に発育段階上で変化していくものが多い。また，季節環境などの変化により食性が変わるものもある。食性は一般に口器・消化管などの体の構造や消化機能・運動機能などに適したものになっているが，家畜のように人為的に変化させてしまったものもある。たとえば，イヌ・ネコは野性の時代は肉食性であったが，家畜になってからは雑食性となった。〔松本忠夫〕

しょくせい【植生】地表面をおおっているあらゆる植物の総和，あるいは単にある地域に存在する植物の集合体をさしていう語。裸の地表面を包んでいるという意味で植被または植衣ともいう。その構造や広がりに対しては厳密な規定はない。集合の状態に注目した場合，単一種によって構成されている場合を単純植生，多数の種からなるものを複合植生という。また，ある地域の立地本来の植生を自然植生といい，これに対して人為的干渉によって成立したものを人為植生という。なお，群落*と同じ意味に用いる場合もあるが，普通には植生に単位性をもたせ，全体的な統一がみられる場合に用いる植物群落とは区別する。〔増沢武弘〕

しょくせんざいわかしゅう【続千載和歌集】第15番めの勅撰(ちょくせん)和歌集*。選者は二条為世*(ためよ)。1318年(文保2)10月後宇多院の院宣を奉じ，翌年4月四季部のみ奏覧，1320年(元応2)7月返納というような記録はあるが，成立については不明な点が多い。1318年大覚寺統の政権奪回により，信任を得ていた為世が京極派*に変わって歌壇の主導権を握り，撰進した集であるため，極端に同派を退けている。

しょくぞう【食像】結晶面の見える結晶を，適当な試薬で処理すると全部または一部の結晶面にできるへこみ。天然に産する鉱物の結晶面にもしばしば食像が見られる。食像は一般に幾何学的な形をしており，その対称を調べることによって，その結晶面，さらに結晶の対称を知ることができる。半導体の原料に用いるシリコンやゲルマニウムの単結晶にこの方法を用いると，結晶中の転位*の数などを調べることができる。

じょくそう【褥瘡】⇨床ずれ

しょくだい【燭台】燈火として蠟燭(ろうそく)を立てる台。わが国で，燭台が使用されたのは鎌倉時代末とみられ，特別な形制もなく，遺品も燈台の形状を踏襲したものが多い。仏教では，仏前献燈の具として，一対をなしたり，花瓶(けびょう)や香炉とともに三具足(みつぐそく)・五具足に用いられるのが通例で，唐招提(とうしょうだい)寺や聖衆来迎(しょうじゅらいごう)寺には蠟形鋳銅による豪華な細工の三具足が残っている。持ち歩くのに便利な手燭とよぶ小形のものがあり，壁や柱にとりつけるものに掛燭(かけしょく)がある。〔河田　貞〕

しょくたくさつじん・しょうだくさつじん【嘱託殺人・承諾殺人】本人から依頼され，または承諾ずくで人を殺す罪(刑法202条)。〈いっそ殺してくれ〉と頼まれて殺すのを嘱託殺人。〈身代わりに死んでくれ〉といって，その承諾を得て殺すのを承諾殺人という。いずれも刑は6月以上7年以下の懲役または禁錮(きんこ)。依頼や承諾は本人の真意から出た明確な意思であることが必要とされる。➔安楽死

しょくちゅうしょくぶつ【食虫植物】こん虫やその他の小動物を捕えて消化・吸収し，自己の栄養とする植物の総称。この呼称は生態的な特徴に基づいたもので，系統分類学的な呼称ではない。1875年ダーウィンがはじめてこの語を用いたが，こん虫だけでなく小動物も捕食するため，最近では食肉植物ともいわれる。これらの植物はいずれも緑色植物で，光合成を行なって栄養の主体とする独立栄養植物である。生育地の大部分は湿地や水中であるが(乾燥砂礫地(されきち)や岩上に生育するものもある)，ほとんどが弱酸性地であるため，吸収可能な窒素分に乏しく，こん虫を捕食することによってそれを補っている。食虫植物の分泌する消化液の主体はタンパク質分解酵素であり，虫体をとかしてその窒素化合物などを吸収するが，バクテリアによるタンパク質の分解もその消化を助けている。したがって，消化・吸収の能力をもたず，植物体保護などのために捕虫するムシトリナデシコなどは食虫植物とはいわない。離弁花類6科11属(サラセニア科・ウツボカズラ科・モウセンゴケ科・セファロタス科・ビブリス科・ロリデュラ科)，合弁花類1科16属(タヌキモ科)が属する。このうちロリデュラ科は消化酵素をもたないといわれ，除外されることも多い。



モウセンゴケ



ハエジゴク

食虫植物

捕虫様式は多様であるが，ほぼ次のように大別される。①葉面に密にはえた腺毛(せんもう)から粘液を分泌してこん虫を粘着させる型(モウセンゴケなど)，②筒状やつぼ状の葉にこん虫を落とし込んで捕える型(サラセニア・ウツボカズラなど)，③小さな袋に虫を吸い込んだり(タヌキモなど)，二枚貝状の葉で虫をはさんで捕える(ハエジゴクなど)。モウセンゴケ属のように世界に広く分布しているもの，あるいはハエジゴク属(北アメリカのカロライナ地方)やセファロタス科(オーストラリア南西部)のように極限された地域にしか分布しないものもあり，現在世界で500余種が報告されている。そのうち日本には2科8属20余種が産し，日光・足尾近辺に自生するコウシンソウは日本特産種である。〔逢沢達人〕

しょくちゅうどく【食中毒】食物に含まれる病原体や毒物に原因する中毒*。ある特定の食品が含まれている特定の食事のあと，幾人かが突然発病し，原因物質によって病状の発現する時間・内容がほぼ一定しているのが特徴である。消化器系伝染病が人から人への伝播(でんぱ)が多いのに比べ，人から人への伝播関係が弱いので〈食物感染症〉ともよばれる。症状は悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・下痢・腹部けいれんなど一般消化器症状を示し，発熱を認めることがある。原因によって細菌性・化学物質性・自然毒性に大別される。

①細菌性食中毒：古くは食中毒の原因は腐敗したタンパク質が一種のアミン*となり，それが有毒作用を示すというプトマイン説で説明されていたが，現在ではその半数以上が細菌性食中毒といえる。食物に混入した細菌が体内にはいって感染を起こし発病する型を感染型といい，腸炎ビブリオ・サルモネラ菌によるものが代表的で，ほかに連鎖球菌*・病原性大腸菌なども原因となる。

腸炎ビブリオ性食中毒は近年では最も多い中毒である。腸炎ビブリオは病原性好塩菌ともよばれ，食塩に非常に強く，3％の食塩条件でも発育する。したがって海産物(魚貝類・海藻(かいそう))，つけ物が原因食品となるが，熱には弱く，50～55℃，5分くらいで死滅する。サルモネラ菌食中毒は，この菌を含むネズミの糞便(ふんべん)などに汚染された食物に由来する。発病は体内に侵入した細菌が繁殖するための一定時間を必要とする。細菌の産生した毒素による中毒を毒素型といい，ブドウ状球菌性食中毒，ボツリヌス中毒がある。ブドウ状球菌は，タンパク質・糖質に富んだ食品中で増殖する際に毒素を産生するので，魚肉練り製品(かまぼこ・ちくわ)や豆製品が原因食品となりやすい。また化膿(かのう)の原因菌でもあるため，食品取り扱い者の手指の化膿巣から食品が汚染されることもまれでない。感染型に比べて潜伏期がきわめて短く，平均3時間で発病する。ボツリヌス菌による食中毒は，主としてソーセージが原因であるため，腸詰め中毒ともいわれる。日本では少なく，1951年(昭和26)北海道でニシンの飯鮨(いいずし)によって起こったものが最初であり，その後も飯鮨による発生はまれにある。致命率が高く，危険な食中毒である。

②化学物質性食中毒：不良添加物(人工甘味料・人工着色料・防腐剤・漂白剤)や有害金属(ヒ素・鉛・銅・ニッケルなど)のほか，メチルアルコール・殺虫剤・殺鼠(さっそ)剤の混入などによる食中毒である。届け出された発生数は集団発生が少ないため僅少(きんしょう)であるが，1955年の調製粉乳によるヒ素中毒のように，全国で12,344名の患者が発生し，130名が死亡するという大惨事も生じた。

③自然毒性食中毒：毒きのこ・ヒガンバナ・青梅のような植物性のものと，フグ・アサリ・カキなどの動物性のものがある。中でも毒きのこによる中毒は比較的多い。

化学物質による食中毒および自然毒による食中毒の予防には，食品製造過程での異物の混入の防止，毒物の識別が重要である。細菌性食中毒では，まず細菌による汚染を防ぐ努力をすることが肝要で，これには調理者の清潔，器材の管理が必要であり，また細菌の増殖を防ぐような環境施設が不可欠の条件である。〔金子義徳〕

しょくちゅうるい 【食虫類】 哺乳(ほにゅう)類・食虫目の総称。原始的な真獣類。哺乳類中最小といわれるコビトジネズミやトウキョウトガリネズミ(頭胴長4～5cm)などが含まれる。テンレックやポタモガーレ(30～35cm)は食虫類中最大のものである。ふつう前後肢(ぜんこうし)は短く5指でかぎづめがある。吻(ふん)は細長く前方に突出し，よく動き，音やにおいには鋭敏だが視力は弱い。多くは夜行性で地上または地下にすみ，小動物を食べる。新陳代謝が盛んで，体の割に多量の食物をとる。ハリネズミのように冬眠するものもある。オーストラリアと南アメリカ中南部には分布しない。5上科に大別され，テンレック上科・キンモグラ上科・ハネジネズミ上科のものはアフリカだけに分布する。ヨーロッパ・アジア・アフリカにはハリネズミ上科，さらに北・中央アメリカにまで広く分布するトガリネズミ上科がある。日本産のモグラ・ジネズミなどの食虫類はすべてトガリネズミ上科に含まれる。〔今泉吉典〕

しょくてん 【触点】 外部からの機械的刺激を受容し，触覚を生じる感覚器(触受容器)がおもに体表面に分布してつくられる感覚点の一。圧点ともいう。下等無脊椎(むせきつい)動物の触細胞や体毛は，一端が神経化しており，直接感覚神経に連接している一次感覚細胞であり，哺乳(ほにゅう)類の触毛(上顎(じょうがく)のひげやモグラの足にある感覚毛など)もこの一種である。さらに，脊椎動物には直接の連接はないが，感覚神経終末を触細胞が被覆している各種の触小体(二次感覚細胞)がある。たとえばファーター-パチーニ層状小体，マイスナー触小体・グランドリ触覚小体などが体表上および体内深くにあり，体毛のない部分などの触覚をつかさどっている。〔原野友之〕

しょくどう 【食道】 咽頭(いんとう)と胃の入り口，すなわち噴門をつなぐ消化管の一部。長さは成人で24～25cm。太さは左右径約2cm，前後径約1cmで，起始部，気管の分岐部および横隔膜を穿通(せんつう)する食道裂孔の3か所に狭窄(きょうさく)がある。しわの多い粘膜，2層からなる筋層，外膜からなるが，粘膜は口腔(こうこう)粘膜と同様に重層の扁平(へんぺい)上皮層をかぶり，単層円柱上皮の胃粘膜とは著しくようすが違う。また筋肉は輪状に走る内層と縦走する外層とからなるが，頸部(けいぶ)では横紋筋，下半部は平滑筋，その中間部は内層の平滑筋，外層の横紋筋というぐあいに混じり合っている。上半部は横紋筋のため食塊をのみこむことが可能である。〔幡井勉・橋本長〕

しょくどうがん 【食道癌】 食道の粘膜に発生する癌。全消化器癌の10～15％を占めるが，比較的高齢者にみられ，40歳以下ではまれで，大酒家，特に強い酒を飲用している者に多いとされている。食道憩室(→憩室)・瘢痕(はんこん)などから発生することもあり，食道白斑症(はくはんしょう)は前癌状態として注意を要する。食道狭窄(きょうさく)による食物の通過障害が唯一の自覚症状であるが，その初期においてはまったく自覚症状を認めない。しかし，比較的短期間に進行して狭窄症状はしだいに増悪し，また腫瘤(しゅりゅう)が大きくなると圧迫症状として反回神経麻痺(まひ)による嗄声(させい)・失音が現われたり，迷走神経刺激による徐脈・狭心痛などが出現することがある。診断には食道のレントゲン検査および食道鏡検査が有力である。自覚症状が少ないため早期発見は困難であるが，初期に発見されれば根治可能である。合併症として，肋膜炎(ろくまくえん)(胸膜炎)・肺壊疽(はいえそ)がしばしばみられる。〔佐野隆志〕

しょくどうきょう 【食道鏡】 食道内腔(ないこう)を照らして観察するための管。内視鏡の一種で，硬性管と軟性管とがある。硬性管は金属性の直管で，種々の型があるが，管外の光で食道内腔を照らしてみる管外照明方式と小電球を直管の先端に挿入(そうにゅう)し，食道内腔を直接照らす管内照明方式とに大別される。軟性管は管外の光をグラスファイバー(→ガラス繊維)で管の先端に導き，それにより照らしだされた食道内腔の所見をグラスファイバーでとらえてみる可撓(かとう)性の管である。硬性・軟性ともにその管を口から食道に挿入すれば，食道入口部から噴門部(胃の入り口)までの腔内の所見を明らかにすることができる。食道異物の摘出には硬性管が用いられるが，食道内腔の観察，試験切片切除などには硬・軟いずれを用いてもよい。また必要に応じ，食道鏡所見をカラー写真や映画に撮影・記録することもできるようになった。〔滝野賢一〕

しょくどうきょうさく 【食道狭窄】 食道の全長または一部分に生ずる狭窄。食道には次の三つの生理的狭窄部がある。①食道入口部(第1狭窄部)，②食道と大動脈弓および左気管支との交差部(第2狭窄部)，③横隔膜裂孔部(第3狭窄部)。これらの狭窄部は異常・病変の起こりやすいところで，誤嚥(ごえん)された食道異物はまず第1狭窄部にひっかかりやすく，強酸・強アルカリ液の誤飲，自殺目的での異物の嚥下は食道の腐食性狭窄，瘢痕(はんこん)性狭窄を起こし，また食道の熱傷・炎症・潰瘍(かいよう)も狭窄の原因となる。食道壁に発生した腫瘍(しゅよう)(癌(がん)・肉腫・繊維腫・脂肪腫など)は食道腔をせばめ，食道裂孔ヘルニア，食道憩室(→憩室)による機械的圧迫，特発性食道拡張症に伴う噴門けいれん，迷走神経(→脳神経)緊張による神経性食道けいれん，薬物中毒・梅毒・狂犬病・破傷風などの経過中にみられる発作性食道けいれん，迷走神経・舌咽(ぜついん)神経の麻痺(まひ)，中毒による嚥下障害も食道狭窄の症状を示し，飲食物の通過を妨げる。そのほか，頸部(けいぶ)・胸部の腫瘍(甲状腺腫(こうじょうせんしゅ)・胸腺腫・混合腫瘍・癌など)，大動脈瘤(だいどうみゃくりゅう)，大血管の走行異常，食道周囲炎・縦隔洞炎(じゅうかくどうえん)・膿瘍(のうよう)などによる食道外部からの圧迫によっても食道は狭窄される。先天性奇形による食道閉塞(へいそく)，食道狭窄はその頻度(ひんど)はきわめて少なく，食道内腔に張り出した隔膜による狭窄をみることもまれである。診断はX線食道造影検査・食道直達鏡検査によって狭窄の有無・性状・程度を明らかにし，また狭窄はない

のに食道狭窄感を強く訴える，いわゆる咽喉頭(いんこうとう)食道神経症との鑑別も必要である。治療は狭窄の原因除去のための外科的・内科的・放射線的治療を行ない，病状によっては対症療法*にとどめ，胃瘻(いろう)形成(腹壁を通して皮膚外と直接交通路をつくること)による栄養保持に努める。〔滝野賢一〕

しょくにくセンター【食肉センター】語源からは食肉流通の中心的機能を有する施設をいう。従来，食肉流通の中心的機能を有してきたのは大小の屠畜(とちく)場であったが，昭和30年代の前半から肉類消費の増大，価格の騰貴傾向に対処するため，大消費地においては食肉中央卸売市場(1971年11月現在9市場)が次々と開設され，一方，産地や中小都市においては生産者団体によって食肉センターの設置が推進された。食肉センターは地方における食肉の公正取引を促進するとともに，食肉流通経費を節減し，生産者に対しては共同出荷・共同販売を推進することにより，畜産物市場価格の安定をめざすもので，1960年(昭和35)度から政府補助金が出されるようになり，1971年11月現在で全国に79か所を数える。一般的には食肉センターは，屠殺解体場・冷却冷蔵庫・部分肉処理場・枝肉輸送トラックなどの施設をもつ枝肉・部分肉の出荷基地であり，地場消費のための枝肉取引の場といえる。〔安武正秀〕

しょくにくるい【食肉類】哺乳(ほにゅう)類・食肉目の総称で，多くは肉食性。オーストラリアとニュージーランド以外の地域に広く分布する。前後肢(ぜんこうし)に4～5指があり，すべての指にかぎづめがある。大脳半球はよく発達し，知能が高い。多くのものは犬歯が大きくがんじょうできば状。臼歯(きゅうし)のうち上顎(じょうがく)第四臼歯と下顎第一臼歯はよく発達し，裂歯となる。一般に生きている動物を捕食するため，目・鼻・耳などの感覚器が発達し，行動も敏速。多くのものは毛皮が良質で，毛皮獣として珍重され，農作物などに有害なネズミ・ウサギなどの駆除にも役だつ。

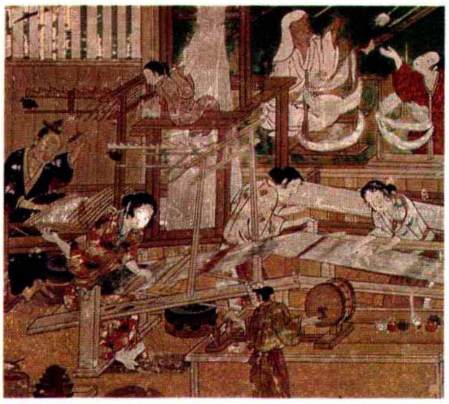
前後肢がひれ状で水生に適応した鰭脚(ひれあし)亜目と，前後肢が地上歩行に適した裂脚亜目に大別される。前者はアシカ科・セイウチ科・アザラシ科の3科に分けられ，後者はイヌ科・クマ科・アライグマ科・イタチ科・ジャコウネコ科・ハイエナ科・ネコ科に分けられる。〔今泉吉典〕

しょくにほんぎ【続日本紀】《日本書紀》に次ぐ勅撰(ちょくせん)史書。697年(文武1)の文武天皇～桓武(かんむ)天皇の791年(延暦10)までの約1世紀を扱った漢文編年史で，40巻。797年藤原継縄(つぐただ)らが完成奏上したが，その編纂(へんさん)過程はかなり複雑で，そのためできばえもあまりよくないが，奈良時代の正史として律令(りつりょう)政治の研究には不可欠の史料である。

しょくにほんこうき【続日本後紀】《日本後紀》のあとを受け，仁明(にんみょう)天皇の一代を記した勅撰(ちょくせん)史書で，20巻。藤原良房(よしふさ)らが文徳天皇の命によって編纂(へんさん)を始め，清和天皇の869年(貞観11)完成奏上した。

しょくにんづくし【職人尽】近世風俗画の主要な画題の一。各種の職人の生業のありさまを描き，屏風(びょうぶ)・絵巻・画帖(がじょう)などの画面形式をとり，庶民をその生産的な生活の場でとらえる健全な風俗画として流行した。代表的な作例に，喜多院蔵の《職人尽図屏風》(狩野吉信(かのうよしのぶ))，東京国立博物館蔵の《近世職人尽絵詞(えことば)》(鍬形蕙斎*(くわがたけいさい))がある。なおこれとは別に，歌合絵巻の形式を借りた〈職人歌合〉が室町初期から描かれ，東京国立博物館蔵の《東北院職人歌合絵巻》などが知られている。

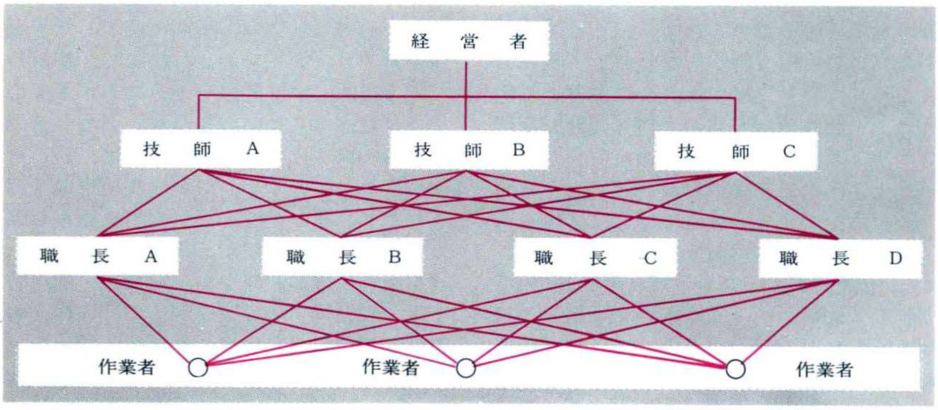
しょくのうきゅう【職能給】従業員の職務を遂行する能力によって賃金を決めていくシステムで，従業員各自の知識・経験・技能・指導監督責任などを要素として，その能力に対して支払われる賃金。一般には，資格・身分・技能などによっていくつかの職給に分け，同一の職給にあっても能力や経験のすぐれているものほど号俸(ごうほう)が高くなるといった方式がとられている。職能給の導入のしかたは職務給*と同様であるが，職務遂行能力の等級に人を格付けしたり，昇進・降格などを客観的に行なうことには非常な困難が存する。➔賃金〔清水　晶〕



職人尽　狩野吉信《近世職人尽絵詞》(部分，織物師)　喜多院蔵

しょくのうそしき【職能組織】経営管理職能を，その発現する行程・場所・対象とは無関係に，遂行に同一の熟練ないし技能を要するような職能に分類し，それぞれを異なる部門ないし職位を担当させることによって成立する企業組織。この組織形態は，直系組織*とは対照的に，専門化を重視し，各職位間の水平的分業を中心原理としており，この考え方を現場管理組織に適用した，テーラー*の職能的職長制度にその起源をもつ。いま職能組織の基本構造を示せば，図のようになる。各作業者は作業内容に応じて，A，B，C，Dのすべての職長の指揮・監督を受けるのであって，特定の職長に専属するわけではない。同様な関係は，各職長と各技師との間にも存在する。それは，各職長・各技師がそれぞれ異なった専門職能を担当していることによる。このようにして職能組織における指揮命令は，多元的とならざるをえなくなる。専門化の採用は，各管理者の採用と育成をきわめて容易にし，作業の専門化・細分化に伴って各管理者は決定された常規的事項のみを正確に遂行すればよくなるために，作業者の仕事の成否を合理的に判定することが可能になり，結果に応じた報奨を与えることが可能になる。さらに作業者に対する作業の管理が容易になる。しかしその反面，命令の一元性が害されて，組織の秩序が乱れることなどが指摘される。〔清水　晶〕

しょくのうだいひょうせい【職能代表制】各職域集団の利益を代表する者によって運営される政治制度。地域代表制に対する。元来，民主主義的な代議制の原理は治者と被治者との一致，および選挙権の平等性を前提に，国民大衆の個々人がその主権の行使を代理人・政党に代表させようとしたものである。しかし国民の代表をその



職能組織　基本構造

居住地域から選び出すことは現代の複雑な諸利益をほんとうに代表するとはいえず，その批判から集団の個人に対する優越を説くものとして現われた。〔溝口　潔〕

しょくのうべつくみあい【職能別組合】⇨職業別組合

しょくばい【触媒】ある反応系において，自身は反応の前後で変化せず，しかもその系の反応速度を変える作用をするものをいう。実際には触媒はわずかながら変質する。反応速度を変えるということは，その系の自由エネルギーを減少させることで，これにはエントロピー*・エンタルピー*の効果が含まれる。反応物質と触媒とが同一相にある場合(水溶液中でカルボン酸の脱炭酸反応の触媒となる遷移金属イオンなど)を均一(系)触媒といい，相が異なる場合(水素が酸素と化合する触媒となる固体白金など)を不均一(系)触媒という。ふつう，触媒は反応を促進させる正触媒であるが，反応を減ずる負触媒もある。オストワルド*は，触媒は反応速度を変えてその系をすみやかにその条件下の平衡に到達させるものと定義している。つまり，触媒は反応速度を変えるが，反応を開始させるものではない。しかし，実際にはそれ自身変質することによって反応を開始させ，あるいは反応を促進させて，しかも反応終了後もとの状態にもどらない物質をも，触媒といっていることがある。触媒作用の強さを活性といい，ふつう一定質量の触媒を用いたときの反応速度定数で表わし，固体触媒の場合は，その比表面積と単位表面積あたりの活性との積で表わす。生体内での反応に関与している触媒を酵素または生体触媒といい，常温・常圧・ほぼ中性で活性を示す点に特徴がある。➔酵素〔三輪誠・加藤康〕

しょくばきょういく【職場教育】⇨企業内教育

しょくひじゅつ【植皮術】皮膚移植術ともいう。外傷や手術による皮膚欠損部の補塡(ほてん)などのために，皮膚を他の部分に移植する手術。他種の皮膚を用いる異種植皮術，同種の皮膚を用いる同種植皮術，自身の皮膚を用いる自家植皮術があるが，種種実験された結果，異種植皮術はまったくその利用価値を認められず，主として成功率の高い自家植皮術が行なわれる。現在のところ，同種植皮術で永久的に生着する場合は，一卵性双生児間および先天性無γグロブリン血症の場合のみである。しかし，重症火傷例など皮膚損傷がひどく，自家植皮術を行ないえない場合には，生体繃帯(ほうたい)的な意味で同種植皮術が行なわれる。また，皮片の延命をはかる種々の研究(免疫抑制剤・副腎(ふくじん)皮質ホルモン剤・X線全身照射など)が行なわれている。自家植皮術には，皮膚の血行を断たずに移植を行なう有茎植皮術と，皮膚の血行を断ち必要な面積の皮膚を切り取って移植する遊離植皮術がある。〔田嶋公子〕

しょくひんえいせいほう【食品衛生法】われわれが日常摂取する飲食物およびこれに関連する添加物・器具・容器・包装などについて衛生的な品質を確保することによって，人の健康を維持し，食生活を快適・安全なものとすることを食品衛生という。食品衛生を守り，飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し，公衆衛生の向上および増進に寄与することを目的とした法律が〈食品衛生法〉である。1947年(昭和22)制定されたが，その後時代の推移に即応して，改正が行なわれている。〔佐藤友太郎〕

しょくひんてんかぶつ【食品添加物】食品の調理・加工や保存・運搬などに便利にするために，食品に味・かおりをつけたり，人工的に着色したり，腐敗防止を図るために用いる物質。砂糖・食塩などのように天然に得られるものと，サッカリン・グルタミン酸ナトリウムのように化学的に合成された物質(化学的合成品)とがある。食品衛生の面から，国が食品衛生法*で品質・規格・使用方法などについてきびしく規制しているのは，後者の化学的合成品に限られ，現在350種類ある。これは，前者の砂糖・食塩などは有毒物を含むおそれもほとんどなく，適宜に使用すれば身体に悪影響を及ぼさないが，化学的合成品は人体に対する毒性の判別ができにくく，使用法を誤ると危険なので，原則として製造・販売・使用を禁止しているのである。しかし，特に人体への安全性も高く，食品工業上利点の多い物質については国が指定をして，それぞれ成分規格を設け，使用・保存の基準をきびしく定めている。このような規定を書いたものが厚生省食品衛生調査会の〈食品添加物公定書〉である。

【食品添加物の標示】食品に食品添加物を用いた場合は，食品衛生法により，添加物の名称，製造年月日，製造者名，添加物の成分・含有割合などを標示しなければならない。したがって無標示の食品は，違反か質的に劣悪なものといえよう。日常の食生活では，1日にきわめて多種多様な添加物を摂取しているが，その一つ一つは有害でなくても，使用度が重なると量的にも多くなる。食品添加物は，長期に使用しても慢性中毒やガン発生のおそれがなく，使用してその目的とする効果が十分にあがるものでなければならない。しかし，いくつかの食用着色料や人工甘味料*のように，かつて使用されたものでも，やがて使用を取り消されたり，新しい添加物が使用を認められたりするので，注意が必要である。

【用途別の種類】保存料・殺菌料・酸化防止剤・漂白料・小麦改良剤・糊(のり)料・着香料・着色料・発色剤・調味料・酸味料・甘味料・乳化剤・消泡(しょうほう)剤・比重調整剤・保水乳化安定剤・溶剤・醸造用添加物・膨張剤・チューインガム基礎剤・強化剤・被膜剤・抽出剤・食品製造用添加物など。〔大礒敏雄〕

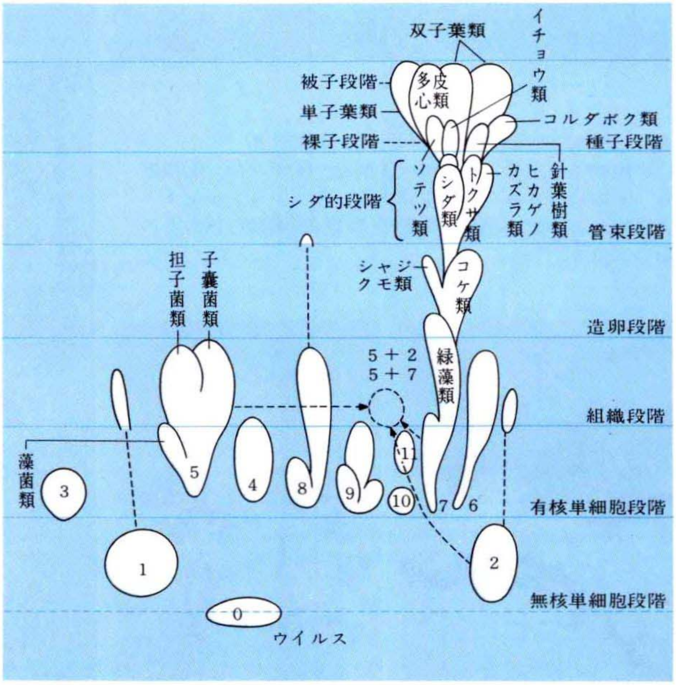
しょくぶつ【植物】動物とともに生物界を構成する一群。動植物の区別は進化の長い過程の間に生じたもので，その起源は，はじめはきわめて単純な構造をもった微生物から一方に植物が，他方に動物が進化してきたと一般に認められており，微小な生物では区別できないものもある。植物の進化の傾向としては，①外展的(積み重ね式)な多細胞化，②細胞膜の形成，③クロロフィルによる同化作用に基づく独立栄養的物質代謝系の成立，などがあげられる。植物の起源としては，ミドリムシやクロレラのような葉緑素をもつ水生の単細胞生物が考えられ，一方菌類や変形菌類は原始的な植物が葉緑素を失い，そのまま進化したものと考えられている。水中で生活する植物(藻(そう)類)は体の全表面から水分を吸収し，また浮力があるために体の支持器官を必要とせず，各器官の分化は必要でない。しかし，陸上植物は養分を地中から吸収するために根が同化作用を十分行なうために葉が発達した。また根と葉を連絡し，体をささえるために茎が発達し，水分や養分の通路として維管束が発達するというように，原始的な水中生活をしていた植物がだんだん進化して陸上生活をするにつれ，各器官や機能の分化が行なわれて陸上生活に適合するようになってきた。たとえば，最も下等な陸上の緑色植物であるコケ植物では，体の各部の分化はあまりなく，維管束は発達していない。これがシダ植物になると，根・茎・葉が分化し，維管束が備わり，陸上生活により適応した形となるが，生殖細胞が水中を泳いで受精する点で，まだ水中生活のなごりをとどめている。種子植物では，雄性生殖細胞が花粉管内に閉じ込められたまま卵細胞の近くまで運ばれ，外部の水を必要としない点で，シダ植物よりいっそう陸上生活に適合した性質をもっているということができる。

現在知られている植物化石は，古生代のはじめ約5億年前のものであり，陸上植物のそれは約3億年前のものである。現存の植物でもその進化の過程は著しく違っており，その時間的経過は化石上の証拠からある程度推測することができる。シダ植物は古生代デボン紀以後に出現し，石炭紀に全盛で大形の木生シダが繁茂したが，現在ではヘゴ・マルハチを残すのみで，小形の草生および着生シダを主体としている。ソテツシダ類やコルダイテス類は石炭紀から二畳紀にかけて非常に栄えたが，三畳紀には滅亡し，いまでは化石として知られているだけである。裸子植物は古生代の二畳紀からジュラ紀の初めにかけて出現し，これらの地質時代に大いに栄え，現在はしだいに衰微している群である。ベネチテス類もジュラ紀から白亜紀の前半に栄え，その化石は

全世界の各地から発見されるが，現存種はイチョウ類が1属1種，ソテツ類が9属100種あるだけで，現在はしだいに衰微している植物群である。被子植物は白亜紀の中期に出現し，それから第三紀・第四紀としだいに進化発展し，現在最も繁栄している植物群で，その中でも草本類は樹木類に比してさらに起源が新しいと考えられている。植物の系統進化はこのように長い経過における環境の変化に応じて，徐々に積み重ねられてきた結果である。

【植物の分類】 分類の単位は種とよばれ，〈種とは，自然界における安定しかつ遺伝する特徴によって他と区別しうる一群である〉。種は分類学上の基本単位であるが，多数の個体を含む場合にはいくつかの群に区分することが可能で，そのため種の下に亜種・変種・品種が用意されている。また種はさらにその上の属・科・目・綱・門などの各段階にまとめることができる。このようにして認識されたグループの相互関係は，それらが植物の進化の道筋の上で，どのようにしてでき上がってきたかということと関連づけて理解される。現生の植物種数は約30万前後と推定され，それぞれに名まえがつけられている。植物の名には学名と普通名がある。普通名というのは，一般に用いられるセリ・ナズナ・ナデシコ・フジバカマなどのようないわゆる和名で，国によって異なり，また自由につくられているので形式も一定していない。それに対して学名は国際的に定められた命名規約に従ってつけられ，全世界の植物学者に通用する学術的名称である。ラテン語を用いるのでラテン名ともいわれ，分類学の基礎を築いたリンネの二名法を用いる。すなわち下記のように学名は属名と種名(形容詞)の二部分からなり，最後にその学名をつくった学者名を付記することになっている。イネは，*Oriza*(属名) *sativa*(種の形容名) L.(著者名；Linnaeusの略称)に分類し，学名をつけるということは，それ自体が研究であるばかりでなく，多くの種をまとめあげて，植物界全体のつながりぐあいを理解する手段としてよりいっそう意義のある仕事なのである。

植物の分類法は18世紀ごろまでは便宜的または植物の一部の形質によって行なういわゆる人為分類がおもで，進歩的なものでも外部形態にたよることが精々であった。種の区別はわれわれに見分けられてしかも安定した形態的形質を重んじ，たとえば生殖の目的のために葉が変形した花は，種子植物を分類する上に最も重要な特徴として使われてきた。リンネ・ジュシュウ・ロバート-ブラウン・エンドリッヒア・ド-カンドルらはこの分類体系をいちおう大成した人たちであった。19世紀の半ばダーウィンの進化論の発表以後はその思想の影響を受けて，いわゆる自然分類が行なわれるようになった。生物が過去・現在・未来を通じて進化的系統的関係にあること，種は永久不変のものではなく，環境により，突然の変異により，あるいは自然交配などによって常に動きつつあるものであり，その間にある一つの固定した型を現わしたものが種にほかならぬことを主張し，植物のあらゆる形質を分析総合することをそのたてまえとした。20世紀前半まで分類の法典として世界を風靡(ふうび)したエングラーの分類方式はこの自然分類の完成した分類系として最も普及している。さらに他の科学分野の発達に伴って，植物の分類もそれらと密接な関係をもつようになり，形態的形質のほかに，生態的性質・生活のしかた・含有物質・細胞遺伝学的形質・分類地理学的形質などいろいろの形質を互いに比較して行なうようになり，形質のとり方や重視のしかたにより結果の異なることもある。最近ではできるかぎりたくさんの形質を取り上げて，それを数量的に比較し，その数字の大きさにより近縁関係を調べようとする数量分類学も発達してきている。また過去には種子植物(顕花植物)に重点が置かれていたのがしだいにいわゆる下等植物(隠花植物)の位置づけが重要な課題となってきて，現在は植物界を10〜13門に分かち，種子植物はその1門にすぎないとされるほどになった。分類系も20世紀後半にはいって，エングラーのほかにパシャーの分類系の台頭が著しく，そのほかにもハッチンソン・タカジャン(タクタジャン)・前川文夫・木村陽二郎など，独自の分類体系を発表する人がでてきた。しかし，今日でも重要な位置とその内容について，学者間の意見の不一致が大きく，本当にそれらが関係づけて理解されるにはまだ多くの研究がなされなければならない。



植　物
植物界の類縁図
(前川文夫による)

表-1　エングラーの分類(1924)

第1門細菌類	Bacteriophyta
第2門藍藻類	Cyanophyta
第3門変形菌植物	Myxophyta
第4門緑虫類	Euglenophyta
第5門炎色植物	Pyrrophyta
第6門黄色植物	Chrysophyta
第7門緑藻植物	Chlorophyta
第8門輪藻植物	Charophyta
第9門褐藻植物	Phaeophyta
第10門紅藻植物	Rhodophyta
第11門真菌植物	Eumycophyta
第12門地衣類	Lichenophyta
第13門蘚苔植物	Bryophyta
第14門シダ植物	Pteridophyta
第15門種子植物	Spermatophyta
{被子植物	Angiospermae
{裸子植物	Gymnospemae

表-2　前川文夫の分類(1960)

①細菌植物門	Bacteriophyta	無核植物
②藍藻植物門	Cyanophyta	以下有核植物
③灰色植物門	Glaucophyta	
④変形菌植物門	Myxophyta	
⑤ミドリムシ植物門	Euglenophyta	
⑥黄色植物門	Chrysophyta	
⑦焔色植物門	Pyrrophyta	
⑧褐藻植物門	Phaeophyta	菌類
⑨紅藻植物門	Rhodophyta	藻類
⑩二毛菌植物門	Dicontomycophyta	
⑪真菌植物門	Eumycophyta	
⑫地衣植物門	Lichenophyta-藻菌複合植物	
⑬緑藻植物門	Chlorophyta	
⑭車軸藻植物門	Charophyta	
⑮コケ植物門	Bryophyta	
⑯維管束植物門	Tracheophyta	
㋑シダ植物亜門	Pteridophytina	
㋺裸子植物亜門	Gymnospermophytina	
㋩被子植物亜門	Angiospermophytina	

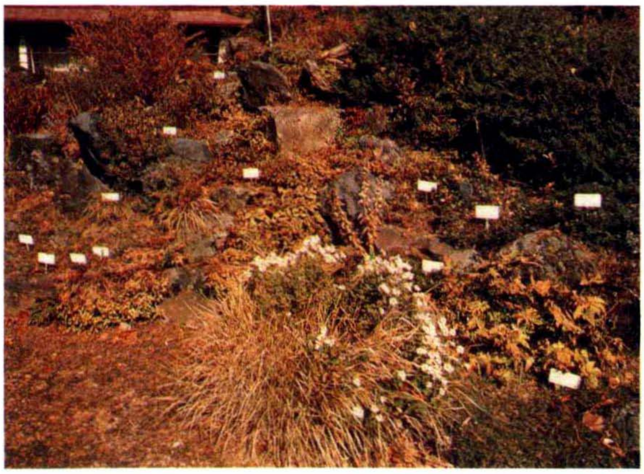
植　　物

押しば標本　(左)シノブ　(中)ヤマオダマキ
(右)植物採集用具　①野冊　②胴乱　③ポリ袋　④根掘り　⑤高枝ばさみ　⑥剪定ばさみ　⑦マジックインキ　⑧野帳および筆記用具　⑨植物採集袋(胴乱の代わりに用いられる)











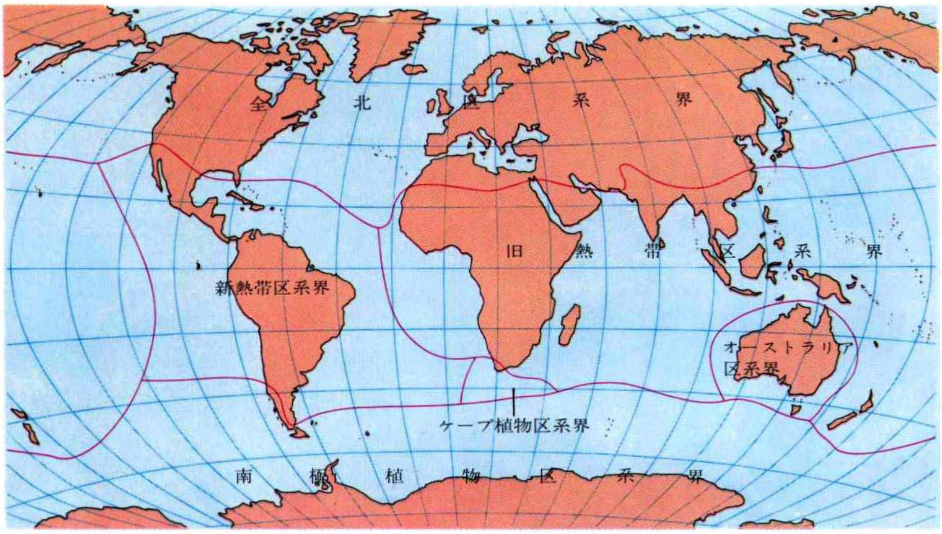
植 物 園
(左)東京大学理学部付属植物園日光分園　温帯から亜寒帯の植物を扱い，高山植物の収集で知られる　(右)王立キュー植物園　世界有数の植物園の一つで，いくつかの大温室がある

分類系の代表的なものを例にあげると前表のとおりである。　〔小林紀子〕

【植物採集】 植物の分類・生態・分布・形態を正しく理解するには，正しい植物採集がなされなければならない。しかし植物はその生育環境や季節の違いによってかなり変わることがある。したがって，いろいろな場所や時期の植物を集め調べる必要がある。採集した植物はそのままではしおれ，花や実や葉は落ちてしまうことがあるので，普通は押し葉標本にして保存する。植物採集をするときには，胴乱・野冊・根掘り・剪定(せんてい)ばさみ・登山ナイフ・ポリ袋(紙袋)・野帳(手帳)・白色の紙テープ・マジックインキ・鉛筆などを用意する。採集の際には，よくその生育状態を観察し，野帳に記入しておく。種子植物では花や果実のあるもの，シダ植物は胞子のあるもの(葉柄基部の鱗片(りんぺん)を落とさぬようにする)を選び，草本の場合はなるべく根から掘り起こして全草を標本とする。採集した植物を胴乱に入れて持ち帰る場合は，採集品の一つ一つにテープをつけ，マジックで名まえやその他の事項を記入しておく。小さいものは袋に入れて，他の採集品と混ざらないようにする。あるいはその場で新聞紙に全体の姿を整えてはさみ，野冊にはさむ方法もある。はさんだ新聞にはマジックインキで採集年月日・採集場所，その環境条件(乾湿・日陰・山林・草原・海浜など)，花の色などを正確に記入する。胴乱に集めた場合も帰宅後直ちに新聞にはさみ，必要事項を書き込む。次に植物をはさんだ新聞の１枚１枚の間に吸湿紙またはかわいた新聞紙をサンドイッチのように入れ，一番上におもしを載せ，２～３日間は朝夕２回，その後は１日１回，植物が完全に乾燥するまで吸湿紙を取り替える。乾燥した植物は一種類ごとに台紙(30×43cmの上質の画用紙を利用するとよい)に細い紙テープ(和紙を切ったものがよい)ではる。この際，デンプンのりは虫害の原因となるので，アラビアのりを用いる。台紙の一定場所(右下が普通)にラベルをはる。ラベルは普通８×12cmの長方形で，科名・学名・種名・採集日・採集地・環境条件・採集者などを記入する。完成した標本は同種類・同属・同科にまとめて，防虫剤を入れ，大きめのビニル袋にしまうか，量が多い場合には標本箱にしまう。コケ植物の採集の場合は採集品を陰干しして袋にしまい，各袋の表にラベルをはって必要事項を記入する。海藻(かいそう)の場合は真水の中に台紙を浸し，その上にガーゼまたはさらしを載せ，新聞紙を吸湿紙に用いて乾燥させる。海藻自体ののりで台紙に接着するので，ガーゼやさらしをはがしてラベルをつければ，標本となる。

〔加藤僖重〕

しょくぶつえん　【植物園】　古い植物園は薬草の収集や栽培を目的としたものであ



植物区系　図-1　世界の植物区系界(ディールズによる)

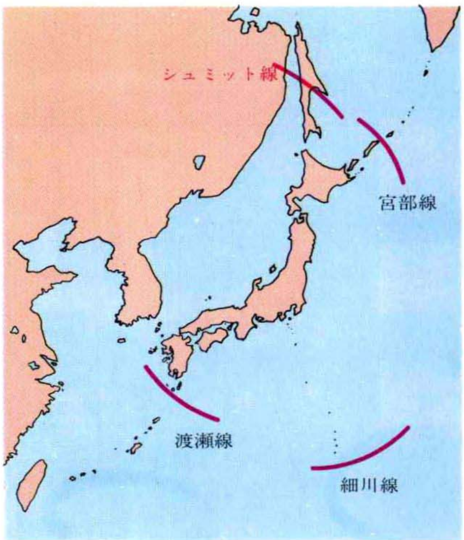


図-2　日本付近の植物分布境界線

った。やがて医学上の必要から大学の付属設備として設けられるようになったものが多い。わが国では，小石川植物園がこの一例である。紀元前にすでにギリシアには植物園がつくられたといわれるが，現在ヨーロッパにみられる植物園は，ルネサンス以後に設けられたものが多く，16～18世紀には薬草園としての機能をもっていたが，18～19世紀になると植物園としての設備(温室・池泉・図書室など)を具備し，開放されるようになったものが多い。このように，学術研究をおもな目的としているものもあるが，一方，旧庭園から変遷して，現在は観賞・慰安・遊園などがおもな目的となっているものも多い。植物園のもつ内容や目的はさまざまであるが，大きく分けてみると，①大学付属施設として学術調査研究を第1とするもの，②学校園など教材としての必要性から設けられているもの，③薬用・果樹など用途別に配植した見本園的なもの，④ツツジ園・ボタン園のように，品種を数多く集めて庭園の内容をもち，観賞を主とするもの，⑤レクリエーションをおもな目的とし，美しい花の咲く種類を集め，慰安・厚生を図るもの，⑥公園・遊園地としての色彩の強いものなどがある。世界のおもな植物園には次のようなものがある。イギリスではロンドン郊外の王立キュー植物園(キュー-ガーデン)が有名で，古い歴史と豊富な植物で知られる。このほか，フランスのパリ植物園，ドイツのダーレム植物園とフランクフルト植物園，アメリカのニューヨーク植物園とボストンのアーノルド樹木園，インドのカルカッタ植物園，セイロンのペラデニア植物園，インドネシアのボゴール植物園，南アフリカ共和国のキルステンボッシュ植物園，スイスのジュネーブ植物園，ソ連の科学アカデミー中央植物園，オーストラリアのメルボルン植物園，スウェーデンのエーテボリ植物園，ブラジルのリオデジャネイロ植物園などが有名である。

〔渡嘉敷裕〕

しょくぶつがく【植物学】 生物学の一分科で植物を研究対象とする科学の総称。純正植物学と応用植物学に分かれ，狭義には前者をさす。ルネサンス以後，本草学から発展した分類学を出発に，しだいに複雑になり，各種の分科が生じて今日に至っている。すなわち顕微鏡の発明による形態学・生理学・細胞学，ダーウィンの進化論，メンデルの遺伝法則の説以後の進化論・遺伝学，20世紀以後の生態学・生化学・系統学・植物地理学・古生植物学などである。なお，分類学的に各群が明らかになるにつれて，顕花植物学・隠花植物学やその分派の樹木学・シダ学・コケ類学・藻(そう)類学などの分科も成立した。日本の植物学は江戸時代以後中国の本草学と西洋の蘭学(らんがく)の影響を受けて発達し，明治に東京大学が創立されて以来，植物学の名のもとに科学的な教育・研究が行なわれるようになった。応用植物学は純正植物学の理論を厚生・利用の面に活用したもので，農学・林学・園芸学・薬学などの各分野がその例である。

〔小林紀子〕

しょくぶつくけい【植物区系】 植物地理学上の用語で，種組成を基本単位として求められる空間区分。植物相の相違に基づいて定められる地域区分であり，その境界はある種群の量的な多少によってではなく，共通種が認められないかどうか，一方の地域にみられる属や科が他方に欠けているかどうかなど，いわば質的な面に基づいて区分される。したがって，植物相の空間的区分には，地域の広さとは無関係に，分類上の単位(変種・亜種・種・属・科)に順ずる次のような階級区分を行なう。植物区系界(科)・植物区系区(属)・植物地方(種)・植物地域(亜種)・植物地区(変種)。ディールズによれば，地球上の植物界は次の6植物区系界に区分される(図-1)。①全北植物区系界(北部非熱帯)または全北区，②新熱帯植物区系界(新世界の熱帯)または新熱帯区，③旧熱帯植物区系界(旧世界の熱帯)または旧熱帯区，④オーストラリア植物区系界またはオーストラリア区，⑤ケープ植物区系界またはケープ区，⑥南極植物区系界または南極区。ただし，④・⑤・⑥の3区系界を合わせて全南植物区系界(全南区)とし，4区界にまとめる場合もある。

わが国の大部分は全北区に属しており，この区系界は次の植物の主要分布域である。カエデ科・キキョウ科・ナデシコ科・アブラナ科・ブナ科・キンポウゲ科・バラ科・ヤナギ科・ユキノシタ科・ミクリ科・セリ科。また全北区は㋑北極-亜北極植物区系区，㋺北方植物区系区(ヨーロッパ・シベリア・北アメリカ北部)，㋩東アジア植物区系区，㊁北アメリカ太平洋岸植物区系区など，8植物区系区に区分され(シュミットヒューゼン,1959)，わが国は東アジア区系区に属している。その特徴は，マツ・モミ・トウヒの各属に属す種が多く，イチョウ・スギ・コウヤマキ・アスナロ・ソテツ・キリ・サワグルミ・カツラ・ウルシ・サイカチ・チャ・ツバキ・ヤツデ・アオキ・タラノキ・アジサイ・ツツジ・ウツギなどが固有種である。

屋久島と奄美(あまみ)大島の間(渡瀬線)，小笠原(おがさわら)諸島の南(細川線)を境に，これより南は旧熱帯地に位置している。択捉(エトロフ)島とウルップ島の間の択捉海峡(宮部線)と樺太(からふと)(サハリン)のポロナイスクを通る線(シュミット線)を境に，これより北方を全北区北方植物区系区に分かたれている(図-2)。

〔船越真樹〕

しょくぶつけんえき【植物検疫】 植物に有害動植物が付着などすることにより，他地方への侵入・蔓延(まんえん)を防止する検疫措置。外国との貿易で，植物に付着して

植物帯

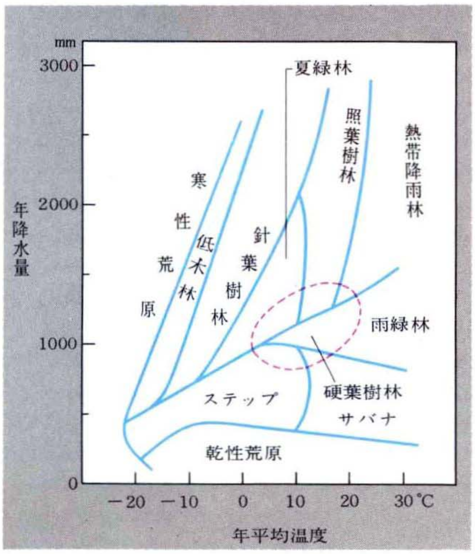


図-1　陸上に現われるおもな植物群系

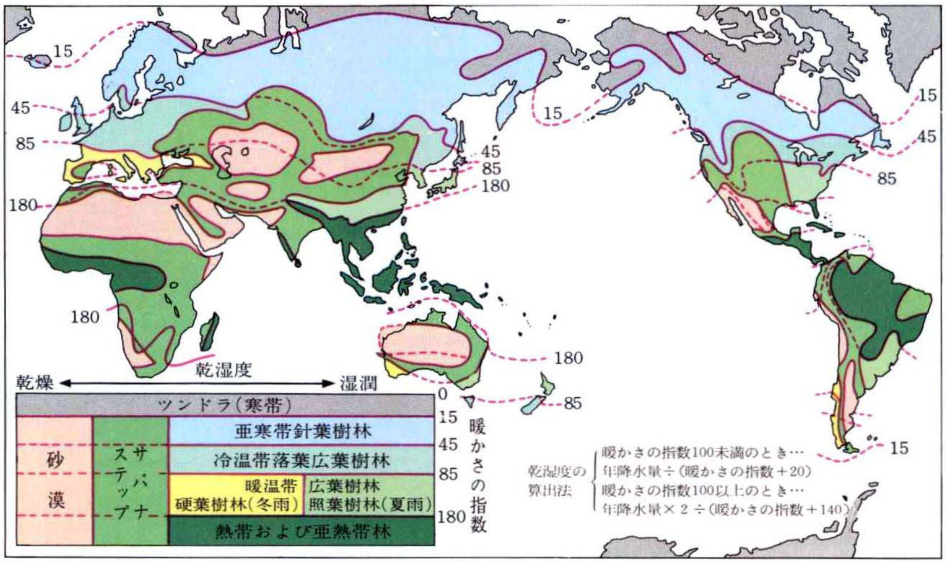


図-2 暖かさの指数と乾湿度による世界の陸上植物帯　図中の数字は暖かさの指数を表わす（吉良龍夫）

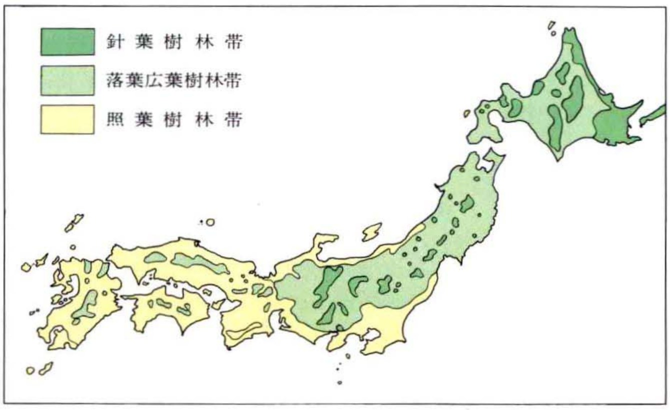


図-3　日本の植物帯（吉良龍夫）

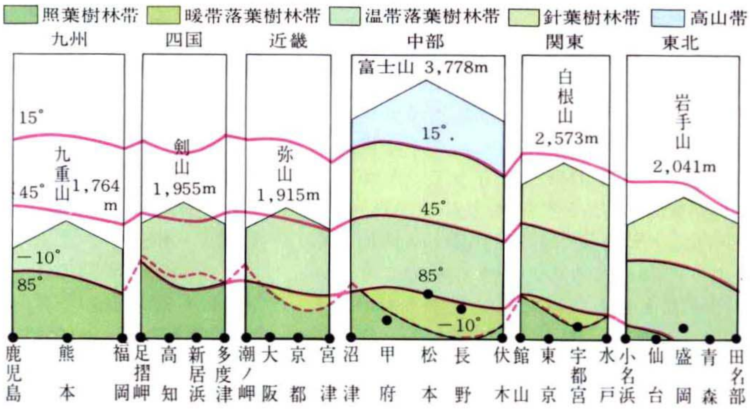


図-4　日本の山の垂直植物帯と，暖かさの指数および寒さの指数との関係（吉良龍夫）

輸出入される病害虫を防止するため，1951年に国際植物防疫条約が世界の30か国で結ばれ，わが国では主として農林省の植物防疫所が全国に本所・支所・出張所を設け，植物防疫法に基づいて検疫を実施している。国際検疫には輸入検疫と輸出検疫があり，前者では，苗木・球根・いも類を輸入後一定期間隔離栽培して，病気の発生を検査する。後者では，栽培中または輸出直前の検査に合格したものに証明書を発給して輸出する。国内検疫はジャガイモなどの指定種苗に対して生産地検査を行ない，検査合格証明をつけて，国内で販売することを許可する。なお，国内防疫として，外国から新たに重要病害虫が侵入した場合や，国内の一地方で発生した病害虫が他の地方にも大被害を及ぼすおそれを生じた場合には，農林大臣の命令ですみやかに必要な措置を講ずる緊急防除が行なわれる。〔渡辺　実〕

しょくぶつしきそ【植物色素】 植物体内に含まれる有色の有機化合物の総称。これらの中には植物体，あるいはその組織片を見て，直ちに色素の存在が認められるものもあるが，植物体から色素を抽出・単離することによって，はじめて色素が含まれていることが明らかとなるものもある。植物色素には生理的に重要な役割を果たしているものも多数含まれているが，これらの色素は比較的微量のものが多い。一方，代謝の二次生産物として主として細胞の中の液胞に存在している色素は量的にかなり多く，大部分は芳香族化合物で水酸基をもったものが多い。これらの二次代謝産物と考えられるものに花色の発現に関係のあるフラボノイドやキノン*類・窒素を組成に含むベタシアニンやインジゴ*などがある。また，生理的に重要な意義をもつ色素として，細胞の葉緑体中に含まれ，光合成の同化色素としての役割をしている葉緑素*やカロチノイド*・海藻(かいそう)のフィコビリンなどがある。また呼吸色素であるチトクロームや，光形態形成に関係する色素として最近見いだされたフィトクロームなどは極微量に植物体中に存在しているが，生命現象に重要な意義をもっている。〔吉田精一〕

しょくぶつせいしんけいけい【植物性神経系】 ⇨自律神経系

しょくぶつせいせんりょう【植物性染料】 ⇨染料

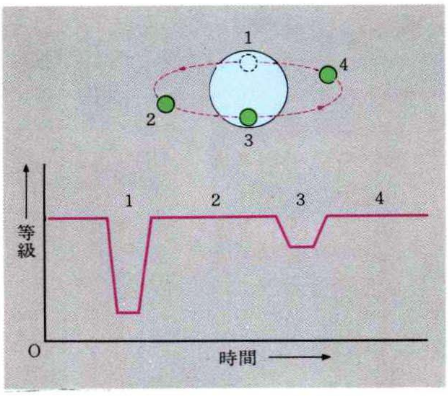
しょくぶつせいちょうちょうせいざい【植物生長調整剤】 植物の生長を促進させたり，抑制したりして，植物の生長に変化を与える薬剤。一般に微量の存在で植物の生長に変化を与える有機化合物で，この中には生長促進物質・生長抑制物質のほか，発芽抑制剤・落果防止剤・発根剤・染色体倍加剤など広義の農薬が含まれる。植物生長調節物質は，植物体内に存在する生長ホルモン*との相互関係で生長を調節するものと考えられる。発芽抑制剤であるナフタリン酢酸はまた落果防止剤・発根剤としても用いられ，染色体倍加剤のコルヒチン*はタネナシスイカの生産に利用される。この生長調節剤ということばは，生体内に本来含まれる物質にも，また化学的に合成された薬剤にも用いられる。➔ジベレリン　➔インドール酢酸　➔オーキシン〔吉田精一〕

しょくぶつせんい【植物繊維】 植物から採取する天然繊維*。繊維*を採取する植物

体の部位によって種子毛繊維(綿・カポック)・靭皮(じんぴ)繊維(アマ・チョマ・アサ・ジュート)・葉脈繊維(マニラアサ・ニュージーランドアサ・サイザルアサ)・雑繊維(やし繊維・わら繊維・竹繊維)に区分する。主成分は繊維素である。古代から衣料・綱・網などの原料として用いられてきた。

しょくぶつたい【植物帯】 植物分布帯ともいう。植物の分布を決定する外的要因は，温度や水のような気候要因，地質や地形などの土地要因，天敵や競争種などの生物要因である。数多くの要因が関係しあってはいるが，生物の側からの生活上のさまざまな要求が，同時に多数満たされない場合はむしろ少なく，一つないし少数の要求が満たされないため，生活の場を限定されることが通例である。諸要因の変動があった場合や人為による干渉が，生物要因の一つとして加わる場合には，分布にもまた変化を生ぜざるをえない。人為の干渉があった場合などは，遷移の結果森林になるべきところが森林にならないとか，森林帯で樹林の枯死が起こるとか，わが国の現状を考慮すると，この予想法を高めることはきわめて重要である。こうして定まる植物の分布を生態分布(要因に若干の相違はあるが動物の場合にも使用する)という。植物の生態分布は，大まかにみると地球上の低緯度から高緯度に極を取り囲む帯のように認められ，また海抜高を上るにしたがって山頂を囲む帯とみなすこともできる。このような分布を植物帯と名づけ，前者を〈水平植物帯(水平分布)〉，高度を上げるにしたがって現われる後者を〈垂直植物帯(垂直分布)〉という。海洋や湖沼などの水界でも，両植物帯は認められる。その場合，水平的には水温および塩分などの水の質的な要因が，垂直的には光要因が重要な要因となる。

〈地球上の陸上植物帯〉 陸上の植物分布は，おもに水と温度の2要因に左右される。各植物群系と水・温度条件との関係は，図-1にみられる。降水量の多いところでは，温度に大きく支配され，熱帯・亜熱帯降雨林→照葉樹林→夏緑林の変化をたどる。また温度が十分高い場合でも降水量の減ずるにしたがって，熱帯降雨林→雨緑林→サバナ→砂漠(さばく)への変化を示す。世界の陸上植物帯図(図-2)に用いられている〈暖かさの指数〉は，吉良龍夫(きらたつお)によって提案され，最近では植物生態学・林学で広く利用されている。これは植物の生育可能な気温を経験的に5℃とみなし，12か月分の月平均気温のうち，5℃を越えるものから5℃を引いた残りだけを合計した値である。また月平均気温が5℃以下の場合，5℃との差を合計してマイナス記号(－)をつけた値を〈寒さの指数〉とよぶ(月平均気温－2.5℃のときは，－(2.5－5)＝－7.5と算出する)。これらの指数は年平均気温などに代えて，年間の生育期間または非生育期間に，



食変光星 食変光星の時間的経過にともなう等級の変化

どれだけの温度を受けているかを簡単な積算温度として表わしたものである。

〈日本の陸上植物帯〉 わが国は降水量が多く，全域的に湿潤な状態にあり，植物帯は主として温度要因に左右される。高山帯や急峻(きゅうしゅん)な傾斜地を除いて，本来森林におおわれているものと考えられる。1969年(昭和44)現在森林面積は総国土面積のうち68.3%を占め，森林に恵まれた有数の国土を形成している。森林面積のうち60%が天然林，40%は人工林である。なお総国土面積のうち15.8%は田畑である。わが国の植物帯は南から北へ，亜熱帯林(奄美大島以南の南西諸島・沖縄諸島・小笠原(おがさわら)諸島，アコウ)，照葉樹林(タブ・クス・カシ・シイ・ツバキ)，暖帯落葉広葉樹林(クリ・シデ)，夏緑樹林(温帯落葉広葉樹林)(ブナ)，常緑針葉樹林(シラベ・トウヒ・エゾマツ)と続いている。〔船越真樹〕

表-1 地球表面を占める割合

湖・川	2×10^6km²	0.4%
沼沢・湿地	2 〃	0.4
熱帯・亜熱帯樹林	20 〃	3.9
落葉広葉樹林	18 〃	3.5
北方針葉樹林	12 〃	2.4
低木林	7 〃	1.3
サバナ	15 〃	2.9
ステップ	9 〃	1.8
ツンドラ・高山帯	8 〃	1.6
荒原	18 〃	3.5
砂漠・露岩帯・氷河	24 〃	4.7
農耕地	14 〃	2.8
全陸土	149 〃	29.2
外洋	332 〃	65.1
大陸棚	27 〃	5.3
内湾・沿岸	2 〃	0.4
全海洋	361 〃	70.8
全地球	510 〃	100.0

表-2 日本の植物帯と気候帯

気候帯	暖かさの指数	植物帯	垂直帯
亜熱帯	180～240	亜熱帯雨林	
暖帯(暖温帯)	85～180	照葉樹林(1)	低地帯
暖帯(暖温帯)	85～180	暖帯落葉樹林(2)	山地帯
温帯(冷温帯)	45～85	落葉広葉樹林	山地帯
亜寒帯	15～45	常緑針葉樹林	亜高山帯
寒帯	0～15	ハイマツ帯	高山帯(3)

(1)寒さの指数－10以上 (2)寒さの指数－10以下 (3)森林限界以上

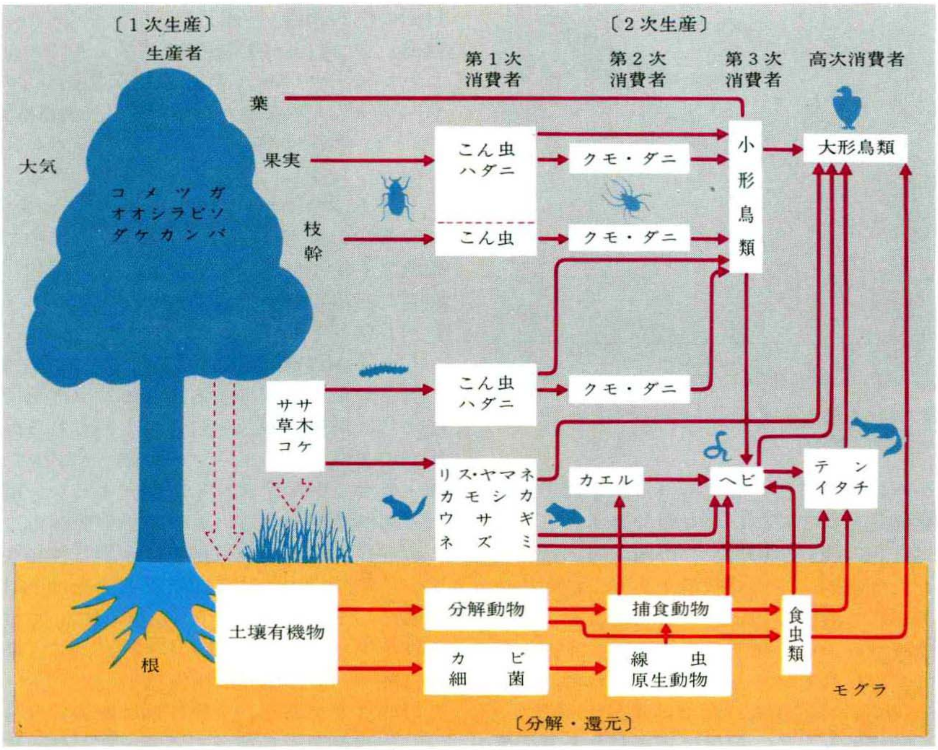
しょくぶつホルモン【植物ホルモン】 高等植物の体内でつくられる有機化合物で，微量でも生長や形態形成などの生理現象*に顕著な作用を示す物質。天然オーキシン*・ジベレリン*・開花ホルモン*などが含まれる。

しょくぶつゆ【植物油】 主として植物の種子や果実を圧搾するか，または溶剤で浸出し，精製・脱色・脱臭して得られる脂肪油。主成分としてリノール酸・リノレン酸・ラウリン酸・オレイン酸・エルシン酸などの脂肪酸を含み，ヨウ素価や乾燥性などの性質上から，乾性植物油・半乾性植物油・不乾性植物油に分類される。乾性油は薄層にして空気中にさらすと，酸化して粘着性を失って乾燥し，固い皮膜を生ずる。亜麻仁油(あまにゆ)・大豆油・松実油・桐油(とうゆ)・えの油などがある。半乾性油は乾燥性をもつが皮膜をつくらないもので，ぬか油・綿実油・ごま油・小麦油・菜種油などがある。不乾性油はまったく乾燥性がなく，これに属すものにオリーブ油・落花生油・ひまし油・椿油(つばきあぶら)・コーヒー豆油などがある。一般に植物油は食用油および塗料・せっけん・化粧品の原料のほか，工業原料として用途が広い。また常温で固体のものを植物脂といって，ヤシ油・木ろう・カカオ脂などがある。〔岡部平八郎〕

しょくへんこうせい【食変光星】 二つの恒星*が力を及ぼし合って共通重心の回りを公転している場合，その軌道面に近い方向から見ると，日食*のように二つの星が互いに他を隠し合って全体の明るさが周期的に変動する。このような二つの星の系を食変光星といい，明るい星を主星，暗いほうを伴星と名づける。アルゴル*はその代表的な例。食連星とよぶこともある。

しょくほう【食胞】 固形で小さい粒子状の食物を取り入れる細胞や特にゾウリムシなどの原生動物で取り入れた食物を囲んで形成される特別な空胞。食物は食胞の中で消化酵素によって分解吸収され，その残りかすは細胞の表面に移動して細胞外に放出されて食胞とともに消える。

しょくほうせいけん【織豊政権】 1573年(天正1)室町幕府滅亡から1600年(慶長5)関ケ原の役までの織田信長*(のぶなが)・豊臣秀吉*(とよとみひでよし)によって樹立された近世初期(→安土桃山時代)の中央政権。信長は畿内(きない)・信州・北陸・中国経略など全国統一を進め，平定地での指出(さしだし)(→検地)，楽市・楽座*，関所*撤廃などの政策をとった。1582年本能寺の変後，信長の地位を継承した秀吉は，四国・九州を平定し，1590年小田原征伐により全国統一を成し遂げた。秀



食 物 連 鎖

吉は五大老・五奉行(ごぶぎょう)の政治組織をつくり，蔵入地(直轄領)二百万石，国内主要都市・鉱山を直轄とする財源などにより政治基盤を固めた。秀吉は太閤(たいこう)検地*により封建小農自立を促進し，刀狩り*などで兵農・商農分離を行なって身分制度を確立し，貨幣鋳造・商業振興政策・キリシタン*禁圧を実施した。対外的には強圧策をとり，朝鮮と明(みん)の征服を図って出兵を行なった。1598年，秀吉没後まもなく家臣団の分裂・抗争が起こり，関ケ原の役で徳川家康*(いえやす)が覇権(はけん)を確立した。〔松尾　涼〕

しょくみんし　【植民市】　ギリシア・ローマ時代の植民都市。ギリシアではアカイア人*の定住後にドリア人*が南下したので，一部の者はエーゲ海の島々や小アジア地方に植民した。このとき，イオニア植民市はギリシア本土より先に文化が起こった。次いでBC 750～BC 550年の約200年間に国家的事業としての新ポリス建設，すなわち植民活動が行なわれた。これは商業的意味もあったが，むしろ土地をもたない市民の土地所有を目的とする活動と考えられる。このとき，西はスペイン，東は黒海沿岸に至る地中海沿岸地方に海岸都市が建設された。今日のイスタンブール・ナポリ・マルセーユなどはこのときのものである。この新ポリスはまったく母市から独立している点に特色がある。ローマの場合は元老院の決議か法律で行なわれ，だいたいが国防上の理由か貧民や私兵への贈与という政治的な理由の植民市であり，時代の古いほど前者が多く，時代が下るほど後者が多くなった。ギリシアとの相違点は，常に母市ローマと法的に結ばれていた点である。

〔高山高雄〕

しょくみんち　【植民地】　国家領域の一部であるが，本国と地理的に離れ，本国の特殊な統治を受けて経済的・政治的に本国に従属し，しかも本国と法域をことにする地域をさす。国際法上，国家は排他的支配を行なうことができる。形式的には，属領・保護国・従属国などに分類され，実質的には移住植民地と投資植民地に分類される。

植民地の発生は15世紀における喜望峰*の発見，アメリカ大陸の発見などに始まり，16世紀から17世紀にかけてスペイン・ポルトガル・オランダ・フランス・イギリスによって，植民地帝国の建設が始められた。商業資本の時代にあっては，金・銀・絹・香料・コーヒー・砂糖などの財貨の獲得が植民地建設の動因となり，販路および原料産地として独占的・排他的支配のもとに置こうと軍事力を背景になされた。資本主義の独占段階(→帝国主義)にはいると，商品市場や原料産地・資本輸出地がますます必要となり，植民地建設が促進された。20世紀初頭には，アメリカ・ドイツ・日本が国力をもつにしたがって，帝国主義諸国間の力のバランスが大きく変化し，植民地の再分割が行なわれた。しかし第2次世界大戦を経て，社会主義体制の発展と資本主義体制の弱化，植民地における民族意識(→ナショナリズム)の高揚によって，植民地制度は崩壊し，アジア・アフリカの植民地が相次いで独立した。

19世紀までの植民地統治は，原住民に対する搾取と絶滅を中心に過酷な支配が行なわれていたが，しだいに植民地住民の保護が植民国家の共通の関心事となり，そのため国際連盟においては委任統治*制度が，国際連合においては信託統治*制度が取り入れられ，ほぼその目的を達している。また，国際連合には非自治地域制度が設けられ，植民地住民の保護と植民地開放の活動を行なっている。〔広部和也〕

しょくむきゅう　【職務給】　職務の価値を評価し，その仕事の質や量によって決定される賃金。この制度では人に対してではなく，職務に対して賃金が支払われるわけであるから，同一の労働をしていればだれでも同一の賃金となるし，職務が変わらないかぎり原則として昇給は行なわれないことになる。ただし，ベースアップはもちろん必要に応じて実施されねばならない。この制度は，企業側からみれば合理的ではあるが，人より職務が賃金決定の重要なポイントとなるため，この制度の実施に際しては，第1に職務内容が安定し標準化されていること，第2に従業員の適正配置が行なわれていること，第3に標準的な賃金水準に達していること，第4に合理的な昇進制度が確立されていること，第5に従業員側からの納得が得られていること，などが前提条件となる。→賃金　〔清水　晶〕

しょくむしつもん　【職務質問】　警察官が警察官職務執行法*に基づいて，犯罪の防止，犯罪捜査の端緒を得るために行なう質問。警察官は異常な挙動などから，なんらかの犯罪を犯し，もしくは犯そうとしていると疑うに足りる理由のある者，またはすでに行なわれた犯罪について，もしくは犯罪が行なわれようとしていたことについて知っている者を停止させ，質問することができる。ここにいう異常な挙動などとは，その者の言語・態度・着衣・持ち物・場所・時間などを総合して，客観的に不自然性が見受けられる場合である。なお，その場で質問することが本人に対して不利であり，または交通の妨害になると認められる場合は，その者に付近の警察署・派出所・駐在所に同行を求めることができる。しかし，国民は刑事訴訟法*などの法律によらないかぎり，身柄を拘束されたり，その意思に反して警察署・派出所・駐在所に連行されたり，答弁などを強要されない。〔井上公耳〕

しょくもう　【植毛】　硬毛のあるべき部位(頭皮・眉毛(びもう)・睫毛(しょうもう)・鬚髯(しゅぜん)・陰毛)に，それが不足したり脱落したりしている場合の修復をいう。植毛は硬毛の最も多い部分である頭部有髪部を補給源として行なわれるが，その方法としては，回転植毛術(頭皮の有茎植皮。瘢痕(はんこん)性禿髪(とくはつ)に有効)，皮膚柱植毛術(皮膚に小含硬毛皮片を挿入(そうにゅう)する方法)，単一毛移植術，遊離含硬毛植皮術(ともに眉毛の形成に有効)がある。〔辻本恵子〕

しょくもつれんさ　【食物連鎖】　生物が

食う食われるの関係で鎖のような関連をもっていること。ある地域にすむ生物はその食物を巡って互いに密接な関係にある。たとえば湖では，ケイソウ・クロレラなどの植物プランクトンはミジンコなどの動物プランクトンに食べられ，動物プランクトンはプランクトン食のワカサギ・ウグイなどの淡水魚に食われ，さらにこれらの魚類はウナギやゴイサギのような肉食性動物に食べられる。このように食うもの食われるものの関係は段階的になっていると考え，その関係を食物連鎖という。こうして植物によって固定された太陽エネルギーは植物を食う第1次消費者へ(植食性動物)，さらに第1次消費者を食う第2次消費者へ(肉食性動物)というぐあいに栄養段階を追って次々と転送していく。動物には多種類あり，その種類間では実際には簡単な鎖というより，網目のような複雑な関係になっている(食物網)。食物連鎖はさらに捕食連鎖・寄生連鎖・腐生連鎖に区別される。〔松本忠夫〕

しょくゆう 【贖宥】 キリスト教の用語。カトリック教会では，告解*の秘跡によって免れるとされる永遠の罰とは区別される一時的な罰が免除を得る方法として，①信者個人の個人的行為(義務の忠実な履行・忍耐・祈り・善行など)，②教会の施す手段としての贖宥を考える。贖宥の根拠としては，キリストの無限な功徳，聖母と諸聖人の豊かな功徳をあげる。これを施す権限は教皇に支えられているが，司教も一部のみを赦す分贖宥を施し得るとされている。信者に苦行を課すことが贖宥の条件となるが，苦行を金銭であがなってもよいとするときに，ルターの免罪符*に対する批判となり，宗教改革の発端となった。〔石井忠厚〕

しょくようがえる 【食用蛙】 ⇨ウシガエル

しょくよく 【食欲】 食物を摂取したいという欲求であるが，飢えや空腹などとは一般に異なったものとされる。つまり，飢えや空腹は一般的な食物の摂取不足によって起こされ，欲求も食物一般によって満たされる。しかし，食欲は特殊な栄養の不足によって起こされるもので，その特殊な栄養によって欲求が満たされる。たとえばカルシウムが不足した子どもは，ふだん食べない灰や壁土などを食べたり，リンの欠乏したヒツジでは仲間の毛を食べることがみられる。

しょくりょうかんりせいど 【食糧管理制度】 国家が国民の食糧を確保し国民経済の安定を図るため，食糧の購販売および価格を直接管理し需給の調整を行なう制度。食糧の直接管理統制は社会主義諸国をさておけば，資本主義諸国では第2次世界大戦中ドイツ・日本にみられたように戦争による国際経済の分断と農業生産の低下で生じた食糧不足への対策であった。戦後は農業生産が回復・発展するにつれ農産物過剰生産傾向が強まり，農工間の所得不均衡が激化し，間接的な農産物価格支持政策*・農業構造改善政策*がとられるに至っている。しかし日本では1942年(昭和17)の食糧管理法の施行以来，食糧管理制度はその機能，国民経済上の役割を変質させながらも維持されている。以下その変遷について述べることにする。

【食糧管理制度の成立過程】 主要食糧である米の政府管理制度については1921年(大正10)の米穀法，1933年の米穀統制法の施行という前史をもつ。いずれも米を政府の直接統制下に置くものではなく，米の生産費，家計費，物価を参酌(さんしゃく)した最高・最低価格を設定してその幅の中で米を買い入れ，売り渡すことによって米価を安定させようとするものであるが，米穀統制法では最低価格による無制限の買い入れ義務を負うものであった。しかし米の流通は在来の米市場機構を通ずるものであり，最低価格水準が1929年来の恐慌の中で下落し

表-1 政府買い入れ価格の消費者米価，財政負担の推移 (150kgあたり：円)

年度	政府買い入れ価格(A)	政府経費(B)	販売者マージン(C)	コストによる消費者米価(A+B+C=D)	政府売り渡し価格(E)	消費者米価(F)	政府損益(F−D)
1960. 4	10 420	1 123	782	12 325	10 889	11 671	△ 654
1960. 5	10 420	1 123	794	12 337	10 877	11 671	△ 666
1961	11 024.50	983	856	12 863.50	10 815	11 671	△1 192.50
1962	12 187	951	886	14 024	10 785	11 671	△2 353
1963	13 131	1 038	1 031	15 200	12 046	13 077	△2 123
1964	14 920	1 198	1 120	17 238	11 957	13 077	△4 162
1965. 1	14 920	1 198	1 120	17 238	14 080	15 200	△2 038
1965	16 338	1 497	1 276	19 111	13 924	15 200	△3 911
1966. 1	16 338	1 527	1 251	19 153	15 267	16 548	△2 605
1966. 7	17 836	1 710	1 420	20 966	15 128	16 548	△4 418
1967. 7	19 527	2 096	1 525	23 148	15 023	16 548	△6 600
1967. 12	19 527	2 096	1 531	23 154	17 475	19 006	△4 148
1968. 8	20 602	2 646	1 663	24 911	17 343	19 006	△5 905
1968. 10	20 602	2 646	1 664	24 912	18 877	20 541	△4 371
1969. 4	20 602	3 676	1 799	26 077	18 742	20 541	△5 536
1970. 6	20 681*	4 399	1 937	27 017	18 604	20 541	△6 476

食糧庁《食糧管理統計年報》《米価に関する資料》による

注) ①政府買い入れ価格は各年産米ごとの1～4等包装込みの平均支払い価格(実績)である。ただし，1970年のみ平均支払い見込み価格である
②政府売り渡し価格および消費者米価は1965年12月までは普通米の，1966年1月から1967年9月までは上米，1967年10月からは内地米の価格である
③消費者米価は，精米価格(Z地)を玄米換算したものである

表-2 食糧管理特別会計種目別損益の年次別推移

勘定区分	1960年度	1961年度	1962年度	1963年度	1964年度	1965年度	1966年度	1967年度	1968年度	1969年度
国内米	△281	△504	△529	△886	△1 229	△1 335	△2 234	△2 423	△1 683	△3 479
国内麦	△175	△191	△215	△65	△173	△242	△225	△251	△292	△225
輸入食糧	193	144	135	193	221	395	360	213	196	242
外米	13	12	17	38	70	218	196	69	21	16
外麦	180	132	118	155	151	177	164	145	176	226
計	△263	△551	△609	△758	△1 181	△1 182	△2 099	△2 461	△2 779	△2 462

《食糧管理統計年報》

た市場相場に近い低水準で定められていたことから農民の所得保障機能は果たさなかった。しかし1930年代に米価を政府が維持しなければ農業が再生産しえないような農工間所得の不均等発展の経済構造が歴然としてきたことである。1930年代後半，戦時体制にはいるに及んで米は過剰から不足へと転換しはじめ，1939年４月の米穀配給統制法による米穀取引所の廃止以降，食糧統制は強化されていった。1940年10月には農家・地主の飯米を除く米の強制供出制，1941年４月から六大都市に米の配給制がとられ，このうえに1942年２月に食糧管理の集大成として食糧管理法が制定されたのである。

〔食糧管理制度のしくみ〕食糧管理法では米麦のほか，雑穀・デンプン・いも類・麵(めん)・パン類を政府管理下に置き，米麦については生産者・地主に政府への供出量を割り当てることとし，供出米を産業組合（のちに農業会・農業協同組合*）が集荷し，食糧配給営団が定められた量を米穀通帳・米穀切符によって配給する。米穀の買い入れ・売り渡しの財政操作のため食糧証券を発行する。政府買い入れ価格は生産費および物価その他の経済事情を参酌して米穀の再生産を確保することができるよう定め，消費者価格は家計費および物価その他の経済事情を参酌して消費者の家計を安定させるよう定めることとした。食糧管理法制定により主要食糧は政府の直接統制の下に置かれ，商業的流通機構は解体された。そしてこれは戦争遂行上の国民食生活の基礎を確保する役割をになったのである。

〔戦後食糧管理制度の機能〕敗戦後食糧管理制度は戦争による労働力・資材不足から生じた農業生産の低下と，引き揚げによる人口増加のもとで，国民に最低の食生活を保障することを第１の目標としながら，その運営にあたっては，インフレーションの昂進(こうしん)の中で経済復興・資本蓄積を進めるての役割を負った。米価を生産費より低くおさえながら，占領軍権力の支持のもとに強制的に供出させ，低米価を物価体系の基礎にすえ，それをもとにして賃金を定めるという低米価＝低賃金政策遂行上の柱として食糧管理制度は機能した。1950年以降，経済復興が軌道に乗り輸出力も回復してきて食糧輸入も増加し，麦類は1952年に間接統制に移行する。しかしドル不足と世界的米不足下では，国民経済上総資本にとっては米を増産して食糧輸入を減らし外貨を蓄積することが必要であった。また農地改革は農村を保守党の政治基盤と化してゆくが，農民票を確保するためにも米価を引き上げることが有効な手段であった。米価は1942年以来パリティー方式*により決定されていたが，1952年産米から物財費の回収と農家家計と都市家計と均衡する消費水準を確保することを旨とした所得パリティー方式に変わり，さらに早期供出・供出完遂・超過供出の各種奨励金や減収加算が付加された。また配給組織も1948年に食糧配給公団がつくられ，配給の末端まで国家機関が担当するようになるが，1950年には民営配給所が発足し，1951年から配給機構は政府(食糧庁)―卸売販売業者―小売販売業者―消費者という経路になった。買い付け方法も1955年から生産者の意志を織り込んで，事前に任意の数量を生産者が申し込み，予約した数量を政府への売り渡し義務数量とする事前売り渡し申し込み制へと変更し，これに伴い買い入れ代金の一部概算払い，申し込み加算金の支払い，取得税の軽減措置をとるに至り，食糧管理制度は食糧確保から米価支持への色彩を深めていった。

〔食糧管理制度の機能の変質〕日本経済の高度成長のもとで，農民は拡大する農工間所得格差の是正を米価の引き上げに求め，生産者米価決定方式も1960年以降は生産費および都市賃金なみの所得を補償する〈生産費および所得補償方式〉が確立される。他方米生産量は米価にささえられ，技術的発展とあいまって増大傾向をたどっていったが，１人あたり米消費量は1962年から減少傾向をみせ，1967年1,400万ｔの大豊作を契機として一挙に米の過剰を顕在化し，1968年の政府古米在庫は297万ｔ，1969年553万ｔ，1970年735万ｔと累増した。生産者米価の引き上げの一方，消費者米価は物価上昇が激しくなることから改訂しにくくなり，政府が卸売業者へ販売する価格もすでに1961年から買い入れ価格さえ下回るようになり，食糧管理特別会計*は1960年以前は10～20億円程度の赤字にとどまっていたが，1960年以降顕著に増大してきた。この赤字は一般会計により補塡(ほてん)されることから財政上の大きな問題となり，また外貨蓄積も進み，アメリカからの農産物自由化要求が強まる中で資本家団体から食糧管理制度廃止の声が高まった。1968年には生産者米価はすえ置かれ，1969年度からは政府を通じない流通経路をとりながら，政府の規制を受ける自主流通米の制度が発足した。自主流通米は自由米(ヤミ米)とは異なり，流通経路の公定，配給制度への組み入れ，自主流通計画に対する農林大臣の認可，生産者の政府への数量の申告などの規制を受けるものである。1970年からは米の作付け制限・作付け転換が図られ，1971年産米からは事前売り渡し申し込み数量に限度を設け，市町村長が生産者に買い入れ限度数量を通知し，その範囲内で売り渡し数量を申し込むこととなり，事実上の買い入れ制限が行なわれるに至った。また自主流通制度を一契機として米穀商の流通組織の復活も目ざましく，大手商社の米市場への進出の動きもみられ，いまや食管制度は形骸(けいがい)化するに至ってきている。〔高山隆三〕

しょくりょうかんりとくべつかいけい　【食糧管理特別会計】　国内産米麦および輸入食糧の管理を行なう特別会計*。略して食管会計という。1942年(昭和17)食糧の国家管理に伴い一般会計から区分して設けられた。この制度は，食糧不足時代に割り当て供出と主食確保という役割をになっていた。しかし，食糧事情も好転している現在では，国内産米麦などの価格維持と農家の所得保障をおもな目的とするように変わってきた。つまり，国内産米麦については，政府が米価審議会*で決定した一定の価格で，農家から買い入れ，消費者に売り渡すわけであるが，買い入れ値段(生産者米価)が売り渡し値段(消費者米価)より高いので，この会計は年々大幅な赤字を出している。この赤字補塡(ほてん)は一般会計からの受け入れによって年々行なわれているが，食管会計の赤字処理の問題は，食管制度そのものの存廃に通じる重大な問題となってきている。➔食糧管理制度　〔西野義彦〕

しょくりょうこうせい　【食糧構成】　実際に国民によって消費された食糧全体の中で，個々の食品がどれだけ摂取されているかという食品の組み合わせをいう場合と，日本人の食習慣や国内の食糧生産事情を考慮したうえで，国民栄養基準量に見合うように食品の種類や量を定め，基準としての食品構成を示したものをいう場合とがある。前者は〈食糧バランスシート〉によって代表されるように，ある年度における国民１人あたりの各食品の消費量で示され，国際比較もなされる。後者には〈日本人の食糧構成基準〉がある。　〔米川五郎〕

昭和50年を目途とした食糧構成基準

食　　品	(国民１人１日平均)
穀　類	340 g
いも類	50 g
砂　糖	20 g
油脂類	20 g
ダイズ	20 g
その他の豆	5 g
果実類	140 g
緑黄色野菜	70 g
その他の野菜	170 g
魚介類	70 g
獣鳥鯨肉類	40 g
卵　類	45 g
乳　類	220 g

(注)　数値については，すべて可食部量を示す。
厚生省公衆衛生局資料から

しょくりょうちょう　【食糧庁】　主要食糧の国家管理，飲食料品などの生産・流通・消費の調整などを主たる任務とする農林省の外局。内部部局に総務・経理・業務第一・業務第二の各部，付属機関として米価審議会*・食糧管理講習所をもち，地方支分部局として各都道府県に食糧事務所をもつ。おもな仕事として国家管理の米などの供出割り当て，価格決定，貯蔵などを扱い，その他の農作物の価格安定措置をとるほか，輸入飼料の買い入れ・売り渡し・管理などを扱う。　〔寺尾方孝〕

しょくりょうひんせいぞうぎょう【食料品製造業】 広く食品として摂取するものを生産する業種をいう。大企業・中小企業・零細企業から構成されているが，事業所の半ばは個人経営の形態をとり，大企業は数少ない。1968年(昭和43)工業統計表によれば，食料品製造業の事業所総数は55,381，このうち個人経営は27,119で，資本金100億円以上の大手は77社にすぎない。わが国の食料品製造業は戦後急速に発展した。特に1955年以降，食生活は所得の向上に伴い急激な変化を遂げ，食料品もこの変化の中で，生鮮食品から加工食品の生産増化が目だつとともに，タンパク質・脂肪食品が増大傾向を顕著にするなど，多大の変化を示した。しかし，1955年からの10年間に食料品製造業の付加価値ウエイトが大幅に上昇したにもかかわらず，その生産指数をみると，この間に生産指数の伸び率は5.6％と，同時期の製造業平均13.8％を大幅に下回っており，生産指数の伸び率の最も低い分野でもある。わが国の食料品製造業は，欧米諸国に比較して国民1人あたりの栄養摂取量がきわめて低いこと，および乳製品・肉・油脂などの食品に対する高い所得弾力性など，成長産業としての要素をもってはいるのだが，国際価格に比して割高な国産原料価格，農業政策による輸入原料の高価格設定，複雑な流通機構，欧米食料品製造企業に比しての経営規模の狭小さなど，資本自由化がますます進展されてゆく今日，そのかかえる問題は多い。〔原　豊〕

しょくりん【植林】 ⇨植樹造林

しょけい【書痙】 手のけいれんが主症状となる職業病の一種。書字に際し，右ききでは右前腕から手指にかけて不随意的なけいれんが起こり，書字が困難となるが，他の日常の手指運動にはさしつかえない。一般には神経性素因によるとされており，薬物療法・心理療法，書字の習慣を変えるなどの試みで軽快することもある。ほかに手運動を必要とする演奏家・時計工・彫刻家などでも同様の症状が現われる。

じょけんはんけつ【除権判決】 手形*・小切手*など，裏書き*で譲渡できる証券*(指図(さしず)証券)や，手渡して譲渡できる証券(無記名証券)が盗難・滅失した場合，公示催告*の手続きによって証券の失効を宣告すること。この手続きは，最終の証券の所持人が，管轄の簡易裁判所に公示催告を申し立てると，裁判所は6か月以上の公示催告期間を定め，その期間中に権利を主張して証券を提出すべきこと，届け出のない場合は証券の無効を宣告すべきことを公告する。この期間中に届け出がないときは，あらためて除権判決の申し立てをさせて，よく職権探知したうえ，除権判決を下すが，もし期間中に届け出があれば，届け出た権利の訴訟の判決が確定するまで公示催告手続きを中止し，または除権判決において届け出た権利を留保する。除権判決とは，このように公示催告手続きにおける判決のことであり，その効力はその証券を無効として，もとの所持人に権利を変更し，証券がなくても判決正本で請求できることにする。しかし，除権判決といえども，申し立て人を正当な権利者と確定する効力はないので，公示催告期間中に証券を善意取得した者はその権利を主張できる。〔内田剛弘〕

じょこうけい【徐光啓】(1572〜1632) 上海(シャンハイ)生まれの官吏で，暦学者・技術者。中国伝道をしはじめたイエズス会*にいちはやく接触し，1603年に入信。西欧学術の紹介・移入に努め，宣教師マテオ-リッチ*とともに《幾何学原論》《測量法義》などを翻訳，また，《農学全書》を編集した。さらに改暦事業を志し，それに必要な100余巻の天文暦学書の翻訳・編集にあたって《崇禎(すうてい)暦書》の編集に取り組み，その中途で没したが，のちに李之藻(りしそう)によって完成された。

じょこうそ【助酵素】 ⇨酵素

しょこくみんのせんそう【諸国民の戦争】 ⇨解放戦争

しょさごと【所作事】 歌舞伎(かぶき)用語。舞踊あるいは舞踊劇のこと。所作はもともと〈ふるまい〉の意味で，のちに舞踊的な演技をもさすようになり，さらに演技中に見せる特殊な表情をもさしていうようになった。ことに19世紀初めの三味線(しゃみせん)音楽の発達が舞踊を歌舞伎の中で重要なものとしたのに伴い，所作事は舞踊劇を意味するようになったといわれる。景事*(けいごと)・振事(ふりごと)などと同義。

しょさつれい【書札礼】 書状消息とよばれる書状式文書の様式上の礼儀法式。公家(くげ)様式と武家様式とがあり，公家様式は奈良時代からあったらしいが，整備されたかたちで現存するのは1285年(弘安8)の《弘安(こうあん)礼節》で，これは後世の公武の典拠となった。武家様式は鎌倉時代に成立したが，南北朝時代に乱れ，室町幕府のもとで整備された。大館尚氏(おおだてなおうじ)(常興)の《大館常興書札抄》，伊勢貞頼(いせさだより)の《宗五大草紙》などがそれである。江戸時代には慶長年間(1596〜1614)に定められた曽我流(そがりゅう)が盛んに行なわれた。〔飯田悠紀子〕

じょさんこう【徐三庚】(1826〜1890) 中国，清(しん)代の書家・篆刻(てんこく)家。字(あざな)は辛穀。袖海(しゅうかい)・井罍(せいらい)，晩年に金罍山民と号した。浙江(せっこう)省上虞(じょうぐ)の人。金石学に通じ，書においては清代北碑派のひとりで，篆・隷に長じ，呉の《天発神讖(てんはつしんしん)碑》を好んだ。篆刻は秦(しん)・漢に清朝の鄧(とう)派を合わせて独特の作風を開き，呉熙載(ごきさい)・趙之謙(ちょうしけん)らと並んで一家をなし，その風は広く行なわれて日本にも及んだ。《金罍山民印存》《金罍山人印譜》《似魚室印譜》がある。〔中田勇次郎〕

じょさんぷ【助産婦】 保健婦助産婦看護婦法第3条の規定により，〈厚生大臣の免許を受けて，助産または妊婦・褥婦(じょくふ)もしくは新生児の保健指導をなすことを業とする女子をいう〉とされている。助産婦の業務は，助産婦および医師以外の者が行なうことを禁止しており，これに違反した者は1年以下の懲役または10,000円以下の罰金に処せられる。以前は産婆(さんば)とよばれ，古くから女子の職業として地域社会の中に浸透したが，これが医療制度の中に取り上げられたのは，1874年(明治7)医制の公布に始まり，さらに，1899年単独の〈産婆規則〉が公布され，資格試験・知事免許などの規定ができ，1912年には助産婦学校講習所の指定基準ができて教育機関が整備されるようになった。わが国の出産の約95％が家庭で行なわれていた1947年(昭和22)ごろまでは，助産婦は妊産婦の家庭に出張し，妊婦診察や保健指導，分娩(ぶんべん)の介助，産後の母子の看護などを行ない，子どもの成長とともに母親の相談相手になって親しまれていたが，施設分娩が増加するにしたがって，保健所・病院・母子健康センターなどに勤務する者が増加しているほか，行政や看護教育の場でも資格を生かして働いている。助産婦になるためには，高等学校を卒業して看護婦学校で3年以上(准看護婦が入学資格となっている看護婦学校では2年以上)看護に必要な科目を修め，看護婦国家試験の受験資格を得たのち，助産婦学校で6か月以上(実際には1年で実施している)助産婦に必要な科目を修了または卒業し，助産婦国家試験に合格し，厚生大臣の免許を受けることになっている。〔伊藤隆子〕

しょし【所司】 一般的には官庁の役人をいう。①鎌倉幕府の侍所*・小侍所の次官で，別当*を補佐する職名。初任は梶原景時*(かじわらかげとき)。別当が執権*を兼ねてからは北条(ほうじょう)氏の家宰長崎氏が世襲した。②室町幕府の侍所・小侍所の長官。はじめ今川・細川氏などが任じられたが，のち山名・赤松・一色・京極氏が交替で就任，四職と称された。管領*に次ぐ重職で，山城国(京都府)守護*を兼ねることもあった。応仁(おうにん)の乱*後廃止。〔高崎徳次〕

しょし【庶子】 旧民法下で，父が認知*した婚姻外に生まれた子。庶子は，父の妻の意思とは無関係に父の家にはいり，父の妻との間に嫡母庶子関係(擬制的母子関係を生じ，嫡出親子と同じ血縁一親等の関係)を生じ，庶男子は嫡出女子に優先して家督相続*の順位を有した。現行民法は庶子の名称と地位を廃止し，これを〈父が認知した子〉また私生子とともに〈嫡出でない子*〉といい擬制的母子関係は生じない。父が認知した子は，その父母の婚姻によって嫡出子の身分を取得する。〔黒木三郎〕

じょし【序詞】 〈じょことば〉ともいい，和歌の代表的な修辞の一。あることばを導

くために前に置くもので，特に７音以上のものをいい，五音以下の枕詞（まくらことば）と区別している。序詞とそれに導かれることばとの間は，①同音または類音，②意味上，③掛詞の関係でつながっている。音または意味上つながる序詞は《万葉集》に多く見られ，掛詞を活用した序詞は《古今和歌集》以降多く現われるが，枕詞に比べて，一回的，自由新鮮であるところに特色がある。〔鈴木一雄〕

じょし　【助詞】　品詞の一種。付属語で活用のないもの。単独では使われず，つねに他の語について，語と語の関係を示したり，種々の意味を添えたりする。日本語の特色をなしている重要な単語。助詞の分類には，さまざまな説があるが，学校文法などでは，次の４種に類別することが多い。

①格助詞：名詞・代名詞などのあとについて，おもにその語とほかの語との関係を示す。――が・の・に・を・へ・で・と・や・より・から。②副助詞：種々の語について，限定・並列・強調・程度・添加・選択などの意味を添え，主として連用修飾語をつくる。――は・も・まで・でも・だけ・ほど・しか・こそ・さえ・など・ばかり・ぐらい・なり・やら・か・きり・ずつ・だって・(だ)の・たら・てば・とか・なんか・なんて，など。③接続助詞：用言や助動詞について，前後をつなぎ，その関係をいろいろに示して，接続語をつくる。――ば・て・ので・から・が・ても・ながら・し・と・けれど(も)・のに・たり・くせに・ところが・どころか・なり・ものの，など。④終助詞：文や文節の終わりについて，詠嘆・疑問・質問・命令・呼びかけなどの意味を添える。男女による使い分けも一部にみられる。――か・ね(え)・ぞ・な・な(あ)・よ・さ・わ・の・とも・かしら・ぜ・ものか・や，など。助詞が用言や助動詞につく場合には，どの活用形につくかという一定のきまりがある。また，助詞どうしが接続して用いられる場合にも，いくつかの原則がある。〈てにをは〉という名称は，古くは，助詞・助動詞・活用語尾・接尾語などを含んだものの呼び名であったが，大槻文彦（おおつきふみひこ）の《広日本文典》では，一品詞としての助詞を，〈てにをは(弖爾乎波)〉の名でよんだ。〔市川　孝〕

ジョージ　［George］　イギリス国王。

1　１世(1660～1727)　在位1714～1727年。ドイツの選挙侯ハノーバー公の子。スチュアート朝のアン女王の没後イギリス王位を継ぎ，ハノーバー朝の開祖となる。英語を解さなかったので，政治の実権を首相に任せ，責任内閣制成立の契機となった。治世中スコットランドの暴動をしずめ，スペイン継承戦争後の処理を果たした。

2　２世(1683～1760)　在位1727～1760年。ジョージ１世の子。ハノーバーの生まれ。スペイン継承戦争にはマールバラの指揮下にはいって従軍。1714年父とともにイギリスに渡り，皇太子となる。1739年アメリカ植民地でスペインと戦い，以来オーストリア継承戦争・七年戦争を行なってフランスに対抗，ピット(大)の助けをうけてイギリスの国威を高めた。

3　３世(1738～1820)　在位1760～1820年。ジョージ２世の孫。反ホイッグ党的保守教育をうけて即位。側近にトーリー党の政治家を集めてホイッグ党支配下の議会に対抗したが，アメリカ独立革命の勃発（ぼっぱつ）によって国内改革の気運が台頭したため，ピット(小)の改革的活動を許した。その後フランス革命の勃発によるイギリス国内の反動機運に助けられてピットの勢力を圧迫，1801年彼を辞職させた。1811年に発狂して親政不能となるまで，強引なホイッグ党攻撃を行ない，またカトリック解放に反対し，対フランス強硬策をとるなど，一貫してトーリー的反動の立て役者として活躍した。

4　５世(1865～1936)　在位1910～1936年。エドワード７世の第２子。兄とともに海軍に入隊し，海外各地を周航。1892年兄の死により王位継承予定者，ヨーク公となる。父王の死後即位。その治世は第１次世界大戦前後にわたる多難な時期にあたり，内政面ではアスキス内閣の提出したアイルランド自治法案をめぐる危機打開のため，各党派代表者会議を召集した。外交面にはほとんど関与しなかったので，第１次世界大戦をめぐる国際政治に目だった役割は演じなかったが，国内世論の統一に努めた。1917年国民および彼自身の反ドイツ感情から，自己と家名に付属するあらゆるドイツ系爵位・称号を放棄し，サクス-コーバーグ-ゴータという家名を，王宮所在地の名をとってウィンザー家と改称した。〔松下京子〕

ジョージ　［Henry George］　(1839～1897)　アメリカの経済学者。急進自由主義的土地改革論者として実践的な運動を展開した。19世紀にアメリカ合衆国で起こった土地価値の急激な増大をみて，社会の諸弊害の原因は土地から生ずる〈不労所得〉にあると考え，〈単一税〉の賦課によってすべての地代を吸収すべきであると主張した。主著に《進歩と貧困》(1879)がある。

ジョージア(州)　［Georgia］　アメリカ合衆国南東部，アパラチア山脈の南方にある州。面積15万2,000km²。ミシシッピ川以東では最大の面積をもつ。人口488万(1974)。州都アトランタ。独立宣言に加わった13州のうちの一。1861年３月南部諸州が連邦を脱退して結成した南部連盟に加入したが，南北戦争後の1870年７月には連邦政府に再加入した。州名は，イギリスの植民地時代の1732年に，当時のイギリスの国王ジョージ２世にちなんで名づけられた。天然資源に富み，北部の山地では大理石の埋蔵量が多く，中央の山麓（さんろく）地帯は肥沃（ひよく）な農地で，繊維工業が盛んであり，また，南東部の海岸平地はサルグルミとラッカセイの生産地で，パルプ材と松やにの産も多い。ラッカセイの生産額は全国第１位，サルグルミとニワトリは第２位，タバコ第４位，パルプ第１位，松やには世界の総生産額の半分以上を占める。主要都市はアトランタ・コロンバス・メーコン。〔相村大彬〕

ジョージおうせんそう　【ジョージ王戦争】　1744～1748年，オーストリア継承戦争の一環としてジョージ２世治下のイギリスとフランスの間で行なわれた北アメリカ植民地争奪戦。フランス領アカディアとニューイングランド北部の国境紛争をめぐって，1744年フランスに宣戦布告。フランスはノバスコシアのカンソを攻略したが，イギリスはマサチュセッツその他の植民地の援助を得て，1745年ルイスバーグを占領，優勢を示した。1748年10月18日調印されたアーヘン条約で占領地の相互返還が決められた。➔オーストリア継承戦争　〔折井一彦〕

しょしがく　【書誌学】　書物を対象とする学問。書史学とも書き，図書学と同義語に用いられることもある。書物の歴史的研究(出版・書写・紙・印刷・製本・図書館など)と，書物の物質的材料を科学的に研究する分野を含み，書目・解題・文献・考証学に通じ，その範囲はきわめて広い。

じょじし　【叙事詩】　英語でエピック，ギリシア語でエピコスという。ギリシア語の原義が〈物語〉を意味するように，長い物語詩をいうが，一般には，英雄的な人物や神々を中心に民族や国家の成立・発展を客観的に歌った詩をさす。最大の古典は，ホメロスの《イリアス》《オデュッセイア》，ウェルギリウスの《アエネーイス》で，これらをもとに叙事詩の規準的な性格が確立された。永遠に根源的な人間性をめぐる主題，歴史や文明を総合的にとらえる構成，国民的・文化的・宗教的な理想像としての主人公，荘重な文体などである。代表的なものに《ローランの歌》《ニーベルンゲンの歌》，さらにダンテの《神曲》やミルトンの《失楽園》があり，日本では《平家物語》《太平記》に叙事詩的要素がうかがえる。〔星野恒彦〕

じょししんず　【女史箴図】　絹本着色の画巻。一巻。大英博物館蔵。顧愷之（こがいし）筆と伝える。《女史箴》は，西晋（せいしん）の恵帝のころ，皇后の賈（こ）氏一族の政治干渉をおそれた宰相張華が，宮廷女官の戒とするために撰（せん）した文章。この鑑戒的な内容を絵画化したもので，現存の作品は唐代ごろの模本とする説が強いが，軽快であでやかな描線，微妙なくまを用いた賦色（ふしょく），緊密な布置など，六朝（りくちょう）絵画の高い水準を知る手がかりとなる。風俗資料としても貴重。➔顧愷之(図)　〔中島純司〕

しょしだい　【所司代】　室町幕府の役職で，侍所の長官であった所司の任務を代行した。所司の職権が，幕府の権威の衰えとともに縮小され，京都の市政，特に検察に

局限されると，所司代がそれに代わって権力をもつようになった。関ケ原の役後，江戸幕府ではその職名を踏襲して，京都所司代を設置した。

じょしたい【徐氏体】 中国花鳥画の画体の一。黄氏体(こうしたい)に対比される。五代の画家徐熙(じょき)がはじめ，徐崇嗣(じょすうし)らによって完成された。水墨を基礎に淡彩を付す没骨(もっこつ)の画法，および江湖の自然景の中に主題を選ぶ点に特徴があり，平淡野逸と評される。

ジョージタウン ⇨ペナン

ジョージタウン ［Georgetown］ 南アメリカ北東岸にあるガイアナ共和国の首都。人口17万(1975)。デメララ川の河口にある港市で，この国の主産物である砂糖・ラム酒・木材・ボーキサイト・金・ダイヤモンドなどを輸出している。海陸交通の要地で，デメララ川の河川交通や内陸諸地方への鉄道の起点となっている。1781年にイギリス人が建設したとき，当時の国王ジョージ３世にちなんで名づけた。

しょしひゃっか【諸子百家】 中国哲学史上，主として戦国時代(くだっては漢の武帝が儒教を国定の教学に指定したときまで)に現われたもろもろの思想家やその流派，またその思想や著書。先秦(せんしん)(秦以前の時期)諸子ともいう。これはすべて民間に起こった点が特徴であるが，なかには諸侯や有力者に愛護・尊重・採用されたものもある。前漢の司馬談(司馬遷の父)の《六家要旨》では，陰陽・儒・墨・法・名・道の６家を数え，《漢書芸文志》は，これに縦横(しょうおう)・雑・農の３家を加えて９〈家者流〉と名づけた。ゆえに〈百家九流〉という語もある。➔中国哲学 〔西 順蔵〕

じょしま【徐志摩】 シュイチーモー (1895～1931) 中国現代の詩人。アメリカ・イギリスに留学，政治学・経済学を学んだ。生まれながらの詩人かたぎの持ち主で，多くの詩を書き，聞一多(ぶんいった)とともに，中国に近代詩を確立するうえで功績があった。文壇では右派とみられ，新月社の中心人物であった。詩集に《フィレンツェの一夜》《志摩の詩》《猛虎集(もうこしゅう)》がある。

しょしゃぼん【書写本】 手書きによって書き写された本。版本・刊本・印刷本などに対することば。印刷術が発明されるまで，書物はすべて手書きであった。わが国では，古くから供養などのために経文の書写が盛んに行なわれ，奈良時代には官で写経をつかさどるために写経司を置き，写経所を設けた。《天平写経》《平家納経》などが知られている。外国では，古代エジプト時代，すでに写字生のいたことが明らかにされており，古代ギリシア・ローマ時代には，写字生の多くは教養のある奴隷が占め，書物の製作が容易に行なわれた。中世時代，学問は一部の貴族と僧侶(そうりょ)の専有物となり，大きな僧院には写字室が設けられ，僧侶たちは聖書や聖歌・祈禱書(きとうしょ)などの書写・製本を行なった。その中の彩飾写本は，パーチメント(羊皮紙)に金・銀で飾り，精巧緻密(ちみつ)な微細画が描かれた。 〔庄司浅水〕

じょしゅう【徐州】 シュイチョウ 中国の江蘇(こうそ)省西北部の都市。人口約70万。津浦(しんぽ)・隴海(ろうかい)両鉄道の交点にある軍事・交通の要地である。春秋時代には彭城(ほうじょう)と称して宋(そう)に属し，秦(しん)の滅亡後，項羽が一時都を置いた。古くは南北運河に沿っていたが，12世紀から黄河が移動し，19世紀中ごろまで市外を通過していた。日中戦争に際しては，1939年(昭和14)に両軍の大会戦が行なわれ，さらに1948年には国府軍が中共軍によって全滅させられたところとして名高い。近年までは周辺の農産物を集散するほか，製粉・搾油などが行なわれるにすぎなかったが，付近で埋蔵量の豊富な賈汪(かおう)炭坑が発見されてからは近代工業が起こりつつある。 〔日比野丈夫〕

しょしょ【処暑】 二十四気の一。陽暦の８月23日ごろにあたる。太陽黄経は150°。このころ，しばしば台風が襲来する。処暑とは，暑気が止まるの意。

じょじょうし【叙情詩】 英語でリリック，ギリシア語でリュリコスといい，もとはギリシアの七弦琴にあわせて歌う短詩をいった。一般には，高度な音楽的構成をもち，強い個人的な感情の横溢(おういつ)を感じさせる詩をさす。主題によって，恋愛詩・讃歌(さんか)・頌歌(しょうか)・悲歌(エレジー)・挽歌(ばんか)・瞑想詩(めいそうし)などに分けられる。その歴史は古く，ギリシアのサッポー・ピンダロス，ローマのカトゥルスらの作が古典として名高い。西欧では，中世にダンテやペトラルカの佳唱があり，近代になるとフランス・イギリス・ドイツを中心に多くのすぐれた叙情詩人が輩出。日本でも，《万葉集》からの長い歴史がある。現在では，詩のほとんどが，物語的でなく，主観的に感動・情緒を歌った叙情詩であるといえる。 〔星野恒彦〕

じょしょくだん【助色団】 ⇨発色団説

しょじょまく【処女膜】 ⇨膣(ちつ)

じょしん【女真】 中国，東北(旧満州)のツングース系民族名。女真(ジュルチン，または女直)の名は927年渤海(ぼっかい)の滅亡後現われ，民＝渤海の旧民を意味するといわれる。10～12世紀に彼らは多くの部族に分かれ，狩猟と牧畜に一部農業を交えた氏族共同体的生活を続けた。彼らの一部は高麗(こうらい)や遼(りょう)(契丹)に服属して熟女真とよばれ，そうでない生女真と対立し，後者の完顔(ワンヤン)部から阿骨打(アクダ)が出て，1115年金国を建てた。満州から中国北部を統一した金国がモンゴルに滅ぼされると，特に満州に残った女真人はその支配下にはいり，続く明(みん)代に建州・海西・野人に分けられてその統治下にはいった。その間，女真社会は発展し，地縁共同体的なガサン(村)とそれを連合したアイマン(部)が出現する。やがて建州女真からヌルハチが出て，1619年統一国家後金(清(しん))をつくり，女真は満州と改名した。〔梅原 郁〕

じょすいそうえん【如水宗淵】 生没年不詳。室町後期雪舟派の画僧。円覚寺の蔵主(ぞうす)。15世紀末に雲谷庵(あん)を営んでいた雪舟のもとへ参じて水墨画を学んだ。1495年(明応４)画業なって帰るとき雪舟筆の《破墨山水図》を与えられたことは有名。以後雪舟らと交遊を続けながら，京都・鎌倉などで画作。師の作風を温和にした水墨淡彩画が多い。

じょすうし【助数詞】 接尾語の一種。数詞のあとについて，数えられる事物の種類や性質を示す。〈一つ・ふたり・３人〉の〈つ・り・人〉などのように，独立性の弱いものもあれば，〈４箱・５折り〉の〈箱・折り〉などのように，独立性の強いものもある。助数詞には，〈６本・７枚・８台〉などのように，漢語系のものが多い。日本語は，中国語や朝鮮語などとともに，助数詞の種類が豊富である。

ジョスカン-デ-プレ ［Josquin des Prés］(1440ごろ～1521) ルネサンス期最大の作曲家のひとり。当時〈音楽の父〉と称賛され，ミケランジェロと並び称された。生地は明らかではないが，1459～1479年ごろミラノに住み，聖歌隊の歌手として生活するかたわらフィレンツェ・モデナ・フェララの宮廷や教会でも活躍した。ローマのフェララ公の結婚式のために書いたミサ曲《フェララ公ヘルクレス》(1473)は有名である。メディチ家の保護を受けていた当時の著名な芸術家たちと交流し，1510年代には数年間フランスのルイ12世の宮廷に仕えた。作品は当時の印刷楽譜集に数多く含まれており，ミサ曲約20曲，モテット曲約100曲，世俗的声楽曲約70曲が残されており，いずれも高度な技巧と豊かな内容をもつ傑作である。 〔船山 隆〕

ショスタコービッチ ［Dmitrii Dmitrievich Shostakovich］ (1906～1975) ソ連の作曲家。ペテルスブルクの鉱山技師の父とペテルスブルク音楽院ピアノ科出身の母との間に生まれ，1919年同音楽院に入学，卒業作品として書かれた《第１交響曲》で作曲家の道を歩みはじめた。はじめは，ストラビンスキー・プロコフィエフ・ヒンデミットらの影響を受け，当時としてはかなり前衛的な作風をとった。しかし1936年，オペラ《ムツェンクのマクベス夫人》とバレエ音楽《明るい小川》が，〈音楽にあらざるナンセンス〉として共産党機関紙に批判され，以後〈社会主義リアリズム〉の路線に沿って創作活動を続けた。これまでに，４編のオペラ，３編のバレエ，13の交響曲，10の弦楽四重奏曲，《森の歌》など合唱を伴う大曲，その

他多くの作品を発表しているが，それらはいずれも，明快なリズム，わかりやすい全音階的旋律，古典的な形式に基づいている。〔船山　隆〕

じょせいご【女性語】女性に特有のことば。男女間のことばの違いは，特に日本語では著しい。たとえば，表現が感情的で特有の終助詞(〈わ〉〈のよ〉〈こと〉など)や感動詞(〈まあ〉〈あら〉など)を多く用いる，敬語・ていねいな表現が多い，漢語などの硬いことばや下品なことばを避ける傾向がある，というような特徴がある。女性の生理的・感情的な本性から生じる面も，女性の社会的条件から生じた面もある。男女の社会的地位の接近に伴って，女性語の特徴は薄らいでいく傾向がある。〔西尾寅弥〕

しょせいしばい【書生芝居】⇨壮士芝居

じょせいしょう【徐世昌】(1858～1939）中国，清(しん)末～民国の政治家。字(あざな)は菊人。河北省天津(てんしん)県の出身。清末，袁世凱(えんせいがい)の推薦で政界にはいり，要職を歴任。辛亥(しんがい)革命ののち，1914年袁政権の国務卿(こくむきょう)となったが翌年辞任。1918年安徽(あんき)派・奉天派など北洋軍閥の支持のもとに黎元洪(れいげんこう)に代わって大総統となり，南北和平会議を召集したが失敗した。安直戦争・奉直戦争ののち，直隷派が権力を握ると1922年辞職した。〔大谷敏夫〕

じょせいホルモン【女性ホルモン】卵胞ホルモン*と黄体ホルモン*とがある。これらはそれぞれが単独にあるいは協力して，女性および雌の動物の生殖器官や性的特徴の発育・保持・機能の調節をつかさどる。

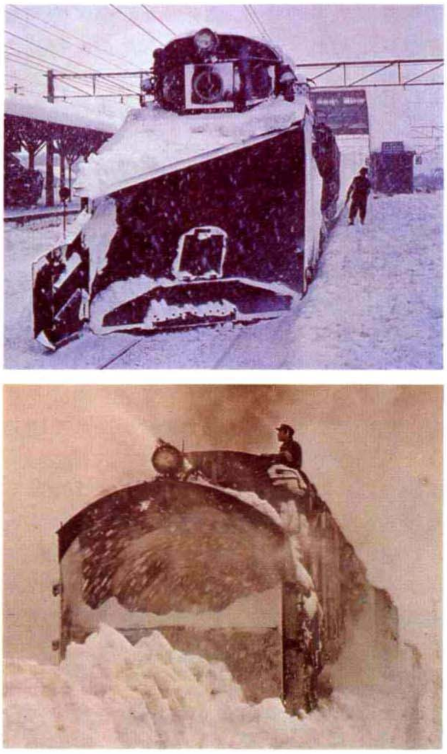
しょせき【書籍】⇨図書

じょせき【除斥】訴訟法上の用語。裁判の公正を期するため，裁判官および裁判所職員が，当該事件の当事者であったり，また当事者と密接な親族関係や代理関係にあった場合，その事件に関与する職務の執行から排除する制度。➔回避 ➔忌避

じょせききかん【除斥期間】ある種の権利は，法の認める存続期間を経過することによって当然に消滅する。その期間を除斥期間という。除斥期間は消滅時効(一時効)と異なり中断がないので期間が経過すれば権利は必ず消滅し，また当事者の援用も必要としない。しかし，除斥期間の満了時にあたり，天災地変その他避けることのできない事変が生じたときには，消滅時効の停止に関する規定を類推適用すべきだとされる。法律上権利の消滅に関する期間の定めがある場合，それが消滅時効のための期間であるか，除斥期間であるかの解釈をめぐって学説が分かれている。従来は，法文に〈時効によりて〉と定められている場合は消滅時効の期間であって，そのほかの場合はすべて除斥期間であると解されてきたが，法文の意義や権利の性質によってそれぞれ判断されなければならない，とする説が有力となってきている。〔黒木三郎〕



如　拙　玉畹梵芳以下禅僧30名の賛のある《瓢鮎図》(部分)1410前後　妙心寺退蔵院蔵



除雪車　(上)ラッセル車(複線用)　(下)ロータリー車

じょせつ【如拙】生没年不詳。室町初期の画僧。《瓢鮎図(ひょうねんず)》の作者として知られるが，伝歴はまったく不明である。如拙という号は絶海中津*(ちゅうしん)が与えたものでその他の交遊関係などから相国寺の禅僧だったと考えられる。また，その弟子(でし)周文*の例から推して室町幕府の御用画師だった可能性がある。細勁(さいけい)な筆法と簡潔で機知に富んだ画風であるが，山水表現などにおいて周文以降に支配的な正統的様式を創始した人といえる。代表作は《王右軍書扇図》《三教図》など。〔中島純司〕

じょせつしゃ【除雪車】除雪を目的とする鉄道の特殊車両。一般に雪かき車といわれる除雪車には機関車のあとおしによって線路上の雪を除いて進むものと，雪かき装置をつけて自走するジーゼル機関車とがある。降雪量の多い地帯に専属車として配置され，おもなものに次のような種類がある。

〔ラッセル車〕雪かき車の中の主力であり，1886年，アメリカ人ラッセルによって発明された。わが国へは1911年(明治44)に輸入され，翌年北海道で使用された。車両の前頭部は船のへさき状になっており，その下部はくさび形をしている。機関車に推進されて雪を押し分ける単線用と片側へ雪を押し出す複線用とがある。前頭部でかき分けた雪は，車体中央に左右または左側へ開閉する翼があってさらに遠くへ押しのける。レール面やレール内側の雪を除くためには，上下に動くフランジャとよばれる装置がある。またレール内側の結氷を削り取る砕氷器も取り付けてある。ラッセル車は1mくらいまでの積雪に有効で，最大除雪幅は単・複線用とも4.5mである。

〔広幅雪かき車〕築堤上や駅構内などで雪を幅広く押しのける雪かき車で，ジョルダン雪かき車ともいう。この車両の翼は広げると7mにもなる。

〔かき寄せ式雪かき車〕考案者の名をとって，マックレー雪かき車ともいう。ラッセル車とは反対に，雪をかき集める。これは線路上から除かれた雪が，線路の両側に壁をつくり，除雪が困難になるので，車体後部の逆八字形に開く翼で雪壁を削り，線路内に集める役目をする。後続のロータリー車がその雪を片づける。

〔ロータリー式雪かき車〕回転式雪かき車ともいう。雪かき車の中で最も強力で，積雪が1m以上になったときや，吹きだまりなどの除雪に威力がある。車両の前頭にある羽根車を蒸気機関で回転させ，その遠心力によって線路上の雪を遠くへ飛ばす。普通マックレーがかき寄せた線路内の雪を除雪する役割をする。

なお，除雪作業で，最初にラッセル車が雪をかき分け，次に機関車(キ)にけん引されたマックレー(マ)が雪をかき寄せ，さらにロータリー(ロ)が機関車(キ)に推進されて雪を遠くへ投げる。これが一般の順序であるが，この除雪車両の出動・編成を〈キ・マ・ロ・キ〉とよんでいる。〔宍塚正幸〕

ジョーゼット［georgette］ジョーゼットクレープともいう。経緯縮緬(たてよこちりめん)で，薄地の手織りで細かいしぼが立てられている軽い絹織物。化学繊維でもつくられる。白地・無地・しま・格子(こうし)・プリントなどがあって，ドレス・婦人帽・カーテンその他装飾用に広く用いられる。

ジョゼフィーヌ［Joséphine de Beauharnais］(1763～1814）ナポレオン1世*の皇后。軍人の娘として西インド諸島のルチニック島に生まれた。1778年ボーアルネ子爵と結婚し，2子を生んでいる。フランス革命中，夫は処刑され，彼女も投獄され

たが，ロベスピエールの没落後釈放された。1796年6歳年下のボナパルトと結婚，1804年皇后となったが，子どもがないため1809年離婚，皇后の称はそのままでマルメゾン宮に引退し，ナポレオンのエルバ島流刑中死んだ。〔喜多迅鷹〕

じょせんがいし【女仙外史】 中国，清(しん)代の長編小説。100回。呂熊(りょゆう)の作。1711年の跋(ばつ)がある。1420年，山東の唐賽児(とうさいじ)という妖術(ようじゅつ)を使う女が反乱を起こし，官軍が討伐して乱は平定したが，唐賽児はゆくえ不明で逮捕できなかったという史実を脚色し，主人公月君らの女仙人が永楽帝に位を奪われた建文帝のために忠義を尽くすという物語。滝沢馬琴*の《俠客伝(きょうかくでん)》はこれを換骨奪胎したものである。〔今村与志雄〕

じょそう【助奏】 ⇒オブリガート

じょそう【除草】 田や畑などの雑草を取り除くこと。手で根から抜き取ることが肝要である。昔から，〈精農は草を見ずして草をとる〉といわれるとおり，草をはやさぬようなふだんからの手入れが農業の基礎とされ，〈農業は雑草との戦いである〉ともいわれてきた。以前には手や除草がまなどによっていたが，田打ち車・回転除草機・八反摺(はったんずり)，カルチベーターなどの除草機による中耕・除草も行なわれるようになった。最近では除草剤*の発展もめざましく，除草方法も進んできている。〔金木良三〕

じょそうき【除草機】 田や畑などの雑草を取り除くための畑用作業機。除草機は刃を使って直接雑草を切断するかまたは土をかき混ぜて雑草の根を空中に露出し，日光と乾燥によって枯死させる。刃の構造や形態などきわめて種類が多い。

じょそうざい【除草剤】 田や畑などの雑草を取り除くために用いられる薬剤。この方法の試みは古くからあったが，現在いわれるところの除草剤は，1940年代の初期に発見された2,4-D(農林省ではこれを2,4-PA剤とよぶことに決めている)を契機として発展したものである。それまで除草剤といえば塩素酸ナトリウム・ヒ酸塩類などのようないわゆる非選択的なものに限られていたが，今日では主要な農作物をいためないで雑草だけにきく選択的なものに重点が移ってきている。後者はまた雑草の発芽を抑制するものと，発芽後に強い除草作用を示すものとに分けられる。除草剤の多くはホルモン的作用によって雑草を死滅させるので，たとえば2,4-Dは広葉雑草にはすぐれた除草作用を呈するが，イネ科植物には無効である。2,4-Dにはいくつかの混合剤が市販されているが，これらのほかに2,4-DS(セス)，2,4,5-T剤・MCP剤・MCPP剤・MCPB剤・NIP剤(ニップ)，PCP剤など数多くの除草剤が製造されている。〔深谷昌次〕

ショーソン［Ernest Chausson］ (1855～1899) フランスの作曲家。25歳でパリ音楽院に入学，マスネーやフランクに学んだ。フランクらとともに《国民音楽協会》を結成して書記をつとめ，フランスの19世紀後半の音楽の発展に貢献した。フランクから多くの影響を受けたが，その語法は彼の繊細な感覚のなかで消化され，ユニークな叙情的作風となっている。代表作にはオーケストラ伴奏つき長編歌曲《愛と海の詩》など歌曲が多い。〔船山　隆〕



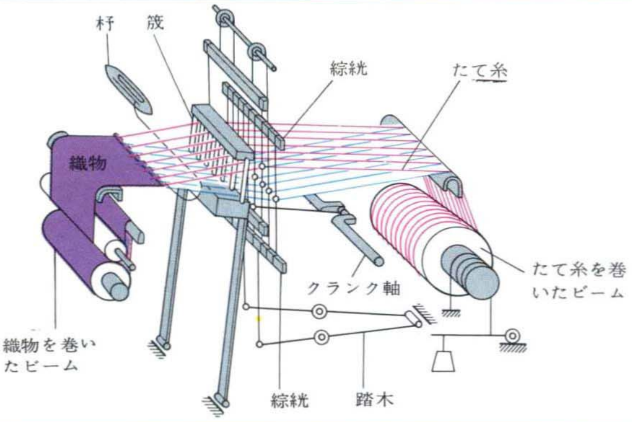
書　体

しょたい【書体】 書の発達に伴って文字に生ずる一定の様式をいう。中国，漢の許慎の《説文解字*》の序文に，秦(しん)の八体として大篆(だいてん)・小篆・刻符・虫書・摸印(もいん)・署書・殳書(しゅしょ)・隷書をあげ，新(王莽(おうもう)の建てた国)の六体(りくたい)として古文・奇字・篆書・佐書・繆篆(びゅうてん)・虫書を載せている。殷(いん)の甲骨文字*，殷・周の金石文*はまだ書体意識のあいまいな古代文字で，これを書体として取り扱うことは無理である。しかし，春秋時代から戦国時代にかけて行なわれた大篆は一つの書体と考えてよい。大篆はまた籀文(ちゅうぶん)とよばれるものと同一の書体と考えられる。《説文解字》では大篆以前の文字を古文とよび，古文も書の一体とみているが，この場合の古文は六国(りっこく)(戦国時代の強国のうち，秦を除く6か国)のもので，広い意味の古代文字としての古文ではないようである。大篆は石鼓文*，小篆は秦の刻石(碑)で代表される。隷書は篆書をさらに簡易に書きやすいように改めた書体である。類似のものは早く周末にみられるが，秦のとき官獄の事務の煩瑣(はんさ)を緩和するために，一つの書体として定められたもので，程邈(ていばく)がその創始者とされている。以上の大篆・小篆・隷書は広く実用に供せられた通行の書体である。これに対して，八体の刻符は符信(わりふ)に用いるもの，虫書は旛信(はんしん)(旗じるし)に用いるもの，摸印は印章に用いるもの，署書は題署に用いるもの，殳書は兵器に用いるものであり，これらは特殊な用途に限られている応用の書体である。秦の六体もこれに準ずる。隷書ははじめ篆書を簡略にまた敏捷(びんしょう)に書くためにつくられたが，前漢の後半からしだいに形を整えてきて波磔(はたく)(永字八法*の第八，右払いの筆法)の筆勢を生ずるようになり，紀元前1世紀ころには波磔のはっきり現われた隷書が行なわれていた。後漢になると波磔が整うとともに，この時代特有の碑刻の中に美しい隷書の体が完成した。これを八分(はっぷん)という。

漢代になると，また別に一体として草書が起こった。〈草〉はもと草稿の意味で，すでに篆書の行なわれていたときにその簡易な筆記体の書体として行なわれ，漢代には隷書の簡略な書体としてさらに多用された。ところで，草書にも隷書と同様に波磔が生じ，しだいに波磔のある草体が定型化して章草となった。章草は後漢の章帝のときの宰相杜度(とど)が上表文に用いたのに始まるという説があるが，おそらく八分が隷書の波磔を備えて定型化したものであるように，章草も八分と並行して後漢になって成立したものであろう。八分の波磔が魏(ぎ)・晋(しん)以後しだいに消えて今隷(正書・楷書(かいしょ))ができた。章草も同様に波磔が消えて今草となった。今草ははじめ1字ずつを続けずに書く独草体であったが，書芸術の発達した東晋のころから連綿草が起こり，唐代になるとさらに狂逸な大草すなわち狂草が生じた。一方，古代からの応用体の諸体は，六朝の華麗な文化の中にあって意匠文字に発達し，さまざまな自然現象を文字に取り入れて千差万別の百花を競った。これらの諸体の書を雑体書とよぶ。以上のように，書体は古文をはじめとし，篆は大篆・小篆に分け，隷は古隷・八分・今隷に分け，今隷の簡易なものが行書となり，草は古草・章草・今草に分け，別に意匠的な書体という立場から，通行のもの，応用的なものすべてを包括して雑体書と総称している。〔中田勇次郎〕



ジョチュウギク
(左)ジョチュウギク
(右)アカバナムショケギク



織　機
織機の原理

じょちゅうぎく　【除虫菊】双子葉植物・キク科。シロバナムショケギクともいう。バルカン半島のダルマチア地方原産の多年草で，薬用植物として有名。わが国へは明治初期にはいり，まず和歌山で栽培され，続いて北海道および瀬戸内地方で栽培され，第2次世界大戦前の生産高は，世界第1位を占めた。茎は細く，高さ50cmほど。葉は根もとから群生し，羽状に細かく切れ込み，表面の絹毛のため灰白色に見える。5〜6月，茎の上部に直径3cmほどの頭花をつける。まわりの舌状花は白色，中心の管状花は黄色である。花を乾燥させ粉末としたものはピレトリンⅠ・Ⅱ，シネリンⅠ・Ⅱなどを含み，殺虫薬として用いられ，また蚊取り線香*をつくる。葉にもいくらかの殺虫成分を含むので増量材とすることもある。近縁のものにアカバナムショケギクがあるが，茎葉ともに毛がなく，ピレトリンの含量も少ない。わが国では園芸品として栽培される。　〔小清水義隆〕

しょちょう　【初潮】生後はじめて起こる月経。人種・気候・境遇・健康状態などにより初発年齢は異なる。第2次世界大戦後は，栄養および生活水準の向上によって初潮発来が戦前より早くなっているといわれ，日本人の平均は，都市部では12歳10か月，郡部では13歳(1967)といわれる。➔月経

しょっかく　【触角】多くの節足動物において頭部付属肢(ふぞくし)の第1対をいう。他の付属肢と違った構造・機能をもち，触覚のほかに臭覚をつかさどる器官として働くこともある。こん虫類・唇脚(しんきゃく)類などは1対の触角をもつが，甲殻(こうかく)類には2対あり，第1対を小触角，第2対を大触角と区別してよぶこともある。剣尾類・クモ類には触角がないので，無角類とよんでいる。無脊椎(むせきつい)動物の中には，からだの前端にある突起を触角とよぶものもあり，カタツムリなどは2対あり，その先端または基部に目がある。　〔蒲原春一〕

しょっかく　【触覚】生体に対する機械的接触を認識する感覚。光を感受する光覚，音波を感受する聴覚などと同様に，外部の物理的環境を知る感覚であるが，生体内の諸組織に受容器があって深部感覚に関連することもある。刺激は触受容器を通じて神経に伝えられるが，受容器は多くの場合外部圧力を感受するため，体表面に分布している。触覚は原始的な感覚種で，ゾウリムシのような下等動物に至るまで広くみられる。しばしば動物にとって重要な定位手段となり，イトミミズなどではその生活環境を触覚によって知る。魚類の側線は同時に距離感覚として働く。

しょっかんかいけい　【食管会計】⇨食糧管理特別会計

しょっき　【織機】織物*を織る機械・装置・道具の総称。狭義にはその本体のみをさす。織機の機構の要点は，たて糸を張り渡す装置，たて糸を開口する装置，よこ糸を通して打ち込む道具などである。

【発達】最も原始的な織機は2本の棒にたて糸を1本ずつ並べて張り渡し，これを1本おきにすくってよこ糸を織り込むだけのもので，水平に置くものと垂直に置くものとがある。たて糸を1本おきに上げ，開口をつくる道具としての綜絖(そうこう)が最初の発明であった。これらの水平機・垂直機は紀元前世界の各民族によって用いられていた。次の段階ではこれらの装置が枠(わく)や台に備えつけられて手織機の機構がしだいに完成した。これを高機という。これを動力で操作するようになったのが力織機*で，18世紀後半からの機械革命によるものである。さらによこ糸を自動的に供給したり，たて糸が切れると自動停止したりするものが登場した。よこ糸をもった杼(ひ)を飛ばす方式が普通であるが，最近は差し込みの方式，ジェットで通す方式などが発明されている。

【種類】手織機には原始的ないざり機*あるいは地機・下機などと，やや発達した高機，模様を織るための空引き機がある。動力を用いて製織するものに力織機・自動織機*の種類がある。繊維の種類に応じて綿織機・毛織機・絹人絹織機などの区分，布幅による小幅織機・広幅織機の種別，模様を織るためのドビー機・ジャカード*機，特殊の織物をつくるビロード織機・タオル織機・ホース織機・ひも織機などの種類がある。よこ糸を通す杼が往復運動をする普通の織機のほかに，杼が円運動をして円筒状に製織する円形織機も発明された。

【構造】たて糸を巻くビーム(和名でちきり・おまき)，織った部分を巻き取るビーム(和名でちまき・いのあし)，たて糸の開口をするヘルド(和名で綜絖・あやとり)，よこ糸を通すシャットル(和名で杼・梭(おさ))，通したよこ糸を打ち込むリード(和名で筬(おさ))が主要な構成部分で，これらが組み立てられて連動する機構となっている。付属設備として，整経機・のりつけ機・よこ糸巻機などがある。

【操作】手織機は人が両手または手と足を動かして操作するので，1台に1人の織り手が必要であった。そのため労力にも限度があり，織る速度も速くない。力織機においては製織に必要な動力と機械の操作は機構に応じて能率化されており，自動機械では1人が数十台の織機を受け持つことも可能である。　〔小川安朗〕

ショック　[shock]　特殊な傷害または刺激が誘因となって一連の生体反応が生じ，その結果として生体の機能が急激に低下または崩壊する現象。循環系・呼吸系を中心とするものに出血・外傷などによるショック，アナフィラキシーショックなどがあり，局所的に起こるものに，中枢神経系に傷害を加えた際に起こる脊髄(せきずい)ショックなどが知られている。外傷直後またはある時

間をおいて，心臓の機能低下，呼吸困難，皮膚蒼白(そうはく)，体温低下，意識喪失などのショック症状が突発的に発現し，急速に悪化して死に至るショック死も少なくない。これは主として循環血量の急激な減少の結果として起こる。アナフィラキシーショックは，ペニシリンなど特定の抗原物質の注射で起こり，生体内で抗原抗体反応が特殊な条件下で生起したときに発生する。このほか，普通は無害である薬物などによってショックが起こったり，激しい精神的な刺激でも個人的素質や全身状態などによっては起こることがある。治療は予防と早期発見が最もたいせつであるが，具体的には輸血，人血漿(けっしょう)やその代用品・昇圧剤・強心剤・副腎(ふくじん)皮質ホルモンなどの投与であり，対症的には鎮痛剤・抗生物質・抗ヒスタミン剤・ビタミン剤などを投与する。なお，不可逆ショックとは輸血などの治療を行なっても助けることのできない状態である。〔平野修助〕

ショックリー ［William Bradford Shockley］(1910～) アメリカの物理学者。ロンドンの生まれで幼時に渡米，マサチューセッツ工科大学で研究，以後固体物理学の道を歩んだ。ベル-テレフォン研究所にはいり多くの業績をあげたが，特に半導体物理学の推進は高く評価され，トランジスターの開発に対して共同研究者のバーディーン・ブラッテンとともに1956年ノーベル物理学賞を受けた。1955年同研究所を辞し，みずからショックリー半導体研究所を設立した。現在スタンフォード大学教授。〔藤村 淳〕

しょっけんしゅぎ 【職権主義】 訴訟上の主導権を裁判所に与える主義。審理・進行の面から職権探知主義・職権進行主義ともいい，当事者主義に対する。刑事訴訟では客観的かつ実体的真実の発見を制度原理としているので，職権主義は重要な理念となり，場合によっては当事者主義よりも支配的となる。行政訴訟では公共の福祉の観点から，民事訴訟では手続き進行の面から，この主義がそれぞれ採用されている。

しょっけんらんようざい 【職権濫用罪】 公務員が職権を濫用して，人に義務のないことをさせたり，または行なうべき権利を妨害したりする罪。刑は2年以下の懲役または禁錮(きんこ)(刑法193条)。裁判官・検察官・警察官または職務上これを補助する事務官・技官など特別の権力を有する者は，特別公務員とよばれ，これらの者が職権を濫用し，人を逮捕・監禁した場合は，特別公務員職権濫用罪とし，6月～10年の懲役または禁錮(刑法194条)。また，特別公務員が刑事被告人・被疑者・参考人に対して暴行または虐待を加えたりはずかしめる行為をした場合は，特別公務員暴行陵虐罪として7年以下の懲役または禁錮(刑法195条1項)。看守または護送する者が，被拘禁者に対して前記の行為をした場合も刑は同じである(同条2項)。もし暴行・虐待の結果，相手を死傷させた場合は，傷害の罪と比較して，重いほうの刑を適用する。なお本罪は，国家権力を背景とした公務員の権力濫用を防止し，国民の人権を守るため設けられたものである。〔井上公耳〕

しょっこう 【燭光】 ⇨燭

しょっこうぎゆうかい 【職工義友会】 明治時代に結成されたわが国最初の労働運動団体。高野房太郎(ふさたろう)は渡米苦学中，アメリカ労働総同盟会長ゴンパースの教示を受け，1890年(明治23)サンフランシスコで同名の組織をつくって労働問題を論じた。1897年4月，帰国後最初の労働問題演説会を開催，同業組合結成を呼びかけて設立した。同年6月2度めの演説会には片山潜らも加わり，これが労働組合期成会に発展，近代的労働運動の先駆となった。〔高崎徳次〕

しょっこうにしき 【蜀江錦】 飛鳥(あすか)時代の経錦(たてにしき)のある種のものをさす。中でも法隆寺献納宝物として現在東京国立博物館に保管されている，聖徳(しょうとく)太子の寵姫(ちょうき)膳妃(かしわでのきさき)の下げ帯と伝えられる連珠唐花文(からはなもん)二重格子文(ふたえこうしもん)経錦はその代表的なものである。この裂(きれ)と同種の錦は西域トヨクの遺跡からも発掘されているから，この種の錦が中国で織られ，東西に分かたれたことがわかる。これをわが国で蜀江錦と称したのは江戸時代のことのようであるが，その名称の基になったのは中国の三国時代(3世紀)蜀漢の首都，四川の成都で織られた錦が蜀錦(しょくきん)の名で名高かったことによるといわれている。成都は唐代においても錦の主産地であった。なお，わが国では以上のような7世紀の経錦とは別に，室町時代に舶載された中国明(みん)の錦のうち，八角形を上下左右につないだ文様，あるいはその基本形に多少の変化を加えた文様を蜀江文または蜀江形・蜀江錦(しょっこうのにしき)と称してきた。〔北村哲郎〕



蜀江錦　膳妃帯(部分)　東京国立博物館蔵

しょっつる 【塩汁】 秋田県特産の魚醤(ぎょしょう)のこと。普通のしょうゆよりも濃厚で，独特の味とくさみがある。ハタハタ・イワシ・アジ・小サバなどを，生のまま塩づけして重石を掛け，2～3年つけ込むと，魚のタンパク質が酵素で分解されて淡色の液状となり，アミノ酸のうま味が出た上澄みがとれる。しょっつるを用いた秋田県の郷土料理に，しょっつる貝焼き(しょっつるなべ)があり，これも略してしょっつるという。ホタテ貝の殻(から)をなべにして，ハタハタ・タラなどの白身の魚と季節の野菜，豆腐・白滝をしょっつるで煮る料理である。〔塩川ふみ〕

ジョット ［Giotto di Bondone］(1226?～1337) イタリア絵画の父といわれる初期ルネサンスの画家。友人ダンテの肖像を残し，ダンテも《神曲》の中で彼をたたえた。中世ビザンチン美術のかたさを改革し，芸術に動きと情熱と生命力を導入，それまでに知られなかった品位と優美さを絵画にもたらそうと努め，彼の強い影響は14世紀中葉のフィレンツェの大部分の画家，そして

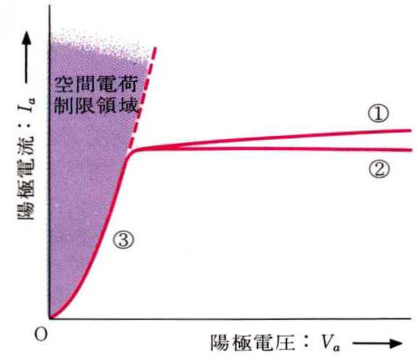


ジョット
《小鳥説法の聖フランチェスコ》(部分)　1290年代　サン-フランチェスコ上部教会堂

多くのシエナ派*の画家たちにも及んでいる。代表作としてまずサン-フランチェスコ教会堂*に描いた28図に及ぶフレスコ壁画《聖フランチェスコ伝》があげられるが，これは様式上から彼の作とすることに疑念もいだかれている。パドバのスクロベーニ礼拝堂に描いた《最後の審判》やフレスコ壁画《マリア・キリスト伝》の諸場面は演劇的表現力を示す傑作とされている。なお建築作品では，その構想に基づくフィレンツェ本寺の優美な鐘楼（ジョットの塔）が名高い。

〔井関正昭〕

ショットキーこうか［ショットキー効果］熱陰極からの放出電流が飽和領域で陽極電圧の増加とともに増加していく現象。２極管の飽和電流の値は，理論的には陰極温度が決まれば，リチャードソンの式から求められる。しかし，実際には陽極電圧を高くしていくと，陽極電流は少しずつ増大する。これは陰極の仕事関数が陰極面上の電界が強くなると，実効的に低下するためと考えられている。➔エジソン効果　➔真空管



①ショットキー効果による実際の陽極電流
②リチャードソンの式から求めた飽和電流
③空間電荷制限電流：$I_a = KV_a{}^{3/2}$

ショットキー効果

ショットキーダイオード　⇨ダイオード

ショットピーニング［shot peening］比較的球形に近い粒子（普通２mm以下）を金属体の表面に噴射し，冷間加工層をつくる方法。表面のかたさが約30〜60％増加するので表面硬化の効果があり，また，疲れ強さを著しく増加する。硬化層は薄く，軟鋼の場合ではほぼ１mmくらいである。加工層は切削や腐食などで失われやすく，また加熱を行なうと効果がなくなる。

ショッピングセンター［shopping center］各種小売店が集合している地域。一般に，アメリカでいわれるショッピングセンターの生成と発展は，消費者が都心部から郊外住宅地に移住した現象と結びついたもので，消費者の動向ならびに消費者が形成する新しい地域社会との結合により起こったものである。このような理由から，ショッピングセンターの条件として，①郊外地域・都市周辺地域，もしくはこれに準ずる地域に発展するものであること，②主要なハイウエーに沿った地域に所在すること，③十分なパーキング場の設備があること，④計画的に設立された集合的な買い物の場所であること，⑤各種の商品を取り扱う多数の小売店が形成するグループであることなどがあげられる。

アメリカにおけるショッピングセンターは，消費者が自動車で買い物に行くことが前提となっているのであるが，わが国の場合には，事情をことにし，まだ大多数の消費者が自動車で買い物に出かけるところまでには至っていないため，交通に便利なところという要件を考える必要がある。この意味で，いわゆる郊外ショッピングセンター，郊外電車などのターミナル-ショッピングセンターや，既存の都心部商店街を再開発し，そこに計画的に再建した都心ショッピングセンターなどを，新しいショッピングセンターとして認めることができる。既存の自然発生的な商店街とショッピングセンターとの違いは表のようなものである。

商店街とショッピングセンターとの対比

地　域	自然発生的	計画形成的
都心部	都心商店街	都心ショッピングセンター
郊外電車などのターミナル	駅前商店街	ターミナル-ショッピングセンター
郊外住宅地	郊外駅前買物地域	郊外ショッピングセンター

〔清水　晶〕

ジョッフル［Joseph Jacques Césaire Joffre］（1852〜1931）第１次世界大戦中活躍したフランスの軍人。プロイセン-フランス戦争には陸軍少尉として従軍，トンキン・スーダン・マダガスカルで頭角を現わし，1911年陸軍参謀総長となる。大戦の初期，北部・北東部フランス軍総司令官としてマルヌの戦いでドイツ軍に勝って名声を博し，1917年元帥となる。

ショート　⇨短絡

しょとう［蔗糖］スクロース・サッカロースともいう。二糖類*の一種で，加水分解するとブドウ糖と果糖を１分子ずつ生ずる。高等植物中に広く見いだされ，特にサトウキビ*・サトウダイコン*などには多量に含まれ，これらの植物はショ糖の工業的生産に用いられる。高等植物では，光合成産物を他の組織へ転流*する際の主要な炭素化合物であると考えられている。甘味料中代表的な食品であり，調味料として用いられるほか，食品の貯蔵・加工にも利用される。➔砂糖

しょどう［書道］⇨書

しょとうきょういく［初等教育］国民の子弟を対象に施される基礎的・一般的な段階の教育で，ふつう，中等教育*・高等教育*に対比して用いられる。現在，わが国では，小学校が初等普通教育を授けることになっているが，ここに幼稚園の教育を含めていう場合もある。この段階の教育は，６歳に始まって就学年限を６年と定め，義務制・無償制を原則としている。

じょどうし［助動詞］品詞の一種。付属語で活用のあるもの。単独では使われず，つねに他の語について，表現者（話し手・書き手）の種々の判断を表わしたり，意味を添えたりする。助動詞は，英文典の〈auxiliary verb〉の訳語であるが，これは補助動詞的なものとして独立性が強く，日本語の助動詞とは異なる。

助動詞は，種々の観点から類別できる。〔意味による分類〕①種々の意味を添えるもの：㋑受身（れる・られる），㋺可能（れる・られる），㋩自発（れる・られる），㊁尊敬（れる・られる），㋭使役（せる・させる），㋬希望（たい）。②表現者の種々の判断を表わすもの：㋑打消（ない・ぬ〈ん〉），㋺推量・意志（う・よう・まい〈打消の推量・意志〉），㋩推定（らしい），㊁過去・完了（た），㋭ていねい（ます），㋬様態（そうだ・そうです），㋣指定（だ・です〈ていねいな指定〉），㋠たとえ（ようだ・ようです），㋷伝聞（そうだ・そうです）。

〔活用形式による分類〕①動詞型（下一段型）：（れる・られる・せる・させる），②形容詞型：（たい・ない・らしい），③形容動詞型：（だ・ようだ・そうだ），④特殊型：（た・ぬ〈ん〉・ます・です・ようです・そうです・う・よう・まい）。

〔接続のしかたによる分類〕①活用する語だけにつくもの：㋑未然形につくもの（れる・られる・せる・させる・ない・ぬ〈ん〉・う・よう・まい），㋺連用形につくもの（たい・ます・た・そうだ〈様態〉・そうです〈様態〉），㋩終止形につくもの（まい・そうだ〈伝聞〉・そうです〈伝聞〉），②活用しない語にもつくもの：（らしい・だ・です・ようだ・ようです）。

助動詞どうしが，いくつか接続して用いられることがある。（たとえば，〈けっして屈伏させられないでしょう。〉）この場合，〈せる・させる〉の上に他の助動詞の来ることはなく，〈う・よう・まい・そうだ（伝聞）・そうです（伝聞）〉の下に他の助動詞のつくことはない。〈せる・させる↔う・よう・まい・そうだ・そうです〉の間に，いろいろな助動詞が，決まった順序で接続する。なお，学説によっては，〈れる・られる・せる・させる・たい〉を，助動詞とせず，接尾語として扱うことがある。　〔市川　孝〕

しょとく［所得］人間は労働をするこ

とによって新しい価値を生み出す。これを労働所得あるいは賃金という。これに対して資本家あるいは経営者は自己の財産を有効に活用するか，自己の経営能力を十分に活用することによって，前者は財産所得として配当・利子・地代などの収入を，後者は利潤を獲得することになる。これらの所得はすべて新しく生まれた価値であるという意味において付加価値といわれる。所得は帰属する者の収入とみなされるから，所有者によって自由に処分される。しかし所得の中には新しく付加された所得のみでなく，広義には政府から生活保護世帯に与えられる補助金のように，たんにすでに生まれた所得の一部が移転したにすぎないものも，補助金を受け取る者にとっては収入とみなすことができるから，これも所得の中に入れなければならない。これを移転所得といい，本来の所得と区別する。〔藤枝省人〕

しょとくこうか【所得効果】 価格変化のもたらす作用とはまったく無関係に，所得の増減によって需要が変化することをさしていう語。この背景にはエンゲル係数*の考え方がある。所得効果ということばは消費者均衡理論にも用いられる。そこでは消費者の購買行動に影響を及ぼす価格の変化を示す価格効果を，相対価格の変化による消費者選択の変化としてとらえ，これを代替効果*というのに対して，相対価格が一定であると仮定したとき，実質所得の変化を通じて現われる補整的な効果を，所得効果という。つまり，価格の変化が消費を変化させるのは，相対価格の変化による代替効果と，価格の変化が実質所得を変化させ，購買力を変化させる所得効果の合成によって説明される。〔藤枝省人〕

しょとくぜい【所得税】 本来，所得税は所得に対して課される租税の称であるが，わが国の場合には，個人の所得に対して課される国税を所得税といい，法人の所得に対して課される国税を法人税*といって区別する。所得税は，1887年(明治20)創設以来，幾多の変遷を経て現在のような体系に至っている。現行所得税における納税義務者は，原則として，日本国内に住所を有し，または1年以上居所を有する個人(居住者)，および非居住者であっても，日本国内に源泉のある所得を有するものである。所得は，利子所得・配当所得・不動産所得・事業所得・給与所得・退職所得・山林所得・譲渡所得・一時所得・雑所得の10種類に分類され，それぞれの種類ごとにその性質に即した所得計算の方法がとられている。所得税は個人の総所得を課税対象とする税であるから，個人的事情を考慮して担税力に応じた課税を行なうため，種々の控除制度が設けられている。所得からの控除は，基礎控除・配偶者控除・扶養控除・社会保険料控除・小規模企業共済掛け金控除・生命保険料控除・損害保険料控除・医療費控除・雑損控除・寄付金控除・障害者控除・老年者控除・寡婦控除・勤労学生控除があり，税額からの控除には，配当控除・住宅貯蓄特別控除・外国税額控除がある。税率は最低9.5%から75%までの超過累進税率である。

所得税の年税額を計算するには，総所得金額(総所得から非課税所得，特定の配当所得・利子所得，山林所得，退職所得を除く)・退職所得金額・山林所得金額を計算して，これから各種所得控除を行なって，それぞれ課税所得金額を算出し，別々に税率を適用して税額を計算する。次に，これら税額の合計額から税額控除を行ない，納付すべき所得税額が確定する。ところで所得税は，基本的には総合課税主義がとられ，また原則として申告納税制度*が採用されている。ただ，利子所得・配当所得・給与所得・退職所得などについては，徴税の便宜上，源泉徴収*の制度がとられており，さらに法人税とともに，青色申告*の制度が採用されている。〔西野義彦〕

しょとくせいさく【所得政策】 賃金などの分配国民所得*の上昇と実質国民生産の上昇とを事前に等しくすることによって，コスト-インフレーションや所得インフレーションを抑制し，国際収支の安定と実質国民所得の成長を促すために，賃金その他の諸所得の上昇を調整する政策をいう。多くの先進諸国では労働力不足型の経済になって労働組合の賃上げ圧力が強くなり，貨幣分配国民所得の上昇が実質国民生産の上昇を越えがちであり，需要がふえ物価が上がって国際収支が悪化するおそれが出てきたため，労使双方の代表が参加協力する政策機関を設けて，〈平均賃金の上昇率を実質国民労働生産性の上昇率と等しくする〉指導基準(ガイドライン)をつくるなどの政策が主張されている。所得政策の問題点は，所得の抑制は総需要も抑制するため，需要不足型の低圧経済では需要不足がはなはだしく，成長率が鈍化したり，また，基準どおり賃上げが実現される場合，労働者と他の所得階級の分配関係が固定化するなどである。〔加藤　寛〕

じょとくりつ【徐特立】 シュイトーリー(1876～1968) 中国の革命運動に活躍した教育者。湖南省の生まれ。長沙(ちょうさ)の湖南第一師範学校の教員の当時，毛沢東は彼の教え子であった。その後，長沙女子師範学校校長をつとめるかたわら，勤労者のための夜学を開設し，のちに共産党員となる多くの青年男女を教育した。1919年，苦学生グループの団長としてフランスに渡り，1923年帰国。1927年，50歳で共産党に入党。1935年以後，共産党の指導する解放区*の教育に献身した。91歳で北京(ペキン)に没した。中国共産党中央委員・全国人民代表大会常務委員会委員。〔斎藤秋男〕

ショート-ショート［short-short］短編小説(ショート-ストーリー)よりもさらに短い小説をいい，原稿用紙数枚ほどの物語。構成の妙味と幻想性を特色とし，現代的な落ちのある物語といったものが多く，推理小説*やSF*の一分野ともいえる。ロアルド-ダールや星新一らが代表的な作家。

ショートニング［shortening］菓子やパンをつくるときに用いられる半固形状の油脂。ショートネス(もろく，くだけやすい性質)やクリーミング性(空気をよく抱き込む性質)を与えるために用いられる。精製した動植物油脂・硬化油を主原料とし，場合によっては乳化剤を与えて均一に加熱混合したのち急激に冷却し，その間に窒素・炭酸ガス・空気などのガス体(約10～20%)を注入する。

しょはい【書肺】 クモ形類の動物の呼吸器官で，肺書・気管肺・肺嚢(はいのう)ともいう。腹部の体表が陥入してできた嚢状の中にはいっており，肺葉とよばれる葉状物がたくさん重なっている。それぞれの肺葉の内腔(ないこう)は血洞(けっとう)で，血液が満たされている。

じょはきゅう【序破急】

1舞楽の三つの楽章の名。〈序〉は曲の最初の部分でテンポがおそく，楽器も比較的自由な演奏法をとる。〈破〉は曲の中心部分で音楽的にも舞踊的にも最も充実し，リズムがはっきりしており，テンポは〈序〉より少し早まる。〈急〉は曲の最後の部分で，テンポをさらに早めて舞い終える。この序破急の3楽章のそろっているものは〈大曲〉といわれる数曲ぐらいであまり多くはない。なお，これから転じて一般に音楽などがおそいテンポで始まって急なテンポで終わるまでの変化を3段階に想定してこのようにいうことがある。

2能楽で，舞楽の序破急を手本にして脚色法や番組みの作り方の理論的基礎としたもの。世阿弥(ぜあみ)の著書《習道書》《花鏡*》に番組みの構成論が，《能作書》に脚色論がそれぞれこの理論に基づいて述べられている。また《風姿花伝*》の中には〈いっさいのことに序破急あれば申楽(さるがく)(能のこと)もこれに同じ〉とある。〔長尾一雄〕



ショパン

ショパン［Fryderyk Franciszek Chopin］(1810～1849) ポーランドの作曲家。フランス人を父に，ポーランド人を母としてワルシャワ近郊で生まれた。早くからピ

アノと作曲を学び，ピアノ演奏，特に即興演奏に非凡な才能を示した。8歳のとき，すでに演奏会に出演して好評を博している。1828年にはベルリンへ，翌年にはウィーンへ演奏旅行を企てた。1830年にドイツを経てパリへ旅立ち，その後再び故郷にもどることはなかった。当時，ヨーロッパ文化の中心であったパリで，彼は演奏家として，またピアノ教師として大いにもてはやされ，またメンデルスゾーン*・リスト*・ベルリオーズ*ら，多くのすぐれた音楽家たちと親交を結んだ。また，1835年にはライプチヒで彼のよき理解者となったシューマン*と会った。1836年女流作家サンド*に会ったが，すでに結核に冒されていた彼は，サンドとともに1838年から翌年にかけてマジョルカ島で療養生活を送り，その後1846年まで彼女と共同生活を送った。サンドとの共同生活に破れたのち，1848年生活のかてを得るためにイギリスに渡ったが，病が悪化して同年パリにもどり，翌年パリで息を引きとった。

その作品はピアノ曲に限られているといっても過言ではない。彼はこの分野において，バッハ・モーツァルト・ベートーベンの影響を受けると同時に独自の音楽をつくり上げ，ピアノ音楽の新しい境地を切り開いた。彼の音楽の独自性は，特にポーランド民族音楽との結びつきにみられ，ポロネーズやマズルカでは民族舞曲の旋律やリズムが生きており，民族音楽の様式化がみられる。このような民族音楽様式は，彼の全作品の根底をなすものである。彼の音楽はこの民族音楽様式とピアノという楽器特有の表現様式とのみごとな結晶であるといえよう。代表的作品としては，ピアノ協奏曲2曲，ピアノ-ソナタ3曲，《24の練習曲》《24の前奏曲》，ノクターン約20曲，スケルツォ4曲，バラード4曲，幻想曲1曲，即興曲4曲，さらにマズルカ・ポロネーズ・ワルツなど多数がある。　〔寺田兼文〕

ジョフロア-サンティレール［Etienne Geoffroy Saint-Hilaire］（1772～1844）フランスの生物学者。パリ近くのエタンプに生まれる。パリ大学で研究し，ラマルク*とともに進化論*の先駆者となった。彼の進化思想は，比較解剖学におけるその業績と関連が深い。器官の間の位置関係が不変だという〈関係の法則〉を提唱し，相同*・相似*の概念に近づいた。しかし，これらの主張は実証的ではなく，キュビエ*の批判を受けることになった。　〔中村禎里〕

ショベル［shovel］土砂ならびに岩石の掘削および積み込みに用いられるショベル系掘削機械の略称。シャベル・スコップは人力による掘削器具をさし，機械化されたものをショベルといっている。ショベル系掘削機とは，ショベルまたはクレーンを基本形とし，機械本体を変えずにフロントアタッチメントの交換によって，各種の掘削作業およびクレーン作業に適用できる機械で，作業範囲が360°のものをいう。以下のようなものがある。①パワーショベル：フックのついたディッパーバケットを機械力で動かし，土砂などを前方へかき上げ，すくい取っていく前進方式のもので，機械本体が根伐底(ねぎりぞこ)にあるため軟弱地盤に不向き。②プルショベル：土を手まえにかき取る方式のものでバックホウともよばれ，土砂を横あるいは後ろにいる車に積み込む。機械本体は根伐底にないので軟弱地盤に適する。③ドラグライン：つり下げたバスケットを前方に投下し，引き寄せながら土をかき取る方式のもので，深い掘り方ができ軟弱地盤に適する。④クラムシェルバケット：クラムバケットを口の開いた状態で垂直に投下して土中に突き刺して，口を寄せ合わせて土をつかみとる方式のもの。これらの機械は無限軌道式や車輪式で自走性があり，さらに油圧式による小形のものが開発されている。　〔神山幸弘〕

ショーペンハウアー［Arthur Schopenhauer］（1788～1860）ドイツの哲学者。ドイツ観念論*最後の哲学者で，厭世(えんせい)主義哲学の代表者とされる。ダンチヒ(グダニスク)の教養豊かな銀行家の父と閨秀(けいしゅう)作家の母との間に生まれ，はじめ商人としての教育をうけたが，1805年父の急死後商人見習いをやめ，ゴータの高等学校，ゲッチンゲン大学で学び，そこで懐疑論者G.E.シュルツに出会って生涯(しょうがい)の方向を定めた。プラトン・カントを研究，1813年博士論文《充足の根拠律の四根について》を書いてのち，ワイマールの母の下に行き，そのサロンで東洋学者マイヤーに会い，インド哲学に目を開かれた。のち母と争ってドレスデンに移り，1819年《意志と表象としての世界*》を書いたのち，1820～1832年ベルリン大学で私講師として講壇に立ち，当時全盛のヘーゲル*に対抗しようとしたが認められず，以後在野の学者として孤独の生涯を終えた。その思想が認められたのは晩年であり，しかもそのはじめは通俗的小論集の名文によってであった。みずからカントの直系と称し，〈世界は私の表象である〉という命題をもって，われわれの見る世界は実在を示さぬものであるとし，その根底にある実在として〈盲目な生存への意志〉を説き，ニーチェ*に大きな影響を与えた。　〔豊福英利〕

じょほう【除法】乗法*の逆演算。割り算ともいう。すなわち$x\times a=b$または$a\times x=b(a\neq 0)$のxを求める演算で，記号÷を用いて$b\div a$と表わす。$\frac{b}{a}$で表わすこともある。除法では，0で割ることだけは除外し，はじめから定義しない。除法の意味を，等分除と包含除に分けることもある。たとえば，20÷5で，等分除は20を5等分することを意味し，包含除は20の中に5が何回含まれるかを意味する。

整数の除法に関連して，aを任意の整数，bを正の整数とすると，$a=bq+r$，$0\leqq r<b$を満たす整数q，rが1組みだけ存在するという性質がある。　〔杉岡司馬〕

ショー-ボート［Show Boat］アメリカのミュージカル-プレーの題名。ミュージカル-プレーはこの作品から始まるといわれる。それ以前のミュージカル-コメディーとは違い，充実したドラマ性をミュージカルの中に確立した。エドナ-ファーバーの同名の小説に基づいており，作曲ジェローム-カーン，台本・作詞オスカー-ハマースタイン2世。1927年ブロードウエー初演。以来，何度も再演され，1930・1951年には映画化された。19世紀末，ミシシッピ川を往来するショー-ボートをテーマに，船上で生活する幾組みかの男女の姿から社会風俗・人種問題までを，しっかりした物語性と芸術のかおり高い音楽と踊りをもってみごとに描き出している。多くのヒット曲中で《オール-マン-リバー》は特に有名。〔鈴木道子〕

ジョホール［Johore］マレーシア連邦，マライ半島の南端を構成する州。州都ジョホールバール。面積18,325km²，人口127万8,000(1966)。地形はだいたい平坦(へいたん)で中央部に1,000m内外の山地がある程度。ラテライトにおおわれた平原を，ジョホール川・ムアル川が蛇行(だこう)し，東西両海岸付近には低湿地が広がる。近代までスルタンの統治する独立国であったが，シンガポールがイギリス領になるとその圧力を受けて1885年には保護国になった。一方，経済面では，19世紀後半以後ゴムの栽培，鉄鉱石の開発などで急激に開け，マレーシアのゴム栽培の中心地となった。マライ半島縦貫鉄道や国道が通じ交通の要地でもある。　〔別技篤彦〕

ジョホールバール［Johore Bahru］マレーシア連邦マライ半島の南端にある都市でジョホール州の州都。人口39,000(1962)。狭いジョホール水道を隔ててシンガポール島と相対し，交通量の多いコースウエー橋によって結ばれている。もとスルタンの居住地として発展した都市で，王宮やイスラム寺院・動物園は観光資源の一つになっている。食品工業があり，ゴムやパイナップルなどの取引が盛んである。

じょめいてんのう【舒明天皇】（593～641）在位629～641年。名は田村，息長足日広額尊(おきながたらしひひろぬかのみこと)ともいう。父は敏達(びたつ)天皇*の皇子押坂彦人大兄皇子(おさかのひこひとのおおえのみこ)。母は糠手姫(ぬかてひめ)皇女。629年(舒明1)蘇我蝦夷*(そがのえみし)に擁立されて即位。在位中，大和(やまと)の飛鳥(あすか)岡本宮に遷都した。その治世中は蘇我蝦夷・入鹿*(いるか)父子が権力を掌握し，勢力を増大した。陵墓は奈良県桜井市押坂内陵。

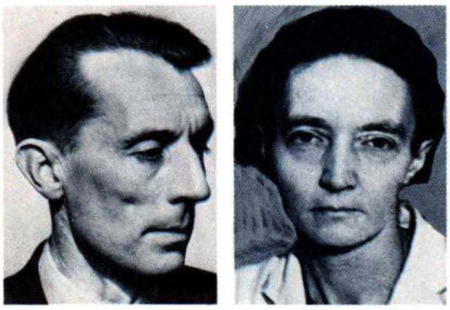
しょもつ【書物】⇨図書

しょやけん【初夜権】新郎以外の者が新婦に対してもつ初交の権利。これは，た

とえば，南アフリカのアラワク族のピアチェという呪医(じゅい)とか，ベネズエラのクマナの祭司，そしてエスキモーの一部におけるアンガコックあるいはアンワトという巫者(ふしゃ)に与えられている。また，西洋の封建時代における領主，19世紀まで続いたロシアでの地主にも与えられていた。初夜権成立の根本的理由は，血のけがれの観念からくる初交の神秘的危険の回避にある。新郎がこうむるこの危険を宗教的職能者が代わりに受け，ときにはこの危険に関係しない外国人もその適任者と考えられる。のち，性的快楽によってこの権利が利己的に利用されることもあった。〔大岩　碩〕

じょやのかね【除夜の鐘】 除夜，大晦日*(おおみそか)の夜半に108回の梵鐘(ぼんしょう)を鳴らして，煩悩*(ぼんのう)を洗い清めて新年を迎えること。108の数については，百八煩悩説が一般的であるが，このほかに12月，24気，72候に応ずるという説もある。

しょゆうけん【所有権】 物に対する全面的支配権のこと。地上権*・永小作権*・質権*・抵当権*など，土地または家屋などの物を一面的にしか支配できない制限物権と区別される。所有権は地上権・抵当権などによって制限されることはあるが，それらの制限は一時的なものであるからのちには完全な全面的支配権に復帰し(これを所有権の弾力性という)，かつ時効*によっても消滅しない(これを所有権の恒久性という)。所有権は，所有者の意思によってどのようにでも利用することはできるが，その主要な支配形態としてみられるものが使用・収益・処分である(民法206条)。使用とは，自己が所有物をそのまま使用して経済的利益を実現することであり，収益とは，所有物を他人に賃貸し，それによって生ずる果実を取得することであり，処分とは，売却したり，担保権を設定したり，こわしたりして所有物の性質を変更することである。また，所有権は直接排他的・全面的支配権であるから，その侵害があったときはその態様に従い，所有物返還請求権・所有物妨害排除請求権・所有物妨害予防請求権の3種の物権的請求権と損害賠償請求権が認められている。資本主義社会においては，所有権はすべての権利の源泉であり，財産権*の基本をなすものであるため，憲法・刑法などによっても手厚く保護されている。なお，資本主義が発展し，高度化するとともに，ますます少数の者に財産(所有権はあらゆる財産の上に成立する)が集中するようになり，その弊害が目だってきたので所有権の自由にしだいに各種の制限が加えられてきてはいるが，それも全体的には資本主義体制と調和する限度のものであって，少なくとも反資本主義体制的な制限が加えられてきているというわけではない。しかし，社会主義社会においては，私的所有権に対する一定の強い制限が設けられ，原則として生産手段(土地や工場など)に対する私的所有権は廃止され，社会的所有または国家的所有に帰属させられている。しかし，個人の生活手段や消費財に対する所有権は保障されており，相続*もまた一定限度で行なわれているから，個人の所有権を完全に否定する制度は，現在または近い将来においても考えられない。なお，資本主義体制以前の社会においては，土地などはその私的所有が家族や村落などの共同体，または領主的支配権のもとに制限され，原則として独立した財産とは考えられなかった。土地に対する私的所有権の確立したのは，資本主義体制社会においてである。〔黒木三郎〕



ジョリオ-キュリー(夫妻)

じょよう【汝窯】 中国，北宋(ほくそう)時代の代表的な青磁窯で，窯跡(かまあと)は河南省臨汝県の近傍に散在する。宋代以来多くの文献に載り，名窯の一つにあげられたが，実体は1936年(昭和11)に日本人の手で窯跡が発見されて判明した。オリーブ色の青磁釉(せいじゆう)がかかり，素地に片切彫(かたぎりぼり)の鋭く引き締まった文様を施して，宋磁の中でもひときわ格調が高い。1107年に設けられた官窯は汝官窯とよばれ，粉青藍色の青磁を焼いたと推測されている。なお，第2次世界大戦後に陝西(せんせい)省で耀州(ようしゅう)窯が発見され，この窯が徐々に判明するにつれ，汝窯の作品とされた多くは耀州窯の作品と考えられるに至った。〔矢部良明〕

ショラプール ［Sholapur］ インド共和国中南部，マハラシュトラ州にある都市。人口39万8,000(1971)。ボンベイの東南約350km，マイソール州との境界に近い高原上に位置する。地方産業の中心地で，綿製品・毛布・絹なども生産している。デカン戦争当時の著名な城塞(じょうさい)の遺跡などがある。

ジョリオ-キュリー(夫妻) ［Jean Frédéric Joliot-Curie, Irène Joliot-Curie］(1900〜1958)，(1897〜1956) ともにフランスの物理学者。放射能および原子核の研究に従事した。

ジョリオはポール-ランジュバンの指導を受け，1925年ラジウム研究所に入所，マリー-キュリーの助手となり，翌年やはり同研究所の助手であった，キュリー夫妻*の長女イレーヌと結婚し，以後は夫妻協同して研究を進めた。1932年，〈ボーテ-ベッカーの放射線〉の性質についての研究で中性子*発見の先駆的な業績をあげ，続いてγ線による陰陽電子対の創成を示し，1934年には人工放射能を発見，さらに多くの新元素創出の可能性を予見した。1935年には原子核の連鎖反応を論じている。ジョリオはコレージュ-ド-フランスの教授となり，原子核化学研究所を創設，サイクロトロンの建設を開始し，やがて核分裂の研究，特に連鎖反応の研究をはじめた。他方，イレーヌはレオン-ブルム内閣で科学研究担当の国務相となり(1936)，次いでパリ大学教授として核物理学・放射能の講座を担当，のちラジウム研究所長となった。第2次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)により，核分裂研究はイギリスへ疎開，イレーヌもスイスへ移ったがジョリオは国内で抵抗運動に参加，〈国民戦線(フロン-ナシオナール)〉の指導者となった。

戦後ジョリオは国立中央科学研究所長官・原子力庁長官そのほかの要職を兼ね，科学の研究組織や行政面での指導に尽力したが，1950年政治的理由で解任された。その解任に対しては大きな抗議運動が展開されている。その後はサクレー・オルセーなどの原子核研究施設で研究を指導する一方，平和擁護運動・原爆反対運動に努力した。イレーヌが白血病で没したのちソルボンヌ大学教授・ラジウム研究所長を兼ねた。科学アカデミー会員。1942年以降フランス共産党員，のち中央委員もつとめた。なお1935年には，人工放射能の発見などの功績によって，夫妻ともにノーベル化学賞を受けている。〔藤村　淳〕

ジョリベ ［André Jolivet］(1905〜) フランスの作曲家。はじめ画家を志したが，のち音楽に転じ，1931年から1934年にかけてバレーズ*に作曲を学んだ。初期の作品にはバレーズの影響がめだち，ピアノ曲《マナ》(1935)やフルート曲《五つの呪文(じゅもん)》(1936)では，原始民族の呪術的な音楽の力を回復させている。1936年には，当時パリで支配的であった新古典主義的な傾向に対抗して，メシアン*らと〈若きフランス〉というグループを結成し，音楽に人間と叙情を復活させることを主張した。第2次世界大戦に応召したのち，1945年よりコメディー-フランセーズの音楽主任。その後ラムルー管弦楽団の会長などをつとめるかたわら，ヒューマニズム宣言に基づいた創作活動を続けている。電子楽器オンド-マルトノやトランペットなどさまざまな楽器のための11曲の協奏曲，14曲の舞台音楽，9曲の管弦楽曲など，作品の数は多い。〔船山　隆〕

ショール ［shawl］ 語源はペルシア語のシャールで，婦人用の肩または上半身にかける正方形・三角形・長方形の補助的衣服。東洋では古くから防寒・防暑に用いられており，ヨーロッパには18世紀半ごろに導入された。日本では明治時代にはいり，現在まで和服での外出には欠くことのでき



ジョルジョーネ
《田園の合奏》 1510ごろ
ルーブル美術館蔵

ないものになっている。しかし，現代の単純化された衣服には，マフラー・ストール・スカーフ*などの小形のものが用いられる。素材としては，毛糸・厚手ウール・絹・綿・レース・オーガンジー・化繊・毛皮など多くの種類が用いられている。〔小池千枝〕

ジョルジョーネ ［Giorgione］（1478?～1510） イタリア-ルネサンス盛期の偉大な画家で，ベネチア派*の始祖ジョバンニ-ベルリーニ*の弟子(でし)。生涯(しょうがい)や作品の帰属については不明な点が多いが，残されているわずかな作品からみて，当時の絵画に穏やかで高度な情緒と厳粛な人間像を提示したといってよい。傑作として《カステルフランコの聖母子》《あらし》《眠れるビーナス》などがあげられる。

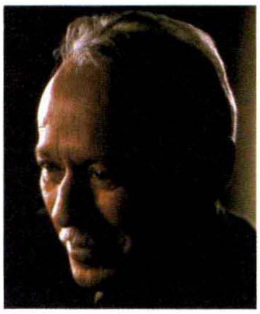
ジョルスン ［Al Jolson］（1886～1950） アメリカのポピュラー歌手。ユダヤ移民の血を引き，歌手だった父親の手ほどきを受けて1899年に歌手としてデビュー。ミンストレル-ショーや酒場ショーに出演，黒人に変装して歌うのが売り物だった。1927年，映画《ジャズ-シンガー》に出演して決定的な名声を博した。《スワニー》《ロカ-マイ-ユア-ベイビー》など古いスタンダードを得意とし，渋いがシャウトする唱法は人間的な哀感に富み，ポップ史上に残る名歌手のひとりである。1950年に駐留軍兵士を慰問のために来日した。第2次世界大戦後の伝記映画《ジョルスン物語》《ジョルスン再び歌う》に声の出演をした。〔岩浪洋三〕

ジョレス ［Jean Léon Jaurès］（1859～1914） フランスの社会主義者・政治家。エコール-ノルマルで哲学を専攻。大学教授から社会主義運動にはいり，下院議員となる。ドレフュス擁護，社会主義運動の統一に努力，1904年共産党機関紙《ユマニテ》を創刊し，翌年統一社会党を結成した。その後帝国主義戦争と植民地主義の反対者として活躍したが，第1次世界大戦勃発(ぼっぱつ)直前，国粋主義者に暗殺された。

じょろうぐも 【女郎蜘蛛】 クモ形類・コガネグモ科。雌の体長3cmほど，雄では1cmほどのクモで，胴は細く，脚も細長い。



ジョロウグモ



ショーロホフ

体は黄と黒のしま模様で，よく目だち，このはでな装いからこの名を得た。本州以南，朝鮮・中国・台湾・インドなどに分布し，草原や林間などに網を張る。

ショーロホフ ［Mikhail Aleksandrovich Sholokhov］（1905～ ） ソビエトの小説家。ドン地方の出身。ロシア革命の中で成長し，国内戦にも参加した。内戦終結後は転々と職を変えつつ文学修業を続け，1926年に内戦時代のドン地方に取材した短編集《ドンの物語》《るり色の広野》を発表した。さらにその題材を発展させたのが大河小説《静かなドン*》で，1928年に第1部が発表され，1940年に完結。これと並行して農村集団化をテーマとした長編《開かれた処女地》が書かれた。第2次世界大戦中は従軍して数多くのルポルタージュを書いた。ほかに未完の長編《彼らは祖国のために戦った》などがある。現在ソビエト文壇の大御所。1965年にはノーベル文学賞を受けた。

ショロム-アレイヘム ［Shalom-Aleikhem］（1859～1916） イディッシュ*(近代ユダヤ語)の作家。本名ショロム-ラビノビチ。ロシア領ウクライナに生まれ，東欧ユダヤ人の日常語であったイディシュの文学運動に生涯(しょうがい)をささげ，多くのすぐれた作品を残した。第1次世界大戦の初期にアメリカへ亡命，ニューヨークで客死した。作品には，郷土ウクライナのユダヤ人の生活を独得の風刺とユーモアで描いた短編が多く，連作形式で書かれた《メナヘム-メンドル》《牛乳屋テビエ》や，少年小説《モトル少年》などが，最も広く知られている。〔徳永康元〕

ショロン ［Cholon］ ベトナム共和国の首都サイゴンに隣接する町。現在サイゴンとともに首都圏を構成する。ショロンの歴史は17世紀以来コーチシナに移住していた華僑(かきょう)が18世紀後半，アンナン帝国の内乱をのがれてここに居住したことに始まった。以来，南ベトナムでの華僑居住の中心地となり，現在約50万の華僑が集中している。メコンデルタの重要産物である米の取引と精米業はベトナムがフランス領であった時代から盛んで，華僑が独占している。

ジョン ［John］（1167～1216） イングランド王。在位1199～1216年。失地王とよばれる。ヘンリー2世の第4子。兄リチャードの戦死により即位したが，リチャードの子アーサーを正統な王位継承者とするフランス王フィリップ2世と争ってノルマンジーの所領の大半を喪失した（1204～1206）。1209年カンタベリー大司教の任命をめぐり，教皇インノケンチウス3世*と対立して破門されたが，1213年屈服，臣下の誓いをして王国を教皇に献じ，あらためてこれを封土として受けた。フランス内の旧領を回復しようとしたが，貴族は軍役とその代納金を拒否した。戦いに敗れて帰国するや，1215年貴族とロンドン市民にマグナ-カルタ*に署名させられた。まもなくその無効を宣言したが，内乱中に病死。〔松下京子〕

ショーンガウアー ［Martin Schongauer］（1445?～1491） ドイツの画家・銅版画家。ワイデンから影響を受けたといわれる。ある油彩作品は《バラの生垣(いけがき)の聖母》1点のみで，画面構成や描線はきわめて明確である。しかし，数多い銅版画はドイツ銅版画にはじめて芸術性をもたらした。

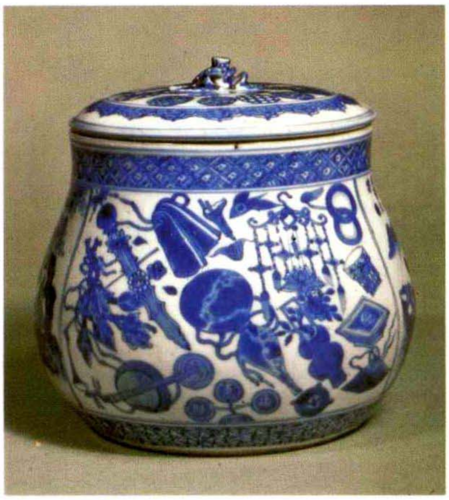
ジョーンズ ［Daniel Jones］（1881～1967） イギリスの音声学者。ケンブリッジ大学数学科卒業，ロンドン大学音声学講師を経て1921年教授に昇進，1949年同大学を退職，1950年から終身国際音声学協会会長をつとめた。英語の標準的発音を示した《英語発音辞典》（1917）をはじめ，《英語音声学概説》（1918），《音素》（1950）などの論著，各国での講演，国際音声学協会の活動を通じて音声学の進歩，国際音声字母の普及，英語発音教育の改善などに貢献した。

〔北村 甫〕

ジョーンズ［James Jones］（1921～1977） アメリカの小説家。第２次世界大戦中の体験に基づいて，日本軍の真珠湾攻撃前後のハワイ駐屯(ちゅうとん)部隊の醜悪な内面を描いた《地上より永遠に》が，社会的に大反響を呼んだ。メイラーの《裸者と死者*》やショーの《若き獅子(しし)たち》と並んで，第２次世界大戦の代表的戦争小説といわれる。

ジョーンズ［Leroi Jones］（1934～ ） アメリカの黒人詩人・劇作家。いわゆる〈ブラック-パワー〉の代表的芸術家で，先鋭な黒人解放運動家でもある。アメリカの中産階級理念の打破を叫び，黒人・白人の心理関係に鋭利なメスを向けた作品が多い。戯曲《ダッチマン》《奴隷》，評論集《根拠地》《黒い音楽》など。

しょんずい【祥瑞】 中国，明(みん)代末に景徳鎮窯*(けいとくちんよう)で焼かれた特色のある磁器。茶わん・薄茶器・香炉・香合・水差し・火入(ひいれ)・茶巾筒(ちゃきんづつ)・香煎入(こうせんいれ)・さら・はち・向付(むこうづけ)・瓢形(ひょうがた)徳利・杯などがあり，ほとんどが茶道具・懐石道具で，わが国の茶人の注文で焼かれたという。多くは染付(そめつけ)で，ほかに釉裏紅(ゆうりこう)を伴ったものや色絵がある。染付の発色は特に鮮明で，作調も精緻(せいち)であり，文様も画割して各種の幾何学文様を多用して文字・山水・花鳥などを配し，器形にゆがみを与えたものなど，当時の他の磁器とは異なった作風を示している。器の底裏に〈五良大甫呉祥瑞造〉と染付銘を付するものがあり，祥瑞の名の由来になっているが，銘の真意については諸説があって確定をみない。〔矢部良明〕



祥　瑞《染付砂金袋水指》中国明代

ジョンソン［Benjamin Jonson］（1572～1637） イギリスの劇作家。ふつうベン-ジョンソンと称せられる。古典学者でもあり，放縦に流れがちであったエリザベス朝演劇の中で，古典主義的な秩序や統一を強調した。登場人物のそれぞれが一つの性向に従って行動する〈気質喜劇〉の完成者と考えられている。その喜劇作品には，道徳生活の向上という教育効果をもった風刺的笑いが満ちている。出世作《十人十色》以降，《狐(きつね)（ボルポーニ）》，《錬金術士》《バーソロミューの市》と，その風刺は世相が悪化するにつれて鋭くなっていった。また，ギリシア演劇*からヒントを得た宮廷仮面劇の完成者でもあった。ジェームズ１世から年金を受けるようになり，実質上最初の桂冠(けいかん)詩人*とされる。シェークスピア*と親交があった。〔五十嵐一〕

ジョンソン［Samuel Johnson］（1709～1784） イギリスの詩人・批評家。はじめ風刺詩人として頭角を現わし，《浮世の望みのむなしさ》などを発表。やがて風変わりな《英語辞典》（1745～1755）を完成，雑誌《ランブラー》などに重厚な随筆を発表した。さらに52人の詩人を論じた名著《詩人伝》によって18世紀イギリス文壇の最大の存在となる。



F．シラー

骨格の大きな人物像と奇人ぶりは，弟子(でし)ボズウェルの《ジョンソン伝》に余すところなく書きとどめられている。〔沢村　灌〕

ジョンソン［Andrew Johnson］（1808～1875） アメリカの政治家。第17代大統領。在任1865～1869年。ノースカロライナに生まれ，テネシーに移住。1857年上院議員となり，民主党に属したが，リンカーン*を支持して南部の連邦脱退に反対し，1862年テネシー州軍政知事，1864年リンカーンの副大統領に選出される。リンカーンの暗殺により大統領に昇格。リンカーンの穏健政策を踏襲して南部再建にあたったが，共和党急進派の反対にあって失敗した。〔折井一彦〕

ジョンソン［Lyndon Baines Johnson］（1908～1973） アメリカの政治家。第36代大統領。在任1963～1969年。テキサス州出身。1949年以後民主党所属の上院議員として活躍，1960年副大統領に就任，1963年のケネディ*大統領の暗殺により大統領に昇格し，1964年の選挙では共和党のゴールドウォーター*に圧勝して再選された。ニューフロンティア*政策を継承，巧みな議会操作で1964年公民権法・減税法を制定，〈偉大な社会〉構想を発表して経済繁栄維持・国民生活向上・機会均等のための諸政策を展開した。外交ではソ連と接近，中国には強硬外交を継続し，1965年には北ベトナム空爆を行なって内外に強い批判を起こし，その戦費の増大から爆撃の一方的停止を発表せざるを得なかった。1968年の選挙では不出馬声明，1969年１月共和党ニクソン*に政権を譲った。〔折井一彦〕

ジョンまんじろう【ジョン万次郎】 ⇨ 中浜万次郎

シラー［Friedrich Schiller］（1759～1805） ドイツの詩人・劇作家。軍医の子としてシュワーベンに生まれた。敬虔(けいけん)な家風のうちに育ったが，暴君オイゲン公が校長であるカール学院にむりに入学させられ，その軍隊的環境に反発しつつ，独力で作家の教養を身につけて《群盗*》を書きあげた。これがマンハイム劇場で上演されて異常な反響をよび，一躍文名を高めたが，オイゲン公の弾圧にあって故郷を脱出，各地を放浪した。その間に政治および恋愛上の自由をテーマに戯曲《フィエスコの反乱》《たくみと恋》を制作し，〈シュトルム-ウント-ドランク*〉文学運動の代表的作家となった。しかし，次作《ドン-カルロス*》には青年期の激情から脱した壮年の成熟のきざしが見えている。1788年からイェーナに定住し，《ギリシアの神々》《芸術家》などの長詩をつくったほかは文学を離れて歴史の研究に没頭し，《オランダ独立史》《三十年戦争史》などを著わした。次いで哲学・美学の研究に進み，《人間の美的教育》《素朴(そぼく)文学と情感文学》など多くの論文において，理性と感性が美しく調和する古典主義の芸術論をうちたてた。ゲーテ*との親交によって再び文学の制作欲がわきあがり，思想詩・物語詩の数多くの傑作を生んだ。思想的内容と劇的構成をもつシラー独自の詩である。この詩作を契機として本来の劇作にもどり，３部作《ワレンシュタイン》をはじめ《マリア-スチュアルト》《オルレアンの少女*》《メッシーナの花嫁》《ウィルヘルム-テル*》を次次に制作し，内面的自由をさまざまな題材と異なった手法によって追求した。しかし10年来の胸の病気が嵩(こう)じ，ワイマールで没した。〔野島正城〕

シラー［Ferdinand Canning Scott Schiller］（1864～1937） イギリスの哲学者。イギリス-プラグマチズムの代表者。彼自身はその立場をヒューマニズムという。ドイツのハンブルク近くのオテンセンの生まれ。オックスフォード大学で学び，当時のヘーゲル哲学の隆盛に批判的であった。彼はプラグマチズム*からさらに広く価値の問題に至り，あらゆる価値は〈人間のつくったもの〉として歴史の進展とともにつくり出されるもので，絶対的な価値規準も真理規準もなく，人間の要求・目的・活動と満足度に相関的であるとした。したがって，世界は創造的参加が可能であり，参加者の人格は自由であると説いた。主著に《ヒューマニズム》《プラトンとプロタゴラス》などがある。〔豊福英利〕

じらい【地雷】 地中にうずめて，自発点火・時限発火，もしくは遠隔操作点火に

より爆発させ，敵兵力を破壊する爆薬罐状(かんじょう)の陸戦兵器。敵の前進路，特に突撃目標となる陣地の周辺や展開地に埋設することが多い。種類としては，踏むと同時に爆発する触発地雷，鋼筒に詰められた榴霰弾(りゅうさんだん)を飛散させるアーセン地雷，小孔の上部に積んだ小石を吹き飛ばすように仕掛ける投石地雷，戦車のキャタピラ破壊に用いる対戦車地雷などがあり，それには，歩兵が携帯して肉薄攻撃に使うものも含まれる。爆薬としては黒色火薬・黄色火薬・TNT火薬が用いられる。〔藤井冬木〕

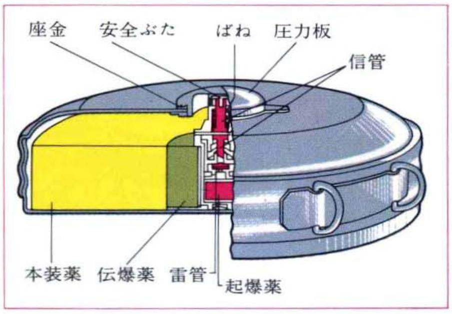
しらいきょうじ【白井喬二】(1889～1980) 小説家。本名井上義道。横浜生まれ。日本大学政経学科を卒業。一時編集などに従ったが，1910年《怪建築十二段返し》で文壇に登場，《新撰組(しんせんぐみ)》《富士に立つ影》で伝奇性に富んだ大衆作家として知られた。大衆文学の命名者といわれるほどの先駆者であり，そのスケールの大きさは群を抜いている。

しらいとのたき【白糸ノ滝】 富士山西麓(せいろく)，富士川の支流，芝川の上流にかかる名瀑(めいばく)で，静岡県富士宮市に属する。芝川筋の馬蹄(ばてい)形のがけを流水が落下するほか，このがけから富士溶岩の下を伏流してきた地下水が湧出(ゆうしゅつ)し，前面を高さ約25m，幅130mにわたって白糸をたれたような細い大小数百条の滝が流れ落ち，天然記念物に指定されている。また，近くには同じ芝川がつくる音止ノ滝がある。なお，長野県軽井沢町，宮城県花山村をはじめ各地に同名の滝がある。〔味沢成吉〕

しらいまつじろう【白井松次郎】(1877～1951) 松竹合名会社の設立者。京都市の生まれ。劇場売店主白井亀吉(かめきち)の養子となって興行界にはいり，双生児の弟大谷竹次郎と協力して京都各座の座主となった。1902年(明治35)兄弟の名から一字ずつとった松竹合名会社を設立し，着々と事業を広げた。大谷は関東，彼自身は関西を担当し，文楽座の買収，大阪歌舞伎座(かぶきざ)・大阪劇場の建設などを経て関西興行界の実権を握り，今日の松竹*を築いた。

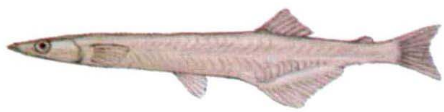
しらいみつたろう【白井光太郎】(1863～1932) 植物病理学者・本草学史家。福井市に生まれる。東京大学植物学科を卒業後，駒場高等農林学校(のち東京大学農学部)の教授となる。日本における植物病理学の開祖であり，サクラのてんぐ巣病の研究などで知られる。また，本草学史の研究では《本草学論攷(ろんこう)》《樹木和名考》がある。

じらいや【児来也】 近世後期の読本・草双紙・歌舞伎(かぶき)に登場する蟇(がま)の妖術(ようじゅつ)を使う怪盗。中国明(みん)代の実話による感和亭鬼武(おにたけ)の読本《自来也説話》を歌舞伎化した《柵自来也談》が著名。さらに美図垣笑顔(みずがきえがお)らが《偐紫田舎源氏*(にせむらさきいなかげんじ)》にならって合巻《児雷也豪傑譚話(ごうけつものがたり)》を刊行，以後歌舞伎・浮世絵に流行した。



地　雷


白糸ノ滝　古い火山泥流の境目から地下水がわき出し，文字どおり白糸をたらしたような美しい滝をつくっている


シラウオ

しらいよしお【白井義男】(1923～　) プロボクシング世界フライ級16代チャンピオン。東京都の生まれ。1943年(昭和18)プロボクサーとしてスタート，1947年カーン博士の指導を受けてから連戦連勝し，1949年全日本フライ級・全日本バンタム級の選手権者となった。1952年世界フライ級タイトルマッチにダド-マリノ(ハワイ)を判定に破り，日本人としてはじめて世界チャンピオンとなった。1954年パスカル-ペレス(アルゼンチン)に敗れた。〔呉　政男〕

しらうお【白魚】 硬骨魚類・シラウオ科。体長10cmほどになり，体は細長く，やや側扁(そくへん)して，しりびれの付近では腹方に張り出す。頭は縦扁し，体の他部に比較して小さい。背びれは体の後部に位置し，その後方にあぶらびれがある。体は透明で，腹面に2列の小黒点が走る。雄ではしりびれの上方に，うろこが1列に並ぶ。内湾性で，2～4月の産卵期には淡水域にはいる。プランクトン食で，寿命はふつう1年。サハリン(樺太(からふと))から九州までと朝鮮に分布する。鮮魚または乾物として美味。サケ・アユなどに近い魚である。なお，よく似たものにハゼ科のシロウオ*がある。〔菅野　徹〕

しらおい【白老(町)】 北海道，胆振(いぶり)支庁の中南部，白老郡にある1郡1町の町で，苫小牧(とまこまい)市の西隣に位置する。古くからアイヌのコタン(村落)があり，1855年(安政2)，道東の警備にあたった仙台藩の本陣が設置され，1872年(明治5)開拓使出張所が置かれた。1954年(昭和29)町制を施行。人口24,000。地名はアイヌ語の〈アブが群生する〉の意にちなむ。太平洋に面する南部の細い海岸低地や白老川・ウヨロ川などの谷底平野があるが，町域の大半は山地で，南西部にカルデラ湖の倶多楽湖(くったらこ)がある。夏季の海霧(ガス)と気温の低下のため，米作や漁業はあまりふるわず，畑作と酪農，競馬ウマの育成などが行なわれる。1960年大昭和製紙の白老工場が設置されて以来，製紙工場の町として発展している。室蘭(むろらん)本線・国道36号線(室蘭国道)が通じ，東部のポロト湖畔にある約130戸770人のアイヌ部落と民族資料館は観光資源として名高く，仙台藩陣屋跡・虎杖浜(こじょうはま)温泉，社台の牧場などの名所史跡に富む。特産は木彫りのクマ。

しらが【白髪】 毛嚢(もうのう)内の色素細胞の活動停止あるいは消滅による毛髪内色素の欠乏，または消失に起因するとされている。また急激に白髪に変ずるのは，毛幹内に空気が侵入するためだといわれる。青壮年の間に頭髪の白変する壮年性白髪(若しらが)，老人の老人性白髪などが普通にみられるものである。先天性白皮症(白子)では，全身の毛髪が先天性に白色またはブロンドとなり，頭部の尋常性白斑(はくはん)では限局性の白髪の発生がみられる。

しらかし【白樫】 双子葉植物・ブナ科。クロガシともいう。暖地の山野に普通の常緑高木で，高さ20mほど。庭木としても用いられる。幹は黒色で若枝は暗かっ色。葉は互生し，薄い革質の披針(ひしん)形で，長さ6～12cm，幅2～3cm，裏面は灰白色である。雌雄同株で，雄花穂は前年の枝の葉腋(ようえき)に，雌花はことしの枝の葉腋につく。果実は広楕円(こうだえん)形のいわゆるドングリで，総包は椀(わん)形で数層の同心円状の輪からなる。➔カシ

しらかば【白樺】 ⇨シラカンバ

しらかば【白樺】 文芸雑誌。1910年(明治43)4月～1923年(大正12)8月。全160冊。同人は武者小路実篤(さねあつ)・志賀直哉(なおや)・木下利玄(としはる)・正親町公和(おうぎまちきみかず)・里見弴(とん)・園池公致(きんゆき)・児島(こじま)喜久雄・田中雨村・日下諗(くさかみのる)・有島武郎(たけお)・有島壬生馬(みぶま)(生馬)・柳宗悦(むねよし)・郡虎彦(こおりとらひこ)・長与善郎・小泉鉄・岸田劉生(りゅうせい)・千家元麿(もとまろ)・倉田百三(ひゃくぞう)らで，主として学習院関係の

華族や新興ブルジョワ階級の恵まれた子弟であった。中心的な存在は武者小路で，その自己肯定の精神に特徴的にみられるように，自己の感情を重んじ，個性の伸長に努め，自然主義の無理想・無解決に対して倫理的であり人道主義傾向が強かったが，反面社会性に乏しく観念的な面もあった。しかし，大正デモクラシーを背景に，市民文学の肯定的な積極面は〈白樺派〉によっていちおうの達成を見せたといえる。また，人道主義的な見地からの社会改良思想によって，武者小路の〈新しき村*〉建設，有島武郎の社会主義への接近などがあった。発表された主要な作品は，実篤《その妹》《幸福者》，直哉《クローディアスの日記》《網走(あばしり)まで》《范(はん)の犯罪》《城(き)の崎にて》，武郎《或(あ)る女のグリンプス》(《或る女》の前編)《宣言》，善郎《盲目の川》《項羽と劉邦(りゅうほう)》，百三《俊寛》など。また，ゴッホやセザンヌら後期印象派の移入・紹介に努め，美術史的にも注目される。〔源　五郎〕

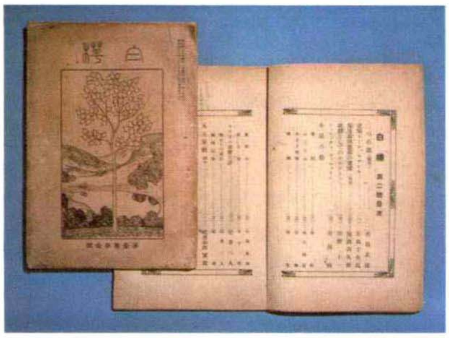
しらかばこ【白樺湖】 長野県諏訪湖(すわこ)北東方にある灌漑用(かんがいよう)の人造湖。周囲6km。蓼科(たてしな)山と霧ヶ峰のすそあい，大門峠近くにある。付近一帯はなだらかな起伏をもった広い高原に，冷温帯の植物相と草原が展開し，キャンプ場やバンガロー村が整備されて，奥蓼科温泉郷からも近いため，夏季は行楽客でにぎわう。小諸(こもろ)・上諏訪から国鉄バスが通じ，茅野(ちの)から蓼科有料道路が通じている。

しらかみさんち【白神山地】 秋田県北部と青森県南部にまたがり，ほぼ東西に広がる山地で出羽山地の北部にあたる。1,000m内外の高度をもち，最高峰は山地北西部の向白神岳(1,243m)である。北側は岩木川の谷，南側は米代(よねしろ)川の谷によって刻まれ，東は十和田湖(とわだこ)や八甲田の山群と接し，西は日本海に臨む。山地は森林におおわれ，秋田県側はスギ，青森県側はブナが多い。

しらがやま【白髪山】 高知県北部，石鎚(いしづち)山系に属する山(1,470m)。県立自然公園。保護林に指定されているヒノキの美林は土佐藩林政のたまものとされ，頂上からは高知平野や太平洋が一望に収められる。

しらかわ【白川】 阿蘇(あそ)山の中央火口丘の噴出によって南北に分かれた火口原のうち，南の南郷谷の水を集めて西に流れ，北の阿蘇谷の黒川を合わせて外輪山を破り，熊本平野を流れて島原湾に注ぐ。流程74km。平時は水量が少ないが，豪雨のたびに氾濫(はんらん)をくり返し，火山灰地からの運搬物が熊本市など下流域にしばしば大きな被害をもたらした。

しらかわ【白河(市)】 福島県中通り南部の市。古代には，勿来関(なこそのせき)と並んで陸奥(みちのく)への関門であった白河関(しらかわのせき)が置かれ，鎌倉時代に結城(ゆうき)氏によって市街の東方の山地に搦目(からめ)城が築かれ，のちに小峰に城を移した。1627年(寛永4)丹羽氏が小峰城にはいって城下町をつくったが，のち松平氏，幕末には阿部(あべ)氏十一万石に変わった。明治維新後は白河地方の行政・文化の中心となり，1949年(昭和24)市制施行，人口43,000。市域は那須岳(なすだけ)に発する白河・黒川の二つの川にはさまれた丘陵地上に位置し，南は栃木県那須郡那須町と接する。産業三大別人口比は15：34：51。旧藩時代の町屋敷は商店街となり，南東端に白河関跡がある。古い歴史をもつ馬市が春秋2回開かれ，ガラス器具製造・パルプ・製材木工などが行なわれる。東北本線・国道4号線に沿い，近くにバラの名所城山公園，享和(きょうわ)年間に藩主松平定信(さだのぶ)が四民共楽のために開設した南湖公園，1969年新設された白河天体観測所などがある。西郊，阿武隈(あぶくま)川上流に沿って甲子(かっし)温泉・新甲子温泉がある。



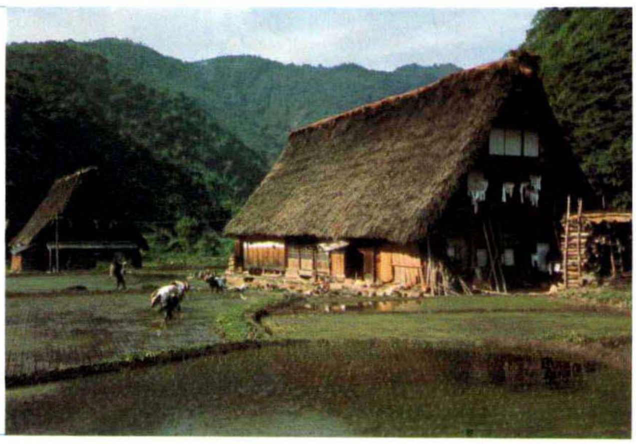
白　樺　創刊号(左)と2号の目次　そうそうたるメンバーが，名を連ねている

しらかわごう【白川郷】 岐阜県北西部，庄(しょう)川上流部の地域。行政上は大野郡荘川(しょうかわ)・白川の両村を含む。両白山地と飛騨(ひだ)山地にはさまれた交通不便な辺境で，耕地が少なく，江戸後期以来養蚕が行なわれたことなどの理由から合掌造り*の大家屋に30～40人が同居する大家族世帯が多いことで知られた。大正末期に平瀬発電所と道路が建設され，第2次世界大戦後は御母衣(みほろ)ダムがつくられて，村人の生活や環境が大きく変わり，かつての特異な習俗もしだいに薄れつつある。国道156号線が通じ，高山線高山駅と越美南線北濃駅からバスの便もあり，また西方に白山国立公園を控えて，近年は観光地化が著しい。〔浅井得一〕

しらかわてんのう【白河天皇】(1053～1129) 後三条天皇の第1皇子。名は貞仁(さだひと)。法名融覚。母は藤原茂子。1072年(延久4)即位。摂関貴族の衰退に乗じて賜姓皇族や受領*(ずりょう)層を近臣にして親政を行ない，1086年(応徳3)幼少の堀河(ほりかわ)天皇に譲位後，院政*を開始した。1096年(永長1)出家し，法皇となっても院政を継続し，前後57年間政治の実権を握った。造寺・造



白樺湖
八子ヶ峰から見た白樺湖の全景。対岸を斜めに登る道路は車山方面へ向かう蓼科有料道路。遠景の平頂な山は美ヶ原



白川郷
田植えに忙しい白川村の農家。合掌切り妻造りの民家は，大家族制の解体と山村の過疎でだんだん少なくなってきた

仏・参詣(さんけい)などを盛んに行なったが,受領層の経済力に依存するところ多く,政治の退廃と仏教勢力の俗化を招いた。また北面武士*の創設は,武士勢力の中央進出に新しい道を開いた。陵墓は京都市伏見区にある成菩提院(ほだいいん)陵。〔高崎徳次〕

しらかわらくおう【白河楽翁】 ⇒松平定信(さだのぶ)

シーラカンス［coelacanth］硬骨魚類・総鰭(そうき)亜綱・空棘(くうきょく)目(シーラカンス目)の総称であるが,むしろその中の唯一の現存種ラチメリア-カルムネをいうことが多い。他の種類は総鰭亜綱を通じてすべてが化石種である。空棘目の化石は石炭紀以後の地層から発見され,空棘目を含む総鰭亜綱の魚類が両生類以上の脊椎(せきつい)動物の祖先型として重視された。化石は約6,000年前の地層を境にして絶え,完全な絶滅種と考えられた。しかし,1938年南アフリカ連邦のイーストロンドンに近いシャルムナ川河口から約5km沖合いの深さ約70mで操業していた漁船が,体長約1.5m,重量約60kgの1尾の見なれない魚を発見し,イーストロンドン博物館に持ち込んだ。これがのちに〈生きている化石〉として有名になった最初の1尾である。博物館長のコトニー-ラチマー女史は,この剥製(はくせい)をローズ大学のスミス教授に鑑定を依頼した。内部諸器官が捨てさられていたが,スミスはこれを総鰭類の魚と見抜き,館長の名にちなんでラチメリア-カルムネと命名した。1952年モザンビーク海峡の北端近くのコモロ諸島のアンジュアン島から発見の報告があり,スミスは飛行機で現地に行ったが,内部諸器官はすでに腐敗しており,研究対象としては不完全な標本であった。これは第1背びれと尾びれの中央部の小びれとを欠くところから新種とみなし,当時の南アフリカ連邦首相のマランにちなみ,マラニア-アンジュアネと命名したが,のちの研究からラチメリア-カルムネの奇形にすぎぬという考え方が有力である。1953年に3尾めの標本がコモロ水域で捕えられ,4尾以後は続々と同水域で捕獲された。

シーラカンス現存種の発見は,20世紀の動物学上最大の発見といわれるが,コモロ諸島原住民の間では古くから知られたもので,コンベッサとよんで不味であるが食べられる魚として扱われ,また皮を紙やすりの代用にしていたことがその後の調査で明らかとなり,コモロ水域にかなり普通に生息していることが確認された。ラチメリア-カルムネは,長楕円(ちょうだえん)形の体に柄のついた対びれ(腹びれと胸びれ)を備え,尾びれは橋尾型,うろこは大形のコスミン鱗(りん)であり,化石のシーラカンス類の体形とほとんど変わっていない。体色はかっ色ないし暗青色で,ところどころうろこがはげたように白色になっていることがある。通常150〜300mの深さの傾斜した岩礁地帯にすみ,肉食性。柄のついた対びれで海底をはいまわり,えさに飛びかかると思われる。内部形態も,心臓が原始的で棒状,腸にらせん弁がある,脊柱は筒状の軟骨の管,腎臓(じんぞう)が腹位,浮き袋は細長く脂が充満しており水圧調節作用はない,ひれのとげは中空の軟骨であるなど,他の魚類とは異なる特徴をもつ。ラチメリア-カルムネの標本数は相当数にのぼり,1967年(昭和42)2月フランス政府から日本に1尾のホルマリンづけ標本が贈られた。〔菅野　徹〕



シラカンバ　長野県上高地

しらかんば【白樺】 双子葉植物・カバノキ科。シラカバともいう。本州の中部以北の高原に自生する落葉高木で,直立して高さ20mに達する。樹皮は純白で横に薄くはげ,指でこすると白色の粉がつく。葉は1〜3cmの柄があり,三角形状の葉身は長さ5〜9cm,幅3.5〜6.5cmで,互生する。側脈は6〜8対ある。4〜5月,枝先に長さ5cmの雄花穂がたれ下がり,葉腋(ようえき)に長さ2cmの雌花穂を上向きにつけるが,果実になるとたれ下がる。樹皮が美しいので,装飾材や細工物に用いられる。

しらぎ【新羅】 古代,朝鮮半島南部に興った国名。斯盧(しろ)ともいう。半島の北半には紀元前から中国の力が及んでいたが,後漢末の内乱でその圧力が減ると,半島にもようやく国家統一の機運が生じ,南東部の辰韓*(しんかん)12国を統一して新羅国が成立した。4世紀初めのことである。法興王(在位514〜540年)のときに,律*・令*(りょう)を制定し,仏教を採用するなど,政治・文化の発達を図り,国運は著しく上昇し,北の高句麗*(こうくり),南の百済*(くだら),日本の勢力と対立し,660年には唐と結んで百済を攻めて,663年これを滅ぼし,668年には高句麗をも打倒し,次いで唐の勢力を駆逐して,ここにはじめて半島の統一を完成した。8世紀には国勢の進展がめざましく,しばしば日本とも対立したが,9世紀にはいるとしだいに政治が乱れ,935年には弓裔(きゅうえい)の反乱を平定した王建に国を奪われた。飛鳥(あすか)・奈良時代のわが国の政治・文化に与えた影響は大きい。〔黛　弘道〕

しらきぬびょう【白絹病】 担子菌によって起こる農作物の病気。ダイズ・タバコ・サツマイモなどの茎の基部が白色絹糸状の菌糸におおわれて腐り,周囲の地面にも菌糸がはびこる。茎葉は黄変・萎凋(いちょう)し,株は生育不良となって,やがて枯死する。土壌(どじょう)伝染病で,被害部に形成されるかっ色の菌核は土中で5〜6年も生存する。発病株と周囲の土壌を除去し,その跡を土壌殺菌剤で消毒する。また,本菌の対抗菌であるトリコデルマ菌製剤を株もとの地面に施すのも有効のようである。〔渡辺　実〕

シラキューズ［Syracuse］アメリカ合衆国,ニューヨーク州中部,エリー運河に臨む工業都市。人口18万5,000(1973)。州第4の都市で,1654年イエズス会の人々によって開拓され,岩塩の大鉱脈の発見によって発展した。ソーダ化学・ろうそく・陶磁器・電気機器・農業機械・製靴(せいか)・自動車部品などの工業が盛んである。また交通の要路にあたり,付近の農産物の集散地でもある。1870年創立のシラキューズ大学がある。〔相村大彬〕

シラクーサ［Siracusa］イタリア南部,シチリア島東岸にある港市。人口11万8,000(1975)。古代ギリシア,コリントの植民都市で,BC734年に起源をもつ。紀元前5世紀にはカルタゴ・アテネに次ぐ大都市となり,シチリア全島を支配したこともあるが,BC212年ローマに攻められ,その後も各国に占領された。現在は漁業が盛んで,塩・セメント・植物油製造などの産業がある。劇場や円形演技場など,ギリシア・ローマ時代の遺跡がある。〔野間三郎〕

しらくも【白雲】 頭部白癬(はくせん)の俗称。白癬菌によって起こる皮膚病の一種。ほとんどが学齢期までの男児に生ずる。被髪頭部に最初指のつめほどの円形の落屑(らくせつ)面を生じ,しだいに拡大する。患部は白い粉を振りかけたように見えるが,よく見ると鱗屑(りんせつ)(ふけのようなもの)が毛髪の基部を鞘状(さやじょう)に包んでいる。毛髪は光沢を失って短く切れ,まだらになってしばしば容易に抜き取られる。顕微鏡で調べると多数の白癬菌が証明される。抗白癬剤が有効であり,皮膚科医の診療を受けることが必要。〔田嶋公子〕

しらこ【白子】 ヒトをはじめ動物の皮膚・毛・目などに色素がない現象を白化または白化現象といい,このような異常な個体を白子という。普通は遺伝的な場合をいい,シロネズミ・シロウサギなどはこれにあたる。ヒトの場合も,程度の重いものでは色素細胞中に色素をまったく欠き,皮膚は乳白色で毛髪も白く,目の瞳孔も血液の色を呈して赤くなる。血族結婚の多い地方に多いことから,劣性遺伝と考えられ,アミノ酸の一種であるチロシンを分解して黒色色素のメラニンを生ずる酵素のチロジナーゼが,遺伝的に欠如したためと考えられる。したがって,チロジナーゼの作用を阻

害するチオ尿素などの薄い溶液の中でオタマジャクシを飼育すると，人工的な白子をつくることもできる。なお，脳下垂体中葉ホルモンや黒色素胞収縮ホルモンの影響などでメラニン粒が凝集して白く見えることもあるが，これは真の意味の白子ではない。〔蒲原春一〕

しらこばと【白子鳩】鳥類・ハト科。普通の飼いバトよりも一回り小さく，頭部・下面は灰紫色，上面は灰かっ色で，後頸(こうけい)に頸環状の黒色帯がある。インドからヨーロッパにかけてと中国北部に分布する。関東平野にも数百羽が生息するが，日本のものは本来自然分布していたものか，古く鷹(たか)狩りの獲物用に移殖されたものか不明。ジュズカケバトに酷似するが別種である。

しらさぎ【白鷺】鳥類・サギ科のうち，全体に羽毛が白色のものの俗称。わが国にはダイサギ・チュウダイサギ・コサギ・カラシサギ・アマサギの5種が生息する。このうちアマサギは，夏羽では頭頸(とうけい)部と背面が飴(あめ)色になるが，一般にシラサギ類として扱われる。

しらさぎじょう【白鷺城】⇨姫路(ひめじ)城

しらじてがた【白地手形】法律に定められた要件の全部または一部が空白となっているが，その空白部分の補充が予定されているので流通する手形*。手形交付の際，代金額がはっきり決まっていないため金額欄を白地のままにし，後日代金額が明確になったとき記入してもらう約束で振り出すのがその例。満期・受取人などが未確定のときにも用いられる。

白地部分が補充されると完全な手形としての効力をもつことになるが，白地のまま流通することもあるので手形と同様に善意取得(手形法16条)や抗弁制限(手形法17条)の保護なども認められる。なお白地部分の補充が，手形交付のときの約束に反し，たとえば金額を80万円と補充する約束であったのに補充者が100万円と補充してしまったような場合でも，この約束違反を知らずに重大な過失がなくこの手形を取得した第三者は，補充されたとおりの金額を請求できる。ただし第三者に悪意または重大な過失があった場合は，発行者は補充された文言どおりの責任を負わなくともよい(手形法10条)。〔松本治雄〕

しらしめゆ【白絞め油】精製する際に，直火で加熱して脱色した植物性の食用油。無色に近く，味も淡泊で，サラダ油*に比べて，脱色・脱臭の度合いは低いが，安価なので，一般にてんぷら油として使う。ダイズ・菜種・ゴマ・米などの白絞め油があり，これらは単独で用いるほか，配合して使うことも多い。


シラコバト


白瀬 矗


シラタマノキ

しらす【白州】

①奉行*所(ぶぎょうしょ)や代官*所に設けられた法廷。庭に白いじゃりが敷かれていたのでこのようによばれた。奉行は座敷の中央にすわり，警戒の突這同心(つくばいどうしん)(→同心)は庭に控えた。被告のうち浪人や特別の町人は板縁の上に，庶民は庭にすわらせられた。民事裁判の場合は，向かって左に原告，右に被告が白州にむしろを敷いてすわった。審問は吟味部屋(べや)で担当与力(→与力)により行なわれていたので，白州での裁判は奉行の人定尋問や判決言い渡しがおもであった。

②能舞台と見所(観客席)の間に玉じゃりを敷きつめた場所をいう。〔高崎徳次〕

シラス 語源は白砂または白州といわれ，鹿児島県・宮崎県など南九州に広く分布する火山砕屑(さいせつ)物からなる堆積(たいせき)物をいう。その構成は表層の火山灰層を除いて，おもに降下軽石と溶結ギョウカイ岩からなり，広義には一括してシラスとよぶが，狭義には前者をシラス，後者を灰石と区別する。桜島を中央火口丘とする始良(あいら)カルデラと，鹿児島湾をつくる阿多(あた)カルデラの形成時に噴出したもので，地質学では前者を新期シラス，後者を古期シラスと区別している。組成はセキエイ・チョウ石・キ石を含む軽石層からなり，一般には無成層で固結しておらず，ひとたび水を含むと弱く，集中豪雨時には雨裂を生じたり，崩壊が多発する。〔桑原正見〕

シラズ［Shiraz］イラン，南部ザグロス山脈中の盆地にある都市。人口37万3,000(1973)。テヘランからイスファハンを経てブシールに至る幹線道路に沿い，砂糖・セメント・化学肥料・織物などの工場がある。また，ここのじゅうたんと羊皮は輸出品として有名。町の歴史は古く，アケメネス朝の古都ペルセポリスの建設に，ここの住民が使役された記録がある。13世紀の詩人サアディ-ハフィズはこの地方で生まれた。

しらすぼし【しらす干し】カタクチイワシの幼魚をそのまま，あるいは蒸したのち乾燥したもの。魚体全部を食べるので，タンパク質以外に無機質も多量に摂取することができ，栄養的によい。おろしあえやてんぷらの種などに用いる。

しらせのぶ【白瀬矗】(1861〜1946) 南極探検家。〈なおし〉ともよぶ。秋田県生まれ。陸軍にはいり，中尉のとき北極探検を志して，郡司成忠*(しげただ)海軍大尉の報効義会に加わり，千島探検(1893)に参加した。その後も千島におもむいたが，ピアリー*の北極点到達(1909)を期に南極探検に転換した。1910年探検隊員28人とともに開南丸で南極に向かい，1912年1月ロス海から日本人としてはじめて南極に上陸し，80°5′S，154°Wの地点に達したが，それより先へは進めず，その付近を大和(やまと)雪原と名づけて引き揚げた。〔野間三郎〕

しらたき【白滝】糸こんにゃくのさらに細いもの。特殊な歯ごたえがあり，牛鳥魚介類のなべものをはじめ，キンピラ煮，黒ごまで黒あえ，卵とじなどいろいろな料理に用いられる。

しらたまこ【白玉粉】寒晒粉(かんざらしこ)ともいう。もと，もち白米を原料として，冬の寒さのきびしい寒中に清潔な流水が得られるところで製造したのでこの名がある。原料米を水に1〜2日浸して吸水させ，石うすで細かく砕いたのち，タンクや槽(そう)に入れて多量の水を加え，細かい金網を通してふるい分ける。水を1日に1〜2回取り替えて攪拌(かくはん)・沈殿をくり返し，最後に沈殿した米の粉を天日または火力で乾燥して粉砕する。デンプン粒が1個または数個ずつつながっていて，粉というよりはデンプンに近い。舌ざわりがなめらかで，米粉製品中で最も美味である。だんご・菓子などの原料となる。〔佐藤友太郎〕

しらたまのき【白玉木】双子葉植物・ツツジ科。高山の乾地にはえる常緑低木で，高さ10〜30cm。葉は長楕円(ちょうだえん)形で厚く，革質で鋸歯(きょし)をもつ。7月ごろ，枝先に白色でつり鐘状の花を数個，総状につ

ける。がく片は最初緑色であるが，結果時には白色になり，直径6mmほどの球状になって果実を包む。果実をつぶすとサロメチール様のかおりがある。

しらなみごにんおとこ【白浪五人男】⇨青砥稿花紅彩画(あおとぞうしはなのにしきえ)

しらぬい【不知火】九州の有明海・八代(やつしろ)海などの海上で，夏季に見られる無数の火。空気の密度が不均一になって，漁火(いさりび)が異常屈折して起こるもので，原理的には陽炎(かげろう)や星のまばたきと同じ現象である。

しらぬいものがたり【白縫譚】柳下亭種員(たねかず)・二世柳亭種彦・柳水亭種清の合作になる合巻。90編。江戸後期から明治時代にまで書き継がれたもので，合巻中の最長編。海賊の子青柳(あおやぎ)春之助が大友宗麟(そうりん)の遺児若菜姫に加担して，菊池家と戦う物語。《椿説弓張月*(ちんせつゆみはりづき)》等を利用し，島原の乱の実話をからませる。

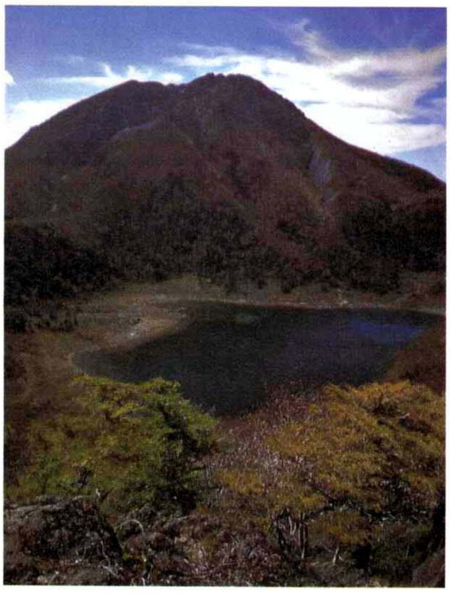
しらぬか【白糠(町)】北海道，釧路(くしろ)支庁の南西部，白糠郡東部にある町。1950年(昭和25)町制施行。人口15,000。町域は森林の多い白糠丘陵*上に南北に長く伸び，南は太平洋に面し，東は釧路市と接する。江戸時代の初めの寛永年間に，東蝦夷(ひがしえぞ)の交易地として白糠場所が置かれたのが，開発のいとぐちとなり，現在の主産業は鉱業と農業・林業で，かつては釧路炭田の庶路炭の産出で知られたが，最近の石炭不況のため閉休坑が多い。茶路川の河谷を中心にジャガイモ・燕麦(えんばく)などの畑作地帯があり，段丘上の酪農経営は今後の発展が期待される。白糠丘陵から産出する素材生産量は年間15万m³に達し，製材・合板用材・バット素材・チップ製造などの林産加工業が盛んである。根室本線・国道383号線(釧路国道)が通ずる。

しらぬかきゅうりょう【白糠丘陵】北海道南東部，十勝(とかち)平野と釧路(くしろ)平野との間に広がる丘陵。北部は阿寒(あかん)火山群に接し，南部は漸次低くなって太平洋に達する。中心部は中生層であるが，周辺部は第三紀層からなり，雄別炭坑がある。大部分は林地であり，海岸部はかつてウマの産地として知られた。

しらねあおい【白根葵】双子葉植物・キンポウゲ科。深山の樹陰などにはえる多年草。根茎は太く，茎は高さ50cmに達する。茎の基部に数枚の鱗片葉(りんぺんよう)をつけ，上部にはふつう幅20cmほどで5〜7深裂した鋸歯(きょし)のある葉を2枚互生する。5〜7月に淡紫色で花弁状の4枚のがくをもつ径5〜8cmの美花を頂生する。本州中部から北海道に分布し，登山者に親しまれている。和名は日光の白根山に多く産するアオイに似た花という意味である。



シラネアオイ



白根山(日光白根) 中央火口丘奥白根と五色沼。奥白根は1872年の爆発で山体を深くえぐられている。五色沼は湖面標高2,174mにも達する高山湖

しらねさん【白根山】日光火山群の最高峰で，日光白根ともいう。戦場ケ原の北西，栃木・群馬の県境にそびえ，標高2,589mは関東地方の最高点である。二重式火山で，奥白根(2,589m)は中央火口丘，東側の前白根(2,377m)は外輪山にあたる。火山活動のため地形は複雑で，奥白根の溶岩は丸沼・大尻沼(おおしりぬま)・菅沼(すがぬま)・五色沼などのせき止め湖をつくっている。山体の北側の鞍部(あんぶ)に金精峠があり，日光と利根(とね)川支流の片品川を結ぶ国道120号線がここを越えている。〔高野 繁〕

しらねさん【白根山】群馬・長野県境にまたがる活火山。標高2,162m。利根(とね)川の支流吾妻(あがつま)川上流にあり，南東のふもとに草津温泉があるので，草津白根ともいう。南側にある本白根山(2,176m)とともに双子(ふたご)火山を形成。主峰白根山の頂上には直径約1kmの噴火口があり，その中に湯釜(ゆかま)・水釜・涸釜(かれかま)の三つの火口湖がある。最大の湯釜は直径300mで黄青色の水をたたえ，硫化水素や水蒸気を噴出している。火口付近は荒涼とした裸地で，まわりの樹林におおわれた山々とは対照的である。草津からはロープウエー，万座温泉からはリフトが通じ，また最近，草津から志賀高原へ抜ける観光道路ができた。〔高野 繁〕

しらねさん【白根山】静岡・山梨・長野の3県境にまたがり，赤石山脈の中心部にある北岳(3,192m)・間ノ岳(あいのたけ)(3,189m)・農鳥岳(3,026m)の3峰の呼称で，白根三山ともいう。赤石山脈中央連峰の北部に位置し，野呂(のろ)川上流の河谷が北と東をくぎり，西は大井川上流の谷に臨む。最北の北岳は非火山性山岳としては，わが国の最高峰である。間ノ岳付近には氷食地形が見られ，北岳の東面には有名な北岳バットレスの壮大な岩壁がある。南アルプス国立公園に属する。〔高野 繁〕

シラノ-ド-ベルジュラック［Savinien Cyrano de Bergerac］(1619〜1655) フランスの小説家・劇作家。その半生は同名の戯曲で有名。作品に喜劇《衒学者(げんがくしゃ)なぶり》，一種のユートピア小説《月世界旅行記》などがあり，ビュルレスク(道化)精神や才気煥発(かんぱつ)な風刺，あるいは伝統的価値観への大胆な批判をその特徴とする。

シラノ-ド-ベルジュラック フランスの劇作家エドモン-ロスタン(1868〜1918)の戯曲(1897)。5幕の韻文喜劇。自然主義一辺倒の当時の演劇界に，その英雄主義・詩的幻想・軽妙洒脱(しゃだつ)によって爆発的人気を得た。主人公シラノは大鼻の持ち主で，剣豪にして詩文の愛好者，恋がたきのために恋文を代筆し，婚約までさせてやる無類の好漢。しかしある日，瀕死(ひんし)の重傷を負い，長年秘めた慕情を意中の人にようや



白根山(草津白根) 山頂の火口湖の所々から，イオウを含む噴煙があがり，付近一帯の山はだは荒れ，土砂の侵食が激しい

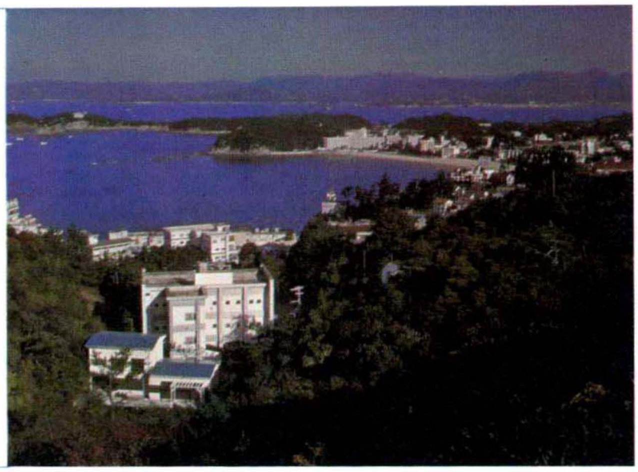
く打ち明けて死ぬ。〔山口佳巳〕

しらはがれびょう【白葉枯れ病】分蘖(ぶんけつ)最盛期から出穂期ごろに起こるイネの病気。台風・雷雨で浸冠水すると激発する。葉縁に黄色,波状の病斑(びょうはん)を生じ,のちに汚白色となって葉がかさかさに枯れる。また，葉が蒼白(そうはく)色のまま巻いて萎凋(いちょう)枯死することもある。激発すると下葉から止葉までの全葉が枯死し，水田が白色化する。従来は関東以西の西南暖地に多かったが，近年は北陸・東北地方にも大発生する。多年性イネ科雑草のサヤヌカグサにも発病し，病原細菌はこの雑草の地下茎や，被害イネわら・刈り株・種もみなどで越冬する。イネの旭(あさひ)系統・十石・金南風(きんまぜ)品種は最も感受性敏感で，アサカゼ・農林27号・農林35号は抵抗性がある。防除法は窒素肥料の過用を避け，耐病性品種を栽培し，サヤヌカグサなどの雑草を除去する。薬剤はシラハゲン・セロサイジン・フェナジン・デランなどが有効である。〔渡辺　実〕

しらはま【白浜(町)】千葉県の房総半島南端にあり，安房(あわ)郡に属する町。人口7,700。日本最古の燈台をもつ野島崎がある。気候は温暖で冬も霜を見ず，海岸段丘上では草花や野菜の早期栽培が行なわれ，また海女(あま)によるアワビ・サザエ・イセエビ・テングサの漁獲が多い。海岸は南房総国定公園の一中心。房総西線の館山(たてやま)および千倉からバスが通じている。

しらはま【白浜(町)】和歌山県南西部，西牟婁(にしむろ)郡の町。人口20,000 田辺(たなべ)市の南に位置し，太平洋に面する。1955年(昭和30)旧白浜町と付近4町村が合併して発足した。中心街である白浜温泉*はわが国有数の泉都で，海岸の風景にもすぐれ，観光客が多い。付近では真珠養殖も行なっている。阪神(はんしん)方面と紀勢西線(現在の紀勢本線)が開通して以来，南紀の温泉町として急激に発展した。

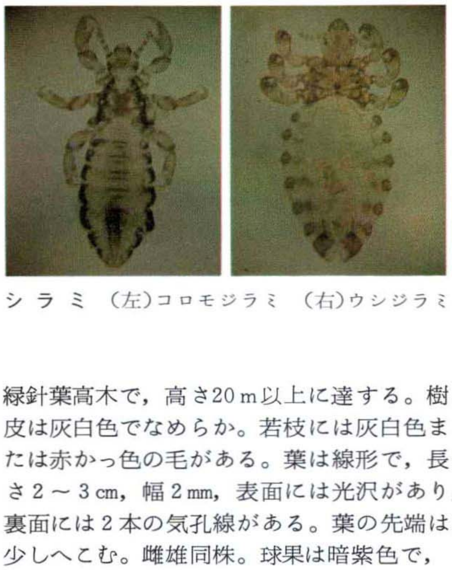
しらはまおんせん【白浜温泉】和歌山県白浜町*にあり，ふつう田辺(たなべ)湾沿岸の白浜・湯崎・椿(つばき)などの温泉を合わせていう。阪神(はんしん)地方の観光・湯治客でにぎわい，関西の熱海(あたみ)といわれる。白浜半島のオウテッ鉱を含む第三紀層の裂線から湧出(ゆうしゅつ)し，泉温42〜90℃，泉質は食塩含有炭酸泉で，胃腸病・神経痛にきくという。白浜は1919年(大正8)の開発だが，湯崎は《日本書紀》に〈牟婁(むろ)湯〉として記載されているほど古い。海岸の風景が美しく，円月島・香所山・千畳敷・三段壁などの景勝地があり，地質や生物の天然記念物や臨海実験所・水族館・熱帯植物園など見るものも多い。紀勢本線白浜駅からバスの便があり，阪神地方と日本国内航空・南海汽船航路で結ばれている。〔木村東一郎〕



白浜温泉
紺碧の海に白亜のホテル・旅館がはえる湯崎の海岸。遠景は田辺湾と紀伊山地の山々。背後の平草原付近からの眺望



シラビソ



シラミ　(左)コロモジラミ　(右)ウシジラミ

しらびそ【白檜曾】裸子植物・マツ科。シラベともいう。本州亜高山帯にはえる常緑針葉高木で，高さ20m以上に達する。樹皮は灰白色でなめらか。若枝には灰白色または赤かっ色の毛がある。葉は線形で，長さ2〜3cm，幅2mm，表面には光沢があり，裏面には2本の気孔線がある。葉の先端は少しへこむ。雌雄同株。球果は暗紫色で，長さ5〜7cm，直径2.5〜3cm。材は，建材・パルプ材などにされる。本種によく似たものにオオシラビソ(アオモリトドマツ)があり，青森県から福井県にかけて産する。

しらびょうし【白拍子】日本中世の女性芸能人および歌舞の名。前者は，平安末期から室町初期にかけて今様*を歌い舞うのを職業とした遊女といわれている。ときとして朗詠*も歌った。その起源について定説はないが，平安末期に現われた男みこに由来し，呪師(じゅし)や巫女(みこ)と共通の要素をもった存在とする説が注目される。歌舞の種類としての白拍子(素拍子)は今様に由来する歌曲の一形態で，寺院で法会などの余興に行なわれた芸能大会である延年の一部として行なわれ，能楽の先行芸能の一つとされる。〔山口　修〕

しらふたかゆおんせん【白布高湯温泉】山形県米沢(よねざわ)市にある温泉。泉温57〜62℃。泉質は含石膏(せっこう)硫化水素泉で，神経病・婦人病・リューマチなどにきくといわれる。西吾妻(にしあづま)山のふもとの大樽(おおたる)川に沿う素朴(そぼく)な温泉で，吾妻山登山，磐梯(ばんだい)高原などへの観光客でにぎわう。交通は奥羽本線米沢駅からバスの便がある。

しらべ【白檜】⇨シラビソ

しらほねおんせん【白骨温泉】長野県南安曇(みなみあずみ)郡安曇村にある温泉。泉温32〜49℃。泉質は炭酸泉・硫化水素泉で胃腸病・貧血症などにきくといわれる。乗鞍岳(のりくらだけ)中腹，標高1,450mの湯川渓谷(けいこく)にあり，天然記念物の噴湯丘がある。中里介山*の小説《大菩薩峠(だいぼさつとうげ)》では机龍之助(りゅうのすけ)が眼病をなおす場所として描かれ，近くに記念碑がある。交通は松本電鉄新島々駅からバスの便がある。

しらみ【蝨・虱】こん虫類・シラミ目の総称。人畜に外部寄生する吸血性こん虫で，各種の伝染病などをも媒介し，衛生こん虫として重要な群である。全世界には約280種，日本には約40種が分布する。いずれも小形で，体長は0.5〜6.0mm。体は扁平(へんぺい)で，色彩は全体淡黄色ないし濃かっ色の種類が多く，体表面には大小種々の剛毛がはえている。頭・胸・腹部はそれぞれ明瞭(めいりょう)に区別できるが，翅(はね)はなく，発達した3対の脚がある。頭部は小さく，やや円錐(えんすい)形で，口器は鋭い吸収口で，前方に突出し，口吻(こうふん)状。またその下面の両側と中央に小さい歯状突起があり，吸血時に寄主の皮膚に固着する。複眼は大半の種では退化し，単眼も欠く。卵は寄主の毛や着衣の繊維などに1個ずつ産み付ける。シラミ類の変態は，やや特殊な不完全変態で半変態とよばれ，卵から孵化(ふか)し

た幼虫は，成虫と同様盛んに吸血して，3～4齢を経て成虫となる。成虫の寿命は30～50日で，この間雌雄ともに盛んに吸血し，交尾を行ない産卵する。シラミ類は一生吸血性で，卵・幼虫・成虫の全世代を寄主の体上で送る。また，寄主選択性がきわめて強く，特定の寄主以外に寄生することはない。シラミ目は，次の6科に分類されている。①カイジュウジラミ科：目を欠き，体表には扁平あるいはうろこ状のとげがある。鰭脚(ひれあし)亜類に寄生し，アザラシジラミが代表種。②ケモノジラミ科：大形で，体のキチン化が強く，色素も強い。広範囲の主として大形・中形動物に寄生する。ウシジラミ・ブタジラミ・スイギュウジラミ・イノシシジラミなどが代表種。③ケモノヒメジラミ科：小形で目を欠くものが多く，一般に小形の動物に寄生する。リスジラミ・アカネズミジラミ・サルジラミ・ウサギジラミなどが代表種。④ケモノホソジラミ科：体のキチン化が弱く，大形・中形の動物に寄生する。ウシホソジラミ・イヌジラミなどが代表種。⑤ヤワケモノハジラミ科：腹部の大半が，非常に柔らかい膜様質で，アフリカ産の食虫類に寄生する。⑥ヒトジラミ科：触角は5節で，その基部下方に1対の目がある。人体に寄生するヒトジラミとケジラミが含まれる。ヒトジラミは，従来アタマジラミとコロモジラミの2亜種(生態亜種)に分けられてきた。アタマジラミは，雄が2mm，雌が3mmほどで，体に暗色の斑紋(はんもん)があり，腹部の環節は明瞭に分かれ，頭髪に寄生する。コロモジラミは，雄が3mm，雌が3.5mmほどで，淡黄色ないし白色で，腹部の環節も不明瞭で着衣に生活する。ヒトジラミは，文化水準の低い民族に多く見いだされる。また，刑務所・軍隊・学校などの集団生活の場に発生しやすく，発疹(はっしん)チフス・回帰熱などの病原菌を媒介する。ケジラミは，雄は1.5mm，雌は2mmほどで，頭部は短くほぼ長方形，胸腹部は強く丸みをおび，中脚と後脚が特に発達して先端に強大なつめがある。おもに陰毛の間に生活し，まれにわき毛・ひげ・まゆ毛などにも寄生し，主として性行為によって人から人に伝播(でんぱ)される。〔鈴木邦雄〕

しらみね【白峰(村)】 石川県石川郡の村。県南端部にあり村域は福井・岐阜両県に接する。人口1,400。白山西麓(せいろく)の手取川上流域にあり林業を営む山村*であるが，夏には部落から離れて山間の平坦地(へいたんち)に仮小屋を建て，畑耕作を行なう出作りが有名であった。しかし現在はまったくすたれ，そのおもかげは朽ち果てた出作り小屋だけに残っている。積雪5m以上になる深雪地域で人口の流出が著しく，1965年には2,600あった人口が，その後の10年間に1,000以上減っている。

しらみねさん【白峰山】 香川県の坂出(さかいで)市東部にある標高337mの小丘陵。高松・坂出両市間に広がる国府台の西端に位置する。保元(ほうげん)の乱に敗れここに没した崇徳(すとく)上皇の陵墓白峰御陵と，四国八十八か所の第八十一番札所白峰寺がある。付近に青峰(450m)・黒峰(342m)・紅ノ峰(247m)・黄峰(160m)の4峰があり，これらを合わせて五色台とよぶ。五色台スカイラインの有料道路が開通している。



シラン

しらみばえ【虱蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・シラミバエ科のハエの総称。微小ないし小形で，体は長楕円(ちょうだえん)形で扁平(へんぺい)，有毛，翅(はね)はあるものとないものがある。鳥類や哺乳(ほにゅう)類などに外部寄生して吸血する。全世界から約400種が知られ，日本からは数種が発見されている。ウマシラミバエが日本に産する最も代表的な種類で，体長6～8mm，黄色で暗かっ色の斑紋(はんもん)がある。翅はよく発達し，黄色をおび透明。ウマの放牧地帯で発見され，ヨーロッパやアフリカなどにも広く分布し，ウマのほかウシ・イヌ・ウサギなどを吸血する。本科によく似た群にコウモリ類に寄生するクモバエ科とコウモリバエ科があり，いずれも吸血性で外部寄生する。

しらやなぎしゅうこ【白柳秀湖】 (1884～1950) 小説家・歴史家・評論家。本名武司(たけし)。静岡県の生まれ。早稲田(わせだ)大学哲学科卒業。在学中から社会主義文学者として活躍，中里介山*らと《火鞭(かべん)》を創刊し，社会・文芸評論を執筆，小説《駅夫日記》などがある。のち民間史学者として多くの史書を発表，また《常夏(とこなつ)の国》《坂本龍馬(りょうま)》など大衆文学も書いた。

しらやまひめじんじゃ【白山比咩神社】 石川県石川郡鶴来(つるぎ)町にある。全国の白山社の総本社。祭神は菊理媛神(くくりひめのかみ)・伊邪那岐神(いざなぎのかみ)・伊邪那美神(いざなみのかみ)。白山*山頂にある奥院は718年(養老2)に泰澄*(たいちょう)によって開かれたと伝えられ，平安時代以来神仏習合による山岳信仰を発展させて，中世には修験道(しゅげんどう)の霊場として社寺40余，衆徒3,000を擁する勢力を誇った。社宝の吉光銘の剣は国宝に指定されている。例祭は5月6日で，梅枝を献ずる古式が行なわれる。〔佐野文哉〕

しらゆきひめ【白雪姫】 ドイツのヘッセン州に伝わる民話。グリム兄弟*が童話集に加えてからドイツの代表的な童話の一つとなった。雪のように白く美しい姫が，継母に殺されそうになって森の7人の小人のもとにのがれるが，女王の悪巧みで殺される。ガラスの棺に入れられた姫に魅せられた王子が，それをかつがせて帰る途中，口から毒を吐き出して姫は生き返り，めでたく王子と結婚するという物語。

ジラルドン [François Girardon] (1628～1715) フランス，17世紀古典派の彫刻家。ローマに学び，帰国後ルブランの監督の下にベルサイユ宮殿その他の装飾に従事した。代表作はベルサイユ宮の《プロセルピナの略奪》など。

しらん【紫蘭】 単子葉植物・ラン科。ベニランともいわれ，中国・日本・北アメリカの湿原または崖(がけ)の上などに自生する。庭に植えられ，また切り花用とされる。葉は5～6枚つき，草たけは50cmくらいになる。5～6月に長さ40～70cmの花茎を伸ばし，3～7花をつける。花は紅紫色，まれに白色で，直径3～4cm。地下部の球茎は白芒(びゃくきゅう)といい，漢方では収斂(しゅうれん)性止血薬・排膿(はいのう)薬とされる。

シランペー [Frans Eemil Sillanpää] (1888～1964) フィンランドの小説家。はじめ自然科学を学んだがのち文学に転じ，処女作《生活と太陽》，フィンランド独立期の内乱に取材した《聖貧》などで認められた。心理描写にすぐれ，代表作《若くして眠る》では，フィンランドの美しい自然の中にはかない生涯(しょうがい)を送る農家の少女を牧歌的に描き，少女の心理が写実主義と象徴的手法のうちに鮮明に表現されている。他に《人間の美と悲惨》など。1939年ノーベル文学賞を受賞。〔鈴木徹郎〕

シリア(砂漠) [Syria] アラビア砂漠(さばく)の北部一帯をさし，明確な境界はないが，面積はアラビア砂漠のほぼ4分の1の32万km²とされている。シリア・イラク・ヨルダン・サウジアラビアの各国にまたがり，南西部が高く，東へゆるやかに傾斜している。大部分がレキ砂漠であるが，シルハンとよばれるワジ*が発達し，北部から東部にかけて流れるユーフラテス川の流域は古代のメソポタミア文明の中心地であり，パルミラ・ハトラ・ニネベなどの遺跡がある。イラクのキルクークからイスラエルのハイファ，レバノンのトリポリへ，またペルシア湾のバーレンからレバノンのシドン(サイダ)へと油送管がこの砂漠中央を横断している。〔大石堪山〕

シリアアラブ(共和国) [Syrian Arab Republic] 西アジア，地中海に面するアラブ人の共和国。西は地中海とレバノン・イスラエル，南はヨルダン，東はイラク，北はトルコに接する。面積18万5,000km²。人口833万(1979年推)。首都ダマスカス。

【自然・住民】 国土は，多くの谷できざまれた西部の山地と，ユーフラテス川上流が

貫流する東部の広大な台地に分かれ，東南部にはシリア砂漠*(さばく)がある。西部は年降水量500～1,500mmの雨に恵まれる地中海性気候であるが，東部は乾燥し，ステップまたは砂漠である。国土の3分の2が農地と遊牧地で，3分の1が砂漠であるが，ユーフラテス川からの灌漑(かんがい)などによる農地の確保に政府が努力している。住民の大部分は，セム系のセラム族であるが回教の勃興(ぼっこう)により7世紀以後はアラブ文化に同化し広義にはアラビア人に含まれる。ほかに非アラブ少数民族のクルド・アルメニア・ドルーズ人などがいる。国語はアラビア語，通貨はシリア-ポンド(55.2円)。

〔産業・経済〕主産業は農業で西部山地の谷間やオアシスに発達しており，国民所得の38％を占めている。穀類はレバノン・ヨルダンに輸出しており，西アジア唯一の穀物輸出国になっている。綿花は良質で，1962年には全輸出額の62％を占めた。鉱産はクロムが少量産出する。石油は1956年に油田が発見されたが，いまだ開発が遅れている。またイラク・サウジアラビアおよびクウェートなどペルシア湾沿岸で産する石油を，地中海岸に送るパイプラインが通過しており，その利権料は収入源として重要な役割をもつ(1965年通過量6,300万t)。重工業はないが，綿紡織・セメント・ガラス・食用油などの軽工業があり，なかでも織物工業は古くから盛んである。

〔歴史・政治〕長い間トルコの植民地であったが，第1次世界大戦後はフランスの委任統治領となった。フランスとの条約で独立が約束されたが，批准直前に第2次世界大戦となり，フランスがドイツに降服したため，イギリス軍と自由フランス軍が進駐し，1946年にようやく独立した。その後1958年当時のエジプトと合邦してアラブ連合共和国を構成したが，1961年に離脱した。その間国内では政争が続き，1963年の軍部によるクーデターでバース党が政権を握ったが，1966年のクーデターにより民族派の軍人の政権に代わり，アラブ連合(エジプト)との国交も再開した。1964年の暫定憲法によると，国民革命委員会が最高機関として立法権をもち，行政機関としては大統領会議が首相・閣員を任免することになっている。なお近年，アラブ連合・リビアとの三国間でアラブ共和国連邦の結成が進められている。〔小栗　宏〕

シリアおうこく　**【シリア王国】**　⇒セレコウス朝

しりあげむし　**【挙尾虫】**　こん虫類・長翅(ちょうし)目・シリアゲムシ科の一種またはシリアゲムシ科の総称。シリアゲムシは単にシリアゲともいい，体長14～17mm，前翅長13～20mm。体は細長く，黒色で光沢がある。翅(はね)は幅広く，末端は丸みをおび，黒色の不規則な横帯があるが個体によってかなり変化する。本州・四国・九州に分布し，成虫は4～5月と7～8月の2回出現し，山麓(さんろく)部に普通に見られる。シリアゲムシ科は全世界には約300種，日本には約20種類が分布する。いずれも体は細長く，頭の前部がくちばし状に伸長し，むち状の細長い触角とよく発達した細長い2対の翅をもつ。脚は細長い。雄の腹部末端数節が著しく特殊化し，球茎状の大きな外部生殖器となる。飛翔(ひしょう)はゆるやかで，小雨中や夕方に多くの個体が活動する。他のこん虫や小動物の死体を食物とするが，植物質も食べることがある。地表の割れめの中に産卵し，卵は約1週間で孵化(ふか)する。幼虫は地中で生活し，小動物の死体やその他の有機物を食べる。大半の種は年1回の発生で，少数の種が2回発生する。プライアシリアゲ・オオハサミシリアゲ・マルバネシリアゲ・ツマグロシリアゲなどが日本に産する代表種である。シリアゲムシ科の属する長翅目は，小さな群であるが歴史は古く，古生代の二畳期にはすでに出現している。完全変態を行なうこん虫のうちでは脈翅目(ウスバカゲロウ・ヘビトンボなどの類)に最も近く，多くの原始的な特徴をもつ。全体で5科400種ほどが知られているが，日本にはシリアゲムシ科のほかガガンボモドキ科に属するものが5種類ほど知られている。〔鈴木邦雄〕



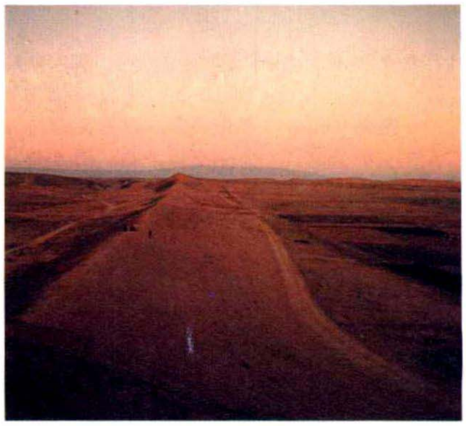
300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田



シリアの国旗　アラブ共和国連邦結成時の連邦統一旗にかわり，1980年より，かつて制定された赤・白・黒の横三色旗が使用されている



シリア　首都ダマスカスの都心部。中央のビルは外国商社の建物。背景には緑の少ない白茶けたアラブ特有の町並みが広がっている



シリア砂漠へ続く波状にうねる果てしない平原は，一面にかっ色の世界である。ところどころに開かれたわずかな耕地に人影が動く

シリウス　［Sirius］　おおいぬ座のα星。中国名を天狼(てんろう)星，日本名をあおぼしという。冬の南天に青白い光芒(こうぼう)を放ち，実視等級－1.5等，全天で最も明るく見える恒星である。距離は8.7光年，日本で肉眼で見える恒星の中では最も近い。A型主系列星が8.7等の白色矮星*(わいせい)を伴った実視連星である。

しりお　**【尻尾】**　尾ともいい，動物の頭と反対の方向にあってからだが延びた部分。構造は比較的簡単で，細長くなっていることが多い。脊椎(せきつい)動物の尾は髄枝という脊髄のできるところが伸びたもので，肛門(こうもん)は尾の基部に開き，胴との区別がはっきりしている。しかし，魚類の尾では胴との間にはっきりした境がないことがある。無脊椎動物では胴との間に境が見られないものが多く，消化管が尾の中を通り，肛門は尾の末端に開口している。鳥類で尾のように見えるのは尾骶骨(びていこつ)の上にはえた長い羽で，真の意味の尾ではない。カエルの仲間は無尾類とよばれるように尾はないが，オタマジャクシ時代には魚のような尾がある。尾は運動性の発達した動物に見られる器官で，からだの平衡をとったり，樹上生活する動物では手のような役割を果たすものもあって積極的に運動器官として使われることがある。〔蒲原春一〕

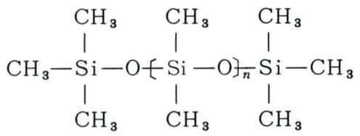
シリカ ⇨二酸化ケイ素

シリカゲル [silica gel] $SiO_2 \cdot nH_2O$ の組成をもつ非結晶性固体状態のケイ酸*のこと。天然品・合成品の両方がある。多くは透明ないし半透明ガラス状の砂粒である。ケイ酸ナトリウムの水溶液を酸で中和し，沈殿物を分離し水洗・乾燥すると得られる。活性の強いものは，種々の物質を吸着しやすいので，脱水剤・乾燥剤・吸着剤などとして用いられる。なおコバルトイオンを吸着したシリカゲルは，無水のときは青く(青ゲルともいう)吸湿すると淡紅色～赤色になるので，使用上便利である。なお，吸湿したシリカゲルを熱すると水分子がとれ，再び青色を呈して吸湿能力を回復する。〔石戸良治・荒木洋之助〕

じりききゅうさい [自力救済] 国家権力によらず，自己の実力を行使して権利内容の実現を図ることをいう。たとえば，どろぼうを追跡して金品を奪い返すことなどがその例である。自力救済は古代社会では認められていたが，国家権力が確立し，警察・裁判制度が完備された現在では，社会の秩序を乱すものとして禁止されている。したがって，原則的には自力救済は不法行為であって行為者は損害賠償責任を負い，盗品を奪い返されたどろぼうにも占有訴権*が認められることになる。しかし，司法手続きを待っていては権利が実現されない緊急な事情のある場合，たとえば正当防衛*・緊急避難*などには，例外的に自力救済が認められるべきである。どのような場合が自力救済として認められるかは公序良俗*の観点からも勘考されねばならないが，通常必要最小限度内の自力救済行為は，違法性を欠くものと解されている。〔黒木三郎〕

シリコン ⇨ケイ素 ⇨半導体

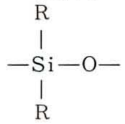
シリコーンオイル [silicone oil] オルガノ-シロキサン結合が直線状に長くつながった形の，比較的低重合度の高分子*化合物。



化学式は上のように表わされ，ジメチルジクロルシラン$(CH_3)_2SiCl_2$とトリメチルクロルシラン$(CH_3)_3SiCl$との混合物の加水分解でつくられる。一定の粘性を示す温度範囲が広く，耐熱性・耐水性・電気絶縁性にすぐれ，また，揮発性の極端に小さい油状物質である。低温や高温での潤滑剤として，また変圧器用油，離型剤，織物の防水剤として用いられる。さらに，金属せっけんを混和したものはシリコーングリースとよび，やはり温度特性にすぐれているので高真空用グリース，航空機の点火栓(てんかせん)用グリースに用いられる。➔シリコーン樹脂〔伊藤 卓〕

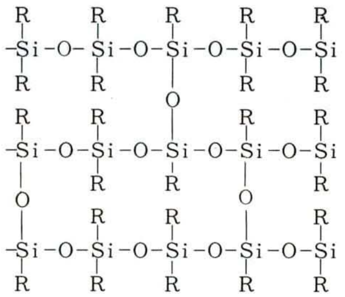
シリコーンゴム ⇨ケイ素ゴム

シリコーンじゅし [シリコーン樹脂] 合成樹脂の一。シリコン siliconがケイ素原子の英語名であるのに対して，シリコーンsiliconeはオルガノ-シロキサン結合(Rはアルキル基)からなりたつ高分子化合物を総称する名である。オルガノ-シロキサン結合の配列のしかたでさまざまな性状をもったものができる。ただ線状に長くつながったのがシリコーンオイル*，その分子鎖間をアルキル結合どうしの結合で架橋し網状高分子*としたのがシリコーンゴム，そして三次元網目状に配列したのがシリコーン樹脂である。



オルガノ-シロキサン結合

シリコーン樹脂はジアルキルジクロルシランR_2SiCl_2とアルキルトリクロルシラン$RSiCl_3$との混合物を加水分解すると生成する。Rの種類，R/Siの比の



値によって性質は変わるが，一般に，耐熱性・電気絶縁性が高いことと水をはじく性質(撥水性(はっすいせい))が大きいのがおもな特徴である。耐熱性はRがメチル基CH_3のとき最大で，空気中200℃で1年以上の連続加熱に耐え，窒素ガスのもとでは400～500℃に加熱しても変化しない。これらの性質を利用して電気絶縁用ワニス・耐熱性塗料*・接着剤などに用いられる。通常使用時以前の三次元網状化による不溶化を防ぐために，初期縮合物を有機溶剤にとかした形で市販されている(この状態のものを特にシリコーンワニスという)。シリコーンの撥水性は—Si—O—骨格の外側についたアルキル基の効果によるためで，雨具などの防水加工に利用する。➔プラスチック〔伊藤 卓〕

じりつ [自律] 17世紀以来政治上の自治(権)を意味しているが，これを倫理の中心にすえたのはカント*である。彼は，自己愛や神の意志などの他律の原理を，道徳性を不純にする源泉であるとして退けた。実践理性の自律は，意志が自愛の原理から独立し(消極的自由)，自分自身に法則を与えてこの法則に自発的に従う(積極的自由)という原則である。このような意志は英知的存在者にのみ可能であり，この法則は英知界の法則である。しかし，ここに証明された意志の自由は善への自由であり，悪への自由は解決されていない。カントは反省的判断力にも自律を認めた。〔中川 誠〕

しりつがっこう [私立学校] 学校法人が学校教育法の規定にしたがって設置した学校。私立学校法によれば，私人または私的団体が学校を設置する場合，学校設置基準で定めてある以上の施設・設備またはこれを整えるのに十分な資金，さらに学校経営に要する財産とこれらの財産があり，学校の経営管理にあたる理事会(理事5人以上，監事2人以上から構成される)がなければならないとされている。このようにして設立された学校法人および私立学校の監督は，大学(短期大学を含む)・高等専門学校にあっては文部省，高等学校以下の学校にあっては都道府県知事が行なう。なお，学校教育全体の中で私立学校の占める率は表のように1970年現在義務教育機関以外でかなり高い。〔山崎昌甫〕

じりつご・ふぞくご [自立語・付属語] 単語を，文節を構成する際の違いから類別したもの。単独で文節をつくることのできる単語を自立語とよび，つねに自立語に付属して文節をつくる単語を付属語とよぶ。一般には，助動詞・助詞が付属語に属し，その他の名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞が自立語に属する。〈バラの／花が／咲いたので，／この／庭も／明るく／なった。／〉において，—線の語が自立語，═線の部分が付属語である。(／は文節の切れ目を示す)。このように，一つ一つの文節は，①自立語だけでできている，②一つの自立語に一つまたは二つ以上の付属語がついてできている，のいずれかである。〔市川 孝〕

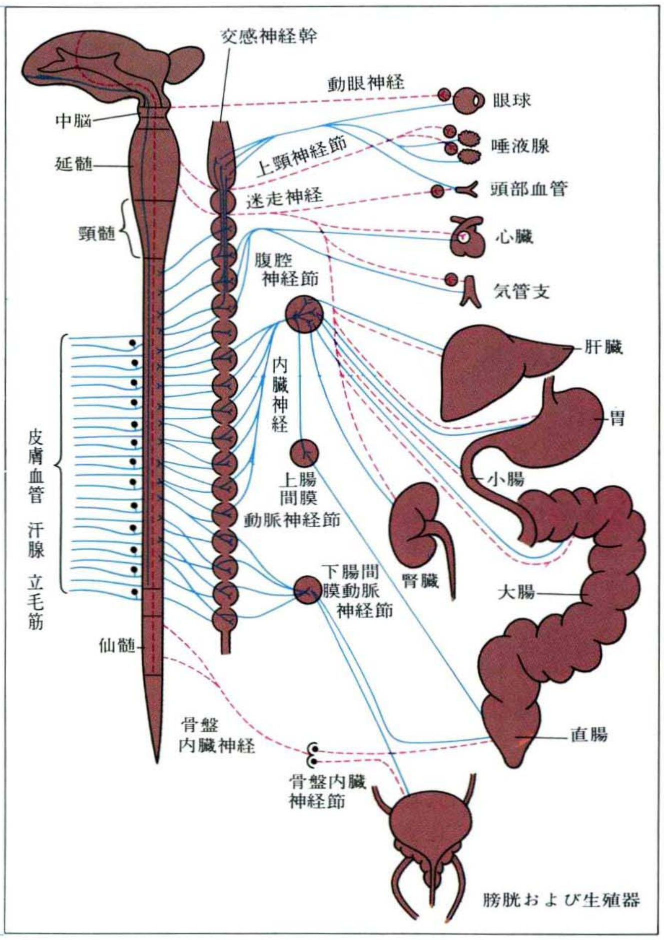
じりつしんけいけい [自律神経系] 呼吸・循環・消化吸収・生殖などの生命維持に不可欠な働きをする内臓・血管・腺(せん)に分布し，その機能を反射的・無意識的に調節している神経系。これは植物的機能を営む不随意器官を支配しているところから植物神経または生活神経ともよばれ，知覚や随意運動をつかさどる脳脊髄(のうせきずい)神経(➔脳脊髄神経系)を，動物神経または体性神経とよび両者を区別する。これは体性神経に比べて大脳の支配から独立して働くことからつけられた名称で，実際に意識が絶たれる睡眠中にもその機能は保たれる。しかし興奮・悲しみのような感情の変化に伴って食欲は減退し，心臓の搏動数が変わることからもわかるように大脳と関係が

私立学校による学校教育

学校種別	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	短大	大学	各種学校
私立学校	64%	0.7%	5%	25%	85%	69%	96%
私立学校在学者数	74%	0.6%	2.8%	17%	90%	72%	98%

ある。自律神経は拮抗(きっこう)する二つの神経，すなわち交感神経*と副交感神経に分けられる。身体の大部分の器官はこれらの相対立する神経により二重に支配を受けている。たとえば交感神経の興奮によって心臓の搏動数は増し，消化管の運動(蠕動(ぜんどう))は抑制され，瞳孔は散大する。他方副交感神経の興奮によって心臓の運動は抑制され，消化管の蠕動は活発になり，瞳孔は縮小する。これら両系統の神経のバランスがとれてはじめて器官は正常に働く。自律神経は脳脊髄神経と異なり，中枢より末梢(まっしょう)の器官に達するまでに必ず神経単位*を交替する。交替は神経節*でなされ，中枢から神経節までの繊維を節前繊維とよび，神経節から末梢の器官までのそれを節後繊維とよぶ。交感神経の節前繊維は脊髄の頸髄下部から腰髄上部にかけて見られる側柱の細胞から起こり，前根を通って脊髄を出る。その後脊柱の両側にある幹神経節あるいは，より末梢にある叢(そう)神経節に達し，そこの細胞にシナプス*して神経単位を交替する。幹神経節は互いに上下左右連鎖状につながっており，全体をまとめて交感神経幹という。それらの神経節の細胞から起こった節後繊維は動脈に沿って末梢に達し血管・汗腺・立毛筋などに分布したり，神経叢をつくって内臓に分布する。副交感神経の節前繊維は動眼神経・顔面神経・舌咽(ぜついん)神経・迷走神経の脳神経および仙骨(せんこつ)神経に含まれ，おのおのの脳神経の起始核や脊髄の仙髄の灰白質の細胞から出る。副交感神経の場合，神経節は器官の近くにあることが多い。これら自律神経は中脳以下の第1次の中枢のみでなく，視床(→脳)下部や大脳皮質，特に辺縁系などのより高位の中枢により調節されている。〔岩崎　稠〕

自律神経系



じりつしんけいしっちょうしょう　【自律神経失調症】　自律神経(→自律神経系)の調節異常によって起こる症状。全身倦怠感(けんたいかん)・体重減少・頭痛・めまい・肩こり・動悸(どうき)・息苦しさ・食欲不振・腹部膨満感・腹痛・悪心(おしん)・便秘および下痢などの自覚症状を呈するが，特別の器質的障害が見いだされないのが特徴的である。この名称は元来ドイツ医学から由来したもので，ドイツ・日本では疾患名として扱われることが多いが，アメリカの内科書では記載を欠く場合が多い。病態生理の面からみると，生体に加わったストレス*が自律神経機能に影響を及ぼし，同時に情動・本能的欲求・精神活動に影響を与えると考えられる。したがって，身体的・心理的負担は，自律神経機能の調和を乱し，種々の器官に機能失調の症状をひき起こすと推定される。診断としては，自律神経機能検査法や心理テストが用いられ，治療としてはトランキライザー*を主とする薬物療法や心理療法で奏効する。〔丸山　晋〕

じりつしんけいしゃだんやく　【自律神経遮断薬】　自律神経系*すなわち自律神経節(自律神経の途中にある神経節*)およびそれに続く交感神経*・副交感神経*の節後繊維と各器官との接合部にある末梢(まっしょう)の受容体の働きを抑制する薬剤。エルゴトキシン・ダイベナミン・アトロピン・バンサイン・ニコチン・クラーレ・アセチルコリン・ヘキサメソニウム・レセルピン・クロールプロマジンなどがある。これらの薬剤は血圧降下，発汗・流涙の抑制，節緊張の緩和，胃潰瘍(いかいよう)の治療などの目的で用いられる。〔丸山　晋〕

シリトー　［Alan Sillitoe］（1928～　）イギリスの小説家。貧しい労働者の出身。反抗的な青年労働者の青春を描いた長編《土曜の夜と日曜の朝》でデビュー，感化院の少年の反抗の姿勢を描いた第2作《長距離ランナーの孤独》とともに大きな反響をよび，〈怒れる若者たち*〉の代表作家のひとりとみなされた。ほかに《ドアの鍵(かぎ)》や《ウィリアム-ポスターズの死》に始まる長編三部作，詩集などがある。

しりべし　【後志(支庁)】　北海道14支庁の一つで，道南西の渡島(おしま)半島基部を占め，日本海に面する。13町6村を含み，庁舎所在地は虻田(あぶた)郡倶知安(くっちゃん)町。面積4,067km²，人口14万3,000。中央部に羊蹄(ようてい)山(蝦夷(えぞ)富士，1,893m)・ニセコ山塊などの火山群があり，積丹(しゃこたん)半島が北西部に突出する。岩内平野や日本海へ注ぐ尻別(しりべつ)川*・余市川などの河川沿いに水田が広がり，傾斜地ではジャガイモ・アスパラガスなどの畑作が行なわれる。積丹半島には余市・古平(ふるびら)・岩内・美国などの漁港が多く，明治以来ニシン漁で繁栄したが，いまはスケトウダラ・コウナゴなどの漁獲があるにすぎない。函館(はこだて)本線・岩内線・胆振(いぶり)線と国道5号線・229号線などが通じ，ニセコ積丹小樽(おたる)海岸国定公園がある。〔浅井得一〕

しりべつがわ　【尻別川】　後志(しりべし)川ともいう。北海道半島部，胆振(いぶり)山地を水源とし，北に流れて羊蹄(ようてい)山の北のふもとを半周，ニセコ山地を横谷で抜け西流して日本海に注ぐ。流程129km。中流の倶知安(くっちゃん)盆地は農業が盛んである。

しりやざき　【尻屋崎】　尻矢崎とも書く。青森県北東部，下北半島の北東端をなす岬(みさき)で，下北郡東通村に属する。約20mの海食崖(かいしょくがい)をなし，先端に尻矢燈台がある。海上には岩礁が多く，海霧とあいまって航海の難所となっている。付近は磯(いそ)漁業が行なわれ，コンブ・ワカメなどがとれる。断崖上には台地が広がり，牛や馬の放牧が行なわれる。背後の桑畑山(400m)には良質の石灰石の埋蔵があり，付近の海岸では砂鉄を産する。〔味沢成吉〕

じりゅうてっこう　【磁硫鉄鉱】　イオウ*

の原料鉱石。Fe_nS_{n+1}（nは種々の値をもつ）の一定しない組成をもつ。六方晶系。硬度3.5～4.5，比重約4.53～4.77。もろい。金属光沢を有し，青銅色であるが，さびて黄かっ色になる。条痕*(じょうこん)は黒色である。磁性があり，電気の導体である。内外の金属鉱山から広く産する。

しりょう　【飼料】　家畜の健康・成長・繁殖・生産のために用いるものをいう。それを，その栄養価によって粗飼料・濃厚飼料およびその他の飼料（あるいは特殊飼料）に大別する方法が，古くから広く用いられている。

①粗飼料：容積が大きく，粗繊維含量が多く，可消化養分の少ないもので，家畜に満腹感を与え，便通をよくする効果がある。水分含量が少なく，粗繊維の多いもので，わら類・から類・乾草類など。水分含量が多いもので，生草類・青刈り作物・サイレージ・根菜類などがある。後者は普通多汁質(たじゅうしつ)飼料とよばれている。

②濃厚飼料：容積が小さく，粗繊維含量が少なく，可消化養分の多いものをいう。すなわち穀類・油かす類・ぬか類・製造かす類・乾燥根菜類などである。

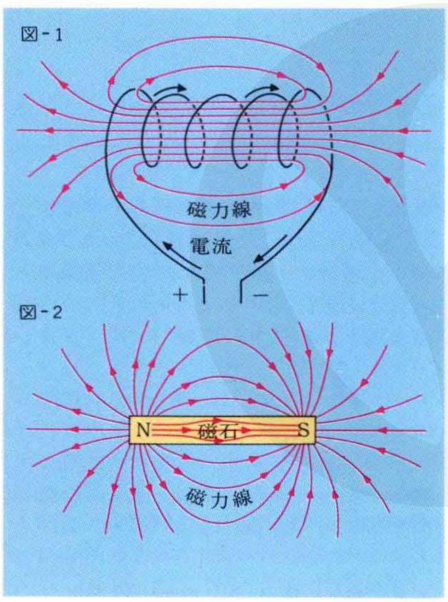
③特殊飼料：特殊の効果があるもので，普通は少量ずつ用いる。鉱物質飼料・ビタミン飼料・抗生物質飼料添加剤その他の飼料添加物がある。一般に化学飼料といわれているものは，これに属するものが多い。

このような分類法のほかに，飼料の主成分による分類がある。すなわち，タンパク質飼料・デンプン質飼料・脂肪質飼料・繊維質飼料・多汁質飼料・鉱物質飼料・ビタミン飼料などである。　〔勝木辰男〕

しりょうさくもつ　【飼料作物】　家畜の飼料*を得るために栽培する作物の総称。ただし，トウモロコシやオオムギのように採実用に栽培する作物は，たとえその実を飼料にする場合でも飼料作物としては取り扱わない。おもに茎葉を青刈りして飼料とする作物，たとえばトウモロコシ・ムギ類・ダイズなどの青刈り作物と，水分90％内外の家畜カボチャ・家畜カブ・葉菜類などの多汁質作物，および牧草類を飼料作物としている。　〔勝木辰男〕

しりょうへんさんじょ　【史料編纂所】　日本の史料に関する調査・研究・編纂を目的とする最大の研究機関。1869年（明治２）勅旨によって旧和学講談所に置かれた史料編輯国史校正局がその起源。1875年修史局となり，1888年東京大学に移管され，1929年（昭和４）史料編纂所となるまで《大日本史料*》《大日本古文書*》などを発行。1949年文部省維新史料係を合併して，翌年東京大学付置機関となり現在に至っている。

しりょく　【視力】　空間中の物体の位置を見分けられる能力，または肉眼で２点を２点として識別することができる能力。視力の測定に用いる視力表にはいろいろなものがあるが，国際的に定められたものはランドルト環（一部が切れた環）による万国共通の視力表である。この表を200ルクス（普通の明るい部屋）の照度で5mの距離からみさせて測定する。ふつう視力といわれるのは，網膜の中心でものを見るいわゆる中心視の場合をさし，網膜の周辺部にいくにしたがって視力は低下する。また，視力は明るさが低下するにつれて低下する。肉眼で識別できる最も接近した２点がつくる視角を，最小視角という。最小視角は正常眼では1′，またはそれより少し小さい。最小視角1′の目を基準にとって視力１と定め，最小視角1′のn倍のものは視力を1/nというように定める。正常視力はおおよそ1.2であり，明るさによっては2.0にもなることがある。　〔平野修助〕



磁力線

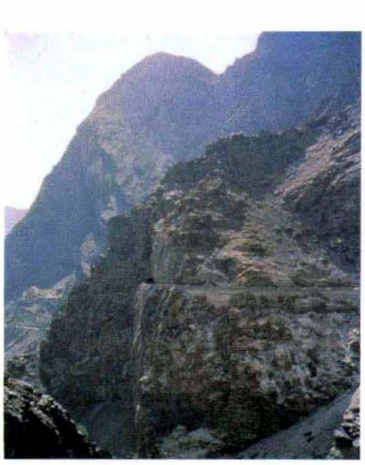
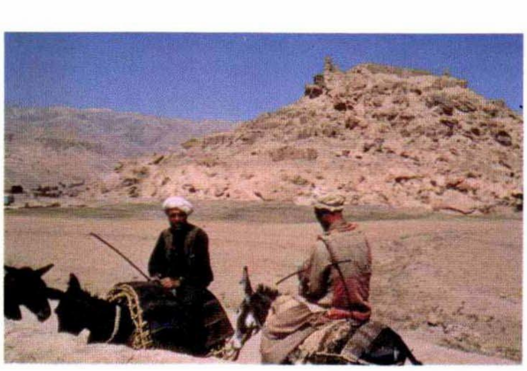
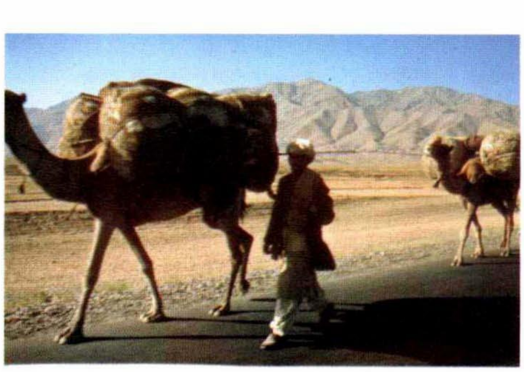
じりょくせん　【磁力線】　磁力の働く向きに矢印をつけてつくった曲線。磁界（→磁場）のようすを図によって表現するのに用いられ，磁力に垂直な単位面積をH本ずつ通過する形に描かれる。磁石のつくる磁界では，図-1のように磁石のＮ極からＳ極へ向かう。また，図-2のように右ねじの進む向きに電流を流すと，右ねじを回す向きに磁力線が生じる。磁力線は，真空中や普通の物質内では閉曲線となる。またＢの磁力線はHの磁力線とは異なり，磁石の中を含めて，どこでも閉曲線となる。→磁気誘導

シリンダー　［cylinder］　往復動機関*においてピストンの往復運動の案内をする円柱状の部品。シリンダーヘッド・ピストン頭部とともに密閉室を形成し，内部のガスを保持する。ピストンの運動によってシリンダー内部の容積は変わり，それにつれてガスは圧縮されたり膨張したり，内部で燃焼したりする。内燃機関の出力はこのシリンダーの内容積に比例し，シリンダーが大きいほど出力も大きい。二輪車機関の直径20～30㎜のものから，船舶用大形機関の１mを越すものまである。　〔斎藤　孟〕

シール　スキーをはいて登高する際，あとすべりを防ぐために使用するアザラシの皮。スキーツアーおよび登山で，スキーの滑走面にひもまたはワックスではりつけて用いる。ナイロン製のものもある。

シルクスクリーン　⇨版画

シルクハット　［silk hat］　紳士礼装用の帽子。クラウンが円筒形で高く，幅の狭いブリムの両わきがややそり返っている。絹でつくられ光沢がよい。19世紀には一般外出用に用いたが，のちに礼装用となり，現在は燕尾服(えんびふく)やモーニングコートを着用する場合の夜会とか公式の席に限って

シルクロード　（左）中央に見えるのが古代のシルクロード（西パキスタン，カイバー峠）（中）シャリ－ゴルゴーラ（亡霊）の丘（アフガニスタン，バーミャン峡谷）（右）アジア横断の新幹道路（アフガニスタン，カブール付近）

用いられる。外国では競馬など野外の催し物にも着用されることもあり，また正式の乗馬服を着用するときは男・女ともにこれを用いる。色は黒で，くだけた場合にはグレーを使用することもあり，同形で素材の違うものにオペラハット・トップハットなどがある。〔酒井登代〕

シルクロード［silk road］〈絹の道〉を意味し，古来中国特産の絹を西方のイランやインド，ないしはローマにまで運んだ輸送路をいう。近代になって与えられた名称。狭義には，長安・洛陽(らくよう)から甘粛を経て敦煌(とんこう)から天山南路に至り，それを通り，パミールを越え，バクトリア・パルティアを経て地中海沿岸に達するオアシスルートをいうが，広義には，このほかに，海上を利用するシールートや天山北路からアラル海北方草原へ出るステップルートをも含む。〔若松　寛〕

シルケットいと【シルケット糸】綿糸を濃い苛性(かせい)ソーダ液中でマーセライズ加工(シルケット加工)した糸。糸の表面が平滑になり絹のような光沢が出る。シルク(絹)に似ているのでこの名称がある。染色性を増し，ややかためとなり，細地で平滑な綿織物をつくるのに使用する。

しるこ【汁粉】あずきあんに水・砂糖を加えたしるにもちか白玉だんごを入れた食べ物。関西ではぜんざいともいう。こしあんの御膳(ごぜん)じるこ，つぶしあんのいなかじるこ，こしあんに赤あずきの砂糖煮を入れた小倉じるこなどの種類がある。古くはしるこもちとよんだようで，古書に製法も記されているが，一般にも普及したのは江戸中期以降。現在は即席につくれる懐中じるこも市販されている。

ジルコニウム［zirconium］周期律表第Ⅳ族に属する金属元素。原子番号40，記号Zr，原子量91.22。耐熱合金などで注目されてきた金属で，1789年ドイツのクラプロートがセイロン産のジルコンから新しい金属の酸化物として取り出した。酸化物・塩化物・弗化物などをアルカリ金属またはアルカリ土類金属で還元してつくる方法や，塩化物を不活性気体中でマグネシウムによって還元する方法などがある。融点1857℃，比重6.52，六方最密ごうしの結晶構造。純粋な金属は発火性がある。真空管のゲッターや耐熱金属材料として使用され，ジルコンサンドは鋳物用砂として重要である。〔古屋　弘〕

ジルコン［Zircon］ジルコニウムのケイ酸塩鉱物。$ZrSiO_4$ 正方晶系。比重4.68〜4.70，硬度7.5，劈開(へきかい)なし，屈折率1.92〜2.02。ふつう赤かっ色，ときに無色・青・緑または黄色で，錐面(すいめん)で終わる柱状結晶として産する。双晶をなすことが多い。赤色透明のものをヒヤシンスとよぶ。加熱すると色が青または淡色になる。火成岩・ペグマタイト中に副成分鉱物として産し，宝石として用いられるものは砂鉱中に生じる。ウラン・トリウムを含んでメタミクト化していることが多い。ジルコニウム・ハフニウムの重要な資源であり，宝石としても用いられる。主産地はインドシナ・セイロン・ビルマ・オーストラリア，アメリカのフロリダ州などである。なお，合成宝石のジルコンとよばれるものは，合成スピネルである。〔加藤敏郎〕

ジルソン［Etienne Gilson］(1884〜　)フランスの中世哲学史家。パリの生まれ。パリ大学・コレージュ-ド-フランスなどの教授を歴任。中世哲学と近世哲学の関連の密接性を指摘した。主著に《中世の哲学》《中世哲学の精神》や，デカルト研究家として《デカルト体系の形成における中世思想の影響》，彼自身ネオトミニストとして《存在と本質》がある。

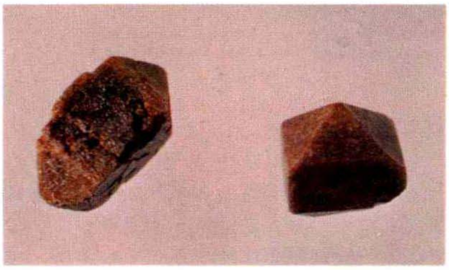
シルト［silt］砕屑(さいせつ)岩を構成している粒子のうち，直径が1/16〜1/256mmの間のもの。一般に海底に堆積(たいせき)した細粒の砕屑岩では，シルトが大部分を占めている。しかし，大きさが1/256mm以下の粘土分も伴っているのが常である。このような粒子で構成されている堆積岩をディ岩とよび，そのうち堆積面に沿って薄くはげやすい種類をケツ岩とよんでいる。

シールドこうほう【シールド工法】地盤が軟弱なため，普通のトンネル工法では作業が困難であるか，または不可能な所でトンネルを掘る工法。フランスの技術者M.I.ブルンネル(1769〜1849)によって開発された。シールドといわれる鋼製の筒を地盤内に押し込み土がくずれないようにしながら掘ってトンネルを構築する。この際シールドの後ろの部分でセグメントといわれる工場製品のピースを組み立てて一次覆工(→覆工)をつくり，シールドはこの覆工をジャッキで押して推進する。一次覆工が完成したのちにこれの補強・防水および内装などの目的でその内側にコンクリート製の二次覆工をする場合もある。1843年に完成したロンドンのテムズ川底トンネルにはじめて用いられた。その後アメリカで発達した。日本では1944年に完成した関門鉄道トンネルがはじめてである。都市における地下鉄道や上下水道などの工事に際してシールド工法を用いると，路面の交通障害が少なく，地盤沈下を少なくすることができるので，1962年ごろから広く用いられている。

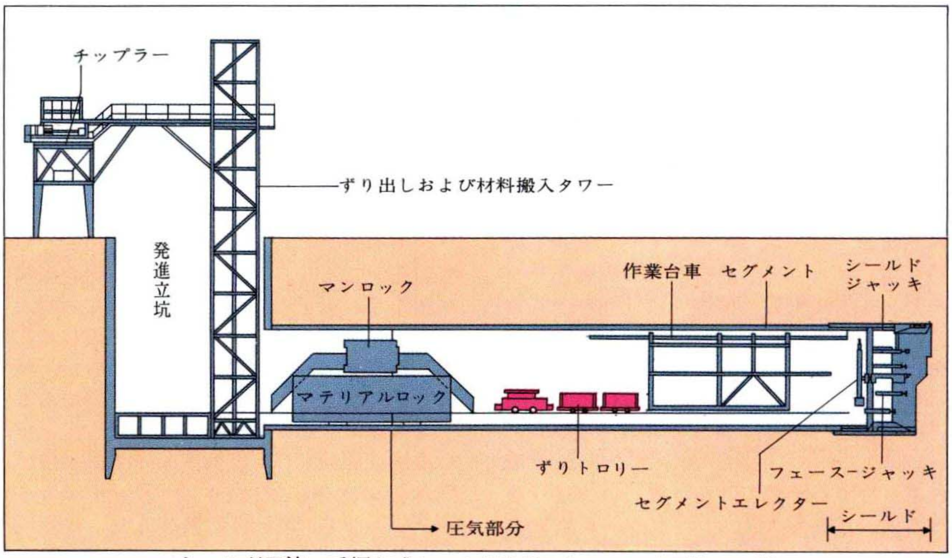
シールド工法には，軟弱地盤での地下水をなるべく少なくする圧気工法を併用する場合が多いが，場合によってはウェルポイント工法などによる，地下水位の低下工法や薬液注入による地盤改良などの補助工法が併用される。シールドの断面形には円形・長方形・馬蹄(ばてい)形および半円形(ルーフシールド工法)のものがあるが，円形のものは土圧に対して最も経済的に対抗できるので一般的である。その大きさは直径1.5mぐらいのものが最小で，鉄道複線用の10m程度のものまである。

セグメントはその使用材料から鋳鉄製・鋼製・鉄筋コンクリート製およびそれらを合成したものに分類される。〔村上博智〕

シルバ［José Asunción Silva］(1865〜1896) コロンビアの詩人。家族の相次



ジルコン　アメリカ合衆国ノースカロライナ州産



シールド工法　手掘り式シールドを用いたシールド工法の一例



知床国立公園

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市　5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

ぐ死や破産，詩稿の散逸などの不幸が重なって自殺した。はじめベッケルふうのロマン主義的な詩で出発したがのちに，〈近代派〉の先駆者となった。詩集《夜曲》がある。

ジルバ　ダンスの一。アメリカで1930年代末から1940年代はじめにブギ-ウギとともに流行したジターバグのこと。アメリカ黒人のダンスから発生したものらしい。4分の4拍子のテンポの速い曲に合わせ，ふたりで向かい合って自由で即興的なステップで踊られる。日本では第2次世界大戦後に流行し，そのころ名まえもジルバと日本語化された。今日でも一般に踊られている。

シルビウス　［Franciscus Sylvius］（1614～1672）　オランダの医師。ライデン大学教授。ファンヘルモントやデカルトに学んだ。ヨーロッパ最初の化学実験室をライデン大学に創設。植物中に揮発性アルカリの存在を証明し，また，生体の生理現象を化学過程としてとらえた。

ジル-ブラースものがたり　【ジル-ブラース物語】　ル-サージュの長編小説（1715～1735）。スペインのピカレスク小説の流れをくむ風俗小説で，全4巻。スペインを舞台に，凡俗な人物ジル-ブラースの転変の生涯（しょうがい）を描き，人間喜劇の風刺的描写の中に間接的に当時のフランスの世相を写し出している。

シルミン　［silumin］　鋳物用アルミニウム合金。アルミニウムにケイ素が10～13%含まれている。鋳造性・耐食性がよいので広く一般鋳物用に使用されているが，強度が低く切削性に難点があるので，最近他のアルミニウム合金にとって代わられる傾向にある。

シルリアき　【シルリア紀】　地質時代のうちの古生代を6分した第3番めの時代。シルル紀ともいう。オルドビス紀のあと，デボン紀のまえ。かつてはゴトランド紀とよばれた。約4億3,000万年前から約4億年前までの約3,000万年の期間にあたる。シルリア紀の地層の標準地域はイギリス南部・バルト海沿岸である。動物はほとんどすべてが海生であり，床板サンゴ類や層孔虫類が栄えて，礁を形成した。腕足類も大勢力を有し，スピリフェルの仲間が出現した。筆石類は進化の頂点に達して大発展し，特にモノグラプトゥスの仲間が特徴的である。サンヨウチュウも依然として繁栄し，とげや複雑な甲殻（こうかく）装飾をもつものが多い。汽水生の大形広翼類（ウミサソリ・エウリプテリスなど）が後期に発展した。淡水～汽水生のカッチュウギョはデボン紀のものに比べてまだ小形である。植物では本紀後期に維管束植物（陸上植物）が出現した。気候は全般的に温暖で，一部に乾燥地帯もあった。遠海相の筆石ケツ岩とサンゴ類などに富む石灰岩が特徴的な地層で，後者はシルリア紀中期に特に発達した。本紀後期から次のデボン紀にかけての著しい地殻（ちかく）変動，カレドニア変動の結果，海退が起こり，褶曲（しゅうきょく）山脈の形成に伴って随所に粗粒砕屑（さいせつ）岩が堆積（たいせき）した。火山活動は特に激しかった。　〔田中啓策〕

シルルき　【シルル紀】　⇨シルリア紀

ジレー　［gilet］　装飾的な前飾りのあるブラウスふうのそでなし胴衣。元来はチョッキを意味するフランス語で，ウエストコート・ベストと同意語のもの。おもに婦人用としてスーツやカーディガンの下に着用される。ししゅう・レース・フリル・ピンタックなどの装飾を施す。前身ごろだけのものはフロントジレーとよばれる。

じれつ　【痔裂】　裂肛（れっこう）ともいい，俗には切れ痔といわれる。肛門内面にかたい便の排出などによって裂創が生じ，これがくり返し起こって縦に細長い糜爛（びらん）や浅い潰瘍（かいよう）が発生した状態。肛門の後部に起こりやすく，肛門括約筋の痙攣（けいれん）性収縮，便秘などが原因とされている。排便のたびに疼痛（とうつう）が強く，そのため肛門括約筋の収縮が誘発されるので，一度痔裂が発生するとなおりにくい。また，出血をみることが多い。便秘の治療や食物による排便の調整などが行なわれるが，慢性化したものでは手術を必要とすることがある。　〔三島好雄〕

しれとここくりつこうえん　【知床国立公園】　北海道の北東部にある知床半島の遠音別岳（おんねべつだけ）から北東部の半島全域を占め，面積413.75km²。1964年（昭和39）に指定された。日本最北にある秘境といわれ，遠音別岳（1,331m）・羅臼岳（らうすだけ）（1,661m）・知床岳（1,254m）をはじめとする火山が海岸に迫り，壮大な景観を呈している。北東端の知床岬（みさき）の付近の獅子岩（ししいわ）・風船岩などが名勝地に指定されている。網走（あばしり）・標津（しべつ）から夏季の間だけ航路が通じている。

しれとこはんとう　【知床半島】　北海道東部，オホーツク海に約65kmにわたって突出する半島。面積約800km²。分水嶺（ぶんすいれい）を境に東部が根室支庁，西部が網走（あばしり）支庁に属する。基盤は第三紀層で，この上に基部から海別岳（うなべつだけ）（1,419m）・遠音別岳（おんねべつだけ）（1,331m）・羅臼岳（らうすだけ）（1,661m）・硫黄（いおう）山（1,563m）・知床岳（1,254m）がそびえ，この間に火山性せき止め湖の知床五湖・羅臼湖が横たわっている。基盤の第三紀層とともにこれらの火山のすそ野は海に迫って100～200mにも及ぶ断崖（だんがい）をなし，谷川は滝となって海へ注ぐ。海岸にはいたるところ奇岩怪石が見られ，

ウミウ・ウミネコ・イワツバメなど百数十種に及ぶ鳥類をはじめ，トド・アザラシなどの海獣も見られ，ヒグマも多く，近海はサケ・マス・タラ・カニ・イカ・ホタテガイ・コンブなどの漁場である。高山植物や天然林でおおわれ，アイヌ語のシレトク〈地の果て〉に由来する地名が表わすように，開発は遅れているが，近年急速に観光客が増加している。漁港としては東岸に羅臼・西岸に宇登呂(うとろ)があり，夏の漁期には海崖下に番屋を設けて漁民が出漁する。内陸にはイオウ・鉄鉱など地下資源の埋蔵が豊かであるといわれ，開発が計画されている。また温泉も多く，雄大な自然は知床国立公園*に指定されている。〔味沢成吉〕



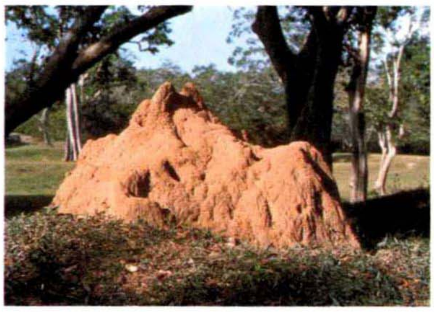
知床半島
北方上空から望んだ知床半島。左側突出部の基部に燈台があり，海岸に迫る段丘の崖下に点々と番屋が見える。左遠くに国後島

ジレンマ［dilemma］ 両刀論法。二つの仮言命題を大前提とし，それらの前件を肯定するか後件を否定するかのどちらかの選言命題を小前提とする三段論法*で，四つの形式がある。単純構成的―〈pならばr，かつqならばr〉，〈pあるいはq〉，ゆえに〈r〉。複雑構成的―〈pならばr，かつqならばs〉，〈pあるいはq〉，ゆえに〈rあるいはs〉。単純破壊的―〈pならばr，かつpならばs〉，〈非rあるいは非s〉，ゆえに〈非p〉。複雑破壊的―〈pならばr，かつqならばs〉，〈非rあるいは非s〉，ゆえに〈非pあるいは非q〉。小前提における選言肢(せんげんし)pとq，あるいは非rと非sをジレンマの角(つの)という。大前提が三つ以上の仮言命題からなり，したがって角が三つ以上あるものは三刀論法・四刀論法・多刀論法などという。〔石倉恒之〕

しろ【城】 ⇨次ページ

しろ【城】 カフカ*の小説。遺稿として1926年に発表された最も大規模な未完の長編。主人公Kは妻子を捨てて冬の荒野の村へ測量技師として到着するが，雇い主たる伯爵のいる城には到達できない。支配体制の象徴である城との緊張関係のもとで，村人からも異邦人として定住を許されず，Kの展望なき戦いは果てしなく続く。したがって作品全体の世界が現代人の最も根本的な諸問題を状況的に描き出したものでありながら，作品は断片で終わるしかなかった。





シロアリ （左）シロアリの若虫 （中）有翅成虫 （右）セイロンにある巨大なアリ塚

しろあり【白蟻】 こん虫類・シロアリ目(等翅(とうし)目)の総称。一般のアリ類とは分類学上は非常に異なるが，大集団で社会生活を営む点ではよく似ている。多くの階級が発達していて，その社会構造は著しく複雑であり，その発達程度は種類によって異なる。生殖型・不妊性型があり，生殖型には長翅型・短翅型・無翅型の３種類がある。①長翅型：一般には有翅成虫，俗にハアリとよばれ，２対の大きい膜質のほとんど同形の翅(はね)をもつ。体はよくキチン化し，しばしば暗色で，複眼はよく発達する。一定の季節に巣から群をなして飛び出し，やがて地上に降下したあとに翅が基部で切れて脱落し，雌雄１対が共同で新しい巣をつくる。この１対の雌雄が女王と王とになって，家族社会を形成する。雌雄ははじめは非常によく似て識別もむつかしい。営巣して交尾を行なうと生殖器官，特に雌の卵巣が著しく発達する。女王は６～15年間も生存が可能で，その間に100万個以上の卵を産下する種類もある。②短翅型：体のキチン化の程度は前者より少なく，黄かっ色ないし灰白色。翅は発達せず，有翅型の若虫時代と同様鱗片(りんぺん)状。雌雄があって，１群中に数匹ないし数十匹がおり，女王および王の生殖力を補うが中には真の女王より強い生殖力をもつものもある。いわば副女王と副王にあたる存在である。こん虫における幼生生殖の例としてもよく知られている。③無翅型：一部の群に見いだされ，ほとんど色素がなく，複眼も痕跡(こんせき)的で翅は完全にない。短翅型と無翅型とはともに補助的な型で，状況によっては長翅型に取って代わることが知られている。両者はともに生殖巣が早く成熟し，そのため外観的には若虫の状態を示す。このような現象を幼形成熟(ネオテニー)という。

不妊性型には職アリ(働きアリ)と兵アリがあり，ともに無翅で生殖器官が退化している。①職アリ：皮膚はややキチン化しており淡色。一部の群を除き，多くの種では外部形態からは雌雄の差が認められない。職アリに両性のあることは，一般のアリ類と異なる大きな特徴である(アリ類の職アリは生殖能力を失った雌のみ)。複眼は日中地上にあって活動する一部の種類を除き，多くの種類では退化している。大顎(おおあご)が発達しており，木質や他の植物組織を咀嚼(そしゃく)するのに適している。種によっては，職アリに大形と小形の２形の生じるものがある。職アリは食物の採集と運搬や菌類を食物とする種ではその栽培を行なうほか，卵や若虫の保護・育成など最も重要な役割をになっている。また，木質食の種では，巣に必要な室と孔道をつくり，造塚(ぞうちょう)種ではいわゆるアリ塚(づか)(蟻塔(ぎとう))をつくる。しかし，シロアリの種類によっては職アリ型が存在せず，その役割を兵アリと生殖型の若虫とがになっているものがある。②兵アリ：大形でキチン化が強く，大顎が他型に比べて著しく強大。職アリ同様に両性があるが外部形態による識別は困難。兵アリもしばしば大形と小形の２形が生じ，種によっては単一種中に大・中・小３形の兵アリの生じるものも知られる。複眼は一部のものではよく発達するが，一般には退化している。兵アリは主として外敵からその群を防御する役割をになう。防御方法は，その強大な大顎によるほか，特殊な液を分泌することによる。

シロアリ類は熱帯地方に多く，全世界から５科約2,000種が知られる。日本にはオオシロアリ科・レイビシロアリ科・ミゾガシラシロアリ科の３科５種が知られる。シロアリ類は種類によって生活様式はかなり変化に富み，地中に営巣するもの，森林中の朽ち木や枯れ木中に孔道を掘って生活するもの，生きた植物の材部を食べるもの，

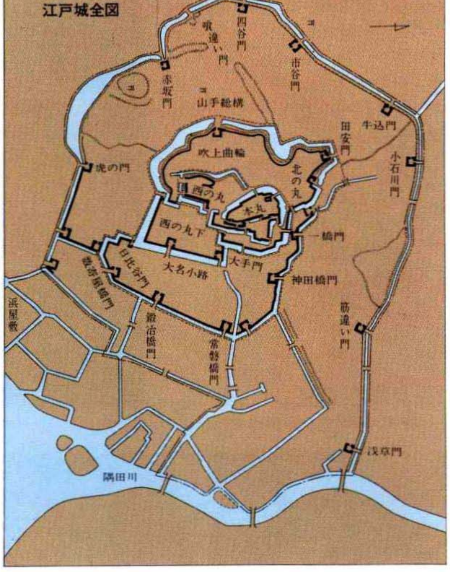
➔204ページ

城

城という字は,〈土を盛る〉〈土から成る〉という意味からつくられたが，単なる土の構築物を広く意味するのでなく，そこに戦闘を目的として築かれたものでなくては城とはいえない。城郭とは城という戦闘目的をもった中心部，または生活の場所を守るため，周囲に塁を巡らしたものをいう。したがって中国大陸では古来より〈三里之城,七里之郭〉といわれ，郭は囲いを意味した。日本では鎌倉時代より臨時的な築城も含めて，広範な意で城郭と総称するようになった。また，城の字が〈しろ〉と読まれるようになったのは戦国時代にはいってからで，それ以前は〈き〉〈じょう〉と読まれていた。

【日本】　《歴史》人間が農耕という手段を見いだすと,集団による定着・定住が行なわれるようになる。そこで集落の周囲に堀(ほり)を巡らして，獣の侵入や異集団の侵略を食い止めるようになった。これが城の発生であり，考古学で環濠(かんごう)集落と称されるものである。やがて集落を中心として文化圏ができ，支配者が現われてくる。《魏志倭人伝(ぎしわじんでん)》による卑弥呼*(ひみこ)の居城の〈宮室楼観厳設，常有人持兵守衛〉の記述は,有史前の城郭を伝える史料といえる。また稲作の普及によって，稲を積み上げて築いた城〈稲城(いなぎ)〉が《日本書紀》にたびたび見られる。北九州では大陸との関係もあって神籠石(こうごいし)とよばれる城が見られる。これは谷とか丘陵に列石を並べて，要所に水門を開くもので，佐賀の帯隈(おぶくま)山，福岡の女山(ぞやま)，雷山の各神籠石が著名である。

古代，大和(やまと)朝廷*の築城は対外防備を主力とした西域の城郭構築と蝦夷(えぞ)地に対する城柵(じょうさく)構築であった。西域防備の要は大宰府*(だざいふ)を中心として，664年(天智3)より大野城*，怡土(いと)城*，壱岐(いき)の城(長崎県)，椽(きい)城，金田城，三野城，鞠智(きくち)城を築いて，大宰府入り口には水城*(みずき)を構えた。大和(奈良県)と大宰府の中間には，屋島城，讃岐(さぬき)の城(ともに香川県)，備後(びんご)常城(広島県)，長門(ながと)の城(山口県)を置いて烺煙(のろし)制を敷いた。一方，蝦夷地経営にあたっては647年(大化3)に渟足柵*(ぬたりのき)，648年には磐舟(いわふね)柵*の設置を皮切りに，北方へ城柵の配備をした。のち，陸奥鎮守府(むつちんじゅふ)として多賀城*が構えられ,つづいて秋田城*・胆沢(いざわ)城*が設けられた。城柵とは方八町といわれる中国の都城制を基本に，四辺形に堀と土塁を巡らし，外郭を備えたもので，内部には集落・軍団・政庁を置き，塁上には木柵を連らね，要所に矢倉・門を築いていたものである。ほかに



本丸側の丘陵は梯郭式なわ張りで外郭を含めた総構えは，らせん式なわ張り法となっている

雄勝柵(秋田県)・桃生(ものう)柵・伊治(いじ)城・中山柵(ともに宮城県)など20柵を数える。

大和朝廷の築城法が対海的であり，国家的な築城であるのに対し，中世の城は武士という個人もしくは団体の支配者による築城であった。源・平両氏の抗争を経て，源頼朝(よりとも)によって鎌倉に幕府が開かれて武家政治が始まった。鎌倉は三方を山，一方を海に囲まれた天険要害の地で，入口は七つの切り通しがあり，当時はこのような鎌倉を〈鎌倉城〉とよんだ。武士の発生とその成長は，関東を舞台としてなされ，関東八平氏，武蔵(むさし)七党*とよばれるような武士団は，その領地の中央に館(やかた)を構えて所領の経営にあたった。館の多くは方形館とよばれ，四辺形に堀を掘って，その土で塁をあげたものをいい，複郭の館も多かった。館の近くには一朝ことあるおりにたてこもる詰(つめ)の城があった。館が日常生活を営む城であるのに対し，詰の城は戦闘専用の城である。しかし当時の合戦は騎馬戦を主軸とした野戦が主流で，城攻めの手段はめったに用いられなかった。したがって野戦築城法の逆茂木(さかもぎ)，陣所構え，仕寄りといった種類が進歩したにすぎなかった。

日本の城が戦闘面を内部に取り入れ，築城法を著しく発達させたのは楠木正成*(くすのきまさしげ)である。1331年(元弘1)幕府討伐をめざす後醍醐(ごだいご)天皇は，笠置(かさぎ)寺を城郭に仕立ててたてこもった。〈籠城(ろうじょう)〉という戦法によって開始されたはじめての合戦であった。翌年正成は千早城*を中心に国見山を詰の城に仕立て，扇状に上赤坂城・下赤坂城・龍泉(りゅうせん)寺城をはじめとして，城砦(じょうさい)群を金剛山より河内(かわち)(大阪府)富田林にかけて構築，これにこもった。千早籠城と城砦群の抗戦は幕府軍を打ちのめした。この正成の築城法は南北朝の争乱(→南北朝時代)の中で，築城技術を大きく進歩させた。室町時代に至って，幕府は京に置かれたが，地方への統制力が弱く，各地方領主はその居城を確固に仕立て，自力による軍事・経済・政治体制をもつようになった。市や集落は領主の居城のもとに形成されて城下町*として発展するようになった。こうして戦国大名*がつくり出された。

戦国の城はその数およそ20,000という。激動する状況のもと，城は臨時的に戦いの場として築かれた。風雲急を告げる攻防戦の中で実戦重視一本やりの築城法で〈臨時築城〉といわれる城が主流であった。ところが下克上*が激しく，日常生活を営む館では防備が不十分となり，さらに戦国末期には勢力の集約が進んだ。そこで館の機能と山城に代表される籠城に強い城とがいっしょになった城が現われ，そこに権力の誇示,武威を示すようになる。織田信長*(おだのぶなが)の岐阜城，浅井長政*(ながまさ)の小谷城，佐々木氏*の観音寺城，朝倉氏*の一乗谷城，大内義隆*(よしたか)の山口城，毛利元就*(もとなり)の吉田郡山城，上杉(うえすぎ)謙信*の春日山(かすがやま)城のように永久築城が始まる。関東ではいちはやく覇(は)を唱えた北条(ほうじょう)氏*によって，延々12kmにわたる外郭を有する大城郭小田原城*が出現した。このころになると技術面では塁を補強するため石垣(いしがき)を用い，鉄砲の流行によって塀(へい)や建物もがんじょうなものとなった。

1576年(天正4)織田信長は前後未曾有(みぞう)の安土城*の築城工事を起こした。比高100mの山頂より山ずそまで多数の削平地を築いて，全山に石垣を積み上げ，工事は3か年を要した。山頂には五層七重の天守があげられた。これはわが国の城郭の大革命であった。これより城郭史は近世城郭の時代に入る。信長のあと天下統一をした豊臣秀吉(とよとみひでよし)は，1583年難波(なにわ)平野の中心，淀(よど)川河口の石山本願寺跡に大阪城*を築いた。五層六重の天守と，その財を傾けた殿舎および櫓(やぐら)・城門は平城(ひらじろ)の完成であった。秀吉はさらに聚楽第*(じゅらくだい)・伏見城*・名護屋城*を築いて，城と宮殿の一体化を成し遂げ，桃山文化*を生み出すに至った。

関ケ原の役を経て徳川家康(いえやす)は，1603年(慶長8)より徳川政権の府として江戸城*普請に着手した。工事は全国諸大名の助役による〈手伝普請〉で，1636年(寛永13)にいちおうの完成をみた。全国諸大名の居城も近世城郭へと整備され，70余の天守がこのころ全国に建てられた。幕府は江戸築城と並行して膳所(ぜぜ)・彦根(ひこね)・駿府(すんぷ)・

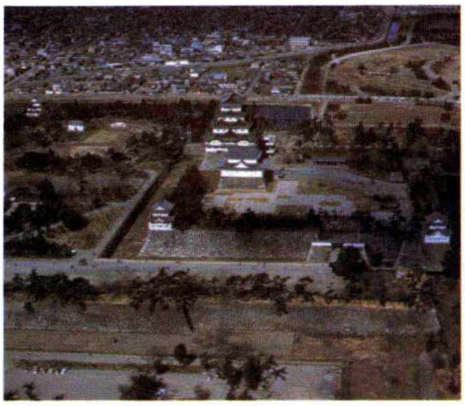
亀山(かめやま)・篠山(ささやま)・高田の各城を手伝普請で完成させたが，大阪の陣*のあとの大阪築城は，その締めくくりとして最高の技術を投入した。1615年(元和１)幕府は一国一城令*を発し，一藩一城を原則として諸国の城郭を破却させた。こうして徳川政権の幕藩体制*は確立し，明治維新時には，城144，要害19，陣屋26が存在した。幕末に対海防備のために築いた五稜郭*(ごりょうかく)，品川・神奈川台場などは城郭史の終わりを告げる〈稜堡(りょうほ)式築城〉はヨーロッパとわが国固有の技術が一体化した築城法であった。

《構造》 城を築くにあたって，まず〈地取り〉といって目的・用途に応じた地を選ぶ。城をつくることを城取りというのはこのためで，山につくる城を山城，丘陵につくる城を平山城，平地につくる城を平城，水中につくる城を水城という。次にその地勢に応じて戦いのしやすいように，縄(なわ)を張り巡らして，区画を決める。一つ一つの区画は曲輪(くるわ)といわれ，円形に丸くつくることを原則とした。縄張りの中心になる曲輪は本丸とよんで，城主の居城，また戦時には司令部が置かれた。本丸を直接的に防備する曲輪を二の丸，さらに本丸を間接的に防備する曲輪を三の丸といった。縄張りは曲輪配置法によって輪郭式・円郭式・梯郭(ていかく)式・連郭式・螺旋(らせん)式に分けられる。

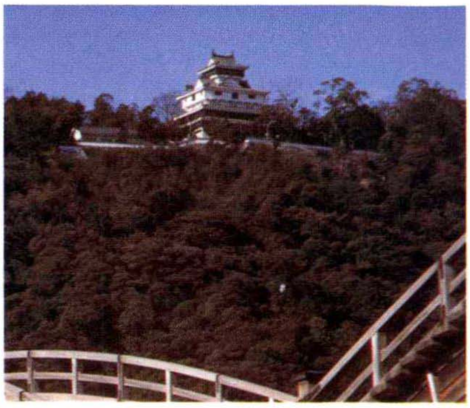
縄張りの定まったところで土木工事に着手するが，城の土木工事は普請といって，堀・土塁・石垣・道の工事，飲料水ことに井戸の各工事が含まれている。

堀は水がはいっているか否かによって，水堀・空堀(からぼり)といい，その掘り方，ことに断面によって箱堀・薬研堀(やげんぼり)・片薬研堀・毛抜堀・泥田(どろた)堀・畝堀(うねぼり)に分けられる。堀幅は〈十間を上，十五間を中，二十間を下〉といって15間以上の堀は好ましくないとされた。これは弓の射程距離が10～15間であるため，あまり広い堀だと寄せ手を射落とすことができないからである。したがって中世ことに戦国の城は12ｍ内外の幅が一般的で，〈横矢掛り〉といって堀を屈曲させ，弓・鉄砲が射やすくなっていた。空堀は，水堀に比べて堅固とされ，堀底は道に利用されているものが多かった。水堀では塁面の傾斜のぐあいに制約が生じるからである。

塁面の加工状態によって石塁・土塁に分けられる。石塁は土塁に比べて鉄砲に弱い。これは石垣に鉄砲玉があたれば，はじいてしまい，土塁はこれを吸収するからである。わが国の城で塁を本格的な石垣とした城は安土城であった。土塁の柔らかさに比べ石垣のきびしさ壮大さは，武威を誇示するため，また建物を塁上いっぱいに建てられるために近世にはいって大いに流行をみた。石垣の積石の加工状態によって，野づら積み石垣(自然石のまま)，打ち込みはぎ石垣(自然石の角を削る)，切り込みはぎ石垣(形状が整わせる)といわれ，積み石の一つ一つが同形状で目地(石と石との間の空間)が直線でなく，かぎの手状につながる石垣を布目積み・算木積みといった。石垣が崩壊することを〈はらみ〉といい，〈はらみ〉をなくすため，石垣は水はけをよくしなければならず，中に小石・じゃり・砂を詰め，目地の空間には栗石(くりいし)をはめた。城の石垣技法の中でも〈扇の勾配(こうばい)〉といって，石垣の角の勾配を弓状に積み上げたものがある。ことに熊本城*・江戸城・大阪城などは顕著である。日本一高い石垣は伊賀上野城(三重県)本丸，姫路城*本丸東塁，大阪城本丸北塁と諸説あって明らかでない。累計だと丸亀城(香川県)がいちばん高い。



名古屋城　輪郭式・梯郭式の縄張りを併用して築かれた名城



岩国城　錦帯橋から望む。廃城前には天守はもっと後方にあった



中城城　二の丸から本丸を望む。沖縄特有のアーチ式の城門と壁塁が大陸的である



鶴ケ城　馬出し状を利用した西出丸には打ち込みはぎ石垣を使用している

土塁は，その加工のしかたによって〈たたき土居〉と〈芝土居〉とに分けられる。高さは〈一間なれば人見えず，二間なれば馬士見えず，三間なれば鑓(やり)見えず〉といって，実戦的にはあまり高い土塁は使われず，２間以下と定められていた。たたき土居は粘土を混ぜてつき固め，芝(しば)土居とは土塁の表面にシバを植えて崩壊を防いだものである。東北・北陸地方ではシバに代わってクマザサを植えた土居も多かった。関東・東北地方の近世城郭は幕府の方針もあって，土塁ばかりの城で，石垣の城は西日本に集中している。石垣・土塁の併用も多かった。なお，沖縄の城はサンゴ礁による石材が主力で，その技法は大陸的である。

道は各曲輪間を結ぶものであるから，その配置は注意が払われた。ことに大手門よりはいって天守に至る道のりの要所には，武者隠し，捨て堀(見せかけの堀)や袋小路を置いて，一歩城内に足を踏み入れれば，迷路のごとく築かれた。

《建物》 城の建物は天守に代表される。天守は天守閣ともいうが，閣の字は明治以降につけられ，本来，天守・天主・天守櫓という。天守の発生は物見台・井楼(せいろう)・殿舎の各発達説がある。

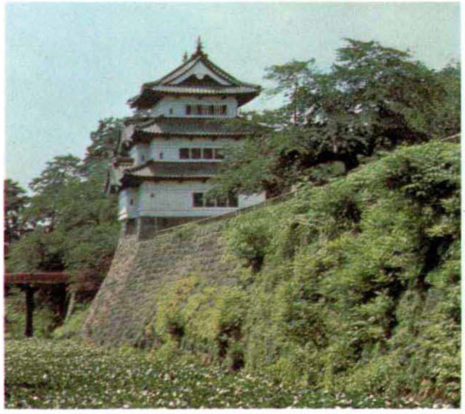
軍事的役割からみれば物見台・井楼が起源となり，建築学的にいえば殿舎発達説につながる。古く天守は殿守と記され，殿主すなわち殿舎の中心につながり，発生期にみる天守は大きな殿舎の上に小さな望楼を載せた形状になっている。犬山城*や丸岡城(福井県)の天守はその形状をよく伝えている。史上初見する天守は《細川両家記》によれば，1550年(天文19)の条に見える1520年(永正17)の伊丹(いたみ)城(兵庫県)天守である。金殿玉楼の天守のはじまりは安土城天



姫路城天守（国宝）　大天守を中心に３基の小天守を伴う連立式天守。瓦間を白漆喰で固めたので白鷺城の別名がある



彦根城天守（国宝）　わが国に存在した天守のうちでいちばん華美な外容を誇っている



弘前城天守（重要文化財）　東北地方に現存する唯一の天守。かわらは銅ぶきで，外部窓は狭間で統一されている



松本城天守（国宝）　姫路城とともに現存する唯一の５層天守。複合連結式で下見の美しさは烏城ともよばれた

守であるが，その内部は宮殿として信長みずから居住した。したがって戦国時代にみる天守は〈城主の居所〉としての性格が強かった。しかし江戸時代にはいってからは書院造り*が定着して，また城が戦闘目的から政治の府としての色彩が強くなったため，天守の役割は単に装飾的なものと化した。屋根の造りも破風(はふ)を省略するようになって，層塔式天守とよばれる画一的な外容となった。やがて一国一城令や明暦大火*による江戸城天守焼失によって，諸侯の居城でも天守造営をとりやめることが続出した。江戸中期以降は３層以上の天守は建てられず，中には〈御三階櫓〉といわれる天守の代用も現われた。明治維新において100余の天守に準ずるものがあったが，第２次世界大戦で，岡山・福山・名古屋・大垣・和歌山・水戸(みと)の各城の天守が焼失，さらに松前城が大火により焼失，現在は弘前(ひろさき)・松本・丸岡・犬山・彦根・姫路・備中松山・松江・丸亀・伊予松山・宇和島・高知の各城12基の天守が残るだけとなった。このうち，姫路城・伊予松山城は多くの小天守をもつ連立式天守で，松本城は２基の小天守をもつ複合連結式天守，彦根・備中松山・松江・犬山各城は付櫓を伴う複合式天守，弘前・丸亀・丸岡の各城は独立式天守である。

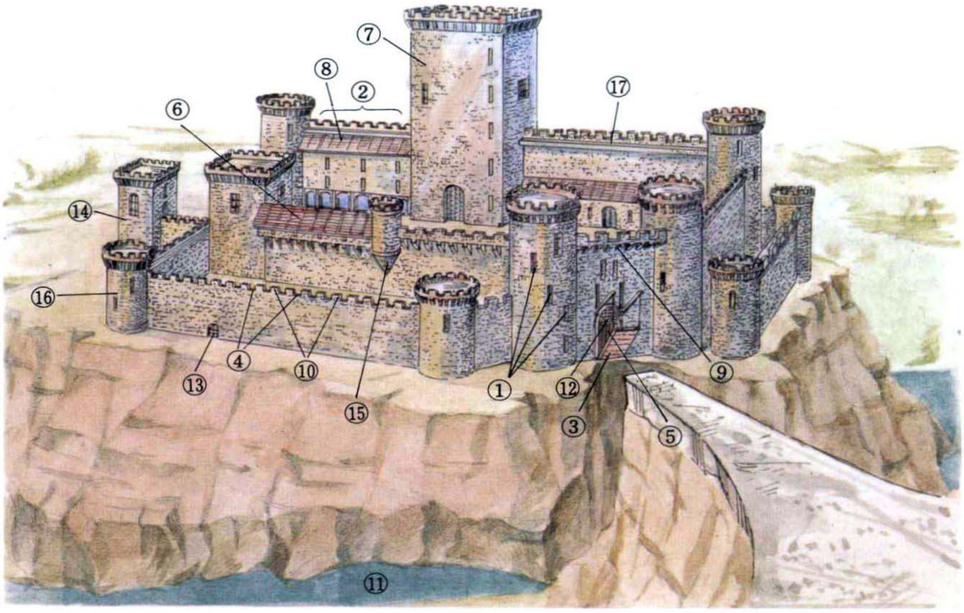
櫓は古くは矢倉・矢蔵と記されて，武器・食糧倉庫として建てられ，中世に至って，楼閣に代わって，矢倉が塁上にあげられるようになった。矢倉の武装が進み，さらに火矢・鉄砲に対して壁面にしっくいを塗り込めて，要所には狭間(さま)といって，弓・鎗(やり)・鉄砲を発射させる穴がつけられるようになった。桃山時代(→安土桃山時代)になり，天守の発達は櫓に大きく影響を与えて，２層・３層のものが多く用いられるようになる。一方，塀の防備性の弱さを補うため，塁上に長屋形式の塀があげられるようになった。これが多門櫓といわれる櫓で，松永久秀*(まつながひさひで)による信貴山城・多聞(たもん)山城（ともに奈良県）がそのはじまりという。しかし天下泰平の世に至って，櫓は天守同様に装飾的なものとなって，風流を解するための櫓が出現するようになった。月を観賞するための月見櫓（松本・岡山・江戸の各城に現存）は，その代表的なもので，富士見櫓・涼櫓(すずみやぐら)・花見櫓・潮見櫓などもあった。

城門はいったん戦争となると，第１の攻撃目標となる。したがって橋とともにその配置・構造にはことに注意が払われた。門の構造は大きく馬出し虎口(こぐち)，馬出無しの虎口，枡形(ますがた)の虎口に分けられる。虎口とは小口とも記され，敵に対する出入り口を小さくあけることからきている。馬出しとは門の前面に橋を隔てて小さな一郭を築くもので，丸形と角形があった。枡形は門を二つつくって，90°折れ曲がってはいるようにした形式で，三方を塀・堀で囲むものをいう。枡形が城内側にあるか，塁線より出っ張ってあるかによって内枡形・外枡形に区別される。門の建物には高麗門といって，門塀の後方に控抗と屋根をあわせた特種なものが多く用いられ，楼門・多聞（櫓に利用した多門を門に利用）は目だつ大手門（正門），搦手門(からめてもん)（裏門）などに限って利用された。〔日本城郭資料館〕

【西洋】古代オリエント諸国・古代ギリシアの城を代表するものは，厚い城壁を巡らした都城である。オリエントの都城は，一般に単郭式の単純な平面構成で，その最も壮大なものはバビロニアの首都バビロンである。しかしギリシア，特にバルカン半島では，南部のミケーネに見るように山岳地形に影響されて山城式となり，囲郭の平面構成もオリエントのように規則的ではない。ことにティリンスのものは複雑であるだけではなく，その城壁は巨大な自然石を巧みに用いた，いわゆるサイクロップス積み（巨人積み）といわれる塁石法である。都城内部の様相はアテナイやコリントなどのポリスから明らかである。ポリスは，政治・宗教などの中心となる建築物と，またその都市が外敵から攻撃を受けた際に最後の防御拠点となる丘上地域（アクロポリス）と，その丘麓(きゅうろく)の経済生活・一般市民生活の営まれる市街区域とからなっており，それらのいずれも城壁で囲まれていた。ローマの軍事的能力の優秀性はその築城技術にも現われ，都市築城だけではなく，陣営築城や攻城のための対塁築城そのほかにもうかがうことができる。イギリスのハンプシャーに残るポーチェスター城の城壁は，ブリタニア占領時代のローマ城塞(じょうさい)築城の好例である。また，スコットランドとイングランドの境にアグリコラ城壁・ハドリアヌス城壁などとよばれる二つの長城を築き，北方からの蛮族の侵入をおさえた。大陸でも，ゲルマン人のローマ世界への侵入が現われはじめると，その防御対策として東北方面の国境線に沿ってリメス（長城）を築いている。この形態などは現在，西ドイツのザールブルクに復元されているリメスとその陣屋跡などに見られる。要するに，オリエントの城やギリシア・ローマの城は，も



都市自体が城をなしている城郭都市として代表的なフランス南部のカルカソンヌ



中世ヨーロッパの城の部分名称
①壁面狭間　②胸壁　③はね橋　④狭間　⑤城門　⑥屋根つき差し出し歩廊　⑦キープあるいはドンジョン（天守閣に相当）　⑧居館　⑨はね出し狭間（石落とし）　⑩凸壁　⑪水濠　⑫落とし格子　⑬搦手口　⑭突出壁塔　⑮見張り櫓　⑯隅塔　⑰壁上歩廊（武者走り）

ちろん例外もあるが，一般に都市的な，または国家的な築城で，個人的なものではなかった。この点では，イギリスのドーシットに残るメイドン-カースルなども同じで，ここには独立丘・崖縁（がいえん）・半島状台地・岬（みさき）などの自然地形を巧みに利用し，空堀（からぼり）・土塁などで固めた広大な内包面積をもつ土城（紀元前１世紀以前）の一群がある。またアングロ-サクソン時代には，堀・土塁・木柵（もくさく）などで村落や町を囲んだバラーという築城があった。以上の各時期の築城はその地域の住民の全体的な防衛を考えたもので，非個人的城郭という点で共通性をもち，中世の封建城郭のような領主の個人的防衛を目的としたものとはその築城意欲において異なるものであった。

カロリング朝*が崩壊しはじめる９世紀末ごろから，パラチウムといわれる堀・木柵などの簡単な防御設備を備えたホール-ハウス型式の有力者の個人的建築が現われはじめる。それはホールを中心として平面的な広がりをもつ建物であったが，やがて防御力を増強するため，へやの上にへやを重ねたタワー-ハウス型式に発展し，この築城理念は歴史の進展につれて封建城郭の初期的な型式であるモット城郭の築城理念へと関連する。モット城郭とは，最後の防御拠点としての人工の築山（自然の小丘を利用した場合もある）を中核とし，それに外郭などを設け，堀・土塁・木柵などで固めた個人的城郭である。土と木材などの素朴（そぼく）な築城材料の点からも，この型式の城郭は初期の荘園（しょうえん）的な封建領主と結びつくものである。

ヨーロッパ中世の封建社会は地方的に異なる特殊条件をもちながらも，全体に共通する理念をもっていた。城郭も，地域によって部分的相違を示してはいるが，その基本的築城法則や構造には普遍性があった。つまり，国々による相違性よりも類似性のほうが強いのである。ヨーロッパにおける城郭の盛期はほぼ11世紀後半から14世期末ごろまでの中世中期であろう。そして，この時期に築かれた，いわゆる中世城郭はヨーロッパの城郭を代表するものである。中世城郭は一般に次のように分類される。

①城郭の占地状況による分類。たとえば，山城・平山城・平城・水城など。

②城郭の中核的な建築物であるキープまたはドンジョン（日本の城の天守閣に相当するもの）の型式やその有無などによる分類。たとえば，㋑ヘディンガム城（イギリス），ロシュ城（フランス），アルモラル城（ポルトガル）などに見られるような〈四辺形キープ〉をもつ城。㋺レストーメル城（イギリス）に見られるような〈輪形キープ〉をもつ城。㋩ニュルンベルク城（西ドイツ），ブリシゲラ城（イタリア），クーシー城（フランス）などに見られるような〈円塔形キープ〉をもつ城。㋥カーナボン城（イギリス）のように特にキープを備えない城。㋭コカ城（スペイン），カルカソンヌ城（フランス），ロンドン塔（イギリス）などのように，中核的部分を堀や城壁で，同心円的に幾重にも囲んでいる城。

③城郭の属する社会層による分類。たとえば，〈王家の城〉〈領主の城〉〈聖職者の城〉〈市民の城〉などのように，さらにこれらを大別して〈聖俗領主の城〉と〈市民の城〉のような分類である。

中世には，有力な領主の城や大教会の下に城壁を巡らした，いわゆる城下町が多数に発生したが，それとは別に都市の商工業市民層がその経済的繁栄を自衛するために団結して，その都市に防御設備を施した場合も少なくはない。中世自由都市の城壁にはそのような起源をもつものが多い。城郭史的にみると，中世ヨーロッパの築城技術は十字軍遠征のまえとあとでは非常に異なる。つまり十字軍を介して，西ヨーロッパは東方世界の進んだ築城技術に接し，それに影響されて，その城郭のグランド-プランその他が複雑堅固になったといわれる。12世紀末ごろに築かれたフランスのガイヤール城はその初期のものである。しかし，この西ヨーロッパの中世城郭に対する，いわば東方影響説に対し，T. E. ロレンスに代表される西ヨーロッパ中世城郭の東方に対する西方影響説も考えられる。

15世紀末ごろから，武備よりも居住性を第一義とするイタリア-ルネサンス建築の精神がフランスをはじめとして広く西ヨーロッパ各地方に伝わり，シャンボール城・ブロア城など，ロアール川畔の諸城に代表されるシャトー（城館）型式の城が築かれた。一方，すでに以前から大砲が攻城戦に用いられ，これに対抗する必要から城壁を厚く，低くし，また破壊されやすい塔なども低くして強化した。さらに，従来の城の塔は大砲の砲座としては狭小であったので，それを拡大強化してロンデル（大円塔）とした。そのころになると，すでにほんとうの意味の城郭の時代は終わり，近世要塞の時期となる。17世紀になると，フランスの築城家ボーバンにより，稜形（りょうけい）の突角部を多く設け，側防と死角の防御を考えた稜堡築城（りょうほちくじょう）が始められ，ヨーロッパはもちろん，広く世界の各地域に築かれた。その時代は19世紀初めまで続いた。城郭は再び国家的な非個人的なものになったのである。　〔小室栄一〕

葉を食べるもの，根部を食べるものなどいろいろある。また，熱帯地方には，特殊な菌類を培養して食物とする種類もある。さらに，オーストラリアやアフリカなどに産する種類の中には，高さが４ｍに達するようなアリ塚をつくる種類が知られている。木材を食害するのは比較的高等な群と考えられ，それらの種類はその消化管内にトリコニンファという特殊な原生動物が共生しており，その分泌する酵素によって木材のセルロースを分解する。木造建築の多い日本ではシロアリによる被害は多く，中でも西南日本におけるイエシロアリの被害は著しい。熱帯地方では，家具・衣類・書物などあらゆる植物質を食害し，野外では生きた樹木や草木にも大害を与える種類がある。

日本に産する５種類について簡単に述べる。①イエシロアリ：有翅型の体長6.5～8.5mm，頭部はかっ色，他は黄かっ色，翅は淡黄色で透明で基部はかっ色。兵アリは体長4.5～6.5mm，頭部は黄色，他は淡黄色。職アリは体長５mm内外，全体ほぼ淡黄色。女王は，体長30mmに達するものがある。静岡県以南の本州の海岸に沿う地方と四国・九州から台湾まで分布し，マツ・ヒノキなどに好んで営巣するほか，木造建築物を加害し，その被害はしばしば甚大(じんだい)なものとなる。有翅型は６～７月ごろ出現し，夕刻に結婚飛行を行ない，燈火にもよく飛来する。②ヤマトシロアリ：有翅型は体長4.5～7.5mm，頭部は黒かっ色，ほかは大部分黄色，翅は暗かっ色をおび翅脈は濃色。兵アリは体長3.5～6.0mm，頭部はほぼ黄色で円筒状。女王は黄白色で，体長11～15mmに達する。北海道以南台湾まで広く分布し，多湿な所に好んで営巣する。有翅型は４～５月ごろ出現し，高温無風の日の昼間に結婚飛行を行なう。前種に比べ１巣の個体数は少なく10,000～30,000くらいで，そのため被害も局部的である。③サツマシロアリ：有翅型は体長７～８mm，頭部は赤かっ色，他はほぼ淡黄かっ色，翅は透明で基部と翅脈は淡かっ色。兵アリは体長９～11.5mm。四国・九州・沖縄・台湾に分布し，腐った木質部に小集団をつくるのでほとんど実害はない。④カタンシロアリ：前種に似るが有翅型はやや小形で体長５～６mm，前胸背はかっ色で黄色のＴ状斑(はん)がある。兵アリは体長5.0～7.5mm。紀伊(きい)半島・高知県・宮崎県・沖縄・台湾などに分布し，シイ・タブなどの倒木や切り株などに小集団をつくる。⑤オオシロアリ：大形で，兵アリの体長16～19mm，職アリの体長は8.5～12mm。四国の足摺岬(あしずりざき)のほか沖縄に分布し，腐木・切り株など樹木の枯死部に営巣する。〔鈴木邦雄〕

建築物におけるシロアリ被害は，木造建築物ばかりでなく，鉄筋コンクリート建築物にまで及ぶ。一般にヤマトシロアリ・イエシロアリによる被害が大きく，ヤマトシロアリによって浴室・台所・洗面所・便所などの土台・柱脚・筋かい尻(じり)のほか，一階床組材の床束・大引・根太など，建物の下部にあって湿潤を受けやすい材が食害される。またイエシロアリには建物の下部のほか梁(はり)・桁(けた)および小屋組材など，建物上部の材も被害を受ける。建築物をシロアリの被害から防ぐには，床下ならびに敷地内の木片類の散乱を除去し，木材と地面との接触を避け，床下の通風や換気に留意して建物下部材の湿潤を避けるほか，床下のアリ道の有無を定期的に点検して被害の早期発見に努める。予防・駆除剤には，クレオソート油・γ-ＢＨＣ・クロルデン・ディルドリンなどがあり，木材に塗布・吹き付け・加圧注入される。〔神山幸弘〕

しろありもどき【擬白蟻】 こん虫類・シロアリモドキ目(紡脚目)の総称。小形で細長く，全体軟弱。頭部は大きく，複眼は雄では大きいが雌では小さい。単眼はない。胸部は細長く，腹部とほぼ等長。脚は短くて太く，跗節(ふせつ)は３節からなり，前胸の第１跗節は大形で，巣をつくるための絹糸を紡ぐ特殊な腺(せん)が発達している。翅(はね)は前翅(ぜんし)・後翅がほぼ同大で，翅脈もほぼ等しく，静止時には体背面に平たく置かれる。ただし，雌は常に無翅である。全世界から約150種が知られ，熱帯地方に多く，いくつかの科に分類されるが，日本には九州に産するシロアリモドキ科のコケシロアリモドキただ１種が知られるにすぎない。この類は，原始的な社会生活を営むが，階級はなく，石の下や樹皮のすきまなどに小集団で生活する。変態は特異で，無翅型のものは無変態で成虫がやや扁平(へんぺい)で濃色，幼虫は円筒形で色彩も淡い。有翅型では完全変態を行ない，したがって蛹期(ようき)がある。また種によって，雄に有翅型と無翅型の２型の生ずるものもある。九州産のコケシロアリモドキには，外部寄生するコケシロアリモドキコバチという天敵が知られている。〔鈴木邦雄〕

しろいし【白石(市)】 宮城県南部の市。江戸時代には伊達(だて)藩の重臣片倉氏一万八千石の城下町で，その城は幕府から正式に認められていた。また陸羽・七ヶ宿両街道の会合する宿場町でもあった。1954年(昭和29)市制施行。人口42,000。市域は白石盆地の南半，阿武隈(あぶくま)川の支流白石川の中流の河岸段丘上に位置する。産業三大別人口比は26：32：42。繊維・メリヤス針などの工業が盛んで，伝統的な白石和紙，温麺(ううめん)とよばれるめん類などの特産もある。東北本線・国道４号線が通じ，近郊には小原・鎌先(かまさき)などの温泉や，長老沼・川原子ダム・碧玉渓(へきぎょくけい)などの景勝地が多い。蔵王(ざおう)観光の宮城県側の基地。年中行事にこけし見本市(５月上旬)がある。

しろいちもんじまだらめいが【白一文字斑螟蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科。小形のガで，翅(はね)を広げた長さ20～26mm。頭部と腹部は紫色をおびた黄灰かっ色で，腹部の各環節の後縁は白色。前翅は紫色をおびた灰色で，黄かっ色と赤かっ色の鱗粉が散布する。前翅の前縁に沿って白色の縦条が走り，中央部には黄かっ色の横帯がある。後翅は白色で外縁に向かって多少かっ色をおびる。幼虫はダイズをはじめ各種のマメ科植物の子実を食害する害虫で，青緑色で暗赤色をおび，老熟すると体長15mmに達し，体表には白色毛がまばらにはえる。５～９月にかけて３～４回発生。

しろいるか【白海豚】 哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・イッカク科。一属一種。頭胴長４ｍほどで，雄は雌より大きい。背びれを欠く。体色ははじめ青みがかったねずみ色で，年とともに淡色となり，４～５歳で暗灰色から白色になる。北極周辺に分布し，沿岸や湾の浅海を好み，アラスカのユーコン川やカナダのセントローレンス川などを上る。きびしい寒さの冬には日本やアイルランドあたりまで南下することもある。食物はイカなどの魚類。

しろう【屍蠟】 死体の体内組織が化学変化によってろう状となり，長く生前の容姿をくずさないもの。死体が水中，もしくは多湿な土中に置かれ，しかも空気の流通がほとんどなされないような状態のときに生成される。生成要因については２説がある。その一は脂肪酸の鹼化説(けんかせつ)で，死体内の脂肪がリパーゼなどの酵素によって，まず脂肪酸とグリセリンに加水分解される。この脂肪酸が，腐敗によって生じたアンモニアと結合して水溶性の脂肪酸アンモニアとなり，さらに周囲のカルシウムやマグネシウムなどと反応して，水にとけにくい一種のせっけんとなる。これが屍蠟だとしている。他の一説は，実験的にはカルシウムやマグネシウムを含まない蒸留水の中でも屍蠟が生成されるところから，体内脂肪から脂肪酸がつくられるとき，飽和脂肪酸が増量し，これが，固体化して安定したものが屍蠟だとしている。しかし，死体の置かれた周囲の自然条件のみによって生成される自然屍蠟は，体内脂肪のカルシウムやマグネシウムによる鹼化反応，および不飽和脂肪酸の飽和化が同時になされて生成されると考えるのが自然であろう。

わが国でも，墓地の改葬などの際に，遺骸がミイラ化して発掘される例が多くあるが，そのほとんどはミイラではなく屍蠟で，多くの場合皮膚表面には安定化しない脂肪酸が滲出(しんしゅつ)しつづけてできた灰白色の斑点(はんてん)状の固まりが残されている。最近では，1954年(昭和29)に津軽家の菩提寺(ぼだいじ)報恩寺の墓所から発掘された津軽承祐の屍蠟例もある。➔ミイラ〔佐野文哉〕

じろう【耳漏】 ⇨耳だれ

じろう【痔瘻】 肛門(こうもん)周囲膿瘍*(のうよう)が自壊したあとや，その切開後に治癒

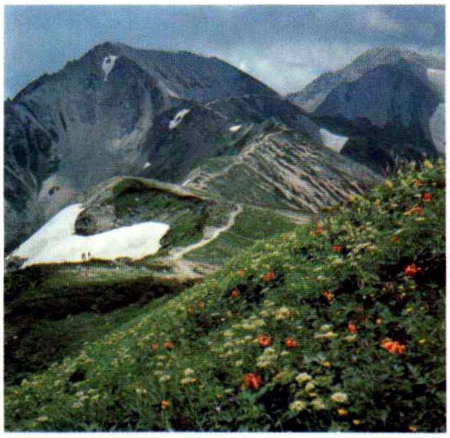
(ちゆ)せずに瘻(組織の管状欠損)として残ることがあり，あるいは肛門周囲に生じた結核性病巣が無症状のまま瘻を生じてくることがある。このような瘻孔を痔瘻といい，いずれも難治である。痔瘻には直腸肛門内腔(ないこう)と直接に交通するもの，筋肉や周囲組織内に盲孔として終わるものなどがあり，ときに多発することがある。痔瘻が難治なことの理由としては，直腸内腔と交通して創内が糞便(ふんべん)で汚染されやすいこと，肛門周囲の結合組織があまり疎でなく移動性に乏しいこと，肛門括約筋が瘻の閉鎖を妨げること，などがあげられている。また，結核性のものも難治である。第2次世界大戦前には痔瘻の50〜70％が結核性であるとされていたが，化学療法*が発達した今日では著しく減少した。治療としては手術が最もよく，化学療法だけで完全になおすことはむずかしい。〔三島好雄〕

しろうお　【白魚】 硬骨魚類・ハゼ科。全長5cmほどに達する海産魚。体は細長く側扁(そくへん)し，他のハゼ科魚類とやや異なり，前背びれ(第1背びれ)がない。うろこはない。生時は半透明であるが，死ぬと白くなる。朝鮮半島南部と本州から九州までの沿岸の浅海に分布し，春に川をさかのぼって下流域の石の下面に産卵する。生きたものをすぐ調理するときわめて美味。なお，シラウオ*はまったく別種の魚である。

しろうたんぼ　【四郎探母】 中国の京劇*の劇目。北宋(ほくそう)の名将楊業(ようぎょう)の一家の事跡を小説化した《楊家将演義》の第41回を戯曲に脚色したもの。楊四郎(楊延輝)は遼(りょう)に捕われたのち鉄鏡公主と結婚したが，母を思い，これを察した公主の力添えで，脱出してひそかに宋の軍営に帰り，母子兄弟が再会する。のち遼にもどりきられそうになったが，また公主に助けられるという筋。

しろうまだけ　【白馬岳】 長野・富山・新潟3県境にそびえる北アルプス北部の主峰。標高2,933m。南に続く杓子岳(しゃくしだけ)(2,800m)・白馬鑓ケ岳(やりがたけ)(2,903m)を合わせて白馬三山という。東の長野県側は姫川の谷に面する急斜面で，西の富山県側は黒部川の谷に面するゆるやかな傾斜である。積雪の多いことで知られ，東斜面の北股(きたまた)上流では大雪渓(せっけい)になる。また高山植物のお花畑は有名。中部山岳国立公園に属し，頂上近くには山荘・ホテルがあり，後立山(うしろたてやま)縦走の玄関にもあたるため，登山者が多い。〔高野　繁〕

しろうまやりおんせん　【白馬鑓温泉】 長野県北安曇(きたあずみ)郡白馬にある温泉。泉温42〜50℃。泉質はイオウ泉で，神経痛・リューマチにきくといわれる。白馬鑓ケ岳山頂の近く標高2,000mの高地にある日本最高所の温泉で，登山者に喜ばれ，近くに大雪渓(せっけい)が見られる。交通は大糸線信濃四谷(しなのよつや)駅からバスの便がある。



白馬岳　雪渓とお花畑の美しい白馬連峰。中央の屋根形の峰は杓子岳，その右遠景が白馬岳。杓子岳の右斜面に白馬縦走路が白く見える

じろうものがたり　【次郎物語】 下村湖人*の長編小説。全5部。1936年(昭和11)大日本連合青年団機関誌《青年》に第1部が連載され，1941年出版。以後続編が執筆され，第5部が1954年に完成したが，第6部執筆前に作者が死亡，未完に終わった。次郎というひとりの少年の成長に仮託した作者の自伝的色彩の濃い作品で，その主題は〈人生の相を，運命・愛・永遠としてとらえ〉たところにある。第1・2部は特に多くの少年読者に迎えられ，別に《少年のための次郎物語》も出版されている。

しろうり　【越瓜】 双子葉植物・ウリ科の一年草。蔓性(つるせい)のもので，カボチャと同じような栽培をする。果実は未熟なうちに収穫し，かすづけなどのつけ物にすることが多い。➔ウリ

しろうんも　【白雲母】 ⇨雲母

しろおびあげは　【白帯揚羽】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ75〜90mm。雄の翅表は黒色で，名のように後翅の中央に黄白色の斑紋(はんもん)からなる帯があり，前翅の外縁にも後方から前方に向かってしだいに小さくなる同色の斑紋列がある。雌には雄と同様のものと，後翅の黄白色帯が後半部のみ現われ，内縁部のそれは暗赤色をおび，また前翅外縁部には黄白色紋がないものの2型がある。この型はアジアの熱帯地方に広く分布する悪臭を放つベニモンアゲハに擬態するといわれる。南西諸島からインドに至るアジアの亜熱帯・熱帯地方に広く分布し，多くの亜種に分けられている。幼虫はミカン類の葉を食べる。冬季の低温期を除き，ほとんど1年じゅう連続的に発生する。〔鈴木邦雄〕

しろおびあわふき　【白帯泡吹虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・アワフキムシ科。体形はセミに似るが小形で，翅端までの体長は9〜12mm。全体暗かっ色であるが，前翅の基部に近く明瞭(めいりょう)な白色帯があり，その両側は濃色で黒かっ色を呈する。日本全土のほか朝鮮に分布する最も普通な種類で，ヤナギその他の広葉樹上に生活する。数種の近似種がある。

しろかき　【代掻き】 田植え*前に水田耕地が均平になるよう，水を引き地ならしをすること。ていねいに行なう場合，荒代(あらしろ)・中代・植え代の3回行なわれる。一般に荒代は4月上中旬，中代は5月中下旬，植え代は田植え直前の6月中旬ごろで，いずれも土を砕きながらならす。

しろぐされびょう　【白腐れ病】 農作物の病気の一。ダイコンの場合は空胴病ともいい，根の中心部が腐敗・空胴化し，悪臭を発し，葉柄もゆでたように軟化腐敗する。病原細菌は土中に永存し，おもに傷口から植物中に侵入する。防除には通風・排水のよい無病地に密植を避けて栽培し，土壌(どじょう)消毒・茎葉への薬剤散布を行なう。キスジノミハムシが加害した傷からも菌が侵入するので害虫の駆除も必要。ヒヤシンスも同じ細菌で発病するが，サツマイモ・ブドウの場合はかびの寄生によって起こる。〔渡辺　実〕

しろこ　【白子】 しらこともよぶ。全身性先天性白皮症の俗称。劣性遺伝をする遺伝病。先天性メラノサイト(メラニンを含む細胞)の異常で，全身的にメラニンが欠乏するために，皮膚の色は白人の皮膚より白く，頭髪までまっ白になる。黒目の部分もウサギの目のように赤く見え，虹彩も光線をさえぎることができず，明るいところではまぶしくて物が見にくい。生まれつき皮膚に白い斑(はん)を生ずる場合，限局性先天性白皮症，あるいは白斑性母斑とよばれる。〔田嶋公子〕

しろさい　【白犀】 哺乳(ほにゅう)類・奇蹄(きてい)目・サイ科。サイ類中最大で，肩高2m，体重4tに達する。クロサイに似ているが，体に楯(たて)状のしわが少ない。2本の角があり，前の角は16cmほど。体は黄かっ色。アフリカのケープコロニーからザンベジに分布したが，現今ではズールランドに少数が生存するだけである。性質は温和で草などを食う。どろ浴びの習性があり，かわいたものは体が白く見える。➔サイ

しろざけ　【白酒】 すりつぶした米を含む白色の酒。昔は日常飲まれていたが，近来はほとんど雛(ひな)祭り用に限られている。しょうちゅう*またはみりん*に蒸したもち米とこうじ*を加え，1か月ぐらい置いたのち，すりつぶしてつくる。アルコール5〜11度(平均8度内外)，糖分26〜40度(平均30度内外)である。

しろさびびょう　【白銹病】 アブラナ・ダイコン・ワサビなどの病気で，葉の裏面に乳白色のふくれた斑点(はんてん)を生じ，のちにその中から白色の粉末(分生胞子)を飛散する。茎・花梗(かこう)・花弁が侵されると肥大してねじ曲がり，奇形を呈する。病原は下等なかびで，分生胞子は水分を得ると遊走子を生じて植物体に侵入する。被害組

織内に卵胞子を形成して越冬する。防除には被害株を除去し，輪作を行なう。

しろすじかみきり 【白条天牛】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。日本に産するカミキリムシのうち最大で，体長40〜54mm。体の地色は黒色で，全体に灰色ないし灰かっ色の短毛が密生する。触角は雄では体長の1.5倍に達し，雌では体長よりもわずかに長い。前胸背板の中央両側にきわめて鋭い棘(きょく)状突起がある。鞘翅の肩部にも短いが鋭い棘状突起がある。また鞘翅の基部には粗大な顆粒(かりゅう)状突起が多数散布する。鞘翅には大小の白色斑紋(はんもん)がある。本州・四国・九州のほか朝鮮・中国に分布する。5〜8月にかけて最も普通に見られるカミキリムシで，幼虫はテッポウムシとよばれ，クリ・クヌギ・カシ・クワ・イチジクなどの幹に穴をあけて材部を食害する害虫。樹幹中で数年過ごしたあと，夏から秋にかけてさなぎとなり，晩秋に羽化して成虫となるがそのまま冬を越して翌年の初夏に脱出する。➜カミキリムシ 〔鈴木邦雄〕

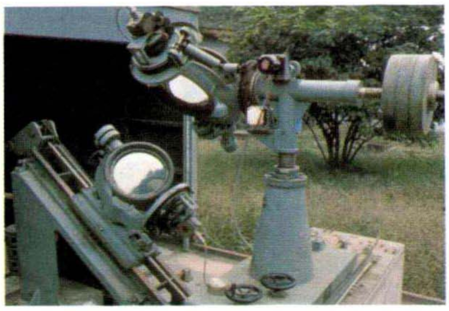
しろすじこがね 【白条金亀子】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体は長楕円(ちょうだえん)形で，体長24〜32mm，体幅13〜16mm。頭部と胸部は黒かっ色，鞘翅は茶かっ色ないし濃赤かっ色で，白色の微毛による各3本の縦条がある。体下面は，胸部に黄色の長毛が密生し，腹部は灰白色の鱗毛(りんもう)でおおわれる。日本全土に分布するが，内陸部にはほとんど見られない。成虫は7〜8月に発生し，燈火にもよく飛来する。 〔鈴木邦雄〕

シーロスタット ［coelostat］ 地軸に平行な回転軸のまわりに，天体の日周運動の半分の速さ（6時間に45°）で平面鏡を回転させる装置。日周運動をする天体の光をつねに一定の方向に導くのに用いられる。普通，固定の望遠鏡と組み合わせて，太陽の観測に利用される。

シロセットかこう 【シロセット加工】 羊毛織物のパーマネントプリーツ加工。オーストラリアの連邦科学産業研究機構の羊毛研究所で開発し，そのかしら文字をとってSIRO-setと命名した。毛織物にチオグリコール酸アンモニウムまたはモノエタノールアミンサルファイトなどをしみこませて蒸熱プレスを施す。プリーツは着用・洗たくなどで伸びたり消えたりしない効果を現わす。

しろそこひ 【白そこひ】 ⇨白内障

しろたえぎく 【白妙菊】 双子葉植物・キク科。地中海地方原産の多年草で，わが国へは明治の末に渡来。葉は根もとより枝分かれし，高さ60〜80mm，羽状に切れ込み，裂片は長楕円(ちょうだえん)形。花は小形の黄色の頭状花。茎や葉の全面に白綿毛が生じて銀白色となり，観賞用に花壇やはち植えにされる。



シーロスタット



シロチドリ 卵を抱くシロチドリ





シロチョウ
(上)ミヤマシロチョウ (下)スジグロチョウ

しろだも 【白だも】 双子葉植物・クスノキ科。シロタブともいう。暖地の林に普通の常緑高木で，高さ10mに達する。葉は革質，長楕円(ちょうだえん)形で，長さ8〜18cm幅4〜7cm，3本の主脈が目だち，葉裏は白色。雌雄異株で，9〜10月，花は葉腋(ようえき)に固まって咲く。雄花にはおしべ8本があり，やくは弁開する。雌花はめしべ1本と退化したおしべよりなる。果実は楕円形で，翌年の秋に赤熟する。

しろちどり 【白千鳥】 鳥類・チドリ科。全長17cm前後のかわいいチドリ。上背面は淡灰かっ色，下面は白色で，飛ぶと幅広い白帯が出る。世界的に広く分布し，おもに海岸にすむ。日本では中下流形態の川原や海岸・干潟(ひがた)などの砂礫地(されきち)で繁殖し，ごく普通に見られる。これに近縁なメダイチドリは春秋に渡来し，やや大きく，両種の冬羽はよく似ている。

しろちょう 【白蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シロチョウ科の総称。翅(はね)を広げた長さは40〜80mmの中形種が多いが，ツマベニチョウのように110mmに達する大形種もある。多くの種は白色であるが，橙(とう)色・黄色・赤色など種々の斑紋(はんもん)のある種類も多い。雌雄で色彩の異なる2型や多型が普通に見られ，また季節的2型も多くの種で見られる。幼虫は多くの種では緑色か青色・黄色などの色彩をもち，ある種では群生する。成虫の飛び方は活発で，特に春秋に個体数が多く，秋に出現した成虫がそのまま越冬する種類が多い。シロチョウ科は比較的大きい群で，全世界から1,000種類以上知られ，特に熱帯・亜熱帯に種類が多い。日本には約20種類が知られる。ミヤマシロチョウ・エゾシロチョウ・モンシロチョウ・スジグロシロチョウ・ヒメシロチョウ・ツマキチョウ・ヤマキチョウ・ツマベニチョウ・キチョウ・モンキチョウなどが代表的な種類である。 〔鈴木邦雄〕

しろちょうがい 【白蝶貝】 軟体動物・二枚貝類・ウグイスガイ科。殻(から)は円盤状で，背縁は直線状。殻長(かくちょう)・殻高とも25cmほど，重量4kgほどになる。殻表と内面の外縁部は黄かっ色で，内面の他の部分は白色である。天然真珠を産し，厚い貝殻がボタン材料やその他の細工物につくられる。奄美(あまみ)諸島以南の太平洋・インド洋水域に広く分布し，20〜40m程度の砂質海底に他物に付着して生活する。ペルシア湾・アラフラ海・ズール海・タヒチなどで盛んに採取され，アラフラ海には日本からも出漁している。

シロッコ ［sirrocco］ 地中海東部の海岸地方で，冬から春にかけて吹く熱風。アフリカ大陸のサハラ砂漠(さばく)に発源するものとアラビア半島に発源するものとがある。地中海を吹走する間に湿潤となり，上陸すると雨を降らせることもある。この風は地中海上を低気圧が東進するときに発達する。シロッコとはイタリアでの名称で，スペインではレベチェ，シリアやサウジアラビアではソムームとよんでいる。

シロップ ［syrup］ 砂糖をとかした糖液や砂糖みつ，またこれらにフルーツやコーヒー・フレバー・着色料を添加したもの。前者で純粋な砂糖を溶解した液は，薬局法で単舎利別という。後者は人工着色料や香料を添加してかき氷などに用い，またこれに天然果汁(かじゅう)を35〜40%添加して果汁入り濃厚シロップにしたり，薄めてジュースとする。

シロップざい 【シロップ剤】 砂糖の濃厚溶液に防腐性があることから，これを医薬品の調整に応用した内服用液剤。本来は，植物の浸出液を医薬にする際，腐敗・発酵・分解などの変化が生じやすいため，これに白糖溶液（単シロップ）を加えて変化を防止

し，甘味も加えて飲みやすくした植物性医薬品の液剤であった。これは，さらに内用液剤の臭気を除く目的としても使用されていた。現在ではこの種の製剤は少なくなり，医薬品を甘味剤(サッカリンなど)・芳香剤・着色剤・保存剤とともに水にとかすか，または懸濁した合成シロップ剤が多くなっている。最近では，用時に水にとかしシロップ剤とするドライシロップ(粉末シロップ)も登場してきたが，これらもまた広義のシロップ剤と解すべきである。〔江本龍雄〕

しろつめくさ【白詰草】⇨クローバー

ジロドゥー［Jean Giraudoux］(1882～1944) フランスの劇作家・小説家。外交官生活を続けながら文筆活動を行なった。はじめ《シュザンヌと太平洋》など詩的な小説を書いたが，独仏関係を扱った処女戯曲《ジークフリート》の成功以来，演出家ジュ*ーベとのコンビで，次々と叙情性と想像力に富んだ戯曲を発表。《アンフィトリオン38》《トロイ戦争は起こらないだろう》《オンディーヌ》などの代表作がある。暗喩(あんゆ)に富む華麗な文体と豊かな詩的イメージとで，人間の愛の美しさをうたいあげ，独自な反リアリズムの演劇世界を創出，フランス演劇に〈ジロドゥー時代〉とよばれる一時期を画した。〔神保 剛〕

しろながすくじら【白長須鯨】哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・ナガスクジラ科。これまでに地球上に存在した動物中最大の哺乳類で，頭胴長は30m，体重112.5tに達する。体は灰青色で腹部には淡色ないし白色の縦じまがある。ふつう1～2頭で，北太平洋・北大西洋・南氷洋などに見られる。南北に回遊し，オキアミ類を主食とする。近来，生息数が減り国際捕鯨条約により捕獲禁止となっている。➔クジラ

しろなまこ【白海鼠】棘皮(きょくひ)動物・ナマコ類・イモナマコ科。体は紡錘形で，後方に向かって長く尾状に伸び，体長10cm内外，赤みがかった白色で半透明。触手は15本。浅い海の砂底に住み，肛門(こうもん)を上に，体をななめに砂中に横たえている。砂を飲み込んで，中の有機物を摂取し，残りの砂は肛門から排出するので，口のあるところの上の砂はくぼみ，肛門の部分は排出した砂で5cmほど盛り上がる。北海道銭函(ぜにばこ)・青森県浅虫・佐渡島真野湾や黄海沿岸の煙台(チーフー)などで知られている。〔菅野 徹〕

しろなまず【白癜】尋常性白斑(はくはん)の俗称。白癜風(はくでんぷう)ともいう。後天的に豆粒大から手のひら大の白い斑が皮膚に生ずる病気。白斑は皮膚のメラニ*ン生産が局所的に停止するために起こる。毛のメラニンをつくる細胞の機能が冒されると白髪になる。この病気に冒された部分は皮膚の色がだんだんと薄くなり，ついには境界の鮮明なまっ白な斑となる。原因は自律神経障害説などがあるが不明。治療法としては



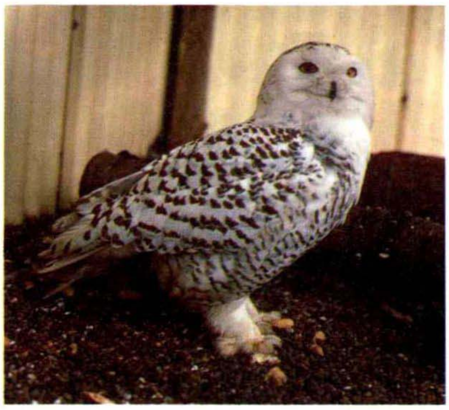
ジロドゥー



シロハラ



シロヒトリ



シロフクロウ

オキシソラーレンを内服または外用したのち，日光浴を行なう方法が最もしばしば行なわれる。〔田嶋公子〕

シローニ［Mario Sironi］(1885～1961) イタリアの画家。はじめ未来*派の前衛運動に加わったが，第1次世界大戦後に〈ノベチェント〉(1900年代派)を結成，写実に帰って非情な都市風景や人間の不滅の悲劇を詩情ある目で描き出した。後期の作品には装飾的要素が強まったが，今世紀前半のイタリア-リアリズムの代表的画家として記憶される。

しろね【白根(市)】新潟県の中部の市。1959年(昭和34)市制施行。人口34,000。市域は新潟平野のほぼ中央部，信濃(しなの)川とその分流中之口川にはさまれた沖積地(ちゅうせきち)上にある。産業三大別人口比は35:29:36。県下一の越後米(えちごまい)の主産地で，排水事業を中心に土地改良が進み，野菜類やナシ・ブドウ・モモなどの果樹栽培も盛んである。仏壇・電線・ヒューム管・プラスチック製品などの工場もある。新潟交通の電車で新潟市・燕(つばめ)市と結ばれ，国道8号線が通じる。中之口川の堤防上で行なわれる凧合戦(たこがっせん)(6月5～11日)は約300年の伝統をもつ行事で，白根市側と西岸の西蒲原(にしかんばら)郡味方村側が対抗して約500枚の大凧を揚げる風景は壮観である。

シローネ［Ignazio Silone］(1900～1978) イタリアの文学者。1921年，イタリア共産党結成に参加，反ファシズム地下運動に加わり，亡命してヨーロッパ大陸の各地を転々，1930年以降はスイスで文学活動を続けた。処女作《フォンタマーラ》でファシスト党独裁の暴虐な実態をあばき，一躍名声を博した。敗戦後帰国し，1941年以降社会党幹部をつとめるかたわら文学活動を続けている。

しろはら【白腹】鳥類・ヒタキ科。全長24cmほどで，ツグミと同大。ウスリー川流域地方や中国東北部などで繁殖し，冬鳥として本州以南の各地で多数が越冬する。全体に淡灰かっ色，腹部は白色のじみな羽色で，ツグミ類の一種。

しろひとり【白灯蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヒトリガ科。体長25～28mm，翅(はね)を広げた長さ70～80mm。体・翅ともに純白色で，腹部の背面と側面に黒色の点列があり，また側面に赤色の顕著な斑紋(はんもん)列がある。複眼は大きく，口器は退化している。日本全土のほか朝鮮・中国・シベリア地方などに広く分布する。成虫は7～9月に出現し，特に8月に個体数が多い。幼虫はオオバコやタンポポなど雑草の葉を食う。

シロフォン ⇨木琴

しろふくろう【白梟】鳥類・フクロウ科。翼開長1m以上になる白色大形のフクロウ。白地に細かい灰かっ色のまだらがあり，若鳥ほど多い。広く周極地帯に分布し，ツンドラのこけむした小高いところの地上に産卵する。若鳥は冬期に南方へ移動することがあり，まれにわが国にも渡来する。

しろへび【白蛇】全身白色のヘビの総称。突然変*異で出現する。劣性遺伝子に支配されるヘビの白化型(アルビノ)である。山口県岩国のアオダイショウの白化型は世界的に有名で，天然記念物として保護されている。

しろまだら【白斑】爬虫(はちゅう)類・ナミヘビ科。小形のマダラヘビの一種。本州・四国・九州に分布する。体長60～70cm，体

は灰かっ色で，胴に40個くらい，尾に20個くらいの黒かっ色の横帯がある。個体数が少なく夜行性なので，あまり人の目に触れない。おもにトカゲ類を捕食する。卵生。

しろやま 【城山】 鹿児島市の中心街の背後にあるシラス台地の末端で，標高107mの山。公園になっており，展望台から眼下の市街地と錦江湾(きんこうわん)を隔てての桜島の眺望(ちょうぼう)は絶佳である。ふもとには鶴丸城(つるまるじょう)跡や照国神社・鹿児島大学などがあり，北側には西南の役における西郷隆盛(たかもり)戦死の地などの史跡がある。

しろやまぶき 【白山吹】 双子葉植物・バラ科。庭木として用いられる落葉低木で，高さ1.5～2mに達する。葉は対生し，卵形で先がとがり，長さ4～8cm，幅2～5cm，縁には鋭い重鋸歯(じゅうきょし)があり，葉身には著しくしわが寄る。4～6月，1年めの枝先に直径3～4cmの白色の四弁花を1個ずつつける。果実は8～11月に黒熟する。

ジロンドとう 【ジロンド党】 フランス革命中ジロンド県出身議員が中心となって形成された温和な共和派の政党。はじめジャコバン-クラブ(憲法の友の会)に属していたが，ブルジョアジーの利益を代表する彼らは，革命の進展とともに，サン-キュロット*を背景とする急進派との対立をはじめ，1792年4月対オーストリア宣戦を契機に分裂してジロンド党を結成した。当時政権はジロンド党の手にあったが，革命の激化とともにジャコバン党*が強くなり，一方経済危機と対外危機を解決できなかったジロンド党は退潮して，1793年5～6月パリ市民の反乱を前に国民公会の支配権を失った。ジャコバン派独裁下に反革命運動を起こしたが成功せず，恐怖政治の圧力により政党としての機能を失い解体した。

〔大野慎一郎〕

じわいこうか【磁歪効果】⇒磁気ひずみ

じわいしんどうし 【磁歪振動子】 鉄やニッケルのような強磁性体*は，その中を通る磁束*密度が変化すると，磁束密度の方向の応力に変化を生ずる。これをジュール効果*という。これと逆に，強磁性体が一つの方向に伸びてひずみを生ずると，その方向に起磁力を生ずる。これをビラリ効果という。この両効果を利用して，電気音響変換素子または電気機械変換素子を構成したものを磁歪振動子とよび，主として10～50キロヘルツの水中音響用送受波器に利用されている。〔伊藤　毅〕

しわくしょとう 【塩飽諸島】 瀬戸内海東部，岡山県と香川県の間に散在する大小30余の島々で，香川県と岡山県に属している。〈しあく〉ともよび，〈塩焼く〉に由来するといわれる。岡山県に属する北木島(笠岡(かさおか)市)，香川県に属する与島・櫃石(ひついし)島(ともに坂出(さかいで)市)・本島・広島・手島・牛島(以上丸亀(まるがめ)市)・高見島・佐柳(さなぎ)島(ともに多度津町)・粟(あわ)島・志々島(ともに詫間(たくま)町)などが大きく，このうち与島から高見島までを塩飽七島という。最大は広島(面積11.9km²)である。ほとんどがカコウ岩からなる山がちの島で，住民は畑作農業や沿岸漁業に従い，またカコウ岩の採掘もしている。また，住民は古くから航海術に長じ，海賊・水軍として活躍し，海運業が盛んであった。白砂青松の海岸の美がすぐれ，瀬戸内海国立公園の一中心で，福山・笠岡と多度津の間を往復する三洋汽船をはじめ，各島に寄港する定期船が多い。与島や粟島からは縄文(じょうもん)式や弥生(やよい)式の土器が発見されている。

〔浅井得一〕

しわけちょう 【仕訳帳】 すべての取引を発生順序に従って，どの勘定科目が適当であるか，勘定口座の借方・貸方のどちらの側に，いくらずつの金額を記入すべきかを決定することを仕訳といい，仕訳を記入する帳簿を仕訳帳という。必要があれば取引の内容・条件を記載するなど，取引の簡単な説明も付記できるので営業日誌としての役割も果たす。しかし，これの作成には技術と労力とを要するのでわが国の実務界では，その代わりに仕訳伝票が広く利用されているのが実情である　〔山桝忠恕〕

じわりせいど 【地割制度】 江戸時代に村落で慣行された土地割替制度。村内の土地を一定面積に分割して村民に割り当て，一定の年限がくるごとに全部の割り替えをし，土地条件による貢租負担の不均等を平均化することを目的とした。加賀・壱岐(いき)・平戸などのように藩の制度として施行される場合と，村落内の農民の合意によって慣行される場合とがあった。明治の新法制でほとんど消滅した。

しん 【新】 ⇒王莽(おうもう)

しん 【晋】

1 中国，周代の姫(き)姓の諸侯国。周初に王族の唐叔虞(とうしゅくぐ)が山西省の汾水(ふんすい)流域に封ぜられた。春秋時代初めの献公と，その死後の混乱をのり切った文公のとき，一連の改革を断行して国力を充実させ，中原に覇権(はけん)を確立して南方の楚(そ)と対抗した。やがて国内の大臣たちの力が強くなり，BC453年趙(ちょう)・魏(ぎ)・韓(かん)の3氏が晋を3分してそれぞれ国を建て，BC376年にはわずかに残った土地も3氏に奪われ，晋は完全に滅んだ。〔小南一郎〕

2 中国の王朝。帝室は河内温県(河南省温県)出身の司馬氏。洛陽(らくよう)を首都として全中国をしばらく統一した西晋(265～316)と，首都を建康(南京(ナンキン))に移して淮水(わいすい)以南だけを保った東晋(317～420)との二つの時期からなる。西晋の初代皇帝は司馬炎*(武帝)であるが，王朝の基礎を固めたのはその祖父司馬懿*(しばい)と伯父(おじ)司馬師および父の司馬昭であり，魏王朝の軍権を掌握して263年には蜀(しょく)を滅ぼし，魏の実権は司馬氏の手に帰した。武帝は魏から禅譲を受けて晋の帝位についたのち，280年に呉を滅ぼして天下を統一したが，やがて王族相互の争いが八王の乱*に発展し，その混乱に乗じて異民族の蜂起(ほうき)と南下が始まって，西晋王朝は滅びた。そのころ江南にいた王族の司馬睿(しばえい)(元帝)は晋の帝位を継ぎ，華北から避難してきた貴族たちを糾合して東晋政権を建て，北方異民族の南下を防ぎながら約1世紀間，江南に文化の花を咲かせた。〔川勝義雄〕

3(唐末・李克用(りこくよう)) ➔後唐

4(五代十国) ➔後晋

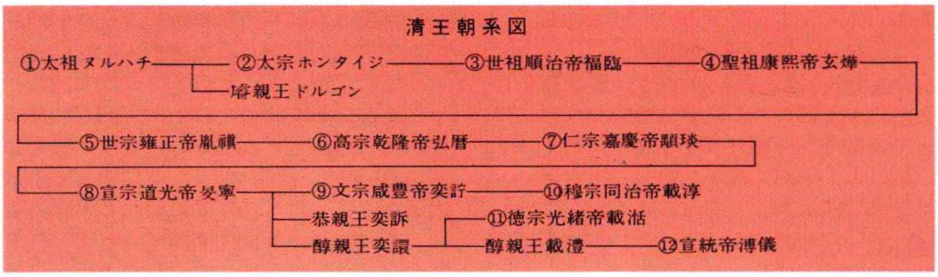
しん 【秦】

1 中国の春秋戦国時代の諸侯国。のち天下を統一した。西周の孝王のとき，秦(甘粛省)に小国を建てたのがはじまりである。西周末の混乱の中で王室を助け，周の故地(陝西(せんせい)省一帯)の統治をゆだねられ，諸侯として認められた。これよりしだいに東に進出し，都も平陽，雍(よう)(ともに鳳翔(ほうしょう)県付近)と東遷した。穆公(ぼくこう)は西戎(せいじゅう)の覇者(はしゃ)として西方から中原の諸国に対抗するまでに勢力を伸ばした。戦国時代には七雄の一つに数えられ，特に孝公が商鞅*(しょうおう)を用いて富国強兵策を断行してから国力は強大になり，BC350年には都を咸陽(かんよう)(陝西省西安)に移して，東方の六国を圧倒する強国に成長した。始皇帝のとき，ついに六国を合わせ，中国最初の統一国家をつくった(BC221)。始皇帝は，君主権の強化，中央集権制の確立に努めたが，死後各地に反乱が起こり，秦帝国は3世16年で滅亡。始皇帝の意図は漢王朝のもとで実を結ぶことになる。〔小南一郎〕

2(五胡(ごこ)十六国) ➔前秦 ➔後秦 ➔西秦

しん 【清】 明朝(みんちょう)のあとに中国を支配した満州族の征服王朝(1616～1912)。建州女真の首長ヌルハチ*(太祖)は，1616年女真族を統合して後金国を建て，1619年サルホの戦い*で明軍を破り，満州における統一政権を樹立した。第2代ホンタイジ(太宗)は1636年に国号を清と改め，内モンゴル・朝鮮を勢力範囲に収めた。第3代順治帝(世祖)の摂政ドルゴンは，1644年流賊の李自成*(りじせい)が明を滅ぼしたのを機に，明将の呉三桂*(ごさんけい)の先導で華北にはいって北京(ペキン)を占領した。同年，清は李自成を滅ぼし，北京に遷都し，やがて明の皇族や遺臣の反抗を鎮圧して漢民族の支配者となった。清朝初期には，八旗制を基幹とする少数の満州族が服従したモンゴル人・漢人を八旗に編成し，その軍事力を利用した。全中国を支配するようになって以後は，圧倒的多数の漢人を支配する方法として儒教理念に基づく伝統的官僚制度を採用し，満漢協力の中国統治方式をうち立てた。すなわち官学には朱子学*を採用し，大規模な編纂(へんさん)事業を実施して読書人を考証学*に没頭させ，漢人の反満感情を抑圧した。ま

た，漢人に弁髪・胡服(こふく)を強制し，文字の獄・禁書などの思想統制を強行する一方，満人には国語・国俗の保持を奨励してその国粋化に努めた。清の最盛期である康熙(こうき)・雍正(ようせい)・乾隆(けんりゅう)の諸帝はその卓越した政治力によって独裁権を確立したが，中でも雍正帝は独裁君主体制を確立するため軍機処の設置と地方文武官と皇帝を直結する奏摺(そうしょう)政治を実施した。さらに地丁銀，耗羨帰公(こうえんきこう)，養廉銀制，塩課の増収，関税の実徴などを断行し，国家・地方財政の安定を図った。乾隆帝はこの豊かな財政を背景にジュンガルを平定して新疆(しんきょう)を開き，安南・シャム・ビルマ・グルカを服属させ，モンゴル帝国に次ぐ大帝国を建設した。乾隆の末から第7代嘉慶(かけい)期になると，軍事費の膨張，黄河の氾濫(はんらん)続発などのため財政が赤字となり，官吏の腐敗と農民の重税などが原因で白蓮教(びゃくれんきょう)の乱が起こった。一方，征服王朝の支柱であった満州八旗の窮乏化が進み，軍事力の低下を招いた。第8代道光期になると，イギリスからのあへん輸入の増加によって銀の流出が激しくなり，経済界は混乱に陥った。清朝はこの危機をあへん輸入の厳禁で回避しようとしたが，阿片(あへん)戦争に敗れ，南京(ナンキン)条約締結によって，外国資本主義の侵入を受ける端緒を開いた。第9代の咸豊(かんぽう)期には，内外の圧迫による民の貧窮化を背景に，太平天国の乱が勃発(ぼっぱつ)した。その鎮圧後，同治期に洋務派官僚による同治中興が行なわれた。彼らの建設した北洋艦隊が日清戦争に敗れると，第11代光緒帝(こうちょてい)は康有為らの意見を入れて変法を実施しようとした。だが西太后ら保守派に反対され，戊戌(ぼじゅつ)の政変によって失敗した。一方，外国帝国主義の中国利権争奪が激化し，それに抵抗して起こった義和団の乱も外国軍のために鎮圧されると，ようやく清朝保守派も改革の必要性を悟り，憲法制定の準備にかかった。しかし，すでに手遅れで，1911年に辛亥(しんがい)革命が起こり，孫文ら革命派の運動によって清朝は滅亡した。〔大谷敏夫〕



清

じん 【仁】 細胞の静止核中に1～数個見られる屈光性の強い球形の小体で，リボ核酸とタンパク質からなる。核小体・真正仁ともいい，酸性色素に染まり，フォイルゲン染色では染まらない。細胞内での役割はまだ十分には判明してないが，タンパク質合成に関与しているとも考えられている。核分裂の前期の終わりに見えなくなるが，仁物質が各染色体に分散するともいわれる。分裂の終期になると，特定の仁染色体の仁形成部に再び現われる。このほか染色仁(クロモセンター)とよばれるものがあるが，染色体の一部が異常凝縮したもので，フォイルゲン染色で染まる部分である。〔高島文三〕

ジン ［gin］ アルコールにネズの実の香をつけた無色透明な蒸留酒。オランダで創製された。ライムギ・トウモロコシなどを大麦の麦芽で糖化して発酵・蒸留させたもので，アルコールは40度以上。辛口のドライジンと，糖分を加えた甘口のトムジンの2種があり，前者の代表であるロンドンドライジンは，ネズの香も少なく，最も好まれている。そのまま飲むほか，カクテルのベースとして重要な役目を果たす。

しんあんとっきょ 【新案特許】 ⇨実用新案法

じんいせんたく 【人為選択】 家畜や栽培植物で人間にとってより好ましい形質をもった個体を次代の親として選ぶこと。歴史はきわめて古く，家禽(かきん)や栽培植物などのほとんどが，人為選択によってつくられたものである。人為選択を行なう場合には，環境状態はほぼ一定で個体間の競争もほとんど除かれており，自然選択に比べて選抜の効果は大きく早い。また人為選択によって選ばれる個体は，形態または生理上極端なものであるから，それらは自然選択の標準では劣悪者であり，その多くは奇型や病的なもので，生活力・生殖力ともに劣るものが多い。〔北川 修〕

じんいとつぜんへんい 【人為突然変異】 遺伝子の性質を人工的な処理によって変えること。1927年マラーがショウジョウバエにX線を照射し，自然に起きる数百倍の高率で突然変異を起こすことに成功したのが最初で，この功績によって1946年ノーベル賞を与えられた。その後の研究によっていろいろな種類の放射線・紫外線・化学物質によっても突然変異が誘発されることが明らかとなった。バクテリアを使った実験結果からは，遺伝子を構成するDNA分子中のチミンが，近くにある他のチミン分子と結合してダイマー(2量体)をつくり，従来とは異なった情報をもつDNAができあがることによって突然変異が成立すると考えられている。〔北川 修〕

しんいんしょうは 【新印象派】 ⇨印象派

じんう 【腎盂】 全腎杯が癒合(ゆごう)し漏斗状の膨大部となったもの。腎杯とともに腎洞(じんどう)内にあって，尿排出道の初部を形成し，尿を尿管へ送る道をつかさどる。第1腰椎(ようつい)突起と第2腰椎突起の中間に位置し，正中線より両側とも約5cm離れており，左側は右側に比べてやや高い。組織的には移行上皮粘膜でおおわれ，粘膜結合組織中には平滑筋があり，散在性に管状粘液腺(ねんえきせん)すなわち腎盂腺がある。また輪状平滑筋のみならず，縦走筋をもち尿管の内縦層筋に移行する。〔藤井和明〕

じんうえん 【腎盂炎】 腎盂腎炎ともいう。腎臓の実質と腎盂がともに冒される化膿(かのう)性疾患。病原菌は大腸菌・ブドウ状球菌・チフス菌などが主であるが，血行性・リンパ行性感染また上行性に尿管腔(にょうかんこう)を通じての直接感染も多い。症状としては突然高熱を発し，悪寒(おかん)戦慄(せんりつ)を伴い，白血球の増多が認められ，腎部に筋性防衛および圧痛を触知する。上行性感染である場合は必ず膿尿および尿中細菌などの尿路の異常所見が認められる。レントゲン所見では腎杯部のくずれがやや著明であるが，腎盂全体の位置は正常である。抗生物質などの化学薬剤による治療が有効であるが，本症をくり返す場合には尿路のどこかに尿流を妨げる原因があることが多いので注意を要する。〔藤井和明〕

しんうすゆきものがたり 【新薄雪物語】 人形浄瑠璃(じょうるり)または歌舞伎(かぶき)の曲名。三段の時代物で，文耕堂らの合作。1741年(寛保1)，大阪竹本座で，人形浄瑠璃として初演。仮名草子の《薄雪物語》に材をとって，薄雪姫と園部左衛門(そのべさえもん)の恋愛に，刀鍛冶(かたなかじ)の正宗(まさむね)・国俊(くにとし)親子の物語をからませて脚色したもの。丸本歌舞伎としては思いきった歌舞伎化がされており，見せ場も多い。

しんえいたい 【親衛隊】 ⇨近衛兵(このえへい)

しんえつほんせん 【信越本線】 高崎線高崎から長野経由で新潟に至る国鉄路線。営業キロ数327.1で，他に貨物支線20.8kmがある。1885年(明治18)に高崎～横川間が最初に開通し，1904年に現在の全区間が開業した。本州中央部横断鉄道の一つで，また裏日本縦貫鉄道の一部を形成する。わが国最初の山岳幹線鉄道で，国鉄線中最大の勾配(こうばい)(66.7‰)である横川～軽井沢間には1963年(昭和38)までわが国ただ一つのアプト式が採用され，またはじめて電気機関車が営業用に使用された。現在全線が電化され，新たに粘着運転によりアプト式は廃止になった。沿線には軽井沢・小諸(こもろ)・上田・長野・直江津・長岡などの諸都市が

ある。　〔青木栄一〕

しんおう【震央】⇨地震

しんおん【心音】前胸壁に聴診器か耳をあてると聞こえる心臓の搏動(はくどう)に伴う二つの音。心臓の収縮と同時に始まる低い鈍いあとを引く音がいわゆる第1音で，おもに収縮に基づく筋音である。次に高く鋭い短い音が聞こえるが，これが第2音で，半月弁の振動に基づくとされている。人によっては第2音のあとにやわらかい音が聞こえ，これを第3音という。心音をマイクロホン・増幅器によって電気的に記録したものが心音図である。聴診を視覚化することにより，心音の時間的推移を知ることができ，また疾患に特有な心雑音を記録することができるので心臓弁膜症や先天的心疾患の発見に有効である。　〔平野修助〕

しんか【進化】⇨212ページ

シンガー［Isaac Meritt Singer］(1811〜1875)　アメリカの発明家。世界最大のミシン製造会社であるシンガーの創設者。若いころ，北部の工業地帯を放浪して歩き，各種の機械工場を転々としたのち，ボストンで工業用ミシンの修理工として勤務。この間に家庭用ミシンの製作を思いたち，1851年はじめて実用ミシンの製作に成功し特許を得，シンガー社*を創立し製品販売を始めた。さらに機械改良を進め，また，互換生産方式を採用して大量生産に成功した。月賦販売・下取り制度・直営販売網を設けるなど，次々と新しい販売方法を考案して積極的な販売政策を推し進め，業界の指導的地位に立った。　〔片山一郎〕

シンガー［The Singer Co.］シンガー*のつくった世界的に有名なアメリカのミシン会社。家庭用ミシンのほか編み機・織り機，さらに家庭用電気機器・事務用機器や電子機器もつくっている。国外市場での家庭用ミシンの売上高は国内のそれの2倍に達し，世界のミシン市場の38%を占有している。特にヨーロッパでの売り上げが多い。研究部門も活発ですぐれたコンピューターデータ処理装置を発表している。日本ではパインミシン製造(株)の名まえで，資本と技術を導入してミシンの生産を行ない，販売は在日事務所が受け持っている。シルバー編機(株)とも技術・販売を提携。本社ニューヨーク。年間売上高21億3,000万ドル，従業員数13万3,000(1970)。　〔氏家　尚〕

しんかい【秦檜】(1090〜1155)　中国，南宋(なんそう)の宰相。字(あざな)は会之(かいし)。北宋末の徽宗(きそう)時代に進士に合格。北宋最後の欽宗(きんそう)皇帝のときに御史中丞(ぎょしちゅうじょう)。金が北宋を倒し傀儡(かいらい)政権を建てようとしたのに反対して捕えられ，皇帝とともに北方へ送られたが1130年帰国。唯一の金国通として南宋の高宗に信任され，19年間宰相の地位にあって和平論を唱え，一方では国境の軍閥をおさえ，他方名分論を唱える官僚を圧迫し，金との講和を結んだ。軍閥のひとり岳飛*を獄死させたので，民族の英雄と尊崇される岳飛に対し，姦臣(かんしん)の代表にされた。　〔衣川　強〕

しんがいかくめい【辛亥革命】1911年(辛亥)10月10日の武昌(ぶしょう)新軍の蜂起(ほうき)に始まり，清朝(しんちょう)を打倒して中華民国を樹立した，12年間にわたる中国の革命。人民闘争の革命的高揚にささえられて，革命派は武昌蜂起後約2か月のあいだに約3分の2の省の独立を達成し，翌1912年1月1日には孫文*を臨時大総統とする中華民国臨時政府を南京(ナンキン)に樹立して，2月12日清帝を退位させた。しかしその後，北洋軍閥*の頭目袁世凱*(えんせいがい)に政権を移譲したため，共和国は軍閥支配下に置かれることとなった。また，この革命は民国革命・第一革命(反袁闘争である第二・第三革命に対して)ともいわれている。　〔狭間直樹〕

しんかいぎょ【深海魚】⇨深海生物

じんかいしゅう【塵芥集】陸奥(むつ)(宮城県)伊達(だて)氏の分国法*。1536年(天文5)伊達稙宗(たねむね)が制定。170条からなる分国法中最大のものである。陸奥という特殊性も考慮されていて，伊達氏の領国支配の研究には欠かせない史料である。《史籍集覧》《大日本古文書*》《中世法制史料集》に収められている。

じんかいしょり【塵芥処理】ごみ(廃棄物)の収集から運搬・処理・処分までの一連の処置。最終処分だけをさすこともある。ごみは，雑芥と厨芥(ちゅうかい)に大別でき，ほかに近年増加した電気機器類や家具などの大形ごみ(粗大ごみ)もある。これらはふつう収集車で集めて，焼却されるか埋め立てられ，焼却後の残灰も埋め立てられる。焼却法はごみを完全に燃焼でき，衛生的なうえに余熱利用の効用も多いことから理想的とされる。しかし，埋め立て法はごみを海面や低湿地へそのまま埋め立てるため，衛生面からも土地の有効性からも難点が多い。このほか，一定量のごみを機械で圧縮したり，大形ごみを破砕したりして埋め立てる方法も研究されている。現在日本で出るごみ(一般廃棄物)は1日70,000〜80,000tと推定され，〈地方自治法〉によって市町村が処理義務を負っている。これに企業が排出する産業廃棄物を加えると，1日100万tともいわれる。近年著しく増加したプラスチックなど高分子*化合物のごみは，高温燃焼して焼却炉を早く損耗させ，ガスを発生するほか，埋め立てても変質せず，自然に還元しないので，新しい処理法の実現が望まれる。さらに輸送面では，交通の渋滞が収集や処分地への迅速な運搬を妨げている。塵芥処理はもはや一都市の問題ではなく，国全体で再検討すべき困難な課題となっている。　〔郡　一〕

しんかいせいぶつ【深海生物】ほぼ500m以上の深海に生息する生物をいう。海で光合成植物が育つ限界はほぼ100mであり，深海生物はすべて動物である。深海生物のすむ環境は，光がほとんど届かず，水温は1〜7℃の低温で，変化は少なく，水深が10m増すごとに1気圧の圧力が加わるので，水深1,000mでは約100気圧という高圧下にあり，その環境は地球上の他の部分とは著しく異なる。光合成植物がいないので，海の表層から沈下する有機物がすべての深海生物の食物のもとになっている。これらの条件に応ずるために，深海動物には，目が極端に大きくなっているもの，逆に極端に退化しているもの，みずから発光するものなどがあり，一般に口や歯が大きいものが多く，また激しい水流のない環境を反映して柔軟な体のものが多い。深海底には翼足類やグロビゲリナ・ケイ藻(そう)・放散虫などが沈下して，軟泥(なんでい)の堆積(たいせき)をなしており，ウミユリ類・ナマコ類・クモヒトデ類などの棘皮(きょくひ)動物，脚の長い甲殻(こうかく)類，長い柄をもった腔腸(こうちょう)動物，海綿動物などが生息する。深海の中層は食物の密度が小さいため摂食の機会が少なく，発見したえさを確実に捕えて食べるために，異常に大きな口や胃袋のあるもの，大きく鋭い歯を備えるものなどが多い。深海生物の調査はまだ十分には行なわれておらず，今後種類数がふえると思われるが，現在までに知られる著名なものには，カイロウドウケツ・ホッスガイなどのガラス海綿類，生きた化石といわれるオキナエビス類，みずから発光するハダカイワシ類・ホウネンエソ類，自分の体より大きなえさを食べるキアスモドン・チョウチンアンコウ類，巨大な口で知られるサッコファリンクスやユーリファリンクス，奇妙な口をもつシギウナギ，深海底に長く伸びた腹びれと尾びれの下葉をささえとして立つ三脚魚(ベントザウルス)などがある。深海魚はソ連の調査船ビチャージ号の記録では深さ7,579mが限度であるが，さらに深いところから発見される見込みは大きく，魚類以外の動物は深さ10,000mのところからも採集されている。　〔菅野　徹〕

しんかいせん【伸開線】一端を固定して糸を円に巻きつけておき，糸の他端を引っ張りながらもどしていくとき，その端が描く曲線をこの円の伸開線(インボリュート)という。円の代わりに一般の曲線を採用するとき，その曲線の伸開線ができる。また，伸開線をつくるもとになった曲線を，その伸開線に対して縮閉線(エボリュート)という。上の例からもわかるように，伸開線はもとの曲線のすべての接線に垂直であり，逆に，縮閉線はもとの曲線のすべての法線に接する。同一の曲線からつくられる伸開線は無数にあるが，もとの曲線の接線が2個の伸開線によって切り取られる長さは一定である。　〔菊池兵一〕

しんかいたけたろう【新海竹太郎】(1868〜1927)　彫刻家。山形県の生まれ。小倉

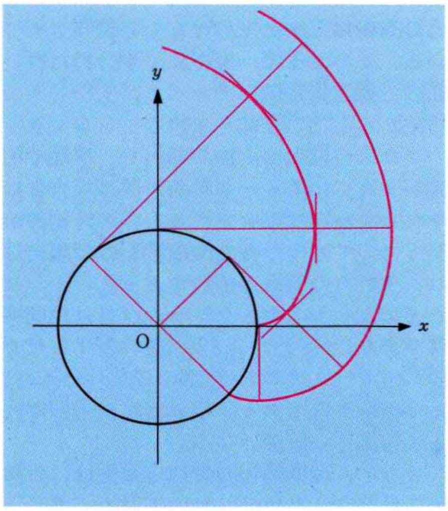
惣次郎(そうじろう)に洋風彫塑を学び，1898年(明治31)日本美術院創立のとき彫刻部正員となった。1900～1902年ドイツに留学，官学派の作風を学んで帰国し，太平洋画会彫刻部を指導し，文展審査員・帝室技芸員・帝国美術院会員を歴任した。代表作に《ゆあみ》《大山公騎馬像》などがある。

しんかがくたいわ 【新科学対話】 ガリレイ*の晩年の著書で，正しくは《力学と地上運動に関する二つの新科学についての対話と数学的証明》という。異端審問で有罪判決を受け，フィレンツェ郊外に軟禁されている間に書いたもので，1636年完成，1638年にライデンのエルゼビル書店から刊行された。3人の対話形式で書かれ，材料と構造，音，振り子，てこの原理，自由落下と放物体，ユークリッドの理論，物体の衝突などの問題について討論している。特に重要なのは物体の運動の議論で，ガリレイはここで古いアリストテレスの教義を排し，等速度運動はほかから力を加えられなくても持続することを主張して，慣性の原理を立てている。また，ここには数学的な方法が確立されているとともに，実験に基づいて自然に迫るという近代科学の方法が平明に述べられている。〔藤村　淳〕

しんがく 【神学】 〈テオロギア(神学)〉という語はキリスト教の出現以前，すでにプラトン・アリストテレスの中にあり，それは〈神々や神事に関して語られることば〉の意味であった。キリスト教固有の意味で，〈神,および神とこの世の関係に関する学問〉としての神学が成立したのはアウグスチヌス*以後である。哲学も神とこの世とか，永遠と時間というような問題を取り扱うが，神学と哲学の根本的な違いは，神学が神の啓示*から出発し，啓示によって神を理解し，この世と人間との意味をも発見するとするのに対して，哲学が理性から出発し，理性によって神をもこの世をも理解しようとする点にある。〈神学は真理を所有し,哲学は真理を探究する〉といわれるゆえんである。しかし神の啓示が人間に理解され，また，神学が学問として成立するためには，その神の啓示は人間の理性によって把握(はあく)されなければならない。このような，神の啓示を人間の理性によって把握しようとする啓示と理性の相克が神学という学問の根本的な性格であり，人間の理性に最終的基礎を置く他の学問との著しい相違である。11世紀のペトルス-ダミアニは,哲学は〈神学の侍女〉であると言って神学の優位を主張し,トマス-アクィナス*は啓示される真理は理性と矛盾せず，啓示は超理性的真理を表わすとした。ヨーロッパの古い大学は神学の講義を中心にして始まったものである。

プロテスタントではメランヒトン*の《神学通論》(1521)が最初の神学の組織的叙述であるとされている。近代的な意味で学問としての神学の基礎を開いたのはシュライエルマッハー*で，彼はそれまでのキリスト教の教理についての学としての神学を排し，神学を〈信仰論〉，つまり神の啓示についての学問であるよりも，それを受け入れる人間の信仰についての学問であるとした。しかしいずれにしても，神学は神についての中立的，理性的反省ではなくて，キリスト教信仰の学的反省であり，信仰的契機がなくなれば神学は哲学になる。

神学は，ふつう聖書学・歴史神学・組織神学・実践神学の各部門に分けられる。聖書学は《旧約聖書》《新約聖書》についての緒論，すなわち聖書の成立に関する事情の研究，釈義学，聖書神学，聖書時代史を扱う。歴史神学は教会史・教理史・キリスト教思想史，およびキリスト教についての美術史・聖書考古学などを扱い，組織神学は教理についての解釈，キリスト教倫理も含められることがある。実践神学には説教学・牧会学・典礼学・キリスト教教育・宗教心理学・宗教音楽などが含まれる。ドイツでは神学が一つの学問として大学で教えられるのに対して，アメリカでは伝道という教会的目的のために，大学卒業生を対象にした神学校で神学が教えられている。〔小田垣雅也〕



伸開線

しんがく 【心学】 江戸中期，石田梅岩*によって創始された思想。石門心学ともいう。神道を核心とし，儒教・仏教・老荘思想の習合思想をもって庶民教化を行なった。学問・思想の面ばかりでなく，庶民生活の多岐にわたる問題について平易明解に説き，町人生活に密着した学問であり，また実践道徳ともなった。梅岩の没後も手島堵庵*(とあん)・中沢道二*・脇坂(わきさか)義堂らの門流の努力によって広められ，江戸末期には全国に約200箇所もの講舎が行なわれて一大勢力を形成した。その思想は今日もなお影響力を失っていない。〔坂本和子〕

じんかく 【人格】 ⇨パーソナリティー

じんかく 【人格】 〈仮面〉〈役割〉を意味するラテン語ペルソナを語源とし，ローマ法では法的に規定された人間を意味した。ペルソナは中世には〈知的本性をもつ個別的実体〉(ボエチウス)，〈みずからによって一なるもの〉(イシドルス)などといわれ，キリスト教の影響により，個別性が強調された。トマス-アクィナスはさらに人格を理性的，不可分の実体*であり，自然界では最も完全なものだとし，神をも人格とみなした。近世に至って，ロックは人格を自覚と同一視した。カントはさらに人格を自律性とみなし，みずから自分に課した法則を守る，自己限定的なものであり，みずから目的を定め，けっして手段とはならない自己目的的なものだとし，人格の尊厳を主張した。カントとともにヘーゲルは人間が感性界と英知界とに同時に属していることを認め，感性界に属する面をつねに抑制するところに人格の尊厳が成立するとみる。しかし，抑制するものも，されるものもともに人間性を形成する両面であるところにカント的人格の矛盾がみられる。ニーチェはこの矛盾をついて，人格の仮面性を強調し，真の人格は無数の自己に分裂する可能性をもつとした。キルケゴールもカントの無視しがちな個別性の面を強調し，神の前にひとり立つ単独者という概念に到達した。心理学では人格は人間の統一的特性とされ，広く個人と社会，環境とのかかわりにおいて考察される。➔パーソナリティー〔玉井　治〕

じんかくけん 【人格権】 生命・身体・自由・名誉・貞操・氏名などのように，社会生活上の人格的利益の享受を内容とする権利をいう。人格的利益の侵害は不法行為となり損害賠償の責任を生ずる(民法710・711条)。特に名誉を侵害した場合などは，被害者の請求により，裁判所は損害賠償とは別に，名誉を回復するに適当な処分を命ずることもできる(民法723条)。人格権は一身専属権*であり，したがって非財産権であるとされるが，その権利としての定義は確立されていない。すなわち，人格権とは，生命権・身体権・名誉権などの総和であるのか，それとも人格権という基本的権利があって，それによって生命・身体・名誉などが保護されるのかについては意見が一致していない。〔黒木三郎〕

しんがくしどう 【進学指導】 進路指導*の一環として，進学希望生徒に対して行なわれる教師の助言・指導。一部私立学校への入学を除いては,義務教育段階後の高校・大学への進学に対する指導である。指導内容は①学校の選択，②入試準備に大別される。学校の選択には本人の能力・適性・進路・興味・体力および経済力などに見合った学校が選択されねばならず，進学希望校の教育課程，教育方針，入試の程度，施設，学費，卒業者の進路などを考慮して，進学希望者の要望と条件に適した学校が選択さ

➔215ページ

進　　化

C.ダーウィン*は〈生物が変化して新しい種をつくる現象〉を進化といったが,現在ではふつうアメーバのような単純な体制をもつ下等生物からヒトのような複雑な体制をもつ生物にまで発展・分化していく生物界の変化を進化という。進化についての考えを進化論または進化学説とよぶ。

遺伝学説が公表されるようになってから,染色体・遺伝子といった微小な単位で生物の変化を解明する立場と，生物の種や亜種以上の水準で変化を論ずる立場との間にしばしば断絶がみられるようになった。そのため，前者を小進化，後者を大進化とよんで区別して生物進化を扱うことがある。

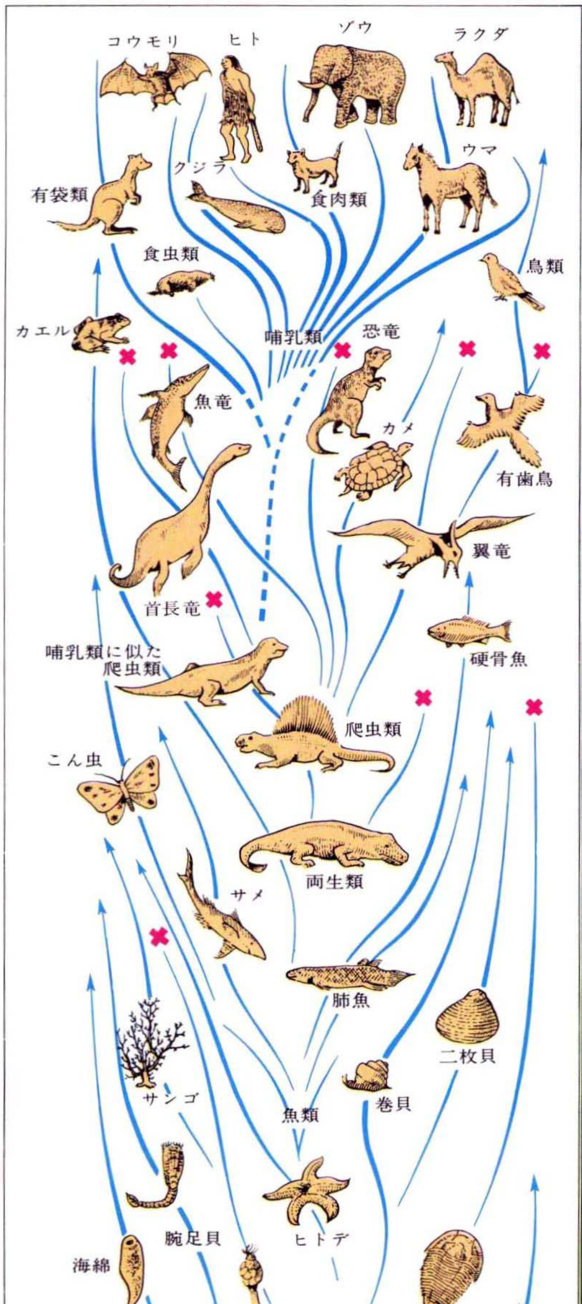
進化学説は，今日では生物学や古生物学はもちろんのこと，広く地球科学や宇宙科学の立場からも展開されている。

〔進化の過程と証拠〕化石の記録によって明らかにされた生物進化の過程にはいくつかの節があり，この時期には飛躍的な進化が行なわれている。すなわち古い時代から順に，①最初の生命の出現，②緑色植物の発展，③大形無脊椎(むせきつい)動物の発展,④脊椎動物(魚類)の出現，⑤生命の水域から海域への移行，⑥シダ植物の発展，⑦裸子植物の発展，⑧爬虫(はちゅう)類の発展，⑨被子植物の発展，⑩哺乳(ほにゅう)類の発展，⑪ヒトの出現，などがあげられる(図-1)。生物は，それぞれの形態の差の大きさによって，小さいほうから種(または亜種)・属・科・目・綱・門の順に，いろいろの階層の分類単位に割り当てられている。上述の生物進化史上の大きな変化は，目以上の分類単位に認められる発展となっている。生物進化の系統性をまとめて図示したものが系統樹で，各分類単位ごとに系統樹がつくられている(図-2)。しかし化石の記録は,必ずしも地質時代の順に連続して完全なものが得られるとはかぎらない。そのため，比較解剖学・発生学の知識,生物発生原則(反復説)を参考にしながら,生物進化の諸法則を用いて古生物を復原し，また化石の記録の欠けている部分(失われた鎖・ミッシングリング)を補って求められる。

また，ヒトの虫垂や犬歯のような痕跡(こんせき)器官*や，シーラカンス・カブトガニのように過去の地質時代に絶滅したはずの生物が特定の場所に生きながらえている〈生きている化石*〉などは,過去の古生物の実際の姿や特徴を知ることができるので，生物進化の解明には貴重な資料となっている。オーストラリアには，有袋類や単孔類のような原始型哺乳類が繁栄しており，近代型の哺乳類はみられない。大陸漂移説の考えによれば，原始型哺乳類が出現したときの古いゴンドワナ大陸*が中生代のはじめに亀裂(きれつ)を生じて大陸が分裂漂移し,今日の大陸分布を形成したので，他の大陸では近代型哺乳類が発達したにもかかわらず，オーストラリアではついにその発達をみず,原始的な哺乳類のみが適応分散して,ネコ・クマ・リスなどの近代型哺乳類に似た体制のフクロネコ・フクログマ・フクロリスなどの有袋類王国を生じたものと説明されている。このように，現在の生物分布は長い間の生物進化の産物であって，生物分布の特徴から進化の証拠を求めることができる。

また二つ以上の生物の器官で，機能や形態が違っていてもその起源が同じ場合には,それらの器官は相同であるといい，起源が違っていてもその機能や形態が同じ場合には，それらの器官は相似であるという。たとえば，ヒトの手とクジラのひれは相同器官であり,サボテンのとげ(葉の変化したもの)と,カラタチのとげ(茎の変化したもの)とは相似器官である。相同器官や相似器官も生物進化の証拠となる。

さらに，脊椎動物の脊椎の発生は，外敵から身を守るためのかたい組織の必要や,



年前(100万年)	長さ	紀	
2	2	第四紀（沖積世・洪積世）	新生代
65	63	第三紀（鮮新世・中新世・漸新世・始新世・暁新世）	新生代
135	70	白亜紀	中生代
190	55	ジュラ紀	中生代
225	35	三畳紀	中生代
280	55	ペルム紀	古生代
345	65	石炭紀	古生代
395	50	デボン紀	古生代
430	35	シルリア紀	古生代
500	70	オルドビス紀	古生代
570	70	カンブリア紀	古生代

図-1　生物進化の大綱と古生物の記録

敏速な運動をささえるための支持組織を必要とすることや，リン酸エネルギーの貯蔵の必要のために生じたと考えられている。また，生物は進化の過程で，生理作用にも影響を与えている。したがって，生理の中にも進化の証拠を求めることができる。

〔遺伝学説〕生物の遺伝性について，メンデル*はエンドウの遺伝実験に基づいて遺伝法則を考えた。のちに，ド-フリース*らはメンデルの法則にしたがって，オオマツヨイグサの交雑実験を行ない，〈生物の進化は突然変異によって行なわれる〉という突然変異説を発表した。また，アメリカの遺伝学者T. H. モルガン*は，ショウジョウバエの染色体と遺伝との関係を研究して，1901年に染色体による遺伝子説を確立した。これより先，ドイツの動物学者ワイスマン*は無脊椎動物の発生を研究し，粒子による生殖質の連続を主張し，獲得形質の遺伝を否定した。彼は，自分の考えを新ダーウィン主義(ネオダーウィニズム)とよんだ。この考えはアメリカの学者によって継承され，遺伝学者のドブジャンスキーや，古生物学者のオズボーン*などによって発展されている。一方ソ連では，ルイセンコ*やミチューリン*らが新ダーウィン学説に反対し，家畜や栽培植物について獲得形質の遺伝を実証して，新しくミチューリン-ルイセンコ学説または段階発育論*を提唱している。

また，19世紀末生物学に数学が取り入れられて，生物測定学が発達すると，イギリスのハーディーとワインベルクは，それぞれ独立に遺伝子の組み合わせを数式によって説明した。この考えは，その後数学における確率論の発展と結びついて，集団の遺伝的構成を支配する法則を数学的に解明する集団遺伝学の著しい進歩をもたらしている。

〔自然の進化〕進化という語は，生物界だけでなく広く無機界の現象についても，岩石の進化，地殻(ちかく)の進化，地球の進化，太陽系・惑星の進化，宇宙の進化というように用いられている。また，人間社会の現象にまで進化という考えが適用されている。最近の地球化学の進歩は，物質の基本的な単位としての元素の起源やその挙動を明らかにしつつある。かつて，エンゲルス*やレーニン*は〈原始地球における初源物質はつねに発展しつづけ，間断なく更新している。……量的に蓄積された変化が質的に新しい物質を生むところに，進化の基本的な思想がある。……これらの変化を認識できるのは，初源物質がつねに運動の状態にあるためである〉と説いた。これは，自然弁証法の立場から進化の問題の本質をついている。

自然界は，大きく無機界と有機界とに二分される。地球上に生命が出現してからの

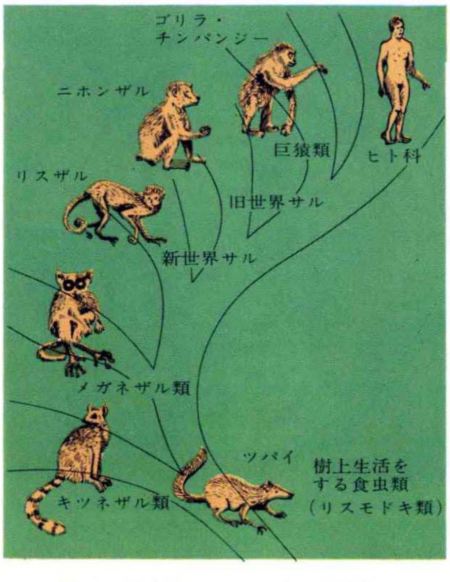


図-2　単純化した霊長類の系統樹

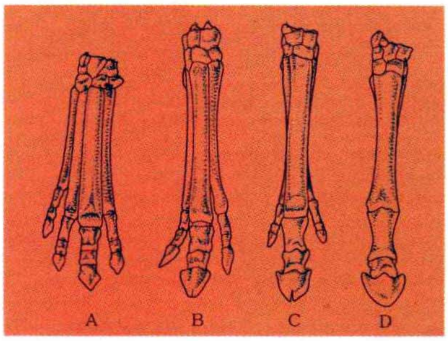


図-3　ウマの右前趾の定向進化(Romer 1964)　A：始新世の4趾馬(エオヒップス)　B：漸新世の3趾馬(ミオヒップス)　C：中新世後期の3趾馬(左右の趾が後退している。メリクヒップス)　D：洪積世から現世の1趾馬(エクウス)

ちは，有機界は生物進化の過程として展開されるが，これらの生物進化を元素や化合物の単位で追跡した場合に得られる変化・発展の過程を，化学進化ということがある。化学進化は，地球上に最初の生命が発生する以前の地球環境における生命物質の集積や変化の過程をも包含している。自然界を，宇宙・太陽系・惑星・地球・地殻などといったいろいろの単位ごとに，それぞれを構成する物質の変化が単純・均質な状態から，しだいに複雑に分化していく過程を，それぞれの進化という。つまり進化の理論は，自然界全体の変化の体系を明らかにするための，基本的な命題を提起している。

また，人間の出現を生物進化の頂点において，人間社会の現象を生物進化の法則にあてはめて説明しようという立場がある。この考えは，イギリスの哲学者H. スペンサーによって展開された。彼は社会の量的発展や進化に注目し，社会現象を生存競争によって説明している。このような考えを，社会ダーウィニズムといい，機械的唯物論の立場にたった社会発展史とされている。

〔進化学説〕進化という思想をいつだれが確立したかを決めることはむずかしいが，今日広く用いられている進化思想の体系の基礎を科学的に確立したのは，ダーウィンである。彼は，《種の起源》の中で，生物のもつ変異性と遺伝性という二つの性質に基づいて，生物の進化を説明している。

しかし，生物が変化することは古くギリシアの哲学者アナクシマンドロス*によって指摘されている。また，アリストテレス*は〈自然界のはしご〉によって，下等な生物と高等な生物とを区別している。生物界全体の体系という思想は，リンネ*が《自然の体系》(1758)の中で公表している。その後，ラマルク*は，その著《動物哲学》(1809)の中で，動物界の体系をその体制や構造の複雑さに注目して整理し，具体的に下等な動物から高等な動物への序列を示している。特に，彼は無機物からの生命の自然発生を説き，〈原始生命が習性の影響による器官の用・不用によって，形態がしだいに変化する〉と考えた。進化を科学的に論じた最初のひとはラマルクであるといわれ，彼の考えをラマルク学説(ラマルキズム)とよび，ダーウィンをはじめ，後世の進化学者に影響を与えている。ダーウィンの進化思想をダーウィン学説(ダーウィニズム)という。彼の思想には，イギリスの博物学者ウォレス*と地質学者ライエル*の2人の考えが強く影響している。ウォレスは，世界各地の生物相の比較研究から自然淘汰(とうた)を思いつき，自然淘汰によって進化を説明する自然淘汰説を公表している(1870)。この考えは，ダーウィンによって適応という形式で発展されているため，ダーウィンの進化思想を別に適応学説ということもある。ダーウィンは，またライエルとの私信を通じて，地質学上の事実についての考えをまとめるときは，ライエルの思想にしたがっていた。

ドイツの動物学者ヘッケル*は，ダーウィンの進化学説をいちはやく受け入れ，その著《自然創造史》(1868)の中で，化石の地質年代順による変化に基づいて，生物全体の系統類縁関係をまとめて，はじめて系統樹を描いた。彼は，また生物の系統発生と個体発生との関係について，有名な反復説を公表している。

生物の遺伝性については，染色体や遺伝子に基づくメンデル-モルガン学説がある。これらの遺伝学説をダーウィンの学説と結合するための新ダーウィン学説や，これと対立するミチューリン-ルイセンコ学説などがある。

〔進化法則〕複雑な進化の事実にも，いくつかの似た現象がみられ，これらに基づいて，法則があげられている。1921年ペトロ

ニエビックスは，これまでに指摘された法則を整理して放散の法則(ラマルク〔1809〕，ダーウィン〔1859〕，オズボーン〔1919〕)，収斂(しゅうれん)の法則(ダーウィン〔1859〕，コープ〔1861〕，ヘッケル〔1866〕)，痕跡器官消失の法則(キュビエ〔1834〕，ダーウィン〔1859〕)，進化非逆行の法則(ドロ〔1892〕，ペトロニエビックス〔1919〕)，連続進化の法則(ラマルク〔1809〕，ダーウィン〔1859〕)，定向進化の法則(ネーゲリ〔1884〕，アイマー〔1888〕)など24法則にまとめた。これらの法則は，もともと化石の記録に基づいた大進化について考えだされたもので，その中には小進化については意味のないものも含まれている。

〔進化の要因〕 進化をもたらす原因を，染色体や遺伝子のような生物体の内部に求める立場と，生物を取り巻く環境に求める立場とがある。フランスの動物学者キュビエの天変地異説は，天変地異という環境変化のみによって，生物界の変化を説明した極端な例で，彼は生物の発生についてはまったく唯神論の立場をとっていた。ラマルクは，キュビエの考えに反対して生物の自然発生説をとり，生物の変化に生物の主体的な働きを重視していた。ダーウィンは適応という現象によって，はじめて内因と外因を統一して説明している。

〔生命の起源〕 生物進化の思想を無機界にまで適用することは，生命の起源を明らかにする問題から派生している。

生命の起源については，18世紀までの唯神的な説明，自然発生説による説明が行なわれていたが，スパランツァーニ*やパスツール*らの実験によって，生命の自然発生説が否定された。19世紀になって生理学や生化学が進歩し，さらに20世紀にウイルスのような単純な生命が発見されてから，生命の起源が科学的に考えられるようになった。オパーリン*やイギリスのバナール*は，生命の起源を地球発達史の初期の状態に関する知識と結びつけて，非生物的な環境から最初の生命が出現するまでの過程を説明している。すなわち，オパーリンによれば，①原始大気中における窒素化合物・炭化水素の蓄積，②最初の有機物の生成，③原始海洋中での複雑な有機化合物の形成，④コアセルベートとよぶ原始タンパクの出現(物質代謝の機能の獲得)の順序で，最初の生命が出現したとされている。その後，いろいろの無機の混合気体に放電や紫外線などのエネルギーを働かせて，アミノ酸などの有機物を実験室内で合成することに成功している。

生命の起源の問題は，宇宙科学・地球科学・生化学の進歩によって，日増しに明らかにされつつある。最近では，隕石(いんせき)中にアミノ酸が含まれていることも知られ，

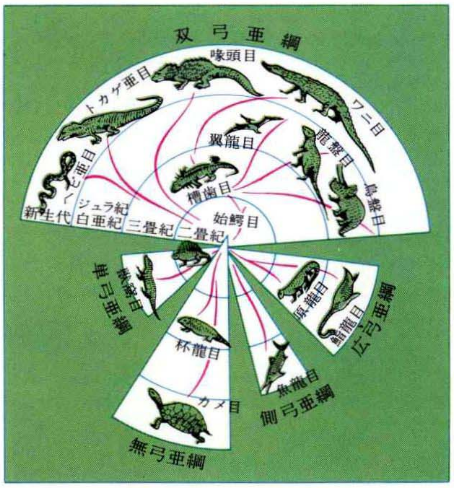


図-4　爬虫類の放散

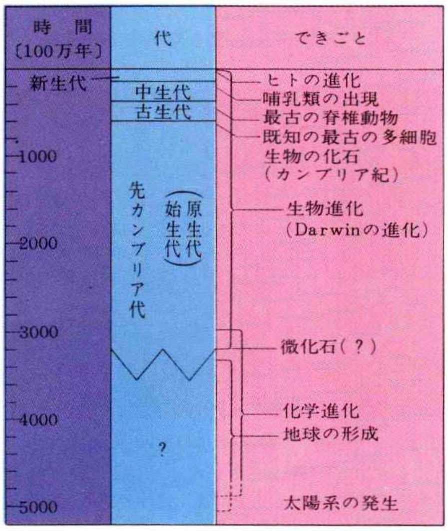


図-5　地質時代の区分(Calvin, M, 1969に加筆)

生命の起源を宇宙空間から閉じた地球環境だけで考えることはできなくなっている。そのため，宇宙生物学という新しい研究分野を生じ，火星や金星などの他の天体に存在が期待される生命の形体まで，具体的に論じられるようになってきている。

〔退化〕 進化とは逆の現象を退化という。生物は，進化の過程で部分的に退化の現象を示すことがある。ドイツの古生物学者アーベルは，このような現象を，退行的進化または下向進化とよんで，前進的進化または上向進化と区別し，次のように対応させている。①上向進化：機能の増進・強化，器官や形質の多化・大化・複雑化・完全化・肥大・端緒化。②下向進化：機能の萎縮(いしゅく)・弱化，器官や形質の少化，小化・簡単化・不完全化・脊縮(せきしゅく)・痕跡化。

〔適応〕 生物がその種族を維持するために，環境にふさわしいような形態や生理上の特徴をもっている現象や，環境の変化に対応して形態や生理上の条件を変えて，種族を保っていく現象を適応という。生物が適応の過程で，環境の差によって多くの異なった系統に分岐していく現象を，オズボーンは適応放散とよんでいる。中生代の爬虫類は，陸・水・空のいろいろな環境に適応した多数の恐龍(きょうりゅう)類の系統を生じている。このように，地質時代の生物には，適応放散によって発展した多くの例が知られている。定向進化の法則によってまとめられている，生物の形質が時間の経過とともに同一方向に変化していく現象は，非適応的な進化であって，進化の内因を考える条件とされている。イタリアのセベルツォフやソ連のダビダシュビリらは，下等な段階から高等な段階にまで達するような適応的進化の全過程を全適応とよび，これによって生ずる進化を全面進化とよんだ。これに対して，部分的な適応(特殊適応)による進化を特殊進化とよんで区別して，進化の過程で生ずる部分的退化を全面進化と特殊進化によって説明している。日本では，徳田御稔(みとし)がこの考えによっている。

〔地質時代〕 ライエルは，《地質学原理》の中で，化石によってはじめて地球の年代を区分した。ライエル前後の多くの古生物学者によって，生物進化の思想を根底にすえて，今日国際的に用いられている先カンブリア代(太古代)・古生代・中生代・新生代といった，地質年代の区分法が確立されている。その代表的な人として，イギリスのセジウィック・マーチソン・フィリップス，フランスのブロニャール，ドイツのドルビニーらの名をあげることができる。上述の年代区分は，動物化石の変化に基づいて行なわれたもので，これとは別に植物化石の変化によって，原植代・古植代・中植代・新植代に区分されることがあるが，その年代の境は動物化石によるものと必ずしも一致しない。ともあれ，日増しに増大する化石の記録によって，祖先から子孫までの系統発生の過程がしだいに詳細に追跡されるようになってきている。

〔反復説〕 ヘッケルによって唱えられたもので，生物発生原則ともいう。ヘッケルは，はじめ〈個体発生が系統発生の過程を機械的にくり返す〉と考えたが，晩年には反復のしかたに幅をもたせている。反復説に対して，発生学の立場からは多くの反論が提起されている。イギリスの動物学者ド・ベアは，個体発生と系統発生の関係を次のようにまとめている。①祖先型の生物の未成熟期に存在したか，または新しく出現しはじめた形質が，㋑子孫型の生物の未成熟期にだけ現われて適応的変形を示すが，成体の系統発生的変化系列には影響しない場合を変形発生，㋺子孫型の生物の未成熟期にも成熟期にも出現して，成熟期に近づくにつれて変形するため，子孫型の生物が祖先型のも

のからしだいに偏向する場合を，偏向，㋩生殖器官に比べて体の発達が相対的に遅滞するため，子孫型の生物が祖先型の幼形を保有しながら成体になる場合を幼形成熟(ネオテニー)という。②祖先型の生物では，未成熟期にも成熟期にも存在していた形質が，未成熟期にのみ痕跡的に出現する場合を減退という。③祖先型の生物では成熟期に存在していた形質が，子孫型にも出現するが，㋑子孫型の成熟期に祖先型と同様に出現するが，変異を起こして変種や品種を形成する場合を成体変異，㋺子孫型の成熟期の後期に出現するため，痕跡的となる場合を遅滞，㋩同じ時期に出現するが，新しい成熟期が相対的に遅れるため，〈踏み越え〉が行なわれて，子孫型には祖先型の成熟期に続いて新しい形質が追加される場合を過形成，㊁祖先型の未成熟期に出現し，子孫型の生物では成熟期まで持続することもしないこともある場合を促進としている。このうち，偏向と幼形成熟を特に幼形進化という。このほか，ドイツの古生物学者シンデウォルフは，直角石*の化石について，祖先型の生物の未成熟期に，すでに子孫型の成熟期の形質が出現する現象を，先発生とよんだが，幼形進化の一例と考えられる。

〔大森昌衛〕

れねばならない。入試準備は正規の授業で行なわれることが望ましいが，実際には補習授業が実施されている場合が多い。学校教育外の受験指導体制も強く，予備校・学習塾(がくしゅうじゅく)・受験雑誌など多種多様であり，これらの存在が逆に正常な学校教育をゆがめる弊害でもあると指摘されている。

〔福井幸雄〕

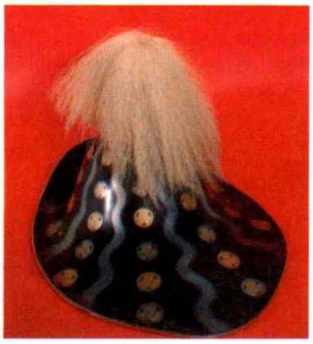
じんかくしゅぎ　【人格主義】　ギリシア哲学とキリスト教神学を母胎とし，人間の尊厳と実体とを意味する人格*こそ究極的原理であると説く思想。人間の本質は統一意識にあると考えたデカルト*に芽ばえがみられるが，一般にはライプニッツ*を始祖とする。バークリー・カントも先駆者といえよう。実在的人格主義は人格以外に究極的実在としての超自然的存在や非精神的存在をも認める立場で，新スコラ派のJ.マリタン・ジルソン・E.ムーニエ・N.ベルジャーエフらが代表。観念論的人格主義はヘーゲルのあとをうけて，すべての実在は唯一の絶対精神(人格)の表現だとする見方である。また，ケアード・グリーン・J.ロイス・A.E.テイラーらが代表する絶対観念論や，ライプニッツの単子論の影響をうけて心的存在を説くJ.ウォード・F.R.テナント・ホワイトヘッドらが展開した汎神論的観念論がある。また実在は人格が構成する社会であり，究極的人格(神)がその根拠となるとする人格的観念論は人格主義のうち最も典型的なものである。

〔玉井　治〕

しんがくたいぜん　【神学大全】　イタリアのスコラ哲学者トマス-アクィナス*の主著。1265年ごろから1273年にかけて書かれ，彼の死後，弟子(でし)によって補遺が加えられた。3部からなり，第1部で〈神〉，第2部で〈人間〉，第3部で〈キリスト〉が扱われ，キリスト教的アリストテレス主義の体系の書。構成は13世紀に完成されたスンマ(大全)形式の典型で，600余の〈問題〉と，それをさらに3,000余の〈項〉に細分して論じられる。

じんがさ　【陣笠】　軍陣に兜(かぶと)の代わりに用いた笠。戦国時代の雑兵(ぞうひょう)が薄鉄でつくり，主家の紋を描いたすりばち形のものをかぶったのがはじめで，江戸時代には紙製・木製となり，正面を吹きそらせて漆塗りとし，高級武士が外出時・非常時・狩猟などに用いたが幕末には一般武士もかぶった。1863年(文久3)，身分により陣笠を色分けし，大名以下諸大夫(五位以上)は白(裏金)，布位(ほい)(六位相当)は黒(裏金)，一般の旗本(はたもと)は藍(あい)(裏金)，御家人および陪臣は表裏とも黒塗りとされた。なお，戦国の雑兵になぞらえ，実力のない代議士をさして悪口に陣笠といっている。

〔稲垣史生〕



陣　笠
徳川慶喜所用
久能山東照宮蔵



ジンガサハムシ

じんがさはむし　【陣笠金花虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。体長9mmほど，ほぼ短楕円(たんだえん)形でやや扁平(へんぺい)。前胸背板と鞘翅の周縁部が外方に著しく張り出して黄かっ色となり，頭部や脚の大部分はそのため背面からは見えない。鞘翅は周縁部の一部を除いて黒かっ色。この特異な形態と色彩が陣笠に似ることからこの名がある。幼虫・成虫ともにヒルガオの葉を食べる。幼虫も扁平で，体の周囲に多数の棘状(きょくじょう)突起があり，きわめて特異な形態を示す。日本全土・朝鮮・中国・東シベリアに広く分布し，成虫は春夏のころに普通に見られる。近縁の種に本種よりも小形で体幅の小さいスキバジンガサハムシがある。ジンガサハムシ類は熱帯・亜熱帯地方に種類が多い。

〔鈴木邦雄〕

しんかざわおんせん　【新鹿沢温泉】　群馬県吾妻(あがつま)郡嬬恋(つまこい)村にある温泉。泉温42〜45℃。泉質は含土類重曹(じゅうそう)泉で，胃腸病・神経症・婦人病などにきくといわれる。村上山のふもとの高原に位置し，浅間山の噴煙がながめられる。湯は鹿沢温泉から引き湯している。近くに田代湖(たしろこ)があり，冬はスキー客でにぎわう。交通は信越線上田駅からバスの便がある。

しんかしゃ　【新華社】　中国の通信社。正式には，新華通訊社(つうしんしゃ)という。1937年4月，延安に創立。1949年，中華人民共和国成立と同時に北京(ペキン)に移り，国営の通信社となった。国内支社は30，国外支社は日本を含め21か国に及ぶ。世界政治に大きな影響を与える中国の動向は，新華社の電波を通じて諸外国に伝えられている。

しんかじょうれい　【新貨条例】　1871年(明治4)公布されたわが国最初の貨幣法。明治維新後，不換紙幣の乱発や悪貨の流通で混乱した幣制を整理し，金本位制を確立しようとしたもの。1円金貨を原貨とし，銀・銅貨を補助貨幣とすることが定められ，貨幣の呼称を円・銭・厘に統一した。しかし，この条例も日本の貿易が銀中心であったため開港場に限り1円銀貨(貿易銀)が法貨として通用した。そのため金本位制を維持しえず，事実上金・銀複本位制となり，やがて銀本位制に転じざるをえなかった。その後1897年下関(しものせき)条約*による償金を得て，ようやく金本位制は確立された。
⇨金本位制度

〔高崎徳次〕

しんかそくど　【進化速度】　生物群や生物の器官などの進化時における形態変化の速さ。シムプソンは化石の豊富にある食肉類と二枚貝について，分類学上の単位である属に注目し，ある属がはじめて現われてからそれが絶滅するかまたは他の属に変化するまでの長さを，その属の寿命と考えた。彼の計算によれば，二枚貝の寿命が平均7,800万年であるのに対し，食肉類は650万年で，10倍以上進化の速度が速かった。多くの動物で，種は20,000〜30,000年から10万年くらい，亜種の分化はこの1/10で足りるという。また，ホルデーンはウマの祖先についてシムプソンの観察値を用いて計算したところ，歯の長さは平均1年あたり 4×10^{-8} 程度の割合で増加しているという。

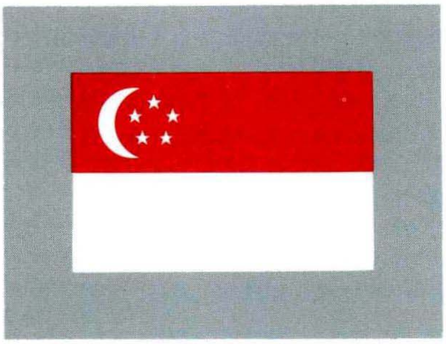
ホルデーンは進化の速度を測る単位として，1年あたり10^{-6}の割合の変化をとり，これを1ダーウィンとよぶことを提唱している。〔北川 修〕

しんがっこう　【神学校】　キリスト教の聖職者を養成する学校。2世紀末アレキサンドリアでクレメンス・オリゲネスらが教鞭(きょうべん)を取ったのが神学校の興りといわれる。中世にははじめ修道院が聖職者の養成機関を兼ねたが，ヨーロッパ各地に大学が設立されて，それらの神学部が神学校の役割を果たした。のちに独立の神学校が各教派との密接な関係の下に設立され，現在は大学神学部・独立の神学大学・神学校が並存する。

しんかぶき　【新歌舞伎】　歌舞伎脚本の一種。明治中期以後，西欧文化の輸入にしたがって，歌舞伎に新風を吹き込もうとする運動が起こり，そこに生まれた文学的な脚本をいう。江戸時代から脚本を書くのは各劇場の座付(ざつき)の狂言作者に限られていたが，1879年(明治12)松居松翁(しょうおう)が初世市川左団次のために《悪源太》という作品を書きおろして以後，この習慣は破れて，劇場部外の文学者による脚本が次々に上演されるようになった。これらの脚本は，旧来の〈時代物〉〈世話物〉〈活歴物〉などにみられなかった文学性を第一にしているのが特色である。形式は従来の歌舞伎的な手法を踏襲したものと，これにこだわらないものとがある。現在まで多くの作品が上演されているが，坪内逍遙(しょうよう)・岡本綺堂(きどう)・岡鬼太郎・真山青果・長谷川(はせがわ)伸らが代表的な作家で，その作品には，すでに古典的な価値をもつものが多い。〔松井俊諭〕

しんかぶきじゅうはちばん　【新歌舞伎十八番】　特定の歌舞伎狂言の一群に与えた名称。《歌舞伎十八番》を制定した7世市川団十郎が，別に得意芸や記念的狂言18種をまとめようと計画して着手したが，《虎(とら)の巻》《蓮生物語(れんじょうものがたり)》の2作を選んだだけで没した。9世団十郎が父の志を継ぎ，明治年間に自分が演じた新作狂言にその名称を付した。活歴物や新舞踊劇が多い。十八番はおはこ(得意な出し物)の意味に転じ，実際には40種にも上っている。代表的な作品は《地震加藤》《酒井の太鼓》《高時》《仲光(なかみつ)》《凧(たこ)の為朝(ためとも)》《鏡獅子(かがみじし)》《大森彦七(ひこしち)》《舟弁慶》《紅葉狩(もみじがり)》《素襖落(すおうおとし)》など。〔服部幸雄〕

しんかぶひきうけけん　【新株引受権】　新株発行の場合に優先的に株式を引き受ける権利。新株引受権をもっている者が，新株の申し込みをしたときは，会社はその者に対して他の者に優先して株式を引き受けさせなければならない義務がある。しかし他人よりも有利な条件で引き受けることまでがこの権利の内容となっているわけではない。もっともわが国では，新株引受権をもっている者に対しては，株式の時価のいかんにかかわらず，額面をもって新株を発行するのが通例となっているので，新株引受権をもっていると他人より有利な条件で株式を引き受けることができることになる。



シンガポールの国旗　1965年，マレーシア連邦からの分離独立に際して，旧シンガポール自治州旗を踏襲して制定された。赤は世界の人々の友好と平等，白は普遍的かつ不変の純潔と美徳，月と星はこの国で歴史の古いイスラム教を，五つの星はこの国を構成する中国人・マレー人・インド人・イギリス人とその他の人々との調和を表わす





シンガポール　(上)近年の急激な人口増加に対して，シンガポール市の内外には公営アパートが建設されている。港に臨む倉庫・事務所街に隣接して立つ20階建て高層アパート群　(下)市の東郊チャンギー地区のアパート。どの窓からも洗たく物がみごとに張り出されている

この新株引受権は，株主に与えられるものと，株主以外の第三者に与えられるものの二つがあるが，1955年(昭和30)の商法改正により，定款に別段の定めのないかぎり，株主は取締役会の決議を経なければ新株引受権が得られないことになった。もっとも株主以外の第三者に特に有利な条件でこれを与えるときは，株主総会の特別決議を要するものとして，株主の利益の保護を図っている(商法280条ノ12)。なお取締役会の決議があるときは，新株引受権の譲渡もできることになっている。〔松本治雄〕

しんかべ　【真壁】　わが国古来の壁構造の一。柱の面より内に壁を設ける形式。柱に直角にぬきを通し，これに間渡し竹と苗竹とを付け，小舞下地の最初の荒壁(荒木田土)を塗り，裏返し・むら返し・中塗り・上塗りの順序で仕上げる。構造材(柱)が壁面の間に現われて化粧材をも兼ねるので，節のない柾目(まさめ)のものが喜ばれ，筋かいも入れにくいので耐力的には欠けるが，構造材が露出するので耐久性はよい。壁下地には小舞の代わりに石膏(せっこう)ボードが使用されることもあり，簡易な建物では塗り壁にせずに合板などを張る。〔神山幸弘〕

シンガポール(共和国)　[Republic of Singapore]　**東南アジア，マライ半島の南端に接するシンガポール島とその周辺にある40余の島からなる独立国。面積581km²。人口239万(1978年推)。**

【自然】インド洋と南シナ海を分断するマライ半島の先端に位置し，細長いジョホール水道を隔ててマライ半島に面し，コースウエー橋によって対岸のジョホールバールと結んでいる。地形は丘陵性で最高点はブキ-ティマ(177m)。西海岸にはマングローブの森林があり，南海岸には小島が散在し，熱帯多雨の気候である。

【歴史】12〜13世紀にはマライ人の港町として栄えたといわれるが，ジャワ人の侵略で破壊され，近世までは人口も少なく密林におおわれた島であった。1819年にイギリス人のラッフルズがこの島の戦略的価値に注目して占領し，シンガポール市を建設した。その後は東南アジアにおけるイギリス海軍の最大の基地として発展し，〈東洋のジブラルタル〉とよばれ，経済的にも自由貿易港として栄えた。またシンガポール市の発展に伴い華僑(かきょう)が多数定住した。第2次世界大戦中の1942〜1945年は，日本が占領した。戦後，一時シンガポール自由国を形成し，マレーシア連邦の結成に際しては，その一州として加わったが，1965年8月，分離して独立国となった。分離の理由は，住民の75％が中国人系で，マライ人とは利害が対立するためである。

【住民】全人口のうち中国人は142万7,000，マライ人27万6,000，インド人15万6,000，ヨーロッパ人18,000，欧亜混血人17,000(1968)である。国語はマレー語であるが公用

語としてマレー語・英語・中国語・タミール語が使用されている。

〔産業〕 シンガポール島はよく開拓され，その大部分がゴムとココヤシの農園で占められ，森林は中央部に残っているにすぎない。シンガポールの市域はしだいに拡大し，最近は南西部のジュロン地区に各種の工場が建設され，従来の商業一辺倒から脱皮しようとしている。また漁業も沿岸のみならず南シナ海・インド洋方面にも発達している。貿易額は輸出入計24億ドルに達して，東南アジア諸国のトップを占め，ゴム・石油・機械類の取引が多い。〔別技篤彦〕

シンガポール(市) [Singapore] 東南アジア，シンガポール共和国の首都でシンガポール島の南部に位置する。人口236万(1979)。1819年にT.S.ラッフルズ*が占領してから市街は拡張され，熱帯植民都市の美しい景観を示すようになった。東南アジアの自由貿易港として栄える港には，巨大な商船やジャンクがひしめく。中心街にはイギリスふうのビルが並び，華僑(かきょう)街は買物客でにぎわう。名高いラッフルズ博物館，熱帯植物園や，シンガポール大学などの文化施設も整っている。〔別技篤彦〕

しんかりかちトンネル 【新狩勝トンネル】 北海道中央部，根室本線の新得と落合の間にある単線型鉄道トンネル。長さ5,656m。1966年(昭和41)開通。かつては狩勝峠*を急勾配(こうばい)の路線と狩勝トンネル(長さ594m)によって越えていたが，新線トンネルの開通によって旧線は廃された。

じんカルブンケル 【腎カルブンケル】 腎臓の非特異性・化膿(かのう)性の炎症。小膿瘍(のうよう)が腎臓の一部に限局して密集的に発生する。病原菌としてはブドウ状球菌が多く，主として癤(せつ)(血管内にできる節。ぐりぐり)・瘭疽*(ひょうそ)・扁桃腺炎*(へんとうせんえん)・副鼻洞炎(ふくびどうえん)などのような化膿病巣に続発して血行性感染によって起きる。腎臓，腎盂*および腎周囲の化膿性疾患は相互に密接な関係にあるもので，互いに移行する傾向が強い。突然，悪寒戦慄(おかんせんりつ)を伴って高熱を発し，白血球増多などの全身炎症性症状が強い。局所的には腹壁そのものは硬結はないが，腎部腹壁に筋性防衛があり，圧痛がはなはだしい。呼吸時に移動性の少ない圧痛性腎を触れる。尿変化は最初まったくないのが特徴である。早期診断のもとに多量の化学薬剤の衝撃療法を施行するのがきわめて有効であるが，この保存的療法で軽快しない場合は直ちに外科的療法を断行する必要があり，その程度によって腎切開のみか腎部分剔除(てきじょ)術か腎剔除術にするかを状況にしたがって決定する。〔藤井和明〕

しんかろん 【進化論】 種々の生物は変化して生じてきたものであるという考え方は，エンペドクレス*をはじめとする古代ギリシアの唯物論的思想の中にも含まれている。エンペドクレスは，種々の動物の身体の部分が，はじめばらばらに存在していたが，それが結合し合って多数の生物が地上に生じ，そのうち生存可能なものが生き残ったと考えた。近代になってからは，フランスの唯物論哲学者が進化思想を表明した。モペルテュイの《人間および動物の起源》(1745)，《自然の体系》(1751)，ディドロ・ダランベールの《百科全書》(1751～1780)，ディドロの《自然の解釈》(1753)，ドルバックの《自然の体系》(1770)はその代表的なものである。

進化の概念は，種*の概念の確立を前提としなければならないが，16世紀以後の博物学の発展を基礎に，18世紀になってリンネが分類学を確立し，種の概念が明確化された。地質学・古生物学の発展も進化思想の誕生を促した。ビュフォンの《博物誌》(初巻は1749年)には地球の歴史についての記述をはじめ，脊椎(せきつい)動物の構造の相同種に基づいて，生物界の多様性を由来における変化としてみる進化思想が多く表われている。分類学においてもビュフォンは，種と種の境界に疑問をいだき，リンネの分類体系に批判的立場をとった。

進化の要因について最初に体系的な説を表わしたのはラマルク*である。その主著《動物哲学》(1809)，《無脊椎動物誌》(第1巻は1815年)に，〈生物は無機物から適宜な場所，環境条件の中に形成された。生命それ自身の能力，有機的運動の諸能力が，必然的に漸次に諸器官を発達させてきたが，さらに環境条件の変化に伴う新たな習性や必要によって環境に適応した多様な形態や体制を獲得した。このとき，器官の使用・不使用によって，ある器官を発達させ，他の器官を退化あるいは消失させていき，こうして生じた獲得形質が遺伝されていった〉という考えを述べている。これに対し，同時代のキュビエはラマルクの進化論を認めず，天変地異説をたてた。

自然選択説を提出して進化の機構を解明し，進化の概念を確立したのは，チャールズ=ダーウィン*である。彼はビーグル号の航海の間に，ガラパゴス諸島や南アメリカのパンパで観察した動植物から得た進化の事実を示していると思われる知見をもとに，栽培植物や家畜の品種改良の方法である人為選択についての知識を加え，実証的事実の上に自然選択説による進化論を構築した。その主著《種の起源》(1859)の中に，〈動植物のたくさんの子孫の間で生存のための競争が行なわれ，生存のために有利な，すなわち環境条件に最もよく適応した変異をもつ個体だけが生き残る。このような自然環境による選択が何代も続けられて新しい種が形成される〉という考えを体系的に述べている。ドイツのヘッケル，ロシアのチミリャーゼフは有力な進化論者になり，自然選択説ならびに進化の観念はその後10年の間に広く普及した。

人間の進化については，T.H.ハクスリーが《自然界における人間の位置》(1863)を著わしてダーウィンの説を拡張した。その後，ワイスマンの生殖質連続の思想に基づく新ダーウィニズム，獲得形質の遺伝を主張するパッカードの新ラマルキズム，アイマー・オズボーンらによる定向進化説，ド・フリースによる突然変異説などが現われた。また，進化の説明に必須(ひっす)の生物の遺伝的変化が容易に実証されず，20世紀初めは進化論の不可知論的時代とよばれるようになった。現在は，自然選択説に加えて，モルガンの実験遺伝学，フィッシャーらによる集団遺伝学上の現代の知識から進化の機構を解明しようとする考え方が一般的になっている。さらに，オパーリンらによる生命の起源に関する理論により，進化の問題は，無生物から生物への進化についても実証的に説明されるようになった。また，遺伝子の本体がDNA*であることも解明され，進化の原因を遺伝情報の変化と関連させて研究されるようになってきている。

進化論は，ダーウィンによる確立直後から，人々に新たな自然観・人間観・世界観を与えて宗教界に大きな波紋を投じたが，社会思想の上でも，生存競争の考え方を社会に適用して，優勝劣敗や弱肉強食はやむをえないとしたり，貧困や戦争を合理化したりすることが行なわれた。これは一般に社会ダーウィニズムとよばれる。

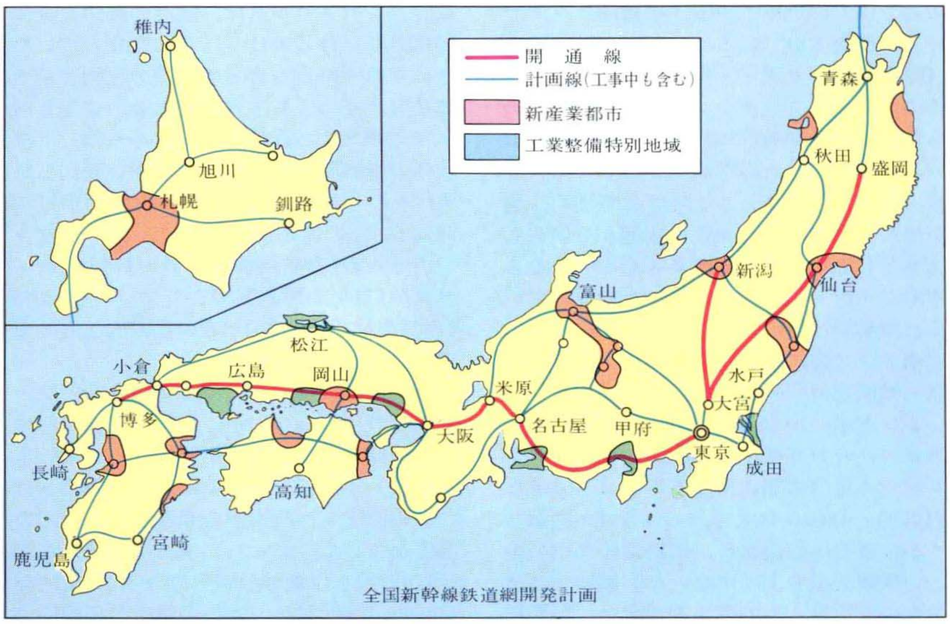
日本への進化論の体系的な紹介は，1878年(明治11)東京大学教授として滞日したアメリカ人モースに始まるが，石川千代松の《進化新論》(1891)，立花銑三郎による《種の起源》の翻訳，《生物始源(一名種源論)》(1896)，丘浅次郎の《進化論講話》(1904)により，進化論は20世紀初期までに日本に広く普及された。〔江上生子〕

しんかん 【辰韓】 秦韓とも書く。2～3世紀のころ，朝鮮半島東南部の慶尚南道(けいしょうなんどう)・慶尚北道・忠清北道にかけて存在していた12の部族国家の総称。秦の重圧からのがれ，流浪した人々が馬韓*の東界の地を与えられて住みついたという伝承がある。農耕生活を営み，険側という酋長(しゅうちょう)に統率されていたが，4世紀の初め，楽浪・帯方の2郡が滅亡し，中国の圧力が減じると，辰韓・馬韓では急速に統一の気運が高まり，辰韓では斯盧(しろ)国が主導権を握って12国を統一した。これが新羅*(しらぎ)である。➔三韓〔黛 弘道〕

しんかん 【信管】 砲弾・爆弾・魚雷などの炸薬*(さくやく)を発火させる装置。通常，弾頭もしくは弾底に装着されるが，命中後の作動時間の遅速によって，瞬発信管・時限信管・複動信管(瞬発と時限の両方を兼ねる)，および延期信管に分けられる。また，用途の上から，破甲信管・徹甲信管・高射信管・特殊信管(超小形信管・近接信管など)

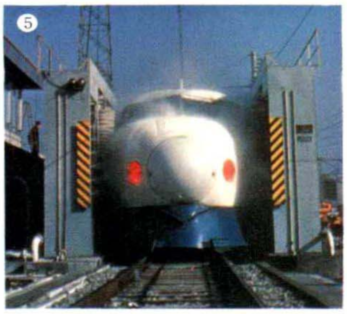














新幹線　①静岡付近を走る東海道新幹線　②東北新幹線用の先頭車両　③東京駅にあるＣＴＣ総合指令所　④列車前面のスカートの内側にある緩衝装置　⑤車体の自動洗浄装置　⑥軌道試験車

などの名称で区別されることもある。

じんかん　**【腎管】**　無脊椎(むせきつい)動物で真体腔(たいこう)ができるに伴って発達した排出器官。腎口が体腔に開き，複雑に曲がりくねった細管がそれに続き，末端は体壁にある外腎門で外界に開いている。腎口はその周縁に多数の繊毛があるラッパ状のもので，細管壁にも繊毛があり，繊毛運動によって老廃物などを排出し，また卵・精子を体外に送る働きもする。なお，脊椎動物の腎臓*にある管の総称としても用いられる。〔蒲原春一〕

しんかんかくは　**【新感覚派】**　1924年(大正13)創刊の《文芸時代*》によった小説家の文学傾向をいい，命名は千葉亀雄(かめお)が〈新感覚派の誕生〉とよんだのによる。横光(よこみつ)利一・川端康成(かわばたやすなり)・中河(なかがわ)与一・片岡鉄兵・今東光・佐々木茂索・岸田国士(くにお)・稲垣足穂(いながきたるほ)らがそのおもな作家。第１次世界大戦後のヨーロッパの芸術運動，特にダダ*・表現主義*の影響を受け，その底には人間解体の意識，虚無感があった。形式・技法・文体などにおいて破壊的な運動であり，横光の小説《頭ならびに腹》の冒頭〈真昼である。特別急行列車は満員のまま全速力で馳(か)けてゐた。沿線の小駅は石のやうに黙殺された〉のような文体に特色がみられる。〔源　五郎〕

しんかんせん　**【新幹線】**　1907年(明治40)に，東京～大阪間を６時間で結ぼうという高速電気鉄道建設計画がたてられた。歴史的には，東海道新幹線の源といえる。当時，東京～大阪間は速い汽車で12～13時間要しており，これは現在の新幹線計画以上の画期的なものであった。この計画では，東京起点を渋谷(しぶや)とし，大阪の野田を終点としている。形式は広軌を採用し，線路は複線で，延長は約468kmである。しかし，この建設計画は許可されずに終わった。その後，1938年(昭和13)から東京～大阪４時間半，東京～下関(しものせき)８時間という，現在の新幹線に近い弾丸列車計画が推し進められ，一部トンネルなどの工事を開始したが，戦争のため中断した。しかし，このときの青写真や買収用地，調査測量，工事経験などが東海道新幹線建設に大いに役だっている。

〔東海道新幹線〕　わが国の経済・文化の中心となっている東海道沿線には，1955年(昭和30)ころ，総人口の40％，工業生産の70％が集中していた。当時の東海道本線は営業キロこそ全国鉄営業キロの３％にすぎないが，旅客・貨物とも国鉄全輸送量の約25％を輸送し，列車回数も複線の限度といわれる１日片道120回を一部の区間でこえており，あらゆる設備の改善にもかかわらず輸送需要に応じきれなくなっていった。そこで国鉄は新技術を駆使し，近代的な新しいタイプの広軌別線を増設することを計画した。技術的には，車両・線路・電気設備など，高速運転上の問題点をすべて解決し，弾丸列車用の用地も一部確保されていたことなどから1959年に着工，3,800億円の資金を費やし，わずか５年５か月で完成，1964年(昭和39)10月１日に開業した。東海道新幹線の完成は，それまで自動車・航空機の発展の陰にあって，その将来があやぶまれた鉄道の一つの方向を示したといえる。それは，安全・高速・大量輸送という鉄道のもつ特性を発揮し，技術革新と経済力の高まりゆく新時代の輸送方式としては革命的なものであったからである。

開業当初は東京・新横浜・小田原・熱海(あたみ)・静岡・浜松・豊橋(とよはし)・名古屋・岐阜羽島・米原(まいばら)・京都・新大阪の12駅であったが，その後1969年新たに三島駅が開業し13駅となった。このうち岐阜羽島を除いては，これまでの東海道本線の駅と同じか，またはその近くにあり，在来線との接続がスムーズにできるよう配慮されている。この東海道新幹線は，東京～大阪間

の時間的距離を半分に短縮し，東海道沿線を１日行動圏の広がりの中に収め，旅客流動を容易にした結果，沿線だけでなく，わが国全般の経済活動や社会生活に与えた影響は大きく，1975年開業した山陽新幹線と合わせ，新幹線は開業以来12年余りで11億人の輸送を達成した。

〔東海道新幹線の特色〕東京～新大阪間515.4km，最高速度210km/時という超高速運転のため，あらゆる面に在来線にない最新の技術を多く取り入れている。

①線路：超高速運転を可能にするために，まず軌間は標準ゲージ(1,435mm)とし，ロングレール・コンクリートまくら木などを採用，乗りごこちの向上をはかっている。また，高速のため踏切をいっさいなくす必要があり路盤を盛り土・切り取り・高架橋とし，鉄道や道路とはすべて立体交差にしてある。

②車両：新幹線電車は，最高時速250kmが可能な性能をもっており，1972年には試運転で286km/時を記録している。しかし営業運転ではATC(自動列車制御装置)によって最高時速210kmにおさえている。また，交流式で，パンタグラフで集電した２万5,000Vの交流を，変圧器とシリコン整流器で1,500Vの直流にかえこれで主電動機を駆動している。電車は２両単位で１両に変圧器・整流器などの電源装置を，他の１両に制御器・電動発電機・空気圧縮機などを積んでおり，この２両は電気的に永久連結されている。すべての車両に主電動機が４個ずつある全車軸駆動方式を採用している。車体は長さ25m，幅3,382mm，高さ3,975mmと在来線の電車より一回り大きいが車体重量は約55tと軽い。線路上の障害物排除のため，先頭車の前面スカートには16mmの鉄板を６枚も重ねた強固な排障器を取りつけている。客室内には，人間工学的に研究されたイスがグリーン車は左右２人掛け，普通車は山側２人，海側３人掛けで配置され，新式の空気調和装置で冷暖房を行なっている。

③ATC装置(自動列車制御装置)：新幹線では，最高時速210km，最小運転時隔５分という高速・高能率の運転が行なわれており，運転士が地上の信号機を見ながら走ることは実際には不可能である。そのため電車の運転室に車内信号機を設け，レールを通じて送られてくる０信号から210信号までの６種類の信号が表示され，この信号と速度が自動的に連動していて，速度が信号表示より高いときは，ブレーキが自動的にかかり減速させ，指示する速度以下に下がれば自動的にブレーキがゆるむ仕組みになっている。速度を上げる場合は，運転士が操作する。このように列車の速度を信号の指示する速度の範囲内に自動的におさえる装置をATCという。

④CTC装置(列車集中制御装置)：ある線区内にある駅のポイントや信号の取扱いを１か所に集中し，電子機器や継電器の組み合わせによってその操作を遠方制御する方式。新幹線は東京駅にある総合指令所(CTC)で，各駅のポイント操作等を安全に行なっている。また，CTCの指令員と列車乗務員とは列車無線により，つねに緊密な連携をとっているほか，万一，線路等の故障が発生した場合でもCTC表示盤にあるパイロットランプが点灯，知らせる仕組みになっているので，列車を緊急に停止させることもできる。

〔新幹線の将来計画〕1970年(昭和45)，国土の普遍的開発，国民経済の発展並びに国民生活の向上に資することを目的として，全国にわたる新幹線鉄道網を整備するという，全国新幹線鉄道整備法が成立した。この中で新幹線とは〈その主たる区間を列車が時速200km以上の高速で走行できること〉を必要条件としている。また，新幹線網は全国七大都市(札幌(さっぽろ)・仙台(せんだい)・東京・名古屋・大阪・広島・福岡)を結ぶ日本列島の動脈となる新幹線を主軸として，これに日本海側や四国を結ぶ新幹線網を順次整備していく計画になっている。現在，この法律に基づいて，東北新幹線(東京～盛岡間496km)，が1982年(昭和57)６月22日開通，上越新幹線(大宮～新潟間270km)，成田新幹線(東京～成田空港間65km)の建設工事も進められ，完成すれば東京～博多間の1,070kmと合わせ約1,900kmの新幹線網となる。さらに東北(盛岡～八戸～青森)，北海道(青森～札幌)，北陸(東京～富山～大阪)，九州(博多～鹿児島)，長崎(博多～長崎)の５新幹線は1973年基本計画が決定，現在詳細な調査が進められている。なお，中央新幹線(東京～大阪)，四国新幹線(大阪～大分)の一部区間についても1974年に運輸大臣から地形・地質等の調査指示がだされている。

〔首都圏高速鉄道網〕首都圏高速鉄道網構想は，今日の大都市住民にとって大きな問題である住宅難・通勤難・公害禍の問題を解決する方法として，都心から半径50～100km圏の土地に新住宅都市を建設し，都心へ30分～１時間で行ける通勤超高速鉄道を敷設するという考え方である。具体的な構想としては，新東京国際空港(都心から約50km)，茨城県中央部(100km)，群馬県南部(100km)，埼玉県中央部(50km)，湘南(しょうなん)地区(70km)に人口60万の衛星都市をそれぞれ開発し，東京との間を新幹線方式に準じた最高時速160km，平均時速120kmの超高速鉄道で結ぶものである。具体的な計画がでているものに新東京国際空港線がある。空港の完成と同時に空港と都心を結ぶもので，当初は中間駅を置かず，必要に応じて順次駅を設置する予定である。〔肥沼恵一〕

しんカントは　【新カント派】　ヘーゲルの死後，ロマン的観念論の思弁哲学が個別科学の発達による唯物論の台頭におされて没落した状況の中で，19世紀後半から第１次世界大戦にかけて再び観念論をカントの批判主義によって復権せしめようとした哲学学派。思弁的形而上学(けいじじょうがく)の放棄と自然科学の成果が重視される。そのおもな傾向は〈厳密の学としての哲学〉であり，その方法としての批判主義は経験科学の批判と基礎づけ，方法論的考察に向かい，それを通じて哲学固有の存在領域を諸科学を越えたところに確保しようとした。したがってカントに即していえば，その認識論的側面を重視して形而上学的側面を無視したといえる。マールブルク派*・西南学派*の２派に分かれ，前者は主として自然科学に関して，後者は歴史科学方法論にその独自性を発揮したが，両派ともに人間の実存的面に対する考察に欠け，第１次世界大戦を境に衰退した。〔豊福英利〕

じんぎ　【仁義】

①儒教*の徳目(→徳)の主要なもの。孔子*の教説に基づいて孟子*(もうし)が確定し，その後いっそう広義に解せられた。仁は親族の間の親愛，それを拡大して共同体内部の一体性，さらに広く人間愛をいい，義は仁の秩序規範をさす。仁と義とは相補って上下的秩序の組織・団体を存立させる徳目である。➔五常

②①の思想が日本では武士道徳の一つに数えられ，さらにそれが変形して，博徒*(ばくと)社会の親分子分関係の規範となった。博徒は旅先で，それぞれ土地の博徒の親分宅を訪ねて，寝食の世話を受け，わらじ銭を与えられる。このとき，初対面のあいさつをすることを仁義を切るといった。ふつう，自分の経歴，従う親分のことなどを含めて口上を述べる。ことばづかい，態度・物腰などで，博徒としての経歴が測られるところから，ある程度定まった型ができあがっていた。

じんぎか　【神祇歌】　神詠(神みずからの歌)または神への信仰心をよんだ歌。神事歌謡をも含む。《万葉集*》に多く，勅撰集(ちょくせんしゅう)の部立として確立するかどうかが消長を示している。部立の萌芽(ほうが)は《古今和歌集*》巻20の大歌所御歌と東歌の２群にある。その性格上〈釈教歌〉(経文・仏教思想などをよんだ歌)の展開と相関していたが，《千載和歌集*》から巻19が釈教歌，巻20が神祇歌として対応することになった。

じんぎかん　【神祇官】　①令*制(りょうせい)で神祇祭祀(さいし)をつかさどる官庁。太政官*(だじょうかん)と並んで２官と併称されるが，太政官よりは格が低かった。その前身は大化(645～649)以前にさかのぼるが，大宝令(→大宝律令)で制度的に完成した。長官を伯(かみ)，次官を大副・少副(すけ)，判官を大佑・少佑(じょう)，主典を大史・少史(さかん)といい，その下に忌部(いんべ)・神部・卜部(うらべ)などの職員があった。②明治維新直後，神祇・祭祀およびその行政をつかさどった政

府機関。1868年(慶応4)政体書により設置され，令制に基づいて，伯・副各1名，佑・史などに数名を置いた。1871年(明治4)神祇省と改称。

しんきけい【心奇形】胎生期に心臓，大血管の分化・発育の障害によって起こる心臓奇形。先天性心疾患の大部分を占め，新生児1,000人中3人にみられる。多くは生後まもなく呼吸困難・チアノーゼ・発育障害・心雑音などによって発見されるが，疾患によっては幼児期以降に発見されることもある。おもな疾患は心房中隔欠損・心室中隔欠損・肺動脈狭窄症(きょうさくしょう)・アイゼンメンゲル症候群・ファロー四徴症・動脈管開存症・右胸心などであり，複雑な異常でなければ手術によって治療できる。〔清水直容〕

じんきけい【腎奇形】発生学上なんらかの原因で腎臓が異常に発育したもの。次のように分類できる。①左右いずれか一つが欠如している単腎症，両腎のほかに第3腎のある過剰腎，またよくみられるものとして正常の形をしている腎臓に腎盂(じんう)が二つある重複腎などの腎の数の奇形。②発育不全腎や巨大腎とよばれる腎の大きさの異常。③腎の形態上の奇形として，短腎・長腎あるいは葉状腎とよばれるものがあるが，左右腎が融合した融合腎ことに馬蹄腎(ばていじん)とよばれるものは臨床上重要である。④腎偏位とよばれる腎の位置の異常。⑤腎血管の異常。⑥腎臓の構造上の奇形として有名なものに，腎臓の実質中に大小無数の嚢胞(のうほう)ができた嚢胞腎などがあげられる。〔藤井和明〕

しんきこうしん【心悸亢進】通常，心臓の搏動(はくどう)は感じないものであるが，これを自覚する感覚をいう。この心臓の異常感覚は，心臓の働きが悪くなる心不全や，心搏動の異常をきたす不整脈などの心臓の病気に由来するほか，バセドー病・貧血・更年期障害・発熱・副腎(ふくじん)髄質腫瘍(しゅよう)・心臓神経症などの病気にもみられる。また健康な人でもさまざまな身体の状態でみられる。すなわち，強い精神感動とか，激しい運動時，飲酒のときにしばしば，経験される。〔佐藤恒久〕

しんきこうしんしょう【心悸亢進症】⇨前項

しんきしつ【辛棄疾】(1140～1207) 中国，南宋(なんそう)の詩人。字(あざな)は幼安，号は稼軒(かけん)。金の圧迫を受けて宋が南に渡ったのち，故国回復の念願をいだき，生涯(しょうがい)そのため奮闘したが，官界では不遇であった。蘇軾(そしょく)の豪放な作風を受け継ぎ，詞をつくり憂国の感情をうたいあげた。《稼軒詞》が著名である。

しんぎしゅう【新義州】シンイチュ 朝鮮，平安北道の道庁所在地。人口約15万。鴨緑江(おうりょっこう)下流の左岸に位置し，京義(けいぎ)線の終点。対岸の中国丹安(旧名安東)との間に鉄橋が架設され，国際的にも交通の要地で，橋も市街も朝鮮戦争で破壊されたが復旧した。水豊ダムの電力を基盤として，化繊・パルプ・ほうろう鉄器・紡績など大規模な工場が新設され，工業都市としても発展している。また，師範大学・医学専門学校・工業専門学校がある。〔矢守一彦〕


ジンギス汗

しんきしょう【心気症】⇨神経症

しんぎしんごんしゅう【新義真言宗】⇨真言宗

ジンギスかん【成吉思汗】(1162年ごろ～1227)。モンゴル帝国の創立者。モンゴル部のキャト-ボルジギン氏の出身。幼名はテムジン。9歳のとき父のエスガイ-バートルがタタール部に毒殺される悲運にあい，辛苦のすえ，1189年モンゴル部の長となりジンギス汗と称した。1196年宿敵タタール部を滅ぼしたのを手はじめに，以後10年間にわたりタイチウト・ナイマン・ケレイト・メルキトなどの西方諸部族を征服・統合し，1206年全モンゴル族の君長であることを宣言するため，モンゴリアの諸部族を代表する貴族たちを残らず召集して，オノン川の上流において大クリルタイを開いた。そして，ジンギス汗は千戸制を基本とする統治体制，ジャルグチ(司法検察官)・ダルガチ(地方長官)などの行政官制，ケシクテイとよばれる10,000人の親衛隊組織をつくりあげ，さらに国家の秩序を整えるための律令(ヤサ)の宣布，新政務の規定，宮帳の管理，狩猟の統制化，軍の輜重(しちょう)の整備などにも力を傾けた。

これよりジシギス汗は外部に向かって侵略戦争を行ない，チベット系のタングート族の国家西夏，満州女真族の国家金を討つ一方，1219年から1225年まで西方へ遠征して，ホラズム・サマルカンド・ブハラなどを攻略し，ジュバ・スブタイらに南ロシアを征服させて帰国した。その後，西夏を討ち滅ぼしたが，1227年に病死した。〔若松　寛〕

ジンギスかんりょうり【ジンギス汗料理】⇨烤羊肉(カオヤンロウ)

しんぎせいじつのげんそく【信義誠実の原則】権利の行使や義務の履行は，信義を重んじ誠実を旨として行なわなければならないという原則のことをいう。単に信義則ともいう(民法1条)。すなわち近代社会における商品の交換関係は独立した自由な意思の主体者間による契約によって行なわれており，それは相互に相手方を信頼することによってはじめてなりたちうるものであるから，相手の信頼を裏切らないように誠実に行動することが要請されるわけである。信義誠実の具体的内容は結局，その時代において法律上も守らなければならない倫理的・道徳的な社会規範に基づくものであって，封建的な慣習や道徳に基づくものであってはならない。信義誠実の原則は，従来債権関係にのみ認められてきたものであり，これを肯定する有力な学説もあるが，現在では物権関係や家族関係についても認められ，民事法全般に通ずる一大原則となっている。また，法の解釈や法律行為の解釈によって，当事者にどのような権利義務が生ずるかを決定する際の判断基準ともなっている。〔黒木三郎〕

しんきゃくるい【唇脚類】節足動物の一綱で，ムカデ・ゲジゲジ類が含まれる。体は細長く，一般に背腹方向に扁平(へんぺい)である。頭部と胴部に分かれ，頭部には1対の触角・大顎(おおあご)・小顎・触顎・毒顎をもち，毒顎には毒腺(どくせん)がある。頭部の背側には4個以上の集眼(単眼の集まったもの)がある。胴部は15～170ほどの体節に分かれ，各1対の歩脚をもち，各体節は背板・側板・腹板に分かれる。消化管は直走し，唾腺(だせん)，1対のマルピーギ管・気管をもつ。第三紀以降に化石が現われる。現生種約3,000，湿地性で肉食である。

しんきゅうじゅつ【鍼灸術】針を使用する治療を鍼術，艾(もぐさ)(陰干しにしたヨモギの葉をついて，綿のようにしたもの)などを使用して皮膚に温熱などの刺激を与える療法を灸術という。

針には用途によって，次のものが知られる。①鑱鍼(ざんしん)・員鍼(えんしん)：ともに皮膚をなでこするもの。②鍉鍼(ていしん)：動脈を圧迫するもの。③鋒鍼(ほうしん)：三稜鍼(さんりょうしん)ともいい，瀉血(しゃけつ)に用いるもの。④鈹鍼(ひしん)：排膿(はいのう)用のメス。⑤員利鍼：皮膚を浅く刺すもの。⑥毫鍼(ごうしん)：皮膚・皮下・筋肉を刺すもの。現今一般に最もよく使用されている。⑦長鍼：体の深部を刺すもの。⑧大鍼：関節などにたまった液を出すもの。ほかにも中国では梅花鍼，本邦では皮内鍼・灸頭鍼など多様なものが考案され，活用されている。

鍼術の起源は，諸民族間に広くみられる瀉血療法から発して，出血することなく同等以上の効力を発揮する一歩前進した技術と考えられる。

灸には次のような種別がある。①点灸：艾の小片(米粒大以下の大きさのもの)を皮

膚上で燃やし，軽度の火傷を生じさせる。②知熱灸：やや大きな艾を燃やすが，皮膚まで焼かずに熱さを感ずれば艾を除き，火傷を生じない。③間接灸：艾の下にぬれ紙，おろしたショウガ・ニンニク，みそ，食塩などを置いて行なう。④打膿灸：いわゆる弘法(こうぼう)の灸で，拇指頭(ぼしとう)大以上の大きさの艾で皮膚を焼き，さらにこれを化膿させ，膏薬(こうやく)で排膿させる方法である。ほかにも，漆を塗る漆灸，墨を塗る墨灸，紅を塗る紅灸などもあるが，一般に用いられることは少ない。灸の起源は，他民族間に行なわれている烙鉄(らくてつ)（鉄を焼いて皮膚にあてる法）同様に，最初は外傷部の消毒から転じたものであろう。

鍼灸術が特別に中国で展開されたのは，中国古代医人が，経穴と経絡*を考案して，経絡説という医学体系を創設したことに基因している。鍼灸術の実際は，経絡説中の診断法にしたがって処置する場所（経穴）を選定し，ここに，おのおのの場合に適した手技を施すのである。鍼灸術が中国で考案されたのは，戦国時代以前であり，いちおう完成されたのは後漢時代である。日本に伝来されたのは，推古朝（593～628）以前である。この術は中国・日本・朝鮮半島・ベトナム・ビルマなどに普及したが，近時は西欧にも流行しはじめている。日本では，現在鍼灸は医療類似行為と定義され，これを行なうには鍼灸師法による資格が必要とされている。〔丸山昌朗〕

しんきゅうしょう　【秦九韶】（1202？～1261？）　中国の数学者。字(あざな)は道古。星象・音律・算術などに長じていた。現在に伝えられる数学書は《数学九章》で，例題約81問あり，そのうち不定方程式*の問題は有名である。この書ではじめて0が使われている。

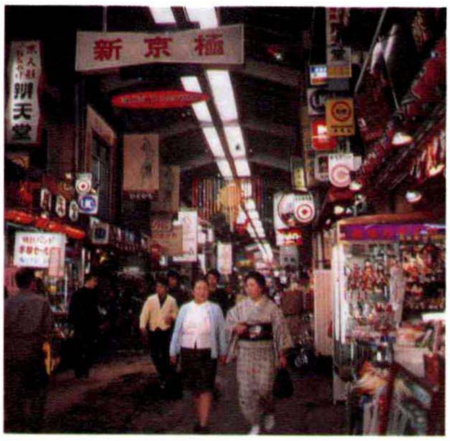
しんきゅうせい　【審級制】　⇨三審制度

しんきゅうろんそう　【新旧論争】　17世紀末フランスの文学論争。古代と近代の文学的優劣をめぐるもので，古代派・近代派論争ともいう。1687年にペロー*がアカデミーで朗読した詩《ルイ大王の世紀》で，〈ギリシア・ラテンの古代作家は尊敬されるべきだが，あがめ奉られるべきではない〉と断じたことから発した。この近代優越論に対して，ボワロー*・ラ・ブリュイエール*らが反論，さらに近代派のフォントネル*は，科学と同じく文学にも進歩があると主張。当時の美意識を決定づけていた古代作家の桎梏(しっこく)を破り，芸術の自由と進歩をうたおうとする若い世代の戦いであったといえる。〔小松英輔〕

しんきょう　【新教】　⇨プロテスタント教会

しんきょう　【新京】　⇨長春

しんきょういく　【新教育】　大正期に興った児童解放・個性尊重を目的とするわが国の自由教育運動。その背景には，明治期の超国家主義・軍国主義による天皇に奉仕する臣民教育への反発があったともいえる。中村春二の成蹊(せいけい)学園，沢柳政太郎の成城学園はその開花を意味し，それら〈新学校〉における教育は新教育とよばれた。これは私立学校での実践にとどまらず，やがて公立師範学校付属小学校でも展開されていった。合科学習の木下(きのした)竹次，動的・分団的学習の及川(おいかわ)平治，自由教育の手塚(てづか)岸衛らはその指導者である。のち，都市公立小学校，さらに農村の小学校にも波及していった。一方，北原白秋・山本鼎(かなえ)・鈴木三重吉らの芸術教育運動も全国に大きな影響を及ぼし，これも新教育に含まれる。第2次世界大戦後は，アメリカ教育使節団の勧告や文部省の指導で，児童中心の経験学習による新教育が国をあげて奨導されたが，これは今日では否定される傾向にある。〔海老原治善〕



新京極　アーケード街の宵。西陣織・京人形など，色彩あざやかな京名物を売るみやげ物屋が軒を連ねる

しんきょうウイグルじちく　【新疆ウイグル自治区】　中国西部にある民族自治区。面積164万6,800km^2。人口900万。行政中心はウルムチ。2自治区直轄市（ウルムチ・クラマイ）・2自治区直轄県・4専区・5自治州に分かれ，4市・74県・6自治県を統括する。崑崙(こんろん)・天山・アルタイの3条の山脈とタリム・ジュンガル盆地にまたがり，ソ連・アフガニスタン・インドなど各国と境を接する。住民はウイグル人（74％）・コサック（10％）・漢族（10％）・キルギス人・ウズベク人・モンゴル人・タジク人などからなる。中央アジア内陸の乾燥地域にあるため，耕地はオアシスの付近でカレーズによって灌漑(かんがい)され，小麦・トウモロコシ・ワタのほか，ウリ・ブドウ・ナシなどを産する。ところによっては養蚕も行なわれ，高原の草原ではヒツジ・ウシ・ウマなどの牧畜が行なわれる。近年地下資源の開発が進み，天山山脈の東方一帯では石油・石炭・鉄・岩塩などの生産が急速に高まり，無煙炭（ウルムチ・トルファン）・金（アルタイ）・水晶・玉（ホータン）などの産も著名である。クラマイ油田では近年採油が始まった。古来，シルクロード*の天山南・北路として開けたが，近代化は遅れた。交通も従来もっぱら自動車路によっていたが，近年ようやく，江蘇(こうそ)省の連雲港から蘭州(らんしゅう)に至る隴海(ろうかい)鉄道が延長され，蘭新鉄道となってウルムチ西方まで通じた。しかし，当初の中ソ連絡鉄道計画は1950年代末の中ソのきびしい対立によって実現されていない。〔船越昭生〕

しんきょうげきだん　【新協劇団】　1934年（昭和9），村山知義*(ともよし)の〈新劇団大同団結の提唱〉により，中央劇場（旧左翼劇場*）・美術座・新築地劇団からの脱退者らが合体して結成された劇団。秋田雨雀*(うじゃく)らを顧問に，村山知義・久保栄*らの演出家，久板栄二郎*らの作家，滝沢修*・小沢栄（栄太郎）らの俳優が参加し，久保栄の《火山灰地*》をはじめとする内外の進歩的な戯曲を上演，暗い世相に悩む知識階級の共感を得た。1940年警視庁特高課の勧告により解散させられた。なお，戦後村山知義によって再建されたが規模は縮小し，1959年東京芸術座と改称した。〔工藤隆一〕

しんきょうごく　【新京極】　京都市の中京区，河原町通りと寺町通りの間を四条通りから三条通りへかけて結ぶ南北約500mの街路とその周辺地区。平安京の東京極の地。豊臣秀吉(とよとみひでよし)の都市整理によって寺院がここに集められ，寺院町を形成していたが，1872年（明治5）東京遷都に伴う都市計画に基づいて墓地・寺院境内を一部開放して小売店街がつくられ，旧名にちなんでこの名がつけられた。大正・昭和にかけて映画館・演芸場・飲食店・遊戯場などが集まり，東京の浅草，大阪の道頓堀(どうとんぼり)と並ぶ京都一の繁華街となったが，最近は河原町通りや四条通りの近代的商店街におされて，観光客向けのみやげ物店の町となっている。〔浅井得一〕

しんきょうしょうせつ　【心境小説】　大正末期から昭和初期にかけて多く行なわれた小説で，自己の精神的鍛練によって現実の危機感などを超脱し，東洋的な主観偏重による心境の調和に至ろうとする傾向をもつ。徳田秋声*・志賀直哉*(なおや)・葛西(かさい)善蔵*らにこの傾向の小説があるほか，私小説*の多くは心境小説的な局面をもつといえる。

しんきょうのじゆう　【信教の自由】　中世における国家の宗教的圧迫に対する反抗の歴史から生まれた基本的な伝統的人権思想。それはまた，人間の精神生活の根源にも連なるものであるところから，基本的人権*のうち最も重要視すべきものの一つとして，近代国家の憲法には例外なく保障されている。日本でも，大日本帝国憲法には，法律の留保を伴わない唯一の例外としてそれが保障されていた（28条）。しかし神道に基づく天皇制*絶対主義がとられていたので，

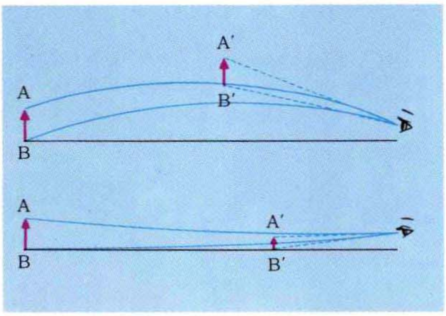
かえって実際には，その自由は妨げられていた。したがって現在の日本国憲法が，国教分離(政教分離ともいわれる)の原則を確立したことによって，はじめて完全な信教の自由の保障が実現されたといえる。信教の自由の保障は次のような内容のものと理解されてよい。①信仰の自由：人間がなんらかの宗教を信仰し，あるいは信仰しないことの自由。したがって信仰の強制，および踏絵*などによる信仰告白の強制などは禁じられる。②宗教的儀式の自由：宗教儀式への参加あるいは不参加の自由。③宗教および宗教団体の自由：いかなる宗教の存在も，その教義・組織・活動も自由である。また，このことから，国が特定の宗教団体に特別の差別的取り扱いをすることは禁じられている。〔永井憲一〕

しんきょく【神曲】ダンテ*の叙事詩。1307年から没年の1321年までかけて書かれた大作。地獄編・煉獄(れんごく)編・天国編の3部，全100歌からなる。ダンテ自身が主人公になり，ウェルギリウスや作者理想の女性ベアトリーチェに導かれて彼岸の世界を遍歴，魂の救済による至福へと至るまでの物語。その広大な構想と幻想性の豊かさによって，世界文学史の古典とされる。

しんきろう【蜃気楼】地面や海面の温度と気温との差が大きいとき，気温の鉛直傾度ができるために，水平光線が異常に屈折し，目に見える像の位置がずれたり実在しない像が現われたりする。この現象を総称して蜃気楼という。地表面が日中強く熱せられて，地表付近の気温傾度が著しくなった場合には，前方の物体が実際の位置より低く見えたり，実像の下に倒立像が見えたりする。これとは逆に冷たい海面上を暖気が流れるときには，海面付近に著しい気温の逆転が起こり，前方の船が実際より上方に浮き上がって見えたり，実像の上方に倒立像が現われたりする。〔曲田光夫〕

しんきん【心筋】心臓の壁をなしている筋肉。肺動脈起始部とともに横紋筋*で構成されるが，骨格筋*と違い不随意筋である。筋原繊維(→筋肉)は骨格筋のそれとまったく同様の構造であるが，両筋の相違は，心筋繊維は合胞体でないこと，したがって多核ではなく中央に一つあり，筋形質は核の周辺に特に多く，各繊維は縦に並んでその間にジグザグの接合線(生の心筋繊維は光ってみえるので光輝線ともいう)によって接着している。また繊維はところどころで分岐し隣接のものと互いに接着している。

しんきんえん【心筋炎】心筋*の炎症。ジフテリア・腸チフス・非溶血性連鎖球菌・化膿(かのう)菌などの感染症に続発するものや，リウマチ性・結核性のものが知られている。発熱と平行しない頻脈(ひんみゃく)，第1音の減弱，心不全，塞栓症(そくせんしょう)などの症候がある場合は，心筋炎が疑われる。原疾患の治療とともに絶対安静の期間を長くする必要がある。



蜃気楼 光線の異常屈折によって現われる蜃気楼の模式図



J. M. シング

しんきんこうそく【心筋梗塞】心筋硬塞とも書く。冠状動脈*の急激な閉塞によって，その流域の心筋*が壊死(えし)に陥るために起こる重篤な心疾患。原因は冠動脈硬化によって内腔(ないこう)が狭くなったり，血栓*(けっせん)でつまったりすることが多い。ほかに心臓疾患がなくても起こり，胸骨裏面をえぐりとるような典型的な激痛が発作的に現われ，左肩・左上肢(さじょうし)に放散する。しかし老人では疼痛(とうつう)は必ずしも典型的でない。また，疼痛と同時に心拍出量の急激な低下によりショック*状態となる。動脈の閉塞によって心筋壊死が起こる結果，発作直後から中等度の発熱，白血球の増加，赤沈の高進，血清トランスアミナーゼの上昇などがみられ，心電図*で確実に診断される。〔清水直容〕

しんきんるい【真菌類】⇒真正菌類

しんぐ【寝具】就寝用具の総称。ふつう西洋式の寝台，日本式のふとんの2種類に大別されるが，そのほかにマットレス・シュラーフザック・ハンモック*などの特殊な形式のものがある。また就寝のための付属品として，夜着・かいまき・シーツ(敷布)・ふとんカバー・枕(まくら)・ねまき・毛布・タオルケット・かや・枕びょうぶなどが併用されている。中世まで特定の寝具が用いられず，衣服類を上から掛けて就寝するのが普通であった。ふとんが一般化したのは綿繊維が移入され，それが普及してからである。西洋の寝台はすでに古代エジプト・ギリシアで用いられ，中世紀からしだいに発達してきている。

就寝して睡眠し休養するための生活用具であるから，衣服に類似した機能を必要とする。特に冬の寒気や夜間の冷却に対しては防寒の要があり，そのために保温性の材料が使用されている。睡眠中は体熱生産が少ないので，起きているときよりも多くの保温を必要とする。そのためにふとん・毛布などの保温材料が用いられる。特に脚部の保温が必要で，いわゆる頭寒足熱が安眠の要件である。次に睡眠中も身体から水分が発散されるので，透湿ないし吸湿の材料が使用される。また身体を快適に横たえるために適度の圧縮性と反発性をもった材料を用いることが望ましい。さらに，身体を衛生的に保つために，清潔であること，直接皮膚に触れる材料は洗たくが可能であること，などが必要である。

《用法》 原則として敷くものは柔らかで厚く，掛けるものは軽いことが合理的である。ふとんの場合，夜具一組みは，敷きぶとん2・かいまき1・掛けぶとん1，または敷きぶとん2・掛けぶとん2，あるいはマットレス1・敷きぶとん1・毛布1・掛けぶとん1などの組み合わせを標準とする。日本で従来用いられた夜着またはかいまきは，衣服の形式をもつ寝具で，就寝時に肩をおおい防寒保温の効果を発揮する点で合理的である。身体に直接触れる位置にはシーツ・ふとんカバーなどを用いる。保温用には毛布が使用され，暑熱時には吸水性・通気性の大きいタオルケットが快適である。ふとんの中入れ材料には，綿繊維・合繊わた・羽毛などが用いられるが，圧縮性の大きい羽毛・合繊わたなどは掛けぶとん用として使い，圧縮荷重に耐える綿繊維は敷きぶとん用とするのが合理的な用法である。枕の中身にはもみがら・ソバがら・アズキ・パンヤ・羽毛などが利用され，特殊のものとして陶枕・木枕などが使用されたこともある。手入れはつねに清潔に保つため，身体に触れる部分は洗たくを励行する。就寝中の水分を放散するため，ときどき日干しする。綿繊維の中入れわたは日干しによってふくらみを増し保温性を回復する効果を伴う。綿わたは長く使用すると固まる傾向があるので打ち返しをすると，圧縮性を回復する。〔小川安朗〕

シング［John Millington Synge］(1871～1909) アイルランドの劇作家。ダブリン近郊に生まれ，長くヨーロッパに遊学したが，イエイツ*の忠告で帰国，母国の辺地アラン諸島のイニュシモア島へ行き，同地に取材して清新なリアリズムに貫かれた悲劇や喜劇を書いた。戯曲は6編しかないが，その卓越した作劇と人間把握(はあく)において，アイルランド文芸復興*の最大の収穫といえる。《谷間の蔭(かげ)》《海へ騎(の)りゆく人々》《西の国の人気者》《悲しみのディアドリ》などの劇作のほか，紀行《アラン島》や詩がある。〔星野恒彦〕

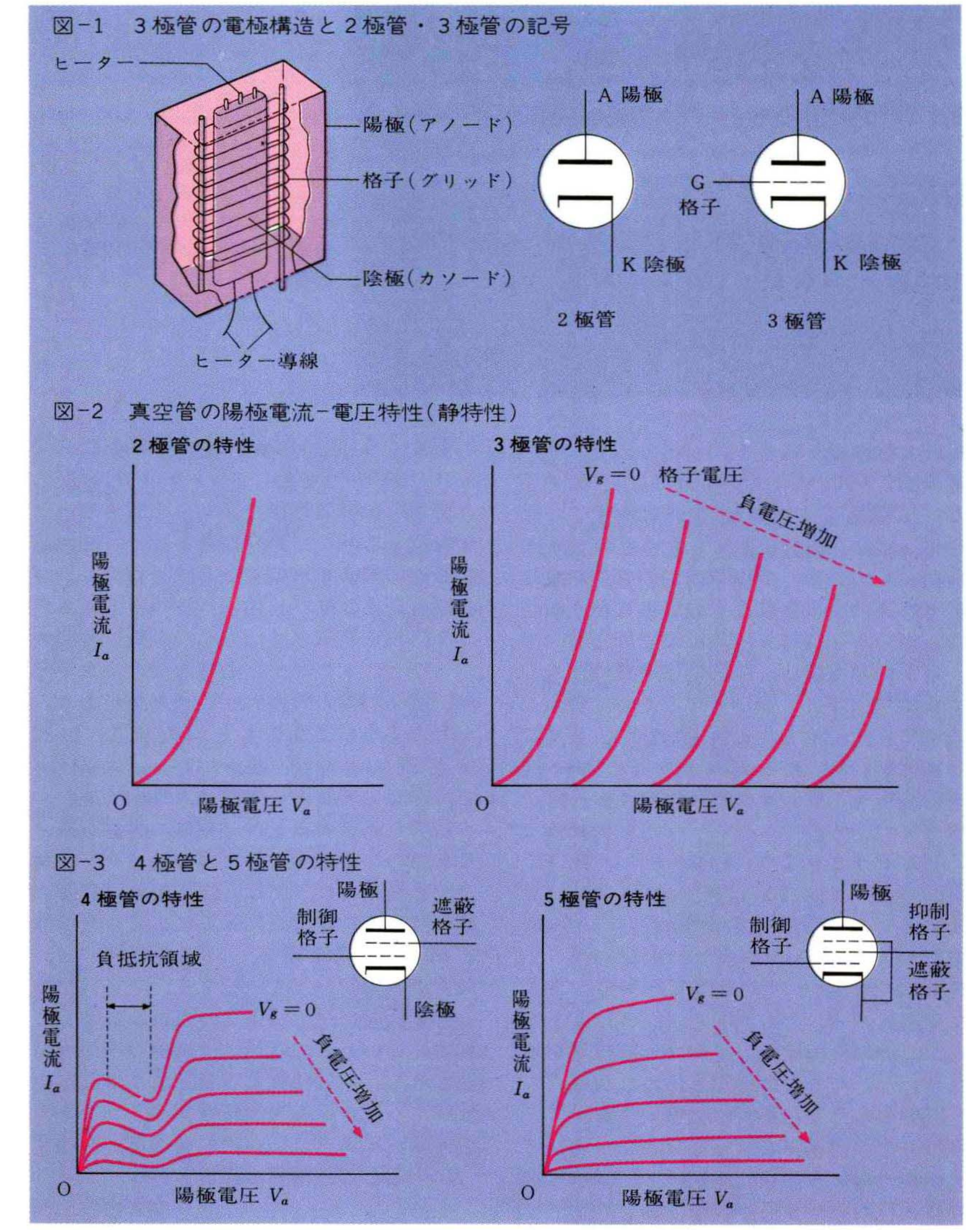
じんく【甚句】日本民謡の代表的な型

の一つ。甚九とも書く。起源は江戸時代にさかのぼりうるものが多く，詞型としては，7・7・7・5のものが多い。機能としては，野山での仕事，盆踊り，酒席での遊びなどがある。また，類似した甚句が地域によって差をもつ場合は，〈秋田甚句〉〈佐渡甚句〉などとよばれる。代表的なものとしては，《米山甚句》《熊本甚句(おてもやん)》などがあり，《山中節》も形式的には甚句に属する。〔徳丸吉彦〕

しんくいが【心食蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シンクイガ科の総称。ハマキガ科・ヒメハマキガ科などとともにハマキガ上科を形成するが，学者によっては別の上科に含めている。それらの群はいずれも微小な種類が多く，主として翅脈によって分類されるため，外観上は区別することがむずかしい。シンクイガ科のものは，幼虫が種々の果樹の果実内に侵入して，果肉を食害する害虫である。日本に産する代表的な種類にモモシンクイガがあり，翅(はね)を広げた長さ15～20mm，前翅は灰白色でかっ色の斑紋(はんもん)があり，後翅は一様に灰色を呈する。幼虫はモモ・リンゴなどの果実中に侵入して食害する。北海道・本州に分布し，成虫は7～9月に出現する。このほか日本には数種が産する。なお，幼虫が果実や野菜を加害する種類は，近縁のヒメハマキガ科にも数種おり，それらにもシンクイの名まえが付されている。たとえば，モモ・ナシの果実中に侵入加害するナシノヒメシンクイや，ダイズのさや中に侵入加害するマメシンクイなどがある。それらの幼虫を総称して〈しんくいむし〉という。〔鈴木邦雄〕

しんくう【真空】いかなる物質も存在しない空間を真空という。天体から遠く離れた宇宙の空間はほぼ完全な真空と考えられている。地上では容器の中の気体を真空ポンプで排出して真空をつくるが，完全な真空をつくることはほとんど不可能なので，実用上は圧力が数mmHg以下の低圧の状態を真空とよんでいる。今日，技術的に到達可能な低圧の限界は10^{-11}mmHgの程度であるが，これにはなお1 cm^3中に30万個程度の気体分子が存在する。〔有山正孝〕

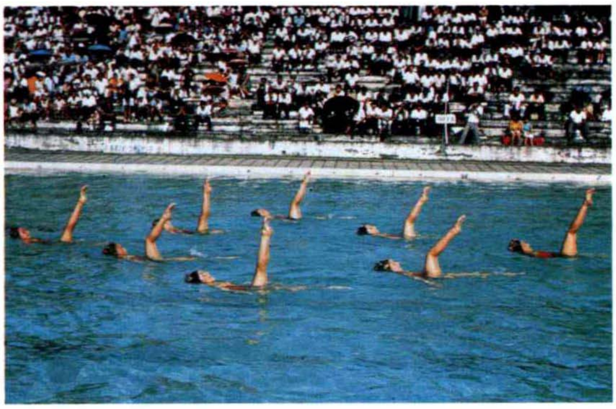
しんぐう【新宮(市)】和歌山県南東端の市。熊野(くまの)川河口の港町として古くから開け，江戸時代には紀伊(きい)徳川家の家老水野氏三万五千石の城下町であった。1933年(昭和8)東牟婁(ひがしむろ)郡新宮町と三輪崎(みわさき)町が合併して市制を施行。市名は，市域内にある熊野三山*の一つの熊野速玉(はやたま)神社(新宮)にちなむ。人口40,000。市域の大半は火成岩山地で占められ，神倉山の大岩壁が海岸に迫り，河口南岸のわずかな平坦地(へいたんち)に中心市街がある。産業三大別人口比は5：26：69。熊野川流域の木材の集散地で，豊富なパルプ材を原料とする本州製紙・巴川(ともえがわ)製紙の二大工場のほか，製材工場も多い。南西部の三輪崎は熊野灘(くまのなだ)に臨む漁港で，カツオ・マグロなどの水揚げが多い。紀勢本線・国道42号線が海岸沿いに，168号線が熊野川沿いに通ずる。吉野(よしの)熊野国立公園*の観光基地であって，熊野大橋付近から熊野川をさかのぼり，九里峡を経て北山川の瀞峡(どろきょう)に至る〈瀞八丁〉の観光船や，熊野坐(くまのにいます)神社のある本宮町に至るバスなどが発着している。



真空管

しんくうかん【真空管】電子を放出する陰極，電子を集収する陽極，および電子の流れを制御するための格子(こうし)を真空容器中に封入した活性回路素子。最も簡単な真空管は2極管で，1900年フレミング*によってつくられた。その原理はエジソン効果*のもつ整流作用であり，彼は2極管が無線受信機の検波装置として使用しうることを発見した。3極管は，2極管の陰極と陽極間に格子状電極を挿入(そうにゅう)したもので，1907年アメリカの電子工学者デ-フォーレストによってつくられた。これによって増幅作用が与えられ，現在のエレクトロニクスが開花する基礎が生まれた。3極管は，図-1のような構造をもち，陰極に対して，格子電位を変化することによって，陽極電流を制御することができる。しかもこの場合，格子に流れる電流はきわめて小さく，したがって，格子回路に小さな電力を供給することにより，陽極回路の大きな電力を制御することができ，顕著な増幅作用をもつ。図-2は2極管と3極管の特性の違いを示したものである。

4極管は3極管の特性を改良する目的でつくられたもので，その一つは遮蔽(しゃへい)格子4極管とよばれ，高周波の増幅を安定に行なうことができる。他の一つは空間電荷格子4極管とよばれ，3極管を低い陽極



シンクロナイズド-スイミング
サンタ-クララシンクロナイズド-スイミングチームの華麗な演技。1968　福島県会津若松市営プール

電圧で動作できるようにしたもので，微小電流（10^{-14}A以下）を測定することができる。遮蔽格子4極管は図-3に示すような特性を示し，負抵抗領域をもつという欠点が新しく生じた。5極管はこの欠点を取り除くためにつくられたものであるが，同時に，ビーム4極管を生み出す原形となった。

以上の真空管は，制御格子を陰極に対して負電位に保って動作させるため，負格子真空管と総称する。これに対して，2次電子増倍管・マグネトロン・クライストロン・進行波管などがあり，動作原理はまったく異なっている。　〔伊藤糾次〕

じんぐうこうごう　【神功皇后】　仲哀天皇の皇后。名は息長足媛（おきながたらしひめ）。父は開化天皇の玄孫息長宿禰（すくね）王。母は葛城高額媛（かつらぎのたかぬかひめ）。天皇に従って筑紫（つくし）に赴き，天皇の死後神託のままに新羅（しらぎ）を討ち，帰って応神天皇を生んだ。その後摂政として約70年間政務をみたという。これらは史実とはみなし難く，長期間にわたる日鮮関係の歴史を背景に，後世一定の意図をもって形成された架空の人物像であろう。《日本書紀》はこれを《魏志倭人伝（ぎしわじんでん）》卑弥呼（ひみこ）に当てている。　〔黛　弘道〕

じんぐうじ　【神宮寺】　神社に付属して建立（こんりゅう）された寺院。別名を神供（じんぐ）寺・神護寺・神願寺・宮寺・別当寺という。多くは神社の境内にあるが，ときには遠隔地にあることもある。神仏習合思想により神も仏法を喜ぶとの考えから建立されたもので，社僧が神前で仏事を執行し，やがては社務にも参与し神官の上に立って権力を握るに至った。越前（えちぜん）（福井県）の気比神宮寺を最古の例とし，常陸（ひたち）（茨城県）鹿島（かしま）・伊勢（いせ）（三重県）多度・下野（しもつけ）（栃木県）二荒（ふたら）山・尾張（おわり）（愛知県）熱田・山城（京都府）賀茂（かも）など多くの例が知られる。明治の神仏分離令で分離または廃止された。なお，寺院の境内に地主神・守護神として祭った神社があるのは，これとは異なることで，混同すべきではない。延暦（えんりゃく）寺と日吉（ひえ）大社，東大寺と手向山八幡宮（たむけやまはちまんぐう）はその例である。　〔黛　弘道〕

しんくうじょうちゃく　【真空蒸着】　10^{-4}～10^{-7}mmHg（水銀柱ミリメートル）に減圧した容器中に被処理物を置き，金属あるいは化合物を加熱して蒸発飛散させて，被処理物表面に薄膜を形成する方法。写真レンズの反射防止膜はフッ化マグネシウムあるいは氷晶石を蒸着させたもの。金属の薄膜やペーパーコンデンサーの製造など，光学部品・電子機器の製造に広い利用面がある。

しんくうじょうりゅう　【真空蒸留】　真空下で行なう蒸留。沸点が高く，大気圧下では高温で分解する物質や大気中で酸化する物質を蒸留するとき，空気の溶存を避ける必要のあるときなどに用いられる。実験室でこれを行なうには，まず第1の容器に原料液を入れ，低温に保ったまま十分排気する。次に液を暖めて一部を蒸発させ，低沸点不純物とともに捨てる。次に残部の一部を低温に保った第2の容器に蒸留して移す。このときの残部には高沸点不純物が残される。十分精製する場合はこの操作を数回くり返す。工業的にはビタミンなどの医薬品，高沸点の脂肪酸，可塑剤，石油留分，水銀などの精製に応用される。　〔志田正二〕

しんくうほうでん　【真空放電】　低い圧力の気体を通して起こる放電現象。ファラデーをはじめとする多くの人々の研究により，陰極線・X線・カナル線・ベクレル線などの発生を伴うことが明らかにされた。その代表は，ガイスラー管中で発生するグロー放電（→気体放電）であり，陰極から陽極に至るまでの間にいくつかの明暗が観測される。すなわち，アストン暗部A，陰極光B，クルックス暗部C，負グローD，ファラデー暗部E，陽光極F，陽極光Gとよばれている。一般に，陰極光および陽光極の発光が強く，これらの発光を利用した卓上電子計算機の数字表示盤などの表示管や螢光（けいこう）燈・ナトリウムランプ・ネオンサインなどの放電燈がつくられている。　〔伊藤糾次〕

ジンククロメート　［zinc chromate］　亜鉛黄ともいう黄色顔料。ZPCとZTOの2種類がある。ZPCは化学式$K_2O \cdot 4ZnO \cdot 4CrO_3 \cdot 3H_2O$，比重約3.5，水溶分の多い（6～8％以下）普通形で，亜鉛華に重クロム酸カリウムおよび三酸化クロム溶液を加えて製造する。ZTOは化学式$ZnCrO_4 \cdot 4Zn(OH)_2$，比重2.8，水溶分の少ない（1.0％以下）強塩基形で，亜鉛華に三酸化クロム溶液を加えて製造する。さび止め顔料として，下塗り用塗料に使用されている。→顔料　〔品田　登〕

ジングシュピール　［Singspiel］　主として18世紀ドイツで流行した音楽つきの劇。大衆的な歌芝居から発し，18世紀半ば以後せりふをもったオペラとして，イギリスのバラード-オペラ，フランスのオペラ-コミックと対比されるオペラの一形式にまで成長した。このころの代表的作曲家にはヒラーやG.ベンダがある。しかし，ジングシュピールが最も芸術的に昇華されたのはモーツァルトの作品においてであって，その《後宮よりの逃走》《魔笛》はこのジャンルの代表作と考えられる。モーツァルト以降ではディッタースドルフやシューベルトらにわずかに作品が知られる程度であるが，特にリフレット（オペラ・オラトリオなどで用いる歌詞やせりふ）の面でイタリア様式のオペラに対して，ドイツ国民主義・ロマン主義のオペラに果たした功績を見のがせない。　〔吉田泰輔〕

シンクレア　［Upton Sinclair］（1878～1968）アメリカの小説家。幼少より文筆で身を立て，かんづめ工場労働者の悲惨な生活を描いた《ジャングル》で一躍有名になった。社会主義作家として，その後も大企業の実態を告発する《石炭王》《オイル！》などを書いた。ほかに《ボストン》，《世界の終り》から《ラニー-バッドの帰還》に至る青年ラニー-バッドを主人公とする連作，《自叙伝》がある。

シンクロスコープ　⇨オシロスコープ

シンクロナイズド-スイミング　［synchronized swimming］　音楽に合わせて行なう水中演技。ヨーロッパではアーティスティック-スイミングの名でよばれている。アメリカで行なわれていた水中ショーを，1945年アメリカ体育協会（AAU）が競技種目として承認したもの。競技にはソロ・ペア・チームの3種があり，それぞれ5分間以内に演技する。音楽と動きの調和，全体の構成・演技の美しさなどによって採点される。

シンクロリーダー　［synchroreader］　磁気テープの代わりに，シンクロシート（表は普通の印刷物で，裏に録音できる磁性材料を塗った紙）を使用する録音機。1955年（昭和30）東京工業大学の星野愷（やすし）教授によって発明された。録音紙を固定し，録音ヘッド3個をつけたターンテーブルを回転して録音再生する。見ながら聞けること，またシートが大量に複製できること，などの特徴がある。

しんけい　【神経】　動物体各部の機能を

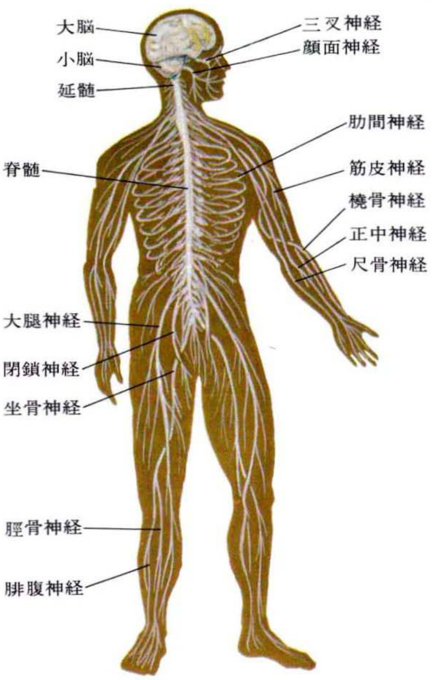
統率し，その刺激伝導路として働く器官。その名称は脳を含めた神経系の働きを表わすほかに，末梢(まっしょう)神経・坐骨(ざこつ)神経などのように接尾語に使われた場合は神経繊維を意味する。

動物体は多くの器官で構成されているが，それらの器官がばらばらに働くのではなく，全体が統一のとれたまとまった働きをすることが要求される。また動物が生存するには，植物が位置を固定し，太陽光線を利用することで足りるのと異なり，そのエネルギー源には限界があるので，自然界を積極的に利用することに努めねばならない。以上のような動物の生存に必要な個体としての各器官の統一と生存のための行動は，とりもなおさず神経系の働きなのである。神経系の発達は動物の種類により異なり，人間のもつ創造する能力は神経系の最高に発達した姿である。➔神経系 ➔神経細胞 ➔神経単位　〔岩崎　稠〕

しんけい【心敬】(1406～1475) 室町中期の連歌作者。権大僧都。連海・心恵・心教とも称した。1429年(永享1)から正徹に和歌を学び，1433年ごろから連歌に筆を染めた。京都の十住心院に住したが，応仁(おうにん)の乱を避けて関東に下向し，相模(さがみ)大山に没した。仏教的自覚によって作者の内面を深め，連歌と仏道と一如(いちにょ)たるべきことを説いて，衰退をみせる和歌に代わり連歌を第一級芸術にまで高めた。作品として《芝草句内発句(しばくさくのうちほっく)》《芝草句内岩橋》，論書に《ささめごと》《所々返答》《ひとり言》などがある。

しんけいえん【神経炎】末梢(まっしょう)神経の障害によって筋の脱力，知覚の鈍麻・疼痛(とうつう)，反射異常を起こしたものの総称。炎といっても，実際には炎症より，末梢神経の変性の場合が多い。神経痛を伴う場合と麻痺(まひ)のみを現わす場合とがあり，そのいずれにも単発性と多発性がある。原因は数多くあるが，中毒によるもの，代謝性のもの，感染性のものに大別される。中毒によるものには，鉛・水銀・ヒ素など，多くの重金属，二硫化炭素などの工業用薬品，ジフテリアなどの細菌性毒素があり，代謝性のものの原因にはビタミンB_1の欠乏，結核・癌(がん)などの消耗性疾患，内分泌疾患がある。原因不明のものは1年以内に大部分治癒(ちゆ)するが，1年以上なおらぬものは完治困難である。治療は重金属が原因の場合はBALなどを投与し，外因性中毒が原因ならばその除去，代謝障害が原因ならば代謝の是正が行なわれる。対症療法は，麻痺には電気療法や運動療法，痛みには超短波などの物理療法を主とし，ビタミンB_1やB_{12}，サリチル酸剤の投与などを行なう。〔増田武弘〕

しんけいけい【神経系】神経細胞とそれを支持する神経膠(しんけいこう)や神経鞘(しんけいしょう)とが主体をなし，それに血管や髄膜(ずいまく)が付属してつくられた器官。個体のいろいろな器官の統率をとり，外界の変化に対応して個体をよりよい状態に保たせる働きをする。刺激を受けとる受容器と反応を起こす効果器の間にあって伝導・分析・統合する役割をし，効果器に命令を送る。神経系は中枢神経(脳と脊髄(せきずい))と末梢(まっしょう)神経(脳脊髄神経と自律神経)に大別される。



神　経　系

①無脊椎(むせきつい)動物の神経系：アメーバを刺激すると，仮足をだして刺激から遠ざかろうとするが，アメーバには刺激を受け取ったり，仮足を出したりする部位が決まってはいない。単細胞の生物でも機能的に分化した特別な構造物をもっているものもあるが，神経系とよばれるものはない。神経系は腔腸(こうちょう)動物にはじめてみられる。ヒドラ，イソギンチャクには体の各部に多くの神経細胞がばらつき，互いに突起により連結し，それが筋肉に接している。この場合1か所への刺激は分散的に広がり方向性はない。扁形(へんけい)動物のプラナリア，環形動物のミミズになると神経細胞は1か所に集まり神経節の形成がみられる。すなわち中枢化がみられ，中枢神経系と末梢神経系の区別がみられるようになる。軟体動物，節足動物となるとさらに中枢化が進み，脳に相当する神経節はよく発達している。タコにみられる学習能力や情動行動，こん虫にみられる秩序のとれた集団行動などはそれを物語っている。

②脊椎動物の神経系：無脊椎動物では神経細胞の集団であった神経節が，脊椎動物では脳および脊髄とよばれる中に腔をもった管状の構造物になっている。また無脊椎動物では神経節の連鎖が消化管の腹側にあるのに対し，脊椎動物では脳および脊髄はそれの背側にあり，骨または軟骨でおおわれているなど根本的な違いがみられる。脊椎動物の神経系には一つの共通のパターンがみられ，それを理解するためには神経系の発生をたどってみるとよい。神経系は表皮と同じ外胚葉(がいはいよう)(➔胚葉)より発生する。個体発生の初期に背側の外胚葉が厚くなって神経板をつくり，やがてそれが丸くなり周囲から分離して体内に埋められ，内に腔所をもった神経管となる。これが脳と脊髄の原基で，前端部から脳が，その後方から脊髄が形成される。　〔岩崎　稠〕

しんけいこう【神経膠】脳と脊髄(せきずい)の中にあり，グリアともよばれる。神経細胞を支持し，これらに栄養を与え，また病原や不用物を除く働きをする。膠繊維と膠細胞に分けられ，膠細胞には星状膠細胞，オリゴデンドログリア細胞，オルテガ細胞が区別される。神経細胞は生後まもなく分裂が止まるのに対し，神経膠細胞は一生分裂増殖する能力を有し，消失した神経細胞のあとを埋めたりする。

しんけいこうはいく【新傾向俳句】1902年(明治35)正岡子規没後《日本俳句》を高浜虚子とともに継いだ河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)を中心とする俳句の革新的運動流派をいう。碧梧桐が《続春夏秋冬》を刊行したころの傾向を大須賀(おおすが)乙字が〈俳句界の新傾向〉とよび，暗示的手法の展開を指摘したことに端を発し，さらに碧梧桐も《俳句の新傾向に就(つい)て》を書き，複雑な内容をもった個性的な句風を求めた。《日本俳句鈔(しょう)》刊行のころからは従来の5・7・5の立場を破り，季題趣味からの超脱を説いた。直接の経験を重視する当時の自然主義運動の影響を受けた俳句の近代化であり，碧梧桐の全国旅行でこの新風は全国に広がった。のち自由律を標榜(ひょうぼう)する中塚一碧楼(なかづかいっぺきろう)の《海紅》や荻原(おぎわら)井泉水の《層雲》に受け継がれ，自由化は徹底された。　〔源　五郎〕

しんけいざいせいさく【新経済政策】⇨NEP(ネップ)

しんけいさいぼう【神経細胞】神経組織を構成し神経機能を営む成分。中枢神経系では灰白質の中に，末梢(まっしょう)神経系では神経節の中にある。細胞体(核周囲部ともいう)と2種類の突起，すなわち原形質突起である樹状突起と軸索(神経突起ともいう)とからなる。樹状突起は他からの刺激を受け取るために張り巡らされたアンテナのような役目を果たす。樹状突起および細胞体で受け取られた他からの刺激は軸索を通って他に伝えられる。神経細胞は突起の数により，単極性・偽単極性・双極性・多極性神経細胞に区分される。たとえば運動神経細胞のように，機能面からよばれることがある。細胞体の長径は約5～100μ，樹状突起は長いもので約1mm，軸索は長いもの

では約1～2mに達する。細胞体内には核のほか，ニッスル小体，ミトコンドリア，ゴルジ装置などが含まれ，またある種の細胞にはメラニン，リポイド性の色素顆粒(かりゅう)がみられる。ニッスル小体は電子顕微鏡によってリボ核酸(RNA)であることがわかり，これは細胞の物質代謝と関係があり，いろいろな神経疾患，中毒，神経繊維の切断などにより溶解したり消失したりする。神経細胞は胎生期には分裂するが生後まもなく分裂は止まり，その後は細胞が消失しても補充はされない。〔岩崎　稠〕

しんけいしつ【神経質】神経衰弱や神経過敏症状をさす一般用語。わずかな刺激に頭痛を起こしたり，吐き気を催したり，いらいらしたり，あるいは些細(ささい)なことに怒り，不きげんになり，悲観するような状態をいう。専門的には，いわゆる森田神経質(神経質症ともいう)をさす。これは森田療法を創始した森田正馬の神経症理論の概念の中核をなすもので，生来の感受性鋭敏・内向的性格に，なにかのきっかけでヒポコンドリー性基調が起こり，精神相互作用が加わって起こるとされる。森田神経質は，①普通神経質(不眠・頭痛・疲労感・性的劣等感)，②強迫観念(対人恐怖・不潔恐怖・赤面恐怖)，③発作性神経質(心悸亢進(しんきこうしん)・不安発作)に分けられるが，この対症療法として編み出されたのが森田療法である。➔森田療法〔川上伸二〕

しんけいしょう【神経症】⇨次ページ

しんけいすいじゃく【神経衰弱】一般に，神経過敏でいらだちやすく，元気のない状態を主症状とするものをいったが，第2次世界大戦後はノイローゼという一般用語がこれに代わっている。心身の過労がおもな原因で，神経症(ノイローゼ)に含まれるが，神経症そのものではない。現在では神経衰弱反応として，持続的な心痛などによる神経疲憊(ひはい)が精神および身体に現われた状態をさすことが多い。

しんけいせつ【神経節】末梢(まっしょう)神経系の経過の途中にある神経細胞が集合してこぶのようにふくらんでいるところ。自律神経系に属するものと，知覚神経に属するものに区別される。交感神経および副交感神経の神経節は前者に属し，これらの神経節の細胞は多極性であり，中枢からの神経繊維はここの細胞にシナプスして終わる。すなわち自律神経系の神経節は神経単位の交替の部位である。他方脊髄(せきずい)神経の後根にある脊髄神経節や知覚性脳神経の神経節は後者に属し，これらの部の細胞は偽単極性のもので，1本の突起はその後T字状に分かれ，一端は末梢の組織に他端は中枢へと向かう。そのようにして末梢からの興奮を中枢に伝える働きをなし，ここでは神経単位の交替はない。そのほか無脊椎(むせきつい)動物にも神経節とよばれるものがあるが，これは脊椎動物の脳や脊髄に相当するものである。〔岩崎　稠〕

しんけいせん【神経戦】敵側の不安・焦慮・恐怖心をそそり，戦意を失わせる戦法。第2次世界大戦中に，名づけられたものである。心理戦の一方法であるが，軍事技術の応用を主とする点が特徴。➔心理戦

しんけいせんい【神経繊維】神経細胞の突起で，神経突起，軸索突起ともいう。神経細胞に起こった興奮を他の神経細胞，筋肉，その他の組織に伝える働きをする。神経繊維で中軸をなすものは軸索であり，これを包む形で髄鞘(ずいしょう)がある。しかし髄鞘のない神経繊維もあり，形態の上から髄鞘の有無により有髄神経繊維と無髄神経繊維に区分される。また機能面より求心性および遠心性神経繊維に分けられる。求心性神経繊維は知覚神経繊維ともいわれ，末梢の受容器からの情報を中枢に伝える働きをする。遠心性神経繊維は中枢からの命令を筋肉や腺(せん)などの効果器に伝えるものであり，この中でも骨格筋を支配する繊維を特に運動神経繊維という。髄鞘は軸索の周囲をらせん状に取り囲んでいるものであるが，これはタンパク質でわく組みされた中に，ミエリンとよばれる白い脂肪性の物質を含み，最外側で末梢神経系では神経鞘細胞(シュワン細胞ともいう)に，中枢神経系では神経膠(こう)細胞に続いている。髄鞘には一定間隔ごとに切れ目があり，その部分をランビエの絞輪という。興奮の伝導は一定方向のみで，伝導速度は無髄繊維よりも有髄繊維が早く，直径にほぼ比例して太い繊維ほど早い。有髄神経繊維では，興奮は電気的に絶縁の切れるランビエの絞輪ごとにとびとびに伝わる。これを跳躍伝導(またはとびとび伝導)という。〔岩崎　稠〕

しんけいたんい【神経単位】神経元，ニューロン，ノイロンともよばれる。神経系の形態上および機能上の最小の単位。細胞体と2種の突起，すなわち樹状突起と軸索で構成される。神経細胞は相互が連続しているという説もあったが，少なくとも脊椎(せきつい)動物の場合，細胞どうしは接触であって連続ではないことが電子顕微鏡の発達により定説になってきた。これらの神経単位が無数に集まり，複雑にからみあって神経系を構成している。〔岩崎　稠〕

しんけいつう【神経痛】特定の神経の区域にのみ起こる発作性の痛みがある疾患。原則として運動麻痺(まひ)がみられず，また知覚異常もほとんどないのが特徴である。原因不明のものを真性の神経痛といい，他の疾患が原因となって起こる神経痛を症候性神経痛という。神経の圧迫や感冒・外傷・伝染病・糖尿病・悪性腫瘍(しゅよう)・むし歯などが原因疾患となる。真性の神経痛はまれで，症候性神経痛が圧倒的に多いため，神経痛の治療はまず原病をさがすことが重要である。一般には漫然と神経痛として治療され，原病の糖尿病・悪性腫瘍が見落とされている例が少なくない。治療は原病が判明すればその治療を行なうが，対症的には保温に注意し，超短波・浴療法などの物理療法と，アスピリン・ブタゾリジンなどの鎮痛薬の投与を行なう。以上の治療を行なっても痛みが激しい場合には，外科療法によって神経の切除などを行なう。主要な神経痛として次のようなものがある。①坐骨神経痛：腰から大腿(だいたい)・下腿の後面にかけて痛むもので，非常に多い神経痛である。椎間板(ついかんばん)ヘルニア・骨多孔症・変形性脊椎症(せきついしょう)・脊椎すべり症・糖尿病・悪性腫瘍・アルコール中毒・脊髄癆(せきずいろう)などが原因となる。②三叉(さんさ)神経痛：俗に顔面神経痛というが，真性のものが多く，非常に激烈な痛みが特徴である。発作は誘因がなくとも起こるが，寒い風にあたったり，談話・洗面などでも誘発される。抗てんかん薬がききめのあることがある。症候性の原因には，むし歯や目・鼻・中耳の疾患が存在することがある。③肋間(ろっかん)神経痛：肋間神経の支配域が痛むが，背部よりも前胸部が痛むことが多い。片側だけにくるのがふつう。帯状疱疹(ほうしん)をしばしば伴う。④舌咽(ぜついん)神経痛：扁桃(へんとう)・後咽頭・舌後方・中耳に激痛がある。真性が多く，発作中は会話や食物の摂取が妨げられる。⑤後頭神経痛：大後頭神経・小後頭神経の区域で，後頭部の痛みである。頸椎(けいつい)が原因のことが多く，かなりみられる〔増田武弘〕

しんけいはい【神経胚】原索動物と脊椎(せきつい)動物の発生の一時期で，髄胚(ずいはい)ともいう。嚢胚(のうはい)が完成したのち胚は前後に伸び，胚の背側にあって脊索に接している外胚葉は厚みを増して平板状となり，神経板になる。次に神経板の周囲が隆起して神経板を取り囲むようになり，やがてその背側が合わさって管のようになり，神経管ができる。このように，神経板ができてから神経管が形成されるまでの胚を神経胚とよんでいる。この時期の胚では外胚葉は神経板と表皮に分かれ，神経板の下側には頭腸(腸管の頭部に属する部分)・原脊索板・脊索原基・予定体節があり，表皮になる外胚葉は側板の中胚葉で裏打ちされているものが多い。組織の分化はまだ始まっていないが，おもな器官の原基は現われはじめている。〔蒲原春一〕

しんけいぶんぴつ【神経分泌】神経細胞はふつう刺激や興奮を伝導する役割を営むが，ほかに内分泌的な働きをすることがわかってきた。この作用を神経分泌といい，このような分泌作用を行なう神経細胞を神経分泌細胞という。無脊椎(むせきつい)動物では，変態・変色・脱皮などが，神経分泌細胞のホルモンによって支配され，甲殻(こうかく)類のサイナス腺(せん)ホルモン，こん虫類のアラタ体ホルモンなどが知られる。脊椎動物，

神経症

文明の進歩とともに人間関係・社会機構が複雑になると，文明病の一つとして神経症がクローズアップされてきた。第２次世界大戦前，日本では神経衰弱ということばが一般的であったが，戦後にはノイローゼということばが流行した。一般には神経が疲れた状態と解されるが，医学的・心理学的には必ずしも神経の疲憊(ひはい)ばかりをさすのではなく，むしろ，身体的にはなんの異常もなく，精神的な葛藤(かっとう)が原因となって起こる病的状態と考えられ，病識があること，人格の変調をきたさないことによって精神病とは区別される。

神経症neurosisということばは18世紀にイギリスのカレンが用いたのをはじめとする。これは〈解剖学的損傷の認められない神経機能の障害〉という意味で，この中には震顫麻痺(しんせんまひ)や舞踏病*などの神経疾患までが含まれ，今日の神経症の概念とはかなり異なるものであった。

神経症の概念が人類の歴史に現われたのは古く，ギリシア時代にはすでにヒステリーという病名があった。もっとも，この時代のヒステリーは〈子宮の精が長期の不妊に堪えかねて全身を駆け回ることから生ずる病気〉と考えられ，子宮そのものに原因を置いているのが特徴的である。中世においてはヒステリーや精神病者を魔女とみなして殺すなど，異常な状態が続いたが，19世紀になって近代的な神経症の概念が生まれた。

シャルコーはヒステリー麻痺の患者の治療体験を通して，その原因を心因説に一歩近づけ，弟子(でし)のバビンスキーはさらに進めて，それまでの体因説に対抗してヒステリー症状のおおかたが心因によると考えた。その後，シャルコーのもとで学んだジャネ*とフロイト*は，神経症の心因理論を明確に打ち立て，現代の神経症理論の基礎を築いたのである。

【環境因と性格因】今日，神経症に関する理論にはさまざまな考え方があるが，その最大公約数を取り上げると次のようになる。

まず，神経症は器質的な病変がなく，心理的誘因によって起こる疾患であるということ。実際にはさまざまな身体症状を伴うことが多いが，それは心理的原因の単なる随伴現象にすぎない。心理的原因には環境因と性格因とがある。環境が原因となって起こる神経症を環境神経症，性格的なものが原因となって起こる神経症を性格神経症という。しかし，実際にはこの両者は独立して存在するよりも互いにからみあって症状を形成することが多い。

神経症の一要因としての環境的原因には，突発的で激しい情動を伴う変化(たとえば，地震・火事・落雷などの天変地異，近親者との離別・破産・生命を脅かす突発事故など)と，慢性的な不満，不安，苦悩，緊張などが積み重なってきたす変化(たとえば,家庭や職場における人間関係の軋轢(あつれき))とがある。前者は人間をパニックに導き，一種の精神障害に陥らすことがある。驚愕(きょうがく)反応・危急反応とよばれるものがこれで，身体症状を伴いやすい。症状は原始反応的で，経過は短く，刺激の消失とともに比較的早期に治癒(ちゆ)する。

これに対して，慢性の情動変化をひき起こす環境因は対人関係に端を発するものが多いゆえに微妙である。特に，フロイト*の指摘するように幼小児期の両親との間に生ずる葛藤(エディプス-コンプレックス*)は，成長してからの神経症の原因になりやすい。また，友人・異性間，夫婦間，嫁・姑(しゅうとめ)間，親子間，さらに職場や社会での複雑な人間関係が感情的対立，緊張関係，不安・葛藤を持続的にひき起こすような場合，人間の正常な心的構造にひずみを与え，二次的に神経症症状を発現しやすい性格を形成したり，葛藤の無意識*への抑圧*が神経症症状となって顕在化したりする。一方，神経症的な性格が発病に関連をもつといわれている。神経過敏な性格，自信がなく劣等感をもちやすい性格，物事にこだわり，完全主義に陥りやすい性格，虚栄心が強く自己中心的な性格，融通のきかない性格，小児的で依存しやすい性格などは現実に適応できず，しばしば神経症の原因となる。

【類型】今日，一般に神経症と考えられるものには次のようなものがある。①神経衰弱反応：精神あるいは身体のはなはだしい疲れからひき起こされるもの。②心気症(ヒポコンドリー)：自分の身体の調子に異常に気を使う状態。不眠・頭重・疲労感・能率減退・脱力感・性的異常感・めまい・注意散乱・記憶低下などを自身の身体の異常と結びつけて苦にし，病気でないのに病気だと思い込んだりする。③不安神経症：不安は多かれ少なかれ神経症の根底をなすものであるが，特に不安が表面に顕在化し，身体的に注意を向けた部位に不安が集中して心悸亢進(しんきこうしん)発作・四肢(しし)脱力発作・めまい発作・卒倒恐怖・震顫発作・呼吸困難発作・発狂恐怖発作などが現われる。フロイトはこれに現在の生活における性的不満という特別の意味を与えている。④強迫神経症：強迫観念に基づく神経症。自分でも不合理でばかげていると思われるある考えが，払いのけても払いのけても強く迫ってきて，不快・苦痛を訴える。恐怖症*などはその例。⑤ヒステリー*：生物学的にみると，より原始的な状態に退行しようとするもの，深層心理学的には意識下の願望の象徴的表現ということになる。身体症状としては運動麻痺，感覚障害，痙攣(けいれん)が主で，精神症状としては過大に感情的苦痛を訴え，演技的態度が目だち，子どもの状態にもどる退行現象や小児症が現われ，意識がぼんやりとしたり，以前の記憶を喪失する健忘が現われたり，ときに昏睡(こんすい)・仮死状態になることもある。

【神経症をつくり出す機制】誤った自己暗示，ストレスに対する情動の特殊な反応，自分の短所に注意が固定してその他の価値ある点を見失う，とらわれの機制，病気になることで苦痛とする現実からのがれようとする疾病(しっぺい)逃避機制，代理・反動形成・合理化・投影・退行などを通じて満たされない欲求を症状として表現する無意識の心理機制などが根底に存在する。

【治療】神経症はさまざまな要因からなり，その現われ方も種々であるため，治療もそれぞれの立場から精神分析学*の流れをくんだ療法，実存分析(→現存在分析)による人間学的療法，ヨガにヒントを得た自律訓練法，催眠法，日本における森田療法*などがある。要は心因を取り除き，神経症を誘発しやすい性格をよく認識することである。

〔岩井　寛〕

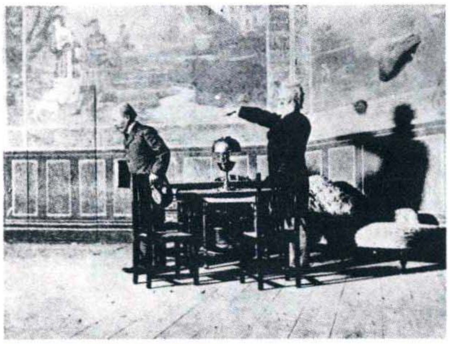
特に哺乳(ほにゅう)類では，間脳特に視床下部と脳下垂体に多くみられる。〔平野修助〕

しんけいまひ　【神経麻痺】 脳または脊髄(せきずい)から出た神経が傷害されて起こる麻痺*。中枢神経麻痺と末梢(まっしょう)神経麻痺とに分けられる。犯される神経繊維*により運動麻痺と知覚麻痺がある。末梢神経麻痺では，両者が同時に起こることが特色である。原因は外傷による神経の切断，腫瘍(しゅよう)などによる神経の圧迫，鉛・ヒ素・水銀・亜鉛の中毒，糖尿病などの代謝障害，循環障害などである。一般には障害部より，末梢の運動麻痺・知覚鈍麻・深部反射の消失などをきたす。治療には原病の治療のほかに温浴・マッサージ・電気療法などが用いられる。〔丸山　晋〕

しんげき　【新劇】 日本演劇の一つ。明治１年(1868)以来の演劇における近代化運動の主流をなしているもので，一般に日本における近代劇あるいは現代劇とほぼ同義語に用いられる。ことばとしては，すでに1888年(明治21)新派劇*に対して用いられ，さらに1905年の歌舞伎座(かぶきざ)における第１回文士劇*にも用いられたが，一般に普及したのは小山内薫*(おさないかおる)が〈歌舞伎でもなく，新派でもなく，ある新しい演劇〉の創造を提唱し，さらに1913年(大正２)朝日新聞が芸術座第１回公演に対して，〈新しい演劇〉を約して用いて以来である。要するに，能・人形浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎などの

旧来の演劇(旧劇)に対する新しい演劇をさしたが，同時に歌舞伎を旧派として誕生した新派劇からも分ける呼称であった。発生時からヨーロッパおよびロシア・アメリカなどの近代劇運動および現代劇の展開と密接な関係を持ち続け，その意味ではむしろ日本におけるモダンドラマとよぶのが最もふさわしい。また，今日の日本では現代劇の呼称が一般に商業演劇の現代劇をさすに対し，むしろ非営利的な芸術的な演劇形態をさす。

【歴史と沿革】 一般に新劇のはじまりは小山内薫の自由劇場や坪内逍遙(しょうよう)の文芸協会に求められるが，正確には明治初期の官製演劇改良運動および中期から後期にかけて浸透した労働者演劇にその発生をみなければならない。上からの改良熱は，新帰朝の末松謙澄(のりずみ)がイギリスの〈ドラマチック-レフォミング-アソシエーション〉にならって1886年演劇改良会を設立したのに始まり，旧劇の前近代性および非道徳性を是正し，紳士貴顕の鑑賞に耐えうる演劇をつくり出すことが目的とされた。一方，労働運動の高まりとともに労働者の意識覚醒(かくせい)を目的とする演劇が各地に起こり，以後の新劇運動の一つの底流を形づくった。こうした対照的な前史を経て，1906年新帰朝の島村抱月が師の逍遙の協力のもとに文芸協会を設立，つづいて小山内薫がアントワーヌ以来各国に波及した自由劇場運動に刺激されて，1909年2世市川左団次とともに自由劇場を起こし，イプセンをはじめとするヨーロッパの近代戯曲を競って紹介に努めるとともに新しい俳優の養成にのり出し，ここに日本における本格的な近代劇運動が始まった。ただ当時のヨーロッパ演劇の主流的傾向が心理主義に基づく自然主義戯曲であったため，新劇はこの影響を強く受けた。1913年文芸協会が島村抱月・松井須磨子(すまこ)を中心とする芸術座はじめ三つの劇団に分裂し，自由劇場が1919年の第9回公演を最後に消滅するとともに，大正期の新劇は未曾有(みぞう)の群小劇団乱立の時代を迎えた。同時に創作戯曲への気運も高まり，中村吉蔵，谷崎(たにざき)潤一郎・菊池寛・山本有三(やまもとゆうぞう)らの劇作家が輩出し，大正劇文学が開花した。一方，平沢計七をはじめとする労働演劇が労働運動の高揚とともに大きな広がりをみせたのもこの期の特色である。新劇運動に第2の時代が始まったのは，関東大震災の翌年の1924年ドイツ帰りの土方(ひじかた)与志が私財を投じてつくった本格的なヨーロッパ式劇場である築地(つきじ)小劇場からである。青年貴族土方は小山内らと同人制によってこの小劇場を運営し，あらゆる傾向の海外戯曲を次々と上演して，反商業演劇・実験演劇の方向を推し進めた。この新劇のメッカにはせ参じた人々の中から，千田是也(これや)・滝沢修・薄田(すすきだ)研二・田村秋子・山本安英・東山千栄子(ちえこ)・杉村(すぎむら)春子らの昭和期の新劇運動の推進者が生まれた。小山内の急死によって築地小劇場は，劇団築地小劇場と土方を中心に政治的方向を歩む新築地劇団に分かれたが，以後昭和初期の左翼的風潮と共に新劇界は複雑な理念対立の様相を呈した。1934年(昭和9)村山知義(ともよし)によって新劇の大同団結が提唱され，新協劇団が久保栄演出の《夜明け前》で旗上げしてリアリズム路線を打ち出したのに対し，1932年創立の築地座は友田恭助・田村秋子を中心にフランスふうの心理劇をめざし，この二大主流は戦後にまで引き継がれた。1940年，文学座(築地座のメンバーによって1937年創立)を除く新協劇団と新築地劇団は強制解散させられ，第2次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)によって主要な新劇人の活動はほとんど封じられた。敗戦によって新劇は第3の時代を迎え，青山杉作(すぎさく)・千田是也を中心とする俳優座(1944年創立)，文学座，滝沢修・宇野重吉を中心とする民芸(1947年創立)を中心に，劇団システムによる活動が開始された。新しい演技術として戦前に引き続いてスタニスラフスキー-システムが検討され，またこれと対立するブレヒトの異化の方法が取り入れられるなど，創作戯曲や海外戯曲の多彩化とともに戦後新劇は活発な様相を呈した。しかし昭和30年代の後半からはリアリズム演劇への疑問が目だち始め，さらに昭和40年代には既成劇団への不信から出発した前衛的な小劇場運動が活発化し，政治的・社会的状況も反映して，新劇界は今日ますます複雑な様相を呈している。〔大島　勉〕





新　劇　(上)自由劇場公演　イプセン作《ジョン-ガブリエル-ボルクマン》 1909　(下)俳優座公演　田中千禾夫作《千鳥》 1967

しんげつ【新月】 天球上月が太陽と同じ方向にあるとき，正確にいえば太陽と月の黄経が等しくなるときをいう。朔(さく)ともよぶこともある。このとき，月は太陽と地球の間にあって，日光のあたらない暗い半球を地球に向けているため，肉眼では見えない。日食は新月のとき起こるが，黄道面と白道面が約5°傾いているため，新月のとき，つねに日食が起こるとはかぎらない。俗に，朔を過ぎて，夕方西空に糸のように細く見える月を新月とよぶこともある。〔木下　宙〕

じんけっせき【腎結石】 腎盂(じんう)・腎杯(→腎臓)内に結石が生じる疾患。結石に含有される成分は，尿酸・シュウ酸・リン酸・炭酸などである。感染，物質代謝の障害，などが原因となり，血尿・疼痛(とうつう)・結石排出およびそれらに付随する再発性腎盂炎・膿腎症(のうじんしょう)・水腎症・無尿症などを症状とする。診断はレントゲン写真や膀胱鏡(ぼうこうきょう)によって出されるが，自然排出が期待される小結石以外は手術によって除去される。➔尿管結石

シンケル［Karl Friedrich Schinkel］(1781～1841)　ドイツの建築家。ベルリン建築アカデミーでギリー(1772～1800)に学び，イタリアに留学。1811年アカデミーの会員となった。初期の建築のギリシア古典による意匠は，ベルリン王立劇場に発展的に表現され，列柱の堂々としたベルリン古代博物館は代表作として知られている。

しんけん【親権】 未成年の子を監護・教育することを目的として，その父母に与えられた権利・義務の総称。その本質は一種の職分である。父権的家族制度のもとにおいては，親子関係は父子関係としてしか問題にならなかったため，親権は家長権に吸収され，独自な存在をもたなかった。親権が家長権から独立したのちにも，家長権的支配関係は濃厚に残存した。旧民法においても父が親権を行使するものとし，父が不在・死亡・去家・親権行使不能などの場合だけ母がこれを行使しうるものとしていた(旧民法877条)。しかも，母が親権を行使するには親族会の同意を要するという制限も付していた(旧民法886条)。新民法は夫婦たる父母の共同親権を認め，母の親権についての制限を削除した。新民法によると，親権に服する者は未成年者のみで，未成年者も婚姻すると親権に服さなくなる(民法818条1項)。子が養子であるときは，養親の親権に服する(民法818条2項)。親権者となる者は未成年者の父母であり，父母が婚姻中は親権は共同に行なうが，父母の一方がこれを行なうことができないとき，たとえば，死亡・禁治産宣告・親権喪失などの場合は，他の一方が行なう(民法818条3項)。

共同で親権を行使する場合でも，父母の一方が共同の名義で子に代わって法律行為をし，または子の法律行為に同意したときは，他の一方の意思に反したときでも有効である(民法826条)。父母が離婚する場合は，いずれか一方を親権者として定めなければならない(民法819条1項)。子の出生前に父母が離婚した場合の子および嫡出でない子の親権者には，原則として母がなる(民法819条2項・3項)。親権の効力は，第1に子の身分に関する権利・義務として，子の監護・教育・居所指定・懲戒・職業許可などがあり(民法820〜823条)，第2に子の財産に関する権利・義務として，財産管理と財産上の法律行為の代理などがある(民法824条)。ただし，子の行為を目的とする債務を生ずる場合には，本人の同意を得なければならないし(民法824条)，親権者と子の利益が相反する行為，たとえば，親子間の売買などについては親権者は管理権を有しない(民法826条)。親権を行なう父または母は，やむをえない事由があるときは，家庭裁判所の許可を得て親権または管理権を辞任することができる(民法837条)。親権者が親権を濫用したり，著しく不行跡であったり，または管理失当のために子の財産を危うくしたりしたときは，子の親族または検察官の請求によって，家庭裁判所は親権または管理権の喪失を宣告することができる(民法834・835条)。親権は子が成年に達したときに終了するから，親権を行なった者は，遅滞なく財産管理の計算をしなければならない(民法828条)。ただし，子の養育費および財産の管理費は，子の財産の収益と相殺したものとみなすとしているから(民法828条)，結局，現に残っている財産を全部子に返還すればよいことになる。〔黒木三郎〕

しんげん　**【震源】**　⇨地震

しんげん　**【箴言】**　《旧約聖書》の第20書。知恵文学の一。序言でソロモンの作とされているが，これは旧約の伝統による儀礼にすぎず，実際は良家の青少年を教導する目的で紀元前5〜紀元前4世紀ごろに編まれたらしい。格言の形に凝縮された人間の経験知が多くは対句体で並べられ，いわば生活の知恵の宝庫である。

じんけん　**【人絹】**　⇨レーヨン糸

しんげんかほう　**【信玄家法】**　分国法の一。戦国時代，甲斐(かい)(山梨県)の武田(たけだ)氏が制定した家法。甲州法度(はっと)ともいう。1547年(天文16)武田晴信(はるのぶ)(信玄)が制定した55条と追加2条，合計57条，および1558年(永禄1)弟信繁(のぶしげ)が定めた家訓99条とからなる。《群書類従》に収む。

しんげんじつは　**【新現実派】**　文芸用語。一般には大正中期から後期にかけての，第3・4次《新思潮》の芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)・菊池寛・久米正雄(くめまさお)・山本有三(ゆうぞう)，《奇蹟(きせき)》によった葛西(かさい)善蔵・広津和郎(かずお)・宇野浩二(こうじ)のほか，佐藤春夫・久保田万太郎・室生犀星(さいせい)らの文学的傾向をいう。共通の文学的主張はもたないが，第1次世界大戦後の社会の暗さを反映した現実主義を求める機運の中で，理想主義・耽美(たんび)主義などと対立しながら，現実の新しい認識の方法を模索した。その作風は，近代個人主義に立脚し，理知的である。この派の作家は，現実の見方にそれぞれ鋭い批評眼を蔵していながらも，社会的・歴史的な現実への視点の取り方が消極的になり，しだいにみずからの内部に沈潜していくという傾向を示しているといえる。〔金子　博〕



人権宣言　前文および17か条からなり，1789年8月，憲法制定議会で採択・公布された

しんけんせいじ　**【神権政治】**　神が主権者であり，政治権力者は主権者たる神によって絶対的権利を与えられているとしつつ，人民に絶対的服従を要求する政治をいう。イギリスのジェームズ1世が唱えた王権神授説はその典型の一つである。

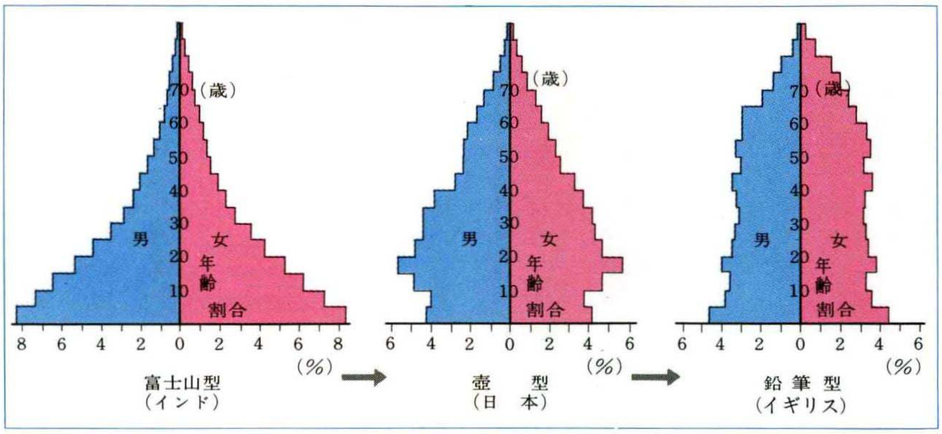
じんけんせんげん　**【人権宣言】**　フランス革命初期の1789年8月26日に国民議会が採決した宣言で，正式には〈人および市民の権利の宣言〉という。ルソーあるいはアメリカ独立宣言の影響を受け，ラ-ファイエット・シェイエスらの草案を取り入れたもので，市民革命としてのフランス革命の原理を表明したものである。前文および17か条からなり，第1条〈人間は生まれながらにして自由で平等な権利を持っている……〉という冒頭の条文は有名である。自由・平等・主権在民・三権分立や財産権の不可侵などが規定され，近代市民社会の自由主義的な政治・社会思想を明確に打ち出している。しかしなお革命の初期にあって，全国民の基本的人権を論理的に確認するまでに至らず，信教の自由や労働者の権利などについてはふれていない。〔大野慎一郎〕

じんけんようごきょく　**【人権擁護局】**　国民の基本的人権の擁護，人権侵犯の監視，侵された人権の救済に関する事務を扱う行政機関。法務省の内部部局で，総務課と調査課とからなる。その業務はこのほか民間における人権擁護運動の助長，人権擁護委員に関する事務，人身保護，貧困者の訴訟援助など多岐にわたるが，最も主要なものは人権侵犯事件の調査である。法務省の地方支分部局である法務局(東京・大阪・名古屋・広島・福岡・仙台(せんだい)・札幌(さっぽろ))，またはその下にある地方法務局がその調査にあたり，人権侵犯の事実があるときは，それぞれの局長は，告発・勧告，被害者への助言，所轄官庁への報告など必要な措置をとらなければならない。〔寺尾方孝〕

しんこ　**【新粉】**　糝粉とも書く。うるち米を粉にしたもの。上新粉と並新粉に区別される。菓子の材料として，特に，草もち・かしわもち・すはま・だんご・ちまきなどのもち類の原料となる。また草加系統の塩せんべいや，ういろう・蒸しようかんなどの蒸棹物(むしさおもの)の主要原料となる。なお，新粉をこねて彩色した細工菓子は，新粉細工といわれ，節句や冠婚葬祭の供物としてつくられたが，明治中期以後すたれてきた。

しんご　**【新語】**　新しく使われるようになった単語。新造語。新語のうちで，一時的に人々の強い関心をひいてよく使われるものが流行語。教育方面では，教科書で新しく提出されている語，すなわち新出語の意味でも使う。新語がなぜ発生するかといえば，新しい事物や概念の表示の必要性，従来の語を陳腐と感じて新しい言い方を求める心理，などが要因となる。新語がつくられる方法としては，まず他の言語体系からの借用があり，現代日本語では欧米語が新語の有力な供給源になっている(例：フィーリング・ミニスカート・ゲバルト・ハイジャック)。ほかに，複合・派生(例：人造肉・粗大ごみ・とんぼめがね・超高層ビル)や省略(例：サイケ←サイケデリック，電算機←電子計算機)など，既成の材料を利用する方法が主である。〔西尾寅弥〕

しんこう　**【信仰】**　当事者にとって究極的な意味・価値をもつ対象に向かって，全人格的に打ち込む信念。未開宗教においては集団的であるが，高度宗教ほど個人的・内面的になる。信仰はその理念面である教義によって裏づけられ，行為の表出は儀礼となり，同じ共通の信仰をわかち合うものは教団を構成する。信仰が日常的問題の解消にかかわるときは現世利益信仰にとどまり，日常の生活経験を越えて人間存在そのものの解決がめざされるときにこそ信仰の核心がある。信仰の情緒面の高まりは対象に対する絶対帰依となり，しばしば神秘体験となって現われる。神秘体験が異常に展開されれば神憑(かみがか)りとなる。仏教では〈仏法の大海は信を能入となし，智(ち)を能



人　口　人口ピラミッドの類型と推移

度となす〉(《大智度論》)と説き，むしろ知的面が強調される。このように，信仰は知・情的要素をもつが，知識・情緒と同一ではなく，当事者に対して無限の価値を与え，全人格を動かし，生活に潤いを与える。〔藤井正雄〕

しんごう【信号】情報伝達のうち，内容が文書以外の形式で表わされたもの。広義には，情報を受ける側，すなわち受信側からみて，自分の必要とする事がら(情報)を含んで送られてくる音・光・電波あるいは電気的な波形などをいう。したがって，不必要なもの，すなわち雑音に対する語として用いられる。また，狭義には，交通信号をはじめ，電気的な装置を介して人工的に送り出される音・光・電波および電気的な波形をいう。信号の中には，人間から発せられるもの，機械から発生するもの，あるいは天体(たとえば，電波星*からの電波は観測者にとっては信号である)から生じるものなどがある。また，ある受信者にとっては信号であっても，他の受信者にとっては信号でないこと(場合によっては，むしろ雑音となること)もありうる。

信号を送る手段を歴史的にみるならば，古くはのろしなどのように単純な情報を伝える方法をはじめ，色や模様のついた旗，あるいは災害を知らせるための鐘などがあげられる。これらの共通点は，簡便ではあるが少しでも他の光や音から識別しやすいこと，すなわち，雑音を打ち消す方法であるといえよう。このように，特別な装置によらず直接五感に訴える方法には，伝えうる距離に限度がある。そこで，ある程度離れた地点に情報を送る場合には，送受信点間に存在する媒体に最も適した方法で伝送することが一般的である。たとえば，陸上では音波・光線・電波などが用いられ，水中では超音波が利用されている。また，有線電話・有線テレビのように情報を伝送するための媒体を特に設置することも多い。自然を媒体とする伝送は，経済的で多数の相手に情報を送るのに適しているが，秘密は保ちにくい。他方，線路を設置する方法は秘密保持がしやすいので，特定の送受信点間に情報を送るのに用いられる。

次に，受信側でできる限り正確に情報の認識を行なうため，および媒体を効率よく利用するために，前述の音波や光線および電波などになんらかの変化を与える。この操作を変調という。また，受信側において，送られてきた情報を変調とは逆の操作によって再現することを復調という。変調の例としては，光の強弱を変えたり，音の周波数を変えるなどの方法がある。〔内山明彦〕

しんごう【神号】天神地祇*(てんしんちぎ)の称号。皇大神・大神・明神・天神・地祇・菩薩(ぼさつ)・権現(ごんげん)・天王，または若宮・新宮・今宮・王子・御前などがある。皇大神はアマテラスオオミカミだけの尊称であり，大神はすべての神への尊称である。そのほかは稲荷(いなり)大明神・八幡(はちまん)大菩薩・熊野(くまの)権現・祇園天王などのように用いられる。若宮・新宮・今宮などは主として本社・分社を区別するのに用いた。

じんこう【沈香】⇨香

じんこう【人口】一定の地域の中の人間の数。一般には地域内に居住する人間の数(常住人口)をさすが，一時的に存在する人口も問題にされる場合がある(昼間人口・夜間人口など)。人口は常に増減しているが，人口の特性をみるためには，一時点で切って，そのときの状態をみなければならない。これを人口静態といい，そこには，総人口・地域内地区別分布・人口密度(ふつう1 km²あたりの人口)のほかに，人口を構成する成員の自然的・社会的属性(男女・年齢・配偶関係・教育程度・職業・国籍・階級など)によって分けられた人口の構成(人口構造)をみることができる。このうち特に男女別年齢別構成は，性や年齢が他の社会的属性に大きく関係していることから人口の基本的構造とみなされる。また，これを一目でわかるように図示したものが人口ピラミッドである。人口の変動をみるためには，ある時点の人口とほかの時点の人口を比較すればよいが，しかし人口の変動を内部から過程的にとらえるためには，出生・死亡・流入・流出と出生に関係の深い結婚・離婚の動向をみなければならない。このような人口増減の過程を人口動態という。このうち出生・死亡・結婚・離婚を自然動態，流出・流入を社会動態といい，また出生と死亡による増減差を自然増加，流入と流出による増減差を社会増加という。人口動態をみるためには，単位人口あたりの動態率(出生率・死亡率・婚姻率・移動率など)が計算されるが，自然動態率はふつう人口1,000あたりの割合で表わされる。自然動態の面では，社会の近代化に伴ってまず死亡率が，次いで出生率が低下してきており，わが国でも大正期からその傾向がみられた。特に第2次世界大戦後，ベビーブームといわれた一時的出生率の高まりのあと，1950年(昭和25)から急速な出生率の低下がみられ，世界でも最低の水準に達している。死亡率の低下の原因は公衆衛生・医療品の開発，出生率の低下の原因は家族計画の普及にある。社会動態の面では，国際的移動・国内的移動が活発化してきている。ただ国際的移動には移民のような永久的移動もあるが，全体としてはまだ一時的移動が主体を占めている。国内移動では，資本主義の発展に伴って都市への人口集中が強まり，高度化した資本主義社会では大都市地域への人口集中が著しい。わが国でも1955年以降，首都圏・中京圏・阪神(はんしん)圏さらにはそれらを結ぶ太平洋ベルト地帯*への人口集中が著しくなっている。人口移動の原因にはおもなものに就職・就学・結婚などがあるが，資本主義社会では都市的産業が大きな発展を遂げ，就業機会の集中が大都市への人口集中をもたらしている。

人口現象はさまざまな社会的要因に決定されて生み出されたものであるが，一方生み出された人口現象は社会的要因に影響を与える。こうした人口現象と社会的諸要因との関係を確かめ，そこに法則性を見いだし，理論的に追求する仕事が各種の学問の中で行なわれている。特に人口統計学では人口統計資料を分析する手法が研究され，人口学では統合的に人口と社会的諸要因の関係，理論化が行なわれている。人口に関する理論にはマルサス*の絶対的過剰人口理論，マルクス*の相対的過剰人口といった経済学的理論のほか，出生低下に関する心理学的理論や人口発展に関するトムソン*の理論などがある。

人口現象は社会によって生み出されるものであるが，人口増加の速度や人口構成の内容が社会の発展を阻止したり，ほかの要因と結びついてその要因を阻止要因に変えたりすることがある。人口現象がこうして問題になる場合に人口問題が発生する。過剰人口問題・労働力人口不足問題・過密人口問題・過疎人口問題のほか，人口の資質面からも体力劣弱人口問題や老人人口問題などが提起されている。人口問題が生じた

場合，それを解決したり，将来に人口問題が生じないようにするための政策を人口政策といい，失業対策・家族計画の推進・児童手当の設置，労働力流動化政策などは各国でみられる人口政策である。また，後進国の過剰人口問題を国際連合などで解決しようとして努力していることは国際的人口問題・国際的人口政策としてみることができる。わが国には人口統計・人口理論・人口問題・人口政策を研究する人口の総合研究機関として厚生省に付属機関である国立人口問題研究所が置かれている。

〔宮川　実〕

じんこうえいせい【人工衛星】 地球や他の惑星のまわりを，ちょうど天然の月と同じように，惰性によって公転しつづける人工の飛行体。月のまわりを回るものを含めることもあるが，それは孫衛星というのが普通である。

【人工衛星の構想】 1869年アメリカのエドワード-ヘール牧師の書いた空想科学小説《煉瓦(れんが)の月》が，人工衛星というものの最初の着想であったろう。その後1911年に宇宙旅行の父ともいわれるソ連のツィオルコフスキーがその運動を論じ，遅れて1923年にはドイツのオーベルトにより，名著《惑星間空間へのロケット》が出版された。そこでは，ロケットの理論のほかに，巨大な鏡を人工衛星として回し，太陽光線を反射することが論ぜられた。第２次世界大戦中には，V-２号開発の中心人物フォン-ブラウンが軍用の衛星を研究するところまで進み，戦争直後には，科学ジャーナリストのクラークにより通信用の静止衛星の計画が提案された。つづいて1951年には，同じくイギリスのガトランドなどによって，無人の小形人工衛星の計画が発表された。それまでの，有人の大形なものに比べて，これは人工衛星に現実性を与える有力な要素だった。その後，人工衛星の打ち上げを可能にするロケット開発の進展に伴って人工衛星の計画は急速に具体化し，1955年には〈1957～1958年の地球観測年間に人工衛星を軌道に乗せる〉との，アメリカ大統領アイゼンハワーの声明となった。けれども周知のように，最初の人工衛星は1957年10月４日に打ち上げられたソ連のスプートニク１号であった。

【原理】 空気の抵抗は無視できるものとすると，ある高さから水平に投げ出された物体は曲線を描いて地面に落下するが，初速を増すにつれて曲線はゆるやかとなり，落下点は遠くまで伸びる。こうして落下点はしだいに地球の裏側にまで達し，ついには落下曲線は地球表面のカーブと一致して地面に触れなくなる。物体はその曲線を描きつづけて出発点にもどり，同じ運動をくり返す。これが円軌道の人工衛星である。人工衛星となるのに必要な初速をその高さにおける〈円速度〉といい，地球表面で毎秒およそ7.9kmである。これを〈第１宇宙速度〉という。出発時の速さがこれより大きいと，出発点の反対側で地表から最も遠ざかり（遠地点），出発点で最も地表に近くなる（近地点）楕円(だえん)軌道を描く。初速の増加に伴って，遠地点は地球から離れ，ついには無限に遠くなる。つまりこのような人工天体は放物線を描くわけで，再び地球にもどってくることはない。このときの速度（地球引力から脱出するのに必要な速度）をその高さにおける〈脱出速度〉といい，地表面において毎秒約11.2kmである。これを〈第２宇宙速度〉という。脱出速度より初速が大きい物体の描く軌道は双曲線である。人工の天体となるには，このように所定の高さにおける高速と，適切な飛行方向が必要である。これを与えるのが発射ロケットの役目である。

【軌道】 地球の中心が引力の中心であり，物体はこの引力に支配されるため人工衛星の動く道筋は，地球の中心を通る平面内にある。これを軌道面という。軌道面が地球の表面と切れ合ってできる線が，地表に描いた人工衛星の径路で，人工衛星がその真上を通る道筋である。軌道面が必ず地球の中心を通るものである以上，この道筋は大円となる。ところが地球は西から東へ自転しているので，現実には大円とはならずに西へ西へとずれていき，結局，赤道をはさんだ波状となる。その波形の頂点の緯度は軌道面の傾斜角（赤道面に対する）に等しい。

【高度と周期】 円軌道をもつ人工衛星を例にとると，高度を増せば引力が減り，その位置において人工衛星となるのに必要な速さも小さくてすむ。１周する距離が伸びるのに速さはかえって減少しているのだから，１周する時間は増大する（表参照）。

高さ(km)	速さ(毎秒km)	周期(分秒)
0	7.91	84：25
500	7.62	94：32
1 000	7.36	105：02
2 000	6.90	127：09

特に興味深いのは高さ35,800kmで，そのとき速さは毎秒3.08km，周期は地球自転の周期と同じになる。衛星を赤道上で地球の自転と同じ方向に飛ばせば，地表に相対的には静止するわけである。これが静止衛星の原理である。

【人工衛星の観測】 強い光源を備え，それを光らせる人工衛星もあるにはあるが，それは例外で，そのほかの人工衛星はみな太陽光線を反射して光るものである。したがって，明るい日中にはもちろん見えないし，夜間で地球の影にはいるような位置のときも見えない。日の出のまえとか日没のあとが観測の時機である。大形の人工衛星なら，ゆっくりした流れ星か，あるいは，高空を飛ぶ飛行機の燈のように見える。人工衛星の観測は，その軌道を詳しく定めるためにぜひ必要なことである。シュミットカメラ*とかベーカー-ナンカメラという，特別に視野の広い観測用カメラもできている。もちろん，正確な時刻をも同時に記録しなくてはならない。このような，光学的方法は，精度は高いけれども，天候に左右され，観測の時間が制限される。それに対して，人工衛星から送られてくる電波をとらえたり，あるいはレーダーによってその反射波を受けて観測する方法は，精度は落ちるけれども適用範囲が広い。

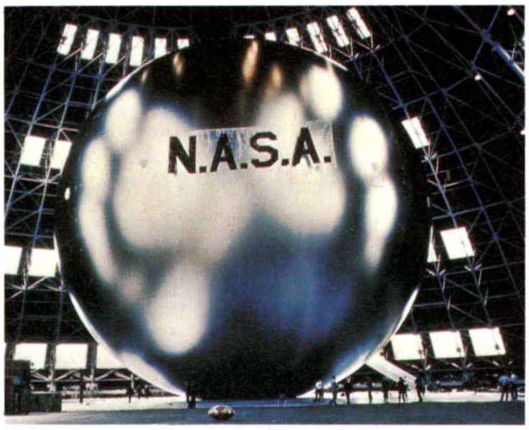
【人工衛星の種類】 初期の人工衛星はいずれも超高空での科学的観測を目的としていた。その後観測の種類はしだいに複雑・高級となって現在に及んでいるが，これらをまとめて科学衛星*とよぶ。これに対して，科学的観測よりもむしろ直接にわれわれの実生活に役だたせる目的のものを実用衛星*といい，気象衛星*・通信衛星*・航行衛星など多くのものが開発された。人の乗る有人衛星の中で，大形のものが宇宙ステーション*であり，そこでは，科学観測や実用目的の利用法が同時に行なわれるようになるだろう。これらのほかに，主として偵察(ていさつ)を目的とした軍事用衛星も数多く打ち上げられている。

【人工衛星の数】 1969年末までの人工衛星発射の回数は1,174。失敗したのもあれば，逆に，１回の発射で８個の衛星を軌道に乗せたのもある。軌道に乗ったものも，回収されたのや，大気の抵抗によりしだいにエネルギーを失い，落下消滅したのが多く，同年末で420ばかりが地球を回っていた（次ページ写真参照）。➔宇宙開発〔新羅一郎〕

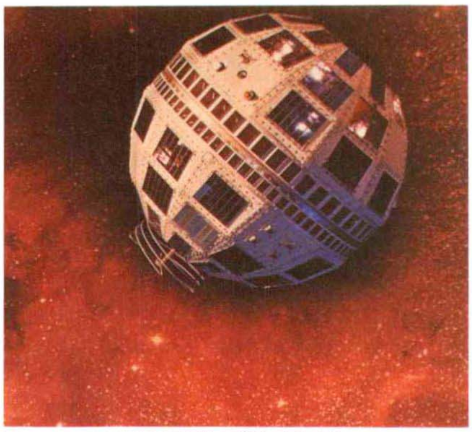
じんこうえいよう【人工栄養】 母乳がまったく得られないときに，動物の乳汁(にゅうじゅう)その他の代用乳を用いて乳児を養育することをいう。人工栄養法は最近急速に進歩したためか，母乳栄養を続ける母親がだんだん減少する傾向にある。

〈人工栄養品〉 現在乳児の人工栄養に用いられているものは大部分が牛乳と牛乳製品（練乳・粉乳など）である。しかし，牛乳に過敏な乳児では山羊(やぎ)乳や大豆製品（大豆粉乳）が用いられることがある。牛乳はそのままではタンパク質や塩類が濃すぎて，障害を起こすことがあり，最初のころは薄めて与える。湯で２倍に薄めたものを２分の１牛乳，３分の１だけ湯をまぜたものを３分の２牛乳という。母乳と比較すると成分上糖分が不足するので，糖を５～８％混ぜて与える。もちろん牛乳は加熱殺菌して与えるが，加熱によりタンパク質や脂肪が消化のよい状態に変化するのでつごうがよい。練乳は牛乳を加熱して約２分の１に濃縮したもので，蔗糖(しょとう)を多量に混ぜたものを加糖練乳というが，これは糖が多すぎて下痢を誘発するので人工栄養には適さない。人工栄養には糖を加えていない無糖練乳がよく，これは約２倍に薄めれば牛乳と同じようになるので牛乳同様に用いる。粉乳は日本の人工栄養児の大部分に用いられ，特

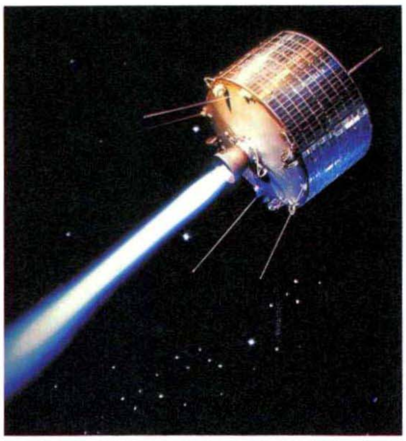
人工衛星



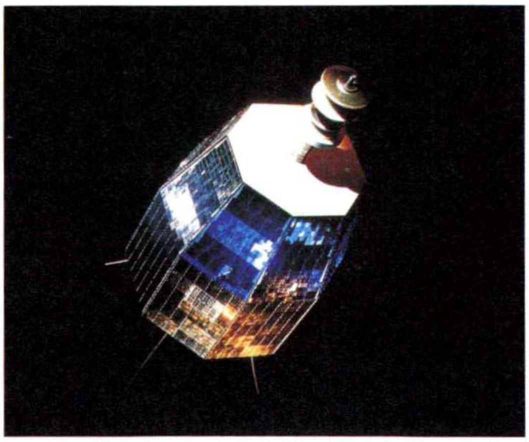
エコー－1（アメリカ）



テルスター（アメリカ）



シンコム（アメリカ）



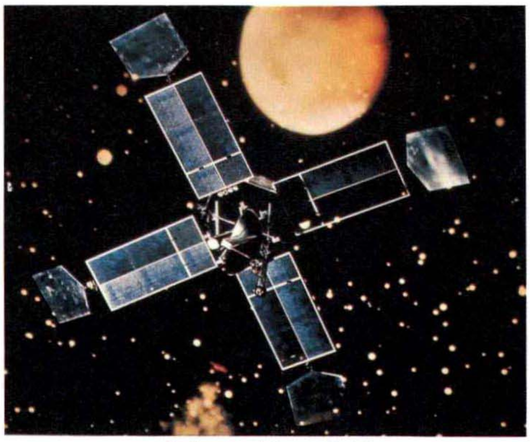
リレー－2（アメリカ）



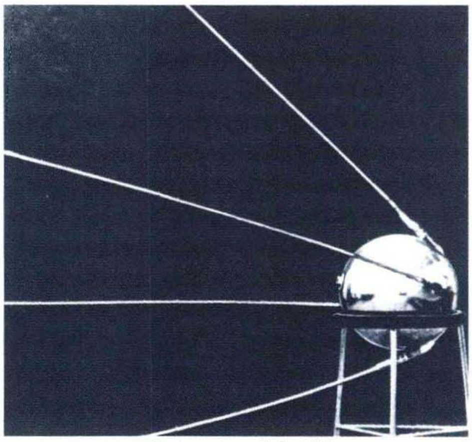
タイロス－8（アメリカ）



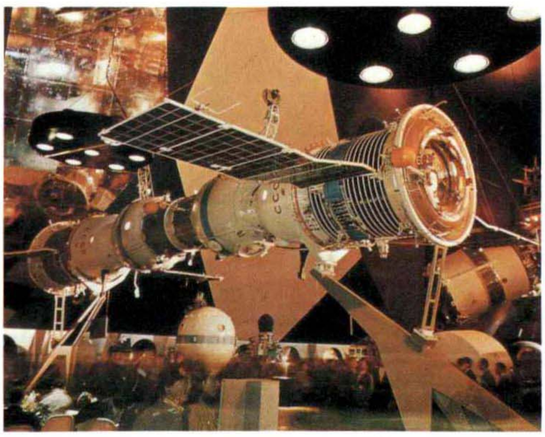
ニンバス（アメリカ）



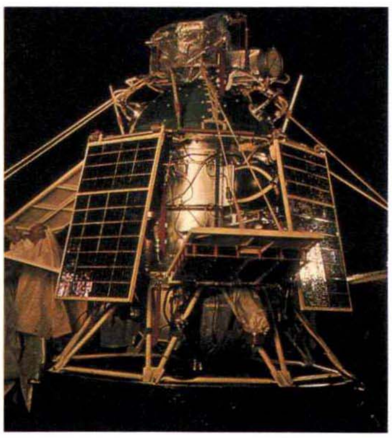
マリナー－4（アメリカ）



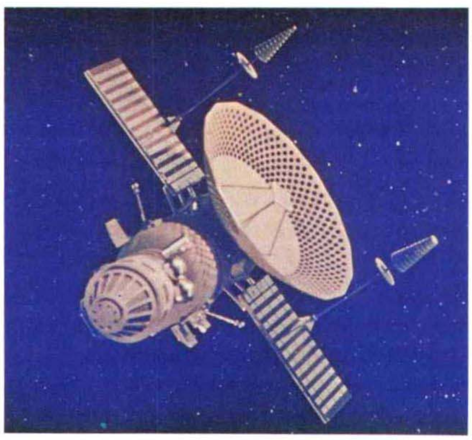
スプートニク－1（ソ連）



ドッキングしたソユーズ（ソ連）



インターコスモス（ソ連）



金星－1（ソ連）

に最近は特殊調製粉乳がもっぱら用いられている。これは牛乳中の多すぎるタンパク質(主としてカゼイン)を減量して，アルブミンを添加増量，脂肪を減量，植物油を添加，特に必須(ひっす)不飽和脂肪酸のリノール酸を添加，さらに乳糖や各種ビタミン・鉄などを加えて，母乳にできるだけ似させるようにした粉乳である。そのほかメーカーによってはヌクレオタイド・リゾチーム・ムチンなどを添加して，消化吸収をよりよくし，乳児の健康を増進しようと試みているものもある。この粉乳はだいたい15％にとかして，各月齢に応じた量を与えればよいようにつくられている。〔宇留野勝正〕

しんこうおう　【真興王】　(534～576)　朝鮮，新羅(しらぎ)第24代の王(在位540～576)。第23代法興王の政策を受け継いで即位し，名臣の補佐を得て，新羅王権の基礎を固めた。外交面では百済(くだら)・高句麗(こうくり)を圧倒して中国との交通路を開き，南方では任那(みまな)から日本の残存勢力を一掃して国土の拡大に成功した。内政面では中央官制・各種軍団の整備を行ない，仏教の保護などに功績があった。

じんこうかしょう　【腎硬化症】　腎血管の細動脈硬化による腎疾患。良性腎硬化症は本態性高血圧症(→高血圧)でみられ，老化現象の一部として現われる。腎機能は比較的よく保たれ，尿毒症*になることは少ないが経過は長く，他の動脈硬化の進展が予後を決定する。悪性腎硬化症は高血圧症が急速に進行して腎細動脈の硬化壊死(えし)を起こすもので，悪性高血圧ともよばれる。30～40歳台に多く，高血圧・脳圧亢進(こうしん)・腎不全*の進展が早く，1～2年のうちに腎不全になって死亡する例も多い。腎硬化症が進行し，腎が小さくなって機能が低下するものを原発性萎縮腎(いしゅくじん)という。〔清水直容〕

じんこうかんぞう　【人工肝臓】　⇨人工臓器

じんこうかんみりょう　【人工甘味料】　合成甘味剤ともいい，甘味を有する化学的合成品をいう。狭義には，食品衛生法*で許可されたものだけをさし，サッカリン・サッカリンナトリウム・D-ソルビット・D-ソルビット液・D-キシロース・グリチルリチン酸2ナトリウム・グリチルリチン酸3ナトリウムの七つ(1971年9月現在)がある。

サッカリンは水にとけにくいが，水にとけやすくしたものがサッカリンナトリウムで，ショ糖の約500倍の甘味を有する。ショ糖の甘味とは異なるため，他の甘味料と併用してショ糖に近い甘味にすることが多い。熱に対して不安定なので，使う場合は煮沸後に加えるのがよい。D-ソルビットは，グルコースを還元して工業的につくられる白色・無臭の結晶性の粉末で，吸湿性がある。甘味はショ糖の半分であるが，この保湿性と温和な味を利用して，食品・医薬品・化粧品など，用途は広い。D-キシロースは，キシランを酸で加水分解してつくる。ショ糖の約半分の甘味で，体内でほとんど利用されず，そのまま排出されるので，糖尿病患者用の甘味料としても用いられる。なお，ズルチン・チクロ(シクロヘキシルスルファミン酸ソーダ)は甘味は強いが，現在では食品添加物*として認められていない。〔佐藤友太郎〕

じんこうき　【塵劫記】　江戸時代の数学書。吉田光由*(よしだみつよし)の著書。中国の程大位の著《算法統宗》を手本とし，1627年(寛永4)に出版された。解説がていねいで各所に絵がはいり，ねずみ算・盗人算・油分け算などアイディアに富んだ数学遊戯も多く，庶民に歓迎された。何回も版を重ね，江戸時代を通じて最も多く読まれた教科書である。

じんこうききょう　【人工気胸】　肺結核*に対する治療法。罹患(りかん)側の胸膜*に空気を注入し，肺虚脱を起こさせ，肺の安静，空洞(くうどう)の閉塞(へいそく)をねらったもの。しかし，抗結核薬の開発とともに，肺結核の治療は化学療法*が原則となり，今日ではほとんど行なわれない。むしろ人工気胸術を行なったために胸水や血胸を惹起(じゃっき)して，肺機能低下や労働不能になっていることが今日の問題となっている。

しんこうげいじゅつは　【新興芸術派】　1930年(昭和5)に結成された新興芸術倶楽部(くらぶ)による反マルクス主義の文学者たち。前年，評論《誰だ？花園を荒す者は！》でプロレタリア文学を攻撃した中村武羅夫*(むらお)を中心に，〈芸術派の十字軍〉を自称する十三人倶楽部が結成され，このメンバーの中の中村・嘉村礒多(かむらいそた)・龍胆寺(りゅうたんじ)雄らに，《文芸都市》によった阿部知二(あべともじ)・井伏鱒二(いぶせますじ)・雅川滉(つねかわひろし)ら，《文学》の小林秀雄(ひでお)・永井龍男(たつお)・神西清・堀辰雄(ほりたつお)ら，さらに今日出海(ひでみ)・舟橋聖一・吉行(よしゆき)エイスケらが参加している。この派の理論は，プロレタリア文学の〈現実の切実〉に対して〈反映の切実〉を主張した雅川の《芸術派宣言》に見られるが，作品はモダニズムの都会的・享楽的傾向が強く，ジャーナリズムの中で風化・分散していった。〔源　五郎〕

じんこうけっかん　【人工血管】　合成物質によって作成した合成代用血管。動脈系については適応・手技なども決まり，広く臨床に応用されているが，静脈系についてはいまだ理想とはほど遠く，研究途上にある。材料となる合成繊維は，生体内に長年移植されていても物理的・化学的に変性を起こさず，しかも生体に対して反応の少ない物質でなければならない。これには，現在のところダクロンとテフロンがある。市販されているものではダクロン・テフロンの平織りまたはメリヤス編みを管状にし，蛇腹(じゃばら)状のひだをつけ，折れ曲がっても内腔(ないこう)が狭くならないように加工したものがある。大動脈瘤(だいどうみゃくりゅう)切除などによる血管欠損部や，動脈閉塞(へいそく)に対する側血行路形成などに用いられる。〔三島好雄〕

じんこうげんそ　【人工元素】　⇨人工放射性元素

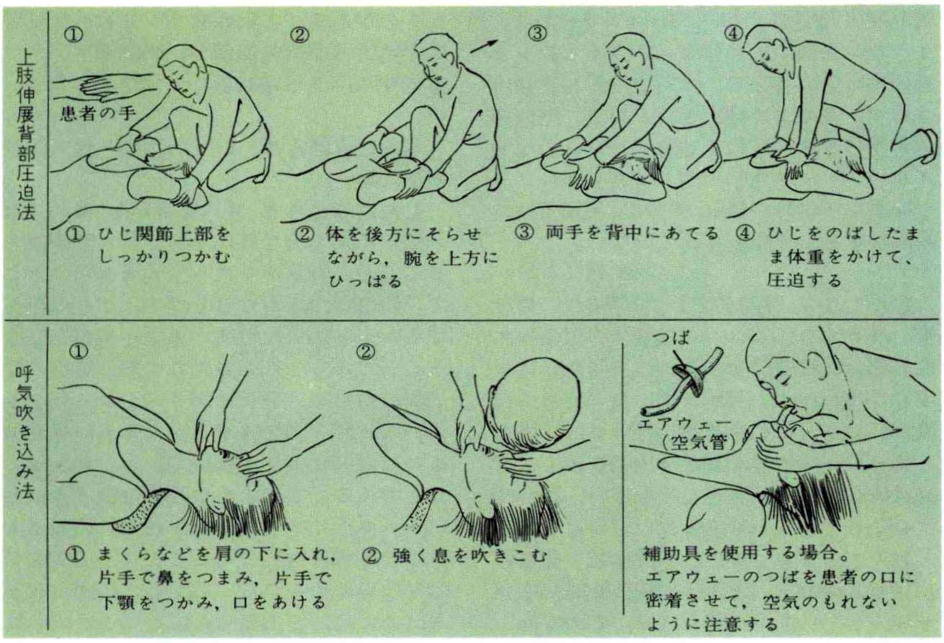
じんこうこうう　【人工降雨】　降雨のない雲中に人工的な操作を施して，雨を降らせること。降水をもたらす大きな要因として，過冷却水滴からなる雲中に氷晶*が存在するか，または比較的大きな水滴が存在することである。人工降雨の原理は降雨のない雲に対して，ドライアイスやヨウ化銀をまいて氷晶を発生させるか，あるいは水滴または吸湿性の核をまいて，雨を降らせることである。このような方法を種まき法という。ドライアイスやヨウ化銀の微粒子が氷晶の生成に有効であることは室内実験で容易に確かめられる。しかし，降雨が起こるためには，雲頂温度が低いこと，雲の厚さが大きいこと，雲がある程度の発達過程にあることなどいろいろの条件があり，必要なときに必要なだけの降雨をもたらすという技術の段階には達していない。また，層状雲の場合には，ドライアイスやヨウ化銀をまくことによって，雲が降水に変化する状態を飛行機から観察することができるが，この場合は地面に到達する以前に蒸発することが多い。〔曲田光夫〕

じんこうこきゅう　【人工呼吸】　理由のいかんを問わず，自然呼吸が停止した場合に人工的に行なう呼吸。以下の3通りの方法が通常行なわれる。①用手人工呼吸法：この方法は効率が悪いので最近はあまり行なわれない。これには背臥位(はいがい)にし，前腕をつかみ上へ伸ばして吸息，つかんだまま前胸部を圧迫して呼息させる上肢(じょうし)伸展胸部圧迫法，腹臥位とし，ひじをつかんで上方へ伸ばして吸息，放して背部を圧迫して呼息させる上肢伸展背部圧迫法，片側上肢伸展胸部圧迫法などがある。②呼気吹き込み法：これには術者が片手で患者の鼻をつまむか，または術者のほおで鼻孔をふさぎ，空気が漏れないようにして口から呼気を強く吹き込む方法や鼻孔から吹き込む方法(鼻吹き込み法)があり，その他乳幼児では口と鼻から同時に吹き込む方法も行なわれる。吹き込み回数は成人で1分間に15～20回である。③器械法：気道*内に圧を加え肺をふくらませる方法としてバックを用いたり，自動式蘇生器(そせいき)を用いる方法がある。また，鉄の肺のように首から下を気密箱内に入れ，内圧を周期的に陰圧にする方法なども行なわれる。➔次ページ(図)〔玉城　嚴〕

しんこうこくきょうぎたいかい　【新興国競技大会】　⇨ガネフォ

しんこうさい　【神幸祭】　⇨おねり

しんこうざいばつ　【新興財閥】　明治以来の三井・三菱(みつびし)・住友・安田・大倉・



人口呼吸

渋沢などの旧財閥と並んで，1931（昭和６）～1932年ごろから，輸出や軍需の増大に誘発された新興の重化学工業，すなわち人絹・自動車・航空機などの工業部門では，旧財閥の支配力が比較的弱かったため，日産（鮎川（あゆかわ））・日窒（野口）・日曹（にっそう）・森・中島などの財閥が誕生した。これを新興財閥という。この新興財閥の特色は，所属する企業間に技術コンツェルン的な結びつきが成立していたこと，ならびに旧財閥と異なり家族的な要素が少なく，株式募集を通じて広く社会的な資金を求める方法を主としていたことである。〔原　豊〕

じんこうじしん 【人工地震】 人為的に弾性波を発することによって起こした地震。人工地震は，ふつうは，地中に掘った孔の中で火薬を爆発させて起こす。小規模のものは，重量物を高いところから落下させたり，電気火花放電や圧さく空気などを用いることもある。ある地域の地下資源鉱床や地殻（ちかく）の構造を調べることを目的とした地震探査では，震源の位置や発震の時刻を正確に知る必要がある。天然の地震は，どこで起こるか予知できないし，発震の位置や時刻も正確には決めにくい。これに対し，人工地震では，調査の対象となる地域に応じて，震源や地震計*を設置する地点を適当に選べる。また，発震時刻も0.01秒ぐらいの精度で決められる。したがって，詳しい解析を必要とする地震探査には，つねに人工地震が用いられる。また，アメリカ合衆国では，核兵器を開発する目的で，地下核実験を行なうことがある。これに伴う大規模な地震も地下構造の探査に利用されている。〔堀福太郎〕

しんこうしゅうきょう 【新興宗教】 ⇨次ページ

じんこうじゅせい 【人工授精】 雌を妊娠*させるにあたって雄と交配*（自然交配）させる方法によらず，人為的に雄から精液を採取し，その精液を器具を使って雌の生殖器内に注入することによって妊娠を図り，あるいは受精卵を得る繁殖方法をいう。家畜・家禽（かきん）に広く応用可能であるが，わが国で生まれるウシの約98％は人工授精により，その利用度が最も高い。

人工授精のためには，まず血統が正しく能力の優秀な雄を飼育すること，人為的に精液を採取すること，採取精液を希釈・保存・輸送すること，雌の受胎適期を判定して授精することなどの技術が必要とされ，国・都道府県・公社・会社・組合などが設立する家畜人工授精センターにおいて，獣医師・家畜人工授精師が業務に携わり，畜産学・獣医学関係の大学・研究所・試験場で研究が進められている。〔高嶺　浩〕

人間の人工授精は，種々の方法や対策を講じてもなお妊娠しない場合に，やむをえず行なわれる方法である。注入される精液の種類により，夫の精液を用いる配偶者間人工授精と，精液提供者のものを用いる非配偶者間人工授精とに分類される。成功率は配偶者間人工授精で15～20％，非配偶者間人工授精では35～50％である。社会的・法律的になお問題が残されており，慎重に実施する必要がある。〔木川源則〕

じんこうじんぞう 【人工腎臓】 ⇨人工臓器

じんこうしんぱい 【人工心肺】 ⇨人工臓器

しんこうせいきんいしゅくしょう 【進行性筋萎縮症】 おもに四肢（しし）の骨格筋が進行性に萎縮していく病気。骨格筋またはその栄養をつかさどる神経のいずれかの変性によって起こり，遺伝性に発症することが多い。知覚は原則として正常である。種々の疾患が含まれ，その病型によって顔面筋・舌筋なども冒されるが，おもに対称性に四肢および軀幹筋（くかんきん）が冒される。大別して神経障害によるもの（脊髄（せきずい）性または神経性筋萎縮性）と，筋肉障害によるもの（ジストロフィー症およびその他の先天性筋疾患）に分けられる。各病型によって経過や遺伝性もまちまちである。近年わが国でも注目されはじめ，対策や研究が進められているが，有効な対策はまだ確立していない。〔井形昭弘〕

しんこうせいししょうかくひしょう 【進行性指掌角皮症】 手指の腹や手のひらの薄皮がはがれ，かたくなって割れてくる病気。若い女性に多く，月経開始後１～２年ごろから起こることが多い。まずきき手のよく使う親指・人さし指・中指の指腹が乾燥してざらざらしてくるが，そのうちに指紋が消え，光沢をおび，薄皮がはがれる。さらに皮膚がかたくなり発赤し，ところどころに亀裂（きれつ）を生ずる。この変化はしだいに他の指に及ぶとともに，手掌のほうへ広がる。特に冬季に悪化することが多い。原因として古くから卵巣機能障害があげられてきたが，最近では個体側のアルカリ中和能の低下に機械的刺激（ピアノをひくとか，タイプライターを打つなど），化学的刺激（洗剤の使用など），寒冷刺激などが加わって生ずるものと考えられている。したがって，水仕事などの外的刺激を避け，水にぬらしたらよくふいて，ハンドクリームをすり込むなど手の手入れをする。水仕事をする場合は，布手袋の上からゴム手袋をはめること。皮膚科医の診察を受けて外用療法などを行なう必要がある。〔田嶋公子〕

じんこうぞうき 【人工臓器】 臓器の機能になるべく近づけてつくった人工の装置。臓器の機能不全を一時的であるにせよ代行するために用いられる。生命維持に直接関係をもつ臓器としては脳および神経系を除けば，心臓・肺臓・肝臓・腎臓（じんぞう）およびこれらを連絡する導管，すなわち血管があるが，これらは薬物投与などでは補うことができない機能をもっている。この機能が低下した場合，あるいは一時的に機能を肩代りする場合に人工臓器が応用される。心肺機能を代行する人工心肺，腎機能を代行する人工腎臓，肝機能を代行する人工肝臓がそれである。このほか人工食道，人工膀胱（ぼうこう），人工子宮，人工血管，人工頭蓋（とうがい），人工関節，人工心臓，人工弁，人工血液などについても研究が進められており，その一部はすでに臨床に応用されている。人工心肺は血液の酸素化装置と送血装置からなり，大静脈から誘導された静脈血はポンプにより酸素化装置にはいり，酸素化されて動脈血になる。この動脈血はさらにポンプにより，再び生体の動脈系へ導

➔236ページ

新興宗教

新興宗教ということばは，学術用語ではないので，既成宗教に対比されてばく然と用いられることが多い。明治以降に成立した宗教を新興宗教とよぶ人もあれば，20世紀以降，特に第1次世界大戦後に成立した宗教に限定する人もある。また，第2次世界大戦後に多数の新興宗教が現われたので，戦後派の宗教とみる人が多いが，それらの大部分は，実は戦前からすでに存在していた。ただ，法律上宗教として認められていなかったものである。つまり日本には明治以降，国家が宗教として認めていた教団と，宗教活動はしていても国家が宗教と認めていなかったものとが存在していた。後者は〈類似宗教〉などとよばれ，中には，国家権力によって弾圧を受け，解散を命ぜられた教団もあった。このような教団も，戦後，宗教に関する法律の改正によって独立の宗教として成立したので，急激に多数の新興宗教が発生したかのようにみえたのである。また過去において非公認の宗教であったがゆえに，新興宗教といえば邪教であるかのような語感を伴うこともいなめない。そこで新興宗教の関係者は，このことばをきらって新興宗教とはいわずに〈新宗教〉といっている場合が多い。

新宗教運動といえば，外国にもないわけではない。19世紀の前半からいくつかの新宗教が生まれた。アメリカで成立したモルモン教*(末日聖徒イエス－キリスト教会)やセブンスデー-アドベンチストは，日本でも布教活動を続けている。アジアではイランのバハーイ教*やベトナムのカオダイ教*やホアハオ教が知られている。アフリカには雑多な小教団がある。ただ，ヨーロッパでは，キリスト教の影響で新宗教もその分派のような形態をとっている。

日本における新興宗教ということばは，外国語には訳しえないような特殊な用語である。用語ばかりでなく，その形態や内容も複雑であるが，これを系統別にみることはできる。日本の諸宗教を整理する場合，神道*(しんとう)系・仏教*系・キリスト教*系，そのほか諸教の4系列にするのが普通であるので，これに準じて新興宗教をみると，神道系・密教系・法華系その他というように整理することができる。数の上からは，神道系が圧倒的に多い。しかしその大部分は小教団である。この系統で特に目につくのは大本教*系である。大本教(京都)は明治末期から大正年間にかけて急速に伸展した宗教で，今日では金光教*(岡山)・天理教*(奈良)などと並んで教派神道の中に数えられているが，かつて2回にわたって大きな弾圧を受けたため，一時は邪教であるかのようにみられていた。この大本教の影響を受けた教団に生長の家*(東京)・世界救世教*(神奈川)・三五教(静岡)などがある。金光教や天理教からの分派とみられるものもあるが，それらの勢力はさほど大きいとはいえない。密教系では，信者数からみて孝道教団*(神奈川)や念法真教(大阪)，また真如苑(東京)などが活動しているといえよう。しかし，広く仏教系をみると，第1に法華(ほっけ)系の多いことに驚くであろう。大正末期に成立し，戦中・戦後にかけて発展した霊友会*教団(東京)からは妙道会(大阪)・妙智会(みょうちかい)(東京)・仏所護念会(東京)・法師会(岩手)・正義会(千葉)・大慧会(大阪)・思親会(東京)など多くの分派が生まれている。わけても立正佼成会*(こうせいかい)(東京)の活動は見のがしえない。この系統とは，まったく別個に創価学会*が巨大な教団として存在していること，またこの教団が新興宗教ではないと主張している点も無視できない。このほか，どの宗教の系統とはっきりいえないものにPL教団*(大阪)・円応教(兵庫)・善隣会(福岡)・天照皇大神宮教(山口)などがある。

本来，教団といえば，同信の意識をもつ人々の組織である。そしてその組織の結合を強めるために種々の行事がある。既成宗教とよばれる伝統的な宗教では，それらが固定化している。特に伝統的な仏教では，信者は檀信徒(だんしんと)というわくの中に数えられるだけで，一部の篤信者を除けば，自己の宗教信仰ではなく，祖先から受け継いだ家の宗教に接している人が多いのである。古い檀家(➞檀越(だんおつ))制度や氏子制度がいまなお大きな影響を与えているというべきであろう。新興宗教は，このような残存的なわくを打破して成立した宗教である。新しい宗教の創唱者は教祖とよばれるが，教祖的な人間にも大別して二つの型がある。一つは，伝統的な既成宗教の流儀にしたがって修行し，新しい境地に到達して自己の感得した教えを説く人であり，他の一つは特定の修行によるのではなく，突如として自己が神的な存在であると自覚した人である。宗教的人間とみられる人は，みな常人とは異なった体験をもっている。けれども，この二つのうち，前者は伝統的な宗教あるいは自己の信仰していた宗教から離脱するにしても，それは分派という形をとるのが普通である。これに対して後者は，まったく新しい教えを説くようにみえる。新興宗教の成立をみるとき，特に後者を重視しなければならないが，実は伝統的な宗教や既存の宗教とはまったく無関係であるというような新しい宗教は存在しない。一つの例をあげると，女教祖は浄土真宗*の信者であったが，自己が神となったときに唱えたことばは〈ナムミョウホウレンゲキョウ〉であった。なぜ南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)といわず南無妙法蓮華経(なむみょうほうれんげきょう)と唱えたのか。彼女の生活史を調べてみると，その宗教経験には，地方的な法華行者の力にあずかっていたことがわかった。既成宗教ばかりでなく，底流としての民間宗教の影響のあることも無視できない。

新興宗教は，すべて既存の宗教的権威をそのまま是認していない。既成宗教をそのまま認めるならば，新しい宗教は起こらないのである。大部分の新興宗教は，既存の宗教的権威の一部否定の形をとって成立する。信仰対象や所依の教典が同じであっても，どこかに相違点がある。既存のものをすべて否定して神の国の建設を説く天照皇大神宮教にしても，この教団の名称には神社神道の影響があるし，教祖北村サヨの発した唱えことば〈名妙法連結経〉には法華信仰が基底となっている。これとは反対に，特定の宗教の歴史と教義とを全面的に肯定したのが創価学会である。創価学会は，日蓮正宗の教義，いわゆる富士宗学と初代会長牧口常三郎の《価値論》とを教学体系の基礎としている。その教団形態と布教活動は，ほかの宗教にはみられないほどの新しさを示しているが，創価学会自体は日蓮正宗の歴史をそのまま継承しているがゆえに，新興宗教ではないという立場をとっているのである。

一般的にみて，新興宗教の特色は，まず組織上在家主義にあるといえよう。教団関係者は，僧職者(出家)のような宗教を職業とする専門家ではなく，世俗の職業に従事する俗人である。少なくとも，その成立の時点においては，指導者と信者との別はあるにせよ，俗人たちの集団であった。これが発展するにつれて指導者は専従者となり，教団は既成宗教と同様の形態をとるようになる。新興宗教における分裂の動きは，このような固定化への内部的な批判から起こることが少なくない。教理的にも，教祖の説いた新しい教えは雑然としており，既成宗教の教学体系と比較すれば，その弱点が暴露されやすい。そこで既存の教典や教理に依存している新興宗教では，既成宗教とは異なった新しい解釈を試みている。新興宗教が外部から受ける批判としては，その宗教的行為に呪術(じゅじゅつ)的な要素のみられる点である。つまり，おまじないや神がかり(➞シャーマニズム)などによる病気治療や商売繁盛というような現世利益(げんぜりやく)の目的が多分に存していることである。しかし他面からみれば，このようなところに日本の民衆の宗教意識があるともいえるし，また一方，新興宗教の中には現状維持ではなく，世なおし運動のような方向に進んでいる教団もあることに注目したい。

〔小口偉一〕

かれる。この装置によって一時的に心肺機能を生体から除外し，心臓手術などの操作を容易にできるようにする。人工腎臓は透析によって有害物や老廃物を排除しようとするもので，血液を体外へ誘導し，送血ポンプにより透析槽(とうせきそう)内に送りここでセロファンを介して血液と灌流液(かんりゅうえき)が接し，両者の濃度勾配(こうばい)により有害物，老廃物を除去する。尿毒症，薬物中毒などの治療に用いられる。人工肝臓は健康なイヌの正常肝機能を応用して行なわれ，肝性昏睡(こんすい)時に有効である。

〔玉城　巌〕

じんこうとう　【人工島】 水底の工事を避けるために，水深の比較的浅い所に築く人工の島。波や水流の作用に対し周囲を捨て石などの護岸で保護する費用が大きいから，島の平面形を円にすればふつう最も経済的である。実例としては，現在建造中の三池炭鉱(三井鉱山)三池島がある。1973年(昭和48)完成予定で，ここには海底下の坑道に通気するための通気専用立坑が島の中央に設けられ，完成後には無人島となる。

じんこうとうけい　【人口統計】 人口*のもつさまざまな指標に関する数量的な事実を集め，数学的に整理したもの。これによって人口の中に潜む法則性を見いだし，人口理論の実証的側面が提供される。人口に関するあらゆる側面が統計的に処理されるが，大きく分けて人口動態統計(出生・死亡・結婚・離婚)と人口静態統計(人口数・分布・年齢構成など)とがある。人口の統計的研究は17世紀にイギリスのグラント(1620～1674)が死亡の研究(《死亡表に関する自然的および政治的諸観察》)にこの方法を用いたのが最初といわれ，18世紀のドイツのジュースミルヒ(1707～1767)を経てベルギーのケトレ(1796～1874)によって発展させられた。現在では先進国にはかなりの人口統計資料が整備されており，国際的比較も可能になっている。人口統計資料を得るためには国勢調査*(センサス)が行なわれるが，このほか人口統計を目的としない調査の結果でも人口統計資料として利用できるものが多い。また，各種の届(出生届・死亡届・婚姻届・住民登録など)もそれを集計することによって人口統計資料とすることができる。わが国では総理府統計局の国勢調査のほか，農林省の農業センサス，厚生省の厚生行政基礎調査，人口動態調査，労働省の就業構造基本調査，労働力調査，賃金実態調査などの結果が人口統計資料として利用されている。

〔宮川　実〕

しんこうどうぶつ　【新口動物】 ⇨後口動物

じんこうとうみん　【人工冬眠】 自律神経遮断(しゃだん)薬と全身冷却とによって一過性に人体の生活機能を最低にし，侵襲に対する反応を最小限度にとどめようとする方法。生体に侵襲が加わると，それに対する反応が現われるが，これを抑制すれば大きい侵襲に耐えうる。ある種の動物の冬眠がこれに相当し，人工冬眠はこの生理状態に似ているのでこの名がある。破傷風，広範な大傷などの治療や，心臓・脳などの手術の際に用いられる。

〔三島好雄〕



人　工　島　三池島

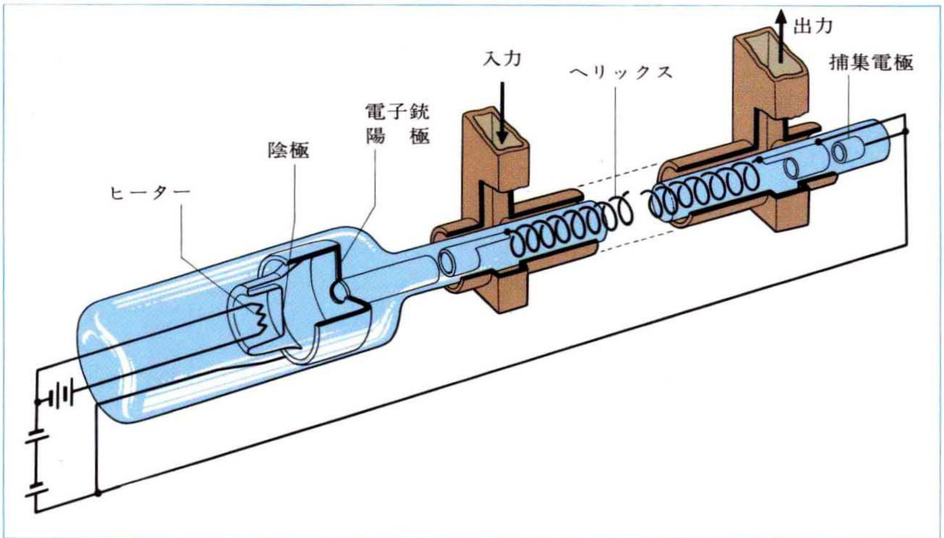
じんこうにんしんちゅうぜつ　【人工妊娠中絶】 人工流産ともいう。胎児が母体外では，生きていくことができない時期に，人工的に胎児およびその付属物を母体外に出してしまうこと。わが国では，不良な子孫の出生予防や母体の生命健康の保護などから，優生保護法*によって人工妊娠中絶が認められている。①本人または配偶者が，精神病・精神薄弱・精神病質・遺伝性精神疾患・遺伝性奇形のあるもの，②本人または配偶者の4親等以内の血族に，前記優生学的事由のあるもの，③本人または配偶者が，癩病(らいびょう)にかかっているもの，④妊娠の継続または分娩(ぶんべん)が，身体的または経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのあるもの，⑤暴行・脅迫によって，または抵抗・拒絶することができない間に姦淫(かんいん)されて妊娠したもの。

掻爬*(そうは)などの人工妊娠中絶術そのものも，医学的にみて必ずしも安全な手術でなく，母体の全身的消耗・出血・炎症を起こし，また，手術後に不妊症になる女性も少なくないといわれている。わが国では人工妊娠中絶の数は非常に多く，その濫用に対する医学的・社会的批判が起こっており，優生保護法の正しい運用と，受胎調節による家族計画*を行なうことが望まれている。

〔木川源則〕

しんこうはかん　【進行波管】 マイクロ波用増幅管。1942年ごろ，イギリスのバーミンガム大学のR.コンプナーらによって考案された。円筒形の導体によって同軸的に囲まれたヘリックス導体からなる遅波回路と，ヘリックス導体の軸に沿って通過する電子ビームが進行波管のおもな構成要素である。電子ビームは，管の左端にある電子銃から発射され，ヘリックスを通ったのち右端の捕集電極にはいる。電子ビームの速度と，ヘリックス上を軸方向に進行する電波の速度とがほとんど等しいとき，顕著な増幅作用が起こる。

〔伊藤糾次〕



進　行　波　管

じんこうほうしゃせいげんそ　【人工放射性元素】 安定な元素の原子核*に人工的に α線・陽子・電子*・中性子*・γ線などの粒子を衝突させ，核反応*を起こさせてできる，天然には存在しない放射性同位元素*。ラジオアイソトープともいう。1934年，キュリー夫妻は原子核にα線を照射すると中性子が放出される現象に目をつけ，研究をしている途中，アルミニウムの場合，陽子・中性子と陽電子*が放出されることを霧箱*で観察し，① $^{27}_{13}Al$ (アルミニウム)＋ $^{4}_{2}He$ (α粒子)→ $^{30}_{14}Si$ (ケイ素)＋ $^{1}_{1}H$ (陽子)，② $^{27}_{13}Al$ ＋ $^{4}_{2}He$ → $^{30}_{14}Si$ ＋ $^{1}_{0}n$ (中性子)＋ e^{+} (陽電子)の二つの過程を考えた。しかし，陽電子はα線の照射をやめたのちにも放出されることが確かめられ，②の反応は $^{27}_{13}Al$ ＋ $^{4}_{2}He$ → $^{30}_{15}P$ (リン)＋ $^{1}_{0}n$， $^{30}_{15}P$ → $^{30}_{14}Si$ ＋ e^{+} の二つの過程に分かれ，いったん $^{30}_{15}P$ という同位元素

がつくられ，これが放射性であるので陽電子を放出すると結論した。1934年フェルミ*はほぼ60種の元素に中性子をあて，約50種の放射性元素をつくった。人工放射性元素の崩壊は自然放射性元素と同様にα崩壊・β崩壊・K電子捕獲・γ線放出などを行なって安定な元素へ転移する。β崩壊で陽電子が飛び出す過程は人工放射性元素にみられる特徴である。人工放射性元素が電子あるいは陽電子崩壊をすると，それに引き続いて1個あるいはそれ以上のγ線が放出される。これは原子核が数個の励起エネルギー状態を有し(核異性体)，崩壊する際に異なった経路を通って転移するからである。この転移に伴って放出されるγ線は，そのまま放出される以外に，核外電子にエネルギーを吸収されたり，そのエネルギーを吸収した電子が飛び出す現象(内部転換に伴う核異性体転移)を起こし，また，K電子捕獲の場合には，K，L軌道にあたる特性X線の放出，オージェ電子の放出なども起こす。天然に存在する元素より重いものも人工的につくられ超ウラン元素とよばれている。これらはすべて放射性元素で，ウラニウム・トリウム・アクチニウム崩壊系列の祖先であるネプチニウム系列をなす。現在の地球上でこのネプチニウム系列の元素が天然に存在しないのは，いずれも地球の年齢より短い半減期をもつため，すでに他の系列へ崩壊してしまっているからである。今日では原子炉によって多量の中性子源を得ることが可能となり，種々の放射性元素を多量につくることが容易なので，それぞれの核種によって原子核研究のみならず，トレーサー*・強力線源・X線に代わるものなどとして，化学・工学・医学・農学など各方面に広く利用されている。〔福井崇時〕

しんこうまひ【進行麻痺】 神経梅毒の一型で，感染後長期間経過して発症する変性梅毒。30〜50歳に発症する。麻痺性発作をもって発症することもある。通常徐々に人格が変化し，記憶減退・注意力散漫となり，興奮しやすく，誇大妄想(もうそう)を呈し，道義観念の低下や反社会的行動がみられる。麻痺性言語障害が著明で，書字も障害される。髄液に変化があり，ワッセルマン反応*は陽性，瞳孔(どうこう)にも変化が現われる。発症後2〜3年以内に死亡するが，抗梅毒療法・発熱療法で多少軽快することもある。〔井形昭弘〕

じんこうみつど【人口密度】 ある地域の単位面積あたりの人口をいい，単位面積としては，一般に1km^{2}または1平方マイルをとる。1969年の南極大陸や無人の小島を除いた世界の人口密度は1km^{2}あたり26人，1平方マイルあたり67人である。人口がきわめて希薄な地域では，人口1人あたりの面積によって人口密度を表わすことがあり，たとえばグリーンランドは，面積217.6万km^2，人口45,000(1968)で，1km^{2}あたりの人口密度は0.02人であるが，人口1人あたりの面積は48km^{2}となる。単純な人口密度の計算では，日本は1km^{2}あたり273人，オランダは379人(1968)で，日本はオランダよりも1km^{2}について100人以上も人口が少ないことになるが，耕地面積に対する人口密度の比較では，日本は耕地1km^{2}について1,770人，オランダは1,390人(1968年，牧場牧草地を除く)となる。耕地に対する人口密度は，その地域の食料生産力だけを問題にしているが，工業や商業も加えた経済活動と人口密度の関係を表わすこともあり，これは人口収容力という考えに通ずる。〔浅井得一〕

じんこうりん【人工林】 人が手を加えてつくった森林で，天然林すなわち，過去にまったく人手の加わらない原始林や，伐採だけが行なわれて，自然に成林した天然生林と区別したものである。人工的に播種(はしゅ)や植え付けが行なわれなくても，天然更新の技術が投入された森林は人工林である。しかし，わが国の広葉樹林は，かつて薪炭林として伐採のみが行なわれ，萌芽(ほうが)整理や補植などの人工が施されることが少なく，また一般に播種造林や天然更新が多くないので，人工林すなわち植栽林と考えられていることがある。人工林は経済目的に合った樹種・材料を生産するようにつくられてあるので，たえず技術を投入しないと，天然環境によって低価値の林に移行するおそれがある。➔造林〔川名　明〕

しんこうろ【新航路】 1890年ビスマルク*の引退後，ドイツ皇帝ウィルヘルム2世*がとった政策。皇帝自身は〈航路は旧に同じ〉といったのが，実際はアフリカ・太平洋・近東へとドイツの帝国主義的進出の傾向が著しくなったので，この名でよばれた。

じんこうわくせい【人工惑星】 地球引力の勢力圏を脱し，太陽のまわりの軌道を運行するようになった飛行体。地球引力の勢力圏を脱するには，地球の表面から，いわゆる脱出速度以上の速さで飛び出さなければならない。そうすれば，勢力圏を脱したのちにも速度が残っていて，それが，地球の公転による進行方向と同じであれば，飛行体の速さは地球の公転速度より大きくなり，地球の軌道の外を回る人工惑星になる。火星や木星などに向かうのがそれである。またそれとは反対に，飛行体が勢力圏を脱したときの速度が，地球の公転による進行方向と逆向きなら，公転速度より減るから，飛行体は，地球の軌道の内側で楕円(だえん)軌道を描くようになる。金星に向かうものなどがそれである。1959年1月2日ソ連が月をねらって打ち出したルニク1号は月をそれ，450日の周期を持つ最初の人工惑星になった。その後，米・ソ両国からいくつかの金星探査体や火星探査体が発射され，人工惑星になった。〔新羅一郎〕

しんこえんげきじっしゅ【新古演劇十種】 歌舞伎(かぶき)狂言10種の称。尾上家が，市川家の〈歌舞伎十八番*〉に対抗する意図をもって家の芸から選定したもの。明治の5世尾上(おのえ)菊五郎*がその意図をもったが，9種で他界したので，6世菊五郎が1種を加えて完成した。曲目は《土蜘(つちぐも)》《茨木(いばらき)》《一つ家》《菊慈童》《羅漢(らかん)》《古寺の猫(ねこ)》《戻橋(もどりばし)》《羽衣》《刑部姫(おさかべひめ)》《身替座禅》で，能や狂言に材をとり，活歴物*の趣味の舞踊劇であることに特色がある。〔服部幸雄〕

しんこきゅう【深呼吸】 肺臓内の空気をなるべく多量に出入りさせるように，呼息・吸息を深くする呼吸法。一般に成人の安静呼吸では，毎回肺に出入りする空気の量は500mlで，毎分の呼吸数は平均約16であるから，1分間の呼吸全量は約8lにも達する。これを換気量という。自然に吸息したあとにさらに努力すると，なお1回につき1.5〜2.0lよけいに吸い込むことができる。逆に呼息のときは余分に約1.5l呼出することができる。したがって，深呼吸をしたときの肺活量は約3.5lになる。

しんこきんわかしゅう【新古今和歌集】 第8番めの勅撰(ちょくせん)和歌集*。20巻。撰者は源通具(みちとも)・藤原有家・藤原定家*・藤原家隆*(いえたか)・藤原雅経(まさつね)の5人(寂蓮*(じゃくれん)も任命されたが中途に没した)。1201年(建仁1)7月，後鳥羽(ごとば)院*はまず和歌所を設置して11人の寄人(よりうど)を定め，撰集事業の母胎とし，11月，各撰者に対し，《万葉集*》以来の古今の秀歌を撰進するよう院宣を下した。そして，歌稿が出そろった1203年春から院みずからが歌を選び，また新たによまれた歌を加えたりして，撰者たちに部類させ，1205年(元久2)3月いちおうできあがったところで竟宴(きょうえん)が行なわれ，ようやく1210年(承元4)ごろに至って実質的に撰集事業が完了した。その後，承久の乱*に敗れ隠岐(おき)に流された後鳥羽院は，さらに400首に近い歌を除き去っており，これがいわゆる隠岐本である。

1210年に完成した本は1978首を，春・夏・秋・冬・賀・哀傷・離別・羇旅(きりょ)・恋・雑(ぞう)・神祇(じんぎ)・釈教に分類して収める。主要な歌人は西行*(94首)・慈円*(92首)・藤原良経*(よしつね)(79首)・藤原俊成*(72首)・式子内親王*(49首)・藤原定家*(46首)・藤原家隆*(43首)・寂蓮*(35首)・後鳥羽院*(33首)などで，圧倒的に現代歌人の歌が多い。彼らは新しい叙情による和歌を開拓し，その歌風は幽玄体とよばれるが，韻律やイメージの効果を極度に重視し，それによって複雑微妙な美的情調をとらえようと志向したといえる。古典の世界を背景にし，象徴的表現といわれる段階にまで深化した多くの妖艶(ようえん)な歌は，計算しつくされた配列の妙とあいまってこの集に，におやかな色あいをもたらしている。〔佐藤恒雄〕

しんこくげき【新国劇】 沢田正二郎*が新しい国民演劇を樹立しようとして組織し

た劇団の名称。1917年(大正6)東京新富座で*岡本綺堂(きどう)の《新朝顔日記》など新作4編を旗上げ公演としたが，興行的に失敗。以後関西で辛酸をなめながら劇団の基礎を固めた。その間，*剣劇を創始して人気を集め，5年後再び上京，明治座で《*父帰る》《国定忠治》などを上演した。一歩前進，半歩後退の〈半歩主義〉をモットーに剣劇のほか創作劇も取り上げ，大衆劇団としての地歩を固めていった。1929年(昭和4)沢田が病没，劇団は一時危機に瀕(ひん)したが，沢正生き写しといわれた辰巳(たつみ)柳太郎と島田正吾(しょうご)のふたりが柱となり劇団を再興，今日に及んでいる。現在，《*月形半平太》など沢田の残した当たり狂言のほか，*北条秀司(ほうじょうひでじ)らと組み，新しい時代劇による大衆演劇の創造をめざしている。

〔西尾邦夫〕



新国劇　〈清水次郎長〉の次郎長を演じる辰巳柳太郎(右)と山岡鉄太郎の島田正吾　1971　御園座上演

しんこくざい　【親告罪】　*公訴の*提起にあたって，被害者その他一定の者の*告訴・*告発・請求を必要とする犯罪。*強姦(ごうかん)*罪・名誉毀損(きそん)*罪・器物毀棄*罪のように，刑罰法令中〈告訴をもってこれを論ずる〉と定めている場合や，一定の者の請求(刑法92条)・告発(独占禁止法96条)による場合がある。親告罪を設けた理由は，*起訴して公に知れることが，被害者の心情から，かえって不利になったり(強姦罪・名誉毀損罪)，被害額が軽微で，被害者の意思を無視してまで起訴する必要がない(器物毀棄罪)場合などがあるからである。　〔井上公耳〕

しんこくのうぜいせいど　【申告納税制度】　納税者がみずから税額を計算し，自主的に申告して納税する制度をいう。基本的には，納税者の申告自体に課税標準の確認および税額の確定に関する効果を認める制度で，賦課(徴収)課税に対する語。しかし，申告納税制度をとる租税であっても，納税者が課税標準や税額について正当でない申告をしたり，あるいは申告すべきところをまったく申告しなかった場合には，課税機関(税務署)が更正決定を行ない，課税標準や税額を確認し，納税義務を確立することができる。現在，申告納税制度を採用しているものは，*所得税・*法人税・*相続税・*贈与税・*酒税・*物品税・*関税などがある。

〔西野義彦〕

じんごじ　【神護寺】　京都市右京区梅ケ畑高雄町にある古義真言宗の寺。781年(天応1)開創されたいわゆる愛宕(あたご)五坊の一つの高雄山寺がその前身をなし，延暦(えんりゃく)年間(782〜805)和気清麻呂(わけのきよまろ)が創建した河内(かわち)の神願寺を824年(天長1)この地に移し，神護国祚(こくさく)真言寺と改めた。829年空海が真言道場としての基礎を固め，その弟子(でし)である真済(しんぜい)が経営に努め，一山の隆盛をもたらした。994年(正暦5)・1149年(久安5)の火災により寺運も衰え，鎌倉時代の初めに源頼朝(よりとも)や文覚上人(しょうにん)によって復興されたが，応仁(おうにん)の*乱後衰微をきわめた。本堂の《木造薬師如来立像》，多宝塔の《木造五大虚空蔵菩薩坐像(こくぞうぼさつざぞう)》は平安初期彫刻の代表作で，その他《紫綾金銀泥絵両界曼荼羅(まんだら)図》(高雄曼荼羅)・《絹本著色伝源頼朝像》など国宝が多く，その大部分は東京・京都・奈良の各国立博物館に寄託されている。　〔永井信一〕

しんごせんわかしゅう　【新後撰和歌集】　第13番めの勅撰(ちょくせん)和歌*集。撰者は二条*為世(ためよ)。1301年(正安3)11月，後宇多院の院宣を受け，1303年(嘉元1)12月に奏覧した。鳥羽(とば)天皇の天仁年間以降の歌を集め，二条家歴代の歌人や，為世を支持した大覚寺統の歌人たちが優遇されて，新鮮味に乏しいが，典型的な二条*派ふうの集となっている。なお撰集事業を助ける〈連署〉制度が設けられたのは，この集からである。
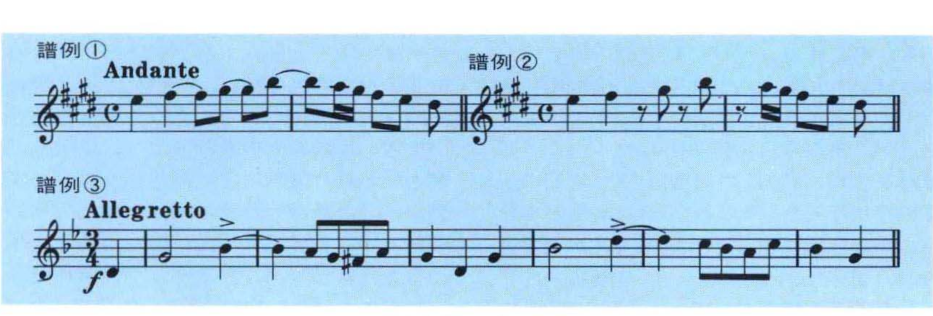
しんこてんがくは　【新古典学派】　近代経済学派のうち，19世紀末，イギリスのケンブリッジ大学を中心に発展した学派。ケンブリッジ学派ともよばれる。新古典学派の体系は，*古典学派体系を基礎としながら，1870年代の初めから起こった限界*革命を総合的に包摂したものであり，ある意味では近代*経済学のはじまりといえる。新古典学派の創始者である*マーシャルは，古典学派の労働価値説からは生産費説を，また主観価値説からは限界効用の概念を摂取し，これから導かれた供給曲線と需要曲線との交差によって競争均衡価格が決定されるとし，生産の適応に伴う時間の長短の観点から，一時的均衡・短期均衡・長期均衡に分類し，すべてを需給均衡の視点において統一的に把握(はあく)する理論を提示した。その後，新古典学派経済理論は*ピグーへと受け継がれ，彼の〈*厚生経済学〉によって厚生経済学的性格が体系づけられるに至った。しかし，新古典学派の理論は完全雇用を想定する古典学派的性格を脱却できなかったため，*ケインズの批判を受け，ケインズ経済学の樹立によってその勢力は後退した。しかし，近年，経済成長理論の面で新古典学派的理論の復活がみられる。　〔富田重夫〕

しんこてんしゅぎ　【新古典主義】　20世紀音楽の一つの傾向で，18世紀古典派音楽がもっていた明確な調性感と形式感を前面に押し出そうとするものである。歴史的には，19世紀末のロマン主義後期の厚い書法や半音階的な傾向に対する反対として，また，印象主義音楽のもつ形態のあいまいさに対する反対として現われた。したがって，バッハ・ラモー・スカルラッティ・ハイドンらの音楽が規範として登場する。また，コンチェルト-グロッソや組曲などバロック時代の形式が採用される。この傾向を代表するのは，《プルチネッラ》(1919)に始まる*ストラビンスキーや六人*組である。彼らは上の傾向を全音階的な発想と明確な旋律線によって，西欧的にまとめることに成功した。一方，*バルトークはハンガリー民族音楽と関連しながらこの傾向を進めたので，民族的新古典主義とよばれることがある。　〔徳丸吉彦〕

じんごのへん　【壬午の変】　⇨京城事件

シンコペーション　[syncopation]　音楽のリズムに関して，通常の拍・拍子・リズムなどの組織が一時的に変更される場合をさし，弱拍(アクセントのない音)が次の強拍(アクセント)に同音で結びつけられたり(譜例①)，強拍が休符になったり(譜例②)，弱拍に強勢が置かれたりする場合(譜例③)に生じる。特に最初と最後の場合は，大きい音量が弱拍に与えられるが，これはアクセントという構造的に重要なものが移動したとは考えるべきではない。

〔徳丸吉彦〕



シンコペーション

シンコムえいせい　【シンコム衛星】　アメリカの最初の静止通信衛星。シンコムSYNCOMはsynchronous communication(同調通信)の略。1963年2月，シンコム1

号を打ち上げたがゆくえ不明になり，次いで7月に打ち上げた2号が大西洋上で軌道に乗り，電話とテレビの中継に成功した。もっとも軌道の赤道に対する傾斜角が33°であったため南北に往復した。最初の完全な静止衛星は，1964年に打ち上げられた3号で大西洋上に静止された。〔原田三夫〕

シンコロブエ ［Shinkolobwe］ アフリカ中南部，コンゴ民主共和国南東部にあるウラン鉱山。ルブンバシの北西約130kmにあり，1915年に発見されてから開発が急速に進められた。鉱床は先カンブリア時代のケツ岩・ケイ岩からなる地層中にあり，ウラニウムとラジウムの主要原鉱である歴青ウラン鉱を産出し，ほかに鉄・金・白金・銅・タングステン・モリブデンなどの鉱物も産する。1921年からユニオン-エミール会社によって大規模に開発が進められ，ウラン鉱の処理工場も建設された。産出したウラニウムの大部分はアメリカ合衆国へ輸出されている。なお，1966年12月にユニオン-エミール会社はコンゴ政府によって接収され，政府出資60％の新会社が設立された。〔大石堪山〕

しんごん 【真言】〈真実言語〉の略で，仏・菩薩(ぼさつ)のことばをいう。インドでは，《リグ-ベーダ》において，言語または教説をmantra(マントラ)といったが，以後このことばが，インド哲学諸派でも仏教でも，真実の言語を意味するようになった。ウパニシャッドや六派哲学においては，諸神祭事に関するベーダの規定をマントラといった。密教においては，仏の真実そのものが言語であると考えられたため，諸仏・諸菩薩の真言がつくられるようになった。このとき，1字1音で仏・菩薩を表わすものを種字といい，比較的短い語句で表わすものを真言，長いものを陀羅尼(だらに)として区別する。➔真言宗 〔金岡秀友〕

しんごんしゅう 【真言宗】仏の真言(真実言語)に基づき，即身成仏をめざす，日本仏教の宗派。開祖は弘法(こうぼう)大師空海。この身このままで仏となることは，ブッダがみずから菩提樹(ぼだいじゅ)の下で実践したところであるが，その後，長い部派仏教・大乗仏教の歴史において，それを実行・実現することができなかった。7世紀ごろから，これに対する強い反省が起こり，仏教は全宇宙の真実をこの身このままに体得することをめざすようになった。これが即身成仏の考えであり，その教えを示すのが真言であった。この真言をとって真言陀羅尼宗(しんごんだらにしゅう)ともいい，また，その相承の形から秘密宗，真実世界を曼荼羅(まんだら)で図示するところから曼荼羅宗，心身一致の冥想(めいそう)，すなわち瑜伽(ゆが)(ヨーガ)を実践の方法とするところから瑜伽宗，唱える呪句(じゅく)(陀羅尼)から陀羅尼宗，そのめざす境地から三摩地宗などの別名をもっているが，その一つ一つが真言宗の側面を示している。

これらの教えは，潜在的には大乗諸経典の中に説かれていたが，これをはっきりと打ち出したのは，《大日経》《金剛頂経》の2経からであり，ともに大日如来の真実世界を表わす。《大日経》は胎蔵界といわれ，大日如来の理(真実)自体が母の胎内におけるように宇宙に含蔵されていることを示し，《金剛頂経》は金剛界といわれ，大日如来の理が，われわれ衆生の智(ち)(知性)に現われていく過程を表わす。この二つの経典を両部大経といい，これに《蘇悉地経(そしつじきょう)》を加えて〈三部の秘経〉，《瑜祇経(ゆぎきょう)》《要略念誦経(ようりゃくねんじゅきょう)》の二つを加えて〈五部の秘経〉といい，これらの経典を中心として，多くの注疏(ちゅうそ)・論釈・供養法・儀軌を加えて真言密教の膨大な体系を形づくっている。

真言宗がインドの密教から今日の一宗となったのは，中国の《大日経》と《金剛頂経》の両系の受け入れられた唐代の密教が，806年(大同1)空海によってわが国にもたらされてからである。以来，高野山金剛峯(こんごうぶ)寺を総本山とし，京都の東寺(教王護国寺)・大覚寺・仁和(にんな)寺，四国の善通寺などを中心に全国に教線を拡張した。さらに覚鑁(かくばん)の流れをくむものたちによって，近世初頭新義の流派ができ，智山派・豊山派の2派を生ずるに至った。これらの新興流派は，声明(しょうみょう)などの実践において古義真言宗と異なるほか，教理においても新しいものを打ち出している。3派合わせて約10,000の寺院を擁している。〔金岡秀友〕

しんこんせつわ 【神婚説話】 神と人間との神秘な婚姻に関する説話。霊界・神界の者と人間界の者とが，ある特殊な状態・事情のもとで結婚する説話群をいい，世界の諸民族の間にさまざまの形で伝えられていて，次のような型がある。①男性が女性の親に勤労奉仕し，それによって女性と結婚したのち，親から離れて遁走(とんそう)する(オオクニヌシノカミとスセリヒメとの婚姻)，②神女が男性を招き，仙界(せんかい)で結婚したのち，男性が人間界を慕うので，神女が条件を与えて帰すが，男性がそれを破って不幸にあう(浦島伝説)，③人間界の男性が神界の女性を強奪して結婚する(羽衣伝説)，④神霊や超自然的霊が物・人などに姿を変えて人間と結婚する(オオモノヌシノカミが丹塗矢(にぬりや)に変形してセヤダタラヒメと婚姻)。〔渡辺欣雄〕

しんざい 【心材】 樹幹の横断面で樹心に近い部分。心材は木細胞が枯死状態で，辺材に比べ狂いが少なく，シロアリや腐朽菌にも冒されにくい。心材は赤またはかっ色で辺材に比べ色が濃く，赤味ともいう。別に，サンドイッチ板や合板の心にはさまれた部分を心材(コアー)という。➔辺材

しんさいせいじ 【神裁政治】 神の意志の発現として行なう政治，実際上は神の代理者が神の行なうごとく行なう政治。神政政治・神権政治ともいう。代理者としては，預言者・神官・聖職者・王と，その時代によっていろいろな形をとる。最も典型的なものとして，モーゼが〈十誡〉を基本としてイスラエル民族を治めたものがあげられる。オリエントにおいてエジプト王みずからをファラオ(神王)とよんだのもその一つの形であり，イスラム教のカリフは聖俗二権を兼ね備えたが，その政治もこの一種と考えられる。わりあいに純粋な形で現われたのは，1541～1564年にカルバンがジュネーブで行なった聖書にのっとるきわめて厳格な禁欲的政治であろう。その後，ヨーロッパ絶対主義時代の王権神授説による政治もこの一種といえる。〔高山高雄〕

しんさいてがた 【震災手形】 1923年(大正12)の関東大震災後，日本銀行が震災地関係の企業に対して特別に再割引した手形。手形発行は被災企業を救済するための応急措置であったが，実際には第1次世界大戦中および戦後に半ば投機的に膨張し，震災時にはすでに処置できない状態にあった不良債務に対する金融措置でもあった。1926年(昭和1)末現在，未決済手形額は3,451通，額面総額2億680万円，所持銀行51行中台湾銀行はその約7割を占めていた。1927年若槻(わかつき)内閣は，財政の健全化を図るため震災手形の処理を急務とし，〈震災手形損失補償公債法案〉〈震災手形善後処理法案〉を議会に上程したが，議案審議中片岡直温蔵相の失言から金融恐慌をひき起こした。〔高崎徳次〕

しんさいばしすじ 【心斎橋筋】 大阪市南区，島之内(しまのうち)にある繁華街。北はもと長堀(ながほり)川の心斎橋から南は道頓堀(どうとんぼり)川の戎(えびす)橋まで，南北約700mの街路とその周辺地区をさす。大丸・十合(そごう)などのデパートや高級専門店が立ち並び，多くの買い物客でにぎわう。大阪駅から地下鉄1号線が通じる。

しんさくきょうげん 【新作狂言】 明治維新後につくられた狂言をいう。執筆された台本は250編前後，うち試演されたもの60曲余。ただし，流儀の公認演目になった曲はなく，明治期の冷泉為理(れいぜいためただ)作《子(ね)の日》など4番，茂山忠三郎作《二人男》など3番，および第2次世界大戦後の飯沢匡(いいざわただす)作《濯(すす)ぎ川》が大蔵流の番外曲(準公認曲)になっているほかは，木下順二作・武智鉄二演出《彦市(ひこいち)ばなし》が数回上演された程度。ほとんどが在来の狂言の形式を踏襲しているが，1957年(昭和32)上演の深沢七郎原作・岡本克巳(かつみ)脚色《楢山節考(ならやまぶしこう)》は狂言の演技で悲劇的叙情を追求し，狂言能ともいうべき新様式を創造して注目された。近年は戯曲作者ふじたあさやの《ほらんばか》などの諸作品が劇団〈三十人会〉によって試演されている。

なお明治後期から昭和初年にかけて，巌谷小波*(いわやさざなみ)らにより子ども向きのお伽(とぎ)狂言が新作・上演された。〔小林　責〕

しんさくのう　【新作能】　ふつう，明治以降につくられた能*のことをいう。高浜虚子*・桜間弓川による《時宗(ときむね)》《義経(よしつね)》《奥の細道》などがあり，また土岐善麿*(ぜんまろ)・喜多実の継続的な新作活動には，《夢殿》《青衣女人(しょうえのにょにん)》《鶴(つる)》《使徒パウロ》《鑑真和上(がんじんわじょう)》など十番余の作品がある。観世寿夫(ひさお)らによる現代詩の能楽化《智恵子抄(ちえこしょう)》，詩劇形式の《鷹姫(たかひめ)》の試みの一方，《大典》《忠霊》《復活のキリスト》など時局的な政治目的による新作能の一群もある。実際には従来の能の様式から離れることがむずかしく，制度上の束縛もあって，新作能が流儀の正式の演目としてくり返し上演される例はあまり多くない。三島由紀夫*(ゆきお)は能の主題を新劇に移して〈近代能楽〉8編を書いている。〔増田正造〕

しんさらやしきつきのあまがさ　【新皿屋舗月雨暈】　歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称〈魚屋宗五郎(さかなやそうごろう)〉〈魚宗(うおそう)〉。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1883年(明治16)市村座*初演。浄瑠璃(じょうるり)《播州皿屋敷*(ばんしゅうさらやしき)》などに描かれた〈皿屋敷伝説〉を新脚色。大名磯部主計之介(いそべかずえのすけ)が愛妾(あいしょう)お蔦(つた)を残殺し，それを怒ったお蔦の兄魚屋宗五郎が，酒乱となって磯部邸へ乗り込んでいく場面が有名。

しんさりつ　【審査律】　1673年イギリス議会で国教徒以外の者の公職就任を禁じた法律。1661年の騎士議会はカトリック教徒および非国教徒の抑圧を企画したクラレンドン*法典を通過させた。しかるに，カトリックを信奉するチャールズ2世は，1672年フランス王ルイ14世とのドーバーの密約に基づいて寛容宣言を発布し，これによってカトリック教の勢力を回復しようとした。議会は王の反動的専断に反抗して宣言の撤回を求め，王を屈服させた。審査律の通過によって王の至上権と国教会へ忠誠を誓わない者はいっさいの公職より追放されることになった。その後審査律をめぐってしばしば政治上の紛議を起こしたが，1828年に廃止された。➔寛容令　➔カトリック教徒解放令〔松下京子〕

しんさんぎょうとし　【新産業都市】　1962年(昭和37)5月に公布された〈新産業都市建設促進法〉に基づいて指定された都市または地域をいう。京浜・中京・阪神(はんしん)・北九州の既成の工業地帯以外の地域に，産業を誘致し，既成工業地帯の過密の弊害を除くとともに，地方都市の振興，地域格差の是正を目的として制定された。新産業都市に指定されると，公共事業に対する国の補助，自治体の起債枠(わく)の増加，進出企業に対する固定資産税の減免措置など，産業振興に有利な条件が整うので，全国的な指定陳情合戦(がっせん)が展開され，1963年道央(北海道)，八戸(はちのへ)(青森県)，仙台(せんだい)湾(宮城県)，常磐・郡山(こおりやま)(福島県)，新潟，松本・諏訪(すわ)(長野県)，富山・高岡(富山県)，岡山県南，徳島，東予(愛媛県)，大分，日向(ひゅうが)・延岡，不知火(しらぬい)・有明・大牟田(おおむた)(福岡・熊本県)の13か所が指定され，のち秋田湾と中海(島根県)が加わり，15か所となった。しかし実際は期待したほど工業の地方進出はみられず，新産業都市の実現は長期間かかるものと思われる。〔竹内泰夫〕

しんさんべつ　【新産別】　⇨全国産業別労働組合連合

しんし　【進士】　中国，科挙*における進士科出身をさす。隋(ずい)から唐の前半にかけては，秀才・明経などが重んぜられたが，しだいに詩賦を中心とする進士科が文学隆盛の世相を反映して重んぜられるようになった。宋(そう)代ではすべて進士に統一され，科挙とは進士を意味することになる。ただ宋代以後の進士は儒教古典を課題とし，その点唐以前の明経に等しく，詩賦を中心とする唐の進士とは趣を異にしている。

じんじいいんかい　【人事委員会】　地方公共団体*に設けられる人事行政機関。地方公務員の勤務条件に関する行政措置要求事案や不利益処分の審査判定，任用試験・職階制の立案実施，厚生施設などに関する勧告，その他地方公務員に関する各種の事務を取り扱う。都道府県と指定都市(政令で定める人口50万以上の市)には必ずこれを置き，その他の人口15万以上の市は人事委員会か公平委員会のいずれかを選ぶ。委員会は議会の同意を経て地方公共団体の長が任命する3人の委員によって構成され，全委員出席のもとで過半数で議を決する。委員長は互選。➔地方公務員法〔寺尾方孝〕

じんじいん　【人事院】　人事行政に関する国の総合調整機関。国家公務員法*に基づいて1948年(昭和23)設けられた。省・庁とは独立して直接内閣*の管轄に属する。3人の人事官によって構成され，これを代表する人事院総裁は人事官の中から内閣が任命する。そのおもな権限は，人事行政改善に関する勧告，給与など一般職国家公務員の勤務条件改善のための勧告，勤務条件に関する行政措置要求事案の審査判定，国家公務員の採用・昇任試験，職階制の計画の立案実施，不利益処分の審査判定，職員の給与支払いの監理，人事院規則の制定・改正，内閣に対する人事院運営に必要な毎年の経費の要求書提出，そのほかその権限に属する処分・決定の審査などである。このように準立法的権限と準司法的権限とをもつ人事官の構成と資格については，人事行政の中立性を確保する必要から，人事官のうち2人が同一政党に属し，または同一大学学部出身者であってはならない。また任命される前の5年間，政党の役員・顧問や選挙候補者であった者は人事官になることができないことになっている。人事官の任命は衆・参両院の同意を経て内閣が行ない天皇の認証を受ける。任期は4年，再任も可能で，国会が人事官の弾劾を訴追し，最高裁判所が公開の弾劾手続きによりそれを認める場合など，特定の場合を除き罷免されない。なお，補助部局として事務総局と法律顧問を置く。〔寺尾方孝〕

じんじかんり　【人事管理】　企業内の労働者またはその集団を対象とする企業目的達成の手段。企業目的を達成するには，その構成員が最大の能率を発揮することが必要であり，そのため構成員の人間としての性質およびその構成要素を知らなくてはならないという立場に立ち，企業目的の達成とその構成員の利益の伸長を帰一させるための管理としての性格をもつ。人事管理は科学的管理法*が産業における人間的要素を無視しているという批判にこたえようとして成立したもので，能率増進や原価引き下げという問題が技術的なものであると同時に，すぐれて人間的なものであり，かついかに能率的な方法でも労働者の協力がなくては結局なんの効果もないという考えに基づく。こうして1920年代の労働運動の高揚とともに起こった人事管理は，労働者の福祉について十分かつ適切な考慮を払うことを特徴として，産業心理学・労働生理学・労働医学などを具体的内容とする人間工学的考察に基づく方法へと発展していったが，この方法では社会的集団としての人間の観察に欠けるところがあるとして，メイヨー・レスリスバーガーを中心とする人間関係論を基礎にすえた人事管理の方式が生まれた。すなわち人間の理解による人間の管理であり，このためには意思疎通が必要であることが明らかにされ，労使協議制・工場委員会制・人事相談制度・苦情処理制度などの管理方式が確立した。最近いわゆる行動科学の急速な発展により，従来の人間関係論はしだいにこの方向に吸収されつつある。

今日，人事管理の内容は，大別して次の三つの分野に分けられる。①労働力管理：採用・配置・異動・賞罰・退職・人事考課・服務規律・教育訓練など，②労働条件管理：賃金・労働時間・職場環境・安全衛生・福利厚生など，③労働関係管理：人間関係(従業員への企業PRとコミュニケーション・士気調査・提案制度・人事相談など)，労使関係(団体交渉・労使協議制・労働協約・苦情処理など)。〔清水　晶〕

しんしぐん　【新四軍】　日中戦争下の中国，揚子江中・下流域にあった紅軍*を主力とする軍団。〈国民革命軍新編第四軍〉の略。1937年，第2次国共合作によって編成，兵力約10万を擁したが，1941年1月の皖南(かんなん)事件で国民政府軍から大打撃を受けた。同年共産党がこれを再建し，華北の八路軍*，華南の抗日縦隊と抗日戦争の主力となった。

シンジケート ［syndicate］ カルテル*に参加している各企業に対して，利潤や生産量または販売量などを割り当て，さらに製品の共同販売をも行なうカルテル中央機関のこと。また，そのような中央機関をもつカルテル全体をさすこともある。シンジケートを通じて，市場統制は最も完全に行なわれる。他方において，シンジケートは注文の割り当てや製品の共同販売の便宜上，製品の規格化を図り，さらに流通費用の節約や生産過程における技術的合理化をめざす。このように，シンジケートは市場統制と合理化の二つの機能をもっている。〔加藤 寛〕

じんじけん 【人事権】 使用者が労働契約*上の地位に基づいて，労働者に対して有する人事に関する権限。具体的には，採用・配置転換・転勤・休職・昇格・解雇をする権限などである。人事権は，労働契約に根拠をもち，かつ制約されている。労働法は，労働契約を結ぶにあたって，使用者に対し，業務に関する事項ならびに退職に関する事項を明示することを義務づけているから，配置転換・退職などに関する事項は，労使間の契約の内容になっているといえる。しかし採用は労働契約を成立させる以前のことであるから，労働契約の拘束を受けることは少ない。人事権の行使については，法律に違反すると処罰される場合があり，労働協約や就業規則に違反することは許されないし(労働組合法16条・労働基準法93条)，権利の濫用は禁止されている(民法１条３項)。さらに，人事は公正に行なわれなければならないし，労使納得で決められるべきだとされる。〔木元錦哉〕

しんじこ 【宍道湖】 島根県，島根半島南側にある湖。面積81.8km²，水面高度１m，水深5.5m。東西に走る地溝帯(ちこうたい)の低所の水面で，西に注ぐ斐伊(ひい)川の沖積(ちゅうせき)で湖面が縮小している。水は大橋川・天神川となって中海(なかのうみ)に流れるが，北東岸から佐陀(さだ)川となって直接日本海へもはいる。佐陀川は古く人工の加えられた一種の運河である。東端に松江市がある。湖中の嫁ケ島は，美しい湖の風景にさらに風情を添えている。多少の塩分を含むが淡水魚の漁獲量は大きい。この湖は禁猟区に指定されており，初冬とともに北方からカモが飛来し，ときには白鳥も混じえて十数万羽が越冬することがあり，冬の渡り鳥の楽園となっている。〔長津一郎〕

しんししゃ 【新詩社】 1899年(明治32)11月与謝野(よさの)鉄幹*を中心に結成された詩歌結社。正しくは東京新詩社。機関誌《明星*》は鉄幹の〈自我の詩〉提唱に指導され，妻晶子*(あきこ)の《みだれ髪》をはじめ，新青年の官能・感情の解放を高唱，詩歌における浪漫主義の一大拠点となった。高村光太郎・石川啄木(たくぼく)・木下杢太郎(きのしたもくたろう)・吉井(よしい)勇・長田秀雄(ひでお)・長田幹彦(みきひこ)・北原白秋・小山内薫(おさないかおる)らを輩出。1908年11月《明星》廃刊とともに解体。〔源 五郎〕



宍道湖
湖の南側から北西方向を望む。遠景左手は斐伊川のつくるデルタ(出雲平野)で，右側の丘陵地は島根半島。その向こうは日本海



シンシャ 奈良県大和水銀鉱山産

しんしちょう 【新思潮】 文芸雑誌。1907年(明治40)10月，小山内薫*(おさないかおる)によって創刊され，第２次以降は東京大学学生を中心に断続的に発行されている。第４次までが史的に注目される。第１次：1907年10月～1908年３月。小山内の個人編集。イプセン*などの近代劇を紹介，新劇運動に貢献した。第２次：1910年９月～1911年３月。小山内のほか，和辻(わつじ)哲郎*・後藤末雄・谷崎潤一郎*・木村荘太・小泉鉄らが同人。吉井(よしい)勇*も関係し，谷崎の《刺青》などで耽美(たんび)主義の一翼を形成した。第３次：1914年(大正３)２月～９月。久米正雄*(くめまさお)・芥川龍之介*(あくたがわりゅうのすけ)・豊島(とよしま)与志雄*・菊池寛*・松岡譲・山本有三*(ゆうぞう)・成瀬正一らが同人。久米の《牛乳屋の兄弟》や豊島の《湖水の彼等(かれら)》が注目された。第４次：1916年２月～1917年１月。第３次のうち菊池・芥川・久米・成瀬・松岡の５人だけが同人。芥川の《鼻》，菊池の《父帰る》《屋上の狂人》など理知的・技巧的な作品を出し，ふつう〈新思潮派〉というときにはこの第４次の人々をいう。なお第６次からは川端康成*(かわばたやすなり)・今東光*らが輩出，昭和文学の先駆となった。〔源 五郎〕

しんしつ 【心室】 ⇨心臓

しんじついちろ 【真実一路】 山本有三*の長編小説。作中人物がおのおの自分に誠実に，真実一路の生活をするうちに起こる悲劇をみつめている。少年義夫(よしお)とその姉しず子を中心として，夫義平と子どもたちを捨てて10年前に家出をし，いまは愛人と暮らすむつ子をめぐって，〈いかに生くべきか〉という，この作者の一貫したテーマが追求されている。

しんじつざいろん 【新実在論】 20世紀はじめ，自然科学の革新を積極的に受け入れる立場から，反形而上学(けいじじょうがく)・反観念論を旗じるしにイギリスとアメリカに起こった哲学運動。その主張は，認識の対象は認識する主観から独立に実在し，したがって両者の関係はまったく外的だとするところにある。観念論は事物の存在を知覚に還元し，世界を意識の構成とみるが，それは知覚の対象と知覚の作用とを混同することによるのであり，また従来の実在論は超越的実在をたてるが，ここで認められる実在はあくまで知覚の対象としての実在である。イギリスではムーア・ラッセルら，アメリカではペリー・ホルト・マービン・スポールディング・モンタギュー・ピトキンの６人があげられる。〔石倉恒之〕

シンシナチ ［Cincinnati］ アメリカ合衆国，オハイオ州南西端，オハイオ川北岸にある商工業都市。人口42万6,000(1973)。1788年開拓者によって建設され，その後オハイオ川の河港として発達した。現在も鉄道・水運によって南部・東部への交通の要地で，年間貨車60万台分の石炭を積み出しており，内陸の石炭積み出し港としては世界最大である。世界第１のジェットエンジンの製造地で，くつ・皮革製品・ピアノ・化粧品・化学・印刷・出版などの工業も盛んである。〔椙村大彬〕

じんじふせい 【人事不省】 ⇨失神

しんしゃ 【辰砂】 水銀の原料鉱物。HgS三方晶系。比重8.0～8.2，硬度２～2.5。劈開*(へきかい)は完全で，条痕(じょうこん)は紅色。断口は貝殻(かいがら)状で，朱紅色。世界およびわが国の水銀鉱床に広く産し，シゼンスイギン*を伴うことがある。北海道イトムカ鉱

山が有名。

じんじゃ【神社】 ミヤ・ヤシロ・産土(うぶすな)・氏神*・鎮守などとよばれている聖なる施設を中心に,祭祀(さいし)および祭祀をささえている信仰,およびその信仰の伝達者である奉仕者また氏子・崇敬者をも含めて神社とよぶ。

〔沿革〕ミヤ・ヤシロは今日ほとんど同義に用いられている。しかし古くは,ミヤは伊勢(いせ)神宮のほか数社だけに限られて用いられ,他はすべてヤシロと称した。構造上からヤシロをみると,今日の社とはほど遠い。カンナビ(神南備)とよばれる森,巨石または磐石(ばんじゃく)で囲んだもの(磐境(いわさか)),常緑樹(ヒモロギ)などは古代の神の座,すなわち社の原初型といえる。神が定まった季節に来訪し,祭りを受け,終わると再び神の国にもどると信じられていた時代には,しずめる場は常住的なものである必要はない。訪れてきたときに最も神の注意を引きやすい巨木・巨岩・常緑樹こそ神の座としてふさわしいもの,すなわち神座でありヤシロといえる。

〔社格〕神社の入り口にある鳥居近くに〈官幣大社 何々神社〉などの標識が立っていることがあるが,これは神社の格式を示している。この格式については現在までおよそ4期の変遷がある。第1期(崇神(すじん)天皇のとき):天社・国社の制が定められた。第2期(平安初期):官幣の大社・小社,国幣の大社・小社の区別ができた。第3期(明治時代):官幣大社・官幣中社・官幣小社,国幣大社・国幣中社・国幣小社,別格官幣社,府社・県社・郷社・村社・無格社の12階に区分。第4期(大東亜戦争以後):従来のような行政府によって定められたものは廃止され,神社本庁*がゆいしょ・規模などの面から特に選定した別表神社とそれ以外のものとに区別される。第2期の官幣社は中央の神祇官で幣帛(へいはく)を,国幣社は国ごとで国司が代わって奉幣する。明治時代には官国幣社*の祈年祭*・新嘗(にいなめ)祭*と官幣社の例祭には皇室から,国幣社の例祭には国庫から供進(ぐしん)された。神社の数は平安初期ごろの総数は不明であるが,平安中期の《延喜式神名帳》によると,2,861社である。明治末年には約11万社,1965年(昭和40)には約80,000社弱となった。神社にはこのほか,本社の祭神と縁故の深い神を祭った社または本末関係の社で神社の境内あるいは関係地に祭った社があり,これらを境内社・摂社・末社・別宮とよぶ。伊勢神宮には4種の別があり,別宮は荒祭宮(あらまつりぐう)以下14宮(内宮10,外宮4宮)で,両宮に次いで厚く祭られる。摂社は《延喜式神名帳》に記載されている社,末社は《延喜式神名帳》に記載されていない社で,いずれも両宮に関係深い社をいう。このほか所管社があり,以上の社を除いた計18社をさす。伊勢神宮とは狭義では内宮・外宮のみをさすが,広義では以上の社をも含めていう。明治以降は官国幣社に限り摂社・末社といい,府県社以下では境内社という。建物については,神のしずまる社殿(本殿・正殿・神殿)を中心に拝殿・祝詞(のりと)殿(祈願などを行なう殿)・舞殿・御饌(みけ)殿・社務所をはじめ,鳥居・玉垣(たまがき)・楼門・神庫などがある。また,社殿の造りぐあいで何々造りとよばれ,建築史上重要である。➔神社建築

〔神社信仰〕神社信仰は公的信仰と私的信仰に大別される。公的信仰とは生活単位である部落の祈福除災から国家的大事の祈願までをいい,私的信仰とは私祭で,個人または家庭にかかわる信仰をいう。社の祭りは発生上は部落の総意で執行されるから公式・公祭の面が著しいので,この面のみから社の信仰を解くと片手落ちとなる。初宮参り・七五三参り,建築・土木工事の起工式・鍬(くわ)入れ式,入学祈願,自動車のはらえなどはいずれも私祭的である。公的集団的信仰と私的個人的信仰とのからみあいに神社信仰の特色の一つがある。公的信仰では,神社がそもそも生活の単位である集落・集団の間で生まれたものであるので,全集落の生活の安危にかかわる祭りにささえられている。この祭りは信仰の一つの表現形式である。今日,祭りとは街頭にはなやかに繰り出す神事をさしていわれることが多いが,これは一部にすぎず,社において執行される神前の神事に,神社信仰の本来の姿のあることを知るべきである。〔安津素彦〕



ジンジャー　ハナシュクシャ

ジンジャー　[ginger]

[1]ショウガ科・ショウガ属の総称。特にショウガの英名として用いる。➔ショウガ

[2]ショウガ科・シュクシャ属の栽培植物の総称。東アジア・ニューギニア・マダガスカル原産で,約40種がある。花壇・切り花用として栽培される。根茎状のじょうぶな地下茎があり,葉はショウガに似て,長楕円(ちょうだえん)形で2列に互生する。花には白色・黄色・紅色などがあり,芳香がある。1～2mの花茎を伸ばし,茎頂に穂状花序をつける。花冠は細長い筒状で先が線形で開出し,がくよりわずかに長い。①ベニバナシュクシャ(紅花縮砂):ヒマラヤ・インド・ビルマ・セイロン原産で,茎は1.5～2m。8～11月に15～20cmの花序をつけ,小花は紅色で,赤色の花糸が長い。②キバナシュクシャ(黄花縮砂):インド・ヒマラヤの1,300m～2,500mの高地原産。茎は1～2m。夏から秋に開花し,花は淡黄色で芳香が強い。花糸は赤く長く,唇弁(しんべん)は花糸の2倍以上。③サンナ(山奈):ヒマラヤ・インドの1,000～2,000mの高地原産。茎は1mほど。9～10月と3月に開花。花序は20cmほどで黄花をつけ,芳香がある。花糸は紅色。肥厚した根茎は干して薫香料や芳香性健胃剤にする。④ハナシュクシャ(花縮砂):狭義にジンジャーということもある。インド・マライ半島原産で切り花にする。茎は1～2m。葉はカンナに似て長楕円形。8～11月に大形の楕円形の花序をつける。花は白色で芳香が強い。

〔横井朝子〕

じんじゃけんちく【神社建築】 日本固有の宗教建築。神の鎮座する本殿(神殿)と祭祀(さいし)を行なう拝殿その他の付属施設からなり,聖俗の領域をくぎる瑞垣(みずがき)・玉垣などの垣や回廊,その出入りを固める門や楼門,参道に立つ鳥居などを含む。神社には,大神(おおみわ)神社*や諏訪(すわ)神社上社,埼玉県児玉(こだま)郡神川村の金鑽(かなさな)神社のように,拝殿その他の祭祀施設だけで本殿がなく,背後の山などが神聖な禁足地とされ,本殿に代わるものとされているのがあるが,この無神殿の神社は古い神社の姿を残したものと考えられる。強い神性をもつ大神は,人里を離れた聖地に住み,人々はその聖地をはいってはならない禁忌の場所としてあがめた。そして,祭りに際してだけ,この禁足地にはいって神木その他の依代(よりしろ)に神をのり移らせ,これを人里近くの祭場に運んで祭儀を行ない,祭りが終わったのちは仮設の祭祀施設を取り払い,神が聖地に帰ったとされるのが古い祭祀の姿である。この慣習から,仏教建築*が堂宇の長い歴史を尊び,修繕を重ねて維持しようとするのとは違って,神社建築は清浄な真新しさを尊び,常設の神殿をもつようになっても,一定の期間を周期として新築造替することを理想とし,中世までは多くの大社にこの習慣がみられたが,今日までこの理想を維持しているのは伊勢(いせ)神宮の20年を周期とする式年遷宮の制度のみである。

神が荘厳な建物の中に常時住まわれるという考え方は仏教的で,日本の神社が常設神殿をもつようになったのは仏教伝来以降,早くとも6～7世紀と推定される。この発生期の神殿形式には,仮設の祭祀施設として代表的な大嘗宮(だいじょうぐう)(天皇即位に際して行なう新嘗(にいなめ)祭*のための仮設の祭場施設)の形式を基にした住吉(すみよし)造り

(住吉大社*)やその変形形式の大社造り(出雲(いずも)大社*)，鏡・玉などの祭器を納めた齋倉(いみくら)が，祭器の神格化によって神殿に上昇したと推定される神明造り*などがあり，これらの古形式は，いずれも屋根が切り妻造りであることが共通している。住吉造りは妻入りで，周囲に回り縁を設けず，床も比較的に低く，内部は外陣と内陣とに分かれる。神明造りは平入りで，内部に間仕切りはなく，妻側に棟木(むなぎ)をささえる独立した棟持ち柱が立つのがきわだった特徴である。大社造りは，田の字形平面をし，妻入りで，階段が中心軸上になく，片側に寄っており，大嘗宮平面が圧縮されたものと考えられるが，きわだって床高の比例が大きいばかりでなく，その典型である出雲大社本殿では，その建物自身が高大なことで有名である。これらの3形式は，屋根に千木(ちぎ)・勝男木を載せ，仏教建築伝来以前の古墳時代の高貴な建築の荘厳方法を色濃く伝えている。春日(かすが)造り*は奈良時代後期に成立した妻入り系神殿で，千木・勝男木を載せるのは古風であるが，階段を保護するひさし(向拝(ごはい))をつけ，正面から見ると入母屋(いりもや)に近い形をしており，造形的にやや複雑になっているほか，軒ぞりをもち，木部に朱を塗るなど，仏教建築手法の導入がみられる。春日造りの他の特徴は，規模が小さく，井桁(いげた)に組んだ土台をもつことで，かつて祭りごとに，神を聖地から人里の祭場へ移すのに使った御輿(みこし)形の仮設の神殿が祖形と考えられる。流れ造り*(京都府，賀茂御祖(かもみおや)神社)は春日造りとほぼ同じころ成立し，神明造りの正面に階段を保護する向拝がついた発展形式と考えられ，井桁に組んだ土台をもち，その祖形の性格が春日造りと同じものであることを暗示している。このほか，古代末期に成立した神殿形式には，平入り系神殿を二つ前後に並べて接合した八幡(はちまん)造り(宇佐神宮*)や，平入りの神殿の正面と側面の三方だけにひさしを葺(ふ)きおろしたために，特異な屋根形式を生み出した日吉(ひえ)造り(日吉大社*)がある。また，このころから神殿の前の地上で行なっていた祭祀を屋内で行なう拝殿が生まれ，神殿(本殿)と拝殿とを緊密に結合する新形式として，石の間造りや祇園(ぎおん)造り*が生まれた。石の間造り(北野天満宮*)は，本殿とやや間隔をおいて配置した拝殿との間に，土間床の石の間を設けて，この3部分を複雑な屋根で接続したもので，その屋根の形から八棟造りの別名がある。祇園造り(八坂神社*)は，入母屋屋根の建物の内部が発達した間仕切りで仕切られ，本殿と拝殿が母屋とひさしの関係で結合されており，寝殿造りの影響を受けて和風化した仏堂によく似ている。

平安貴族の住宅形式である寝殿造りの影響は神社の配置形式にも現われ，岸べの海中に建つ神社として有名な厳島(いつくしま)神社*の社殿は，建物群を渡殿で連結する寝殿造りの特徴をよく伝えている。古代末期に見られた神殿形式の多様化は中世にも続き，中でも吉備津(きびつ)神社*の複雑に発達した平面や立面がすぐれた造形として有名であるが，その多くが個性的で独自なものであるために，その神社限りで，他に広く用いられることが少なく，以上の多様な神殿形式の中で，最も広く行なわれたのは流れ造りであった。近世にはいって，豊国廟(とよくにびょう)や東照宮などの霊廟建築に，京都の北野天満宮の形式が継承され，新たに権現造り*の名で知られるようになり，一般の神社がこの形式を簡略化して，流れ造り本殿に幣殿(へいでん)と拝殿を接続させる形式をとるようになり，今日ではこの権現造りふうの社殿形式が一般神社の標準形式になっている。以上の中心建築のほかに神社には，神饌所(しんせんじょ)・神庫・神楽(かぐら)殿・楼門・絵馬(えま)殿など各種の付属施設が時代とともに生まれ，その配置も多様な変化を見せ，神社建築の発達と充実に寄与している。

〔渡辺保忠〕



神社建築
伊勢神宮内宮　式年遷宮の制度によって，神社建築の理想を貫き，奈良時代以来の古様式を純粋に継承している神社建築の代表

じんじゃほんちょう【神社本庁】 神社の全国的な包括団体で，東京都渋谷区にある。1945年(昭和20)12月15日の神道指令(GHQ*から日本政府に手交された覚え書き)により，神社は国家の管理から離れることとなったため，当時の民間における関係団体であった皇典講究所・大日本神祇会(じんぎかい)・神宮奉斎会の主唱に基づき，翌1946年2月3日に設立された。地方機関として各都道府県に神社庁を置く。

しんじゅ【真珠】 貝類の体内に形成される分泌物の固まり。美しいものは，古くから装飾品として用いられている。パールともいう。

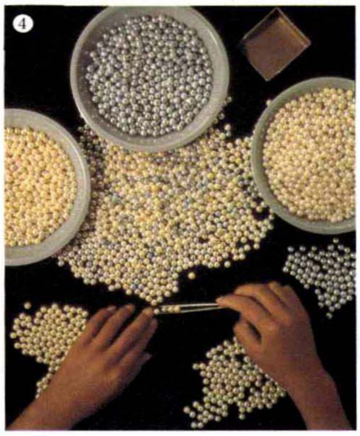
【成因】貝の軟体部のいちばん外側には，殻(から)をつくる働きをする外套膜(がいとうまく)がある。この外套膜の一部がなんらかの機会に寄生虫・砂粒などの異物とともに体内に落ち込むと，はいった外套膜の上皮細胞は増殖して異物を包み込んで真珠袋を形成する。真珠袋は外套膜上皮と同じ分泌機能をもっていて，その内側から殻形成物質(真珠質)を分泌し，異物が核となっていく層にも真珠質で被覆され，真珠を形成する。なお，真珠袋は異物の侵入がなくても形成され，無核の真珠がつくられることがある。

【種類】産状(貝付き・遊離真珠)，産出の動機(天然・養殖真珠)，貝の種類，真珠の構造，色，形，産地(日本以外のもの)などによって種類分けされるが，普通は天然の貝の体内でできる天然真珠と養殖に大別される。両者の真珠層そのものは同じで，外観上の差異はまったくない。天然真珠は，昔からペルシア湾・紅海・セイロン島・アラフラ海・メキシコ湾・ミシシッピ川などがおもな産地として知られ，日本でも伊勢(いせ)湾・大村湾などで採取されていたが，現在では漁場の荒廃と養殖真珠の普及によって一般市場からほとんど姿を消し，真珠といえば養殖真珠をさすほどになった。

【性状】①成分：真珠層の成分は90～95％が炭酸カルシウム，残り約５％がコンキオリンとよばれる有機物で，ほかに少量の水分，微量の色素物質や種々の金属が含まれる。炭酸カルシウムはアラゴナイト(アラレ石)の結晶となって，他の成分とともに薄膜をなし，これがいく層にも同心円状に重なっている。真珠独特の美しい色彩や光沢は，これらの物質によるほか，真珠層が薄くいく層にも重なってできているために起こる光の干渉，真珠層と核との間にはさまれる異質層の色，光の表面反射・内部散乱などが複雑に組み合わさってもたらされたもので，成分や構造の微妙な違いによってもさまざまに変化する。真珠は，炭酸カルシウムからなっているため酸に侵されやすく，また，長期間アルカリ・油・熱・湿気にさらされると光沢がにぶる。したがって，汗やよごれのついた場合は軽く水洗してガーゼでふき，保存には湿気を避ける。硬度は3.5～4.0ぐらいで，かたいものにぶつけたりこすったりすることは禁物である。②大きさ・形：真珠の大きさは直径をmm単位で表わす。アコヤガイによる養殖真珠では10mm程度のものが最大であるが，いわゆる

真　珠（真珠の養殖）
①挿核手術　②養殖いかだにつるす　③アコヤガイと真珠　④選別　⑤真珠のアクセサリー




南洋真珠とよばれるシロチョウガイ・クロチョウガイによるものはそれ以上大きなものがある。真珠の形は千差万別であるが，いちおう次のように大別することができる。

- 真珠
  - 真円真珠
    - 正円真珠
    - 変形真珠（バロック）
      - 卵形・ナシ形・ドロップ形・すじ珠・二子珠・三子珠など
  - 半円真珠
  - スリークォーター（3/4真珠）

③色：養殖真珠では，一般にその主色により，ホワイト系・ピンク系・クリーム系・ゴールド系・グリーン系・ブルー系・ブラック系に大別される。一般の市場評価はピンク系が最高で，次いでホワイト系・クリーム系である。混色のものでは，ピンク系のレインボーカラー，ブルー系のシルバーブルーなどが特に珍重される。ブラック系の良質のものは数が少ないので珍重され，価格もピンク系と同等かそれ以上とされている。色彩の好みは，一般に皮膚の色と関係が深いといわれるが，国がらによっても異なり，日本・アメリカなどではピンク系が，ヨーロッパではクリーム系が，インドや南アメリカではゴールド系が好まれている。

真珠をつくる貝の種類は多いが，真珠層の色彩・光沢は母貝の真珠層と一致する。したがって，装飾品としての価値をもつ良質の真珠がとれる貝は，海産のアコヤガイ・シロチョウガイ・クロチョウガイ・マベ・アワビなどや，淡水産のイケチョウガイ・カラスガイなど比較的少数の種類に限られ，最も代表的なのはアコヤガイである。

〔養殖〕1893年（明治26），御木本(みきもと)幸吉*は三重県志摩で，アコヤガイを用いて養殖による半円の貝付き真珠を得ることに成功した。また，1907年には西川藤吉らが，アコヤガイの体内に核と外套膜の小片を挿入(そうにゅう)して真円真珠をつくることに成功した。今日の真珠養殖法は，この西川の方法がさらに研究・改良されたもので，わが国独特の産業となっている。

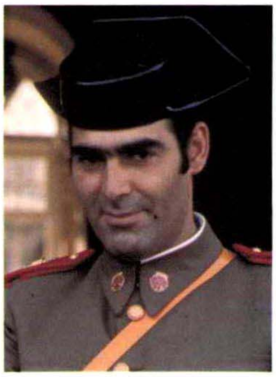
核にはピグトウとよばれる淡水貝の殻からつくった球を用いる。これを2～3mm角の外套膜の小片（ピース）とともに，メスを使って母貝の体内（生殖腺(せいしょくせん)など）に挿入する。この作業を挿核手術といい，非常な熟練が必要である。手術した貝は，金網かごに入れていかだから海中につり下げ，ふつう半年から3年間養殖する。母貝として最も多く用いられるアコヤガイは，比較的高塩分で冬の水温が13℃以下にならない海に生育し，低温には特に弱いため，養殖地域も静岡県以南に限られ，最も盛んなのは三重県で，長崎県がこれに次ぐ。収穫された貝はむきみにして海水と少量の石灰とともに肉砕機に掛け，砕いたのち沈殿させて真珠を集める。このうち，そのまま商品とされる良質の真珠は少なく，大部分はしみ・傷をとるための処理が施される。

真珠はほとんどが輸出されるため，生産量は海外の景気や流行に左右される。これまでの最高は1966年（昭和41）で，総生産量約127t，輸出は92t，6,470万ドルであった。以後はしだいに減少し，1970年には総生産量約91t，輸出は71t，4,030万ドルとなっている。

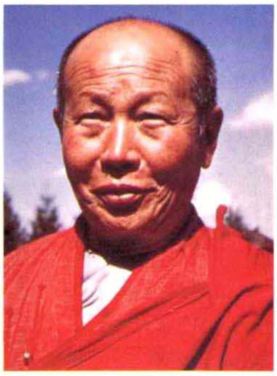
〔淡水真珠〕イケチョウガイを母貝として，琵琶(びわ)湖などで養殖されている。養殖法は，アコヤガイ真珠とほぼ同じであるが，手術はピースの移植だけで，核は用いないため，無核の真珠がつくられる。形はドロップ形や不正形のものが多く，色彩は茶色みをおびた淡桃紅色または黄桃色である。生産量は少ないが，近年わずかにふえ，1966年には総生産量の約2％（2.8t），1969年には約6％（5.9t）を占めた。おもにインドや東南アジアの国々に輸出されている。

〔用途〕ほとんどがネックレス・指輪・イヤリング・ブローチなどのアクセサリーである。鉱物ではないが宝石と同じに扱われ，6月の誕生石とされている。また，不幸の際には他の宝石類は身につけることはでき

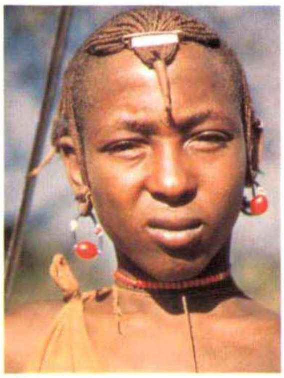

スウェーデン人

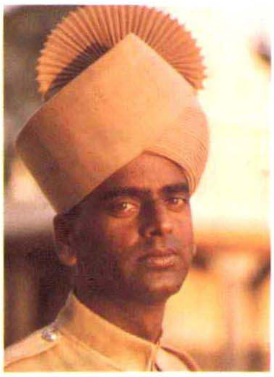

スペイン人

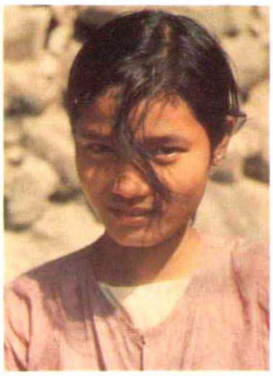

アラビア人

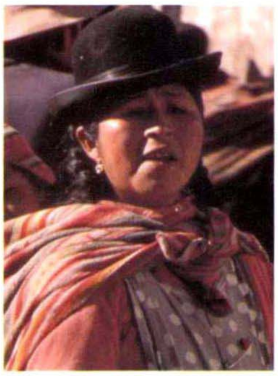

モンゴル人

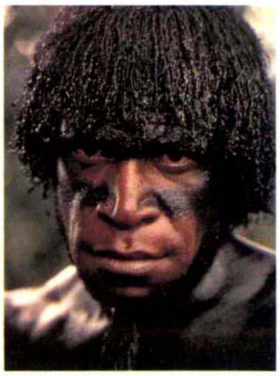

ロシア人


ケニヤ(マサイ族)


インド人


ベトナム人


ボリビア原住民


ニューギニア原住民

人　種

ないが，真珠だけはよいとされている。

〔歴史と伝説〕真珠の歴史はきわめて古く，中国・インド・ペルシア・エジプト・ギリシアなどでは古代から宝飾品として用いられていた。現存する最古の真珠は，BC1500年ごろの古代エジプトの遺跡から発掘されたものといわれている。中国の《書経》に夏の禹(う)王が真珠の貢物(みつぎもの)を受けたと記され，日本でも《古事記》《日本書紀》に真珠のことが記されている。

古代ギリシアのホメロスの叙事詩《イリアス》には，真珠は天使の涙が貝の中に落ちてできたものとうたわれ，ローマの学者プリニウス(大)の《博物誌》には〈カキに似た貝が生殖期に水面に浮かんで露を吸い込み，それが真珠となる〉と記されている。これらと類似の神話や伝承が，インド・中国にも残されている。インドでは，ヒンズー教で最も崇拝されているクリシュナ神が，パイダイア姫の婚礼のためにみずから海中にはいって怪物と戦い，勝利を納めて真珠を引き上げ，花嫁を飾ったという。この伝承により，後世のインド婦人は婚礼に際して必ず真珠を用いるようになったといわれる。またヨーロッパでは，古代ギリシアの時代から，真珠は婦人の純潔と美を表わし，結婚のおり新婦に真珠の首飾りを贈る風習があった。しかし，中世以後には，真珠は愛する人の涙の結晶といういい伝えも広まり，一部の国では，最近まで花嫁の飾りには真珠は用いないほうがよいともいわれていた。このほかの伝説として，クレオパトラがアントニウスを迎えた宴席で，耳飾りに用いていた真珠の一つをぶどう酒に投げ込んで飲んだという話は特に有名である。

真珠は，古くはおもに王侯・貴族の持ち物であった。しかし，中世にはいると，ヨーロッパ諸国では上流階級の個人的装身具として非常に流行し，婦人のドレスはもちろん，下着や男子の衣服にも縫い取られるほどであった。16世紀は特にパールエージともいわれるが，当時はバロックとよばれる真珠のいびつなものやでこぼこのものが愛用された。現存する世界最大の真珠は，形はドロップ形で，重さ1,887.7グレーン*(1グレーン＝0.0648g)，長さ50.8mm。これは19世紀前半のロンドンの宝石収集家ホープのコレクションに含まれるもので，ホープ真珠とよばれている。真珠はまた，古代から不思議な力をもつものとされ，さまざまなお守りに用いられたほか，インド・エジプト・ローマ・中国では真珠の粉を薬に用い，中世ヨーロッパでもこれが最高の医薬としてもてはやされた。

〔人造真珠〕模造真珠ともいわれる。ガラスやプラスチックの球に螢光(けいこう)塗料を塗った安価なものから，養殖真珠と同じ核に，タチウオのうろこから得られるグアニン結晶を含む塗液を何度も塗り重ねたもの，さらに近年では，炭酸鉛やヨウ化鉛の結晶を含む合成塗液を用いた高級品までいろいろある。精巧につくられた人造真珠は，天然・養殖の真珠と外見上ほとんど区別できない。しかし，暗所で紫外線をあてると，真珠は黄みをおびた螢光を発するのに対して人造真珠にはこの螢光が見られないこと，顕微鏡で表面を観察すると，真珠には特有のうずまき形・波形の模様が見られるのに人造真珠にはこれがないこと，などで両者を判別することができる。　〔今野敏徳〕

じんしゅ　**【人種】**　現生人類は，生物学的には唯一の種，ホモ-サピエンス*に属する。このことは，外見が非常に異なる人種間でも完全に交雑が可能であり，かつ混血児も正常な妊孕力(にんようりょく)をもつことで証明される。人種とは生物学でいう亜種あるいは変種に該当し，スターンの定義によれば，〈遺伝的に多少とも隔離された人類集団で，他のどのような隔離集団とも異なった集団遺伝子組成を有するもの〉ということになる。これは文化的側面からの区分である民族*に対立する用語である。人種とは，ヒトの遺伝的多型の便宜的区分であって，分類は実在性をもたないし，正確な範疇(はんちゅう)に対応するものではない。人種区分のために適用される標識には，次のようなものがある。

①皮膚色：白色人種・黄色人種・黒色人種といった皮膚色による分類に示されるように，人種分類上重要な特徴。表皮の深層にあるメラニン顆粒(かりゅう)の量・質，皮膚表層の毛細管を流れる血液の色によって決定される。

②蒙古斑(もうこはん)：新生児・幼児のしりに現われる蒙古斑(→児斑)は蒙古人種群に最も高頻度(こうひんど)で出現する。

③毛髪・体毛：毛髪は最も信頼できる人種特徴であり，色彩では現在フィッシャーの30分類法が用いられている。毛髪の形態は，直毛・波状毛・毬状(きゅうじょう)毛に大きく３分類される。また，断面は前記の順に円形から平たい長円形になり，はえ方も同じく直角から斜めにはえだす。また体毛は，直毛の人々で少なく，波状毛の人に多いという一般的傾向がある。

④目：虹彩(こうさい)の色は，毛髪の色と平行関係がある。人類学では，マルチンの比色計で測定する。なお，眼裂の形も人種的に特徴があり，特に蒙古皺襞(すうへき)という，主としてモンゴロイドに出現する涙嚢(るいのう)をおおう鎌(かま)状のしわが人種分類に役だつ。

⑤鼻：鼻根部のくぼみの程度，鼻示数(鼻幅の鼻高に対する百分比)などがある。鼻示数は狭鼻(70≧)，中鼻(70≦　<85)，広鼻(≧85)である。

①ムレイアン人種(南東オーストラリア)
②アイヌ人種(北海道・樺太の原住民)
③アルプス人種(中央ヨーロッパから西アジアにかけて)
④北西ヨーロッパ人種(ヨーロッパの北部および西部を原住地とし，現在は世界じゅうに分布)
⑤北東ヨーロッパ人種(ロシア・ポーランド)
⑥ラップ人種(北スカンジナビア)
⑦森林ネグロ人種(西アフリカおよびコンゴ)
⑧メラネシア人種(ニューギニア・フィジー諸島・ニューカレドニア島)
⑨ネグリト人種(ピグミーおよびアフリカ・フィリピン・ニューギニア・アンダマン諸島などの奥地の住民)
⑩ブッシュマン人種(南アフリカ原住民)
⑪バンツー人種(東アフリカ・南アフリカ)
⑫スーダン人種(東アフリカおよびスーダン)
⑬カーペンタリアン人種(オーストラリア北部・中部の原住民)
⑭ドラビダ人種(南インドの原住民)
⑮ハマイト人種(東アフリカおよびスーダン)
⑯ヒンズー人種(インド)
⑰地中海人種(南ヨーロッパ・北アフリカ・近東)
⑱北方人種(ヨーロッパ北部・西部)
⑲北アメリカ黒人(アメリカ合衆国)
⑳南アフリカ黒人(南アフリカ)
㉑モンゴロイド人種(東シベリア・モンゴル・韓国・日本に住み，エスキモーも含む)
㉒北支那人種(中国北部・中部)
㉓南東アジア人種(中国南部・タイ国・インドネシア・フィリピン)
㉔チベット-インドネシア-モンゴロイド人種(チベット・ビルマ北部，インドネシアの一部)
㉕トルコ人種(トルキスタン・中央アジア)
㉖周辺アメリカ-インディアン(アメリカ-インディアンの大部分)
㉗中央アメリカ-インディアン(アメリカ合衆国南西部からボリビアにわたって分布)
㉘ラディノ人種(メキシコからボリビア)
㉙ポリネシア人種(中部太平洋諸島)
㉚ネオ-ハワイ人種(ハワイ諸島)



心中天網島　〈河庄〉の場　恋に魂ぬけた治兵衛役は和事芸の典型とされている(中村鴈治郎)。歌舞伎の舞台から

⑥くちびる：粘膜唇(ねんまくしん)の厚さ，くちびるの色など。

⑦頭形：1842年，レッツィウスが頭示数(頭幅の頭長に対する百分比)を採用した。短頭(80≦)，中頭(80>　≧75)，長頭(75>)。

⑧顔：顔高示数(顔高の顔幅に対する百分比)。狭顔(88≦)，中顔(88>　≧84)，広顔(84>)。

⑨身長：長身長(170cm≦)，中身長(170cm>　≧160cm)，低身長(160cm>)。

⑩指紋：弓状紋・蹄(てい)状紋・渦(か)状紋などに分類する。

⑪血液型：1901年，ラントシュタイナーによってABO式血液型が発見されて以来，遺伝様式が明らかなため，各種の血液型，たとえばMN式・Rh式・デュフィ式・ディユゴ式などが人種分類に広用されている。ボイドは，血液型を主とする人種分類を考案した。

⑫味盲：PTC(フェニルチオカーバマイド)の苦味に感受性があるかないかをみる。

以上の標識を考慮したうえで，現在行なわれている人種分類のうちで，大分類法といわれるものは，ネグロイド・モンゴロイド・コーカソイドに分類する方法である。しかし，これら各人種はいわば原株というべきもので，それぞれのうちに多様な変異を含んでいる。これに対する小分類法では，３大別される人種を30前後に細分する。その一例として，1950年にクーン・ガーン・バードセルらが提唱した分類およびその居住地は表のとおりである。〔鈴木　尚〕

しんしゅう　【真宗】　⇨浄土真宗

しんしゅう　【晋州】　チンチュ　朝鮮，慶尚(けいしょう)南道，洛東(らくとう)江の支流南江の北岸にある都市。人口10万7,000(1966)。古代の任那(みまな)時代に栄えた。1925年まで道庁の所在地であったが，釜山(ふざん)移転後は地方町となった。晋州線の終点で，米・ダイズ・綿花・紙などの集散地。

じんしゅう　【神秀】　(?～706)　中国，唐代の僧。北宗禅の祖。河南省開封の人。北宗は荷沢神会*(かたくじんね)による南宗側よりの非難による名であり，《六祖壇経》に南宗禅の慧能*(えのう)と対比して敗者とされる。実際は禅宗五祖の弘忍禅(こうにんぜん)を伝え，長安や洛陽(らくよう)に教線をはり，王室や貴族の帰依を受けた。生前に〈両京の法主・三帝の国師〉とよばれ，寂後に大通禅師の諡号(しごう)を得たが，これが正式の禅師号のはじまりである。《旧唐書》に玄奘*(げんじょう)の名とともに現われることでもその活躍がわかる。門弟の普寂・義福も活躍した。〔石井修道〕

しんじゅうてんのあみじま　【心中天網島】　義太夫(ぎだゆう)節の曲名。３段の世話物*で近松門左衛門*(もんざえもん)作。1720年(享保５)竹本座*初演。初演の２か月前網島(大阪)の大長寺で起こった紙屋治兵衛(じへえ)と紀伊国屋(きのくにや)小春の心中事件を脚色したもの。紙屋治兵衛は妻子ある身で曾根崎(そねざき)の紀伊国屋小春となじみを重ね，ついには女房おさんへの情を残しながら心中を遂げるという話。人情の機微に触れ，円熟した筆先で描かれたこの作品は，近松作品中最高の傑作といわれる。翌年，歌舞伎(かぶき)にも移された。改作も多く，今日演じられる近松半二*の《天網島時雨炬燵(しぐれこたつ)》などもあるが，原作には及ばない。なお，1969年，篠田正浩(しのだまさひろ)監督により映画化され話題をよんだ。〔前田慎一〕

しんしゅうとうげ　【信州峠】　甲府盆地釜無(かまなし)川の支流塩川の上流と，千曲(ちくま)川最上流域の佐久盆地川上村とを結ぶ甲信林道の峠。山梨・長野県境にあり，海抜1,464m。峠の場所は雑木林に囲まれ展望はきかないが，山梨県側へ下ると瑞牆(みずがき)山の岩峰が望まれる。

しんじゅうぶん　【沈従文】　シェンツォンウェン　(1902～　)　中国現代の小説家。湖南省西部の出身で，湖南の辺境に取材した短編を多く発表し，苗族の生活や，兵士・船頭・娼婦(しょうふ)など野性味あふれる人間像を叙情的な筆致で描き分けた。一時は作品活動が旺盛(おうせい)で，10年間に50編以上もの作品を残した。当時，プロレタリア文学が盛んであったが，彼は，非政治主義的な立場を持していた。日中戦争中は昆明(こんめい)にいて，西南連合大学の教授となり，創作をやめていた。新しい中国になってからは北京(ペキン)の歴史博物館に勤務し，作家としての活動はみられない。なお，《従文自伝》のほか，友人の丁玲*(ていれい)とその夫胡也頻(こやひん)のことをしるした《記丁玲》《記胡也頻》は，小説以上にすぐれた読み物である。〔今村与志雄〕

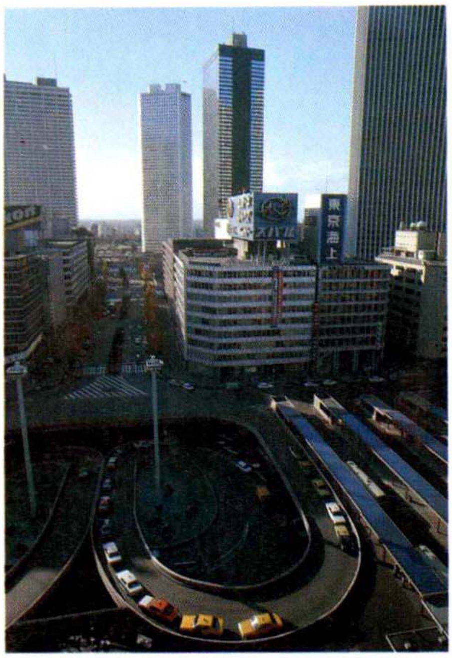
しんじゅうもの　【心中物】　人形浄瑠璃*(じょうるり)および歌舞伎*(かぶき)における脚本上の一系統。ほとんどが実説の心中事件を脚色しているが，1683年(天和３)大阪の遊女大和屋市之丞(やまとやいちのじょう)とごせの長右衛門(ちょうえもん)の心中を嵐(あらし)三右衛門座は

じめ各座が歌舞伎に脚色・上演したのがはじめとされる。人形浄瑠璃では1703年(元禄16)近松門左衛門の《曾根崎(そねざき)心中》が初めて，以後，おおいに流行した。死への道行きの場面は詞章・曲節が美化され，一種の景事として観客に感動を与えるように仕組まれる。〔前田慎一〕

しんじゅうるい【真獣類】哺乳(ほにゅう)類の獣亜綱に属する一下綱で，現生の哺乳類では単孔目(原獣亜綱)と有袋目(獣亜綱・後獣下綱)以外のすべてが含まれる。胎児には胎盤が発達し，胎児は十分に母親の子宮内で発育してから生まれ，育児嚢(のう)の中で育てられることはなく，有胎盤類ともいう。また，膣(ちつ)は左右に分かれず1本で，一子宮類ともいう。単孔類や有袋類にみられる上恥骨(袋骨)，網膜細胞の有色の脂肪小球を欠く。有袋類とほとんど同時に，白亜紀後期に出現し，新生代に恐龍(きょうりゅう)類に代わって栄え，哺乳類時代を現出した。便宜的に次のように大別される。①かぎづめをもった類：食虫目・皮翼目・翼手目・霊長目・貧歯目・有鱗(ゆうりん)目。②門歯でかたいものをかじる類：ウサギ目・齧歯(げっし)目。③海生に適応した類：クジラ目。④肉食性に適応した類：食肉目。⑤原始的な有蹄(ゆうてい)類：管歯目・長鼻目・イワダヌキ目・海牛目。⑥発達したひづめをもった類：奇蹄目・偶蹄目。〔今泉吉典〕

じんしゅかくりせいさく【人種隔離政策】⇨アパルトヘイト

しんじゅく【新宿】東京都新宿区の中央本線および国電の新宿駅を中心とする大繁華街。町名としては新宿1～4丁目がある。1698年(元禄11)甲州街道と青梅(おうめ)街道との分岐点追分に新たな宿が設けられたので新宿といい，ここに信濃(しなの)(長野県)高遠藩主内藤氏の屋敷があったので内藤新宿ともよばれた。1885年(明治18)日本鉄道(現在の山手線)の新宿駅ができ，1889年には甲武鉄道(現在の中央線)が開通，1913年(大正12)の関東大震災後，東京の住宅地が西部に広がったことを背景に，交通・商業の中心として急激に発展し，東京最大の副都心となった。国電中央線・山手線のほか，小田急・京王帝都・西武などの私鉄や，地下鉄・バスの路線が集中し，国電の乗車人員だけでも1日66万9,000人(1976年)を越し日本一である。駅付近にはデパートや商店・飲食店・喫茶店・映画館などが密集し，第2次世界大戦後は北側の歌舞伎(かぶき)町一帯が新興繁華街となった。内藤氏の屋敷跡は1879年(明治12)皇室所有の新宿御苑(ぎょえん)となったが，第2次世界大戦後に一般に公開された。西口の淀橋(よどばし)浄水場跡(約95万m²)には地上47階建て170mの京王プラザホテルが1971年に建設されたのをはじめ，新宿住友ビル(52階，200m)・国際電信電話会社国際通信センター(32階，165m)・新宿三井ビル(55階，209m，高さ日本一)・安田火災海上本社ビル(43階，193m)などの超高層ビルが次々と完成して，ビジネスタウンと緑地地域が建設され，一般会社や銀行の進出が著しく，将来は約30万の勤め人を収容する高層ビル街ができる予定である。〔浅井得一〕



新　宿　新宿西口広場の全景。バスプールや地下駐車場への入り口が見える。背後の47階建て京王プラザビル付近では，新宿副都心再開発が進んでいる



シンジュサン　羽化直後

しんじゅく【新宿(区)】東京都中西部に位置する特別区。北から東にかけては豊島(としま)・文京・千代田，西は中野，南は渋谷(しぶや)・港の各区と接する。1947年(昭和22)牛込・四谷・淀橋(よどばし)3区が合併して成立。面積18.04km²，人口33万0,000。武蔵野(むさしの)台地の一部をなす淀橋台上にあり，副都心新宿を中心に，都心から郊外へ移る中間地帯をなす。東半部は江戸時代に武家屋敷が集まり，現在は住宅地として発達し，大学も多く，新宿御苑(ぎょえん)・明治神宮外苑などの広い緑地地域が残っている。神田川・妙正寺川に沿う北部低地は工業地帯を形成し，下流流域の牛込地区には印刷・製本工場などが多い。〔浅井得一〕

しんじゅくぎょえん【新宿御苑】東京都新宿区にある国民公園で面積約58万m²。江戸時代には信濃(しなの)(長野県)高遠の藩主内藤氏の屋敷。1872年(明治5)官有地となり，はじめは試験場として農業上の各種研究の場であったが，1901～1906年フランスのベルサイユ園芸学校の造園家アンリ-マルチネの設計で造園し，宮内省所管の新宿植物御苑となった。日本庭園と西洋庭園に分かれ，第2次世界大戦前は宮中の園遊会場として観桜・観菊の会が行なわれて海外にも有名であった。戦後は一般に開放され，1958年(昭和33)には大温室が完成している。

じんしゅさべつ【人種差別】民族の相違は，ユダヤ人・東洋人の排斥，南アフリカ共和国の黒人隔離政策など人種差別の歴史をもち，アメリカの黒人差別は最も重要。南北戦争は奴隷解放を実現し公民権を獲得したが，最高裁判決(1896)は公民権を否定し，南部諸州では公共施設などの差別が法制化された。公立学校の人種差別を違憲とする最高裁判決(1954)以降差別は撤廃され，1965年の公民権法制定で法的には終わった。

しんじゅさん【樗蚕蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤママユガ科。大形のガで，体長26～30mm，翅(はね)を広げた長さ115～130mm。体はかっ色で，ところどころに白色の斑紋(はんもん)がある。口吻(こうふん)はあるが，短く機能的でない。触角は雄では羽毛状，雌はくし歯状。翅の地色は茶かっ色，前翅の翅頂部は淡黄色をおびて1個の黒色紋があり，この翅頂部分は大きく外方に突出する。前・後翅とも外縁に沿って数本の暗かっ色線が走り，中室端に顕著な半透明の新月状の大きな紋がある。年2回発生し，成虫は5～6月と8～9月に羽化する。寒冷地では年1回発生。日本全土のほか，朝鮮・中国には別亜種が分布している。原種はインドネシアに産し，アジアの東南部一帯にかなり広く分布し，多くの亜種に分けられている。幼虫はニワウルシ(シンジュ)・クヌギ・リンゴ・クスノキ・キハダなどの葉を食べる。冬は繭中でさなぎで越す。繭からは良質の絹糸か採れるが飼育がむずかしいので，日本では実用にされていない。〔鈴木邦雄〕

しんじゅふじん【真珠夫人】菊池寛の長編小説。1920年(大正9)《大阪毎日新聞》《東京日日新聞》に連載。美貌(びぼう)の男爵令嬢瑠璃子(るりこ)は，父を窮地におとしいれた富豪と結婚，夫への復讐は成功するが，一青年に刺殺される。男性の横暴に対する女性のたたかいを描き，当時の人気を博した。

しんじゅぼうん【真珠母雲】20km以上の高空に現われる繊細なレンズ形の緑赤色の雲。真珠雲・真珠母貝雲ともいう。地域

的には，主としてスコットランド・スカンジナビア半島・アラスカなどの高緯度地方に現われる。

しんしゅほけん【新種保険】 火災保険および海上保険以外の各種の損害保険の総称。それは身体に関する保険，財物に関する保険，責任に関する保険，利益に関する保険の4種類に分けられる。これらはすべて産業革命以来の機械の発明と社会的・経済的環境の変化に基づく新災厄(さいやく)に対応して生まれたもので，産業構造の高度化と社会生活の複雑化は，今後とも新しい保険を生むであろう。〔庭田範秋〕

じんしゅもんだい【人種問題】 ⇨250ページ

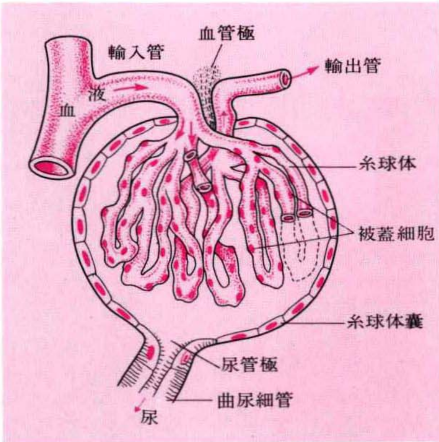
じんしゅよう【腎腫瘍】 腎臓にできる腫瘍(しゅよう)の総称。腎実質腫瘍・腎盂(じんう)腫瘍および腎被膜腫瘍に区別され，その90〜95%は腎実質腫瘍，残りの5〜10%が腎盂腫瘍である。腎被膜腫瘍はきわめてまれである。これらは転移性二次腫瘍もあるが，臨床上たいせつなのは原発腫瘍で，そのほとんどが臨床的に悪性であり，かつ一側性である。

①腎実質腫瘍：上部尿路腫瘍中で最も多く組織学的には良性および悪性腫瘍に分けられるが実際にはほとんどが悪性である。良性腫瘍としては腺腫(せんしゅ)，繊維腫・血管腫・脂肪腫などがあげられるが，臨床的に重要でない。悪性腫瘍の中で最も重要なのは，成人にみられる副腎腫(グラウィッツ腫瘍)と幼児にみられる胚性(はいせい)混合腫(ウィルムス腫瘍)である。前者は腎腫瘍の60〜70%を占め，40〜50歳代に多く，発育がすみやかで腎門部リンパ腺転移，および肺や骨への血行転移を起こしやすい。後者は小児の代表的腎腫瘍で，小児悪性腫瘍の20.4%を占める。10歳未満の小児がほとんどで悪性度が高く，すみやかな発育をし，2〜3か月で全腹部を占めることがしばしばである。このほか真性の腎癌腫(がんしゅ)および腎肉種もあるが，上記に比較すれば少ない。

②腎盂腫瘍：腎実質腫瘍と同様にほとんどすべて悪性で，これを乳頭性腫瘍と非乳頭性腫瘍とに大別できる。大部分は前者で後者はまれである。腎腫瘍の三大症状は血尿，腫瘤(しゅりゅう)形成および疼痛(とうつう)である。腎実質腫瘍の60〜70%は初期症状として血尿をもって始まる。この場合は腫瘍組織が腎盂内をふさぐため，尿が停滞し水腎症(腎実質の萎縮(いしゅく)をきたした状態)を起こすようになる。治療法は早期根治手術，すなわち腎剔除(てきじょ)術のみが唯一のものである。レントゲン線深部照射も一般には手術の補助療法として価値がある。一般に腎腫瘍の予後は不良。〔藤井和明〕

しんじゅわん【真珠湾】 ⇨パールハーバー

しんじゅんほう【浸潤法】 植物の気孔の開閉を調べる方法の一。ドイツのモーリッシュの考案した方法。キシロール・アルコールなどを葉面に少量注ぐと，気孔が閉じているときは変化が見られないが，気孔が開いているときは液が直ちに気孔から細胞間隙(かんげき)にはいり，その部分が反射光で黒く，透過光でやや透明に見える。



腎 小 体 拡大模型図

しんしょう【心証】 ⇨自由心証主義

しんじょう【信条】 キリスト教の信仰の規準。信経・信仰箇条ともいう。教会の発展に伴ってつくられ，使徒信条・ニカイア-コンスタンチノープル信条・カルケドン信条およびアタナシウス信条があげられる。聖書と並んで重視され，ミサの一部として福音書奉読の次に司祭によって祭壇中央で唱えられる。

しんじょう【新庄(市)】 山形県北東部の市。江戸時代は戸沢氏六万八千石の城下町であった。1949年(昭和24)市制施行，人口42,000。市域は新庄盆地の中央から北東部の山地を含む。積雪が深く，農林省総合研究所積雪地方支所があって，雪害の研究をしている。産業三大別人口比は29：21：50。盆地周辺の米・野菜・木材などを集散する。盆地が丘陵によって分断されているので商圏はあまり広くなく，家具・土管・れんがなどの工場があるが，近代工業はあまりふるわない。付近には亜炭の埋蔵量が多く，1950年に燃料研究所が設けられた。奥羽本線と陸羽東・西線の分岐点にあたり，国道13号線・47号線が集まり，新庄バイパスが市域の中心部を南北に縦貫している。西郊の矢筈山のふもとにある新庄温泉は石油試掘にあたって偶然わき出たものである。

じんじょうかいめん【尋常海綿】 普通海綿ともいう。海綿動物のうち，石灰質の骨片をもつ石灰海綿類と三軸型を基本とするケイ質骨片をもつ六放海綿類を除いたものの総称。トウナスカイメン・イソカイメン・モクヨクカイメンなど多くの種を含み，形状の変化に富んでいる。骨片はケイ質であり，角質の海綿質がよく発達する。

しんしょうじ【新勝寺】 千葉県成田市成田にある新義真言宗智山(ちざん)派の大本山。一般には成田山または成田不動尊として知られている。草創は，939年(天慶2)に平将門(まさかど)が乱を起こすや，朝敵降伏の護摩奉修の勅を受けた寛朝僧正は，神護寺護摩堂の不動尊を奉持して東国に下り，乱平定後，地を卜(ぼく)して仏堂を建立(こんりゅう)したことにあると伝えられる。三重塔・光明堂・一切経蔵などは江戸時代の再建，近年に本堂を新築した。境内の公園にある霊光館には，鳥居清長の《暫(しばらく)図》をはじめ，芝居やすもうや火消しや算額が残っており，江戸庶民の信仰の姿を物語っている。〔永井信一〕

じんじょうしょうがっこう【尋常小学校】 ⇨小学校

しんしょうせつ【新小説】 文芸雑誌。第1期は1889年(明治22)1月〜1890年6月。春陽堂内同好会発行。全28冊。須藤南翠(すどうなんすい)・饗庭篁村(あえばこうそん)・森田思軒が編集人。第2期は1896年7月〜1926年(大正15)11月。幸田露伴・石橋忍月・後藤宙外らが編集にあたり，新旧多くの作家を擁して《文芸倶楽部(クラブ)》と並ぶ代表的雑誌となった。田山花袋《蒲団(ふとん)》，永井(ながい)荷風《すみだ川》，菊池寛《父帰る》，横光(よこみつ)利一《日輪》などを掲載。〔金子 博〕

じんしょうたい【腎小体】 マルピギー小体ともいう。腎臓中にあって血液を濾過(ろか)し，尿生成を行なう初部で，腎の基本的微細構造。腎皮質の腎迷路中に約100万〜200万のそれぞれ袋状に陥凹(かんおう)する糸球体嚢(のう)が散在し，その中に糸球体を入れる。この糸球体嚢と糸球体を合わせて腎小体という。腎小体は径約200μの球状体で，陥凹した側を血管極，その反対側を尿管極とよぶ。血管極より1本の輸入管がはいり多数の枝に分岐し，それぞれいわゆる毛細管係蹄(けいてい)をつくったのち，1本の輸出管として集まって血管極から出ていく。この間血中の老廃物などが濾過される。一方尿細管の起始部が糸球体嚢の尿管極より出て，濾過された糸球体仮尿を運び去るとともに必要な物質の再吸収を行なう。➔腎臓(図)〔藤井和明〕

じんじょうたい【腎上体】 副腎ともいう。ヒトでは三角形ないしは半月状の扁平(へんぺい)な7gほどの器官で，腎臓の上端に帽状にかぶさっている。しかし，機能的には腎臓とはまったく別のもので内分泌器である。断面を見ると，淡灰色の中央にある髄質と黄かっ色の周辺部の皮質からなり，両者は発生学的に起源を異にする。髄質は外胚葉(がいはいよう)性の交感神経節原始細胞から発生し，皮質は中胚葉性の体腔(たいこう)上皮に由来する。哺乳(ほにゅう)類では胎生期に両者が合一して腎上体を形成するが，円口類や板鰓(ばんさい)類では髄質にあたるものを間腎器，皮質にあたるものは上腎器(いくつもの小塊に分かれている)といい，独立した二つの器官である。硬骨魚類以上に

なると両者がしだいに接近し接着することによって単一の器官となる。

①皮質はまた細胞の配列のしかたによって3層に区分される。外側から中心に向かって球状帯，束状帯，網状帯とよばれる。全体として黄色をおびているが，網状帯はかっ色の色素顆粒(かりゅう)を含み黄かっ色を呈する(→副腎皮質ホルモン)。②髄質には放射状に並ぶクローム親和性の髄質細胞のほかに交感性の神経細胞や神経線維が混在する。胎生期にはこの髄質細胞と同種のクローム親和性細胞でできた旁節(ぼうせつ)(パラガングリオン)が腹大動脈に沿って多数存在する。生後は萎縮(いしゅく)してリンパ球が浸潤してリンパ節に置き換えられる。髄質細胞からはアドレナリンやノルアドレナリンが分泌される　〔幡井勉・橋本長〕

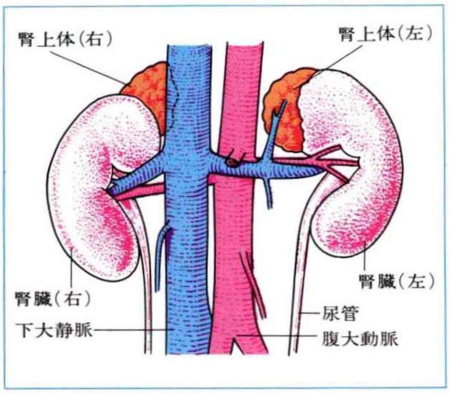
しんじょうぶし　**【新庄節】**　山形県の民謡。新庄市西北部の羽根沢部落で草刈りなどに歌われた《羽根沢節》が三味線唄(しゃみせんうた)化されたもの。1868年(明治1)ごろから歌われていたが，現在の曲調は1914年(大正3)ごろ改作されたものといわれている。《おばこ節*》とともに山形県の代表的な民謡である。

しんじょうぼんち　**【新庄盆地】**　山形県北東部，南は月山(1,980m)・葉山(1,462m)に続く山々，東は神室(かむろ)山地に続く山々，北は奥羽山脈と出羽山地を結ぶ山地，西は出羽丘陵に囲まれた起伏の多い盆地。南部を最上(もがみ)川が貫流し，また指首野(さしの)川や金山川をはじめ諸河川が扇状地や河岸段丘をつくり，さらにいくつもの小盆地を形成している。しかし，広い沖積(ちゅうせき)平野は種々の地形が錯綜(さくそう)しており，水利の便も悪いために開発が遅れていたが，大規模な水利事業によって水田化が進んでいる。南北に奥羽本線が，東西に陸羽東・西線が走り，その中央に中心集落の新庄市がある。　〔味沢成吉〕

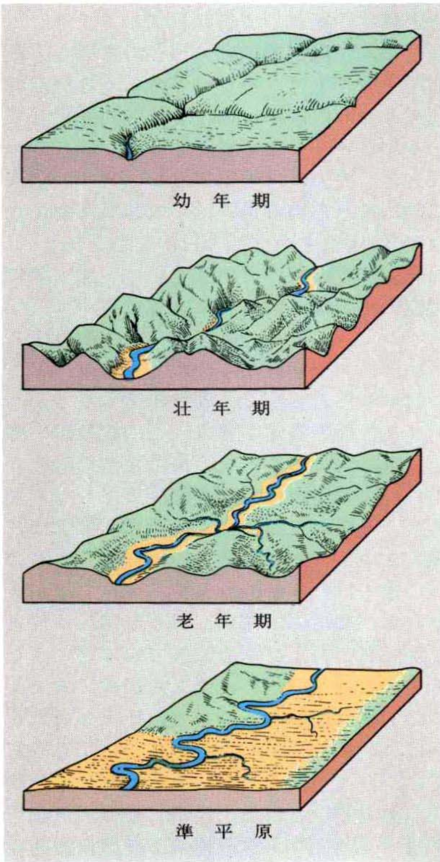
しんしょかいひざい　**【信書開披罪】**　名あて人以外の者が，正当な理由なく封緘(ふうかん)した信書を開く罪。刑は，1年以下の懲役または10,000円以下の罰金(刑法133条)。親告罪*である。正当な理由とは，法令上信書を開披することが認められる場合とか，名あて人の承諾を得た場合である。信書とは，特定人から特定人にあてて意思を伝達する文書で，郵便物に限らない。封緘とは，他人に信書の内容を見られないよう装置してある状況をいい，すでに開かれてある信書の内容を見ても本罪は構成しないが，開披すれば内容を見なくとも本罪を構成する。なお，郵便法は郵政省で取り扱い中の郵便物を開披した場合は，3年以下の懲役または50,000円以下の罰金(77条)に処すると規定している。　〔井上公耳〕

しんしょく　**【新燭】**　⇨カンデラ

しんしょく　**【神職】**　神に奉仕することを職業とする者。1887年(明治20)以降，国の職制上の名称として，官国幣社*に宮司・権宮司・禰宜(ねぎ)・主典，諸社に社司・社掌が置かれ，準官吏として勅任・奏任・判任の官をもって待遇された。1946年(昭和21)以降，神社は宗教法人となったが，神職の名称は存続し，宮司・権宮司・禰宜・権禰宜の4職と，特級から4級までの身分が定められ，新たに女子神職の制ができた。また神職とは別に神官があって，神宮の大宮司・少宮司・禰宜・権禰宜・宮掌(くじょう)のことをいったが，現在は行なわれない。歴史的には神に奉仕し祭祀(さいし)・祈禱(きとう)をつかさどり，社殿を守護する者を広く神職とよび，祭主・国造(こくぞう)・神主・禰宜・祝(はふり)・内人(うちんど)・預(あずかり)・行事・神殿守(こうどうもり)・神人など，名称もきわめて多い。　〔小野和輝〕



腎 上 体 (位置)



侵 食 作 用　侵食輪廻

しんしょくこきんわかしゅう　**【新続古今和歌集】**　第21番めの勅撰(ちょくせん)和歌集*。1433年(永享5)8月，飛鳥井雅世(あすかいまさよ)を撰者に内定して，6代将軍足利義教(あしかがよしのり)が後花園天皇に執奏し，撰集の命が下った。1439年8月まず四季部6巻を奏覧，翌年6月全20巻が完成した。一条兼良*(かねら)の草した仮名・真名両序が付される。現存歌人よりは故人を重視し，《新古今和歌集*》以来の主要歌人を尽くしているが，京極(きょうごく)派*・冷泉(れいぜい)派*歌人は低く扱われており，平明温雅な二条派*ふうの集になっている。

しんしょくさよう　**【侵食作用】**　自然の働きが地表を削り去っていく作用。流水・波浪・風・氷河などがこのような働きをする。そのほか，重力は山くずれを起こしたりして直接に侵食の働きをするだけでなく，流水や氷河の運動の原動力となる。なかでも最も顕著なのは，流水の侵食である。降雨の際に地表を流れる水やとけつつある雪田からの渓流(けいりゅう)は，風化した岩石のかけらを川へ運び込み，地中にしみこんだ地下水は，岩石中の水にとける成分をとかして川に注ぎ込む。水量を増した川は，水圧により谷底や両岸の岩石を砕く。さらに，水によって運ばれる岩片が，谷を深く広く削るのに役だつ。こうして川は流域の地表を低下させ，谷を拡大しながら，岩片や溶解物を下流へ運び去る。特に，洪水(こうずい)のときには，著しい侵食が行なわれる。海岸に露出する岩石は，海食すなわち波の力で砕かれ，その岩片は底引き波により，さらに沿岸流や潮流により運び去られる。その結果，岩浜はしだいに後退し，また海食崖(かいしょくがい)や海食洞(かいしょくどう)などができる。乾燥地域では，植生に乏しいため風化した岩石の細片が風にさらされ，吹き飛ばされる。風に飛ばされる岩片が地表の岩石を削り取り，大きなくぼ地ができることもある。また，このような風食は，岩石の柔らかい部分が選択的に削られるので，奇形の岩塊ができやすい。氷河が移動するときには，氷の中に封じ込まれた岩片が，地表や岩壁の岩石を削り，カール・U字谷・尖峰(せんぽう)などの特有の地形を生ずる。このように，さまざまな地形は主として侵食の結果できる。アメリカのデービスは，火山活動や褶曲(しゅうきょく)運動などによる原地形が侵食を受け，谷は深く，山稜(さんりょう)は険しくなり，やがて山容は丸みをおび谷は広くなる。ついには低い丘の連なった準平原ができる。地殻(ちかく)変動で準平原が隆起し，再び同じ変化がくり返されると考えた。この過程は侵食輪廻(りんね)とよばれるが，谷の形成に主眼を置き，斜面の形成を軽視した説で，気候や分布する岩石の種類によってはなりたたない。　〔堀福太郎〕

人種問題

【人種問題とはなにか】異なった人種集団の間での身体的・宗教的・文化的・言語的な相違から発生する抑圧・対立・抗争などの現象をいう。この問題は，たとえばインド-パキスタン紛争，アイルランド問題のように宗教的紛争の形をとるもの，あるいはナチス-ドイツのユダヤ人迫害，現代アメリカの黒人差別制度，南アフリカのアパルトヘイト*などのように，人種的優越主義あるいは排外主義の形をとって現われるものが多いが，その根底には，ほとんど例外なく，経済的利害と搾取・被搾取，抑圧と被抑圧との関係が存在している。むしろ，なんの経済的利害の動機も含まない人種問題はない，とさえいうことができる。歴史的にみて近代世界では，各人種集団は概して同一の種族・文化・言語などを基礎にして，同一の領土と主権と国民経済とを打ち立て，民族国家(国民国家)を形成した場合が多いので，そのような場合には，人種問題はしばしば国家間の対立や戦争となって現われた。しかし，他方において民族国家のうちには，いくつもの異なる人種または民族*から構成される国もあったから，そういう国では，人種問題が国内的な対立抗争をつくりだしたこともある。一般に人種問題という場合には，主としてこのような国内の人種的紛争を示すことが多い。さらに，近代的民族国家すなわち資本主義国家および帝国主義国家は，他国を侵略して征服し，これを植民地*や従属国*に変えていったので，そのような場合には，本国と植民地または従属国人民との間に，民族問題が人種問題の形をとって現われることもある。

これらいずれの場合にも，人種問題が民族問題として発生するのは，人種または民族を異にする国家または集団の間に，支配と被支配，搾取と被搾取，抑圧するものと抑圧されるものとの関係があって，支配し，搾取し，抑圧するものの側の利益と立場が問題をひき起こすのである。このようにみるならば，人種問題とは民族問題の中に含まれるものであり，ある状況の中での民族問題の特定の現われ方であることがわかる。そこで，それでは民族問題とはなにか，ということが次の問題となるが，これについては，歴史的にさまざまの立場からするさまざまの定義と理論が考えられてきた。ここで，最も新しい一つの実例をあげてみよう。

80年にわたって民族解放闘争を戦ってきたベトナム人民の民族問題に関する考えは，次のようなものである。ベトナムにも多くの人種的・民族的少数集団は存在するが，歴史的・領土的・文化的統一体としてのベトナム民族は一つである。そしてその統一体としての民族は，民族固有の基本的諸権利(民族基本権)をもっている。民族基本権は，独立・主権・領土保全・統一・平和の五つの権利から成立しており，このうちの一つを欠いてもその民族は真に民族基本権を実現していないことになる。ベトナム人民はこのような考え方に立ち，すべての民族が民族基本権を実現しているならば，民族問題が問題として発生することはなく，したがって人種問題も起こらないはずであるとする。しかし現実には，民族基本権に対する多くの干渉と抑圧とが存在するために，人種問題は世界政治の中でも多くの解決困難な問題として現われている。そこで以下に，現代世界のいくつかの重要な人種問題を取り上げ，そこにどのような経済的利害と搾取の体系，抑圧と犠牲が作用しているかということを紹介する。

【アメリカの人種差別制度】アメリカ総人口の11%を占める黒人は，奴隷制が廃止されて100年以上を経た今日，なお苛酷(かこく)な差別制度のもとに生きている。黒人差別制度の起源は，明らかに南部13州でプランテーション*，その他の農業労働に使役するために，アフリカから連れてこられた黒人に対する白人支配者の奴隷制度であるが，アメリカ独占資本主義は，この奴隷制の廃止(1865年)後にも，その遺制を積極的に利用し，これを現代的な差別制度につくりかえた。そのことを最も端的に示す事実は，黒人人口のうちで農業労働に従事するものがいまではわずか約5%で，現在では黒人の75%が都市に居住し，黒人全体の80%までが労働者およびその家族であるということである。このために黒人人口は，アメリカの労働者総数のうちで人口比よりもはるかに高い約20%を占めている。しかも一方では，白人労働者のホワイトカラー*化の傾向が進んでいるので，鉱業，製鋼，自動車製造，トラック・鉄道運輸，港湾倉庫荷役などの真に生産的な産業部門では，黒人労働者の比率は30～40%にも及んでいる。アメリカの資本主義経済は，黒人労働力なしにはもはや円滑に動かなくなっているのである。ところが，黒人の平均所得は白人のそれの50%強であり，黒人の失業率は白人の2倍以上であるばかりではない。黒人に対する住居隔離は近年ますます進行しており，ことに1960年代になってからの住居隔離の速度は著しい。その結果，黒人人口の60%前後がいまでは都市ゲットー(→スラム)に追い込められている。このほか，黒人は社会的・政治的・行政的・文化的・経済的なあらゆる面で平等な機会を奪われており，黒人としての民族的諸権利はもとより，人間的な権利までも奪われている。近年，アメリカ歴代政府の努力によって，この種の差別がしだいに解消されつつあるように伝える報道もあるが，住居隔離・経済的機会・失業などの面で，最近10年間に差別がいよいよ強化されてきていることは，統計が明らかに証明するところである。一言にしていえば，アメリカの独占資本主義経済は，その矛盾と困難とを黒人の肩に選択的に押しつけざるをえなくなっているのであって，差別の強化はいわば，アメリカ資本主義の構造の中で法則的ともいえる発展を示している。

一方，黒人の側は，すでに奴隷制のもとでみずからの解放闘争を進めてきたが，1950～1960年代になって，アジア・アフリカ諸国のあいつぐ独立の影響，キューバ革命からの影響(キューバでは革命前，スペイン人・インディオ・アフリカ系黒人およびこれらの混血人の間で，複雑な人種別の階級秩序がつくられていたが，1959年の革命から数年で，人種差別は一掃された)，およびアメリカ黒人自身の労働者化(プロレタリア化)などを基礎に，黒人解放闘争はめざましく前進してきた。近年になって発展したアメリカ黒人解放闘争の特徴をいくつか摘記するならば次のようになる。①かつてのように黒人・白人の単純な平等化，人種的統合を要求するのでなく，父祖の地アフリカの歴史・文化・伝統を復活させる努力を通じて，民族的解放を要求するに至っている。②黒人人口の労働者化によって，黒人解放闘争が階級闘争の性格をおびるようになった。労働運動におけるストライキ・ピケッティング・すわりこみ・ボイコットなど多くの戦術を学んだほかに，労働者になることによって，黒人は差別の根源がどこにあるかをしだいに理解しはじめている。かつての〈統合〉を越えた広い反独占の連合をめざすブラック-パンサー党(黒ひょう党)のプログラムは，そのことを明らかに示している。③黒人人口の圧倒的大部分がゲットーに追い込められた結果，南部農村に分散していたときに比べて，黒人は境遇においても思考においてもはるかに同質的になった。その結果，1950年代までのように平等化要求を掲げるのでなく，黒人が市人口の過半を占めるインジアナ州ゲーリー，オハイオ州クリーブランド，首都ワシントンのような都市では，投票権の行使によって黒人市長が生まれている。1980年代までには，アメリカの上位50番めまでのすべての大都市は，市人口の過半が黒人によって占められるようになると推定されている。また多くのゲットーでは，黒人によるゲットー区の自治権・警察権・教育権・福祉行政権を要求し，政府・自治体からの補助金を要求するブラック-コミュニティ(黒人共同体)運動が高まり，部分的にはその要求をかちとっているし，人種差別的な労働組

合運動の内部に，黒人だけの組合とその連合体を組織するブラック-ユニオンの運動も高まりつつある。人種差別の犠牲となっている黒人の側からする解放闘争は，キング*牧師らの指導した温和な南部キリスト教指導会議（SCLC），全国有色人民向上連盟（NAACP)から，急進的な全国学生調整委員会(SNCC，もと学生非暴力調整委員会)，ブラック-パンサー党に至るまで，さまざまの異なる目標をもっており，中には南部5州を分離させて〈ソングヘイ共和国〉の樹立を要求するものまであって，その去就は目下のところ定めがたい。しかし，すでにみたところからも明らかなように，アメリカにおける黒人差別制度は，単なるアメリカ国内の一少数民族の問題ではない。アメリカ独占資本主義が，みずからの構造の中に，差別制度を積極的に取り入れてこれを活用し，黒人労働力への依存度をいよいよ大きくしながら差別を強化している以上，人種問題の解決が，独占資本主義の構造に手を触れることなしに達成されることはとうてい不可能である。人種問題の根源は，白人の〈偏見〉や，良心の〈不正〉にあるのではないからである。だからこそ，1967年の一連の史上空前の人種暴動について調査した大統領任命の特別調査委員会報告書(《カーナー報告》)でさえも，アメリカの人種差別制度について，〈白人の制度がこれをつくったのであり，白人の制度がこれを護持しているのであり，白人の制度がこれを見すごしているのである〉ときびしく告発したのである。

〔南アフリカのアパルトヘイト〕ここで南アフリカ共和国の人種問題を取り上げるのは，それがローデシア・ポルトガル領アフリカ(アンゴラ・モザンビーク)の人種問題が，現在，世界の人種問題のうちで最も醜悪な面を代表しているからである。白人は政治的・経済的その他あらゆる実権を握っているばかりでなく，労働力として利用している黒人を，制度的・政策的に隔離(アパルトヘイト)し，無権利状態におとしいれている。南アフリカの白人至上主義と隔離制度は極端なまでに徹底しており，このためにアパルトヘイトは，同国の土着バンツー族だけでなく，アフリカの新興独立諸国民，ひいては世界の民族解放闘争が打倒しなければならない主要な目標とされるに至っている。南アフリカの白人は，第2次世界大戦後にあいついで独立した植民地諸国における白人と異なり，植民地独立後に帰国すべき祖国をヨーロッパにもたない。このため民族解放闘争の前進を恐れる南アフリカの白人支配者は，過去20年間にわたりアパルトヘイトによって人種差別を拡大強化し，みがきあげてきた。当面の計画は，バンツー族をバンツースタンとよぶ自治州に移してしまい，資源と立地条件の恵まれた残る国土全部(87%)を白人の州とするというもので，この計画を実施するため，毎年70万人を逮捕するというような非人道的法律や身分証明制度などを施行している。アフリカの民族解放を恐れる南アフリカ政府は，アパルトヘイトを自国国境を越えて南西アフリカにも拡大しようとし，またアフリカに白人支配を永続させる目的で，南アフリカ・ローデシア・ポルトガルの〈三国委員会〉をつくり，アパルトヘイトとアフリカ人弾圧とを広げようとしている。アフリカ人側は1960年3月，死者67人，負傷者186人を出す大暴動でアパルトヘイトに挑戦して以来，民族解放闘争に立ち上がっている。ことにその一部はタンザニアのゲリラと連絡をとり，武力闘争にまで進んでいるが，苛烈(かれつ)なアパルトヘイト体制のために，南アフリカにおける人種問題の解決の前途は，いまなおきわめて暗いものがある。➔アフリカ

〔イスラエル問題〕中東諸国とイスラエルとの間の紛争は，世界の人種問題のうちでも特異な性格をもっている。それは回教徒対ユダヤ教徒，アラブ人対ユダヤ人という宗教的・人種的な対立要因を含んではいるが，問題の本質はイスラエル国家創建それ自体に関係している。紀元前1200年の父祖の地に帰ろうというシオニズム*運動によって，欧米諸国に四散していたユダヤ人の一部は，1920年代からパレスチナに帰りはじめていたが，そこはすでにアラブ人が長く住みつくところとなっていた。第2次世界大戦後，イギリス・アメリカ両国の強いイニシアティブにより国際連合は1947年，パレスチナの一部をユダヤ人のために分割供与することを決議した。これには戦時中ユダヤ人がナチスによって迫害されたことに対する国際的同情があったことは否定できない。しかし，ユダヤ人のために割譲されるパレスチナは，アラブ人にとっても1,000年以上住みついた父祖の地であったから，イスラエル国の創建によって土地を追われる100万以上のアラブ難民があった。こうして，アラブ人を犠牲にする形でのユダヤ民族問題のきわめてブルジョア民族主義的な解決方法は，解決しがたい禍根を残すことになった。

すなわち，アラブ諸国民にとっては，イスラエルは，国際連合の名において不当に奪われ，死を賭(と)しても奪還しなければならない父祖伝来の国土であり，難民をそこに送り返さなければならない土地であるが，他方ユダヤ人にとっては，国家創建の由来がどうであれ，2,000年来はじめて手に入れた国土に移り住んだ以上，敵意に囲まれたアラブ諸国の圧力をはねかえさなければ，国および民族は絶滅にさらされるとの危機感をいだいている。イスラエルの創建に手を貸し，かつイスラエルの存続発展に利益を感ずるイギリス・アメリカ・フランスは，イスラエルに最新式の兵器を大量に援助してきた。一方，アラブ連合をはじめとするアラブ諸国は，ソ連その他の社会主義諸国の援助を受けてきた。1967年5月，国連軍*の撤退後にアラブ軍はガザ地区を占拠したが，イスラエル軍は反撃によってガザ地区，シナイ半島からスエズを再占領し，旧エルサレム，およびヨルダン・シリア国境地域を占拠し，今日に至っている。イギリス・アメリカ・フランスによる帝国主義的領土分割に類するユダヤ国家の創建は，実際には中東における人種紛争をいっそう激化させただけである。それはアラブ民族を犠牲にしていることはもとより，ユダヤ人にとっても真に民族問題の解決とはなっていないのである。➔イスラエル

現在，以上のほかに，世界でおもな人種問題として注目されているもののうちには，イギリスのアイルランド問題，カナダのケベック州(フランス系移民)問題，一部のラテン-アメリカ諸国，東南アジアの華僑(かきょう)，ビルマのインド人，インド-パキスタン紛争，ベルギーの言語問題，その他があり，ソ連・中国をはじめ社会主義諸国でも人種問題は皆無ではない。〔陸井三郎〕

しんしょくみんちしゅぎ【新植民地主義】新興国の独立を形式的に認めながらも，経済力の浸透・駆使によって，あるいは政治的・軍事的に大きな影響力をもって，間接的な支配を行なおうとする新しい型の植民地*支配の方法または形態。ネオ-コロニアリズムともいう。従来の植民地支配は，帝国主義*諸国の植民地，従属国に対する政治的・経済的・文化的など絶対的な支配と搾取の形態であり，圧倒的な武力を中心として行なわれていた。しかし，第2次世界大戦後，アジア・アフリカの新興国が相次いで独立し，植民地制度が崩壊した状況の中で，武力を中心とする旧来の植民地支配とは異なり，直接的政治支配を断念しながらも，帝国主義勢力は可能なかぎり旧植民地に政治的影響力と支配力を維持しておこうと努力した。その政策はさまざまな形となって現われるが，軍事同盟・軍事ブロック・軍事基地*，経済的には政府間借款などの援助，技術協力の形態をとる。〔広部和也〕

しんしょのひみつ【信書の秘密】⇨通信の秘密

しんしろ【新城(市)】愛知県南東部の市。古くは豊(とよ)川舟運の河港で，伊那谷(いなだに)地方に通じる伊那街道の宿場町・市場町としてにぎわった。1958年(昭和33)市

制施行。人口35,000。市域は豊川が豊橋平野へ出る谷口部の河岸段丘上にあり，南は豊橋市と接する。産業三大別人口比は21：38：41。奥三河(おくみかわ)の山間地域に商圏をもち，周辺は養蚕地域である。飯田線・国道151号線に沿い，東名高速道路の豊川インターチェンジに近いため，最近は横浜ゴム・トンボ鉛筆などの工場が進出している。北部の大海(おおみ)にある泉昌(せんしょう)寺で，8月14～15日に行なわれる放下(念仏踊りの一種)は無形文化財に指定されている。北東郊には長篠(ながしの)の戦いで名高い長篠城跡，ブッポウソウ(コノハズク)で知られる鳳来寺(ほうらいじ)山，湯谷温泉などがある。

しんしん　【岑参】(715～770)　中国，唐代の詩人。西北辺境の地に従軍すること多く，塞外(さいがい)の変幻・奇異な風光を目撃し，苛烈(かれつ)な生活環境を体験したから，その詩は，辺境とそこでの戦闘を情熱的にうたったものが多い。詩集《岑嘉州集》がある。

しんじん　【新人】1868年，レジジーに近い岩陰クロマニヨンで発見されたクロマニヨン人，1888年ドルドーニュ県ペリグーに近いシャンスラード人，クロマニヨン人と同時にグリマルディ小児洞(しょうにどう)で発見されたグリマルディ人など，現生人類の直接の祖先である，ビルム氷期後退期および後氷期に出現したホモ-サピエンス-フォシリスの総称。

クロマニヨン形は背が高く(180cm＜)，骨格は頑丈(がんじょう)で，頭は大きく，顔は直顎(ちょくがく)である。四肢(しし)は長く頑丈で，下肢が上肢に比して非常に長い。巨大な長骨は筋付着部の突起が突出し，筋力の強さを示す。肩が比較的発達している特徴は，四肢骨の比と共に，黒色人種に類似するが，骨盤の形態と比例値は，まったく最も進化したヨーロッパ人の骨盤とも対比しうる。シャンスラード形は，クロマニヨン形と相違があり，身長は155cm程度，四肢は頑丈で，上肢は比例的に非常に長い。脳容量1,700ccで，かなり長頭，頬骨(きょうこつ)が突出し，高く，幅が広い。鼻は長く，狭く，鼻根のくぼみ方は少ない。また，下顎は突出した頤(おとがい)をもつといった，グリーンランド，アメリカ北部のエスキモーに近い。グリマルディ形は，身長160cm，脳容量1,580cc，広鼻，突顎がある。骨盤の形，比例は黒人的である。生活様式は，洞穴(どうけつ)に住み，トナカイ，野牛の狩猟，漁労，両面加工の石器，投げ槍(やり)・弓矢などを用い壁画を描いている。〔鈴木　尚〕

しんじんいほん　【信心為本】念仏為本ともいう。浄土真宗の中心教義を示すことば。極楽往生のための正しい因はただ信心だけであるという主張。蓮如(れんにょ)の《御文》第5帖(じょう)第10通の，〈聖人(しょうにん)(親鸞(しんらん))一流の御勧化の趣は信心をもて本とせられ候(そうろう)〉とあるところから，特に造語された。しかし，蓮如の《御文》にはまた，〈ことにまず王法をもて本とし仁義をさきとして(王法為本・仁義為本)〉という表現も見られ，ここに世間のことについては王法為本，出世間のことについては信心為本という，真と俗の使い分けに関する教義論争が発生した。〔山折哲雄〕

じんしんこせき　【壬申戸籍】壬申にあたる年に造籍された戸籍。特に次の戸籍が注目されている。①902年(延喜2)の阿波(あわ)(徳島県)板野郡田上郷の戸籍：一部が現存し，古代末期の数少ない戸籍として貴重な史料となっている。②1872年(明治5)全国的に作成された戸籍：明治政府は国民的統一を達成するため，1871年戸籍法を制定し，行政区域として数か村をまとめて小区，いくつかの小区をまとめて大区とし，小区には戸長，大区には区長を任命した。従来の人別帳その他が武士・百姓・町人・穢多(えた)・非人など身分別に作成されていたのを根本的に改め，新戸籍法では身分にかかわらず国民ひとりひとりの姓名・族縁・年齢などを各戸ごとにその居住区域の住所番号とともに正確に記されることとなった。1872年全国いっせいに施行され，これにより近代戸籍の基が開かれた。➔戸籍

〔高崎徳次〕

しんしんしょう　【心身症】PSDともいう。心理的な緊張状態(ストレス)が原因となって起きる身体疾患の総称。心身症という語から連想されるような一つの病名をさすのではなく，器官別にその疾患名をあげれば次のようになる。①皮膚のPSDには，円形脱毛症・アトピー性皮膚炎，②筋肉・骨系統のPSDとしては，心因性関節リューマチ・心因性斜頸(しゃけい)・背痛・振顫(しんせん)，③呼吸器では，気管支喘息(ぜんそく)・吃逆(きつぎゃく)・過換気症候群・ため息性呼吸，④心臓血管系では，狭心症・高血圧・偏頭痛・不整脈・発作性頻脈(ひんみゃく)，⑤胃腸系では，胃下垂・慢性胃炎・消化性潰瘍(かいよう)・神経性嘔吐(おうと)・反芻(はんすう)・神経性食欲不振症・過敏性大腸・便秘など，⑥泌尿(ひにょう)・生殖器では，月経障害・冷感症・陰萎(いんい)・頻尿・排尿障害，⑦内分泌系では，糖尿病・バセドー氏病，⑧神経系としては，冷え症・乗物酔い・不眠・神経痛など，⑨手術方面では，頻回手術症・術後癒着症(ゆちゃくしょう)・形成手術後神経症。

〔内藤春雄〕

しんしんそうしつ　【心神喪失】刑法上の概念で，なんらかの精神障害によって行為の是非を識別する能力のないこと。刑法に〈心神喪失者の行為は之(これ)を罰せず，心神耗弱(こうじゃく)者の行為は其(その)刑を減軽す〉(39条)とある。したがって心神喪失者は刑法上の罪を犯しても責任無能力者として処罰されない。心神喪失の判定は裁判官によって行なわれる。民法上は禁治産者として扱われる。なお，心神耗弱者とは，精神が衰弱して識別力の乏しい者をさし，刑法上は限定責任能力者として刑は減刑され，民法上は準禁治産者として扱われる。➔責任能力

じんしんのらん　【壬申の乱】672年(弘文1〈壬申の年〉)，大海人(おおあま)皇子(天武天皇)と大友皇子(弘文天皇)との間に展開された皇位継承の戦乱をいう。天智(てんち)天皇は皇子大友に皇位を伝えるため，皇太弟大海人がいるにもかかわらず，大友を太政(だじょう)大臣に任じ庶政を行なわせた。671年(天智10)，天皇が重病に伏すと，大海人は皇太弟の位を辞して吉野(よしの)に引退したが，天皇なきあと近江(おうみ)朝廷を主宰した大友は，翌年5月ごろから策動を開始したため，大海人は6月末急遽(きゅうきょ)吉野を発し，伊賀(いが)・伊勢(いせ)(ともに三重県)を経て美濃(みの)(岐阜県)に向かった。その行動は迅速にして適切，ことごとに近江がたに先んじたので，形勢は短時日の間に吉野がたに決定的優位をもたらした。近江がたは大和(やまと)(奈良県)・河内(かわち)(大阪府)・近江(滋賀県)の各地に戦って敗れ，大友は7月22日瀬田(大津市)の決戦に命運を賭(と)したが，結局大敗北を喫して翌日自殺した。ここに大海人は翌年飛鳥浄御原宮(あすかのきよみはらのみや)に即位した。これが天武天皇である。壬申の乱で近江がたに付いた貴族が罰せられたため，天皇の権威は急上昇した。

〔黛　弘道〕

じんしんほごほう　【人身保護法】国民の基本的人権を国家権力の不当な侵害から擁護し，人身を保護するための法律。わが国では憲法34条の〈正当な理由なくして拘禁されない〉という人身の自由に関する規定を受けて，不当に奪われている人身の自由を回復することを目的として1948年(昭和23)に制定された。被拘束者もしくはその代理人の請求に基づき裁判所は公開の法廷で審理を行ない，不当拘束であることが確認された場合は直ちに釈放しなければならない。

人権保護が古くから制度化されているイギリスでは，国王の恣意(しい)的な拘禁に制限を加えるよう名誉革命のおり(1679)に制定され，1812年と1862年の2度の改正を経て，現在憲法を構成するものとなっている。わが国の人身保護法はこれにならったものである。〔寺尾方孝〕

じんしんほごりつ　【人身保護律】チャールズ2世の専制政治に対して，1679年イギリス議会が可決した法令。その内容は，理由なく逮捕・投獄することを禁じ，大逆犯を除いて被拘禁者は法定期間内に裁判を受けること，これを無視した裁判官は厳罰に処せられること，国王といえどもこれを変更できないことなどである。イギリス人の権利と自由の擁護をめざしたもので，マグナ-カルタ・権利請願などの伝統的な根本法の再確認を意味するものである。

〔松下京子〕

ジーンズ　[jeans]　ブルージーン・ジーパンなどともいう。ジーンでつくられた細身のズボン。前には横に切られたポケット，後ろにアウトポケットがつけられ，縫い目には別色の太めの糸でステッチがかかり，ポケット口には金属製のびょう打ちがしてある。非常にじょうぶに仕立てられているので，仕事着や遊び着として幼児からおとなまで広く愛用される。1940年ごろアメリカのクレア-マッカデールがデザインしたといわれ，第２次世界大戦後世界的な流行となる。　〔小室正男〕

ジーンとは，やや薄地のあや織り綿布のことで，白地・無地染め・プリントとして使う。洗たくに耐え，実用的な性能をもつ。綿のほか，レーヨン・合成繊維のものもある。運動服・作業服・白衣・子ども服・裏地・袋地・カバー・基布などに用いられる。　〔小川安朗〕

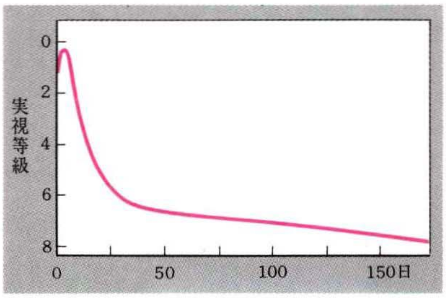
ジーンズ　[Sir James Hopwood Jeans]（1877～1946）　イギリスの天文学者・物理学者・応用数学者。ロンドンの名家に生まれ，ケンブリッジ大学に学び，1910年に同大学の応用数学の教授となる。研究は多方面にわたるが，物理学においては熱放射・電磁気学・気体論などにおける業績があり，天文学では太陽系の起源についての潮汐（ちょうせき）説，渦状（かじょう）星雲の起原論，脈動変光星の理論などがあり，1904年には太陽のエネルギー源を追究して，これが原子核のエネルギーにあることを明らかにした。名文家で各方面にわたる多数の著書がある。　〔根本順吉〕

しんすい　【進水】　陸上の船台，またはドックで建造された船体を，はじめて水に浮かせる作業。昔は船下しとよんだ。進水のときには，船の誕生を祝し，一生の安全を祈願する進水式を行なう。進水には次のような方法がある。①船台からすべり降ろして進水させる方法。㋑船体に固定したすべり台と船台上の固定台との間にヘット（油脂）を塗ってすべり降ろすヘット進水，㋺ヘットの代わりにそろばんのようなボールベアリング（径９cm）を用いるボール進水，㋩ローラーを用いるローラー進水，㊁レールと台車を使う台車進水，㋭クレーンによってつり降ろすつり降ろし進水などがある。②ドックで建造し，注水して進水するドック進水。③①において船体を縦方向に進水させるか，横方向に進水させるかにより，㋑縦向け進水，㋺横向け進水などがある。　〔飯島幸人〕

しんすいきゅうよれい　【薪水給与令】　1842年（天保13）江戸幕府が発令した外国船に対する法令。幕府はそれまでの徹底した鎖国政策に基づく無二念打払令を改め，新たにこの法令で外国の漂流船に対し事情聴取のうえ，薪炭・食料・飲料水を与えて帰帆させ，みだりに攻撃することを禁じた。こうした幕府の外交方針変更の背後には，



進　水　ドック進水。〈日石丸〉372,698重量トン



新　星

阿片（あへん）戦争などの海外の新情勢と諸外国に対する認識の変化があった。

しんすいコロイド　【親水コロイド】　⇨コロイド

しんすう　【真数】　⇨対数

しんせい　【新星】　暗かった星が１～２日で太陽の数万倍の明るさに達し，10～100日で元にもどる現象が起こる。このような星を新星という。新星のスペクトルを調べると，星の回りのガスが毎秒数100～1,000kmの速度で膨張していることがわかる。このことから，新星は星の爆発によるものと考えられる。爆発で吹き飛ばされる物質の量は，星全体の質量の10,000分の１ぐらいで，外層部の現象である。われわれの銀河系では，統計的にいって毎年数十個の新星が出現する。　〔日江井栄二郎〕

しんせい　【新星】　わが国初の科学衛星。1971年（昭和46）９月28日打ち上げられた。わが国が軌道に乗せた人工衛星としては３番めだが，１，２番めは試験用である。重さ66kg，直径71cmの26面体で，表面には5,184枚の太陽電池がはってある。観測項目は短波帯太陽電波・宇宙線・電離層プラズマ・衛星内部温度である。近地点883km，遠地点1,855kmで，これは予定した620kmおよび3,900kmとはだいぶずれている。打ち上げロケットはミュー４Ｓ型３号（直径1.4ｍ，重さ43.8ｔ，推力合計200ｔ）。なお，これに続く科学衛星は次のように予定されている。第２号衛星（REXS）はプラズマ波・プラズマ密度・電子粒子線・電磁波などの観測。第３号衛星（SRATS）は太陽軟Ｘ線・太陽紫外線・紫外地球コロナ輝線などの観測。第４号（CORSA）は宇宙Ｘ線・宇宙γ線・宇宙α粒子・宇宙重粒子の観測。第５号衛星（EXOS-A）は電子密度・温度，電子エネルギー分布・オーロラ粒子などの観測。第６号（EXOS-B）は電子密度・粒子・プラズマ波などの観測。　〔新羅一郎〕

しんせい　【新生】　島崎藤村の長編小説。前編は1918年（大７），後編は1919年，ともに《朝日新聞》に発表。《破戒》《春》《家》につづいて書かれた一連の自伝的長編の一つ。その現代日本文学に与えた影響ははかり知れない。妻没後のめいとの過失，フランスへの逃避行，帰国後の不倫関係という作者の暗い閲歴に取材し，その苦悩と宗教的解脱（げだつ）への過程の告白を通して，自身の再生を図る。しかし一方，めいの父親の経済的要求を免れようとする現実的作因を秘めていたことも，のちに指摘された。

しんぜい　【真盛】（1443～1495）　室町時代の僧。天台宗真盛派の祖。伊勢（いせ）（三重県）の人。俗姓は小泉氏，紀貫之（つらゆき）の遠裔（えんえい）。勅諡（ちょくし）は円戒国師・慈摂大師。19歳で比叡（ひえい）山に登り，比叡山西塔で慶秀に師事して20余年間修学し，1485年（文明17）生源寺で源信の《往生要集》を講じ，次いで源信の旧跡の西教寺を再興して説戒念仏の道場とし，円戒（天台宗で行なう大乗戒）と称名の一致を説いた。また，北陸・伊勢などの各地を教化し，広く皇室・武家に帰依者が多かった。教説には社会不安が反映していた。伊賀（三重県）西蓮（せいれん）寺で念仏説法のおり，没した。真盛派の名は，西教寺２世盛全のとき用いた。著書に《奉進法語》《念仏三昧法語（ねんぶつざんまいほうご）》などがある。　〔京戸慈光〕

しんぜい　【信西】　⇨藤原通憲（みちのり）

しんせいかい　【新生界】　⇨代

しんせいがん　【深成岩】　地下深所でマグマがゆっくりと冷却してできたと考えられる火成岩。肉眼で識別できる程度の鉱物粒の集まりで，火山岩のように斑晶（はんしょう）と石基に分かれることはない。深成岩の代表はカコウ岩で最も大量に分布しているが，その一部は変成岩であると解釈する人もある。センリョク岩・ハンレイ岩・カンラン岩などが主な深成岩である。餅盤（へいばん）・貫入岩床・岩脈などの形で産し，特にカコウ岩は底盤として大規模な岩体をつくる。➔岩石　〔片山信夫〕

しんせいきんるい　【真正菌類】　真菌類ともいう。植物分類上の一つの群で，藻菌（そうきん）類・子嚢菌（しのうきん）類・担子菌類・不完全菌類が含まれ，一般にいう，かび・きのこ・酵母を含む群である。体制・生殖法・生態などは多種多様で画一的には取り扱うことはむずかしいが，全般的な特徴としては次のようである。①繁殖の基本は胞子による。②菌糸体という栄養体をもつ。③細胞学的に相対する２核が同一細胞中に存在

する時期がある。④葉緑素をもたず，他養的(従属栄養的)な生活をし，体外において分解した養分を体内に取り入れる。なお，学者によっては放線菌も真正菌類に含める場合がある。〔曾根田正己〕

じんせいげきじょう 【人生劇場】 尾崎士郎*の長編小説。1933年(昭和８)の《青春篇(へん)》に始まり，1959年の《蕩子篇(とうしへん)》まで計７編。作者自身の分身でもある青成瓢吉(ひょうきち)の人情と俠気(きょうき)に満ちた行動を教養小説*ふうに描いた青春小説で，人生をドラマとみる視点に貫かれている。

しんせいさくざ 【新制作座】 新劇団の名称。1951年(昭和26)新協劇団を退団した真山美保・草村公宣らが結成。真山青果*《玄朴(げんぼく)と長英》，チェーホフ*《熊(くま)》の東北巡演後，真山美保の《野盗風の中を走る》《泥(どろ)かぶら》などの創作劇を中心に上演。1960年以後は，フェスティバルや小形演劇形式で，地方・工場などにはいり，その活動は全国に及んだ。1963年八王子に文化センターを設立。1965年半数近くの劇団員を解雇する事件が起き話題になった。〔工藤隆一〕

しんせいじ 【新生児】 生まれてまもない乳児。新生児の期間の定義には二つあり，一つは胎児のときの特徴がまだ残っていて，特殊な生理的現象が見られる期間，もう一つは衛生行政上すなわち法律的に決められた期間である。前者によると生後約２週間で，臍帯(さいたい)脱落・新生児生理的体重減少・生理的黄疸(おうだん)などの現象が見られる期間，後者では各国とも生後４週間と決められ，新生児死亡率などはそれに基づいて計算される。

〔発育と生理〕出生時の発育は，身長：男50.2cm，女49.7cm，体重：男3.2kg，女3.1kg，胸囲：男32.8cm，女32.6cm，頭囲：男33.5cm，女33.1cm(1970年，厚生省乳幼児身体発育調査による)である。これらの計測値のうち，身長・体重は生後３～４日間ある程度減少し，その後増加，７～10日目に回復し出生時の値にもどる。これを生理的身長・体重減少という。その後は１日平均身長は約0.1cm，体重は約30ｇずつ増加する。出生直後の脈搏(みゃくはく)や呼吸数は非常に多く，１分間におのおの150～160，50～60であり，その後環境に慣れると減少し，生後１～２週で，それぞれ120～140，40～50となる。便は生後２～３日は黒かっ色の胎便*が出るが，その後授乳とともにしだいに黄色便に変わっていく。新生児の四肢(しし)の筋肉は緊張度が高く，手はかたく握られ，腕や脚が曲げられ，体側につけられている。体温は出生直後を除き，腋下(えきか)で37.4～37.6℃であり，比較的高い。これは盛んな新陳代謝と，体温調節の未熟による。新生児は授乳・入浴時などを除き１日約18～20時間眠る。新生児期の免疫は胎児期に母から胎盤を通して移行された先天免疫が主であるが，そのため麻疹(ましん)・ジフテリア・急性灰白髄炎などの伝染病にかかることが少ない。そのほか，母乳栄養児では母乳中の免疫体によって，腸管内の細菌感染がある程度予防できるとされている。生後２～３日で大部分が黄疸となり，７～14日続くが，これは胎児期中に多かった赤血球が，出生後破壊されてそれから胆汁(たんじゅう)色素がつくられ，多量に血中に出されるからである。新生児期は感覚器の発達も悪く生後まもない間は目は見えず，ただ強い光に反応するだけであるが，１週間後には明暗の識別ができ，１か月の終わりには物を見つめて追うようになる。耳もこのころようやく聞こえ，ベルの音に反応する。しかし味覚は，甘・酸・苦味などには生後まもなくから反応する。

〔栄養〕母乳が最もよい。はじめに出る初乳にはタンパク・無機質・ビタミンなどの栄養素が多いからである。飲み方がじょうずになれば，２～2.5時間ごとに１日８～９回与える。母乳が出なかったり，得がたいときは人工栄養*や混合栄養*にするが，新生児期はデンプンや脂肪の消化が悪いので，牛乳は薄め(２分の１や３分の２牛乳)，粉乳は新生児用の調製粉乳(脂肪を減量し，消化のよい糖を添加したもの)を用いるとよい。

〔養護〕保温，病原体の感染予防には十分注意する。特に寒い季節にはその注意がたいせつで，湯たんぽその他の保温器を用いる。感染予防には保育者や見舞い客の急性呼吸器伝染病に注意し，やむをえない場合には厚いマスクを使用する。皮膚の化膿(かのう)性疾患予防には手をよく洗い，消毒してから乳児に触れるようにする。また，入浴は毎日，日中に室内でたらいを用いてさせる。湯温は40～41℃がよい。

〔疾病(しっぺい)〕新生児疾患*には先天性奇形・未熟児，難産による仮死，頭蓋(とうがい)内出血・分娩麻痺(ぶんべんまひ)，ビタミンＫ不足によるメレナ，母親との血液型不適合(Rh型やABO型不適合)による重症黄疸，細菌感染による肺炎，敗血症，随膜炎，皮膚化膿症などがある。〔宇留野勝正〕

しんせいじいっかせいねつ 【新生児一過性熱】 新生児の体温は生後急激に下降し，30分～２時間で最低となり，その後上昇して36～48時間で一応最高となる。ここから生理的体重減少が最高となる時期まで，再び体温は下降し，体重が増加しはじめると体温も上昇し，以後体温の変動は少なくなる。新生児の体重減少が最高に達した時期に一致して，一過性の発熱がみられることがあり，これを新生児一過性熱といっているが，成熟新生児では普通の現象である。〔木川源則〕

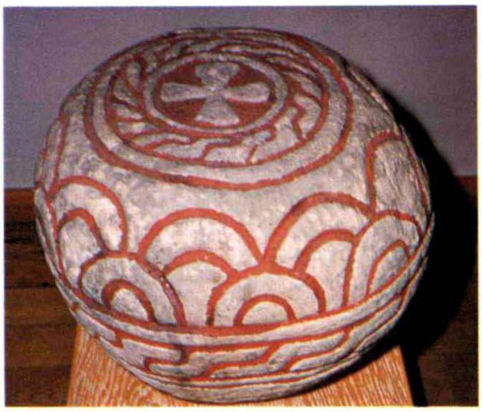
しんせいじおうだん 【新生児黄疸】 新生児期に起こる黄疸で，大部分は生理的黄疸であるが，生命の危険を伴う場合もある。新生児の大半は，生後２～３日ごろから皮膚が黄疸のように着色するが，１週間内外で自然に色があせていく。これは新生児期には赤血球の破壊がある程度起こることと，肝臓のビリルビン処理能力が未熟であることが原因と考えられ，児に障害は起こさない生理的黄疸とよばれている。しかし，黄疸が著しく強く，児の哺乳力(ほにゅうりょく)も低下し，元気がなくなってくるものは異常であり，これは血液型不適合妊娠*による溶血性黄疸によることが多い。〔木川源則〕

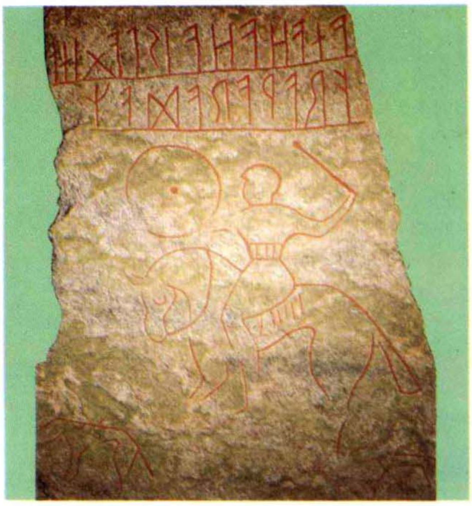
しんせいじかし 【新生児仮死】 分娩(ぶんべん)した児の呼吸運動がまったくないか，あってもはなはだ不完全で，しかも心臓の搏動(はくどう)がなお存在する状態。胎盤早期剝離(はくり)，臍帯(さいたい)の脱出・圧迫，過強陣痛などにより，胎盤・臍帯血行の障害，無理な鉗子(かんし)分娩，骨盤位分娩による脳内出血，胎盤機能不全，産科麻酔に用いられた麻酔薬による無呼吸などが原因で，児の血液中の酸素が欠乏したり，呼吸中枢が障害されたときに起こる。胎児仮死に引き続いて起こることが多い。大多数の仮死は蘇生術(そせいじゅつ)により治癒(ちゆ)するが，なかには知能発育障害・脳性麻痺(まひ)などの後遺症を残すことがある。〔木川源則〕

しんせいじしっかん 【新生児疾患】 分娩(ぶんべん)直後から母体外生活に適応する生活を得るまでの期間にある子どもを新生児*といい，この時期には臓器の形態・機能が生理的に著しく変動する。なかでも最も大きな変化を受けるのは呼吸と循環である。子宮内で生活している胎児の時期には，成長・発育に必要な酸素・栄養素などは母体から供給されているが，分娩後は第一声(うぶ声)によって肺に空気が進入し，酸素の自主的摂取を行なうようになる。これに伴って循環系が変化する。肺循環の確立により，心臓の卵円孔・ボタロ動脈管・臍帯(さいたい)動静脈が閉塞(へいそく)し，成人と同じ循環系となる。このように新生児は生理的に大きく変動するので，新生児を小さな成人と考えることはできない。また，新生児はことばがいえず，自覚症状を訴えることができない。刺激に対する反応も成人と異なるし，他覚所見も見つけにくい。また，感染症でも熱発しない，疾患に対する抵抗が弱いため症状が急変するなどの特徴がある。新生児疾患を大きく分けると，胎児期の妊娠母体の異常に基づくもの(風疹罹患(ふうしんりかん)・薬剤服用など)，周産期の障害によるもの(分娩時の外傷など)，成熟異常(未熟児など)，適応障害(肺拡張不全など)，感染症，循環器・呼吸器・消化器などの各器官系の疾患に分けられる。新生児死亡の原因のおもなものを多いものからあげると，肺拡張不全・出血(頭蓋(とうがい)内・肺など)・奇形・感染症などである。〔木川源則〕

しんせいだい 【新生代】 地質時代のうち，中生代白亜紀のあとに続く時代。約6,500万年前以降現在に至る期間。新生代







新石器時代　(左)カルナクのアリニュマン(列石)　フランスのカルナクには，2,730のメンヒル(立石)が3群に分かれ，3kmにわたって立ち並んでいる。(中)装飾された球形の石　ストックホルム歴史博物館蔵　(右)画像碑　ストックホルム歴史博物館蔵

は古いほうから第三紀・第四紀に2分される。生物界では，特に哺乳(ほにゅう)類や被子植物の双子葉植物がしだいに現代型に向かって大発展し，今日に及んでいる。この時代は哺乳類時代または被子植物時代(新植代)とよばれる。第四紀には人類が出現した。他方，中生代に栄えた恐龍(きょうりゅう)類・アンモナイトはまったく見られない。新生代はアルプス造山運動の時代で，世界各地に激しい地殻(ちかく)変動や火成活動が起こり，ヒマラヤ・アルプス・ロッキーなどの世界の大山脈が著しく隆起した。中生代に温和であった気候は新生代の間しだいに寒冷に向かい，ついに数度の氷期が襲来するに至った。〔田中啓策〕

しんせいどうめい　【神聖同盟】　1815年ロシア皇帝アレクサンドル1世の提唱により，イギリス・ローマ教皇・トルコを除くヨーロッパの諸君主が参加して結ばれた同盟。フランス革命・ナポレオン時代のヨーロッパの動乱期のあとをうけて，キリスト教的正義・友愛・平和の精神による協力・平和維持を唱えたが，平和は現状維持を意味し，ウィーン体制を擁護する反動的性格をもった。イギリスの政治家カッスルレー(1769～1822)が〈一片の崇高な神秘とナンセンス〉と評したように，具体的実効をもたない観念的な同盟であった。イギリスは大臣の副書を必要とするとして調印せず，教皇はカトリック教国以外の加盟を拒み，トルコはイスラム教国として招かれなかった。〔大野慎一郎〕

しんせいねん　【新青年】　中国の文学革命および五・四運動のとき，世論形成と指導に力を発揮した月刊雑誌。1915年9月創刊。はじめ《青年雑誌》といい，のち《新青年》と改称。陳独秀が主宰，1917年彼が北京(ペキン)大学文科学長に就任後，大学の公共刊行物となった。翌年1月から陳独秀・胡適(こてき)・李大釗(りだいしょう)・沈尹黙(しんいんもく)・銭玄同・高一涵(こういっかん)らの輪番編集制をとり，1921年以後，その体制はくずれ，社会主義宣伝の傾向が強くなった。〔今村与志雄〕

しんせいねん　【新青年】　推理小説雑誌。1920年(大正9)1月～1950年(昭和25)7月。博文館(のち江古田書房・文友館・博友社)発行。通巻405冊。おもに海外の推理小説の翻訳，紹介につとめ，また多くの推理作家を世に送って文学界に新鮮で近代的な新風を吹き込んだ。

しんせいはんどうたい　【真性半導体】　⇨半導体

しんせいローマていこく　【神聖ローマ帝国】　962～1806年に存続した中世ドイツ帝国(第1帝国)。962年，オットー1世が2回めのイタリア遠征に際してローマ教皇ヨハネス12世からローマ帝国の帝冠を授けられて以後，古代ローマ帝国の伝統とローマ-カトリック教会の権威とが結びついた国家の観念が生まれ，のち〈神聖〉の名を冠してよばれるようになったもの。ザクセン朝・ザリエル朝・シュタウフェル朝の歴代王朝はいずれもイタリア政策に力を注いだためドイツの分裂がはなはだしくなり，13世紀には大空位時代さえ招いた。その後，選帝侯が皇帝を選ぶこととなり，15世紀以後はハプスブルク家が代々帝位についた。1806年，ナポレオン1世の圧力によってフランツ2世が帝位を辞し帝国は解消した。〔松　俊夫〕

しんせかい　【新世界】　⇨新大陸

しんせかい　【新世界】　大阪市浪速(なにわ)区天王寺公園の西に接する地区で，道頓堀(どうとんぼり)・千日前と並ぶ市内屈指の歓楽街。1903年(明治36)に開かれた第5回内国勧業博覧会の会場敷地の東半分は天王寺公園となったが，西半分を1911年に，市民の行楽地として開放したのに始まる。翌年にはここにルナパークという大衆娯楽場ができ，映画館・演芸場・飲食店などが集まり，1918年(大正7)に近くに飛田遊郭ができるといっそう繁栄を増し，林芙美子(ふみこ)の小説《めし》の舞台となったジャンジャン横丁も区域内にある。東京の浅草に似た庶民的な盛り場で，第2次世界大戦中戦災を受けたが戦後復興し，1956年(昭和31)に再建された高さ103mの展望塔通天閣からは，遠く淡路・四国方面までが展望できる。〔浅井得一〕

しんせかいこうきょうきょく　【新世界交響曲】　ドボルザーク作曲の交響曲第9番ホ短調。正しくは《新世界より》という。4楽章からなり，作品番号は95。ドボルザークの最後の交響曲である。1892～1893年，ニューヨークの音楽院の校長時代に作曲され，1893年に同地で初演された。〈新世界〉とは〈旧世界〉ヨーロッパに対してアメリカをさし，活気にあふれる新しい世界をみごとに音楽化した。

しんせき　【親戚】　⇨親族

しんせきこうか　【臣籍降下】　皇族が皇室を離れて一般国民となること。古来から臣籍降下の態様はさまざまな変化をたどってきているが，日本国憲法と皇室典範(現行)制定当時，皇弟・皇子以外の皇族は皇族の身分を離脱しているから，現在は内親王が婚姻によって，その身分を離脱する事例が臣籍降下の例としてみられるにすぎない。日本国憲法のたてまえでは皇室と一般国民は特殊の場合を除いて平等に取り扱われるから，臣籍へ降下するという用語法は古くなっており，皇族の身分の喪失といったほうがよい。〔針生誠吉〕

じんせっかいかしょう　【腎石灰化症】　腎実質内に石灰(カルシウム塩)が沈着する病気。甲状腺(こうじょうせん)の裏側にある副甲状腺からは血清，および骨のリンとカルシウム代謝を調節するホルモンが分泌されている。副甲状腺ホルモンが過剰に分泌されると，骨のカルシウムが血清中に出てしまう一方，リンは逆に骨にはいっていく。そのため，尿・血清中のリンは減少し，カルシウムが増加する。これによって，腎実質にカルシウム塩がたまり，石灰化が生じてくる。すなわち，副甲状腺機能亢進症(こうしんしょう)に伴ってこの病気が発生する。〔大田黒和生〕

しんせっきじだい　【新石器時代】　考古学における時代区分の一。旧石器時代・中

石器時代を経て，新石器時代に至る。石器時代のうちで文化の最も進んだ最後の時代である。地質学的には現代と同じ沖積世(ちゅうせきせい)に属し，地形や気候など自然環境は今日とほとんど変わらない。生活用具としては磨製(ませい)石器が使われ，農耕・牧畜の生産経済の段階に達して，旧石器時代の採集経済とは著しい相違をみせている。洪積世(こうせきせい)末，第四氷河期の氷河が後退して，地表の自然状態が変動し，海水面の上昇によって湖水であった地中海やバルト海は海と連続し，日本やイギリスを大陸から切り離した。またツンドラ地帯は湿潤な森林地帯となり，近東や地中海沿岸は砂漠(さばく)となった。乾燥された可耕地が諸地方に現われ，人類はそれまでの狩猟中心から農耕中心の生活に移り，同時に多くの動物が家畜化されて牧畜が営まれるようになった。こうして，人類は，生産経済の方法を発見するようになった。新石器時代の始期については学説により差異があるが，ふつうBC6000年にはオリエントに発生していたとみられている。その後しだいに各地域に伝播(でんぱ)し，地域ごとにきわめて多様性豊かな展開を示した。その終末期はオリエントの先進文化圏ではBC3000年とされているが，各地域ではそれぞれ異なっている。

〔オリエントの新石器文化〕旧世界の新石器文化はすべてオリエントに起源をもつが，オリエントのどこで最初に発生したかは諸説があって一致しない。しかし一般には，BC5000年ごろにメソポタミアの両河地帯からイラン高原・シリア・パレスチナにかけての肥沃(ひよく)地帯に農耕・牧畜が行なわれるようになったとみられている。オリエントの新石器文化は生産経済に基づく典型的な村落文化で，農耕はおもに婦人によって営まれ，磨製石斧(せきふ)や土掘り棒で浅く耕された。主要作物はエンメル小麦や大麦で，棗椰子(なつめやし)や亜麻も栽培された。牧畜はヒツジ・ヤギ・ブタ・ウシなどで男子の仕事であったらしい。半面自然採集も盛んで，石鏃(せきぞく)・骨銛(もり)なども多数製作された。社会は母系氏族制であったらしく，各氏族が一つの村落を形成していた。生産経済の発達で人口の増加，村落の増大をみたが，村落の首長には年長者の男子が推挙され，氏族各成員の社会的地位は平等であったと思われている。また村落間もだいたい平和であったらしく，防壁や壕(ごう)をめぐらすこともなかった。生活の文化は各部門で技術的に著しい発達を示した。

①製陶：土器は手捏(てづくね)法で製作され，その形態は変化に富み，たちまち工芸的に発達を遂げ，穀物の貯蔵や煮沸の容器としておもに用いられた。②磨製石器：石器はその一端を磨研して鋭利な刃とし，着柄されて木材の切断・加工，または土掘りに用いられた。③織物：亜麻その他野生植物からとった繊維を紡錘車で糸に撚(よ)り，布を織るようになった。また羊毛を紡いで衣料とした。④住居：石器の精鋭化により木工技術が進み，竪穴(たてあな)住居を建て，村落をつくって定住するようになった。またペルセポリス遺跡のように，多数の居室をもつ家屋も建てられた。⑤宗教・美術：祖先崇拝・トーテミズムまた地母神信仰が広く行なわれたらしく，精神面の深化に伴い死者を埋葬する儀式が起こった。しかし階級のない社会であったため墳墓の規模や副葬品は質量ともに個別差はない。美術的には装身具・土器の精製に驚くべき進歩をみ，ハラフ文化の彩色土器はその頂点を示している。

〔新石器文化の各地伝播とその内容〕オリエントの新石器文化は，その先進文化圏では銅器時代にはいり，村落が都市化の傾向をみせ，生産力や人口が著しく増大した。BC4000年ころから四辺に伝播しはじめたが，多くの地域では銅器文化のもつ冶金術(やきんじゅつ)は受容しえなかった。①ヨーロッパへは，地中海諸島・北アフリカ海岸を通り，イベリヤ半島を北上し，西ヨーロッパへの伝播の道と，小アジアから南ロシア・ドナウ川流域を経て，中部ヨーロッパに至る道とがあった。前者はエジプト古王朝文化の伝播の道ともなり，その巨石文化が西ヨーロッパ，イギリス，次いで北ヨーロッパに波及し，メンヒル・ドルメンなどの遺跡を残した。ただしこの場合も古王朝文化の内容とする冶金術や文字はその諸地域で受容されなかった。②ドン川を西端とし，内モンゴリア・西部満州を東端とする草原地帯へはいった新石器文化はオリエント文化の生産手段である農耕を脱落し，牧畜しかも遊牧生活の文化として成立した。細石器を用いた狩猟がなお盛んで，土器はあまり用いられなかった。③アジアへは，イラン高原からインダス川流域への道とトルキスタンから中国西部の甘粛(かんしゅく)・青海地方への道がとられたようである。中国に達したオリエント文化は甘粛・河南・四川・熱河の各地で特色ある新石器文化となった。そのうち河南では，彩陶で知られる仰韶(ぎょうしょう)文化(→仰韶遺跡)を生み，冶金術こそもたないが町邑(ゆう)文化に発達した小屯(しょうとん)文化を生んだ。このように，オリエントに起源を発する新石器文化は，旧世界の各地に伝播して大きい影響を与えるが，オリエントと遠隔になり，またその地理的条件から，各地域によって独自に展開し，一般に新石器文化と称しても，その文化段階や内容にさまざまな偏差を現わしている。この事実は新石器文化の多様性を示すとともに，新石器時代という時代区分が技術史的に偏して不完全であることを自ら証している。

〔日本の新石器時代〕日本では縄文(じょうもん)文化(→縄文時代)が新石器時代にあてられ，精巧な磨製石器や工芸的にすぐれた縄文式土器が生産されている。しかし農耕や牧畜が行なわれた形跡はなく，採集経済に停滞してついに生産経済に到達することはなかった。日本への伝播の経路については現在明らかにされていない。〔高崎徳次〕

しんせん【沈詮】⇨沈南蘋(しんなんぴん)

しんせん【神饌】御饌(みけ)ともいい，神に供する飲食の総称。祭りにおける最もたいせつな供え物で，水・酒などの飲み物と，米・もち・魚貝・鳥獣・海藻(かいそう)・野菜・くだもの・塩などの食べ物からなる。これらを生のまま奉る生饌と，料理して奉る熟饌とがある。

しんぜん【浸染】染色技法の一種。被染め物を染液中に浸して染色する方法。糸・布地などの無地染め・絞り染め・防染などに応用する。糸の場合には綛(かせ)染め・チーズ染め・コーン染めなどがあり，また布地だけではジッガー染め・パッディング染め・ロープ染めなどの方式が行なわれる。比較的堅牢(けんろう)な染色ができる。

じんせん【仁川】インチョン　朝鮮西海岸の港市で，首都ソウルの南西40kmにあり同市の外港の役を果たす。人口63万4,000(1970)。沖にある数個の島が港を取り囲み，港頭の月尾島・小月尾島は防波堤で連結されて内港をつくる。1883年に開港したが，潮汐(ちょうせき)の干満差が10mに及ぶため，1923年閘門(こうもん)式ドックがつくられた。南朝鮮では釜山(ふざん)に次ぐ貿易港で，京仁工業地帯の門戸として紡績・精米・製粉・醸造・マッチ工業に加え，近年，製鋼やガラスなどの近代工業がつくられた。付近の沿岸には朝鮮屈指の天日製塩地があり，月尾島は行楽地になっている。市街は背面の丘陵に広がり，丘の上の公園には朝鮮戦争でアメリカ軍反撃の契機となった仁川上陸作戦を記念して建てられた故マッカーサー将軍の銅像が立っている。〔矢守一彦〕

しんせんいぬつくばしゅう【新撰犬筑波集】山崎宗鑑編の俳諧撰集(はいかいせんしゅう)《犬筑波集》には異本が多く句数も一定しない。しかも，その書名も古写本には《俳諧連歌》《俳諧連歌抄》などとあるが，古活字本系統の諸本にはこの名がある。これらの諸本はほぼ慶長年間(1596～1614)に刊行，それをうけて1635年(寛永12)の整版本が出て同集の本文も一定した。それによれば付句(つけく)278句，四季発句44句を収めている。

しんせんき【沈佺期】(? ～715?)中国，唐代の詩人。賄賂(わいろ)をとって弾劾されたことがある宮廷詩人であるが，音韻と対句に意匠をこらし，当時，宋之問(そうしもん)や沈宋と並び称せられる技巧派の作者で，律詩の形式の完成に貢献した。

しんせんぐみ【新撰組】幕末，近藤勇(いさみ)を首領とする佐幕派の浪人集団。1863年(文久3)幕府は浪人の懐柔統制のため浪士組を組織して京都に上らせ，壬生(みぶ)村に駐屯(ちゅうとん)させた。指導者清川八郎が尊攘(そんじょう)派と通じたために組織は分裂し，幕

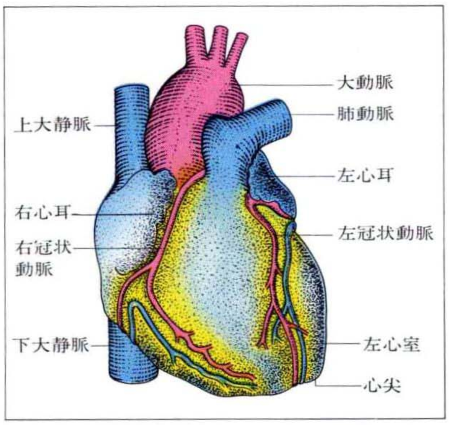
府は清川らに江戸に帰ることを命じた。一方京都に残った芹沢鴨(せりざわかも)・近藤勇らは新撰組を結成。芹沢はのち内訌(ないこう)で暗殺され，近藤勇・土方歳三(ひじかたとしぞう)が実権を掌握し，京都守護職松平容保(かたもり)の支配に属し，京都の治安にあたった。池田屋騒動などの尊攘・討幕派の弾圧，市中取り締まりに活躍したが，戊辰(ぼしん)戦争に幕府軍として参加し，鳥羽(とば)・伏見の戦いに敗戦して以後東下した。その後甲陽鎮撫隊(ちんぶたい)を結成したが，甲州(山梨県)勝沼で官軍と戦い敗退。近藤は捕えられて斬(き)られ，土方は五稜郭(ごりょうかく)で戦死した。〔松尾　涼〕

しんせんざいわかしゅう　【新千載和歌集】 第18番めの勅撰(ちょくせん)和歌集。撰者は二条為定(ためさだ)。1356年(正平11・延文1)6月，足利尊氏(あしかがたかうじ)の執奏に基づいて後光厳天皇が撰集を命じた。実質的に幕府の発起によった最初の撰集で，以後これが慣例化する。1359年4月四季部を奏覧，同年12月全巻が完成した。二条派の歌が中心になっているが，京極派歌人の歌や武士の歌が多い集である。

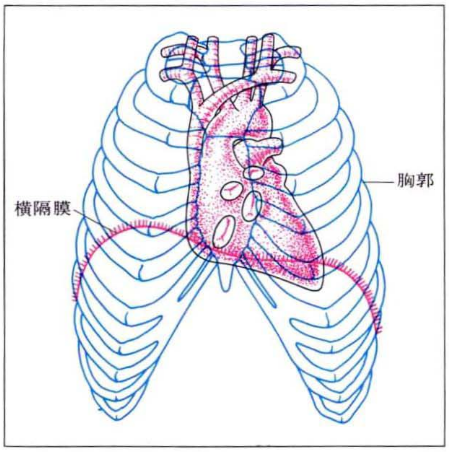
しんせんじきょう　【新撰字鏡】 漢和字典。僧昌住(しょうじゅう)の著。12巻。昌泰(しょうたい)年間(898〜900)に成立。約21,300の漢字を標出し，その偏・旁(つくり)によって天・日・月・肉・雨など160部門に類別し音義を注しているが，中に和訓を注するところ(約3,000語)があり，当時の国語を知るに役だつ。奈良時代・平安時代初期の文献や字音などの研究には必須(ひっす)の資料である。また，和訓を有する最古の辞書である。

しんせんしそう　【神仙思想】 神仙とは，神秘な不老長生者というほどの意味で，不老長生への願いから起こった中国古代の想念。古代の説話では，この地上からはるかかなたの幻想的楽土(蓬萊(ほうらい)山などの海上の神山，《荘子》では藐姑射(はこや)が考えられ，《山海経(せんがいきょう)》にも神仙の住所の記事がある)が想定され，そこに神仙が住むと考えられた。戦国時代から秦(しん)・漢にかけて，人為的に神仙となる術を心得たという神仙家(方士)が現われた。その術とは薬物(→金丹道)や特殊な健康体操(導引)などであるが，これらには神秘な力を作用させることのできる方士の能力が必要とされた。これは世俗的合理主義に立つ権力支配者からは左道(邪道)とみなされたにもかかわらず，秦の始皇帝や漢の武帝は個人としてこれにすがろうとした。やがて魏(ぎ)・晋(しん)の時代には，道教に包摂されながら多様化し，薬・呼吸法・房中術のほかに精神安定法も加わってさまざまの生活規範やまじないも考案された。《抱朴子》はこれらを網羅(もうら)している。その後は道教信仰とともに長く中国人の意識の底流の一つとなった。〔西　順蔵〕

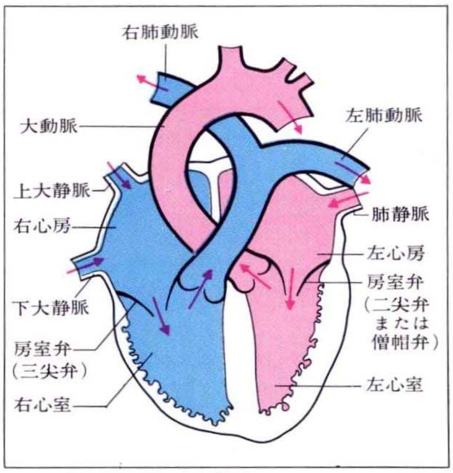
しんせんしょうじろく　【新撰姓氏録】



外形



位置



機能

心　臓

平安初期に集録された諸氏の系譜集。30巻と目録1巻。嵯峨(さが)天皇の勅で，万多親王の編により815年(弘仁6)成立。京と畿内(きない)5か国の1,182氏を皇別・神別・諸蕃(帰化人の子孫)に分類・配列し，氏姓の混乱を正そうとした。抄録本のみ現存。

しんせんつくばしゅう　【新撰菟玖波集】 准勅撰連歌集。大内政弘(まさひろ)の発議によって，三条西実隆(さねたか)の指導下に一条冬良・宗祇(そうぎ)・兼載(けんさい)らの編，1495年(明応4)成立。全20巻。付句(つけく)1,802，発句251を収める。作者241人中，心敬・宗砌(そうぜい)・専順ら連歌師や武家作家の進出が顕著なこと，俳諧(はいかい)連歌をまったく収録しないことなど，《菟玖波集》とは異なる点がある。

しんせんまんようしゅう　【新撰万葉集】 詩歌集。成立は893年(寛平5)。編者未詳。上・下2巻とも春・夏・秋・冬・恋(下巻は思)に分け，《寛平御時后宮歌合(きさいのみやうたあわせ)》(上巻は左歌，下巻は右歌)をおもな資料とし，《是貞(これさだ)親王家歌合》などの歌を真字(まな)で書き，上巻は1首ごとのあとにその歌を翻案した七言絶句の詩を配している。増補本は下巻にも詩を配しているが，きわめて稚拙な詩である。

しんせんわか　【新撰和歌】 歌集。撰者は紀貫之(つらゆき)。《古今和歌集》撰進後，醍醐(だいご)天皇の命で，土佐在任中にさらに集中の秀歌を抄出編纂(へんさん)したもの。序文の作成が帰京後であったため，天皇の没後で奏覧の機会はなかった。和歌360首を収め，そのうち80首は《古今和歌集》以外から収録し，《古今和歌集》の秀歌抄出という方針からは多少はみ出している。貫之の作が8分の1を占め，晩年の和歌観を示している。

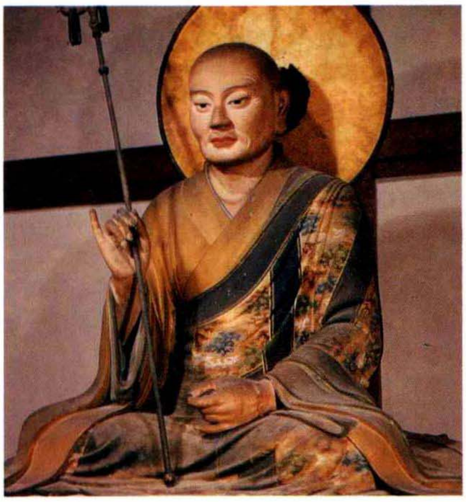
しんそう　【神宗】 ⇨万暦帝(ばんれきてい)

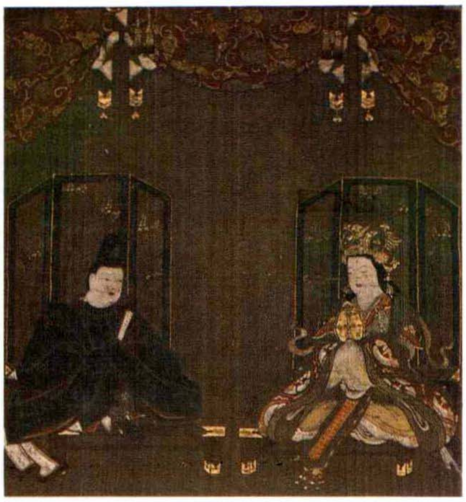
しんぞう　【心臓】 血液を循環させる原動力となる器官。

【動物の心臓】 エビ・カニなどの下等な甲殻(こうかく)類やホヤなどの心臓は孤立した筋性の管で，血管は発達せず，ただその収縮によって血液が一方向に流動を起こす。甲殻類の心臓には，背側に心門とよぶ穴があり，鰓(えら)からくる血液は体の運動によって受動的に心門から心臓に返る。心臓を包む囲心洞(いしんどう)内の血液は，心臓の弛緩期(しかんき)に心門の弁を押し開き心臓内にはいる。次いで収縮期には血液は心門から囲心洞に逆流することなく動脈へ流出し組織間隙(かんげき)に血液を送り出す。

こん虫の心臓は，甲殻類の心臓と異なる。すなわち，心臓は体の背側にあって細長く，心臓側面には各節ごとに心門がある。この心臓は薄い膜性のもので自動性がなく，囲心洞の壁から心臓側壁に向かって数個の筋肉が付着している。この筋肉は翼状節とよばれ，この筋の収縮で心臓が拡張して心門から血液が流入する。筋の収縮がやむと，心筋の収縮が始まって心門弁が閉ざされ，血液は動脈に流れ込み，組織間隙に送り出される。

軟体動物の中でタコなどの頭足類の心臓は鰓から返ってくる血液を弛緩期に受け入れ，収縮期に送り出す。動脈末端は開いていて，血液は組織間隙に流出する。組織間隙から返る血液は静脈から静脈洞に流入し，ここから鰓に送り出され，そこで酸素を取り入れて動脈血となり心臓へもどる。鰓にはいるときにはすでに血圧が低下しているので，鰓の基部の血管が収縮し，心臓の役





神　　像　(左)快慶《僧形八幡神坐像》　東寺蔵　(右)《高野四社明神像》(部分，左-高野明神，右-丹生明神)　東京国立博物館蔵

割をして血液を鰓に送り込む。この部分を鰓心臓とよぶ。

原始的な閉鎖循環系をもつものはミミズ・ゴカイなどの環形動物である。これらは体の背側と腹側に2本の大きな血管があり，両者は各節ごとに血管で連絡されている。このうち食道部の5対は大きくて収縮性をもち，この搏動(はくどう)で血液が循環する。

脊椎(せきつい)動物の心臓は，鰓呼吸のものと肺呼吸のものとがあり，その構造は著しく異なっている。しかし魚類から哺乳(ほにゅう)類まで，基本的には同一である。魚類の心臓は，静脈洞・心房・心室・動脈球の4部からなっている。両生類では，静脈洞・心房・心室の3部からなり，心房は2室に分かれて，二心房・一心室である。下等なトカゲ・ヘビなどの爬虫(はちゅう)類は，静脈洞が右心房の一部になってしまい，二心房と不完全な二心室である。高等なワニなどの爬虫類や鳥類・哺乳類の心臓は二心房・二心室で，静脈血と動脈血の分離は完全になっている。

心臓には自動性があるが，搏動の原因となる刺激が，筋原性であるか神経原性であるかによって，①筋原性・自動性，②神経原性・自動性に区別するが，前者は心臓搏動の中心(ペースメーカー)が筋繊維の特殊に分化したものであり，後者は心筋内にうずもれた神経*節細胞があり，これから出る刺激(インプルス)が心筋に搏動を起こさせるものであり，甲殻類の心臓はこれに属する。軟体動物・脊椎動物などの心臓は筋原性・自動性をもつ。

【ヒトの心臓】ヒトの心臓は縦隔内で正中線から左に偏し，横隔膜の上に位置する(左に⅔，右に⅓)。大きさや重さは個人差があるが，ほぼ成人で250～300gである。大きさはその人のこぶし大といわれているがそれほど大きくはない。上方を心底，下方を心尖(しんせん)といい，心尖の位置は乳頭線上からやや内側で，第5肋間隙にある。血管と同様に三つの層，すなわち外側から心外膜(臓側板)・心*筋層・心内膜をもっている。心嚢(心外膜壁側板)は心外膜臓側板が反転してできたものであり，嚢状を呈し両者の間に漿液(しょうえき)(心膜液)を入れて心臓が円滑に運動できるようにしている。心房・心室間に房室弁がある。右は三尖弁，左は僧帽弁(二尖弁)で結合組*織性の数条の腱索(けんさく)で心室の乳頭筋に付く。右心室から肺動脈に続く部分を動脈円錐(えんすい)といい，ここに肺動脈弁がある。左心室から大動脈に移行するところには大動脈弁がある。これらはいずれも半月弁という三つのポケット状の弁で，血液が逆流するのを防いでいる。

心臓本来の機能は，全身に血液を送るポンプの働きであるが，その主体は第2層の心筋層である。心房は2層，心室は3層からなり，収縮と弛緩をくり返している。弛緩した右心房へ全身を回ってきた静脈血が上大静脈および下大静脈となって流入し，次いで心房筋の収縮によって右房室弁を経て右心室へ流入し，右心室の収縮によって肺動脈弁を通り肺動脈さらに肺へ流入する。肺で炭酸ガスを排出し，酸素を受けた動脈血が2本の肺動脈を経て弛緩した左心房へ，左心房の収縮によって左房室弁から左心室，左心室の収縮によって大動脈弁を通り，大動脈へと駆出される。この際弁の開閉が順序よく行なわれる。筋の収縮時と弁の開閉時に発する音が心*音である。このように心臓は収縮と弛緩をくり返し(これを搏動という)，刺激伝導系によって営まれている。心搏の波動は動脈を伝わり，四肢の動脈で脈搏として認知される。またこの心搏動は交感神経刺激によって促進され，副交感神経刺激によって抑制される。緊急時には前者が緊張するので促進し，睡眠時は後者が緊張して緩徐となる。この自律神経繊維は大動脈弓付近の浅心臓神経叢(そう)からと，深心臓神経叢(大動脈弓と肺動脈間にある)からくる。

平静時の成人の心搏動は1分間60～80回であるが，かりに心搏動を毎分75とすると，その周期は0.8秒となり，心房収縮0.1秒，心室収縮0.3秒，休止期は0.4秒で，作働時間より休止時間は長く，疲労回復をしながら休みなく運動できるようになっている。心臓は血管の一部がふくらんで大きくなったものであるが，それ自体に必要な酸素と栄養は心臓の内腔(ないこう)からの浸透ではまかないきれないので，大動脈起始部にある左右の半月弁基部から始まる左右の冠状動*脈系によって営まれる。左冠状動脈からは前室間枝と回旋枝が出て，また右冠状動脈からは後室間枝が出て心臓全体を養う。心臓を灌流(かんりゅう)した大部分の血液は冠状静脈洞を経て一部は右心房，一部は直接右心房へ返る。冠状動脈の一時的な攣縮(れんしゅく)は狭心*症を，塞栓(そくせん)が起こると致命的な心筋硬塞*症をひき起こす。

〔幡井勉・橋本長〕

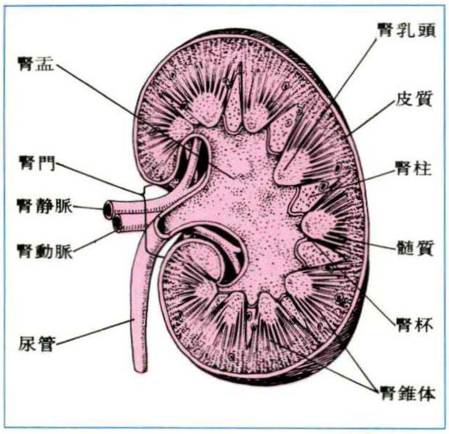
しんぞう　**【神像】**　神祇(じんぎ)信仰の神神の像。神祇信仰では，もともと自然や鏡などを神体として崇拝したが，仏教が普及するに及んで，神仏習*合の思想が起こり，神々の影像・画像がつくられるようになった。神像彫刻は，文献上では天平(てんぴょう)時代後半につくられたとあるが，現存する最古のものは東寺の《木造僧形八幡神坐像(はちまんじんざぞう)(1体)・女神坐像(2体)》(国宝)である。これらは，もと同寺の鎮守八幡神の神体であったが，同社焼失後御影堂に移された。いずれも，9世紀初頭に仏像彫刻家によってつくられたものと考えられる。このほか平安時代では，薬師寺の《木造僧形八幡神・神功皇后・仲津姫命各坐像》(国宝)，京都市右京区の松(まつの)神社の神像3体，鎌倉時代では東大寺の《木造僧形八幡神像》(快慶作)，奈良県吉野(よしの)郡吉野町の吉野水分(みくまり)神社の女神像などがある。画像では平安時代にさかのぼるものはないが，高野山の《地主神狩場明神像》《丹生明神像》，醍醐(だいご)寺清滝社の《清滝権現像》，薬師寺の《板絵神像額》など遺品は少なくない。

〔永井信一〕

じんぞう　**【腎臓】**　泌尿器(ひにょうき)の*尿生成部をつかさどる有対のソラマメ形をした臓器。腹腔(ふくこう)後壁上部の前面で脊柱(せきちゅう)の左右両側に位置する。成人男子では左腎は第11胸骨から第3腰椎(ようつい)の上縁に位置し，右腎は多くはこれより半ないし1椎体下位に位置する。女子では男子に比してさらに半椎体ほど低位にあり，小児はさらに低い。腎臓の1個の大きさは約長径10cm，幅5cm，厚さ3～3.5cmで，大きさの点では一般に左腎が右腎よりも大きい。正常の腎臓の縦軸は体の正中線と平行せず下端でやや外側に開き，ソラマメ形の陥凹部(かんおうぶ)で，左右腎が体の正中線を中心に向かい合っている。1個の腎臓の各部分は，

それぞれ前面・後面・上端・下端・外側縁・内側縁および腎門(くぼんだ部分)と区別し，上端の上部には副腎(→腎上体)がのっている。腎門は縦走する裂溝(れっこう)を形成してやや前方に開き，その内部で腔をなすので腎洞(じんどう)とよばれる。腎洞には腎実質から円錐(えんすい)状に７～10個の腎乳頭が突出して，これを腎杯(尿を受け取る器官)が包み，さらにこの腎杯が集まった腎盂(じんう)(腎盤)から尿管に移行して腎門を出る。このとき腹大動脈の直接枝である腎動脈が尿管の前を通って腎門にはいっている。また腎皮質および髄質における尿細管周囲の毛細管から起こって集合した腎静脈は，この腎門において腎動脈の前方を通り腹大静脈にはいる。腎臓は脂肪被膜・繊維被膜および筋質膜の三つの被膜でおおわれ，前面のみはさらに腹膜でおおわれている。腎実質は表層部近くの皮質と内層の髄質とに大別され，前者は血管に富み，大部分は腎小体を含むために，赤かっ色で顆粒(かりゅう)状を呈し，小葉間動静脈によって多数の皮質小葉に分かれる。また腎柱および髄質突起によって，皮質と髄質が相互に入り組んでいる。髄質は血管に乏しく蒼白(そうはく)淡紅で，腎柱間において10～15の錐体形を呈する腎錐体からなり，内方から外方に走る微細な線の集合からなる。腎臓は一種の複合管状腺(かんじょうせん)に属し，腎小体およびこれに付属する腎細管をもつネフロン(腎単位)をその構成単位とする。両腎臓を通過する血液の１日量は800～1000 *l*，両腎糸球体からの仮尿１日量は170 *l* とされ，膀胱(ぼうこう)からの尿排出量が平均１日1.5 *l* であるから，糸球体で血中より濾過(ろか)された糸球体仮尿のほとんどは尿路の途中で選択的に再吸収されている。〔藤井和明〕

しんぞういしょく【心臓移植】新鮮な心臓を体内に移植する臓器移植の一。1905年フランスの外科医カレルらが，はじめて頸部(けいぶ)に心臓移植の実験を行なってから62年後，1967年12月南アフリカ共和国のバーナードによって，人間から人間への心臓移植がはじめて行なわれた。これが一応の成功を収めて以来，臨床応用などほど遠いと考えられていた心臓移植も，実験的研究の段階からにわかに臨床分野に加わることになってきた。心臓移植臨床例が他の臓器移植，特に腎臓(じんぞう)移植と異なる点は，①拒絶現象が起こって臓器の一部が破壊されても，腎臓では直ちに死を意味しないが，心臓の場合には人工心臓が実用化されないかぎり致命的である，②心臓は単一重要臓器であり，心臓移植を行なうことは提供者の確実な死を意味すること，などである。したがって心臓移植にあたって，医師は法律的・倫理的に峻厳(しゅんげん)かつ深刻な立場にたたざるをえない。このような観点から異種移植が考えられるが，可能性はあるにしても，臨床的にはなお幾多の問題があり，



腎　臓

成功するまでにはかなりの年月を要することと思われる。〔三島好雄〕

じんぞういしょく【腎臓移植】正常な機能を有する新鮮な腎臓を体内に移植する臓器移植。かつては不可能とされていた臓器の同種移植も抗免疫剤の発達により可能となり，特に腎臓ではすでに臨床的応用の段階になりつつある。また移植に成功すればほぼ完全に社会復帰ができる。1969年(昭和44)現在わが国の移植臨床例は，総数145例(うち生体腎112，屍体腎(したいじん)32)１年以上生存者12例を数え最長２年の生存例も得られている。腎臓移植は心臓移植と違って腎臓の片方があれば生命を維持することができるため，健康な人の腎臓を提供してもらえる利点がある。提供者は近親関係ほど予後がよく，兄弟親子間で血液型の合った場合は特によい。腎臓移植を受ける患者としては，50歳以下で移植後の抗免疫療法(→免疫療法)にさしつかえないように，ある程度以上の知能的・精神的に安定が必要条件である。腎臓移植は患者の両側の腎臓を摘除してから腸骨窩(か)に，提供された腎臓を移植するのが普通である。〔三島好雄〕

しんぞうカテーテル【心臓カテーテル】心臓の診断に用いられるカテーテル。血管を通じて心臓まで入れ，内圧の測定，酸素飽和度などを測定するための採血，心搏出量・短絡部位および短絡量・肺血管抵抗・弁口面積測定などを行なう。弁膜疾患・先天性心疾患・肺疾患の診断には欠かせない重要な検査の一つである。おもに静脈より挿入(そうにゅう)され，右心房・右心室・肺動脈基幹部に入れる右心カテーテル法と，大動脈から左心室に入れる左心カテーテル法がある。

しんぞうけいしゅぎ【新造形主義】⇨アブストラクト-アート

しんぞうげか【心臓外科】心臓を対象とした胸部外科の一分野。心臓外科の歴史は必ずしも古くはないが，戦後，種々の心臓疾患に対して直視下手術が可能になり，急速に進歩した。今日，心臓およびこれに近接する大動脈疾患のうち，心内膜炎・ファロー四徴症・肺動脈狭窄(きょうさく)・心房中隔欠損などの先天性心疾患，心外傷・心臓弁膜症・冠不全などの後天性心疾患，動脈管開存・大動脈縮窄・大動脈瘤(だいどうみゃくりゅう)などの大動脈疾患などが手術の対象となっているが，さらに適応が拡大される方向にある。〔三島好雄〕

じんぞうけっかく【腎臓結核】腎臓に発生する結核で腎結核ともいう。肺臓その他の結核病巣からの血行性感染による二次的結核がほとんどである。腎臓のみならず泌尿器(ひにょうき)結核は必ず系統的疾患の型をとるもので，単独に腎臓が結核に罹患(りかん)しているようにみえても，それは系統的疾患の初期であるか，その一部の現われを意味するにすぎない。ただし腎結核の90％は一側性である。初期症状として尿混濁・結核菌尿ならびに腎機能障害があげられるが，患者はなんの苦痛も訴えないことが多く，次いで排尿痛・頻尿(ひんにょう)・血尿および膿尿(のうにょう)がこれに続く。病変が進行すると圧痛性腎腫(じんしゅ)を触知するようになる。また難治の膀胱炎(ぼうこうえん)からしばしば本症が疑われる。治療法はまず化学療法が行なわれるが，完成された乾酪空洞(くうどう)性腎結核病巣は，化学療法だけで治癒(ちゆ)せしめることは不可能であるため，腎剔除(じんてきじょ)術などの手術的療法と化学療法の併用療法が行なわれる。〔藤井和明〕

じんぞうしょう【腎臓症】⇨ネフローゼ

しんぞうしんけいしょう【心臓神経症】心臓ノイローゼ・神経循環無力症ともいう。心臓や血管に器質的変化がないのに心悸亢進(しんきこうしん)・心臓部疼痛(とうつう)・易疲労性・呼吸困難などの症状を訴える心因性の病気。神経質・無力性体質の人に起こりやすい。原因としては，過労・心悸亢進・精神的ショック・めまいなどの主として循環器系に関する訴えが多い。治療には安定剤を使用するほか，愁訴が器質的なものでないことを患者に納得させるよう十分な対話が必要である。

しんそうしんりがく【深層心理学】日常生活における経験や行動，あるいは心因性精神疾患における症状などを，人間の意識の深層にあるもの，すなわち下意識・無意識のメカニズムで説明しようとする心理学。フロイトの精神分析学とほとんど同義。意識化されると心理的苦痛が伴う衝動は意識下に押し込められ，抑圧されるが，その心的エネルギーは，いろいろな形で，人間の経験や行動を規制すると説く。➔精神分析学　➔フロイト

じんぞうせきゆ【人造石油】石炭など石油原油以外の原料を化学的に加工して得られる液状炭化水素で，天然石油またはその製品と同種の組成・性能をもつ液体燃料。おもな製造法に，石炭の高圧水素添加によ

る直接液化法(ベルギウス法)，石炭の低温乾留で得られる低温タールの水素化分解法，一酸化炭素と水素を反応させる石油合成法(フィッシャー法)などがある。第2次世界大戦中，石油資源の乏しいドイツ・日本などで国策的に工業化されたが，石油が豊富自由に得られる現在いずれも廃止されている。〔原　伸宜〕

じんぞうせんい【人造繊維】⇒化学繊維

しんぞうつう【心臓痛】心臓の疾患に由来する疼痛(とうつう)。主として狭心痛を意味する。狭心痛とは冠不全のために心臓の酸素が欠乏し，胸が締めつけられて死の恐怖を伴うような激痛をいう。痛みを胸骨直下に感じ，左肩・左上肢(じょうし)へ放散する特徴がある。その他，心内膜炎・心筋炎・心膜炎などでも心臓部に不定の軽い疼痛があったり，また不整脈の際に心臓部に異常感が感じられることがあるが，狭心痛とは区別できる。〔清水直容〕

じんぞうにんげん【人造人間】⇒ロボット

しんぞうひだい【心臓肥大】心臓*壁の肥大をいう。左心室肥大と右心室肥大とに分けられる。厳密には心臓重量の増加と，心室壁の厚さの増加を伴っているものを心臓肥大とよび，拡張だけのものと区別される。大動脈弁疾患・僧帽弁閉鎖不全・高血圧症・冠硬化症・大動脈縮窄(しゅくさく)などでは左室肥大を，僧帽弁狭窄・慢性肺疾患・ファロー四徴症・肺動脈弁狭窄では右心肥大をきたす。その他原因不明の心臓肥大として，特発性・家族性・糖原性心臓肥大がある。〔清水直容〕

しんぞうびょう【心臓病】血液循環のポンプの役割が十分でなくなって起こる心臓疾患の総称。おもな症状は心拍出量の減少と，血液の停滞である。血液の停滞には左心室疾患による肺鬱血(はいうっけつ)(→鬱血)と，右心室疾患による大循環系の鬱血とがあり，前者では呼吸困難・咳(せき)・喀血(かっけつ)などを，後者では肝腫大(かんしゅだい)・鬱血腎・浮腫などをきたす。原因はこれらの炎症・変性・外傷・腫瘍(しゅよう)・血行障害などが考えられる。肺循環は右・左の心循環にはさまれているので，心疾患は肺機能に，肺疾患は心機能にそれぞれ影響を及ぼし，後者を特に肺性心という。また心調律の異常を総称して不整脈という。心臓病で最も多くみられるのは，心臓弁膜症・高血圧性心疾患・冠動脈性心疾患などであり，先天性心奇形も比較的多い。その他心内膜炎・心嚢炎(しんのうえん)・心筋炎・心不全などがある。治療は原疾患によって異なるが，ジギタリス剤・利尿剤の投与，安静，酸素療法などが主要である。近年の心臓外科の進歩は，先天性のみならず後天性の心疾患に対しても予後を大きく改善している。なお，日本での死亡率は第3位である。〔清水直容〕

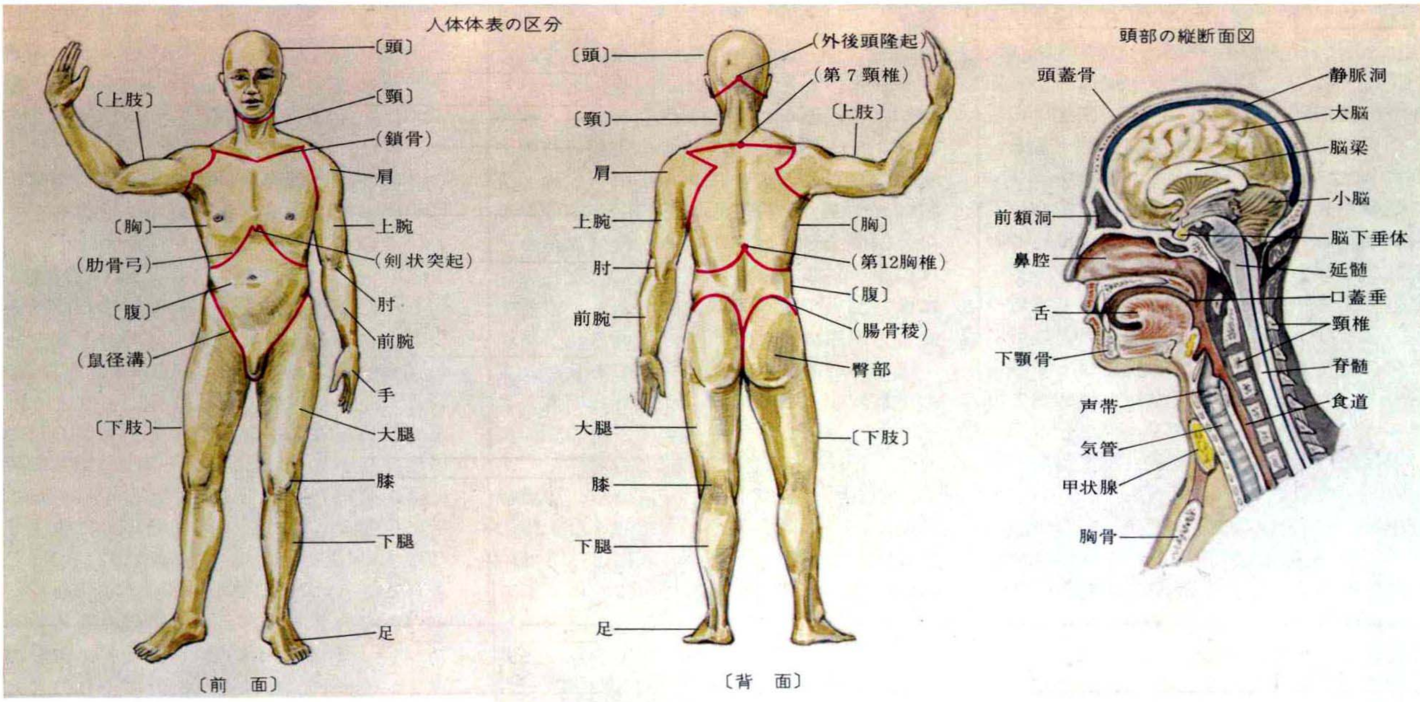
しんぞうべんまくしょう【心臓弁膜症】心臓*の各弁膜の一つあるいは同時に二つ以上が冒されて，その機能が十分果たせなくなる疾患。心疾患の中で最も頻度(ひんど)が高い(30〜40%)。弁膜には僧帽弁(二尖弁(せんべん))，大動脈弁，三尖弁，肺動脈弁があり，弁口の状態によってそれぞれ弁膜閉鎖不全と弁口狭窄(きょうさく)に分けられる。弁膜疾患中最も多いのは僧帽弁膜症(→僧帽弁膜不全症)で60%を占め，次いで大動脈弁疾患，三尖弁疾患，肺動脈弁疾患である。原因はリウマチ性・梅毒性・細菌性・動脈硬化性・先天性に分けられ，リウマチ性は若年の女性に多く，梅毒性は壮年以後，硬化性は老年に多い。診断は，動悸(どうき)・呼吸困難・咳(せき)・喀血(かっけつ)・浮腫(ふしゅ)などをきっかけとして，聴診で心雑音を発見し，心音図・心電図・胸部レントゲン検査などによって確定される。さらに弁口狭窄・閉鎖不全の程度を正確に知るために，心臓カテーテル*や心血管造影が行なわれることが多い。治療は対症療法を行なうが，根治するためには手術以外に方法はない。〔清水直容〕

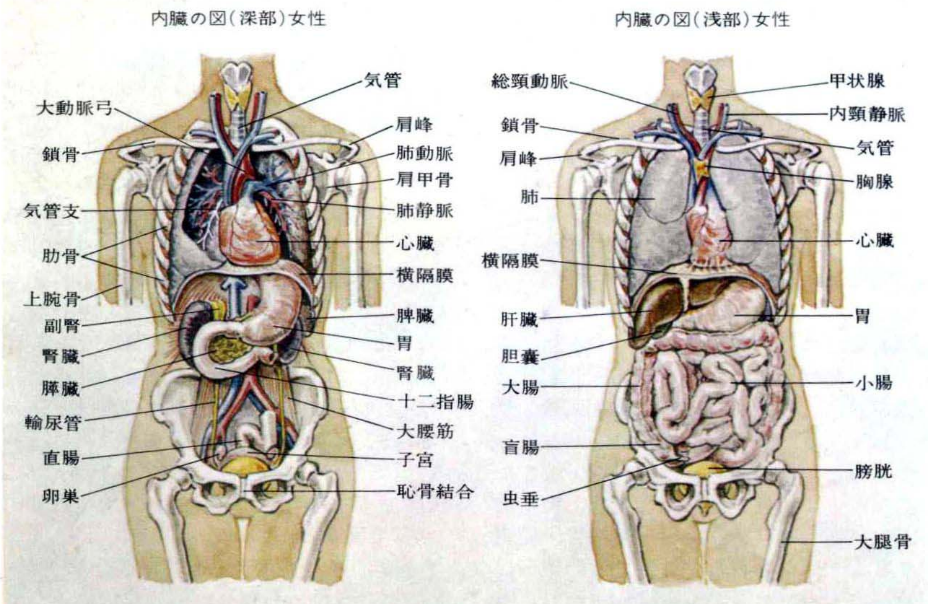
しんぞうまひ【心臓麻痺】急性に心臓*の搏動が止まること。心臓性の急死と同義に用いられるが，医学用語ではない。誘発する疾患の半数以上は心筋梗塞*(こうそく)によるもので，ほかに鬱血(うっけつ)性心不全・心筋炎・先天性心疾患などもある。前駆症状として，呼吸困難・狭心痛などがみられる場合もあり，過食・寒冷・精神的ストレスが誘因となることもある。急激な心臓の搏動停止には心マッサージが行なわれ，心室細動に対しては，電気除細動やペースメーカーの使用が行なわれつつある。〔清水直容〕

しんぞく【親族】血縁と婚姻とを基礎にして無限に広がる身分関係をいうが，民法は特に六親等内の血族，配偶者，三親等内の姻族*を親族としている(民法725条)。しかし，このように実定法上親族の一般観念を掲げ，これに一定の地位を与えるという立法例は他国にはほとんどみられないものであり，これはわが国家族制度の構造的特色(家族制度的同族結合)を法に反映させているものと考えられる。また，新民法は個人主義的な近代的家族法に改正されたのであるから，このような親族の一般的規定はその原理と矛盾することになるし，実際的にも親族であることの法律効果*はほとんどない。そのために民法725条の親族規定の廃止論が盛んである。血族とは生理的概念である血縁とは異なり，社会制度的概念であって，これには自然血族と法定血族の2種がある。前者は父系・母系を問わず，親子・兄弟姉妹・叔姪(しゅくてつ)・従兄妹などの直系・傍系の生理的血縁関係にある者をいい，後者は養子と養親およびその血族のように生理的血縁関係はないが，法律上血族とみなされる者をいう。嫡出でない子*とその父とは生理的血縁関係にあっても認知のないかぎりは血族でない。血族はまた直系・傍系および尊属・卑属に区別される。直系とは，男系・女系を問わず，父祖から子孫へ直通する関係をいい，たとえば，親と子，祖父母と孫などの関係がその例である。傍系とは，共同始祖から分かれた者の関係で，たとえば，兄弟姉妹・伯叔父母・甥姪(おいめい)・従兄弟姉妹などの関係をいう。尊属とは，自分の先祖およびそれらと同世代にある者をいい，たとえば，父母・祖父母は直系尊属であり，伯叔父母は傍系尊属である。卑属とは，自分の子孫およびそれらと同世代にある者をいい，たとえば，子・孫は直系卑属であり，甥姪は傍系卑属である。自己と同世代にある者，たとえば，兄弟姉妹・従兄弟姉妹などは尊属でも卑属でもない。尊属・卑属とは，もとより尊いとか卑しいとかの意味はないが，封建的家族制度の観念を植えつけることばであるため，ことばを改めるべきだという意見が多い。親等とは，親族関係にある者の親疎を図る等級である。その数え方は，直系血族間ではその間の世代数をそのまま計算し(したがって，親と子は一親等，祖父母と孫は二親等)，傍系血族間では数えようとする一方から両方の同一祖先に至るまでの世代数と，その祖先から他方に下るまでの世代数を計算して定める(したがって兄弟姉妹は二親等，伯叔父母と甥姪は三親等)。配偶者とは，婚姻の相手方を相互にいう。配偶者は血族でも姻族でもなく，その間に親等も尊卑もない。内縁*の夫婦は，相互に配偶者ではないから親族に含まれない。姻族とは，配偶者の一方と他方の血族との関係をいう。したがって，配偶者の一方の血族と他方の血族とは相互に姻族関係はなく，親族ではない。親族であることの効果は多方面にわたるが，いずれも親族のうちの一定範囲に限られ，親族一般に効力の及ぶものはきわめて少ない。その主要なものとしては，特定の親族間における扶養(民法877条以下)，相続(民法887条以下)，婚姻(近親婚)の禁止(民法734条以下)などがあるほか，刑法上，刑事責任の軽減(刑法105・244条)などがある。親族の発生原因は出生・婚姻・縁組み・認知などであり，消滅原因は死亡・失踪(しっそう)・離婚・離縁などである。〔黒木三郎〕

ジンタ　明治中期から大正時代にかけて，町中や映画やサーカスで演奏した楽隊。前奏のパターンが〈ジンタッタ，ジンタッタ〉と聞こえたことによるといわれる。楽器はコルネット・クラリネットや西洋の大太鼓などで，曲は軍歌・流行歌・行進曲であり，特に悲しい場面での《美しき天然》，楽しく忙しい場面での《天国と地獄》の使用は有名である。西洋流の和声を欠いた合奏という点では，今日のチンドン屋とともに，吹奏楽と異なる。〔徳丸吉彦〕

人　体





しんだい【寝台】 洋式の寝具。ベッドともいう。台上に就寝する形式で，シングルベッド・ダブルベッド・ツインベッド(シングルベッドを並べたもの)などがあり，様式から可動式・造りつけ式・二段式などがある。構造は木製と金属製とがあるが，金属製が多く，台上は弾性の金網張り・スプリングクッションを用いている。その上にマットレス・ベッドパッド(敷きぶとん)を重ね，それを幅の広いシーツでおおい，その端でマットレス・ベッドパッドを包み込む。床上に直接就寝しないので，塵埃(じんあい)を避けられて衛生的である。〔小川安朗〕

しんだい【真諦】 (499～569) 西インド出身の仏教者。インド名パラマールタ。中国，南北朝時代，梁(りょう)の武帝の招請によって535年中国に至り，梁末の乱世にかかわらず《金光明経》《倶舎論(くしゃろん)》《摂大乗論(しょうだいじょうろん)》など多くの仏典を漢訳した。中でも《摂大乗論》の翻訳は摂論学派の形成を促し，本格的な唯識仏教を中国に導入した。数多くの著作が伝えられるが，現存しない。

じんたい【靭帯】 脊椎(せきつい)動物では関節包の外側にあり(股(また)関節などでは内側にもある)，膠原(こうげん)繊維を主成分とする結合組織*のひも。牽引(けんいん)に対する抵抗力が強く，関節をつくっている骨が引き離されるのを防ぎ，またその運動の支点となって運動を一定の方向に導き，あるいは運動の範囲を制限する。足関節の付近には多くの靭帯があり過伸展によって離断することがよくある(→捻挫(ねんざ))。無脊椎動物の場合は蝶番(ちょうつがい)靭帯ともよばれ，軟体動物の二枚貝類の2枚の貝殻(かいがら)を連絡して，閉殻筋(貝柱)が貝殻を閉じる働きをするのに対して，貝殻を開く働きがある。

じんたい【人体】 ヒトのからだのこと。人体を調べる学問を大きく分けると，人体各部の構造を調べる解剖学と，人体の正常な機能を調べる生理学がある。

〔構造〕基本的には他の哺乳(ほにゅう)動物とあまり変わらないが，特に大きな差異は人類が直立姿勢をとり，大きな脳，高度に発達した視力，自由自在に使える手をもっていることなどである。直立姿勢をとったり，重い上体をささえるために発達した腰，さらに地面と水平の関節面をもつ膝(しつ)関節と足首にある距腿(きょたい)関節，また足の骨は弓状に連結し，足の甲に向かって隆起し，土踏まずをつくること，また身体を横から見ると軽くS状に湾曲した脊柱(せきちゅう)，それに付着した脊柱を起立させるために発達した固有背筋(脊柱起立筋)などが特徴的である。

人体は頭・体幹・体肢(たいし)からなり，その支柱をなすものは骨格であり，上から頭

蓋(とうがい)・脊柱・胸部・上肢骨・下肢骨がある。これらの骨には，関節を越えて筋肉が付着し，この伸縮によって運動が行なわれる。体幹をさらに頸部(けいぶ)・胸部・腹部に，上肢は上肢帯・上腕・前腕・手に，下肢は下肢帯・大腿・下腿・足に分かれ，体幹部に内臓がはいっている。生物体の生きた単位は細胞であり，同じ形態をもち，かつ同じ目的の機能をもつ細胞が集まって組織を構成している。組織には腺(せん)組織(上皮組織)・結合組織・筋肉組織・神経組織などがある。同じ目的にしたがって一定の配列を示す組織が組み合わさって胃や腸のような器官をつくる。さらに同じ目的にかなった器官が一定の構成をなして器官系をつくり，この器官系がいくつか集まって一つの個体ができあがる。

人体には骨格系・筋肉系・循環器系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系(→内分泌腺)・神経系・感覚器系があり，骨格系は200個あまりの骨が連結して身体の支柱をなし，筋肉系は筋肉からなり，骨に付着してこれを運動させる。この両者を合わせて運動器官系ともよばれている。循環器系は血液・リンパを循環させ，その中に栄養・老廃物・酸素・二酸化炭素・ホルモンなどを含ませて運搬する。心臓・脾臓(ひぞう)・リンパ節とリンパ小節・血管・リンパ管からなる。消化器系は食物を消化吸収して，その残渣(ざんさ)を排泄(はいせつ)させる。主として口腔(こうこう)・咽頭(いんとう)・食道・胃・小腸・大腸・肛門(こうもん)からなる1本の消化管と，それに付属する肝臓・膵臓(すいぞう)・唾液腺(だえきせん)など，消化液を分泌する消化腺からなる。呼吸器系は肺と，肺に酸素を含む空気を送り込む気道からなる。肺には無数の肺胞があり，酸素は毛細血管内にはいり，各組織でできた二酸化炭素は肺胞に排出させる。泌尿器系は老廃物を排泄する。これには腎臓・尿管・膀胱(ぼうこう)・尿道がある。生殖器系は種族を維持するためのもので，その形態・機能に性差がある。男性では精巣とそれに続く精巣上体・精管・精嚢(せいのう)・射精管・前立腺などより構成される。女性では卵巣と，卵管子宮・膣(ちつ)などから構成される。内分泌系はホルモンを分泌する。下垂体(→脳下垂体)・松果体・甲状腺・胸腺・副腎・膵臓のランゲルハンス島などがこれに属する。神経系は脳，脊髄からなる中枢神経と末梢(まっしょう)神経で構成される。末梢神経のうち運動神経は中枢からの命令を遠心的に骨格筋に伝え，運動を起こし，知覚神経は感覚器によってとりいれられた刺激を中枢に伝える。自律神経(→自律神経系)は中枢からの刺激を内臓に伝え，平滑筋の運動や腺の分泌の調節を行なう。感覚系は外界の刺激や体内の変化を感じとり神経繊維に伝える。これは視覚器・嗅覚器(きゅうかくき)・味覚器・平衡聴覚器・皮膚感覚器からなる。

人体内部には各所に腔所がある。頭部には骨で囲まれた頭蓋腔があり，中には髄膜に包まれた脳が存在する。また胸部には胸郭というかご状の骨組みがあり，この内腔を胸腔という。この中央に心膜に包まれた心臓があり，その両側には胸膜に包まれた肺がある。腹部の内腔を腹腔といい，横隔膜によって胸腔と境される。腹腔は腹膜で裏打ちされ，この中に胃・小腸・大腸・肝臓などがあり，間膜という内臓と体壁をつなぐ腹膜で固定されている。腹壁の後ろには腎臓・膵臓などがある。また骨盤腔の中には，男性では膀胱・直腸があり，女性ではこの両者の間に子宮・膣がある。

人体はいちおう左右対称性であるが，よく見れば左右の眼の大きさ，耳介の大きさと高さ，体肢の長さや太さに多少の相違がある。しかし内臓はほとんど非対称性である。すなわち心臓はやや左に偏し，脾臓は左側に，肝臓は右側に，また対をなす臓器でも完全な対称ではない。人によっては内臓の位置が完全に転位しているものもある。また人体は，性によっていろいろの相違がある。一次性徴すなわち生殖器の差，生殖器以外の特徴すなわち二次性徴の差(→性徴)，発育の早さの差などがある。

【発育】一般に女性は男性より早く発育するが，その発育は早く止まる。男性は女性より平均して身長・胸囲・体重が大である。また思春期になると男性・女性の体格の相違が認められ，特に女性では妊娠・分娩(ぶんべん)に備えて骨盤の発育が著しく，体全体の皮下に脂肪が沈着して丸みを帯び，また乳房が発達してくる。男性は全身の筋肉が発達し，特に肩の発育が著しい。発育の速度は一様ではなく，身長は6歳ぐらいまでが最も著しく，一時発育速度はおそくなるが，14～15歳ぐらいから再び速くなり，20歳過ぎにだいたい発育は止まる。発育は部分的にも差があり，新生児の身長は頭長の約4倍(4頭身)であるが，2歳ごろには約5倍(5頭身)，6歳ごろで約6倍(6頭身)，12歳ごろで約7倍(7頭身)，25歳ごろで約8倍(8頭身)となる。

【体型】クレッチマーは，細長型・闘士型・肥満型の3型に分類し，細長型は身長が平均以上あるが体重は少なく，筋肉の発達が悪い。闘士型は身長が平均以上で骨格はたくましく，全身の筋肉もよく発達している。肥満型は身長が平均以下の者が多く，脂肪が多くて全身がずんぐりしている。以上の体型の差は内分泌器官の働き，すなわちホルモン分泌の程度の差も関係しており，単に骨や筋肉の発達の相違だけで決まるものではない。

【機能調節】人体はホルモンと神経によって機能が調節され，ホルモンは内分泌腺より分泌されて，血行を介して標的器官に運ばれ，ここではじめてその機能を果たす。神経の機能は，動物性機能と植物性機能に分けられ，動物性神経は骨格筋を支配し，運動を起こし，感覚器からの情報を中枢，特に大脳皮質に伝えて意識を起こす。植物性神経すなわち自律神経は，交感神経と副交感神経からなり，この両者は一つの内臓を二重に支配し，互いに拮抗(きっこう)的に働く。たとえば交感神経は心臓の機能をたかめ，昇圧，頻脈(ひんみゃく)を起こし，消化器などの内臓の機能を抑制する。副交感神経は心臓の機能を抑制し，降圧，徐脈を起こし，その他の内臓の機能をたかめる。

〔幡井勉・石塚寛〕

しんたいけんさ 【身体検査】⇨健康診断

じんだいこ 【陣太鼓】 軍勢の進退を合い図する太鼓。一説に，1184年(寿永3)源義経(よしつね)が木曾(きそ)義仲を討ったとき，平等院から太鼓を取り寄せて打ち鳴らしたのにはじまるという。戦国時代の集団戦闘には，全軍の進退をこれでさしずしたため，特に重要視された。陣中ではわくにすえてたたき，《長篠(ながしの)合戦屛風(びょうぶ)》に見られるようにわくに屋根をつけて背負う行軍用のものもあった。江戸時代に北条(ほうじょう)流・甲州流・山鹿(やまが)流などの軍学の諸家が生まれ，それぞれ流派により打ち方に規定が設けられた。〔稲垣史生〕

しんだいさんき 【新第三紀】 地質時代のうち，新生代の第三紀を2分したあとの時代。古第三紀のあと，第四紀のまえ。約2,600万年前から約200万年前までの約2,400万年の期間。新第三紀の名称は化石群が新しい形のものであることを意味し，1856年ヘルネスによって提唱された。古いほうから中新世・鮮新世に2分される。新第三紀の地層の標準地域はフランスの南西部，スイス・オーストリア，イタリアの北部である。新第三紀では現生生物が出現し発展した。動物界は古第三紀に比べていっそう現代的になった。特に哺乳(ほにゅう)類では分化が著しく，現代的なタイプが出現した。有蹄(ゆうてい)類と食肉目の発展が顕著で，前者では長鼻目と偶蹄目がこの時代になって全盛をきわめた。大形の有孔虫類では貨幣石がすでに絶滅しており，これに代わってミオジプシナが栄え，また小形の有孔虫類の仲間が優勢になった。ウニ類は中新世に属種が多く，巻き貝のトゥリテラや二枚貝のペクテンは世界的に豊富である。植物界は古第三紀と大差なく，双子葉植物が優勢であり，新第三紀にはいってから草本類が急激に増加した。気候は古第三紀と同じく中新世は温暖であったが，鮮新世になると次第に寒冷に向かった。海進は中新世前・中期に最も大規模に行なわれた。新第三紀は地殻(ちかく)変動の激烈な時代であった。古第三紀またはそれ以前に主要造山期をもつアルプス山脈・ヒマラヤ山脈・北アメリカコルジレラ・南アメリカアンデスなどの大山系は新第三紀にはいってから著しく隆起した。西太平洋の弧状列島では火山活動が

盛んであった。〔田中啓策〕

しんだいさんけい【新第三系】⇨新第三紀

しんたいし【新体詩】明治初期，新時代の思想や感情を表現しうる形式を求めて，西洋詩の精神と形式をとり入れて開発された詩形式。新体とは，旧来の漢詩・和歌・俳句などに対していう。外山正一(とやままさかず)らの詩集《新体詩抄*》をはじめとし，湯浅半月の《十二の石塚(いしづか)》，山田美妙*らの《新体詞選》，落合直文(なおぶみ)の《孝女白菊の歌》などが試みられ，森鷗外*(おうがい)らの訳詩集《於母影(おもかげ)》ではじめて芸術的に昇華された。以後中西梅花の《梅花集》や北村透谷*や島崎藤村*らの清新な叙情性や思想性をもった作品が生まれ，特に藤村の《若菜集*》に至り画期的な近代詩の完成をみせた。〔源　五郎〕

じんだいじ【深大寺】東京都調布市深大寺町にある天台宗の寺。天平年間(729～748)満功上人の開基と伝えられているが，奈良時代にはすでに建立(こんりゅう)されていたとも考えられる。寺宝の金銅仏釈迦(しゃか)如来倚像(いぞう)は関東唯一の白鳳(はくほう)時代の作。梵鐘(ぼんしょう)には永和2年(1376)の刻銘がある。大師堂にまつる厄除(やくよけ)の元三大師は多くの信仰を得ている。毎年3月3日に境内で行なわれるだるま市は有名。

しんたいししょう【新体詩抄】詩集。1882年(明治15)刊。外山正一(とやままさかず)・矢田部良吉・井上哲次郎の合著。従来の和歌・漢詩に代表される詩を離れ，西洋の詩(ポエトリー)の概念を移入し，新詩を形成しようとした意図をもち，イギリス・フランスの翻訳詩(14編)，著者らの創作詩(5編)が収められた。芸術的価値はあまり高いものとはいえないが，啓蒙(けいもう)的意義は大きく，新体詩運動を起こし，のちの浪漫詩運動を導いた。

しんたいしょうがいしゃ【身体障害者】身体の一部に治療不能の障害を遺残している者をいう。たとえば視力障害者から手や足の指の欠損者も含まれる。先天性の場合も後天性の外傷による場合もあり，労働災害による障害は四肢(しし)切断の1級から指の機能障害の15級まで分けられている。近来，身体障害者の更生施設が発達してきたが，まだ欧米には及ばない。

しんたいしょうがいしゃふくし【身体障害者福祉】遺伝・災害・疾病(しっぺい)などによる盲聾唖者(もうろうあしゃ)・肢体(したい)不自由者・肺結核患者など身体障害者*の保護・更生を援助すること。わが国における身体障害者の福祉対策は身体障害者福祉法に基づくものと，そうでないものの二つが考えられる。後者については，1871年(明治4)日清(にっしん)・日露両戦争で発生した戦傷病者に対する陸軍下士官兵卒給俸(きゅうほう)諸規則，1874年の太政官(だじょうかん)布告による恤救(じゅっきゅう)規則，1890年の軍人恩給法，1906年の廃兵院法があり，さらに1918年(大正7)軍事救護法，1923年恩給法(軍人恩給法を吸収)が制定され，また1923年の関東大震災による身体障害者の発生から，政府は身体障害者のための特別の施設をつくり，職業訓練を開始した。昭和にはいり，1937年(昭和12)改正軍人法が公布・実施され，1938年傷兵保護院，1939年軍事保護院が設立された。

以上のように傷痍(しょうい)軍人・軍属などに対する医療・訓練・職業補導などの援護措置は優先的かつ強力に推し進められたが，一般身体障害者に対しては生活困窮者にのみ適用された救護法(1929年制定，1932年実施)のほかは少数の民間社会福祉団体による活動があったにすぎない。第2次世界大戦後，GHQ*の強力な示唆のもとに軍人優先の施設はすべて廃止され，旧傷痍軍人の生活苦が一般化したことや，一般世論の高まり，憲法の制定実施などの影響から，1949年に身体障害者福祉法が制定(1950年4月1日施行)された。この法律は，身体障害者がその障害を克服し，すみやかに社会・経済活動ができるように更生を援護し，必要な保護を行なって障害者の福祉を図ることを目的とし(同法1～3条)，また身体障害者の自立更生への努力と，差別的取り扱いの禁止を規定してはいるが，保護の受給権は明白ではない。また，対象者は18歳以上の視覚・聴覚・平衡機能・音声・言語障害者と肢体不自由者，それに1967年の改正により内面的機能障害者も含め，都道府県知事または指定都市の市長から，身体障害者手帳を受けた者としている(同法4条)。援護の実施機関は身体障害者福祉司を置く福祉事務所であり，判定機関は身体障害者更生相談所である。福祉の措置としては指導啓発，手帳の交付，援護施設への収容または利用，更生相談，更生医療の給付，補装具の交付または修理などがある。身体障害者の職業に関しては，身体障害者雇用促進法(1960)，労働者の業務上の災害に対する労働者災害補償保険法(1947)があり，戦傷病者に関しては戦傷病者戦没者遺族等援護法(1952)がある。今後は庇護(ひご)雇用(作業訓練施設，庇護雇用施設，家庭作業・内職)の充実に関連してリハビリテーション*に重きを置く対策が必要である。なお身体障害者福祉に関する国際間の協力としては，世界保健機関*(WHO)およびILO*(国際労働機関)その他国際肢体不自由者福祉連合会(ISWC)，世界ベテラン連盟(WVF)などがある。〔椿　輝男〕

しんたいせいうんどう【新体制運動】1940年(昭和15)近衛文麿*(このえふみまろ)を中心に進められた政治運動。同年7月第2次近衛内閣成立前後から，近衛らはドイツ・イタリアにならい，一国一党の新党結成を志し，長期化した日中戦争，第2次世界大戦開始後の激動する世界情勢にのぞむ完全な戦時下体制を国内に打ち立てようとした。各政党はあいついで解党し，各界の指導者代表が参加した新体制準備会を経て，10月大政翼賛会*が組織された。産業界は戦時労働統制強化をめざし，各労働・農民組合は解散され，職域組織として大日本産業報国会*が発足し，各市町村には町内会・隣組など地域組織を設置した。しかし軍・新官僚の政治指導や経済新体制に政界や財界は不満を抱き，さらに支配階級は国民の厭戦(えんせん)的感情が国民組織の結集化で表面化することに不安を感じ，そのため大政翼賛会は政治組織としては発足しえず，単に精神的な国民運動体として出発し，経済新体制は大幅な修正をみた。一般国民もはじめは新体制運動に清新な期待を寄せたが，日常生活にまで統制を強めるその官僚支配に失望した。〔高崎徳次〕

しんたいへんこう【身体変工】多くの未開民族の間で，身体になんらかの恒久的な変工を人為的に加えることをいう。変工の目的，変工を加える部位，変工の技術や随伴する物具などきわめて多様である。目的としては，割礼*によって代表されるような呪術(じゅじゅつ)宗教儀礼的なものと，単なる装飾用のものとに大別できる。変工部位からは，頭蓋(とうがい)変形，抜歯や歯牙(しが)変工，纏足*(てんそく)などの骨部に施されるものと，皮膚への入れ墨*や瘢痕(はんこん)文身などの身体軟部に施されるものに区別できる。また技術的にはいろいろな類別ができようが，割礼や入れ墨のように物具を伴わないものと，鼻飾りのように物具を必要とする変工とに分けることができよう。成年式や成女式で身体変工がなされるのはきわめて一般的で，中でも割礼は広くみられる。割礼は，ユダヤ教徒やイスラム教徒にみられるように若干の文明民族にも残り，現在では必ずしも成年式と結びついていないが，成年・成女式に結びついた割礼はオーストラリアと東アフリカに最も顕著である。同様にこの地域では，成年・成女式に結びついた抜歯や歯牙変工が広くみられ，たとえば東アフリカのケニアのバンツー系の農牧民チャガ族では，下顎(かがく)門歯2本を抜き，上顎の2本の門歯を左右に開くし，南東アフリカの農耕民バトカ族や南西アフリカの牧畜民ヘレロ族では，逆に上顎門歯を抜く。これらは，若者の体内に宿る精霊に呼吸の道をあけるのだという。抜歯は少女に対してなされることも少なくなく，抜いた歯は神聖なものとしてていねいに扱われる。台湾北西部のサイシァト族では抜歯が初潮儀礼で，これによって結婚資格を得ることになる。ベトナムのモイ族の鋸歯(きょし)のように，歯根部まで切り削って針先のように変工する例は東南アジアによくみられ，特に成年式に結びつくとはかぎらない。バリ島などには，職業的な施術師がいて，この種の変工がかなり行なわれている。

頭蓋変形はかなり古くから種々の目的で行なわれたようで，各地の出土頭骨や古代の彫刻・絵画などでみることができる。他方，育児様式など生活事情から生じたものもあり，この場合では後頭部の扁平化が多い。古代ヨーロッパ(古ハンガリー)や古ペルー人では後頭部を引き伸ばしたものがみられ，同様なものはメキシコの古代彫刻などにもみられる。纏足は，かつて南中国のおもに上流階級婦人に流行した足の変形である。入れ墨は身体軟部の変工として古今東西に最も広くみられるもので，中でも未開発民族の間で一般的なのは，皮膚に切り傷の模様をつけ，灰などをすりこんで瘢痕を残す瘢痕文身である。ボルネオ島サラワクでは，思春期前の少女の皮膚に煤(すす)で模様を描き，先の鋭いノミをあて，その頭をつちで何度もたたいて染料をしみこませるので，非常な苦痛を伴い，しかも何度もただれや化膿(かのう)をくり返し，長い年月をかけて仕上げる。アフリカの女性にもこの種の装飾用の瘢痕文身が多い。東アフリカのスーダン南部の牧畜民ヌエル族では，若者は額に6本の横線を刻みつけるが，娘は額にはつけず，また男は胸や肩・背にもつけるが女は腹部だけである。なお，戦士としての若者の正装では，額に白灰を塗り，それをポマードのようにして髪を塗り固めて整髪する。

このように，地域や部族によって男女・世代による変工部位の違いが若干みられるが，もちろん一般的には，特に目だつ傾向のちがいはない。入れ墨が成年・成女式など通過儀礼*と結びつく事例はきわめて多いが，単なる装飾的な場合も少なくない。ある程度美的な入念なものでは，ニュージーランドのマリオ族の入れ墨などがあるし，その他，身近なものでは，アイヌ人の入れ墨もよく知られている。やや特殊な身体変工としては，鼻梁先端部や耳殻(じかく)・口唇に変工するものがある。ニューギニアやその周辺のメラネシアでは，鼻中隔に動物のきばや骨を穿通(せんつう)させて装飾する部族があるし，アフリカのサハラ砂漠(さばく)東限のチャド湖付近のスーダン系部族では，耳殻に穴をあけ，耳飾りをはめこむ。ボルネオのダヤク族の娘は，耳垂部に金属製の耳輪をいくつも穿通させ，その重みで耳殻を長く変形させている。先のチャド湖付近の若干の部落では，上下口唇部に金属製の輪をはめこんで異様な口唇変形をして装飾にしている。このように，なんらかの物具を付着させたままで変形している例で極端なものに，ビルマ奥地の古モンゴル系部族にみられる，金属製首輪をいくつも積み重ねて後天的に首を長くしているのがある。また，随伴する物具はないが，やはり極端な異形変工として，中央オーストラリア未開人の下腿前部の変工とか，有名な南アフリカ，カラハリ砂漠の狩猟採集民ブッシュマンや原始的な牧畜民ホッテントットの脂臀(しでん)(ステアトピギー)などがある。脂臀は，別に人為的になされたものでなく，思春期から婦人に目だつ第二次性徴で，脂肪が多量に臀部に沈着するものである。この種のタイプは，白人の肥満形の中年婦人にも時おりみられるが，同じ系統のものかどうか明らかでない。このようなものは後期旧石器時代の遺跡出土品の女人像にも認められる。〔高橋統一〕

じんだいもじ 【神代文字】 鎌倉時代中期に，卜部兼文(うらべかねふみ)がわが国の神代にすでに文字があっただろうと言い始めた。江戸時代中期に至り，復古思想にのって各種の神代文字説が現われた。中でも平田篤胤(あつたね)の日文(ひふみ)や鶴峰戊申(つるみねしげのぶ)の天名地鎮(あないち)文字が代表的なものだった。また，落合真澄(おちあいますみ)には《日本古代文字考》があり，諦念の〈いろは〉の神代起源説もあったが，これらを含め，すべてかなあるいは朝鮮の諺文(おんもん)(ハングル)の字形を変えただけのもので，上代の万葉がなにはあってのちになくなった清濁の別や甲乙両類(つまり8母音)の別を失っているところからみても，偽作であることは疑いなく，早く貝原益軒・本居宣長(もとおりのりなが)・伴信友(ばんのぶとも)・新井白石らの諸家によって否定されている。単語文字による説がないことは注目される。〔日下部文夫〕

しんたいよう 【真太陽】 平均太陽*という仮想の太陽に対して，実際の太陽のこと。地球は太陽の回りを楕円(だえん)運動しているので，真太陽が黄道上を動く速度は一様でない。また，地球の軌道が円であったとしても，地球の自転軸は黄道に対して約23.5°傾いているので真太陽は一様に天球上を動かない。このため，真太陽を基準にした1日の長さは毎日少しずつ変化する。このため赤道上を一様の速さで動く仮想の平均太陽が考えられた。〔木下　宙〕

しんたいようじ 【真太陽時】 視太陽時ともいう。真太陽*をもとにして決まる太陽時*で，真太陽の時角*に12時間を加えた値で定義される。日時計が示す時刻に相当する。真太陽は赤道と約23.5°傾いた黄道上を一様でない速さで運動しているため，真太陽時は一様に流れず，遅速があるので時をはかる方法としては実用的ではない。そのため平均太陽時*が考え出された。真太陽時から均時差*を減じたものが平均太陽時である。

しんたいようじつ 【真太陽日】 真太陽*が子午線を通過してから翌日また同じ子午線を通るまでの時間。真太陽は赤道と約23.5°傾いた黄道上を一様でない速さで動いているので，真太陽日の長さは日によって異なる。1日の長さが1年を通じて一定でないのは実用上たいへん不便なので，日常生活では真太陽日を平均した平均太陽日*が1日の長さとして使われている。

しんたいりく 【新大陸】 南北アメリカとオーストラリアをいい，南北アメリカは1492年にコロンブス*によって発見され，オーストラリアは1606年にオランダ船ズーイフクンがはじめて接岸した。ヨーロッパ人にとっては新しい大陸なので，このようによぶ。新世界ともいい，1516年にイタリアの歴史家P.マルティーがはじめてこの呼称を著書に使ったが，このときにはもちろんオーストラリアは含まれていなかった。

しんたく 【信託】 自分の財産を信頼のできる他人に委託して，自分または自分の指定する人のために，その財産の管理運用を依頼すること。財産を委託する委託者，その委託を受ける受託者，信託の目的とする利益を享受する受益者の3者からなるが，受託者には，大きな組織と信用力のある金融機関(信託銀行*)があたっている。なお，銀行が信託業務を兼営しているものは信託兼営銀行とよばれる。信託には金銭信託・貸付信託・動産信託・不動産信託・金銭債権信託・有価証券信託などの種類があるが，一般には，金銭信託*・貸付信託*・有価証券信託の形で最も利用される。〔池内得二〕

しんたく 【神託】 神が人や物に憑(よ)り移って，意志や吉凶などを宣(の)べ示すこと。夢に託して神のお告げが語られる場合もあり，ときには神自身がその形を現わして託宣する例もみられる。《古事記》《日本書紀》をはじめとして国史上の記録中には多くの神託が載せられている。故意に神託を詐称する場合も往々にしてあったようで，神託に対して検察や禁制が加えられたこともある。〔土岐昌訓〕

また古代ギリシアにおいて，神の預言を求める者に対し，その神に仕える巫女(みこ)または神官が神のことばとして語ったもの。ドドナの神託所におけるゼウスの神託は最も古く，ホメロスの作品中にも言及されている。アポロン*の神託は中部ギリシアのデルフォイの神殿で与えられ，〈デルフォイの神託〉として全ギリシアでとうとばれた。デルフォイではピュティアとよばれる巫女が，三脚のかなえの上にすわり，忘我の状態のうちに神の預言を伝えた。最初，神託は神々の怒りをいかに静めるかといった宗教的な事がらに関して求められるのが普通であったが，のちには軍事・植民などの政治的な問題に対しても，大きな影響を及ぼすようになった。〔黒田杏子〕

しんたくぎんこう 【信託銀行】 信託*業務を主要業務とし，普通銀行業務を付随業務としている銀行。第2次世界大戦後，戦前の信託会社のうち普通銀行*に合併しなかった会社が転換して，信託銀行と名のった。現在，7行(三菱(みつびし)・住友・三井・安田・東洋・中央・日本)の信託銀行があり，このうち日本信託銀行は普通銀行業務を主業としている。信託業務を分けると，貸付信託*・金銭信託*・年金信託・有価証券信託・証券投資信託・動産および不動産信託など

であるが，預金も取り扱う。このうち貸付信託の比重が大きく，これを貸し出しと有価証券投資に運用するのを主としており，固有の意味での信託業務の比重は小さい。〔速水　保〕

しんたくとうち【信託統治】国際連合*の監督の下に施政国が行なう統治。国際連盟の委任統治*の後身。信託統治地域とされるのは，①国際連合の発足のときに委任統治の下にある地域，②第２次世界大戦の結果，敵国から分離された地域，③施政国が自発的にこの制度の下におく地域，である(国連憲章77条)。信託統治制度の目的は，①国際の平和および安全を増進すること，②信託統治地域の住民の政治的・経済的・社会的および教育的進歩を促進すること，地域および人民の事情に応じて，自治または独立に向かっての住民の漸進的発達を促進すること，③人種・性・言語または宗教による差別なく，すべての者のために人権および基本的自由を尊重するように奨励し，かつ世界の人民の相互依存の認識を助長すること，④すべての国際連合加盟国およびその国民のために社会的・経済的および商業的事項について平等の待遇を確保すること，である。統治の内容は，統治を行なう施政国と被統治地域との間で締結される信託統治協定によるが，一般には施政国が自国の領土と同じように統治することが認められている。施政国は原住民の福祉や利益を保護し，またその独立に向かっての発達を促進することを義務づけられており，この点委任統治に比してより考慮が払われている。監督機関としては，国際連合総会と信託統治理事会*があたり，施政国の提出する年報を審査し，また住民からの請願を受理・審査し，定期的に視察を行なう。委任統治に比して，信託統治に最も特徴的なことは，施政国に信託統治地域の軍事的利用権が認められたことと，特定の地区を戦略地区に指定して安全保障理事会*の監督下におき，安全上の理由によっては閉鎖地域を設けて年次報告の義務をのがれ，住民の請願などを制限できることである。現在，委任統治の旧Ｃ式地域の一部(ニューギニアはオーストラリアが施政国，南洋諸島はアメリカが施政国)だけが信託統治制度の地域として残っており，この制度の役割はほぼ終わりつつある。〔広部和也〕

しんたくとうちりじかい【信託統治理事会】信託統治*制度の任務に携わる国際連合の主要機関の一。国際連合の信託統治制度について，その統治・監督にあたる機関は，戦略地区については安全保障理事会*，それ以外の地域については総会である。理事会は，総会の権威の下に，その監督的機能を分担する。施政国の報告書，信託統治地域住民の請願を受理してこれらを審議し，信託統治協定にしたがって定期的に視察を行なう。理事会は次の加盟国で構成される。①信託統治地域の施政国，②安全保障理事会の常任理事国で施政国でない国，③３年の任期で総会の選挙する加盟国，ただしその数は①から②を差し引いた残りとする。したがって理事国の総数は一定していない。表決手続きは，理事国が各１個の投票権をもち，出席しかつ投票する理事国の過半数による。➔国際連合〔広部和也〕

シンタックス［syntax］元来は文章論・統語論などといわれ，文章構成法あるいは言語の結合の規則などに関する文法学の一部門。論理実証主義の哲学者カルナップ*はこれをロジカル-シンタックス(論理的シンタックス)としてとらえ，ある記号の意味などを無視して，記号と記号との関係，言語記号の種類や順序だけを研究領域とした。彼はすべての哲学的問題はシンタックス的問題に帰すべきだと主張した。➔記号論

しんたん【浸炭】鋼部品の表面層の炭素含有量を増加させるため，浸炭剤中で適当な温度で時間加熱する操作をいう。使用する鋼材の炭素量は0.2%以下の低炭素鋼で，浸炭したのちは表面だけかたく，内部は靭性(じんせい)が高い。なお，浸炭剤の種類によって固体浸炭・液体浸炭およびガス浸炭という。浸炭はセメンテーションとよばれることもある。

しんだん【診断】医師が患者を診察・検査し，いかなる疾患に罹患(りかん)しているかを医学的に判断・決定すること。最近はその患者の予後，治療方針の決定までも広く含めるようになった。診断の過程は，まず問診により現在罹患している病気について，そのはじまりや経過を聞き(現病歴)，次に過去に経験したことのある病気の種類・経過を聴取し(既往歴)，患者の状態を外面からよく観察し(視診)，よく触れてその形状，圧痛の有無などを確かめ(触診)，指でたたいてその響きを観察し(打診)，聴診器で体内に発する音を聴取(聴診)して理学的診察を行ない，必要に応じてＸ線検査・心電図検査・血液検査・尿検査など各種の検査を行なう。最後にこれらを総合して病名をつける。場合によっては経過を観察し，治療効果をみたうえで診断を下す場合があり，これを治療的診断という。〔佐野隆志〕

しんだんしょ【診断書】医師が患者を診断した結果を記載した証明書類。患者の症状，病名，予後の見通しなどを記載するほか，日常生活の規則や治療上の見解を記載することがある。したがって診断書は，医師が発行する公文書的性格をもつもので，患者の住所，氏名，生年月日または年齢，発行年月日，医師または医療機関の住所・氏名などを明記し，その内容に偽りがあってはならない。

しんたんなトンネル【新丹那トンネル】東海道新幹線の熱海〜三島間に建設された長さ7,959ｍの複線型鉄道トンネルで，在来の東海道本線の丹那トンネルの北側約50ｍをほぼ平行に走る。かつて東京〜下関間に計画された弾丸列車の建設のため1941年(昭和16)に着工されたが，1943年に中止され，1959年には新幹線建設のため工事が再開され，1964年に開通した。

しんだんやく【診断薬】人または動物の病気を診断するために使われる薬品。いわゆる臨床診断および検査の手段のために用いるもので，臓器のＸ線造影剤・皮内反応診断薬などのように直接生体内に適用するものと，生体外の排泄物(はいせつぶつ)(尿・糞便(ふんべん)・痰(たん)など)を用いたり，血液・胆汁(たんじゅう)・胃液・脳脊髄液(のうせきずいえき)などを取り出し，これらの材料から病原菌の検出，生体内の機能・状態および変化を検査する手段に使われる生体外適用剤とに二大別することができる。前者は純然たる医薬品であるが，後者の中には科学的データを出すためのものや，細菌染色剤などのように試薬的性格のものも多数見受けられる。これ以外に病気ではないが，血液型または妊娠の判定に用いるようなものも含まれる。〔江本龍雄〕

しんちかくしん【心地覚心】(1207〜1298)鎌倉時代の臨済宗の僧。信濃(しなの)(長野県)の人。俗姓は常澄氏。諡(おくりな)は法燈禅師，法燈円明国師。15歳で神宮寺に入り，のちに高野山で密教を，また，退耕・道元*らに禅義を受け，鎌倉・京都に参禅した。1249年(建長１)入宋(にっそう)し，心印を受けるとともに尺八を学んで帰り，高野山にはいった。のち紀伊(きい)(和歌山県)西方寺の開山となり，亀山(かめやま)天皇・後宇多上皇に召されて再度入洛(にゅうらく)して，禅要を説いた。後世普化宗(ふけしゅう)の祖とされる。〔田中良昭〕

しんちゅう【真鍮】⇨黄銅

しんちょう【新潮】文芸雑誌。1904年(明治37)５月創刊。1896年(明治29)創刊の《新声》の後身として佐藤義亮(ぎりょう)が再度発刊したもので，最初は投稿雑誌の傾向をもっていたが，真山青果*を世に送り，〈国木田独歩追悼号〉(1908)の成功などで文壇的地位を固め，大正期には新感覚派*・新興芸術派*と結んで《文芸*》《文学界*》と肩を並べるまでに成長，代表的な文芸雑誌として今日に至っている。新潮社発行。

しんちょう【身長】身体の長軸の発達を示す値で，体重と並んで代表的な身体計測値。人間が直立した場合の頭頂から床面までの垂直距離で表わす。骨測定であるために，後天的因子あるいは外部環境により比較的影響されにくいといわれ，発育・体格・栄養状態の指標として使われる。また，遺伝因子・内分泌腺(ないぶんぴせん)の影響が強い。日差が大きく，午前は午後より身長は長く，起床時は夕刻より１〜２cm(平均1.5cm)長いという成績もある。また，過激な運動直後には短縮する。したがって，身長の定期的な計測では一定時間に測定し，ばらつき

を少なくさせる。　〔金子義徳〕

しんちょうき【信長記】 正しくは《信長公記》という。《安土記》ともいう。織田信長(おだのぶなが)の一代記。織田家の右筆(ゆうひつ)太田牛一(ぎゅういち)著。全16巻。1600年(慶長5)ごろ成立。信長の幼時から入京までを首巻とし，1～15巻は1568～1582年(永禄11～天正10)までの信長の政治・軍事活動を1年1巻に記述されている。《川角太閤記(かわすみたいこうき)》とともに安土桃山時代の好史料である。

じんちょうげ【沈丁花】 双子葉植物・ジンチョウゲ科。チンチョウゲともいう。中国原産の常緑低木で高さ1mほど，観賞用に庭に植えられる。基部から多数の枝を出して密に茂り，半円形の樹姿となる。葉は倒披針(とうひしん)形で，長さ5～9cm，厚くて光沢がある。春早く，枝の先に頭状に多数の花が集まって咲き，芳香がある。がくは筒状で先が四つに分かれ，花弁状をなす。がく片の外面は赤色，内側は白色であるが，外側も白色のものがある(シロバナジンチョウゲ)。雌雄異株で，日本に植えてあるものはほとんど雄株なので果実をつけないが，まれに赤色液果をつける雌株がある。枝の靭皮(じんぴ)繊維はじょうぶで，容易にちぎることができない。種々の園芸品種がある。

しんちょうこくじ【新長谷寺】 神奈川県鎌倉市長谷(はせ)にある浄土宗の寺。長谷観音・長谷大仏の名で知られている，長谷寺の本尊を模刻した十一面観音立像が安置してある。室町時代の作と考えられる像高9.18mの巨像で，観音と地蔵との合体像であるため，右手に錫杖(しゃくじょう)，左手に水瓶(すいびょう)を持つ。寺の歴史の詳しいことは不明であるが，弘長2年(1262)の銘を有する板碑や梵鐘(ぼんしょう)・懸仏(かけぼとけ)などを有する。　〔永井信一〕

しんちょうせいちょう【伸長生長】 頂点生長ともいう。茎・根の先端部における分裂組織細胞による軸方向への生長。この細胞の伸長(長さの増加)は細胞壁の伸長が必須(ひっす)条件であるが，植物生長ホルモンがこの膜の伸長に関係している。

しんちょくせんわかしゅう【新勅撰和歌集】 第9番めの勅撰和歌集。後堀河(ごほりかわ)天皇の勅命により藤原定家が単独で撰進。1232年(貞永1)10月に仮名序と目録だけを形式的に奏覧し，1234年(文暦1)に仮奏覧，院の崩御による中断ののち，1235年(嘉禎1)3月に完成した。歌数1,374首。承久の乱後の政治情勢を反映して武士の歌が多く，〈宇治川集〉と異名されたという。撰者定家はすでに老境にあり，美意識もやや変化していたので，《新古今和歌集》に比べて全体的に平淡な味わいが濃くなり，主情的な作品がふえている。　〔佐藤恒雄〕

シンチレーション〔scintillation〕 光のまたたき，または一般に光点が瞬間に強く輝くこと。また放射線が螢光(けいこう)物質にあたって螢光を発する現象。荷電粒子の電離作用に伴って，粒子のエネルギーの一部が物質に吸収され，その物質が短時間，局所的に発光するもので，このような物質をシンチレーターという。無機シンチレーターには硫化亜鉛などの硫化物，タリウムで活性化したヨウ化ナトリウムのようなアルカリハロゲン化合物の単結晶などがあり，有機シンチレーターにはアントラセン・ナフタレン・スチルベンゼンなどの結晶などがある。また，この現象を用いた放射線計数管をシンチレーションカウンターという。ラザフォードらは，硫化亜鉛がα粒子によって螢光を発することを用いて初期の原子核実験を行なった。　〔福井崇時〕



ジンチョウゲ

しんちんたいしゃ【新陳代謝】 ⇨物質代謝

じんつう【陣痛】 分娩(ぶんべん)に際し，不随意に起こる周期的な子宮の収縮で，つねに痛みを伴う。10～15分おきに強い痛みがきたときが，陣痛開始と考えられている。はじめは陣痛の起こる間隔が長く，その発作は弱く短いが，分娩が進むにしたがって間隔は短くなり，発作は強く，長くなる。この陣痛と産婦の腹圧(いきみ)が相伴って娩出力(胎児を娩出させる力)となる。陣痛の痛みの感じ方は人によって異なる。

じんづうがわ【神通川】 富山県中央部を北に流れ，富山市を過ぎて富山港で富山湾に注ぐ。上流は岐阜県北部，飛騨(ひだ)山地の水を集めて流れる宮川で，飛騨山脈西南部に発する高原川が県境で合流して神通川となる。流程120km。上流は清流をもって聞こえ，また高原川は峡谷美で知られ，ことに日本アルプスに食い込む双六谷(すごろくだに)や蒲田谷(がまただに)は古くから登山者の間に有名であった。山間部を出ると大扇状地を形成し，かつては荒れ川で水害が多かったが，いまは富山平野の中心部をなす最も肥沃(ひよく)な平野部の灌漑(かんがい)用水源になっている。電源開発の歴史も古く，神通川第2発電所(最大出力8万kW)をはじめ発電所が多い。流域一帯は，飛越総合開発特定地域に含まれ，発電・農・林・鉱・工業の開発と国土保全の多彩な工事が進行している。　〔長津一郎〕

じんつうそくしんやく【陣痛促進薬】 子宮の収縮を強めて陣痛を促進させる薬。分娩(ぶんべん)開始が予定日よりおそいか，開始した陣痛が弱いために出産が長びいて胎児に悪影響があると判断されたときなどに用いる。脳下垂体後葉ホルモン・キニーネ・麦角剤がこれにあたる。このうち，脳下垂体後葉ホルモンが最も生理的とされている。

シンデウォルフ〔Otto Heinrich Schindewolf〕(1896～　) ドイツの古生物学者。無脊椎(むせきつい)動物の化石，特に頭足類の化石の研究で知られる。新ラマルク主義に基づき，種類の発生と絶滅の過程を論じた。➔進化論

しんてきけっていろん【心的決定論】 フロイトは，人間の精神現象は，物理現象と同様に心的因果律によって決定づけられていると主張した。これを心的決定論という。すなわち，物理的自然におけると同様に，すべての心的事件は，偶然に起こるものではなく，それぞれ先行する現象との因果関係によって決定されるとする。たとえば，物を忘れたり，まちがえたり，なにかの夢をみたりすることは，日常のありふれた経験で，偶発的なできごとと考えがちであるが，実はその人の無意識の願望ないし意図によって引き起こされたものであると主張するのである。〔乾吉佑・内藤春雄〕

しんでん【神田】 一般的には神社所有の田地をいうが，令制(りょうせい)では神社に与えられた田地。特定の田地を神社に与え，農民に小作させるものと，神戸(かんべ)の民の口分田を神田とするものとがあった。いずれもその収穫のうち神社に納めるものを神税といい，修理費などにあてた。神田は不輸租田(➔輸租田)で，売買は禁じられた。

しんでんかいはつ【新田開発】 一般的には戦国時代以降，厳密には江戸時代初頭に盛んに行なわれた耕地開発。既成の耕地である本田に対して，空閑地・荒野の開発，海川の干拓，海岸の埋め立てなどによって新たに造成された土地を新田・開(ひらき)・開作・搦(からみ)などと称する。幕藩領主は年貢(ねんぐ)収入増加のために新田開発を積極的に行ない，それに伴って大河川の治水など大規模な土木事業を行なった。幕府・諸藩は新田開発を推進するため，年貢を本田より低くしたり，開発後数年間は鍬下年季(くわしたねんき)として年貢を免除したり，家作料を支給するなどの開発奨励・保護政策をとった。新田はその開発規模により，多数の農民が移住して山野・沼沢を開発し，行政単位としての一村を形成する大規模な村立新田と，既成の耕地，居村の外縁の未耕地を開発する小規模な持添(切添)新田とに分類できる。また，開発の主体(推進者)により，幕府・諸藩の官営新田と，領主の許可を得た民間の民営新田とに大別される。官営新田には①代官見立(みたて)新田，②藩営新田，③藩士知行新田があり，民営新田には，①

土豪開発新田，②村請新田，③町人請新田，④百姓寄合新田がある。初期の新田開発は官営の水田開発が中心であったが，中期以降は民営の畑地開発が一般化した。新田開発により，江戸時代を通じて石高は約1,200万石増加し，耕地面積は約200万町歩(198万ヘクタール)拡大され，小農民の自立を促進し，多くの新田集落が形成された。〔松尾　涼〕

しんでんず　【心電図】　心臓の収縮に伴う活動電流を曲線として記録したもの。一般にいくつかの心電曲線を組み合わせて使い，心臓病の診断に役だつ検査の一つである。正常の心臓における興奮の発生はつねに一定の場所に始まり，一定の経路で心臓全体に広がり，また一定の順序で興奮がさめていく。したがって，搏動(はくどう)ごとに描かれる曲線は一定の形をしている。もし心臓の一部に，興奮が正常に起こらないところ，またはさめ方に異常なところがあれば，曲線は一定の変形をきたす。興奮の伝わり方が正常と異なるときも同様である。これらの曲線の変形を見分けることによって心臓の病気の診断に役だてるのである。図に示すように正常心電図の基本型はP・Q・R・S・Tと名づける棘波(きょくは)からなる。〔平野修助〕

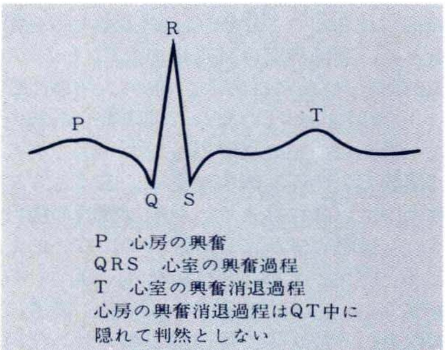
しんてんそう　【伸展葬】　⇨葬制

しんでんづくり　【寝殿造り】　平安時代に定形化された貴族住宅様式。中心になる主屋を寝殿とよぶところからこの名が興った。1町四方(約12,000m²)の広さを標準の宅地とし，そのほぼ中央に主人のすまいである寝殿が南面して建てられ，その左右と背後に副屋である対屋(たいのや)が配置され，透渡殿(すいわたどの)(開放的な廊下)や二棟廊(ふたむねろう)などの渡り廊下で互いに結ばれる。寝殿の南には儀式に用いられる平庭があり，その南に築山(つきやま)を背景にして池が掘られ，敷地の東北から水を引いて池に導き，池には中島をつくり，高欄*(こうらん)のある橋が掛けられ，寝殿からその植木や池泉の景観が賞美された。この寝殿南庭を取り囲むように，左右の対屋から南に向かって中門廊が延び，途中に中門を開き，先端は池に臨む釣り殿(つりどの)に連絡されている。中門と相対して，屋敷を囲む築地(ついじ)に四脚門(よつあしもん)などの表門が開かれ，その付近に主人の乗り物を納める車宿や，家臣が詰める随身所などがある。これらの配置は，寝殿を中心とする左右対称を理想としているが，実際には東西いずれか主要な街路に面する入り口をおもに使用するため，他方が簡略化されて対称性のくずれた例が多く年代が下がるほどその傾向が強い。

寝殿や対屋などの主要建物は，中央部の身舎(もや)とその周囲の庇(ひさし)の空間からなり，その外周に簀(す)の子とよばれる回り縁がとられ，内外の仕切りは原則として庇の周囲の柱間に沿ってとられ，妻戸などの出入り口専用の板扉(いたとびら)を設けるほかは，柱間をすべて蔀*(しとみ)で建て込み，その内側に簾(みす)をつる。身舎の一部が板壁で囲まれ，寝所にあたる夜御殿(よのおとど)とされるほかは間仕切りがなく，間取りが単純で，広広とした内部に整然と配置された丸柱の柱列が立ち並ぶ。床(ゆか)はすべて板敷なので，置畳(おきだたみ)，円座などで座をつくり，手近に厨子棚(ずしだな)や二階棚などを置いて手回り品を納め，周囲を軟障(ぜじょう)・几帳(きちょう)・屛風(びょうぶ)などを用いて区画した。寝殿の身舎と南庇は日常生活の場であると同時に儀式的空間でもあったが，古代末になると両者を分離して，身舎と北庇との境に間仕切りを設け，日常生活の場を寝殿の北庇で営むようになり，ここが常居所(つねいどころ)または常御所(つねのごしょ)とよばれ，この部分からしだいに間仕切りが発達して，中世住宅へ変化していった。〔渡辺保忠〕

しんでんりゅう　【神伝流】　日本泳法のうち最も古い歴史をもつ流派。慶長年間(1596〜1614)甲斐(かい)(山梨県)の国主加藤光泰(みつやす)が海賊に教えられて一派を立てたという。寛政年間(1789〜1800)伊予(いよ)(愛媛県)松山藩に迎えられた伊東祐根(すけね)が御囲池(いまでいうプール)で藩士を指導，のちこれを伝えた津山藩士植原六郎左衛門(ろくろうざえもん)が江戸に水泳場を開いて広く用いられた。横泳ぎを主体とし，元来静水に発達したためきわめて優美な泳ぎで，遠泳も重視した。明治以後は第一高等学校水泳部に伝えられた。〔浮田裕介〕

しんど　【震度】　⇨地震



心電図

しんど　【心土】　土壌(どじょう)断面で作土*の下部に位置し，通常作土より淡色で引き締まった部分をいう。心土の物理的・化学的性質はその土壌の作物生産力に影響を与える場合が少なくない。なお，表層土・下層土という分け方と作土・心土という分け方は必ずしも対応しない。

シンド　［Sind］　西パキスタン東南部，インダス川下流の地域。面積約17万km²。行政的には，カラチ・ハイデラバード・ハエルプールの3地区を含む。地形はインダス川の両岸にまたがり，一般に低平であるが，気候は高温乾燥で年雨量は150〜300mmにすぎない。東は乾燥地帯，中央は農業地帯，西は丘陵。古代にはインダス文明が栄えた地方で，モヘンジョダロの遺跡がある。紀元前後から諸民族の侵入を受け，地方的政権の下で半独立的存在を続けたが，アクバル帝の時代にムガール帝国領，また1842年にはイギリス領となった。古来インダス川沿岸では農耕が発達したが，現在はスックル・グラム-ムハマッドの二大ダムによる灌漑(かんがい)で，米・小麦・ワタ・タバコ・アワなどが生産されている。〔別技篤彦〕

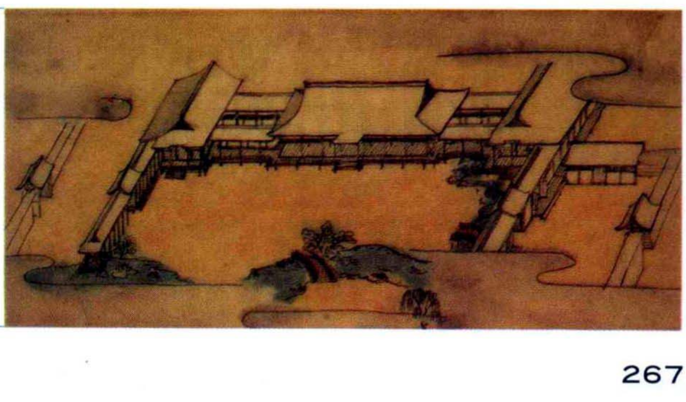
しんとう　【神道】　⇨次ページ

しんとう　【親等】　親族間にある者の親疎をはかる等級をいう。➔親族

しんどう　【振動】　時計の振り子やばねについたおもりの運動のように，物体がつりあいの位置を中心としてその付近でくり返し同じような運動をする現象。物体の運動に限らず，ある量が一つの値を中心に狭い範囲で増減をくり返すことも振動という。振動には規則的にくり返されるものと，そうでないものとがある。規則的な振動の例としては単振り子*の振動のような単振動*，楽器の弦の振動，電気的な共振回路に生じる電気振動などがあげられる。振動する物体に外から周期的な力を加えると規則的な振動が起こるが，これを強制振動*という。規則的な振動で，単位時間内にまったく同じ運動の状態が現われる回数を振動数，その逆数すなわち同じ状態が現われる時間間隔を周期という。また，つりあいの位置からの変位の最大値を振幅という。現実の振動では，たとえば空気などの抵抗や回路の電気抵抗などのため，振動はしだいに小さ

➔269ページ

寝殿造り
配置概念図



神　　道

わが国にはえ抜きの宗教を広くさす。内容上，次のように分類される。①おもにミヤ・ヤシロを中心に営まれる信仰および行事(神社神道)，②教会を中心に営まれる信仰および行事(教派神道)，③年中行事的に営まれる習俗的神事，④《古事記》《日本書紀》などの古典を中心に神道を学問的に研究する集団の操作(復古神道・垂加神道など)。そのほか宮中三殿(賢所(かしこどころ)・皇霊殿・神殿)の神道，家庭の神事などがある。

神道の起源は日本民族(国)の起源と等しい。すでに弥生(やよい)時代から6世紀中ごろまで，神道は全国民的規模の信仰であった(原初神道)。仏教渡来後は仏教と相並び，あるいは相互に関係しつつ共存のまま明治維新に至った。このころから特定個人(教祖)の創唱する神道13教派(→教派神道)が新たに勢力を張り今日に至った。

神社神道は社を中心に営まれる信仰および祭儀をいう。大多数の社の春秋二季の祭りは稲作の豊穣(ほうじょう)の祈願と感謝の信仰といえる。水稲耕作は弥生時代に始まるから，この時期にイネ信仰中心の祭祀(さいし)，すなわち神道の起源を推定するのが妥当である。稲作の起源について神道史は次のように説いている。ニニギノミコトが高天原(たかまがはら)から葦原中国(あしはらのなかつくに)に天下る際，アマテラスオオミカミが稲種を授けたことに始まるという。さらにこの際，アマテラスオオミカミは皇孫(すめみま)の伴の神神に古代の社である神籬(ひもろぎ)と磐境(いわさか)とを建てて国家・国民の発展・隆盛・繁栄を祈るべしと勅を下された。以上の神話は社の創建と信仰の意義を明らかにし，または神道の起源を建国時に想定する論拠と可能性とを説く。神のしずまる聖なる場は神籬・磐境のほかに，特定の山岳(岩木山・出羽三山・富士山・二荒(ふたら)山・白山・英彦(ひこ)山・開聞(かいもん)岳)や，巨(奇)岩(群馬県榛名(はるな)神社・和歌山県新宮市神倉神社など)，常緑の大樹などは古代の社である。神武天皇以後，国家の発展とともに，社も整備され制度化が進んだ。平安初期，全国の社から2,861社が選ばれ，所在地の地域集団(信仰集団)の支持を受けるかたわら，国家祭祀の対象となった(《延喜式神名帳》など)。律令(りつりょう)時代に神道行政を管した神祇官(じんぎかん)はしだいに無力となり，代わって神祇官の長官の伯(はく)家(白川)と吉田(よしだ)家(神祇官の被官卜部(うらべ)氏の子孫。鎌倉時代以後吉田神道を創唱)とが全国の神社行政を担当するようになった。明治時代には神祇官は再興され，第2次世界大戦の終結まで神社は国家宗教として待遇を受け，神社行政は神祇官→神祇省→教部省→社寺局→神社局→神祇院と変遷した。

【仏教との関係】6世紀中ごろ，仏教が百済(くだら)から公伝し，皇室・蘇我(そが)氏の尊崇を受け，奈良初期までには神道と同様に国教となった。以後，神道と仏教とはともに崇敬・尊信を受けるかたわら，神仏習合とよばれる事象が起こって，長く江戸末期まで続いた。神仏習合は，第1には古来からあった山岳信仰に基づいている。奈良中期から名僧の手でこの神霊の坐(いま)す山が修行道場として再開発される。神と仏とは，おのずと習合・融合する。日光・出羽三山などは好例で，これを修験道(しゅげんどう)という。第2に漢訳仏典がインドのデーバを天または神と訳したところから，デーバと神道の神とが同一視され，デーバのごとき迷える神を仏力によって救済しようと，社前で読経(どきょう)や写経の奉納，建塔などの仏教流の供養行事が神社で行なわれた。神宮寺は神のための供養寺であり，仏の功徳により神は仏となる。神仏は同格となった段階で仏を本地，神を垂迹(すいじゃく)とする本地垂迹説が成立する。これは平安中期にアマテラスオオミカミの本地は大日如来または観世音菩薩(ぼさつ)(→観音)，八幡神(はちまんしん)(応神天皇)の本地は釈迦(しゃか)または阿弥陀仏(あみだぶつ)とみる類である。鎌倉時代に天台僧慈遍(神道家の出身)は神を本地，仏を垂迹とみる反本地垂迹説(神本仏迹説)を唱え，吉田神道もこの説を踏襲した。1868年(明治1)の神仏分離で，公的には神仏習合は終止したものの，今日でも平均的日本の家庭には神だなと仏壇とは併置され，ともに信仰されているのが実情である。天台神道は比叡(ひえい)山を中心に伝教大師を開祖とみ，真言神道は高野山で弘法(こうぼう)大師が開き，ほかに日蓮宗(にちれんしゅう)系の法華(ほっけ)神道もあり，いずれも神仏習合の神道説を唱えた。先の修験道もこの一例である。

【儒教との関係】儒家神道は，広くとらえれば中世以降に始まる。以前は儒教の徳目はごく自然に生活にしみ通っていたといえよう。中世，北畠親房(きたばたけちかふさ)，一条兼良(かねら)らの碩学(せきがく)は神道，儒道の本質上の一致を説く神道論を唱えた。江戸時代にはいると，幕府の官学として朱子学が重用されるのに応じて，神儒一致の神道論は儒学者からも神道家側からも提唱された。朱子学者林羅山(らざん)は神道すなわち王道の立場から理当心地神道を説き，師の藤原惺窩(せいか)の説を継承した。また《養生訓》の著者，貝原益軒は儒主神従から一致を唱えた。神道の真髄は堯(ぎょう)・舜(しゅん)らの聖人，孔子・孟子(もうし)の書から求められると説く三輪執斎(しっさい)も同じ流れである。水戸学(みとがく)派・熊沢蕃山(くまざわばんざん)・山鹿(やまが)素行の神儒説は神主儒従の傾向が強い。蕃山は三種の神器(八咫鏡(やたのかがみ)・八坂瓊曲玉(やさかにのまがたま)・天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ))を教典とし，儒書はその注釈とみる。素行は天の神道，聖人の神道以外に神道はなく，堯・舜・禹(う)の道と同じと説く。徳川斉昭(なりあき)は敬神崇仏偏党あることなしという。

【神道の思想】宗教を分類すると，権威的宗教と人間的宗教とに区別される(E.フロム)。キリスト教は前者の代表で，神道・仏教などは後者の代表である。前者は超絶せる力(ゴッド)に屈服することが最高善であり，後者では，人間に対して人に内在する力を最大限に発揮することを要求する。神道の神，仏教の仏は人間の力の象徴とみられる。したがって神道は神人同格，神人一体融和が信仰の基礎となる。仏教では人間ブッダが仏(覚者)になったが，神道でも人間が神に祭られることは当然のこととみる。八百万神(やおよろずのかみ)を仰ぐ以上，神道には唯一絶対神は存しない(理論的にアマテラスオオミカミ，またアメノミナカヌシノカミをキリスト教の神と同じように説いた学者もいるが，信仰上ではありえないことである)。最高至上神であるアマテラスオオミカミでさえも絶対神として信じられていない。これは宗教学上の単一神教に相当し，唯一神教と区別される。ゴッドと万物とは創造主と被造物の関係であるが，神道では〈生むもの-親〉と〈生まれたもの-子〉との間がらで説かれた。生む親〈神〉は，イザナギノミコト・イザナミノミコト2神であり，生まれた子の中にはアマテラスオオミカミなどの神と，生活の場としての自然(山川草木など)が含まれる。こうして神と自然，自然と人間とは相互に親と子，同胞(はらから)(兄弟姉妹)と意識され，3者は一つの世界(一家族)の構成員とみられる。構成員が家族と相互に認め合うのは，相互が信頼感を根本信条として生きていく心情を示す。相互否定(闘争)の構えでなく，互助相補の親和感で接することを明らかにしている。《古事記》《日本書紀》などの神話は以上の心情の文章化・論理化といえる。この信仰は外から与えられたものではなく民族にはえ抜きの所産であるから，長く《古事記》《日本書紀》に伝承された。神の子としての人間の営みは，人の親になることはもとより，神となり祭られることを目標に置く。神社に祭られた人々は，ある点では模範的な人生を過ごした人として認められたといえる。これをめざす生活が神道的生活の本義である。それぞれの神は仕事の分担神とみなしている。絶対万能神を欠く神道では，神々は全知全能の神威・神徳の一部分を自己の神威・神徳として受け持つ。これを〈勅命(みこと)もち〉と称する。たとえば，山神は山についてのいっさいの責任を負う。アマテラスオオミカミが最高至貴神と信仰される理由，

すなわちアマテラスオオミカミの〈勅命もち〉は個々の神の神威・神徳を発揮せしめる威徳を備えた神こそがアマテラスオオミカミであるからにほかならない。天岩戸(あめのいわと)隠れの神話はこの理由を物語っている。すなわち岩戸隠れの結果，悪神がはびこったため，諸神は相談してアマテラスオオミカミの再出現を図る。この相談でアマテラスオオミカミは神々の生活を可能ならしめる神であることがはっきりとする。神神の生活を保証するとは社会秩序を維持すること，すなわちアマテラスオオミカミは秩序の神格といえる。集団に秩序があって社会となる。この秩序を神道では〈清き明き心〉〈まごころ〉とよび，アマテラスオオミカミは秩序・誠心の神とみる。人間が集まり，自然が備わっただけでは生活は立ちいかず，アマテラスオオミカミの神威(秩序・誠心)が発揮されて，はじめて人々の生活は可能である。アマテラスオオミカミはこのような神威の神と信じられていたから，岩戸神話が成立し伝承されたといえる。

仏教・キリスト教での浄土・天国・地獄などの死後の国に相当する外在的他国についての信仰は神道にも皆無ではないが，ほとんど無視されている。人間中心宗教の神道であるので，現実の世界が中心となる。死後，霊魂は一度は肉体・家から離れるが，一定の時期になると必ず家族のもとに帰り，ある期間中家族と生活をともにして帰る。これをくり返す。古くは来訪の日は大晦日(おおみそか)で，翌年秋の祭りまで滞在したという。今日では祖霊常住の信仰が大勢を占めているが，盂蘭盆会(うらぼんえ)などの行事中に古い信仰のなごりをとどめている。神の故郷らしい高天原，死後の国らしい黄泉(よみ)の国も性格は多義である。一見パラダイスふうの常世(とこよ)の国は道教臭が強い。以上のいずれの他界も日本人の信仰の主流とはならない。祭祀とか祭りというと一般的には神田祭や三社祭・祇園(ぎおん)祭などが想像されるが，これらの都市の祭り，あるいは見せ物ふうの祭りは祭りの一部にすぎない。祭りにあたってまず神は出現し来訪する。都市のまつり(行列)は来訪(神幸・行列)の形式としての祭りで，来訪が終わって，社に到着後中核の祭りが執行される。今日では神社の斎場での祭り(祭式)は《祭祀規定》(神社本庁規定)などによっているが，昔は《神祇令》に定められていた。現存のものは《養老令》(養老2年,718年)中のもので，12条からなっており，総説，皇室の祭祀，祭祀一般，大祓(おおはらえ)，神社経済と分類される。また〈延喜式〉には四時祭・臨時祭・伊勢(いせ)神宮の祭り，また天皇の1代1度の大嘗(だいじょう)祭である践祚(せんそ)大嘗祭などが詳しくしるされている。〔安津素彦〕

くなっていく。このような振動を減衰振動とよぶ。きわめて不規則な振動の例は風にはためく旗の運動，飛行機の爆音や雷鳴などのいわゆる騒音の音波などがあげられる。〔有山正孝〕

しんとうあつ【浸透圧】 隔膜をはさんで二つの溶液が接するとき，溶質の分子は移動しないで，溶媒が移動することを浸透といい，たとえば，糖液と水が半透膜を境として接すると，水は膜を通って糖液の方へ移動する。この浸透をひき起こす力をその溶液の浸透圧という。浸透圧は生物現象に重要な役割を果たしている。細胞の吸水は内外の浸透圧の差によって起こる。細胞を水の中につけると，液胞の細胞液は高い浸透価をもっているから，外の水は膜を通して取り入れられる。こうして細胞は吸水すると同時に容積が増し，細胞液の濃度は小さくなる。動物細胞では，原形質膜の弾性があまり強くないので破れてしまう。しかし，植物細胞では外側にじょうぶな細胞壁があるので，浸透圧によってあまりふくれることができない。このとき浸透圧によって内より膜を押す力(膨圧)と，膜から内に働く力(膜圧)は方向が逆で，等しい力でつりあっている。細胞の吸水力(拡散圧差)は細胞の浸透圧と膨圧の差で表わされる。浸透圧は細胞液中にとけている溶質の濃度に関係する。溶液の濃度が希薄な場合，浸透圧は次の式で示される。$PV=nRT$(Pは浸透圧，Vは溶液の体積，nは溶質のモル数，Rは気体定数，Tは絶対温度)。細胞の浸透圧と等しい浸透圧をもった外液を等張液という。リンゲル液などの生理的食塩類溶液は等張液である。一方，細胞の浸透圧より高い浸透圧をもった液を高張液，低い浸透圧をもった液を低張液という。➔原形質分離 ➔吸水 〔代谷 康〕

しんどうかねと【新藤兼人】(1912～) 映画監督・脚本家。本名兼登。新興キネマから松竹を経て，1951年(昭和26)近代映画協会を設立し，以来独立プロ運動の中核となる。第2次世界大戦中から溝口(みぞぐち)健二の下でシナリオを書いたが，戦後は吉村(よしむら)公三郎監督と組んで《安城家の舞踏会》などで注目された。監督第1作は《愛情物語》。社会問題を扱う作家として出発しながら，人間の根源的欲望を粘り強く追究する。代表作に《原爆の子》《裸の島》《鬼婆》などがある。〔波多野哲朗〕

しんとうきょうこくさいくうこう【新東京国際空港】 千葉県成田市三里塚(さんりづか)に建設中の第1種空港(運輸省管理)。東京国際空港が飽和状態に達したために計画されたもので，将来の国際幹線航空路はここから発着されるはずである。4,000m・3,200m・2,500mの滑走路各1本をもち，巨大化する航空輸送に対応する諸施設を備えるが，東京都心から66kmの距離にあり，都心と空港の間の交通の改善が必要とされている。当初の成田空港開港目標は1971年(昭和46)4月であったが，建設にあたって地元農民らから激しい反対運動が起こって，反対派の闘争のシンボルとして建てられた着離陸妨害鉄塔(大は地上62m)2基の撤去，燃料輸送ルート，騒音問題などいろいろ障害があいついで，6年を経過話題になっていた。1977年福田内閣が年内開港の新目標を打ち出し，5月6日に鉄塔撤去に成功，同月7日には点検飛行をおこなうなど，ようやく1978年(昭和53)2月の最終開港目標の足固めに入った。〔青木栄一〕

しんどうけい【振動計】 乗り物・機械装置・建造物などの振動方向や振幅・周波数を測定する計器。振動を測定するには，外部の不動点から振動を測定する場合と，振動体上で測定する場合があるが，一般には，不動点が得にくい場合が多いので，振動体上に振動特性のわかった振動計を取りつけるか置くかして測定することが多い。通常の振動計は，振動を検出する部分，検出した信号を増幅する部分，指示・記録する部分，遠隔へ信号を送るための変換部分などからなっている。検出・増幅・変換の方法には，機械式・光学式・電気式などがある。地震計も振動計の一種で，機械式に含まれる。〔土屋喜一〕

しんとうごぶしょ【神道五部書】 度会(わたらい)神道の根本聖典で，伊勢(いせ)神宮の由来を述べた《天照坐(あまてらします)伊勢二所皇太神宮御鎮座次第記》《伊勢二所皇太神御鎮座伝記》《豊受(とようけ)太神御鎮座本紀》《造伊勢二所太神宮宝基本紀》《倭姫命(やまとひめのみこと)世記》の5書をさす。鎌倉初期に伊勢神宮外宮(げくう)の祠官(しかん)度会氏に伝わる古伝をもとにして，古人に仮託したものと推定される。近世になって吉見幸和(よしみゆきかず)その他から偽書として排斥された。ただし，他の古典にもれているような貴重な伝記も部分的にはあり，また神道の教学的な論述の最初の書でもあり，一概に軽視できない。

しんとうさっちゅうざい【浸透殺虫剤】 土壌(どじょう)に灌注(かんちゅう)したり植物体に塗布してあらかじめ植物体内に吸収させておき，これを摂食する害虫を防除するために開発された殺虫剤で，ペストックス3・メタシストックスなどが古くから知られている。多くは有機リン剤で，取り扱いに注意を要するが，最近エストックスやサヒゾンのような低毒性のものも現われてきた。天敵などに対し悪影響を与えないという利点もあるが，残留毒性の問題がつねにつきまとう薬剤である。〔深谷昌次〕

しんとうしゅう【神道集】 南北朝時代

の縁起説話集。安居院(あぐい)(比叡(ひえい)山東塔の里坊)流説経師の作と伝わる。説経師の種本であったとされ，本地垂迹(すいじゃく)思想に基づく諸国の各神社の縁起50条が収められている。特に関東地方の神社のものが多い。室町時代の御伽草子(おとぎぞうし)・本地物の源流となった。

じんどうしゅぎ【人道主義】⇨ヒューマニズム

じんとうぜい【人頭税】人そのものを課税客体とする原始的な租税形態。個人の担税能力とは無関係に各人に同額の税を課すものをいう。①隷属のしるしとしての人頭税：本来はこの意味であり，ギリシアにおいて在留外人に，ローマにおいてはコロヌスに課せられ，中世にはいると封建領主は自己所有の農奴に対して定期的に年１回金額は軽いが等額の人頭税を課した。②国家財政上の人頭税：国家が臨時に人頭税をとった最初は1377年イギリスにおいてであり，1380年の場合は階級により金額に差をつけた。これは貨幣経済の広まりに対応する国家の政策であったが，悪税とされ市民革命以来廃止された。しかし，現行のわが国地方税の均等割りの部分は応益原則の立場から一種の人頭税の形態をとったものと解される。〔高山高雄〕

しんどうでんりゅう【振動電流】電気回路にコイルとコンデンサー(キャパシター)の２種のエネルギー蓄積素子が存在するとき，両素子間のエネルギー授受に際して生じる振動性の電気の流れ。振動電流をスピーカーに流すと音響を発するので，電気回路のパラメータ(素子の特性)を適当に変えて振動の速さを増減すると，音の高低をつくりだせる。電気ギター・ステレオなど，電気楽器に広く応用されている。

しんどうひん【伸銅品】銅および銅を主体とした合金を，圧延・伸線・押し出し・抽伸などの方法によって，板・条・管・棒・線などに加工した製品の総称。伸銅品には銅を主原料とする銅製品，銅に亜鉛を配合した黄銅製品，銅にスズを配合した青銅製品，銅にニッケルと亜鉛を配合した洋白製品などがあり，色も赤銅色・黄金色・銀白色と配合元素により変化に富み，展延性にもすぐれている。このほか用途に応じて金属を添加したベリリウム青銅・アルミニウム青銅・鉛入り黄銅などの特殊銅合金製品もある。伸銅品は古くは古代エジプト時代から貨幣・武器・装飾品などに使用され，現在でも変わらぬ需要をもっているが，銅の特質である電気，熱の高伝導性と，それに加うるに各種銅合金のすぐれた機械的特性・切削性・耐摩耗性・ばね性・加工性は各種電気・機械の部品や熱交換器・コンデンサー管・接点ばねなどの用途に最適であり，近代産業に不可欠な資材となっている。〔藤井康次〕

しんとくせん【沈徳潜】(1673～1769)中国，清(しん)代の詩人。乾隆帝(けんりゅうてい)に抜擢(ばってき)され，高位高官を得たが，死後，他人の罪に連座して官位を奪われた。詩の格調を重んじ，思想感情を正統的な作法で歌うことを主張した。詩論に《説詩晬語(さいご)》がある。また，詩文の評選がうまく，《古詩源》《唐詩別裁》《明詩(みんし)別裁》などその編集した選集は一時流行した。

シンナー［thinner］塗料を塗装のために調製する混合溶剤。一般に溶剤・助溶剤・希釈剤からなる。シンナーは塗料の種類，塗装方法などによりその種類および添加量が異なり，また，塗装作業性，塗膜の乾燥性・光沢・肉持ち・平滑さなどに影響を与えるので，指定のシンナーを使用する。近代的なシンナーとして，油性塗料用シンナーとエステル系溶剤・ケトン系溶剤を主体としたラッカーシンナーとがある。シンナーを吸入すると，咽頭痛(いんとうつう)・頭痛・悪心(おしん)が起こり，精神運動興奮についで感情不安・多弁多動・夢幻の状態となり，幻覚妄想(もうそう)・脱力感などが起こる。

ジンナ［Muhammad ʻAli Jinnah］(1876～1948)ムスリム連盟の指導者，パキスタン建国の父。イギリス領インド時代に，ヒンズー教徒とイスラム教徒が根強く対立したのにかんがみ，国民会議派と対立してイスラム教パキスタンの分離独立を主張した。1947年インドの独立とともに誕生したパキスタン自治領の初代総督となった。

しんないぶし【新内節】浄瑠璃(じょうるり)の一。豊後節(ぶんごぶし)の特徴を最も強く受け継いだものといわれる。宮古路豊後掾(みやこじぶんごのじょう)の門弟宮古路加賀太夫(のちに富士松薩摩掾(さつまのじょう))が，豊後節が禁止されたのち，1747年(延享４)に新しい派を開き，そこから出た鶴賀若狭掾(つるがわかさのじょう)が，今日この流派の代表曲とされる《明烏夢泡雪(あけがらすゆめのあわゆき)》《蘭蝶(らんちょう)》をつくり，様式を定めた。若狭掾から出た初世鶴賀新内やその弟子(でし)の２世新内の令名が高かったため，いくつかの派が新内節として総称された。以後，心中を題材にしたためや，他のジャンルにみられない独特な旋律形によって広い支持を受けた。しかし，今日では演奏者・聴衆の双方が減少している。音楽的にみると，パターンによる構成は他のジャンルよりも強く，前弾(まえびき)もいくつかのものを各曲にあてはめている。三味線(しゃみせん)は中棹(ちゅうざお)を使用し，撥(ばち)も長唄(ながうた)のものよりは重いものを使用するが，細かい変化を強調し，高い音域もよく使う。上調子は高音(たかね)とよばれ，これが本手(地)の単調さを救っている。声のほうでも，〈うれい〉とよばれる旋律形がよく使われるように，パターン化が強い。高い音域，三味線との関係，激しい上下運動などは他の派にはない特徴である。代表的な曲には，上述のほか，《伊太八(いだはち)》《三勝縁切》《千両幟(せんりょうのぼり)》《膝栗毛(ひざくりげ)》《花井お梅》などがある。

なお，新内の音楽家がふたり１組になって，二つの三味線で，客を求めて町を流していくことを〈新内流し〉という。文化・文政期(1804～1829)に始まったといわれるが，最近では見かけない。〔徳丸吉彦〕

しんないまくえん【心内膜炎】心臓の内面を包む心内膜の炎症。細菌性心内膜炎と，非細菌性心内膜炎に大別される。細菌性心内膜炎は急性と亜急性とがあり，亜急性のものは非溶血性連鎖球菌によるものが大部分で，既存の心疾患に合併し，また心臓以外の腎(じん)・中枢神経・肺などにも塞栓(そくせん)を起こし，複雑多岐な全身症状が現われる。特に初期には肺結核症と紛らわしく，確診には血液培養が必要であり，原則としてペニシリンの大量療法が行なわれる。非細菌性心内膜炎はリウマチ性と非リウマチ性とがあり，リウマチ性の心内膜炎は弁膜症の原因として最も重要である。非リウマチ性のものは，紅斑(こうはん)性狼瘡(ろうそう)にみられ，リブマン-ザックス心内膜炎とよばれる。〔清水直容〕

しんなんぴん【沈南蘋】生没年不詳。江戸時代に来日した中国人画家。名は詮(せん)，字(あざな)は衡之，南蘋は号。1731年(享保16)長崎につき，２年間滞在した。その画風は浙派(せっぱ)の末流に属するが，写実的な花鳥画の描写は当時の日本画界を刺激し，多くの画家に影響を及ぼした。門人に熊斐(ゆうひ)，鶴亭などを出した。

しんなんよう【新南陽(市)】山口県中南部の市。もと都濃(つの)郡南陽町が1970年(昭和45)11月に市制施行。人口35,000。市域は徳山市内部の瀬戸内海周防灘(すおうなだ)の沿岸地区を主体とし，徳山市に囲まれた形となっており，北方山間に飛び地の和田地区があるが，飛び地のほうがずっと広く，市の総面積62km²のうち41km²を占める。産業三大別人口比は８：47：45。化学・石油化学などの近代工業が主産業で，徳山湾岸に沿って東洋曹達(そうだ)・日新製鋼・徳山石油・日本ポリウレタンなどの大工場が立地し，徳山市と並んで周南工業整備特別地域の中心部を形成している。山陽本線・国道２号線が市域を東西に通じ，山陽本線に富田・福川の２駅がある。和田地区は佐波(さば)川上流にあり，1955年に水資源確保のために佐波郡和田村を町域に編入したものである。

しんにほんおんがく【新日本音楽】広義には，伝統的な邦楽の世界から生まれた新様式の音楽をさす。しかし，この意味では，1950年代までは〈新邦楽〉，また最近では〈現代邦楽〉ということばが広く使われている。狭義には，大正時代(1912～1925)に宮城道雄・本居長世・吉田晴風らが始めた音楽運動とその作品をさす。この運動には尺八の中尾都山や福田蘭童(らんどう)・箏曲(そうきょく)の中島雅楽之都(うたしと)らも協力して，当時の進歩的な風潮とあいまってこの運動

を新鮮なものとして盛んにした。当時発表されたものに対する評価は今日特に高いわけではないが，既存のパターンの組み合わせによる作曲に終始していた邦楽の世界に新しい刺激を投げかけたことは確かで，第２次世界大戦後に盛んになった現代邦楽への先駆的な役割を果たしたと評価できよう。なお，今日の現代邦楽は，西洋音楽化すなわち現代化という単純な考え方を捨てて，邦楽畑や洋楽畑の出身を問わず，多くの作曲家により，多くの試みがなされている。

しんにっぽんせいてつ　【新日本製鉄(株)】 1970年(昭和45)３月，八幡(やわた)製鉄・富士製鉄の合併によって成立したわが国最大の企業。1896年(明治29)の官制の公布により官営八幡製鉄所として発足，1901年11月第１溶鉱炉の操業が開始された。その後1934年官制から離れ，釜石(かまいし)鉱山・富士製鋼など５社の合同により日本製鉄株式会社となったが，1950年過度経済力集中排除法によって八幡製鉄・富士製鉄を中核に４社に分離された。両社の再度の合併には独占禁止法*による審判が開かれるなど世間の注目を集めた。売り上げに占める割合は鋼板56％，条鋼16％，特殊鋼７％など。粗鋼生産量では世界一。製鉄所は八幡(福岡県)・光(山口県)・堺(さかい)(大阪府)・君津(千葉県)(以上旧八幡製鉄)，室蘭(むろらん)(北海道)・釜石(岩手県)・広畑(兵庫県)・名古屋(以上旧富士製鉄)。資本金3,250億900万円，年間売上高２兆8,448億円，従業員数70,830(1980年９月)。

しんにほんぶんがく　【新日本文学】 文芸雑誌。1946年(昭和21)３月創刊。新日本文学会発行。〈民主主義的文学の創造とその普及，人民大衆の創造的・文学的エネルギーの高揚とその結集〉を綱領に掲げ，《近代文学*》と並んで第２次世界大戦後の新文学運動を主導した。中野重治(しげはる)・宮本百合子(ゆりこ)・蔵原惟人(これひと)らが発起人となり，その後野間宏(ひろし)・花田清輝(きよてる)・西野辰吉(たつきち)・井上光晴(いのうえみつはる)らの作家を輩出。共産党の内部問題が波及して，1950年には一部の人々が別に《人民文学》を創刊・対立することもあった。

しんにょ　【真如】 仏教で真理を表わす語。梵語(ぼんご)tathatā(タタター)の訳。ター(そのように)という副詞に，抽象名詞をつくる語尾ターをつけたもので，〈そのようにあること〉〈あるがままにある状態〉を意味した。特に真如のみをいう場合，〔bhūtatathatā〕(ブータ-タタター)をあてる。仏の教えは真実で永遠に不変である。それは〈あるがまま〉の姿でそれを真理と考え，特別な原理を立てて，それを真理とよぶ考え方を退けたところに，真如とよばれる理由があった。〔石上善応〕

しんにんじょう　【信任状】 外交使節(大使・公使)を派遣する場合，派遣国の元首(代理公使の場合は外務大臣)が接受国の元首(または外務大臣)に対して，その外交使節を信任する旨を明らかにする公文書。外交使節は信任状を携行し，それが受理されると接受が正式に成立して，外交使節の職務が正式に開始される。

しんねったいく　【新熱帯区】 動物地理区の一。南アメリカ・中央アメリカおよびメキシコ南部とカリブ海の島々が含まれる。哺乳(ほにゅう)類ではアリクイ・ナマケモノ・ホエザル・キヌザル，鳥類ではレア(アメリカダチョウ)・オオハシ・ハチドリなどが特徴的なものである。南アメリカは1,500万年まえまでは大陸島だったので独自の動物相が発達したが，北アメリカとつながり，パナマ地峡を通って各種の動物が移動してきている。しかし，それらはあまり多くなく，北アメリカの新北区*とは動物相は大きく異なる。〔松本忠夫〕

しんのう　【親王】 令*制(りょうせい)で天皇の兄弟・男子に与えられる称号。古くは皇子，大宝令(→大宝律令)で親王と書くことになった。訓はともに〈みこ〉。天皇の姉妹・女子は，内親王といい，これも大宝令以前には皇女と書いたが，いずれも〈ひめみこ〉といった。親王・内親王には一品(いっぽん)から四品までの位階*があり，それのない者は無品親王などといった。８世紀後半，淳仁(じゅんにん)天皇以降親王宣下ということが始められてから，皇子女でなくても宣下があれば親王になり，皇子女といえども宣下がなければ諸王にとどまった。親王の仏門にはいった者を入道親王，出家後親王宣下を受けた者を法親王という。平安時代以降は皇子女の出家する者がおびただしかったため，皇族の数が限られ，南北朝時代以降，世襲の親王家を生じた。江戸時代の伏見・桂(かつら)・有栖川(ありすがわ)・閑院の，いわゆる四親王家がそれである。明治時代以後は皇室典範*の規定で皇子から皇玄孫まで親王・内親王を称することとし，入道親王・法親王の号をやめ，かつ養子を禁じた。

しんのう　【神農】 中国，古代の伝説上の皇帝。炎帝。三皇五帝*の一。その姿は人身牛首であり，民に農耕を教えたという。易の祖，火の神のほか，特に医薬の祖として知られ，冬至の日に漢方医によって神農祭がもたれる。

しんのうえん　【心嚢炎】 心膜炎・心包炎ともいう。心臓*を包む心嚢(心膜)の炎症。急性・亜急性・慢性癒着(ゆちゃく)性とに分けられる。急性心嚢炎として多いのはリウマチ熱によるもので，その他結核・細菌感染・尿毒症・癌(がん)の転移によることもある。心嚢内の液体貯溜(ちょりゅう)によって心臓の運動が制限され，心不全*の状態となるため心臓部の疼痛(とうつう)，呼吸困難などの症状が起こる。特に急激に液体の貯溜をみると症状が激しくなる。聴診上は心嚢炎性摩擦音が特徴的で，レントゲン検査による心陰影は氷嚢形となる。原疾患に対する治療とともに，必要に応じて心嚢液穿刺(せんし)を行なう。急性心嚢炎の後遺症として心嚢が癒着する慢性癒着性心嚢炎は外科的療法が根本的な治療法である。〔清水直容〕

しんのうしょうぐん　【親王将軍】 鎌倉幕府の皇族出身の将軍。皇族将軍・宮将軍ともいう。1219年(承久１)３代将軍源実朝*(さねとも)が暗殺されたあと，北条(ほうじょう)氏は公武間の結びつきを強化しようと，次期将軍を後鳥羽(ごとば)上皇(→後鳥羽天皇)の皇子雅成(まさなり)親王と頼仁(よりひと)親王のいずれかにと画策したが，上皇に拒否され(→承久の乱)，やむなく２代摂家将軍*を続け幕府を維持した。1252年(建長４)に至って，北条氏は，ようやく後嵯峨(ごさが)天皇*の皇子宗尊(むねたか)親王を初代の皇族将軍として迎え入れ，長年の懸案を解決することができた。親王将軍は，その後惟康(これやす)親王が幼少で将軍となり，北条氏の独裁をますます強めたのをはじめ，久明親王・守邦親王とあわせて４代続いたが，鎌倉幕府の滅亡とともに消滅した。〔高崎徳次〕

じんのうしょうとうき　【神皇正統記】 北畠親房*(きたばたけちかふさ)が著わした歴史書。６巻。常陸(ひたち)(茨城県)に転戦中，1339年(延元４・暦応２)小田城で著わし，のち同国関城で修訂し，後村上天皇に献上した。神代からの歴史を略述し，儒・仏・神に精通する独自の史観に基づき，歴史上の政治に論評を加え，ことに南朝の正統性を強調した。後世《大日本史*》《読史余論*》などの史書に多大の影響を与えた。

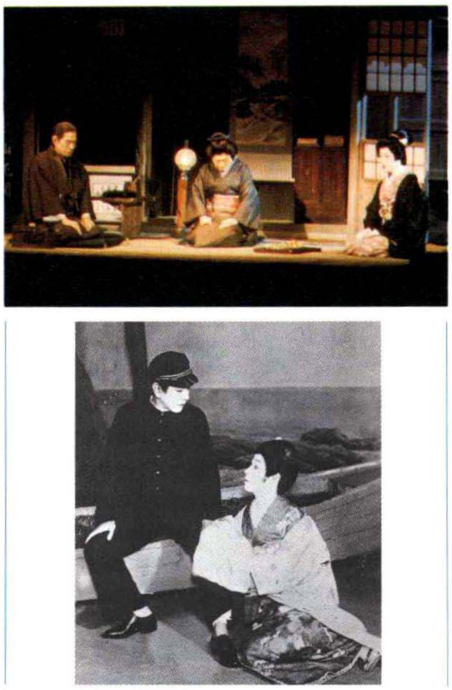
しんのうとう　【秦皇島】 チンホワン島 中国，河北省北東部の渤海(ぼっかい)湾に臨む港湾都市。人口約15万。山海関の南西に位置し，港は不凍港として知られ，京山鉄道(北京(ペキン)～山海関)から分岐する鉄道が通じている。付近に開灤(かいらん)炭田などがあり，無煙炭・粘結炭など良質の石炭を積み出している。1898年に開港し，イギリス資本による炭田の開発や鉄道建設によって発展した。近くの海岸には北戴河(ほくたいか)があり，以前は外人や富豪の避暑・別荘地として知られていたが，現在では市民の療養所や休養施設が設けられている。地名は，かつて秦(しん)の始皇帝がここに行幸したという伝説に基づく。〔船越昭生〕

しんのうほんぞうきょう　【神農本草経】 中国最古の薬物書。隋(ずい)の史書の《隋志》によれば，原典は当時すでに亡失していた。しかし，内容が他書に引用されていたので，この引用文を編集したものが現存する。365種の薬物を上薬・中薬・下薬に分類し，上薬は寿命を延ばしまったく無毒のもの，下薬は病を治するが有毒で長期の服用に適さぬもの，中薬はその中間のものとする。

しんぱ　【新派】 日本演劇の一つ。新派という呼称は，明治30年代の中ごろ，俳優の伊井蓉峰(いいようほう)が《不如帰(ほととぎす)》や《金色夜叉(こんじきやしゃ)》などの文芸脚色物で

大当たりをとったとき，新聞が歌舞伎(かぶき)を旧派として，これを名づけたものといわれる。

〔歴史と沿革〕明治10年代から20年代にかけて激化した反政府野党の自由民権運動が保安条例によって禁圧されたため，遊芸による民権思想の鼓吹の風潮が起こったが，その代表的なものとして演歌と，角藤定憲(すどうさだのり)によって創始された壮士芝居があった。自由党の壮士であった角藤は，中江兆民の示唆をうけて同志を糾合し，1888年(明治21)大阪新町座で〈大日本壮士改良演劇会〉の名の下に，自作の政治小説を脚色した《耐忍之書生貞操佳人》ほか1本を上演し，京阪(けいはん)から中国・四国を巡演した。これに刺激をうけた同じ自由党の壮士川上音二郎は，藤沢浅二郎らの仲間とともに1889年2月堺(さかい)の卯(う)の日座で書生芝居の幕をあけ，《経国美談》《板垣(いたがき)君遭難実記》を上演して大当たりをとり，勢いに乗って同年6月には東京の中村座へ進出，落語家時代に覚えた演歌に政治風刺を織り込んだオッペケペ節の人気とともに大成功を収めた。一方，東京生まれの伊井蓉峰も依田(よだ)学海の指導で男女合同改良演劇〈済美館〉を結成し，同年11月浅草の吾妻(あづま)座で旗揚げし，書生芝居は大流行した。1894年日清(にっしん)戦争が勃発(ぼっぱつ)すると，川上はすぐさま藤沢脚色の《壮絶快絶日清戦争》を舞台にのせるとともに，戦地におもむき《川上音二郎戦地見聞日記》を，歌舞伎座で《威海衛陥落》を上演し成功したが，以後は振わなかった。1896年川上一座を去った高田実・小織(さおり)桂一郎は，関西の喜多村緑郎(ろくろう)・秋月桂太郎と組み，関根黙庵(もくあん)の後援の下に大阪角座に〈成美団〉を結成して写実的演技に向かったが，一方，東京の伊井も1902年河合武雄(たけお)と結んで真砂(まさご)座に立てこもって，近松劇から世態人情を学ぶことを表明した。1906年喜多村は高田とともに東京の本郷座に進出し，新富座の伊井・河合に対抗し，黄金時代の活気がついに1909年の東京座における新派大合同の舞台を実現させた。しかし歌舞伎の盛り返しと新劇の誕生も手伝って，新派は大正初期にかけて沈滞と苦難を迎えた。伊井の弟子(でし)井上正夫(いのうえまさお)の〈新時代劇協会〉や連鎖劇の試み，河合の〈公衆劇団〉，若手の花柳章太郎，柳永二郎らの〈新劇座〉は，こうした沈滞を打開し，新時代に適応する様式を模索しようとする試みであった。大震災を経て1928年(昭和3)の合同から水谷八重子が加わり，花柳・水谷時代を迎えることによってようやく復興のきざしを見せはじめた。しかし1939年花柳は大矢市次郎らとともに〈新生新派〉を起こし，一方，喜多村・河合らは〈本流新派〉を名のり，さらに水谷を加えて〈劇団新派〉と改称した。この間，井上は1936年〈中間演劇〉(井上演劇道場)を提唱し，村山知義(ともよし)・八田元夫らの協力を得て新派と新劇を結びつけようとはかり，三好(みよし)十郎・北条秀司(ひでじ)らに大劇の門戸をひらいた。敗戦後は新生新派を中心に大同団結し，劇団新派の名の下に，喜多村・井上・花柳・水谷の時代を迎えるとともに，中野実・北条秀司・川口松太郎らが劇作の筆を振い，《滝の白糸》《婦系図(おんなけいず)》などの新派古典と並んで北条の《太夫(こったい)さん》《京舞》や川口の銀座シリーズなどの新作を生んだ。しかし井上・喜多村の死に続いて1961年には花柳が没したため，今日では水谷ひとりに重責が負わされ衰退の色が濃い。



新　派　(上)樋口一葉原作の《十三夜》　右側はせき役の水谷八重子　1971　新橋演舞場上演　(下)尾崎紅葉原作の《金色夜叉》　貫一の花柳章太郎とお宮の水谷八重子　1948　東京劇場上演



陣 羽 織　豊臣秀吉着用　東京国立博物館蔵

〔大島　勉〕

じんはい　【塵肺】　粉塵を多量に肺内に吸い込むことにより，肺胞内に粉塵がたまり，肺に慢性で広範囲の繊維増殖の起こる疾患。大気汚染が人間の体に及ぼす障害の一つで，鉱山・工場などの粉塵で濃厚に汚染されている職場で発生するため，職業病にされている。その原因となる粉塵の種類により，珪肺(けいはい)・タルク肺・アルミニウム肺・滑石肺・溶接工肺(酸化鉄肺)・黒鉛肺・炭素肺などといわれる。症状は吸いこまれた粉塵の量により症状が違い，早期ではほとんど無自覚である。進んでくると，呼吸困難・咳嗽(がいそう)・胸痛などが現われる。古くから珪肺がその代表とされる。対策としては粉塵の発散を抑制し，呼吸用保護具を着用することであるが，さらにこの症状をもつ労働者の早期発見と健康管理も重要である。この目的のために1960年(昭和35)に〈じん肺法〉が設定された。

〔金子義徳〕

じんばおり　【陣羽織】　羽織の一種。室町時代中期ごろから，高級武士が戦場で具足の上に着た上着。形はそでなし・広そで・袂(たもと)つきなど種々ある。戦国時代には南蛮風俗の影響で，胸ひもをボタン掛けにしたり，えりやそでの形を部分的に西洋風にしたものもあった。材料は絹・金襴(きんらん)・緞子(どんす)・唐織(からおり)・羅紗(らしゃ)などが使われた。

じんばこうげん　【陣馬高原】　桂(かつら)川の人造湖相模湖(さがみこ)の北側にある陣馬山(陣場山)(857m)一帯の尾根で，東京都と神奈川県の境にあたる。東京からの日帰りハイキングコースとして訪れる人々が多い。草地や疎林が続き，富士山や丹沢山地などの眺望(ちょうぼう)がよい。

しんばし　【新橋】　東京都港区の北東端，新橋駅を中心に銀座の南に続く繁華街。地名は汐留(しおどめ)川にかかっていた橋の名〈あたらしばし〉に由来する。現在は町名として，新橋1～6丁目，東新橋1～2丁目，西新橋1～3丁目がある。旧新橋駅は1872年(明治5)，日本最初の鉄道の始発駅となり，1914年(大正3)に東海道線の始発駅が東京駅に移ったため，それまでの新橋駅はいまの汐留貨物駅となって，新しく新橋烏森(からすもり)駅ができ，これが現在の新橋駅になっている。駅付近には第2次世界大戦直後に東京で最大の闇市(やみいち)が開かれたが，現在はまったく整理されて商店街や飲食店街となり，地下鉄銀座線や都営1号線が通ずる。なお，駅西方の烏森地域は，江戸末期から待合・茶屋・芸者屋などが軒を連ね，隅田河岸(すみだかし)の柳橋と並ぶ歓楽街として繁栄した。　〔浅井得一〕

しんバビロニアおうこく　【新バビロニア王国】　紀元前7世紀，セム族の一派カルデア人がバビロニアにたてた王国。カルデア王国ともいう。BC625年ナボポラッサ

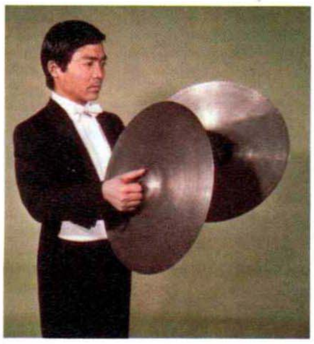
ルがバビロンを根拠地としてアッシリアから独立，BC612年メディア・リディアと連合してアッシリアを滅ぼした。その子ネブカドネザル2世はたびたびシリア・パレスチナ・フェニキア方面に遠征し，BC586年には1年半の包囲ののちにエルサレムを占領して住民のユダヤ人の大部分をバビロニアに移住させた(➞バビロン捕囚)。こうしてシリア・パレスチナ地域を確保し，オリエントの通商路を支配下に収め，オリエント世界最強の国家として最盛期をもたらした。しかし，国王権力は基本的には神官階級と大奴隷所有者層に依存していたため，王の死後は王権は安定を欠き，数人の王が短期間で交替していった。最後の王ナボニドス(在位BC556～BC539年)は商業都市ハルランの名門の出身で，首都バビロンをはじめ各地で盛んに神殿を営み，寄進をくり返したが，のち神官階級と衝突して突如隠退し，学問研究，特に年代記の製作に熱中，政治を王子ベルシャザルにゆだねてしまっている。この間ペルシア人キュロス2世はメディアを滅ぼして西進を開始し，BC538年神官の内応によってバビロンを占領，王を捕虜とし，新バビロニア王国は滅亡した。ネブカドネザル2世はハンムラビ時代の古典文明の復興に努力し，バビロンは当時のオリエント世界の中心として栄えた。堅固なれんが造りの2重の城壁に囲まれた市街には，つり庭園をもつ王宮，《聖書》に〈バベルの塔〉の名で知られる聖塔(ジッグラト)などが建てられており，その繁栄の伝統は長く維持され，ヘレニズム時代においても政治・文化の中心地の地位を保っている。美術的には装飾用の浅い彩色浮き彫りを特徴とする。占星術は独自に発達して天文学に近づき，ギリシアの科学に大きな影響を与えている。

ジンバブエ　［Zimbabwe］　アフリカのローデシアの南部，南アフリカ共和国近くにある遺跡。石を積み重ねてつくった，長さ90m，幅70m，囲壁の高さ約10m，厚さ60mの巨大な楕円(だえん)形の2群の建物があり，一つは砦(とりで)で，他は神殿と考えられる。9～13世紀には南アフリカに栄えた長い歴史をもつモノモタパ王国下に最盛期を迎えたと思われる。

ジンバブエ(共和国)　⇨ローデシア

シンハリーぞく　【シンハリー族】　セイロン島の代表民族で，紀元前5世紀ごろインド西部からこの島に渡り王国を建てた。丘陵地帯に住み，かなりの規模の水利施設をもって農業を営んだ。インド-アーリアンの系統を引くものであるが，セイロンの北部は早くから南インドのタミール族の侵入を受け抗争に終始した結果，言語・人種・文化の混合をみるに至った。また，アショカ王が仏教を伝え大きな影響を与えた。

シンバル　［cymbals］　体鳴楽器に属する打楽器で，起源は太古にさかのぼり，世界的に分布する。洋楽のオーケストラやブラスバンドに用いられるものは通常直径35～40cmの2枚1組みの金属製(多くは真鍮(しんちゅう)合金)の円盤で，盛り上がった中央部に皮ひもがついている。一般に左右から打ち合わせたりばちでたたいて奏し，ジャズではドラムセットに組み入れられてリズム楽器として重要な役割をになう。中国や日本固有のシンバルは鐃鈸(にょうばつ)という。



シンバル



新版歌祭文　〈野崎村〉の場　お染(大谷友右衛門)と久松(沢村訥升)の濡れ場

しんぱん　【親藩】　江戸時代の大名の家格の一。徳川氏の一門，すなわち家康(いえやす)以来，徳川の子弟で大名になったものをいい，尾張・紀伊(きい)・水戸(みと)の御三家と越前(えちぜん)・会津の両松平家を含む。譜代とともに，将軍の藩屏(はんぺい)として外様(とざま)大名を牽制(けんせい)する重要な地位にあった。親藩の庶流で大名になったものを家門といい，特に御三家の分家である美濃(みの)(岐阜県)高須(たかす)藩と伊予(愛媛県)西条藩の両松平家を連枝といった。また親藩に準ずるものとして，因幡(いなば)(鳥取県)鳥取藩の池田家，伊予松山藩と伊勢(いせ)(三重県)桑名藩の両久松家，武蔵(むさし)(埼玉県)忍(おし)藩の奥平家，石見(いわみ)(島根県)浜田藩の松平家があった。御三家以外のこのような親藩は，幕末には23家あった。

しんぱん　【審判】　家庭裁判所に関していわれるときは，家事審判法に定める家庭事件(家事審判法9条)，および少年法の定める少年保護事件(少年法3条)についてなされる手続きまたは決定をいう。審判はなるべく関係人が話し合いによる納得ずくで事件を解決させることを望んでいるため，懇切を旨としてなごやかなふんいきで，しかも非公開で行なわれることになっている。また，審判は必要により，家庭裁判所調査官による事件の調査および証拠調べの報告を受けてなされる。

しんぱん　【審判】　カフカの代表的長編小説。1914～1915年に書かれ，死後遺稿として1925年に発表された。ジイドによって劇化され，また映画化もされた。主人公の銀行員ヨーゼフ-Kはある朝突然逮捕され，告発される。彼の無意識裏に犯した実存的な罪が問われているのだが，告発者は高みにいて判明せず，彼はあらゆる手段で自己防衛に努めるが，ついに〈犬のように〉殺される。現代社会のおきてと人間存在の本質的関係を超現実的手法で追求した作品。

しんぱんうたざいもん　【新版歌祭文】　義太夫(ぎだゆう)節の曲名。2段の世話物で近松半二作。1780年(安永9)竹本座初演。お染久松に材を得た作品として最も名高い。油屋の娘お染とでっちの久松は恋仲となるが，仲を裂かれて心中を決意する。しかし，久松のいいなずけお光(みつ)や久作，後家お勝などの計らいでめでたく結ばれるというもの。技巧豊かな作で，《袂(たもと)の白しぼり》(紀海音作)や《染模様妹背門松(いもせのかどまつ)》(菅専助作)などの先行浄瑠璃(じょうるり)を手本として成立した。　〔前田慎一〕

しんぴ　【真皮】　皮膚の一部分を形成する固い結合組織の層。発生学的には外胚葉(がいはいよう)(➞胚葉)から表皮，中胚葉から真皮・皮下組織ができる。すべての脊椎(せきつい)動物の表皮の真下にあり，哺乳(ほにゅう)動物では緻密(ちみつ)な強い繊維性結合組織からなる。表皮に突出した部分を乳頭といい，手掌や足底では大きく分枝して指紋や掌紋をつくる。乳頭内に毛細血管だけが多いものを血管乳頭といい，手足の指，足底に多く存在する知覚性受容器，すなわちマイスネル触覚小体を有するのを神経乳頭という。皮下組織との境界近くは，結合組織繊維が粗大で太く，走行も部位により一定している。真皮には，メラニン保有細胞があり人種・性別・年齢・体の部位により量的に差がある。東洋人の幼児の背部や臀部(でんぶ)の青色の斑点(はんてん)すなわち蒙古斑(もうこはん)(➞児斑)はこの細胞が出現するためである。➔皮膚　〔幡井勉・橋本長〕

じんぴ　【靭皮】　茎の形成層。外側にある二次篩部(しぶ)が発達したもの，あるいは，これからとれる繊維で，篩管・伴細胞・篩部繊維などからなる。繊維は細胞が長く強靭で，アサ・コウゾなどでは織物・紙などに用いられる。

しんぴしゅぎ　【神秘主義】　ギリシア的超自然的儀式，霊魂を通じての究極的存在の探究，特に神と人との交流の直接的神秘的経験をさす。つねに伝統的な固定化したものの見方を打ち破る役割を果たしてきた。神秘的経験においては主観と客観，神と人とは一体となり，探し求めていたものが内

的生命の深みから突然解放され，押し出てきて，活発に，自由にあふれ出る感じを伴う超経験的な意識が現われる。エックハルトやシュライエルマッハーにみられるのはこれである。広義にはドイツ-ロマン派の文芸，スピノザ・ヤコービ・シェリングらの宗教思想も含まれるが，これらは直接的神秘経験そのものよりも，その定式化を試みたものとして，純粋な神秘主義とはいえない。諸科学の進展によって，現代では目だつものがない。〔玉井　治〕

音楽では，音楽を法悦の境地を描いたり，それに到達するためのものと考える傾向で，20世紀初めのサティ・スクリャービン，あるいはのちのジョリベやメシアンらの作品に示される傾向をさす。スクリャービンでは〈神秘和音〉という合成和音(下からハ・嬰ヘ・変ロ・ホ・イ・ニの6音)の使用が特徴の一つである。一般にこの種の音楽では，冗長と思えるほどの要素の反復が神秘性と関連している。〔徳丸吉彦〕

しんピタゴラスは【新ピタゴラス派】ピタゴラス派が紀元前4世紀に絶えたのち，紀元前1世紀にアレキサンドリアに興ったピタゴラス思想の再生をめざした宗教的哲学学派。ローマからオリエントにも広まり，2世紀まで続いた。思想の詳細は不明であるが，ピタゴラス派の説にプラトンやペリパトス派・ストア派などの思想を折衷したものであった。特にピタゴラス派の宗教的性格を受け継ぎ，神秘主義的傾向が強く，のちの新プラトン派に大きな影響を及ぼした。代表者には，奇跡や魔術を行なってオリエント各地を遍歴し，みずからピタゴラス的生活を実践したテュアナのアポロニオス，最高の真理は数の記号で述べられるものと説いたガデスのモデラトス，数は造物者の精神のうちに存在すると主張したアラビアのゲラサのニコマコスがある。その他，キケロによって伝えられるニギディウス-フィグルス・フィロストラトス・クロニオスらがいる。〔本橋正義〕

しんぴひょう【新批評】1920年代にイギリスとアメリカ，特にアメリカで発展した批評方法。文学作品を作者の伝記や歴史・社会的背景などの関連のうちに理解しようとする立場に反対し，もっぱら作品の芸術的個性を尊重して，象徴・構成・文体・心象などの面から解釈しようとした。人によってその方法に差異がみられるが，この方法による批評家として，イギリスのパウンド・ヒューム・T.S.エリオット・エンプソン・リチャーズ，アメリカのテート・ウォレン・ランサムらがいる。〔後藤昭次〕

しんぷ【神父】キリスト教で聖職者に対する一般的尊称。はじめ，いっさいの信仰の師に対して用いられていたが，その後ローマ教会では司祭にのみ限定され，東方正教会・聖公会の一部でもほぼ同様である。プロテスタントでは用いない。

しんぷ【針布】皮革または基布に針金を密に植えた紡織用資材。これをシリンダーに巻きつけて，梳綿(そめん)・起毛などに用いる。針金の材質・大きさ・長さ・密度・角度などは用途に応じて選定される。これを利用した手すき器・毛がき器などが手芸用に使われる。

ジンフィズ ⇨カクテル

しんぷうれんのらん【神風連の乱】敬神党の乱ともいう。1876年(明治9)10月熊本で起こった不平士族の反乱。旧熊本藩士太田黒(おおたぐろ)伴雄らは維新政府の開明政策に反対して蜂起(ほうき)した。復古的攘夷(じょうい)主義を唱え，1876年帯刀禁止令発布に憤激して挙兵。旧式の軍装・武器で同志200余名とともに，熊本鎮台を襲い，司令官種田政明少将と県令安岡良亮(りょうすけ)を殺害した。翌日暴動は鎮圧されたが，これに呼応して秋月の乱，萩(はぎ)の乱が起こった。〔高崎徳次〕

シンフェロポリ［Simferopol'］ソ連，ウクライナ共和国のクリミア半島を含むクリム州の州都。人口28万(1975)。機械，たばこやかんづめなどの農産加工工業がある。クリミア半島は気候温暖で観光地・保養地となり，景勝地である南部の海岸までトロリーバスが走る。1783年からロシア領になったが，古代にはギリシアの植民地で，スキタイやタタールの植民都市であったこともある。

シン-フェーンとう【シン-フェーン党】アイルランドの革命政党。1905年イギリスから独立をめざす小市民による結社として誕生，1916年労働者の自衛隊である市民軍の復活祭蜂起(ほうき)を支援した。蜂起に対するイギリス政府の弾圧はかえって同党の勢力を伸張させ，1918年の総選挙で大勝したが，同党の議員はイギリス議会に出席せず，別にアイルランド議会を組織してアイルランドの独立を宣言。ロイド-ジョージ内閣は北アイルランドのアルスター地方と南アイルランドを分離し，それぞれを自治領にする案を提議，同党の多数がこれを受諾した。1922年アイルランド自由国が成立。〔松下京子〕

しんぷく【振幅】⇨振動

しんぷくじ【真福寺】⇨大須(おおす)観音

しんふじんきょうかい【新婦人協会】婦人の政治的自由を要求して結成された婦人団体。1920年(大正9)3月結成，主唱者は平塚らいてう・市川房枝(ふさえ)・奥むめおら。男女の機会均等，婦人・母・子の権利を主張するなど3か条を掲げた。婦人の政治活動を禁ずる治安警察法第5条の改正などに精力を傾け，機関誌《女性同盟》を創刊。会員400余名，広島・神戸(こうべ)・大阪・奈良・名古屋・横浜などに地方支部をもつ。幹部間の意見の不一致と財政難から1922年末解散した。〔安達淑子〕

しんふぜん【心不全】心臓の血液循環作用に障害が起こった結果現われる全身症状。心臓以外の病気が原因で心臓が弱った場合にも起こる。心臓から各臓器へ送られる血液量が減少するとともに，静脈系に鬱血(うっけつ)を生ずる。左心室の不全が強い場合は肺循環系の鬱血をきたし呼吸困難となる。これは左室不全とよばれ，右室不全(おもに大循環(→体循環)系の鬱血をきたす)と区別される。心不全をきたす心疾患は，心内膜炎・心筋炎・心臓弁膜症・冠動脈疾患・心嚢炎(しんのうえん)などである。ほかに肥満・甲状腺(こうじょうせん)疾患・悪液質などでは心不全をきたしやすい。症状は，肺鬱血症状(呼吸困難・せき・喀血(かっけつ)・心臓性喘息(ぜんそく))と静脈系鬱血症状(浮腫(ふしゅ)・腹水・肝腫脹)に分けられ，経過は原疾患によって異なるが，安静によってよくなるものは，予後がよい。原疾患に対する治療のほか，安静，強心剤や利尿剤の投与が著効を奏する場合がある。〔清水直容〕

しんぶつしゅうごう【神仏習合】神道(しんとう)と仏教とが信仰・教義・宗教施設その他で結合もしくは混合していること。文献的には用明天皇が仏教に帰依したのが習合思潮の発端であるが，以後朝廷という公機関のなかに仏教が取り入れられ，さらには国家鎮護を目的とした寺院が各地に建立(こんりゅう)された。その後現在まで，いくたの神道説が唱えられたが，仏教的色彩の濃厚なものがしばしば現われた。真言神道・天台神道などはその一例である。こうした思惟(しい)的教義とは別に，無自覚的な習合が山岳仏教徒らによって進められ，広く民間信仰として現在も根強く残っている。一軒の家の中に神だなと仏壇の両方が祭られるのはそれを物語る。これら教義・信仰の習合は当然宗教施設にも影響を及ぼし，神道とも仏教とも見分けのつかない社寺が全国各地に数多くみられる。➜神仏分離〔田上光治〕

しんふつせんそう【清仏戦争】19世紀後半，ベトナム支配をめぐって清・フランス間に起こった戦争。1862年と1874年のサイゴン条約でフランスがベトナムを保護国化したのに対し，清は宗主権を主張。1883年フランスがベトナムに増兵すると，清側では黒旗軍にフランス軍を牽制(けんせい)させつつ，李鴻章(りこうしょう)が和平に奔走したが，1884年両軍はついに衝突した。1885年の天津(てんしん)条約により，清はベトナムに対する宗主権を放棄してフランスの保護権を承認した。〔大谷敏夫〕

しんぶつぶんり【神仏分離】1868年(明治1)に発せられた〈神仏判然令〉に基づき，奈良時代以降1,000年余にわたって行なわれてきた神仏習合を禁止し，神・仏を分離させた行政策。祭政一致を目的とした明治政府は強力な神道政策を打ち出し，国体の根本を神武天皇の昔に復することを大目標としつつ，体制的には建武中興を復古の中心

とした。こうした神道強化策の一環として〈神仏判然令〉が発せられ，そのおもな内容は，仏教用語を使用した神号の廃止，仏像を神体とすることの禁止，仏教に関する諸具諸物を神域から取り除くことなどであった。その目的は神仏分離にあり，江戸時代以来の廃仏毀釈*(はいぶつきしゃく)とは異なるとしるされてはいたが，判然令が発せられるや，一部過激分子による寺院とりこわしなど，仏教弾圧も行なわれた。その後，仏教側からの護教運動，さらには信教の自由の運動や明治政府の政策変更などによって，仏教に対する風あたりも弱まり，第2次世界大戦後は文字どおり信教の自由が認められた。〔田上光治〕

しんぶよう【新舞踊】坪内逍遙(しょうよう)以後の新作日本舞踊をいう。江戸時代にできた歌舞伎(かぶき)舞踊は，明治以後変化を要求されたが，ようやく1904年(明治37)逍遙の舞踊論《新楽劇論》や《お夏狂乱》などの作品によって革新が始まり，大正年代西欧舞踊に刺激された初世藤蔭静枝(ふじかげしずえ)(静樹*(しずき))・2世花柳(はなやぎ)寿応*らを中心に成長した。在来の歌舞伎舞踊の技術に，西欧的な形式や新しい内容を織り込む。第2次世界大戦以後ますます盛んになり，多大の発展をしている。〔戸部銀作〕

しんプラトンは【新プラトン派】3世紀にアンモニオス-サッカスを祖とし，その弟子(でし)プロチノス*によってローマで確立された哲学学派。プラトン*哲学を中心として古代ギリシアの諸思想を総合し，オリエントの宗教思想をも取り入れて発展した。ローマからシリアに広まり，のちにアテナイに中心が移ったが，529年にアカデメイア*が東ローマ皇帝ユスチニアヌスによって閉鎖を命じられるまで，当時の異教的世界の支配的な思想として栄えた。この学派の代表者プロチノスは，〈善のイデア〉的な絶対的一者から理性・魂・質料などが流出してくるとする〈流出説〉を説き，さらに一者は学的認識を越えた神秘的観照において融合する，エクスタシー*(脱我)によって直接把握(はあく)されるとした。このようにして彼はプラトン以来の問題であった二元論を克服して一元論を展開した。プロチノス以後この学派の代表者として，イアンブリコス・カルキディウス・プロクロス・シンプリキオス・オリンピオドロスらがある。その神秘主義的傾向やプラトン・アリストテレスの注釈などは，中世キリスト教神学などに多大の影響を及ぼした。〔本橋正義〕

シンプロン(峠)［Simplon］スイス中南部，ペンニン-アルプスとレポンチン-アルプスの間にあるイタリアとの国境に近いアルプス越えの峠。標高2,010m。峠道は，スイスのバレー州にあるローヌ川の谷と，イタリアのピエモンテ州にあるトーチェ川の谷を結び，古来，交通上の要衝であった。1800～1807年にナポレオンによって車道が建設された。現在は，長さ19.82kmで世界第1位のシンプロン鉄道トンネルが1922年に峠の北東方に建設されたため，この峠の重要性は減じている。〔大石堪山〕

しんぶん【新聞】⇨次ページ

じんぶんかがく【人文科学】近年，わが国でよく使用される概念であるが，その意味内容はまだ統一的には確立されていない。日本学術会議では哲学・文学・歴史学の総称となっている。これはアメリカで社会学・法学・経済学などの社会科学*と区別して，哲学・文学・歴史・芸術一般をヒューマニティーズ(humanities)とよんでいるのとほぼ一致する。フランスにはシャンス-ユメン(sciences humaines)の語があり，これは直訳すればそのまま人文科学となる。しかし，その内容は人間的事象にかかわる学一般の総称で，社会科学をも含んでいる。ただし，その中心は社会学と歴史，それに哲学を加えたものである。ドイツには人文科学にそのまま置き換えられる語はないが，ディルタイの〈精神科学〉，ウィンデルバントおよびリッケルトの〈文化科学〉がそれに相当する。彼らは人間の精神・文化・歴史の領域においては価値の問題を捨象することが不可能であるため，それの可能な領域における自然科学的方法とは明確に区別される，独自の学的探究の成立することは必然であると説いた。わが国では対象の明確な把握(はあく)の上に成立するフランス的理解，方法の反省の上に成立するドイツ的理解をもってする人文科学の位置づけはごくまれで，一般には分類上の手だてとして用いられる傾向が強い。〔石井忠厚〕

しんぶんしじょうれい【新聞紙条例】1875年(明治8)反政府的な言論を弾圧するため，讒謗律*(ざんぼうりつ)とともに制定された新聞取締法規。板垣(いたがき)退助*らが民選議院設立建白書*を提出したのを機に，民権論が盛んになり郵便報知・朝野・曙(あけぼの)などの各新聞は，その紙上で国会開設を要求し，政府攻撃を展開した。政府はさきに1873年，新聞紙条目を制定して新聞の言論活動を規制したが，さらに新聞紙条例の制定により，その取り締まりを強化し，具体的にきびしく禁止事項を設けた。あいついで出版条例*も公布され，多くの新聞・雑誌記者が条例違反者として投獄された。1909年新聞紙法*がこれに代わった。〔高崎徳次〕

しんぶんしほう【新聞紙法】新聞紙条例*にかわる新聞・雑誌取締法規。1909年(明治42)制定。全45か条からなり，新聞の発行条件・手続きをはじめ，掲載記事内容の制限，違反の処分などについて詳細に規定した。発行保証金制度や厳重な掲載禁止事項，ことに安寧秩序紊乱(びんらん)，風俗壊乱，皇室の尊厳冒瀆(ぼうとく)，政体変改，朝憲紊乱に関する記事掲載を禁じ，違反者は罰金・体刑に処した。内務大臣の行政処分権は新聞紙条例で一時廃止されていたが，この法律によって復活し，その執行機関である警視庁および各府県警察の自由裁量*で新聞紙の発行・頒布の禁止および差し押えが容易に行なわれ，きびしく言論を統制した。この法律は明治・大正・昭和の3代にわたり一度も改変されることなく，言論界に対する政治権力の武器としてその役割を果たしてきたが，1945年(昭和20)9月アメリカ占領軍覚書によって同法中の内容制限条項の効力が除かれ，1949年廃止された。➔出版法〔高崎徳次〕

じんぶんしゅぎ【人文主義】⇨ヒューマニズム

じんぶんちりがく【人文地理学】人間の諸活動を自然環境との関係から研究する科学で，自然地理学*と並ぶ地理学の二大分科の一。19世紀にドイツの地理学者リッター・ラッツェル*らによってはじめて近代科学としての人文地理学が基礎づけられ，次いで20世紀初頭ブラーシュ*らによって発展した。人文地理学は研究対象と方法によって，集落地理学・経済地理学・政治地理学・歴史地理学・文化地理学などに分類されるが，人文現象は区分が困難であり，また地理学の本質が地域的関連性を探ることにあるので，この分類は研究上の便宜のためと解釈される。しかし，各分野とも多くの研究成果があげられ，近年は経済地理学に重きをおく傾向がみられる。〔大石堪山〕

しんぺいたいじけん【神兵隊事件】1933年(昭和8)右翼*分子によって企てられたクーデター*未遂事件。愛国勤労党の天野辰夫(たつお)・前田虎夫(とらお)，大日本生産党の鈴木善一ら右翼団体幹部が首謀者となり，首相官邸・各政党本部・警視庁・重臣邸宅などの襲撃，要人の殺害，天皇親政の改造内閣樹立をめざしたが，資金出所から事前に発覚して一同は検挙された。裁判の結果，内乱罪に問われたが，1941年刑免除の判決があった。しかし財界人から事件早耳料と称する金銭を受け取った事実が明らかにされ，政治革新を唱える右翼運動はこの事件により一般から不純の感を抱かれた。〔高崎徳次〕

じんべえ【甚兵衛】甚平とも書き，〈じんべ〉ともいう。おもに関西で夏季に男子の用いる衣服。多くは麻を用い身たけはひざくらいまで，広そでをつけ，羽織のようにえりを肩から垂直につけ，共布のひもをつける。

じんべえざめ【甚兵衛鮫】軟骨魚類・ジンベエザメ科。全長20mに及ぶ世界最大の魚。体は太く，頭は平たく，吻端(ふんたん)は幅広くて丸く，口が先端に開く。体側に2～3条の肉質の隆起線がある。サメ類の中でも特異な外形を示すため，本種の識別は容易である。体は暗灰色・赤かっ色・緑かっ色で，白色ないし黄色の円紋と，同色の細い横じまがある。うろこは小さい。歯も小さく，1個が1～2mmにすぎない。鰓

➔278ページ

新聞

第2次世界大戦後，わが国においてもマスコミュニケーションの発達はまことにめざましく，いわゆる情報化社会という言葉も今や人々の耳目に完全に定着してきたかのようである。そのなかでもとりわけ〈新聞〉は，ラジオやテレビなどの電波メディアと比較して，歴史上，最古のマスメディア(大衆媒体)として発達してきた。それゆえ，その発達段階に応じて機能的にも概念的にも，また技術的にも，それぞれの社会状況を反映して今日に至っている。現在，最も一般的には，不特定多数の人間を対象として，定期的に情報・意見・感情などを伝達する活字メディア，すなわちニュースの報道を主たる業務とするニューズペーパー(新聞)として理解されている。その意味では，一方の活字メディアであり，発生史的にみても新聞とほぼ同じ時代的背景をもつ雑誌*の性格も，以上のような規定にあてはまる一面をもっている。しかし，現在の新聞概念を構成する重要な要素は，まず第1に報道の迅速性と定期性(日刊)であり，この点において雑誌メディアと異なり，また第2に記録性という点において，ラジオ・テレビなどの電波メディアと異なる。つまり，ラジオの出現によって新聞がそれまで独占していた速報性は著しく減殺され，またテレビの出現によっては，ニュース内容の現実性という点において大きな脅威をこうむることとなった。しかしながら，文字を媒体とする印刷メディアである新聞は，電波メディアでは不可能な記録性，記録されたものの保存性，毎日定期的に発行される定期性などの諸点において，独自の機能を発揮しつつ今日に及んでいる。このように社会的コミュニケーションの媒体としては，印刷(活字)メディア・電波メディア・映像メディア(映画・写真)の3種に大別できるが，新聞をはじめそれぞれのメディアが独自の個性・機能を発揮しながら，マスコミュニケーション現象という社会的事象の全体を形成しているのである。

【新聞の種類】現代の新聞は，分類基準の相違によってさまざまに分けられるが，まず発行形態の相違によってみると，毎日発行される日刊新聞，1週間に1回の週刊新聞(日曜新聞)，10日に1回の旬刊新聞，また1月に1回の月刊新聞などに区別される。代表的な形態は，いうまでもなく朝刊・夕刊の種別を伴った日刊新聞が発行部数をみても圧倒的である。次に内容的な重点の置き方からみると，不特定多数の大衆を対象とした一般紙と，特定の読者層をのみ対象とする特殊紙とに大別され，一般紙のうちには記事内容の傾向によって，報道新聞・経済新聞・スポーツ新聞・娯楽新聞などに分けられる。また特殊紙のうちには，政党・労働組合・宗教団体などの宣伝(イデオロギー教育)，組織化のための機関紙，職種を同じくする者に共通の問題をとりあげる業界紙，ある学校の学生を対象とする学校(学生)新聞などの分類が考えられる。しかし，マスコミュニケーションの媒体としての新聞の本質，あるいはジャーナリズム活動としての新聞現象の本質からいえば，これらのうちでも日刊新聞としての発行形態をとり，かつ報道新聞であるものが最も社会的意義をになうものといわなければならない。そして普及の地理的な範囲という観点から区別すると，全国紙の次に近接した数府県に読者をもつブロック紙，一府県内の地方紙(県紙)，およびコミュニティー-ペーパーとしての地域紙などの種別がある。

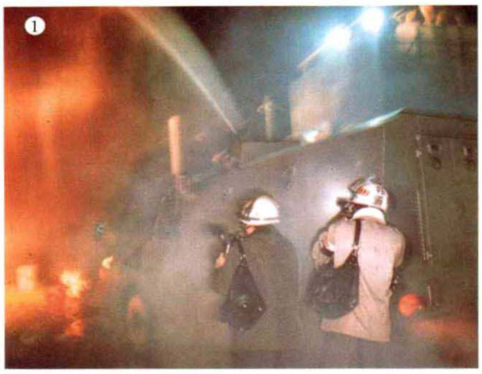
【新聞の歴史】新聞とはなにか，という問いに対して，〈民衆の護民官〉〈第四階級〉〈市民的自由の守護神〉などという回答が与えられてきたように，15世紀，ヨーロッパにおける印刷術の発明を契機に発展してきた新聞は，その発展の歴史において，一方では〈言論の自由*〉の獲得のための闘争史であり，他方ではジャーナリズム企業の成立史でもあった。

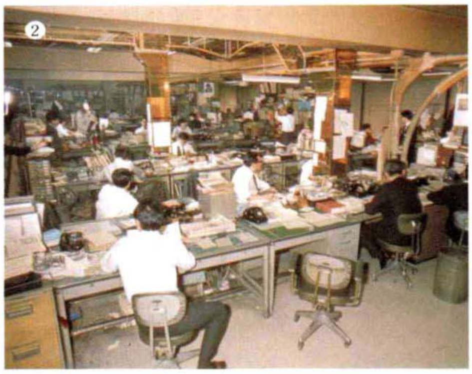
歴史上，世界最古の新聞として認められているものは，BC59年古代ローマの《アクタ-ディウルナ-ポプリ-ロマニ》であり，世界最初の新聞記者はそれをつくったカエサル*であるとするのが通例である。これは石膏版(せっこうばん)に彫刻し，掲示板の形式で民衆に報道した官報*であった。東洋では玄宗*皇帝の発行による《邸報》が最古とされており，これは宮中の動静を伝えたものであったが，ともに定期的な報道性を欠いており，今日のような形式と機能をもった近代新聞は，17世紀までまたねばならなかった。それはドイツの《レラチオン》(1609)，次いでイギリスの《ウィークリー-ニューズ》(1622)，フランスの《ガゼット》(1631)，ロシアの《ベドモスティ》，アメリカの《パブリック-オッカレンシズ》(1690)等々であるが，グーテンベルク*による活字印刷術の最初の出版物が聖書であったという事実に端的に示されるように，これらの近代新聞の場合においても，他の出版物とともに絶対主義権力の専制的な支配下に置かれ，政府発行か政府の許可がなければ発行することはできなかった。また教会は政府とともに中世の支配的勢力であり，何人もこれに反抗することは許されなかった。しかし聖書の出版から出発した新しいメディアが，のちに教権をゆさぶる原動力となったのは歴史の皮肉であるが，その間の社会的事情について，美学者中井正一は《美と集団の論理》(1962)の中で，次のような示唆に富んだことばを残している。〈印刷のもつものは，タルド*が示すごとくpublicumの出現である。ここでは言語意味はすでに一義的な意味志向が許されなくして，活字となって公衆の中にことばが手渡しされるとき，すでに公衆のおのおのの生活経験とおのおの異なった周囲の情勢にしたがって解釈される可能の自由が与えられるのである。はじめて活字を効果的に用いたマルチン-ルター*のことばは，王侯に対して及び農民に対しておのおの別の解釈となって勝手に侵入したのである。マルチン-ルターは農民から自分のことばを取りもどすために農民を殺戮(さつりく)さえしなければならなかったのである。しかも，このことばの解釈の新しい形態が活字で与えられることで，ジャーナリズムなる新たな公衆性が生じたのである。ユーゴー*は新聞がなかったらフランス革命は起こらなかったであろうと指摘している〉。このように16世紀のマルチン-ルターの宗教改革*も新聞ジャーナリズムの進歩と無縁ではなく，当時の新聞は，封建主義ないしは絶対的専制主義に対して，市民階級の代弁者としてよくその使命を果たし，封建的圧制からの自由を要求した市民革命*の展開過程の中で，最大の武器として機能した。たとえばイギリスのジョン-ミルトン*はその著《アレオパジカ》(1644)の中で，〈書物や新聞はそれをつくりだす精神と同一の効果をもった力がある。だからそれを圧殺するのは精神を殺すのと同一の罪である〉と力説し，言論出版の完全な自由を訴えた。かれの言説は，1693年の権利宣言*において特許検閲*の廃止に大きな影響を発揮したといわれている。

週刊新聞に引き続いて，ドイツの《ライプチガー-ツァイトゥンゲン》(1660)，イギリスの《デーリー-クーラント》(1702)，フランスの《ジュルナル-ド-パリ》(1777)，アメリカの《ペンシルバニア-イブニング-ポスト》(1783)などの最初の日刊新聞が登場する。これら日刊新聞の出現によって，マスコミュニケーションの媒体にふさわしい近代新聞の基礎がつくられ，やがて教育の普及と資本主義の発達に伴って，新聞活動の対象は社会の底辺にまで広がっていく。この過程の中で新聞の営利主義がしだいに露骨となり，センセーショナリズム(扇情主義)中心の大衆新聞が成立する。こうして新聞が，かつてそのために戦った大衆の政治参加が実現するにつれて，新聞企業としての営利性が，本来の啓蒙(けいもう)性の前面に出てくることとなった。このことは，資本主義的企業経営をとるかぎり当然の結果というべきであり，現代の新聞現象の矛盾もまたこの点に集中しているといえよう。

日本の新聞発達史を概観してみると，すでに江戸時代に瓦版*(かわらばん)と称する一枚刷りの新聞類似物があったが，近代新聞と

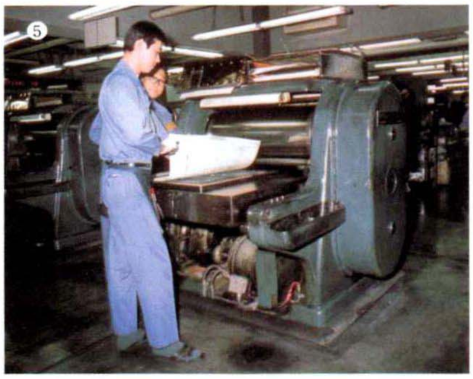
①取材中のカメラマン　②政治・経済・社会・運動など各部が集まる編集部　③写真や原稿を専用線で送受する電送室　④新聞の型に活字が組まれる大組み　⑤組み版の上に厚紙を載せて紙型をとる　⑥紙型を鋳型にはめ，半円形の鉛版をつくる　⑦高速度で回転しながら印刷する輪転機　⑧トラックに積まれ全国の販売店へ　(毎日新聞社提供)

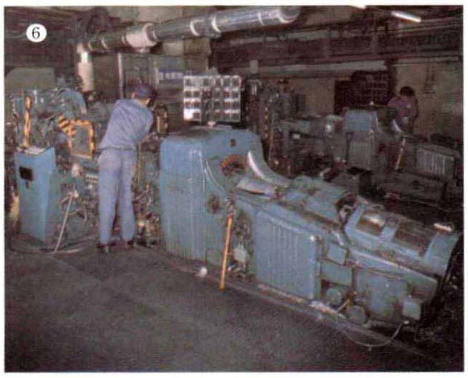


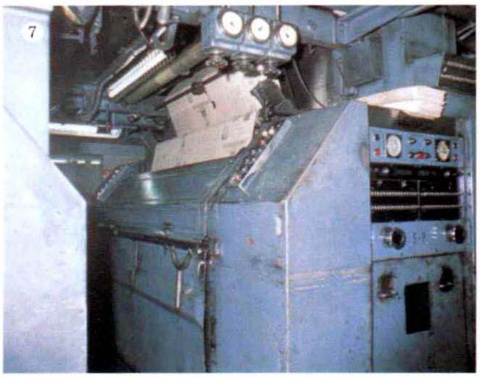














しての形態が整ったのは江戸末期からである。日本最初の新聞は，1862年(文久2)の《官板バタビヤ新聞》であるとされ，それ以降いくつかの新聞が発行されている。しかしそのほとんどのものが外字新聞からの翻訳新聞である。外字新聞からの翻訳記事と同時に国内記事をも掲載した日本人による最初の自主的新聞は，1868年(慶応4)柳河春三(やながわしゅんそう)を中心とする会訳社(外国新聞の翻訳を業務とした団体)によって江戸に創刊された《中外新聞》であり，内容・形式ともに近代新聞としての土台を築く役割を果たした。定期印刷新聞としての最初の日刊紙は1871年(明治3)1月の《横浜毎日新聞》，つづいて《新聞雑誌》(1871)，《郵便報知新聞》(1872)，《大阪新聞》(1872)の出現をみた。これら明治初期の新聞は，自由民権運動を社会的背景とした政論新聞(大新聞)であり，いわゆるパーソナル-ジャーナリズムの時代として特徴づけられる。1874年には《読売新聞》が創刊され，《平仮名絵入新聞》(1875)《仮名読新聞》などとともに，勧善懲悪の庶民的モラルと卑俗な興味に投じたいわゆる〈小新聞〉と称される通俗紙の原型を形成した。そして1879年に創刊された《朝日新聞》は，小新聞として出発したが，しだいに他に先がけて大・小新聞の中間を目ざすようになり，いちはやく報道新聞としての性格を備えつつあった。日清(にっしん)戦争以降各新聞は，前期の政論新聞的性格からしだいに商業的報道新聞へと脱皮してくるが，とりわけ日露戦争の戦況の報道合戦は，読者層拡大の一大契機となり，新聞経営の側面をみても，資本主義的な企業経営の性格を濃厚にしてくる。大正期になると民衆のリテラシー(読み書き能力)の普及は著しく，新聞の大衆化に続いて，雑誌・書籍の大衆化現象も現われている。

1923年(大正12)の関東大震災によって東京の有力新聞は被害をこうむり，大阪に本拠をもつ《大阪朝日新聞》《大阪毎日新聞》が全国紙として地盤を築きはじめ，また大正末期からは《読売新聞》も荒廃した東京からしだいに発展し，現在の三大新聞(朝日・毎日・読売)として勢力を拡張してきた。昭和にはいると，まず満州事変に対する全面支持という形で，新聞は政府の言論統制に屈服することとなる。一部にはファシズムに対する新聞側からの批判も存在したが，戦時体制が〈非常時〉の合いことばのもとに整備され，1936年，国策通信社である同盟通信の設立をきっかけに，政府の言論統制は1945年(昭和20)の第2次世界大戦終結まで続く。いわゆる満州事変以来の十五年戦争の歴史の中で，事変報道に熱狂し世論をあおり，民衆を戦争にかりたてていくと同時に，企業を伸ばしていった新聞の責任はきわめて重大であったといわねばならない。

【新聞の機能】新聞を含めて，コミュニケーション活動一般の社会的な機能については，アメリカの政治学者H.D.ラスウェル(1902～　)の次の分類が古典的なものである。彼は，第1に環境の監視，第2に環

境に反応する際の社会諸部分の相互の関連づけ，第3に社会的遺産の伝達を掲げている。しかし，とりわけ現代社会の新聞の機能については，第4番めに娯楽機能をつけ加えなければならない。新聞をはじめあらゆるマスメディアが大衆に共通に与えられるものといえば，実はこの娯楽だけなのである。第1の環境の監視とは，特定の社会の内外双方におけるできごとについての情報を集めこれを配布することをさし，一般には，ニュースの取り扱い，すなわち報道機能である。第2の社会諸部分の関連づけとは，環境についての情報の解釈およびこれらのできごとに反応する行動についての指示を含んでおり，意見を説得しようとする誘導機能と考えられる。第3の文化の伝達とは，ある世代から別の世代へ，あるいはある集団から新しいメンバーへの情報や価値や社会的規範の伝達がその中心活動であり，教育活動と同義に考えてよい。このように，現代の新聞の機能を大別すると，報道・誘導・教育・娯楽の4大機能に分けられる。これらを歴史的な生成発展という背景からみると，新聞の機能は誘導機能をめざした論説中心の政論新聞から，ニュース本位の報道新聞へ，そして大衆社会状況になるにつれて娯楽機能が前面に押し出てきたものということができる。また，ソ連をはじめとする社会主義諸国の新聞では，誘導機能が宣伝の武器として第1に重要性をもっているが，それぞれの機能が明確に分化してはいず，複合的に一体となって，〈新聞ジャーナリズム〉を形成している。

【新聞社の機構と現況】新聞がつくられて読者に届けられるまでの機構には，編集・印刷・営業販売の各局に大別される。編集局は，まず取材部門として政治・経済・外信・社会・運動・学芸・文化・家庭・科学・地方取材・写真などの各部に分化しており，新聞社の意見である社説や短評を書く論説委員室がある。それらの記事を紙面に構成する部門として整理部・校閲部があり，各部門の取材原稿は本社の各部に集められ，デスクとよばれる内勤記者によってその内容が確認されたうえ整理部に送られる。整理部は各部から集まってきた原稿を検討・評価・選択し，あるいは加筆・修正などを行なって総合的にニュースとしての掲載価値があるか否かを判断し，見出しをつけ，活字の組み方の指定を行なって印刷にまわす。校閲部は編集局と関連して記事の文字を校正するとともに，内容についても最終的に検討する。紙面全体としては整理部長が，また編集過程全般については主筆，あるいは編集局長が責任者となる。編集を終わった原稿は印刷局に送られ，記事・写真・さし絵・カットなどが，新聞1ページの大きさにまとめられる。こうして印刷工場では，活版工程，紙型取り工程，鉛版鋳造工程，印刷工程を経て，各地の販売店に発送され，読者に配達・販売される。一方，新聞社は紙面の広告スペースを広告主に売って企業としての収入をあげ，常にその拡大をはかっているのである。1979年10月現在，三大新聞の発行部数をみると，《読売新聞》が846万部，《朝日新聞》731万部，《毎日新聞》458万部という概況であり，これら三大紙でわが国の新聞総発行部数の45.9％を占めている。いずれの新聞も今日では販売収入より広告収入の比率のほうが高くなっており，現代の新聞経営には〈広告〉が不可避なものとして作用している。〔前納弘武〕

新聞の発行部数の多い国

		総発行部数 (単位 1,000部)	人口千人当り発行部数
1	ソ連	100 928	397
2	アメリカ	61 222	287
3	日本	57 820	526
4	イギリス	21 700	388
5	西ドイツ	19 298	312
6	フランス	11 341	214
7	インド	9 383	16
8	ポーランド	8 429	248
9	東ドイツ	7 946	472
10	イタリア	6 296	113
11	韓国	6 010	…
12	オーストラリア	5 320	394
13	カナダ	4 872	…
14	スウェーデン	4 678	572
15	チェコスロバキア	4 436	300
16	オランダ	4 100	315
17	ブラジル	4 050	39
18	スペイン	3 491	98

注） 国連発行《世界統計年鑑》1977年版から，300万部以上の国を収録

耙(さいは)は細長く，クジラのひげのようである。卵は長方形で長さ30cm，幅15cm，厚さ10cmほどの卵殻(らんかく)に収められる。甲殻(こうかく)類・小魚・イカなどの群れの中を口をあけたままで泳いだり，餌(えさ)の群れの下で垂直泳ぎをしたりして餌をとる。熱帯から温帯の外洋に分布し，表層を泳ぎ，ときに群れをつくる。カツオの群れが周囲につきまとっていることがあり，カツオの大漁をもたらすことがあるので，一部地方の漁民にあがめられている。性質は穏やかで，人間を攻撃することはない。〔菅野 徹〕

しんヘーゲルがくは【新ヘーゲル学派】 1870～1920年にイギリス・アメリカで顕著であった観念論哲学に対して，多少の反感の意をこめて用いられたことば。直接ヘーゲルに師事した人たち(ヘーゲル右派・中央派・左派)ではなく，またヘーゲル哲学のみを祖述した人たちでもない。また学派を形成したわけでもなく，20世紀以後のヘーゲル学者やドイツ以外のヘーゲル学者を総称してよんだ。膨大で多面的なヘーゲルの体系はそのときどきに種々な側面から引用可能であり，その一つとして，この派は，歴史哲学・社会哲学・哲学史・民族心理学などの領域に主力点を置いた。日本・イギリスなどでは形而上(けいじじょう)学・論理学などへの関心が強かった。〔豊福英利〕

しんべつ【神別】 古代氏族の分類によれば，各氏はその出自により皇別・神別・諸蕃(しょばん)のいずれかに属する。神別とはその祖先が神代の神であると伝える家柄であるが，これはその氏が古くから皇室の家僚であったことを示すものらしい。有力な神別氏に大伴(おおとも)・物部(もののべ)・中臣(なかとみ)らがあり，いずれも連(むらじ)の姓(かばね)を称した。《新撰姓氏録(しんせんしょうじろく)》では畿内(きない)諸豪族の34％が神別氏である。

しんぼう【心房】 ⇨心臓

しんぽう【申報】 中国の新聞。1872年，イギリス人により上海(シャンハイ)で創刊。1883年からニュースのほかに，詩文・随筆の欄を設けて紙面を刷新，これがのちの学芸欄(副刊という)のはじめとなった。国民政府時代にも民間紙として時局批判を続け，満州事変後，抗日の論調で注目された。当時の社長，民族資本家の史量才はそのため危険分子として，1934年11月暗殺された。1930年代，この新聞の〈自由談〉という学芸欄に，魯迅(ろじん)・陶行知らが執筆している。〔斎藤秋男〕

しんぽうとう【新法党】 中国，北宋(ほくそう)に革新政治を断行した王安石を首領とする政治的党派。北宋第6代皇帝神宗が即位したころ，契丹(きったん)・西夏などの活動や，役にたたない多くの兵，科挙出身の官僚の増加などを原因として財政は破綻(はたん)寸前であった。王安石は神宗の知遇を得て，〈富国強兵〉を目的とした革新的政治を断行し，これを〈新法〉と称した。王安石の政治は，蔡確(さいかく)・呂恵卿(りょけいけい)・章惇(しょうじゅん)・蔡京(さいけい)らに継承され，これらの一派を新法党とよぶが，後継者には政治革新の意気ごみが乏しかった。〔衣川 強〕

しんぼく【神木】 神聖視されている樹木。狭義には神社に縁故のある神聖な樹木をいう。社地の樹木を総称する場合と，神霊の降臨する樹木でこれを神体または神符として尊崇するものをいう場合とがある。多くは神社の境内にあって，注連縄(しめなわ)を張り，さくを設けて表示する。伏見稲荷(いなり)大社のしるしのスギ，香稚宮(かしいぐう)の綾杉(あやすぎ)，伊豆山(いずさん)神社のナギ，弥彦(やひこ)神社のシイなどが著名である。

しんほくく【新北区】 動物地理区の一。北アメリカの大部分とグリーンランドを含む。哺乳(ほにゅう)類と鳥類の3分の2は固有

種とされ，スカンク・シチメンチョウ・ビーバーは有名。旧北区*とはかつてベーリング海峡付近で陸続きであったため，そこを通って交流した北アジアの動物相によく似ている。

シンポジウム ［symposium］ 討論の一方式。最初，数人の論者が同じ問題についてそれぞれの見解を示し，次に司会者や聴衆が論者と質疑を行なう。論者はその問題に詳しい人が選ばれるので聴衆の認識が著しく高まる。

しんぽじとう 【新補地頭】 ⇨地頭

しんぽとう 【進歩党】

1 明治中期の議会政党。大隈重信*(おおくましげのぶ)を党首とする立憲政進党(改進党)は，自由党*が藩閥政府と接近したのに対抗して，1896年(明治29) 3月政策で同調した立憲革新党・中国進歩党・大手倶楽部(クラブ)などの小政党を合同して結成。党首の大隈は9月第2次松方内閣に外相として入閣し，その際多くの党員が次官・局長および新設の勅任参事官に就任して藩閥と提携，党は民権政党から体制政党へ体質を変えたが，翌年11月大隈が下野して同党は野党に返り，松方内閣を辞職に至らしめた。次の第3次伊藤(いとう)内閣には自由党と連合して政府に反対し，1898年6月には両党が合同して憲政党*を結成したため議会対策に万策尽きた伊藤内閣は倒れ，隈板(わいはん)内閣*が成立。

2 ➜日本進歩党 〔高崎徳次〕

しんぽのためのどうめい 【進歩のための同盟】 アメリカのケネディ*大統領によって提唱されたラテンアメリカ開発のための同盟。1961年8月，ウルグアイのプンターデル-エステでアメリカとキューバを除くラテンアメリカ19か国との間で調印された。同盟の目標は10年間に，①1人あたり年間所得の2.5%上昇，②文盲の一掃，③国家経済の多様化と工業化，④税制改革および農地改革，⑤住宅建設，衛生環境の整備，⑥経済統合の実現，にあった。このためアメリカは10年間に200億ドル(西欧諸国・日本の援助も含め)の援助を約束した。しかし目標があまり理想的に過ぎたため，改革に対する特権階級の抵抗，アメリカの援助意欲の後退などが重なり，期待した成果はあがらなかった。 〔松下　洋〕

シンボル-マーク ［symbol mark］ ある事象や人間のもつ観念や思想の意味性の，簡潔で平明な形への象徴化(デザイン)をシンボルといい，マークは標・印の意。オリンピック旗*は五つの輪で世界五大州を表わし，フランス国旗の3色はそれぞれ自由・平等・博愛を表わしている。このほか家を印で表現したシンボルにわが国の紋章*があり，その種類は5,000点に達する。シンボル-マークの表現内容には，国際性・民族性・地域性・商業性などがあげられる。それは，表現目的により政治的なもの，公共的なもの，商業的なものなどに分かれる。表現は，だれがみても理解できるモチーフを選び，視覚的に単純で明快なデザインであることが大きな要素である。 〔伊藤幸作〕

じんましん 【蕁麻疹】 皮膚や喉頭(こうとう)の粘膜にかゆみのある発疹(膨疹)ができる病気。灼熱(しゃくねつ)感・発熱・頭痛，ときには呼吸困難などを伴う。全身どこにでもでき，経過により急性と慢性とに分けられる。急性蕁麻疹は，アレルギー*や食中毒*に関係する場合が多く，発生した膨疹が数分から数時間で完全に消失し，これを1日数回くり返しながら数日で全治する。慢性蕁麻疹は膨疹の発生が数か月からときには数年間続くこともあり，原因のはっきりしないものも多いが，慢性の内臓疾患や全身疾患，精神的なストレスなどが関係している場合もあり，一般に難治である。膨疹の発生には外からの刺激が原因となるものもあり，皮膚をひっかいたり，こすったり，圧迫したりすると発生するもの(人工蕁麻疹)，寒い風や冷水に触れると発生するもの(寒冷蕁麻疹)，入浴などで暖まると発生するもの(温熱蕁麻疹)などがある。治療にあたっては，外因性の場合はその原因となった刺激を遠ざけ，内因性の場合は原因となる食物(魚肉・獣肉およびその加工品)や薬物を中絶する。また便秘や腸内異常発酵を防止し，場合によっては下剤や浣腸(かんちょう)で腸の内容物を除去する。一時的に膨疹の発生を止め，瘙痒(そうよう)を軽くする薬剤には，種種の抗ヒスタミン剤・抗セロトニン剤・抗ブラジキニン剤の内服や，注射および抗ヒスタミン剤軟膏(なんこう)・石炭酸亜鉛華リニメントなどの塗布があるが，これらの使用は医師の指示を仰がねばならない。 〔田嶋公子〕

しんマライけいしょぞく 【新マライ系諸族】 アジア大陸から到来したモンゴロイドに属する人種で，インド・アラビア・中国その他の人種・文化要素を混入しており，外来文化の影響をこうむらない旧マライ諸族とは区別される。インドネシアの大部分を占め，おもに大島の沿岸に住むところから沿岸マライともよばれる。狭義のマライ人(スマトラ島・ボルネオ島南東部など)とジャワ人・ブギズ人・ミナハサ人(セレベス島)・ラルテナ人・アンボン人(モルッカ諸島)・フィリピン人・モロ人などがおもなものである。 〔牛島　巌〕

しんみなと 【新湊(市)】 富山県北西部の市。市域は富山湾に臨み，小矢部(おやべ)川を隔てて高岡市伏木と隣接する砂州上に発達する。市街の東にある放生津潟(ほうじょうづがた)は，古くは越海(こしのうみ)とよばれる大湖であった。越中米の積み出し港，漁港として栄えて北陸道の要地として知られ，明治以後には大陸貿易が行なわれて鉄などの工業も発展した。1951年(昭和26)に高岡市から分立して市制施行，人口44,000。産業三大別人口比は10：43：47。水産業が盛んで，ブリ・イカを主体とする水揚げ量は県下首位を占め，水産加工も盛んである。近年，富山・高岡工業地帯のめざましい発展に伴い，その中間にある放生津潟を利用して富山新港を建設中で，一部は1968年に開港，大工場も誘致されて，臨海工業地帯がつくられている。放生津潟北岸には富山地方鉄道射水(いみず)線が走って富山市と結ばれる。海岸線は奈呉ノ浦(なごのうら)とよばれ，《万葉集》にもみえており，西に続く有磯海(ありそのうみ)とともに古くから景勝地として名高い。

じんみょうちょう 【神名帳】 《延喜式》9・10両巻の別称。京・畿内(きない)・七道諸国の官社が列挙してあるところからこうよばれる。ここに記載された神社を式内社*といい，総数3,132座，うち，大社492座，小社2,640座(1社に数座の例も多い)であった。なお後世，諸国において神名帳がつくられたが，これには神階がしるしてあって，《延喜式》とは体裁が異なる。

じんみんけんしょう 【人民憲章】 イギリスのチャーティスト運動*の政治綱領。ロンドン労働者協会の指導者であるラベットらが討議し，議会への請願書の形式で起草。1838年バーミンガムで開かれたロンドン労働者協会・バーミンガム政治同盟その他の団体の集会で可決され，選挙法改正の共同闘争の目標として掲げられたもの。成年男子による普通選挙，無記名投票，議会の毎年召集，議員の歳費支出，議員の財産資格の廃止，均等選挙区制の6か条からなる。

じんみんこうしゃ 【人民公社】 中国の行政と生産を統一した基礎的社会組織。中国では，1957年に所有制面での社会主義改造を達成したのち，第2次五か年計画期に，社会主義建設の総路線・大躍進・人民公社の3大政策を掲げた。1958年末には，99%の農家が26,000余の人民公社に組織された。従来の農業生産合作社・手工業生産合作社などを数十集めて，ほぼ郷単位で大規模に組織し(一社平均5,000余戸)，農業・工業・商業・文化教育・軍事(民兵)を統一的に運営するものである。生産手段は公社・生産大隊・生産隊の三級所有制，公社員は一律平等，最高決議機関は公社大会である。生産は大幅に伸び，社会面での解放(たとえば婦人の家庭からの解放)も飛躍的に進んだ。調整期の反動を経たのち，貧農下層中農協会が指導権を確立し，文化大革命後はいっそう強化・発展する勢いにある。共産主義への移行の最良の形態と考えられている。 〔狭間直樹〕

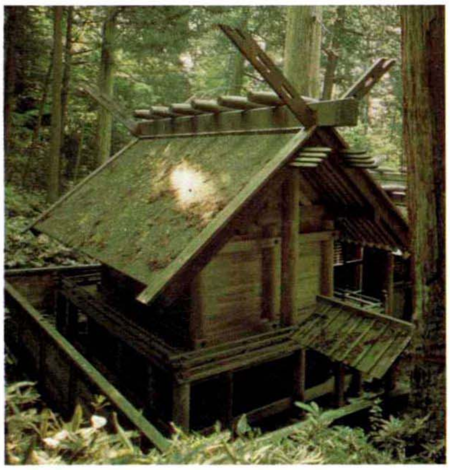
じんみんせんせんじけん 【人民戦線事件】 左翼系反ファシズム関係者が検挙された事件。1935年(昭和10)ファシズムの台頭に危機を感じたコミンテルン(➜インターナショナル)第7回大会は，反ファシズム人民戦線の結成を世界に呼びかけた。これにこたえて，日本では鈴木茂三郎*・加藤勘十らを中心に，1936年労農無産協議会(翌年

日本無産党となる)を結成して反ファシズムのための活動を開始したが，日中戦争に突入した日本政府(第1次近衛(このえ)内閣)は，これを戦争遂行上障害であるとして弾圧を決定。1937年12月15日，日本無産党・日本労働組合全国評議会(全評)の関係者および加藤勘十・鈴木茂三郎・山川均・荒畑寒村・猪俣津南男(いのまたつなお)ら400余名を検挙し，同月22日には日本無産党・全評が解散させられた。さらに翌年2月1日には，東京大学教授大内兵衛(ひょうえ)，同助教授有沢広巳(ひろみ)，法政大学教授美濃部亮吉(みのべりょうきち)ら労農派教授グループを検挙した。前者を第1次人民戦線事件または12・15事件といい，後者を第2次人民戦線事件という。➔ファシズム　〔原田政洸〕

じんみんちゅうごく　【人民中国】　北京(ペキン)で発行されている外国人向けの月刊雑誌。はじめ英語版・ロシア語版が出，日本語版は1953年6月に創刊された。新中国の生活と文化を紹介し，〈中国人民と日本人民の間の理解と友誼(ゆうぎ)を深め，平和を守る事業に寄与することを目的とする〉雑誌である。別にでているグラフ《中国画報》とともに，日本に広範な読者をもっている。

じんみんとう　【人民党】　1892年アメリカ北西部農民の利益を代表して結成された第3政党。ポピュリストともいう。南北戦争以降鉄道その他の独占の進行，1880年代の農産物価格の下落と農業負債の増加に対して，グリーンバック党，グレンジャー運動など農民の抵抗運動が起こったが，無党派の立場からその要求を貫徹しようとする気運が高まり，1890年北部農民連盟・労働騎士団・イリノイ州農民共済会などがカンザス州トピカに結集して人民党を結成，州議会・連邦議会へ多くの議員を送った。1892年の大統領選挙では，ウィーバーが100万票以上を獲得し，金本位制対銀貨自由鋳造論の争いとなった1896年の選挙には民主党と共同でブライアンを立て，647万票を獲得したが，以後急速に衰退し，やがて民主党に吸収され消滅した。しかし，累進所得税・郵便貯蓄制・秘密投票制・上院議員の直接選挙・移民制限など大部分の政綱は20世紀初頭の革新主義運動を通じ実現をみた。　〔折井一彦〕

じんみんにっぽう　【人民日報】　中国共産党の機関紙。はじめ1948年6月，華北解放区の河南省邯鄲(かんたん)で創刊，1949年4月に北京(ペキン)に移って共産党の機関紙となった。社説は毛沢東主席が無署名で執筆した例もあり，全国の民衆に対する啓発・指示として大きな権威をもつ。発行部数550万。中国ではラジオ・テレビが普及しつつあるとはいえ，マスメディアの中心は新聞であって，とりわけ，この新聞が国内・国外の情勢の報道，政策の宣伝のうえで果たしている役割はきわめて大きい。　〔斎藤秋男〕



神明造り　仁科神明宮本殿(長野県)

じんみんみんしゅしゅぎ　【人民民主主義】　第2次世界大戦後に東欧諸国(アルバニア・チェコスロバキア・ハンガリー・ブルガリア・ポーランド・ルーマニア・ユーゴスラビア)や東アジア(中国・北ベトナム・北朝鮮)などにおいて確立された一種の社会主義国家体制をいう。これらの諸国においては，ナチス-ドイツや日本軍国主義の侵略に対して全人民を包含した反ファッショ民族統一戦線が組織され，ファッショ勢力を撃退したのちにはこの統一戦線による革命政権が樹立された。この革命を人民民主主義革命という。この革命はその過程でソ同盟の指導と援助があったために共産党・労働者党の影響力が強く，社会主義革命の出発点となった。人民民主主義はそれ自体としては社会主義ではないが，社会主義の確立を目標・原理とするもので，広義の社会主義国に数えられる。人民民主主義は，ファシズムの脅威に対して，民族ブルジョアジーを含む広範な人民が統一戦線に結集して戦わざるをえないという歴史的条件によって生まれたものであり，したがって権力構成でも国家制度でも，一党独裁，ソビエト体制をとらずこの点はソビエト連邦とは決定的に相違している。なお，中国では人民民主主義とはいわず，新民主主義といっている。　〔西尾孝司〕

じんむかい　【神武会】　昭和初期の右翼運動団体。1932年(昭和7)2月の紀元節に創立。大川周明が主宰し，行地社，全日本愛国社共同闘争協議会，大日本生産党の一部が提携し，この結社によって国内改造の積極的運動を進めようとした。新興財閥石原広一郎や軍部の財政的援助を受け，神武建国の精神を宣揚し天皇親政，政党政治の打破，資本主義的搾取の排除，皇国的経済組織の実現，世界の道義的統一などを主張した。五・一五事件で大川が投獄されて不振となり，1935年解散した。〔高崎徳次〕

じんむてんのう　【神武天皇】　〈記紀〉に伝えられる初代の天皇。神武は奈良時代の諡(おくりな)。名は神日本磐余彦尊(かむやまといわれひこのみこと)，瓊瓊杵尊(ににぎのみこと)の曾孫(そうそん)。〈記紀〉によると，天皇は日向(ひゅうが)(宮崎県)を出発して東征し，瀬戸内海から難波(なにわ)に上陸しようとしたが，土着勢力の長髄彦(ながすねひこ)のため果たせず，熊野(くまの)から吉野(よしの)を経由，大和(やまと)の諸豪族を平定した。BC660年元旦橿原(かしはら)に都して即位し，BC585年127歳で没したとある。これらの伝承は史実とは認めがたく，崇神(すじん)天皇の事績が理想化されて，神武天皇となったとする見解もある。陵墓は奈良県橿原市畝傍山(うねびやま)東北陵。　〔高崎徳次〕

しんむらいずる　【新村出】　(1876～1967)　言語学者・国語学者。山口県生まれ。東京大学博言学科卒業。東京高等師範学校教授・東大助教授を経て1909年(明治42)京都大学教授。上田万年(かずとし)の学問を受け継ぎ，国語学の近代化およびヨーロッパ言語理論の紹介に努めた。特に近代南蛮文学研究の先覚者。その他国語史の研究，国語問題，国語政策など多方面に関心を示し，有効な発言をしているが，また《辞苑(じえん)》をはじめ辞書の編著も多く，《広辞苑》は20万語を収載した国語百科辞典的なものとして，広く愛用されている。1956年(昭和31)文化勲章を授与された。著書《新村出選集》など。　〔寒河江実〕

じんめいかんじ　【人名漢字】　人名に用いられる漢字には，むずかしい字や特別な読みのものがあるが，これに当用漢字やその音訓を適用することは国民感情や法規その他に関係することが多い。しかし，できるだけ常用平易な文字を用いることが望ましいので，当用漢字制定後，1951年(昭和26)5月25日内閣訓令，同告示によって，当用漢字以外に人名に用いる漢字92字を〈人名用漢字別表〉として公布し，戸籍法の施行規則が改正された。さらに昭和51年7月，〈人名用漢字追加表〉が内閣告示され，あらたに28字追加された。　〔石黒　修〕

しんめいしんこう　【神明信仰】　⇨伊勢(いせ)信仰

しんめいづくり　【神明造り】　神社建築の古型式の一。切り妻屋根の平側に正面がとられ，妻側に棟持(むなも)ち柱があり，周囲に回り縁が巡り，正面の階段に向拝(ごはい)(雨よけの屋根)がなく，屋根に千木・勝男木(かつおぎ)をつけ，仏教建築的な反(そ)りなどの曲線をつけず，直線を主とした意匠で，彩色をつけない。この特徴を最も厳格にもつ典型が伊勢(いせ)神宮正殿で，これを唯一(ゆいつ)神明造りという。

ジンメル　[Georg Simmel]　(1858～1918)　ドイツの哲学者・社会学者。ベルリンの生まれ。ベルリン大学で哲学・心理学・歴史学を学び，同大学私講師となる。ユダヤ人のため1914年シュトラスブルク大学教授となるまで不遇であった。新カント派の影響を受けたが，1910年代末から〈生の哲学〉の立場から相対主義的な哲学を説いた。

社会学者としては形式社会学*の創始者。主著《歴史哲学の諸問題》《生の哲学》。

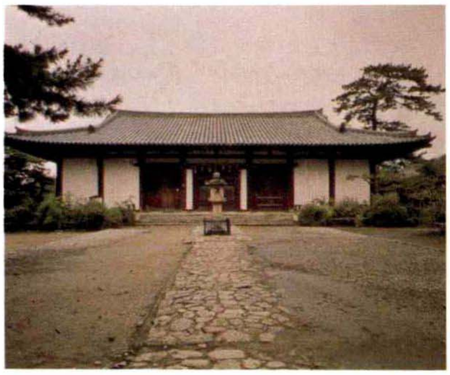
じんもん【尋問】 法廷において，裁判官その他訴訟当事者が証人に対して問いただすこと。尋問はまず原則的に裁判長が行なうとされているが，実際には証人尋問を申請した者が最初に行ない（主尋問），次に相手方が証人の供述の証明力について尋問（反対尋問）し，さらに必要があれば申請者が証人を尋問するという形式を採用している（交互尋問）。

じんや【陣屋】 本来は軍兵の駐屯(ちゅうとん)した軍営の意であるが，江戸時代では，代官その他の役人が居住した屋敷・役宅をいい，陣屋敷ともいった。その周辺にはほりを巡らし，手付・手代などの居住した家屋を長屋といった。また大名の格式の一つとして，城をもつことを許されぬ小大名や交替寄合*などの領地にある屋敷をも陣屋と称した。

しんやぎょう【深夜業】 労働基準法では，午後10時から午前５時までの継続労働のこと。深夜労働は労働者の健康を破壊し，人間らしい社会的・文化的生活を侵害する。そこで労働基準法は，年少労働者と婦人労働者の健康を考慮して，両者の深夜労働を原則として禁止した（同法62条）。また，この両者が労働基準法41条に該当する場合にも禁止される。違反した使用者は，６か月以下の懲役，または5,000円以下の罰金に処せられる（同法119条）。〔木元美代子〕

しんやく【新薬】 新医薬品ともいう。新たに創製され，はじめて治療に用いられる医薬品。新医薬品の法律上の定義はないが，行政上は〈その本質，化学構造，組成またはその適応が一般に知られていない医薬品〉と定義している。新医薬品は厚生大臣が中央薬事審議会に諮問し，その答申または意見に基づいて，製造承認という形式で許可される。中央薬事審議会には新医薬品調査会・配合剤調査会・抗悪性腫瘍(しゅよう)剤調査会・放射性医薬品調査会・歯科用医薬品調査会があり，それぞれの調査会で，提出された資料について詳細に検討される。資料としては，新医薬品の物理的・化学的データ，規格および試験法，安定性の資料，急性・亜急性・慢性毒性試験の資料，胎児試験資料，薬理試験資料，吸収・分布・排泄(はいせつ)の資料，臨床試験成績資料などが必要である。広義の新薬には，すでに使用されているものであるが，あらたに処方・剤形を変えたもの，効能を変更したものも含まれる。➔医薬品〔鈴木郁生〕

しんやく【沈約】（441～513） 中国，六朝(りくちょう)時代の詩人。宋(そう)・斉(せい)２朝に仕え，梁(りょう)の武帝の創業を助けた。六朝を通じて屈指の博学多識の人物で，音韻に詳しく，〈平・上・去・入〉の四声を詩の格律に取り入れ，作詩上，音韻の点で注意せねばならぬ欠点を８項目（八病という）



新薬師寺 桁行７間，梁間５間，入母屋造りの本堂

あげた。著書の多くは散逸したが，華麗な文章で書かれた《宋書》100巻が現存している。

しんやくしじ【新薬師寺】 奈良市高畑町にある華厳(けごん)宗の寺。747年（天平19）聖武(しょうむ)天皇の御病気平癒(へいゆ)を祈願して光明皇后が建立(こんりゅう)され，当初は七仏薬師が安置されていた。香山薬師寺，また香薬師寺ともよばれたらしい。現在，本堂のみが天平(てんぴょう)時代のおもかげを伝えており，本尊を取り巻く塑像《十二神将立像》（宮毘羅(くびら)大将を除く）（国宝）も天平年間（729～748）の作ではあるが，一説に高円(たかまど)山の石淵(いわぶち)寺から移したものともいう。本尊の木造《薬師如来坐像(ざぞう)》（国宝）は平安初期の作で一木造り，光背は天平当初の作。ほかに天平の梵鐘(ぼんしょう)，弘安(こうあん)２年（1279）の棟札(むねふだ)のある鐘楼などがある。境内にはハギが多く，近くには《万葉集》の歌で名高い高円山がながめられる。〔永井信一〕

しんやそうしょ【深夜叢書】 第２次世界大戦中，ドイツ軍占領下のフランスで秘密出版された叢書。1942年，作家のピエール-ド-レスキュールとジャック-ドビューブリデルが，印刷商オラールの協力を得て出版した。第１巻のベルコール《海の沈黙*》をはじめ，多くの著名な作家の変名による作品など，1944年までに40冊を刊行。知性のレジスタンスと称された。

しんゆうかくめい【辛酉革命】 中国から伝わった讖緯説(しんいせつ)（陰陽五行説にしたがって経書を解釈するもの）に基づく予言説。１元（60年）・１蔀(ほう)（21元。1,260年）には世の大変革が起こるとされ，また甲子(かっし)は革令，戊辰(ぼしん)は革運，辛酉は革命の年とされた。神武紀元は，暦日を用いはじめた年に近い辛酉の年601年から１蔀さかのぼって定められたと推測されている。その後，901年が辛酉にあたるため，文章博士三善(みよし)清行はその前年に勘文*を奉り，改元して災いを避けるべきことを建言し，朝廷はその議を入れて昌泰(しょうたい)を延喜と改元した。以後江戸時代に至るまで，辛酉の年にはおおむね改元することとなった。〔黛　弘道〕

しんよう【信用】 一般に貸し付け*または貸借関係をいう。商業信用とは掛け売りあるいは掛け買いのことで，生産者や商人が商品の取引にあたって相互に与える信用である。これを流通信用ともいう。また商業信用は，通貨を節約することによって流通費用の節減に役だつ。また，商業信用の基礎の上に信用貨幣の次のような形態が生み出される。すなわち，商業手形は掛け売りに対して振り出される債務証書としての為替(かわせ)手形・約束手形であり，銀行券は銀行が手形の割引や貸し付けにあたって振り出す一覧払いの約束手形であり，小切手は銀行の一覧払い債務である当座預金勘定に対して振り出される指図(さしず)証書であるが，いずれもある範囲内で貨幣の代用物として働く。銀行信用とは，商業信用が機能資本家たちが相互に与え合う信用であるのに対し，貨幣資本家＝貸し付け資本家が機能資本家に与える信用である。この場合，銀行は貸し付け資本家の代表となる。銀行業者の手中には個人的な貸し付け資本家の貨幣資本だけでなく，また社会のあらゆる貨幣資本と貨幣が集中され，これが銀行業への預金となり，広く社会化された貸し付け資本として利用される。その源泉は，①個人的な貸し付け資本家の貨幣資本，②資本の循環過程から生ずる一時的な遊休貨幣資本，たとえば，㋑資本の生産過程がその流通過程によって中断されるのを防ぐためにあらかじめ追加的に準備され，いったん資本の循環過程にはいりこんだのちも周期的に遊休するようになる貨幣資本，㋺貨幣が購買手段や支払い手段として一度に生産諸要素に転化されないため一時的に遊休する貨幣資本，㋩固定資本償却のための貨幣準備金，㊁拡大再生産のために，一定の分量に達するまで貨幣形態で遊休する利潤の一部分，③社会の各階層のさまざまの貨幣所得の中で，まだ使用されないが，それだけでは貨幣資本として利用するにたりない貨幣，㋑入手してからただ徐々に消費される貨幣所得，㋺老後の準備や不時の災いに備えるための貯蓄貨幣。

このような遊休貨幣資本や遊休貨幣は銀行信用によって所有者から機能資本家に渡され，この手によって現実に資本として機能する。この意味で銀行信用はまた資本信用または再生産信用とよばれる。しかし，銀行信用による遊休貨幣資本の利用は，単に産業面にだけ限られるものではなく，それは金融面においても，債務証券である手形・小切手，資本証券である社債・株券の流通にも働く。こうして，今日では商業信用は銀行信用によって代位されるのである。〔小泉　明〕

しんよう【瀋陽】 シェンヤン 中国，遼寧(りょうねい)省の省都。古くは瀋州，元朝のと

き瀋陽，ヌルハチが1625年遼陽から遷都してからは盛京，1657年に奉天府が設けられてから奉天とよばれた。遼河の支流渾河(こんが)の北岸に位置し，東北地区南部の政治・経済の中心地である。人口615万(1972年推)。日露戦争後日本の大陸進出が始まると，まず満鉄付属地経営の中心地となった。清朝(しんちょう)滅亡後,郊外の柳条溝(りゅうじょうこう)で満州事変の火の手が上がり，満州国が建国されると政治の中心は長春(新京)に移ったが，商工業の中心として満州第一の都市となり，日本人も多く住んだ。長大鉄道(満鉄連京線)の中位点にあって，瀋山・瀋吉鉄道の起点にあたり，また瀋安鉄道は渾河南方の蘇家屯(そかとん)から分岐する。各種の物資を集散して商業が盛んで，重工業は特に発達している。機械器具・電気機器・交通車両関係の工場は鉄道以西の鉄西区に集まり，ほかにダイズ搾油・製粉・化学・製紙・紡織などの工場がある。市街は旧城内，旧満鉄付属地,中間の地区,鉄西区,新市街に分かれる。旧城内はもと2重の城壁に囲まれて中央に故宮があり，旧満鉄付属地は瀋陽駅前から三方に放射する大通りと碁盤目道路を組み合わせ数か所に円形広場を配置し，鉄西区は工場と労働者住宅が集められている。市内には清の故宮，ラマ教本山の黄寺，同善堂などの史跡や名勝が多く，郊外には北陵・東陵などがあって市民の行楽地として利用されている。〔木村辰男〕

しんようかへい【信用貨幣】 貨幣経済・信用経済が発達すると，自然(商品)貨幣*の代わりに，自然貨幣に対する請求権が流通するようになる。これを信用貨幣という。信用貨幣はそれ自身価値をもたないので，名目貨幣でもある。信用貨幣は一般には銀行などの信用創造能力によって創出される場合が多く，はじめは局所的に流通していたが，しだいに一般的受領性をもつようになり，国民経済全体に流通するようになった。兌換(だかん)銀行券や預金通貨*などはそれであるが，政府通貨や不換銀行券なども政府の強制力を背景にして信用貨幣となった。〔速水　保〕

しんようきそんざい【信用毀損罪】 虚偽の風説を流布し，または偽計を用いて人の信用を毀損する罪。刑は3年以下の懲役または50,000円以下の罰金(刑法233条)。本罪は自然人*のみならず，法人*・団体をも含む。信用とは，社会における経済的な信用をいい，主として支払い能力または支払い意思に関する他人の信頼を意味する。信用毀損とは，デマ*を世間一般に流したり，偽りの計略を用いて，信用を失墜させるような行為をいう。この行為があれば，現実に信用が低下しない場合にも成立する。〔井上公耳〕

しんようきょうどうくみあい【信用協同組合】 1949年(昭和24)制定の中小企業等協同組合法により設立された非営利金融機関。信用金庫*と異なり，組合員・公共団体および非営利法人のみを対象とし，それ以外の一般からの預金の受け入れや，一般への貸し出しは行なわない。第2次世界大戦前の組合のうち，信用金庫へ転換しないものが今日の信用協同組合になった。1971年11月現在全国で524ある。

しんようきんこ【信用金庫】 1951年(昭和26)の信用金庫法によって設立された組合組織の非営利金融機関。戦前の市街地信用組合・産業組合・商工組合は，戦後統一されて信用協同組合*になった。しかし，信用協同組合の中には組合員のみを対象とする組合的性格のものと，組合員のほかに一般大衆も対象とするものの2種類があり，前者はそのまま信用協同組合として残り，後者が信用金庫に改組された。信用金庫は会員以外の一般からの預金(普通銀行の預金より日歩1厘高)の受け入れが認められているが，貸し出し限度額が定められており，また，会員以外の者に対する貸し付けなどについてはきびしい規制がなされている。しかし最近，他の中小金融機関とともに会員組織性の希薄化が指摘されている。1971年11月現在信用金庫の数は全国で484ある。〔速水　保〕

しんようじゅ【針葉樹】 針状の葉をもつ樹木をいい，広葉樹の対語。裸子植物のうちイチョウ・ソテツの類を除く，マツ・スギ・マキなどが含まれる。多くのものは常緑で，暖帯から寒帯にかけて分布している。

しんようしゅっし【信用出資】 合名会社および合資会社の無限責任社員*にのみ認められる出資の方法で，自己の信用を利用させることによってなされる出資をいう。たとえば会社のための保証，会社の振り出す手形への裏書き，物的担保の提供などがこれにあたるが，単に無限責任社員として名を連ねるだけでも行なわれる。もっとも最後の場合には，出資の目的およびその価格または評価の基準が，定款または組合契約に記載されなければならない(商法63条)。なお民法上の組合の組合員にも，この出資方法は認められる。〔松本治雄〕

しんようじょう【信用状】 L/C(letter of credit)ともいう。銀行が，依頼者の要求に応じて，その信用利用のために発行する手形保証の書状。これには，商業取引で用いられる商業信用状と，商用以外ことに旅行に用いられる旅行信用状*とがある。いずれにしても，輸入品の代金支払いや海外旅行の際に，銀行に依頼して信用状を発行してもらい，これに基づいて銀行あての為替(かわせ)手形の振り出し,手形の買い取りが保証される。貿易上常例のものは荷為替信用状*である。〔上坂酉三〕

しんようそうぞう【信用創造】 預金創造ともいう。銀行が預金などの形で現金通貨を受け入れ，それを預金準備として数倍の預金通貨*の創設供給を行なうこと。このような事実が可能であるのは,銀行に預け入れられた預金の全部が一度に引き出されることなく，その一部分は常に銀行に滞留するという事実に基づいている。また，一度ある銀行から引き出されても，預金通貨を創造できる他の銀行(商業銀行)にそれが再び預け入れられるかぎり，信用創造が可能となる。最初に預け入れられた預金(本源的預金)に対する預金準備率*が10%であるとすれば，その銀行は残りの90%を新たな貸し付けに向けることができ，そのとき新しい貸し付け額に等しい預金通貨(当座預金*)が創造される。これを派生的預金というが，この預金は借り入れ者の支払いとともに引き出される可能性が大きい。しかし，いったんその銀行から引き出されても再び他の銀行に本源的預金として預け入れられる可能性が大きいから，その預け入れ先の銀行で再び新しい貸し付け――預金通貨の創造が可能になり，以下同様にして銀行組織の中に波及していき，預金と貸し出しの増加が行なわれる。〔速水　保〕

しんようとりひき【信用取引】 顧客が証券会社から信用供与を受けて，株式を売買すること。証券会社は顧客から一定の証拠金(正式には委託保証金という)を預かり，顧客が信用取引で買うときにはその資金を融資し，売るときにはその株式を貸す。したがって，顧客は，買い付け代金がなくても買うことができるし，受け渡しする株式をもっていなくても売ることができる。信用取引する売買代金に証拠金率を乗じたものが証拠金となるが，証拠金率は大蔵省令で定められる。最低は30%だが，株式市場の情勢しだいで引き上げられる。信用取引の決済期限は6か月(1968年10月改正)と定められているので，信用で売買した場合はこの期限内に反対売買して，その売買差金を決済しなければならない。もっとも，反対売買せずに,信用買いの場合は,当初約定買い値相当分の代金を支払って株式を引き取り(現引き)，また，信用売りの場合は，そのから売りした株式をつごうしてきて引き渡す(現渡し)こともできる。現在の信用取引制度は，アメリカの証拠金取引に範をとったもので，第2次世界大戦後の実物取引中心の売買制度に，投機的要素を導入しようという目的をもつ。〔日東証券調査部〕

しんようぶんせき【信用分析】 銀行などの金融機関が貸し出しを実行する際行なう経営分析の一方法。貸し出しの元利金が返済期限までに確実に回収されるかどうかを重点にした分析である。一般に企業の短期的支払い能力の分析にあたっては，流動負債*に対する流動資産*の割合(流動資産÷流動負債)である流動比率が用いられるが，さらに資金運用表*・資金繰り表などから，実際の金の流れの分析も併用されている。近年の信用分析では，企業の成長力・収益力を重視する立場から，貸借対照表*の分析

のみならず，損益計算書の分析(収益分析)を重視する傾向にある。〔池内得二〕

しんようほけん【信用保険】身元保証保険または誠実保険として，雇用契約に関連して，被用者が使用者に与える不誠実行為による損害を塡補(てんぽ)する保険をいう。しかし別に，債務者が支払いを拒絶しあるいは支払い不能に陥った場合に，債権者がこうむる損失を塡補する保険もあり，この両者を含めて広義の信用保険とする。

しんようほしょうきょうかい【信用保証協会】銀行などの金融機関の融資を受けにくい，信用力・担保力の弱い中小企業の債務の弁済を銀行に保証することによって，金融の円滑化を図ろうとする機関。1937年(昭和12)，はじめて東京信用保証協会が設立され，その後全国的に広がり，1953年信用保証協会法に基づいて改組された。現在国と地方公共団体をおもな出資者として，全国に51の協会が活動している。1971年8月末現在の保証債務残高は1兆4,840億円に達している。〔池内得二〕

しんようわかしゅう【新葉和歌集】準勅撰(ちょくせん)和歌集。撰者は宗良(むねなが)親王。1374年(文中3)ごろから撰集を始め，1381年(弘和1)10月勅撰集に擬せられる旨の綸旨(りんじ)があり，それまでにほぼ完成していたものに改訂を加え，12月に長慶天皇に奏覧した。主として二条派の平明な歌風が支配的であるが，南朝の人々のきびしい体験に根ざす歌，北朝に対する憤懣(ふんまん)を吐露した歌には独自の新鮮な叙情がある。

しんらん【親鸞】(1173〜1262) 鎌倉初期の僧。浄土真宗の開祖。出家後，範宴・綽空(しゃくくう)・藤井善信(よしざね)・愚禿(ぐとく)親鸞の順に名を改めた。おくり名は見真大師。下級貴族日野有範(ありのり)の子として京都に生まれた。幼少にして父母を失い，9歳の春，青蓮院(しょうれんいん)の慈円のもとで剃髪(ていはつ)得度し，範宴と号した。比叡(ひえい)山に上り，横川(よかわ)の常行三昧堂(じょうぎょうさんまいどう)で堂僧として不断念仏を修した。広く諸宗の学問をきわめたが，救いを見いだすことができず，京都の六角堂に100日の間参籠(さんろう)。95日めの暁，聖徳(しょうとく)太子の示現(じげん)の文にあずかり，29歳で東山吉水(よしみず)の法然の門にはいり，他力念仏の法門に帰依した。この間，師の法然から《選択集(せんちゃくしゅう)》の伝授を受け，綽空(道綽と源空より由来)と改名。1207年(建永2)専修念仏停止(ちょうじ)の宣旨が下され，吉水教団が解散を命ぜられたとき，師の法然とともに遠流(おんる)に処せられ，法然は土佐(高知県)に，親鸞は越後(えちご)(新潟県)に流されて，4年余りを過ごした。このとき，善導と源信に由来する藤井善信の俗名を与えられたが，みずからは愚禿親鸞(天親と曇鸞に由来)と号した。1211年(建暦1)赦免されたが，師の訃報(ふほう)を聞いて京都に帰ることを思いとどまり，関東におもむいた。その後およそ20年間，関東各地において教化して，多くの帰依者を得た。1224年(元仁1)ころ，常陸(ひたち)(茨城県)稲田の草庵(そうあん)で主著《教行信証》6巻を著わす。60歳の初めころ京都にもどり，それ以後1262年(弘長2)90歳で寂するまでのおよそ30年間，京都の五条西洞院(にしのとういん)・三条富小路など各所を転々として住まい，関東の門弟からの仕送りに助けられて著述に専念した。この間，84歳のとき，関東において信心を乱したかどにより，長男の善鸞を義絶することを余儀なくされた。吉水入室の前後に結婚した妻恵信尼との間に6人の子女があったことが知られているが，善鸞と末娘の覚信尼が有名。門弟では，真仏・性信・唯円らがよく知られている。

著書には，《顕浄土真実教行証文類(略して教行信証)》のほか，《浄土文類聚鈔(じょうどもんるいじゅしょう)》《愚禿鈔》《入出二門偈(げ)》《一念多念文意》《唯信鈔文意》《浄土和讃(わさん)》《高僧和讃》《正像末和讃》《尊号真像銘文》《浄土三部経往生文類》などがある。そのほか滅後に編集されたものとして《御消息集》《末燈鈔(まっとうしょう)》《血脈(けちみゃく)文集》《帖外和讃(ちょうがいわさん)》などがある。伝記では，覚如の《本願寺聖人親鸞伝絵(略して御伝鈔)》(2巻)がよく知られる。〔坂東性純〕



親　鸞 京都の六角堂に百日参籠し，95日めに霊感を得た《親鸞上人絵伝》東本願寺蔵

しんり【真理】真理は真なる知識のことであり，人・時・所をこえた普遍性と必然性をもつとされる。真理は伝統的に〈思考(表象・知性)と対象(存在・事柄)との一致〉と定義される。古来真理は存在(客観)にあるとされたが，真の客観は真の主観によってとらえられねばならない。13世紀末より真理は主観的方向に考えられ，カントが客観を主観が構成すると考えるに及んで，真理の主観性が確立した。しかしカントの主観は意識一般であり，現実の主観ではない。真の主観は働くもの，すなわち主体である。キルケゴールによれば，主体性そのものが真理であるとされるが，さらに主体をむなしくして真の自己となり，世界においてある物の真理がとらえられよう。〔中川　誠〕

しんりがく【心理学】人間をも含める生物の行動や人間の意識など，一般に心理現象といわれる事がらを科学的に研究する学問。英語のpsychology(サイコロジー)はギリシア語のpsykhe(心)とlogos(学)とからできたもので，この名称は16世紀末から用いられたといわれる。しかし，最初の心理学的考察はアリストテレスの《心について》から始まったとみるのが普通で，他の多くの諸科学と同じように，近世に至るまで哲学の一部をなしていた(わが国の大学では，哲学と並び，いまなお文科系に分類されている)。心理学が実験的色彩をおびはじめたのは19世紀後半からのことで，生理学者・物理学者の中に心理現象に興味をいだく人が現われはじめ，1860年にはドイツのフェヒナーの手になる《心理物理学》が出版され，ヘルムホルツも視覚・聴覚に関する詳細な研究を行なった。1879年，ライプチヒ大学に最初に心理学の実験室を設置したとされているブントも，有名な《心理学原理》を出版したアメリカのW.ジェームズも，生理学から出発した人々であった。一方，ダーウィンなど生物学者は比較心理学成立の機運を醸成し，現在多くの大学・研究機関では心理学実験室を設けて相当の装置をおき，実験用動物を飼育しているのが普通である。ブントは内観を用いるところに他の科学とは異なる心理学の特殊性を強調したので，その反動として客観的に観察可能な行動の分析のみを取り上げようというワトソンの主張が現われて内観主義から行動主義へ進み，また意識現象を諸単純感覚や単純感情などの心的要素に分析することのみに主力を注いだ要素主義に対し，心理現象は要素への分解不可能な有機体としての側面をもつことを強調する形態心理学(ゲシュタルト心理学)が台頭するなど，科学的になろうとする道程は平坦(へいたん)ではなかった。

日本心理学会は約2,900名の会員を擁しており(1968年現在)，暫定的に会員の専門を次の5部門に分類している。Ⅰ.知覚・生理・思考・学習，Ⅱ.発達・教育，Ⅲ.臨床・人格・犯罪・矯正(きょうせい)，Ⅳ.社会・産業・文化，Ⅴ.方法・原理・歴史・一般，である。Ⅰでは実験的研究が，Ⅱ・Ⅲでは臨床的観察が，Ⅳでは社会的調査が主流をなしているが，いずれにせよ，実験的・実証的に研究が進められている。心理現象は

われわれ自身の体験なのであるから，あらためて実験を行なう必要はなさそうにもみえるが，ある現象の存在を知っているということと，その現象が成立する条件・機構を知っているということは別である。たとえば記憶や忘却現象があることは知っていても，それがどういう条件によって支配され，どういう機構の結果として現われるのかなどの疑問には，日常生活の常識からは答えられない。よくわかっているようにみえる心理現象も実は氷山の一角にすぎず，その背後には多くの未知の部分があるからこそ，実験によってその秘密を探るのである。実験というのは統制された条件の下に被観察者をおいてその行動を観測することであるが，問題によっては条件を自由に統制することができない。そういうときには，自然の状態の下における人間の行動を組織的に観察する。これが臨床的観察である。また，社会にどういう人がどのくらいの率で存在しているかという鳥瞰図(ちょうかんず)を描くのが社会的調査の使命で，実験・観察・調査のいずれにも，求められたデータを解析するのに数学が用いられる。そういった点でも，理在では，心理学は一般の科学と変わりなくなっている。〔印東太郎〕

しんりがくてきば【心理学的場】⇨場

しんりしゅぎ【心理主義】心理学をもって学問研究の基礎とする立場。これははじめ，カントの認識論を経験心理学的に解釈して，いかなる真理も内省によってのみ得られるとしたフリースやベネケの主張をさしたが，その後，思考を心理現象ととらえることにより，思考の法則である論理法則を心理法則に還元し，論理学を心理学の一部とするミルやブントの心理主義的論理学として展開した。ロック・バークリー・ヒュームらのイギリス経験論も，観念や知識の真をその心理的起源に求めるということで心理主義的である。これに対して，価値の心理的経験からの独立を主張する新カント派の哲学者たち，あるいは思考作用と思考内容の区別を説くラッセルやフレーゲは批判的立場をとる。〔石倉恒之〕

しんりしょうせつ【心理小説】人間の心理の動きに主点を置いて書かれた小説。古くはラ-ファイエット夫人の《クレーブの奥方》やラクロの《危険な関係》など，フランスの恋愛小説に多く例がみられるが，同じフランスでも，その後スタンダールの《赤と黒》などには人間と社会との関係からの心理描写がなされ，プルーストの《失われた時を求めて》などの〈意識の流れの文学*〉へと発展。その他にも，ドストエフスキーの《罪と罰》，カフカの《変身》，H.ジェームズの各小説，ジョイスの《ユリシーズ》などは，心理描写が芸術的基盤となった作品である。日本では，夏目漱石(そうせき)の《こゝろ》，芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)の《歯車》などは心理小説といえ，そのほかに特殊な形での心境小説がある。〔奥山康治〕

しんりせん【心理戦】国家目標または特定の作戦などの目的を達成させようとして，計画的に宣伝その他の諸活動を行ない，それによって対象勢力または中立国・友好国の国民の感情・精神状態・世論などに影響を与え自国を有利にしようとする戦略的なはたらきかけ。また逆に他国から自国に対して加えられる同じ目的のための諸活動に対し，自国民・軍隊への影響を防止したり局限したりするための広報，その他の活動も含まれる。これは軍用語としての定義であるが，心理戦とは要するに心の戦いであり，〈心理学的根拠に立つ政治戦略の計画実施〉というようなばく然とした広義の解釈もなされている。これは人知・社会の進歩により，心の戦いは著しく拡大し，平戦両時の区分なく，前線と銃後に分かれることなく，また世界的規模において行なわれるようになったということを意味している。また，その実施方法も，古来から行なわれてきた宣伝，謀略的なものから，政治的・外交的・思想的・文化的・宗教的な性格に，しかも，より総合的なものに進んだといえる。マスコミの発達と冷戦状態にある世界情勢が，ますます心理戦を重要なものにする傾向にある。〔森田　哲〕

しんりそうしゅぎ【新理想主義】1870年代から20世紀初頭にかけて現われた理想主義的観念論の総称。19世紀前半，ロマン主義的・理想主義的世界観の崩壊後，唯物論および自然科学，特に生物学の進歩に促されて起こった実証主義的・自然主義的風潮に対抗して生まれた。新カント主義と新ヘーゲル主義がおもなもので，ロッツェ*・E.ハルトマン*・オイケン*・カーライル*・T.H.グリーン*・E.ケアード*・エマソン*・クローチェ*・ジェンチーレ*らが代表的。美学では自然主義・印象主義に対する反動として1884年ごろから1920年ごろにかけて現われた後期印象派・表現主義*の芸術運動をよぶことがある。〔中川　誠〕

しんりつこうりょう【新律綱領】1870年(明治3)公布された刑法典。全6巻，192か条からなる。中国の明清律(みんしんりつ)などを基礎とし，養老律令*(りつりょう)・公事方御定書*(くじかたおさだめがき)などを参考にしてつくられた。適用にあたっては，華族・士族と平民とでは，身分的差別が設けられた。改定律令*とともに，1882年の旧刑法の施行まで行なわれた。

しんりゃく【侵略】武力によって他国領域に侵入すること。侵略を定義することは，国際の平和と安全を維持するために，非常に重要な問題である。国際連合憲章(→国際連合)の下では，自衛を別として，個別国家の武力行使は一般的に禁止されており，戦争または武力行為が起きた場合には，いずれが侵略者であるかを決定し，侵略者に制裁を加えなければならない。また，国際連合憲章以外の条約*でも，あるいは各国憲法においても，侵略戦争や征服戦争を禁止し，国際犯罪*とするものが少なくない。侵略を定義しようとする努力は国際連盟*においてまた国際連合においてもなされたが，それにもかかわらず，侵略の定義について確立したものはなく，非常に困難であるとされている。これを定義する場合には，二つの方向がある。一つは事実的・直接的定義で軍事的側面から行なうもので，軍事上の一定の行為を侵略とするものである。この方法の代表的なものとして，1933年ソ連の提唱で締結された〈侵略の定義に関する条約〉がある。これによれば，①他の一国に対する開戦の宣言，②開戦の宣言がなくとも一国の兵力による他国領域への侵入，③開戦の宣言がなくても，一国の陸軍，海軍または空軍による他の一国の領域，船舶または航空機の攻撃，④他の一国の沿岸または港の海上封鎖，⑤各自の所属領域において編成されて他の一国の領域に侵入した武力部隊に対する支援の付与，または，被侵入国の要求があるにもかかわらず，その武装部隊からすべての援助もしくは保護を奪うために，各自の領域においてなしうるすべての措置をとることの拒絶を行なった国を侵略国とする。もう一つは，形式的・間接的定義で法律的側面から定義するもので，紛争の平和的処理に関する法律上の義務に違反しあるいは付託するのを拒絶した場合，また，その決定(判決や勧告)に服従するのを拒絶し，これに違反して武力行為に訴え，敵対行動に出たものを侵略国とするものである(→ジュネーブ議定書*)。なお，直接侵略と間接侵略の区別がある。前者は外部からの武力攻撃をいい，後者は，外部の勢力が，他国内の反政府団体などを操作し，その武装蜂起(ほうき)を促して革命行動を起こさせるような場合をいう。〔広部和也〕

しんりょうかご【診療過誤】医師が診療を行なうにあたり，当然必要とされる注意を怠ったことによって，他人の権利を侵害しこれに損害をこうむらせることをいう。診療過誤は業務上過失致死傷被疑事件として取り扱われることが多い。その根拠は刑法211条の業務上過失致死傷罪，民法709条の不法行為の要件，同710条の精神的損害に対する慰謝料，および711条の生命侵害に対する慰謝料の規定による。〈業務上必要な注意〉とは医師として社会通念上必要とされる程度の注意という意味であって，通常一般の標準的医師の尽くすべき注意業務をさしているといわれている。具体的には誤診，不当処置，手当ての怠慢，手術時の不注意，試験的使用，不完全消毒または不注意による感染または致死，処方の誤診，技巧の拙劣，医文書の誤り，届け出の怠慢などがあげられる。〔青木利彦〕

しんりょうじょ【診療所】病院*と同じ役割をもつもので，患者の収容施設を有し

ないもの，または19人以下の収容施設を有するもの。一般診療科目をもつ一般診療所と歯科診療所がある。規模は，医者ひとりのものから病院の小規模な型のものまである。機能は病院に比較して，ごく身近にあり，健康のすべての問題に対して相談できる家庭医としての意味がたいせつである。1970年(昭和45)末には一般診療所68,997施設，歯科診療所29,911施設があるが，地方によっての分布のかたよりが大きい。〔金子義徳〕

しんりょうないか 【心療内科】 内科領域における疾患のうち，心身症*と思われる疾病(しっぺい)に罹患(りかん)した患者の治療を行なう一分科。おもに薬物療法，食餌(しょくじ)療法，催眠・暗示療法，自律訓練法，行動療法，精神療法などの心理療法を行なう。1963年(昭和38)九州大学医学部に設科。

じんりょくひこうき 【人力飛行機】 人力によって飛行する飛行体。1957年ごろからイギリスで始められ，わが国では日本大学で試作された。人が出しうる力は，たとえば自転車のクランクを回転するような方法ではかると，常人の場合，数秒間ならば1.25馬力程度，1分間なら約1馬力，10分間だと0.5馬力前後になる。このように，体重1kgあたりの力が貧弱な人間の力での飛行を可能にするには，揚抗比が十分大きくかつ機体がごく軽量でなくてはならない。揚抗比を大きくするためにはアスペクト比の大きい主翼を使うことになるが，同時に地面のごく近くをなめるように滑走して地面効果を利用するのが有利である。イギリスでつくられたいくつかの機体は，飛行距離1,000m前後の飛行に成功している。しかし，いずれも単座または複座で，自転車式のクランクを足で回し，伝導装置を介して小さいプロペラを回転する方式をとっている。〔中口　博〕

しんりりゅうほ 【心裡留保】 自分の表示行為が，内心に存在する意思(効果意思)と食い違うことを承知しながらなす意思表示*をいう(民法93条)。表意者がその食い違うことを承知している点で錯誤*と異なる。たとえば，物を与える意思がないのにうそや冗談で与えるという場合がそうである。心裡留保は表意者を保護する必要に欠けるため，表示どおりの法律効果*を生ずる。ただ，相手方が表意者の真意を知っているか，過失によって知らなかった場合にのみ無効とする(民法93条)。〔黒木三郎〕

しんりりょうほう 【心理療法】 ⇨精神療法

しんりん 【森林】 樹木が集団として生じている土地で，林木と林地からなる。森林では樹木以外の植物・動物さらに微生物などが互いに影響し合い，しかもその土地の環境と結びついている。森林は木材その他の林産物の生産のほか，人間生活の環境を守る各種の機能をもつ。前者が経済林であり，後者が保安林である。最近は森林の公共性が重要視される傾向にあり，特に森林の大気浄化作用や観光面を目的とした保健林・都市林など，厚生的な森林が望まれている。森林は見方によっていろいろに分けられる。開発の有無によって施業林と原生林(原始林・処女林)，成立によって天然林と人工林，樹種によって針葉樹林と広葉樹林，地理的分布によって熱帯林・暖帯林・温帯林・寒帯林など，場所によって平地林・山岳林，所有構造によって国有林・公有林・社寺有林・私有林などに分ける。〔中村克哉〕


人力飛行機
日本大学でつくられた人力飛行機〈リネットII〉

しんりんかいはつこうだん 【森林開発公団】 森林開発公団法に基づいて1956年(昭和31)に設立された政府全額出資の法人。農林大臣の監督下にあって，業務は林道の開設・管理ならびに分収造林方式による水源涵養(かんよう)のための森林造成などである。

しんりんかさいほけん 【森林火災保険】 森林を対象とする火災保険*。民間保険会社のほかに農林省所管の国営のものがあり，造林政策の立場から，幼齢林ならびに壮齢林で人工林に限って実施している。

しんりんくみあい 【森林組合】 一定地域内の森林所有者などによって組織されるもので，協同組合の性格をもつ。事業のあり方によって施設組合と生産組合との2種がある。施設組合は，施業の指導事業・施業の受託事業・購買事業・利用事業などを行ない，組合員の行なう森林経営に対する共同施設としての役割を果たすものである。生産組合は，組合員の出資した森林について組合自身が経営するもので，森林生産の徹底した協同化を行なう。〔野々村豊〕

しんりんげんかい 【森林限界】 高山や極地あるいは大陸内部の乾燥地で，森林の成立しえない地域との境界をいう。森林とは樹高4～5m以上の樹木の集団としているものが多い。乾燥や低温に耐える樹種は多いが，年間ある温度以上になる回数が少なかったり，1年じゅう雨量が少ないと森林は成立しない。極地の限界の外側は荒原・ツンドラとなり，大陸内部では砂漠(さばく)・草原となる。わが国では高山帯に垂直的限界が現われ，中部山岳では2,600m付近になる。〔川名　明〕

しんりんほう 【森林法】 林業基本法(1964年法律161号)とともに現在のわが国の林業政策において基本的な法律。1897年(明治30)に最初の森林法が制定された。次いで1907年に2度めの森林法が制定されたが，これは1939年(昭和14)に大改正が行なわれた。現行の森林法は1951年に制定(法律249号)され，現在まで数次にわたって一部改正が行なわれてきている。

現行の森林法の目的は〈森林計画，保安林その他の森林に関する基本的事項および森林所有者の協同組織を定めて，森林の保続培養と森林生産力の増進を図り，もって国土の保全と国民経済の発展に資すること(本法第1条)〉となっている。本法の内容構成は8章215条からなり，第1章総則，第2章営林の助長及び監督，第3章保安施設，第4章土地の使用，第5章森林審議会，第6章森林組合及び森林組合連合会，第7章雑則，第8章罰則となっている。〔野々村豊〕

じんるい 【人類】 第四紀洪積世(こうせきせい)に出現して以来，現在に至るわれわれ人間の同類の総称。直立二足歩行の姿勢や，身体に比例して大きな頭脳をもつなど，一連の形態学的特徴と，火の使用，言語利器の使用といった独特の生態学的特徴で，ほかの動物から区別される哺乳(ほにゅう)類霊長目ヒト科の動物をさす。

〔人類の特異性〕 生物学的にみたヒトの特徴の多くは，霊長目の動物に共通するものであるが，直立二足歩行の姿勢を維持するための下肢帯(かしたい)の発達や，その結果と考えられる手指の巧みな運動，脳の大化といった特異性のほかは，あまり特殊化のない動物であって，この特殊化の少ないという特徴が，ヒトをしてさまざまな環境の変化に適応させ，今日の興隆を築かせたといえる。また，ヒトの生態，ヒトの意識の産物を〈文化〉と総称する。

ヒトの進化の順序は，現在信じられているところによれば，四足歩行から二足直立歩行への移行，それに伴う下肢帯，特に骨盤(こつばん)の形態と，その周辺の筋肉の発達が起こり，次いで，支持器官としての用から解放された前肢あるいは上肢，特に手指の巧みな運動性の獲得，それと相まって，その運動を支配する脳の大化が進んだ。

形態学的にみた直立二足歩行の証拠は，特にヒトの骨盤が，ギボンやゴリラの細長いのに比較して短く幅広く丸周筒形をしている点もその一つであって，ヒト的・サル的とそれぞれ表現される。また，頭骨と脊椎(せきつい)の関節のしかた，すなわち大後頭孔(脊髄が頭骨から出る孔)の位置が，脳頭蓋底の中央寄りに位置することもヒト的な特徴である。直立二足歩行の姿勢を保つため

には下肢帯の複雑な筋肉と，重心のとり方などの熟練を要請されるが，ヒトはこの姿勢を維持するために，長い訓練期間を必要とする。この点もヒトの特異な点である。

また，もう一つの特異性である大脳化の現象は，猿人*(600cc)・原人*(1,000cc)・旧人*(1,450cc)・新人*(1,400cc)という進化の系列の上でも示される。猿人のもつ脳容量は，現生ゴリラの中にも，この程度の大きさをもつものがある。旧人と新人では，脳容量がほとんど同じか，あるいはわずかに旧人のほうが大きい程度であるが，その生み出した文化には大きな差がある。

現生のサルと，ヒトの大脳生理学的な比較によれば，サルでは移動運動するための四肢筋や，物を食べるための運動を支配する脳の部分がよく発達しているのに対して，ヒトでは，手指や，言語を発する器官の運動に関係する部分が大きな比重を占める。

大脳の前頭葉の部分の発達は，ヒトではまた著しいものがあり，化石人類*においては，脳頭蓋の形態学的特徴から判断される。眉上弓が発達し，額が低く後方へ流れ，頭高の低い頭骨では，前頭葉の発達が悪いと考えられて，原始的形態と表現される。これに対して，額が立ち，ふくらんだ丸みをおびている場合には，前頭葉の発達がよいと考えられる。このような形態学的特徴は，旧人と新人の頭蓋にも現われて，新人と比較して旧人は原始的形態をもっている。さらに，脳の機能で最も重要な役割を果たすのは，連合野であるが，この連合野の高度な複雑さが，旧人と新人の間で差を生ぜしめ，生み出す文化に大きな段階をもたらしたと考えられるとする学説もある。一方，旧人と新人の差は，あまり大きくなく，文化も連続するという立場をとる学説も最近でている。

【人類の進化】現生の霊長類は，半猿類(たとえば，メガネザル・キツネザル)と猿類とに分けられ，猿類は，有尾類と類人猿に分けられる。類人猿とは，尾のないサルで，現在，赤道アフリカに生息するゴリラとチンパンジー，東南アジアに生息するオランウータンとギボンなどがある。

類人猿の分化は，今から7,000万年前の新生代の初期に，祖先から枝分かれして生じたとされる。新生代は第三紀(7,000～200万年前)と第四紀(200万年前～現在)に分かれ,第三紀はさらに暁新世・始新世・漸新世・中新世・鮮新世に分けられるし，第四紀は洪積世と沖積世に分けられる。中新世から鮮新世の初めにかけて，類人猿の分化が進み，鮮新世に人類へ向かう祖型が生じたとされる。いずれにしても，二足歩行と，利器を用いた証拠の明らかな人類は，第四紀になって現われた。第四紀洪積世は，大きな四つの氷期と，三つの間氷期が確認されていて，順序に，第一・第二・第三・第四氷期および，第一・第二・第三間氷期に分けられている。化石人類は，大別して，猿人・原人・旧人・新人の段階に分けられるが，猿人は，南アフリカのオーストラロピテクス*・パラントロプス，東アフリカのジンジャントロプスに代表される。第一氷期前(200～80万年前)に出現したものとされる。原人は，ジャワのピテカントロプス*，北京(ペキン)のシナントロプス-ペキネンシス，東アフリカのアフリカントロプス*に代表され，第二間氷期(50～30万年前)に生息し，旧人いわゆるネアンデルタール人は，第三間氷期(15万年前～)から第四氷期(～3万年前)の初めにかけて生息。われわれの同類である新人，つまりホモ-サピエンス*が出現したのは第四氷期(3万年前～)とされる。

進化の系列は，一応この階を追って起こったとされるが，猿人と原人，あるいは旧人と新人とが，同時代に共存した証拠もあるので，単系で結ぶことができるとはいいきれない。

人類の誕生の初期は，その文化が低い次元のものであったから，全身的な環境適応をしいられたと考えられるが，現在，人はその外界を人為的に変えつつあり，このような人の文化が今日のヒトの興隆と，ヒトの多様性を生んだのである。〔鈴木　尚〕

じんるいいでんがく　【人類遺伝学】 人類を対象とした遺伝学の一分科。動植物で発見された遺伝法則はだいたいヒトにもあてはまるが，人類の特殊な事情のため，自然に行なわれた実験の結果をあとから調べる方法のみが許される。しかし，ヒトでは個体の識別がよくできること，育った環境がわかること，からだが大きいので血液・組織片・尿などの精密検査ができること，戸籍や家系がはっきりしていること，一卵性双生児があることなど，他の生物にない利点もある。色盲・血友病など男に多く女にまれな遺伝病は，伴性劣性突然変異による。人類の正常形質には種々の多型がみられる。血液型*は13種発見されており，それぞれ人種による頻度(ひんど)の違いなどが多数報告されている。耳垢(じこう)型は湿性が乾性に対して単純優性で，その頻度は日本人約20％，白人約90％，アイヌ100％となっている。異常血色素・鎌(かま)状赤血球などについても生化学的によく調べられている。ヒトの染色体については，1956年ジョーとレバンの方法によって非常に明瞭(めいりょう)な分裂像が得られるようになり，46本(23対)であることが確認された。1960年アメリカのコロラド州デンバーで万国共通の人類染色体命名規約をつくったが，ダウン症候群*はその分類法による第21番めの染色体が3本になった(トリソミー)結果として起こるものである。〔北川　修〕

じんるいがく　【人類学】 原語アンスロポロジーは〈人間〉および〈学〉を意味するギリシア語から合成されたもので，〈人類の科学〉の意味をもつ。本来，人類も動物界の一員には相違ないが，その生活状態は他の動物にはみられない人類に独特な生活，すなわち文化をもっている。人類学はこのような人類を総合的に研究する科学であるが，実際の研究面になると，人類の形質と文化の両面からの研究が必要である。しかし，それらの研究上の立場には，ヨーロッパとアメリカとではかなりの相違がある。

その第1は，主としてヨーロッパの人類学者のとる立場で，人類学をヒトの集団を研究対象とする生物学と理解し，人類生物学あるいは生物学的人類学とよばれたり，自然人類学*と同義に用いられたりする。すなわち，生物としての人類を研究対象の中心とし，それを取り巻く環境(文化)を生態学的にとらえ，それを通じて人類の形質と文化との間の関連を明らかにすることを目標としている。科題としては人類の変異・遺伝・進化などがあげられるが，第2次世界大戦前は主として形質の計測や観察に基づく記載が主たる研究方法であったが，生物学の進歩に伴い，戦後は生理学・構造力学・生化学の研究方法が取り入れられている。分科としては，形態人類学・生理人類学・人類遺伝学・人類進化学・人類比較解剖学・霊長類学・生態人類学などがあげられる。

第2は，人類の形質を対象とする自然人類学と文化を対象とする文化人類学*の両者を含めたものと解する立場で，主としてアメリカで行なわれている。

文化人類学は，もともとヨーロッパ以外の異民族や未開民族の文化そのものを研究する民族学*から発展したが，最近では高度の文化をもつ民族や社会をも対象とするようになり，文化人類学とよばれるようになったが，ヨーロッパ大陸ではまだ民族学の呼称が一般的である。また，文化人類学のうち社会構造を取り扱う分野は，特に社会人類学*とよばれる。

文化人類学の研究対象は技術や物質文化，社会構造や制度，口碑や伝承，文化と人格，文化変容などであるが，これに対応してその分科には，上述したもののほか，民俗誌・民俗学・言語人類学・先史学などが含まれる。しかし，アメリカにおいても，人類学の現状はしだいに人類生物学と文化人類学とに分離・独立する趨勢(すうせい)にあることがうかがわれる。〔鈴木　尚〕

しんれいげんしょう　【心霊現象】 超自然的な心霊が関係して起きると考えられた奇異な現象の総称。虫の知らせ，夢枕(ゆめまくら)に立つ，神がかり・占い・魔術・祈禱(きとう)など，古くから知られたものに加えて，18世紀，催眠*の前身であるメスメリズムの出現，および19世紀，近代心霊主義の勃興(ぼっこう)と霊媒*の輩出に伴って新たな現象が追加され，広く注目されるようになった。心霊現象は，大別して千里眼*・透視*・テレパシー*・予知・狐狗狸(こっくり)・プランセット・つえ占いなど超常的な認知に関係する〈精

神的心霊現象〉と，重力を無視するかのような物体の浮揚，触知できる物質的性質をもった幽霊の出現，空中から声を出す直接談話，無人の部屋が荒らされる騒ぐ霊，心霊写真・念写などの〈物理的心霊現象〉とに分類される。これらは霊媒によって起こされる場合と偶発的に日常生活の中で観察される場合とがある。1882年イギリスに心霊研究協会が組織され，心霊現象の科学的研究が開始された。➔超心理学　〔大谷宗司〕

しんれいさんみゃく　【秦嶺山脈】 チンリン山脈　中国中央部を黄河の南側に沿って東西に走る山脈。広義には甘粛(かんしゅく)省から河南省に至る全長約800kmの大山地をさし，その東端は華山・崤山(こうざん)・伏牛の諸山脈に分派する。最高峰は宝鶏南東にある太白山(4,113m)。高度は西部で3,000m，東部で1,000m前後である。地質はおもに，古生代または先カンブリア時代の結晶片岩・石灰岩・カコウ岩・片麻岩などよりなる。山脈は南側と北側では気温・降水量において著しい差が生じるため，秦嶺と淮河(わいが)を結ぶ線によって華北と華中を分ける自然地理上の重要な境界線となっている。北側での土地利用は畑作が中心となり，南では水田地帯となる。なお，狭義には渭水(いすい)の南方にある山塊をいい，北側は断層崖(だんそうがい)となり，南側は緩傾斜して漢水の流域に連なる。主要な山峰は南五台山・経南山などで，いずれも2,000mを越える。古来，交通の障害をなしているため，峠道は長安防衛の重要な拠点であった。〔船越昭生〕

しんれいやぐちのわたし　【神霊矢口渡】 浄瑠璃(じょうるり)の題名。通称〈矢口渡〉。福内鬼外(ふくちきがい)(平賀源内)作。1770年(明和7)江戸外記座(げきざ)初演。《太平記》中の新田義興(にったよしおき)・義岑(よしみね)の話を脚色。落ち武者の義岑が武蔵(むさし)矢口渡で強欲な渡し守頓兵衛(とんべえ)に命をねらわれ，頓兵衛の娘お舟が彼を恋し，身代わりになって助ける場面は歌舞伎(かぶき)で上演が多い。

しんれき　【新暦】 現在日本で用いられている暦(グレゴリオ暦)。1872年(明治5)以前用いられていた天保暦(太陰太陽暦の一種)を旧暦というのに対して用いられる。新暦を採用したとき，旧暦の明治5年12月3日を新暦の明治6年元日とした。➔グレゴリオ暦

しんろう　【真臘】 インドシナ半島中部に興ったクメール族の国家。扶南を滅ぼして7世紀ごろ成立したが，8世紀には分裂して，一時シュリー-ビジャヤの属国となる。9世紀のジャヤバルマン2世に至って復興し，アンコール-ワットなどの文化遺跡を残した。13世紀ごろからベトナムとシャムの勢力にはさまれて衰微。➔カンボジア

しんろしどう　【進路指導】 中学校において，〈生徒がみずから，将来の進路の選択・計画をし，就職または進学して，さらにその後の生活によりよく適応し，進歩する能力を伸長するように，教師が組織的・継続的に指導援助する課程〉(文部省《中学校進路指導の手びき》〔1961〕)をいう。中学校では，卒業までに40単位時間以上の進路指導がされることになっているが，中学校段階でみずからの適性を決定することは非常に困難であり，高校への進学率上昇とともに，進路指導の比重はしだいに大きくなってきている。進路指導が単に上級学校への進学者と就職者との振り分け業務になったり，就職斡旋(あっせん)の別語のように考えられることは，大きなまちがいであり，継続的な〈生涯(しょうがい)教育〉の一環として位置づけられねばならないであろう。〔福井幸雄〕

しんロマンしゅぎ　【新ロマン主義】 19世紀末から20世紀初頭にかけての文学思潮。19世紀後半以後の西欧文学の大勢は，自然主義と写実主義の小説が主流を占め，ロマン主義は後退したが，19世紀末には，それら現実密着の創作方法に対する反発として，新ロマン主義の提唱と実作が，評論・詩・劇に著しく現われた。前代のロマン主義との相違は，詩作・劇作において象徴主義の技法を導入したことであり，ロマン主義の諸属性のうち，耽美(たんび)性を重視したことである。狭義にはドイツの新ロマン派だけをさすように，新ロマン主義の代表的存在は，リルケ・ゲオルゲ・ホーフマンスタールのドイツ・オーストリアの3詩人であり，ほかにイギリスの唯美主義作家ワイルド，アイルランドのイエイツ，フランスのボードレール・マラルメ・ベルレーヌ・ランボーらがいる。日本でも，1909年(明治42)創刊の雑誌《スバル》を中心に，耽美主義的・芸術至上主義的な文学者が，反自然主義の旗色を明らかにし，新浪漫主義と普通よばれる文芸思潮を唱導・実践した。

〔長崎勇一〕

しんろん　【新論】 会沢正志斎の著。2巻。1825年(文政8)執筆。後期水戸学(みとがく)の最高峰をなす国体論。国体編・形勢編・虜情編・守禦(しゅぎょ)編・長計編よりなり，ことに国家の伝統と本質を説く国体編に比重がある。強硬な〈外国船打払令〉を出している幕府の忌諱(きい)に触れることを恐れて，藩当局は禁書としたが，幕末の尊王攘夷(じょうい)派志士の国家革新の経典となった。

しんわ　【神話】 ある社会の原初期に生じた一回的な事件によって，その社会にかかわる自然現象や文化現象を説明し基礎づけるための説話。古代社会や現在でも未開社会にみられる。〈神話〉という語はギリシア語のミュトスに由来する訳語。その原義は〈ことば〉〈話〉であるが，のちに〈神聖なものに関する話〉の意味をもつようになった。同じく〈ことば〉の意から発して〈世界理性〉〈神の思想内容〉などの意義を与えられたロゴスとは対照的である。

【特徴】神話は事物の起源・原初の生物・神々の行為などを真実のものとして表現する。神話の語り手は才能ある少数者に限られ，その社会の他の構成員から大いに尊敬される。神話はほとんど例外なく劇的であり，聖なる性格をもつ。すなわち宗教もしくは呪術(じゅじゅつ)の象徴を用いる。神話の展開する場所は原初期の地上・天・地下などである。真実にして聖なる神話の重要な機能は，人間が継続的現実の線上にあることを確認させることである。神話によって人間は時間の内に身を置き，過去と未来につながる。同時に一社会の現われでもある。社会構造のしるしをもつ神話はまさにこの事実によって，その社会構造の存在理由となる。主人公たる霊格は人間社会を超越した存在である。あらゆる事物・生物が霊格になり，人間化されて行為する。宗教儀礼との関係は不可分で，人間は神話を永久に存続させるためにこれを行なう。祭礼により社会構成員は神話を演じ，その現実性を永続せしめる。こうして社会集団はみずからの永続を自覚する。原初の模倣は真実を反復することであるゆえに，人間の現在の生を正当化し，人間に安堵(あんど)を与える。近代の目に映ずる神話現象は無稽(むけい)のようであっても，神話社会において神話は深い真理であり，もろもろの存在を維持し規制する力そのものである。

【分類】無数にある世界の神話をなんらかの基準で分類するのは容易でない。それだけに，神話学の進展とともにさまざまな分類がなされてきた。クラップやヘッケルらの分類がよく知られている。彼らは太陽神話，月の神話，星の神話とか，宇宙起源神話，人類起源神話，神々の神話などのように分類したが，基準があいまいである。他に自然神話と人文神話，低級神話と高級神話，記述神話と解明神話などの分類もある。神話は原初の一回的な事件によって，自然現象・文化現象を説明するものであるから，起源の問題はあらゆる神話に共通する。最近はこの点から宇宙起源神話・人類起源神話・文化起源神話という基準で分類する試みもなされている。ただし，この3領域がつねに独立しているのではなく，密接に関連し合う場合もある。たとえば洪水(こうずい)などの大災厄(さいやく)神話は宇宙神話に属するが，これが人類の発生を述べるかぎりでは人類起源神話の一部である。したがって一つの神話の分類はその多面性を考慮してなされねばならない。➔ギリシア神話　➔北欧神話　➔日本神話　〔松田　治〕

しんわりょく　【親和力】 ゲーテの中編小説(1809)。〈親和力〉とはある化合物が他の物質によって新しい化合物を生ずる物質間の化学的傾向性をいう。この自然法則をゲーテは男女間の愛情の起伏に適用し，エードワルトとシャルロッテという一組みの夫婦に別のふたりの男女が加わることによって生ずる葛藤(かっとう)を，社会倫理と婚姻制度との観点から描いた。

す

す【酢】 酸性調味料。4～5％の酢酸を主体とし，その他有機酸やアミノ酸・エステルを含み，芳香とうま味をもつ。種類は非常に多いが，大別するとアルコール含有原料を酢酸菌で発酵させた醸造酢，果汁(かじゅう)を酢酸発酵させた果実酢，氷酢酸を原料とした合成酢(酢酸酢)の3種となる。市販醸造酢には，米酢・粕酢(かすず)・酒精酢・麦芽酢・蒸留酢などがあり，果実酢としてはりんご酢・ぶどう酢などがある。

酢は微生物の繁殖を妨げ，食品の鮮度を保ち，食欲を進めるなどの効力があるので，調味料として重要な位置を占め，日本料理・西洋料理・中華料理など，きわめて広範囲に利用されている。なます・酢の物などの浸し酢や注酢として用いられるのみでなく，飯に混ぜてすしの原料となり，また魚骨などを柔らかくする作用があるので，魚介類の酢づけなどにも使用される。これら単独の用途以外に，他の調味料とよく調和するので，併用することも多い。これを調味酢・加減酢といい，合わせ酢・二杯酢・甘酢・黄味酢・青酢・たで酢などがある。

〔佐藤友太郎〕

す【巣】 鬆・窠とも書く。鋳物を製造する際，凝固中に発生したガスによって鋳物の内部に生ずる空孔で鋳物の欠陥の一種。孔の内面が平滑な場合と凹凸(おうとつ)が著しい場合があり，特に後者は鋳物の凝固中に起こる収縮力とガスの発生によって生ずる。防止するには，とかすときにガスを吸収させる，微量の活性金属を加えて酸化物とする，金属と反応しないガスを吹き込んで追い出す，などの方法がある。

す【巣】 動物が生活をしていく際，休息所・産卵所・育児室・隠れ家として一定の時間を過ごす場所をいい，多くの動物にみられる。単に天然の適当な場所を利用するだけのものもあるが，多くはなんらかの手段を用いて動物自身がつくりあげる。巣は種によって，その形態もつくる場所も変化に富み，特に鳥類・哺乳(ほにゅう)類・こん虫類などでは複雑なものをつくるものが多い。鳥類は一般に繁殖期になると抱卵し，育児するための場所としての巣をつくる。たとえばカラスは樹上に枝などで，スズメはわらや枯れ草などで人家の軒下などに，ツバメはどろ・わらでつくり，繁殖期が終わるとそれらの巣を放棄する。哺乳類ではおもな生活場所付近につくるものが多く，リス・ムササビなど樹上動物は木のうろなどに，ウサギ・タヌキなどは地中につくる。こん虫類では社会性のある生活をもつものにみごとな巣をつくるのが多い。特にアリ・ミツバチ・シロアリなどは女王を中心として多数の個体が共同して巨大な巣を構築する。巣の発達の程度は必ずしも系統的進化と平行ではなく，むしろその種の生態学的地位を強く反映するものである。

〔松本忠夫〕

スアレス［Francisco de Suárez］(1548～1617) スペインの神学者・哲学者。グラナダの生まれ。1564年イエズス会士となり，サラマンカ大学で哲学を学ぶ。のち各地の神学校・大学でスコラ哲学的立場から神学を講じ，イエズス会の中で最も重要な神学者であった。主著《形而上学(けいじじょうがく)論究》。アリストテレス・トマス-アクィナスらの注釈家としても著名。

ずい【髄】 茎の基本組織のうち維管束に囲まれた中心部。柔組織からなり，細胞間隙(かんげき)が多く，細胞には葉緑体がなく，タンニンその他の結晶などを含む。分泌細胞・乳管・異型細胞などが混じっているものもあり，草本植物では中心部は生長につれてこわれ，髄腔(ずいこう)となることもある。木本植物では貯蔵組織となっている。

ずい【隋】 中国の王朝名(581～618)。創立者楊堅(ようけん)(高祖・文帝)は，はじめ北周王室の外戚(がいせき)で，大丞相(だいじょうしょう)として政治を専行していたが，581年禅譲によって北周の静帝に代わって帝位についた。はじめ国を〈随〉と号したが，のち隋とした。国都を新たに長安の近くに築いて大興城と号し，突厥(とっくつ)と和して国力の充実を図り，589年南朝の陳を攻め滅ぼして中国の統一を完成した。そこで，文帝は中央集権の強化を図り，地方豪族の温床であった不要官職を廃し，推薦制による官吏登用法である九品官人法を廃して，試験制の科挙を創始した。また，中央官制では尚書(しょうしょ)・門下の2省を政務の中心とし，尚書省には吏・戸・礼・兵・刑・工の六部(りくぶ)を置いて行政を分担させ，地方では州・郡・県の3階制に簡素化し，地方官はすべて中央の任命によることとして州刺史から兵権を奪い，府兵制度を確立した。そのほか，北斉(ほくせい)の律令(りつりょう)をもとにして，これに改正を加えた新律令を制定した。中国の南北統一に加えたこれら新政策の施行によって，中国の学術・文化・経済などは著しく向上し，これらの諸制度の多くは唐およびその後の諸王朝の規範となり，四隣の諸国にも影響を与え，わが国は遣隋使を派遣してその文化の吸収に努めた。

文帝の太子の広(煬帝(ようだい))は父を殺して帝位についたが，奢侈(しゃし)で，各地に宮殿そのほかの大土木事業を起こし，多くの離宮の間を巡遊するために運河を開いた。永済渠(えいさいきょ)(北京(ペキン)方面と黄河を連絡)・通済渠(黄河と淮水(わいすい)を連絡)・邗溝(かんこう)(淮水と揚子江を連絡)・江南河(揚子江から杭州(こうしゅう)に達する)の四つで，これらは巡遊以外に物資の運輸にも役だった。しかし，これらの建設のための民力消耗は甚大で，徴発された役丁の死者は10人中4～5人に達し，ついには婦人を使役するに至った。また，盛んに外征を行ない，西方では当時青海地方からタリム盆地東部にかけて勢力を張っていた吐谷渾(とよくこん)を征服し，南方ではインドシナ半島の林邑(りんゆう)(→チャンパ)を征してこれを破り，東南では海を渡って琉球(りゅうきゅう)(今の台湾)を征した。高句麗(こうくり)征伐は最も大規模で，612年12軍113万人の兵を動員して親征したが，先鋒(せんぽう)は鴨緑江(おうりょっこう)を渡って大敗し，煬帝は遼東(りょうとう)城を攻めて成功せず，軍を返して翌年また再征して大敗した。これらの外征による人力と物資の徴発ははなはだしく，そのため各地に反乱が起こり，唐公李淵(りえん)(のちの唐の高祖)も兵をあげ，長安にはいって煬帝の孫恭帝を立てた。618年煬帝は江都(江蘇(こうそ)省江都県)の離宮で反将のために殺され，この年恭帝は位を李淵に譲り，隋は3代38年

で滅んだ。〔内田吟風〕

すいあつけい【水圧計】⇨圧力計

ずいいきん【随意筋】脳脊髄(のうせきずい)神経(→中枢神経系)の支配を受け，意志によって収縮する筋。筋繊維は横紋を示し，顔面などの皮筋を除いてほとんど大部分は骨に起始・停止するので，骨格筋といわれる。大小400個以上あって，筋系を形成している。これに対し自律神経(→自律神経系)の支配を受ける内臓や血管の平滑筋*と心筋*は，みずからの意志に無関係に収縮するので不随意筋という。

すいいけい【水位計】⇨レベル計

すいえい【水泳】厳密には，水に浮くことから泳ぐことまでの技術をいうが，一般にはその速度を競う競泳のほか，飛び込み競技・水球*などの競技をも含めて総称することが多い。なお〈水泳〉の名は，江戸時代末期に幕府の講武所*で用いられ，のちに一般化したものである。

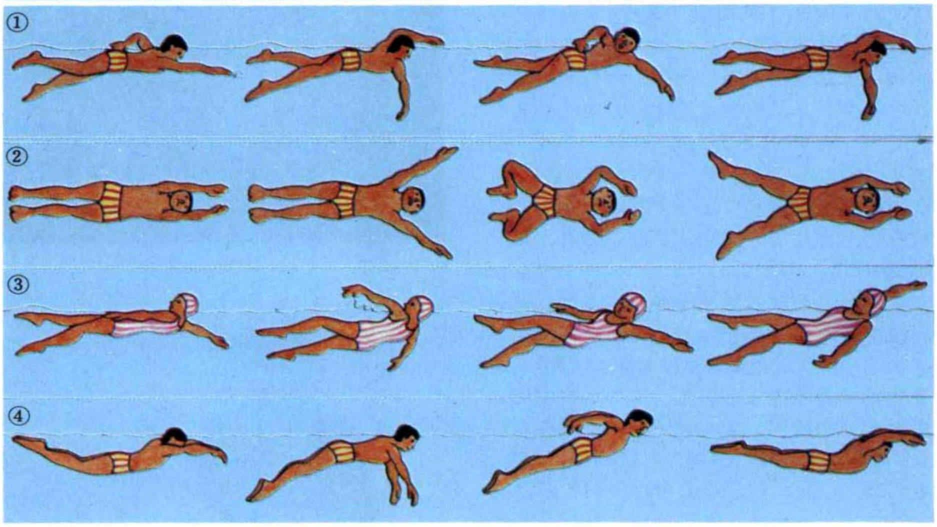
〔沿革〕水泳の歴史は古く，古代エジプト・ギリシア時代にまでさかのぼることができる。はじめ戦士の訓練課目の一つとして数えられた水泳はしだいに青少年体育として取り上げられ，ルネサンス時代になると夏のレジャーとして普及されだした。近代になると，スポーツ一般が盛んになるにつれて，競技としての水泳が行なわれはじめた。1896年の第1回オリンピック-アテネ大会に競技種目として登場してから，より速く泳ぐために技術の改善が促され，クロールなどの新しい泳法が生み出されていき，1928年の第9回オリンピック-アムステルダム大会のころまでには，現在行なわれている泳法の基礎がほぼ固められた。その後，第2次世界大戦中に各国が競って軍人の訓練に水泳を取り入れたこともあって，大いに普及し，同時に指導方法もめざましく向上した。戦後に至ってはいわゆるエージ制の誕生など幼児期からの指導・育成が組織化され，水泳はさらに発展している。

海に囲まれたわが国では，人々は古くから水になじんでいたと考えられるが，水泳が組織化されたのも古く，《日本書紀》によれば応神天皇の5年に海人部(あまべ)の制度が定められたとある。海人部は各地に置かれ，おもに漁業に従事していたが，ときには水夫(かこ)としても働いたとされ，当時すでにかなりの水泳人口のあったことが推測される。このような生活のための泳ぎは，やがて戦国時代にはいって戦闘のための泳ぎに変わり，重い武具をつけての泳ぎや水兵を忍ばせる泳ぎなどがくふうされた。これが各地方でさまざまな泳ぎの型を生み，江戸時代になると，他の武術と同様に多くの流派が生じたが，ヨーロッパに起こった近代泳法に対し，これらの伝統をふまえた泳法を総称して日本泳法とよんでいる。武術としてみがかれた日本泳法は，速度よりも重荷に耐えること，持久力のあることに重点が置かれ，技法としては抜き手・のし・かえる足が中心となっている。代表的な流派に水府流*・神伝流*・小堀(こぼり)流*・観海流*・能島(のじま)(野島)流・向井流などがある。明治時代にはいってから，水泳は専門学校・大学などの体育に取り入れられ，やがてスポーツとしての道を歩むこととなった。そして，当初行なわれていた日本泳法は，1920年(大正9)の第7回オリンピック-アントワープ大会に参加して惨敗して以来，近代泳法に取って代わられた。第1次世界大戦後，数次にわたるオリンピック大会で日本選手が大活躍したこともあって，わが国の水泳は全国的に普及した。第2次世界大戦後は，施設・指導者の不足などから一時下火になったが，その後学校プールの積極的な建設や各地のエージ-グループの誕生などによって，わが国の水泳普及度は世界的水準にもどっている。

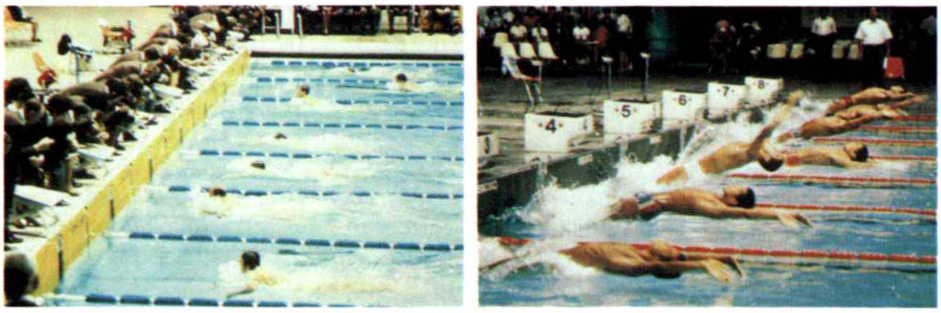
〔競泳〕水泳が，速度を競う競技として行なわれだしたのは19世紀の後半からであるが，1869年にはそれを統括する団体としてイギリスにアマチュア水泳協会が生まれ，1908年には国際水泳連盟(FINA)がつくられた。FINAは競泳のほかに飛び込み・水球をも統括するが，競泳では世界記録の制度もつくられて，国際競技の激しいせりあいの中で泳法は急速に改良されていき，水泳の普及にも大きな役割を果たした。その後1956年には競技規則が大幅に改正され，記録を公認する種目や水路の長さなどが制定されて現在に及んでいる。1968年にはさらに世界記録がメートル制によって統一され，1971年からは世界選手権大会が行なわれることになった。

わが国では，1898年(明治31)横浜沖で水府流太田(おおた)派と外人クラブとの間で行なわれた競技会が競泳のはじめとされ，このとき日本勢は小抜き手・片抜き手などの日本泳法で勝利を収めた。その後1905年に大

水　泳



①クロール　左腕は腰のあたりから抜き，前に出す。右腕で水を後方に押し出す。右腕を水から抜くとき呼吸し，足を交互に上下に動かす　②平泳ぎ　手足を前後いっぱいに伸ばす。ひじを張りながら両手を広げ，肩の横のやや手前までかく。足はかかとから腰のあたりへひざを曲げて引き寄せ，足先を外に向けてける　③背泳ぎ　右腕は右肩の前方の水を腰の横までかく。水をかく両腕は大きく回し，足は深い位置から交互にけりあげて呼吸する　④バタフライ　上体を少し水面にかぶせる，両腕で水を押し出すように上体を持ち上げる。腰の横から両腕を水上に出し，呼吸し，両足をそろえて水をける



(左)男子100m平泳ぎ決勝　第19回オリンピック-メキシコ大会　(右)男子背泳ぎのスタート　昭和44年度日本選手権水泳競技大会　国立屋内総合競技場

阪毎日新聞主催の海上10マイル競泳などの国内競泳が行なわれたが，本格的な国際競技への参加は，1905年に上海(シャンハイ)で行なわれた第２回極東大会に水府流の鵜飼彌三郎(うかいやさぶろう)が出場したのがはじめてである。このとき，鵜飼は４種目の優勝をさらって大いに気をはいたが，1920年の第７回オリンピック-アントワープ大会に参加した２選手は日本泳法によって惨敗を喫し，これを端緒として近代泳法が採用され，1932年(昭和７)の第10回オリンピック-ロサンゼルス大会における男子６種目中５種目優勝の快挙を生んだ。そして1936年のオリンピック-ベルリン大会でも日本勢は圧勝し，第２次世界大戦後も古橋広之進*らが自由形に世界記録を続出して，水泳日本の名を高めると同時に敗戦後の国民の心に希望の燈(ひ)を点じた。しかし，その後は後継者の育成難やアメリカ・オーストラリアを中心とする外国勢の伸びによって，現在は必ずしも一流国とはいえない。

［泳法］競泳の歴史とともに改良されてきた近代泳法は，一般に次の４スタイルに分けられる。〈クロール〉現在最も速い泳法とされ，自由形(どんな泳法で泳いでもよいとされている競泳種目)はすべてこの泳法で競われている。その起源についてはいろいろの説があるが，もとハワイ人がこれに近い形で泳いでいたのがオーストラリアに伝えられ，これを合理化したキャビルが1902年にロンドンで行なわれた競技会で100ヤード(91.4ｍ)競技に58秒の記録を出して世界の注目を浴びたことに始まるというのが一応の定説となっている。そして，当時の新聞に〈キャビルは水をはう(crawl)ように泳いだ〉と紹介されたことによって，この名称が生まれた。キャビルは２ストローク-２ビート(２度腕をかく間に２度足を打つ)で泳いだが，1910年代には６ビートに改良された。以来これが理想的な泳法とされている。〈平泳ぎ〉両手足を水中で左右相称に使う泳ぎ方。この泳法は最も古典的で，これに似た泳法はわが国を含めて世界各国に古くから伝わっており，現在も初心者の指導にいちばんよく用いられている。現在の競泳規則では頭が水中にもぐってはいけないとされているが，以前は体全部を水中にもぐらせる潜水泳法も行なわれていた。そして，もとは両腕を広く大きくかく泳ぎ方だったが，いまは足のけりに重点をおき，ピッチを早くするために両腕を鋭く卵形にかく泳ぎ方も生まれている。〈バタフライ〉平泳ぎの競技規則の盲点から生まれた泳法で，スピードのおそい平泳ぎを少しでも速くしようとして，1935年にアメリカのマイヤースによって始められたもの。平泳ぎの両腕を前に伸ばすときに水面に出す泳ぎで，その形がチョウに似ていることからこの名がつけられた。はじめ足は平泳ぎのかえる足だったが，やがて両足をそろえて魚の尾のように波打たせる形に変わった。このような足の用法をドルフィン-キックまたはフィッシュ-テール-キックとよぶ。平泳ぎから生まれたこの泳法ものちにまったく新しい形となり，1952年にFINAによって新泳法として認められた。〈背泳〉はじめは平泳ぎを裏返しにした泳ぎで，1900年の第２回オリンピック-パリ大会にはじめて登場したが，アメリカのヘブナーが現在の逆クロール形に改良し，1912年の第５回オリンピック-ストックホルム大会で快勝した。足先が柔軟で腕の長いタイプの人が有利。〔浮田裕之〕



スイカズラ



水　干

すいえき　【膵液】　膵臓より分泌され，十二指腸に注ぐ消化液。①タンパク質分解酵素，②脂肪分解酵素，③炭水化物分解酵素を含む。①にはトリプシノゲン・キモトリプシノゲンがあり，分泌後に活性化され，腸内でトリプシン・キモトリプシンとなり，タンパク質をポリペプチドにまで分解する。②にはリパーゼ(膵液中ではステアプシン)があり，脂肪を脂肪酸とグリセリンとに分解する。これは胆汁(たんじゅう)によって，作用を強められる。③にはアミラーゼ(アミロプシン)があり，唾液(だえき)酵素によく似るが，より強い作用をもつ。〔平野修助〕

すいえん　【水煙】　⇨相輪

すいえんじけん　【綏遠事件】　1936年11月，かねて内モンゴルの独立を画策していた日本の関東軍が，内モンゴル政務委員会の首脳である徳王に働きかけ，モンゴル軍を綏遠省東部に侵入させた事件。国民政府の傅作義(ふさくぎ)軍はこれを反撃し，モンゴル軍に壊滅的な打撃を与えた。この事件で，中国人民の抗日への機運が盛り上がった。

すいか　【西瓜】　双子葉植物・ウリ科のつる性一年生草本。茎は長く伸びて地上をはい，葉腋(ようえき)に巻きひげを生じて他物にからむ。葉は長い葉柄がある。葉身は大きく，羽状に深裂し，長さ10～20cmくらいの長楕円(だえん)形である。雌雄同株。各節から側枝を発生し，主枝・側枝ともに各節に単生花をつけるが，雄花のほうが雌花よりも数がはるかに多いのが一般である。花は黄色の５裂した合弁花で，雄花のおしべは３個，雌花の花柱は短く，柱頭は３個に分かれ，子房下位。果実は球形ないし楕円球形で，果皮は平滑，色は緑色が多いが白から黄色のものもあり，濃色のしまがはいるものもある。果肉は赤・黄・白色などがあり，水分は多くて柔らかく甘味がある。種子は果肉中に多数散在し，長さ５～10mmくらいの長卵扁平(へんぺい)で淡かっ色から黒かっ色のものが多い。アフリカ原産といわれ，古代エジプト時代から利用されていた。もともと，内陸乾燥地帯では水分供給を目的とした飲料として用いられていたが，その後地中海沿岸や東洋では果実としての利用が盛んになり，わが国にも16世紀ごろに導入されている。果肉はショ糖・果糖を含み，生食のほか煮つめてあめのようなすいか糖にもされる。また種子から油をとったり，種子を食べたりもする。中国ではスイカ種子を瓜子(コワズ)といい，生のままあるいはいって食用にする。

高温・乾燥・多照を好むので，ふつう，春種子をまいて盛夏に収穫するが，近年はガラス室の栽培で早出しをすることもある。また，砂質土では果実の成熟が早いので，砂丘地での栽培が多い。しかし，粘質土ではきめ細かい肉質の良品が生産されるので，各地の特色を生かして全国的に栽培されており，品種も多い。〔松本正雄〕

すいかしんとう　【垂加神道】　江戸初期に山崎闇斎*(あんさい)が主張した神道説。垂加は闇斎の号。彼は仏教，さらに朱子学講究から出発し，のちに吉川神道*に触れて神道の重要さに気づき，他の神道説をも研究のうえ独自の説を展開し，近世における最も有力な神道説の一つとして垂加神道を確立した。彼は伝統すなわち型を重んじ，特に《日本書紀》《中臣祓(なかとみのはらえ)》を重視した。その教説は多分に儒教的教養に基づいており，一部知識人の神道説にとどまらず，国学や水戸(みと)学とともに尊皇思想をもつちかった。《神代巻風葉集》《中臣祓風水草》にその教説がうかがわれる。〔田上光治〕

スイカズラ　【忍冬】　双子葉植物・スイカズラ科。ニンドウともいう。山野に自生する多年生つる性の木本。茎は右巻きに他物にからみつき，葉は長楕円(だえん)形で，長さ３～７cm幅１～３cmで対生する。若い木の葉は羽状に切れ込むことがある。若枝や葉には軟毛がある。花は５～６月ごろ，葉腋(ようえき)に２個つき，最初，白色であるが，のちに黄色に変化する。花柄の長さ３～10

mm，花冠は細長い筒形で長さ3～4cmあり，先は唇形(しんけい)に分かれ，上片は浅4裂し，そり返る。芳香があり，花冠の奥に蜜(みつ)がある。果実は直径6～7mmの球形で10～11月に黒熟する。葉は忍冬，花は金銀花といわれ，漢方では解毒・浄血薬として，はれもの・淋病(りんびょう)などに用いられる。

すいかぶつ【水化物】 水和物ともいうことがある。水が加成的に結合した化合物，またはコロイド粒子に強く水和した場合にいう。前者の場合無水物1分子に結合する水の分子数により1水化物，2水化物などという。たとえば$MgCl_2 \cdot 6H_2O$(塩化マグネシウム)は6水化物である。

すいかん【水干】 中古から江戸時代まで続いた装束の一種。のりを用いず，水張りで干したのでこの名がある。狩衣*(かりぎぬ)に似た闕腋*(けってき)衣で，首上(くびがみ)は丸組みのひもで結び，そで口にはくくりひもがあって，胸の中央や背に装飾の菊綴(きくとじ)がついている。葛布(くずふ)が多く，綾(あや)・紗(しゃ)・絹物もあり，草花・器具などのかき絵や紋染め・巻染めも行なわれた。水干ははじめ庶民の服だったが，鎌倉時代から武家も用い，金襴(きんらん)・錦(にしき)や金箔(きんぱく)押しなど豪華なものもできた。江戸時代になると，上級武士が狩衣を重んじてから，水干は主として児童の服となった。〔稲垣史生〕

すいかんけい【水管系】 棘皮(きょくひ)動物に特有な器官系で，運動・呼吸・排出の働きがある。ウニでは肛門(こうもん)側にある多孔板という小さな孔から海水を取り入れ，石管とよばれる管を通り，口のすぐ内部にある咽頭(いんとう)の部分を取り囲んだ歩環管という環状の部分に至る。歩環管からは，さらに5本の輻歩管(ふくほかん)が出て反口極にまで達する。輻歩管からは左右に側水管が出て，その先端に体壁下の管足とアンプルが連なっている。このような水管の中には外界の水と体腔液(たいこうえき)が通っていて，白血球も含まれている。〔蒲原春一〕

ずいがんじ【瑞巌寺】 宮城県宮城郡松島町にある臨済宗妙心寺派の寺。草創は，平安時代に円仁(えんにん)が建てた天台宗の延福寺に由来するといわれ，鎌倉時代に北条時頼(ほうじょうときより)が法身上人(しょうにん)を住持として禅寺に改め，円福寺と号した。中世末期には一時衰えたが，1604年(慶長9)伊達政宗(だてまさむね)が再興，瑞巌円福寺と号し，以後伊達家の菩提所(ぼだいしょ)となった。本堂・庫裡(くり)・廊下などは桃山時代の遺構である。景勝地松島を控え，伊達文化の繁栄をいまに伝えている。〔永井信一〕

すいかんぶんせき【吹管分析】 鉱物の化学成分を簡単に調べる分析法。肉眼観察だけで鉱物がなんであるか決まらないときに，いろいろな化学試験を行なって鑑定する。吹管分析はその一つで，装置が簡単なので，特に野外での試験に適している。まず，鉛筆のしんくらいの大きさの試料を金具ではさみ，アルコールランプまたはブンゼンバーナーの炎を吹管で吹きつける。そして試料がとけやすいかどうか，炎に色がつくかどうかを調べる。とけ方の難易は融解度で表わされ，融点と熱伝導性に関係する。試料中に特定の元素があると色がつく。たとえば，バリウム・ホウ素は黄緑，銅は緑，リチウムは赤，カリウムは紫，ナトリウムは黄色など。また，試料がふくれ上がったり，粉々になったりするかどうか，熱したのち磁性をもつかなどの点も観察する。淡色の試料で全然とけない場合には試料を硝酸コバルト溶液に浸して加熱する。青くなればアルミニウムが，桃色になればマグネシウムが含まれている。次に木炭に穴をあけて粉末の試料をそのまま，または炭酸ソーダと混ぜて，吹管で加熱すると，試料中の金属が還元されて球になり，その色や性質で金属の種類が判明する。

閉管(径数ミリメートル，長さ8cmぐらいの一方を閉じたガラス管)中で試料を加熱すると，とけやすさや揮発物の種類が知られる。また，閉管(長さ10cmぐらいのガラス管を4cmぐらいのところで120°に折り曲げたもの)中の曲がったところに試料を入れ加熱すると，酸化状態下での試料の変化が観察できる。また，白金線のはしで輪をつくって粉末のホウ砂をつけ加熱するとガラス球ができる。これに試料をつけて酸化炎*または還元炎*中で加熱すると，鉱物の成分によって特徴ある色を呈する。たとえばコバルトは青，クロムは緑など。これはホウ砂球反応とよばれる。〔加藤敏郎〕



瑞巌寺　庫裏(左)と庫裏と本堂(方丈)を結ぶ廊下(右)



水　球　ゴールを死守するゴールキーパー　第24回長崎夏期国民体育大会

ずいき【芋茎】 サトイモの茎。夢窓国師の歌に〈いもの葉に置く白露のたまらぬは，これや随喜の涙なるらん〉とあることからこの名が起こったといわれている。ざっとゆであげて皮をむき，いろいろな料理に用いる。酢の物にすると歯ざわりがよく，またあえ物(ごま酢あえ・くるみ酢あえ)・煮物やしるの実にもする。かわかしたものを〈芋がら〉といい，熱湯に10分くらいつけてから，料理に用いる。〔佐藤友太郎〕

すいきゅう【水球】 サッカーに似た水上競技*の一種。19世紀末期にイギリスを中心に発祥し，第2回オリンピックパリ大会(1900)から正式種目となった。現在ヨーロッパでは水上競技の花形として競泳よりも人気がある。日本には1907年(明治40)に第一高等学校で練習したという記録があり，1932年(昭和7)から各種の国際大会に参加している。長さ30m，幅20m，水深1.8mの区画の競技場で白と青(ゴールキーパーは赤)の帽子の色で区別された各7人からなる2チームの間で，規定時間内(正味5分で4回行なわれ，それぞれ2分間の休憩がある)にゴールへボールを投入して得点を争う競技。ボールの扱いはゴールキーパー以外は片手で行ない，水底をけってとんだり，背の立つところでも立ってプレーをしてはならない。チームはゴールキーパー(1人)・フルバック(2人)・ハーフバック(2人)・フォワード(3人)で構成。〔中出水勲〕

すいぎゅう【水牛】 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。大形で肩高1.8mに達する。体はふつう暗灰色。雌雄に大きな三

日月形の角がある。野生のものはネパール・インド・セイロン・ボルネオなどの水辺のたけの高い草やぶにすむが，南アジア・南ヨーロッパ・アフリカなどでは家畜とされる。

すいぎん　【水銀】 周期律表第II族に属する金属元素。原子番号80，記号Hg，原子量200.59，常温で液体の唯一の金属である。中国・インドでは古代から知られていたもので，BC1500年ごろのエジプトの古墳からも発見されている。錬金術の対象として重要な金属。クラーク数2×10^{-5}(第65位)，少量は遊離金属として産するが，主として硫化物・辰砂(しんしゃ)(HgS)として産出する。辰砂に石灰を加えて加熱し，留出してくる水銀を冷却捕集し，再蒸留(減圧)して精製する。スペイン・アメリカが水銀の産出国として知られている。銀白色を呈し，融点－38.83℃で金属中では最低。沸点356.58℃，比重(0℃)13.5955，20℃における蒸気圧0.0012mm/Hg，表面張力が大きく凝集力が強い。常温では酸化しにくいが300℃に加熱すると，赤色の酸化水銀になり，さらに400℃以上に加熱すると，再び酸素を放出して水銀になる。ハロゲン・イオウとは常温でも化合する。非酸化性の酸には溶解しないが，硝酸・濃硫酸には溶解する。鉄以外の多くの金属と合金をつくり，これらの合金はアマルガムとよばれる。水銀には1価と2価の化合物が存在する。水銀(I)化合物の多くは白色で，水銀(II)化合物よりも水にとけにくく，不安定である。水銀(II)化合物は一般に水にとけやすく，水酸化ナトリウム溶液で酸化水銀(HgO)を，硫化ナトリウム溶液で硫化水銀(HgS)の沈殿を生ずる。水銀は膨張係数が温度変化に対して直線的であるので温度計に用いられるが，その他気圧計・ポンプ・整流器・光源・リレー-スイッチなどにも利用される。また，辰砂は顔料として，シアン酸水銀・雷汞((らいこう)雷酸第二水銀)は起爆剤として重要である。塩化第一水銀は甘汞ともいい，利尿剤・下剤に用いられ，塩化第二水銀は昇汞ともいって消毒殺菌剤に用いられる。
〔古屋　弘〕

ずいきん　【瑞金】 ロイチン　中国，江西省南東部の都市。福建省境に近く，贛州(かんしゅう)の東方約130kmにあたり，贛水の支流，貢水の右岸に臨む。1931年中華ソビエト共和国臨時中央政府が置かれ，1934年の〈長征〉開始まで中国共産党の中心地となり，〈紅都〉とよばれて世界的に知られた。チョマ・米・茶・タバコなど付近農産物を集散し，贛州へ船が通ずるほか，新中国になってからは自動車道路も発達し，福建省方面との交通も盛んである。〔船越昭生〕

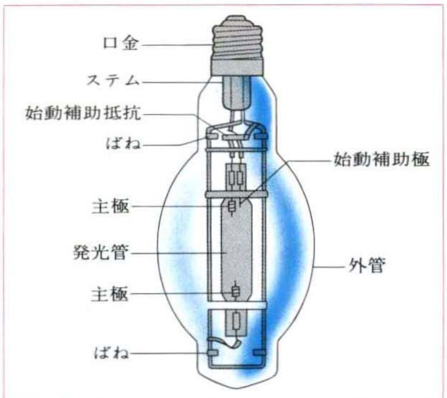
すいぎんおんどけい　【水銀温度計】 ⇨ 液体温度計

すいぎんきあつけい　【水銀気圧計】 ⇨ 圧力計

すいぎんざい　【水銀剤】 ふつう農薬として用いられる水銀を含む化合物をいう。一般に水銀剤といえば有機水銀剤のことで，化学構造的にはフェニル水銀とエチル水銀であることが多い。水銀剤は元来種子消毒剤として用いられたが，わが国では1953年(昭和28)ごろからイネいもち病の防除に特効のあることが知られ，その使用量も急速に伸びた。しかし最近水銀の残留毒問題が深刻化したため，農林省では立毛時における水銀剤の使用を全面的に禁止する措置をとった。代表的な有機水銀剤に酢酸フェニル水銀があり，散布・種子消毒あるいは土壌(どじょう)殺菌に広く適用されてきた。また塩化メトキシエチル水銀は浸漬(しんし)用種子消毒剤として知られるウスプルン*の主成分である。〔深谷昌次〕



スイギュウ



水銀燈

すいぎんしきかせいソーダ　【水銀式苛性ソーダ】 電解法による苛性ソーダ製法の一種。食塩水を電解するときに，陽極に黒鉛，陰極に水銀を用い，隔膜は用いない。原料の食塩水は隔膜式の場合よりも精製したものを用いる。電解すると陽極には塩素，陰極にはナトリウムアマルガムができる。ナトリウムアマルガムを別室へ移して水で分解すると，水酸化ナトリウム溶液ができ，同時に水素が発生する。このとき水銀が再生するので，これを再び電解に用いる。電解法としての隔膜式と水銀式との比率は，戦前はそれぞれ約60％と40％であったが，最近では水銀式が85％ぐらいになっている。これは高品位の苛性ソーダの需要が増したことと，水銀式のほうが直接濃苛性ソーダ溶液が得られること，容量の大きい電解槽(でんかいそう)を用いるので経済的であることなどによる。〔久保輝一郎〕

すいぎんちゅうどく　【水銀中毒】 水銀蒸気の吸入，水銀軟膏(なんこう)，水銀利尿剤の過剰投与などによって起こる中毒*で，昇汞*(しょうこう)(塩化第二水銀)・シアン汞・オキシシアン汞などによるものが最も多い。急性中毒と慢性中毒があり，急性中毒では口内炎・下痢・腹痛・嘔吐(おうと)・虚脱症状を起こして死亡するが，解剖すると腎臓(じんぞう)の変性(昇汞腎)，胃粘膜の腐食，大腸粘膜の炎症・壊死(えし)(昇汞性赤痢)などの所見がみられる。慢性中毒では神経過敏症や悪液質，ときに下顎骨(かがくこつ)壊死・筋肉萎縮(いしゅく)などもみられる。〔青木利彦〕

すいぎんちょう　【水銀鳥】 鳥類・キンパラ科。インド原産の小鳥。大正時代から輸入され，その当時はインドギンハシとよばれていた。大きさはキンカンチョウ程度。やや尾が長い。羽色は全身が暗灰色，外観はサクラスズメに似る。じょうぶでおとなしく，禽舎(きんしゃ)での巣引きは容易である。

すいぎんとう　【水銀燈】 水銀蒸気中での放電を利用した光源。ガラス管内に水銀を入れ，水銀蒸気を導体としてアーク放電を発生させ，その発光を利用している。水銀蒸気圧により，①低圧水銀燈，②高圧水銀燈，③超高圧水銀燈に分けられる。①は水銀蒸気圧が$10^{-3}\sim10^{-1}$mmHg(水銀柱ミリメートル)程度のもので，光色は青っぽい。紫外線が多量に出るので，これを利用したものに螢光(けいこう)放電燈(螢光燈*)と殺菌燈*がある。②は水銀蒸気圧を高圧にするほど可視光線を多量に出し効率が高くなることを利用したもの。水銀ランプともよばれ，直接照明用光源として道路照明や天井の高い工場の照明などに用いられる。高圧水銀燈は演色*性が悪く，特に赤に対する見え方がきわめて悪く，これを改善したものに螢光高圧水銀燈などがある。高圧水銀燈は点燈から安定状態に達するまでに数分間，消燈から再点燈可能になるまでに数分間を必要とする。③は水銀蒸気圧が10～200気圧程度のもので，圧力および電力が高いほど白色に近づく。〔田村康男〕

すいきんるい　【水禽類】 水面を泳いで生活する鳥類の総称。普通はガンカモ類のみをさすが，アビ・カイツブリ・ウミスズメの各類を含めることがある。カモメ類はふつう含まれず，これを含むときには遊禽(ゆうきん)という語を用いる。

すいくちむし　【吸口虫】 環形動物・スイクチムシ類・スイクチムシ科の総称。体は背腹に扁平(へんぺい)で，円盤状ないし楕円(だえん)形。前端が吻(ふん)状に突出して口を開き，後端に肛門(こうもん)を開く。ウミシダ・ウミユリ・ウニなどに寄生する。表皮の下にこぶ状の皮包をつくって寄生するものや，

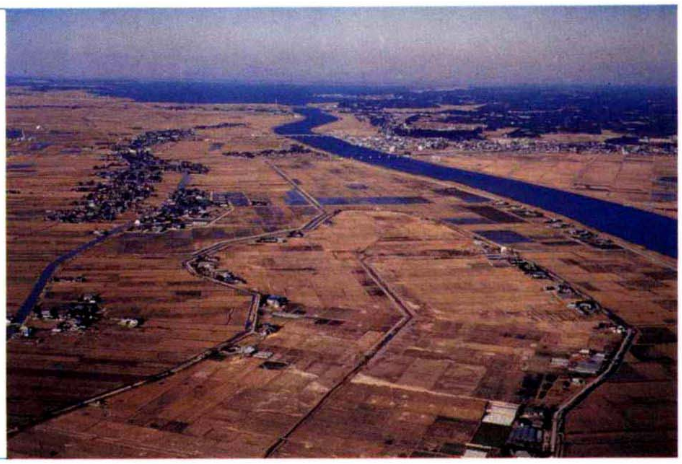
宿主の体表にくっついて寄生するものがある。体長は数ミリメートル程度。極付近から熱帯にまで分布し，すべてが海産で約130種がある。

すいけいがく　【推計学】 統計的推論の研究を行なう，現代統計学の重要な分野。推測統計学ともいう。製品の品質検査，作物の新種が在来種より収量が多いかどうかの推測，世論調査への応用など，統計的推論は実社会でも科学的な研究でも広く用いられている。年間の死亡率など，集団についての数量的考察は古くから行なわれているが，考察するのは母集団であり，観察するのはそれから取り出した標本であると区別し，確率の理論を基にして推論するのが現代の方式である。有権者の政党支持率など，母集団の特徴を示す数値を推定するようなことを統計的推定という。また，〈男女間に差異がない〉などと，母集団についてある仮定をしてよいかどうかを判断することを統計的仮設の推定という。標本の選び方など推論方式を適切に定めると，比較的少数の標本から有効な推論がなされ，その結論の信頼の度合いもわかる。〔小西勇雄〕

すいけいちゅう　【水経注】 中国，北魏(ほくぎ)の酈道元(れきどうげん)(？～527)が著わした歴史地理書。40巻。3世紀ごろの作と考えられる《水経》につけられた注で，水脈(河川の流路)をもとにして記述する。黄河水系からはじめて淮河(わいが)系・揚子江系を経て江南諸水系に及ぶ。《水経》の5巻分が10世紀以後伝わらない。王先謙*の《合校水経注》，楊守敬*(ようしゅけい)・熊会貞(ゆうかいてい)の《水経注疏(ちゅうそ)》がテキストとしてすぐれている。

すいけん　【水圏】 気圏*や岩石圏*に対して，地球上で水で占められている部分をいう。海洋のほか湖沼や河川なども含まれるが，量的には98%までが海水であり，それに次ぐのは南極大陸やグリーンランドの大陸氷河である。水圏の存在は地球の一つの特徴であって，月には現在も過去も存在していないし，火星・金星・水星などにも存在の可能性はない。そして，地球上の生物の発生と進化には，この水圏が大きな役割を果たしてきたと考えられる。〔片山信夫〕

すいげん　【水原】 スーウォン　朝鮮，京畿道(けいきどう)，ソウル(京城)の南方41kmの山紫水明の古都。人口約10万。水原城は18世紀末，李朝(りちょう)正祖(禰(とう))が西洋の技術も取り入れ，3年がかりで築いたもので，高さ7m，周囲4kmの城壁を巡らし，東西南北に四大門が設けられた。八達門には建設当時すでに鉄砲時代にはいっていたことを示す銃眼があり，華虹門(かこうもん)は市街を貫流する華川にかかる七つの水門をもつ楼門である。かつては城門・城壁とも完全に残されていたが朝鮮戦争で，南の八達門，西の華虹門以外はほとんど破壊された。西郊には同じく正祖(祘(さん))(在位1456～1468年)がつくった人造湖の西湖があり，その際の土を盛り上げた麗妓(れいぎ)山が美しい。現在は農業技術研究の中心であり，農村振興庁やソウル大農科大学がある。〔矢守一彦〕



水郷筑波国定公園
加藤洲付近上空からの眺望。右の水路は北利根川，手前の国鉄鹿島線の鉄橋の向こうが潮来町である。遠景の水面は霞ケ浦

すいげんりん　【水源林】 水源を涵養(かんよう)する目的で設けられた森林。徳川時代には水山とよんでいる。森林をもつ水源地からは，豊富な地下水が得られるという古くからの経験に基づいて，各地に水源林がつくられてきた。大規模な例としては多摩川上流の東京都水源林などがある。国も1910年(明治43)の森林法制定時から水源涵養保安林制度を設け，重要河川の水源地帯に多くの水源涵養保安林を指定しており，1971年(昭和46)現在で513万ヘクタールに及んでいる。〔塚本良則〕

すいこ　【出挙】 古代における利付き貸付けの制度。公出挙(くすいこ)と私出挙の別があり，律令(りつりょう)制度においては前者は利息5割(3割にしたこともある)，後者は10割であった。本来の目的は貧農の再生産を保証するためであり，その限りで一種の勧農・救貧の制度といえる。しかし，早くから雑税の一種として強制貸付けが行なわれ，その利息が地方国衙(こくが)財政の3分の1をまかなうほどであった。貸付けは稲を主とし，春耕前に貸し付けて秋収後に元利ともに返済するたてまえであったが，負担過重に苦しむ農民はしばしば返済不能に陥り，そのため故郷を捨てて他郷に走った。こうして律令制度は出挙の面からも動揺を示すに至った。〔黛　弘道〕

すいこうしゃ　【水交社】 旧日本海軍の研究・共済・親睦団体。1876年(明治9)3月海軍士官・高等文官および士官候補生全員を会員として創設された。しかし陸軍の偕行社*(かいこうしゃ)と同様に，実際にはおもに社交・共済のためのものであった。第2次世界大戦後解体したが，現在は旧海軍将校のほか，一般人も含む財団法人水交会として復活している。

すいごうつくばこくていこうえん　【水郷筑波国定公園】 茨城県と千葉県にまたがり，霞ケ浦(かすみがうら)，利根(とね)川の下流，犬吠埼(いぬぼうさき)，神之池(こうのいけ)，鹿島(かしま)神宮，筑波山を含む面積353km²の地域で，1959年(昭和34)に指定された。日本で最も広い水郷地域であり，霞ケ浦は面積約171km²で日本第3位の湖である。利根川下流の低湿地は田園風景が美しく，潮来(いたこ)のアヤメ，十六島，十二橋などの景勝地で知られる。太平洋に突出した犬吠埼の突端は断崖(だんがい)で，豪壮な海岸美をみせ，犬吠埼燈台や屏風ケ浦(びょうぶがうら)が有名。広大な神域を占める鹿島神宮の建物は史跡に指定され，香取神宮とともに参拝者が多い。筑波山(876m)は阿武隈(あぶくま)山系の山塊で山頂は男体・女体の美しい二つの峰に分かれる。ふもとに筑波神社，頂上に奥の院があり，頂上の近くまで筑波スカイラインやケーブルカーが通じている。北には加波山(709m)があり，加波山神社がある。〔木村東一郎〕

すいこうほう　【水耕法】 ⇨水栽培

すいこでん　【水滸伝】 中国，明(みん)代の長編小説。北宋(ほくそう)の徽宗*(きそう)のころ，宋江らの一味36人が山東省の鄆城(うんじょう)県近くの梁山(りょうざん)によって乱を起こし，一時は優勢であったが，のち官軍に降伏して殺された。この史実が，民間で伝説となり，南宋のころ《大宋宣和(せんな)遺事》などの話本(講釈本)が生まれ，36人が英雄とされてその事跡がたたえられるようになり，元代にはいると，雑劇*の中にも《水滸伝》の話や人物を題材とする戯曲がつくられていった。これらさまざまの人物の性格や名称は，今本《水滸伝》とは異なるが，見方を変えていえば，こうして原本《水滸伝》が形成されたといえる。その時期は，元代末期から明代初期であろう。その最後の作者は施耐庵(したいあん)とも，羅貫中(らかんちゅう)とも，あるいは施耐庵の原作を羅貫中が書きなおしたともいう。現行本は，100回・110回・115回・120回の各本のほか，清(しん)初の金聖歎(きんせいたん)が改作，批評を加えた70回本がある。108人の豪傑が，天下に身の置きどころなく追われ追われて盗賊の群れに身を投じ，梁山泊(りょうざんぱく)に相会し，宋江を首領として天下に横行，官軍もその討伐に手を焼き，彼らを帰順させる。彼らは勅を奉じて，北

遼(りょう)に遠征，次に田虎(でんこ)・王慶の反乱を平定，最後に方臘(ほうろう)を征伐して宋王朝に忠義を尽くす。その間，豪傑はあるいは死にあるいは去ってその数を減じ，最後に宋江も毒酒を飲んで自殺する。特に豪傑たちが梁山泊にやってくる銘々伝に相当するところがおもしろく，後世に与えた影響は多大で，続作も多い。日本文学では滝沢馬琴*の《里見八犬伝*》をはじめ，江戸文学の作者たちに大きな感化を与えた。〔今村与志雄〕

すいこてんのう【推古天皇】（554～628） わが国最初の女帝。名は額田部(ぬかたべ)。欽明(きんめい)天皇の皇女。母は蘇我(そが)稲目の娘堅塩媛(きたしひめ)。異母兄敏達(びだつ)天皇の皇后となり，592年崇峻(すしゅん)天皇が蘇我馬子*に暗殺された直後に推されて即位した。翌年甥(おい)の聖徳(しょうとく)太子*を皇太子として庶政をゆだねた。太子の没後，624年馬子が葛城(かつらぎ)県を要求したときにはこれを拒絶したが，まもなく在位35年余りで628年没した。

すいさいが【水彩画】 単に水彩ともいう。概念の上で油彩(油絵)と対立させて用いられることが多く，一般には絵の具を水でといて描く絵とされている。しかし，水溶性の絵の具は，ガッシュ*・テンペラなどがあり，また東洋画(日本画も含む)の多くもこの範疇(はんちゅう)にはいるので，原則的には透明性で，しかも水溶性の絵の具を用いる絵としたほうがよい。ただ，白紙にこの透明性の絵の具を用いることは，技術的に非常にむずかしいとされるためか，現在わが国で市販されている水彩絵の具は多かれ少なかれ不透明である。これに反して，ヨーロッパにおいてはまったく透明である。水彩絵の具は，顔料をアラビアゴム-グリセリンを媒剤として捏練(ねつれん)したチューブ入り，あるいは容器入りのものがおおかたである。用紙には，特に水彩画用として代表的なディビッド-コックス紙などがあり，大きさは種々である。

すいさんかアルミニウム【水酸化アルミニウム】 $Al(OH)_3$ 白色の結晶で，比重2.423，300℃前後で水H_2Oを放出し，酸化アルミニウムAl_2O_3となる。水にはとけないがアルカリにとける。天然にはギブス石*として産する。ボーキサイト*を水酸化ナトリウムにとかしてアルミン酸ソーダ溶液とし，これを加水分解して得られる。この方法をバイヤー法という。水酸化アルミニウムを焼成するとまずγ-Al_2O_3になり，1,200℃くらいになるとα-Al_2O_3となる。これから氷晶石を用いて電解するとアルミニウムを製造することができる。また，水酸化アルミニウムに硫酸を作用させると硫酸アルミニウムとなり，製紙工業や浄水用に多く使われる。そのほかの用途は，耐火物用アルミナ原料・活性アルミナ・アルミニウム化合物原料など非常に多い。わが国の生産は年間150万tに達する。〔鈴木　篁〕

すいさんかアンモニウム【水酸化アンモニウム】 ⇨アンモニア水

すいさんかカリウム【水酸化カリウム】 ⇨苛性(かせい)カリ

すいさんかカルシウム【水酸化カルシウム】 ⇨消石灰

すいさんかナトリウム【水酸化ナトリウム】 ⇨苛性(かせい)ソーダ

すいさんかバリウム【水酸化バリウム】 $Ba(OH)_2$ 無色の結晶で，比重4.495，100gの水に0℃で1.67g，80℃で101.4gとける。酸化バリウムに水を作用させると多量の熱を発生し，水酸化バリウムとなる。市販品はふつう無定形白色粉末状で，これを水にとかした溶液をバリタ水といい，炭酸根の定量分析などに使われる。

すいさんかぶつ【水酸化物】 金属元素とOH基との結合からなる化合物で，普通酸化物と水との作用によって生ずる。たとえば酸化カルシウム(生石灰)と水を反応させると水酸化カルシウム(消石灰)が得られる。$CaO+H_2O \longrightarrow Ca(OH)_2$ アルカリ金属の水酸化物は水溶液で多量のOH^-を放出し，強いアルカリ性を示す。アルカリ土類金属の水酸化物は，アルカリ金属に比べてアルカリ性が弱い。水酸化アルミニウム$Al(OH)_3$などはいっそうアルカリ性が弱く，両性的に作用し，強いアルカリ液に対してはきわめて弱い酸として働く。〔鈴木　篁〕

すいさんぎょう【水産業】 水界に生息している動植物を採捕したり採取したりして，これを人類の生活に活用しようとする一連の産業形態。水産生物を採捕・採取する漁業をその主体とし，それらの生物を大きくしたりふやしたりする水産増殖業，および漁獲した漁獲物を貯蔵・加工する水産製造業を含む。

産業としての漁業の特性は，水界をその基礎的な要件とし，水産生物をその対象とすることにあり，自然の生産するものを一方的に採取する方法にたよっている。すなわち，その生産活動は直接自然を対象とし，したがって漁業生産は自然条件に直接支配される原始産業である。水産養殖業は，有用な水産生物が生存している水界に能動的に働きかけることにより，水産生物の育成を助長し，これを繁殖させてのちに採取しようとするものである。水産製造業は漁業や増養殖業の結果得られた漁獲物を対象とし，①これを生鮮な状態なまま氷蔵あるいは冷凍して保蔵する，②乾燥・塩蔵処理によってさらに長期間の保存を可能にする，③加工してかんづめ・練り製品とするなど，よりよく人類の使用に適するような食品につくり変えることをその内容とする。

水産業はその生産活動が自然的条件の影響を強く受けるので，産業としてはきわめて不安定である。また，生産の場は暴風雨や海霧などのために，漁船の遭難，漁具や漁業施設の破損などが発生しやすく，漁業生産は著しく阻害される。水産生物それ自体も自然の変化の影響を受けて，その資源量に増減が生ずる。また，水産生物は彼らにとってつごうのよい環境の中で繁栄し集群するから，環境の変化に対応して漁場も移動し変化する。さらに近年では人為的な環境の変化が，水産生物の資源量や生息の場に微妙な変化を与えつつある。この傾向は内湾や沿岸域で顕著である。また，漁獲物は腐敗しやすい特性をもっているから，水産業はすべての分野において，他の産業よりも不安定であり，危険性・不確定性を内蔵しているといえる。しかし，近年，食糧資源としての水産生物(特に水産動物)への要求度は，国際的にますます高まりつつあり，特に低開発国での水産業の開発促進が進められている。➔漁業　〔石野　誠〕

すいさんけんきゅうじょ【水産研究所】 農林省外局の水産庁に所属する研究所で，水産資源・増養殖・漁具・漁法・製造加工などの調査研究を行なう。1949年(昭和24)までは農林省水産試験場として東京月島にあったが，現在では北海道区(北海道余市町)・東北区(塩釜(しおがま)市)・東海区(東京都月島)・日本海区(新潟市)・南西海区(広島県大野町)・西海区(長崎市)・淡水区(日野市)・遠洋(清水(しみず)市)の八つの研究所に分かれている。また，東北区ではカツオやサンマの研究，遠洋ではマグロの研究を行なうなど，各研究所ごとに特定の研究課題をもち，地方水産試験場に対して指導的な立場に立って，漁業者の実用的な要求に対処している。〔石野　誠〕

すいさんしげん【水産資源】 水界に生息していて水産業*の対象となる生物。魚類・哺乳(ほにゅう)類・軟体動物などは動物タンパク質資源として重要であるほか，海藻(かいそう)も日本人にとっては有用な水産資源である。水産資源の多くは，天然状態でそれ自身再生産するという特徴をもつので，他の資源と異なり一方的に減少するものではない。しかし，幼稚子期の自然死亡，漁獲による間引きなどを経て，なおかつ資源の恒久的維持を図るためには，適切な資源管理が必要である。クジラ類にみられるように，ひとたび減少した資源を，再び増加させるためには，非常に長い年月を要するといわれている。水産資源にとって最も重大な危機はその幼稚子期であり，産卵・孵化(ふか)・成長時の環境が水産資源の将来の量の大きさを決定する。また，漁獲対象期にある水産資源生物が，どのような場所に来遊し，停滞し，どのくらいの時間漁獲の対象となりうるかも，その資源の漁獲量に重大な影響をもつ。水産資源の研究目的は，その資源を維持しながらいかにして最大の生産をあげていくかにある。ある水域にはいってくる資源の量は，漁期の初めと終わりとを比較すると，(終わりの量)＝(初めの量)＋(補給量＋成長量)－(漁獲量＋自然死亡量)

となる。(終わりの量)が小さくなるほど，将来の水産資源は心細くなる。〔石野　誠〕

すいさんしけんじょう　【水産試験場】 水産業*に関する調査研究を行なう機関。この名称の機関は，現在では地方自治体所轄のものしか存在していない。1894年(明治27)に設置された愛知県水産試験場が最も古く，ほとんどの水産試験場が1907年(明治40)ころまでに設置されている。都道府県水産試験場では，それぞれの地方の水産業と密接な関係をもった事項について，試験研究を重ねており，多くの場合，漁業指導船を兼ねた調査船を所有している。その業務の主体は，漁場の開発，地もと漁船の漁場への誘導，漁況予報，人工漁礁設置のための基礎的調査，他産業との関連(たとえば農薬問題，工場排水による漁場汚染問題)調査などで，地もと漁業の発達に尽くした業績は著しい。〔石野　誠〕

すいさんちょう　【水産庁】 水産業*の振興，水産物の増進・調整を所掌する行政機関。農林省の外局。水産資源の保護培養，漁業行政，水産物の生産・流通・消費の適正な増進・監督，その他の調査・研究をそのおもな業務とする。内部部局として官房と漁政部・生産部・漁港部・調査研究部の各部局，付属機関として水産研究所(全国8か所)，北海道さけ・ますふ化場，真珠研究所，水産大学校，中央漁業調整審議会などがあり，地方支分部局として漁業調整事務局などが設けられている。〔寺尾方孝〕

すいさんぶつかこうひん　【水産物加工品】 魚介・海草を加工した製品の総称。食用品と非食用品に大別でき，前者を製法別に分けると，冷凍品・乾製品・かんづめ類・調味品・塩蔵品・練り製品・薫製品などがあり，後者には魚油・魚粉・薬用品・海草加工品などがある。近年は水産物の生鮮品消費が減り，加工品消費が増加の傾向にある。1969年(昭和44)の総生産量は505.8万tである。

すいしえい　【水師営】 ショイシーイン　中国東北部，遼寧(りょうねい)省旅大市の旅順市街地の北方約4kmの地点にある。清(しん)代には屯営(とんえい)が置かれ，旅順の軍港とともに北洋水師が編成された。1905年1月2日，日露戦争における旅順開城の会議がここの一民家で行なわれたことは有名。

すいしつおだく　【水質汚濁】 日本の河川およびその付近の海域の水質は近年著しく汚濁され，上水道の水源あるいは健康に与える影響などから公害問題として取り上げられてきた。水質汚濁源としては以下のものが考えられる。①農薬による汚染：化学肥料・殺虫剤・除草剤の河川流入。②鉱業による汚染：廃石・粉炭・溶解性有毒物質や炭鉱の酸性廃水など。③人口増加による家庭下水や産業廃液を含む都市下水による汚染。④各種工場廃液による工業汚染：BOD(→水質試験)の高い廃液(ビート精製・醸造・かんづめ・酪農・洗たく工場)，浮遊物の多い廃液(製紙・炭鉱・なめし皮工場など)，溶解物質の多い廃液(化学薬品・なめし皮工場など)，色度の高い廃液(電気めっき・織物染色工場など)，臭気のある廃液(化学薬品・石油精製工場など)，有毒性廃液(電気めっき・パルプ・なめし皮工場など)，酸・アルカリ性廃液(化学薬品・炭鉱・めっき・洗たく・なめし皮工場など)，高温廃水(びん洗浄・めっき・発電工場など)などによる汚染。汚濁による障害には次のようなものがある。①健康障害，たとえば消化器系伝染病の発生，有毒魚介類の摂取による中毒，悪臭ガスによる眼痛・頭痛，呼吸器粘膜の障害など。②上水道の取水不能。③機械器具の腐食による工業用水の取水不能。④イネ・ムギなどの枯死や動物飲料水としての不適による農業への影響。⑤魚介類の死滅や漁具の汚染による漁業への障害。⑥そのほか，観光価値の低下，水泳不能，文化財の損壊など多方面にわたる。

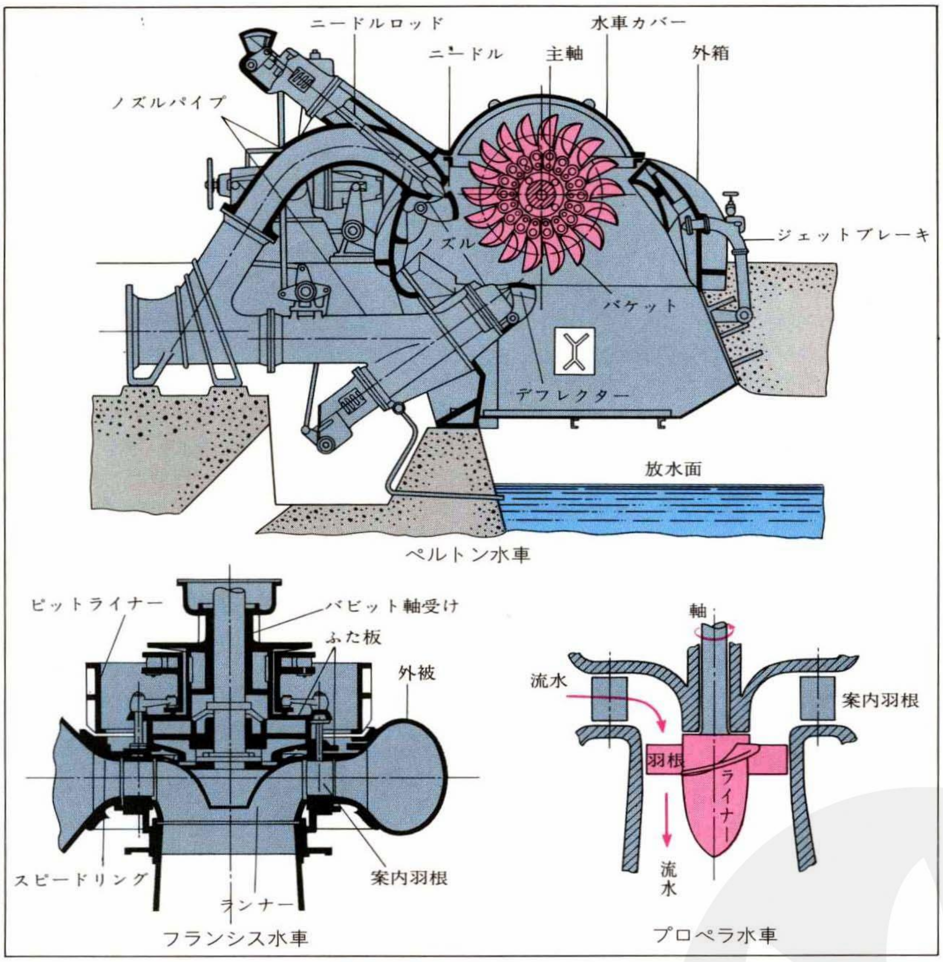
日本における水質汚濁の状況は，すでに大都市圏内の河川では東京の隅田(すみだ)川・多摩川下流にみられるように，水産・工業・飲料用水などの利用が困難になっている。これらは家庭汚水と産業廃液による汚濁が原因となっているが，地方においても石油精製・石油化学工場の油による四日市海域，鉱山廃液による遠賀川，水産加工業による松島湾など産業排水による汚染被害水域は年々拡大傾向にある。1968年(昭和43)に政府が公害病として認定した，水俣病*(みなまたびょう)・阿賀野(あがの)川有機水銀中毒・イタイイタイ病*は，いずれも微量重金属を含有する産業廃液の水質汚濁としてあまりにも有名であり，多大な犠牲を伴っている。対策としては1958年に公共用水域の水質保全に関する水質保全法および工場排水などを規制する工場排水規制法が制定されている。この規制をさらに徹底させるためには，廃液の濃度低下と排水量の減少を図る工学的研究が急がれている。また家庭汚水に対しては下水道の整備と終末処理場の完備が望まれる。〔金子義徳〕

すいしつきじゅん　【水質基準】 水道水・下水処理場放流水・公共水域への排水などについて，法律によって規定される水質の標準。〈水道水〉水道法第4条に水質基準の項を設け，省令によって規定している。水道により供給される水は，①病原微生物に汚染されたことを疑わせるような生物および物質を含まない。②シアン・水銀・有機リンは検出してはならない。③銅・鉄・フッ素・フェノール類，その他の物質の許容量を越えて含まない。④水素イオン濃度はpH5.8〜8.6の範囲。⑤異常な臭気・味があってはならない。⑥外観は無色透明でなければならない。〈下水放流水〉下水道法第8条に放流水の水質基準を設け，政令により定められている。①活性汚泥(おでい)法・標準散水ろ床法，その他これらと同程度に下水を処理することができる方法により下水を処理する場合，㋑水素イオン濃度はpH5.8〜8.6，㋺BOD(→水質試験)は20ppm以下，㋩浮遊物量は70ppm以下，㋥大腸菌群数は1 ml中3,000を越えない。②高速散水ろ床法・モデファイドエアレーション法その他これらと同程度に下水を処理する場合，㋑水素イオン濃度・大腸菌群数は①と同様，㋺BODは60ppm以下，㋩浮遊物量は120ppm以下。〈公共用水域〉公共用水域の水質保全に関する法律によって，水質汚濁が原因になってトラブルが発生しているところや発生するおそれのあるところを指定水域として定め，その水域に流入する汚水に対して，水質基準を定めなければならないとしている。すでに指定された水域の例をあげると，江戸川・石狩川・荒川・木曾(きそ)川・淀(よど)川などがあり，同時にこれらの水域に放流される汚水の水質基準も制定されている。この水質基準は，工場・事業所の業種・排出水量などによって異なる。たとえば，製紙工場が江戸川本流に一日50 m³以上の汚水を排出する場合の水質基準は，①水素イオン濃度pH5.8〜8.6，②CODは平均600ppm以下，③浮遊物は100ppm以下と規定されている。→下水道　〔須藤隆一〕

すいしつしけん　【水質試験】 水質を検査すること。水質とは水のもつ物理・化学・生物学的性状で，水の使用目的によって要求される水質は異なる。たとえば，水道水は有機質・微生物を含まず，ある種の無機塩を含んでいてうま味があり，しかも水温が夏は低く，冬は高い水質が要求される。水質試験項目にはいろいろあるが，上水・工業用水・地下水・下水・工場廃水・海水・湖沼水・河川水などの水の種類と，検査目的によって異なる。水質試験は物理・化学・生物学的試験に大別される。物理的試験には，温度・色素・濁度・透明度(透視度)などがあり，主として水の外観を判定する。化学的試験には水素イオン濃度(pH値)・溶存酸素・諸形態の窒素・リン・蒸発残留物・浮遊物・COD・BOD・金属類・残留塩素・硬度などがあり，おもに含有物質の化学成分を検査する。生物学的試験には一般細菌類・大腸菌群・微生物試験などがあり，主としてその水に生存している生物から，水の汚染程度を判定する。

〈COD〉COD(chemical oxygen demand の略，化学的酸素要求量)は主として水中の酸化されやすい有機質が，酸化剤によって酸化されるに必要な酸素量をppmで表わしたもの。酸化剤には過マンガン酸カリウム・重クロム酸カリウムを使用する。COD値は試料を0.5〜2時間ほど酸化剤と反応させたのち消費した酸素量から求める。したがって，COD値はBOD値とともに水中に存在する有機質の相対量を示す。

〈BOD〉BOD(biochemical oxygen de-



水　車

mandの略，生物化学的酸素要求量)は，水中の分解可能な有機質が，溶存酸素の存在下で，生物化学的に酸化されるに必要な酸素量をppmで表わしたもの。この値が高いほど水が汚染されていることを示す。BODは試料を適当に希釈してびんに入れて密せんし，5日間20℃に保存して，消費した酸素量から求める。BODは水質汚濁の調査や下水処理場の管理に最も重要なものである。一般に下水処理場の効率は，BODの除去率によって判定される。

〈残留塩素〉 塩素消毒の結果水中に残存する遊離残留塩素。水道水やプールの管理には重要な項目で，水道水では，給水せんにおいて遊離残留塩素が0.1ppm以上保持できるように塩素消毒をしなければならない。残留塩素はオルトトリジンを試料として加え，発色した度合いから塩素量を求める。

〈大腸菌群〉 大腸菌群はふつう人畜の腸管内に生息し，これが水中に存在することは，多くの場合その水が人畜の屎尿(しにょう)などで汚染され，消化器系病原菌を含む可能性を示す。大腸菌群は特定の培地を使って37℃で24～48時間程度培養すれば容易に検出することができる。一般に大腸菌群は100 mlまたは1 ml中の菌数で表わされている。➔下水道　〔須藤隆一〕

すいしのひょう【出師表】 中国，三国時代，蜀(しょく)の後主劉禅(りゅうぜん)の建興5年(227)と6年とに，諸葛(しょかつ)孔明が，魏(ぎ)の討伐におもむくに際して後主に奉った前後2編の上表文。先主劉備の恩顧に感激し，身命をなげうって国のために尽くしたいという決意を述べたもので，諸葛孔明の至誠が現われた名文とされる。この表を諸葛孔明の作とすることについて古くから異論がある。

すいしゃ【水車】 高所から落下する水のもつエネルギーで羽根車を回し，機械的な回転力を得るための装置。位置エネルギーだけを利用した上掛け水車や運動エネルギーだけを利用した下掛け水車(これらは重力水車ともいう)などから発達し，今日発電用として実用に供されている効率のよい水車に，①衝動水車と②反動水車がある。①は圧力エネルギーを速度エネルギーに変えた流水をランナー(水車の羽根)に作用させる構造で，高落差(およそ250m以上)用に使用される。これにはペルトン水車がある。②は圧力エネルギーをもつ流水をランナーに作用させる構造で，中落差以下に使用される。これにはフランシス水車(およそ250～30m)と斜流水車(およそ100～30m)があり，特に低落差(およそ50m以下)用にプロペラ水車と，プロペラ水車の一種で自動調整式可動羽根構造になっているカプラン水車がある。　〔田村康男〕

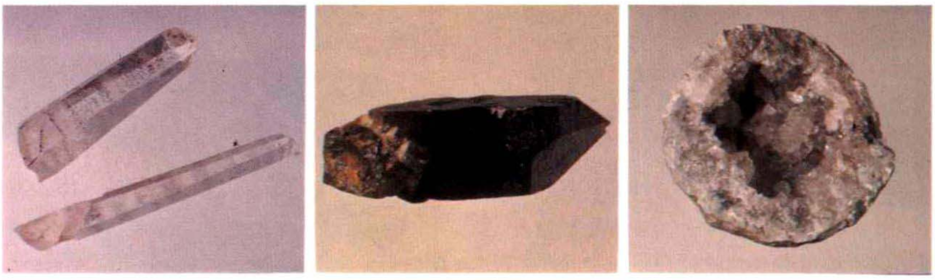
すいじゃくびじゅつ【垂迹美術】 本地垂迹*の思想に基づいて制作された美術。神仏習合の思想の繁栄とともに神道(しんとう)系美術の興隆が促され，元来は彫刻や絵画に表現されなかった神像*などが作られるようになった。彫刻の遺品は，早くも9世紀末に薬師寺の《僧形八幡(そうぎょうはちまん)，神功(じんぐう)皇后，仲津姫命(なかつひめのみこと)坐像》がみられ，以後は平安後期から鎌倉時代にかけてさまざまな形式の遺品が数多い。絵画(垂迹画)は密教の曼荼羅(まんだら)の影響を受けて発達したもので，平安時代にはないが，鎌倉以後の遺品は多数みられ，礼拝の対象として盛んに制作されたことを示している。その形式は，神社の景観を主体に描いて本地仏を添えたもの，祭神の像のみを図したものなど種々であり，多くは春日(かすが)権現・熊野(くまの)権現・日吉(ひえ)山王権現などを主題としている。特に，社景の描写には風景画的性格が強くみられ，中でも1300年(正安2)観舜(かんしゅん)(寂)筆の《春日宮曼荼羅》や《那智滝(なちたき)図》(国宝)などは有名で，大和絵(やまとえ)風景画の遺品としても優品とされる。　〔村重　寧〕

すいじゅんそくりょう【水準測量】 地上の高低を測定する方法。直接水準測量と間接水準測量とがある。直接水準測量は水準儀(水準器〔レベル計〕をとりつけた望遠鏡)の前後に標尺を立て，標尺間の比高を測定するもので，この場合，一方の標尺点の位置は真高(海抜高度)があらかじめ知られている必要がある。真高が判明している点を水準点とよび，石柱を地中に埋めてある。国土の測量の基準となる水準点は，世界各国とも国家に管理される測量機関によって，主要道路ぞいに設置せられている。わが国では国土地理院*によって一等水準点と二等水準点が決定されており，これに基づいて各地の標高が測定されている。間接水準測量は幾何学を応用し，間接に高低差を求めるもので，次の三つの方法がある。①三角法水準測量：2点間の距離があらかじめ判明している場合，その一方の点からトランシット*で，他方の点に立てた標尺との高度角を測定し，三角法によって比高を求める一種の三角測量*で，大きな比高や遠距離間の比高測定に用いられる。②視距法：特殊のトランシットと視距線常数を用いて測定する方法。③気圧計測量：あらかじめ真高の判明している1点と他の地点の気圧差から高度差を知る方法。標高基準(標高0m)には平均海面を採用することが最も合理的で，日本では東京湾の平均海面を用いているが，実際にはここから測量した日本水準原点(東京都千代田区永田町1丁目1番地，

標高24.4140m)が使用されている。

〔小栗宏・桑原正見〕

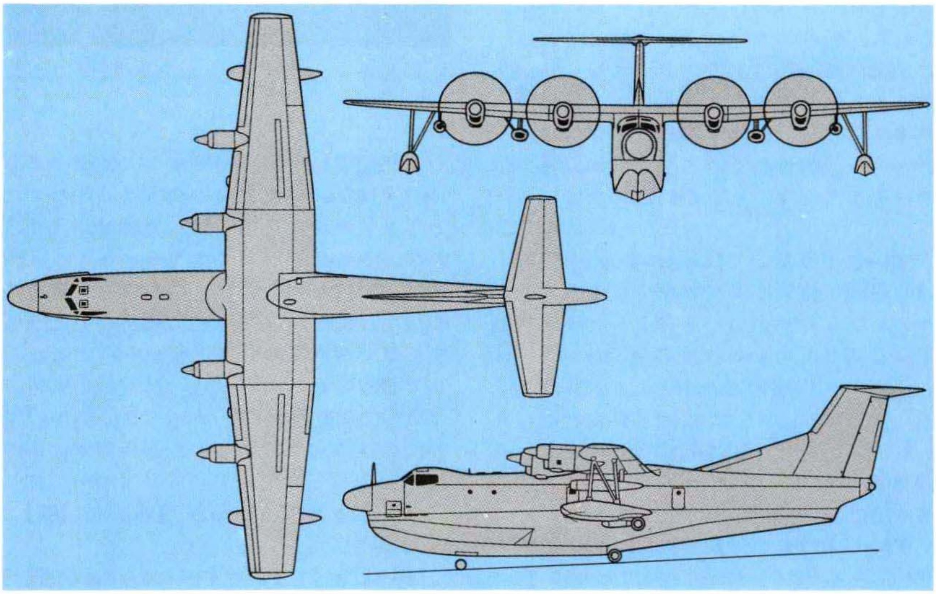
すいしょう【水晶】 セキエイの結晶のうち，特に透明で美しい六方柱状のもの。結晶は普通一端が3個または6個の面でとがっている。柱面には水平な条線がある。食像*のでき方に2種類あって，その向きにより，右水晶と左水晶とに分けられる。この二つは，結晶構造も右回りと左回りに区別され，また光学的には偏光面を右または左に回転させる旋光性をもっている。ふつう，2個あるいは2個以上の結晶が不規則な境をもって双晶*しており，そのしかたによってブラジル式双晶・ドフィネ式双晶・日本式双晶などとよばれる。貝殻(かいがら)状の断口を示し，ふつうガラスのような感じで無色透明であるが，中には紫色の紫水晶，放射能による結晶構造が乱れて灰色にみえる煙水晶または黒水晶のほか，紅水晶・黄水晶など有色水晶もあり，飾り石として無色水晶よりも珍重される。その他，特殊な水晶として針状の金紅石を包有した針入り水晶，繊維状のカクセン石を包有した毛入り水晶，緑色繊維状のリョクレン石を包有した草入り水晶，粒状のシゼンキンを包有するこがね入り水晶，水滴のある水入り水晶などがある。古くから結晶の代表的なものとして親しまれ，ローマ時代には無色透明の水晶は水の化石と考えられたが，17世紀にボイルが比重をはかって水の化石でないことを証明した。日本では，無色水晶が最も普通であり，各種の鉱脈中に産する。煙水晶がこれに次ぎ，ペグマタイト*中に産し，紫水晶は金属鉱脈およびセキエイ鉱脈中にまれに産する。黄水晶はまれである。産地としては昔から山梨県乙女坂(おとめざか)が有名であるが，現在盛んに採掘している所はない。世界の有名な産地はブラジル・フランス・スイスなどにあり，日本の水晶加工品は大部分ブラジルからの輸入品を材料にしている。利用面としては古代から水晶細工に用いられ，今日のガラス工芸の基礎となったが，現代では水晶発振子，ガラスや陶磁器の原料，光学材料，化学器具の材料などに用いられ，工業的にも合成されている。 〔加藤敏郎〕



水　晶 (左)富山県黒岳産 (中)岐阜県苗木地方産(クロズイショウ) (右)アメリカ，イリノイ州産

ずいしょう【髄鞘】 有髄繊維(→神経繊維)の中心部の軸索を直接おおう部分。ミエリンというリポイド*からなり，層板状の配列を示し，複屈折性で光を強く反射する。このため，神経繊維束が光沢ある黄白色を呈する。髄鞘は一定部位で中断されており，神経繊維の分枝はこの部分から起こる(ランビエの絞輪)。中枢神経内や末梢(まっしょう)の自律神経で髄鞘をもたぬものは無髄神経という。

すいじょうき【水上機】 水面から離水し，水面に着水できる飛行機。水上に浮かぶときの浮力を，主として胴体(この場合艇体という)によって得るものを飛行艇，胴体とは別の浮き舟によって得るものを狭義での水上機という。水上機は飛行場の制限がないという特長をもつ反面，海水の飛沫(ひまつ)などによる腐食を防止しなければならないなど，取り扱いや保守の面で難点があり，今日では特殊な目的や場所に使用されるだけとなった。新明和工業で海上自衛隊向けに製作された飛行艇PS-1(全備重量約40トン，主翼面積$135m^2$，2,850馬力のターボプロップ-エンジン4基装備，最大速度550km/時，最小速度75km/時)は，最近になって開発された水上機という意味で珍しい例であるが，同時にSTOL(短距離離着陸)性能を高める種々な試みがなされて注目されている。 〔中口　博〕



水　上　機 対潜哨戒機〈PS-1〉

すいじょうき【水蒸気】 気体状の水*。水の臨界温度は374℃であるから，この温度以下では水蒸気は適当な圧力の範囲内で液体あるいは固体の水と共存しうる。純水の水蒸気圧は0℃で4.579mmHg，100℃で760mmHg。高温低圧ではH_2とO_2に解離する。水蒸気は水性ガス*・水素などの原料，油脂の加水分解など多方面に使われる。また，暖房・蒸気タービン・蒸気機関などもこれを利用したものである。

すいじょうきょうぎ【水上競技】 一般に，プールで行なわれる競技の総称。国際水泳連盟(FINA)制定のものに準じて日本水泳連盟が制定したルールに基づいて行なわれる，競泳(→水泳)・飛込み*・水球*のほか，シンクロナイズド-スイミング*(ヨーロッパではアーティスティック-スイミングと呼称する)などをいう。最近では広義の水上競技として，水上スキー*・スキンダイビング*・ボート*・ヨット*・サーフィンなども含むことがある。

〈競泳〉一定の距離を定められた泳法で泳ぎ，時間を競う競技。競泳にはクロール・平泳ぎ・背泳ぎの3泳法が基本となっているが，オリンピック種目では，この泳法のほか，バタフライ・混合メドレー(前記の4泳法を混合したもの)が採用されている。〈飛び込み〉飛台から空中に舞い，水中に飛び込む技術を競う競技で，男女それぞれの飛板飛び込み・高飛び込みの2種類がある。〈水球〉プールの中で各チーム7人ずつの選手がボールを相手ゴールに投げ入れて得点を競う競技。〈シンクロナイズド-スイミング〉音楽に合わせて行なう水中演技で，最初は水中ショーとして発生したが，1956年国際水泳連盟は公認種目として決定したもので，スタンツ競技とルーティン競技の2種類がある。 〔中出水　勲〕

すいじょうスキー【水上スキー】 特製

のスキーに乗り，モーターボートに引かれて湖・海などの水上を滑走するスポーツ。スキーは木または化学合成品でつくられ，雪上で用いられるスキーとは違って幅が15㎝前後と広く，長さは逆に170㎝前後で短い。また，初心者は両足にスキーをつけるが，熟練者は１本のスキーを用いる。回転・ジャンプ・曲乗り・グループ演技などがあり，競技会も行なわれる。1929年，モーターボートで引かれる木の板に乗って水上を滑走するアクアプレーンがアメリカに生まれ，またその前年には，かいを使って川を下るハイドロスキーがウィーンに生まれたが，これらが現在の水上スキーの前身である。わが国には昭和の初期にアクアプレーンが紹介されたが，水上スキーは第２次世界大戦後に普及し，1955年(昭和30)には日本水上スキー連盟が設立された。同年以降毎年全日本水上スキー大会が行なわれている。〔浮田裕之〕

すいしょうたい　【水晶体】　目の*虹彩(こうさい)と硝子*体の間で後眼房中にあり，カメラのレンズに相当し，直径９～10㎜，幅約４㎜の両凸(とつ)レンズ形の透明体。水晶体包(被膜)と内部の水晶体質(水晶体上皮と水晶体被膜)とからなり，血管・神経は存在しない。毛様*体小帯で毛様体と結合し，毛様体筋の収縮・弛緩(しかん)によってその曲率が変化し，遠近調節が行なわれる。

すいじょうたい　【錐状体】　目の網膜の視細*胞には錐状体細胞と桿状体(かんじょうたい)細胞の２種がある。錐状体細胞の外側半を錐状体繊維，内側半を錐状体という。錐状体はさらに外帯と内帯に区分される。外帯には内板状の扁平嚢(へんぺいのう)があり，中にロドプシン*が含まれる。総数7,500万の桿状体が網膜周辺部に多く明暗を感ずるのに対し，中心部に多く総数336万で色覚にあずかる。➔目

すいしょうどけい　【水晶時計】　水晶発振*器を利用した高精度の時計。水晶振動子・発振回路・分周回路・駆動回路・同期モーターなどから構成される。精度は種類により異なるが，$\pm 1\times10^{-4}$～1×10^{-2}秒/日程度の範囲である。無線通信の発達の過程で不安定な周波数が混信・妨害を起こし，国際間で周波数を安定にすることが決定された。そのために標準周波数源の製作・周波数精密測定法の確立とその技術向上が要求された。正確で安定な周波数は逆に正確で安定な時間を示す時計となる。これらの要請にこたえて，1928年アメリカのベル電話会社のマリソンが100キロヘルツの真空管式水晶発振器をつくり，その出力周波数を真空管式周波数分周回路で１キロヘルツまで下げて１キロヘルツの同期電動機を作動させ針を動かす水晶時計を発明した。1932年(昭和７)，東京工業大学の古賀逸策*がRカットとよぶ独自の方式による水晶振動子を発明し特許を得た。これは日本の水晶時



水上スキー　フロリダの海岸を滑走する水上スキーヤー

計の発達史にとって特筆すべき業績である。1962年には，いままでの真空管の代わりにトランジスターを用いた水晶時計が開発された。さらにトランジスター・ダイオード・電池などの発明と改良，プリント配線技術の採用，部品の小形化と信頼性向上と低価格化などが水晶時計を一般家庭用の時計として普及させるに至った。最近の水晶時計はさらに低電力化・超小形化され，腕用水晶時計の試作にも成功して，近い将来の市販も予定されるに至っている。〔川中　洋〕

すいしょうはっしんき　【水晶発振器】
⇨発振器

すいしょく　【水色】　昼間，海面や湖面を真上から見たときの水の色。測定にはフォーレル水色標準液が用いられる。これは１号(青色)から11号(淡黄緑色)まで，色を段階的に示す標準液をガラス管に封入したもので，水面を真上から見て，その水の色を標準液と比較して最も近い水色番号をもってその水色とする。一般に懸濁質が少ないときには藍色(あいいろ)，プランクトンが多いと緑色がかり，粘土質が多いと黄色がかってくる。１号に近いものを水色が高い，11号に近いものを低いという。暖流系は水色が高く，寒流系は低い。たとえば，黒潮域では１～２号，親潮域では４～６号，また熱帯の海では１～２号，日本海や東シナ海では３～４号を示す。水色と透明度は関係が深い。なお，湖水でかっ色が強ければ，ウーレの水色標準液を用いる。〔相原正彦〕

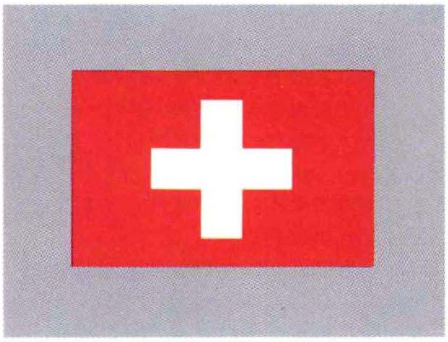
すいじん　【水神】　水の神。飲料水・灌漑(かんがい)用水の守護神，また水難よけ・防水・雨ごいの神，あるいは豊作・豊漁をもたらす神として，およそ人間に恩恵を与えるさまざまな面で信仰の対象とされている。《古事記》には水神をさす〈虬〉という語を〈みずち〉と読ませているが，〈ち〉は霊すなわち神にあたることばである。いたずら好きな妖怪(ようかい)としての河*童(かっぱ)の伝承は全国的に分布しているが，河童のことを〈めどち〉とよぶ地方がある。めどちはみずちのことで，河童は水神信仰の零落した姿と考えられる。水神祭りは，疫病退散のための夏祭りとしてはなばなしく展開してきた。天王*祭の名で知られる祇園(ぎおん)祭・津島祭などがそれで，キュウリを供えるのが特色になっている。〔直江広治〕

ずいじん　【随身】　平安時代以降，貴人の外出に際し，刀剣・弓矢を帯してこれに随従した近衛府(このえふ)の官人。勅旨によって賜わるもので，その数は太上(だじょう)天皇に14人，摂政・関白に10人，大臣・大将に８人，納言(なごん)・参議に６人，中将４人，少将２人などと定められた。奈良時代に唐制にならって事業・防閤(ぼうこう)・傔仗(けんじょう)とよばれたものはその前身である。

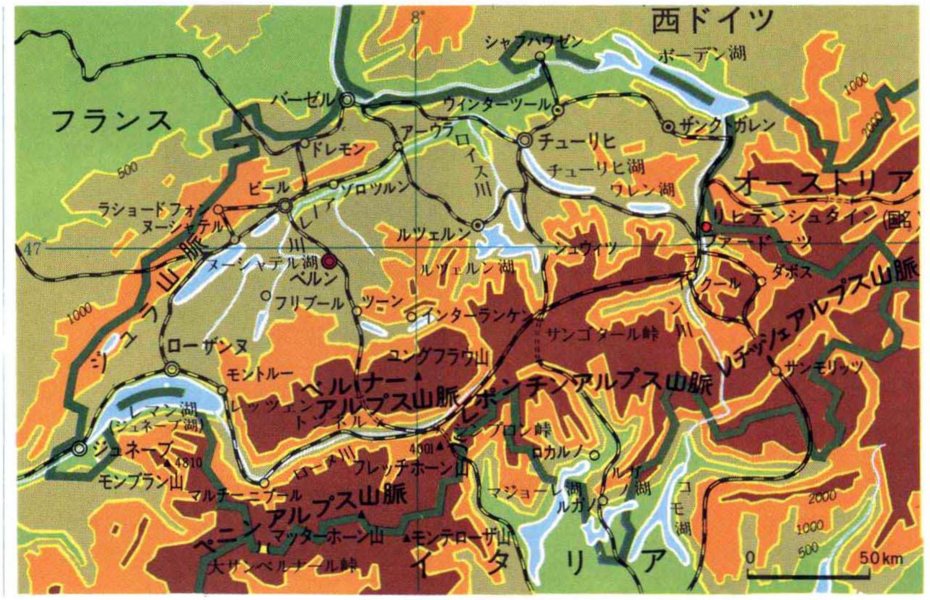
スイス(連邦共和国)　［Switzerland Confederation, Schweizeviche Eidgenossenschaft, Confédération Suisse］　ヨーロッパ大陸中央部にあり，アルプス山脈の一部とその周辺を領域とする連邦共和国。面積41,288㎢，人口633万(1979年推)，首都ベルン。

【概観】文化的には西ヨーロッパ圏に属するが，西ヨーロッパ諸国がかつて海外へ発展していった歴史をもつのに対して，スイスはまったくの内陸国で，その歴史は，古来ヨーロッパにおける民族・文化移動の十字路にあたるアルプス山脈の自然の中で形成されてきた。国家の起源は1291年にドイツ・オーストリアからの自衛のために結成した連邦で，それぞれの州は北イタリアやフランドル地方(ベルギーからフランス北端部に及ぶ北海に面した地方)の自由都市のような自治村落の連合体であった。かつては氷河と森林におおわれ，長い間外国に対して障壁となってきた山脈も，その後はしだいに牧場として開かれた。文化的・民族的には地中海沿岸と北西ヨーロッパとの接点にあり，ローマ帝国の〈法と平和〉，北西ヨーロッパ市民社会の〈個人と自由〉でささえられた社会をもっている。すでに16世紀の初めフランス・オーストリアとの条約によって永世中立を保障された。しかしこのことがスイス人の戦闘精神の欠如を意味するものではなく，中立と平和は，その後諸外国間で戦争が起こるたびに民兵による国境の防衛で守られてきた。スイスを構成する四つの民族と22の州は互いに強いきずなで結ばれ，孤立主義と国際主義を巧みに調和させているユニークな独立国である。

【自然】国土は山がちで，アルプス山脈が５分の３を占める。アルプス山脈には氷河と川で侵食された3,000ｍ以上の高峰がそそり立つ。氷河の多くは北方に向かって流下し，南方に向かう氷河は途中で断ち切られている。山脈は一大褶曲(しゅうきょく)山脈で，褶曲軸に平行して走る縦谷には長くて広い谷が発達している。氷河がとけたあとの山脈に縦横に入り組んでいる谷は，動植物相に多くの変化を与え，また地中海沿岸からの風の通路ともなり，特にフェーン*現象に



スイスの国旗　1815年制定。15世紀ごろから使用された軍隊の旗じるしで，白十字はオーストリアから離脱するときに神の加護を祈念したことに由来する。また旗の形はスイス国内ではほとんど長方形のものが使用されている。なお赤十字社の旗は，赤十字がスイス人デュナンの提唱によって創設されたため，スイス国旗の白と赤を逆にしたものである。



スイス

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田



スイス　(左)アイガー山麓の村。美しい緑の斜面に瀟洒な家々が立ち並ぶ。夏の登山や冬のスキーに，ヨーロッパ各地から訪れる人々でにぎわう　(右)レマン湖(ジュネーブ湖)の東端モントルーの町の南約2kmにあるションの古城。付近は湖岸の保養地で，古城を訪れる人も多い

よる乾燥した熱風が吹き抜けて北斜面の氷と雪をとかすのを助けている。褶曲軸に直交する方向の横谷は，人間の居住地をアルプスの山間深く導き，また交通路に利用されている。氷河は肥沃(ひよく)な沖積土壌(ちゅうせきどじょう)におおわれた幅の広い氷食谷を形成し，氷堆石丘(ひょうたいせききゅう)を堆積させ，谷の出口のあちこちに美しい景観の湖沼群をつくっている。氷河は山頂付近ではいまだに残っているが，北西部やジュラ山脈では気候の関係からすっかり消滅している。ライン川とローヌ川の分水界であるサンゴタール峠はスイスの南と北を結ぶばかりでなく，ヨーロッパの中部と西部の結節点でもある。ローヌ川渓谷(けいこく)の南のアルプスの主脈にはグランコンバン(4,317m)・モンテローザ(4,634m)・ワイスホーン(4,512m)・マッターホーン(4,447m)があり，ローヌ川渓谷の北のベルナー-アルプスにはユングフラウ(4,161m)・フィンシュテラーホーン(4,272m)などがある。アルプス山脈とジュラ山脈の中間はアルプス山麓(さんろく)のプレ-アルプス地方とよばれる高原で，氷河の運搬堆積物におおわれて表面はゆるやかに起伏し，よく耕やされた広い谷とこれをくぎる森林におおわれている。ここには人口の大部分が居住し，農畜産物の生産も多く，主要な工業都市が集まっている。またここには200余に及ぶ氷河湖があり，レマン湖(ジュネーブ湖)・ルツェルン湖・チューリヒ湖，およびドイツとの国境をなすボーデン湖などがある。アルプス南麓(なんろく)のチチノ州もプレ-アルプス地方と同じ高原で，マジョーレ湖やルガノ湖はイタリアとの国境になっている。北西部にあるジュラ山脈は高度約1,000mの石灰岩の褶曲山脈で，ライン川支流のアール川によって侵食された谷は耕地として利用され，山地は牧場と森林におおわれている。気候は典型的なアルプス型気候で，地方による差が大きい。大陸の影響は北部に大きく，西部の高山地方では大西洋の影響がみられ，気温は山地では低いが，プレ-アルプス地方とチチノ州ではかなり高い。年降水量はライン川とローヌ川の谷では1,000～2,000mmであるが，プレ-アルプス地方では1,000mmを越えることはない。

〔言語・住民〕 5世紀にローマ帝国は現在のスイスの地を撤退し，のちにローマの影響を受けたゲルマン系のブルグンデル人と，新たに侵入してきたゲルマン人とが居住するようになった。前者はフランス語を，後者はドイツ語を話し，チチノ地方ではイタリア語が使用され，ほかにローマ化されたケルト人によるレトロマン語も用いられている。1963年には人口の69%がドイツ語，19%がフランス語，9.5%がイタリア語，1%がレトロマン語，1.5%がその他の言語を話している。1815年連邦政府はドイツ語・フランス語・イタリア語を公用語とし，消滅の危機にあったレトロマン語は猛運動の末1937年に公用語に加えられた。各言語は地方によって利用度に差があり，各州はこの中から一つないし二つの公用語を定めている。宗教はキリスト教のプロテスタントが57%，カトリックが42%となっている。住民には，外国からの移民が比較的多く総人口の約12%にあたる69万人(1963)に達し，しかも若年層に多いため総労働人口の25%を占めている。特に多いのは47万人に上るイタリア人で，おもにホテル業と建設業に従事し，ほかにドイツ人(80,000)・スペイン人(60,000)がいる。

〔産業・経済〕 スイスは世界でも経済の安定した生活水準の高い国の一つとして知られているが，国土の自然条件はけっして恵まれてはいない。耕地は食料需要の5分の3しかまかなえず，鉱産物にも乏しい。唯一の恵まれた天然資源といえば，発電用の水力が豊富なことである。しかし国家の繁栄は国民の努力によるもので，最近150年間緩衝国的な地位を保って戦争を避けてき

たこと，農村や自然の美しい風景を利用して19世紀から観光を国策としてきたこと，この国が外国資本の避難所であり，またみずからも海外投資を行なってスイス商法の世界的信用を博したことなどがその要因としてあげられる。1957～1966年の経済成長率はフランス・西ドイツ・イタリアとほぼ同じであり，1965年の1人あたり国民所得額は2,127米ドルで，アメリカ合衆国・スウェーデンに次いで世界第3位にある。労働人口は270万(1963)で総人口の46.5%，その内第1次産業10.3%，第2次産業50.8%，第3次産業38.9%である。牧場または牧草地は国土面積の約40%，森林が25%であるが，耕地は27万ヘクタールで約6%にすぎない。農家数は16万戸(1965)で，小麦・ライ麦・大麦をつくり，機械と化学肥料を使用して農産物の単位面積あたりの収穫量を高めている。穀物生産は需要に満たず，わずかにジャガイモだけが自給できる。ブドウは生産量は少ないが，有名な白ぶどう酒の原料となっている。牧畜は重要で，牛肉と牛乳は自給できる。主要牧牛地はアール川とエンメ川の谷，ジュラ山脈・プレーアルプス地方の高原で，チーズは重要な輸出品である。国土の4分の1は森林におおわれているが，近年は過伐の傾向にある。輸出品の90%は工業製品で，動力源は石炭の代わりに水力が果たしている。鉄鉱石も石炭同様に産出せず，マンガン・亜鉛・銅・鉛をわずかに産するのみで，需給を満たす唯一の鉱産物は岩塩だけである。したがって工業原料はもっぱら海外に依存している。スイスの工業が世界に進出したのは豊富な資本と高い技術水準によるもので，従業員1,000人以上の事業所53のうち，金属機械工業35，化学薬品工業7，繊維工業3，時計工業3，食料品工業・印刷・製紙・皮革・精密光学器械各1となっている。金属機械工業は約30万人の従業員を擁する最も重要な部門で，輸出額の30%を占める。金属工業はもはや限界に達しているが，鉄道器材・工作機械・織機・自動車・電気機械など機械工業部門の発展がめざましい。輸入アルミナによるアルミニウム製錬工業も最近急速に発達している。精密機械はスイスの誇る最強産業で，中でも時計工業(事業所数1,322，従業員総数66,000人)は輸出額の約15%を占めている。ジュネーブ・ルロクル・ラショードフォン・ヌーシャテルなどの都市がその中心で，18世紀に家内工業から起こり，その後世界に知られるようになった。時計のほかに計算機・印刷機・光学機械・写真機などがあり，またバーゼルを中心とする染料・薬品工業も国際的に知られている。食料品工業には，チーズと製菓の二大部門があり，ネッスルをはじめ各企業は国際カルテルを形成して各国に系列会社をもっている。繊維工業は金属工業に次いで13万5,000人の従業員を擁し，おもにバーゼルとチューリヒに集中している。1966年にスイスは延べ593万人の外国人観光客を受け入れた。これはスイスの人口にほぼ近い数である。1965年のホテル数は7,800，ベッド数は全部で24万であった。観光シーズンには15万人がホテル業に従事し，これは労働人口の6.1%に達する。観光客はドイツ・イギリス・フランス・アメリカ合衆国・オランダ・ベルギー・デンマーク・スウェーデン・ノルウェーからが多い。スイスの人口は世界人口の0.2%にすぎないが，1963年度に世界貿易の輸入で2.3%，輸出で1.8%を占めた。貿易収支は赤字だが，観光収入と海外投資がこれを補っている。貿易相手国は輸出入とも西ドイツ・フランス・アメリカ合衆国・イタリアが多い。銀行には政府管理のスイスナショナルバンクをはじめ1,500もの市中銀行があり，国際的信用による外国からの豊富な避難預金・債券・為替(かわせ)操作などによって利益を博し，また損害保険の収益も大きい。通貨はスイスフランで，1スイスフランは83.16日本円，および0.231米ドルにあたる。



彗　星
ベネット彗星

〔交通〕交通施設は完全に近く，道路舗装率100%はイギリスと並んで世界第1位である。鉄道は障害の多い自然条件にもかかわらずすべて電化され，総延長5,800kmに及ぶ。シンプロン-トンネルを経てイタリアとフランスへ通じ，またサンゴタール-トルネルを経てドイツとを結び，ともにアルプス山脈を横断している。河川と湖による水路もよく整備され，国際河川のライン川を経て北海に出ることができ，バーゼルはその重要な貿易港である。また半官半民のスイス航空は世界各地に航路を延ばしており，チューリヒ・ジュネーブ・バーゼルに主要空港がある。

〔文化〕ルソーとペスタロッチの二大教育家を生んだスイスの国民教育の水準は高く，教育制度は州によって年限に差があるが義務制が施行されて，文盲はほとんどいない。バーゼル・チューリヒ・ベルン・ジュネーブ・ローザンヌ・ヌーシャテルには総合大学がある。文化遺産も豊富で，著名な芸術家や科学者を輩出し，ジョン-カルバン(宗教家)・アーサー-オネゲル(音楽家)をはじめ，第1回ノーベル平和賞受賞者で国際赤十字の創立者であるアンリ-デュナン，《イタリア文芸復興期の文化》の著者ヤコブ-ブルクハルト(歴史家)，《緑のハインリヒ》の作者ケラー，また親子3代にわたり8人の有名な数学者を出したベルヌーイ家などが世界に知られている。

〔政治・外交〕22州からなる連邦国家で，全州議会(上院)と国民議会(下院)があるが，重要法案は国民投票によって決められ，これまで何回もこの国民投票が実施されてきた。国家元首の大統領は任期1年で，閣僚の中から輪番で選出される。社会党・急進民主党・キリスト教保守党の三大政党があって政権を担当している。これまで五つの州でしか認められていなかった婦人の参政権は，1971年2月に連邦段階でも認められることになった。永世中立政策のため国際連合には加盟していないが，国際連合の専門機関には加盟している。国際連盟の本部がジュネーブに置かれて以来，ジュネーブとベルンには各種の国際機関が置かれ，現在国際連合ヨーロッパ本部・ILO(国際労働機関)・WHO(世界保健機関)・ITU(万国郵便連合)・国際赤十字委員会・GATT(関税貿易一般協定)委員会がある。またジュネーブでは，1954年のインドシナ停戦を決めたジュネーブ協定をはじめ，各種の国際会議が開かれている。軍事面では，中立国ではあるが武装中立の立場をとっているために〈守るための軍隊〉をもっている。義務兵役制を敷いてはいるが民兵形式をとり，職業軍人は教育要員の1,000人だけである。しかし非常時の動員可能な予備兵力は陸軍65万，空軍40,000で，高性能の兵器も所有している。　〔大崎　晃〕

スイス-ロマンドかんげんがくだん【スイス-ロマンド管弦楽団】 スイスの代表的なオーケストラ。1918年にエルネスト-アンセルメ*によってジュネーブに創立されたもので，1938年に西スイス放送管弦楽団を合併して，編成を大きくした。アンセルメは約50年間このオーケストラを育成し，1967年からパウル-クレツキーが後任として常任指揮者を継いだ。楽団は1968年にこのふたりの指揮者に率いられて来日した。

すいせい【水星】 太陽系の第1惑星*，すなわち，太陽に最も近い軌道を回る惑星。軌道長半径0.387天文単位。公転周期*は88日で，会合周期*は116日。最大離角*が±28°なので観測するのがむずかしい。自転周期は，以前は公転周期と一致していると考えられていたが，レーダー観測によって58.4日±0.4日であることがわかった。質量は，地球質量の0.055倍で非常に小さいため，他の天体への摂動*が小さく，精度よくは求められない。赤道半径は，2,435km，視直径は最大で13″である。反射率は月と同程度で，表面は月と同じようにざらざらしてい

て，大気は存在しないと考えられる。最大−1.9等級まで明るくなる。太陽に近いために太陽の重力場の影響を受けて近日点が100年に約43″移動する。この現象は，一般相対性理論の有力な証明の一つである(→相対性理論)。➔地球型惑星〔磯部琇三〕

すいせい【彗星】太陽の引力に支配され，非常に細長い楕円(だえん)軌道(あるいは双曲線・放物線の軌道)を描いて太陽の回りを巡る天体。その本体は，明るく輝く小さな核と，それを取り巻いてぼんやり広がるコマと称する部分とからなっている。核は固体粒子の集まりで，太陽の放射を受けてガスを放出し，このガスがコマを形成する。コマをつくる物質は非常に希薄であるが，広がりはたいへん大きく数万〜数十万キロメートルに及ぶ。多くの場合，彗星が太陽に近づくと，コマから長い尾をひく。いままでに知られている最も長い尾は3億kmもあり，太陽・火星間の距離に匹敵した。尾はつねに太陽と反対方向に延びている。つまり，太陽に近づくときは尾は本体の後方にあるが，近日点*付近で方向が変わり，太陽から遠ざかるときは，本体より先に進む。これは太陽の放射圧や太陽風*によって，尾の物質が吹き飛ばされるからである。太陽風は時間的空間的に変動するので，尾の形は放射圧とのかねあいで比較的短時間に変化する場合がある。彗星は，軌道の形から遠日点*が大惑星の軌道の近くにある短周期彗星と，周期が100年以上の長周期彗星とに分類される。どちらも起源は同じで，前者は非常に細長い軌道をもった長周期彗星が太陽に近づいたとき，他の惑星の影響を受けて小さな軌道に変わったものだと考えられている。彗星は，太陽に近づくたびに太陽の潮汐力(ちょうせきりょく)の影響を受けて少しずつこわれていく。こわれたかけらは彗星の軌道上にばらまかれ，流星群のもととなる。➔太陽系〔磯部琇三〕

すいせい【水制】川や海で岸から水中に向かって築設した工作物のこと。水勢をそぎ，流向を規制して，護岸工作物とともに川岸や海岸を保護する。工法は構造物の中を水が通らない不透過水制と，水が通る透過水制とに大別できる。前者は堤防状で，土で築き石を張ったもの，石や蛇籠(じゃかご)を積んだものなどがあり，後者には杭(くい)を打ち並べたもの，材木を組み合わせたわく，コンクリートブロックなどがある。

すいせいガス【水性ガス】燃料に水蒸気，または水蒸気と酸素の混合ガスを高温で反応させて発生する水素と一酸化炭素を主成分とするガス。もともとは赤熱コークスと水蒸気の反応によって製造していたが，最近は石炭・石油，あるいはガス状炭化水素などに酸素と水蒸気を連続的に送入して製造する。工業用燃料のほか，アンモニア・メタノール・ホルマリンなどの製造原料ガスとして重要であるが，近時石油または天然ガスからの合成ガスに変わりつつある。なお，石油を約750℃で加熱分解して得られるメタン・エタン・水素などを水性ガスに混合して発熱量を増加したものは増熱水性ガスとよばれ，都市ガス工業で製造利用されている。〔寺沢誠司〕

すいせいがん【水成岩】⇨堆積(たいせき)岩

すいせいこんちゅう【水生昆虫】一生のうち，少なくともある時期を水中で生活するこん虫の総称。一生を通じて水中で生活するこん虫はない。分類学上はきわめて広範な群にわたり，群によって種々の特殊な適応的形質がみられる。カゲロウ目・トンボ目・カワゲラ類は卵と幼虫時代を水中で生活して半変態を行ない，成虫は陸生。トンボ目の幼虫はヤゴとよばれ，完全な肉食性で，他の小形の水中動物を捕食し，カゲロウ目とカワゲラ目の幼虫は主として食草性。半翅目のうち，マツモムシ科・タガメ科・タイコウチ科・ミズムシ科・マルミズムシ科・コバンムシ科の6群はいずれも代表的な水生こん虫で，ほとんど一生を水中で生活するが，成虫は活発に飛翔(ひしょう)して分散し，生活圏の拡大をはかる。甲虫類ではミズスマシ科・ゲンゴロウ科・ドロムシ科・ヒラタドロムシ科・ホタル科などが代表的な水生こん虫で，主として幼虫時代を水中で過ごし，成虫の生活圏も水と密接な関係があり，特にミズスマシ科の成虫は水表面を，ゲンゴロウ科の成虫は水中をそれぞれおもな生活場所としている。また，上記のほかガムシ科・ハムシ科などにも水中生活をするものが含まれる。脈翅目ではセンブリ科・ヘビトンボ科・ラクダムシ科など広翅亜目に属するものは，幼虫が水生で捕食性。膜翅目ではごく少数のものが他の水生こん虫の卵寄生者として知られており，それらの成虫は寄生卵を捜すために水中にもぐって両翅を櫂(かい)のように使って遊泳する。トビケラ類は大部分の種が幼虫時代を水中で過ごす。双翅目には幼虫時代を水中で過ごす多くの科があり，カ類やアブ類の幼虫が最も代表的。このほか，特殊な海水生のものとして，半翅目のカタビロアメンボ科や双翅目のウミユスリカ科などが知られる。また，水表面上で生活するような半翅目のアメンボ科や双翅目のミギワバエ科などは半水生こん虫とよばれる。幼虫が水生植物の茎を切りとって巣として生活する鱗翅(りんし)目メイガ科のミズメイガ類も半水生こん虫である。水生こん虫の水中生活への適応形態は，主として呼吸系と運動系に生じた。呼吸の様式のおもなものにはマツモムシ科・ゲンゴロウ科のように水中にもぐるときに体の部分に空気層や空気泡(くうきほう)を付着させて潜水する型，ハナアブの幼虫のように管状の突起を水表面に出して呼吸する型，多くの群の主として幼虫にみられる皮膚呼吸型，イトトンボ類やカゲロウ類の幼虫にみられるえら呼吸型などがある。水生こん虫の脚は，扁平(へんぺい)化したり長毛がはえたりして遊泳に適した形状のものが多いが，トンボ類の幼虫のように直腸の呼吸室に吸い込んだ水を発射し，それによって前進するという特殊な適応を獲得したものもある。〔鈴木邦雄〕

すいせいしょくぶつ【水生植物】生活型区分による類型の一つまたは群落学上の植生区分の一単位。前者では全生育期間または特定の生育段階にある一時期に，植物体のすべてを水中に没して生活する植物で，次のように区別される。①挺水(ていすい)植物：根を底土中に伸ばし，茎の下部は水中にあって茎の上部や葉は空中に出ている。ヨシ・ガマ・マコモ・ハス。②浮葉植物：根は池底にあり，葉だけが水面に浮かんでいる。ヒシ・ヒツジグサ・ガガブタ。③沈水植物：根を池底・海底に伸ばし，植物体のすべてが水中にある。花のみを水面に浮かせる場合がある。フサモ・クロモ・エビモや仮根をもつ多細胞藻(そう)類(コンブ・アラメ)。④浮水植物：水面や水中に浮かんで生活し，植物体の一部を空中に出している場合がある。ウキクサ・サンショウモ(浮水葉を水面に出す)・タヌキモ(花)や珪藻(けいそう)・藍藻(らんそう)などの単細胞藻類。

群落学上の区分からみれば，水生植物は4群系族(森林・草原・荒原・植物プランクトン)のうち草原に位置する一群系である。前述と同様，挺水植物群落・浮葉植物群落・沈水植物群落・浮水植物群落に分けるが，浮水植物には珪藻・藍藻などを含めずこれらは異なった群系族(植物プランクトン)とみなす。挺水・浮葉・沈水の各群落は，この順に池沼の浅部から深部への水中の垂直植物帯を形成している例がしばしばみられる。

水生植物には，水中生活に適した特殊な適応形態がみられる。水生植物の根(仮根)は，一般に発達が悪く，単なる固着器官化しており，栄養塩の吸収は直接葉や茎(葉状体)で行なわれている。したがって維管束の分化は悪く，中にはタヌキモ・ムジナモなどのように根をもたないものもある。沈水葉(水中葉)と浮水葉(空中葉)をもつバイカモ・コウホネのようなものもあり，気孔は浮水葉の上面だけにみられる。繁殖の際は，沈水植物をも含め，一般に空中で開花・受精する。〔船越真樹〕

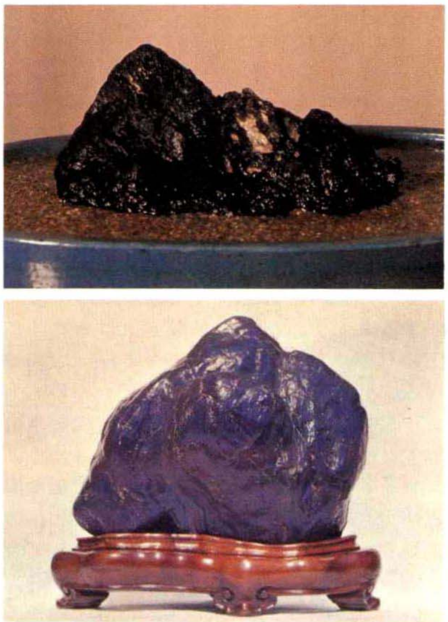
すいぜいてんのう【綏靖天皇】神渟名川耳(かんぬなかわみみ)天皇。綏靖は漢風の諡号(しごう)。神武天皇の第3皇子。母は媛蹈鞴五十鈴媛(ひめたたらいすずひめ)。神武没後，庶兄手研耳命(たぎしみみのみこと)を討って即位。葛城(かつらぎ)高丘宮を皇居とした。在位33年，陵墓は奈良県橿原(かしはら)市の桃花鳥田丘上(つきたのおかのえ)陵。しかし，この天皇も実在性に乏しい。

すいせいどうぶつ【水生動物】水中に生活する動物。動物界を広く系統学的に見

渡すと20数門ある内6門以外はすべて水生動物である。陸上によく適応し，多くの種分化を遂げたものは節足動物門・脊椎(せきつい)動物門のわずか二つしかない。生活場所により海水・汽水・淡水動物，さらに地域によって外洋・沿岸・湖水・河川性動物と分けられる。水中は陸上と比べると温度変化が小さく，溶存酸素が少なく，運動に対しての抵抗が大きいなどの性質があり，水生動物は陸上動物に比べるとその生理・形態が大きく違っている。進化の過程でいったん陸上動物になり，再び水中へもどったものにクジラ・オットセイ・ウミヘビ・ゲンゴロウなどがあり，これらを特に第2次的水生動物ということがある。〔松本忠夫〕

すいせいとりょう　【水性塗料】　水を溶媒として用いた塗料，あるいは水で薄めて塗装する塗料の総称。古くからのものには顔料に少量のカゼインあるいは可溶性デンプンなどの水溶性膠着(こうちゃく)剤を混和した粉状水性塗料や油を乳化したエマルジョンペイントがある。現在は合成樹脂を塗膜形成要素としたものが用いられ，これらは水分散形と水溶液形に，また，常温乾燥形と焼き付け形に分けられる。このうち酢酸ビニル樹脂などを主体とした乳化重合体塗料と焼き付け形水溶性塗料が多く用いられる(→エマルジョン塗料)。水溶性塗料は合成樹脂のメチロール化およびカルボキシル基をアミンまたはアンモニアなどで中和して水溶化したもので，オレオレジナス系・フェノールアルキド系・アミノアルキド系およびアミノアクリル系樹脂などを塗膜形成要素として用いており，120～170℃程度の温度で焼き付け塗膜を形成する。水系塗料には樹脂の溶解性の向上などを目的に，アルコール系溶剤を少量含むものもあるが溶媒は水を主体としているため，高価な有機溶剤の損失がなく，引火・爆発の危険性や臭気・中毒のおそれがないので衛生面からも好ましく，今後，有機溶剤使用塗料に代わって発展すると思われる。これまでも浸漬(しんし)塗装法により車両・建材・電気器具の下塗りなどに用いられてきたが，近年電着塗装法の発展により自動車の下塗りをはじめ各方面に広く用いられるようになった。〔鈴木荘司〕

すいせき　【水石】　観賞用の自然石で，ふつう室内に置く。日本独特のもので，水石の語でよばれるのは比較的新しいが，その起源はきわめて古く，確実なところでは《春日(かすが)権現験記*》に平安時代の中ごろ貴族・高僧の間で草木とともに石を楽しんだとしるされている。禅文化の影響もあって，室町時代に上層階級に盛んとなり，江戸時代末期から明治時代初期にかけて文人趣味家や盆栽家によって水石の語がつくられ，観賞法もほぼ確立した。特に昭和30年代後半から急速に大衆化した。〈種類〉現代の水石は次の四つに大別できる。①山水



水　石　(上)加茂川石　京都産　(下)神居古潭石　北海道産



スイセン　(上)八重咲き　(下)口紅咲き

景石：山岳・渓谷(けいこく)・海べなどの景観を連想させるもので，最も伝統的な水石。②形象石・姿石ともよばれ，鳥・小動物・人物などの形を天然に表わすもの。③紋様石：紋石ともよばれ，石面に花弁・雲・チョウ・景色などの紋様を天然に表わすもの。④色彩石：形状は第二義的で，石が天然にもつ色彩の美しいもの。〈産地〉川石と山石とに大別できる。川石では北海道の神居古潭(かむいこたん)石，京都の加茂川石，山石では佐渡の赤玉石，岐阜県の菊花石，和歌山県の古谷石，北九州の梅花石などが代表的なもの。〈観賞法〉加工しない1個の自然石でさまざまな自然美を連想するものであるが，茶道と異なり，観賞上の約束ごとは特にない。山水景石はふつう陶磁器製の水盤に川砂を敷いて置くが，こけ植えといって，はちに土を入れてすえ，まわりにこけや山野草などを植えることもある。形象石・紋様石・色彩石で，一般に石の形に合わせて作られた木製の台座に置いて観賞することが多い。→盆石　〔村田圭司〕

すいせん　【水仙】　単子葉植物・ヒガンバナ科。観賞用に植えられる多年草。この仲間には25～35種があり，ポルトガル・スペインに多く分布し，一部は北アフリカ西部，南フランスからシリア，小アジアにも及ぶ。房咲きスイセンは中国南部・日本の南部にも自生する。早春，地下部の鱗茎(りんけい)から数枚の細長い線状の葉と1本の花茎を出し，1～数個の白・黄・橙色(とうしょく)などの花をつける。6枚の花被は弁状に発達して筒状となり，内側にさら状の副冠がある。栽培の歴史は古く，ギリシア・ローマ時代にさかのぼることができる。しかし園芸的に改良されたのは16世紀末～17世紀初期で，1581年にはすでに八重咲きが出ている。そして1692年のパーキンソンの書には94種が記されている。その後19世紀前半にはイギリスで改良が始められ，現在では世界最高のスイセン生産国となった。また19世紀中ごろにはイタリアのシチリア島で切り花栽培が行なわれ，島民の経済改革に貢献したという。イギリスの王立園芸協会は1950年に，園芸的分類を行ない，①ラッパスイセン群，②大杯スイセン群，③小杯スイセン群，④八重咲スイセン，⑤トライアンドウルス系，⑥キクラミニウス系，⑦ジョンクイル系，⑧房咲きスイセン，⑨口紅スイセン，⑩原種および変型，⑪以上のいずれにも属さないものの11系統に分けた。これらの中をさらに花弁の色や副冠の色などによって分けている。繁殖は分球による。発根は8月下旬ごろから始まるので，植え付けは早いほうがよい。植え付け距離は球根の直径の3倍，覆土は球根の高さの2～3倍が適当とされている。球根の掘り上げは，葉の3分の1くらいが黄変したときがよい。〔小杉　清〕

ずいせんじ　【瑞泉寺】　富山県東礪波(となみ)郡井波町にある真言宗の寺。山号杉谷(すぎたに)山。井波別院ともいう。14世紀末本願寺5世綽如(しゃくにょ)が創建し，後小松天皇の勅願寺となった。1581年(天正9)兵火で焼失，以後たびたび火災にあい，現在の堂宇は山門などの一部を除き明治時代に再建されたものである。

すいぜんじこうえん　【水前寺公園】　熊本市東部にある純日本式庭園で，正しくは，水前寺成趣公園という。1632年(寛永9)細川忠利(ただとし)がこの地に禅宗の水前寺を建立(こんりゅう)し，のちに藩公の遊休のための御

茶屋を建て成趣園とよんだ。庭園は，忠利以後３代80年の歳月を要して古田仁斎・萱野(かやの)仁斎父子によってつくられたものである。豊かな湧水(ゆうすい)を利用して琵琶湖(びわこ)になぞらえたり，富士山をかたどった芝山や島を配置したりした，東海道五十三次を模した回遊式の庭園である。出水(いずみ)神社は旧藩主細川幽斎とその子忠興をまつっている。〔菊池万雄〕



水前寺公園 公園は市民や県民の行楽地としてにぎわっている。豊かな湧泉の水は，園内の池を潤し，南の江津湖へはいる

すいぜんじのり 【水前寺苔】 藍藻(らんそう)類・クロオコッカス科。熊本県・福岡県に産する淡水藻で，日本特産種。径４～６μの長楕円(ちょうだえん)形の単細胞藻であるが，多数が集まって数cmの群体となって寒天質に包まれ，池底に沈んだりアシなどに着生する。熊本市の水前寺公園付近の江津湖が原生地であるが，福岡県甘木市などで養殖されている。すりつぶして乾燥したものを水にもどして食用とする。

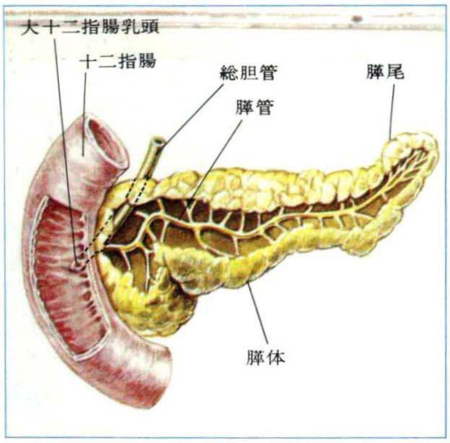
すいせんのう 【酔仙翁】 双子葉植物・ナデシコ科。フランネルソウともいう。ヨーロッパ南部原産の二年草または多年草で，観賞用として栽培される。茎の高さ30～80cmで茎葉ともに白色の綿毛に包まれる。根出葉と下部の葉は披針(ひしん)形で有柄であるが，上部の葉は無柄で茎を包む。６～９月白・紅色などの五弁花を茎の頂につける。朔果(さくか)はがくに包まれる。



スイセンノウ

すいそ 【水素】 原子番号１，記号H，原子量1.00797，質量数１・２・３の三つの同位体が存在する。質量数１の水素はプロトン１個とエレクトロン１個とからなる最も簡単な原子で，二原子で一分子を形成する。質量数２の水素はデューテリウムD，質量数３の水素はトリチウムTとよばれ，これらは重水素と総称されている。水素は1766年にイギリスのキャベンディシュによりはじめて発見され，空気中で燃焼すれば，ただ水のみを生ずることが1781年に証明された。1783年ラボアジェ*によってハイドロジェン(フランス語，〈水をつくる〉の意)と命名され，日本語・英語の名称もこれに基づく。クラーク数0.87(第９位)。遊離の状態で火山や天然ガス中に存在することがある。下層の大気中では10^{-5}vol％程度のごく微量にすぎないが，上層の大気中では比較的多量に存在する。工業的には水の電気分解や水性ガス*の精製によりつくられる。実験室ではキップの装置により亜鉛と希硫酸より生成させるか，市販のボンベに圧入されたものを使用する。そのほかギ酸ナトリウムと水酸化ナトリウムを400℃に加熱しても得られる。

無色・無味・無臭の最も軽い気体で，比重は０℃，１気圧で空気を１として0.0695，１lの質量は0.08987gである。同温度では，他の気体に比較して運動速度が大きいため熱伝導度が大きく拡散しやすい。水や有機溶媒には溶解しないが，パラジウム・白金・ニッケル・鉄などには吸蔵されやすい。ヘ



膵　臓

リウムについで液化しにくく，－252.8℃で液化する。さらに－259.14℃で圧力を下げ，急に気化させると固体水素ができる。水素は常温ではわりあい不活性で，光の存在下で塩素と直接化合し，またフッ素と化合するほかは反応を起こさない。しかし高温ではイオウ・窒素・金属とそれぞれ化合し，空気中で点火すると，炎をあげて燃え，水蒸気を生ずる。酸素と水素の体積比２：１の混合ガスは点火すると爆発的に反応するので爆鳴気という。そのほか有機不飽和化合物は水素を添加すると飽和化合物を生成する。水素の最も重要な用途はアンモニア・メタノール・塩酸などを合成する際原料ガスとして用いられ，また魚油・植物油などの不飽和脂肪酸に添加して硬化油をつくるのに使用される。そのほか酸水素炎として金属の切断・溶接の高温用熱源に，また還元性を利用して金属の冶金(やきん)用に，さらにアドバルーンなどの充塡(じゅうてん)ガスにも用いられる〔古屋　弘〕

すいそイオンのうど 【水素イオン濃度】 ⇨ピーエイチ(pH)

すいそう 【水葬】 ⇨葬制

すいぞう 【膵臓】 胃の後方で，C字状をなす十二指腸にはさまれた細長い臓器。平均重量74g，腹膜におおわれて後腹壁につき，膵頭・膵体・膵尾の３部に分かれる。強力な酵素を含む消化液を分泌する外分泌部の中に，ホルモンを分泌する内分泌部が混じっている。

外分泌部は複合管状胞状腺(ほうじょうせん)で，耳下腺に似ている。腺房細胞内の酵素原顆粒(げんかりゅう)は絶食時に最も多く，食餌に応じて種々な分泌相を示す。また導管上皮細胞の腺房内に腺房中心細胞という陥入したものがある。腺房細胞でつくられる膵液にはタンパク分解酵素トリプシン*の前駆物質のトリプシノゲンのほかに，炭水化物・脂肪分解酵素・核酸分解酵素が含まれ，これらは小腸で活性化*する。導管は集まって膵管および副膵管となり，それぞれ十二指腸の大十二指腸乳頭・小十二指腸乳頭に開口する(→十二指腸)。膵管は通常大十二指腸乳頭開口部で総胆管と合流する。外分泌は腸管内のホルモンであるセクレチン*・パンクレオチミン*の影響を受ける。

内分泌部は100～200μのランゲルハンス島*が散在しており(総数50万個)，膵尾に比較的多い。外分泌部とは薄い被膜で境され，血管に富むが，導管はない。染色性により３種の細胞，すなわち塩基好性のB(またはβ)細胞，やや大形で周辺部に多い酸好性のA(またはα)細胞とD(またはδ)細胞からなる(D細胞はA・B細胞の予備細胞とも考えられている)。これら細胞の比率は動物の種類によって異なるが，ヒトではA20％，B60～80％である。A細胞からグルカゴン，B細胞からインシュリン*が分泌される。前者は血糖上昇作用，後者はブドウ糖の筋・肝細胞膜透過およびグリコーゲン*合成を促進させ，結果的に血糖下降作用がある。欠乏すると糖尿病*の原因となる。インシュリンはウシ・ブタ・クジラの膵臓から，またマグロ・カツオのスタニウス小体(魚類では内分泌部は分離)から得られる。最近，中国科学陣がアミノ酸*からの合成に成功。〔幡井　勉〕

すいぞうえん 【膵臓炎】 膵臓*に細菌が感染して生じる炎症。感染経路は腸管や胆管から進行性に，あるいは敗血症やチフス・赤痢・ジフテリアの経過中に血行性に感染し，流行性耳下腺(せん)炎の際併発する場合もある。経過から急性と慢性とに分けられる。急性の場合は激烈な上腹部の疼痛(とうつ

う)，嘔吐(おうと)をもって発症し，左肩・左胸へ痛みが放散することがある。血中・尿中のアミラーゼ値・ジアスターゼ値の上昇が認められ，治療には絶対安静を保って絶食し，鎮静鎮痛剤，膵液分泌の抑制剤を与える。敗血症・胆嚢炎(たんのうえん)などに続発するものでは，化膿(かのう)性膵臓炎となることがある。この場合は前述の症状に高熱を発し循環障害を起こすことがあり重篤である。十分な抗生物質を投与しなければならない。慢性の場合は急性膵臓炎から移行するものや，発病当初から慢性の経過をとるものなど種種である。アルコールの乱用や胆石症も誘因となる。胆石症の20～25％は慢性膵臓炎を合併するといわれている。症状は慢性の消化不良症状(食欲不振・曖気(あいき)・腹部膨満感・便通異常)と体重減少が認められる。膵液中の酵素の定量，血中・尿中アミラーゼの測定，各種の膵機能検査で診断が行なわれ，治療は炭水化物を主とし脂肪やタンパク質は制限し，大量の消化酵素剤の投与がよく用いられる。最近慢性膵臓炎と糖尿病との関係が注目されている。〔佐野隆志〕

すいそうがく　【吹奏楽】　管弦楽とは異なり，木管楽器・金管楽器を主体とした比較的大きな合奏形態。打楽器のほか，低音の補強のため，チェロやコントラバスを加えることもある。軍楽隊はその代表的な演奏団体であるが，今日では世界的に学生やアマチュア，あるいは専門の団体が数多く活動している。また，かつては軍楽隊のように野外の演奏をよく行なったり，行進しながら演奏したりしたが，今日では，複雑な構成の楽曲を細かいニュアンスをつけて演奏するため，交響楽団のような演奏会を開くことが多い。こうした傾向の代表はフランスのギャルド-レピュブリケーヌ吹奏楽団であるが，同種のものはアメリカや日本にもふえている。曲目も20世紀にはいってから急増し，ボーン-ウィリアムズ・ホルスト・ストラビンスキー・ミヨーのほか，さらに若い世代が，電子音の使用を含めてこの合奏にふさわしい新しい響きを開拓している。〔徳丸吉彦〕

すいぞうがん　【膵臓癌】　膵臓の外分泌細胞より生ずる悪性新生物。原発性膵臓癌と，胃・胆管・胆嚢(たんのう)などからの転移性膵臓癌とがある。原発性膵臓癌は全癌の1.5～2.5％程度である。男子は女子に比べて多く，好発部位は膵頭部(膵の十二指腸側)で体部(中央部)，尾部(脾臓側)には少ない。初期の症状は不定で，食欲不振・悪心(おしん)・腹部膨満感・体重減少などをもって始まる。さらに進行すれば脱力感・嘔吐(おうと)が出現し，腹部に腫瘤(しゅりゅう)，患者の約半数に腹水が認められる。診断は膵腫に触れ，またレントゲン検査や膵シンチグラム，腹腔鏡(ふくこうきょう)で確認するといっそうの確診となる。３～６か月以内に死亡する者が多い。治療は膵臓摘出術のみ。〔佐野隆志〕

すいそうりゅう　【吹送流】　長期間一定の方向に吹く風の応力によって，海水の表層に生ずる海流。偏西風や貿易風のような卓越風系では，吹送流が海流のおもな原因となっているが，その影響は深さ約200mまでにとどまる。1893～1896年，ナンセンはフラム号による北極探検において，風と流水の方向が一致せず，流れが風下に対して右側に20～40°かたよることを発見した。これがエクマンの吹送流研究の動機となり，流れの風に対するかたよりは，地球自転による転向力のためであることが理論的に説明された。吹送流の流速と風速との関係は実測がむずかしいが，風速のおよそ２～４％ぐらいの流速と考えられる。〔相原正彦〕

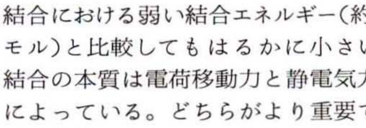
ずいそうろく　【随想録】　モンテーニュの著作(1580～1588)。３巻107章からなる。16世紀末の社会的・宗教的混乱期にあって，〈私は何を知っているか？(クーセージュ)〉と，思想の主体たる人間に鋭い反省を加え，〈各人はおのれのうちに人間の条件を含んでいる〉という考えのもとに，自己解剖からはじめて人間性の分析に進んでいった著者が，みずからの体験・思想を自在で起伏の多い文章で語ったもの。この人間観察の書は，パスカル・ルソー・ジイドらに深い影響を与え，またエッセーのジャンルを確立した点でその意義は大きい。〔森　英樹〕

すいそかせいせい　【水素化精製】　石油留分を水素加圧下，触媒の作用により反応させて，不純物質のイオウ・窒素・酸素の各有機化合物を炭化水素に転化させる精製法。特に石油中のイオウ化合物は，腐食性・悪臭の原因となり，燃焼して二酸化イオウを生成し，大気汚染のおもな原因となるため，イオウ分の除去(脱硫)を主目的としている。このためこの操作を水素化脱硫ともいう。操作は一般に，アルミナを担体とするコバルト-モリブデンまたはニッケル-モリブデンを触媒として，水素加圧下に300～400℃で行なわれ，イオウ・窒素・酸素分は，それぞれ硫化水素・アンモニア・水となって除かれる。改質ガソリンではリフォーミングの前処理として原料の重質ナフサの水素化精製が行なわれ，燈油・軽油も大部分この精製を受けるので，これらの製品ではイオウ分はほとんど除去されている。また最もイオウ分の多い重油では，触媒を汚染失活させるアスファルト分を含むため，その完全脱硫は困難であるが，水素化精製によりイオウ分を約1.7％以下に低下させることができる。〔原　伸宜〕

すいそきょうよたい　【水素供与体】　水素原子または分子を与えることのできる化合物の総称。細胞内での酸化反応は総括的に呼吸とよばれているが，その中の一つに脱水素反応がある。たとえばコハク酸はコハク酸脱水素酵素によって酸化され，フマール酸に変わる。このときのコハク酸が水素供与体である。これとは逆に，水素原子または分子を受けとる化合物を水素受容体といい，水素を受け取ることによって還元されるが，これは一時的な還元であって，さらに継続的に酸化還元反応が起こるため，他の化合物によって酸化されてもとの酸化型になる。種類が多く，フラビン酵素・NAD・NADPなどがその代表的なものである。→呼吸

すいぞくかん　【水族館】　水生動物を飼育し，一般の人々の観覧に供しながら，それらを研究したり，資料収集する施設。一般に魚類を中心にしているが，クジラ・イルカなどの哺乳(ほにゅう)類，カメ・ワニなどの爬虫(はちゅう)類，ゲンゴロウ・トンボなどのこん虫類なども扱われている場合もある。日本はまわりを海に囲まれているため，海産動物の水族館が多数みられる。普通は観察に便利なように，片面が大きなガラスの水槽(すいそう)で飼育される。かなり自然条件に近いような環境をつくらねば生きていけない動物が多く，その条件を満たすように多くの努力が重ねられ，最近では以前にはとうてい飼育できないと思われたようなものも飼育されるようになった。特に溶存酸素・pH・溶存塩類量・隠れ場などに多大の注意が必要であり，動物の出す排出物の処理や餌(えさ)の質にも多くのくふうが行なわれている。世界で最初の水族館は1830年フランスのボルドーにできたものとされている。日本では1903年(明治36)堺(さかい)にできたものが最初といわれる。〔松本忠夫〕

すいそけつごう　【水素結合】　二つの分子の間で，たとえばAH…Bのように水素原子を仲立ちにしてゆるやかに結合しているものを水素結合という。水素結合において水素原子を与える側の分子(ドナー，給体という)は，OH，NHなどの基を含んでいて，水素原子を受けとる側の分子(アクセプター，受体という)は，酸素や窒素のように電気陰性度の高い元素を含んでいる。この例は水・氷・メタノール・酢酸溶液などに，またフェノールとエーテルとの間にもみられる。酢酸においては，下図のように水素結合で２分子が会合を起こしている。この結合エネルギーは２～７kcal/モルで，通常の化学結合における弱い結合エネルギー(約30kcal/モル)と比較してもはるかに小さい。この結合の本質は電荷移動力と静電気力の二つによっている。どちらがより重要であるかは，現在のところはっきりわかっていないが，実験的には電荷移動力により説明できる現象が多い。水素結合は化合物の融点・沸点・溶解度に著しい影響を及ぼし，また生体内においては，タンパク質のらせん構造を空間的に固定する本質的な力となっていて非常に重要である。



〔三輪誠・清水正幸〕

すいそさいきん【水素細菌】爆鳴気細菌ともいう。土壌(どじょう)細菌の一種で，分子状水素が酸化する際に発生するエネルギーを用いて炭酸同化を行なう一種の化学合成細菌である。乳酸・ブドウ糖などの培地で培養することもできるが，その場合は水素利用能力を失うことが多い。

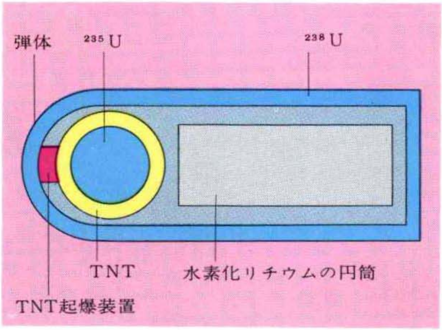
すいそさん【水素酸】ふつう，酸素原子を含まない酸をさすがあまり一般的な名称ではない。たとえば塩酸HCl・硫化水素H_2S・フッ化ホウ素酸HBF_4などがそれである。これに対して酸素原子を含む酸は酸素酸*とよばれる。

すいそばくだん【水素爆弾】水素・重水素*・リチウムなどの軽い原子核が，核融合*を起こす際に放出される巨大なエネルギーを破壊力として利用した爆弾。略して水爆という場合が多い。その起爆には数千万度から数億度におよぶ超高熱を必要とするため，起爆剤として原爆を使用する。爆発の際の破壊力はTNT火薬100万t(1メガトン)を単位として表わされるほど巨大で，これをICBM*の弾頭として用いた場合，適切な防御法がなく，しかも一瞬にして大都市に全滅的打撃を与えるものであるため，最終兵器または究極兵器の名でよばれる。爆発実験は，1952年アメリカがマーシャル群島で行なったのが最初で，このときはデューテリウムとトリチウムを液化した湿式水爆を用いた。翌1953年には，ソ連によって重水素化リチウムを使った，やや小形の乾式水爆が実験され，続いて1954年にはアメリカも同様の乾式水爆をビキニで爆発させた。イギリスは1957年，中国は1967年にそれぞれ初実験を行なっている。〔藤井冬木〕

すいた【吹田(市)】大阪府，大阪市の北に接する市。人口31万。もと高浜とよばれ，中世以降三国川(いまの神崎川)に沿う河港として発達し，江戸時代には亀岡(かめおか)街道と伊丹(いたみ)街道の交わる宿場町であった。明治以後は東海道本線の開通により1889年(明治22)大阪ビール会社(いまの朝日麦酒)が進出し，1923年(大正12)には東洋一の規模をもつ国鉄吹田操車場が開設されて，ビールの町，鉄道の町として知られる。1940年(昭和15)市制施行。市域は，南部の淀(よど)川とその分流神崎川がつくる沖積地(ちゅうせきち)，北部の千里山丘陵からなる。産業三大別人口比は1：34：65。平地部には，市の工業生産額の70％を占める朝日麦酒の大工場があり，化学・金属・製紙などの近代工業も発達して，大阪北部内陸工業地域の一部となっている。千里山丘陵には関西大学などの文教地区や高級住宅地があり，最近は西隣の豊中(とよなか)市にかけて公団住宅や社宅などが急増し，1,200万m^2の敷地に広がる千里ニュータウンの建設も進んでいる。その東側は1970年開催の日本万国博覧会会場となった。丘陵南東には吹田操車場が広がり，付近の片山地区には鉄道官舎街や鉄道教習所など，鉄道関係の諸施設が多い。大阪市の中心部とは約15分の近距離にあり，東海道本線・京阪神急行電鉄京都線・同千里山線・地下鉄1号線や高速道路などで結ばれている。1952年国鉄吹田操車場で起きた吹田事件*は，メーデー事件・平事件*とともに，戦後の三大公安事件と呼ばれ，その裁判は1972年まで20年間も続いた。

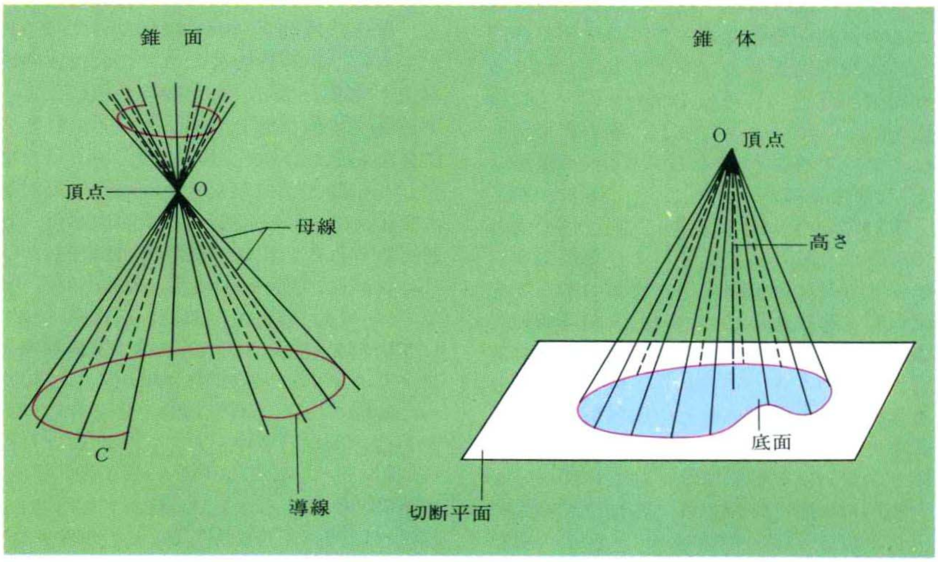
すいたい【錐体】平面上の閉じた曲線(または折れ線)Cの上を一周する動点Pと，その平面外の定点Oとを直線で結ぶとき，そのような直線OPの全体によってつくられる面と，はじめの平面とによって囲まれた立体。一般に，定点Oと，この点を通らない曲線Cとがあるとき，この定点を通りこの曲線と交わる直線全体によってつくられる曲面を錐面(すいめん)といい，Oをこの錐面の頂点，Cを導線，錐面をつくる各直線を母線とよぶ。すなわち，錐体は，閉曲線を導線とする錐面を，すべての母線と交わる平面で切断してできる立体とみられる。特に，導線が円あるいは多角形であるときの錐面または錐体がそれぞれ円錐*・角錐*である。錐体をつくるときの切断平面を錐体の底面，頂点と底面との距離を高さといい，底面積S，高さhの錐体の体積Vは，$V=\frac{1}{3}hS$で求められる。〔菊池兵一〕

すいたいがいろ【錐体外路】錐体路*を除いた中枢神経系*の運動に関係した繊維群の総称。錐体路が意志に関係した随意運動に関するに対し，錐体外路は無意識的に随意運動をつかさどっている。錐体路が神経単位*を代えることなく延髄*や脊髄*(せきずい)に下るのに対して，錐体外路は2か所以上で

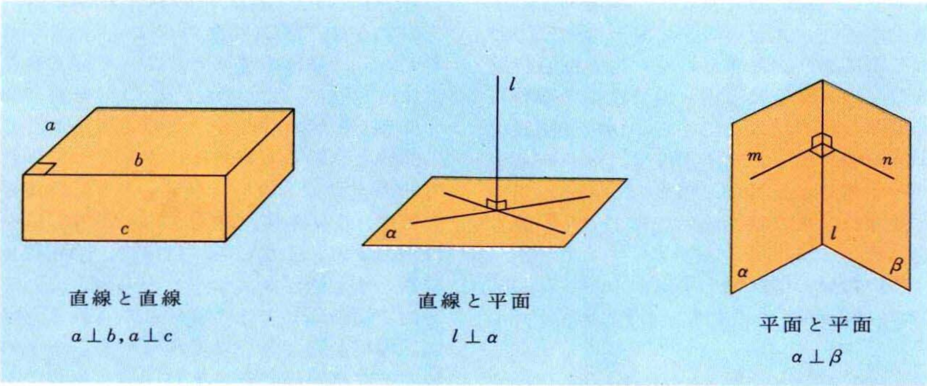


水素爆弾 原理構造

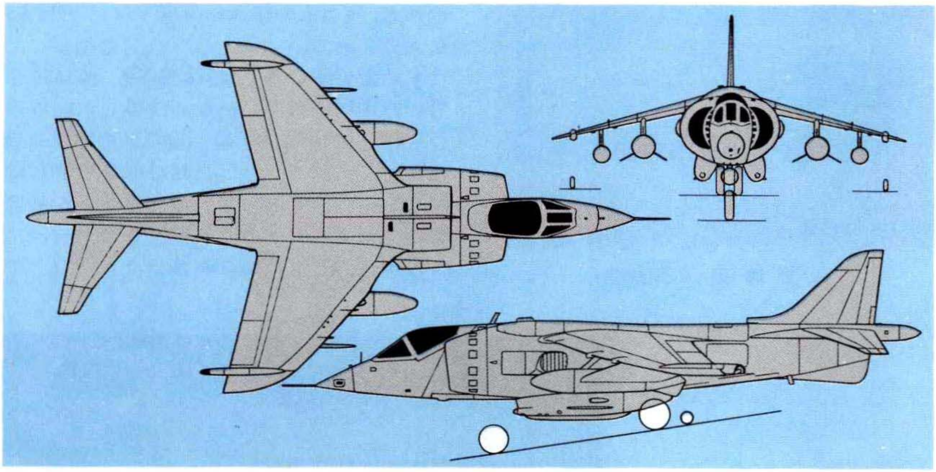

吹田市
広大な敷地をもつ国鉄操車場。操車場に隣接して車両修理工場など国鉄関係の工場が立っている。遠景は茨木市方向



錐体



垂　直



垂直離着陸機　ハリヤー　GR. Mk-1

神経単位を代えて脊髄に達する。錐体外路に関係した脳の部位は尾状核・被殻(ひかく)・淡蒼球(たんそうきゅう)・黒質・赤核・橋核・オリーブ核・ダイテルス核・網様体などで，大脳皮質の一部および小脳も関係している。随意運動がスムーズに行なわれるためには，運動に関係した筋肉の力の入れ具合やゆるめ方を時々刻々に調節しなくてはならない。そのような筋の緊張や運動の調節をつかさどるのが錐体外路であって，錐体外路の障害時には筋緊張および運動の異常が起こる。筋緊張が亢進(こうしん)して運動が少なくなる場合(パーキンソン病*)など，筋の緊張が少なくなって運動が多くなる場合(舞踏病*など)などである。　〔岩崎　稠〕

すいたいろ　【錐体路】　大脳(→脳)皮質の細胞から起こって延髄*および脊髄*(せきずい)に達する長い運動繊維束。皮質のうちでも皮質第Ⅴ層にあるベッツの巨大錐体細胞の繊維が有名である。延髄に錐体とよばれる高まりをつくるところからこの名称がある。錐体路のうち延髄に終わる繊維束を皮質延髄路とよび，脊髄に終わるものを皮質脊髄路とよぶ。皮質延髄路は，意志に関係した大脳からの命令を運動性の脳神経の細胞に伝え，眼球運動・咀嚼(そしゃく)・顔面の表情などをつかさどる。皮質脊髄路は上肢(じょうし)・軀幹(くかん)・下肢などの骨格筋*を支配する脊髄の前角細胞に同様な大脳からの命令を伝える。人脳の錐体路の概略は，皮質からの繊維は内包・大脳脚・橋底部・延髄錐体を通り，そしてその間に皮質延髄路は反対側の脳神経の核に終わり，延髄の下端で大部分の繊維は交差し(錐体交差という)反対側の脊髄側索を下り(脊髄側索路という)いろいろの高さの前角細胞に終わる。そのほか交差せずに脊髄前索を下る繊維束もある。錐体路は哺乳(ほにゅう)類になってはじめてみられ，高等動物になるにつれ錐体路の発達も高度となる。また動物の種類によって錐体交差の状態その他に差がみられる。錐体路が出血，軟化などで障害をうけた場合，その障害部位が交差前であれば反対側に交差後であれば同側に症状が現われ，共通にみられる症状は運動障害，腱反射(けんはんしゃ)の高進，筋緊張の異常，病的反射(バビンスキー反射)の出現である。〔岩崎　稠〕

すいたじけん　【吹田事件】　朝鮮戦争とアメリカ軍の軍需物資輸送に反対して起こった騒擾(そうじょう)事件。1952年(昭和27)6月24日夜，大阪府豊中(とよなか)市で開催された〈基地反対・反戦独立の夕べ〉終了後，学生・労働者・朝鮮人など約700名がデモ行進し，国鉄吹田操車場を襲撃した。この事件で111名が起訴され，1963年の第1審を経て，1968年の第2審で威力業務妨害罪が成立し，46名が有罪となった。

すいちゅうよくせん　【水中翼船】　水の抵抗を少なくするために船体の下に翼をつけた高速艇。ハイドロフォイルボートともいう。低速のときには船体まで水につかっているが，速度が大きくなると翼の揚力によって船体が水面上に浮き上がり，翼が水面を滑走する形となって水の抵抗が減少する。したがって，同じ速力に対して従来の船よりも機関の出力を小さくすることができる。現在，実用にされているのは観光用のものが多く，40ノットぐらいの速力である。

➔ハイドロフォイル(図)　〔飯島幸人〕

すいちょく　【垂直】　互いに直角に交わる直線や平面の位置関係。〈直線と直線〉図に示した直方体で，2直線 a，b は交わっていて，そのつくる角は直角である。このとき，2直線 a，b は互いに垂直であるといい，$a \perp b$ で示し，一方の直線は他方の直線の垂線であるという。また，2直線 a，c は交わっていないが，c を平行に移動して b の位置にもってくれば，a と垂直に交わる。このようなときも，2直線 a，c は互いに垂直であるという。〈直線と平面〉直線 l が平面 α 上のすべての直線と垂直であるとき，直線 l は平面 α と垂直であるといい，$l \perp \alpha$ で示す。このように直線 l が平面 α に垂直になるのは，l が α 上の異なった2直線に垂直なときである。1点Pから平面 α (または直線 l)に垂直に交わる直線(垂線)を引くとき，その交点を点Pから α (または l)に降ろした垂線の足という。〈平面と平面〉2平面 α，β が直線 l で交わるとき，l 上の1点から2平面 α，β 上にそれぞれ l に垂直な直線 m，n を引いて，$m \perp n$ であるならば，2平面 α，β は互いに垂直であるといい，このことを $\alpha \perp \beta$ で示す。　〔菊池兵一〕

すいちょくりちゃくりくき　【垂直離着陸機】　地上滑走を行なわずに，地面から垂直に離着陸する飛行機。VTOL(vertical take-off and landingの略)機ともいう。ヘリコプターは今日唯一の実用的なVTOL機であるが，単にVTOL機というときにはヘリコプターを含めないことが多い。また，短い地上滑走で離着陸する飛行機は短距離離着陸機といい，STOL(short take-off and landingの略)機ともよばれる。STOL性能は相対的なものであって，滑走の長さにはっきりした基準があるわけではない。

VTOL機の研究は，1950年代の初めにアメリカで試作されたテイル-シッタに始まったと考えてよい。これは大出力のレシプロプロップ機で，離着陸時には機体を垂直にして，尾端で接地する形式である。その後，軽量で大出力が得られるタービン-エンジンが出現するに及んで，いろいろな着想を現実に試みることができるようになった。アメリカなどにおいては，考えられるほとんどすべての形式のVTOL機の研究が試作機

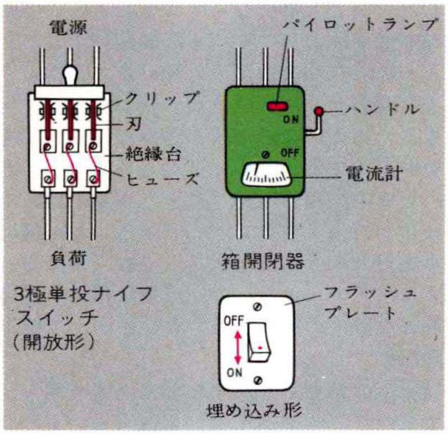
による実験の段階にまで到達しているが，いまのところごく少数の機体が軍用として実用実験の段階に進んでいるだけである。

すべてのVTOL機に共通して技術的に最も困難なのは，VTOL状態から低速時にかけての安定性および操縦性の問題であって，ほとんど全部の形式で実験機の墜落事故を起こしていることからもそのむずかしさが知られるであろう。困難の第2点は，VTOL性能を与えるために浮揚装置と燃料との重量がかさむことである。1飛行1回だけの離着陸に限るとしても，装置と燃料の重量が離陸重量の20％以上となる。この比率は中距離輸送機における有料搭載量(とうさいりょう)の全備重量に対する比に匹敵することを考えれば，VTOL性能を与えるために払う代償が非常に大きいことが理解されよう。

ジェット-エンジンの推力を離着陸時に垂直上方に向ける方式はホーカーシドレーのハリアー戦闘機(離陸重量7,300kg，推力8,700kgの推力偏向型ターボファン1基装備)に採用され，ターボプロップ-エンジン*を装備した主翼を90°回転して垂直に上昇・降下する方式はアメリカのXC-142A軍用輸送機(離陸重量17t，主翼面積約50m^2，2,850馬力のターボプロップ-エンジン4基装備)に採用されている。

一方STOL機については，文字どおりに短い滑走距離を要求するとすればVTOL同様に経済性を犠牲にせざるをえないが，逆に一定の滑走距離のもとでSTOL性が高められればより多くの荷物を積むことができるわけで経済性が増すことになる。フランスのブレゲー941(全備重量26.5t，主翼面積82.6m^2，1,500馬力のターボプロップ-エンジン4基，最大速度470km/時，滑走路長550m)や，わが国のPX-Sは本格的なSTOL機である。〔中口　博〕

スイッチ　[switch]　電気回路の開閉・接続状態の変更を行なう器具。送電線路・変電所などで使用されるものは，遮断(しゃだん)器あるいは断路器という。種類は次のとおり。①ナイフスイッチ：開放形とカバー付きの2種がある。前者は，屋内配線では2極または3極で，定格電圧250V，定格電流600Aまでのものが多く使用される。操作時に感電のおそれがあるので注意を要する。後者は，前面にプラスチックのカバーを取り付け感電を防いだものである。定格は250V，300Aまでのものが多い。②箱開閉器：鋼板あるいはプラスチックの箱の中に2極あるいは3極のナイフスイッチを納め，箱の外に出ているハンドルで外部から操作できるようにしたもの。③カットアウトスイッチ：安全器・ベビースイッチなどともいわれ，家庭の引き込み開閉器や分岐開閉器として多く用いられる磁器製のスイッチで，ふたの内側につめ付きヒューズを取り付け，ふたの開閉で電路開閉を行なう。2極のものが多く，定格は250V，15Aまたは30Aとなっている。④スナップスイッチ：屋内用小形スイッチ。電燈・電動機・電熱器などの回路に使用される小形の押しボタンスイッチ・タンブラースイッチ・プルスイッチなどがこれである。また，取り付け方法から分けると，露出形スイッチ・埋め込み形スイッチ・ペンダントスイッチ・コードスイッチ・ドアースイッチ・キャノピースイッチなどとなる。⑤その他のスイッチ：以上のほかに，小電流用のマイクロスイッチ，水銀の流動性を利用した水銀スイッチ，電磁作用あるいは半導体*を用いた無接点スイッチなどがある。〔田村康男〕



スイッチ

スイッチバック　[switch back]　鉄道の路線に急勾配(こうばい)が長く続く場合，線路をジグザグの折り返し形にすること。急勾配が長く続くと停車場をつくる余地がないので，平らにした行き止まりの引っ込み線をつくり，列車はいったんこれにはいったうえ，逆行して停車場へ乗り入れ，停車場からは再びそのままの向きで急勾配の本線へもどり前進を続ける。中央本線・奥羽本線などのように山岳地帯を通る線路に多い。

すいっちょ　⇨ウマオイ

すいてい　【綏定】　ソイチン　中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区の都市。人口約50,000。伊寧(いねい)の北西約50kmにある同名県の政府所在地。イリ川の支流に臨み，ソ連との国境にも近く，以前は夏季には小汽船がソ連との間を通航していた。またウイグル・カザフ・モンゴルなどの諸民族が居住し，交易の中心地としてにぎわっていた。茶・じゅうたん・雑貨などを取引し，付近ではブドウ酒・皮革などを産する。現在は水定と称している。

すいてき　【水滴】　すずりに水を注ぐ器で，すずりとともに古くから用いられた。遺品には，中国唐代のものが法隆寺献納宝物中にあり，有脚の小つぼに銅めっきを施してある。近年唐代の陶磁の小つぼの水滴もいくつか発見されている。当時はこれに小さなさじをつけてすずりの水をくんだ。宋(そう)以後になるとつぎ口のついた小形の水滴がある。また，容器の一部に小さな穴をあけて水を注ぐものもある。材質は玉・金銀・陶磁・銅などで，形状は動物の形のものが多い。古代の朝鮮では水滴を贈り物にしたらしく，陶磁の水滴が非常に多くつくられた。〔杉村勇造〕

すいでん　【水田】　広義には陸田(畑)に対することばで，必要な期間水をたたえ，水稲をはじめ，イ・ハス・クワイなどの水田作物を栽培する耕地の名称である。狭義には湿田を意味し，乾田の対応語であるが，最近はむしろ総称的に用いられる。すなわち，水田を乾田と湿田，その中間の半湿田に分ける。乾田とは排水良好であって，灌漑(かんがい)を止めれば田面の乾燥する田をいう。半湿田は湿田よりは排水良好であるが，主として表面排水のみで，表土は排水後もかなりの水湿を有する状態の田地をいう。現在，農地は田と畑に大別され，田は普通田と特殊田に分けられ，特殊田とはハス・ワサビ・コリヤナギなど水稲以外の田作物を栽培する田をさしている。

陸田は元来畑の意であったが，最近は畑地を水田として用いる場合をさすようになった。すなわち，ポンプ揚水で水を畑に湛水(たんすい)灌漑し，水稲を栽培する。わが国の水田面積は明治の初めで約250万ヘクタールであったが，1968年(昭和43)には30％余増加して319万8,000ヘクタールとなっている(ただし畦畔(けいはん)を含めると343万5,000ヘクタール)。このうち特殊田は4,900ヘクタールである。全国的にみて，耕地は減少しつつあるが，この数年間水田面積は10,000～20,000ヘクタールずつ増加している。全世界の水田面積は1億2,624万ヘクタール余(1966)であるから，わが国の水田面積はその40分の1以下にすぎない。一方わが国の耕地面積は国土面積の約16％，589万7,000ヘクタールであるから，水田はその半ば以上を占めることになり，わが国の農業経営が水田，換言すれば水稲でなりたっていることがわかる。

水田における水稲などの作物栽培の利点は，灌漑水中の養分を作物に供給すること，雑草の防除を容易にすること，水温・地温の調節，土壌(どじょう)の更新などである。〔金木良三〕

すいてんぐう　【水天宮】　福岡県久留米(くるめ)市瀬下町にある。祭神は安徳天皇*・建礼門院(→平徳子)・二位尼に天御中主神*(あめのみなかぬしのかみ)を配する。古くは尼御前(あまごぜ)と称された。平氏滅亡のとき，建礼門院に仕えた伊勢局(いせのつぼね)が天皇の霊をこの地に祭ったのに始まる。水神，安産の神としての霊験をうたわれる。例祭は5月5～7日。なお，東京都中央区蠣殻町(かきがらちょう)にある水天宮は，久留米藩主有馬頼徳(よりのり)が1818年(文政1)，芝三田の私邸内に久留米水天宮の分社を祭ったのに始まる。

すいてんぐうめぐみのふかがわ　【水天宮利生深川】　歌舞伎*(かぶき)の脚本名。通称

筆屋幸兵衛(こうべえ)または筆幸。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1885年(明治18)千歳座(ちとせざ)(のちの明治座*)初演。明治維新後，失職した旧士族の筆売り幸兵衛が貧苦に追われて発狂し入水(じゅすい)するが，水天宮の利益(りやく)によって助かるという話。明治新風俗を描いた散切物*(ざんぎりもの)の一種で，陰惨な場面に清元を使った演出が効果的。6世尾上(おのえ)菊五郎*のあたり役であった。

すいでんじょそうき【水田除草機】 水稲用除草機。従来，中耕も兼ねるものとして，水田中耕除草機という名称でよばれてきたが，近ごろは中耕に関する意味はあまり重視されなくなったため，水田除草機といわれるようになった。その要部は転車というつめ車にあり，この車のつめを湛水(たんすい)状態の土壌(どじょう)に差し込み，車の回転によって土を掘り，さらにかき混ぜる。その間に雑草を切断したり，土中に埋め込んだりする。➔除草機

すいとう【水痘】 ⇨水疱瘡(みずぼうそう)

すいとう【水頭】 ⇨ヘッド

すいどう【水道】 1957年施行の水道法第3条によると，導管およびその他の工作物により，人の飲用に適する水を供給する施設の総体をいう。ただし，臨時に施設されたものを除く，と定義されている。水道は旧来から上水道ともよばれているが，これは下水道・簡易水道*に対比して用いられている学術用語である。導管とは，浄水を導水する円形状の管をさし，浄水を末端まで給水するものである。工作物とは，取水施設・貯水施設・浄水施設・導水施設・送水施設・配水施設・給水施設などをさすが，原水の水質によってはその一部を省くこともある。現行水道法の目的は，水道の布設および管理を適正かつ合理的にするとともに，水道事業を保護育成することによって清浄な水を豊富低廉に供給し，公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与することにある。ここにいう水道事業を大別すると，一般の需要に応ずる水道事業(簡易水道*も含む)，水道事業者に用水を供給する水道用水供給事業および専用水道とになる。また専用水道とは，寄宿舎・社宅・療養所などにおける自家用水道など，一般の水道事業の用に供するもの以外の水道であって，100人を越える者にその生活に必要な水を供給するものをいう。

水道事業の経営は，水道事業が一定の区域に密接に結びついている公益事業であるから，市町村が優先的に経営するものとされている。市町村が経営しない場合にのみ他の者に経営させることができるが，私企業者による経営はもちろん，都道府県が経営しようとする場合にも当該市町村の同意を得なければならないことになっている。一方，近時水道用水の需要の増加が著しく，特に都市およびその周辺地域においては，既存の水道計画を大幅に変更しなくてはならないほど大量になってきている。この新規需要対策として河川水の高度利用のためダムの開発が急速に進んでいる。このような状況のもとに当該地域の水道用水を確保するためには多額の建設費を投じて大規模な拡張を実施しなくてはならなくなり，このため市町村の規模を越えた水道事業の広域化が計画・実施されつつある。わが国の水道普及率は1971年3月末で81.2%に達し，また1日一人あたりの使用量は都会や農村および都市の構成状況で異なるが，全国平均348 *l* である。

〔水道の歴史〕水道の起源はあまり明らかでないが，やや進歩した水道らしいものは，紀元前300年代に建設されたローマのアピア水道である。山にはトンネルを掘り，谷には水路橋を掛けて長距離を自然流下で導水していた。1527年にドイツのハノーバー水道ではじめてポンプが使用されたといわれる。ロンドンでは1582年に配水用のポンプをロンドン橋上に設置し，続いて1619年には全市に管を布設してニューリバーから水を引いたのが各戸給水の最初である。19世紀の初めパリでセーヌ川の水を浄化するため人工濾過(ろか)を行なったが，1829年ロンドンのセルシー水道会社の技師ジェームス・シンプソンが砂濾過について研究の結果，大規模の緩速濾過池を用いたのが近代的な浄水施設の最初といわれる(➔浄水場)。当初の砂濾過は臭気・にごり・浮遊物を除去することを目的としたものであるが，濾過施設のある水道の給水区域では他の水道の給水区域と比べて明らかに伝染病の発生が減少したことから，ヨーロッパの各地でも砂濾過法を行なうようになった。一方，1883～1887年にわたるフランクランドの実験により，砂濾過で細菌が95～99%も除去されることが明らかになったので濾過の効果がさらに認識されるに至った。

またアメリカのサンマービルにおいて1884年にはじめて急速濾過法が採用されたと記録されている(➔浄水場)。一方わが国においては，1590年(天正18)江戸に井の頭(いのかしら)の池水を導水した神田上水がつくられ，1654年(承応3)に多摩川から取水した玉川上水が完成した。江戸時代には，金沢・水戸(みと)・福山・名古屋・仙台(せんだい)・鹿児島・高松・福島・福井などにも小規模の水道が布設された。近代的水道は，イギリス人パーマー工兵中佐の設計によるものが，横浜市に1887年(明治20)にはじめて建設された。この水道は緩速濾過法による浄水を鉄管を用いて連続供給したもので，圧力を用いた水道がはじめて通水されたのである。次いで，函館(はこだて)・長崎・大阪・広島・東京・神戸(こうべ)・岡山・下関の各都市に水道が逐次建設された。この間，水道条例が布告され，大阪の水道がはじめて同条例の適用を受けた。急速濾過法を最初に採用したのは京都市で1912年に蹴上(けあげ)浄水場に建設した。大正時代は，おもに緩速濾過法によっていたが，昭和になってから逐次急速濾過法が各地で採用されるようになり，特に第2次世界大戦後は，各地で盛んに建設されてきている。

〔水質基準〕水道法第4条に水道水の水質基準について，次のように示されている。

水道により供給される水は，次に掲げる要件を備えるものでなければならない。①病原生物に汚染され，または病原生物に汚染されたことを疑わせるような生物もしくは物質を含むものでないこと。②シアン・水銀その他の有害物質を含まないこと。③銅・鉄・フッ素・フェノール類，その他の物質をその許容量を越えて含まないこと。④異常な酸性またはアルカリ性を呈しないこと。⑤異常な臭味がないこと。ただし，消毒による臭味を除く。⑥外観は，ほとんど無色透明であること。基準に関して必要な事項は，厚生省令で定める。

これに基づき，厚生省において《水質基準に関する省令》が公布され，現行の基準は昭和41年5月6日厚生省令第11号によっている。なお富山県下に発生したイタイイタイ病*の原因がカドミウムによるとのことから暫定基準としてカドミウムは0.01ppm以下であることと定められた。また熊本県下や新潟県下に発生した水俣病*(みなまたびょう)は，有機水銀中毒によるものとのことから，毒性の強いメチル水銀についても基準が近く設けられるはずである。

〔水道の施設〕水道の原水は河川水・湖沼水などの地表水や伏流水・湧水(ゆうすい)・浅層水・深層水などの地下水である。河川水は水量豊富であるが，降雨などによるにごりの上昇，上流流域の家庭下水・工場排水・鉱山排水などによる汚染物質の混入などがあって衛生的な問題が生じやすい。また，水道専用の貯水池では，水道自体でプランクトンの繁殖を抑制できるが，河川に設けられている多目的ダムの貯水を原水とする場合は，プランクトンの繁殖による臭気の発生や濾過池閉塞(へいそく)などの障害が生じやすい。湖沼水は比較的清澄であるが，プランクトンによる障害の危険性がある。伏流水は河底の砂礫層(されきそう)や河川周辺の砂礫層中の滞層水で比較的水質は清澄で良質である。伏流水の取水は多孔管を河川敷内外の砂礫層中に布設して集水する方法を用いている。浅層水はときには地表からの汚染物が侵入することもある。これに対して，深層水は岩盤や粘土層のような不透水層を隔てた深層の水であるため，その水質は外部の影響は受けにくく，良質のものが多い。しかし，鉄やマンガンが溶存していることもあり，また鉄バクテリアが存在することがある。これらの原水は，自然流下またはポンプで揚水して導水管渠(かんきょ)で浄水場に送水する。地下水で水質良好な水は，浄水施設を省略して塩素消毒のみを行ない，

送水管を通して配水池(配水塔)に貯水し，配水量・配水圧を調整したうえ配水管を通して給水する。しかし河川水・湖沼水などのような汚染された水，汚染されるおそれのある原水は，浄水場において清浄な飲用に供しうるように処理を行なったのち，前記のように配水池(配水塔)に送水する。配水池は浄水場内あるいは市街地の近くに設けられ,円滑な配水ができるようになっている。この間，地形によって自然流下方式とポンプ圧送方式のいずれかが用いられ，配水管からは止水せん・水道メーターを経て家庭や工場などに給水される。高層ビルなどは直接，各階に給水するほか，地下に受水タンクを設け，このタンク中の水をポンプで屋上の高置タンクに揚水し，これを各階に給水する方式などが行なわれている。この場合現行の省令では地下に設置してある受水タンクの流入口までが水道事業者の責任区域となっている。なお水道法によって，水道事業者は当該水道に公共の消防のため消火せんを設置しなければならないと義務づけられている。〔武田登作〕

スイートピー ［sweet pea］ 双子葉植物・マメ科。シチリア島原産の一年草。茎は翼のあるつる状で，高さ2mに達する。葉は2枚の小葉と巻きひげに変化した頂小葉からなる複葉で，互生する。全草粉白色をおびる。冬から春に葉腋(ようえき)から長さ20cmの花柄を伸ばし，その先に1～4個の大きな蝶(ちょう)形花をつけ,花色にはいろいろなものがある。果実は長さ約5cmの平たい長楕円(ちょうだえん)形で表面にあらい毛がある豆果で，数個のかっ色の種子がある。一種の芳香があるのでジャコウエンドウ・ジャコウレンリソウともいう。〔加藤僖重〕

すいにんてんのう 【垂仁天皇】 名は活目入彦五十狭茅(いくめいりひこいさち)。垂仁は漢風の諡号(しごう)。崇神(すじん)天皇の第3皇子。母は御間城姫(みまきひめ)，纏向珠城(まきむくのたまき)宮を皇居とし，狭穂姫(さほひめ)を皇后に立てたが，皇后は兄狭穂彦の反乱に巻き込まれて自殺したので，のちに日葉酢媛(ひばすひめ)を皇后としたという。史実と認めるべきものは少ない。陵墓は奈良市の菅原伏見東陵。

すいば 【酸葉・酸模】 双子葉植物・タデ科。スカンポともいう。原野や田のあぜ道などに普通にみられる多年草で，世界じゅうに広く分布する雑草。茎は円柱状で中空，赤色をおび，高さ50～80cm。根出葉は4～8cmの柄があり，葉身は長卵形で鋭尖(えいせん)し，縁は波打つ。下部の茎葉は小さい柄があるが，上部の葉は無柄。花は雌雄異株で5～6月茎の頂に数本の枝を出して，淡緑色に淡紅色の帯のある六弁花をつける。全草に酸味がある。〔加藤僖重〕

すいはつ 【垂髪】 髪を自然のまま背後に長く伸ばす女性の髪形。下げ髪ともいう。上古時代から広く行なわれ，桃山時代から江戸時代初期に庶民の間に結髪の習慣が起



スイートピー

こるまで続いた。特に平安時代の貴族の女性は身長より1～2尺(30～60cm)長くして,〈すべしがみ〉または〈すべらかし〉とよんだ。庶民の女性は髪の後頭部をひもで結び，長さは腰までが普通であった。足利(あしかが)時代ごろ，垂髪に長かもじをつなぎ，絵元結(えもとゆい)で結ぶ髪形が起こり，〈おおすべらかし〉とよばれ，明治初年まで続いた。

すいばら 【水原(町)】 新潟県北蒲原(かんばら)郡の町。県の北部阿賀野川(あがのがわ)下流に位置する。人口20,000。古くから下越平野南部の水田地帯の行政・商業上の中心をなし，かつては定期市が開かれていた。羽越本線の沿線にあり,町内にある瓢(ひょう)湖は白鳥の飛来地として知られ，五頭連峰県立公園に指定されている。

すいひ 【水簸】 懸濁液体を一定流速で流し，粒子の大小を分離する方法。どろ水をかき回して放置すると砂などのあらい粒や重い粒は早く沈み，微粒は沈まないで懸濁する。この際水を流し続ければ微粒と粗粒を分離できる。窯業原料として粘土の微粒を必要とする際にこの方法で砂などを分離して粘土の懸濁流をつくり，さらにフィルタープレスで水分を取り去って目的の粘土を採取している。

ずいひつ 【随筆】 形式・内容に制約がなく，見聞・感想・体験などを自由に書いた文章。日本では，古くは備忘的・考証的文章をいったが，近代にヨーロッパのエッセーの概念と知識が一般化し，その影響で文学ジャンルとして定着した。古くは《枕草子(まくらのそうし)》《方丈記》《徒然草(つれづれぐさ)》が三大随筆として名高く，近代以降には夏目漱石(そうせき)ら文学者，寺田寅彦(てらだとらひこ)ら科学者のほか，内田百閒(ひゃっけん)・森田たまらの随筆家がいる。

すいふりゅう 【水府流】 日本泳法の一。江戸時代，水戸(みと)市を流れる那珂(なか)川に生まれた島村流と小松流を,1841年(天保12)に水戸藩主徳川斉昭(なりあき)が藩校弘道館(こうどうかん)を設立した際に合わせ採用して命名したもの。のち藩士太田(おおた)捨蔵によって改良されて太田派とよばれ，幕府の講武所に採用された。横泳ぎを基本として抜き手にすぐれた泳法があり，スピードがあるので，明治以後も東京高等師範学校に伝えられ，クロールなどの現代泳法が普及するまで広く用いられた。〔浮田裕之〕

すいへい 【水兵】 海軍の兵士。おもに軍艦内のいろいろな役務を行ない，戦時には戦闘に従事する。旧海軍兵は軍制によって水兵・飛行兵・整備兵・機関兵・工作兵・軍楽兵・衛生兵・主計兵・技術兵に分けられ，階級は兵長・上等兵・一等兵・二等兵に分かれていた。呼称は水兵の場合，海軍二等水兵・海軍一等水兵という。➔兵

すいへいしゃうんどう 【水平社運動】 第2次世界大戦前，全国の水平社を中心に発展した部落解放運動。大正末期，大正デモクラシーの影響下に労働・農民運動が本格化すると，社会の最下層で不当の待遇を受けていた部落民の中にも，政府の恩恵的な差別改良政策にあきたらず，みずからの手で差別撤廃運動をつくりあげるという機運が生じた。1922年(大正11)京都市岡崎公園に全国各地の未解放部落から2,000名の代表が集まり，全国水平社が創立され，綱領に，自主的な解放，職業の自由獲得などを掲げ,その傘下(さんか)に各府県連合会・部落支部を組織した。解放運動がしだいに先鋭化すると，水平社に対する反感が一般民に潜在するようになったが，すでに差別の源が体制そのものの矛盾に根ざすと自覚した運動の指導者たちは，第4回水平社大会で，運動を階級闘争の一環に繰り込むことを綱領に加え,権力機構の差別糾弾(きゅうだん)に激しさを加えた。その後運動は労農党との関係のもとに続けられたが，内部抗争もあり，戦争中に自然解消され,戦後,部落解放全国委員会，さらに部落解放同盟と改称されて現在に至っている。〔高崎徳次〕

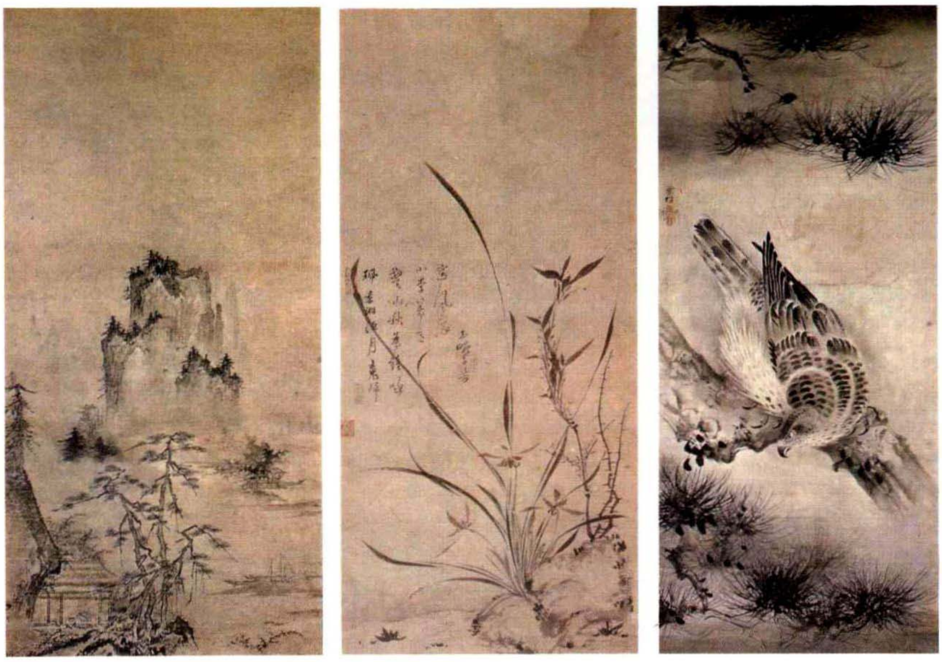
すいへいは 【水平派】 ⇨レベラーズ

すいぼう 【水防】 洪水(こうずい)や高潮などで堤防が痛んだり危険が生じたりしたときに，応急の処置を行なうこと。河川堤防に例をとって水防工法を述べれば,①越水：堤の高さが足りないことによって起こる場合で，土俵などを積んで応急の嵩(かさ)上げをする。②漏水：堤体中に水の通り道ができた場合は流入口をむしろ・畳・捨て石などで止めるか，出口を土俵で囲み，水をためて水圧でおさえる。これを月の輪工法という。③その他堤体の欠落・崩壊・亀裂(きれつ)，工作物の破損，沈下などに対しても，それぞれ適当な工法がくふうされている。

洪水や高潮による災害を防ぐため，市町村は水防法に基づき水防団を組織して，平素の警戒と出水時の防御活動を行なっている。水防団は，河海岸や河海構物，たとえば，堤防・水門・ダムなどを警備し，平素から倉庫に作業用材料を保管し，災害時に備えて訓練を積んでいる。〔米元卓介〕

ずいほうしょう 【瑞宝章】 ⇨勲章

すいほうダム 【水豊ダム】 スプンダム 朝鮮，平安北道北部，鴨緑江(おうりょっこう)中流に設けられている重力式ダム。1937年(昭



水 墨 画　左から伝周文《水色巒光図》 鎌倉時代，玉畹梵芳《月下蘭竹図》 室町時代，雪村《松鷹図》 江戸時代，いずれも東京国立博物館蔵

和12)に当時の日本の手で着工し，1941年から部分的に送電を始め，1944年に完成した。高さ106.4m，有効貯水量76億m³。第2次世界大戦前におけるわが国最高の技術水準を示すものといわれた。当時，満州(現在の中国東北地方)・朝鮮の重工業化を目標に建設された赴戦江ダム(1930)・長津江ダム(1935)など一連の計画のうち最大発電能力(60万kW)を有したダムで，当時世界一流を誇っていた。朝鮮戦争によって破壊されたが，その後再建され，現在は最大出力も70万kWになっている。　〔船越昭生〕

すいぼくが　【水墨画】　東洋画独自の技法・形式の墨一色の筆描を基礎にした絵画で，中国の水暈墨章画(すいうんぼくしょうが)が語源とされ，墨で五彩を表わしうるという思想に基づく。中国では，唐時代に*王維・王墨・*呉道玄らによって試みられた墨の筆線・濃淡・ぼかしなどによる絵画の様式・技法をその発祥としている。宋(そう)・元以後は，特に山水画の技法・形式としては水墨が最適であったので，山水画の歴史がそのまま水墨画の歴史となっている。北宋時代には，*郭煕(かくき)・李成(りせい)・范寛(はんかん)・*董源(とうげん)・*巨然らの作家が出て山水画に水墨の技法を確立，ここに*南宗画と*北宗画の流れが生じた。骨法を重んずる北宗画に対して，滋潤な表現の南宗画では水墨による雲気や光の表現に特徴がある。南宋時代には，*李唐・*馬遠・*夏珪(かけい)らの画家が画院で活躍し，余白構成の中に省略的な水墨独自の描写技法をつくり，*破墨や*潑墨(はつぼく)などの墨法も禅僧画家である*牧谿(もっけい)らによって完成された。元末の四大家(*黄公望・*王蒙(おうもう)・倪瓚(げいさん)・*呉鎮)や明(みん)の*浙派(せっぱ)・*呉派，明末清(しん)初の四王呉*惲(しおうごうん)などはいずれも水墨山水画を本領としているが，清以後は呉派系の文人画が主となったので，水墨画としても文人画的な好尚(こうしょう)に合う南宗画の流れをくむ水墨画が多い。

わが国では，鎌倉時代にいわゆる漢画として伝わったが，気韻と骨法を重んずる山水画の世界が禅林・武家の気質に適合してしだいに盛行し，室町時代に至って*周文・*雪舟らが出てこれを大成した。また，桃山時代の狩野(かのう)*派・長谷川(はせがわ)*派・海北(かいほう)*派・*雲谷派などの画家も，色彩豊かな障壁画を描く一方で水墨の傑作を多く残した。わが国で盛行したのはおもに北宗画的な様式であるが，その中にあって牧谿は水墨画のあらゆる作家に追模されている。江戸時代の狩野派・文人画家なども水墨画を主として画作し，特に南画の分野では池*大雅・与謝*蕪村(よさぶそん)・青木木*米らが傑作を残している。以来，明治・大正期までは大作も描かれ，技法的にも円熟の極に達していたが，現在は伝統的な様式としての水墨画はあまり描かれていない。〔中島純司〕

ずいまく　【髄膜】　脳と脊髄(せきずい)は骨性の頭蓋腔(とうがいこう)と脊柱管の中に収められて厳重に保護されているが，さらに3層の結合*組織性の硬膜，くも膜，軟膜に包まれている。これらを総称して髄膜という。最外層の硬膜は最も厚く，最内層の軟膜は脳と脊髄の表面に密着する。くも膜と軟膜とは疎な突起でつながり，その間をくも膜下腔といい，脳脊髄液で満たされ，脳室・脊髄中心管と連絡している。髄膜は感染によって炎症を起こすことがあり(髄膜炎)，また外傷などによって出血を起こしやすい。

すいみつとう　【水蜜桃】　⇨モモ

すいみん　【睡眠】　身体の機能が活動を休止した状態で，俗に眠りという。ふつう，大脳の働きの休止による意識という機能の消失としてみられる。これによって疲労の回復とエネルギーの蓄積が行なわれる。睡眠状態の特徴としては，①外で起こっているものに対しての反応の消失(意識の消失)，②身体内外からの刺激に対する反射性が低下，③適当な刺激によって覚醒(かくせい)させることができるなどがあげられる。また睡眠は病的な意識の消失・失神・昏睡(こんすい)などとは③によって区別することができる。人間は一生の約3分の1を睡眠に費やしているが，日常の活動を円滑に進めるためには必要不可欠なものである。つまり体温・脈搏(みゃくはく)・呼吸・知覚・運動・意識など心身の機能に変化をもたらす。睡眠によって身体の内臓・筋肉・脳髄などの活動は低下または停止し，物質の消耗は最低位まで下がる。たとえば体温が下がることによってさらに身体の機能が低下し，睡眠につごうのよい条件を与える。脈搏数は通常よりも10〜30ほど少なくなり，血圧も10〜30mmHgほどが低下する。血液の分布も変動をきたし，四肢(しし)のほうが充血して内臓のほうが貧血する。また呼吸はおそくかつ深くなる。睡眠を統制する中枢は大脳皮質以外では，おもに間脳に存在する。一般的に睡眠の要求は若年で非常に強く，年齢とともに弱まる。また男性に比べて女性のほうがよく睡る。新生児は1日の大部分を眠りに費やして発育を盛んにする。このことは発育と睡眠とが密接な関係をもつことを表わす。ヒトの場合，就眠後約1時間が最も深く，そののち急に浅くなり，そのままさめるまで続くかあるいはさめる直前に再びやや深くなるのが普通で，夢は浅眠期に起こる精神活動である。　〔平野修助〕

すいみんやく　【睡眠薬】　⇨催眠薬

ずいむしあかたまごばち　【螟虫赤卵蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・タマゴヤドリコバチ科。体長0.5㎜ほどの微小なハチで，全体黄かっ色。複眼は赤色，触角は雌は6節，雄は4節からなり，翅(はね)は透明。イネの害虫のサンカメイ*ガ・ニカメイ*ガのほかウラナミシジミなどの卵に寄生する。日本全土のほか，台湾・中国・フィリピン・インドネシア・インドなど，アジアの熱帯地方にかけて広く分布する。

すいもの　【吸い物】　汁物(しるもの)の一種で，日本料理のはじめのほうに出る。すまし汁ともいう。実よりも汁の味に重点が置かれ，煮出し汁はかつお節・コンブでとり，味つけは塩・しょうゆでする。わん種には白身の魚，エビ・貝類・鳥肉・豆腐・ゆばなど，あしらい(わんづま)には季節の野菜・シイタケ・マツタケ・ワカメなどを用い，吸い口(かおり)を浮かす。吸い口には季節感があってほのかにかおるものがよく，木の芽，ユズ・ショウガ・ノリ・青ジソなどを使う。

すっぽん仕立て・うしお汁・吉野(よしの)汁も吸い物の一種である。〔塩川ふみ〕

すいらいてい【水雷艇】 魚雷をもって大形艦船を攻撃することを任務とする，排水量20トンぐらいの軽快な艦艇。1870年代につくられたのがはじめであるが，駆逐艦の発達によって，活躍の場を失い，第1次世界大戦ごろまでに各国の海軍から姿を消した。しかし日本海軍では，ロンドン条約によって駆逐艦の保有量に制限を受けたため，規制外の600トン以下の排水量で駆逐艦の不足を補う艦を水雷艇という名称で建造した。この最初のクラスである千鳥型の3番艦友鶴(ともづる)は1934年(昭和9)2月に完成したが，小さな艦に無理な武装を施したために甲板上に重量がかたよって復元性が低下し，1934年3月，佐世保港外で実習中に転覆するという大事故を起こした。その後これに改造を加えたものや大形化したものが，合計12隻建造されて，第2次世界大戦中も駆逐艦の補助的任務についていた。〔藤井冬木〕

すいり【推理】 論理学で，一つあるいは二つ以上の既知の命題(前提)から別の新しい命題(結論)を導き出す思考過程。推論ともいう。これは一つの前提から直ちに結論を導く直接推理と，前提が二つ以上の間接推理に分けられ，さらに前者は前提となる命題と対当関係にある命題の真偽を導く対当推理と，命題の主語と述語を置き換えるなどの操作により内容は同じであって形の違った命題を導く変形推理に，後者は演繹(えんえき)推理・帰納推理および類比推理に分けられる。正しい推理は，前提が真で結論が偽であってはならないという条件を満足させる限りにおいて，〈妥当である〉といわれる。推理の妥当性はその論理的形式のみによるのであり，その内容，つまり推理を構成する命題の真偽によるのではない。したがって，結論の真であることが必ずしもその推理の妥当であることを保証しはしないし，妥当な推理において偽なる結論が導かれる場合もある。たとえば，〈動物は死すべきものである。人間は死すべきものである。ゆえに人間は動物である〉は前提・結論ともに真であるが妥当な推理ではない。また，〈すべての鳥は4本足である。すべてのクジラは鳥である。ゆえにすべてのクジラは4本足である〉は妥当な推理である。〔石倉恒之〕

すいりがく【水理学】 流体力学の理論を実在の水の運動に適用し，水工学方面に活用しやすいように組み立てた学問。この分野を機械工学では水力学といっている。水理学の内容は，①静水力学，②水と物体との相対作用，③管水路の流れ，④開水路の流れ，⑤地下水の流れ，などである。

すいりかんこう【水利慣行】 川や湖沼の水の利用は法律などの規定によらず，部落や近隣で慣習的に定められることが多いが，その慣習を法律や裁判例で認めている場合をいう。水の利用には自然的・社会的・経済的な理由，または制度の上から種々の慣習があるが，中でも農業灌漑(かんがい)用水はそれが最も複雑である。そのほか河川の流水を利用する木材の搬出にも古くから水利慣行があったが，近時は道路運搬に代わってあまり社会的意味をもたなくなった。河川の利用では飲料用や工業用などについても慣習による場合があるが，問題となるのは水不足のときに上流の利用者に優先権があるため，しばしば争いを起こすことである。したがって，利用形態や利用者数の変化に伴って，紛争が予想される場合は，あらかじめ詳細な取り決めをしておいたほうがよい。また，自然湧出(ゆうしゅつ)の温泉利用も慣行によることが多い。〔黒木三郎〕

すいりきがく【水力学】 水の流れは水車や水力発電などで動力源として利用される。また，河川の管理，ダム・堤防・運河の工事などは重要な社会的事業である。このような工業的応用を前提として，水の流体力学的性質を研究する学問の分野を水力学という。

すいりけん【水利権】 特定人(企業・部落・その他の団体または個人)が一定の目的(灌漑(かんがい)・漁労・上水道・発電・工鉱業など)のために，河川・湖沼の水を排他的・独占的に使用する権利をいう。河川法の適用または準用を受ける河川の流水は公水として公の利用に供せられるため，その使用権については主務大臣または地方行政官庁の許可を受けなければならないが，他の流水や湖沼の静水についての使用権は，慣行的に発生しているものが多い。水利権は民法上に物権としての規定はないが，物体に準ずる保護を受け，その効力として物権的請求権のほか，損害賠償請求権が認められている。〔黒木三郎〕

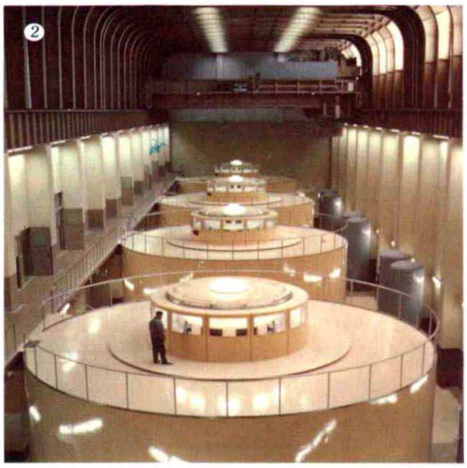
すいりしょうせつ【推理小説】 犯罪またはそれに類似する事件についてのなぞの解明を中心にした小説。1940年代ぐらいまでは探偵(たんてい)小説とよばれた。推理・なぞ解きを主としたものを〈本格派〉とよび，スパイものやサスペンスものなどを〈変格派〉とよぶことがある。現在推理小説が流行し，多くの有力作家を擁している国は，イギリス・フランス・アメリカ・日本である。各国には多様な作風が共存するが，それぞれの国に伝統的な特徴・傾向を指摘することもできる。イギリスでは本格派の伝統が長く，主役は変わり者の私立探偵で，教養豊かな知識人であり，報酬・職務・正義感の理由からではなく，趣味的な鑑定家の態度でなぞの解明に従事する。その典型はドイルの創造したシャーロック-ホームズである。また，クリスティのつくったエルキュール-ポワロは，ホームズの超然たる魅力には及ばないが，自信とユーモアの感覚を備えた変人で，特異な魅力をもっている。アメリカは，世界最初の推理小説《モルグ街の殺人》(1841)の作者ポーをもった。その後，西部劇ふうの悪漢追跡と暗黒街の暴力を主とする小説が推理小説の衣装をまとっていたが，バン-ダインが《ベンスン殺人事件》を発表し，本格派の作品を生み出した。バン-ダインの後継者クイーンは，処女作《ローマ帽の秘密》以来，盛んな創作活動を続け，推理小説専門誌を発行，本格派の指導者となった。フランスの推理小説では警部が主役になることが多く，イギリス流の冷徹で偏屈な私立探偵と違って，適度の人情味をもち，試行錯誤の中をなぞの核心に迫っていく。典型はガボリオの創造したルコック警部であり，またシムノンも人間性の機微と心理洞察(どうさつ)に熟達したメグレ警部を生み出した。シムノンの作風は，性格描写・心理描写に力を入れ，フランス小説の心理尊重の伝統につながるものである。また，ルブランの創造した，しゃれけの豊かな貴族趣味の怪盗ルパンの活躍は，推理と冒険を統合した点でアメリカの野性的な活劇ものとは異質である。日本の場合，推理小説の開始は1910年代の後半(大正7年ごろ)，佐藤春夫(はるお)の《指紋》，谷崎潤一郎の《柳湯の事件》，芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)の《開化の殺人》など，文学者の余技的な作品に刺激されるところから始まった。雑誌《新青年》が推理小説専門誌として，海外作品の翻訳とともに新作家の育成に努め，有力な推理小説作家の大半がこの雑誌を登龍門として成長した。本格・変格の両派を兼ねる江戸川乱歩をはじめ，本格派の甲賀三郎・小酒井不木・大下宇陀児(うだる)・横溝(よこみぞ)正史・小栗(おぐり)虫太郎，変格派では，異常心理の芸術性をめざす木々高太郎，血生臭い幻想を描く夢野久作らである。ほかに，髷物(まげもの)の大衆小説と結合した捕物帖(とりものちょう)の作家では，岡本綺堂(きどう)・佐々木味津三・野村胡堂(こどう)ら。第2次世界大戦後には，〈社会派〉とよばれる推理小説が現われた。これは社会機構の認識と本格派の技巧との結合であり，松本清張・水上勉(みなかみつとむ)・黒岩重吾がその代表作家である。以上のほか，〈ハードボイルド派〉とよばれる非情な探偵の活躍を中心としたものの作家に，ハメット・チャンドラー・マクドナルドら，本格派にクロフツ・チェスタートン・フィルポッツ・ガードナーらがいる。〔長崎勇一〕

すいりぼうがいざい【水利妨害罪】 堤防をくずしたり，水門をこわしたり，その他水の利便を妨害するような罪。2年以下の懲役・禁錮(きんこ)または10,000円以下の罰金(刑法123条)。本罪は，水利権を保護するため設けられたもので，公共危険罪である溢水罪(いっすいざい)と異なる。水利とは，灌漑(かんがい)・牧畜・水車・発電などいっさいの水の利用を含み，流水であると否とを問わない。本罪の成立には，灌漑などの水利につ

水力発電

①池原ダム(奈良県)。全貯水容量3億3,840万m³，高さ111m，頂長460m　②田子倉発電所(福島県)の発電機。最大出力38万kW，3相立軸発電機　③佐久間発電所(静岡県)の変電所と放水口　④南川越変電所(埼玉県)認可出力109.2万kVA，変圧器4台　⑤名古屋変電所(愛知県)の配電盤室。認可出力93万kVA，変圧器5台











いて，他人に権利があることを要するが，その権利は法令・契約のみならず，慣行によって生じたものでもよい。水利の妨害となるべき行為があれば，実際に水利権侵害の結果を生じなくとも本罪は成立する。

〔井上公耳〕

すいりょく　【推力】　流体*が物体を前進させる方向に作用する力。物体がプロペラやロケット-エンジンによって流体を後方に押すとき，その反作用として発生する力である。プロペラは局部の翼断面に作用する空気力(主として揚力)の成分を集めて推力とする。ジェット-エンジンは吸い込んだ気流を内部で加速して，運動量を増加させることにより推力を発生する。ロケット-エンジンは推進剤の発生したガスに運動量を与えて推力をつくる。ロケット-エンジンの推力Fは，単位時間あたりの噴流の質量流量を$\dot{m}$，噴流の速度をVとすると，$F=\dot{m}V$で計算される。〔内田茂男〕

すいりょくきかい　【水力機械】　水(その他の液体)を駆動するポンプ類，水から動力を得る水車，水の動力を応用した水圧機械などの総称。水の代わりに油を用いた油圧機器類を含めていうこともある。

すいりょくはつでん　【水力発電】　電気を発生するために水のもつエネルギーを利用する方式。河川をせき止めたダムまたは湖沼の水を，下流に設けた発電所内の水車に導いてこれを回転させ，水車軸と直結した発電機回転子の回転により電気を得る方式である。1878年，世界初の水力発電所がフランスのセルメーズに建設された。わが国では，自家用として1890年(明治23)足尾の古河(ふるかわ)鉱業に，1891年京都蹴上(けあげ)に建設された。以来わが国の水力発電所の総出力は1925年(大正14)末に181万kWに達し，1965年(昭和40)には1,563万kWを記録した。発電所総出力の急増とあいまって，大容量発電所の建設も進み，1939年に出力16.5万kWの信濃(しなの)川発電所(東京電力)が，さらに1961年には現在わが国最大出力38万kW(10.8万kW×4台)の田子倉発電所(電源開発)が運転を開始した。一方，海外でも大容量化は最近の傾向で，出力500万kW(50万kW×10台)のクラスノヤルスク発電所(ソ連)をはじめ，出力410万kW(22.5kW×20台)のブラーツク発電所(ソ連)などが運転中であり，工事中のものとしては出力720万kWのグランドクーリー第3発電所(アメリカ)がある。単機容量においても50万kW(クラスノヤルスク発電所)，60万kW(グランドクーリー第3発電所)と開発が進み，1980年には150万kWに達するのではないかといわれている。

水車発電機の出力は，流入水量をQ(m³/秒)，有効落差をH(m)とすると，$P_0=9.8QH$(kW)で表わされ，P_0を理論水力という。また，水車効率をη_w，発電機効率をη_gとすると，発電機出力は$P=\eta_w\eta_g P_0$(kW)で表わされる。実際に送電線からは，変圧器の損失分と発電所内に使われる電力を差し引いた残りが送り出される。

水力発電所の分類には以下のようなものがある。①落差による分類：㋑35m程度以下の落差を利用する低落差発電所。主としてカプラン水車・フランシス水車が使われる(→水車)。㋺35～250m程度の落差を利用する中落差発電所。主としてカプラン水車・フランシス水車が使われる。㋩250m以上の落差を利用する高落差発電所。ほとんどペルトン水車を使う。②取水方式による分類：水路式発電所*・ダム式発電所*・ダム水路式発電所*の3種がある。③運用方式による分類：㋑河川流量に従って発電する流れ込み式発電所。㋺ダムまたは湖沼などの大容量貯水池をもち，豊水期の水を貯水し，おもに渇水期に発電する貯水池式発電所。㋩小容量の貯水池をもち，負荷の日間・週間変動に応じて発電する調整池式発電所・揚水式発電所*がある。また発電用ダムは，水圧・地震などの外力に対して堅固でなければならず，流域の気象条件，建設現場の立地条件により，コンクリートダム(重力ダム・アーチダム・バットレスダムなど)ロックフィルダム・アースダムなどの中から選ばれる(→ダム)。

わが国では，戦後の電源開発において水力発電が主流であったが，その後，水力開発地点の枯渇から経済性が失われる一方，最近の大容量火力発電の効率上昇と燃料価格の低下により，火力発電の有利性が増したため，火主水従*の方針がとられるようになった。すなわち，高効率大容量火力発電所，および将来は原子力発電所などをベースとして，一方大容量のダム式および揚水式発電所をピーク供給力として運転する傾向が高まっている。わが国の包蔵水力は，今後毎年100万kW程度の開発をすれば，20年足らずで開発しつくすといわれており，この点から今後の水力開発は，計画規模の拡大などによる既開発水力地点の再開発や負荷のピーク部分を分担する揚水式水力の開発，河川の下流部分の豊富な水量に期待をかける低落差式水力の開発などに向かうものと思われる。〔田村康男〕

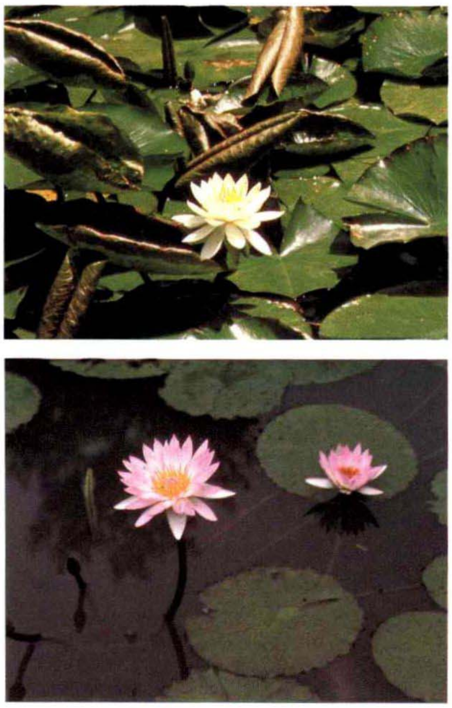
すいりょくぼうせきき【水力紡績機】水力を動力として用いる紡績機械の装置。蒸気・動力・電動力の発達する以前に，人力に代わって応用されたもの。綿紡績・麻紡績などが水流の近くに工場を建てて行なわれた。ガラ紡*などはこの例である。

すいれいきかん【水冷機関】シリンダー*およびシリンダーヘッドを水または他の液体で冷却する内燃機関。普通は水を用いるが，特に寒冷地で水の凍る心配のあるところではエチレングリコールなどを混入した不凍液を用いる。シリンダーを冷却して暖まった水は，放熱器や熱交換器*に導かれて空気または冷却水によって冷却され，冷却水ポンプで循環して使用される。農工用の小形機関では水の蒸発を利用して冷却するホッパー式を用いたものもある。空冷機関*より冷却が確実で，機関の温度をつねに一定に保ちやすい。〔斎藤 孟〕

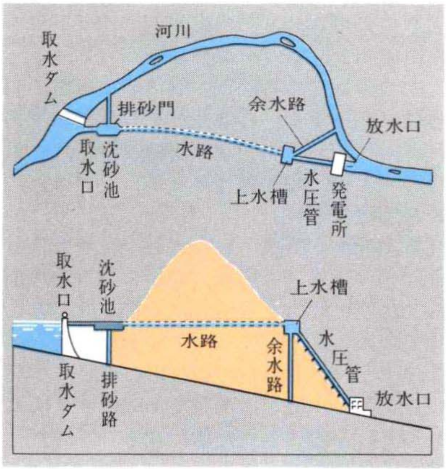
すいれん【水蓮】双子葉植物・スイレン科の総称。池や沼にはえる水生多年草。どろの中に太く短い根茎を伸ばし，一端から長い葉柄を出して葉を浮かべる。葉身は長さ10～20cm，幅8～15cmの円形ないし楕円(だえん)形で，基部が種々に切れ込む。葉面は緑色で光沢があり，気孔は表面にある。長い花柄を出して水面上に大きな花を1個咲かせる。花はがく片4枚，花弁17～18枚，おしべ約40本，めしべ1本。

スイレンの仲間は熱帯・温帯に約40種あり，花色は赤・淡紅・白・黄色などいろいろで，観賞用として世界じゅうの庭に植栽される。日本産のヒツジグサは日本・朝鮮・中国・インド北部・シベリア・ヨーロッパ北部・アメリカ北部と分布が広い。夏に直径2.5～5cmの白い花を咲かせ，その名は未(ひつじ)の刻(午後2時)に開く草の意である。普通は午前10時から午後2時ごろに開いて，午後5～6時には閉じるが，これは水温のためらしい。〔加藤僖重〕

すいろく【水鹿】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科。雄は肩高1mほどだが，雌はやや小形。夏毛は淡い黄赤かっ色，冬毛は赤色をおびた黒かっ色で，腹は淡色。雄の角は48cmほど。台湾・中国・インド・東南アジアに広く分布し，ふつう森林に一つがいないし小群ですむ。水辺の緑草，樹葉，果実などを食う。角は装飾用とされる。



スイレン (上)ヒツジグサ (下)植物園などにみられる熱帯スイレン。ヒツジグサと異なり，空中に花茎を伸ばして花をつける



水路式発電所

すいろしきはつでんしょ【水路式発電所】取水方式によって分類された水力発電所の一。河川の水を上流でせき止め，そこに設置した取水口より比較的長い水路によって発電所に水を導き，その間で落差を得る方式。

すいろずし【水路図誌】海図*と水路書誌を合わせて水路図誌という。海図は旅行者の地図に相当し，水路書誌は旅行案内書に相当するものである。水路図誌はわが国では海上保安庁水路部から発行されており，航海・停泊に必要な事項は細大漏らさず記載されている。そのため集録の地域，要素が広範にわたるので，利用者の希望する図誌を抽出できるように一覧表になった水路図誌目録がある。また，たとえば燈台が消燈した，浅瀬が発見されたなど，航泊に必要な要素が水路図誌の内容と変わって航海に重大な影響を及ぼすような場合は至急に各船に知らせる必要があるので，毎週，航路告示が発行されて図誌を改補するようになっている。水路書誌の内容は次のようなものからなる。①水路誌：水路の案内記で海上の気象・海流・潮流などの諸現象，航路の状況，沿岸の地形，目標物，港湾の状況，施設などについて記述してある。②海事関係法規集：航路・港湾に関する諸法規・無線通信・気象通報などに関する規程が編集されている。③航路誌：航路選定の資料を与えるもので，大洋航路誌と近海航路誌がある。④燈台表：燈台その他の航路標識の一覧表である。⑤潮汐表(ちょうせきひょう)：世界の港の潮汐と日本近海の流れの強い水道・海峡などの潮流についての記事が集録されている。⑥天測暦および天測略暦：天測計算に必要な天体の諸要素が記されている。⑦天測計算表：天文航法で船位を計算するのに必要な数表である。〔飯島幸人〕

スイング-ジャズ［swing jazz］1930年代後半から1940年代前半にかけて最も盛んだったジャズ-スタイル。ジャズ史のうえでこの時代を〈スイング時代〉という。白人クラリネット奏者B．グッドマン*が率いる楽団の音楽を，〈スイング-ミュージック〉とよんだのがはじまり。実質的には〈スイング-ジャズ〉と同義語であったが，〈ジャズ〉ということばが1920年代に〈卑猥(ひわい)で喧騒(けんそう)なもの〉の代名詞として，悪い流行語になったことがあるので，これを避けたものと思われ，やがて単に〈スイング〉とよばれるようになった。しかし〈スイング〉ということばには，ジャズを聞いて，ひとりでに身体が揺れてくるようなリズム感をさす使い方もあり，そういう要素をもった音楽という意味で〈スイング-ミュージック〉，略して〈スイング〉とよばれるようになり，さらに二つのことばの意味を明確にするため，〈スイング-ジャズ〉という重ねことばが生まれた。**《特徴と傾向》**スイング時代は，白人ビッグ-バンド(通常14人前後)の全盛期であった。グッドマン楽団のほか，ジミー-ドーシー・トミー-ドーシー・アーティ-ショウ・グレン-ミラー・ボブ-クロスビー，少し遅れてハリー-ジェームス・ジーン-クルーパらが楽団を率いて絶大な人気を得た。白人の手本となった黒人楽団フレッチャー-ヘンダーソン・ジミー-ランスフォード・デューク-エリントン・チック-ウェッブらは，人気の点では白人の足

もとにも及ばなかった。しかし，ソロイストが人気の的となるにしたがい，白人楽団も黒人ソロイストを雇い入れて充実をはかる必要が起こった。この傾向に先鞭(せんべん)をつけたのもグッドマンである。白人と黒人の共演はレコードでは古くから行なわれていたが，実演の場合は社会的にまだかなりの抵抗があったので，グッドマンは楽団のほかにもう一つコンボ(小編成バンド)をつくり，白人・黒人の混合という印象を避けた。だが抵抗は年々薄れ，1940年以降は白人バンドに黒人が混じることも北部では珍しくなくなった。このころになると，ダンスの伴奏音楽としてのビッグ-バンドのほか，純鑑賞音楽としてのコンボ演奏が一般に好まれるようになり，やがてビッグ-スイング-バンドは，よりコマーシャルな傾向に向かい，スイング-コンボはよりジャズ的なものを演奏するようになって，コンボ全盛時代を現出した。　〔油井正一〕

すう【数】 数にはいろいろな種類があるので，そのすべてにあてはまるように数を簡潔に定義することは困難である。

〔自然数〕 人類が最初に用いた数は，物を数えることから生じた自然数１，２，３，……であろう。自然数は，物の個数を表わす基数(カージナル数)として用いたり，物の順序を表わす順序数として用いたりする。

〔自然数と四則〕 任意の二つの自然数の和は自然数である。この性質を，自然数の集合は加法について閉じているという。同様に，自然数の集合は乗法についても閉じている。しかし減法と除法については閉じていない。また加法・乗法に関しては次の計算法則がなりたつ(以下複素数まで同じ)。

交換法則　$a+b=b+a$　　$ab=ba$

結合法則　$(a+b)+c=a+(b+c)$

　　　　　$(ab)c=a(bc)$

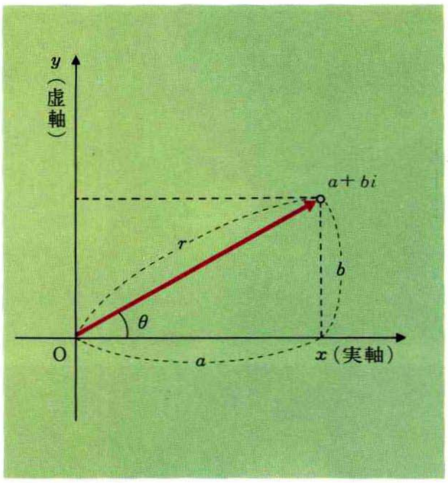
分配法則　$(a+b)c=ac+bc$

これが自然数の四則である。自然数の理論を数学的に組み立てる方法の一つに，有名なペアノ＊の公理系による方法がある。

〔自然数から整数へ〕 二つの自然数の引き算がつねに可能になるためには，数の範囲を自然数から，0＊および負の整数－１，－２，－３，……にまで拡張することが必要になる。負の整数に対し，いままでの自然数を正の整数という。０および正・負の整数を合わせて単に整数ともいう。なお，正・負の数を用いると，向きと大きさをもつ量を一つの数で表わすことができる。

〔整数と四則〕 整数全体の集合Ｚは，加法と減法について閉じている。さらに，この集合Ｚは加法について群＊をなすこともわかる。次に，集合Ｚは乗法について閉じているが，除法については閉じていない。以上のとおり，集合Ｚは，その範囲内で加・減・乗の３演算が自由にでき，環＊(実はもっと強く整域)をなす。

整数の集合Ｚは，数直線上に飛び飛びに



数

並ぶので，これを離散的であるという。

〔整数から有理数へ〕 正の分数は，発生的には量の端下や個物の部分を表わすのに用いられたものと思われる。二つの整数の除法(０で割ることはいつも除外する)が，つねに可能であるためには，数の範囲を分数にまで拡張する必要がある。整数と分数は，ともにn/m(m，nは整数で，$m\neq0$)という形に書ける数で，これを有理数という。有理数の集合Ｑは，その範囲内で四則計算が自由にでき，集合Ｑは体(→群)をなす。

二つの異なる有理数の間には，無数の有理数が存在する。この性質を有理数の稠密(ちゅうみつ)性という。一つの有理数には，どれほどでも近い有理数はあるが，いちばん近い有理数はない。

〔有理数から実数へ〕 有理数全体を数直線上に並べると，その稠密性から有理数は直線上に密に並ぶ。しかし，直線を有理数だけで埋めることはできず，すき間ができる。このような，有理数で表わすことのできない点を表わす数が無理数である。たとえば，一辺１の正方形の対角線の長さ$\sqrt{2}$や円周率πは分数で表わすことができない。これらが無理数である。有理数と無理数を合わせて実数という。

実数全体の集合Ｒには，もはやすきまはなく(実数の連続性という)，直線上の点と１対１の対応をなす。数の範囲を実数まで拡張することにより，極限や収束などが円滑に論じられる。実数の集合Ｒは，その範囲内で四則計算が自由にでき，体をなす。大小については，二つの実数では大小相等が必ず一つに決まるなど，集合Ｒはいわゆる全順序(線形順序)集合である。さらに，($a>b \Rightarrow a+c>b+a$)や($a>b$，$c>0 \Rightarrow ac>bc$)という性質などをもち，集合Ｒは完備順序体という強い性質をもっている。

有理数をもとに実数論を展開した人に，デデキント＊やカントール＊らがいる。なお，実数を小数で表わすと，有理数は有限小数か循環小数になり，無理数は非循環無限小数になる。

〔実数から複素数へ〕 実数の範囲では，二次方程式 $ax^2+bx+c=0$ (a，b，cは実数，$a\neq0$)は必ずしも根をもつとは限らない。そこで，数の範囲を拡張し，$a+bi$(a，bは実数，$i=\sqrt{-1}$は虚数単位で$i^2=-1$)という数を導入すると，すべての二次方程式は根をもつことになる。この数$a+bi$を複素数という。

複素数$a+bi$ではaを実部，bを虚部という。複素数$a+bi$は特に$b=0$のとき実数になる。実数でない複素数$a+bi$($b\neq0$)を虚数といい，特にbi($b\neq0$)を純虚数という。

複素数の相等や加法・乗法は次のように定義される。

相等　$a+bi=c+di$となるのは$a=c$，$b=d$のときに限る。

加法　$(a+bi)+(c+di)$
　　　$=(a+c)+(b+d)i$

乗法　$(a+bi)(c+di)$
　　　$=(ac-bd)+(ad+bc)i$

複素数全体の集合Ｃは，その範囲内で四則演算が自由にできて体をなす。また，虚数も含めると，$a>b$，$c>0 \Rightarrow ac>bc$などを満たすように大小関係が決められないので，虚数の大小は考えない。

実数は直線上の点で表わされたが，複素数は上の図のように平面上の点で表わされる。各点が複素数を表わす平面を，ガウス平面という。複素数は極形式$r(\cos\theta+i\sin\theta)$でも表わされる。

〔多元数〕 数といえば普通は複素数までのことであるが，数の範囲は複素数よりさらに拡張することもできる。たとえば，ハミルトン＊は四元数という複素数より広い範囲の数を考えた。それは虚数単位iのほかj，kという単位をもつ数$a+bi+cj+dk$(a，b，c，dは実数)である。この数では乗法の交換法則は成立しない。このほか，必要があればさらに広い範囲の数も考えられるが，そのような数を多元数とか超複素数とかいう。　〔杉岡司馬〕

- 複素数 $a+bi$
  - 実数 ($b=0$)
    - 有理数
      - 整数
        - 正の整数（自然数）
        - 0
        - 負の整数
      - 分数
        - 正の分数
        - 負の分数
    - 無理数
  - 虚数 ($b\neq0$)
    - 純虚数 ($a=0$，$b\neq0$)
    - 純虚数でない虚数 ($a\neq0$，$b\neq0$)

スウィージー [Paul Marlor Sweezy] (1910～　) アメリカのマルクス主義経済学者。ニューヨークに生まれ，1931年にハーバード大学を卒業したあとロンドン大学に留学し，近代経済学を学んだ。しかし，ドッブ＊やラスキ＊の影響を受けてマルクス経

済学を研究し，マルクス主義の立場に立つに至った。1934年から1942年までは，ハーバード大学経済学部の経済理論セミナーの助手をつとめ，1937年に学位を受けた。1938年には《資本主義発展の理論》《イギリス炭鉱業における独占と競争，1550～1850》が公刊された。1949年に《社会主義》を公刊，同年ヒューバーマン*と協力して独立社会主義誌《マンスリーレビュー》を創刊し，その編集，経営に従事した。その間，コーネル・スタンフォードの各大学，新社会科学院などに客員教授として招かれたが，特定の大学には属していない。ほかに《歴史としての現代》(1953)，《キューバ》(1960年，ヒューバーマンと共著)，《独占資本》(1966年，バランと共著)などの著がある。〔林　達〕

スウィフト ［Swift & Co.］ アメリカ最大の食肉会社。1885年，一介の食肉業者から出発して，食肉の大量処理，精肉の貨車輸送の成功など，加工・流通のあらゆる面にわたって合理化と近代化を推し進め，大企業に成長した。売り上げの70%を占めるのは生肉と加工肉で，そのほか油脂製品・乳製品・接着剤・飼料・油脂化学品・農業用化学品などの分野にも進出，保険事業・石油販売にも手を伸ばしている。新製品の開発にも意欲的で，化学工場や肉製品の副産物製造工場を増設し，研究を重ねている。日本における化学品の販売は旭(あさひ)電化工業と合弁のアデカ-スウィフト化学が，また日本ハムと技術・販売提携を1970年(昭和45)に結んでいる。本社シカゴ。年間売上高31億ドル，従業員数43,000(1969)。

〔氏家　尚〕

スウィフト ［Jonathan Swift］ (1667～1745) イギリスの小説家・評論家。ダブリンに生まれたが，すでに父はなく，母も他家に身を寄せたため，孤児同然の幼少時代を送った。大学卒業後，遠縁の高名な政治家ウィリアム-テンプルの秘書をつとめるかたわら，古典・歴史・政治を学んだ。やがて，古代と近代の文学の優劣についての論争を風刺した《書物戦争》，遺産の一着の上衣を争う兄弟によってキリスト教三派の争いを風刺した《桶(おけ)物語》を書き，文筆家として出発。はじめ自由党の政治パンフレット作家として活躍したが，その後保守派に転じ，その筆力で一時文壇と社交界に隠然たる勢力をもっていた。アン女王の死による保守党の下野後，聖パトリック寺院の司祭長としてダブリンに隠退，アイルランドに対するイギリス本国の強圧・横暴・搾取を糾弾し続けた。晩年の作品に，大作《ガリバー旅行記*》のほか，人肉食を勧める逆説的評論《アイルランドの貧乏人子女対策私見》などがある。その風刺精神は，当時のイギリス社会における問題を具体的に対象としつつも，人間性一般にまで及んでいるといえる。晩年には，持病の耳鳴り・めまいがこうじ，廃人同様の数年を過ごして没した。〔奥山康治〕



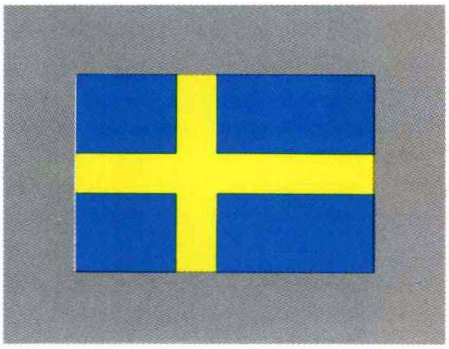
スウェーデン

□300万人以上の都市　◻100～300万人の都市　◎50～100万人の都市
◎10～50万人の都市　◉5～10万人の都市　○5万人未満の都市　●首府　⚓油田

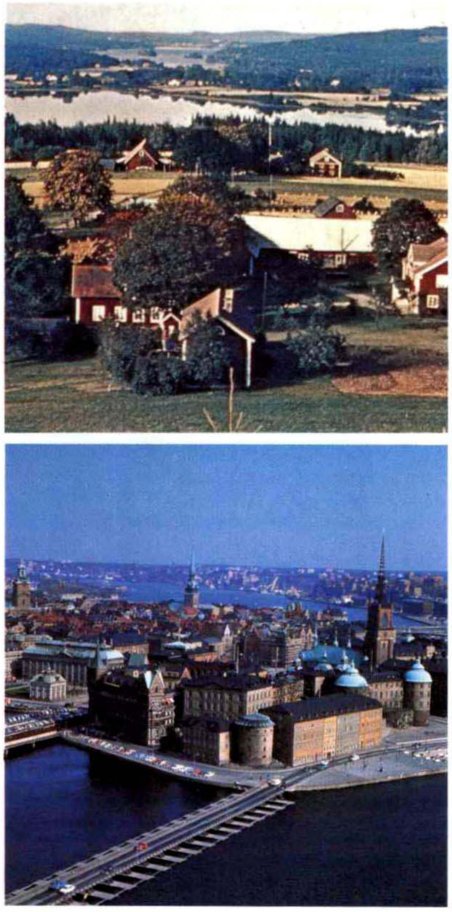
スウィンバーン ［Algernon Charles Swinburne］ (1837～1909) イギリスの詩人。ロセッティ*らのラファエロ前派と交わり，流麗な用語と自在な韻律美を特徴とする叙情詩を書いた。ギリシア悲劇にならった劇詩《カンドンのアトランタ》，中世物語に取材した《ライオネスのトリストラム》などが代表作。ほかに評論《ブレイク論》など。

スウェーデン(王国) ［Kingdom of Sweden, Konungariket Sverige］ 北ヨーロッパ，スカンジナビア半島の東半分を占める立憲王国。北と西はノルウェー，北東はフィンランド，南西はカテガト海峡を隔ててデンマークに対し，南東はバルト海に面する。面積44万9,964km²，人口829万(1979年推)。首都ストックホルム。17世紀の全盛時代にはカテガト海峡に臨むエーテボリを拠点として大西洋からバルト海に至る航路をおさえていたが，19世紀に大陸国のロシア，プロシアの巻き返しにあい，以後は中立平和政策と国民生活の向上に力を注ぎ，北欧第一の豊かな国を築いた。

【自然】 国土は南北に長く，北緯55° 20′から69° 4′にまで及んでいる。大部分は後氷期の隆起平原で，西方を縦走するスカンジナビア山脈はカレドニア造山運動後に平坦(へいたん)化されたもので東方に傾斜している。最高所はノルウェーとの国境で，2,300mに達する。地表は先カンブリア紀の褶曲(しゅうきょく)作用による岩石平原のなごりの準平原*で，東の海岸線は複雑で，特にストックホルムのあたりでは多島海を形成している。現在，氷河はわずかに340km²ばかりが高所に残っているにすぎない。国土は地形上，北スウェーデンのノルランド地方，南スウェーデンの中央低地，スマランド高原，スコーネ地方の四つに分けられる。ノルランド地方は国土の3分の2を含む隆起準平原で，人口は希薄である。たくさんの東流する河川があり，河川は高所に氷堆石丘(ひょうたいせききゅう)でせき止められた湖をたたえ，氷堆石・裸岩・湿地・泥炭地(でいたんち)が不毛の土地を形成している。エゾマツやその他のマツ類・カエデの森林がおおい，農業はほとんど行なわれないが，高度150m以下の海岸低地では後氷期の海成堆積物(たいせきぶつ)をのせているため肥沃(ひよく)である。この地方は林業が盛んで，木材は河川によって搬出され，港はほとんど木材の集散地として



スウェーデンの国旗　1906年制定。他の北欧諸国の旗と同じく，デンマークの国旗がもとになっている。色はスウェーデンの紋章からとったもので，1448年にカール-ナッセン王が制定した原形による



スウェーデン　(上)南部のスマランド高原地方の農村。起伏のなだらかな丘陵地に風光明媚な大小の氷河湖が点在する　(下)水と森とで織りなされる美しい首都ストックホルムの中心部。巨船の停泊する背後の水面はストックホルム港

発達した。南スウェーデンは産業が盛んで人口も多い。中央低地は海成堆積物でおおわれた肥沃なところで，農牧地が広がる。ここにはベーネルン・ベッテルン・エルマレン・メーラレンの4湖がある。中央低地の南のスマランド高原は土壌(どじょう)や植生がノルランド地方に似ている。砂礫(されき)におおわれ，農業はふるわず，マツ類が茂り，広い泥炭地もある。南端のスコーネ地方は氷期堆積物でおおわれているが，土壌は最も肥沃で主要な農業地域になっている。ここはかつてカエデ・ブナ・カシ・トネリコなどが一面に茂っていたが，いまではほとんど開拓されている。国土は南北に長いため地域によって季節差や昼夜の長さに差がある。国土の15％は北極圏にあり，また全土が北緯55°以北にあるにもかかわらず，北部を除けば大西洋を流れる暖流の影響を受けて比較的暖かく，他の同緯度の地域に比べて農林業は盛んで，生活も快適である。しかし夏は短く冬が長い。ボスニア湾では11月の中ごろから4月の終わりまで結氷する。年降水量はバルト海のゴトランド島で500mm，南西海岸では800mmである。最多雨季は夏の終わりであり，10月に第2の雨季をもつ所もある。乾季は2～4月で，西海岸では低気圧にしばしば見舞われる。

〔住民・宗教〕住民はスウェーデン人で，数千年来この地に居住してきた。他民族との交流が少なく，金髪，青い目，長身が特徴である。しかし中世からドイツ人が移民し，またオランダ人・ワロン人・スコットランド人・フィンランド人・ユダヤ人の移住も若干あり，黒髪や茶目の人々を見かけることも珍しくなくなった。しかし混血種が最も少ない人種の一つであることには変わりなく，言語もデンマーク語・ノルウェー語・アイスランド語とははっきり異なっている。北端のラプランド地方に住む7,000人のラップ人だけはスウェーデン人とは異なった人種である。スウェーデン人の海外移住はフィンランドに住む約35万人と，1860～1914年にアメリカ合衆国へ移民した100万人があり，現在スウェーデン系合衆国人は150万人と推定され，特にミネソタ州とイリノイ州に多い。しかし1930年代からスウェーデンの工業化が進んで生活水準が高くなったため，海外移住者は減少した。第2次世界大戦中はバルト3国をはじめ，デンマーク・ノルウェーから約20万人の難民が入り込み，その後永住している者が多い。宗教は99％がキリスト教プロテスタントで，スウェーデン国教会の創設は16世紀のグスタフ1世の時代にさかのぼる。国民の90％は教会で結婚式をあげており，他に6,000人のカトリック，12,000人のユダヤ教徒がいる。

〔産業・経済〕国内で大量の工業原料を産し，これを輸出している。1人あたりの国民所得は2,822米ドル(1968)で，クウェート・アメリカ合衆国に次いで世界第3位にあり，最近10年間の成長率ではアメリカ合衆国を上回る。社会に投下される国家予算と国民の個人所得が大きいために国内市場も広く，また外国貿易額も大きい。貿易相手国は輸出入とも西ドイツとイギリスが多い。農業は有業人口の12％を占めるが，耕地面積は国土の8％にすぎない。しかし機械化が進み，農産物販売のための協同組合組織が整っているため，農民は高い収益をあげている。主要農産物は小麦・ライ麦・エン麦・ジャガイモ・テンサイなどで，スコーネ地方を中心に生産されている。牧畜は乳牛とブタを飼育し，バターとチーズを輸出する。森林は国土面積の55％に及び，木材は年産21億m^3，パルプは年産667万t(世界生産の10％)で，新聞紙の生産は世界8位である。またニシンとサケを主とする漁業も重要な産業である。一方，工業では有業人口の40％を占める。工業人口は1959年を100とすれば1967年には168で，工業化の急速な発展ぶりを示している。大小10万に近い湖沼群を利用した水力発電も豊富である。北部と中部に埋蔵される良質の鉄鉱石はキルナ・エリバレなどの鉱山で，年間2,800万t(1967)を産し，そのうちの2,300万tが輸出されている。近年，亜鉛・マンガン・金・銀・銅の生産も増加している。製鉄業も盛んで重工業の推進力となっている。ほかにエンジン・通信機・自動車(年間19万台を生産し12万台を輸出する)，造船(130万tを進水して日本に次いで世界第2位，中心地はエーテボリ・マルメ・ストックホルム)，製紙(輸出額の10％に達する)の諸工業があり，重要である。また近年は，化学繊維・化学肥料・合成ゴムなどの化学工業製品の輸出が目だっている。従来から知られていた伝統工業としては，くつ・衣服・家具・マッチなどの消費財工業がある。

〔交通〕この国の主要な交通手段は航路である。船舶保有量は460万t(1963)で世界12位にあり，エーテボリ・ストックホルム・マルメ・エブレが主要港である。鉄道の総延長は13,000kmで，そのうち55％が電化され，約90％が国有である。道路網は96,000kmに達する。

〔社会・文化〕この国は高い生活水準と老齢年金・児童手当・健康保険・失業保険・労災保険など完備した社会保障で知られるが，これは政府の幅広い社会福祉政策，健全な外国貿易，高い税金で確保されている。住宅は国営・市営・公団などの公設住宅が十分に供給され，スラムは一掃された。婦人は結婚後も職業をもっていることが多く，大都市では洗たく・育児・買い物などの施設が完備されている。義務教育制度は1842年から始められ，最初は7歳～14歳であったが，現在は9年間に延長されている。文盲率は低く1％に満たない。中等教育には初等中学と上級中学があり，高等教育機関へ進むには上級中学の卒業試験に合格しなければならない。またデンマークのように各種の職業教育を施す国民高等学校があり，寄宿舎生活をしながら実務教育を受けることもできる。高等教育機関にはウプサラ(1477年創立)・ルンド(1668年創立)に世界的に知られる総合大学があり，ストックホルムとエーテボリにも総合大学がある。国民の文化程度はきわめて高く，特に科学と芸術の分野ですぐれ，ノーベル賞は世界に知ら

れている。1955年に没した彫刻家カール-ミレースをはじめ，現在活躍中の美術家にはブロール-ヒヨルト・スベン-エリクソン・エリック-グラトらがいる。建築では近代的な傾向を強く示しており，公営ビル・工場・アパートなどで成果をあげており，ストックホルムのシティーホールはラグナー-オストベルグの設計で多数の見学者が訪れる。またストックホルムのコンサートホール（イバル-テンボン設計）や市立図書館（グナール-アスプランド設計）も有名である。演劇では王立ドラマ劇場が有名なシナリオライターのルン-リンドストロームを擁し，ラルス-ハンソン・ゴスタ-エクマン・グレタ-ガルボ・イングリッド-バーグマンらの名優を輩出した。スウェーデン映画*も独自のジャンルをもっている。文学では《父》《令嬢ジュリー》など数々の名作を著わしたオーガスト-ストリンドベリが世界に知られている。

〔政治〕 立憲君主政体をとり，現在の国王はグスタフ6世である。国会は二院制で上院151，下院233の議席からなっている。政党は単独で過半数の議席を占めている与党の社会民主党の他，野党側は少数多党化の傾向にある。外交政策は両度の世界大戦でともに中立を維持した。しかし第2次世界大戦後は国際連合を舞台に積極的に活動し，かつて国連事務総長にハマーショルドを送り，アフリカ，西アジアの紛争地へ国連軍を派遣したこともあった。中立政策の維持のため北ヨーロッパ最強の軍備を有し，特に空軍に力を注いでいる。兵役は義務制で，常備軍は50,000であるが，非常時には75万の兵力が動員可能である。〔大崎　晃〕

スウェーデンえいが 【スウェーデン映画】 スウェーデンにおいて映画の製作が開始されたのは，1909年ストックホルムにスベンスカ映画会社が創設されてからである。スウェーデン映画の初期から現在までの歴史をたどると，1916年から1923年ごろまで，1923年ごろから第2次世界大戦まで，そして第2次世界大戦後と，大きく三つの時期に分けて考えられる。

第1期は，初期の黄金時代が形成され，国際的にも認められた時期である。社会性の濃厚なテーマ，独創性に満ちた映画的表現で知られるビクトル-シェストレーム，詩的感性と造型感覚を豊かに感じさせるマウリッツ-スティルレル，このふたりのすぐれた監督によって初期のスウェーデン映画は開花する。シェストレームの《生恋，死恋》《波高き日》《霊魂の不滅》，スティルレルの《吹雪(ふぶき)の夜》《エロティコン》《イエスタ-ベルリニク伝説》などは，スウェーデン映画の初期を飾る作品であるとともに，フェデ*・エプスタンらによるフランス映画にも影響を与えた。

1920年代後半から1940年代にかけての第2期には，スベンスカ社が衰退，さらに第1期で活躍したすぐれた監督や俳優，すなわちシェストレーム・スティルレル・ガルボ*らが，全盛期を迎えたアメリカのハリウッドに移って，スウェーデン映画はまったく沈滞してしまった。

第3期には，スウェーデン映画は第2期の無活動状態から脱却して再び世界の注目を浴びるようになった。沈滞を破るきっかけをなしたのは，舞台の演出家であったアルフ-シェーベルイの活躍である。さらにシェーベルイに師事したイングマル-ベルイマン*の諸作は，そのテーマの深遠な響きと描写の叙情性をもって現代社会の病根を描き出して，世界各国の多くの観客に深い感銘を与えた。シェーベルイの《天国への道》《令嬢ジュリー》，ベルイマンの《不良少女モニカ》《野いちご》《処女(おとめ)の泉》などの作品は，今日のスウェーデン映画にかつての輝かしさをもたらした。〔波多野哲朗〕

スウェーデンご 【スウェーデン語】 ⇨北欧語

スウェーデンししゅう 【スウェーデン刺繍】 欧風ししゅうの一種。布地の織り目の浮いた糸を布目に沿って規則的にすくった針目（ダーニング-ステッチ）が文様をつくりだす。織り目の上糸をすくうので，裏に針目は出ない。この点は同じく布目を規則的に刺す区限ししゅう*と異なる。模様は幾何学的な連続模様となり，文様のおもしろさと配色の変化を生命とする。古くからスウェーデンなど中・北欧諸国でおもに行なわれていたもので，わが国に導入されてから日は浅いが，現在は複雑な模様の構成にまで発展している。〔山村あい子〕

スウェーデンボルイ ［Emanuel Swedenborg］（1688～1772） スウェーデンの科学者・神秘思想家。ストックホルムの牧師の子として生まれた。ウプサラ大学で言語学・哲学，イギリスでニュートン物理学を学ぶ。経験科学・合理論とキリスト教の啓示との結合を試み，世界の構造を無生物から人間への連続的な段階であるとした。1745年，神秘的な体験を経てから，堕落した教会の復興を神から与えられた自分の使命と感じ，以後もっぱら聖書の解釈に尽力した。自然哲学・心理学・言語学・神学と広範にわたる著書を残し，キルケゴール*・ストリンドベルイ*・アルムクビスト*らに影響を与えている。〔玉井　治〕

スウェーデン-リレー ［sweden relay］ リレー競技の一種。4人の走者の走距離が一定でなく，第1走者から順に100m，200m，300m，400mを走り，その計1,000mである。1910年代におもにスウェーデンで行なわれたことからこの名がついた。世界記録の公認種目ではないが，わが国では公認され，日本記録は1964年（昭和39）に出された1分54秒4。

スウェーリンク ［Jan Pietersz(Pieterszoon) Sweelink］（1562～1621） オランダの作曲家・オルガン奏者。15歳のときからオルガン奏者として活躍し，1580年，父のあとを継いで，アムステルダムの古教会のオルガン奏者となり，生涯(しょうがい)この地位にあった。作曲家としては特に器楽作品にすぐれたものを残し，中でも彼のオルガン曲は，初期バロックの最高の作品と評されている。また，教育者としてもすぐれ，その門下から有能なオルガン奏者を輩出して，17世紀の北ドイツ-オルガン音楽の基礎を築いた。〔寺田兼文〕

すうえん 【鄒衍】（BC305～BC240） 中国，戦国時代の思想家，陰陽五行家の祖。斉(せい)国の都臨淄(りんし)の人。陰陽二元の消長と五行の運行とによって宇宙の現象すべてを説明する学説を唱えた。特に王朝の交替が，土・木・金・火・水という固有の徳をもつ，それぞれの王朝の循環的克服（五行相勝）によって成立することを説き，漢代の讖緯説(しんいせつ)の基礎をつくった。

スウォバツキ ［Juliusz Słowacki］（1809～1849） ポーランドのロマン主義文学を代表する詩人。生涯(しょうがい)の大半を亡命のうちに過ごし，パリで死んだ。叙情詩ほか多くの作品を残し，後代に与えた影響は大きい。詩劇にもすぐれ，作品に《バラディーナ》などがある。

ズウォリキン ［Vladimir Kosma Zworykin］（1889～　） アメリカの電子工学者，テレビ技術の先駆。ロシアに生まれ，ペトログラード工科大学でロジング教授のテレビ研究に深い関心を寄せた。1917年ロシア陸軍通信隊にはいり無線の仕事を行なう。革命後の1919年アメリカに渡り，ウェスチングハウス会社の研究所にはいってテレビ送像用光電管アイコノスコープを発明（1933），のちRCAに移って電子式テレビの実用化に尽力した。〔山崎俊雄〕

すうがく 【数学】 数学は，ふつう，数量や図形についての学問といわれている。昭和の初期までは，小学校で学ぶのを算術とよび，中学校（旧制）で学ぶ代数・幾何などを数学といって区別していたが，現在ではこの区別にこだわらない。これは学校教育における例であるが，数学に対する考えも，時代とともに進展してきている。数学的な知識や技能は日常生活にもなくてはならないものであるが，数学は必ずしも日常生活に直接関係する分野だけにとどまらず，より広くより抽象的に対象を追究する代表的な学問として研究が進められている。その応用範囲はきわめて広く，現在では自然科学や社会科学で用いられているだけでなく，生産活動においても，政治や経済においても，ますます広く用いられるようになった。

数学を広く解すると，程度の差は別として，どの地域，どの社会でも古くからあったと考えられるが，現代の数学は古代のエジプト・メソポタミアおよびインドで起こった数学が合流して発達したものである。

現在の数学を知るために，数学がどのように発展してきたかを二，三の代表的な時代について述べよう。

〔数学のはじまり〕ギリシア以前の古代数学は実用計算の術であったといえる。エジプトでは十進整数と分子が1の分数が用いられ，面積・体積の計算も行なわれたが，位取り記数法はなく，証明の考えは生まれなかった。メソポタミアの数学はエジプトの数学より発達していたとみられ，各種の数表を活用して簡単な三次方程式や連立二次方程式が解かれた。数は六十進法で位取り記数法の考えが生まれ，小数も用いられたが，紀元前4世紀ごろまでは0の記号がなく不完全であった。インドでは，位取りを示す0が紀元前200年ごろから用いられ，3世紀に出た書物には0についての計算規則も示されている。エジプトとメソポタミアの数学はギリシアに受け継がれたが，インドの数学はアラビアを経てルネサンスのころにヨーロッパに伝わり，数学の発展に大きな貢献をした。

〔理論的数学の誕生〕最古の数学者といわれるターレスは，数学で定理という考えを最初に用いた人である。正方形の対角線と1辺との割合が整数の比で表わされないことを発見したといわれているピタゴラス学派では，〈万物は数なり〉として数学を尊重した。ピタゴラスの学園では，数学ということばの語源にあたる〈mathema〉という学科を置いて，音楽・天文・幾何・数論を教えた。プラトンの学園アカデメイアでも，特に数学を尊重し，数学ということばを今日とほぼ同じ意味に用いていた。そこでは，数学あるいは学問一般の方法論や，メソポタミアの代数の幾何学的構成，正多面体や円すい曲線の研究などを行なった。後世西欧の学問で数学が尊重される伝統は，このアカデメイアから始まったといえる。

ユークリッドの《ストイケイア》は，アカデメイア派までのギリシア数学の成果を13巻にまとめたものである。この書物では，はじめに点・線など使用することばの意味を定める定義を述べ，だれもが正しいと認められることがらを公準(今日では公理という)として明記し，それらを土台にして〈三角形の内角の和が2直角である〉とか〈平行四辺形の対角線が互いに他を2等分する〉という法則がなりたつわけを示して(証明)これを定理とし，証明した定理を用いて次々に新しい定理を証明し，全体を理論的に体系づけた。この公理的な学問の組み立て方は，後世数学のみでなく，学問全般の模範とされたほど重要な意義をもつ。ギリシアの数学には《ストイケイア》のほかにも，ゼノンの逆理や無限の考えを用いたアルキメデスの求積法(面積などの求め方)など，近世の西欧の数学に大きな影響を及ぼしたものが数多くあるが，《ストイケイア》で代表される理論的数学は，古代ギリシアの最も著しい文化的所産の一つとされている。

〔自然科学と数学〕インド記数法は，13世紀の初めにアラビアを通ってヨーロッパに伝わり，17世紀までに体系的な位取り十進記数法として確立された。また，15世紀以来の印刷術の進歩によってギリシア古典の訳本が刊行され，実用算術なども普及し，大学における数学の研究も盛んとなり，17世紀には数学の大きな発展があった。その代表的なものとして，ガリレイの実証的な力学，デカルトの座標の考えによる図形と式との統合，ニュートンやライプニッツによる微積分学の発見などがある。

このような発展にはそれぞれその先導となる業績のあることはいうまでもない。たとえば，インド記数法の導入によって計算が発達し，16世紀には三次や四次の方程式の解き方が発見され，フランスのビエタによって文字を用いる代数学が系統づけられた。これによって，図形をもととして構成されたギリシア数学が数を重視する数学に変わり，図形と数・式を結びつけ図形の性質を数式を用いて調べるデカルトの解析幾何学が生まれたのである。

また，ニュートンが1687年に発表した主著《プリンキピア》は，ユークリッドの《ストイケイア》にならった構成で，力学の3法則と万有引力の法則から微積分学の方法を用いて，惑星の運動法則をみごとに導き出したものである。しかし，そのまえに天体観測の精密な記録があり，無限関数や求積問題における無限の積極的な利用などがあった。

17世紀の数学の飛躍的な発展によって，数学はユークリッドの《ストイケイア》で代表されるギリシア数学の伝統を越え，数の重要性や無限に対する積極的な意義を認めるに至り，実証的・合理的な研究方法の重視とあいまって自然科学における数学の重要性が確立された。そのためにかえって，近年まで数学は物理的な自然科学にだけ重要であると思われたほどである。なお，ライプニッツはニュートンとは独立に微積分学を発見したのであるが，そのすぐれた記号の使い方と関数の考えは，おもにヨーロッパ大陸の数学者に受け継がれて，大きく発展した。

〔公理的・抽象的数学〕18世紀は前世紀の数学がいっそうめざましく発展した時期であるが，やや無反省に無限の考え方を用いたために，ときには矛盾を生ずるようなことになった。19世紀には，その反省として数学の厳密な理論づけが行なわれ新しい数学が誕生して，現在の数学へと発展したのである。微積分学が発展して，数学の重要な部門である解析学となり，複素数の関数や微分方程式の研究が盛んになった。その基礎づけとして，数や関数についての考察から集合論が生まれ(→集合)，さらに，その理論を厳密にするものとして数学基礎論や数理論理学が発達し，コンピューターの数学的研究にも関連するようになった。

ユークリッドの平行線の公理が他の公理から導けないかという研究は，早くから多くの数学者によって行なわれたが，19世紀になって，平行線の公理を認めなくても幾何学(非ユークリッド幾何学)が構成されることが発見された。また，《ストイケイア》の公理の構成に多少不備な点があることが追求されて，さらに厳密に幾何学を構成する幾何学基礎論が生まれ，公理に対してそれの正しいことが明らかなものと考える立場から，さらに，理論を構成する基本的な仮定と考える立場に発展した。この考えは，20世紀の数学の大きな特徴となる。

また，19世紀に，五次以上の方程式は一般には代数的に解けないことが発見され(→ガロア)，その証明から生まれた群の考えは抽象的な代数学へと発展し，数学基礎論や集合論と関連してブール代数や論理代数といわれる分野も生まれ，公理的・抽象的であることが20世紀の数学の特徴であるといわれるようになった。

偶然的な事象を扱う確率論は，17世紀ごろに生まれたのであるが，20世紀になって確率論にも公理的・抽象的な方法が確立され(→確率)，その理論によって発展した統計学は各分野で広く活用されている(→統計)。〔小西勇雄〕

すうがくきそろん【数学基礎論】 数学の論理的基礎について研究する数学の一分科。特に数学の成立の基盤である数の本性の認識を中心とする。通常の数学の研究は，自然数の諸性質を論ずる算数と空間の諸性質を論ずる幾何学から出発して，さらに複雑で高級な諸部門に拡大発展する。だが，これとは逆の方向に発展する数学の研究がある。すべての数学は集合の概念を仮定し，そこでは集合の知識は常識的な未熟なままで用いられている。たとえば，3という自然数は，三つのリンゴの集合とか三つのバナナの集合とかいうような多くの三つの物の集合が共有している性質であるから，3の概念は集合の概念を仮定している。19世紀後半，従来の数学は集合概念を仮定していること，数学をより厳密な理論にするには集合の数学的理論(集合論)の研究が必要であること，数学は集合論によって論理的に基礎づけられることが明らかになった。しかし，主としてカントールによって創始された集合論からは種々の矛盾(集合論のパラドックス)が出現し，集合論自体をさらに基礎づける必要が生じた。集合論が仮定している数学は論理であるので，論理の数学的理論(→記号論理学)の研究が今世紀にはいってから急速に発展し，集合論をはじめとするすべての数学の理論を論理的に基礎づける論理的研究が新しい数学の分科として誕生した。これが数学基礎論である。数学基礎論には，純粋直観を数学的認識の

基盤とし，その結果，排中律の適用を制限する立場をとるブローウェルらの直観主義，意味論的な立場をとり，数学を論理学に還元しようとするフレーゲ・ラッセルらの論理主義，構文論の立場をとり，徹底的に抽象化(形式化)された演繹(えんえき)体系として数学をとらえるヒルベルトらのメタ数学(超数学)，すなわち形式主義の三つのおもな学派が存在する。しかし，数学的に複雑で困難な問題をかかえるために論理主義と直観主義は停滞し，現在は形式主義を基調とした立場が主流となっている。➔数理哲学　〔永井成男〕

すうがくきょういく【数学教育】 おもに学校教育における算数や数学についての教育をいう。特に，小学校の算数に限定した場合は，算数教育ということが多い。わが国の数学教育法〈第18条・5〉の〈日常生活に必要な数量的な関係を正しく理解し，処理する能力を養うこと〉という目標を達成するため，小学校の教育課程の中に教科としての算数を設けている。ほぼ同様な趣旨で，中学校・高等学校にもそれぞれ教科としての数学が設けてある。さらに，小学校・中学校・高等学校では，それぞれ学習指導要領(算数または数学)により，目標・内容などをきめている。初等中等教育における数学教育の総括的目標は，小中高で表現上に多少の相違はあるが，学習指導要領(昭和43～45年公示)によれば，〈事象を数理的にとらえ，論理的に考え，統合的・発展的に考察し，処理する能力と態度を育成する〉ことなどであるとしている。なお，高等学校における数学科は6科目すなわち〈数学一般〉〈数学Ⅰ〉〈数学ⅡA〉〈数学ⅡB〉〈数学Ⅲ〉および〈応用数学〉をもって組織される。また，理数科には〈総合数学〉〈計算機数学〉もある。

〔数学教育の歴史〕 数学教育の目標・内容・指導法は，時代や国に応じて変遷してきた。19世紀末までの欧米諸国における中等教育での数学教育は，おおまかにみて二つの目的によってささえられてきた。その一つは，教養的文化的目的を終始前面に押し出してきたことである。科学技術の進歩につれて実用的目的も加味されたが，教養的目的は根強く残っていた。もう一つは陶冶(とうや)的目的で，これはギリシア以来，数学教育を強力にささえてきたものである。数学によって練磨(れんま)された推理能力は，どこへでも転移するといった形式陶冶説への盲信，いわゆる数学で頭を練るという考えは，長く数学教育をささえてきた教育哲学であった。

〔20世紀の数学教育〕 今世紀の数学教育界では，二つの改革運動が特に目だつ。その一つは，20世紀初頭の汎(はん)世界的な数学教育改革運動(近代化運動ともいう)であり，他の一つは数学教育の現代化運動である。後者は今世紀の後半に起こり，現在なお進行中の改革運動である。近代化運動は，1901年イギリスのJ.ペリー*の講演を導火線に，アメリカのE. H. ムーアやドイツのF. クラインらによって主張されたものである。その強調点は，幾何教授の改良，数学の実用化・平易化，数学の分科の融合，実験室法の採用，関数観念の養成，空間観念の養成などであった。近代化運動は端的にいえば，17世紀の数学の精神と若干の内容とを中等教育に取り入れることであった。

〔数学教育の現代化運動〕 この運動の起こった要因としては，社会的には数学の応用範囲や有用性が顕著に増大したこと，数学自体の中でも従来とは著しく異質な進歩発達が起こっていること，また数学教育においても中等学校と大学の間に大きな飛躍が生じつつあることなどをあげることができる。1950年代になって，各方面から数学教育の現代化の必要が叫ばれ，特に1950年代の後半から，現代化のための具体的活動が活発になった。現代化運動の精神を端的にいうならば，現代数学の見方・考え方と若干の新しい内容を，できるだけ早い時機から教授していこうとするものである。この運動は，現在なお進行中である。具体化された案ではアメリカのSMSGやUICSM，イギリスのSMPなどが有名である。わが国の数学教育の変遷のうち，小学校では明治30年代の国定教科書《尋常小学算術書》(黒表紙)と数理思想の開発をねらった昭和10年代の《尋常小学算術》(緑表紙)の編纂(へんさん)，中学校では，関数や微積分を取り入れた昭和17年の要目改正が，時期を画したものとして目だつ。　〔杉岡司馬〕

すうがくげんり【数学原理】 ラッセル*とホワイトヘッド*の共著。3巻。現代数学の金字塔といわれる。数学の原理を論理学に求め，そこから純粋数学を構成しようとしたもので，自然数・有理数・実数まで扱われた。しかし，幾何学を取り上げる予定であった4巻目は未刊に終わった。この本は単に数学の分野に大きな影響を与えただけではなく，新しい論理学としての記号論理学の体系が確立される上にも決定的な力を及ぼしている。　〔寺中平治〕

すうがくじ【嵩岳寺】 中国，河南省の嵩山の南麓(なんろく)，太室山にある寺。北魏(ほくぎ)の宣武帝が509年に造営した離宮を，520年孝明帝が改めて寺とし，閑居寺(閑居寺)と名づけた。中国現存最古の塔である十二角十五層塔を建立(こんりゅう)し，僧徒700人がいた。北周の廃仏に際し，寺は道教の寺となったが，601年，隋(ずい)のときに復興して嵩岳寺と改められた。隋・唐時代には，北宗禅の中心地であり，現在は臨済禅に属している。　〔京戸慈光〕

すうがくてききのうほう【数学的帰納法】 自然数 n についての命題P(n)が，すべての自然数 n に対して真であることを証明する方法。完全帰納法ともいう。すなわち，①P(1)は真であること。つまり，$n=1$ のときこの命題が成立すること。②任意の自然数 k に対し，P(k)が真であると仮定するならば，P($k+1$)が真であること，である。①，②が証明されるならば，自然数 n を次々にどこまで大きくしてもこの命題はなりたつから，命題P(n)はすべての自然数 n に対して真であることが結論される。この証明法を数学的帰納法という。これは，ペアノ*の第Ⅴ公理(➔公理)に基づく。

〔数学的帰納法による証明の例〕 すべての自然数 n に対して，

$$P(n) \quad 1^3+2^3+3^3+\cdots\cdots+n^3 = \left\{\frac{n(n+1)}{2}\right\}^2$$

の真であることが次のように証明できる。

① $P(1) \quad 1^3=\left\{\frac{1\cdot(1+1)}{2}\right\}^2$

すなわち，P(1)は真である。

② $P(k) \quad 1^3+2^3+3^3\cdots\cdots+k^3 = \left\{\frac{k(k+1)}{2}\right\}^2$

が真であると仮定すると，

$$1^3+2^3+3^3+\cdots\cdots+k^3+(k+1)^3 = \left\{\frac{k(k+1)}{2}\right\}^2+(k+1)^3 = \frac{(k+1)^2(k+2)^2}{2^2} = \left[\frac{(k+1)\{(k+1)+1\}}{2}\right]^2$$

すなわち，P($k+1$)は真であるといえる。

以上，①，②により，$1^3+2^3+\cdots+n^3 = \left\{\frac{n(n+1)}{2}\right\}^2$ はすべての自然数 n について成立することが証明できた。　〔杉岡司馬〕

すうきけい【枢機卿】 カージナルの訳。カトリック教会で教皇の最高顧問。バチカンの教皇庁に居住する司教枢機卿・司祭枢機卿・助祭枢機卿と，イギリス・フランス・ドイツ・日本などに居住する在外枢機卿の別があり，教皇選挙権をもつ。1586年以来，定員は70名であったが，しだいに増員されて，現在は約100名。日本では1960年(昭和35)東京教区の土井辰雄(たつお)大司教がはじめて枢機卿に任命された。

すうし【数詞】 名詞の一種。数によって数量や順序を表わす語。数詞の種類としては，〈一つ・2匹・3人・4枚〉のように数量を表わす〈基数詞〉，〈第五・六つめ〉のように順序を表わす〈順序数詞〉(または〈序数詞〉)などがある。なお，〈本が2冊ある〉というように，数詞が副詞的に用いられることもある。➔助数詞

すうじ【数字】 数を表わす文字。現在最も広く使用されている算用数字0，1，2，3，4，5，6，7，8，9はインドで発見され，アラビアを経てヨーロッパへ伝えられたので，アラビア数字またはインド数

字とよばれる。アラビア数字は十進位取り記数法のための数字であるから，その特徴は数字０をもつこと，０から９までの10個の数字だけでどんなに大きな数でも，また，小さな数でも表わせることなどである。

数字は，国や時代によってさまざまなものが使用され，たとえば古代バビロニアでは楔形(くさびがた)文字，エジプトでは象形文字が用いられた。今日でも，ときどき用いられる数字に，ローマ数字がある。ローマ数字Ⅰ，Ⅴ，Ⅹ，Ｌ，Ｃ，……はそれぞれ１，５，10，50，100，……を表わす。わが国では，漢数字一(壱)，二(弐)，三(参)，四，……，十(拾)，百，千，万，……なども用いられる。〔杉岡司馬〕

すうじくこく【枢軸国】 第２次世界大戦で連合国と対立したドイツ・イタリア・日本・アルバニア・ブルガリア・フィンランド・ハンガリー・ルーマニア・スロバキア・スペイン・タイの諸国。特に緊密な協同行動をもちファシズム体制をとったドイツ・イタリア・日本をさしていう。ベルサイユ体制に不満をもち，アメリカ・イギリス・フランスなど資本主義先進国と対立し，反共国家としてソ連に対立，国際連盟から脱退したファシズム三国は，1936年10月独伊(どくい)枢軸，11月日独防共協定，1937年11月日独伊防共協定，1940年９月日独伊三国同盟により連帯を強め，第２次世界大戦を誘発した。〈枢軸〉という語は1936年10月ムッソリーニの〈全ヨーロッパ諸国が，協力と平和の意志で鼓舞され，等しく協力しうる枢軸〉に由来する。〔折井一彦〕

すうちせいぎょ【数値制御】 工作機械またはプロセス工業などにおいて，ディジタル方式によって制御することをいうが，狭義には鑽孔(さんこう)テープまたは磁気テープの指令によって工作機械を操作する方式をさす。すなわち，図面上のいくつかの点の座標を数値で表わし，これらの点の途中を直線あるいは円弧で近似する。このように各点の座標を数字によって表わし，送り速度などの数値的な情報とともに指令用テープに記憶する。加工の基本形式は次の三つに大別される。すなわち，①位置決め制御，②直線切削制御，③連続通路制御である。位置決め制御は穴あけなどの位置を決めるだけの制御，直線切削制御は直線状に切削する制御，連続通路制御は２点間の移動の経路も指定する制御で，旋盤などの場合に用いられる。数値制御の最大の長所は，一度指令用テープをつくっておけば均一の加工ができること，１台のコンピューターで複数台の工作機械の管理が可能なこと，の２点である。なお，プロセス工業において，計算機を用いて制御する方式をダイレクト-ディジタル-コントロール(DDC)とよんでいる。〔内山明彦〕

すうちよほう【数値予報】 気圧・気温・風など気象要素の初期の分布から，理論式をコンピューターで計算して将来の状態を予報する方法のこと。天気現象は大気の運動に支配されるので，地球上の大気の運動を表わす微分方程式を数値的に解いて天気を予報しようという考えは古くからあったが，近年高速度電子計算機の発明により実用化されるようになった。現在ではわが国をはじめ，世界の主要国でこの方法が採用されているが，天気予報の精度はいまだに不十分である。数値予報は時間的にはだいたい２日先まで，空間的には数百キロメートル以上の範囲である。さらに長期の予報や小規模の現象に適用することについては現在研究途上にある。天気予報も数値予報の発展によって，はじめて科学的軌道に乗ったといえるわけである。〔曲田光夫〕

すうていてい【崇禎帝】 ⇒毅宗(きそう)

すうでん【崇伝】（1569〜1633） 江戸初期の臨済宗の僧。字(あざな)は以心。金地院崇伝といい，1626年(寛永３)円照本光国師の号を贈られた。足利義輝(あしかがよしてる)の臣一色秀勝(ひでかつ)の子で，幼時から南禅寺の玄圃(げんぽ)に師事し，1605年(慶長10)南禅寺住持となり，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の朝鮮出兵のときに名護屋で外交のことにあたり，1608年徳川家康(いえやす)に召されて駿府(すんぷ)(静岡県)で外交文書をつかさどった。その間のことを記したものが《異国日記》で，当時外国に送った崇伝の起草にかかる文書の案文などを記録している。また駿府に金地院を建て，家康の命で寺院関係のことを処理し，次いで禁中並公家諸法度(きんちゅうならびにくげしょはっと)，紫衣(しえ)勅許の制，諸寺院法度の制定に参画するなど，外交・宗教行政など幕府の枢機に参与したので〈黒衣の宰相〉といわれた。また江戸にも金地院を建て，禅宗寺院を管轄する僧録に任ぜられた。日記《本光国師日記》は，公武社寺への法度，外交文書の案文，諸大名らとの往復書簡案など，幕府草創期における大小の事件を記録した重要史料である。〔岡山泰四〕

すうふくじ【崇福寺】 滋賀県大津市滋賀里町の見世山中にあった古代寺院。志賀山寺とも称する。668年(天智７)天智(てんち)天皇が近江大津宮(おおみおおつのみや)の東北山中に建立(こんりゅう)し，798年(延暦17)十大寺に列した。数回の火災のあと，1230年(寛喜２)園城(おんじょう)寺とともに炎上。遺跡からは金堂・講堂・小金堂・塔の遺構および舎利容器などが発掘された。1941年(昭和16)史跡に指定。

すうみついん【枢密院】 大日本帝国憲法で定められた天皇の諮問機関。大官僚や財界の長老などが任命され，皇室のこと，憲法の解釈，緊急勅令発布や条約について，また戒厳令をしく場合，教育に関する法令，栄典や恩赦のことなどについて天皇の諮問に答えるものであった。最初憲法草案の審議のために設けられたが，引き続いて憲法上の機関となった。ここにおいて保守勢力が，事実上の第三院として，政党内閣を抑制する役割を果たした。〔鈴木安蔵〕

すうめいとう【崇明島】 チョンミン島 中国，揚子江河口にあり上海(シャンハイ)市に属する島。面積710km²。揚子江の堆積(たいせき)作用によって形成された島で，唐代に砂州(さす)として現われ，宋(そう)代に現在のような島となった。漁業が盛んで，米・豆類・麦などを産し，中心集落崇明には紡織工場がある。明(みん)代には蘇州(そしゅう)に属し，のち太倉州に編入された。揚子江を航行する船舶は島の南方の水道を利用している。

すうりけいざいがく【数理経済学】 経済主体間の活動を数量的なモデルに表わして，モデルの数理的な展開によってこの活動を明らかにしようとする経済学のこと。この考え方では，人間の経済活動は計量化が正確になりたつものとして扱われ，数量的モデルに基づいて高度の数理的手法を用い，経済行動の諸目的達成の手段を明らかにしようとする。しかし，人間の経済活動の中には計量化しえない部分もあるから，その点で人間の経済活動の数量的モデル化には限界がある。現在では数理経済学は経済学の純粋理論の別名となり，経済の基礎理論の理解に欠かすことができないものになっている。〔藤枝省人〕

すうりてつがく【数理哲学】 数学に関する哲学。広義には，数学的な方法による哲学をもいう。数理哲学は，数をはじめ数学の諸概念を分析し，数学の構造・方法などについての認識論的な考察を中心とし，数学と他分野との違いや関係を明らかにして，科学全体の中での数学の位置づけを試みる。さらには数学に関連する存在論的・価値論的考察をも含む。数理哲学はピタゴラスやプラトンの時代にまでさかのぼるが，古典的数理哲学はカントおよび新カント派によって大きく進展した。現代の数理哲学は今世紀に至り，記号論理学・集合論の進歩とあいまって，分析哲学の立場に立つ科学哲学の一分野として成立した。このような現代の数理哲学と結びついて数学基礎論が成立し，現代の数理哲学によって，さらに数学基礎論の三つの立場の違いと関係が明確にされた。すなわち，論理的な分析を構文論的観点に限定した形式主義，さらにこれに意味論的観点も含めた論理主義，語用論的観点をも包含しようとする直観主義の三つの観点として統一的にとらえられた。現代の数理哲学では数学の認識論的側面に比べて，哲学として存在論・価値論の側面に関する研究は，問題が複雑であり，科学化が困難でもあり，ややもすると形而上学(けいじじょうがく)的独断論に陥る危険があるので，立ち遅れている。〔永井成男〕

すうれつ【数列】 ある規則に従って順序づけられた数の集合。一般に，a_1，a_2，……，a_n，……，または，簡単に$\{a_n\}$と表わす。その一つ一つを項，第n番目の項を

第n項といい，第1項を特に初項という。たとえば，となりあった2項の差が一定である等差数列，同じく比が一定である等比数列，その他いろいろな数列が考えられる。数列の項の個数が有限・無限であるに従って，それぞれ，有限数列・無限数列という。数列 $\{a_n\}$ について，任意のnに対して$a_n \geqq \alpha$となるαが存在するときは，αをこの数列の下界といい，この数列は下に有界であるという。同様に，任意のnに対して$a_n \leqq \beta$となるβが存在するときは，βをこの数列の上界といい，この数列は上に有界であるという。数列が上界と下界とをもつとき，その数列は有界であるという。さらに，数列$\{a_n\}$で，任意のnに対して，$a_n \leqq a_{n+1}$であるときは単調増加数列，$a_n \geqq a_{n+1}$であるときは単調減少数列といい，これらを総称して単調数列という。また，nを限りなく大きくするとき，a_nが一定の値aに収束*するとき，aをa_nの極限または極限値という。ある数列が有限でしかも単調ならば，その数列は一定の極限値をもつことになる。

数列　$a_1,\ a_2,\ a_3,\ \cdots\cdots,\ a_n,\ a_{n+1},\ \cdots\cdots$で，となりあう2項の差$\Delta a_n = a_{n+1} - a_n$を項とする数列$\Delta a_1,\ \Delta a_2,\ \cdots\cdots,\ \Delta a_n,\ \cdots\cdots$を，はじめの数列の階差数列という。はじめの数列からその階差数列をつくることができると同じように，初項a_1と階差数列とから

$$a_n = a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} \Delta a_k$$

としてはじめの数列をつくることができる。〔菊池兵一〕

すえき【須恵器】 祝部(いわいべ)式土器とも朝鮮土器ともいう。古墳時代後期から平安時代にかけて盛行した陶質土器。5世紀末ごろの日本に現われた。登窯(のぼりがま)で，1,000℃以上の還元炎で焼かれたため燃焼度は高く，硬質で灰色か青黒い。その製作は帰化工人を中心とした陶部(すえつくりべ)で，器形は坩(つぼ)・高坏(たかつき)・盤(さら)・甕(かめ)，各種の瓶(へい)などきわめて種類は多い。各地にその窯跡が残っている。

スエズ［Suez］ エジプト-アラブ共和国の北東端にある港市。人口36万8,000(1974)。スエズ運河*の南端，紅海側の門戸にあたり，都市の起源は古代エジプト時代という古い町であるが，スエズ運河の開通によって急速に発展した。運河沿いに運河北端のポートサイドと結ぶ鉄道があり，水陸交通上の重要な拠点となっている。市内には化学工業や精油工業なども発達しつつある。

スエズ(運河)［Suez］ エジプト-アラブ共和国北東部，アフリカとアジア両大陸の境界をなすスエズ地峡にある運河。地中海岸のポートサイドから紅海岸のスエズに至り，長さ171km。フランス人レセップスがエジプトの太守から特許を得，〈万国スエズ海洋運河会社〉を設立して1859年から建設にかかり，はじめはエジプトの奴隷労働力



スエズ運河　イスマイリア北方のエルカンタラ付近の船着き場。こちら側は現在イスラエル占領地区で対岸はアラブ連合

で，のち機械力を導入して1869年に完成した。通行には15時間ほどかかるが，アフリカ南端の喜望峰回りの航路に比べて，ヨーロッパ・アジア間は約10,000kmも短縮された。運河の開通により貿易・交通も大いに発展したが，西ヨーロッパ諸国のアジア・アフリカの植民地に対する支配力がいっそう強められることにもなった。1956年7月アラブ連合共和国は運河を国有化したため，同年10月から，これを阻止しようとしたイギリス・フランスとの間にスエズ動乱が起こったが，翌57年3月に停戦し，イギリス・フランス軍は撤退した。運河は一時アラブ連合のスエズ運河庁の管理下に置かれたが，1967年6月以降，中東戦争により運河の通航は止められている。〔大石堪山〕

スエズどうらん【スエズ動乱】 1956年7月エジプトのスエズ運河会社国有化に端を発する紛争。ナセル*大統領は年間1億ドルの運河収入を新アスワン-ダム建設にあてると宣言し，これに対して同社の株の大半をもつイギリスとフランスは軍隊を待機させる一方，24か国からなる運河利用国は8月ロンドンでスエズ国際会議を開き，運河収入の公正配当案などを盛ったアメリカ提案を採択したが，ナセルの猛反対にあった。この間イギリスとフランスは軍事的圧迫を続け，共同の軍事処置を協議した。国連安保理事会の調停も拒否権の行使とエジプトの欠席のため流産したとき，イスラエル軍は10月29日エジプトに侵入，イギリスとフランスは運河の自由航行権守備を口実に派兵した。11月，問題は国連総会に移され，国際警察軍の設置を採択，イギリス・フランス・イスラエル軍は運河地帯から撤退した。〔松下京子〕

すえつぐへいぞう【末次平蔵】（？～1630） 江戸初期の海外貿易家。長崎代官。本名は政直(まさなお)。博多(はかた)から長崎に移住し南洋各地と貿易した。豊臣秀吉(とよとみひでよし)や徳川家康(いえやす)から朱印状*を受け，その末次船は代表的な朱印船*の一つとなった。1616年(元和2)長崎代官村山等安と争って代官の地位を得，ことに台湾との貿易に努めた。その手代の浜田弥兵衛*(やへえ)が台湾でオランダ人と衝突した事件は有名。末次家は巨万の富を築いたが，孫の茂房(しげふさ)のとき密貿易が発覚して没落。〔高崎徳次〕

すえつむはな【末摘花】 4編4冊の川柳集。正しくは《誹風(はいふう)末摘花》。選者は似実軒酔茶とあるが本名は未詳。初編は1776年(安永5)刊。初代柄井(からい)川柳*の万句付(まんくづけ)と《柳多留*》の中の末番句(すえばんく)を摘録し，すべてが性生活に関する句になっている。このため，猥褻(わいせつ)だとして翻刻を禁止されたりもした。

スエード［suède］ 皮革の名称。子ウシ・ヤギ・シカなどの表皮をクロムなめしにし，裏面をサンドペーパーでこすって毛羽立てた高級皮革。毛足の長さはいろいろだが，細かいものは柔らかくしなやかでビロードのようなはだざわりをもち，染色もしやすく，手袋・婦人ぐつ・ハンドバッグその他衣料にも使われる。また，これに類似した外観の織物または編み地のものがある。毛羽立っているスエード皮は，しばしばバックスキン*と混同される。〔小池千枝〕

スエトニウス［Gaius Suetonius Tranquillus］（69ごろ～140ごろ） 古代ローマの伝記作家。ローマの騎士階級の生まれ。119～121年ごろ，ハドリアヌス帝の秘書をつとめた。退任後，著述に専念したらしい。作品には，テレンチウス・ホラチウス・ウェルギリウスをはじめ数多くの文学者の伝記を扱った《名士伝》，カエサルからドミチアヌスまでの歴代皇帝の生涯(しょうがい)をしるした《皇帝伝》などがある。彼以後，ローマの伝記文学は急速に衰えた。〔久保正彰〕

すえのちぎり【末の契】 生田流地歌・箏曲(そうきょく)の曲名。作詞は後楽園明居，作曲は松浦検校(けんぎょう)。箏の手つけは八重崎検校・浦崎検校。箏は平調子，三味線(しゃみせん)は三下り。前唄(まえうた)～手事～後唄(あとうた)の手事物形式で，たよりない身を波間に漂う小船にたとえて歌う。山田流でも演奏される。

すえはるかた【陶晴賢】（1521～1555） 戦国時代の武将。初名隆房(たかふさ)。周防(すおう)(山口県)の大内義隆*(よしたか)の家臣であったが，1551年(天文20)義隆を殺し，大友宗麟*(そうりん)の弟晴英を養子に迎えてみずから国政をとったが，1555年(弘治1)厳島(いつくしま)の戦い*で毛利元就(もとなり)に敗れて自刃。

すえひろいずたろう【末弘厳太郎】（1888～1951） 民法・労働法学者。大分県生まれ。東京大学卒業。フランス・アメリカなどに留学し，帰朝後，東大教授となり，民法学講座を担当。1946年(昭和21)退官後，中央労働委員会*の初代会長となり，ことに，労働諸法の必要性を早くから認め，わが国の労働法学の開拓者として貢献。また，従来民法学を支配していた条文中心の注釈法

学を批判し，社会生活の中に実際に存在する法を重視すべきことを新しく提唱した。主著に《物権法》《農村法律問題》などがある。〔吉田善明〕

すえひろがり【末広がり】 狂言*の曲名。大蔵流・和泉(いずみ)流にある。脇(わき)狂言・果報物。大果報者(金持ち，シテ)が正月の引き出物に末広がり(扇)を進上しようと，太郎冠者(かじゃ)を都へ求めにやる。末広がりが何であるかを知らない冠者が，都の物売りをまね，〈末広がりを買おう〉と呼び歩いていると，すっぱ(詐欺師)が呼び止めて，古がさを末広がりだと言いくるめ，高価に売りつける。注文の品を手に入れたと思った冠者は喜んで帰宅するが，主人はその愚かさに立腹しあきれはて，冠者を追い出してしまう。やっとだまされたことに気づいた冠者は，すっぱが主人のきげんをなおすためにと教えてくれた謡(調子のよい，人を浮かれさせるような謡で，囃子(はやし)物とよばれる)をくり返しうたううちに，主人もその調子に浮かれだし，ついに冠者を許して呼び入れ，めでたく終わる。正月には最も多く上演され，また，祝宴にはつきものの狂言。全体に漂うめでたい気分が特色となっているが，ことに終結の部分で，大果報者が冠者の囃子物でしだいに浮かれていくありさまが脇狂言にふさわしい。〔片桐 登〕

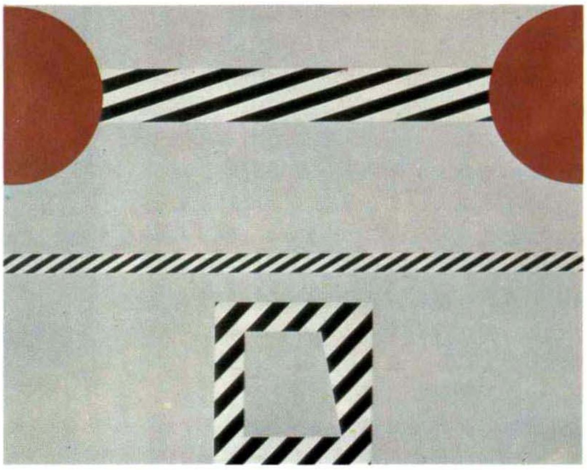
すえひろてっちょう【末広鉄腸】(1849～1896) 政治家・小説家・評論家。伊予(いよ)(愛媛県)の生まれ。《東京曙(あけぼの)新聞》《朝野新聞》《国会》などの紙上で言論の自由の要求をはじめ藩閥政府攻撃の筆をとった。1881年(明治14)自由党結党に参加，1890年第1回衆議院議員選挙に当選。国会開設への期待をこめた処女作《二十三年未来記》をはじめ，風俗小説的傾向をもった《雪中梅》《花間鶯(かかんおう)》の連作など政治小説*に健筆をふるった。

すおう【蘇芳・蘇方・蘇枋】 双子葉植物・マメ科。インド・マレー地方原産の落葉高木で，高さ5mほど。葉は2回羽状複葉で約10対の羽片からなり互生する。花は黄色で枝先に集まって円錐(えんすい)状に咲く。豆果は赤色，長楕円(だえん)形で，長さ6～10cm。材は赤かっ色でブラジレインという色素を含み，古来赤色植物染料(蘇芳染め)として用いられた。

すおう【素襖】 武家式服の一種。素袍とも書く。室町時代後半に現われた直垂*(ひたたれ)の簡略化したもの。地質は麻で労働をするのに便利なようにそでやはかまを短く仕立て，胸ひも，菊綴(きくとじ)は皮でできている。元来は裏のない下級武士の常服であったが，戦国時代には大名も着用し，江戸時代になると将軍御目見(おめみえ)以上の武士の式服となった。



素 襖
《装束着用図》
(部分)



菅井汲《作品》1969



スガイ

すおう【周防(国)】 山口県の南東部の旧国名。防州。山陽道に属する。大化改新前の周芳(すは)・大島・都怒(つの)3国造(くにのみやつこ)の地を合わせて周防国とした。7世紀末周防総領が置かれ筑紫(つくし)総領とともに関門地方の鎮護にあたった。もと吉敷(よしき)・佐波(さば)・都濃(つの)・熊毛(くまげ)・玖珂(くか)・大島の6郡。現在は山口・防府(ほうふ)・徳山・岩国など7市と上記6郡とに分かれる。国府・国分寺の所在地は防府市。鎌倉時代には東大寺造営料国として守護は置かれなかったが，大内満盛(みつもり)の子孫が周防権介(ごんのすけ)を世襲した。室町時代に大内氏*が守護となり，当国および長門(ながと)・豊前(ぶぜん)などの諸国の守護を兼ねた。その後陶(すえ)氏を経て毛利氏の支配するところとなり，近世には長門萩(はぎ)の毛利氏*の管下に岩国・徳山の2支藩が置かれた。幕末，1862年(文久2)毛利氏は萩から山口に帰り，維新後，山口・岩国の2県を経て山口県となり，現在に至る。〔黛 弘道〕

すおういろ【蘇芳色】 色名。やや赤みをおびた，鈍い赤紫色。本来は蘇芳染めによる色であり，媒染剤の違いによって紫から赤までの異なる色相の蘇芳色となる。上代からの古い色名で，普通に蘇芳色というときは，あく媒染によるやや赤みの鈍い赤紫をさす。蘇芳染めはすおう*の心材を煎出(せんしゅつ)し，その煎汁(せんじゅう)と媒染剤とによって染められる。この際媒染剤にあくを用いれば赤みの赤紫色となり，ミョウバンを用いれば赤となる。近世に至ってからは，鉄媒剤によりやや暗い紫色が染め出され，〈にせむらさき〉とよばれた。蘇芳の主要色素はブラジレインである。〔武井邦彦〕

すおうおとし【素袍落・素襖落】 狂言*の曲名。大蔵流・和泉(いずみ)流にある。小名物。太郎冠者(かじゃ)狂言。伊勢(いせ)参宮を思い立った主人は，太郎冠者(シテ)を呼び出し，かねて同行を約束していた伯父(おじ)にその旨を知らせにやる。伯父は急のことで行けないと返事をし，供をするのかと冠者に問う。その件は口止めされていたのでことばを濁すが，察しのよい伯父は門出の酒をふるまう。酔いの回った冠者は伯父をほめ主人をけなして気炎をあげ，祝儀の素袍をもらって上きげんで帰途につく。あまりのおそさに出迎えにきた主人は，このありさまを見て苦りきるが，冠者がごきげんのあまりつい取り落とした素袍を拾うと，ふたりの立場は逆転する。やがて主人が拾った素袍を見せると，冠者はそれを取り返して逃げていく。和泉流では主人が素袍を持ってはいるのを冠者が追い込む。冠者がふるまわれた酒で上きげんとなり，善良な性格を示すところが眼目といってよく，にぎやかで楽しい曲である。〔片桐 登〕

すおうなだ【周防灘】 瀬戸内海の最西部を構成し，中国・九州にはさまれて北・西・南の三方を山口・福岡・大分の各県に限られた海域。東は姫島と祝島とを結んだ線で伊予灘(いよなだ)に接し，西は関門海峡に通ずる。東西93km，南北37km，水深50m以浅，東部が最も深く，西方へ漸次浅くなる。沿岸を除いて島がなく，潮流は緩慢で流れがおそいので，沿岸河川の堆積(たいせき)作用が著しい。沿岸には古くから山口県(周防)側に室津(むろつ)・室積などの港が栄え，いまは宇部・防府(ほうふ)・徳山などの港湾と臨海工業地が発達している。〔山口恵一郎〕

すがい【酢貝】 軟体動物・腹足類・リュウテンサザエ科。殻高(かくこう)・殻径とも3cmほどになる巻き貝で，殻表は緑かっ色，殻質はかたくて厚い。殻口には丸くて厚い石灰質のふたがある。ふたの外側はややふくらみ，一部に暗緑色のある白色で，内側は平滑でかっ色。北海道以南の潮間帯に普通に産する。ふたを酢に入れると炭酸ガス

のあわを生じて浮き，くるくると回るのでこの名がある。

ずがい　【頭蓋】 ⇨とうがい

すがいくみ　【菅井汲】 (1919～　) 洋画家・版画家。兵庫県芦屋(あしや)市の生まれ。1952年(昭和27)無名画家として渡仏，1954年パリでの個展に成功。その後は各種の国際美術展に受賞し，日本的感覚を生かした現代作家として国際的に認められた。

スカイ-ダイビング　［sky diving］　パラシュート競技のこと。航空機から降下し，目標地点上の超低空・低空までパラシュートを開かずに降下して，目標により正確に着地する。第１次世界大戦末期から軍事用の目的でパラシュート降下は研究されていたが，1930年代にソ連でスポーツとして普及，それが各国に広まった。1951年以来，世界航空連盟(FAI)主催で２年おきに世界選手権大会が行なわれている。競技方法には，個人と団体に分かれ，それぞれ目標着地の正確さを競うものと，空中の各種動作(左方旋回・後方宙返り)などのわざを競うものとがある。このスポーツは高度の技術を要するためライセンス(降下技能章)が定められている。なお，競技会で用いられるパラシュートは，パラコマンダーなど非常に操縦性の高いものが開発されている。

〔浮田裕之〕



スカイ-ダイビング　カリフォルニア上空を遊泳するスカイ-ダイバー

すがえますみ　【菅江真澄】 (1754～1829) 江戸中期の国学者・紀行家。本名白井秀雄(ひでお)。三河(みかわ)(愛知県)の人。賀茂真淵*(かものまぶち)門の植田義方(よしかた)に学ぶ。28歳のときから，信州・奥羽・蝦夷(えぞ)・千島の各地を巡遊，風土・民俗を観察して文筆と彩色画に記録し，秋田角館(かくのだて)に客死した。その数百巻に及ぶ記録は《真澄遊覧記》と総称され，民俗資料として尊重される。

すががき　【菅垣】 日本伝統音楽の用語。〈清掻〉とも書く。和琴(わごん)および楽箏(がくそう)の奏法の名称として使われたのがはじめで，その後，純器楽としての俗箏(たとえば《六段菅垣》)，箏曲に由来すると思われるリズミカルな尺八の曲などをも意味するようになった。さらに，三味線(しゃみせん)では箏の手を移した軽快なリズム型が同じ名称でよばれ，遊女に関連のある情景を描写するのに使われる。

すかがわ　【須賀川(市)】 福島県中通り南部の市。人口56,000。近世初期までは二階堂氏の城下町，江戸時代には陸羽街道の宿場町・市場町として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。市域は郡山(こおりやま)盆地の南部を占め，阿武隈(あぶくま)川とその支流釈迦堂(しゃかどう)川が南から北へかけて貫流する。釈迦堂川に沿う北部低地には須賀川駅周辺の中心集落があり，台地上に住宅地区がある。産業三大別人口比は30：32：38。県南地方の米や野菜を集散し，ナシ・モモ・リンゴなどの果樹やタバコの栽培が盛んで，そうめんの特産もある。日本専売公社の刻みたばこ工場をはじめ，製糸・印刷・機械などの工場があり，北接する郡山市や南東方のいわき市とともに1964年常磐(じょうばん)郡山地区新産業都市に指定された。東北本線，国道４号線・118号線に沿う。乙字滝(おとじのたき)の名所があり，また200種を越えるボタンを植えた牡丹園(ぼたんえん)はわが国第１といわれる。

ずがく　【図学】 空間にある点・線・面・立体の相互関係を作図によって調べる数学の一分野。図法幾何学(画法幾何学)ともいう。フランスのモンジュ(1746～1818)によって創造された。平面図形を扱う部門を平面図学，空間図形を扱う部門を立体図学という。立体図学は空間における点・線および面などの位置関係を考究し，立体を平面上に描き表わすもので，製図の基礎になる科目である。

スカゲラク(海峡)　［Skagerrak］　スカンジナビア半島のノルウェーの南端部とユトランド半島の間の海峡で，最深部は約800m，幅約130km，長さは約240km。西は北海，東はカテガト海峡を経てバルト海に通ずる。北岸にノルウェーの首都オスロがあるほか，沿岸には捕鯨船団の基地として知られるサンネフヨル，ラルビクなどの港がある。

ずがこうさく　【図画工作】 小学校の一教科。1947年(昭和22)〈学校教育法〉の制定のもとに学習指導要領*が作成され，これに基づいて小・中学校の図画工作教育が行なわれることとなった。それまでは，1941年公布の〈国民学校令〉によって，芸能科図画・芸能科工作とよばれていた。図画工作教育の同義語として美術教育ということばがあるが，前者が一般にはおもに小学校や中学校の普通教育課程における美術教育をさすのに対し，美術教育と称するときは，幼児から専門の美術家養成の教育に至るまで広義に解釈されるのが普通である。図画工作教育は，図画教育と工作教育というように分離して扱われていたものをあわせたものでなく，図画工作が一体となって，児童生徒の造形感覚や造形能力を豊かに拡張し，造形的な表現と鑑賞の学習を通して，創造力の育成をめざすものである。学習指導要領はその後1951年，1958年に改訂され，現行のものは1968年(中学校69年)に改訂されたが，1958年改訂の際，中学校の図画工作科は美術科と改称，それまでの工作的なものは，技術科に吸収された。したがって，図画工作の名称は現在は小学校のみで使われている。現行のものは，1971年４月から実施(中学校は72年)されているが，その目標は造形活動を通して美的情操を養う，創造的表現能力を伸ばす，技術を尊重し造形能力を生活に生かす態度を育てる，と示されていて，その領域は，全学年を通じて，絵画・彫塑・デザイン・工作・鑑賞の五つに定められている。図画工作の教育では図画とか工作の区別なく，心象に基づく表現(絵画・彫塑)と機能的表現(工作・デザイン)とをおもに学び，造形の基礎的学習としての色や形の学習，材料・用具の取り扱いの学習を行ない，さらに鑑賞力をつちかうことによって，いっそう創造的表現の能力を伸ばすことをめざしている。〔藤沢典明〕

すかしば　【透翅蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・スカシバ科の総称。前翅と後翅の両方かその一方の翅(はね)に鱗粉がなく透明なため，この名がある。前翅は幅が狭く，触角は多くの場合棍棒(こんぼう)状で，先端に小さな毛の束をもち，腹部の先端には鱗毛の束がついている。昼間活動性で，飛び方は速く，多くはスズメバチ・ミツバチ・ヒメバチなどに外形が似ており，擬態の例とされている。100種をこえる種類が旧北区*に分布し，日本には30種内外が知られている。幼虫は白色または半透明で，毛はほとんどない。樹木の幹や植物の根を食い，その中でさなぎとなるが，成虫になるまで普通は２年かかる。樹木の害虫として知られるものがあり，ブドウスカシバは５～６月に出現し，幼虫がブドウ・エビヅルに食入し，ときには枯死させることもある。コスカシバは６～10月に発生し，幼虫はサクラ・モモ・リンゴ・ナシなどの樹皮下にすんで食害する。カシコスカシバはカシの，カキスカシバはカキの害虫である。〔多々内修〕

すかしぼり　【透彫り】 彫刻の技法の一。彫金では鋳物や打ち物などに文様を切り透かす手法をいう。古墳時代の装身具やウマの装飾具や，刀の鐔(つば)などにもその遺品がみられる。仏像や仏教荘厳具(しょうごんぐ)がつくられるようになって，その技巧は精巧になり，仏像の装飾金具や光背などにこの技法が駆使されている。東京国立博物館蔵(法隆寺献納宝物)の《金銅灌頂幡(かんじょうばん)》は代表的な作といえる。平安時代にはいると，木を素材にした透彫りの技法も発達を遂げた。平等院鳳凰堂(ほうおうどう)の天蓋(てんがい)の一部には薄い木の板に表と裏から宝相華の文様を透彫りにしたものがあるが，木彫透彫りの優作である。➔次頁(写真)

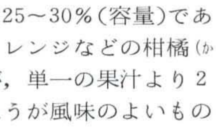
すかしゆり　【透百合】 単子葉植物・ユリ科。本州の海岸の砂浜や山野のがけに自生する多年草で，古くから栽培され，園芸品も多い。鱗茎(りんけい)は卵形で地中深く埋もれる。茎は高さ30～60cm。葉は長さ10cmほどの披針(ひしん)形で，多数が互生し，上面に光沢がある。6～8月茎頂に1～3個の花を上向きにつける。花被は6枚で赤かっ色ないし赤朱色で黒かっ色の斑(ふ)があり，基部が細まるので花被の間にすきまができる。近縁のものに東北地方・北海道に自生し，茎の下部が地中で横にはうエゾスカシユリがある。

すがだいら　【菅平】 長野県の北東部，群馬県境にそびえる四阿(あずまや)山の西南麓(ろく)斜面の高原。中心の標高はほぼ1,250mで，大部分は草原と牧場からなっており，またキャベツ・白菜・種ジャガイモなどの高原野菜もつくられている。また冬のスキー場として知られ，夏のキャンプにも訪れる人が多く，ホテル・ロッジ，高原生物研究所や体育研究所などもある。上田・須坂(すざか)・長野からバスが通じている。上信越高原国立公園に属する。　〔高野　繁〕

スカッシュ　[squash] 天然果汁(かじゅう)に砂糖と炭酸水を加えた飲み物。スカッシュ中の果汁含量はふつう25～30％(容量)である。果実はレモンやオレンジなどの柑橘(かんきつ)類が用いられるが，単一の果汁より2種の果汁を調合するほうが風味のよいものが得られる。

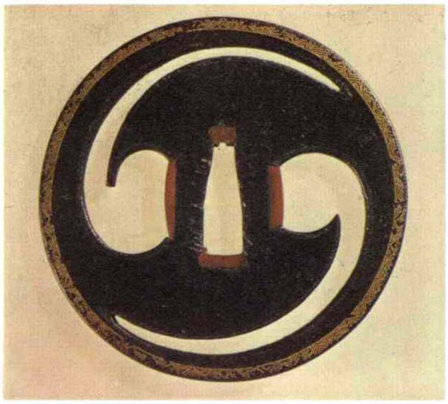
スカート　[skirt] 女性が下半身にまとう衣服。単独の場合とワンピースドレスやコートなどのウエストからすそまでの部分をさす場合とがある。例外としてはキルト*などがある。女性の衣服の中では最も古い。古代エジプトから中世までは布地を上下同寸法の筒形に縫ったものであったが，13世紀にはダーツなどの立体化の技術が発達ししだいに実用面から装飾化され，18世紀のロココ時代はその最高潮を示した。モードの変遷によってたけやすそなどの変化はあるが，タイトスカート・フレアスカート・プリーツスカート・ギャザースカートなどが基本的なもので，構造上・縫製上などで分類されている。　〔小池千枝〕

スカトール　[skatole] C_9H_9N　3-メチルインドール，β-メチルインドールともいう。糞便(ふんべん)中やニレ科・クスノキ科の植物の木材，



コールタールなどに含まれるかっ色をおびた鱗片(りんぺん)状結晶。アミノ酸の一種トリプトファン*の分解によって生成される。不快な糞臭を呈するが，希薄な状態では芳香を呈し，精油エキスなどの変調剤として香料の調合に用いられる。

すがのじょゆう　【菅野序遊】 一中節*の代表的な三味線(しゃみせん)演奏家。初世(1756～1823)は河東節*の出であるが，5世一中と組んで，一中節の再興に努力した。その子2世(1784～1841)は菅野派として独立。4世は明治・大正の名人として名高い。現在は5世。



透彫り　古正阿弥《二巴透鐔》 室町～桃山時代　東京国立博物館蔵



スカシユリ



スカラ座

スカーフ　[scarf] えり巻きの一種。正方形・長方形・三角形の布のこと。首に巻いたり，頭にかぶったり，ウエストに巻いたりして元来は防寒に用いたが，今日では装飾的効果が主目的である。編み物のもあるが，ふつう薄地の絹で無地またはスカーフ専用のがらづけがしてある。ショールやストールと混用されながら今日に至っている。

すかゆおんせん　【酸ケ湯温泉】 青森県青森市，八甲田山のふもとの標高900mの高地に位置する温泉。泉温48～65℃。泉質は含セッコウ酸性硫化水素泉・酸性リョクバン泉などで，婦人病・皮膚病・神経病にきくといわれる。付近には高山植物が多い。夏は登山，冬はスキーの基地となり，十和田湖への観光客でもにぎわうが，近在の湯治客も多い。交通は東北本線青森駅から国鉄バスの便がある。

スカラー　⇨ベクトル

スカラざ　【スカラ座】 イタリアのミラノにある世界的な歌劇場。オーストリアの皇后マリア-テレジアの命によってサンタ-ルチア-デル-スカラ教会の跡に建設したので，スカラ座といわれている。1778年に開場し，1867年に改造され，さらに1921年に改修された。1943年に空襲で破壊されたがすぐに再建され，1946年にトスカニーニ*の指揮する歌劇で新しいスタートを切った。座席数は3,600で，ヨーロッパでも格式の高い歌劇場である。　〔向坂正久〕

スカラベ　[scarabée] こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科の甲虫。特異な生活史をもち，ファーブルの《昆虫記(こんちゅうき)》(1879～1907)にそれが紹介されている。母虫が獣糞(じゅうふん)をまるめて球にして土中に掘った穴に運び，それに産卵し，孵化(ふか)した幼虫はその糞を食べて成長する。母虫が糞の球を運搬する際に，さかさになって後脚を使って球をころがすために，タマオシコガネとよばれる。最も有名なものはエジプト・エチオピアなど北アフリカに分布するもので，体長40mmに達し，全体黒色で堅固な甲虫である。古代エジプトでは，ナイル川が氾濫(はんらん)して上流地帯から肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)を運んでくると，その直後にこの甲虫が多数出現するために，豊作をもたらす聖なる虫としてあがめられた。タマオシコガネのような獣糞を食物とするコガネムシ類は，フンチュウ(糞虫)とよばれ，多くの種類がある。日本にも多数が知られるが，糞球をころがすタマオシコガネ類は1種も分布していない。〔鈴木邦雄〕

スカラベ　[scarabée] スカラブともいう。古代エジプト人が好んで用いた護符の一つで，スカラベ(前項)をかたどったものといわれている。この甲虫がころがしてつくる糞球に生みつけられた卵から幼虫が生まれるところから，〈ひとりでに生まれる〉ものと誤られ，宇宙の創造神と結びつけて太陽神ケペリの象徴となり，再生と永生をもたらす護符とされたものである。ミイラ*製作に際しては，とりだした心臓の代わりに納められた。護符のほか装飾品や印章としても用いられている。材質は石・玉・陶などがある。　〔屋形禎亮〕

スカル　[scull(skull)] 両手に1本ずつもってこぐ短くて軽いオール，またこれを用いる競技用ボート。シングル-スカル(1人乗り)とダブル-スカル(2人乗り)がある。➔ボートレース

スカルドし　【スカルド詩】 中世北欧の詩。〈スカルド〉は宮廷詩人の意。《エッダ*》の詩が作者不詳なのに対し，これらは作者

名が明らかで，主として王たちの偉業をたたえる内容のものが多い。紀元800年前後より盛んとなり1300年ごろまでに約250人のスカルドの名が記録されている。その代表的な詩人は，エイイットル-スカラグリムソン*で，自分の命を代償とした《身受けの詩》は有名。

スカルノ ［Achmed Sukarno］（1901～1970） インドネシア共和国前大統領。東部ジャワのブリタル出身。バンドン工科大学建築科卒業。1927年国民党を結成，オランダに対する独立運動を展開し，1929年オランダ官憲によりフロレス島に流刑されたが，1942年日本軍により釈放され，インドネシア独立準備会会長となり，1945年独立を宣言，大統領となる。1948年オランダとの闘争で再び逮捕され，翌年釈放。1950年初代インドネシア共和国大統領として正式に就任。1956年指導民主主義論を掲げ独裁制を強化し，1960年5月，議会を解散，新議会は大統領の任命制とした。また同月，レーニン平和賞受賞。1963年5月，暫定国民協議会の決定により終身大統領となったが，1965年9月30日のクーデター事件で共産党をかばったとして，翌年7月，終身大統領の地位を剝奪(はくだつ)され，さらに1967年3月大統領の地位も失い，政治活動を禁止された。1968年9月以来，デビ夫人邸(ヤソオ宮殿)に居住，政治生活から完全に遠ざかった。〔吹浦忠正〕

スカルラッティ ［Alessandro Scarlatti］（1660～1725） イタリアの作曲家。1679年にローマで最初のオペラ《生き写しの人》によって成功を収め，オペラ作曲家としての道を歩み始める。その後ナポリに移り，サン-バルトロメオ劇場の指揮者，次いで宮廷楽団楽長の地位につくかたわら，数多くのオペラを作曲。1703年にはローマのサンタ-マリア-マジョーレ寺院の副楽長，続いて楽長となり，ここで宗教的作品が多く生まれた。1709年再びナポリで宮廷楽団楽長の地位につき，ナポリで死亡するときまで，ローマやナポリで多数のオペラを作曲・上演した。彼はモンテベルディ*に始まる17世紀ベネツィア楽派の方向を徹底的に推し進め，18世紀のナポリ楽派への橋渡しをすると同時に，この派の創始者となった。彼が開拓した新しい様式には，〈急～緩～急〉のイタリアふう序曲のスタイル，歌手の技巧を最大限に発揮させるダ-カーポ-アリアの形式などがある。特に後者は，その後ナポリ楽派オペラの一つの特徴となった。彼の作品のうち重要なものは，100曲以上のオペラおよび数多くの室内カンタータである。〔寺田兼文〕

スカルラッティ ［Domenico Scarlatti］（1685～1757） イタリアの作曲家・チェンバロ奏者。アレッサンドロ-スカルラッティ*のむすこ。オペラ作曲家として出発した。1708年ごろヘンデル*を知り，オルガンとチェンバロの技量を競った。1709年ローマでポーランドの王妃マリア-カジミーラに仕え，1715年には教皇庁のジュリア礼拝堂の楽長。1719年ロンドンで自作のオペラを上演した。その後リスボンで宮廷楽長として仕え，王女にチェンバロを教え，彼女のためにチェンバロ-ソナタを500曲以上作曲した。作品としては，オペラをはじめオラトリオ・カンタータなどがある。しかし，彼は〈近代的クラビーア奏法の父〉といわれるとおり，特にこの楽器のためのロココ的なソナタに秀作が多い。〔寺田兼文〕


スカルノ

スカルン ［skarn］ 石灰岩*やドロマイト*が接触変成作用や交代作用*を受けて，カルシウムを含む種々のケイ酸塩鉱物の集合体に変わったもの。種々のキ石*族の鉱物やカクセン石*族の鉱物のほか，ケイカイ石*・ザクロ石*・リョクレン石*などがおもな構成鉱物である。スカルンの中には，ジテッ鉱*・オウドウ鉱*などの鉱石鉱物を多量に伴って鉱床を形成しているものも少なくない。

スカーレット ［scarlet］ 色名。わずかに黄みをおびた，あざやかな赤色。ヨーロッパには古くからあり，エンジ虫から採取する色とされるが，今日ではコールタールから人工的・化学的に精製される。わが国では一般に緋色(ひいろ)と訳されているが，いわゆる緋色よりやや彩度の高い色といえよう。日本工業規格(JIS)慣用色名〈スカーレット〉は，色相7.0R，明度5.0，彩度14.0の色と規定されている。→色

スカロン ［Paul Scarron］（1610～1660） フランスの詩人・小説家・劇作家。早くから僧職につき，病気によっていざり同様の生活をしいられたが，生涯(しょうがい)軽妙洒脱(しゃだつ)な精神をもち，人生の真実をこっけいの中に追求した。いわゆるビュルレスク(道化)派の創始者。有名な小説《こっけい物語(ロマン-コミック)》は17世紀写実小説の傑作であり，ほかに詩集《戯作ウェルギリウス》などがある。

すがわらし 【菅原氏】 奈良末期以来の名族。本姓土師(はに・はじ)氏。781年(天応1)居地にちなんで菅原氏を賜わり，790年(延暦9)には朝臣(あそん)姓を賜わる。学者を輩出し，道真(みちざね)は右大臣に上った。彼の失脚後再び子孫が取り立てられ，大江氏*とともに文章博士を世襲した。高辻(たかつじ)・東坊城・唐橋(からはし)・清岡・桑原(以上公家)，西高辻(天満宮宮司)・前田(武家)の諸家はその子孫である。

すがわらたかすえのむすめ 【菅原孝標女】（1008～1060？） 平安朝の日記作者・歌人。《更級(さらしな)日記*》の作者として著名。藤原定家*は，《浜松中納言物語*》《夜の寝覚(ねざめ)》なども彼女の作と伝える。菅原家は学問の家がらであったが，父孝標は遠国回りの地方官吏として終始した。母は藤原倫寧(ともやす)の娘で，《蜻蛉(かげろう)日記*》の作者の妹。10歳のとき父の任国上総(かずさ)(千葉県)に下り，13歳で上京，少女時代は物語の世界にあこがれるが，のち，いろいろと不如意の現実に当面して現実意識に目ざめ，晩年はひたすら信仰生活を送ったという。33歳で橘俊通(たちばなとしみち)と結婚したが，51歳のおりに死別。《更級日記》からうかがわれる彼女の生活態度は，つつましく誠実であるが，一面きわめて浪漫的な心情を有していたと考えられる。〔安西迪夫〕

すがわらでら 【菅原寺】 奈良市菅原町にある法相(ほっそう)の寺。東南院・喜(奇)光寺または観喜光寺ともいう。平城京*時代の右京三条三坊の位置にあたる。開基は行基*で，創立年代については諸説があるが721年(養老5)野見宿禰(のみのすくね)の子孫菅原氏の住地に乙丸(おとまる)という人が行基を迎え入れ，阿弥陀仏(あみだぶつ)を安置したのに始まったとする説が有力である。行基開創の49か所の寺院中随一とされ，749年(天平21)行基は当寺の東南院に入寂した。1275年(建治1)西大寺の叡尊*(えいそん)がここに住して律宗を弘布(ぐぶ)。古くから興福寺*一乗院の末寺で，鎌倉末期から室町初期にかけて，一乗院門主隠住の寺となった。江戸時代の寺領30石。現在の本堂は室町時代の建立(こんりゅう)であるが，天平創建の趣を伝えた二重の楼閣式建築で，随所に古式がみられる。〔高崎徳次〕

すがわらでんじゅてならいかがみ 【菅原伝授手習鑑】 浄瑠璃(じょうるり)の題名。通称《菅原》。竹田出雲*(いずも)・三好松洛(みよししょうらく)・並木千柳の合作。1746年(延享3)竹本座*初演。菅丞相(かんじょうしょう)こと菅原道真*(みちざね)が政敵藤原時平*の讒言(ざんげん)によって筑紫(つくし)へ流罪となり，のち雷神に化して時平を取り殺し，北野天神に祭られたという事跡・伝説を脚色した。全5段の構成で，丞相に恩を受けた百姓白太夫(しらたゆう)，その子梅王丸・松王丸・桜丸の三つ子兄弟，書道の弟子(でし)武部(たけべ)源蔵らが中心になって活躍する。桜丸が皇弟斎世(ときよ)親王と道真の娘刈屋姫との恋を取り持つ〈加茂堤〉，源蔵が幼君菅(かん)秀才を守護して去る〈筆法伝授〉(以上初段)，筑紫へ向かう途中の道真が木像の奇瑞によって時平方の刺客からのがれる〈道明寺〉(2段目)，道真方の梅王と桜丸が，時平に仕える松王と争う〈車引〉，桜丸が道真失脚の責めを負って自害をする〈賀の祝〉(以上3段目)，悪人と見えた松王





菅原伝授手習鑑　(左)〈車引〉の段。三つ子の兄弟が出そろうはなやかな場面。文楽の舞台から　(右)〈寺子屋〉の段　有名な首実検の場，松王丸は複雑な心理描写を必要とするむずかしい役とされている。歌舞伎の舞台から

がわが子小太郎を菅秀才の身代わりに立てる〈寺子屋〉(４段目)などがおもな場面で，歌舞伎(かぶき)にも移され，よく上演されている。ことに〈寺子屋〉の場は日本の古典劇の代表的演目として名高い。　〔松井俊諭〕

すがわらみちざね　【菅原道真】(845～903)　平安前期の学者・政治家。参議是善(これよし)の第３子。891年(寛平３)宇多天皇の信任を得て蔵人頭(くろうどのとう)に補せられ，以後，893年参議，895年中納言となり，この間建議して遣唐使を廃止し(894)，897年権大納言・右大将・正三位，899年(昌泰２)醍醐(だいご)天皇から右大臣に任命され，左大臣藤原時平と並んで廟堂(びょうどう)の首班となった。しかし，かつて例のない昇進に反感をもつ者も多く，901年(延喜１)時平一派は天皇に讒言(ざんげん)して彼を失脚させた。大宰権帥(だざいのごんのそつ)として配所にあること２年で大宰府に没した。彼の死後まもなく皇室や時平一派に災異が続発したため，貴族たちはこれを彼の怨霊(おんりょう)によるものと考え，彼の霊を北野に祭り，正一位太政(だじょう)大臣を追贈した。これより天神信仰がしだいに盛んとなった。また，道真は生前《日本三代実録》《類聚(るいじゅう)国史》《新撰(しんせん)万葉集》を編纂(へんさん)し，漢詩文集《菅家文草(かんけぶんそう)》《菅家後草》を残し，また和歌も《古今和歌集》などの勅撰集に多く収められ，その才能をうたわれた。

〔黛　弘道〕

スカンク　[skunk]　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。大きさは変化が多く，頭胴長11～50cm，尾長７～44cm。イタチに似るが尾が長く房状。体の地色は黒色で白色の斑紋(はんもん)またはしまがある。肛門(こうもん)のそばにある１対の発達した肛門腺(こうもんせん)から，強烈な悪臭のある液を３～４ｍも発射する。南・北アメリカ特産で森林・草原・砂漠(さばく)・畑などいたるところにすみ，夜行性でこん虫・ネズミ・ヘビ・トカゲ・果実などを食う。寒い地方では冬眠する。肛門腺を切除すると，よいペットになる。毛皮は優良。約10種あるが，おもなものは次の４種。①マダラスカンク：小形で，頭胴長23cm，尾長15cmほど。アメリカ合衆国・中央アメリカにすみ，敵に襲われるとさかだちをして肛門部を敵に向ける。②シマスカンク：中形で，頭胴長33cm，尾長28cmほど。カナダからメキシコ北部に分布し，さかだちはしない。③セジロスカンク：中形で，頭胴長31cm，尾長35cmほど。アメリカ合衆国南部から中央アメリカに分布。④ブタバナスカンク：大形で，頭胴長42cm，尾長34cmほど。アメリカ合衆国南西部から中央アメリカに分布し，穴掘りが巧みである。　〔今泉吉典〕



スカンク

スカンジウム　[Scandium]　周期律表第Ⅲ族に属する元素。原子番号21，記号Sc，原子量44.956。メンデレーフがエカホウ素として存在を予言していた金属で，1878年スウェーデンのニルソンがガドリン石からこれを発見し，スカンジナビアにちなんで命名。淡灰色の金属で，融点1,400℃，性質はランタニド族元素に類似する。

スカンジナビア(半島)　[Scandinavia]　ヨーロッパ大陸の北部から大西洋に突出する半島で，大陸との間にボスニア湾・バルト海をいだく。北緯71°20′から55°20′にわたる南北に長い大半島で，延長1,800km，最大幅は800kmに及び，面積は80万km^2。西側はノルウェー，東側はスウェーデンの領土である。半島のやや西寄りにスカンジナビア山脈が脊梁(せきりょう)となって北東から南西に走り，かつて大氷河におおわれていたためいまもノルウェー側の山地には氷河が残る。南東部の平野には，無数の氷食湖があり，西・北部海岸ではフィヨルド(峡湾)が続き，中でもソグネ-フィヨルドは最も規模が大きい。気候は山脈の東西で大きな相違をみせる。東は大陸気候で冬季の寒さがきびしく，ボスニア湾岸では２～６か月間も結氷するが，西は暖流のメキシコ湾流の影響を受けて冬季の寒さは緯度の割合にはきびしくなく，結氷する港はほとんどない。北端のハンメルフェストは北緯71°にあるが，不凍港として有名である。農業はスウェーデン南部の平野部に，林業は半島全域にわたる。酪農が盛んで，その加工業もある。鉄を主とする鉱産はスウェーデン北部のエリバレなどにあり，水産はノルウェー北部の沖合いが世界の大漁場になっている。スウェーデンの工業にはこの半島の水力発電が利用されている。　〔長津一郎〕

すかんぽ　⇨スイバ

すき　【犂】　ウシ・ウマなどの畜力を使って，田や畑などを耕す農具。中国では春秋時代(BC770～BC402)にすでに使われており，また，エジプトではBC2500年ごろ，すでに使われていたといわれる。わが国では韓犂(からすき)ともいわれるように，朝鮮から伝えられたらしく，奈良時代に近畿(きんき)・中国地方に普及した。犂の使用が全国的になったのは明治時代になってからで，おもにウシ・ウマ１頭びきの水田すき起こし用として発達した。土壌(どじょう)を柔らかくし上下を反転させるのに欠くことのできない農具であったが，近年の耕耘機(こううんき)の発達は畜力利用の農業を過去のものとし，わが国でも犂を見ることはまれになった。

構造は，鉄製の刃をもち，直接に土壌に作用する〈りたい〉とウシ・ウマにつなぐための木製の〈ねぎり〉と，この両者を結びつける木製の〈たたり〉〈おいたて〉の三つの部分からなる。〈りたい〉は，すきさき・すきへら・すきどこの３部で構成される。この〈すきどこ〉の有無あるいは長短によって，長床犂，短床犂，無床犂の３種に分けられる。また，掘り起こした土を反転させる方向によって，単用犂と双用犂とに区別される。単用犂は土の反転方向が左側に限られ，水田のうね立て耕やうねくずし耕に使われる。双用犂は〈りたい〉の一部が左右どちらにも動くので田畑の平面耕に適し，加えて作業が往復してできる利点がある。この二つのほかに〈りたい〉の前方にもう一つの副犂をつけた２段耕犂もある。これは１回の使用で土を上下から同時に細かく耕すことができ，犂使用後の砕土作業を容易にする特徴がある。　〔吉羽和夫〕

すき　**【鋤】**　土壌(どじょう)を掘り起こすのに使われる農工具。手と足の圧力で刃床部を地中に押し込み，深く土塊を掘り起こすことができ，ゴボウ・ヤマイモなどの根草類の掘り取り，みぞ・穴掘り，そして庭づくりなどに最適の道具である。カシのようなかたい木製の柄と練鉄製の刃の部分を接合したもので，刃床部の全部を練鉄製にした金鋤と風呂(ふろ)とよばれる木の部分に練鉄をつけた風呂鋤とがある。鋤の原型は，古代の掘棒(棒の先をとがらせて土壌の掘り起こしに使う)にみることができる。この掘棒の先端の摩滅を防ぐために，先端を石刃にし次いで鉄刃をはめこみ，さらに刃床部を〈く〉の字形に曲げて，より掘り起こしやすいようにした。このくふうはやがて刃幅を広げて足かけをつくり，手だけで使う道具から足も同時に使うようにし，道具としての効用を高めていった。中国では，先秦(せんしん)時代に鉄製の鋤が現われ，わが国では弥生(やよい)時代に全体が木製の鋤を使い，そして5～6世紀になって鉄刃の鋤が大陸から導入されて定着した。種類はいろいろあるが，使用目的の上から普通鋤と踏み鋤に分けられる。普通鋤は農・工用で，柄角がほぼ180°で全長は1.2m前後あり，後退しながら作業を進める。踏み鋤は完全に農耕用で，柄角が120°で約2mもの長い柄をもっており，刃床部を斜めにして側方に踏み込み，手で前方に柄を倒しながら後退して作業を行なう。普通鋤のうち風呂鋤の代表的なものに，江戸鋤(刃床部が平面のもの)と京鋤(刃床部が前方にそっている)とがある。金鋤の変わったものには，なぎなたの刃状をした鉈鋤(なたすき)や，刃先が歯杆(しかん)形をした股金鋤(またかなすき)などがある。西洋式のショベル・フォークなどは金鋤に属する。　〔吉羽和夫〕



鋤

スキー　［ski］　雪上の歩行・滑走用として両足につける一対の板状の用具，およびそれを使用して行なうスポーツ。語源はスカンジナビア語の〈薄い板〉のことをスキーと称したことから。

スキー発生の地は北欧・シベリア・アルタイ地方などと諸説があるが，正確にはわかっていない。しかし，ノルウェーの国内の極地圏でBC250年ごろと推定される，スキーヤーをきざんだ石器が発見されたことから，スカンジナビアの丘陵地では古くから冬季交通の実用具として用いられたらしい。16世紀になると，北欧・ロシアの軍隊が冬季の行軍に使用したが，スポーツとしてのスキーは，1870年ノルウェーのクリスチャニアに，テレマーク地方の農夫が訪れ滑降したのがはじまりといわれる。次いで1877年に最初のスキークラブであるクリスチャニア-スキークラブが生まれ，1879年にクリスチャニア郊外のヒュースビー丘で第1回スキー-ジャンプ大会が催され，このとき西方の山岳地帯テレマーク地方から参加した若者たちは片手でモミを持って妙技を披露(ひろう)し，それまでの棒の上に馬乗りになって静止しながら滑降する単杖法(たんじょうほう)が改められ，スキーを前後に大きく開いて屈膝(くっしつ)し，回転するテレマーク技術がヨーロッパ各国に広まった。19世紀にはいるとノルウェー・オーストリア・フランスなどのスキー術が何回か改良されハンネス-シュナイダー(1890～1955)によって，さらに研究され，近代スキーは飛躍的に発達した。1924年には，第1回オリンピック冬季大会がシャモニーで開催されて，ノルディック競技*が行なわれた。この年世界スキー連盟(FIS)が誕生した。アルペン種目が正式種目になったのは1936年からである。第2次世界大戦後のスキー界は高速と回転を求める研究に終始し，また，冬のレジャーとして大衆に普及して現在に至っている。

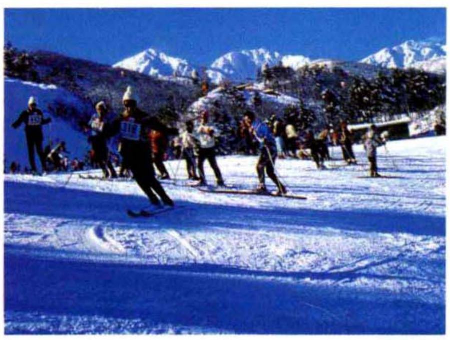
【日本のスキー史】日本ににおける近代スキーは，1911年(明治44)新潟県高田市(今の上越市)の歩兵第58連隊にオーストリアのレルヒ少佐によって1本づえのスキーが紹介されたのに始まる。同じ年に日本最初のスキー競技会が高田市で開催され，しだいに民間人にも普及し，やがてルールの改善，スキー材・締め具の改良，および2本づえの使用など，日本のスキーは大きく進歩し，1928年にはスイスのサンモリッツでの第2回冬季オリンピック大会に出場するまで成長した。第2次世界大戦後，猪谷(いがや)千春のオリンピックでの活躍がスキーブームに拍車をかけた。現在では，冬のレクリエーションとしてのスキーは大衆化し，スキー人口800万といわれている。

【競技】競技は北欧系に発するノルディック競技とアールベルク-スキー術系から発したアルペン競技*とに分けられる。

【用具】スキーの種類は競技用として距離競技用・飛躍用・滑降回転用があり，一般用としてゲレンデ-スキー用・登山スキー用



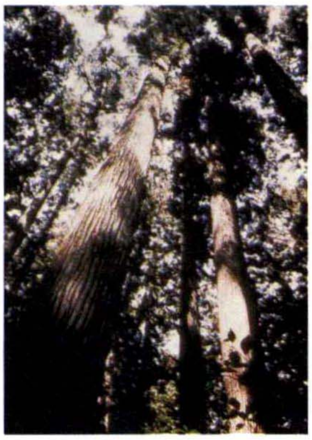




スキー　(上)日本にはじめてスキーを紹介したレルヒ少佐(左)　(中)高級なスキー術(パラレル-クリスチャニア)で軽快にすべるスキーヤー　(下)カラーフルなスキー服でにぎわうゲレンデ。背後の山々は後立山連峰　八方名木山スキー場

スキーの用語

アイスバーン　雪面が氷のようになった状態や場所
アプローチ　ジャンプの助走滑走路
ウェーデルン　連続小回りのクリスチャニア
エッジ　スキー板の滑面の両側に取り付けたすべり止めの金具
クリスチャニア　高速度回転技術
ゲレンデ　スキーの練習場
シャンツェ　ジャンプ台の踏切
シュプール　スキーのすべった跡
ステップ-ターン　片足を踏み換えて行なう回転
スラローム　雪面に描かれたスキー滑走の跡
ツアー　スキーをつけて山野を旅行すること
テール　スキーの尾端
ベンド　スキーの反(そ)りのこと。
ボーゲン　斜面を蛇行(だこう)しながら滑降していく技術
ランディング-バーン　ジャンプの着陸斜面



ヤナセスギ



アキタスギ



雄花と球果

ス　ギ

がある。材料には，普通は木材の薄板および合板が用いられヒッコリーが最上とされる。ほかにはグラスファイバー・メタルなどが用いられる。ストック(つえ)は金属・竹・グラスファイバーなどがある。服装は防風性が必要で，保温がきいているものがよい。締め具は転倒したら，くつからはずれるセーフティー締め具が普及している。スキーぐつは種類も多様であるが，厚手のくつした2枚はいてなお指先にゆとりのあるものがよい。〔佐々木長九郎〕

すぎ【杉】 スギ科スギ属の常緑高木。幹は通直で高さ40m，胸高直径5m以上となり，日本の針葉樹中最大である。樹皮は赤かっ色で縦に長く裂ける。樹冠は壮齢時代まで円錐(えんすい)形であるが，それ以後は丸くなる。葉は針状で少し内側に曲がる。雌雄同株。早春開花する。雄花は淡黄色で小枝に群生する。雌花は球状で枝の先につく。球果は2～3㎝の球形で秋に熟する。種子は両側にわずかに翼がある。

【分布・種類】日本特産で九州の屋久島から青森県まで分布するが，一般に表日本系のオモテスギと裏日本系のウラスギに分かれる。ウラスギは鋭くとがった樹冠をもち，葉のでる角度は小さく，下枝はたれ下がり地面について根がでやすい。耐陰性が強く，雪に対する適応型と考えられる。スギは日本の最も重要な造林樹種で古くから各地に造林されており，実生やさし木の地方品種が育成されている。実生の地方品種としては次のものが有名。ヤクスギ：鹿児島県の屋久島の海抜700m以上のカコウ岩地帯に他の樹種と混生しており，樹齢800年以上のものをさす。また300年以下のものはコスギとして区別している。葉がかたくやや長い。年輪密度が高く，芸術品材料として用いられる。ヤナセスギ：高知県と徳島県の境に生育する。葉先はとがり，材は淡紅色で木理は通直。ヨシノスギ：奈良県の吉野川流域に造林されるもので小丸太・くい・たるなどに用いられる。タテヤマスギ：富山県の立山山系の天然生のスギに源を発し，耐寒・耐雪性が強く，乾燥にも耐える。ハクサンスギ：石川・福井・岐阜県境の白山山系の天然スギに源を発しており，乾燥と寒さによく耐える。枝がたれ発根する性質が強い。アキタスギ：秋田県地方の天然スギに源を発する。東北地方に広く植栽され，樹皮によっていろいろな呼び名がある。さし木の品種としては次のものが有名。オビスギ：宮崎県東部の飫肥(おび)地方で江戸時代から和船の弁甲材をつくる目的で育成されたもの。オビアカ・アラカワ・トサアカ・トサグロ・クロなどに細別される。ダイスギ：京都市の北山で台スギ林業に用いられるもので，ホンジロと称する品種が広く植栽される。サンブスギ：千葉県山武町地方で約200年前から造林されたもの。メアサ：鹿児島・宮崎県のシラス地帯に適し，乾燥に耐える。ボカスギ：富山県小矢部市の標高400m以下の里山に植栽される。クマスギ：江戸時代から長野県上高井郡仁礼村一帯で造林されていた。

【栽培】スギは環境に対し要求度が高い。年平均気温12～14℃，年降水量3,000㎜以上の肥沃(ひよく)地を好む。普通は苗畑で養植した苗やさし木苗を1haあたり3,000本ぐらい植える。スギ林は雪や風の害を受けやすいので，幼時から除伐・技打ちおよび間伐を行なって林全体をじょうぶに仕立てるとともに林のまわりの防護を厳重にする。苗木時代には赤枯れ病の発生がひどいのでボルドー液を散布する。山出し後の病虫害としてはスギノハダニ・スギタマバエ・黒粒葉枯れ病・枝枯れ病などがある。

【用途】スギは日本の建築材として用途も広く，最も多量に用いられる。柱・板材のほか，橋・建具・器具・船舶・箱・家具材などあらゆる面に使用される。また，台スギのみがき丸太は床柱，ヤクスギやアキタスギは高級建築材で，天井板・欄間などの工芸品として好まれる。スギの酒だるは日本酒のかおりや風味をつけるために欠かせない。材が通直であるので防腐剤を注入して電柱にしたり，足場丸太にも用いる。皮は屋根・かき根・庭園材料に用いる。造園樹種としても用途が広く，生がき・屋敷林などのほか社寺の境内林の主木をなす。しかし，大気汚染に弱いのが欠点である。庭園樹として，アオスギ・エンコウスギ・ヨレスギ・ムレスギ・ミドリスギ・セッカスギ・イトスギなどの品種がある。〔中村克哉〕

なおスギ科は，アジア東南部・北アメリカ・タスマニアに約8属16種分布し，日本にはコウヤマキ属(1種)・スギ属(1種)がある。そのほか庭に植えられるコウヨウザンも本科の植物である。

スキアパレリ［Giovanni Virginio Schiaparelli］(1835～1910) イタリアの天文学者。19世紀後半の最大の天体観測者といわれている。チュリン大学で数学や工学を学ぶ。卒業後方針を変え，ドイツの天文学者エンケ*のもとで2年半学んだ。1859年にはプルコワ天文台員となり，1862～1900年ミラノ天文台長となった。1866年に流星と彗星(すいせい)の関係を見いだし，1877年には火星の表面に運河を発見した。《旧約聖書》中の天文現象に関する記述について研究した年代学的業績もある。〔根本順吉〕

すぎうらしげたけ【杉浦重剛】(1855～1924) 明治・大正期に日本主義思想を主張した教育者。近江(おうみ)(滋賀県)膳所(ぜぜ)(大津市)の生まれ。大学南校で英語普通科を修め，1876年(明治9)イギリスに留学，自然科学を学んだ。帰国後，東京大学予備門長・国学院学監・東亜同文書院長・皇典講究所幹事長などを歴任。その間，同志と創刊した雑誌《日本人*》や《日本新聞》紙上などで日本主義思想を主張，その教育思想を理学宗と称した。私塾(しじゅく)を開き，のち日本中学校を創立。晩年には，東宮御学問所御用掛として倫理・修身を担当した。

すぎうらじょうい【杉浦乗意】(1701～1761) 江戸時代の金工。通称奈良太七。信濃(しなの)(長野県)松本に生まれ，江戸に出て奈良寿永に学んだ。作品は小柄(こづか)が多く，精緻(せいち)な彫法による肉合彫(ししあいぼり)の創始で知られる。奈良利寿(としなが)(？～1736)，土屋安親(やすちか)らとともに奈良三作*のひとりとして知られる。

すぎうらみんぺい【杉浦明平】(1913～) 小説家・評論家。愛知県の生まれ。東京大学国文科卒業後，ルネサンス研究に沈潜するかたわらマルクス主義に接近。第2次世界大戦後郷里に定住。区の顔役たちによる地方政治の腐敗を知ってから，その生態を戯画的に描いて，記録文学に新生面を開いた。小説《ノリソダ騒動記》《台風十三号始末記》，異色の歴史小説《渡辺崋山(わたなべかざん)》のほか，評論・研究の著作も多い。

すぎかみきり【杉天牛】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長12～27㎜で，いくぶん扁平(へんぺい)。体は黒かっ色で光沢があり，頭部前方・触角・脚は暗赤かっ色。鞘翅には各2個の黄かっ色紋がある。

本州・四国・九州・台湾に分布する普通種で，成虫は3～8月まで見られる。幼虫はスギ・ヒノキなどの樹皮下に穴をあけて食害し，しばしば大害を与える。このため，スギノクロカミキリともよばれる。新成虫は10月下旬ごろ羽化するが，そのまま越冬して翌春出現する。

すぎこがね　【杉金亀子】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。オオスジコガネともいい，俗にスギムシなどともよばれる。体長20mm，体幅10mmほどで，ほぼ卵形。体の腹面は緑色光沢のある銅黒色，前胸背は暗緑色，鞘翅は変異が多く，暗紫色・暗緑色・黄かっ色のものなどがある。また，鞘翅には各4本の縦隆起線がある。日本全土・朝鮮・中国などに分布するスギなどの針葉樹の害虫で，成虫は葉を，幼虫は根部を食害する。成虫は6～8月に出現。近縁種スジコガネも針葉樹を食害するが，本種に比べてやや小形で，前胸背板の両側部が黄かっ色であること，鞘翅の縦隆起線がより低いことなどで区別できる。

すぎごけ　【杉苔】　コケ植物・スギゴケ科。カカエバスギゴケともいう。世界に広く分布し，湿土上に群生する。高さ6cmほどで，雌雄異株。雄株は茎の頂端には，造精器を保護して橙色(とうしょく)の包葉が集合する。雌株は受精後長さ2～5cmの赤色の柄上に胞子嚢(ほうしのう)をつける。スギゴケ類にはコスギゴケ・オオスギゴケなどがあり，日本式庭園に利用される。➔コケ類

すぎこしのまつり　【過越祭】　イスラエルの三大祭の一。春に行なわれる。ユダヤ暦1月14日の〈過越の祝い〉と翌日から1週間続く〈種なしパンの祝い〉とを一括していう。前者はエジプトで苦しむ民を救うため，神がエジプト人の初子を皆殺しにし，イスラエル人の家は，門柱とかもいに1歳の雄ヒツジの血を塗らせ，これを目印にして通り過ぎたことに由来するとされるが，本来は牧羊者の祭りであり，後者も農耕祭だったらしい。これが一つになり，キリストのエジプト脱出を記念する大祭となった。
〔松田　治〕

スキタイおうこく　【スキタイ王国】　紀元前6世紀ごろから紀元前3世紀にわたって南ロシアの草原に活躍したイラン系の遊牧騎馬民族スキタイ人の国家。紀元前6世紀以後，黒海の付近，南ロシア・北カフカスの草原地帯を中心に強大な王国を建設したが，紀元前4世紀ごろ，同じイラン系遊牧騎馬民族サルマートに圧迫されて，本拠をそれまでのケーバン川流域からドニエプル川下流域に移し，さらに紀元前2世紀ごろ，再びサルマートに追われてクリミア半島へ移動したが，やがてサルマートに取って代わられた。スキタイ王国は黒海の北岸に栄えたギリシア植民都市からギリシア文化を，またペルシアからイランふうの文化を，それぞれ取り入れ，それらと南ロシアの郷土文化とを混合させたスキタイ文化を形成した。
〔若松　寛〕

スギナ



スキタイびじゅつ　【スキタイ美術】　紀元前6世紀から紀元前3世紀ごろまで，黒海北岸，カフカス地方の草原地帯を支配したイラン系の遊牧民族スキタイの美術。この民族の風俗や習慣については，ヘロドトスの《歴史》に詳しいが，遺跡・出土品からもその記述の正しさが明らかにされている。動的な動物意匠の透かし彫りを特色とするスキタイ美術は，ペルシアおよびヘレニズム文化の影響を受けて，紀元前4世紀ごろ，ドニエプル川流域を中心に成立した。ギリシア植民都市との貿易から巨富を得ていたことが，貴族の墳墓から出土するギリシア製の金銀器などから推測される。スキタイ美術は，シカ・オオカミ・イノシシなどの動物を，体を丸めたり脚を縮めたりした姿で，単独に扱う場合が多いが，動物が互いにかみ合った意匠も愛好されている。このスキタイふう文化は，ユーラシアの草原地帯に最初に確立された文化で，モンゴリアを通じて中国や日本にまで波及しており，ヘレニズム文化を東アジアに伝えたものとして高く評価されている。〔末吉雄二〕

すぎたげんぱく　【杉田玄白】　(1733～1817)　江戸時代の蘭方医(らんぽうい)。いわゆる蘭学*を主唱したひとり。若狭(わかさ)(福井県)の小浜藩酒井侯の医官杉田甫仙(ほせん)の子として江戸牛込矢来の同藩中屋敷に生まれた。名は翼(たすく)，字(あざな)は子鳳(しほう)，鷧斎(いさい)，九幸と号した。漢学を宮瀬龍門(りゅうもん)について修め，蘭方外科を幕府医官西玄哲に学んだ。藩の医官となり，同僚の医官小杉玄適を通じ，山脇(やまわき)東洋*の《蔵志》説の影響を強く受けた。1771年(明和8)の春，江戸小塚原(こづかっぱら)の刑場で行なわれた死刑囚の死体の腑(ふ)分けを，前野良沢・中川淳庵(じゅんあん)らとともに参観し，その実景が携えていった西洋解剖書《ターヘル-アナトミア》(ドイツのクリムスの著わした《解体譜》のオランダ語訳書)の内臓図とあまりにもよく符合するのに感嘆した結果，その翌日から同志とともにその解剖書の翻訳を始めた。玄白自身はまだほとんどオランダ語を解しえなかったが，はじめから終わりまでこの翻訳事業の推進力となり，1774年(安永3)に《解体新書*》を完成，出版した。この本は日本の最初の西洋医学書の翻訳である。その後は蘭方医家として，また藩の医官として実際の診療にあたるかたわら，学塾を設けて多くの後進を育てた。著書としてはほかに回想録《蘭学事始》《和蘭医事問答》《形影夜話》《狂医之言》などがある。詩歌をつくり，画をよくするなど趣味も広かった。
〔島薗三郎〕

スキッドモア　[Louis Skidmore]　(1897～1962)　アメリカの建築家。マサチューセッツ工科大学で学ぶ。1930年代にオーイングス(1930～　)・メリル(1896～　)と組んで，スキッドモア-オーイングス-メリル建築設計事務所(ＳＯＭ)を創立し，カーテン-ウォール工法を開発するなど，アメリカの建築界に大いに貢献した。代表作にニューヨークのレバーハウス，チェイス-マンハッタン銀行などがある。

スキナー　[Burrhus Frederic Skinner]　(1904～　)　アメリカの新行動主義心理学者。ハーバード大学教授。行動を刺激*の関数として記述する〈関数分析〉を提唱し，みずから考案した〈スキナー箱〉による動物実験を通じてオペラント条件づけ(➔条件づけ)における〈強化〉の原理(➔条件反射)を確立した。またこれを基礎に，言語行動を分析し，ティーチング-マシンを開発するなどその活躍は多岐にわたる。

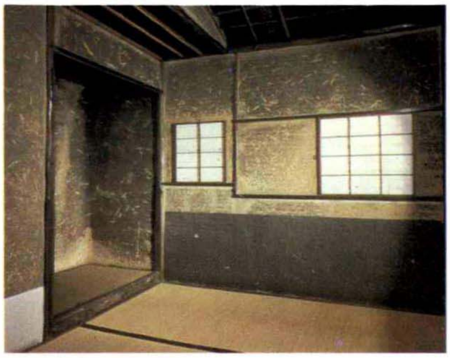
すぎな　【杉菜】　シダ植物・トクサ科。日あたりのよい野原・川原などにはえる多年草。地下に黒かっ色の根茎を伸ばし，高さ30cmくらいの地上茎を多数出す。茎は緑色多節で，各節から多数の枝が輪生して出る。茶かっ色で非常に小さな葉が節部につく。初春，俗につくしといわれる胞子茎を出す。つくしの先端は穂となり，多数の胞子葉からなる。各胞子葉は六角形で裏面中央に柄があり，5～10個の胞子嚢(ほうしのう)がある。胞子には2本(または4本)の弾糸というものがあり，これはかわくと伸び，湿ると胞子を取り巻く。若いつくしは食用とされる。

すぎなみ　【杉並(区)】　東京都の西部にある特別区の一。北は練馬(ねりま)，東は中野・渋谷(しぶや)，南は世田谷(せたがや)の各区，西は武蔵野(むさしの)・三鷹(みたか)両市と接する。面積33.5km²，人口51万9,000。武蔵野台地の東部にあり，北部を妙正寺川，中央を善福寺川，南部を旧神田上水がそれぞれ西から東へ流れ，平坦(へいたん)な台地面に谷を刻む。かつては各河川の沿岸低地に水田，台地上に畑が広がる農村地帯で，青梅(おうめ)街道・五日市街道が主要交通路であった。明治中期に甲武鉄道(いまの中央線)が開通して以来しだいに開け，特に関東大震災後は高円寺・阿佐ケ谷(あさがや)・荻窪(おぎくぼ)・西荻窪など沿線各駅周辺の宅地化が進んだ。昭和初期からは北部に西武電鉄(いまの西武鉄道新宿線)，南部に帝都電鉄(いまの京王帝都電

鉄井の頭(いのかしら)線)が通じ，新宿・渋谷の後背住宅地域として発展した。1932年(昭和7)，豊多摩郡の杉並・和田堀・井荻(いおぎ)・高井戸の4町が合併して杉並区となった。気象研究所・蚕糸試験場があり，また東京女子大学・明治大学(和泉(いずみ)校舎)・高千穂(たかちほ)商科大学・女子美術大学などの学校施設が多く東部の堀ノ内(ほりのうち)には日蓮宗(にちれんしゅう)妙法寺や立正佼成会(りっしょうこうせいかい)の大聖堂がある。北西部の善福寺池は三宝寺池(練馬区)・井の頭池(三鷹市)とともに武蔵野の三名池の一つで，そのわき水は善福寺川の水源となる。南東部には，サクラとツツジの美しい大宮八幡宮(はちまんぐう)を中心とする和田堀風致地区がある。首都高速営団地下鉄丸ノ内線が荻窪から都心へ通じ，東西線は中野(中野区)から国電中央線に乗り入れて三鷹(三鷹市)に至る。国道20号線が区域南部を東西方向に走り，環状7号線・8号線がこれと交差して南北に縦断し，環状8号線に沿う上高井戸は中央高速道路の起点となる。〔浅井得一〕

スキピオ ［Publius Cornelius Scipio Africanus Major］（BC236～BC184）大アフリカーヌスという。古代ローマの将軍・政治家。名門の出身。第2次ポエニ戦争*でイタリアに侵入したハンニバル*軍と父とともに戦い，BC213年以後その根拠地スペインを攻撃し，BC209年にはカルタゴ－ノバを攻略，BC206年にはイリパの戦いに勝ってスペインに対するローマの支配を確立した。BC206年執政官となる。元老院の反対を押し切ってカルタゴ本国を攻撃し，BC204年アフリカに上陸した。翌年，ウティカによるカルタゴ軍を殲滅(せんめつ)し，BC202年，救援に帰国したハンニバル軍をザマの戦いに破って，第2次ポエニ戦争を終結させ，アフリカーヌスの尊称を得た。BC199年戸口調査官・元老院筆頭議員，BC194年再び執政官となる。マケドニアに対するギリシアの自由を擁護する親ギリシア政策の熱心な支持者となり，シリア戦争に対しては小アジアのマグネシアにアンチオコス3世軍を破った。しかし彼の親ギリシア主義はカトー*(大)らの保守派に攻撃され，政争に敗れてカンパニアに引退し失意のうちに死んだ。〔弓削 達〕

スキピオ ［Publius Cornelius Scipio Aemilianus Africanus Minor Numantinus］（BC185～BC129）小アフリカーンスという。古代ローマの将軍・政治家。名門の出身で，大アフリカーヌスの長子の養子となり，若くして第3次マケドニア戦争を終わらせたピュドナの戦いに参戦(BC168)，BC151年にはスペインに出征，翌年ヌミディア王マシニッサのもとに使者としておもむき，ヌミディアとカルタゴの間の紛争処理にあたる。第3次ポエニ戦争では，BC147年執政官としてカルタゴを攻囲，翌年これを攻略して完全に破壊した。BC142年，戸口調査官。その後，東方におもむき，エジプト・シリア・ペルガモン・ギリシア諸市との外交関係の調査を図った。BC134年，再度執政官となり，翌年スペインのヌマンティア戦を指揮して，これを攻略する。〈アフリカーヌス〉〈ヌマンティヌス〉の尊称はこれらの戦功に対して与えられた。土地制度改革運動を起こしたグラックス兄弟の従兄にあたるが，その改革運動には反対した。学芸を愛好し，ストア哲学者パナイチオス，歴史家ポリュビオスらと親交を結んだ。〔弓削 達〕





数寄屋建築 内部(妙喜庵の待庵)と外部(大徳寺聚光院閑院席)

スキムミルク ［skim milk］ 脱脂乳のことで，牛乳*からクリーム*を分離した残りの部分をいう。乳脂肪含有量はふつう0.1％以下になっている。以前はほとんど動物飼料，ことに子ウシの飼料として利用されるにすぎなかったが，脂肪をはじめ脂溶性ビタミン以外の牛乳の重要な栄養分をすべて含み，特にタンパク質・カルシウムおよびビタミンB_2が多量に含まれるので，近年，食品として盛んに使われるようになった。

そのまま飲用されるほか，乳酸飲料・アイスクリーム・還元牛乳などの原料となる。またこれを乾燥して粉末にしたものを，スキムミルクパウダー(脱脂粉乳)と称し，クッキーその他の洋菓子類，カゼイン・乳糖などの原料にする。〔佐藤友太郎〕

すぎむらそじんかん 【杉村楚人冠】（1872～1945） 新聞記者。本名広太郎。和歌山県出身。英吉利(イギリス)法律学校に学び，1903年(明治36)朝日新聞社に入社。1907年イギリスに特派され，外遊中英・米の新聞事情を研究し，外国一流紙の調査部・記事審査部の制度を採用して朝日新聞社に創設。また《縮刷版》《月刊アサヒグラフ》をその発案で創刊した。軽妙な随筆を得意とした。

すぎむらはるこ 【杉村春子】（1909～ ） 新劇女優。本名石山春子。広島県生まれ。声楽家を志したが，1927年(昭和2)築地(つきじ)小劇場*にはいり，築地座を経て文学座*創立に参加，以後同座の中心女優として活躍。《女の一生》(森本薫作)の布引けい役，《欲望という名の電車》(T.ウィリアムズ作)のブランチ役などが知られる。

すきやき 【鋤焼き】 鳥獣肉類を鉄板や鉄なべで焼く料理。一般にネギ・ミツバ・焼き豆腐・しらたきなどを添える。日本独特の料理であるが，世界的に有名。昔，野らで野鳥を鋤(すき)に載せて焼いて食べたことからこの名が出たという。室町時代に伝来した南蛮焼きが起源とされるが，江戸時代の《料理談合集》には〈ガン・カモ・カモシカの類をつくりたまり(豆油)につけておき，古く使いたる唐鋤(からすき)を火の上に焼き，ユズの輪切りをあとさきに置きて鋤の上に右の肉類を焼くなり。色変わるほどにて食してよし〉とある。その後しっぽく料理*の影響で野菜を配し，焼くよりむしろ煮るほうに変わった。調理法は，調味した割りしたで煮る関東ふうと，砂糖・しょうゆ・みりんなどでそのまま味つけして食べる関西ふうとがある。〔塩川ふみ〕

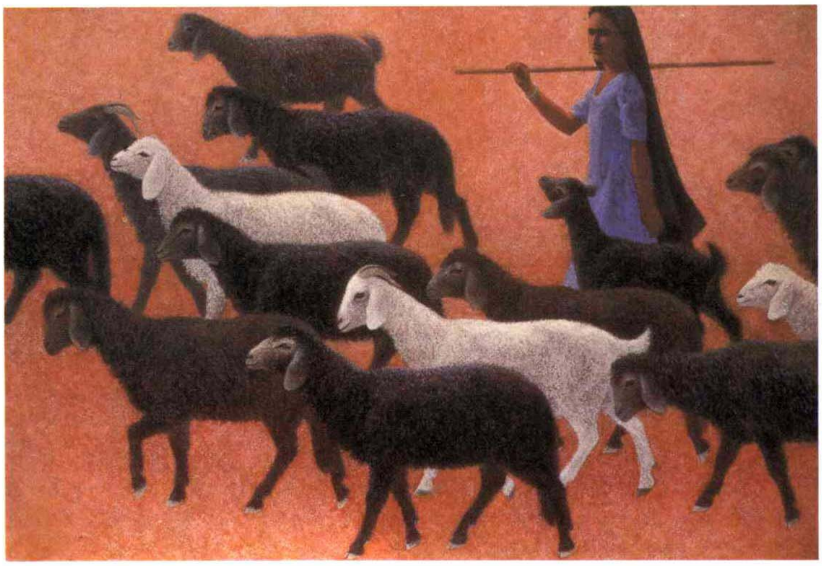
すきやけんちく 【数寄屋建築】 狭義には茶屋建築をさすが，今日では茶室*に限らず，茶室建築の意匠を取り入れ，軽快で侘(わび)た風情をもつ建築をも数寄屋建築とよぶ。茶を粉末にしてあわだてて飲む方法は，中世の禅宗とともに大陸から導入され，室町時代の上流社会でくつろいだ社交的遊びの〈茶の湯〉として定着したが，その茶会の場所は，庭園を見渡せる邸内の広間や，大庭園にしつらえた点景用の楼閣など，既存の施設を利用した開放的な空間であった。中世末になると〈数寄屋敷〉とよばれる茶会のための施設が上流住宅内に設けられるようになるが，建築としての性格は，角柱に長押(なげし)を打ち，板壁に紙張り仕上げをし，ふすまや障子で開口部を仕切る，当時の一般上流住宅の建築様式と異なるものではなかった。茶室が独自の建築表現をもつようになったのは，桃山時代に千利休*によって創始された佗茶のための草庵(そうあん)茶室からである。草庵茶室は，それ以前の茶室がゆとりのある広さをもち，書院造り風の開放的なものであったのに対し，規模を4畳半以下の小間に縮小して動作を少なくすることにより静寂を保ち，主人(亭主(ていしゅ))と客のそれぞれの出入り口を必要最小限に設けたほかは，その周囲を壁で閉ざして，茶そのものに集中した審美的で精神的な空間をつくり出そうとしたもので，それを構成する建築的要素も，世俗の権威や格式を象徴する書院造り*風の要素や表現をいっさ

い排除して，そうした権威とは無縁な田園の草庵の趣を取り入れ，上流住宅では用いない土壁を用い，柱やその他の部材も，加工のなるべく少ない自然のままの材料を使うことを心がけ，自然の素材の中にある美しさを発見すると同時に，微妙な照明を得るために大小さまざまにあけた窓の構成美をはじめとして，新しい構成美の世界を創造したものであった。この草庵茶室独自の建築表現は，堅苦しい格式から解放されてくつろぎを求める別荘などにも取り入れられ，桂(かつら)離宮に代表される数寄屋風書院造りが生まれ，また江戸時代の身分制度と倹約令によって，豪華な書院造りを営むことを禁じられた富裕な町人が，簡素を装ってひそかに質の高い住宅を営むことのできる様式として愛用したところから，飾りの少ない室内意匠を特質とする，いわゆる和風住宅の形成にも大きな影響を与えた。〔渡辺保忠〕

スキャット　［scat］　ジャズ唱法の一。歌詞によらず意味のないことばで楽器のように即興的に歌うこと。ジャズ歌手ではE. フィッツジェラルド・アニタ-オデイ・メル-トーメらが得意にしているが，ジャズ史上最初のスキャット-ボーカルによるレコードはL. アームストロングが1926年２月26日に録音した《ヒービー-シービース》である。なお語源的にはネコを追い払うときの〈シッ！〉(英語でスキャット)という意味のないことばからきている。〔岩浪洋三〕

すきやばし　【数寄屋橋】　東京都中央区銀座の西側にある地区。江戸時代にはいまの千代田・中央両区の境に江戸城の外堀(そとぼり)があり，数寄屋橋が架橋され，橋のたもとのいま朝日新聞社のあるところに南町奉行所(ぶぎょうしょ)が置かれていた。地名は，江戸初期に織田(おだ)有楽斎の屋敷があり，その数寄屋造りの茶室が名高かったことに由来する。数寄屋橋は明治以後コンクリート橋となり，菊田一夫(かずお)の《君の名は》で知られたが，首都高速道路８号線の建設により外堀が埋め立てられて姿を消し，菊田一夫筆の〈数寄屋橋ここにありき〉としるした記念碑が建ち，付近は数寄屋橋公園となっている。国電有楽町駅に近く，朝日新聞社・日本劇場・ソニービル・阪急デパート・ショッピングセンター・西銀座デパートなどがあり，銀座の玄関口として繁栄している。〔浅井得一〕

すぎやまげん　【杉山元】　(1880～1945)陸軍元帥。福岡県出身。陸軍大学校卒業。累進して満州事変勃発(ぼっぱつ)当時は陸軍次官。次いで陸軍の各要職を経て，1937年(昭和12)林内閣の陸軍大臣。近衛(このえ)内閣にも留任して日中戦争の開始にあたった。1940年参謀総長となり，翌年第２次世界大戦勃発とともに陸軍の総指揮をとった。1944年小磯(こいそ)内閣の陸軍大臣，第一総軍司令官となったが，敗戦に際し夫婦で自殺。



杉山　寧
《羊》 1966



頭　巾

すぎやまやすし　【杉山寧】　(1909～　)日本画家。東京の生まれ。東京美術学校で松岡映丘に学び，在学中から帝展で特選を続けて注目を集めた。1951年(昭和26)以来日展で活躍，1956年日本芸術院賞受賞。日展理事。鋭い写実と伝統技術の長所を融合させた清新な作風で知られる。

スキュデリー　［Madeleine de Scudéry］(1607～1701)　フランスの女流作家。パリの社交界の花形であり，気どりを生かしたいわゆるプレシオジテの作品《大シリュス》《クレリ》などの恋愛小説を書き，上流階級に愛読された。兄のジョルジュは劇作家。なお，コルネイユの《ル-シッド》を批判してル-シッド論争を巻き起こした。

ずきん　【頭巾】　頭部または面部をおおい包むようにつくった布製のかぶり物の一種。頭巾は室町時代に，剃髪(ていはつ)した者のかぶり物として用いられたが，江戸時代にはいると防寒・外出時のほこりよけ・装飾などの目的から，各種の頭巾がつくられた。それらの頭巾は，形態のうえからおよそ次の５種に分けられる。①布帛(ふはく)を円形に縫ったもので，首丁頭巾・炮烙(ほうらく)頭巾・投げ頭巾など。②背後に錣(しころ)をつけたもので，錣頭巾・宗十郎頭巾・韮山(にらやま)頭巾・熊坂(くまさか)頭巾など。③前面に布帛を垂れて面部をおおったもので，覆面頭巾・奇特頭巾・猫(火事)頭巾など。④頭部から背部をおおう片そで形のもので，山岡(やまおか)頭巾・苧屑(おくそ)頭巾など。⑤御高祖(おこそ)頭巾。これらの頭巾類は，明治時代にはいってすたれたが，若干のものは地方に残り，防寒用あるいは労働用のかぶり物として用いられている。新潟県刈羽地方でふなぼしとよんでいるのは，袷(あわせ)に縫った防寒用のかぶり物で，綿を入れることもある。また，御高祖頭巾系統のかぶり物として，秋田県由利郡あたりで婦人が日よけ・汗取り用のひろくなとよぶものを用いている。〔直江広治〕

スキンダイビング　［skindiving］　素はだで潜水器を使用せずに潜水すること。水深２m以上もぐると，高い水圧のため限られた時間しか水中に滞在することができないが，マスク・フィン(ひれ)・シュノーケル(泳ぐとき呼吸するための30cmほどの管)などの用具を使用すれば，ベテランは３分ぐらいもぐることができる。なお，最近ではアクアラングを使用するスキューバダイビングも同義的に扱われている。

すぐいせき　【須玖遺跡】　弥生(やよい)時代の遺跡。福岡県筑紫(ちくし)郡春日(かすが)町の須玖岡本に所在。1899年(明治32)の調査で支石墓が発見され，そこに埋葬された甕棺(かめかん)から銅鏡・銅鉾(どうほこ)・銅剣・玉類が出土し，中期弥生式土器の研究に新生面を開いた。その後も多類の甕棺や豊富な副葬品が発掘された。遺物中の鏡は前漢鏡で，一つの甕棺に30面近くが副葬されていた

例もある。また，銅鉾・銅戈(どうか)の再製に用いられた鎔范(ようはん)も多数出土した。〔高崎徳次〕

スクエアダンス［square dance］フォークダンス*の一種。ナポレオン1世当時宮廷に流行した社交舞踏《カドリーユ》がウェスタン音楽と結びつき，アメリカ農民のカントリーダンスとして発展したもの。スクエア(方形)の名のとおり4組みの男女が方形に並んで踊るもので〈バスケット〉〈カレドニアン〉〈ハーレキン〉〈ランサーズ〉など種類も400種に及んでいる。第2次世界大戦後わが国にも取り入れられ，学校や職場のフォークダンスの中では最も親しまれている。〔高橋孝一〕

すぐきづけ【酢茎漬け】京都洛北(らくほく)一帯の特産であるスグキナ(アブラナ科に属するカブの一種)を強い重石をかけて塩づけし，出荷直前に乳酸発酵させて酸味とかおりを出した京都名産のつけ物。すぐき菜づけともいう。

スクーター［scooter］原動機が座席の下にあり，前方に足踏み台があって車輪の直径が22インチ(55.9cm)以下の2輪自動車。最高速度は60〜100km/時程度である。アメリカではモータースクーター，ドイツではモートルローラー，フランス・イタリアではスクーターとよんでいる。第2次世界大戦後に大量に生産されはじめ，落下傘(らっかさん)部隊に折り畳み式スクーター・小形軽量スクーターを採用，戦後大衆の足として改良され発達した。日本では1946年(昭和21)に市場に出されたのが最初で，やがて急速に発達し，生産量は1959年まで順調に伸びたが，モペットの発達によりしだいに減少，今日では生産されていない。〔成田武男〕

スクタリ［Scutari］イタリア名でスクタリ，アルバニア語ではシコデルとよぶ。アルバニア北西部，ユーゴスラビアとの国境をなすスクタリ湖の南東岸にある商工業都市。人口46,000(1964)。繊維・セメント・たばこ・製粉などの工場がある。市街は，15世紀につくられたベネチアの要塞(ようさい)を中心とした大バザールと，19世紀につくられた花園の多い新市街からなる。古代イタリアの首都であったが，ローマの植民地を経て，395年ビザンツ帝国領となり，1396〜1479年にはベネチア領，1913年までトルコの支配下にあった。

すくなひこなのかみ【少名毘古那神】日本神話の神。オオクニヌシノカミ*の出雲(いずも)の〈国造り〉の際にミコトを助けた小神で，《古事記》によるとオオクニヌシノカミが出雲国の美穂の岬(みさき)にいたとき，波間に漂着した小さな神があり，クエビコ(かかし)によってカミムスビノカミ*の子スクナヒコナノカミと知らされた，と記されている。

すくね【宿祢(禰)】古代の姓(かばね)の一。元来は蘇我(そが)稲目宿祢大臣・紀臣男



スグリ
近縁種のフサスグリで，わが国には明治時代に渡来した

麻呂宿祢のごとく，貴人の名に添えた敬称であったが，684年(天武12)制定された八色(やくさ)の姓では，真人(まひと)・朝臣(あそん)に次ぐ第3位の姓とされ，大伴連(むらじ)(→大伴宿祢)のごとく，おもに連姓の豪族のうち有力者に与えられた。

すくも【宿毛(市)】高知県南西端，愛媛県境にある市。人口26,000。古くからの漁港で，江戸時代には土佐藩山内(やまのうち)氏の重臣伊賀(いが)氏の城下町であった。1954年(昭和29)宿毛町・小筑紫(こづくし)町ほか4村が合併して市制施行。市域は宿毛湾に臨み，松田川下流に広がる宿毛平野一帯を占め，湾口の沖ノ島・鵜来(うぐる)島などを含む。産業三大別人口比は34：19：47。平野部では米・ミカン・イグサ・タバコを産し，北部山地では木材を産する。宿毛湾沿岸では巾着(きんちゃく)網によるムロアジ・イワシなどの水揚げがあり，最近は湾内で真珠貝・カキ・ハマチなどの養殖が盛んである。工業は製材のほかみるべきものはないが，最近ミカンのかんづめ加工が興っている。鉄道の便はなく，国道56号線が通じ，外港の片島港は高知〜宇和島〜別府間の定期航路の寄港地となる。西方に県下唯一の宿毛貝塚(かいづか)があり，沖ノ島・鵜来島にはアコウなどの亜熱帯植物が多い。土佐藩の執政野中兼山*の死後，その一族が流されたところで，大原富枝(とみえ)の《婉(えん)という女》の舞台となっている。

スクラーゼ ⇨インベルターゼ

スクラップ［scrap］再生しなければ使えないくず材のこと。一般にはくず鉄(特に製鋼用のもの)をさす場合が多い。自生くず(自家発生のもどりくず)と購入くず(市中から購入されるくず鉄)に類別され，また軽量くず(旋盤切りくず・切断くずなど)と重量くず(分塊や鋼塊の切りくず)に分けられる。鉄鋼原料中にスクラップが占める割合は大きく，平炉では溶銑使用の場合で一般に約30％，冷銑使用の場合で約70％である。また電気炉では95％にも及ぶこともある。したがって，製鋼業にとって，スクラップは量的にも質的にも重要なものである。わが国近年のくず鉄輸入量が数百万トンにも達していることがそれを物語っている。しかし一方，購入スクラップ中のさまざまな不純物が，均質な鋼の生産を妨げるなど，経済的には有利なはずのスクラップの使用にもさまざまな問題が残っている。この点，純酸素転炉(LD転炉)の開発によってスクラップ使用量がかなり減少し，直接製鉄法によって均質な人工くず鉄(synthetic scrap)が得られるようになったことは，これらの解決に役だっている。〔秋枝哲児〕

スクランブル［scramble］緊急発進。地上待機の要撃機が，可能最短時間で離昇する行動をいう。防空識別圏内*にはいった航空機が，国籍不明機か敵機であった場合に，防空司令所(ADDC)は要撃機に緊急発進を命じ，これを目標に誘導する。地上待機の航空機と搭乗員(とうじょういん)は，規定制限時間内に離陸できるようつねに準備されており，出撃後は地上からの指令により行動する。→バッジ →領空侵犯措置

すぐり【酸塊】双子葉植物・ユキノシタ科。長野県地方に自生する落葉低木。基部から何本も茎が出て，高さ1m前後に達する。枝には鋭いとげがある。葉は円形で浅く3裂し，あらい鋸歯(きょし)があり，互生または束生する。7〜8月，葉腋(ようえき)に白色の五弁花を下向きにつける。各花弁は細長く3〜4mmで，そる。果実は直径12mmほどの球形漿果(しょうか)で，赤かっ色に熟し，食べられる。スグリの仲間は北半球を中心に約150種があり，日本には10種が知られる。セイヨウスグリはカフカス・ヨーロッパ・アフリカに分布し，果実を生食したりジャムにしたりする。〔加藤僖重〕

スクリャービン［Alexandr Nikolaevich Skryabin］(1872〜1915) ロシアの作曲家。モスクワの生まれ。父は貴族で法律家，母はピアニストであった。少年時代からピアノや音楽理論を学び，1888年モスクワ音楽院に入学したが中途退学した。1894年ペテルスブルクで最初のピアノ-リサイタルを開き，出版者ベライエフに認められ，以後その援助でヨーロッパ各地やアメリカにピアニストとして演奏旅行を行なった。この時期には，ショパンやリストの影響の強いピアノ曲をいくつか残している。1898年モスクワ音楽院のピアノ教師になったが，ほどなく辞任した。その後しだいに当時のヨーロッパの先端的な作曲法の影響を受け，また，ベルギーで神智(しんち)学のグループに関係して神秘主義的な思想の洗礼を受け，《法悦の詩》で〈神秘和音〉といわれる独特な音組織をつくりだした。彼の作風は一般に〈神秘主義*〉とよばれており，《プロメテ(火の詩)》では色彩と音の結合を考えている。最近その前衛的な作風が再評価されつつある。〔船山 隆〕

スクリュープロペラ［screw propeller］翼を4枚または5枚もつ船の推進器の一。暗車ともいう。船の推進器(プロペラ)には，ほかに外車・翼車プロペラ・ジェットプロペラなどがある。動力船の初期

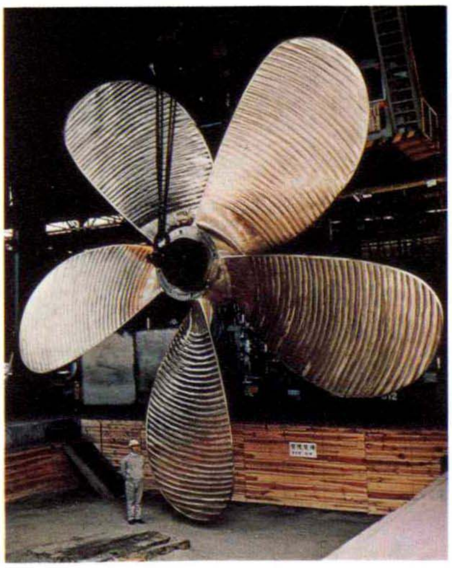
は外車を用い，1837年イギリスのスミスによってはじめてスクリュープロペラ船アルキメデス号がつくられた。今日では大部分の船はスクリュープロペラを用いている。スクリュープロペラはねじの原理を応用したもので，翼の一点が360°回転して進む距離をプロペラピッチとよんでいる。その構造はボスを中心とし，材料はふつうマンガン青銅が用いられている。船はプロペラの数によって１軸船(または単暗車船)・２軸船(双暗車船)・３軸船(３暗車船)・４軸船(４暗車船)などとよばれる。また，スクリューの回転方向を船尾から見て時計回りのものを右旋推進器，反対のものを左旋推進器というが，現在の１軸船はほとんどが右旋推進器であるのに対し，２軸または４軸船では相反する方向に回転するのが普通である。翼がボスに固定されておらず，その角度を自由に変えられるしくみになっているものを可変ピッチプロペラといい，つねに機関が一定方向・一定速度であってもピッチを変えることにより前後進・速度制限が自由にできる利点がある。〔飯島幸人〕

スクリーン [screen] フィルムの画像を投影するための幕。映写幕ともいう。投影される側に画像を映し出す反射式スクリーンと，その反対側に画像を映し出す透過式スクリーンとがある。透過式スクリーンは，古くから影絵や走馬燈などに使われてきた紙や布をその原型として認めることができるが，現在ではスクリーン-プロセス*に用いられている。反射式スクリーンも幻燈などに使われた壁や戸障子がその原型であるが，やがて白い布となり，さらに白い塗料を塗った幕に変わった。この種の改善が種み重ねられて，やがて金属の粉を塗ったシルバー-スクリーンが現われて広く普及した。また映画のトーキー*化が進むと，音響効果をよくするために一面に細かい穴をあけた多孔性スクリーンが考案された。最近では映写効果を一段とよくするためにガラス粒を表面に吹きつけたガラス粒スクリーンが普及している。テレビに対する映画の特殊性を発揮するために，スクリーンの幅は広げられていく傾向にあり(→ワイド-スクリーン)中には客席を取り囲む360°スクリーンや，プラネタリウム式の円天井形スクリーンも登場している。〔波多野哲朗〕

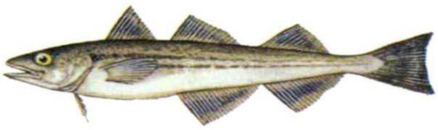
スクーリング ⇨通信教育

スクリーン-プロセス [screen process] 映画・テレビの特殊撮影*の一手法。事前に撮影した背景をスクリーンの後方から映写し，その前に人物や対象物を配置して１画面に撮影する。汽車の座席をセット*でつくり，そこに人物を配置，窓の外の風景は映写して，車内場面をつくるのなどは，その１例。撮影の能率化を図り，撮影困難な場面を合成するのに利用される。

スクレ [Sucre] 南アメリカ，ボリビア共和国の法律上の首都。人口60,000(1966)。国土のおよそ中央部，標高約2,800 mのアンデス山地に位置し，1538年にスペイン人により建設されたものの，隔絶した町として，取り残されていた。1825年ボリビアの独立宣言がここで行なわれ，それを起草した政庁，17世紀創立のフランシスコ-ザビエル大学をはじめゆいしょある建物が多い。現在は首都のラパス，チリのアントファガスタと鉄道で結ばれ，空港もある。〔小栗　宏〕



スクリュープロペラ　24万トンクラスタンカー用　直径9,400mm，重量54.6t



スケソウダラ

スクレーパー [scraper] 土砂の表面を削り取り，それを運搬して，適当な箇所に散布する一連の作業を行なう機械。飛行場・工場敷地などの広い面積の整地工事，河川の堆積(たいせき)土砂の排出などに用いられる。これには，牽引(けんいん)式スクレーパー，自走できるモータースクレーパーがあり，２kmまでの運搬に適する。操作方式は油圧式・ケーブル式とあり，排土方法も押し出し式・傾倒式がある。

すけ 【次官】 律令(りつりょう)の四等官制*で長官の次に位する官の総称。長官を補佐し，長官の欠員・不在，その他事故あるときは，これに代わってことを決する権能を認められた。用字は神祇官(じんぎかん)で副，八省で輔，職で亮，寮で助，衛府(えふ)で佐，大宰府(だざいふ)で弐，国で介，郡で少領など官司によって異なる。

すげ 【菅】 単子葉植物・カヤツリグサ科の一群の多年草の総称。世界に800～900種があり，特に温帯の冷涼地に多く分布する。日本にはカサスゲ・カンスゲ・マスクサスゲ・コウボウムギなど約200種があり，大部分は雑草であるが，庭園の縁植えにも用いられる。葉は線形で根出性のものが多い。花穂は葉束中から花軸を伸ばし，小花を密生する。多くは花穂の上方が雄花穂で，下方は雌花穂となる。花被は退化し，雌花はつぼ状の小包嚢(ほうのう)に包まれ，柱頭のみが突き出している。果実は三稜(さんりょう)形またはレンズ形である。カサスゲ・カンスゲなどがみの・かさなどの製造に利用されるが，他のものはあまり利用価値はない。

すげがさ 【菅笠】 ⇨笠

すけごう 【助郷】 江戸幕府が宿場*付近の農民に課した労働課役。幕初に駅制*が創始されたが，参勤交代*の確立に伴い，街道の交通量が増加して常備の人馬に不足を生じ，このためこの制度が恒常化した。時代を追って助郷は拡大され，所定の定助郷のほか，加助郷・代助郷・大助郷が課せられた。助郷は農村の主要労働力を奪い，また，遠隔地では出役が困難なため金納に代えたので，これが農村疲弊の大きい誘因となった。そのため助郷の減免がしばしば農民側から嘆願され，江戸後期には助郷に関して要求する百姓一揆*(いっき)が頻発(ひんぱつ)した。1872年(明治５)廃止された。〔高崎徳次〕

すけそうだら 【介党鱈】 硬骨魚類・タラ科。スケトウダラ・メンタイともいう。体長60cmほどになる海産魚。体は細長く側扁(そくへん)し，頭は大きい。目と口も大きく，下顎(かがく)が上顎よりも突出する。背びれは３基，しりびれは２基ある。下顎の先端近くに小さなひげがあり，うろこは小さい。体の背側は淡かっ色で濃かっ色のまだらがあり，腹側は白い。体側にところどころで中断する不規則な濃かっ色縦帯が２列ほどある。山口県以北の日本海側，朝鮮半島東岸，北海道以上の北太平洋水域に広く分布する。形態はマダラに似るが，体がはるかにほっそりしており，識別はやさしい。マダラが底生性で海底に沈む卵(沈下卵)を産むのに対して，約100～500 mの深さの中層に群生し，海中を漂う浮遊卵を産む。卵巣を塩蔵したものは，たらこ・もみじこ・めんたいこなどといい，美味。肉はごく新鮮なときはマダラにまさるが，鮮度の低下とともに急激に低下するので，漁場に遠い消費地ではマダラよりも不味であるのが普通である。鮮魚としてチリなべ・塩焼き・フライなどに調理され，皮・骨・頭・尾・内臓を除いて塩干しにしたものは，すきみだらといわれビールのつまみなどに用いられる。

北海道近海や北洋などで延縄(はえなわ)・刺し網などによって多量に漁獲される。近時は漁獲量が急激に上伸し，年間100万t以上(1968年は，160万t)の水揚げがあり，単一種としては日本で最も多くとられる魚である。マダラの漁獲は，スケソウダラの10分の１(1968年，10万t)に満たないのが普通である。スケソウダラの多くは卵巣を除いたあと，漁場でただちに冷凍のすり

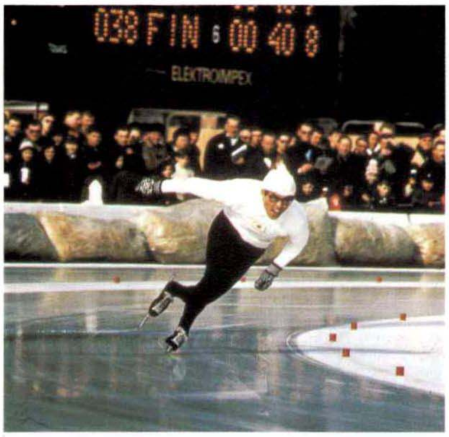
身にされ，かまぼこ・ちくわ・はんぺんなど練り製品の原料にされる。〔菅野　徹〕

スケッチブック　アービング*の短編小説・随筆集(1819～1820)。ハドソン峡谷の伝承やアメリカ人の見たイギリスの生活を素材にした《スリーピー-ホロー伝説》《リップ-バン-ウィンクル*》など36編を収め，作者の国際的名声を高めた。美しい文体とユーモアに満ちた表現の作品。

スケート　[skate]　氷上を滑走するスポーツ，またそれに使用するくつ裏に取り付ける鋼鉄製の金具。

〔歴史〕湖沼の多い北ヨーロッパでは，氷上を滑走したり走行したりするための道具が原始時代から用いられたらしい。これは，マンモス・トナカイ・ウマなどの骨を用いたスケートが各地で発見されることによって推測される。大英博物館には，ひもでくつに縛りつけるようになっている獣骨のスケートが収められているが，これはロンドン近郊で発掘されたもので，1,000年以上まえのものといわれている。氷上遊戯としてのスケートは，12世紀ごろから始まったとされるが，1744年にはスコットランドに世界ではじめてエジンバラ-スケート-クラブが創立され，1791年には当時士官学校の生徒だったナポレオンがオーゼル要塞(ようさい)の堀(ほり)でスケートをして，あやうく水死するところだったという話が残っている。1809年には，世界最初のスケート専門書がイギリスで出版された。最初に競技として行なわれたのはスピードスケートで，19世紀の初めごろにはオランダで冬の娯楽として親しまれており，イギリスでは1814年にスピードスケート競技の記録が発表されている。アメリカでは，ヨーロッパからの移住者が増加するにつれて盛んになり，1849年にはフィラデルフィアにスケート-クラブが創立され，翌1850年には同市で全鋼鉄製のスケートがはじめて売り出された。

やがて，スケート技術の進歩につれて，スピードを競うだけではなく，直線と曲線を組み合わせて氷上に図型(フィギュア)を描きながら滑走するフィギュアスケートが盛んになっていったが，その進歩に大きな役割を果たしたのはニューヨークのダンス教師であったジャクソン-ヘインズである。1864年ヨーロッパに渡ったヘインズは，当時流行していたロシアバレエの形を取り入れた一連のスタイルを組み立てて各地を巡回した結果，フィギュアスケートは一時に普及した。こうしてスピードやフィギュアの競技会が盛んに行なわれるようになり，各国にスケート競技を統括する団体が結成されはじめ，1889年には最初の国際スピードスケート競技会がアムステルダムで開かれた。そして1892年には欧米13か国の代表がオランダのシュペニンゲンに集まって国際スケート連盟(ISU)を創設し，スピード・フィギュア両競技の競技種目などを決定した。翌1893年にはアムステルダムで最初のスピードスケート世界選手権大会が開かれ，また1896年にはペテルブルグ(レニングラード)でフィギュアスケート世界選手権大会(男子)が開かれた。それ以来，この大会は70年余り続いて，スポーツ界最古の歴史を誇っている。なお，アイスホッケー*は，国際的には1908年に創設された国際アイスホッケー連盟(IIHF)によって統括されているが，わが国ではスピード部門・フィギュア部門とともに日本スケート連盟によって統括されている。





スケート　(上)スピード競技　500m決勝に力強く滑走する鈴木選手　第10回冬季オリンピック-グルノーブル大会　(下)フィギュア競技　1971年度全米ペアチャンピオンの華麗な演技　札幌美香保スケートリンク

スケートがオリンピック大会の競技種目となったのはかなり古く，すでに1900年の第2回パリ大会のプログラムにも載り，1908年のロンドン大会ではフィギュアが，1920年のアントワープ大会にはフィギュアとアイスホッケーが行なわれた。この成功が大きな刺激となってフランスのシャモニーで開かれた1924年の第1回オリンピック冬季大会には，スピード・フィギュア・アイスホッケーの3種目に16か国が参加した。わが国におけるスケートは，1877年(明治10)札幌(さっぽろ)農学校(北海道大学の前身)へ教師として招かれたアメリカ人ブルックスが持参したのに始まるとされる。その後1891年に新渡戸(にとべ)稲造*がアメリカからスケート3足を持ち帰ってから，札幌の学生間に普及したといわれており，このころから北海道・仙台(せんだい)・諏訪(すわ)などの寒い土地で盛んに行なわれるようになった。その後，中央本線が開通して京浜地区から諏訪への交通が開けると，諏訪湖周辺でのスケート熱が急激に広まり，1908年にはわが国最初のスピードスケート競技会である〈諏訪湖一周10マイル氷すべり大会〉が開かれた。アイスホッケーは，記録によれば，1923年(大正12)に北海道大学の本科対予科の試合が最も古く，その翌年には諏訪神社秋宮わきの特設リンクで早稲田(わせだ)大学対松本高等学校，慶応義塾(ぎじゅく)大学対東京大学の試合が行なわれた。一方，フィギュア発達の足場となったのは仙台とされており，1902年ごろ宣教師デビソンが第二高等学校の学生などに教えたのがはじまりといわれている。オリンピックへの参加はガルミッシュ-パルテンキルヘンの第4回冬季大会が最初である。

〔スピードスケート〕各種選手権大会やオリンピックでは，男子は500m・1,500m・5,000m・10,000m，女子は500m・1,000m・1,500m・3,000mの種目が行なわれるが，ほかに男子の1,000m・3,000mが行なわれる競技会もあり，わが国の国民体育大会では女子の5,000mレースが行なわれる。競技はふつうスノーライン(雪で引いた境界線)で二つに隔てられたダブル-トラックで行なわれる。スノーラインはバック-ストレートで70mだけ除かれており，滑走者は1周ごとにこの区間(チェンジ-ゾーン)でアウト-コースとイン-コースを入れ替わってすべる。したがって，一度にふたりしかレースが行なえない。このため，参加選手は抽選でふたりずつ組み合わせられて1組みずつ順にスタートし，全出場者の滑走終了後に，記録の優劣で順位を決定する。したがって，1種目を消化するにもかなりの時間を要するので，特に世界選手権大会や日本選手権大会などのように4種目の総合得点で優勝を争う競技会では，参加選手数はきびしく制限される。総合得点は，各種目のタイムを500mのタイムに換算したもの(たとえば1,500mを2分10秒0なら，43.333)の合計で，これの最少の者が優勝する。なお，わが国の国民体育大会や高等学校選手権大会予選ではシングル-トラックを使用し，記録によって順位を決定している。

〔フィギュアスケート〕シングル(男女の個人)のほかに，ペア(男女ふたりの組)・グループ・ダンス(男女ふたりによるダンス)などがある。体操競技が規定と自由に分けられているように，シングルはコンパルソリー-フィギュアとフリー-スケーティングに分けられ，この二つの得点で成績が表わされる。コンパルソリー-フィギュアには基本となる図型が17種あり，これを実際に描

く運動(左足・右足の別，前進・後退の別，左右の足の切り替え，方向転換など)で分類すると69種類となるが，そのうちから何種かが選ばれて出題される。そして，種類によって難易が異なるので，それぞれに1～6の係数(ファクター)が決められており，審判の採点にファクターを乗じて総合点を出すようになっている。なお，審判の採点はコンパルソリーもフリーも0～6であるが，細かく中間値を採用して小数で表わしている。フリー-スケーティングは，コンパルソリーを基準としているが，もっと自由な滑走を音楽のメロディーとリズムに合わせて一定時間行ない，その優劣を競う。コンパルソリーでは必ず片足に全体重をかけてすべらなければならないが，フリーでは両足ですべることも許され，ジャンプやこまのように回転するスピンなどを織り混ぜ，複雑に変化するステップを組み合わせてつくりあげたプログラムに従って滑走する。ジャンプは特に重視され，飛び方によってアクセル・ルッツ・サルコーなどの種類があるが，多くは半回転から3回転までの回転を伴い，回転数によってダブル-ルッツとかトリプル-サルコーなどとよばれる。スピンには両足で回転するもの，片足でするもの，立ってするもの，しゃがんでするものなどさまざまあるが，いずれも一点で小さな円を描きながら回転するのがよいとされる。審判員は，ステップの組み合わせの全体としての調和，選んだ音楽の楽想との一致，リズム・スピード，優雅さあるいは豪快さなどの観点について，技術的美点と芸術的印象の両面から採点する。〔矢野博一〕

スケフェニンゲン ［Scheveningen］ オランダ西部，ハーグ市内北部の海岸地域で北海に臨み，ヨーロッパでも有数の設備をもつ海水浴場として知られる。またニシンの漁港でもあり，漁具や水産物のかんづめを産する。海洋無線局や燈台もある。

スケール ［scale］ ボイラーで硬水*を加熱するとき，伝熱面の内側に生ずる薄膜状のかたい付着物。湯あか・罐石(かんせき)などともいう。硬石中にはカルシウムやマグネシウムの塩類がとけているが，代表的なものには$Ca(HCO_3)_2$，$CaSO_4$がある。前者は加熱によって分解して$CaCO_3$を生じ，後者は濃度が高くなるとそのまま析出する。スケールが生成すると伝熱抵抗が増し，装置の能力が低下するので，これを防ぐためにイオン交換樹脂による軟水装置を用いる。〔小泉睦男〕

スケルツォ ［scherzo］ 〈諧謔(かいぎゃく)〉〈戯(たわむ)れ〉の意味のイタリア語で，1600年ごろから，そのような性格の独唱曲・合唱曲あるいは器楽曲の題として用いられた。古典派にはいると，弦楽四重奏曲や交響曲の第3楽章にメヌエットに代わるものとして置かれ始めた。最初にこれを行なったのはハイドンであるが，一般化したのはベートーベンである。これらの場合，速いテンポの3拍子で，スケルツォ～トリオ～スケルツォの構成で，スケルツォもトリオもそれぞれが反復される部分から成っている点は，メヌエット*の場合と同じである。ただ，リズムがメヌエットの場合より運動的であるのが特徴である。こうした性格はロマン派の交響曲や室内楽にも受けつがれ，不可欠な構成要素になっている。また，ロマン派のピアノ音楽では，3拍子で上と同じような性格をもちながら技巧性の強いものをこの名で呼ぶことがあり，ショパンやブラームスの作品にある。〔徳丸吉彦〕



助六由縁江戸桜　助六(市川海老蔵)と揚巻(中村歌右衛門)

すけろくゆかりのえどざくら 【助六由縁江戸桜】 歌舞伎(かぶき)狂言。一幕。作者津打半右衛門(はんえもん)。通称〈助六〉。1713年(正徳3)江戸山村座で《花館愛護桜(はなやかたあいごのさくら)》の名題で，2世市川団十郎*が初演。荒事*に和事*味を加えた演出で市川家の〈家の芸〉として伝承され，歌舞伎十八番*の一つである。けんらんたる花の吉原(よしわら)を背景に気風(きっぷ)のいい江戸っ子の助六が，傾城(けいせい)揚巻を中にして髭(ひげ)の意休と恋の立引をする。助六実は曾我(そが)五郎で，けんかのすえ，意休の持っていた名宝友切丸を手に入れるという，単純な筋の一幕。紫はち巻きに蛇(じゃ)の目がさのいきな助六の出端(ではな)の芸，助六と揚巻のたんかの小気味よさ，豪華な傾城の衣装，特徴ある登場人物など，いわゆる歌舞伎美を結集し，江戸の町人生活を享楽の花である芝居と吉原を重ねたところでみごとに現出させている。〔服部幸雄〕

スコア ［score］ オーケストラまたはアンサンブルのすべてのパートを一つの楽譜に盛り込んだもの。総譜ともいう。音域の高いものをいちばん上に，また楽器別では，弦楽器よりも打楽器を，打楽器よりも管楽器を優先して上から書くのが普通である。また声楽曲で，楽器のパートをピアノ用などに編曲したものをボーカル-スコアとよんでいる。

すこうてんのう 【崇光天皇】 (1334～1398) 名は興仁(おきひと)。北朝*第3代の天皇。在位1349～1351年。光厳(こうごん)天皇の皇子。母は正親町公秀(おうぎまちきみひで)の娘，陽禄(ようろく)門院藤原秀子。1348年(正平3・貞和4)受禅して翌年即位。観応の擾乱(じょうらん)の際，南北両朝の和議が一時整い，南朝*の後村上天皇を迎えて，崇光天皇は廃された。よって1351年(正平6・観応2)太上(だじょう)天皇の尊号を受けて，翌年賀名生(あのう)に移された。1357年(正平12・延文2)京都に帰り，伏見殿にはいる。1392年(元中9・明徳3)出家。陵墓は京都市の大光明寺陵。

すごかい 【巣沙蚕】 環形動物・多毛類・ナナテイソメ科。フクロイソメともいう。体はゴカイに似ており，環節数は約300に達する。頭部に2本の短い触手と5本の長い触手を備え，第5環節以下には分岐の多い鮮紅色のえらをつける。背面は赤かっ色で，その前部は暗青色をおび，腹面は淡紅色，体長40cm，体幅1.5cmほどになる。松島湾以南の日本各地に分布し，内湾の波静かな汀線(ていせん)付近の砂泥(さでい)中に，棲管(せいかん)をつくってすむ。棲管には，海藻(かいそう)・貝殻(かいがら)の破片・砂粒などをつける。クロダイ・フッコなどのつりえさに用いられる。

スコータイちょう 【スコータイ朝】 タイ人の最初の王朝(1238～1350)。雲南からインドシナ半島に南下したタイ人が，中部タイのスコータイを首都として建てた。第3代のラーマ-カムヘン大王(13世紀末)は領土を拡大し，インド・中国両文化を摂取してタイ文化の基礎を築き上げた。大王没後は勢力がふるわず，南方に成立した同族のアユタヤ朝に併合された。

スコッチ スコッチ-ツイードの略称。スコットランド地方で飼われる長毛種のヒツジの毛を原料としたツイード*。本来手織りであらく織った紡毛織物で，無地・霜降り・縦じま・格子(こうし)が多く，外套(がいとう)・コート・背広服やスポーティーな服地として用いられる。近年は工業的に生産されて本来のものと同様な外観・性状のものに仕上げられている。

スコット ［Walter Scott］ (1771～1832) イギリスの詩人・小説家。スコットランド出身。少年時代から生地の伝説・古民謡に興味をもち，大学卒業後，家業の弁護士を開業するかたわら，古民謡集を出版。また，中世騎士と美姫(びき)の恋と冒険を主題とする長編叙事詩《湖上の美人》などを発表，ロマン主義復興の時流に投じて一流詩人と仰がれた。しかしバイロン*が叙事詩人の盛名を得るや，歴史小説の執筆に専念，《ウエバリー》以下9編のスコットランド物で好評を博し，さらに《アイバンホー*》以後は，小説の舞台をイギリス本国・フランス

その他の外国に広げて10数編の力作を発表した。その雄大な構成，リアルな風俗描写，老練な会話技術，多彩な人物描写などは，同時代のスタンダール*やバルザック*に影響を及ぼした。〔長崎勇一〕

スコット ［Robert Falcon Scott］(1868～1912） イギリスの南極探検家・海軍大佐。第1回探検(1901～1904)はデスカバリー号により，27人の隊員とともにロス氷棚(こおりだな)に上陸してデスカバリー山麓(さんろく)に基地を設営し，犬ぞりで南緯82°15′まで進んで引き返した。ビクトリアランドの調査を続け，キングエドワード7世ランドを発見(1902)した。第2回探検(1910～1913)は，テラ-ノバ号によって行なわれ，極点到着に万全を期したが，遅れて出発したノルウェーのアムンゼンに先を越され，アムンゼンより1か月余り遅れて1912年1月17日極点に到達し，帰路同行の4人の隊員とともに雪中に凍死し，遺体は1912年11月12日捜索隊によって発見された。著書に《デスカバリー号の旅行》(1905)，死後編まれた《スコット最後の探検》(1913)などがある。〔野間三郎〕

スコットランド ［Scotland］ イギリス，グレートブリテン島の北部の地方。面積79,000km²。人口519万5,000(1969)。ヘブリジーズ・オークニー・シェトランドなどの諸島を含む。地形的に三つに分けられる。北部山地はグランピアなど南西～北東方向に走る多くの山脈からなり，氷食による湖と深い谷が多く，ほとんどが原野である。中央低地は東岸のフォース湾から西岸のクライド湾に至る細長い低地帯で，人口が集中し，行政の中心地エジンバラ(人口46万8,000,1967)とグラスゴー(人口96万1,000,同)の大都市がある。南部高地は平均約300mの草原で，チェビオット丘陵がイングランドとの境になっている。気温は7月でも平均15℃未満であるが，偏西風とメキシコ湾流のため冬も0℃以下にならず，温和である。降水量は東岸(エジンバラ628mm)より西岸(グラスゴー945mm)に多い。北部高地は地下資源に乏しく，主産業は粗放的な牧羊と毛織物業のほか，アバジーンを中心に漁業(ニシン・タラ)が行なわれ，有名なスコッチウイスキーはここの特産品である。南部高地もおもに牧畜が行なわれる。中央低地は鉄鉱・石炭などの地下資源に恵まれ，グラスゴーを中心に造船業をはじめ麻・綿・毛などの織物工業が盛んである。紀元前6世紀からピクト人が居住していたが，その後ケルト族に北方へ追われた。80年にはユリウス-アグリコラの率いるローマ軍の侵入を受け，その後，9世紀末にスコット人によるアルバン王国が建設されるまでは小王国が乱立していた。11～16世紀にはイングランドと激しく争ったが，1603年にスコットランド王ジェームズ6世はイングランド王朝チューダー家を継いでグレートブリ



スコット



スコットランド スコッチウイスキーの本場，スコットランド北部の北海に面するバンフの町のウイスキー工場とその貯蔵庫

テン全土を支配した。1707年議会の議決によって，イングランドとの合併が実現しグレートブリテン王国が成立。〔梶川勇作〕

スコットランドみんよう 【スコットランド民謡】 イギリス北部スコットランドに発する民謡。特にヘブリジーズ諸島には古いものが多く残っている。音構成は5音音階や旋法によるものが多い。楽器ではバッグパイプや口琴が使われている。《螢(ほたる)の光》《故郷の空》も元来はこの地方の民謡である。

スコットランド-ヤード ［Scotland Yard］ ロンドン警視庁ともいう。イギリス唯一の国家警察。1829年スコットランド王宮跡に創設されたためこの名があり，近代警察の祖といわれている。当時ロンドン市の人口は100万をこえていたが，警察組織はきわめて弱体で，わずかに巡査160名を有するにすぎなかった。このため市民が交替でこれにあたっていたが，内務大臣ロバート-ピールの献策によって警視法が制定され，警視総監以下警察官吏員を3,314名とするとともに，警察官の職務権限が明示された。その後，人口増加に伴って，警察組織は拡大し，現在では警察官の定員は20,000人をこえている。〔井上公耳〕

スコトゥス ⇨ドゥンス-スコトゥス

スコパス ［Skopas］ 紀元前4世紀ごろに活躍したギリシアの建築家・彫刻家。テゲアのアテナ-アレア神殿の再建にあたり，この神殿のために多くの彫刻を製作したと伝えられる。スコパス自身あるいはその工房の作になると思われる彫刻断片が，アテネ国立美術館に残されている。

スコピエ ［Skopie］ スコプリエともいう。ユーゴスラビア南東部，バルダル川に沿い，ユーゴスラビアを構成する六つの共和国のうち最南部にあるマケドニアの首都。人口31万3,000(1971)。タバコ・野菜の栽培地域の中心にあり，農産加工が盛んである。ギリシアのテッサロニキと首都ベオグラードに鉄道が通じており，飛行場もある。市街はバルダル川をはさんで新市街と旧市街とに分かれ，これをローマ時代にかけられたといわれる橋が結んでいる。大学や医学校，博物館があり，15世紀建造のムスタフア-パサおよびサルタン-ムラド回教寺院などがある。古代ローマ時代にはダルダニアの首都となり，のち古代セルビアの首都となった。第1次世界大戦直前までトルコ領であったが，戦後，ユーゴスラビアに編入された。〔梶川勇作〕

スコポラミン ［scopolamine］ アルカロイドの一種で，ナス科植物のハシリドコロ・ベラドンナなどに含まれる。アトロピン*と類似した薬効を示すが，散瞳(さんどう)作用はアトロピンよりも強く，副交感神経遮断(しゃだん)作用は弱い。臨床的には臭化水素酸スコポラミンをおもにあへんカルカロイドと併用して，手術時の麻酔補助・無痛分娩(ぶんべん)に用いる。副作用はアトロピン同様に強い。

すごや 【直家】 日本の民家の基本的な平面形態である，長方形の輪郭をもったものをいう。これに突出部をもった変形に曲家(まがりや)・鍵家(かぎや)などがあり，特に曲家の多い岩手県では，この呼称が用いられている。

スコラてつがく 【スコラ哲学】 西洋中世哲学の一。中世哲学はアラビア哲学・ユダヤ哲学の影響力を見のがすことはできないが，ひとまず，その前期として，キリスト教を真の哲学とみる教父哲学*と，その後期として，神学とは別な固有の原理にたつ学としての自覚をもつスコラ哲学に大きく二分される。信仰を理性によって説明することが後期の学者たちの課題であったが，彼らは教会付属のスコラ(学校)の教師であったから，スコラの学問(哲学)とよばれた。スコラ哲学は次の二時期に区分される。①850～1200年：スコラ哲学の準備の時代であり，〈普遍論争*〉の発端と展開はこの時期を最もよく特徴づけるものである。エリウゲナ・ロスケリヌス・アンセルムス・アベラルドゥス・ソールズベリのジョンらがこの期の代表的学者である。②1200～1453年：この時期の特徴は，アリストテレス哲学と啓示神学との融合，信仰と理性の明確な分離，知性に対する意志の優位に関する論争(トマス的主知説に対するスコトゥス的主意説)であろう。代表的学者として，ボナ

ベントゥラ・アルベルトゥス-マグヌス・トマス-アクィナス・ドン-スコトゥス・オッカムらがある。初期スコラ哲学の最大問題は普遍の問題であるが，これをめぐって〈実念論〉と〈唯名論〉の２派が対立した。スコラ哲学は，アリストテレス哲学とキリスト教的啓示神学との体系的調和を導いたトマス-アクィナスにおいて，その頂点に達した。〔広川洋一〕

スコリア ⇨火山噴出物

スコール ［squall］ 赤道地方でよく起こるにわか雨。気温の日変化が大きく，年変化の小さい赤道地方では，規則正しい日変化に伴って，スコールがよく降り，年間の降雨量を大きくしている。海面からの水蒸気の補給量が大きく，強い日変化によって，大気の成層を不安定にし，強いスコールを起こすものと考えられる。



双　六
（左）喜多川歌麿の描いた盤双六に戯する浮世絵　東京国立博物館蔵
（右）浄土真宗で庶民教化のために使われた《浄土双六》江戸末期

すごろく【双六】 黒白の駒(こま)各15個と賽(さい)２個とで遊ぶ室内遊戯。賽を竹または木製の筒に入れて盤の上で振り出し，賽の目の数によって，定められた細則に従って駒を進める。駒は石・象牙(ぞうげ)・木でつくり，盤は厚さ４寸(約12cm)，横８寸，縦１尺２寸の木製で，表面の中間に横に一条の間地を設け，縦に左右各12の線間を設ける。盤の一端に置いた駒を他端へ進め，対手の妨害を避けて早く元に帰った者が勝ちとなる。もとインドに起こり，中国を経て奈良時代以前に日本に伝えられたもので，《日本書紀》の持統天皇の３年(689)12月の条に禁止したことがみえ，賭(か)け勝負ということで大宝令(たいほうりょう)によっても禁ぜられており，武家時代にはいって貞永(じょうえい)式目にも禁ぜられているが，《枕草子(まくらのそうし)》《源氏物語》《大鏡》《栄華物語》などによって当時盛行したことが知られる。室町時代以降は盤や筒を用いることがしだいにすたれ，江戸中期には紙のすごろく盤が現われ，仏法すごろくがつくられた。これは遊びを通じて未学の僧に天台の名目(みょうもく)を学ばせようとするもので，古来の複雑な遊戯とはまったく異なるものであった。やがて紙面に多くの区画を設け，それぞれに絵をかいた絵すごろくが現われた。まず浄土すごろく・道中すごろく・出世すごろくなどがつくられたが，それは子どもの遊戯として今日行なわれているものとほぼ同じである。〔河鰭実英〕



スゴンザック 《カップル》 パリ近代美術館

スゴンザック ［André Dunoyer de Segonzac］(1884〜1974) フランスの画家。はじめは印象派ふうの作品を描いていたが，セザンヌや黒人芸術に興味をもち，キュービスム*の運動に参加した。のち表現主義ふうの作風に転じ，パレットナイフによる厚塗りの技法で独自の画風を打ち立てた。

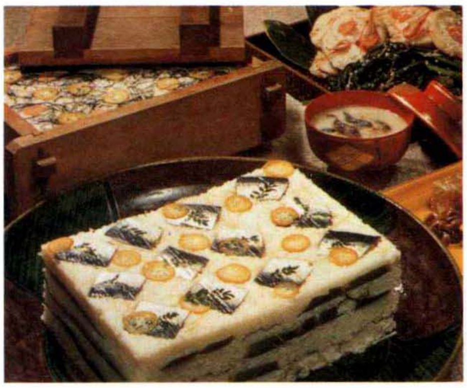


スーサ ペルシア帝国時代の宮殿跡 1884年以来，フランス隊の発掘が続けられている

すさ【莇】 塗壁材料に混合するもので，塗るときの材料の落下を防ぐとともに，材料の収縮を細かく分散して亀裂(きれつ)を防止する繊維状の補強材。つたともいう。しっくい*やプラスター*などに混ぜて用いる。下塗りには長いもの，上塗りには短いものを使う。莇には次のようなものがある。①浜莇：しっくい・土壁用で麻なわの古物を原料とした,長さ1.5cmほどのもの。②白毛莇：プラスター用でマニラ麻の古物，長さ５cmぐらいのもの。③油莇：屋根しっくい用で種油を絞った布の古物を用いる。④紙莇：しっくいなどの上塗り用で，日本紙を切って水で繊維にもどしたもの。⑤わら莇：土壁用でわらを２〜10cmぐらいに切ったもの。〔難波蓮太郎〕

スーサ ［Susa］ 古代オリエントのエラム*の遺跡。イラン南西部フジスタン州シューシュにある。スーサは地理的にはむしろバビロニア平原の一部とみなすことができ，南メソポタミア文化とイラン高原文化の集合点となって，両者の歴史に重要な役割を果たした。1884年以来，フランスの探検隊による発掘調査が続けられている。最古の層は初期および中期の金石併用時代(BC4200ごろ〜BC3400ごろ)に属し，芸術的にすぐれた多数の彩文土器を出土した。土器は白地に黒・紫・茶色で多様な幾何学的文様を描き，その単純で明晰(めいせき)な美しさはイラン彩色土器芸術の極致を示している。歴史時代のスーサはエラムの王都として栄えたが，BC640年，アッシリア軍の攻撃を受け，エラム王国とともに没落した。しかし，ペルシア時代にはいると帝国の主要都市の一つとして復活し，ダレイオス１世*以来王宮建築活動が続けられた。その後もこの地方(スシアナ)の中心都市として存続し，ササン朝初期に繁栄した。しかし，４世紀にシャープール２世によって破壊され，まもなく再建されたが，それ以後は衰退の一途をたどった。〔佐藤　進〕

スーザ ［John Philip Sousa］(1854〜1932) アメリカの吹奏楽指揮者・作曲家。行進曲王といわれる。幼時からバイオリンの演奏に長じ，1876〜1877年にオッフェンバックがアメリカを訪問したときのオーケストラの首席奏者をつとめた。1880年にアメリカ海兵隊の軍楽隊楽長となる。1892年にはスーザ吹奏楽団を組織し，ヨーロッパへも５回演奏旅行をした。《星条旗よ永遠に》をはじめ，作曲した行進曲は100曲を越









すし
(上左)イワシの押しずし(石川県)
(上右)キスの姿ずし
(下左)大村ずし(長崎県，型に入れる五目ずし)
(下右)ちまきずしと茶巾ずし(京都ふう)

え，オペレッタ10曲，歌曲50曲，舞曲50曲など多作な作曲家であった。〔向坂正久〕

すざか　【須坂(市)】　長野県北東部の市。人口52,000。江戸時代，堀(ほり)氏一万石の陣屋があった。1954年(昭和29)市制施行。市域は長野盆地の東部，千曲(ちくま)川東岸に位置し，産業三大別人口比は19：41：40。明治維新以後，いちはやく機械製糸を導入して，県下有数の製糸の町となったが，その後は人絹・スフなどの発達におされて衰微した。第2次世界大戦中，遊休工場施設を利用して電気機械・通信機などの製造工場が疎開し，戦後は機械工業の町として復興した。かつての桑園地帯ではリンゴの栽培が盛んである。長野市から長野電鉄が通じ，上信越高原国立公園の菅平(すがだいら)などへの観光基地でもある。

すさき　【須崎(市)】　高知県中南部の市。人口32,000。1954年(昭和29)高岡郡須崎町を中心に周辺4村が合併して市制施行。市域は北・東・西の三方を山地で囲まれ，南は須崎湾に臨み，湾口に注ぐ新荘(しんじょう)川沿岸に低湿な平地がある。東部には浦ノ内半島が突出して，出入りの多い浦ノ内湾(横浪三里(よこなみさんり)ともいう)を抱く。産業三大別人口比は29：25：46。平地では米のほかスイカ・キュウリ・トマトなどの促成栽培が盛んで，最近はミカンもつくられる。須崎港はカツオ漁業の基地となり，港周辺ではかつお節・かまぼこなどの水産加工も盛んである。須崎湾・浦ノ内湾の沿岸部では，最近真珠貝・ハマチ・カキなどの養殖が行なわれる。造船・製材などの工業が発達し，北部に産出する石灰岩を原料とするセメント工業も興っている。土讃(どさん)本線・国道56号線が通じ，将来は高松(香川県)を起点とする四国横断自動車道の終点に予定されている。

すざくおおじ　【朱雀大路】　平城京・平安京などにおいて朱雀門から羅城門(らじょうもん)までの間を南北に走る大通り。朱雀大路より東を左京，西を右京とした。《延喜式》によれば平安京の朱雀大路は幅28m，長さ約85mであった。

すざくてんのう　【朱雀天皇】　(923～952)名は寛明(ひろあきら)。醍醐(だいご)天皇*第11皇子。母は関白藤原基経*(もとつね)の娘穏子。930年(延長8)即位。946年(天慶9)皇弟村上天皇に譲位。在位中は藤原忠平(ただひら)が摂関として国政をとったが，承平・天慶(じょうへい・てんぎょう)の乱*が起こり，天災も続発するなど世情は混乱をきわめた。陵墓は京都市伏見区の醍醐陵。

すざくもん　【朱雀門】　藤原・平城・平安諸京の宮城十二門の一つで，大内裏(だいだいり)の正門をいう。ここから南の羅城門(らじょうもん)まで都の中央を南北に走る大通りが朱雀大路である。朱雀門は大伴門(おおとももん)ともよばれ，大化改新以前から大伴氏*がこれを守衛してきた。これは大伴氏が天皇近侍氏族であったことを物語っている。

すさのおのみこと　【素戔嗚尊】　日本神話の神で，出雲(いずも)系の神々の始祖。須佐之男命とも書く。イザナギノミコト・イザナミノミコトの2神は大八洲(おおやしま)国および山川草木を生み終えたのち，天下の主たるべき者としてアマテラスオオミカミとスサノオノミコトを生んだ。スサノオノミコトは姉のアマテラスオオミカミと高天原*(たかまがはら)で誓約し，5男3女の神々を得た。しかし，勝ちすさんでミコトは天罰を犯したため追放されて出雲国の簸(ひ)の川のほとりに天降った。ここでミコトは民生を救いクシイナダヒメのために八岐(やまた)の大蛇*(おろち)を切り，尾から天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)(草薙剣*(くさなぎのつるぎ))を見いだして，アマテラスオオミカミに献上した。その後，出雲の須賀(すが)に至り，宮づくりしてクシイナダヒメと成婚し，オオクニヌシノカミ*が生まれた。これが《日本書紀》の伝えるミコトの伝である。《古事記》《日本書紀》の一書には異伝が多い。後代，八坂神社*で牛頭(ごず)天王と習合され，厄除(やくよけ)神として各地に祭られるようになった。〔宮井義雄〕

すさびのり　紅藻(こうそう)植物・ウシケノリ科・アマノリ属の海藻。アサクサノリに似た形で，元来は東北地方・北海道などに分布していたが，環境への適応力が強いため，現在ではわが国の養殖ノリの大部分が本種となっている。➔アサクサノリ

すし　【鮨・鮓】　酸味をつけた飯に魚貝・野菜を添えたものや，塩押しした魚を長く飯につけ込み，自然発酵させた食品。すしは〈酸し〉を字義とし，魚貝類を塩蔵して自然発酵させ，酸味を生じる貯蔵法に起源をもつといわれる。

《歴史》　元来東南アジア山地民の料理で，米を利用した川魚・鳥獣肉の貯蔵法でもあった。その後中国に伝わり，六朝(りくちょう)以後は日常生活に取り入れられ，南宋(なんそう)時代が全盛期であったが，やがて料理としての特徴を失い，清朝(しんちょう)中期以降はほとんど姿を消した。日本へは太古の昔にイネと同時期に魚類の加工法として大陸から伝来したといわれ，はじめは川魚を材料にした。日本ですしに関する最古の文献は1,200年前の《賦役令(ふえきりょう)》で，あわび鮓・いがい*鮓・雑鮨などの文があり，《延喜式》(927)には馴(な)れずしの貢納すべき国々とその種類などが記され，あゆ・ふな・あわび・いがい・いのしし・しかなどのすしの名がある。南北朝時代の《庭訓(ていきん)往来》には鯵鮨(あじずし)の名があり，このころから海魚のすしがつくられたと思われる。やがて室町中期に半馴れずし生成(なまなれ)がつくられ，江戸時代には自然発酵によらず，酢を用いる早ずし，延宝年間(1673～1680)に御典医の松本善甫(ぜんぽ)が今日のような即席ずしを考案したといわれる。天明のころ(1787)《七十五日》という本に，のり巻き・湯葉巻き・笹(ささ)巻き鮓などが流行したと記されている。1823年(文政6)江戸両国の華屋与兵衛(はなやよへえ)によって握りずしが始められ，江戸で急速に普及したが，関西では馴れずしから進んだ箱ずしが長く主体となっている。

《種類と分布》　作り方の面から二つに大別できる。①馴れずし：最も原始的なもので，米飯の自然発酵によって生じた乳酸で酸味を出す。②早ずし：食酢を添加して外部から酸味を与える。これらの中間形として，魚にだけ酢をして，飯の酸味は自然発酵に

よる生成もある。

各種類と分布は次のようである。①馴れずし：重石(おもし)をかけて数か月間つけこむ。飯は食べずに魚貝だけを食べる。今日では滋賀県(ふなずしが有名)だけといってもよい。②生成：馴れずしよりはつけこみ期間が短い。めずし(滋賀)，さば・あじ・このしろのすし(和歌山)，鮭(さけ)ずし(会津)，あゆずし(岡山県新見市)。③いずし：東北・北海道で盛ん。岡山県でもみられる。生成をつけこむのに野菜を多く混ぜ，こうじを用いるので，馴れずしに比べて甘味が多く水っぽい。蕪(かぶら)ずし(金沢)・ねずし(飛騨(ひだ))・はたはたずし(秋田)・いずし(北海道)・しばずし(広島)・かゆずし(酒田)・酒ずし(鹿児島)。④姿ずし・棒ずし：生成に似るが，魚か飯または両方に酢をあてて1両日つけこむか，即席に用いる。馴れずしから早ずしに移る最初のもの。さばずし(京都)・ばってら(大阪)・かきの葉ずし。⑤飯ずし*。⑥握りずし。⑦散らしずし：ばらずし(関西)・五目ずし(関東)ともいう。散らしずし(岡山)・ばらずし(和歌山)・精進ずし(比叡山(ひえいざん))。本来は重石をかけてある期間熟成させた。散らしずしを蒸して暖めたものを蒸しずし(関西)という。⑧巻きずし：原則として精進で，こんぶ・湯葉・浅草のり・薄焼き卵・つけ菜などですし飯を巻き，かんぴょう・キュウリ・魚などをしんにする。⑨いなりずし*。⑩うのはなずし：すし飯の代わりにうのはなを用いる。とうずし(山口)・からずし(長崎県五島)・ふぶきずし(富山)。⑪その他：そばずし・たけのこの印籠(いんろう)ずし・茶ずしなど。

〈すしの材料〉 酢と米の選び方が重要で，米は上質の白米を選び，庄内米(しょうないまい)(山形県)・讃岐米(さぬきまい)(香川県)・淡路米(兵庫県)が美味。合わせ酢はふつう米の体積の10%，砂糖2～4%(魚の握りずしはやや多くする)，塩1.2～2%。〔塩川ふみ〕

ずし【厨子】 古代から使われた物入れの一種。2枚とびらの開き戸がついている。用途によって区別すると以下の4種類がある。①正倉院御物の赤漆文欟木厨子(せきしつもんかんぼくのずし)・黒柿(くろがき)両面厨子のように文書・仏具・日用品などを納入する厨子。②仏像を安置する厨子。③舎利塔を安置する舎利厨子。④経典類を納置する納経厨子。なお，②の厨子には彫像のみでなく，仏像を描いた仏画を内壁に掛ける場合もある。また，構造的には箱形厨子，屋蓋(やがい)を宝形造(ほうぎょうづくり)にして頂上に宝珠を置く宝形造厨子，屋蓋を寄せ棟(むね)につくる春日形(かすががた)厨子，軸部を円筒形にした筒形厨子などに大別される。わが国最古の遺品としては飛鳥(あすか)時代の作とされる玉蟲(たまむし)厨子*(国宝)があり，橘(たちばな)夫人念持仏厨子*(国宝)も阿弥陀(あみだ)三尊を安置する白鳳(はくほう)時代の厨子として名高い。木製黒漆塗が普通であるが，とびらや内壁に



厨　子《春日舎利厨子》長谷寺能満院蔵

彩絵したものや，素木のままにしたものもあり，まれに鉄製や竹製のものもある。なお正倉院には棚(たな)厨子と称して，厚板に角柱を通してくさびで留める，現在の組み立て式本だなのようなものもあるが，この種は平安時代以降には厨子だなとよばれ，文房具や小道具類を納める調度品として別に発達した。〔河田　貞〕

ずし【逗子(市)】 神奈川県三浦半島の基部にある市。人口59,000。鎌倉時代から行楽地として知られたが，明治期に徳富蘆花(ろか)の《不如帰*(ほととぎす)》《自然と人生*》などでその名を高めた。1954年(昭和29)市制施行。市域は相模(さがみ)湾奥の小湾に臨み，田越川地溝帯(ちこうたい)が中央を走り，中心市街は西流する田越川の平坦(へいたん)な三角州上にある。東・南・北の三方は丘陵性の山地に囲まれる。産業三大別人口比は1：33：66。気候温暖で風光がすぐれ，北隣の鎌倉，南隣の葉山とともに湘南(しょうなん)地方*の保養観光地である。横須賀(よこすか)線・京浜急行電鉄逗子(ずし)線・国道134号線・湘南道路(有料道路)が通じ，近年，京浜地方への通勤者の住宅地として発達している。田越川河口から北に広がる砂浜海岸は海水浴場として名高い。北部には漁業集落の小坪があり，背後の市立公園披露山(ひろうやま)の南には蘆花ゆかりの浪子(なみこ)不動があって，堂前の磯(いそ)に兄蘇峰(そほう)の筆になる不如帰の碑がある。

すじえび【条蝦】 甲殻(こうかく)類・テナガエビ科。体長5cmほどのエビで，体は透明で黒かっ色のしま模様がある。額角(つののようにみえる頭上の突起)は俗に頭といわれる部分である頭胸甲とほぼ同長で，上縁に4～8本，下縁に1～4本の棘(きょく)をもつ。南千島・サハリン(樺太(からふと))以南，沖縄・朝鮮までの淡水系に広く分布し，ときに汽水にもはいりこむ。近似種のスジエビモドキは，形態が酷似して体長4cmほどに達し，体は透明で，黒かっ色のしま模様をもつ。額角は水平に伸び，その上縁に9～13本，下縁に3～4本の棘をもつ。沿岸の比較的鹹度(かんど)の低いところにすみ，岩礁地帯の上位の潮だまりに最も普通にみられる小エビである。イソスジエビは体長5cmほどになり，形態・体色とも前種に酷似するが，黒かっ色のしまの数がやや多く，額角が上方にそっているので，見分けることができる。額角上縁に6～11本，下縁に2～7本，先端の上縁に2～3本の棘を備える。北海道以南の日本全土および香港(ホンコン)・ハワイ・アンギイナなど太平洋の温・熱帯部に広く分布し，岩礁地帯の潮間帯に普通である。低鹹度の水をきらい，スジエビモドキに比べ，下位の潮だまりにみられる。アシナガスジエビは，体長5cmほどになり，前種に形態・体色とも酷似するが，額角が著しく長く，頭胸甲長のほぼ2倍に達するので，区別しうる。額角は，上方に大いにそっており，上縁に7～9本，下縁に7～8本，先端に2～3本の棘を備える。日本の太平洋岸の岩礁地帯の潮間帯に多産する。以上の4種は，小形ながら美味で，つくだ煮にされ，またつりのえさにも使われる。スジエビモドキ以下の3種は，岩礁地帯の岸辺で最も普通に見かけるエビである。➔エビ〔菅野　徹〕

すじかい【筋違い】 木構造や鉄骨造において，柱と柱の間に対角線に入れる材料。骨組みに横から力が加わるとゆがみが生ずるのを防ぐには，斜めに部材を取りつけて，部材を三角形状に組み合わせた骨組みにすればよい。また，骨組みには水平面内のゆがみ止めとして筋かいを配置することがあるが，このような材を水平筋かいという。これに対し，柱・梁(はり)の中間から腕木状に斜材を設けることがあるが，これらは，方づえ・火うち梁といって筋かいとは区別されている。〔桜井譲爾〕

すじぐろしろちょう【条黒白蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シロチョウ科。翅(はね)を広げた長さ45～65mm。雄は白色で前翅の中央部のやや外寄りに黒色の紋があり，翅端部は黒い。雌は翅脈に沿って黒色となり，黒い紋も大きく発達する。春型は黒色部が少なく小形であるが，夏型は黒色部が発達して大形となる。翅脈が黒いので翅脈の白いモンシロチョウと区別できる。成虫は春早くから現われ，暖地では年5～6回，寒地では年2回の発生をみる。幼虫はタネツケバナやイヌガラシのような野生のアブラナ科植物を食べ，さなぎで越冬する。九州から北海道まで分布するが，暖地では山地に現われ，北部に進むにしたがってしだいに平地に現われる。北海道には高地に棲息(せいそく)しない。近縁種にエゾスジグロシロチョウがある。➔シロチョウ〔多々内修〕

すじこ【筋子】 サケ・マスなどの卵巣の塩蔵品。作り方に2通りあり，一つは塩引きサケを製造する際，腹を裂いて卵嚢(らんのう)のまま摘出したものを塩蔵するもの，他は産卵期近くに，人工によって搾出した卵巣を塩蔵するものである。前者は卵嚢中

の血筋の筋でつづられているので筋子といい，後者を一般にイクラ*・はららごという。そのままで，あるいは大根おろしであえて，日本酒のさかななどにする。また，みそしる・澄ましじるのわん種や，サンドイッチ・カナッペの材料として珍重されている。最近サケ・マスの漁獲量の減少で高価になった。朱色で，弾力性があり，卵粒がはっきりしているものが良質とされる。〔佐藤友太郎〕

すしゅんてんのう　【崇峻天皇】（？～592）　名は泊瀬部（はつせべ）。欽明天皇*の皇子で，母は蘇我（そが）稲目*の娘小姉君。587年（用明２）蘇我馬子*は物部守屋（もののべのもりや）を倒すと，直ちに泊瀬部皇子を天皇に推した。しかし，天皇は実権を掌握できなかったため馬子と対立するに至り，592年（崇峻５）馬子の手先によって暗殺された。陵墓は奈良県桜井市の倉梯岡上（くらはしのおかのえ）陵。

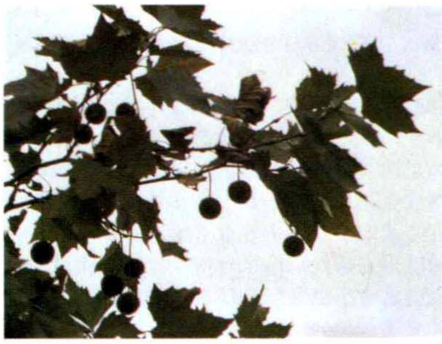
ずしょひろさと　【調所広郷】（1776～1848）　江戸後期の薩摩藩家老。通称笑左衛門（しょうざえもん）。1827年（文政10）500万両の負債をかかえた藩財政改革の主任に推され，そのため大阪に出向し，御用商人らの協力を得て改革の方針を定めた。さらに1833年（天保４）家老となり，藩主より財政改革の全権を委任された。1835年三都藩債年賦償還法を定め，江戸・大阪・京都の商人からの借金は元金1,000両につき毎年４両ずつ250年賦償還とした。また砂糖など各種国産物の専売制を実施し，ついに藩財政の再建に成功した。一方軍制改革にも努め，雄藩としての基礎を築いたが，琉球（りゅうきゅう）密貿易発覚の責任を負い自殺。〔高崎徳次〕

すじんてんのう　【崇神天皇】　生没年不詳。名は御間城入彦五十瓊殖（みまきいりひこいにえ）天皇。開化天皇の第２皇子。母は伊香色謎命（いかがしこめのみこと）。磯城瑞籬（しきのみずがき）宮に都す。天照大神*（あまてらすおおみかみ）を宮中から離して倭（わ）の笠縫邑（かさぬいのむら）に祭り，四道将軍を派遣して国域を拡大し，男に弓弭調（ゆはずのみつぎ），女に手末調（たなすえのみつぎ）を課するなど税制を整えたので，国家の体制は大いに整備された。そこでこれをたたえて〈はつくにしらすすめらみこと〉といったという。陵墓は奈良県天理市の山辺道勾岡上（やまのべのみちのまがりのおかのえ）陵。〔黛　弘道〕

すす　【煤】　燃料が不完全燃焼したとき発生する炭素。炭化水素が燃焼するとき酸素が不足すると，分解したものが重合し，脱水素とともに環状化が行なわれてベンゼン縮合環が形成し，すすとなる。ふつう分子が大きいほどすすが多く，パラフィン系燃料より芳香族系燃料のほうがすすを発生しやすい。温度の影響が大で，発生したすすは高温で酸素があると再び燃焼する。すすは燃料の熱効力を低下させ，煙道をふさぐのでその発生は好ましくないが，すすそのものを利用するため特に発生させたものはカーボンブラック*とよばれている。〔竹下三吉〕



ス ズ 石　朝鮮忠清北道産



スズカケノキ

すず　【錫】　周期律表第Ⅳ族に属する金属元素。原子番号50，記号Sn，原子量118.69。この金属は古くから知られていて，ＢＣ3500～ＢＣ3200年に使用された証拠が見いだされた。また５～６世紀ごろにはゼウス，またはジュピターとよばれて使用されている。クラーク数4×10^{-3}（第26位）。マライ半島およびソ連の北極海沿岸が最大の産地で，天然にはスズ石*（SnO_2）として産出する。わずかに青みをおびた銀白色の光輝ある金属。展性に富み薄い箔（はく）とすることができる。α, β, γの同素体が知られるが，普通にみられるのはβスズで白色スズともいう。融点231.9℃，沸点2,270℃，比重7.3（白色スズ）。結晶形は正方晶系に属し，これを折り曲げると〈スズ鳴り〉を発する。これは小結晶がすりあうためである。空気中では安定であるが，高温に熱すれば酸化物SnO_2になる。濃硝酸に作用されると不溶性のメタスズ酸になる。水酸化アルカリ溶液と熱すれば水素ガスを生成して，亜スズ酸になる。スズの原子価は２と４で，スズ（II）化合物は容易に酸化されて４価となるために還元性がある。スズ（Ⅳ）化合物は第二スズ化合物とよばれ両性である。スズにはスズ塩とスズ酸塩の２種類がある。スズ酸H_4SnO_4は水酸化スズ$Sn(OH)_4$が変化したものと考えられる。スズは酢酸などの有機酸に強く，また無害なので，食器やかんづめのかんのめっきやブリキの製造に用いられる。また，箔として用いられるほか，青銅・砲金・活字金・軸受合金・易融合金・ハンダなどの合金成分として利用の分野が広い。〔古屋　弘〕

すず　【鈴】　体鳴楽器の一。一般に空洞（くうどう）のからの中にたまを入れ，からに裂け目をつけたものをいう。日本でも古墳から出土しており，今日でも民俗楽器としてさまざまなものが使用されている。いくつかの小さなものをたばねたものは神楽舞（かぐらまい）や三番叟*（さんばそう）に使われる。大鈴は神社の社頭にあるもので，歌舞伎囃子（かぶきばやし）では神社の場面に使われる。西洋では胴の中に金属の小片を入れたものが多く，これをたばねたジングル-ベルは特に名高い。➔鐘　➔ベル　〔徳丸吉彦〕

すず　【珠洲（市）】　石川県能登（のと）半島北端の市。人口29,000。1954年（昭和29）飯田（いいだ）・宝立（ほうりゅう）・正院の３町ほか６村が合併して市制施行。市域の大半は奥能登丘陵に属する山地で，珠洲岬（みさき）が北東へ突出し，その基部東岸に中心集落の飯田があり，周辺に平地が開ける。珠洲岬は海岸線の延長13kmに及び，高さ40～60ｍの台地が海に迫って断崖（だんがい）をなす。産業三大別人口比は44：21：35。主産業は農業で，和牛の産地として知られる。宝立山（469ｍ）のふもとにわが国第１のセッコウの大産地があり，また良質の硅藻土（けいそうど）を産して，これを原料としたこんろや能登がわらの特産がある。飯田東方の蛸島（たこしま）は古くからの漁港で，北海道へイカつり船団が出漁し，南方の宝立は出かせぎの杜氏（とうじ）が多いことで知られる。能登線が半島東岸を北上して蛸島まで通じ，国道249号線が半島を一周する。珠洲岬は景勝地で能登半島国定公園に含まれる。

すずいし　【錫石】　スズの原料鉱石。SnO_2　正方晶系に属し，硬度６～７，比重6.8～7.1。金剛光沢でかっ色柱状の結晶が多い。スズ鉱床に他の鉱石鉱物とともに産する。

すずか　【鈴鹿（市）】　三重県北東部の市。人口15万3,000。古代には伊勢（いせ）の国府・国分寺が置かれた。江戸時代に本多氏一万五千石の城下町であった神戸（かんべ）を中心に，海軍の軍需施設をつくる必要からまわりの農村地域が統合されて1942年（昭和17）市制施行。市域は鈴鹿山脈の東麓（とうろく）から伊勢平野へかけて広がり，東部は伊勢湾に面する。産業三大別人口比は14：47：39。県下の穀倉地帯として知られたが，最近は繊維・自動車・オートバイ・電気機器などの大工場が進出して人口も急増し，伊勢湾工業地帯の一画を占めている。友禅・ゆかた・小紋などの染色に用いる伊勢型紙の特産があり，重要無形文化財に指定されている。関西本線・国道１号線・近畿（きんき）日本鉄道名古屋線・国道23号線（参宮道）が通り，東名阪（ひがしめいはん）道路（有料道路，蟹江（かにえ）―亀山間開通）も鈴鹿を通っている。国際レーシングコース鈴鹿サーキットや鼓ケ浦（つづみがうら）・千代崎（ちよざき）などの海水浴場が

あり，伊勢ノ海県立自然公園や鈴鹿国定公園の観光基地でもある。

すずかけのき　【鈴懸木】　双子葉植物・スズカケノキ科。小アジア原産の落葉高木で，高さ10～30m。樹皮はなめらかで，薄くはがれる。葉は互生し，浅く5～7裂する掌状葉で，大きな鋸歯(きょし)がある。葉柄は長く，基部は冬芽を包んでいる。4～6月，雌花と雄花が別々の花柄に球状につく。果実は3～4個ずつ連なってぶらさがる。この仲間のアメリカスズカケノキはアメリカ東部原産の落葉高木で樹皮が縦に割れること，果実が1個ずつつくことなどがスズカケノキと異なる。また，モミジバスズカケノキは，これら2種間の雑種で種々の形質も両者の中間を示す。これら3種はプラタナスといわれ，街路樹・公園樹として用いられる。〔加藤僖重〕

すずかこくていこうえん　【鈴鹿国定公園】　三重県と滋賀県にまたがる鈴鹿山脈*のほぼ全域を占める面積293km²の地域で，1968年(昭和43)に指定された。山の景勝で知られている。最高峰の御在所山(1,210m)はふもとからケーブルカーが通じ，山地全体が深い谷に刻まれている。御在所山の東のふもとには湯ノ山温泉があり，四日市から近畿(きんき)日本鉄道湯の山線が通じる。

すずかサーキット　【鈴鹿サーキット】　わが国にはじめてつくられた本格的な自動車レース場。三重県鈴鹿市郊外にあり，オランダのサーキット-デザイナー，フーゲンホルツの設計に基づき，30億円を投じて1962年(昭和37)完成。総面積133万m²，1周6km，大小18のカーブをもち，世界的レベルのコースである。1963年の第1回日本グランプリレースがここで開かれて以来，わが国の自動車スポーツのメッカとなった。なお，1966年に富士スピードウエーが完成し，現在わが国のサーキットは2か所となっている。➔自動車競走　〔浮田裕之〕

すずかさんみゃく　【鈴鹿山脈】　近畿(きんき)地方東部，滋賀・三重両県境をほぼ南北に走る山地。西の滋賀県側は緩斜面であるが，東の三重県側は断層崖(だんそうがい)で急傾斜して伊勢(いせ)平野に臨み，三国岳・藤原岳・御在所山(1,210m)(最高峰)などがある。北の伊吹(いぶき)山地，南の布引山地とともに，古くから東西交通の障壁となっていたため，交通の要衝である関ケ原の狭隘地(きょうあいち)や鈴鹿峠*には関所が置かれていた。

すずかとうげ　【鈴鹿峠】　滋賀・三重県境の鈴鹿山脈を国道1号線が越える峠。標高357m。道路は峠をトンネルで通過しており，国道1号線では有数の難所である。江戸時代の旧東海道がここを通っていたころは，峠下の宿場町土山と坂ノ下が栄えていたが，いまはさびれている。平安時代以降の鈴鹿関*も坂ノ下に置かれていた。

すずかのせき　【鈴鹿関】　伊勢(いせ)(三重県)と近江(おうみ)(滋賀県)の境にあった古代の関所*。三重県鈴鹿郡関町付近がその遺跡。美濃(みの)(岐阜県)の不破(ふわ)の関*・越前(えちぜん)(福井県)の愛発(あらち)の関*と合わせて古代の三関という。都で天皇の崩御その他国家の大事が起こると三関に固関使(こげんし)をつかわし，外部からの侵入を防ぐのが例であった。789年(延暦8)三関は廃止されたが，関屋はなお存した。中世にも関所が設けられ，近世には東海道の宿場*として栄えた。



鈴鹿サーキット　国際級の難コースに時速150kmを越えるスピードで競うレーサ



ススキ



スズキ　セイゴ

すずかも　【鈴鴨】　鳥類・ガンカモ科。全長45cmほどの潜水ガモ，雄は頭から胸にかけて黒色，腹部および翼の一部は白色で，キンクロハジロ*の雄に似るが，背面は黒色ではなく，細かい黒と白のしま模様をなし，白っぽい。おもに60～65°N以北で繁殖し，冬は温帯に渡る。浅海・湾内・川口に多数渡来して越冬し，潜水して貝類を食う。

すずがもり　【鈴ケ森】　東京都品川区南東部の旧地名で，現在の南大井の一部にあたる。1651年(慶安4)，もと日本橋伝馬町にあった刑場が千住(せんじゅ)の小塚原*(こづかっぱら)とこの地に移転分設され，以来罪人の出生地が東国のものは小塚原，西国のものは鈴ケ森で処刑されることとなり，1870年(明治3)に廃止されるまでに天一坊・丸橋忠弥(ちゅうや)・八百屋(やおや)お七・鼠小僧(ねずみこぞう)などがここで処刑された。南大井2丁目の第1京浜国道と旧東海道が交わる所に刑場跡の石碑がある。〔浅井得一〕

すすき　【芒・薄】　単子葉植物・イネ科。日本・朝鮮・中国・沖縄・千島に分布する多年草で，北アメリカにも帰化している。かわいた原野に自生し，優占種となる。茎は高さ1～2mで，葉とともに多数束生して大株となる。地上部は一年生で，秋に翌年の茎を出しはじめる。葉は50～80cmの線形で，縁に細鋸歯(さいきょし)があり，太い帯白色の中肋(ちゅうろく)があって基部はさや状になる。夏から初秋に15～30cmの花穂をつけ，小穂は帯紫黄色で，白色の絹状毛でおおわれる。花穂を尾花といい，秋の七草の一。また，カヤともいい，かやぶき屋根の材料などにされる。変種のハチジョウススキは暖地の海岸付近にはえ，葉の幅が広く，裏面は著しく灰白色で，ざらつきが少ない。ウマやウシの飼料にされる。〔横井朝子〕

すずき　【鱸】　硬骨魚類・スズキ科。体長1mほどになり，体は長楕円(ちょうだえん)形で側扁(そくへん)し，サバに似た外形である。口は大きく，うろこは小さい。背側は灰青色で，腹側は銀白色。幼魚には小黒点があり，成魚でもまれに黒点をもつものがある。北海道以南台湾まで広く分布する。沿岸魚で，夏季には川をよくさかのぼる。貝類・甲殻(こうかく)類・魚類などを食べる。夏がしゅんで，洗い・刺身・塩焼き・潮汁(うしおじる)などにして賞味する。いきたものは，特に高価で，成長に伴い名が変わるいわゆる出世魚で，名は地方により多少異なるが，1歳魚で25cmほどまでのものをセイゴ，2～3歳で50cmぐらいまでをフッコ，それ以上をスズキとよぶことが多い。スズキは活発で引きも強く，つり魚として喜ばれる。形態が酷似したものにヒラスズキがあり，長崎・高知・沼津などに分布し，スズキと同様に扱われている。〔菅野　徹〕

すずきうめたろう　【鈴木梅太郎】　(1874～1943)　植物生理化学者。静岡県に生まれ，東京大学農学部を卒業，母校で教鞭(きょうべん)をとる一方，植物タンパク質および関連化合物の研究を進め，1910年にはドイツのフンクとは別個に米ぬかの中にオリザニン*(今日のビタミンB_1)を発見するなど，日本における植物生理化学・栄養学に大きな貢献をなした。

すずきかんたろう　【鈴木貫太郎】　(1867～1948)　海軍大将・政治家。海軍大学校卒業。日露戦争従軍後，各艦長，海軍省の局長，海軍次官，次いで呉(くれ)鎮守府長官・

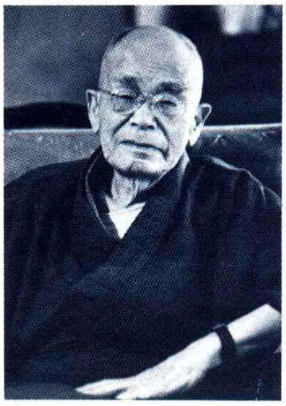
連合艦隊司令長官・軍令部長を歴任した。予備役に編入されてから侍従長兼枢密顧問官になったが，その在職中の1936年(昭和11)，二・二六事件で反乱軍に襲われ重傷を負った。1945年，第2次世界大戦時最後の首相として組閣し，主戦派をおさえてポツダム宣言の受諾を決定した。〔高崎徳次〕

すずきしょうてん【鈴木商店】明治・大正時代の商事会社。1877年(明治10)鈴木岩次郎が創立。砂糖・肥料・樟脳(しょうのう)を販売したが，その死後番頭金子直吉が未亡人よねを助けて業務を拡大し，外米・製粉・生糸・鉄・製油・木材の買い占めを図り，第1次世界大戦中は国際的に広く進出した。その最盛時には資本金8,000万円，直系会社32，傍系会社22社，投資数億円に上った。1920年(大正9)の戦後恐慌で，その異常な過剰投資は行きづまり，1927年(昭和2)震災手形問題で融資銀行の台湾銀行に深刻な打撃を与え，金融恐慌のさなかに倒産。〔高崎徳次〕

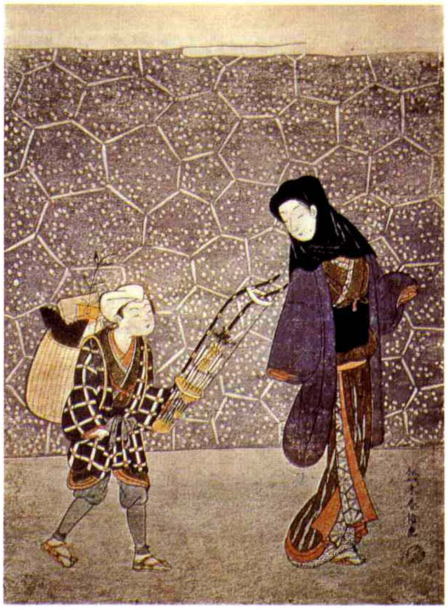
すずきしんたろう【鈴木信太郎】(1895～1971)仏文学者。東京生まれ。1921年(大正10)に東京大学講師となり，途中フランス留学を経て，1956年(昭和31)定年退職するまで同大学でフランス詩を講義した。象徴詩，特にマラルメの研究に詳しく，文献学的研究方法と国内の仏文学の研究態勢の確立に尽くした。主著に《ステファヌ-マラルメ詩集考》《ヴィヨン全詩集》があり，随筆をよくしたことでも知られる。

すずきだいせつ【鈴木大拙】(1870～1966) 仏教思想家・哲学者。本名，貞太郎。97歳の一期を終えるまで，仏教思想家として，明治・大正・昭和の3代にわたり，超越的立場から，広く世界的に思想的影響を及ぼした。石川県金沢に医師，柔の四男として生まれ，5歳のとき父を失った。石川県専門学校時代に生涯(しょうがい)の友，西田幾多郎に出会っている。1891年(明治24)に上京し，東京専門学校(現早稲田(わせだ)大学)に入学。縁あって鎌倉円覚寺の今北洪川(こうせん)について参禅，その没後はさらに釈宗演について参禅し，参究5年めにして悟りを得る。1897年に渡米し，哲学者ポール-ケーラスの下で翻訳に従事し，雑誌編集にも携わった。《大乗仏教概論》を英文で出版。41歳のときアメリカ人ビアトリス-レーンと結婚。学習院教授を経て，京都大谷大学教授となり，1921年(大正10)英文仏教雑誌《イースターン-ブディスト》を創刊。国内での思想的活躍はもとより，しばしばアメリカ各地の大学や欧米諸国で大乗仏教を講じ，またその間，和・英両国語による膨大な著作を刊行し，禅・華厳(けごん)・浄土の諸教を中心とする大乗哲学を精力的に説いた。著作は《鈴木大拙全集》(30巻)に収められている。〔坂東性純〕

すすきだきゅうきん【薄田泣菫】(1877～1945) 詩人。岡山県の生まれ。本名淳介(じゅんすけ)。1899年(明治32)処女詩集《暮笛集》によって好評を得，大阪に出た。続いて詩集《ゆく春》《二十五絃(げん)》，詩文集《白玉姫(しらたまひめ)》を刊行，詩集《白羊宮》に至ってその詩業は頂点に達した。また，1912年(大正1)《大阪毎日新聞》にはいり，のちには学芸部長をつとめた。わが国象徴詩の先駆として蒲原(かんばら)有明と並称される。



鈴木大拙



鈴木春信《破魔弓》ボストン美術館蔵



鈴木三重吉

すずきはるのぶ【鈴木春信】(1725？～1770) 江戸中期の浮世絵師。1765年(明和2)俳諧師(はいかいし)の間に流行した絵暦の競作に参加し，彫り師や摺(す)り師の協力を得て，錦絵(にしきえ)とよばれる多色摺り木版画を完成した。奥村政信(まさのぶ)や京都の西川祐信(すけのぶ)の美人画に影響を受けながら，王朝的美意識に包まれたかれんな美人画様式を創造，江戸市民の熱狂的な歓迎を受けて，明和年間(1764～1771)の浮世絵画壇に君臨した。時様の風俗の中に，和歌や説話の古典的題材を配したその夢幻的な絵画世界は，浄化された市民感情の清爽(せいそう)さを証明する反面，その現実逃避的性向を示していることも見のがせない。代表作に《座舗(ざしき)八けい》《風俗四季哥仙(かせん)》などの連作がある。〔小林　忠〕

すずきぶんじ【鈴木文治】(1885～1946) 大正・昭和時代の労働運動家。宮城県出身。東京大学卒業。吉野(よしの)作造・安部磯雄(あべいそお)らの影響で社会問題に関心をいだき，1911年(明治44)ユーテリアン教会幹事となって社会改良事業を始めた。1912年(大正1)友愛会を創立。1919年大日本労働総同盟友愛会に改組し，1930年(昭和5)まで会長をつとめた。この間4回ILO代表となった。1928年以降社会民衆党・社会大衆党の代議士として3回当選。第2次世界大戦後，初の総選挙に社会党から立候補したが選挙運動中死去。〔高崎徳次〕

すずきぼくし【鈴木牧之】(1770～1842) 江戸後期の文人・郷土史家。新潟県塩沢の生まれ。家業は質屋と縮(ちぢみ)の仲買商であったが，その閑暇をもって経書・俳諧(はいかい)を学び，画筆に親しんだ。多くの著作を残したが，その中でも《北越雪譜》(1837)が最も知られている。雪国の生活や民俗が詳説されており，雪の博物誌として最もすぐれたものである。ほかに《秋山紀行》(1828)，《夜職草(よなべぐさ)》(1824)などがある。

すずきみえきち【鈴木三重吉】(1882～1936) 小説家・児童文学者。広島県生まれ。東京大学英文科卒業。東大在学中に短編小説《千鳥》を書いて夏目漱石(そうせき)の推薦で雑誌《ホトトギス》に掲載，これを機に作家として出発し，《山彦(やまびこ)》《小鳥の巣》《桑の実》などの新ロマン主義的傾向の作品を発表した。1916年(大正5)処女童話集《湖水の女》を刊行。同年の長女すずの誕生をきっかけに急速に児童読み物への関心を深めていった。1918年(大正7)近代児童文学史上に画期的な地位を占める児童雑誌《赤い鳥》を創刊，終生この編集に従い，〈童話と童謡を創作する最初の文学的運動〉を標榜(ひょうぼう)し，当時の一流文壇作家の寄稿を得て児童読み物を芸術的に高めることに成功した。〔大藤幹夫〕

すずきもさぶろう【鈴木茂三郎】(1893～1970) 政治家・社会運動家。愛知県出身。早稲田(わせだ)大学卒業後東京日日新聞社などの記者を経て，無産大衆党・日本無産党の幹部として活躍したが，1937年(昭和12)人民戦線事件で入獄。第2次世界大戦後日本社会党の結成に参画。1951年同党分裂後は左派社会党委員長。1955年左・右社会党

統一後は同党委員長となった。1960年辞任。理論的政治家として知られる。

すずこう【錫鉱】 スズの鉱石鉱物は*スズ石である。その成分はSnO_2であり，セキエイを伴って，深成鉱脈・*ペグマタイト鉱脈または高温低圧型鉱脈として産するのが普通である。ときに*スカルン鉱物とともに高熱交代鉱床中に産することもある。スズ石は風化に対し強い鉱物で，かつ重く(比重6.8〜7.1)，上記のスズ石を含む鉱床が風化分解すると砂鉱を形成する。前者を山スズ，後者を砂スズという。なおスズの硫化物にはオウシャク鉱Cu_2FeSnS_2があるが，その量は多くない。日本におけるスズ鉱石の主要な産地は兵庫県明延鉱山で，世界ではマライ半島・インドネシア・ボリビアである。製錬法としては粉コークス・無煙炭粉を還元剤とし，反射炉によって還元する。〔今井秀喜〕

すずしろ【蘿蔔・清白】 ダイコンの古名で，春の七草の一。➔ダイコン

すずしろそう【蘿蔔草】 双子葉植物・アブラナ科。山間の谷間に分布する多年草。高さ10〜15cmの茎が数本集まって出，匍匐枝(ほふくし)によって繁殖する。根生葉は有柄の楕円(だえん)形であらい鋸歯(きょし)があるが，茎葉は無柄の楕円形である。早春，白色4弁花を茎の先に4〜8個つける。

すずたけ【篶竹】 単子葉植物・イネ科。日本各地の山野に自生する大形のササで，しばしば樹下に密生する。地下茎は長く匍匐(ほふく)し，たけのこは細長い。稈(かん)は細く丸く，高さ1〜3m，径5〜8cm。強靭(きょうじん)で，節は隆起せず，上部は枝を出す。葉は硬質で，長さ30cmほどの長楕円(ちょうだえん)状披針(ひしん)形，裏面は白色をおびる。花序は円錐(えんすい)形で，中軸や分枝に毛がある。小穂は帯紫色で，5〜10花をつける。

すずな ⇨カブ

すすはらい【煤払い】 神だなをはじめ家じゅうのそうじをして，*正月を迎える準備を始める行事。すすはきともいう。以前は12月13日に行なったが，正月準備がしだいに簡略化された結果，25日あるいは28日にする土地が多くなった。すす払いに用いたほうきを煤男・煤梵天(ぼんてん)とよんで，神酒(みき)や供物を供える地方もある。また12月13日は，正月飾りの松を山から迎えてくる日であり，また奉公人の出替わりもこの日とする地方が多かった。〔直江広治〕

すすびょう【すす病】 ミカン・カキなどの果実・葉・枝がビロード状にすすをまいたようになり，のちには黒色の薄い膜状のものが表面をおおうようになる病気。この黒い膜は病原菌の菌糸と胞子で，葉では容易にはがすことができる。本菌はカイガラムシ・コナジラミ・アブラムシなどの分泌物に寄生して発育するので，防除法はこれらの害虫を駆除することが必要である。



スズムシ



スズメ

また，剪定(せんてい)によって通風・透光を図るのがよい。〔渡辺　実〕

すずむし【鈴虫】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・コオロギ科。体長16〜18mmで，全体暗かっ色ないし黒かっ色。前胸背はきわめて小さい。翅(はね)は雌雄で異なり，雄では前翅は腹端を越え，きわめて幅広く大形の発音部をもち，雌では細く末端は幾分とがる。後翅ははじめは存在するが，のちに脱落する。雌の産卵管は細長く，後脚の脛節(けいせつ)より長い。年1回発生。本州・四国・九州・台湾などに分布し，成虫は8月中旬ごろから出現する。いくぶん乾燥した草地を好み，草むらの根ぎわの地上に生活し，昼間は石の下などに潜み，夜間活動して食物をとる。雄は〈リーン・リーン〉と鳴き，秋の鳴く虫の一つとして古くから親しまれている。卵は土中に産みつけられてそのまま冬を越し，翌春孵化(ふか)して幼虫となり，各種の雑草の葉を食べて成長する。飼育するには，土を入れた容器中で，野菜や果実などを与えて暗所で飼い，土が乾燥しないようにときどき霧を吹いてやる。また，にぼしや削り節などを少量与えるとよい。狭い容器中に多数を飼って，えさが欠乏すると共食いをすることがあるので注意を要する。〔鈴木邦雄〕

すずむしそう【鈴虫草】 単子葉植物・ラン科。山地の林内あるいはコケのはえた樹上にまれに自生する多年草。高さ24〜30cm。葉は広楕円(こうだえん)形で先がとがり，多数の平行脈が目だつ。5〜7月長い花柄を伸ばし，紫紅色の大きな花を咲かせる。観賞用として栽培もされる。

すずめ【雀】

1鳥類・ハタオリドリ科・スズメ亜科の総称。かつてはスズメ科に入れられていたが，その後キンパラ科に組み替えられ，さらに現在ではスズメ科という科名もなくなり，ハタオリドリ科に入れられている。スズメ類の系統分類学は外国の研究者によって進められ，現在も異論はあるが，日本鳥学会が採用してきた分類は表のようである。いわゆるスズメ類に関係あるアトリ科・ハタオリドリ科・カエデチョウ科の諸特徴は，①3科のいずれも10枚からなる初列風切をもち，第1羽は他の羽より極端に短い。しかし，これは類縁とは無関係の適応形態と考えられている。②アトリ科とハタオリドリ科の鳥は，骨角質の口蓋(こうがい)をもつ点で似ているが，前者の幼鳥は生後2〜3か月めに全身換羽をするが，後者では部分換羽である点が異なる。③カエデチョウ科のひなの口には特殊な斑紋(はんもん)があるが，ハタオリドリ科にはない。④スズメ属の鳥は植物の葉や茎を用いて，他のハタオリドリ類が営巣しない建物のすき間・樹洞(じゅどう)・巣箱などにおもに営巣している。しかし，巣そのものの構造は側面に口のあるドーム型で，原形的にハタオリドリ類の巣と同じであり，共通の祖先から進化したと考えられている。

スズメの分類上の所属の推移

おもなグループ	日本鳥学会(1942)	日本鳥学会(1958)	日本鳥学会(1967)
ミツドリ類	—	—	ホオジロ科
フウキンチョウ類	—	—	
コウカンチョウ類	スズメ科	アトリ科	
ホオジロ類			
アトリ類			アトリ科
ヒワ類			
スズメ類		キンパラ科	ハタオリドリ科
ハタオリドリ類	キンパラ科		
カエデチョウ類			カエデチョウ科

注）鳥類科名の和名は浦本昌紀編《鳥》(1967)による

2スズメ亜科・スズメ属。15種があり，アフリカ・ヨーロッパ・アジアに天然分布している。そのうち，イエスズメとスズメの2種はユーラシア大陸を中心に他のどのスズメよりも広く分布し，イエスズメはアメリカや南アメリカ大陸南部などに移殖され，さらに分布域を広げている。日本のスズメは，都会はもちろんのこと民家のあるところならば，どこにでも人間の生活に依存してすみつく強い習性がある。イエスズメとスズメの2種が同一地域に分布しているヨーロッパの多くの地域では，イエスズメのほうが日本のスズメのような生活域を占めており，スズメはそこを明け渡し，ややいなか的なところに生活しているので，英名では前者をハウス-スパロー，後者をツリー-スパローとよんでいる。わが国にはスズメとニュウナイスズメ(入内雀)の2種が生息する。ニュウナイスズメは本州中部から北海道の森林の樹洞で繁殖し，秋には本州以南に渡り越冬する。スズメとほぼ同大で，雄の上面はスズメより赤かっ色に富み，くびは黒いが，スズメにあるほおの黒斑がない。雌はくびも白色で，全体に雄より不鮮明な羽毛である。昔は多数生息し，早熟期の稲穂を食い大きな被害をだしていたが，近年ではその数は非常に減少している。〔安部直哉〕

すずめうり **【雀瓜】** 双子葉植物・ウリ科，田のあぜ・林縁や小川・沼池などのそばに自生するつる性の一年草。葉は卵状三角形で，長さ3～6cm，幅4～8cm。雌雄異株。8～9月葉腋(ようえき)に白い雌花1個をつけるが，雄花は枝先に総状につく。果実は直経1cmほどの球形の漿果(しょうか)で，熟すと灰白色になる。種子は長さ5～6mmの灰白色である。

すずめが **【天蛾】** こん虫類・鱗翅(りんし)目・スズメガ科の総称。ガのうちで最も分化した群の一つで，1,000種以上の種類が知られる。翅(はね)を広げた長さは一般に6～10cmで，最も大きい種では20cmに達する。体は流線形で，前翅は細長い三角形をなし，後翅は小さく速く飛ぶのに適した形をしている。単眼を欠き，触角は比較的太く，糸状・鋸歯(きょし)状，あるいは棍棒(こんぼう)状で先端は細くかぎ形となり，チョウに近い。通常口吻(こうふん)は発達してきわめて長いが，中には退化して機能のない種類もある。空中を飛びながら花の蜜(みつ)を吸うため,好んで集まる花の花筒の長さと口吻の長さとは深い関係がある。ホウジャク類やオオスカシバなどは昼行性であるが，大部分は夜行性で燈火に集まる。卵は球形で多くの場合食草の葉に1個ずつ産みつけられる。幼虫は典型的なイモムシで，頭部は円形ないし三角形で，胴部は円筒形。土中でさなぎとなり，そのまま越冬する。世界に広く分布し，特に熱帯・亜熱帯地方に多い。下唇(かしん)ひげの第1節の内側にある感覚毛塊の有無により2群に分けられ，それぞれ無感覚毛群・有感覚毛群という。日本には5亜科が知られ，前者にはメンガタスズメ亜科・ウンモンスズメ亜科，後者にはホウジャク亜科・オオスカシバ亜科・コスズメ亜科がはいり，約55種が含まれ，翅を広げた長さが16cmにもなるオオシモフリスズメ，幼虫・成虫ともに〈シュッシュッ〉と発音するメンガタスズメ，翅が透明でハチに擬態しているといわれるオオスカシバ，強い飛翔力(ひしょうりょく)を利用してほとんど全世界に分布するエビガラスズメなどがある。農作物の害虫が多く，トビイロスズメはダイズ，エビガラスズメはサツマイモ，ブドウスズメはブドウ，メンガタスズメはゴマ・ナス・ジャガイモを食害する。〔多々内修〕





スズメガ (上)ウンモンスズメ (下)セスジスズメ

すずめだい **【雀鯛】** 硬骨魚類・スズメダイ科。体は長楕円(ちょうだえん)形で，よく側扁(そくへん)するので，マダイなどと似た体形を示す。うろこは大きく，側線は背びれの第1軟条の下で終わり，尾部には至らない。体長20cmほどになる。全体にかっ色みをおびた濃紫色で，特別の模様はないが，尾柄背面には1個の白斑(はくはん)がある。本州中部以南，沖縄・朝鮮・中国などに分布する。食用となり，福岡付近ではアブッテカモ(火にあぶってかもうの意)という方言で親しまれている。

スズメダイ科は南方色の濃い一群で，南方へ行くほど種類数が豊富になり，互いに形態の似た多くの種類がある。岸近くの浅い岩礁地帯・潮だまり・サンゴ礁地帯などに群れ，人目につきやすい。ほとんどの種類が20cmに満たぬ小魚で，食用価値はほと

スズメダイ



コバルトスズメ



スズメダイ



ロクセンスズメ



ソラスズメ



デバスズメ

んどない。しかし，色彩の鮮麗なものが多く，活発な動作とあいまって鑑賞用としてすぐれ，南方水域から輸入されるなどして盛んに飼育されている。日本近海で普通にみられるものや普通に輸入されているものは次のようである。①ネッタイスズメ：全身美しい黄色で約10cm，伊豆(いず)以南に分分する。②ミスジリュウキュウスズメ：銀白色の体に3条の太い黒色横帯があり，コントラストが美しく，よく飼育されている。約6cmになり，沖縄以南のインド・太平洋水域に広く分布する。③ソラスズメ：全身ほとんどが，輝くようなコバルト色で，腹部の後半部と尾部は淡黄色。体の青色はときにより濃くなったり，淡くなったり，微妙に色合いを変えて美しいが，飼育水槽(すいそう)内では，色があせて，紫かっ色になってしまうことが多い。8cmほどになり，本州中部以南宮古島までに分布する。④イソスズメ：10cmほどになり，淡紫かっ色で，尾びれは淡黄色。体側中央に黄白色の横帯があり，幼魚ではその前後にやや細い同色の横帯をつける。本州中部以南，インド・ポリネシアに分布する普通種である。⑤シマスズメ：25cmほどになり，淡灰色地で体側に6条の幅広い紫かっ色の横帯がある。尾柄背面に黒斑，背びれ棘部(きょくぶ)に黄白斑がある。千葉県以南のインド・太平洋水域に広く分布する。⑥オヤビッチャ：体長20cmほどになり，頭背部は帯紫かっ色，他は淡黄色で，体側に5条のはっきりした黒色帯があり，全体として黒と黄のあざやかなだんだら模様になる。朝鮮沿岸・本州中部以南，アフリカ・オーストラリア・ポリネシア・ガラパゴスから，さらに大西洋にも分布する。幼魚は夏季，日本の沿岸では潮だまりにきわめて普通にみられる。⑦ロクセンスズメ：20cmほどになり，体の地色は銀白色で，体側に5条の太い黒色横帯がはいり，最後の1本は尾びれの上縁に走り，さらに下縁にも黒い帯がはいる。本州中部以南，紅海・アフリカに広く分布し，小笠原(おがさわら)諸島には特に多く，食用にされる。⑧シチセンスズメ：20cmほどになり，体は淡黄色で，7条の黒色横帯がはいり，オヤビッチャに酷似する。幼魚はオヤビッチャと混群をつくることが多く，識別しにくい。分布はオヤビッチャとほぼ同じ。黄と黒，あるいは白と黒の模様を階級章に見たてて，英語では，⑥⑦⑧とその近似種をサージャント-フィッシュ(軍曹魚(ぐんそうぎょ))とよんでいる。3種のうちではロクセンスズメがよく飼われている。⑨ルリスズメ(コバルトスズメ)：7cmほどになり，全身輝きのあるコバルト色で，特別の斑紋はない。ときによりこのコバルト色が濃くなったり，薄くなったりするが，水槽に飼育しても，ソラスズメのように色があせることはない。沖縄以南，東インド・メラネシアに分布する。宝石のように美しく，しかも安価なため，ごく普通に飼育されている。⑩デバスズメ(グリーンスズメ)：10cmほどになり，体は淡青色であるが，光線のあたりぐあいによっては緑色にもみえる。沖縄以南に分布し，よく飼われる。⑪ミツボシクロスズメ(スリースポット-ダムゼル)：10cmほどになり，体はまっ黒であるが，頭の上と体側中央の左右に白い斑紋がある。相模(さがみ)湾以南に分布し，奄美(あまみ)大島・沖縄諸島に多く，イソギンチャクと共生する。体色はコントラストが強く美しいためよく飼われる。

〔菅野　徹〕


スズメノテッポウ


スズメバチ

すずめっき　【錫鍍金】　容器などの表面をスズで被覆する方法。溶融したスズの浴液中に表面を清浄にした被めっき体を浸して引き上げる溶融めっきと，電気めっきによる方法とがある。溶融めっきでは比較的に厚いめっきが可能である。電気めっきには，アルカリ性浴と酸性浴との2方法があるが，後者はめっきの光沢が劣るので前者がおもに用いられる。スズは白色金属光沢があり，耐食性にすぐれ，食品中の有機酸に強い。スズめっきは，家具厨房(ちゅうぼう)用品・食品容器・かん・装飾品・美術工芸のほか，加工やはんだづけが容易であるので，電気部品などに応用されている。

〔上田重明〕

すずめのえんどう　【雀野豌豆】　双子葉植物・マメ科。野原・畑地などの陽地に普通にみられる一年草。茎は細く，高さ40～60cm。8～16枚の小葉からなる複葉で，長さ5～13mm，幅1.5～2.5mmで互生し，頂小葉は枝分かれした巻きひげとなる。4～5月葉腋(ようえき)から長い花柄を伸ばし，先端に長さ3～4mm，白紫のちょう形花を1～6個つける。豆果は長さ8～10mmで有毛，中に1～2個の種子がある。よく似たものにカラスノエンドウがあるが，これよりも大きい。

すずめのかたびら　【雀帷子】　単子葉植物・イネ科。平地の日あたりのよい場所や畑・路傍などにごく普通にみられる1～2年草。葉は根もとから多数出て，無毛で線形，長さ4～10cm，幅2～3mm。3～11月に緑色で長さ4～5cm，幅3～4cmの円錐(えんすい)花序をつける。小穂は長さ3～5mmで3～5小花からなる。この仲間のイチゴツナギ・ミゾイチゴツナギ・ナガハグサなどは芝草や牧草に用いられる。

すずめのてっぽう　【雀鉄砲】　単子葉植物・イネ科。スズメノマクラともいい，田や小川の縁に群生する一年生または越年生草本。高さは20～40cm。葉は線形で10cmほど，基部はさや状になり茎をいだく。4～6月，3～8cmの細い円柱状淡緑色の花穂を直立し，おしべは橙(とう)色。

すずめのやり　【雀槍】　単子葉植物・イグサ科。スズメノヒエともいう。平地や低山地の日あたりのよい草地に自生する多年草。根茎は短く，多数の茎や葉を束生する。茎は円柱形で平滑である。葉は7～15cmの線形で，縁にまばらな長白毛がある。4～5月，10～30cmの花茎を伸ばし，球形または卵形の花穂をつける。花序の下の包葉は花序よりも長い。花被は赤かっ色。朔果(さくか)は球形または卵形でかっ色。

すずめばち　【胡蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・スズメバチ科の一種またはスズメバチ科の総称。スズメバチは，雌は体長37～44mm，頭部は黄赤かっ色，胸部は黒かっ色で小楯板(しょうじゅんばん)に1対の暗赤かっ色の斑紋(はんもん)があり，腹部は黄色で各節に1本の黒色帯があり，翅(はね)はかっ色で前縁部が濃色で黒かっ色ないし暗赤かっ色の翅脈が走る。働きバチは雌とほとんど同様の色彩をもつが，体が細く，小形で体長25～37mm。雄は一般に働きバチよりも大形で，体長27～39mm。日本に分布する膜翅類中最大の種である。巣は球形で大きく，直径80cmに達するものもあり，土中・樹木の空洞(くうどう)・人家の壁間などにつくり，外側は朽ち木などの咀嚼物(そしゃくぶつ)でおおわれるが，下面はおおわれない。巣の内部には，数段の育児室がある。1群は数十個体ほどであるが，ときには数百個体の大集団となる。習性は獰猛(どうもう)で，攻撃性が非常に強く，毒性も日本産のハチ類中最も強い。鱗翅(りんし)類の幼虫や各種のこん虫の幼虫や成虫・果実・樹液などを食物とし，また秋にはミツバチの巣を襲ってミツバチを殺すため，養蜂(ようほう)業の害虫として恐れられている。日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国からインドに至る地域に広く分布し，数亜種に分けられている。

スズメバチ科は，温帯から熱帯にかけて種類が多く，日本にはスズメバチのほかヒメスズメバチ・キイロスズメバチ・モンスズメバチ・クロスズメバチ・コガタスズメバチなど約10種類が分布している。いずれも社会生活を行ない，一般に雌(女王)・働

きバチ・雄の3者によって構成される。雌と働きバチは受精卵から生じ，雄は無受精卵から生じる。女王は春に造巣する。巣は木質繊維の咀嚼物からなる紙状の物質で包まれ，内部に少数の室が完成するとそこに各1個ずつの受精卵が産下される。やがて無脚の幼虫が孵化(ふか)し，女王によって食物を与えられて成長し，成熟すると室にはふたがかぶせられ，その中でさなぎになり，羽化して働きバチになる。働きバチは，雌雄が現われて交尾が行なわれる秋まで生まれる。雄はふつう秋にのみ出現し交尾後まもなく死ぬ。交尾を終えた雌は，土中や朽ち木中などで冬を越し，翌春新たに造巣する。巣は通常1年で放棄される。造巣場所は種類によって異なるが，多くの種類は樹木の空洞・切り株・人家の軒下などに造巣するが，クロスズメバチのように土中に造巣する種類もある。また，チャイロスズメバチのようにみずからも造巣するが，雌がモンスズメバチなどの巣に侵入してその雌を殺して代わって産卵を行なうような寄生性をもつ種類もある。スズメバチ科は，広義にはアシナガバチ類・トックリバチ類・ドロバチ類などを含む。〔鈴木邦雄〕

すずめやき【雀焼き】 中形のフナを頭ごと背開きにして竹ぐしにさし，みりん・しょうゆで付け焼きにしたもの。粉山椒(さんしょう)を振ってある。焼き上げた形がフクラスズメに似ているので，この名がついた。《料理物語》(1643)には小鳥焼きとして〈フナを三枚におろしてくしにさし，山椒みそを付け焼くことなり〉とある。スズメの付け焼き(小鳥焼き)に擬したフナの付け焼きがすずめ焼きになり，フナの小鳥焼きともよばれた。

すずらん【鈴蘭】 単子葉植物・ユリ科。ヨーロッパ・アジア・北アメリカに分布する多年草。日本産のスズランはキミカゲソウともいい，高山や北海道に自生する。地中を根茎が長く伸び，長楕円(ちょうだえん)形で裏面が粉白色の葉が2枚ずつつく。花茎は葉束から出て高さ20～35cmで，芳香のある小さな白色花を10前後下垂させる。秋，直径6mmほどの紅色球果をつける。全草にコンバラトキシン・コンバラマリンなどを含み，ジギタリス*と似た強心作用がある。ヨーロッパ産のものをドイツスズランといい，日本産のものよりも香りが高く，切り花用として促成され，あるいははち植えとされる。

すずり【硯】 中国に発達した筆記用具の一。漢代に始まり，この時代のすずりは長方形のものが多く，平面のスレート質の石を用いた。そして，墨(おそらく丸薬形)をこの上に置き，別に小さな平面の石に取っ手をつけたものを用いて，上から押しつぶしてすったようである。漢代のすずりは近代までその存在が確認できなかったが，漢の楽浪郡(朝鮮)の古墳を1931年(昭和6)に発掘したとき，すずり箱とともに発見され，漢硯(かんけん)の形がはじめて判明した。これに続き近来は中国でいくつか同種のものが発見されている。六朝(りくちょう)時代になると，墨の形が大きくなったので，すずりの前部に墨をためる池がつくられ，形は長円形になり，後部の裏面に足をつけて高くし，硯面をやや斜めにつくるようになった。石でこれをつくることは容易でないので，泥土(でいど)でつくり焼成するようになった。唐・宋(そう)代になると硯石が発見されたので，それまでのすずり箱に入れた瓦硯(かわらすずり)のようなものはなくなり，代わって硯石の美を誇る大形のすずりがつくられた。宋硯に端溪硯*(たんけいけん)など大形のものが多いのはそのためである。以来中国ではすずり箱は用いず，硯石に木のふたをおおって，直接に机上に置くようになった。すずりには石硯のほかに陶磁硯・銅硯・玉硯などがあるが，いずれも石硯の潤いのあるのには及ばない。〔杉村勇造〕



スズラン

すずりばこ【硯箱】 すずりは本来石のかたまりであるから，中国漢代からこれを入れる豪華な箱がつくられた。戦国時代から漆器が用いられるようになって，他の調度品同様すずり箱にも朱墨の漆が塗られ，漆の文様画が描かれた。この漆工芸はわが国にも早く伝えられたが，平安・鎌倉時代になるとこれに金蒔絵(まきえ)が加わってさらに華麗なものになり，中国でも倭漆(わしつ)として珍重された。中国では宋(そう)代からすずりは独立して置かれるようになったが，わが国ではすずり箱・文箱(ふばこ)などの蒔絵はさらに発達し，江戸時代になると，宗達や光琳(こうりん)の下絵による金蒔絵のすずり箱をはじめ，芸術的価値の高い作品が数多くつくられ，公卿(くげ)・諸侯の調度品として用いられた。また，すずり箱の中にはすずりのほかに蒔絵の筆・墨・墨ばさみ・はさみ・きりなどを収めるようになった。〔杉村勇造〕

ずぞう【図像】 白描画*の手法で描かれた仏像の図。平安時代以降，密教寺院において仏像研究のために，その製作，収集が盛んに行なわれた。阿闍梨(あじゃり)の間ではこれが修行の一つでもあり，その作成に専門の絵仏師をおく場合もあった。これを集めた図像集には，心覚の《別尊雑記》，覚禅の《覚禅抄》，承澄の《阿娑縛抄(あさばしょう)》など平安末期から鎌倉時代にかけての遺品が特に多い。

すその【裾野(市)】 静岡県北東部の市。人口41,000。江戸時代には箱根用水によって潤された溶岩台地上の新開地で，箱根山



洮河緑石龍頭硯
歙州回文長方硯
宋端溪灰蒼色太史式硯
宋端溪馬肝色太史式硯

硯 中国の名硯

を迂回(うかい)する交通路でもあった。1952年(昭和27),駿東(すんとう)郡裾野町として町制を施行,1971年1月市制施行。市域は箱根・愛鷹(あしたか)両火山の裾合いの谷を南流した富士溶岩流に沿って東西に細長く延び,北西部には自衛隊演習場と国有林が広がる。産業三大別人口比は8:44:48。米作と畑の芝つくり,製材・木工などの家内工業が行なわれ,竹製品の特産がある。最近は三菱レイノルズ社のアルミ製品工場やトヨタ自動車工場などを中心に金属・機械・自動車部品などの工業が発展している。御殿場線・国道246号線が通じる。

すそまわし【裾回し】袷*(あわせ)・綿入れの長着*の裏のすそ回りにつける布。八掛(はっかけ)ともいう。江戸時代後期に,女物の裏布を経済上通し裏にせず,腰の上下を別布にしたことから今日に続いている。表布と違うすそ回しを変わりずそ,同布のを無垢(むく)(礼装用)という。羽二重・ちりめん・つむぎなどを用い,表布が白または薄色のときは,額染めといって,すそ・そで口などの縁だけ染めたものを使う。

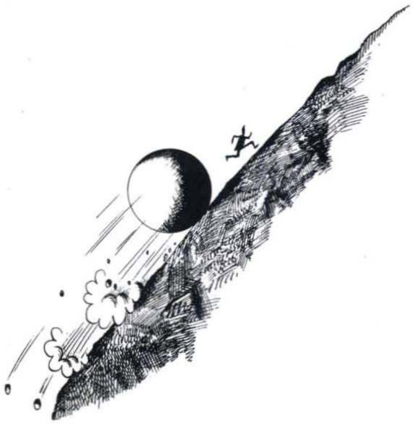
すそもよう【裾模様】女性用の長着*のすそのほうだけに配置した絵羽模様*またはその長着。長着全体に模様を置いた総模様に対して,上部は無地で五つ紋付きとして,腰から下だけに模様を置いたものである。江戸中期(享保)にきびしい奢侈(しゃし)禁令が行なわれて総模様は少なくなり,低い位置にのみ模様を置くようになり,腰から下に置いたのを腰模様とよんだ。その後低いのが流行してすそから8寸(約30cm),5寸,3寸となり,江戸褄模様*やそのえりに高く配置した島原模様となった。江戸の末にはさらにじみに低く模様も小さくなり,老婦人は片褄模様を着た。これらは大正の末まで着られたが,近年若い女性には振りそで模様(総模様)が多く着られる。〔堀越すみ〕

すそよけ【裾除け】はだ着用の腰巻*の上に重ねて締める間着用の腰布。蹴出(けだ)しともいう。幅70~80cm,たけ150cmの布の上部の両肩に小ひもをつける。用布はキュプラのクレープ・平絹・紋綸子(もんりんず)などで,色は白・ピンクが大部分である。

スター[star] 映画の人気俳優を星にたとえたことから起こった称で,映画・演劇その他芸能界での人気者をさす。さらに転じて芸能関係以外の分野でも使われる。芸能界のスターは才能や専門的な演技力より,むしろ容貌(ようぼう)・姿態など自然的条件によって大衆の人気を得る場合が多く,ために,芸能企業はスターを生み出すため誇大な宣伝でイメージづくりに努める。スターの消長は,時代の風潮や大衆の好みによって左右されることが多いが,本来スターの生命はその人間的魅力にあるはずであり,事実大スターとよばれる人々は,時代の動きを越えて大衆の人気を獲得し続けている。〔波多野哲朗〕



すそ模様



スタインベルク《追いかける!》

スタイン[Sir Mark Aurel Stein](1862~1943) イギリスの考古学者・探検家。ハンガリーのブダペストに生まれる。西アジア・中央アジア・ペルシアなどそれまでヨーロッパに知られなかったアジアの地域を探検し考古学的研究を行なった。中でも敦煌*(とんこう)やカラホトなどの探検・発掘で多数の古文書や経典などを発見して学界に著しく貢献し,功労によってサーの称号を贈られている。著書には《カシミル諸王の年代記》(1900),《古代のボタン》(1907),《1000の仏陀(ぶっだ)》(1921),《内奥アジア》(4巻),《インダス川へのアレキサンダーの道》(1929),《東南イランの考古学的調査》(1937),《西イランの古代の道》(1940)など多数がある。〔兼岩正夫〕

スタイン[Gertrude Stein](1874~1946) アメリカの女流詩人・小説家。W.ジェイムズのもとで心理学を学び,1902年に渡欧してからはほとんどパリに住んだ。実験的な技法によってS.アンダーソン*やヘミングウェーの文体に影響を与えた。代表作は小説《三人の女》,詩集《テンダー-ボタンズ》,自叙伝《アリス-B-トクラスの自叙伝》など。〈失われた世代*〉の命名者であり,その庇護者(ひごしゃ)でもある。

スタインウェー[Steinway & Sons] アメリカを本拠とするピアノ製造会社およびそのピアノ名。創立者のヘンリー-スタインウェー(1797~1871)はドイツの生まれで,はじめ家具やオルガンを製造,のちピアノ製作に従う。1853年アメリカに渡り,ニューヨークにこの会社を創立。その製品は安定性と新しい機構,新しい響きのために最も広く高く評価されている。

スタインベック[John Steinbeck](1902~1968) アメリカの小説家。カリフォルニア州サリーナスの生まれ。スタンフォード大学で海洋生物学を専攻したが中退,ニューヨークに行き,種々な職業に従事しながら創作に励んだ。やがて,故郷にもどり生活の安定を得て,1929年処女作《金の杯》を発表したが,不況時代が災いし,まったく問題にされなかった。次いで《天の牧場》《知られざる神へ》《赤い子馬》など,農民に取材した長・短編を発表,1936年ユーモア小説《トーティヤ平(だいら)》で作家としての地位を確立した。その後《勝敗のわからぬ戦い》《二十日ねずみと人間》《怒りの葡萄(ぶどう)*》など,社会抗議の小説を書き,第2次世界大戦中は反ナチ小説《月は沈みぬ》でヨーロッパにおいて高く評価された。1962年《われらが不満の冬》でノーベル文学賞を受賞。そのほか,人間性の不滅を描いた《エデンの東》,アメリカ探訪の記録《チャーリーを連れて》がある。1957年に来日した。〔井上謙治〕

スタインベルク[Saul Steinberg](1914~) ルーマニアのブカレスト近郊に生まれる。はじめ建築を学んだが,線描による風刺画家として,独自のスタイルをつくり,欧米の有名誌に作品を次々と発表。世界的に高い評価を受けるグラフィック-デザイナー・イラストレーターとなった。すぐれたデッサンにささえられた鋭い幻想的な作品は,純粋美術の世界でも高く評価されている。

スタウト ⇨ビール

すだくにたろう【須田国太郎】(1891~1961) 洋画家。京都市の生まれ。京都大学で美学・美術史を専攻,洋画を関西美術院で修めた。1919~1923年(大正8~12)スペインを中心として滞欧,帰国後は京大に美術史を講じ,1934年(昭和9)独立美術協会会員となる。《法観寺塔婆》《歩む鷲(わし)》など,東洋画の神秘と気韻の中に明暗の対比の強いスペイン画派の特色を生かす超俗的な作品を制作した。

すだじい ⇨シイ

スタチス[statice] 双子葉植物・アカテツ科の一属。アジア・ヨーロッパ・北アメリカの草原ないし海岸に広がり,約130種からなる。おもに多年草または低木で,散房花序・穂状花序・頭状花序をつけ,美しいため庭に植栽される。日本には次のような種類がはいってきている。①ハマカン

ザシ：ヨーロッパ原産の多年草で，長さ3～7cm，1脈の線形の葉を短茎上に多数つけ，芝生(しばふ)状をなす。4～5月，高さ15～20cmの花茎を多数出し，赤・桃・白色などの小花を頭状につける。花は乾燥してもしおれない。②オウハマカンザシ：前者に似るが，葉の長さ20cm，幅3cmと大きく，3～7脈があり，花茎も高さ30cmに達する。③ニワハナビ：ブルガリア付近原産の多年草。高さ40～80cmで，耐寒性が強く，星状毛におおわれる。葉は長卵形で長さ20～30cm。7～9月，高さ60～90cmの多くの枝分かれした花茎上に青・赤・白色などの花をつける。非常によいかおりがする。④ハナハマサジ：地中海沿岸原産の多年草。高さ50～70cmで，茎に3～5個の翼がある。根出葉は長さ20cmで切れ込みがあり，ダイコンの葉のようであるが，茎葉は線形で切れ込みはない。7～9月，茎の先に3～5個の花をつける。がくは紫色で美しく，光沢がある。花冠は白色で5浅裂する。おしべ5本，めしべは5深裂する。乾燥しても色が変わらないので，ドライフラワーにする。⑤タイワンハマサジ：台湾・中国の原産の多年草。高さ10～25cm，葉は長さ5cmほどの倒卵状披針(ひしん)形。6月ごろ淡黄色ないし白色の花をつける。　〔加藤僖重〕

スタッカー　[stacker]　①荷受け台が垂直わくに沿って上下する台車。倉庫荷物の積み上げ・積み降ろしに用いる。能力1t以下。②パレットに載せた品物を倉庫のたなに出し入れする装置。天井クレーンのトロリーから柱を下げ，これに荷受け台を上下・出入させる構造のものをスタッククレーンとよぶ。立体倉庫荷役用として必要な機械。能力0.5～5t。③ばら物原料を置き場に積み上げる装置。機体は地上のコンベヤーをまたいで移動し，ブームの上に散布用ベルトコンベヤーを設けた構造をもつ。石炭・コークス・鉱石などの置き場に用いる。船積み用はローダーとよばれる。扱い量は毎時6,000tまで。　〔赤木　進〕

スタッカート　[staccato]　レガート*とともに演奏法の代表的なもの。イタリア語で〈切り離す〉を意味する。記号は音符の上または下に，点(・)や(▼)を置かれたものである。前後の音と明確に区別されればよいので，その方法は楽器や声によっていろいろある。一般にはスタッカートのついた音符の長さを短くして，次の音の間に休止を入れると考えられているが，休止の状態にしなくても，各音の始まりが強ければ同様の効果をもつ。　〔徳丸吉彦〕

すだて　【簀立て】　魞*(えり)の一種。潮の干満の大きい遠浅の海岸に杭(くい)を立て並べ，杭の間を竹簀で囲み，簀の中に閉じ込められた魚などを漁獲するもの。大形のものになると，全長が100～200mに達するものもある。東京湾などでもよく行なわれ，ボラやヒラメなどをとらえる。


スタチス
シヌアータ種

スタナップ　[Charles Stanhope]　(1753～1816)　イギリスの政治家・科学者。政治家スタナップ伯爵の3代めとしてロンドンに生まれ，イートンとジュネーブで学んだ。在学中物理学実験に関心をもち，政治家として活躍するかたわら，研究と発明に没頭。最も有名な発明はスタナップ印刷機とよばれる鉄製印刷機で，これによって手刷印刷の機械化に成功した。このほか，汽船の設計や，計算器・スタナップ顕微鏡など数多くの発明がある。

スタニスラフスキー　[Konstantin Sergeevich Stanislavskii]　(1863～1938)　ロシア・ソ連の俳優・演出家・演劇教育者。若くから俳優を志し，1888年に〈文芸協会〉を設立し，俳優・演出家としての新しい演技方法を探求した。当時のヨーロッパの名優たちや歴史に忠実なドイツのマイニンゲン劇団の舞台などを研究，その影響を受けて自然な演技術の確立をめざした。1898年ネミロビッチ-ダンチェンコ*とともに創設したモスクワ芸術座*は，スタニスラフスキー-システム*の創造とともに世界演劇史に新しい一章を開いた。ロシア革命ののち一時批判されたが，1930年代に再評価され，晩年は俳優教育に専念。著書に《芸術におけるわが生涯(しょうがい)》《俳優修業》がある。　〔毛利三弥〕

スタニスラフスキー-システム　[Stanislavskii system]　スタニスラフスキーが，《芸術におけるわが生涯(しょうがい)》《俳優修業》などの著書および演劇教育者としての実践を通じ，半生を費やして樹立した俳優の科学的創造術のこと。〈真に役に生きる〉ために，想像力による演劇の創造過程を意識的につかむ精神訓練と，自由な身体運動を可能にする肉体訓練とを基礎にする。このシステムは，19世紀後半のロシア演劇にみられた誇張的で人工的な演劇への批判として当時起こりつつあった写実主義演劇とも密接に結びついて発展，モスクワ芸術座*の活動を通じて実践された。近代リアリズム演劇の創造理論として，全世界に影響を与えている。　〔毛利三弥〕

スタノボイ(山脈)　[Stanovoi]　ソビエト連邦，シベリア南東部にあって，ヤブロノイ山脈とオホーツク海沿岸のジュグジュル山脈の間に位置し，長さ約800km。西端はレナ川の一支流，オリョークマ渓谷(けいこく)でヤブロノイ山脈に隔てられ，また北極海と日本海の分水界をなしている。

スタハノフうんどう　【スタハノフ運動】　ソ連で，1935年以来全国的に広められた労働生産性向上運動で，社会主義社会におけるこの種の運動の代表的形態。ドンバス炭坑の採炭労働者A. G.スタハノフは，1交替の間にノルマ(規定量)の7tのところを14～15倍採炭した。このスタハノフの創意は短期間に工業・農業・運輸の全分野に広がった。社会主義的工業化・農業集団化がいちおう完了すると，生産性向上運動の新しい形態と技術の活用が要求されたからである。第2次世界大戦前のいろいろな5か年計画の超過達成にも貢献し大戦(大祖国戦争)にも重要な役割を果たし，ソ連邦の計画経済の推進力となった。　〔山県弘忠〕

スタバンゲル　[Stavanger]　ノルウェー南西部，北海に臨むボクン湾の南岸にある港市。この国4番めの都市で，人口79,000(1967)。首都オスロとはクリスチアンサンを経て鉄道で結ばれている。かんづめ工業は世界的に知られ，水産かんづめ業研究所がある。ノルウェーで最も古い起源をもつ都市で，8世紀以来漁港として栄えた。11世紀建造の聖スウィチン寺院や13世紀建造の礼拝堂が残っている。

スタビスキーじけん　【スタビスキー事件】　1930年代フランスに起こった政治的疑獄事件。1933年末小都市バヨンヌの公営質店が破産し，これをめぐって国際的詐欺師スタビスキーがにせの抵当で巨額のバヨンヌ市公債を発行させたこの詐欺事件をめぐって政界・官界有力者との関係が暴露された。当時世界恐慌の影響による不況に乗じて台頭した右翼勢力は，急進社会党のショータン内閣や議会制度の腐敗を激しく攻撃し，翌年2月ドゥーメルグ半ファッショ内閣を成立させた。こうしてフランスにファシズムの脅威が高まったが，労働者の全国的ゼネストによって阻止された。　〔大野慎一郎〕

ズーダーマン　[Hermann Sudermann]　(1857～1928)　ドイツの小説家・劇作家。東プロイセンの農民生活を描いた《憂愁夫人》や《ねこ橋》などで小説家として成功したのち，《名誉》で劇作家としても認められ，一時はハウプトマン*と並び称される自然主義作家とされた。新旧思想の対立を浮き彫りにした《名誉》に見られるように，その作品は道徳的堕落に対して批判を向けたものが多い。旧思想に反抗する解放的な女性を描いた《故郷》は著名。　〔横溝政八郎〕

スタリナバード　⇨ドウシャンベ

スタリーノ　⇨ドニエック

スターリン　[Iosif Vissarionovich Stalin]　(1879～1953)　ソビエト連邦共産党書記長・首相・大元帥。グルジア人で

本名はジュガシビリ。カフカス地方のゴリ市のくつ職人の子として生まれる。1894～1899年ティフリス神学校で学び，その間マルクス主義を知って，1898年社会民主党系秘密結社にはいり放校された。1902～1913年中に数度の逮捕・流刑・逃亡をくり返し，カフカス地方ではストライキ・デモを指導した。1906年ティフリスで資金獲得のため銀行襲撃事件を起こして，のちに非難されている。1901～1907年に党地方機関紙を編集してその能力をレーニン*に認められ，1912年党中央委員となり，スターリンの名で《プラウダ*》の編集に携わった。1913年逮捕されて北シベリアに終身流刑となるが二月革命*で釈放される。レーニンの〈四月テーゼ〉を支持，5月に創設の党中央委員会政治局員となり，十月革命*の際は党とソビエトとの連絡・調整にあたった。1922年には初代党書記長となったが，レーニンの遺書にはスターリンの性格的欠陥を指摘し，その専横を憂慮している。レーニン没後第13回党大会(1924)は，条件つきでスターリンの書記長留任を承認した。西欧革命の退潮によってソビエトは孤立，党内の対立も激化した。1923～1927年トロツキー*ら左翼反対派との間で〈一国社会主義〉論がたたかわされたが，論争の結果トロツキーらの〈革命的〉空論は無責任な理論とされ，実践的課題を提起したスターリンら党内主流派が支持を得て，トロツキーは除名された(1927)。1928～1929年ブハーリンら右翼反対派を〈農業集団化〉論争の中で駆逐したが，それはスターリンの〈個人崇拝〉と独裁の開始でもあった。1930年代にはいりファシズム*の国際的な台頭に直面して，いわゆる粛正が本格化した。その根拠は〈社会主義建設が進むにつれて階級闘争は激化する〉というマルクス主義・科学社会主義の立場からは容認できないテーゼと非科学的な〈人民の敵〉概念にあるとされた。1936～1938年ジノビエフ*・ブハーリン*・カーメネフ*ら古参ボルシェビキが処刑され，除名された党員は30万人に上った。これは党にとって大きな損失だった。1936年〈スターリン憲法*〉が制定され，社会主義体制の勝利とソビエト民主主義の発展がうたわれたが，同時にスターリンとその追随者の専断は個人崇拝，権威主義という弊害を生み，学問と芸術の正常な発展も阻害された。1924年以来コミンテルン指導部にあったスターリンは社会民主主義を社会ファシズムと結びつけ，結果的にはファシズムを援助している。彼はまた，現実主義の立場から1939年独ソ不可侵条約を締結，1941年モロトフに代わって人民委員会議長となり，第2次世界大戦(大祖国戦争)に際してはテヘラン・ヤルタ・ポツダムなどの会談に出席し戦争の指導に活躍した。しかし，戦後はユーゴスラビアなどの同盟国も離反し，一方，猜疑心(さいぎしん)などの性格的偏見も極度に達して，その晩年は必ずしも恵まれなかった。1953年3月5日脳出血で急死。〔山県弘志〕



スターリン

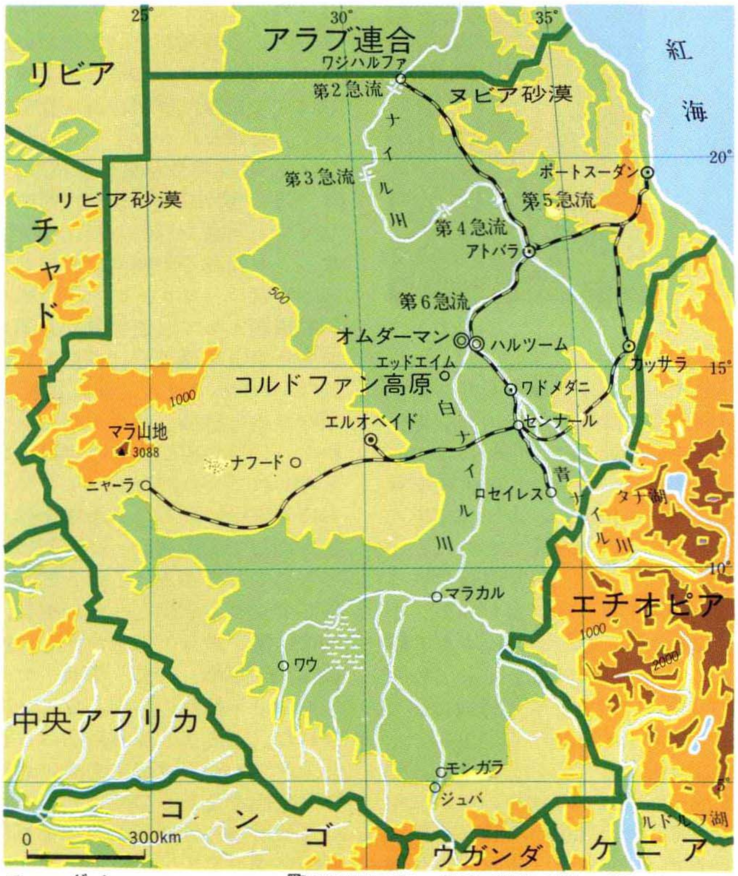
スターリング ［Ernest Henry Starling］ (1866～1927) イギリスの生理学者。インドのボンベイに生まれ，ドイツで学んだのちロンドン大学の教授をつとめた。イヌの小腸を切り取って，これを膵臓(すいぞう)と血管だけで連絡するようにしたのち，小腸を塩酸で刺激すると膵液が分泌される事実を発見。これを小腸粘膜で生じる物質(セクレチン)が，血流とともに膵臓に達し，膵液の分泌を誘発すると説明し(1902)，ホルモンの概念を確立した(1905)。また，心臓と肺とを他と切り放して種々の実験に用いられるようにした心肺標本を使って研究し，心臓の搏出(はくしゅつ)量は静脈から心臓へ帰ってくる血液量によって定まるという〈心臓の法則〉を明らかにした。〔中村禎里〕

スターリングちいき ［スターリング地域］ ポンド地域をいう。イギリスの通貨ポンド*を中心として金融経済的に団結している国々を対象とする。その起源は1932年7月のイギリス帝国経済会議でのイギリス連邦特恵関税制度*の創設に求められ，通貨準備ないし外貨資金をイギリス-ポンドで保有し，貿易その他対外取引を主としてポンド建てで行なう地域をいう。特にイギリス-ポンドの自由交換性が失われ，為替(かわせ)管理制度に移行するに伴い，スターリング地域は正式の通貨地域として指定され，この地域内では経常・資本取引ともにポンド取引が自由である。この地域に属する国々は，イギリス連邦諸国(カナダを除く)およびイギリス連邦外の南アフリカ共和国・南西アフリカ(ナミビア)・アイスランド・ヨルダン・リビア・クウェート・バーレン・カタールで，世界人口および貿易の約4分の1を占める。しかし，ポンドの地位が低下し続け，また1973年1月のイギリスのEC*加盟に伴い，このスターリング地域の解体・再編成が行なわれるであろう。〔深海博明〕

スターリングラード ⇨ボルゴグラード

スターリンけんぽう ［スターリン憲法］ 1936年に制定されたソ連邦の憲法。工業の発展，農業の社会主義化，社会構造の変化によって共産主義はその第1段階を達成した。労働者階級はもはやプロレタリアートではなく，農民階級は社会主義経済内に結合され，インテリゲンチア*も労働者階級であるという認識が，1924年の憲法を改正するよう要求した。1935年2月第7回ソビエト大会で新憲法作制決議が採択され，スターリンを議長にブハーリン*・ラデクらからなる起草委員会が設置された。新憲法(スターリン憲法)は1936年11月の第8回臨時ソビエト大会で採択され，全文146条からなる。ソ連邦を労働者と農民の社会主義国家と宣言，ソビエトの人民主権をうたった。国家機関としてソ連邦最高会議および同幹部会を置き，最高執行機関をソ連邦閣僚会議(1946年までは人民委員会議)と規定し，地方自治は各級ソビエトがになうこととされた。1924年憲法と違う点は，従来市民権を奪われていた旧ブルジョアジーを含むあらゆる階級に平等な選挙権を与え，間接選挙を廃して直接選挙・秘密選挙の制度を採用したことである。これと同時に市民的権利，すなわち勤労と休息の権利，老人・病人の保護，教育の権利，性と民族に拘束されない平等権，言論・集会・デモンストレーション・結社の自由，良心の自由が保証された。このように新憲法はきわめて民主的で，ブルジョア民主主義に対しても優越性を証明できるものであり，ソ連邦が新しい発展段階にはいったことを示していたが，同時にすべての反対党の結成を禁止するなど疑問の多い条項も含まれている。1947～1953年部分的に改正。なお，1962年4月さらに新たな憲法起草委員会が発足している。〔山県弘志〕

スターリンしゅぎ ［スターリン主義］ 一般に，スターリン主義という特定の世界観はないが，ふつうスターリン*を中心にして展開された，国際共産主義運動*の広い範囲にわたる一連の誤った方向をさす。1956年2月のソビエト連邦共産党第20回大会で，このスターリンの誤りが公にされて以来，これがマルクス-レーニン主義*の本質の現われか，それとも一時のゆがみであるかをめぐって，国際共産主義運動の内外で多くの議論や行動が起こされた。一般にスターリンの誤りといわれているものは，1930年代の行き過ぎた農業集団化政策，第2次世界大戦後におけるユーゴスラビアに対する民族主権を無視した外交政策，〈人民の敵〉の名のもとに行なわれた不当な断罪による社会主義的法秩序の破壊，社会民主主義勢力主要打撃論，社会主義建設の進展とともに階級闘争が激化するという議論，ソビエト共産党史の記述の誤り，などであり，ソビエト共産党は，これらの誤りを，個人崇拝によるものとしてとらえ，集団指導制*の樹立をもって克服の第一歩とした。しかし，数次にわたる5か年計画による社会主義体制の建設，第2次世界大戦の戦勝などの結果スターリンの影響は，内外の国際共産主義運動に及んだので，〈スターリン批判〉はこれらの運動全体を大きくゆさぶった。外



スーダン

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田



スーダンの国旗　1970年5月新国旗制定。それまでの青(ナイル川)黄(砂漠)緑(沃土)の象徴から，赤(革命・進歩)白(平和・希望)黒(アフリカ大陸)緑(イスラム教の繁栄と幸福)へ変った。



スーダン　首都ハルツームでの中央市場のスナップ。売っているのは〈歯ブラシの木〉。口中でかんでいるとその繊維がブラシになる

部からは，この誤りをマルクス主義自体に含まれる誤りの拡大としてマルクス主義の修正を求める声があがり，トロツキー派のように，スターリンの一国社会主義論の誤りの必然的な現われであると説く議論も続出した。また内部からは，中国共産党のように，社会主義の社会制度や政治制度から必然的に生じた誤りではなく，歴史的に長く存在する小規模生産が生み出す家父長制から発生する習慣の力が，すぐれた指導者を侵したという把握(はあく)が生まれた。しかし，国際共産主義内部の混乱は理論的検討だけでは解決できず，第20回大会以後のポーランド問題・ハンガリー問題・中ソ論争・チェコ問題・中ソ国境紛争など，多くの紛争や論争をひき起こしている。スターリンの誤りは，このような意味で，現代のマルクス-レーニン主義の思想と運動に大きな課題を与えたといえる。〔高木冨士男〕

スターリンしょう　**【スターリン賞】**　⇨レーニン賞

スターリンスク　⇨ノボクズネツク

スタールふじん　**【スタール夫人】**　(1766～1817)　フランスの女流文学者。本名ジェルメーヌ-ド-スタール。フランス革命前期の政治家ネッケルの娘として生まれ，早くから百科全書派のサロンに出入りした。革命後亡命，ヨーロッパ各地を旅行してゲーテらを知り，コンスタンとは長く交友を結んだ。その著《文学論》《ドイツ論》は，フランスにおけるロマン主義の一先駆となっている。ほかに小説《デルフィーヌ》《コリンヌ》など。

すだれ　**【簾】**　間仕切りの一種。細く割った竹・すだれよし・ビニルなどの細い棒状のものを横に渡し，綿糸・麻糸・ビニル糸などで編んだもの。夏季に模様がえをした従来の日本の住居では，襖(ふすま)・障子を取りはずして，代わりにすだれをかもいからつるして間仕切りとし，風通しをよくすると同時に涼感を誘った。また窓べ・軒先につって日よけにも用いる。

スターン　［Laurence Sterne］(1713～1768)　イギリスの小説家。貧しい陸軍少尉の家に生まれ，大学卒業後生活のためいなかで聖職につく。僧界内部の紛争を種に風刺的な文章を書いたことがきっかけで，未完の代表作《トリストラム-シャンディ》の執筆を始め，8年間(1760～1767)にわたって9巻まで発表。この人を食った奇書は異常な評判を呼び，スターンは社交界に出入りして数々の恋愛ざたに巻き込まれるようになった。死後に出版された《イライザへの日記》はこの体験から生まれている。やがて大陸へ結核の保養旅行に旅だった。その紀行文が《センチメンタル-ジャーニー》である。〔沢村　灌〕

スターン　［Isaac Stern］(1920～　)　ソ連生まれのアメリカのバイオリン奏者。ブラインダーとパーシンガーに師事して，11歳でサンフランシスコ交響楽団の独奏者としてデビューし，1937年にはニューヨークのタウン-ホールで独奏会を開いた。その後アメリカ各地からヨーロッパへと演奏活動を広げ，現代の最先端を行くバイオリニストとして有名である。1953年，1961年，1965年と3度にわたって来日している。

スーダン(民主共和国)　［Democratic Republic of the Sudan, Gumhouriyyat al-Suddan al-Democratiyyat］アフリカ北東部，ナイル川中流地域一帯を占める共和国。北はエジプト・アラブに接し，南はザイール・ウガンダ・ケニアに，東はエチオピア，西はリビア・チャド・中央アフリカと境し，北東端は紅海に面する。面積250万6,000km²。人口1,787万(1979年推)。首都ハルツーム。

【自然・住民】国土の大半がナイル川流域にあたり，中東部を北流する青ナイルがハルツーム付近で白ナイルと合流してナイル川本流となり，アラブ連合に北上している。この流域一帯は高度約500m，その外縁は約1,000mの高原状の地形を示し，東部はアビシニア高原，南部はウガンダのナイル水源地域の高原に連なり，西部にはマラ山地が突出している。国土の大部分はヌビア砂漠

(さばく)をはじめとする砂漠で,年降水量は200mmに満たないが,南部にはサバナが展開する。南に向かうほど降水量は多くなり,マラカルで年783mmであるが,年によって不安定で農耕には大きな障害となっている。住民は,アラブ連合と同じアラブ系の民族が主でイスラム教を信仰する。南部にはエチオピア系の少数民族が住み,宗教も異なっているため,内政上の問題の一因となっている。公用語はアラビア語で文盲率は90%と高い。

〔産業・経済〕ナイル川は下流地域では古代エジプト文明を育てたが,中流のスーダンがナイルを利用するようになったのは20世紀にはいってからである。青ナイルと白ナイルの合流するゲジラ平原は肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)に恵まれながら,灌漑(かんがい)設備がないために開発が遅れ,ようやく19世紀末にイギリスが灌漑施設を整備して,ワタの栽培を奨励した。1956年の独立後,青ナイル上流に多目的のセンナール-ダムを建設し,1959年には綿花の生産額は12万2,000tに達し,この国輸出額の5割を占めている。綿花に次ぐ生産物にはアラビアゴムがある。住民の9割が農牧業に従事し,鉱工業は発達していないが,特色のあるものとして古くからの象牙(ぞうげ)の取引がある。交通面では,おもにナイル川の舟運にたよっている。

〔歴史・政治〕1899年以来イギリスとエジプトの共同統治地となり,アングロ-エジプト-スーダンとよばれていたが,1956年1月1日に共和国として独立した。しかし独立後4年の間に,2回の内閣改造と無血クーデター(1958)があり,政情は不安定である。現在の政府は軍部が主導権を握り,議会は機能を発揮できない状態にある。

〔小栗　宏〕

スダン-ギネアしょご【スダン-ギネア諸語】⇨アフリカ諸語

スタンク［Zaharia Stancu］(1902〜) ルーマニアの作家。きびしい自然と社会環境の中で成長する少年ダリエを主人公に,ドナウ河畔に生きる農民群像を散文詩的文体によって描いた長編《はだし》によって世界的に有名になった。現在,続編《根はにがい》を執筆中。

スタンダードせきゆ【スタンダード石油】Standard Oil Co.(New Jersey) 世界最大の総合石油会社。エッソ(ESSO)の商標で知られる。1882年ロックフェラーによって設立され,全米の石油ラインの90%を支配していたが,1911年シャーマン反トラスト法*の適用によって細分割された。現在会社形態は持ち株制で,アメリカ国内の石油事業はハンブル-オイル社が行なっている。石油生産は国内だけでも21州23,000井にもわたり,国内市場の30%をおさえている。また世界30か国に製油所をもち,石油輸送施設も整い,商業タンカーやパイプラインを使って,1日200万バーレルを運ぶ。販売活動は135か国に及び,世界全体の18%のシェアを占めている。国外生産ではカナダ(インペリアル石油会社)・ベネズエラ(クレオレ社)が増産し,市場としてはオランダ・日本が有力。研究開発の面では特に公害の社会問題化に伴って,燃料重油のイオウ分を減らす脱硫法や自動車排気ガスの研究に多額の投資を行なっている。日本では極東地区担当のエッソ-スタンダード-イースタンの子会社,エッソ-スタンダード石油がゼネラル石油精製と東亜燃料工業に出資し,販売を行なっている。なお,同じロックフェラー財閥傘下(さんか)のスタンダード石油(カリフォルニア)はカルテックスを通じ日本石油精製と興亜石油に資本と技術を投入している。本社ニューヨーク。年間売上高165億5,000万ドル,従業員数145,000(1970)。

〔氏家　尚〕



スタンダール



スタンリー
コンゴ河畔に立つスタンリー像

スタンダール［Stendhal］(1783〜1842) フランスの小説家。本名アンリ-ベール。グルノーブルの生まれ。7歳で母を失い,ジェスイット派の僧を家庭教師に,信心家の叔母(おば)の監視の下で,厳格な教育を受けたが,一方,母方の祖父である医師アンリ-ガニョンに愛され啓蒙(けいもう)思想になじんだ。1799年パリの理工科学校への進学を理由に,嫌悪(けんお)する故郷を脱出,劇作に励んだが失敗,親戚(しんせき)の口添えで陸軍省経理部にはいり,イタリアをはじめヨーロッパ各地を回った。終生熱愛するイタリアの発見はこのときである。1814年ナポレオンの没落とともにミラノに移住,文学的放蕩(ほうとう)の生活を送りつつ《ハイドン・モーツァルトおよびメタスタジオの生涯(しょうがい)》《イタリア絵画史》などを書いた。やがてオーストリア官憲から革命的危険分子とみなされ,ミラノを追われてパリに帰り,《恋愛論*》《ラシーヌとシェークスピア》などの評論,《アルマンス》《赤と黒*》などの小説を発表。1830年の7月革命後,ローマ法王領チビタベッキア領事となり,任地で自伝《アンリ-ブリュラールの生涯》や評論《エゴチスムの思い出》,未完の小説《リュシアン-ルーベン》などを執筆,1836年から3年間休暇を得てパリに帰り,《パルムの僧院》《ラミエル》などを書いた。生前はバルザックら少数の作家を除いて,ほとんど認める者はなく,50年後,100年後の読者に期待すると述べ,その予言を的中させた。18世紀的要素を多分に含みながらも,実践的主体的であり,時代の底に潜む真実を追求してやまぬその文学的生命が,20世紀にも通ずる新しさと力強さをもっているからであろう。日本でも第2次世界大戦後の作者,特に織田作之助*・大岡昇平*らに影響を及ぼしている。

〔古屋健三〕

スタンバーグ［Joseph von Sternberg］(1894〜1969) アメリカの映画監督。オーストリアの生まれ。1914年アメリカに移住,思想のある映画をめざして同志を集め,《救いを求める人々》をつくって注目された。以後《暗黒街》などで人気を得,ドイツに帰って《嘆きの天使》で女優ディートリヒ*を発掘。自然主義的技法から非現実主義的手法へと移行しながら,ともにすぐれて美的な映像でハリウッドの代表的作家となった。ほかに《アメリカの悲劇》や日米合作映画《アナタハン》など。

〔波多野哲朗〕

スタンホープ ⇨スタナップ

スタンラン［Alexandre Steinlen］(1859〜1925) 19世紀末から20世紀の初めにかけてパリで活躍した風俗派画家。石版を中心にポスター,さし絵,漫画などを多くつくった。石版の《猫(ねこ)》は有名である。

スタンリー［Henry Morton Stanley］(1841〜1904) イギリスのアフリカ探検家。ウェールズに生まれ,孤児として育ったが,17歳のときアメリカ合衆国のニューオーリンズに渡り仲買人スタンリーの養子となる。1867年ニューヨーク-ヘラルドの記者となり,ゆくえ不明中の探検家リビングストン捜索の社命を受ける。1871年アフリカ東岸のザンジバルを出発,リビングストン生存の情報を得てタンガニーカ湖畔ウジジをめざし,同年11月3日病床のリビングストンと会見,そこで4か月間生活を共にして1872年5月ザンジバルに帰着した。以後彼は探検家としてアフリカ行きをくり返し,1874〜1877年にはビクトリア湖・エドワード湖・タンガニーカ湖などを探検してナイル川の源を発見し,次いでコンゴ川を河口まで下って,その流れを突き止めた。1879〜1884年にはベルギーの国王レオポルド2世の委嘱によりコンゴ盆地を探検,1887〜1889には反乱軍の包囲で孤立していたスーダンの赤道州知事エミン-パシャの救出におもむいた。18

95年国会議員になった。著書に《ブーラ-マタリ》《暗黒大陸》などがある。〔野間三郎〕

スタンリー ［Wendell Meredith Stanley］（1904～1971） アメリカの生化学者。インディアナ州の生まれ。イリノイ大学を卒業，ドイツ留学ののち，ロックフェラー研究所，カリフォルニア大学においてウイルスの研究に従う。1935年タバコモザイクウイルスを材料として，ウイルスの結晶化にはじめて成功した。ただしこのとき，それをタンパク質の結晶とみなしたが，リボ核酸も含まれることが，その後明らかになった。1946年サムナーとともにノーベル化学賞受賞。

スタンリービル ⇨キサンガニ

スチーブンズ ［John Stevens］（1749～1838） アメリカの発明家。ニューヨークに生まれ，キングズ-カレッジで法律を学び，卒業後弁護士となった。その後，輸送機械の発明に関心をもち，1781年多管式気罐(きかん)を発明。1787年ジョン-フィッチ(1743～1798)の蒸気船を見て感銘を受け，蒸気船の研究を開始，1791年縦形蒸気罐と蒸気機関の改良で特許を受けた。協力者とともに多年にわたり航行と輸送の試験を重ね，1803年に多管式気罐について特許を取得。これにより1808年汽船フェニックス号を建造して，ニューヨーク～フィラデルフィア間を航行した。また鉄道にも関心をもち，1823年ペンシルベニア鉄道の建設権を得たが施行するに至らなかった。子のロバート-リビングストンも機械技術者としてすぐれ，父業を継いで汽船を建造，またアメリカではじめて機関車を製造し，軌条の標準方式を確立した。ロバートの兄弟エドウィンも装甲艦の建造などで知られる。〔加藤邦興〕

スチーブンズ ［Wallace Stevens］（1879～1955） アメリカの詩人。弁護士を本業とし，詩作は40歳を過ぎてから始めた。処女詩集《ハーモニアム》のほか，《青いギターを持つ男》《詩集》など多くの詩集がある。その詩は思想・感情の表現のために素材を選ぶより，素材そのものの独自な価値を生かし，ことばの音と連想作用などを重要視するもので，ウィリアム-カーロス-ウィリアムズらとともに詩人グループ〈オブジェクチビスト(客観派)〉に属する。〔越智道雄〕

スチーブンソン ［George Stephenson］（1781～1848） イギリス鉄道の創設者。ニューカッスル近くのワイラム炭坑の火夫の子として生まれる。父の助手となり，17歳のとき排水ポンプの機関手をつとめた。1803年キリングワース炭坑で，坑内の石炭輸送にウマの代わりに蒸気を使うことを考えるようになった。1814年同炭坑で最初の蒸気機関車を動かし，1822年ニューカッスルに世界最初の機関車工場を設けた。この工場で製作した機関車ロコモーション号をもって1825年9月27日にストックトンとダーリントンとの間に世界最初の旅客用鉄道を開通させた。次いでリバプール・マンチェスター間45kmの鉄道開設にあたって，彼の製作したロケット号が1829年の蒸気機関車コンクールに優勝し，1830年9月15日に同鉄道の開通をみた。1830年代から多くの国で蒸気鉄道が建設されるようになると，彼は内外の鉄道建設に従事し，鉄道技術の創設者とよばれるにいたった。〔山崎俊雄〕

スチーブンソン ［Robert Stephenson］（1803～1859） イギリスの土木技術者。ジョージの子。父と共同で研究に従事し，父の隠退後は鉄道事業の指導者となった。機関車ロケット号の製作などで父を助け，イギリス国内をはじめ世界各国の鉄道を設計した。特に橋の建設にすぐれた才能を示した。コンウェイ川とメナイ海峡に架橋するにあたり，まったく新しい方式〈管橋〉を採用した。彼の代表作は初期のベルウィックのビクトリア橋と上記のメナイ海峡のブリタニア橋，および1859年に完成し当時の世界最長を誇ったセント-ローレンス川上の大ビクトリア橋である。1847年にはイギリス下院議員となり，また同年土木工学研究所の創立委員になった。〔加藤邦興〕

スチーブンソン ［Robert Louis Stevenson］（1850～1894） イギリスの小説家。エジンバラに燈台建築技師の子として生まれた。幼時から病弱で保養のため各地を旅行。フランスとベルギーの旅行記が《内陸の旅》《驢馬(ろば)紀行》である。スイス・北アメリカにも行き，太平洋のサモア島を永眠の地とした。生来ロマンチストであって，旅行と冒険を好む若い人々のために《宝島*》や，《若い人々のために》(随筆)を書いたすぐれた文章家であり，そのみがきあげた流麗な文体は異彩を放っている。ほかに《ジキル博士とハイド氏*》《新アラビア夜話》《子供の詩園》など。〔橋本槇矩〕

スチムソン ［Henry Lewis Stimson］（1867～1950） アメリカの政治家。エール大学・ハーバード大学・同法律学校卒業後，弁護士を開業。1906年連邦検事，1911年タフト大統領の陸軍長官，1927年クーリッジ大統領の特使としてニカラグアに派遣され，フィリピン総督を歴任。1929年フーバー大統領の国務長官に就任し，1930年ロンドン海軍軍縮会議，1932年ジュネーブ軍縮会議に首席代表として出席した。満州事変では1932年1月〈スチムソン・ドクトリン〉を発表，1928年のパリ不戦条約に相反する手段によってもたらされた事態・条約・協定を合衆国は承認しない，と声明した。1933年弁護士にもどったが，ルーズベルトの国務長官コーデル-ハルの外交政策を支持，1940年陸軍長官に任命され，第2次世界大戦終結まで在職した。〔折井一彦〕

スチュアート ［Sir James Denham Steuart］（1712～1780） スコットランドの貴族，重商主義の経済学者。エジンバラ大学で法学を学んだのち，5年間ヨーロッパ大陸諸国を遊歴した。名誉革命で退位したジェームズ2世の復位とスチュアート王朝の再建を企てたジャコバイト*の陰謀に加わったため，1745年フランスに滞在中帰国を禁止され，17年間の亡命生活を送った。この間，大陸諸国の経済状態を観察し，イギリスのそれと比較し検討する十分な機会をもった。主著《政治経済学の諸原理》(1767)の中心をなすはじめの3編は亡命中に完成されたといわれている。スチュアートは，いわゆるトーリー党*の立場にあった。したがってA．スミス*と同時代にありながら，産業革命*への動きに対し，スミスのような感受性をもつことはできなかった。その代わり，旧制度たる重商主義*体制の矛盾と行きづまりを鋭く意識したため，その経済理論は重商主義の完成された学問体系となった。〔林　達〕

スチュアートちょう 【スチュアート朝】 1603年から1714年まで続いたイギリスの王朝。エリザベス1世の没後，ヘンリー7世*の子孫であるスコットランド王ジェームズ6世がジェームズ1世*として即位しスチュアート朝を開いた。この時代は近代イギリス内争の時代で，ジェームズもその子チャールズ1世も王権神授説*を奉じて絶対主義を強化したため，議会と対立した。国王と議会の抗争はピューリタン革命*で頂点に達し，1649年1月から1660年5月までスチュアート朝は中断。王政復古後，チャールズ2世と弟ジェームズ2世はカトリックを保護し，専制政治を強行したため，議会はジェームズを廃し，彼の娘メアリーと夫オレンジ公ウィリアム(→ウィリアム3世)を国王に推戴(すいたい)し，名誉革命がなった。1702年アン女王が即位するが後嗣がなく，1714年女王の死によりスチュアート朝は絶えた。〔松下京子〕

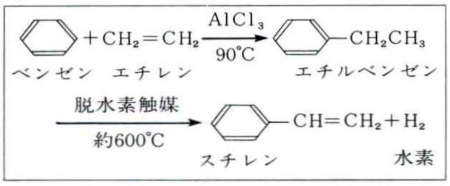
スチルブ ⇨輝度

スチレン ［styrene］ $C_6H_5-CH=CH_2$ スチロール，ビニルベンゼンともいう。石炭および石油中に少量存在する。無色，引火性の液体で特有のにおいをもつ。沸点145.2℃。エチルベンゼンを，触媒を使って脱水素すると得られる。光・熱・過酸化物・酸性触媒などにより容易に重合し，樹脂を生成する。工業的に重要な合成原料でスチレンブタジエンゴム・ポリスチレン・ポリエステル樹脂・イオン交換樹脂などの製造に用いられる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

スチレンじゅし 【スチレン樹脂】 合成樹脂*の一。熱可塑性樹脂*でスチロール樹脂・ポリスチレン・ポリスチロール，または単にスチロールということもある。ベンゼンとエチレンから塩化アルミニウムを触媒とした反応でエチルベンゼンをつくり，これを脱水素触媒の存在下で加熱し，生じたスチレンを重合させて得られた高分子化合物がポリスチレン，すなわちスチレン樹脂である。重合*は連鎖反応型の付加重合*で，工

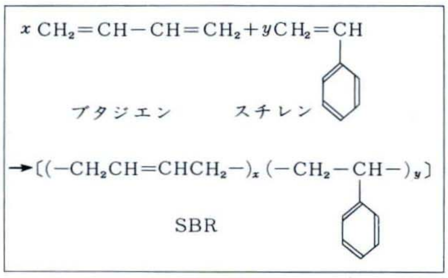
業的な重合形態としては溶剤を用いない塊状重合か懸濁重合*が主として行なわれている。ポリエチレン*に次いで軽い樹脂で比重は1.05～1.07。無色透明で屈折率の高い固体で，ベンゼンなど一部の有機溶剤にとける。電気絶縁性は大きく，熱伝導性は小さい。これらの性質に加えて原料スチレンが比較的低廉なため圧縮成形*・射出成形・真空成形などによる成形材料として日常雑貨用品に大量に使われており，フォームドプラスチック*の一つであるあわ入りポリスチレンは保温材・防音材として建築関係に，また，ポリスチレンペーパーとして簡易食器その他に使用されている。もろさや耐熱性を改善するためブタジエン重合体と混合されることもある。スチレンを用いた共重合体としては合成ゴムのSBR*やジビニルベンゼンと共重合*したイオン交換樹脂*原料などが重要である。➔プラスチック

〔伊藤　卓〕



スチレン-ブタジエンゴム　合成ゴム*の一。styrene-butadiene-rubberの頭文字をとってＳＢＲともよばれる。1933年ドイツで開発されて以来，すぐれた汎用(はんよう)ゴムとして現在でも世界じゅうで最も大量に生産・消費されている。普通はスチレンを20～25%含むブタジエンとの共重合体で，重合*方法には過硫酸カリを重合開始剤とする高温重合(50℃ホットラバー)とレドックス系開始剤を用いた低温重合(５℃，コールドラバー)とがあるが，現在では後者が圧倒的に多い。またＳＢＲは，ラテックス*としてフォームラバーや繊維の樹脂加工に用いられる。ハイスチレンSBRというのはスチレン含有量50％以上のもので，普通のSBRや天然ゴムと混ぜて練り，くつ底などかたいものに利用される。SBRをドイツではブナSと命名，アメリカでは開発当時はGR-Sと名づけていた。➔合成ゴム

〔伊藤　卓〕



スチロール　⇨スチレン

スチロールじゅし　【スチロール樹脂】⇨スチレン樹脂



ス ッ ポ ン

スーチン　［Chaïm Soutine］（1894～1943）　ロシアのリトアニア出身でユダヤ系のフランス画家。1913年パリに出て，シャガール*・リプシッツ・モジリアーニと親しくなる。1919～1922年南仏のセレに滞在し，強烈な色彩と大胆な歪形(わいけい)化による風景画を描いた。人物画にもすぐれ，激越な筆触で内面の不安な感情を表出した。ルオー*の影響もあるが，ドイツの橋派*らの影響のほうが決定的である。

スーツ　［suit］　フランス語ではタイユールという。同じ布地でつくった一そろいの服のことで，男子服の場合は背広の三つぞろい，婦人服の場合はテーラードな感覚のジャケットまたはコートと，スカートの一そろいをいい，別布のブラウスやセーターと組み合わせて着用することも多い。わが国ではほとんど婦人服の場合に用いられている。ワンピースに対してはツーピース-スーツとして区別されるが，最近の傾向では，通常のツーピースと区別することがむずかしく，テーラードなかたい感じのものをスーツとよび，くだけた柔らかい感じのするものをツーピースというふうに感覚的に決めている。もともとスーツは男子服から変化したもので，現在でも衣生活には欠かせない重要な服となっている。まず背広が一般男子の日常着となったのは，アメリカで19世紀後半から始まり，しだいにヨーロッパに普及し発達していった。そして20世紀にはいってからは婦人服にも背広型が取り入れられ，さらに婦人の社会的地位の向上とともに需要も拡大してきた。しかしスーツが婦人服の中でワンピースに代わって重要な地位を占めるようになったのは第１次世界大戦後である。第２次世界大戦後は，さらに婦人の社会的活躍が著しくなって，当然，機能的なスーツ形態が多く取り入れられ，また生活の合理化のためにアンサンブル*形式のスーツルックのものも多くなった。スーツ形式で最も一般的なものはテーラーカラーで，ふつうそでつけ，前打ち合わせでボタンがけのものである。

用途別にはイブニングスーツ・アフタヌーンスーツ・タウンスーツ・ディナースーツ・ライディング(乗馬)スーツ・カクテルスーツ・ビジネススーツなどに分類できる。また形態別ではパンタロンスーツ・テーラードスーツ・ボックススーツ・カーディガンスーツ・セータースーツ・ロングスーツ・ベルテッドスーツ・ブレザースーツなどがあり，材料からはニッテッドスーツ・リバーシブルスーツ・レザースーツなどに分類できる。

〔小池千枝〕

ズック　［duck］　ダックともよばれる。綿・麻の厚地の平織布。ふつう帆布ともいい，麻帆布をキャンバスともいう。濾布(ろふ)・天幕・日おおい・雨おおい・ほろ・布ぐつ・ベルトなど耐久力を要する製品に用いられる。近来，合成繊維の製品もつくられている。

すづけ　【酢漬け】　野菜や魚を生または塩でしめて酢につけたもの。長期間保存でき，食欲増進にも役だつので，夏のつけ物によい。日本料理ではラッキョウの甘酢づけが代表的で，カブ(千枚づけ)・ダイコン・ナス・カリフラワーや，イワシ(あわづけ・うのはなづけ)・アジ・小ダイ・キスの酢づけがあり，西洋料理ではピクルス*がある。いずれも，つけ酢には塩・しょうゆ・砂糖・みりんなどを添加することが多い。

スッペ　［Franz von Suppe］（1819～1895）　オーストリアの作曲家。ウィーンで作曲を学び，はじめヨーゼフシュタット劇場の指揮者，のちプレスブルク・バーデン劇場を経てアン-デア-ウィーン座の指揮者となる。1864年以後はレオポルトシュタット劇場で活躍した。約30曲のオペレッタをはじめ付帯音楽やバレエ音楽を数多く作曲している。作品のうち《軽騎兵》《詩人と農夫》などの序曲は今日でもよく演奏される。

すっぽん　【鼈】　爬虫(はちゅう)類・カメ目・スッポン科。本州・四国・九州に分布し，八重山群島には，基亜種のシナスッポンが分布する。淡水生で，底が砂泥(さでい)質の池・沼・河川にすむ。砂泥の中にもぐって頭だけ出していることが多い。頭部と頸部(けいぶ)が細長く，吻部(ふんぶ)は伸びて先端は細く突出し，鼻孔が開く。これを水面に出して呼吸する。また咽頭(いんとう)および肛門(こうもん)によるガス交換で，水中に数時間ももぐる。甲は柔らかい皮膚におおわれる。美味なので，近年は多く養殖されるようになった。

すっぽんたけ　担子菌類・スッポンタケ科。夏～秋に地上に発生するきのこ。幼菌は白色の卵球形で，径４～５cm程度，肉質は寒天質である。のち卵球形のものが破れてきのこが生長する。きのこの茎は白色，中央部がやや太い円柱状で中空である。高さは10～15cm，太さは２～３cmぐらいになる。先端に白色で鐘形のかさができる。かさの表面は網状の隆起があり，多角形のくぼみを生じる。くぼみの部分には暗緑色の胞子液があって，異臭を放つ。食用となる。

ステアプシン ［steapsin］ 膵臓(すいぞう)から分泌されるリパーゼの別名。重要な消化酵素の一つで脂肪を脂肪酸とグリセリンに加水分解する。そのとき，肝臓から分泌される胆汁(たんじゅう)酸塩が脂肪をよく乳化してステアプシンの働きを容易にさせている。➔酵素

ステアリンさん ［ステアリン酸］ $CH_3(CH_2)_{16}COOH$ オクタデカン酸，オクタデシル酸ともいう。代表的な脂肪酸の一つで，グリセリンエステルとしてパルチミン酸・オレイン酸などとともに動物性・植物性の油脂中に広く含まれている。そのままでバニシングクリームなどの化粧品の基剤になるほか，ナトリウム塩はせっけん・界面活性剤として，また工業用ステアリンに固形パラフィンを混入したものはろうそくの製造・研摩剤などとして用いられる。そのほか，軟膏(なんこう)基剤・座剤基剤などとしても使用されている。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

ステーキ ［steak］ 肉類の切り身，またはそれを焼いた料理をいうが，一般には後者をさす。焼き方は黒い肉類は中に血液が含まれている程度に焼き（レア：切ると血が出る），白い肉は完全に火の通るまで焼き上げる（ウェルダン）。この中間がミディアムで，肉の中心に赤みが残るような焼きかげんのものをさす。用いる肉は，ウシでは背肉・ヒレ肉・腰肉など血液の多い焼いても柔らかい部分が使用され，ブタは背肉を，子ウシは柔らかいので胸肉・脚肉を除いた部分が用いられる。また羊肉では背肉・腰肉などが適している。〔泉　敬子〕

ステゴザウルス ⇨剣龍(けんりゅう)

ステゴドンぞう ［ステゴドン象］ 新生代の第三紀鮮新世から第四紀洪積(こうせき)世に東南アジアに栄え，絶滅した古ゾウ。示準化石。マストドンとエレファスとの中間形で，背の高さは2～3mあり，上顎(じょうがく)には大きなきばをもつ。ヨーロッパに生存したマストドンの子孫で，インド・ビルマを経て中国・日本に渡ったと考えられる。わが国では東京付近をはじめ，各地から発見されている。

ステッセル ［Anatolii Mikhailovich Stessel'］ (1848～1915) ロシア帝政末期の将軍。日露戦争の際，旅順の司令官乃木希典(のぎまれすけ)の率いる日本軍と戦い，8か月にわたる激しい攻防のすえ，1905年1月降伏した。その責任を問われ，1908年2月の軍事・刑事裁判で銃殺判決を受けたが，禁錮(きんこ)10年に減刑され，1909年釈放。

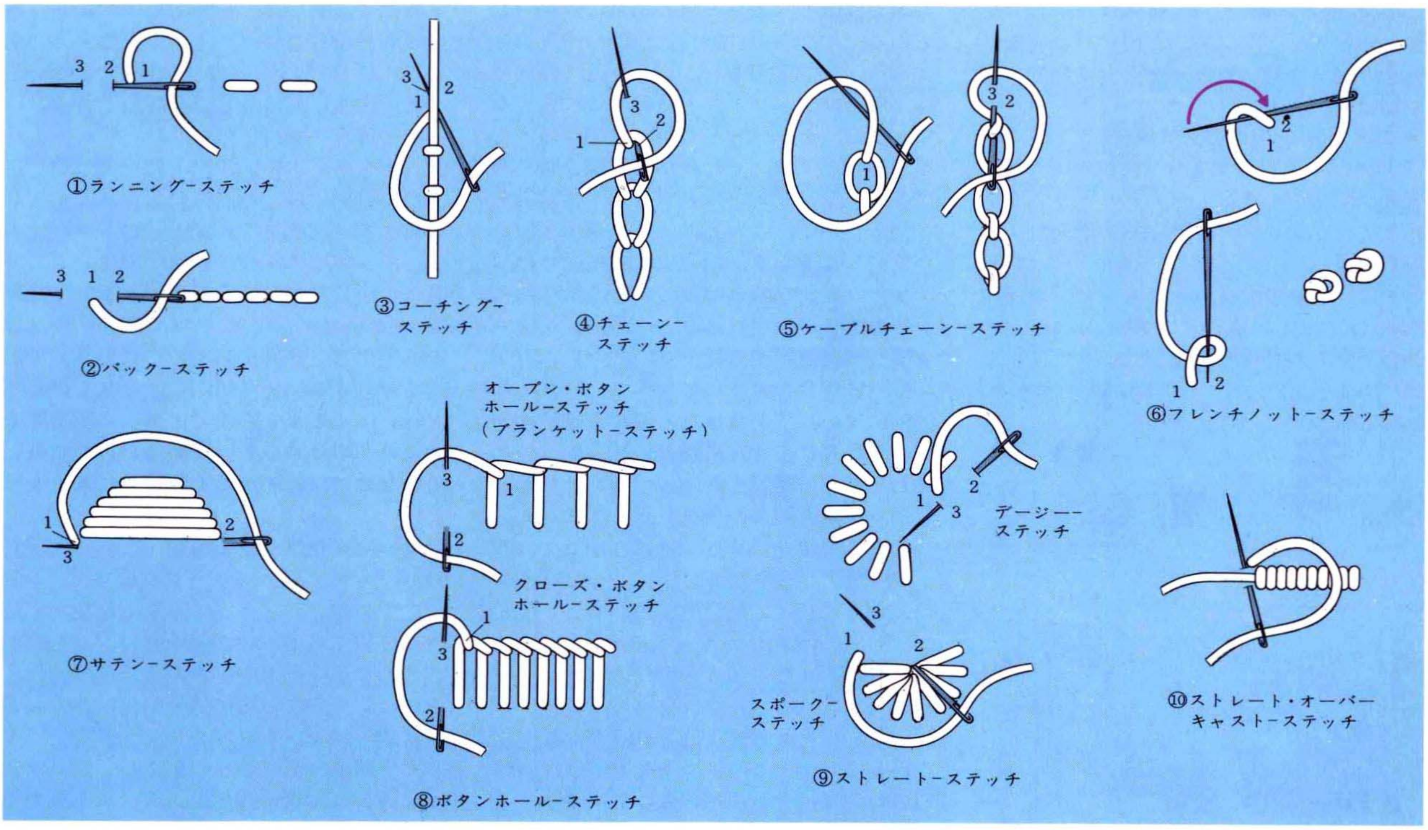


ステゴドン象　オリエンタリスの臼歯。高知県窪川町興津沖産

ステッチ ［stitch］ ししゅうの刺し目，縫い物の針目，編み物の編み目をいう。わが国ではししゅうに多く用い，平らに刺したり，ループやくさりをつくったり，結び目をこしらえたりするなど，さまざまな種類の刺し目を使い分ける。ステッチの各名称は刺し方，針目の形，地名などに由来するが，同一の技法が国によって呼称が異なる場合がある。

ステップ ⇨温帯草原

ステップきこう ［ステップ気候］ 中緯度の内陸部には降雨の非常に少ない地域が広がっているが，このうち年降水量が250～500mm程度のところでは樹木が育たず，草原になっている。この地域の気候をドイツの気象学者ケッペンはステップ気候とよんだ。雨量は年によってかなり異なるため，年によって牧草が不足したり，河川の流量が減少して凶作を起こすこともある。このため，最も広く行なわれるのは遊牧で，雨後に延びた草地を求めて家畜が移動する。サハラ砂漠(さばく)・アラビア砂漠，および南西アフリカ・中央アジア・オーストラリア・アメリカ合衆国西部などの砂漠の外縁部に分布しているが，降雨量が年によって変動するため，ステップ気候と湿潤気候および

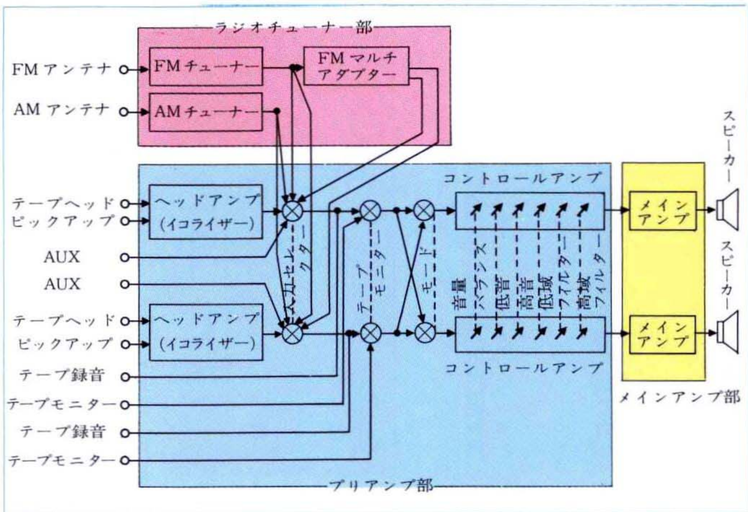


ステッチ　欧風ししゅうのステッチ

ステレオ



レコード-プレーヤー



総合アンプの系統図

砂漠気候*との境界は移動を生じて一定しない。〔桑原正見〕

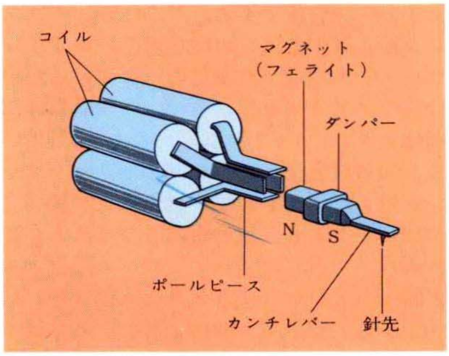
ズデーテン [Sudeten] チェコスロバキアのボヘミアとモラビア地方の国境地域。面積約23,000km²。もとはポーランドのシュレジエンとの境をなすズデーテン山地一帯のよび名であったが，1938年のミュンヘン会議以来ドイツ人が多く住みついたのでドイツ名でよばれるようになった。1938年9月ドイツ軍はここに進入し，1945年まで占領した。

ステノ [Nicolaus Steno] (1638～1687) デンマークの地質学者。ステノはラテン名で，デンマークではステンセンとよぶ。コペンハーゲンに生まれ，アムステルダム・ライデン・パリなどで薬学・解剖学を学ぶ。その後，オランダ・フランス・ドイツを旅行し，イタリアのフェルディナンド2世の侍医をつとめ，そのかたわら，各地の地層を観察して，地層の重なり方に自然の法則があることを指摘した。この考えは，のちにウィリアム-スミス*によって〈地層累重の法則〉として公表されたため，ふつうこれをスミスの功績としているが，実は2世紀もまえにステノがすでにこの考えの大綱を指摘していたのである。〔大森昌衛〕

ステビン [Simon Stevin] (1548？～1620？) オランダの数学者。若いころアントワープで商店の番頭をしていたが，各地に旅したのち，オランダ軍の経理部長となる。十進小数記法の理を説いたことで有名であり，ギリシアの数学者ディオファントスの書を訳したことでも知られる。また，静力学および流体力学における業績も著名で，力の平衡条件を明らかにした。

ステープル [staple] 短繊維の意味。天然繊維*では綿・羊毛*・カポック*などとして，化学繊維*としてはフィラメント*(連続繊維)を短く切断した形で得られる。いずれも紡


スピーカーシステム



マグネット型カートリッジの構造

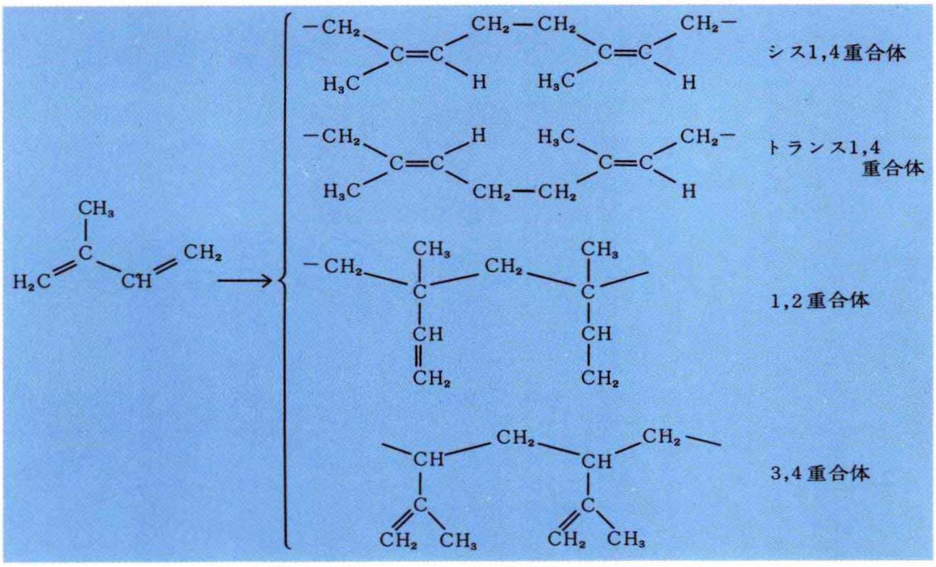
績して糸とし，織維*・メリヤス*・ひも・綱などに用いる。また集合体として中入れわた・不織布*などに利用される。化学繊維では用途に応じた長さに切断することができる点に特色がある。

ステライト [stellite] コバルト・クロム・タングステンなどの金属元素を主成分とした非鉄合金。硬度が高く，耐摩耗性・耐酸化性をもち，赤熱温度(800℃ぐらい)においてもこれらの性質はほとんど変化しない。それで内燃機関のバルブヘッド，熱間加工に用いる押し出しダイスなどの材料に使用されている。

ステリン ⇨ステロール

ステレオ 元来は立体音響(ステレオフォニック-サウンド)の略語であるが，一般には立体音響再生をさし，また2通話路立体再生用電気蓄音機をさすことが多い。一つの音場内の音をさらに独立な2または3系統のマイクロホンで収音し，各系統の信号を混合することなく，独立に保ったままで2または3系統のスピーカーで再生することによって，原音場の音を忠実に再現しようとする方式である。1940年以降，テープレコーダーの出現により2通話路の同時録音が可能となったので，左右2系統のマイクロホンを用いた2通話路ステレオが広く利用されるようになった。また円板録音においても1本の音溝(おんこう)の左右の壁を互いに垂直に保たせ，この壁面に垂直方向に信号を録音することにより，2通話路の信号を1本の溝(みぞ)に収録する45°-45°ステレオ録音方式が開発された。またラジオ放送では，一つの搬送波を2通話路の信号で変調するFM多重方式が開発された。こうして現在のようにステレオが普及したのである。〔伊藤　毅〕

ステレオゴム 合成ゴムの一。立体規則性高分子に属するものにつけられた名称。イソプレンゴム(IR)，ブタジエンゴム*(BR)，エチレン-プロピレンゴム*(EPR)がこれに属する。天然ゴム*の組成がポリイソプレンであることは古くから認められており，合成ゴムに関する研究もイソプレンの重合*がまず試みられた。しかし従来の方法で得られる重合体*は加工性・強度・弾性とも天然ゴムにはるかに及ばない。この原因は重合体の構造の違いにある。イソプレンの重合体といっても図のようにいろいろな構造が考えられるが，普通の方法で得たイソプレン重合体はこれら4種の構造の混合物であるのに対して，天然ゴムは97%以上がシ



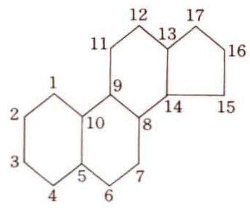
ステレオゴム　イソプレン重合体の各種構造

ス1，4-重合体である。このため，イソプレンから選択的にシス1,4-構造のポリイソプレンをつくることが長年の懸案であったが，1954年にアメリカで，チーグラー型触媒（四塩化チタン-アルミニウムアルキル）を用いると90％以上シス1,4-構造のポリイソプレンが得られることが見いだされた。続いて金属リチウムも同様の触媒となることが認められ，これらによって天然ゴムとほとんど同一のものが合成されるようになり，1956年から工業生産が開始された。イソプレンは原料のコストの面で難点があり，製品が天然ゴムより高価になる。その点引き続き開発されたシス1,4-構造のポリブタジエン（BR）は有利で，SBRに迫る汎用（はんよう）合成ゴムの主力となりつつある。➔合成ゴム　〔伊藤　卓〕

ステレオタイプ　[stereotype]　18世紀末に開発された大量印刷方法，およびその際用いた鉛版をさす印刷用語からW.リップマンによって転用された社会心理学用語。集団の成員がほぼ共通にもっているある程度固定化した観念や態度をいう。たとえば，〈金貸し〉といえば，冷酷・非情・暴利・守銭奴などの観念が浮かんでくる場合であって，論理的・客観的な根拠なしにつくられるもの。先入観*よりは固定化の程度が強く，偏見*よりはその程度が弱い。なお，このことばは，精神病者が同じ動作を長時間くり返す場合にも使われ，〈常同症〉と訳されている。　〔岡山　超〕

ステレオテープ　[stereo tape]　立体音響再生用の録音テープ。ステレオ用の左右チャネルの信号が1本の磁気録音テープに録音されているもので，ステレオテープレコーダーにかければステレオ音場が再生できる。磁気録音テープの全幅を上下の2トラックに分けて，それぞれのトラックに左右の信号を録音する形式のもの，4トラックに分けて，そのうちの2トラックずつを1組みにして2系統のステレオ信号を録音するもの，および8トラックに分けて，4系統のステレオ信号を録音するものなどがある。したがって，これらを再生する場合には，それぞれの形式に合ったステレオテープレコーダーを使用する必要がある。　〔伊藤　毅〕

ステロイド　[steroid]　ステリンおよびこれと類似の構造をもつ化合物の総称。図のような炭素環系をもつか，この環系と密接な関係のある構造をもっている。動植物界に広く存在し重要な化合物が多い。



コレステリン・エルゴステリン・ビタミンD・胆汁酸（たんじゅうさん）・男性ホルモン・女性ホルモン・コーチゾン・植物心臓毒・ガマ毒・ステロイドサポニン・ステロイドアルカロイドなど多数のステロイドが存在する。多くの化合物は無色の結晶。特殊な生理作用や薬理作用を示すものが多く，薬学・生物学・医学の分野で使われているが実際に医薬として使われているステロイドも相当数に達する。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

ステロール　[sterol]　ステリンともいう。アルコール性水酸基をもったステロイド*の一種である。遊離状態，脂肪酸とのエステル，配糖体などとして，動植物界に広く存在している。動物では，特に脳神経・脊髄（せきずい）・胆汁（たんじゅう）などの油脂中に含まれる。無色の結晶。天然のものは3-位の炭素に水酸基がついている。コレステリン・コレスタノール・エルゴステリン・エピステリンなど多数の化合物が知られている。動植物の油脂を鹼化*（けんか）すると不鹼化物として残るので容易に結晶として得られる場合が多い。他のステロイド，特にステロイドホルモンの合成原料として使われる。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

ステーン　[Jan Steen]　(1626～1679)　オランダの画家。クヌプェル・ゴイエンのもとで学び，のちにハルス*・オスターデ*の影響を受けた。当時のオランダの庶民の風俗を風刺とユーモアで表現した。農民や市民の生活を描いた風俗画のほかに，宗教画・神話画・風景画・肖像画など500点以上の作品がある。

ステンカ-ラージンのらん　【ステンカ-ラージンの乱】　17世紀ロシアのドン-コサックの首領ラージンを中心に起こった，封建・農奴制に対する反乱。1649年のアレクセイ-ミハイロビチ帝の法令によって農奴制および中央集権制が確立したが，搾取の強化に反発する暴動が相次ぎ，南辺のコサック地域には逃亡農民・都市貧民の流入が続いた。一方コサック内部にも階層分化が始まり，下層コサックの不満が増大した。1667年ラージンは多数の貧民を従えてカスピ海沿岸に遠征し，ペルシアの諸都市を略奪して1669年ドンへ帰った。1670年再度の遠征は前回と違って農奴制そのものに対する反乱となり，ラージンに呼応してボルガ流域の農民，都市貧民が蜂起（ほうき）し，少数民族も加わり反乱の規模は強大になった。農民らの蜂起軍は組織的には弱体で，盲目的破壊に走ったため政府軍に各地で敗れ，ラージン自身も1670年10月シンビルスク付近で大敗し，1671年4月富裕コサックの手によって捕えられて，6月モスクワで処刑された。彼の死後も反乱は続いたが政府軍によって1671年末までに完全に鎮圧された。　〔山県弘志〕

ステンドグラス　[stained glass]　本来は，着色・焼き付けしたガラスをいうが，実際には各種の色彩ガラス片を図案どおりに組み合わせ，両側にみぞをもつ鉛の帯（ジョイナー）に差し込み，固定して絵画を構成したガラス窓をさす。ヨーロッパでは9世紀ごろに製作が始まったが，初期には着色ガラスの種類も少なく大形の板ガラスの開発がみられなかったため，ガラス片を接合するジョイナーが多く使用されていた。10世紀末のベネチアはステンドグラス製作の中心地であった。15～16世紀になってからは，比較的大形の板ガラスが出現し，彩色文様焼き付けの技術が進んで，ジョイナーの量も減り絵画的な美しさを増したが，その反面モザイクふうの味わいが減少したことはいなめない。しかし，当時ヨーロッパ各地のゴシックふう教会建築は，こぞって大形窓の装飾にステンドグラスを使用した。その後，16世紀宗教改革を機として教会のステンドグラス使用は減少し，宮殿や貴族の邸宅の装飾に用いられるようになったが，近年になってその利用が再び盛んになり，一方では時代に順応する手法と構図も現われ現在に及んでいる。ちなみに，中世期の

作品は現在もヨーロッパ各地の寺院に多いが，中でも，11世紀ドイツのアウグスブルク寺院の予言者図，12世紀製作のイギリスのカンタベリー大聖堂の聖徒図，フランスのシャルトル寺院の聖母子図，13世紀におけるフランスのカルカッソンヌの聖ナザレ寺院およびパリのノートルダム寺院の円窓作品などは代表的なものである。〔市川　清〕

ステンレスこう【ステンレス鋼】実用上ほとんどさびない耐食性の強い鉄の合金。ステンレス鋼には，鉄に13％以上のクロムを入れた合金と，クロムとニッケル(たとえば18％クロム－８％ニッケル)を加えたものと２種類の系統があるが，さらに顕微鏡組織の上からフェライト型・マルテンサイト型・オーステナイト型の３種類に分けられる。ステンレス鋼がさびにくいのは，多量のクロムの添加によって表面に緻密(ちみつ)な耐食性の酸化皮膜ができて強い保護作用をするからである。しかしながらこの酸化皮膜は硝酸などの酸化性環境では強いが，非酸化性の硫酸や塩酸などには弱いので，それらに強いニッケルを加えることにより，よりすぐれた耐食性をもたせることができる。たとえば，20％クロム－12％ニッケル，25％クロム－12％ニッケルのものなどがそれである。〔長谷川正義〕

ステンレス鋼の用途

形式	鋼　種	用　途　例
フェライト	Cr系	タービン翼・製油工業・バルブ・台所器具・食器・衛生器具・精油工業・送油管
マルテンサイト	Cr系	構造用部品・建築用材・ナイフ・医科材料・食器・工具・ダイス・ゲージ・航空機用材
オーステナイト	Cr-Ni系	建築用材・車両・台所器具・船舶用部品，化学工業・精油工業材，航空機材

ストアは【ストア派】BC300年ごろ，キプロスのゼノンによってアテナイに開かれた哲学学派。アテナイの有名な講堂ストア-ポイキレー(いろどられた柱廊の意)で彼とその後継者が講義を行なったのでストア派の名でよばれた。古代末期の最も有力な思想としてローマ帝政時代の２世紀末まで続いた。一般には次の３期に大別される。古ストア派はゼノンから紀元前２世紀中ごろまでの間で，代表者はゼノン・クレアンテス・クリュッシッポスら。中ストア派は紀元前２世紀後半～紀元前１世紀で，代表者はパナイチオス，その弟子(でし)ポセイドニオスらである。後期ストア派はローマ帝政時代でアテナイからローマにその思想が広まった。代表者はセネカ・エピクテトス，ローマ皇帝マルクス-アウレリウスら。根本の思想はすでに古ストア派のころに形成され，学問を論理学・自然学・倫理学の三つに分け，倫理学を最もたいせつな学としている。彼らによれば，世界はロゴス(理性)に支配されており，人間はこの世界のロゴスを分有している存在であるから，このロゴスに従って生きることが人間にとっての有徳の理想的な生き方とされた。そしてそのために〈アパテイア(欲望や感情に動かされない心)〉の境地をめざす禁欲的道徳生活を重視した。ストア派の思想は結局ポリスを失った人々に対してポリスを越えたコスモポリテース(世界市民)としての倫理を説くもので，一面では個人主義的な克己主義・厳粛主義ともみられるが，他面万人平等の世界主義・博愛主義として，また理性の支配を強調する自然主義として，それぞれキリスト教思想や近代の自然法思想に大きな影響を与えた。〔本橋正義〕



ステンドグラス
(左)サン-シュテファン大聖堂，(右)サン-シャペル(パリ)



ストゥーパ　インド中部サンチーに残る最大最古の第一ストゥーパ(大塔)

ストイケイア［Stoicheia］ユークリッドが著わした全13巻の数学書。《幾何学原論》と訳されている。内容は幾何学だけにとどまらず，当時の数学的知識を幾何学の形で集大成した書物で，定義・公準・公理から出発して，証明と定理を積み上げていくという形で進められている。このような叙述形態は，何世紀にもわたって哲学書や数学書を著述するときの模範とされ，人間の知恵が生んだ偉大な記念碑と称せられている。

すどうさだのり【角藤定憲】(1867～1907) 俳優。岡山県生まれ。中江兆民のもとで《東雲(しののめ)新聞》の記者をしていたが，自由民権運動の宣伝手段として演劇に着目。1888年(明治21)日本改良演劇の一座を結成し，自作の小説《剛胆(ごうたん)の書生》を脚色・上演，壮士芝居の先駆をなした。これが新派劇発生の導火線となっている。

ストゥーパ［stūpa］卒塔婆(そとば)・塔婆・塔などと音訳し，廟(びょう)・塚(つか)・円塚(えんちょう)などと意訳される。元来は墳墓を起源とするもので仏教以前にさかのぼるが，ブッダの滅後にその舎利を８分して８個のストゥーパを建立(こんりゅう)したことから，仏舎利塔崇拝の思想が起こった。さらに紀元前３世紀にアショカ王が多数のストゥーパを建立して，造塔供養の功徳を勧めて以来，造塔が広く流行した。ストゥーパは仏塔だけでなく，阿羅漢塔(あらかんとう)・辟支仏塔(びゃくしぶっとう)にも及んで崇拝の対象となった。また，ストゥーパには原則として舎利を収めたが，のちには仏髪・仏牙(ぶつが)・経文・経巻などをも収め，仏像を安置したものもある。僧院と仏塔とは別個に発生したものであるが，紀元前２世紀の石窟(せっくつ)寺院ではすでにこの二つが伽藍(がらん)の構成要素となっている。その後，仏教が中国・日本に伝わって，ストゥーパが僧院の重要な要素をなした。ストゥーパの構造はインドの覆鉢塔(ふくばちとう)から，中国の塼塔(せんとう)を経て，日本では五重塔・三重塔・多宝塔などと変化している。➔卒塔婆(そとば)〔塚本啓祥〕

ストーカー［stoker］石炭などの固体燃料を機械的に燃焼室内に送り込んで燃焼させる装置。給炭機ともいう。金属の火格子(ひごうし)片で組み立てられた鎖状のベルトコンベヤーの上に燃料を載せて送り込むものを移床ストーカー，翼車や蒸気を用いて燃料をはじき飛ばして燃焼室へ入れるものを撒布(さっぷ)式ストーカー，スクリューコンベヤーで燃料を送って下から上へもち上

げるようにして燃焼室に入れるものを下込めストーカーという。　〔小泉睦男〕

ストきせいほう　**【スト規制法】**　1953年(昭和28)に公布された〈電気事業及び石炭鉱業における争議行為の方法の規制に関する法律〉の略称。1952年秋の賃上げを要求して行なわれた電産・炭労の長期ストの経験から，労働組合の強い反対を押しきって制定されたもの。電気事業・石炭産業は，国民経済および国民生活に重要であること，公共の福祉を擁護する必要があることなどの理由から，電気事業については，電源スト・停電ストを禁じ，石炭産業については，危険防止の見地から保安要員の引き揚げなどを禁止して，労働者の争議行為を大幅に制限した。憲法28条の争議権保障を侵害するものであるとの批判もある。当初は3年の時限立法であったが，1956年に期限付条項が削除され恒久法となった。〔木元錦哉〕

ストークス　［Sir George Gabriel Stokes］（1819～1903）　イギリスの数学者・物理学者。1849年ケンブリッジ大学教授となる。微分方程式・積分方程式・流体力学・光学などを研究したが，彼の名でよばれるストークスの法則は，ガウスの定理とともにベクトル解析における重要な定理である。

ストークスのほうそく　**【ストークスの法則】**

1イギリスの物理学者ストークスが見いだした法則。粘性流体中を運動する球の受ける抵抗力についての法則である。粘性の大きい流体中を，球がゆるやかに運動するとき，球を取り巻く流体小部分は，圧力と摩擦応力がつりあった状態で流れる。粘性係数を μ，球の速度を V，半径を a とすると，抗力 D は，$D=6\pi\mu aV$ で与えられる。この法則はレイノルズ数(流体の密度を ρ とすれば $R=\rho aV/\mu$)が1以下の範囲でよく合う。これ以上になると，流体中にうずが発生して，抗力はもっと大きくなる。この法則によると，密度 ρ の空気中を，密度 δ の雨滴が落下するとき，雨滴にかかる重力と空気の抗力がつりあうことにより得られる終端速度 Vt は，

$$Vt=(2/9)(\delta-\rho)a^2/\mu$$

で計算される。

2螢光体(けいこうたい)の発する波長についての法則。螢光体の発する波長は，入射光の波長と異なり，長いのが普通である。これをストークス線という。これは，螢光の光子のエネルギーが入射光の光子のエネルギーよりも小さいためである。入射光子に振動エネルギーが追加される場合があるが，このときは入射光よりも短い波長の光(反ストークス線)が現われる。　〔内田茂男〕

すとくてんのう　**【崇徳天皇】**　（1119～1164）　在位1123～1141。名は顕仁(あきひと)。鳥羽(とば)天皇の第1皇子。母は権大納言藤原公実(きみざね)の娘待賢門院藤原璋子(しょうし)。



ス ト ッ ク

5歳で即位し鳥羽上皇が院政をとった。1141年(永治1)鳥羽上皇は天皇に譲位を迫って寵妃(ちょうひ)美福門院の子近衛(このえ)天皇を即位させた。近衛天皇が没すると，崇徳上皇は，子重仁親王を推したにもかかわらず後白河(ごしらかわ)天皇が即位したため，不満が重なり，藤原頼長(よりなが)とはかって後白河天皇の御所を襲撃した。これが保元(ほうげん)の乱である。上皇は敗れて讃岐(さぬき)(香川県)に流され，同地に没した。陵墓は香川県坂出市の白峰陵。　〔飯田悠紀子〕

ストケシア　［stokesia］　双子葉植物・キク科。観賞用として栽培される北アメリカ南部原産の多年草，和名をルリギクという。茎の高さ30～60cm，葉は披針(ひしん)形で長さ10～20cm，根出葉は有柄であるが茎葉は無柄で茎をいだく。7～10月，茎の先に直径約10cmの紫・青・白色などの頭状花をつける。外側の小花は内側の小花より大きく，舌状花状に開出する。瘦果(そうか)は3～4稜(りょう)形で，冠毛は4～5枚の鱗片(りんぺん)である。

ストコフスキー　［Leopold Stokowski］（1882～1977）　アメリカの指揮者。父はポーランド系，母はアイルランド系。はじめオルガン奏者として名をなしたが，1909年にシンシナチ交響楽団の指揮者としてスタートした。1912～1936年にわたってフィラデルフィア管弦楽団の指揮者として名声をあげ，その後もアメリカのオーケストラで多彩な指揮活動を行なった。映画《オーケストラの少女》《ファンタジア》に出演したり，積極的にレコード録音を行なったことでも著名である。1965年(昭和40)来日。

〔向坂正久〕

ストッキング　［stocking］　婦人用長くつしたの一般的なよび名。また下までの正規寸法のもののほか，ガードル不用のまた上つきのパンティストッキング，ひざ上までのオーバーニーレングス，ひざ下のニーレングスなど数種類の長さがある。近年スカートたけが短くなったためニーレングスはほとんど使用されず，一方シースルーの流行を反映してボディストッキングなども生まれている。さらに服装と調和させるために多くのカラーストッキングも出回っている。材料は絹・綿・人絹・ナイロンなどに大別されるが，現在綿は子ども用に使われる程度，絹はほとんど姿を消し，婦人用にはナイロンが全盛で，防寒用にウール製品もある。編み方には次の3種がある。①シームレス-ストッキング：始めから終わりまで同じ編み目数で円筒状に編み上げたものを，ナイロンの性質を利用して熱と圧力で脚型に成型する。②フルファッション-ストッキング：脚部の太さに応じて編み目数を増減した1枚のものを後部で縫い合わせるもので，シームラインがある。③トリコット-ストッキング：経(たて)メリヤスの平らな生地をフルファッションと同型に裁断し，ミシンで縫い合わせる。伝線しにくいが，地がやや厚い。　〔小池千枝〕

ストック　［stock］　双子葉植物・アブラナ科。アラセイトウともいう。南部ヨーロッパ原産の多年草であるが，園芸上は1～2年草として扱われる。茎は高さ30～70cmほどで，短毛のある白色をおびた葉を互生する。花壇などでは春に赤・桃・白・紫・黄色などの花を総状花序につける。

ストックホルム　［Stockholm］　スウェーデンの首都。人口67万1,000(1974)。メーラレン湖の湖水がバルト海に注ぐ河口に位置し，島や半島上に市街が形成され，運河や水路がよく発達しているため，〈北欧のベニス〉ともよばれる。この国の経済・文化の中心であり，エーテボリと並ぶ港湾都市で，木材・紙・鉄鋼などを輸出し，造船・機械・鉄鋼・皮革などの工業が盛ん。最初に都市が建設され中世的な景観をもつスターデン島を除くと，計画的につくられた近代的な住宅地や公園が多い美しい都市である。1255年に建設され，ハンザ同盟の都市として急速に発達し，17世紀にはウプサラから首都が移された。17～19世紀の間の数度の火災を経て，木造建築から石造建築の市街に変わった。美しい王宮，13世紀創立のストルキルカン教会，ノーベル協会のあるスウェーデン-アカデミー，1912年にオリンピックが行なわれた大競技場，ノルジスカ博物館などがある。両度の世界大戦では中立国の首都として国際外交上の重要な舞台となった。　〔梶川勇作〕

ストックホルム-アピール　［Stockholm appeal］　1950年3月，スウェーデンのストックホルムで平和擁護世界大会が採択した原子兵器使用禁止のアピール。1949年9月のソ連原爆保有声明，10月中共の建国，ベトナムにおけるフランスからの独立運動，朝鮮における政情不安など社会主義勢力の進出による核戦争の危機増大に対して開かれた常任委員会で，①原子兵器の使用反対・国際管理，②原子爆弾を最初に使用した国を人類の敵，戦争犯罪人とみなす，とのアピールを全世界に発することを決定。1950年6月朝鮮戦争勃発(ぼっぱつ)に伴い，11月までに5億人の署名を獲得，戦後の平和運動を大きく促進させた。　〔折井一彦〕

ストップウォッチ［stop watch］ スポーツなどで短い時間を測定するための携帯用時計。一般に中央に長い秒針があり，押しボタンによって始動・停止・ゼロもどしができ，また測定時間の合計を記録するための指針をもつ。始動・停止・ゼロもどしのサイクルだけにとどまらず，数回の測定時間の合計を指示する積算式のもの，秒針を2本備え，そのうち1本だけを止めてラップタイムをはかる置針つきのものもある。工場内の生産管理，また使用されるスポーツの種類などに応じて秒針の刻みには1/5，1/10，1/20，1/50，1/100秒などがある。〔元持邦之〕

ストーニー［George Johnstone Stoney］（1826～1911） イギリスの物理学者。アイルランドのクィーンズ-カレッジの教授。1867年ケルビン*・ロシュミットに先だって分子*の大きさを決定した。1874年電気分解に際し，イオンの帯電量から電気素量の存在を主張して，これをエレクトロン（電子*）と名づけた。

ストーブ［stove］ 室内を暖めるための放熱装置の一。使用燃料により石炭・まき・練炭・ガス・電気・石油などの各ストーブがあり，また構造による分類もある。なお一般にストーブという場合は，必要に応じて移動できるものをさし，建築構造の一部となっているものはストーブといわない。

《種類》 ①まきストーブ：単純な構造の鉄板製が多く，いわゆるルンペンストーブといわれるもの。暖房とともに，炊事や湯わかしに用いるものが多い。②練炭ストーブ：鋳鉄製が多く，排気筒をとりつけておけば有害ガスの危険はない。③石炭ストーブ：鋳鉄製で，だるまストーブといわれるもの。上向き通風式・横向き通風式・下向き通風式の3種がある。一般にだるまストーブは燃えがよく扱いやすいが，石炭が一気に燃えて長続きせず，その補給に手数がかかる。しかし横向きは，1度石炭を入れると徐々に燃えて長時間保つことができる。石炭ストーブは放熱量が多く，経済的なため，長時間の使用に適している。④ガスストーブ：都市ガス用とプロパンガス用がある。ガスの炎は高温であるが放射熱に乏しいので，炎の中にラジアントとよばれる白色素焼き製の物体を入れ，これを熱してその放射熱を利用する。さまざまな種類があるが，新しい方式に赤外線ストーブがある。これはガスの熱を赤外線に変えて伝えるもので，従来のものより熱効率がよいうえ，好みの方向に角度を変えることができる。点火・消火が容易で塵埃（じんあい）の発生も少ないので広く普及しているが，長時間使用する場合は換気に注意する必要がある。⑤電気ストーブ：最も清潔・衛生的でしかも操作が便利なので，病室用・乳児室用として最適である。燃料費が高くつくことが欠点。反射型と対流型があり，反射型は電力が少なくてすむが，ストーブの前方だけを暖める手あぶり程度であり，対流型は空気を暖め，その対流で室内全体を暖めるものであるが，熱効率が悪く多くの電力を必要とする。これに対し最近の赤外線式のものは熱がむだなく使われ，遠くまで伝達される。⑥石油ストーブ：石油を燃料としたストーブ。暖まるのも早く，燃料費が安いので1日じゅうつけておくことができ，庶民的な暖房器具として近年急速に普及してきた。悪臭（特に点火・消火時）や火災が起きやすい欠点も，各メーカーがきびしいJIS規定に基づいて改良した結果，現在ではほとんどその懸念のない製品ができている。一般家庭用の石油ストーブにはしん上下式・加圧式・落差反射式の三つがあるが，最近では全製品の90％以上が，しん上下式である。しん上下式には対流型と放射型がある。対流型は，すきまの多い日本間では熱の逃散が多い。放射型には，反射板つきの前方放射型，反射板のない全周放射型とがあるが，どれも，燃焼筒上の金網キャップが赤熱されて放射熱を出すしくみである。和室などの局部暖房として有効である。〔山本喜男〕


ストラビンスキー

ストーふじん【ストー夫人】（1811～1896） アメリカの女流作家。本名ハリエット-エリザベス-ストー。ニューイングランド地方に生まれ，牧師の父の弟子（でし）ストーと結婚。作品には，ニューイングランド地方の風物を描いた小説と時局小説の2系列があるが，前者に作者の特色が出ている。反奴隷制小説《アンクル-トムの小屋*》で世界的人気を博した。ほかに《オールドタウンの人々》《妻と私》など多数。

ストライキ［strike］ ある経営あるいは地域の労働者が，賃金その他労働条件の維持改善その他の目的貫徹のために，集団的・組織的に労働力の提供を拒否すること。ストライキは，生存権*を確保する正当な権利行使であって，民事・刑事上の責任は生じない。労働者は，使用者と対等に団体交渉*を行ない，要求を貫徹するために，ストライキによる実力行使を行なう。なお，公務員*・公社*の職員などはストライキ権を奪われている。➔ゼネスト

ストラスブール［Strasbourg］ フランス東部，ドイツとの国境近くのライン川の支流イル川沿いにある商工業都市。バ-ラン県の行政の中心地。人口24万9,000（1968）で，フランス第8位の都市。アルザス地方の経済・文化の中心地であるとともに，古くからフランス・ドイツ・スイス3国間の取引が盛んに行なわれた交通上の要地でもあった。ライン川と運河で結ばれた河港をもち，炭田に位置して，金属・醸造・皮革・印刷・食品などの工業が盛ん。また周辺地域のぶどう酒やアスパラガス・ホップ・たばこの取引も行なわれ，特産物に〈パテ-ド-フォアグラ〉というソーセージがある。古代ローマ帝国時代にはアルゲントラツムとよばれた植民都市であったが，中世にはフランク王国のもとで，ライン川流域の一中心地として繁栄し，10世紀からはドイツ領であったが，1681年にルイ14世が取りもどした。さらに普仏戦争（1870～1871）から第1次世界大戦までは再びドイツ領に編入されたが戦後フランス領に復した。旧市街にあるゴシック様式のノートルダム大寺院は11～15世紀の建造で，140mの高さをもつ時計塔で名高い。1567年創立のストラスブール大学はゲーテが学んだことで知られる。〔梶川勇作〕

ストラッフォード［Sir Thomas Wentworth, 1st Earl of Strafford］（1593～1641） イギリスの政治家。1614年下院議員。チャールズ1世*の無議会政治に批判的であったが，彼の反絶対主義の立場は妥協的なもので，王の寵（ちょう）を受けて官職を与えられてからは，ウィリアム-ロード（1573～1645）とともに王の反動政治を推進した。短期議会ではスコットランド即時侵入と議会解散を主張，長期議会でも反国王的議員の逮捕を進言したが，議会は国王側近である彼の責任を追及し，イギリス人の自由を破壊した罪で処刑した。〔松下京子〕

ストラディバリ［Giacomo Antonio Stradivari］（1644～1737） イタリアのバイオリン製作者。ニコロ-アマーティにバイオリンの製作を学び，1665年ごろ独立。彼のバイオリンは現存するものだけでも約600あり，特に1710年のものは名器として知られる。前の時代の楽器から独特の形態（たとえばf字孔の強い傾斜）を使って，よくとおる強い響きを出すことに成功した。19世紀以来多くの名演奏家が用いている。

ストラトフォード-オン-エーボン［Stratford-on-Avon］ イギリス，イングランド中央部のエーボン川右岸にある都市。人口98,900（1974）。シェークスピア*の生地として有名である。ヘンリー通りには切り妻屋根の生家（現在は博物館）が，アンハーサ通りには墓のあるホーリー-トリニチー教会がある。19世紀末に建てられた記念劇場では毎年シェークスピア劇が上演されている。

ストラビンスキー［Igor Stravinsky］（1882～1971） ロシア生まれのアメリカの

作曲家。20世紀最大の作曲家のひとり。ペテルスブルク国立歌劇場のバス歌手を父に，ペテルスブルク郊外の村に生まれた。9歳でピアノを始め，父の書斎からオペラの楽譜を引き出して読むなど，音楽に親しんでいたが，両親の勧めでペテルスブルク大学の法科に入学した。在学中リムスキー-コルサコフ*のむすこと知り合い，この作曲家のもとで作曲の個人レッスンを受け，1908年リムスキーが死ぬときまでの約5年間続けられ，《交響曲変ホ長調》，オペラ《鶯(うぐいす)》，管弦楽曲《花火》《スケルツォ-ファンタスティック》など師の影響が強く感じられる作品を作曲した。ストラビンスキーの名をヨーロッパ全土に広めたのは，1910年のはじめ，ディアギレフの率いるロシアバレエ団のために作曲した《火の鳥》《ペトルーシュカ》《春の祭典》であった。彼はこれらの作品で，ロシアの異教的な物語を，膨大な管弦楽と激しい複雑なリズムで表現した。特に原始的な獣的な表出力をもつ《春の祭典》は，原始主義の作風の頂点に立つものとして高く評価されている。

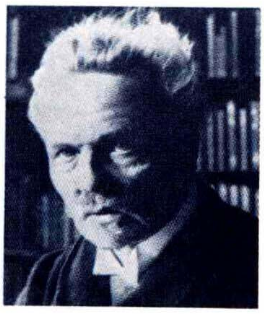
《春の祭典》以後はその作風を180度転回させ，室内楽的な小編成の楽器編成によって，明確な形式感を出すアポロ的な芸術をめざした。そしてヨーロッパ各地を転々としながら，《兵士の物語》《プルチネルラ》《木管八重奏曲》《詩編交響曲》など〈新古典主義〉といわれる作品を発表した。1945年にアメリカの市民権を獲得し，《カンティクム-サクルム》《アゴン》《トレニ》《説教・物語・祈り》といった12音技法による力作を作曲した。ストラビンスキーは，今世紀初めから，たえず現代音楽の先頭に立ち，これを指導してきた作曲家といえる。〔船山 隆〕

ストラボン ［Strabon］（BC64ごろ～AD21） 古代ギリシアの歴史家・地理学者。黒海沿岸ポントスのアマセイアに生まれた。文法・地理学・哲学を学び，ローマ・エジプトに滞在し，また小アジア各地を旅行した。《歴史覚え書》47巻は現存してないが，《地誌》17巻の大部分が残っている。地中海諸国・エジプト・小アジア方面が詳しく書かれているが，歴史に重点を置いた地誌で，緯度・経度や気象などは軽視されている。文学批評には偏見もみられるが，歴史・文学・哲学を包含した地誌として，資料の宝庫となっている。〔久保正彰〕

ストリキニーネ ［strychinine］ フジウツギ科植物（マチン・イグナチウスマメなど）の種子に含まれるアルカロイドの一種。強い苦味をもち，1gを40 l の水にとかしたものでも苦さを感じる。興奮薬に属し，中枢神経を刺激して呼吸中枢を興奮させる。臨床的には硝酸ストリキニーネを注射剤とし手術時のショックや出血による虚脱の予防，麻酔薬・催眠薬およびアルコールによる急性中毒の治療に用いる。蓄積作用があり，副作用として筋肉の硬直・痙攣(けいれん)・麻痺(まひ)が起こる。



ストリップミル ホット-ストリップミル（熱間連続式圧延機）



ストリンドベルイ

ストリップ-ショー ［strip show］ 踊り子が音楽に合わせて踊りながら衣装を1枚1枚脱いでいく見せ物。ストリップの語意である〈脱ぐ〉〈はぐ〉に由来するものでストリップ-ティーズともいう。1930年ごろアメリカでバーレスク*の一部が分離・独立したもので，1936年ニューヨークでジプシー-ローズ-リーというストリッパーの登場が契機となってショー芸術としての一ジャンルを確立した。日本では1947年（昭和22），東京新宿の帝都座5階劇場で，《ビーナスの誕生》に額縁ヌードとして登場したのがはじまりとされている。その後，戦後の退廃した民衆の気分を反映して一時盛んであったが，最盛期の1953年には13館もあった東京の専門館も現在では半減し，ナイトクラブのフロアーショーとして細々と続いている。日本では額縁ヌードやはじめからヌードで出てくるヌード-ショーもストリップ-ショーとよんでいる。〔高橋孝一〕

ストリップミル ［strip mill］ 厚さ4mm以下の薄板幅広帯鋼を圧延する圧延機。一般に，厚さが1～4mmの幅広帯鋼はホットストリップミルで，厚さが0.25～1mmのものはコールドストリップミルで圧延される。ホットストリップミルは，分塊圧延で製造された大形扁平(へんぺい)鋼片をきず取りしたのち，加熱炉で約1,300℃に加熱してから圧延する。種類は半連続式と連続式の2形式がある。半連続式は加熱による酸化皮膜を除去後，5回程度の往復圧延を行ない，仕上げ圧延機によって目的の板厚まで仕上げ，水冷し700℃以下の温度で巻き取る。連続式は逆転式粗圧延機を使用せず，2重式圧延機で粗圧延を行なう。粗圧延ラインは半連続式に比して長くなるが，能率は倍加する。仕上げ圧延は半連続式と同じ。コールドストリップミルは，ホットストリップミルにより製造されたホットコイルを，酸洗して酸化膜を除去したのち，4～6基の直列に並んだ4重式圧延機で連続的に，または4重逆転式冷間圧延機で往復圧延し，コイル状に巻き取る。〔吉村啓介〕

ストリンドベルイ ［August Strindberg］（1849～1912） スウェーデンの劇作家・小説家。自然主義を導入して清新な文体を創始したことにより近代スウェーデン文学の祖とよばれる。さまざまな職を経て，1870年初演の戯曲《ローマにて》で劇作家として登場したが，心血を注いだ大作《メステル-オーロブ》が王立劇場での上演を拒否されて失望し，料亭(りょうてい)〈赤い部屋(へや)〉でボヘミアンの生活を，また《痴人の告白》に描かれているような窮乏生活を送った。やがて自然主義小説《赤い部屋》で文名を高め，男爵夫人との恋愛・結婚に至るが，のちに離婚。イプセン*の婦人解放運動を罵倒(ばとう)した短編集《結婚物語》の一節が，神と教会への冒瀆(ぼうとく)として裁判沙汰(ざた)になり，〈ストリンドベルイ論争〉が起きる。44歳の春，20歳年下の女と再婚し翌年に離婚，このころからしだいに被害妄想(もうそう)に陥って狂気のふちにまで追いつめられ，スウェーデンボルイ*の神秘主義と聖書に救いを見いだした。《ダマスクスへ》はその回心の告白である。52歳のとき23歳の女優と三たび結婚，3年足らずで離婚。1907年にはストックホルムに実験小劇場をつくって象徴性の強い脚本を書いたが，3年で閉鎖した。自伝小説《女中っ子》にあるような〈むちの恐怖におびえながら〉の幼年時から，生涯(しょうがい)の彷徨(ほうこう)と懊悩(おうのう)のあとは，前期の徹底した無神論と自然主義に基づく戯曲《父》《令嬢ジュリイ》《熱風》などから，後期の祝祭劇《復活祭》や現代劇《死の舞踏》などへの推移にうかがわれる。〔鈴木徹郎〕

ストール ［stole］ 毛皮・布・毛糸・羽毛などでつくられた細長い肩掛けで，端に縁飾りのついているものが多い。おもに女性が装飾あるいは防寒のために用いる。語源はラテン語のストラで，古代ローマ時代のゆるやかな衣服もストールとよばれた。さらに中世以来今日まで，聖職者の衣服で首から下げられている帯状のものもストールといわれている。

ストルイピン ［Pyotr Arkadievich Stolypin］（1862～1911） ロシア帝政末期の政治家。大地主貴族の生まれ。ペテルブルク大学に学ぶ。1903年サラトフ県知事となり，慢性化した農民暴動を弾圧した手腕を買われて，1906年4月，第一革命退潮期のゴレムイキン内閣の内務大臣となり，6月には首相となった。翌年第2国会の解

散と7月3日の新法令により，地主・ブルジョアジーが国会内で多数派を占める条件がつくられ，以後いわゆる〈ストルイピン反動期〉が現出する。ストルイピンの改革は，第一革命によって近代化を余儀なくされたツァーリズムの社会的支柱として農村に富農層をつくり出し育成するもので，この結果，所有する土地の比較的少ない農民は土地を売って農村共同体(ミール)を離れ，その一方で一部の者に土地の所有が集中し農村における資本主義の発展が早められた。1911年9月キエフで暗殺された。
〔山県弘志〕

ストルーベ ［Friedrich Georg Wilhelm Struve］(1793〜1864) ロシアの天文学者。1824年からドルパット天文台で二重星の観測を行ない，1827年までに2,200対の二重星を発見した。晩年には恒星の視差の観測を行ない，ベガ(こと座α星)の視差0.″261を得た。1839〜1861年，プルコバ天文台長を勤めた。第3子のオットー-ストルーベ(1819〜1905)は父の業を継ぎ，同じく二重星の観測を続け，さらに星雲・彗星(すいせい)，土星の環などについて多数の観測を行なった。オットー-ストルーベの第4子ヘルマン-ストルーベ(1854〜1920)は，はじめプルコバで衛星や惑星の観測をした。1895年ケーニヒスベルク天文台長，1904年にはベルリン天文台長となった。彼の弟ルドウィヒ-ストルーベは太陽系の運動の研究家として知られる。

ルドウィヒ-ストルーベの子オットー-ストルーベ(1897〜)は，アメリカのシカゴ大学に学び，1932年にはヤーキス天文台長となった。1952年，シャプレーのあとを受けてハーバード天文台長となる。彼は天体分光学の権威者であり，恒星天文学に対する業績も多い。また天文学の普及にも熱心で，最近の業績を手ぎわよく解説した多くの書物や論文を発表している。〔根本順吉〕

ストレーザかいぎ 【ストレーザ会議】 1935年3月ヒットラーがベルサイユ条約の軍事要項を一方的に破棄し，再軍備宣言をしたことに対処するため，北イタリアのストレーザで1935年4月11〜14日間開かれたイギリス(マクドナルド首相・サイモン外相)・フランス(フランダン首相・ラバル外相)・イタリア(ムッソリーニ)が出席した3国会議。ドイツの膨張に反対，ヨーロッパの平和維持を確認，オーストリアの独立を保障，ロカルノ条約の遵守を表明し，4月15日開催される国際連盟理事会にはドイツ再軍備問題を提起することを決定した。ここに対ドイツ〈ストレーザ戦線〉の成立をみたが，6月イギリスはドイツと海軍協定を締結し，イタリアはエチオピア戦争後ドイツとの接近を機としてやがて消滅した。
〔折井一彦〕

ストレス ［stress］ 生体に加えられるなんらかの刺激・傷害に対し，1個体内でひき起こされる一連の非特異的な生物反応。からだに加えられた外傷・中毒・寒冷・伝染病などの刺激をストレッサーといい，刺激の種類に左右されることなくストレスは起こる。この現象をカナダの医学者H.セリエは系統的な反応系としてとらえ，ストレス学説を唱えた。これによれば，ストレスは主として内分泌系中でも特に脳下垂体-副腎(ふくじん)皮質系によるものとされる。刺激が加わった個体では脳下垂体-副腎皮質系が活動をはじめ，副腎皮質ホルモンを過量に分泌し刺激に対して抵抗する。ところが，さらに刺激が持続し，かつ分泌活動の機能低下が起こると，刺激に耐えることができなくなる。このようにしてストレスが起こると副腎皮質ホルモンの分泌機能低下によって種々の疾患が生じる。たとえば，いままで原因不明だった高血圧・関節リウマチ・結節性動脈周囲炎・ショック・急性胃腸潰瘍(かいよう)などもこれによるものとみられている。

ストレスがくせつ 【ストレス学説】 1944年，カナダのH.セリエが発表した学説。正式にはストレス-適応症候群学説とよぶ。生体はホルモンの働きがうまくいっていれば健康でいられるが，寒冷や酷暑，外傷，菌による感染，精神的ショックなどの刺激(ストレッサー)が外から加わると，ホルモンのバランスがくずれ，それをもとにもどそうとする非特異的な反応が起こる。この反応をストレスという。セリエは，このストレス反応が内分泌系，特に脳下垂体-副腎(ふくじん)皮質系の働きによることを明らかにし，①警告反応期(脳下垂体-副腎皮質系が働いて積極的な防御反応を示す)，②抵抗期(刺激に順応して抵抗性をもつ)，③疲憊(ひはい)期(刺激がある限度を越えて加わった場合，抵抗を失って病的現象が現われる)の3段階に分けた。胃・十二指腸潰瘍(かいよう)，心筋梗塞(こうそく)，神経症などの現代病といわれるものは，このようにして生じるという。〔片山義郎〕

ストレーチー ［Giles Lytton Strachey］(1880〜1932) イギリスの伝記作家。はじめ批評家として出発したが，《ビクトリア朝のお偉方》によって1920年代のビクトリア朝の精神を批判，特異な伝記作者として名声を得た。さらに《エリザベスとエセックス》などによって伝記を〈文学〉に高め，ツワイク・モーロワらにも影響を与えた。

ストレッチヤーン ⇨テクスチュアードヤーン

ストレプトマイシン ［streptomycin］ ストマイと略称することがある。1943年アメリカのワックスマンらによって発見された放線菌の産生する抗生物質。グラム陽性菌・グラム陰性菌に広い感受性をもつほか，特に抗酸性菌である結核菌に有効なところから注目を引き，ストレプトマイシンによって結核の化学療法が確立したといわれるほど著効を示した。筋肉注射によってすみやかに吸収され，高い血中濃度を示す。経口投与のときは血中に吸収されないので，腸内感染症のとき以外はふつう筋肉注射を行なう。耐性菌をつくりやすく，難聴・耳鳴り・めまいなどの副作用は回復が困難で，パスやヒドラジドと併用することにより欠点を補う。1954年池田らによってストレプトマイシンから誘導されたジヒドロストレプトマイシンは同様な効力をもつが，副作用に多少の差異があるので，等量混合製剤が複合ストレプトマイシンとして用いられる。➔抗生物質〔川村次良〕

ストレリチア ⇨ゴクラクチョウカ

ストロガノフけ 【ストロガノフ家】 16〜17世紀のロシアの大商工業資本家。ウラル・シベリア開拓で知られる。武力によってシベリア土着民から土地を収奪し，農民を移植することによってカマ・イルチシ・オビ川にわたる広大な所領を形成していた。きびしい搾取により土地所有・採塩・漁業・鉱業・工業・商業を発展させ，中央政府もストロガノフ家の事業を援助し，16世紀半ば以来特恵条件で土地を与えただけでなく，その世襲地を国境保持，シベリアへの前進基地と考えて，都市の築塁を許し1572年には軍隊の私有をも認めた。エルマクのシベリア遠征を援助し北方戦争などの際には政府に資金を貸し付けた。18世紀には貴族に列せられ，ウラル工業地帯の大工場所有者となり，19世紀最大の土地所有者で，一門は政治・軍事の要職につき権勢をふるった。
〔山県弘志〕

ストロフルス ⇨小児ストロフルス

ストロボ ［strobo］ 写真撮影用光源に使われるクセノンガスを封入した放電燈。ストロボは商品名で，一般にはストローブ・スピードライト・エレクトロニック-フラッシュなどともいわれる。フラッシュバルブに比べて，①燃焼現象ではないのでくり返して使用ができ，連続撮影に適する，②閃光(せんこう)の持続時間が1/500〜1/20,000秒と短いので高速シャッターと同じ効果が得られる，③光質が平均昼光に近いのでカラー用光源に補正なしで利用できる，④閃光電球よりも1回の発光あたりの経費が少ない，など数多くの利点がある。もとは輝線スペクトルの影響で緑系の色の片寄りもあったが，発光窓にアンバー(こはく色)フィルターを組み込んで補正する方式が一般化してきた。その他露光の決定を自動化したオートストロボ(自動調光ストロボ)も最近になって出現している。なお，ストロボで撮影するときはカメラのX接点を使用するが，これはクセノンの化学記号(Xe)からとったものである。〔新川幸信〕

ストロボスコープ ［stroboscope］
①高速で周期的運動をしている物体を，一定の時間間隔でくり返し観察することにより，その物体の運動の状態を調べ，また

回転数・振動数を測定する装置。たとえば，一定の周期で振動または回転している物体を，同じ周期で点滅する光源で照らして見ると，物体が同じ位置にあるときにだけくり返し観察するので，物体は静止して見える。もし周期がわずかに異なれば，物体の位置は徐々に移動するように見える。したがって，光源の点滅の周期がわかっていれば物体の振動・回転の周期を求めることができる。レコードの回転数を調整するため，放射状に白黒に塗り分けた円盤をのせて電燈で照らし，縞(しま)模様が静止して見えるように調整するのはストロボスコープの最も簡単な例である。点滅する光源としては，ネオン管・ストロボライト(持続時間1,000分の1秒程度以下の閃光(せんこう)を発する特殊な放電管)などが用いられる。点滅光源で照らすかわりに，一定の周期で開閉するスリットを通して物体を見る方法も用いられる。

2少しずつ異なる写真または図を順番に並べて速く動かし，一つのスリットを通してこれを見ると映画のように画像が動いて見える。このような装置をストロボスコープという。〔有山正孝〕

ストロング [Anna Louise Strong] (1885～1970) アメリカの婦人ジャーナリスト。シカゴ大学卒業。はじめ児童福祉や教育方面の仕事をしていたが，のちINS*など通信社のモスクワ特派員となる。1930年ソ連邦最初の英字新聞《モスコー-デーリー-ニュース》を創刊。この間スペイン・メキシコ・中国などを駆け巡り，当時の世界の動乱と革命を報道した。1958年中国の国慶節に招かれて以来，中国に滞在。主著には《中国の民衆》《ソビエトの世界》《人民公社は拡大する》などがある。〔松沢 勝〕

ストロンチウム [strontium] 周期律表第II族に属する金属元素。原子番号38，記号Sr，原子量87.62，アルカリ土類金属のカルシウム・バリウムと類似の化学的性質をもつ。スコットランドのストロンチアンから最初の鉱物が1787年ホープによって発見され，それにちなんで命名された。単体の金属は1808年にデービーによって取り出されている。クラーク数0.02(第22位)。酸化物をアルミニウムで還元し，蒸留して製造される。銀白色，融点770℃，沸点1,384℃，比重2.6。常温において空気中で酸化膜を生じ，加熱すれば酸化膜・窒化膜を生成する。水と反応して水素を出し，水酸化ストロンチウムになる。淡色反応は赤色で，花火の紅色用として使用される。また，特殊合金や真空管のゲッター材料などに用いられる。人工放射性同位体のストロンチウム90は核分裂中に生成され，28年の半減期をもつ。生体中ではカルシウムと同様な挙動をとるため骨などに沈着して容易に排出されず，β線を出し続けて白血病などの原因となると考えられている。〔古屋 弘〕



ストロボスコープ　レコード-プレーヤー回転数調整用



ストーン-サークル　ウィルトシャー(イギリス)の環状列石

ストロンボリ(島) [Stromboli] 地中海，シチリア島の北方のリパリ諸島にある火山島。イタリア領で面積13km²，人口約1,000。ストロンボリの名はギリシア語の円錐(えんすい)の意で，ストロンボリ火山(926 m)は大噴火をくり返し，近年では1921年に大爆発を起こした。ヨーロッパでは珍しい火山である。漁民と船員が多く，産物には〈マバシア〉とよばれる白ぶどう酒と婦人が用いるケープがある。おもな町は，ストロンボリ・サンバルトレモロ・ギノストラ。〔大崎 晃〕

ストーン-サークル [stone circle] 環状列石*と訳される。ヨーロッパでは新石器時代*から青銅器時代*にかけて各地に遺跡を残している。巨石記念物*の一種で，石を環状に立て並べたものである。農業神を祭った祭場跡と解されているが，人骨もしばしば発見される。天体観測用の遺跡とする説もある。ロンドン郊外にあるストーン-ヘンジは有名。わが国では北海道の忍路(おしょろ)，秋田県の大湯などにその遺跡がある。

ストーンヘンジ [Stonehenge] イギリス，ウィルトシャー州にある環状列石。巨石記念物の一。現在4重の環石が残っている。第1の環石は30本の支柱列が円形に巡り，上に横石を渡して手すりのようになっている。内環ほど小規模。円環の主軸は北東から南西*に配列され，そこからこの遺構を太陽崇拝*と結びつけた説がある。夏至(げし)の太陽が環状群中央の祭壇石を照射したものと考えた。今日の太陽の照射方向と主軸との差から天文学的に逆算してBC1840年ごろの建造とされ，これは放射性炭素測定法によって出された年代とほぼ一致する。〔竹村卓二〕

すな 【砂】 岩石や鉱物の破片の中で，粒の直径が2～1/16mmのもの。コンクリートの細骨材としてセメントと混ぜるために大量に使用される。コンクリート用細骨材としての砂の規格は，上述の定義とは少し異なり，10mmのふるいを全部通過し，5mmのふるいを85%以上通過するように決められている。フミン酸などの有機物は有害なので，それが混じっている場合はよく洗って規定量以下にしなければならない。また，海岸の砂には塩分が含まれているが，これも有害なので，0.01%以下になるまで洗い落とすことが必要である。〔片山信夫〕

スナイデルス [Frans Snyders] (1579～1657) フランドルの画家。人物画・動物画・静物画にすぐれた。ピーター-ブリューゲル(むすこ)の弟子(でし)。ルーベンス*とバンダイク*は自分たちの作品に動物や果実を描き込むことをスナイデルスに依頼し，ルーベンスへの協力はしだいにひんぱんになっていった。スナイデルスの狩猟画はルーベンスの晩年の作品に酷似している。



スナイデルス
《魚屋》 ルーブル美術館蔵

すながに　**【砂蟹】**　甲殻(こうかく)類・スナガニ科。甲はほぼ正方形で，甲長2.5cm,甲幅3cmほどになる。脚は甲幅の約2倍，はさみはどちらか一方が大きい。全体に灰白色で砂の色とまぎらわしい。東北地方以南，台湾に分布し，中国北部にもいる。相模(さがみ)湾以南には，形態が酷似したミナミスナガニも分布する。前種よりやや小形で，甲に黒かっ色の雲状紋があり，広くインド・太平洋の熱帯地に分布する。また，近似種のツノメガニ(角眼蟹)は目が大いに突出し，甲長4cm，甲幅4.5cmほどで，駿河(するが)湾以南，小笠原(おがさわら)諸島・沖縄諸島などに分布する。上記の3種とも海岸の砂浜の満潮線付近に穴をうがってすみ，汀線(ていせん)付近の水没せぬ砂の上を敏捷(びんしょう)に走ってハマトビムシなどのえさをあさる。警戒心が強く，穴から出るのは夜間が多く，おびえるとたちまち穴に隠れる。カニ類中，最もすぐれた視力をもつといわれる。
〔菅野　徹〕

すながわ　**【砂川(市)】**　北海道中西部の市。1958年(昭和33)市制施行，人口26,000。地名はアイヌ語のオタスナイ(砂地のある川)の意訳で，東に接する歌志内市と同じ語源である。市域は夕張山地の西麓(せいろく)から石狩平野北部の石狩川とその支流空知川の沖積地(ちゅうせきち)に広がる。産業三大別人口比は10：37：53。周辺部は灌漑(かんがい)施設が整った水田地帯で，市域内に炭鉱はないが，隣接の歌志内・上砂川・赤平などの空知炭田の石炭をもとにして，北海道電力砂川火力発電所や三井東圧化学の肥料工場をはじめ，火薬・木工などの工場も多い。商業活動も盛んで，1952年石狩川に砂川橋が架橋されて以来，商圏は西方の札沼線沿線地区へも広がった。しかし石炭不況の影響を間接に受けて，1965〜70年間に人口は10％，1970〜75年間に4％ほど減少している。函館(はこだて)本線・中央国道(国道12号線)が南北に平行して走り，函館本線から歌志内線，上砂川への支線が分岐して，東の山間炭鉱地帯へ通ずる。石狩川の河跡湖を利用した北光公園・滝川公園がある。

すながわじけん　**【砂川事件】**　1955年(昭和30)9月，東京都北多摩郡砂川町(現在立川市に編入)で起こった在日アメリカ軍の基地*拡張反対運動。この事件で憲法と日米安全保障条約(安保条約)の問題が正面から問われた。鳩山(はとやま)一郎内閣は防衛分担金削減の条件として立川基地など5飛行場の拡張を了承し測量を始めたが，砂川町では町会が反対を決議し，地もと農民・労働者・学生が強制測量に反対して警官隊と衝突した。翌年10月政府は測量の一時中止を決定したが，1957年6月再開し，反対闘争を行なった者のうち7名を刑事特別法違反として起訴した。1959年東京地方裁判所(第一審)は，安保条約に基づくアメリカ駐留軍は憲法9条に違反するとし，また駐留軍を特別に保護する刑事特別法は憲法31条に反するものとして，同年3月被告全員に無罪の判決を下した。これを不満とした検察側は飛躍上告*をしたが，同年12月最高裁判所は，憲法9条の禁止する戦力は日本が主体となって指揮・管理権をもつ戦力と解され，外国駐留軍はこれに該当しないとして原判決を破棄・差しもどした。さらに，安保条約のような高度の政治問題は，司法権*の範囲外であり内閣と国会の判断にゆだねるべきだとした。
〔原田政洸〕



スナネズミ



砂　物
砂物立花《文阿弥伝書》より



スナビキソウ

すなごみむしだまし　**【偽破歩行虫】**　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゴミムシダマシ科。スナムグリともいう。体長12mmほどで，体は光沢のない黒色で黄かっ色の短毛がまばらにはえている。前胸背板の両側は丸みをおびていくぶん扁平(へんぺい)，鞘翅には不明瞭(ふめいりょう)な縦溝(じゅうこう)がある。北海道・本州のほか，台湾・中国・インドなどに広く分布し，成虫は朽ち木や石の下などに多い。近似種に，日本全国に分布し，石の下などに多い体長9mmほどのヒメスナゴミムシダマシがある。

すなどりねこ　**【漁猫】**　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科。イエネコより大形で，頭胴長75cm，尾長25cmほど。毛は短くてあらく，耳が丸く小さい。体の地色は茶灰色で，茶ないし黒色のまだらがある。インド・セイロンからビルマ・ジャワに分布。湿地やジャングルにすみ，魚・鳥・獣などを食う。

ズナーニエは　**【ズナーニエ派】**　ロシアの写実派の作家グループ。ピヤトニツキーによって1898年創設された出版社〈ズナーニエ〉(知識)の周辺に集まった。1900年に加わったゴーリキー*を中心に，当時支配的だった神秘的傾向に対抗する一大勢力となり，20世紀初頭の散文作家の多くがこの社の文集や単行本を発表の場とした。その作家はゴーリキー以下，アンドレーエフ*・スキターレッツ・ブーニン*・セラフィモービチ*・クプリーン*などで，チェーホフ*の《桜の園*》が発表されたのもこの派の文集である。暗緑色のズナーニエ版の本は安く，当時のベストセラーとなり，社会的にも大きな影響を与えた。
〔川端香男里〕

すなねずみ　**【砂鼠】**　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・キヌゲネズミ科。頭胴長12cm，尾長9.5cmほど。耳は幅狭く突出し，尾は裸出せず，つめはがんじょう。体上面と尾は琥珀(こはく)色，胸や四肢(しし)の内側などは白色，腹面は灰白色。モンゴルと中国北部に群で生活し，地中にトンネルを掘って簡単な巣をつくり，冬眠する。種子・樹根などを食う。近年，実験動物として飼育されるようになった。

すなのもの　**【砂物】**　生け花様式の一。広口の平たい水盤*形式の花器にいけた立花*で，室町時代後期に興った。花器に砂を敷きつめたため，立花を〈砂物〉とよび，花器を砂鉢(すなばち)という。株立てともいい，根もとを一つにまとめた一株立てと二つに分けていけた二株立てとがある。座敷飾りでは違いだなの下に置き，高さは低く，横幅の大きい花形である。16世紀後半，桃山時代，書院の大床(おおどこ)にふさわしい豪華な花として座敷飾りの中心に取り入れられたが，1594年(文禄3)，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が前田邸におもむいたとき，大鉢(おおばち)に飾られた砂物は池坊*(いけのぼう)一代の出来物と称賛されたという。現在，池坊系統の流派で試みている。➔生け花〔大井ミノブ〕

すなびきそう　**【砂引草】**　双子葉植物・ムラサキ科。海岸の砂地に自生する多年草，高さ20〜30cmで多く分枝し，葉は長卵形で全縁，細かい毛がはえ，非常に柔らかい。6〜8月茎の頂上に3〜5個の白色合弁花をつける。花冠は5深裂し，芳香がある。果実は円形で4稜(りょう)がある。地下茎が砂中を伸びて繁殖するのでこの和名がある。

すなひとで　**【砂海星】**　棘皮(きょくひ)動物・ヒトデ類・スナヒトデ科。5本の腕は細長く，長さ約15cmに達し，先端に向かってしだいに細まる。背面は黄かっ色で，ふつう盤の中心から腕の中央部を縦に走る細い黒色ないし暗緑色の条があり，腹面は淡かっ色。

すなむぐり ⇨スナゴミムシダマシ

すなめり 【砂滑】 哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・ネズミイルカ科。クジラ類中最小で，頭胴長1.5mほど。体は暗灰色ないし黒色。嘴(はし)・背鰭(せびれ)を欠くが，背の正中線に沿って中央から尾部にかけて，皮膚が隆起している。アフリカ東岸・インドから東南アジア・中国・日本に分布。沿岸・河口・川などに1～2頭またはまれに5～6頭でみられ，揚子江(ようすこう)を1,600kmも上った記録がある。小甲殻(こうかく)類・魚類などを食う。広島県では天然記念物に指定されている。〔今泉吉典〕

ずなんしょとう 【豆南諸島】 関東地方南方の太平洋上に南北に連なる富士火山帯に属する火山列島で，伊豆(いず)諸島*・小笠原(おがさわら)諸島*・硫黄(いおう)列島*を含み，東京都に属している。

スネリウス ［Willebrord Snell van Roijen］（1591～1626） 正しくはスネルといい，スネリウスはラテン読みの通称である。オランダの数学者・天文学者。ライデンに生まれ，父の後任として1613年ライデン大学教授となる。1617年地球の計測法を論じ，子午線の長さを計測した。1621年光の屈折の法則を発見し，光学史に大きな足跡を残した。

スノー ［Charles Percy Snow］（1905～1980） イギリスの小説家・物理学者。貧しい家庭に生まれ，苦学してケンブリッジ大学などで化学・物理学を学んだ。早くから作家を志し，自伝的長編小説《探究》によって注目されたのち，1940年から1970年にかけて連作長編《兄弟と他人》（全11巻）を発表。これは，リアリズムの手法によって産業社会における人間性を追究した作品である。その他，精神文化と科学の融和を説いた《二つの文化と科学革命》などの評論や，空想科学小説などがある。〔栗原行雄〕

スノー ［Edgar Parks Snow］（1905～1972） アメリカのジャーナリスト。コロンビア大学卒業後，新聞記者となり，《シカゴ-トリビューン》《ニューヨーク-サン》《ルック(中国版)》など新聞雑誌の特派員を歴任，燕京(えんきょう)大学講師ともなった。満州事変から日中戦争にかけての報道活動はめざましく，1936年延安の中共ソビエト区に最初の外人としてはいり，世界のなぞであった中国共産党の実態を伝える《中国の赤い星》で世界的名声を得た。そのほか著書に《極東の戦線》《ソビエト勢力の型態》などがある。第2次世界大戦中は従軍記者として活躍した。〔松沢 勝〕

スノー ［Hank Snow］（1914～ ） アメリカのカントリー-アンド-ウェスタンの歌手。カナダのノバスコシア州の生まれ。1950年，グランド-オール-オプリーに初出演し，自作の《ムービン-オン》で一躍スターの座を獲得した。鼻にかかった独特の声や早口な歌い方に特徴がある。また，レコード会社1社との契約が1936年以来という最長記録をもつ。他のヒット曲に《ゴールデン-ロケット》《涙もかれて》がある。



スノードロップ



スノーフレーク

すのこ 【簀子】 竹・細板などをすきまをあけて並べたもの。はじめは竹を並べて編んだものをいった。台所・浴室・渡り廊下など水はけを必要とする場所の床に用いられる。また，寝殿造り*の廂(ひさし)の外側にある板縁も，はじめ竹で編んでつくったことから，すのこという。

スノーシェッド ［snow shed］ 道路や鉄道線路などで，雪の吹きだまりが起こりやすい所，またはふぶきや積雪が多い場所に設けて，交通機関の安全な運行ができるようにする目的の防雪設備。雪おおいともいう。

スノッリ-スツットルソン ［Snorri Sturlusson］（1178～1241） アイスランドの歴史家・詩人。《新エッダ》およびノルウェー王朝史《ヘイムスクリングラ》の著者として知られる。スツットルソンはスツットラのむすこを意味し，姓ではない。3歳のときに当時学問文化の中心地であったオッディの豪族ヨン-ロプトソンの養子となったことが，後年の文学活動に大きな影響を与えた。全国一の長者でもあり，13世紀におけるその勢力は大きく，兄弟とともにスツットラ族の時代とよばれる一時代を形成した。➔エッダ〔鈴木徹郎〕

スノードロップ ［snowdrop］ 単子葉植物・ヒガンバナ科。ユキノハナ・マツユキソウ・ガランサスともいう。ヨーロッパおよびカフカズ地方原産の多年草で，花壇やはち植えにする。耐寒性があり，球根はスイセンに似るが小形。線形で長さ15～24cmの葉が2～3枚つき，粉白緑色。秋植えで，2～3月ごろに20～30cmの花茎を伸ばし，1個の花を下垂させる。花は白色で，外花被は3枚で2cmぐらい，内花被は3枚で上端が緑色で2浅裂する。花の直下には包葉がある。大形のものをジャイアント-スノードロップ(オオユキノハナ)といい，2月ごろに咲き，花径は約4cm。〔横井朝子〕

スノードン(山) ［Snowdon］ イギリス，ウェールズ地方北西部のカンブリア山地北端にある山。五つの峰よりなり，最高峰は1,085m。北麓(ほくろく)のランベリスから頂上までは登山電車が通じ，峡谷や湖水もあって観光地になっている。

スノーフレーク ［snowflake］ 単子葉植物・ヒガンバナ科。オオナツユキソウともいう。中部ヨーロッパから地中海沿岸原産の多年草。球根はスイセンに似て大形で，径4cmほど。葉は濃緑色で，長さ30～45cm。4～5月，30～50cmの2稜(りょう)のある中空の花茎を伸ばし，4～8個の鐘状の白花を散形花序に下垂させる。花被は1.2～2cmで広楕円(こうだえん)形，先端に緑色の斑点(はんてん)がある。

すのもの 【酢の物】 魚介・野菜・海藻(かいそう)などを生，または生に近く下調理して，合わせ酢*をかけたり，浸したりした料理の総称。前菜・副菜として用いられ，品数の多い献立には必ずつく。材料によって合わせ酢を異にし，材料の扱い方からは，①生のまま用いる：貝類，②塩を振ってしなやかにする：野菜類，③塩でしめてから酢洗いまたは酢に浸す：魚類，④火を通してから用いる：鳥肉・イカ・タコ，⑤水・湯にもどして用いる：海藻・はるさめ，などの方法に分けられる。〔塩川ふみ〕

スバ ［Suva］ 南太平洋，メラネシアの東端にあるフィジー諸島*中のビチレブ島東南端にある港市。人口44,000(1964)。島の主産物であるサトウキビ・ココヤシ・バナナ・パイナップルなどの輸出港であり，また技術学校・職業学校などがあって文化の中心地となっている。

スパイクシューズ ［spike shoes］ くつ底に特殊なくぎ・金具などをつけたスポーツ用のくつ。足のすべりを防ぎ，地面をける力を強め，踏み切りを確実にすることができる。陸上競技・野球・ゴルフなどで用いられるが，競技種目によってくぎや金具の形や数が異なり，陸上競技でも競走用・跳躍用・投擲(とうてき)用では違っている。またアスファルトなどの人工トラックが開発されて以来，新しいスパイクシューズがくふうされているが，国際陸上競技連盟ではまだ使用を認めていない。やり投げ以外の投擲競技では投げる所がコンクリート造り

になったため，現在はスパイクを用いない。野球用のものには，3本または2本の歯のついた金具をつま先とかかとにつける。なお，サッカー・ラグビーで用いるくつにも裏に合成ゴムまたは皮の突起がついているが，これはクリートとよばれる。
〔伊東春雄〕

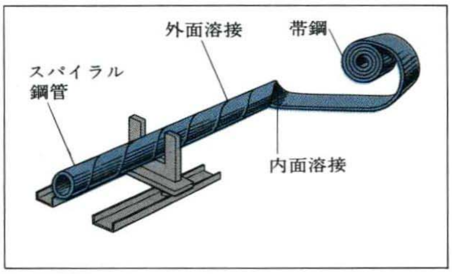


スパイクシューズ
左から陸上競技用　サッカー用　ゴルフ用

スパイス　⇨香辛料

スパイラル　⇨曲線

スパイラルこうかん　【スパイラル鋼管】　帯鋼をらせん状に巻いたアーク溶接*鋼管で，継ぎ目の溶接線がらせん状になっている。このため普通の継ぎ目のある管に比べて継ぎ目の長さが長い。この鋼管は一般に大径で上下水道管や低圧配管，土木用鋼管などに最近広く利用されている。



スパイラル鋼管

スパーク　[Charles Spaak]（1903～1975）　ベルギー系のフランスのシナリオ作家。フェデ*・ルノワール*・デュビビエ*らの映画監督と組んで1930年から1940年にかけて活躍。フランス映画の黄金時代をつくった。《外人部隊》《我等(われら)の仲間》《大いなる幻影》などが代表作。文学のかおりと的確な心理描写とをあわせもったシナリオを得意とした。

スパーク　[Muriel Spark]（1918～　）　イギリスの女流作家。外務省に勤めたのち，詩誌編集に従事し，ブロンテ姉妹*の研究などを発表。長編《慰める人々》で好評を得，《死を忘れるな》《ジーン-ブロディー嬢の青春》《マンデルバウム家の門》など，死ののろいにとりつかれた人々を描いた宗教色の濃い作品を書いている。ほかに詩集・戯曲もある。

スパークばこ　【スパーク箱】　電荷をもった放射線粒子が気体中を通過する際につくられるイオンによって放電を起こさせ，それによって放射線の飛跡を観測する装置。この種の測定器の実用化の試みは1957年ごろから行なわれていたが，1959年福井崇時・宮本重徳らによって新しい型の装置が開発され，原子核実験への実用化が急速に進み，現在では泡箱*(あわばこ)と並んで放射線飛跡測定装置として最も広く用いられている。現在使われているスパーク箱にはサンプリング型と投影型の二つがある。いずれの型の場合でも放射線の通過を検出した適当なカウンターの信号によって数万V/cmの高電圧を瞬間的(1,000万分の1秒程度)に電極に加え，放射線がつくったイオンの近くに局所的な放電を起こさせ，その放電の位置により放射線の飛跡がわかるようになっている。サンプリング型では正負の電極が交互に幾層か重ねられ，飛跡は短い放電線の並んだ形で放電方向と直角の方向から観測される。一方投影型では一対の電極の間につくられたイオンの数に応じて多数の放電が起こり，これを放電に沿った方向から透明な電極板を通して観測する。最近，この場合に加える電圧をさらに高く，かつ短時間にして放電がイオン付近から電極のほうへ延びないようにし，立体的な飛跡を得るような改良も行なわれている。　〔村山　喬〕

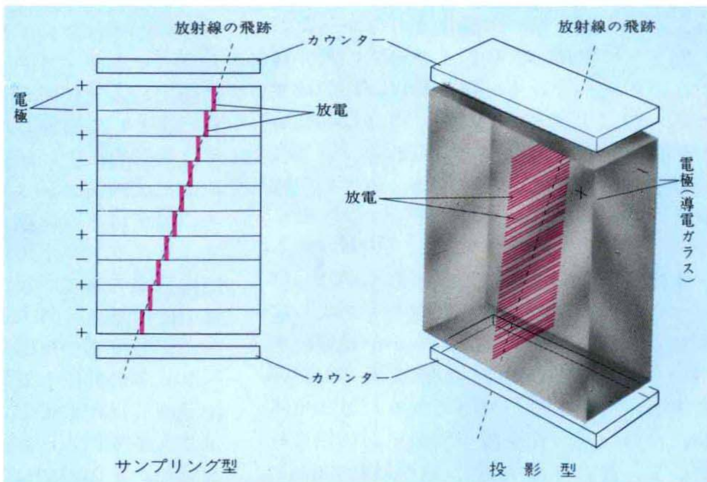
スパゲッティ　[spagetti]　イタリアを本場とするめん類の一種。イタリア語で小さいひもの意のスパゲットが語源。マカロニが中空なのに対し，中まで詰まっており，太さはマカロニとバーミセリの中間。ゆでて，トマトソースやおろしチーズを掛けて供する。高タンパクの小麦粉が原料で，太さにより名まえが変わる。➔マカロニ

すばこ　【巣箱】　樹洞(じゅどう)などの穴に営巣する鳥のために人工的につくった箱。卵や雛(ひな)をとる目的で，古くからヨーロッパで用いられていたが，19世紀になってから鳥のためにつくるようになり，20世紀初頭から有益鳥を誘引して増殖させるのにも使われるようになった。日本では大正初期ごろから使われた。ふつう木製箱形で，丸い小穴をあけたものであるが，材質や形はいろいろであってもよく，要は鳥がはいるものであればよい。特に形や外観はどんなものであっても鳥のはいり方にはほとんど差がなく，樹幹に似せたり小ぎれいにつくったりする必要はまったくない。入り口の大きさ，床から入り口までの高さ，床面積がかんじんな点である。巣箱のかけ方もいろいろいわれているが，地上からの高さや入り口の方位それ自体には特に注意しなくてよい。しかし，いたずらされないために高くかけること，雨が降り込まないように繁殖期の風向きに注意することなどは必要である。日本で巣箱にはいるものは，シジュウカラ類・ムクドリ類・スズメがおもなもので，ほかにオシドリ・フクロウ類なども はいる。その他普通の巣箱と違って，前面の板を半分以上切ったものは，セキレイ類やキビタキが利用する。また巣箱ではないが，ツバメ類に巣台をつくることは日本で古くから行なわれている。〔浦本昌紀〕

すばしり　【須走】　静岡県北東端，駿東(すんとう)郡の旧村名で，1956年(昭和31)小山(おやま)町に編入された。地名は砂走りの意で，もと富士登山者が下山のときにこの砂地を駆け降りたことからきている。富士吉田(ふじよしだ)市(山梨県)へ通ずる籠坂(かごさか)峠(1,104m)の南麓(なんろく)にある海抜800mの高冷地で，須走浅間神社がある。最も短距離な富士登山道の登山口で，最近は御殿場(ごてんば)線の小山・御殿場駅から須走口五合め古御岳(こみたけ)(2,000m)までバスが通ずる。付近に自衛隊富士学校がある。

スパナ　[spanner]　ボルトまたはナットを回転させ，締めつけたりゆるめたりするのに使う工具。ボルトやナットの頭部をはさむ部分が柄の片側についている片口ス

スパーク箱



パナ，柄の両側についている両口スパナ，はさむ部分の幅を調節できる自在スパナなどがある。

スーパーヘテロダイン ⇨変調

すはま【州浜】 州と浜とでおりなす屈曲の美しい海浜をかたどった盤台。岩木・花鳥などを飾りたて，饗宴(きょうえん)を行なうときの装飾物としただけでなく，吉祥の意味をも含めた縁起物。弘安(こうあん)年間(1278〜1287)にはこの形に似たものが棹物(さおもの)菓子(棒状につくって小口切りにする和菓子)として知られ，京都などでつくられ出回った。➔島台

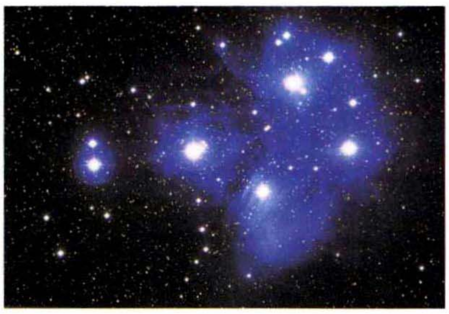
スーパーマーケット [super market] セルフサービス方式を採用している総合食料品店。定義は各国まちまちであるが，日本セルフサービス協会の定義によると，年商１億円以上の売り上げをもっていることになっている。同じくセルフサービス方式を採用する小売店で，衣料・雑貨を主体とする大規模小売店はスーパーストアとよばれている。わが国でこの方式を最初に採用したのは1953年(昭和28)東京の食料品店である。人件費の節約，現金販売，大量仕入れによる廉売を特長とし，1970年の商業統計調査によると，商店数は9,403となり，1969年の33.1％増となり，大幅な伸びを示している。また，小売業全体の販売額に占めるセルフサービス店販売額の割合は9.0％となり，売り場面積・売上高とも大規模化・デラックス化の傾向を示している。
〔清水　晶〕

スパランツァーニ [Lazzaro Spallanzani]（1729〜1799）18世紀最大の実験生物学者。イタリアのスカンディアーノに生まれ，ボロニア大学卒業後，レジョ・モデナ大学を経由し，1769年以後はパドバ大学教授。スパランツァーニの業績は広範囲にわたり，第１に微生物の自然発生の否定実験，第２に両生類・軟体動物の再生実験，第３に受精における精液の役割に関する実験，第４に血液循環に関する実験，第５に消化の実験，第６に組織呼吸に関する実験など，いずれも重要である。彼が示したこれらの実験結果は，当時の生物学の水準では，必ずしも正当に理論化されなかった。一例として受精の実験および再生の実験は，現在の知識からみると後成説*に有利のはずであるが，スパランツァーニ自身は前成論者であったことなどがあげられる。いずれにせよ，彼の実験の先駆性は，後世の生物学者たちを驚嘆せしめるに十分であった。
〔中村禎里〕

すばる【昴】 おうし座の散開星団*。プレアデスともよばれる。肉眼でも密集した６個ぐらいの星が認められるが，望遠鏡を用いると，百数十個の星が視直径 2°の範囲に集まっているのが観測できる。星団全体が，青白いリン光を放つ反射星雲に包まれていて，たいへん美しい。距離は約400光年，



スパナ　左から，モンキースパナ・片口スパナ・両口スパナ



昴

星団を構成する星は比較的若い天体で，年齢は約１億年と推定されている。

すばる【スバル】 文芸雑誌。1909年(明治42)に創刊され，1913年に終刊。《明星*(みょうじょう)》廃刊後，平野万里・吉井勇*(よしいいさむ)・石川啄木*(たくぼく)ら旧明星派の人々によって編集され，平出修(ひらいでおさむ)が出資，森鷗外*(おうがい)が指導的役割を果たした。誌上には北原白秋*・木下杢太郎*(もくたろう)・佐藤春夫*・高村光太郎*・永井(ながい)荷風*・谷崎潤一郎*らも作品を発表し，官能的・耽美(たんび)的傾向の強い流派を形成した。

スパルタ [Sparta] アテナイと並ぶ古代ギリシアの代表的なポリス*。ラケダイモンともよばれた。ギリシア人の一派ドリア人*がペロポネソス半島南部のラコニア地方に侵入し，先住民をヘロットという奴隷身分に落として建設した国家で，ポリスとしては例外的に広い領域をもち，紀元前８世紀末には西隣のメッセニア地方を征服し，その国土はさらに拡大した。スパルタ人はリユクルゴスが定めたという立法により市民持分地の譲渡および分割禁止，貴金属貨幣の使用禁止，外人追放による鎖国主義の徹底，青少年の軍国主義的教育を断行し，ヘロットの抑圧と対外的発展に努めたので，紀元前６世紀末までにペロポネソス半島のポリスを率いるペロポネソス同盟の盟主となった。その国制は２王家・長老会・監督官(エフォロス)・民会からなり，スパルタ人の間では民主政が成立したが，その政策は貴族政的で，他のポリスの僭主(せんしゅ)政や民主政の打倒を図った。ペルシア戦争ではアテナイと協力し，BC480年，レオニダス王の率いる300人のスパルタ軍はテルモピレーの要害を死守して玉砕したが，翌479年プラタイアイの戦い*ではスパルタを主力とするギリシア連合軍がペルシア陸軍を破った。そののちペロポネソス戦争*ではアテナイに敵対してこれに勝ち，ギリシアの覇権(はけん)を握ったが，BC371年レウクトラの戦い*にテーベに大敗し，国力は急激に衰えた。ヘレニズム時代には社会改革が試みられたが失敗し，BC146年ローマの支配下に置かれた。
〔秀村欣二〕

スパルタきょういく【スパルタ教育】 古代ギリシアの都市国家スパルタ*で行なわれた教育，およびその厳格な教育方法をいう。BC800年ごろペロポネソス半島に移動してきたドリア人の一部は，スパルタに集まり都市共同体を形成する。スパルタ市民は，共同体に戦士として献身することを最高の徳とした。男子市民は，誕生から重装歩兵になるためにきびしく訓育され，幼年時代(６〜７歳)は母親と暮らすが，その後は兵営に移り，体育と精神力の鍛練が行なわれた。30歳になると兵営を出て市民となり，60歳までは兵役義務があった。女子は，健康な戦士を生む母体をつくる目的の体育訓練が重視された。スパルタ式教育は，奴隷の反乱や他国の侵入などから共同体を守るという社会的・歴史的背景の中で生まれたが，今日にあっても，厳格に行なう教育を俗に称している。
〔福井幸雄〕

スパルタクス [Spartacus]（？〜BC71）ローマ共和政末期の奴隷反乱の指導者。トラキアの生まれ。ローマ軍の軍務に服するのを拒否したので剣奴にされたともいう。カプアの剣奴養成所をBC73年に脱出。同行したのは100人以下の剣奴であったが，南イタリアのベスビアス火山のもとにこもると各地から逃亡奴隷などが集まり，約90,000の集団になったという。反乱が全イタリアに及び，ローマ国家はクラッスス*を派遣して鎮圧させた。スパルタクスの反乱軍の内部意見の対立による分裂などで，ついに滅ぼされ彼も戦死した。捕えられた6,000人はアッピア軍道で磔刑(たっけい)にされ，残党もポンペイウスのため平定された。
〔高山高雄〕

スパルタクスだん【スパルタクス団】 1916年，ドイツ社会民主党の最左翼の一派が結成した政治グループ。ローザ-ルクセンブルク*・リープクネヒト*を指導者とし，古代ローマの奴隷反乱の指導者スパルタクスの名にちなんでこの名をつけた。1917年のロシア十月革命の成功以来，ボルシェビズム(➔ボルシェビキ)の立場をとり，ドイツ革命後，ドイツ共産党に発展した。1919年，

さらに革命を推し進めようとして蜂起(ほうき)したが，失敗し，ルクセンブルクらは軍部の手によって殺された。〔松下京子〕

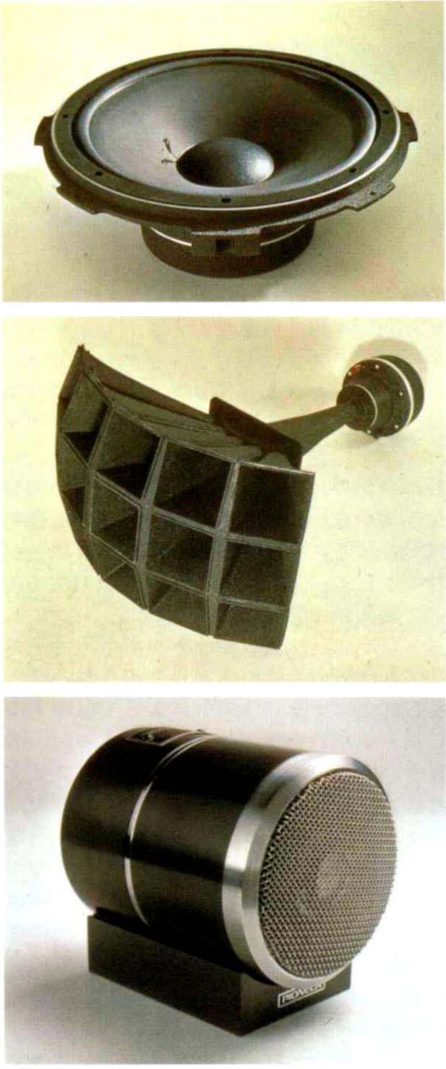
スハルト [Suharto] (1921～) インドネシア大統領・首相兼国防相・陸軍大将・国事最高司令官。ジョグジャカルタ出身。1940年，旧オランダ植民地軍に入隊，ボゴールの独立義勇軍幹部練成隊に参加し，1945年10月，インドネシア陸軍の創設とともにこれに参加。ジョグジャカルタ地区大隊長を経て，1956年中部ジャワ・スマランのディポネゴロ精鋭師団長。1962年1月少将に昇格するとともに西イリアン解放軍方面司令官となり，さらに1963年陸軍戦略予備軍司令官に就任，1965年〈九・三〇事件〉でナスチオン将軍とともに反乱軍に反撃を加え，同年10月，殺害されたヤニ陸相のあとを継いで陸相となる。1966年3月，スカルノ大統領から政権の移譲を受け，同年7月，アンペラ(人民受難の声)内閣を組織し，内閣幹部会議長(首相)。1967年3月，暫定国民協議会により大統領代行，首相兼国防相。1968年3月，同協議会によって正式に大統領に任命された。回教徒。〔吹浦忠正〕

スバールバル(諸島) [Svalbard] 別名スピッツベルゲン。北極海のゼムリャフランツヨシフとグリーンランドの間にある諸島。スカンジナビア半島の真北，東経10～15°，北緯74～81°に位置し，ノルウェー領で総面積61,038km^2。スピッツベルゲンの名は，ニュートン山(1,717m)をはじめ数多くの氷河に侵食された鋭峰があるところからつけられた。島々の大部分は氷河におおわれて寒冷であるが，北大西洋海流(暖流)の流れる西岸は1年の半分は氷がとけ航行可能になる。1194年にバイキング*が発見し，1596年オランダの探検家W.バレンツが渡島した。その後捕鯨やアザラシ狩りの基地になった。17世紀以降，各国がこの地を争ったが，1920年のパリ平和会議で鉱物の採掘を独占しないという条件のもとに，ノルウェーがこれら諸島の領有を認められた。現在ノルウェーとソ連が石炭を採掘している 〔大崎　晃〕

スパン [span] 橋がひとまたぎに渡る区間をスパンという。正確にはクリアスパン(径間)とエフェクティブスパン(支間)とに分けられる。クリアスパンは橋が渡りこえる空間の距離であって，橋台*の前面からもう一方の側の橋台の前面までの距離などをさし，エフェクティブスパンは橋の上部構造の支承中心間の距離であって力学計算上の基本になる寸法である。このように寸法を表わすほかに橋脚*によって区分された橋下の空間をさすこともあり，たとえば，3径間の橋では中央部をセンタースパン，両側の部分をサイドスパンなどと称する。〔堀井健一郎〕

スパンデックス ⇨ポリウレタン繊維

スパンレーヨンし 【スパンレーヨン糸】 レーヨンステープル*を紡績*した糸。俗にスフ糸ともいう。原料繊維の太さ・長さに応じて綿糸ふうのもの，毛糸ふうのもの，絹紡糸ふうのものなどがつくられる。紡績は綿紡式・毛紡式・絹紡式などに準じて行なわれ，別に牽切(けんせつ)式(連続した繊維を引き切って紡ぐ方式)がある。種類としてレギュラーステープルを紡績したふつう糸，クリンプステープルを原料とした捲縮(けんしゅく)糸，牽切式による牽切紡績糸などがある。捲縮糸は羊毛糸に近似の外観・性能をもつ。近年，特殊改質ステープルを用いた高強力糸や弾性に富む糸などもつくられている。〔小川安朗〕



スピーカー　スピーカーの種類　(上)コーン型，(中)ホーン型，(下)ドーム型

スピアマン [Charles Edward Spearman] (1863～1945) 因子分析*法を創案し知能の研究を強力に推進したイギリスの心理学者。異なる知的作業間に認められる相関関係を分析し，知能は各作業に固有な特殊因子sと，それらに共通して機能する一般因子gとによって決定されている，という知能二因子説を唱え，因子論の端緒を開いた。

スピカ [spica] おとめ座のα星。春の夜，南の空に白く輝く1等星で，250光年の距離にある。4日の周期でスペクトルの変動を示す分光連星*。スペクトル型*がB2とB3で近接した2個の星からなっている。

スピーカー [speaker] 音声周波数帯の電気信号を音響信号に変換する装置のうちで，広い空間に音響を放射するものの総称。ラジオ・テレビ・ステレオなど，広く利用されている。動作機構からみると，動電型(ダイナミック型)・電磁型(マグネチック型)・圧電型(クリスタル型)または静電型(コンデンサー型)などがある。現在，音質のすぐれた動電型がほとんどで，他は特殊の場合にのみ用いられている。また，スピーカーは直接放射型とホーン型とに分けられ，前者は電気音響変換素子と結合している振動板から音響エネルギーを直接空間に放射するものであって，円錐(えんすい)形の紙製振動板をもったコーン型スピーカーが大部分である。これに対して，振動板からホーンを介して空間に音響エネルギーを放射するものをホーンスピーカーとよぶ。ホーンスピーカーは，それ自身で音響放射器を構成しているが，コーンスピーカーは，バッフル板か適当な箱(キャビネット)に取り付けないと低音域まで効率よく音響エネルギーを放射することができないので，拡声装置を構成するスピーカーは適当なキャビネットまたはバッフル板に装着される。

1個のスピーカーで全音域を受け持つものを全帯域用スピーカー，低音域だけを受け持つものを低音域専用(ウーファー)，中音域だけを受け持つものを中音域専用(スコーカー)，高音域だけを受け持つものを高音域専用(ツイター)といい，2個以上のスピーカーで構成された音響放射装置をスピーカーシステムとよぶ。低音域用と高音域用のスピーカーで構成されたものはツーウエーシステム，低音域用・中音域用・高音域用の3帯域のスピーカーで構成されたものをスリーウエーシステムとよぶ。

スピーカーを駆動するには音声周波増幅器(オーディオ-アンプリファイア)を必要とし，真空管またはトランジスター増幅器とスピーカーとを組み合わせたものを拡声装置(パブリック-アンプリファイア，またはPAシステム)とよんでいる。〔伊藤　毅〕

スピッツ [spitz] 祖先は北欧のイヌであるが，日本で独特の発達を遂げ，一品種としてなりたっている。純白の長毛が豊富で，小さな立耳と飾毛の多い尾を背負った小形犬で，わが国に広く普及している第2次世界大戦後の流行犬。体高は31～33cmくらい。

スピッツベルゲン(諸島) ⇨スバールバル諸島

スピードスプレーヤー [speed sprayer] 超大形のミスト機(→噴霧機)と考えてよいものである。通常風量の大きな送風

機の送風口に多数のノズルを配置し，大量の霧粒を送風空気をさらに微粒化して吹き送る。主として果樹園の薬剤散布に使われる。性能上の一般的特徴として，①機動性に富み，作業能率が高い。したがって，大規模果樹園では労力を著しく節減できる，②小面積で散在している果樹園でも，比較的平坦(へいたん)で，道路があれば機動性がかなり発揮できるので経費が安く，能率もよいなどがある。〔田原虎次〕

スピネット ［spinet］ オルガンを除く小形の鍵盤(けんばん)楽器に幅広く使われる用語。バロック時代では，小形のハープシコード*に用いられることが多かった。ハープシコードがストップによって音域や音色を変えたり組み合わせたりできるのに対して，スピネットは，1組みの弦しか張っていないのが普通である。また形状は，国によって四角のものをさしたり，グランド-ピアノ形をさすこともある。なお，小形の竪形(たてがた)ピアノもこの名でよばれる。〔徳丸吉彦〕

スピネル ［spinel］ $MgAl_2O_4$の組成をもつ酸化鉱物。センショウ石ともいう。等軸晶系。硬度5.5～8，比重3.6～5.1。劈開*(へきかい)はない。本来は無色であるが，微量の不純成分のため，赤・青・黄・緑色などに着色する。宝石などに利用される。



スピネル
ビルマ産

スピノザ ［Baruch de Spinoza］ (1632～1677) オランダの哲学者。〈神に酔える人〉といわれた。アムステルダムに生まれ，ハーグで没した。ポルトガル系ユダヤ人の富裕な商人のむすことして，ユダヤ教の教育を受けたが，その批判的精神のため，1656年に教団から破門された。また，1670年には《神学・政治論》を刊行してその合理的宗教論，自由主義的政治思想のために，世論の非難を浴びた。以来，彼は自己の著作の出版を断念した。有名な《エチカ*》も草稿のまま少数者の間で回覧されたにとどまり，死後はじめて出版されている。晩年はハーグで隠者のような生活を送り，ハイデルベルク大学に招かれたが断わった。

彼の哲学はデカルトの影響が強く，ライプニッツは〈中庸を欠いたデカルト主義〉と評している。彼はなにが永遠不動の善かという問題から出発，〈実体〉〈属性〉〈様態〉をめぐって厳密に幾何学的方法で思索を展開した。そして善とは〈神を認識すること〉〈神への知的愛〉であるという結論に到達した。この頂点の認識をささえる3本の柱が〈汎神論(はんしんろん)〉〈決定論〉〈物心平行論〉である。そのために彼の体系を唯物論とみる立場もある。上記のほかに《神・人間・幸福に関する小論》《知性改善論》《デカルト哲学の原理》《国家論》《往復書簡集》などの著書がある。〔石井忠厚〕

スピリ ⇨シュピーリ

スピロヘータ ［Spirochaeta］ 分類学上は細菌と原虫の中間に位し，動物に近縁の微生物。スピロヘータ目は非病原性のスピロヘータ科と病原性のあるトレポネーマ科に分かれる。スピロヘータ科はスピロヘータ・サプロスピラ・クリストピラの3属に，トレポネーマ科はボレリア・トレポネーマ・レプトスピラの3属に分かれる。一般に自然界に広く分布し，らせん状の特有な形態をなし，べん毛はないが活発な固有運動をする。一般細菌の染色法では染色がむずかしく，多くの場合暗視野照射法を用いて顕微鏡で見る。

トレポネーマ属の一種トレポネーマ-パリズムは梅毒の病原体として知られ，ほとんど性交による直接接触によって伝染する。ヒト・サル・ウサギに病原性があるが，培養はいまだ成功していない。レプトスピラ属はスピロヘータ目の細菌のうち最小で，らせんが細かくてヒトやネズミなどに病原性があり，培養が可能である。このうちの一種レプトスピラ-イクテロヘモラギアエはワイル病の病原体で，発病後1週以内は血中に見いだされるが，以後腎臓(じんぞう)にとどまって尿中に排出される。ほかに秋やみ・七日熱などの病原体もレプトスピラである。ボレリア属の一種ボレリア-レクレンティスは回帰熱の病原体で，ダニやシラミによって媒介される。〔和気　朗〕

スピン ［spin］ 粒子がもつ固有の角運動量*のこと。粒子の状態を区別する物理量の一つで，量子力学に特有な概念である。すべての粒子は，スピンを$h/2\pi$(hはプランク定数*)を単位としてはかったとき，半整数スピンの粒子(電子*・陽子*・中性子*など)と，整数スピンの粒子(光子*・π中間子*など)の2種類に分類される。➔素粒子　➔量子力学

スピンドルゆ 【スピンドル油】 石油系炭化水素油の一。低粘度潤滑油の代表的なもので，精紡機スピンドルをはじめ小形機械，小形電動機の軽荷重高速回転軸受けの潤滑に用いられるが，油の粘度，添加剤，場合によっては他種類の油との混合などによってその種類は細分化され，それぞれの特徴に応じて用いられる。たとえば，上記潤滑油以外に，精密部品の防錆(ぼうせい)用，リノリウム用，ゴムのプロセス油，香粧品・グリース・加工油の原料など広く用いられている。〔稲田正作〕

スフ ⇨スパンレーヨン糸

スープ ［soup］ 西洋料理のしるものの総称でフランスではポタージュという。獣肉・鳥肉・魚肉などから煮出しじるをとって調味したもの。昔は土曜日にパンを1週間分焼く習慣であったので，日がたってかたくなったパンの外皮をゆでじるに入れ，どろどろにして食べていたともいわれ，当時はスープは飲むものでなく食べるものであった。現在スープにクルトン*を浮き実として用いるのは，このような昔のなごりであるといわれる。19世紀ごろからは上述のような内容物を主とし，しるけの少ないスープから，しるけを主とし内容物を少なくしたスープへと変化した。野菜や肉などは少量を残して煮つぶすか，あるいは裏ごししてなめらかなものをつくり，残した少量のものを浮き実として用いる。現在では昔のようなスープもあり，新しい作り方のスープもあって，その種類は数百に及ぶ。フランスのポットー-フーはスープの原型を示すものであるが，その他ロシアのボルシチ*，イタリアのミネストラ，イギリスのマトンブロスなど各国の代表的なスープは昔のスープのおもかげを残している。

【種類】 フランス料理による手法別の分類を示すと次のようである。

日本では一般に澄んだスープをコンソメ，濁ったスープをポタージュとよんでいる。①ブイヨン*，②コンソメ*，③ポットー-フー*，④ピューレ：ふつうピューレは野菜類や鳥獣肉をこしてつくった濃羹(のうかん)をさす。ジャガイモ・豆などのデンプン性のものにはつなぎはいらないが，鶏その他の材料にはつなぎにライス・ジャガイモ・豆類などデンプン質の多いものを用いる。なお，エビ・カニなどの肉をこしたものはビスクという。⑤ブルーテ：ビロードのようなという意味の語で，卵黄・クリームなどを用いたなめらかなスープである。魚・エビ・鶏肉・野菜などでつくられたものが多い。⑥クレーム：鶏肉・野禽(やきん)類を白ソースで煮上げ，さらにスープの素汁で適当な濃度とし，生クリームを加えて仕上げるスープである。

スープは胃を脂肪の害から保護し，熱の刺激によって消化作用を促進するという効用があり，前菜と同様，食欲を増進する役目をする。〔泉　敬子〕

スファクス ［Sfax］ アフリカ大陸北岸，チュニジア東部にある港市。人口8万(1966)。周辺で栽培されるオリーブの製油業と，漁業基地として発展したが，今日では天然ガス・石油・羊毛・リン鉱石の輸出港として知られている。建設の歴史は古く，ローマ時代から商港として栄え，スペイン・フランスの植民地時代を経て現在に至る。第2次世界大戦中は，戦場となって戦災を受けた。

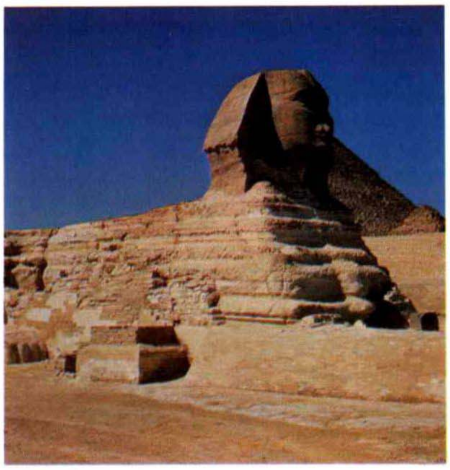
スファヌボン ［Souphanouvong］ (1912～　) ラオス愛国戦線(パテト-ラオ*)中央委員会委員長(党首)。プーマ現首相の異母弟として王族の家に生まれる。1931年フラ

ンスに留学し，帰国後，土木技師になる。1945年以来民族解放運動を指導。1957年および1962年の各派連合のプーマ政府に左派パテト-ラオを代表して入閣したが，そのたびに右派勢力に追われた。1963年4月以後，再び左派支配のパテト-ラオ地区(サムネワ・フォンサリなど北ベトナムに隣接するラオス北東部)にもどって，右派・中間派と抗争をくり返し，プーマ政府と対立している。なお，夫人はホー-チ-ミン前北ベトナム大統領の姪(めい)にあたる。
〔吹浦忠正〕

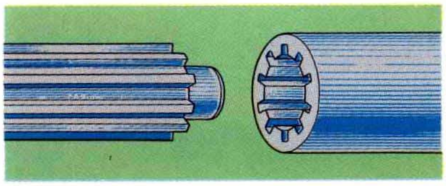
スーフィズム ［Sufism］ イスラム教の初期禁欲主義を母体として8～9世紀に生まれた同教の神秘主義。スーフィー(神秘主義者)の語源は，彼らが好んで羊毛(スーフ)の粗衣を着用したことに由来する。その教義の基本的な特徴は，①神の愛，②神との〈合一(ファナー)〉，③神についての神秘的な知識(マーリファ)にあり，真の宗教的知識は神学的知識(イルム)ではなく，マーリファであり，それはファナーによりはじめてきわめられるとされる。スーフィズムは，異端の罪に問われて処刑されたハッラージュのような一部の急進的指導者や，非イスラム的要素(聖者崇拝)にもかかわらず，大きな宗教運動に発展し，イスラム教の布教に甚大な貢献をなしたが，その原因は民衆の求めたものが神学的知識ではなく，人格的宗教経験であったことにある。正統派神学がスコラ的煩瑣(はんさ)に堕し，活力を失ったとき，その再建の基礎を与えたのもこのスーフィズムに始まる人格的宗教経験であった。 〔牧野信也〕

スフィンクス ［Sphinx］ 起源を古代エジプトにもつ人頭獣(獅子(しし))身の想像上の怪物。なお，羊頭(牡羊)のスフィンクスや鷹頭(ようとう)のスフィンクスもある。最古最大の例はギゼーのピラミッドの近くにあり，第4王朝期に自然の岩石に彫刻を施している。人面のスフィンクスは王の肖像であり，王権の強さを示している。エジプト以外ではシリア・フェニキア・バビロニア・ペルシア・ギリシアなどで知られている。ギリシアのそれは，エジプトが男性で無翼であるのに対し，有翼で女性である。伝説によると，路傍の岩上で通行人に〈朝は4脚，昼は2脚，夜は3脚の動物はなにか〉というなぞをかけ，解けない者を殺していたが，オイディプスに〈それは人間である〉と解答されて死した。中世美術ではロマネスク建築の柱頭に現われる。 〔末吉雄二〕

スフォルツァけ 【スフォルツァ家】 ルネサンス時代のミラノの名家。平民から身を興して傭兵(ようへい)隊長となったムッツォ-アッテンドロ(1369～1424)を祖とする。その子フランチェスコはビスコンチ家断絶後の1450年ミラノ公となり，ロンバルジアに支配権を確立。彼は文芸を奨励し，ミラノ-ルネサンスの盛期をもたらした。孫ジャンガレアッツォのとき，叔父(おじ)ルドビコ-イル-モロ(1451～1508)がフランスと結んで政権を奪った。レオナルド-ダ-ビンチ*がミラノに仕えたのは彼の時代である。その後フランス王ルイ12世*がイタリア遠征に南下し，ミラノを占領してルドビコをスイスに追放した。家系は16世紀前半に衰えた。
〔大野真一郎〕



スフィンクス　ギゼーのカフラー王のピラミッドに付属する最大・最古のスフィンクス



スプライン

スフォルツァンド ［sforzando］〈強める〉という意味のイタリア語に由来する音楽用語。略号はsfまたはsfz。これが付された音や和音を周囲のものよりも大きい音量にして目だたせるもので，その大きさは前後関係によって，ピアノであることもフォルティッシモであることもある。使用が一般化したのは前古典派からである。sfpはsfの直後をピアノにするための記号である。

スプートニク ［sputnik］ ソ連の初期の人工衛星。スプートニクは衛星のロシア語。1957年10月4日に打ち上げられた1号は，史上最初の人工衛星である。直径58cmの球体で，表面が太陽熱を防ぐためアルミめっきが施され，4本の長いアンテナが後方に伸び，重さは83.6kg。軌道は近地点240km，遠地点950kmの長円，周期96.2分。3か月後に消滅した。2号は同年11月3日に打ち上げられ，気密室にはライカ犬を納め，その生理状態を測定した。3号はよく1958年5月15日に打ち上げられ，その重さ1.33tは当時としては驚異的なものであった。大気組成・磁場・太陽放射線など広範な測定を行なった。スプートニクは現在7号まで打ち上げられている。 〔原田三夫〕

スプライン ［spline］ 機械の軸に平行にかつ等間隔にみぞを切って軸につけた凹凸(おうとつ)。これをつけた軸をスプライン軸という。これにはめる歯車などのボス(車や軸継ぎ手類などの，軸を取り付ける肉厚の円筒形部分)にもこれに合う凹凸をつけ，それによって歯車などに回転力を伝えると同時にこれを軸方向にずらすことができる。キー*の特別な場合と考えられる。

スプリング ⇨ばね

スプリングフィールド ［Springfield］ アメリカ合衆国マサチューセッツ州中南部の工業都市。人口16万(1973)。コネチカット川に臨む同州第3の都市で1641年に創設された。18世紀の後期にはライフル銃の生産地であったが，現在は機械・電気製品・金物・繊維などの工業が盛んである。

スプリングフィールド ［Springfield］ アメリカ合衆国イリノイ州の中央部にある同州の州都。人口92,000(1970)。トウモロコシ地帯と炭田を控えて，諸種の工業が発達し，農業機械の生産は特に盛んである。リンカーン大統領の出生地。

スプリンクラー ［sprinkler］

1 畑地や樹園地の灌漑(かんがい)に用いる散水器具。水圧でノズルの先端から霧雨状の水を噴出する。特殊なスプリングのついた反動棒に圧力のかかった水が噴霧され，その勢いで砲金あるいはプラスチックでできた本体が一定方向に回転し，合わせて水滴を飛ばすしくみになっている。低圧用から高圧用まであり，高圧のものほど散布水域は広い。 〔鈴木良三〕

2 火災発生時に自動的(特殊の場合においては手動式のものもある)にスプリンクラーヘッドから水を放射して初期のうちに消火する装置。スプリンクラー設備は消火の確実性および火災拡大防止を図るための効果は高く，高層建築物，地下街や劇場などの舞台部，あるいはデパートの売り場，キャバレーなど不特定多数の人々の集まる遊興施設や，保護を特に要する者の収容施設，危険物などを多量に取り扱う場所に設置される。水源・加圧送水装置・自動警報装置・弁・配管・スプリンクラーヘッドおよび付属設備などから構成されている。
〔藤田昭三〕

スプレーグ ［Frank Julian Sprague］ (1857～1934) アメリカの電気技術者。1887年バージニア州リッチモンドで12マイルの電気鉄道の試験に成功し，近代的な電気鉄道方式を確立。また1897年車両の連結と制御の方式を完成し，シカゴで120両連結の電車を試験して成功した。その他給電方式・動力伝導機構・電気信号・ブレーキなどに多くの改良を行ない，電気鉄道の父とよばれている。

スーフロー ［Jacques Germain Soufflot］ (1713～1780) フランスの建築家。



スペイン

はじめパリでセルバンドーニに学んだが，イタリア旅行で古典的な形式感覚を身につけた。有名作はパリのパンテオンであるが，作風はバロック期と19世紀初頭の新古典主義の過渡的な折衷様式と評されている。

スペイン ［Spanish State, Estado Espanõl］ ヨーロッパ西部，イベリア半島の大部分を占め，北東はフランス，西はポルトガルと接し，北と南西は大西洋，南と東は地中海に面する。直轄地にバレアレス諸島とカナリア諸島のほか，アフリカにスペイン領サハラ・セウタ・メリリャなどの植民地をもつ。面積50万4,750km²，人口3,718万3,000（1979年推）。首都マドリード。

スペインは，古代では地中海を中心とする世界にとって西のはずれと考えられていたため，地名もセム語で〈裏側〉を意味する〈スペン〉に由来する。今日イベリア半島はよく小アジア*と対比されるが，これは，かつてこの半島に歴史上重要な役割をになった大帝国が存在したが，現在では歴史の主流からはずれた位置にある点が似ているためである。国土の広さはソ連を除くヨーロッパではフランスに次ぐが，一方，ヨーロッパでスイスに次いで平野の少ない国でもある。ヨーロッパの西端を占める位置は，イギリスが北アメリカと関係が深いように，スペインは中・南アメリカに対し，過去・現在にわたって深いつながりをもっており，スペイン語は利用範囲が広い点では英語・ロシア語に次ぐ世界第3の言語である。

〔自然〕 **〈地形〉** 地形は複雑で，イタリアのように特徴を決定づけるような大山脈もなければ，また広い堆積(たいせき)平野もない。



スペインの国旗 1938年制定。黄色は国土，赤は血を表わし，ワシの首にあるリボンには〈大いなる自由〉と書かれ，中世にイスラム教徒の侵入からよく国土を守ったことを表わしている。ワシがいだく盾にはカスチリア（城）・レオン（ライオン）・アラゴン（しま模様）・ナバラ（鎖）・グラナダ（ザクロ）の5王国の紋章が描かれている。ワシの両側にある2本の柱はジブラルタル岬と対岸のレオナ岬を表わすヘラクレスの柱である

スペインの地体構造を決定づけているメセタ（別名イベリア高原。スペイン語で〈台地〉の意）は，ヘルシニア紀（約2億2,000万年前）の大地殻(ちかく)運動の際に褶曲(しゅうきょく)作用によって生じたかたい地塊で，イベリア半島中央部を広く占める700～900 mの高原である。主として片麻岩・片岩・カコウ岩からなり，その延長は北アフリカから南フランス・コルシカ島にまで及ぶと考えられている。ヘルシニア造山運動ののち，長い侵食時代が続き，侵食された物質はメセタ周辺の海中に堆積した。中生代の終わり（約7,000万年前）ごろアルプス造山運動の最後の活動期にメセタの縁辺には新しい褶曲山脈が生じ，現在それらは北のカンタブリア・ピレネーの両山脈，および南のアンダルシア地方の諸山脈となって存在している。それぞれ3,000mを越える高山を有し，高所には小氷河が残っている。南部のシエラネバダ山脈も新生代第3紀のアルプス造山運動によって生じたもので，北アフリカのアトラス山脈に続く系統である。一方，メセタは傾斜運動を起こし，運動の最も激しかった南部にはシエラモレナ山脈が形成された。またこの時代に顕著であったもう一つの運動に断層があり，特に西部で激しく，今日の海岸線の形状に広く影響を与えている。スペイン地史の最後の段階は氷期の海面昇降の影響で，海侵時にはメセタの低地に湖を形成し，どろ・砂・礫(れき)を堆積している。また，海岸段丘の存在も広範な海面変化のあったことを示している。また，侵食谷が海侵によって沈水してリアス式海岸をつくり，ことに北西部に典型的に発達している。大きな平野は少なく，北東部のピレネー山脈とメセタの間を流れるエブロ川がアラゴン平原を，南部のアンダルシアの諸山脈とメセタの間を流れるグアダルキビル川がアンダルシア平原を形成している。

〈気候・植生〉 スペインの気候はヨーロッパではイタリアとともに最も変化に富んでいる。西部は北西ヨーロッパに類似し，東部は半乾燥気候で南西アジアや北アフリカの気候に類似している。北西部には年降水量1,500mmの所もあるが，スペイン気候の一般的特徴は乾燥していることで，周囲が海洋に囲まれていることを考えるとやや意外である。国土のおよそ3分の2は，1年のうちの4か月間はほとんど降雨をみず，年降水量は500mmかそれ以下である。また多くの地方では夏6か月間（4～9月）の降水量が冬6か月間のそれに及ばない。大西洋と地中海の影響は沿岸部に限定されている。エブロ川の河谷までは北アフリカのステップや砂漠(さばく)に発源する気団の影響を受ける。スペインの植生は同じ広さのヨーロッパのどの地域よりも変化に富む。これは気候の差が大きいためで，南東部の植物被覆の少ない河谷ではほとんど赤道下のような状態となり，一方，高山ではツンドラ*のような状態となり，また内陸の盆地には砂漠や塩湖がある。そのうえアフリカに接近していることやアメリカ大陸と交渉が多かったことも植生に影響を与えている。自然植生の25%はイベリア半島原産のものであるが，東方および南方の地中海沿岸地方から伝来したものは20%，中部ヨーロッパおよびアルプス地方のもの40%，アフリカ伝来のもの8%，アメリカ大陸およびアジア伝来のもの4%となっている。その分布は気候に左右され，北部および西部は北・西フランスやイギリスによく似ていて，高燥地ではカシ・クリ・ブナの厚い森林にお

おわれ，低湿地は明るい草原になっている。高山ではカラマツなどの針葉樹がみられ，アルプス地方に類似している。ピレネー山脈はやや異質で温帯松とモミが多い。しかし広い面積を占める内陸のメセタでは灌木(かんぼく)にカシや針葉樹が混じるマトロールとよばれる景観が卓越し，乾燥する夏には植物は色あせて土ぼこりにおおわれる。年降水量500mm以下の所はまばらな草原かまばらな灌木のステップとなり，中央アジアや南西アジアに類似している。東部ピレネーからアンダルシア地方にかけては地中海沿岸特有の植生を呈し，常緑のゲッケイジュ・カシ・コルクガシ，各種の小さいマツ類などが多く，南部海岸地方ではシュロ科植物が目だつ。

【住民・言語】スペインには一つの強い国家単位としての特徴がなく，民族的文化的特徴を保持してきたカスチリア・カタロニア・ガリシア・バスク(バスコンダガス)の四つの地方からなりたっている。カスチリアはスペインの中心をなす地方で，同国の首都マドリードもここにある。カスチリア人は人口2,000万を越え，カスチリア語は国内で最も広く使われている。その起源はラテン語から分かれたサンタンデル付近の住民の言語で，のちに南部に広がり，メセタ一帯で使われるようになった。この拡散の過程でレオン語とアラゴン語を同化している。レオン語はかつてカンタブリア山脈地方で使用されていたアスツリア語・モンタヌス語とともに現在も方言として残っている。アラゴン語は現在フランス語と混合してピレネー山脈地方の方言であるナバロ語として残っている。カスチリア語は語彙(ごい)と文法にアラビア語の影響を受けている。カタロニア人は地中海沿岸に居住し700万人を数える。カタロニア語はカスチリア語，フランスのプロバンス語，イタリア語とそれぞれ共通点を有し，方言にはバレンシア語とバレアレス語がある。ガリシア人は北西部に居住し250万を数える。ガリシア語はポルトガル語の方言であるが，現在では利用範囲は農村地方に限られ都市ではほとんど使われていない。バスク人はイベリア半島の古代住民の子孫で，フランス南西部からピレネー山脈西部に居住している。ローマ帝国時代には広くビスケー湾一帯に居住していたが，カスチリア人の侵入で現在の場所に局限されてしまった。現在約70万人を数え，バスク語の方言は25～30もあるといわれる。

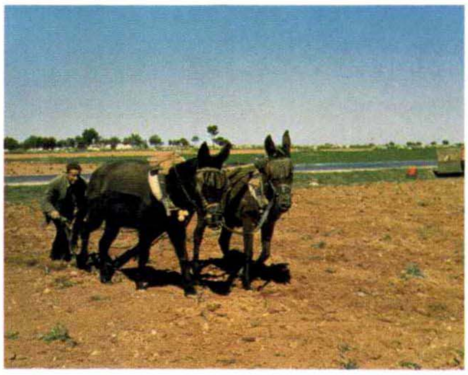
【経済・産業】1960～67年の国民総生産は，1960年を100として1967年には貨幣価値の変動を修正しても200％になり，ヨーロッパ諸国の中でも最も高いほうである。しかし1人あたり所得額は664米ドル(1966)で，西ヨーロッパ諸国ではポルトガルよりは多い(399米ドル)が，ギリシアとはほぼ同じ(651米ドル)である。政府は工業と観光事業に



スペイン 首都マドリードにあるスペイン王宮。市内の中心街の西側にあり，18世紀中ごろの建築。王宮からは近くの森のながめが美しい



北部のカンタブリア山脈北麓の牧羊。季節によってヒツジは山地へも移される。山はだは石灰岩が露出して植被はあまり豊かでない



中部地方の農村の農耕風景。２頭のロバですき返しをしている。まだ農村ではロバは輸送などに重要な役割を果たしている

重点を注ぎ，また貿易促進・外資導入・経済開発４か年計画(1964～1967)を進めている。４か年計画は農業人口を有業人口の41％から35％に減らし，それに代わって工業人口を32％から35％へ，第３次産業人口を25％から30％に増加する労働力の再分配を図り，政府投資を増大した。しかしこのような経済成長策は，国民の消費を刺激し，物価の騰貴と国際収支の悪化を招いた。〈農業〉耕地面積は国土の約40％，牧用地は30％を占めるが，牧用地の多くは山地の季節的牧場で移牧に利用されている。果樹園は耕地の17％を占め，ヨーロッパではギリシアに次ぐ高率である。ブドウの生産はフランス・イタリアに次いでヨーロッパ第３位で，干しぶどうとぶどう酒に加工される。オリーブはイタリアと並ぶ世界的産地でオリーブ油に加工される。オレンジの産も多く，アメリカ合衆国に次ぎ世界第２位である。農作物ではヨーロッパ第１の輸出額をもつガリシア・カタロニア地方のジャガイモがある。小麦は全国いたるところでつくられるが，その生産は低く，フランスの半分以下，ヨーロッパではポルトガルのみがこれに比肩しうる。1936～1946年の内乱・大戦以来国内の自給が不可能となったが，最近ようやく自給できるようになった。大麦は特にムルシア地方に多い。ほかにバレンシア地方のタマネギ，タラゴーナ周辺の米，サラゴーサ・レリダ周辺のサトウダイコンがあり，南岸のマラガ周辺のサトウキビはヨーロッパで唯一のサトウキビ産地である。綿作はセビリア周辺のグアダルキビル川流域に広がっている。牧畜は1936～1946年の痛手からまだ十分に回復していない。乳牛は湿潤な大西洋岸地方が唯一の産地であり，ブタとヤギは全国に分布し，森林と灌木が貧しい牧場の役割をしている。毛用羊はかつては重要な産業であったが，新大陸*の羊が増加するにつれて経済価値は下落した。農産物は国民総生産額の４分の１に満たないが，輸出品の48％を占める。スペインの農業中心主義は長い伝統を有しているが，反面，大土地所有制度は農業技術の進歩をはばんでいる。ただ最も肥沃(ひよく)な大西洋岸のガリシア地方のみは，小商品生産農家による集約農業経営が進んでいる。〈鉱業〉主要産地はほとんどカンタブリア山脈・シエラモレナ山脈・シエラネバダ山脈，それに北東部のカタロニア高原に集中してい



スペイン BC206年以後約600年間，ローマはイベリア半島を支配した。セゴビアの水道橋はローマによって建造され，いまなお使われている



1571年，レパントの海戦でフェリペ2世の率いるスペイン艦隊はオスマン-トルコ艦隊を破り，スペインの黄金時代を築いた

る。石炭は年産1,000万tで，良質の瀝青炭(れきせいたん)はカンタブリア山脈北部のオビエド付近で産し，全国の75%を占める。また同山脈南部のレオン周辺がこれに次ぐ産地で全国の10%を産する。ほかにシエラモレナ山脈南部のコルドバ周辺，ピレネー山脈中部・カタロニア高原に小炭田がある。鉄鉱石は第三紀層中から大量に良質の鉱石を産し，ガリシアとアスツリアス地方が中心である。鉛はシエラモレナ山脈東南部のリナレス付近で産する。水銀はシエラモレナ山脈のアルマデン鉱山が有名で，なお埋蔵量が多く，世界的産地の一つとなっている。カリ塩はカタロニア地方に大鉱床があり，世界産額の5%を占める。ほかにボーキサイト・タングステン・チタン・アンチモニーを産する。水力発電は1898年に最初の発電所ができてから急速に伸び，エブロ川に50%，カンタブリア山脈に25%が集中している。地形は電力開発に好適だが，季節による水量の変化の大きいのが難点とされる。〈工業〉他のヨーロッパ諸国に比べて発達が遅れたが，カタロニア・アスツリアス・バスク地方に集中している。1956～1967年の工業生産額は1956年を100として1967年には196%である。スペイン工業の悩みは国内市場の狭さ，国際競争における輸出の不振，資本の不足などで，アメリカ合衆国・フランス・イギリス・西ドイツ・スイス・オランダから資本を仰いでいる。伝統工業はどの地方にも存在するが，大工場はバルセロナ・ビゴ・ビルバオ・オビエド・マドリード・バレンシア・バヤードリード・サラゴーサの大都市に集中している。最も工業が盛んなのはカタロニア地方で化学工業(化学肥料・薬品・プラスチック)の50%，繊維工業(綿・レーヨン・ウール)の80%があるほかに，バルセロナには自動車や造船の工業がある。バスク地方のビルバオは年産100万tの鉄鋼を産し，造船所がある。〈交通〉ヨーロッパ諸国の中では国土の割に鉄道(総延長18,000km)と道路交通の発達は遅れている。鉄道では主要都市間の連絡が直接行なわれておらず，いくつかの路線は貨物を運んでいないが，海上交通は200万tの船舶を保有し(世界第15位)，外国貿易のみならず国内取引でも多く海路を利用している。主要貿易港にはバルセロナ・バレンシア・サンタンデル・ウエルバ・ヒホン・ビゴがある。〈貿易〉貿易総額は世界第32位で，貿易収支は観光収入，海外資産の収入，移民の送金を入れても赤字である。農・鉱産物，それに近年ようやく増加してきた工業製品の輸出だけでは，この国の工業製品を主とする輸入支払の赤字を補充できず，また購買力の低い国内市場も貿易の発展をはばんでいる。貿易相手国は輸出入ともアメリカ合衆国・西ドイツ・フランス・イギリスである。観光収入は重要で，1967年には年間延べ1,800万人の外国人観光客が訪れており，10億米ドルの観光収入があった。

〔社会・文化〕〈宗教〉西ゴート王国時代からキリスト教を信仰し，今日ではカトリックが国教になっている。プロテスタントは約20,000人で，他に若干のユダヤ教徒がいる。〈社会生活〉インフレーションに悩み，国民の生活水準は西ヨーロッパ諸国では低い国の一つである。貴族・地主・僧院・軍の勢力が強く，貧富の差が大きい。労働者は翼賛組合であるファランヘ党組合に組織されているが，低賃金・高物価に対する労働者の不満が強い。〈教育〉学校は国家またはカトリックのいずれかによって設立され，大学も同様である。総合大学はバルセロナ・グラナダ・マドリード・ムルシア・オビエド・サラマンカなど11の主要都市にある。6～13歳まで無償の義務教育制をとっているが，西ヨーロッパ諸国の中では文盲率が高い(1950年に14%)。〈文化〉ローマ以来の古い文化の伝統をもつが，黄金時代は16～17世紀で，セルバンテス(文学)，エル-グレコ・ベラスケス・ムリリョ(絵画)らが活躍し，18～19世紀にはゴヤ(絵画)を生んだ。20世紀は文化史上もう一つの輝かしい時代で，オルテガ(哲学)，アルベニス・グラナドス・ロドリゴ(音楽)，ピカソ・ミロ・ダリ(絵画)，イバーニェス(文学)らを輩出している。ノーベル賞受賞者3人(文学2，医学1)のほか，内乱後アメリカ合衆国へ渡った亡命者からも2人(文学1，物理・医学1)の受賞者を出している。

〔政治・外交〕憲法では政体を伝統的キリスト教君主政体としている。しかし1939年に内乱で勝利し，総統に就任したフランコ将軍は，現在もなお国家元首の地位にある。1947年に制定された王位継承法でフランコ将軍は終身国家主席の地位を保障され，将来将軍が執務不能または死去した場合には君主制が復活することになった。1969年に将軍はアルフォンソ13世の孫ファン-カルロス王子を王位継承者に指名した。将軍は軍の総司令官，内閣の首相，キリスト教団の首長，スペイン唯一の合法政党ファランヘ党から発展した国民運動派の党首を兼ね，また議決を拒否する権限をもっている。議会は一院制で定員は564人，任期は3年である。外交政策は隣接する同型の国家ポルトガルとの関係が最も深い。また歴史的人種的に関係の深いラテンアメリカ諸国との協調に努めている。第2次世界大戦後はしばらく国際政治上孤立していたが，東西冷戦によってアメリカ合衆国との関係が深まり，1955年国連に加入，1959年にはヨーロッパ経済協力機構(OECD)にも加わった。軍事面では義務兵役制をとり，22万の陸軍兵力を有し，他に海軍と空軍がある。アメリカ合衆国に空軍基地3か所，海軍基地1か所を供与している。〔大崎 晃〕

〔歴史〕《イベリア半島への移住と支配権争奪》BC3000年紀の初めごろアフリカから移住したイベリア人と，BC2000年紀の中ごろピレネー山脈を越えて移住してきたケ



スペイン 1624年スペインはオランダのブレダをくだしたが，国力は衰退し，1648年にはオランダを失った　ベラスケス《ブレダの降伏》



1808年，ナポレオン軍がスペインに侵入し，フランスとの30年余にわたる半島戦争が始まる　ゴヤ《5月2日の変》

ルト人と，両者の混血によるいわゆるケルト-イベリア人とがこの半島の原住民である。やがて地中海岸にはフェニキア人やギリシア人の植民活動が行なわれ，紀元前3世紀の後半にはカルタゴがこの地をローマに対する進攻基地として経略した。しかし，カルタゴはローマに敗れ，イベリア半島は小スキピオによって征服され，紀元後1世紀にはローマの属州となりヒスパニアと呼ばれた。ゲルマン民族の大移動期には西ゴート王国が建設されたが，8世紀にはサラセン人がジブラルタル海峡を越えて侵入し，711年西ゴート王国を滅ぼして，ここにイスラム教国を建てた。8世紀の中ごろサラセン帝国が東西に分裂すると，イベリア半島はコルドバを首都として後ウマイヤ朝*のカリフの支配するところとなり，西カリフ国とよばれた。

西カリフ国は9世紀にはイスラム教徒のイベリア半島支配を確立し，コルドバ文化の黄金時代を築いたが，半島における複雑な民族的・宗教的対立，イスラム教徒間の部族的対立，支配者・被支配者間の紛争などを統合的に解決することができず，半島を支配するカリフの政権は11世紀にはコルドバ・グラナダ・セビリア・トレドその他の小王国に分裂した。一方，この間キリスト教徒の国土回復運動*（レコンキスタ）は，彼らの封建国家形成の運動とともに進み，半島北部には早くも10世紀にレオン王国がその領域を拡大していき，これから分かれたカスチラが国力を強め，東部では12世紀前半にはアラゴン王国がカタロニア・バルセロナなどを合わせ一時は東北部のナバラを併合して（1076～1134）勢威を高めた。西部にはポルトガル王国が建国し，イスラム勢力との絶えざる闘争の中に領土と国力を拡大していった。

〔スペイン王国の成立と発展〕 これらのイベリア半島のキリスト教諸国中カスチラは，11世紀には北部のレオンを合併し，13世紀には南部のアンダルシア地方を征服し，半島に最大の勢力をもっていた。1474年即位したイサベル女王*（1世）は，すでに1469年アラゴン王国の王子フェルナンドと結婚していたが，フェルナンドが1479年アラゴン王位をついだので，ここにカスチラとアラゴンはイサベル1世・フェルナンド5世の〈両カトリック王〉のもとに統一され，スペイン王国が形成された。

1492年スペインはムーア人（イベリア半島のイスラム教徒）の最後の拠点グラナダを占領して国土統一を完成した。また同年，イサベルの援助を受けた航海者コロンブス*が大西洋を横断して新大陸発見の糸口をつかんだ。次いで王位はハプスブルク家のカール（イサベルとフェルナンドとの娘ファンナの子）が継ぎ，カルロス1世として統治（1516～1556）した。カルロスはまた1519年神聖ローマ帝国皇帝（カール5世*）となり，スペインおよび広大なアメリカ新大陸の領土・植民地の支配者であるのみでなく，イタリアやアフリカ各地の領土やネーデルランド・フランシュ-コンテなどヨーロッパと海外とに広大な領土を有し，その力は〈スペインが動けば，世界はふるえる〉といわれ，〈その領土には太陽の没することなき〉世界帝国の威容を誇った。

〈スペイン絶対主義の盛衰〉 カール5世（スペイン王としてはカルロス1世）は1556年引退してスペイン王位はその広大な領土・植民地とともに嫡子フェリペに譲られた。こうしてフェリペ2世*はヨーロッパ最大の王として無敵を誇る海軍と陸軍をもってマドリッドの宮廷からその広大な世界を支配した。そしてカトリック教の強力な護持国の君主として新教徒・異教徒を弾圧し，新教諸国に圧力を加え，フランスの内乱ユグノー戦争に対してはスペインの国家利益を図ってこれをあやつり，1571年にはベネチアと協力してレパントの海戦にトルコを破った。

このようにスペインの国威は他の国々を圧し，1581年にはポルトガルの王位をも合わせたが，しかしその国力をささえる土台はかたくはなかった。広大な植民地，特に新大陸からばくだいな金銀その他の財貨がはいってきたが，しかしそれはこの国の国富・国力をつちかうほんとうの財力とはならなかった。広大な領土・植民地を支配するのに要する行政費・軍事費はかさみ，その財政の重要な支柱となっていた富裕なネーデルラントの地は1560年代から反乱を起こし，これを弾圧しようとする政策はかえって逆にこの反乱をネーデルラントの独立戦争に転化してしまい，この戦争に要する費用はますます重くスペインの財政を苦しめた。そして16世紀前半の一時期には新大陸貿易と関連して発展を示した毛織物工業その他の産業も，この時期には衰えていき，新大陸からはいるばくだいな富も国民的規模における産業発展の基盤を欠くスペインには蓄積されることが少なく，インフレーションと中小市民層の没落を残して外国へ流出していった。1588年無敵艦隊*はイギリスに大敗し，スペインの海上覇権は失われていき，さらに勤勉なムーア人の追放は商工業・農業の衰微に拍車をかけ，宮廷は何回もの債務支払い停止を行なわざるを得なくなり，王室財政は破綻（はたん）をくり返していった。

1598年フェリペ2世は没し，その子が位を継いでフェリペ3世となったが，深くカトリック教の信仰に沈潜して政治に関心なく，寵臣（ちょうしん）政治が行なわれた。そして三十年戦争*その他の国際戦争に参加してカトリック教護持国の立場を貫いたが，産業はふるわず，国庫窮乏は激しく，その子フェリペ4世のときには，カタロニア地方の自治を守る反乱がフランスの援助を受けて激化し（1640～1659年，カタロニアの大反乱），1648年ウェストファリア条約でオランダの独立は確定し，対仏戦争はピレネー

条約によりスペインに不利な結末を示し，フランス王ルイ14世とスペイン王女との結婚はスペイン王室へのフランス勢力浸透の危険をもった。1665年フェリペ4世が没し，その子カルロス2世が4歳で即位して17世紀末まで在位し，その晩年にはフランスに対抗する大同盟に参加してルイ14世と戦ったが，もはやスペインの国力は二流国の地位に転落していた。17世紀のスペインは，文学にはセルバンテス，美術にはベラスケスらの巨匠の輝かしい活動期を迎えたが，国力の衰退，国際的地位の下落はもはや確定的であった。

カルロス2世が後嗣なくして没し，スペインのハプスブルク家が断絶すると，王位継承をめぐってスペイン継承戦争*(1701～1714)が起こり，この結果ユトレヒト条約によりルイ14世の孫がフェリペ5世としてスペイン王位を確保し，フランスのスペイン合併は阻止された。しかし，スペインの国際的地位は下り，この条約でスペイン領のジブラルタルはイギリス領となった。18世紀後半にはカルロス3世(在位1759～1788)が，アランダ・カンポマネス・フロリダブランカらの啓蒙(けいもう)的政治家を登用して，国内諸制度の自由主義的改革，産業振興，技術教育の充実などを行ない，図書館やアカデミーを創立して文化向上に努め，啓蒙的専制君主として活躍した。

〈市民革命の挫折(ざせつ)〉 フランス革命と革命戦争の展開により，スペインは最初イギリスとともにフランスに宣戦して戦ったが，1796年以後フランス側に立ってイギリスと戦い，1805年にはトラファルガー海戦でフランス海軍と共同して戦って敗れた。その後も国内は親仏・反仏の動きの中に動揺したが，ナポレオンの侵略を受けて1808年にはその兄ジョゼフがスペイン王となり，この束縛から脱する解放戦争がイギリス軍の支援を得て展開した(半島戦争1808～1814年)。この戦争は独立のための解放戦争であるとともに，反封建的な国民運動としてブルジョア的改革運動の面をもっていた。こうして1812年には革命的憲法が制定され，人民主権を基礎とした三権分立によるブルジョア的諸改革や土地改革が行なわれようとしたが，しかしこのような改革を具体化していく条件は未成熟であり，1814年に復位したフェルナンド7世*はこのような民主的改革を否定し，苛酷(かこく)な反動政治を行なっていった。以後19世紀のスペインの政治は1812年の新憲法に現われている民主的改革を行なおうとする派と保守的君主主義支持派との間に政権の交替がくり返され，産業的中産者層の未成熟と封建的諸関係の存続とは，指導的政権確立の困難と政策のめまぐるしい変転を生んでいた。このような政局不安定を示す諸事件の中で，絶対主義的勢力に支持されるドン-カルロス派(カルロス党)と自由主義的な諸階層と軍隊の支持を受ける摂政マリア-クリスチナ派(クリスチナ党)との間の内乱(カルリスタス戦争，1834～1840年)はその頂点を示すものであるが，この内乱におけるクリスチナ派の勝利によっても問題は解決されず，その後も政局は自由主義派と保守派の間に激しく揺れ動いた。この間，中南米のスペインの植民地諸国は独立運動を成功させて，スペインの植民地支配から離れた。

19世紀後半には陸海の3将軍の指導する革命と仮政府樹立(1868)，第一共和政(1873～1874)などを経てアルフォンソ12世からその子，同13世と保守的性格の強い時代が続き，産業発展に伴う労働運動も激しくなり，政情不安に拍車をかけた。そして，19世紀末にはスペイン領キューバの反乱はアメリカ-スペイン戦争に発展し，この結果キューバは独立し，フィリピンもアメリカへ譲られた。

〈20世紀〉 第1次世界大戦には中立を守り，産業の発展もみられたが，政治的不安定性と社会的不調和のもたらす諸問題は解決されなかった。1923年国王はプリモ-デ-リベラ*に独裁権を与え，その軍事的独裁は6か年余り続いたが，1929年の世界恐慌(きょうこう)の波を乗り切れず，1931年にはアルフォンソ13世も退位して，第二共和政が実現した。しかし共和政下における左右両派の対立は激化し，1936年には左派勢力の共同による人民戦線内閣が成立したが，これに反対するフランコ*将軍の軍隊がモロッコから本土に上陸し，内乱が全土をおおった。内乱は第2次世界大戦に連なる国際的性格をおびていたが，フランコ軍の勝利に終わり，1939年にはフランコ独裁政権はほぼ国際的承認を獲得した。以後この独裁体制が続き，第2次世界大戦には中立を守り，1947年フランコの終身総統の地位は確定し，国内・国際の複雑な諸問題に対し，かなり柔軟な現実的な政策をとって国力の発展を図っていった。〔保坂栄一〕

スペインおんがく【スペイン音楽】 地理的にヨーロッパの西端にあり，しかもアフリカ大陸に近接しているという特異な状況が，スペインの民俗音楽・芸術音楽の多様な音楽形態の中に反映されている。民俗音楽の大部分はスペイン民族舞踊と密接に結びつき，ボレロ*・ファンダンゴ*・フラメンコ*・フォリア・ハバネラ*・ホタ・パバーヌ*・ポロ・サエタ*・サラバンド*・セギディーリャ*などが地域的な変化をみせるだけでなく，芸術音楽にまで昇華されているものも多い。アンダルシア地方を中心とする南スペインではジプシー*の音楽が顕著で，北部からフランスにかけては，少数民族バスク人が即興歌謡や田園劇などを保持している。全体に3拍子系統が優勢で，張りつめた鼻音的な発声，平行歌唱，装飾の多い旋律，有節形式などの特徴をもっている。このような豊かな民俗音楽遺産は，アラブからの影響によるものが多く，さらに他のヨーロッパ諸国やアメリカ各地への伝播(でんぱ)の中継地として意味深い。芸術音楽の流れは4世紀のキリスト教伝来に始まり，ビシゴート聖歌が古く，グレゴリオ聖歌系統のモサラベ聖歌がセビリア・トレド・サラゴサで行なわれた。12世紀以来多声音楽が盛んとなり，声楽だけでなく，オルガンやリュート系のビフエラの曲が16世紀のスペイン音楽隆盛期に盛んにつくられた。フランスやイタリアからの影響が大きいが，逆に諸外国に異国的な音楽語法を伝えた。〔山口　修〕

スペインけいしょうせんそう【スペイン継承戦争】 1701～1714年，スペイン王位継承問題に端を発したヨーロッパの国際戦争。1700年ハプスブルク朝の断絶でルイ14世の孫がフェリペ5世として即位すると，オーストリアのハプスブルク家*が継承権を主張し，スペインとの合体によるフランスの強大化を恐れたイギリス・オランダがこれと同盟して開戦した。戦争はヨーロッパのほか，これに並行して北アメリカでイギリス・フランス間にアン女王戦争*が行なわれた。同盟軍はしだいに優勢となったが，継承権を主張していたオーストリアのカール大公が1711年ドイツ皇帝となったため，イギリス・オランダはドイツ・スペインの合体を恐れ，ユトレヒト条約*(1713)により終戦となった。フェリペ5世はフランスと合体しないことを条件に即位を認められ，イギリスはフランスからカナダの一部，スペインからジブラルタル・ミノルカ島を取得した。〔大野慎一郎〕

スペインご【スペイン語】 スペイン本国をはじめ，メキシコ，中央アメリカの国国，カリブ海のキューバとドミニカ，そしてブラジルとグワイアナを除く南米の国々，合わせて18か国の国語。さらに，フィリピンやアメリカ自治領のプエルトリコでも，英語とともに公用語として用いられている。そのほかスペイン領サハラやスペイン領ギニアなどでも用いられ，その総面積は1,250万km^2に及び，使用人口も約2億人に達する。

スペイン語は，フランス語・イタリア語・ポルトガル語などのように，ラテン語を母語とする，いわゆるロマンス系の言語である。スペイン中部のカスチリア地方で話されていることばが標準スペイン語となっている。スペイン本国には，このほかにいろいろな方言がある。東部にあるカタロニア地方ではカタラン語が用いられ，フランス語に近い特徴をもっている。また，西北部のガリシア地方では，ガリシア-ポルトガル語が用いられ，ポルトガル語に近い特徴をもっている。東北部のバスク地方ではバスク語が用いられている。この言語はラテン語とは系統を異にする。一説によると，ウラル-アルタイ系の言語である。また，ハム語族の言語だという説もある。ロ

ーマ帝国がイベリア半島を征服した際，この地方だけが頑強(がんきょう)に抵抗して最後まで征服を許さなかったため，この言語が残った。409年，ピレネー山脈を越えて，ゲルマン民族がスペインにはいり，語彙(ごい)の面で大きな影響をスペイン語に及ぼしている。711年スペイン全土は回教徒たちの手に陥り，1492年彼らの最後の砦(とりで)グラナダがキリスト教徒たちによってくずされるまでの8世紀の間，イベリア半島は彼らによって支配されていた。そのため，スペイン語の中にはアラビア語の影響が多くみられる。しかし，文章構造にまでは及ばず，主として語彙の面にとどまっている。そして，その数は，王立アカデミア編纂(へんさん)の辞書によれば，約4,000語に上っている。現代スペイン語が確立したのは，17世紀の，いわゆる黄金世紀においてである。有名なドン-キホーテはこの時代の作品である。

中南米のスペイン語は，標準語と比べて発音と語彙がかなり異なっている。特にメキシコやペルーなど，スペイン人による征服以前の土着民族の文化のはなやかだった地方では，土着語の影響が目だっている。〔吉田秀太郎〕

スペイン語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。　《イソップ物語》から

ディスクティアン	ウナ	ベス	エル	ビエント
Discutían	**una**	**vez**	**el**	**viento**
言い争っていた	ある	とき		風

デル	ノルテ	イ	エル	ソル	クワル
del	**norte**	**y**	**el**	**sol**	**cuál**
	北(の)	と		太陽(が)	どちら(が)

デ	エジョス	エラ	マス	フエルテ
de	**ellos**	**era**	**más**	**fuerte.**
彼らのうちの		〔である〕	より	強い(か)

スベインソン　[Jón Sveinsson]　(1857～1944)　アイスランドの童話作家。ドイツ語で書いた《ノンニの冒険》などノンニ少年を主人公とするものは全世界に紹介されて著名。12歳でフランスに留学し，生涯(しょうがい)の大半を海外で送った。来日したことがあり，《ノンニと日本》という著書もある。

スペインないらん　【スペイン内乱】　1931年のスペイン革命の不徹底は地主層を地盤とする右翼の反撃を招き，これに対し共産党・社会党・共和左派は左翼勢力を結集して1936年1月人民戦線を結成した。翌2月の選挙で人民戦線は勝利を収め，アサーニャ新内閣は政治犯の釈放を手始めに改革に着手したが，軍閥・右翼諸党は反撃の準備を進め，7月フランコ*将軍がモロッコで反乱を起こしたのを契機に，本国軍隊がこれに呼応してスペインは内乱状態に陥った。ドイツ・イタリアのファシスト国家は武器を送ってフランコを援助したが，イギリス・フランスは共産主義勢力の強化をおそれて不干渉政策をとり，ソ連の武器と国際義勇軍のみが政府側に援助した。そのため反乱軍はしだいに優勢となり，1939年3月マドリードは陥落し，フランコはスペインにファシスト政権を確立した。〔大野慎一郎〕

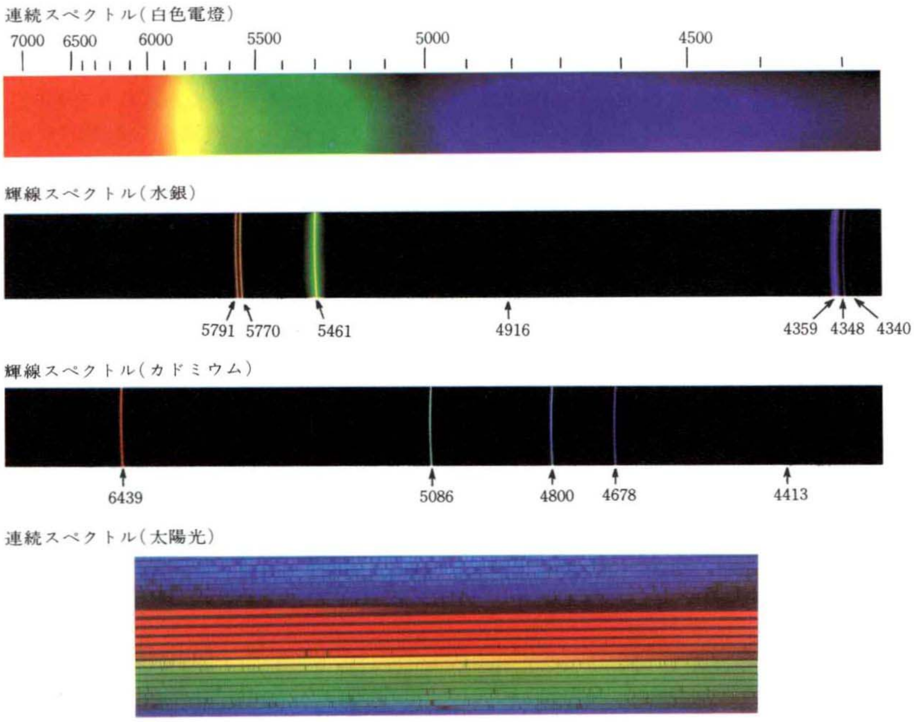
スペインぶよう　【スペイン舞踊】　西欧の民族舞踊のうちスペイン舞踊ほど起源が古く，全世界に普及している舞踊は他にない。他の西欧民族舞踊は中世期の農民の郷土舞踊に源を発しているが，スペイン舞踊の伝統はギリシア・ローマ時代にまでさかのぼることができる。すなわちカスタネットの使用，身体を極端に後屈させる独特の動き，足拍子などその大部分の技巧は古代舞踊の中にすでに存在していたものである。スペイン舞踊は通常，古典的な踊りであるクラシックと，アンダルシア地方に起源をもつジプシーの踊りフラメンコとに大別される。クラシックではセビリアナ(ふたりの女性の優雅な踊り)・ホタ(男女の激しい踊りで，終始腕を上げたままカスタネットを打ち鳴らすのが特徴)・ボレロ(ゆるやかな歩調で男女ふたりが，接近・分離をくり返す上品な踊り)，その他ファンダンゴ・カチューカなどが代表的なもの。また，フラメンコではタンゴ(コケティッシュな手の動きに特徴のある女性の踊り)・ファルーカ(勇壮な男性の踊り)などが特に有名である。フラメンコは10人くらいの踊り手とギタリストや歌い手が半円形に並び，踊り手が手拍子を受けながら次々に列から離れて円の中にはいり，最後に全員で熱狂的な踊りを展開するという決まった形をもつ。クラシック・フラメンコともにタコネオ(くつのかかとを床に打ち鳴らす)・ピト(指を鳴らす)とよばれるスペイン舞踊共通の技巧をもっているが，純粋のフラメンコではカスタネットは使わない。

このように，古い伝統と独特の技巧をもっていながら，スペイン舞踊は19世紀末まではまだ世界に知られていなかった。酒場や小屋でゆがめられた形で演じられていたにすぎなかったのである。20世紀になって，アルヘンチーナ*(クラシック)・アントニオ(フラメンコ)らの舞踊手が現われて，スペイン舞踊の伝統が再認識され，芸術的にも高められ，洗練されて世界の舞台に進出するようになった。〔高橋孝一〕

スペインぶんがく　【スペイン文学】

【中世紀—ルネサンス】ローマの植民者がイベリア半島にもたらした俗ラテン語から生まれたカスチリア語(スペイン語)は，8世紀初頭にはすでに成立していたようであるが，現在知られるスペイン最古の文学作品は，1140年ごろに書かれた《わがシードの歌*》である。作者不詳のこの叙事詩は力強い写実で国民的英雄エル-シード-カンペアドールの武勲をたたえたもので，のちのスペイン文学の特色を示している。スペイン文学史上はじめて登場する名まえは，13世紀の詩人ベルセーオであるが，はじめて個性を表現した詩人として知られるのは，14世紀半ばに獄死したとされるフワン-ルイス*である。彼の自伝小説ともみられる《よき愛の書》は，数々の破廉恥な恋愛歴を描いておのれ自身と腐敗した社会とを二つながらくし刺しにし，いわゆる〈ピカレスク小説*〉の先駆をなした。演劇は15世紀のスペイン演劇の父といわれるエンシーナの〈牧歌劇〉に始まるが，演劇を寺院と貴族から民衆に解放したのは，16世紀のルエダで〈パーソ〉とよぶ一幕の笑劇によりスペイン演劇の基礎を開いた。15世紀末の《セレスティナ*》は劇形式の小説で，若い男女の恋愛を主軸に下層の人間像をいきいきと赤裸々に描き，近代写実小説の幕あけをつくったといわれるほどで，その影響は，他のヨーロッパ諸国に及んだ。16世紀のスペインを風靡(ふうび)したのは《アマディス-デ-ガウラ》を代表作とする無数の〈騎士道物語〉と〈牧人小説〉であるが，その反動として現われたのが作者不詳の《ラサリーリョ-デ-トルメスの生涯(しょうがい)》である。主人公ラサロの遍歴を通してみじめな庶民生活をシニカルに描いたこの作品は，追随者を輩出させ，〈ピカレスク小説〉の端緒を開いた点において記念碑的存在である。

【黄金世紀—18世紀】ルネサンスの近代精神に触れたスペイン文学は16世紀半ばから17世紀にかけて〈黄金世紀〉を迎える。詩では，イタリア詩形を取り入れたガルシラーソ-デ-ラ-ベーガらのイタリア詩派が，やがてサラマンカ派とセビリア派とに分かれるが，ゴンゴラ*が現われ，いわゆる〈ゴンゴリスモ〉とよばれる極端に難解な表現法を駆使して傑作を発表した。演劇ではスペインの国民演劇を創始し，1,000編以上の戯曲を書いた天才的多作家ローペ-デ-ベーガ*に始まって，《サラメーアの村長》などで世界的名声を博したカルデロン*の死に至るまで，史上まれにみる隆盛期を迎えた。すなわち，ドン-ファン*伝説を扱った《セビーリアの色事師と石の招客》の作者ティルソ-デ-モリーナ，《疑わしい真実》などの性格喜劇でフランス喜劇に影響を与えたルイス-デ-アラルコン*，フランスのコルネイユの《ル-シッド》の下じきとなった《エル-シードの青年時代》の作者ギリェン-デ-カストロらの劇作家が輩出している。小説では〈ピカレスク小説〉が17世紀を通じて主流をなし，アレマンの《悪者グスマン-デ-アルファラーチェの生涯》，エスピネル*の《従士マルコス-デ-オブレゴンの生涯》，ケベード*の《騙(かたり)の生涯》などが現われた。同じころセルバンテス*が騎士道物語を風刺した《ドン-キホーテ*》により世界的名声を博し，近代小説の祖となったのは周知のことである。さらに，レオン・サンタ・テレサらの宗教家による〈神秘文学〉が現われたのもこの時代である。〈黄金世紀〉のはなやかさに引き替え18世紀は政治・文



スペクトル　エッシェル分光器を用いて撮影した太陽光の連続スペクトル。1本の帯の左端から下の帯の右端へ続く。無数の吸収スペクトルがあざやかに観察される

化とともに沈滞ぎみで，文学においてもわずかにモラティンの喜劇や，ラモン-デ-ラ-クルスの〈サイネーテ〉という写実的笑劇にみるべきものがあった程度である。

【19世紀】西欧におけるロマン主義の流行はスペインにも波及し，悲劇《ドン-アルバロ，もしくは宿命の力》の作者リーバス公爵，エスプロンセーダ*，《ドン-フワン-テノーリオ》の作者ソリーリャ，《調べ》のベッケル*らのロマン主義詩人を生んだ。散文ではいわゆる社会や風景をスケッチする風俗作品が現われ，世紀後半における写実主義作家の輩出の因をつくった。すなわちアラルコン*・バレーラ・ペレーダ・ペレス-ガルドスらである。とりわけ，ペレス-ガルドスは，19世紀スペインの歴史を主題とする膨大な小説《国史挿話(そうわ)》により，セルバンテスに次ぐ大作家となった。次いで自然主義が移入され，クラリン*・パルド・バサンらの作家が出た。

【20世紀】アメリカ-スペイン戦争(1898)の敗北で意気消沈した国民精神の復活を指向した文学者を〈98年代〉作家とよぶ。その中心には随筆・小説・劇などで活躍した哲学者ウナムーノ*，随筆・評論に独自の文体を確立したアソリン*，小説家バローハ，詩人A.マチャードらがいた。次いで現われたノーベル賞詩人ヒメネス*はスペイン近代詩の成立に貢献したニカラグアの詩人ダリーオ*の影響を受け，新しい形式と伝統を結合したガルシーア-ロルカ*・アルベルティらはヒメネスの影響を受けた。演劇は西欧近代劇に学んだベナベンテ，アルバレス-キンテーロ兄弟に次いで，《血の婚礼》のガルシーア-ロルカ，カソーナ*らが現われ，小説では，心理小説《ベラルミーノとアポローニオ》の作者ペレス-デ-アヤーラ*らが出た。1936年から始まる内乱により文学は一時衰退するが，40年代から再び若い作家たちが頭角を現わし，活気をとりもどしつつある。小説では《バスクワル-ドゥアルテの家族》のテーラ，《なんでもないの》のラフォレー，《エル-パライソの決闘》のゴイティソロらが，戯曲では《ある階段の物語》のブエロ-バリエッホらがその代表的な作家である。〔牛島信明〕

スペインりょうサハラ【スペイン領サハラ】アフリカ大陸北西部，大西洋に臨むスペイン領西アフリカ最大の植民地。北はモロッコ・アルジェリアに接し，南と東はモーリタニアに境している。面積26万6,000km^2。人口63,000(1969年推)。首都は，モロッコ国境に近いエル-アーユン。1886年スペインの保護領となったが，のち海外県となった。国土の大部分はサハラ砂漠(さばく)の西縁にあたり，オアシスでナツメヤシを栽培するにすぎず，砂漠と草原ではベルベル族が遊牧を行なう。外国石油会社の調査で，リン鉱や石油の埋蔵が知られているが，未開発である。〔小栗　宏〕

スペクタクルえいが【スペクタクル映画】見世物的要素の強い大規模な映画。俳優の数，衣装の豪華さ，セットやロケーションなどすべてが大がかりで，それによって観客をひきつけようとする映画をいう。しかし，映画のスペクタクル性はすべての娯楽映画に大なり小なりあって，歴史的にみても，初期イタリア映画からハリウッド映画にまで受け継がれた伝統である。《カビリア》《イントレランス》《十戒》《ベン-ハー》《クレオパトラ》などが著名である。〔波多野哲朗〕

スペクトル［spectrum］光(一般には電磁波)をそれの含むいろいろな波長成分に分解し，波長の大きさに従って並べたもの。その見かけのようすに従って，①連続スペクトル*，②帯スペクトル*，③線スペクトル*に分ける。①は波長が連続的に変わっているもの，②は実際は線スペクトルの集まりだが，低分解能の分光器*では連続に見えるもの，③はある特定の波長のみをもつもの，である。しかし，スペクトルを系統的に研究するには，その光源により，原子スペクトル*・分子スペクトル*，固体または液体のスペクトルに分類するのが便利である。スペクトルの研究はニュートン*がプリズムを用いて太陽光線をスペクトルに分け，その性質を調べたのが最初であるといわれる。しかし，輝線・暗線のスペクトルが発見されたのはそれから100年以上あとである。すなわち，イギリスの物理学者ウォラストン*は太陽スペクトル中に暗線を認め(1802年)，またある種の炎のスペクトルに輝線を認めた。この方面の研究は，その後フラウンホーファー*によって著しい進歩を遂げた。彼は太陽スペクトル中に576本の暗線を見いだし，その中の強いもの8本にAからHまでの名をつけた。また，回折格子*(こうし)を用いてはじめて光の波長を測定した。

しかし，スペクトルがもつ意義を明らかにし，分光学の端緒を開いて，これが化学分析に非常に重要であることを示したのはキルヒホフ*である。彼は，気体の発する輝線スペクトルが強い連続スペクトルを背景にすると暗線の吸収スペクトル*に変わることを見いだし，一方原子の出す輝線スペクトルは，その状態によらず原子に固有のものであることを確かめた。これは地球上における化学分析のみならず，はるか遠方にある天体中の元素の存在を知るのにスペクトルが有効であることを示す。これによって天体物理学の基礎が確立されたのである。実際にキルヒホフは太陽スペクトル中のフラウンホーファー線*を分析して，これが太陽表面の比較的低温の気体によって生ずる吸収スペクトル線で，これからその成分原子が決定されるとした。

キルヒホフ以後多くの改良進歩がみられ，さらに20世紀にはいって量子力学の発達によって原子スペクトルの詳しい理論が完成し，また一方では実験技術の高度の発達があって，スペクトルを研究する分光学は学問の面でも応用の面でも重要な物理学の一部門となった。〔吉原邦夫〕

スペクトルがた【スペクトル型】星のスペクトルの吸収線の現われ方は，星の色

とともに連続的に移り変わるので，これを基準にして恒星をいくつかの型に分類することができる。この型をスペクトル型といい，次のように分類する。

```
                          R—N
                        ／
O—B—A—F—G—K—M
                        ＼
                          S
```

各型はさらに，O型が5～9，そのほかは0～9まで細分されている。たとえば，太陽のスペクトル型はG2である。また，O型からM型にいくにしたがって低温となり，一つの温度系列をなしている。O型では高温状態にあるときに現われる電離ヘリウムの線が見え，M型では，低温で現われる分子の線が見える。星の色も青白く見えるものから，白・黄・赤の順になっている。R—N型，S型は温度系列として説明することがむずかしい。その原因は星自身の化学組成にあると考えられている。スペクトル型は，恒星の表面温度ばかりでなく，色・実光度・半径・質量などとも一定の関係をもつので，恒星の実体を知るための基準尺度として用いられる。〔日江井栄二郎〕

スペクトロヘリオグラフ [spectroheliograph] 太陽光線中のある特定の波長の光線によって太陽像を得る装置。波長を適当に選べば，その波長の光を出す原子の太陽表面における分布を知ることができる。分光器*の入射スリット上に太陽の像をつくると，スリットにはその像の細い線状の部分からの光がはいり，分散されたのちプリズム後方のレンズの焦点面にスペクトルを生ずる。この像面上に第2のスリットを置いて特定の波長のみを取り出し，乾板を置いて撮影する。これだけでは太陽の細い一部分の像しかできないが，乾板を固定し分光器全体をスリットに垂直方向に移動すると，入射スリットには次々に太陽像の各部分の光がはいるので，乾板上にもそのスペクトル像が次々に撮影され，太陽全体の像を得ることができる。〔吉原邦夫〕

スペース-チェンバー [space chamber] 宇宙空間の環境を実験的に再現し，そこでの諸影響を調べるための装置。環境として独特なのは，高真空・低温，強烈な太陽放射などであり，宇宙機の本体ならびにその部品・機器などへの影響を試験する。宇宙シミュレーターともいう。

ズベーボ [Italo Svevo] (1861～1928) イタリアの小説家。本名エットーレ-シュミッツ。おもにドイツで教育を受け，フランスの自然主義小説に影響された《人生》《老年》を1890年代に発表したが，以後長く沈黙。やがて1923年《ゼーノの苦悶(くもん)》を発表，プルースト*・ジョイス*と並ぶ心理分析の表現によって大反響をよんだ。

すべらかし ⇨垂髪



スベリヒユ



スベルドロフスク　市の中心部にある〈1905年広場〉と，その前に立つ市ソビエト(市議会議場)の建物

スペリ [Elmer Ambrose Sperry] (1860～1930) アメリカの発明家。独学で機械工学と電気学を学び，青年時代から電気機械の発明家として知られた。1880年シカゴにスペリ電気会社を設立，鉱山用・電気鉄道用など多くの電気機械を発明した。またジャイロコンパスの工業化に成功し，さらにこれを応用した方位計・船舶用揺れ止め装置を発明，その製作のため1910年スペリ-ジャイロスコープ会社を設立した。1918年アーク燈による探照燈を発明し，軍用標準形式を確立している。親日家であって，かねてから万国工業会議を日本で開催することを主張し，1929年(昭和4)に実現した際，アメリカ首席代表として来日した。〔加藤邦興〕

スペリオル(湖) [Superior] 北アメリカ，五大湖の一つで，最西部に位置し，カナダとアメリカ合衆国の国境をなしている。面積83,000km²，湖面標高183.6m，最深部307m。氷食湖で，かつ世界最大の淡水湖。湖水はスーセントメリー川を改修したスーセントメリー運河を経てヒューロン湖に通ずる。湖の西岸のメサビ山地や南岸のゴゲビック山地は合衆国でもすぐれた鉄鉱産地で，鉱石は湖上を輸送され，五大湖東南岸の炭田に運ばれて製鉄工業を興した。冬季には約4か月間結氷する。〔長津一郎〕

すべりひゆ【滑莧】 双子葉植物・スベリヒユ科。畑・庭・道端などに普通にみられる一年草で，世界じゅうに広く分布している雑草。多数の枝を出して地面にはう。全草無毛で，茎は赤紫色の円柱形。葉は無柄の長楕円(ちょうだえん)形で鋸歯(きょし)はなく，互生または対生し，長さ1.5～2.5cm，幅5～15mm，多肉質で光沢がある。7～9月，枝の先に直径約8mmの黄色小花が3～5個集まって，晴れた日に咲く。がく片2枚，花弁5枚，おしべは黄色で5～12枚，めしべの花柱5本，果実は蒴果(さくか)で熟すと上半分が帽子のようにとれ，黒色の細かい種子が多数こぼれる。茎や葉をゆでてあえ物などにする。また，虫に刺されたときには，茎や葉をもんでそのしるをつけるとよいといわれる。〔加藤僖重〕

すべりまさつ【滑り摩擦】 ⇨摩擦

スベルドロフスク [Sverdlovsk] ソ連，ロシア共和国のウラル山脈の東側にあるスベルドロフスク州の州都。旧名エカテリンブルク。人口114万7,000(1975)。ウラル工業地帯の中心で，ウラル山脈を越える通路に位置し，交通の要衝で，7本の鉄道の交差点である。重機械・金属・化学・電機・食品などの工業が盛ん。科学アカデミーウラル支部や各種高等教育施設・研究機関・文化施設があり，ウラルの経済・文化の中心をなす。1723年に建設され，第1次世界大戦後ウラル鉱工業の中心地として発達した。現在の市名はソビエト共産党の初代ロシア中央執行委員長スベルドロフにちなんでつけられたもの。〔斎藤晨二〕

スペンサー [Edmund Spenser] (1552～1599) イギリスの詩人。ほとんど半世をアイルランド総督の秘書として生活。中世の恋愛詩や寓話詩*(ぐうわし)の伝統に立ちつつも，近代人らしい奔放(ほんぽう)な想像力を働かせて，愛を歌いあげた大叙事詩《仙女王(せんにょおう)》が有名。この詩はスペンサーふうといわれる独特な韻律で書かれ，絵画的・音楽的な美しさによってキーツ*らのちのイギリス詩人に大きな影響を与えた。ほかに，妻エリザベスへの求愛の情を歌った《アモレッチ*》や，親友シドニー*の戦死をいたむ《アストロフェル》，《プロサラミウム(歓婚歌)》が知られている。〔五十嵐一〕

スペンサー [Herbert Spencer] (1820～1903) イギリスの哲学者・社会学者。ダービーの生まれ。鉄道技師・編集者を経て，のち在野の思想家として著述に専念した。その主著《綜合(そうごう)哲学体系》(10巻)はイギリス経験論の集大成ともいうべき大著で，その中で天体の発生から人間社会の倫理的原理までを〈進化〉の原理によってとらえた。この考えは当時普及しはじめたダーウィンの進化論*と結びついて大きな影響力をもち，日本では自由民権運動の思想的武器の一つともなった。

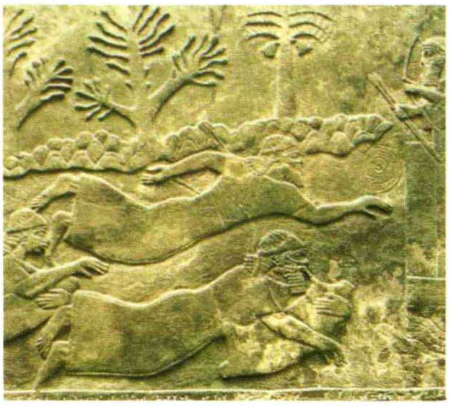
スペンダー [Stephen Spender] (1909～　) イギリスの詩人・評論家。オックスフォード大学在学中オーデン*らと交わり，1930年代初期には反ファシズムの運動に参加，社会意識の強い詩を書いた。一時共産党にはいったが，のちには反共的自由主義

者の立場に移った。《詩集》《静かなる中心》などの詩集のほか，《創造的要素》《近代の闘争》などの評論がある。

スーポー　[Philippe Soupault]　(1897〜　)　フランスの詩人。最初ダダイスムを信奉し，やがて〈自動記述法〉によるシュールレアリスムの最初の詩《磁場》をブルトンと合作した。のちシュールレアリスム運動を離れて活躍。ほかに《羅針盤(らしんばん)》《ジョージア》などの作品がある。

スポイルズ-システム　[spoils system]　猟官制と訳される。公職の任免を党派的情実によって定める政治慣習のこと。絶対主義時代，国王の財政を豊かにするため売官が行なわれたが，議会によって国王と対立した政党が官吏の勢力をそぐため，みずからの意思に沿って官吏を任免したのを起源とする。政党政治が進展するにつれ，民意を代表する政党の政策を忠実に実行するため，政権交代ごとに官吏の任免が激しく行なわれた。しかし政党間の抗争の激化はこの慣習を党派的利害の道具と化し，選挙運動で与えられた便宜に対する代償として政権獲得後の情実任用が乱発された。このようにスポイルズ-システムは金権政治の弊害，行政能率の低下をもたらしたので，19世紀後半以降この制度をとってきた英・米などでもしだいにメリット-システム(資格任用制・実績制)へと切り換えられていった。第2次世界大戦後もこの傾向は続き，公務員の地位はようやく安定するに至った。わが国でも政策作成に関係する政務次官など一部の公務員を除き公務員の任用はメリット-システムによっている。➔公務員 ➔官僚制　〔寺尾方孝〕

スポーツ　[sports]　人々が楽しみと，よりよく生きるために，他から求められることなく，みずからの能力に応じて行なう自由な身体活動。語源はラテン語desportareからフランス語desporter，さらに英語のsportに転移したというのが定説である。運動・遊戯・競技は，人類に知恵がつきはじめた時代から，まじないや祈りの形式で行なわれていたが，多くのスポーツの起源は古代ギリシアの祭典競技にあるとされている。これらの競技は闘技(agon)とよばれるもので死闘であった。帝政ローマ時代になると市民権をもつローマ人は競技を見て楽しむ風潮となり，競技をするのは捕虜・犯罪人・非公認時代のキリスト教徒などに限られ，互いに殺し合ったり，猛獣と対抗させられたりした。これらは演技(ludus)とよばれ〈遊び〉を意味していた。中世の騎士道はなやかな封建時代にはいると，馬上のやり試合などが奨励され，ごく一部の教会の庭ではクリケット・ボールけりなどが行なわれ，スポーツはまだ庶民の生活と縁のないものであった。しかし生産道具の改良がしだいに進められて生産が伸びると搾取されていた農民・労務者にも多少の余暇がつくりだされ，職場を離れて楽しむ，賭(か)けを目的とした戸外運動が盛んになった。



スポーツ　獣の皮の浮き袋で泳ぐアッシリア兵士の浮き彫り　BC900　大英博物館蔵



スポーツカー　(上)アルファロメオ　スパイダー-ベローチェ(イタリア)　(中)アストンマーチン　DBS(イギリス)　(下)トライアンフ　スタッグ(イギリス)

スポーツという新しいことばが生まれたのは15世紀前半のイギリスで，王侯・貴族の後援で創設されたパブリックスクールが体育やスポーツ発展の原動力となった。19世紀になるとイギリス属領植民地に各種スポーツが広められた。また，アメリカは自由な植民地気風で，スポーツを娯楽として育成し，19世紀末までにプロフェッショナルのボクシング・野球が結成された。このころ各種スポーツの国内的・国際的な組織ができてアマチュアとプロフェッショナルとの区別が生まれ，さらに近代オリンピックの創設によってスポーツ国際時代が到来する。

わが国では古来から相撲(すもう)・蹴鞠(けまり)など各種スポーツがあったが，完全に国民のものになったのは明治以後である。日本で最初の近代スポーツは1866年(慶応2)に横浜外人クラブのボートレースである。1875年に来日したイギリス人ストレンジ(1853〜1886)の指導で戸外スポーツの基盤はつくられ，1911年嘉納(かのう)治五郎によって日本体育協会が創立され，翌年の第5回オリンピック-ストックホルム大会に陸上競技選手2名を参加させた。これによって日本のスポーツは急激に発達した。現在日本体育協会加盟競技団体は37，地方体育団体47，プロ競技団体は公営競技をいれて約11ある。なお，スポーツをする人たちの理想像を述べた一つの倫理綱領がスポーツマンシップであるが，要約すると，①スポーツを愛し，楽しむために，自発的に行なう。②ルールに従い，フェアプレーに終始する。③つねに相手を尊重しつつ，自己の最善を尽くす。④スポーツを行なうことによって物質的利益を求めない。⑤スポーツによって得た名声を利用しないなどがある。〔鈴木良徳〕

スポーツカー　[sports car]　狭義には日本工業規格(JIS)で〈運転を楽しむためにつくられた軽快な乗用車〉と定めているが，広義にはスポーツ性を重点に置き設計開発された乗用車はもちろん，普通の車では走行できない砂地や不整地を走行できる多目的乗用車，自分の好みに合わせて改装した自動車，さらには競走用自動車(レーシングカー)をも含む。現在一般にいわれるのは，競走用自動車と実用車との中間に位置するもので，公道上を走行できる実用性とレースにも出場できる機動性を有する。しかしモータリゼーションの発展に伴い，この範囲はさらに広がるものと思われる。

各機構についても普通の乗用車とは差があり，使用頻度(ひんど)の少ない後席を縮小あるいは除去し，動力性能(出力・制動力・操縦性・安定性)を向上させて運転者本位につくられている。エンジンは高圧縮・高回転・高出力，変速機はフロアーシフト式で，前進4〜5段，特に変速比を1,000より小さくし，高速走行におけるエンジン回転を下げるようにしたオーバートップ変速機や，運転を楽しむために自動変速機を装着したものもある。また高コーナリング安定性を増すために，カーブでの左右回転数を制御するノンスリップディファレンシャルを装着したものもある。タイヤは接地性の高い広幅底タイヤあるいはラジアルタイヤが用いられる。懸架ばねはかためで，ステアリングハンドルは鋭く，ブレーキは冷却性のよいディスク式(円板式)，二重安全ブレー

キ(前車輪と後車輪とが別々の油圧配管)，油圧制御バルブなどを装着し，高速急制動時の安全性を高めている。車体形状はスポーティで，センターピラーのないハードトップ，屋根が開閉できるオープンカー，前席本位につくられたクーペ，さらには空気抵抗の少ないように設計された本格的なものなど多種多様である。

世界の有名なスポーツカーとしては，西ドイツのポルシェ911・メルセデスベンツ280SL，イギリスのアストンマーチン・ジャガーE・ロータスヨーロッパ・トライアンフTR6・MGB，イタリアのアルファロメオ・フェラリ・ランボルギーニ・マセラーティメキシコ，フランスのアルピーヌルノー・マートラM530，スウェーデンのボルボ1800E，アメリカのシボレーコーベットがあり，日本ではトヨタ2000GT・セリカGT・トヨタスポーツ800・ダットサンフェアレディZ・マツダコスモスポーツ・ギャランGTOなどがあげられる。〔太田勝人〕

スポーツしょうねんだん 【スポーツ少年団】 1962年(昭和37)6月23日，財団法人日本体育協会*が設立した青少年社会体育*団体(Junior Sports Club＝J.S.C)。地域社会でスポーツ活動を行なう青少年のスポーツクラブとして〈スポーツを通じた青少年健全育成〉を目的としている。団員は10～18歳くらいの少年少女で，その前後の年齢層を含めて幼年部・青年部を設けている団もある。少年団は20～30人程度の人数で構成し，リーダー・団長その他の係を選び，自主的に運営をしている。団と団員の指導・助言には成人指導者がつき，育成と技術指導などにあたっている。団の活動は各種スポーツ活動が中心で，一つのスポーツ競技種目を行なっている団と，いくつかの種目を併行して活動内容とする団とがある。全団員はスポーツテストを必修とし，年2回これを受け，スポーツの実践と体力向上を目的とする。その他，奉仕活動・文化活動なども行ない，計画を立て目標をもって年間日常活動を進める。オリンピック東京大会*(1964)を期し団員が飛躍的に増加し，1971年には20,000団58万人に達している。団の育成には市町村・都道府県それぞれにスポーツ少年団本部があり，中央には日本体育協会*(岸記念体育会館内)の内部機構として，日本スポーツ少年団本部が設けられている。本部の育成事業は，指導者の養成，公認スポーツテスト員の養成，全国大会・ブロック大会の開催，国際交流，広報事業などが行なわれている。〔増田靖弘〕

スポーツ-テスト ［sports test］ スポーツ技能テストともいう。各種のスポーツについて，それを構成している基礎的な運動技能を取り出し，それを成功・失敗，回数・時間・距離などの諸基準ではかり能力を段階づけて表示するテストをいう。世界各国で行なわれており，スポーツ適性や技



スポーツ少年団 山梨県本栖湖畔で行なわれた，第8回全国スポーツ少年団の大会

能の進歩の度合いを判断することによって，スポーツの普及や発達を図ろうとするものであるが，近年は，健康・体力の診断と増強を目的とするものもふえている。わが国では文部省が青少年を対象とするスポーツ-テストと中高年齢層を対象とする壮年体力テストとの基準を作成している。〔伊東春雄〕

スボボダ ［Ludvik Svoboda］（1895～1979） **チェコスロバキアの政治家。モラビ**アの貧農に生まれる。第1次世界大戦ではオーストリア-ハンガリー軍に徴兵されたがソ連軍の捕虜(ほりょ)となり，ソ連で結成されたチェコスロバキア解放軍に加わった。ナチス-ドイツの侵略に対してモラビアで地下活動を組織し，1939年ポーランドに脱出してチェコ軍を結成，ドイツ軍のポーランド占領後はソ連に亡命した。1945～1950年ソ連軍によって解放されたチェコスロバキア人民政府の国防相。1948年2月の無血革命で共産党を支持し，その後入党し，1950年副首相となる。1951年一時政界を退いたが，1955年ソ連のフルシチョフ*首相のチェコ訪問をきっかけに〈ゴットバルト軍事研究所〉所長に就任した。1948年から国民議会議員，1960～1964年国民議会幹部会員。1968年のチェコ自由化で大統領に選ばれた。〔山県弘志〕

スポラデス(諸島) ［Sporades］ エーゲ海にある諸島で，ギリシア領。スポラデスとは〈広がった〉という意味で，デロス島のまわりを〈囲んだ〉という意味のキクラデス諸島と対照的である。南北に分かれ，北スポラデスは総面積540km²でスキアトス・スコペロス・イコス・シロス・エウボイア(ネグロポント)など約70の島々からなる。シロスには良港があり，スキアトスとスコペロスは森がよく育ち船材や建築材を産する。南スポラデスは小アジアの南西にあり，イカリア・パトモス・レロス・カリムノス・アスチパレア・コス・ニシロス・チロス・シム・カルキ・ローデスおよび周辺の小島を含む。チーズ・羊毛などを産し，穀物・オリーブなどを栽培する。〔大崎　晃〕

ズボン 主として男子の着用する腰から脚を包む衣服で，フランス語のジュポン(スカートの意)からなまったことばといわれる。イギリスのトラウザース，フランスのパンタロン，アメリカのパンツにあたる。ズボンが今日のような形になったのはフランス革命以後で，1791年にふくらはぎまでだったものが，1793年にくつまでの長さになり，1815～1840年に幅が広くなった。わが国では幕末に軍服として取り入れられたが，もともとわが国にはももひきというズボン形式のものがあったので，婦人の場合と違い，あまり抵抗もなく受け入れられたようである。形は前あきで，また特殊なものとしてセーラーパンツのように両脇があくものもある。ポケットは両側と後ろにそれぞれ一つまたは二つつく。すそは折り返しのないものとあるものがあり，すそ幅も流行によって広くなったり狭くなったりする。ウエストはベルト通しがつけられるが，礼服用はサスペンダーで肩からつるので，ベルト通しのないものもある。男子服のおしゃれはズボンにあるといわれるほど流行には敏感で，太さや長さ，デザインはめまぐるしく変化している。種類を大別すると礼服用・背広服・スポーツウエアー・作業用などになる。〔小室正雄〕

スポンサー ［sponsor］ 商業放送*番組の広告主をいう。原語の意味は後援者・発起人。スポンサーは商業ラジオ放送や商業テレビ放送の放送時間を買って放送会社のつくった番組をそのまま放送するか自分の手で番組をつくって聴視者に番組を提供する。番組を提供するスポンサーは自分の商品・事業・運動などを広告する。スポンサーには個人・法人をはじめ政府や政党などあらゆる組織体がなることができる。提供番組はニュース・教養・娯楽もの・音楽とあらゆる種類の番組にわたっている。スポンサーから得られる広告料金が商業放送の最大の財源である。〔飯田良明〕

スポンジケーキ ［sponge cake］ 卵・砂糖・小麦粉を主材料としてごく軽くスポンジ状に焼き上げた菓子。主材料のほか，バター・水あめ・ミルク・ココア・ラム酒などを混ぜることもある。作り方は共だて式と別だて式がある。共だて式はイギリス式で，砂糖と卵を最初からいっしょにして十分あわだてたのち，粉を加える方法で，別だて式はフランス式で，卵白と卵黄を分けて卵白をかたくあわだてたのち，砂糖を入れ次に卵黄を入れ，最後に粉を混ぜる方法である。いずれの場合も種を紙を敷いた型へ6分めほど流し入れ，天火で焼く。〔泉　敬子〕

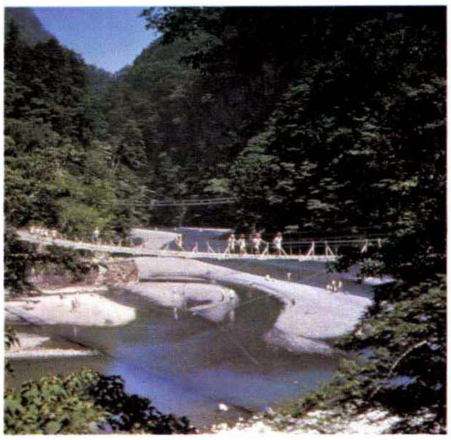
すま 【須万】 硬骨魚類・サバ科。体形はカツオに似て紡錘形で，体長1m，体重10kgに達する。背面は青黒く，多くの暗色縦走帯がある。腹面は銀白色。胸びれの下方に1～7個(多くは3～4個)の灸(きゅう)跡のような小黒点があり，このためヤイトともいわれる。本州中部以南，台湾・ハワ

イなど西南太平洋諸島近海に分布し，日本海ではきわめてまれ。さしみなどにして美味。

すま　**【須磨】**　神戸(こうべ)市の市街地西端須磨区のうち，大阪湾に臨む海岸地区。須磨ノ浦とよばれ，六甲山地の南西端が急傾斜で海に迫る白砂青松の地で，西の明石(あかし)と併称される景勝地として名高く，古くから詩歌によまれ，《源氏物語》の舞台の一つになっている。山沿いの地は摂津と播磨(はりま)の境に近い交通・軍事上の要地で，天智(てんち)天皇の時代に関所が設けられた。いまはその隘路(あいろ)を山陽本線・山陽電鉄・国道2号線が併行して走り，最近高倉山にトンネルを掘って神明道路(有料道路)が通じた。山地斜面は明治・大正期(1868～1926)に保養地，富豪の別荘地となり，1970年(昭和45)西部にこども専門病院が建設された。最近は背後山地で海面埋め立て用の土砂の切りくずしが行なわれ，そのあとに宅地が造成されている。源平合戦の古戦場で，戦ノ浜(いくさのはま)・敦盛(あつもり)塚・一ノ谷などの史跡が多く，サクラの美しい須磨寺や謡曲《松風》で知られる松風村雨堂などがある。〔浅井得一〕

スマイルズ　［Samuel Smiles］ (1812～1909) イギリスの著述家。社会改良家として活躍。その主著《自助論》は，1871年(明治4)中村正直*によって《西国立志編》という題名で訳されて，広く愛読された。

すまたきょう　**【寸又峡】**　静岡県北部，榛原(はいばら)郡本川根町に属し，赤石(あかし)山脈の南部に源を発する大井川の支流寸又川の峡谷で，大井川と合流する千頭(せんず)から4kmさかのぼった付近から上流へ約20kmにわたる。一帯はモミ・ツガ・ブナ・スギ・ヒノキなどの原生林におおわれ，新緑や紅葉が美しく，奥大井県立公園に指定されている。付近には寸又峡温泉(単純硫黄泉，43℃)や千頭ダム・大間ダムがあり，また南アルプスへの登山口の一つでもあるため，近年は観光地化が著しい。〔味沢成吉〕



寸又峡　深く刻まれた峡谷のよどみに，両岸の緑が影を落として美しい。つりやキャンプや川遊びに訪れる人々が多い

スマトラ　［Sumatra］　硬骨魚類・コイ科。7cmほどになる淡水魚で，スマトラ・ボルネオなどが原産地であるが，観賞用熱帯魚としてごく普通に飼われる。体は長いひし形で，フナによく似る。淡黄色地に太く黒い4本の横じまがあり，背びれ・尾びれ・腹びれは赤く，繁殖期には濃くなる。動作は活発で気が荒いが，水槽(すいそう)中でもよく繁殖する。

スマトラ(島)　［Sumatra］　マライ諸島，大スンダ列島西端にある世界第6位の大島で，面積42万1,977km²。人口1,882万(1968年推)。西海岸をクリンチ山(3,800m)を最高峰とするバリサン山脈が走り，2,000m以上の活火山が10以上もそびえている。島の中央部は赤道直下にあって森林と草原におおわれ，ゾウ・サイ・トラ・バク・オランウータン・テナガザルなどの野生動物が生息している。鳥類・爬虫(はちゅう)類・こん虫類などの種類も多い。東部の低地には沼沢や砂丘が多く，川は曲流し河口にはマングローブなど海岸植物が群生する。住民は北部にマチェ・ガヨ・バタック，西部にミナンカバウ，東部はマライ，南部にはランポンなどの諸族が居住している。東部の低地と西岸の山脈の中間は，マライ諸島でも最も豊かな農業地域の一つといわれる。住民の大半が農業に従事し，ゴム・コプラ・コーヒー・茶・コショウ・サトウキビ・樹脂・樟脳(しょうのう)・コクタンなどを産する。またメダン・ジャンビ・パレンバンの付近には油田が発達し，北スマトラ油田には日本の企業が進出している。スマトラは8世紀まではインドの支配を受け，14世紀からはイスラム教徒の支配下にあった。ヨーロッパの勢力で最初に侵入したのはポルトガル人であるが，1596年にはオランダ人が侵入し，次々と土侯国*を支配していった。第2次世界大戦後はインドネシア共和国の一部となっている。主要都市ベンクーレン・ジャンビ・パンダアチェ・メダン・パダン・パレンバン・テルクベトンなど。〔大崎　晃〕



ズミ

スマローコフ　［Aleksandr Petrovich Sumarokov］ (1717～1777)　ロシアの劇作家・詩人。ラシーヌ・モリエールらフランス古典主義の影響を受けて，《ホレフ》など20編を越す悲劇・喜劇を書いたほか，頌詩(しょうし)・叙情詩・寓話詩(ぐうわし)など数多くの作品がある。ロシア最初の国立劇場の監督にもなった。〔灰谷慶三〕

すみ　**【炭】**　⇨木炭

すみ　**【墨】**　中国で発明された筆記用具の一つで，書画をかくのに用いる。煤(すす)をにかわなどで固めたもの，またはこれを水にといたものがある。黒色の墨で書いた遺物は3,000年前の殷(いん)の甲骨文字片にもあるし，戦国時代のものでは墨画や墨書が湖南省長沙(ちょうさ)に出土している。しかし，墨の字は戦国時代の哲学者の名に墨子があり，同じ時代の斉(せい)の貨幣に即墨の文字があるぐらいで，あまり使用されていない。漢代には墨を墨丸といっているので，小粒のものをすずりに載せ取っ手のついた小さな石片で押しつぶしてすったと思われる。漢末から魏(ぎ)・晋(しん)・六朝(りくちょう)になると好事家(こうずか)は自家用の墨をつくらせたという記事がある。このころの墨の形は不明だが，これより前に墨だまりの池のついたすずりが用いられているので，大きな墨ですったものと思われる。墨の材料にはマツを用い，この煤ににかわを混ぜてつくった。唐代の墨はわが国の正倉院に唐製と新羅(しらぎ)製のものが保存されている。その形は円柱で，中央は木印を押すために平たくなり，いわゆる食用の〈からすみ(唐墨)〉の形をしている。宋(そう)代になると桐油(とうゆ)の煤も用いられたので，前者を松煙墨，後者を油煙墨といった。はじめは松煙墨に良質のものがあったが，後世になると油煙が精選されて，一般には油煙墨が使用されるようになった。中国では徽墨(ホイモー)といって安徽(あんき)省が墨の大産地で，宋から清(しん)に至る800年間はおもにここで良墨が生産され，名墨家も多かった。わが国では紀州(和歌山県)の藤代や近江(おうみ)(滋賀県)の武佐の松煙墨が有名であったが，江戸時代になると奈良が製墨の中心となり，古梅園松井家をはじめ多くの製墨業者が出た。中には朝廷から官位を授けられている者もある。〔杉村勇造〕

ずみ　**【桷・棠梨】**　双子葉植物・バラ科。コリンゴ・ヒメカイドウともいう。山地に自生する落葉小高木で，高さ10mに達する。小枝はかたく，しばしばとげに変化する。葉は楕円(だえん)形ないし長楕円形で切れ込みのないのが普通であるが，3～5個の切れ込みのある葉もあり，長さ3～8cm，幅2～4cmで鋸歯(きょし)がある。4～6月，短枝の先に3～7個の白色～淡紅色の花がつく。花は直径2.5～3cm，がく片5，花弁5，おしべ多数，花柱3個。果実は橙黄(とうおう)色の球形で直径5～7mm，9～11月に熟す。庭木・盆栽に用いられる。〔加藤僖重〕

すみいろ　**【墨色】**　色名。墨のような色。黒色ではあるが，その色調は一定しない。

科学の未発達の時代にあっては，墨の色が最も真の黒に近かったために，最も黒いと思われる色を墨色とした。黒橡(くろつるばみ)にやや茶みをもたせた色をいうが，今日では一般に墨色という場合は，黒色およびごく暗い灰色をいう。

スミス ［Adam Smith］（1723～1790）イギリスの経済学者。古典経済学の創始者。スコットランドのカーコーディに生まれ，グラスゴー大学・オックスフォード大学で教育を受け，エジンバラ大学の講師，グラスゴー大学の教授・副総長をつとめた。1764年にヨーロッパに渡り，フランスでケネー・チュルゴーらと交わり，帰国後経済理論を体系的に論述した大著《諸国民の富》(1776)を刊行した。彼は，マルサス・リカードおよびJ. S. ミルをおもな構成メンバーとする古典経済学の創始者で，この学派は労働をあらゆる価値の源泉とみなし(→労働価値説)，労働の生産力を高める分業と専門化の利益を理論的に立証した。さらに，個人の利己心に基づく経済行為を重視し，国家の保護政策を主張する重商主義を批判し，個人の創意が自由に発揮される自由放任政策(→自由放任主義)を主張した。彼は個人の創意が自由に放任されるならば，それは，万人の利害をうまく調和させ，経済的厚生の最適状態に導くであろうと信じていたからである。著書にはほかに《道徳情操論》(1759)がある。〔松浦　保〕

スミス ［William Smith］（1769～1838）イギリスの地質学者。オックスフォードの農家に生まれ，苦学ののちに18歳で土地測量事務所の補助員となった。仕事のかたわら，運河の切り割りに露出する地層や化石の産出状況を観察し，一連の地層において，上方の地層は下方の地層よりも新しいという〈地層累重の法則〉をまとめた。彼は，土地測量官や測量技術者として貧しい生涯(しょうがい)を独身で過ごしたが，1831年にはロンドン地質学会が設立されて最初のワラストン賞を贈られ，〈層位学の父〉といわれている。1835年，ダブリン大学から名誉法学博士の称号を贈られ，1838年には国会議事堂の建築材を検討するための委員に選出された。➔地層　〔大森昌衛〕

スミスほう **［スミス法］** アメリカで1940年制定された平時の連邦治安維持法。下院議員スミスが提出した〈外国人登録法〉の通称。第２次世界大戦勃発(ぼっぱつ)を機に広範な騒擾(そうじょう)抑制を目的として制定された。①軍隊の忠誠・士気をそこなうような不服従・反乱を扇動すること，そのための文書を配布することなどを禁止し，②暴力による政府の転覆・破壊を勧誘すること，そのための文書を配布し結社をつくること，およびそのような結社に加盟することなどを禁止し，③外国人の国外送還の規定を強化し，④外国人の登録・指紋採取を規定した。戦後は共産主義者に対する弾圧立法として機能し，1949年には共産党幹部12名が同法によりニューヨーク連邦地方裁判所から有罪を宣告された。➔マッカラン法　〔折井一彦〕



隅　田　川
中央区上空から北を望む。眼下で川を渡る高速道路は，右へ７号線(千葉方面)，北へ隅田川左岸沿いの６号線に分岐する

すみそあえ **［酢味噌和え］** 酢みそで野菜や魚貝類をあえたもの。酢みそは白みそか甘みそに砂糖(みその20～30％)と酒少々を加え，ふつう火にかけて練ったものを酢で延ばす。あえる材料はネギ・ワケギ・ワカメ・貝類・さらしくじら・タコ・イワシ・アジなどを好みで組み合わせ，材料によっては下煮や霜降りなどにして，供する直前にあえる。

すみだ **［墨田(区)］** 東京都の東部に位置する特別区の一。北から東へかけては足立(あだち)・葛飾(かつしか)・江戸川，南は江東，西から南へかけては荒川・台東・中央の各区と接する。1947年(昭和22)本所・向島両区が合併して成立。面積13.9km²，人口23万5,000。区域は隅田(すみだ)川と荒川放水路・旧中川にはさまれた沖積地(ちゅうせきち)上に位置し，水利の便に恵まれ，紡織・金属・機械器具などの中小工場が多く，江東区とともに江東工業地帯の一部として発展している。本来低湿地であるうえに工業用水のくみ上げによる地盤沈下が年々著しく，西部の吾嬬橋(あづまばし)２丁目付近では，明治以後今日まで約3.15mの沈下がみられる。都内でも屈指の人口密集地域で，関東大震災と第２次世界大戦の２回にわたって区域の大半が被災した。南部に総武本線，北部に東武鉄道伊勢崎(いせさき)線・京成電鉄押上線があり，東武鉄道亀戸(かめいど)線はこれらと交差して南北に走る。総武本線の錦糸町(きんしちょう)駅はバスターミナルとして小規模な副都心を形成し，駅周辺部には〈江東楽天地〉とよばれる歓楽街があり，その南方には首都高速道路７号線が走る。北部の向島地区は，江戸時代から昭和初期にかけて，風流の地として市民に親しまれてきたが，いまは百花園や北方の能《隅田川》にゆかりの深い梅若塚(うめわかづか)など周辺になごりをとどめるにすぎない。地震などの災害に備えて両国・錦糸町・白鬚橋(しらひげばし)・新四ツ木橋付近に避難広場をつくり，まわりを高層ビルで囲む計画が進められている。〔浅井得一〕

すみだがわ **［隅田川］**

1能の曲名。観世元雅(もとまさ)作。四番目物。角田川とも書く。隅田川の渡し守(もり)が舟を出そうとすると，物狂いの女が現われて，昔，隅田川で在原業平(ありわらのなりひら)がよんだ歌のことなどを述べ，わが子を尋ねるようすで舟に乗り込む。渡し守は，去年の今日(３月15日)，都から人商人に買われてきた梅若丸という少年がこの川の対岸で死に，きょうは人が集まって大念仏が催されると物語る。物狂いの女はこれを聞いて，自分がその子の母だと名のる。渡し守は驚いて女を大念仏の中に加えると，墓の中から梅若の声が聞こえ，亡霊が現われる。母が亡霊の姿を追い求めるうち夜が明けて，母は荒れ野のうちに残される。シテは母，ワキは渡し守。ほかにワキツレとして舟の客がひとり出るほか，梅若の亡霊を子方がつとめる。この曲をもととして，隅田川のほとり(墨田区堤通２丁目)に木母寺が建立(こんりゅう)され，また梅若塚(うめわかづか)が残されている。〔長尾一雄〕

2三味線(しゃみせん)音楽の曲名。河東節と一中節の掛合(かけあい)の《隅田川舟の内》は現行曲中最古の掛合物。長唄(ながうた)と常磐津(ときわず)では《角田川》と書き，清元節の《隅田川》とともに所作事曲として重要。

すみだがわ **［隅田川］** 荒川の下流部，千住(せんじゅ)(荒川区)鐘ケ淵(かねがふち)から下流東京港河口までの呼び名で，江戸時代には大川ともよんだ。古くはこの川が武蔵(むさし)と下総(しもうさ)の国境をなしていたが，江戸幕府開設以来，左岸も江戸の一部に編入されて，低湿地であった沿岸も明治初期には完全に陸化して東京の町続きになった。江戸時代までは水も清く，古歌にもよまれ，市民の行楽の場であったが，明治以来東京の人口急増に伴って汚染され，水鳥も，豊富だった魚類も姿を消した。1923年(大正12)関東大震災後は，上流(現在の墨田区・荒川区・北区)地区の工業化が進むと汚染と悪臭

がひどくなり，現在水質保全指定水域として水質保全法や工場排水法の適用を受けているが，問題は解決していない。また頻発(ひんぱつ)する洪水(こうずい)の災害を防ぐため，1930年(昭和５)岩淵水門から分水して，東部に荒川放水路を完成させた。江戸以来水運に利用され，浅草蔵前は全国から運ばれる蔵米を収める倉庫が立ち並んでいた。現在も上流沿岸の工場へはしけで東京港から物資が運搬され，河口に近い勝鬨(かちどき)橋も舟運を考慮してつくられた開閉橋である。河口にあった州は埋め立てられて越中島・佃島(つくだじま)・月島晴海(つきしまはるみ)町となり，晴海には埠頭(ふとう)がある。中央卸し売り市場(築地の魚河岸)は，河口の右岸にある。〔長津一郎〕

すみだがわごにちのおもかげ 【隅田川続俤】 歌舞伎(かぶき)脚本。４幕７場。奈河七五三助(なかわしめすけ)作。通称《法界坊》。1784年(天明４)大阪角の芝居初演。永楽屋のお組に横恋慕する堕落僧法界坊，お組の恋人の手代要助こと吉田(よしだ)松若，そのいいなずけの野分姫などをめぐる騒動を描いた世話物。法界坊のおかしみが人気をよび，しばしば上演される歌舞伎喜劇の代表作。大切*所作事*は《垣衣恋写絵(しのぶぐさこいのうつしえ)》(浄瑠璃(じょうるり))で葱(しのぶ)売り・双面(ふたおもて)・道成寺の趣向がみられる。〔前田慎一〕

すみだわら 【炭俵】 ⇨俳諧(はいかい)七部集

スミチオン ［sumithion］ 一般にはMEP剤とよばれる低毒性の有機リン殺虫剤で，その化学構成はメチルパラチオンによく似ている。本剤はニカメイチュウ・サンカメイチュウをはじめ，広く園芸害虫にも適用されるすぐれた薬剤である。人畜に対する毒性もパラチオンの１/100程度であり，魚類に対する毒性も低いが，ボルドー液などのアルカリ性薬剤と混用することは避ける。

すみともかがくこうぎょう 【住友化学工業(株)】 わが国最大の総合化学会社。1912年(大正１)住友総本店が新居浜(にいはま)の別子銅山に肥料工場を開設したのがはじまりで，1925年住友肥料製造所として独立。1934年(昭和９)にいまの住友化学工業を名のった。肥料部門のほか，工業薬品・合成樹脂・軽金属などの部門の比重がふえ，化成品・農薬・医薬品も手がけている。特に石油化学工業部門は他社に先がけて，1958年にポリエチレンの製造を開始し，総合化学会社としての色彩は他社より一段と濃いものがある。新居浜・千葉(住友千葉化学)の工場を中心に強固な地盤を築きあげている。工場はほかに岡山・大分・春日出(かすがで)・茨木(大阪府)・大江(愛媛県)にある。本社大阪。資本金737億円，年間売上高5,506億円，従業員数9,718(1980年10月)。

すみともきちざえもん 【住友吉左衛門】(1864～1926) 住友財閥確立時の当主。西園寺公望(さいおんじきんもち)の実弟。28歳のとき住友家の養子となる。住友家は代々当主が吉左衛門と名のるため，15代吉左衛門となり水翠(すいすい)と号した。当時住友は三井・三菱(みつびし)に比して発展が遅れていたが，番頭広瀬宰平*を得て財閥形成への足がかりを固めた。1895年(明治28)住友銀行*を創立，倉庫・貿易・製紙・炭鉱・森林などの部門へ着々と事業を拡大，明治30年代には鉄管・電線・生命保険部門に進出，その後電力・ビル・信託業も合わせて住友家の基礎を固め，1921年(大正10)には住友合資会社を設立，傘下(さんか)の全企業を統括し日本屈指の大財閥になった。➔住友財閥〔片岡一郎〕

すみともぎんこう 【(株)住友銀行】 国内預金高わが国第２位の銀行。1895年(明治28)11月創業。住友家*の個人経営によって出発し，1912年(大正１)資本金1,500万円で株式会社となった。1945年(昭和20)池田実業銀行・阪南(はんなん)銀行を合併，1948年大阪銀行と改称，1952年に現商号にもどった。1965年５月には河内(かわち)銀行を合併。本支店間のオンライン-システムの導入など経営合理化で都市銀行界でも先駆的役割を果たしている。支店網は大阪74，東京61など計210店。富士・三菱(みつびし)・三和に次いで多店舗を誇る。本社大阪。資本金891億円，預金高11兆573億円，従業員数16,501(1980年９月)。

すみともきんぞくこうぎょう 【住友金属工業(株)】 鉄鋼製品の大手メーカー。住友グループの中核的存在である。1897年(明治30)設立の住友伸銅鋼管と1901年設立の住友製鋼所が1921年(大正10)に合併して住友金属工業となる。1945年(昭和20)に扶桑金属工業と社名変更。1949年資本金７億円で第２会社扶桑金属工業を設立，1952年に現社名にもどった。鋼板の生産が最も多く全体の39％を占め，鋼管33％，条鋼10％，鋳鍛鋼製品その他18％という比率である。輸出に対して積極的であるのが特色で輸出比率は30％を越す。12年余の歳月をかけた世界最大規模の和歌山製鉄所が1969年に完成，引き続き1971年１月に鹿島(かしま)(茨城県)にさらに大規模な製鉄所を完成した。工場はほかに大阪・尼崎(あまがさき)・小倉(福岡県)にある。本社東京・大阪。資本金1,165億8,000万円，年間売上高１兆2,246億円，従業員数29,883(1980年９月)。

すみともけ 【住友家】 住友財閥*の前身。住友氏の祖政友(まさとも)は桓武(かんむ)天皇*を祖とすると伝える。京都で薬業を営み，1623年(元和９)ごろ大阪に移って，銅の採鉱・製錬・貿易を家業とした。1690年(元禄３)３代友信(とものぶ)の子友芳(ともよし)のとき別子銅山*を発見し，翌1691年開坑に成功。以来その産銅のため住友家繁栄の基を築いた。明治維新後も政府からその採掘権を許可され，採鉱技術・経営の近代化に成功し，財閥としての道を開いた。〔高崎徳次〕

すみともざいばつ 【住友財閥】 三井・三菱(みつびし)と並ぶわが国三大財閥の一。住友家*は，江戸時代以来の富商で，1630年(寛永７)泉屋と称し大阪で銅商を営み，1662年(寛文２)３代吉左衛門友信(きちざえもんとものぶ)は，京都・大阪に製練所を設け，製銅・交易を業とした。1691年(元禄４)幕府の許可を得て別子銅山の経営を開始，日本最大の銅鉱業として栄え，巨富を築いた。鉱業という土台を中心に系統的な発達をみた点で，四大財閥(三井・三菱・住友・安田)の中でも特異な存在である。明治期には鉱業および銀行業を中核とし，伸銅業・鋳鋼業・倉庫業など一連の産業支配を確立した。特に軍需面では第１次世界大戦の戦中および戦後に，三井・三菱をしのいで画期的に産をなした。伸銅と鋳鋼所は増資を重ね，住友化学工業として，1925年に独立している。他方，1907年(明治40)には，信託業に進出し1921年(大正10)には各分野を統括する住友合資会社を設立，一大コンツェルンを形成した。特徴は，重化学工業部門を根底とする点であり，そのために傘下(さんか)の強力な金融機関によっても十分な資金の供給が得られず，つねに国家信用の補充を受けてきた。第２次世界大戦後，財閥解体により住友本社は解体されたが，現在住友系金融機関がこれを代行し，新しい住友グループへの再編成が進められている。〔原　豊〕

すみともセメント 【住友セメント(株)】 業界最大の生産能力をもつセメント会社。旧社名は磐城(いわき)セメント。あいつぐ合併で拡大の一途をたどったのが特徴。1907年(明治40)11月資本金100万円で設立。1950年(昭和25)東洋セメント工業・富士セメント・助六石灰工業を合併，さらに川崎セメント(1960)・福島セメント・住友石灰工業(1963)を合併，1963年10月現社名となった。月産103万tの業界一の生産力を誇り，最近はサービス-ステーションの増設，包括輸送によるコストダウンなどに意欲的に取り組んでいる。工場は八戸(はちのへ)(青森県)・四倉(茨城県)・栃木・浜松・彦根(ひこね)など。資本金105億円，年間売上高1,356億6,400万円，従業員数2,066(1980年10月)。

すみともでんきこうぎょう 【住友電気工業(株)】 電線業界のトップメーカー。電線ケーブルのほかに特殊線・超硬工具などの生産でも優位を占めている。1911年(明治44)住友電線製造所として設立され，1920年(大正９)株式組織に変更して，住友総本店から独立，1939年(昭和14)現社名に改称された。事業内容としては電線62％，特殊線９％，粉末合金８％。わが国での市場占拠率は電線19％，ピアノ線41％，超硬工具24％である。ほかにゴム・プラスチック製品・ディスクブレーキ・自動緊急ブレーキ(ハンドマチック)なども生産，また原子力産業の分野にも進出している。本社大阪。工場は大阪・伊丹(いたみ)(兵庫県)・名古屋・横浜など。資本金237億円，年間売上高3,698億円，

従業員数11,434。(1980年9月)。

スミートン [John Smeaton] (1724～1792) イギリスの多才な技術者。リーズ近くのオースソープの弁護士の家に生まれる。法律を学んで父を助けたが，機械に興味をもつようになり，1748年器械製作工場を設立し，航海・天文用具の製作にあたった。焼失したエッディストーン燈台の再建事業(1756～1759)で有名になり，そのとき水硬性セメントの製法を開発した。その他，水車・風車・大気圧機関・中ぐり盤の改良，運河・港湾・橋梁の建設など多方面に業績を残し，18世紀のダ-ビンチとよばれる。シビル-エンジニアリング(市民の工業)という概念を樹立したのは彼である。〔山崎俊雄〕

すみながし 【墨流】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ65mm。やや緑色をおびた黒色の地色に，より濃い黒色斑(こくしょくはん)および白色斑を散布し，前後翅の外縁には黄V字形の白斑が並ぶ。成虫は5～6月と7～8月の年2回発生し，山地の渓流(けいりゅう)沿いに多く，湿地・樹液・獣糞(じゅうふん)，腐った果実などに好んで集まるが，花にはほとんど飛来しない。飛び方は活発で，少し飛んではまたもとへもどる習性がある。幼虫は頭上に1対の角をもつが，オオムラサキの幼虫のように角に小枝がなく，まっすぐ伸びている。母チョウはアワブキ・ヤマビワなどの葉裏に1個ずつ産卵し，孵化(ふか)した幼虫は4齢まで枯れ葉をつづった中に潜み，以後は葉上に現われる。さなぎで越冬する。本州・四国・九州のほか，台湾・中国・朝鮮・インドなどに分布する。〔多々内修〕

すみのくらりょうい 【角倉了以】 (1554～1614) 近世初期の京都の豪商・海外貿易家。本姓吉田(よしだ)。1592年(文禄1)豊臣秀吉(とよとみひでよし)から*朱印状を受け，角倉船(唐船造りで，船長20間〔約36m〕・横幅9間〔約16m〕，397人乗りの大船)と称する朱印船を安南・トンキンに派遣して海外貿易を行なった。また土木事業に長じ，1606年(慶長11)大堰(おおい)川を疎通させて山陰地方と京都との交通・輸送路を開き，翌年幕府の命により富士川を開削し，さらに1614年には高瀬川を開いて加茂川を淀(よど)川に合流させるなど国内諸河川の開発に貢献した。なお，了以没後は，子の素庵(そあん)(1571～1632)によって鎖国まで海外貿易が続けられた。〔高崎徳次〕


角倉了以

すみやき 【炭焼】 硬骨魚類・クロタチカマス科。クロシビカマスともいう。体長50cmほどで，体は側扁(そくへん)して細長い。大きな口には，鋭く大きな歯がある。うろこは小さく，はげ落ちやすい。名のように体は紫黒色で，背びれは黒い。本州中部以南，ハワイ・オーストラリア・南アフリカ・大西洋などの深い海に広く分布し，わが国では小田原沖・尾鷲(おわせ)沖・高知沖などで，機船底引きなどで捕獲される。塩干品および練製品の原料になる。

すみやきちょうじゃ 【炭焼長者】 貧しくて心のすなおな炭焼きが，女房(にょうぼう)の福運によって長者になったという伝説。公家(くげ)の娘が神のお告げで炭焼きの嫁になる。あるとき，夫に黄金を預けて家財を買いにやると，途中で池のカモに黄金を投げつけて帰ってくる。妻が黄金の価値を教えて嘆くと，夫はそんなものなら自分の炭焼く山にいくらでもあるといい，夫婦で掘りあてて長者になるという筋。この種の伝説はほぼ全国に分布している。これら黄金発見の伝説は，中世の交通不便な時代から炭焼きを副業とした鋳物師によって伝えられ，それぞれの土地に土着したと推定される。〔山路勝彦〕

すみやきとう 【炭焼党】 ⇨カルボナリ党

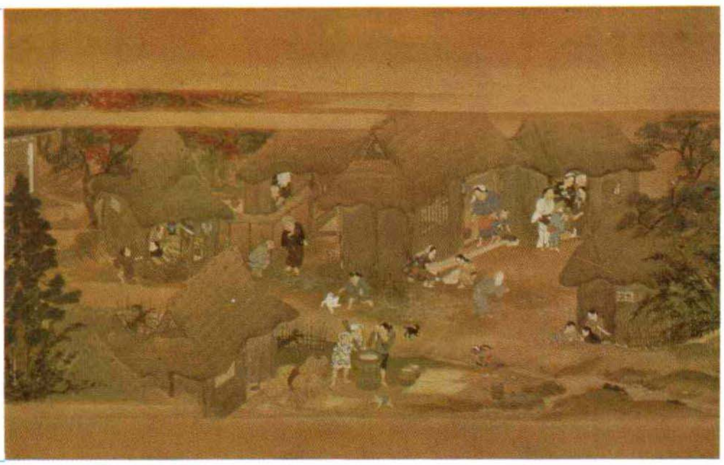
すみよし 【住吉】 大阪市の南部，住吉区のほぼ中央部にあたる上町(うえまち)台地南部一帯をさす。古くは大阪湾に面し，墨江(すみのえ)・三津などとよばれ，三韓(さんかん)との往来，遣唐使の出発地など大陸交通の要港として開け，全国の住吉社の総本宮である住吉大社の鎮座地として知られる。住吉大社の西隣には1873年(明治6)に開園された大阪府下で最古の公園である純日本式の住吉公園があり，その周辺には高級住宅地が形成され，その北には前方後円の帝塚山(てづかやま)古墳がある。〔浅井得一〕

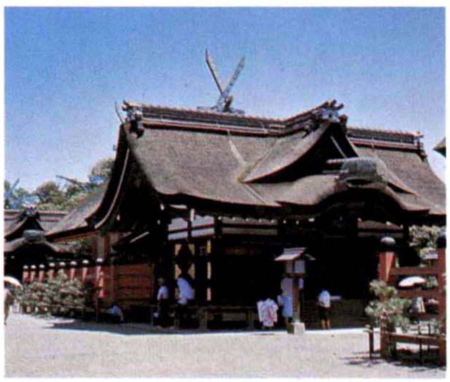
すみよしぐけい 【住吉具慶】 (1631～1705) 江戸初期の画家。名は広澄，内記と称した。*住吉如慶の子で，1683年(天和3)徳川幕府の御用絵師となり，法眼に叙された。*住吉派の画壇的地位を高め，大和絵(やまとえ)を江戸に普及させた功績は認められる。代表作に《洛中(らくちゅう)洛外図》がある。

すみよしじょけい 【住吉如慶】 (1599～1670) 江戸初期の画家。名は広通，内記と称し，薙髪(ちはつ)して如慶と改め，法眼に叙された。大和絵(やまとえ)を土佐家に学びながら分かれて住吉家を立て，住吉派の祖となる。代表作として《堀河夜討(ほりかわようち)絵巻》が知られている。

すみよしたいしゃ 【住吉大社】 大阪市住吉(すみよし)区住吉町にある。祭神は，第1本宮に底筒男命(そこづつおのみこと)，第2本宮に中筒男命(なかづつおのみこと)，第3本宮に表筒男命(うわづつおのみこと)の3神，のち雄略天皇のとき息長帯姫命(おきながたらしひめのみこと)(*神功(じんぐう)皇后)を第4本宮に合祭した。神功皇后の三韓征伐のとき，軍陣を守護したのがツツオ3神で，凱旋ののち託宣によって，大津渟中倉長峡(おおつぬなくらのながお)に登ったのが当社の起源である。古くから広く信仰を集め，武勇の神，政治外交の神，航海安全の神として，また和歌三神の一，除災招福・商売繁昌(はんじょう)の神として朝野の崇敬を集めた。第1本宮以下4棟(とう)の建築は典型的な住吉造りで，1810年(文化7)の建造になり，いずれも国宝。社宝《神代記》は，731年(天平3)

住吉具慶
《都鄙図巻》(部分)
興福院蔵




住吉大社 第二本宮 その奥に第一本宮，手前に第三本宮が一直線に並ぶ独特の配置である

スミレ

①スミレ
②ニオイスミレ
③エイザンスミレ
④マルバスミレ
⑤ジンヨウキスミレ
⑥アカネスミレ
⑦アケボノスミレ









に当社の社司が注進したもので，わが国最古の社記である。祭礼には1月4日の踏歌祭，同7日の白馬節会(あおうまのせちえ)，同13日の御結鎮(みけち)神事，5月上卯(じょうう)の卯之葉(うのは)神事，6月14日の御田植神事，またわが国の市の初めとされる10月17日の宝之市神事などがある。〔佐野文哉〕

すみよしづくり【住吉造り】 ⇨神社建築

すみよしは【住吉派】 大和絵(やまとえ)の一流派。江戸初期，土佐家から分かれて住吉如慶*が開いた画派で，1683年(天和3)その子住吉具慶の代に徳川幕府の御用絵師となった。京都の土佐家に対し，江戸における大和絵の指導的立場を確保し，幕末まで家系をつないだ。江戸時代中期，門人から板谷・粟田口(あわたぐち)の二家が分家した。

すみよしものがたり【住吉物語】 鎌倉前期の物語。作者不明。現存本は，10世紀ごろ成立していた古本を鎌倉初期に改作したものといわれる。女主人公の姫君が，継母の迫害をのがれて住吉に隠れ住んでいるのを，恋人が初瀬観音の導きによって捜し出し，めでたく結ばれる。いわゆる〈擬古物語*〉の一つであるが，広く愛読されていた作品とみられる。

すみれ【菫】 双子葉植物・スミレ科。スミレの仲間は日本に約60種が自生し，茎の立つ有茎種と，茎がほとんど伸びない無茎種との2群に大きく分けられる。スミレは無茎種に属し，葉と花柄が根もとから群がって出る。シベリア東部・中国・朝鮮・日本(千島から屋久島まで)などに広く分布し，スミレ属のうちの代表的な種である。特徴は5枚の花弁のうち左右の側弁の奥の方に，はっきりした白毛があること，根がみかん色で比較的太くて深く張っており，長い葉柄に狭い翼がみられることなどである。葉は長さ3～5cm，柄の長さ5～7cmで，花時には葉形が長楕円(ちょうだえん)状披針(ひしん)形であるが，その後に出る夏型葉は幅の広い三角状披針形に変わる。春に美しい濃紫色の花をつけ，唇弁(しんべん)のもとの方は円筒状の距となって後方に約6mmぐらい伸びている。美しい花はふつう結実しないで散り，その後にできる一見つぼみのようで花びらをもたない閉鎖花が，やがて種子を結ぶ。

日本のスミレの仲間は海浜から高山まで分布し，変化に富んでいる。花色もさまざまで，白色(シロスミレ)・紫色・薄紫色・薄紅色・黄色(キバナノコマノツメ)などがある。葉形では，セリの葉のように深く裂けているもの(ヒゴスミレ)，心形(シコクスミレ・アケボノスミレ)，幅1cmに満たない小葉(コケスミレ)などの種類がある。自生しているものはすべて宿根であるが，その中でも，セナミスミレのように砂丘に適応し2～3mも根を伸ばすものもある。茎はふつう長くても30cm前後であるが，タチスミレは50cmを越す。においのする種類はニオイタチツボスミレ・エイザンスミレに限られる。サンシキスミレ(パンジー)・ニオイスミレはヨーロッパに自生する原種を改良した園芸種である。〔渡嘉敷裕〕

すみれいろ【菫色】 色名。スミレの花のような色。わずかに青みをおびた，あざやかな紫色。スペクトルのバイオレットとよばれる色と同一の色である。よく似た色に紫色があり，わが国ではこの二つの色を区別せずに用いている場合がある。しかし，最近では，青みの紫を菫色，赤みの紫を紫色として使い分けている。すなわち，欧米でいうバイオレットに菫色，パープルに紫色をあてるのである。もっとも，紫色が基本色名とされているため，今日ではあまり菫色の名称は用いられなくなり，〈紫〉に修飾語を冠して菫色を表わしている。日本工業規格(JIS)慣用色名〈スミレ色〉は，色相2.5p，明度4.0，彩度11.0の色と規定されている。➔色〔武井邦彦〕

すみわけ【棲み分け】 二つ以上の個体または種が，生活の場を空間的・時間的に分けていること。その原因から次の3型に分けられる。①生物の相互作用の結果として生じるもので，ある個体やある種がいると，他のものはすめない，排除されるというような場合。同じような生活様式をとるものの間で起こりやすい。②その生物が選択する無機環境の違いから生じたもの。川床・海岸などは小さな地域の中でも地形に応じて無機環境が大きく異なるので，いろいろな種のすみ分けがみごとに生じている。③地形的障害から似たような種が分布を異にしている場合。もともと同一種が地理的隔離により分化したと考えられる。〔松本忠夫〕

ズームレンズ ⇨写真レンズ

スメタナ［Bedrich Smetana］(1822～1884) ボヘミア(チェコスロバキア)の作曲家。ドボルザーク*とともにチェコの代表的な作曲家である。ビール醸造人の家庭に生まれた。プラハでヨゼフ-プロクシュにピアノと作曲法を学び，1848年にはリスト*の勧めで音楽塾(じゅく)を開いた。スウェーデンから指揮者として招かれ，1861年にプラハの新しい文化運動に参加するために帰国し，1862年にチェコ国民劇場のために最初の民族的オペラを発表した。その第2作めが有名な《売られた花嫁*》である。その後も引き続きオペラを作曲し，チェコ国民音楽の指導者として活躍した。1875年，以前から悪

かった聴覚がさらに悪化し，まったく耳が聞こえなくなり，プラハを離れた。その引退生活の中から《モルダウ》を含む6曲の交響詩《わが祖国》や弦楽四重奏曲《わが生涯(しょうがい)より》が生まれた。1883年から精神病の発作に苦しみ，翌年5月にプラハの精神病院で世を去った。　〔向坂正久〕



スメタナ

スメドレー［Agnes Smedley］(1894～1950)　アメリカの婦人ジャーナリスト。特に中国の革命に対する強い同情で知られる。1928年《フランクフルター-ツァイトゥング》の中国特派員となり，中国共産党軍とともに前線を駆け巡り革命のいぶきを報道した。のち，《マンチェスター-ガーディアン》の特派員となる。この間アメリカ政府の圧迫を受け，スパイ容疑まで受けた。主著は《女ひとり大地を行く》《中国紅軍は前進する》《偉大なる道》など。　〔松沢　勝〕

スメル(山)［Sumeru］　インドネシア，ジャワ島東部にある同島最高峰の活火山。マハメル山ともいう。標高3,676m。常時，噴煙を上げており，それが90km離れた北部のスラバヤ市からも見える。最近では1968年に噴火した。

すもう【相撲】　日本の格闘技の一種。スポーツ競技としては，2人の者が円形の土俵の中で，〈回し〉を締めた裸体で勝負を争う。現在は大きく分けて，職業相撲(日本相撲協会)と，アマチュア相撲(日本相撲連盟)の二つがある。

【相撲の起こり】相撲は日本の〈国技〉といって，現在では日本だけの競技とされているが，世界史からみると相撲によく似た形のものは，5,000年前の古代バビロニアの古い都フファエの遺跡から，四つに取り組んだ形の青銅の置き物が発掘され，また2,500年前のナイル河畔の横穴にある壁面には，相撲によく似た絵が数多く描かれている。東洋では同時代のインドでブッダが太子のころ，弟の阿難陀(あなんだ)と相撲をとり，これを倒して美姫(びき)を得たという〈争婚〉のことがブッダの伝記の《本行経》の一節に記録されている。また中国では，角觝(かくてい)という格闘技が秦(しん)代に始まって漢の武帝のころ盛んになり，梁(りょう)代にインド人が漢訳した経本に〈相撲〉の文字が使われはじめている。このように，古くから世界じゅうの民族が，人間の本能として素朴(そぼく)な格闘技としての力比べをしていたものが，文明の発達にしたがい，古代オリンピックにみられるような，競技相手を殺してしまうような原始的な攻撃手段はしだいに禁止され，競技の方法にルールもできてきた。ヨーロッパでは，レスリングとボクシングに分化して発達し，中国では相撲から拳法(けんぽう)が生まれ，モンゴル・朝鮮・インド・ソ連・東南アジアなどにも，それぞれのルールに従って相撲の祖型によく似た競技が発達し，いまなお盛んに行なわれている。

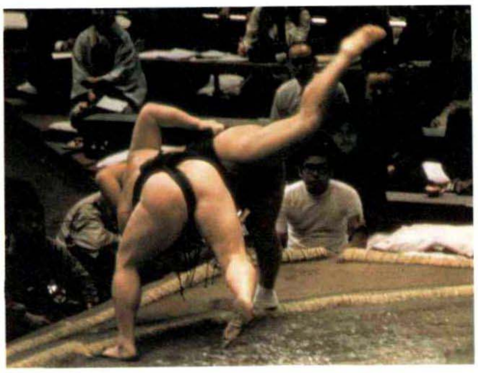
日本の相撲は，《古事記》や《日本書紀》に出てくる神話と伝説から始まる。神代のころ，タケミカズチノカミとタケミナカタノカミが，〈国ゆずり〉の争いを，〈力くらべ〉によって解決したと《古事記》にある。互いに手を取り合ってひねり合い，引き倒し合うという力比べのやり方は，太古の相撲の型を示している。そしてこの神話は，当時種族間の領地争いの戦闘を，この力比べの物語に挿入(そうにゅう)して語り伝えられたものであろうという解釈が，歴史家や民俗学者の間で定説になりつつある。次に，《日本書紀》の垂仁(すいにん)天皇7年7月7日に行なわれた野見宿禰(のみのすくね)と当麻蹶速(たいまのけはや)の相撲の説話は，日本相撲史の開祖として有名だが，このように文字や暦のない4世紀前半の古墳文化時代のできごとが，従来は史実として扱われてきたのは，《日本書紀》を編集した奈良時代に，相撲が七夕*(たなばた)を中心とした行事の一つであったところから，この伝承を7年7月7日という年月日をつくり，当時の相撲行事の起源を説明したわけである。この伝説も，大和(やまと)(奈良県)に古くから住む先住民族(神話上の出雲(いずも)族)と，あとからきた天皇族との交渉を，相撲物語によって伝えたという学説もある。そして帰属した先住民族は，のちに出雲(島根県)へ移されたという。いずれにしろ，宿禰を先祖とする土師部(はじべ)の人たちが伝承した説話が，相撲起源説話として創作されたとしても，足で蹶合(けあ)う古い相撲の型を伝えている。

ギリシア・ローマ時代のスポーツは神々に奉納するためのものであったが，日本では太古のころから，農民が農作物の収穫を占う祭りごととして，相撲・競馬・弓・綱引き・石合戦など，その勝敗によって，すべて神意をうかがうため盛んに行なわれた。相撲の場合は部落どうしの代表選手が対戦し，その勝敗によって豊作の吉凶の判断を神に求めた。のちには相撲をとる者を雇ってきて，部落の代表と対戦し，相手を負かすことによって，神の恩寵(おんちょう)を得た。また豊作のあとや，雨乞(あまご)いをして降雨があったとき，村人たちは神前で真剣に相撲をとり，相撲を神に奉納して感謝するという素朴な表現になり，この慣習は秋の奉納相撲(祭礼相撲)の形で，いまなお全国的に伝えられている。こうして庶民の間に発生した底辺の広い相撲は，奈良時代にはいって，皇族たちに取り上げられるようになり，7月7日の七夕の宴の余興として毎年行なうようになり，やがて平安時代になると，しだいに大規模な形式になるとともに，中国唐朝の儀式を取り入れて，ついに相撲節(すまいのせち)として，三度節(相撲・射礼*(じゃらい)・騎射(うまゆみ))の一つとなり，嵯峨(さが)天皇(809～823)のときに宮中行事の儀式制度が定められた。これは農民の間で長く行なわれていた豊作を占う相撲神事が，天皇家において国家的な規模をもつ〈年占*(としうら)〉に発展したものである。

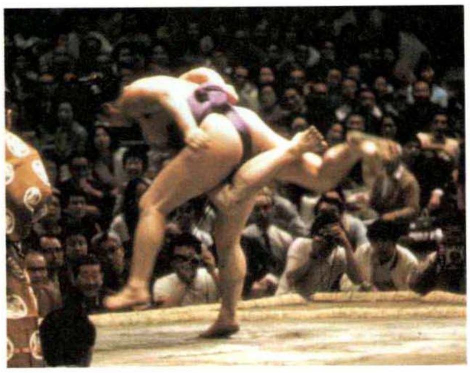
相撲節は，天皇が宮中のお庭で相撲をご覧になり，節に伴う大がかりな舞楽を演技させ，皇族・貴族に宴を賜わる儀式で，三百数十年の長期にわたって行なわれた。しかしときに盛衰もあったが，今日では想像もつかぬほど，豪華絢爛(けんらん)に催されたことが，当時の公卿(くぎょう)日記・文書などで明らかである。この大会の運営に携わる数十人の係りは皇族，貴族高官，五位以上の官吏に限られ，出場する相撲人(すまいびと)は勅令で全国から強制的に連れてこられた農民出身者であったが，この大会は下級官吏や庶民の見物も許されなかった。相撲節には専門行司や土俵もなく，〈立合(たちあわせ)〉という係りが，左右の近衛府(このえふ)から2人ずつ出場して取り組みを進行させ，勝負の判定は左右から〈出居(いでい)〉が出てこれにあたり，左右の近衛中将以下の将佐が任命された。相撲人は，左近衛府か右近衛府のいずれかに属し，召合(めしあわせ)(大会)当日は17人ずつ出て，17番の取り組みが行なわれ，勝数の多い左，または右を勝ちとした。役相撲は2人ずついて，最高位は最手(ほて)，次位は脇(わき)・脇手・助手ともいい，これは江戸時代の大関・関脇にあたる。大会は1日だけのため出場力士や，役相撲を決めるため，大会のまえに，各近衛府で内取(うちとり)(けいこ相撲)を行なって選出した。相撲大会のあと，抜出(ぬきで)(選抜戦)・追相撲(引き分けの決定戦)・臨時相撲などの天覧相撲が行なわれ，また幼帝のための童(わらべ)相撲が催された。このように平安末期まで続いた相撲節も，高倉天皇の1174年(承安4)天皇家の衰微と源平の抗争によって，この年かぎりで廃絶してしまったが，この長期間にわたる相撲大会の催しは，相撲の技芸を高度に洗練させ，なぐるけるの乱暴なわざは禁じられ，投げ・ひねり・掛けわざなど，倒すことを目的とした技術はこの長い時代に修練された。相撲の技術は，土俵という限定された相撲場のできた江戸中期から大きく変わってきたが，相撲の内容は本質的にはすべて相撲節時代に形成されたものである。

平安時代の華麗な王朝絵巻の儀式を失った相撲は，政権が武家の手に移ったのちは，弓矢を持つ武士が戦場における組み打ちの

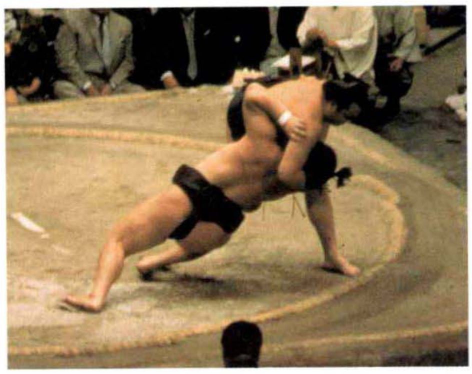
相　　撲



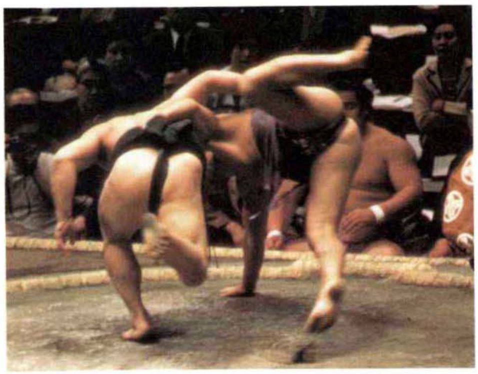
上手投げ



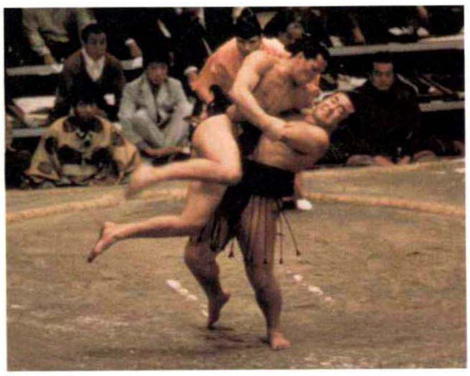
掛け投げ



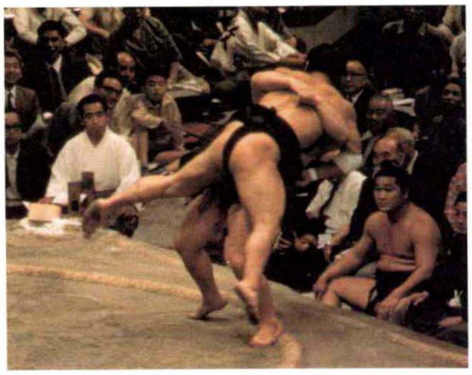
首投げ



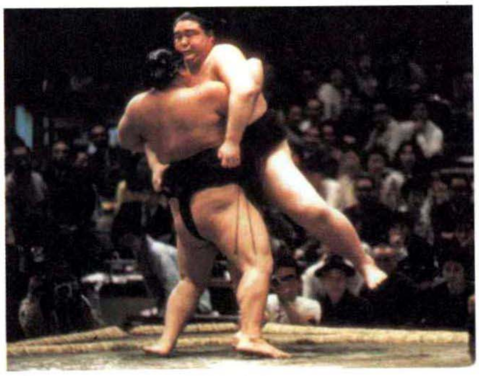
上手出し投げ



かかえ投げ



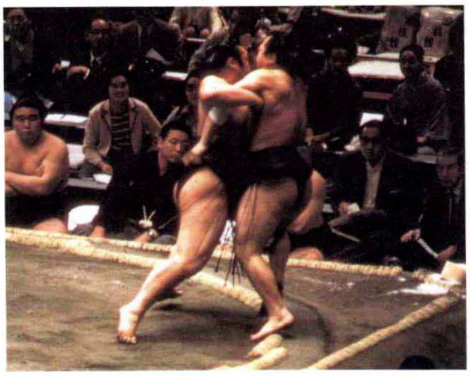
うっちゃり



吊り出し



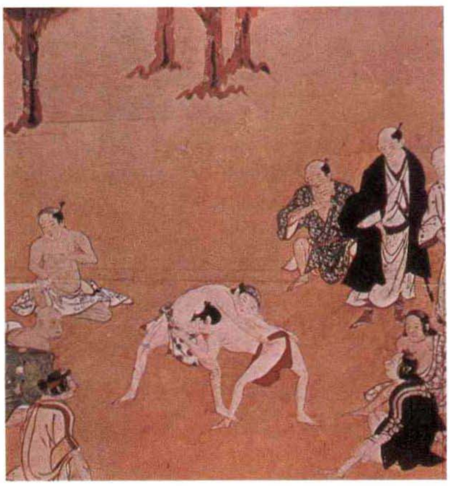
もろ差し



寄り切り

実戦武術として鍛練する形に変わっていった。相撲節に出場して高名な相撲人は，武将のもとに仕えて手がらを現わし，一方故郷に帰った相撲人たちは洗練された相撲技を各地に伝えた。こうして正統的な相撲の取り方の伝播(でんぱ)分布が，それぞれの地方に根をおろして，これまでの作法(ルール)のない田舎(いなか)相撲を発達させ，土地相撲の農耕儀礼に結びついて，土地相撲を発展させた。また各地の神社祭祀(さいし)の儀式の中に，相撲節の形式を取り入れるようになり，いまなおゆいしょある大社の神事相撲の儀式にその伝統をみることができる。

〔武家相撲〕鎌倉時代になって，源頼朝(よりとも)は相撲を武術の錬磨(れんま)として奨励し，鎌倉八幡宮(はちまんぐう)の祭礼には，しばしば上覧相撲を催したが，その儀式も神事を兼ねた節会の形式で行なった。また陣中の

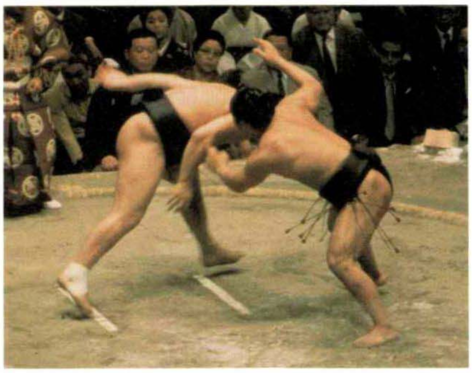


相　撲　相撲は武家の手に移り武術として奨励された。1610年に描かれた名古屋城の襖絵

余興に相撲をとって楽しんだことは《曾我(そが)物語》の発端になる1176年(安元２)の河津(かわづ)・俣野(またの)の相撲でよく知られている。鎌倉時代の末期から足利(あしかが)時代にわたる300年間，《吾妻鏡(あづまかがみ)》(1173～1261)以後は相撲資料は乏しく，支配階級における相撲の催しはみることはできない。この間は地方豪族，一般庶民の中に分布浸透したことは，当時の能狂言に相撲を主題にした曲目が多いことで明らかである。

戦国時代にはいると，織田信長(のぶなが)が1570年(元亀１)から1581年(天正９)まで，多数の力士を集めて上覧相撲をたびたび開いたが，天正６年のときは安土(滋賀県)の城に，相撲の心得のある者を1,500人も集めて，朝から夕まで相撲をとらせたことが，《信長公記》に詳しく記録されているが，当

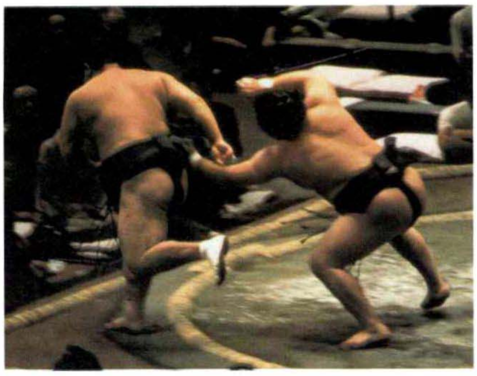
（決まり手）



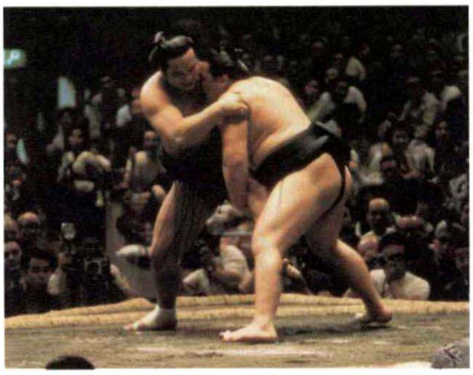
肩すかし



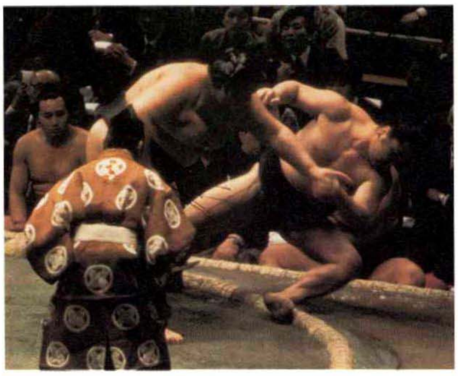
浴びせ倒し



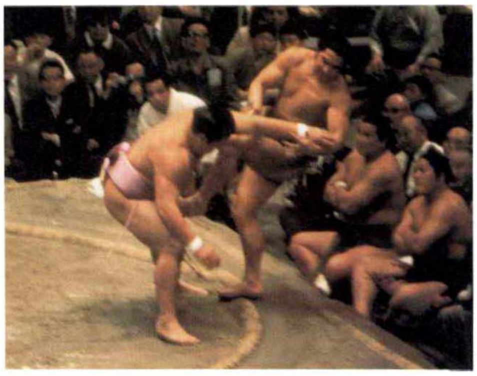
送り出し



足取り



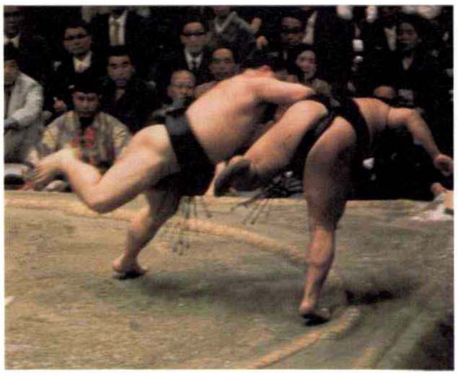
突き倒し



突き出し



押し出し



突き落とし



外掛け

時の武将の間に相撲熱が盛んであったことがわかる。また豊臣秀吉(とよとみひでよし)・秀次も上覧相撲を行なったと伝えられている。

【勧進相撲】政権が徳川幕府に移ると，これまで発達していた地方の職業相撲が，失業した浪人者を中心にして，各地に相撲集団が起こり，大阪・京都が最も盛んになって，勧進相撲と称した。勧進とは，神社仏閣の建立(こんりゅう)・修築・橋のかけ替えをするための資金を，社寺の主催で人々に寄進を勧めることである。勧進相撲の名称は，すでに室町中期からみえており，各地の小規模な相撲集団がいて，一行はしこ名を名のり，戦乱の治まった地方へ出かけて神礼祭礼に便乗し，勧進相撲の名を借りて興行していた。はじめは寺社に雇われて興行していたが，しだいに勧進の目的から離れ，寺社へ寄付するという関係をもたずに，自分たちの生活のために行なう営利興行になっていったが，依然勧進相撲の名目で興行して歩いた。中には盛り場で投げ銭目当ての勧進相撲まで横行した。

江戸時代の勧進相撲は，都市として最初発達していた京都，次に大阪で行なわれ，やがて江戸でもやるようになったが，当初は，有力な浪人者が勧進相撲を主催していたため，興行のたびに浪人と侠客(きょうかく)の間にけんか騒動が起きるので，1648年(慶安1)から1720年(享保5)の間，相撲禁止の幕令が数回出された。町中の勧進相撲・辻(つじ)相撲などが厳重に取り締まられた。しかし取り締まりの目を盗んで辻相撲，寺の境内で勧進相撲が依然として横行し，その監視に奉行所(ぶぎょうしょ)では手を焼いていた。一方これまでたび重なる禁止令で，都市興行ができない職業相撲は生活が困窮し，その打開策として騒動原因を除くために，相撲作法(規則)をつくり，48手のわざを制定し，相撲を取る場所を土を詰めた俵で囲むなどして，勧進相撲の許可を申請した。相撲取り締まりに困却していた奉行所は，ついに1684年(貞享1)，5代将軍綱吉(つなよし)の代に，有力な浪人を監督(年寄)にもつ江戸相撲に，まず公許勧進相撲の興行を許した。次いで元禄(げんろく)期には，京阪(けいはん)を中心とする相撲集団の勧進相撲に許可が下りた。このころに番付(階級)などの制度が生まれたが，統制のない辻相撲は依然としてきびしく取り締まった。

江戸時代の芸能は，すべて京阪で熟してから江戸へ下ってくるように，相撲も京阪が全国の強豪力士の集まる中心地であった。明和～安永(1764～1780)のころになると，江戸相撲も1年2回，春冬の本場所も制定

され，力士養成の監督者(年寄)の制度組織も確立して，天明～寛政(1781～1800)期には，京阪に代わって全国の中心地になり，谷風・小野川・雷電らの強豪力士が続出し，世にいう寛政黄金時代を築いた。おりから寛政の改革による奢侈(しゃし)禁止，尚武(しょうぶ)の奨励に便乗して，相撲はますます隆盛に向かい，さらに1791年(寛政3)，徳川11代将軍家斉(いえなり)の上覧相撲は，全国的に相撲熱を高め，一般庶民の関心を集めた。当時は相撲と歌舞伎(かぶき)の二つが民衆娯楽の双璧(そうへき)で，いずれもただ単に見物人としての観客でなく，祭礼に際しては，相撲を取る，歌舞伎を演ずるという，楽しみに変わったことは，伝統芸能の特徴であった。相撲の技術がいまなお〈芸〉といわれるのは，江戸時代の相撲がスポーツというより多分に芸能要素が強かったからである。こうした傾向によって，相撲技術を高度に発達させて細分化し，勝負の決まり手の基本48手のほかに200種類くらいのわざを生んだ。そして，将軍上覧を機に，強豪力士の化粧回し*の上に注連縄(しめなわ)を締めさせ，土俵上で地踏みの儀式を行なわせる資格免許の〈横綱の伝〉を案出した。これが現在の〈横綱の土俵入り〉であるが，当初はこの縄をさして横綱といい，力士の階級とは関係がなかった。このように，相撲に神事性が色濃く現われているのは，相撲が庶民の農耕儀礼から始まり，稲作の吉凶を占う原始的神事として広く行なわれていたため，相撲場を構成するすべてに，いまなお神事性を強調する御幣，清めの塩，力士の回しにつける下がり(しめ)，四色の房などが多く伝わっている理由である。

寛政期の相撲興隆に伴い，各地の土地相撲は隆盛をきわめ，職業相撲の巡業一行が来たときに，合同興行を行ない，実力のある若者はスカウトされて，弟子(でし)入りをするという風習があった。いわば土地相撲は，新弟子の養成場であり，江戸・京阪で名をあげた力士は，その郷土一帯を縄張りとして，出身地の土地相撲の面倒をみて育成した。当時は封建時代の身分制度に縛られていた農民にとって，江戸の土俵を踏み，三段目・二段目(幕下)に昇進して将来を期待されれば，相撲好きの大名から足軽格の待遇として召しかかえられて番付に主君の藩名を記すことを無上の出世としていた。

今日の相撲制度は，時代にしたがってかなりの変化をみているが，内容的には平安時代の相撲節時代に形成し，組織制度においては，江戸時代の後期に完成した勧進相撲の延長であるといえる。

徳川幕府が倒れて明治時代になると維新の改革によって大名が消滅し，それまで大名の庇護(ひご)によって生活していた幕内や幕下力士たちは，経済の独立を図らねばならなくなり，江戸を中心とした職業相撲は衰微した。一方，寛政以後，江戸相撲の支配下に置かれた大阪・京都相撲は町人たちの応援で独立して息を吹き返し，武家階級が去って荒廃した東京をしり目に,大いに繁栄を誇ったが，東京が復興するにしたがい，京阪の有名力士は東京相撲へ加入する風潮になり，1884年(明治17)の明治天皇の天覧相撲を機会に，東京相撲は再び大衆の注目を促した。そののちは日清(にっしん)・日露の戦いに勝ち，日本の国運とともに相撲は急速に復活のきざしをみせてきた。加えて，1900年ごろから常陸山(ひたちやま)・梅ケ谷の両強豪の出現は，毎場所土俵上に白熱戦を展開し，ファンは天下を二分するほどの人気を集めた。こうした明治相撲の繁栄は，本所両国回向院に相撲常設館として，国技館を建設するという，第2期黄金時代を迎えた。それまで3,000人ほどの収容力しかない小屋掛けの相撲場は，雨や雪が降ると休み，10日間興行が1か月もかかることは珍しくなかった。それが晴雨にかかわらず13,000人の見物人を入場させることができて,大相撲はまったく大衆のものになった。大正時代にはいり,大錦(おおにしき)・栃木山らの大力士が出て,相撲のわざも,古風な四つ相撲から，近代的な速攻的傾向の押し相撲に変わってきた。大正末期は，社会の不況と相撲内容の低下から相撲界も下り坂になり，その打開策として，同様に苦難にあえぐ大阪相撲を東京相撲協会が吸収合併することになり，1926年(昭和1)に現在の相撲協会が成立した。翌年にはラジオの実況中継が始まり，人気がようやく盛り返したやさき，1932年1月に春秋園事件という改革を目的としたストライキが勃発(ぼっぱつ)し，幕内十両力士の大量脱退をみて，相撲界はかつてない混乱をみたが，翌年には多くの復帰力士をみて，ようやく危機を打開することができた。そして1937年には無敵の強さをみせる双葉山(ふたばやま)の出現により，相撲史上3回めの黄金時代になった。おりから日華事変の戦時下，大衆はこの新しい英雄を一目見ようと，前夜から国技館を取り巻く騒ぎであった。第2次世界大戦中，外来スポーツ排撃の国策に便乗した相撲界は，空前の盛況を謳歌(おうか)し，ついに興行日数も11日間から13日間，さらに15日間と延長した。いっさいの娯楽を失った大衆は，空襲下の後楽園球場*の相撲場へ，防空ずきんをかぶって，双葉山の姿を求め70,000人以上の大観衆がつめかけた。1945年3月の大空襲は，国技館・各相撲部屋(へや)を焼き払い，相撲界は大苦難に直面した。

第2次世界大戦後，両国国技館(現在日大講堂)は占領軍に接収され，本拠を失った協会は興行場所を転々とした。食糧難からやせ細った力士たちは見る影もなく，戦後急速に復活した野球熱に圧倒されて，相撲に関心をもつ青少年はなかった。しかし，世の中が平静になるにしたがい復古調のムードにのって，相撲も1952年ごろからファンの関心を取りもどし，2年後には蔵前国技館が完成した。この間，吉葉山(よしばやま)，続いて栃錦と若乃花(わかのはな)の〈栃若時代〉を経て,柏戸(かしわど)・大鵬(たいほう)の青年横綱による〈柏鵬(はくほう)時代〉を迎え,相撲は戦前に劣らぬ人気をよび，1958年には年6場所制となった。だが，新しいスポーツの流行，レジャーブームの世相は，無気力になってきた相撲界を安泰にしておかなかった。相撲内容の低下で，しだいに人気は下火になり一時は民放テレビも加わって5局が競映していたのが1局という衰退をみた。ようやく力士の自覚が現われてきた1970年には，北の富士の新横綱が土俵に新風を吹き込み，続いて貴ノ花(たかのはな)・大受・増位山・輪島・長浜らのヤングパワーの台頭は，ようやく相撲熱をよびもどしはじめた。

相撲のわざ

投げ手　(腰を中心にしてかけるわざ)　上手投げ・下手投げ・小手投げ・すくい投げ・上手出し投げ・下手出し投げ・腰投げ・首投げ，その他。

掛け手　(相手の足に自分の足をかけるか,相手の足をとり倒すわざ)　内掛け・外掛け・蹴返し・蹴たぐり・切り返し・小股(こまた)すくい・足とり・にまい蹴り，その他。

反(そ)り手　(首を中心にかけて反るわざ)　たすき反り・掛け反り・居反り・しゅもく反り・外だすき反り，その他。

捻(ひね)り手　(腕を中心にしてかける技)　突き落とし・巻き落とし・上手捻り・下手捻り・外無双・内無双・頭捻り・かいな捻り・首捻り・網打ち・さば折り，その他。

特殊わざ　吊(つ)り出し・送り出し，吊り落とし・送り倒し・うっちゃり・呼び戻(もど)し，その他。

相撲用語

相四つ　四つに組むとき,差し手が同じ場合。
いなす　相手の突進を右か左にかわすこと。
明荷　十両以上の関取りが所有するこうり。
おこめ　こづかい銭のこと。
かわいがる　兄弟子が後輩にけいこをつけること。
金星　平幕の力士が横綱を倒した殊勲の勝ち星で，基礎持ち給金が10円プラスされる。
ゴッツァン　ごちそうさまというあいさつ。
下がり　回しの下に下がっている17本以上の奇数に限られているリボン。
三役揃い踏み　本場所千秋楽3番まえに，大関・関脇(せきわけ)・小結にあたる力士が正面土俵で四股(しこ)を踏む儀式。
ショッパイ　相撲がまずい意味。
砂かぶり　土俵近くの客席のこと。
タニマチ　ひいき客。
付け人　十両以上の関取りの身のまわりを世話する幕下以下の力士。
ちゃんこ　部屋で行なう料理,またその総称。
花道　力士が仕度部屋(したくべや)から土俵に登場するための通路。
触れ太鼓　興行開始の前日，太鼓を打ちながら町を触れ歩くこと。
割り　取組表のこと。

【相撲茶屋】正式には相撲サービス会社という。国技館内一定の棧敷桝(さじきます)を，観客に取り次ぎするプレーガイドの役目をする日本相撲協会の外郭団体。主として顧客と契約を結び，招待客に飲食物やみやげ物を提供するほか，一般客・団体客の申し込みに応じている。相撲茶屋の発生は，200年前の明和(1764〜1771)のころで，はじめは相撲見物の仲間が講中のような組織をつくったのが発展し，しだいに案内所の性格になった。江戸相撲全盛期の寛政年間には棧敷方が組織され，相撲会所(いまの協会)と契約書を取りかわし，興行のたびに仮茶屋をつくり棧敷客を専門に扱うことになった。1909年東京両国に国技館が完成したとき，付属した相撲茶屋が20軒建設され，正式な名称に改まった。1957年からはサービス会社と改称したが，相撲茶屋の性格は変わらず，その売り上げ収益は，相撲協会の大きな財源になっている。

【相撲博物館】東京・蔵前国技館内にある相撲関係の資料が集められている博物館。1954年に国技館付属機関として設置された。館内には錦絵・版画約4,000点，古書・書籍・雑誌5,000点，番付・星取表10,000点，写真5,000点，新聞切抜帳200点などが収録されている。陳列室には力士の遺品，屛風絵(びょうぶえ)・錦絵などが公開されている。日曜・祭日を除き，午前9時から午後5時まで，入場無料。興行中は国技館入場者に限る。

【相撲部屋】相撲年寄(親方)の住居であるとともに門下力士の養成場。江戸時代の勧進相撲初期のころ，興行場所に年寄たちが集まる室を相撲部屋といったが，1750年(寛延3)ごろから弟子を養成する年寄の家をいうようになった。現在は相撲協会を運営する評議員(年寄)は105名の定員があって，十両以上の力士で年寄になった者は，独立して弟子を養成する資格をもち，1945年のころまでは，たとえ弟子がひとりもいない年寄でも，その居住する家を，年寄名を冠して○○部屋とよんだ。現在では弟子をもつ年寄の家だけが相撲部屋とよばれているが，2〜3名から20名足らずの弟子をもつ小部屋が10くらいあり，また30名以上の弟子がいて十両・幕内力士をかかえて，けいこ場をもつ大部屋が18くらいある。ほかの多くの年寄たちは，それぞれ出身部屋に属して一門の弟子の指導にあたっている。日本相撲協会は年寄たちによって運営されているが，幕内力士をもつ大部屋の年寄たちが，協会役員に選ばれるということになっているので，自然横綱・大関・三役・幕内力士を育成することに，各部屋の年寄たちは競い合うということになる。ほとんどの相撲部屋は200年くらいの伝統をもっているが，長い間に栄枯盛衰があって，いまは年寄名跡だけで弟子や部屋をもたない親方は数多くいる。〔池田雅雄〕

【アマチュア相撲】相撲を職業としない土



座席の売りさばきを任され，観客に飲食物・みやげ物などを提供する相撲茶屋



国技館の正面入り口と太鼓櫓　右側に相撲博物館が見える

相　撲

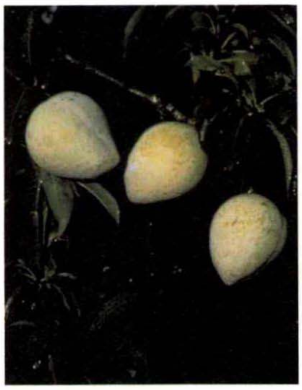
地相撲・草相撲・祭礼相撲・学生相撲・少年相撲などをいう。1900年に講道館の嘉納(かのう)治五郎*が学校体操科の中に相撲を加えることを提唱し，その後相撲部をつくる学校が全国にふえ，1912年に大阪浜寺で第1回学生相撲大会が開催された。1946年日本アマチュア相撲連盟(JSF)が日本体育協会の傘下(さんか)にはいり，全国的組織のもとに各府県に支部を置いて，〈学生相撲・社会人相撲〉などの普及指導にあたっている。

スモック　［smock］　古くはシュミーズ*やシャツ*の意味で婦人胴着の一つと考えられていたが，現在では婦人・子どもなどがよごれを防ぐために衣服の上に羽織るゆったりした洋服型の上っぱりをいう。洗たくのきく綿・合成繊維が適する。またひだに沿ってあしらうししゅう*の一つで，スモッキングとよばれるものをいうこともある。

スモッグ　［smog］　smoke(煙)とfog(霧)の合成語。煙突から排出される煤煙(ばいえん)などと霧が混在して大気が汚染されている状態。しかし，現在ではスモッグのもつ意味は広がり，霧そのものの性質をもたなくても，また，煙の濃淡にかかわらず，工場および自動車などからの有害な排気ガスが異常にたちこめた状態一般をさすようになってきた。スモッグは東京・大阪・北九州・横浜・川崎・四日市など都会地の工業地帯において，それぞれの気象条件に応じて発生する。1952年12月4〜9日，ロンドンは濃煙霧に襲われ，4,000人に上る死者を出している。近年，わが国でも，都市におけるスモッグによって，ぜんそくその他の病人がふえ，その対策は国の重要課題になっている。スモッグに含まれている汚染質の内容としては，煤煙・塵埃(じんあい)などの固形物質ならびに亜硫酸ガス・二酸化窒素・一酸化炭素などの気体状物質がある。また，大気汚染物質が強い日射によって化学変化を起こして発生するオキシダント*が存在する場合には光化学スモッグとよばれている。光化学スモッグは日射の強い夏季に多いが，高濃度スモッグはむしろ寒候季に多い。スモッグを発生させる気象条件としては，天気がよくて風が弱いことで，特に3m/秒以上の風がある場合には高濃度スモッグは発生しがたい。天気がよいときには，地表の放射冷却によって接地逆転層をつくりやすく，これがスモッグを地表付近に滞留させる働きをする。また，地形や海陸風などがスモッグの生成に大きな影響を与える。〔曲田光夫〕

すもと　【洲本(市)】　兵庫県，淡路島東部の市。人口45,000。室町時代後期に安宅(あたか)氏が築城，江戸時代初期には蜂須賀(はちすか)藩の家老稲田氏一万四千五百石の城下町となった。1940年(昭和15)洲本町を中心に市制施行，のち由良(ゆら)町など周辺部を編入した。市域は紀淡(きたん)海峡に臨む洲本川下流の沖積地(ちゅうせきち)から周辺山地にかけて広がり，淡路全島の20%を占める。産業三大別人口比は19：26：55。タマネギの栽培，酪農，真珠貝の養殖などが行なわれるが，第2次世界大戦後は紡績・機械・水産加工・貝ボタンなどの諸工業が興っている。島内各地とバスで結ばれて淡路島観光の中心地になり，洲本港からは大阪・神戸(こうべ)へ定期航路があり，深日(ふけ)港(大阪府泉南郡)へフェリーボートが通ずる。市域周辺には淡路富士の名のある先山(448m)，淡路三十三か所の第1霊場千光寺，安宅氏の山城を復元した三熊山(みくまやま)，白砂青松の大浜公園，洲本温泉など史跡・行楽地が多い。

すもも　【李】　双子葉植物・バラ科。日本スモモとセイヨウスモモがある。原産地は，日本スモモは中国揚子江流域，セイヨウスモモはコーカサス・トランスコーカサス地域とされる。日本では古くから栽培されているが，野生化もしている。落葉小高木で高さ5m前後に達する。葉は長さ5〜10cm，幅2〜4cmの倒卵形〜披針(ひしん)形，表面に光沢があり，裏面の脈上に毛がはえることが多い。葉柄に2〜5個の蜜腺(みっせん)がある。花期は3〜4月で直径1.5〜2cmの白色五弁花が1〜3個ずつつく。果実は直径5〜7cmの球形で赤紫色または黄色に熟す。セイヨウスモモは葉や花柄に毛があり，



ケルシー



ソルダム



ホワイトプラム

スモモ

果実は楕円(だえん)形で黒紫色に熟す。果実は生食が大部分であるが，欧米では干したり砂糖づけにしたりする。スモモの産地は全国にわたるが山梨県が主産地。現在の主要栽培品種には寺田・米桃・甲州大巴旦杏(ケルシー)・ソルダム・ホワイトプラム・ビューティー・月光などがある。〔加藤倡重〕

スモール［Albion Woodbury Small］(1854～1926) アメリカの社会学者。若いころドイツに留学し，ドイツ歴史学派や厚生経済学者の影響を受け，帰国後ドイツ社会学の移植に努めた。1892年シカゴ大学社会学部長，1895年《アメリカ社会学雑誌》を創刊，1922年国際社会学会会長に就任した。心理学的社会学の方法を代表する学者のひとりで，ラッツェンホーファー*の影響を受けた彼の学説は，社会過程の基礎に人間の基本的な〈関心〉を置いたところから〈関心説〉とよばれた。主著に《社会研究への入門》《一般社会学》(1905)《社会学の起源》などがある。〔国近浩一〕

スモレット［Tobias Smollett］(1721～1771) イギリスの小説家。スコットランド出身。海軍軍医・外科医などを経て，イギリス海洋小説の初期代表作でもあるピカレスク小説*《ロデリック-ランダムの遍歴》でデビュー。同系統の《ペレグリン-ピクル》などに続いて，代表作《ハンフリー-クリンカーの旅》を完成。この書簡体小説*は一家族の国内旅行を描き，18世紀イギリス社会の記録ともなっている。ほかに《英国史》4巻や《ボルテール全集》の翻訳などがある。〔奥山康治〕

スモレンスク［Smolensk］ソ連，ロシア連邦共和国のスモレンスク州の州都。ドニエプル川上流にある河港で，鉄道の要衝でもある。人口25万(1975)。カリーニン自動車工場をはじめ，金属加工・繊維・食品などの工業があり，周辺は農牧業が盛んで亜麻を産する。ロシアで最も古い都市の一つで，9世紀の年代記にすでに現われ，12世紀に建造されたペトロパウロフスカヤ聖堂や17世紀に建造されたウスペンスキー聖堂をはじめ多数の歴史的な建物が残る。第2次世界大戦では大きな戦災をこうむった。〔斎藤晨二〕

スモン［SMON］1960年(昭和35)ごろから注目されはじめたわが国特異の神経系疾患。subacute myelo optico neuropathy(亜急性脊髄(せきずい)視神経末梢(まっしょう)神経病)のかしら文字をとってスモン病といわれるようになった。10歳以下の子どもには少なく，ふつう20歳以上の成人に発症し，中年の女性にやや多い。まず腹痛・下痢などの腹部症状が出現し，1～3週遅れて下肢(かし)のしびれや運動麻痺(まひ)が生じ，重症の場合は視力低下・膀胱(ぼうこう)障害をきたす。特にがんこな下肢のしびれは長く残って患者を苦しめることが多く，20%くらいは再発をくり返す。脊髄・末梢神経・視神経の変性がみられるが，炎症性反応はほとんどない。すでに明らかにされている疾患のどれにも一致しない新しい病気であり，細菌性の下痢や胃腸炎に用いられていた防腐殺菌薬であるキノフォルム使用説・ウイルス説などがあるが，真の原因はまだ十分わからず，根本的な治療法も確立されていない。〔岩井　寛〕

すやき【素焼き】⇨陶磁器

スラ［Lucius Cornelius Sulla］(BC138～BC78) 古代ローマの将軍・政治家。貴族の出身。マリウスの武将としてユグルタ戦争・同盟市戦争で名をあげた。しかしミトリダテス戦争の指揮権をめぐりマリウスと対立した。東方でミトリダテス6世を破って帰国後，閥族派を背景にマリウス派を破り，非常時の官職である独裁官となり，貴族政を復活し反対派を弾圧する反動的な恐怖政治を行なった。

スラー［slur］音符の上下につけられる弧線で，音のグループ化のためと，奏法の指示の両方に使われる。前者はフレージングの記号として用いられ，後者はレガートで引くことを示す。

スーラ［Georges Seurat］(1859～1891) 新印象主義(→印象派)を代表するフランスの画家。1878年美術学校でアングル*の弟子(でし)レーマンのもとで2年間学ぶ。モネ*やシスレー*の作品にひかれる。化学者C.ブラン・シュブルール・ヘルムホルツらの色彩に関する科学的な記述を読み，色彩対比や補色の関係を研究する。自己の色彩理論を応用して描いた最初の大作は《水浴》である。その代表作は《グランド-ジャットの日曜の午後》で，完全な分割描法による傑作であり，画面のモニュメンタルな構築性が印象主義への批判を示している。夭折(ようせつ)するまでに《ポーズする女たち》《曲馬》などの大作を残した。〔島田紀夫〕

スライディングスケール［sliding-scale］物価の変動に応じて賃金を増減させること。労働者に安定した実質賃金を保障することを目的として生まれ，通常，労使間の賃金協定に規定されている。一般に広く行なわれているものとしては，生計費指数を尺度として，その上昇に従って賃金を上昇させる生計費指数スライドがある。このほかに，同種産業の利潤指数スライド・販売価格スライドがある。

スライド［slide］幻燈に用いる透明陽画(スライドフィルム)のこと。現在は幻燈のことをスライドとよぶ習慣が普通になっている。幻燈は写真や絵画などを映写幕に拡大投映する光学装置のことで，透過光により投映するものと，不透明な原画や実物を反射光で投映するものとがある。写真の観賞や教育の視覚的な手段として利用される。

スライドはガラスや紙わくにはさんだものと，長巻きのストリップフィルムの2種類がある。サイズはライカ判とライカ½判が一般的だが，6×6cm判も比較的多く利用されている。カラースライドは，リバーサル-カラーフィルム(→カラーフィルム)により直接透明陽画を得られるが，ネガ-カラーフィルムの場合はプリントによって透明陽画をつくらなければならない。黒白の場合も同様にリバーサル-フィルムと，プリントの二つの方法がある。〔大辻清司〕

【スライドプロジェクター】スライド映写機ともいう。光源・集光レンズ・スライド保持部(キャリアー)・映写レンズからなり，構造は引き伸ばし機に類似している。光源は透明ガラスの集光性の高いタングステン電球(映写電球)で，背後の凹面鏡(おうめんきょう)の焦点位置に電球のフィラメントを置く。最近は反射鏡を内蔵した小形の低電圧映写電球や，光質の安定したヨーソ電球を使用するものもある。普通は，スライドを1枚ずつ交換する手動式であるが，連続映写ができる自動式，長巻きのストリップフィルム用などもある。集光レンズには防熱ガラスを使うか，防熱フィルターを組み込み，強制冷却ファンと併用して光源の熱がスライドに達しないようにつくられている。またリモートコントロールスイッチでスライドの交換，ピント合わせができたり，タイマーによって一定時間ごとにスライド交換ができるなど，しだいに自動化が進行している。

スライド映写機の変型にライトスコープ(オーバーヘッド-プロジェクター)がある。本体上面のガラス窓に原稿を置き，その上にある映写レンズ・反射鏡によって投映するもの。不透明原稿の投映や書き込みも可能なので，講演者が資料を聴衆に提示するのに便利な映写機である。〔新川幸信〕

スラウェシ(島) ⇨セレベス島

スラカルタ ［Surakarta］ インドネシア共和国，ジャワ島中部にある都市。人口41万4,000(1971)。別名ソロ。メラピ火山の東，ソロ川の上流に位置し，南西のジョグジャガルタとともに，ジャワの伝統文化を残す古都である。1710年以来スラカルタ土侯国の首都であって，王城(クラトン)が残っている。米・たばこ・コーヒーを産し，ジャワさらさやたばこの取引が盛んである。わが国の歌謡曲《ブンガワン-ソロ》はここを歌ったもの。〔別技篤彦〕

スラグ ⇨鉱滓(こうさい)

スーラージュ ［Pierre Soulages］(1919～) フランスの画家。幼時から時代の芸術的潮流に触れることなく絵を描きはじめる。1938年，パリではじめて現代絵画と出会うが，再び故郷にもどり，ひとり制作に励む。1946年パリに移り，アンデパンダン展に参加，のち舞台装置や衣装にも手を染める。淡い色調を背景に，限られた色彩と強い輪郭線の抽象画で知られる。

スラックス ［slacks］ ふつう婦人のズボン*のことであるが，男性のスポーティーなズボンや軍隊の作業ズボンなどにもいう。素材と形態によりスポーツウエア・仕事着・家庭着はもちろん，イブニングドレスにまで用いるようになり，使用範囲は広い。

スラップスティック-コメディー ［slapstick comedy］ どたばた喜劇のこと。映画では1910年代のアメリカで評判をよんだマック-セネット製作による映画に始まる。パイ投げや追っかけ，多彩なギャグ，フィルムのこま落としや逆回転などのカメラ-トリックを駆使したその方法は，映画史に一時期を画し，喜劇映画の源流となった。ロイド*・キートン*・チャップリン*らの俳優もその中から誕生した。

スラト ［Surat］ インド共和国北西岸，クジャラート州の港市。人口47万2,000(1971)。タプティ川河口に近く，かつては北西部からインドの中心部へ向かう通路の門戸であった。アクバル・シャジャハン帝時代にはムガール帝国の重要な貿易港であったがポルトガル，次いでイギリスに占拠され，1687年までインドにおけるイギリス支配の基地とされていた。19世紀以後は往時ほどの繁栄はみられないが，金銀細工・絹・じゅうたん，その他の工芸品の生産を行なっている。〔別技篤彦〕

スラバヤ ［Surabaya］ インドネシア共和国，ジャワ島北東部にある港市。人口156万(1971)。ジャカルタとともに，ジャワ島の二大都市で，狭いマドラ海峡を隔ててマドラ島と接している。ブランタス川の支流カリマス川が市内を貫流し，市街は，波止場のあるタンジュンペラから南のウォノクロモまで，南北約20kmにわたって細長く延びている。15世紀に建設され，1743年東インド会社に譲られてからはオランダ勢力の東ジャワにおける基地となった。第2次世界大戦前から貿易港として栄え，砂糖・たばこ・コーヒー・木材を輸出していたが，戦後は織物・造船・車両・機械の諸工業が興り，近郊には精油所・製糖工場もつくられ，インドネシアの重要な工業都市の一つとなった。住民はジャワ人・マドラ人のほかに華僑(かきょう)が多い。市の北西には歴史的遺跡に富むグリセがあり，南郊アルジュナ火山のふもとには高原休養地がある。鉄道と道路で島内各地と結んでいる。〔別技篤彦〕



スーラージュ《絵画》1956 パリ近代美術館蔵



スラバヤ 市内の下町の風景。自転車やオートバイは市民の重要な足で，相乗りが目だつ

スラブごは ［スラブ語派］ インド-ヨーロッパ語族に属する語族。中部・東部ヨーロッパ，バルカン半島，中央アジア，シベリアにわたる広い地域で現在2億以上の人人によって話されている。バルト語派と最も似ており，イラン語派とも近く，ゲルマン語派ともかなりの共通点をもっている。ふつう，次の三つのグループに分類される。①東スラブ語：ロシア語・ウクライナ語・白ロシア語。②西スラブ語：ポーランド語・カシューブ語・チェック語・スロバキア語・ソブル-ロウジッツ語。③南スラブ語:セルボ-クロアチア語・ブルガリア語・スロベニア語・マケドニア語。

紀元後の最初の数世紀に共通スラブ語(スラブ祖語)の内部で徐々に方言的分化の過程が始まり，その後さまざまな発達の過程を経て現代スラブ諸語が確立した。特徴として，語形変化が複雑であり，接頭辞・接尾辞などが多く新語の形成が容易であり，また語形変化と派生との関係が密接であるなどがあげられる。〔小野 堅〕

スラブぞく ［スラブ族］ ヨーロッパ東部からロシアにかけて大きな文化圏を形成し，総人口は2億を越える。彼らの原住地はドニエプル川とウィスラ川にはさまれた地で，かつては統一を保っていたが，民族の移動と周辺民族との接触によって，しだいに分立した。すなわち東スラブ(ロシア人・ウクライナ人・白ロシア人*)，西スラブ(チェコ人・スロバキア人・ポーランド人・ソルブ人)，南スラブ(スロベニア人・クロアチア人・セルビア人・ブルガリア人・マケドニア人)がそれである。ゲルマンの地に移住した者は，東アルプス・ボヘミア，エルベ川の地域でドイツ化した。西スラブ族はドナウ川中流に進出，南スラブ族はアドリア海・バルカン半島へ下った。9～10世紀に出現したスラブ人諸国家のうちで大きな役割を演じたのはモラビア帝国でビザンツよりキリロス・メトディオス兄弟を招き，ブルガリア方言を基礎に教会スラブ語をつくらせた。このときのキリール文字*は今日なお，ロシア語・ウクライナ語・ブルガリア語・セルビア語に用いられている。〔田中克彦〕

スラム ［slum］ おもに都市に発生する社会病理*現象の一形態をいう。環境に順応できない貧困階層が施設の劣悪な条件下で不衛生な生活を営み，都市地域の特定の場所に分凝して形成される貧民窟(ひんみんくつ)を意味する。そこでは下層階級の肉体労働者や社会的落伍者(らくごしゃ)が生活を営んでいるため，衛生的側面，道徳的側面，社会関係の側面などで多くの問題点が存在する。①衛生的側面としては老朽化した住宅ないしは仮設の住宅が過密状態にあるうえ，水道や排水などの生活環境施設が不備なために地域は荒廃し，衛生状態は劣悪となる。②道徳的側面ではスラムは犯罪者に隠れ家

を提供し，暴力団や売春婦に根城を与えることになり，風俗・公安の面で問題が多い。③社会的側面についても，たとえば手配師と肉体労働者との関係，仕切り屋とばた屋との関係というぐあいに前近代的な社会関係の残存がみられる。スラムは家族生活・職業生活・生活水準などの偏倚(へんい)状態による住民の生活解体や，構造的かつ機能的偏倚が地域の停滞性として顕在化している。スラムの形態としては一般不良住宅地区・仮小屋密集地区・応急住宅荒廃地区・改良鉄筋住宅荒廃地区・簡易宿泊所街などが，犯罪・売春・賭博(とばく)などの温床になっている。

アメリカにおけるスラム問題はシカゴ学派の学者によって，海外からの移民の一時的な停泊地としてまず把握(はあく)された。移民は勤務先までの交通の便を考慮し，商工業地区とその外部の住宅地区との間に横たわる荒廃した推移地帯に居を構え，これがスラムを形成した。その後移民は社会的地位の向上とともにスラムから脱出し，それに代わって農村から出てきた黒人がスラムのおもな住民となった。現在のスラムは白人地域から隔離された黒人地域の観を呈し，人間生態学でいう分凝現象がみられる。しかしわが国のスラムでは，農村から流入してきた労働者や第2次世界大戦後の引き揚げ者，浮浪者・家出人などさまざまな者が居を構えており，顕著な分凝現象はみられない。アメリカにおける黒人のスラム街としてはニューヨークのハーレムや，ブラック-ベルトなどがある。〔椿　輝男〕

スラローム ⇨回転競技

スラング ⇨俗語

すり【掏摸】 往来や人ごみで，すれ違いざま物を盗(と)る特殊な手口の窃盗犯罪。〈掏摸〉という漢字は中国語に由来し，日本語では関東ではすり，関西ではチボといい，巾着切(きんちゃくきり)・昼鳶(ひるとび)の異名もある。中世にはじまる小賊で，当時は〈ぬき〉といい，すりの語は寛文年間(1661～1671)に起こるとの説もある。関西では指間に刃物をひそませ，たもとなど切って物を抜くのが多い。これに対して関東のすりは，指先の働きだけで抜き，刃物の使用をいやしむふうがあった。手口として古くは〈たもと探し〉〈腰銭はずし〉〈巾着切〉，新しくは〈抜き取り〉〈断ち切り〉〈なす環はずし〉(鎖をはずし時計などとる)がある。江戸時代の刑法ではすりは入れ墨または敲(たたき)，3度までつかまっても入れ墨を入れ直して放たれる。が，10両以上盗んだり，4度すりでつかまると死罪になった。現行法では窃盗罪〈刑法 第235条〉で罰せられる。〔稲垣史生〕

ずり【研】 鉱石とともに採掘される，無価値な岩石や鉱物をいう鉱山特有のことば。石炭鉱山，特に九州東方では〈ぼた〉と称するが，炭鉱の〈ぼた山〉は，このような廃石が積み上げられたものである。



スリナム　首都パラマリボを流れるスリナム川。岸には物売りの舟が止まっている。川岸の家々はいずれも貧しげである

スリコフ [Vasily Ivanovitch Surikov]（1848～1916） ロシアの画家。19世紀末ロシアに興った美術運動〈移動派〉に属する代表的画家のひとり。ロシアの過去の歴史の中に主題を求め，激情的な筆致で幻想的な大画面を制作した。社会主義リアリズムの先駆者として評価されている。

スリット-ドラム [slit drum] 割れ目太鼓ともいう。体鳴楽器の一。かたい丸太に割れ目をくりぬいて，棒でたたくと大きな音がする。リズム型を複雑に変えたり，サイズの違う丸太を並べて旋律的に奏したりする。オセアニア・アフリカに多い。

スリップ [slip] 婦人用の下着*。はだに直接つけず，ブラジャー・ガードル*や他の下着の上に着用し，その名のとおり(スリップはすべるという意)上衣とはだ着との間のすべりをよくし形くずれを防ぐ。はだ着よりも装飾性が強く，すそやえりぐりにレースなどをあしらったものが多い。

スリップス こん虫類・総翅(そうし)目の総称。和名はアザミウマ。体は細長く，扁平(へんぺい)か円筒状，体長は0.5mm内外の微小種から数ミリメートルの種が最も多く，10mmを越える種類は少ない。体色は黄色・黄かっ色・黒かっ色などのものが多い。頭部はほぼ四角形，触角は6～9節，形状は群によって変化に富む。口器は頭部の下面から後方に向かって突出し，それを植物体に差し込んで吸汁(きゅうじゅう)する。脚の跗節(ふせつ)の先端には1～2本のつめのほか1個の包嚢(ほうのう)とよばれる袋状の部分があり，その吸着作用によってどのような部分も自由に歩行することができる。翅(はね)は膜質で2対あり，周縁部にふさ状の長毛を装い，前・後翅はほぼ同形で，前翅の翅脈相は分類上の重要な特徴として用いられる。後翅では翅脈がほとんど退化している。腹部は11節からなり，各環節は互いに環節間膜によって結合されているので伸縮自在である。スリップス類は大きな群で，世界から3,000種以上が知られ，2亜目5科約650属に分類され，日本には2亜目3科に属する約50属100種が知られる。しかし，微小なため研究も不十分で，今後多くの種類が新たに追加されることと思われる。一般に植物体の間隙(かんげき)に生活する習性があり，主として花・穂・葉鞘(ようしょう)下・樹皮下・葉・朽ち木・球根・きのこ類・堆積(たいせき)葉土下などにみられる。また虫こぶをつくるものや鱗翅(りんし)類の幼虫などが巻いた葉の間に生活するものもある。多くの種類は食葉性で，植物の組織に口器で穴をあけて吸汁する。このためイネ・ネギ・チャ・ミカン・タバコ・スイカなど種々の農作物の害虫が少なくない。しかし，食肉性の種類も少数知られており，それらはアカダニ・カイガラムシ類などの体液を吸収する天敵である。移動は一般に跳躍と飛翔(ひしょう)による。静止時は，翅を背面に沿ってほぼ平行に横たえる。多くの種類は有翅であるが，雌雄とも無翅の種や雄のみに有翅と無翅の2型の生ずるもの，有翅・短翅・無翅の3型を生じる種などがある。また多くの種類は両性生殖を行なうが，一部の種は単性生殖を行なう。不完全変態を行なう。日本に産する重要な種類と寄主植物などをあげる。シマアザミウマ(イネ・コムギ・ダイズ・タバコなど)，クロトンアザミウマ(サンゴジュ・カキ・ツツジ)，クワノアザミウマ(クワ)，コスモスアザミウマ(キク科植物)，イネノスリップス(イネ・ムギ・ダイズなど)，ヒラズハナアザミウマ(各種植物の花)，マメハナアザミウマ(おもにマメ科植物の花)。〔鈴木邦雄〕

スリナガル [Srinagar] インド共和国北西部，ジャム-カシミール州の州都。人口29万5,000(1961)。海抜1,600mの盆地にあって，ジェラム川に臨み，市街は川の両岸に並んでいる。気候は温和で風景が美しく，観光地としても世界に知られ，ボドダル・ロクトダルなどの湖水には船上ホテルもある。6世紀以来の歴史をもち，ムガール帝国時代の史跡が多い。特産としてカシミール織・木彫細工などがある。

スリナム [Surinam] 南アメリカ北東岸にあるオランダの植民地で，オランダ領ギアナともいった。西はガイアナ協同共和国，東はフランス領ギアナと接している。面積16万3,000km²。人口39万(1978年推)。首都パラマリボ。1975年，スリナム共和国として独立した。

【自然・住民】熱帯に位置するが，北東貿易風帯にあって暑熱はそれほどきびしくなく，海岸低地と内陸サバナ，奥地の森林高地の三つに分かれる。住民の構成は複雑で，ヨーロッパ人・アフリカ系黒人・インド人・中国人・ジャワ人がほぼ同じ割合で，原住民であるインディオは約5,000にすぎない。

【産業】農業が主産業で，低地でサトウキビ・イネ・コーヒー・くだもの類を栽培する。農業以外にはボーキサイトの産が多く世界的な輸出国になっている。

【歴史】1613年アムステルダムの商人が開発に着手したが，その後イギリスに支配され，1815年オランダ・イギリス間の協定によりオランダ領となった。〔小栗　宏〕

スリーブ［sleeve］洋服のそでのこと。今日のようなはっきりそで山とそでぐりという区別をした別裁ちのそでが現われたのは13世紀ごろで，はじめて立体的なそでの基礎ができた。13世紀以後，時代や流行によりその形態はいろいろに変遷してきたが，18世紀以後，現代のものに非常に近いタイトスリーブ形式が現われた。**〈種類〉**そで布の裁断上から，1枚裁ちのもの(1枚そで)と，上そで・下そでの2枚の布で構成されるもの(2枚そで)などの分類があり，そでたけの長さによりロングスリーブ・ショートスリーブ・スリークォータースリーブ(7分そで)・スリーブレス(そでなし)などの名称がある。また，そでつけやそでの形態によって次のような種類がある。①キモノスリーブ：身ごろからそでが続け裁ちされたもので，その短いものがフレンチスリーブ，②シャツスリーブ：そで山が低いもの，③セットインスリーブ：正常なそでぐり位置についたもの，④タイトスリーブ：腕にぴったり合った細いもの，⑤ドルマンスリーブ：そでぐりの深くゆったりしているもの，⑥パフスリーブ：そで山やそで口をふくらませたもの，⑦ラグランスリーブ：えりぐりからそで下にかけて斜めに切り替えを入れたもの，などである。〔小池千秋〕

ずりょう【受領】遙任*(ようにん)と異なり，実際に任国に下って国務をとる国司*のこと。元来は一国の政務を受領することで，国司の別名であったが，のちには任国の租税収入を受領することから転じて赴任国司の別称となった。律令(りつりょう)政治が衰退し，中央貴族が国司の任をもって確実な収入源とみなすようになった平安中期以降一般化し，中下級貴族が多く任じられて受領層とよばれる階層を形成するに至り，摂関家に対立する院*の支持勢力となり，政権を左右するまでに成長していった。〔黛　弘道〕

スリランカ　⇨セイロン

スリーン［suling］インドネシアの竹製の竪笛(たてぶえ)。指穴は5〜6個。歌口は管の端を削り，そこに輪をはめて細いすきまをつくって穴に通じるようになっている。独奏・二重奏，大編成のガムラン音楽*で旋律性豊かに奏される。



スリーン
武蔵野音楽大学楽器博物館蔵

スル(諸島)［Sulu］フィリピン諸島の中の一諸島で，ミンダナオ島とボルネオ島との間に散在している。総面積2,791km²で，ジョロ島とスル島が大きく，約400の島がある。島々は密林におおわれているが，土壌(どじょう)は肥沃(ひよく)で，米・キャッサバ・ココナツ・果実を産し，主要な都市のジョロから真珠母貝・麻・果実などを輸出する。スル諸島には，サマル諸島やさんご礁の集まりであるパングタラン諸島，マンガンを産するタイタイ諸島も含む。1899年にスルの回教土侯国は，アメリカ合衆国領として認められ，1940年からはフィリピン領に編入された。〔大崎　晃〕

するが【駿河(国)】静岡県の中央部を占める旧国名。駿州(すんしゅう)。東海道に属する。古く珠流河(するが)・廬原(いおはら)の2国造(くにのみやつこ)がいたが，大化改新後駿河国を建て国府を安倍(あべ)郡に置き，志太・益頭(ましず)・有度(うど)・安倍・廬原・富士・駿河の7郡を管した。現在は静岡・清水(しみず)・沼津・御殿場など9市と志太・庵原(いはら)・富士・駿東(すんとう)の4郡に分かれる。国府・国分寺とも今の静岡市。鎌倉時代には武田(たけだ)・北条(ほうじょう)氏，室町時代には今川氏が守護に補せられたが，1560年(永禄3)今川義元(よしもと)が織田信長(のぶなが)に討たれて(→桶狭間(おけはざま)の戦い)衰え，やがて武田信玄*が当国を奪い，次いで1582年(天正10)武田氏滅亡後徳川家康*(いえやす)の領有となった。1590年家康を関東に帰した豊臣秀吉*(とよとみひでよし)は中村氏をここに封じたが，関ケ原の役*後家康は国内に諸大名を分封し，子息頼宣(よりのぶ)に一国を与えた。頼宣の紀伊(きい)(和歌山県)転封後，やがて徳川家光*(いえみつ)の弟忠長(ただなが)が入封したが，1632年(寛永9)除封となり，以後幕領として駿府城代*を置き支配した。1868年(慶応4)徳川家達*(いえさと)が七十万石をもって江戸より移封されたが，まもなく廃藩置県によって静岡県に編入された。〔黛　弘道〕

するがばん【駿河版】徳川家康(いえやす)によって駿河(静岡県)で刊行された書物。徳川家康は駿河に隠退後，開版事業を始め，林羅山(らざん)や金地院崇伝に命じて，文禄(ぶんろく)の役に際して朝鮮から将来した銅活字に不足分を補鋳させ，《大蔵一覧集》(1615)や《群書治要》(1616)などを復刻出版した。この銅活字は紀州徳川家に伝えられ，重要文化財に指定されている。

するがらん【駿河蘭】単子葉植物・ラン科。中国原産の多年草で，わが国では古くから栽培されている。根はひも状で太く，葉を根生する。葉は広線形で長さ30〜60cm，硬質で暗緑色。夏から秋に長い花茎を伸ばし，6〜12花を総状花序につける。花は黄緑色ないし淡黄かっ色で径4〜5cm，芳香がある。花被には紫色の細線があり，唇弁(しんべん)には紫かっ色の斑点(はんてん)があって3裂する。

するがわん【駿河湾】静岡県の前面に深く食い込む湾。伊豆(いず)半島と御前崎(おまえざき)の突出で画され，石廊崎(いろうざき)・御前崎間55kmを湾口とする。湾の中央ほぼ南北に，深さ1,000m以上の駿豆海溝(すんずかいこう)が長さ50km，幅10kmにわたって延び，湾口では深さ2,000mを越える。湾内はイワシ・サバ・アジの好漁場となり，沿岸には焼津(やいづ)・清水(しみず)・御前崎などマグロ・カツオ遠洋漁業の根拠地をはじめ，湾内で沿岸漁業を営む伊豆西海岸の漁村などがある。砂浜湿地海岸の掘り込み港湾である湾奥の田子ノ浦(たごのうら)港を中心として東駿河湾工業地帯が，静岡・三島間に造成されつつある。〔山口恵一郎〕

ズールーぞく【ズールー族】南東アフリカのバンツー語族のうちスワジ族とともにエングニ系を代表する種族。人口200万18〜19世紀に年齢階梯(かいてい)制に基づく軍事国家が〈黒いナポレオン〉とよばれたシャカ王によって築かれ，イギリス植民軍とズールー戦争(1835)を交え，オランダ系のボーア人とも戦ったが敗れた。ズールー王国は地方の父系氏族組織が中央の貴族階層に結びついて，王権を抑制する評議会を構成していた。創造主的な天神信仰と祖先崇拝との伝統的な宗教儀礼を保持している。

スルタン［sultān］イスラム世界における政治的権力者・君主の称号。マホメットなきあとカリフ*がその後継者としてイスラムの最高の権威者になったが，しだいに政治権力を失い，ほかの世俗君主が実権を握りスルタンと称した。トルコのガズニ朝*，イランのブワイ朝，エジプトのファチマ朝がそれである。セルジュク朝*のトゥグリル-ベクに至ってイスラム領全土の最高世俗権威者となった。オスマン-トルコ帝国ではスルタンがカリフを兼ねるようになって，スルタン-カリフ制度ができ，1924年まで存続した。〔小谷仲男〕

ズルチン［dulcin］$C_2H_5O\text{-}C_6H_4\text{-}NHCONH_2$ p-エトキシフェニル尿素，シュクロールなどともいう。p-フェネチジンをホスゲン，次いでアンモニア水で処理するか，フェナセチンを塩酸で加水分解し尿素と縮合させて簡単につくられる。無色の針状結晶，融点171〜172℃。ショ糖*の280倍の甘味をもち，人工甘味料*として使われたが，サッカリンに比べ毒性が強く，今日では使用は禁止されている。

スルーティ［sruti］インド音楽の理論用語。人間の耳で判別できる最小の音程という意味で使うこともあるし，単に音高(ピッチ)という意味でも使う。音程の場合，前後関係に応じて20〜90セント(→セント



スルバラン
《壺》
ルーブル美術館蔵

算法)の幅をもっている。

スルナイ [surnay] 複簧(ふくこう)(ダブルリード)の気鳴楽器。円錐(えんすい)形の管をもつ。イスラム圏一帯に広く使われており，名称は他にズルナ・ザムル・ガイタなど。結婚式のはなやかな音楽の中心的な楽器。チャルメラ*もこの系統の楽器である。

スルバラン [Francisco de Zurbarán] (1598～1664) スペインの画家。スペイン西南部フェンテ-デ-カントスの生まれ。早くからセビリアに出て修業した。聖者・修道士の単一像を多く描く。単純な形態と静謐(せいひつ)な構図による作風は，今世紀にはいってから，キュービスム*やシュルレアリスム*の画家などの注目するところとなった。

スルファミンざい 【スルファミン剤】 ⇨サルファ剤

スルホンさん 【スルホン酸】 炭化水素の水素原子がスルホン酸基($-SO_3H$)で置換された化合物の総称。メタンスルホン酸CH_3SO_3H，ベンゼンスルホン酸$C_6H_5SO_3H$が代表的なものである。芳香族スルホン酸は一般に白色の結晶で，低級の脂肪族スルホン酸は粘度の高い液体である。いずれも吸湿性が強く，結晶状のものは潮解性がある。芳香族スルホン酸のスルホン酸基は水酸基・ニトロ基・アミノ基・ハロゲンなどと置換しうるので，これらの置換誘導体の合成中間体として重要であり，特に染料の中間体として重要である。さらに，アルキルアリールスルホン酸塩や炭素数14～22のメタン系炭化水素のスルホン酸誘導体は界面活性剤・洗剤として大量に製造されている。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

するめ 【鯣】 イカを原料とした素干しの一種。イカの胴を開き，水洗後乾燥したもので，原料イカの種類や製法によって，いろいろな名がつけられている。ケンサキイカを原料とする〈一番するめ〉，スルメイカを原料とする〈二番するめ〉，原料イカの皮やひれを除いた〈みがきするめ〉などがあり，一番するめのうちの〈みがき上々番〉といわれるものはするめ中最上のものである。このほか，甲をつけたままつくる〈甲付けするめ〉，胴を裏返して乾燥した〈袋するめ〉，また二番するめの胴を横に伸ばし丸くした〈おたふくするめ〉〈丸形するめ〉などとよばれるものもある。

そのまま焼いて食べたり，水でもどしてかずのこに加えたり，油で揚げたりして家庭で消費される。このほか〈のしいか〉〈刻みするめ〉などの原料となり，最近この種の製品の種類がきわめて多くなっている。

〔佐藤友太郎〕

するめいか 【鯣烏賊】 軟体動物・頭足類・スルメイカ科。外套(がいとう)(俗にいう胴)は細長い円筒形で，先にいくにしたがい細まり，先端に頂角がほぼ直角に近いひし形のひれ(俗にいう耳)がつく。ひれの長さは外套のほぼ3分の1。触腕(他の腕より長い1対の腕)には3～4列，他の8本の腕には2列の吸盤が並ぶ。外套長30cm，外套幅7.5cm，触腕長20cmほどになる。背部は濃い赤かっ色であるが，死後しだいに褪色(たいしょく)する。幼期には胴が短くてひれが丸く，リンコトイチス期とよばれる。スルメイカはヤリイカ・ケンサキイカと異なって，眼の角膜が開いて直接水に接しており，薄膜でおおわれていない。千島・サハリン(樺太(からふと))・沿海州・朝鮮・沖縄の沿岸にも産するが，主産地は北海道から九州に至る沿岸で，岸から40～50km以内を群れをなして回遊する。昼間は100mほどの深所を泳ぎ，夜間は約50mの浅所に移動する。魚類・甲殻(こうかく)類などを食す。寿命は1年と考えられている。日本産のイカ・タコ類のうち，他種をはるかに引き離して最も多量に水揚げされる重要なイカであり，年間数十万トン(1970年度41万2,240t)に達する。北海道・青森・三陸沖・佐渡・能登(のと)・隠岐(おき)・五島が主要産地で，擬餌(ぎじ)を用いて，夜間浮上してきたところを強力な燈火で誘い寄せてつり上げる。外套を開いて，素干しにしたものが普通品のスルメ(二番するめといい，一番するめはケンサキイカからつくられる)である。〔菅野 徹〕

スレイマン(山脈) [Sulaiman] 西パキスタンの北西部にあり，ヒンズークシ山脈の南に位置する。最高峰はタフチ--スライマン山(ソロモンの王座の意，3,440m)で，山脈の東側は急傾斜であるが西側はゆるやかである。雨量は少なく，住民も少ない。

スレイマン(1世) [Süleyman I] (1494？～1566) オスマン-トルコ帝国の第10代スルタン*。在位，1520～1566年。その治世のころ帝国は最も繁栄し，領土はヨーロッパではウィーンの近くまで迫り，アフリカではアルジェリアにまで及び，東はアラビア・シリアを制圧した。文化も爛熟(らんじゅく)し，首都のみならず地方にも及んだ。また彼はオスマン-トルコ帝国に存在したイスラム法以外の諸法を集成してカヌーン-ナーメを編纂(へんさん)したことにより，〈立法者(カヌーニ)〉の称が与えられている。

スレーキ 英語スリーク(〈なめらかな〉の意)の転訛(てんか)で，表面を平滑に仕上げた綾(あや)織物のこと。綿・レーヨン・合成繊維などでつくられる。無地・縞(しま)・格子(こうし)などにのりつけをして平らに仕上げる。洋服の裏地として広く用いられる。

スレーター [John Clarke Slater] (1900～) アメリカの理論物理学者。ケンブリッジ・コペンハーゲンの両大学に学ぶ。1926年ハーバード大学助教授，1930年マサチューセッツ工科大学教授となる。物性論を主とする広い領域にわたってすぐれた業績をあげた。原子・分子の量子理論，金属・半導体に関する固体量子論，強誘電体論，電子工学などがそれである。1951～1954年には国際物理学連合の副会長をつとめた。《化学物理学》《電磁気学》《物質の量子論》などの著書はすぐれた教科書として広く用いられている。〔藤村 淳〕

スレート [slate] 粘板岩*のこと。石盤ともいう。粘土が圧力を受けてデイバン岩(ケツ岩)となり，さらに圧力を受け変質して粘板岩となる。黒色で材質は緻密(ちみつ)，吸水性が小さく，耐久・耐火性にすぐれる。薄板状に剝離(はくり)するので古くから天然スレートとよばれ，屋根ぶき材に用いられたが，外壁や腰板・敷き石にも利用される。屋根ぶき材としてはかわらに比べ熱伝導率が大きいので，寒暑のくり返しで割れたりする。また，石材であるので，本質的に曲げに弱くかつ重いなど，石綿スレートに劣る点も多い。屋根のふき方はスレートの形状によりうろこ形・ひし形・亀甲(きっこう)形などがある。日本では，宮城県登米(とよま)町から産するものが登米石とよばれ有名である。〔難波蓮太郎〕

スレンせんりょう 【スレン染料】 ⇨建て染め染料

スレンテム [slentem] ガムラン音楽*で用いられる薄い金属片を調律してひもでつるして並べた楽器。共鳴筒がそれぞれの音のために設けられている。音域は約1オクターブで，音量は小さいが，柔和な持続的な音を出すので，合奏の主旋律を担当する。

スレンドロ [slendro] インドネシア音楽でペロッグ*と並んで代表的な音階。5等分音階といわれることもあるが，実際には半音より広く全音より狭い音程が少しず

つ異なる幅で並んでいる。ジャワでは神から人間に与えられた音階として神聖視されている。

ズロース　英語ドロワーズの転訛(てんか)で，もとは男女ともに用いたズボンふうのゆったりした下ばき。17世紀のイタリアにおいて男性用のものを婦人が使用しはじめた。当時は麻や絹を用い，ししゅうなどで飾られた装飾性に富むものであった。一般化されたのは18世紀末といわれる。わが国でも洋装の一般化に伴って普及したが，現在では女児に用いられる程度である。

スロバキア［Slovakia］　チェコスロバキア東部の地方名。面積49,000km²，人口443万2,000(1967)。北はポーランド，南はハンガリー，西はオーストリアに接し，北西は白カルパート山脈を隔てて，モラビアと対している。東西に走るカルパート山脈の南斜面が領域の多くを占め，ドナウ川の上流部にあたる。中央部には森林が多く，西部のブラチスラバ(人口27万7,000,1967)と東部のコシツエ(人口11万2,000)を中心とする二つの平野は農業が盛んで，人口が集中している。5～6世紀ごろにスロバック人がここに定着し，9世紀にはモラビア帝国に併合され，さらに906年から1918年まではハンガリー王国の支配下にあった。第1次世界大戦後，チェック人とともにチェコスロバキア共和国を建設し，第2次世界大戦後は東部のルテニア地方をソ連に割譲した。長くハンガリーの支配を受けたのと，南部にハンガリー人が多いため，ハンガリーとの関係が密接である。〔梶川勇作〕

スロベニア［Slovenia］　ユーゴスラビア連邦を構成する六つの共和国の一。面積2万km²，人口161万9,000(1965)。首都リュブリャナ。同国の北西端に位置し，西はイタリア，北はオーストリア，北東はハンガリーに接する。一般に山がちで森林が地域の40％を占め，これにドナウ川支流のサーバ川とドラバ川が流れている。住民の65％が，地域面積の20％にすぎない耕地で農業を営み，主作物のジャガイモなどを栽培している。西部のジューリアルプスでは酪農が盛んで，鉱産では石炭・鉛・水銀を産する。6世紀にスロベニア人が居住し，748年フランク王国の支配を受け，14世紀から1918年まではハプスブルク家の領土であった。1918年のユーゴスラビアの建国に伴い大部分がドラビスカ州となり，1946年現在の自治共和国となった。道路や鉄道はよく発達しているが，都市はリュブリャナのほかはマリボル・ツェリェぐらいしかない。

〔梶川勇作〕

スローモーションさつえい［スローモーション撮影］　映画撮影用語。対象の緩慢な動きを得るためにカメラの回転速度をあげて撮影することで，高速度撮影ともいう。映画はふつう1秒間に24こまの速度で撮影するが，48こまから120こま程度で撮影，



ズワイガニ

そのフィルムを通常回転の映写機にかければ，対象の動きはゆるやかになって詳細に観察できる。今日では高速度専用カメラの発達で，1秒間に2万こままでの撮影も可能。ロケット発射時などの短時間の科学的実験や，スポーツ競技など人体の動きの分析には，不可欠の撮影方法となっている。

〔波多野哲朗〕

すわ【諏訪(市)】　長野県中央部の市。人口51,000。中心地区であるもとの上諏訪町は，江戸時代に諏訪氏二万八千石の居城であった高島城の城下町で，また甲州街道と中山道(なかせんどう)の交点にあたる宿場町・温泉町としてにぎわった。1871年(明治4)県下最初の洋式機械製糸場が創立され，製糸の町として栄えた。1937年(昭和12)市制施行。市域は諏訪盆地の北部，諏訪湖北東岸に位置し，東部は霧ケ峰の断層崖(だんそうがい)にくぎられ，西部は湖岸および諏訪盆地の沖積地(ちゅうせきち)に及ぶ。諏訪盆地の中心都市で，市街地ははじめ南東部にあったが，1905年中央本線の開通以来，東部の上諏訪駅周辺に移った。産業三大別人口比は8：46：46。信州みその産額が多いが，第2次世界大戦後は時計・写真機・オルゴールなどの近代工業が発達し，湖南には精密工業団地が形成されている。中央本線・国道20号線に沿い，市域内に上諏訪温泉があり，北接する下諏訪町の下諏訪温泉とともに長野県一といわれる諏訪温泉郷を形成する。諏訪湖をはじめ，霧ケ峰・白樺湖(しらかばこ)・蓼科(たてしな)高原などの行楽地を付近にもち，上信越高原国立公園の観光基地となる。諏訪神社の御柱祭が名高い。〔浅井得一〕

ずわいがに【ずわい蟹】　甲殻(こうかく)類・クモガニ科。マツバガニ・エチゼンガニともいう。甲は丸みのある三角形で，背面にこぶ状の突起がある。脚は細長く，はさみも細長い。幼期を除き，甲にも脚にも毛がない。雄は，甲長13cm，甲幅15cmほどになるが，雌は著しく小形で，甲長7cm，甲幅8cmほどにしかならず，コウバクガニとかセイコガニとよばれ，誤って別種と思われていることも多い。全体，黒みがかった赤かっ色。北方性のカニで，ベーリング海・アラスカ・北アメリカ沿岸から，日本海では朝鮮海峡まで，太平洋岸では銚子(ちょうし)沖までに分布し，深海性であるが，冬は産卵のために比較的浅いところにくる。新潟・富山・石川・福井・鳥取県などが有名な産地で，肉は美味であり，裏日本の冬の名物。主として雄の脚の肉を賞味するが，雌の卵も美味で珍重される。産地では水揚げ後すぐにゆであげ，遠い消費地には雄の脚だけを束ねて出荷している。〔菅野　徹〕

すわこ【諏訪湖】　長野県中央部にある湖で，面積14.2km²，水面高度759m，水深7.6m。糸魚川(いといがわ)－静岡構造線に沿う諏訪盆地西北部の低地に水をたたえたもの。東岸に温泉列があり，湖中にも温泉のわく箇所がある。北部に砥(と)川，南部に六斗川・宮川が注ぎ，水は西北隅(ぐう)から流出して天龍(てんりゅう)川となる。山の湖は一般に栄養分に乏しく水産物も貧弱であるが，この湖は富栄養湖でコイ・フナ・エビ・シジミなどの魚介類に恵まれ，面積あたりの漁獲高はきわめて大きい。冬季はふつう結氷し，わが国のスケート競技発祥の地として知られる。なお，厳寒には湖面の中央部を横ぎって数条の氷の盛り上がりができる。これを御神渡(おみわたり)といい，これによって古くからその年の農作物の豊凶が占われた。湖畔に岡谷(おかや)市・下諏訪町・諏訪市がある。〔長津一郎〕

すわし【諏訪氏】　信濃(しなの)(長野県)諏訪地方の豪族。諏訪大社の大祝(おおはふり)。出自は不明。源平時代に盛重(もりしげ)が源頼朝(よりとも)に従って幕府御家人となり，諏訪氏を称した。1335年(建武2)弘重(ひろしげ)の弟，頼重は北条(ほうじょう)時行を奉じて中先代の乱を起こしたが，足利尊氏(あしかがたかう



諏訪湖
上空から南東方を望む。眼下の市街地は諏訪市で，遠景左のスロープは八ケ岳の山麓。湖水は最近汚染して藻の発生がおびただしい

じ)に敗れた。戦国時代には武田(たけだ)氏と抗争をくり返し，1542年(天文11)頼重が武田晴信(はるのぶ)(信玄)に謀殺されて一時断絶したが，頼重の叔父(おじ)満隣(みつちか)の子頼忠(よりただ)が復興し，1583年(天正11)徳川家康(いえやす)に本領を安堵(あんど)された。その子頼水は諏訪郡高島城主となり，その後子孫が受け継いで明治に至った。版籍奉還後は子爵を授けられた。〔村尾元忠〕

スワジぞく【スワジ族】ズールー族とともに南東アフリカのバンツー語族エングニ系を代表する農牧民で，かつて強大な王国を誇った。その後，南アフリカ共和国内のイギリス保護領スワジランドとなり，1968年9月独立した。人口55万。

スワジランド［Swaziland］アフリカ大陸の南部にある王国で，イギリス連邦に属する。南アフリカ共和国の北東部に，同国にほとんど取り囲まれた形で位置している。面積17,363km²，人口55万(1978年推)。主都ムババネ。1907年以来，独立以前のバストランド(現レソト)とともにイギリスの保護領となり，南アフリカ共和国と経済・交通など密接な結びつきをもった。19世紀にズールー族は，現在の南アフリカ共和国の北部地方で勢力を振い，またケープ植民地から北上したオランダ開拓民もオレンジ自由国やトランスバール共和国を起こして周辺の原住民を圧迫していたため，スワジ族はイギリス領南アフリカとの併合を条件としてイギリスの保護下にはいった。しかし第2次世界大戦後は，南アフリカ共和国のアパルトヘイト(人種差別政策)を恐れて独立運動を起こし，1968年に立憲君主国として独立した。国土は小さく物産には恵まれないが，ワタ・タバコなどを栽培し，石綿・重晶石・石炭などの鉱産物を輸出する。〔小栗 宏〕

すわたいしゃ【諏訪大社】上下2社あり，上社は長野県諏訪市に，下社は諏訪郡下諏訪町にある。祭神は健御名方神(たけみなかたのかみ)と八坂刀売神(やさかとめのかみ)。天祖アマテラスオオミカミが葦原中国(あしはらのなかつくに)を平定しようとして，タケミカズチノカミを出雲(いずも)(島根県)のオオクニヌシノカミのもとにつかわし，その領地を献ぜしめようとしたとき，オオクニヌシノカミとその長子コトシロヌシノカミはすぐに応じたが，次子タケミナカタノカミはひとり服せず，タケミカズチノカミに追われてこの地に至り，ついに降伏して永住することを誓ったという。当社の起源である。以来，武神・農耕神・狩猟神として信仰を集めてきた。上社は前宮・本宮からなり，本宮は社殿をもたず森林を神霊として祭っている。例祭は4月15日の御頭祭。下社は春宮・秋宮の2宮からなり，2月1日と8月1日にそれぞれ遷座祭(御船祭)が行なわれる。御手洗(みたらし)川のカエルを牲(いけにえ)として供える元旦の蛙狩(かえるがり)神事，その年の五穀の豊凶を占う1月15日の筒粥(つつがゆ)神事などの特殊神事のほか，神域の四隅の柱を建て替える御柱祭(おんばしらまつり)は日本三奇祭の一つとされている。〔佐野文哉〕



スワジランドの国旗 1968年制定。青は平和，黄は豊かな天然資源，赤は独立に至る闘争の歴史を表わし，やり・楯・王笏からなる紋章は国王の権威のシンボルである



諏訪大社 上社の本宮拝殿



諏訪盆地 南方上空から見た諏訪盆地。湖岸の右手前は諏訪市で，湖対岸の下諏訪町・岡谷市へと続く

スワップきょうてい【スワップ協定】関係2か国の中央銀行が，一定額の自国通貨を一定期間相互に預け合うことを取り決める協定。この協定は，1959年，アメリカのニューヨーク連邦準備銀行が西ドイツのブンデスバンクとの間に締結したのが最初である。本来，スワップ協定はドル不安発生後，為替(かわせ)市場においてドル相場の安定を維持することを目的として締結されたものであるが，それのみならず各国の国際収支危機に際しても利用されており，国際金融協力の一方式として重要な役割を演じている。〔安井孝治〕

スワデーシ-スワラージ［Swadesi Swaraji］イギリス統治下のインドにおいて唱導された民族解放運動の二つの目標。〈スワデーシ〉はイギリス製品を排斥し，国産品を愛用して自国の産業を高めようとするものであり，〈スワラージ〉はインドの自治あるいは独立を意味する。第1次世界大戦後はガンジーらのすぐれた指導者を得，この運動はインド全体に広がった。インドの独立は第2次世界大戦後の1947年に至ってようやく達成されている。〔小谷仲男〕

スワトウ【汕頭】中国，広東(カントン)省東部の港市。韓江(かんこう)の三角州上にあり，韓江流域の農産物を集散する華南の重要な商港として有名。おもに砂糖・ミカン・麻・茶・桐油(とうゆ)などを輸出し，輸入品には毛織物・雑貨などが多い。商工業が盛んで，かんづめ・たばこ・精米・製粉・造船・機械・スズ器などの工業が行なわれ，レース・ししゅうなどの伝統工芸も盛んである。厦門(アモイ)とともに華僑(かきょう)の送出地としても知られる。かつては一寒村にすぎなかったが，1858年の天津(てんしん)条約によって潮安の外港として開くことが決められ，1860年に開港した。現在の港湾は1920年に建設されたものである。〔船越昭生〕

スワニー(川)［Suwanee］アメリカ合衆国南東部，ジョージア州南東部のオケフェノーキ湿地に発し，南流してフロリダ州北部を通り，メキシコ湾に注ぐ。全長約400km。上流と下流は湿地帯で，中流が綿作などの農耕地として開けるだけで，流域には都市もなく，産業的には見るべきものがない。下流の200kmは航行可能である。フォスターの曲《スワニー川》で名高い。

スワヒリご【スワヒリ語】東アフリカ中部の重要な共通語・商用語。ケニアとタンザニアを中心に，北はソマリアの南部から南はポルトガル領モザンビークに及ぶ地域とその周辺の島々，内部ではウガンダやコンゴ共和国の一部を含む約2,000万の人人に用いられる。数種の方言があるが，ザンジバルのものが標準語とされる。言語の構造はバンツー語族固有のものであるが，紀元60年ごろから移住してきたアラビア人やイスラム文化の影響を受けて，アラビア語からの借用語が多い。名詞は10種余りの種類に分かれ，それぞれ特有の接頭辞をもち，それを修飾する形容詞や，それを受ける動詞にも同種の接頭辞がついて，呼応することが大きな特徴である。➔アフリカ諸語〔五島忠久〕

すわぼんち【諏訪盆地】諏訪平ともい

う。長野県中央部にあり，南西は釜無(かまなし)山脈の延長にあたる山々の断層崖(だんそうがい)，北東は霧ケ峰・蓼科(たてしな)山(2,530m)・八ケ岳(2,899m)などの火山群にはさまれた北西から南東に延びる南北約15km，東西約5kmの細長い盆地で，松本盆地と同じくフォッサ-マグナ*にできたものである。北部に湖面標高759m，水深7.6mの諏訪湖*があり，南から六斗川・宮川，北からは砥(と)川・横河(よこかわ)川などが流入し，湖の北西からは天龍(てんりゅう)川が流出している。気候は内陸性気候を呈し，年間の晴天日数が多く，冬は雪が少ないが寒さがきびしく，諏訪湖は全面結氷する。盆地床の沖積地(ちゅうせきち)はおもに水田になっており，山麓部(さんろくぶ)では高原野菜の栽培が行なわれる。盆地北部の和田峠付近には黒曜石があって，石器時代に矢じりの原石として掘り出され，南部には縄文(じょうもん)中期の尖石(とがりいし)の遺跡もあり，古くから人類が居住していたことを物語っている。近世には中山道(なかせんどう)と甲州街道の合流点であった。盆地の北から南へ中央本線沿いに岡谷(おかや)市・下諏訪町・諏訪市・茅野(ちの)市が並び，かつては製糸工業が盛んであったが，現在は精密機械工業がこれに代わり，〈東洋のスイス〉ともいわれている。諏訪市から下諏訪町にかけての湖岸には温泉が湧出(ゆうしゅつ)し，また，蓼科山や八ケ岳の西麓の高原は避暑地や保養地として開発されている。
〔味沢成吉〕

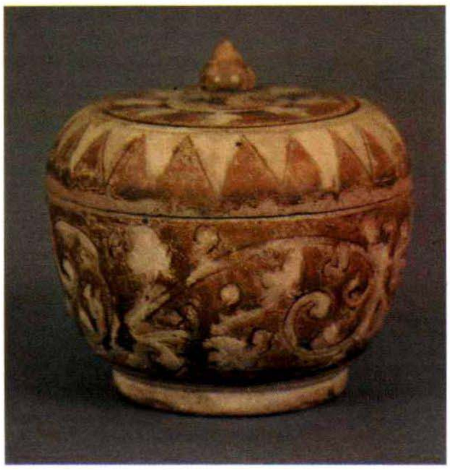
スワンメルダム ［Jan Swammerdam］(1637〜1680) オランダの生物学者。アムステルダムに生まれ，ライデン大学に学ぶ。微細解剖を行ない，ミツバチ・シラミなどについて詳細な記録を残している。また，チョウの変態を観察し，チョウはさなぎの中に，さなぎは幼虫の中に，幼虫は卵の中に，すでに完成された形でできあがっていると考え，発生学における前成説*を主唱した。

すん 【寸】 尺貫法の長さの単位。尺の1/10。かね尺と鯨尺の2種類があり，かね尺の1寸は3.0303cm，鯨尺の1寸はかね尺の1寸の1.25倍にあたり，3.7878cm。

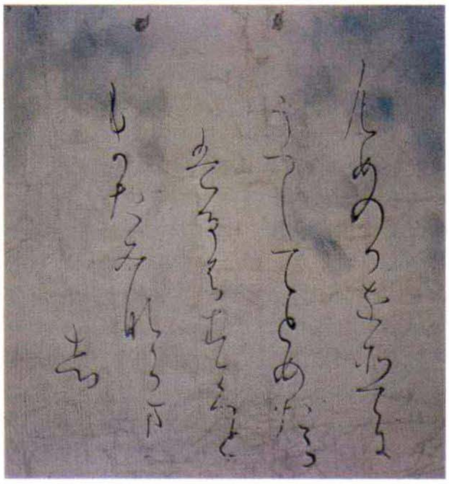
スンガリ(川) ⇒松花江

すんころく 【宋胡録】 タイの窯芸。メナム川の中流域に所在するスワンカローク窯・ソユタイ窯・カロン窯などで焼かれ，代表的なスワンカローク窯がなまって，わが国で宋胡録とよばれるに至ったという。起源は判然としていないが，8世紀にさかのぼるという説もあり，13〜15世紀にすぐれた製品がある。作風は大別し，①中国宋(そう)代の影響を受けた青磁，②鉄質のかっ色釉(ゆう)がかかった製品，③いわゆる宋胡録といわれる遺例の最も多い，白地鉄絵文様の合子，④素焼きの日常雑器などである。
〔矢部良明〕

すんしょうあんしきし 【寸松庵色紙】



宋胡録 《鉄絵草文水指》 東京国立博物館蔵



寸松庵色紙 伝紀貫之筆 草花の図様のある青色の唐紙に《古今集》巻1の〈むめのかをそでにうつしてとめたらばはるはすぐともかたみならまし〉を散らし書きにしている

もとは《古今和歌集*》の四季の歌を書写した冊子本。近世の初め茶人の佐久間将監真勝(さくましょうげんさねかつ)が愛蔵していたので，その茶室の名にちなんで〈寸松庵色紙〉という。料紙は唐紙(からかみ)，用筆は巧妙で変化に富み，散らし書きがみごとである。筆者は紀貫之*(きのつらゆき)ともいわれているが，書写年代は11世紀の末である。伝小野道風筆〈継(つぎ)色紙〉，伝藤原行成筆〈升(ます)色紙〉とともに三色紙といわれている。〔春名好重〕

スンダ(列島) ［Sunda, Soenda］ マライ諸島にある列島で，東西二つに分かれている。西方の大スンダ列島は，スマトラ・ボルネオ・セレベス・ジャワの各島とその周辺の小島，東方の小スンダ列島は，バリ島から東に延び，チモル島に至るまでの列島からなる。土地は肥沃(ひよく)で，サトウキビをはじめ各種の熱帯性作物の原生地といわれる。アジア・オーストラリア両大陸間にまたがる火山帯の活動がこの諸島の成因であり，現在も火山活動は活発である。
〔大崎 晃〕

スンダ(海峡) ［Sunda］ 東南アジア，スマトラ島とジャワ島との間の海峡。幅22〜25kmで海底が浅く，ジャワ海からインド洋への通路にあたる。中ほどにある火山島のクラカタウ島*は激しい噴火活動をくり返し，島が四散して残片の島群となったり，新しい活動で1島になったりする変化をくり返してきた。

すんだいざつわ 【駿台雑話】 室鳩巣*(むろきゅうそう)著の随筆。5巻。1750年(寛延3)刊。〈直諌(ちょっかん)は一番鑓(やり)より難し〉〈月は代々の形見〉など64話を内容に従って仁義礼智(ち)信の五常に分類して各巻の名とした随筆。将軍徳川吉宗(よしむね)に重用された朱子学者鳩巣が，名僧の言行や世俗の見聞に事寄せて道徳を正し，学問を奨励せんとして筆をとったもの。

スンニーは 【スンニー派】 イスラム教の正統派。スンナ(慣習の意。イスラム教の術語としてはマホメットの言行)に従う人の意で，スンナ派ともいう。一般にはシーア派*に対する術語として用いられ，全イスラム教徒の9割を占める。マホメットの信仰に近からんと欲する彼らの情熱は，一方では法大系を《コーラン*》や《ハディース*》に基づくイスラム的規範の上に樹立しようとする法学として結実し，もう一方ではムータジラ派*やスーフィズム*に対する闘争として現われ，正統派思弁神学を生んだ。スンニー派の代表的な法学派としては四大学派(ハナフィー派・マーリキ派・シャーフィーイ派・ハンバリー派)があり，代表的な神学者としては，アル-アシュアリー*・アル-ガザーリー*があげられる。〔牧野信也〕

スンバワ(島) ［Sumbawa, Soembawa］ マライ諸島の小スンダ列島にある島で，ロンボク島の東，フロレス海の西にある。インドネシア領で面積14,688km²。海岸線は複雑に入り組み，北部にあるビマ湾は良港である。山がちの島でトンボラ山(2,851m)は1815年までは海抜3,962mであったが，噴火で頂上が吹き飛んだ。米とチーク材を産する。主要都市ラバ。

すんぷ 【駿府】 駿河*(するが)の国府の所在地で，中世は府中といい，近世は駿府といった。現在の静岡市。南北朝時代から戦国時代にかけて守護今川氏の居地として繁栄したが，今川氏滅亡後は武田(たけだ)氏がはいり，武田氏滅亡後は徳川氏が領し，1586年(天正14)家康(いえやす)は駿府城を築き，1605年(慶長10)家康は将軍職を秀忠(ひでただ)に譲り，この地に引退して大御所として政務の実権を握った。その死後，徳川頼宣(よりのぶ)・徳川忠長が城主となったが，忠長の除封後は幕府の直轄地として駿府城代が置かれ，駿府町奉行(ぶぎょう)が民政を行なった。1651年(慶安4)の由井(ゆい)正雪*の事件では謀議の本拠地となった。1868年(明治1)徳川家達(いえさと)が江戸より移り，翌年静岡と改称した。
〔岡山泰四〕

せ

せ 【世】 地質時代の区分単位の一。動物の細かい分類単位に注目して動物の進化の時期を境に，紀*をいくつかの世に分ける。地質系統の区分の統*が対応する。

せ 【畝】 尺貫法の面積の単位。30歩(ぶ)に相当し，99.174 m^2(約1アール)にあたる。

セー ［Jean Baptiste Say］ (1767～1832) フランスの古典派経済学者。ヨーロッパ大陸でA.スミス*の主要な使徒として活躍。〈供給はそれみずから需要をつくりだす〉という販路法則はセーの法則*として知られる。マルクスは早くからセーの法則を批判したが，のちにケインズはセーの法則を批判することによって有効需要*原理に基づく経済学体系を樹立した。主著として《経済学》(1828～1829)がある。

ぜあみ 【世阿弥】 (1363～1443) 室町時代前期の能役者・謡曲作者・能芸論著者。大和猿楽(やまとさるがく)観世座の2代大夫(たゆう)。生年は翌年とする説もあり，没年は正確には不明。幼名藤若，長じて三郎元清，通称(芸名)世阿弥陀仏(ぜあみだぶつ)(世阿弥はその略称)。父は観世座の創始者観阿弥*。足利義満*(あしかがよしみつ)に愛されてその庇護(ひご)を受け，近江(おうみ)猿楽や田楽など諸芸能の長所を取り入れ，能芸を優雅なものに仕立て上げるなど，大和猿楽の芸能完成に努力した。これは世阿弥の名声を保つ一方，今日の能の原型を形造ったものともいえるだろう。1408年(応永15)の義満の死去を機に，彼の境遇は安定さを欠き，晩年は足利義教*(よしのり)にうとんぜられ，1434年(永享6)には佐渡(さど)に流されるなど，恵まれたものではなかった。彼の業績は多岐にわたるが，特に能芸の理論的あとづけをした論書の著作(風姿花伝*・至花道・花鏡*・三道など約20部)と能作(おもな作品は《高砂*(たかさご)》《老松(おいまつ)》《実盛(さねもり)》《忠度(ただのり)》《井筒*》《檜垣(ひがき)》《砧*(きぬた)》《班女*(はんじょ)》《融(とおる)》など)とは他のなんぴとの追随も許さぬものがある。 〔片桐 登〕

ぜあみじゅうろくぶしゅう 【世阿弥十六部集】 1909年(明治42)，吉田東伍(とうご)によって集成刊行された世阿弥*の能楽論集。風姿花伝*(第5まで)・同別紙口伝・五音曲条々・花鏡*(首部欠)・九位・遊楽習道風見・至花道・二曲三体人形図・三道・曲付次第・風曲集・習道書・申楽(さるがく)談儀*・夢跡一紙・却来華・金島書の16部を所収する。能の近代的研究の出発点となった記念すべき書物である。

せい 【性】 同一種の生物に雌雄の区別があること。性が存在するときは，雌雄の個体から生殖に役だつ細胞すなわち配偶子がつくられるが，雌と雄の配偶子は異質であり，有性生殖とよばれる生殖方法を行なう。高等な生物になるほど，外部に現われる形質が雌雄の別によって異なり，このような性の特徴を性徴とよぶ。高等な動物では性徴をさらに分けて，生殖巣そのものの区別を第一次性徴，生殖巣の付属管・付属腺(ふぞくせん)・外部生殖器の構造を含めて第一次または第二次性徴，いわゆるからだつきの大小や骨格，皮膚に付属するものなどを第二次または第三次性徴，繁殖時などにみられる行動・心理・風俗・習慣・言語などを第三次または第四次性徴といい，いろいろの点で性の区別をみることができる。一方，細菌・ウイルス・単細胞生物などの微生物では個体内に性の区別ははっきりみられないが，細胞体が融合したり核質が融合したりして生殖が行なわれる。これは一種の性現象であって，原始的な性と考えられる。したがって性とは生物の全体にわたり，体制の単純・複雑を問わず，遺伝を調節する核質または細胞質が交換と融合で新たな遺伝質をもった個体をつくる過程と考えることができる。そのような過程で細胞または個体がもついろいろな形質・機能や構造上の差異が雌雄性とよばれる。雌雄の配偶子が別々の個体でつくられる雌雄異体の種類で，雌または雄の運命が決まることを〈性の決定〉という。この決まり方にはいくつかあるが，多くの動物では性染色体による方法がみられる。1891年にヘンキングはこん虫のホシカメムシで特別な染色体を認めているが，その後10年たってマックラングはこの1対の染色体によって性が決定されることを確かめ，性染色体と名づけた。さらに性染色体によって性が決定される様式にも4型があることもわかっている。性決定は，性染色体のどのような働きで雌雄の性に分化するかについては，なにか雌雄性を現わす物質の存在が考えられ，いろいろな研究が行なわれている。環形動物の一種でイムシ類に属するボネリムシの幼生は，性が未分化で，自由生活を続けると海底にうずまって体長2cmほどで長い口を海中に出した雌になる。一方，幼生が雌の口先に付着すると，生殖器以外は退化した体長1～2mmの雄となることが知られている。これはおそらく雌から分泌される物質の影響によって，雄となるのだと思われる。軟体動物のカキでは，産卵期を過ぎた個体は雌雄の区別がない中性の状態となっているが，その後の栄養状態により雌雄の別が定まり，栄養がよければ雌に，悪ければ雄になる。カキのように個体の性がいろいろの原因で変わることもあり，これを〈性の転換〉という。しかし，カキの例は本来は雌雄同体のものが場合によって雌になったり，雄になったりするのであり，クロダイなどが若いときは雄で成長すると雌に変わる例などと同じく，真の意味での性の転換とは多少異なっている。いずれにせよ，このようなことが行なわれるということは，個体にはいずれの性にでもなりうる能力があるということを意味している。 〔蒲原春一〕

せい 【斉】

1中国，周代の諸侯国。西周の建国に功績のあった太公望*が山東省の営邱(えいきゅう)(臨淄(りんし))に封ぜられて国を開いた(姜斉(きょうせい))。黄河・済水下流域から山東半島一帯を領有した。春秋時代の初め，桓公*(かんこう)は宰相の管仲*に助けられて富国強兵に努め，春秋五覇(ごは)の最初の人となった。しかし，BC386年には，大夫の田氏が国を奪い(田斉)，戦国七雄の一つとなったが，BC221年秦(しん)に滅ぼされた。斉の都の臨淄は，東海の塩を背景にした大商業都市であるとともに，稷下(しょくか)の学とよばれる諸子百家の争鳴の場所でもあった。

2(南朝) →南斉

3(北朝) →北斉

ぜい　**【税】**　⇨次ページ

せいあくせつ　**【性悪説】**　中国古代の儒家荀子*(じゅんし)の唱えはじめた倫理説。彼は孟子*(もうし)の性善説*に反対して，〈人の性は悪であり，善とは偽(い)である〉といった。〈偽〉とは人為のこと。彼は，社会の秩序あるいは秩序に従う努力をさして〈善〉とし，これに反する傾向すなわち〈性〉(人間に固有の私的欲望)を〈悪〉とした。したがって彼は，人はおのれの内なるものを育てることによってではなく，外からの教えや礼制によって人格を形成できるとした。➔性説

せいあつ　**【静圧】**　⇨ピトー管

せいあん　**【西安】**　シーアン　中国，渭水(いすい)盆地の中心にある陝西(せんせい)省省都。人口140万(1972推)。もとは長安とよばれ，秦(しん)・漢・晋(しん)・隋(ずい)・唐と約1,000年にわたりあいついで国都となった古都で，中国西北地方の政治・経済・文化の中心地。綿紡織・機械器具・建材などの工業が盛んで，西北地方開発の拠点となり，特に付近一帯の紡織工業は中国でも有数のものといわれる。中国科学院分院や西北大学・省立博物館など文化施設も多く，高さ約200mの大雁塔(だいがんとう)・碑林(ひりん)・灞橋(はきょう)など古跡・名勝も多い。1936年には，抗日統一戦線の転機となった西安事件*がここで発生した。〔船越昭生〕

せいあんじけん　**【西安事件】**　1936年12月，中国の軍閥張学良*が西安で蔣介石*(しょうかいせき)を監禁した事件。抗日運動の影響を受け，抗日民族統一戦線の政策を支持する張学良・楊虎城(ようこじょう)は，国共内戦の督戦に来た蔣介石に，内戦の即時停止と挙国抗日を要求したが，いれられなかった。そのため，蔣介石を逮捕・監禁したが，共産党の周恩来らの調停によってまもなく釈放した。この事件によって第2次国共合作*への途が開かれた。

せいいき　**【声域】**　人間の声が出しうる最低音から最高音までの範囲をいう。生理的には，男声や女声を合わせれば，約6オクターブの音域を占めることができるが，音楽的に使用されているのはそのうちの4オクターブほどである。音楽的な声域の観念は，多声部の音楽のない邦楽にはなかったもので，ルネサンスの西洋で確立されたものである。基本は上から，ソプラノ・アルト・テノール・バスの4種で，女声・男声のそれぞれの中間の声域として，のちにメゾ-ソプラノとバリトンが加わった。なお，声域は生理的には，年齢によって異なり，12歳ごろの変声によって男女の差がはっきりしてくる。〔徳丸吉彦〕

せいいき　**【西域】**　中国人が，その西方にある諸外国を総称したことば。〈さいいき〉ともいう。その範囲は各時代の西方に関する地理的知識や政策状況に応じて一定しない。漢代では西域36国とよばれ，これは漢帝国の政治支配下におかれた東トルキスタン，あるいはタリム盆地(新疆(しんきょう)ウイグル自治区のうち天山以南の地方)にほぼ相当している。しかし，中国の政治勢力が拡大した時代にはパミール以西の西トルキスタン，西アジア全域，インド方面も含まれた。西域の歴史には二つの特徴がある。一つは，西域が東の中国と西方諸外国を結ぶ陸上交通の中枢部にあり，その意味で文化交流の媒介地域にあたっていたこと，二つには，遊牧民族と農耕民族が入り混じって生活し，互いに共生の関係にあったことである。〔若松　寛〕



セイウチ





星　雲
(上)銀河系外星雲(NGC7311)
(下)散光星雲(たて座)



星雲群　しし座の星雲群

せいいたいしょうぐん　**【征夷大将軍】**　本来は蝦夷*(えぞ)征伐のために任ぜられた臨時の官。794年(延暦13)大伴弟麻呂(おとまろ)が初任。坂上(さかのうえ)田村麻呂*の任命は特に有名。811年(弘仁2)以後中絶，1184年(寿永3)源義仲*(よしなか)が任命されて復活し，1192年(建久3)源頼朝(よりとも)が任ぜられて鎌倉幕府*を開設した。以後武家政権の首長の職名として武門の棟梁(とうりょう)の地位を表わすものとなり，源氏の流れをくむ室町幕府*の足利(あしかが)氏，江戸幕府*の徳川氏が歴代任命された。1867年(慶応3)王政復古*で廃止。〔高崎徳次〕

せいうち　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・セイウチ科。雄は雌よりも大きく，全長3m以上，体重1t以上に達する。雌雄とも上顎(がく)の1対の犬歯は長く下に伸びてきば状を呈する。目は小さく，耳たぶはほとんどない。吻(ふん)は短く扁平(へんぺい)で，かたい毛がはえる。体は赤みがかった短い毛でおおわれる。北極海に分布し，ふつう比較的浅い海や浮氷の付近にみられる。もっぱら底生の二枚貝をきばで掘って食う。海象の漢字があてられることがあるが，これはゾウアザラシ*を意味する。

せいうん　**【星雲】**　恒星*のように点状に見えるのでなく，広がった雲状の外観をもつ天体。銀河系外星雲*と銀河系内星雲*に大別される。銀河系外星雲は小宇宙または島宇宙ともよばれ，銀河系外にある恒星の大集団で形状から楕円(だえん)星雲*・渦状(かじょう)星雲*・棒渦状星雲*・不規則星雲*などに分類される。一般に距離が非常に遠いため雲霧状に見えるが，アンドロメダ星雲*のようにわれわれに近い距離にある場合には，個々の量を分解して見ることができる。銀河系内星雲は，銀河系内に連続して分布しているガスや星間塵(じん)の塊で，その外観から散光星雲*・惑星状星雲*・暗黒星雲*に分類される。銀河系外星雲のスペクトルはいろいろな恒星のスペクトル型の合成であるが，銀河系内星雲(ただし暗黒星雲を除く)のそれは連続スペクトルの上に発光ガスの輝線が重畳しているので，スペクトルによってもこの二つの星雲を区別することができる。〔磯部琇三〕

せいうんぐん　**【星雲群】**　数個～数十個の銀河系外星雲*が局所的に集まった集団。星雲団*に比べれば規模は小さい。太陽系を含む銀河系は，アンドロメダ星雲*やマゼラン雲*など10個余りの星雲からなる局部星雲群に属している。他に代表的な星雲群としておおくま座I星雲群(距離1,000万光年)・しし座星雲群(距離2,000万光年)などがあげられる。

せいうんせつ　**【星雲説】**　太陽系の起源についての仮説の一。➔カント-ラプラスの星雲説

せいうんだん　**【星雲団】**　数百個以上の銀河系外星雲*が，直径数十～数百万光年の範囲に集まって，大規模な集団をつくって

➔402ページ

税

租税の意義は国により若干異なるが，現代資本主義経済のもとでは，租税とは〈国または地方公共団体が，その公共需要充足のための財源調達を目的として，直接的な反対給付を与えないで，一般人民に強制的に賦課する金銭給付である〉ということができる。元来，公的活動による公共用役の提供，つまり公共需要の充足過程は，それ自身一般に反対給付を伴わず，したがってその財源調達とは直接的関係がない。ここに財源調達を目的としての金銭の徴収が，一方的行為とならざるをえず，租税が強制的に賦課されることになる。たしかに国家という権力的統治機構が存在するところには，必ずその機構を維持するために，必要な財貨や労働力の反対給付の約束をしない権力的徴収が行なわれていたであろうという意味で，かなり古くからいわば広義の租税が存在していた。しかし，近代的租税が登場してきたのは，資本主義経済の生成以降である。この意味で，租税は歴史的な産物であると同時に，その概念は歴史的に変遷してきたのであり，将来も変遷し続けていくであろう。

【租税の本質】なぜ人々は租税を負担しなければならないか。つまり租税負担の根拠，あるいは租税の本質がなんであるかが問われなければならない。この問いに対しては，元来二つの立場がそこにある。一つは〈利益説〉であり，もう一つは〈能力説〉である。①利益説：人々にとって，国家は生命と財産の安全をはかるために自分たちの手で維持していかなければならない利益共同体とみなされる。したがって，この国家活動に必要な租税は，この国家の与えるサービスを享受するために支払われるべき，いわば〈価格〉ないし〈保険料〉と考えられる。この考え方は，国民の利益共同体としての個人主義的国家観に立脚している。②能力説：単純には，納税者の負担能力に応じて租税を負担すべきであるという考え方で，国家は個人を超越する歴史的・倫理的な有機体であるという国家観に立ち，この国家の利益のために必要な租税は，納税者にとって個人的利害を超越して，一方的義務として，その負担能力に応じて負担すべきであるとされる。

【租税原則】租税はどのような基準に基づいて賦課されるべきであろうか。この問題は古くから租税原則ないし課税原則といわれ，歴史的にみて有名なものにA.スミス*とワグナー*の租税原則がある。スミスは課税についての一般的原則として，①公平，②明確，③便宜，④節約の四つをあげている。スミスの租税原則は第1の公平の原則を除くと，あとの3原則は徴税技術上の問題を取り上げたものであるとみることができる。もっともスミスの第4原則における節約されるべき徴税費という概念の中には，人々の産業活動や資本蓄積を阻害することによる費用をも含まれている。そこで，市民の経済的自由を攪乱(かくらん)するおそれが最も少なく，しかも租税原則により合致した税として，スミスは地租・家賃税・奢侈(しゃし)的消費税をあげている。これに対し，ワグナーは，より包括的な租税原則を提示している。つまり，①財政政策上の原則(課税の十分性，課税の可動性)，②国民経済上の原則(正しい税源の選択，正しい税種の選択)，③公正の原則(課税の普遍性，課税の平等性)，④税務行政上の原則(課税の明確性，課税の便宜性，最少徴税費への努力)がそれである。ワグナーはスミスの時代とは異なって，多くの任務をかかえた時代の国家において，収入の確保がまず重要な基本的条件であると考え，租税原則においても，まず財政政策上の原則が取り上げられ，国家需要の充足が国民経済の発展と密接に関連しているという点から，所得を税源とする国民経済上の原則が登場してくる。また，負担配分の基準として，負担能力に応じた課税という意味での公平の原則が打ち立てられ，これらを満たすものとして，累進的な直接税体系が提唱される。

ところで，現代の租税はいかなる原則に求められなければならないであろうか。これまでの租税原則がその時代の税制改革への要求を意味していたことを思えば，新しい時代の租税原則は，当然新しい時代の要求に即した形のものでなければならない。現代においても，形式的にはワグナーの原則によってほぼすべて必要な条項が表現されているとみることができるが，問題はその内容である。時代によってそこに要求される内容はかなり変化してきている。現代の租税に課された最も基本的課題は，他の経済政策にみられるものと同じように，経済的厚生を増進し，それを阻害することのないように配慮することにあるが，より具体的な条件としては，①資源の最適配分，②経済の安定と成長，③租税負担の公平，の三つがあげられる。しかし，ある1種類の税でこれらの要件をすべて満たすことを期待することはむずかしいので，各種の税が相互に補完しあって，税制全体の効果としては，以上のような要件を満たすという形が通常とられる。またさらに，租税の効果のみを切り離して論ずるよりも，元来財政の支出面との関連で，以上のような総合効果の判断がなされるべきであろう。

【税の種類】税の種類にはその分類目的によっていくつかの分け方がある。①国税*と地方税*：課税権の主体がだれであるかによる区分で，国が課する税を国税といい，都道府県または市町村，つまり地方公共団体が課する税を地方税という。地方税には道府県税*と市町村税*とがある。国税と地方税

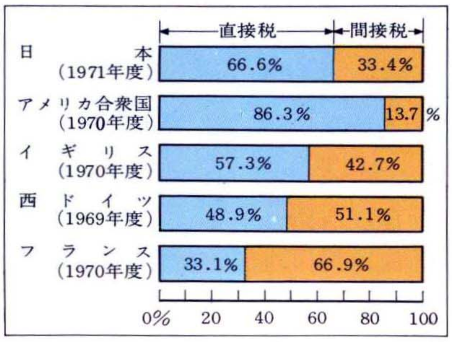
国税および地方税の課税対象別による収入(単位:100万円)

税　目	金　額	構成比①	構成比②	税　目	金　額	構成比①	構成比②
国　税	8 827 522	100.0%	68.6%	道府県たばこ消費税	95 609	4.3%	0.7%
所得税	2 832 816	32.1	22.0	娯楽施設利用税	28 021	1.3	0.2
法人税	2 871 479	32.5	22.2	料理飲食等消費税	115 681	5.2	0.9
相続税	174 584	2.0	1.4	自動車税	181 774	8.1	1.4
酒税	658 362	7.5	5.1	自動車取得税	75 230	3.3	0.6
揮発油税	573 286	6.5	4.5	軽油引き取り税	165 626	7.4	1.3
物品税	382 230	4.3	3.0	その他	8 020	0.4	0.1
関税	399 646	4.5	3.1	市町村税	1 815 452	100.0	14.1
印紙収入	253 564	2.9	2.0	市町村民税	782 934	43.1	6.1
専売納付金	290 458	3.3	2.3	固定資産税	594 114	32.7	4.6
その他	391 097	4.4	3.0	軽自動車税	25 855	1.4	0.2
地方税	4 054 984	...	31.4	市町村たばこ消費税	168 011	9.3	1.3
道府県税	2 239 532	100.0	17.3	電気ガス税	108 958	6.0	0.8
道府県民税	462 415	20.6	3.6	都市計画税	89 793	5.0	0.7
事業税	1 015 759	45.3	7.8	その他	45 787	2.5	0.4
不動産取得税	91 397	4.1	0.7	国税・地方税合計	12 882 506	...	100.0

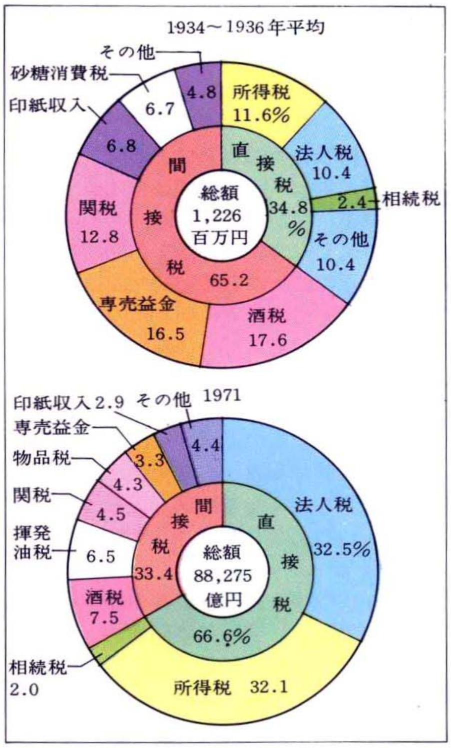
注）数値は1971年度。国税は当初予算額，地方税は計画額

との中間的なものとして，地方交付税*と地方譲与税とがある。②一般税(普通税)と目的税*：税の使途による区分で，一般の経費を支弁する目的で徴収される税が一般税または普通税といわれ，特定の経費を支弁する目的で徴収される税が目的税といわれる。地方税における軽油取引税や都市計画税は目的税である。③直接税*と間接税*：税金を負担する人(担税者)とその税金を直接納める人(納税者)とが同一であるか否かによって区分され，担税者と納税者とが同一である場合の税を直接税，担税者と納税者とが異なる場合の税を間接税という。所得税は直接税の代表的なものであり，酒税*は間接税の代表的なものである。④従量税と従価税*：これは課税標準を何に求めるかによって区分され，課税標準を数量に置くものを従量税，課税標準を価格に置くものを従価税という。たとえば，大部分の物品税*のように物品の価格に対して一定率の税が課される場合には従価税，酒税のように1klにつきいくらという場合には従量税である。⑤収得税・財産税*・消費税*・流通税*：租税客体がなんであるかによる区分であって，人が収入を得ている事実をとらえて課税するのが収得税，人が財産を所有している事実をとらえて課税するのが財産税，人が財貨を消費している事実に基づいて課税するのが消費税，人が財貨の移転を生じさせている事実に着目して課税するのが流通税である。所得税や法人税は収得税であり，固定資産税*は財産税であり，物品税や酒税は消費税*であり，印紙税*や有価証券取引税は流通税である。

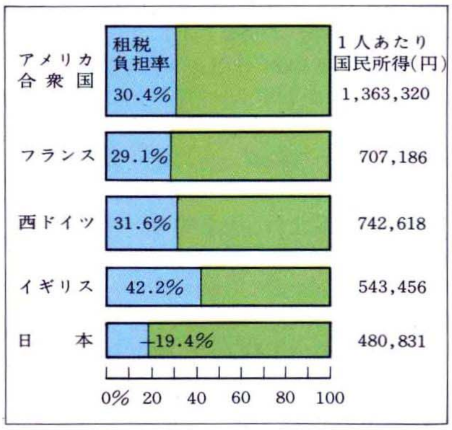
〔日本の税体系〕 今日各国の租税制度に共通していえることは，複数の税種が組み合わされて一つの体系をなしているということである。しかしこれら租税制度は，それぞれの国の社会的・経済的諸条件のもとで固有に発展してきたものであり，いわば歴史的産物であって，その具体的内容は国によってかなり異なっている。各国の租税体系を大別すると，およそ三つの型がある。一つは所得課税などの直接税に重点を置くアメリカ・イギリス型の体系であり，もう一つは売上税などの間接税に重点を置くフランス・西ドイツなどにみられる大陸型の体系である。さらに，東南アジアなどの後進諸国にみられるごとく，関税*を中心とした間接税に大きく依存した型の体系がある。アメリカの税制では，所得課税だけで連邦税収入の8割以上を占めている。わが国の場合には，アメリカの場合ほどではないが，所得税*・法人税*などの所得課税がやはり税体系の根幹をなしており，国税・地方税合計でみても，租税収入全体の5割以上を占めている点で，所得課税を中心とした直接税重視の税体系であるということができる。



図－1　主要国の国税収入の内訳



図－2　国税の戦前・戦後の比較



図－3　国民所得に対する租税負担率の国際比較(1969)。大蔵省《財政金融統計月報》(1971年9月)

このように，今日わが国の租税制度は，所得課税中心の税体系によって貫かれているが，その基礎はまず1940年(昭和15)の税制改正によって与えられ，さらに1950年のシャウプ勧告*に基づく税制改正によって，ほぼ現行のような具体的姿になったとみられる。明治の前半期におけるわが国税体系は，地租を中心に財産課税がその大宗をなしていたが，しだいに消費課税へ比重を移し，明治の後半期から大正期を経て1940年の税制改正前までは，間接税依存の租税構造を示してきたのである。現在の国税体系は，所得税と法人税で全体の64.6％，これに酒税を加えると72.1％に達する構造となっている。さらに揮発油税・関税・専売益金・物品税をそれに加えると90.7％となる。また地方税についてみると，道府県税では事業税と道府県民税で65.9％，市町村税では固定資産税と市町村民税で75.8％を占めている。

〔租税負担率〕 国民の税負担が全体としてどのくらいであるかを示す指標として，〈租税負担率〉というのがある。これは国民全体の租税負担額を国民所得で割ったものであるが，これによってある程度その国の租税負担の割合を知ることができる。戦後わが国の場合，この租税負担率は国税・地方税を通じて約20％程度で推移してきた。これは先進諸国たとえば1969年におけるアメリカの30.4％，イギリスの42.2％，西ドイツの31.6％，フランスの29.1％などに比べると，かなり低いのが特徴である。しかし，このように租税負担率が他に比べて相対的に低いからといって，実際の税負担も軽いと速断することは，必ずしも正しくはない。同一の租税負担率のもとでも，1人あたり所得水準の低い国では，それの高い国に比べて，実際の税負担は当然重く感じられる。1人あたり所得水準が高まれば，租税負担率が以前よりも若干高まったとしても，実際の税負担感そのものはそのわりには高くならないであろう。

〔税収の所得弾力性〕 所得が変化した場合，税収がどの程度変化するかをみるのが，この〈税収の所得弾力性〉という概念である。現在わが国の租税構造は，比較的所得弾力性の高い所得税や法人税を根幹としているので，租税全体の所得弾力性も1.5前後とかなり高い値を示している。つまり，国民所得が10％増加した場合，その増加率を上回って租税収入はおよそ15％増加するという構造をもっている。したがって，もし年々減税措置がとられなかったならば，経済の拡大とともに租税負担率も上昇していくことになる。しかし現実には，年々なんらかの減税措置が実施されてきたため，租税負担率は20％前後で推移することになったとみられる。　〔西野義彦〕

いるものをいう。たとえば，おとめ座の星雲団は2,500個の星雲が3,600万光年のかなたに群がり，秒速1,000 kmのスピードでわれわれから遠ざかっている。このような星雲団は20個近く見つかっている。

せいえき【精液】 男性の生殖器から分泌される精子を含んだ液で，睾丸(こうがん)・精嚢腺(せいのうせん)・前立腺，および粘液腺などからの分泌物が混合している。精子は睾丸から分泌され，射精前には精液中で静止しているが，射精の際に後部尿道を通り，ここで同時に排出される前立腺の分泌物と混合することによって活発に活動するようになる。すなわち前立腺分泌液は，ナトリウム・カリウム・カルシウム・タンパク質・ブドウ糖・コレステリン・アスコルビン酸・シュウ酸などを含んで精子に栄養を補給し，酵素(フィブリン溶解酵素・フォスファターゼ)をも含む。精液自身に含まれる酵素には，ヒアルロニダーゼがあり，受精の際に精子が卵膜を破るのに必要不可欠のものである。精液はpH8.1～8.4，色は薄い灰色で，クリの花のようなにおいがある。病的な場合には血液やうみが混合して赤色や黄色を呈することがある。ふつう1回の射精量は2～5 mlで，1 ml中に6,000万～1億の精子が含まれる。精子が3,000万以下の場合や，病的でまったく精子のない無精子症は不妊の原因となる。また，精液には正常の精子のほかに発育異常の精子が混じっているが，これが20%以下でないと不妊の原因となる。正常な場合，精子は活発な運動をするが，病的な状態になると運動不活発なものや運動しない精子が20%以上を占めるようになる。なお，法医学では性犯罪における少量の精液からでも姦淫者(かんいんしゃ)の血液型を判定することが可能である。〔平野修助〕

せいえん【西燕】 ⇒燕[2]

せいえん【正塩】 塩基の水酸基および酸の電離する水素の全部が反応してできた塩。たとえば，硫酸ナトリウム Na_2SO_4 は硫酸 H_2SO_4 と水酸化ナトリウムNaOHが完全に反応することによって生じた正塩である。このほか塩化カルシウム $CaCl_2$，リン酸カリウム K_3PO_4，塩化ナトリウムNaClなどがある。なお，正塩の水溶液はつねに中性とはかぎらず，加水分解によって酸性・アルカリ性を示すこともある。

せいえん【製塩】 食塩は，古来生命の源として人間の生活に不可欠の食料であり，近くは化学工業の基礎産業であるソーダ工業などの主要な原料として重要な役割を演じてきた。

食塩の資源は，岩塩として広く世界に分布し，欧米諸国には豊富な岩塩層が存在する。岩塩は坑道をつくって採掘し，粉砕・篩別(しべつ)して製品とするか，岩塩層にパイプを打ち込み，注水して塩水をくみ上げ煮つめて再製する。天然鹹水(かんすい)も塩の資源で，天日結晶させて採塩する。アメリカ



星雲団 かんむり座の星雲団　米つぶのように見えるのが星雲

のグレートソルトレークは著名である。海水中には3%近い塩分が含まれ，晴天連続し高温低湿な沿岸地域では，天日塩田法による製塩が行なわれている。メキシコ，カリフォルニア半島の太平洋岸のブラックワリア塩田は世界最大の規模である。

わが国は岩塩・天然鹹水に恵まれず，四面海に囲まれながらも，多雨多湿で天日製塩には不適なため，独特の製塩法が考案され変遷を重ねてきた。原始時代は，捕獲物から種々の形で塩分の補給が行なわれたものと思われる。縄文(じょうもん)土器の出現から弥生(やよい)時代にかけては，海水を土器に入れ火力で煮つめる土器製塩が行なわれ，これがわが国製塩の発端であったといわれる。続いて濃縮鹹水を得るために海藻(かいそう)を媒体とした海水濃縮法がくふうされ，万葉歌人の目に映じたように〈藻塩(もしお)焼き〉製塩が盛んとなってきた。中世以後，自然浜を利用し砂を海水濃縮の媒体とした〈塩浜〉が出現し，塩田法の開発へと進んだ。中世末期には，満潮面より高所に粘土質の地盤を固め，その上にまき砂してくみ上げた海水を振りかけて濃縮する〈揚浜式(あげはましき)塩田〉が，さらに近世には，築堤技術の進歩によって〈入浜式(いりはましき)塩田〉が瀬戸内海沿岸を中心に開発され，わが国の代表的塩田として400年の歴史を築いた。これは遠浅の砂質の干潟(ひがた)を干拓して塩田とし，満潮時に海水を浜溝(ひんこう)に導入し，地盤を通じて毛細管上昇により地盤上の撒砂(さんさ)に補給蒸発されるもので，きわめて能率的な方式であった。第2次世界大戦ごろから〈砂層貫流式塩田〉が築造されたが，これに改良を加えた〈流下式塩田〉が1952年(昭和27)以降入浜式塩田に代わって出現した。緩傾斜の粘土盤上に，アズキ大の小じゃりを薄くまいて偏流をなくし，海水を徐徐に流下させて太陽熱で濃縮する方式で，〈枝条架(しじょうか)〉という丸太で組んだ櫓(やぐら)に竹ざさを編んでつるし，上部から原液を流下させ，風を利用して濃縮する装置を併設した点が特色である。なお，流下式塩田の出現と同時期に，天候に制約されず，安価な熱エネルギーを使用する目的で海水直煮製塩が実施されたが，コスト的に割高で廃止された。一方，1950年には海水中の塩分を直接抽出する経済的な濃縮法として，イオン交換樹脂膜を使用した電気透析による鹹水採取の研究が始められた。この新技術は最近急速に進展し，大幅なコストダウンが可能となり，1971年を境に大規模イオン交換膜製塩工場が出現し，わが国の塩田は姿を消そうとしている。

鹹水を煮つめて塩の結晶をとる工程は，土器・土釜(つちがま)・石釜・鉄釜が使用され，平釜式から，さらには加熱の際の蒸気を利用する蒸気利用式，真空式・加圧式などの機械製塩となり，熱エネルギーの効率的な利用が図られた。現在ではイオン交換膜法で採鹹し，真空式蒸発装置を組み合わせた方式が採用されている。なおこのほかに，輸入塩を溶解・加熱して再結晶させる再製塩，輸入塩を粉砕・篩別して粉砕塩とする方法もある。食塩の国内生産は100万t強で，世界の全生産高の1%にも満たないが，近代化学工業としての製塩の第一歩が踏み出された段階である。〔有賀　亮〕

ぜいえん【説苑】 中国，漢代の学者劉向*(りゅうきょう)の編。20巻。曾鞏*(そうきょう)の序によれば，北宋(ほくそう)のとき5編しか現存していなかったが，曾らの努力で15編を得，合わせて20編としたという。古い書物から逸話を採録し，これを君道・臣術・建本・立節・貴徳・復恩・政理・尊賢・正諫(せいかん)・敬慎・善説・奉使・権謀・至公・指武・叢談(そうだん)・雑言・修文・反質の20部に分類している。散逸した古代の書籍がこの本によって伝えられる例も多い。これに似たものに劉向の《新序》がある。〔今村与志雄〕

せいおん【清音】 日本語のかな文字で濁点(゛)・半濁点(゜)なしに表わされる音節。ただし，促音〈ッ〉，撥音(はつおん)〈ン〉は別。たとえば，〈ア・キャ〉など。清音には，①対立する濁音*をもつもの(五十音図のカ・サ・タ・ハの各行の音)と，②対立する濁音をもたぬもの(ア・ナ・マ・ヤ・ラ・ワの各行の音)の2種類がある。①はすべて無声音*の子音で始まり，②はすべて有声音*で始まる。

せいか【生花】 ⇒生け花

せいか【清華】 摂関家(→摂家)に次ぐ公家*(くげ)の家がら。英雄家・華族(かしょく)ともいう。太政(だじょう)大臣を極官とし，大臣・大将を兼ねる家がらで，はじめ閑院・花山院・久我(こが)の3流，すなわち三条・菊亭(きくてい)(今出川とも)・徳大寺・西園寺(さいおんじ)(以上閑院流)，花山院・大炊御門(おおいみかど)(以上花山院流)，久我の7家をいったが，近世，広幡(ひろはた)(正親町(おおぎまち)天皇裔(えい))と醍醐(だいご)(摂関家流)の2家を加えて9家となった。〔黛　弘道〕

せいか【正貨】 厳密には本位貨幣*のことであるが，本位制度の兌換(だかん)の基礎となる金銀貨・金銀地金・金為替(きんかわせ)などのこともいい，中央銀行におけるそれらの準備資産を正貨準備という。なお，正貨準備という名称は，国債・手形などの保証

準備に対して用いる場合が多い。また，金為替本位制度*では国外に所有する金または金と交換できる資産(外国為替手形*・銀行預金・政府短期証書*など)も在外正貨として正貨準備に含めることがある。〔速水　保〕

せいか　【西夏】　中国の唐以来，甘粛地方に勢力をふるっていたタングート(党項)族の拓跋(たくばつ)部から李元昊(りげんこう)が出て建てた国。彼は都を寧夏の興慶府に置き，中国にならって諸制度を整備して，1038年国号を大夏と定めたが，中国の西北にあたるので，宋(そう)の人はこれを西夏とよんだ。西夏は，宋が塩の専売制を確立したため青白塩の輸出ができなくなったことから，宋に敵意をいだくようになり，建国以後は慢性的な戦闘状態を続け，金と結んで北宋滅亡の原因をつくった。この間，1044年の和約では，李元昊は臣礼を執って夏国主と称すること，宋は毎年大量の絹・銀・茶を与えること，官営貿易場を設けて互市を行なうことを決めているが，長続きはしなかった。13世紀の初め，金とともにモンゴルに対抗しようとして，逆にジンギス汗の攻撃を受け，1227年に滅んだ。仏教を基調とする〈蕃(ばん)文化〉が栄え，黒水城(カラ-ホト)出土の美術品は有名である。〔勝村哲也〕

せいかい　【青海】　チンハイ　中国，青海省北東部にあるこの国最大の塩湖。湖面は海抜3,240mにあり，長さ107km，幅63km，面積約6,000km²，最大水深は38m。湖水は青黒色をおび魚類が多く，冬季の11月から3月までは凍結する。祁連(きれん)山脈の南方に位置し，北西から布喀河(ぶこが)が流入し，湖中の島にラマ教の寺院がある。モンゴル語ではココノール(庫庫諾爾)という。

せいかいけん　【制海権】　海洋支配を古くから制海権とよんできたが，現在では一般に制海の語を用いるように変わってきた。制海とは，非常事態に際し，自国の必要とする海洋を自由に使用するとともに，敵側にそれを自由に使用させないことである。平時には他国の公海利用を妨害・阻止することは認められない。しかし，自国の必要とする海洋の使用権を確保するため，他国の不当な圧迫や妨害を排除・抑制することが必要である。この意味において制海は平時にも通じる。制海は，陸上における地域占領などと異なり，つねに相対的なものである。すなわち，相手側の対応行動によって，制海の状態は流動的となり，けっして静的でない。〔森田　哲〕

せいかいしょう　【青海省】　チンハイ省　中国，チベット高原北東部を占める省。面積72万1,000km²。人口250万(1972推)。省都は西寧。行政区画は1省轄市(西寧)・5省轄自治県・6自治州と，32県を統括する。漢族のほかにチベット・モンゴル・バザックなど少数民族が居住し，ウシ・ヒツジ・ヤギ・ヤクの飼育に従事する。農業はおもに漢族によって行なわれ，ハダカムギ・小麦・トウモロコシ・アワ・エンバク・ナタネ・スイカなどを栽培する。地下資源では石炭(大通・西寧・化隆)・石油・塩(ツァイダム盆地)などがわずかに開発されている。鉄道は1959年に開通した蘭西(らんせい)鉄道(蘭州～西寧)があるにすぎないが，道路は中華人民共和国成立後に建設された青蔵公路(西寧～ラサ)，ツァイダム盆地を経由して新疆(しんきょう)省ウイグル自治区に向かう青新公路などの自動車道路がある。〔船越昭生〕

せいがいは　【青海波】

[1]雅楽の曲名。唐楽に属し，舞としては《輪台》と組みにされる。音楽でも舞でも海や波を扱った技法がある。

[2]清元節の曲名。5世延寿太夫(だゆう)の襲名披露(ひろう)のため，永井(ながい)素岳(詞)・2世清元梅吉(曲)によってつくられ，1897年(明治30)に発表された。清元としては一般受けするような上品な詞をもち，最初の鼓唄(つづみうた)から荘重で，あとの船唄もおもしろい。

せいかがく　【生化学】　生命現象を生体物質の働きあるいはそれらの相互作用として追究する学問。研究手段として生物学・有機化学・物理化学・物理学などの手法を用いる典型的な領界科学である。したがって生体物質の有機化学的扱いから，高次な生命現象の物理化学的扱いに至るまで，生化学の研究分野はきわめて広範である。今日のほとんどすべての実験生物学の基礎となるもので，遺伝生化学・発生生化学……など特殊分科をも成立させている。一方，医療・栄養・農業生産など実用的な面との結びつきも深い。〔秋野美樹〕

せいかく　【性格】　個人の行動のしかた・考え方の中に表わされる一貫した特徴。パーソナリティー*とほぼ同義であるが，厳密にはパーソナリティーの中の特に感情・意志的側面をさす。日常語では性質，質(たち)とよばれ，〈慎み深い〉〈はで好きな〉〈がんこな〉などと形容される。性格形成に関する学説には，生得的な気質*を重視する古典的類型論，幼児期体験を重視する精神分析学*説，社会的・文化的環境を重視する説などがある。〔馬場礼子〕

せいがく　【声楽】　人声を伴い，多くの場合は人声を中心にした音楽の総称。器楽に対する。歴史的にも地理的にも，音楽の大きな部分を占める。古代ギリシアでは詩と音楽が離れがたく結びついていたし，中世のグレゴリオ聖歌*をはじめ，多くの典礼用音楽は声楽である。西洋では，作曲技法もルネサンスまでは声楽の分野で開拓され，バロック時代でも，声楽は他の楽器よりも高度な技術をもっていた。特に，変声期前に去勢された男性歌手(カストラート)たちの存在はこの高水準を保つことになった。古典派以降，器楽の側のめざましい発展によって，声楽はオペラにおける声の魅力にとどまっていた。しかし，20世紀における新しい音楽様式は，声に新しい技術的課題を与え，また語るように歌うシュプレヒ-シュティンメの方法や，歌詞をもたずに歌うことを課して，声楽に新しい意味を与えようとしている。〔徳丸吉彦〕

せいかくいじょう　【性格異常】　⇨精神病質

せいかくがく　【性格学】　人間の個人差のうち，性格*的要因を研究する学問。大別すると，人間を類型学的にとらえる方法と，性格特性論の立場とがある。前者では，観察に基づく行動研究や統計的方法による研究など科学的方法のほか，各類型の理想型の究明に哲学的方法もとられている。後者では，人間の性格的特徴を正確・精密に把握(はあく)するための測定手段の究明を課題とし，パーソナリティー-テスト・人相学・筆跡学などはこれに属する。〔斎藤幸一郎〕

せいかくけんさ　【性格検査】　⇨パーソナリティー検査

せいかご　【西夏語】　中国西北地方において，1038年から1227年まで存在した西夏国の西夏族(タングート族)の国語。独特の表意文字をもち，チベット-ビルマ語群に属すると考えられる。資料として，多くの仏典のほか，中国の古典《論語》《孟子(もうし)》《孫子》などの翻訳がある。本格的な文字の解読，言語の解明は，京都大学の西田龍雄(たつお)により進められ，その成果《西夏語の研究》2巻に対して1968年(昭和43)度日本学士院恩賜賞が与えられた。〔崎山　理〕

せいがぞう　【聖画像】　⇨イコン

せいかたい　【聖歌隊】　キリスト教会の礼拝において賛美歌・詩編などを歌う合唱団。典礼を重んずるカトリック教会・東方正教会・聖公会・ルーテル教会などでは，礼拝に不可欠とされ，その地位も聖職者に準ずるほど高い。典礼を重視しない教会では，礼拝の美化，礼拝意識の高揚など補助的役割をになうにすぎない。

せいかだいがく　【清華大学】　中国の国立大学。アメリカが義和団の乱*賠償金(団匪(だんぴ)賠償金という)を清朝(しんちょう)政府に返還，清朝はこれを基金として1909年，北京(ペキン)郊外にアメリカ留学生準備教育機関を設置，1911年4月，清華学校の名で正式に開校した。国民政府成立後，1928年8月，文・理・法・工学部をもつ国立清華大学となった。創立の事情が示すように，留米学生養成の実績を積み，アメリカ側からすれば，中国青年にアメリカ文化への崇拝とあこがれを植えつける重要な文化政策の拠点であった。中華人民共和国初期の大学再編成にあたり，北京大学などの工科系学部を吸収して，総合工業大学となった。文化大革命*が進むと，学生・教員の間の対立が深まったため，1968年7月，工場労働者の編成する毛沢東思想宣伝隊が大学にはいり，労働者による管理体制が敷かれた。〔斎藤秋男〕

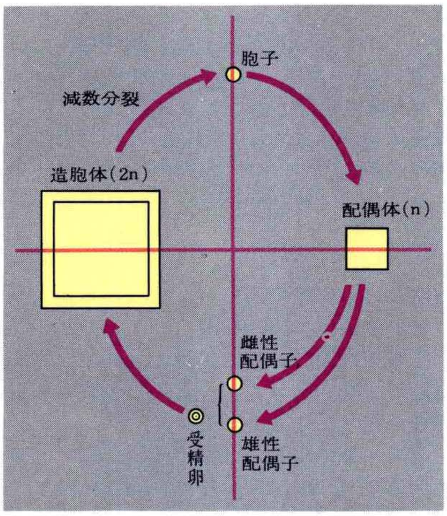
せいかつ 【正割】 三角関数の一。セカント(secant)ともいう。記号sec 平面上に直交座標を設け，原点を通りx軸と角θをなす動径が，原点を中心とする半径rの円と交わる点の座標をP(x，y)とするときの比$\frac{r}{x}$をいい，$\sec\theta=\frac{r}{x}$で表わす。➔三角関数

せいかつかん 【生活環】 生物の個体が発生を開始してから死に至るまでの過程(生活史)を示す表現法の一。ある個体は死ぬと消滅するが，その子孫は同様な生活をくり返すので，生殖細胞を中心として環状に結んで表わす。世代交代・核相交代・受精・還元分裂，からだや生殖細胞の発達過程，宿主生物との関係なども組み入れて図示する。

せいかつくうかん 【生活空間】 K.レビン*のトポロジー心理学*の最も重要な概念の一つで，生活体が行動をしていく，そのかかわりあいの範囲をいう。レビンによれば生活体の行動は，環境と生活体の心理的な内界の相互関係によってなりたつが，この行動を規定する種々の因子の複雑な総体を，物理学における磁石や電気の場に相当する心理学的な場のようなものと考え，これを生活空間と名づけた。この考えによれば，ある人がいかなる行動，いかなる心理的反応を起こすかも，生活空間の構造によって決まる。➔心理学的場 〔吉田直子〕

せいかつけい 【生活型】 生物の生活様式を類型化したもの。生物は種々の異なった環境要因をもつ生活の場を選択しており，それに伴う適応的な生活様式をつくりあげている。それらは生物体の外部形態に現われるのと同様，機能的な特徴ともなって表現される。したがって生活型は生活様式の種々な側面のうち，特定の側面を指標として類型化されるのが通例である。植物の類型的な把握(はあく)は，古くフンボルト(1806)によって，相観的な形態把握をもとに，サボテン型・バショウ型など16類型に区分された。その後植物群落の相観を重点にして気候依存性の解析を試みたグリーゼバッハ(1872)など，19～20世紀を通していろいろな試みがなされている。今日植物では，冬・乾期などの休眠期を過ごす休眠方法(休眠芽の位置)をもとにしたラウンケアの休眠型(図-1)，生育時の形態に関するギミンガムの生育型(図-2)，繁殖法を主とした繁殖型などが有名である。休眠型は次のように類別される。①地上植物：最高位置の休眠芽が地上30cm以上の高さにつくもの。②地表植物：最高位置の休眠芽は0(地表面)～30cm。③半地中植物：休眠芽の位置が地表面のすぐ下にあるもの。④地中植物：休眠芽の位置が地表面に達しないもの。⑤一年生植物：休眠芽をもたず休眠期を種子などで過ごす。⑥水生植物：最高位置の休眠芽が水面または水飽和した土壌(どじょう)面の下にあるもの(湿地性の植物を含む)。

動物の生活様式の類型化は，植物の場合ほど試みられておらず，とりわけ幅広い分類群に属する動物を包含することのできるような類型化は，シェルフォード(1939)やティシュラー(1949)によるものなどわずかな例を見るだけである。ティシュラーは，動物の摂食行動・摂食方法・解剖学的形態によって類型化を試みている。また限られた分類群を対象に，その生活の場と生活様式との関係の解析を試みた例もある。
〔船越真樹〕



生 活 環 シダ類の生活環。2倍体の大形の造胞体から胞子が生じ，発芽して半数体の小形の配偶体(前葉体)となる。そこに生じた雌性配偶子(卵)と雄性配偶子(精子)が受精して受精卵となり，それが生長して造胞体となる

せいかつし 【生活史】 生物の個体が発生を開始してから，発育し成体になって次世代を生み，寿命が尽きて死ぬまでの生活過程をいう。生物は発育段階ごとに生活様式が変わっていくのが一般で，たとえば完全変態こん虫は卵→幼虫→さなぎ→成虫と大きく生活変化が起こる。現在ではいろいろな生物の生活史の記載から脱皮して，生活の歴史性を明らかにしようという方向で生活史学が組まれている。

せいかつしどう 【生活指導】 ⇨特別教育活動

せいかつつづりかた 【生活綴方】 作文教育の一。昭和初期，当時の公教育における観念的・抽象的な教育のしかたに反発し，子どもたちが背負っている実生活と深く結合し，困難にめげず生きていく力を子どもに形成しようとした生活教育の一環として生まれた。子どもたちの実生活をありのままにみつめさせ，その中の問題を作文につづらせ，その作品を集団の中に投げ出し，集団的な共同思考を通して各自の生き方を把握(はあく)させようとしたものである。東北，秋田の北方教育社は，その中心的存在であり，のちに《綴方生活》(1929年刊)を発刊して全国的な気運を盛り上げた。村山俊太郎・国分一太郎らはその中心的指導者であったが，第2次世界大戦中にはその理論の形成が左翼的進歩思想によっているということで弾圧を受けた。戦後この運動は《山びこ学校》(無着成恭)などにおいて復活した。なお，疎外状況の深まる今日，もう一度生活をつづることの重要性があらためて

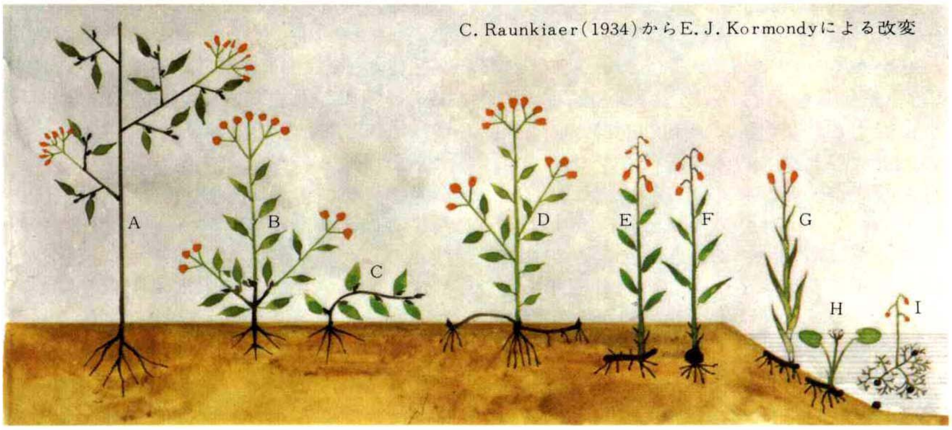


図-1 休眠型 A:地上植物 B,C:地表植物 D:半地中植物 E,F:地中植物 G～I:水生植物

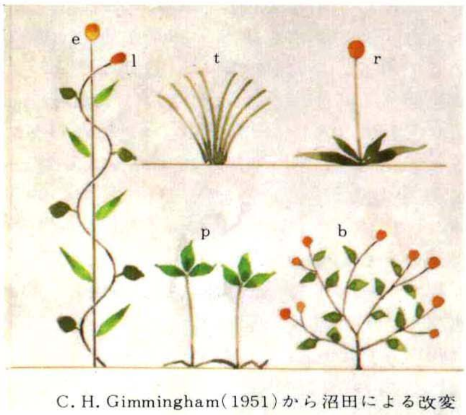


図-2 生育型 e:直立型 l:つる型 p:匍匐型 b:分枝型 t:叢生型 r:ロゼット型

生 活 型

問われている。　〔海老原治善〕

せいかつはんのう【生活反応】 生存中に受けた創傷部分，その他身体各部に現われる反応。死後には現われないが，死に瀕(ひん)している時期(死戦期)には軽度に現われることがある。全身的生活反応と局所的生活反応とに分けられ，前者には貧血・脂肪栓塞(せんそく)・空気栓塞・細胞栓塞・血液吸入・すす吸入(焼死体)・溺水(できすい)などがあり，後者には創傷部における出血・充血・腫脹(しゅちょう)・化膿(かのう)・白血球集合・肉芽形成・分泌などがあげられる。骨折や臓器破裂などの場合にも，生前に生じたものには周囲に出血・凝血・栓塞などの生活反応があるが，死後に生じたものにおいてはこのような生活反応はない。〔青木利彦〕

せいかつほごせいど【生活保護制度】 生活保護法(1950)に基づく生活困窮者に対する救済制度。救貧制度の発祥は1932年(昭和7)の恤救(じゅっきゅう)規則にある。さらに第1次世界大戦後の世界恐慌の影響などで国民の一部に深刻な生活困窮状態が生じたために，1929年救護法が制定され，1932年1月実施された。ところが第2次世界大戦後の国民生活の危機状況は，救済の対策をそれまでのように労働力のない生活困窮者に限定した制度では無力であり，このため統一的な対策として，1946年4月生活困窮者緊急生活援護要綱，同年9月保護の国家責任と無差別平等の原則(国民の保護請求権)を明らかにした(旧)生活保護法が制定され，同年10月より実施された。しかし同法はなお慈恵的性格が強く，保護の基準も実施者の恣意(しい)による形をとっていたことや，1949年9月における社会保障制度審議会の〈生活保護制度の改善強化に関する勧告〉が政府に提出されたことなどによって，1950年5月旧法が全面改正され，現行法の生活保護法が確立された。

生活保護法はわが国社会保障制度の一環をなす公的扶助制度の中核をなすもので，憲法25条に規定された〈健康で文化的な最低限度の生活を営む権利〉を理念とし，国家の責任でその困窮の程度に応じて必要な保護を行ない，最低限度の生活を維持できないすべての国民に対して，その生活を保障し，自立を助長することを目的としている。本法の1～4条の規定では，保護の国家責任，保護の請求権と無差別平等の保護，健康で文化的な生活水準を維持できる最低生活，補足的位置に立つ保護などを運用の基本原理とし，この運用の基本原則としては申請保護(7条)，基準および程度(8条)，必要即応(9条)，世帯単位(10条)の四原則が貫かれている。さらに本法には保護の種類・範囲・方法，保護の実施機関，保護の開始・変更・停止・廃止，保護施設の種類および設置・廃止の手続き，医療機関および助産機関，被保護者の権利義務，不服の申し立て，費用の支弁および負担関係などが規定されている。また同法11条では生活保護の種類について7種類が規定され，その内容として，①生活扶助(12条)，②教育扶助(13条)，③住宅扶助(14条)，④医療扶助(15条)，⑤出産扶助(16条)，⑥生業扶助(17条)，⑦葬祭扶助(18条)が類別列挙されている。

また同法8条には保護の基準および程度の原則が規定されているが，それによると，その基準は厚生大臣の定めるところによるが，要保護者の年齢別・性別・世帯構成別・所在地域別，その他保護の種類に応じて必要な事情を考慮した最低限度の生活の需要を満たすに十分で，かつこれを越えないものでなければならないとされている。この保護基準については1970年4月現在，第26次改訂がなされており，特に第8次改訂(全物量方式の採用)と，第17次改訂(エンゲル係*数方式の採用)が画期的なものとして注目された。第26次改訂の生活保護基準についてみると，居宅における1級地(東京や大阪など)の標準4人世帯(35歳男，30歳女，9歳男，4歳女)の基準額は下表のとおりである。しかしここで問題になるのはボーダーライン層(低所得層とか低消費水準層ともいう)への対策である。生活保護基準により保護されてはいないが，わずかな衝撃で被保護階層に転落するおそれがあるような階層の防貧施策や低所得対策が講じられなければならないのに，現状ではそれがはなはだ不完全である。それゆえ，生活保護制度を社会保障制度の一環としてみるならば改善のきざしはあるが，保護費の大幅な引き上げが行なわれないかぎり，そこにはある限界があるといわざるをえない。➔社会保障　〔椿　輝男〕

厚生省　1970年4月：第26次改訂

生活扶助基準	34 137円
教育扶助基準	430円 (小学3年生を対象)
住宅扶助基準	2 800円以内
医療扶助基準	実物現物給付
出産扶助基準	8 000円 (施設分娩：20 000円 ただし特別基準に基づく)
生業扶助基準	1件3 000円以内
葬祭扶助基準	1件9 600円以内
勤労に伴う必要経費	若　干
参考：職種別基礎控除	1の職種：3 980円 2の職種：5 405円 3の職種：6 885円

注）収入がこの基準に達しない場合は，基準からその収入を差し引いた差額が保護費として支給される

せいかほう【青化法】 金・銀が空気の存在においてシアン化アルカリの希薄溶液に溶解することを利用した金・銀の湿式冶金(やきん)法。シアン化法ともいう。鉱石をきわめて細かく砕き，空気を接触させながらシアン化ナトリウム(ときにシアン化カルシウムやシアン化カリウム)の0.1％程度の希薄溶液とともに攪拌(かくはん)して金・銀を溶解させたあと，連続濃泥(のうでい)法などによってセキエイなどの不溶解残渣(ざんさ)から溶液を分離する。この溶液に亜鉛・アルミニウムなどの沈殿剤を加えて，金・銀を沈殿させる。沈殿物は適当な方法で製錬し，過剰な亜鉛や，その他の不純物を除き，金・銀の地金(青金)に仕上げる。高品位の金銀鉱は，銅鉱や鉛鉱とともに乾式製錬法で処理するのが有利であるが，比較的低品位鉱はふつう青化法で処理する。〔草川隆次〕

せいかん【精管】 輸精管ともいう。男子の精巣上体*管(副睾丸管(ふくこうがんかん))に続く管状臓器で，輸精道の主要部分をなし，末端は腹腔(ふくこう)内にはいり射精管に終わっている。精巣上体部・精索部・鼠径(そけい)部・骨盤部からなり，全体の長さは約50～60cm。管は内部から粘膜層，筋層および外膜からなる。太さは普通の鉛筆の芯(しん)くらい。

せいかん【成漢】 中国，五胡(ごこ)十六*国の最初の国。303年，氐(てい)族の酋長(しゅうちょう)李雄(りゆう)が甘粛・四川地方を本拠として建て，国号を大成と定めたが，李雄の死後一族の李寿が位を奪い，338年に国号を漢と改めた。しかし，一族の国であるので，一般に成漢と連称する。347年に東晋(とうしん)の桓温(かんおん)に滅ぼされた。

せいがん【請願】 古くは為政者に対して国民が生活上の苦情や政治的な希望を申し出ることを請願，あるいは陳情といった。日本でも外国でも古い時代には，そのような申し出をすることさえ認められず，しばしば死刑などによってきびしく処罰された。しかし，1689年イギリスの権利章典で，請願を処罰しないことを国王に認めさせたのをはじめとして，しだいに各国とも請願権を認めるようになった。日本国憲法でも，国あるいは地方公共団体の各機関に対して〈何人も請願をしたために，いかなる差別待遇も受けない〉(16条)と規定し，請願法も制定されている。その内容は，損害の救済，公務員の罷免，法律・命令または規則の制定・廃止または改正，その他の事項などである。〔永井憲一〕

ぜいかん【税関】 人・物・船舶・航空機が，自国の国境または領空を通って出はいりするとき，その国境通過に伴って生ずるいっさいの事務にあたるために国境の要地に設けられた行政機関。そこでは，輸入貨物に関*税をかけ，外国から入港する船舶にとん*税をかけ，特別貨物には免税・減税・もどし税(関税払いもどし)・保税(課税の保留)の処置をとり，外国貿易船や国際航空機の来往を取り締まり，禁輸貨物の密輸出入を監視するなど，対外貿易と自国産業の発達に必要な重要職能を遂行する。わが国の税関は大蔵省の管轄のもとに置かれ，横浜・

神戸(こうべ)・大阪・名古屋・門司(もじ)・函館(はこだて)・東京・長崎の8港に本関があり，その管下に支署63，出張所108，監視署29がある(1971年4月現在)。〔上坂西三〕

せいがんとじ【青岸渡寺】和歌山県東牟婁(ひがしむろ)郡那智勝浦(なちかつうら)町にある天台宗の寺。背後に那智滝をひかえた景勝の地にあり，創建は推古天皇の御代にさかのぼるといわれる。観音信仰の隆盛により，西国三十三所第1番の札所となった。また，古くから修験の霊地，山伏の道場として栄えた。本堂如意輪堂は桃山時代の建築で，那智の経塚(きょうづか)から発掘された金銅仏・経筒・鏡などを収蔵する。

せいかんトンネル【青函トンネル】津軽海峡西部の海底を貫いて，本州の津軽半島龍飛崎(たっぴざき)と北海道の松前半島白神岬(みさき)とを結ぼうとする鉄道トンネル。日本鉄道建設公団により1963年(昭和38)から調査が始められ，1971年11月より着工，総工費3,250億円で1979年3月には完成の予定である。トンネルは，北海道上磯(かみいそ)郡知内町湯ノ里と青森県東津軽郡今別町浜名間の，長さ53.85km(海底部延長23.3km)で，完成すれば世界最長の鉄道トンネルとなるはずである。

せいかんぶっしつ【星間物質】星間空間に存在する物質。星間ガス(星間空間に存在するガス。大部分が水素原子で，ほかにヘリウム・酸素・窒素・ナトリウム・カルシウムなど)と星間塵(せいかんじん)(微小な個体粒子)からなっている。星間ガスは連星のスペクトルの中に時間によって波長のずれない停留スペクトル線があることからその存在が見つかり，また星間塵の存在は遠い星の色がそのスペクトル型から推定される色より赤みをおびていること(空間赤化)からわかった。近年では光学的な観測だけでなく，電波観測によって星間空間内に水素原子やOH分子などが発見されている。星間物質は銀河面に集中して分布し，渦状(かじょう)構造を最もよく示している。〔磯部琇三〕

せいがんぶっしつ【制癌物質】悪性腫瘍(しゅよう)を抑制することのできる物質で，ことに癌の成育を抑制できる物質。制癌薬あるいは抗癌薬ともいう。現在，人体の癌を完全に抑制できる物質は発見されていないが，かなりよくおさえうるものはある。作用機序の点からは，アルキル化薬・代謝拮抗薬(きっこうやく)，機序不明のものに分類でき，前二者はいずれも核を抑制する型である。①アルキル化薬：ナイトロジェンマスタード・TEM・TEPA・マイトマイシン・ブレオマイシンなどに代表され，核酸と結合して核の分裂を抑制する。この作用は放射線をかけたときと同じなので放射線様作用薬とよばれる。②代謝拮抗薬：癌の代謝の中で動きの大きい物質である葉酸・プリン体・ピリミジン体と構造式が似ていて，しかも抑制作用のある合成薬で，これが代謝の経路にはいって癌細胞の成育が抑制される。アミノプテリン・6-メルカプトプリン・5-フルオロウラシルなどがこれに属する。③機序不明のもの：核抑制以外の作用をもつもので，多糖類・ポリペプチドなどがあげられるが，将来の研究にまつものが多い。なお以上のほかに，コルチゾンおよび性ホルモンも使われることがある。〔伊藤隆太〕

せいかんれんらくこうろ【青函連絡航路】青森〜函館(はこだて)間に開設している国鉄の鉄道連絡航路。営業キロ数113.0。1908年(明治41)開設の本州と北海道を結ぶ幹線交通路で，貨車航送設備をもつ。1925年(大正14)以降貨車航送を開始し，第2次世界大戦では大きな被害を受けた。戦後新船の増備により復興したが，1954年(昭和29)の台風のため，洞爺丸(とうやまる)が沈没して1,172名の犠牲者を出したことは記憶に新しい。1964年以降，新船への取り替えが進み，1970年現在で貨客船7隻，貨車航送船5隻が就航している。〔青木栄一〕



青 岸 渡 寺　本堂(如意輪堂)

せいかんろん【征韓論】明治初年の朝鮮侵略論。明治維新後，政府は李氏(りし)朝鮮(→李朝)に国交を求めたが，朝鮮は鎖国*政策をとり，これを拒否した。その後数度の外交交渉にも応じなかったため，1873年(明治6)政府部内に征韓論が起こった。当時政府首脳部の半ばは岩倉遣外使節*として外遊中であったが，留守政府の参議間で武力を背景とする対鮮交渉が決定され，西郷隆盛*(たかもり)ら征韓派の参議は，不平士族の不満を征韓にそらし内政改革をめざした。しかし，帰朝した岩倉具視(ともみ)・大久保利通*(としみち)・木戸孝允*(たかよし)らは内治優先を唱えて征韓論に反対し，両派の激しい政争のすえ征韓派は敗れた。西郷をはじめ板垣(いたがき)退助*・後藤象二郎*・副島種臣*(そえじまたねおみ)・江藤新平*らの征韓派参議は下野し，それぞれ士族反乱と自由民権派に分化して政府に対抗した。一方，大久保を中心とする政府は，1875年江華島事件*を起こし，1876年日鮮修好条規*を結び，徐々に朝鮮侵略を進めていった。〔高崎徳次〕

せいぎ【西魏】⇨北魏

せいきこうがく【生気候学】気候と生命の関係を明らかにする気候学の一部門。特に気候が人間の健康や活動あるいは動植物の生活に与える影響などを研究する。具体的には各地の気候的条件と発病との関係，疾病(しっぺい)の季節的変化などを対象とする。動植物の季節に伴う生活型その他の変化が緯度や海抜高度といかなる関係をもつかを表わしたものを生気候法則とよんでいる。たとえばアメリカ東部においては緯度が1°，高度が400フィート(約120m)高くなるごとに4日遅れる。なお類似した分野に生気象学がある。➔気象学

せいきしゅっけつ【性器出血】性器から出血することであるが，おもに女性の場合に用いられる。産婦人科外来を訪れる患者の訴えでは，性器出血・帯下・下腹痛・腰痛・無月経・月経異常・腫瘤感(しゅりゅうかん)・不妊などが多い。これらの主訴のうち，性器出血は最も多い訴えの一つである。性器出血をきたす産婦人科疾患のうち，婦人科方面のおもなものは機能性子宮出血・子宮癌(しきゅうがん)・子宮筋腫・絨毛(じゅうもう)性腫瘍(しゅよう)・子宮内膜炎・子宮膣部糜爛(ちつびらん)などである。また全身的疾患である敗血症・白血病も子宮出血の原因となりうる。産科方面では妊娠前半期では流産・胞状奇胎・子宮外妊娠があり，妊娠後半期の出血では早産・前置胎盤・常位胎盤早期剝離(は



青函連絡航路　函館港にはいる青函連絡船(摩周丸)。正面に湾口を扼する函館山がそびえ，その右に小さく青森へ向かう連絡船が遠ざかる

（くり）などがある。若年者あるいは未婚者の性器出血は機能性子宮出血が，性成熟婦人では妊娠に関係のある流産・子宮外妊娠・悪性腫瘍特に子宮頸癌（しきゅうけいがん）が，それ以後では更年期出血・子宮癌などが疑われる。〔木川源則〕

せいきちょう　【青輝鳥】 鳥類・キンパラ科。アフリカ原産の飼い鳥。サファイアともいう。コウギョクチョウ*よりやや細長い。背面は赤かっ色，腹面は淡かっ色の中央部を除き青色。わが国には大正時代にすでに輸入された。寒さに弱いため越冬には注意を要する。産卵はするが，育雛（いくすう）に生き餌（え）が必要なため巣引きは困難。

せいきびょう　【世紀病】 19世紀前半のヨーロッパにおいてロマン主義*芸術家の一部が痛感した不安憂悶（ゆうもん）の病的状態をいう。世俗の生き方に抵抗するための過度の緊張から生ずるもので，不安といらだちをこめた自己告白を詩文に表現するが，その心境が世人に理解されないだろうという孤立感と挫折感（ざせつかん）もある。代表的な作品では，シャトーブリアン*の《アタラ-ルネ*》やミュッセ*の自伝小説《ある世紀児の告白》がある。〔長崎勇一〕

せいきぶんぷ　【正規分布】 変数 X の値が $a \leqq X \leqq b$ の範囲内にある確率 $P(a \leqq X \leqq b)$ が，関数

$$f(x)=\frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}}e^{-\frac{(x-m)^2}{2\sigma^2}}$$

（ただし，$e=2.718\cdots\cdots$
m，σ はパラメーター）

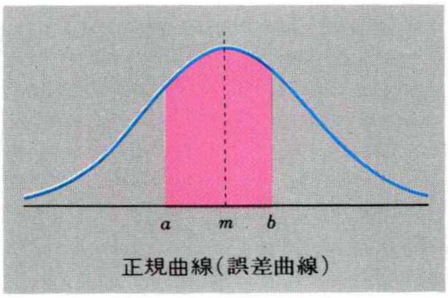
の a から b までの定積分

$$\int_a^b f(x)\,dx$$

で表わされるとき，この分布（変数 X のとる値と，その値をとる確率を対応させたもの）を正規分布という。すなわち，$f(x)$ をグラフで示すと図のようになり，X の値が $a \leqq X \leqq b$ の範囲内にある確率が斜線の面積で表わされる。正規分布では平均が m，分散が σ^2 である（→標準偏差）。長さなどの測定値の偶然誤差による変動は，$m=0$ の正規分布に従うので，このグラフを誤差曲線ともいう。誤差曲線は平均を中心とする対称な山形の曲線である。正規分布は広く利用され，$m \leqq X \leqq m+x\cdot\sigma$ となる確率 $P(x)$ は平均 m や分散 σ^2 に関係なく，x のみで定まる。

x	$P(x)$
0.5	0.191
1.0	0.341
1.5	0.433
2.0	0.477
2.5	0.494
3.0	0.499

〔小西勇雄〕



正規分布

せいきまつしちょう　【世紀末思潮】 19世紀末の西欧文学に共通する，懐疑・不安・憂愁・退廃など，不健康な精神情況をいう。唯美的性格の濃厚な新ロマン主義*の末期的症状ともいえる。フランスに早く現われ，イギリス・ドイツ・オーストリアに広まった。アメリカでは建設途上の資本主義の活力と開拓気分が文学界に反映して，その影響は少ない。流行の主因として，資本主義の進行に伴う商工業者・一般市民の俗悪化，機械文明の非情な現象が，敏感な文学者に理想の挫折感（ざせつかん）と幻滅感をいだかせ，現実逃避に走らせたことが考えられる。人道主義の理想，純一な信仰，人間性への信頼が失われ，唯美的な空想世界にも安住できぬとき，不安と退廃の傾向に陥る。フランスのベルレーヌ*とユイスマンス*，イギリスのワイルド*，オーストリアのシュニツラー*らがその代表的文学者。〔長崎勇一〕

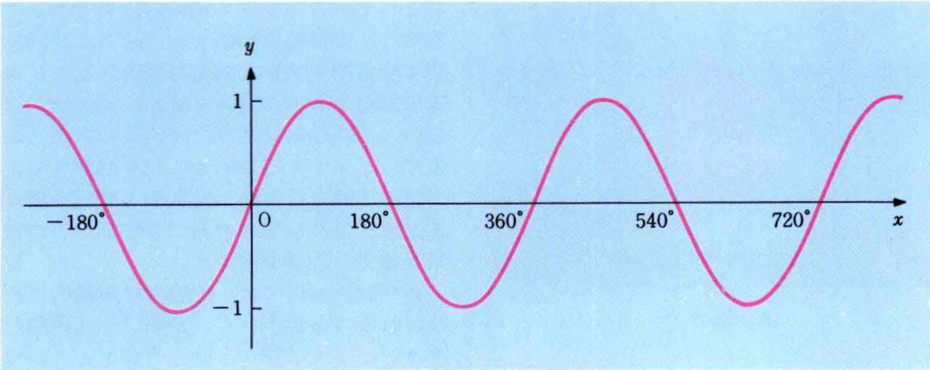
せいきゅう　【請求】 民事訴訟法では，原告が訴えによって審判*を求める権利に関する主張をいう。請求として主張される権利関係を訴訟の目的または訴訟物という。請求が具体的にいかなるものかは原告が裁判所に出す訴状，①請求の趣旨（いかなる裁判を求めているか），②請求の原因（請求の内容・範囲・態様）をみてわかる。

せいきゅうけん　【請求権】 人に対して，ある行為をなすことを求める権利。債権*や物上請求権などをさす。たとえば，金を貸した場合，借り主に対し貸し金の返還を求める権利，また土地の不法占有者に対し所有権に基づいて土地明け渡しを求める権利などである。これに対して，目的物を直接支配する権利を支配権という。所有権や無体財産権（著作権・特許権）などがこれである。また，一方的に権利関係を創設することができる権利を形成権という。〔内田剛弘〕

せいきょういく　【性教育】 一般に，教育の現場では〈純潔教育〉という用語でよばれている。1955年（昭和30），文部省社会教育審議会の〈純潔教育の普及徹底に関する建議〉によれば，〈両性間の精神的肉体的関係を正しくするための教導または対策〉と定義され，文部省から《性と純潔》《男女の交際》という冊子が発行され，指導の内容と方向が指示されている。性教育には，一般に次のような内容が含まれている。①幼少期における性器の取り扱いをどう指導し，性に関する疑問――子どもはどうして生まれるの――に正しく答える。②第2次性徴期に，その時期に両性それぞれに起こる身体的変化の意味と内容を理解させ，児童・生徒がもつ無用の不安を除去する。③男女がそれぞれの肉体的・精神的差異を相互に尊重し，愛情と信頼のもとに男女の共同生活を建設的に営む心構えを理解させて，未来の家庭生活への基礎を築く。④性病による個人の肉体の破滅は，同時に社会生活の未来にとっても不幸である点を理解させ，一時の不健全な交渉を抑制する態度を養う。⑤児童・生徒を性の被害から守るための対策を講ずる必要を考える。

わが国においては，性教育は組織的に行なわれることが少なく，結婚寸前に両親がひそかに子女に語るという方式がとられていた。若者制度にあっては，若衆宿・娘宿などで年長の若者が後輩に対して，一般的な性教育を施すのが普通であった。また，学校制度が整えられてからも，理科や生理における一般的な生理学的説明と，心構えの指導が中心となり，児童・生徒が知りたいと考えるような内容は不明瞭（ふめいりょう）にされていた。したがって，男性においては，同輩集団の早熟な者や寮（寄宿舎）生活の中での先輩から興味本位に語られる程度の知識を得るのが普通であり，女子の場合は，初潮の際に一部の家庭で女になった祝いが行なわれ，主として性に関しての被害を受けないようにという注意がなされるのみであった。これらは，わが国の社会が，性を恥部的な隠すべきものとしてみる考え方に支配され，性に関する禁忌のきつい社会であったことに原因がある。

第2次世界大戦後，〈七年にして男女席を同じうせず，食をともにせず〉（《礼記（らいき）内則編》）という考え方が破られ，学校にも共学がふえ，性の解放感が広がるにつれて，この分野を教育の場で積極的に取り上げざるをえなくなり，純潔教育の必要性がいわれるようになった。しかし，学校でも純潔教育にはなお消極的であって，多くは，第2次性徴期に特定の時期を設けて指導する程度というのが現状である。一方，社会の性に関する禁忌は大幅にゆるめられ，従来は口伝えの形で存在していた性が顕在化し，学校で教えられる内容が幼稚に思えるほど，性に関する出版物・映画などが氾濫（はんらん）し，その方面からの知識注入が大きな影響力を与えるようになり，児童・生徒のほうが興味本位の知識の量においては，成人よりおとなであるといえるような現象を生み出している。したがって，今後の性教育の課題としては，氾濫する興味本位の性知識をいかに整理し意味づけるか，本質をどう考えさせるかという問題があげられる。社会の存続のための性の意味と，生活の享楽的な意味にとられがちなそれとの違いをどのように理解させるかが問題である。また，従来一般に純潔教育は女子に対してのみ行なわれてきたが，現在は男子に対しても積極的な性教育をする必要が生じている。いずれにしても，性教育は，家庭・学校・社会の一貫の中で，性をもっと健康



正 弦 曲 線

なものとして考えるように指導されねばならない。〔浜田陽太郎〕

せいきょうしゃ 【政教社】 明治中期，国粋主義*者のよりどころとなった思想的結社。1888年(明治21)三宅雪嶺*(みやけせつれい)・志賀重昂*(しげたか)・杉浦重剛*・井上円了らが創立。藩閥政府の極端な欧化主義*に反対し，民族文化を育てることを主張して，機関誌《日本人*》を発行。また一時，雑誌《亜細亜(アジア)》を発行して東洋精神と東洋趣味の優秀性を世に知らせた。この結社の特色は幅広い世界的教養と視野の上に立って国粋主義を唱えた点にある。明治時代の浪漫(ロマン)精神を醸成した思想史上の役割は大きいが，関東大震災後，三宅が去ってから反動的国粋主義の色彩を強めた。〔高崎徳次〕

せいきょうと 【清教徒】 ⇨ピューリタン

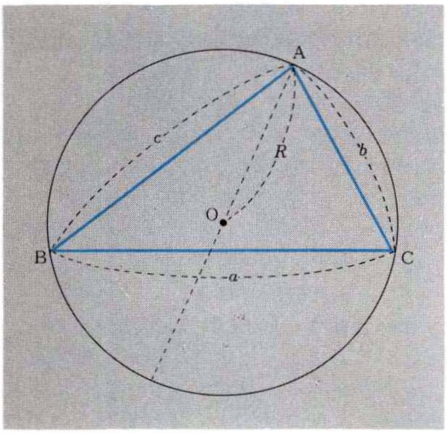
せいきょうとかくめい 【清教徒革命】 ⇨ピューリタン革命

せいきょうようろく 【聖教要録】 山鹿(やまが)素行*の著。3巻。1665年(寛文5)成立。《山鹿語類》の中から，その思想的中核部分を抜き出し簡潔な漢文にまとめたもので，素行の古学派の立場を確立した書。28項目よりなり，儒学の根本は周公・孔子のことばそのものにあるのだから，それをじかに学ぶべきであり，後世の儒家の意見は排さねばならないとして，儒学上の復古を説いている。また素行は，真の学問は実学であるべきだと主張し，一貫して朱子学を批判したため，罪に問われて赤穂(あこう)浅野家に配流となった。〔永藤　武〕

せいぎょこうがく 【制御工学】 自動制御*に基づく工学全般をいう。自動制御理論を実際に応用するための工学で，たとえば化学工業において温度や濃度を必要な値に制御する場合，測定した温度をもとにどのような方式で具体的に制御するかについて実際面を扱う。自動制御の基礎をはじめとして，自動制御の方式，測定を行なう工業計測，自動制御用の機器および遠く離れた場合の制御に必要となる遠隔測定と遠隔制御などが含まれる。〔内山明彦〕

せいぎょぼう 【制御棒】 ⇨原子炉

せいきんやく 【静菌薬】 細菌の増殖を抑制する薬。細菌を殺滅するには至らない。



正 弦 法 則

多くの化学療法薬は，それぞれ生体内において感染症を治癒(ちゆ)できる有効な濃度においてこの作用を有する。この作用に生体の力が加わって感染病がなおるわけで，生体の感染症処理が十分に終わるまで薬を持続させる必要がある。静菌薬も濃度を高めると殺菌性をもつのが通常である。➔殺菌薬

せいくうけん 【制空権】 制空権とは，一挙にほぼ完全な空の支配権を獲得し，相当長期間にわたって維持することを意味するが，現在ではそれが困難なため，これに代わって航空優勢の語が用いられている。広義には，平時・戦時を問わず，また空地を問わず，相手国に影響を及ぼすことができるような航空力の優位をいう。狭義には，航空戦力が空中または空間において，敵の航空戦力に対し優勢を保持することであり，優勢の度合いも種々であるが，通常大きな妨害を受けることなしに航空作戦を実施できる状態をいう。この優勢の度合いを表わすため，次の用語を用いることがある。①全般的航空優勢，②局地的航空優勢，③長期にわたる航空優勢，④一時的航空優勢，⑤絶対的航空優勢。しかし，航空優勢が絶対的であったことは，ほとんどない。またその状態はつねに変化し，国家の生存，軍事作戦の成否にきわめて大きな影響力をもつ。〔森田　哲〕

せいけいげか 【整形外科】 内臓器官を除く四肢(しし)と軀幹(くかん)の運動器外科学。骨および関節の病気をおもに取り扱う。整形外科学はわが国では比較的歴史が浅いので，形成外科*学の一部である美容整形と混同する人が多いが，近来，交通外傷・スポーツ外傷などの災害外科の増加から少しずつ正しく認識されるようになり，その範囲もしだいに拡大されてきた。整形外科の治療はいろいろあるが，運動器の外科である以上機能の回復ということが最もたいせつである。従来は保存的療法を主にしてきたが，第2次世界大戦以後，抗生物質の発達に伴って飛躍的に手術療法が進歩し，人工関節，骨の移植術などが容易に行なわれるようになった。〔山中英夫〕

せいげん 【正弦】 三角関数の一。サイン(sine)ともいう。記号sin　平面上に直交座標を設け，原点を通り x 軸と角 θ をなす動径が，原点を中心とする半径 r の円と交わる点の座標を $P(x, y)$ とするとき，比 $\frac{y}{r}$ の値は θ の大きさに伴って定まる。これを正弦といい，$\sin\theta=\frac{y}{r}$ で表わす。➔三角関数

せいげんぎょうし 【青原行思】 (？～740) 中国，唐代の禅僧。吉州(江西省)安城の人。諡(おくりな)は弘済(こうさい)禅師。幼時に出家し，曹溪(そうけい)におもむいて禅宗第6祖慧能*(えのう)に参じ，参禅弁道を重ね，ついに南岳懐譲*(なんがくえじょう)とともに慧能の法を継いだ。のち吉州青原山静居(じょうご)寺に住し，大いに禅風を挙揚した。これより南宗禅は2派に分かれ，懐譲の流れを南岳下，行思の流れを青原下とよぶようになった。青原下からは，曹洞宗(そうとうしゅう)・雲門宗・法眼宗(ほうげんしゅう)の3宗を出している。〔田中良昭〕

せいげんきょくせん 【正弦曲線】 正弦関数 $y=\sin x$ のグラフのこと。余弦関数 $y=\cos x$ のグラフも，$\cos x=\sin(90°-x)$ であることから，同じ形の曲線となる。➔三角関数

せいげんは 【正弦波】 時間と場所の関数 $y=A\sin 2\pi(x/\lambda\mp t/T)$ または $y=A\cos 2\pi(x/\lambda\mp t/T)$ は，正弦曲線の波形をもち，x 軸の正の向き(複号の−の場合)または負の向き(複号の＋の場合)に速さ λ/T で進む波動を表わす。このような波を正弦波という。なおここで λ は波長を，T は周期を表わす。複雑な波形の波はすべて波長の異なる多数の正弦波を重ね合わせたものと考えることができる。➔波動〔有山正孝〕

せいげんほうそく 【正弦法則】 三角形の辺と角の間になりたつ公式の一。三角形ABCの内角をA，B，C，対辺をそれぞれ a，b，c とするとき，三角形ABCが平面上の三角形ならば，各辺はその対角の正弦に比例する。すなわち，

$$\frac{a}{\sin A}=\frac{b}{\sin B}=\frac{c}{\sin C}(=2R)$$

（ただし，Rは三角形ABCの外接円の半径）
また，三角形ABCが球面三角形ならば，

$$\frac{\sin a}{\sin A}=\frac{\sin b}{\sin B}=\frac{\sin c}{\sin C}$$

がなりたつ。これらを正弦公式または正弦定理という。１辺と両端の角が与えられた三角形で，残りの２辺を求めるときなどに用いられる。〔青柳雅計〕

せいこ【西湖】シー湖　中国，浙江(せっこう)省の杭州(こうしゅう)市の西部にある湖。周囲約15km。三面を山に囲まれた山水の景勝として知られる。湖上には白居易の築造と伝えられる白堤が北部の孤山の小島から東に延び，西部には蘇軾(そしょく)のつくったとされる蘇堤が南北に延びている。かつて土砂によって湾口が閉塞(へいそく)された湖で，唐代には水運や灌漑(かんがい)に用いられたこともある。付近には霊隠寺・天竺(てんじく)寺など有名な寺院や宋(そう)の忠臣岳飛の墓など古跡が多く，一帯は遊覧・保養地になっている。〔船越昭生〕

せいご ⇨スズキ

せいこう【正孔】⇨半導体

せいこう【性交】男性(雄)性器と女性(雌)性器とを交接させる行為。両性器の正常な交接が行なわれるためには，男子性器の勃起(ぼっき)現象があることが前提であり，勃起した陰茎が腟(ちつ)の中に挿入(そうにゅう)され，両者の摩擦によって，男女双方に快感をもたらす。男性はこの快感の頂点で射精を行ない，精液を腟内に放出する。この行為は人間の場合，種族保存のための本来の目的で行なわれる場合と，いろいろな避妊法を利用して，単にこの性的快感のみを追求して行なわれる場合とがある。交尾・交接・交合ともいう。〔藤井和明〕

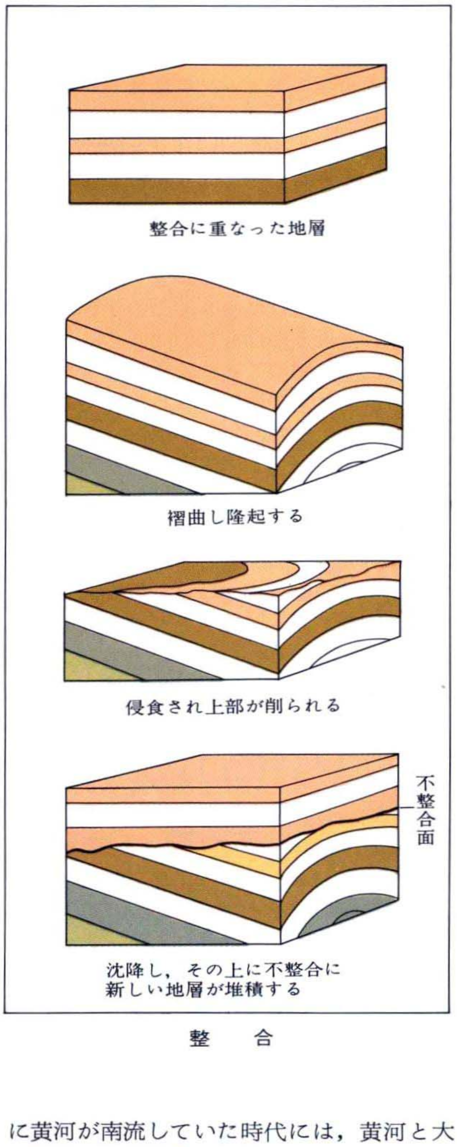
せいこう【精鉱】鉱床から採掘した鉱石は，ふつう製練するに先だち選鉱にかけ，高品位の部分と，低品位で製練の原料とするに耐えない部分とに分ける。この高品位の部分を精鉱という。原鉱中の有価物の大部分が精鉱に集中するから，運搬・貯蔵・製練など，その後の工程の処理量の負担は，大いに軽減されることになる。

せいこう【製鋼】銑鉄をさらに精練し，炭素などの不純物を酸化除去して鋼を得ること。精練を行なう炉の種類により，平炉製鋼法・電気炉製鋼法・転炉製鋼法などに分類される。いずれも炉床に使用する耐火物の性質により酸性法と塩基性法とに大別されるが，前者は原料を厳選する必要があり，生産費も高いため，今日では主として後者により操業が行なわれている。精練は鉄鉱石の投入，あるいは純酸素ガスの吹き付けなどによる酸化精練であり，過剰の酸素は精練末期に脱酸剤を加えて除去する。〔草川隆次〕

せいこう【清江】チンチャン　中国，江蘇(こうそ)省北部の都市。旧称淮陰(わいいん)。隋(ずい)代以後，大運河に沿う要地となり，ことに黄河が南流していた時代には，黄河と大運河の交点に位置して航行上の要地として栄え，清(しん)代にはここに河道総督が駐在しており，現在でも江蘇省北部の交通の要衝となっている。付近で産する農産物の集散をなし，さらに移入雑貨の供給地であり，綿布・製粉・製帽などの工業も盛んである。現在の市街の南東が漢代の淮陰県の地で韓信(かんしん)の生地もこの付近。〔船越昭生〕



西　湖　その自然の風光は湖畔の古跡・仏閣とよく調和し，中国第一級の景勝地の名に恥じない。現在は人民休養の地として訪れる人々が多い



整　合

せいこう【西江】シー川　中国，華南を東流する川。雲南省東部の紅水河・八達河・南盤江などを源流とし，東南に流れて広西チワン族自治区にはいり，左岸から柳江，右岸から鬱江(うっこう)を合わせ，さらに東流して桂江(けいこう)を入れる。広東(カントン)省にはいってからは北江・東江をも合わせ，分流してデルタをなし，珠江となって南シナ海に注ぐ。狭義には広西チワン族自治区梧州(ごしゅう)市より下流，三水において北江を合わせて高鶴(こうかく)・江門を経て南シナ海にはいる流域をいう。水量は豊富で，航運の便があり，広西地方の石灰岩地帯は美しい風光で知られている。流域一帯には豊かな産業や文化をはぐくみ，多くの都市を形成し，華北の黄河や華中の揚子江と並ぶ華南の動脈として重要な役割を果たしている。支流の北江・桂江は，江西省の贛江(かんこう)，湖南省の湘江(しょうこう)と連絡し，華南と揚子江流域を結ぶ重要幹線になっている。〔船越昭生〕

せいごう【精好】精好織ともいう。もと精緻(せいち)で地合(じあい)の良好な絹織物をさしたが，のちには経緯に練糸(ねりいと)を用いたもの，あるいは経糸(たていと)に練糸を用い，緯糸(ぬきいと)に太く合わせた生糸を用いたものをさした。経緯とも撚(よ)りがなく，厚地である。平安時代以来文献に散見され，鎌倉・室町時代には大口袴(ばかま)の料とされていたが，今日では神官の服や緋袴(ひばかま)に使用されるのみである。

せいごう【整合】二つの地層が同じ走向・傾斜で平行に接しているような重なり方を整合という。整合な地層は，侵食によってとぎれることなく，時間的に連続して堆積(たいせき)したものと考えられる。これに対し，上下二つの地層がでこぼこした面を境にして接しているような重なり方を不整合という。不整合は，下の地層が形成されてから上の地層が堆積する間に，時間的なとぎれがあることを示しており，上下の地層の間の接触面は侵食面である。不整合の存在はその地域に次のようなことが起こったことを示す。①不整合の下の地層の堆積，②この地層の侵食，③侵食面の上に新しい地層の堆積，さらに，①と②の間，あるいは②と③の間の時期に地殻(ちかく)変動が起こっていることが多い。したがって，不整合に重なっている二つの地層の走向・傾斜は，同じこともあるが(このような場合を平行不整合という)，多くの場合は違っている(傾斜不整合という)。不整合の下盤の岩石は堆積岩とは限らず，火成岩や変成岩の侵食面の上に，新しい堆積岩が形成されているような不整合もある。〔堀福太郎〕

せいこうかい【聖公会】イギリス国教会を母体とするキリスト教の一派。各国で独立して存在し，日本では1887年(明治20)日本聖公会が設立された。信者数約40,000。

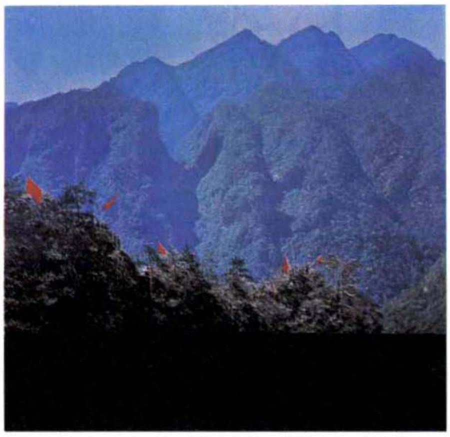
せいこうざん 【井岡山】 チンカン山 中国，江西省南部，湖南省との境に近いところにある険峻(けんしゅん)な山。万洋山脈の一山で，山頂は多くの岩峰からなり，標高は約1,600m。1927年，毛沢東は中国最初の革命根拠地をここに設け，1928年には朱徳の軍隊がここに合流し，中国工農紅軍第4軍が編成されて，当時の中国共産党翼下の中心部隊が成立した。付近では米・豆類・綿花・茶・竹・木材・桐油(とうゆ)などの農林産物を産し，近年，自動車道路の発展に伴い開発が進んでいる。行政的には省直轄の井岡山管理局に属している。 〔船越昭生〕

せいごうせい 【生合成】 生物は簡単なものを取り込んで，より複雑な生物体につくりかえているが，このときに生物によって行なわれる合成的化学変化をいう。より複雑なものをつくるためにはエネルギーの供給が必要であり，光合成*では光のエネルギーを利用して二酸化炭素と水とから糖を合成する。そのほか，酸化反応で得られたエネルギーをATP*の形として利用する反応が多い。生合成反応はおもに酵素*により触媒されているので，一般に特異性が高い。そのため，有機化学的合成では困難な物質の合成，特に光学異性体の一方のみのものを得る不整合成や不安定な物質の合成に利用される。 〔福島 健〕

せいこうとうてい 【西高東低】 日本の西側に高気圧があり，東側に低気圧のある日本付近の気圧配置の型。この型は冬に多く，大陸の高気圧が発達し，北海道東方の低気圧が強まり，北西の季節風が強くなる。

せいこうのへん 【靖康の変】 中国，北宋(ほくそう)が女真族の金軍に滅ぼされた事件。靖康は北宋最後の皇帝欽宗(きんそう)の年号。1126年，徽宗(きそう)が対金政策の失敗により退位したのを継いで，欽宗が即位したが，同年2度にわたる金軍の攻撃を受けて国都開封は陥落し，翌年徽宗・欽宗以下后妃ら3,000余人が満州に連れ去られた。こうして宋(北宋)は滅びたが，まもなく欽宗の弟の高宗が江南に都を置き，南宋を再興した。

せいざ 【星座】 天球を88個の区域に分けた区画をいう。日本のどんな場所もどこかの都道府県に属しているように，天球上のいかなる部分も88星座のどれかに属している。88星座のうち，黄道*の北に位置するもの29星座，黄道上にあるもの12星座，黄道の南に位置するもの47星座となっている。星座の起源は，古代オリエントのバビロニアの時代までさかのぼることができる。いまから約5,000年前，チグリス・ユーフラテス川の流域に移り住んだ遊牧の民は，星空に親しみ大空を動く星の位置から時刻や季節を判断する術を知り，惑星の動きをもとにした星占いを信仰した。そして目につく明るい星を連ねて動物の形や神の姿を想像するようになった。こうしてまず生まれたのが黄道上の12星座である。素朴(そぼく)な



井岡山 中心の茨坪を取り巻く周囲の地形は，高い岩峰をめぐらす天険の要害をなし，革命推進の好適条件をもっている

天文の知識とともに，これらの星座はフェニキア人を経てギリシアに伝えられた。古い西洋文明の花を咲かせたギリシアでは，天文学の研究も進み，バビロニアから輸入された星座もギリシアふうに改められた。ギリシア神話の諸人物(アンドロメダ・ペルセウスなど)が星座の名まえに登場し，おおくま座・こぐま座・はくちょう座など動物の名まえをもった星座も神話の伝説に結びつけられるようになったのである。ギリシア末期，2世紀のころ，天文学者プトレマイオス*はそれまでに伝えられた星座を48個に整理して，その著《アルマゲスト*》に書き残している。一方，中国においては，BC1000年のころから，天の赤道付近を28個の星座に分けて宿と名づけ，これを使って太陽・月・惑星の位置を示していた。

15世紀を過ぎ，南アフリカ経由のインド航路の開拓や，南・北アメリカ大陸の発見に伴って，ヨーロッパでは見ることのできなかった南天の星が人目に触れるようになった。17世紀にバイエルは，16世紀のオランダの探検家の記録をもとにして，南天にくじゃく座・カメレオン座など主として珍しい動物の名をもった12個の星座を新設した。また，望遠鏡の発達により，しだいに暗い星まで観測されるようになって，明るい大きな星座の間をうずめる必要に迫られた。17世紀末ヘベリウスはきりん座・とかげ座など動物の名をもった星座を11個設けたが，その大部分は北半球にあって輝星が少なく形のつかみにくいものばかりであった。18世紀になってラカイスはケープタウンで約10,000個の南天の恒星を観測した際，けんびきょう座・とけい座・らしんばん座など，新時代の器械の名をもった14個の星座を新設した。以上のほかにも多くの学者によっていろいろな星座が新設され，一時は混乱をひき起こすに至ったので，19世紀にはいってからは系統的に星座の整理が行なわれ，また最初は天球上の目につく星の群を分けてつくられた星座が，天球上の区画を意味するように変わってきた。そして1922年ローマにおける国際天文連合の第1回総会において，現行の88個の星座が定められ，それらの境界線が最終的に確定したのである。

別表は全天の星座の名まえを50音順に配列したものである。なお，表中の〈概略位置〉は，各星座のだいたいの中心の赤道座標を示す。また，＊印を付した星座は，黄道十二宮*をつくる黄道星座で，＊＊印を付したものは，日本からは見ることのできない星座を示す。

また，星座を覚えるには，最初は北斗七星と北極星とか，もとにする星座や星をさがしあて，あとは星図をたよりにしてしだいにたどっていくようにするとよい。 〔守山史生〕

せいざい 【製材】 原木を所定の寸法の角材や板材にする一連の作業。原木をまず大割りしたのち所定の寸法に小割りするが，のこぎりを入れる角度によって製材面に板目面・柾目(まさめ)面が生じ，これを木取りといい，柾目木取り・板目木取りの方法などいろいろある。また，製材機械には帯鋸(おびのこ)機械・丸鋸機械・長鋸(おさのこ)機械などがあり，帯鋸は長手方向に，丸鋸は長手方向ならびに輪切りに，長鋸は輪切りに，それぞれ使用される。 〔神山幸弘〕

せいさしょとう 【西沙諸島】 シーシャー諸島 中国大陸南方の南シナ海にある群島。海南島の南東約250kmに位置し，最高所が海抜15mの低い20余のサンゴ礁からなり，漁船の避難地として利用されている。産物に鳥糞(グアノ)・サンゴ・玳瑁(たいまい)がある。第2次世界大戦前はフランスが領有権を主張し，1939～1945年までは日本が領有した。大戦後は中国が領有権を主張している。

せいさつ 【制札】 人々に禁止事項などを公示するために立てられた立て札。禁制・禁札ともいう。おもに幕府の役人，諸侯やその部将らによって出され，軍勢の濫妨狼藉(らんぼうろうぜき)，兵粮米(ひょうろうまい)の徴発，竹木の伐採などを禁止したものが多いが，市場の掟書(おきてがき)を示したものや，キリシタンの禁制を布告したものもある。板札に書いて社寺の門前，市場や村落の入り口，その他人の目のつきやすい場所に掲げられた。鎌倉時代から出されたが，江戸時代ではふつう高札*とよんだ。 〔岡山泰四〕

せいざはやみ 【星座早見】 天球儀*を平面化して簡単にしたもの。天の北極を中心に星空を描いた固定円板の上を楕円(だえん)形の窓をもった他の円板が回転する仕組みになっていて，固定円板の外周に記された月日ともう一方の円板に記された時刻を合わせることにより任意の月・日・時刻における星空のようすを簡単に知ることができる。

せいさん 【生産】 原材料をはじめいろいろな生産要素を最も有効な方法で結合し，新しい財貨を生み出すこと。生産の3要素といわれる労働・土地・資本財あるいは生

産財と，それらの有効な組み合わせによって生み出される産出量との間には，通常ある一定の技術的な関係が存在する。この関係を生産関数という。一般に企業は，機械やいろいろな資材と労働力を使って生産を行なっているが，生産の技術進歩が著しければ，それだけ生産諸要素間の組み合わせも変化し，さらには新しい生産物が登場するようになる。通常一定の生産設備の規模における生産要素と産出物との関係は，産出物の量が増大すれば生産要素がより経済的・効率的になる。これを大量生産の法則という。それに対して生産設備の規模が拡大していく場合の生産要素と産出物との関係は，産出物の量が増大すればやはりより経済的・効率的になる。これを大規模生産の法則という。ここで注意しなければならないのは，大量生産の法則と大規模生産の法則とは密接な関係を有するが，いずれもある一定の生産量の水準を越えると経済的・効率的とはなりえず，むしろ非経済的な関係が発生するようになることである。

〔藤枝省人〕



星座早見

せいさん【青酸】 HN：CH・NC（または$H_2C_2N_2$）シアン化水素HCNの二量体である。昇華性で水によくとけ，酸・アルカリに分解してギ酸とアンモニアになる。また，シアン化水素の水溶液であるシアン化水素酸を青酸ともいう。➔シアン化水素

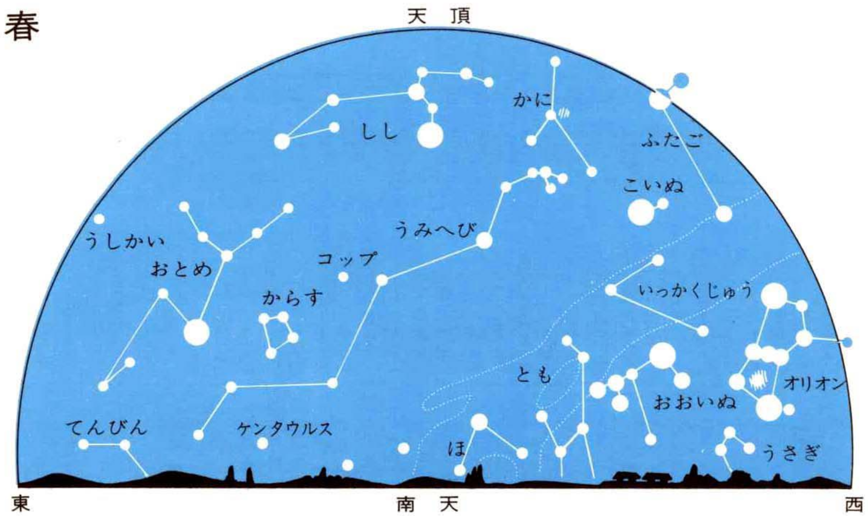
せいさん【聖餐】 キリスト教会で洗礼と並ぶ重要な儀式。カトリックでは〈聖体〉という。最後の晩餐におけるイエス-キリストのことば，〈これ(パン)は私のからだであ

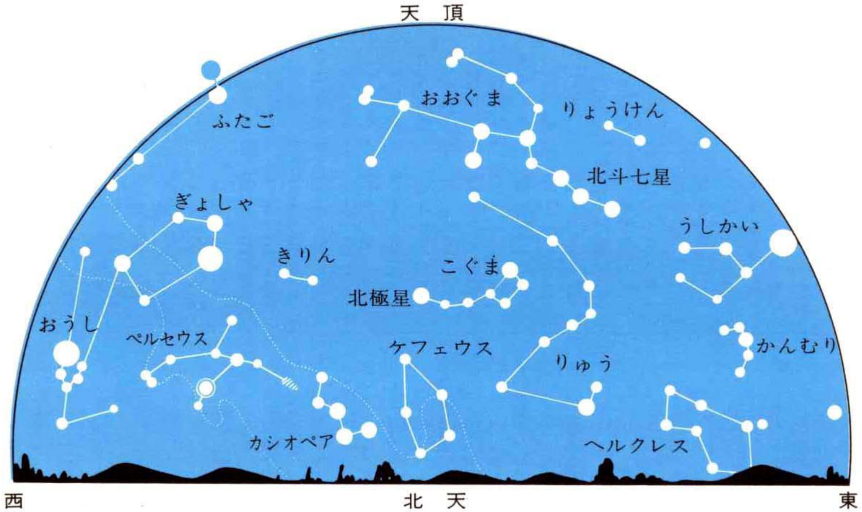
➔414ページ

星座一覧表 （1971年《理科年表》による）

星座名		学名	概略位置 赤経 (h m)	赤緯	星座名		学名	概略位置 赤経 (h m)	赤緯
アンドロメダ		Andromeda	0 40	+38°	じょうぎ	定規	Norma	16 0	−50°
いっかくじゅう	一角獣	Monoceros	7 0	− 3	たて	楯	Scutum	18 0	−10
いて*	射手	Sagittarius	19 0	−25	ちょうこくぐ	彫刻具	Caelum	4 50	−38
いるか	海豚	Delphinus	20 35	+12	ちょうこくしつ	彫刻室	Sculptor	0 30	−35
インディアン		Indus	21 20	−58	つる	鶴	Grus	22 20	−47
うお*	魚	Pisces	0 20	+10	テーブルさん**	テーブル山	Mensa	5 40	−77
うさぎ	兎	Lepus	5 25	−20	てんびん*	天秤	Libra	15 10	−14
うしかい	牛飼	Bootes	14 35	+30	とかげ	蜥蜴	Lacerta	22 25	+43
うみへび	海蛇	Hydra	10 30	−20	とけい	時計	Horologium	3 20	−52
エリダヌス		Eridanus	3 50	−30	とびうお**	飛魚	Volans	7 40	−69
おうし*	牡牛	Taurus	4 30	+18	とも	船尾	Puppis	7 40	−32
おおいぬ	大犬	Canis Major	6 40	−24	はえ**	蠅	Musca	12 30	−70
おおかみ	狼	Lupus	15 0	−40	はくちょう	白鳥	Cygnus	20 30	+43
おおぐま	大熊	Ursa Major	11 0	+58	はちぶんぎ**	八分儀	Octans	21 0	−87
おとめ*	乙女	Virgo	13 20	− 2	はと	鳩	Columba	5 40	−34
おひつじ*	牡羊	Aries	2 30	+20	ふうちょう**	風鳥	Apus	16 0	−76
オリオン		Orion	5 20	+ 3	ふたご*	双子	Gemini	7 0	+22
がか	画架	Pictor	5 30	−52	ペガスス		Pegasus	22 30	+17
カシオペア		Cassiopeia	1 0	+60	へび	蛇	Sernens	15 35 18 0	+ 8 − 5
かじき**	旗魚	Dorado	5 0	−60	へびつかい	蛇遣	Ophiuchus	17 10	− 4
かに*	蟹	Cancer	8 30	+20	ヘルクレス		Hercules	17 10	+27
かみのけ	髪	Coma	12 40	+23	ペルセウス		Perseus	3 20	+42
カメレオン**		Chamaeleon	10 40	−78	ほ	帆	Vela	9 30	−45
からす	烏	Corvus	12 20	−18	ぼうえんきょう	望遠鏡	Telescopium	19 0	−52
かんむり	冠	Corona Borealis	15 40	+30	ほうおう	鳳凰	Phoenix	1 0	−48
きょしちょう**	巨嘴鳥	Tucana	23 45	−68	ポンプ		Antlia	10 0	−35
ぎょしゃ	馭者	Auriga	6 0	+42	みずがめ*	水瓶	Aquarius	22 20	−13
きりん	麒麟	Camelopardalis	5 40	+70	みずへび**	水蛇	Hydrus	2 40	−72
くじゃく**	孔雀	Pavo	19 10	−65	みなみじゅうじ**	南十字	Crux	12 20	−60
くじら	鯨	Cetus	1 45	−12	みなみのうお	南魚	Piscis Austrinus	22 0	−32
ケフェウス		Cepheus	22 0	+70	みなみのかんむり	南冠	Corona Australis	18 30	−41
ケンタウルス		Centaurus	13 20	−47	みなみのさんかく**	南三角	Triangulum Australe	15 40	−65
けんびきょう	顕微鏡	Microscopium	20 50	−37	や	矢	Sagitta	19 40	+18
こいぬ	小犬	Canis Minor	7 30	+ 6	やぎ*	山羊	Capricornus	20 50	−20
こうま	小馬	Equuleus	21 10	+ 6	やまねこ	山猫	Lynx	7 50	+45
こぎつね	小狐	Vulpecula	20 10	+25	らしんばん	羅針盤	Pyxis	8 50	−28
こぐま	小熊	Ursa Minor	15 40	+78	りゅう	龍	Draco	17 0	+60
こじし	小獅子	Leo Minor	10 20	+33	りゅうこつ**	龍骨	Carina	8 40	−62
コップ		Crater	11 20	−15	りょうけん	猟犬	Canes Venatici	13 0	+40
こと	琴	Lyra	18 45	+36	レチクル**		Reticulum	3 50	−63
コンパス**		Circinus	14 50	−63	ろ	炉	Fornax	2 25	−33
さいだん	祭壇	Ara	17 10	−55	ろくぶんぎ	六分儀	Sextans	10 10	− 1
さそり*	蠍	Scorpius	16 20	−26	わし	鷲	Aquila	19 30	+ 2
さんかく	三角	Triangulum	2 0	+32					
しし*	獅子	Leo	10 30	+15					

春



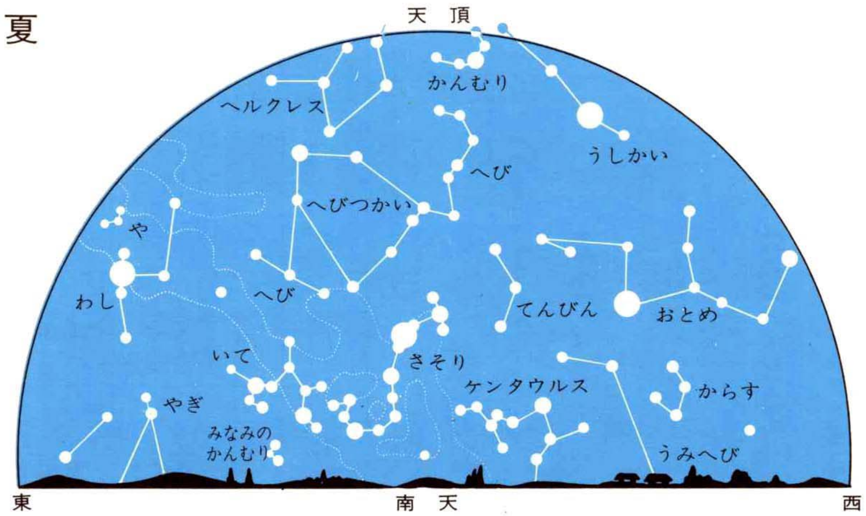


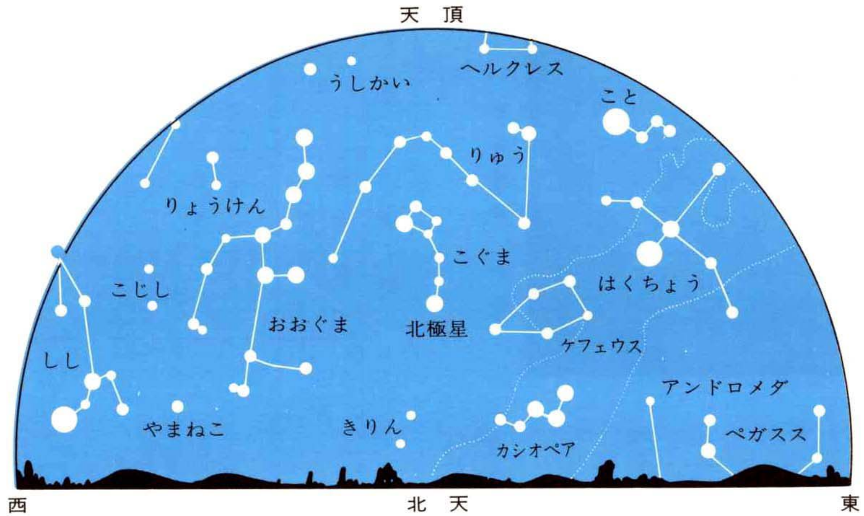
3月1日午後11時

4月1日午後9時

5月1日午後7時

夏





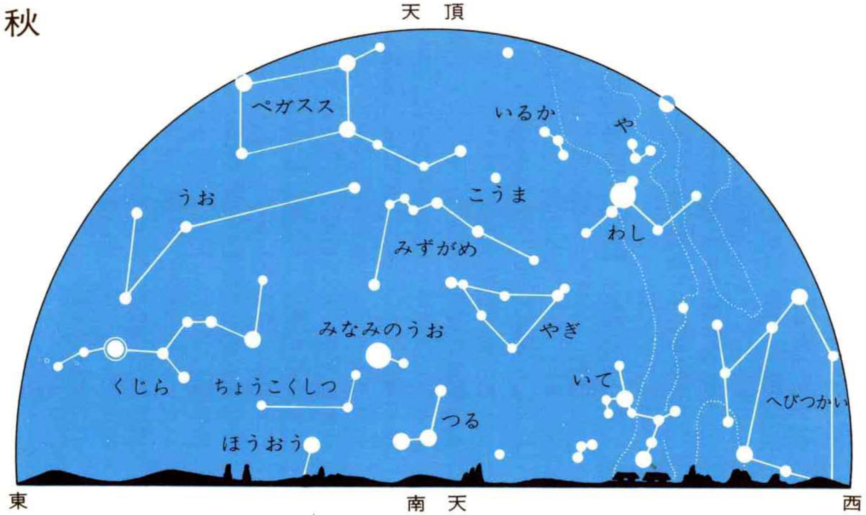
6月1日午後11時

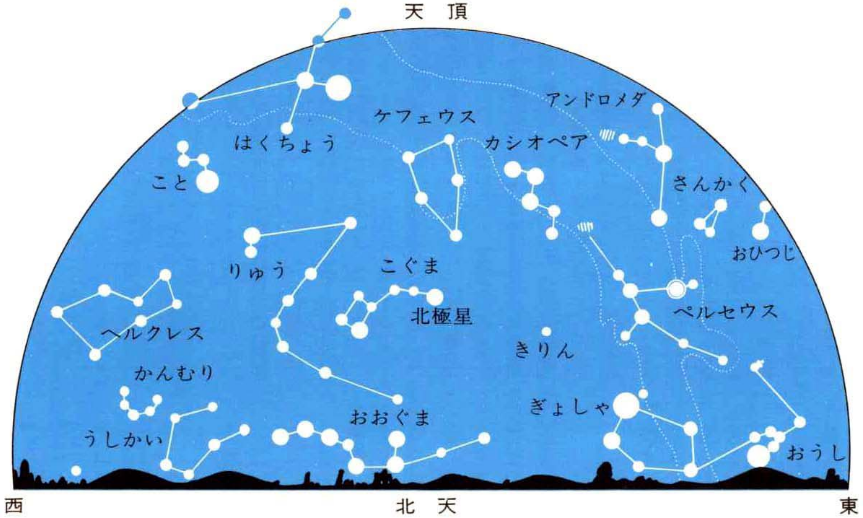
7月1日午後9時

8月1日午後9時

- 1　等　星
- 2　等　星
- 3　等　星
- 4 等星以下
- 変　光　星
- 星雲・星団

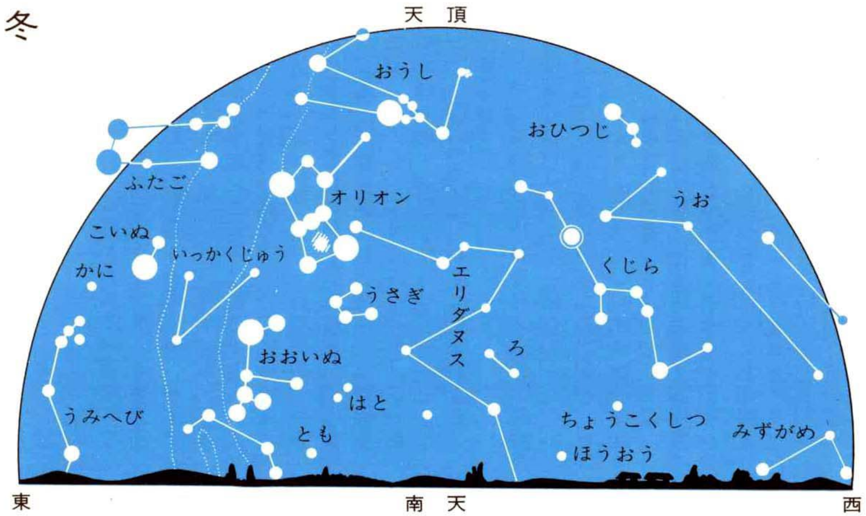
秋

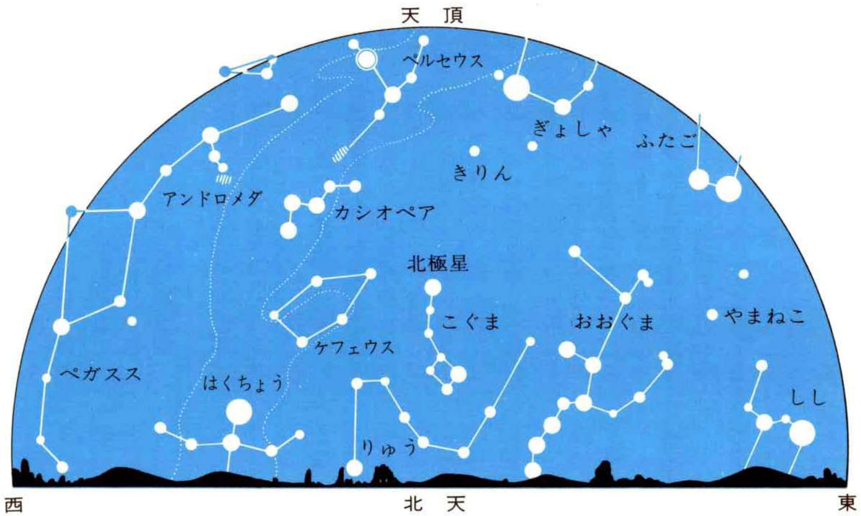




9 月午後11時
10月午後 9 時
11月午後 7 時

冬





12月午後11時
1 月午後 9 時
2 月午後 7 時

- 1 等星
- 2 等星
- 3 等星
- 4 等星以下
- 変光星
- 星雲・星団

座

る，これ〈ぶどう酒〉は私の血である〉（マルコの福音書14章22～24）に基づいて，パンとぶどう酒にあずかること。カトリックは聖別において，文字どおり，これらがキリストの血肉に化体すると解釈する。プロテスタントはほぼ各教派ともこれを象徴的に解釈している。いずれにしても，キリストと信者の深い結合と交わりが企図されていることには変わりない。

せいさんかかく　**【生産価格】**　費用価格*に平均利潤*を加えた商品の価格をいう。マルクスによれば，各生産部門における部門別の利潤率は，各部門の剰余価値率*，資本の回転速度および資本の有機的構成*によって規定され，剰余価値率と資本の回転速度に正比例し，資本の有機的構成の高度化に反比例する。つまり，資本の有機的構成が高いほど利潤率は低い。かくて，より高い利潤率を求める資本の本性から，資本の自由競争があるかぎり，利潤率の高い部門へと資本が移動し，この資本の部門間移動を通じて，究極的には等量の資本はそれがどの部門に投下されようとも，同額の利潤しか得られないように，利潤率が均等化する。この結果，平均利潤が成立する。この平均利潤を各生産部門製品の生産費に加えたものが生産価格である。したがって，生産価格の成立は資本の自由競争を前提として行なわれ，産業資本主義段階における商品の市場価格変動の中心点をなす。〔常盤政治〕

せいさんかてい　**【生産過程】**　人間が自然界に働きかけて諸使用価値をつくりだす過程をいう。諸使用価値をつくるための人間の労働が労働手段を媒介として労働対象に働きかけるという点では，労働過程はいかなる社会形態のもとでも共通している。しかし，歴史的存在としての人間は，具体的には相互に一定の生産関係*を結んでこうした労働過程にはいるのである。たとえば資本主義社会では，生産手段の私的所有を基礎として，具体的には雇用・被雇用という生産関係を結んで労働過程にはいる。したがって生産過程とは，こうした一定の生産関係のもとにおける労働過程のことにほかならない。資本主義社会では，諸使用価値の生産は商品の生産として行なわれ，かつ商品は使用価値と価値との統一物であるから，おのずから生産過程は労働過程と価値形成増殖過程との両面をもち，かつ両者の統一として現われる。〔常盤政治〕

せいさんカリ　**【青酸カリ】**　KCN　シアン化カリウムのことで，青化カリともいわれる。比重1.52，無色の結晶で，潮解性があり，猛毒である。融解したカリウムにアンモニアを作用させ，カリウムアマイドをつくり，これを木炭とともに強熱して得られる。また苛性（かせい）カリ*溶液にシアン化水素*を作用させても得られる。めっき，金属の焼き入れ，金銀の精錬・分析などに使われる。しかし多くの場合シアン化ナトリウム*でもよいので，これに置き換えられて，青酸カリはしだいに用いられなくなっている。〔鈴木　篁〕

せいさんかんけい　**【生産関係】**　人間が自然を対象として生産を行なう際に取り結ぶ人間相互の関係。それは生産力の発展段階に対応し，生産力との統一によって生産様式*を構成する。生産関係は，生産手段の所有関係に規定され，無階級的生産関係と階級的生産関係の二つに大別される。生産手段が社会の成員全体の所有のもとに置かれている場合が無階級的生産関係であり，生産の目的，生産を推進させる動機は社会の成員全体の欲望充足に基礎を置く。一方，階級的生産関係のもとでは，生産手段は特定の個人または集団によって所有され，他の成員はそこから除外されている。この場合，生産は生産手段の所有者が剰余労働によって剰余価値*を取得することを目的として行なわれる。原始共同体的生産関係や共産主義的生産関係は前者であり，奴隷制・封建制・資本制の生産関係は後者である。なお，生産関係は広義には，社会的再生産過程における交換・分配の関係をも含む。〔常盤政治〕

せいさんかんり　**【生産管理】**

1生産管理には広狭の二義がある。広義では財務管理*・労務管理*・販売管理*・購買管理*・製造管理のすべてを含む。これに対し，狭義では製造管理だけを意味し，製造活動すなわち工場の生産活動の管理をさす。ここに働く原理は，生産活動に投入する生産諸要素を総合的に調整することによって，企業の生産能率を可能なかぎり向上させることを目的とする。具体的には，生産計画に基づく，所望の品質の製品を，適切な費用で，所定の期日までに所要の数量だけ生産する目的で行なう，製造に関する一連の管理が狭義の生産管理である。その内容は次のように分類できる。①生産計画，②工程管理，③品質管理，④資材管理，⑤原価管理，⑥設備管理，⑦機械・工具管理，⑧運搬管理，⑨安全管理，⑩賃金管理，⑪環境管理，⑫熱管理・動力管理などである。生産管理組織としては，ライン組織・職能組織，そしてラインスタッフ組織*が基本的なもので，事業部制や委員会制度*なども最近みられる。

管理の名に値する生産管理運動はテーラー*の〈科学的管理〉に始まる。彼は科学的方法に基づくテーラー-システムとよばれる近代的な生産管理方式を確立した。これに次いでコンベヤーシステム*・オートメーション*などの方式，コンピューターの出現で自動制御管理の新方式があり，今日では，経営工学（IE）やOR的なアプローチが重視されている。〔清水　晶〕

2労働者の団体が，争議の目的を達成するため，工場・事業所などを占拠し，使用者の指揮命令を離れて自主的に経営を管理・運営すること。わが国で争議手段としての生産管理が実際に行なわれたのは，第2次世界大戦直後の読売新聞社争議が最初である。その後，京成電鉄・三菱美唄（みつびしびばい）・高萩（たかはぎ）炭鉱などに波及し，混乱した社会経済状態下での争議の主要な形態となったが，所有権・経営権の侵害を理由とする政府の弾圧や，長期にわたって生産管理を行なうことによって生ずる困難な点，たとえば資材・資金の獲得，製品の販売の困難などから，しだいに衰微していった。生産管理が争議行為として合法かどうかについては，当然違法とするもの，当然合法とするもの，一定の要件のもとに行なわれる生産管理を合法とするものに大別される。〔木元錦哉〕

せいさんけいかく　**【生産計画】**　一定期間内に生産する製品の種類・生産量・在庫量を決定する計画をさしていう。一般に生産計画は，工程計画，労務計画，機械・設備計画，在庫計画，資金計画などを含む。生産計画を立てるには，将来の一定期間の販売量を予測して販売計画を立てる必要がある。販売数量の予測は，販売実績・市場調査，将来の需要変動などを考慮して決定される。また顧客の需要は，価格，経済事情の変化，需給関係，新製品の出現，競争相手の動きなどで変わる。したがって生産方式や外注計画なども生産計画の重要な要因である。〔清水　晶〕

せいさんこくみんしょとく　**【生産国民所得】**　国民所得は生産・分配・支出という三つの面からとらえることができるが，生産国民所得とはその年に生産された財とサービスの価値額から，その生産のための中間生産部分の費用（原材料費）を差し引いたものであり，これを国民総生産*（GNP）という。国民純生産（NNP）は国民総生産から減価償却費を差し引いたものである。➔国民所得

せいさんざい　**【青酸剤】**　最も毒性の強い化合物の一つで，農薬としては1886年アメリカでイセリアカイガラムシの防除に用いられたのが最初。その後各国でミカン・カキなどの果樹苗木を害するカイガラムシ類の駆除に使用されるようになった。青酸剤を用いるときにはこれをガス化し，いわゆる青酸ガス（シアン化水素*）とし薫蒸するわけであるが，生物の呼吸系を冒すため，その取り扱いには厳重な注意を要する。

せいさんざい　**【生産財】**　⇨資本財

せいさんざいさんぎょう　**【生産財産業】**　他産業において原料・補助原料・燃料・機械設備などとして利用される生産財を生産している産業部門。鉄鋼・基礎化学・産業機械などの部門がこれに属する。工業化の進展につれて全工業生産物中に占める生産財産業の生産物の比重がたえず増大するという傾向，すなわち産業構造高度化の傾向がみられる。

せいざんじけん【聖山事件】BC494年，古代ローマにおける貴族と平民の身分闘争史上の一事件。聖山はローマ近郊の小丘でジュピターが祭られていたが，貴族の政治的・経済的専横を怒った平民が新国家樹立を叫んでここにたてこもった。その結果，貴族が譲歩して，負債の軽減，債務奴隷の解放，平民の権利を守る護民官の設置などを約束したので，ローマの共和政は一歩前進した。

せいさんしすう【生産指数】総合生産力の変化を示す指数。生産指数は物価指数と違って産業別に発表されることが多い。農林水産業では季節変動が激しいため，年指数の作成だけに限定される。わが国の現行農林水産生産指数の中で最も一般的に使用されているのは，生産者受取価格をウエイトとするラスパイレス式*で計算された農林省の指数である。これに反し，鉱工業生産指数は毎月計算することが可能であるばかりでなく，景気動向などの経済変動を敏感に反映するので，経済政策のためのデータを得るという見地からも毎月作成されている。わが国の現行主要鉱工業生産指数は通産省の作成にかかるものであるが，財の生産のみに関するものを鉱工業生産指数といい，これにガス・電気などの公益事業を加えたものを産業総合指数とよんでいる。鉱工業生産指数は付加価値ウエイトによるラスパイレス式による。➔鉱工業生産指数　〔鈴木諒一〕

せいさんしゃべいか【生産者米価】⇨食糧管理制度

せいさんしゅだん【生産手段】生産を行なうのに必要ないっさいの物的条件をいう。労働過程における位置づけから，生産手段は労働対象と労働手段に分けられる。労働対象には生産原料のように，それ自体人間労働の生産物であるもののほか，自然林や地下資源のような天然資源が含まれる。労働手段は労働過程に直接はいりこんで働く生産用具(狭義の労働手段)と，道路・運河・土地・建物などのように，直接には関係しない場所を提供する労働手段に分けられる。　〔常盤政治〕

せいさんせいほんぶ【生産性本部】⇨日本生産性本部

せいさんちゅうどく【青酸中毒】青酸*化合物による中毒*で，シアン酸中毒・青酸カリ中毒ともいう。青酸は自殺にも他殺にも用いられ，ほかに鍍金(ときん)・冶金(やきん)などの工業上，および写真や殺虫殺鼠(さっそ)剤として用いられるので，誤って中毒を起こすこともある。青酸カリ*や青酸ソーダによる中毒が多く，酸にあうと青酸を遊離して猛毒性を発揮する。ウメ・アンズ・モモの核，アーモンドなどの果実中にあるアミグダリンが胃の中で分解して青酸を生じ，中毒を起こすこともある。青酸・青酸塩が体内にはいると血液のヘモグロビン*の変性，組織細胞の酸化酵素作用の阻害，また中枢神経麻痺(まひ)が起こるため死亡する。青酸塩では一定量(0.1〜0.3g)以上飲むと直ちに昏倒(こんとう)して，意識消失・呼吸困難・全けいれん・瞳孔(どうこう)散大を起こし，呼吸が停止して死亡する。死斑(しはん)は鮮紅色を呈し，胃粘膜の充血・腐食，諸臓器粘膜・漿膜(しょうまく)下の溢血(いっけつ)点などがみられる。　〔青木利彦〕

せいさんとりひき【清算取引】取引所における売買方法の一種。将来一定期限に現実の受け渡しを行なうほか，その期限内に空(から)買いのあとで転売したり，空売りのあとで買いもどしをしたりすることによって，売り値と買い値の差金を授受することによって決済できる取引方法。現物と代金を必ず受け渡す実物取引に対する。証券取引所*では，1949年(昭和24)の取引所再開のとき禁じられたが，商品取引所*では，法律上先物取引*という名称のもとで多く行なわれている。　〔原田政洸〕

せいさんねんれいじんこう【生産年齢人口】⇨人口

せいさんのさんようそ【生産の三要素】⇨生産要素

せいさんひょう【精算表】残高試算表に決算整理を施し，そこから損益計算書*と貸借対照表*とを作成する過程を，一つの計算表の形式で示したもの。この精算表はそれによって，決算を行なうまえに，企業の経営成績と財政状態を把握(はあく)することができ，また複雑な決算過程の全貌(ぜんぼう)を概観することができるため，決算の手引きとなる。また，決算の内容の検討，決算事項の確実な記入，税務上，経営管理などの上にも効果を発揮するものである。精算表の形式は，借り方・貸し方の金額欄の数の相違により種々のものがあり，6けた精算表・8けた精算表・10けた精算表・12けた精算表・14けた精算表などがあるが，一般には8けた精算表がいちばんよく利用される。　〔山桝忠恕〕

せいさんぶつちだい【生産物地代】⇨封建地代

せいさんほうしき【生産方式】生産方式には，次のようなものがある。①受注生産：受注生産は顧客の注文に基づいて生産する，②見込み生産：需要の予測によって生産する，③ロット生産方式：製品を適当な個数にまとめて生産する，④個別生産：製品を個別に生産する方式，⑤連続生産方式：流れ作業式に大量生産する方式，など。

せいさんやく【制酸薬】消化管または組織内などにおいて酸を減らす薬。化学上酸を中和する重曹(じゅうそう)・酸化マグネシウムなどのアルカリのほか，ケイ酸アルミニウムなどの酸に吸着するものが含まれる。通常は胃内の過剰な酸を中和するのがほとんどの目的であるが，体液が酸性に傾くとき，これを中性または弱アルカリにするにも用いる。

せいさんようしき【生産様式】生産のしかたのことで，生産方法ともいわれる。ここで生産のしかたという場合，二つの側面がある。一つは，労働過程が道具(人力)を使って行なわれるか機械(動力)を使って行なわれるか，個人的に行なわれるか協同的・社会的に行なわれるか，農業を主とした生産であるか工業を主とした生産であるか，といった生産力の一定の発達水準を示す技術的・質料的側面からみた生産のしかたである。他は，生産がどのような生産関係のもとで行なわれるかという社会的・経済的側面からみた生産のしかたのことである。生産様式という場合，この両側面の統一(生産力*と生産関係*の統一)として用いられるのが一般的であるが，ときとして前者の意味に重きを置いて用いられる。また，原始共同体制生産様式・奴隷制生産様式・封建制生産様式・資本制生産様式・社会主義生産様式という五つの歴史的な社会体制そのものを意味するものとしても用いられる。　〔常盤政治〕

せいさんようそ【生産要素】生産に必要とされる経済財または用役のことをいう。一般に生産要素は，労働・自然(土地)および資本財あるいは生産財の三つに分類される。労働と自然を本源的生産要素といい，自然と資本財を物的生産手段という。生産の第1要素は労働である。労働は生産を目的とし，報酬を期待して行なわれる人間の精神的・肉体的活動である。人間は，労働手段を通じて労働対象に働きかけ，一定の使用価値を生んでいる。労働力の提供に対して支払われる代価を賃金という。労働力はあたかも商品と同じような性質をもっているが，それは労働力とその所有者とを分離することができないこと，たくわえることができないこと，などにおいて普通の商品とは異なる。

生産の第2要素である自然には，土地や動植物などの天然資源，水力・風力なども含まれる。これらの自然は，空気のように人間がこれを占有することができないものと，山林・耕地のように占有することができるものに区別できる。前者は自由財，後者は経済財とよばれる。経済問題が発生するのは後者であるから，生産要素としての自然は主として土地である。土地は恒久的に生産に貢献できる資源である。土地の経済的意義は一定の面積の力学的・化学的作用を提供することである。

生産要素の第3要素としてあげられる資本財は過去の労働の生産物であって，将来の生産のために使用される物的生産手段を意図している。資本財の特徴は，それが派生的生産手段であって，1回の使用や一定の使用後に消耗した部分を補塡(ほてん)しなければならないことである。建物・機械のように数回の使用には耐えるものを固定資本財と

いう。企業はこれらの消耗に見合うように，毎期補塡の意味で減価償却を行なう。〔藤枝省人〕

せいさんりょく【生産力】 物質的財貨を生産することのできる力をいう。生産関係とともに生産様式の構成要素である。社会の生産力は使用価値の生産という目的に向かって合目的的に活動する人間の能力(労働力)と，労働の生産を物的に規定する生産手段によって構成される。労働力も生産手段もそれぞれの生産力をもっているが，労働過程における生産手段という客体的要因の生産力を具体的に発現させるのは労働力であり，生産力というとき，労働の生産性そのもの，つまり単位労働時間に一定の使用価値がどれだけ生産されるかの度合いをさすことにもなる。生産手段の中で最も重要な役割を演ずるのは労働手段，特に生産用具である。労働力は生産用具の発達によっていっそうその生産力を高めることができる。また，労働対象の性能はそれ自体が労働の生産力となり，農作物の品種の改良，鉄や合成物質などの新しい原材料の出現，地下資源の発見などは労働の生産力を飛躍的に高める。また，労働の方法も一つの生産力であることは，資本主義のもとではじめて発達した，分業に基づく協業(マニュファクチュア)が巨大な生産力をもたらしたことによっても明らかである。こうした労働方法の変化によって生じた生産力は，労働の個人的生産力と区別されて労働の社会的生産力とよばれる。〔常盤政治〕

せいし【精子】 精虫ともいい，多細胞生物の配偶子のうち，雌雄で区別がある場合の雄性の配偶子。雌性配偶子である卵または卵子と対象的で，形態的にも機能的にもはっきりと異なり，小形で運動性がある。すべての後生動物は精子をもち，形態は種類によって異なるが，べん毛運動する。普通は前方から頭部・中片・尾部に分かれている。頭部は細胞核からなり，球形・楕円(だえん)形・らせん形・かぎ形などで，その最先端に先体とよばれる構造がある。先体の形成にはゴルジ体が関係し，受精に際してここから糸状物が出たりして，卵から離れないように，また卵への進入に重要な働きを果たしている。中片は連結部ともいい，中心粒とミトコンドリアが含まれ，中心を通る軸糸のまわりにミトコンドリアがついてらせん状になっているのが観察される。中片と頭部の間に，やや細くなった頸部(けいぶ)を区別できることもある。尾部はふつう長いべん毛状で，精子の運動に役だつ。その中心を軸糸(軸索)とよばれる糸のような構造が通っており，その周囲を薄い細胞質の鞘(さや)が包むが，末端の一部では軸糸が露出している。尾部にはサンショウウオのように薄いひれ状の波状膜がらせん状についているものもある。以上のように精子は基本型で最も普通にみられる形であるが，線虫類や節足動物などでは著しく異なった形状をもつ。たとえば，ウマカイチュウの精子は円錐(えんすい)形，ミジンコは球形・棒状などであり，エビ・カニでは長い尾の代わりに1本または多数の突起がある。このような精子の場合は運動性はあまりみられない。

精子に含まれる物質は脊椎(せきつい)動物ではデオキシリボ核酸が多量に存在することが知られ，魚類ではタンパク質としてプロタミンが取り出されている。精子の活動に必要な物質はATPとフォスファゲンが重要であるが，無脊椎動物ではアルギニンリン酸，脊椎動物・棘皮(きょくひ)動物・原索動物にはクレアチンリン酸が存在する。高等動物の精子にはヒアルウロニダーゼというヒアルウロン酸の加水分解に関係する酵素が見いだされ，これによって受精時に卵を取り巻く膜をとかし，精子の侵入に役だつと思われる。しかし，哺乳(ほにゅう)類の精子でもこの酵素をもたない種類もある。精子の大きさも種類によってまちまちであるが，最小のものはナメクジウオで16～20μ，大きいものはマツモムシの12mmなどである。ヒトの精子は頭部が4μ，中片6μ，尾部50～60μぐらいである。

植物はかつては陰花植物では精子をつくるが，種子植物ではつくらないと考えられていた。しかし，池野成一郎がソテツで(1898)，平瀬作五郎がイチョウで(1898)発見し，この考え方を改めた。植物の種類によって形態もいろいろであるが，遊走子とほとんど同じような構造をもっている。核と細胞質の部分が明瞭(めいりょう)に分かれているものと，精子体の大部分が核の変形したもので，細胞質は付属的についているものとがある。種子植物のイチョウとソテツを除き，運動性の精子をもつものは下等植物のシャジクモ・褐藻(かっそう)類・コケ類・シダ植物などで，それぞれ特徴のある精子をもっている。イチョウ・ソテツでは花粉が風媒によって雌花の胚珠(はいしゅ)に付着すると，そこで発芽して花粉管を伸ばし，その中に運動性のある精子をつくる。下等植物の精子体はらせん形に長く伸びた核物質が主となり，中心体に由来する毛基体がその先端にあり，コケ類ではべん毛をつくり，シダ植物では繊毛をつくっている。植物精子についての生化学的研究はあまりよく知られていない。
➔精母細胞 〔蒲原春一〕

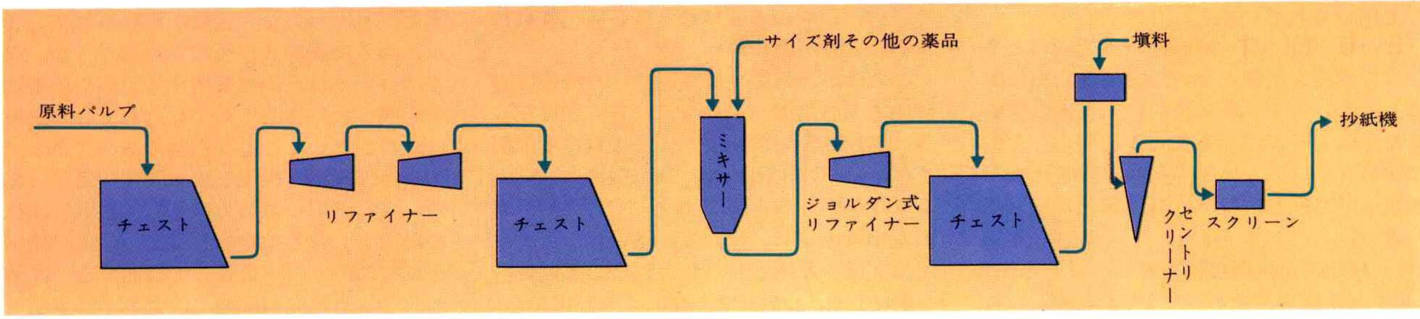
せいし【製糸】 繭から生糸を繰糸する方法で，養蚕とともに古代から行なわれた生糸製造の工程。繭を煮て絹繊維をほぐしだす方法で，繭5～7個からの繭糸を合わせて1本とし，綛(かせ)に巻き取る。その方式に座繰り繰糸・多条繰糸・自動繰糸などがあるが，現在は自動繰糸機が普及し，生糸の太さを自動的に調節し能率的な繰糸作業をする。日本では明治維新以後，生糸の生産を国策として取り上げ，官営の製糸工場を群馬県の富岡(とみおか)に建設し，外国の機械を導入してその発達・普及に努めた。ために明治・大正を通じて製糸工業は盛大となり，生糸輸出に大きく貢献した。〔小川安朗〕

せいし【製紙】 紙には洋紙・和紙・板紙など多くの種類があるが，基本的な製紙原理は同じである。すなわち，抄紙原料(紙料)の調製・抄造・仕上げ・加工の4工程である。なお，製紙法には機械ずきと手すきとあるが，ここでは前者について述べる。
➔和紙

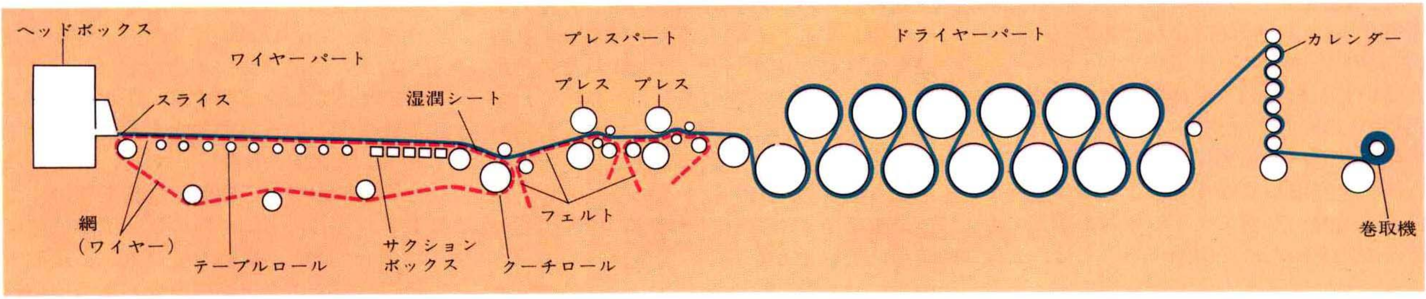
【原料】主原料は木材パルプ，板紙では故紙(使用済みの紙)も多量に使う。また，わら・竹・バガスのパルプ，もめん繊維，コウゾ・ミツマタ・麻などの靭皮(じんぴ)繊維を使用する場合もある。なお，大規模の製紙工場では，パルプから紙まで一貫生産を行なう場合が多い。

【抄紙原料の調製】①叩解(こうかい)：最も重要な工程で，〈紙はビーター(叩解機)でつくられる〉ともいわれる。水に分散させた繊維を回転ロールの歯と固定した歯の間に送り込み，二つの歯で繊維に機械的処理を与える。歯の形・間隔などによって作用が変わるが，繊維に押しつぶすような力が加わると，いわゆる粘状叩解となり，繊維は組織がゆるんで柔軟となり，比表面積が増して，相互に接触可能な面積が増大するため，紙力が強く，緻密(ちみつ)な紙が得られる。一方，繊維に対し主として切断作用が働く場合を遊離状叩解と称し，かさ高な紙ができる。叩解機としては，200年も昔からビーターが使われてきたが，最近は連続化が可能という理由でリファイナーを使用することが多い。リファイナーには，コーン(円錐(えんすい))形・ディスク形・ドラム形があり，繊維濃度が数パーセントの紙料をローターとシェルの間，または少なくとも1枚は回転する平行円板の間に圧入すると，それぞれに植え付けた歯で叩解作用を受けながら，ローターまたは円板の回転によって排出される。抄紙の際の脱水速度を調節して，均一なシートをつくるために，繊維を切って長さを整える必要があるが，この目的にはジョルダン式リファイナーが使われる。②内面サイジング：インキのにじみなど，水にぬれやすい欠点を改善するため，紙料にあらかじめサイズ剤と称する撥水(はっすい)性または耐水性の膠質物(こうしつぶつ)を混合する。内面サイジングの場合には，おもにロジンが使われ，硫酸アルミニウムを加えてロジン粒子を繊維表面に沈着させる。③着色剤・薬品・塡料(てんりょう)添加：色紙の場合はもちろん，紙の色を青白く見せるためにも，紙料に染料もしくは顔料を添加する。場合によっては螢光(けいこう)染料も利用し，また，紙力増強剤として，デンプン・尿素樹脂あるいはメラミン樹脂などを添加する。さらに，紙の不透明度と表面の平滑性を向上させるために，白土・タルク・炭酸カルシウ

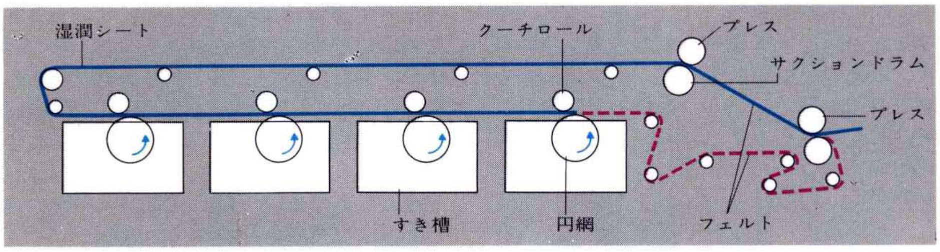
製　紙



紙料調製工程



長網抄紙機



円網抄紙機のワイヤーパート

ム・酸化チタンなどの無機物質(塡料)を添加する。④精選：スクリーンを通過させたり，セントリクリーナーを用い，遠心力を利用して，紙料の中の繊維の小塊・砂・ちりなどを取り除く。

〔抄造〕抄紙機に長網式と丸網式があり，その違いはワイヤーパートにある。①ワイヤーパート：湿潤シートを形成する部分。長網抄紙機では，平面方向に走行する金属もしくはプラスチックのワイヤーの上に，繊維濃度が0.5〜1.0%になるように水で薄めた紙料を，スライスから均一に流し出し，重力あるいはテーブルロールやサクションボックスなどの吸引作用により脱水して湿潤シートを形成させる。特に上質紙・クラフト紙などでは，ワイヤーを左右に振動させて繊維を均一に分散させる。また，湿潤シート形成時にシート面をなめらかにしたり，透き入れなどの特殊加工を行なうこともある。丸網抄紙機では，ワイヤーパートは円筒形のわくに金網を張った丸網とすき槽(そう)からなる。すき槽の中に紙料を満たし，その中で丸網を回転させると，金網面にシートが形成され，液面から出たところでフェルトをかけたクーチロールで圧搾し，湿潤シートを自動的にフェルトに移す。この方式は，比較的少量の紙をすくのに適している。丸網を2〜8個連結した場合は，最初の丸網でできたシートの上にそれ以降のシートを順次重ねるわけで，板紙などの抄造に使われる。②プレスパート：圧搾工程。湿潤シートを上下2〜3対のプレスロールの間に通して圧搾し，水分65%程度まで脱水する。プレスロールの材質は金属・硬質ゴム・石などが使われる。③ドライヤーパート：乾燥工程。円筒形の鉄製ドライヤーを内部から蒸気で加熱し，その表面に湿潤シートを接触させて，水分5〜8%程度まで乾燥する。乾燥方式には，直径1〜2mの円筒を数十本並べた多筒式と，1本の直径2m以上の大形円筒表面に湿潤シートをはりつけながら乾燥するヤンキー式がある。④表面サイジング：インキのにじみや印刷時の紙むけなどを防止するため，ほぼ乾燥した紙の表裏にデンプンなどを塗布する。この処理は，通常，ドライヤーパートの後半に設けたサイズプレスで行ない，紙の表裏に接する1対のロールから溶液を塗被する。⑤カレンダー：数本積み重ねた鉄ロールの間に紙を通して，表面を平滑にする。特に強い光沢を必要とする場合には，巻き取ったあとでスーパーカレンダーにかける。

〔加工〕以上の工程後あるいはその中間で，次のような加工処理を施すことがある。①紙の表面に化工剤を塗布する。②化工剤を紙の内部にしみ込ませる。③紙の表面にフィルムなどをはり合わせる。④紙自体に化学的またはクレープ加工のような物理的処理を施す。コート紙や衛生紙などは，生産量が多く，同一工場で紙料から一貫生産されるが，そのほかの場合には加工のみ行なう場合が多い。なお現在では，製紙機械はきわめて大形化し，幅8mの紙を毎分800mですく抄紙機まで現われ，新聞用紙の場合など1台で年間10万t以上の生産をあげる機械も珍しくもない。〔角祐一郎〕

せいし【整枝】果樹の樹形を栽培に適するよう整えつくること。果樹の仕立てともいう。剪断(せんだん)あるいは誘引などの手法により，主幹・主枝・副主枝(亜主枝)などを栽培上有利な形にして収量の増加，品質の向上を図る。整枝法の種類には，主幹形・変則主幹形・遅延開心形・開心自然形などがあり，また果樹だなに整枝する方法にナシの関東式・関西式，両者の折衷式，ブドウのX字形などがある。ブドウはたな整枝のほか，かきね仕立て・株仕立て・棒仕立てなどにも整枝される。

せいし【西施】中国，春秋時代，越国の美女。越王の勾践(こうせん)が呉王の夫差に敗れて会稽(かいけい)山で雪辱を期しているとき，夫差が美女を好むと聞いた越王は，その政治を乱すため，西施を呉国に献上した。

夫差は，はたして西施に夢中になり政治を忘れた。そのすきに乗じて勾践は呉を破ったとされる。後世，西施は美女の代名詞として用いられている。

せいし【正史】 中国歴代王朝のことをしるして最も正統とされる歴史書。紀伝体によってしるす。唐以後前代の王朝の歴史を勅命によってつくることが正史の一般的な編纂(へんさん)法となる。《史記》《漢書》《後漢書》《三国志》《晋書(しんじょ)》《宋書(そうしょ)》《南斉書(なんせいじょ)》《梁書(りょうしょ)》《陳書》《魏書(ぎしょ)》《北斉書》《周書》《隋書(ずいしょ)》《南史》《北史》《新唐書》《新五代史》を十七史，これに宋・遼(りょう)・金・元の四史を加えて二十一史，《明史(みんし)》を加えて二十二史，《旧唐書(くとうじょ)》《旧五代史》を加えて二十四史，《新元史》を加えて二十五史という。

せいじ【青磁】 東洋陶磁器を代表する磁器の一種。釉(うわぐすり)の中にわずかに含まれる鉄分が還元炎による焼成を受けて，青緑色に発色しているもの。起源は中国で，日本・朝鮮・安南・タイの諸国の陶芸にもその技法を伝えた。中国においては，上代から宋(そう)代に至るまで焼き物の中核をなし，その後も営々と続けられた。すでに殷(いん)代の灰釉陶(かいゆうとう)とよばれる高火度の釉，いわゆる灰釉を意識的に施した陶器は，青磁の先駆をなすもので，中国陶磁の独自の道を築いている。本格的な青磁は，漢の末期から三国時代に華南の長江の下流域で熟成され，一般に古越磁(古越州窯の青磁)とよばれる。これは，3世紀には完成したとみられ，青緑色の青磁釉がなめらかに溶けて美しく，灰釉とは一境地を画している。6世紀になると華北の産の青磁も多くなるので，中国各地の窯(かま)で焼かれはじめたらしい。唐時代の青磁では，越州窯*が名高く，多くの詩文や文献にその名があげられている。前身である六朝(りくちょう)の古越州窯の青磁と比べても，はるかに進歩した精巧なもので，釉調は澄んで深いオリーブ色を呈している。唐末には釉下に毛彫や透彫(すかしぼり)などを施した青磁も現われ，浙江(せっこう)省余姚(よよう)県上林湖畔の窯跡は有名である。宋代にはいると，青磁はその頂点をきわめた。まず南部では，主流が越州窯から龍泉(りゅうせん)窯*に移った。華北でも各地に窯が築かれ，いわゆる〈北方青磁〉を生み，オリーブ色の釉に片切彫(かたきりぼり)の唐草(からくさ)文様が浮かんで迫力を増した。陝西(せんせい)省の耀州(ようしゅう)窯は代表的名窯である。ほかに，北宋時代に官用品を焼いた青磁官窯が首都汴京(べんけい)に設けられ，南宋時代には修内司・郊壇両官窯が洗練された青磁を焼いている。南部の龍泉窯もしだいに成長し，南宋時代には碧玉(へきぎょく)のような明澄な青色の青磁を生んだ。これはわが国で〈砧(きぬた)青磁〉とよばれている。他の青磁窯が短命であったのに比べ，龍泉窯は作調は徐々に衰えるが，生産は増大し，元～明(みん)初期には緑色の強いいわゆる〈天龍寺青磁〉，中期以降には〈七官青磁〉を産した。清(しん)の康熙(こうき)期には景徳鎮窯*で〈豆青(とうせい)〉とよばれる淡い純化された青色の青磁が焼かれた。

このほか，朝鮮では高麗(こうらい)時代に青磁のすぐれた遺品を残している。10世紀ごろ，越州窯の影響のもとに生まれたと推測され，11～12世紀には，高麗翡色(ひしょく)とよばれる絶妙な青磁をつくって，当時の中国人を驚かした。続いて，釉下に白土・赤土で文様を象嵌(ぞうがん)した独特の象嵌青磁を創始した。わが国でも有田の伊万里(いまり)青磁，九谷の青磁など各種の優品がある。

せいじいろ【青磁色】 色名。青磁のような色，すなわち明るい灰緑色をさす。青磁は施された釉薬(ゆうやく)に含まれた鉄分が還元され，青緑系統の色として発色した磁器である。一口に青磁といっても，各種の条件によってその色調は異なるが，青磁色という場合の〈青磁〉は，そのうちでも，緑色の青磁をさす。色相は標準の緑と同じで，明度はそれよりも高く，彩度はやや低い。中古には，青磁を〈あをじ〉といったので〈あおじいろ〉ともいわれる。なお，秘色(ひそく)青磁から生まれた秘色色という色名があるが，これはいわゆる青磁色のような緑系統ではなく，空色に近い，明るい青系統の色を意味する。日本工業規格(JIS)慣用色名〈青磁色〉は，色相2.5G，明度6.5，彩度4.0の色と規定されている。➔色　〔武井邦彦〕

せいしえいせい【静止衛星】 赤道の真上を地球の自転と同方向・同周期で回る人工衛星*。地球表面に相対的に静止するためこの名がある。地球の自転周期は23時間56分4秒であり，これと同じ周期で回る円軌道の衛星は，軌道の高さ35,800km，その速さは毎秒3.08kmである。まず遠地点がこの高さになる楕円(だえん)軌道に打ち上げ，衛星が遠地点に達したときに加速して円軌道に移す。軌道が赤道と交差している場合は，赤道の真上にきたときに方向を変え赤道面と一致させる。アメリカは1963年に不完全ながら最初の静止衛星シンコムの打ち上げに成功した。　〔原田三夫〕

セイシェル(共和国)［Repubic of Seychelles］ インド洋上にある島国。イギリス領から1976年に独立。面積280km^2，人口6万。首都ビクトリア。戦略的に重要な位置にあるので米ソ両大国の関心をよんでいる。

せいじがく【政治学】 **〈科学としての政治学〉** 社会生活の中で展開される政治活動，すべての政治制度・政治的団体・政治家などの総合的な研究をする社会科学。政治をどのような意味に理解するかによって，多くの学説・体系が存在する。しかし一般的に今日政治学として展開されている学問体系についてみると，次のようなものがあげられるであろう。①狭い意味での政治学：政治学とはどんな学問か，政治の本質はなにか，政治を動かす思想・主義にどのようなものがあるか，おもな政治上の制度はなにか，政治はどのように発展してきたか，また，どんな方法・手段が用いられているか，さらに国際政治の現われはどうか，などについて体系的に解明する。内外の政治学入門ないし概論と名づけられている文献は，だいたいこうした内容のものである。②政治思想学・政治学史。③政治史：一国の，また諸国の政治史の比較的研究。④比較政治学：おもな政治制度について，諸国それぞれのものを比較して説明する。⑤個別的な政治制度の研究：国家とか議会制とか選挙制度とかの研究。⑥政治過程の研究：単に制度面だけの研究にとどまらず，議会や選挙，あるいは国民大衆を支配する諸手段，また政治運動の手段などについて，その内部的動態を解明する。⑦政治哲学・政治社会学という専門科学を主張する学者もある。⑧国際政治学：政治は，今日いろいろ国際的舞台で，国際的な諸関係の中で展開されるし，一国の政治は，国際的諸条件によって大きい影響を受けるが，政治学の発達過程の中で，特に国際的舞台での政治についての研究が，外交史・国際政治あるいは国際関係論として分離されてきた。

ところで政治学は，単にこのような対象によって部門別に存在するというだけでなく，自然科学が，自然現象それぞれの特質を明らかにし，因果法則を見いだし，実験を重ねて結論を出すという意味で科学といわれるのに対して，同じような，精密な科学といえるかという問題が，今日なお争われている。政治学の結論は，このような発展法則まで正確にきわめたものではなく，いわば学者の政治的判断・批評，体系的な説明だけにとどまっているのではないか，というのが多くの学者の見解である。しかし他方，この程度にとどまるべきではなく，やはり政治活動を決定する法則的なもの，普遍的な原理が糾明されるべきだし，また，観察・統計・コンピューター使用・歴史的研究などによってそれがなされうるという主張が有力である。さらにまた，政治は，帰するところ，国家権力を中心とし，階級間のあるいは社会各層独立の，また政党をはじめ政治的組織相互間の権力争奪すらもからむ，激しい行動であるから，政治学は，公平な冷静な科学たりえないではないか，という疑問も出されている。このような諸問題をかかえながらも広く政治学が研究され，発達している時期は今日までないといいうる。それは，政治の果たす役割が国家的にも最も重大であり，国際的にもきわめて激しい政治の動きがあり，国家の側からも政治運動の必要が痛感され実践されている事情を背景としているのである。

〈日本の政治学〉 第2次世界大戦終了時までの日本では，憲法学以上に，政治学は発展する条件を欠いていた。明治憲法体制の

下では学問の自由も，思想・言論・出版の自由も制約されており，ことに天皇制*については，いささかの批判もタブーとされていたから，国家権力・支配，これに対する抵抗，批判を中心とする政治についての研究が，十分に発表されることもなく研究すること自体さえもおさえられていたことはやむをえない。のみならず明治維新自体が西欧の民主革命とは違って，君主専制国家を変革したものではなく，またその後，社会主義運動は特にひどい抑圧を受けたので，いっそう政治学の発達の背景は貧しかった。大正デモクラシー*の展開において，ようやく近代的立憲政治・議会制民主主義などの思想が広まったが，吉野(よしの)作造*自身，デモクラシーを民本主義ということばで説明するほかなかったような状態のもとでは，科学的な政治学は発達すべくもなかった。大学の多くでは，ドイツ国家学の流れをくむ形式的な国家制度・政治制度の説明や，マルクス主義*を除いた政治思想の説明に終始し，大山郁夫*(いくお)・今中次麿(つぎまろ)らの諸学者の，ラッツェンホーファー・グンプロウィッチらの学説に基づく政治学の構成の試みさえも，強圧を免れないありさまであった。ましてや現代国家に対し，これまでの政治史に対し，根本的な批判を加え，資本主義体制の史的崩壊の必然性，それを媒介・推進するプロレタリアート*の階級的成長・組織化などを明らかにするマルクス主義は，学界自体において，ほとんど研究もされることがなかった。マルクス主義経済学者による日本資本主義の構造分析，必然的に展開された国家権力機構の解明など，政治学の領域に及ぶ研究も出されたが，政治学としての理論構成はなかった。日本の革命についてのコミンテルン(→インターナショナル)のテーゼ，それに基づく共産党関係の諸論文に，今日最も鋭い政治分析があり，あらゆる政治学者の論著の不毛性，形式的分析に比して記念碑的な労作というべきであるが，それが政治学的体系として展開される課題は戦後に残された。戦後天皇制*のタブーは消え，学問の自由は確立され，政治学は，はじめてその成長の客観的条件をもった。先に説明したような諸形態で，ようやくわが国にも，さまざまな政治学的研究が開花し年ごとに精密な研究が出されている。同時に，日本の民主化が，アメリカを主とする占領軍によって発足され，その後日本の支配権力がアメリカと緊密に結びついて，反社会主義的性格を一貫している事情もあって，日本の政治学の主流は，アメリカ政治学を代表とするいわゆる近代政治学・ブルジョア政治学の色彩が濃い。また日本社会の置かれている歴史的諸条件，日本の資本主義国家における矛盾，転換の必然性の問題などよりも，現状の分析，統治過程の内在的研究，政治心理学的解明などに力が注がれている傾向がある。マルクス主義は，はじめて自由な研究を認められ，経済学や歴史研究や，さらに法学の領域で多くの成果を示しているが，政治学の分野では，まだ体系的な成果はない。ただし現実政治の分析，日本およびアジアの今日の当面する諸政治課題の解明などでは，すべての政治学者のアカデミズムの果たしえない分析・解明を提供していることは否定できない。わが国の政治学といわず，今後の政治学は，このような状態のもとで，これからようやく，科学としての政治学というに値するものを生み出すであろう。〔鈴木安蔵〕

せいじがく【政治学】 古代ギリシア最大の体系的哲学者アリストテレス*の代表的著作の一。原題は〈ポリチカ〉で，その本来の意味は〈ポリス(国家)に関することども〉。8巻。〈人間は本性上社会的動物である〉という有名なことばは第1巻において述べられている。内容は国家の定義に始まり，プラトンらの理想国家論の批判，国制の形態や最善の国制，国制の変革とその原因などを論じ，さらに個人や国家にとっての最高善，アリストテレスの理想国ともいうべき最善の国家とその政治組織・教育組織などの諸問題を扱っている。その研究はきわめて実証的であり，内容も彼の形而上(けいじじょう)学や倫理学の思想に基礎づけられている。〔本橋正義〕

せいしかずら【青紫葛】 双子葉植物・ブドウ科。ジャワ原産の観葉つる性常緑植物。若枝は紫紅色，葉は長さ12～15cm，幅8～10cmの長楕円(ちょうだえん)形ないし心形で，鈍い鋸歯(きょし)がある。葉の上面は主脈と第1脈に沿っては緑紅紫色で，それ以外の部分は銀白色，下面は紫紅色で非常に美しい。花は淡黄色の小四弁花で，集散花序をなすが，目だたない。日本では夏季以外は温室内でないと栽培できない。本種の仲間は熱帯から暖帯にかけて約200種が分布している。

せいじきょういく【政治教育】 社会のいろいろな機関や団体あるいは個人が，他の集団や個人に対して，政治的な教養・識見・判断力などを与えようとする教育。第2次世界大戦前の政治教育は，大正期(1912～1925)の民本主義興隆期を除いては体制化をしいられ，ほとんどふるわなかった。戦後，日本国憲法や教育基本法*の示すところに従って，政党・企業・組合・市民・婦人団体などは，その成員や一般大衆に対し，政治教育を施し，政治意識や主権者意識の高揚を図っている。また，学校においては市民性育成の一環として，児童・生徒に政治的教養を与えるために，憲法をはじめ政治制度・機構・政治的諸問題・国際政治などの学習を展開している。しかし，教育基本法において，特定の政党を支持し，またはこれに反対する政治教育は禁止されている。これに関連して，教育の政治的中立を名目に，政府がみだりに本来の政治教育を圧迫することの可否が，現在，問題になっている。〔佐藤英一郎〕

せいじけいさつ【政治警察】 反体制勢力・反政府勢力の情報収集・除去・鎮圧を行なう警察活動。代表的なものに，ナチスのゲシュタポ*(秘密国家警察)，ソ連のゲーペーウー*(国家政治保安部)などがあり，日本では，大逆事件*を契機に設置された特別高等警察*が有名。政治的な結社・集会・言論・出版・思想に対する取り締まりを行なう。政治警察は，ナチスや第2次世界大戦以前の日本のように，特殊な政治体制のもとにのみ存在するのではなく，現在でも公安警察・警備警察といった名称で，通常の刑事警察機構を通して，あるいはその他の公的機関を通して事実上の機能を果たしているといわれている。この場合，あからさまな弾圧よりはむしろ，〈民主主義の破壊者〉とか，〈国家の安全をおびやかす者〉といった民主主義的・国家利益的な名目で弾圧を加えることが多い。アメリカにおいて，マッカーシズム*による〈非米活動委員会〉がこの名目で多くの進歩的知識人に迫害を加えた事件は，その典型的な例といえよう。〔原田政洸〕

せいじけっしゃ【政治結社】 政治権力の獲得など直接政治に影響を及ぼす活動を目的とした政治団体のこと。結社の自由*は民主的な政治制度のもとでは国民の基本的権利の一つであり，その典型的な例は政党*である。旧憲法時代は，治安維持法*などでその自由が事実上抑圧されていたし，新憲法のもとでも破壊活動防止法*によって制限されている。けれども政治結社が言論・集会の自由と同じく多種多様であることこそ国家権力の肥大化を防ぎ，大衆の批判的意識を主体的に育てるのに必要なことである。〔溝口　潔〕

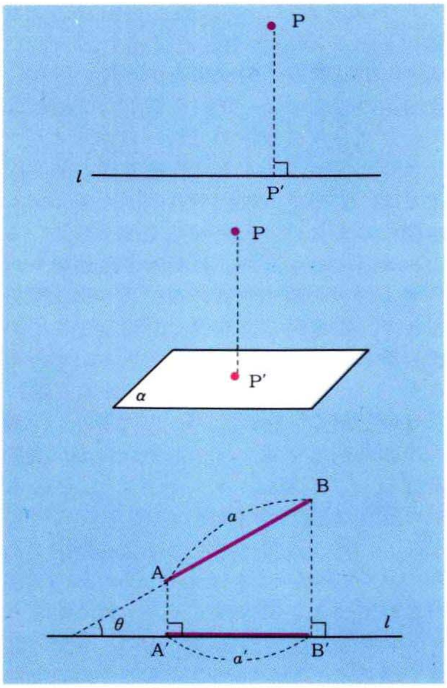
せいしコークス【製司コークス】 燃料用コークスに対して冶金(やきん)用のコークスをいう。これには非鉄金属製錬用や鋳物用のコークスも含まれるが，主要なものは製鉄用コークスで，溶鉱炉へ装入されて鉄鉱石の加熱・還元に用いられる。成分は，だいたい固定炭素分80～90％，灰分10～15％，揮発分1～2％である。製鉄用コークスに必要とされる一般的な性質は次のようなものである。①適切かつ均一な成分・粒度をもつ。②耐圧力が大きい(炉内の重圧に耐えることが必要)。③灰分が少ない(灰分が1％増すと，銑鉄1tあたりのコークス所要量は2～4％増し，出銑量は3～6％減少する)。④揮発分が少ない(多過ぎると多孔質のコークスにならない)。⑤イオウ分が少ない(銑鉄のイオウ分は主としてコークスに原因する)。このため冶金用コークスの製造には，強粘結炭と弱粘結炭を適度な割合で混合する。なお鋳物用コークスも，ある程度の耐圧力，少ない灰分，少ないイオウ分を必要とする。〔秋枝哲児〕

せいししつりょう　【静止質量】　ニュートン力学がなりたつ範囲の慣性系での物体の質量。相対論により運動している物体の運動量とエネルギーはそれぞれ，$m_0 v/\sqrt{1-v^2/c^2}$，$m_0 c^2/\sqrt{1-v^2/c^2}$である。vは物体の速度，vはその大きさ，cは真空中の光速度。このm_0は物体固有の量でふつう$m_0/\sqrt{1-v^2/c^2}$を質量(m)，そしてm_0を静止質量という。日常われわれが目にする物体の運動ではその速さvは光速度c(1秒に約30万km)よりはるかにおそいので，$v^2/c^2 \simeq 0$となり$m=m_0$である。mがm_0と大きく違ってくるのは素粒子の世界である。このような粒子は，通常光速度に近い速さで運動しているので，v^2/c^2の値を無視することはできない。したがって速度により見かけの質量が大きく違うので，静止質量m_0が粒子固有の量として重要となる。運動量p，エネルギーEと静止質量m_0の間には$p^2c^2-E^2=m_0^2c^2$という関係がある。〔福井崇時〕

せいじしょうせつ　【政治小説】　政界の事件・人物を主題に，政治思想の普及などを目的とした小説。わが国の明治10年代(1877～1886)後半，自由民権運動の盛行につれ，民衆の啓蒙(けいもう)と政党の理想宣伝用に書かれた作品が多い。洋行した板垣(いたがき)退助がユゴーに面会，教えられたことに起因するとされる。作者の多くは政論家で，従来の戯作(げさく)文学が低俗な興味本位のものであったのに対し，文学の人生的・社会的意義を明らかにする役割を果たし，後代の新文学に大きな影響を与えた。おもな作品に矢野龍渓(りゅうけい)の《経国美談》，東海散士の《佳人之奇遇(かじんのきぐう)》，末広鉄腸の《雪中梅》などがある。〔池内輝雄〕

せいじスト　【政治スト】　政治的目的のために行なうストライキ。たとえば，ある内閣の退陣や特定の立法反対を目的とするストライキがこれにあたる。最高裁判所大法廷は，1966年(昭和41)10月26日の全逓中郵事件，1969年4月2日の安保6・4事件などの判決において，政治ストを正当な争議権の行使とは認めない方向を示している。しかし，現在のように政治・経済の複雑な機構のもとでは，純粋な政治ストと純粋な経済ストを分けることはほとんど不可能だともいわれている。〔木元錦哉〕

せいしつちょう　【星室庁】　Court of Star Chamber の訳で，星法院ともいう。イギリス，チューダ朝の絶対主義時代の最高司法機関。ヘンリー7世の1487年の法により設けられ，身分の高い者の関係する刑事事件を審理した。ヘンリー8世時代には国王の勅書に対する違反についても裁判権を賦与された。16世紀の王権強化に伴い普通法裁判所の権限を侵してその管轄権を拡張し，王権に反抗する貴族やジェントルマンを陪審制によらずに裁判して絶対主義の専制支配の具とされた。1641年の長期議会で廃止。〔松下京子〕



正 射 影

せいじはん　【政治犯】　政府によって非合法とされた目的・手段をもって国家の政治・秩序を侵害する犯罪。国事犯ともいう。確信犯であるので，特別の配慮が必要である。通常の犯罪とは異なり，わが国では，刑法の規定以外に破壊活動防止法・公安条例など特別の規制があり，憲法は政治犯公開裁判の規定を設けている(憲法82条)。また，外国から逃亡してきた政治犯罪人は，身がらを引き渡さないのが国際的な通念となっている。

せいしぼさつ　【勢至菩薩】　菩薩の一で，阿弥陀三尊(あみださんぞん)(→三尊仏)の一。梵語(ぼんご)Mahā-sthāma-prāpta(マハースターマプラープタ)の訳で，〈大勢力を得たもの〉の意。ふつう，阿弥陀仏の右わきに侍し，阿弥陀仏の智慧(ちえ)・光明を表わすとされる。姿は左わきの観世音菩薩と同じだが，観世音菩薩は天冠の中に化仏(けぶつ)があり，勢至菩薩は頭髪の頂に宝瓶(ほうべい)があるのが異なる。手は蓮華(れんげ)を持つ形，合掌の形などいろいろある。代表的な阿弥陀三尊として，法隆寺壁画阿弥陀浄土図・橘(たちばな)夫人念持仏・二十五菩薩来迎図などがある。〔真野龍海〕

せいしゃえい　【正射影】　一点Pから直線l(または平面α)へ降ろした垂線の足P′を，Pのl(またはα)上への正射影という。一般に，図形Fに含まれるすべての点のl(またはα)上への正射影の集合を，Fのl(またはα)上への正射影という。線分ABの長さをa，直線ABとlとのなす角をθとするとき，線分ABのl上への正射影A′B′の長さaは次の式で求められる。

$$a' = a\cos\theta$$

せいしゅ　【清酒】　⇨日本酒

せいしゅう　【西周】　⇨周

せいしゅう　【清州】　チョンチュ　朝鮮，忠清北道の道庁所在地。人口12万4,000(1966)。忠州平野の北西美湖川流域に位置し，新羅(しらぎ)時代は清原京とよばれ，高麗(こうらい)時代にいまの名に改められた。鳥致院と忠州を結ぶ忠北線に沿い，米・ダイズ・大麦・蔬菜(そさい)・タバコ・ワタなど農産物の集散地で，そのほか，製糸・たばこ・皮革・柳こうりなどの農畜産加工も盛んである。北西7kmの椒井里(しゅくせいり)に薬水があり，炭酸泉で清涼飲料がつくられる。清州大学・忠北大学などがある。〔矢守一彦〕

せいしゅうき　【性周期】　性の現象に関してみられる周期性のこと。発情周期と月経周期とがあるが，狭義には発情周期をいう。哺乳(ほにゅう)類の雌では性的に成熟したあとは，ヒトを除いて一定の期間に限って繁殖期が訪れるが，その繁殖期の間でもつねに交尾の衝動にかりたてられる発情という生理的な状態にあるわけではなく，発情しているとき(発情期)と発情していないとき(非発情期)とが周期性をもって起こる。このような周期性が発情周期である。発情は性ホルモンの影響で生じる現象であり，ホルモンの分泌における周期性と密接な関係がある。発情周期の見られないネコ・ウサギなどでは，卵巣の濾胞(ろほう)は成長しては退化するが，繁殖期を通じていつも大きな濾胞が存在しているため，濾胞から分泌される発情ホルモンによってつねに発情している。そのため繁殖期間中はいつでも雄と交尾をする状態にある。一方，発情周期の見られるネズミなどでは，卵巣の濾胞が成熟すると発情ホルモンを分泌して発情するが，交尾をしてもしなくても，成熟した濾胞中の卵は排卵されて濾胞は黄体となって発情は止まり，生殖器官も退化した状態となる。そのうち，新しい濾胞が成長して，次の発情がひき起こされる。このようにして周期的に発情が起こるわけである。なお，哺乳類のうちヒトとサルは，濾胞で卵ができて排卵されたあと，卵が受精して子宮壁に着床しないと，子宮粘膜の一部がはがれ落ちて出血とともに体外に排出される月経が起こる。この現象にも周期性があり，広義の性周期に含まれる。〔蒲原春一〕

せいしょ　【聖書】　キリスト教の経典。キリスト教会はこれを神の啓示の書と認め信仰の規準としている。キリスト教がユダヤ教・イスラム教とともに〈聖典宗教〉とよばれるゆえんである。しかし，イスラム教徒が《コーラン》を〈天から降った書物〉と主張するのとは異なり，聖書は聖霊によって書かれた神の啓示であると同時に，人間のことばによって，人間的制約を伴って，人間に語られたものである。それは千数百年の長年月をかけて書かれ，編纂(へんさん)された。したがって相互矛盾と多様性に富んでいるが，これを統一的にみるとき，聖書は

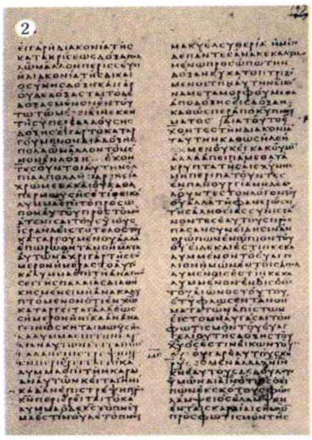
一貫して人間の救済について語っている。ユダヤ教も〈旧約文書〉を正典として受け入れるが，それはまだ実現されない神の世界のきびしさを示すにとどまる。しかしキリスト教は，〈救主イエス〉によっていちおう人間の希望の成就するものとして，〈旧約〉と〈新約〉とを統一的に聖書としてとらえ，死に向かう人間の問題に答える。それは，唯一神・仲保者を軸として，輪郭の鮮明で強烈な宗教を包括的に主張する。時代と地域の違いによって，さまざまに働きながら，聖書とよばれる1冊の書物は，2,000年のヨーロッパの歴史と文化，人間と社会，精神と構造を決定づけている。ローマ-カトリック教会では聖書と伝承とが並存的に信仰の源泉となっているが，プロテスタント教会では聖書のみを唯一の規範としている。後者において，聖書は教権からの自由を得たが，一方では解釈の規準を失って，主体的な体験の気ままな理解に陥る危険にさらされることにもなった。

【名称と構成】聖書の原語バイブルは〈本〉を意味するギリシア語ビブロスに由来する。66巻の文書からなり，39巻は《旧約聖書》，27巻は《新約聖書》とよばれる。ただし，プロテスタント教会ではこの66巻だけを正典とするのに対し，カトリック教会ではさらに〈旧約外典〉(→聖書外典)を加えて正典とする。〈旧約〉〈新約〉の呼称は，旧約のベリット，新約のディアテーケから由来する語で，いずれも〈契約〉を意味し，神と人との契約関係を示す。《旧約聖書》は，①〈律法(トーラー)〉とよばれる〈モーゼ五書〉(〈創世記〉〈出エジプト記〉〈レビ記〉〈民数記〉〈申命記〉)および〈ヨシュア記〉，②〈預言者(ナービー)〉とよばれる歴史書(〈士師記(ししき)〉〈ルツ記〉〈サムエル記第一〉〈サムエル記第二〉〈列王記第一〉〈列王記第二〉〈歴代誌第一〉〈歴代誌第二〉〈エズラ記〉〈ネヘミア記〉〈エステル記〉)および預言文書(〈イザヤ書〉〈エレミヤ書〉〈哀歌〉〈エゼキエル書〉〈ホセア書〉〈ヨエル書〉〈アモス書〉〈オバデア書〉〈ヨナ書〉〈ミカ書〉〈ナホム書〉〈ハバクク書〉〈ゼパニヤ書〉〈ハガイ書〉〈ゼカリヤ書〉〈マラキ書〉)，③〈諸書(ケスビーム)〉とよばれる詩(〈詩篇(しへん)〉〈雅歌〉)，智慧(ちえ)文学(〈箴言(しんげん)〉〈ヨブ記〉〈伝道者の書〉)および黙示文学(〈ダニエル書〉)からなる。紀元後の初代キリスト教会における聖書は，いわゆる《旧約聖書》だけであったが，やがて①福音書(マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネによる四福音書)，②〈使徒行伝〉，③書簡(〈ローマ人への手紙〉〈コリント人への手紙第一〉〈コリント人への手紙第二〉〈ガラテヤ人への手紙〉〈ピリピ人への手紙〉〈コロサイ人への手紙〉〈テサロニケ人への手紙第一〉〈テサロニケ人への手紙第二〉〈テモテへの手紙第一〉〈テモテへの手紙第二〉〈テトスへの手紙〉〈ピレモンへの手紙〉〈ヘブル人への手紙〉〈ヤコブの手紙〉〈ペテロの手紙第一〉〈ペテロの手紙第二〉〈ヨハネの手紙第一〉〈ヨハネの手紙第二〉〈ヨハネの手紙第三〉〈ユダの手紙〉)，④〈ヨハネの黙示録〉が《旧約聖書》と同格のものとして扱われるに至り，2世紀には《旧約聖書》と区別して《新約聖書》の名称が成立する。

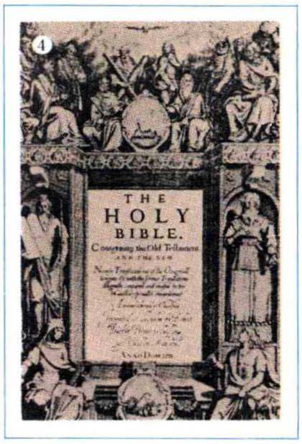
聖　書

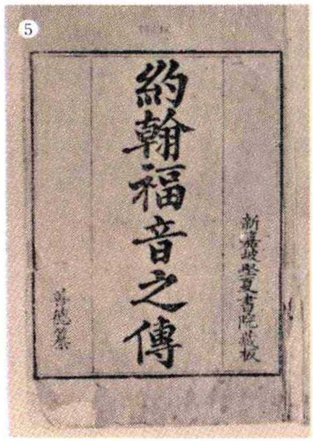
①《死海の書》。クムラン洞穴で発見された最古の写本。〈イザヤ書〉の冒頭部　紀元前1世紀ごろ　②バチカン写本。ギリシア語写本の中で最も重要とされる。4世紀。バチカン図書館蔵　③アントン-コーベルガーの印刷による木版さし絵入りのドイツ語聖書。1483　④キング-ジェームズ本(欽定訳)聖書。イギリスで最初の標準的聖書。1611　⑤ギュツラフ訳《約翰福音之伝(ヨハネ福音書)》。最古の日本語訳聖書。1837

1


2


3


4


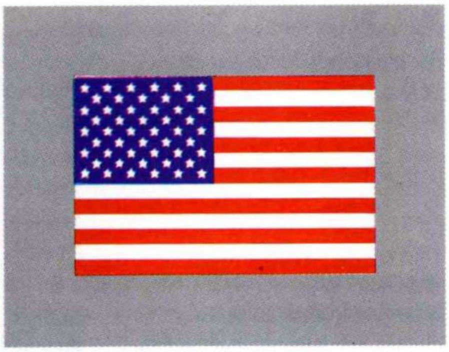
5


【《旧約聖書》の成立と内容】《旧約聖書》は，紀元前約10世紀にわたって，ヘブライ語で書かれ，ごく一部はアラム語で書かれた諸文書を結集・集成したものである。個人が書いた部分も少なくないが，大部分はグループによる記録の層からなり，イスラエル民族の歴史をおもな材料としている。それはまず〈モーゼ五書〉として一括される五つの歴史文書から始まる。紀元前13世紀ごろ，砂漠(さばく)で奴隷的生活を送っていたさすらいのヘブライ人が，やがてエジプトに定着し，膨張し，ついに〈ヤーウェ神〉を仰ぐモーゼに指導されて，民族の宗教的統合と解放運動を〈出エジプト〉の形で実現したのち，40年にわたって荒野を放浪する経緯を記録する。この歴史の根源にさかのぼるとき，人間と世界の創造の問題につきあたり，古代東方諸国の神話を援用して〈創世記〉が形成され，それが前面に押し出される。また，荒地での遊牧から沃(よく)地での定着へと生活形態を転換しつつある民族集団の意志は，モーゼの十誡*(じっかい)や〈レビ記〉に見られるような〈律法〉の姿で表現され，それによって農耕定住の新しい社会生活を規制しようとする。しかし，〈ヨシュア記〉以下の歴史書が示すように，この転換が進むにつれて大地主が出現し，社会階層の分化が進む一方，民族に固有のヤーウェ信仰はその砂漠的性質を失って，農耕民族の宗教に特有な自然崇拝へと解消する危険を示す。かくして，こうした趨勢(すうせい)に対決しようとする宗教運動が起こる。紀元前9世紀のエリヤを先駆として，紀元前8世紀後半のアモス・ホセア・イザヤ・ミカ・ゼファニヤ・エレミヤ・第二イザヤ・エゼキエルらの預言者たちの活動がそれである。彼らの活動は，異教神バールの崇拝などに反発するにとどまらず，民族固有の宗教を精神化し，価値としての神に普遍性を与えた。《旧約聖書》によれば，預言文書の配列は主として分量の大きさにしたがっているようであるが，〈イザヤ書〉〈エレミヤ書〉〈エゼキエル書〉の3書は内容の点でも最も重要である。〈ホセア書〉以下12の文書は量が少ないため，〈小預言者〉(公認ラテン語訳)として一括され，《旧約聖書》の最後に置かれている。〈諸書〉とよばれる文書群は，編纂年代からいって比較的後期に属し，重要さの点でも〈律法〉や〈預言者〉より劣るとされているが，一般民衆の日常生活にとってはむしろ大きな助けになっており，また《新約聖書》との関連からすればけっして軽視できない。

【《新約聖書》の成立と内容】《新約聖書》は，主として1世紀に，あるものは2世紀に及んで，通俗ギリシア語(コイネー)で書かれた文書である。〈古い契約〉は律法の形で与

えられる義と罪に対する審判を特色としたが，神の愛を基礎として，内面から神に従う道は〈新しい契約〉とよばれ，預言者エレミヤによって開かれ，イエス-キリストによって完成された。そのとき，ヤーウェ神とヘブライ人との特殊な関係であった民族宗教は，神と人間の約束としての普遍宗教へと展開する。キリスト教を簡潔に定義すれば，〈イエスを神の子と信ずる宗教〉であるといえるが，《新約聖書》はそのイエスの生涯と宗教に関する根本史料である。イエスの死後，その弟子(でし)・使徒たちの活動は，内には信仰を純化し，外には世界の圧力に抗して生きぬいた。彼らは政治的無力や搾取や貧困や離散に耐え，急激なヘレニズム化のあらしの中で〈文化〉に抵抗し，しだいに原始キリスト教会を形成していった。そのにない手は手工業者層・中小市民層・奴隷層であった。彼らはキリストの復活をのべ伝えられ，キリストの死が自分たちのためであったと確信し，洗礼の儀式によって入門し，神のことばをきいた。ここに福音は結晶していったのである。《新約聖書》は27の文書からなるが，それらは書かれた年代順に並べられているわけではない。まず，イエスとその言行を事実として報道する三つの〈共観福音書〉を始めに置き，次いで，これらの福音をヘレニズム世界の問題意識で再解釈した〈ヨハネの福音書〉を並べ，さらにキリスト教会発生の歴史を省みる〈使徒行伝〉を続け，初代の指導者たちの信仰とその教えをローマ人・コリント人・ガラテア人などへの〈書簡〉としてまとめ，福音による歴史哲学ともいうべき〈黙示録〉で締めくくっている。

【本文・正典・翻訳】聖書には原本というべきものは現存しない。無数の手写本によって正確な原本を復す操作，つまり〈本文批評〉が必要とされる。《旧約聖書》では〈マソレット〉とよばれるヘブライ語本を原本として受け入れ，ギリシア語訳の《七十人訳聖書(セプトゥアギンタ)》・サマリヤ語訳・シリヤ語訳・ラテン語訳を校合する。1947年に発見された〈死海の書*〉とよばれるヘブライ語《旧約聖書》は，いまのところ最古のものであり，今後に大きな意味をもつであろう。《新約聖書》は，二千数百にのぼる数系統のギリシア語写本群を考照して，いちおうの公認本文ができており，エジプト語・エチオピア語・アルメニヤ語・シリヤ語などの古代語訳や〈西方写本〉が本文訂正に役だつ。現在われわれが手にする《旧約聖書》が〈信仰の規準〉として正典化したのは，BC75年ごろエルサレムにおいてであり，さらに紀元前1世紀末，ヤムニヤの会議で再確認された。《新約聖書》の基本型が教会の正典として成立・承認されたのは397年のカルタゴ全教会会議においてである。中世を通じてカトリック教会公認のラテン語訳〈ウルガタ聖書〉は長く支配的であった。近



星条旗

代にはいってからは，印刷された聖書として，ロイヒリンによるヘブライ語訳《旧約聖書》，エラスムスによるギリシア語訳《新約聖書》，ルターのドイツ語訳，ジェームズ1世の《欽定(きんてい)英訳聖書》が大きな影響力をもった。最近では1970年にオックスフォード・ケンブリッジ両大学から共同出版された英訳が最も標準的とされており，現在1,250の国語・民族語・地方語に翻訳されている。日本語訳の最古のものは1837年(天保8)ドイツのプロテスタント宣教師ギュツラフによる《ヨハネ福音書》で，シンガポールで発行された。1888年(明治21)外国人・日本人協力のもとに《旧新約全書》が完成し，1955年(昭和30)日本人だけによる《口語訳聖書》が聖書協会によって刊行された。カトリック教会の聖書としては文語のラゲ訳(1910)，口語のバルバロ訳(1953～　)が一般的である。〔堀越知巳〕

せいしょう【斉唱】 ユニゾンともいい，同じ旋律を2人以上の歌い手や二つ以上の声部(楽器)が同時に演奏することをいう。ただし，現実には，同じ旋律といっても，オクターブを単位にしてずれることが多い。斉唱では和声がなくなるため，多声部の西洋音楽では前後の和声的な部分との対比によって特殊な効果を与えるために用いられる。日本の音楽で多人数が歌うのは斉唱である。雅楽は斉唱的な合奏であるが，ヘテロフォニー*として説明される。〔徳丸吉彦〕

せいしょう【政商】 政治的権力と結び，その支持と保護によって種々の権益を得た商人。わが国では明治初期，藩閥政治*家と結んで大資本家となった商人のことをいう。明治政府は欧米諸国にならってわが国を資本主義国家とするため，殖産興業*を国策として近代産業の育成を図った。しかし，当時その国策に応じられるように民間資本は編成されていなかったため，政府は官営工業*を興すとともに，近代的企業を志す産業家に種々の支援と保護を与えることとした。

政商はその利権から生じた巨利を事にあずかった政府要人に分配することが暗黙のうちに約束されており，藩閥専制という特殊な政治事情を背景にして，政治家と産業家の人脈から政商関係は成立した。三井・三菱(みつびし)・住友・安田・古河など，将来各財閥を形成するようになった大企業は，この政商関係の中から発展した。中には山城屋和助事件*や北海道開拓使官有物払い下げ事件*のように，世論の非難や藩閥内部の対立から政治問題化した場合があった。しかしこれらの事件が前者は山県有朋*(やまがたありとも)の陸軍卿(きょう)辞職，後者は明治14年の政変*となったように，司法的にではなく，政治的に展開した時代性が，政商を存在させたといえよう。〔高崎徳次〕

せいしょう【西昌】 シーチャン 中国，四川省南西部の県で，専署の所在地。金沙江(きんさこう)支流の安寧河東岸にあたり，雲南省との交易の一中心をなす。付近一帯は農業が盛んで，白蠟(はくろう)・漆器・綿織物など伝統的な家内工業が行なわれ，また，鉄鉱の埋蔵の豊富なことで知られる。

せいしょうき【西廂記】 中国，元代の戯曲。王実甫*(おうじっぽ)の作。5本21折からなる。唐の元稹*(げんしん)の伝奇小説《会真記》に基づき，金の董解元(とうかいげん)の語り物《西廂記諸宮調》を雑劇に改作したもの。元の雑劇はふつう1本4折だが，これは5本で，しかも第2本は5折という形式をとり，形式上でも元の雑劇の中で異色の作品である。崔鶯々(さいおうおう)という美女と張君瑞(ちょうくんずい)という才子の離合悲歓のさまを扱い，恋愛心理をきめ細かく追究した文辞は美しく，恋の詩劇として広く愛好された。とりわけ，清(しん)代初め，金聖歎(きんせいたん)(？～1661)が改作批評を加えた《第六才子書西廂記》は，批評が観賞を助けて本文に光彩を添え，流行した。〔今村与志雄〕

せいじょうき【星条旗】 アメリカ合衆国の国旗。Stars and Stripes の訳語。1777年制定。赤・白の条と星で州の数を表わし，その後州の数がふえるにしたがってそれらの数をふやしていった。しかし，1818年以後は独立当初の13条に固定し，星の数だけをふやしている。現在のものは，1959年ハワイの州昇格に伴い50星になっている。なお青・白・赤の3色は同国への移民の多かったイギリス・フランス・オランダの国旗に由来するといわれる。〔吹浦忠正〕

せいじょうさいばい【清浄栽培】 もとは野菜などをつくるのに下肥*を使い病菌や寄生虫が生産物に付着することがあり，特に生食には不適当であった。しかし現在では，ほとんど化学肥料が使用されるので，少なくとも生食を目的としている野菜(レタス・セロリ・キャベツなど)には，寄生虫の卵が付着しているようなことはなくなった。したがって，一般栽培がほとんど清浄栽培といってよいようになった。

せいしょうじ【青松寺】 東京都港区芝愛宕(あたご)町にある曹洞宗(そうとうしゅう)の寺。山号は万年山。1476年(文明8)太田道灌(おおたどうかん)の創建と伝えらる。当初は武蔵(むさし)貝塚(かいづか)(現在千代田区)にあったが，

1600年(慶長5)現在地へ移された。江戸時代には総泉寺・泉岳寺とともに江戸三大寺として栄えたが，のち火災にあい，諸堂は昭和の再建である。

せいしょうなごん　【清少納言】　平安中期の女流作家。生没年不詳。《枕草子*(まくらのそうし)》の作者。父は歌人の清原元輔*(もとすけ)，母は不明。系図によれば男3人と女2人の末娘，受領階級の子女として育った。18歳ごろに橘則光(たちばなののりみつ)と結婚,則長らを生んだがまもなく離婚し，以後は兄妹として交際していた。離婚後，一条天皇の中宮定子のもとに約10年の間奉仕して，清少納言とよばれた。1000年(長保2)定子皇后の崩御ののち，後宮を退いたらしく，その後の生涯(しょうがい)はほとんど不明である。ただ藤原棟世(むねよ)と結婚したこと,のちの女流歌人の小馬命婦(こまのみょうぶ)をもうけたことなどが推定される。《紫式部日記*》の批評どおり，晩年は不遇であったらしい。彼女が地方に放浪したという説話，また，鬼形の女法師姿で駿馬(しゅんめ)の骨を買えと言ったという説話は，それぞれ《無名草子*》《古事談*》に伝えられ，阿波(あわ)(徳島県)に下向したことは《三条西家本枕草子》奥書きに見られる。彼女の晩年を暗示するともいえよう。《公任(きんとう)集》《赤染衛門(あかぞめえもん)集》によれば，元輔の旧居の京都月輪に余生を送ったらしく,万寿年間(1024～1027)60歳ぐらいで没したと推測されている。清少納言は中宮定子づきの女房として，貴顕紳士の取り次ぎの役を果たし，その学才・機知が貴族社会に喧伝(けんでん)され，彼女の献身した中宮の声価を高めた。彼女の本領は和歌よりも散文にあり，後世に随筆文学の祖とされる《枕草子》では，はなやかな後宮生活の描写や，鋭い感覚による自然・人事の観照にその才が発揮されている。紫式部*・和泉(いずみ)式部*とともに三才女として名高い。

〔安藤太郎〕

せいしようパルプ　【製紙用パルプ】　製紙原料に用いられるパルプ。溶解パルプ*に対応する名称。機械パルプ*から化学パルプ*に至るまで，製品となる紙の種類に応じていろいろのパルプが単一，あるいは数種混合して使用される。日本ではパルプ全生産量の約90%が製紙用パルプとして利用される。➔パルプ　➔紙

せいしょがいてん　【聖書外典】　聖書正典に類似する一部の文書をさすプロテスタント教会の用語。アポクリファともいう。〈旧約聖書〉では，紀元前2～紀元1世紀の間に現われた第1・第2の〈エスドラス書〉〈トビト書〉〈ユデト書〉〈エステル書追加〉〈ソロモンの知恵〉〈集会書〉〈バルク書〉〈ダニエル書追加〉〈マナセの祈禱(きとう)〉第1・第2の〈マカベア書〉をいう。1，2を除きギリシア語訳聖書には取り入れられたが，紀元90年ごろのヘブライ語正典決定の際に除外されて以来，2通りの伝統を生んだ。教父ヒエロニムスなどはヘブライ語正典にない文書は教理確立には無縁であるとし，今日，プロテスタント教会はこれらを外典として聖書から除外しているが，カトリック教会・聖公会などは正典として扱う。外典に対して偽典と称される文書(〈死海の書〉中のものなど)もあり,いずれも旧約と新約の中間時代のユダヤの状況を知るうえでの重要な資料である。〈新約聖書〉では3世紀に決定された正典以外の諸文書を外典とし，〈福音書〉(ペテロ・ヤコブなど)〈使徒行伝〉〈手紙〉〈黙示録〉など数多い。〔松田　治〕

せいしょく　【生殖】　生物が自己と同じ種類の新しい個体をつくり出すこと。同時に個体数を増加するという意味を含む〈繁殖〉も同様に用いられる。なお,〈増殖〉も繁殖と同義的に用いることがある。生殖を方法的に見れば，無性生殖と有性生殖に分けることができる。

①無性生殖：性と関係のない生殖で，無配偶子生殖と栄養生殖が含まれ，原生動物や下等無脊椎(むせきつい)動物に広く見られるが，軟体動物・節足動物・脊椎動物などの高等動物には見られない。㋑無配偶子生殖：細胞単位で行なわれる生殖で，単細胞生物にみられる。直接細胞分裂によって生殖が行なわれて，二分裂・多分裂に区別され，さらに二分裂は等分裂や不等分裂などに分けられる。アメーバ類は核の分裂に伴って原形質は任意の方向に分裂するが，繊毛虫は横方向に,鞭毛虫(べんもうちゅう)は縦の方向に二分裂する。マラリア原虫では，最初は核だけがいくつかに分裂し，その後で一時にたくさんの個体に分かれる多分裂が行なわれる。㋺栄養生殖は,植物の場合はタヌキモ・ムジナモのように枝の先端が特別な冬芽をつくるもの,オニユリなどの腋芽(えきが)が子株となるもの，ベンケイソウなどのように芽から苗ができるもの，そのほか親株の栄養体の一部が幼苗となるものが多い。動物の場合は淡水産の海綿・コケムシの芽球や越年芽，ヒドラの出芽などの例があり，サンゴなども同様にしてできた新個体が離れないで群体をつくっている。

②有性生殖は例外はあるがすべての動物に見られる。本来は雌雄両性の個体から産出された配偶子が，合体(受精)することによる生殖方法である。しかし，性の未分化の原生動物で行なわれる接合も一種の有性生殖に相当するもので，接合にあたる両細胞は同形同大のものから，卵・精子と変わりのないような大小の配偶子のものまでが存在している。〔蒲原春一〕

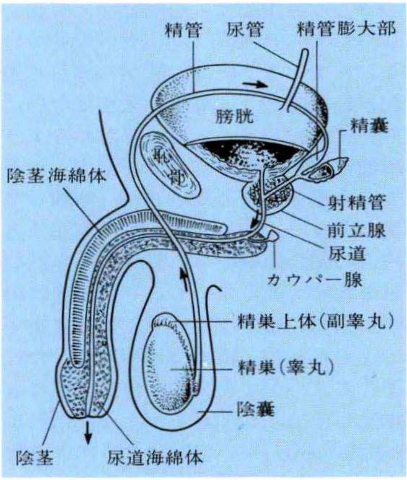
せいしょくきかん　【生殖器官】　動物・植物が有性生殖を行なう際に役だつ器官で，雌性と雄性の生殖器官がある。動物では，配偶子をつくり出すための生殖腺(せいしょくせん)(生殖巣)，つくられた配偶子を輸送して体外に排出するための生殖輸管などが含まれ，雌雄それぞれに分けられる。雌の生殖腺を卵巣，雄のほうを精巣または睾丸(こうがん)といい，それぞれは卵と精子をつくり出す器官であるとともにホルモンの分泌も行なう。動物のうち，原生動物・海綿動物・腔腸(こうちょう)動物を除く全動物を含む体腔動物では，体腔を包んでいる上皮の一部が増殖した生殖隆起が始源であり，雌雄の区別はない。脊椎(せきつい)動物ではこの表面をおおうようにして原始生殖細胞を含む体腔上皮ができる。この上皮を生殖上皮といい，増殖して生殖腺原基をつくる。生殖上皮が増殖すると，内部の結合組織の中に多くのひも状のくびれとなって伸びていく。このひも状の突起(性索)は，雄では細精管となって精子の形成にあたるが，雌では最初にできた性索が退化してやがて消失し，生殖上皮はさらに増殖して第二次性索をつくる。これには,卵細胞と濾胞(ろほう)細胞になるべき細胞が含まれている。精巣は一般に腹腔背側に左右の対となっていることが多いが，哺乳(ほにゅう)類の多くでは体外につくられた陰嚢(いんのう)内に移行しているのが見られる。一般には生殖時期と関連して，精子形成やホルモンの分泌を周期的に行なう。卵巣は動物の種類によって配列状態や数が異なるが，脊椎動物では一般に左右の対をなし，卵細胞は1個ずつが多数の濾胞細胞に囲まれて，生殖期にはこれらが発達する。動物によって一時に1個または多数の卵細胞が成熟する。卵巣と精巣でつくられた生殖細胞は，環形動物のある種では体壁が破れて放卵・放精されるが，一般には生殖輸管を通して体外に導かれる。生殖輸管は腎管(じんかん)が機能を変えて生殖細胞の輸送を行なうようになったもので，輸卵管・輸精管・輸精小管・両性管などがある。また，分化して，子宮や膣(ちつ)などになる。さらに，粘液や卵殻(らんかく)を分泌する腺など種々の付属腺が発達していることもある。生殖輸管が体外に開口している部分を生殖口というが，この部分は特別な構造をもつようになり，交尾器や産卵管となっていることがある。特に脊椎動物の場合は，生殖器官は排出器官と密接な結びつきがあるので，泌尿生殖器官とよばれることがある。

植物では動物ほど複雑ではなく，種子植物では花，藻類(そうるい)・シダ・コケなどでは配偶子嚢が生殖器官である。特に配偶子嚢は大小の配偶子嚢，造卵器と造精器などに分化している。〔蒲原春一〕

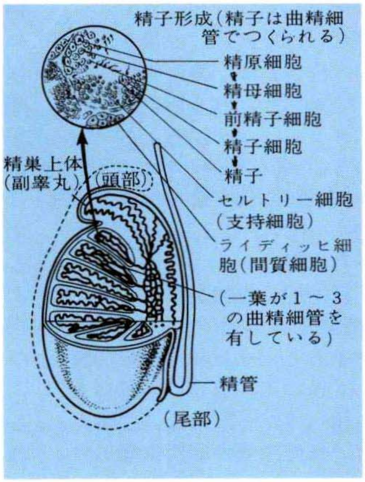
種族伝播(でんぱ)のために新しい個体を子孫として生み出すための臓器系。人体では単に性器ともいい，発生学上は中胚葉(はいよう)性(➔胚葉)の器官である。

男子性器は部分的に泌尿器をも兼ねており，左右二つの精巣*(睾丸(こうがん))，精巣上体*(副睾丸)，精管*およびそれらを納める陰嚢(いんのう)，さらに精嚢，射精管，前立腺*(ぜんりつせん)，カウパー腺および陰茎からなる。このうち陰茎および陰嚢は外性器とよばれ

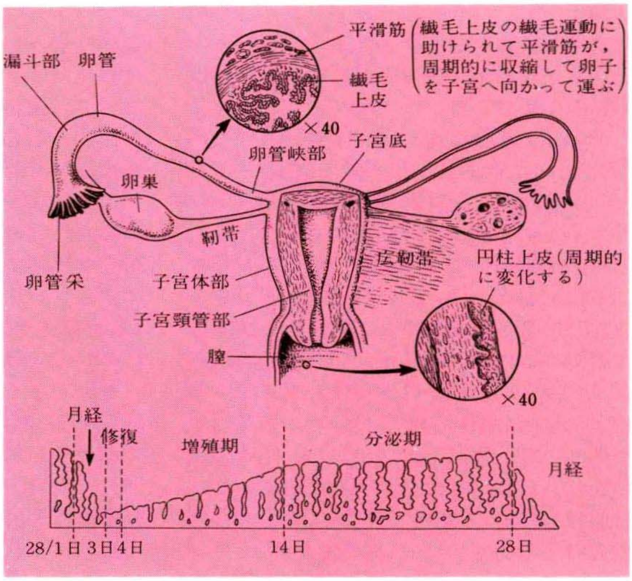
生 殖 器 官



男性生殖器の断面図



精巣の構造と精子形成



女性生殖器と子宮内膜の増殖分泌図

る。陰茎は交接器(→性交)で，陰茎海綿体および尿道海綿体の充血によって勃起(ぼっき)現象が起こる。また陰茎の中を通る尿道は，精液の排出道であると同時に，膀胱(ぼうこう)からの尿路をも兼ねている。これら二つを除く上述の他の臓器を内性器という。精巣は生殖細胞である精子*を産生する働きと性ホルモンを分泌する働きをもつ。精子産生は精巣中の曲精細管が，男性ホルモン(アンドロゲン)産生はライディッヒ細胞(間質細胞)が，女性ホルモン産生はセルトリー細胞(支持細胞)がそれぞれつかさどっている。これらの働きはいずれも脳下垂体*前葉の生殖腺刺激ホルモン*の支配を受ける。産生された精子は精巣上体を通って精管にはいり，精管の走行にしたがって陰嚢中を上行して左右の鼠径(そけい)管(→鼠径部)を通って小骨盤中にはいる。さらに膀胱外側を通って膀胱底で嚢状膨大部を通り，左右の精嚢にはいる。射精が起こると，精子は精嚢排出管から射精管を通り，前立腺を貫いて精丘に1対開口した尿道に出るが，射精時には前立腺液が分泌されてそれが精子活動を活発にするとともに，これが精液の主要部分となる。なお，カウパー腺からは性交時に粘液を分泌して陰茎の腟内(ちつない)挿入(そうにゅう)を容易にする働きがある。

女子性器は泌尿器と交接器とは分離していて，大陰唇(だいいんしん)・小陰唇・陰核・腟前庭・処女膜および左右両側の乳房をも含める外性器と，腟*・子宮*・卵管*および卵巣*などの内性器とからなる。腟は外方が腟前庭の尿道口下部に開口し，上部は子宮腟部をとり囲んでいる。伸縮性に富んでいるので交接に際しては男子の陰茎を受け入れると同時に，分娩(ぶんべん)に際しては胎児の産道となる。子宮は妊娠に際して胎児を保護発育させる内腔臓器であり，その下端は腟に接続して小骨盤中にある。組織的には，内部は粘膜でおおわれ，次いで平滑筋が大部分を占め，外側は外膜でおおわれている。この子宮内膜は，思春期以後では周期的に増殖し，脱落・分泌するという生理的機能がある(→月経)。妊娠時には受精卵の着床するところもこの子宮内膜である。卵管は子宮付着部付近の細い卵管峡部，次いで太くなった漏斗部，さらに末端はらっぱ状をした卵管采の3部からなり，腹腔(ふくこう)に開口している。卵巣から出た卵子をとり入れ，絨毛(じゅうもう)運動によって子宮まで送り込む。卵巣は，扁平(へんぺい)な臓器で左右に2個あり，卵管采部と漏斗部とがこれをとり囲むように位置している。卵子の産生(→排卵)および性ホルモンの分泌の二つの機能をもつ。〔藤井和明〕

せいしょくきすうはい　【生殖器崇拝】　多産・豊饒(ほうじょう)を祈念して生殖器をかたどった事物を崇拝すること。男根崇拝が多く，女陰崇拝は少ない。未開の民族にはみられず，農耕の進んだ民族に多くみられる。インドやインド文化の影響を受けた古代文明国に発達し，インドではシバ神が男根の形であがめられている。日本では，石や木で陰陽の性器をかたどり崇拝することが各地方でみられる。日光金精峠の金精大明神，愛知県の田県(たがた)神社の豊年祭で巨大な男根をかたどり神体とする神幸式は有名。

せいしょくさいぼう　【生殖細胞】　生殖を目的として特別に分化した細胞で，胚(はい)細胞ともいう。特に有性生殖を行なう場合の細胞を性細胞ということもある。無性生殖に関係する胞子(シダ・コケ・カビなど)や吸虫類のレディア体内にできる胚細胞なども生殖細胞ということができるが，普通は多細胞生物の性細胞をさし，雌性配偶子を卵，雄性配偶子を精子という。

せいしょくじょにんけんとうそう　【聖職叙任権闘争】　ローマ教皇とドイツ皇帝が聖職者の叙任権をめぐって争ったもの。教皇グレゴリウス7世*(在位1073～1085年)は教会改革のため世俗権力の介入を排除しようとし，司教など聖職者の任命を俗権から分離しようとした。しかしこれは，宗教諸侯との結びつきの強いドイツ帝権にとって国の基礎を脅かされるものであったので，グレゴリウスと皇帝ハインリヒ4世*(在位1056～1106年)との間に激しい争いが起こり，破門や廃位の応酬が行なわれて，〈カノッサの屈辱*〉(1077)事件をひき起こした。この争いはその後も続き，教皇カリストゥス2世*(在位1119～1124年)と皇帝ハインリヒ5世*(在位1106～1125年)の間にウォルムス協約*(1122)が結ばれていちおうの解決に達した。これにより皇帝はドイツ国内では聖職者の任命を左右できたが，ドイツ以外では任命権は教皇の権力下にはいり，結局ドイツ帝権を弱めることになった。〔兼岩正夫〕

せいしょくせん　【生殖腺】　生殖細胞*をつくり，性ホルモン*を分秘する器官。性腺ともいう。精巣*・卵巣*がこれである。→生殖器官　→性徴

せいしょくせんしげきホルモン　【生殖腺刺激ホルモン】　脳下垂体*前葉から分泌されるホルモンの一種で，生殖腺の働きを支配している。脊椎(せきつい)動物では，濾胞(ろほう)成熟ホルモン*・黄体形成ホルモン*・黄体刺激ホルモン*の3種類がある。哺乳(ほにゅう)類の妊娠中の雌では，胎盤*からも分泌される。これらのホルモンの分泌は，生殖腺の分泌するホルモンや日照時間の変化，交尾の刺激，温度変化などが脳から脳下垂体に伝わって，影響を受ける。

せいしょくばいばい　【聖職売買】　キリスト教の高位の聖職や，それに付属する教会財産が売買されたこと。その語源はラテン語のシモニアで，使徒ペテロから聖霊の能力を買い取ろうとした魔術師シモンの故事による。西ヨーロッパのキリスト教会は9～10世紀に世俗的権威をも兼ねるほど強力になったが，同時に，ローマ教会の収入

を得ようとする意図と聖職者の世俗的欲望とが結びついて聖職の売買が行なわれた。クリュニー修道院で改革運動の指導者であったヒルデブラントが教皇グレゴリウス7世*となるに及んで，聖職売買を禁止し教会の粛清に努めた。これは妻帯禁止とともに改革運動の中心課題であった。〔高山高雄〕

せいじょしき 【成女式】 ⇨成年式

せいしょほう 【正書法】 言語を書き表わすしかたとして社会的に正しいと認められている大系。正字法ともいう。日本語の表記は，ふつうかなと漢字によって行なわれるが，かなにはかたかな・ひらがながあり，近ごろはローマ字も用いられるので，一語一語をどういう字種で，どう書くかが必ずしも決まっていないから，正書法が確定していないともいえる。しかし，歴史的伝統と習慣によって名詞や動詞や形容詞などの語幹は漢字で書かれ，外国語や外国の地名・人名，外来語・擬声語などの表記にはかたかなが用いられるというように，ほぼ定まっている。当用漢字*と音訓の制定，現代かなづかい(→かなづかい)・送りがな*の制定などは正書法的な考え方に基づいたものであるが，これらも正書法というよりは，表記法というほうが妥当である。→表記法 〔石黒　修〕

せいしん 【西晋】 ⇨晋②

せいしん 【精神】 身体・物質と対立する心・霊の意味に用いられ，心理学では意識・思想・意志・感情の主体と考えられる。さらに超個人的精神として，〈民族精神〉〈時代精神〉は，その民族や時代に属する人々が考え方，心の持ち方を共通にしているものを意味する。また〈憲法の精神〉〈芸術の精神〉は，これらの基礎にある精神を意味する。哲学では思考を本性とする非物質的なものをさし，理性・悟性・意志・人格など種々の意味に用いられ，形而上学(けいじじょうがく)的・価値的である。個人の意識に関係するが，超個人的存在，あるいは個人の本質をなすものである。ヘーゲルでは，思惟(しい)する主観の意識における理念が，疎外されて本来の姿を失った状態(自然)から再び自分自身に帰って自由となった理念で，歴史の世界に自己をあらわす絶対的精神(神)にほかならない。 〔中川　誠〕

せいしん 【西秦】 中国，五胡(ごこ)十六国*の一。鮮卑*族の乞伏国仁(きっぷくこくじん)が，385年前秦の苻堅*(ふけん)の死後，甘粛省中部地方を本拠として建てた国。431年夏に滅ぼされた。

せいしん 【清津】 チョンチン　朝鮮，咸鏡北道(かんきょうほくどう)の道庁所在地。人口約30万(1962年推)。1908年に開かれた港は日本海に臨んでおり，中国の東北地区と日本との連絡地として発達した。日本統治時代に建設されていた製鉄所は，1945年日本の敗戦時およびその後の朝鮮戦争の時期に破壊されたが，いまでは松坪洞(しょうひょうどう)から羅南(らなん)にまたがる一大鉄鋼コンビナートが再建されている。茂山の鉄鋼，富寧の電力・咸鏡炭などを立地条件として，鉄鋼のほか機械・造船・化繊・ゴムなどの諸工業がある。工業大学・鉱山金属大学・師範大学などもあり，北部の行政・文化の中心になっている。また1959年以来，新潟との間に在日朝鮮人の帰国船が就航した。1960年以来，隣接する富寧郡および羅南市を市域に編入している。 〔矢守一彦〕

せいしんあんていやく 【精神安定薬】 運動機能・精神作業を低下させずに異常興奮をおさえ，あるいは異常な鬱(うつ)状態を改善する薬。異常興奮をおさえるジアゼパムなどをトランキライザーまたは静穏薬，鬱状態を改善するイミプラミンなどをエネルジタイザーまたは精神賦活薬という。感情調和薬は広義のエネルジタイザーに含まれる。なお，やや特殊なものに幻覚をおさえる抗幻覚薬がある。いずれも在来の薬では運動機能の低下，異常興奮・不眠などを起こすため，それが起きにくい点を強調して新しい薬と考えられたが，トランキライザーでは自律神経作用を免れないものもあり，エネルジタイザーも精神賦活以外の作用をもつことが知られるに至った。

〔伊藤隆太〕

せいしんえいせいほう 【精神衛生法】 精神障害者の医療と保護，およびその発生の予防を目的として1950年(昭和25)に施行された法律。従前の〈精神病院法〉(1919年公布)に代わるもの。条文中重要なのは，精神衛生鑑定医2名が一致してその必要を認めた場合，本人および関係者の同意なしに強制入院をさせられること(措置入院)を規定した第29条である。

せいしんか 【精神科】 臨床医学*の診療科の一部門で，精神医学*の対象となる精神障害の診察と治療を行なう。各病院の伝統によって神経科・精神神経科などともよばれる。対象となる精神疾患には次のようなものがある。①精神病(精神分裂病*・躁鬱病*(そううつびょう)・てんかん*)，②神経症*，③精神薄弱*，④精神病質*，⑤身体疾患に由来する症状精神病*，脳の器質的病変に基づく器質精神病，⑥運動障害や感覚障害を伴う脳・脊髄(せきずい)末梢(まっしょう)神経の疾患群。⑥の疾患群は神経病学の対象となるものであるが，脳と精神が不可分であるように神経病学と精神医学も歴史的に分離しがたく同一の系譜の上に発展してきている。さらに最近では心身症*の治療に精神科の果たす役割が大きくなりつつある。 〔馬場謙一〕

せいしんかんてい 【精神鑑定】 民事・刑事の裁判において，精神状態を鑑定すること。特に刑事事件では，心神喪失*中の行為は罰せず(刑法39条)，心神耗弱(こうじゃく)者の行為は刑を軽減(刑法40条)すると規定されている。凶悪事件の場合は，検察官・弁護人ともに精神鑑定を申し立てるのが普通で，犯行時にさかのぼってその精神状態を鑑定する。

せいじんきょういく 【成人教育】 ⇨社会教育

せいしんげんしょうがく 【精神現象学】 ヘーゲル*の第1の主著。1807年刊。〈ヘーゲル哲学の真の生誕地であり，その秘密〉(マルクス)をなすといわれる。1806年10月13日イエナはナポレオンの軍隊によって占領されたが，その夜半に本文の最後を書き終えたと伝えられる。はじめ〈学の体系〉第1部の緒論(認識論)のつもりで〈意識の経験の学〉と題して書き出した(第1部の本論は論理学・形而上学(けいじじょうがく)，第2部は自然哲学・精神哲学)。しかし書いているうちに大きくなり，〈学の体系〉と同一内容をもつようになって《精神現象学》と題した。序文は《大論理学*》を念頭に置き，〈学の体系〉全体への序文の意味をもつ。真理は，全体であり，体系の形をとり，実体でなく主体として表現される，という根本的観点を述べる。本書は意識の経験の発展がついには絶対者の学的認識に至る過程を示したもので，意識の形態の弁証法的展開が絶対精神(神)の経験である。生活に窮し，執筆期限に迫られて書いたために重要な〈宗教〉〈全体知〉について簡略になっている。しかし，強靭(きょうじん)な思索力と奔放な想像力はキリスト教の意識の無限性に論理を与え，市民社会の自己疎外を鋭くとらえた。

〔中川　誠〕

せいしんさくらん 【精神錯乱】 おもに急性の中毒や伝染病のため意識が障害され，考えがまとまらず支離滅裂となる状態。見当識が失われ，困惑したような顔つきをしたり，無動のまま茫然(ぼうぜん)と空間を凝視したり，了解不可能のことを口走り，泣き，笑い，さらに興奮してあばれ狂ったりする。ふつう一過性である。このような状態は，他の症候性精神病・中毒精神病・進行麻痺(まひ)や脳炎などの器質性脳疾患・老人痴呆(ちほう)・頭部外傷などの場合に見られ，また躁鬱病*(そううつびょう)や精神分裂病*の急性期に現われることがある。したがって症状としては類似していても原因は多岐にわたる。

〔馬場謙一〕

せいじんしき 【成人式】 ⇨成年式

せいしんしんたいいがく 【精神身体医学】 精神的現象と肉体的現象の関連を問題とし，心身両面から疾患を解明していこうとする医学。近代医療は，患者の身体面のみを診療の対象としてきたが，疾患によっては精神的な原因によるものも多く，そのような疾患の場合，肉体的処置ばかりでなく，精神的な原因であるストレス(→ストレス学説)の解消も必要となる。このような立場から発展したのが精神身体医学で，対象となる疾患を心身症*という。心身症の治療活動は心療内科*において行なわれる。

せいしんそくていほう 【精神測定法】

心理学で扱う対象を測定する諸方法の総称。次のような方法がある。①精神物理的測定法：主として身体感覚的側面を対象とし，感覚的刺激Sとそれによってひき起こされる反応Rとの関係を測定する。②広義の人格検査法：パーソナリティー，性格・知能・社会的行動などの高次な精神活動を測定する。③尺度構成法：①②のような対象を数値に置き換えてとらえるために種々の尺度を構成して測定する。〔馬場礼子〕

せいしんでんりゅうげんしょうがく

【精神電流現象学】 被験者の皮膚の２点に電極をつけ，これを電流計に導き刺激を与えると，刺激による情動の変化に応じた電流変化が見られる。さらにまえもって弱い電流を通じておくと，この変化は，情動の興奮によって抵抗が減少して電流が多く流れ，いっそう顕著なものとなる。これは，情動➔交感神経➔汗腺(かんせん)活動の経路によって反射が生ずるもので，この現象を精神電流現象(ＰＧＲ)，または皮膚電気反射(ＧＳＲ)とよんでいる。人間だけでなく動物にも認められる。これにより感情の意識的側面が客観的・数量的に得られ，意識下のコンプレックス*をも表面化できるとされているが，中でも驚愕(きょうがく)・緊張の感情的行動が最も顕著に現われることから犯罪捜査における〈うそ発見器〉の一部に利用されている。〔太田垣瑞一郎〕

せいしんねんれい **【精神年齢】** ⇒知能

せいじんのひ **【成人の日】** 国民の祝日の一。１月15日。〈国民の祝日に関する法律〉によれば,おとなになったことを自覚し，みずから生き抜こうとする青年を祝い励ますという趣旨である。古来から成年式*の風習が民間にあってそれぞれ儀式が行なわれたが，明治になって徴兵制度がしかれてからは，男では徴兵検査が成人を迎えた転換期としてこれに代わった。民法では〈満二十年ヲ以(もつ)テ成年トス〉(３条)と定められており，成年に達してはじめて法律上独立した社会人としての地位が与えられることになる。〔吹浦忠正〕

せいしんはくじゃく **【精神薄弱】** 先天的に，あるいは生後の精神発達の途上においてなんらかの原因により，知能の発達が持続的に遅滞もしくは停止した状態。精神薄弱は，知能の水準によって〈白痴〉〈痴愚〉〈軽愚(魯鈍(ろどん))〉の３段階に分けられる。〈白痴〉級は，言語をほとんど有せず，意志の交換および環境への適応が困難で，衣食にも絶えず介護が必要である。成人になってもまったく自立困難で，知能指数*(ＩＱ)が20以下の者。〈痴愚〉級は，新しい事態の変化に適応する能力に乏しく，他人の助力によってようやく自己の身辺の事がらを処理できるが，成人に達しても知能年齢２～７歳程度で,IQは20～50程度。〈軽愚〉級は,日常生活にさしつかえない程度の身辺処理ができるが，抽象的な思考・推理は困難で，成人に達しても知能年齢が10～12歳程度，IQ50～75の者である。〈白痴〉には神経学的症状を伴う場合が多く，随意運動機能の障害のほか，錐体(すいたい)外路症状やけいれん発作をも往々に合併している。このような場合は精神病院へ収容する必要が生じてくる。軽愚級では，通学は可能で，特殊教育の対象となり，適当な職業教育を受ければ将来社会適応ができる可能性ももっている。精神薄弱の出現頻度(ひんど)は，重症(痴愚・白痴)で全人口の0.5～0.7％,軽症のもので２～４％といわれ，原因で高率を示しているのは遺伝である。片親が精神薄弱である場合，その子どもの出現率は33～46％,両親とも精神薄弱の場合54～93％にも及ぶ。このような内因性精神薄弱のほか，外因性のものでは，胚種(はいしゅ)損傷(アルコール・放射能による影響)，胎児期損傷(母体の梅毒感染・風疹(ふうしん)・トキソプラズマ症・中毒・栄養不良，サリドマイドなどの薬物による影響)，出産時の損傷(早産・難産・鉗子分娩(かんしぶんべん)による脳外傷,出産直後の仮死状態，核黄疸(かくおうだん)など),乳幼児期の大脳損傷(脳炎,高熱や中毒によるけいれん発作)などが考えられる。このほかに,特殊な精神薄弱として，フェニール・焦性ブドウ酸性精神薄弱・黒内障白痴，ガーゴイリズム・モンゴリスムス(蒙古症(もうこしょう))・甲状腺(こうじょうせん)性精神薄弱・結節硬化・スタージ-ウェーバー病などが知られている。〔片山義郎〕

せいしんはくじゃくしゃふくし **【精神薄弱者福祉】** 出産時ないし出生後の早期に脳になんらかの障害を受けたため，あるいは先天的に精神的機能の発達が遅滞している者に対して行なわれる福祉対策のこと。18歳以上の者は精神薄弱者福祉法，それ以下の者は児童福祉法によってそれぞれ福祉対策がとられている。各福祉事務所ないし児童相談所では専門の福祉司や係員によって，相談指導を行ない，援護施設への入所措置や職親委託などを実施している。1968年(昭和43)末までの施設数は，更生・授産施設を含めて441である。〔松島　浄〕

せいしんびょう **【精神病】** いわゆる〈気がちがった〉状態を起こす病気。神経症*者は，精神的または身体的な異常を自分で洞察(どうさつ)し，認識することができるが，精神病者は，周囲の人間がおかしいと思っても，本人は自分が正常であると信じている場合が多い。この病識の有無が精神病を判定する際の一つの手がかりとなる。

精神病者が示す精神的な異常の徴候は，次のようである。①感情の異常：感情の異様な高揚(躁(そう)状態)，沈滞(ゆううつ状態)，感情の鈍麻(精神分裂病状態)など。②意識の異常：無意識のうちに行動し，あとでなにも覚えていないもうろう状態(てんかん*の場合)。意識の明るさが動揺し，興奮・不安を伴う錯乱状態(アルコール中毒；症状精神病の場合)。③考えの異常：被害妄想(もうそう)・誇大妄想など種々の妄想*をいだき,妄想にしたがってものごとを判断する(ほとんどの精神病でみられる)。④幻覚の出現：幻聴，幻視のほか，電波がかかってくるなどという物理的幻覚や幻臭・幻味など。⑤態度・表情・言動の異常：かたい表情をし，外界に無関心になり，ひとりごとやから笑いを示す(精神分裂病)。朗らかでエネルギーに満ち，落ち着きなく行動し，しゃべりまくる(躁病)。うつむき，表情も乏しく，声も低く，ことばが少ない(鬱病(うつびょう))。奇妙な身振り・動作・表情を示す(分裂病の緊張型)。⑥痴呆*(ちほう)化：梅毒性の精神病(進行麻痺*(まひ)，老人性精神病に見られる。

これらの症状を示す精神病は大別して，①遺伝性の素質に基づく内因性精神病(精神分裂病・躁鬱病，てんかん性精神病),②脳の障害による精神病(脳の外傷や炎症腫瘍(しゅよう)・萎縮(いしゅく)・血行障害),③内科的疾患の結果，脳の機能に異常をきたす症状精神病(腸チフス・インフルエンザ・肝臓病・腎臓病(じんぞうびょう)・内分泌疾患・栄養障害などに分けられる。治療は，その原因の治療と向精神薬による薬物療法を主とし，ほとんどの場合，入院治療を原則とする。

〔北田穣之介〕

せいじんびょう **【成人病】** 動脈硬化症・高血圧症に基づく心臓の病気(心筋梗塞(こうそく)・狭心症・心不全など)，脳血管の障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血など),糖尿病・痛風のような代謝障害に基づく病気，肺気腫(はいきしゅ)，悪性腫瘍(しゅよう)(癌(がん))，骨の退行性変化など,主として老年期に問題とされる病気の総称。これらの病気の多くは，すでに成熟過程の頂点を過ぎるころにその源が求められるとされている。一般には，加齢とともに生体の種々の物質代謝がいろいろな形で変化し，身体的機能,諸臓器・内分泌系・血液・体液などにおける機能低下や異常が認められるほか，精神面における変化も認められるようになる。成人病はこれらの因子が複雑に組み合わさって表現されるものであり，高齢者の社会的比重が増加しつつある今日，その対策はきわめて重要となっている。〔佐野隆志〕

せいしんびょうしつ **【精神病質】** 生来性の性格異常のためにみずから悩み，また社会が悩むものを意味するが，ここでいう異常とは，平均からかたよっているというほどの意味である。そのため極端なかたよりの場合は問題ないが，比較的軽い程度のときには判定がむずかしい。性格異常であっても自他を害することのないものは精神病質とはいわない。古くは精神病質は精神病の程度の軽いものと考えられていたが,今日では，精神病と精神病質の間には絶対的な限界があり，両者に移行はないとするシュナイダーの見解が支配的である。なお,

脳炎・頭部外傷その他の器質疾患を経過すると性格変化が生じることがあるが，これらは厳密には精神病質といわない。正常からのかたよった性格特徴によって精神病質をいくつかの類型に分けることができるが，現在最も広く用いられているのはシュナイダーの無体系的分類で次の10類型からなる。①高揚者，②抑鬱者(よくうつしゃ)，③自信欠乏者，④狂信者，⑤顕示者，⑥気分軽動者，⑦爆発者，⑧情性欠如者，⑨意志欠如者，⑩無力者。〔内藤春雄〕

せいしんびょうりがく【精神病理学】精神障害の実態を科学的に把握(はあく)し，その発現機構を明らかにし，さらに精神療法を通じて精神障害者を治癒(ちゆ)に向かわせる契機をつくることを目的とする学問。記述的な立場に立つクレペリン*や，記述から出発して了解精神病理学を発展させたヤスパース*のような立場，現象学的な発展から出発したビンスワンガー*のような現存在分析*の立場，フロイト*や現代のエリクソンのような精神分析学的な立場など，方法的にさまざまの学派がある。〔岩井　寛〕

せいしんぶんせき【精神分析】⇒430ページ

せいしんぶんれつびょう【精神分裂病】代表的な精神病。1911年ブロイラー*によって命名された。主として青年期に発病し，精神病の中でも最も発生頻度(ひんど)が高く，100人に0.5～1人の発病率をもつ。多くは，完全になおりにくいか，回復しても再発をくり返し，病的な人格変化をあとにのこすことが多い。

精神分裂病の中核をなす障害は，①外界や他人に関心を失い，自分だけの世界に閉じこもる自閉，②自分の主観的な考えと客観的な事実との矛盾を平然と無視したり，相反する衝動や感情を同時に示す両面性，③感情の鈍麻，荒廃，各種精神機能の特有な解体などである。具体的な症状として最も多いのが〈被害妄想(もうそう)〉で，周囲のできごとや他人の言動をすべて自分に関係づける〈関係妄想〉を伴うのがつねである。また，世界が滅亡するという世界没落体験や嫉妬(しっと)妄想，恋愛妄想，誇大妄想，心気妄想なども訴えられる(→妄想)。幻覚の中では，他人が自分に話しかけてくる幻聴が多い。さらに，内的な異常体験として思考化声(自分の考えが声になって聞こえてくる)，思考察知・伝播(でんぱ)(自分の考えが他人に知られたり，電波で伝わってしまう)，思考吹入(他人の考えが吹き込まれる)，身体じゅうに電波をかけられるという幻覚，作為体験(他人からなにかをさせられる，他人にあやつられる)などが訴えられる。

分裂病患者は，一般にかたく無表情で，話しかけても応答がぴんと返ってこない。またひとり言やひとり笑いをし，話すことは，ときに論理的に筋の通らない滅裂なものになる。生活は，家族・友人などとの人間関係が薄れ，積極的な意欲や活発さがなくなり，仕事・勉学・遊びに関心を失う一方，空虚な自分の考えや書き物にふけったり，突然常識はずれな外出・訪問などの行動に出る。

病型は臨床的に破瓜(はか)型・妄想型・緊張型などに分けられる。①破瓜型：20歳前の発病が多く，初期には神経症*様の症状を呈し，幻聴や妄想もはっきりせず，緊張病症状も示さないが，なんとなくやる気がなくなり，だらしなくなったり，終日へやに閉じこもったり，家族に反抗したり，突然家出をしたりするなどの人格全体の変化が現われる。②妄想型：30～40歳ごろの発病が多く，妄想や幻覚だけを主とし，人格の変化はすぐには見られず，長年月ののちに人格荒廃を示す。③緊張型：異常な興奮，奇妙な身振り・表情・動作を現わす緊張病性の興奮や，黙ってじっとして身動きもしなくなる混迷などの症状を主とし，20歳前後に急性に発病するが，1回限りで完全になおるもの，再発をくり返すものがある。

精神分裂病の原因は，遺伝が大きな役割を果たすと考えられるが，いまなお不明である。しかし最近，同じ遺伝素質をもっていても，家族関係その他の環境要因によって発病の有無，発病の時機，なおり方などに影響をうけるという考え方が一般的になってきている。

治療は，向精神薬による薬物療法，ショック療法(インシュリン療法*・電気療法)，精神療法*などが行なわれているが，決定的に有効な治療法はまだ見いだされていない。また，分裂病については〈治癒(ちゆ)〉ということばは用いられず，〈寛解〉(一時的に病勢がゆるんだ)ということばが用いられる。したがって，どのようにして寛解した患者を家庭や社会に復帰させ，再発やそれ以上の進行を防ぎ，人間的な生活を保たせるかが，現代の精神科治療の重要な課題になっている。〔北田穣之介〕

せいしんりょうほう【精神療法】心理療法ともいう。治療者と患者の精神的な相互作用(ラポール)を基盤に，心理的技法によって心身の疾患をなおす治療法。対象となるのは主として神経症*であるが，原則的な方法の違いによって支持療法と洞察(どうさつ)療法に大別される。①支持療法：症状および不安の除去に主眼を置く療法で，元気づけ・暗示・説得のほか，生活指導・環境調整を行なう。森田療法*・行動療法*が，その代表的技法。②洞察療法：神経症発生の根源にさかのぼり，隠された心因を明るみに出すことによって，患者に自覚させ，解決に導く。精神分析*療法，ロジャーズの来談者中心療法(→カウンセリング)が最も広く知られている。

以上のほか，活動・動作を重視する独自の方法に，作業療法*・遊戯療法*・心理劇*(サイコドラマ)などがあり，そのほかにアミタール面接*・インシュリン療法*などのような薬物の助けをかりて行なう療法，催眠状態に導いて行なう催眠療法(→催眠)がある。〔川上伸二〕

せいず【製図】工業用・洋裁用などの図面をつくること，また，その図面。工業用製図のことを工業製図・技術製図・設計製図などともいう。また，製図の対象によって機械製図・建築製図その他がある。

図面とは，品物の形を所定の方法に従って製図用紙(トレース紙)上に図形として示し，これに寸法・記号・記事などを書き加えたものである。正しく書かれた図面によれば，品物に対する設計者の意図(品物の形・寸法・構造，使用材料の処理方法・数量，その他製作に必要なこと)はすべて正確・明瞭(めいりょう)に示され，他になんの補足説明も必要としない。なお，同じ図面を関係者に多数配布しなければならないので，上記の図面を原図として青写真法あるいは陽画写真法によって複製をつくる。これをそれぞれ青写真(青図)・白写真という。最近ではほとんど白写真しかつくられないが，慣習的に青図とよぶことがある。また，マイクロフィルムによる原図あるいは青図の管理も行なわれる。図面は品物の製作・取り扱い・理解のために必要なもので，これらに関係あるすべての人には図面を読む力が必要とされる。

〈製図規格〉日本では，1930年(昭和5)にはじめて製図に関する国家規格が制定されたが，現在では1952年に制定，1958年に改訂された日本工業規格(JIS*)の〈製図通則〉によって，機械・土木・建築などに共通する基本的な製図法が規定されている。さらに，各部門の製図についてもそれぞれJIS規格が制定されている。なお，各工業団体・会社・工場などはさらに細かい独自の規定を設けて国家規格を補っている。〈図面の大きさ〉取り扱いや整理の便利のため，図

製　図　表-1　投影法の種類

投影法	透視投影法			
	平行投影法	直投影法	正投影法	第一角法
				第三角法
			軸測投影法	等角投影法
				不等角投影法
		斜投影法		

製　図

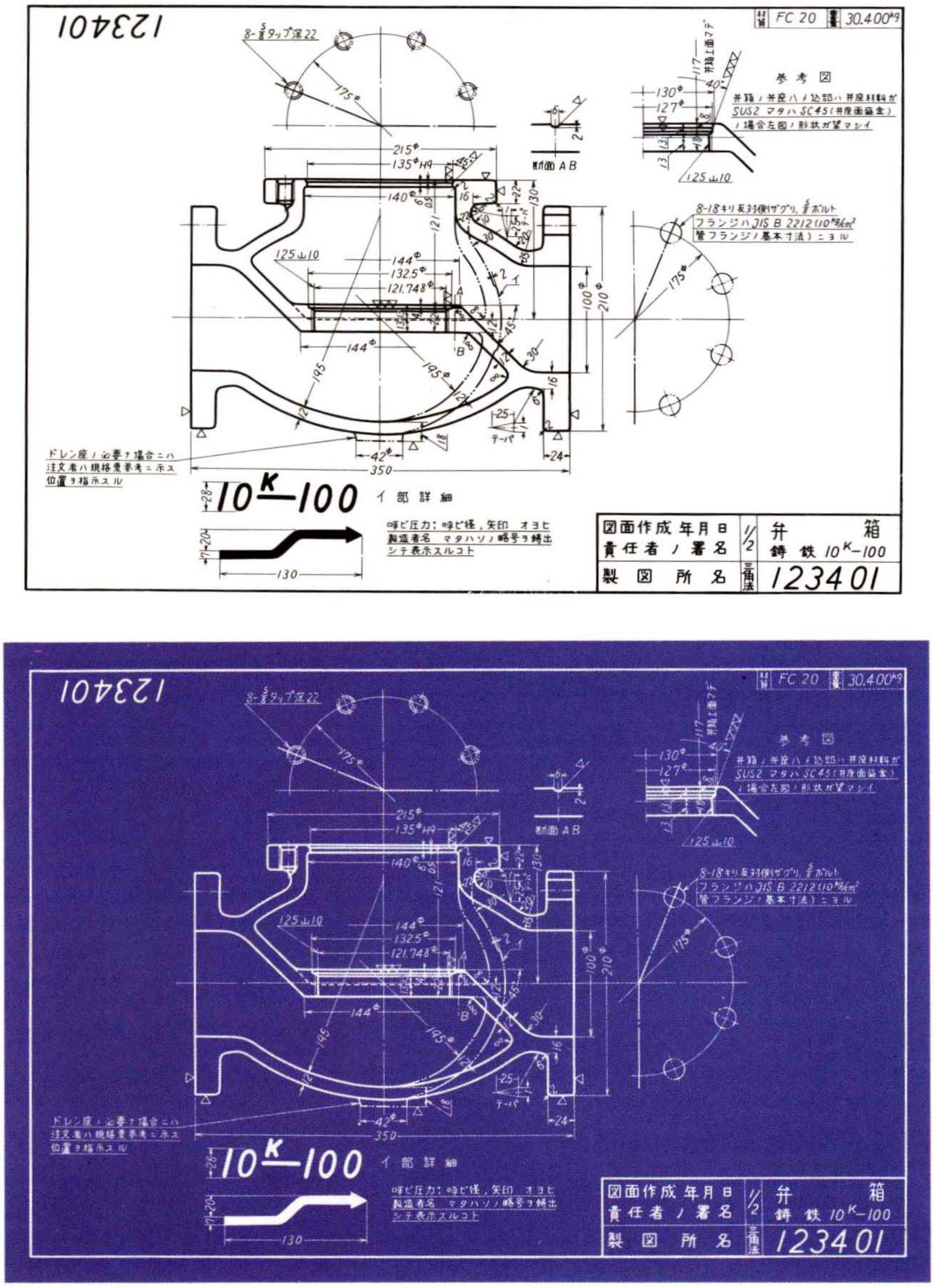


図-1　製図例(部品図)　原図と青図

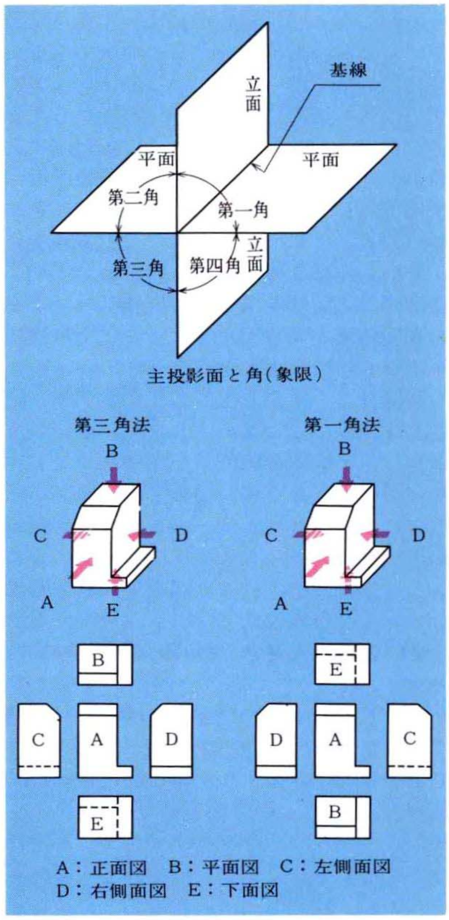


図-2　正投影法による第三角法と第一角法



図-3　製図に用いられる文字の書きかたの例

面の大きさ(仕上がり寸法で示す)にも規格があり，A列の０番(841mm×1,189mm)～３番(297mm×420mm)は長手方向を横に，４番(210mm×297mm)は縦にして使う。なお，青図はＡ４の大きさに折りたたんで整理する。

〈尺度〉 描かれている図形と品物との寸法の比を分数で示したもの。尺度には現尺(1/1)，縮尺(1/2，1/2.5，1/5，1/10，……1/200)および倍尺(2/1，5/1，10/1)，がある。ただし，図面上に書かれる寸法数字は，尺度の種類にかかわらず，品物の寸法を記入しなければならない。**〈図面の内容〉** 図面の仕上げ寸法の５～10mm内側に太い線で輪郭がとられている。これは単なる飾りではなく，製図内容がすべてこの輪郭内にあることを示す重要なものである。そのおよそ中央に図を書き，寸法・記号・記事などを記入する。また，図面の利用や管理に便利なように，図の右下に標題欄，その上または図の右左隅に部品表が設けてある。標題欄には図面番号・品名・尺度・投影法・製図所名・図面作成年月日，責任者の署名などを記入する。

図面の方式としては，一般に，１枚の図面に１部品を書く１品１葉式が多いが，治工具(ジグ)・学校製図などでは，１枚の図面中に多数の部品を書く多品１葉式がとられる。

〈図形〉 立体的な品物の形を平面上に正確に書き表わすために，製図には正投影法のうちの第３角法，場合によっては第一角法が用いられる(図－２)。なお，図形を簡潔・明瞭なものとするため，慣用法・補助

表-2　用途別による線の形と太さの組み合わせ

線の形／線の太さ	実線		破線		一点鎖線		二点鎖線	
全　線（0.8〜0.3mm）	外形線*				切断線			
半　線（全線の約$\frac{1}{2}$）	破断線		かくれ線		切断線 想像線		想像線	
細　線（毛　線）（0.2〜0.1mm）	破断線							
	想像線							
	中心線				中心線 ピッチ線			
	寸法線 寸法補助線							
	引き出し線							
	ハッチング							

＊）太字で示した線は標準的な用法を示し，細字の物は代用を許される場合である。ただし，同一図面では使用法を統一し，混用してはいけない。ただし，破断線についてはこの限りでない。

（線の用途の説明）

外形線：品物の見える部分の形状を表わす線
破断線：品物の一部を破ったところ，または切除した箇所を表わす線
かくれ線：品物の見えない部分の形状を表わす線
切断線：断面を書く場合にその切断位置を示す線
想像線：図示される品物の手前にある部分，実際と異なる位置にある部分，加工の前後の形状，運動範囲などを表わす線。隣接部分を参考に表わす線。図形内にその部分の断面を表わす線
中心線：図形の中心を示す線
ピッチ線：ピッチ円やピッチ線の位置を示す線
寸法線・寸法補助線・引き出し線：寸法や各種の記入をするために図形から引き出す線
ハッチング：断面を示す線

表-3　寸法の性質を示す記号

記号	読み方	使用例	意　味
ϕ	マル	15^{ϕ}	直径が15mmの円
□	カク	$20^{□}$	一辺が20mmの正方形
R	アール	100^{R}	半径が100mmの円弧
球	キュー	15^{ϕ}球 100^{R}球	直径が15mmの球 半径が100mmの球面
t	ティー	t6	厚さ6mm
c	シー	2^{c}	一辺が2mmの面取り

投影法・省略法・断面法なども使う。それゆえ，これらの手法を理解していないと真に図面を読み書きすることはできない。これに対し，軸測投影法その他を使ったテクニカル-イラストレーション（立体図法）は，初心者にもわかりやすいが，形状の正確さに欠けるため，主として説明図や簡単な工作図に使われる。《線と文字》見やすさと複製に便利なため，図形や寸法指示その他に使う線は黒一色（鉛筆書きまたは墨入れによる）とし，また線の形と太さの種類も規定されている（表-2）。数字や文字の大きさ・字体などについても規格がある（図-3）。

《寸法と記号》図面に記入されている寸法は，通常品物の仕上げ寸法を示す。長さの寸法には原則としてミリメートル単位を使い，この場合には数字だけでよいが，その他の単位の場合にはそれを明示しなければならない。角度には記号（° ′ ″〔度・分・秒〕）をつける。また，寸法の性質を示すには表-3に示す記号が使われる。〔蓮尾諭吉〕

せいず【星図】恒星*・星団*・星雲*など，諸天体の位置・明るさを見かけの配列に近いように図に表わしたもの。昔の星図には天体の固有名・星座名，星座*の境界線などとともに星座の名の起源となった人物・動物などの絵が描かれているが，18世紀にフラムスティード*がつくった星図以後は，精密な観測による赤経・赤緯に基づいて星図が作成され，赤道座標系や黄道座標系が示されているのが普通である。最近は専門家用として広角カメラで撮影した写真星座図も盛んに利用されている。〔守山史生〕

せいすいしょう【醒睡笑】安楽庵（あんらくあん）策伝*作の笑話集。1623年（元和9）成立。1,000余編の笑話を42の章に分類・編集してある。策伝が隠居後，京都所司代板倉重宗（しげむね）の求めにより，幼少のころから聞き集めた話や，先行説話集などをもとにして，風刺・教訓・啓蒙（けいもう）・こっけい味などを加えて筆録したもので，のちの噺本（はなしぼん）・落語などに大きな影響を与えた。

せいすいりきがく【静水力学】⇒水力学

せいすう【正数】0より大きい数。正の整数，正の有理数，正の実数はいずれも正の数である。記号は＋を用い，プラスと読み，$+1$，$+\frac{2}{3}$，$+\sqrt{2}$などと書く。ただし，記号を用いなくとも混合するおそれのないときは省略するのが普通である。ある数aが正の数であることを示すのに，$a>0$と書く。二つの正の数の和・積・商は正の数である。しかし，減法は正の数の範囲では自由でなく，大きい数から小さい数を引くときだけ正の数となる。〔青柳雅計〕

せいすう【整数】1および1を順次加えてできる数，これに対応する負数*，ならびに0の総数。すなわち，$\{\cdots\cdots, -2, -1, 0, 1, 2, \cdots\cdots\}$をいう。整数の集合は，加法*・減法*・乗法*について閉じている。すなわち，2整数の加・減・乗の結果はいずれも整数である。しかし，除法の結果は必ずしも整数ではない。整数は，大小関係≦について全順序集合であり（→集合，関係），一直線上に順序づけて並べられる。任意の整数aに対して，$a<x<a+1$を満たす整数xはない。このときを整数の集合は離散的であるという。〔青柳雅計〕

せいすうろん【整数論】おもに整数の性質を研究する数学の一部門。数論ともいう。自然数にみられる特徴は古代ギリシアのころから研究されたが，系統的な理論として数学の一部門となり，整数論とよばれるようになったのは19世紀の初めごろからである。

$3^2+4^2=5^2$のように$x^2+y^2=z^2$となる整数x，y，zはピタゴラス数とよばれるように，ピタゴラス学派の研究の一つの目標であった。これに関連して，有名なフェルマーの問題*がある。フェルマーは多くの定理を，証明をつけずに述べ，のちの整数論の発展の原動力となった。素数*が無限に存在することはユークリッドの《ストイケイア*》に載っているが，双子（ふたご）素数，すなわち，11と13のように差が2である素数の組みが無限にあるかどうかは，現在でも解決されていない。

整数aを正の整数bで割ったときの商qと余りr，すなわち，$a=bq+r\ (0\leqq r<b)$となる整数qとrがただ1組み存在することや，約数・倍数の性質を調べることなども整数論の領域に属する問題である。

正の整数が素数の積に分解され，その分解の結果がただ1通りに定まるという定理を，初等整数論の基本定理という。整数a，bの差が整数mで割り切れることをa，bはmを法として合同であるといい，$a\equiv b \pmod{m}$と表わすが，合同式に関する研究も初等整数論に含まれる。また，座標が整数で表わされるような点を格子点（こうしてん）というが，格子点の問題も整数論に属する。

整数の性質の解明に解析的方法を用いる解析的整理論は，20世紀になって大きく発展した（→解析学）。〔小西勇雄〕

精神分析

フロイト*によって1896年に創始され，一般に次のような内容を含む。①はじめ，フロイトがヒステリー*患者の治療法として用い，やがて精神障害全体に対して用いられるようになった医学的・心理学的な精神療法。②人間の心理的行動を観察する特有な心理学的説明方法。③以上の治療および観察から得られた経験を集大成し，統一的に理解する深層心理学の一体系。④これらの心理学的人間理解に基礎を置き，20世紀の思想界に多大の影響を与えた人間および社会に関する思想。

歴史的には，大別して，フロイトによる創始からその死去まで(1896～1939)と，第2次世界大戦勃発(ぼっぱつ)から現在まで(1939～)の二つの時期に分けられる。前者はウィーンを中心とするヨーロッパ時代であり，後者はアメリカおよびイギリスを中心に発展した時代である。特にアメリカでは，精神医学はもちろん，心理学・社会学・文化人類学などの各分野にも多大の影響を与えている。

【精神分析理論】精神分析は，ひとりの患者に，1回1時間，週に4～5回の自由連想法を，1年も2年も続ける。ひとりの人間がこれだけのエネルギーを他人に注ぐこの作業の中に，フロイトの人間観察のすべての基礎があったが，このことは，フロイトがいかに個人尊重主義的な思想によっていたかを物語っている。そして，このような精神分析療法に基礎を置くフロイトの精神分析理論は，五つの基本的観点に立脚している。

①構造論的見地：精神分析のいちばんの特質は，無意識の仮定である。つまり人間の行動は，本人自身が意識しない無意識的な動機と機構に支配されるとした。そして精神構造を，意識・前意識(思い出そうと努力することで意識化できる)・無意識(特殊な方法によらなくては意識化しえない)の3層からなると考えた。1920年代にはいって，さらにフロイトは精神構造を自我*・エス(イド*)・超自我*の三つの組織からなるという考えを提出し，この3者それぞれの働きに意識的なものと無意識的なものとがあると考えた。エスとは，生物的な本能に源泉をもつ欲動であり，快原則*にしたがう。人間の精神発達は，個体が外界に適応する途上でこのエスを制御して外界の現実原則にしたがう自我の発達をもたらすが，さらに自我は，罪悪意識・良心などの形で体験される超自我の支配を受けている。

②力動的見地：人間の心理的行動は互いに対立・葛藤*(かっとう)し合う心的な諸力の総和である。たとえば，いくつかの欲求が並列している場合，どれを優先させるかで迷い，葛藤し，やがて選択がなされる。この心的な諸力をどう調整するかが，自我の防衛機制*である。つまり自我は，超自我の批判が激しい場合にはエスを抑圧して意識から排除してしまうが，超自我の批判が激しくなく，現実が許容すれば，この欲動を現実的に満たす。このような心的諸力の葛藤と均衡という見地から心的行動を理解するのが力動的な見地である。

③経済的見地：人間の心的機能は，心的エネルギーの緊張とその解放をめざすエネルギー恒常の原理にしたがっている。このエネルギー法則の端的な現われが，エスがしたがう快原則である。

④発生的見地：人間の心的行動は出生から現在までの時間的連続性をもち，後天的経験に規定される。しかし，人間の発達の根源は，生物的な素質とその先天的プログラムにしたがった成熟と段階的な発現にある。たとえば，性本能(リビドー*)は，出生後4～5歳までの幼児期に口唇(こうしん)期・肛門(こうもん)期・男根期という発達段階を経て成熟し，潜伏期にはいり思春期*で再び活発化する。そして，青年期の発達の中で，これらの小児性欲(幼児性欲*)は，おとなの性器性欲に統合される。同じように自我もまた，先天的な脳の成熟にその基礎をもち，この成熟に応じた後天的経験(特に親との交流)を通して発達してゆく。つまり，ある人間の心的行動を理解するには，その人物の生活史を過去にさかのぼってよく理解し，その自我・超自我・エスのなりたちを把握(はあく)しなければならない。

⑤適応論理的見地：人間は，環境への適応なしには生存しえない。したがって以上の各見地は，最終的には環境への適応と生存への努力に規定されている。フロイトは，この適応への努力を初期には性本能に対立する自己保存本能，後期には死の本能(タナトス)に対立する生の本能(エロス)によると考えた。この見地からみると，超自我形成も自我の防衛機制も，個体全体を外界に適応させる適応機能の所産であるといえる。しかも人間は，生物として単なる自然環境に適応するだけではなく，特定の時代・体制・歴史・民族などの特殊性をになった社会に適応せねばならない。この適応過程で，人間は，その社会の価値観の標準型を超自我と自我理想の形で内在化させる。超自我は，〈……をしてはならない〉という批判を自我に加え，この批判に逆らえば，〈悪かった〉という罪悪感をひき起こす。一方，自我理想は，〈……をすべきだ，……こうあるべきだ〉という当為を自我に課し，この当為にそむけば恥や不全感をひき起こす。すなわち自我は，自分の内的な世界における超自我やエスとの葛藤を処理し，欲動を制御する防衛機制のほかに，社会や外界現実に適応するための適応機能を営む。

フロイト以後の精神分析は，アメリカに渡って，この適応論的見地に立脚した，比較文化的見地や対人関係論的見地を導入して，新フロイト派や自我心理学を発展させている。新フロイト派はサリバン*・フロム*・ホーナイらによって，自我心理学はフロイトの娘アンナ-フロイトやハルトマン・クリス・エリクソンらによって発展した。現代の精神分析で〈フロイディアン〉というのは，この自我心理学派をさす。

【性欲論と防衛機制論】フロイトの〈ヒステリー論〉は，精神分析理論の原型であり，それは次のようであった。①彼女たち(ヒステリー患者)は幼少時から，性を不潔なもの，罪なもの，恥ずべきものとみなすような19世紀末のウィーンの社会的偏見をとり入れて超自我とした。②しかも彼女たちは，エディプス-コンプレックス*期を経験し，父への女性的愛情に強い罪意識をいだいていた。③成人してから彼女たちは，父または別の男性との間で強い性的誘惑を経験し，その際に起こった性的興奮を超自我の批判によって意識から排除し，無意識の中に抑圧した。④抑圧された性的興奮は，無意識の中に閉じ込められたが，その心的エネルギーがヒステリー症状に形を変えて現われた。

以上の考察から，ヒステリー，広くは神経症の発病は，①心的外傷，②心的外傷によってひき起こされた衝動の興奮と，それに対する超自我の批判，③その興奮の無意識内への抑圧，④抑圧された興奮の症状への変形とみるのがフロイトの神経症学説である。そして，この臨床経験から生まれたのが性欲論(フロイトの性欲論は，小児性欲論にもみられるように性欲概念を拡大し，汎(はん)性欲主義とよばれる)と防衛機制論である。防衛機制論は，ヒステリー*・強迫神経症・恐怖症*・精神病*などの研究を通して，各神経症に特有な防衛機制が働く事実を観察して，組織づけたもので，防衛の手段として，意識すると不快・苦痛・不安・罪意識・恥の感覚をひき起こす欲動を意識から無意識内に排除する抑圧*のほかに，置き換え*・反動形成・投射*・合理化・昇華(カタルシス*)・退行*・同一化*などが明らかにされている(→防衛機制)。

【精神分析的人間観の変遷】フロイトは，19世紀末の科学主義・合理主義思想を基盤としていた。つまり彼は，物理・化学と同じような科学的理解を人間の心に試みた。したがって彼の理想は，人々を合理的な自我に目ざめさせ，社会的偏見およびその内在化した超自我に従属した自我を超自我から解放し，社会的偏見からの自由を獲得させることであった。この自己変革の途上で，性は偏見の対象から合理的な自我の支配下

にはいる。フロイトにとって，性はあくまでも，知性と意志によって克服されるべき盲目的衝動であった。フロイトが性に注目して無意識学説を唱えたのも，それらを科学的に研究することで知性(意識)の支配権を回復するためであった。

一方，このようなフロイトの人間観に対して，その弟子(でし)たちから次々と異なった人間観と，それに基づく学説が提出された。

アドラー*は，人間にとってより根源的な衝動はフロイトの主張する性衝動ではなく，むしろ〈権力意志〉であり，神経症はこの権力意志の抑制・抑圧と社会共同感情の障害によると主張した。またユング*によれば，フロイトのいう無意識は個人的なものだけでなく，その民族・歴史から伝えられる集合無意識にその根源をもち，性本能はより根源的な生命エネルギーの発現であるとする。つまりユングは，フロイトの個人主義的な合理主義に対して，生命主義的な人間観を主張したのである。さらに，スイスの精神科医ビンスワンガー*は，実存哲学の立場から精神分析を再構成し，フロイトは人間の必然存在について明らかにしたが，人間存在そのものはより全体的な可能存在であり，そのような実存の見地からフロイトの人間理解を位置づけるべきであるとした。さらにその弟子，ボスは，フロイトは治療者として，患者との人間的な交流の中では精神分析理論として彼が述べた考え以上に全人間的な交流を実践していたにもかかわらず，その実践を19世紀的な機械論的な思考模型のために十分に表現しえなかったとして，ハイデッガー*の実存哲学の見地から，フロイトの十分に表現しえなかった実践的人間理解を系統的に再構成する現存在分析*を発展させている。

さらに，アメリカに渡った精神分析は，適応と個性の実現を重視するアメリカ哲学と結合し，すでに述べた適応論的見地を基本とする精神分析理論を発展させている。文化の差異による人間の欲動，超自我，自我のあり方の違いにも多大の関心が払われ，比較文化的なアプローチが精神分析の中にとり入れられるようになった。たとえば，エリクソンのアイデンティティー論もその所産である。

【アイデンティティー論について】フランクフルト生まれのエリクソンは，ウィーンで，フロイトとアンナ-フロイトの教育をうけたあとアメリカに移住したが，フロイトとそれに続くハルトマンらの自我心理学を社会文化的な見地から統合する理論を主張し，アメリカで注目を集めている。エリクソンによれば，人間は幼児期に，主として家族の中で超自我および自我理想を形成するが，これらの超自我と自我理想には両親や家族が祖先から代々受け継いできた民族固有の価値観や文化などの歴史がとり入れられる。自我は，このような超自我や自我理想に合致したような生活様式(適応様式)や生活感情を身につけて成長する。この自我理想や超自我の相互的な統合が社会的な自己であって，人々はこのような社会的自己を幼児から一貫して，変わることなく身につけ保とうとする。エリクソンは，このような自己を同一性(アイデンティティー)とよぶ。つまり同一性とは，社会的自己の連続性と不変性でありその感覚である。

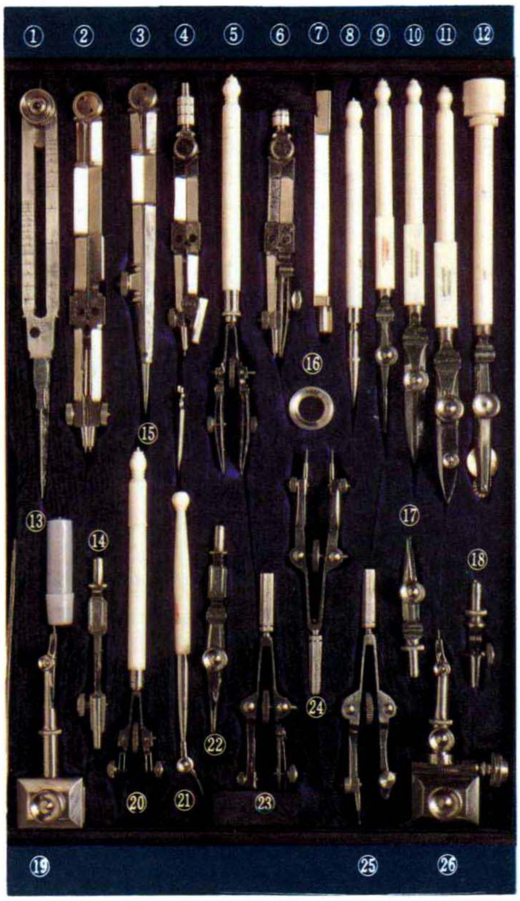
ところが人々は，自我の成長過程において家族以外の幾多の社会集団のメンバーにならねばならないし，異質の歴史的文化や価値観を身につけねばならない。また，歴史的な社会環境の変動や移住や空間移動力の増大の結果環境側にも変動が起こり，幼児期に身につけた同一性とは違った同一性を次々とその上につけ加えてゆく。そして人々は，この多様な同一性(価値観や生き方)を自分の内部で適切に選択し，価値づけ，よき統合性と調和を保たなければならない。もし同一性相互間の対立が激しく，その葛藤を調整できなかったり，いくつもの同一性が統一されないまま並存すると，自我の拡散した状態が起こる。また，親子各世代間での同一性があまりに異質であると，深刻な世代間の対立や断絶がひき起こされる。たとえば，日系アメリカ人の一世は，一生，日本人としての同一性を守って老人になったが，二世はその青年期に第2次世界大戦が起こり，その時点ではっきりアメリカ人としての同一性を選び，日本人としての同一性を抑圧してしまった。この結果，日系アメリカ人の一世と二世の間には深刻な価値観の対立，断絶が起こったが，二世の子の三世は，家族外のアメリカ社会では白人同一化に汲々(きゅうきゅう)としながら，しかも家族内の教育やしつけの中には依然として日本的な生活感情を無意識のうちに伝える二世の親の気質に直面して，親に対する信頼を失っている。つまり，日本人でありながら白人の価値観に同一化して，日本人としての自分を否定的にしか見ない親たちに不信を抱き，むしろ，日本人としての自分(同一性)をはっきり自覚しながら，アメリカ社会の中で生きねばならないと考える。同じような問題が，黒人を含めた多数の移住民族の二世・三世からなるアメリカ社会に深刻に起こり，それぞれの移住前の民族的同一性をみんなが主張しはじめている点に，それらを統一するアメリカ国民としての同一性の危機が叫ばれている。

同一性という概念は，精神分析でいう超自我や自我理想と自我の関係を究明し，その社会・文化・歴史の背景に着目することを通して得られた社会学的概念であるが，いまやひとりひとりの人間の社会・歴史・民族・文化の背景やその葛藤を理解し，どうしたらこれらの運命的なものに対して，ひとりひとりが主体性を回復できるかを問う，実存的な哲学的概念の意味をもにないはじめている。

【精神分析と社会思想】本来，フロイトは一神経科医であり，その理論も臨床的な観察に基づくものであった。現在でも精神分析の専門家は精神科医であり，治療法としての精神分析をノイローゼ患者に実施する人々である。ところが，社会一般の受けとり方の中には，むしろフロイト，そしてフロイト以後の精神分析理論を一箇の思想としてとらえる傾向がある。また，進んで哲学・社会科学の中に精神分析をとり入れようとする人々も現われた。たとえばシュルレアリスム運動のブルトン*・ダリ*はフロイトの無意識の探求や性欲論に共鳴し，彼らの芸術理論にとり入れた。ライヒ*やマルクーゼ*は，フロイトの社会体制の起源に関する理論と社会体制による性の抑圧の考えをマルクス主義理論と結合して，人間の解放と社会変革を統合するイデオロギーを発展させた。このほか文学者でも，トーマス-マン*・ロマン-ローラン*・シュニッツラー*・ツワイク*らは，フロイトに強い親近感を向けており，その影響を認めているし，ロレンス*やジョイス*らにもその影響や批判が活発にみられる。また，現代社会とくにアメリカ社会での広告・テレビ・映画などの映像文化にも，その手法や主題に精神分析の影響が著明にみられる。〔小此木啓吾〕

せいずようぐ【製図用具】製図に使用する器具類。用途から次のように分類される。①用紙の張りつけに使用するもの：製図板(図板)・画びょう・製図用テープ。②水平線・垂直線を引きやすくする器具：T定規・三角定規・直定規。③任意の斜線を引くための器具：T定規・三角定規(2枚1組み)・直定規・分度器。④寸法の基準：ものさし・縮尺目盛りつきものさし。⑤寸法をものさしから紙上に写し取る器具：デバイダー・比例コンパス。⑥円を書く器具：大コンパス・中コンパス・スプリングコンパス・ビームコンパス。⑦曲線を書く器具：雲形定規・自在曲線定規・しない定規。⑧筆記用具：鉛筆(4H～HB)・からす口・万年筆形墨入れ用具・製図用インキ。⑨用紙：トレース紙・製図用フィルム・ケント紙・方眼紙。⑩その他：消しゴム・字消し板・羽根ぼうき・鉛筆削り箱・テンプレート(型板)・文鎮。

このうち，⑤と⑥，⑧のうちのからす口

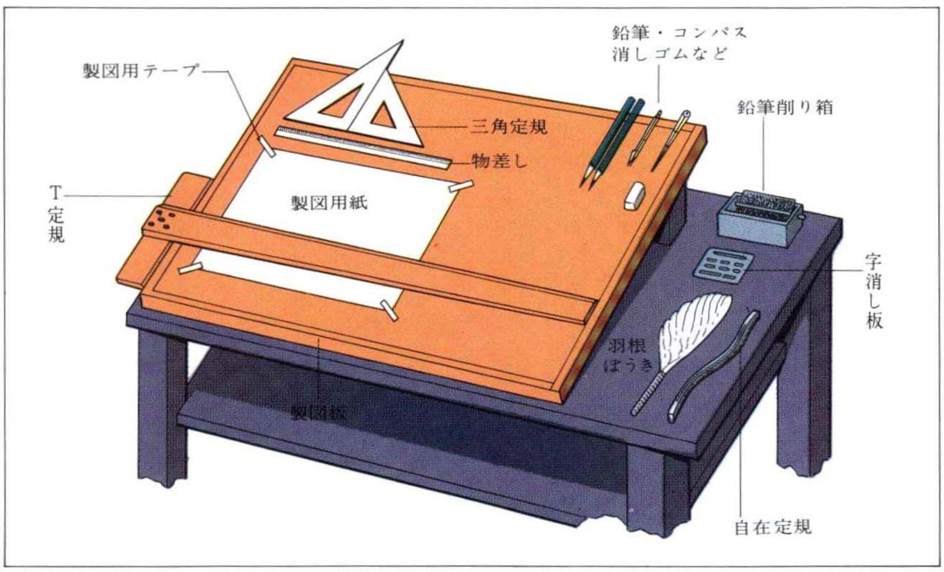


イギリス式の一例
①比例コンパス　②穂替えコンパス　③デバイダー　④小文回し(鉛筆用)　⑤双頭直線引き烏口　⑥小文回し(烏口用)　⑦中継軸　⑧突針　⑨～⑫烏口(小・中・平行太線引き・点線引き)　⑬芯入れ　⑭コンパス用鉛筆穂先　⑮メス　⑯ホンセンター(中心器)　⑰⑱ビームコンパス用穂先(烏口・鉛筆)　⑲ビームコンパス　⑳㉑烏口(双頭曲線引き・単曲線引き)　㉒穂替えコンパス穂先(烏口)　㉓～㉕スプリングコンパス(烏口・両針・鉛筆)　㉖ビームコンパス

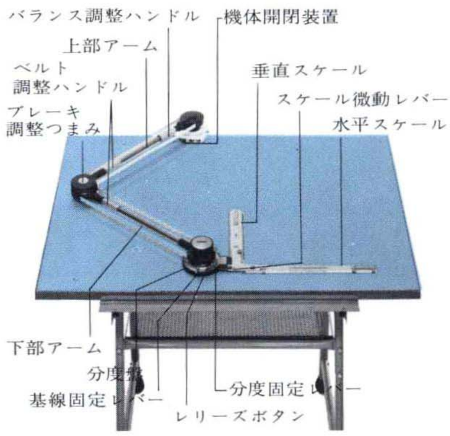


ドイツ式の一例
①～③穂替えコンパス(大形・中継軸・小形)　④⑤デバイダー(小・大)　⑥⑦替え柄(大・小)　⑧単曲線引き烏口　⑨⑩ステンレス烏口(小・大)　⑪～⑬穂替えコンパス用穂先(鉛筆・針先・烏口)　⑭ドライバー　⑮ホンセンター(中心器)　⑯スペアケース　⑰芯入れ　⑱穂替えコンパス用烏口　⑲～㉑スプリングコンパス(烏口・両針・鉛筆)　㉒ドロップコンパス　㉓ドロップコンパス用鉛筆穂先

製図用具　製図器



製図板と製図用具



製図用具　万能製図器

などを組み合わせて一つの箱に納めたものがいわゆる製図器で，形状・構造により，イギリス式とドイツ式などがある。最近ではドイツ式がよく使われる。また，収容器具の数により，2本組みから24本組みなどがあるが，実用上からは，大コンパス・中コンパス(いずれも鉛筆用とからす口用)・スプリングコンパス・デバイダー・からす口ぐらいがあれば十分である。なお，②，③，④および⑤の機能を兼ね備えたものにドラフティングマシンがあって，多くの会社・工場・学校などで使われており，製図作業の合理化と能率向上に役だっている。〔蓮尾諭吉〕

せいせいちょうさかい【税制調査会】臨時税制委員懇談会のあとを受けて，1959年(昭和34)に3年の時限立法で設立され，さらに1962年8月から常設機関として再発足した税制問題に関する政府の諮問機関。総理府の付属機関で，委員は内閣総理大臣の任命による。国および地方を通じて恒久的税制をつくることを目的とし，長期的視野に立った税制のあり方と，当面の税制改正に関して審議し答申を行なっている。おもな検討ならびに答申事項としては，①長期税制のあり方をはじめ，②企業課税のあり方，③税制簡素化，④土地税制，などがある。一般税制・企業税制・地方税制の3部会がある。〔西野義彦〕

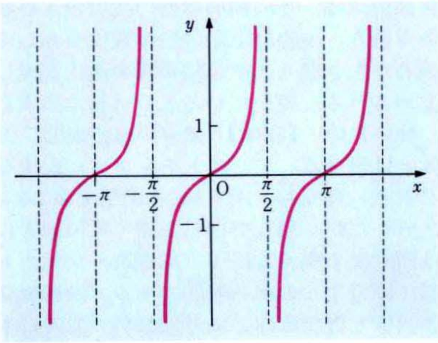
せいせいねつ【生成熱】1モルの化合物が，その成分元素の単体から生成するとき発生する熱量。反応にあずかる物質の状態を付記する必要がある。

$$H_2(\text{気})+\frac{1}{2}O_2(\text{気})\rightarrow H_2O(\text{気})$$
$$+57,800\text{cal}(25℃)$$
$$C(\text{石墨})+O_2(\text{気})\rightarrow CO_2(\text{気})$$
$$+9,405\text{cal}(25℃)$$

化合物が原子状態にある成分元素からつくられるとき発生する熱量を特に原子生成熱という。$6H+O+2C\rightarrow C_2H_5OH+735$ cal生成熱の表があり，これによって種々の反応について実測しなくてもその反応熱を計算することができる。

ぜいせいはかい 【脆性破壊】 ⇨破壊

せいせつ 【正接】 三角関数の一。タンジェントともいう。記号 tan は tangent の略。平面上に直交座標をとり，原点を通り x 軸と角 θ をなす動径が，原点を中心とする半径 r の円と交わる点の座標を $P(x,\ y)$ とするときの比 $\frac{y}{x}$ をいい，$\tan\theta=\frac{y}{x}$ で表わす。➔三角関数



正　接　$y=\tan x$ のグラフ

せいせっかい 【生石灰】 CaO 酸化カルシウムのこと。単に石灰ともいう。比重3.37，融点2,572°Cの白色の固体である。一般には石灰石を1,100℃前後に焼成してつくるが，純粋なものは化学用炭酸カルシウムや方解石を焼いてつくる。空気中に放置すると二酸化炭素と水分を吸収して炭酸カルシウムと水酸化カルシウム(消石灰)となる。また水を作用させると，熱を発して水酸化カルシウムとなる。酸性土壌(どじょう)の中和，製鉄製鋼や銅製錬などに用いられ，またソーダ灰・苛性(かせい)ソーダ・カーバイドなどの製造，建築用プラスターの製造などに使われる。〔鈴木　篁〕

せいせつしょうちょう 【清拙正澄】(1274〜1339) 中国，元代の臨済宗の僧。大鑑禅師と号す。福州の人。15歳で出家し，諸山を尋ね，愚極智慧(ぐきょくちえ)の法を継いだ。1326年(嘉暦1)来朝し，翌年北条(ほうじょう)高時に迎えられて建長寺に住する。さらに浄智寺・円覚寺に住し，1333年(元弘3・正慶2)後醍醐(ごだいご)天皇に召されて建仁(けんにん)寺に住し，次いで南禅寺に住した。のち信州の開善寺の開山となり，まもなく建仁寺に再住した。その法系を日本禅宗二十四流の一つ，清拙派(また大鑑門徒)という。臨済宗僧団の生活規則を略述した《大鑑小清規(しょうしんぎ)》および《語録》がある。〔石井修道〕

せいせん 【製銑】 鉄鉱石を製錬して銑鉄を製造すること。製銑法のおもなものはコークス・木炭を熱源還元剤として使用する溶鉱炉によるものと，電気を熱源として粉コークスを還元剤として使用する電気炉によるものである。大量生産方式として広く採用されているのは大形溶鉱炉-コークス法によるものである。その操業法は鉄鉱石・コークスおよび媒溶剤を溶鉱炉の上部から装入し，下部から熱風を吹き込み，溶融状態の銑鉄と鉱滓(こうさい)を炉から連続的に取り出すものである。装入物は炉内において降下するにしたがい，コークスの燃焼によって発生した還元性のガスと接触して，相互に化学反応を生じ，鉄鉱石中の酸化鉄(Fe_2O_3，Fe_3O_4)は還元されて銑鉄となり，炉床部の出銑口から溶融状態で抽出される。〔草川隆次〕

せいぜんうんどう 【西漸運動】 アメリカ史上，白人が大西洋岸から西部へ移住・開拓し，内陸部を経て太平洋沿岸へ到達したことをさし，具体的にはフロンティア-ラインの西方拡大の過程をいう。この運動の契機としては豊富な土地の存在，自営農地を求めるイギリス・ドイツ系外国移民の来住，ヨーロッパの政情不安定や食糧難，合衆国の公有地払い下げ政策などがあげられる。1635年マサチューセッツ湾植民地からコネチカット渓谷(けいこく)への移住が西漸運動の最初であったが，植民地時代にはフランス人・インディアンの襲撃やイギリスの対植民地土地政策のために西漸運動ははかどらず，独立革命までフロンティア-ラインはアパラチア山脈に達していたにすぎない。1783年パリ条約でミシシッピ川以東，1803年ルイジアナ地方がアメリカ領となるや，西方移住も急速に進み，1820年代の〈大移住〉の結果フロンティア-ラインはミシシッピ川を越えた。1840年代には〈マニフェスト-デスティニー〉が唱えられ，オレゴン・テキサス・カリフォルニア・ニューメキシコが合衆国領となり，ゴールドラッシュによるカリフォルニアへの人口集中は太平洋岸にもフロンティア-ラインを形成した。南北戦争後は〈ホームステッド法〉のもとで東西から大平原・ロッキー山脈への移住・開拓が展開され，1890年の国勢調査はフロンティア-ラインの消滅を報告，西漸運動は終結した。〔折井一彦〕

せいせんしょくたい 【性染色体】 性の分化に大きく関与している染色体で，雌雄によって構成が異なる。1891年ドイツのヘイキングがホシカメムシの精母細胞の分裂期に発見した。動植物界を通じて大きく雄ヘテロ型と雌ヘテロ型に分けられる。雄ヘテロ型は雌がＸＸで，雄がヒトやショウジョウバエのようにＸＹまたはバッタのようにＸＯのものである。雌ヘテロ型は雄がＺＺ(またはＸＸ)で，雌がカイコや鳥の一部のようにZWまたはミノムシ，鳥類のある種，爬虫(はちゅう)類などのようにＺＯのものである。

ヒトの染色体数は46本(23対)であるが，そのうち44本(22対)は男女に共通した染色体(常染色体)である。残りの２本は，女子ではＸＸと１対の相同染色体であり，男子ではＸＹと対にならない２本の染色体である。雄ヘテロ型の生物では，常染色体をＡで表わすと，雌は一定数(ｎ個)のＡとＸを１個だけもつ卵(nA＋X)をつくり，雄はｎ個のＡとＸかＹのどちらか１個をもつ精子(nA＋XかnA＋Y)を１：１の割合でつくる。受精が任意に行なわれるならば，2nA＋XXの染色体構成をもつ個体(雌)と２nA＋XYの個体(雄)が１：１の割合で生ずる。

性染色体上には性の分化に関係する遺伝子のほかに多くの遺伝子が存在し，ヒトの色盲・血友病の遺伝子，ショウジョウバエの黄体色・白眼の遺伝子などはその例であり，それらの形質の発現は性によって異なる。➔伴性遺伝　〔池田洋司〕

せいぜんせつ 【性善説】 孟子(もうし)の唱えはじめた倫理説で，儒家の〈性説〉の主流となった。それによれば，人心には一般に惻隠(そくいん)(命を惜しむ)・羞悪(しゅうお)(恥ずかしく思う)・辞譲(目上の人にへりくだる)・是非の情が備わっている。これが〈性〉であり，この気持ちを〈拡充〉するとき仁・義・礼・智(ち)の徳が実現され，世間の秩序が維持されるとされた。また，悪とは個人的欲望に身を任せることで，その結果秩序が乱れると説いた。➔性悪説〔西　順蔵〕

せいそ 【世祖】
1(元) ➔フビライ汗
2(ベトナム) ➔阮福映(げんぷくえい)
3(清) ➔順治帝

せいそ 【成祖(明)】 ⇨永楽帝

せいそ 【聖祖(清)】 ⇨康熙帝(こうきてい)

せいそう 【精巣】 睾丸(こうがん)ともいう。精巣上体(副睾丸)とともに男性の陰嚢(いんのう)内にある左右１対の生殖腺(せいしょくせん)。やや扁平(へんぺい)のクルミ形をしている臓器で，重量は，日本の成人で平均約8.4gといわれている。精子形成および男性ホルモン分泌の二つの機能を有し，前者は精細管が，後者は間細胞がその任にあたっている。被膜におおわれた実質は，精細管よりなる多数の小葉に分かれ，精細管は後上部に集まって精巣網となってから精巣上体頭部にはいり，11〜15本くらいの輸出小葉となり，精巣上体の上頭部で精巣上体管に注ぐ。精子はこの精巣実質内の精上皮でつくられる。また精細管相互の間にあるやわらかい結合組織の中には，間細胞がある。これは球状で多くは群をなし，これが第二次性徴に関係のある男性ホルモンを分泌する。しかし，これらの精巣機能は下垂体(➔脳下垂体)前葉の２種類の生殖腺刺激ホルモン(間質細胞刺激ホルモンと卵胞刺激ホルモンと同一のホルモン)により調節されているが，この支配調節は一方的なものではなく，精細管より分泌される精巣第２ホルモンの作用によっても，下垂体の生殖腺刺激ホルモンの分泌を抑制・調節している。➔生殖器官(図)　〔藤井和明〕

せいそうけん 【成層圏】 地球を囲む空気は，地上から1,000kmぐらいに達しているが，地上から高さが増すにしたがって空気が希薄になるとともに，高さによって異な

る現象が現われる。地面に近く100m上るごとに気温が約0.6℃下がり，天気現象の起こる層が対流圏*とよばれ，そのすぐ上の層を成層圏という。成層圏の下面の高さは6～18kmで，赤道で高く極に行くにつれて低くなっている。下部成層圏の約12～25kmの高さでは気温が一定であることが対流圏とまったく違う点である。この等温層から約80kmまでの層を成層圏という。成層圏はさらに，いくつかの層に分けて考えられているが，その分け方は人によって異なり，定説はない。25kmから約80kmの気温極小層までは中間圏*とよばれる。中間圏の気温は上下の気層に比べて暖かく，オゾンによる紫外線の吸収と，オゾン・炭酸ガスによる赤外線放射とがつりあっている。成層圏内では，真珠母雲*・夜光雲・流星，音波の異常伝播(でんぱ)など珍しい現象が起こる。➔大気　〔曲田光夫〕

せいそうじょうたい　【精巣上体】　副睾丸(ふくこうがん)または睾上体ともいう。左右精巣*(睾丸)の上後部に付着している腺体(せんたい)で，精巣実質にある精細管が精巣網となり，11～15本くらいの輸出小葉となって精巣から連続的に精巣上体頭部に連続している。触れれば軟骨のかたさ程度に感じられる索状物で，頭部および尾部で多少太くなっていて，精巣で産出された精子*の通過路となっている。精巣からきた精子にみずからの分泌物を混ぜてこれを精管*へ輸送する。➔生殖器官(図)　〔藤井和明〕

せいぞんけん　【生存権】　人間が生存し生活することを国家が権利として保障し，そのために必要な諸条件を確保することを国民が要求する権利をいう。18世紀において自然権として主張されたが，憲法上，今日のように明記されるには至らなかった。しかし，20世紀にはいり，社会主義の影響もあって，積極的に個人の生存と人間らしく生きる生活の維持がなされ，かつ人間生活の文化的発展に役だつ諸条件を確保すべく国の公共的配慮がなされるべきであるとされ，それを国民の権利として保障すべき憲法規定が各国にもたれるようになった。したがって，これは社会的権利ともよばれる。日本国憲法は〈すべて国民は，健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する〉(25条)と規定している。けれども，その実際の政治的な運用の中では，それは国の政治的実現の方向を示すプログラム規定であって，現実に有効な生存権の全面的保障は，まだ実現されない(1948年9月29日，最高裁大法廷判決)。➔基本的人権　➔社会国家

せいぞんとうそう　【生存闘争】　ダーウィン*の自然淘汰(とうた)説の中心概念で，生存競争ということもあるが，厳密には内容を少し異にし，生存競争は種間・種内競争をさすのに対し，生存闘争はさらに概念が広い。ダーウィンの生存闘争の概念では，①生物とそれを取り巻く自然条件との間，②異種個体間，③同種個体間の闘争および競争を含み，生物は上記の生存闘争を介して適者が生き残り，その結果種の進化が推し進められると説いている。　〔松本忠夫〕

せいたい　【政体】　国家の統治形態。国体*とは異なる。アリストテレスは，政体を君主制*・貴族制*・民主制(➔民主主義)に3区分したが，現在では君主制・共和制*または西欧民主制・人民民主主義*制・ソビエト*制に区分するのが一般的である。政体を立憲政体と専制政体とに分けたかつての日本では，君主国体であって立憲政体の国家であるとした。

せいたい　【声帯】　喉頭*(こうとう)の中央部にある左右1対の筋性のひだ。その間隙(かんげき)を声門という。声帯は発声に重要な役割を果たし，静かに呼吸しているときは声帯はゆるんで声門は開く。高い声をたてるときは声帯は緊張・収縮して声門は閉じる。声帯の上にもう1対のひだがあり，これを仮声帯という。発声に直接関係はない。

せいたい　【聖体】　➔聖餐(せいさん)

せいたいがく　【生態学】　生物学の一分科。生物の生活の中に含まれる法則を明らかにしようとする学問。原語エコロジーはE.H.ヘッケル*(1866)によって名づけられたもの。語源は経済学と同じく，ギリシア語のオイコス(家・家計の意)に由来し，生物の家・家計の学を意味している。

ヘッケルが生態学を生物学の一分科として新たに位置づけた動機は，《種の起源》にまとめられたダーウィン*の業績にあった。ダーウィンは生存競争や過剰繁殖の問題などを通して，生物群集や種社会の中の社会的諸関係を取り扱い，種の占める位置を〈自然の経済〉の中に位置づける試みを行なっていた。したがって，今日の生態学はダーウィンから始まるとされている。

生態学は生物のすべてを対象とするわけではなく，その対象は生活の単位を構成している生物的階層(レベル)である。つまり種個体群と複数種によって形成される生物群集とがそれである。この点から生態学は〈生物の集団の学問〉という定義も与えられている。また種個体群や生物群集はそれぞれその環境との間に密接でしかも独特な関係をもっており，個体群か群集かどちらかで代用できるものではない。しかも環境との働き合いは生物の生活の重要な側面を構成している。この意味から，生態学は〈生物と環境の関係の学問〉とされる場合もある。生態学はその対象や生活の側面に応じていくつかの小分科に区分される。動物生態学・植物生態学や(種)個体群生態学・群集生態学，あるいは個体数動態論・生物生産論・生物社会論などがその数例である。

近年，公害問題をめぐる議論の中では，物質循環などを重要な課題とする生物地球化学と並び生態学が大きな役割を果たしている。わが国の生態学研究は，1935年(昭和10)に創刊された東北大学の《生態学研究》を皮切りに進められ，1954年生態学の研究者を一堂に会した日本生態学会が創設され，《日本生態学会誌》を発刊して研究発表の場を設けている。　〔船越真樹〕

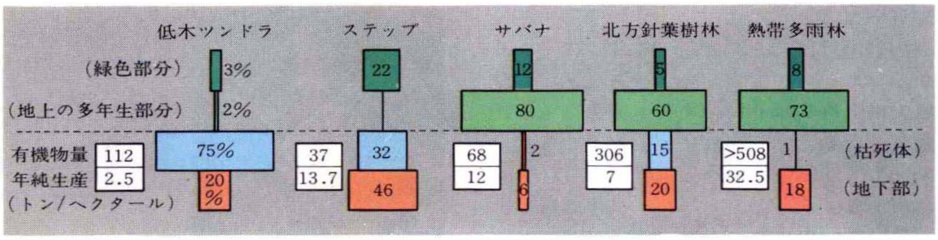
せいたいけい　【生態系】　生態学の用語。イギリスの植物生態学者タンスレーによって提唱(1935)されたエコシステムの訳語。

世界の主要生態系の生産力と生体量(ウイトカー 1970)

生態系	面積 10^6km^2	生体量(乾量) 単位面積あたり平均値 kg/m^2	生体量(乾量) 世界全体 10^9t	年間純生産量 単位面積あたり平均値 g/m^2・年	年間純生産量 世界全体 10^9t/年
湖・川	2	0.02	0.04	500	1.0
沼沢・湿地	2	12	24	2 000	4.0
熱帯・亜熱帯樹林	20	45	900	2 000	40.0
落葉・広葉樹林	18	30	540	1 300	23.4
北方針葉樹林	12	20	240	800	9.6
低木林	7	6	42	600	4.2
サバナ	15	4	60	700	10.5
ステップ	9	1.5	14	500	4.5
ツンドラ・高山帯	8	0.6	5	140	1.1
荒原	18	0.7	13	70	1.3
砂漠・露岩帯・氷河	24	0.02	0.5	3	0.07
農耕地	14	1	14	650	9.1
全陸上	149	12.5	1 852	730	109
外洋	332	0.003	1.0	125	41.5
大陸棚	27	0.01	0.3	350	9.5
内湾・沿岸	2	1.0	2.0	2 000	4.0
全海洋	361	0.009	3.3	155	55
全地球	510	3.6	1 855	320	164

タンスレーは生態系に〈ある地域にすむ生物全体と，その環境とよばれるものをつくりあげている物理的要因の全複合を含めた系〉という概念を与えた。彼は，アメリカの植物生態学者クレメンツが遷移の理論を展開するにあたって，ある地域にすむすべての生物を取り出してバイオームとよび，バイオームを生物個体になぞらえ，遷移を個体の生長・発育と同様なものとみなした点に批判的検討を加えた。タンスレーは，生態系を生物にとって〈最も広い意味での生活諸条件〉を含むものと考え，生態系の中には〈絶え間ない相互変化が生物の間だけでなく，生物と非生物の間にもあり〉，生態系の〈種類と大きさは多様である〉としている。したがって彼は生態系を，〈一定の完結性をもった物質循環の単位〉としていたわけではない。

生態系の構成要素には生物的要素と非生物的要素がある。後者は大気・水・土壌(どじょう)の三つの基質にまとめて考えることができる。前者は直線的な食物連鎖*のからみ合った食物網を中心に種間の働き合いをもつ生物群集である。生態系内での生物の生活は，環境の作用によってさまざまな影響を受けると同時に，生物の生活自体によって環境の変化を導いている(逆作用)。この作用と逆作用の動的な安定が保たれれば，生態系は長期にわたって持続することになる。最近は動的な安定性の基本を物質収支の動的平衡とみなす見方が強調されている。この立場はアメリカの陸水学者リンデマンによって行なわれた湖沼を素材とする研究に多くを負っている。この立場からみた生物的構成部分の基本構造は，食物網として認められる群集内の種間関係を，①生産者(光合成や化学合成によって有機物生産を行なうもの。主として緑色植物)，②消費者(有機物の消費を行なうもの。おもに動物)，③分解者(遺体などの有機物を砕粉・無機化するもの。バクテリアや微小動物)の3機能集団とみなしたところにある。したがってこれに非生物的要素を加えた四つのつなぎ目を通る過程の動的平衡が，いわば生態系の背骨を形成していると考える。なお，特定物質の循環系をさして生態系と名づけている場合がみられるが，これは地球化学的循環系をさしている。➔栄養段階　➔生物生育　➔生態学　➔炭素循環〔船越真樹〕



生 態 系　図-1　各種の生態系における有機物の分布と生産力(Kormondy 1969より岩城による一部改変)

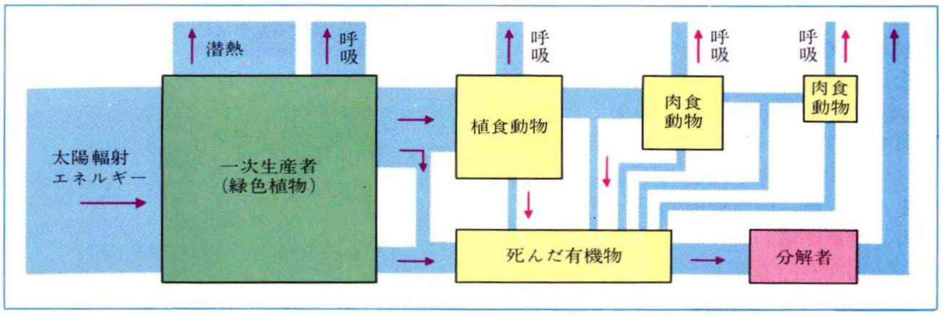
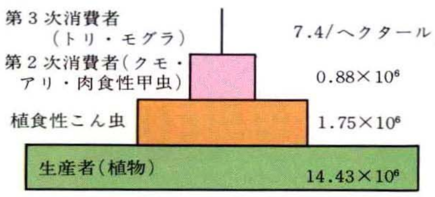


図-2　陸上生態系におけるエネルギーの流れ(依田 1971)



生態的ピラミッド　北アメリカ草原の生態系の個体数ピラミッド(E. p. Odum 1953)

せいたいこう　【西太后】(1835～1908)　中国，清朝(しんちょう)の咸豊帝(かんぽうてい)の妃。同治帝の生母。満州旗人の娘で，葉赫那拉(エホナラ)氏の属。おくり名は孝欽(こうきん)。1861年の同治帝の即位後，東太后とともに摂政政治を行ない，帝の死後は甥(おい)の光緒帝(こうちょてい)を強引に擁立してまた摂政となった。しかし，光緒帝が変法自強運動*を援助すると，これを圧殺して帝を幽閉し，保守派の総帥として保守・排外運動に努めた。義和団の乱*を援助して列強に宣戦し，これが敗北すると，いわゆる西太后新政を行なったが，清朝の威光は取りもどせなかった。清末数十年の政治を実際に動かした実力者であったが，光緒帝の死の翌日没した。〔狭間直樹〕

せいたいしょ　【政体書】　五箇条の御誓文*に基づいて維新政府が官制とその運営規定について定めたもの。1868年(慶応4)閏(うるう)4月27日公布。副島種臣*(そえじまたねおみ)・福岡孝弟*(たかちか)がアメリカ合衆国憲法を参考とし，また福沢諭吉*の《西洋事情*》などを参考として原案を起草した。全文15か条。太政官*(だじょうかん)の権力を強化し，その下に議政官・行政官・神祇官(じんぎかん)・会計官・軍務官・外国官・刑法官を置き，議政官は立法を，刑法官は司法を，他の5官は行政をつかさどった。地方は府藩県の三治制がとられた。三権分立・世論公議・官吏公選を特色とし，近代的集権国家としての政体が整えられた。しかし，翌年の戊辰(ぼしん)戦争*の勝利で政府の基礎が強化されると，官制改革によって行政権が立法権・司法権に優越するようになり，政体書の特色は著しく後退した。〔高崎徳次〕

せいたいてきちい　【生態的地位】　イギリスのグリンネルによってはじめ提唱され，イギリスのエルトンの《動物生態学》(1927)によって概念が発達し普及された語で，〈動物群集の中でなにをしているかということ。すなわち生物環境における位置，特にその食物ならびに敵に対する諸関係〉を意味する。植物葉を食うこん虫という地位，樹幹内の虫を食う鳥という地位，哺乳(ほにゅう)類に外部寄生するこん虫という地位というふうに使われる。この生態的地位に注目して，いろいろな地域の群集を調べると，それらの異なった群集に共通している秩序を見いだすことができる。ソ連のガウゼは〈生態的地位の等しい2種類は共存できない〉という仮説を提唱し，種間競争の理論を組み立てている。〔松本忠夫〕

せいたいてきピラミッド　【生態的ピラミッド】　生物群集を栄養段階に分けて図に表わしたときにできるピラミッド構造。一般に栄養段階の上位ほど個体の数が少なく，それぞれの栄養段階の個体数を模式的に表わすと個体数のピラミッドが形成される。また現存する生体量で表わした場合は現存量のピラミッドが形成される。➔栄養段階

せいたいでんき　【生体電気】　生物にみられる発電現象。生物電気ともいう。1786年カエルの筋肉を用いた実験でイタリアのL. ガルバーニによって発見され，1842年デュ-ボア-レイモン*らが筋肉の興奮時に電位差が現われることを証明した。近年，電気計器の発達に伴って研究が進み，真空管増幅器を電磁オシログラフやブラウン管オシロスコープと組み合わせて電気生理学に広く用いるようになり，速い電位変動も正確に

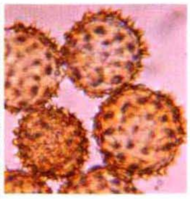
描写できるようになった。ふつう静止電位や活動電位は10～30mVぐらいのものであるが，シビレエイ・デンキナマズなどの電気魚では数百ボルトに達するものもある。活動電位は動物の諸器官に見いだされるが，植物でも活動電位・静止電位のみられるものがある。〔平野修助〕

せいだいのえき【征台の役】1874年(明治7)日本が台湾に出兵した事件。1871年琉球(りゅうきゅう)の島民が台湾に漂着し，乗組員が土民に殺害され，さらに1873年日本の船員が漂着して略奪されたことが原因となった。これに対し，台湾に宗主権(→宗主国)を有する清(しん)国はわが国に誠意ある措置をとらなかったため，政府は征韓論(せいかんろん)分裂後の不平士族の不満を外戦にそらすとともに，琉球帰属問題を有利にするため，西郷従道(つぐみち)を台湾事務都督に任命し，出兵断行を図ったが，アメリカの反対，政府部内での異論にあって中止した。しかし西郷は独断で出兵を強行した。この結果，1874年10月政府は大久保利通(としみち)を全権として清国と交渉し，イギリス公使エドワードの斡旋(あっせん)で両国間に和議が成立した。この和議により，清国は償金50万両(テール)(約67万円)と台湾の治安保障を約束し，これにより日本軍は撤兵した。〔高崎徳次〕

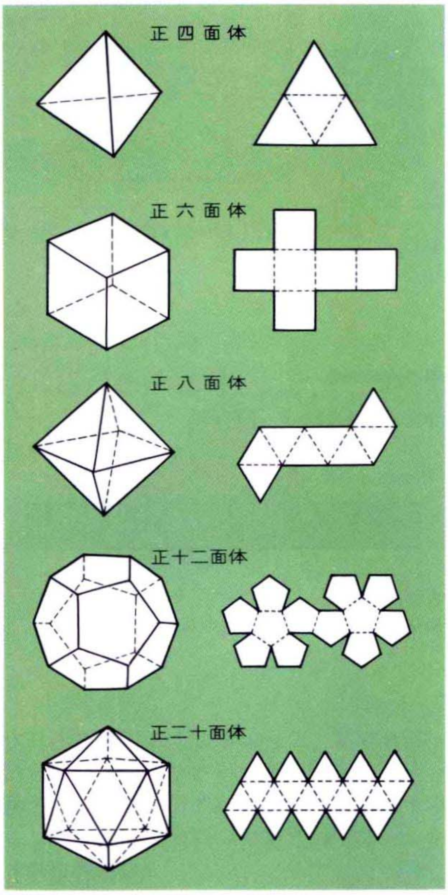
せいたかあわだちそう【背高泡立草】双子葉植物・キク科。多年生草本。北アメリカ原産の多年草で，明治末期ごろに渡来した帰化植物。ここ数年間に空地・堤防などで在来の雑草を駆逐して異常な繁殖を続けている。地下茎は地中を横走し，茎は直立して高さ1～2mとなる。短毛が密にあり，一般に下方からは分枝しない。葉は互生し，密に茎を取り巻く。9～11月初旬に茎頂に円錐(えんすい)花序をつけ，花枝には黄色頭花をつける。花粉が花粉症をひき起こすことが知られており，長年吸い込むと感作されて，過敏な体質の者はアレルギー性鼻炎や気管支喘息(ぜんそく)などの症状が現われる。花粉症は4～5年吸い続けたあとに出るため，わが国ではまだ実例はないが，アメリカ・カナダでは報告されている。繁殖力が強く，わずか1～2年のうちに全国的にはびこり，かつ花粉の量が多いためブタクサとともに人体に危険性の大きい植物である。なお外観は，この植物より以前に渡来したオオアワダチソウによく似るが，本種は茎に毛が多く，花期が1～2か月おそく，花枝が水平およびやや下方に向かって伸びるので区別がつく。〔増沢武弘〕

せいたかくけい【正多角形】⇒多角形

せいたかしぎ【丈高鷸】鳥類・セイタカシギ科の総称およびそのうちの一種。この科の鳥はシギ科のものに比べ，脚・くちばし・頭頸(とうけい)部が非常に細長く，全体としてほっそりしている。くちばしが上にそりかえったソリハシセイタカシギ，海抜3,000mのヒマラヤ山地の川や湖にいるトキハシゲリ，オーストラリア特産の2種など，世界に7種が知られる。セイタカシギは翼長22～25cm，くちばしは黒色で5～7cm，脚は桃色で跗蹠(ふせき)長12～14cm。背・翼は金属感のする黒緑色で，下面は白色。わが国には10数回の渡来記録があるだけであるが，その大半は最近の記録である。干潟(ひがた)よりもむしろ川原や水田などを好み，くちばし・脚・体はきわめて細く，歩く姿はまるで竹馬に乗っているようである。〔安部直哉〕

セイタカアワダチソウ　(右)花粉



正多面体

せいためんたい【正多面体】どの面も合同な正多角形からなり，隣合う2面がその内部につくる角がみな等しい多面体。正多角形は無数にあり，また，各面が合同な正多角形からなる多面体も無数につくれるが，正多面体は次の表に示した5種類ものしか存在しない。このうち，正六面体はふつう立方体とよんでいる。また，これらの正多面体の面をつくっている正多角形の種類，頂点・辺・面の個数は，表に示したようになっている。

正多面体	面の図形	頂点	辺	面
正四面体	正三角形	4	6	4
正六面体	正方形	8	12	6
正八面体	正三角形	6	12	8
正十二面体	正五角形	20	30	12
正二十面体	正三角形	12	30	20

〔菊池兵一〕

せいだん【星団】天球上の狭い領域内に多くの恒星が密集しているもの。このような集団は見かけ上集まってみえるのではなく，空間的にも集団をなしている。ふつうは散開星団と球状星団の2種類に区別されるが，広い意味では星の集落も含まれる。散開星団は種属Iの星で比較的年齢が若く，球状星団は種属IIの星で宇宙の初期につくられた古い星に属する。これらの星団に含まれる星のヘルツシュプルング-ラッセル図(H-R図)をつくると，主系列星から巨星への分岐点はそれぞれ異なっているが，主系列星の明るさはよく一致している。この性質を用いて，距離のわからない星団のH-R図を距離のわかった星団のH-R図と比べることにより星団の距離を求めることができる。このような目的の基準としてはヒアデス星団が利用される。また主系列星から巨星への分岐点のスペクトル型がわかればその星団の年齢が求められる。O型で分岐していれば10^6年，B型で10^7年，A型で10^8年ぐらいである。星団は太陽を含む銀河系ばかりでなく，他のすべての銀河系外星雲にも存在しており，比較的距離の近い銀河系外星雲では，星団を形成する個々の星を分離して観測することができる。〔磯部琇三〕

せいだん【清談】中国，魏晋(ぎしん)南北朝時代の貴族の談論。後漢末に，宦官(かんがん)や外戚(がいせき)の横暴に抵抗した高節の士の政治批判(清議)に端を発し，老荘思想の流行とともに盛んとなる。阮籍(げんせき)ら竹林の七賢がその代表的人物。

せいだん【政談】荻生徂徠(おぎゅうそらい)の著。4巻。享保(きょうほう)年間(1716～1735)に成立。将軍徳川吉宗(よしむね)の諮問にこたえて著わした政治政策の書。徂徠の学問の特色は哲学的解釈を極力控えて実証に徹するところにあるが，その客観主義的学問の現実応用編というべきものである。すべて具体的な問題に密着して論述しながら，経済の発展に伴ってようやく感じられはじめた幕藩体制の危機を救うには，まず制度の立てなおしが必要であると説く。近世社会経済史の資料としてもきわめて貴重な書で

ある。〔永藤　武〕

せいちょう【声調】 高さアクセントの一種。特に次の条件を満たす場合を声調という。①その言語の中で組織的に利用されている。②語彙(ごい)的意味の違いを示している。③相互に対立するいくつかの類を構成している。音の高さは絶対音高ではない。男女・年齢・個人差で高さは変わるから，同一人に明瞭(めいりょう)に区別される高低であればよい。声調をもつ言語を声調言語とよぶ。中国語・タイ語・ビルマ語などのシナ-チベット語族，アフリカのスーダン・バンツー・ブッシュマンやメキシコのマザテコ語などがそうである。標準的中国語には4種の声調変化があり，伝統的に〈四声〉とよぶ。平声(ひょうしょう)・上声・去声・入声(にっしょう)である。現代語では入声がすでに失われているが，漢詩でいう平仄(ひょうそく)とはこの伝統的四声の配列の規則をいったものである。〔大河内康憲〕

せいちょう【成長】 生物体量の実質的な増加と定義され，多細胞生物では細胞数の増加およびそれらの細胞自体の原形質の増加によって行なわれる。しかし，細胞数と原形質量は必ずしも相伴って増加するとは限らない。細胞数が増加していても原形質量は増加しない場合，またはその逆の場合もある。一般に生物個体・器官・細胞はある一定の環境下では一定の成長限度をもち，動物は植物よりそれがはっきりしている。成長は各種の調節機構に細心に調整されたやり方で支配されている。多細胞生物に共通した成長の様式は次のようである。①ある組織はゆっくり成長するが，別な組織は急速に成長するというように，生物の体のすべての部分が同じ速度で成長するわけではない。②生物の体のすべての部分の成長が同時に停止するということはない。③生物の体のある部分の成長は，他の部分の活動によって調節されている。特に内分泌器官の作用が大きい。④一般に成長はシグモイド曲線をたどる。➔成長曲線

せいちょう【性徴】 雌雄異体の動物で，雌雄の違いが見分けられるような形質，すなわち性の特徴をいう。生殖腺(せいしょくせん)それ自体の特徴を第一次性徴といい，それ以外の性徴を第二次性徴ということが多い。ときには，第二次性徴をさらに細かく分けて，生殖腺に付属する器官(脊椎(せきつい)動物の生殖輸管など)と外部生殖器の性徴を第二次性徴，それ以外のものを第三次性徴とすることもある。ヒトの場合は風俗・習慣・言語(ことばの使い方)などの特徴もあるので，これを第三次または第四次性徴とすることもある。第二次性徴以下は，生殖腺に由来する性ホルモン(生殖腺ホルモン)の影響下にある。たとえば，ニワトリのとさかは，雄は雌に比べてはるかに大きいが，精巣を除去すれば雌と区別できないような大きさになる。イモリの雄では繁殖期になると紫色になる(婚姻色)が，精巣を摘出すれば消失し，婚姻色の消失したイモリに雄性ホルモンを投与すれば色が現われることからも，ホルモンの働きがうなずける。なお，こん虫類では性ホルモンによって性徴が現われるのではなく，遺伝的に決まった形になると考えられる。〔蒲原春一〕

せいちょううんどう【生長運動】 植物の器官の一部が植物体各部分の生長速度の相違から，曲がったりねじられたりして体の位置の変化が現われる運動。この場合，運動を起こす原因となる刺激には，熱・光・重力・化学物質などがあり，これらの刺激によって，器官の一部分だけが生長する場合(刺激の方向に関係して屈曲する)を屈曲生長運動といい，全体的に不均等な生長をする場合(刺激の方向に無関係に屈曲する)を傾性生長運動という。このほか生長運動の一つとして条件を一定にしてもなお起こる運動，たとえば巻きひげの先端の旋回運動などの自発生長運動があげられる。〔代谷　康〕

せいちょうきょくせん【成長曲線】 成長*の時間的変化をグラフに曲線を示したもの。普通は個体では体重または体積などを一定時間ごとに測定して，横軸に時間，縦軸に測定値をとって成長曲線をつくる。一般にS字状曲線となる場合が多く，これをシグモイド曲線またはロジスチック曲線といい，最も普通な成長曲線とされている。この曲線は大きく二つの相に分けられる。成長を促進する力が強く出ている指数曲線的増加時期と，成長を抑制する力が強く出る成長の弱い時期とである。両相の移行する点を変曲点という。成長の後期になるとだんだん定常状態になり，それが過ぎるとむしろ低下して全般的に退行の傾向が現われてくる。人間個体では，成長曲線が定常状態にはいるのは20歳前後である。

せいちょうじ【清澄寺】 ⇨きよすみでら

せいちょうせき【正長石】 ⇨長石

せいちょうてん【生長点】 高等植物の体の先端に近い部分にある細胞または細胞群。原始分裂組織で盛んに細胞分裂して茎や根を伸長させる。茎の芽の頂端では露出しているが，まわりは若い葉や包で包まれている。根では先端から少しはいったところにあり，根冠で保護されている。

せいちょうのいえ【生長の家】 新興宗教の一。谷口雅春(まさはる)が1930年(昭和5)に雑誌《生長の家》を創刊して文書伝道を開始したのに始まる。教祖雅春は早稲田(わせだ)大学を恋愛問題で中退し，養父母との衝突から経済的にも困窮して，一時職工生活にはいったが，その後魂の安息を求めて大本(おおもと)教*・一燈園を転々とし，心霊研究，クリスチャン-サイエンス，フロイトの精神分析などを研究した。1929年12月3日，静座合掌して瞑目(めいもく)するうちに神の声を聞き，翌年3月雑誌《生長の家》を創刊して発表，5～6号を出したころ，重病がなおったとの礼状があいつぎ，雑誌は神誌とよばれ，やがて《生命の実相》20巻となって結晶した。〈わが言葉を読むものは，生命の実相を知るが故に一切の病消滅し，死を越えて永遠に生きん〉と説いた。教義は神道・仏教・キリスト教に大本教そのほかを折衷したもので，人間は神の子で，生命は物質ではない，物質は心の影であり，本来無である，したがって，病気や貧乏や罪悪などは心の迷いにすぎず，本来ないものであると説いた。1936年教化団体に登録され，戦後になって教団の形態を整えた。公称信者317万(1976)。〔藤井正雄〕

せいちょうホルモン【成長ホルモン】 脊椎(せきつい)動物の脳下垂体前葉から分泌されるタンパク性ホルモンの一種。おもに量的な成長を促し，骨の成長や，筋肉その他の内臓器官の肥大を促進する。しかし成長ホルモンの働きは一律でなく，発生段階や組織の違いによって変化がある。すなわち脳下垂体前葉の機能に異常昂進(こうしん)が小児期から起こり，ホルモンが過剰に分泌されると巨人症となり，これが骨端軟骨線の閉鎖以後に起こると末端肥大症となる。成長期には特に多く産生され，成熟後も完全に停止することはない。動物の種類によってアミノ酸構成が異なり，反応にも特異性がみられる。たとえば，サルやヒトはウシの成長ホルモンには反応しない。〔平野修助〕

せいちょうやく【整腸薬】 腸内の炎症などのあとに，下痢止めや，異常発酵・腸管異常運動を抑制する目的で用いられる薬の総称。すなわちスルファミン・抗生物質などの抗感染薬，収斂薬(しゅうれんやく)のほかに乳酸菌あるいは酪酸菌などの生菌を与えて病原菌を抑制するものまでが含まれる。このほか腸の運動を抑制する目的でアトロピン剤を併用することがある。

せいてい【正丁】 律令(りつりょう)制で公民の成年男子をさす用語。21歳から60歳までの身体健全な男子をいう。これは調・庸・雑徭(ぞうよう)および兵役などの負担を課せられる対象で，戸籍や計帳などに〈正丁〉と明記された。757年(天平宝字1)藤原仲麻呂(なかまろ)は正丁の年齢を1年短縮して22～60歳とし，翌年さらに短縮して22～59歳とし，ここに正丁は22～59歳の男子をさすこととなった。成年男子といえども身体健全でない者は負担の減免を認められた。〔黛　弘道〕

せいてい【正定】 チョンチン　中国，河北省南西部，石家荘(せきかそう)の北15kmにある都市。京広鉄道(北京(ペキン)～広州)に沿う軍事・交通上の要地として清朝(しんちょう)末期まで重視されてきた。しかし近年，石太鉄道(石家荘～太原)や石徳鉄道(石家荘～徳州)の建設によって石家荘が発展するのに伴い，以前の重要性は失われつつある。隆興寺・開元寺・天寧寺など古い仏教遺跡

がある。

せいていほう　【制定法】 ⇨成文法

せいてつ　【製鉄】 鉄鉱石を原料として不純物を除去し，有用成分を調整して鋼鉄を得ること。溶鉱炉などを用いて鉄鉱石を還元し銑鉄*としたのち，これを原料として製鋼炉で精練し，不純物を除いて鋼を製造する間接製鉄法と，鉄鉱石から直接に鋼を製造する直接製鉄法*がある。鉄鉱石の還元剤としてはコークス・木炭を用いるもの，水素・一酸化炭素などの還元性ガスによるものなどあるが，現在のところ大形溶鉱炉-コークス法によるものが最も大規模生産に適している。　〔草川隆次〕

せいてつかがく　【製鉄化学】 一般には製鉄所で生ずる多量のガスを原料とする化学工業のこと。主原料はコークス炉ガスで，装入炭１ｔあたりの産出量は標準状態で約350m³である。その成分はだいたい炭酸ガス2.5％，エチレン３％，一酸化炭素10％，水素52％，メタン27.3％，酸素0.7％，窒素4.5％程度である。このガスからコールタール・硫酸・硫安・尿素・ベンゼンなどが製造されている。製鉄所では高炉ガスも多量につくりだされるが，これには窒素が60％も含まれており，化学原料としては用いられない。なお最近では，製鋼その他に必要な酸素・窒素の製造も製鉄化学に含まれる場合がある。　〔秋枝哲児〕

せいてつしょ　【製鉄所】 製鉄工場の作業は大きく分類して，①鉄鉱石を還元して銑鉄*を得る製銑*作業，②銑鉄を製鋼炉(平炉・転炉など)で精練し，不純物を除去して鋼塊とする製鋼*作業，③鋼塊に加熱圧延などの加工をして製品とする圧延加工作業に分けられる。製鉄から圧延加工作業までを同一工場で行なっている工場を銑鋼一貫工場というが，企業によっては製鉄と製鋼のみを，あるいは製鋼と圧延を，また圧延加工のみを主体としている工場もある。近代的な大規模の製鉄所では大形溶鉱炉をもち，銑鋼一貫作業が行なわれている。製鉄所建設にあたっては鉄鉱石・石炭などの原料産地の位置をはじめ，輸送・エネルギー・用水・労力などの要素を考慮したうえでその場所が決定される。わが国では原料を輸入にたよっているため，製鉄所はいずれも大形鉱石専用船の入港可能な海岸沿いに建設されている。　〔草川隆次〕

せいてんかん　【性転換】

①雌雄の性*がなんらかの原因で変わること。雌雄異体の動物で，すでにいずれかの性をもっていたものが，種々の原因で別の性に変わることがある。たとえば，実験的にある種のニワトリの雌から片側の卵巣を除去すると，残った側の卵巣が変化して精巣となり，雄となることがある。クロダイやフネガイなどでも性転換をするが，生理的なものが原因で，元来は雌雄同体のものが時期的に雌性のときと雄性のときがあって，その間で転換が起こるのであり，真の意味の性転換とは違うところがある。　〔蒲原春一〕

②出生後いったん社会的に決められた性を，主として手術的にそれと異なった性に換えること。その対象は，器質的に半陰陽(→インターセックス)の場合と，器質的にはまったく独立した性をもちながら，それと反対の性を強く望む場合とがある。初生児の時代ならともかく，すでに５～６歳に達すれば性の変更は社会的・精神的に相当困難であり，いわんや成人では本人に性変更の強い意志がなければまったく不可能である。今日では個体の社会的性は，もっぱらその個人の精神的発達の如何(いかん)により決定すべきで，性腺(せいせん)の如何によるべきでないとされている。半陰陽の場合でも理論的の個体の性決定とはまったく別個の問題である。性決定に際し，精査の結果判定が困難な場合は女性としておくほうが無難である。しかし，性転換の手術を行なう場合は，その目的を達するため，本人が希望する性になるべくよく適応するように形成手術を施し，同時にホルモン療法を行なう。　〔藤井和明〕

せいでんき　【静電気】 電荷*の分布が時間的に変化しない場合，その電荷を静電気という。すなわち，静止状態の電荷をいう。たとえば，摩擦によって絶縁物の表面に付着したような電荷，静電誘導によって導体の表面に分布したり，誘電体の電気的変位として分布したりする電荷がこれであり，力としてはクーロンだけが問題となる。

せいでんたんいけい　【静電単位系】 ⇨電磁気単位系

せいでんとそう　【静電塗装】 塗料を静電塗装機を用いて塗装する方法。他の塗装方式に比べて塗装効率がよく，ライン生産に適している塗装法である。被塗物を接地し，静電塗装機の高圧陰極と対向させ，塗装機の塗料霧化部分に直流の高電圧(60～100kV)を印加すると，先端付近にコロナ放電現象を起こして陰イオンが塗装機と被塗物との空間(電界)に充満するので，そこに放出された塗料微粒子は同電位に帯電しイオン群の流れに沿って被塗物の表面に達し，放電塗着する。霧化の方式により，電気霧化式・空気霧化式・超音波霧化式などに分かれ，電気霧化式にはベルタイプとディスクタイプがある。　〔鈴木荘司〕

せいでんほう　【井田法】 中国，周代に行なわれたとされる伝説的土地制度。異説もあるが，最も有名な《孟子(もうし)》によれば，〈方１里(１里は約400ｍ)の正方形の中を井字形に９等分し，周囲の８田を100畝(ほ)(約1.8アール)ずつ８家で耕作し，中央の100畝を共同耕作して収穫を租税として納める〉制度とされており，また《漢書》では900畝のうち，８家で110畝(10畝は租税用)ずつ耕し，20畝を廬舎(ろしゃ)(仕事小屋)にあてることになっている。実在の制度ではないが，後世の土地制度は多く井田法を理念的背景にしている。しかし，この制度は当時のどのような実態を理念化したものか，またどの点が事実であったかなどは今後の問題である。　〔米田賢次郎〕

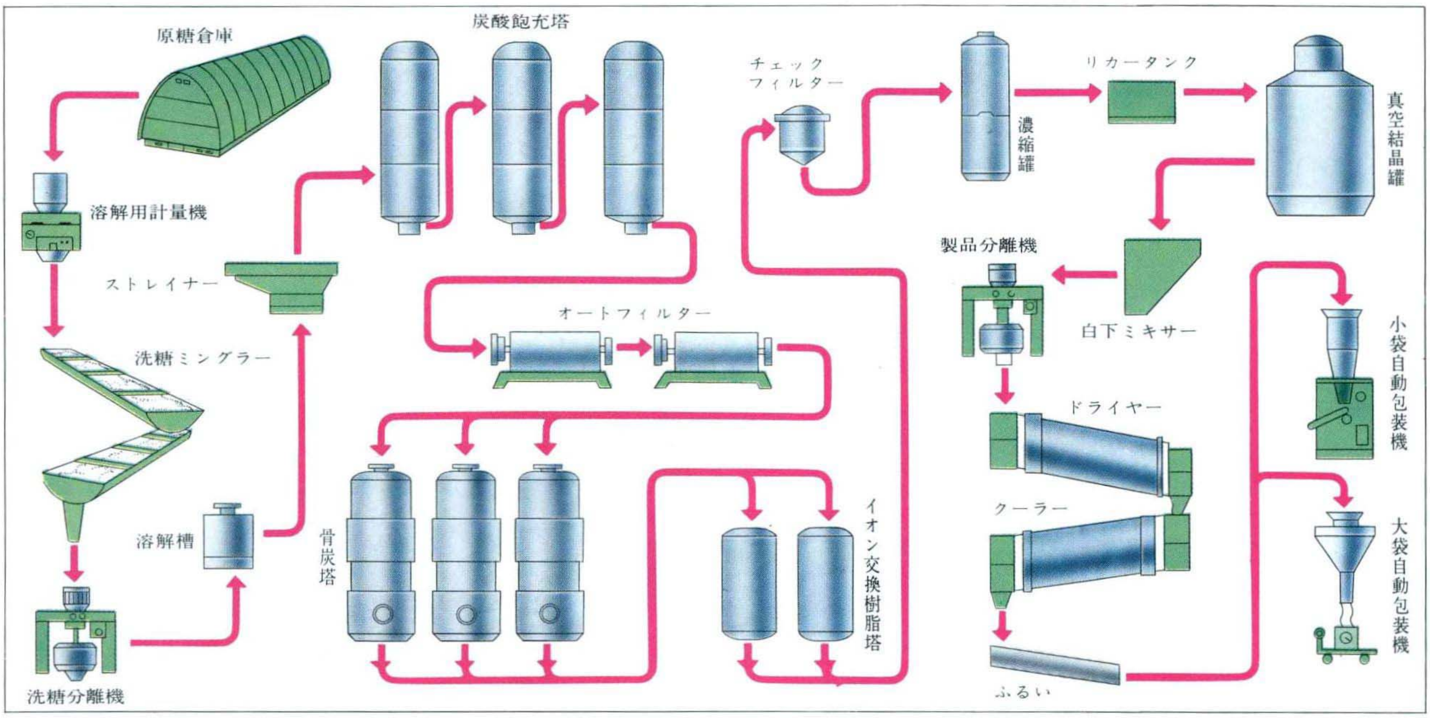
せいでんゆうどう　【静電誘導】 導体の近くに他の電荷を近づけると，導体の表面に電荷の分布が誘導されること。これは，導体の各部自身がつねに正負の両電荷を同量だけもち，その総和が０であるように保たれているところへ，外部電荷による電界が加えられて分極を起こすことに起因すると考えてよい。一般の誘電体と異なり，導体内では電荷の移動が自由であるために，すべての分極電荷が導体表面に現われるわけである。ゆえに，外部電荷が正電荷ならば，クーロンの吸引力が負の分極電荷に働いて，これを近い側の表面に集め，また反発力が正の分極電荷に働いてこれを遠い側の表面に集める。この際，表面に現われた正負の分極電荷の電気量の絶対値は相等しい。また，外部電荷が負であれば，この現象が正負を逆にして起こる。〔堀内和夫〕

せいでんようりょう　【静電容量】 １対の導体(またはコンデンサー)の蓄電力を表わす定数。絶縁された二つの導体が相対しているとき，両導体に符号が反対の同量の電荷を与えると，コンデンサーを形成する。両導体のもつ電荷の絶縁値がQ(クーロン)，両導体間の電位差がVであるとき，コンデンサーの静電容量を$C=Q/V$で定め，単位ファラド[F]を用いて表わす。絶縁された単独の導体についても，その電荷がQ，その電位がVであるとき，この導体の静電容量は$C=Q/V$であるという。静電容量は，導体の形状・大きさと周囲の状態によって定まり，導体の電位には関係しない。　〔堀内和夫〕

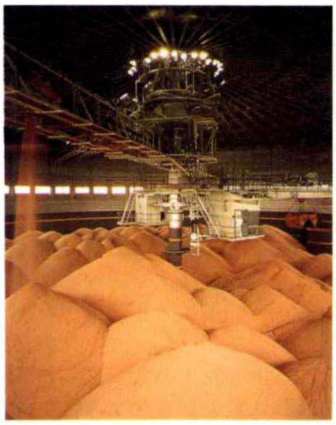
せいと　【成都】 チョンツー　中国，四川省の省都。人口約150万(推定)。成都平原の中心部にあり，成渝(せいゆ)鉄道(成都～重慶)・宝成鉄道(成都～宝鶏)の連絡する交通の要地。付近は豊かな農産地域で省西部からの米・タバコ・茶・生糸などを集散し，古くから絹織物・銅器なども産する。近年では医薬品・陶器・刃物・食品加工などの工業が発達しつつあり，省内では重慶に次ぐ都市になっている。蜀漢(しょくかん)・前蜀・後蜀時代の旧都で，小平京とよばれ，杜甫(とほ)草堂・武侯祠(し)・青羊宮などの古跡・名勝がある。　〔船越昭生〕

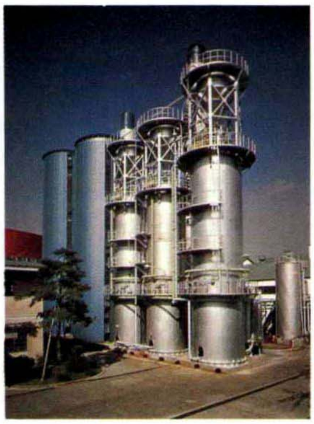
せいど　【精度】 測定値・測定器の正確さ・精密さの度合い。測定値と真値の差。すなわち誤差が小さいほど正確であるという。また，同じ測定器によって同じ量を何回もはかって生ずる測定値のばらつきが小さいほど精密であるという。したがって，較正のよく行なわれていない測定器では，測定値は精密であっても正確でないことが

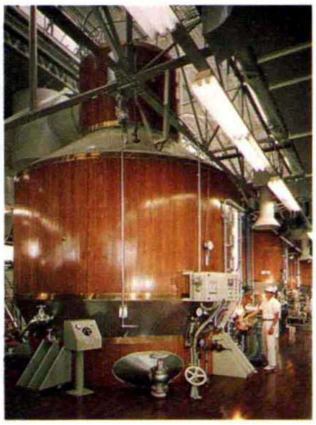
製　糖



精製糖の製造工程


原糖サイロ内景


活性炭吸着塔(パルスベッド方式)

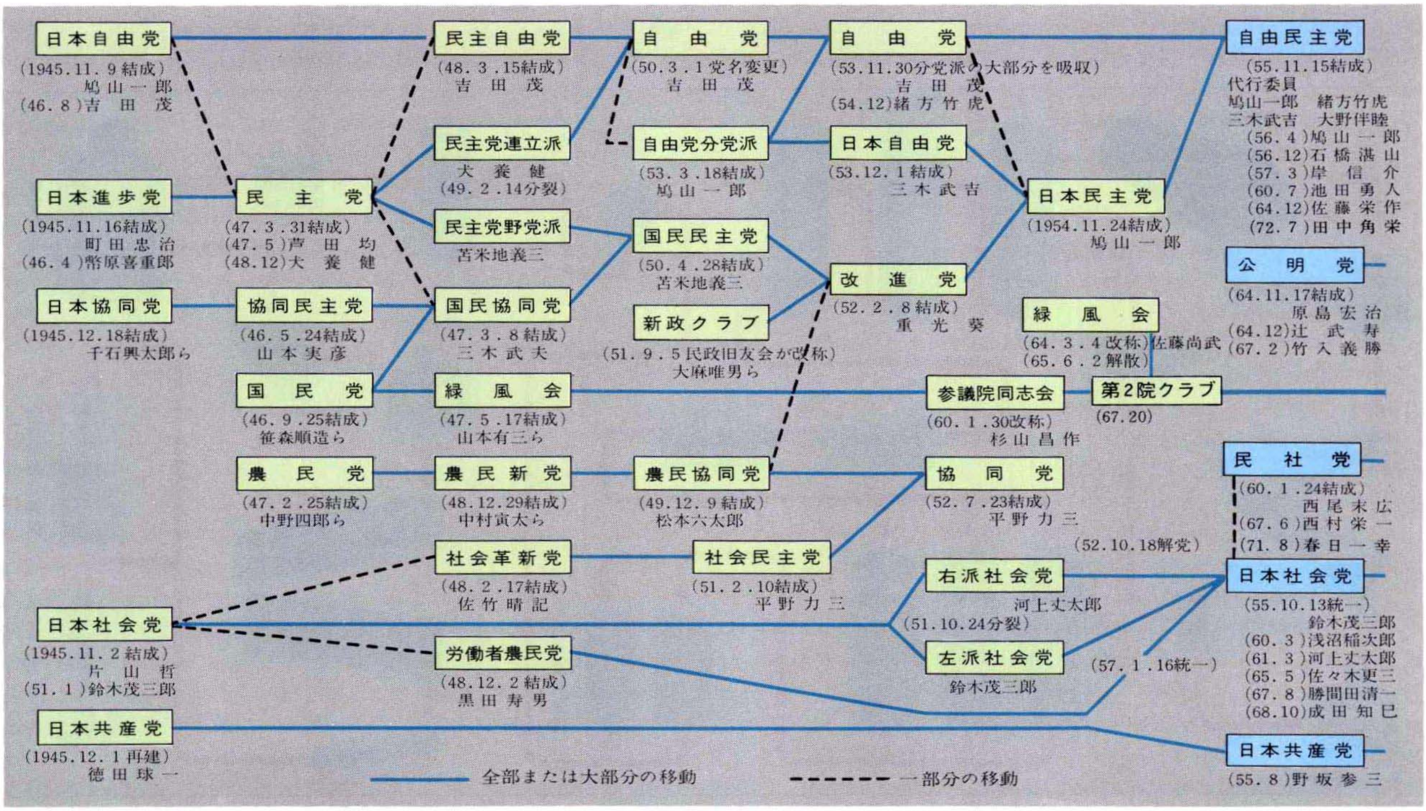

真空結晶罐


小袋完全自動包装機

ありうるわけである。正確度・精密度は正確さ・精密さを量的に表わすことばで，測定誤差の最大値を用いて表わす場合と，被測定量に対する百分率を用いて表わす場合がある。

せいとう 【製糖】 サトウキビ*(甘蔗(かんしゃ))やサトウダイコン*(甜菜(てんさい))中の糖分を搾出または浸出し，清浄・濾過(ろか)・濃縮・晶析・分離などの工程を経て，砂糖をつくること。製造工程の上からは含蜜(みつ)糖と分蜜糖(糖蜜分を分離したもの)に分かれ，分蜜糖は製造法によって粗糖・耕地白糖・精製糖に分類される。粗糖の大部分は原料糖として使われ，精製されるが，耕地白糖は直接消費される。

【製造法】①粗糖：甘蔗粗糖の製造は，サトウキビを細片にし，四重または五重の圧搾機にかけ，搾出した糖汁(とうじゅう)を加熱し，これに石灰乳を加えて，沈殿槽(そう)に入れる。上澄み液を蒸発罐(かん)で濃縮したのち，真空結晶罐でさらに濃縮・結晶させ，遠心分離機で糖蜜を分離させた結晶が粗糖である。なお，圧搾機の代わりに，浸出機でサトウキビから糖分を抽出する方法もある。②耕地白糖：サトウキビやサトウダイコンから直接消費できる白糖を製造する方法があり，この白糖をいう。甘蔗耕地白糖の製造法は，糖汁を得るまでは粗糖の場合と同様であるが，糖汁に石灰を過剰に加え，炭酸ガスを吹き込んで，炭酸石灰の沈殿を生成させ，濾過する。濾液にさらに炭酸ガスを通したのち再び濾過し，亜硫酸ガスを吹き込む。そして，加熱して蒸発罐に送る。これ以後の工程は粗糖製造と同じである。この方法を炭酸飽充法というが，炭酸ガスの代わりに亜硫酸ガスだけを用いる清浄法を亜硫酸法という。また甜菜白糖は，甘蔗耕地白糖の場合とほとんど同じであるが，サトウダイコンを十分に洗浄したのち，細長い薄い小片に切断し，浸出機の中で熱水によって糖分を抽出する。糖汁は炭酸飽充法で清浄する。高品質の甜菜糖を製造するためには，脱塩用・脱色用にイオン交換樹脂を使用する方法も多く採用されているし，糖汁中に含まれているラフィノースを酵素メリビアーゼで分解し，砂糖をより多く回収する方法も開発されている。③精製糖：粗糖の結晶表面をおおっている蜜膜を除去するために，まず加温糖蜜を加え，十分混和したのち遠心分離機にかける。洗糖を溶解し，石灰乳を加え，炭酸ガスを通じ，生



政　　党　第2次世界大戦後の推移《朝日年鑑　昭和49年度版》から

成した炭酸石灰の沈殿を濾過する。濾液は粉末活性炭・粒状活性炭・骨炭などで脱色したのち濾過し，さらに脱色用イオン交換樹脂を通して無色透明な糖液(ファインリカー)を得る。この糖液を蒸発罐で濃縮したのち真空結晶罐に送るかまたは直接真空結晶罐に送り，晶析を行なう。晶析工程は，濃縮糖液に種糖を加えて成長させるのであるが，種糖の大きさと量を変えることで，最終製品の結晶の大きさを調節する。晶析ののち遠心分離機で結晶を分離し，乾燥・冷却・ふるい分けをして，包装室へ送る。なお，ファインリカーを脱塩用イオン交換樹脂に通すか，または脱塩用と転化用イオン交換樹脂に通したのち濃縮し，液糖を製造することも行なわれている。➔砂糖

〔鴨田　稔〕

せいとう　【政党】　共通の政治理念・政策をもち，永続的に組織された政治集団。特に市民革命*後の近代国家では議会政治*に基づいて，与党あるいは野党として，その意思を国家意思決定過程に反映させることを目的としている。この点で，政党は特定の団体の利益を追求する私的な徒党ではなく，その理念・政策が国民的・普遍的利益であることを標榜(ひょうぼう)する公党であることが必要である。イギリスの政治家・思想家であるE.バーク(1729～1797)は，政党を〈その主義または原則に基づいて国民的利益を増進するために協力する目的で結合した団体〉と定義した。この意味で，政党は政府と国民とをつなぐパイプであるといえよう。

政党の起源は，①エリザベス朝でのピューリタンの団体，②長期議会でのラウンドヘッズとキャバリア，③スチュアート朝のトーリー党*とホイッグ党*に求める説があるが，政党は市民革命の成果である議会制民主主義とともに発展してきたのであり，最初に市民革命を成し遂げたイギリスが最も古い伝統をもつ。日本では，1874年(明治7)自由民権論(➔自由民権運動)に基づいて板垣(いたがき)退助*を中心に結成された愛国公党*が最初とされている。当初の政党は，市民革命に勝利したブルジョアジーに基盤を置く名望家政党であった。国民とはブルジョアジーであり，国民の利益とはブルジョアジーの利益とみなされていた。選挙*はきびしく資格条件をつけられた制限選挙であり，政党の組織は共通の利益をもった党員の自由な意思を尊重したゆるい結合であった。しかし，産業革命後の階級分化は，資本家階級と労働者階級という階級対立を激化させ，後者が政治の場へと登場するのに並行して普通選挙の拡大が進行した。こうして政党は，名望家政党から大衆政党・国民政党へ，ゆるい規律の政党から党綱領・党議決を重視するきびしい規律の政党へと変貌(へんぼう)した。ここに政党の寡頭制*化・官僚制*化という現象が，程度の差はあるが一様に生じた。それは一方で特殊利益を追求する集団との結びつきを強くし，他方では，政府と国民とをつなぐパイプという政党本来の機能を低下させることになった。政党の機能低下は，社会生活領域や利益の多様ともあいまって，各種の社会集団が政治の場へと噴出する結果を生じた。種々の圧力団体*・大衆組織・団体による政治的な要求運動がそれである。こうして政党は，かつてのように，政治意思決定過程における唯一の集団とはいえなくなりつつある。現在，政党にとって最大の問題は，パイプの機能をどのような方法で回復するかにあるといえよう。

〔原田政洸〕

第2次世界大戦前の日本の政党は原理的に憲法体制になじまない存在であった。大日本帝国憲法は〈院外の無責〉の規定(52条)において，政党に対するあいまいな〈敵視〉の態度を示していた。次に，戦前の日本の政治状況においては〈超然主義的政治〉が支配的であった。すなわち，元老・重臣会議・枢密院・軍部の統帥権など，個人や機関が議会を越える機能をもっており，議会は主要な政策を決定する場とはなりえなかった。政党が本来の機能を発揮するための条件が与えられていなかったのである。以上のような理由で，戦前の日本において政党はその本来のあり方を示すことができなかった。

しかし，第2次世界大戦後は，日本国憲法の条文に〈政党〉の語句は見あたらない程度に憲法と政党の関係は融和させられているが，関連法規である国会法・公職選挙法などにおいては，政党の存在が公認されている。政党に対する〈敵視〉の態度は〈承認と合法化〉の方向へ進みつつあるのである。また，一方において，枢密院・貴族院など

の封建的勢力と巨大な軍部勢力が一掃された。戦前日本の〈超然主義的政治〉は否定されたのである。そこでは，戦前の日本におけるよりも，はるかに政党がその本来の機能を発揮できる条件に恵まれているといえよう。ただし，戦後の日本においても，政党の活動を阻害する条件がないわけではない。財界と官僚は保守政党に対する大きな力となっている。党内においては〈実力者〉を中心とする人間関係が〈派閥〉となって現われ，私党的性格が表面化している。しかも，〈派閥〉の問題は革新政党にも共通する問題点となっている。日本における政党のあり方は，まだまだ，その本来の意味におけるあり方を追求する過程において困難な課題をかかえているものといえよう。〔高橋彦博〕

せいとう【青鞜】 文芸雑誌。1911年(明治44)9月に創刊され，1916年(大正5)2月以後休刊，全52冊。平塚(ひらつか)らいてうを中心に，当時のロンドンの進歩的な婦人の呼称〈ブルーストッキング〉の訳語をもって誌名とした。はじめは女流文学の発達を図ったが，大正期にはいったころから婦人問題に関心が深まり，婦人解放運動を展開，貞操や堕胎，公娼(こうしょう)制度などの問題を取り扱った。参加者は発起人の雷鳥をはじめ，中野初子・保持研子(やすもちよしこ)・木内錠子・物集和子(もずめかずこ)のほか，長谷川時雨(はせがわしぐれ)・与謝野晶子*(よさのあきこ)・国木田治子(はるこ)・小金井喜美子・森しげ子・田村俊子*(としこ)・野上弥生子*(やえこ)・水野仙子(せんこ)・伊藤野枝*(いとうのえ)・小林哥津(かず)・岡本かの子*・神近市子*らで，まさに女流文化人総結集の観があった。〔池内輝雄〕

せいどう【青銅】 ブロンズ・唐金(からがね)ともいう。銅とスズとを主成分とする合金で，亜鉛・鉛または鉄などを少量添加する場合もある。耐食性大で機械器具部品・軸受けのほか，貨幣・梵鐘(ぼんしょう)・美術品・銅像・日用品などに使用され，黄銅*とともに古くから人類に最も関係の深い合金である。通常スズ15％までの合金が実用化され，貨幣用はスズ3～8％，亜鉛1％，残りは銅である。美術用はスズ2～8％，亜鉛1～12％，鉛1～3％，残りは銅である。亜鉛の多いものは早く酸化されて黒色となり，緑青*による味わいが出ない。砲金すなわち機械用青銅はスズ8～12％を含み，かつて大砲の鋳造に用いられたが，現在は機械部品に広く使用されている。軸受け青銅はスズ10～15％のものが用いられるが，高速度用には鉛5～30％を添加する。特殊青銅としてはリン青銅・アルミニウム青銅・ニッケル青銅・ケイ素青銅・シルジン青銅・マンガン青銅・ベリリウム青銅などが一般に使用されている。〔藤井康次〕

せいどうき【青銅器】 青銅製の利器・容器。人類がはじめて金属の利用法を知ったのは，シゼンドウをたたき延ばして加工する利用法であり，やがて銅鉱石をとかして鋳造する段階に進んだ。これに適度のスズを加えて理想的なかたさの青銅をつくりだすのは，さらにのちのことである。青銅の技術はおそくともBC3000年代の初めころに，先進地帯のメソポタミアやエジプトに知られていた。鉄の普及がBC1000年の前半に始まるまでの間，青銅が利器(武器類)・農工具・車馬具などの重要な部門に使われ，人類を金石併用の段階から飛躍的に発展させた。ただ，青銅の使用は各地域一様ではなく，実用よりは儀礼の器の多い殷周(いんしゅう)銅器やイランのルリスタン-ブロンズ，遊牧世界のスキタイ-ブロンズ，青銅と鉄の使用が同時に始まる日本の場合のように，さまざまの様相がある。➔次項〔小谷仲男〕

せいどうきじだい【青銅器時代】 利器の材料に青銅を用いた時代で，新石器時代*に続き，鉄器時代*に先行する。青銅器時代の設定は18世紀にトムセン*によってなされ，人類文化の発達段階を示す時代区分として一般に広く用いられている。しかし，この時代にはドウとスズとの産地が限定されており，ことにスズは入手しがたかったので，文化程度が相当高くても青銅器時代にはいれなかった社会があったこと，また原料が量的に限られていたため，青銅製品が上層階級の武器・装飾品にとどまり，社会経済的意義が比較的小さかったことなどから，青銅器時代を文化総体の発達段階を示す時代概念とすることに疑問をもつ学者もいる。また，ある文化圏で青銅器を制作していても，青銅の冶金術(やきんじゅつ)が存しないで輸入した青銅器を鋳潰(ちゅうかい)して利器や容器を制作した段階では，厳密には青銅器時代とはいえない。このように，青銅器時代の概念には検討されるべきあいまいさがあるが，一般に便宜的に通用されている。青銅器時代になって一様にみられる傾向は，原料を入手するためにかなり遠隔地に出向く必要を生じ，交通が非常に発達したことである。また，青銅器の冶金技術は専門的であったから，専門の工人が発生し，分業社会の形成が促進された。さらに，青銅器を得るためには高価な代金を支払わねばならなかったため，自給自足の経済が破れて交換経済への道が開かれた。したがって，青銅器時代となってからは社会生活はよりいっそう複雑になり，集落は拡大されて町や村が形成され，都市住人も，農民・工人のほか，王・戦士・司祭者・商人などの専業者が現われ，明確な身分階級も生じた。

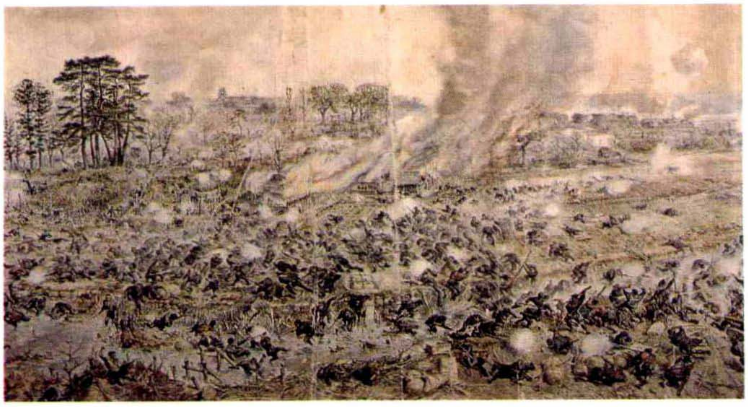
青銅の冶金術がいつどこで発明されたかは現在正確には知られていないが，BC3000年ごろメソポタミア北部かシリア方面で発明されたとするのが穏当な見解となっている。オリエントではBC3000年には青銅器時代にはいり，メソポタミアにシュメール人の諸王朝が栄えた。エジプトでは高度の文明をもちながら，その勢力圏にスズ鉱がなかったため，BC2000年まで青銅器を制作しなかった。オリエントの青銅器文化は西方へ波及してエーゲ文明*やヨーロッパ各地の青銅器文化となり，エトルリアのみごとな青銅器文化へ発展した。中国ではBC1500年，殷(いん)・周王朝のころから知られる。世界には青銅器時代を経過しないで鉄器時代に進んだ文化圏もあり，日本もその一例である。弥生(やよい)時代*に制作された青銅器は外来青銅器の焼き直しで，本来の冶金ではなかった。またその製品は非実用品で，当時は石器*と鉄器とが実用とされていたので，わが国では青銅器時代は成立しなかったといえる。青銅器時代に成長した古代都市文明の特徴として，城壁を備えた都市，王墓，神殿，文字の発明，戦車(二輪馬車)，大規模な治水・灌漑(かんがい)などがあげられる。〔高崎徳次〕

せいとうししゅう【西東詩集】 ゲーテ*の詩集(1819)。フランス革命に続くヨーロッパの動乱期に，ゲーテの目は東方ペルシアに向けられてこの詩集がつくられた。12の書からなるが，中でも〈愛の書〉と〈ズライカの書〉は愛のうたの圧巻といわれ，老ゲーテの若い女マリアンネへの恋愛感情を写した後者は傑作として名高い。思想詩・教訓詩の佳作も含まれている。

せいとうしゃ【青鞜社】 1911年(明治44)から1916年にかけて発行された雑誌《青鞜*》によって婦人の思想の自由，人格の独立を提唱した女流文学者の団体。主唱者平塚(ひらつか)らいてう。月刊機関誌の発行，研究会・講演会の開催などを通じて封建的家庭制度や良妻賢母主義と対決，《青鞜》第3巻1号からは理論的な婦人問題の探究にも向かう。1914年平塚は伊藤野枝*(いとうのえ)にいっさいを譲って退社し，同人組織をやめて一般婦人に紙面を開放，活発な論争が紙上をにぎわした。

せいとうしゅぎ【正統主義】 1814～1815年のウィーン会議*の際にフランス代表タレーラン*により提唱され，ヨーロッパ政治体制の基調となった指導理念。フランス革命以前の王統・権威をすべて正統とし，その復帰を唱えた。革命に敵意をもつ諸君主はこれを歓迎し，フランス・スペイン・両シチリア王国がブルボン朝*に復位することが承認されたが，タレーランはこれに乗じてフランス王国の領土保全に成功した。

せいとうせいじ【政党政治】 国政の運用，特に議会や内閣の運営において政党*が主役を果たす政治体制をいう。狭い意味では議院内閣制*・政党内閣*制のことをさす場合もある。すなわち，議会における政党の勢力に基づいて内閣が組織され，内閣は議会の意志を反映し，また議会における多数を基盤として政策を実行する政治体制である。イギリスの議院内閣制がその典型であり，アメリカの大統領制*もソ連のソビエト



西南戦争
西南戦争図（部分）
矢田一嘯画

制もすべて政党を基礎としているかぎりにおいて，政党政治の形態といえる。第2次世界大戦前の日本においては議会勢力を敵視する軍部・官僚・重臣らが政治の実権を握っていたため，完全な政党政治は実現されなかった。しかし，1918年(大正7)の原敬(たかし)内閣を足がかりに，1920年代後半から1930年代前半にかけて，政党政治の時代が出現した。しかしそれも，内部における議会政治*の腐敗と外部からのファシズム*の攻撃のまえにまもなく崩壊し去った。わが国の政党政治は第2次世界大戦後はじめて全面的に展開されたといってよい。〔高橋彦博〕

せいとうないかく　**【政党内閣】**　議会において第1党を占めている政党*，または諸政党の連立を基礎として組織される内閣*。議院内閣と実質的には同じである。政党内閣は議会の信任を得て成立するが，議会で多数を占めた政党を中心に内閣を構成するところから政党内閣といわれる。その点で明治憲法下の大権内閣，皇室内閣(天皇が議会における議席や政党などに関係なく内閣を組織させる制度)とは対照的なものとされる。政党が内閣を組織するイギリスの方式が普通であって，わが国もこの型に属している。〔溝口　潔〕

せいとうぼうえい　**【正当防衛】**　急迫不正の侵害に対して，自己または他人の権利を防衛するため，やむをえず行なった加害行為をいう。目前の火の粉は払わなければならないという自己保存の自然法*を認めたもので，違法性阻却*事由の一。刑事上では，違法性*がなく犯罪とならない(刑法36条)。民事上では損害賠償の責任がない(民法720条1項)。

刑事上，正当防衛行為が認められるには，①急迫不正の侵害があること。急迫とは侵害が眼前に迫っていることで，過去または未来の侵害には正当防衛は認められない。②自己または他人の権利の防衛であること。③加害行為が必要やむをえなかったこと。以上三つが必要条件である。防衛行為が程度を越えた場合は，過剰防衛*となり犯罪となる。また，正当防衛の要件が具備していると誤信して，防衛行為を行なった場合は，誤想防衛*となり，正当防衛の適用はない。ただし例外として，正当防衛の要件を具備しない場合でも，窃盗などの現場において，行為者が恐怖・興奮などのあまり，犯人を殺傷した場合は処罰しないとされている。(盗犯等防止及処分ニ関スル法律1条2項)。

民事上，正当防衛が成立するためには，①その行為以外に適切な手段がないこと，②侵害行為によって侵害される利益よりも，反撃行為によって得る利益のほうが小さいことの二つが必要である。民法上，反撃が第三者に対してなされた場合は損害賠償の責はない。ただし損害を受けた第三者は加害者に対して損害賠償を請求できる。〔井上公耳〕

せいどがくは　**【制度学派】**　アメリカにおいて，ベブレン*・コモンズ*・ミッチェル*，J.M.クラークらの諸学者によって発展してきた経済学上の一派をいう。この学派の特徴は経済制度の累積的な進化の過程を基本的な研究の対象とし，そこに経済理論を打ち立てようとする点にあった。彼らは，イギリスの古典派経済学が個人中心的であって，社会制度による個人の結合を重視したため，現代の経済生活を説明するのには不十分であること，さらに社会福祉という全体社会の経済政策的課題とは無縁のものとなっていることを鋭く指摘し，次のような提言を行なった。①正しい経済学の前提に立って十分な制度的研究をする，②制度的研究には社会心理学も援用する，③統計的・経験的方法を併用する，④個別研究を行なうと同時に，社会福祉の指導理念との統一を図る。このような指導理念に基づく実証研究としてベブレンの有閑階級・営利企業・不在所有者制度・価格制度に関する研究，コモンズの労働組合・企業集中の研究，ミッチェルの景気循環に関する研究などが有名である。この学派は1920年代に最盛期を迎えたが，1930年代の後半には新しく登場してきたケインズ経済学や計量経済学*にその座を譲ることとなった。〔藤枝省人〕

せいなんがくは　**【西南学派】**　新カント派*の傾向をくみ，ウィンデルバント*・リッケルト*らによって創始された哲学学派。バーデン学派，またはハイデルベルク学派ともいう。カントの認識論的側面を重んじ，論理主義の立場をとるが，マールブルク派*が数学的自然科学の基礎づけに努力したのに対し，この派は文化科学・歴史科学を重んじ，文化哲学・価値哲学を発展させた。〔豊福英利〕

せいなんせんそう　**【西南戦争】**　1877年(明治10)西郷隆盛*(たかもり)を中心にひき起こされた士族*の反乱。戦乱が日本西南部(九州地方)一帯にわたったので，西南戦争とよばれる。征韓論*(せいかんろん)に敗れて鹿児島に帰った西郷は，私学校を開設して子弟の養成にあたった。当時鹿児島県は，県令大山綱良(つなよし)をはじめ県政をあげて西郷に傾倒し，政府の開明的諸政策や士族解体策にも応ぜず，あたかも独立国の観があり，反政府感情の激しい鹿児島士族は政府と対立を深めた。政府は警戒のため鹿児島県下の火薬局と造船所の移転を企て，警視庁警部に私学校を探索させたことが生徒の憤激をかい，生徒は火薬局・造船所を占領した。ここに西郷は挙兵を決意し，1877年2月私学校生徒に擁されて熊本鎮台(熊本城)を攻撃した。政府は直ちに熾仁(たるひと)親王*を征討総督として徴兵令による軍隊を急派し，これを鎮圧した。同年9月24日西郷ら敗残の将士は鹿児島城山で戦死した。以後の反政府運動は武力暴動を捨て，すでに起こっていた自由民権運動*にその抗争を移すことになった。〔高崎徳次〕

せいなんのえき　**【靖難の役】**　中国，明(みん)第3代の永楽帝*が，建文帝から帝位を奪うために起こしたクーデター。1398年洪武帝*(こうぶてい)が死んで建文帝が即位すると，北平(ペイピン)(いまの北京(ペキン))に燕王(えんおう)として封ぜられていた叔父(おじ)の永楽帝は，翌年〈君側の奸臣(かんしん)を除き，帝室の難を靖(やす)んずる〉と称して兵をあげ，1402年南京(ナンキン)をおとしいれて帝位を奪った。

せいねい　**【西寧】**　シーニン　中国，青海省の省都。人口約10万(1972推)。チベット高原の入り口にあり，黄河の支流湟水(こうすい)の南岸，標高約2,300mの所に位置する。漢人・モンゴル人・チベット人・ウイグル人など，青海地方に住む諸民族の交易の中心地として発達し，チベット自治区のラサ(拉薩)と結ぶ青蔵公路の起点となっている。小麦・大麦などの穀類を産し，毛皮・なめし皮・毛織物などの工業がある。近年自動車道路の開通，青海高原の鉱産資源の開発などによって，新しい工業が発展している。唐代には鄯州(ぜんしゅう)，西平郡などとよばれ，清(しん)代には甘粛省の管轄下にあった。1945年市に昇格した。〔千田稔・船越昭生〕

せいねいてんのう　**【清寧天皇】**　5世紀末の天皇。名は白髪(しらか)。雄略天皇の第3皇子，母は葛城韓媛(かつらぎのからひめ)。《日本書紀》によれば星川皇子の反乱を討って即位したが，後継者がなかったので，播磨(はりま)(兵庫県)から市辺押磐(いちのべのおしいわ)皇子の

遺児億計(おけ)・弘計(をけ)2皇子を迎え,億計皇子を皇太子としたというが,《古事記》ではこれを清寧の没後としている。陵墓は大阪府羽曳野(はびきの)市の河内坂門原(こうちのさかどのはら)陵。〔黛 弘道〕

せいねん【成年】人が未成年から脱して,完全な行為能力*を有するとみなされる年齢に達することをいう。民法は,画一的に満20年をもって成年とすると規定しているが(民法3条),未成年者でも婚姻*すれば成年に達した者とみなされる(民法753条)。年齢の計算は,出生*の日から起算し,暦に従って行なう(年齢計算ニ関スル法律)。なお,天皇・皇太子および皇太孫の成年は満18年である(皇室典範22条)。

せいねんイタリアとう【青年イタリア党】1831年マッチーニ*によりリソルジメント*運動の目的をもって結成された秘密政治結社。1820年代のカルボナリ党の運動の失敗後,マッチーニはリソルジメント運動をさらに国民的運動に拡大しようとして,青年イタリア党を結成,進歩と自由を享受する統一共和国の創造を呼びかけた。進歩的青年の呼応で党勢はたちまち拡大したが,血気にはやる暴走で弾圧を受け,現実無視の行為は大衆から遊離して,1848～1849年のイタリア統一戦争失敗後は急速に衰えた。〔大野慎一郎〕

せいねんがっきゅう【青年学級】市町村が勤労青年を対象に,実際生活に必要な学習の機会を与えるために開設する教育事業で,公民館または学校をその実施機関とする。第2次世界大戦後,東北地方を中心に自主的な青年の学習集団が生まれていたが,1948年(昭和23)山形県が〈青年学級開設要項〉を定め,青年の学習活動の助成策をとって以来,青年学級の名称が一般化した。1949年社会教育法,1953年青年学級振興法によって法制化されて全国的に普及したが,1955年度(17,606学級,109万2,000人)を頂点として,1960年度(11,869学級,71万5,000人),1968年度(5,041学級,25万3,000人)と急激に減少している。〔赤司政雄〕

せいねんがっこう【青年学校】実施主体(市町村)が同じで,しかも同一年齢層の青年を対象とするなどの理由で,1935年(昭和10)青年訓練所(1926年勤労青少年の思想善導と軍事教育を行なう機関として発足)と実業補習学校を統合して設けられた教育施設。1939年男子に対しては義務化されたが,1947年の六・三制施行によって廃止された。青少年の心身鍛練・徳性涵養(かんよう),職業および実生活上の知識・技能を授け,国民資質の向上を図ることを目的とし,普通科2年,本科5年(女子3年)で,それぞれに修身公民科・普通学科・職業科・教練科(体操科)を課し,ほかに研究科(1年)・専修科が設けられていた。〔赤司政雄〕

せいねんき【青年期】個人差,性差,文化的・地域的条件の差異のほか,発達のどのような面を重視するかによっても違いがでてくるが,年齢的にほぼ12～13歳から22～23歳ごろまでの時期をいう。現行の学制による,中学校・高等学校・大学の時代にあたる。そして青年期全体を,この三つの時代に対応して前期・中期・後期に3分することがなされている。この3分法のほぼ前期にあたる時期について,性的な成長の面に重点を置いて思春期ということばを用いることもある。

青年期の概括的な特徴は,子ども(児童期)からおとな(壮年期)への過渡的時代とみることができる。すなわち,児童期と壮年期がそれぞれそれなりに安定した時代であるのに対し,青年期はいわば,そのどちらにも属さない不安定な時代である。特に,現代文明社会にあっては,青年に対する周囲の扱いが,ある面ではおとな扱いを,別な面では子ども扱いをし,時と場合に応じて一貫していない傾向が強いために,青年期の心理的な不安定をいっそう大きくする結果となる。身体的にみても,特に前期において性ホルモンなどの作用による急速な身体的変化が現われ,それが心理的な不安定状態を招来する。また,児童期には,おとなに依存し,おとなの権威に比較的すなおに従う形で安定を得ていたのに対し,青年期にはいるころには批判力が生まれ,自我*を確立しようとする衝動に目ざめてくる。こうした現象は,〈心理的離乳〉と名づけられるが,青年期前期にはこの〈心理的離乳〉は完全にはゆかず,行動面でおとなへの反抗となって現われる。この時期の反抗は,幼児期における第一反抗期に対して,第二反抗期とよばれる。しかしこの反抗現象は多くは一過性で,さらに離乳が確立していくにしたがって消失し,青年期中期を迎える。

中期は,青年期の最も青年期らしい時代で,情緒的不安定性と,自閉性がおもな特徴である。前者を生む原因はさまざまであるが,理想と現実とのギャップもその一因である。現実ばなれした理想をつくり上げながら,きびしい現実によって挫折(ざせつ)し,孤立感と欲求不満を味わう。したがって,この時期には行動も極端から極端へと移り代わりやすく,優越感から次の瞬間には劣等感のどん底に陥ったりもする。もう一つの特徴である自閉性は,この時期が精神的・内面的な深化を遂げようとする時期にあたっているところからくる。外界に対する興味が減少し,代わって自己の内面に関心が向けられ,内省的になる。

青年期後期になると,こうした傾向はしだいに緩和され,理想も実現の可能性を含んだものとなり,一貫した努力がそれに向けられてなされるようになるし,自己についても,しだいに確立した自己概念をもつようになる。しかし,一定した人生観をもち,より安定した生活ができるようになるのは特定の職業につき,結婚し,家庭をつくるようになってからといえる。➔思春期 ➔児童期 ➔壮年期〔斎藤幸一郎〕

せいねんしき【成年式】一人まえの人間になったことを社会的に認められる際の儀礼。男女を問わず,人間が社会の中で経る儀式に成年式と結婚式*とがあるが,これらは未成熟な子どもたちの世界,成熟した青年男女の世界,既婚の男女の世界という生活体系や社会的地位・役割の異なる三つの世界を創出する契機といえよう。成年式は未成熟から成熟に至る契機として行なわれ,一人まえであるかどうかをためす試練,その試練を経ていることを示す,あるいは一人まえになったことを示す表象,成年式に伴う社会関係,成年式を経たあとに期待される態度,習得すべき慣習,青年男女の集団と活動,成年式にまつわる世界観など,成年式をめぐる諸儀礼・諸観念は注目すべきものが多い。

成年式の行なわれる年齢は13～15歳ぐらいが多いのは日本だけに限らないが,この年齢は一人まえの社会成員としてふさわしいさまざまな能力をもつ時期にあたり,本来は一定年齢を基準として成年式を行なうわけではない。女子の成年式(成女式)は初潮の認められる時期をもって行なわれるが,これは個人差が大きいので集団での成年式を行ないにくく,個人的・家族的に行なわれる。男子の場合は,生理的基準よりも社会が与える一定の基準,すなわち試練によって集団的に行なわれる。その基準は,戦闘能力・労働能力・生殖能力などであり,またそれらに伴う忍耐力がためされる。力石*で力をためすなどの例は多くの地方にみられるが,秋田県では成年式当日に一定面積の田を耕させ,長崎県西彼杵(にしそのぎ)郡では〈締め殺す〉と称して首を締めて一時気絶させる儀礼があり,鹿児島県では新たににせ組(若者組*)にはいった者が神社にこもって一夜を正座して明かすという試練がある。静岡県では,若者組新加入者は三角まきの上に座らされて組の条目を聞いたのち太いまきで体を打たれ,奈良県では15歳の男子が大峰山の断崖(だんがい)で,先輩に足を押えられて半身をのり出させられ,人としての道義を誓わせられる。このように荒修行・苦行などの過酷な試練を通じて,若者の忍耐・健康・度胸・武勇をためし,青年としてあるべき規律や道義を備えさせるわけである。

このような試練には,死と再生という観念が働いていることが指摘できる。長崎県西彼杵郡のような〈締め殺す〉儀礼は,コンゴのゴマ地方にも見いだせる。ゴマ地方では,若者はひととおりの試練を受けて仮死状態となり,擬装的に埋葬される。そして若者が意識を取りもどしたときには過去の記憶はいっさい消失したかのごとくふるまい,試練前の世界とは異なった世界にいる

という観念をもつ。これら試練の経過は，新しい世界に住むに必要な諸条件の判定と習得とを若者に課する，人生儀礼の一大通過地点なのである。それは，人間の過去の世界に備えられた全秩序を一掃し，新秩序を習得する契機であるから，成年式の儀礼が単に一日で終わらず，長期間にわたる社会も多い。たとえば，家族や親族との従来の結びつきとの決別，集団的隔離と肉体的試練，仮死状態と再生観および祖先崇拝，年長者への尊敬，成人男子として守るべき社会の慣習・法・制度・知識の教示，性的自由と禁忌などが具備せられねばならない。そこに，一定期間の若者宿*での共同生活，異性との自由な性交渉があり，また名変えの慣行，剃髪(ていはつ)・結髪やふんどし・腰巻*の着用などの身体装飾や，割礼・入れ墨*などの身体変工*が行なわれる。

本土や沖縄諸島などにみられた〈名変え〉の慣行はやはり前記の〈死と再生〉の観念を背景としたものである。これは元来，武士階級における元服式(→元服)の一環であり，前髪をそり落として衣類のそでを短くするとともに，幼名を改めて新たな名が与えられる。大阪府南河内(みなみかわち)郡では，太郎ならし・衛門(えもん)ならしと称して，同年生まれの者すべてが○太郎とか○衛門と名が改められ,山口県の見島では〈ほんにん〉になるといって，そのとき，その家の代々の名を継ぎ，○代目○衛門と改めている。このような慣行は沖縄諸島や鹿児島の郷士制村落(→郷士)はもとより,熊本県天草郡・滋賀県栗太(くりた)郡・京都府中郡・奈良県添上郡・静岡県志太(しだ)郡などにも広く分布している。このとき，擬制的親子関係の生ずることは一般的である。幼名を改めて新名を施す親(名付け親*)や，成年式にあたって冠や烏帽子*(えぼし)を送る烏帽子親*,ふんどしを送るへこおや(まわしおや)などの仮親がそれである。仮親と若者とは，一生を通じて実の親子と変わらぬ庇護(ひご)と尊敬の関係を保つばかりではなく，仮親はしばしば結婚式や葬式の儀礼の中で重要な役割を果たす。また女子の場合も鉄漿(かね)・お歯黒をつけることから,鉄漿親・(筆つけおや)を頼み，あるいは腰巻を送るへこおやもある。成年式を男子の場合，ふんどしいわい(へこいわい・たふさぎいわい)とよばれ,女子の場合へこいわい・(ゆもじいわい)というのは，そうした仮親を通じて成年になった印がつけられ，贈られるからである。これら身体装飾・身体変工には，大きく分けて以下のような特徴が見いだせよう。①頭部装飾の型：剃髪・結髪あるいは冠・烏帽子の着用である。これは女子にはみられず，男子の成年式の特徴である。②腰部装飾の型：男子であればふんどし，女子であれば腰巻が仮親から贈られる。③身体変工の型：鉄漿付け，手甲の文身，割礼がある。その他，顔や手足・胴などに彩色を施すものもある。日本では女子の身体変工はみられるが，男子にはない。身体彩色や割礼および肉体に傷をつける風習は，前記の試練の意味を伴って広く未開社会に行なわれている。

こうした一連の成年式は，若者宿における成人としての一般的知識や技術の習得と切り放せない関係にある。日本の場合，成年式が同時に若者組への加入の儀礼であるのもそうした理由による。若者宿，あるいは娘宿*を出るとき，そこには人生の第2の契機，既婚の世界へと至る結婚式があるわけである。成年式は単に個人の人生儀礼の象徴としてだけではなく，成年式を媒体とした年齢階梯制の秩序がそこに反映しており，成年式のあり方から各社会・各民族の相違をうかがい知ることができよう。→成人の日　〔渡辺欣雄〕

せいねんだん　【青年団】　広義には，青年を構成員とする組織的集団をさすが，特に，14～24歳の青年を中心に心身の修養，社会奉仕などの目的で組織された自治的な団体をさす。日本の村落には古くから若者組*・若連中とよばれる未婚青年の組織が普遍的に存在していたが，明治時代，山本滝之助(1873～1931)は若者組の改革を図り，各地に夜学会あるいは青年会を組織する運動を起こした。政府もしだいにその意義を認めて指導と助成に乗り出したが，この傾向は日露戦争後急速に強まって，戦後の荒廃した農村を復旧しようとする地方改良運動の一手段に利用されるようになった。青年団の育成には，つねに，陸軍省の指示が介在し，1917年(大正6)の中央報徳会の青年団中央部を中心に全国的組織化が図られ，1924年に大日本連合青年団が結成されて，青年団は国家的な青年指導・中央統制の手に握られていった。こうして青年の自主性のみなぎった青年団はしだいに影を潜め，軍国主義遂行の一環として動員されていった。第2次世界大戦後は曲折を経て，1951年(昭和26)全国地域青年団の連絡協議組織として日本青年団協議会を結成。さらに1954年には，青年問題研究集会を開催，青年生活の向上，平和で民主的な社会の創造というスローガンを掲げ，青年運動的色彩を濃くするようになった。しかし1955年ごろからの産業近代化によって，その存立の基礎がゆすぶられてきている。〔斎藤昌男〕

せいねんドイツは　【青年ドイツ派】　1830年代にドイツで隆盛した革新的な文学運動。ロマン派の退嬰(たいえい)的・非社会的傾向とは逆に，文学を国民生活に密着させ政治にかかわらせることを唱えた。フランスの7月革命に影響された自由主義的な青年たちがこの派に所属したが，厳密な意味では文学的党派とはいえず，1835年ドイツの連邦議会が〈青年ドイツ派といわれる文学党派〉の全活動を禁止したため,この名称が固定した。グッコー・ラーベ*・ウィーンバルク・ハイネ*らが，この派の代表的文学者である。〔井上正蔵〕

せいねんトルコとう　【青年トルコ党】　19世紀末から20世紀初めにかけてオスマン-トルコ帝国*で活動した愛国主義者の結社。軍人階級を中心として集まり，当時のスルタン・アブドゥル-ハミド2世の専制に反対し，停止されていた憲法の復活と立憲制度の樹立を目的とした。運動の初期に弾圧を受けて主要メンバーはパリに亡命して本部を置いたが,1908年にエンベル-パシャの指導のもとにサロニカで蜂起(ほうき)し,無血革命に成功。以後は正式な政党として発足し，10年余政局を担当したが，内政面の改革に失敗してついに分裂した。ケマル-アタチュルク(パシャ)はこの党の出身である。〔斎藤淑子〕

せいのてつがく　【生の哲学】　近代の観念論哲学や科学的合理主義に反対し，理性的認識よりも非合理的な生をもって現実をとらえようとする一連の思想をいう。この哲学は概念的思惟(しい)による生の固定化を排し,生の現実を運動・生成・飛躍において了解しようとする。ニーチェ*を先駆者とするが，今世紀にはいっていくつかの潮流を生んだ。①ベルグソンによると，実在は生命の不断の流れ，根源的躍動であるが，概念的思惟や実証的方法は運動を静止に，流れつつある時間を流れた時間に，すなわち空間的な量に置き換えてしまう。生成中の真の実在をとらえるには，その流れを内側から直観しなければならないという(→エラン-ビタール)。②ディルタイは歴史的・社会的現実としての生を了解することを根本課題とし，精神科学の基礎となる解釈学を唱え，歴史的生の全体的な連関を記述することをめざした。③プラグマチズムはアメリカのジェームズやデューイを代表者とし,多元論的・経験主義的傾向をもち，真理の基準を有用性に置く。しかし，最終的には科学主義的色彩をおびるという点で，ベルグソンやディルタイの思想とかなり違ったものとなっている。〔飯塚勝久〕

せいはいものがたり　【聖杯物語】　《アーサー王伝説*》に含まれている物語で,キリストが最後の晩餐(ばんさん)に用い，さらにキリストが受難のときに流した血を受けたと伝えられる聖杯を，円卓の騎士たちが捜し求める話を主題とする。中でもクレチアン-ド-トロワ*の《ペルスバル》(または《聖杯物語》)は，聖杯探索の物語に，神を求め続ける魂の遍歴を象徴させた作品で，12世紀に書かれた。

せいバルテルミーのぎゃくさつ　【聖バルテルミーの虐殺】　1572年8月24日聖バルテルミーの祭日に，パリで旧教側が新教徒(ユグノー*)を虐殺した事件。当時新教徒の首領コリニーはユグノー戦争*に介入するスペインとの開戦を企て，シャルル9世を味方に引き入れた。これに対し摂政后カト

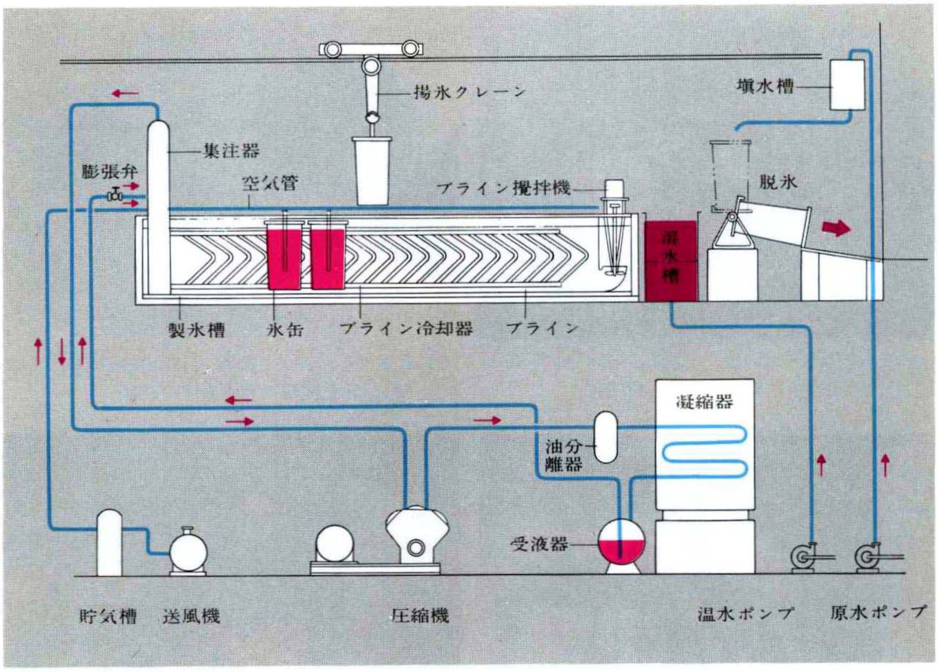
リーヌ-ド-メディシスは旧教徒の首領ギーズ家*と結んでコリニーを除こうと，その日未明サン-ジェルマン-ロークセロア寺院の鐘の音を合い図に突如新教徒を襲撃した。そのためコリニー以下数千の新教徒が虐殺された。この争乱はさらに全国に波及して数万の犠牲者が出たと伝えられる。しかし虐殺はなんらの解決をもたらさず，ユグノー戦争*はこれを契機にいっそう燃え上がり宗教戦争は激烈をきわめた。〔大野真一郎〕

せいはん【正犯】 犯罪の実行行為を行なう者をいい，共犯*に対する。自分が直接犯罪行為を行なう場合を直接正犯，他の人間を利用して犯罪行為を実行させる場合を間接正犯*，数人が共同して犯罪行為を行なう場合を共同正犯*という。ただし，正犯の犯罪行為を教唆する教唆犯*，幇助(ほうじょ)する幇助犯*は間接正犯ではなく，前者は共犯，後者は従犯*に属する。

せいひ【性比】 同種類の動物での雌雄の個体数の割合。ふつう，性比を表わすのに，雌を1または100としたときの雄の数，または全個体数に対する百分率で表わす。性染色体によって性が決定されるときは，理論的には雌雄で同数ができ，実際にもおよそ同数である。しかし，性比は必ずしも1：1にならず，雌雄間の死亡率の違いなどが原因となって一方の数が多くなることがある。また，年齢の変化に伴って性比が変わることもある。これらのことから，受精時の性比(第一次性比)，出生時の性比(第二次性比)，それ以後の性比(第三次性比)と区別することもある。ヒトでは人種によっても性比に差がある。また，出生時は平均して男子がやや多い傾向にあるが，年齢が高くなるにつれて少なくなる。これには種種の社会的な原因が関係していると考えられる。また，人工授精によってできた子どもには男子の割合がやや多いということもいわれているが，その原因については必ずしも明確でない。高等な哺乳(ほにゅう)類の性比が出生の季節によって違いがあるということもいわれているが，必ずしも明確とはいえない。動物によっては性比が著しくかたよっているものもあり，アリマキが単為生殖で発生すると，全部雌になることはよく知られている。〔蒲原春一〕

せいび【成美】 (1749～1816) 江戸後期の俳人。夏目氏。本名包嘉(かねよし)。別号は随斎・不随斎・四山道人など。江戸蔵前の富裕な札差(ふださし)井筒屋の主人。俳諧(はいかい)は特に師をもたないが，化政期の三大家のひとりに数えられ，俳交も広く，また小林一茶*の庇護者(ひごしゃ)であった。文章に長じ，文集に《四山藁(しざんこう)》がある。

せいひょう【製氷】 人工的に冷凍機で水を冷却して氷をつくること。一般的な製氷装置は135kgの角氷をつくるアイス罐(かん)式で，そのほか厚さ2～3mmのリボン状の氷をつくるフレークアイス，円筒状の氷をつくるチューブアイス，豆炭状の小形氷雪をつくるパックアイス，薄い砕氷片をつくるチップアイスなどがある。角氷をつくる製氷装置は，製氷槽(そう)とよばれる鋼板製の大形水槽にブライン(塩化カルシウム水溶液)が満たしてあり，この中に設備された冷却器に冷媒液を膨張弁で減圧して送ると，冷媒はブラインから熱を奪って蒸発しガスになる。蒸発したガスは圧縮機に吸い込まれ，圧縮されて高い圧力のガスになる。このガスを凝縮器で冷却すると液体になって受液器にためられ，再び膨張弁を通って冷却器に送られ，ブラインを－10℃内外に冷却する。この冷えたブライン中に原水を入れた氷罐(亜鉛めっき鉄板製の容器)を規則正しく並べて浸して置き，攪拌機(かくはんき)でブラインの冷却器を通しながら氷罐の間を循環させると氷罐中の原水は外部から結氷してくる。氷罐中の水を静止状態のまま結氷させると不透明な氷になるので，氷罐中に圧縮空気を細い管を通して入れて原水を攪拌させると，原水中に含まれている不純物や空気泡(ほう)が原水から分離して凍結しないで中央に残る。これをポンプで吸い取り新鮮な水に入れ換え結氷させる。135kgの氷をつくるのに必要な熱量は，約18,400kcalで，凍結するに要する時間は約48時間かかる。冷媒はアンモニアが多く小形氷の製氷装置にはフレオンも使われている。〔大島 武〕



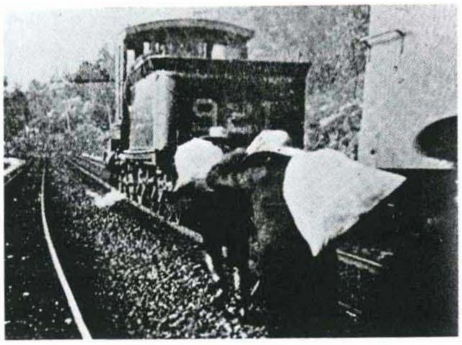
製　氷 製氷工程のしくみ

せいひょう【星表】 恒星*・星団*・星雲*などについて，その天球上の位置・明るさ・距離・スペクトル型・視線速度・固有運動などの諸特性を明らかにした一覧表。世界最初の星表は，BC250年ごろプトレマイオス*が著わした《アルマゲスト*》の中に含まれる。1～6等星1,028個の位置を黄道座標で表わしたものである。

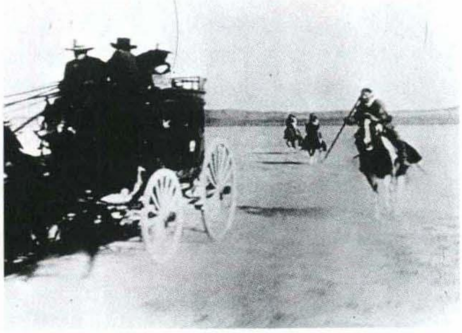
せいびょう【性病】 性交またはそれに類似する行為によって男女間に感染する伝染病。俗に花柳病ともいう。おもに淋病*(りんびょう)・梅毒*・軟性下疳*(げかん)・鼠径(そけい)リンパ肉芽腫*(にくがしゅ)(第四性病，ニコラ-ファーブル病ともいう)があげられ，それぞれ特徴ある臨床症状を示す。

せいびょうほう【青苗法】 中国，宋(そう)の王安石*の新法の一。春，穀物の苗が青いとき政府が農民に低利の銭を貸し，秋の収穫後に穀物で返済させる金融法。返済期に穀物が高ければ銭で返してもよかったが，2割以上の利息を取ることは禁止された。高利の貸付が不可能となった地主の猛反対を排して実施された。

せいふううんどう【整風運動】 中国共産党*の党員の教育運動。1942～1943年，日中戦争中の延安を中心とする解放区で行なわれた運動が原型である。整風とは〈三風整頓(せいとん)〉のことで，学風＝学習の態度，党風＝党活動のあり方，文風＝報告・文章表現の方法をさす。以上三つの活動を根本的にたたきなおして，共産党を革命の党にふさわしく改造しようとしたのである。中華人民共和国成立後も，土地改革から社会主義建設への時期まで，共産党が重要な課題に直面するに際して，大衆と深く結びつくための党内教育運動としてしばしば推進されている。基本は党員の活動のさまざまなゆがみを正すことにあるが，教育運動は党外の知識人にも広く及んで，古い教養の中に育った知識人たちをマルクス主義＝毛沢東思想に目ざめさせる作用を果たした。この意味で，特に中華人民共和国以後の運



《大列車強盗》(ポーター監督，1903)西部劇の最初であり映画の可能性を広げた作品



《駅馬車》(フォード監督，1939)映画独自の激しい動きを表現した西部劇の古典



《真昼の決闘》(ジンネマン監督，1952)心理描写と活劇場面とを西部劇の中に取り入れた



《西部開拓史》(フォード・ハサウェイ・マーシャル監督，1962)シネラマの大画面を生かしたオムニバス西部劇

西　部　劇

動は，思想改造運動ともいわれる。〔斎藤秋男〕

せいふうひょうりゅう　【西風漂流】　偏西風帯を流れる寒流の吹送海流で西風海流ともいう。南半球の南緯40～50°一帯を東流し，アフリカ大陸・オーストラリア大陸・南アメリカ大陸の南を環流しており，その勢力は強く，帆船時代に東へ向かう船はこの海流を利用して航海した。支流が，アフリカ西岸でベンゲラ海流，オーストラリア西岸で西オーストラリア海流，南アメリカ西岸でペルー(フンボルト)海流となって大陸沿いに北上し，遠くは赤道付近に達している。〔長津一郎〕

せいふかんかいじきょうぎきかん　【政府間海事協議機関】　Intergovernmental Maritime Consultative Organizationの訳。略称IMCO。国際連合専門機関の一。海上の安全など，国際海運業務に関する政府間の協力を目的とし，そのために勧告・審議をし，協議・情報交換をはかる。1948年3月ジュネーブの国際海事会議で設置を決定し，1958年3月成立。本部はロンドン。総会(2年ごとに開催)・理事会(国際的船舶供給国8，国際海上貿易国8)・海上安全委員会事務局で構成される。日本は1958年(昭和33)4月に加盟。加盟国は68(1969)。〔広部和也〕

せいふく　【制服】　特定な目的をもつ集団において着装するように制定された服飾の総称。ユニフォーム。集団の種別や目的によって種類が多い。国民服・団体服・軍服・警官服・消防服・乗務員服・作業服・事務服・学生服・園児服・看護服，その他特定の職業服など，すべてその形式は画一的・類型的・機能的であるとともに象徴的であることを特色とする。その集団の目的や任務の遂行を完全にするために必要な要素を備えていなければならないからである。〔小川安朗〕

せいぶげき　【西部劇】　アメリカ西部を舞台とする活劇*映画。ウェスタンの訳。1820年代から1910年前後までを時代背景に，西部地方開拓の意欲に燃える人々の闘争，あるいは南北戦争などが描かれる。カウボーイや流れ者などの西部男，インディアン，幌(ほろ)馬車などを主役とし，大自然を舞台に拳銃(けんじゅう)による闘争を通じて物語を展開するもの。西部劇の誕生は，1903年のエドウィン-S.ポーター監督の《大列車強盗》とされ，わずか数分の単純な活劇の無声映画*であったが，これがビリー-アンダーソンやウィリアム-S.ハートらの西部劇スターを生み出す基盤ともなった。1910年代にはデ-ミルの《スコー-マン》など劇的な要素をもつ作品が登場，1920年代にはクルーズの《幌馬車》やフォード*の《アイアン-ホース》など，スペクタクル映画*としての西部劇が現われた。1930年代以降は，トーキー*の名作が続出して，西部劇は多様な表現方法・内容をもつようになった。代表作として，フォードの《駅馬車》《荒野の決闘》，スチーブンスの《シェーン》，ジンネマンの《真昼の決闘》，ワイラーの《大いなる西部》などが著名。西部劇の名監督には，ホークス・ビダー・スタージェスら，また西部劇スターには，ジョン-ウェインやクーパー*らがいる。なお，1950年代末からヨーロッパでも西部劇がつくられはじめ，中でもイタリア製の西部劇は通称マカロニウェスタンとよばれ，その残酷な活劇の場面によって多くの観客を集めている。〔高沢瑛一〕

せいふたんきしょうけん　【政府短期証券】　政府が発行する短期債で，現在わが国では，大蔵省証券・食糧証券・外国為替(かわせ)資金証券の3種がおもに発行されている。いずれも一時的な資金不足を補うために発行され，年度内あるいは1年以内償還がたてまえとなっている。大蔵省証券(略して蔵券ともいう)は，一般会計における歳入・歳出の時期的ずれによる現金の一時的不足を補う目的のものである。ふつう日本銀行が引き受けるが，その最高限度は毎年度国会の議決を経なければならず，またその償還については，当該年度の歳入をもってなされなければならないとされている。食糧証券は，食糧および農産物の買い入れ代金にあてるために，食糧管理特別会計*の負担において発行されるものであり，外国為替資金証券は，外国為替資金特別会計*において，外国為替などの売買にあたって生ずる円資金不足を補うために発行されるものである。〔西野義彦〕

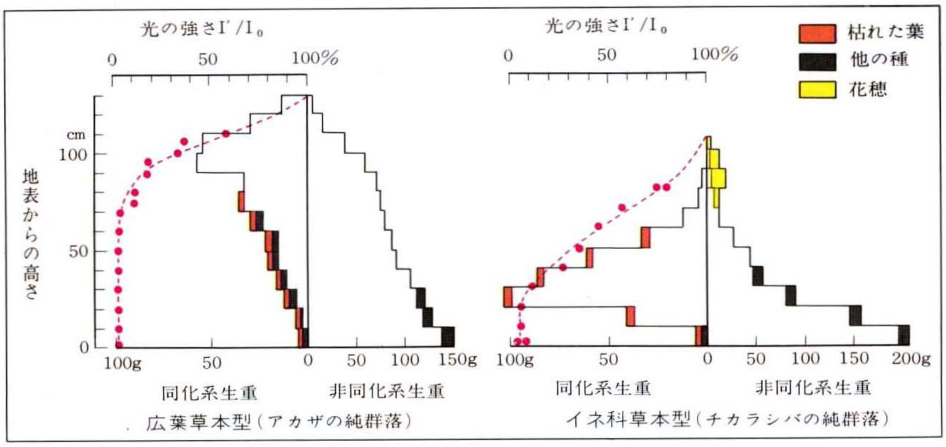
せいぶつ　【生物】　生物の特徴を単一の規定で表わすことは不可能であるが，おおまかに〈物質およびエネルギーの転換を行ない，外部に対しても内部の部分間においても自己調節の能力をもち，生長と自己増殖をなす存在である〉と定義することができる。しかし，ウィルスはみずからは物質・エネルギーの転換を行ないえず，したがって増殖も他の細胞内でしかなしえない。また，このような諸機能は，生物の種類により，異なる程度に異なる方法で果たされるので，結局は，無生物から原始生物を経て，細胞構造をもつ生物が出現し，さらに単細胞生物から多細胞生物へ，高等動物と高等植物へと進んでいく過程，つまり進化の過程を考慮に入れなければ，生物の概念を的確に把握(はあく)することはできないであろう。〔中村禎里〕

せいぶつが　【静物画】　それ自身では動かず，しかも生命のない，草花・果実・書物・楽器など，日常に使用する器物などを単独の主題として描いた絵。人物の周囲に描き込まれている場合には，静物画とはいわない。宗教画とか歴史画*とは異なり，目に見える現実の世界を芸術的感興の源とするもので，古くはポンペイなどの壁画*に残っている。14世紀末にネーデルランドやその近隣で，宗教画の中などにも細密な静物の描写が現われ，それが時代の下るにつれて絵画の独立した分野となり，17世紀にはスペイン・フランスなどで盛んに行なわれ

た。18世紀のシャルダン*や，19世紀の印象派*の画家，ことにセザンヌ*・マネ*・モネ*らの作品が有名である。　〔宍戸　直〕

せいぶつかがくへいき　【生物化学兵器】　生物兵器と化学兵器の総称。細菌・リケッチア・ウイルス・原虫などの微生物やそれらに由来する感染性の物質で，人間や動植物に病気あるいは死をひき起こすことを意図し，その効果が現われるのは攻撃される人間や動植物の中でそれらが増殖する能力によるものを生物兵器という。これは以前は細菌が主たる手段であったため細菌兵器とよばれていた。一方，人間・動植物に対する直接的な毒性効果のために用いられうる気体・液体・固体のいずれかの化学物質を化学兵器とよび，俗にいう毒ガスが含まれる。この２種の兵器は，ともに生理的機能の化学的・物理化学的反応を攪乱(かくらん)して威力を現わすので，個体の構造や建築物を破損しない，大量殺戮(さつりく)兵器であるなど，共通した点が多いので一括して生物化学兵器もしくはＢＣ兵器とよばれている。近年，化学や生物学の発達により，微量で有効な兵器が開発され，また散布手段も発達したので，1925年に戦闘における使用を禁止したジュネーブ協定を再確認し，全面禁止へ発展させようとする世論がたかまっている。　〔和気　朗〕

せいぶつがく　【生物学】　生物もしくは生命に関する科学的研究。生物学は系譜的には博物誌と生理学・解剖学に源を発する。この両者を合流させ，生物学を体系化した最初の人は，アリストテレスである。中世になるとその伝統はすたれるが，16〜17世紀にはロンドレーらによって博物誌が，ベサリウスらによって解剖学が復活し，コイテル・ハーベーらは両者を再び結びつけて，比較解剖学と実験生理学の分野を生み出した。一方，博物誌の中でも植物を中心とした分類の研究が同じころから進み，16世紀のチェザルピノから18世紀のリンネに至るまでに，科学的な分類体系がしだいに完成していった。ハーベーに始まる生理学は，17世紀後半にボイルらの呼吸の研究に受け継がれ，18世紀末にラボアジェは呼吸の本質を明らかにした。18世紀半ばから実験的研究は，人体と動物の生理学以外の分野にも広がり，発生学・遺伝学・植物生理学においても力をふるいはじめる。実験・記載を含めたこれらの研究の成果は，19世紀半ばにダーウィンの進化論として結実した。これとほぼ前後して細胞説*の確立，ベルナール・リービッヒ・パスツールによる生化学と微生物学の創始，メンデルやルーによる遺伝学・発生学の精密化が進み，生物学は飛躍的に発展した。20世紀にはいってからは，博物館に残留していた部分が生態学として科学化され，細胞学・生化学が生命の本質に肉薄するとともに分子生物学が誕生して，これは近代物理学と連携しつつ生物物理学として脚光を浴びている。　〔中村禎里〕



生物生産　図-1　草本群落の生産構造にみられる２型(門司・佐伯 1953)　だいだい色の部分は枯れた葉を，黒の部分は他の種を示す。同化系は葉，非同化系は茎・花をいう。I_0は群落に注いでいる太陽光の強さ，I'は群落内のそれぞれの高さの光の強さを示す

せいぶつがん　【生物岩】　沈殿岩*の中で，その生成に生物が関与しているものをいう。石炭*はもちろんのこと，石灰岩*やチャート*も大部分は生物岩と考えられる。

せいぶつきせつ　【生物季節】　生物指標を用いて気候(季節)評価を行なったもの。発芽・開花・産卵などの生物の生活史上の現象は，気温・降水・日長などの条件に大きく影響される。したがって，５℃以上にならなければ発芽しない植物ではその発芽の開始が，産卵開始のために水温15℃以上を必要とする動物ではその産卵開始が，それぞれの気候条件の具備をおよそ示すことになる。南北に長いわが国では，開花などが南から北上したり，北から南下したりする現象がみられる。暖かさや長日を要するサクラやスミレの開花，ツバメの渡来は南からの，寒さや短日を必要とするキクやススキの開花は北からの季節変化を示している。　〔船越真樹〕

せいぶつせいさん　【生物生産】　生態学用語で，生物学的生産ともいう。生産とは本来消費に対する概念として用いられている経済学用語である。生物生産は生物の生活の経済学＝物質生産の生態学(生物生産論)で用いられている。

緑色植物は光合成によって二酸化炭素と水とから有機物を生産し，太陽エネルギーを固定する。この有機物は植物体の新しい構成材料となり，一部は生命活動のエネルギー供給源として消費されていく。植物体の生長はこの物質収支の結果なりたち，もし収支がマイナス(呼吸によって消費される有機物量が光合成によってつくられるものより多い)になれば，植物はやがて枯死する。デンマークの生態学者ボイセン-イェンセンは，以上のような見方から植物の生活を解析しようと試み(1932)，総生産量＝生長量＋枯死量(被食量を含む)＋呼吸量の式を提案した(総生産量とは一定期間につくられる有機物の総量)。このようにして得られる一定期間の有機物生産量をその植物の生産力という。最近用いられている植物群落の物質収支表を表-１に示す。総生産量から呼吸量を引いたものを純生産量といい，枯死体や動物に食われた部分をも含め，一定期間に真の意味で植物体を形成した量を表わす。

植物体を調べてみると，光合成の大部分を行なっている葉と，光合成よりむしろ呼吸消費の大きな茎・根・花などの２部に分けて考えることができる。そこで植物群落

生　物　季　節

	ツバメ		モンシロチョウ		ソメイヨシノ		カエデ		
	渡来日	渡去日	出現日	その日の最低気温	開花日	満開日	発芽日	その日の最低気温	紅葉日
札幌	4.27		4.30	2.4℃	5.12				10.9
仙台	4.20		4.15	3.2	4.19	5.8			
東京	4.10	9.19			4.1	4.9			
金沢	4.6	10.13	3.31	3.4	4.5	4.12	4.16	6.2℃	10.23
京都	3.31	10.18	3.18	0.9	4.8	4.15	4.3	3.6	11.25
広島	3.26	10.11	3.16	2.5	4.1	4.9	4.4	5.8	9.10
高知	3.26		3.7	3.3	3.27	4.3			
鹿児島	3.13	9.17			3.31	4.7			

(大後・鈴木 1950から)

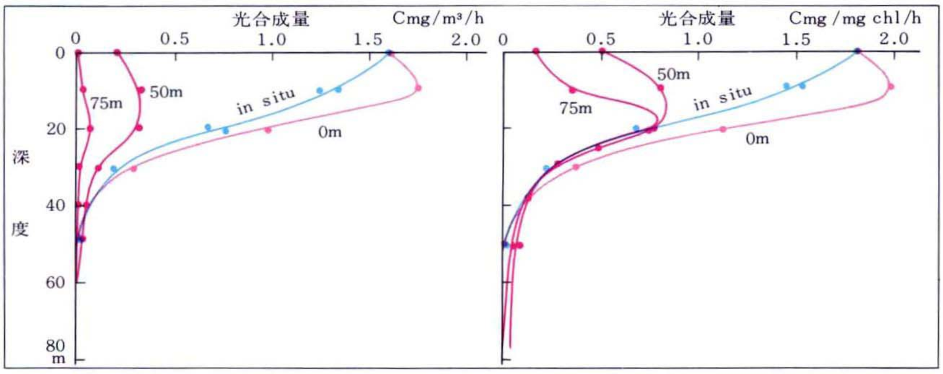


図-2　海洋の生産量の変化(駿河湾)(宝月ほか 1969)　左は植物プランクトンを含む海水1m³あたりの炭素の取り込み量を，右はクロロフィル量あたりの炭素の取り込み量を示す。in situはある深さから採集したプランクトンを再びその深さにもどしたとき，50mは深度50mから採集したプランクトンを各深度に置いたものを示す

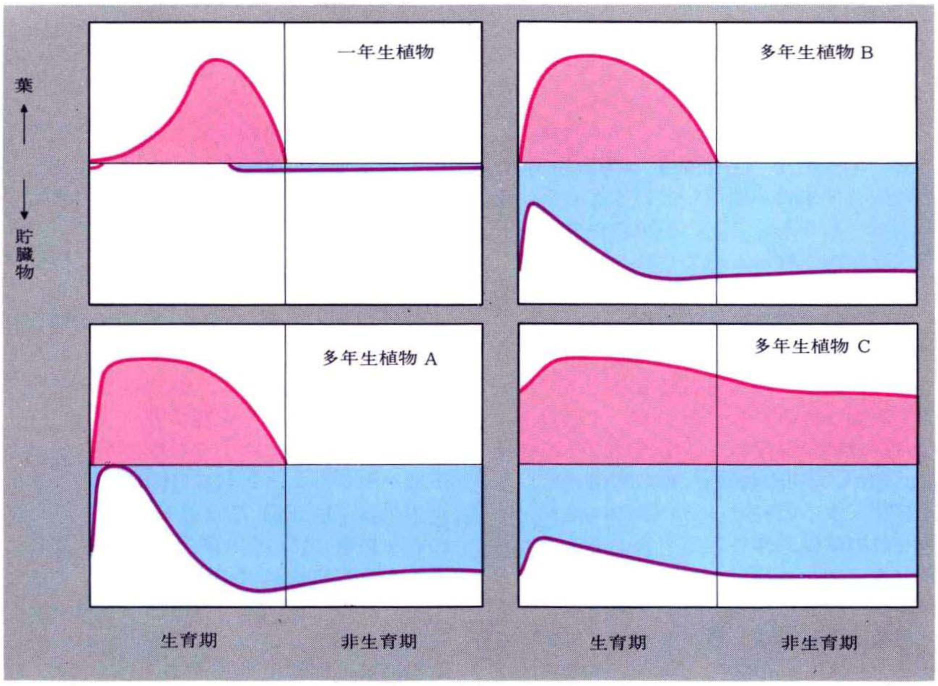


図-3　物質生産過程の類型(翠川 1959)　一年生植物は種子から発芽するため，初期の生長はおそい。多年生植物Aはジャガイモなどが含まれ，前年に貯蔵された物質のほとんどを用いて急速に生育し，再びいもや球根などの形でたくわえる。多年植物Bはブナなどの落葉植物などが含まれる。多年生植物Cにはスギなどの常緑樹が含まれる

生物生産

表-1　植物群落の物質収支表(時間t_1〜t_2)
(全個体群について示したもの)

収　　入	支　　出
y_1：t_1時の現存量 (前期からの繰り越し量) ΔP_g：総生産量	ΔR：呼吸消費量 ΔL：枯死量 ΔG：被食量 y_2：t_2時の現存量 (次期への繰り越し量)
$y_1+\Delta P_g$	$\Delta R+\Delta L+\Delta G+y_2$

小川 1967

表-2　動物個体群の物質収支表(時間t_1〜t_2)
(全個体群について示したもの)

収　　入	支　　出
y_1：t_1時の現存量 (前期からの繰り越し量) ΔA：同化量	ΔR：呼吸消費量 ΔU：代謝終産物量 ΔL：脱落・死亡量 ΔG：被食量 y_2：t_2時の現存量 (次期への繰り越し)
$y_1+\Delta A$	$\Delta R+\Delta U+\Delta L+\Delta G+y_2$

依田 1971

を地表から先端まで等間隔に切り取り，その位置の現存量で表わしたもの(図-1)を陸上植物の生産構造といっている。このようにして植物群落の生長をながめると生産した有機物を植物体の各系器官や呼吸基質へ分配し，つくられた器官がさらに多量の有機物を生産する過程，すなわち生産→分配→拡大再生産の過程とみなすことができる。これを生産過程といい，生物生産論(生産生態学)の主要な研究対象となっている。生産過程の類型の一例を図-3に示した。

動物の場合にもこうした研究が進められており(表-2)，植物の総生産量に相当するものが同化量である。なお動物では摂食量から糞(ふん)などの不消化排出量を引いたものが同化量に相当し，同化量から呼吸消費量と代謝終産物量を引いたものは純生産量である。動物には植物と異なった多様性(植食・肉食・腐食)があり，各種個体群は植物にみられない物質収支を示す。➔生態系　〔船越真樹〕

せいぶつちりがく　【生物地理学】　生物の地理的分布を問題にし，そのなりたちや分布の原因などの諸問題について研究する学問。生物地理学の分科である生物区系地理学は地球上の各地域の動物相(ファウナ)や植物相(フロラ)の分布を扱い，生物生態地理学は地域によって生物の生活のあり方の違いを問題にしている。対象とする生物によって動物地理学・こん虫地理学・植物地理学などにも分けられる。

せいぶつてきぼうじょ　【生物的防除】　生物を用いて害虫(線虫や雑草を問題にすることもある)を防除すること。この着想はかなり古くからあったが，それが実用化されたのは19世紀の後半にはいってからのことである。近年強力な農薬の多用によって天敵*の勢力が弱まり，ある種の害虫ではいつでも大発生を起こしうるような潜在的勢力をもつに至ったといわれる。そこで今後は生物的防除に力を入れるべきだとの主張が出てきた。これまでの生物的防除の多くは害虫の原産地からその天敵を輸入し，これを放し飼いにして繁殖するに任せて害虫の撲滅を図ったもので，ミカントゲコナジラミに対するシルベストリコバチの例などが典型的なものである。最近では有力な天敵を人工的に大量増殖して放し飼いするという方法が考えられてきた。また利用する天敵もウイルスとかバクテリアのような微生物にまでその範囲が拡大してきたことは注目すべきである。➔生物農薬〔深谷昌次〕

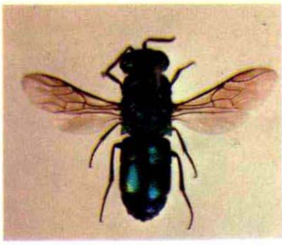
せいぶつのうやく　【生物農薬】　生物的防除は農薬による防除に対応する一つの分野であるが，一方大量生産した天敵を農薬と同じように圃場(ほじょう)に散布，あるいは放し飼いして，害虫防除の目的を達しようとするのが生物農薬のねらいである。この場合必ずしも天敵が圃場で繁殖定着することを予期していないので，散布は必要に応じ毎年実施されることになる。わが国ではすでに1920年代にニカメイチュウを防除する目的でズイムシアカタマゴバチの人工的大量増殖が行なわれ圃場試験にまで移され

たことがあり，その着想は必ずしも新しいものではない。最近ナシの害虫クワシロカイガラムシの防除にその天敵クワシロカイガラヤドリコバチが生物農薬第1号として登場した。その他マツケムシやアメリカシロヒトリの防除に多核体ウイルスが用いられたりまたバクテリアの1種バチルス-チュウリンギエンシスも欧米では早くから生物農薬として実用化されている。生物農薬の利点は天敵をそこなわないで目的とする害虫を選択的に防除できるところにあるが，防除効果が殺虫剤ほど速効的でない点，あるいは適用のタイミングなどに難点が残されている。〔深谷昌次〕

せいぶつはっこう【生物発光】 生物がなんらかの発光機構を備え，みずから発光すること。他の発光生物の寄生または共生による発光とは区別される。古くから発光生物として，発光細菌・ツキヨタケ・ヤコウチュウ・ウミサボテン・ウミホタル・ホタルなどが知られている。これらのうち，からだの全面が光るもの，特定の発光器を備えてその部分だけが光るもの，また発光物質を体外に分泌し，それが発光するものなどがある。生物発光は発光物質(いわゆるルシフェリンとルシフェラーゼ)の化学反応に基づくもので，その反応は酸素を必要とする複雑な酵素反応である。また放出される光は熱線を含まない冷光であることを特徴とする。発光が発光生物にとってどんな意味があるのか，ホタルの場合雌雄の交信に役だつという説もあるが，まだ想像の域を出ない。〔秋野美樹〕

せいぶてつどう【西武鉄道】 東京都西北部と埼玉県西南部の地域で地方鉄道とバス路線を経営する交通企業。1912年(明治45)武蔵野(むさしの)鉄道として設立され，1945年(昭和20)旧西武鉄道ほか1社を合わせて西武農業鉄道となり，1946年現在の社名に改めた。東京急行電鉄と並んで東京の私鉄コンツェルンを形成し，不動産事業を営む箱根土地会社(現在の国土計画)の系列下で急速な発展を遂げた。鉄道の営業キロ数178.8。主要路線には，池袋線(池袋～西武秩父(ちちぶ)間)・新宿線(西武新宿～本川越間)・拝島線(青梅橋(おうめばし)～拝島間)・多摩湖線(国分寺～多摩湖間)・多摩川線(武蔵境～是政(これまさ)間)などがある。〔青木栄一〕

せいふんき【製粉機】 各種穀類を粉砕し，これをふるい分けて精粉とする機械。代表的なものは小麦製粉機であるが，いずれも主要部は挽砕(ばんさい)装置とふるい分け装置からできている。挽砕装置には，昔から石臼(いしうす)型をはじめ円錐(えんすい)鉄臼型・衝撃型があるが，現在はほとんど使用されず，粉の品質向上に最適のロール型が用いられている。このロール型は，回転比の異なる2本のロールの間で穀粒を粉砕するが，ロール表面の速度が異なるので剪断(せんだん)による開皮や粉砕が行なわれる。ロールに



セイボウ

は表面の条溝(じょうこう)のついたもの(ブレーキロール)と滑面(レダクションロール)のものがあり，前者は破砕，後者は粉砕の作用をする。ふるい分け装置は，挽砕物をふるい分けして粉と麬(ふすま)とに分離する。ふるい地の材料は絹ふるい・金網・有孔打ち抜き金属薄板などがあるが，主として絹ふるいが用いられている。ふるい機には，回転式・振動式・揺動式などがあるが，中でも揺動式は所要動力が少なく効率が高いので重要視されている。〔米山偉瑳男〕

せいぶんほう【成文法】 文章で表わされ，文書の形式を整えた法。文書の形式をとらない慣習法*・判例法*などの不文法*に対し，国家の立法作用によって公布される制定法は成文法としての形式を備える。各国の法源の中でも優越した位置を占めているが，社会構造が複雑多岐にわたる現代では対応できない部分もでてきたので，不文法による補充が必要とされる。

せいぼ【歳暮】 年の暮れの贈り物をいう。夏の中元*とともに形式化し，儀礼的な面が強いが，本来はこの二つの時期は先祖の祭りをするときで，その子孫が食物を持ち寄って共同飲食するという行事が，いつか贈答という形に変化したものである。12月20日ごろから28日ごろまでの間に，日用品が歳暮として贈られるが，古くは魚類(塩ザケ・シイラ・するめ)や米粉などの食品が主であった。贈り先は，平素世話になっている人や目上の人に贈る例が多いが，地方によっては親，親方，里の親などに贈る慣習が残っている。〔渡辺欣雄〕

せいぼう【青蜂】 こん虫類・膜翅(まくし)目・セイボウ科のハチの一種，またはセイボウ科の総称。セイボウはオオセイボウともいい，体長12～20mm，体は強くふくらみ，側縁は前後に細まり，全体細長い楕円(だえん)状を呈する。頭部と胸部は緑色で，背面は大半が紫色，全体金属光沢が強い。翅(はね)は灰かっ色をおび，黒かっ色の翅脈が走る。雌は営巣中のスズメバチ類やトックリバチ類の巣中に産卵し，幼虫はその中でスズメバチなどが狩り集めた鱗翅(りんし)類の幼虫などを食べて生長する。北海道を除く日本全土のほか，朝鮮・台湾・中国からヨーロッパ南部・アフリカまで広く分布し，多くの地理的亜種に分けられている。成虫は8～9月に出現し，種々の花に集まる。

セイボウ科は全世界から1,500種以上が知られ，日本にも数十種が分布する。体長2mm内外の小形種から20mmを越す大形種まであるが，いずれも金属光沢がある。また，いずれも寄生性で，ハキリバチ類・ハナバチ類・トックリバチ類・ドロバチ類など単独生活をするハチ類の巣に寄生するほか，イラガ類など鱗翅類の繭に寄生する種類も知られる。成虫は，春から初秋にかけて出現し，昼間活動性で，各種の花，枯れ木・軒下・電柱などに好んで集まる。セイボウのほか，ホソヨツバセイボウ・ヨツバコセイボウ・ミドリイツツバセイボウ・ミスジムツバセイボウなどが日本に分布する代表的な種類である。〔鈴木邦雄〕

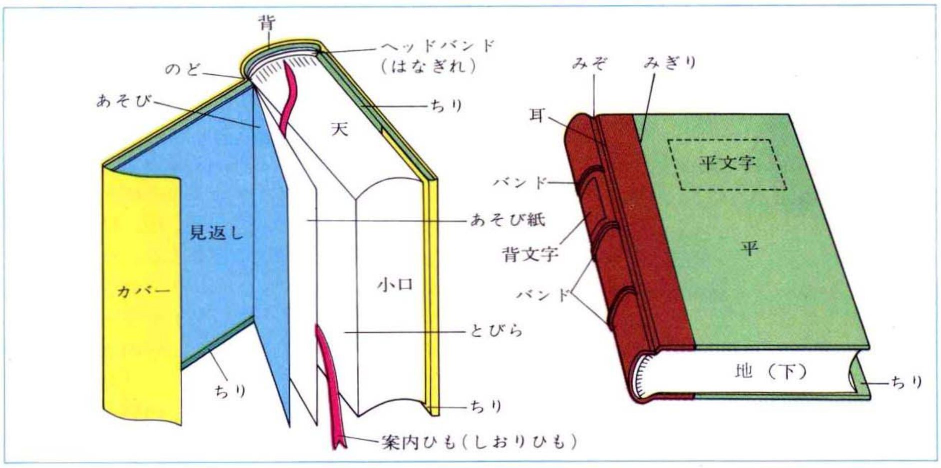
せいぼうき【精紡機】 紡績*工程の最終段階において紡績する機械。一般に原料繊維を解繊・梳繊(そせん)・粗紡の工程を経てつくられた粗糸を，精紡機で引き伸ばしつつよりをかけて所望の番手の糸とする。精紡機にはふつうリング精紡機・ミュール精紡機の2種がある。前者は連続的によりかけと巻き取りを行なう方式で，綿紡績・麻紡績・梳毛紡績・化繊紡績に用いられる。後者は断続的によりかけと巻き取りを交互に行なう方式で紡毛紡績に用いられる。このほかに加撚(かねん)機構の違いにより，フライヤー精紡機・キャップ精紡機がある。最近は粗糸の引き伸ばしの割合を増大して一度に細糸精紡を行なうハイドラフト・スーパーハイドラフトなどの装置，紡錘*に多くの糸を巻きつけるラージパッケージ方式などが発達して生産能率が向上している。〔小川安朗〕

せいほうけい【正方形】 ⇨四角形

せいぼさいぼう【精母細胞】 動物の精子が形成される過程でみられる特別な細胞。精原細胞が有原分裂をくり返して増殖したのち，一部は成熟分裂にはいる準備期間となって第一次精母細胞とよばれる。しばらく休止したのち，第1回めの成熟分裂をして第二次精母細胞となり，引き続いて分裂して四つの精細胞をつくり，これが構造変化を起こして精子となる。

せいホルモン【性ホルモン】 生殖腺(せいしょくせん)から分泌され，生殖器系の成長や発達を誘発・促進させ，第三次性徴の発現や生殖行動の誘起をも行なうホルモンの総称。脊椎(せきつい)動物にのみ知られており，雄では精巣から分泌される雄性ホルモン，雌では発情ホルモンと黄体ホルモンの2種の雌雄ホルモンがある。性ホルモンの分泌は，脳下垂体前葉の生殖腺刺激ホルモンによって支配されている。これら3種の性ホルモンの間には拮抗(きっこう)作用や相乗作用がみられる。たとえば，黄体ホルモンは発情ホルモンの発情誘起作用をおさえ，一方発情ホルモンの作用は非常に微量の雄性ホルモンの同時作用によって強められる。〔平野修助〕

せいほん【製本】 紙葉を順序正しくまとめ，糸または針金でとじ，あるいはのり

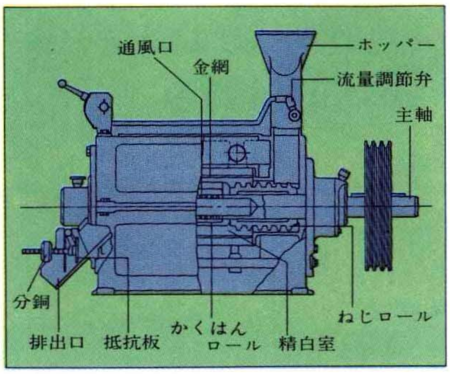


製　本

づけし，表紙をつけて1冊の本にまとめること。散逸を防ぐとともに翻読を便利にし，保存を目的とする。

〔製本の種類〕 製本を大別すると，和装(和とじ)本と洋装(洋とじ)本に分けられる。さらに用途から出版所製本と事務用品製本とに分けられる。出版所製本とは，雑誌・単行本・全集・事典など，出版所から刊行される本の製本をさし，事務用品製本とは，帳簿・ノート・びんせん・アルバムなど，主として文具店で扱うものの製本をいう。さらに，雑誌や書籍など，出版所から刊行される大量生産の製本を数物製本といい，学校や図書館または個人の愛書家などの注文で行なわれる古い本の修理，雑誌の合本・とじなおしなど，1冊1冊違った本を製本するのを諸(もろ)製本という。数物製本は，同一内容のものを同一材料を用い，同一工程で相当の部数を機械的に仕上げるが，諸製本は仕事の性質上ほとんど手工的になる。海外では特別製本といって，所蔵者の希望により表紙に特別のデザインを施し，金・銀・宝石などを散りばめ，1冊で数百ドルもするような豪華な装丁本をつくることがあり，それらの作品の中には，工芸品として展覧会などに出陳されることがある。

〔製本工程〕 本製本・仮製本・和装本など，それぞれに特有の工程があるが，ここでは本百科事典のような本製本(上製本)の作業工程を説明するにとどめる。製本の仕事は，印刷所で刷り上がった刷り本を引き取ることから始まる。まず，刷り本をページ順に折る。これには手折りと機械折りとがある。以前は1枚1枚手で折っていたが，今日ではほとんど紙折り機を用い，自動的に折るようになった。ページの大きさに折られたものを折り丁という。輪転印刷機を用い，巻き取り用紙を使用して大量に印刷される雑誌などは，印刷機に紙折り装置が併置され，印刷と同時に折り丁になって出てくるようなしくみになっている。紙折りがすんだら，折り丁をページ順にとりまとめ，1冊分の本にまとめる。これを丁合いという。



精米機　高圧系の噴風摩擦式精米機構造原理。玄米はホッパーから流量を調節されてねじロール部に落下，ここから金網とかくはんロールに囲まれた精白室に送られ，米粒相互の摩擦によって糠層を除く

丁合いには手丁合いと機械丁合いがある。製本の機械化に伴い，相当部数の本は並製・本製にかかわらず，ほとんど機械丁合いが採用されている。丁合いの終わった折り丁は，1冊の本にとじられる。とじ方(かがり方)にも機械とじ(かがり)と手とじ(かがり)があるが，これも今日ではほとんど機械とじに統一されている。糸や針金でとじる代わりに，無線とじといって，本の中身の背をビニル系の接着剤で接合する場合もある。

本がとじ上がったら，上下に見返し紙を張りつけ，平圧機にかけて締め，小口・天・地の順に断裁機で化粧裁ちし，所定の寸法に仕上げる。さらに，これらの三部分に装飾をこらすことがあり，部分と種類により天金・三方金・小口染め・小口マーブル・小口絵などがある。

次の工程は，背の丸み出しとバッキングである。本に丸みをつけるのは，本の美観を増し，開きをよくするためである。バッキングとは，丸み出しのすんだものの背に耳をもたせることで，この耳が表紙のみぞの部分と接合し，本の開閉をなめらかにする。丸み出しもバッキングも，以前はすべて手工作業によって行なわれたが，いまはすべて機械化されている。バッキングが終わったら，背に*寒冷紗(かんれいしゃ)を張り，案内ひもやヘッドバンドをつけ，背紙を接着剤で張りつける。これで本の中身はでき上がったことになる。本の表紙は，ふつう製本用の板紙を用い，本の大きさ・厚さなどによって，板紙の厚さを選定する。この板紙を中身の大きさより少し大きく裁ち，革・布・クロス・紙などの装丁材料でくるみ，金版で金箔(きんぱく)押し・色箔押し・から押しをするか，またはインキ刷りで文字や模様を入れる。

表紙ができ上がったら，表紙の背に丸みをつけ，中身に取りつける。さらに，表紙の裏と見返しの間にのり入れして両者を張り合わせ，締め機にかける。でき上がったものは全般的に検査し，カバーやセロハン紙をかけ，箱に入れて完成品とする。

〔製本の良否〕 製本の本来の目的は，本がばらばらになるのを防ぎ，使用と翻読を便利にし，文献の保存に適応させることにあり，それぞれの目的・用途に適する材料と技術によって，これらの条件を満たさなければならない。表紙ばかりきらびやかでも中身のとじ糸が切れて紙葉が飛び出したり，背固めがかたすぎて開きが悪かったり，表紙のあけたてのために，いくらもたたぬうちに表紙のみぞやのどが切れるなどは，けっしてよい製本とはいえない。〔庄司浅水〕

せいまいき 【精米機】 玄米を精白して白米にする機械。古来いろいろな原理に基づいて，種々のものが使用されてきたが，今日では円筒摩擦式または研削式が使用されている。前者は鉄製円筒の中で玄米に圧力をかけて相互に摩擦を起こさせ，玄米の表面をすり減らすものであり，後者は回転砥石(といし)で削るものである。個々の農家を対象とした小規模のもののほか，都市の精白業者用の大規模なもの，また，酒米用など，農家以外の業者用のものも多数使われている。また，麦の精白では，精米よりも強力な搗精力(とうせいりょく)を必要とするので部分的に精米機と異なる。

せいみつちゅうぞう 【精密鋳造】 寸法が精密で，表面がなめらかな鋳物をつくる特別な鋳造法。鋳物の機械仕上げをできるだけ省き，生産をスピードアップするために，多くの精密鋳造法が開発されている。そのおもなものは，インベストメント鋳造法・ダイカスト・シェルモールド法・ショープロセスなどである。

インベストメント鋳造法は，わが国に古くから伝えられたろう型法の近代化されたもので，第2次世界大戦後特に発達した。まずろうを65～80℃にとかし，金型に圧入してろう模型をつくる。次に，ろう模型を泥(どろ)状混合物の中に浸してその薄膜をつける。この混合物は，ケイ砂・アルミナなどの微粉末に，粘結剤としてエチルシリケートを混ぜたものである。その薄膜の表面

に砂を振りかけて，表面をざらざらにしておく。鋼板製の型わくの中にろう模型を置き，そのまわりに前述の泥状混合物を流し込み，常温で乾燥させる。これをさかさまにし，105～110℃に加熱してろうを流し出し，さらに1,000℃ぐらいに加熱して，ろぅの残査を除き，鋳型を硬化させる。できあがった鋳型に溶金を流し込む方法は，遠心鋳造法*や低加圧鋳造法による場合が多い。この方法はガスタービン・自動車・ミシンなどの部品の製造に利用されている。

〔加山延太郎〕

せいみんようじゅつ 【斉民要術】 中国の農業技術書。北魏(ほくぎ)の賈思勰(かしきょう)が532～544年ごろに著わした。巻頭に賈氏の作でない雑説が付され，以下総説・主穀・蔬菜(そさい)・果樹・樹木・畜産・醸造・調理などについてしるす。当時の最も進んだ乾燥地農法を記述しており，経済史研究の基本史料である。邦訳がある。

ぜいむかいけい 【税務会計】 税法(わが国についていえば所得税法・法人税法・租税特別措置法など)の規定に従って課税の対象としうる所得(課税所得)を計算するための会計のこと。一般に，課税所得の計算は企業会計における損益計算により収益と費用の差額として確定された企業利益を基礎にして，これに税務目的の観点から所得の修正または調整を施すことによって行なわれる。なお，企業会計上用いられる収益・費用という用語の代わりに，法人税法では益金・損金という用語が用いられている。

〔森川八洲男〕

せいむじかん 【政務次官】 各省庁に通常1名(大蔵・農林・通産の各省には2名)置かれ，大臣を補佐することを職務とする特別職の国家公務員。与党国会議員の中から選ばれるのが通例で，大臣の申し出により内閣が任命する。内閣総辞職にあたって，内閣総理大臣その他の国務大臣がその地位を失ったとき，同時にその地位を失う(国家行政組織法17条)。

ぜいむしょ 【税務署】 内国税の賦課・徴収にあたる地方出先の行政機関。国税庁および国税局の指導・監督のもとに，国税局が所掌している事務の一部を分掌する。わが国で最初に設置されたのは1896年(明治29)である。現在，全国に497あり，その規模の大小に応じてA級署からC級署まで三つに分かれている。内部機構としては，A級署で，総務課・徴収課・所得税課・法人税課・間税課の5課がある。なお，大口納税義務者の調査は，すべて国税局で行なっている。

〔西野義彦〕

せいむてんのう 【成務天皇】 生没年不詳。名は稚足彦(わかたらしひこ)。景行天皇の第4皇子，母は八坂入姫(やさかのいりひめ)。諸国に国造(くにのみやつこ)・県主(あがたぬし)を置いたというが，この天皇の実在性はかなり希薄である。陵墓は奈良市の狭城盾列池後(さきのたたなみのいけじり)陵。

せいめい 【姓名】 ⇨名まえ

せいめい 【生命】

〔生命論〕生命とはなにかという問題については，古くから機械論と生気論の対立がある。機械論は物質を支配する法則はそのまま生命現象にもあてはまるとする立場であり，生気論は生命には物質の法則とは絶対的に区別される独特の原理が作用しているという立場である。この対立は物質と生命が区別されたときから始まる。だが，このとき物理現象が生命現象から抽出されたということを忘れてはならない。これは原始社会では自然の擬人化，したがっていわば汎(はん)生命主義的自然観が一般的であったからで，このことは呪術(じゅじゅつ)や魔術の役割を考えるとき明らかであろう。すなわち，はじめ優勢であったのは生気論である。この傾向はギリシア人の英知をもってしてもくつがえすことはできなかった。しかし，近世の古典力学の成立に伴い，力学の法則は人体の重要な機能の説明に有効性を発揮し，たとえばハーベーの血液循環論のように，機械論の勝利をもたらした。これは，単なる無機物と，生物の身体を構成する有機物との質的相違という生気論のよりどころの一つに対する重大な一撃である。そして，のちの尿素の合成に始まる一連の有機化合物の合成における化学の成功は，完膚なきまでに生気論を打破した。自然科学と結びついた機械論の勝利はとどまるところを知らぬかにみえた。しかし，生命の合目的性の現象という新たな問題が生じた。この現象は単に仮象であって，最後には物理的・化学的法則，自然必然的因果法則によって究明されつくすのか，あるいはそれは還元不能な本質であるのかという問いである。ダーウィン*の進化論とその後の展開，細胞およびそれと不即不離の遺伝のメカニズムの解明など，機械論は果敢な努力を行ない，その努力は相当な成功を収めている。しかし，決定的勝利にはほど遠い。生気論はこの最後の拠点で機械論に対する反撃の機をうかがっている。なお，二つの立場を止揚すると称する全体論なる立場も登場している。これは，全体は部分の総和以上のなにものかであるという基本的立脚点の上に，無機物の特定の結合がその単なる加算的総和以上のまったく新しい全体となったのが生命現象であり，したがって部分に作用する物理的・化学的法則とは質的に相違する法則が生命には作用していると主張する。弁証法的唯物論は全体論を新しい装いを凝らした生気論と決めつけつつ，物質の弁証法的発展という視点から独自の試みを行なっている。

〔石井忠厚〕

〔生物学からみた生命〕18世紀の終わりごろまでは，多くの人々が生命は物質に命を与える非物質的なものと考えていた。一部には生命を物質の働きとしてとらえようとする者もあったが，大部分は観察を目的論的に解釈してすませてきた。この傾向を排除し，生物学を近代科学の一つにまで高めたのは，C.ダーウィン*である。これに続く生理学・生化学の発展や細胞学における諸成果は，生物が変化すること，本質的に生命現象はすべての生物に共通であること，生物を構成する物質は無機界のものと異ならないことなどが明らかとなった。現在，生物学は多くの分科に分かれ，いろいろな視点から生命現象が研究されている。それは無機環境まで含めた生態系を対象とする生態学から，分子内におけるエネルギーの動きまで対象とするような生物物理学に至るまで，幅広い物質レベルから生命現象を調べている。こうした広範囲の生物研究から引き出される生物であることの条件は，外部環境と相互関係をもちながら，そこから独立した物質の運動形態を保ち，同化と異化の動的平衡という全生体系の秩序が自己保存と自己増殖に向けられているということである。生物学の膨大な成果と関連諸科学とから，このような能力をもった物質の運動形態がどのようにして発生しえたか(生命の起源)，その発生のありうべき道筋を考察できるようになった。こうした仕事は，広大な生物学の分野を総括的にながめて，生命の本質を考える上に有効である。

ダーウィンが進化論を確立した時期は，パスツールが現存生物は無生物から発生しないことを証明して，自然発生説を打ち破った時代でもあった。ダーウィンがフッカーにあてた手紙の中で，始原的生物の発生は有機物の化学的進化によると考えられるが，当時の科学のレベルでそれに言及するのは不可能であると述べている。その後，多くの人が始原的生物を考察しているが，いずれも化学的進化の考察を欠いているため思いつきの域を出なかった。1932年，オパーリンによってはじめて天文学・地質学・生化学をはじめ，関連分野の研究成果を総合して，〈生命の起源〉が科学的に説明された。それは星間物質の進化の一般法則によって結論づけられるものであった。以後，各分野の科学者によって，幾多の可能性が実験室においても検討され，多くの修正が加えられたが，本質的にはオパーリンの説が受け入れられている。現在認められている生命の起源の可能な道筋は，以下のようなものである。

〔太陽系の誕生〕星間のちりとガスは長い期間を経て凝集していく。ガスのほとんどは水素からなり，その他の元素は極微量である。星間物質は，初めの角運動量を凝集体全体として保存しながら凝集し，回転しているので，引力により収縮して，ゆっくりと回転しながら熱を発するようになった重い中心核と，その周囲をより速く回転する小さな集合体が出現する。もし中心核が太陽よりも1.44倍以上大きな質量をもって

いると，熱核反応を起こして再び凝集体は分散してしまう。こうした歴史をくり返したのち，限界値より下の質量をもつ中心核が形成されるようになり，安定した太陽系の進化が始まる。この時期にある惑星で生物の発生する可能性が生じる。数十億年の平衡状態を経ると，太陽は赤い巨大な星へ変化して爆発し，白色矮星(わいせい)を経て崩壊する。中心核で核反応が始まって太陽となるとき，その爆発によって周辺部の星間物質は吹き払われるが，中心核を回っている小さな集合体は，中心核に近いものほど多くを吹き飛ばされながら残って惑星となる。したがって残された惑星のうち，生命発生の可能性をもつ星は限定されてくる。

【原始地球における化学進化】原始地球の大気は，初め水素とヘリウムが主と思われるが，地球の重力場では保持できずに拡散してしまった。その後地球の凝集によって内部が加熱され，生じたガスが地殻(ちかく)を破って噴出し，新たな大気となった。この大気はおもに水素・メタン・水・アンモニアであったと考えられる。酸素は多くの元素と化合していて，大気中には存在しなかった。この大気がエネルギーを受けて，種種の有機物を合成する源となった。想定される原始地球の大気組成に，いろいろなエネルギーを与えると，シアンHCNを主成分として，アミノ酸・糖・アルデヒド，さらにはアミノ糖・核酸・ポルフィリン核などの化合物まで生じる。エネルギー源として，火花放電・加熱・放射線・紫外線が使用されているが，原始地球では酸素がないため紫外線が主たるエネルギーであったと考えられる。今日隕石(いんせき)にみられるアミノ酸も，地球の大気圏への突入時のエネルギーによって生じたと考えられている。こうして生じた有機物は，水にとけ，雨となって地表に降り注ぎ，原始海洋にたくわえられたであろう。低分子の有機物は水溶液中で互いに反応し，高分子化合物へ進化していった。アミノ酸はペプチド，核酸はポリヌクレオチドへと，酵素反応に比べてはるかにおそくはあったが，生物の存在なしに重合していった。中でも現存生物にとっては猛毒であるシアンは，多くの複雑な含窒素化合物の前駆体となったと考えられる。これらの重合は粘土質の吸着剤に吸着され濃縮されて，より速く，より複雑な化学変化を遂げたであろう。これらの反応には酵素には劣るが，触媒作用が働いた。たとえば鉄の触媒能力は，ポルフィリン核と結合することによって数十倍の作用を発揮するようになるし，さらにタンパク質と結合すると飛躍的にその能力を増加させる。新しい化合物の出現は，別の化学反応を促進するようなことも起こる。こうして原始地球における化学進化は，無機的光合成産物から高分子化合物への成長と，化学反応の複雑化を遂げ，より多くの化合物が生産された。

これらの化合物は原始海洋中に蓄積され，種々のコロイド状態をつくり，ついにはコロイド粒子の集団が周囲の媒質との間に境界を画し，コアセルベート液滴をつくり出す。これは化学的進化を異なった段階へ進めた。液滴と外界の境界をなす一種の膜は，種々の化合物を中へ取り込み，内部に濃縮した。内部では複雑な化学反応が進行し反応生成物を排出した。ここに原始的な物質代謝が生じるが，コアセルベートの安定性はこの物質代謝の性質に依存する。すなわち分解反応が大きければこわれてしまうし，反応が小さければ生命の起源とはならないであろう。コアセルベートはその物質代謝の面から自然淘汰(とうた)を受け，より複雑な代謝系を獲得していく。酵素の特異性も，おそらくはこの過程を経て完成したと思われる。なぜならば化学反応の調節を必要とするほどの複雑化した代謝系の存在なしに，個々の酵素の触媒作用だけでは淘汰の対象とはなりえないからである。ポリヌクレオチドがタンパク質合成の鋳型となった時期については諸説があるが，ポリヌクレオチドもコロイドをつくりやすい性質があるので，それ以前からコアセルベート中でタンパク質と共存していたと考えられる。成長したコアセルベートは安定した二つのコアセルベートへ分裂する能力(増殖)を得たものが，結局は増加していった。そしてポリヌクレオチドがタンパク質合成の鋳型としての能力を獲得したとき，ここに始原的生物が発生した。一定の条件下では，生命は化学進化の一つの段階として必然的に現われる。この始原的生物は無機的光合成によって生じた有機物をエネルギー源として摂取する他家栄養生物であった。

【始原的生物の進化】始原的生物から現存生物の祖先型が出現する主要な過程を，現存微生物の栄養形式の比較生化学によって，栄養形式と環境変化の関係から推測する試みがなされている。始原的生物によって，有機物が発酵形式で代謝され，大気中に炭酸ガス・水素ガス，水圏に硫酸塩が蓄積された。この時期には始原的生物のような栄養形式で得たエネルギーによって，炭酸同化を行なう生物も出現したであろうが，炭酸の増加を押えるには至らず，嫌気(けんき)的従属栄養的炭酸同化生物はさらに化学還元菌へ進化したと考えられる。有機物は硝酸塩や硫酸塩のようなエネルギーレベルの低い無機物により酸化され，より大量のエネルギーを発生するようになり合成の効率は著しく増加した。そこで大気中の炭酸ガスは減少し，硫化水素が蓄積されたであろう。一時炭酸ガスによって遮断(しゃだん)されていた太陽光の可視部は，再び地表に届くようになる。ここに硫化水素を水素供与体として光合成を行なう光還元菌が出現した。現存する光還元菌として緑色イオウ細菌・紅色イオウ細菌・紅色無イオウ細菌が知られるが，このうち緑色イオウ細菌から今日の光合成細菌が出現したと考えられている。植物の光合成によって大気中に酸素が出現し，オゾン層ができて紫外線が遮断されると，今日の地球に近いものに変化する。次いで酸素呼吸を行なう従属栄養生物も出現した。〔原野友之〕

せいめい【正名】〈名〉は名称・概念の意味で，事実と正しく照応すべきもの。《論語》にある〈正名〉とは，倫理的名称である父子・君臣といった〈名〉によって事実すなわち人間の行為を規制して，名実を照応させることをいう。儒教では特に《春秋》において，孔子がその筆法を厳格にすることによって春秋時代の倫理の混乱に筆誅(ひっちゅう)(文筆による断罪)を加えたという。このような〈名〉のうち特に重視されるものを，朱子学では〈大義名分*〉とよび，これを正すことが朱子学の特徴の一つとなっている。これらは保守的な立場にあるものである。上記の〈正名〉と同じ趣旨で書かれたものに《荀子(じゅんし)》の《正名篇(へん)》があるが，そこにも現われているように，当時すでに，〈名〉と〈実〉との一致が倫理上のことから離れて一般問題としても論じられた。そこから，概念の実質的意味を正しく規定しようとする〈別墨〉(→墨子)の科学的態度や，また反対に，概念をそれを裏づけるべき事実から離れて観念的に分析し規定する〈名家*〉の詭弁(きべん)が生まれた。→春秋左氏伝 〔西 順蔵〕

せいめい【清明】二十四気*の一。陽暦の4月5日ごろにあたる。太陽黄経は15°。清明(清浄明潔の意という)の名のごとく，万物が清らかでいきいきとしてくる季節。

せいめいはんだん【姓名判断】姓名によって人の性格・運命を判断する法。近年，開運するための吉名をつける法ともされるようになった。姓名の字画・字義などを材料として，陰陽説*(おんようせつ)・五行説*などとの関係から判断したり，字画を易*によって占ったりする。多くの流儀があり，たとえば数の吉凶など，流派によって判断が対立するものもあり，字画の算定についても，草冠を6画(《康熙(こうき)字典*》の画数)に数えるものと3画(当用漢字の画数)に数えるものとがあるように，さまざまである。〔柳下尚範〕

せいめいひょう【生命表】人間や野外の動物の出生した一定数の個体が，時間が経過するにつれて，その数がどのように減少していくかを記載する方法。最初は生命保険事業とともに発達し，人口学に取り入れられたが(→平均余命)，現在では応用動物学・生態学でも広く用いられている。この表には時間の経過に伴って，生存数・死亡数や各期間の死亡率および期待寿命がどう変わっていくかを記載する。特に生存数の変化を図示したものを生存曲線とよび，動物生態学ではいろいろな動物の生活法則

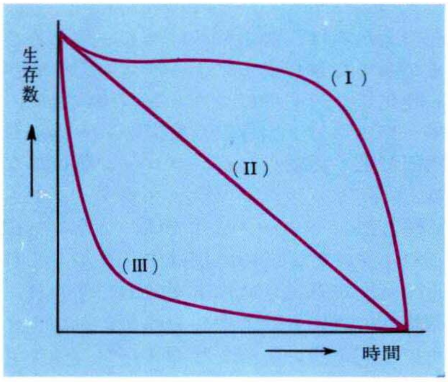
を理解するための方法として有効なものとされ，特に個体数変動とそれに及ぼす各種要因の研究を進める上で威力を発揮している。〔松本忠夫〕

せいめいほけん【生命保険】 人間の寿命は不確定であり，その生死は偶然的な事件とされるが，これに関して財産または所得の必要が発生した際に，一定の金額の支払いを受けてこれを確保し，経済的な保障を達成する保険。この保険は人の生存を条件として保険金を支払う生存保険，人の死亡を条件として保険金を支払う死亡保険，生存保険と死亡保険を結合した混合保険としての三つに分けられるが，混合保険は通常わが国においては養老保険とよばれている。人が死亡または一定期間生存した場合に，一時にまとまった金額を支払われるものを一時金保険とし，年金の形で支払われるものを年金保険とする。このいずれにしろ生活困難に陥った家庭または家族を経済的に保護するところのものである。そしてこのような保険としての機能のほかに，特に生存保険や養老保険においては貯蓄の要素が認められ，これが生命保険のもう一つの機能として評価されるところである。〔庭田範秋〕

せいめいろん【生命論】 生命の本質に関する議論。先史時代から，人間が死ぬと呼吸をやめ，冷たくなる事実から，生命の本質が〈気〉であるとする考え方や〈熱〉であるとする見方があった。やがてギリシア時代に思想が体系づけられると，気や熱を物質的なものと理解するか，非物質的なものと解釈するかにより，機械論と生気論が分かれた。18世紀末に呼吸の本質が明らかになるにおよび，近代科学の立場から統一的にとらえられ，機械論の勝利で終わる。他方，ギリシア時代から，栄養・生長(人間・動物・植物)，感覚・運動(人間・動物)，理性(人間)が生命の特徴であるとする思想があったが，17世紀に理性以外の働きは，一種の機械仕掛けにほかならないという説が有力になった。現在では，19世紀以来の大脳生理学の成果に基づき，精神諸作用も物質的な営みであることが明らかになっている。〔中村禎里〕

せいもん【声門】 ⇨喉頭(こうとう) ⇨声帯

せいもん【声紋】 音声をソナグラフ(サウンドスペクトログラフ)という分析器にかけてそのしま模様の図表を音声の個人識別に利用するもの。指紋にならって声紋とよんでいる。1940年代にアメリカのベル電話研究所で開発され，1960年ごろから実用化された。音声の周波数分析を行ない，その周波数スペクトルの等強度線を描いた図形を用いて類似を比較する。日本では主として科学警察研究所で種々の分析法を研究しているが，特に周波数スペクトルを濃淡の紋様で表わしたものを声紋とよび，個人識別に利用しようとしている。〔朝倉　了〕



生命表 生存曲線の主要な3型を示す。I：主として死亡は年老いた個体に起こる。II：単位時間に死亡する個体数は一定。III：主として死亡は若い時期に起こる。

せいゆ【精油】 種々の植物の花・葉・根・茎・果実・果皮などから圧搾法・水蒸気蒸留法・抽出法・浸出法・吸収法によって得られる特有の芳香をもつ揮発性の油。芳香油または植物性揮発油ともいう。アニス油・ローズ油・苦扁桃油(くへんとうゆ)など1,500種以上もある。水にはとけず，アルコール・石油エーテル・脂肪油などにとける。普通は数種の化合物からなり，その主成分は$(C_5H_8)_n$の組成をもつモノテルペン炭化水素・セスキテルペン炭化水素とこれらのアルコール・アルデヒド・エステル類およびフェノール類などである。おもに香水・化粧品・せっけんなどの香料として使用される。➔香料〔岡部平八郎〕

せいゆうかい【政友会】 ⇨立憲政友会

せいゆうほんとう【政友本党】 大正末期から昭和初期にかけての議会政党。1924年(大正13)立憲政友会総裁高橋是清(これきよ)らの主張する，普通選挙実施・貴族院改革に反対し，149名の代議士が脱党して結成。貴族院を背景とする清浦内閣の与党となった。総裁床次(とこなみ)竹二郎。結党当時は議会の第一党であったが，同年5月の総選挙で護憲三派(憲政会・立憲政友会・革新倶楽部(クラブ))と対決して敗れた。のち加藤・若槻(わかつき)(憲政会)・田中(立憲政友会)の政党内閣が交替する期間，野党として立憲政友会・憲政会との提携を策して政局を複雑にした。多数の脱党者を出して党勢を弱めたのち，1927年(昭和2)憲政会と合同して立憲民政党となった。〔高崎徳次〕

せいようあかね【西洋茜】 双子葉植物・アカネ科。ヨーロッパ原産の多年草で，帰化植物として普通に見られる。高さ30～60cm。葉は対生するが，葉とほぼ同じ大きさの托葉(たくよう)が4枚輪状に配列するので6枚の葉が輪生しているようにみえる。根は赤かっ色の太い円柱状である。8～10月黄緑色の五弁花をつける。果実は黒色の漿果(しょうか)である。

せいようおんがく【西洋音楽】 ⇨次ページ

せいようきぶん【西洋紀聞】 江戸中期，新井白石が著わした欧米事情の取り調べ書。1709年(宝永6)密入国のイエズス会宣教師シドッチを尋問し，その対問の記録をもとにしてオランダ商館長や《オランダ風説書》から得た知識を加え，また尋問の事情や西洋の地理・風俗・文化などについてまとめたもの。全3巻。1715年(正徳5)以前に成立。《采覧(さいらん)異言》とともに，鎖国下，海外に対する白石の強い研究心を示し，洋学勃興(ぼっこう)の端緒を開いた。〔高崎徳次〕

せいようしみ【西洋衣魚】 ⇨シミ

せいようやさい【西洋野菜】 日本在来の野菜や，中国・朝鮮から渡来してきた野菜に対し，西洋から伝来した野菜の総称。ただしこの定義によるとその種類はきわめて多く，キャベツ・タマネギ・カボチャ・ホウレンソウ・トマト・イチゴなどまでが該当することになる。しかしこれらはあまりにもわれわれの食生活になじみ深いので，いまさら西洋野菜とはいわず，したがって西洋野菜の定義もそれにはいる品名も明確ではない。しいて定義づけるならば，西洋から伝来した野菜の中で，生食に適し，おもに西洋料理のつけ合わせやサラダ・サンドイッチの材料などに用いるものとでもいえよう。たとえば，ハナヤサイ・メキャベツ・アスパラガス・セロリ・パセリ・アーティチョーク・チコリ・レタス・オクラ・ホースラディッシュなどがこれに属する。〔佐藤友太郎〕

せいようりょうり【西洋料理】 欧米諸国の料理の総称。ヨーロッパ諸民族の文化とともに発展し，各国の国民的嗜好(しこう)によってそれぞれ異なるが，香辛料(スパイス)をよく用いること，獣肉・油脂を主材料とすること，食器の大部分はさらを用いることなどの共通な特徴がある。古代エジプトと中国に発祥した高度の調理技術が合流した古代ローマでは，料理が非常に発達し，西洋料理の基本的な調理法や料理の組み合わせなどがいろいろとくふうされていた。獣肉を主材料とする西洋料理ではその保存・味つけ・香味づけのうえで香辛料がたいせつな役割を果たし，古代ローマでは東洋から取り寄せられる貴重品であったが，11～13世紀にかけての十字軍の遠征により，多くの香辛料がヨーロッパにもはいってきた。さらに15世紀には，東洋との海上交通が開かれるとともに珍しい香辛料や食品がヨーロッパに伝えられ，また調理の技術も非常に進歩して，香辛料を多く用いる西洋料理の基礎が確立された。

【わが国における西洋料理】 最初にはいったのはポルトガル料理で，いわゆる南蛮料理の名で取り入れられた。1543年(天文12)薩摩(さつま)(鹿児島県)の種子島(たねがしま)にポ

➔455ページ

西洋音楽

〔西洋音楽のおもな時代とその特徴〕ギリシア以前のエジプトやメソポタミアの文明に音楽があったことは確かであるが，今日われわれが知ることのできるのは，楽器や演奏についての図像や他の資料による制度的な側面にすぎない。ギリシア音楽になると，わずかではあるが楽譜がのこっており，その解読も行なわれている。また，音楽理論や音楽の人間に対する影響を論じた著作も多いため，ギリシアにおける音楽のあり方をある程度はつかむことができるようになった。

ギリシア音楽が他の地域との間に共通点をもっていたのに対して，のちの西洋音楽の性格を真に決定することになるのは，今日グレゴリオ聖歌*の名でよばれる単旋律のキリスト教聖歌である。この聖歌は，典礼のための音楽という基本的な性格のために，歌うべき状況が規定されている。このように，音楽以外の要因によって詳細に規定されている音楽は，西洋音楽では以後しだいに減少していく。12世紀のサン-マルシアル楽派*やノートルダム楽派*は，グレゴリオ聖歌を定旋律としながら，それに他の声部を加えるという多声音楽(→ポリフォニー)を始めた。これは，13世紀のアルス-アンティクア*，14世紀のアルス-ノバ*へとしだいに発展させられていく。この多声音楽の成立こそ，以後の西洋音楽の傾向を根本的に決定して，他の地域の音楽との違いをもたらしたものである。中世におけるもう一つの傾向は，トルバドール*・トルーベール*・ミンネゼンガー*などの世俗音楽の流れである。これらは，単旋律ではあっても，音の使い方が次の時代を予告している。

音楽史では1450年ごろから1600年ごろまでをルネサンスとよぶ。この時代は，ミサ*やモテット*などの形式によって，宗教音楽が新たな装いで盛んにつくられた。そうして，いっそう整備された対位法*によって連続性の感じられる多声音楽がおもな傾向となった。これは，世俗音楽のマドリガル*はもちろん，器楽の合奏曲にも共通する特徴となる。

1600年ごろから1750年ごろまでが，バロック時代として総括される。この時代に，線と線との組み合わせとしての対位法から，垂直的すなわち和声的に音楽をとらえる方法が強まってきた。通奏低音*とよばれる低声と和声づけの方法がほとんどのジャンルで使われた。また，和声的な思考を反映して，どの調でも使える12平均律とよばれる調律法が一般化してきた。オペラ・オラトリオ・協奏曲・ソナタなどの楽曲形式が始まったのもこの時代であり，また，リズム法の上からは，縦の線がいつも一致することが多くなり，拍子によるリズムの形成が一般化した。すでにルネサンス時代には，ネーデルラント出身の音楽家がヨーロッパ内部で広く活躍したが，バロック時代になると，イタリア人がフランスやドイツでも活躍した。バロック時代では，フランス様式やイタリア様式の区別は生じたが，これらの区別が意識されたまま外国で使われ，国際的に評価されていた。ヘンデルがイタリア様式を使い，バッハやテレマンはフランス様式やイタリア様式を十分に使いこなしたが，これらはけっして珍しい例ではない。

18世紀後半の前古典派・古典派の活動や19世紀におけるロマン派音楽*は，バロックではっきりした西洋の特徴をますます明確にしていった。垂直的な和声的思考，拍子によるリズム構造，そして，それらの小さな単位から大きな単位へと積み重ねていく構築的な構造が決定的なものとなる。ソナタ形式・ロンド形式，あるいは一般に動機や主題による統一，循環形式の方法などは，上述の構造への最も有効な方法であり，それらは具体的には，ソナタ・弦楽四重奏曲・交響曲*の姿で現われてくる。こうした構築性は，他の音楽，たとえば，ジャズや邦楽のもつどちらかというと累積的な構造と大いに異なっている。

20世紀にはいると，〈現代音楽〉の項で示したような多くの傾向が同時に現われている。それらは，第2次世界大戦後の傾向が現われるまでは，平均律という半音の幅による固定した離散的な量により，それをもとにした垂直的な思考，そして拍子によるリズムへの強い傾斜という点で，大まかにみれば前世紀から連続した流れにのったものといえよう。そして，最も前衛的な音楽まで含めていえることは，西洋音楽が他の地域にはみられないほど激しい様式の変化をもっているということである。そして，形式の操作によって新しい様式や新しい音楽語法をつくることが価値あることとされ，作曲家もそれを意図してきた。

また西洋では，ことばによって，音楽についての美学を発展させてきた。音楽を美的対象とする考え方をはじめとして，その美学上の考えは西洋音楽の形態から生まれてきたものである。歴史的変化を重視する考え方を含めて，これらが西洋に特殊なものであることを確認して，より広い観点から音楽をながめることが必要になっている。

〔芸術音楽と民俗音楽・ポピュラー音楽〕以上で概観したのは，西洋音楽の中でも一般に芸術音楽とよばれるものに限られている。これは，教会や貴族社会，あるいはのちの市民社会において成立したものであって，その成立の場の社会的地位が高かったためと多くの資料がのこされているために，西洋音楽の中心的な流れと考えられている。今日ではプロレタリア芸術や大衆芸術をめざすものでも，様式的には過去において少数の上層階級によって形成された芸術音楽に頼らざるをえない状況にある。しかし，西洋音楽には民俗音楽という底流や新しい大衆芸術であるポピュラー音楽という新種もある。西洋は地域ごとに民俗音楽を形成してきた。しかし，これはルネサンス以降の芸術音楽とは違って，一般に作曲者は問題にされないし，あるべき姿が楽譜によって固定化・標準化されることもないので，その古さを推定することはむずかしい。これは，芸術音楽が多声音楽の時代にはいっても単旋律の歌を保ち続けたように，流行とは関係なく，長い期間，農民を中心とする社会の基底層によって保たれていた音楽である。芸術音楽と民俗音楽は古くから交流をもっていたが，18世紀以降，前者が後者の要素を取り入れることが多くなり，20世紀にはいると，スペインのペドレル，イギリスのボーン-ウィリアムズ，ハンガリーのバルトーク・コダーイのように，作曲家が民俗音楽そのものの姿をとらえる努力が始まる。

一方，ポピュラー音楽と総称されるものの中には，フランスのシャンソン，イタリアのカンツォーネ，タンゴなどのラテン音楽，アメリカの新しいフォークソング，そして最近のロックなどがはいる。これらは民俗音楽と違って，19世紀中ごろ以後に今日のような形になったものである。カンツォーネの場合は，ナポリのピエディグロッタの歌祭りに由来するが，それが大量の楽譜によって知られるようになったのは19世紀中ごろからである。アメリカのポピュラーソングも大きなジャンルとして成立するのは1900年ごろで，その発展は楽譜出版と結びついている。ポピュラー音楽は，楽譜であれラジオやレコードであれ，新しい伝播(でんぱ)方法との結びつきが強く，民俗音楽や芸術音楽とも違って，新しさと比較的短期間の流行とを特徴としている。また，これを享受する層がきわめて大きいのも特徴である。音楽様式的には，芸術音楽とポピュラー音楽をはっきり分けることが困難であり，その名称は伝統的であっても，特に前者のほうが〈芸術的〉だというわけではない。しかし，後者のほうが古い音楽語法によっていて，またこの世界の〈新しさ〉が〈新しい音楽〉というよりは〈新しく発表された音楽〉という性格を強くもつため，旋律や形式などの側面だけみると，半世紀の間にほとんど変化しないということも起こりうるのである。しかし，芸術音楽では，それほどの様式の固定化はない。

〔音楽家の役割の分離〕西洋音楽の歴史で

興味深いことは，作曲という行為や，作曲家という仕事が，他の地域よりも早く独立のものとして意識されたことにある。すでに中世の世俗音楽(トルベールやミンネゼンガー)やノートルダム楽派では，作品と作者の個人名とが結びつけられている。これは，おそらく他の地域よりも音楽様式の変化が速いことに関係があると思われる。そして，自分でつくって自分で演奏するという型の作品から，他人とのアンサンブルを前提とする作品に変わるにつれて，作曲家と演奏家は別の仕事となっていく。これは，19世紀のリストの場合でもそうである。リストは自作のものだけを即興的あるいは非即興的に演奏するという東洋的なタイプではなく，自作のものも他人のものも演奏し，あるいは指揮もした。

このような分離は，すでに述べたような垂直方向の規定の強さに深い関係がある。インドのシタール奏者のように，既定のパターンの中で，即興的に自分流の音型をつないでいくためには，単旋律の様式になるか，あるいは音の垂直的関係などを音高のレベルでは問題にしない前衛的な集団即興になってしまうであろう。ヨーロッパでは，オルガンやピアノの独奏による即興演奏を別にすれば，即興はそれほど行なわれなかった。もちろん，バロック時代の合奏曲を演奏するためには，即興的な装飾が必要である。しかし，これは作曲家のつくった楽譜を骨組みとしての細部の肉づけであって，和声進行や拍子構造は楽譜のとおりなのである。20世紀にはいってジャズがヨーロッパで迎えられたのは，ジャズがいっそう実質的な即興性をもっていると思われたことも一因である。

19世紀に飛躍的に増大した公開演奏会やオペラ公演などは，音楽を広い階層に開放することを可能にし，そこから歌手・ピアニスト・バイオリニストなどのビルトゥオーゾ，新しい種類の演奏家としての専業的な指揮者などをスター扱いすることが生まれた。特に19世紀に始まる指揮者への権力集中は，おおぜいの音楽家だけでなく，聴衆をも巻き込んだ管弦楽団やオペラ座の組織や，レコード産業におうところが大きい。

【社会制度と音楽】西洋でも楽譜は筆写によって伝えられてきたが，1501年にイタリアでペトルッチが楽譜印刷を始めてから，フランス・ドイツ・オランダでも始まり，筆写譜とともに印刷譜も伝播に力を貸すようになった。ルネサンス時代には部数も多くないが，印刷方法そのものはのちの時代に大きな役割をもつ印刷譜の出発点として重要である。しかし，興味深いのは，印刷そのものだけでなく，直接知り合えない人人に伝えることができるだけの楽譜の書き方，つまり記譜法がヨーロッパでは確立していたという事実である。楽譜というものは，現代のものを含めて，作曲者の指示を完全に伝えるものではない。しかし，ある許容範囲の中では，直接に接触できない人に内容を伝えたり，新しい作品の発表を可能にしたりする。江戸時代の日本の楽譜が既知のもののメモであるか，しろうとに教授する手引きの役割しか果たしえなかったことを考えると，ヨーロッパの記譜法体系の役割の大きさが納得されよう。オルガンやリュートのような特定楽器のための記譜法の中には，イタリア流やドイツ流のように地域性をもったものもあるが，一般には定量記譜法*(現在の通常のものもその一種)とよばれる体系が用いられた。これによって，たとえ声部の数が多くても，音の高さや長さが正確に記述される。こうしたものが生まれることに密接な関係をもっているのが，多声音楽の存在である。独唱や独奏，あるいはヘテロフォニー*であればこうした楽譜への必要性がないし，演奏家が作曲者である場合には他の奏者に伝える必要もない。その代わり，楽譜には細かい音高の変化や強弱変化などは記せないので，こういうニュアンスは無視されるか，演奏者の判断に任される。したがって，西洋の作曲法は，大胆にいえば，東洋的な微妙なニュアンスなしでも成立する様相に重点を置いたために記譜法が利用できたことになる。こうしたことと共通の地盤にあるのが，微妙な音高変化を断念した12平均律への発展であり，同じ形の楽器製作である。19世紀におけるピアノや管楽器の大量生産はすでに18世紀に徴候があり，さらにそれはずっと以前からの西洋音楽の様式の中にその可能性をもっていたといえる。

オペラ座や管弦楽団という社会制度も，上記のことを前提にしており，また19世紀に始まる近代的な音楽学校も，レパートリー・音楽理論などで，統一的なわく組みを提供し，したがって，一国の内部だけでなく，西洋内部での伝達を容易にする役割を果たしてきた。日本のように離れた地域ですら西洋音楽が普及したのは，音楽学校という制度と，よく整理され，教育しやすく組織化された音楽上の特徴(楽譜・理論・平均律など)によるところが多い。〔徳丸吉彦〕

ルトガル人が来て西洋料理をもたらした。その後スペイン人が来てその料理を伝えたが，料理の材料や国民の嗜好の相違から，長崎に発達したしっぽく(卓袱)料理*を除くと著しい発達はみられなかった。しかし，明治維新とともに西洋料理は急速に普及した。《方庵(ほうあん)日記》(1854)《正写横浜異人図画》(1861)《武江年表》(1866)などの文献によれば，当時の西洋料理は日本人のためのものでなく，外国人に供するものであったらしい。日本人のための西洋料理は1869年(明治２)ごろにはじめて東京に現われ，1872年に精養軒，1882年三緑亭(さんりょくてい)などの西洋料理店が開かれ，さらに1883年には，外国使臣を接待する鹿鳴館(ろくめいかん)がつくられた。当時はホテルや市中の食堂ではイギリス料理を，高級レストランではフランス料理を供した。大正時代にはいると，しだいにレストランがふえる一方，家庭にもはいりこみ，一般に親しまれるようになった。第２次世界大戦後は米食偏重の傾向が改められて粉食が多くなるにつれ，いっそう西洋料理が取り入れられるようになった。現在日本で行なわれている西洋料理は，欧米各国のものと必ずしも同じではなく，日本人の嗜好や社会事情に合うように変化してきているものである。一般に動物性タンパク質・脂肪に富む西洋料理は，それらに欠ける日本料理の欠陥を補っている。

【各国の料理】西洋料理はそれぞれその国の気候・風土・産物・民族性・社会事情などによって特徴がある。料理の基礎となる油脂を中心にしてみると，フランス料理はバター，イタリア料理はオリーブ油，ドイツ料理はラード，ロシア料理はサワークリーム*(酸味のあるクリーム)，イギリス料理はたれ油(焼き肉から出る脂)などの特色があり，その中心となるのはフランス料理とされている。〈フランス料理〉古代ローマの高度な料理法はイタリアからオーストリアへ伝わったが，一方，フランスにも渡った。1533年イタリア，フィレンツェのメディチ家のカトリーヌがフランスの王子アンリに嫁したことにより，イタリアの風習がフランス宮廷に伝わり，多くの料理や食器・食卓作法なども紹介された。それ以後ルイ王朝において多くの料理人・学者などが料理を研究し，それを王室が保護・発展させ，ルイ15世のころにはフランス料理はほぼ完成したといわれる。フランスは気候風土がよく材料が豊富で，またよいぶどう酒が産出されるうえに，国民の味覚や調理技術がすぐれ，調理の伝統が重んじられたので，高い芸術性と繊細な味わいに富む世界的にすぐれた料理ができた。19世紀後期には世界各国に知られるようになった。調味料としての種々のソース*が特に発達して，材料の持ち味を生かしている。野鳥を用いての多くの鳥料理がある。また，きのこ類が豊富で複雑なソースの味つけに重要な役割を果たし，特にペリゴール地方に産出されるトリフ(黒菌)は貴重なものとされている。カキ・ウニ・食用ガエル・エスカルゴ(かたつむり)などの料理もよく知られている。魚料理はノルマンジーふうと称する小エビ入

りのクリームソースを添えたもの，マルセーユのブイヤベースなどが有名。またパンがうまく，製造には塩を用い，砂糖は用いないのが特徴である。ぶどう酒は食事時に飲むだけでなく料理にも菓子にも使われる。〈ドイツ料理〉料理は実質的で，味はやや酸味のあるものが好まれている。オーストリアふうの料理の影響が大きいが，ドイツでは料理より肉の加工に特色がある。気候の関係で，昔は冬には食糧が欠乏することが多いためハム・ソーセージなどの保存食品の製法が発達した。加工した食品はデリカテッセンとよばれ，キャベツの塩づけ，フランクフルトソーセージ，豚肉の塩づけなどが有名である。特産物のジャガイモはほとんどどの料理にも添えられ，主食とされる。食事のときは水の代わりにビールを飲む。〈イギリス料理〉イギリスは家畜類が多く，肉が豊富で肉料理，特に牛肉料理が発達した。代表的なものにはローストビーフ*・ビーフステーキ*・スコッチエッグ・アイリッシュ-シチュー・ボイルドビーフなど。またベーコンやソーセージなどもおいしく，ヨークシャー・バークジャーなどの名産地がある。なお，ビスケットの製造技術が発達し世界的にもすぐれている。酒はウイスキーの本場で，ビールの消費量でも世界最高といわれる。〈イタリア料理〉ヨーロッパの料理の中でフランス料理に次いで味がよいとされるが，やや繊細さに欠けている。魚貝類・米料理・めん類などを使うのが特徴で，代表的なものとしてパート(こね粉)料理がすぐれ，マカロニ・スパゲッティ・ヌイユ・リゾルラザニュ・ピッツァなどいろいろの種類や形のものがある。ひき肉を包んだラビオリ・カネロニ，すりいもと卵を混ぜたニョッキなど，いずれも四角やチョウ形に結んだパテ(パイ)の類はこの国の特技として知られる。味つけはナポリふうではトマトとニンニク，ボローニャふうでは肉汁と酒を主として用い，いずれもパルメザンチーズやサフランなどの香辛料を豊富に用いる。またバターの代わりにオリーブ油を用いるのが特徴である。〈オーストリア料理〉古代ローマの料理の流れがウィーンに伝わり発達した。淡水魚の料理が多い。料理や菓子のモザイクふうの製造は美しく巧みで，菓子のデリケートな味はコーヒーとともに特筆に値する。19世紀初期の最盛期にはその料理もヨーロッパ諸国に知られ，現在もその伝統を保っている。〈スペイン料理〉魚介類の料理が豊富であり，果実類(オリーブ・ミカン・ブドウなど)やピーマンのうまいのが有名。料理はオリーブ油とにんにくを用いたものが多く，北部は香辛料を多く用い，南部はあっさりしている。バレンシアふうの米料理であるガルバンゾ・エスパニョル・エンパナダ・パエラ・ピッチエロなどが知られ，その技術にはアフリカ料理の影響がかなりはいっている。また水の代わりにぶどう酒を飲む。〈ポルトガル料理〉料理は古くから発達しており，フランスやイギリスの料理も取り入れられている。魚をオリーブ油で揚げたり焼いたり，ぶどう酒で蒸し上げたりするような簡単な料理が多い。特にタラは好んで用いられ，塩づけや乾燥にしたものをもどしてオリーブ油・ニンニク・トマトで調理して食する。豚肉は塩づけにしてハム・ベーコン・ソーセージなどにする。スペインと同様果実も多い。料理の特徴はオリーブ油・ニンニク・トマト・酢を用いることである。またポートワイン・マデーラ酒はこの国の特産として知られる。〈オランダ料理〉バター・チーズの生産が多く，海産物も豊富であり，ジェランドとよぶ生カキは有名である。サケの薫製，ニシンのオイルづけなどもおいしく，ビールやチョコレートなども知られている。主食はジャガイモやパンを用い，夕食は煮込み料理が多い。〈ロシア料理〉もともとはフランスから一流料理人がロシア宮廷によばれて今日の料理をつくりあげた。日本で知られているのは民衆の料理である。寒い気候のため煮込み料理・スープが多く，味つけは一般に脂肪性に富む重厚なものが多い。材料は主として野菜・羊肉・牛肉・魚肉などが用いられるが，牛乳・トマトを多く使用すること，保存や味つけのため酢づけの野菜を多量につくるのが特徴である。ザクスカ*とよばれる前菜が有名で，ピロシキ・クレビヤーカ・クロメスキなども知られている。酒はウオツカなどの強いものを飲む。〈アメリカ料理〉世界の混合料理でおもにドイツ・フランス・イギリスなどの影響を受けている。1890年ごろからいわゆるアメリカふうの献立が出はじめ，サラダ料理などが発達し，第1次世界大戦によってかんづめや冷凍食品など，保存食品工業が急速に発達した。以来アメリカ料理はその発展が著しく，今日では，最新のアメリカンシステムによって各国の料理法を集め，豊富な材料を用い，味の繊細さには欠けるが量と質を誇る科学的な料理を完成している。酒は食前・食後にカクテル・ビール・ウイスキーなどが用いられる。〔泉　敬子〕

せいよく　**【性欲】**　種族の維持という生物的目的をもつ基本的欲求の一。狭義には異性に接触したいという衝動と，性物質を放出したいという衝動とからなり，これらは青春期に至ってはじめて発現する。生理的には間脳および生殖腺(せいしょくせん)の内分泌と密接な関係をもつ。広義の性欲は愛情・嫉妬(しっと)などの情緒，口唇(こうしん)の快感や排泄(はいせつ)の快感を求める欲求，露出したりのぞき見たい欲望，サディズム*的な衝動，マゾヒズム*的な衝動(フロイトはこれらを部分衝動とよんだ)などをも含める場合もある。性欲の強さはキンゼイ報告によると，男子では20代が最も強くその後しだいに弱くなり，女子では一生を通じてそれほど変わらないといわれる。〔平野修助〕

せいよくとうさくしょう　**【性欲倒錯症】**　性欲*の異常。いろいろの分類方法があり，性欲の量的異常つまり性欲の異常亢進(こうしん)や減退も性欲倒錯症として取り扱うこともある。一般には，性欲の質的異常つまり性欲の対象に関する倒錯と行為に関する倒錯がそれにあたる。前者には同性愛，幼児に対する幼児嗜愛(しあい)，老人に対する老人嗜愛，動物に対する動物嗜愛，自己に対する自己愛(ナルシシズム)，異性の毛髪やくつした・下着など，からだの一部，服装などを所有して性欲を満足するフェチシズム*，死体に対する死体嗜愛などがある。後者には露出症・窃視症・サディズム*およびマゾヒズム*などがある。われわれが性欲というときは外に現われている性行為に注目するが，それと根源的な欲動とは必ずしも平衡するものではない。正常人でも人により多少そうした異常傾向があるものだから，これが反社会的なまでに異常となれば，精神医学の治療の対象となる。〔藤井和明〕

せいら　**【青蘿】**　(1740～1791)　江戸中期の俳人。松岡氏。号は三眺庵(さんちょうあん)・幽松庵など。姫路藩士であったが，身持ち不慎のかどで藩を追われ，剃髪(ていはつ)して加古川に草庵を結び，俳諧(はいかい)に専念した。中国地方に門人が多い。18世紀後半における俳諧中興運動のひとり。

せいりがく　**【性理学】**　⇨朱子学　⇨宋学(そうがく)

せいりがく　**【生理学】**　生体の働きを研究する生物学の一分科。対象となる生物によって動物生理学・植物生理学・細菌生理学などに分け，生理機能によって消化生理学・呼吸生理学・代謝生理学・感覚生理学に分けられる。また，体制上の部位によって細胞生理学・組織生理学・器官生理学に，さらに器官の種別によって心臓生理学・神経生理学・筋肉生理学などに分けられる。近年は動植物で外見的には異なる現象も，根本的には同じ現象と考えられるようになり，この立場をとるものを一般生理学または基礎生理学といっている。現在，生理学には研究手段として物理・化学的方法が多く採用されており，生化学・物理学とも密接な関係がある。また，生理学は遺伝学や発生学にも導入され，生理学的遺伝学や発生生理学などの新分野が開拓されている。〔平野修助〕

せいりきゅうか　**【生理休暇】**　女子労働者が生理日にとる休暇。日本の労使の人間関係，働く環境が劣悪なことから規定された。使用者は，生理日の就業が著しく困難な女子，または生理に有害な業務に従事する女子が生理休暇を請求したときは，その者を就業させてはならない(労働基準法67・120条)。生理休暇は，女子が請求する期間与えなければならないが，その期間中の賃

金の支払いについては，労使の取り決めに任されている。〔木元錦哉〕

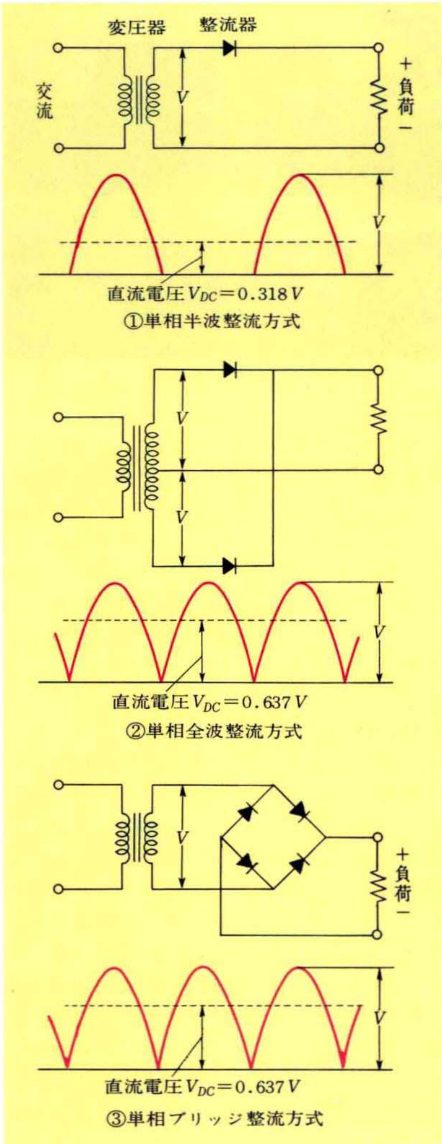
ぜいりし【税理士】 1951年(昭和26)制定の税理士法によって，従来の税務代理士に代わって認められた税務の職業専門家。他人の求めに応じて，所得税・法人税・贈与税・事業税・市町村民税・固定資産税または政令で定めるその他の租税に関し，申告・申請，不服の申し立て，過誤納税金の還付の請求などについての代理やそれらについて相談に応ずること，または税務当局に提出する書類の作成などにあたる。これは第2次世界大戦後，申告納税制度*や青色申告*制度の実施に伴って整備された制度である。一定の国家試験に合格し，所定の登録を済ませた者に与えられる資格である。〔山桝忠恕〕

せいりてきしょくえんすい【生理的食塩水】 体液，特に血清と浸透圧が等しい食塩水をいう。動物体から取り出した器官や組織をしばらく生かしておく媒液として用いられる。一般に使用される食塩水は，カエル用には0.65～0.7%，哺乳(ほにゅう)類では0.85～0.9%のものである。しかし，食塩が解離すると毒作用が生じるため，長時間生かしておくためには，溶液のpHを弱アルカリにして，いっそう体液に近くしたリンゲル液などが用いられる。〔平野修助〕

せいりゅう【整流】 交流を直流に変換すること。整流には，エレクトロニクス応用装置に使われる小容量の単相整流と，大容量の単相・三相整流などがある。前者の方式には，単相半波整流・単相全波整流・単相ブリッジ整流があり，脈動をおさえるために整流回路の後ろにフィルター回路(濾波(ろは)回路)を付加する。大容量整流方式の代表例として三相全波方式(六相グレーツ方式ともいう)を述べると，これは佐久間周波数変換所で50Hz(ヘルツ)交流⇄直流⇄60Hz交流という可逆性を備えた電力授受に利用され，また発電所の大容量交流同期発電機の直流励磁装置に数多く用いる。

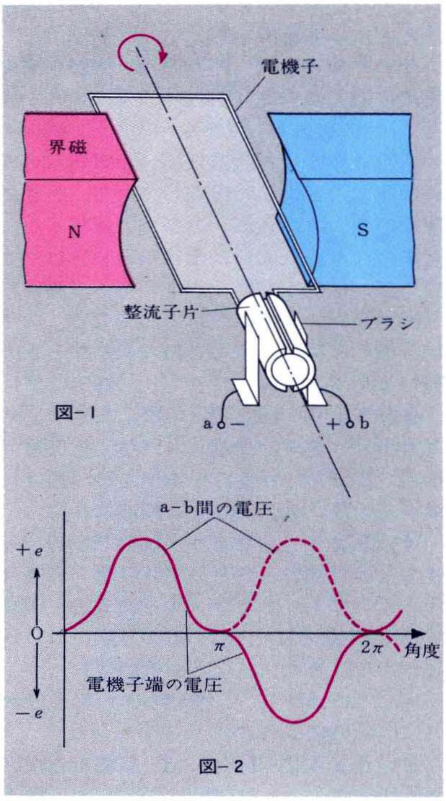
整流器の素子は多種多様であり，現在は半導体技術を応用したものが大部分を占める。電気計器の一つである整流型計器は，交流電流を亜酸化銅整流器やゲルマニウム-ダイオードで整流し，その整流電流を可動コイル型計器(直流計器)で指示させるものである。原理上交流電流の平均値を示すもので，目盛りは正弦波交流の実効値で直読できるようになっている。〔田村康男〕

せいりゅうかん【整流管】 整流*用の電子管。整流管には2極管・ガラス水銀整流管がある。2極管は熱陰極と陽極からなる最も簡単な電子管で，整流性・非直線性をもち，整流または検波に用いる。ガラス水銀整流管は蓄電池充電用などに用いられる。整流素子の多くは現在半導体素子に移行し，水銀整流器も鉄製容器のものが普通であるから，整流管の需要は限られている。



整　流

せいりゅうき【整流器】 順方向にのみ電流を通す特性(整流性)を備えた装置，あるいは素子。整流器は主として交流を直流に変換するために用いられるが，制御電極によって整流と同時に，交流の導通角を制御できるようになっているものと，整流性のみを備えたものとがある。前者には放電管に属するサイラトロン*・イグナイトロン*，および半導体*を利用したサイリスター*(SCR)がある。後者には2極真空管，放電管としてタンガーパルプ・熱冷極水銀整流管・水銀溜(だ)め整流器，また，半導体素子としてダイオード*・金属整流器がある。特殊な装置としては機械的整流器・化学的整流器があるが，現在はほとんど用いられていない。きわめて大きな電力を整流する場合には，金属容器を備えたイグナイトロンが用いられるが，その他の用途にはもっぱらシリコンダイオードおよびサイリスターが用いられるようになった。イグナイトロンおよびサイリスターは，整流に用いられ



整　流　子

るばかりでなく，これとは逆に，直流を交流に変換するコンバーターに用いられる。また，50Hz(ヘルツ)の交流を60Hzに変換するインバーターとしての用途も重要である。〔伊藤糾次〕

せいりゅうし【整流子】 直流発電機の電機子*に取り付けられ，電機子に生じた交流をブラシを通して直流に変え，外部に導き出す装置。直流電動機では，電機子に流れ込む電流を反転させる作用をする。電機子軸の円周に沿って何枚かの金属片(整流子片)が互いに絶縁されて取り付けられ，電機子の回転による各整流子片とブラシの接点の移動により，コイルの電圧が反転する瞬間に電機子コイル端の接続を反転させ，つねに一定方向の電流が取り出せるようにしてある。図-1に簡単な2極(整流子片を2枚もつ)の直流発電機を示す。a-b間にはつねにbを+極，aを−極とする直流電圧が生じる(図-2)。整流子を用いないときの電機子両端の電圧は図-2の実線である。交流機では整流*の必要はないので，整流子は円筒形の金属環となり，これを特にスリップリングとよんでいる。➔発電機〔田村康男〕

せいりゅうしゃ【青龍社】 日本画家の団体。1929年(昭和4)6月に，日本美術院同人を辞退した川端龍子*(かわばたりゅうし)が結成，剛健な会場芸術の樹立をめざして，同年9月に東京府美術館で同志だけの第1回展覧会を開催した。1933年の第5回からは公募制に改め，毎年秋に公募展を開いた。落合朗風・福田豊四郎*(とよしろう)・横山操らの

意欲的な作家を世に出したが，1966年龍子の死去により解散した。

せいりゅうとう　【青龍刀】　中国古来の刀で，柄には青龍(四神の一で東方をつかさどる神)の装飾がしてある。そのうち柄の長い長刀(なぎなた)を青龍刀といい，青龍刀の短いのを大刀とよんで区別している。ともに皮製の鞘(さや)に入れ，皮ひもで背負うか，肩にになう。日本刀に比べると刀身はやや短いが，棟(むね)が厚く大きくそっており，刃幅は刀先になるにつれて広くなる。人や物を切るには刀の重力と振りおろすときの勢いを利用する。　〔森田　哲〕

せいりょう　【西涼】　中国，五胡(ごこ)十六国*の一。漢人の李暠(りこう)が400年に建てた国。敦煌(とんこう)地方を本拠とし，都は甘粛省の酒泉。421年北涼に滅ぼされた。

せいりょういんりょう　【清涼飲料】　炭酸または有機酸を含有して清涼感・爽快(そうかい)味を与え，アルコールを含まない(酒精が全容量の100分の１以下)嗜好(しこう)飲料のこと。サイダーなどの炭酸飲料，ジュースなどの果汁(かじゅう)飲料および乳酸飲料の三つに分類される。

せいりょうじ　【清涼寺】　京都市右京区嵯峨釈迦堂(さがしゃかどう)藤ノ木町にある浄土宗の寺。通称釈迦堂。この地には嵯峨天皇の皇子源融(とおる)の別荘があったが，のち，これを寺として棲霞(せいか)寺と称した。その後，東大寺の奝然(ちょうねん)が入宋(にっそう)して釈迦如来像を持ち帰り，愛宕(あたご)山に伽藍(がらん)を建立(こんりゅう)，釈迦像を本尊に祭る計画を立て，ひとまず像を棲霞寺の釈迦堂に安置したが，実現をみないうちに入寂したため，釈迦堂が清涼寺として独立するようになった。釈迦像は木造で，上人(しょうにん)が中国で模刻させたもの。インドふうの形式を示し，鎌倉時代に全国に流行した清涼寺式釈迦如来像の根本像にあたる。釈迦堂の東側に西向きに建つ阿弥陀堂(あみだどう)は棲霞寺の唯一の遺構で，創建当初の阿弥陀三尊像を安置する。　〔永井信一〕

せいりょうでん　【清涼殿】　京都御所*の御殿の一つで，天皇の日常の住居。〈せいろうでん〉とも読み，中殿・本殿・御殿などともいう。1855年(安政２)平安京の古制によってつくられ，紫宸殿*(ししんでん)と同様檜皮葺(ひわだぶき)の屋根をのせた寝殿造り*。母屋(もや)には昼御座(ひのござ)・石灰壇(いしばいのだん)(天皇が毎朝神々を参拝する所)があり，これに接して夜御殿(よんのおとど)・二間・萩戸(はぎのと)藤壺上御局(ふじつぼのうえのみつぼね)などのへやがある。東側が正面で吹き通しの廂(ひさし)があり，その外側は簀子縁(すのこえん)で，前面の東庭へ下る階段がある。南廂は殿上の間で，殿上人が詰める所，西廂は女房(女官)の詰める所で，鬼の間・台盤所・朝餉(あさがれい)などのへやがある。清涼殿では平安文学にみられる詩合(しあわせ)や歌合，観月の宴などがしばしば行なわれた。　〔小林亥助〕



清　涼　殿　清涼殿正面と東庭

せいれい　【政令】　内閣*によって制定される命令*。旧憲法の勅令*に相当する。新憲法では，主任の国務大臣が署名し，内閣総理大臣の連署を経て(74条)，天皇の国事行為*の一つとして公布される(７条１項)。政令には，憲法や法規の規定を執行するための執行命令と，法律の委任に基づく委任命令とがあるが，まったく法律から独立して公布することはできない。

せいれい　【聖霊】　キリスト教で三位一体*の第三位を占める位格。人間に宿り，その精神活動の根源的力となる。《旧約聖書》における〈ルーアハ〉は風・呼吸・生命・霊魂を意味し，そこから霊とことばが深く結合され，また神の霊と神のことばとは離れがたいものとして人間に働きかける。《新約聖書》においては諸文書で理解のしかたが多少異なるが，聖霊はつねにキリストと有機的に結びつけられている。その後，聖霊の解釈では，激しい論争が起こったが，アウグスチヌスが《三位一体論》を書いて，三位の連合のきずなと理解し，この問題に決定的方向づけを与えた。聖霊とはキリストを信仰者にまで持ち運ぶ神であり，われわれに対する神の働きを説明するものと考えてよい。　〔堀越知巳〕

せいれいにひゃくいちごう　【政令201号】　正式には〈昭和23年７月22日付内閣総理大臣宛連合国最高司令官書簡に基く臨時措置に関する政令〉という。1948年(昭和23)７月22日，マッカーサーは芦田(あしだ)総理大臣あての書簡という形をとって，国家公務員法*の改正を発表した。芦田内閣は占領軍の命に従って政令201号を公布し，公務員の争議行為*をいっさい禁止した。これにより，第２次世界大戦後それまで労働運動の先頭に立っていた公務員の闘争力は弱まり，民間労働者との共闘は分断され，全労働者の統一戦線は分裂させられた。〔木元錦哉〕

セイレン　［Seiren］　ギリシア神話の怪物。上半身は女，他の部分は鳥の姿で，近寄る者を歌の魔力で破滅させるとされた。アルゴ船(→アルゴナウチカ)が彼女らの住む島を通過したとき，乗り組んでいたオルペウスが竪琴(たてごと)を演奏して難を免れた。トロヤからの帰途ここを通りかかったオデュッセウスは，船員らの耳をろうでふさぎ，自分のからだを帆柱に縛りつけさせてひとり歌声を聞きながら無事であった。セイレンたちはこれをくやしがって，海中に身を投じて死んだといわれる。　〔松田　治〕

せいれん　【製錬】　鉱石から目的の金属を得ること。乾式製錬法と湿式製錬法がある。乾式製錬法は，古代から金属生産に用いられてきた方法で，溶鉱炉・転炉・電気炉などを用い高温度による化学反応を起こさせて鉱石から金属を得る方法である。これには酸化製錬と還元製錬がある。前者は，金属硫化物を酸化し，イオウと酸素の結合力の強いことを利用してイオウを除去する方法で，水銀・鉛などはこれにより製錬される。後者は，酸化物の酸素を，酸素との結合力のさらに大きい炭素・一酸化炭素・水素などの還元剤を用いて除去する方法である。この反応を利用するものに鉄・鉛・亜鉛などがある。このほかに鉱石を蒸発ガス化させて金属を得る方法もある。これを揮発製錬といい，カドミウム・マグネシウム・亜鉛などに用いられる。

湿式製錬法は，鉱石中の金属を溶媒により溶出し，析出させる方法である。予備処理・溶解・固液分解を経て，目的の金属が採取される。最近，電気化学・物理化学の進歩に伴い，湿式製錬は急速な発展を遂げ，従来の乾式法では処理しにくかった鉱石も十分に処理できるようになった。金銀鉱・ウラン鉱・バナジウム鉱は大規模な湿式製錬により採取されている。

製錬により得られた金属は一般に不純物をかなり含有しており，さらに精錬を行なう必要がある。　〔草川隆次〕

せいれん　【精練】

[1]繊維：繊維・織物などに天然に含まれ，また人工的に付与された不純物や不要物質を除去する工程。練るともいう。綿の場合は天然のろう，あとでつけたのりなど，麻ではペクチン質，羊毛では脂肪類，絹ではセリシンなどを，せっけん・アルカリなどでとかして除く。化繊ではあらかじめ与えた紡織用の物質を織りあげてから除去する。精練されたものはそのまま用い，あるいは漂白工程や染色工程を経て用いる。

[2]金属：製錬によって得られた金属はまだ多くの不純物を含有しているが，それをさらに精製する操作。精製法としては乾式法・電解法・真空溶解法がある。乾式法とは反射炉・電気炉などに空気や酸素を吹き込み不純物を酸化させて揮発させるか，かすとして取り除く方法である。電解法は粗金属を陽極として電解し，純金属を陰極に析出させる。真空溶解法は含有ガスを取り除くためのものである。

せいろう　【蒸籠】　食物を蒸す器具。湯のたぎっているかまの上に置いて湯気で食物を蒸すもので，底にすのこを敷き，角形と丸形がある。どちらも必要に応じて何段

も重ねて使用し，こわ飯・まんじゅう・だんご・茶わん蒸しなどをふかす。古代に用いた〈こしき〉は，せいろうと同じ原理のものを土器でつくり，底に小さな穴をいくつかあけて湯気を通したが，やがて木製のこしきが使用され，江戸時代にせいろうが発達した。　〔山本喜男〕

セイロン　［Ceylon］正称はシンハリー語でスリランカ(Sri Lanka)。インド半島の南東方，インド洋上の沖合いにある島国で，イギリス連邦の自治領。インドとは北に幅約50kmのポーク海峡を隔て，北西は幅約30kmの砂州からなるアダムズブリッジが続いて浅瀬となっている。面積は65,610km²で九州と四国を合わせたよりやや広い。人口1,474万(1979年推)で，人口密度1km²当たり225人(1979)。首都コロンボ。

【自然・住民】島の形状は西洋ナシに似ている。中央南部に2,000mを越える山地があり，ピドルタラガル山(2,524m)が最高峰で，その南に航海者の目標となるので知られるアダムズピーク山(2,243m)がある。川は北東流するマハウェリ川(355km)が最大で，ほかはすべて150km以下である。北部や海岸寄りに肥沃(ひよく)な平野があり，全島の4分の3に近い面積を占めている。海岸線は北の一部を除いて単調で，南西岸にあるコロンボも大防波堤によって守られた人工港である。気温は山地を除き1年じゅう高い。コロンボの年平均気温は26.9℃，最高の5月の28.0℃と最低の12月の26.1℃の差は1.9℃しかない。また島の南西部は南西モンスーンの影響を受けて雨が多く，コロンボの年降水量は2,397mmに達するが，北部や南東部は雨が少なく，水不足のために農業に不適なところが多い。インドゾウの亜種できばのきわめて小さいセイロンゾウやヒョウ，各種のサル類など野獣が豊富であるが，インド本土にいるトラはセイロンにはいない。住民は仏教徒のシンハリー族が70%，ほかに南インドからきて北部および東部に主として住むヒンズー教徒のタミール族が22%，イスラム教徒のムーア人が6%を占め，またいまだに旧石器時代の生活をしている原住民のベッダ族が東部の森林中に400人たらず残っている。ベッダ族が狩猟に必要な鉄製のやじりなどを，シンハリー族のかじ屋からいわゆる沈黙交換によって得ている事実は有名である。

【歴史・政治】紀元前6世紀ごろ，北インドから侵入してきたシンハリー族がベッダ族の安住の地を奪って王国を築いた。紀元前1世紀ごろタミール族もはいってきて，島の北部に王国を建て，紀元前3世紀ごろインドから仏教がはいると，シンハリー族がこれを受け入れた。16世紀以降ポルトガル人・オランダ人などにあいついで侵略され，1796年にイギリスの植民地となり，1948年にインド・パキスタンより1年遅れて自治領として独立した。しかし，言語・宗教を

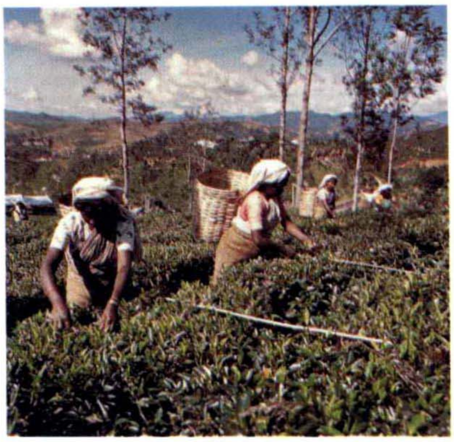




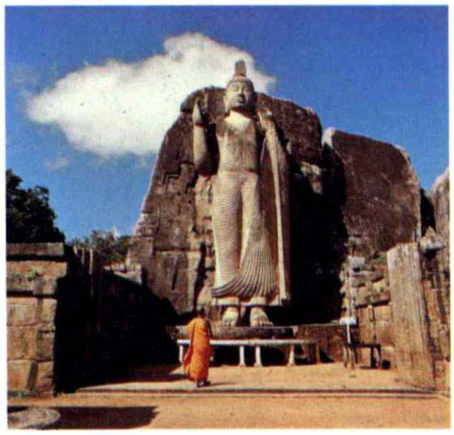
セイロンの国旗　1950年制定。1946年，国名(シンハリ語でライオンの意)に由来するライオン旗が制定されたが，のち少数民族であるイスラム教徒とヒンズー教徒を表わす緑とサフラン色の帯を加えた

ことにするシンハリー族とタミール族の対立が激しく，経済的にも慢性的な食糧不足などのために不安定である。1970年バンダラナイケ夫人が2度めの首相となり，社会主義的な政策を実施し，外交的には北ベトナム・北朝鮮・東ドイツを承認するなど社会主義国との友好を深める方針をとっている。しかし，バンダラナイケ政権が約束した銀行・農園などの国有化などがほとんど実行されず，物価の上昇，失業者の増大などが国民の不安を強め，1971年3月にはシンハリー族の学生を主とする暴動が起こり，イギリスやソ連の武器援助によってようやく鎮圧することができた。この暴動は，セイロン経済の実権を握るタミール族に対するシンハリー族の民族主義的運動の色彩も強かった。現在でもおもに北部において，経済状勢の悪化に伴う政治テロや破壊事件がしばしば起きている。

【産業・経済】人口の約75%が農業に従事し，おもな作物は茶・ゴム・ココヤシ・米などで，中でもセイロン紅茶は世界的に名があり，輸出高の90%を茶(おもに紅茶)・ゴム・ココヤシ製品で占めているが，茶園の47%，ゴム園の34%はイギリス系を主とする外国資本の支配下にあり，中でも紅茶におけるリプトン会社の勢力は大きい。政府は1971年に次いで，1975年にも外国系茶園や企業を接収して，植民地経済からの脱却をはかったが，経済危機の解決はむずかしく，政情もつねに不安定である。茶園は島の南部の高さ500～1,200mの丘陵地に集中し，1年じゅう摘み取ることができ，その労働力は主としてタミール族にたよっている。地下資源としては，世界一の埋蔵をもつといわれる黒鉛のほかは重要なものはないが，ルビーやサファイアなどの宝石を多く産する。工業は家内工業が主であるが，独立後は近代工業の建設にも努め，セメント工業や日本の技術援助による綿工業などが興っている。水産業に対しても日本の援助が行なわれ，コロンボ北方のネゴンボに訓練センターが設立されている。貿易の相手国は輸出入ともイギリスが第1，中国が第2である。輸入は米をはじめとする穀類



セイロン　茶摘み　中央山地のヌワラエリア山付近での茶のプランテーション農園。茶の葉は婦人労務者の手摘みで集められる



アウカナ仏陀　セイロン島内にはいたるところに仏教遺跡があり，巨大な石を刻んだ仏像や寺院や塔が多い

が最も多く，米の自給率は50％にすぎない。1975年の日本への輸出は3,066万ドルで，宝石・紅茶・ゴムが多く，日本からの輸入は4,987万ドルで，機械類・化学肥料・繊維品・鉄鋼・冷凍エビが多く，年々セイロン側の入超となっている。

〔社会・文化〕〈東洋の真珠〉とよばれるように風光明媚(めいび)な観光資源に富み，また仏教美術の遺跡が多い。コロンボの南13kmの海岸にあるマウント-ラビニアはセイロン第1の景勝の地といわれ，途中のデーワラには熱帯動物園がある。コロンボの北東97kmの高原上にあるカンジは，シンハリ王朝の旧都で，ブッダの歯を祭った寺として知られるデラダ-マリガワ寺がある。カンジの南西郊外のペラデニヤ植物園も名高く，ここには総合大学のセイロン大学もある。義務教育は8年制で無料であり，識字率は65.4％でインド(13％)・パキスタン(20％)に比べてはるかに高く，英語から公用語のシンハリー語・タミール語への切り換えも進んでいる。大学はセイロン大学のほか3大学がある。仏教の勢力は強く，政治の面でも教団の意向を無視することはできない。民俗や芸術にも仏教の伝統を受け継いだものが多く，毎年8月のカンジのペラヘラ祭は，美しい衣装をつけたゾウの行列や男女の踊りで広く知られる。〔浅井得一〕

せいわげんじ　**【清和源氏】**　⇨源氏

せいわてんのう　**【清和天皇】**　(850～880)　名は惟仁(これひと)。文徳天皇の第4皇子。母は藤原良房(よしふさ)の娘明子。生誕直後立太子，858年(天安2)即位。外祖父の藤原良房*が人臣としてはじめて摂政*となり，藤原氏*の全盛時代が始まった。876年(貞観18)子の陽成天皇に譲位して清和院にはいり，879年(元慶3)落飾し，翌年没した。世に水尾(みずのお)帝ともいう。天皇の子孫で源姓を賜わった者が多く，これを清和源氏と総称する。陵墓は京都市右京区嵯峨(さが)の水尾山陵。〔黛　弘道〕

ゼイン　［zein］　トウモロコシの種子に含まれる単純タンパク質。トリプトファンを欠いているため栄養素としては不十分で，タンパク源としてこれのみを摂取していると皮膚炎になる。

ゼウス　［Zeus］　ギリシア神話の主神。クロノス*とレア*の末子。デメテル・ヘラ・ハデス・ポセイドンらの弟。父クロノスを中心とするティタン*(巨神族)と10年にわたる戦いを交えたのち，その支配権を奪い，オリンポス山に座して他の神々を従え，かつ守護した。その後ギガンテス(巨人族)に挑戦(ちょうせん)されたが，ゼウスは一族を率いてこの反乱を退けた。主神を象徴する武器は雷霆(らいてい)である。神々の世界だけでなく人間界をも支配し，ここでは政治・法律，その他もろもろの徳をつかさどる神とされた。姉ヘラを妻としたが，他に多くの女神や人間の女たちと交わり，アテナ・アポロン・アルテミス・ヘパイストス・アレス・ヘルメス・ペルセウス・ミノス・サルペドン・ヘラクレス・ヘレネ・ディオニュソスらをもうけた。このうちアテナは，武装した姿でゼウスの頭から生まれ出た娘である。なお，ローマ神話のユピテル(ジュピター)と同一視される。〔松田　治〕



ゼウス　オリーブの冠を戴くゼウス　大英博物館蔵

セウタ　［Ceuta］　アフリカ北西端，モロッコ領内にあるスペイン領の港市。人口83,000(1967)。ジブラルタル海峡を隔ててジブラルタルに相対する。かつてフェニキア人の商港として栄えた。16世紀後半以降スペイン領になり，地中海への入り口という好位置から軍事上の要点になっている。漁業根拠地でもあり，かんづめや造船などの工業も行なわれている。

せおよぎ　**【背泳ぎ】**　⇨水泳

ゼオライト　⇨沸石

せかい　**【世界】**　世界とはもともと仏教の用語で，広く衆生の住む範囲をいうが，ここでいう世界とは，人類をはじめいっさいの生物が住みかつ存在する地球の表面をさす。地球の表面積は約5億1,000万km²であるが，そのうち人類が住むのに適する陸地は1億4,800km²で，陸と海の比率はおよそ3対7である。

古代の人たちは，自分の住んでいるところを中心として，ほんの狭い範囲しか知らず，それが世界の全部だと思っていた。ギリシア人の考えた世界は地中海がその中心であり，ヨーロッパも北部になるとその知識はきわめて不正確で，さらにヨーロッパ人によって中国の存在が知られるようになったのは，西暦紀元前後すなわちローマ時代になってからである。15世紀も末になってコロンブスがヨーロッパ人として新大陸を発見し，またバスコ-ダ-ガマによるインド航路の開拓があり，16世紀にはいってマゼランの一行が世界一周に成功して，ようやく世界全体のようすが明らかになってきた。オーストラリア大陸はいちばん遅れて，17世紀になってその東海岸が発見されている。すでに人類は，歴史時代にはいったときに，大洋中の孤島などを除いては，ほとんど現在と同じまでにエクメーネ*を拡大していたのであるが，ただそれらのエクメーネはいま述べたようにそれぞれ孤立していて，互いに他の存在を知らなかったのである。

1975年の国連推計による世界の年央人口は，39億6,700万である。20世紀の初めに世界の人口は約16億であったが，3分の2近くを経過した1964年にその2倍の32億となり，残りの3分の1でさらに2倍の65億に達するものと推計されている。これらの人口は，地球上の陸地に一様に分布しているのではなく，地形的にみれば大河の下流などなるべく海岸に近い低地，気候の上では居住と活動にいちばん適した温帯に最も多く集中し，この条件を満たしている西ヨーロッパ，アジアの南東部，北アメリカの大西洋岸の中部に合わせて27億，すなわち世界の人口の約3分の2が住んでいる。南極大陸や北極海の多くの島々，砂漠(さばく)の内部などは，いまのところ無人かそれに近い状態であるが，熱帯の密林の中には，近世以後開拓が進んで人類の新しい居住地となっているところがあり，増加する世界人口を収容するための熱帯への今後の期待は大きい。

人類は多くの人種と民族に分かれ，およそ150の国家を形成し，国際連合という組織をもっている。また日本・アメリカ合衆国・イギリス・フランスなどをはじめとする西側とよばれる資本主義国家群と，ソビエト連邦や中国をはじめとする東側とよばれる社会主義国家群とに分かれ，互いに対立する〈二つの世界〉を形成している。またこのために東西ドイツ・南北朝鮮，かつての南北ベトナムのように同一民族が二つの国に分かれるという不自然な状態にあるものもあり，東西の国家群の内部にも中ソの間でみられるような対立がある。また，インドやエジプトのような東西いずれのブロックにも加わらない非同盟国家群の存在も見のがすことができない。

われわれ人類が地球上にはじめて姿を現わしたのは，第四紀の初め，いまから200万年もまえのこととされる。はじめは自然にあるものを採集・狩猟するだけであったがしだいに農業や牧畜を覚え，また工業を発達させてきた。またトンネルや運河を掘り，ダムを築き，浅海の埋め立てや干拓をするなど自然に手を加え，計画的に改造することにも成功している。砂漠の緑化も試みられており，土壌(どじょう)を改良することもでき，また人工降雨なども実用的な段階にまで進んでいる。しかし，地質の改変はまだ近代科学の能力の及ばないところで，一度掘り尽くした地下資源は補充することができない。現代は石炭の時代から石油の時代にはいり，さらに原子力の時代を迎えようとしているが，産業や交通の発達と人口の激増に伴う大気汚染などの公害は，世界共通の大きな問題となってきている。

世界の各地域は，それぞれの自然条件と開発の歴史の相違によって，住居の生活や

産業のようすが異なっており，それぞれの立場から世界の経済に寄与している。農牧業では，南北アメリカやオーストラリアなどの新大陸*が小麦・トウモロコシ・ダイズや肉類・羊毛などをアジアやヨーロッパなどの旧大陸へ供給し，また東南アジア・インド・中部アフリカ・中央アメリカなどが，茶・コーヒー・カカオ・砂糖・ゴムなどの供給地となっており，これに対して西ヨーロッパや日本・アメリカ合衆国などは，世界各地へ機械や繊維などの工業製品を供給している。工業の原料となる鉄鉱・石炭・石油などはそれぞれの工業地域の内部のほか，地域外に求めることも多く，中でも中東*地域は世界における最大の石油の供給地となっている。貿易の流れも，以上のような物資の移動に伴うことが多いが，その流れの中にあって北の先進国と南の発展途上国とのいわゆる南北貿易や，資本主義国家群と社会主義国家群とのいわゆる東西貿易が，注目すべき存在となりつつある。

20世紀にはいって世界は２度の大戦の試練を受け，第２次世界大戦後は二つの世界の対立という新しい事態を迎えたが，それにもかかわらず交通や通信の発達および諸科学の進歩は，世界の各地域の孤立を許さず，しだいに一体化の方向へと進みつつあることは否めない。1971年における中華人民共和国の国連復帰や1976年の統一ベトナムの誕生は，この一体化に拍車をかけるものとして期待されよう。〔浅井得一〕

せかいかくめい【世界革命】 トロツキー*が主張した革命理論。彼の永久革命論*と一対をなす革命論であり，レーニン・スターリンの一国社会主義*革命論と対立するものであった。トロツキーはソビエト１国における社会主義建設は不可能であるとして，ソビエト革命はそれを世界革命まで推し広げることによってしか成功しないであろうと主張した。世界革命論は各国における革命の客観的条件を無視し，世界同時革命を主張するものであった。したがって，その革命形態は必然的に暴力革命*となる。なお，レーニン・スターリンらも，世界革命を説かなかったわけではないが，それは一国革命によって帝国主義の弱い輪を破り，各国のさまざまな革命運動の共同闘争を経て，最終的に国際資本の支配を打倒するまでの全過程をさす概念であって，トロツキーの主張と対立している。〔西尾孝司〕

せかいきぎょう【世界企業】 ⇨次ページ

せかいきしょうきかん【世界気象機関】 World Meteorological Organization の訳。略称WMO。国際連合*専門機関の一。気象観測や気象学と関連のある他の地球物理学的観測のために世界的に協力し，気象情報の迅速な交換組織の確立と維持，気象学の教育研究の奨励などを目的としている。1947年９月，ワシントンの国際気象台長会議で〈世界気象憲章〉を作成，1950年３月に成立。本部はジュネーブ。世界気象会議（４年に１回開催）・執行委員会（18か国代表で構成）・地域的機関・技術委員会・事務局で構成される。加盟国132（1969）。日本は1953年（昭和28）９月に加盟。〔広部和也〕

せかいきゅうせいきょう【世界救世教】 1934年（昭和９）大本教*から離れ，翌年〈御手代（みてしろ）〉を〈手のひら療法〉と変え，神霊指圧の信仰療法を看板とする宗教結社〈大日本観音会〉を設立したのに始まる新興宗教。教祖は岡田茂吉（1882～1955）。1936年に医師法違反で取り調べを受け，〈大日本健康協会〉と改めたが，再度の取り締まりで解散。その後，〈光明〉と書いたお守りで知られたが，1950年〈世界救世教〉として再発足した。すべての苦しみは霊に原因があるとして，手のひらから出る霊波〈浄霊〉によってあらゆる病気をなおすと称し，薬毒説・自然農法を唱えた。また美術活動も展開し，病・貧・争のない地上天国の建設を唱道している。公称信者77万。〔藤井正雄〕

せかいきょうこう【世界恐慌】 景気循環過程における下降・不況期で，特にそれが広範かつ急激であり，経済活動・経済生活全般が激しく攪乱（かくらん）される危機的状態を恐慌という。それは，生産面・商品市場面における過剰生産・価格低落のみならず，生産要素市場・商業部面・取引所・貨幣金融市場などあらゆる経済部門において生ずる。そうした恐慌は，各国において個個別々に生ずるのではなく，世界経済関係が密接化するにつれて，世界的な広がりをもって，世界恐慌として発生するようになる。1857年にはじめての世界恐慌が出現したとされており，以後1866・1873・1882・1890・1900・1907・1920・1929年と，世界恐慌は合計９回発生した。いわゆる〈世界恐慌〉といわれるものは1929年10月ニューヨークに始まった恐慌で，1933年に至る不況の持続期間，生産低下・物価低下の程度，世界貿易の縮小などからみて，未曾有（みぞう）のものであり，マルクスの主張する資本主義経済の全面的破局・最終的破局に到達したのではないかとさえ思われた。しかし，1930年代には財政・金融政策を中心とする政府の積極的な介入により，恐慌・不況を抑止・是正する方法・方策が採用されるようになり，第２次世界大戦後も若干の景気後退・不況はあったが，いわゆる世界恐慌といった深刻な事態は避けられるようになった。〔深海博明〕

せかいぎんこう【世界銀行】 ⇨国際復興開発銀行

せかいじ【世界時】 グリニッジ*平均太陽時*のこと。国際的な時刻比較に用いられている。暦表時*が使われるまえには，天文学の研究，天体観測の資料の整理に用いられていた。世界時はUT０・UT１・UT２の３種類に分けられる。UT０は，天体観測によって求められる恒星時*を太陽時*へ変換すれば決定される。UT１はUT０に極運動*による経度変化（Δλ）を補正したものである。UT２はUT１に，地球の自転速度の変動のうち季節変化（Δs）を補正したものである。Δλ，Δsの値はパリにある国際報時局で算定して各国へ知らされている。UT２は1956年以後国際的に使用されている。〔木下　宙〕

せかいじんけんせんげん【世界人権宣言】 1948年12月10日，第３回国際連合*総会で採択された宣言で，すべての人民と国家が達成すべき共通の規準として，人権と基本的自由を具体的に示したもの。国際連合憲章（国連憲章）は人権の擁護を重視し，人権と基本的自由の尊重について規定しているが，保護すべき人権を具体的に定めているものではない。人権に関する国連憲章の規定を具体化したのがこの宣言で，前文と本文30条からなり，自由権的基本権と生存権的基本権の両者を含んでいる。世界の諸国家が体制を越えて宣言の採択に同意した意義は大きく，採択されて以来，世界に与えた影響は非常に大きい。しかし，宣言はすべての国家の努力目標を示したもので，それ自身国家を拘束する性質のものではない。〔広部和也〕

せかいないそんざい【世界-内-存在】 現代ドイツの哲学者ハイデッガーが主著《存在と時間》（1927）において用いた基本的概念の一つで，現存在（人間存在）の根本的なあり方をいう。人間存在はつねに環境世界の中に投げ出されているが，それは単なる事物存在や道具存在とは別のしかたにおいてである。人間は事物や道具に〈配慮〉し，他人に〈顧慮〉し，自己に〈関心〉を払いながら，道具連関としての〈世界〉の中にある，というのがその理論である。サルトルはこれをそのままフランス語に訳して彼の存在論に取り入れているが，ときに状況-内-存在ともいいかえている。〔飯塚勝久〕

せかいぶんかしゃ【（株）世界文化社】 日本全国に直接販売システムをもつ総合出版社。1952年（昭和27）鈴木郁三（いくぞう）が設立，1958年に《家庭画報》を創刊して生活実用誌ブームの端緒を開いた。〈文化・教育事業の普及〉を経営理念とし，《日本歴史シリーズ》などの教養部門，《ワンダーブック》《カラー図鑑百科》などの幼児・学童部門，さらにオーディオ部門の拡充へと短時日に著しい伸張をみせた。1971年《世界文化大百科事典》を刊行。

せかいぼうえき【世界貿易】 ⇨470ページ

せかいほけんきかん【世界保健機関】 World Health Organization の訳。略称WHO。国際連合*専門機関の一。保健事業の国際的指導・調整，国際的保健事項に関する条約の提案・勧告，医薬局の国際的標準化，保健の分野の研究促進，人口問題の研究調査などを目的とし，国際伝染病対策，国際衛生規則，各国の免疫制度の調整，予防接種の実施，防疫情報の交換などの事業を

世界企業

最近，世界企業の活動が活発化して大いに注目を集めているが，その定義・内容について一般に合意・確立されたものはなく，類似概念である〈多国籍企業〉〈国際企業〉ないし〈超国籍企業〉との区別も明確ではない。

ごく一般には〈世界全体を一つの経済とみなし，その上で数多くの国の資源を利用して，最大の成果と最大の収益をあげる〉ことを目的とする企業と定義が可能であろう。さらに具体的には，次の二つの条件を満たす企業であるとされている。第1に，少なくとも一つ以上の外国に定着した製造拠点またはその他の形態の直接投資*を確保していること，あるいはその企業の繁栄と成長が複数国に基礎をおくほどの大きさで2国以上で事業を行なっていること，第2に，その経営者が全世界的な見通しにたち，市場開発・生産および研究について，世界じゅうでどこにでもすぐ適用可能なさまざまな基本的意思決定を行なっていること，あるいはその経営の意思決定が国際的な最適状態の選択によって行なわれることである。

この第1の基準を満たす企業を通常多国籍企業ないし国際企業とよび，第2の基準を満たす企業を世界企業とよぶが，世界企業はいっそう世界化の度合いの高い企業形態を意味するものとされている。さらに，経営関係の多国籍化のみでなく，所有関係をも多国籍化・世界化する場合を特に超国籍企業と名づけることもある。

〔世界企業と直接投資〕 こうした企業の世界化・国際化の手段・方策は直接投資であり，逆にいえば世界企業は直接投資のにない手ないし実行者であり，両者は裏腹の関係にあるといえる。直接投資は，投資者による企業支配ないし所有を目的とする国際投資であり，さらに単なる資本の移動のみでなく，経営能力・技術・知識が一体化して，生産資源の集合体が受け入れ国に伝播(でんぱ)されることが重要である。特にその中核をなすのは経営資源であり，特許やノウ-ハウや販売方法・経営能力・技術開発能力・資金調達能力・情報収集能力およびそれらを総括する組織全体をさしている。企業は，こうした直接投資を積極的に推進していくことにより，世界企業化を実現していくのである。

〔現状〕 現実的に世界企業がどの程度存在するかについても，世界企業をどう定義するかにかかっており，前述の第1の条件を満たすものは数多く(アメリカだけで三千数百種)存在するが，第2の条件をも満たす真の世界企業数はわずかひと握りであり，さらに超国籍企業と称すべきものはヨーロッパにおけるロイヤル-ダッチ-シェルグループ*・ユニ-リーバ*などにみられるだけである。常識的に代表的世界企業といわれているものをいくつかあげると，アメリカにおけるゼネラル-モーターズ*(GM)・フォード*・クライスラー*(自動車)，スタンダード石油*・モービルオイル*・ガルフ石油*(石油)，ゼネラル-エレクトリック*(GE)(電機)，IBM*(電子計算機)，デュポン・ダウ-ケミカル・ユニオンカーバイド*(化学)，ゼネラル-フーズ*(GF)・コカコーラ*(食品)，イーストマン-コダック*(フィルム)，ヨーロッパにおけるロイヤル-ダッチ-シェルグループ(イギリス・オランダ，石油)・ユニ-リーバ(イギリス・オランダ，食品・化学)・ブリティッシュ-ペトロリウム*(BP)(イギリス，石油)・ICI*(イギリス，化学)・フィリップス*(オランダ，電機)・ネッスル*(スイス，食品)・SKF(スウェーデン，ベアリング)などであろう。

しかし，より広義に多国籍企業を含む世界企業の世界経済に占める地位を明らかにしてみると，現在主要先進国(厳密には開発援助委員会*加盟国)の直接投資残高は1,100億ドルを越えており，これに現地での資金調達分および帳簿価額の過小評価などを考慮すれば，世界全体での世界企業の総資産額は2,000億ドルを越え，3,000億ドルにも達するのではないかとされている。一般に1ドルの海外直接投資は2ドルの海外生産をもたらすとされており，現在世界企業の海外投資に基づく生産額は，世界総生産(1969年2兆ドル)の15～25%に達すると推定される。現在でも世界企業はすでに重大な地位を占めているが，もし，過去20年間にみられたように世界企業の総海外生産額が世界総生産成長率の約2倍にわたる年率10%で今後も成長していくとすれば，今世紀末までに世界総生産の半分は世界企業の海外生産によって支配され，2050年にはほとんどすべてがこれらの支配に服するといった驚くべき結果が予想される。しかも，世界企業の活動のほとんどは寡占的大企業によって行なわれており，200～300の大企業の活動によって支配されているのである。

〔行動論理と評価〕 世界企業の分析・評価にあたっての主要な問題点の第1は，なぜ企業が成長し，大規模化していくにつれて直接投資を行ない，世界企業化していくかの要因分析とその形成過程の分析にあり，第2に，こうした世界企業が世界経済全体および各国民経済にどのような影響・効果を及ぼし，それが意義あるものであるかの評価・分析にある。これらの分析方法，アプローチのしかたとしては，第1に，ミクロレベルでの個々の産業・企業の行動論理に着目しての産業組織論的アプローチ，第2に，マクロレベルでの要因・効果分析に中心をおく国際貿易論・国際経済論的アプローチ，第3に，世界企業は国際的独占形成・国際的搾取の手段・にない手であり，これを排除することこそ望ましい方策であるとするマルクス経済学的アプローチ，の三つが存在している。現在まで種々なる模索が行なわれているが，確立された見解は存在せず，主として第1と第2のアプローチを総合化することにより，統一的・体系的な分析を行なうことに中心がおかれているといえよう。

世界企業化，直接投資の進展は，基本的には，世界全体としての資源配分を改善し，経済厚生を高め，例外的な場合を除いて投資国・受け入れ国の双方に利益をもたらすとして高く評価する見解もあるが，世界企業の行動の要因・本質が，なんらかの独占的優位を武器とする世界企業間の国際的競争の自由化ないし寡占企業間における世界市場の獲得競争にあるとする見解が有力である。世界企業の行動は，世界的視野ないし受け入れ国の視点からみた場合に，効率とは反する独占者としても，あるいは国家目標の一つの要具として発展することもできるし，さらに技術を広め，資本を再配分し，競争を拡大するために，全世界の利益に立って事業を行なうこともできるのである。そこで必要なのは，世界企業を，世界全体としても各国相互間においても望ましい方向に向かわせるような世界的共通政策・共通規制を確立・実行していくことであり，この点で各国の産業政策もこの方向を決める重要な要因となろう。基本的には，世界企業の独占的行動を規制する反独占政策が中心となるとともに，世界企業間においてもなんらかの新しい行動パターンが確立されていくことが最も望ましい方向であろう。

世界企業化が世界経済の基本的潮流であり，今後ともその重要性を増大しつづけ，決定的役割を演ずるようになることは明白であり，それを日本経済としても前向きに，積極的に受け止めて対応していくことが要請されており，この傾向がさらに続けば，現実面から，本質的に国家単位の国民経済を基本的構成単位とする現在の世界経済のわく組み自体に対する大きな挑戦(ちょうせん)ともなっていくと考えられる。〔深海博明〕

行なっている。1946年5月第1回国連総会の決定に基づき，1948年4月成立。本部はジュネーブ。総会・執行理事会・事務局(本部および地域事務局)で構成される。加盟国128(1969)，日本は1951年(昭和26)5月に加盟。この機関が設立された4月7日は〈世界保健デー〉とされている。〔広部和也〕

せかいれき 【世界暦】 グレゴリオ暦*の改良案。1903年ドイツのジハルトが提案し，

1930年以来エリザベス-アケリス女史によってニューヨークに設立された世界暦協会が普及に努めている。グレゴリオ暦のおもな欠点として，①年初が無意味であること，②1か月の長さが28日・29日・30日・31日の4種があり，その配列が不規則なこと，③週日と暦日との間に一定の関係がないことなど，があげられる。世界暦では1年365日を364日と1日に分け，364日は4等分して91日ずつの四季とし，さらに各季を3か月に区分して順に31日・30日・30日の長さにとる。このようにすれば各季節は正しく13週からなり，その最初の月の第1日を日曜日とすることができる。次に余った1日を12月31日に，また，うるう年の余分の1日を6月31日(平年の6月は30日)と決め，この2日を曜日のない無週日にし，世界日と名づけて休日とする。こうして各季節は日曜日で始まって土曜日で終わり，年によって週日が変わらない暦が得られるが，無週日を設けることはキリスト教徒にとってかなり抵抗のあることで，また年初の無意味な点も改良されていない。国際連合で世界暦を採用する動きがあったが，現在は立ち消えになっている。〔木下　宙〕

せかいろうどうくみあいれんめい　【世界労働組合連盟】 World Federation of Trade Unions の訳。略称は世界労連(WFTU)。第2次世界大戦中に連合諸国の労働組合間に成立した反ファシズムの国際的統一行動を基礎にした労働組合の国際的組織。1945年パリで結成された。その基本方針は，階級的立場に立って反ファシズム・反独占のたたかいをすることであり，その目的は，世界の労働者の団結，後進国労働者の組織化の援助，戦争およびその原因となるものとの闘争と恒久平和の樹立，労働条件の改善，完全雇用の実現，社会保障の獲得などである。1949年マーシャルプランに反対する世界労連の方針を不満として，アメリカのCIOやイギリス・オランダの組合が脱退し，国際自由労働組合連盟(国際自由労連)を結成した。世界労連の本部は，現在プラハにあり，その組織人員は1968年末現在で1億3,800万人。〔木元錦哉〕

せかいろうれん　【世界労連】 ⇨世界労働組合連盟

せがき　【施餓鬼】 法会の一。仏教の輪廻(りんね)業報説によれば，前生で慳貪(けんどん)(もの惜しみ)の罪を犯した者は次生で餓鬼道に生を受けて前生の罪をつぐなわなければならないとされる。餓鬼道に生まれて激しい飢えや渇(かわ)きに苦しめられている亡者(もうじゃ)(餓鬼)の苦痛はみずからの悪業の報いであるが，彼らの苦しみを柔らげるために食物や飲み物を供養することを施餓鬼という。現在でも盂蘭盆会(うらぼんえ)の行事と習合して施餓鬼会が行なわれ，特に禅宗で盛んである。〔岡部和雄〕

ゼーガース　［Anna Seghers］ (1900～　) 東ドイツの女流小説家。代表作《聖バルバラの漁民一揆(いっき)》は，鋭い美的感覚とリアリズムで描かれ，社会主義文学に新生面を開いた。ナチ時代にはフランス・メキシコに亡命，《第七の十字架》はその亡命の間に書かれた反ナチ抵抗文学として広く知られる。帰国後の代表作には，第1次世界大戦後から社会主義建設に至るまでの東ドイツ現代史を独特な多面的構成によって描いた長編《死者はいつまでも若い》《決断》《信頼》があり，その他すぐれた短編も多い。〔志村　博〕

せがわきくのじょう　【瀬川菊之丞】 歌舞伎(かぶき)俳優。屋号は浜村屋。俳名は代代路考。

［1］初世：(1693～1749)　上方出身の名女方で，地芸・所作事ともにすぐれていた。江戸でも評判がよく，三都随一の女方をたたえられた。《無間の鐘》《風流相生獅子(ふうりゅうあいおいじし)》などをあたり役とする。

［2］2世：(1741～1773)　宝暦～明和期の江戸の人気を集めた女方。路考結(むすび)・路考髷(まげ)・路考茶などを流行させた。俗に王子路考という。

［3］3世：(1751～1810)　天明～寛政期に江戸で活躍した女方。仙女(せんにょ)路考。

［4］4世：(1782～1812)　寛政～文化期の女方。猿屋(さるや)路考。

［5］5世：(1802～1832)　文化～天保(てんぽう)期に活躍した女方。多門路考。

［6］6世：(1907～　)　本名瀬川豊太郎(とよたろう)。前進座に所属する。〔服部幸雄〕

せがわじょこう　【瀬川如皐】 歌舞伎(かぶき)作者。3世が最も有名。

［1］初世：(1739～1794)　3世瀬川菊之丞(きくのじょう)の実兄。特に浄瑠璃(じょうるり)の作詞にすぐれ，《関の扉(と)》《仲蔵狂乱》《羽根の禿(かむろ)》などをつくった。

［2］2世：(1757～1833)　4世鶴屋(つるや)南北と同時代の作者。浄瑠璃の作詞にすぐれ，変化物で，《瓢箪鯰(ひょうたんなまず)》《角兵衛(かくべえ)》《三社祭》などが有名。

［3］3世：(1806～1881)　5世南北の門下。上京した4世市川小団次と結んで《東山桜荘子》や《与話情浮名横櫛(よわなさけうきなのよこぐし)》などの傑作をつくったが，2世河竹(かわたけ)新七(黙阿弥(もくあみ))の人気におされ不遇に終わった。

［4］4世(1857～1938)・5世(1888～1957)もそれぞれ狂言作者として活躍した。〔服部幸雄〕

セガンチーニ　［Giovanni Segantini］ (1858～1899)　19世紀イタリアの著名な風景画家。はじめはミラノに学んだが，のちアルプスの山中にはいり，自活しながら特異な分割描法を用いて山岳の光の効果を最大限に描出した。それらは，ロンバルジア地方の明るい色彩を伝統に基づいて盛り上げたものではなく，純粋な色彩の対照法で，大自然を魅力ある筆致にとらえ，点景の人物にも深い人間感情を表現したものである。サン-モリッツには，セガンティーニ美術館があって，代表作の《自然・生・死》などを収める。〔井関正昭〕

セカント ⇨三角関数

せき　【咳】 咳嗽(がいそう)ともいう。咽頭(いんとう)・喉頭(こうとう)の刺激，気管内異物などが原因となって起こる一種の反射運動。吸気に引き続いて声門(→声帯)が閉塞(へいそく)し，呼気の際胸腔(きょうこう)内圧が増大する結果，声門の開口と同時に急激に気道内容物や空気が押し出されるために起こる。痰(たん)を伴う場合を湿性咳といい，主として気道感染の際にみられる。痰を伴わない場合は乾性咳といい，主としてちり・煙などの物理的・化学的刺激によることが多い。咳を主とする病気には，①上気道の炎症(扁桃炎(へんとうえん)・咽頭炎・アデノイド・蓄膿症(ちくのうしょう))，②気管・気管支や肺の病気(気管・気管支炎，肺炎，肺結核，肺膿瘍(はいのうよう)，気管支拡張症，胸膜炎，百日咳など)，および気管支喘息(ぜんそく)，塵肺(じんぱい)，肺・気管支の腫瘍(しゅよう)，異物，外部からの圧迫など，③耳の病気(外耳炎・耳内異物)，④ヒステリー・横隔膜神経反射などがある。咳は気道内容物を除去しようとする生理的反射現象であるが，安静・睡眠が保てず，心臓に負担をかける。病原物質の拡散のおそれがあるときなどは，鎮咳薬を用いたりして咳をしずめる必要がある。〔佐野隆志〕

せき　【関(市)】 岐阜県中南部の市。人口59,000。もと東山道の宿駅で，関所が置かれたといわれる。古くから刀鍛冶(かたなかじ)が発達し，室町時代から戦国時代にかけては関孫六・兼定，志津三郎ら，美濃(みの)鍛冶とよばれる名匠が出た。1950年(昭和25)市制施行。市域は濃尾平野の北端に近く，北と東は美濃高原末端に接し，長良(ながら)川の支流武儀川と津保川の沿岸沖積地(ちゅうせきち)に広がる。産業三大別人口比は11：51：38。平地には水田が開けるが，主産業は金属工業で，ポケットナイフ，安全かみそりの替え刃，洋食器の生産が多く，製品の約60％は輸出される。越美(えつみ)南線・名古屋鉄道美濃線・国道248号線が通じ，西郊を国道156号線が走る。重要文化財の新長谷(しんはせ)寺(吉田(きった)観音)や弥勒(みろく)寺跡などの史跡があり，北西郊の長良川流域小瀬は鵜飼(うかい)で名高い。

せきい　【赤緯】 ⇨赤道座標

せきうん　【積雲】 十種雲形の一。夏の午後など晴れ上がった青空に浮かんでいる白い雲。雲底はふつう下層にあるが，発達すると雲頂は中層・上層まで発達していることが多い。朝方に発生した積雲は，太陽が高くなって気温が上がるにしたがい，雲は水平方向に広がるとともに，上面はむくむくと高くふくれあがり，いくつかの雲が合一して発達する。雲の形がカリフラワーの

ようになり，高い塔がそそり立つようになった場合に雄大積雲，一名入道雲とよぶ。これがさらに発達すると，積乱雲となり，雷鳴や電光を伴うようになる。雄大積雲や積乱雲は夏の晴れた日ばかりでなく，冬季裏日本の豪雪期や梅雨期の集中豪雨などの際にも群生して雨・雪を降らすことが知られている。〔曲田光夫〕

せきえい【石英】最もよく産出する造岩鉱物の一。SiO_2 化学的に非常に純粋なことが特徴である。三方晶系。比重2.65，硬度7，劈開(へきかい)なし，屈折率1.54。多くは無色または白色であるが，しばしば微量の不純物などのために黄・赤・緑・紫色などを呈する。透明な六方柱状結晶は水晶とよばれ古代から親しまれてきた。結晶の柱面には水平な条線がある。潜晶質のものは玉髄といい，めのう・碧玉(へきぎょく)などがこれに属する。セキエイには高温セキエイと低温セキエイの2種があり，573℃前後で転移する。高温型は六方晶系で六方両錐(りょうすい)状の結晶形を示し，低温型は三方晶系で水晶のように6個または3個の端面をもち，端がとがった六方柱状の結晶形が多い。高温型の外観をもっているものでも，室温では低温型の結晶構造をもっている。高温型でも結晶構造は低温型にきわめて近く，水晶と同じように右回りと左回りの2種がある。二酸化ケイ素SiO_2は地殻(ちかく)中で最も豊富な酸化物であるため，きわめて広い範囲にわたって産出する。高温型は火山岩中に斑晶(はんしょう)として産し，低温型はシリカに富んだカコウ岩などの火成岩中やペグマタイト，鉱脈などのおもな構成鉱物として産する。また質がかたく，風化に対しても抵抗性が強く，砕屑(さいせつ)鉱物のうち最も多いものであり，砂岩・レキ岩などのおもな構成鉱物でもある。さらに片麻岩・片岩などの変成岩中でも主要な造岩鉱物である。

セキエイは広い範囲にわたって利用される。建築材料としては，砂岩は石材やコンクリート材料として，砂はモルタルやセメントに混ぜて用いられる。冶金(やきん)の融剤やガラスなどの窯業原料，耐火材としても用いられる。また飾り石や準宝石または石器としても古くから用いられてきた。石英るつぼなどの化学器具，光学機器，水晶発振子など工業的にも広い範囲にわたって利用されている。近年は工業的にも合成されている。➔シリカ〔加藤敏郎〕

せきえいガラス【石英ガラス】二酸化ケイ素SiO_2だけを成分としたガラス。原料はケイ酸ゲル・水晶など。有機ケイ素化合物から合成した高純度のケイ酸原料も用いられている。これらを2,400℃ぐらいでとかしたものは無色透明であるが，半溶融でつくったものは白色不透明である。紫外線の透過がよいこと，耐熱性が高いこと，熱膨張係数が低いこと，電気抵抗が高いことなどが特徴で，レンズ・プリズム・絶縁材料・理化学用器具などに用いられる。シリカーガラス，溶融石英などともよばれる。〔境野照雄〕

せきえいぐん【赤衛軍】武装したプロレタリアートの称。1905年の第1革命の際ボリシェビキに指導された労働者部隊として最初に登場した。1917年の革命に際しても武装労働者の組織化は，革命情勢の中で着々準備され，二月革命の最初から労働者民警として工場の自衛などにあたった。4月にはいってビボルグのソビエトは赤衛軍の名のもとに労働者を組織し，ほとんどすべての大都市・工業中心地に組織化が進んだ。7月事件後一時地下に潜行したが，8月のコルニーロフ反乱鎮圧に重要な役割を果たして急速に強化され，10月半ばにはペトログラード・モスクワで各10,000以上が戦闘可能な体制にあった。10月23日軍隊として整備され，10月の武装蜂起(ほうき)の中心部隊となっている。1918年4月の赤軍創設に際してはその基礎となり，1946年ソビエト軍と改称された。〔山県弘志〕

せきおう【石黄】ヒ素の原料鉱物。雄黄ともよぶ。As_2S_3 単斜晶系。硬度1.5〜2，比重3.4〜3.5，劈開(へきかい)は(010)に完全。脂肪光沢を有し，やや不透明。色・条痕(じょうこん)ともにレモン黄色を呈する。わが国の産地では大分県尾平地方が有名である。



セキオウ　青森県恐山産

せきがいせん【赤外線】電磁波の一種で，波長が可視光線より長く，マイクロ波よりも短い光。だいたい0.75 μから1 mmぐらいの領域をさす。赤の暗くなるところから始まるので赤外線の名が出た。熱作用があるので熱線ともいい，目には光として感じない。これをふつう，近赤外線と遠赤外線とに分ける。はっきりした境界はないが，だいたい25 μぐらいをその境界としてよい。その効果としては熱作用のほかに，写真作用・螢光(けいこう)作用・光電効果をもつ。また空気中においては，その透過力が可視光線よりも大きいので，赤外線写真や秘密通信・暗視管あるいは物質の鑑定などに利用される。工業的にも注目され，赤外線加熱・放射温度計・赤外線分光分析などに用いられる。赤外線加熱は表面加熱であるが，特に薄物には内部的にも働き乾燥速度が速いので，赤外線照射の施設さえあればよいという利点もあって塗装の乾燥用などによく利用されている。赤外線の熱作用はその検出器に熱電堆(たい)・サーミスター・ボロメーターなどを用いれば放射温度計に応用される。また，赤外線を強く反射する金・銀・白金・アルミニウムなどをめっきした反射鏡と，その測定範囲に応じた材質(透明度が異なる)のプリズムまたは格子(こうし)とを組み合わせてつくった赤外線分光計で分光すれば，分子や原子によって特定の波長に強い吸収が現われる。この赤外吸収帯を利用して物質の化学的組成や分子構造を，その強さを利用してその物質の量を知るという赤外線分光分析にも用いられる。また医療にも用いられている。〔中山忠巳〕

せきがいせんしゃしん【赤外線写真】赤外線を利用して写す写真のこと。撮影には赤外線用フィルター(0.1 μより短い波長をカットする)を使用し，赤外用フィルムを用いる。普通のフィルムを増感したり，一度感光したものに赤外線をあてる方法もある。赤外線の研究のほか，遠方のものをはっきり撮影したい航空写真，写真測量および一般野外撮影や特殊効果をねらって夜間照明なしに撮影する場合，美術写真など，および医学写真・鑑定写真としても用いる。

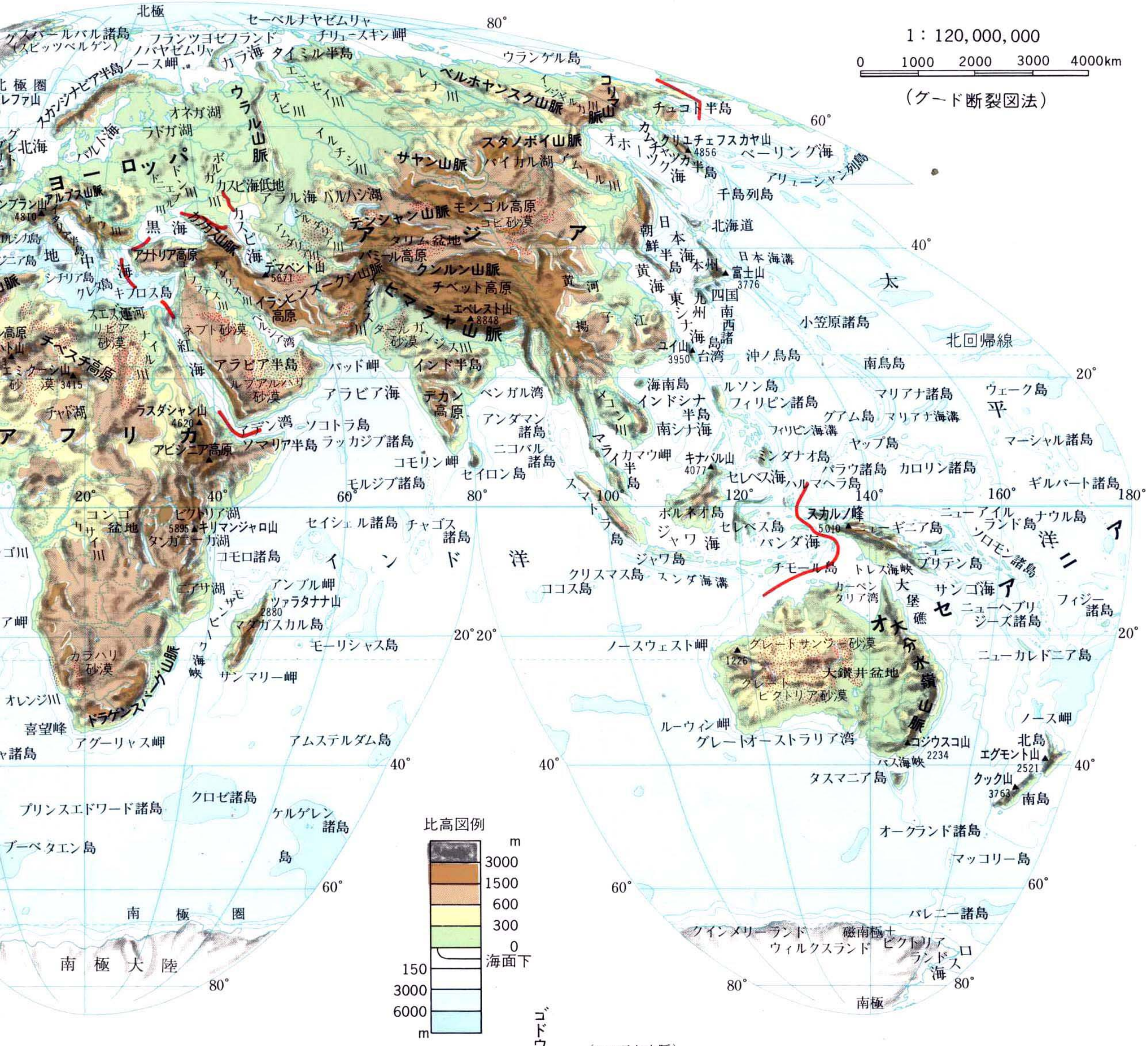
せきがいせんりょうほう【赤外線療法】赤外線を利用した光線療法。主として温熱療法に用いる。ふつうソラックスランプを用い，30〜40cmの距離から照射する。深達距離は紫外線より深く，30mmほどである。照射によって皮膚に一過性の温熱性紅斑(こうはん)を生じ，長く続けると大理石様色素沈着を起こす。局所の鎮痛，充血・血行・リンパ行が改善されるなどの効果がある。急性湿疹(しっしん)・急性皮膚炎・各種リウマチ性疾患などの治療に用いられる。



赤外線写真
普通のカラー写真(左)と赤外線写真(右)。カラー写真では判別できない生花と造花が，赤外線写真では生花は赤，造花は青紫とはっきりした違いを生じている

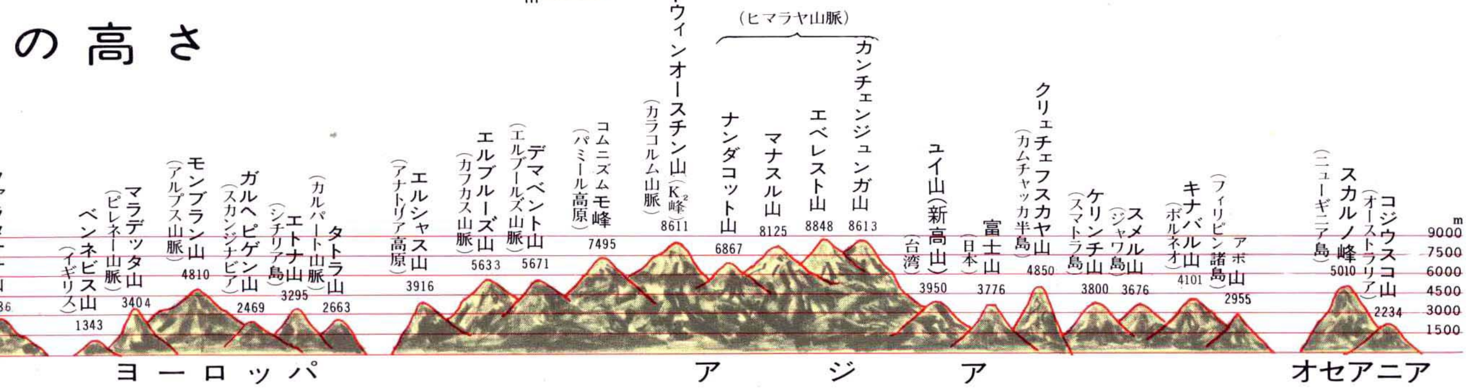
世　　界

地　勢

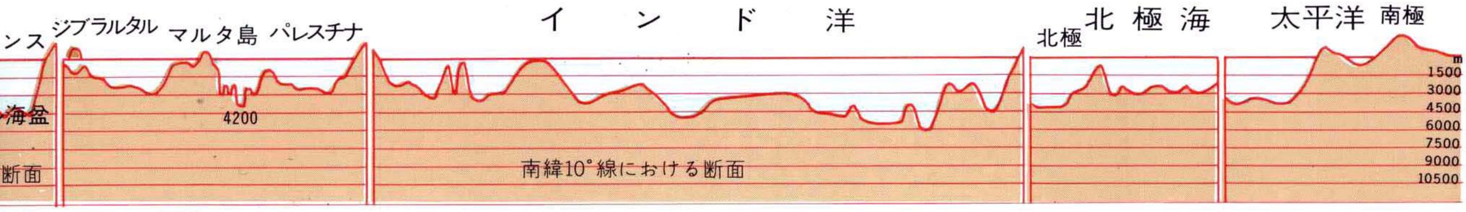


1：120,000,000
0　1000　2000　3000　4000km
（グード断裂図法）
北極
セーベルナヤゼムリャ
フランツヨセフランド
チリュースキン岬
ノバヤゼムリャ
カラ海
タイミル半島
ウランゲル島
ベルホヤンスク山脈
コリマ山脈
チュコト半島
ウラル山脈
オビ川
エニセイ川
レナ川
インジギルカ川
オネガ湖
ラドガ湖
バルト海
北海
ヨーロッパ
アルプス山脈
ボルガ川
ドン川
カスピ海低地
アラル海
バルハシ湖
スタノボイ山脈
サヤン山脈
バイカル湖
アムール川
オホーツク海
カムチャツカ半島
クリュチェフスカヤ山
4856
ベーリング海
アリューシャン列島
千島列島
北海道
黒海
カフカス山脈
カスピ海
テンシャン山脈
モンゴル高原
ゴビ砂漠
アジア
アナトリア高原
デマベント山
5671
パミール高原
クンルン山脈
チベット高原
ヒマラヤ山脈
エベレスト山
8848
黄河
揚子江
日本海
朝鮮半島
黄海
東シナ海
本州
九州
四国
富士山
3776
日本海溝
太平洋
キプロス島
クレタ島
シチリア島
スエズ運河
リビア砂漠
ナイル川
紅海
ネフド砂漠
ペルシア湾
イラン高原
アラビア半島
ルブアルハリ砂漠
タール砂漠
インダス川
ガンジス川
インド半島
デカン高原
ユイ山
3950
台湾
沖ノ鳥島
小笠原諸島
南西諸島
北回帰線
南鳥島
ウェーク島
アラビア海
ベンガル湾
海南島
インドシナ半島
メコン川
ルソン島
フィリピン諸島
マリアナ諸島
マリアナ海溝
グアム島
フィリピン海溝
ヤップ島
マーシャル諸島
アフリカ
ラスダシャン山
4620
アデン湾
ソコトラ島
ソマリア半島
ラッカジブ諸島
アビシニア高原
アンダマン諸島
ニコバル諸島
南シナ海
マレー半島
カマウ岬
キナバル山
4077
ミンダナオ島
パラウ諸島
カロリン諸島
ギルバート諸島
コモリン岬
セイロン島
モルジブ諸島
スマトラ島
ボルネオ島
セレベス海
ハルマヘラ島
ビクトリア湖
キリマンジャロ山
5895
タンガニーカ湖
コンゴ盆地
セイシェル諸島
チャゴス諸島
ジャワ島
ジャワ海
セレベス島
バンダ海
スカルノ峰
5010
ニューギニア島
ニューアイルランド島
ナウル島
ソロモン諸島
ニューブリテン島
コモロ諸島
インド洋
クリスマス島
ココス島
スンダ海溝
チモール島
トレス海峡
カーペンタリア湾
大堡礁
サンゴ海
ニューヘブリジーズ諸島
フィジー諸島
オセアニア
ニアサ湖
アンブル岬
ツァラタナナ山
2880
マダガスカル島
モザンビーク海峡
モーリシャス島
ノースウェスト岬
グレートサンディー砂漠
大鑽井盆地
大分水嶺山脈
グレートビクトリア砂漠
ニューカレドニア島
カラハリ砂漠
ドラケンスバーグ山脈
サンマリー岬
オレンジ川
喜望峰
アグーリャス岬
アムステルダム島
ルーウィン岬
グレートオーストラリア湾
コジウスコ山
2234
バス海峡
タスマニア島
ノース岬
北島
エグモント山
2521
クック山
3763
南島
クロゼ諸島
プリンスエドワード諸島
ケルゲレン諸島
ブーベ島
オークランド諸島
マッコリー島
比高図例
m
3000
1500
600
300
0
海面下
150
3000
6000
m
南極圏
バレニー諸島
南極大陸
クインメリーランド
磁南極
ウィルクスランド
ビクトリアランド
ロス海
南極

の高さ



ベンネビス山（イギリス）1343
マラデッタ山（ピレネー山脈）3404
モンブラン山（アルプス山脈）4810
ガルヘピゲン山（スカンジナビア）2469
エトナ山（シチリア島）3295
タトラ山（カルパート山脈）2663
エルシャス山（アナトリア高原）3916
エルブルーズ山（カフカス山脈）5633
デマベント山（エルブールズ山脈）5671
コムニズム峰（パミール高原）7495
ゴドウィンオースチン山（K2峰）（カラコルム山脈）8611
（ヒマラヤ山脈）
ナンダコット山 6867
マナスル山 8125
エベレスト山 8848
カンチェンジュンガ山 8613
ユイ山（新高山）（台湾）3950
富士山（日本）3776
クリュチェフスカヤ山（カムチャッカ半島）4850
ケリンチ山（スマトラ島）3800
スメル山（ジャワ島）3676
キナバル山（ボルネオ）4101
アポ山（フィリピン諸島）2955
スカルノ峰（ニューギニア島）5010
コジウスコ山（オーストラリア）2234
m
9000
7500
6000
4500
3000
1500
ヨーロッパ
アジア
オセアニア



ジブラルタル
マルタ島
パレスチナ
海盆
4200
断面
インド洋
南緯10°線における断面
北極海
北極
太平洋
南極
m
1500
3000
4500
6000
7500
9000
10500

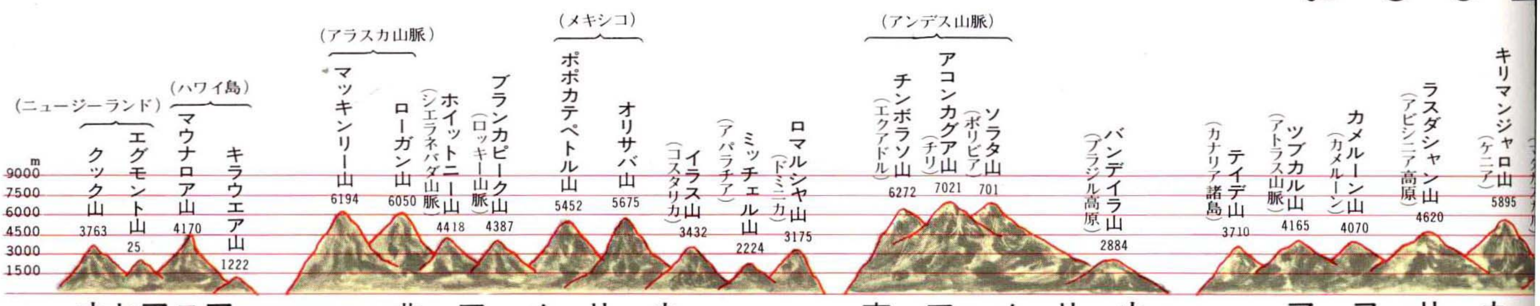
断面図

世界の

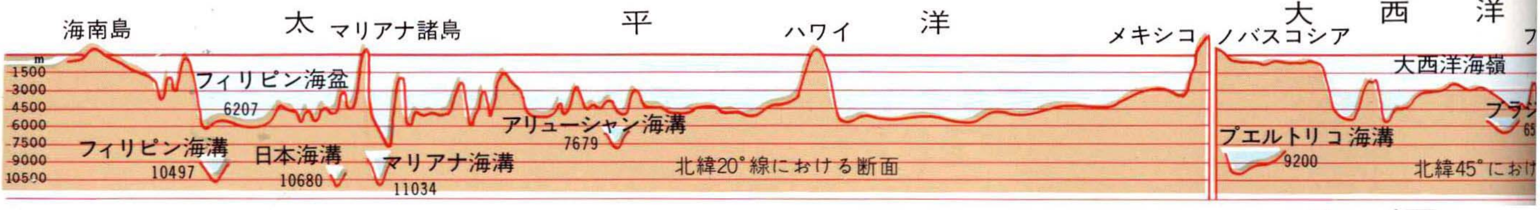


北極海
北極
磁北極
バンクス島
ビクトリア島
グリーンランド
デンマーク海峡
デービス海峡
バフィン島
アラスカ半島
ユーコン川
マッキンリー山
6194
ローガン山
6050
マッケンジー川
グレートベア湖
グレートスレーブ湖
ハドソン湾
ラブラドル半島
フェアウェル岬
オレファ山
2119
アイスランド
アラスカ半島
アリューシャン列島
ロッキー山脈
ロブソン山
3954
レーニア山
4392
シャスタ山
4316
バンクーバー島
コロンビア川
ウィニペグ湖
ローレンシア台地
セントローレンス川
ニューファンドランド島
ノバスコシア半島
ミズーリ川
五大湖
北アメリカ
コッド岬
アパラチア山脈
ホイットニー山
4420
ブランカピーク山
4387
コロラド川
ミシシッピ川
ハッテラス岬
バミューダ諸島
カリフォルニア半島
シエラマドレ山脈
リオグランデ川
メキシコ湾
フロリダ半島
バハマ諸島
ユカタン半島
キューバ島
イスパニオラ島
プエルトリコ島
オリサバ山
5675
ポポカテペトル山
5452
テワンテペク地峡
ジャマイカ島
カリブ海
西インド諸島
ニカラグア湖
イラス山
3435
パナマ運河
マラカイボ湖
オリノコ川
リャノ
ギアナ高地
クリッパートン島
ミッドウェー諸島
ハワイ諸島
マウナロア山
4210
ジョンストン島
パルミラ島
ファンニング島
クリスマス島
ジャービス島
フェニックス諸島
ライン諸島
スターバック島
マルキーズ諸島
マニヒキ島
サモア諸島
ウボル島
ソシエテ諸島
ツアモツ諸島
トンガ諸島
タヒチ島
クック諸島
カンビア諸島
トンガ海溝
ツブアイ諸島
ケルマデック諸島
ケルマデック海溝
南回帰線
サライゴメス島
イースター島
チャタム諸島
太平洋
オセアニア
赤道
ガラパゴス諸島
チンボラソ山
6272
パリニャス岬
アマゾン川
マラジョ島
セルバ
タパジョス川
トカンチンス川
南アメリカ
ブランコ岬
サンフランシスコ川
カンポ
ソラタ山
7016
チチカカ湖
ブラジル高原
バンデイラ山
2884
アンデス山脈
アタカマ海溝
グランチャコ
サンフェリックス諸島
アコンカグア山
7021
パンパ
ラプラタ川
フアンフェルナンデス諸島
コロラド川
チロエ島
パタゴニア
マゼラン海峡
フォークランド諸島
フエゴ島
ホーン岬
ドレーク海峡
南ジョージア島
南極圏
ロス海
マリーバードランド
ウェッデル海
南極
アイスランド
アイルランド島
ビスケー湾
アゾレス諸島
イベリア半島
ジブラルタル海峡
マデイラ諸島
ツブカル山
4165
カナリア諸島
ブラン岬
ベルデ岬諸島
ベルデ岬
大西洋
パルマス岬
フェルナンドデノロニャ諸島
アセンション島
セントヘレナ島
トリスタンダクーニャ
80°
60°
40°
20°
0°
180°
160°
140°
120°
100°

おもな山



m
9000
7500
6000
4500
3000
1500
(ニュージーランド)
クック山
3763
エグモント山
25
(ハワイ島)
マウナロア山
4170
キラウエア山
1222
(アラスカ山脈)
マッキンリー山
6194
ローガン山
6050
ホイットニー山
(シエラネバダ山脈)
4418
ブランカピーク山
(ロッキー山脈)
4387
(メキシコ)
ポポカテペトル山
5452
オリサバ山
5675
イラス山
(コスタリカ)
3432
ミッチェル山
(アパラチア)
2224
ロマルシャ山
(ドミニカ)
3175
(アンデス山脈)
チンボラソ山
(エクアドル)
6272
アコンカグア山
(チリ)
7021
ソラタ山
(ボリビア)
701
バンデイラ山
(ブラジル高原)
2884
テイデ山
(カナリア諸島)
3710
ツブカル山
(アトラス山脈)
4165
カメルーン山
(カメルーン)
4070
ラスダシャン山
(アビシニア高原)
4620
キリマンジャロ山
(ケニア)
5895
オセアニア
北アメリカ
南アメリカ
アフリカ



海南島
太
マリアナ諸島
平
ハワイ
洋
メキシコ
ノバスコシア
大
西
洋
m
1500
3000
4500
6000
7500
9000
10500
フィリピン海盆
6207
フィリピン海溝
10497
日本海溝
10680
マリアナ海溝
11034
アリューシャン海溝
7679
北緯20°線における断面
大西洋海嶺
プエルトリコ海溝
9200
北緯45°におけ

海深の

せきかく　**【石恪】**　中国，五代後蜀(こうしょく)の画家。はじめは張南本を師として道釈人物・鬼神を描いたが，唐以来の形式にとらわれず，豪放で表意性の強い水墨の筆法によって人物画の形相を一変し，宋(そう)代絵画の一源泉となった。伝によると諧謔(かいぎゃく)を好み，風刺癖があったといわれ，その生来の不羈(ふき)な性格は遺作と伝える《二祖調心図》によく表われている。

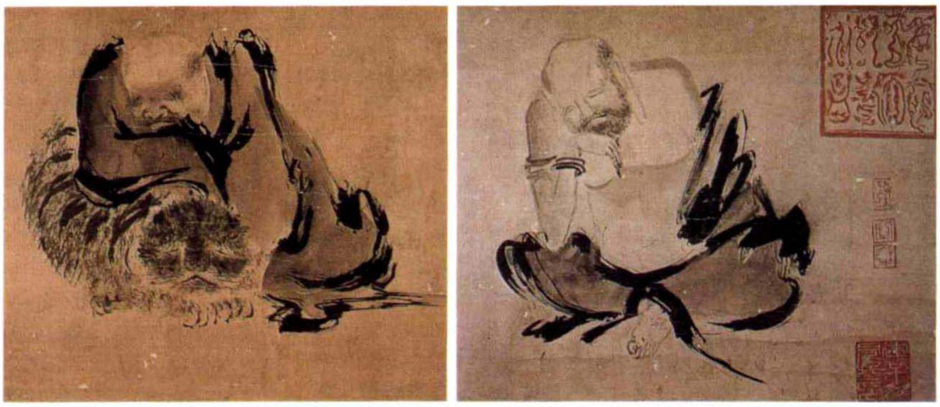
せきかそう　**【石家荘】**　シーチャチョワン　中国東北部，河北省西部の都市。人口59万8,000(1957)。もと正定県の小村であったが，京広・石太・石徳の３鉄道がここで連絡し，交通上の要点になったため，近年，紡績・製鉄・機械・化学などの工業が著しく発達した。中でも紡績は大規模な国営工場があり，華北工業地帯での中心となっている。付近で産する石炭は工業にとって重要。

せきがはら　**【関ケ原(町)】**　岐阜県不破(ふわ)郡の町。町域の西端は滋賀県に接する。人口11,000。1954年(昭和29)旧関ケ原町と付近の３村が合併して新たに発足した。伊吹(いぶき)・鈴鹿(すずか)の両山地が迫り，濃尾平野と近江(おうみ)盆地を結ぶ古くからの交通の要地で，不破関や関ケ原の史跡がある。東海道本線・同新幹線・国道21号線・名神高速道路がここを通過するが，深雪地なので冬季には支障をきたすことがある。

せきがはらのえき　**【関ケ原の役】**　1600年(慶長５)９月，美濃(みの)(岐阜県)の関ケ原で行なわれた戦い。1598年，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の死後，豊臣氏の家臣団は石田三成*・小西行長*ら政治実務の才能で出世した文吏派大名と，福島正則*(まさのり)・黒田長政*(ながまさ)・加藤清正*(きよまさ)ら戦場での武功で出世した武将派大名の２派に分裂し抗争した。武将派は五大老の筆頭で天下の実権を握りつつあった徳川家康*(いえやす)に接近したため，三成は豊臣家の将来を憂い，家康打倒の計画を進めた。1600年６月，家康はかねて三成と通じていた会津(福島県)の上杉景勝(うえすぎかげかつ)に不穏な行動があるとして会津征伐のため東下した。その留守をねらった三成は，同年７月，毛利輝元(てるもと)・島津義弘(よしひろ)・宇喜多秀家・小西行長ら西国大名とともに挙兵。家康は直ちに会津征伐を中止して，徳川譜代の家臣，豊臣武将派の大名とともに西下した。９月15日，三成ら西軍85,000と家康ら東軍10万4,000は関ケ原で相対した。西軍は全軍の統制に欠け，小早川秀秋の寝返り，吉川(きっかわ)広家の内通もあって大敗し，石田・小西らは捕えられ処刑された。また西軍に属した大名の多くは改易・減転封され，豊臣氏も摂津・河内(かわち)・和泉(いずみ)(兵庫県・大阪府)３か国で六十六万石の一大名に転落した。徳川氏はこの大勝で覇権(はけん)を確立し，幕府開設の基礎をつくった。〔松尾　涼〕

せきぐん　**【赤軍】**　⇨赤衛軍

せきこ　**【潟湖】**　砂嘴*(さし)・砂州*・遠浅



石　恪《二祖調心図》(対幅各部分)　東京国立博物館蔵



関ケ原の役　関ケ原合戦図屛風(部分)　滋賀県井伊美術館蔵

海岸に波の力が働いて，沖合いに海岸に平行に生じた海岸外州などによって外海から隔絶された湖。形成された直後は湖水と海水の交流があるが，しだいに淡水に変わり，土砂の堆積(たいせき)や水草の繁茂などのためにしだいに湖は埋積される。島根県の中海(なかのうみ)，北海道のサロマ湖・能取湖(のとろこ)などがこの例である。

せきざい　**【石材】**　建築工事や構造物の材料として使用する天然産の石または加工した石の総称。人間と石との関係は新石器時代に始まり，生活の道具として親しまれてきた。しかし，建設材料として使われたのはBC3000年以降で，エジプトのピラミッド寺院は230万個以上の石灰石ブロックと，ほぼ同数のカコウ岩ブロックで構築されている。エジプトでは，次いで水道と運河の建設が始まり，堤防の基礎として石材を使用した記録も残っている。ローマの技術者は丸太道路や橋の建設に力を注ぎ，丸太道路の敷き石，アーチ石橋に石材を用いた。スペインにはこの時代のアーチ石橋が残っており，マドリード南のローマ中期の古橋，セゴビアの古城近くにある水路橋〈悪魔の橋〉などは有名である。ヨーロッパには古い石橋が多く，ローマ北郊ミルビオのアーチ石橋，ハイデルベルクのネッカー橋，パリのポン-ヌフなどがよく知られている。日本において石材を用いた建造物は，城の石垣(いしがき)，九州地方に見られる石積みアーチ橋，各地方に見られる石積み(擁壁(ようへき))などが代表的なものである。

このように，石材が歴史に登場する時代はきわめて古く，人間の生活に密着した建設材料であった。ヨーロッパの家屋建築の歴史は，木材→石材またはれんが(メソポタミア)→鉄筋コンクリートまたは鉄骨構造の順に変化しているが，日本の場合，庶民の家屋は木造から直接鉄筋コンクリートや鉄骨構造に変わっており，石材の時代を経なかった点がヨーロッパと相違している。

現在，主として土木・建築に使用する石材のうち，天然産石材については日本工業規格(JIS*)A5003-1963に，道路用砕石についてはA5001-1961に，コンクリート用砕石についてはA5000-1965に，割りぐり石についてはA5006-1961にそれぞれ規定がある。

石材はその形状により角石・板石・間知石*および割り石に区分する。また，岩石の種類によってカコウ岩類・安山岩類・砂岩類・粘板岩類・凝灰岩類・大理石類およびジャモン岩類の６種に区分する。さらにその圧縮強さにより，硬石・準硬石および軟石に区分する。角石・板石および間知石の寸法・品質を表わす等級(１等品～３等品)の判定基準はJIS規格に決められている。国内における石材の主産地を，岩石の種類によって分けると以下のようになる。

カコウ岩：兵庫県・岡山県・山口県・山梨県・愛知県・京都府・茨城県・宮城県・岩手県。

安山岩：福島県・群馬県・長野県・静岡県。

凝灰岩：栃木県・福井県。

大理石：岐阜県・山口県・茨城県・和歌山県・四国地方。〔神山　一〕

せきさいトンすう　**【積載トン数】**　その

→471ページ

世界貿易

各国とも大なり小なりそれ自身の国内市場を有しており，それが国境で仕切られた一つの経済活動の場，つまり国民経済を形成している。しかし，今日のように高度に発達した世界においては，どの国民経済も海外の輸出入市場なしには存続しえないであろう。それゆえ，各国の国民経済はそれぞれ外国貿易や国際資本移動*の対外経済取引を通じて，順次に諸外国の経済と関係することになり，今日の世界貿易ないし世界経済のネットワークが成立している。かくして現代の発展した経済機構のもとでは，どの国も外国貿易を行なうことなしには，その経済活動水準を維持し発展させることができないまでになっている。

【世界貿易の変遷】 古代・中世の時代にも，もちろん貿易*は存在していたし，特に十字軍の活動以後には地中海沿岸のイタリアの諸都市を中心とする貿易取引や，ヨーロッパと中国・インドなどとの間の陸路による遠隔地間貿易にもはなばなしいものがあった。しかし，貿易の地理的広がりが世界全域に拡大し，文字どおりの世界貿易が形成されるのは，〈地理上の発見〉以後のことである。その意味において，コロンブスのアメリカ大陸の発見やバスコ-ダ-ガマのインド航路の開拓などは貿易史上において，中世と近世とを区切る事件として重大な歴史的意義を有している。➔大航海時代

しかし，世界貿易の規模が飛躍的に増大して大量の貿易が永続的に行なわれるようになったのは，18世紀後半のイギリス産業革命を契機としてであった。18世紀前半までの世界貿易は，貿易とはいっても海外植民地の工芸品や貴金属の一方的な掠奪(りゃくだつ)や，奴隷狩りや奴隷を使って生産した香辛料や綿花などの植民地産物の輸入貿易が中心であった。それは一つにはイギリスをはじめとするヨーロッパ列強にしても，継続的に輸出をなしうるだけの工業生産が確立していなかったためである。近代的な工場生産が確立して貿易活動を永続的に行ないうる基盤ができたのは，機械制工場の登場によってイギリスの繊維産業が根本的に変化を遂げたのちであった。

イギリスに産業革命が起こり，イギリスが〈世界の工場〉としての地位を築くやいなや，一方に諸国民の必要とする工業製品の輸出国イギリスと，他方に世界の工場イギリスが必要とする食糧や工業原材料の一次産品輸出国との間の国際分業が可能となった。こうして19世紀にはいると，世界貿易は急速に増大し，工業国と農業国間の相互補完的な自由貿易主義は第1次世界大戦の開始まで継続した。

しかし，第1次世界大戦・世界恐慌をまえに，世界貿易は19世紀的な調和的拡大から一転して，矛盾と諸国間での摩擦の多い長期停滞期へと移行した。そうした趨勢(すうせい)の背後には，いちはやく産業革命を完成して工業化に成功したイギリスに続き，ドイツ・フランス・アメリカにおいても工業化がなされ，さらに第1次世界大戦を契機として日本その他の新興諸国における工業化が進行したことなどの事実がある。このため，イギリスを〈世界の工場〉とし，その他の諸国を農業国ないし非工業国とするような型の世界貿易構造は終了し，それに代わって相互に競合する工業国間の貿易構造に変化していった。こうして，貿易上の競争は激しくなり，輸出市場の獲得競争，そのための輸出価格引き下げ競争と為替(かわせ)切り下げ競争が展開された。一方，競争相手の工業国からの輸入をできるかぎり阻止し，自国内の工業生産を保護するといった保護貿易主義が世界を風靡(ふうび)した。その結果，閉鎖的なブロック経済の時代が出現し，世界経済はいくつかのブロックに切断され，貿易の縮小を招くことになった。さらに，第1次世界大戦後に共産主義経済が出現して，世界市場が東西二つに分割されたことも，第1次世界大戦後の世界貿易をそれ以前のものとは異質にしている。

こうして，19世紀の自由貿易主義の隆盛の基盤であった工業国対非工業国間における相互補完的な国際分業構造が弱まって，同質の生産構造を有する諸国間の貿易へ移行した。それは各国の経済政策に反映し，自由主義は新重商主義と称されるものに変化し，貿易自由化運動は貿易制限措置の強化を伴った世界貿易戦争の時代となった。

ところで，第2次世界大戦後の世界経済の回復過程は，第1次世界大戦後のそれと比較すると，極めて順調であった。それは1930年代の世界貿易が，貿易制度，為替管理の結果縮小し不況を深刻化させたことに対する各国の反省があったからである。とくに戦後，巨大な生産力と資本力を有したアメリカのリーダーシップのもとに，貿易と支払い決済のための国際機構が成立，貿易自由化が推進された。その代表的なものが1944年のブレントンウッズ協定と1947年

表-1　商品別輸出構成　　（億ドル，パーセント）

	1960	1963	1965	1967	1969	1971	1973	1975	1977	1979
合計（億ドル）	1 290	1 550	1 870	2 145	2 730	3 460	5 780	8 730	11 250	16 250
農産物(%)	31.0	29.0	26.5	24.3	21.2	20.2	20.9	17	17	16
鉱産物(%)	17.1	16.8	16.6	16.7	16.3	15.8	16.8	24	23	24
工業品(%)	50.4	52.9	55.0	57.3	60.3	62.1	60.0	57	58	58
農産物(億ドル)	400	450	496	522	579	700	1 210	1 484	1 913	2 600
鉱産物(億ドル)	220	260	310	359	446	545	970	2 095	2 588	3 900
工業品(億ドル)	650	820	1 028	1 229	1 645	2 150	3 470	4 976	6 525	9 425

資料 GATT. International Trade 1971, 1975/1976 1979/1980

表-2　地域別輸入構成　　（億ドル，パーセント）

	1960	1963	1965	1967	1969	1971	1973	1975	1977	1979
世界	1 355	1 629	1 975	2 271	2 866	3 655	5 899	9 026	11 546	16 792
先進地域	892	1 111	1 369	1 597	2 063	2 647	4 304	6 145	7 957	11 837
低開発地域	302	327	380	418	499	633	975	1 872	2 437	3 354
社会主義国	161	191	226	256	304	375	620	1 009	1 152	1 601
先進地域(%)	65.8	68.2	69.3	70.3	72.0	72.4	73.0	68.1	68.9	70.5
低開発地域(%)	22.3	20.1	19.2	18.4	17.4	17.3	16.5	20.7	21.1	20.0
社会主義国(%)	11.9	11.7	11.4	11.3	10.6	10.3	10.5	11.2	10.0	9.5

表-3　地域別輸出構成　　（億ドル，パーセント）

	1960	1963	1965	1967	1969	1971	1973	1975	1977	1979
世界	1 281	1 546	1 865	2 150	2 737	3 509	5 787	8 737	11 245	16 270
先進地域	857	1 042	1 283	1 500	1 946	2 517	4 085	5 786	7 303	10 762
低開発地域	274	315	365	398	490	628	1 124	2 096	2 858	3 995
社会主義国	150	189	217	252	301	364	578	855	1 084	1 514
先進地域(%)	66.9	67.4	68.8	69.8	71.1	71.7	70.6	66.2	64.9	66.1
低開発地域(%)	21.4	20.4	19.6	18.5	17.9	17.9	19.4	24.0	25.7	24.6
社会主義国(%)	11.7	12.2	11.6	11.7	11.0	10.4	10.0	9.8	9.4	9.3

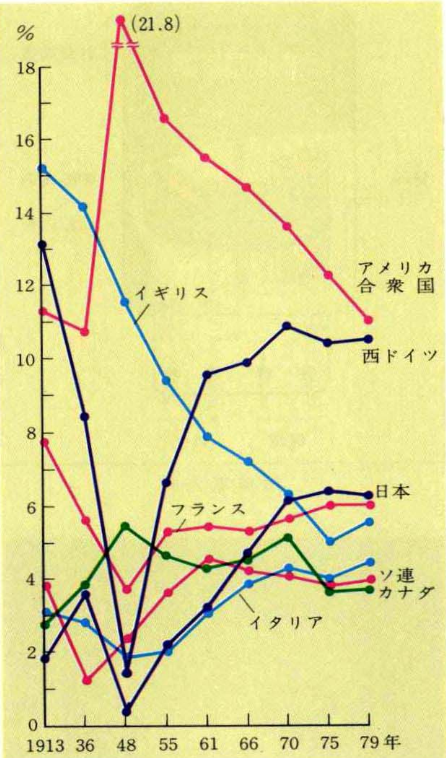
《表2，表3…資料　国連「世界統計年鑑」》

のガット(関税貿易一般協定)である。周知のように前者によりIMF(国際通貨基金)と世界銀行が設立された。IMFのもとでの安定した固定為替相場と，ガットのもとでの自由，互恵，多角，無差別な国際取引の推進が戦後の世界経済運営の基本となり，それこそがブレントンウッズ体制あるいはIMF・ガット体制と呼ばれたものである。

こうして世界貿易は，第2次大戦後順調に拡大し，1950年には戦前の最高水準(1929年)を回復した。しかし50年代の中頃まではアメリカ以外の主要国は復興期に相当し，アメリカとの生産力格差は大きかった。その結果，アメリカの出超が巨額になり，ほとんどの国がアメリカからの輸入に必要な外貨不足，つまり深刻なドル不足問題に悩み，自国通貨の交換性回復を実現し得なかった。このためアメリカは，初期にはIMFに代わって対外援助を行なった。しかし主要工業諸国は，やがてアメリカとの生産力格差を縮め，1958年にはEECの結成とともに西欧の主要14か国通貨は互換性を回復した。

かくして1950年代後半には西欧先進諸国は経済成長の波に乗り，国際競争力をつけるに至った。そして，IMF・ガット体制も本来の姿となり，本格的に機能し始めた。しかし同体制のもとでの高度成長を享受し得たのは，主に先進工業諸国に限られたといってよい。活発な技術革新や投資に誘発された高度成長を背景とした重化学工業品への需要拡大が，先進工業諸国同士の水平貿易を拡大したのに対して，一次産品の合成代替品の開発や，農業保護政策のもとで，一次産品供給国の貿易は減少傾向にあった。他方，共産諸国はほぼIMF・ガット体制の外にあって，世界貿易に占める東西貿易の比重は低かった。しかし1950年代末に東西対立が緩和に向かうにつれ，対共産圏禁輸体制もゆるみ，貿易は拡大しつつある。

さて，ここで今日の世界貿易構造を19世紀のそれと対比しておくと，次のような点が指摘される。第1に，世界貿易の中心国が天然資源に乏しく，貿易の国民経済に占めるウエイトの大きいイギリスから，資源に恵まれ，貿易依存度が相対的に低いアメリカへと移動したことである。アメリカは貿易構造の面においてもイギリスと対照的な国である。すなわち，輸出において一次産品の占める比重が高いこと，ヨーロッパ，カナダ，南米諸国，オーストラリア等に対して出超で，アジア，熱帯諸国に対して入超なこと，1870年代中頃以降ほぼ100年間，恒常的に輸出超過を持続してきたことなどがそれである。第2に，先進国間の工業品貿易が相対的に拡大し，先進国と発展途上国間の一次産品貿易が相対的に縮小傾向にあるという，今世紀の世界貿易構造の特徴がますます顕著になっている点である。



世界貿易　世界の輸出貿易に占める主要国の比率

【世界貿易の現状と将来】 IMF・ガット体制の下で貿易・為替の自由化が進み，世界貿易が順調に拡大してきたが，日本，EC対アメリカ，イギリスの間，それに先進国対発展途上国の間の発展の不均等性も増大した。まず，アメリカの経済力が日本，EC諸国の急速な成長のなかで相対的に低下し，その国際収支赤字が累積した結果，国際通貨としてのドルに対する各国の信任が低下し，国際通貨不安が発生するにいたった。それは，結局1971年，ニクソン大統領の金・ドル交換性停止となって，ブレントンウッズ体制が崩壊し，世界の主要国通貨は固定相場制から変動相場制に移行した。他方，ガットの取り決めのなかには，発展途上国の実状に即応しない面が多々存在することが判明してきた。例えば，ガットによる関税引き下げ交渉の対象品目は工業品に限定されがちで，一次産品貿易の問題は，南北問題交渉の場である国連貿易開発会議にゆだねられるようになった。しかし，戦後の一次産品貿易が，原油などの一，二の品目を除いて総じて不振であったため，この会議はしばしば南側によるガット批判の場ともなった。発展途上国側の要望は，ガットの「自由，多角，無差別，互恵」原則を改めて，例えば「組織，保護，特恵，一方的」を原則とするような新国際経済秩序の樹立である。発展途上国側の要求がこのようにエスカレートする契機は，1973年の石油危機であり，石油輸出機構(OPEC)の成功が深いかかわりをもっている。

原油価格の大幅値上げとなって現われた石油危機は，戦後最大の世界不況と同時に世界のインフレ傾向の加速化をもたらした。世界貿易はこの第一次石油危機を境に，伸び率が鈍化した。また世界各国の貿易シェアについてみると，当然のことながら産油国の貿易シェアが急増した。それに豊富で比較的良質な労働力を活用して，輸出指向型の経済発展に努力してきた中進国の工業品輸出が着実に増大してきた。その結果，世界貿易に占める中進国の比重も近年とみに高まっている。

1980年代初頭の世界経済では保護貿易主義の台頭がやっかいな問題になっている。例えば，先進国のなかに中進国産の工業製品の進出に対して，雇用不安の面から輸入制限的措置をとる傾向が強まっている。1979年に第二次石油危機が発生すると，石油危機への対応状況，各国の景気後退やインフレの強弱の違いから，先進国間に国際競争力格差が生じ，いわゆる貿易摩擦が目立って多発するようになった。こうした保護主義的風潮のなかで，戦後曲がりなりにも遵守されてきたガットの原則も「公正な貿易」の主張によって，変質する危機にさらされることすらある。ガット19条に規定されている緊急輸入制限を特定国に対して差別的，選択的に発動することを認めるか否か，といった問題がそれである。戦後の世界経済の活況をもたらした自由貿易体制を維持しつつ，発展途上国をも含めた新しい国際分業体制の基盤と，それを保障するような安定した国際通貨体制をいかにつくるかが，今日世界経済の当面する最も重要な課題だといってよいであろう。

船舶に貨物をどれだけ積載できるかを示すトン数。この表現法に二つあって，その一つは重量2,240ポンドまたは1,000kgを1トンとして計算した積載重量の限界を示すもの，他の一つは容積40立方フィートを1トンとして積載容積の限界を示すものである。前者を積載重量トン数，後者を積載容積トン数という。

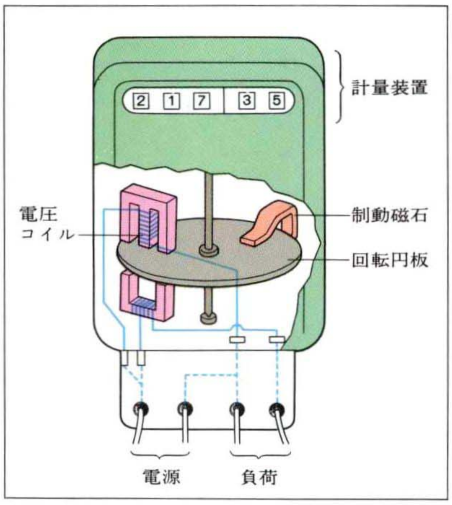
せきさいぼう　**【石細胞】**　異形細胞の一種。厚膜柔細胞の細胞壁が層構造をなして極端に厚くなり，木化して細胞の内容がほとんどない。ウメ・モモの内果皮は全部石細胞からできてかたくなり，ナシの中果皮(食べるところ)にもある。器械組織の一つで，体を強固にするのに役だっている。

せきさく　**【脊索】**　脊椎(せきつい)動物と原索動物のすべて(脊索動物)が，発生の一定期または終生の間もつ，からだの正中背側

で神経管のすぐ下側を前後の方向に走る棒状の器官。典型的な構造をもつものは，表面が幾層もの皮膜で包まれた空胞化した細胞の集団で，弾力のある支持器官である。原索動物のホヤ類では幼生の尾部にみられるが成体になると消失し，ナメクジウオでは終生みられる。脊椎動物では胚(はい)の時期にみられるが，これに代わって脊柱が発達する。

せきさんでんりょくけい　［積算電力計］　電気エネルギーの取引に使用され，ある期間内の使用電力量を積算する計器。その種類は原理によりいろいろあるが，直流用としては水銀および整流子電動機型，交流用としては誘導型が代表的なものである。積算電力計は主として，①回転子に電力に比例する駆動トルクを発生させる部分，②この回転を永久磁石によって適当に制御し，測定すべき電力に比例する回転速度に変える部分，③この回転数を計算装置によって，逐次積算する部分，の三つの部分からなる。電気的な方式は，負荷の性質により，単相2線式および3線式，平衡または不平衡負荷用3相3線式に分類される。回転数を指示する計量装置は，歯車の組み合わせで円板の回転を指針または数字車に伝える。前者は指針型といわれ，1けたごとに回転方向が逆になり，しろうとが読みにくいという欠点はあるが，摩擦が一定なので精密な計器はおもにこの形を用いる。後者は現字型で読み取りやすいので家庭用にはこの型が多い。ただ，歯車を躍進型にするので躍進のとき大きなトルクが必要である。

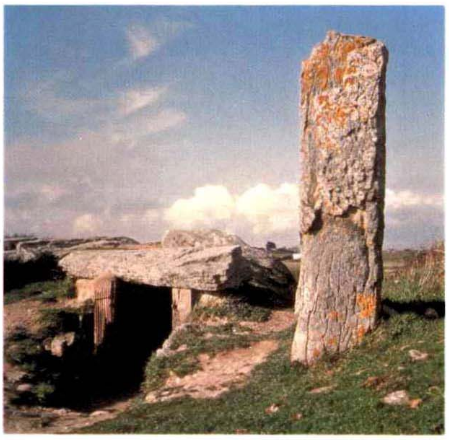
〔堀内和夫〕



積算電力計

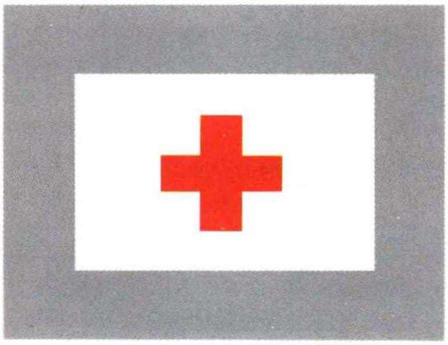
せきしつ　［石室］　古墳*の内部施設として，石で構築された墓室。棺*(かん)や副葬品*を保護するために設けられ，へやの感じがするので石室と称する。世界各地に認められるが，古墳時代*には竪穴(たてあな)式石室と横穴式石室がつくられた。竪穴式石室は前・中期古墳にみられ，主として墳丘上部に設けられている。長方形の底面に木棺を安置し，側壁として割り石や塊石が積まれ，天井石として扁平(へんぺい)な板石を横に渡してあるのが通例である。中期の古墳には割り竹形・長持ち形の石棺が入れられるようになった。横穴式石室は大陸で行なわれた塼室(せんしつ)墳や石室墳の影響を受けて，後期古墳の墓室として発達した。墳丘の側方に開かれた入り口から，羨道(せんどう)と称する道路を経て奥の玄室に至る。この石室は切り石や割り石を組み，または積んで構築されている。玄室に棺を置き，その周囲や羨道に副葬品を並べ，入り口を塊石で閉ざした。同じ玄室に合葬または追葬が行なわれている例も多い。

〔高崎徳次〕



石　室　フランス北西部のブルターニュ地方カルナク村にある横穴式石室

せきじゅうじ　［赤十字］　国際赤十字ともいう。赤十字国際委員会，赤十字社連盟および各国赤十字社，これらの最高決議機関としての赤十字国際会議の総称。傷病者救済をおもな目的とし，いずれも赤十字の基本原則にしたがって活動するものである。赤十字の基本原則とは，人道，人間の平等，必要性と緊急度に応じた援助，公平さ，軍事・政治・宗教および哲学の分野における中立，独立性および世界性であるといわれ，またその機構および運営上の原則として無欲，無料，志願性，自治性，補助的性格，大衆性，各国赤十字社の平等，一国一赤十字社，各国赤十字社の相互援助，つねに任務を果たせる状態にあること，などがあげられる。



赤十字　赤十字旗は，1864年ジュネーブ条約で規定された。スイス政府の尽力に敬意を表して，スイス国旗の色を逆にしたものである。なおトルコでは，十字がキリスト教を連想させることから国旗の三日月をとった赤新月旗を，イランでは赤獅子太陽旗を，ソ連では赤十字・赤新月連合旗を用いるが，回教国でもパキスタン・インドネシアなどでは赤十字旗を用いる。また，イスラエルではダビデの赤楯旗を用いている

赤十字の起源は，1863年スイスのデュナン*の提唱によりジュネーブに私的機関として設立され，当初は戦時における傷病者救済のためのものであったが，戦争が大規模かつ複雑となるに伴ってその活動範囲も広められ，捕虜や抑留者の保護および送還，内乱や災害における救済なども行なうようになり，第1次世界大戦後は平時においても一般的な救済，衛生事業をも行ない，人道的立場から戦争防止のために人類相互の理解を深め，博愛精神をつちかうという膨大な博愛組織となった。

1880年国際的な赤十字運動の組織として赤十字国際委員会が設置された。委員会はその規約によりその会員の投票によって認められた25名以内のスイス人で構成される。本来は私的機関であったが，スイス法が適用される団体で，1949年のジュネーブ条約(赤十字条約ともいう)で保護されている。本部はジュネーブ。平時および戦時における中立性は他に比するものがなく，その創設以来，創始者デュナンの精神にのっとって全世界に赤十字事業の普及を図り，ジュネーブ条約の実施に協力し，第1次および第2次世界大戦などにおける捕虜および難民の救済，復興に努力するなど，人類の福祉に大きな貢献をしてきた。世界各地に代表部が設けられている。

赤十字社連盟は，おもに平時の赤十字事業推進のためにつくられた各国赤十字社の連合体で，1919年(大正8)イギリス・フランス・イタリア・アメリカ・日本の五大赤十字社の発起により組織された。本部はジュネーブ。1970年3月現在，125か国が条約を批准し，113社が赤十字社連盟に加盟している。

赤十字国際会議は，各国赤十字社の代表者，ジュネーブ条約加盟国政府の代表者，赤十字社連盟代表者および赤十字国際委員会代表者が参加するもので，これら団体の事業を調整する任務を有し，4年ごと，場合によっては2年ごとに開催される。第1回は1867年，パリで開かれた。赤十字国際委員会を中心とする赤十字の活動はジュネーブ条約において，国際法的に保護されており，また，赤十字の紋章も国際的に保護されている。

日本赤十字社(日赤と通称)は，西南戦争の際に佐野常民*によって結成された博愛社*を前身とし，1887年(明治20)日本赤十字社と改称した特殊法人で，特に第2次世界大戦後の捕虜・抑留者の帰国事業に貢献した。

→ジュネーブ条約　〔広部和也〕

せきしゅうりゅう　【石州流】　茶道の流派の一。千利休の長男道安から桑山宗仙(そうせん)へと伝わった利休流茶道の極意を伝承し，これに独自な風様と作意を加えた片桐(かたぎり)石州をもって開祖とする。石州が徳川家綱の茶道師範をつとめて以来，この流儀は他流をしのいで，殿様の茶道として全国の大名領内，または旗本(はたもと)・御家人の間に流布した。この流儀は石州直系の子孫に伝わったほかに，門下の逸材により，諸派に分かれて発展した。古石州・新石州のほかに，宗源派・怡渓(いけい)派・伊佐(いさ)派・鎮信派・大西派・大口派・清水(しみず)派・野田派・不昧(ふまい)派など多くの流派がある。現今は，三千家流(→三千家)におされて衰微しているが，各派それぞれ石州流の特徴である古風を伝えているところに，捨てがたい味わいがある。　〔桑田忠親〕



赤十字
スイスのジュネーブにある赤十字社連盟

せきしゅつ　【析出】　溶液中の溶質が温度低下による溶解度の減少，溶媒の蒸発，他物質の添加などによって飽和状態になり結晶として分離してくること。工業的には濃縮した海水や濃厚糖液を煮つめて食塩や砂糖を析出させるのなどがその例である。また，こぼれたしょうゆから水分が蒸発して食塩が析出するなどは身近にみられる例である。

せきじゅん　【石筍】　⇒鍾乳洞(しょうにゅうどう)

せきしょ　【関所】　古代以来制度化され，交通の要地や国境に設けて，通行人や物品の取り締まりにあたった所。646年(大化2)大化改新の詔で関塞(せきそく)を置くことが定められ，のち整備が進められた。古代の関所は軍事・警察を目的とし，政府により各地に設けられ，そのうち特に伊勢(いせ)(三重県)鈴鹿(すずか)関・美濃(みの)(岐阜県)不破関・越前(えちぜん)(福井県)愛発(あらち)関の3関を畿内(きない)防衛の要衝としたが，律令(りつりょう)制の衰退とともに有名無実化した。中世，荘園(しょうえん)の発達に伴って交通路・交通施設が民間によって営まれるようになり，社寺・公家(くげ)・豪族らは新たに水陸交通の要地に関所を設け，交通税として関銭などを徴収したが，これは交通・商業上の大障害となった。近世，これらの関所は織田信長(のぶなが)によって撤去された。江戸幕府や諸藩は，交通統制のため各街道に関所を復活，通行人や物品に対してきびしい関所改めをした。幕府直轄の関所は全国50余か所に及び，ことに東海道の箱根・今切，中山道(なかせんどう)の碓氷(うすい)は重要視された。特に入り鉄砲・出女といい，武器の持ち込みと江戸住まいの大名家族の脱出の監視は厳重であった。1868年(明治1)全面的に廃止された。　〔高崎德次〕



関　所　箱根関所跡



セキショウ

せきしょう　【石菖】　単子葉植物・サトイモ科。本州中南部以南，台湾・中国・ヒマラヤなどの林中の小川の岸などに自生する多年草。地下茎は横走し，下面からじょうぶな根を出し，香気に富む。葉は茎の先に2列にはかま状に叢生(そうせい)し，20～50cmの剣状線形で中肋(ちゅうろく)ははっきりせず，基部は淡紅紫色。4～5月，7～20cmの平たい三角形の花茎を伸ばし，肉穂花序をつける。花序は7～20cmの剣状の包葉をもち，5～10cmの円柱形で，黄色の小花を密生する。果実は径2.5cmの緑色球形の蒴果(さくか)で，宿存がくがある。種子は長楕円(ちょうだえん)形で基部に長軟毛がある。根茎を乾燥したものを石菖といい，鎮痛・鎮静・健胃の効があるといわれ，また，全草は浴用料に用いられる。また観賞用に盆栽・水盤物・下草などに利用される。小形の変種に高さ20～25cmのアリスガワセキショウがあり，盆栽に用いられる。　〔横井朝子〕

せきしょうも　【石菖藻】　単子葉植物・トチカガミ科。淡水中に生育する多年生の水草。根茎は横走して，節から多くのひげ根を出す。葉は根出して，線形で30～70cm。雌雄異株。8～10月，長い花茎を伸ばし，水上に雌花を浮かべる。花後に花茎は水中に巻き込む。雄花は膜質で披針(ひしん)形の包に囲まれて，2～3cmの花茎上につき，雄花だけが離れて水上に浮かび，花粉を放出する。果実は線形で，種子は円柱状紡錘形。

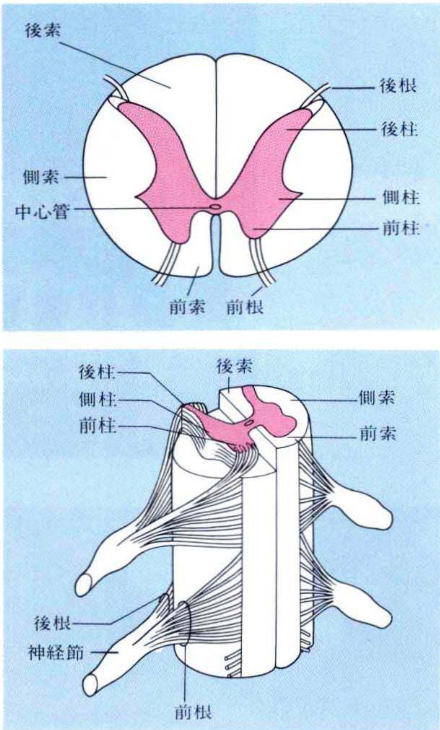
せきずい　【脊髄】　脳に続く細長い円柱状の器官で，脳とともに中枢神経系を構成し，背中のまん中にある脊柱管の中で3枚の髄膜に包まれており，胎児期は脊柱管全体を占めるが，成人では腰椎(ようつい)の1番めか2番めの高さまでである。上部は延髄に続き，全体的には棍棒(こんぼう)状であるが，2か所のふくらみ(頸(けい)膨大および腰膨大)があり，そこには上肢(じょうし)および下肢を支配する神経細胞が集合している。下部は円錐(えんすい)状に細くなり(脊髄円錐)，脊髄実質がなくなるとともに，髄膜最内側の軟膜の続き(終糸)を囲んでたくさんの脊髄神経(馬尾)がみられる。終糸は尾骨につき，脊髄を支持する。脊髄からは左右31対の脊髄神経が出ており，それが出る椎骨の高さに応じて頸・胸・腰・仙(せん)・尾の各神経に分けられるが，脊髄はそれに応じて頸髄・胸髄・腰髄・仙髄・尾髄に区分される。動物の種類によって椎骨の数には差があり，それに応じて各髄節の数も異なる。脊髄には外側に前後1対ずつ神経繊維がみられるが，それらは一定ずつ束になり，椎間孔から出入する。それらを前根および後根という。脊髄はどの高さを切断してもほぼ同じ形をしている。中央には中心管とよばれる脳室腔(こう)があり，上部は第4脳室に続き，下部は盲端となっている。神経細胞の集団の灰白質は中心管を中心にH字形をなし，それらを取り囲んで繊維束の集団の白質がある。前方に突出した灰白質を前柱(前角)，後方へのそれを後柱(後角)とよぶ。前柱には運動神経細胞があり，その神経繊維は前根を通って骨格筋に達する。他方後柱には，

知覚性の神経細胞があり，皮膚や筋肉などからの情報を伝える神経繊維が後根を通ってそれらの細胞に達する。頸髄下部から腰髄上部にかけて，前柱と後柱の中間に側柱とよばれる外方への突出部がみられる。ここには交感神経系の細胞があり，その神経繊維は前根を経て交感神経節に達する。また仙髄にも側柱に相当するものがあり，そこからの副交感性の神経繊維は前根を経由して神経節に達し，その後骨盤内臓に分布する。白質は主として遠心性および求心性の伝導路からなり，便宜的に前索・側索・後索に分ける。表在知覚の温覚・冷覚・痛覚および触覚の一部を伝える第2神経単位は，後柱の細胞から起こり，反対側の側索を上って視床に達する(脊髄視床路)。識別触覚や深部知覚の筋覚などを伝える繊維は，後根を経由して脊髄にはいり，そのまま同側の後索を上り，延髄ではじめて神経単位を代える。そこからの第2神経単位はまもなく反対側に移って視床に達する。表在知覚・深部知覚はともに視床の細胞から第3神経単位が皮質の知覚領に達する。運動性の伝導路であるが，錐体路(すいたいろ)は主として側索を通り，錐体外路は側索を通るものと前索を通るものとがある。以上のように，脊髄は上部の脳と末梢(まっしょう)の種々な器官とを結ぶ中継的な役目が主であるが，また腱(けん)反射・引き込み反射・伸展反射などいろいろな反射もつかさどる。

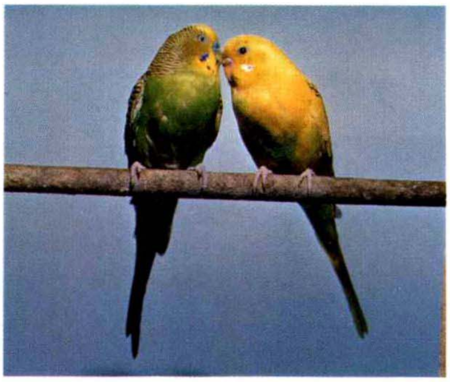
〔岩崎　稠〕

せきずいえん　【脊髄炎】 感染症(細菌・ウィルス・スピロヘータなどによる)・薬物中毒・寄生虫あるいはワクチン接種などが原因となって起こる疾患。外来の病原体が脊髄の実質に作用し，変質性の炎症を起こし，神経組織が退行する。脊髄の血管性障害，多発硬化症などの脱髄疾患も広い意味ではこの中に含まれる。症状は，障害された脊髄より下部の運動麻痺(まひ)・知覚麻痺が代表的なものである。随伴する症状は多様で，意識障害・けいれん・発熱・不随意運動・四肢(しし)麻痺・膀胱(ぼうこう)障害・知覚障害などがあり，筋萎縮(いしゅく)がみられることもある。治療としては，原病に対する治療のほかに，副腎(ふくじん)皮質ホルモン剤などの投与が試みられ，リハビリテーションも重要である。　〔丸山　晋〕

せきずいしんけい　【脊髄神経】 脊髄に出入する末梢(まっしょう)神経。脊髄に出入する部は前根・後根とよばれ，後根には脊髄神経節がある。椎間孔(ついかんこう)を出るところで前根と後根の成分は混じり合い，まもなく前枝と後枝に分かれる。前枝は身体の前面・側面，上肢(じょうし)・下肢の筋肉および皮膚に，後枝は身体の後面のそれらに分布する。前根は脊髄の前柱細胞の神経繊維で構成される。前柱細胞は脳からの錐体路(すいたいろ)および錐体外路の繊維により，いろいろな命令が伝えられ，それらの総合された命令が前根を通って骨格筋に伝えられる。後根は知覚性で，脊髄神経節の細胞の神経繊維によって構成される。脊髄神経の数は椎骨の数により決められ，動物によって数が異なる。ヒトでは31対あって8対の頸(けい)神経，12対の胸神経，5対の腰神経，5対の仙骨(せんこつ)神経，1対の尾骨神経に区分される。これらの神経は，胸神経を除いて上下のものが混ざり合い，分布する部位に応じて名がつけられている。〔岩崎　稠〕



脊　髄　(上)横断図　(下)立体図



セキセイインコ

せきずいせいしょうにまひ　【脊髄性小児麻痺】 ⇨ポリオ

せきずいろう　【脊髄癆】 梅毒感染後10〜15年を経てから出現する脊髄の変性梅毒。主として脊髄内知覚経路が障害され，特に深部知覚障害による運動失調，電撃様疼痛(とうつう)，深部反射の消失，反射性瞳孔(どうこう)強直症，筋緊張低下，異常知覚膀胱(ぼうこう)障害などの症状が出現する。血清と脳脊髄液がともに梅毒反応時に陽性のことが多く，徐々に進行する。治療薬としては抗生物質(ペニシリン・エリスロマイシンなど)とともに発熱療法，副腎(ふくじん)皮質ホルモンやビタミンB_{12}剤も有効である。〔丸山　晋〕

せきせいいんこ　【背黄青鸚哥】 鳥類・インコ科。オーストラリアの南部に分布し，小形インコの代表的種類。原産地では大群をなして生活している。インコ類のうちでは発見が新しく，1794年ショウによってはじめて紹介され，その後，1840年に生物学者グールドがイギリスに生きたまま持参したのが飼い鳥としての最初である。わが国には1904年(明治37)に渡来している。スズメくらいの大きさで，尾は比較的長い。原種の羽色は下面が緑色で，上面が黄と黒の斑紋(はんもん)に囲まれている。この色彩から背黄青の名がつけられた。飼い鳥としてのセキセイインコには，原種に近い色のほか，黄・白・灰・紫・青・オリーブ色などの色変わりがあり，これらを並みセキセイと称している。このほか，並みセキセイの突然変異を固定・改良したアルビノー・ハルクイン・ルチノーなどがあり，並みセキセイに対し高級セキセイとよばれる。いずれも，じょうぶで飼いやすく，繁殖は容易で，金網かご・庭箱・禽舎(きんしゃ)に収容し，セキセイ専用の木製の巣箱を使う。えさはヒエ・アワ・キビを主とし，青菜・ボレー粉を別に与える。水浴はしない。手乗りセキセイをつくるには，孵化(ふか)後2週間くらいのひなからブンチョウと同様にさしえさを行なう。よく飼いならすと物まねを覚えるものもある。　〔石島芳郎〕

せきせん　【関銭】 ⇨関所

せきそうかんでんち　【積層乾電池】 乾電池の一種。マンガン乾電池を小形扁平(へんぺい)にして素電池とよばれる構成要素をつくり，これを多数積み重ねて接続したもので，高電圧・小電源の回路に適する。欠点は，電流容量の少ないことである。トランジスターラジオのほか閃光器(せんこうき)の電源などに用いられる。

せきぞく　【石鏃】 石製の鏃(やじり)。打製と磨製(ませい)とがある。打製は縄文(じょうもん)時代に限られるが，弥生(やよい)時代には磨製石鏃もある。打製石鏃の材料には燧石(ひうちいし)・黒曜岩・讃岐(さぬき)岩など多種があり，黒曜岩は最適の石材とされていたようである。磨製には粘板岩のものが多い。形式には茎(なかご)の有無により，有茎鏃・無茎鏃・中間(柳葉)鏃に分けられる。無茎鏃が古く，有茎鏃はあとのものとされている。矢につけるには縛りつけたり，松脂やアスファルトで接着したりした。　〔高崎徳次〕

せきたかかず　【関孝和】 (1642ごろ〜1708)　江戸時代の和算家。通称新助。幕臣内山永明の第2子。上野(こうずけ)(群馬県)藤岡の人。関家を継ぎ，関流数学の祖となる。甲府宰相綱重(つなしげ)およびその子綱豊(つなとよ)に仕え，勘定吟味役。1704年(宝永1)

綱豊が5代将軍綱吉(つなよし)の世子となるとともに，幕臣となる。御納戸(おなんど)組頭，御蔵米250俵10人扶持(ぶち)，のち300俵を受けた。墓は東京都新宿区浄輪寺にある。孝和の師は不明である。1674年(延宝2)に沢口一之(かずゆき)著《古今算法記》(1671)の遺題15問に解答した《発微算法》を刊行した。また，点竄術(てんざんじゅつ)(特殊系筆算式の代数学で，演段術ともいう)を考案し，わが国の代数記法を確立した。没後，弟子(でし)たちの手で遺稿集《算法括要》(1712)が出版されている。孝和のおもな仕事は，方程式の判別，極値条件，ニュートンの補間法・近似解法，不定方程式，ベルヌイ数の発見，行列式の発見と研究，正多角形の1辺と対角線との関係式，方陣・円陣，円錐(えんすい)曲線論など多岐にわたり，しかも独創的である。〔下平和夫〕

せきたん【石炭】 古代の植物質のものが大量に地中にうずもれて，長年月にわたる圧力と温度の影響を受けて変質してできた可燃性の岩石。わが国で石炭というよび方が普通に用いられるようになったのは明治以後で，それまでは石炭(いしずみ)・岩木・燃え石などとよばれていた。

〔成因〕 古代の植物が石炭になる過程はきわめて複雑で，まだはっきりしない点も多いが，次のように考えられている。広い範囲にわたって長い年月の間に地盤が沈降した地域(堆積(たいせき)盆地とよばれる)の広大な低地に繁茂していた植物が，水位の上昇によって水没して湿地帯に堆積する。堆積した植物質は微生物の作用によって腐朽していくが，この上に再び植物が繁茂する。このような過程が何回もくり返されてしだいに厚い泥炭(でいたん)層が形成される。やがて地盤の沈降速度が大きくなって，この厚い泥炭層の上に土砂が堆積して，泥炭層は地下深く埋没する。こうして泥炭層は地圧と地熱の作用を受けて，長い年月の間に石炭層となる。この地圧と地熱の作用のことを石炭化作用という。

石炭を形成した根源植物は，おもに陸生植物と考えられ，生成年代は，世界の全炭田の3分の2が古生代*で，ヨーロッパ・北アメリカ・アジア大陸の石炭の大部分がこの時代に属し，シダ・トクサ類などを根源植物としている。残りは中生代*および新生代*に生成していたもので，これらは全世界に散在し，シダ類のほかソテツ・イチョウ類を根源植物としている。わが国の石炭は，ほとんどが新生代第三紀のもので，マツ・スギなどの針葉樹のほか，カシ・ケヤキなどが根源植物となっている。

〔分類〕 石炭の分類にはいろいろの方法があるが，最も普通に行なわれているのは石炭化作用の進行の程度(石炭化度とよばれる)によって，泥炭・褐炭(かったん)・歴青炭・無煙炭の4種に分類する方法である。石炭化度の指標としては，工業分析の結果や発熱量などを組み合わせて用いる。わが国の標準的な分類である表-1でもこのような方法を用いている。その他，成因や根源植物の種類によって，陸植炭(普通の石炭)・残留炭(腐朽しないで残った樹脂質から生成)および腐泥炭(水生植物から生成)に分類する地質学的分類法，乾留や燃焼の際の性状から，粘結炭・非粘結炭，あるいは長炎炭・短炎炭などと分類する方法もある。また粒度によって，切り込み炭(ふるい分けをしていない)・塊炭(50mm以上)・中塊(25〜50mm)・粉炭(3〜25mm)および微粉(3mm以下)と分類したり，用途によって表-2のように分類したりする。

表-1 わが国の石炭の分類

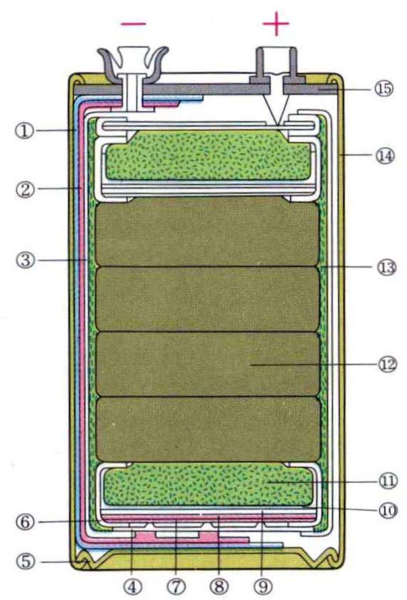
分類 炭質	分類 区分	発熱量(補正無水無灰基)(kcal/kg)	燃料比(固定炭素／揮発分)	粘結性
無煙炭	A_1		4.0以上	非粘結
	A_2			非粘結(火山岩の作用で生じた煽石*)
歴青炭	B_1	8 400以上	1.5以上	強粘結
	B_2		1.5未満	
	C	8 100〜8 400		粘　結
亜歴青炭	D	7 800〜8 100		弱粘結
	E	7 300〜7 800		非粘結
褐　炭	F_1	6 800〜7 300		非粘結
	F_2	5 800〜6 800		

表-2 石炭の用途による分類

分類	名称	備考
第1種炭	一般燃料炭	火力発電所などの燃料
第2種炭	原料炭	コークスの製造用
第3種炭	ガス発生炉炭	発生炉ガスの製造用
第4種炭	無煙炭	練炭・カーバイド焼成用，その他
第5種炭	煽　石	火山岩の作用でできた特殊な無煙炭

〔産状〕 石炭は古代の植物質が堆積してできたものであるから，当然のことながら層状で存在している。これを炭層という。炭層は，形成されたときはほぼ水平であったと考えられるが，その後の地殻(ちかく)変動のため，断層によっていくつかのブロックに引き裂かれ，褶曲(しゅうきょく)によって垂直に近い傾斜をもつに至ったものもある。炭層の厚さは数センチメートルのものから，数百メートルに及ぶものまであるが，採掘の対象になるものは30cm以上のものである。これらの炭層の位置も，地表に露出しているものから，1,000m以上の深所に存在するものまでさまざまである。

厚い炭層が何枚も重なって存在している地域を炭田という。炭田では多くの炭鉱が石炭を採掘しているのが普通である。世界の大炭田としては，アメリカのペンシルベニアからアラバマに至る地域，ロッキー山脈東部，ヨーロッパではイギリスのスコットランド地方から，ベルギー・フランス

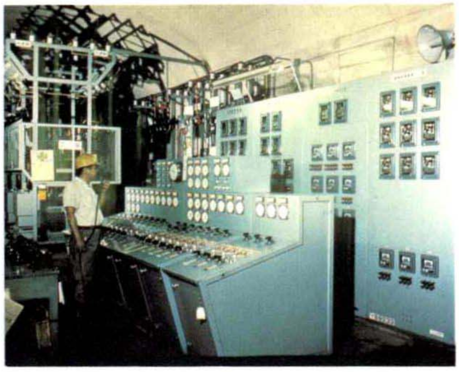


①絶縁シート ②リード板 ③スタックグロメット ④接触板 ⑤底板 ⑥セルグロメット ⑦炭素膜 ⑧亜鉛板 ⑨電解液糊層 ⑩セパレーター ⑪合剤(二酸化マンガン，アセチレングラック) ⑫素電池(セル) ⑬ワックス ⑭メタルジャケット(アルミ，冷間圧接) ⑮端子板

積層乾電池 構造例



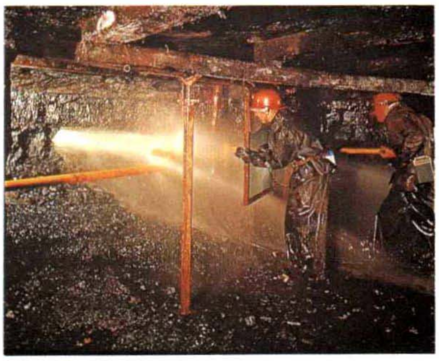
ロッドヘッダーによる掘進



坑内の特別高圧変電所



主要運搬坑道
（三井鉱山四山鉱業所）



水圧採炭（アメリカ合衆国，ペンシルベニア州，ピッツバーグ）

石　炭

国境地帯を経て，西ドイツのルール地方，さらにはポーランドのシレジア地方に至るほぼ東西に並んだいくつかの炭田，ソ連のドンバス，ウラルおよびイルクーツクの各地域，中国の河北・山西地方および東北地方南部，オーストラリアのクイーンスランド地方などがある。

わが国のおもな炭田としては，北海道の石狩・空知地区，釧路(くしろ)地区，本州の常盤地区，九州の筑豊(ちくほう)・三池，および崎戸(さきと)・高島の各地区などがある。世界の石炭の埋蔵量は9,500億tで，わが国はそのうちわずか200億tを占めるにすぎない。

〔性状〕石炭は黒色または黒かっ色の固体で，成層面に沿った割れ目のほかに，これと直角方向の割れ目（炭目(すみめ)）をもっている。きわめてもろく，その他の堆積岩に比較すると強度も小さい。石炭のうちでも最も多く産出する歴青炭をよく観察すると，光沢のある輝炭部と光沢のない暗炭部とがしま状になっていることが多い。これを顕微鏡で拡大して見ると，さらにいろいろの種類の組織成分が見られる。このように組織成分が複雑なのは，その根源の植物質や化学成分がそれぞれ異なっていることによる。石炭は普通の岩石よりも著しく軽く，比重は1.3前後である。また空気を遮断(しゃだん)して加熱すると分解して揮発分を放出し，炭素と灰分の混合物となる。ピリジンその他の有機溶剤にある程度溶解する。石炭は化学的には，縮合したベンゼン核を主体とする高分子化合物*で，主成分である炭素・水素および酸素のほかに，窒素・イオウなどを少量含む。

〔生産の歴史〕石炭の存在が人類に知られるようになったのはきわめて古く，BC315年のギリシアの書物に石炭を鍛冶(かじ)屋の燃料に利用したことが記載されている。中国でも4世紀ごろには石炭という文字が現われ，12世紀（宋(そう)代）には，家庭燃料として利用されている。イギリスでは9世紀に，ドイツでは10世紀に石炭が発見されたと伝えられており，ヨーロッパで炭鉱が開かれたのは12～13世紀のころで，最初は鍛冶屋の燃料などに利用された。その後18世紀にはいって蒸気機関の発明，コークス製造技術の開発などとともに本格的な採掘が始まった。

わが国でも10世紀には石炭が発見されたと伝えられているが，実際に燃料として注目されるようになったのは15世紀にはいってからで，このころに九州の三池地方や筑豊地方であいついで炭層の露頭が発見され，18世紀中葉には各地で製塩燃料として用いられるようになった。

わが国で大規模な採掘が行なわれるようになったのは，明治維新以後で，まず長崎県高島で外国人技師によって近代的な採掘が行なわれた。1873年（明治6）には日本坑法が布告され石炭の採掘を法的に規制することが始まった。北海道の炭田が発見されたのも，このころのことである。明治10年代にはいると，三池炭鉱の国営による近代的採掘が始まり，筑豊地方でも民間資本が蒸気ポンプを導入して排水を行ないながら採掘するようになった。この蒸気ポンプの導入によって，はじめて排水の問題が解決し，地下深部へ掘り進むことができるようになり，他方では鉄道・ガス・電力・製鉄などの産業における石炭の需要も増大して，石炭の産出量は飛躍的に増大した。➜石炭産業　〔西松裕一〕

せきたんかがくこうぎょう　【石炭化学工業】　石炭を原料とし，化学的処理を加えて各種製品をつくる化学工業。石炭を高温乾留して得られるガス・ガス液・タールおよびコークスの中で，タールからの芳香族化合物は各種の芳香族化学工業製品を製造する重要な原料として使われ，石炭化学工業発端からの中心であった。現在は石油から得られるベンゼン・トルエン・キシレン（石油系BTX）などの使用がしだいに増加しているとはいえ，その重要性は依然として残されている。特に製鉄工業や都市ガス工業のコークス炉から副生するタールは重要である。また石炭あるいはコークスをガス化して製造する水性ガスは，アンモニア合成の水素源，メタノール合成の原料ガス，あるいはフィッシャー-トロプシュ法による人造石油の合成の原料ガスとして工業的に使用されたが，最近はその大部分は石油を原料として製造されるようになった。このように石油および天然ガスを原料とする石油化学工業・天然ガス化学工業の発展に伴い，石炭化学工業は徐々に縮小され，現在広く生産されているのはタール製品のみである。

しかし，最近石油資源の埋蔵量と消費量のバランスに対する再検討が加えられ，遠からざる将来の問題として，石炭を化学工業原料として再認識する必要が叫ばれる傾向があり，このような観点からみれば，石炭は依然として潜在的重要性を失っていないといえる。また石炭の化学的利用法に関する研究は継続されていて，アメリカでは第2次世界大戦後も石炭の高圧水素化による液状炭化水素類製造の大形試験開発が大規模に進められている。もともとこの種の石炭の直接液化は，第2次世界大戦中にドイツ・日本で工業化されていたものであった。このほか，石炭の希硝酸による酸化あるいはアルカリ溶液中での加圧酸化など，比較的軽い酸化によって石炭の構成単位物類似の酸化生成物などを製造しようとする研究も進められている。　〔寺沢誠司〕

せきたんガス　【石炭ガス】　石炭を高温乾留して得られるガス。1792年にイギリスの発明家マードックは石炭を乾留して得たガスを自宅の照明に用いた。その後石炭ガスの製造事業が急速に起こったが，当時はもっぱら照明用であった。その後電燈の登場によって石炭ガスはしだいに動力源の燃

料に使われるようになり，最近は家庭用燃料の都市ガスの製造に使用される。製造方法のおもなものは石炭をコークス炉で高温乾留するもので，この石炭ガスはコークス炉ガスとよばれる。主成分は水素およびメタンで，このほかに一酸化炭素・重炭化水素・二酸化炭素・窒素と微量の酸素が含まれる。未精製のガスはこのほかにイオウ化合物(硫化水素・二硫化炭素・イオフェンなど)や窒素化合物(アンモニア・シアン化合物)が含まれる。発熱量は4,000～5,000 kcal/kgである。高温のガスは水の噴射で冷却し，大部分のタールと水蒸気を凝縮分離する。さらに，タール排除器で微粒子状のタールも除去する。次に希硫酸を用いてガス中のアンモニアを硫安として回収する。また，硫化水素やシアン化水素は脱硫器で除去し，ベンゼンは洗浄油に溶解して除去する。石炭ガスのおもな用途は都市および製鉄所の燃料であるが，都市ガスとして用いるときには発生炉ガスや水性ガスなどの低発熱量のガス，あるいは空気などで適当に希釈調整する。〔寺沢誠司〕

せきたんかんりゅう　【石炭乾留】　空気を遮断(しゃだん)して石炭を加熱し分解する操作。石炭の乾留には，1,000～1,200℃で行なわれる高温乾留と450～600℃で行なわれる低温乾留とがある。近年わが国では低温乾留はほとんど行なわれておらず，単に石炭の乾留といえば高温乾留を意味する。石炭を高温乾留するとコークスが生成し，副産物として石炭タールと硫安および石炭ガスが得られる。石炭タールはさらに精製すればベンゼン・トルエン・キシレン・ナフタリン・フェノールなどが得られ，これらは医薬品や染料，化学薬品などの重要な原料となる。コークスは燃料として使用されるだけでなく，硬質コークスは製鉄などの冶金(やきん)工業に利用され，またガス化して種種の工業用ガスが製造される。石炭ガスは都市ガスとして文化生活に不可欠の家庭燃料，工業燃料として利用され，さらに前記の工業ガスとともにこれから水素が製造され，アンモニア合成に使用される。〔寺沢誠司〕

せきたんき　【石炭紀】　地質時代のうちの古生代を6分した第5番めの時代。デボン紀のあと，二畳紀のまえ。石炭紀の名称はこの時代(特に後期)の地層に石炭層が多数発達していることに由来し，1822年コニーベアおよびフィリップスによって提唱された。約3.4億年前から約2.8億年前までの約6,000万年の期間。石炭紀の地層の標準地域はイギリス・ベルギー・ドイツである。これらの地域での石炭系は，海成石灰岩を主とする下部石炭系と挟炭(きょうたん)非海成砕屑(さいせつ)岩層を主とする上部石炭系に二大別される。北アメリカでもほぼこの二大別に対応してミシシッピ紀・ペンシルベニア紀に区分される。フズリナ類(ボウスイチュウ)・四射サンゴ類・ウミユリ類・腕足類が



石 炭 紀　腕足貝(ギガントプロタグタス)，イギリス，デンビー産。この紀の代表的化石

大発展し，二枚貝(淡水生二枚貝をも含む)も栄えたが，サンヨウチュウはすでに衰微していた。頭足類では旧古生代に栄えたオウムガイ類が勢力を失い，アンモナイト(特にゴニアタイト亜目)がこれに代わった。両生類が著しく繁栄し，本紀は両生類時代とよばれる。爬虫(はちゅう)類の祖型が石炭紀末に出現した。陸生動物では陸生クモ類が急激に発展し，多数のこん虫類が出現した。陸生植物では維管束隠花植物が大繁茂し，多数の石炭層の根源となった。リンボク・フウインボク・ロボクは高さ30mを越える巨木となり，松柏(しょうはく)類の原始型やシダ類にも巨大なものがあった。

北半球の気候は一般に熱帯～温帯的で，特に石炭紀後期の前期には多雨湿潤で，後期には乾燥気候になった。南半球では石炭紀前期には全般的に温暖であったが，同紀後期に氷河が広く発達した。石炭紀前期にユウコウチュウ・サンゴ・ウミユリ・コケムシ，腕足類やそれらの遺骸(いがい)に富む浅海成の石灰岩や魚卵状石灰岩が諸所に堆積(たいせき)し，同紀後期になると多数の石炭層をはさむ陸成層が広く堆積した。石炭紀前期の後期では諸地域に著しい海進があった。西ヨーロッパでは石炭紀前期の末に顕著な地殻(ちかく)変動(ズデーテン変動)が起こって，バリスカン山地が形成され，内陸盆地の出現，石炭層の堆積を導き，さらに石炭紀後期にも著しい地殻変動(アストール変動)があった。このような石炭紀後半のバリスカン(ヘルシニアン)造山運動は他の諸大陸にも知られている。火成活動もこの時代に活発であった。石炭紀には地質時代を通じて最も豊富に石炭が生成された。〔田中啓策〕

せきたんさん　【石炭酸】　フェノールともいう。ベンゼンの水素原子一つが水酸基で置換された化合物で，1834年ルンゲにより石炭タール中から見いだされ，酸性成分として得られたため，この名称が与えられた。化学的にはベンゼンスルホン酸のナトリウム塩をアルカリ溶融したり，ハロゲン・ベンゼンの加水分解によって製せられる。白色針状結晶，または結晶性塊。特有の臭気があり，水にとけ，エーテル・アルコールにはきわめてとけやすい。空気中に放置すると変色する。有機合成化学上，きわめて重要な化合物で，フェノール樹脂・ピクリン酸・染料・香料，その他多くの化合物の原料として用いられる。強力な消毒薬・殺菌薬として著名であり，1860年代から使用されている。腐食性があるので，特に皮膚などにつけないよう注意が必要である。〔石戸良治・荒木洋之助〕

せきたんさんぎょう　【石炭産業】　石炭の採掘を行なう産業。石炭が18世紀産業革命を通じてエネルギー源としての地位を確立して以来，高炉生産におけるコークス使用，都市ガスのエネルギー源，染料・薬品の原材料としてのタール需要の増大とあいまって，資本主義の発達とともに石炭産業は発展してきた。わが国においても，1868年(明治1)に洋式採炭方式が採用されて以来，石炭は比較的豊富なエネルギー資源として経済発展の原動力となり，第2次世界大戦後も傾斜生産方式*による石炭増産体制にささえられて採炭量は急増し，産業復興に大いに寄与した。しかし，昭和20年代末期から世界的な石炭から石油への転換，いわゆるエネルギー革命が日本にも波及し，石炭需要は減退するとともに，採炭条件が不利なためコストが上昇し，わが国石炭産業の企業採算は悪化し，斜陽化のきざしをみせはじめた。1955年(昭和30)には石炭合理化臨時措置法が制定され，スクラップ-アンド-ビルド，すなわち非能率炭鉱の閉山と優良炭鉱への集中生産が試みられたが成功せず，さらに第1次から第4次に至る石炭調査団による改革を経て，1969年石炭鉱業再建関係法が成立したが，これを機に企業ぐるみのなだれ閉山現象が起き，1953年には945もあった炭鉱は100をようやく数えるにとどまり，年間生産量は1,000万tを下回ってしまった。

わが国石炭産業に残された方途は，ヨーロッパにおいて行なわれているように，国家的助成のもとで高能率集中生産を達成するか，石炭産業を国有化する以外にはないものと考えられている。先進資本主義諸国の石炭生産は停滞しているが，ソ連・中国などの共産圏諸国とインドなどでは石炭生産は増大しつつある。〔原　豊〕

せきたんさんけいすう　【石炭酸係数】　石炭酸を標準として，消毒薬の殺菌力を表わす方法。チフス菌あるいは黄色ブドウ球菌(特別な場合に赤痢菌・連鎖球菌を用いることもある)をブイヨン(培養液)で24時間培養した菌液と，5％石炭酸を原液としたいろいろの希釈度の石炭酸とを接触させる。30秒間隔で各菌液の1白金耳をとり，新しいブイヨンで培養して菌の生死を確かめ，5分では死滅せず10分で確実に死滅する希釈倍率を求める。菌が生き残っていれば培養液が混濁するので判定できる。被検薬剤も同様にして希釈倍率を求める。その値と石炭酸の希釈倍率との比率の比を石炭酸係数といい，その値が大きいほど消毒薬の効果は大となる。〔和気　朗〕

せきたんさんじゅし 【石炭酸樹脂】 ⇨フェノール樹脂

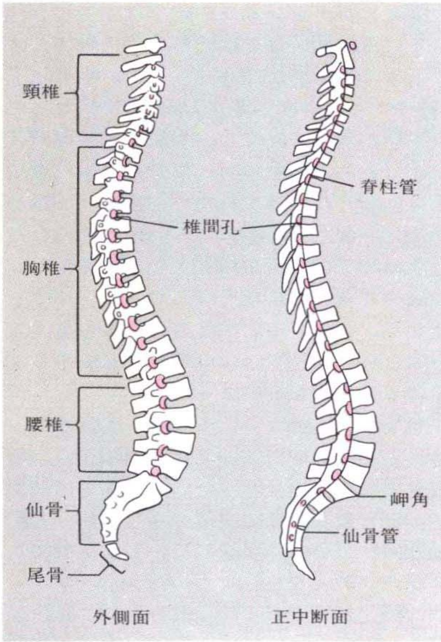
せきたんちかガスか 【石炭地下ガス化】 石炭を地下の炭層のままでガス化すること。原理は，地下の炭層へ送風孔を通して地上から空気あるいは酸素を送入して石炭をガス化し，発生したガスは他の排気孔を通して地上に取り出す。地下ガス化の目的は各種の危険を伴う採炭の地下労働をなくし，また採炭・運搬・ガス化の諸工程を一挙に地下で実現して諸経費を低減し，採算に合わない未利用炭層を生かすことである。この構想は1888年にロシアのメンデレーエフ*によって提案されたが，1940年ごろはじめてソ連で工業的に実施された。その後急速に発展し，1965年には約125億m^3のガスが生産された。欧米各国も大規模な研究を行なっている。〔寺沢誠司〕

せきちく 【石竹】 双子葉植物・ナデシコ科。カラナデシコともいう。中国原産の多年草で，昔から庭に植えられる。茎は高さ20～40cmになる。葉は対生し，線形で無柄，3～5本の主脈がある。5～7月，枝の先に1～3個の五弁花をつける。花の直径は2～4cmで，各花弁には大小の鋸歯(きょし)があり，花色には赤・白・桃色などがある。がくは筒状をなして長さ2cmほどで，4～6枚の包葉に囲まれる。種々の園芸種があり，その一種のトコナツは四季咲き性で赤色の花をつける。



セキチク

せきちゅう 【脊柱】 背骨ともいう。脊椎(せきつい)動物において，頭骨に続き，体の中軸骨格をなす部分。多数の椎骨からなり屈曲している。発生的には脊索*を中心にその周囲に造骨組織が集まって構成されている。円口類では脊索に沿って，わずかの軟骨*をもっているにすぎず，軟骨魚類では終生軟骨のままであるが，それ以上の動物では化骨*する。ヒトでは30個余りの脊椎*が重なり，椎間板*で連結されている。頸椎(けいつい)7，胸椎12・腰椎5，仙椎(せんつい)5（ただしこれは癒合(ゆごう)して1個の仙骨となる)，尾椎4～5個よりなる。〔幡井勉・橋本長〕



脊　柱

せきつい 【脊椎】 椎骨または脊椎骨ともいう。脊椎動物において，縦列に多数重なり合った脊柱*を構成する骨。脊椎を形づくる基本的な部分は椎体と椎弓である。椎体はこの骨の主体で厚い円盤状を呈し，これから後方へ弓状に張り出した部分が椎弓である。椎体と椎弓に囲まれた大きな孔を椎孔とよぶ。ここは脊髄*の通るところである。椎弓からは何種類かの突起が出ている。左右に出ているのが横突起で，後方に突出している細長い1個が棘(きょく)突起である。椎弓の根もとから上下に向かって突出する各1対が上関節突起・下関節突起である。椎体は体重をささえ，椎弓は脊髄を後方から保護し，棘突起と横突起には背中の筋（固有背節）がついて椎骨を動かし，上関節突起・下関節突起は隣接の椎骨と関節をつくる。なお，第1頸椎(けいつい)は頭蓋*(とうがい)の後頭骨と関節して頭蓋全体をささえるものでリング状をしているので環椎とよび，第2頸椎は歯突起とよぶ突起をもって環椎と関節し，首の回転運動をするので軸椎とよぶ。〔幡井勉・橋本長〕

せきついカリエス 【脊椎カリエス】 結核性脊椎炎のこと。骨関節結核のほぼ40%が本症であるが，男性にやや多く，好発部位は成人では胸椎下部から腰椎に多い。子どもでは頸椎(けいつい)や上部胸椎の場合もある。体の各部位に膿瘍(のうよう)をつくりやすく，脊椎の変形を起こして亀背(きはい)(→せむし)となりやすい。予後は若年層ほど良好であるが，完全な整形外科医の監督下で療養しないと予後が悪い。ストレプトマイシン・パス・イソニアジドなどの抗結核化学療法薬の投与がよい。また近来，手術によって病巣を廓清(かくせい)する方法も行なわれている。➔カリエス〔山中英夫〕

せきついどうぶつ 【脊椎動物】 動物分類学上の一門。最も高等な類で，体の背側に脊椎*という骨の軸が縦に並んでいることが特徴である。原索動物*とともに脊索動物と称されるように胚(はい)および幼生期には脊索*をもち，中軸として働くが，やがて軟骨のちに硬骨に置き換えられ，脊柱内に痕跡(こんせき)となって残るにすぎない。からだは左右相称形で，頭・胴・尾の3部分に分かれ，付属肢(ふぞくし)は円口類では対になったひれだけであるが，魚類になると対にならぬひれも加わり，両生類より以上の群では対びれに相当する四肢が発達する。神経系には特徴があり，からだの背側に神経管があり，前端は拡大して脳となる。脳を入れるため，脊椎の前端は骨の箱である頭蓋(とうがい)が発達している。この部分が頭であり，脊索動物の中でも特に有頭類といわれるのはこのためである。からだには内骨格があり，高等な種類では中軸骨格と四肢骨格に分けられる。

中軸骨格はさらに頭骨・脊椎・肋骨(ろっこつ)・胸骨などに分けられ，四肢骨格も肢帯と肢骨に分けられる。血管系は閉鎖血管系で，心臓が発達し，血液中には赤血球がある。血管には動脈系と静脈系がよく発達し，毛細血管で連絡されている。水中生活をする種類はえらで呼吸し，陸上生活するものは肺呼吸をするが，肺呼吸のものでも胚の時期には鰓裂(さいれつ)を生じる。魚類では肺と相同のうきぶくろは，水中での浮沈に役だっている。排出器官は発生的には背側に生じる1対の腎管(じんかん)をもとにして，前腎・中腎・後腎の3段階を経て発達する。前腎は脊椎動物すべての胚期に最初に出現するが，円口類以外はやがて退化して輸管だけが残る。

中腎は原腎ともよばれ，魚類・両生類の排出器官である。後腎は狭義の腎臓で，爬虫(はちゅう)類以上の脊椎動物にみられる。次に脊椎動物の特徴ともいえるのは体表をおおう皮膚で，外胚葉起原の表皮と中胚葉起原の真皮がある。また付属物としてうろこ・羽毛・毛・角・つめ・蹄(ひずめ)などがある。雌雄異体で両性生殖を行なう。現在存在する種類だけを分類するときは，脊椎動物を，円口類・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳(ほにゅう)類の6綱に分けるが，化石種も含めた場合は，無顎(むがく)・板皮・軟骨魚・硬骨魚・両生・爬虫・鳥・哺乳の8綱に分ける。このような脊椎動物の起源については，原索動物から進化したものであるという考え方の種々の説があるが，普通はナメクジウオが現生の原索動物のうちで脊椎動物に最も近いものとされている。最初の脊椎動物は魚類であることは化石の調査などからも明らかである。四肢類の最も下等なものは両生類で，卵に殻(から)はなくつねに水中に産み出され，皮膚は乾燥に弱く水から離れることができず，幼生は魚類のようにえら呼吸をする。爬虫類になるとはじめて水から離れることができるようになり，卵には石灰質の殻をもち，皮膚は角質のうろことなって，完全な陸上生活を営む動物

の誕生となる。このような爬虫類は，石炭紀の初期に下等な両生類の一部から進化し，二畳期の終わりから中生代にかけて栄えた動物である。中生代になると爬虫類の特徴である顎(あご)の歯，尾の中央の長い脊椎，翼の先につめのある3本の指などをもった始祖鳥のような原始的な鳥類が出現する。哺乳類の出現は中生代の初めで，鳥類よりは早かったが，新生代にはいって爬虫類が衰滅すると，急速に発達し現在に至っている。〔蒲原春一〕

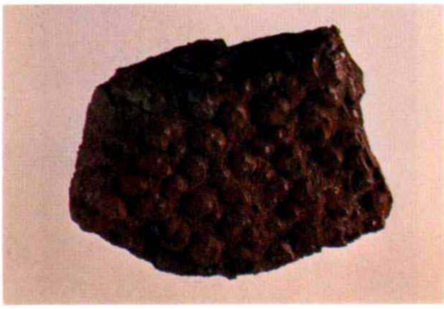
セギディリャ ［seguidilla］ マドリード・セビリアを中心とする南スペインの伝統的な舞曲。4行詩による歌詩をもつ。テンポは速いものから少しゆっくりしたものまであるが拍子は3拍子で，定型的なリズムをもつことが多い。17～18世紀にはサルスエラ*などスペインの軽歌劇で歌われた。リズムの特徴を生かしながら，ピアノやギターのための曲がアルベニスやグリンカによって書かれ，またビゼーの《カルメン》第1幕でも用いられている。〔徳丸吉彦〕

せきてっこう 【赤鉄鉱】 重要な鉄鉱石の一種。Fe_2O_3 三方晶系。硬度5～6.5，比重4.9～5.3。結晶したものは金属光沢を有する。塊状のものは光沢はなく，鋼灰色・鉄黒色・赤色・赤かっ色などを呈する。条痕*(じょうこん)は帯紫赤色。結晶面のよく発達した結晶は鏡鉄鉱ともいう。

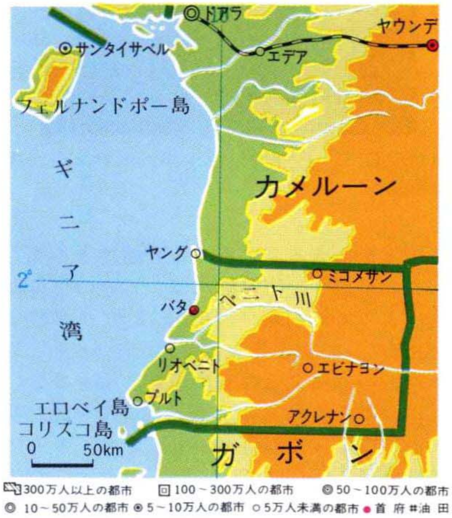
せきてん 【釈奠】 孔子*を祭る典礼。釈・奠ともに〈置く〉という意味で，犠牲や蔬菜(そさい)をささげ置き，爵(祭礼の飲器)をすすめて祭る意である。周代に先聖・先師を祭ったことに始まり，後漢以後，都の大学や郡県の学校の孔子廟(びょう)で，周公・孔子，ときには顔回らを祭ることが一般的になった。日本では，720年(養老4)2月丁日に行なわれたのが最初で，今日でも春秋2回，2月・8月の上丁の日に，東京湯島の聖堂で続けられている。〔勝村哲也〕

せきとう 【石濤】 (1636？～1707？) 中国，清(しん)初の画家。法号は道済(どうさい)。明(みん)の宗室の出身であるが，幼少から辛酸をなめて，江南各地を流寓(るぐう)。禅の修行をして出家し，文人画家の梅清・程邃(ていすい)・龔賢(きょうけん)らをはじめ四王呉惲*(しおうごうん)のひとりの王原祁*(おうげんき)とも交わって，盛んに画作，1693年に揚州に定住して晩年を送った。題材は花鳥から四君子(ウメ・キク・ラン・タケ)に及ぶが，山水の名手で既成の方法に拘泥(こうでい)しない自由な手法は，主観主義的文人画ともいうべきもので，元の黄公望*の影響も認められる。朱耷*(しゅとう)・石渓(せっけい)・弘仁(こうにん)らとともに四大名僧ともいわれる。代表作は《江南名勝画冊》《黄山図巻》《廬山観瀑(ろざんかんばく)図》など。〔中島純司〕

せきどうぎ 【赤道儀】 地球の自転軸に平行な回転軸(極軸)とそれに垂直な回転軸(赤緯軸)をもつ架台にすえられた天体望遠鏡。極軸を一定速度で回転することにより地球の自転に伴う日周運動を追いかけることができる。したがって，目的の天体を一度望遠鏡の視野の中に入れれば，あとは極軸を一定速度で回転させるだけでその天体を視野の中に固定することができる。大規模な天体望遠鏡はほとんどこの形式の架台をもっている。

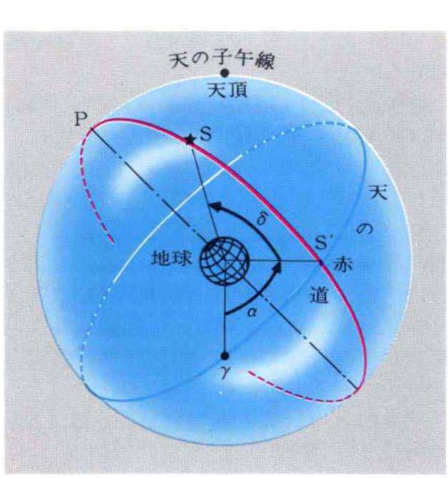


セキテッ鉱　中国東北部龍烟鉄山産





赤道ギニア　1968年10月12日スペインからの独立を祝う記念式典の模様



赤道座標

せきどうきだん 【赤道気団】 夏冬とも北緯20°以南の海洋上に発生する気団で，この地域の天気を支配する。気温・湿度ともに著しく高く，かなり不安定になりやすい。

せきどうギニア(共和国) 【赤道ギニア Republic of Equatorial Guinea, República de Guinea Ecuatorial】 アフリカ西部，ギニア湾に面する共和国。面積28,051km²。人口36万(1978年推)。首都マラボ。行政上ギニア湾上のフェルナンドポー島とアノボン島からなるフェルナンドポー(面積2,034km²)と，大陸部のリオムニとその沿岸のコリスコ・エロベイ両島からなるリオムニ(面積26,017km²)の2州からなる。国土は高温多雨で，バナナ・ヤシ油・コプラ・サトウキビなどの産に富み，コーヒー・カカオのプランテーション*の開発が進んでいる。サンタイサベルはフェルナンドポー島にある港市で，農産物などを輸出する。リオムニは面積は広いが，一部でコーヒー・木材などを産しているほか，まだ開発は進んでいない。1963年に大統領制の自治政府が成立してスペインの自治州となり，1968年アフリカにあるスペイン植民地の中で，初の独立国になった。〔小栗　宏〕

せきどうこう 【赤銅鉱】 銅の原料鉱石。Cu_2O 等軸晶系。劈開*(へきかい)は(111)，硬度は3.5～4，比重5.7～6.2。質はもろい。断口は貝殻(かいがら)状で，金剛ないし亜金属光沢を示す。硫化銅鉱床の酸化帯に産する。

せきどうざひょう 【赤道座標】 天体の位置を表わす天球座標系の一つ。基準面として赤道面，基準方向として春分点(γ)を選ぶ。天の極(P)(だいたい北極星の位置にあたる)と天球上の1点(S)を通る大円が赤道と交わる点をS′とするとき，SS′を赤緯(δ)，春分点からS′までの角距離γSを赤経(α)という。天球上の位置はすべて，赤経・赤緯によって表わされる。赤道座標は地平座標*のように場所・時間によって変化しないので，惑星の運動，恒星の位置を表現するのに適している。しかし，歳差*によって春分点は移動するので，特定の時期の春分点の位置を基準に使用している。→黄道座標　→地平座標〔木下　宙〕

せきどうせんりゅう 【赤道潜流】 太平洋東部の赤道直下にあって海洋の表面を西から東に流れる南赤道海流の北端，深さ50～400m付近に発見された東向きの海流。赤道をはさんで緯度2°の幅の間に限られる。発見者の名にちなんでクロムウェル海流ともよばれる。流速は1～3ノット，流量は

毎秒3,000万tもある顕著な海流である。

せきどうばん【赤道板】 核板ともいう。細胞の核分裂中期に極と極の間で，紡錘体の長軸中央にあたる垂直平面をいう。細胞分裂中の染色体は，前期ではいろいろな位置をとるが，中期には染色体の動原体(紡錘糸のついているところ)が，赤道板の一平面上に並ぶようになる。➔細胞分裂

せきどうはんりゅう【赤道反流】 赤道付近を東流する海流*で赤道海流の補流。およそ3～10°Nの間にあり，流速は1～3ノットもあるが，厚さは100～200m程度である。赤道に向かって吹く貿易風によって起こる赤道海流は太平洋では東南アジア付近で，インド洋では東アフリカ付近で，大西洋ではブラジル沿岸でそれぞれ反転して東流する海流となる。

せきどめ【咳止め】 ⇨鎮咳薬(ちんがいやく)

せきとりせんりょうのぼり【関取千両幟】 邦楽の曲名。略して〈千両幟〉ともいう。最初は義太夫節(ぎだゆうぶし)で，近松半二ら6人の作で，1767年(明和4)に発表された。力士の岩川(猪名川(いながわ))の義理とその女房の夫を思っての動きが中心で，女房の口説(くどき)や角力場(すもうば)の描写が有名。この歌詞を用いたのが新内節で，18世紀中ごろの鶴賀若狭掾(つるがわかさのじょう)の作といわれる。ここでも，稲川(岩川のこと)内の段での女房の口説が有名である。常磐津節(ときわずぶし)では3世岸沢式佐の作曲で，1835年(天保6)に発表された。〔徳丸吉彦〕

せきにんないかくせい【責任内閣制】 議会で多数を占める政党の党首が内閣*を組織し，議会に対して政治上の責任をとる政治制度。イギリスでは1688年の名誉革命*の翌年，議会は権利宣言を行ない，ウィリアム3世は権利章典*を公布した。これにより議会政治が確立して，議会は事実上政治の全権を握るようになり，ホイッグ党・トーリー党が交互に責任内閣を組織するようになった。➔議院内閣制

せきにんのうりょく【責任能力】 刑事上では，自己の犯罪*行為によって，刑事責任を負うことのできる能力のことをいう。責任能力がいっさいない(刑事上処罰できない)者には14歳未満の者(刑法41条)，心神喪失*者(刑法39条1項)があり，限定された責任能力しかない者(限定責任能力者)には，瘖唖者(いんあしゃ)(刑法40条)・心神耗弱者(➔心神喪失)(刑法39条2項)がある。これらの者は刑が減軽されるか処罰されない。刑法上，責任能力が問題とされるのは，人が違反行為をした点について，社会から非難されるだけの要件，つまり物事に対する是非善悪を判断し，その判断に従って行動できる能力を備える必要があるという論拠からである。刑法は責任無能力者および限定責任無能力者の範囲を決め，それ以外はすべて責任能力があるとしている。

民事上では，自己の行為によって，他人に損害を与えるであろうと判断できる能力のことをいう。年齢的には，知能の発達程度によって個人差があるが，12歳(小学校卒業)あたりで認定できるとされている。もちろん，心神喪失者など物事を認識できない者は，責任無能力者である。責任無能力者の行為によって損害が発生しても，本人には賠償責任はない(民法712条)。ただ，親権*者や学校長など，法律上の監督者に監督上過失がある場合には，監督者に対して賠償責任を負わせることができる。〔井上公耳〕



関根正二《子供》1919 ブリヂストン美術館蔵

せきねしょうじ【関根正二】(1899～1919) 洋画家。福島県の生まれ。太平洋画会研究所に学び，1918年(大正7)二科展に出品した《信仰の悲しみ》が樗牛(ちょぎゅう)賞を得て注目されたが，翌年肺患にたおれた。浪漫的な幻覚の世界を迫力あるフォーブふうの色彩で描いている。

せきのごほんまつ【関の五本松】 島根県の民謡。島根半島にある美保関に5本の松がはえていたが，領主の行列のじゃまになるというので1本切られた。残った4本は夫婦松だから切ることはできないとうたったものという。《安来節*》とともに全国に知られる。

せきのただし【関野貞】(1867～1935) 東洋建築史学者。新潟県高田市の生まれ。東京帝国大学工科大学卒業後，奈良県技師として古社寺の修理・研究に没頭。1901年(明治34)東京帝大助教授となり，朝鮮・中国の建築史研究に進んだ。1918年(大正7)，唐代仏教遺跡の天龍山(てんりゅうざん)石窟(せっくつ)を発見し，学界へ貢献した功績は大きい。著書に《朝鮮古蹟(こせき)図譜》《日本建築史の研究》などがある。

せきのと【関扉】 常磐津(ときわず)節による歌舞伎(かぶき)舞踊。本名題《積恋雪関扉(つもるこいゆきのせきのと)》。1784年(天明4)に発表され，宝田寿来の作詞，鳥羽屋(とばや)里長の作曲。筋は，天下をねらう悪人として大伴黒主(おおとものくろぬし)を逢坂山(おうさかやま)の関守(せきもり)とし，そこに小野小町と愛人良岑宗貞(よしみねのむねさだ)をからませた荒唐無稽(むけい)なものであるが，長い時間飽きさせぬように，常磐津流の口説(くどき)や三味線(しゃみせん)の手のほかに，琴唄(ことうた)や道具屋節(一杯機嫌(きげん)で関守は……)を使ったり，当時流行した投節(なげぶし)(行くも帰るも忍びの乱れ……)を使ったりしている。〔徳丸吉彦〕

せきはん【赤飯】 もち米にアズキを混ぜて蒸してつくる吉事用の飯。こわめし・おこわともいう。古名は〈強飯(こわいい)〉。祭礼・祝儀などに用いる習慣は江戸時代後期から始まったといわれるが，地方によってはアズキの代わりに黒ダイズを入れて仏事用にする。《貞丈雑記》(1846)に〈赤飯というは赤小豆(あずき)を混ぜた強飯なり〉と記されている。もち米の量の10～20%のアズキを煮て，その煮じるにもち米を一晩つけてからアズキと混ぜ，蒸してつくる。着色に食紅を使うこともある。黒ゴマと食塩を混ぜたごま塩を添えて供する。〔塩川ふみ〕

せきばん【石版】 石版石を版材として製版した平版。石版石は炭酸カルシウムを主成分とする微細な粒子よりなり，緻密(ちみつ)均一な組成を有する石灰石の一種である。1798年ドイツでゼネフェルダーが発明した方法で，今日行なわれている平版印刷*の基礎をなす製版印刷である。石版石は脂肪とよく親和して画線を形成し，水分をよく吸収して非画線部をつくる。製版法としては，まず研摩した石版石面に解き墨・クレヨンなどの脂肪インキで画線をつくり，硝酸を加えたアラビアゴム液を与える。脂肪インキの画線は強化され，非画線部には強固な保水層ができる。すなわち，脂肪酸分子で画線部，アラビアゴム溶液で保水層となる非画線部の基礎ができる。印刷法としては，微酸性の水と脂肪インキとを交互に与えて印刷する。この原理に基づいて金属平版が発達し，今日では石版は実用印刷界から追われ，小規模の印刷，特殊な印刷に用いられるにすぎない。石版の種類には石版面の状態からみがき石版，砂目石版があり，多色印刷を行なうためのクロモ石版，写真技術を応用して製版する写真石版などがある。〔長野昌隆〕

せきはんが【石版画】 版画*の一種で，リトグラフィーともいう。石版石を版材とし，石版*の印刷原理によるので，この名称があるが，現在では亜鉛板・アルミニウム板を用いることが多い。初期の石版画は，複写を目的としたためか精巧で，書物のさし絵やポスターに用いられたが，印刷術の進歩とともにしだいに芸術作品としての比重が大きくなった。現代の美術家が制作活動の一分野にこれをとり入れていることも少なくない。〔永井信一〕

せきびのらん【赤眉の乱】 中国，王莽*

(おうもう)時代の農民反乱。前漢を倒して新国を建てた王莽が，失政を重ねて社会を混乱させたのに乗じ，18年山東省の莒(きょ)県で樊崇(はんすう)が数百人の部下とともに起こした。その軍団はたちまち拡大し，25年には30万人を擁すると号し，劉盆子(りゅうぼんし)を天子に立てて長安をおとしいれたが，27年後漢の光武帝*に平定された。眉を赤く染めたので赤眉の称がある。当時流行した五行説によれば，赤色は漢室のシンボルカラーで，彼らは王莽を打倒して漢室を復興させる意図をもっていたと考えられる。〔勝村哲也〕

せきぶつ　**【石仏】**　石窟(せっくつ)の壁面や岩壁あるいは石材などに，仏像を丸彫りまたは浮き彫りしたもの。石窟や岩壁に彫ったものを摩崖仏(まがいぶつ)という。良質の石材の豊富なインド・中国・朝鮮においてはすぐれた石仏が多いが，わが国ではよい石材が乏しいため，大陸に比べて量質ともにはるかに劣る。わが国の石仏の素材は凝灰岩がほとんどで，その石はだには独特の美しさがあるが，水に弱く耐久性に欠ける。最古の作例は石位寺(奈良県)の三尊像で，白鳳(はくほう)期の作と考えられ，古法華(こほっけ)三尊像(兵庫県)も損傷はひどいが同期の作と思われる。奈良の頭塔(ずとう)の石仏群は天平(てんぴょう)期石仏の代表作で，浮き彫りの手法により，よく天平ふうの大らかな気分を表出している。平安時代，仏教が地方に根をおろすと，石仏の制作も盛んになり，すぐれた作例もある。臼杵(うすき)石仏*をはじめ，日石寺(富山県)の大岩不動，大谷(おおや)石仏(栃木県)などは日本の石仏の優品である。鎌倉時代には，庶民信仰の立場からの作例が多く，箱根石仏群(神奈川)・当尾石仏群(奈良県)はその一例である。近世にはいって，民俗信仰が盛んになると，村の入り口や街道筋，鎮守の森などに，石工の手によってつくられたものが多くなり，いわゆる〈野の仏〉として現在に至るまで，一般に親しまれている。〔永井信一〕

せきぶん　**【積分】**　微分*の逆演算。与えられた関数$f(x)$を導関数*とするような関数(これを$f(x)$の原始関数という)を求めること。$f(x)$が閉区間〔a, b〕で定義されているとき，この区間を無限に小さい区間に分け，各小区間の任意のxの値に対応する$f(x)$の値とその小区間の幅の積を求め，その積の閉区間〔a, b〕全体についての総和を計算する。小区間の幅を0に収束*させるとき，その総和に極限値*が存在するならば，これを$\int_a^b f(x)\,dx$と表わす。この値を関数$f(x)$のaからbまでの定積分という。$\int$はsumma(和)の頭文字Sを上下に引き伸ばした記号で，ライプニッツ*がはじめて用いたものといわれる。すなわち，$\int_a^b f(x)\,dx$という記号は，関数値$f(x)$に小さな区間の幅dxを掛けて，これをaからbまで加えた和という意味である。関数$f(x)$が連続のとき，$f(x)$の



石　仏　石位寺三尊像

原始関数の一つを$F(x)$とすれば，

$$\int_a^b f(x)\,dx=F(b)-F(a)$$

となり，これを$\left[F(x)\right]_a^b$で表わす。たとえば，

$$\int_1^2 x^2\,dx=\left[\frac{x^3}{3}\right]_1^2=\frac{2^3}{3}-\frac{1^3}{3}=\frac{7}{3}$$

〈定積分の応用〉曲線の長さ，曲線で囲まれた図形の面積，曲面で囲まれた図形の体積などを求めるのに応用される。たとえば，楕円(だえん)$\frac{x^2}{a^2}+\frac{y^2}{b^2}=1$の面積は，図の影の部分を$\int_{-a}^{a}\frac{b}{a}\sqrt{a^2-x^2}\,dx=\frac{b}{a}\cdot\frac{\pi a^2}{2}$と求め，2倍して$\pi ab$を得る。また，曲線$y=f(x)$を$x$軸の回りに回転して得られる回転体の体積$V$は，図の薄い円柱の体積$\pi\{f(x)\}^2\times dx$を$a$から$b$まで加えて，

$$V=\pi\int_a^b\{f(x)\}^2\,dx$$

として求める。➔積分法　➔不定積分　➔微分方程式〔青柳雅計〕

せきぶんほう　**【積分法】**　一つの関数が与えられたとき，その原始関数を求めること，またはその定積分を求めることを，もとの関数を積分するといい，それらの計算法を総称して積分法という。

〔原始関数〕関数$f(x)$が与えられたとき，$F'(x)=f(x)$となる関数$F(x)$，すなわち微分して$f(x)$となる関数$F(x)$を，$f(x)$の原始関数または不定積分といい，$\int f(x)\,dx$で表わす。一つの関数$f(x)$の原始関数は無数にあるが，その一つを$F(x)$とすれば，他はすべて$F(x)+C$と表わせる。このCを積分定数という。たとえば，関数x^2，$\cos x$が与えられたとすると，

$\left(\frac{x^3}{3}\right)'=x^2$，$(\sin x)'=\cos x$だから，不定積分はそれぞれ，

$$\int x^2\,dx=\frac{x^3}{3}+C,\quad \int\cos x\,dx=\sin x+C$$

である。

以上からもわかるとおり，積分法は微分法の逆算である。

〔定積分〕閉区間〔a, b〕で定義された関数$f(x)$をとる。区間〔a, b〕をn個の小区間に分割し，その分点を順に$x_0=a, x_1, x_2, \cdots\cdots, x_n=b$とし，各小区間〔$x_{i-1}$, x_i〕内に一点ξ_iをとり，関数値と区間の幅の積の和

$$\sum_{i=1}^{n} f(\xi_i)(x_i-x_{i-1})$$

を考える。いま，どの小区間の幅も0に近づくように分割をどこまでも細かくしていくならば，上の積和が，ξのとり方に無関係に，ある一定の値に近づくとする。このとき，この一定の値を関数$f(x)$のaからbまでの定積分といって$\int_a^b f(x)\,dx$で表わす。a, bをそれぞれ積分の下端・上端という。

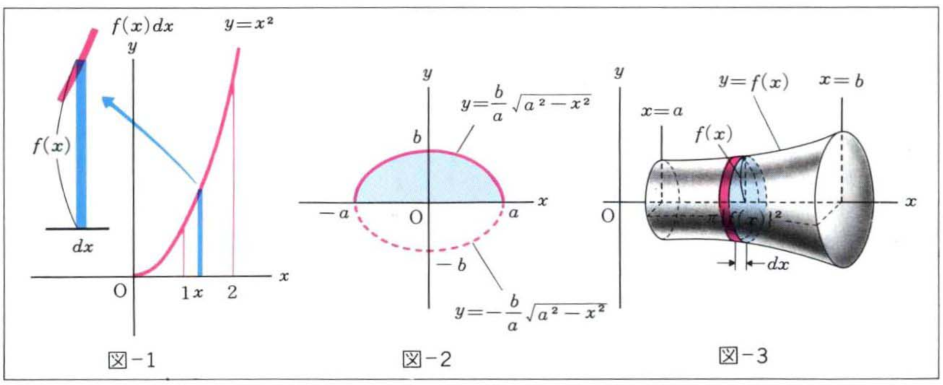
$f(x)>0$のときは，定積分$\int_a^b f(x)\,dx$は，曲線$y=f(x)$とx軸および2直線$x=a$，$x=b$で囲まれた部分の面積を表わす。

〔定積分と不定積分〕関数$f(x)$の定積分は，$f(x)$の一つの不定積分$F(x)$により，次のように求めることができる。

$$\int_a^b f(x)\,dx=F(b)-F(a)$$

積分法のめばえは，求積法と関連して古くからあった。特に，放物線とその弦とで囲まれた図形の面積を求めたアルキメデスのしぼり出し法は有名である。

この方法をもっと一般的系統的に扱ったのが積分法で，積分法は微分法とともに，17世紀の後半になってニュートン*とライプニッツ*とにより，独立に発見された。積分は，曲線や曲面で囲まれた部分の積や曲線の長さを求めるなど，数学ではきわめて広く利用されている。また，物理学などでも



積　分

いろいろな量の定義や計算に用いられる。さらに，一変数の関数の積分だけでなく，多変数の関数の積分や複素変数の関数の積分なども考えられる。　〔杉岡司馬〕

せきへきのたたかい　【赤壁の戦い】　中国，三国時代，劉備*(りゅうび)と孫権*の連合軍と曹操*(そうそう)の軍との間で行なわれた戦い。208年，80万と号する大軍を率いて江南征圧を企てた曹操の水軍に，孫権の部将周瑜(しゅうゆ)の配下にあった黄蓋(こうがい)が，降服と偽って船団を近づけ，みずから船に火を放ち，おりからの東風を利用して曹操軍を壊滅させた。この戦いの結果，諸葛孔明*(しょかつこうめい)の〈天下三分の計〉が実現する。戦場は湖北省嘉魚(かぎょ)県の東北，揚子江の南岸の地とされるが，赤壁という地名は揚子江中流に5か所ほどある。　〔勝村哲也〕

せきへきのふ　【赤壁の賦】　中国，宋(そう)代の文人蘇軾*(そしょく)の作。1082年，蘇軾は湖北の黄州にいたが，陰暦秋7月と10月の2回にわたり，黄州城の東にある赤壁(漢口の下流にある地名)に遊んだときつくったもの。前後2編からなる。前編は蘇軾自身が喜怒哀楽を超越して自然に没入した境地にあることをうたい，後編は夜の遊びの楽しさを詠じている。

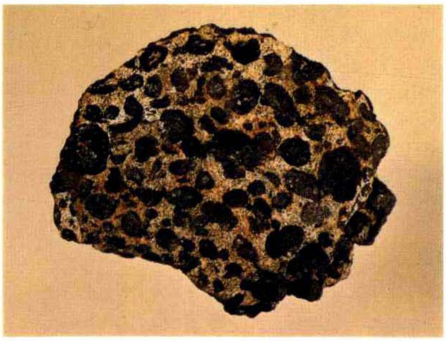
せきほう　【赤峰】　チーフォン　中国，内モンゴル自治区東部にある赤峰県の県政府所在地。ウラン－ハダともよばれる。人口約10万。葉赤鉄道の終点で，農産物のほか，羊毛・らくだ毛・羊皮などを産し，酒造・製粉・搾油も行なわれる。付近の紅山後遺跡からは新石器時代の彩陶文化の住居跡や，金石併用時代から初期青銅器時代にかけての住居跡と古墳などが発掘されている。

せきぼく　【石墨】　工業用グラファイト製品あるいは鉛筆のしんなどの原料鉱物。黒鉛ともいう。C　六方晶系，黒色不透明，金属光沢，硬度1～2，比重2.1～2.2。酸・アルカリに安定で，電気の良導体である。

せきほくほんせん　【石北本線】　宗谷本線新旭川(しんあさひかわ)から網走(あばしり)に至る国鉄路線。営業キロ数234で，他に貨物支線0.8kmがある。1912年(大正1)に網走～北見間の開通に始まり，1932年(昭和7)に全線が開業した。道東と道央を結ぶ幹線鉄道の一つで北見山脈を横断する所にある石北トンネル(4,329m)はわが国長大トンネルの一つである。沿線に遠軽(えんがる)・北見などの町がある。

せきめんきょうふ【赤面恐怖】⇨恐怖症

せきめんスレート　【石綿スレート】　セメントと石綿(アスベスト)を主原料とし，板状に圧縮成形したもので，屋根ふき材。1900年ごろにオーストリアで発明された。わが国でも1914年に小平板が生産されており，比較的歴史が長い。スレート*とは，粘板岩のことであり，それが薄板状であることから古来天然スレートとして一般に利用されていたが，石綿スレートはこれに代わ



セキボク　北海道音調津産

って近年屋根材料としての需要を伸ばしてきた。セメントは結合材で，そのもろさを補うために石綿が混ぜられるから，石綿の繊維が長く，混合量の多いものほど弾性にすぐれる。形状は平板(壁用)と波板(屋根ふき用)を基本とし，ほかに形板(下見板)や有孔板・サンドイッチ板などとして生産されている。普通の平板はセメントと石綿の重量混合比が85：15で代替繊維を石綿の30％以内まで入れられるが，フレキシブル板は65：35で，代替繊維も使わず，よび名のとおり高い強度と可撓(かとう)性を持ち，くぎ打ち・切断加工も容易である。別に着色したり，プラスチックで被覆した化粧板や軽量繊維を混ぜた加工性のよい内装用の軟質板，断熱・吸音にすぐれた石綿パーライト板などあり，壁や間仕切りその他に用いられ，用途は広い。　〔難波蓮太郎〕

せきもんしんがく　【石門心学】　⇨心学

せきゆ　【石油】　天然に地下から産出する原油*およびこれを精製して得られる液体燃料・潤滑油などの製品の総称。

〔成分〕原油の主成分はいろいろの炭化水素の複雑な混合物で，このほかにいくらかのイオウ・酸素・窒素の各有機化合物を含む。石油炭化水素を大別すると，パラフィン*・オレフィン・ナフテン・芳香族の4種に分類され，原油中にはパラフィンおよびナフテン系炭化水素が最も多く，芳香族炭化水素の量は少ない。また，オレフィン系炭化水素は原油中にはほとんど含まれていないが，石油のクラッキング*によって容易に生成する。これら各種族炭化水素の区別は，ガソリン*・燈油*などの比較的低沸点留分では明確であるが，高沸点留分になるにしたがってしだいに不明確となり，たとえば潤滑油のように分子量の大きい炭化水素では，1分子中にナフテン環・芳香族環・アルキル側鎖が結合しているものが多い。イオウ・酸素・窒素化合物などの非炭化水素成分は，通常その含有量が少ないが，原油によってかなり多量のイオウ化合物を含むものがあり，わが国でおもに輸入している中東原油は一般にイオウ分が多い。また，これらの非炭化水素成分は，一般に高沸点留分ほどその含有量が大となる。

〔成因〕石油がなにからどのようにしてできたかについては，古来種々の学説があるが，このうち現在最も多くの支持を得ている成因説は，古代の海生動植物，特にプランクトン類をおもな根源とする考え方である。この説によれば，古代からのプランクトン類の遺体が比較的海岸線に近い海底に沈積し，これに含まれる有機物中の酸素が嫌気(けんき)性バクテリアの作用により消費・除去されて石油質の母体を生成し，これが地層中に浸透し，地熱・地圧，地下鉱物の触媒作用などにより，しだいに石油炭化水素に変化したものと考えられている。

〔生産・消費〕最近における世界の国別原油埋蔵量・生産量・石油消費量を各10位まで表に示す。地球上の原油の分布は，著しく偏在しており，現在までに，確認された埋蔵量1,031億kℓ(1981・1月)のうち，56％は中東地域が占め，これにソ連，北アメリカ，北アフリカを加えると，世界の原油の約85％がこれら四大地域に集中している。世界の原油年産量は約35kℓ(1980)で，油田の開発が最も進んでいるサウジアラビア，ソ連，アメリカの3国だけで世界の約50％の原油を生産している。アメリカは世界有数の原油生産国であるが，消費量はさらに

世界各国の原油埋蔵量・生産量・消費量

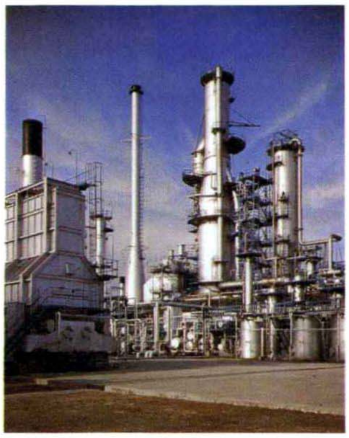
（単位 100万kℓ）

順位	原油確認埋蔵量(1981.1月)[1]		原油生産量(1980)[1]		石油消費量(1979)[2]	
1	サウジアラビア	26 232	ソ連	699	アメリカ	1 040
2	クウェート	10 318	サウジアラビア	560	ソ連	518
3	ソ連	10 016	アメリカ	499	日本	319
4	イラン	9 141	イラク	153	西ドイツ	177
5	メキシコ	6 995	ベネズエラ	126	フランス	141
6	イラク	4 769	中国	123	イタリア	119
7	アブダビ	4 610	ナイジェリア	120	イギリス	112
8	アメリカ	4 197	メキシコ	113	カナダ	110
9	リビア	3 657	リビア	104	中国	106
10	中国	3 259	インドネシア	92	スペイン	56
	(日本)	8	(日本)	0.6		
	世界合計	103 104	世界合計	3 472*	世界合計	3 719

*1979年(3 642百万kℓ)より減少
1) Oil & Gas J.による統計　2) British Petroleumによる推定値(稍々過大な推定になっている)

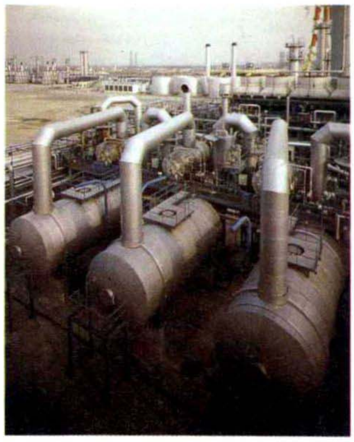

常圧蒸留装置


減圧蒸留装置


流動接触分解装置


ガス回収装置

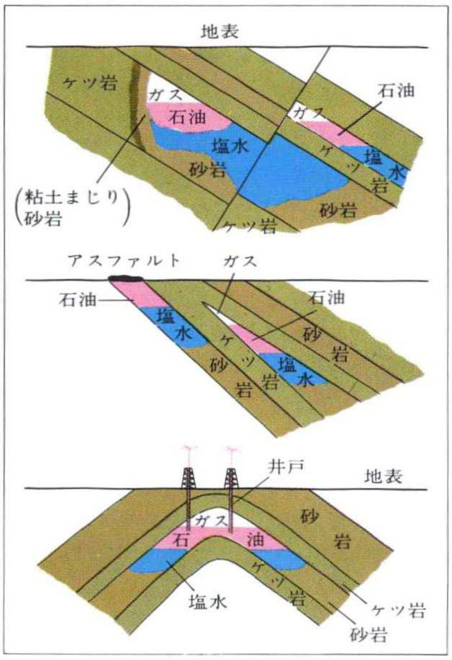

製油工程全体を管理する計器室


イオウ回収装置

石　油

これを上回り，不足分を海外から輸入している。現在先進工業国の中で，自国産石油で需要を完全に満たしている国はソ連だけである。わが国の石油消費量はアメリカ・ソ連に次いで世界第3位であるが，新潟・秋田・山形を中心とするわが国の石油資源はきわめて乏しく，需要量の99％以上を中東地域その他から輸入している。なお，原油生産量(P)に対する確認埋蔵量(R)の比(R/P)を可採年数とよび，石油の寿命を推定するめやすとなるが，この値は1980年で世界平均約30年である。このR/P比は毎年石油が生産消費される反面，一方では新油田の開発によって確認埋蔵量も更新されるので，それほど大きい変化はなく，今後30年以内に石油が枯渇してしまうわけではない。しかし石油が有限の資源であることには変わりなく，来世紀には石油はエネルギーの王座の地位を失うと考えられている。

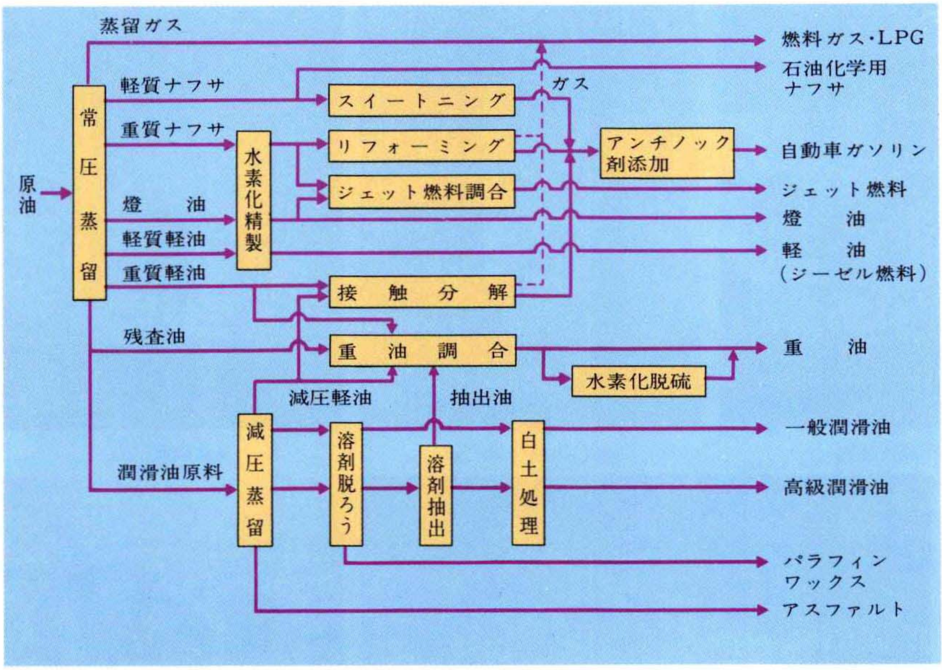
【生産の歴史】石油の歴史はきわめて古い。メソポタミア，ペルシアなどでは少なくともBC3200年ごろから人々に知られ，またわが国でも約1,300年前の天智(てんぢ)天皇時代に現在の新潟県で石油を生産していた記録がある。しかし石油が産業として発展したのは，1859年アメリカのドレークが，カリフォルニア州ではじめて機械的に油井を掘削し，地下から石油を採取するようになって以来のことである。当時は燈火用としての利用が石油の最も主要な用途であったが，19世紀末にガソリン機関・ディーゼル機関があいついで発明され，石油は自動車・航空機などの内燃機関燃料として広く利用されるようになり，石油産業が大いに発展した。特に第1次および第2次世界大戦，石油は軍事・交通・経済上の重要性がますます認識され，この間石油精製技術も著しく進歩した。第2次世界大戦後は世界的にエネルギー革命が起こり，エネルギー源の主力は石炭から石油へ転換し，世界全エネルギーの60％以上(日本では70％以上)を石油と天然ガスが占めるようになった。一方では化学工業原料でも石炭から石油への転換が起こり，新しい石油化学工業*が著しく発展し，これが今日の化学工業の半ばを制するようになった。このように，石油は近代社会にとって欠くことのできないもので，今日の文化・経済・交通・軍事上最も重要な物資となっている。特にわが国では，工業エネルギー源や化学工業原料としての石油需要の激増により，その消費量は高度生長時代の1973年までの10年間に約6倍(世界平均は約2倍)に増大し，石油精製能力においても，アメリカ・ソ連に次ぐ世界第3位の近代設備をもつ石油精製国となった。しかし1973年，中東産油国を中心とする石油輸出国機構(OPEC)は原油価格を一挙に暴騰させ，いわゆる石油危機を招来し，世界経済に大きい影響を与えた。その後も原油価格は逐年上昇を続け，日本の石油消費量は同年以降頭打ちの状態となっている。



石　油　石油のたまりやすい地層

【原油の蒸留】原油をそのまま燃料などに使用するのは例外的で，大部分はこれを精製して各種の石油製品とする。一般的な製油工程の概要は次ページの図のようになる。

まず原油は，常圧蒸留によって蒸留ガス・ナフサ*・燈油・軽油・残渣油(ざんさゆ)などの数留分に大別される。この操作をトッピングという。蒸留装置の主要部はパイプスチールと精留塔からなり，原油はパイプスチールを高速で通って所要温度に加熱され，精留塔のやや下段に放出される。精留塔内部には数十段のトレー(たな)があり，高いトレーほど温度が低く保たれ，沸点の低い成分ほど上段のトレー上に凝縮する。下段より上昇する油蒸気はトレー上の凝縮液と気液接触し，連続的に精留が行なわれる。塔



石　油　製油工程の概要

内で凝縮しない蒸留ガスおよび最低沸点成分のナフサ留分は，塔頂から油蒸気として留出し，燈油・軽油などの中間留分は，それぞれ塔内の適当な高さのトレーから側流として取り出す。また最も沸点の高い残渣油は塔内では気化せず，塔底から抜き出される。通常ナフサはさらに軽質ナフサと重質ナフサに分留され，また，軽油も軽質軽油と重質軽油に分けられることが多い。各留分の分留温度(沸点範囲)は，およそ軽質ナフサ約30～100℃，重質ナフサ約90～200℃，燈油約150～280℃，軽油約250～350℃，残渣油約300℃以上である。各留分の分留温度は一定ではなく，原油の種類，各製油所における生産計画に従って，それぞれの製品規格に適合する範囲内で適当に調整される。

原油の常圧蒸留*で得られる残渣油は，そのまま燃料重油として使用されるが，一部はこれを減圧蒸留して潤滑油やアスファルトの製造が行なわれる。減圧蒸留装置は，10～100mmHg(水銀柱ミリメートル)程度の減圧系統を付属しているほかは常圧蒸留装置と類似し，主要部はパイプスチールと減圧精留塔からなる。減圧下に各成分の沸点が低下する点を除けば，精留の原理は常圧蒸留とまったく同一である。この場合は塔頂から重質の減圧軽油が留出し，塔側からはトレーの高さに応じて3～4留分の各種粘度の潤滑油留分が留出し，塔底からはアスファルトが抜き出される。

【石油製品】石油製品として重要なものに，ガソリン・燈油・ジェット燃料・軽油・重油・潤滑油・液化石油ガス・アスファルト・パラフィンワックス(石ろう)などがある。ガソリン*には自動車用・航空機用・工業用(ベンジン*・石油エーテル*など)があるが，量的には大部分が自動車用である。自動車用ガソリンは重質ナフサのリフォーミング*で製造される改質ガソリンが主体で，これに接触分解ガソリン・軽質直留ガソリンなどが配合され，さらに必要に応じてアンチノック剤*を添加し，オクタン価*の高い製品として市販される。燈油*は常圧蒸留の燈油留分を水素化精製して製造され，その大部分は家庭燃料として使用される。ジェット燃料にはやや軽質のナフサ型と，やや重質の燈油型のものがあり，適当な重質ナフサまたは燈油留分を水素化精製・調合して製造される。軽油*は原油の軽油留分を水素化精製して製造され，おもに高速ディーゼル機関燃料として用いられる。重油*は原油の常圧蒸留残渣油を主体とし，これに重質軽油留分などを調合して粘度・凝固点を調整した各種の製品とし，工場動力用燃料・大形ディーゼル機関燃料などとして使用される。以上の各燃料油は量的に石油製品の大半を占め，特に重油はわが国の石油製品の約60%を占めている。

以上の製油工程で副生するガス状成分は，液化石油ガス*として家庭燃料などに使用される。また，常圧蒸留残渣油の一部は潤滑油の製造原料となり，減圧蒸留によって各種粘度の潤滑油が製造され，この工程でアスファルト・パラフィンワックスなどが副生する。潤滑油には用途によりきわめて多くの種類があり，高級品は各種の溶剤精製法により，安定で凝固点が低く，粘度性状のすぐれた良質成分のみを分離して製品とする。〔原　伸宜〕

せきゆかがくこうぎょう【石油化学工業】⇨486ページ

せきゆきかん【石油機関】燈油または軽油を燃料とする火花点火機関。農耕用の小形機関に多く用いられ，熱効率はよくないが燃料費が安いのが特徴である。構造はガソリン機関*と同じであるが，全体に簡単でがんじょうにできている。気化器は，特に揮発性の悪い燈油・軽油を気化できるよう特殊な構造になっており，始動時にはガソリンを使用するようになっている。点火にはマグネット点火装置を用いる。

せきゆコークス【石油コークス】通常の石炭*系コークスと違い，石油*を原料として得られるコークス。工業的クラッキング*の一種であるコーキング法で製造される。この方法では重質残渣油(ざんさゆ)を500℃内外の温度でクラッキングし，副生する分解タールを反復循環させて熱分解することにより，主生成物として石油コークスと，接触分解ガソリン*製造の原料である分解軽油が得られる。石油コークスは灰分が少ない特徴があり，おもに電極材料に用いられる。

せきゆさんぎょう【石油産業】原油の採掘と精製を行なう産業。エネルギー革命による石油需要の増大に伴って，世界の石油生産と石油精製量は急増しつつあるが，そのかなりの部分は，ビッグ-セブンとよばれるアメリカ・イギリス系石油大資本，すなわち，スタンダード石油*(ニュージャージー)・ロイヤルダッチ-シェル*-グループ・ガルフ*石油・スタンダード石油(カリフォルニア)・テキサコ*・ソコニー-モビル-オイル・ブリティッシュ-ペトロリウム(BP)によって占められている。現在，資本主義国の石油総生産・石油精製の6割強を7社が占めている。わが国では，1887年(明治20)ごろから新潟油田が開発されてきたが，石油資源に乏しいため，国内消費をまかなうことは不可能で，石油および石油製品の大部分を輸入に依存してきた。現在，新潟と秋田の油田から帝国石油と石油資源開発によって国産原油が供給され，その量も増大してはいるが，それでも自給率は2%に満たない。近年，石油供給の長期安定化をめざして，アラビア石油・北スマトラ石油開発協力などが海外石油資源の開発輸入を進めつつあるが，その量はまだ微々たるものである。

第2次世界大戦後，わが国の石油精製業は，爆撃による精製設備の破壊，技術・設備の老朽化，原油輸入の不安定などの困難を打開するため，上述の7大石油会社をはじめとする外国石油資本との提携を余儀なくされ，さらに消費地精製主義が採用されたこととあいまって，かなりの企業が外国石油資本の支配下に発展せざるをえない状態であった。しかも，1962年(昭和37)10月の原油輸入の自由化まで外貨割り当て制度が実施され，割り当て基準が精油能力や精製実績に置かれていたため，激しい設備拡大・販売拡大の競争を招き，民族系の出光興産*・丸善石油*などもソ連から安価な原油を大量

に買い付け，設備・生産を拡大した結果，石油市況は悪化し，石油精製各社は軒並み企業体質が弱体化した。だが，1962年の石油業法の成立によって，企業の新規参入と設備新増設の許可制，生産量・輸入量・販売価格の勧告制が敷かれ，原油輸入の自由化による過当競争が阻止されることとなった。

このようにして，現在のところ，石油産業の需給は人為的に調整され，石油市況も安定しているが，石油産業がかかえている課題はけっして少なくない。その第一は，国家の助成によって行なわれている海外の石油資源開発が，イオウ含有量の問題，現地民の抵抗などによって大きな困難と危機に逢着していることである。第二に，消費地精製主義によって発展してきた石油産業にとっても，石油製品輸出の必要性がしだいに増大しつつあることである。すなわち今日までに，平均して，石油製品は国内販売量の約1割を輸出しているが，国際的な石油の生産過剰傾向下にあって，今後どのように安定した輸出市場を見いだしていくかという問題である。第三に，モータリゼーションの頭打ちが見込まれている情勢に加えて，公害問題の発生によって，新たな設備投資を必要とするに至った現在，再び過当競争と企業採算悪化のおそれが増大しつつあることである。これらの課題に直面している現在，民族系・外資系入り乱れて競争しつつ発展してきた日本の石油産業にとって必要なのは，産業再編成による国際競争力の強化，民族系石油会社の育成強化，海外油田開発，ソ連石油の輸入をはじめとする輸入ルートの広域化などの政策を総合的に実施することである。〔原　豊〕

せきゆゆしゅつこくきこう　【石油輸出国機構】 Organization of Petroleum Exporting Countries 略称OPEC。発展途上主要産油国であるイラク・イラン・サウジアラビア・クウェート・ベネズエラの5か国が，巨大な国際石油会社に対抗し，石油価格の引き下げを防止し，生産調整を行ない，より多くの利権料を獲得する目的で，1960年9月にイラクのバグダッドで設立した機構。その後カタール・インドネシア・リビア・アルジェリア・アブ-ダビが加盟し，現在10か国からなる。特に1960年代においては，石油は供給過剰ぎみであったが，1970年代にはいってむしろ逼迫(ひっぱく)状態になるのではないかと懸念され，それを背景として，1971年2月には，OPEC諸国は国際石油会社にいわゆる石油戦争を試み，公示価格と課税率の引き上げに成功した。今後この石油輸出国機構はますます発言力を高め，重要性を増していくものと予想され，石油のほぼ全量を海外に依存せざるをえないわが国としても，この動きに大いに注目しなければならないであろう。〔深海博明〕

せきらんうん　【積乱雲】 十種雲形の一。雄大な積雲が塔状に発達し，ふくれ上がった雲の峰が天井に突き当たったようになって上昇をやめ，アサガオの花やかなとこ状の形になった雲。アサガオの花やかなとこ状の部分は氷晶でできた羽毛状の絹雲で，積乱雲の特徴である。積乱雲は雷鳴や電光を伴うので雷雲ともよばれている。一つの積乱雲の生涯(しょうがい)は発生期・最盛期・衰弱期の三つに分けて考えられており，次のような特徴がある。①発生期：積雲から積乱雲になる時期で，全体に上昇気流があり，下層では気流が収束していて，雲中の気温は周囲より高く，地上の気圧はいくぶん下がる。上昇気流の速度は15m/秒を越すこともあり，15分ぐらいで雲頂は10,000mにも達する。②最盛期：最も発達した時期であり，上昇気流で生じた雲からは降水が起こり，落下する水滴で空気が冷やされ，雲の下層には下降気流を生ずる。雷雨の鼻とよばれる。上昇速度は30m/秒を越すこともあり，雲頂は20,000mにも達し，激しい雨や雷を伴う。③衰弱期：雲の中では，上昇気流より下降気流が卓越するようになる。下降気流や雨が続いている間は気温は周囲より低いが，しだいに周囲の気温に近づくようになる。雨もしだいに弱くなり，下降気流も消える。

積乱雲はいわゆる雷雨時だけでなく，冬季裏日本の豪雪のときや梅雨期の集中豪雨などの際に，群生して激しい雨雪をもたらす。〔曲田光夫〕

せきり　【赤痢】 大腸に起こる潰瘍(かいよう)性の炎症で，法定伝染病の一。腹痛と血液の混じった粘液性の下痢が頻回(ひんかい)にわたって起こる。原因により，細菌性赤痢とアメーバ赤痢に分けられるが，一般には前者をさす。①細菌性赤痢の病原体は赤痢菌で，経口的に伝染して大腸粘膜で増殖し，粘膜に潰瘍をつくる。夏季に流行するが，病原菌の出所は必ず患者あるいは保菌者の腸管であり，頻回の下痢によって周囲が汚染されることから，赤痢菌が直接・間接に水・食器・食品を汚染して新たな宿主に到達する。手指・ハエ・飲食水などを媒介として流行する例も少なくない。症状は頻回の下痢(粘血膿性(のうせい))で1日数十回をこえることもある。腹痛・しぶり腹を訴え，常に便意・排便感を訴える。潜伏期は1～3日で，発病は急激で1～2日高熱を有することが多い。治療としてはサルファ剤・クロランフェニコール・テトラサイクリンの投与がおもに用いられてきたが，近時耐性菌の出現が多くなり，上記以外の新しい抗生物質も使用されている。➔次項
➔伝染病　〔橋本信也〕

せきりアメーバ　【赤痢アメーバ】 アメーバ赤痢の病原体。原生動物門・根足虫綱・アメーバ目に属し，エントアメーバ-ヒストリチカという学名を有する。偽足で運動-捕食し，体は裸出しており，大腸に寄生して持続性の出血性下痢をひき起こす。エメチンが特効薬である。現在の日本にはみられない。ヒトのほか，イヌ・ネコ・ネズミなどにも感染する。

せきりきん　【赤痢菌】 赤痢の原因菌。グラム陰性の好気性菌で非運動性，芽胞を形成しない。ブドウ糖を発酵して酸をつくるがガスを形成しない。血清学的に志賀菌(A亜群)・フレキシネル菌(B亜群)・ボイド菌(C亜群)・ソンネ菌(D亜群)に分けられ，ヒトに起こす急性大腸炎(赤痢)の症状は上述の順に軽くなる傾向がある。各群はさらに多くの型に分けられる。また文明国では上述の順に検出されなくなっており，わが国では現在ソンネ菌がほとんどである。現在，薬剤耐性菌の出現が問題となっている。〔和気　朗〕

せきりょく　【斥力】 二つの物体の間に働いて，物体を互いに遠ざける向きに作用する力。二つの同種の帯電体の間には両帯電体を結ぶ線に沿って働き，電荷の積に比例し，距離の2乗に反比例する斥力が作用する(クーロンの法則)。同名の磁極の間にも同様の斥力が働く。また，原子や分子が互いに近づくと急に大きな斥力が作用する。たとえば固体を圧縮するとき大きな応力が現われるのは，原子間に作用する斥力があるためである。分子あるいは原子が規則正しく並んで結晶を形づくるのも，それらの間に引力と斥力の両方が作用しているためである。〔今淳治郎〕

せきりん　【赤燐】 リンの安定な同素体。ふつう，赤リンとよぶものは，紫リンと他のリンとの固溶体である。また，紫リン・紅リンなどを総称することもある。赤リンは黄リンを空気を遮断(しゃだん)して260℃に長く加熱すると得られる赤かっ色無臭の粉末。比重2.1～2.3，融点589.5℃(43.1気圧)，416℃で昇華し，260℃で発火する。空気中に放置しても黄リンのようにリン光は発しない。二硫化炭素に不溶で無毒である。リン原子が互いに結合して巨大な分子をつくっており，黄リンより化学的に不活発である。マッチ・花火，あるいはリン化合物の原料とされる。〔竹下三吉〕

せきれい　【鶺鴒】 鳥類・セキレイ科の鳥の総称。世界に広く分布し，北アメリカの大半と東南アジアの一部を除いて，北はアイスランド・グリーンランド・周極地帯から，南は亜極圏に至るまで世界中に広く繁殖している。高緯度で繁殖するものは長い渡りをする。垂直分布も広く，海岸から海抜5,000m近くに至り，海岸地帯・畑地・草地や川・湖などの水辺，林縁部などのおもに開けた場所の地上に生息し，こん虫類やその他の小動物を主食とする。セキレイ類11種・タヒバリ類43種からなる。タヒバリ類の形態はヒバリ類と似たところがあるが，これは類縁に関係のない相似である。全般に黒・灰・白・黄かっ色などの羽毛を

➔489ページ

石油化学工業

石油または天然ガスを原料とする化学工業を総称して石油化学工業とよび，その製品を石油化学製品という。

〔沿革〕石油化学工業は元来石油工業における分解ガソリン*の製造時に副生する分解ガスの利用法として始まり，1920年アメリカで分解ガス中のプロピレンからイソプロパノールを，またエチレンから酸化エチレンを合成したのが歴史的に最も古い。その後アメリカを中心として各種の石油化学製品の製造が始められたが，特に1937年イギリスのICI社がエチレンを高圧法で重合し，ポリエチレンをはじめて工業的に合成したのが，後年石油化学工業を大きく発展させる動機となった。第2次世界大戦中，ポリエチレンはイギリス・アメリカですべて軍需品(レーダー用絶縁体)として生産されたが，戦後これがすぐれたプラスチックス*として世界的に広く利用・生産されるようになった。現在ポリエチレン*は石油化学製品中生産量が最大で，このほかエチレン系製品には重要なものが多く，石油化学原料中エチレンの消費量が最大である。

一方分解ガソリンの製造法は，大戦前後から熱分解法が接触分解法に転換したが，接触分解法では旧来の熱分解法と異なり，反応機構上分解ガスとしてほとんどエチレンが副生せず，需要量の最も多いエチレンは別個に適当な石油留分を熱分解して製造されるようになった。この際エチレンと同時にプロピレン・ブチレン・ブタジエンなども生成し，またBTX(ベンゼン・トルエン・キシレン)も石油から簡単に製造されるようになった。かくして石油化学工業は，石油工業副生物の利用から発展し，今日ではむしろ石油からいったん各種の合成基礎原料を生産し，これらを多角的に利用する一連の合成化学工業が主体となっている。

石油および天然ガスは，かつての化学工業の最も主要な原料であった石炭*に比べて，安価で大量に得られ，装置の自動化・大形化の容易な利点がある。このため石油化学工業は，特に第2次世界大戦後，世界的に大きく発展し，全化学工業中最大の規模と産額をもつまでに発達した。わが国では1958年ごろから石油化学工業が開始されたが，その伸長は著しく，現在その生産額はアメリカに次ぎ世界第2位である。1968年におけるわが国の石油消費量は約1億4,000万kl で，このうち約12％が石油化学原料として消費されたが，この量は逐年飛躍的に増大しつつある。

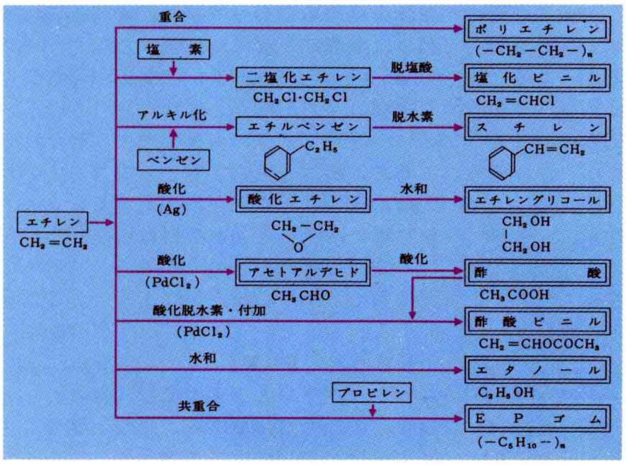


図-1　エチレン系化学製品

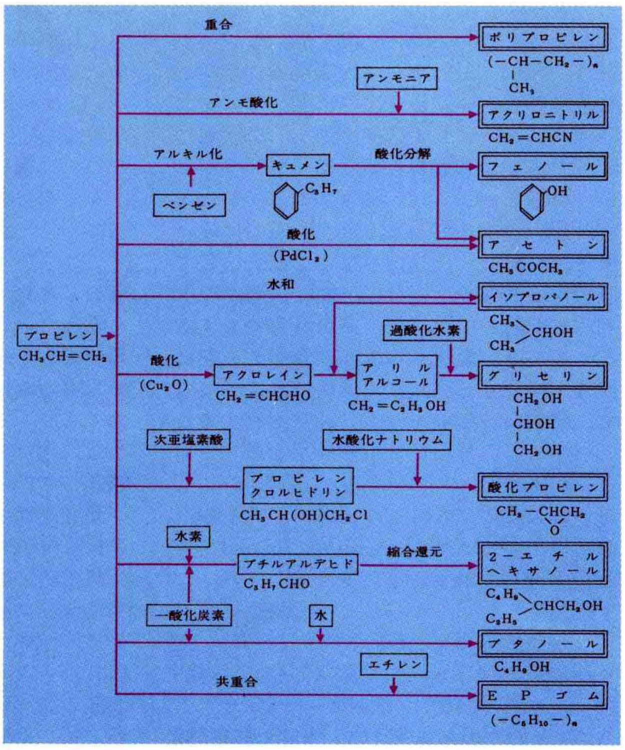


図-2　プロピレン系化学製品

〔石油化学工業原料〕石油化学工業の主要な基礎原料としては，エチレン・プロピレン・ブチレン・ブタジエン・BTX・メタン(天然ガス)などがある。これらのオレフィン類・BTXなどの基礎原料の製造法は，各国の石油事情により異なるが，わが国では原油からのナフサ*得率(中東原油で平均23～24％)に比べ，ガソリン消費量が少ない(1968年で石油製品中の約12％)ため，この余剰ナフサの熱分解によるものが主体である。特に重質ナフサはほとんど改質ガソリン*原料となるため，石油化学原料の製造にはおもに軽質ナフサが用いられている。

ナフサ熱分解法にも各種の方式があるが，わが国ではほとんど管式加熱炉による分解法が採用されている。この方式では加熱炉中のコイル状加熱管に予熱気化したナフサを水蒸気と混合して通し，約750～820℃で熱分解する。この方式をコイルクラッキングあるいは広義にスチームクラッキングとよぶ。熱分解生成物から液状物を分け，分解ガス中の硫化水素・二酸化炭素・アセチレン類・水分などの不純物を精製して除き，精製分解ガスを冷却圧縮して水素・メタン以外の成分を液化させる。液化したC_2～C_4留分は低温で精留して各成分に分離し，メタンは再循環させて熱分解する。また液状生成物中のガソリン留分は，水素化精製*したのち，ジエチレングリコールまたはスルホランを溶剤としてBTXを抽出分離し，蒸留してベンゼン・トルエン・キシレンを分ける。

通常ナフサに対する各成分の収率(重量百分率)は，エチレン25～35％，プロピレン12～18％，ブチレン4～8％，ブタジエン3～5％，BTX15～20％程度である。このナフサ分解装置のエチレン製造能力は，初期では1基年産20,000 t程度であったが，コスト低下のためしだいに大形化し，現在で

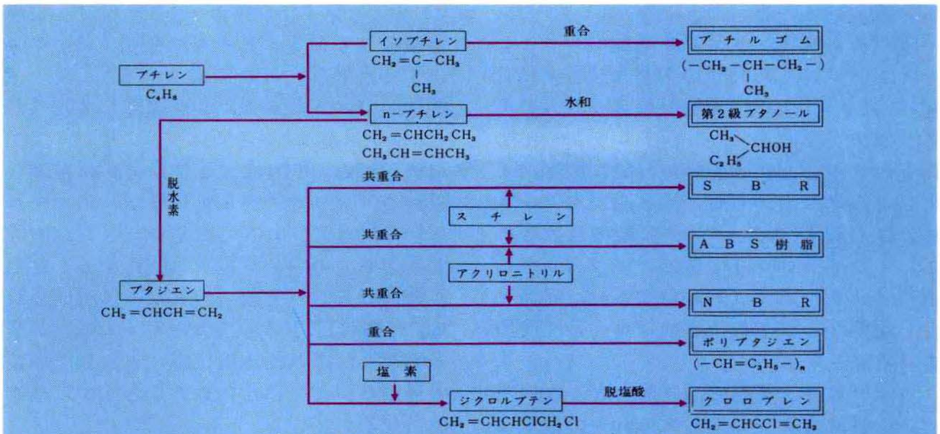
は20～30万tの能力が標準となり，将来さらに大形化する傾向にある。なお，重質ナフサのリフォーミング*は，改質ガソリン*の製造と同時に，石油化学原料としてのBTXの製造にも応用され，接触分解ガソリン*の製造時に副生する分解ガスもプロピレン・ブチレン源として利用される。

このほか，メタンを主成分とする天然ガス・ナフサ・重油などの水蒸気変成または部分酸化により，水素・一酸化炭素が製造され，メタノールやアンモニア原料に用いられる。また，天然ガス・LPG・ナフサなどを1,000℃以上の高温で熱分解するとアセチレンが得られ，これは従来のカーバイドアセチレンに対して石油アセチレンとよばれ，大量生産によりカーバイド法よりも安価なアセチレン製造法として発展してきた。しかし，一方ではアセチレンよりもエチレン・プロピレンなどのオレフィン系原料の生産コストは大形化によりさらに低下し，従来アセチレンを原料として生産されてきたアセトアルデヒド・アクリロニトリル・塩化ビニル・酢酸ビニル・クロロプレンなど，石油化学方式の発展によりオレフィン系原料への転換が進んでいるものが多い。

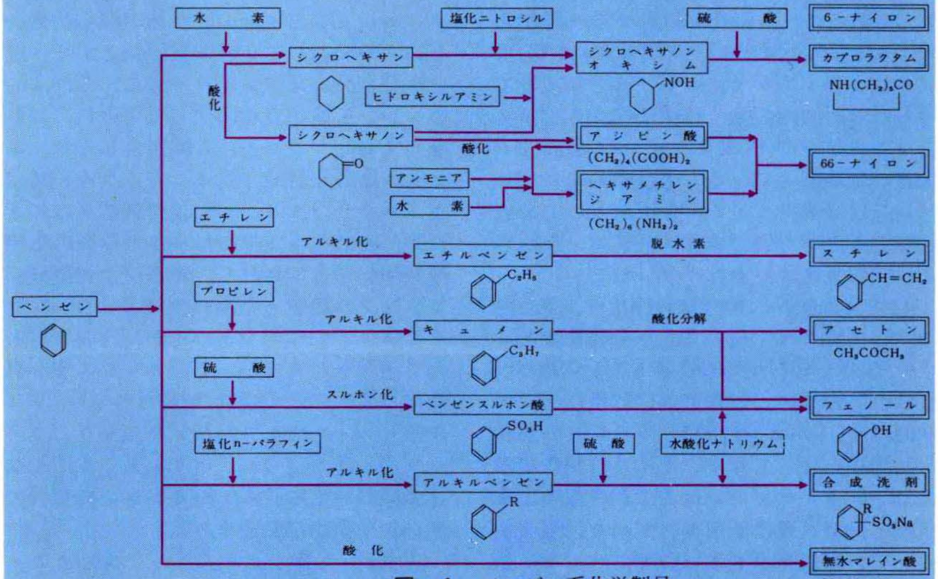
〔石油化学製品〕 石油化学製品の種類はきわめて多く，特に合成繊維*・合成樹脂*・合成ゴム*・合成紙・合成洗剤*・界面活性剤・溶剤・アンモニアなどの大部分は石油化学製品に属し，このほか有機工業薬品・染料*・化学肥料*なども石油または天然ガスを原料とするものが多い。アメリカでは化学工業全産額の約70％が石油化学製品で，特に有機化学製品の90％以上が石油・天然ガスを原料として生産され，わが国でもこのレベルに近づきつつある。以下主要な石油化学製品について，各基礎原料別に概説する。

①エチレン系製品：エチレン系製品のうち主要なものとしては，ポリエチレン*・塩化ビニル・スチレン・酸化エチレン・アセトアルデヒド・エタノール・EPゴム(EPR)などがある。これらの誘導系統を図示すると図-1のとおりである。

ポリエチレンには，微量の酸素または過酸化物を触媒としてエチレンを1,000～2,500気圧の高圧で重合する高圧法，酸化モリブデンまたは酸化クロムを触媒に用い，数十気圧の加圧下で重合する中圧法，いわゆるチーグラー触媒を用い，常圧で重合する低圧法の3種がある。ポリ塩化ビニルはポリエチレンに次いで生産量の多いプラスチックスで，その原料の塩化ビニルは従来主としてアセチレンを原料として製造されてきたが，しだいにエチレンを原料として二塩化エチレンを経由する合成法，特にオキシ塩素化法による石油化学方式が主体となりつつある。スチレンはエチレンとベンゼンからエチルベンゼンを中間体として合成される。



図－3　ブチレン・ブタジエン系化学製品



図－4　ベンゼン系化学製品

れる。

酸化エチレンはエチレンを銀触媒により空気酸化して得られ，これを水和するとエチレングリコールとなる。アセトアルデヒドは従来アセチレンの水和によって合成されてきたが，現在では完全に石油化学方式の塩化パラジウム触媒による部分酸化法(ヘキスト-ワッカー法)に転換し，きわめて安価に生産されるようになった。EPゴムは最近発展した合成ゴムの一つで，エチレン・プロピレンを主原料として両者を共重合して製造される。

②プロピレン系製品：プロピレン系製品として主要なものには，ポリプロピレン・アクリロニトリル・イソプロパノール・アセトン・キュメン法フェノール・酸化プロピレン・グリセリン・オクタノール・ブタノールなどがある。これらの誘導系統を図示すると図-2のとおりである。

ポリプロピレンは，チーグラー-ナッタ触媒によるプロピレンの重合で合成され，成形材料・合成繊維などに用いられる。アクリル系合成繊維の原料アクリロニトリルは，従来アセチレンと青酸から合成されたが，現在はプロピレンのアンモニア酸化(ソハイオ法)で経済的に生産されるようになった。溶剤のイソプロパノールはプロピレンの水和で合成され，これを脱水素するとアセトンが得られるが，アセトンは現在では前記のヘキスト-ワッカー法によりプロピレンを部分酸化し，一段階で経済的に合成されるようになった。また，プロピレンとベンゼンからキュメンを合成し，これを酸化分解するとアセトンとフェノールが同時に製造され，この方法をキュメン法とよぶ。

酸化プロピレンは前記の酸化エチレンと異なり，直接酸化法では得られず，プロピレンからプロピレンクロルヒドリンを経て合成され，これを水和すると，ポリエステル*樹脂原料のプロピレングリコールが製造される。グリセリンは油脂工業で生産されているが，石油化学工業でもプロピレンか

ら合成されている。

③ブチレン・ブタジエン系製品：ブチレン・ブタジエン系製品の主要な誘導系統は図-3に示すとおり，大部分が合成ゴムである。ブチレンのうち，*n*-ブチレンから直接得られる主要な化学製品は，塗料溶剤などとして多量に用いられる第2級ブタノールで，これは*n*-ブチレンの水和で合成される。イソブチレンは少量のイソプレンと共重合*させてブチルゴムが製造され，耐透気性・耐熱性のすぐれた合成ゴムとして使用される。

合成ゴム中生産量の最も多いものはSBRで，これはブタジエン・スチレンの共重合で得られる。また，ブタジエンをチーグラー-ナッタ触媒で重合するとポリブタジエンが得られ，これはSBRに匹敵する一般用合成ゴムとして近年著しく発展した。NBR*はブタジエン・アクリロニトリルの共重合で得られる耐油性の強い特殊合成ゴムである。クロロプレンゴム(ネオプレン)も耐油性の大きい合成ゴムで，この重合原料のクロロプレンは従来アセチレンを原料として合成されてきたが，最近ではブタジエンを原料として合成されるようになった。

④BTX系製品：BTXは石油化学工業が発達するまですべて石炭タール系製品であったが，現在では石油系の占める割合のほうがはるかに大きい。日本では1967年にベンゼンの57%，トルエンの82%，キシレンの94%が石油系となっており，年々この割合が増大している。ベンゼンは古くから化学工業原料として大量に使用されており，石炭系ベンゼンの生産量も多いので，ベンゼン系製品は必ずしも石油化学製品とはかぎらない。しかし，前述のスチレン・キュメン法フェノールのように石油系副原料を必要とする完全な石油化学製品のほか，いわゆる石油化学方式により，ベンゼンから誘導される化学製品が多い。これらのうち，主要な製品の誘導系統を示すと図-4のとおりである。

フェノールは本来ベンゼン系製品であり，既述のキュメン法のほか，ベンゼンのスルホン化・アルカリ融解による古典的な合成法もまだ経済的に実施されている。フェノールは各種フェノール樹脂をはじめ，ポリカーボネート・エポキシ樹脂*などの原料として重要である。ナイロンには各種の種類があるが，わが国では主として6-ナイロンが生産されており，これはベンゼンからシクロヘキサン・シクロヘキサノンオキシムを経てカプロラクタムを合成し，これを重合して製造される。66-ナイロンはアジピン酸とヘキサメチレンジアミンを縮重合*して生産され，この両原料ともシクロヘキサンから誘導される。

トルエン系製品として主要なものは，TDI(トリレンジイソシアナート)・TNT・安息香酸などである。トルエンを完全にニトロ化すると爆薬TNTが製造されるが，その中間体のジニトロトルエンを還元して得られるジアミノトルエンとホスゲンの反応でTDIが得られる。TDIはポリウレタン*の重要な原料で，ポリエーテルまたはポリエステル*とTDIを縮重合するとポリウレタンが生成する。トルエンを液相空気酸化すると安息香酸が得られ，各種の合成原料に用いられる。一般にBTXの中でトルエンの用途が最も少なく，これを水素化脱メチルして需要の多いベンゼンに転化させる方法が工業的に行なわれている。

キシレンは工業的に混合キシレンとして得られ，これは*o*-・*p*-・*m*-の各キシレンとエチルベンゼンの4種の異性体の混合物で，これらを分離して化学工業原料とする。最も重要な製品はテレフタル酸で，これは*p*-キシレンを液相空気酸化して得られ，これをエチレングリコールと縮重合してポリエステル繊維が合成される。無水フタル酸は古くからナフタリンの酸化で製造されてきたが，石油化学工業では*o*-キシレンの気相空気酸化で合成される。無水フタル酸はポリエステル樹脂・各種有機薬品・DOP(フタル酸ジオクチル)などの可塑剤合成原料として使用されるほか，このカリウム塩を異性化してテレフタル酸が製造される(ヘンケル法)。*m*-キシレンは液相空気酸化してイソフタル酸が得られ，ポリエステル樹脂などの原料となる。また*m*-キシレンの重合でキシレン樹脂が製造される。

⑤水素・一酸化炭素系製品：天然ガス・LPG・ナフサ・重油などの炭化水素原料を高温で水蒸気変成または部分酸化すると，水素・一酸化炭素の混合ガスを生成する。メタンを主成分とする天然ガスでは次式の反応式で示され，他の原料についても原理的に同一である。

$$CH_4 + H_2O \longrightarrow 3\,H_2 + CO$$

$$CH_4 + \frac{1}{2}O_2 \longrightarrow 2\,H_2 + CO$$

さらにこのガスを酸化鉄-酸化クロム触媒上で水蒸気と反応させると，いわゆる一酸化炭素転化反応により，水素と二酸化炭素が生成する。

$$CO + H_2O \longrightarrow H_2 + CO_2$$

これが現在最もコストの低い水素の工業的製法で，古くから行なわれた水の電解法や水性ガス法は，すでに経済的に成立しなくなった。

水素と一酸化炭素の2：1の混合ガスは単に合成ガスともよばれ，これからメタノールが合成される。さらにメタノールを酸化するとホルムアルデヒドが生成され，この水溶液がホルマリンである。いずれも多くの有機化学製品の原料として用いられ，特にホルマリンは各種合成樹脂の原料として重要である。

水素は多くの化学製品の製造に使用されるが，最も重要なものとしてアンモニアがある。アンモニアは水素と窒素の3：1の原料ガスから高温高圧下に合成され，現在ではほとんど石油系原料による水素が使用されている。特に最近の大形アンモニア製造装置では，前記3反応を組み合わせ，ナフサの水蒸気変成，空気による部分酸化，一酸化炭素の転化を併用し，送入空気中の窒素の3倍量に相当する水素を生成させ，副生する二酸化炭素を吸収分離して，直接

石油化学センター　(1971年1月現在)

資本系	ナフサセンター	発足年月	現在地	現有能力 (1,000t/年)
旧財閥系	三井石油化学	1958. 2	岩国・大竹	180
	〃	1967. 3	千葉・市原	120
	三菱油化	1959. 3	四日市	382
	〃	1971. 1	鹿島	300
	住友化学	1958. 3	新居浜	111.5
	住友千葉化学	1967. 7	千葉・市原	420
	化成水島	1964. 8	水島	160
石油資本系	日本石油化学	1959. 5	川崎	200
	東燃石油化学	1962. 3	川崎	205
	丸善石油化学	1964. 3	千葉・市原	400
	出光石油化学	1964. 10	徳山	300
	大協和石油化学	1963. 6	四日市	41.3
石油化学資本系	鶴崎油化	1969. 4	大分・鶴崎	150
	大阪石油化学	1970. 4	堺	300
	浮島石油化学	1970. 4	川崎	300
	水島エチレン	1970. 7	水島	300
計				3 869.8

注）現有能力はエチレン製造能力をさす　　通商産業省化学工業局調べ

アンモニア合成原料ガスを製造する方式が主体となっている。この方法はきわめて経済的・能率的であり，生産費が著しく低下している。アンモニアの合成で副生する二酸化炭素をアンモニアと反応させると尿素が合成される。近年窒素化学肥料として硫安よりも尿素が主体となったのは，単に尿素が窒素肥料としてすぐれているばかりでなく，これらの石油化学方式の発達によっている。

〔原　伸宜〕

【石油化学工業】石油化学工業は，1920年代にアメリカで誕生した新興産業だが，近年の石炭から石油へのエネルギー革命，モータリゼーションの進展に伴う石油精製業(→石油産業)の規模拡大によって，わが国においても飛躍的な発展を遂げつつある。わが国の石油化学工業は，1958年(昭和33)，三井石油化学(岩国)と住友化学(新居浜(にいはま))がほぼ同時にエチレン生産を開始して以来，主としてアメリカからの技術導入や合弁企業の形式によって続々と新企業が設立され，さらに企業集団によるコンビナートが各地に成立するに至り，典型的な装置産業として急速な発展を遂げていった。石油化学工業の展開に際して主導権を握ったのは，三井石油化学・三菱(みつびし)油化・住友化学の旧財閥系3社に，日本石油化学(外資系)を加えた4社であり，それぞれ先発ナフサセンターとなったが，やがて東燃石油化学・大協和石油化学・丸善石油化学・出光(いでみつ)石油化学・化成水島・昭和電工・大阪石油化学などの非財閥系後発企業がナフサセンターを構成し，さらに旧化学企業の石油化学進出が行なわれた結果，わが国のエチレン生産は1966年には100万tの大台を越え，1969年には325万tに達し，アメリカに次いで世界第2位の規模に達した。石油化学製品生産の中で首位を占めるのはポリエチレンで全体の約20%，以下ポリスチレン・合成ゴム・ポリプロピレンの順となっている。➔コンビナート(図)

〔原　豊〕

もち，はでな鳥ではない。タヒバリ類は雌雄同色で，下面か上面に濃色の縦斑(じゅうはん)がある。セキレイ類は一般に雌雄2型で，縦斑はない。いずれも脚と指が長く，くちばしも細く長めで，中形ないし小形の全長13～22cmの鳥である。わが国には12種が分布する。ハクセキレイ・セグロセキレイ・キセキレイなどのセキレイ類は長めの尾をよく上下に振る習性があり，〈石たたき〉と俗称される。イワミセキレイはこの科で唯一の森林性種で，尾は左右に振る習性があり，〈横振りセキレイ〉と俗称される。

せきろく　【石勒】(274～333)　中国，五胡(ごこ)十六国，後趙(こうちょう)の創建者。匈奴(きょうど)の一種族である羯(けつ)の出身。八王の乱のとき劉淵(りゅうえん)の勢力下にはいり，その子劉聡(りゅうそう)の死後，前趙を建てた劉曜に対抗して，319年に自立して趙王と称し，河北省の襄(じょう)国に根拠を定めた。328年，洛陽(らくよう)を攻めて劉曜を破り，ほぼ華北を統一した(在位319～333年)。中国文化を重んじて蕃漢(ばんかん)融合策をとったこと，クチャ僧の仏図澄を尊崇したことは有名。

〔勝村哲也〕

セクエンツィア　[sequentia]　グレゴリオ聖歌の一形式で続誦(ぞくしょう)ともいう。9世紀半ばのものが現在残されている最古のセクエンツィアであるが，ここでは，アレルヤのあとにつけられる長いメリスマのことを意味している。しかしまもなく散文体の歌詞をもつものが現われ，9世紀末ごろには，1音に対して1音節を当てるという作詞法が完成，さらに時代が下がると，詞の韻律と旋律とが相互に緊密なかかわりをもつようになる。

〔吉田泰輔〕

セクション　[section]　アメリカ合衆国の気候・地勢・人種・天然資源などの諸要因によって形成される政治的・経済的・社会的に同質の地方をいう。政治的には東部・南部・西部に分割され，植民地時代から建国初期にも商業的北部と，農業的南部の政治的対立がみられたが，セクション間の対立(セクショナリズム)が強くなったの



キセキレイ



ハクセキレイ



セグロセキレイ

セ キ レ イ

は1812年戦争以降であった。東部は保護関税，国立銀行，政府による国内交通網整備を支持したが，領土拡大と農民への無償土地供与には反対する。南部は州権論に立ち，国内問題では連邦政府に反対し，奴隷制拡大のためには膨張主義的政策を支持する。西部は南部と同調したが，関税には反対せず，東部と協調した。19世紀前半には南部・西部連合が東部を倒したが，奴隷制が争点となるにしたがい，南部・西部連合は崩壊し，東部と西部の連合が成立した。利害の不一致から南部は連邦を脱退して南北戦争の勃発(ぼっぱつ)をみた。

〔折井一彦〕

ゼークト　[Hans von Seeckt]　(1866～1936)　ドイツの将軍。第1次世界大戦に参謀長として活躍，戦後は国防軍の育成に努め，またベルサイユ体制下のドイツの困難を対ソ外交の調整によって打開しようとし，ソ連軍部との接近を図った。退役後，ドイツ人民党の国会議員となり，また蔣介石(しょうかいせき)の軍事顧問(1934～1935)として中国に招かれた。

セクレチン　[secretin]　胃腸ホルモンの一つで，十二指腸粘膜から分泌される。1902年にスターリングらによって発見された。分泌されるときはプロセクレチンの状態で，胃の内容物が十二指腸にはいると，胃液の酸によって活性化されてセクレチンとなり，これが血液にはいって膵臓(すいぞう)に作用し，膵液の分泌を促す。

せぐろうみへび　【背黒海蛇】　爬虫(はちゅう)類・ウミヘビ科。体長85cmほど，体の背面は黒色，腹面は黄白色。遊泳力が強く，太平洋・南シナ海・インド洋からアフリカ沿岸・メキシコ湾まで広範囲に分布し，日本沿岸の各地にも産する。卵胎性。

せぐろかもめ　【背黒鷗】　鳥類・カモメ科。翼開長1.5m前後の大形カモメの一種。背面は黒くなく灰色。翼上面は先端に白斑(はくはん)のある黒色部があるが，他の部分は灰色，下面は白色。オホーツク海・ベーリング海沿岸をはじめ，主として周極地帯に繁殖し，日本では冬季に本州以南の海岸・港などに普通にみられる。オオセグロカモメはほぼ同大で，背と翼上面は灰黒色。北海道にも少数が繁殖する。特に成鳥はセグロカモメより北に寄って越冬し，おもに北海道から中部地方以北に見られる。いずれの種も幼鳥および若鳥はかっ色羽が多く，満4年めの繁殖期に，はじめて成鳥夏羽になる。➔カモメ

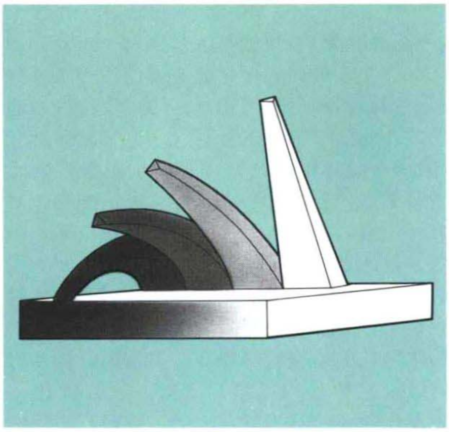
〔安部直哉〕

セゲド ［Szeged］ ハンガリー南部，ユーゴスラビアとの国境近くのチサ川流域に位置する都市。人口16万6,000(1974)。重要な河港で周辺は穀物とトウガラシの産地で，農産加工業が盛ん。また，港からトウモロコシ・ぶどう酒・羊毛を積み出す。1879年チサ川の洪水(こうずい)で被災してから近代都市として再建した。民俗学関係の収集で知られる図書館や大学がある。

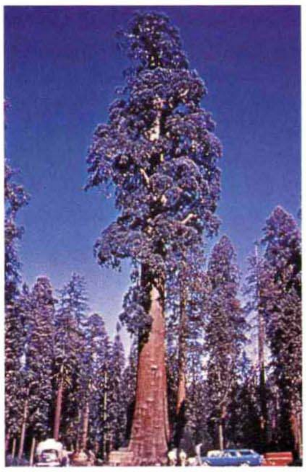
ゼーゲルすい 【ゼーゲル錐】 耐火材料の高温における耐火度を測定するのに用いる，軟化点既知の鉱物質でつくられた三角錐(さんかくすい)。ゼーゲルコーンともいう。ドイツのゼーゲルの発明によるもので，二酸化ケイ素・三酸化ホウ素・酸化アルミニウム・酸化マグネシウム・酸化カルシウム・酸化ナトリウムおよび酸化カリウムなどを適当に配合して軟化点の異なる錐を作製し，標準の耐火温度を定める。これを被検物とともに昇熱して，おのおのの錐の曲がり程度を比較し耐火度を判定する。正確な温度はわからないが，被検物の有効温度を知るのに便利である。標準耐火度は番号で表わし，ゼーゲル錐何番とよぶ。たとえば，SK 022番は600℃，SK 1番は1,000℃，SK 42番は2,000℃を表わす。 〔草川隆次〕

せけんむすこかたぎ 【世間子息気質】 江島其磧*(きせき)作の浮世草子*。1715年(正徳5)刊。町人のむすこをいくつかの類型(武道好み・医者好み・遊女好み・力自慢・芸能好みなど)に分けて描いたもの。写実的な描写に誇張した表現を加えてこっけい味を出し，平易な教訓を付加している。この趣向が好評を博し，以後多くの気質(かたぎ)物*が生まれた。

せけんむねさんよう 【世間胸算用】 江戸前期の浮世草子*。井原西鶴*(さいかく)の作で，5巻に20の短編を収める。1692年(元禄5)刊。各編は，大みそかにおける中下層の町人の貧苦に迫られた経済生活を描く。《日本永代蔵*》とは対照的に，登場人物のすべては無名で，身分・性別をしるすのみで，貧困の底にうごめく町人の姿がきわめて写実的に，一種のユーモアを交えつつ鮮明に造形されている。西鶴作品中の傑作の一。



ゼーゲル錐



セコイア
アメリカ合衆国カリフォルニア州セコイア国立公園のダイセコイア



セザール 《鳥》 1956 ニューヨーク近代美術館蔵

セコイア ［*Sequoia*］ 裸子植物・スギ科・セコイア属。北アメリカの太平洋岸に分布する常緑高木。現生種としてはダイセコイア(ギガントセコイア)・トキワセコイア(センペルセコイア)の2種だけであるが，化石種は80種以上知られ，中世代ジュラ紀に全盛であったと考えられる。カリフォルニア州のヨセミテ国立公園にあるダイセコイアは，高さ130m，直径7m。ダイセコイアの樹皮はスギに似るが，葉はイチイに似る。心材が赤色であるためレッド-ウッドとよばれ，虫害が少なく耐久性が大きいため建材として用いられる。トキワセコイアはスギに似た葉をもっており，樹齢2,000～3,000年に達するものもある。〔加藤僖重〕

セゴビア ［Andrés Segovia］ (1893～) スペインのギター奏者。グラナダ音楽院に学んだが，タレガ*の楽譜を集めていたアマチュアのギター奏者トマスの影響を強く受けたという。すでに10代で演奏活動を始めたが，1916年にカザルスの勧めでパリ音楽院で演奏している。以後，徐々に名声を高め，特にバッハをはじめとする古典音楽の編曲と独奏で注目を集め，ギター音楽の地位を飛躍的に高めた。1929年と1959年に来日し，日本にも多くのファンをもっている。

セザール ［Baldaccini César］ (1921～) フランスの彫刻家。動物・虫などのブロンズ彫刻から，金属などのスクラップを利用したユニークな作品に移行し，現代彫刻界を代表する作家のひとりとなった。1960年に，戦後美術の第2世代ともいうべきクライン*・ティンゲリー*らの〈ヌーボー-レアリスム〉に参加。最近は巨大な指を模した作品や樹脂状の物質が展示場いっぱいに流出する作品で注目された。

セザンヌ ［Paul Cézanne］ (1839～1906) フランスの画家。南フランスのエクスで法科大学に学んだが，絵画への関心がより強くなり，アカデミー-ド-デッサンに通う。中学時代からの友人ゾラ*の影響もあって，1861年にパリにおもむき，アカデミー-スイスに通ううち，ピサロらと知り合い，印象派*の仲間との近づきが生まれた。1866年ごろまでの作風には，クールベやマネの影響がみられるが，色調の暗さ，大まかな筆致に独自のものがみられる。しかし，この間は，とりわけ注目されることもなかった。1872～1874年ごろになると，印象派の画家たち，わけてもピサロの影響を強く受けるようになり，1874年の〈無名芸術家協会展〉に《首吊(つ)りの家》を出品した。作風も従来のスタイルから明度と彩度の高い色彩へと変化し，風景画を多く描くようになった。しかし，セザンヌは他の印象派の画家たちと異なり，瞬間の光や変化する形体を視覚的・感覚的にとらえようとするだけではなく，あくまでもそれらを物体として画



セザンヌ
《カルタ遊び》 1885～1890
ルーブル美術館蔵

面に構築していくことを試みた。1881年以降はパリからも離れ，〈サン-ビクトワール山〉の連作などを通じて独自の道を追究し，やがてキュービスムをはじめとする近代絵画に大きな影響を与える存在となった。〔吉田玲子〕

セージ [sage] シソ科・サルビア属の草本。有史以来の最古の歴史をもつ栽培植物で，地中海の北岸から始まって広く普及した。葉も茎も花も芳香を有し，観賞用とするものも多い。生葉またはその乾燥品を香辛料とし，ソース・カレーなどに用いる。➔サルビア

セジウィック [Adam Sedgwick] (1785～1873) イギリスの地質学者。ヨークシャーの牧師の家に生まれ，ケンブリッジで神学と数学を学んだ。1818年にケンブリッジの地質学教授をつとめるかたわら，イギリス各地の地質を調査し，1836年にカンブリア紀，さらに1839年にはマーチソンとともにデボン紀という地質年代の画定を提唱した。

セシウム [cesium] 周期律表第I族に属する金属元素。原子番号55，記号Cs，原子量132.905。1860年にブンゼンおよびキルヒホフによってドイツのドゥルクハイムの鉱泉の残渣(ざんさ)から，発光スペクトルにより発見された。金属はヘッターベルクが1881年にシアン化合物の溶融電解によって単離に成功。自然界には他のアルカリ金属と共存して広く分布しているが，その量は非常に少ない。クラーク数7×10^{-4}(第42位)。銀白色の柔らかい金属で，融点28.5℃，沸点670℃，比重(20℃)1.90。空気中で直ちに酸化される。ハロゲン・水素と直接反応し，また，水と激しく反応して水酸化物となり，水素を放出する。光電管の受光部に使用され，またセシウムアーク燈として近赤外領域の光源に用いられる。〔古屋 弘〕

せしゅう 【世襲】 政治的・社会的地位や職務を血縁によって代々継ぐこと。世襲の源流をきわめることはむずかしいが，原始社会において呪力(じゅりょく)をつかさどる血筋が神聖視されて，その業(わざ)を継いだのを世襲の原初とする見方がある。わが国では4～5世紀ころ大和(やまと)朝廷*の世襲王権が興り，天皇家を中心とする政治統合体の中で，貴族・武士の政治的地位や土地権益が家父長権の相続によって世襲されたのをみることができる。明治維新後，政治的世襲制は廃された。1884年(明治17)には華族令が制定されて華族の爵位*が世襲されるようになったが，第2次世界大戦後廃止された。一般には中世のころから技芸の家柄がその家職を世襲する風があり，家元*制度として現代も茶道・華道・能楽界などに世襲制を残している。〔高崎徳次〕



セセリチョウ ①アオバセセリ ②キマダラセセリ ③オオチャバネセセリ ④イチモンジセセリ

せじろうんか 【背白浮塵子】 こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・ウンカ科。翅端までの体長4mmほどであるが，ときに主として雌に生じる短翅型では2.5mm内外。体は小形のセミのような形で，色彩は個体によってかなり変化するが，淡黄色で黒色の斑紋(はんもん)のあるものが多い。雌では全体がほとんど黄白色のものが少なくない。俗に夏ウンカとよばれ，秋ウンカとよばれるトビイロウンカとともにイネの害虫。卵はバナナ状で長さ1mm内外，イネの葉鞘(ようしょう)や中脈などの組織中に数粒ずつ列状に産みつけられる。約4～5日で孵化(ふか)し，約2週間で成虫となる。不完全変態。幼虫・成虫ともにイネの茎や葉から吸汁(きゅうじゅう)して被害を及ぼす。また，傷口にすす病*が発生することもある。1年に約5回の発生をくり返し，ときに大発生して大害を与える。成虫は燈火によく飛来する。日本全土のほか，ほとんど全世界の温帯ないし熱帯に広く分布し，イネのほか多くの主としてイネ科植物を加害する。➔ウンカ〔鈴木邦雄〕

せしん 【世親】 ⇨バスバンドゥ

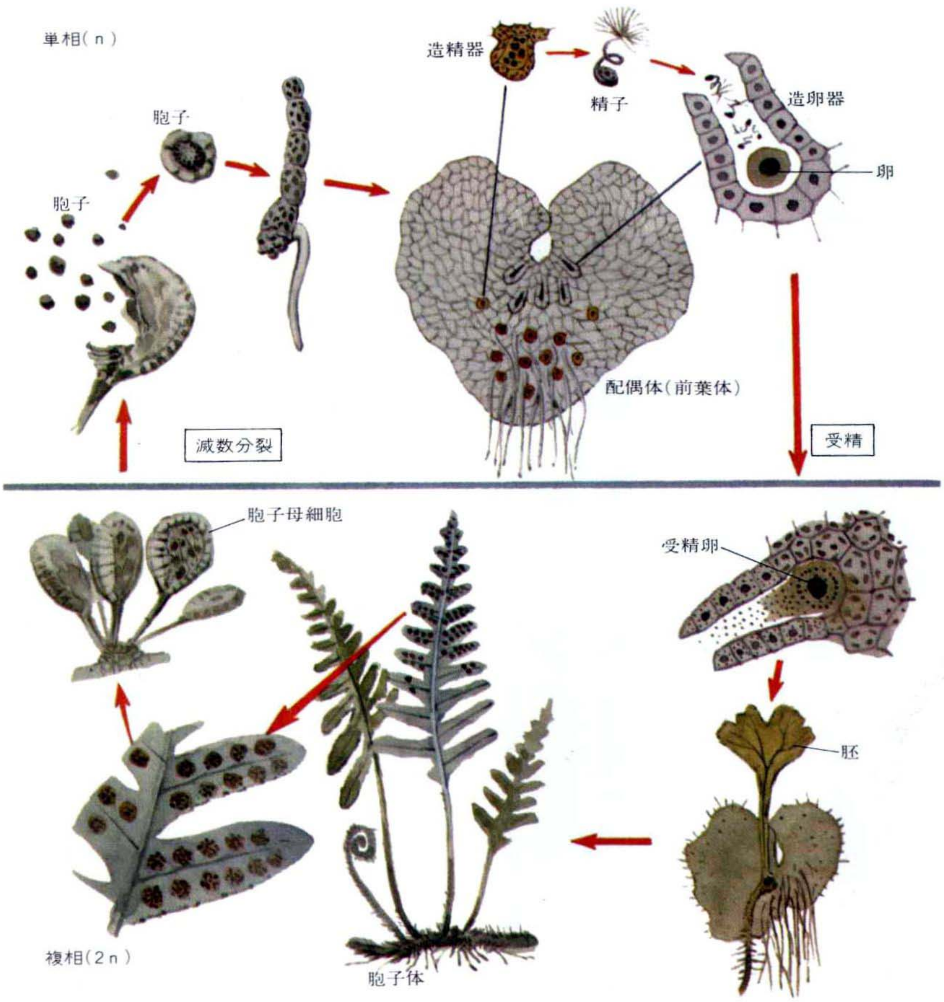
セス [SES] 一般名は2，4-DS剤といい，1949年アメリカで発見されたホルモン型の除草剤。わが国には1954年(昭和29)ころ導入され，畑作除草剤として用いられている。本剤は作物体に直接触れても薬害を出さず，土壌(どじょう)中で活性化されてはじめて効力を発揮するという特徴がある。

せすじすずめ 【背条天蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・スズメガ科。体長32～38mm，翅(はね)を広げた長さ55～75mm。体は緑色をおびたかっ色で，腹部の背面に銀白色の線を2本もつ。前翅は先端より基部に向かって斜めに黒色と灰黄色の太い帯が走る。成虫は6～10月に2回発生し，燈火に飛来する。幼虫はヤブガラシ・ノブドウ・ホウセンカ・サトイモなどの葉を食べる。日本全土・台湾・朝鮮・中国・フィリピン・インド・オーストラリアなどに分布する。近縁種にコスズメ・イッポンセスジスズメなどがある。➔スズメガ〔多々内修〕

セセッション [secession] 分離派ともいい，過去の芸術のアカデミックなスタイルからの分離と独立を志す芸術運動の総称。ワーグナー*の建築理論とその実践に導かれ，19世紀末にドイツとオーストリアを中心に興った。建築のオルブリヒ*・ホフマン*，画家のルドルフ-フォン-アルト・クリムトらが指導者であった。19世紀末のいくつかの芸術運動，イギリスのアーツ-アンド-クラフト，アール-ヌーボー*，ドイツのユーゲント-シュティールなどが包摂される。〔吉田玲子〕

せせつしんご 【世説新語】 中国，六朝(りくちょう)時代の説話集。宋(そう)の劉義慶(りゅうぎけい)(403～444)の編。現存本は3巻。書名は《世説》《世説新書》ともいった。梁(りょう)の劉孝標(462～521)の注がある。〈徳行〉から〈仇隙(きゅうげき)〉に至るまで，内容別に36門に分けてまとめてある。後漢から東晋(とうしん)に至る間の，貴族・学者・文人・武人・僧侶(そうりょ)らの言行に関する逸話で，中でも竹林の七賢の話が有名。それまでに出ていた同種の書物から選録したものらしいが，文章がすぐれていて，古来広く愛読された。劉孝標の注も，よいできばえで，本文に光彩を添えている。また，400種余りの書物からの引用があるが，それらは現在はたいてい残っていないため考証学上も珍重されている。日本では，明(みん)代に増補された《世説新語補》が江戸時代に愛読された。〔今村与志雄〕

せせりちょう 【挵蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・セセリチョウ科の総称。世界に約3,000種を数えるが大部分は熱帯産で，南北アメリカでは1,900種を越える。ニュージーランドには分布していない。他のチョウと



世代交代 配偶体の有性世代と造胞体の無性世代がくり返され，それに伴って単相世代と複相世代の交代(核相交代)が起こる

はいろいろな相違点がみられ，独立した上科をつくっている。体は比較的太く，翅(はね)の面積が狭いのでガのような感じを受ける。触角は紡錘状に太くなり，途中から後方へ曲がって先端は鋭くとがっている。このような形はスズメガ類にみられる。翅の脈はすべて根もとから独立して出ており，他のチョウのように脈が融合することはない。左右の複眼が広く離れていることもこの科の特徴である。はなやかな色彩をもつものは少なく，多くは黒かっ色か黒色の地に白色または黄色の斑紋(はんもん)がある。雄には翅に発香鱗(はっこうりん)(放香を発する鱗粉)をもつものが多い。飛翔(ひしょう)力が強く各種の花を訪れ，ときには葉上に落ちている鳥糞(ちょうふん)をなめる。幼虫は頭部がやや大きく，体は細長い円筒形で頭部と胸部の境はくびれているものが多く，体表には突起や長毛をもたない。食草の葉を巻いたりつづったりして巣をつくってその中に隠れ，摂食の際は巣から頭を出して葉を食べる。大部分が幼虫で越冬する。さなぎの中にはイチモンジセセリのように発音するものも知られる。この科は6亜科に分割され，日本では3亜科が知られ，代表種には，ミヤマセセリ・ダイミョウセセリ・アオバセセリ・キマダラセセリ・イチモンジセセリ・チャバネセセリなどがある。〔多々内修〕

せそんじりゅう 【世尊寺流】 藤原行成*を始祖とする書道の流派。1529年(享禄2)，第17代行季(ゆきすえ)が没するまで続いた。行成は妻の父源保光(やすみつ)の家を伝領し，のちこれを寺として世尊寺といったので，行成の子孫を世尊寺家といい，その書風を世尊寺流という。

セーター [sweater] 男女の別なく着用する編物の上着の総称。形態的にプルオーバー*型(かぶって着るもの)とカーディガン*型(前中心が左右に分かれるもの)の二つに大別され，わが国では一般に前者をさすが，正しくは後者も含む。本来はスポーツウェアであったが，保温性にすぐれ，伸縮自在で着やすく，かつ機能的な点が好まれ，防寒用の日常着に取り入れられるようになった。

せだいこうたい 【世代交代】 世代交番ともいう。ある生物の生活史の中で，有性生殖をする世代と無性生殖をする世代が，規則正しく交互にくり返されていく現象。シダ・コケ・クラゲなど，植物界・動物界の多くのものにみられる。有性世代と無性世代の個体は著しく大きさ形が異なることがある。無性世代の植物は胞子をつくって繁殖する胞子体で，有性世代の植物は配偶子をつくって受精を行なう配偶体である。シダでいえば，われわれがふつう目にする植物体は雌雄の別がなく，葉の裏に胞子ができる無性世代のもので，コケ植物ではわれわれが目にするのは有性世代のものである。胞子体は複数(2n)の染色体をもち，減数分裂して生じた配偶体は単数(n)の染色体をもつので，核中の染色体の数が複数の世代，単数の世代と交互にくり返されるため，核相の交代ともいう。ミズクラゲは，海を泳いでいるのは有性世代の個体で卵と精子を生じ，受精卵は無性世代のポリプとなり，水底に固着し無性生殖をする。〔高島文三〕

せだいこうばん 【世代交番】 ⇨世代交代

せたがや 【世田谷(区)】 東京都の南西部に位置する23特別区の一。北は杉並区，北東は渋谷区，東は目黒区，南東は大田区と接し，南は多摩川をはさんで神奈川県川崎市，西は狛江(こまえ)市と調布市，北西は三鷹(みたか)市と接する。面積は58.8km²，人口は76万2,000でともに特別区中第1位。武蔵野(むさしの)台地の一部をなす平坦(へいたん)な荏原台(えばらだい)上にあり，仙(せん)川・烏山(からすやま)川などの谷が台地を刻む。古くから武蔵と相模(さがみ)を結ぶ要地として開け，中世には吉良(きら)氏の所領となり，その菩提寺(ぼだいじ)であった豪徳寺がいまも残り，江戸時代には東海道の脇往還(わきおうかん)矢倉沢街道(大山街道)に沿って宿場町・市場町が発達し，周辺部は江戸近郊の農村地帯であった。明治中期以後は，陸軍の部隊・学校・病院などが設置され，関東大震災後は私鉄企業による住宅・学校施設の誘致が行なわれて，私鉄沿線を中心とする宅地化が進んだ。いまは区域の大半が都心へ通う通勤者の住宅地区となり，北東部の三軒茶屋・下北沢・下高井戸などに商店街が発達しているが，最近は南部の川崎市に近い二子玉川にも高島屋のショッピングセンターなどが進出して，商店街は住宅地とともに南へ発展しつつある。京王帝都電鉄京王線・同井の頭(いのかしら)線が北部を，小田急電鉄が中央部を，東京急行電鉄田園都市線が南部を走り，国電新宿・渋谷・大井町の各駅をターミナルとして都心へ通う通勤者の足となっている。もと中央部を通っていた東京急行電鉄玉川線は交通の渋滞防止のために廃止されて，渋谷〜二子玉川間に建設中の地下鉄も1976年に開通した。主要道路は，区域北端に国道20号線(甲州街道)，中央部から南部にかけて世田谷通り・玉川通り(国道246号線)・駒沢(こまざわ)通りなどがほぼ東西方向に走るほか，環状7号線・8号線がほぼ南北方向へ走ってこれらの道路と連絡す

る。環状8号線の瀬田と野毛は，それぞれ東名高速道路・第3京浜道路の起点となる。北西部には明治の文豪徳富蘆花(ろか)の旧居で都立公園の蘆花恒春園があり，南西部の砧(きぬた)付近は，西方の調布市や狛江市とともに，8世紀ごろから朝鮮からの帰化人の居住地となって，地名にそのあとをとどめている所で，新しい農耕や織物の技術が興ったことで知られる。南東部にはオリンピック東京大会の会場となった都立駒沢公園があり，付近には都立大学・駒沢大学・日本体育大学などの学校施設が多い。南東端に近い浄真寺は，九品仏(くほんぶつ)とよばれる9体の阿弥陀(あみだ)像で知られ，境内のカヤの大木は樹齢750年といわれる。年中行事としては，かつての歳の市のなごりを伝える〈ぼろ市〉(12月15～16日，1月15～16日)が世田谷1丁目の代官屋敷前通りでいまも開かれている。〔浅井得一〕

せたがわ【瀬田川】 滋賀県琵琶(びわ)湖南部から流出する川で，淀(よど)川・宇治川の上流にあたり，一般に流出口から京都府境までをいう。流出口近くにかけられた瀬田橋は壬申(じんしん)の乱・源平合戦などの戦場となった所で，また橋上から望む風光は〈瀬田の夕照〉として近江(おうみ)八景の一つとされている。なお，1905年(明治38)流出口から約4kmの地点に洗堰(あらいせき)が設けられ，琵琶湖の水位を調節し，中下流沿岸の洪水(こうずい)を防いでいる。〔長津一郎〕

セタンか【セタン価】 ジーゼル機関用燃料の発火性の良否を示す数値。ジーゼル機関では，気筒内で断熱圧縮された高熱空気中に燃料が噴射され，これが自然発火*して燃焼*するが，燃料が噴射されてから発火するまでに要する時間を発火遅れとよび，発火遅れの短い燃料を発火性がよいとする。発火性の不良なジーゼル燃料では，発火するまでに多量の燃料が気筒内に蓄積し，これが一時に燃焼を起こすため，気筒内の圧力上昇が急激すぎて，ガソリン機関のノッキングに似たジーゼルノックの現象を起こし，運転不調や機関故障の原因となる。

セタン価は，標準燃料として発火性のよいセタン(n-ヘキサデカン)を100，発火性の悪いα-メチルナフタリンを0とし，両者の混合物中のセタンの容量百分率で定める。試料ジーゼル燃料のセタン価は，CFRエンジンとよばれる規格の測定機関によって実測した発火性を，上記の混合標準燃料と比較して求められる。この発火性の良否は，ジーゼル燃料の化学構造と密接に関係しており，n-パラフィン系炭化水素が最もよく，枝分かれの多いイソパラフィン系炭化水素や芳香族炭化水素が最も悪い。また同族体では一般に分子量の小さいものほど発火性が不良である。この点ガソリンのアンチノック性とはまったく逆の傾向にある。なおα-メチルナフタリンは酸化変質しやすいため，最近ではこの代わりにセタン価15の標準燃料としてヘプタメチルノナンを用いている。船舶用などの大形低速ジーゼル機関ではセタン価約30以上の重油で十分であるが，ジーゼル自動車・ジーゼル機関車などの小形高速ジーゼル機関では，セタン価約50以上の良質の軽油が用いられる。〔原　伸宜〕

セダンのたたかい【セダンの戦い】 プロイセン-フランス戦争の勝敗を決した戦闘。1870年7月19日ナポレオン3世の宣戦布告により戦争が開始されるや，強力なプロイセン軍は直ちにフランスに侵入，連戦連勝してメッツにフランス軍を包囲した。救援におもむいたナポレオン3世はかえってセダン(北フランスの都市)で包囲され，9月1～2日の戦闘に敗れて降伏し，80,000の軍隊とともに捕虜となった。この報が伝わるとパリに政変が起こり，9月4日フランス第2帝政は崩壊して共和政の成立が宣言された。〔大野慎一郎〕

せちえ【節会】 古代以来朝廷で節日(せちにち)(季節の変わり目に行なわれる祝日)，あるいはその他もろもろの儀式のときに開かれる宴会。前者では毎年元旦に行なわれる元日節会(がんじつのせちえ)，1月16日の踏歌節会，5月5日の端午節会，新嘗(にいなめ)祭の翌日に行なわれる豊明(とよのあかり)節会などがおもなものであり，後者では大臣任命のときに行なわれる任大臣節会が特にその規模も大きく有名である。節会の当日は天皇が臨御し，儀式終了後群臣に饌(せん)，すなわちごちそうを賜うのが例であった。節日の供物が節供(せちく)であり，転じて，後世にはその日を節供といい，江戸時代からは節句の字をあてるようになった。〔黛　弘道〕

せつ【癤】 疔(ちょう)ともいう。俗に〈ねぶと〉〈かたね〉〈おでき〉ともいい，毛嚢(もうのう)(毛穴)や皮脂腺(ひしせん)に化膿(かのう)菌がはいって起こる限局性の化膿性炎症。顔面にできたものを面疔といい，他の部位にできるものより重症である。はじめ毛嚢を中心に赤味をおびた豆粒大ぐらいの丘疹(きゅうしん)ができ，触れるとかたく痛みがある。大きくなるとさわらなくても痛む。やがて中心は黄色く変色し，そこが破れて膿が出ると痛みが和らぎ，はれもひき，膿が出たあとの穴に自然に肉が上がってきて治癒(ちゆ)する。発熱や悪寒を伴ったり，リンパ管炎やリンパ腺炎，まれに敗血症*を起こすこともある。癤が次々とできて絶えることのないような状態を癤腫症(せつしゅしょう)という。治療上最もたいせつなことは安静にして刺激を加えないこと。初期のかたい時期にむりに押し出さず，膿の出るまでの間ピック膏(こう)をはり，膿が出はじめたら殺菌剤のはいった軟膏をはるとよい。ごく小さいものは殺菌剤のはいった軟膏を塗るだけでよい場合もある。発熱や疼痛(とうつう)の激しいとき，またどんどん大きくはれてくる場合は，すみやかに医師の治療を受ける必要がある。〔田嶋公子〕

せつ【節】 言語単位の一種。元来は英文法のclauseの訳語。文を構成する部分としての連文節が，それ自身の内部に，主語・述語の関係を含むとき，この連文節を〈節〉とよぶ。文のある成分が，節でできている場合，これをその成分に応じて，主語節・述語節・連体(連用)修飾節などとよぶ。これらを従属節というのに対して，対等の資格で結合して，一つの文を組み立てているものを対立節という。節を含まない文を単文*，従属節を含む文を複文*，対立節からなる文を重文*とよんで区別することがある。〔市川　孝〕

ぜつえん【舌炎】 舌の炎症をいい，種種の口腔(こうこう)疾患のときに，舌粘膜がともに侵されている状態をいう。一般に次のように分けられる。①カタル性舌炎：単純性口内炎の際にみられ，舌粘膜が赤くはれ，舌苔(ぜったい)が生じ，口腔内がきわめて臭くなる。②実質性舌炎：おもに外傷または伝染病に合併して，舌のはれが強く，言語・嚥下(えんか)不能となる。痛みが強く高熱を発する。③ひだ舌：舌の表面に多数の深いみぞがみられる先天性奇形で，炎症ではない。④黒舌：銀・水銀・抗生物質などの使用時にでき，舌乳頭が伸び，角化して，黒い毛のように見える。⑤地図状舌：自覚症状はほとんどなく，舌の表面に地図のような斑紋(はんもん)を生ずる。自然に治癒(ちゆ)する。ほかに特殊炎症として，舌梅毒・舌結核などがある。➔口内炎〔清水淑郎〕

ぜつえんたい【絶縁体】 電気，または熱を伝えにくい物体の総称。

1 電気を伝えない性質を絶縁性という。電気機械・器具などで，流れてはいけない部分に電流が流れるのを防ぐために絶縁体が用いられる。代表的な絶縁体としては，イオウ・ウンモ・エボナイト・ガラス・ゴム・樹脂類，磁器やポリエチレン・塩化ビニル・ポリスチロールなどの高分子物質などがある。これらのものの電気抵抗率*は，常温で10^{15}～10^{18}オーム・cmである。物体の中で電流を運ぶものは，主として電子*であるが，これらの絶縁体の中では電子が原子*にかたく束縛されており，動きまわることができないのである。しかし，高温度になると，熱エネルギーによって電子のいくらかは束縛をふり切って，いわゆる自由電子となり，電流を運んで動きまわるようになる。高温度で絶縁体の絶縁性が悪くなるのはこのためである。また，非常に高い電場をかけると，絶縁性が失われるが，この現象を絶縁破壊という。絶縁破壊は，高電場で加速された少数の自由電子が，高速度で絶縁体中の原子に衝突して，その原子に束縛されている電子を解放することにより，自由電子をねずみ算的にふやすことから生ずる。

2 熱の絶縁体は，温度差があっても熱の

移動が行なわれないものである。装置や容器などをおおって，熱の移動を遮断(しゃだん)し，高温または低温に保つ目的に用いられる。絶縁物は温度によって違い，冷凍などの低温用(０℃以下)には真空・空気・コルク・ガラス繊維など，湯・蒸気などの中温用(50～500℃)には，アスベスト・保温粘土など，かまや炉など高温用(500℃以上)には粘土・耐火れんがなどが用いられる。熱の絶縁体のほとんどは同時に電気の絶縁体でもある。〔中野藤生〕

ぜつえんとりょう【絶縁塗料】 電線・電気機器などの電気伝導を絶縁する必要があるところに塗布し，その電気絶縁性を保持することを目的とする塗料。これには表面塗布用と機器の絶縁層のすきまを満たす内部含浸用とに大別される。塗料は一般に黒またはあめ色透明のワニスで常温乾燥型と焼付け乾燥型とがある。塗膜形成要素にはビチューメン・セラック・油系・フェノール樹脂・エポキシ樹脂・アルキド樹脂・ケイ素樹脂・ポリアミド樹脂・フッ素樹脂・ポリウレタン樹脂などの各種合成樹脂が用いられ，その種類は非常に多い。絶縁塗料は一般塗料とは違って絶縁抵抗・絶縁耐力・内部硬化性・耐油性・耐熱性などが特に必要で，日本工業規格(JIS*)に用途区分に応じた塗料の規格が定められている。〔鈴木荘司〕

せっか【雪下】 鳥類・ヒタキ科・ウグイス亜科。全長12cm前後の小形の鳥。上面は黄かっ色に濃色のまだらがあり，下面は灰白・黄かっ色。アフリカから南アジアにかけて広く分布し，日本では本州以南の荒地・川原・高原など，いたるところの広い草原に繁殖し，普通に見られる。こん虫食。飛びながら，よくとおる特徴のある声で〈ヒッヒッヒッヒッ，チャチャ，チャチャ，チャチャ〉と鳴く。冬季は大部分のものが南方に渡っていく。

せっかい【石灰】 ふつう生石灰(酸化カルシウム)のことをいうが，消石灰(水酸化カルシウム)を意味することもある。

せっかいいおうごうざい【石灰硫黄合剤】 多硫化石灰27.5%を含む強アルカリ性の無機イオウ剤で，1907年ころから実用化された。当初はイオウと生石灰を水で煮て自家調整したが，現在では製品が市販されている。ハダニ・カイガラムシ類を駆除するため，冬季の休眠期にある果樹に対し７～９倍の濃厚液を散布すると卓効がある。夏季でも100～150倍液が使用されるが，作物によっては薬害を起こすので注意が必要である。〔深谷昌次〕

せっかいがん【石灰岩】 ホウカイ石*またはアラレ石*をおもな構成鉱物とする堆積(たいせき)岩*のこと。純粋なものは$CaCO_3$の化学組成であるが，マグネシウムをかなり含むことがある。不純物としてはチャート*質のケイ酸分や，どろがいろいろな割合で含まれる。石灰岩の中には生物の石灰質のからを主体としているものが多く，それらは化石の集まりでできた岩石ともいえる。化石としては，サンゴ・セッカイソウ・ウミユリ・二枚貝・ユウコウチュウなどがある。特に造礁サンゴを主体とする石灰岩は分布面積に比べて厚さが厚いレンズ状の岩体となる。石灰岩には，そのほかに無機的に沈殿してできたものもあり，また化石や他の石灰岩が砕けた破片が堆積してできた砕屑(さいせつ)岩としての石灰岩もある。石灰岩の採掘されたものを石灰石とよんでいる。石灰石は最も用途の広い鉱物資源の一つで，日本での生産は約１億tに達している。その約63%はセメント原料となり，16%が製鉄用，９%が砕石*として土建用に使われている。日本の古生層中の石灰岩は一般に純度が高く，埋蔵量も大きいので，大部分の石灰石採掘場は古生層の地域に集中している。中でも最も産額が大きいのは，北九州市およびその周辺地区と大分県の津久見地区とである。〔片山信夫〕



セッカ

せっかいしつひりょう【石灰質肥料】 石灰を主成分とする肥料。他の肥料と異なり，カルシウムを作物養分として補給するよりも，土壌(どじょう)の酸性を矯正(きょうせい)することがその使用の主目的である。また，この他に土壌微生物の繁殖や土壌中の有機物の分解などの効果もある。種類としては生石灰・消石灰・炭酸カルシウム・副産石灰の４種がある。

せっかいすい【石灰水】 ⇨消石灰

せっかいせき【石灰石】 ⇨石灰岩

せっかいそう【石灰藻】 細胞膜の外側に石灰質を多量に沈着した藻類。淡水では温泉の藍藻(らんそう)にみられ，車軸藻類でも少量だがみられる。海藻には，紅藻類のサンゴモ科，緑藻類のカサノリ科・ミル科のように著しく沈着したものがある。主として熱帯に繁茂し，サンゴ礁形成にあずかる。化石の保存がよく，古生代から知られる。石灰藻の群藻が朽死し，岩面が白くなるのを磯(いそ)焼けという。有用海藻に着生して，品質に害を与える。

せっかいちっそ【石灰窒素】 副生硫安に次ぎ，最も歴史の古い窒素質化学肥料。カルシウムシアナミドを主成分とし，窒素含量21～25%，ほかに石灰・炭素を含む。黒灰色の粉または粗粒のアルカリ性肥料である。カルシウムシアナミドは土壌(どじょう)中でシアナミド(H_2CN_2)となり，次いで加水分解して尿素となる。シアナミド自身は種子の発芽を害し，作物の葉に付着すると障害を起こすので，播種(はしゅ)や植え付けの１週間前に施用する。分解有効化の過程が複雑なことと，ややアルカリ性でジシアンジアミドが生じ，これが硝酸化成抑制効果をもつため，通常の化学肥料より緩効的である。〔早瀬達郎〕

ぜっかいちゅうしん【絶海中津】 (1336～1405) 室町初期の臨済宗の僧。別号は蕉堅(しょうけん)人道。諡号(しごう)は仏智広照国師。土佐(高知県)の人。天龍(てんりゅう)寺にはいり，夢窓疎石*について受戒した。建仁寺・建長寺を経て，1368年(正平23・応安１)には中国，明(みん)に渡り，杭州(こうしゅう)の中竺(ちゅうじく)寺・霊隠寺などで修業し，1376年(天授２・永和２)に帰朝した。天龍寺首座・甲斐(かい)(山梨県)恵林寺住持となり，また足利義満(あしかがよしみつ)に迎えられて等持寺・相国寺(しょうこくじ)の住持を歴任した。義堂周信と並んで五山文学の双璧(そうへき)といわれた。漢詩文集《蕉堅集》は名高い。〔玉山成元〕

せっかそう【石家荘】 ⇨せきかそう

せっかぼうしだん【赤化防止団】 1922年(大正11)弁護士米村嘉一郎が組織した暴力的右翼団体。その綱領に，①赤化の防止，②資本家・富豪の猛省，③労働運動と社会主義の分離などの達成目標を掲げ，東京赤坂に本部，全国に数十の支部を設けた。大正デモクラシー*の風潮に対抗を試みる反動的極右団体として，各地で暴力活動を行なった。金輪日東が会長となってのち，自然消滅。

ぜつがん【舌癌】 舌にできる悪性腫瘍(しゅよう)で，舌の辺縁部に発生しやすい。口腔(こうこう)内悪性腫瘍の約20%を占め，口唇癌とともに多いものである。舌に加えられる慢性刺激がその原因の第一にあげられる。虫歯*の鋭い先端，破れた金冠，義歯などが舌の辺縁に接触して慢性刺激を与えていると，癌性潰瘍(かいよう)を生じやすい。またたばこの常習も大きな原因になるともいわれている。はじめに小結節を生じ，しだいに崩壊して潰瘍となる場合と，はじめから潰瘍として生ずる場合とがある。形は不規則で悪臭を放ち，しこりが触れ，出血しやすい。自覚症状のないこともあるが，多くは疼痛(とうつう)があり，進行するにしたがって疼痛が増し，食物摂取や談話も困難となる。舌は動きやすいので安静が保てず，また歯や食物などの刺激を受けやすいため，癌の進行も早く，リンパ節に転移しやすい。予防がたいせつで，誘因と思われるものはなるべく早期に除去しておく必要がある。発見が早ければ，放射線療法・化学療法・手

術の2者あるいは3者併用で舌の機能をあまり妨げずになおすことができる。〔田嶋公子〕

せつがんえん【雪眼炎】⇨雪目

せっかんけ【摂関家】⇨摂家

せっかんせいじ【摂関政治】平安中期，10〜11世紀にかけて行なわれた政治形態で，藤原北家出身の摂政・関白が政治を左右した一種の閥族政治。すなわち天皇の外戚(がいせき)となることによって天皇幼少の間は摂政となって天皇の大権を代行し，天皇成長後は関白となって天皇を補佐し百官を統べることで，政治を思うままに動かした。藤原氏は鎌足(かまたり)以来すぐれた政治家・官僚が輩出し，一方，皇室との血縁関係を緊密にしてその権勢を強化し，有力氏族を排斥して政界に不動の地位を占めた。858年(天安2)藤原良房(よしふさ)はわずか9歳の清和天皇を擁立し，その外祖父のゆえをもってはじめ摂政の実務を行ない，866年(貞観8)応天門の変を機に正式に摂政に就任，その子基経も最初の関白となった。967年(康保4)実頼(さねより)が関白となってから摂関は常置の職となり，ここに摂関政治の体制が確立された。摂関は氏長者の兼任であるが，ときの天皇の外戚であることが必要不可欠の条件であった。摂関政治は公地公民制に立脚する律令(りつりょう)政治と異なり，荘園(しょうえん)制を基盤に，そこからの貴族の収入をもって政治が運営されたため，財政規模が著しく縮小し，政治全体が矮小(わいしょう)化して公私の混同をもたらした。こうして摂関政治はしだいに崩壊の途をたどることになった。〔黛　弘道〕

せつがんレンズ【接眼レンズ】光学器機において，目が接する位置に置かれる光学系で，対物レンズによりつくられた像を目で拡大観察できるように明視距離に像を結ばせるために用いるレンズ。接眼レンズによる倍率は，明視距離(250mm)÷接眼レンズの焦点距離で示される。一般に2組みのレンズの組み合わせで構成され，目に接するレンズを眼レンズ，対物レンズに近いほうを視野レンズという。組み合わせによりハイゲン式・ラムスデン式などがある。

せっき【石基】⇨斑晶(はんしょう)

せっき【節気】⇨二十四気

せっき【石器】石製の道具・武器・装身具。歴史上石器という場合は金属器が欠如または不足していた原始時代に，主要な器具として用いられた石器を称するのが普通である。原始人は木・骨・角・貝殻(かいがら)などでも道具をつくったが，石器は利器としての性能にすぐれ，材料も手近に得られたので，人類史上最も古くから広く使用された。石器の種類は多種多様で，木工具・狩猟具・武器などに用いられた。ほかの材料がほとんど腐朽してしまうのに対し，石器は長く原形を保ち，しかも製作技術上独自の特徴をそなえているので，時代的・地域的な文化差を示す基準として最適とされ，考古学上の最も重要な研究資料の一つとなっている。一般に石器は加工されており，その加工法により打製石器と磨製(ませい)石器とに分けられる。打製石器は塊石そのものを加工したり，塊石から剝離(はくり)した剝片を加工して製作された。新石器時代になると研磨し，鋭利かつ美麗な石器を多く用いるようになり，磨製石器が盛行する。〔高崎徳次〕

セッキ〔Pietro Angelo Secchi〕(1818〜1878) イタリアの天文学者。イエズス会士。1848年にイタリアを去り，イギリスを経てアメリカに渡り，ジョージタウン大学で自然科学を教えた。1849年にはイタリアによびもどされ，ローマ大学の天文台長となった。天体物理学に興味を寄せ，太陽についての2巻の大著もあるが，多数の恒星をそのスペクトルにより分類し，天体分光学の基礎を築いた業績が最も有名である。

せっきじだい【石器時代】石を主原料にして利器を製作使用した時代。日本では縄文(じょうもん)時代や先土器時代がこれにあたる。18世紀にトムセンは人類文化の発達段階を石器時代・青銅器時代・鉄器時代の順に区分したが，のちイギリスのラボックは石器時代を旧石器時代と新石器時代に二分した。さらに20世紀にはいって，モルガンによって旧・新石器時代の間に中石器時代があることが提唱された。しかしその概念が明確ではなかったので，現代の考古学者は新石器時代との区別に経済基盤の差をあげ，穀物の栽培も家畜の飼育もしない獲得経済の段階を中石器時代と規定している。しかし各石器時代ことに新石器時代は，世界各地でその文化発展の様相が複雑で，時代区分の設定を通じてこれらを律しようとするのはむずかしい。〔高崎徳次〕

せっきょうぶし【説経節】語り物音楽の一種。説経とは，もともと仏教の教義を講説することで，説経をする人を説経師といった。この説経師が，大衆に仏教の教義をおもしろくわかりやすく説くために，通俗的な話を身ぶりや音楽的要素を加えて語るうちに，逐次声明(しょうみょう)の一種である和賛や《平家琵琶(びわ)》などの曲調を取り入れるようになり，室町時代には，独特の語り物音楽としての説経節が成立するに至った。はじめは，ささらなどを伴奏楽器としていたが，江戸時代になっては三味線(しゃみせん)を取り入れ，さらには人形浄瑠璃(じょうるり)と提携して操(あやつり)人形芝居興行なども行なったこともあるが，やがて，義太夫節(ぎだゆうぶし)その他の浄瑠璃に吸収されてしまって，いまは原形をとどめない。なお，浪花節(なにわぶし)(浪曲)は，この説経節と祭文，阿呆陀羅経(あほだらきょう)などとが合体して生まれたものである。〔佐藤　薫〕

せっく【節供】年中行事のうちで，主要な折りめにあたる日をいう。節句とも書く。元来，〈節〉は1年のふしぶしにあたる日で，〈供〉はその際に神に供える食物を意味する語であったが，のちにはそうした特定の日そのものをさして節供とよぶようになった。節供・節日という語は，7・8世紀ごろの日本の公の記録にみえているが，〈節〉は，古来中国で上元節とか端午節というように用いてきていることから，中国伝来の語であり，日本でも長い間公のもしくは中央人のことばであった。このような呼び方が普及する以前，民間では〈おりめ〉とか〈ときおり〉とよんでいた。節句という字をあてるようになったのは江戸時代からで，幕府は1月7日(人日)・3月3日(上巳)・5月5日(端午)・7月7日(七夕(たなばた))・9月9日(重陽)を五節供(節句)と定めた。月の数と日の数を重ねて節供とするのは，中国の重日思想の影響であるが，個々の節供の内容を調べてみると，素地になっている日本の民俗が濃厚に認められる。1月7日の七草がゆ，3月3日の菱餅(ひしもち)，5月5日の粽(ちまき)や柏餅(かしわもち)など，節供には特別の食物を整える地方が多い。〔直江広治〕

ぜっく【絶句】漢詩の形体の一。近体詩の一種で，起・承・転・結の4句から成る。漢代に起こり，六朝(りくちょう)にかけて増加し，唐代に至って確立された。絶句には1句5字の五言と，同じく7字の七言とがあって，五言は第2句と第4句の末に，七言は以下の例のように，第1・第2・第4句の末にそれぞれ押韻する。

天門中断楚江開(起)　碧水東流至北廻(承)
両岸青山相対出(転)　孤帆一片日辺来(結)

せっくつじいん【石窟寺院】岩山に窟を掘って寺院としたもの。石窟は，開削に困難であるが，耐久性があり，暑さ・寒さ・風雨を防ぎ，修行に適した静かな峡谷が選ばれてつくられている。起源的にはインドに始まる。仏教のものが多く，ジャイナ教・ヒンズー教のものもある。インドの仏教寺院には，仏塔を安置し礼拝するチャイトヤ窟と，僧侶(そうりょ)の起居するビハーラ窟の二つのタイプがあるが，のちに仏像礼拝が流行すると，仏塔の前面に仏像を取り付けたり，仏塔の代わりに尊像を安置する礼拝窟が多くなる。アジャンター石窟のうち，グプタ朝以前の石窟とグプタ時代の石窟とがそれぞれを代表する。仏教石窟は仏教の伝播(でんぱ)とともに，アフガニスタンにバーミアーン，中央アジアにキジル・敦煌(とんこう)，中国に麦積山・炳霊(へいれい)寺・雲岡(うんこう)・龍門(りゅうもん)などの大規模な石窟を開窟させた。そこではインドの古いチャイトヤ窟がなく，独特の尊像窟形式を発達させている。石窟に安置される石彫・塑像，周囲を荘厳にする壁画は，当時の仏教美術の粋を余すところなく伝えている。〔小谷仲男〕

せっけ【摂家】摂政・関白を出すこと

のできる家がら。866年(貞観8)，藤原北家の良房(よしふさ)が人臣としてはじめて摂政となり，養子の基経(もとつね)が摂政・関白に任ぜられた。以来，藤原北家が摂家として栄え，道長・頼通(よりみち)のときに摂関政治*の最盛期を現出し，以後は道長の子孫の中から摂政・関白が任ぜられた。鎌倉初期には近衛家と九条家が分立し，中期には五摂家*が成立して，摂政・関白はこの5家の中から任ぜられた。〔飯田悠紀子〕

せっけい【赤経】⇨赤道座標

せっけいじ【雪蹊寺】高知市長浜町にある臨済宗妙心寺派の寺。四国霊場第三十三番の札所。弘法(こうぼう)大師の創建で，高福寺と称したが，1592年(文禄1)長宗我部元親(ちょうそかべもとちか)が復興，臨済宗の寺院に改めた。1599年(慶長4)元親が没すると，その子の盛親は当寺を菩提所(ぼだいしょ)とし，元親の法号雪蹊如三(じょさん)にちなんで雪蹊寺と名づけた。本尊薬師は鎌倉の作。また毘沙門天(びしゃもんてん)立像と脇侍(わきじ)吉祥天・善膩師(ぜんにし)童子立像は運慶の長子湛慶(たんけい)の作。いずれも鎌倉彫刻の名品である。

せっけいむし【雪渓虫】こん虫類・カワゲラ目・クロカワゲラ科。セッケイカワゲラともいう。体は細長く，ほとんど全体光沢のある黒色で，翅(はね)はない。腹部は雄では細長い円筒形，雌では幅広くふくれ，第3～8節背面の正中線部にやや幅広い膜質部がある。腹部の末端には，10節からなる細長い尾状突起が1対ある。体長10mm内外，尾状突起は5mm内外。北海道・本州に分布し，成虫は平地では早春2～3月に，高山帯では夏季に出現し，雪上に特に早朝に多くみられる。詳しい生活史は明らかにされていない。本州中部の高山帯では，夏季雪渓や残雪上に出現するので登山者によく知られている。

せっけつえん【赤血塩】$K_3[Fe(CN)_6]$ ヘキサシアノ鉄(III)酸化カリウムのこと。フェリシアン化カリウムともいう。深紅色，単斜晶系の結晶。100gの水に対する溶解度は4.4℃で33g，100℃で77.5g。アセトンには可溶で，アルコールにはわずかにとける。水溶液に第一鉄塩を加えるとターンブルブルーの沈殿を生ずる。黄血塩*(フェロシアン化カリウム)の溶液を塩素で酸化すると赤血塩溶液が得られ，これを濃縮して水酸化カリウムでアルカリ性にすると晶出する。また，ニッケル電極を用い，隔膜槽(かくまくそう)で黄血塩を電解すると，陽極室に赤血塩と水酸化カリウムを生じ，赤血塩が晶出する。青色顔料の原料，織物・染色，青写真用などに用いられる。〔鈴木 篁〕

せっけっきゅう【赤血球】橙黄(とうおう)色，中くぼみ円盤状の無核細胞で，血球の大部分を占める。平均直径は7.5μ，厚さは中央部で1μ，周辺部で2.4μである。構成成分の多くは，約3分の2の水分と約3分の1のヘモグロビン*(血色素)である。赤血球数は，健康成人の血液1mm³中男子約500万，女子約450万である。赤血球は，骨髄内で生成され，有核の前赤芽球から成熟し，脱核したのち血流へ流入し，全身を循環する。赤血球内のヘモグロビンは，肺で酸素ヘモグロビンとなり，各組織へ酸素を供給し還元ヘモグロビンとなる。赤血球膜は，脂肪とタンパク質からなり，電子顕微鏡では無数の凹凸(おうとつ)が見える。この膜には固有の機能があり，水のほか，陰イオン・グルコースなどはよく透過するが，NaやKなどの陽イオンは通しにくい。老化または脆弱(ぜいじゃく)赤血球は一定時日ののち崩壊(溶血)する。人の赤血球の血中寿命は約120日である。赤血球の疾患としては各種の貧血があり，また，赤血球自身の異常(形の異常や血色素の異常)がある。〔三好和夫〕

せっけっきゅうちんこうそくど【赤血球沈降速度】赤沈・血沈ともいう。凝血を止めた血液を管中に放置すると，赤血球は下方に沈降して上部に血漿(けっしょう)が残る。赤血球が沈降する速さを示したものが赤血球沈降速度で，おもに赤血球の数，血漿タンパク質(アルブミンは抑制的に，フィブリノーゲンやα-，β-，γ-グロブリンは促進的に作用する)に関係する。測定法は，一般にはウェスタグレン法が用いられる。この方法は，注射器あるいは小試験管内で血液と3.8％クエン酸ナトリウムを4：1の割合に混じ，赤沈測定管の0の目盛りまで正確に吸い上げて，赤沈測定用固定台に垂直に立てる。判定は赤血球層上界の目盛りを読む。一般に一時間値で表わすが，中等値も用いられる。正常値は1時間値男子1～10mm，女子2～15mmである。貧血のみられるときは，赤沈貧血補正表によって判断する必要がある。赤沈は生理的には妊娠，疾患では炎症性疾患・膠原病(こうげんびょう)・ネフローゼ・心筋梗塞(こうそく)・骨髄腫(こつずいしゅ)や組織の破壊を伴う悪性腫瘍(しゅよう)などで促進する。このため，非特異的反応であるが，これら疾患の有無や経過の判断にきわめて有用である。逆に，多血症・鬱血(うっけつ)性黄疸(おうだん)などでは遅延する。〔三好和夫〕

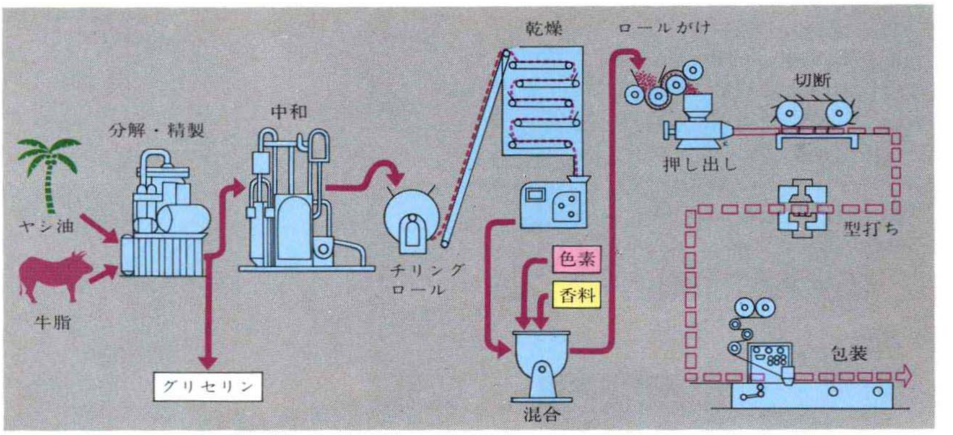
せっけつびょう【赤血病】白血病*に類似した病気で，赤血球*の癌(がん)である。急性と慢性とがあり，ふつう赤血病というときは急性赤血病をさす。貧血・出血傾向・発熱・肝脾腫(かんぴしゅ)などが現われ，骨髄内では異常な赤芽球(赤血球の母細胞)が増加する。予後不良で経過も早い。白血病と合併することが多く，このときは赤白血病という。慢性赤血病は真性多血症ともいい，赤血球が1ミリ立方中600～1,000万(正常人は450～550万)も増加するため，顔色や粘膜が赤くなり，頭重やのぼせ感，出血傾向，肝脾腫，血圧上昇などが現われる。血栓症(けっせんしょう)(→血栓)も起こしやすい。経過は長いが，予後不良で，白血病に変わることもある。〔大橋辰哉〕

せっけん【石鹸】広義のせっけんは高級脂肪酸・ナフテン酸・樹脂酸の金属塩の総称である。普通の意味のせっけんは洗浄をおもな用途とするもので，水溶性の脂肪酸のアルカリ金属*塩をいう。脂肪酸はカプロン酸からベーヘン酸までを使用し，アルカリは普通にはナトリウムとカリウムで，アンモニア・エタノールアミンなどの有機塩基をも含む。ナトリウム塩をソーダせっけん(硬せっけん)・カリウム塩をカリせっけん(軟せっけん)といい，軟せっけんは水分を多く含み柔らかく，水にとけやすい。これらの脂肪酸の塩基塩以外のアルカリ土金属および重金属などの塩類は水に難溶かまたは不溶性で，金属せっけんといって区別される。一般には，アルカリせっけんと金属せっけんに分類され，アルカリせっけんはさらに用途に応じて，下のように分類される。また逆性せっけんは水溶液中でのイオン化が，普通のせっけんの場合とまったく逆になるものをいう。

- せっけん
  - アルカリせっけん
    - 家庭せっけん
      - 化粧用
      - 一般洗浄用
    - 工業せっけん
      - 繊維工業用
      - 金属工業用
    - 薬用せっけん
      - 医薬用
      - 農芸用
  - 金属せっけん

〈原料・製造〉せっけんは実用上の諸性質(かたさ・溶解性・洗浄力・保存性・起泡(きほう)性・塩析性など)から，原料脂肪酸によって，①飽和低級～中級脂肪酸(C_{12}以下)，②高級固体酸(C_{14}以上)，③低度不飽和液体脂肪酸(二重結合1個)，④高度不飽和脂肪酸(二重結合2個以上)に分類される。①は素地がかたく，溶融性・安定性は大，塩析されにくく，洗浄力は小，起泡性は大である。②はかたく，洗浄力・安定性は大，冷水に対する溶解性は小(C_{14}は除く)，塩析されやすく，起泡性は大。③はやや柔らかく，溶解性・起泡性・洗浄力は大。塩析されやすく，安定性はやや小。④は柔らかく，冷水にとけやすく，起泡性・洗浄力は中ぐらい，塩析されやすく，安定性は小。アルカリはせっけん素地をつくるために，油脂を鹸化するのに必要で，苛性(かせい)ソーダ・苛性カリ・炭酸ソーダなどのほかに，炭酸カリ・アンモニア・トリエタノールアミンなどがある。また副原料として，水・食塩・水ガラス，補助原料として，香料・着色料などがある。

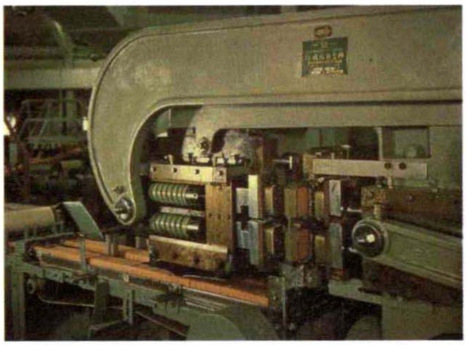
製造法には鹸化塩析法・中和法などがある。鹸化塩析法は動植物油脂および硬化油に，苛性アルカリ溶液を加えて煮沸すると油脂は鹸化されてせっけんとグリセリンとになる。これに食塩を加えてせっけんを析出する。中和法は，油脂をさきに加水分解



機械ねりせっけん製造工程



鹸化罐



型打ち



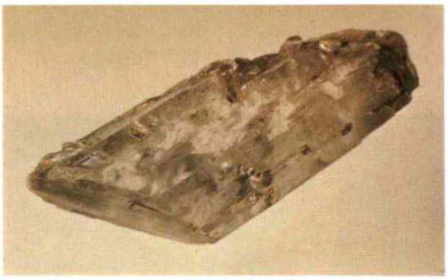
包装

せっけん

して，脂肪酸とグリセリンにし，この脂肪酸を苛性ソーダか炭酸ソーダで中和する。いずれの場合も着色剤や香料などを加えて，乾燥・成形する。

〈用途〉アルカリせっけんは家庭用清浄剤のほかに，工業用として，繊維の精練・染色・仕上げなどに使用され，せっけんのもつ洗浄性・起泡性・分散性・乳化・可溶化・潤滑・浸透・濡潤などの作用を利用して，歯みがき・化粧品・医薬品・農薬・乳化重合媒剤・切削剤などに用いられる。金属せっけんは，化粧品・薬品・光沢剤・グリース・減摩剤・研摩剤・鉱油留剤などに使用される。なおせっけんを使用する際，硬水ではせっけんかすを生じるので，酸性や硬度の高い水では使用できない。〔桜井俊男〕

せっこう【石膏】 $CaSO_4 \cdot 2H_2O$の組成を有する鉱物。単斜晶系，*劈開(へきかい)は(010)に完全，硬度1.5～2，比重2.3。セッコウの結晶は無色透明であるが，純白色の微細な結晶の集合体も存在する。主としてセメント原料・陶磁器型用・歯科医療用・美術用などに用いられる。セッコウを焼いて水分を除去したものが焼セッコウである。



セッコウ　秋田県花岡鉱山産

せっこう【斥候】 敵情とか地形，そのほか各種の状況を偵察(ていさつ)・捜索させるため，部隊から派遣される単独または小部隊の兵士。挺進隊(ていしんたい)(偵察・襲撃などの任務をもって遠距離にまで行動する部隊)に比べれば兵力も少なく，行動範囲も近距離に限られる。その編成や兵種によって将校斥候・下士官斥候・騎兵斥候・車両斥候などの別があり，また，指揮者の姓名を冠してよばれることもある。

せつごう【接合】 2個の生殖細胞が合一する現象で，同型の両性の生殖細胞(同型配偶子)が合一すること。接合の結果生じたものが接合子である。これに対して異型の両性の生殖細胞(異型配偶子)が合一することを*受精という。接合は下等藻類(そうるい)・原生動物などで知られている。アオミドロは細胞が1列に並んだ体制で，雌雄の別は形の上では認められない。しかし，5月または10月ごろに2本が平行に並び，向かい合った細胞から管状の突起が出て連結し，一方の細胞の原形質が他方へ流れ込んで合一し，厚い膜で包まれた球形の接合子ができる。流れ込むほうは雄性と考えられ，＋の記号で示される。接合子は休眠してのち発芽し新個体となる。原生動物のゾウリムシでは，ふつう横の2分裂でふえるが，ときには2個体が接着し，互いに核を交換して分裂し，新しい個体となる。この現象を接合といい，老衰した細胞の若返り法である。〔高島文三〕

せっこうしょう【浙江省】チョーチヤン省 中国東部，華中の東シナ海に臨む省。面積10万1,800km²。人口3,200万(1972推)。3省轄市(杭州(こうしゅう)・寧波・温州)・8専区・63県を統括する。省都杭州。気候は温和で北部の銭塘江(せんとうこう)流域の平野と南部の丘陵地域に分かれ，米・小麦・トウモロコシ・チャ・ワタ・アサ・サトウキビ・果実などの農産物，竹・木材・桐油(とうゆ)などの林産物を産する。鉱産物ではみょうばん(平陽・礬山(ばんさん))・ホタル石(金華・嵊県(じょうけん))などの産は国内有数であり，少量ながら石炭・鉄も産する。また銭塘江が省内を貫流して注ぐ杭州湾では海塩も生産され，沿海では漁業が盛んで，舟山群島の近海は好漁場として知られている。近代工業はふるわないが，北部の杭州の絹織物工業は伝統産業として有名である。主要交通路には滬杭(ここう)鉄道(上海(シャンハイ)～杭州)，浙贛(せっかん)鉄道(杭州～株州(しゅしゅう))，蕭穿(しょうせん)鉄道(蕭山～穿山)の3路線がある。北部の低地では太湖に通ずる水路が古くから利用され，隋の時代に建設された大運河も華北から杭州まで通じていた。上海の開港前には，寧波・杭州・温州などが貿易港として盛んであったがいまは不振。〔船越昭生〕

せつごうそうるい【接合藻類】 緑藻植物の一群。クロロフィルa，bを含むこと，細胞壁の外層はペクチンであるが内層はセルロースであること，体制が単細胞ないし糸状体で原始的であることなどから緑藻類中におかれる。しかし，有性生殖の方法は独特で，生殖細胞の分化がなく，栄養細胞の内容が直接アメーバ状(鞭毛(べんもう)がない)の配偶子に変わり，配偶子嚢中(のうちゅう)あるいは体外で接合子をつくる。接合子は減数分裂をして発芽するので，栄養体は単相である。無性生殖細胞はなく，二分裂によって増殖する。葉緑体が板状のほか，星状・らせん状やその他で複雑だが，対称的

な多様な形態分化をしていることも特異な性質である。ツヅミモ・ミカヅキモ・チリモ・アオミドロ・ホシミドロなどが含まれ，ほとんどのものが淡水産で，まれに汽水産のものがある。

せっこく　**【石斛】**　単子葉植物・ラン科。本州中部以南に分布し，岩やがけに着生する多年草。根茎から多数のひげ根を出す。茎は数本が群生し，分枝せずに高さ５～25cmほどになり，円柱形で節がある。葉は節から互生し，披針(ひしん)形で長さ３～７cm，暗緑色で光沢があり，基部はさやとなって茎を包む。５～６月，葉の落ちた前々年の茎に１～２個の花をつける。花は芳香が強く，径３cmほどで，白色ないし淡紅色。昔は薬用植物として用いられたが，斑(ふ)入りのものなどが江戸時代から観賞用として栽培されるようになった。

せつごせん　**【摂護腺】**　⇨前立腺

せっこつし　**【接骨師】**　江戸時代から見られるようになった〈ほねつぎ〉のこと。今日では〈あんま・マッサージ・指圧師，はり師，きゅう師，柔道整復師等に関する法律〉(1947)の適用をうけ，柔道整復師という。軽症の骨折，関節脱臼(だっきゅう)，打撲(だぼく)・捻挫(ねんざ)などの治療はするが，レントゲン撮影・投薬・手術は許されていない。将来はすべて整形外科の医師と理学療法士・作業療法士が治療を行なうべきものと思われている。〔山中英夫〕

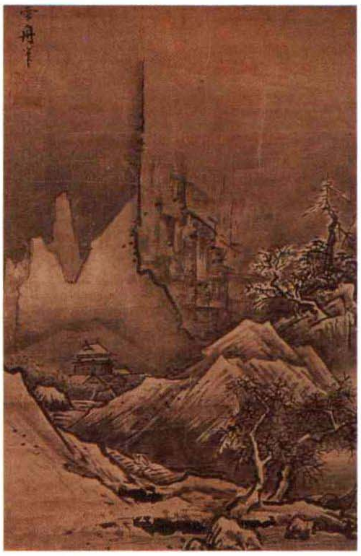
せっこぶん　**【石鼓文】**　中国，周代の刻石文。狩猟に関する詩を側面に刻した石塊で，それが鼓形をなしているので石鼓という。10個あり，唐代，陳倉(陝西(せんせい)省宝鶏)の荒野に遺棄されていたのが，韋応物(いおうぶつ)や韓愈(かんゆ)によって詩に詠ぜられて有名になった。文字の体は籀文(ちゅうぶん)すなわち大篆(だいてん)の体で書かれ，いま，残欠して，272字を存している。製作の目的は明らかでなく，時代についても諸説があるが，周の威烈王の４年(BC422)(すなわち秦(しん)の霊公３年)秦でつくられたとする説が有力である。〔中田勇次郎〕

せっし　**【摂氏】**　⇨温度

せっしゅう　**【雪舟】**　(1420～1506)　室町時代の画僧。諱(いみな)は等楊(とうよう)。備州(岡山県)の出身で俗姓は小田氏。幼少に出家して京都相国(しょうこく)寺で修禅のかたわら水墨画を周文に学んだ。1464年(寛正５)ごろには周防(すおう)(山口県)に雲谷庵(うんこくあん)という画房を営む。1467年(応仁１)大内政弘(まさひろ)の勘合船に便乗して明(みん)に渡航，当時の絵画作品と宋(そう)・元など古今の名画に触れた。在明中の作に《四季山水図》があり，また北京(ペキン)で壁画を描いたらしい。1469年(文明１)に帰国後は，豊後(ぶんご)(大分県)に天開図画楼なる画房を開き，のち雲谷庵も再興，全国各地を旅して自然観察を続けた。文明以降に傑作が多く，《四季山水図》《秋冬山水図》《天橋立図》(いずれも国宝)などにはその作風の変遷がうかがえる。その手法は南宋(なんそう)院体の夏珪(かけい)らの謹厳な筆法に独自の構成感覚を加えたものである。なお，ほかに臨模・研鑽(けんさん)した画家としては李唐(りとう)・梁楷(りょうかい)・玉澗(ぎょくかん)らがあった。《破墨山水図》(国宝)は玉澗流の破墨法を用いたものであり，《天橋立図》はわが国の風景を写生した真景図である。弟子(でし)に秋月・宗淵(そうえん)らがあり，桃山時代に雲谷派が出て画風を継承した。狩野(かのう)派・長谷川(はせがわ)派などにも多大な影響を与えている。〔中島純司〕



セッコク



雪　舟　四季四幅対と思われる《秋冬山水図》のうちの〈冬景図〉　東京国立博物館蔵



摂州合邦辻　合邦庵室の場　俊徳丸(７世中村芝翫)と浅香姫(４世尾上菊之助)の恋仲を知り嫉妬に狂う玉手御前(７世尾上梅幸)



雪上車

せっしゅうがっぽうがつじ　**【摂州合邦辻】**　義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。２段の時代物で菅(すが)専助・若竹笛躬(ふえみ)作。1773年(安永２)大阪北堀江座(ほりえざ)初演。通称《合邦》。インド説話に基づく謡曲《弱法師(よろぼうし)》，説経節《愛護若(あいごのわか)》の２系統を原拠として成立。お家騒動にからむ物語で，故意に毒酒を勧め俊徳丸を癩病(らいびょう)にすることによって敵から守った義母玉手御前(合邦の娘お辻(つじ))が，やがて俊徳丸に邪恋をしかけるとみせて父合邦にわざと刺され，その血で癩病をなおすというもの。初演以後２段目の切(きり)〈合邦内〉だけが上演されている。歌舞伎(かぶき)初演は1885年(明治18)桐座(きりざ)。〔前田慎一〕

せっじゅたい　**【摂受体】**　⇨受容体

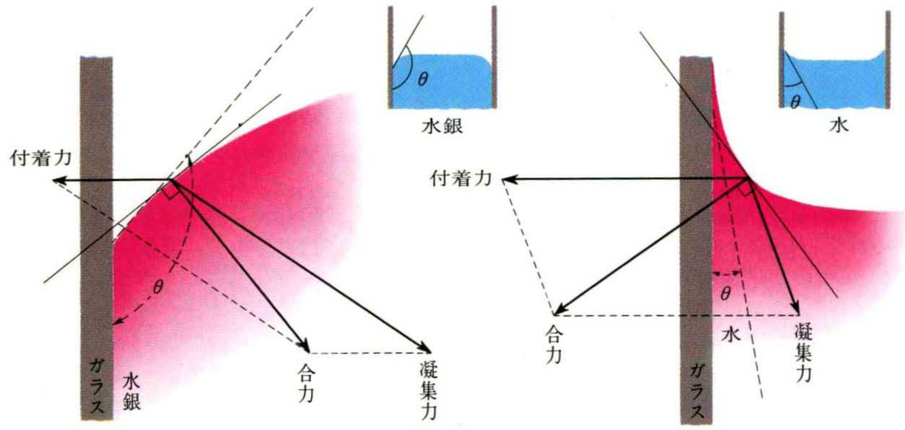
せっしょう　**【摂政】**　天皇大権の代行者。唐名は摂籙(せつろく)・執柄(しっぺい)など。593年聖徳(しょうとく)太子が推古天皇の摂政となったのが最初で，以後女帝を助けるための皇族摂政の例はあるが，858年(天安２)清和天皇幼少のゆえをもって外祖父良房(よしふさ)が摂政の実務をとったのが臣下として最初の例。866年(貞観８)良房は正式に摂政に就任した。しかし後世は天皇幼少の間摂政の任にあり，成人後は関白となるのを通例とした。藤原頼長(よりなが)がその日記《台記》に〈摂政は天子のごとし，関白はなお臣の列にあり〉といっているように，摂政は天皇の大権を完全に代行するもので，たとえば詔勅の発布にも摂政の署名を必要とした点で関白と異なるところがあった。現在では皇室典範に基づいて，天皇が成年(満18歳)に達しない場合，もしくは病気その他重大なる事故で国事行為が行なえない場合に摂政が置かれる。〔黛　弘道〕

せつじょうしゃ　**【雪上車】**　雪上走行を目的につくられた特殊車両。積雪地における人員・物資の輸送用，消防・警備・救急などの治安用および奥地連絡用など広範囲に利用される。積雪の上をわずかな沈下量で走行できる。次の形式がある。①全装軌式(キャタピラ式)：深雪地でも各種の行動がとれる形式で，現在最も多い。②半装軌式：駆動にはキャタピラを，操向にはそりを使用する形式。構造が簡単で小形の雪上車に採用されている。③プロペラ式：プロ

ペラ式の推進装置をもち，雪上を滑走する形式。南極観測などにも盛んに利用されている。〔成田武男〕

せっしょくかがくかく【接触化学覚】動物には化学物質を刺激として受容する感覚があり，化学覚または化学的感覚といわれる。これは光覚などよりもっと普通にみられ，原生動物にもみることができる。このような化学覚のうち，離れていても反応するときは，いわゆる走化性であって，特に遠覚ともよばれるが，チスイビルなどのように刺激物に接触してはじめて感覚が成立するものもあり，これを接触化学覚または近覚とよんでいる。〔蒲原春一〕

せっしょくかく【接触角】液体の自由表面が固体表面と出合うところで固体面となす角。ガラス容器に水銀を入れたときや水を入れたとき，その自由表面が器壁に接する部分を注意してみると互いに直角にはならず，水銀の場合は水銀面が押し下げられ，水の場合は水面が吸い上げられて，器壁にある角度をもって接している。接触角が鋭角のとき液体が固体をぬらすといい，鈍角のときはぬらさないという。ガラスと水銀の接触角は約140°，ガラスと水の接触角はガラス表面のよごれにもよるが約0～9°である。〔今淳治郎〕



接触角

せっしょくかんせん【接触感染】病原体の伝染の一型式で，患者もしくは保菌者の体表面と被感染者の体表面とが接触する際に病原体が受け渡されること。化膿菌・天然痘ウイルスなどのほか，性器の接触によって感染する梅毒・淋病(りんびょう)などの菌が，接触感染の病原体である。野兎(やと)病菌・ペスト菌・癩(らい)菌なども皮膚表面の微細な傷口から侵入しやすい。体表面のうち，くちびる・結膜・性器などの粘膜は皮膚以上に病原体の侵入が容易なので接触感染を起こしやすい。〔和気 朗〕

せっしょくざい【接触剤】害虫の皮膚に接触して薬効を生ずる殺虫剤。主としてウンカ・ヨコバイの類あるいはカメムシ類のような吸収口を有する害虫の駆除に用いられる。古くから知られているものに除虫菊剤・ニコチン剤・デリス剤・松脂合剤などがあるが，戦後登場したDDT・BHCをはじめとする有機合成剤の多くも接触剤である。

せっしょくしきりゅうさんせいぞうほう【接触式硫酸製造法】硫酸製造の方式の一。固体の触媒（五酸化バナジウムV_2O_5など）を用いて亜硫酸ガスSO_2を酸化し，無水硫酸ガスSO_3をつくる。これを硫酸に吸収させて発煙硫酸にし，さらにこれを薄い硫酸で薄めて濃硫酸(98%)をつくる。その化学反応式は次のようになる。

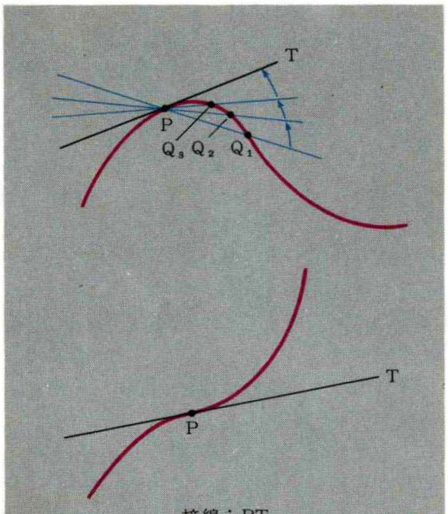
$$SO_2+V_2O_5 \longrightarrow SO_3+V_2O_4$$

$$2\,SO_2+V_2O_4+O_2 \longrightarrow 2\,VOSO_4$$ (硫酸バナジール)

$$2\,VOSO_4 \longrightarrow SO_3+SO_2+V_2O_5$$

接触式で製造される硫酸は純度がよく，濃度も高い。硝酸式よりも価格は高くなるが，使用目的によっては接触式の方が有利になるため，最近は化学工業原料として接触式硫酸の需要が増している。さらに最近では，経済的理由から，製造装置の大形化がはかられ，またいままでの亜硫酸ガスの原料である硫化鉄鉱の代わりに，重油から回収したイオウを用いるようになりつつある。〔久保輝一郎〕

せっしょくせいひふえん【接触性皮膚炎】皮膚になんらかの物質がふれて起こる急性皮膚炎(→皮膚炎)の一種。俗にかぶれ，はだ荒れとよばれる。外から作用する特定物質に対する反応として急性湿疹(しっしん)(→湿疹)に似た症状を呈する。起因物質として，ウルシ・塗料・なめし皮・クロムメッキ・医薬・化粧品類・洗剤，種々の工業用原料など，その数はきわめて多い。治療は，原因となる刺激の除去が第1で，そのほかホウ酸亜鉛華軟膏(なんこう)の塗布など，急性湿疹に準ずる。〔田嶋公子〕



接線：PT

接　線

せっせん【接線】ある曲線上に1点Pをとり，他の点Qを曲線に沿ってQ_1, Q_2, Q_3，……とPに限りなく近づけたとき，直線PQ_1, PQ_2, PQ_3，……がある一定の直線に限りなく近づくならば，この定直線をPにおけるこの曲線の接線といい，Pをそのときの接点という。曲線上の1点で引いた接線は，もとの曲線の一方の側だけにある場合と，その曲線を接点で横切る場合とがある。曲線の方程式が$y=f(x)$であるとき，その上の1点$P(x_0, y_0)$における接線の方程式は$y=f'(x_0)\cdot(x-x_0)+y_0$で与えられる。また，2次曲線上の点$P(x_0, y_0)$における接線の方程式は次の式で与えられる。

円$x^2+y^2=r^2$の接線$x_0x+y_0y=r^2$

楕円(だえん)$\dfrac{x^2}{a^2}+\dfrac{y^2}{b^2}=1$の接線$\dfrac{x_0x}{a^2}+\dfrac{y_0y}{b^2}=1$

双曲線$\dfrac{x^2}{a^2}-\dfrac{y^2}{b^2}=1$の接線$\dfrac{x_0x}{a^2}-\dfrac{y_0y}{b^2}=1$

放物線$y^2=4px$の接線$y_0y=2p(x+x_0)$

〔菊池兵一〕

せっせん【雪線】高山地方や寒冷地方で冬季の降雪量が夏季の融雪量を上回る所では，夏でも雪が残り万年雪田を形成するが，この万年雪田の高度の最低限を雪線という。雪線の高度は降雪量と気温によって決まるが，斜面の方向，卓越風などにも影響を受ける。雪線の高度は一般に低緯度で高く，高緯度では低い。赤道直下のキリマンジャロ山(南緯3°，5,895m)では4,570～5,420mであるが，中緯度のアルプスやピレネー山脈では約300m，高緯度のグリーンランドでは500mぐらいに，それぞれ位置する。また，雪線高度を歴史的にみると，氷期には降下し，間氷期には上昇するといった変化をくり返している。わが国の現在の雪線高度は4,100mと計算されているが，カール(圏谷*)の分布から，氷期には北海道の日高山脈で1,400m，日本アルプスで2,400mまで下がったことが知られている。〔桑原正見〕

せつぞくご【接続語】文の成分の一種。

〈よく　晴れた　日だった。しかし,風が強かった。〉〈驚き　かつ　恐れる。〉〈暗いので,よく　見えない。〉〈いやなら　よしなさい。〉〈話を　聞き,ノートに　書きとめる。〉のように,前後をつなぎ，あるいは，下に接続していく文節を〈接続語〉という。また，接続される文節を，〈被接続語〉と呼ぶことがある。接続語の文節は，連用修飾語や独立語の一種として扱われることもあるが，二つの事柄を対立的に関係づけるところに，接続語の特質がみられるので，独自の成分として立てる必要が認められる。多くの場合，接続詞*の文節，接続助詞を含む文節，連用形中止法の文節などが，接続語となる。〔市川　孝〕

せつぞくし【接続詞】品詞の一種。自立語で活用がなく，接続の働きをもつ。前後の文や語句の中間に位置して，両者を対立させ，その関係を示すことによって，前後の表現を接続する。接続詞は，用法の上から，だいたい次のように類別される。①文と文とを接続する。例：朝早く目をさました。そして，すぐしたくにとりかかった。②一文中の文節・連文節を接続する。例：大学の卒業者またはそれと同等の学力のある者。③単語を接続する。例：東京および大阪。

接続詞は，意味の上からは，次のように類別される。①添加：そして・それから・また・および・ついで・そのうえ・それに・さらに・しかも，など。②順接：だから・それで・したがって・そこで・それなら・すると・してみれば・かくて，など。③逆接：しかし・けれども・だが・でも・が・とはいえ・それなのに・そのくせ・ところが，など。④選択：あるいは・それとも・または・もしくは，など。⑤転換：ところで・ときに・さて・ともあれ，など。⑥詳述・要約など：すなわち・つまり・要するに，など。⑦理由などの補足：なぜなら・なんとなれば，など。〔市川　孝〕

せつぞくすいいき【接続水域】自国の領域内における関税上・財政上・移民上・衛生上の規則の違反を防止し，またはこれらの規則の違反を処罰するために，沿岸国が自国の領海*に接続する公海*上に設けることのできる区域。今日では国際法上一般的な制度として認められているが，比較的新しい制度である。1920年代の禁酒法時代，アメリカが密輸防止のために多くの国々と二国間条約で設けたのが最初である。接続水域の範囲は沿岸から12海里とされており(領海および接続水域に関する条約24条)，領海の範囲が12海里以上になればその存在理由を失う。〔広部和也〕

せっそくどうぶつ【節足動物】動物分類学上の一門。体は体節に分かれ，各体節には付属肢(ふぞくし)があって，体の表面はキチン質におおわれてややかたくなっている動物の総称。種類は非常に多く，現世に生息している動物の種の過半数を占め，生物のいるところにはどこにでも見いだせる。地質学的にはカンブリア紀前期から三葉虫*類が現われており，歴史も古い。現在では，陸上にクモ類・サソリ類・多足類・こん虫類が，海洋にはウミグモ類・カブトガニ類・甲殻(こうかく)類がすんでいるが，そのうち陸上のこん虫類，海洋の甲殻類は種類が多いことで特に有名である。節足動物は，古代環形動物から進化したことが知られており，軟体動物と並んで，系統進化上は先口動物*系の頂点に位置し，後口動物*系の頂点の哺乳(ほにゅう)類に対比される。生殖は一般に有性的であり，卵生である。こん虫類の一部では,かなり高度な社会制を発達させているものもあり，種の多様さに応じてその生活様式も多種多様である。〔向井　宏〕

せっそん【雪村】(1504？〜？)室町末期の画僧。諱(いみな)は周継。常陸(ひたち)(茨城県)の人。佐竹氏の一族で出家して禅僧となったが，雪舟*に私淑して水墨の山水・道釈人物を描き，もっぱら関東・東北地方に住んだと伝わる。宋(そう)・元の道釈人物をみずからよく学んだうえに，戦国時代の気風を反映して筆力旺盛(おうせい)な動的作風をつくり，彩色画においても桃山様式へと発展する過渡的性格を持つ。作品に《風濤(ふうとう)図》《呂洞賓(ろどうひん)図》《竹林七賢図》などがある。〔中島純司〕

せった【雪駄】雪踏・席駄とも書く。草履(ぞうり)の裏底にさまざまな獣皮をはって，水分や湿気がしみ通らないように，くふうしたはき物。かかとの部分がいたむのを防ぐために，尻鉄(しりがね)を打ったものを，特に鋲打(びょううち)とよぶ。室町時代末期から用いられたが，江戸時代の元禄(げんろく)(1688〜1703)のころになると，毛雪駄・丹前雪駄・吉原(よしわら)雪駄・石割雪駄など各種の雪駄が流行した。裏につける獣皮としては，クマ・イノシシ・シカ・ウシ・ウマなどの皮が用いられた。鋲打は歩くときに音を発するところから，江戸の俠客*(きょうかく)たちが伊達(だて)(意気を競うこと)のために愛好した。〔直江広治〕

セッター［setter］イギリス原産の鳥猟犬で，猟野を捜索して猟鳥のありかを突きとめると，腹ばいになって知らせるセットをするのでその名がある。被毛は白地に黒・レモン・オレンジ・ブルー・赤かっ色などの小斑点(はんてん)が散在する。毛質は中ぐらいの長さの絹糸状毛で，肢(し)と尾は長い。体高は61〜66cmくらい。

ぜったいおんがく【絶対音楽】標題音楽*と対をなす概念で，一般には音楽の中でも，美術や文芸など音楽以外の芸術との関係をもたず，また音楽外の事物や心理などと関係をもたないものをさす。この考えがはっきりしたのは18世紀末からで，特に19世紀に標題・絶対の二分法が問題にされた。声楽の場合は歌詞があるため，原理的に絶対音楽にはなれないが，器楽曲でも，交響詩のように一定のプログラムや意図をもったものは標題音楽とされる。したがって，音楽を構成する音楽的要素の相互関係だけで成立するものが絶対音楽であり，これに表示的(音楽外のものを表示する)な意味が加わったものが標題音楽とみなされる。しかし，標題音楽といっても，音響的相互関係は当然の前提としてもっており，一方，絶対音楽にも聞き手が表示的な意味を付加できることを考えると，両者の境界があいまいとなり，今日では歴史的な概念としてしか使えないものになっている。〔徳丸吉彦〕

ぜったいおんかん【絶対音感】音高の識別能力の一つで，聞いた音の高さをただちに，しかも他の音の関連によってではなく，判断できる能力をいう。絶対音感の所有者には特定の楽器の音にだけこれをもつものから，いわゆる楽音ではないものにまでこの能力をもつものがある。いずれの場合も，音の前後関係(音程)によってではなく，単独の音で判断できるのが相対音感との違いである。この能力は，一般には幼児期で獲得される。しかし，すべての音楽学習に必要というわけではない。〔徳丸吉彦〕

ぜったいおんど【絶対温度】⇨ケルビン温度

ぜったいしゅぎ【絶対主義】16〜18世紀のヨーロッパ諸国で，封建社会が崩壊して市民社会が成立するまでの過渡期に現われた政治形態。フェリペ2世*のスペイン，エリザベス1世*のイギリス，ルイ14世*のフランスがその典型。フリードリヒ2世のプロイセン，ヨゼフ2世*のオーストリア，エカテリナ2世*のロシアなど，いわゆる啓蒙(けいもう)専制君主制はその変形とされる。国王が封建貴族と市民階級に拘束されずに絶対の権力をふるうことができたのがその特色である。国王が権力を一身に集中するためには封建貴族の地方分権制を打破する必要があり,それには新興ブルジョアジーの協力を必要とした。新興ブルジョアジーとしても国内市場統一のためには中央集権体制の成立が不可欠で，また問屋制の上に立つ商業ブルジョアジーとしても,小規模の生産者をその支配下に置くためには，ある程度の封建社会の解体が必要であった。一方，封建貴族はその特権の保障を求めて絶対王権に寄生した。商業ブルジョアジーも産業ブルジョアジーの台頭をおさえるため，絶対王権に独占的特権の保障を求めた。絶対王権はこの二つの社会層の支持を背景として，官僚と軍隊の力により国内体制の維持と対外発展を図った。しかし，その封建遺制と商業ブルジョアジーの独占体制はやがて近代資本主義形成の歩みと矛盾をきたし，やがて絶対主義は市民革命によって崩壊の道をたどった。〔大野慎一郎〕

ぜったいたんいけい【絶対単位系】基

本単位*の大きさが場所・時間などによって変化することのない単位系。cgs単位系，MKS単位系，MKSA単位系などは絶対単位系である。しかし，重力単位系*は基本単位として用いる重さの単位が場所によって変わるので，絶対単位系ではない。

ぜったいち【絶対値】

[1]実数* a について，a が正の数または0のとき a を，a が負の数ならば $-a$ を，a の絶対値といい，$|a|$ で表わす。たとえば，

$$|+2|=2,\quad |0|=0,$$
$$|-3|=-(-3)=3$$

[2]複素数* $Z=x+iy$ について，$\sqrt{x^2+y^2}$ を Z の絶対値といい，$|Z|$ で表わす。たとえば，

$$|2+3i|=\sqrt{2^2+3^2}=\sqrt{13}$$

[3]実数成分のベクトル* $a=(a_1, a_2, \cdots\cdots, a_n)$ について，長さ $\sqrt{a_1{}^2+a_2{}^2+\cdots\cdots+a_n{}^2}$ を $|a|$ で表わし，a の絶対値ということがある。たとえば，$|(1,2,-3)|=\sqrt{1^2+2^2+(-3)^2}=\sqrt{14}$ 〔青柳雅計〕

ぜったいちだい【絶対地代】差額地代*とともに資本制地代の基本的形態の一。一般的生産価格を越える超過利潤として，最劣等地にも生ずる地代のことをいう。差額地代が，一般的生産価格と優等地または生産性の高い資本のもとでの個別的生産価格の差として生ずるのに対し，絶対地代は最劣等地の市場調整的生産価格を越える超過分である点に特徴がある。その成立の根拠は土地所有の独占に基づく地代要求・強制力にある。差額地代が一般的生産価格成立の結果であるのに対し，絶対地代は土地生産物価格が一般的生産価格以上に形成される原因をなす。したがって土地私有が廃止されて土地国有化がなされれば，土地生産物の価格は絶対地代分だけ低下する。絶対地代は土地所有の力によってつくりだされるものであるから，差額地代のように土地の優劣にかかわりなく，同一面積の土地には同額の地代として成立するといわれてきたが，最近の地代論研究は，必ずしもそうはいえないことを明らかにし，また，絶対地代成立の条件として土地生産部門の資本の有機的構成*の低位性，したがって価値＞生産価格という条件があげられてきたが，こうした条件が絶対地代成立のために必ずしも必要でないことを指摘している。 〔常盤政治〕

ぜったいとうきゅう【絶対等級】星の真の明るさを示す尺度。星の見かけの明るさは距離の2乗に逆比例するので，同じ星でも近距離にあれば明るく，遠くにあれば暗く見える。星の絶対的な明るさを示す方法として，星が10パーセク*(32.6光年)の距離にあるとき何等級の明るさをもつかによって絶対等級を定義する。太陽の絶対等級は4.7等，シリウスは1.4等である。

ぜったいねんだい【絶対年代】放射性元素は崩壊して安定な元素に変わるが，その速度は外界の条件に無関係で，つねに一定の法則に従っているのを利用して，鉱物・岩石・化石などが，いまから何年前にできたかを測定した値。地質学的あるいは考古学的な方法で判断した新旧関係が相対的な時代区分であるのに対する語。ウラニウム—鉛，カリウム40—アルゴン40，炭素14—窒素などの間で利用する方法が現在絶対年代測定の代表的なものとされている。ウラニウム238の100万gからは1年間に7,600分の1の鉛206を生じる。

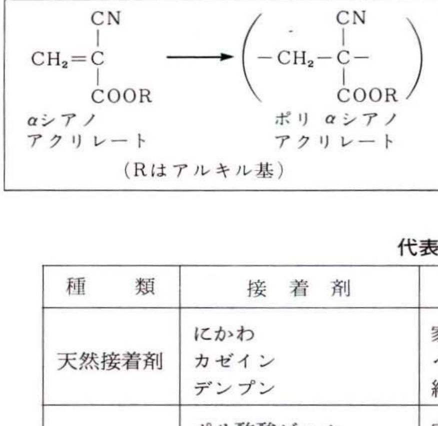
ウラニウム238の半減期は45億年で，これでは比較的古い年代のみしか測定できないので，若い年代の測定には炭素14(半減期5,700年)が使われる。 〔平山　健〕

ぜったいへいき【絶対兵器】水素爆弾を弾頭に装置したICBM*。これに対応する有効な防御手段がなく，しかもそれによる被害は人類の壊滅をもたらすほど悲惨，かつ絶望的であるということから絶対兵器とよばれる。究極兵器・最終兵器ともいう。

ぜったいれいど【絶対零度】絶対温度目盛り*の0°K。摂氏温度目盛りの−273.16℃にあたる。熱力学によれば，絶対零度に到達することはできない。いいかえると，自然界では，絶対零度以下の温度はありえない。また，熱平衡状態にある物体のエントロピー*は絶対零度に近づくにつれて，0に近づく。このことは，絶対零度において物体のとりうる微視的状態はただ一つであることと対応している。

せっち【接地】⇒アース

せっちゃくざい【接着剤】二つの物体を接合するために用いる物質。接着する二つの物質の種類によってさまざまなものが用いられる。一般に，接着剤に必要とされる条件は，①物体の表面に塗布するときには十分に流動性をもっていて物体表面が接着剤によってぬれること，②接着後はその流動性を消失して固化すること，である。



(Rはアルキル基)

〈種類〉上記の条件を満足させる方法によって接着剤を分類すると，①まず高分子*化合物を溶剤にとかしておき，接着後溶剤の揮発によって流動性の消失と固化を起こさせる型(溶剤接着剤)，②高温で流動性のあるものを低温で固化させる型(熱感接着剤)，③液状の低分子化合物を重合*により固化させる型(反応接着剤)，④圧力を与えると流動性を生じ圧力を除くと固化する型(圧感接着剤，いわゆる粘着剤)などに分かれる。また天然接着剤と合成接着剤とに分けることもできる。前者には木材接着用のニカワ・カゼイン，皮革・紙などの接着に使われるデンプン・天然樹脂(アラビアゴム*など)，また，生ゴム*を溶剤に1～10%程度にとかしたゴムのりなどがあり，後者には，ポリエチレン*・ポリプロピレン*・ポリエステル*など一部を除いたほとんどすべて合成樹脂・合成ゴムが含まれる。これらは熱硬化性合成接着剤(フェノール樹脂*・メラミン樹脂*・尿素樹脂*・ポリエステル樹脂・エポキシ樹脂*など)，熱可塑性合成接着剤(ポリ酢酸ビニル*・ポリビニルアルコール*，ポリ塩化ビニル*・ポリアクリレートなど)，および合成ゴム接着剤(NBR*・ネオプレンゴムなど)などに細分される。また，接着・固化に必要な温度によって常温硬化接着剤(20～30℃で固化)，高温硬化接着剤(30℃以上で固化)の2種に分けることもできる。近年注目されている合成接着剤に熱可塑性・常温硬化接着剤の α-シアノアクリレートというのがある。これは液状の単量体であるが，接着面に塗布すると空気中の水分によって直ちに重合*し，高分子化合物*となって固化する。接着に要する時間が数十秒～数分の程度ときわめて短いのが特徴で，工業・医療用などに利用されつつある。〈用途〉代表的な接着剤の用途は下表のとおりである。 〔伊藤　卓〕

せっちゅうしゅぎ【折衷主義】一般には，いくつかの相異なった思想や学説から

代表的接着剤の用途

種　類	接　着　剤	用　途
天然接着剤	にかわ カゼイン デンプン	家具・楽器・サンドペーパー ベニヤ板・家具 紙箱・紙袋・製本・カバン・ラベル・壁紙
熱可塑性合成接着剤	ポリ酢酸ビニル ポリビニルアルコール シアノアクリレート	家具・建具・製本・カバン・土木 カバン・壁紙・壁塗料 各種工業(ガラス・金属・プラスチック)
熱硬化性合成接着剤	尿素樹脂 メラミン樹脂 フェノール樹脂 エポキシ樹脂	ベニヤ板・家具・合板・運動用具 耐水ベニヤ板 耐水ベニヤ板・研摩砂 各種工業(ガラス・金属・陶石・石・コンクリート)
合成ゴム接着剤	ネオプレン NBR	自動車・土木 鉄道・自動車

最も正しいと思われる点や共通な部分だけを選び取り，それを妥協的にまとめあげる方法や考え方をさす。またこのような方法でまとめられた思想・学説・学派をさすこともある。哲学史の上では，古代末期のキケロや新プラトン派のほか，近世のライプニッツやウォルフらもこの傾向をもつといわれるが，特に折衷主義の典型とされるのは，19世紀フランスの哲学者クーザンとその一派である。キリスト教思想においても東西教会の合同や新旧諸派の統合を試みたいくつかの例が知られる。折衷主義の語にはやや軽侮の意味が含まれるが，非難の意味を強調する場合には〈折衷主義〉に対して〈混合主義〉の語を用いることが多い。〔本橋正義〕

せっちょうじゅうけん　【雪竇重顕】（980～1052）　中国，宋（そう）代の禅宗の僧。明覚大師と号す。雲門宗中興の祖。智門光祚（ちもんこうそ）の法を継ぐ。語録に集められた話を公案化し，100の古則を詩偈（しげ）でまとめた《雪竇頌古（じゅこ）》を著わした。これに圜悟克勤（えんごこくごん）が評唱して《碧巌録（へきがんろく）》となし，臨済宗の根本聖典の一つとなる。重顕の住した江南の風光と詩と禅はよくとけあって宋代の禅文学を生み，日本にも影響を与えた。ほかに《語録》《祖英集》がある。〔石井修道〕

せっつ　【摂津(国)】　大阪府の北西部と兵庫県の南東部にまたがる旧国名。摂州。大和（やまと）・山城・河内（かわち）とともに畿内（きない）4国の一。いわゆる難波津（なにわづ）(現在の大阪港)を控えて古来津国（つのくに）といい，凡河内国造（おおしこうちのくにのみやつこ）の治下にあったが，律令（りつりょう）制下には特殊な行政地域として一般の諸国とは異なる摂津職（せっつしき）が置かれた。もと住吉（すみよし）・百済（くだら）・東生（ひがしなり）・西成（にしなり）・島上（しまのかみ）・島下・豊島（てしま）・河辺（かわべ）・武庫・有馬（ありま）・兎原（うはら）・八部（やたべ）・能勢（のせ）の13郡で，現在は大阪・豊中（とよなか）・池田・高槻（たかつき）・神戸（こうべ）・尼崎（あまがさき）・芦屋（あしや）・宝塚（たからづか）などの16市と大阪府の豊能（とよの）・三島郡，兵庫県の川辺郡の3郡に分かれる。国府・国分寺はともに現在の大阪市内。仁徳（にんとく）・孝徳両天皇の皇居が置かれ，聖武（しょうむ）天皇も一時ここに都したことがある。793年(延暦12)摂津職をやめて摂津国(訓は（つのくに）が正しい)とし，1180年(治承4)平清盛が当国福原(神戸市)に遷都したことは有名。鎌倉時代には長沼・安達（あだち）・北条（ほうじょう）の諸氏，室町時代には赤松・細川の諸氏が守護となったが，戦国時代にはいると石山本願寺による一向宗徒と織田信長（のぶなが）が連年抗争し，大いに乱れた。しかしやがて豊臣秀吉（とよとみひでよし）がその故地に大阪城を築いて天下に君臨した。豊臣氏滅亡後大阪を幕府直轄とし，周辺に尼崎・三田（さんだ）・高槻・麻田などの小藩を分封した。廃藩置県後はこれを大阪府として現在に及んでいる。〔黛　弘道〕

せっつ　【摂津(市)】　大阪府の中北部，大阪市北隣にある市。人口79,000。1966年(昭和41)三島郡三島町が単独で市制施行。淀（よど）川下流西岸の沖積地（ちゅうせきち）に位置し，産業三大別人口比は1：42：57。昭和初期までは水田が広がる農業地域であったが，最近水田は減少して，ナス・パセリなどの近郊野菜の栽培が盛んである。また，多くの工場が進出して，大阪北部内陸工業地域の一角を占める。淀川河畔には東海道新幹線の鳥飼（とりかい）操車場があり，付近にはトラック会社や倉庫が集まって，大阪の新しい運輸交通の中心地として発展している。東海道本線・京阪神（けいはんしん）急行電鉄京都線・中央環状道路が通じ，鉄道沿線各駅付近はアパートを主とする住宅地化が進んでいる。

せつどう　【摂動】　頂点または天体の運動を支配する作用が，運動のだいたいを定める主要部分とそれに小さな攪乱（かくらん）を与える部分とに分かれるとき，後者を摂動という。摂動を扱う理論を摂動論と名づけ，天体力学において重要な理論である。太陽の引力に支配される惑星・小惑星・彗星（すいせい）の運動ではすぐ隣の惑星とか木星による引力が摂動を与え，また地球の回りを公転する月や人工衛星の場合，前者では太陽の引力が摂動を与え，後者では地球が完全な球でないことが摂動を与える。惑星・小惑星・彗星・月・人工衛星は摂動がないときケプラーの法則に従って運動し，軌道要素は一定であるが，摂動が加わると軌道要素は時間とともにゆるやかに変化する。このとき，時間とともに増加または減少するものを永年(または長年)摂動，周期的に変動するものを周期摂動とよぶ。〔木下　宙〕

せっとうご　【接頭語】　造語成分の一類。接頭辞ともいう。単語の前について，ある付属的な意味を加え，全体で別な単語をつくるもの。現代日本語における例としては，〈おやさしい・ご理解・み心〉〈まっさお・すっぱだか・こしゃく〉〈はつ登庁・ともぐい〉〈とり調べる・ひっつかまえる〉など和語系のものよりも，〈不親切・非合理〉〈総あたり・新政府・大事件〉など漢語系のもののほうが活発にいろいろな語と結びつく傾向がある。接頭語がついても，ほとんどの場合もとの語の品詞性は変わらない。〔西尾寅弥〕

せっとうざい　【窃盗罪】　他人の財物を窃取する罪。10年以下の懲役に処され，未遂罪も罰せられる(刑法235条・243条)。他人の財物とは，他人の所有する財物のことで，だれの所有にも属しないもの(無主物)をとっても，窃盗罪にはならない。自己の財物であっても，質入れして他人の手もとにある場合，これを窃取すれば窃盗罪となる。土地・建物の窃盗については，別に不動産侵奪罪(刑法235条ノ二)があり，電気も財物とみなされ，窃盗罪となる(刑法245条)。窃取とは，占有者の意思に反して，その占有を排除し，自己または第三者の占有に移すことをいい，その手段方法のいかんを問わない。すり・万引き・置き引きなども窃盗罪である。〔井上公耳〕

せっとうせん　【薛濤箋】　中国，唐代の蜀（しょく）(四川省)の名妓（めいぎ），薛濤（768～831)のつくった箋(詩などをしるす紙片)。深紅色をしている。元和の初め(806)薛濤は好んで小詩をつくり，それをしるすのに，その趣味にかなった松花箋の幅を狭くして小箋にし，蜀の名士たちとの詩の贈答にあてた。薛はのち成都の浣花渓（かんかけい）の万里橋のほとりに隠栖（いんせい）したので，この箋をまた浣花箋ともいう。

ゼットこう　【Z項】　地球自転軸の移動(極運動)以外の原因による緯度変化の成分をいう。1902年(明治35)緯度観測所の木村栄（ひさし）によって発見されたが，その原因についてはまだよくわかっていない。

せつどし　【節度使】　中国，唐・五代の軍団の司令官。〈節度〉は軍の指揮・命令を意味する。藩鎮ともいう。府兵制度の崩壊後，辺境防備の任にあたるものとして配置されたが，安史の乱以後内地に置かれたので，しだいに地方の軍政・民政を掌握するようになり，土豪と結んで軍閥割拠の形成を招き，五代王朝成立の基盤をつくった。その数は，唐代で40～50，五代で30～40前後。

ゼットディーうんどう　【ZD運動】　ZDはzero defectsの略称。従業員各人の注意とくふうとによって仕事の欠陥をゼロにしようとする運動をいう。労務管理上の問題として，従業員ひとりひとりに正しい仕事をする動機づけ・自意識をもたせることを主眼として，その結果，商品やサービスの信頼性を高め，コストを低減させ，顧客に満足を与えるという観点にたつ。この管理技法の特徴は，従業員各人が運動の推進役となっている点にあり，特定の目標を達成した場合には表彰という方法が採用される。〔清水　晶〕

せっぱ　【浙派】　中国，明（みん）代絵画の一流派。浙江（せっこう）出身の戴進（たいしん）とその様式を継承した画系をいうが，現在は画風上の概念をさす。宋（そう）以来の北宗画による山水画風を明代画院を継承した戴進・呉偉らの画風が勁鋭（けいえい）さを加え，画院画風そのものを新体に変えたのがはじまりである。この画風は張平山・蔣嵩（しょうこう）らに受け継がれたが，鋭く雄抜で覇気（はき）のある代わりに，宋元画のような蒼古（そうこ）な風格はなく，やがて狂態・騒狂といわれる傾向に陥った。そのうえに，呉派を中心とする文人画家らが元末四大家(黄公望・王蒙（おうもう）・倪瓚（げいさん）・呉鎮)の流れを汲んで南宗画風を盛んにし，尚南貶北（しょうなんへんぼく）論を唱えて浙派を攻撃したので，浙派はし

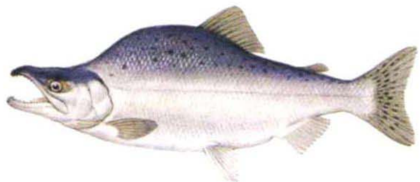
だいに退潮し，嘉靖(かせい)ごろ(16世紀半ば)には画派としては終息した。〔中島純司〕

せっぱります【背張鱒】硬骨魚類・サケ科。カラフトマスともいう。体は長楕円(ちょうだえん)形で，側扁(そくへん)する。口が大きく，歯は鋭い。うろこは円鱗(えんりん)で小さい。産卵期になると雄は吻(ふん)が突出し，前背部が著しく張り出し，せむし状になる。体長は約50cmどまりで，サケ・マス類中では小形の種類。体背部は青黒色，腹部は銀白色で背面・脂(あぶら)びれ・尾びれにやや大きな黒斑(こくはん)を散らす。繁殖期には紅色をおびる。北洋に広く分布し，北海道・サハリン(樺太(からふと))・朝鮮東岸・沿海州やカリフォルニア州以北の北アメリカ太平洋岸に分布し，いくつかのグループに分かれて，それぞれ固有の水域を回遊していると思われる。夏から秋にかけて川をさかのぼり，下流域に産卵する。孵化(ふか)した稚魚は海に降って成長し，生後15か月で生まれ故郷の川にもどり，産卵・放精後死ぬ。北洋や北海道の沖合いなどで盛んに漁獲され，北洋のサケ・マス類中では本種が圧倒的に多い。主として塩蔵品・かんづめにされる。〔菅野　徹〕

せつびかんり【設備管理】生産活動に使用される設備についてなされる管理をいう。設備調達管理と設備保全がその内容であり，設備は工場資産の重要部分を占めるので調達は計画的・体系的に行なう必要がある。設備保全とは建物や機械などの諸設備が最適な条件のもとで操業されるように管理することである。主要職務は設備計画，設備調達，設備の新設と更新，設備の検査と修繕などで，機械や設備が性能低下あるいは故障する以前に，計画的に管理する予防保全，さらに生産保全へと発展していく。

せつびご【接尾語】造語成分の一類。接尾辞ともいう。単語や語根のあとについて，新たな語をつくりだす。その語の品詞は接尾語によって決定される。現代日本語の例をあげると，①名詞：〈歯医者さん・田中くん〉〈あなたがた・わたしたち〉〈はつか・三つ・2本・5枚・10匹〉〈広さ・あたたかみ〉〈売り手・ありかた〉，②形容詞語幹：〈寂しそう・楽しげ・のびやか〉，③形容詞：〈水っぽい・人間らしい・丸っこい〉，④動詞：〈寒がる・通人ぶる・所帯じみる〉などがある。〈科学的・人間性・マンモス化・たちの・き料〉など，漢語系で活発に語を生産するものも多い。〔西尾寅弥〕

せつびしきん【設備資金】土地・建物・機械など企業内において，長期の使用に耐える固定設備の新規購入・拡張および改善に用いられる資金をいう。いわゆる運転資*金に対立するものである。設備資金は売り上げ収益から回収される点では運転資金と同じであるが，運転資金が短期間に回収されるのに対して，これは投下された設備の減価償却を通じて長期間にわたって回収さ



セッパリマス



節　分　例年10万人以上の人でにぎわう東京浅草寺の豆まき風景



セツブンソウ

れるところに特質がある。このように設備資金は回収に長期間を要するので，一般には，企業の自己資金，つまり株式の発行によって調達された資金や，利潤の一部を留保・蓄積して調達された資金，あるいは社債の発行や金融機関からの長期の借り入れによって調達された他人資金などがこれにあてられる。特に日本の場合，設備資金の借り入れ依存が顕著である。〔山桝忠恕〕

せつびとうし【設備投資】工場などの建物および機械・設備に対する投資をいう。設備投資は生産能力に直接関係するものであり，また技術進歩はこれを通じて具体化されるという意味でとりわけ重要性をもつ。他方，諸設備は耐久性をもっているから，その消耗とその更新に関係して有効需要の増大をよび起こすなど，経済の安定および成長に多大な影響を及ぼす。

せっぷく【切腹】自分で腹を切り裂いて死ぬことで，割腹・屠腹(とふく)ともいい，外国にも〈ハラキリ〉として知られた日本独特の習俗。本来は武人がおのれの勇気を誇示するための行為と思われるが，平安末期から武士の自殺の典型的方法としてしだいに広く行なわれ，立ったまま切る立ち腹，切り口から腸をつかみ出す無念腹というものまであった。室町時代には自殺としての行為のほか，刑罰の一として扱われるようになった。江戸時代の切腹刑は武士にとって斬首(ざんしゅ)よりは名誉とされ，武士の作法礼式が整うにしたがって切腹にも一定の作法ができたが，しだいに形式化して実際には斬首と同じものになった。この刑罰は明治維新後に廃止された。〔岡山泰四〕

せつぶん【節分】立*春の前日をいい，旧暦では元日から7日正月までの間に，新暦では2月3～4日ごろにあたる。節分の夜の行事で一般的に行なわれるのは，年男が〈福は内，鬼は外〉と唱えながら豆をまく鬼打ちの習慣である。最近では都市の社寺に名士や芸能人を年男に頼んで豆まきをする風が流行しているが，鬼打ちの所作を演ずる社寺の追*儺(ついな)行事の起源は平安時代までさかのぼり，中国の儺祭の影響が認められる。一方，家庭行事としての豆まきのほうは，必ずしも節分とは限らず，12月のすす払*いの日，大晦*日(おおみそか)，7日正月などに行なう地方もある。節分を節がわり・年越し・年とりなどとよぶ地方があるように，これが一種の正月であり，新しい季節を迎えるにあたって災厄(さいやく)・邪気を払う呪法(じゅほう)であったことがわかる。またこの日，〈やいかがし〉といって，戸口に焼いたイワシの頭やヒイラギの枝をさし，臭気をかがせ邪気を退けるという風習は全国的で，これにニンニク・ネギ・毛髪などを添える土地も多い。ヤイカガシという名称は，焼いた臭気をかがせることによって邪気を退けるという意味である。またトベラなど，音を立て臭気を発する木を燃して，害虫の口を焼き封ずる呪法も，各地で行なわれている。〔直江広治〕

せつぶんそう【節分草】双子葉植物・キンポウゲ科。林の下草として自生する多年草。高さ12～15cm。葉は羽状に分裂する根生葉で，長さ3～6cm。3～4月，白色の5弁の小さな花をつけるが，これは花弁ではなくがく片で，花弁は退化している。球状の塊茎を地下にもっているのが特長である。

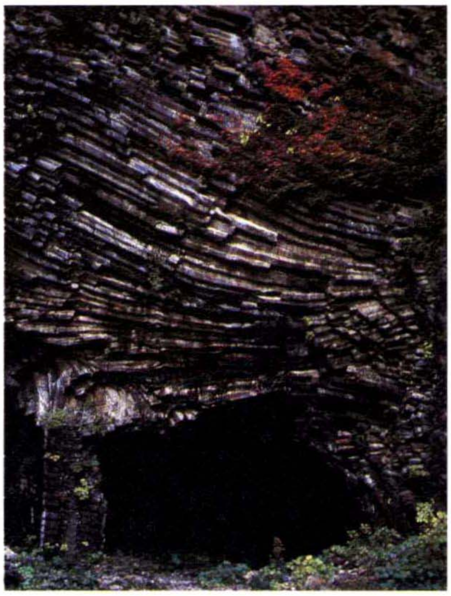
ぜつめつちょう【絶滅鳥】すでに死に絶えた種類の鳥。広義には始祖*鳥以来1億5,000万年の間に絶滅した種のすべてを言うが，普通は人類の記録以後に絶滅した種のみをさし，それ以前に絶滅したものは化石鳥とよぶ。しかし，その境界はあいまいであり，一般には1650年ごろを境にする。およそ100種が知られるが，大陸や大陸島のものは7種にすぎず，ほとんどすべてが大洋の小島の鳥である。また，絶滅年代のわかっている約60種のうち，およそ40種が1820～1920年の100年間に，さらにそのうち約20種は1885～1905年のわずか20年間に絶滅している。絶滅原因のほとんどすべてが直

接・間接に人類によるものである。著名なものは，リョコウバト(北アメリカ 1914)・カロライナインコ(北アメリカ 1914)・オオウミガラス(北大西洋 1844)・カンムリツクシガモ(極東 1916)などである。日本の近くでは，小笠原(おがさわら)諸島で3種が絶滅している。〔浦本昌紀〕

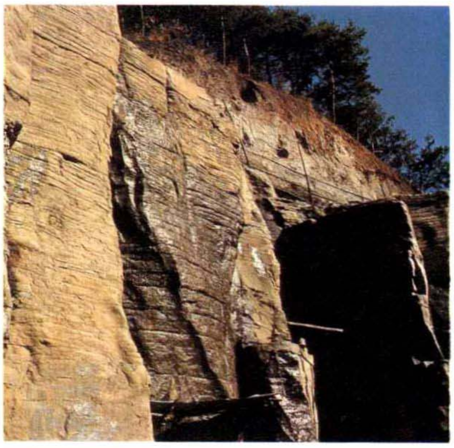
せつもんかいじ　【説文解字】　後漢の許慎が編した漢字についての最も古い字書。もと15巻，各巻を上下に分けて30巻。98年になり，100年に和帝に献呈された。象形・指事・会意・形声および転注・仮借(かしゃ)の6種に分けて漢字のなりたちを解説し(→六書)，秦(しん)の篆文(てんぶん)を親字として9,353字をあげ，古文の異体字1,163字を添えた。一に始まり亥に終わる540部に分類してある。北宋(ほくそう)の徐鉉(じょげん)が校定して新付字を添えた〈校定説文〉(986年)を〈大徐本〉といい，その弟徐鍇(じょかい)が注を加えて〈説文繫伝(けいでん)〉40巻としたのを〈小徐本〉という。清朝(しんちょう)の段玉裁はこの両系統の本を校定して詳細な注を加え《段注説文解字》を著わし，朱駿声は上古音の体系に組みなおして《説文通訓定声》を著わした。上古漢語の研究には不可欠の書であるが，のちに発見された甲骨文字や金文の研究によってその誤りを訂正する必要がある。〔藤堂明保〕

せつようしゅう　【節用集】　室町時代の日常用語を収めた実用的な国語辞典。著者不明。成立は1469(文明1)～1487(長享1)のころといわれている。いろは順に部を分け，さらに各部内を言語・言辞・態芸など10数門に意義分類し，語の読みから漢字を求められるようにしてある。内容が理解しやすく，検索に便利であったので，室町末期から江戸時代を経て明治に至るまで版を重ね，《節用集》の語は〈辞書〉の代名詞のように使われた。

せつり　【節理】　火成岩の岩体の中にある割れ目のこと。火成岩が冷却するとき少し収縮するために生じたひび割れである。小さな岩脈では数センチメートル間隔で現われることもあるが，一般には数十センチメートルから数メートルの間隔で現われる。玄武岩の溶岩などに発達する柱状節理はみごとである。板状節理の例としては長野県の鉄平石などがある。また，カコウ岩のような深成岩では直方体状の節理がみられ，木曾(きそ)川の寝覚(ねざめ)ノ床のような風景をつくることがある。〔片山信夫〕



柱状節理(玄武洞，兵庫県豊岡市)



板状節理(長野県諏訪市福沢山)

節　理

セツルメント　［settlement］　一定地域に定着して，その地域の精神的・物質的生活の向上を図る社会事業およびその施設。19世紀にトインビーに影響されたケンブリッジ・オックスフォード両大学の学生が，労働者街に定住して社会活動を行ない，1884年ロンドンのイーストエンドにトインビーホールを設立したのが起源とされている。日本では，1897年(明治30)片山潜によって東京神田三崎町に設立されたキングズリーホールを中心とした活動が最初である。その後，1925年(大正14)に東京帝国大学セツルメントが設立されてから，学生を中心に全国に発展した。1955年(昭和30)全国大学セツルメント連合が結成され，現在に至っている。

せつわが　【説話画】　神話・伝説など説話を題材とした絵画。仏教関係では，仏伝・本生(ほんじょう)など釈迦(しゃか)の伝記を描いた作品をはじめ，寺院の縁起や高僧伝など種種にわたっている。また，そのほか民間の伝説や説話文学などに取材したものも多い。

せつわぶんがく　【説話文学】　ふつう，昔話・伝説・世間話などの口承文芸を説話とよぶが，このうち文学性の強いもの，あるいは文字化されたものを説話文学という。内容的には，世俗説話と仏教説話に大別される。日本最古の説話文学といえる9世紀の《日本霊異記(りょういき)》は，中国の仏教説話集の影響を深く受けたもの。その後《三宝絵詞(さんぼうえことば)》《打聞集(うちぎきしゅう)》など仏教説話や，有職(ゆうそく)故実の聞き書きである《江談抄(ごうだんしょう)》がある一方，12世紀には世俗説話・仏教説話を総合した内容をもつ《今昔物語集》《古本説話集》が現われた。ことに前者は，インド・中国の説話に取材したものを多く含み，文学的にもすぐれ，当時の人々の生活を如実に描き出していて，説話文学の最高峰に位置する。13～14世紀になると，《宇治拾遺物語》《十訓抄(じっきんしょう)》《古今著聞集(ここんちょもんじゅう)》などのすぐれた世俗説話，《宝物集》《発心抄》《沙石集(しゃせきしゅう)》など仏教説話が現われる。説話文学はこれら中世文学において黄金期をなし，数多くのすぐれたものを輩出，その後近世には仮名草子などに内容の面で受け継がれていく。〔田島　修〕

ゼーデルブルーム　［Nathan Söderblom］(1866～1931)　スウェーデンのプロテスタント神学者・宗教史学者。1893年に牧師となり，1901年からウプサラ大学の宗教史および宗教哲学教授，1912年にライプチヒ大学の宗教史教授，1914年ウプサラの教会監督を歴任。比較宗教史の領域における先駆的業績は高く評価されている。特に〈ライフ-アンド-ワーク〉運動を指導して世界的に活動し，教会合同に尽力して1925年のストックホルム世界教会会議を成立させ，1930年，ノーベル平和賞を受賞。主著に《神信仰の生成》(1914)がある。〔堀越知巳〕

せと　【瀬戸(市)】　愛知県中北部の市。人口11万8,000。わが国第1の陶磁器の産地。窯業の歴史は，鎌倉時代にさかのぼるが，19世紀初頭に加藤民吉が染付(そめつけ)磁器の製造に成功して以来急速に発展した。1929年(昭和4)市制施行。市域は濃尾平野東端に位置し，三方を山に囲まれた盆地にあり，瀬戸川が中央部に谷を刻む。産業三大別人口比は1：53：46。周辺山地に産する陶土を原料として陶磁器の製造が盛んで，食器・れんが・タイル・衛生器具などをつくり，生産物の約60％を輸出する。工場数は約1,200，その77％は陶磁器工場であるが，家内工業的な小規模な工場が市域内に分布しているため，近年大気や水の汚染が問題となっている。名古屋鉄道瀬戸線・国鉄バスによって名古屋市と約20分で結ばれ，その衛星住宅都市化の傾向が強まっており，住宅団地が造成されている。そのため人口増加が著しく，1970～75年の増加率は21.5％となっている。

せどうか　【旋頭歌】　古代和歌の一体。5音・7音の一連に7音を加え，これを2度くり返すもので，5・7・7，5・7・7の形をとる。6句からなるので六句歌ともいわれる。はじめ，片歌(かたうた)(5・7・7)による二人の唱和・問答から発し，しだいに自問自答の形でよむようになったものである。



瀬戸内海国立公園

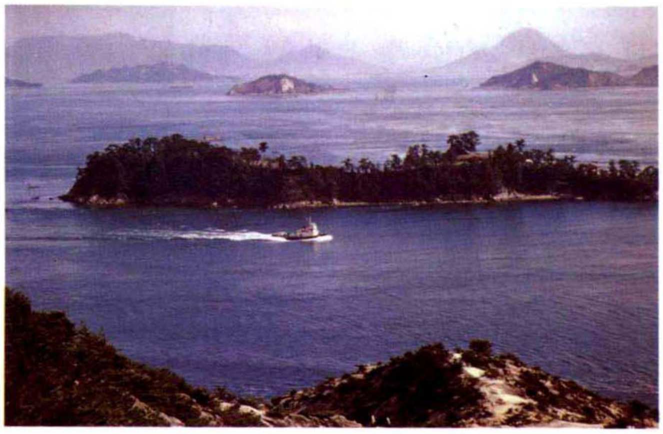
《万葉集*》に収められた旋頭歌は，古い時代のものが多く，大勢としては奈良時代までに短歌におされて影を潜めていった。

せとうち　**【瀬戸内(町)】**　鹿児島県大島郡の町で，奄美(あまみ)大島の南部と加計呂麻(かけろま)島・与路(よろ)島・請(うけ)島からなる。人口15,000。島はいずれも耕地に乏しく，サツマイモ・和牛・ブタがおもな産物で，また大島つむぎを産する。中心地区の古仁屋(こにや)は水陸交通の中心地で官庁の出先機関が置かれている。リアス式海岸とサンゴ礁の風景が美しく，瀬戸内海中公園に指定されている。

せとうちこうぎょうちいき　**【瀬戸内工業地域】**　中国地方の山陽地帯と北四国を含む瀬戸内地方に発達する工業地域で，岡山・広島・山口・愛媛・香川の5県にまたがる。工業地域は広域にわたっているが，阪神(はんしん)・北九州の2大工業地帯にはさまれて太平洋ベルト地帯の一環を構成しており，また，内海が交通路としての機能をもつので，各工業都市は互いに緊密に結びついている。特に盛んな工業は，岡山・倉敷・三原・今治(いまばり)・西条などを中心に行なわれる繊維工業，玉野・坂出(さかいで)・因島(いんのしま)・尾道(おのみち)・呉(くれ)・広島・下関を中心に行なわれる造船業，水島(倉敷市内)・岩国・大竹・新居浜(にいはま)・徳山を中心とする石油化学コンビナートで，さらに近年は水島・福山などに巨大な製鉄所も建設され，重化学工業部門の比率を増大させている。　〔高野　繁〕

せとぐちとうきち　**【瀬戸口藤吉】**　(1868～1941)海軍軍楽隊の代表的な音楽家。鹿児島県の生まれ。《軍艦マーチ》《愛国行進曲》を作曲するとともに，軍楽隊によって広く西洋管弦楽曲を日本に紹介した。また退官後は管弦楽指揮者としても活躍した。

せとだ　**【瀬戸田(町)】**　広島県豊田(とよた)郡の町。生口(いくち)島・高根島を町域とする。人口12,000。中心集落瀬戸田は生口島北部にあり，古くから瀬戸内海航路の要港であった。近年ミカンの栽培が盛んである。また西の日光とよばれる耕三寺*があり，観音山(472m)の内海展望とあわせ観光客が多い。



瀬戸内海国立公園　景勝の地鷲羽山から見た瀬戸内海。対岸にかすむのは四国の坂出市付近で，その間に塩飽諸島の島々が散在する

尾道(おのみち)・今治(いまばり)から定期船・水中翼船が，三原からフェリーボートが通じる。

せとないかい　**【瀬戸内海】**　単に内海とも称し，沿岸一帯の陸地をも含めて地理的に瀬戸内(せとうち)ともいう。中国・四国両地方にはさまれて，東は友ケ島水道(紀淡海峡)と鳴門(なると)海峡，西は関門海峡と速吸(はやすい)瀬戸(豊予海峡)の4瀬戸を外海との出入り口とする。東西約440km，南北20～55km，面積9,500km²に及び，平均の水深は20～40m。その間には島の多い海域と少ない海域とが交互に配置され，大小およそ3,000の島が散在する。大阪湾は和泉灘(いずみなだ)とも称し瀬戸内海の一部であるが，普通には淡路(あわじ)島以西をいう場合が多い。島および諸島には淡路島・家島諸島・小豆(しょうど)島・直島諸島・塩飽(しわく)諸島・備讃(びさん)諸島・芸予諸島(越智(おち)諸島)・防予(ほうよ)諸島などがあり，その間に和泉灘・播磨(はりま)灘・水島灘・備後(びんご)灘・燧(ひうち)灘・安芸(あき)灘・伊予(いよ)灘・周防(すおう)灘などがひらける。成因は中国と四国との間の陥没地に海水が進入したもので，西の阿蘇(あそ)火山を中心とする中九州の広大な火山地域から東の淀川低地，琵琶(びわ)湖を経て若狭(わかさ)湾(日本海)へ抜ける低地帯まで日本列島西半部を縦断する一大凹地(おうち)帯の主部をなす。多くの島々はかつての山頂である。沿岸は中国側は山陽地方で，四国側は中央構造線*以北の西南日本内帯に属する北四国であり，四国山地と中国山地とが南北を限るので，夏冬ともに湿気の多い季節風がさえぎられ，年降水量1,000mm内外で北海道を除いて最も雨の少ないいわゆる瀬戸内式気候を呈する。江戸時代から各藩の奨励によって盛んになった製塩業が，今日瀬戸内海地方に集中したのは，当時の入浜式製塩法では，潮の干満の差の大きいこと，雨の少ないことが好条件だったためである。政治・経済・文化の中心であった畿内(きない)と九州とを結んで，古くから海上交通が発達し，沿岸に多くの港町が発達した。沿岸漁業やハマチ・クルマエビ・カキ・ノリ・真珠などの養殖業が盛んである一方，島の多くは麦・サツマイモ・柑橘(かんきつ)類などのみごとな斜面耕作が発達している。沿岸一帯は風光にすぐれ，瀬戸内海国立公園*に指定された。

〔山口恵一郎〕

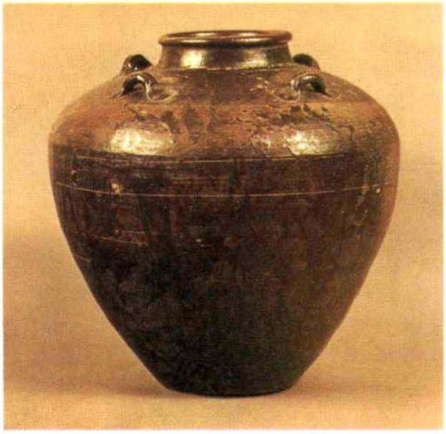
せとないかいこくりつこうえん　**【瀬戸内海国立公園】**　和歌山・兵庫・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・福岡・大分の9県にまたがり，瀬戸内海の一部の沿岸と海域および大小無数の島々を含む，面積631km²の地域。1934年(昭和9)にまず中央部の備讃(びさん)諸島一帯が指定され，その後1950年および1956年にそれぞれその他の地域が追加指定された。遠浅で白砂の海岸線や，無数の島々が展開する多島海の景勝地で日本で最大の海の公園として名高く，淡路島・小豆(しょうど)島などをはじめ，備讃諸島・塩

飽(しわく)諸島・芸予諸島・防予(ぼうよ)諸島など数百の島々がある。中でも小豆島から鞆(とも)の阿伏兎岬(あぶとみさき)に及ぶ付近は景勝地として知られている。小豆島は淡路島に次ぐ大きな島で，神懸(かんかけ)山の寒霞渓(かんかけい)には東渓・中渓・西渓などの景勝地がある。六口(むつくち)島の西端にある象岩や，白石島の鎧(よろい)岩の怪岩は天然記念物に指定されている。屋島の山頂には談古嶺(だんこれい)・獅子(しし)岩・遊鶴亭(ゆうかくてい)など屋島の三大絶景といわれる展望所があり，白峰山の五色台も雄大な展望地である。沿岸各地からの交通が便利で，関西汽船の瀬戸内海航路は阪神(はんしん)地方と北九州・別府間を結んでいる。〔木村東一郎〕

せとやき 【瀬戸焼】 愛知県瀬戸市およびその近傍で焼かれた窯芸の総称。瀬戸地方の本格的な開窯は鎌倉時代に藤四郎*がもたらした中国の陶法によるとされ，この時期には，特に古瀬戸とよばれている鉄質の褐釉(かつゆう)・灰釉系の黄釉をかけた本格的な施釉陶器を焼いて，他の諸窯に比して一頭地を抜いていた。遺例には瓶子(へいし)・水指(みずさし)・四耳壺(しじこ)・仏花瓶(けびょう)・狛犬(こまいぬ)などが中心で，上層の文化圏の需要にこたえた窯器と考えられ，そのせいか器形や文様に中国宋(そう)・元時代の影響が著しい。次いで，室町時代の作陶の傾向は，唐物(からもの)を珍重する茶の湯の流行によって，唐物茶器にならった天目*・茶入*・茶壺*(ちゃつぼ)などの焼成が隆盛したことである。〈祖母懐(うばがふところ)〉とよばれるいわゆるルソン壺をまねた茶壺は，以後の瀬戸陶の象徴的なものとなった。なお，室町後期に，瀬戸焼の中心が岐阜県東部の土岐市近傍に移ったため，瀬戸の地の窯業は衰退し，江戸時代になっても黄釉・褐釉に鉄絵を加えて清新な意匠のものもつくられたようではあるが，一地方窯にすぎなかった。しかし，江戸後期文化年間(1804～1817)はじめに名工加藤民吉が肥前(佐賀県)の有田磁器の焼製法を導入して再び活気を呈するようになった。この〈新製〉とよぶ新しい磁器とともに川本(かわもと)半助・加藤五郎などの名工が輩出し，磁器を主流とするわが国の代表的な窯場に大発展を遂げた。さらに，〈本業〉とよばれる従来の陶器の分野にも，加藤春岱(しゅんたい)らの工人が出て発展に力を尽くした。〔矢部良明〕

せなみおんせん 【瀬波温泉】 新潟県村上市浜新田にある温泉で，泉温70～105℃。泉質は弱食塩泉・食塩泉・含食塩硫黄(いおう)泉で，神経病・慢性湿疹(しっしん)・外傷などにきくといわれる。日本海に面する砂浜で，1904年(明治37)油田開発の試掘中に湧出(ゆうしゅつ)した。背後には松林の丘陵が広がり，遠く日本海上に粟(あわ)島や佐渡島(さどがしま)を望むことができる。羽越本線村上駅からバスの便がある。

ぜに 【銭】 中央に方孔のある円形の金属貨幣。日本では8世紀初頭の和同開珎*(わどうかいほう)をはじめとし，958年(天徳2)乾元(けんげん)大宝まで，いわゆる皇朝十二銭*があいついで鋳造されたが，普及度は低かった。平安末期以降，貨幣の需要が増大すると，宋銭(そうせん)・元銭・明銭(みんせん)が大量に輸入され，経済の発展を助けた。戦国時代には，各種の粗悪な私鋳銭も出回り経済を混乱させたので撰銭*(えりぜに)が行なわれた。豊臣(とよとみ)・徳川両氏による国内統一の結果，再び統一的な銭貨の鋳造が開始され，特に近世のそれは寛永通宝の名で幕末まで大量に生産された。〔黛　弘道〕





瀬戸焼
《黒釉四耳壺》 底裏に〈祖母カフトコロ永正九壬申卯月下旬賀藤兼景〉の刻銘がある　東京国立博物館蔵



ゼニアオイ

ぜにあおい 【銭葵】 双子葉植物・アオイ科。ヨーロッパ原産の二年草で，庭に植えられる。茎は直立し，高さ70～90cmに達する。葉は5～7裂する掌状葉で長さ20～30cmあり，互生する。6～8月，葉腋(ようえき)に淡紅色・深紅色・白色などの5弁花をつける。

ぜにがめ 【銭亀】 イシガメ*・クサガメ*の子の俗称。縁日などで売られ，愛玩(あいがん)用にされる。

ぜにごけ 【銭苔】 コケ植物・苔類(たいるい)・ゼニゴケ科。北半球に広く分布し，陰地の湿土上に群生する。葉状体は二叉分枝し，幅1～2cm。表面は緑色であるが下面は紫色をおびる。雌雄異体。雄株は高さ3～4cmの柄上に浅く8か所くびれる円板状の雄器床をつける。雌株は3～6cmの柄上に9～11個の指状突起を放射する雌器床をつける。葉状体の中央脈上に杯状体があり，中に扁平(へんぺい)な無性芽を入れる。➔コケ

ぜにざ 【銭座】 鋳銭座ともいう。江戸時代に銭貨の鋳造・発行をつかさどった機関。1636年(寛永13)幕府は寛永通宝を鋳造するために，江戸の芝・近江(おうみ)(滋賀県)の坂本に銭座を設けた。のち銭の需要増加により京都・佐渡(さど)・大阪などの各地に設置し，民間に鋳造・発行を請け負わせた。また鋳銭を希望する者には期限・鋳造額を定めて許可し，鋳造額に応じて運上*を上納させた。1745年(延享2)廃止。1765年(明和2)金座後藤庄三郎に命じて江戸の亀井戸(かめいど)に鋳銭定座を設置した。〔松尾　涼〕

ぜにたむし 【銭田虫】 小水疱性斑状白癬(しょうすいほうせいはんじょうはくせん)の俗称。➔白癬

ぜにやごへい 【銭屋五兵衛】 (1773～1852) 江戸末期の加賀(石川県)の豪商・海運業者。代々両替商*を業としていたが，父の代から海運業を営み，北前船*の活躍期にあって松前のコンブ・ニシンを輸入して巨利を得，天保(てんぽう)年間(1830～1843)藩の執政奥村栄実(ひでざね)に用いられて，藩の御用商人*として全国各地と通商。また対鮮・対露密貿易を行なった。加賀藩は多額の御用金を課してこれを黙認していたが，幕府から密貿易の疑いが及ぶのを恐れ，五兵衛が着手していた河北潟(かほくがた)干拓について住民の反対を取り上げ，彼を投獄，獄死させた。〔高崎徳次〕

セーニョボス ［Charles Seignobos］ (1854～1942) フランスの歴史家で歴史教育者として著名。リヨンの近くで代議士の子として生まれ，パリの高等師範学校を出たのち，ゲッチンゲン・ベルリンなどドイツの主要な大学に学び，ソルボンヌ大学の教授になった。おもな著書は《ブルゴーニュの封建制度》(1882)，《現代ヨーロッパ政治史》(1897)，《1848年の革命，第2帝政》《帝政の崩壊と第3共和政の設立》《第3共和政の進展》(以上3著共1921)。彼は独創的な研究者というより概説的な政治史家で，その《文明史》は広く読まれた。また歴史研究法にも関心をもち，ラングロワ(1863～1929)との共著《史学研究入門》(1898)はフランスの古典的な史学方法論の書として知られる。〔兼岩正夫〕

セーヌ(川) ［Seine］ フランス北部を流れる川。フランス東部のラングル高原西部付近に発し，北西流して，ブルゴーニュ・シャンパーニュ・イル-ド-フランス・ノルマンジーの各地方を貫流しイギリス海峡

に注ぐ。全長780km。流域面積77,800km²。中・下流は流れがゆるやかで，パリ盆地から下流は蛇行(だこう)が多い。古くから重要な水路で，河口から650km上流まで舟運の便があり，特に首都パリを中心とする交通路として重要である。また〈フランスの動脈〉ともいわれて沿岸の諸都市もセーヌ川との関係が深く，運河によってロアール川・ソーヌ川・ライン川・ムーズ川・ソンヌ川などと結び，内陸交通に大きな役割を果たしている。
〔大石堪山〕

セネカ ［Lucius Annaeus Seneca］（BC 4 ごろ～AD65） ローマの哲学者。修辞学者セネカの次男としてスペインのコルドバに生まれた。幼少年時代をローマで過ごし，哲学・修辞学を学んだ。特に哲学を愛好し，ストア哲学に大きな影響を受け，のちにそれを祖述し発展させた。財務官・元老院議員の要職についたが，41年クラウディウス1世のとき，陰謀のかどによりコルシカ島へ流された。9年ののち許され，帝の養子ネロの教師に任ぜられた。ネロ帝の後年の所業に失望し官を辞したが，65年元老院議員ピソの謀叛に連座したかどにより，ネロ帝から自殺を強要され，命を絶った。哲学者として生き方にはいろいろ批判があるが，その文章は中世を通じて広く読まれ，大きな影響を与えた。《対話集》12巻，《自然研究》8巻，書簡124編，悲劇9編などがある。
〔広川洋一〕

セネガ ［Senega］ 双子葉植物・ヒメハギ科。北アメリカ原産の多年草。大きな塊状の根から高さ20～30cmの分枝しない茎を数本出す。葉は披針(ひしん)形で互生する。6～8月，茎頂に小さい花が長さ2～4cmの穂状につく。果実は朔果(さくか)で，黒色，楕円(だえん)形の種子を入れる。変種に，葉がセネガに比べて広いヒロハセネガがあり，セネガとともに根にサポニン配糖体のセネギンを含み，去痰(きょたん)薬として用いられる。日本産のヒメハギ・カキノハグサと同属である。

セネガル(共和国) ［Republic of Senegal, République du Sénégal］ アフリカ大陸西部，大西洋に面し，フランス共同体に属する共和国。面積19万6,192km²。人口566万(1978年推)。首都ダカール。

〔自然・住民〕 アフリカの西端に位置し，国土は高原状で，内陸はサハラ砂漠(さばく)に連なる乾燥地域のため，気候はきびしい。しかし海岸部は，沿岸を南下する寒流の上を吹く海風で暑さが柔らげられ，熱帯の中では涼しい。住民はスーダン系黒人と白人系のムーア人，ベルベル人からなる。宗教はイスラム教を信仰する者が多く，公用語はフランス語。

〔産業・経済〕 国土は，比較的狭いが，産業面では充実している。19世紀の初め，フランスは西アフリカに植民地を建設するに際してここを根拠地とし，また，アフリカ第一のラッカセイ生産国とした。今日では世界的な生産地となっている。リン・金・鉄・マンガンの埋蔵もあるが，開発は進んでいない。首都ダカールにはラッカセイの大製油工場があり，港はアフリカ最大のラッカセイ輸出港となっている。

〔歴史・政治〕 19世紀のはじめフランスはここをアフリカで最初の植民地として経営を開始し，しだいに西アフリカを支配していった。1833年，ダカールをはじめ主要四都市の住民にフランスの市民権を与えた。以来，フランス領西アフリカの独立運動はセネガルを中心に進められた観がある。1946年黒人政治家ラミネ-ギュイエはフランス社会党と結んでラミネ-ギュイエ法をフランス国会で成立させた。これはすべてのフランス植民地の住民に，フランスの市民権を与えることを定めたもので，1958年には〈アフリカ再建党〉が発足して，フランス本国とは別にアフリカ人の議会と政府をも



セーヌ川 パリ近郊を流れるセーヌ川。船が行きかい，河岸には埠頭をもつ工場も立っている



セネガ ヒロハセネガ





セネガル 首都ダカールの港。海上・陸上交通の要衝で，西アフリカ内陸部への入り口でもある。埠頭に停泊中の船はフランスの貨物船



セネガルの国旗 1960年制定。マリ連邦当時は中央にデザイン化した黒人像が描かれていたが，同連邦の解消で現在の旗になった。赤・黄・緑の3色は1960年代初頭に独立したアフリカ諸国の国旗に共通の色で，将来の統一を象徴しているとともに，緑は農業，黄色は富，赤は独立のために流された血を表わしている



この国の主要輸出品であるラッカセイの収集場(カオラク)。山積みにされたラッカセイはコンベヤーで貨車に積み込まれる

つことを本国に要求するようになった。その結果フランス政府はアフリカ植民地の独立を認めざるをえなくなり，1960年6月セネガルは現在のマリ共和国とともにマリ連邦として独立した。しかし産業の進んだセネガルと，遅れたマリとは利害が一致せず，同年8月には分離してセネガル共和国となった。一院制の議会をもつ。〔小栗　宏〕

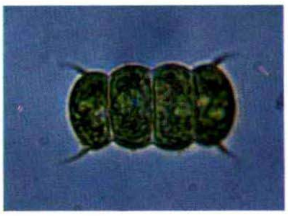
セネガル(川)　［Sérégal］　アフリカ西部にある川。ギニア共和国のフタジャロン山地に発し，北西流してセネガル共和国のサンルイ付近で大西洋に注ぐ。全長1,630km。流域面積440,500km²。8月から11月中旬までの高水位期には，河口から約1,000kmまで航行できる。7月から翌年の1月までは河口から840kmのマタム(セネガル)までさかのぼることができ，220kmのポドルまでは年間を通して舟運がある。大西洋岸から西アフリカ奥地へ至る重要な交通路で，1818年にフランス人のガスパール-モリュが探検した。近年は灌漑(かんがい)用水源としても重要視され，沖積(ちゅうせき)平野ではイネを栽培している。〔大石堪山〕

ゼネスト　［general strike］ゼネラル・ストライキの略称。主要産業の労働者が共同し，全国的または広い地域にわたって同時に行なうストライキ*。わが国では，1952年(昭和27)の労闘スト，1960年の安保条約反対ストがゼネストとしての規模で行なわれたが，1952年緊急調整制度が設けられたことにより，実質的には禁止されている。

セネストパチー　［Cenestopathie］　体感症あるいは体感異常のこと。人間はおのおの自分の身体についてのイメージや内的身性感覚をもっているが，この身体感情にはなはだしい異常をきたした場合をいう。たとえば，脳がふくらんだり縮んだり，胃腸がよじれたり，性器にいたずらをされているように感じたりする場合がある。神経症*・精神分裂病・脳疾患などでも現われるが，この異常体感を唯一の症状とし，分裂病との区別のつけがたいものもある。

セネデスムス　［scenedesmus］　緑藻(りょくそう)類・セネデスムス科。淡水に広く分布し，植物プランクトンの主要な構成生物である。長楕円(ちょうだえん)形あるいは紡錘形の細胞が，4～8個長側面で平面的にくっついて定形群体をつくる。ふつう10～60μ。細胞にはしばしば細いとげがあるが，群体両端のとげは特に長いことが多い。有性生殖は知られず，1細胞が2～32個の胞子をつくり，これがくっつきあって子の群体をつくる。また，2べん毛の遊走子もまれにみられる。

ゼネラル-エレクトリック　［General Electric Co.］　略称GE。世界最大の電気機器メーカーで1892年創立。前身は1882年に発明王エジソンの技術に，金融王モルガンが資金を出して設立したエジソン-ゼネラル-エレクトリックである。おもに重



セネデスムス
顕微鏡写真
(×600)

電機器・家庭用電気機器・制御装置をつくり，そのほかに半導体・化学品・原子燃料なども製造する。コンピューターや工程制御装置は鉄鋼界に大きく貢献している。発電機では大形蒸気タービンの売上高が伸び，原子力発電も開発され，実験高速原子炉や原子力発電所もある。軍需面ではターボ・ファンエンジンなど対潜戦闘機などを開発，また政府から超音速輸送機の発注を受け，この部門の研究開発を進めている。日本ではソニーをはじめ多くの会社が技術導入を行なっており，特に東京芝浦電気の第1株主は当社で，古くから出資を受け，合弁会社東芝エレクトロニック-システムズ(株)を設立している。本社ニューヨーク。年間売上高87億3,000万ドル(1970)。〔氏家　尚〕

ゼネラル-ダイナミックス　［General Dynamics Corp.］　政府からの発注が83%にも及ぶアメリカの軍需会社。生産物の内訳は航空機49%，ミサイルや軍用電子機器12%，船舶16%，宇宙船など16%。残りの17%が民需生産で骨材やコンクリート製品，石炭・石灰製品などを製造。航空機の開発は盛んで，海軍機F-111Bは，広い速度範囲，飛行距離，短い離着陸距離，精密な火器送達，昼夜全天候目標侵入など，この分野では最高のものである。船舶は潜水艦・軍艦に弾道ミサイル発射装置や原子力機関をつけた改造型が多い。イギリス・オーストラリア・ノルウェー・カナダ政府からの発注も多い。本社ニューヨーク。年間売上高22億2,000万ドル(1970)。〔氏家　尚〕

ゼネラル-フーズ　［General Foods Corp.］　アメリカの大手食品メーカー。インスタントコーヒー〈マックスウェル〉はじめ，冷凍食品・コーンフレーク・デザート・飲料をおもにつくる。コーヒーではアメリカではじめて冷凍乾燥コーヒー〈マキシム〉を増産販売し，その後も開発を進めている。そのほか，各種のインスタント食品の開発にも成功。国外に30以上の工場をもち，海外市場での売上高は全体の15%以上になっている。日本には1954年(昭和29)支社を設立，コーヒー・ルーミック・プディングの生産販売をしている。果汁(かじゅう)飲料〈バイヤリース-オレンジ〉は朝日麦酒(株)を通じて販売されている。本社ニューヨーク州ホワイトプレインズ。年間売上高20億3,000万ドル(1970)。〔氏家　尚〕

ゼネラル-モーターズ　［General Motors Corp.］　略称GM。世界第1位のアメリカの自動車メーカー。世界最大の企業でもある。1908年にW. C. デュラントが設立，発足と同時にビュイック-モーター・オールズ・オークランドなど25社を吸収，1918年にはシボレー社を買収，吸収している。その後，自動車産業の成長とともに急速に発展し，1928年以降フォード社に代わって自動車業界の首位に立った。現在，業界第1位の車種シボレー，第3位のポンティアックのほか各種の自動車を製造，ほかにジェットエンジン・ディーゼル機関・機関車・軍需宇宙用電子機器・家庭電機製品なども生産している。アメリカ国内に127の工場をもつほか，世界20余か国に進出しており，主要各国の市場占有率は，本国で55%，ドイツ20%，イギリス13%，オーストラリア34%で，ほかにカナダなどでも販売台数がふえつつある。宇宙関係の研究開発も盛んで，アポロ無人宇宙船の誘導・航行装置をつくったり，サタンIIIブースタの誘導装置を製造するなど，宇宙開発に活躍している。わが国ではいすゞ自動車が提携関係を結んでいる。本社デトロイト。年間売上高632億2,110万ドル(1978)。〔氏家　尚〕

セノイぞく　**【セノイ族】**　サカイ族ともいい，セマイ・プレ・テマなどの種族からなる。マラッカ中央山岳地帯の原始林およびスマトラのシアク平原海岸部に居住する。ネグリト族の一でセイロンのウエッダ族に近似。狩猟・採集を生業とし，古いオーストロ-アジア語を話す。人口約10,000人。

セーのほうそく　**【セーの法則】**　〈供給はそれみずからの需要をつくりだす〉というセー*の主張した命題をいう。この法則にはいわゆる古典学派*の根幹となる若干の重要な含意ないし帰結が含まれている。まず，供給されたものにはつねに需要があるということであるから，社会全体として一般的な供給過剰は生じえない。したがってそのような事情のもとでは社会の利用可能な人的物的資源の完全雇用がつねにおのずから実現することになる。また，このようにつねに完全雇用が実現されると考えられたのは，貯蓄は必ず投資されること，そして利子率がこの貯蓄と投資を等しくする調整作用を行なうと考えられたからである。のちにケインズが貯蓄と投資とはその主体および目的が異なるゆえに，貯蓄しようとする額と投資しようとする額がつねに等しいとはかぎらないとして，過少雇用下の均衡の可能性を明らかにしたことと比較すると，このセーの命題は古典派理論を特徴づける重要な命題であるといわねばならない。〔富田重夫〕

ゼノン(エレアの)　［Zenon］　(BC490ごろ～BC430ごろ)　古代ギリシアの哲学者。南イタリアのエレアの生まれ。パルメニデス*の弟子(でし)。ピタゴラス派や〈運動〉や〈多元〉を主張する一派の考えに反対し，実在は唯一・不生不滅・不動で空虚は存在しないというパルメニデスの考えを，いわゆ

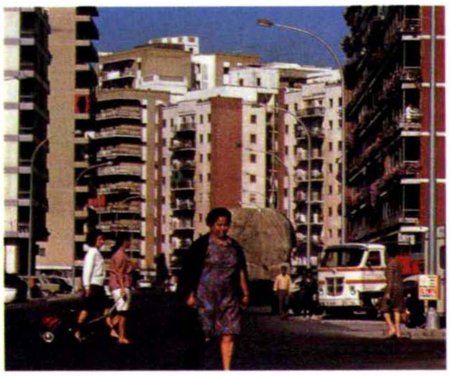
る〈ゼノンの逆理*〉によって擁護した。有名な逆説に〈アキレウスはカメに追いつくことができない〉〈飛ぶ矢は静止している〉などがある。このような矛盾的帰結を導く独特な論法を用いたことから，のちにアリストテレスは，ゼノンを〈ディアレクチケー(弁証法)の発見者〉とよんでいる。晩年，暴君ネアルコスの悪政を改革しようと企てて失敗し，舌をかみ切って死んだという。〔本橋正義〕

ゼノン(キプロスの) ［Zenon］ (BC335～BC263) 古代ギリシアの哲学者。ストア派の開祖。キプロス島のキティオンに生まれた。フェニキア人ともいわれる。BC313年ごろアテナイに出てアカデメイア*にはいったが，その後メガラ派*やキュニコス派*の人たちにも学び，やがてアンチステネスの書物を通してソクラテス*の思想から強い感化を受けた。BC300年ごろみずからアテナイのストア-ポイキレー(いろどられた柱廊)に学園を開いたので，これ以後，このストアに集まった学者やその思想の継承者たちをストア派とよぶようになった。彼は，哲学を論理学・自然学・倫理学の三部門からなるとした最初の哲学者で，その関心の中心は倫理学にあった。財産などの外的なものは善き生に無関係なもの(アディアフォラ)で，むしろ善き生は徳に励むことによってみずから充足すること(アウタルケイア)にあり，このことによって人は幸福でありうると説いている。〔本橋正義〕

ゼノンのぎゃくり 【ゼノンの逆理】 古代ギリシアの哲学者ゼノン*は，〈不変にして一なる有〉のみが実在であるという師パルメニデス*の説を擁護するために，運動と多が自己矛盾に陥ることを証明しようとした。特にアキレウスとカメの議論が有名である。いかに脚の速いアキレウスもカメに追いつくことができない。アキレウスがカメのいたところに達したときには，カメはその先へ進んでいる。両者の距離は無限に縮まるが，カメはつねにアキレウスの前を行く。ゼノンはこの説や〈飛ぶ矢は静止している〉などの逆理で運動を否定したが，これは時間と空間の連続を，非連続的な瞬間，点の集合として考えるところに由来している。〔石倉恒之〕

セバストポリ ［Sevastpol'］ ソビエト連邦，ウクライナ共和国のクリム州にある都市。人口26万7,000(1975)。クリミア半島南部にあり，黒海に臨む良港をもちソ連黒海艦隊の基地になっている。造船・木材・食品加工などの工業があり，郊外は保養地としても有名。紀元前5世紀にギリシアの植民地として建設されたが，その後タタール人による支配，クリミア戦争，ロシア革命時の反革命軍の拠点，第2次世界大戦など数々の戦争の舞台となった。トルストイの《セバストポリ物語》は，クリミア戦争の際の，349日間の籠城(ろうじょう)を描いている。

セパレーツ ［separates］ 上下別々に



セビリア 下町の住宅街のスナップ。アパートの窓々には花が美しく咲きそろっている

自由に組み合わせて着る服をいう。スーツ*のように上下共布でそろえるものでなく，たとえばブラウスとスカート，セーターとスカート，ジャケットと別布のスカートなどを組み合わせる。個々に求めることができるので経済的・合理的である。

セパレートコース ［separate course］ トラック競技で，走者ごとの区分を設定したコース。これは走者どうしの接触を防ぎ，疾走に専念させるためである。400mまでの競走に採用され，800m競走では第2コーナーの出口までをセパレートとする。400mリレーは全コースをセパレートで行なう。200m以上のコーナーを含む競走では，走路を等距離にするために，コースごとにスタートの位置が異なることになる。スピード-スケート競技では2人の走者がバックストレッチの中央でコースを入れ替わるので，距離に関係なくスタートラインは一線である。なお，水泳・ボート・カヌーのレースも，オリンピック大会や世界選手権大会ではセパレートコースで行なわれる。➔オープンコース〔藤岡 端〕

セバーン(川) ［Severn］ イギリス，イングランド西部を流れる同国第2の川。ウェールズのカンブリア山地に発し，南西に流れてブリストル湾に注ぐ。全長320km。河口から230kmまで航行が可能であり，中流のウースターからは運河によって北東約40kmにあるバーミンガムと結んでいる。

せひ 【施肥】 ⇨基肥(もとごえ)

セピア ［sepia］ 色名。イカの墨(セピア)のような色。黄みをおびた，ごく暗い黄赤色。セピアは動物性染料・動物性顔料として古代から用いられてきたが，顔料のセピアは，イカの墨汁嚢(ぼくじゅうのう)中の黒かっ色の液汁をアルカリ液で処理し，酸を加えて沈殿させて製する。また，染料のセピアは古代からインクとして用いられていた。現在では化学的に製造され，おもに水彩絵の具に用いられる。日本工業規格(JIS)慣用色名〈セピア〉は，色相10.0YR，明度2.5，彩度2.0の色。➔色〔武井邦彦〕

セビウ ⇨コブウシ

セビリア ［Seville］ スペイン南西部グアダルキビル川下流の左岸にある，同国第4の都市。人口59万9,000(1966)。重要な河港でぶどう酒・オリーブ油・果実・羊毛などを輸出する。たくさんの遺跡と建造物，美しい農村風景で観光地として名高い。スペインでもムーア人支配時代のなごりが最も強いところで，アルカザール宮殿は12世紀にムーア人の王宮として建造されたもの。古代からの港町で，ローマ人はスペイン南部の首都として，ヒスパリスとよんだ。8世紀にムーア人の支配にはいり，1026～1248年の間ムーア王国の首都となり，フェルデナント3世が奪取したとき，40万の人口を数えたという。1256年創立の大学や1403～1519年建造のゴシック様式の大寺院があり，著名な画家ベラスケスとムリリョもこの地の出身である。〔梶川勇作〕

セビリアのりはつし 【セビリアの理髪師】

1 ボーマルシェ*の喜劇(1775)。4幕。小りこうで陽気な理髪師フィガロが，術策をめぐらして孤児ロジーヌを後見人から取り上げ，アルマビバ伯爵との結婚を成就させる物語。金も権力もないが策略によって支配階級の人間を翻弄(ほんろう)するフィガロに，フランス革命直前の庶民像がうかがえる。➔フィガロの結婚

2 ロッシーニ*作曲の2幕のオペラ。台本はボーマルシェの喜劇をステルビーニがイタリア語訳して脚色したもの。初演は1816年，ローマ。モーツァルトの《フィガロの結婚》の前編にあたる内容で，まだ若いアルマビバ伯爵(テノール)がフィガロ(バリトン)の協力で，後見人バルトロ(バス)から美しいロジーナ(ソプラノ)を奪う話である。序曲をはじめ独立して演奏されるものが多く，オペラ-ブッファ*の特色を示した作品といえる。〔向坂正久〕

せびろ 【背広】 背広服。現代の男子服を代表する衣服で，えりは折りえり，身ごろに横の切り替えがなく，たけは腰をおおうぐらいの長さの上着。また，これとズボン，あるいはズボン・チョッキとを組み合わせたものの総称である場合もある。アメリカのサックコート，イギリスのラウンジスーツ・ビジネススーツにあたる。

セブ ［Cebu］ フィリピン共和国，ビサヤ諸島にあるセブ島の中心都市。セブ州の州都で，フィリピン第3の都市。人口32万(1967)。1521年にマゼランが発見し，1565年スペイン人レガスピが建設したフィリピン最古の植民都市で，海空交通の要地でもある。コプラ・麻などの輸出が多く，ココナツ搾油・セメントなどの工業が盛んで最近はその他の工業も興りつつある。

セーブ ［Maurice Scève］ (1501？～1560？) フランスの詩人。リヨンに生まれ，イタリアに遊学，ペトラルカ*に傾倒した。リヨン詩派の統率者で，女流詩人への純愛から神秘的叙情詩集《デリ》などを著わし，

純粋な情念の勝利をうたった。ほかに壮大な叙事詩《小宇宙》があり，後年にはプレイアード派*の先駆的作品を書いた。

ゼファー [zephyr] 英語のそよ風の意味から薄地で柔軟な織物のこと。ゼファーギンガム・ゼファーシャーティング・ゼファーショール・ゼファーフランネルなどがある。

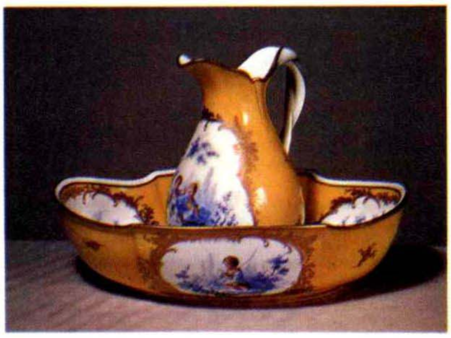
セファロスポリンシー [cephalosporin C] 1955年アメリカのニュートンらによって不完全菌の培養液から分離された抗生物質。製造が困難で，作用が比較的弱いために実用化されなかった。その後合成品の研究が行なわれて得られたのが，セファロチンとセファロリジンである。ともにグラム陽性菌および陰性菌に有効で，毒性が少なく，肺炎・敗血症・腎炎(じんえん)・髄膜炎などに注射する。ペニシリンに類似した構造をもつが，ペニシリン過敏症にも使用できる。

ゼフィルス [zephyrus] こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科のミドリシジミ類およびその近縁種を含めた俗称。ゼフィルスとはギリシャ語で〈西風〉または〈そよ風〉の意で，翅(はね)をきらめかせて木々のこずえをそよ風のように飛びかうところからこの名がある。後翅に長い尾状突起をもつものが多い。雄が緑色の群と，赤色・橙色(とうしょく)・銀白色・金色などの群の二つに分けられ，前者の雌はかっ色で遺伝的多型を示し，ミドリシジミでは四つの型が知られている。後者の雌は雄と同じ色彩のものが多い。成虫は特に夜明けと夕暮れの薄明を好み，日中は不活発である。大部分がブナ科植物を食樹とし，卵は食樹の休眠芽（翌春に伸長する芽）の基部やそれに近い小枝・幹上に産卵され，そのまま越冬する。幼虫はわらじ形で，頭部はきわめて小さく，普通は前胸部の下に隠されている。ムモンアカシジミのように，葉のほかに大量のアブラムシを食べて育つ半食肉性の種類もある。世界で約105種が知られ，おもに東アジアに分布する。代表的な種類にアカシジミ・ミズイロオナガシジミ・ウラクロシジミ・ミドリシジミなどがあり，日本には24種が知られる。〔多々内修〕

セーフガード [safeguard] ガット*19条に定められている緊急輸入制限措置のことをいう。ガットは，国際収支事情が特に悪いときと，低開発国が発展計画の上で必要とする場合とを例外として，輸出入の数量制限は原則として認めていない。また，関税についてみると，加盟国は互いに2国間交渉を同時に多数行なって関税率をできるだけ引き下げていく，そして加盟国の間では関税上の差別待遇をいっさい禁止して（最恵国待遇の条項適用の上での例外としては，関税同盟や自由貿易地域などがある），広く世界各国の関税を引き下げて自由貿易の実現を期している。しかし，外国商品との競争において国内の輸入競争産業が負け，国内産業が手痛い打撃を受けて重大な損害が生じた場合に限って，特別に関税率を引き上げることを許したり，緊急の輸入制限措置をとるセーフガードの制度を認めている。〔福島義久〕



ゼブラダニオ



セーブル磁器 《水指》

ゼブラ [zebra] 哺乳(ほにゅう)類・ウマ科のシマウマの英名。➔シマウマ

ゼブラダニオ [zebradanio] 硬骨魚類・コイ科。4.5cmほどになる淡水魚。体は細長く，ウグイに似る。体の地色は黄色ないし白色であるが，全体にあざやかな濃青色の縦じまがはいり，名の示すようにシマウマを思わせる。インド東部の淡水域が原産地であるが，観賞用熱帯魚として古くから飼われ，ごく普通にみかける。

せぶりやま【背振山】 九州北部の筑紫(つくし)山地中央部を占める背振山地にある山。標高1,055mで，筑紫山地の最高峰である。背振山地の東寄りに位置し，佐賀・福岡の県境をなしている。北の福岡県側は急傾斜，南の佐賀県側は緩傾斜する傾動地塊状の山地で，全山はおもにカコウ岩からなる雄大な山容を示し，眺望(ちょうぼう)もよく，登山者が多い。

セーブル ⇨クロテン

セーブルじき【セーブル磁器】 フランス国王ルイ15世が1756年以来みずから主宰し，セーブルに設けたフランス随一の王立磁器窯である。この窯(かま)は，1738年磁器製作技術を習得したフランス人陶工デュボア兄弟のバンサンヌへの設立に始まる。その後国王などによる特別の庇護(ひご)を得てからは，当時の美術界を風靡(ふうび)したロココ芸術によるきわめて豪華・優美な装飾品・食器類の数々を製作した。なお，ルイ王朝没落後には国立セーブル製陶所として継続され，今日に及んでいる。〔市川 清〕

セーブルじょうやく【セーブル条約】 第1次世界大戦後，1920年にフランスのセーブルで連合国とオスマン-トルコ政府との間に結ばれた条約。その内容は，アルメニア・クルド・ヒジャズ王国の独立，イギリスのエジプトに対する保護権の確立，同じくパレスチナ・メソポタミアの委任統治，フランスによるシリアの委任統治，黒海の両海峡の開放，さらにトルコ国内において連合国の行動を自由あるいは優先させることの取り決めなど，トルコをほとんど列強の植民地の状態に置くものであった。〔斎藤淑子〕

ゼーベックこうか【ゼーベック効果】 2種の異なる金属線を2点で接合して閉回路をつくり，二つの接合点を異なる温度に保つとき，その回路に電流が流れる現象。熱電効果ともいう。1821年，ドイツの物理学者ゼーベックによって発見された。この閉回路は熱電対*，流れる電流は熱電流*，回路中の起電力は熱起電力とよばれる。熱電流は，2種の金属と接合部の温度差によって異なる。

セベリーニ [Gino Severini] (1883～1966) イタリアの画家。1910年パリで未来派*宣言に署名してはいるが，同国人の画家に対してキュビスム*への接近を勧めた。しかし彼は，当初は新印象派(➔印象派)の画家に強い影響を受け，のちにはキュビスムの対象の分解と未来派のダイナミズム*を融合しようとした。

セーベルナヤゼムリャ(島) [Severnaya Zemlya] ノルヘルンランド・レーニンランド・ニコラス2世ランドなどともよばれている。シベリア，タイミル半島北方の北極海中にある諸島で，総面積約37,000km^2。ソ連領で小アレキシス島とスタロカドムスキー諸島が含まれる。1913年にロシア人ビルスキーが発見してからロシア領になった。東岸は深い入江と氷河の谷があり，南岸はツンドラである。

セポイのはんらん【セポイの反乱】 1857年から1859年にかけてインド一帯に起こったイギリス東インド会社の傭兵（セポイ）の反英暴動。当時のイギリス資本の搾取は，土侯王・手工業者・農民の生活を圧迫したため，これらはみな反乱者を支持し，インド在駐のイギリス人は甚大(じんだい)な被害を受けた。しかし，反乱者の間に組織や持続力がなく，個々の利害対立から分裂し，まもなく鎮圧された。セポイの反乱はインド人全体が共通の征服者に対する共同の行動を通して，インド史上最初の民族的団結をつくりあげた点，インド民族運動の萌芽(ほうが)として意義が大きいが，一方，これを機会にイギリスはムガール皇帝を退位させ，

インドを自国領として政府が直接統治することになった。〔小谷仲男〕

せまきもん　**【狭き門】**　ジイド*の小説(1909)。ジイドの青少年時代を強く支配していた禁欲主義を主題とした作品。アリサは従弟(いとこ)のジェロームを愛しながらも，地上の愛を排してひとり寂しく死ぬ。このアリサは，作者の従姉でありその後夫人となったマドレーヌがモデルであるが，一面，作者自身の分身とも考えられ，美しい叙情のうちに自己犠牲の空虚さが描かれている。

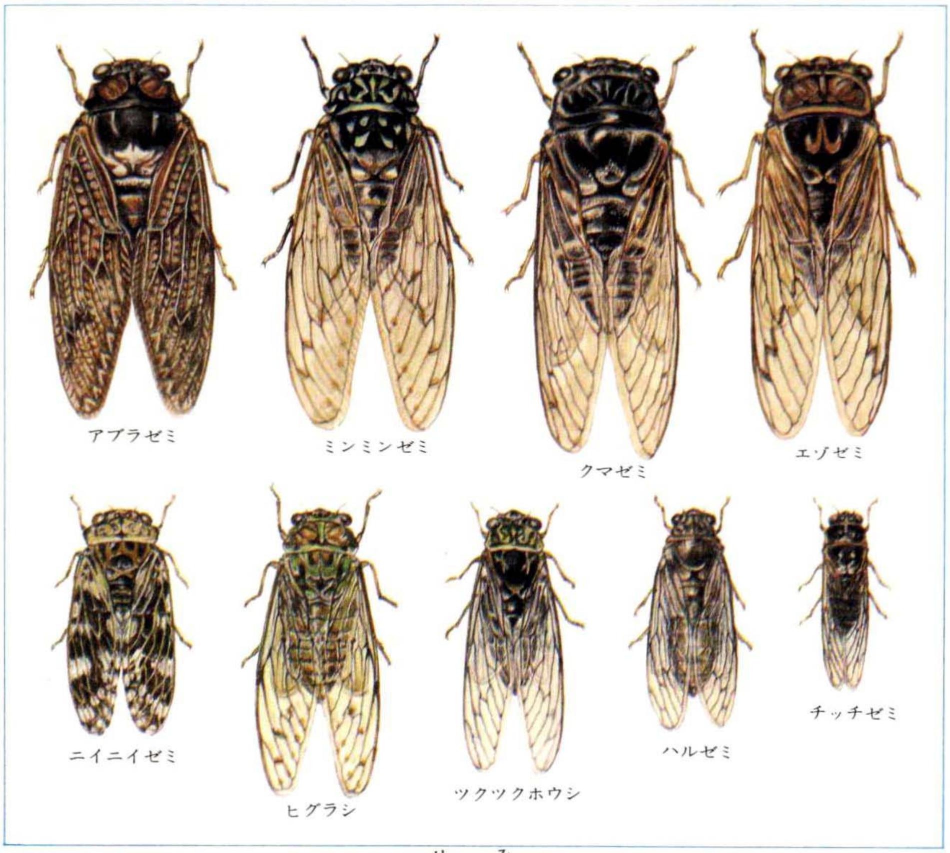
せまだらこがね　**【背斑金亀子】**　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体長10mm内外で，体は卵形，黒かっ色で，背面は茶かっ色。前胸背板にはふつう1対の黒色紋があるが，大きさは不規則で，しばしば融合して両側部を除く大部分が黒色のものがある。鞘翅には斜めに走る3本の黒色帯があるが，その形状も不規則で，しばしば全体が黒色となった個体もあり，変化に富む。日本全土のほか，ハワイ諸島・北アメリカなどに分布する普通種で，成虫は6～8月に出現する。ふつう，成虫は摂食しないが，幼虫は苗圃(びょうほ)や各種農作物の根部を食害する。

ゼーマン　［Pieter Zeeman］(1865～1943)　オランダの物理学者。ライデン大学に学び，1900年アムステルダム大学教授。1896年，強い磁場のもとでスペクトル線が分裂する現象(ゼーマン効果*)を発見した。1902年，師ローレンツ*とともにノーベル物理学賞を受賞。

セマングぞく　**【セマング族】**　マライ半島特に北部マラッカの森林地帯に居住するネグリト*族。トンガ・ジャハイ・ケンシュー・メンリなどの種族からなっている。人口約2,000人。狩猟・採集を生業とし，放浪生活を営む。一夫一妻制で家父長制をとり，カリを至上神とする。

ゼーマンこうか　**【ゼーマン効果】**　スペクトル分析を行なうとき，発光原子などを磁場中に入れると，スペクトル線が数本に分かれる現象。ゼーマンが1896年に発見した。ローレンツ*の古典電子論によると，すべてのスペクトル線は3本に分かれ，その偏光状態も決定できる。しかし，このような正常ゼーマン効果の観測されるのはむしろ特殊な場合で，一般にはもっと多数のスペクトル線に分かれる。これは異常ゼーマン効果と名づけられた。この効果は，原子内電子の軌道角運動量とスピン*とによる磁気モーメント*の合成が，全軌道角運動量の一定の方向に一致しないことに基づくものであり，量子力学の結果を用いて磁場内のエネルギーを計算することによって説明される。ただし磁場が非常に強い場合は，異常ゼーマン効果に対応した3本の線に移行する。〔吉原邦夫〕

せみ　**【蟬】**　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・セミ科の総称。体長15～80mm。複眼は左右に突出し，その間に3個の単眼が三角形状に位置する。口器は細長い口吻(こうふん)となっており，樹液を吸収する。触角は短く，とげ状。翅(はね)は大きく，体長よりも長いものが多く，透明なものや種々の斑紋(はんもん)をもつものなどいろいろある。雄は，腹部の腹面基部によく発達した鼓膜器官をもち，種に特有の鳴き声を発する。多くの種類は枯れ枝や枯れ木などに産卵する。卵は短いものでは数日，長いものでは約300日で孵化(ふか)する。幼虫は，土中に潜入して樹木の根部から吸汁(きゅうじゅう)して生活する。幼虫は淡色で特異な形状を呈し，前脚は土中の生活によく適応し，特に腿節と脛節(けいせつ)に大きな鋸歯(きょし)状突起がある。幼虫期間は多くのものは2～5年であるが，アメリカ産の17年ゼミではその名のように13～17年にも及ぶ。十分に成長した幼虫は，地中から出て灌木(かんぼく)や樹木などによじのぼり，そこにしっかり付着して脱皮し，成虫となる。成虫の寿命は1～2週間ほどで，交尾・産卵を終えると死ぬ。セミ科は，全世界から1,500種以上が知られ，日本には約15属，30種が分布する。日本に産する代表的な種類は，ニイニイゼミ・アブラゼミ・エゾゼミ・クマゼミ・ハルゼミ・ヒグラシ・ミンミンゼミ・ツクツクボウシ・チッチゼミなどである。なお，奄美(あまみ)大島・屋久島・九州・四国・本州に分布するヒメハルゼミは，分布の北限地である新潟県西頸城(にしくびき)郡能生(のう)町，茨城県笠間(かさま)市片庭，千葉県茂原市の3か所ではそれぞれ天然記念物に指定されている。また，ミンミンゼミも，北海道釧路(くしろ)市和琴などの発生地が，その分布の北限として天然記念物に指定されている。〔鈴木邦雄〕



せ　み

せみいるか　**【背美海豚】**　哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・イルカ科。体は細長く頭胴長2.5mほど。背びれはない。吻(ふん)は短くとがる。体上面・胸びれ・尾は黒色で，下面は白い。ふつう北太平洋の温暖海域に分布し，岸から離れた海に小群でみられる。行動は敏捷(びんしょう)で，しばしば空中へとびはねる。イカ・タコなどの頭足類や魚類を食う。近似種に，もっと小形で下面の白色部が広いシロハラセミイルカがある。➔イルカ

せみえび　**【蟬蝦】**　甲殻(こうかく)類・ウチワエビ科。大形のエビで，体長35cmに及ぶ。体は平たく，頭胸はほぼ方形で，その幅は腹部の最大幅と等しい。甲はかたく厚い。甲表には無数の粒状小突起と粗毛がある。外観がセミにやや似ているのが名の起こりである。体は紅かっ色で，尾扇は黄かっ色。房総半島以南，インド洋・太平洋水域に広く分布し，水深30m前後の岩礁にすむ。

せみくじら　**【背美鯨】**　哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・セミクジラ科。ふつう頭胴長15m，胸びれの長さ2m，頭部は頭胴長の4分の1ほど。背びれはない。ふつう，全身黒色だが，ときに下面が白い。ホッキョククジラに似るが口の大きさや上下顎(がく)の

形状が異なり，特にセミクジラには上顎先端と鼻孔付近にこぶ状の隆起がある。北大西洋・北太平洋の南・北緯20～70°に分布し，熱帯海域にはみられない。小甲殻(しょうこうかく)類をおもに食う。国際捕鯨取締条約で捕獲が禁止されている。〔今泉吉典〕

セミケミカルパルプ ⇨半化学パルプ

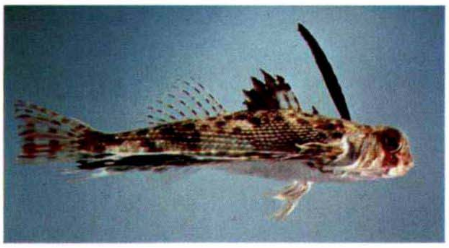
せみたけ【蟬茸】 地中にあるセミの幼中に寄生する菌類で，不完全菌類に属する。菌糸はセミの幼虫の頭部を貫いて生育し，棍棒(こんぼう)状や角状などの形をした子実体をつくる。子実体の表面には分生胞子(無性胞子)を着生する。

セミナリヨ ［Seminario］ 安土桃山時代，キリシタン宣教師が日本人子弟を教育した学校。ポルトガル語で学校の意。バリニャーニが企画し，1580年(天正8)安土(滋賀県)に，翌年有馬(長崎県)に設立。日本人子弟を収容して，ラテン語・音楽・キリスト教教理などを教えた。安土のセミナリヨは本能寺の変の際破壊され，有馬のセミナリヨは豊臣秀吉(とよとみひでよし)の死後長崎に移されたが，1614年(慶長19)禁教の強化に伴って廃止された。〔高崎徳次〕

ゼミナール ［seminar］ ラテン語で苗床という意味。研究者養成のための教育の場をさし，特定の教師が特定の学生に対して行なう研究指導の場をいう。現在わが国では，ゼミナールを演習と訳し，講義・実習と並んで，大学における授業の1形態または方法をさしている。これは，指名された学生が教師・同輩の前で，自分の研究・調査の成果や結論を発表し，教師あるいは学生相互が批判・討議するという形で授業が展開されるのが普通である。〔山崎昌甫〕

セミパラチンスク ［Semipalatinsk］ ソビエト連邦，カザフ共和国東部にあるカザフ州の州都。人口27万(1975)。イルチシ川上流に面して河港をもち，ノボシビルスクとアルマータを結ぶ鉄道の要地でもある。肉類のかんづめ，製粉，飼料などのコンビナートがあり，皮革・縫製などの工業が盛ん。地誌博物館もある。1718年，ロシアの要塞(ようさい)として建設され，ロシアと中央アジア方面との交易都市として発達した。

せみほうぼう【蟬魴鮄】 硬骨魚類・セミホウボウ科。全長40cmに達する海産魚。全体茶かっ色で，長く幅広い胸びれは紫黒色。体はやや縦扁(じゅうへん)し，多少背腹方向に押しつぶされた形を示し，また細長く延長する。体はかたく粗いうろこにおおわれ，箱状の頭部はほとんど骨板でおおわれてかたい。後頭部に長大な遊離棘(ゆうりきょく)，その後ろに短い遊離棘が各1本ある。胸びれは長く，幅広い。目は頭の上部にかなり上向きにつく。頭骨の中の舌顎骨(ぜつがくこつ)と他の骨を摩擦して音を出す。本州中部以南，ハワイ諸島・東インド諸島・オーストラリア・南アフリカに及ぶ広い水域に分布する。和名は発音するホウボウの意。近似



セミホウボウ

種のホシセミホウボウは，背の短い遊離棘を欠き，全長30cmほどになり，前種と同様の分布を示す。〔菅野　徹〕

せみまる【蟬丸】 能の曲名。作者不明。四番目物。延喜(えんぎ)の帝(みかど)(醍醐(だいご)天皇)の第4子蟬丸の宮は生まれつき盲目であったので，帝の命令によって逢坂(おうさか)山に捨てられる。また，第3子の宮は狂人となって，逆髪(さかがみ)という名で流浪して歩く。蟬丸は逢坂山の草庵(そうあん)で博雅三位(はくがのさんみ)という者の世話になっているが，逆髪がここを通りかかって蟬丸のひく琵琶(びわ)の音を聞きつけ，姉と弟が涙ながらの対面となる。ふたりが悲運を嘆く場面と，悲痛な別れの場面とがこのあとに続き，逆髪は去り蟬丸がひとり残って終わる。逆髪がシテ，蟬丸がツレだが，演出によって蟬丸をシテとすることもあり，両役の間に軽重の差はない。ワキは蟬丸を捨てに行く勅使清貫(きよつら)。他にワキツレが従者を，狂言方が博雅三位をつとめる。この曲は醍醐天皇の皇孫で当代第一の雅楽家であった源博雅(ひろまさ)に関する伝説によってつくられたもので，史実とは関係がない。〔長尾一雄〕

せみやどりが【蟬寄生蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・セミヤドリガ科の総称またはそのうちの一種をいう。体長約5mm，翅(はね)を広げた長さ16～18mm。セミに寄生する黒かっ色の小さなガで，口吻(こうふん)は退化している。成虫は8～9月に発生し，雌は木の幹に産卵する。卵で越冬し，翌年孵化(ふか)するとアブラゼミ・ヒグラシ・ミンミンゼミなどにつく。1齢幼虫は自由に歩行するが，2齢以上では足が退化し，白色のロウ物質を分泌する。本州・四国・九州・台湾に分布し，本種が寄生している雄ゼミは鳴き声が悪くなる。セミヤドリガ科は世界で30種類ほど知られているが，インド・オーストラリア・南アメリカなどに多く，ツノゼミやウンカの類に寄生することが多い。日本ではセミヤドリガとハゴロモヤドリガが知られている。〔多々内修〕

セムごぞく【セム語族】 ⇨ハム-セム語族

せむし 脊柱の後湾が高度になった亀背(きはい)の俗称。ビタミンDの不足による佝僂病(くるびょう)によるものは，以前はよくみられたが，ビタミン剤の進歩・普及，衛生思想の発達で減少した。また脊椎(せきつい)カリエスによるものも多くみられたが，抗結核剤の発見による肺結核の減少につれて減少し，最近は整形外科の外来でもほとんどみられなくなった。

せむしのこうま【せむしの小馬】 ロシアの詩人エルショーフの童話(1856)。平易な民話ふうの語り口で，ばかのイワンがせむしの小馬に助けられて，国王の課した数数の難題をこなし，美しい姫と結婚して国王になるまでを語る。権力者を風刺し，民衆の知恵と力をたたえた，児童文学の古典的作品。

ゼムストボ ［Zemstvo］ 1864年1月1日ツァーリ政府がヨーロッパ-ロシアの諸県に公布した〈県および郡の地方自治機関に関する法令〉によって設置された地方自治機関。ツァーリズムのブルジョア的改革の一環で地主貴族階級が支配権を握り，ブルジョアジー・商人・クラークの代表も参加した。ゼムストボの権限は，道路の整備，耕作・商工業の促進その他の地方的・経済的問題に限られたが，特に文化的な面で医療活動，初等教育施設の拡充に貢献した。ゼムストボの収入のおもな源泉は，農民分与地に対しての土地収税であった。第1革命後ゼムストボの反乱的役割が強化され，1914年7月リボフ公の指導のもとにつくられた全ロシア-ゼムストボ連合は第1次世界大戦中ツァーリズム擁護の役割を果たし，二月革命前夜の大衆運動に積極的に敵対した。二月革命後は反革命の拠点の一つとなり，十月革命後ソビエトによって廃止された。〔山県弘志〕

セムぞく【セム族】 西南アジア地方を中心に活躍した民族。セム語族ともいわれるように，人種的には混血であるが，言語的にみると同一の民族を形成している。原住地はアラビア砂漠(さばく)あるいはシリア砂漠とされ，もともとは血縁共同体を基盤とする遊牧の民であるが，たえず定住文化地帯に侵入しては農耕生活を営み，融合文化を形成している。BC3000年にメソポタミアへの侵入を始め，BC2350年ごろアッカド人サルゴンがユーフラテス・チグリス両河地方最初の統一王朝であるアッカド王朝を建設，以後ハンムラビ王朝を建てたアモリ人，全オリエントを統一する軍事国家を建設したアッシリア人，アルファベットを発見した海の商人フェニキア人，ユダヤ教・キリスト教など一神教を信じたヘブライ人，新バビロニア王国を建てたカルデア人，隊商貿易に活躍したアラム人，アフリカに建国したエチオピア人，イスラム教を創始したアラビア人などが次々と歴史に現われた。〔屋形禎亮〕

ゼムリャフランツヨシフ(島) ［Zemlya Frantsa Iosifa］ 別名フランツヨセフランド。北極海のノバヤゼムリャ島の北方にある諸島で，総面積20,000km²。大小85の島々からなり，北緯80～82°，東経40～65°にわたる。東半球では最北にある陸地。大

きな島にはアレクサンドラ島・ジョージランド島・グラハムベル島・ウイルチェック島があり，成因は火山島で陸地の90%は氷河におおわれている。クマとキツネが生息し，植物はコケ類と地衣類*のみである。1872～1874年にオーストリア人のペイヤーとドイツ人のベイプレヒトが探検した。1926年にソ連が領有を宣言し，現在同国の観測基地が置かれている。〔大崎　晃〕

セメンシナ　[semencina]　双子葉植物・キク科・ヨモギ属の一種。トルキスタン地方原産の多年草ないし半低木で，葉は2回羽状に裂ける。頭状花は直径3㎜内外で小さく，つぼみを乾燥したものをシナ花といい，1～3%のサントニン*を含み，回虫駆除薬として用いられる。サントニンの製造はソ連の専売事業で，セメンシナの種子を国外に出さないので，他の国々ではヨモギ属の他の種類でサントニンを含むものを捜し，利用している。日本ではこれに近い種類のミブヨモギ(京都の壬生(みぶ)で栽培されたので，この名がある)やクラムヨモギが栽培されている。〔加藤僖重〕

セメンタイト　[cementite]　鉄と炭素との間の準安定金属間化合物。分子式はFe_3C　複雑な斜方晶系の結晶構造をもち，Fe-C二元素において炭素分6.67%のところに生ずる。金属光沢のある，かたくてもろい物質で，常温では磁性を伴っているが，215℃で非磁性となり(A_0変態)，約900℃で長時間熱すると黒鉛と鉄に分解する。フェライト*とセメンタイトとの層状組織をパーライト*といい，また，セメンタイトが界面張力で粒状化したものを球状セメンタイトという。〔秋枝哲児〕

セメント　[cement]　セメントの原義は砕石であり，それから転じて砕石を相互に接着すること，および接着させるものとなった。しかし日常用語としてのセメントは，土木建築用構造材料として大量に使われているコンクリートをつくる際，砂・砂利とともに水で練って用いられる無機質資材をさす。これはセメントが，水で練ったときに凝結硬化する性質をもち，砂・砂利などのいわゆる骨材を強固に膠着(こうちゃく)するためである。

〔種類〕セメントとして使用できる物質は数多く知られ，次のように分類される。このうちポルトランドセメント*の生産が圧倒的に多く，一般にセメントというときはこれをさす。

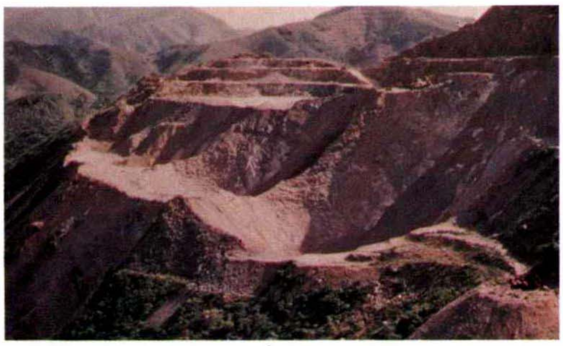
〈気硬性セメント〉水中では硬化しがたいもの。①石灰(消石灰・ドロマイトプラスター)。②石膏(せっこう)(焼き石膏)・キーンスセメント。③マグネシアセメント*：オキシクロライドセメントともいう。酸化マグネシウム粉末を塩化マグネシウム溶液(にがり)と練る。同種のものに酸化亜鉛と塩化亜鉛の組み合わせがある。④歯科用セメント：酸化亜鉛・酸化マグネシウム・アルミナなどの粉末をリン酸溶液と練る。

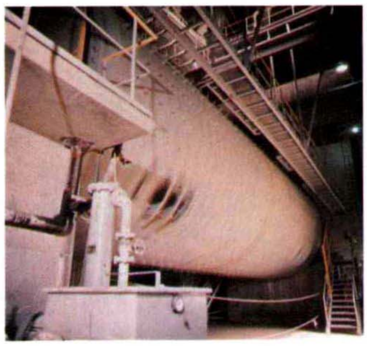
〈水硬性セメント〉水中でも空気中でも硬化するもの。①単味セメント㋑ポルトランドセメント：これはさらに，普通ポルトランドセメント・早強ポルトランドセメント・中庸熱ポルトランドセメント・低熱ポルトランドセメント・高酸化鉄型ポルトランドセメント・白色ポルトランドセメントに分かれる。㋺アルミナセメント：きわめて早強性で，応急工事に広く用いられるが，高価であるため生産高は低い。②混合セメント：ポルトランドセメントに混合材が加えられたもので次のようなものがある。㋑高炉セメント：高炉スラグを混合したものでA種(高炉スラグ30%以下)，B種(30～60)，C種(60～70)の3種に区分されている。30%程度混合したものは，ふつうポルトランドセメントと変わりなく使用でき強度も増す。海岸工事・地下構造・水中構造などに適している。㋺シリカセメント：火山灰・白土などのシリカ質混合材を加えたもので，その分量によりA種(10%以下)，B種(10～20)，C種(20～30)の3種類がある。ポゾランセメントともいう。㋩フライアッシュセメント：微粉炭を燃焼させた石炭殻(がら)をフライアッシュといい，最高20～30%混合される。コンクリートが流れやすくなるためダムやその他の土木工事に使われることが多い。㊁メーソンリーセメント：石灰石・ドロマイトなどを混合材とする。壁塗り用。

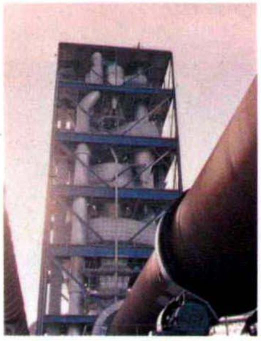
〈その他〉天然セメント・ローマンセメント・水硬性セメントなどはポルトランドセメントができるまえにつくられていたものである。

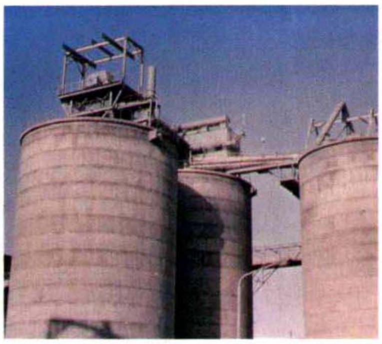
〔性質〕ポルトランドセメントは，クリンカー*に石膏を混ぜて粒径を数十ミクロン以下に微粉砕したものであり，灰白色の微粉末の形で市販されている。クリンカーの製造原料は，石灰岩・粘土・ケイ石・酸化鉄などである。これらは高温で反応していろいろの化合物をつくるが，その主要な結晶相は，$3CaO \cdot SiO_2$を主体とする相(アリット)，$2CaO \cdot SiO_2$を主体とする相(ベリット)，$3CaO \cdot Al_2O_3$を主体とする相，さらに鉄を含む複雑な化合物で，一般に$4CaO \cdot Al_2O_3 \cdot Fe_2O_3$で代表される相(セリット)などである。これらの化合物は，水と化学反応を起こして水和化合物を生成し，凝結硬化を起こすが，この現象はそれぞれの結晶相をつくるいわゆる水硬性物質の種類・量・存在割合・存在状態などによって大きく支配される。原料としてボーキサイト・バンドケツ岩などのアルミナ質原料を多く用いて得られるアルミナセメントはポルトランド系のセメントとは本質的に異なるものであるが，水硬性物質として$CaO \cdot Al_2O_3$が多く，そのために凝結硬化が迅速である。ポルトランドセメントのうちでも$3CaO \cdot SiO_2$を多く生成するようにつくられたものは，アルミナセメントには及ばないが硬化がかなり早く早強ポルトランドセメントとなる。

セメントの強さは，同じセメントであっても，微粉砕の程度・水量・温度・時間によって異なる。一般的には，セメントが微粉で，水量は少なく，温度はあまり低くなく，硬化が十分に進むまでは乾燥しないこ


石灰石採石所


原料粉砕機


回転窯(ロータリーキルン)


セメントサイロ


工場管理計器室

セメント

とが望ましい。セメント・標準砂・水を1：2：0.65の重量比に一定の方法で混ぜ，4×4×16cmの角柱をつくり，曲げ強度と圧縮強度を測定する。水と練ってから2時間前後で凝結が始まり数時間で終わってのちは硬化が進むが，セメントの強さは約28日後の圧縮強度で表わすのが普通で，その後の強度増加は，わずかである。なお引っ張り強度は圧縮強度の10分の1程度である。

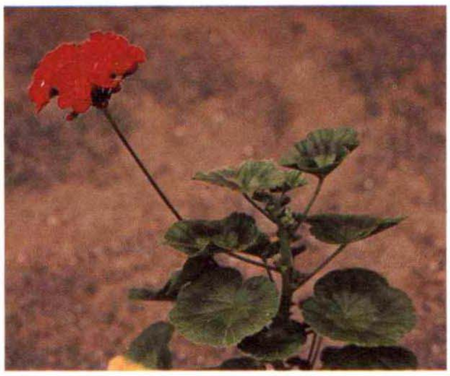
〔沿革〕セメントに類するものの歴史はかなり古く，BC3000年には焼き石膏と石灰を混ぜたものがエジプトのピラミッドに，BC100年ごろには火山灰と石灰を混ぜたものがギリシア・ローマの建築物などに使用された。近代的セメントの最初と目される水硬性セメントは，18世紀にイギリスのスミートンの発見によるものである。いわゆるポルトランドセメントは1824年にイギリス人アスピジーが製法を発明し，特許を得たが，これに改良が加えられて発達し，世界各地に急速に普及した。日本におけるセメント工業の発達は，1873年(明治6)大蔵省土木寮のセメント工場が深川に設立されたのがはじめであるが，原料の石灰岩が豊富なので，その後の需要の伸びとともに急激に成長し，ことに第2次世界大戦後飛躍的な発展を遂げて，1966年からは世界第3位の生産量を誇るまでに発達した。〔川久保正一郎〕

せやくいん 【施薬院】 病者を収容し医薬を施して治療する社会事業施設。聖徳(しょうとく)太子が四天王寺内に設けたのが最古の例といわれるが，確かなところでは730年(天平2)光明皇后が皇后宮職(こうごうぐうしき)に施薬院を置いて，職封(しきふ)と亡父不比等(ふひと)の封戸*の庸物を財源とし，諸国から草薬を買い取って進上させた例が知られている。しかしこれも，平安時代にはしだいに有名無実となり，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の再興したものも形式的に明治まで存続したにすぎない。〔黛　弘道〕

セーラ [Camilo José Cela] (1916～) スペインの現代作家。実存主義的な小説《パスクワル・ドゥアルテの家族》の成功や，マドリーの悲惨な庶民生活を描いた《蜂(はち)の巣》などにより，現代スペイン最大の作家と目されている。旅行記にも傑出している。

セラーズ [William Sellers] (1824～1905) アメリカの機械技術者。工作機械を中心にした機械技術の改良に功績を残すとともに，1864年〈セラーズ標準ねじ方式〉を発表し，アメリカの標準的なねじ方式として広く用いられた。また，実業家としてもすぐれ，1868年エッジムーア鉄材会社を設立，1873年にはミッドヴァル製鋼会社を創立しアメリカ政府に重砲を納入した。1864年から1867年までフランクリン研究所の所長となった。〔加藤邦興〕

ゼラチン [gelatin] タンパク質の一種



ゼラニウム



セ　リ

で，コラーゲン*を水中または薄い酸の中で煮ると得られる。トリプトファンを含まず，チロシンとシスチンもわずかしか含まれていない。コラーゲンとの大きな差はゼラチンが水に易溶性で，トリプシン・ペプシンなどで消化されるという点である。栄養素としても利用はされるが，必須(ひっす)アミノ酸の一部を欠くので副次的な意味しかもっていない。菓子の原料，細菌類の培地，写真乳剤，手術の際の縫合用糸として利用される。〔井坂三郎〕

セラック [shellac] シェラックともいう。天然樹脂の一つで，ラックカイガラムシの分泌物であるスチックラックからつくられる。黄かっ色ないし淡黄色で，半透明あるいは透明な粒状から粉末状のものである。融点70～80℃。レコード・ワニス・電気絶縁物・封ロウなどに使用される。

ゼラニウム [Geranium] 双子葉植物・フウロソウ科・ペラルゴニウム属。ゼラニウムの名は分類学上はゲンノショウコ・ハクサンフウロなどを含むフウロソウ属の学名であるが，園芸上はペラルゴニウム属のゾナーレ種(モンテンジクアオイ)をいう。南アフリカ原産の小低木状の多年草で，1710年ごろから改良されはじめ，多くの園芸品種が作出されている。普通のはち植えでは高さ30cmほどであるが，1mを越えるものもある。全体が細かい毛におおわれる。葉は心臓状円形で径8～12cm，縁は浅く切れ込み，長い葉柄で互生する。葉と対生して花柄がつき，径3～4cmの5弁花を多くつける。切り花・はち植え用として重要視され，繁殖は一般にさし芽による。同属のドメスティクム種(ナツザキテンジクアオイ)は属名のペラルゴニウムとよばれる。〔小杉　清〕

セラピオンきょうだい 【セラピオン兄弟】 ソビエトの文学グループ。1921年〈ネップ*〉の新風時代に生まれ，〈セラピオン〉はホフマン*の小説に登場する隠者の名である。芸術的表現の自由と政治からの独立を主張，のちに国外へ亡命した作家ザミャーチンが指導的役割を果たした。ほかにV.V.イワーノフ*・フェージン*・ゾーシチェンコ*らが数えられ，いずれもダイナミックで装飾的な文体を得意とした。その非政治主義的立場は，〈ラップ*〉などから政治的な攻撃を受けた。〔川端香男里〕

セラフィモービチ [Aleksandr Serafimovich] (1863～1949) ソビエトの小説家。本姓ポポフ。コサック出身。革命運動に加わって流刑に処せられ，流刑地で文学活動にはいった。その後ゴーリキーのグループに近づき，リアリズムの作家として成長した。白軍の包囲を脱出する赤軍パルチザンの活躍を描いた叙事詩的長編《鉄の流れ》は初期ソビエト文学の代表的作品である。

セーラーふく 【セーラー服】 水兵服。また，その水兵服をまねた婦人・子ども用の服をいう。ウエストを締めずゆったりとしたミディブラウスで，四角のセーラーカラーつき，胸もとにセーラースカーフ(三角布)を結ぶのが一般的であり，プリーツスカートを組み合わせた2部式のものである。中学・高校の女子の制服に多く見られる。

セラミック [ceramic] 一般的には陶磁器のことであるが，金属切削用工具材料の場合は酸化アルミニウムを焼結してつくったものをいう。非常にかたく，また耐摩耗性が大きいから，高速度切削の場合や，他の工具材料では切削できない焼き入れ鋼・チル鋳物・非金属などの切削に用いられるが，もろくて欠けやすいことが欠点である。

せり 【芹】 双子葉植物・セリ科。春の七草*の一つで，田のあぜやみぞ・小川の縁などに自生する多年草。地下茎があり，地中走枝を出して繁殖する。茎は直立して高さ30cmほどになり，中空で多少角張る。葉は1～2回羽状複葉で互生し，葉柄基部はさやとなって茎を抱く。夏，茎の上部の葉と対生して，多数の小さな白色5弁花を散形状につける。果実は楕円(だえん)形で長さ3mmほど。茎葉に芳香があり，若葉は食用にされる。

セリ科は温帯に広く分布する草本で，茎は中空のものが多い。全体に油道があって精油を含み，独特のかおりをもつ種が多い。葉は複葉まれに単葉で，葉柄基部はさやとなって茎を抱く。花は両性花ときに単性花で，放射相様である。多数傘状(さんじょう)に集まって散形花序をなす。おしべは4また

は5の数よりなる。花柱は2本，心皮1～5枚で，子房下位。花弁は5枚。世界に約230属，3,000種，日本には約40属，100種が知られる。〔加藤僖重〕

せり 演劇の舞台で，床の一部を四角に切り，そこに俳優や大道具*を乗せて上下させる機構のこと。上げるのを〈せり出し〉または〈せり上げ〉，下げるのを〈せり下げ〉という。歌舞伎(かぶき)の劇場で発明され，1753年(宝暦3)，作者並木五瓶*(ごへい)がはじめて使用したといわれる。現在では，各種芸能で使用されている。

ゼリー ［jelly］ 食品では，ゼラチンの凝固力を利用して材料を寄せ固めた冷菓や冷製料理，または果汁(かじゅう)に砂糖を加えて凝固させたものをいう。またゼラチンの代用として寒天を用いる場合もある。ゼリーには次のものがある。

〈ゼラチンゼリー〉 ゼラチンを水の中で膨潤させたのち，加熱溶解するとゾル*になり，ゾルの冷却が進んでゲル*化したものをゼリーという。食用ゼラチンは動物の骨・皮・腱(けん)などの結締組織にあるコラーゲン(硬タンパク質)を分解・分離・精製したものである。**〈果実ゼリー〉** 果実中にあるペクチン・有機酸・糖の相互作用によりできる。果実を煮て圧搾したものをこして清澄にした果汁に，砂糖を加えて煮つめゼリー化したものを冷やしてつくる。〔泉　敬子〕

セリウム ［cerium］ 周期律表第Ⅲ族に属するランタニド族元素の一。原子番号58，記号Ce，原子量140.12。1803年ベルセーリウスによってセリア(酸化セリウム)として発見された。クラーク数4.5×10^{-3}(第28位)鋼色の金属で融点775℃。スズよりもかたく，亜鉛より柔らかい。α型とβ型の2形が存在。化学的性質として，原子価は3～4価をとり，3価は無色，4価は黄橙(おうとう)色。ライターの発火合金や冶金(やきん)に用いる。

セリグマン ［Kurt Seligmann］ (1900～1961) スイスの画家・版画家。バーゼルやフィレンツェで学んだのち，パリでロート*に師事。1920～1930年代には〈アブストラクト-クレアシオン〉のグループやシュルレアリストたちと接触した。1932年バーゼルで最初の個展を開き，1939年にはアメリカへ渡って，ある農場に居を定めた。その作品は一種抽象化された形態で魔術的・幻想的な世界を創出している。〔松本芳夫〕

せりざわこうじろう 【芹沢光治良】 (1897～　) 小説家。静岡県の生まれ。東京大学経済学部卒。1925年(大正14)から1929年(昭和4)にかけてパリ大学に留学。帰国後《改造*》の懸賞に《ブルジョア》が当選して，作家としての道を歩む。第2次世界大戦中の《愛と死の書》《巴里(パリ)に死す》のほか，戦後には《未完の告白》《教祖様》《告別》《愛と知と悲しみと》などがあり，大作《人間の運命》はその代表作とみなされる。なお，その資質の〈明澄性〉はわが国の文学風土にあっては異色の存在とされている。

〔小泉浩一郎〕

セーリス ［John Saris］ (1579？～1643) 江戸初期に来日したイギリスの経済使節。1600年(慶長5)イギリスは東インド会社*を設立したが，その翌年船隊を率いて東洋に出航，1613年平戸に来航した。すでに来日していたW.アダムズ*の斡旋(あっせん)により徳川家康(いえやす)と会見，貿易の朱印状*を得，平戸に商館を設置した。この貿易協定により，関税免除・自由寄港・治外法権など有利な条件を決め，初代館長コックス*を残して同年帰国した。〔高崎徳次〕

セリーヌ ［Louis Ferdinand Céline］ (1894～1961) フランスの小説家。独学で医学を修め，医業に従事するかたわら文筆活動を続けた。1932年発表の処女作《夜の果ての旅》は，卑語の俗語を多用した自伝的小説で，反社会的思想に満ちた文明批判に満たされ，賛否こもごも大反響をよんだ。その他《なしくずしの死》《城から城へ》などの作品も，庶民を圧倒する巨大な社会機構への糾弾を主要なテーマとする。

せりふ 俳優が舞台で述べることば。ダイアローグ*(対話)が基本形であるが，特殊なものにモノローグ*(独白)・傍白*などもある。せりふの言い回し(エロキューション)は，歌舞伎(かぶき)・新派・新劇などの違いによって，それぞれ特色があるが，歌舞伎では，特に〈めりはり〉(減(め)入り，張るの意)といってせりふの抑揚を重視する。いわゆる長ぜりふ・つらね*，多数の俳優が順順に受け渡す渡りぜりふ，一連のせりふを交互にいう割りぜりふ，厄(やく)払い(七五調の形容ぜりふ)などのほか，脚本にはないが，その場の気分で思いつきに言う捨てぜりふなどの特殊な様式もあり，声色・抑揚・間などにくふうが凝らされている。

〔西尾邦夫〕

セリム(1世) ［Selim］ (1470～1520) オスマン-トルコ帝国*の第9代のスルタン。在位1512～1520年。当時，オスマン-トルコ帝国は，西方ではバルカン半島の大半を領有していたが，セリムはさらに，その領土を東方に向かって拡大することに努力して，イランのサファビー朝とメソポタミアの領有を争い，また，1517年にはエジプトに遠征してマムルーク朝を倒した。このとき，その保護下にあったアッバス朝カリフの子孫を連れ帰り，その称号を譲り受けたといわれる。

セリン ［serine］ $HO-CH_2CH(NH_2)COOH$ タンパク質を構成するアミノ酸の一種で，動物体内で合成できる可欠アミノ酸。絹糸のタンパク質セリシン中には約10％含まれる。そのほか多くのタンパク質中に少量ずつ含まれ，カゼイン中ではリン酸エステルの形で存在する。生体内では炭水化物代謝系の中間物質であるリングリセリン酸より生成し，システイン*・グリシン*の合成に用いられるほか，メチル基転移に重要な役割を果たしている。〔吉田精一〕

セル 和服用の平織り梳毛(そもう)織物。セルジ(サージ*)から転化した日本製の毛織物。霜降り・縞(しま)・絣(かすり)・プリント模様などがあり，綿糸・絹糸と交織することもある。主として春秋用の着物や一重羽織に用いられる。

ゼルキン ［Rudolf Serkin］ (1903～　) オーストリアからアメリカに帰化したピアニスト。ウィーンでロベルトにピアノを，シェーンベルクに作曲を学び，1920年にピアニストとしてデビューした。その後アドルフ-ブッシュに認められ，彼との二重奏で有名になった。1933年にアメリカに渡り，1935年にトスカニーニの指揮で独奏者として登場し，1939年以後アメリカに定住した。カーチス音楽院の教授。マルボーロ音楽祭の主宰者としても大きな足跡を残している。来日は2回。〔向坂正久〕

セルゲーエフ-ツェンスキー ［Sergei Nikolaevich Sergeev-Tsenski］ (1875～1959) ソビエトの小説家。はじめ詩集《思索と幻想》で詩人として出発したが，のち散文に転じた。農奴制度に反対する立場に立って作品を書き，ロシア革命後，一時ヨーロッパのモダニズムに影響されたが，やがて社会主義リアリズム*の道へ進んだ。代表作は《セワストポーリの苦戦》。

セルシウス ［Anders Celsius］ (1701～1744) スウェーデンの天文学者。1730～1744年ウプサラ大学で天文学を教え，1740年からはウプサラ天文台長も兼ねた。彼はオーロラの資料を集めたり，1736年にはフランス探検隊に加わってラプランドで子午線の弧の長さの測定を行なったりした。また，彼は摂氏目盛りとは反対に沸点を0度とし，氷点を100度とし，この間を100等分した温度計の目盛りを発表した(1742)。

セルジュクちょう 【セルジュク朝】 中央アジア出身のオグズ族の一派のセルジュク-トルコの建てた王国(1037～1157)。族長セルジュクに率いられた部族は，10世紀末にアラル海の北東シル川下流域に，11世紀にはいりアム川の流域に移動し，はじめはウイグルのカラ-ハン朝に従属してトランス-オクシアナを統治した。セルジュクの孫のトゥグリル-ベクに至って独立し，ニシャプールを占領し(1037または1038)，ガズニ王朝の派遣軍を打ち破って，ホラサン全域を支配し，王朝の基礎を確立した。次いでイラン全土を征服して，1055年には招請を受けてバグダッドに入城し，ブワイ朝に代わってアッバス朝カリフの保護者となり，スルタンの称号を受けた。そのあとを継いだアルプ-アルスラン(在位，1063～1072)は小アジア・シリア・パレスチナに領土を拡大し，ビザンチン帝国やエジプトのファチマ朝と拮抗(きっこう)するようになり，ヨーロッパの十字軍遠征の一因をつくった。アル

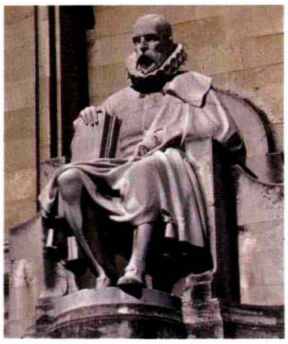
プ-アルスランとその子マリク-シャー(1072～1092)の時代に，イラン人宰相ニザーム-アルムルクのすぐれた手腕によって国家体制が整い，文芸も隆盛して黄金時代を現出した。ニザーム-アルムルクの国家統治法は，彼の著作《シャーサト-ナーマ(政治の書)》によく示されている。当時の詩人として《ルバイヤード*》(4行詩集)で有名なオマル-ハイヤムやニーザーミがあげられる。マリク-シャーの治世の末から国家分裂のきざしがみえ，やがてカラキタイ(西遼(せいりょう))やホラズム-シャー朝に領土を奪われて王国は分裂・衰微した。〔小谷仲男〕

セールスマンのし　**【**セールスマンの死**】**　アーサー-ミラー*の劇曲(1948年初演)。時代遅れの老セールスマン，ウィリィが，昔の夢を追いながら，やがて資本主義機構から脱落していき，かつ，むすこたちの荒廃した姿を見せつけられ死を選ぶに至るという物語。現実と幻想を交錯させた場面展開の巧みさとあいまち，現代社会における個人の不安を濃密に表現した名作。

ゼルニケ　[Frits Zernike](1888～1966)　オランダの物理学者。フローニンゲン大学の数学・物理学教授。はじめ数学を専攻したがのち光学に移り，回折格子*(こうし)に関する考案などを発表した。1934年〈位相差法〉を確立し，ドイツの光学技術者ツァイスと協力して位相差顕微鏡*を完成，開発した。1953年，ノーベル物理学賞を受賞。

セルバ　⇨熱帯雨林

セルバンテス　[Cervantes Saavedra, Miguel de.](1547～1616)　スペインの作家。マドリード近郊のアルカラ-デ-エナーレスの貧しい外科医の家に生まれた。正規の学校教育はほとんど受けず，マドリードの私塾(しじゅく)で人文学者，ロペス-デ-オーヨスに学ぶ。1570年ナポリで歩兵隊にはいり，1571年有名なレパントの海戦に参加，負傷して生涯(しょうがい)左手の自由を失う。1575年軍籍を離れて帰国の途中，トルコの海賊に襲われ，5年間アルジェリアで奴隷生活を送る。この間脱走を企て，反乱の首謀者となるなどしたが，1580年に自由の身となった。1584年結婚し，翌年処女作《ラ-ガラテーア》が出版されたが，1587年には文筆を捨てて〈無敵艦隊〉の食糧徴発人となる。その後は公金を預けた銀行が破産し入獄するなど不運の連続であったが，窮乏生活のうちに構想を得て，1605年，セルバンテスの名を不朽のものとした名作《ドン-キホーテ*》第1部を世に送ってたちまち喝采(かっさい)を浴びた。第2部は1615年に出たが，その間に《模範小説集》，長詩《パルナソ山の旅》と16編の戯曲が，また死後，小説《ペルシーレスとシヒスムンダの苦難》が出版された。〔牛島信明〕



セルバンテス

セルビア　[Serbia]　ユーゴスラビアの東部を占める，同連邦最大の共和国で，首都ベオグラードがある(連邦首都と同じ)。面積88,360km^2，人口822万8,000(1968)。東部と南部は山地で人口が少なく，北部はドナウ川流域の肥沃(ひよく)な平野で，農業が盛んである。スラブ系のセルビア人が居住し，14世紀からトルコの支配下に置かれていたが，19世紀に独立の機運が高まり，ベルリン会議*で独立が認められた。しかし，オーストリアと対立したため，サラエボ事件*を起こして第1次世界大戦の発火点となっている。〔梶川勇作〕

セルベトゥス　[Michael Servetus](1511～1553)　スペインの神学者・医学者。フランスのツールで医学と法律を学ぶ。《キリスト教の再建》で三位一体論を批判し，キリストの神性を否定し，予定説・幼児洗礼を非難したため，カトリック・プロテスタント双方から敵視され，ジュネーブでカルバンにより焚殺(ふんさつ)された。医学者としては血液の小循環・肺循環を発見し，また地学にも興味をいだき，プトレマイオスの《地理学》を校訂・出版した。〔石井忠厚〕

セルラーゼ　[cellulase]　セルロースを加水分解してセロビオース(ブドウ糖2分子が結合した二糖類)にまでする酵素。ヒトには消化酵素としては分泌されないので，セルロースは栄養素に利用できない。ウシなどの反芻獣(はんすうじゅう)は胃中にこの酵素を分泌する細菌を共生させているため，セルロースを利用できる。一般に草食動物の消化管にはセルラーゼがなんらかの形で存在している。木造船の大敵であるフナクイムシ(二枚貝)やカタツムリは消化酵素としてこれを分泌する。また，シロアリの消化管内にはセルラーゼをもつ細菌が共生している。〔井坂三郎〕

セルリオ　[Sebastiano Serlio](1475～1554)　イタリアの建築家。1514年ごろローマに出てペルッツィ*の弟子(でし)となる。はじめベネチアで活動し，1540年以降はフランスに招かれ，フォンテンブロー城の宮廷建築家となった。しかし，彼の名を後世に残した最大の功績は7巻にわたる大著《五つの様式などに関する建築の一般的法則》の完成であった。同書は建築実技書として広くヨーロッパに影響を与えた。

セルロイド　[celluloid]　セルロース系のプラスチック*。1869年にアメリカのハイアット兄弟がはじめてつくり，セルロイドと命名した。セルロースに硝酸と硫酸からなる混酸を作用させるとニトロセルロース(硝酸繊維素または硝化綿ともいう)を生ずるが，硝酸の反応の程度によってニトロセルロース中の窒素原子の含有量が異なる。窒素含有量13.2～13.4％のものを強硝化綿，12.5～12.8％のものをピロ硝化綿，10.0～12.5％のものを弱硝化綿(パイロキシリン)とよぶ。最初の二つは火薬の原料となり，3番めの中で，窒素含有量11.0％前後のものに可塑剤*として樟脳(しょうのう)½量を加えて練り上げ，板状に引き延ばしたものがセルロイドである。ニトロセルロースの窒素含量の調節は混酸の組成の変化によってなされ，硝酸21～22％，硫酸58.5～59.5％，水19～20％のときにセルロイドに適したものを与える。原料セルロースにはもめんの短繊維(リンター)や精製した木材パルプが用いられる。セルロイドは常温では強靭(きょうじん)な弾性体であり，熱には不安定で85～100℃で軟化，空中で190℃になると自然発火し急速に燃焼する。酸・アルカリにはわりあい安定で，アルコールなど数種の溶剤にとける。半合成樹脂として歴史は古く，玩具(がんぐ)・文房具・日用品に大量に使われてきたが熱に対して鋭敏なことが致命的で，最近ではしだいに各種の合成樹脂に置き換えられつつある。また，写真用フィルムのベースとして長い間，大量に使用されてきたが，これも同じ理由で近ごろはアセチルセルロースやポリエステル*フィルムに置き換えられている。〔伊藤　卓〕

セルロース　[cellulose]　高等植物の細胞壁の主成分で，植物体の構成物質の2分の1を占めることもある。高等植物以外にも藻類(そうるい)や酢酸菌にセルロースをつくるものが知られている。セルロースはブドウ糖どうしが1位と4位でβ-結合して長鎖状に何千も連らなった構造をもっている。木材を処理してリグニン・ペントザンなどを除いてセルロースだけにしたものを化学パルプとよび，紙・爆薬・化学繊維・写真フィルム・プラスチックなどの製造に用いられる。セルロースは他の多糖類に比べるとずっと分解しにくいが，酸や酵素(セルラーゼ)によって分解されてグルコースを生じ，部分的に加水分解すると二糖類であるセロビオースなどの少糖類が生ずる。〔吉田精一〕

セレウコスちょう　**【**セレウコス朝**】**　アレクサンドロス大王の〈後継者〉と称した将軍のひとり，セレウコス1世ニコトルによってたてられた王朝。この王朝の所領の核心となり，また最後まで存続した地域はシリアであるので，シリア王国ともよばれる。その所領は当初アレクサンドロス大王の遺領のアジア地域(約350万km^2)をほとんど継承した。セレウコス1世の政策はアジア内地と地中海の双方に向けられ，チグリス河畔のセレウキア，次いでオロンテス河畔の

アンチオキアに都を定めて，いずれも人口数十万を数える，ヘレニズム世界の巨大都市とした。次のアンチオコス1世のとき，小アジアにペルガモン王国が独立したが，同地に侵入したガリア人を撃退した。さらに第4代セレウコス2世のときには支配体制がゆるみ，バクトリア・パルチアが独立した。しかし第6代アンチオコス3世がBC223年即位すると国力の回復を図り，東方進軍(BC212～BC206)を行なってアルメニアを領有，バクトリア・パルチアを藩王国とし，インド辺境やアラビアにまで進出し，〈大王〉の称号を得た。しかしさらに，ヨーロッパに侵入し，トラキアを占領したことから，東地中海世界に進出してきたローマと交戦することになり，BC190年マグネシアの戦いに敗れ，小アジア全領を放棄し，地中海世界からも後退，バクトリア・パルチアも再び独立した。第8代アンチオコス4世はユダヤ教のヘレニズム化を企てたためユダヤ人の反乱と独立を招いた。そののち国力はしだいに衰えパルチアの攻勢によってバビロニア・メディアをも失い，シリア北部を中心とした一小国に転落し，ついにBC63年ローマの将軍ポンペイウスに滅ぼされた。セレウコス朝初期の広大な領域はほぼアケメネス朝ペルシアの国制に従って文武両権をもつ将軍を25～30の属州(サトラップ)に配置して統治した。また，領内に多数の都市を建設してギリシア文化の導入を図り，東西世界の経済的・文化的交流に大きな役割を果たした。〔秀村欣二〕

セレサンせっかい 【セレサン石灰】 フェニル水銀を主成分とする有機水銀粉剤。イネいもち病*の特効薬として大量に使用され，その後小粒菌核病・ゴマ葉枯れ病，ムギの雪腐れ病の防除にも適用されたが，使用量の増加に伴い，食品中の残留毒性の問題が社会的関心を集め，多くの批判が出たために1968年(昭和43)限り本剤の使用は中止されることになった。

セレシン ［ceresin］ オゾケライト(地ロウともいう)を精製漂白した無定形ロウ状物質。オゾケライトを融解し，水分や固形物を除き，さらに活性炭で処理して精製する。白色ないし黄色のミツロウに似た物質。融点60～80℃。一般式はC_nH_{2n}に相当する。床ロウ・くつ墨・防虫紙・製革剤・電気絶縁剤・ロウソク・香料・化粧品など多くの利用面がある。

セレスティーナ ［La Celestina］ 15世紀末のスペインの小説。戯曲形式で書かれ，正式の題名は《カリストとメリベーアの悲喜劇》。フェルナンド-デ-ローハスの作と伝えられるが，明らかでない。若い男女の恋愛と，間をとりもつ老婆セレスティーナを主題とする物語で，セレスティーナの強欲と恋愛の悲劇的結末を通じて人生の悲嘆を描いているが，とりわけ写実的で冷徹な性格描写と下層社会の人々を描く生き生きとした文体は傑出しており，ヨーロッパ文学におけるリアリズムの発展に貢献した。〔牛島信明〕

セレナード ［serenade］ イタリア語で〈晴れ〉を意味するセレーノと，〈夕べ〉を意味するセラとに由来する語で，16世紀後半から〈戸外〉〈夕べ〉と結びついた音楽をさすのに用いられた。このことばでよばれるものは，次の3種にわけられる。①モーツァルトのオペラ《ドン-ジョバンニ》の例のように，夜，恋人の窓べで求愛のために歌うもの。シューベルトをはじめとするドイツ-リートにも同じ内容のものが多い。②古典派で多数作られた合奏曲で，この呼び名は夕べの会合で演奏されることを示しているが，ディベルティメント*との区別はあいまいで，4楽章以上の多くの楽章，はじめに導入のための行進曲，そしてメヌエットをもつのが普通である。モーツァルトの〈ハフナー-セレナード〉，ベートーベンの初期の三重奏曲が有名である。③18世紀のカンタータ的な作品で，貴人の誕生日を祝う小オペラである。ヘンデルの《アチスとガラテア》がその例で，この場合はイタリア語でセレナータとよばれることが多い。〔徳丸吉彦〕

セレニウム ⇨セレン

セレネ ［Selene］ ギリシア神話の月の女神。ヘシオドスによれば，ヒュペリオンとテイアの娘で，ヘリオス(太陽)の妹神という。しばしば他の女神と混同され，特に詩歌ではアルテミスまたはヘカテと同一視された。神格としてはさほど重要ではないが，恋や病気や繁殖にかかわる魔術的な力をもつとされた。伝説では，彼女は美青年エンデュミオンに恋し，彼を不老不死の眠りにつかせて，彼の眠る洞穴(どうけつ)へ夜ごと降りてきたという。〔左中庸博〕

セレベス(島) ［Celebes］ インドネシア中部にある大島で，面積17万8,000km²。森林におおわれた山がちの四つの半島が島の地形を特徴づけてK字状をなし，ランテマリオ山(3,440m)がある。動植物の生息では，アジア大陸よりもオーストラリア大陸に類似しており，自然科学者の興味をよんでいる。住民は，南西部を中心に農漁業を営む回教徒のマカッサル人，北部にはヨーロッパ人によく似ているキリスト教徒のミナハサ人，原始的な農業を営み高地に住むトラジャン人がいる。香料・コーヒー・トウモロコシ・米などを産し，鉱産物ではニッケル・金・銀・スズなどの埋蔵もあるが開発は遅れている。1512年ポルトガル人がヨーロッパ人としてはじめて来島したが，1660年オランダはポルトガル人を追い出してここを植民地にした。太平洋戦争中は日本軍が占領したが，1950年以後はインドネシア共和国の一部をなす。インドネシア名ではスラウェシ島。〔大崎 晃〕

セレン ［Selen］ 原子番号34，記号Se，原子量78.96。周期律表第Ⅵ族に属し，いわゆる酸素族元素の一員である。1817年ベルセーリウスによって，硫酸製造の際の鉛室泥(えんしつでい)の中から発見された。地球上に広く分布しているがその量はきわめて少量であり，クラーク数は1×10^{-5}(第70位)である。イオウ・硫化物に伴って産出する。多くの同素体が知られており，灰色の金属セレン，赤色の結晶セレン，黒色のガラス状セレンなどがある。金属セレンは光沢のある固体で，他の同素体を200℃ほどに熱すると得られ，0.043mmHgにおける融点217.4℃，沸点736℃，比重(25℃)は4.80。化学的性質はイオウに類似している。空気中では青白い炎を出して燃焼し二酸化セレンSeO_2になる。ガラス・陶磁器の着色剤，また，半導体*材料として整流器などに使われる。〔古屋 弘〕

セレンガ(川) ［Selenga］ モンゴル人民共和国中西部のハンガイ山脈に発して東に流れ，ソ連のトランスバイカル地方を貫流して，バイカル湖南端部に注ぐ。全長2,120km。小形船は河口からソ連とモンゴルの国境付近までさかのぼることができる。流域一帯は早くから灌漑(かんがい)されて重要な農業地帯となっている。

セレンせいりゅうき 【セレン整流器】 ⇨整流器

ゼロ ［zero］ 〈無〉もしくは測定の基準を表わす数。零ともいう。記号0で表わす。まず，0は，数を位取りの原理で表わすとき，203の十位のように，ある位が空であることを示すのに用いられる。空位を表わす記号0は，位取りの原理による記数法では不可欠の記号であり，他の記数法では0に相当する記号は不用である。

次に，0は数としてのゼロ(零)を表わす記号でもある。数の0は，0mや0℃のように，〈無〉や〈基準点にした量〉を表わすのに用いられる。また，他の数と同様に，演算を施すことのできる抽象的な数でもある。

数の0は，数学的に重要な特別な役割を演じている。たとえば，普通の計算では，

$$a+0=0+a=a,\quad a-0=a$$

$$0\times a=a\times0=0$$

$$ab=0 \text{ ならば } a=0 \text{ または } b=0$$

といった性質がある。なお，0で割ることは定義されていない。すなわち，0÷0や$a\div0$は数を表わしてはいないのである。むしろ，空位を表わす記号としての0を発見したからこそ，記録にも筆算にも便利な位取り記数法が可能になったといえる。この0の記号はインド人が発見したものであるが，いつごろだれによって発見されたかは明らかでない。

位取り記数法は，すでに6世紀のころからインドでは行なわれていたと推定され，アラビアを経て，8～13世紀ごろまでの長い年月をかけて徐々にヨーロッパに浸透した。さらに，印刷術の発明によって決定的に，それまでのローマ記数法にとって代わ

るに至った。〔杉岡司馬〕

ゼロせん　**【零戦】**　太平洋戦争で活躍した日本海軍の艦上戦闘機。零式(れいしき)艦上戦闘機の略で，〈れいせん〉と読むのが正しい。1937年(昭和12)に三菱重工業に対して試作の指示が出され，堀越(ほりこし)二郎技師の主務設計で1939年にプロトタイプが完成，1940年制式採用となった。空戦性能・航続力・武装などにおいて，同時代の戦闘機よりすぐれ，太平洋戦争が始まると，全戦域にわたって連合軍戦闘機を圧倒し，作戦推進の重要な立役者となった。その後いくたびかの改造が行なわれたが，後継機の開発が遅れたため，戦争中期以降は質量ともに劣勢となり，末期には特攻機として使用された。日本の代表的軍用機として世界的に有名である。〔藤井冬木〕

ゼロックス　［Xerox Corp.］　アメリカ最大の事務機器メーカー。1906年にニューヨーク州ロチェスター市の一感光紙メーカーとして発足し，複写機の発明によって全世界の複写機市場をほとんど独占する会社にまで急成長した。おもな製品は電子複写機ゼロックス・引き延ばし機・縮写機などでこれらの賃貸も行なう。そのほか記録用紙など複写機器に関連した製品の生産や，資料コピーの配布，教材の出版なども行なう。子会社では宇宙・軍需関係の事業も手がけている。海外市場では東半球のほとんどの国に子会社をもち，毎年全売り上げの30％もの収益をあげる。日本でもランク-ゼロックス(イギリスの子会社)と富士写真フィルム(株)との合弁会社富士ゼロックス(株)が設立されている。本社ニューヨーク州ロチェスター。年間売上高17億2,000万ドル(1970)。〔氏家　尚〕

セロトニン　［serotonine］　哺乳(ほにゅう)類の血液・脳・腸などに存在するアミンで，化学的には5-ヒドロキシトリプタミンである。末梢(まっしょう)血管を収縮させる作用があり，神経のシナプスにおける刺激伝達物質であるともいわれる。レセルピンの投与によって血液や脳中のセロトニンが減少することから，中枢神経の活動に影響を与える薬剤はセロトニンの拮抗剤であると考えられている。LSDは脳内のセロトニンの代謝を阻害することによって幻覚を起こさせるという。

セロリー　［celery］　双子葉植物・セリ科。セルリ・オランダミツバともいう。ヨーロッパ原産の一年生または二年生草本。茎は直立して分枝し，高さ60～90cm。葉は鋸歯(きょし)のある2～3対の小葉からなる羽状複葉。全草に特有の強い芳香がある。根出葉の葉柄は太く長く，食用とされる。初夏のころに多くの緑白色の小花をつける。果実(セロリシードといわれる)は灰かっ色，2mmほどで，古くから薬用・香辛料として利用されている。冷涼温和な気候を好み，ヨーロッパでは古くから栽培されていた。



ゼ ロ 戦

わが国では江戸時代末期にオランダ人により伝えられ，横浜を中心として栽培されて，キヨマサニンジンとよばれた。現在では高冷地などで多く栽培され，生食のほか乾燥粉末にして利用されている。

〔松本正雄・小清水義隆〕

せろん　**【世論】**　ある社会集団の中で，公共的問題に関してある程度の意見の一致を得て，だれもがそれを標準的と認める顕在的意見。第2次世界大戦前は輿論(よろん)といった。プラトン・アリストテレス以降の政治思想上の重要な概念であったが，最初に〈世論〉(public opinion)ということばを使用したのはルソーである。以来，政治現象の分析や理論づけおよび社会心理学にひんぱんに用いられるようになった。しかし，学説は種々に分かれ，一般的な概念規定はしにくい。世論はふつう，政党その他の政治団体，労働団体，ジャーナリズムなど少数のエリート層によって公示された意見を一般成員が主体的に選択し，それが大勢を占めることによって形成されるので，その制度的保障は民主主義社会の最大の基礎といっても過言ではない。しかし，社会の諸関係が複雑多岐にわたる現代の大衆社会では，世論はつねに一つではない。

〔国近浩一〕

せろんちょうさ　**【世論調査】**　社会に影響力をもつ最大多数の民衆がなにを考え，なにを欲しているかを明らかにする目的で行なわれる社会調査。1930年代アメリカの《リテラリー-ダイジェスト》誌が大統領選挙模擬投票を行なった際，市場調査の技術を適用して異常な成功を収めた結果，企業としても成立した。これらの商業的世論調査機関にはギャラップ世論調査所などがある。1940年代には，第2次世界大戦下の戦時政策の検討，モラール(勤労意欲)の分析，意見の統制などの諸問題に，政府諸機関が世論調査を活用した。さらに各大学(シカゴ・プリンストン・コロンビア・ミシガン)においては，特定の政治・経済・社会問題の調査，意見・態度の理論的研究にまで発展した。戦後，わが国やヨーロッパにも各種の世論調査が広がり，マスメディア(新聞・雑誌・ラジオ・テレビジョンなど)によって大衆の無知や誤信を矯正(きょうせい)した。一方，世論調査は指導層と大衆とを結びつける道具であるが，同時に選挙予想が投票に影響するというバンドワゴン的効果のおそれや，世論を調査した結果が世論を製造し，大衆を追随させる危険性などをもっている。世論調査はそれまで，学生・軍隊などの特殊な対象に局限されていた態度調査を一般大衆にまで拡大し，標本抽出法と面接法とを結合させて調査の効果をあげている。➜世論

〔斎藤昌男〕

せわもの　**【世話物】**　浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)の脚本の一種。武家や貴族などの歴史的事件に取材した〈時代物〉に対し，江戸時代の一般民衆の事件を脚色して，町人・農民などを中心とする作品をいう。浄瑠璃《心中天網島(しんじゅうてんのあみじま)》《新版歌祭文》，歌舞伎の《東海道四谷怪談(よつやかいだん)》《弁天小僧(青砥稿花紅彩画(あおとぞうしはなのにしきえ))》などがその例。なお，歌舞伎では世話狂言ともいい，演出の様式的なものを〈時代世話〉，写実的なものを〈生世話(きぜわ)〉とよぶ。

せん　**【腺】**　動物の組織で，主として腺細胞で構成され，分泌の機能をもつ生体器官。分泌物を体表や口腔(こうこう)あるいは消化管の内腔に排出し，そのための導管をもつものを外分泌腺とよぶ。腺細胞は上皮様に配列して分泌部を構成する。肝腺・唾液腺(だえきせん)・肝臓・膵臓(すいぞう)・胃腺・腸腺などがこれに属し，分泌物は一定の限られた部位で排出される。これに対して分泌物を血管やリンパ管内に排出し，導管をもたない腺を内分泌腺とよぶ。多くは上皮性を失っている。腺内部には毛細血管が豊富に存在する。下垂体・甲状腺・膵臓のランゲルハンス島，副腎(ふくじん)などがこれに属し，分泌物をホルモンとよぶ。腺細胞を電子顕微鏡で観察すると，細胞内には多くの粗面小胞体と，発達したゴルジ装置(➜ゴルジ体)が存在する。分泌物は粗面小胞体で合成され，ゴルジ装置を経て分泌顆粒(かりゅう)となり，この形で細胞内に貯蔵され，必要に応じて細胞外に放出される。

〔幡井勉・橋本長〕

せん　**【銭】**　わが国の貨幣呼称単位の一。1871年(明治4)の新貨条例によって円の100分の1をもって銭と称することが定められ，同年後半，1・2・5・10・20・50銭貨幣が発行された。その後長く使用されていたが，第2次世界大戦後のインフレーションによって実際的な意味がなくなり，銭単位の通貨は1953年(昭和28)廃止された。現在では金利の日歩計算に用いられるだけである。➜円

せん　**【塼】**　れんが状の壁面構築材。粘土を型で押して乾燥させ，窯(かま)で焼いて，建築や墳墓に使用した。中国漢代にすでに文様を表わしたものがあり，その多くは中空である。朝鮮の百済(くだら)や新羅(しらぎ)の塼にも精緻な山水・四神の文様を表わした例が多い。わが国では岡寺の天人塼や，橘(たちばな)寺の鳳凰塼(ほうおうせん)が名高く，いず

れも白鳳期の作である。このほか，仏像を浮彫ふうに表わした塼仏も知られている。

ぜん　【禅】 ⇨次ページ

ぜん　【膳】 食物を盛った器を載せる台。昔の折敷(おしき)の変じたもの。近世，正式の饗膳(きょうぜん)は本膳・二の膳・三の膳などからなっていた。足の形によって蝶足(ちょうあし)・宗和足・猫足(ねこあし)などの種類があり，足なしのものもある。

ぜん　【善】 善は万人の求めるところであるが，これを分析してこれこれであると説明することのむずかしいものをもっている。プラトン*はあらゆる事物がそれによって存在しまた認識される究極の根拠を善そのもの，善のイデア*と名づけ，太陽になぞらえた。つまり，これはイデアとよばれるが，諸他のイデアの存在さえも越えて無仮定的で不可言説的なものとされるが，他方これを合わせ用いれば正義やその他のものもはじめて有用・有益になるという。このように，イデア論者は善の本性の超越性を強調するのに対して，アリストテレス*は存在や一と同様に善もまたいろいろの意味で語られるとして善の内在性を説く。善はおのおのの者がそれ自身の徳性(よさ・能力)に応じて活動するところにあるとした。そして，人間の場合は理性に即した活動，つまり理論活動が人間の諸活動のうちの最高善であり，そうした観照生活こそ至福である点，思惟(しい)の思惟としての神の完全現実活動を頂点とする合目的的宇宙像とともに善の内在と超越の二面性を示すことになっている。これはいずれも主知主義的な善の見方であるが，善の内容を欲求や快楽に求める人たちもいる。古代の原子論者やエピクロス主義者などであるが，彼らにおいても，実は肉体の刹那(せつな)的快楽よりも精神の持続的な知的快が上位に置かれている。彼らに対立し徳のみを善とするストア派も，のちには善悪無記とされた素質や才能，生死や健康と病気，美と醜，貧富，評判と無名，家柄の貴賤(きせん)などについて前者を選ばれるべきもの，後者を避けるべきものとして善への価値的な有効性・有用性の道を開いている。これは善の効用性を主張する近世の功利主義につながる。善の内容を離れ，もっぱら形式の面できびしく規定したカント*は，意志のみが善であると説いて善の形式性をきわだたせた。この意志説は善がつねに一なるものを求める統一力にあるとするのにきわまる。意識の統一，個人の自我の統一，社会・人類の公的統一，宇宙・自然と人類の統一と統一力はたえず高まる。これは愛の階梯(かいてい)的な働きとも美の諸相の階層とも相おおう。かくて真の善は真の自己を知り，宇宙の本体，神の意志との冥合(めいごう)，主客合一の力の自得にあるという西田幾多郎の説も生まれる。ここでは宗教も道徳も芸術も一体になる。

〔村治能就〕



塼　《鳳凰塼》 岡寺蔵

せんい　【遷移】 植物群落の構成種や構造が時間の経過とともに変化して，他の植物群落に置き換わること。アメリカの生態学者クレメンツ*は，植物群落全体を一つの生物体にたとえ，植生の移り変わっていくようすを，群落が生まれ，生長し，成熟し，やがて老化するという生物の一生に似た過程としてとらえた。腐植の堆積(たいせき)，根による土壌(どじょう)の風化促進，葉による日光の遮断(しゃだん)などの原因で，生育地の環境に変化が起こることが，遷移の原因として最も一般的な理由である。

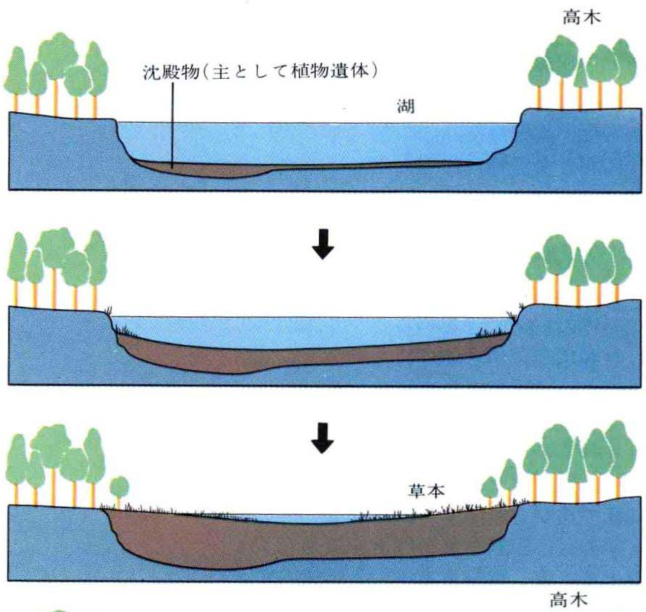
新しくできた環境に対して，その環境条件に耐えることのできる植物だけが生活を始める。一方，植物の生活は環境を変化させるため，そこに生活していた植物はもはや耐えることができなくなる。そして変化した環境に耐えうる新しい植物が侵入してくる。このように植物群落と環境との間に，相互作用がくり返され，ついには安定した植物群落になる。この変化の最後に現われる安定した植物群落(極相)は気候条件によって決まり，同一気候条件のもとには同一の極相群落が発達する。これをクレメンツの単一極相説という。その後同じ気候条件下でも，土壌的条件・生物的条件によって異なった安定群落が成立しうるという多極相説が提出され，今日ではこの説を支持する学者が多い。

遷移には，これまで植物がまったくなかったところから始まる場合と，ある程度破壊された群落(森林の伐採地跡や山火事跡など)から始まる場合がある。前者を一次遷移，後者を二次遷移とよぶ。一次遷移は，溶岩地，山くずれ跡や洪水(こうずい)による砂礫(されき)埋没地などにみられる乾性遷移と，湖沼・池などが陸化するときにみられる湿性遷移とに分けられる。遷移における種類の交代のようすはだいたいの傾向として次の順序がみられる。

①乾性遷移系列：地衣類・コケ類→一年生植物→多年生植物→低木林→陽樹林→陰樹林(極相)

②湿性遷移系列：植物プランクトン→沈水植物→浮葉植物→抽水植物→(陸上)草本植物，以下乾性遷移系列と同様である。

➔521ページ



遷　移
湿性遷移系列

禅

【禅とは何か】禅ということばの意味する内容はさまざまだが，基本的には，万物存在の真実に徹して生きる道といってよい。

禅，そして仏教一般では，人間を含む万物の真実を，キリスト教のように神によってつくられたものとはみない。また，ヒンズー教のように霊魂のような永遠不変の実体に求めることもしない。禅では，基本的には，因縁という原理に示される〈あり方〉によって万物存在をとらえようとする。あるものが〈存在する〉ということは，なんらかの原因(因)があり，それを助けるさまざまな条件(縁)があり，両者が合した必然の結果として，それは〈いま〉〈ここに〉〈こうした相(姿)〉をとってあるということである。人間も山も川も草も木もすべてが因縁の理によってあるべくしてあるのであり，それぞれが個々別々のものでありながら，その〈あり方〉からすれば，すべてが絶対のものとしてある。役にたつとかたたぬとか，善悪とか，同異とかいった対立概念は，われわれ人間がつけた評価であって，万物の立場からすればどうでもよい，すべてが平等のものとしてある。

この点に西欧的な思惟(しい)方法一般と禅・仏教の異なる一面をみることができる。西欧では人間と環境(自然)とが対立する傾向がある。英語のnatureとは人間に相対して存在する環境であり，人間によって征服されるべきものである。しかしnatureの訳語として採用された〈自然〉ということばは，元来，〈じねん〉と読み，先述した意味で〈おのずからしかある〉という万物のあり方を示すものであり，人間もその中に含むものであった。人間は自然の一部であるがゆえに，人間と自然物，たとえばかきねに咲き出た一輪のアサガオとも容易に自他融即し，ともに泣きともに笑う世界も出てくる。俳句はこうした世界をふまえるものであろう。

しかしわれわれ人間は，普通には，こうした万物の〈あり方〉をあるがままには見ない。つねに自己中心的に働く思考とか意志とかによって構築された観念や概念を通して，物や人間(自己も含めて)を見るように慣らされている。ヤナギは緑で花は紅であるという事実をそのままには見ずに，ヤナギは紅であれと希望する。禅はこうした見方を拒否し，思考や意志作用を通さないありのままの姿，実相を本来のものとしてとらえようとするのである。

この万物の実相は存在の〈事実〉であり，概念化することはできない。文字を使ってむりに表現しても，それは絵に描いたもちであり，叙述しただけであって，いきいきとした存在の事実そのものではない(→不立(ふりゅう)文字)。当然それはことばや文字による教説としてはなりたつものではない(→教外(きょうげ)別伝)。残る道はその事実に徹するためになんらかの行(ぎょう)によってその世界になりきることである。人間の真実のあり方(〈心〉とよぶ)に端的になりきること(直指人心(じきしにんしん))である。それは概念化され善悪などの判断の行なわれる以前のあるがままの相であり，いっさいの対立のない仏の世界である。この世界は人間である以上，だれにも具有されているものである。この本来のあり方に対して眼を開き，それになりきって生活を行じていくこと(→見性成仏)が禅のめざすものといっていい。

【禅の歴史】こうした禅の思想は基本的には中国において成立した。ただし禅ということばはインドに起源をもつ。正しくは禅那(ぜんな)といい，梵語(ぼんご) dhyāna(ドフヤーナ)，俗語のjhāna(ジャーナ)に由来する音写語である。訳して〈定(じょう)〉ともいい，音・意を合わせて〈禅定〉とも訳されている。インドのヨーガの伝統を引く技法で意識の集中と冥想(めいそう)であり，ブッダもこの禅定により悟りを開いた。以後，禅定はインド仏教史において重要な地位を占め，さまざまな発展を示している。しかし，それが中国にはいると中国人の国民性，あるいは特に道教思想との融合もあってしだいに独自な中国禅が形成されるに至った。

中国禅の祖は達磨(だるま)といわれる。彼は南インド出身とも，またペルシア人とも伝えられ，5～6世紀にかけて中国にとどまり禅を提唱したが，面壁九年の逸話は有名である。彼以前の禅観はインドから移入されたままの，いわゆる自利的な小乗禅のものが多かった。しかし，人間は仏性(ぶっしょう)を具有しそれを直覚すれば成仏するとの思想は，達磨以前にすでに中国に現われていた。そうした思想を加味しつつ，中国禅の基礎が築かれたのは，彼の弟子(でし)禅宗第2祖慧可(えか)(487～593)のときである。以後，代を経て5祖弘忍(こうにん)に至るが，彼にふたりの高弟がいた。そのひとり神秀はいわゆる北宗禅を開き，他の6祖慧能は南宗禅の祖となり，ここに分派が興った。しかし，前者は数代にして跡を断った。やがて唐～宋(そう)の時代に五家(臨済・潙仰(いぎょう)・曹洞(そうとう)・雲門・法眼)七流(上述の臨済が黄龍派と楊岐(ようぎ)派に分かれたのでこれを加える)とよばれる分派が興った。しかし，いずれも宗風の差の程度で，教団として別々に独立なものとなったという意味ではない。宋代以後には臨済宗が主力となった。この系統は栄西により日本にもたらされ，曹洞宗は道元により日本定着の礎が築かれた。日本の禅宗はこの2派に，さらに江戸時代に臨済系統より分かれた黄檗宗(おうばくしゅう)を加えて3派が有力となった。

曹洞・臨済の2派は修行方式に差を示す。前者は人間の本来のあり方(本来の面目)に信を置き，それに徹する行としての坐禅の絶対性を強調する。坐禅するとき，すでに本来の面目としてのあり方が現われており，本来の自己になりきっているのであり，その意味で坐禅は手段ではなく，目的そのものでなければならない。どんな初心者でも坐禅をしているとき，すでに彼は仏として坐禅しているのであり，したがって坐禅は絶対の〈仏行〉とされる。この坐禅を生活の中心に置きつつ，僧院での日常生活すべてが仏の行として考えられる。したがって僧院での生活の規律はきびしく，こうした仏の生活を送りつつ，いつしか正しい眼を開かせていく。これは凡夫の立場から出発するのでなく，最初から仏の世界にはいりこませて仏の生活を送らせていく修行の行き方である。これに対して臨済禅は，方向としては，凡夫から仏の世界へステップを踏みつつ向上させせようとする。そのために公案を用いる。公案とは元来が公府案牘(あんとく)のことで，政府が人民にかくあるべしと示す手本，あるいは定めである。この意味で禅僧たちの事績が公案として伝えられるようになったが，臨済系ではこれを〈問題〉として利用する。真実の世界は論理を越えているが，人間は論理を離れられないために，真実を見る眼が開かれない。その殻(から)を破るためにきわめて非合理な問題に取り組ませる。たとえば〈両親が生まれる以前の顔はどんなだったか〉とか〈両手をたたくと音がするが片手の音は〉といったもので，論理的思考にいきづまったところに新たな眼を開かせようとするものである。

なお，禅とともに絵画や建築などの中国美術が日本に伝えられ，禅美術の発展をみたことはよく知られている。特に頂相画(ちんぞうが)(禅僧の肖像画)や禅機画(禅の悟りの境地を絵に示そうとするもの)から，やがて山水画の完成をみ，独特の日本画の伝統を生み出した。禅の日本文化に与えた影響は絵画に限らない。禅のめざす境地に関連して直観性とか，枯淡・簡明・雄渾(ゆうこん)・洒脱(しゃだつ)，自然との一体観などといった観念が日本人の心にしみこんでいき，さまざまな方面に影響を及ぼした。武士道・茶道・華道・文学などがその一例で，こうして禅は日本文化の特色を形成するのに一翼をになっている(→禅宗)。

【西欧における禅】最近，西欧において禅への関心は著しく高まっている。鈴木大拙をはじめとする禅関係者の努力によるものであろうし，同時に概念化を退ける自然主義的な世界が，現代人にとって強く訴えるものがあるのかもしれない。日本を訪れる外国人の数もふえ，美術を通して禅への眼を開いた人もいる。いずれにせよ，西欧

で出版されつつある禅関係の出版物はおびただしい数に上る。

しかし，このことは正しい禅が正しく理解され，信仰されているという意味ではけっしてない。西欧におけるさまざまな禅へのアプローチのうちで，一つの大きな流れは禅を神秘主義とする見方であろう。なるほど禅は宗教体験であり，それは文字に表現することはできない。このことは直ちに西欧的用語における神秘思想を思い起こさせる。しかし神秘主義が恍惚(こうこつ)（トランス）の状態における絶対者との合一，および それに伴う歓喜の情に重きが置かれるのに対し，禅は日常生活の中に本来の自己を行じていくことを本質とする。日常不断の生活すべてが宗教的行なのであって，一時的な心理状態が禅ではない。しかるに西欧にはベテラン-シーカー（諸宗教遍歴者）なる一群の人がいる。彼らは神秘主義愛好家であり，特に東洋諸宗教にそれを求めてやってくる。鈴木大拙ほどの人が禅は神秘主義ではないと強調しても，彼らには効果がない。彼らが求めているのは神秘体験だけなのであって，禅の生活を求めているわけではない。しかし禅に興味をもつ人々の中にこの種の人はきわめて多い。

他方，現代文明の混迷は合理的・科学的思惟方法の限界を暴露し，それにあきたらぬ一部の者は反体制運動に走っている。ヒッピーはその流れに属するが，彼らは反近代・反合理・反体制の名のもとに禅をとらえようとする。禅僧の一見奇矯(ききょう)にみえる洒脱な行為はその表面のみが模倣され，たとえばはだしでぼろをまとい，断崖(だんがい)の上にすわって坐禅と称したりする。禅の悟りを一時的に高揚した一種異常な心理状態とする誤解もあり，ここから悟りの境地と幻覚剤ＬＳＤにより現出される状態との同一性を論じたりする。

こうしたビート禅が一方の極端なら，他の極端には，著名な比較宗教学者で，禅に造詣(ぞうけい)の深いアラン-ワッツのいうコチコチ（スクエア）禅がある。日本を訪れて僧院で修行した人にしばしばみられるもので，救いようのない形式主義に陥っている。禅の生活とは真実の自己をおさえたうえで最大限に自由であるはずのものだが，いたずらに固定した旧習や伝統を重んじて，自由清新の創造性に欠ける面がある。そしてギンズバーグ・シュナイダー・ケラワックらの禅に興味を示すアメリカ文学者たちは，上記２種のいずれかに属する傾向があるという。また，サリンジャーも禅に関心をもち，エマソン・ソローの自然主義文学の系譜を引くとする評価もある。

精神分析や実験心理学の立場から行なわれる禅研究も盛んである。熟達した人が坐禅をするときには呼吸代謝が極度に少なくなり，脳波をはかるとαウエーブが出るという。従来，科学のわく外にあるとされた宗教体験の諸相が少しずつ学問的に明らかにされつつあるのは事実である。しかし反面に，宗教としての禅と科学研究の対象としての禅とが混同され，αウエーブさえ人工的に出せれば禅をやったことになるといった偏見も絶無ではない。

一つの宗教（文化）体系が，異なる文化圏にはいり定着するとき，そこには両種文化のおのおのに変容が起こるのは当然である。インド的禅観の中国禅的変容，中国禅の日本的な定着などはその一例であろう。とすると，日本から移出されつつある禅が欧米においてどういう形で定着するのか，また，ついに定着しえないものなのか，現在のところ予測するのは困難である。ただ欧米にかぎらず，日本をも含めて，全世界的規模で人間というものが問いなおされ，かつての文明観が変わりつつある今日，新たな人間観・文明観の形成に禅がいかなる形で寄与しうるのかが今後の重要なテーマとして残されている。〔奈良康明〕

一次遷移において，実際には最初に地衣類・コケ類で始まる例はむしろまれであり，雑草のように種子が小さくて軽く，かつ大量に生産される植物から始まる場合が多い。都会のあき地などに見られる帰化植物群落などはそのよい例である。草本から低木林への移行は以下のようである。すなわち，草本は年々その地上部が枯れ，毎年ほぼ同じ背たけを保っているのに対し，木本は前年に伸びた枝に芽がつくため，年とともに葉のつく位置が高くなる。やがて木本は草本より背が高くなり，草本をおおって木本群落となる。木本群落において陽樹林を構成するものはカラマツ・カンバ類・マツ類・ヤナギ類・ナラ類などが代表的であり，極相である陰樹林ではカシ類・シイ類・ブナ・モミ類・ツガ・トウヒ類などが代表的である。わが国の西南部ではだいたいシイ・カシからなる照葉樹の極相に発達し，冷温帯ではブナを中心とした落葉広葉樹林，亜寒帯ではオオシラビソ・エゾマツ・トドマツが優先する森林に発達する。その他，尾瀬沼や霧ケ峰などにみられる高層湿原とか海岸の砂丘植生は，土壌要因・塩分濃度がこれらの群落の成立に大きな条件となるため，多極相説からみると極相ということができる。

遷移が進むにつれて，一般には植物体の蓄積が増大し，生物の種類もしだいにふえていく。このような変化の最後にあたる極相の森林が，長い年月の間変わりなく維持されるためには，その森林を構成している種の幼樹が，暗い林内でも生活しうる陰性植物でなければならない。さらに土壌条件では養分の変化が絶え間ない補給と消費との平衡状態でなければならない。これは，たえず落葉枝によって土壌有機物が補給されるとともに，時々刻々とそれが無機化されて，再び植物に吸収されたり，空気中や地下水中に失われていき，その間に平衡が保たれるのである。

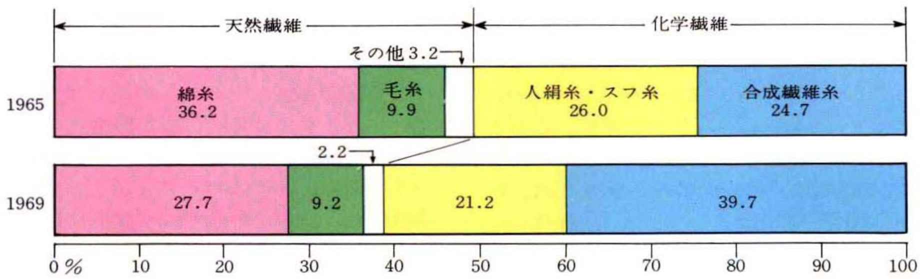
以上述べた遷移のほかに，毎年の季節によって植物の種類が交代する季節遷移がある。たとえば，川原の河川敷や沼地などによく見られるオギ・ヨシ群落では，オギやヨシが生長を開始するまえにサクラソウやノウルシが生長し，夏になるとノウルシやサクラソウは姿を消して１～２ｍのオギ・ヨシ群落となる。このような季節遷移も長い間には変わっていく。〔増沢武弘〕

せんい　**【繊維】**　生物体をつくっている組織の中で細長い糸状のもの。一般には糸状の物質をいうが，実際に利用されるのは紡織用繊維である。紡織用繊維は，その太さが肉眼でようやく見える程度，その長さは太さの約600倍以上である。製紙用パルプの繊維は長さはごく短い。人類が繊維を衣料その他に使うことを発明したのは，およそ10,000年以前の新石器時代であった。はじめは靭皮(じんぴ)繊維*のような樹皮などが利用されたが，その後絹糸が発見され，紡ぐ技術が考案されて羊毛*・綿*などの短繊維が使われるようになった。繊維*は糸とし，織ることや編むことによって布地につくられる。柔軟で耐久力に富み，含気性・通気性・吸水性・保温性・染色性などの性質をもつために衣料として欠かせない資材となった。天然繊維*は長い年月にわたって利用されたが，19世紀に至って人造の繊維が発明されて，人類の衣料は新しい資材を加えた。現在は天然・人造の２大繊維によって衣生活をまかなっている。衣料として繊維に代わる物質はいまだにほとんど発明されていないところをみると，原始人のこの発明は偉大なものといえよう。〔小川安朗〕

ぜんい　**【前胃】**　消化管の中で胃の前部に位置する部分。鳥類では食道に続く胃が前・後の２部分に分かれ前部を前胃，後部を砂嚢(さのう)といい，前胃には消化腺(しょうかせん)が発達しているので，腺胃ともいう。こん虫類の前胃は，発生学の上での前腸の最後部にあたり，口・食道・嗉嚢(そのう)の次にあたる部分で，キチン質が内面に発達しており，咀嚼胃(そしゃくい)または砂嚢ともいわれる。棘皮(きょくひ)動物のウニの仲間では消化管が曲がりくねっているが，その前半部を前胃，後半部を後胃という。

〔蒲原春一〕

ぜんい・あくい　**【善意・悪意】**　法律上の用語としては，ある事情を知っているか



繊 維 工 業　わが国繊維生産高の内訳

否かによってこの区別があり，善意とは，ある事情を知らないことであるのに対し，悪意とは，知っていることをいう。倫理的・道徳的に誠実・不誠実という意味ではない。ただし，例外的に悪意のみが倫理的・道徳的に不誠実という意味で用いられる場合もある。離婚原因として規定する民法770条1項2号の悪意の遺棄はその例である。法律行為の当事者または第三者が善意であるか悪意であるかによって，その法律効果を異にする場合が多い(民法192・704条)。
〔黒木三郎〕

せんいきかい　【繊維機械】　繊維および繊維製品類を製造する機械の総称。繊維採取機械としては綿の繰綿機，麻の砕茎機・梳繊機(そせんき)，生糸の繰糸機など，繊維製造機械としては化学繊維の溶解機・紡出機・巻き取り機・切断機などがある。糸をつくる紡績機には，混綿機・打綿機・梳綿機・連条機・粗紡機・精紡機などの綿紡機類，洗毛機・梳毛紡機・紡毛紡機などの羊毛紡機類，乾紡機・潤紡機などの麻紡機類のほか，撚糸機(ねんしき)・巻糸機などが用いられる。織物製造機としては，整経機・織機・整反機など，編物製造機としてはよこ編機・たて編機などがおもなものである。染色仕上げ機として繊維染め機・糸染め機・反染め機・捺染機(なっせんき)などをはじめ，水洗機・乾燥機・蒸熱機・起毛機・縮充機・剪毛機(せんもうき)などが使われる。そのほか製紐機(せいじゅうき)・レース編機・不織布製造機・綿打機・フェルト製造機などがある。これらの繊維機械類は18世紀末の産業革命によってそれまでの手工操作から機械化され，作業員の減少や生産量の増大などの現象をもたらし，繊維製品の進歩，加工技術の発達を促進した。さらに近年は自動化・連続化・スピード化の傾向が著しく量産とコストダウンへ進んでいる。
〔小川安朗〕

せんいげんそ　【遷移元素】　⇨転移元素

せんいこうぎょう　【繊維工業】　綿花・羊毛・絹・麻・人絹(レーヨン)・アセテート・合成繊維などを原料として，製綿・製糸・紡績・織布・染色を行ない，衣料品・家庭用品，ならびに産業用製品を生産する部門から，さらにそれらを流通・販売する部門までを含めていう。従来は，繊維工業とは天然繊維を原料とするものをさしていたが，レーヨン・アセテートなどの化学繊維や，ナイロン・ビニロン・テトロンという合成繊維の生産が拡大した今日では，化学工業の一部を便宜上，繊維産業に包摂するようになってきている。

繊維工業の歴史は古代までさかのぼるが，18世紀末紡績機や蒸気機関の発明によってイギリスに産業革命が起こってからは工場制生産が急速に進展し，工業化の主要なにない手となって各国に普及した。今日においても繊維工業，とりわけ紡績業は低開発国の工業化の主導部門となっている。

日本においては，明治以降，第2次世界大戦前まで，繊維工業は工業の主導的地位を占めており，綿紡績・人絹を中心に世界第1位の生産と輸出を達成するまでに発展し，昭和20年代においてもなお輸出額中の過半を占めていた。昭和30年代にはいるころから，低開発国における繊維工業の発展と，わが国における重化学工業化の進展とによって，産業や輸出に占める繊維工業の比重は低下の一途をたどっていった。1955年(昭和30)の全製造業出荷額に占める繊維工業の比重は17.5%であったが，1969年には5.9%に低下している。しかし，1969年に全製造業事業所中(従業員30人以上)に占める繊維工業の比重は10.7%，従業員数では9.8%，さらに輸出総額に占める繊維製品の比率は14.2%を占め，金属工業・機械工業と並んで輸出の大宗をなしていることは，繊維工業が依然として産業において重要な地位を占めていることを物語っている。

概して停滞ぎみの繊維工業の中で，ひとり成長を謳歌しているのが合成繊維部門である。合成繊維の生産は，外国技術の導入と，国産技術の開発によって，1955年以降急速に増大し，1967年には綿糸生産を凌駕(りょうが)するに至った。とはいえ，合成繊維部門においても品目によって消長がみられ，近年は，ナイロン・アクリル・ポリエステルのうち，ポリエステルの生産比率が上昇して，王者ナイロンに迫りつつある。

現在の繊維工業は，技術や消費構造の変化に伴ってさまざまの問題に直面している。繊維工業は，生産・加工・流通の諸部門が複雑に入り組み，原料から加工段階まで垂直的工程を一貫して行なう巨大メーカー，多品種少量生産方式により最終消費製品を生産する中小メーカー，天然繊維から化学・合成繊維，さらに他の部門まで多角的に手がけるメーカーなど，さまざまな規模と形をもつメーカーから構成され，しかもその間に大手商社・卸売商などの流通部門が介在するため，遭遇する問題は多岐にわたっている。
〔原　豊〕

せんいさくもつ　【繊維作物】　工芸作物の一。繊維を生産する目的で栽培する植物。繊維は衣食住の衣の部分だけでなく，敷物・籐(とう)いす・布張りの壁など，住の中での利用率もかなり高い。最近は人造繊維も多く出回り，天然繊維が圧迫を受けるようになってきたが，おのおの一長一短があるので，利用の分野に応じて適当に使い分けられている。ワタは種子繊維で，綿製品の原料であり，生産は最も大きい。靭皮部(じんぴぶ)を用いるものには，アマ・アサ・コウマ・カラムシなどがある。組織繊維を用いるものにはマニラアサ・サイザル・シュロ，組編用としてはパナマソウ・イなど，充塡(じゅうてん)用としてカポックなどがある。また，製紙原料としてコウゾ・ミツマタ・ガンピなどがある。その他ヘチマ・フジなど特殊用途のものや，洋紙の原料となるエゾマツ・トドマツ・モミ・ツガ・ユーカリなども繊維作物に入れられる。
〔金木良三〕

せんいしけんき　【繊維試験機】　繊維ならびにその製品類の構成・性能を試験する機器類。これには原料繊維に関するもの，糸類に関するもの，布地および染色・加工に関するものなどがある。特に最近は繊維および繊維製品の強さ・伸び・摩耗度などの機械的性質，布地の保温性・通気性・吸水性・吸熱性・帯電性などの衛生的性能，防しわ性・ドレープ性・防縮性・褪色(たいしょく)変色性・洗たく性などの外観的性能を試験する機械が発達している。

せんいしゅ　【繊維腫】　繊維細胞および結合組織細胞を実質とする良性の非上皮性腫瘍(しゅよう)。各年齢層の男女に生じ，発育速度はおそく，大きさはアワ粒大から大人頭大までさまざまで，割面は灰白色で被膜をもつことが多い。繊維成分が豊富で密なかたい繊維腫(硬性繊維腫)と，繊維成分に乏しく疎で細胞成分に富むやわらかい繊維腫(軟性繊維腫)とがある。好発部位は皮膚・粘膜・筋膜・骨膜などで，子宮・腎臓(じんぞう)・乳腺(にゅうせん)・卵巣・胃腸などの臓器に発生する。外科的に切除する。〔小坂井守〕

せんいせいけつごうそしき　【繊維性結合組織】　脊椎(せきつい)動物の体に広く分布する結合組織の一種で，タンパク質性の繊維性細胞と細胞間物質とからなる。各臓器の表面をおおったり，血管壁や筋肉の腱(けん)などをつくっている。脂肪組織もこれから分化したものである。

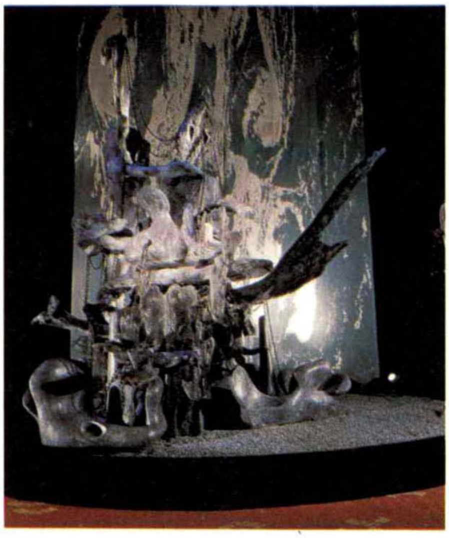
せんいそ　【繊維素】　⇨セルロース　⇨フィブリン

せんいそとりょう【繊維素塗料】 有機溶剤にとける繊維素誘導体またはこれと樹脂とを塗膜形成要素とする塗料。溶剤の揮発によって常温で短時間に乾燥し，不粘着で強靭な塗膜をつくる。繊維素誘導体としてはニトロセルロース・アセチルセルロース・アセチルブチルセルロース・エチルセルロースが用いられる。代表的な塗料はニトロセルロースラッカーで，普通にはラッカーの略称でよばれ，木材・金属・皮革などの透明塗装・着色塗装に広く用いられる。繊維素誘導体塗料は用いる繊維素誘導体の特性が塗膜の性能に大きい影響を与えるが，塗膜の付着力・たわみ性・光沢・肉持ちなどを改良するために，アルキド樹脂など，適当な樹脂や可塑剤を加える。〔鈴木荘司〕

ぜんいのひとびと【善意の人々】 ロマンの長編小説(1932～1946)。全27巻の大河小説で，作者のユナニミスム(一体主義)理論を展開。1908～1933年のヨーロッパ・アメリカの政治・経済・芸術など，各領域における人間的事象を描き出した一大叙事詩である。特に主人公はないが，高等師範学校出身のジャンとジェルファニオンのふたりを中心人物に，数多くの登場人物の運命をたどることによって広漠(こうばく)たる人間世界を立体的に構成し，描き出している。〔池田公麿〕

せんいばん【繊維板】 植物繊維質を主原料とし，これをパルプ化し圧縮成形した板状製品で，建築用ボード類の代表的なものである。ファイバーボードともいわれる。日本工業規格(JIS)で三つの種類に区分している。①軟質繊維板：特に軽量(比重0.4以下)で，その断熱性・吸音特性からインシュレーションボードともいわれる。おがくず・紙くず・各種パルプを原料とし，加水混合して繊維化し，脱水成形して乾燥する。吸湿しやすい。②半硬質繊維板：比重0.4～0.8でセミハードボードともいう。軟質板と同種の原料を用い，成形したものをさらに熱圧する。軟質板と硬質板の中間的性質をもつ。③硬質繊維板：比重0.8以上でハードボードともいう。単板くず，その他製材の廃材を原料とし，繊維化ののち成板し，ホットプレスを用いて熱圧成形したもの。表面を油処理した製品もある。厚手の板は床にも用いられる。前二者より強度が特に大きく，耐摩耗性・耐化学性・防腐防虫性にすぐれる。ただ含水率の変化で伸縮するから，仕上げ面でそったり，変形しやすい。〔難波蓮太郎〕

せんいん【船員】 船舶所有者に雇用されて特定の船舶に継続して乗り組み，航海その他船舶に関する労務に従事する者の総称。したがって，船長も船員に含まれるが，法的には船長以外の乗組員を海員という。船員については法規上は船員法・海商法・船舶職員法・海難審判法・船員職業安定法・船員保険法などによって，その範囲がそれぞれ決められているが，最も一般的には船員法で定められているように，船長・海員・予備員を含めて船員といっている。一般の大形船の船員の職制および職務分担は次表のようになっている。〔飯島幸人〕



前衛生け花 工藤和彦作品《黒潮》1971

商船における職制の例

船長		
甲板部	職員	一等航海士・二等航海士・三等航海士
甲板部	普通船員	甲板長・船匠・甲板庫手・操舵手・甲板員
機関部	職員	機関長・一等機関士・二等機関士・三等機関士
機関部	普通船員	操機長・機関庫手・操機手・機関員
無線部	職員	通信長・二等船舶通信士・三等船舶通信士
事務部	職員	事務長・事務員
事務部	普通船員	司厨長・司厨手・調理手・調理員・司厨員・スチュワーデス・洗たく人・理髪人
衛生部	職員	船医
衛生部	普通船員	看護手

せんいんほけん【船員保険】 船員保険法によって運営されている保険で，船員どその家族が対象とされている。保険者すなわち保険経営主体は政府であり，医療保険・年金保険・失業保険・労災保険を包括する社会保険である。海上労働という特殊な労働形態や条件に合わせてしくまれている。

ぜんう【単于】 匈奴(きょうど)の君主の称号。そののち鮮卑・氐(てい)・羌(きょう)などでも用いられた。意味については《漢書》に〈広大〉を示すというが異説があり，また語源についても定説はない。匈奴の単于は，支配部族内の特定氏族である攣鞮(らんてい)氏の中から全部長や貴族の協議によって選出され，国内の全部族を統治するとともに，国家の祭祀(さいし)も主宰した。柔然以後，遊牧国家の君長は単于号に代わって可汗を称するに至った。〔若松 寛〕

せんウランこう【閃ウラン鉱】 ウランの原料鉱物の一種。UO_2 等軸晶系。硬度5.5，比重9.0～9.7，条痕(じょうこん)黒色。非常に重い。もろく，断口は貝殻(かいがら)状，黒色で光沢を有する。また強度の放射能を有する。

ぜんえいいけばな【前衛生け花】 伝統生け花の定型を否定し，床の間からの解放を主張して，従来の植物以外，枯木・石・鉄材・ガラスなどの新しい素材を使って創造した大形の生け花。素材をオブジェとしたため，オブジェ生け花ともよばれる。20世紀前半(大正末期)に美術界に起こった前衛運動(アバンギャルド)の影響を受けて，昭和初期，生け花界に伝統打破の運動が興り，1930年(昭和５)に〈新興いけばな宣言〉が出され，勅使河原蒼風(てしがわらそうふう)らがその先端を切った。特に第２次世界大戦後においては，生け花界の近代化を象徴するように前衛生け花が流行し人々の注目を集めた。作品はデパートや舞台装飾などに会場花として進出して，新しい活動分野を開拓するとともに，生け花人口の未曾有(みぞう)の増大を招くなど大きな影響を与え現在に至っている。しかし一方では，前衛という先駆的性格と家元制度との矛盾をはじめ，その前途に幾多の問題をかかえている。➔生け花〔大井ミノブ〕

ぜんえいしょどう【前衛書道】 古典的な伝統書道に対して，まったく新しい立場に立って，新しい書法を用いて自由に書を書くこと。伝統書道は書の実用性を偏重し，芸術性が忘れられ，また，書法に縛られ，字形や用筆法にとらわれがちで，自由な表現がおさえられていた。その伝統書道の反動として前衛書道が生まれたのである。前衛書道の歴史はまだ浅いので，その限界ははっきりしていない。そして墨象と区別する人もいるが，一方，墨象も前衛書道と考えている人もいる。前衛書道が盛んになったのは昭和20年代であるが，その後かなり流行し，年とともに盛んになっている。➔墨象〔春名好重〕

ぜんえん【前燕】 ⇨燕[2]

ぜんおん【全音】 ２音間の音程が長２度であるものをいう。音組織そのものによって，多少の振動数の違いがある。たとえば，セント算法(エリスの考案による音程表示法)でいうと，ピタゴラス音階では204セント，平均律では200セント，純正調では204セントまたは182セントとなる。➔半音

ぜんおんおんかい【全音音階】 西洋音楽の音階の一つで，全音の間隔で離れた６音音階をいう。主音や中心音の考えを入れなければ，譜例のような２種しかない。モーツァルトは諧謔(かいぎゃく)のために使い，シューベルトやレーベなども使っている。ド

ビュッシーは特に重要で，そのピアノ前奏曲《帆》は好例である。またシェーンベルク・ブゾーニ・レーガーらが新しい響きとして使っている。

ぜんおんかい　【全音階】　五つの全音*と二つの半音によって構成される１オクターブの音階。この全音の部分を二つの半音に分ければ半音階が生ずる。

せんか　【宣化】　シュワンホワ　中国東部，河北省北西部の都市。人口約70,000。張家口の南にあり，京綏(けいすい)鉄道に沿う物資の集散地である。ここにある有名な龍煙(りゅうえん)製鉄所は付近の鶏鳴(けいめい)山の石炭と煙筒山の鉄鉱を原料としている。

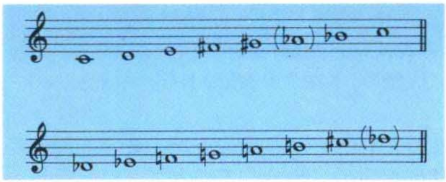
ぜんか　【前科】　以前に刑罰*を科せられたことをさす俗語。前科があると，一定の業務に関する資格を制限されたり，履歴書に前科のある事実を記載しなければならない。また，新たな刑罰を科せられる際に，執行猶予*を受けられないなどの法的制限を受ける。ただし，一定期間(禁錮(きんこ)以上は10年，罰金以下は５年)を無事に経過すると，この法的制限は取り除かれる。前科の事実は，非公開の犯罪人名簿に記載される。

せんがい　【仙厓】　(1751～1837)　江戸後期の臨済宗の僧。書画特に墨画にすぐれていた。美濃(みの)(岐阜県)の人。諱(いみな)は義梵(ぎぼん)。円通・天民・虚白などとも称した。幼いとき郷里の清泰寺に投じ，のち九州博多(はかた)の聖福(しょうふく)寺，盤石和尚(おしょう)に従い，のちその席を継ぎ，30年間住山して大衆教化に努めた。生まれつき寡黙恬淡(てんたん)な性格で，墨画に名作が多く，書風・画風は，禅の悟境に徹した自由さからくる不羈(ふき)奔放な諧謔(かいぎゃく)さに満ちている。しばしば京都の妙心寺に請ぜられたが固辞して受けず，孤独に徹した。晩年は虚白庵(あん)に隠棲(いんせい)。白隠*と並ぶ近世禅画の２大家といわれる。〔田中良昭〕
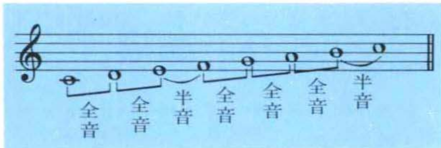
せんがいきょう　【山海経】　中国で現存する最古の地理書。18巻。禹王(うおう)の撰(せん)とも，伯益の撰とも伝えられるが信じがたい。戦国の時代につくられ，漢・晋(しん)のころにほぼ現在の形になった。晋の郭璞(かくはく)の注は有名。現在の洛陽(らくよう)付近を基準として自然・地理・物産・山神とその祭祀(さいし)を記し，周辺に存在すると考えられた奇怪な国々のことに及ぶ。

せんかく　【仙覚】　(1203～？)　鎌倉前期の万葉学者。常陸国(ひたちのくに)(茨城県)に生まれ，天台宗の僧であった。鎌倉の僧坊で《万葉集*》諸本の校合(きょうごう)に従事し，1246年(寛元４)従来読めないままになっていた無訓の歌152首に〈新点〉(仙覚の訓点のこと)を加えた。ほかに注釈書《万葉集註釈(仙覚抄)》などがある。

せんがくじ　【泉岳寺】　東京都港区高輪(たかなわ)にある曹洞宗(そうとうしゅう)の寺。山号は万松山。1612年(慶長17)徳川家康(いえやす)の命で宗関が外桜田に創建し，1641年(寛永18)現在地へ移った。曹洞宗江戸三か寺の一つで，赤穂(あこう)浅野家の菩提寺(ぼだいじ)である。浅野内匠頭(たくみのかみ)長矩(ながのり)をはじめ大石良雄(よしお)ら四十七士の墓所として名高い。宝物館には義士関係の遺物が残され，寺域には吉良義央(きらよしなか)の首洗い井戸，天野屋利兵衛(りへえ)の碑などがある。〔杉坂靖子〕



全音音階



全音階



泉岳寺　山門

せんかくれっとう　【尖閣列島】　群島または諸島ともいう。沖縄の石垣(いしがき)市に属する無人島で，西表(いりおもて)島の北北西約100km，台湾の北端富貴角から東北東へ約150kmの東シナ海上にあり，中国の大陸棚(だな)の末端に位置する。魚釣(うおつり)島・黄尾礁(こうびしょう)(久場(くば)島ともいう)・南小島・北小島・赤尾礁(久米赤島または大正島ともいう)の５島と，沖ノ北岩・沖ノ南岩・飛瀬の三つの岩礁からなり，いずれも第三紀層を貫いて噴出した海中火山の頂で，最大の魚釣島の面積は$4.2km^2$，最高点は369mである。日本人としては1884年(明治17)に古賀辰四郎(たつしろう)が最初に発見，1895年に政府は正式に日本への帰属を決定し，翌年当時の沖縄県八重山郡石垣村へ編入した。現在は辰四郎の子善次の私有地となっており，アメリカ軍が使用料を払って黄尾礁を射撃場としている。列島はかつてアホウドリやセグロアジサシ・カツオドリなどの海鳥が豊富で，明治以来台湾からその羽毛や卵をとるためにしばしば漁夫たちが訪れ，沖縄からも漁船が出ていた。しかし，いまはアホウドリはほとんど絶滅し，またセグロアジサシ・カツオドリも減少した。1968年に，国連アジア極東経済委員会(ECAFE)や日本の東海大学の調査で，尖閣列島一帯の海域に豊富な石油の埋蔵が予測されてから，大陸棚資源開発の権利について日本と中華民国政府との間で意見の相違が起き，最近は中国が領有を主張している。〔浅井得一〕

ぜんがくれん　【全学連】　⇨学生運動

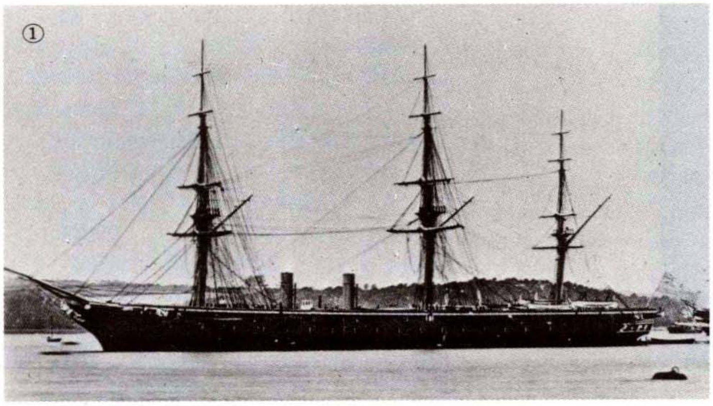
せんかくわん　【尖閣湾】　新潟県佐渡島西海岸(大佐渡海岸)南部の景勝地。海食台地を形成する流紋岩の海食地形が奇勝をなす。相川町に属し，相川からバス，達者から遊覧船が出ており，海上からの眺めがよい。佐渡弥彦(やひこ)国定公園の一部を構成する。

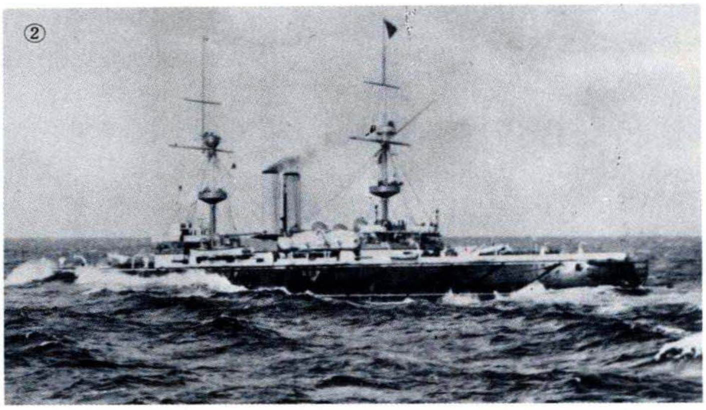


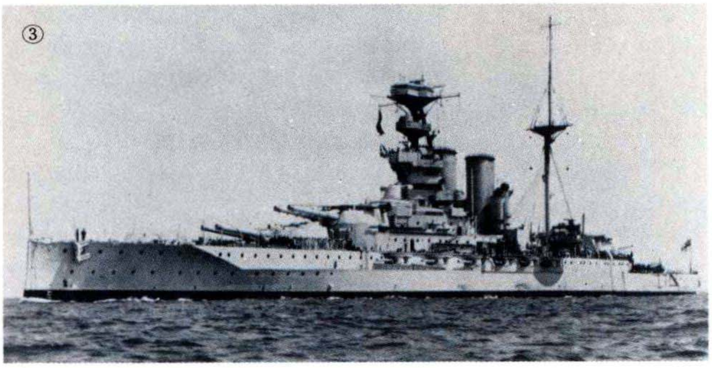
尖閣湾　波浪による侵食は，約２kmにわたって変化に富む奇勝をつくる。遠景の揚島との間には，観光用の揚島橋がかけられている

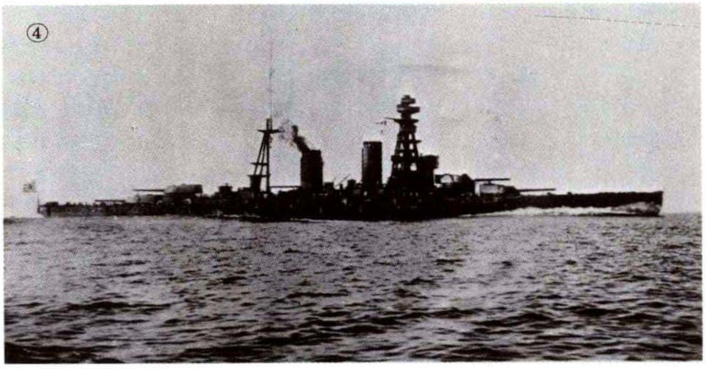
せんかし　【泉貨紙】　天正年間(1573～1591)に泉貨和尚(おしょう)が伊予(いよ)(愛媛県)ですき始めたコウゾでつくった強靭(きょうじん)な和紙。元来この紙はすいたものを２枚合わせにして１枚とした厚手の紙であるが，現在では１枚ずきでつくる。愛媛・高知両県で産する。用途は包み紙・帳簿用。〈仙貨紙〉〈仙花紙〉とも書く。

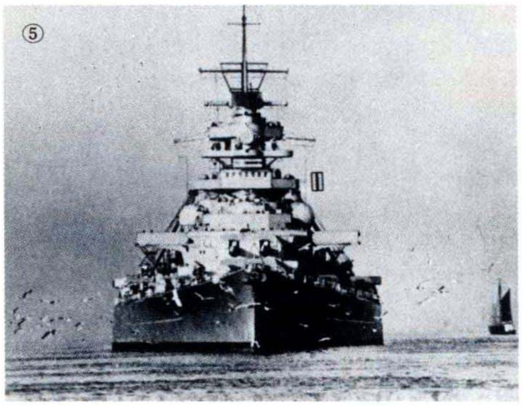
せんかてんのう　【宣化天皇】　６世紀初期の天皇。名は檜隈高田(ひのくまのたかだ)皇子，継体天皇の第２皇子，安閑天皇の同母弟。母は尾張連目子媛(おわりのむらじめのこひめ)。兄のあ











戦　艦

①ウォーリア(イギリス)　②ロイヤル-サバリン　14,150トン(イギリス)マジェスティックの原型となったもので，これを始めての戦艦と呼ぶこともある　③バラーム　31,000トン(イギリス)クィーン-エリザベス型　④陸奥　43,580トン(日本)　長門型　⑤ビスマルク(ドイツ)

とを受けて535年即位，539年没したと伝えるが年代には疑問もあり，異母弟欽明(きんめい)天皇と対立していたとする説もある。子孫に丹比(たじひ)・威奈(いな)の諸氏がある。陵墓は奈良市橿原(かしはら)市の身狭桃花鳥坂上(むさのつきさかのえ)陵。

ぜんかむかのほうそく　【全か無かの法則】　悉無律(しつむりつ)ともいう。神経細胞の刺激と興奮の関係において，ある大きさ未満の刺激では興奮はまったく起こらず，ある大きさ以上の刺激ではいつも最大の興奮を起こすという法則。同質の刺激を伝える神経繊維は束になっているが，この法則は1本1本の神経細胞について観察される。刺激閾値(いきち)は刺激量の変化を認識するに必要な最少の変化量を意味し，神経繊維の束が対象となっている。神経繊維による興奮の伝導は細胞膜に生じる局所的な活動電位によって行なわれる。活動電位は神経細胞の膜透過性の変化によって生じるもので，1本の神経繊維では一定の値をもっている。したがって刺激がある大きさ以上であれば，神経繊維の興奮の大きさは一定である。すなわち，刺激の大きさに対して神経繊維の反応は閾値をもち，反応するかしないかの区別しかない。感覚する刺激の大きさは興奮した神経の数による。しかし，神経に興奮を惹起(じゃっき)するのに必要な刺激の閾値は受容器に依存し，受容器の種類によって異なる。神経繊維と受容器の関係において，閾値の生じる具体的なメカニズムはまだわかっていない。　〔原野友之〕

せんかれい　【仙霞嶺】　シェンシャリン　中国中東部，浙江(せっこう)・江西・福建3省の境界をなす山で，標高約1,000m。銭塘江(せんとうこう)や閩江(びんこう)などの分水嶺をなし，比較的低い鞍部(あんぶ)は古くから江西・福建両省の連絡路として利用され，関門が設けられていた。

せんかん　【戦艦】　巨砲と厚い装甲板をもち，砲戦を目的とする軍艦で，大砲によって勝敗が決まった時代の海戦の主力艦。帆船の時代から戦列艦という同目的のものがあったが，実質的には1861年建造のイギリスのウォーリア(9,000トン)が最初といわれている。これは帆汽両用で，砲を舷側に並べた戦列艦時代の感覚を残すものであったが，はじめて鉄製の船体とスクリューを備えた大形艦であった。1868年竣工(しゅんこう)のモナーク(イギリス，8,320トン)はバーベットという鋼鉄の砲塔を装備した。また，1894年に建造されたマジェスティック(イギリス，14,900トン)は，はじめての戦艦とよべるもので，30cm連装砲塔を前後甲板に装備し以後の戦艦の基本となった。1905年の日本海海戦の戦訓を分析したイギリスは，副砲を廃して主砲と同じ30cm砲を10門搭載(とうさい)した，単一口径砲の画期的な戦艦ドレッドノート(17,900トン)を建造し，それまでの戦艦を一夜にして旧式艦にしてしまった。そして当時北海をはさんで対立していた英独海軍は，この弩級(どきゅう)戦艦を争って計画し，次々と大形・強力な艦を建造した。主砲も30cmから34cmとなり，第1次世界大戦末期には38cm砲を積んだ超弩級戦艦が現われた。また，高速化も進み，イギリスのクィーン-エリザベス型(31,000トン)は，それまでの22ノットを上回る25ノットを発揮し，最初の高速戦艦として有名で，1916年に英独艦隊が戦ったユトランド海戦にも高速を利して活躍し，戦艦の高速化の必要性を示した。この海戦は防御の方法などにも貴重な教訓を残し，その後の各国の戦艦にも大きな影響を及ぼしている。一方，日本では，八八艦隊計画に基づいて世界ではじ

めて40cm砲を搭載した長門型(26.5ノット)を建造したが，ワシントン条約(→ワシントン会議)によってすべての計画艦の建造を中止し，英米仏伊なども同様に新艦の建造を破棄した。1938年，条約の期限明けとともに当時緊張していた国際関係に拍車をかけられて，各国ともいっせいに新戦艦の建造を始め，第2次世界大戦にかけて続々と竣工した。このうち，ドイツのビスマルク型(41,700トン)は優秀な火力・防御力をもち，第2次世界大戦を通じてイギリス海軍を悩ませ続けた。また，日本の大和(やまと)型は史上最大の46cmという主砲を搭載し，満載排水量72,800トンという空前の巨艦で，戦艦の歴史のピークに存在するものであった。

第2次世界大戦，特に日米の参戦後は海戦の主役の座が空母に移り，戦艦は技術的に最盛期を迎えていたにもかかわらず，はなばなしい活躍の場がほとんどなく，戦後は次々と除籍・解体されていった。

〔藤井冬木〕

ぜんかんこう　【全官公】⇨全日本官公職員労働組合協議会

ぜんかんじょ　【前漢書】⇨漢書

ぜんがんじょうたい　【前癌状態】　それ自身は癌*ではないが，これから癌が生ずる頻度(ひんど)が大きい病変で，癌の前段階と考えられる状態。たとえば難治の潰瘍(かいよう)が長い間存在すると，そこに癌が発生することがある。やけどによる瘢痕(はんこん)性潰瘍，レントゲン潰瘍，骨髄炎の慢性瘻孔(ろうこう)，胃潰瘍などにこのような状態がみられる。また慢性の湿疹*(しっしん)が長年月なおらずにいて，特にそれに対してレントゲン照射をくり返し行なったものでは皮膚癌が発生しやすい。口腔(こうこう)粘膜や舌の粘膜の白斑(はくはん)からも癌が発生することがある。乳腺症*(にゅうせんしょう)もある程度癌に移行するとされており，結腸*特に直腸ポリープも悪性変化を起こしやすい。一時期，前癌状態では癌化傾向の著しいことが強調されたこともあったが，今日ではさほど著しいものではないという見解が支配的である。

〔三島好雄〕

せんかんびょう　【潜函病】⇨ケーソン病

せんカンブリアだい　【先カンブリア代】地質時代のうちで古生代カンブリア紀以前をいう。少なくとも約35億年前から約5億7,000万年前までの期間。以後の古生代・中生代・新生代を一括して顕生代と総称するのに対して，生物生存の記録がきわめてまれな先カンブリア代を隠生代とよぶこともある。新旧に大別され，古いほうを始生代，新しいほうを原生代，またはそれぞれを太古代・アルゴンキアンとよぶこともある。先カンブリア代の地層や岩石は原生界上部を除いて一般に強く褶曲(しゅうきょく)し，変成している。始生界は結晶片岩・片麻岩・カクセン岩・カコウ岩などからなり，原生界上部は石灰岩・砂岩・ケツ岩・レキ岩などの堆積(たいせき)岩を主とする。生物は先カンブリア代(ほとんど原生代)からきわめてまれにしか知られておらず，わずかに緑藻(りょくそう)類・菌類・放散虫類・環虫類・クラゲ類・ヒドロ虫類が生存していたにすぎない。この時代の生物はすべて水生で，殻(から)をもたない。温暖気候・乾燥気候や砂漠(さばく)性気候のあったことがわかっているが，氷河が発達した時期も7～8回あった。先カンブリア代の地層や岩石が広く露出している広大な地域は楯状地*(たてじょうち)とよばれる。始生代および原生代前期を通じて5～10回の激しい地殻(ちかく)変動が起こり，著しい火山活動や深成岩貫入もしばしばあった。原生代後期以降楯状地は安定な地域と化した。また，しま状鉄鉱や含ウラン・金レキ岩の大規模な鉱床が形成された。〔田中啓策〕



センキュウ

せんかんポチョムキン　【戦艦ポチョムキン】　エイゼンシュテイン*が1926年に完成した映画で，世界映画史上の最高傑作とされる。黒海のオデッサ沖に停泊中の巡洋艦ポチョムキン号を中心に生起する労働者階級の蜂起(ほうき)を主題とする。エイゼンシュテインは，単なる技法にすぎなかったモンタージュ*を思想的な方法にまで高めるなど，数々の新しい表現上の実験を試みて成功。特にオデッサの虐殺シーンは有名で，以後の世界の映画に大きな影響を与えた。

〔波多野哲朗〕

せんき　【戦旗】　文芸雑誌。1928年(昭和3)から1931年までの通巻41号。〈ナップ*〉結成の際に機関誌として創刊された。小林多喜二*《蟹工船*(かにこうせん)》，徳永直*(すなお)《太陽のない街*(まち)》や，蔵原惟人*(これひと)《プロレタリア-リアリズムへの道》などが掲載され，プロレタリア文学運動を大きく前進させ，多くの作家を生んだ。運動に対する激しい圧迫と発禁に耐えながら発行を続け，〈コップ*〉結成と同時に終刊した。

せんきものがたり　【戦記物語】　⇨軍記物語

せんきゅう　【船級】　船級協会の規格に合格した船舶に与えられる資格。船舶も陸上の建物と同じように，保険をかけたり，売買の対象となったりする。そこで船級協会が，船主や海上保険・造船・造機の各業者など海運関係の各方面の利益のために，第三者的な公正な立場から船体・艤装(ぎそう)・機関について検査する。入級した船舶は，資格およびその他の船の現状が微細にわたってレジスターブックに記載され発表される。船級協会は，主要海運国に設立されており，イギリスのロイズ船級協会，アメリカのAB協会が有名で，日本では日本海事協会がこれにあたる。　〔飯島幸人〕

せんきゅう　【川芎】　双子葉植物・セリ科。中国原産の多年草。茎は高さ30～50cm，葉は2回3出羽状複葉で，葉柄基部が茎を抱く。花は白色の5弁花で，秋，茎頂に複散形花序をつける。果実は楕円(だえん)形の蒴果(さくか)であるが，日本では通常結実しない。全草に独特の香気がある。根茎を乾燥させたものは，強壮または鎮静薬に用いられている。

せんきょ　【選挙】　⇨528ページ

せんきょう　【船橋】　船舶の主甲板上に，舷側(げんそく)から舷側までつくられた長さが比較的短い上部構造物。航海のための操舵(そうだ)室・海図室があり，船の頭脳的役割を果たすところである。航海当直をする場所であるので，航海中の見通しをよくするため人が常駐する場所としては船内で最も高い。多くは船体中央部にあるが，最近の船では後部にあるものが多くなった。

せんきょうせつわ　【仙郷説話】　ある人物がある機縁から仙郷・霊界に至り，短期間滞在したと思っていたのに，故郷に帰ってみると長い年月が経過していたという筋の説話。世界的に分布し，日本では浦島型説話として知られている。→浦島太郎

ぜんきょうせん　【前胸腺】　鱗翅(りんし)目幼虫の第1気門叢(きもんそう)の近くに存在する1対の内分泌器官で，前胸腺ホルモン*あるいは脱皮ホルモンを分泌する。他のグループに属するこん虫でも，多くは胸部に前胸腺と同じ作用をするホルモン中枢がある。前胸腺は脳ホルモンの刺激によって活性化し，ホルモンを放出することがわかっているが，成虫になると消失してしまう。

ぜんきょうせんホルモン　【前胸腺ホルモン】　前胸腺*から分泌される一種のステロイドホルモン。前胸腺ホルモンは，1950年代の初め，ブーテナントやカールソンによって，大量のカイコから抽出結晶化されたが，それから10年あまりのちに化学構造が明らかにされるようになった。前胸腺ホルモンの化学名はエクジゾンであるが，こん虫の脱皮や変態に関与するので，脱皮ホルモンあるいは変態ホルモンともよばれる。前胸腺ホルモンは前胸腺が脳ホルモンによって刺激を受け，それを契機にして体内に放出され，直接遺伝子DNAに作用して，こん虫の変態という複雑な生理活動を機動させるという。最近では前胸腺ホルモンに似た多くの脱皮ホルモンが植物体から抽出されている。　〔深谷昌次〕

せんきょうそん　【銭杏邨】　チエンシンツン

(1901～1977) 中国現代の評論家。1927年，蔣光慈(しょうこうじ)(1901～31)らとともに太陽社を組織し，プロレタリア文学運動に活躍した。魯迅(ろじん)を批判した《死せる阿Q(あキュー)時代》は有名。官憲の弾圧を受けて逮捕，釈放されたのち阿英という筆名で文学史研究に従事，新しい中国になってからも，この分野で多くのすぐれた仕事を残している。評論集《現代中国文学作家》(1928・1930)，文学史《晩清(ばんしん)小説史》その他。 〔今村与志雄〕

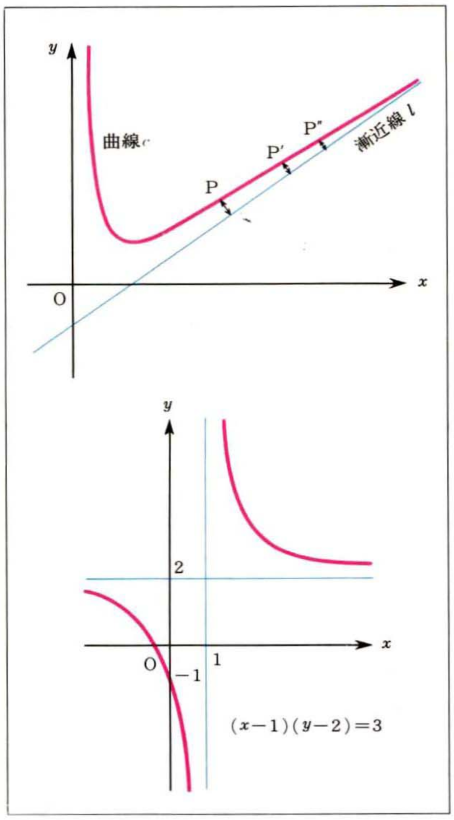
せんぎょうのうか【専業農家】 世帯員がもっぱら自家農業経営に従事して生計を維持している農家。1970年度の農林業センサスでは世帯員の中で年間30日以上の雇用兼業または年間販売収入30,000円以上の自営兼業に従事する者が1人もいない農家をさしている。専業農家は資本主義の発展の中で漸次減少してきたが，西ドイツ*・日本においては第2次世界大戦後の経済の高成長による農工間所得格差の拡大と農外労働市場の著しい拡大の過程で急激に減少してきている。日本では1950年(昭和25)には総農家の49%が専業農家であったが，1970年には15%に減少し，また1950年の専業農家総数308万戸に対し，1970年は約4分の1の83万戸となっている。この減少農家はほとんどが農外雇用に従事する兼業農家*へ転化したものとみられる。 〔高山隆三〕

せんきょかんりいいんかい【選挙管理委員会】 公的な選挙を公正なものとし，合わせて選挙事務を統合的に管理・運営するための行政委員会。都道府県・市町村に設けられている。なお，選挙事務には選挙人名簿の作製，投票・開票に関する事務などがある。

せんきょく【選挙区】 ⇨選挙

せんきょけん【選挙権】 国政に参与する権利または公務員を選出する権利をいい，国民参政権の代表的なもの。日本国憲法では満20歳以上の者であれば，欠格事由(禁治産者・禁錮(きんこ)以上の受刑者)のないかぎり国会議員などの選挙権を有することを定めている。財産・性別・宗教・年齢など，いろいろな制限があったが，今日では普通平等選挙権を国民がもつことは，人間に与えられた基本的人権の一つとされている。選挙権拡大の歴史は，そのまま民権拡張の政治闘争の歴史であったということができよう。 〔溝口　潔〕

せんきょほうかいせい【選挙法改正】 1832年以後イギリスで数回にわたって行なわれた選挙区・議員数の変更，選挙権の拡大などをいう。イギリスの選挙法は，15世紀以来基本的にはほとんど変わっていないので，産業革命によって人口分布が一変したのちは，現実から遊離したものになり，それはまた，腐敗選挙区の増加と選挙権の偏在(州では年収40シリング以上の自由地保有者に，都市ではチューダ朝の選挙人名



漸　近　線

簿に載った者に，それぞれ限られた)を招いた。そのため，19世紀にはいってから改革運動が盛んになり，改正の機運が熟した。

〔第1次〕1832年，自由党のグレー内閣によって改正案が提出され両院を通過した。この結果，多くの腐敗選挙区が廃止されて，144議席が新興の都市や州に配分された。また，都市では賃貸料年10ポンド以上の借家人に，州では賃貸料年10ポンド以上の借地人および年収50ポンド以上の農民に，それぞれ選挙権が与えられ，議会において新興商工階級の地位が向上した。

〔第2次〕第1次の選挙法改正の成果から大衆が除外された不満はやがてチャーチスト運動となって現われたため1867年保守党のディズレーリ内閣のとき第2回の改正法が成立し，これによって腐敗選挙区の廃止，議員数の変更が行なわれ，選挙権は都市では貸し家を含めて10ポンド以上の価値ある家の住人に，州では5ポンド以上の土地を所有あるいは長期借地している者に与えられた。

〔第3次〕1884～1885年，グラッドストン内閣のとき成立。人口数による小選挙区から各1名の議員が選ばれることになり，奉公人を除くすべての男子に選挙権が与えられた。

1918年ロイド-ジョージ*はすべての成年男子と30歳以上の女子に選挙権を拡大し，1928年ボールドウィン*は女子の選挙権を男子と同じくし，ここに男女平等の普通選挙が実現された。 〔松下京子〕

ぜんきんせん【漸近線】 有限の範囲にとどまらない曲線 c があって，動点Pが c に沿って原点から無限大の距離に行く場合に，Pからの距離がいくらでも小さくなるような直線 l が存在するならば，その直線 l を曲線 c の漸近線という。たとえば，方程式 $(x-1)(y-2)=3$ で，x が1より大きいほうから1に限りなく近づくとき，y は正で限りなく大きくなり，x が1より小さいほうから1に限りなく近づくとき，y は負でその絶対値が限りなく大きくなる。また，x が正で限りなく大きくなるとき，y は2より大きいほうから2に限りなく近づき，x が負でその絶対値が限りなく大きくなるとき，y は2より小さいほうから2に限りなく近づく。このことから，上の方程式のグラフ上の点が原点から遠ざかるにしたがって，直線 $x=1$，$y=2$ に限りなく近づくことがわかる。いわば，これらの直線がもとの方程式のグラフの漸近線である。 〔菊池兵一〕

せんきんほう【千金方】 中国，唐代の代表的医書。正しくは《備急千金要方》といい，30巻もの大部のものである。著者孫思邈(そんしばく)は本書の姉妹書として《千金翼方》をも著わした。ともに，当時の医学と薬学の総合全書である。千金の名は〈人の生命は至って重く，千金よりも貴(とおと)い〉という本書の序文に由来するものである。

せんぐう【遷宮】 神社の社殿をつくりかえて神体を奉遷すること，またはその行事。社殿は木造なので20～30年が耐用期限であり，したがって20～30年ごとに定期的につくりかえる例が多くなった。これを式年遷宮といい，伊勢(いせ)神宮・住吉(すみよし)大社・鹿島(かしま)神宮・香取神宮は20年ごとに，春日大社は21年または30年，賀茂(かも)神社は21年，のち50年をもってつくりかえる例である。もっとも，遷宮といってもそのつど新造せず，一部をつくりかえる例も少なくない。 〔黛　弘道〕

ぜんくねんのえき【前九年の役】 11世紀中ごろ，陸奥*(むつ)で安倍(あべ)氏*が起こした反乱。東夷(とうい)の俘囚の長といわれた安倍頼時(よりとき)は，陸奥6郡(胆沢(いざわ)・和賀(わが)・江刺(えさし)・稗抜(ひえぬき)・志波(しわ)・岩手)に勢力をふるって，貢租・徭役(ようえき)に応ぜず，国司に反抗していた。1051年(永承6)に源頼義(よりよし)が陸奥守(むつのかみ)に任ぜられると一時帰順したが，1056年(天喜4)に再びそむいたので頼義の追討を受けることとなった。頼時は翌年鳥海柵(とりみのさく)で戦死したが，子の貞任(さだとう)が跡を継いで反抗し，戦闘は長期化した。1062年(康平5)に至り，出羽の豪族清原光頼(みつより)・武則(たけのり)兄弟の応援を得た頼義がついに貞任を倒して，この反乱を鎮定した。以後陸奥の地には清原氏の勢力が伸長し，源氏の声望も高まった。 〔飯田悠紀子〕

せんけい【線形】 数学では，線形とい

→530ページ

選　挙

〔選挙の意味〕一定の団体生活において，その代表者あるいは執行部となるものを投票で決める行為をいう。ふつう国会議員*・地方議会議員・知事・市町村長などの公職につく者の選挙をさすことが多いが，その他，政党*・労働組合*・会社の執行部，大学の学長，学生自治会の執行部，その他文化団体の役員なども選挙によって決められることが多い。こうした団体・組織の代表者ないし執行部を決める方法としては，歴史上次のような方法があった。

①世襲制：古代国家・封建国家では，国王・諸大名をはじめたいていの地位は世襲制であった。今日でも君主制*国家では，国王の地位は世襲である。象徴としての日本の天皇の地位もこれによる。②推薦あるいは指名：広く成員ひとりひとりの意志を投票によって問うのではなく，あらかじめ少数の人々の相談で候補者を決め，推薦もしくは指名して決める方法。この場合にも，成員全体の承認を求める手続きをとることもあるが，だいたい特定の少数者が選んだ候補者に決まるのが普通である。十分に民主化されていない政党の役員や会社，その他の団体の首脳部の決定にはこの方法がとられる。③任命：一定の法律上の資格を得た者が，上級の任命機関によって任命される方法。一般に公務員などがその地位につく場合にとられる。任命権者の資格が，法律上細かく規定されていない場合は選考という。任命される者が，あらかじめ一定の選挙によって選出されることが法的に決まっている場合には，選挙と同じ内容をもってくる。④選挙：団体・組織の成員の投票で,一定の者を選んで,ある地位につける方法。これが選挙である。この方法が，他の方法に比べて最も民主的なものであることは明らかであろう。成員ひとりひとりが，自分たちの代表者にだれがなるかについて，それぞれの判断に基づいて意志を表明し，多数の人々の信任を得た者がその地位につくことになるからである。そこで今日の民主社会では，この方法が広く用いられているわけである。

〔選挙の理論〕選挙が広く政治的，また社会的に制度化されたのは，近代民主主義革命による近代国家の発足によってである。すなわち〈社会契約論〉が支配的となり，国民主権の原理が確認されて，国家は国民の基本権を保障し，国民に奉仕すべきものだとされ，その国政は国民の意志によらなければならないとされたとき，国政をつかさどる者が，国民自身によって選ばれるべきであるという結論が生まれたのは，必然のことであり，また当然の政治的要求でもあった。フランス革命の人権宣言*(1789)が，〈あらゆる主権の原理は，本質的に国民に存する。いずれの個人も，国民から明示的に発するものでない権威を行ないえない〉(３条)，また〈法は，総意の表明である。すべての市民*は，自身で，またその代表者を通じて，その作成に協力することができる〉(６条)といったのは，このことを示している。国際連合*の世界人権宣言*(1948)も，〈人はすべて，直接に，または自由に選出された代表者を通じて，自国の政治に参加する権利を有する〉〈人民の意志は，政治権力の基礎でなければならない。人民の意志は，定期の，かつ真正な選挙によって表明されることを要する〉(21条)といっている。しかし，こうした考え方が，近代国家で初めから広く受け入れられたわけではない。選挙は，社会成員のすべてが当然にもっている権利であるというふうには考えられず，それは特定の人々，エリートといわれるすぐれた人々だけのもちうる特権だとされてきたのである。封建制のもとでも，ヨーロッパには身分別会議(→等族会議)があり，貴族・高僧・騎士・下級僧・新興市民層がそれぞれ自分たちの代表者を選んで国王の政治に参加したが，それぞれの選挙権は，それぞれの層に属する人々だけの特権であり，国民一般の権利ではないとされていたのである。

近代国家ができてからも，貧しい一般国民は，財産ももたず教養も低いから，国政に対して参加し発言する能力はないものと考えられ，したがって国会議員などを選んだり，みずから選ばれたりする資格はないものと考えられた。また女性は，すべて国政に参加する能力はないものとされた。選挙権・被選挙権は，貴族や財産所有者や，社会の教養ある上層階級のものだけの，またこれらの層の男性だけの特権だという考え方が長く支配し，イギリス・アメリカ・フランスにおいても，今日みるような普通選挙は長い間行なわれなかった。①イギリスでは，貴族だけがその議員となることのできる貴族院*と，高度の財産制限のもとでの，また男性だけの庶民院が国会を構成した。②アメリカでは，1789年の憲法制定初期においては，国民15人に対して１人の有権者が存在しただけであり，イギリスでは，1832年の選挙制度の大改革のあとでも有権者は国民25人に１人にすぎなかった(20世紀のはじめにも，まだ男性の３分の１は選挙権をもてなかった)。③フランスでは，1848年革命による第二共和国のときに，ようやく男性だけの普通選挙が行なわれた。しかし，財産や教養や性別によって国民の政治的権利を差別する見解は，今世紀にはいってしだいに力を失い，まず男性だけの普通選挙制(manhood suffrage)が，次に，今日広くみられる男女平等の普通選挙制(universal suffrage)が支配的なものになった。女性に対する選挙権・被選挙権は，アメリカの若干の州では1900年以前にも与えられたが，全国的には1920年以後である。イギリスでは，1918年に制限付きで30歳以上の女性に認められ，すべての女性に男性同様の権利が認められたのは，その10年後であった。フランスではようやく1945年，イタリアでは1946年，ギリシアでは1962年のことである。

今日なお残っている大きい差別は人種的差別である。南アフリカ共和国における黒人に対するはなはだしい差別は問題外として，アメリカでも長い間黒人に対しては選挙権についても不当な差別が続いた。1957年から1964年にわたる市民権法の通過によって，しだいにその制限は撤廃されてきているが，現実にはなお根強い差別が残っている。

〔選挙制度〕今日の問題は，どのような制度の選挙が，最も民主的なものとして行なわれるべきかにある。すでに確立された民主的な選挙制度としては次のものをあげることができる。

①普通選挙：財産や収入の多少による差別(財産制限選挙)を設けず，また男女の性別や人種・宗教その他の信条による差別，学歴や知的テストによる差別も認めず，単に一定の年齢だけを要件として選挙権・被選挙権を認める制度が普通選挙である。わが国でも今日，成年に達した国民に選挙権が認められている(憲法15条・44条)。日本では満20歳以上とされているが，社会主義諸国では満18歳以上の男女に選挙権を認めている。

②平等選挙：すべての投票者が平等に１票を投じるもので，特定の者が２票を投じうるとか(かつてイギリスで，旧市内に事務所をもつ者，また大学区内で投票権をもつ者が，同時にその居住場所で別に１票を投じえたような)，あるいは有権者を等級別に分け，上級有権者が比較的少数であるため下級有権者と同じ当選人を選出しうるというような不平等を認めないことをいう。たとえば，旧プロシア，また大日本帝国憲法下での地方選挙では，所得の多少で有権者を12級別に分け，それぞれの級で議員を選出しうるものとしたから，財産・収入の多い少数者は相対的に有利な選挙権を行使した。今日では，この意味での不平等選挙はないが，選挙区における定員の割り当てが，人口の増減に応じて調整されずにはなはだしい不均衡を生じた場合など，同じ１票のもつ価値が著しく不均衡になる場合が生じている。平等選挙の原則を破るものといわなければならない。どこの国でも，不断に流動する人口の増減によって，ある程度の

不均衡は免れがたいが，日本では特にはなはだしく，現に東京都や大阪府・神奈川県などは，第2次世界大戦後毎年急速に人口が増加してきたが，定員数の改正が適切に行なわれていないために，これらの地域では60,000票以上とっても当選できない候補者が生じ，他方人口の少ない鳥取・兵庫・千葉などの各県の選挙区では，30,000票台で当選している議員もあるという状態となっているが，国民の投ずる1票の価値がこのように大きく違うことは，不平等選挙といえよう。

③秘密選挙：他人からの圧迫によらないで，自分自身の判断でみずからの意志によって1票を投ずることのできるように，無記名投票制が採用され，また投票について，だれがだれに投票したかを調べたりしてはならないという投票の秘密を守る制度ができている。また投票については，公的にも私的にもいっさい責任を問われないという原則が確立され，日本国憲法でもこれを定めている(15条)。選挙立会人やその他公衆の面前で挙手によって自分の意志を明示するとか，投票用紙に記名するという制度が用いられたこともあるが，民主的な選挙制度に反するものとして，今日ではもはや認められない。ただ開票のやり方によっては，この原則が破られることもありうる。たとえば，票の集計・開票を部落ごとに行なうことによって，どの人間がどの党に投票したかというような推測が行なわれれば，結果として，人々の投票心理が圧迫され，また社会的に不利な扱いを受けることもありうるから，こうしたおそれのない開票方法をとることがたいせつである。

④自由選挙：大日本帝国憲法下での選挙では，革新政党の候補者や運動員に対して官憲による不当な取り締まり，政府反対党の選挙活動に対する不公平な取り扱いなど，数多くの選挙干渉が行なわれた。また当時は，言論・集会の自由もその範囲がきわめて狭く，選挙は権力によるおどかしや買収や情実によって，支配権力の与党やそれに近い政党の候補者にとって有利に行なわれた。これに対して言論活動も自由に行なわれ，すべての層の国民が，みずからの判断によって広く多数候補者のうちから選ぶことのできる選挙を，一般に自由な選挙といい，今日における選挙制度の重要な要素の一つとされている。

今日の選挙制度においては，以上の大原則が広く確立されているが，またそのほかに二，三の制度上の問題がある。

①任意投票と強制投票：任意投票(自由投票ともいう)とは，1票を投ずるか棄権するかを有権者の自由に任せる制度で，多くの国で行なわれている。これに対し，法的に投票を義務づけている国もある。中には，正当な理由なしに棄権した者に罰金を科すことにしている国もある(オーストラリア・ベルギー・オランダ)。任意投票制をとっている国の多くは，投票率は60～70%を上下している。棄権の原因としては，政治的無関心，それも生活の余裕のないことからくる無関心，あるいは一種の政治的冷淡さ，または事前に結果がほぼはっきりしていて投票の意欲がそがれることなどがあげられている。投票を法的に強制することが適当かどうかはまだ決定しえない。むしろ，棄権を防止するには国民の政治的意識の向上を図るべきであろう。たとえば選挙管理委員会などが，投票率の高低を競争させることなども一種の選挙干渉となるおそれがある。

②自由立候補と制限立候補：一定の供託*金を条件とする以外，法定無資格者を除いてなんぴとでも自由に立候補できる制度である。多くの国で行なわれ，わが国でもそうである。しかし実際上は，今日いずれの国でも政党制が発達しており，候補者は，まずそれぞれの政党によってあらかじめ選定され，投票者はその範囲で選択することとなる。また多くの社会主義国では，選挙区ごとに定員数の候補者があらかじめ職場や関係団体の中で選定され，投票はむしろ信任投票*の内容をもつ制度が行なわれている。

③多数代表と少数代表：イギリスで発達し，今日でも続いている1選挙区1名の定員を原則とする小選挙区制は，つねに多数党に有利な結果をもたらすので，多数代表制といわれている。すなわち，全国的に投票数を集計した場合，相当の投票数を得た政党でも，選挙区ごとに敗れればその当選者はわずかになり，投票数と議席とは著しく不均衡になる。現にイギリスでは，総得票数の多い労働党*が議席数では保守党*にはるかに及ばず，保守党が絶対過半数の議席を得て政権の座についたこともある。これに対し国民の投じた票数は国民の意志の表明であり，それに基づいて国会内の議席が決定されるのが当然であるとする立場から，比例代表制が主張される。これは全国的に各党の候補者，あるいは各政党の得票数を集計し，それに応じて政党ごとの議席数を配分することを原則とするもので，政党本位に考えれば国民の投票を最も公正に，かつ有効に生かす方法である。その他，1人1区の小選挙区制を改めて，1区数名の大選挙区制とすれば，少数党の得た得票もある程度有効に議席の上に現われるので，これらの制度を少数代表制といっている。これは民主主義の原理からすれば，まずは妥当な制度であろう。わが国の現行制度は，衆議院議員選挙については中選挙区制(外国では大選挙区制といっている)を，参議院議員選挙については全国1区制と地方区制の併用をとっている。

【わが国の選挙制度と問題点】大日本帝国憲法による議会制の開始は，東洋最初の議会政治*ともいわれたものであるが，1890年(明治23)の第1回衆議院議員総選挙のときは，高度の財産制限選挙制の上に，25歳以上の男性に選挙権，30歳以上の男性に被選挙権が与えられた。そして有権者は本籍*においてのみ選挙権の行使が認められ，また投票に際しては記名捺印(なついん)を必要としたのであった。その結果有権者は全人口の1.13%にとどまり，しかも当時の国税15円以上というのはほとんど地主のみが納めうるものであったから，〈地主議会〉であると批評された。その後1919年(大正8)には財産制限が直接国税3円以上と緩和され，また資本主義の発達に伴うブルジョアジー*の成長もあって有権者数は増大したが，なお勤労大衆は選挙権をもつに至らなかった。1925年に至って納税資格が撤廃され，男性だけのいわゆる普通選挙制となり，有権者は人口の19.98%であった。第2次世界大戦後は，男女平等の文字どおり普通選挙といいうる制度に改められて今日に至っており，有権者は人口の65%に達している。さらに第2次世界大戦前にみられた官憲によるあらわな選挙干渉はもはや許されず，ときにはそうした干渉が行なわれてもきびしい批判を受ける。また日本国憲法のもとでは，言論・集会・結社などの自由が広く保障されるに至り，かつては治安維持法*などによって最高は死刑をもって処罰された共産党や社会党も，当然のこととして公的活動の自由をもつに至っている。保守政党だけが政権を独占して支配し続けた戦前の体制は改革されることとなった。また，かりにも諸政党が解散し，実質上軍部・官僚の独裁的支配が行なわれた戦時中のような体制は，現行憲法の続くかぎりありえないことである。こうして選挙によって国民の総意が表明され，それに基づく民主的な議会政治が可能となった。

問題点としては，このような可能性をもつ選挙が，次のようにいくつかの欠点を残していることにある。第1に，現行の公職選挙法*の定めている規制は，戦前からの官僚的規制のなごりが著しく，自由選挙の原則をなおおさえている。第2に，選挙にあたって，先進諸国にはほとんどみられないといわれる買収・もてなし・情実，あるいは村八分的な圧力がはなはだしい。第3に，現行選挙区の定員数が，人口の増減に対応して適当に調整されずに放置されている。第4に，現行選挙制度は，衆議院議員選挙で明らかなように，1人1区原則の小選挙区制に比べると少数代表の制度といえるが，しかし有権者の投票数と当選者の議席数とを比べてみると，つねに大政党に有利で，

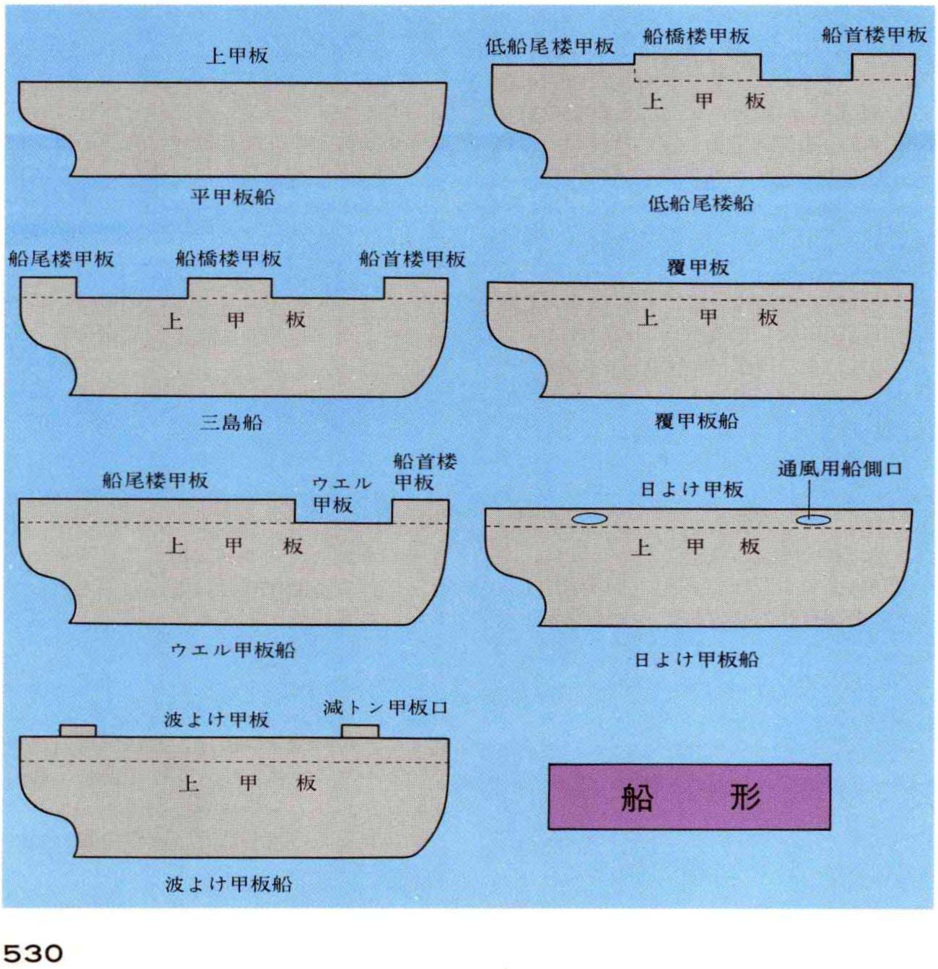
せんきょ

小政党には不利となっている。つまり小党の候補者に投じられた票の多くは死票となっている。主権者国民の投じた票が十分に議席に反映していない不合理は当然に改められなければならない。それには，政党別に票数を集計し配分する比例代表制などが考慮されるべきであろう。全国を一区とする案，あるいは全国区と地方区(現行参議院議員選挙の場合のように)に分け，それぞれの区での投票総数を適当に調整し配分する案などがありうる。しかし，そのどちらも現実の立法政策とならず，かえって１人１区の原則にたつ小選挙区制に変えようという意見も出されている。それは小党分立を避け，二大政党制を確立して政局の安定を図るのに必要だといわれるが，現実に国民の動向が政党の多元化をもたらしつつあるとき，この現実を国会の議席に反映して，国会における審議・討論の十分な展開の中で解決点を探るのが，議会政治の正しいあり方であろう。選挙制度は，このような国民の総意を国会の議席に反映させる民主的な方法となってこそ意味あるものというべきである。〔鈴木安蔵〕

うことばをいろいろな場合に用いる。二つの要素 a，b について和 $a+b$ や差 $a-b$ が求められ，スカラーとよぶ数 p との積 pa も定められている集合を線形空間またはベクトル空間という(→ベクトル)。線形空間の写像* f で $f(a+b)=f(a)+f(b)$，$f(pa)=p\cdot f(a)$ となるものを線形写像といい，特に線形空間Ｌから Ｌ自身への線形写像を線形変換ともいう。線形空間についての理論を線形代数といい，線形空間が位相*空間で加法や乗法が連続であるものを線形位相空間という。また，一次の同次式を線形といい，線形の等式や不等式の条件のもとで，ある線形の関数の極値を求める方法を線形計画法という。線形ということばは，多くの場合一次の形の式と関連して用いられる。また，直線状に並ぶような順序を線形順序ともいう。〔小西勇雄〕

せんけい【船形】 船舶の形。船の形は貨物の種類，航路などによって決められるが，船は大きく分けて船体・船首尾・上部構造物，機関室の位置，船の安定性などによって分類する。このうち特に上部構造物，機関室の位置による外観上の形状に注目される場合が多い。上部構造物，特に甲板の形から平甲板船・三島船・ウエル甲板船・低船尾楼船・覆甲板船・波よけ甲板船・日よけ甲板船などに分かれる。また機関室の位置からは中央機関室船・船尾機関室船・セミアフト機関室船などとなる。〔飯島幸人〕

せんけいちゅうるい【線形虫類】 袋形動物・線形虫綱の動物。ハリガネムシ類と遊線虫類が含まれる。成体は細長く線状で，体表は角皮または繊毛でおおわれる。ハリガネムシ類の幼虫はこん虫類に寄生し，成体は川・池沼などの水中で自由生活をする。遊線虫類は海産で，幼生は甲殻(こうかく)類に寄生し，成体は海中を泳ぐ。



船　形

せんけいどうぶつ【線形動物】 線虫類*・線形虫類*・鉤頭虫(こうとうちゅう)類*をあわせていうが，現在は，ワムシ・イタチムシなどの類も含めて袋形動物*という動物門にまとめることのほうが多い。

せんげし【千家氏】 出雲国造(いずものくにのみやつこ)出雲臣(いずものおみ)の後裔(こうえい)。代々出雲大社の宮司。南北朝時代の初め，孝時の嫡子清孝に嗣子がなかったので弟孝宗に家職を譲った。ところがその弟貞孝も別に奏聞を経て国造となり北島と称したので，孝宗はみずから称して千家と号したという。千家はもと先家・前家の字を用いたといわれるが，これは北島より先に家を立てた意であろう。子孫は国造を世襲して今日に至る。〔黛　弘道〕

せんげたかとみ【千家尊福】(1845～1917) 出雲(いずも)大社大宮司・神道家・政治家。出雲国造(くにのみやつこ)尊澄(たかずみ)の長子で，第80代出雲国造。大教正となり，神道(しんとう)西部管長に補せられ，大教宣布運動に尽力した。神宮教導職分離令が発せられると大社教(→出雲大社教)初代管長となり，教学・布教に挺身し，のち元老院議員・府県知事・司法大臣を歴任した。

せんげもとまろ【千家元麿】(1888～1948) 詩人。東京の生まれ。父は男爵尊福*(たかとみ)で東京府知事もつとめた。元麿は妾腹(しょうふく)の子。大正初期，白樺(しらかば)派の同人と交流し，庶民の日常生活を愛情をこめてうたい，素朴(そぼく)な詩風を示した。詩集に《自分は見た》《虹(にじ)》《新生の悦(よろこ)び》など。生涯(しょうがい)清貧に甘んじ，純粋な詩魂を失わなかった。

ぜんけんいにんじょう【全権委任状】 条約*締結の外交交渉において，条約締結権者が，国を代表して交渉する使節に与える書類。条約について交渉・署名し，条約に拘束されることを表明するものである。元首，政府の首長，外務大臣は全権委任状を必要としない。全権委任状を与えられた者を全権委員という。関係国の全権委員が全権委任状を交換し，それが有効・妥当なものであることを確かめあったのち，はじめて交渉にはいる。〔広部和也〕

せんけんてき【先験的】 哲学用語。ドイツ語トランツェンデンタルの訳語。スコラ哲学以来カントまでは〈超験的〉の意味で，カテゴリー*の規定を越える存在を規定する

のに用いられた。カントはこれを経験の限界を越えるものに用い，どういう条件の下に対象のア-プリオーリな(先天的)知識をもちうるかを考えることにいう。〈対象に関係するというよりも，むしろ諸対象をわれわれが認識するしかた(この認識が先天的に可能であるべきかぎり)に関係するすべての認識〉が〈先験的〉とし，〈先天的〉とは違う。新カント派ではこの語はいろいろに追究された。またフッサールでは内的経験・外的経験に与えられたすべてのものから解放された純粋意識をいう。➔ア-プリオーリ・ア-ポステリオーリ　〔中川　誠〕

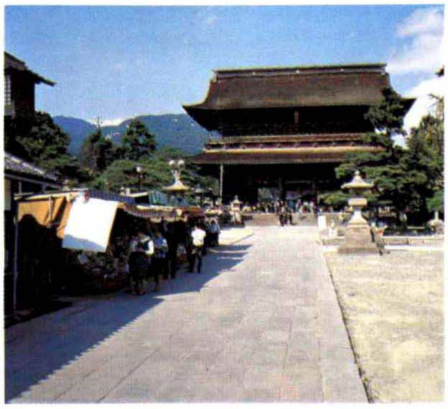
せんけんてきかんねんろん　【先験的観念論】　カントの唱えた哲学的立場。彼によれば，時間・空間は日常経験の立場では実在する。しかし，経験が成立する論理的根拠からいえば，時間・空間は直観の形式であって，物そのものまたは物そのものの根底にあるものではないから，無である，先験的観念性であるとされる。同様に，経験の内容をなす外的・内的な物は物そのものでなく現象であるから，先験的観念性である。フィヒテの知識学，シェリングの自然哲学に対する精神哲学の立場も先験的観念論とよばれる。新カント派は超個人的主観によって認識の対象を構成するカントの立場を徹底させて，主観主義から客観主義に近づいた。　〔中川　誠〕

せんげんどう　【銭玄同】　チエンシュワントン　(1887〜1938)　中国近代の文字学者。日本に留学，早稲田(わせだ)大学に学んだ。章炳麟(しょうへいりん)に師事し，古い学問をきわめて，急進的な文字改革論者となり，五・四運動の前夜，胡適(こてき)らとともに雑誌《新青年》を編集して，新文化運動を推進した。エスペラントの採用を主張し，ローマ字化運動を提唱した。長く北京(ペキン)大学教授として教鞭(きょうべん)をとり，周作人と親しかった。史学者としては，伝統史学の資料に懐疑の目を向け，疑古派の名でよばれた。むすこの銭三強は，現代中国の代表的自然科学者であり，甥(おい)の銭稲孫は日本通として有名。

せんこう　【線香】　⇨香

せんこう　【選鉱】　鉱山で採掘された原鉱石から主として物理的・機械的方法によって有価値成分を含む鉱物を選別し，あるいは2種以上の有価値成分を含む鉱物を互いに分離する操作。広義には，これに関連した処理操作の全体をさすこともある。原鉱石は，目的成分の含有率(品位)が低すぎたり，あるいは有害な不純物を含有していたりするため，そのままでは直接の使用や製錬の原料には適さない場合が多い。このとき，多くは精製の第1段階として，選鉱によって目的鉱物を分離・選別することが行なわれる。選鉱過程における産物のうち価値の高いほうを精鉱，残りを廃石とよぶ。

選鉱の方法としては，鉱物の比重差を利用するもの(比重選鉱)，鉱物表面の界面化学的性質の差を利用するもの(浮選など)，磁気的性質の差を利用するもの(磁選)，電気的性質の差を利用するもの(静電選鉱)などがある。選別の前段処理としては，鉱物を相互に単体分離することが必要で，そのために粉砕・分級などの操作が加えられる。また，選鉱過程は湿式で行なわれることが多く，濃縮・濾過(ろか)などの操作を伴うのが普通である。選鉱工場の多くは鉱山の現地に設置され，これらのいろいろな操作の組み合わせによって原鉱石を処理し，1種ないし数種の精鉱を生産している。　〔井上外志雄〕



善光寺　山門

ぜんこうじ　【禅興寺】　⇨明月院

ぜんこうじ　【善光寺】　長野市箱清水にある天台・浄土両宗並立の寺。本堂の四方には勅額が掲げられ，東は定額山善光寺，南は南命山無量寺，西は不捨山浄土寺，北は北空山雲上寺とある。創建については諸説あるがつまびらかでない。本尊は欽明天皇のときに百済(くだら)の聖明王が献上したと伝わる一光三尊の阿弥陀(あみだ)像で，642年(皇極1)現在地へ移し伽藍(がらん)を建立(こんりゅう)したという。同寺は古くから信仰を集め，歴代の為政者の多くも帰依した。1225年(嘉禄1)親鸞(しんらん)は本寺に参り，本尊の分身像を得て専修寺(栃木県)に安置したという。本尊は武田信玄(たけだしんげん)が新善光寺(山梨県)へ移して以来転々とし，1597年(慶長2)本寺へかえったと伝えられる。再三火災にあったがそのつど再建され，現存の本堂は1707年(宝永4)建立されたものである。外陣(げじん)・中陣・内陣・内々陣に分けられ，仏教建築上特殊な大建築で，江戸時代の代表的な遺構として国宝に指定されている。　〔杉坂靖子〕

ぜんこうじだいら　【善光寺平】　⇨長野盆地

せんこうせい　【旋光性】　デンキ石などを通過した光は，一つの平面内だけで振動しているので，これを直線偏光，その平面を偏光面とよぶ。この偏光面をある物質(旋光性物質)が回転する性質を旋光性という。さらに光源に向かって，偏光面を左側に回転する性質を左旋性，右側に回転するものを右旋性とよぶ。旋光性物質が，左旋性を示す物質と右旋性を示す物質の等量の混合物(ラセミ体)である場合には，旋光性を示さないが，なんらかの方法でそれぞれを分離すれば，偏光面を回転する。➔偏光

せんこうでんきゅう　【閃光電球】　⇨フラッシュバルブ

せんこうどうぶつ　【先口動物】　前口動物・旧口動物ともいい，後口動物に対する動物群。扁形(へんけい)・紐形(ひもがた)・曲形・袋形・軟体・環形・星口・触手の動物門が含まれる。発生の初期に胚表(はいひょう)の一部が陥入して二重袋の構造の原腸胚となるが，この陥入に際してできる開口部(原口)が，そのまま口になる。肛門(こうもん)は2次的な開口によって生ずる。

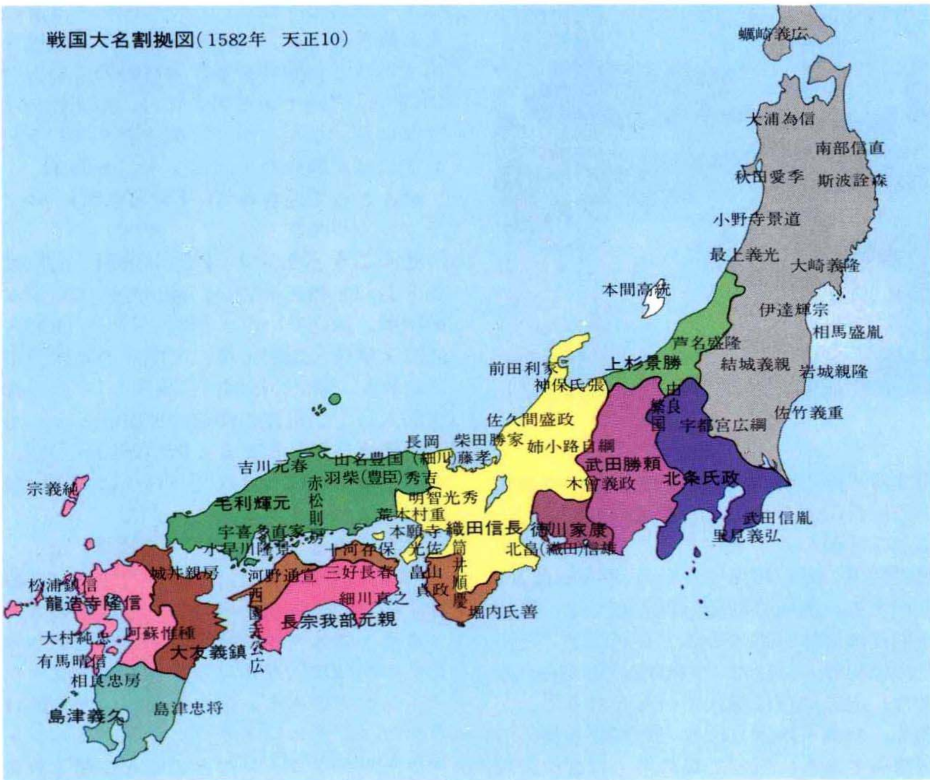
せんこうどうぶつ　【穿孔動物】　岩石・木材などに穴をあけ，その中で生活する動物。海岸の岩に穴をあける二枚貝類のカモメガイ・ニオガイ，桟橋(さんばし)のくいや木造船の船体に穴をあける二枚貝類のフナクイムシなどがある。また，樹木に穴をあけるマツノクイムシ・クワノキキクイムシ・マツキボシゾウムシなどのこん虫類も含まれる。

ぜんこうどうぶつ　【前肛動物】　肛門が体の後端でなく，ほぼ，口と同じ位置に開く動物をいい，触手動物やホシムシ・ギボシムシ・エノコロフサカツギなどの類が含まれる。動物相互間の系統的類縁は薄いと考えられ，今日ではあまり使われない。

せんこうびょう　【穿孔病】　モモ・ウメ・アンズ・ミザクラの葉・枝・果実にかっ色ないし紫かっ色・円形の病斑(びょうはん)を生じる病気。葉では病斑部が脱落して孔があき，早く落葉する。枝・果実では病斑中央部がへこみ，亀裂(きれつ)を生ずる。本病は細菌による場合と，菌類の寄生による場合とがあるが，いずれも被害葉・枝で越冬するので，これら被害部を除去・焼却し，施肥を十分にして樹勢を盛んにすることが必要。防除には発芽直前に石灰ボルドー液を，開花後ファーバム剤・ジネブ剤・ジラム剤などを散布する。　〔渡辺　実〕

ぜんこうれん　【全購連】　⇨農業協同組合

ぜんこくこくじんこうじょうきょうぎかい　【全国黒人向上協議会】　National Association for the Advancemekt of Colored Peopleの訳。略称NAACP　全国有色人種向上協会とも訳される。1909年アメリカ合衆国の黒人差別撤廃をめざして創立された黒人団体。ブラックパワーと称される他の多くの黒人解放運動とは異なり，マルクス主義を否定して，穏健な議会民主主義を唱え，白人も会員に加えた人道主義的色彩が濃い。1901年から機関紙《危機》を発行し，黒人の投票権・被選挙権・教育権などに関するその法的平等獲得運動は一定の成



戦国大名

果をあげており，いまなお黒人運動における指導的役割を果たしている。本部はニューヨーク。全米に2,000近い支部と50万の会員を有する。➔黒人問題　〔吹浦忠正〕

せんごくさく　【戦国策】　中国，戦国時代に蘇秦*(そしん)・張儀らが諸侯に説いた策略(合従(がっしょう)連衡*)を集めた書物。《国策》ともいう。西周・東周・秦・斉(せい)・楚(そ)・趙(ちょう)・魏(ぎ)・韓(かん)・燕(えん)・宋(そう)・衛・中山の12策，33編。現行の書は前漢末の劉向(りゅうこう)の整理・校定を経ている。

ぜんこくさんぎょうふっこうほう　【全国産業復興法】　フランクリン-ルーズベルト*のニューディール*政策中の最も重要な産業統制法。世界大恐慌克服策として産業界の復興を促進するため，1933年6月制定。略称ニラ(NIRA)。最低価格・最低賃金・最高労働時間などに関して産業別に〈規約(コード)〉を結び，公正な競争を確立しようとするものであった。その他労働者の団結権・団体交渉権を承認し，公共土木事業局(PWA)による公共事業・建設計画を規定した。反トラスト法の適用から〈規約〉を除外し，カルテル結成を促進させた第5条はニューディールの二面性を示している。生産力・購買力の増加によって大恐慌を克服しようとしたが，1935年最高裁判所は統制諸法案に対し違憲の判決を下した。政府が経済に積極的に介入した法律としての意義は大きく，労働条件はワーグナー法として再制定された。　〔折井一彦〕

ぜんこくさんぎょうべつろうどうくみあいれんごう　【全国産業別労働組合連合】　略称は新産別。労働組合中央組織の一。全日本産業別労働組合会議*から脱退して，1949年(昭和24)12月に結成された。加盟組合は，全機金・新化学・新運転・京都地連の三単産一地連で，組合員数約70,000名。

せんごくじだい　【戦国時代】　室町時代の後半，応仁(おうにん)の乱*(1467)よりのちの約1世紀をいう。全国に群雄が割拠して互いに覇(は)を競った争乱の時代である。室町幕府は応仁の乱によって統一政権としての実力を失い，守護をはじめとする各地の領主たちはみずからの領国の拡充をめざして近隣と戦闘をくり返した。この動乱の中で旧来の守護大名の多くは幕府の実力喪失にともなってその権威を失い，戦国大名への転化に失敗して被官たちに領国を奪われた。戦国大名への転化を成し遂げて長く争乱の巷に活躍したのは今川・武田(たけだ)・大友・島津など数氏にすぎない。この戦乱の中で，従来の複層化した荘園(しょうえん)制的土地制度は完全に崩壊した。また，貨幣経済の進行とともに商業活動も活発化し，特に城下町を中心とする弱小商業が発展した。堺(さかい)などの豪商は，戦国大名たちの支配から離れて独自の自衛組織をつくるとともに独自の商活動を行ない，明(みん)や遠く南蛮(なんばん)との貿易活動に雄飛した。これもやがて織田信長(のぶなが)や豊臣秀吉(とよとみひでよし)の覇権確立によって終焉(しゅうえん)する。　〔村尾元忠〕

ぜんこくせんいさんぎょうべつろうどうくみあいどうめい　【全国繊維産業別労働組合同盟】　略称は全繊同盟。1946年(昭和21)に結成され，一貫してトレード-ユニオニズムの立場に立ち，1954年の近江(おうみ)絹糸スト，1959年の最低賃金闘争など注目すべき闘争を行なった。現在は，労使協調主義を堅持している同盟の中心メンバーであり，約51万の組合員で組織されている。

せんごくそうどう　【仙石騒動】　天保(てんぽう)(1830〜1843)のころ，但馬(たじま)(兵庫県)仙石藩主仙石家で起こったお家騒動*。藩主仙石美濃守政美(みののかみまさよし)の死後，嗣子がなく老臣たちは政美の弟道之助を継嗣としたが，支族で家老の仙石左京は自分の子の小太郎を立てて主家の横領を企てた。左京は反対派の老臣たちの職を奪って追放し，幕府の老中松平康任(やすとう)を利用して目的を達しようとした。家中の神谷転(かみやうたた)は左京の陰謀をあばこうとしたが，その身の危険を感じて出奔し，下総(しもうさ)(千葉県)一月寺の虚無僧となって難を避けたが，左京の依頼で江戸町奉行(ぶぎょう)筒井政憲(まさのり)に捕えられた。これを寺社奉行脇坂安董(わきさかやすただ)が知り，左京一味は江戸によばれ取り調べのすえ罪状が明白となり，1835年(天保6)左京は獄門，藩主道之助は二万八千石削封されて三万石となって閉門，老中松平康任は隠居謹慎，筒井政憲は御目通(おめどおり)差し控えとなって事件は落着した。この騒動は脚色され，歌舞伎(かぶき)で上演された。　〔岡山泰四〕

ぜんこくたいしゅうとう　【全国大衆党】　1930年(昭和5)7月20日日本大衆党*が全国民衆党・無産政党戦線統一全国協議会と合同して創立した無産政党。中央委員会議長麻生(あそう)久*，書記長三輪寿壮，統制委員長大矢省三らによって指導され，顧問に堺利彦*(さかいとしひこ)・賀川豊彦*(とよひこ)・高野岩三郎らを迎え，議会解散を要求して浜口内閣を攻撃した。無産者大会を開催し，農村窮乏打破闘争を経て，1931年7月5日労働農民党*・社会民衆党*合同派と合同し，全国労農大衆党*に発展的に解消された。➔労農派

せんごくだいみょう　【戦国大名】　応仁(おうにん)の乱*(1467)以後全国各地で領国を形成した大名。室町幕府をささえていた守護大名の多くは幕府の実力失墜とともにみずからも没落し，かわって守護代や国人らが実力によって排他的な一円領主化を進めて大領主となっていった。守護大名で戦国大名に転化したものもある。戦国大名は，分国法*の制定や給人制の施行などにより，家臣団の統制を強化するとともに，農地および農民に対する直接的支配を実現し，〈職(しき)〉に代表される鎌倉・室町時代の複層化した荘園制(しょうえんせい)的土地制度を否定して単一支配権を確立した。また，城下町の建設，国内産業の保護，大規模な灌漑(かんがい)治水工事などにより戦乱の時代でありながら生産力は飛躍的に向上した。そして，軍事上のみならず政治・経済に対する専制的支配を実現して領国の強化拡充をはかった。こ

れがやがて江戸時代の幕藩体制の基礎となった。〔村尾元忠〕

ぜんこくのうみんくみあい【全国農民組合】 ➔全日本農民組合連合会

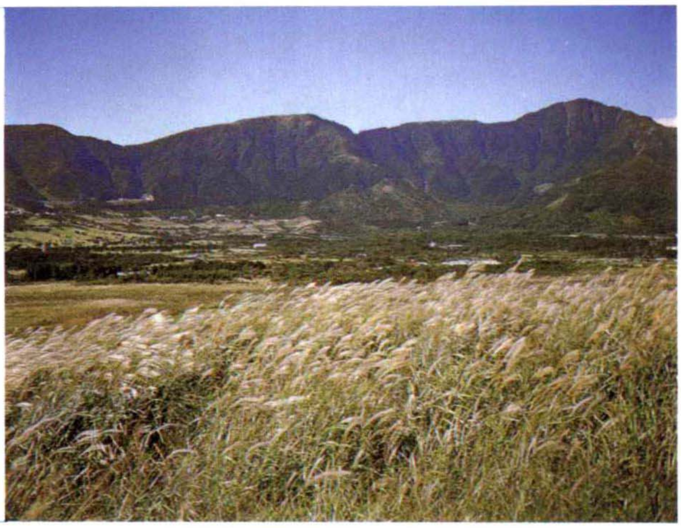
せんごくはら【仙石原】 箱根火山の火口原にあたる高原。北と西は外輪山の内壁(カルデラ壁)急斜面で囲まれ，東側は中央火口丘のゆるい山麓(さんろく)に接する。標高700～600mで，かつては芦ノ湖(あしのこ)と同じく湖底であったと考えられている。なだらかな起伏をもつ高原はゴルフ場などにも利用され，また，別荘地としても開発されている。富士箱根伊豆(いず)国立公園に属する。

せんごくはん【仙石藩】 江戸時代に但馬(たじま)(兵庫県)出石(いずし)地方を領有した藩。出石藩ともいう。1595年(文禄4)小出吉政が豊臣秀吉(とよとみひでよし)に封ぜられて以来，小出氏が領したが，1696年(元禄9)小出氏に嗣子がなく断絶除封され，翌年松平氏が移り，さらに1706年(宝永3)仙石政明が信濃(しなの)(長野県)上田から転入して五万八千石を領し，以来継承して明治に至った。天保(てんぽう)年間(1830～1843)にお家騒動(➔仙石騒動)が起こり，1835年(天保6)三万石に減された。1871年(明治4)廃藩置県により出石県に，次いで豊岡県に，1876年兵庫県となった。〔岡山泰四〕

せんごくぶね【千石船】 江戸時代に沿岸航海に従事していた大形の和船*。もと米1,000石を積載できる船の意であるが，のちになって当時の大形和船の代表語となった。大きさは全長24.2m，幅7.3m，深さ2.7mぐらいで，帆は26反ぐらい，櫓(ろ)16～18挺，鉄碇(いかり)8頭を備えていた。この船の総トン数は現在の約100トンにあたる。

ぜんこくろうどうくみあいれんらくきょうぎかい【全国労働組合連絡協議会】 略称全労連。第2次世界大戦後結集された全国労働組合の統一組織。1947年(昭和22)官公庁労働組合の二・一スト(不発に終わった労働運動史上最大のゼネスト*計画)は，マッカーサーの中止令で決行直前に阻止され，全国労働組合共同闘争委員会はその中止に伴い解体された。しかし，これを契機に労働戦線統一の気運は急速に促進され，同年3月6日日本労働組合総同盟(総同盟)・全日本産業別労働組合*(産別)・中立系組合など，460万の組合員を結集して結成された。加盟組合の自主性を尊重し，満場一致制で運営されたが，総同盟は全労連を統一行動の機関とすることに反対し，翌年6月脱退。その後産別を中心に全労連の強化がはかられたが，1950年8月団体等規制令*の適用をうけ解散。〔高崎徳次〕

ぜんこくろうのうたいしゅうとう【全国労農大衆党】 1931年(昭和6)7月，労働農民党*，全国労農党と社会民衆党合同派とが合流して結成された。1932年7月解党，のち社会大衆党*に参加した。結党時大山郁夫(いくお)は委員長を辞退し，12月まで委員長に堺利彦(さかいとしひこ)，書記長に麻生(あそう)久がなり，以後，解党まで委員長麻生久，書記長三輪寿壮。9月反戦委員会を設け，満州事変に際して出兵反対を宣言したが，基盤である造船・金属労働組合から反対され，それに同調する右派が日本国家社会党に参加したため勢力退潮して解党した。〔安達淑子〕



仙石原 初秋の仙石原概観。背景は箱根外輪山の山々で，右の金時山から乙女峠にわたる。左手の鞍部下に乙女峠バイパスのトンネル入り口が見える



洗骨 遺骨を洗い清めて，墓の奥に納める。沖縄諸島宮古島狩俣

せんこせい【千戸制】 ジンギス汗*がその統合したモンゴルの諸部族に与えた軍隊組織。トルコ系遊牧民族の制度にヒントを得たもので，部下の功臣たちを，彼の建国への協力の度合いに応じて，それぞれ千戸・百戸・十戸などの長に任命して，1,000人・100人・10人の戦士を動員するに足る部民の領有を許した。そして，これらの千戸・百戸・十戸の長は，自分の領民中から一定数の戦士を徴集して，汗に奉仕する義務を負わされたのである。〔若松 寛〕

せんこつ【仙骨】 ⇨寛骨

せんこつ【洗骨】 遺体をある年月を隔てて取り出し，遺骨を洗い清めて一定の場所に納める死者儀礼。沖縄諸島では墓に納めた遺体を，通例3～7年後に取り出し，遺骨を海水・水・泡盛*(あわもり)などできれいに洗い，厨子甕(ずしがめ)に足のほうから順次納め，いちばん上に頭蓋骨(ずがいこつ)を置き，蓋(ふた)をして墓のたなに安置する。甕を用いず，遺骨をばらばらのまま墓のたなやくぼみに安置する地方もある。洗骨するのは肉親の婦女子のつとめとされている。日本本土では洗骨に関する確実な報告がないが，奄美(あまみ)諸島，沖縄，台湾，中国南部・南西部，朝鮮南部，さらに東南アジアの島々にわたって，多くの種族の間にさまざまな変差をもった洗骨儀礼が知られている。〔直江広治〕

せんごひゃくばんうたあわせ【千五百番歌合】 1201年(建仁1)，後鳥羽院*(ごとばいん)が，当時の代表歌人30人に百首歌を詠進させ，翌年歌合につがえて，10人が分担して判にあたった空前絶後の大歌合。この中から90首が《新古今和歌集*》に取り入れられ最大の撰歌(せんか)資料となっており，《六百番歌合*》とともに歌合史上に残っている。多彩な判者や多様な判様式も見のがせない特徴とされる。

ぜんごん【善根】 仏教で善が生長する本となる根のこと。善本・徳本ともいう。善を行ない悪を断つのが仏教の修行の基本であり，善根を植えることによって善果が結実するとされる。貪(むさぼる)と瞋(いかる)と痴(おろか)のないのを三善根といい，これが原因となり善根の積み重ねにより，仏の悟り*に近づくという。

せんざい【煎剤】 生薬*の有効成分を水で熱時抽出した液剤で，主として内服に用いる。以前はこの種の薬剤がかなり用いられたが，現在では特殊なものしか残存していない。腐敗しやすいので用時調製し，ふつう2日分以上は投薬しない。病院または薬局で調製し，通例1種類の生薬の薬用部分だけを用いて注意して調製し，毒劇薬ではその成分含量を定量して，溶液中の含量を一定にしてある。これと類似したものにせんじ薬があるが，これは患者が自宅においてせんじ(水を加えて一定時間加熱煮沸すること)，浸出液を内服するようにした医薬

品で，数種(1種のこともある)の切断生薬を混和し，1回または1日用量に分包してある。漢方薬によく見受けられ，民間薬もこの方法で用いられる。　〔江本龍雄〕

せんざい　【洗剤】　汚れを除去する目的で用いる薬剤の総称。一般には湿式洗たく用に限定する。せっけん*などの界面活性剤と配合剤(ポリリン酸塩・ケイ酸塩・硫酸ナトリウムなどの無機成分のほか，CMC・螢光(けいこう)増白剤・青味つけ剤・香料など)からなり，形状には固形・粉末(一般に粒状)・液体があるが，粉末状が最も多い。近年は，食用油脂を原料としない合成界面活性剤が普及し，全需要の70％をこえている。かつてせっけん系の洗剤による地下水・河川の泡だちが問題視され，使用が規制された。その後洗浄性能に関係の深いポリリン酸塩が配合剤として用いられるようになって，石油系合成洗剤の需要はせっけん系を完全に圧倒した。繊維の種類や汚れの程度により，強洗浄用(一般用)と弱洗浄用のいずれかを用いる。後者は中性洗剤とも俗称され，強洗浄用では繊維をいためる恐れのあるときに用いる中性ないし微アルカリ性のもので，絹・毛・ナイロン・アセテートなどを対象とする。

洗剤の性能は，洗浄力，洗い上がりの触感(ふうあい)，染色物の色落ち，などで評価されるが，性能に大差のない現状では，起泡(きほう)性・すすぎやすさ・包装・価格なども重要な要素となる。外国製品はわが国の水質・洗たく習慣に合わないものもある。　〔矢部章彦〕

ぜんさい　【前菜】　⇨オードブル

ぜんざい　【善哉】　柔らかく煮たアズキに砂糖を加えて練ったあんを，焼いたもちに掛けたもの。出雲(いずも)(島根県)で祭事の供え物に，赤アズキを煮てしるを多くし，もちを少し入れたものをつくり，神社餅(じんざいもち)と称したことから転訛(てんか)したものといわれる。もちのほか，取り合わせる材料によって，あわぜんざい・白玉ぜんざい・くりぜんざい・そばぜんざいなどがあり，ほかにサツマイモ・道明寺粉(蒸したもち米を乾燥してひいたもの)なども用いる。なお，京都・大阪では，切りもちに煮たアズキのしるを掛けた，いわゆる関東のしる粉系統のものをいう。　〔塩川ふみ〕

せんざいしゅけん　【潜在主権】　⇨残存主義

ぜんざいどうじ　【善財童子】　《華厳経入法界品(けごんぎょうにゅうほっかいぼん)》の主人公。長者の子どもであった彼は，発心して南インドに遊行し，53人のすぐれた仏教者に教えを受ける。その中には比丘(びく)から船師・遊女まであり，一大ドラマを形成している。維摩居士(ゆいまこじ)や勝鬘夫人(しょうまんぶにん)と並んで典型的な在家の修行者である。文学や絵画の素材としても有名であるが，日本の江戸時代の東海道五十三次の設置は，この



センザンコウ

善財童子の遊行物語によったといわれる。　〔吉津宜英〕

ぜんさいるい　【前鰓類】　軟体動物・腹足類のうち，カタツムリ・ウミウシなどを除く大部分の巻き貝の属する動物群で，普通は亜綱として扱われる。鰓(えら)が心臓の前方に位置するのでこの名がある。種類はきわめて多く，主として海産であるが，汽水・淡水域にすむものもあり，また，ヤマタニシ・ゴマガイなどのように陸産のものもある。雌雄異体が普通であり，化石はカンブリア紀以降に現われる。約55,000種がある。

せんざいわかしゅう　【千載和歌集】　第7番めの勅撰(ちょくせん)和歌集。選者は藤原俊成(としなり)。後白河(ごしらかわ)法皇の命によって，1187年(文治3)に奏覧された。歌人383名，総歌数1,286首，一条天皇時代から約200年にわたり，《後拾遺和歌集*》以来の勅撰にもれたものから選ばれたが，もとより当代の和歌に重きがおかれている。歌風は温雅にして幽寂であり，《古今和歌集》の伝統を重んじる一方，源俊頼(としより)などの革新的な和歌も多くとっており，新旧両派の総合を特色とする。　〔加納重文〕

センサス　［census］　ローマ時代市民権を確定するため5年ごとに行なわれた人口調査。BC435年が最初で，市民の氏名・家族・年齢・財産などを調べた。帝政時代になると10～15年ごとに行なわれるようになった。現在は，部分的調査に対する定期的な全体調査をさす。国勢調査・農業センサスなどがこれである。また国連の提唱で世界的な人口センサス・鉱工業センサスなども行なわれ，日本も参加した。

せんさんきょう　【銭三強】　チェンサンチャン　(1910～　)中国の原子物理学者。浙江(せっこう)省に生まれ，1936年清華大学を終え，翌年フランスに留学し，キュリー物理学研究所で放射線物理学を研究した。夫人の何沢慧(かたくけい)と共同で行なった核分裂についての研究によって世界的に知られた。第2次世界大戦後帰国(1947)して清華大学教授・科学院原子力研究所所長などを勤め，中国における原子核研究の中心的指導者として活躍している。　〔藤村　淳〕

せんざんこう　【穿山甲】　哺乳(ほにゅう)類・有鱗(ゆうりん)目・センザンコウ科。アリクイ*類に似て歯がなく，舌が細長く口の外へ長く突き出せる。乳頭はわきの下にある。体は角質の魚鱗状のうろこでおおわれ，敵に襲われるとボールのように丸くなって身を守る。南アジアには，インドセンザンコウ(頭胴長65cm，尾長46cmほど)，アライセンザンコウ(頭胴長50cm，尾長40cm)などが分布し，エチオピア区にはオナガセンザンコウ(頭胴長33cm，尾長62cmほど)，オオセンザンコウ(頭胴長70cm，尾長60cmほど)などが分布する。いずれもアリやシロアリを食う。　〔今泉吉典〕

せんざんせん　【仙山線】　東北本線仙台と奥羽本線羽前千歳(うぜんちとせ)を結ぶ国鉄路線。営業キロ58.0。1929年(昭和4)の仙台～作並間の開通にはじまり，1937年に全線が開業した。奥羽地方の横断鉄道の一つで，奥羽山脈を横断するところにある仙山トンネル(5,361m)はわが国の鉄道トンネルのうち7番めに長い。1954年にわが国最初の交流電化試験区間に路線のうち北仙台～作並間が選ばれたことで有名である。現在は全線が交流で電化されている。

せんじ　【宣旨】　天皇の命を外記(げき)・弁官*を経由して伝える文書の形式。内侍*(ないし)が勅旨を蔵人(くろうど)に伝え，蔵人からこれを当日の政務担当公卿(くぎょう)である上卿(しょうけい)に伝え，上卿から外記・弁官に伝宣し，外記・弁官がこれを文書にして出した。弁官下文の形式をとる官宣旨と弁官の大史・少史の奉書形式による宣旨の別があり，宣旨は叙位・任官に関するものが多い。

せんしがく　【先史学】　歴史学の一分科で，史前学ともいう。先史時代*の人類文化とそれを取り巻く環境を研究する総合的な学問である。扱う資料が主として遺物・遺跡といった考古学的資料であるため，考古学即先史学と考えられがちであるが，先史時代の解明には人類学・地質学・動植物学・地理学・原子物理学など他の分野の学問との協力を必要とする。

せんじきょうさんしゅぎ　【戦時共産主義】　1918～1920年の国内戦と諸外国の武力干渉の時期にソビエト政権のとった暫定的経済政策。ソビエト政権の短期間の崩壊を確信していたブルジョアジー・旧帝政官僚はソビエト政権に対してきわめて非協力的であった。これに対しボリシェビキ*も労働者による極左的な工場管理の動きを抑制していたが，国内戦の開始で国民経済全体の早急の管理が必要となった。1918年5月の食糧徴発制度，6月に工業の全般的国有化，9月の鉄道の国有化，11月の商業の国有化，12月全般的労働義務制の導入など，当時のロシアの状況に即応した一連の方策

を戦時共産主義とよぶ。これらの政策は，戦火による荒廃，農業生産の低下，インフレーションなどによる貨幣経済の崩壊と結びついていたため，一部のボリシェビキによって共産主義のはじまりと錯覚されたが，本来の共産主義の成立する条件はまったく欠けており，平和の回復によって新経済政策(→NEP)に切り換えられた。

〔山県弘志〕

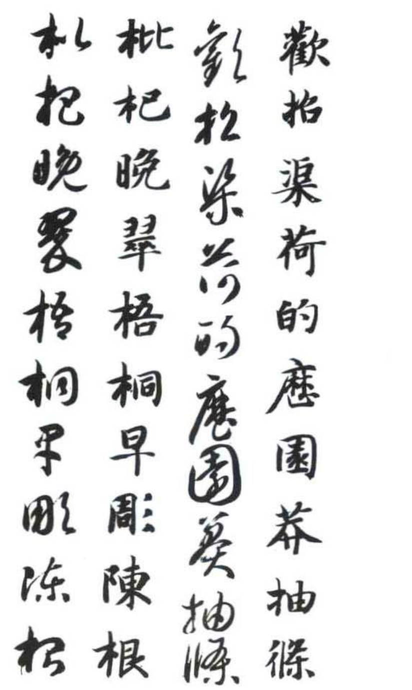
せんじぐすり　【煎じ薬】 ⇨煎剤

せんしじだい　【先史時代】 歴史の時代区分の一。先史学*の対象となる時代をいい，通常は，原史時代・歴史時代に対して，人類の歴史の中で文献史料の存在しない時代をさす。遺物・遺跡によって人類の歴史を探究しようとする考古学*の発達は，文献のみを史料としてきた旧来の歴史を，文字のない先史時代にまでさかのぼらせたのである。

せんじしょう　【撰時抄】 日蓮*(にちれん)の著書。2巻。元からの使者が幕府に到着するにあたって，1275年(建治1)日蓮が《立正安国論*》に述べた他国侵逼難(しんぴつなん)が具体化しはじめたとして著述したもの。日蓮は仏法を説く場合に〈時〉を選ぶべきことを強調した。〈時〉とはブッダの滅後第5の500年(2,500年後)で，この争いの絶えない末法に《法華経(ほけきょう)》が流布すべきことを確信した。また，浄土宗・禅宗・真言宗の3宗を批判し，元の襲来は国王・諸人が《法華経》弘通者(ぐづうしゃ)である日蓮を迫害するのを怒って教主ブッダらがつかわした警告であり，法華(ほっけ)信仰勧奨の啓示にほかならないと述べている。　〔塚本啓祥〕

せんじます　【宣旨枡】 1072年(延久4)後三条天皇の制定した公定枡。4寸8分(約14.5cm)平方，深さ2寸4分(約7.3cm)。その容積(1升)はのちの京枡*で約6合にあたる。朝廷は以後この枡を全国的に流通させたが，実際には他に多くの私枡も行なわれた。室町時代に油をはかるのに用いたことが知られている。➔枡

せんじもん　【千字文】 中国，梁(りょう)の武帝のとき，周興嗣(？～521)が勅命を受け，1字ずつ異なった文字1,000字を集めて〈天地玄黄，宇宙洪荒(こうこう)〉に始まり〈謂(い)語助者，焉(えん)哉(さい)乎(こ)也(なり)〉に終わる四言句の文をつくり，押韻したもの。晋(しん)の王羲之*(おうぎし)の字を集めて編集したという。いま，王羲之7世の孫，隋(ずい)の智永*(ちえい)の書いたという《真艸(しんそう)千字文》の真跡本が存している。《千字文》は六朝(りくちょう)以来，文字と書の学習に使用され，諸家の書したものが多く，また後世，上記の千字文の体を模した別種の千字文も種々つくられている。　〔中田勇次郎〕



千字文　智永筆　〈真草千字文〉の一部

せんしゃ　【戦車】 陸戦の主力兵器である戦闘車両の一種。機動性にすぐれ，同時に強力な火砲と厚い装甲とをもつ。タンクともいうが，これは試作当時，機密保持のため前線に水を運ぶタンクであると称したことに由来する。

〔沿革〕第1次世界大戦中，西部戦線の膠着(こうちゃく)状態を打破するためチャーチルの提案に基づいて結成されたイギリスの戦車委員会が研究開発し，1916年9月から戦線に投入した。第1次世界大戦を通じて各国でつくられた各種の戦車は，期待ほどの戦力は発揮しなかったが，戦後も開発は続けられた。第2次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)とともに，ドイツは戦車の集中的な機動力による電撃戦を展開したが，これによって戦車の戦略的価値は決定的なものとなった。戦後も，世界各国で熱心に開発が続けられており，速度・装甲厚・砲力の増大，赤外線利用の夜間照準器や対戦車ミサイルの搭載(とうさい)，水中徒渉能力の兼備などにより，その威力を高めつつある。

〔用途と種類〕出現当時は陣地を突破する歩兵の支援がその任務であったが，しだいに戦車隊あるいは機械化兵団を中心とする機動戦がおもな任務になった。今日では種類もふえ，機動性を多少犠牲にして装甲と火力を強化した重戦車，ふつう戦闘の主力として用いられる中戦車，偵察(ていさつ)戦車ともよばれる小形で軽快な軽戦車があるほか，戦車の車体を利用して大口径砲，強力な対戦車砲・高射機関砲などを搭載(とうさい)した各種自走砲，地雷処理・戦車回収・架橋などの作業を行なう工作戦車，フロート・水上航行装置をつけた水陸戦車などがある。

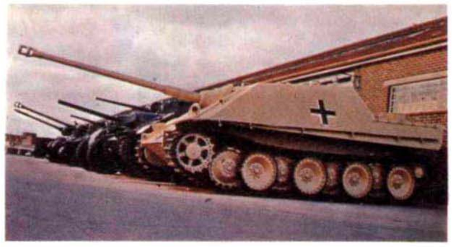
〔構造〕一般に砲塔・車体・走行機構からなる。走行機構は路外や不整地での活動のためキャタピラを取り入れている。これには，ゴムブッシュ式と特殊鋼を用いた連絡式とがあり，修理交換用予備のキャタピラを，防御を兼ねて車体によりつけることも行なわれている。動力には以前はガソリンエンジンがおもに使われていたが，戦後は安全性や経済性の面から，空冷のディーゼルエンジンが世界の主流となっている。また最近では2種類以上の燃料が使える多燃料エンジンや，ガスタービンエンジンが一部で実用化されている。砲塔は火砲・機関銃を装備して全周に回転する。第2次大戦以前は歩兵支援用の榴弾砲(りゅうだんほう)を装



第1次世界大戦当時の戦車(イギリス)



コメット戦車(イギリス)



ヤクトパンツァー戦車(ドイツ)



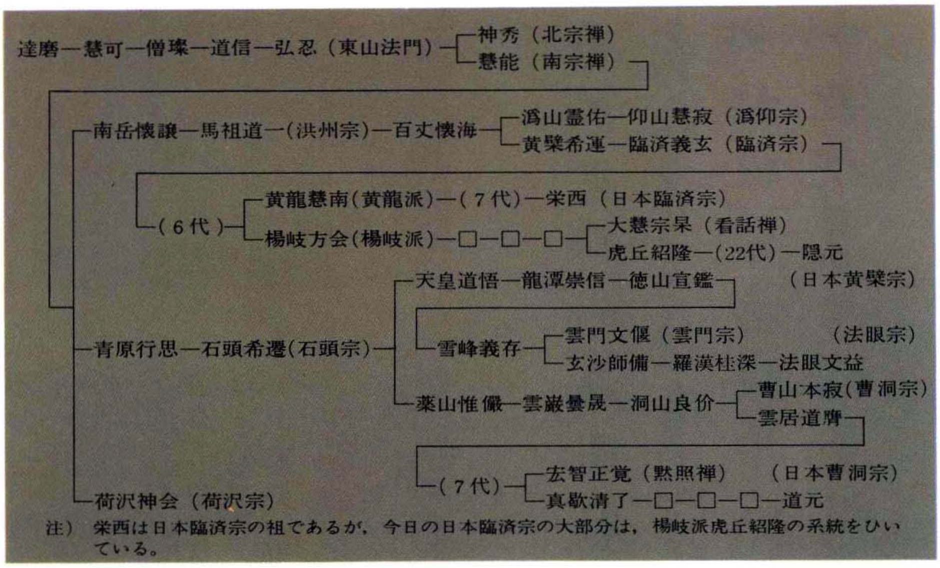
II号軽戦車(ドイツ)



T-34/85中戦車(ソ連)

第2次世界大戦当時の戦車

戦　車



禅　宗

備していたが，機動戦車戦の思想が高まるにつれて，貫徹力の強い長砲身のものが採用され，口径も37mmからしだいに増大し，現在は120mm砲まで使われている。車体は，避弾径始といって敵弾があたりにくく，姿勢が低く，防御に有利な傾斜の多い外形をとっている。乗員はふつう4～5名で，操縦・照準・砲操作などを受け持つ。
〔藤井冬木〕

せんじゃもうで　【千社詣】　一つの神社に何度も参って信仰の深さを表わすかわりに，数多くの神社に巡拝すること。できるだけ数多くのということで，千という数に限定されたものではない。最初の起こりは平安時代末期の貴族社会にみられた祈願で，これは狭い範囲の巡拝に限られていたが，室町時代には一般庶民の間にも盛んとなり，広い地域にわたり，季節を選んで同好の志を誘い，半ば遊楽のための巡拝と化した。千社詣に伴って，〈千社札〉といって自分の住所・姓名・職業を紙札に書いて，それを巡拝した神社・堂宇の戸・柱・天井などにはって歩く風が江戸時代中期から江戸を中心として地方に盛んになった。〔直江広治〕

せんしゅ　【僭主】　古代ギリシアの*ポリスの独裁者。ギリシア語のテュラノスに由来し，その支配が非合法的なのを特色としている。邦語訳の僭主も僭越な支配者を意味しているが，暴君の意味に用いるのは後代の用法である。僭主の支配はギリシア史を通じてしばしばみられ，その総数は約200を数えるが，紀元前7～5世紀の貴族政と民主政の過渡期に現われたものと，紀元前4～紀元前3世紀の民主政成立以後に出現したものがあり，前期の僭主が重要である。古い僭主は貴族政を通じての生産力の発達，奴隷制度・貨幣経済の進展，中小土地所有農民の武器自弁による重装兵戦術の発達などの理由により民衆の政治参与の要望が高まり，下層市民の間に土地の再支配や債務帳消しの要求が生まれた社会から出現した。この時期の僭主はアテナイの*ペイシストラトスなどのように名門の出身で，時勢を見る目があり，直接には外敵との戦いに武勲を契機として独裁制を樹立した者が多い。非合法な独裁が成功したのは，大衆の政治的未成熟，貴族政権の動揺と台頭しつつある平民もまだ非力という情況に乗じた場合が多く，外国人の傭兵（ようへい），親衛隊を用いて政権を奪取した。初代の僭主はペイシストラトスのように自作小農民の育成，海外発展や文芸の奨励などに治績をあげた。しかし民衆が目ざめてくると，僭主の暴君的性格が実感されるようになり，世襲された僭主政はおおむね2代めで打倒された。後期の僭主は前期の僭主以上に傭兵の力にたより，民主政の形式は保存したが，市民の利益を軽視した。　〔秀村欣二〕

せんしゅう　【泉州】　チュワンチョウ　中国東南部，福建省の南東海岸にある都市。人口約15万。別名を晋江（しんこう）といい，西アジアの回教徒にはザイトンとよばれた。晋江の河口に近く，台湾海峡に臨み，宋（そう）・元代には中国最大の貿易港として栄え，マルコ・ポーロも，その盛んな様を伝えている。しかし，港口が砂のため浅くなり，また南西の広州（広東省）が貿易港として発展し，アヘン戦争の後福州・厦門（アモイ）などが開港したため急速に衰え，現在は晋江流域の物資集散地にすぎない。また付近は東南アジア方面へ多数の華僑（かきょう）を送り出したところとして知られている。　〔船越昭生〕

ぜんしゅう　【禅宗】　仏教の宗派の一。*坐禅という行によって内観内省し，おのれに本来具わっている仏の本性・本源を究め，それを日常生活に具現することを宗義の基本とする。仏の説かれた教説をよりどころとする仏語宗に対して，仏の*悟りの心そのものに目ざめ，それを伝えることを主眼とするところから，仏心宗ともいわれる。また坐禅をもっぱら行ずるところから，坐禅宗ともいわれ，禅宗という呼称もここに由来する。坐禅という実践法は，仏教以前のバラモン教にすでに存在していたが，ブッダがこの実践法によって悟りを開いてから，仏教の実践法としても大いに用いられるようになった。しかし禅宗という一つの宗派を形成するようになったのは，中国の唐代のことである。

禅宗の基をなしたのは，5世紀末ごろ，中国へ渡来した菩提達磨（ぼだいだるま）で，達磨は後世，禅宗の初祖として尊崇されている。今日伝えられている達磨伝は，必ずしも史実そのままではないが，達磨は洛陽（らくよう）郊外の嵩山（すうざん）少林寺にこもって，もっぱら座禅を行ない，弟子（でし）たちに〈二入四行〉という独特の禅法を伝えたといわれる。この達磨の禅法は，2祖の*慧可（えか），3祖の僧璨（そうさん）を経て，4祖道信・5祖弘忍へ伝えられてその中心地も揚子江流域に移り，一処定住によって多数の修行者を養成するようになった。すなわち，弘忍の禅風は東山法門とよばれ，この門下には北宗禅の*神秀，南宗禅の*慧能をはじめ多くのすぐれた人材を輩出し，各地に禅を普及する基をなした。中でも後世栄えたのは南宗禅で，慧能の下に*南岳懐譲（なんがくえじょう）・*青原行思が出，南岳系からは*臨済宗と潙仰宗（いぎょうしゅう），青原系からは曹洞宗（そうとうしゅう）・雲門宗・法眼宗を生じ，これに臨済宗の黄龍（おうりょう），揚岐の2派を加えて五家七宗と呼ばれるように分派発展を遂げた。

日本へは鎌倉時代の初めに入宋（にっそう）した*栄西が黄龍派の臨済宗を，同じく*道元が曹洞宗をそれぞれに伝え，鎌倉時代には武士階級に，室町時代には地方の豪族たちの帰依をうけて大いに発展した。特に〈臨済将軍，曹洞土民〉といわれるように，京都・鎌倉に*五山十刹（じっさつ）を建立（こんりゅう）した臨済宗は，*五山文学という独特の文芸運動を推進して，日本文化のにない手となり，一方曹洞宗は，全国各地に教線を拡張して，地方の民衆を啓蒙する役割を果たした。江戸時代には，明（みん）の僧*隠元が来朝し，臨済系の黄檗宗（おうばくしゅう）を伝えて，禅宗の興隆に寄与した。こうして，今日，日本の禅宗には，臨済宗・曹洞宗・黄檗宗の三宗が，並び行なわれている。➔禅　➔公案
〔田中良昭〕

ぜんしゅう　【全州】　チョンチュ　朝鮮西南部，全羅北道の道庁所在地。人口22万1,000（1966）。李朝を創建した李成桂（りせいけい）の生地で，慶基殿・梧木台（ごもくだい）・寒碧楼（かんぺきろう）・南固山城址（じょうし）などの史跡が多い古都である。米の産地で全州料理・全州美人でも知られる。紡績が盛んで，また全州紙（大阪紙・オンドル紙など），ショウガの特産もある。さらに全北大学があって，文化面でも一中心をなす。

せんじゅうしょう　【撰集抄】　鎌倉前期

の仏教説話集。西行*の編と伝えられるが仮構である。西行が旅先で見聞した高僧や聖(ひじり)の往生談・言行録などを記録した体裁になっている。説話に付随した評論的・感想的叙述が多く，随筆書としての一面をもつ。

せんしゅうだいがく 【専修大学】 私立大学。1880年(明治13)法律・経済の専修学校として発足，1906年専修大学と改称。1922年(大正11)大学令により，法・経済の2学部と予科・専門部を備えた大学となる。1949年(昭和24)予科・専門部を統合して新制大学となった。現在，法・経済・商・文・経営の諸学部があり，法学部・経済学部には大学院研究科が設けられている。本部は東京都千代田区神田神保町3丁目8番。

ぜんしゅうよう 【禅宗様】 中国，宋(そう)代の建築の影響を受けて，わが国の中世に形成された建築様式。かつては唐様(からよう)ともよんだ。中世に導入された禅宗は，教義ばかりでなく，寺院における建物のつくりと配置，建物内での作法や生活形成まで宋風を模倣し，古代に創立された旧宗教とは異なる特質を打ち立てようとしたことから，その建築様式も特色のあるものとなった。その様式的完成は13世紀末ごろと考えられている。禅宗様は，建築に華麗な彩色を施すことを避け，いわゆる素木(しらき)造りとすること，板壁を用いて土壁を用いないこと，柱が古代建築に比べて細くなっているのをはじめとして，全体的に部材の木割*が細くなっていること，柱に貫(ぬき)を何段にも(たとえば上から，頭貫(かしらぬき)・飛貫・内法貫(うちのりぬき)・腰貫・地貫)通して固め，柱が細くなっても総体的にはじょうぶになっているように(古代構造での貫は頭貫だけ)，細い材を複雑に組み合わせてじょうぶな構造をつくっていること，大虹梁(だいこうりょう)と大瓶束(たいへいづか)の梁(はり)組みで，広く開放された内部空間をつくるように，構法にすぐれたくふうがあること，軒の出をささえる斗拱*(ときょう)の形式が，詰組(柱の中間にも柱上と同じ斗拱を配置する)となり，一見複雑なようで整然とした配置とリズムをつくっているように，構造と意匠とが緊密に結びあっていること，などの特色がある。また細部では，欄間の波形連子子(れんじこ)，開口部の火頭窓*，柱上下の粽(ちまき)(なで肩に柱径を細めた部分)，礎盤(柱と礎石の間の沓形(くつがた))，台輪頭貫先端の木鼻など，曲線の繰り形を愛用し，多様に変化する意匠のモチーフを豊富にもっている。以上の特質が中世の建築界に受け入れられ，禅宗建築ばかりでなく，広く一般に普及して，中世を代表する建築様式となった。　〔渡辺保忠〕

せんしゅうらく 【千秋楽】 劇場で一興行が終わること，また，その最終の日をいう。江戸時代，顔見世興行(→顔見世狂言)の最終日に一座全員が舞台に並び，座元が《千秋楽》の舞を舞う慣習があったため，この名が起こった。すもうや各種興行にも使われ，略して単に〈楽〉ともいう。

せんじゅかんのん 【千手観音】 観音の一。梵語(ぼんご) Sahasrabhuja(サハスラブジャ)の訳。詳しくは千手千眼観自在という。慈悲*の広大さと化導の智(ち)が円満自在であることを示すのが千手千眼で，《大悲心陀羅尼経(だらにきょう)》にこの尊の功徳が説かれている。形像は経典により異なるが，一般には9面ないし11面40臂(ぴ)で手のひらに各一眼を有し，器杖(きじょう)をもつ。《現図胎蔵界曼荼羅(まんだら)》では27面40臂とさらに無数の手を有する姿で表わされる。原形はインド神話中の千臂や千眼をもつ神格と想像される。わが国でも延寿・五穀豊穣(ほうじょう)・除悪病怨敵(おんてき)などにより広く信仰され，現存する国宝も多い。　〔北条賢三〕

せんしゅぞう 【船首像】 クリッパー形の船首に装飾として取り付けられた彫刻像。帆船時代に好んで用いられた。像には英雄・女優・女神・海神・紋章・唐草(からくさ)模様などがある。その起こりは，装飾用としてだけではなく，船員の信仰を表わし，海魔をなぐさめるためといわれる。



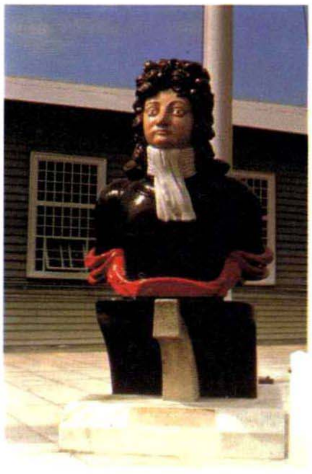
千手観音　平安初期　国宝　広隆寺蔵

せんしょう 【先勝】 ⇨六曜

せんじょう 【占城】 ⇨チャンパ

ぜんじょう 【禅譲】 中国で，皇帝の位を天命を受けた有徳者に譲ること。禅・譲ともに〈ゆずる〉という意味。魏晋(ぎしん)南北朝時代に，政治の実権を完全に掌握した権臣が皇帝に迫ってその位を譲り受ける，平和革命の一形態となった。この革命の正統性を与えたのが五行説*で，皇帝側が使者を出して政権の授受を申し出，権臣側は3度までこれを辞退するが，4度めに受けるという儀式を伴う。

ぜんじょう 【禅定】 仏教の修行法。禅定は禅と定とに分けられる。禅は梵語(ぼんご) dhyāna(ドフヤーナ)，俗語jhāna(ジャーナ)の音写語〈禅那(ぜんな)〉の那が落ちたもので，仏教ではこれを〈思惟修(しゆいしゅ)〉，〈静慮(じょうりょ)〉と訳し，心を一つの対象に集中して，それをつまびらかに思惟する実践行為としている。定は梵語samādhi(サマーディ)すなわち〈三昧(さんまい)〉の意訳語で，心を一つの対象に注ぐこととされる。したがって両者は同義語として〈禅定〉と熟して用いられた。元来はインドのバラモン教の修行法の一つとされ，〈ドフヤーナ〉ということばは，仏教以前のバラモン教の聖典《チャーンドグヤ-ウパニシャッド》に，また〈サマーディ〉の過去分詞〈サマーヒタ〉ということばは，同じく《ブリハッド-アーランヤカ-ウパニシャッド》に出ており，こうした禅や定という概念ないし実践法が，仏教以前にあったことを証明している。しかし仏教の実践法として採用されてから，その意味内容には種種の変化を生じて今日に至っている。→坐禅→禅　〔田中良昭〕



ベンボウ　1813進水



バーノン　1832進水



アリアドネ　1859進水

船首像　イギリスのフリゲート艦につけられていたもの

せんじょうがたけ 【仙丈ヶ岳】 長野・山梨県境にある南アルプス北部の主峰。標高3,032m。巨大な塊状の山体は中生代の硬砂岩・粘板岩・チャートなどからなる。山頂付近には東側に小仙丈沢カール，西側に藪沢（やぶさわ）カールがあり，山体の東側は野呂（のろ）川源流の谷，西側は三峰（みぶ）川源流の谷になっている。南アルプス国立公園に属する。

せんじょうがはら 【戦場ヶ原】 栃木県北西部，中禅寺湖の北に広がる高原で，標高約1,400m。東の男体山から流下した溶岩がせき止めてできた湖が，その後の噴出物や堆積物（たいせきぶつ）で埋められて形成されたもので，現在でも草原の各所に湿原や沼がある。シラカンバの林や高山植物や鳥類が多く，奥日光観光地の中心となっている。日光国立公園に属する。

せんじょうざん 【船上山】 鳥取県西部にある大山（だいせん）の寄生火山。大山の北東麓（ろく）斜面に突出する溶岩台地で，標高は679m。安山岩よりなり，頂上は平坦（へいたん）で3方に断崖（だんがい）をめぐらす。1333年（元弘3・正慶2）名和長年一族が隠岐（おき）からのがれた後醍醐（ごだいご）天皇を迎えて挙兵した地として知られており，行在所跡が山上にある。大山隠岐国立公園に属する。

せんしょうじ 【専照寺】 福井市豊（みのり）町にある浄土真宗の寺。山号は中野山。証誠（しょうじょう）寺・誠照寺とともに越前（えちぜん）三門徒本山の一。1290年（正応3）三門徒派の中心者如導が足羽（あすわ）郡大町に専修寺を創建したのに始まる。1396年（応永3）現在の寺名に改め，16世紀末福井へ移って正親町（おうぎまち）天皇より勅願寺に列せられた。1724年（享保9）現在地に移転。一時は天台宗に属して妙法院門跡の院家となったが，1878年（明治11）独立した。 〔杉坂靖子〕

せんしょうしつ 【潜晶質】 岩石を構成している鉱物の結晶粒があまり小さいために，普通の顕微鏡観察では識別できず，高倍率にしたり，X線で調べたりしてはじめて結晶の集合体であることがわかるような場合，その組織は潜晶質であるという。ある種の火山岩*の石基*や，チャート*などの堆積（たいせき）岩*にみられる組織である。これに対し，肉眼では結晶を個別に見分けられないが，顕微鏡でははっきりと識別できるような組織を微晶質という。また肉眼で識別しうるような結晶粒からなる組織を顕晶質という。微晶質と潜晶質とをまとめて非顕晶質ということもある。 〔片山信夫〕



仙丈ヶ岳 仙丈ヶ岳の山頂付近。背後は鳳凰三山で，その間を野呂川の深い谷が刻んでいる



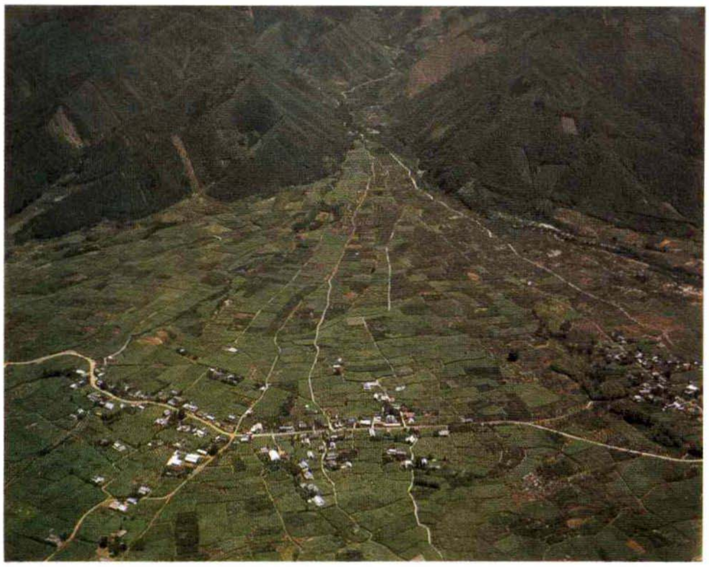
戦場ヶ原 湿原の中に延びる木道を行くハイカーたち。正面は男体山で，その左後方は大真名子山

ぜんしょうせん 【前哨戦】 軍隊が休止・集結際，警戒のため前方に配置する部隊を前哨といい，前哨で行なわれる小規模な戦闘を前哨戦という。また，主力部隊の前方を前進する警戒部隊を前衛というが，一般には前哨戦・前衛戦を同様に解釈し，これから転じて，本格的な行動に先だって行なわれる，手始めの行動の意味で使用されている。

せんじょうち 【扇状地】 河川が山地から平野に出るところを頂点として，扇状に堆積（たいせき）した地形をいう。河川の勾配（こうばい）は山地から平野に出るとゆるやかとなり，川幅も広く水深も減少するため流速が急に衰え，上流から運ばれてきた岩屑（がんせつ）の一部が堆積する。岩屑の堆積によって河道沿いが高くなると 洪水（こうずい）時に河道は側方の低所に移動し，新しい流路に沿って新たな堆積が行なわれる。このように河道の移動と堆積がくり返されて，扇状地が形成される。しかし堤防の構築などによって河道が固定されると，岩屑の堆積は河道にだけ続けられるので，ついに河床は堤内地より高くなり天井川*となる。多数の河川が山地から平野に出るところでは，それぞれの扇状地が融合して合流扇状地をつくる。わが国にみられる扇状地は一般に沖積世（ちゅうせきせい）以後のきわめて新しいものであるが，中には陸地の隆起あるいは海面の沈下によって扇状地の表面が谷によって刻まれた開析扇状地もみられ，これは洪積世のものである。

扇状地の谷口部を扇頂，中央部を扇央，末端部を扇端とよんでいる。扇状地をつくる物質は砂礫（されき）質であるから層理は明らかでなく，そのため，透水性が大きく，特に扇央では地下水面が深く，ときには河水が伏流して水無川になることもある。しかし，この場合でも扇端の各所で湧泉（ゆうせん）となって伏流水は再び地上に現われる。扇頂と扇端は比較的水が得やすいので，古くから開発され，集落が存在したが，扇央は水が得られにくく開発が遅れたところが多い。しかし，江戸時代以後は灌漑（かんがい）施設が整備されて開発が進み，大河の扇状地はほとんど水田化されている。扇状地は日本各地の盆地や平野の縁辺部によく発達し，特に甲府盆地・伊奈（いな）盆地・横手盆地の周辺部や関東平野の山麓（さんろく）部に多くみられる。 〔桑原正見〕

せんじょうとし 【線状都市】 鉄道・道路・水路などの主要な交通軸が線状に通り，それを中心に，線状または帯状に形成された都市をいう。小規模なものとしては，街道沿いの宿場町*，宗教施設に付随した門前町*などがあり，大規模なものとしては，アメリカ合衆国の東海岸ボストンからワシントンに至る帯状の都市化地域を線状都市とみなすこともできる。線状都市の特徴は，線の両端が開かれていて発展の余地を残して

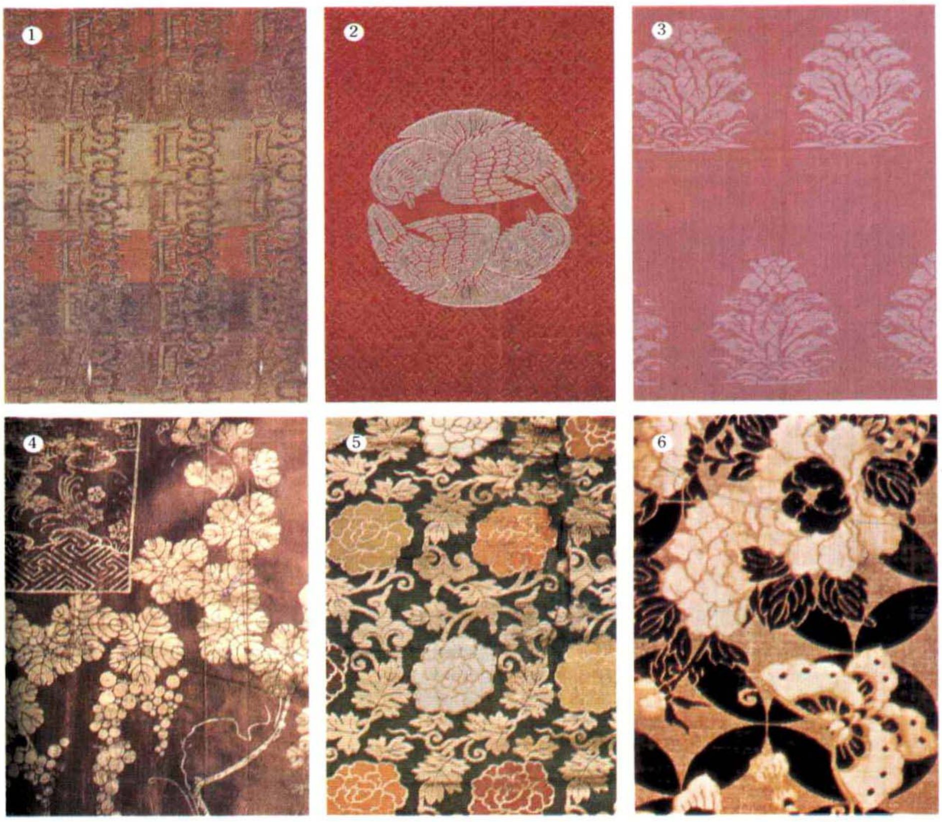


扇状地 山梨県勝沼付近の扇状地。扇頂から扇形に延びる道路網や，それに規正される土地利用の状況がよく観察される。背後は御坂山地

いること，中心がなくて線状のどの位置も均質であることなどである。都市は自然に放置しておくと求心構造になっていく傾向があり，したがって線状都市は強力な計画的意志が働かなければ完成しない。ソリャ-イ-マータのマドリッド郊外の線状都市計画(1882)，ソビエトの帯状工業都市計画(1928～1933)，ル-コルビュジェの線状工業都市計画(1942)，L. ヒルベルザイマーのロンドン計画(1941)，MARSグループのロンドン計画(1938)，丹下健三の東京計画1960など多くの提案がなされてきたが，実現にまで至ったものはほとんどない。〔竹内泰夫〕

せんしょく【染織】 染め物・織物を主体とする工芸の総括的呼称で，一般には広く繊維工芸をさす。したがって，編み物・組物・ししゅう・フェルトなどは当然含まれるが，ときには染めという点で染め革(かわ)・染め紙もこの中に入れられる。しかし，繊維といっても，タケ・イ・わらなどを主材としたものは通常含まれない。

わが国における製織の発生の時期は，明確にすることはむずかしい。考古学上の研究では，ほぼBC300年ごろ，農耕文化の始まった時代になってからのことであろうとされている。それは，その時代の住居跡から，糸を紡ぐための紡錘車や織機の一部と考えられる木片が発掘されていること，さらに弥生(やよい)式土器*に布目の圧痕(あっこん)のあるものや，炭化した布片が発見されていることなどによってである。しかし，近年の研究では，縄文(じょうもん)中期の土器に布目圧痕が発見されているので，その時期はBC2000年ごろにさかのぼることになった。人間の生活は自然にあるものを採集することから始まって，やがて一定の土地に定住し，農作物をつくるという農耕の時代へ進歩していったのであるが，そうした時代になってもなお原始の人々の生活は，自分たちの身近にあるもの，その環境でつくることのできるものに頼らなければならなかった。それゆえ各民族の間に交通が開け，より高い文化が伝わり，人知が進むまでは，織物繊維の原料もごく限られたものであった。わが国の場合も，そのはじめは野生のコウゾ・カシノキ・クズ・ヤマフジ・シナノキなどの樹皮から得た樹皮繊維が利用され，その後自生のカラムシやアサの類が栽培されて，麻布が織られるようになったと考えられる。こうした植物繊維だけの時代ののちに，西暦紀元前後に中国から絹織物がもたらされ，3世紀前後には朝鮮半島や中国大陸から，養蚕や製糸の技術が伝えられ，絹織物の製織がなされるようになった。こうした近隣諸国との修交によって，その後さらに進んだ製織や染色の技術をもった人人の渡来をみて，わが国の染織は一段の進歩を遂げたと推測される。大陸との関係は7世紀以後遣隋使(けんずいし)・遣唐使の派遣によって，いっそう緊密となり，大陸の進んだ文物の摂取に努めた結果，わが国の染織の技術や意匠・生産は奈良時代に飛躍的な発展を遂げるに至った。その実情は幸いにも正倉院にたいせつに保管されてきた多数の遺品によってうかがうことができる。それによると，織物の種類としては平織物の布・絁(あしぎぬ)・緘(しじら)，綾(あや)織物・紋織物の錦(にしき)，二陪(ふたえ)織*の風通*，搦(からみ)織物の羅*(ら)・紗*(しゃ)，その他絣(かすり)織物や縞(しま)織物が数えられる。また，染め物では赤・藍(あい)・黄・緑・茶などの無地染めをはじめ，臈纈*(ろうけつ)や纐纈(こうけつ)，夾纈*(きょうけつ)・摺絵(すりえ)などによる文様染めがみられる。さらに組紐(くみひも)やししゅう，彩絵・フェルト(氈(せん))などもあり，染織技術の基礎的なものはほとんど網羅されている。これらがすべてわが国でつくられたとはいえないが，大部分のものはわが国でも製織可能であったと考えられる。奈良時代の染織生産は律令(りつりょう)体制の下に官営事業として行なわれ，国家財政をささえる重要な役割をもっていた。律令機構は平安時代にも受け継がれ，染織のことはおもに大蔵省に属する織部司(おりべのつかさ)が所管していた。織部司は禁中で用いられる各種の裂(きれ)類をはじめ，神仏に奉献する御服や群臣に賜わる綾羅のごとき高級織物類を織成したほか，その職員を地方にも派遣して技術の指導も行なった。したがって，各種の高級織物の生産は引き続き行なわれたが，国風文化の勃興(ぼっこう)に伴い，服飾も優美典雅な束帯*や裳*(も)・唐衣(からぎぬ)装束の確立をみた結果，染織の様相も徐々に変貌(へんぼう)を遂げていった。緯糸(ぬきいと)(よこ糸)を浮かして文様を織り出した柔らかみのある浮織物や二陪織物の考案，浮線綾(ふせんりょう)とか雲立涌(くもたてわく)のようないわゆる有職文*(ゆうそくもん)の成立，顕文紗や縠織*(こめおり)のごとき新織物の開発などはその一端であるが，一方需要の少なくなった臈纈や纐纈のごとき染め物の生産はしだいに衰えていった。都における貴族たちのぜいたくな生活や政治の紊乱(びんらん)は，しだいに世上を不安にし，しばしば擾乱(じょうらん)を巻き起こした結果，地方の機業は衰え，また調庸の輸送も困難になり，織部司の機能はとみに低下し，その威令も届かなくなって，11世紀の中ごろには，ひそかに錦綾の私織をして私利を得るものさえ出てきた。こうして，しだいにつのってきた社会の動揺は，政治の実権が貴族から武家の手へ移ったのちも止まず，官制の乱れは激しくなり，織部司も名を残すのみで，機業はしだいに官を離れ，独立自営の工人によってなされるようになった。しかし，官営に比べて経済的な保障もなく，技術練磨(れんま)の便宜も少ない民営では，これまで維持してきたすぐれた技術を伝えることもしだいに



染　織(いずれも東京国立博物館蔵，部分)　①獅子嚙文経錦　奈良時代　②二倍織物小葵文地鸚鵡丸文小袿(準后夏御料)　江戸時代　③中鶏頭文金襴　中国南宋代　④摺箔葡萄色紙能装束　桃山時代　⑤紹金牡丹唐草文能装束大口　江戸時代　⑥金華山織牡丹蝶文帯　江戸時代

繊維と染料との関係

染料 / 繊維	直接染料	硫化染料	建て染め染料	塩基性染料	酸性染料	媒染染料	分散染料	顕色染料	酸化染料	顔料染色
綿・麻・アセテート	○	○	○	△	×	△	×	○	○	○
羊毛	○	×	△	○	○	○	△	×	×	○
絹	○	△	△	○	○	○	△	×	×	○
アセテート	×	×	△	×	×	×	○	△	×	○
ナイロン	△	○	○	○	○	○	○	△	×	○
ビニロン	○	○	○	○	×	×	○	△	×	○
ポリエステル	×	×	○	×	×	×	○	△	×	○
アクリル	×	×	△	○	×	×	△	×	×	○
アクリル系	×	×	×	×	○	△	△	×	×	○
ビニリデン	×	×	×	△	×	×	○	×	×	○
塩化ビニル	×	×	×	△	×	×	○	×	×	○
ポリプロピレン	×	×	×	×	×	×	△	△	×	○
ポリウレタン	△	△	△	○	○	○	○	△	×	○

注）○よく染まる　△少し染まる　×染まらない

困難となり，染織技術は衰えるばかりであった。しかし，一方では武家政治の開始によって，世の中は一応安定し，農業生産は向上し，手工業・商業も盛んになったから，地方機業の発達を促すこととなった。阿波絹(あわぎぬ)・越前綿(えちぜんめん)・美濃八丈(みのはちじょう)・常陸紬(ひたちつむぎ)・紀伊縑(きいかとり)・甲斐斑布(かいすじぬの)・石見紬(いわみつむぎ)などは当時著名な地方の特産品であった。また，手工業生産とその技術の発展はそれらの技術の専門的分業化をもたらし，いわゆる職人の誕生をみることになった。染色にあっても，藍を染める紺屋(こうや)がいち早く独立し，その職人は紺掻(こうか)きとよばれたが，続いて紅染め・茜(あかね)染めもそれぞれ分化・独立し，それらの染色を専業とするようになった。また，藍をたてるのになくてはならぬ石灰を専門に扱う紺灰の座が生まれたことも，染色業がかなり専門化していったことを物語っている。当代の染色としてことに注目されるのは，武士の晴れ着である美々しい鎧(よろい)の製作に伴って，革染めの発達をみたことである。革染めはすでに奈良時代以来，かなり発達していたが，平安末以来型紙を用いて摺込みをした色入りの文様染めが一段と発達し，非常に細密なみごとな文様を染め出した。この型染めの発達は，また日常の衣服である直垂*(ひたたれ)などにも盛んに応用されていたと考えられる。894年(寛平６)遣唐使の廃止によって，中国との公式な交通は途絶えたが，その後も私的な商船の往来は続いており，鎌倉時代には貿易船の往来はきわめて活発であった。中国との貿易は室町時代には互いに勘合符*をもって，公式の貿易船を往来させた。これらの貿易を通じて，わが国には香薬・陶磁器・銅銭・染料などさまざまなものが請来(しょうらい)されたが，各時代変わらずに大きな額を占めたのは絹織物や生糸であった。高級織物生産の衰微による上層階級の需要を満たしたのは，これらの中国船載の金襴*(きんらん)・緞子*(どんす)・間道・錦・繻子(しゅす)・印金などであった。1467年(応仁１)に火ぶたが切られ，10年間に及んで争われた応仁(おうにん)の乱は都を焦土と化し，平安時代以来続いてきた高級織物や染め物生産の中絶を余儀なくされた。乱の余波は地方にも及び，機業は全般的にさらに衰えてしまった。ただこの中にあって，わずかに堺(さかい)と山口は中国との交通の要地であったから，彼の地の織物の影響を受け，また新しい織法を学び機業地として活発な活動を続けたほかは，比較的戦乱の圏外にあった桐生(きりゅう)・伊勢崎(いせざき)地方から良質な絹が生産されたくらいであった。15世紀末機業や染色は都を中心に復興しはじめたが，乱後に再開されたそれは，当時の明(みん)の織法を学んだ新しい技術の加わったものであった。その結果16世紀半ばには京都西陣において金襴・緞子・唐織・紅梅・繻子・モール・金紗・紗綾(さや)・綸子(りんず)・縮緬(ちりめん)などが織り出されるようになった。またこのころ渡来しはじめたポルトガルやスペインの南蛮船によって舶載されたビロード・更紗・木綿縞(もめんじま)などもわが国の近世染織に大きな影響を与えた。さらに15世紀後半から朝鮮より盛んに輸入されていたもめんは，その利用価値の高まるに従って広く普及し，16世紀中ごろにはわが国での綿作りも軌道に乗り，国民生活に深く浸透し，国民の衣料生活に大きな変革をもたらした。こうした変化は秀吉(ひでよし)の天下統一に引き続き長い平和な江戸時代を迎えて，品質の向上と生産量の増大によって，いっそうの進展を示した。特に近世にあっては，現在のいわゆる着物の前身である小袖*(こそで)が社会の主体的衣服となった結果，まず辻ケ花染*(つじがはなぞめ)のごとき絞り技法を主体とする文様染めに出発し，さらにより多彩で自由な文様を染め出す友禅染*を筆頭とする各種の染技法の発展をみるに至った。また，諸藩の殖産興業政策などによって，各地に特色ある機業や染色の発達をみたことも重要なことがらである。現在，各地に残っている伝統染織や民芸染織の大部分はこの期に創立・発達したものである。江戸時代に多様な展開と発展を遂げたわが国の染織は明治維新によって，洋式織機具や合成染料・毛織物技術の輸入などによって，再び大きな変革を遂げる至り，今日の世界でも有数な繊維産業国の基礎を築くに至ったのである。〔北村哲郎〕

せんしょく【染色】 染料*によって被染物を彩色する技法の総称。

【歴史】衣料その他の繊維製品を彩色することは原始時代から行なわれ，はじめは植物の色素をすりつけたり，鉱物の色素を塗りつけたりした。その後，しだいに植物の根・茎・葉・花などの色素を煮出したり絞り出したりした液で染める方法，またこれらの色素に灰汁(あく)のアルカリ，果実や酢の酸を応用し，あるいは鉄・銅・アルミニウムなどの金属塩類を併用して発色固着させる方法などへ進歩した。これら植物染料による染色は19世紀の半ばごろ人造染料が発明されるまで続いた。なお別に動物色素も古くから利用され，貝類・こん虫などの紫・紅などの色素染色も世界各地で行われた。人造染料は1856年イギリスのパーキン(1837〜1907)によって発明されたが，それ以来，各種の染料が合成されて染色は急速に発達した。

【技法】繊維は染料の種類によって染色されるものとされないものとに分かれる。その関係を表に示す。染色の方法には，直接に染色するもの(直接染料*・酸性染料*・塩基性染料*)，金属などの媒染剤*によって染着するもの(媒染染料*)，不溶性の染料を可溶性にして染色したのち繊維内で再び不溶性に変化させるもの(建て染め染料*・硫化染料*)，色素を構成する２種の薬品を別々に浸み込ませて繊維内で発色させるもの(顕色染料*)，薬品の酸化によって発色させるもの(酸化染料)，染料を分散状態にして繊維と結合させるもの(分散染料*)，顔料*類を合成樹脂などで固着させるもの(顔料樹脂染料)などがある。難染性の合成繊維の染色には高温高圧染色・キャリヤー染色・サーモゾール染色などの特殊な染法が行なわれる。

染色方式は大別して工業染色と工芸染色とがある。さらに工業染色には浸染*・捺染*(なっせん)の区分があり，前者には繊維染め・糸染め・反染めなど，後者には防染・抜染*・着色抜染などの方式が行なわれる。工芸染色は手工的な方法で，絞り染め・ろう染め・友禅染め・型染め・引き染め・注(つ)ぎ染め・霧吹き染めなどの手法がある。

【染色堅牢度】染色の強さは染料の特性に基づく。建て染め染料・硫化染料などは日光・洗たくなどに耐え，媒染染料も一般に堅牢(けんろう)である。直接染料・酸性染料・塩基性染料などは普通の強さである。染色堅牢度の試験方法および等級区分は，日本

工業規格(JIS)によって定められ,洗たく・光線・汗・摩擦などに対する堅牢度を調べる規定がある。〔小川安朗〕

ぜんしょく 【前蜀】 中国，五代十国の一王朝(907～925)。王建・王衍(おうえん)の2代。唐末の宦官(かんがん)田令孜(でんれいし)の養子王建は四川で勢力を拡大し，唐滅亡とともに成都を中心に独立した。土豪勢力と四川の富を背景にしたが，内紛が絶えず，後唐の荘宗に滅ぼされた。

せんしょくけんろうど 【染色堅牢度】 ⇨染色

せんしょくたい 【染色体】 核分裂前の核(静止核)には網状の染色質糸と仁・核液が存在する。分裂現象が始まると核内にからみ合った細い染色質糸は明瞭(めいりょう)ならせん状構造(らせん糸)となって現われる。らせん糸は，初めはおのおの1本に見えるが，しだいに短縮して太くなると二重構造を示すようになる。らせん糸の短縮が進んで形態・構造が明らかになってくると，外側に基質が生ずる。このらせん糸と基質を合わせて染色体という。染色体はカーミンなどの塩基性の色素によく染まることからその名を得た。

遺伝子が主として染色体に存在していることは，核分裂の機構，配偶子の形成，受精現象の過程などの一連の細胞学的事実が遺伝の法則や遺伝の諸現象とよく一致していることからも疑いのない事実である。さらに，DNA(デオキシリボ核酸)を特異的に染色するフォイルゲンで染色体を染色した結果，そこには遺伝子の実体であるDNAが存在することが明らかにされた。細胞学的事実は，染色体に個体性があることによって形態上から容易に認識される。個体性とは，染色体がその数・形態・大きさなどの特長を失うことなく細胞から細胞へ，親から子へと連続的に受け継がれていく事実をいう。その個体性があるがゆえに，染色体は遺伝物質の運搬者となりうるのである。細胞分裂の各期においては染色体の形状は種々な変化を示すが，染色体本来の形態はけっして失われることなく，何回分裂をくり返しても特定の異常な場合を除いては変わることがない。➔細胞

染色体の形態的異常には，大別すると次のようなものがある。①欠失：染色体の一部，すなわち遺伝子の一部が失われる，②転座：染色体が切断され，その断片が他の染色体に移転付着する，③逆位：切断された染色体が180度回転して癒合(ゆごう)するもので，その部分の遺伝子の配列順序は逆になる，④重複：染色体が重複する，などこれらの異常は遺伝学的・医学的にも重要な意味をもっている。

形態物異常のほかに染色体の数量的変化がある。一定の種は一定数の染色体をもつのが普通であり，さらに同一属に入れられるような近縁の種の間においても染色体数は一定していることが多い。しかし，ときにこれには変化がみられる。その数量的変化には倍数性と異数性がある。倍数性とは，同一種または同一属に属する種間において，染色体数が2，3，4，5……と整数倍の関係にある現象をいう。この場合，基本になる染色体数を基本数という。基本数を x で表わし，体細胞でその何倍の染色体数をもつかによりその個体を二倍体($2x$)，三倍体($3x$)，四倍体($4x$)などという。有性生殖をするものは一般に$2x$，$4x$，$6x$のように偶数倍の染色体をもつのが普通であるが，雑種や特に変わったものではまれに奇数倍のもの($3x$，$5x$など)もあり，不稔(ふねん)性を示す。この倍数性を利用してつくられたのがタネナシスイカ($3x$)である。異数性とは，染色体数が基本数の整数倍よりも,1～2個多いか，または1～2個少ない関係にあることをいう。ヒトでは倍数性はみられないが，X染色体の不分離現象，すなわち，減数分裂の際に2本のX染色体がおのおの両極に分かれずに，一方にのみ移ってしまう現象のために起こる異数性がみられ，間性の男女が生じる。X染色体を2本とY染色体をもつXXYの男性(正常男性はXY)は睾丸(こうがん)の発育不全・無精子症や乳房の女性化を伴うクランフェルター症候群という症状を示し，X染色体を3本もつXXXの女性(正常女性はXX)は卵巣と子宮の発育不全，二次性徴欠除を伴うターナー症候群という症状を示す。また，知能障害・内臓奇型・指の短縮などを伴うダウン症候群は，常染色体の21番めのものが正常人では2本であるものが3本になることによる。染色体の数的変化，特に倍数性の研究は，生物の種の分化を考察する上に重要な役割を果たしている。〔池田洋司〕

せんしょくたいちず 【染色体地図】 染色体上の遺伝子の位置を示した図。遺伝子が染色体上に一定の順序で線状に配列されているものとすれば，ある染色体上で連鎖関係にある遺伝子間の距離が近ければ近いほど交叉(こうさ)は起こりやすく，距離が遠いほど交叉は起こりにくい。すなわち，交叉価を求めることによって，同じ染色体上にある遺伝子間の距離を知ることができる。遺伝子間の交叉価を測定し，各染色体上の各遺伝子の位置を測定して図示する。〔池田洋司〕

ぜんしん 【前秦】 中国，五胡(ごこ)十六国の一。氐(てい)族の苻健(ふけん)が351年長安に拠(よ)って建てた国。3代の苻堅は漢族の政治体制を重んじる一方，仏教に帰依し，仏図澄(ぶっとちょう)の弟子(でし)道安を保護した。376年華北を統一したが，淝水(ひすい)の戦いで東晋(とうしん)に敗れ，394年西秦に滅ぼされた。

ぜんしんきょう 【全真教】 道教の一派。中国，金代の王喆(おうてつ)(号は重陽)を開祖とする。彼は，それ以前の貴族趣味としての道教を革新し，人間の宗教的自覚を要請したいわゆる〈新道教〉としての全真教をうち立てた。〈全真〉とは，人間の真実を全うするの意。しかし，これものち元朝に採用されるに及んで，ふたたび精神的創造性を失う傾向を生じた。

せんじんくん 【戦陣訓】 日本陸軍軍人が戦地において守るべき道徳として記述された教訓文。1941年(昭和16)1月，当時の陸軍大臣東条英機(ひでき)の名で布達された。おもに日中戦争における中国戦場での体験に基づいて，軍人の道義心を高めるためにつくられたもの。軍人勅諭ほどの権威はなく，しかも約3,000字に及ぶ長文であるので，あまり普及徹底はしなかった。

せんしんこく 【先進国】 ⇨低開発国

ぜんしんざ 【前進座】 1931年(昭和6)市川猿之助(えんのすけ)の〈春秋座〉が頓挫(とんざ)してのち，新たに河原崎(かわらざき)長十郎・中村翫右衛門(かんえもん)・中村鶴蔵(かくぞう)ら，春秋座参加者が結成した劇団。旧来の歌舞伎(かぶき)界にあきたらず，新しい大衆演劇の創造を標榜(ひょうぼう)して東京市村座で旗上げ公演をした。以後，経営資本をもたない独立劇団として苦しい歩みを続けたが，女形俳優河原崎国太郎が人気を集めるなどして，しだいに声価を高め，《街(まち)の入墨者》(山中貞雄(さだお)監督)などの映画も製作,1937年には武蔵野(むさしの)市吉祥寺に〈前進座演劇映画研究所〉を建設，一座が集団共同生活を始めるに至った。第2次世界大戦後は全国各地の学校・工場・会社などを巡演，《ベニスの商人》《アリババ物語》などが好評を博し，社会の注目を集めた。1950年には一座をあげて日本共産党に集団入党して話題になった。その後，地方巡演と，大劇場公演とを行ないながら歌舞伎から現代劇まで幅広いレパートリーをもつ特異な大衆劇団として活躍している。〔西尾邦夫〕

せんしんせい 【鮮新世】 地質時代のうちの新生代第三紀を5分した最後の時代。中新世のあと，第四紀更新世の前。約1,200万年前から約200万年前までの約1,000万年の期間をさす。貝化石群の中には現生種が多い。鮮新世の地層の標準地域はイタリア北部・黒海北方である。

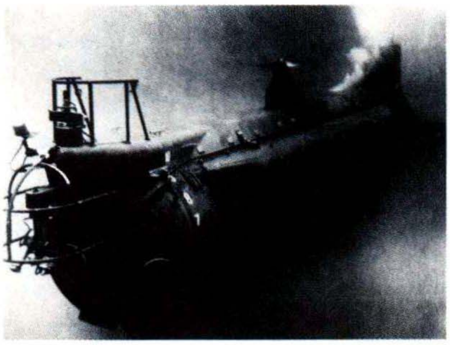
ぜんしんせい 【漸新世】 地質時代のうちの新生代第三紀を5分した第3番めの時代。始新世のあと，中新世の前。約3,700万年前から約2,600万年前までの約1,100万年の期間をさす。現生種は少ない。漸新世の地層の標準地域はドイツ・ベルギーである。

ぜんしんに 【善信尼】 (574～?) わが国最初の尼僧。司馬達等(しばたっと)の娘で,俗名は島。584年(敏達13),11歳で高麗(こま)の帰化僧恵便に従って出家し，新羅(しらぎ)から送られた弥勒(みろく)石像に仕えた。翌年物部守屋(もののべのもりや)らによる仏教排撃運動にあい，捕えられてむち打ちの刑をうけた。のち許されて，588年(崇峻1)戒律を学ぶた

め２年間百済(くだら)に留学し，帰国後は大和(やまと)(奈良県)の桜井寺に住し，多くの女性を教化した。　〔広川尭敏〕

せんす　【扇子】　⇨扇(おうぎ)

せんすい　【潜水】　人間が最初に水中にもぐったのは，食糧となる魚貝・海草をとるためであったと考えられる。素もぐり(裸潜水)は原始的な潜水形態であるが，今日でも潜水漁業・レジャーとして広く行なわれる。潜水めがねと簡単な着衣をつけるだけで行なわれ，１回の呼吸による潜水時間は熟練した海女*(あま)でも１分強で，深さも10ｍ以内が普通である。水中ではふつう10ｍごとに１気圧の圧力増加があると考えてよい。この高い水圧と呼気の問題を克服するために，いろいろな道具や機械が考案され，機械潜水が発達した。今日では次のような方式が行なわれている。①送気式：マスク式とヘルメット式があり，いずれも水面上から送気管で空気を送り込む。送気の圧力は潜水者のいる深さの水圧と等しいことが必要である。マスク式のほうが水中で活動しやすく，浅海での使用に役だち，潜水病(→ケーソン病)の危険が少ない。ヘルメット式は装置が70～80kgで重く，動作はにぶるが，気密な潜水服全体に送気されるので，寒冷な水中での長時間作業に有効である。②自給式：スキューバともよばれ，

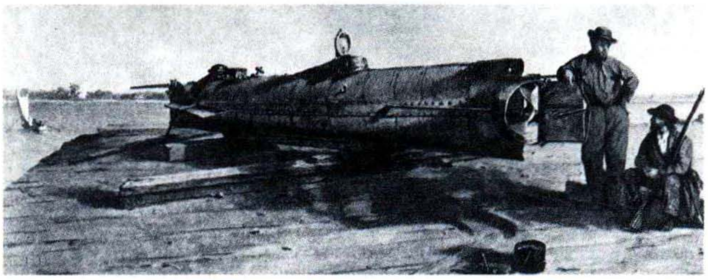




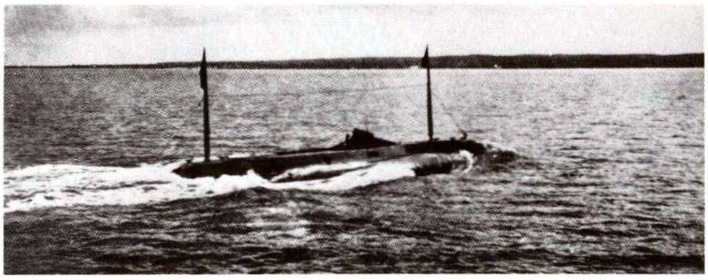
潜　水　(上)潜水調査船アルミノート　アメリカ製　深度4,500ｍ，72時間の連続潜水可能，４人乗り　(下)テクタイト　深海底で長時間調査活動をするためにアメリカでつくられた海底研究基地

いろいろな形式がある。現在最も普及しているのはアクアラング*で，水中作業やレジャーに多用されている。送気の必要がなく装備も簡単で，きわめて活動的である。③潜水機式：鉄その他で外囲壁をつくって外圧から保護し，機内で呼吸できるようにしたもの。潜水球は移動性がないが，潜水艇は能動的であり，しかも呼吸は平常の状態に保てるので，海底調査や海中生物の生態研究のための直接観察に有力な手段となっている。フランスの潜水艇バチスカーフ*は10,000ｍの深海に潜水した。④飽和潜水法：海中に敷設した居住区に長時間滞在して生活する方法。人間は高圧のもとで長時間生活していると，体内のガスが飽和状態になり，そのあとは時間の経過とは無関係となる。したがって長期間海中で仕事をする場合，短時間に加圧・減圧を行なってケーソン病の危険にさらされるよりは，一定期間高圧下に居住区を設けた方が安全であると考えられる。日本のシートピア計画，アメリカのテクタイト計画などの海中作業基地計画は，この理論を実行に移そうとする試みで，将来の海中作業に有効な手段となるであろう。➔海洋開発　〔石野　誠〕

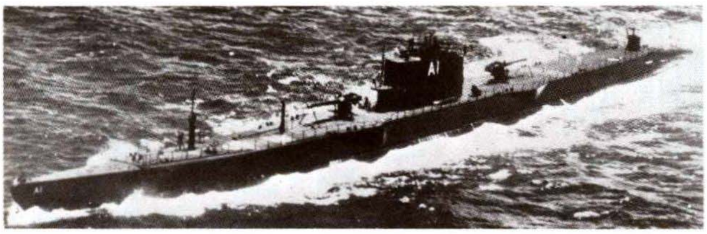
せんすいかん　【潜水艦】　戦闘艦艇の一種。海中を潜航し，おもに魚雷やミサイルで敵の艦船または陸地を攻撃するほか，諸



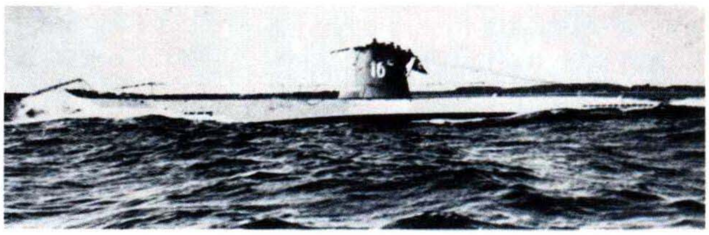
①南北戦争における南軍の潜水艇ダビッド



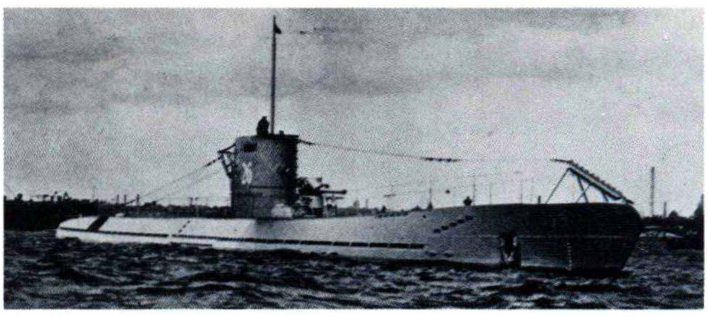
②ホーランド型　SS-1(アメリカ)



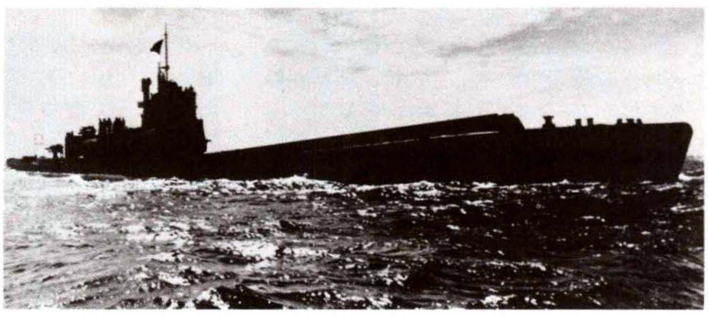
③アルゴノート　SS-166(アメリカ)



④II B型U-16(ドイツ)

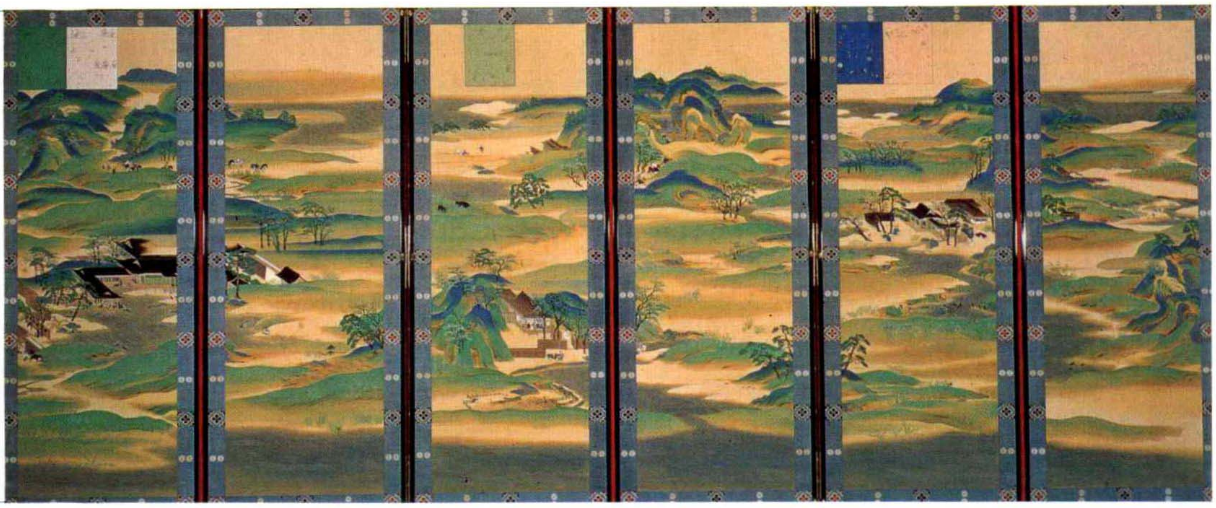


⑤I A型　U-26(ドイツ)



⑥特型　イ-400(日本)　③～⑥は第２次世界大戦ごろに活躍

潜　水　艦



山水屏風
神護寺本摸本
(吉村忠夫摸写)
東京国立博物館蔵

種の軍事目的を隠密裏に遂行できる。

【歴史】1776年アメリカのブシュネルは人力潜水艇タートル(亀(かめ))をつくり，1800年フルトンはフランスで潜水艇ノーチラスの実験に成功した。南北戦争中の1864年に，南軍の潜水艇ダビッドが北軍の軍艦を撃沈している。1884年に至り内燃機関を積んだ潜水艇がアメリカのホーランドによってつくられ，その翌年にスウェーデンのノルデンフェルトにより魚雷を装備する潜水艇がつくられた。この両者が，魚雷を主兵器とし ディーゼル-エンジンを主動力とする近代の潜水艦の先駆となった。第1次世界大戦で対艦船攻撃における潜水艦の威力が実証され，特にイギリスとドイツにおいて潜水艦の技術的発達が著しかった。艦の機能分化も進み，通常の対艦船攻撃用のほか，巨砲潜水艦や機雷敷設用・補給用の潜水艦がつくられた。第2次世界大戦で最も活躍したのはドイツとアメリカの潜水艦で，ドイツは延べ1,100隻の潜水艦を建造，うち780隻を失いながら2,300万総トンの船舶を撃沈した。アメリカの潜水艦は日本の戦闘艦艇214隻を含む船舶1,152隻，約500万総トンを海底に送った。この間，ドイツがシュノーケル装置・水中高速潜水艦を実用化したことは，きわめて注目すべき技術的成果であった。

【日本の潜水艦】1905年にホーランド型の図面を購入したのをはじめ，第1次世界大戦後にイギリスとドイツの技術を吸収発展させ，やがて速力や航続力では数字的に世界をリードする海大型，巡潜型の潜水艦をつくった。しかし用兵上の誤りもあって，太平洋戦争における日本の潜水艦は期待どおりの戦績をあげることができず，逆にアメリカの艦艇・航空機の対潜兵器の前に181隻中130隻を失ったが，この間に生み出された特型(攻撃機3機を搭載(とうさい))，水中高速型の諸艦は，戦後の潜水艦発達に大きな示唆を与えた。

【原子力潜水艦の出現】在来の潜水艦は，エンジンに空気の補給を要することから，海面下での行動が比較的短い時間に制限されるが，原子力潜水艦は水上と水中を同じエンジンで行動し，空気の補給を必要とせず，潜航したまま長期間の作戦行動が可能である。その第1艦，アメリカのノーチラスは1955年に完成。以後，水滴形船体・慣性航法装置・空気清浄装置・搭載ミサイルなどの開発が進み，原子力潜水艦は今日の海軍における最有力艦艇の位置を占めている。原子力潜水艦の各国保有台数(1970年4月現在)は，アメリカ90(ほかに建造中13，計画中6)，ソ連80(建造中を含む)，イギリス7(ほかに建造中2，計画中3)，フランス1(ほかに建造中2)，である。

【現用潜水艦の種類・型式】推進機関別には在来型(水上ディーゼル，水中電池)と，原子力型(水上水中とも原子力によるタービン駆動)に分けられる。用途別には，戦術型と戦略型に大別できる。戦術型は攻撃型(対水上艦船用・対潜水艦用)を主とし，ほかにレーダー哨戒(しょうかい)用・輸送用・給油用・敷設用，などがある。戦略型は，長距離の射程をもつ弾道ミサイル発射潜水艦に代表され，一般に戦術型潜水艦より大形である。

【主要装備】攻撃兵器としてはホーミング魚雷・サブロック型ミサイル魚雷が主用される。戦略潜水艦が搭載する弾道ミサイルは，アメリカの場合ポラリスI，II，III型(射程2,200～4,600km)，ポセイドン(4,600km以上)が各艦に16発，ソ連の場合はサーブ・ソーフライ(射程1,500～2,500km)数発である。また索敵・測的用の超音波探知機(ソナー)は，潜水艦必備のものである。

【構造】海面下の水圧に耐えるために，現用潜水艦の船体は内殻(ないこく)・外殻からなる耐圧二重構造をとる。内外殻の間に，主タンク・補助タンクなどがあり，これに海水を出し入れすることにより，潜航・浮上を行なう。また前後1対ずつの水平舵(すいへいだ)により，上下方向の運転が行なわれる。安全潜航深度は，第2次世界大戦当時まで100m以下であったが，現在では最大250m～300mである。　〔藤井冬木〕

せんすいじま【仙酔島】〈せんすいとう〉ともいい，かつては泉水島とも書いた。広島県福山市鞆(とも)町の東方200mの海上に浮かぶ小島で，おもにセキエイ斑岩(はんがん)からなり，中央部に大弥山(おおみせん)がそびえる。海食洞(かいしょくどう)の八洞窟(はちどうくつ)とよばれる奇岩があり，七浦七湖の景勝にも恵まれている。春のタイ網，夏の海水浴など，四季を通じて観光客が多く，ホテルや国民宿舎も完備している。まわりに弁天島・皇后島・つつじ島などの小島が散在している。　〔浅井得一〕

せんすいちょうさせん【潜水調査船】⇨バチスカーフ

せんすいびょう【潜水病】⇨ケーソン病

せんずいびょうぶ【山水屏風】真言密教の灌頂*(かんじょう)に調度として用いられる屏風(びょうぶ)。はじめは主として宮中で用いられていたが，平安末期ごろから密教寺院でもっぱら使用された。最古の遺品は，京都国立博物館蔵(東寺旧蔵)の1双で，山水を背景に草庵(そうあん)を結んで閑居する唐詩人が描かれている。当時栄えていた唐絵*(からえ)の一面を伝えるとともに，平安期屏風絵の唯一の遺品である。このほか，神護寺・高野山・醍醐(だいご)寺などにも鎌倉・室町期の屏風が数点伝わっている。〔村重　寧〕

せんスペクトル【線スペクトル】単色光の群からなるスペクトル*で，原子によるもの。分光写真機で撮影した場合，細い線状となって現われるスペクトルをいう。気体原子またはそのイオンから発せられるか，これによる吸収で生ずる。前者は輝線スペクトルともいう。実際にはいろいろの原因のため，完全な線ではなく非常に狭いけれども幅がある。➔原子スペクトル

せんせいくんしゅせい【専制君主制】⇨君主制

せんせいじゅつ【占星術】天体の現象

に基づいて，人間生活に起こる事象を予測判断する術。この考えは，人間をとりまく宇宙，すなわち大宇宙とその縮図である人間，すなわち小宇宙との間には，密接で有機的な関連があるとする世界観に基づいている。古代からバビロニア・エジプト・ギリシア・中国などに発達し，17世紀ごろまでヨーロッパをはじめ各地で盛んに行なわれたが，近代科学の興隆とともにしだいに範囲をせばめられ，学問としての公的な地位を完全に失うに至った。しかし，今日でもその余流としての占星術は，迷信深い人人の間になお行なわれているようである。

大別して〈天変占星術〉と〈宿命占星術〉とがあり，前者は日食とか彗星(すいせい)や新星の出現など，天変に関係させて地上の事件を占うものであり，扱うのは1社会に共通の現象，すなわち政治・社会問題に関係するものであった。天変占星術の起こったバビロニアや古代中国の社会体制からして，これは君主の問題であり，星占いは天下国家を支配するうえで重要なかぎであったので，各君主はしばしばその独占をねらい，宮廷には占星術師をかかえ，天体観測を行なわせた。他方，宿命占星術は個人の運命を占うもので，個人の生誕時の黄道十二宮*や日・月・5惑星の位置関係を用いて，〈ホロスコープ〉とよぶ表をつくり，宿命的な運命決定論の立場に立って個人の運命を論ずる。したがって，天変占星術がもつ予測的要素は少ない。また，天体と人間の各器官とを対応させ，病気を診断する〈占星医術〉もあった。

これら占星術は少なくとも中世までは天文学と一体であって，占星術における天体観測とその記録とが，天文学の発達を促したといえる。学者も，また同時に占星術師であり，〈娘の占星術がパンをかせがなかったら，母親の天文学は飢え死にしたであろう〉(ケプラー)といわれている。

〔藤村　淳〕

せんせいしょう　【陝西省】　シャンシー省　中国西北部，黄土高原地帯にある省。面積19万5,800km²。推定人口2,200万。省都は西安。1省轄市(西安)，8専区，3市，93県を統括する。省域の中央を黄河の支流である渭水(いすい)が貫流して渭水平野を形成し，その北は黄土高原，南は秦嶺(しんれい)山地になる。農産地は黄土高原地帯ではアワ・雑穀がつくられ，古くから水利の発達した渭水平野ではコムギ・ワタが，西部の漢中盆地では，おもに水稲が栽培されている。鉱業資源では石炭・石油の大きな埋蔵が知られているが，開発はまだ十分に行なわれていない。秦嶺・大巴山(だいはざん)山脈の間にある鉄鉱，漢水流域の砂金，定辺の地塩なども有名である。近代工業は隴海(ろうかい)鉄道が西安まで延長した1934年以後に始まり，日中戦争中，中国大陸沿海地方にあった工場が奥地へ移動したため急速に発展した。紡績・機械などの工業が西安・宝鶏・咸陽(かんよう)に発達し，ことに綿紡績は全国有数といわれる。交通は隴海鉄道・蘭新(らんしん)鉄道を主軸として，東は河南・江蘇(こうそ)両省に通じ，西は甘粛・新疆(しんきょう)ウイグル自治区に連絡する。また宝鶏から四川省成都に向かう宝成鉄道も1956年に完成した。自動車道路も，西安・延安・漢中を中心に広く分布しており，渭水・漢水では小規模ながら河川交通も行なわれる。なお，北部の延安は1934～1936年中共軍が華南から12,500kmに及ぶ長征をしたのち，日中戦争・第2次世界大戦を通じて抗日戦争を戦い抜いた基地として有名で，〈革命聖地〉とされている。

〔船越昭生〕

せんせいせいじ　【専制政治】　国家権力を一個人または一集団・一階級にすべてゆだねて自由に運用させる政治形態。この場合支配者は被支配者に対して圧倒的な権力を行使できる。したがって被支配者は大幅な私的自由を拘束されることになり，ために専制か民主制かという問題が起こってくる。ルソー主義を一つの思想的源泉とする専制は，個々の人民の意志を統合した真の普遍的意志を万人に遵守させるという，積極的な自由概念をその基調としており，社会主義的な革命独裁はこれに近いといわれる。しかしまた専制政治は議会をもたず，私的自由を制限する傾向にあるので，恣意(しい)的な権力の出現は，えてして恐怖政治*に変わる可能性をもつ。〈自由〉をめぐる思想史の上で専制と私制〈プライバシー〉とはたえず格闘し，自由という観念にもこの二つの側面があることを示している。したがってこの二つの自由の概念の緊張関係がない専制政治は，直ちに人民不在の権力政治に早変わりすることになる。　〔溝口　潔〕

ぜんせいせつ　【前成説】　完成した個体にみられるような個々の構造や形態が，個体発生の出発点ですでに小さくした姿で収められているという説。発生の始まりは単純な状態であったものが，発生が進むにつれてしだいに複雑化するという後成説に対する考え方である。すでにギリシア時代には前成説的な考え方はあったが，特に顕微鏡が用いられる近世になって，盛んとなった。イタリアのマルピーギは，発生学の基礎をつくったひとりであるが，ニワトリの胚(はい)を観察して前成説を唱えた。このような説を推し進めると，胚の中にその子がはいっており，さらにその中に次の子がはいっているというように，以後のすべての子がはいっていなくてはならない(いれ子説という)。

また，このように卵に将来のもとがあるとする卵子論者に対し，精子が観察されるようになると，精子にそのもとがあるとする精子論者も現われた。これらの考え方は，18世紀になってウォルフ*などによって否定されるようになった。しかし，現在においても，古典的な前成説とは異なるが，生物の種々の性質が，なにか粒子的なもので発生初期に存在しているのではないかということを考える試みは残っている。

〔蒲原春一〕

せんせき　【煽石】　九州の炭田で用いられた俗語で，天然コークスのこと。炭層の中に貫入した岩脈のため，これに接した炭層の部分が蒸し焼きにされてコークス状になったものである。

せんせきせん　【仙石線】　東北本線仙台と石巻(いしのまき)線石巻を結ぶ国鉄路線。営業キロ50.5で，他に貨物支線4.9kmがある。1925年(大正14)の仙台～西塩釜(にししおがま)間の開通にはじまり，1928年(昭和3)に全線が開業した。仙台市の近郊を走る電車線で，景勝の松島湾岸を走る。全線が直流で電化されている。

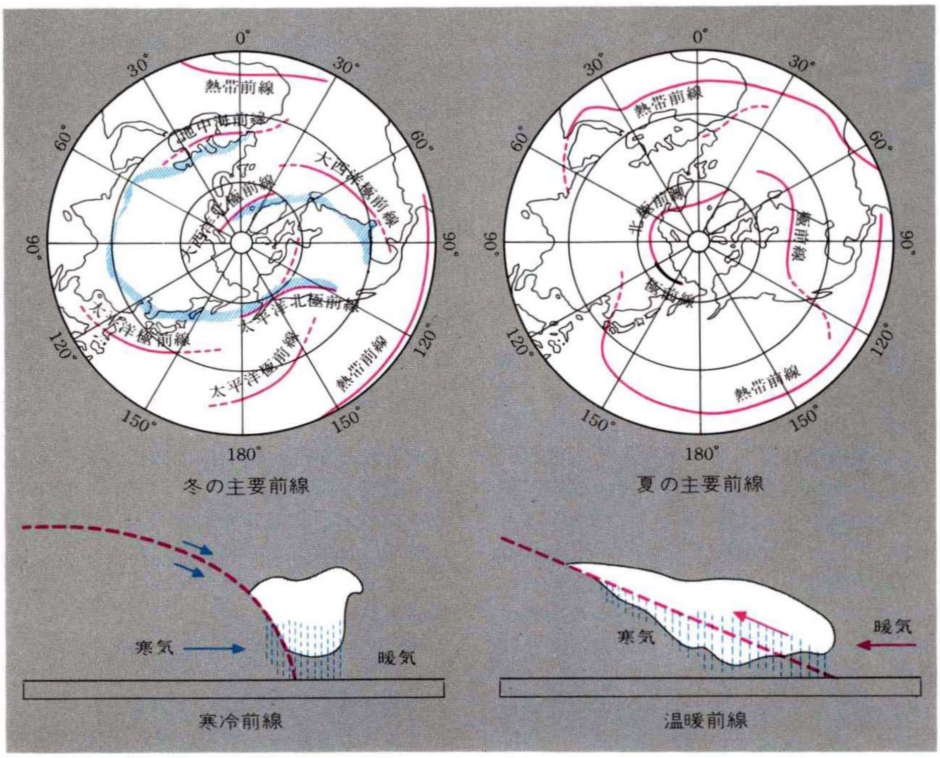
せんせん　【先占】　国際法上，無主の土地を自国の領域として取得する国家の行政。領域取得の一形式である。無主の土地とは，どこの国にも属していない土地であり，住民の有無は問題でない。ある国の国民が住んでいてなんらかの事業を営んでいても，その本国が国家として先占をなしていなければ，無主の地である。先占が有効に行なわれるためには，①先占を行なう国家が無主の地を自国の領有とする意思(主観的要件)をもち，②その土地を実効的に支配すること(客観的要件)が必要である。支配の実効性はその土地の状況いかんによる。なお私法上では，所有の意思をもって他人に先んじて占有*することをいう(民法239条)。

せんせん　【銭選】　中国，元の世祖帝ごろの画家。字(あざな)は舜挙。南宋(なんそう)景定年間の進士ではあったが，元朝には仕えず，詩画をもっぱらにした。山水画は趙(ちょう)千里・趙大年，花鳥・人物画は宋の趙昌(ちょうしょう)を師としたと伝える。花鳥画が特に知られるが，黄氏体*・徐氏体*を折衷した復古的な画法で，画風は沖澹清麗(ちゅうたんせいれい)と評された。写実的で重厚な，花卉(かき)の折枝(院画*の花鳥における手法の一，草木花卉の一枝をもって描く)画が伝わっているが確実ではなく，伝承作品として《牡丹(ぼたん)図》などがある。　〔中島純司〕

ぜんせん　【前線】　大気中で気温の水平分布を観察すると，厳密には連続的に変化しているが，変化の度合が特に大きいところでは，巨視的には不連続とみなせることがある。たとえば，暖気と寒気が相接している場合であるが，このように不連続の区域は空間的には面をなしており，これを前面または不連続面といい，前面と地表面の交線を前線という。不連続の度合が強まることをフロントゼネシス(前面生成)，弱まることをフロントリシス(前面解消)という。天気は前線に沿って悪くなるのが普通で，また前線上には低気圧が発生しやすいので，

前線は天気予報上きわめて重要である。J.ビャークネスとソールベルクは極気団と熱帯気団との間の極前面において温帯低気圧が発生発達していく経過を論じた。これは低気圧波動論として有名である。前線の不連続部分が厚くなって数十キロメートル以上になるときは前線帯とよんでいる。地球上には大小さまざまの前線が発生するが，大規模な前線帯は極気団・熱帯気団・赤道気団などの境界として生成されるもので主要前線帯という。前線には構造上，寒冷前線・温暖前線・閉塞(へいそく)前線・停滞前線の４種類がある。

①寒冷前線：冷気団が暖気団に衝突し，暖気団の下にくさび状に侵入した場合に，その境界を寒冷前面といい，それが地表面と切り合う線が寒冷前線である。寒冷前面が地平面となす傾斜は１/５～１/100で，寒気は暖気を強制的に押し上げ雲を形成する。寒冷前線が通過するときには突風を伴うことが多く，気温が急に下がり，驟雨(しゅうう)や雷雨が起こりやすい。②温暖前線：暖気が寒気の上を滑昇する場合の前線で地平面との傾斜は１/100～１/200である。温暖前線に伴う降雨は持続性の降雨で，その域内で集中豪雨を起こすことがしばしばある。③停滞前線：寒暖両気が平衡を保って停滞している場合である。停滞性のために同一の場所に何日も降ったり止んだりの天気が続く。いわゆる梅雨前線は停滞前線とみてよい。④閉塞前線：温帯低気圧は暖気をはさんで寒冷前線と温暖前線をもっている。低気圧が発達するにつれて，寒冷前線が温暖前線より早く進んで，ついには追いついて暖気を上方に持ち上げることになる。この状態の前線を閉塞前線という。前線の前側の空気が後側より暖かいとき，これを寒冷形閉塞前線といい，その反対の場合を温暖形閉塞前線という。両者はそれぞれ，寒冷前線・温暖前線の性質をもっている。
〔曲田光夫〕



前　線

ぜんぜん　【鄯善】 現在の中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区にあたり，前漢から唐代にかけて東西貿易に重要な位置を占めた西域南道のオアシス国家。楼蘭(ろうらん)と同系統の文化を有し，ヘレニズム文化伝播(でんぱ)の最東端をなすといわれる。自治区南部，タリム盆地東部のロプノル湖，チルチェン川の南のミーラン(扜泥城)・チャルクリク(伊循城)の二つのオアシスを包含する国家であったと思われる。中国古代の史書《漢書》《魏略(ぎりゃく)》などにみえ，また玄奘(げんじょう)の《大唐西域記》に〈納縛波〉とし るされているのがこの国であるといわれる。
〔船越昭生〕

ぜんせんせいこうう　【前線性降雨】 前線に沿って降る雨のうちで，持続的にしとしとと降るものをいう。驟雨(しゅうう)性の対流性降雨に対するものであるが，実際には前線に沿って対流性降雨も起こることがきわめて多い。

ぜんせんどうめい　【全繊同盟】 ⇨全国繊維産業別労働組合同盟

せんそ　【践祚】 ⇨即位

せんそう　【戦争】 ⇨次ページ

ぜんそうきょく　【前奏曲】 15世紀以来用いられている西洋の器楽曲。〈まえもって奏く〉〈練習のために奏く〉の意のラテン語に由来するプレリュードの訳語。16世紀はじめから，キリスト教会での儀式に先だって奏され，導入的な役割を果たした。その流れを受け継いだ重要な作品がバッハに代表される〈コラール前奏曲〉で，これはあとで歌われるコラールをもとにした即興的な性格のある鍵盤(けんばん)音楽である。バロック時代から組曲(室内ソナタ)の冒頭の曲にもこの名称が与えられ，そのあとに続いて演奏される舞曲とよい対照をつくっていた。19世紀以降は，ショパン・スクリャービン・ドビュッシー・ショスタコビッチのように，独立したピアノの小品がこの名でよばれ，しばしば12曲とか24曲にまとめて出版されている。この場合には，他の曲への前奏の意味はなく，前奏曲とよばれるものがもちつづけてきた特徴が共通するだけである。
〔徳丸吉彦〕

せんそうじ　【浅草寺】 東京都台東区浅草公園にある聖観音宗の総本山。山号は金龍山(きんりゅうさん)。伝法院と号する。通称浅草観音。坂東(ばんどう)三十三観音の第13番札所。創建についてはつまびらかでない。本尊聖観音菩薩(ぼさつ)(約５cmの黄金像と伝えられる秘仏)は，628年(推古36)土師臣真中知(はじのおみまつち)らの魚網にかかり，真中知により安置されたという。その後645年(大化１)海勝上人(しょうにん)が，857年(天安１)円仁(えんにん)が塔を建立(こんりゅう)し，さらに約60cmの観音菩薩を刻して本尊の御前立像(現開帳仏)とした。中世には源頼朝(みなもとのよりとも)・北条(ほうじょう)氏綱らの寄進でしだいに寺構を増した。江戸時代には徳川家康(いえやす)が寺領五百石を与えた。1945年(昭和20)戦災で焼失し，現本堂は1950年から再建に着手し，1958年に完成した。
〔杉坂靖子〕

せんそうじょうたいしゅうけつせんげん　【戦争状態終結宣言】 戦勝国の一方的な宣言の形式による戦争状態の終結措置。戦争状態は，通常，戦勝国と戦敗国との間の講和条約によって終了するが，なんらかの理由によって講和条約が結ばれない場合にこの宣言が行なわれることがある。たとえば，第１次世界大戦後アメリカは講和条約(国際連盟規約)に対する上院の反対のため，ドイツ・オーストリア・ハンガリーに対して(1921年７月２日)，第２次世界大戦後インドが日本に対して(1951年９月８日)行なった。
〔広部和也〕

せんそうしんけいしょう　【戦争神経症】 戦闘下の兵士にみられるさまざまの心因反応の総称。たえずさらされている生命の危険からのがれたい気持ちと，他方，愛国心や名誉心，義務感・責任感から引くに引けない気持ちとの間に激しい葛藤(かっとう)状態が生じ，そのために四肢(しし)の麻痺(まひ)や失神・腹痛発作などの身体疾患を思わせるヒステリー症状を呈する。多くは，戦病扱

→547ページ

戦　　争

狭義にいえば，戦争とは武力行使を伴う国家間の闘争である。しかし，国際法上では宣戦布告があれば武力が行使されなくても戦争状態にあるといえるし，また宣戦布告がなくても正常な国交が断たれて戦闘が実在していれば戦争状態にあることになる。プロシアの著名な戦略家クラウゼウィッツ*は〈戦争は他の手段をもってする政治の継続である〉と定義した。一般的にいえば，内戦*をも含めて，戦争とは〈統制のある権力集団間の組織的な闘争で，実力をもって自己の意志を他に強制し，あるいは他国内に浸透する行為または状態〉をいう。特別の場合を除いては，武力闘争を伴わない政治的ないし経済的闘争は紛争*であり，統制のない暴力の行使は暴動*である。いわゆる冷戦*は，戦争でもなく平和でもないという特別な状態で，戦争状態にあるとは言いがたい。

〔戦争観〕 人間が人間を殺すことが罪悪であるならば，国家や集団の名において公然と大規模な殺人が行なわれる戦争は最も憎むべき罪悪であるとする戦争観は，きわめて単純明快である。しかし，人間は生きる権利をもっており，他から危害を加えられれば自衛する固有の権利をもっていることも自明の理である。有史以前から人間は自然や動物に対してその身を守ってきたし，危害を加えようとする外敵に対しては集団で防衛し，防衛のために時には先制的攻撃を加えることもあった。また，生きんがために，あるいは尽きることのない欲望のために，あるいは宗教上の動機に基づいて侵略外征を事とした集団もある。もしも人間の間の闘争で，いずれが侵略でいずれが自衛か，どちらが正義でどちらが不正義かがいつも明確に区別できるならば，事は簡単である。国際的な法律ができ，違反者は超国家機関の強力な軍事力によって処罰されることによって，戦争を絶滅することができるであろう。しかし太古以来現在に至るまで，国家・民族の間には思想，政治経済体制，地理的・経済的諸条件，風俗習慣，文化，言語，民度など，あらゆる点において差異が存在する。このような条件のもとでは，共通の利益，共通の正義が必ずしもつねに存在するとはかぎらない。たとえば，ある国は革命戦争や解放戦争を正義の戦争とみなし，他の国々はこれを侵略戦争とみる。このように，正義も利害も一致しないところに戦争原因はつねに存在する。たとえ全面軍縮が実施されたとしても，紛争の原因さえあれば棍棒(こんぼう)と石ころだけで惨烈な闘争は起きる。いったん戦争が起きてしまえば，文明の利器は一夜にして高度の武器に早替わりして，大規模戦争にエスカレートするであろう。あらかじめ抑止が存在しないため，できるだけ早く敵にまさる兵器を使うことを有利とするため，エスカレーションは迅速であろう。結局，現実的には戦争を絶滅することができないので，主として勢力均衡によって，戦争発生の機会を極小にしようとしているのが現状である。各民族国家間の世界観や利害が調整され，各国の合意によって世界(連邦)政府のようなものが創設され，強力な超国家的軍隊が世界の安全保障に任ずるようになるまでは，戦争を絶滅することはできないであろう。

〔戦争観の変遷〕 戦争観は時代とともに種種の変遷を経た。しかし，いずれも戦争の積極的肯定か，部分的条件つき肯定か，全面的否定かの三つの考え方に帰着する。ギリシアのプラトン・アリストテレスらは自衛戦争を当然のこととし，ヘラクレイトスは〈戦争は万有の神〉として積極的に肯定した。ギリシアからローマ時代にかけて，ストア学派の人たちは戦争を否定し，ローマ皇帝ネロの宰相となったセネカは〈個人の殺人が犯罪であるのに，国家・民族に対する大量の殺人が光栄となるのは理にそむく〉と述べた。個人の安全は国が保障するが，国の安全はなにによって保つのか，セネカは解答を与えていない。キリスト教の普及に伴って，宗教的な戦争否定も強くなったが，〈国や市民の防衛は神への奉仕の特別の義務である〉とも考えられた。そして異教徒に対してははなはだ寛容さを欠き，これらとの闘争は正義の戦争として仮借なきものであった。異教徒・未開人に対する布教は，それらの開化に功績があったが，それとともに神の名のもとに異民族の征服，植民地獲得の先駆者ともなった。キリスト教的平和論者はストア学派の影響を受け，15～16世紀にはエラスムスがキリスト教的平和を説いて，のちにルソーやカントにまで影響を及ぼした。

中世以後の戦争肯定論としては，マキアベリ*が著名であり，いわゆるマキアベリズムなることばを生んだ。18～19世紀になって，ジョミニ・クラウゼウィッツ・マハンらの戦略家が輩出し，戦争肯定のもとで戦略理論を展開した。18～20世紀初頭，立憲国家の軍隊は国民的軍隊となり，戦争は必要悪として肯定されるようになったが，その結果，極力人道的に戦おうとする機運が高まり，戦争に関する国際法や戦争法規がつくられるようになった。その主眼とするところは，非戦闘員を極力戦争の災害から守り，戦闘員に対しても無用の殺戮(さつりく)を避けることであった。20世紀にはいると，先進国家における工業力は発達し，国家の統制力と国民の団結は強固となり，戦争は生産戦・総動員戦争から総力戦の様相を呈するようになり，必然的に国民全部を戦争に巻き込むことになり，人道的戦争観は影をひそめた。そして，大量破壊殺戮兵器が出現し，妥協を許さないイデオロギーの対立とあいまって絶対戦争観と戦争絶対悪観とが表裏をなして同居するようになり，さらに共産諸国の〈解放戦争は正義の戦争である〉とする戦争観と自由側の〈自衛戦争は正義の戦争である〉とする戦争観が対立するようになった。ベトナム戦争を契機として反戦運動が各国内に高まりつつあるが，それらは純粋な人道的見地からのものというよりも，ある種の政治目的に奉仕するもの，あるいは徴兵忌避的なもの，アメリカの孤立主義的傾向によるものなどがおもなものとみられ，必ずしも戦争の絶滅，恒久平和へのアプローチとして現実的かつ建設的なものではないようである。しかし，核兵器体系の進歩は，戦争に対する大きな恐怖心をひき起こし，核抑止理論を中心とする戦争観が核時代の特徴をなしている。

中国では，《六韜(りくとう)》に〈兵を合して凶器となす〉とあり，《孫子》に〈兵は国の大事，死生の地，存亡の道，察せざるべからざるなり〉とあるように，兵書においても消極的肯定にとどまり，用兵の慎重なるべきことを説いている。しかし，事実は古来戦乱に明け暮れたことを歴史は証明している。日本の戦争観は，〈すめらみことにまつろわぬものを討ち平らげる〉のが戦争であるとし，時の国策に応じて積極的にも消極的にもなるが，天皇への忠誠が戦争の道義性を形造っていた。現在の日本では戦争観は，絶対平和主義的戦争観・共産主義的戦争観・自由主義的戦争観(自衛戦争の肯定)などがあり，まったく混沌(こんとん)としている。日本国憲法に流れている戦争観は，絶対平和主義に徹しているともいえず，自衛戦争を明確に認めているわけでもないので，その解釈には多くの論議がある。

〔戦争の様相・種類〕 紀元前数千年ごろまでは，部族間に棍棒・石斧(せきふ)・弓矢などを使用する原始的戦争が行なわれ，戦闘員・非戦闘員の別なく無制限戦争の様相を呈していた。紀元前500年ごろまでの古代国家では，最初は市民兵が，のちに国家が強大になるにつれて傭兵(ようへい)が主力となって強力な軍隊が出現し，規模はしだいに大きくなったが，局地制限戦争的となった。帝国の建設と崩壊は主として戦争の勝敗によって決まり，地中海ではガレー船*による海戦も行なわれて，その制海権は国の興亡に大きく影響した。中世ではキリスト教会や封建国家が戦争の主体となり，騎士を戦力の中核として，宗教戦争，領土の争奪などが行なわれた。近代になって，統一専制国家から立憲民主国家となり，国家の正規軍隊が出現し，陸海軍の各種兵器が進歩して戦争

せんそう

の規模は拡大したが，人道的戦争の考え方が現われて制限戦争の傾向を強くした。20世紀になると，科学技術の進歩に伴って兵器は高度化し，第1次・第2次世界大戦では戦場は空中から水中に及び，工業力の発達と国際関係の複雑化によって，世界戦争的規模となり，生産力の増大と国家権力および国民団結の強化によって，消耗戦・総動員戦・総力戦となった。そして，核兵器の出現とその兵器体系の進歩に伴って，全面戦争は絶対戦争的様相をおび，人類の絶滅にも通ずる可能性をもつようになった。そこで，核戦争によってはどんな政治目的をも達成できないことが明らかとなり，さらに優勢な軍事力をもってしても目的を達成しにくいゲリラ戦や，宣戦が行なわれずに戦闘状態にはいる不正規戦争が行なわれるようになったので，軍事力を行使する戦争の国際政治における価値は減少し，軍備は主として戦争の抑止とその潜在力による対外政策への推進掩護力（えんごりょく）としての有用性を増すことになった。

戦争には，道義的には正義の戦争と不正の戦争とがあり，動機や攻撃の先後などから侵略戦争と自衛戦争とがあるが，これらはいずれも立場の相違によって明確に区別することは困難で，このことが戦争を絶滅しえない根本原因の一つになっている。また，戦争の目的によって解放戦争・革命戦争・独立戦争・植民地戦争・自衛戦争や集団保障のための戦争などがあり，地域的には局地戦争・世界戦争があり，戦争の様相からはいろいろの面での制限戦争・全面無制限戦争があり，兵器の種類によって戦略核兵器戦争・戦術核兵器戦争・通常兵器戦争があり，戦われる場所によって宇宙戦・航空戦・陸上戦・海上戦・水中戦があり，戦争の主体によって国際戦争（外戦）と国内戦（内戦）がある。また，宣戦の行なわれる正規戦争とそうでない不正規戦争があるが，第2次世界大戦以後は宣戦が行なわれたことはない。絶対戦争・究極戦争はみな殺し全面破壊戦争で，人類の絶滅につながる深刻な意味をもっている。心理戦・代理戦争・冷戦・間接（侵略）戦争・不正規戦争など，最近の戦争のもつ様相の特徴は，核抑止力とイデオロギー闘争によってもたらされたものである。〔関野英夫〕

いにされ，第一線から退くと同時に症状が消える。〔鈴木敏生〕

ぜんそうせひ 【全層施肥】 作土層全層に肥料が混じるような方法で施肥するものをいう。水田でアンモニア態窒素を施用する場合，表層のみに施肥すると，アンモニアが硝酸態となって水にとけやすくなり，土中の還元層で還元され，窒素ガスとなって脱窒現象を起こす。これを防ぐため考えられたのがこの方法で，全層に施せば硝酸化することがおそくなり，肥効が持続することになる。

せんそうとへいわ 【戦争と平和】 レフ・トルストイ*の叙事詩的な長編小説（1865～1869）。全4編とエピローグからなる。アウステルリッツの三帝会議からボロジノの戦いを経て，さらにナポレオン軍の敗走に至る祖国戦争時代のロシアを，国家・社会の規模から描破した壮大な歴史小説である。同時にまた，ロストフ家・ボルコンスキー家・ベズーホフ家の私的生活を年代記ふうに描くことによって，作者自身の家系の歴史をも再現している。おもな登場人物であるアンドレイ公爵とピエールには，作者自身の性格の二面がうかがえるが，むしろ特定の主人公の物語ではなく，500人をこえる登場人物が織りなす一大絵巻物となっている。そこには，歴史をつくるのは，一部の英雄ではなく，無数の人間の意志の総和であるという，作者の歴史哲学が表現されている。〔北垣信行〕

せんそうはんざい 【戦争犯罪】 戦争に関連してなされた犯罪行為。戦争犯罪を犯した者を戦争犯罪人（戦犯）という。戦争犯罪は，従来は戦時犯罪（通常の戦争犯罪）のみであったが，第2次世界大戦後はその範囲が広められ，〈平和に対する罪〉と〈人道に対する罪〉がつけ加えられた。戦時犯罪は，戦闘法規に違反する行為で，毒ガスなどの禁止兵器を使用すること，平和的人民を殺傷してその財産を略奪または破壊すること，スパイ・戦時叛逆などで，その行為者を相手交戦国が捕えた場合には処罰することができる。〈平和に対する罪〉は侵略戦争や国際法違反の戦争を起こして平和を破壊した罪であり，〈人道に対する罪〉は戦争前または戦争中に一般人民の殺害や大量殺人，強制労働などの非人道的な行為を行なった罪で，第2次世界大戦後，特にこれを処罰するために国際軍事裁判所と極東国際軍事裁判所で裁判が行なわれた。いずれも，アメリカ・イギリス・ソ連などの連合国の裁判官で構成され，それぞれ19人，25人が有罪とされた。法的には戦争の犯罪性，戦争を起こした個人的な責任の追及，事後法に基づいている点，裁判所が戦勝国によってのみ構成されていた点などに問題があるが，連盟規約・不戦条約*など一連の戦争違法化の国際法上の発展，人道的な立場から，戦争犯罪と認められる。国際連合総会（1946）でも，全会一致で，国際軍事裁判所の判決を再確認する旨の決議がなされている。
➔国際軍事裁判　➔極東国際軍事裁判
〔広部和也〕

せんぞがえり 【先祖返り】 帰先遺伝ともいう。ある系統に，偶然または交雑後に祖先の形質が出現すること。ヒトの副乳（1対の乳房のほかに若干の小乳房があるもの），ウマの過剰指などがその例とされている。このように，進化の過程で一度失われたものが現われることの説明として，その大部分は突然変異と遺伝子の組み換えによるとされている。

せんそく 【尖足】 足関節が足底のほうに正常位より底屈した状態。脊髄（せきずい）性小児麻痺（まひ）や外傷性腓骨（ひこつ）神経麻痺などによる麻痺性尖足，脳性小児麻痺，脳出血後の痙性（けいせい）尖足，下腿（かたい）骨折による外傷性尖足，足関節炎による炎症性尖足，老人の病臥（びょうが）中に起きる習慣性尖足などがあり，それぞれ整形外科医による専門的治療が必要である。

ぜんそく 【喘息】 一般には，発作的に起こる呼吸困難をさす。通常は，肺の過膨張，喘鳴（ぜんめい），咳*（せき）の発作を伴う。病因によって心臓性喘息と気管支喘息などに分類される。心臓性喘息は，心不全*を有する患者が夜間急性の肺水腫*（はいすいしゅ）および気管支痙攣（けいれん）をきたして呼吸困難状態になるもので，原因となる心不全の治療による改善で消失する。気管支喘息は，急性の気管支痙攣，気管支粘膜の浮腫などによって呼吸困難をきたすもので，原因については古くから痙攣説・反射説・気管支カタル説・異常体質説（迷走神経緊張説）・アレルギー*説などが論議されてきたが，欧米ではアレルギーによって説明できる例が多いのに反し，わが国ではアレルギーによって説明できない例が多いといわれる。アレルギーの原因となりうる抗原*は，花粉・獣毛・落屑（らくせつ）・羽毛・塵埃（じんあい）・食物など，吸入または嚥下（えんげ）によって体内にはいる異物のほか，慢性気管支炎・歯根肉芽腫・副鼻腔炎（ふくびこうえん）・慢性胆囊炎（たんのうえん）なども影響するといわれている。アレルギーと喘息発作との関係は，気管支粘膜・気管支平滑筋に抗体*ができ，ここに抗原がくり返し到達すると抗原抗体反応*が起こり，ヒスタミンを遊離し，蕁麻疹（じんましん）様の局所的浮腫と気管支痙攣を起こすと考えられる。気管支喘息の根本的治療としては，抗原エキスを微量から漸次増量して注射して反応性を除く脱感作療法が考えられるが，無効の例も多く，効果も数年以上は続かないようである。抗ヒスタミン剤は一般に無効である。発作時には，アドレナリン・イソプロテレノールの注射または吸入が有効である。発作が長時間にわたる場合は，副腎皮質刺激ホルモン*（ACTH）または副腎皮質ホルモン*を使用しなければならないこともあるが，この場合，感染症・胃潰瘍（いかいよう）・肺結核などに十分注意したうえで使用すべきである。➔小児喘息〔白石　透〕

{
  "filename": "NDA0MzkwOTYuemlw",
  "filename_decoded": "40439096.zip",
  "filesize": 359215301,
  "md5": "b9e8bc7fd65ee9e32a824b9854814f9e",
  "header_md5": "f53e3333f200ce25861218d503bbbf98",
  "sha1": "23323813a51498e8f0b0f6f39502a91157539339",
  "sha256": "601f56c625ed0ce2d434ec73c256b93344d1d9dd3cd83b111e58ef89342b2aa7",
  "crc32": 940458674,
  "zip_password": "",
  "uncompressed_size": 365263103,
  "pdg_dir_name": "",
  "pdg_main_pages_found": 547,
  "pdg_main_pages_max": 547,
  "total_pages": 551,
  "total_pixels": 2884445568,
  "pdg_status_json": {
    "id": 2205,
    "action": "convert",
    "params": {},
    "result_code": 200,
    "result_value": {
      "image_stats": "03: 8\r\naa: 106\r\n",
      "result_text": "\u8f6c\u6362\u5b8c\u6bd5\u3002",
      "conversion_time": "00:00:00",
      "image_count": "114/114",
      "dpi": "300 / 430 / 304"
    },
    "status": 2,
    "created": 1715294130,
    "updated": 1715294177
  },
  "filenames_to_pdgconvert": [
    "000007.pdg",
    "000014.pdg",
    "000016.pdg",
    "000021.pdg",
    "000025.pdg",
    "000031.pdg",
    "000038.pdg",
    "000043.pdg",
    "000045.pdg",
    "000046.pdg",
    "000052.pdg",
    "000053.pdg",
    "000057.pdg",
    "000067.pdg",
    "000070.pdg",
    "000074.pdg",
    "000077.pdg",
    "000084.pdg",
    "000087.pdg",
    "000091.pdg",
    "000096.pdg",
    "000098.pdg",
    "000102.pdg",
    "000108.pdg",
    "000110.pdg",
    "000125.pdg",
    "000126.pdg",
    "000132.pdg",
    "000136.pdg",
    "000141.pdg",